(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2025-80274
(P2025-80274A)
(43)公開日　令和7年5月26日(2025.5.26)

(51)国際特許分類		FI			テーマコード（参考）
A63F	*5/04 (2006.01)*	A63F	5/04	620	2C518
		A63F	5/04	631	

審査請求　有　請求項の数　1　ＯＬ　（全1157頁）

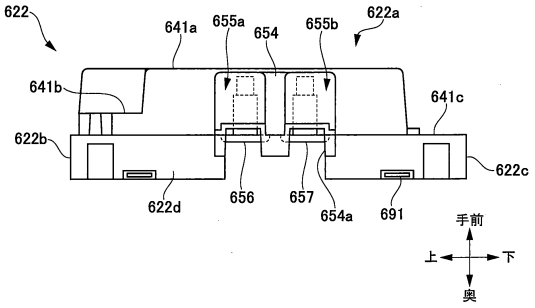
(21)出願番号　特願2023-193335(P2023-193335)
(22)出願日　令和5年11月14日(2023.11.14)

(71)出願人　598098526
株式会社ユニバーサルエンターテインメント
東京都江東区有明三丁目７番２６号 有明フロンティアビルＡ棟
(74)代理人　110000925
弁理士法人信友国際特許事務所
(72)発明者　中村 真
東京都江東区有明３丁目７番２６号

Ｆターム（参考）　2C518　AA05 CA01 CA04 DA03 DA06 DA07

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる遊技機を提供する。
【解決手段】特定終了条件は、第２特定状態において当籤役決定手段によりボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたことに応じて成立し得る。規定の移行図柄組合せは、当籤役決定手段により特定役が当籤役として決定された遊技で表示可能に構成され、当籤役決定手段により特定役が当籤役として決定された遊技において、所定態様の停止操作が行われた場合には規定の移行図柄組合せを表示させる一方、所定態様とは異なる特定態様の停止操作が行われた場合には規定の移行図柄組合せを表示させないように構成される。
【選択図】図４００



【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の図柄を複数列で変動表示可能な変動表示手段と、
再遊技役及びボーナス役を含む複数の役の中から当籤役を決定する役決定手段と、
前記当籤役決定手段による決定結果と遊技者の停止操作とに応じて図柄の変動表示を停止させる停止制御手段と、
複数の状態を制御する状態制御手段と、を備えた遊技機であって、
前記ボーナス役は、前記当籤役決定手段により当籤役として決定された後、対応する図柄組合せが表示されるまで持ち越し可能に構成されており、
前記複数の状態は、
前記ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始され、規定終了条件が成立したことに応じて終了する、遊技価値が増加し得る状態として構成されたボーナス状態と、
前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が第１態様である第１特定状態と、
前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が前記第１態様とは異なる第２態様である第２特定状態と、を少なくとも含み、
前記第１特定状態と前記第２特定状態とで、前記当籤役決定手段による前記ボーナス役の決定態様を異ならせることが可能であり、
前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が有利な状態であり、
前記状態制御手段は、前記ボーナス状態が終了することを条件に前記第２特定状態に制御し、前記第２特定状態において特定終了条件が成立することに応じて前記第１特定状態に制御することが可能であり、
前記特定終了条件は、前記第２特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたことに応じて成立し得るものであり、
前記規定の移行図柄組合せは、前記当籤役決定手段により特定役が当籤役として決定された遊技で表示可能に構成され、
前記当籤役決定手段により前記特定役が当籤役として決定された遊技において、所定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させる一方、前記所定態様とは異なる特定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させないように構成されることを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パチスロ機やパチンコ機等の遊技機に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来の遊技機において、ボーナスゲーム（ボーナス状態）の作動が終了したことに応じ、再遊技役の当籤確率が通常よりも高くなるリプレイタイム（高ＲＴ状態）を作動させるようにしたものが提案されている（例えば、特許文献１参照）。
【０００３】
そのような従来の遊技機によれば、例えば、ボーナス状態の終了後は、少なくとも通常よりも遊技価値が減少しにくい状態として構成された高ＲＴ状態にて次のボーナス役の当籤などを待つことができるため、ボーナスの連荘に関して興趣を高めることが可能となっている。
【先行技術文献】
【特許文献】

【０００４】
【特許文献１】特開２００７－１１７４９６号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ところで、そのような従来の遊技機では、ボーナス役の当籤確率は、高ＲＴ状態であっても変動せず一定であるのが通常である。そのため、例えば、高ＲＴ状態であってもボーナス役になかなか当籤しない、あるいはボーナス役に当籤することなく高ＲＴ状態が終了するといった状況が発生しやすい。したがって、そのような状況が頻発するとかえって興趣を低下させてしまうという問題があった。
【０００６】
もっとも、近年では、遊技者に有利な停止操作の情報が報知される状態として構成されたＡＴ状態を疑似的なボーナス状態に見立て（これは「疑似ボーナス」などと称される）、その疑似ボーナスが連荘し得る遊技性にして出玉に起伏を生じさせることも提案されている。しかしながら、ＡＴ状態を設ける場合、ＡＴ状態を設けない場合よりも出玉設計が複雑となるし、また型式試験に適合するための要件も増加することから、そのような遊技性とする場合には工数が増大してしまうという問題が生じる。さらに、近年では、そのようなＡＴ状態に関する制御を主制御側で行う必要があることから、そのような遊技性とする場合には主制御側の制御負荷が増大してしまうという問題も生じる。
【０００７】
本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
上記目的を達成するために、本実施形態に係る遊技機によれば、以下の遊技機を提供する。
【０００９】
複数の図柄を複数列で変動表示可能な変動表示手段（例えば、変動表示部）と、
再遊技役及びボーナス役を含む複数の役の中から当籤役を決定する役決定手段（例えば、内部抽籤処理を行うメインＣＰＵ）と、
前記当籤役決定手段による決定結果と遊技者の停止操作とに応じて図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール（回胴）停止制御処理を行うメインＣＰＵ）と、
複数の状態を制御する状態制御手段（例えば、第１１実施形態における各状態を制御するメインＣＰＵ）と、を備えた遊技機（例えば、パチスロ機１）であって、
前記ボーナス役は、前記当籤役決定手段により当籤役として決定された後、対応する図柄組合せが表示されるまで持ち越し可能に構成されており、
前記複数の状態は、
前記ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始され、規定終了条件が成立したことに応じて終了する、遊技価値が増加し得る状態として構成されたボーナス状態（例えば、第１１実施形態における「ＢＩＧ作動中」など）と、
前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が第１態様である第１特定状態（例えば、第１１実施形態における「ＲＴ０状態」など）と、
前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が前記第１態様とは異なる第２態様である第２特定状態（例えば、第１１実施形態における「ＲＴ１状態」など）と、を少なくとも含み、
前記第１特定状態と前記第２特定状態とで、前記当籤役決定手段による前記ボーナス役の決定態様を異ならせることが可能であり、
前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が有利な状態

であり、
　前記状態制御手段は、前記ボーナス状態が終了することを条件に前記第２特定状態に制御し、前記第２特定状態において特定終了条件が成立することに応じて前記第１特定状態に制御することが可能であり、
　前記特定終了条件は、前記第２特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたことに応じて成立し得るものであり、
　前記規定の移行図柄組合せは、前記当籤役決定手段により特定役（例えば、仕様例３で説明した「停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動し得る特定役」）が当籤役として決定された遊技で表示可能に構成され、
　前記当籤役決定手段により前記特定役が当籤役として決定された遊技において、所定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させる一方、前記所定態様とは異なる特定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させないように構成されることを特徴とする遊技機。
【００１０】
　この構成の遊技機によれば、再遊技役の決定態様が異なる特定状態（例えば、ＲＴ状態）を変動させるのにともなってボーナス役の決定態様も異ならせることができる。すなわち、特定状態の変動契機に紐づけたボーナス確変の制御を実現することができる。したがって、工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる。
【発明の効果】
【００１１】
　上記構成の遊技機によれば、工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１２】
【図１】第１実施形態に係る遊技機の外部構造を示す図である。
【図２】第１実施形態に係る遊技機の内部構造を示す図である。
【図３】第１実施形態に係る遊技機の電気的構成を示すブロック図である。
【図４】第１実施形態に係る遊技機の機能フローを説明するための図である。
【図５】第１実施形態に係る第１の遊技機の遊技性を説明するための図である。
【図６】第１実施形態に係る第１の遊技機のモードを説明するための図である。
【図７】第１実施形態に係る第１の遊技機の各種テーブルを示す図である。
【図８】第１実施形態に係る第１の遊技機の各種テーブルを示す図である。
【図９】第１実施形態に係る第１の遊技機の図柄配置テーブルを示す図である。
【図１０】第１実施形態に係る第１の遊技機の内部抽籤テーブルを示す図である。
【図１１】第１実施形態に係る第１の遊技機の図柄組合せテーブルを示す図である。
【図１２】第１実施形態に係る第１の遊技機の図柄組合せテーブルを示す図である。
【図１３】第１実施形態に係る第１の遊技機の図柄組合せテーブルを示す図である。
【図１４】第１実施形態に係る第１の遊技機の図柄組合せテーブルを示す図である。
【図１５】第１実施形態に係る第１の遊技機の内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係を説明するための図である。
【図１６】第１実施形態に係る第１の遊技機のリミット処理を説明するための図である。
【図１７】第１実施形態に係る第１の遊技機の当籤フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域、図柄コード格納領域の構成を示す図である。
【図１８】第１実施形態に係る第１の遊技機の持越役格納領域の構成を示す図である。
【図１９】第１実施形態に係る第１の遊技機の遊技状態フラグ格納領域の構成を示す図である。
【図２０】第１実施形態に係る第１の遊技機のモードフラグ格納領域の構成を示す図である。
【図２１】第１実施形態に係る第１の遊技機の作動ストップボタン格納領域の構成を示す

図である。
【図２２】第１実施形態に係る第１の遊技機の押下順序格納領域の構成を示す図である。
【図２３】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図２４】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される電源投入時処理を示すフローチャートである。
【図２５】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行されるメダル受付・スタートチェック処理を示すフローチャートである。
【図２６】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される内部抽籤処理を示すフローチャートである。
【図２７】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される遊技開始時状態制御処理を示すフローチャートである。
【図２８】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される有利区間中遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図２９】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行されるリール停止制御処理を示すフローチャートである。
【図３０】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される遊技終了時状態制御処理を示すフローチャートである。
【図３１】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される有利区間中遊技終了時処理を示すフローチャートである。
【図３２】第１実施形態に係る第１の遊技機の主制御回路により実行される定期割込処理を示すフローチャートである。
【図３３】第１実施形態に係る遊技機の副制御回路により実行されるサブ側制御処理の概要を示すフローチャートである。
【図３４】第１実施形態に係るメダルレス遊技機の構成例を示す図である。
【図３５】第１実施形態に係る遊技機の主制御基板の構成例を示す図である。
【図３６】第２実施形態に係るロック演出の例を示す図である。
【図３７】ロック演出番号「１」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図３８】ロック演出番号「２」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図３９】ロック演出番号「３」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図４０】ロック演出番号「４」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図４１】ロック演出番号「５」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図４２】ロック演出番号「６」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。
【図４３】主制御回路において行われるロック演出決定処理を示すフローチャートである。
【図４４】主制御回路において行われるロック演出実行処理を示すフローチャートである。
【図４５】疑似遊技においてメイン表示装置に表示される画像の一例を示す図である。
【図４６】主制御回路において行われる疑似遊技中処理を示すフローチャートである。
【図４７】主制御回路において行われる通常疑似遊技中処理を示すフローチャートである。
【図４８】主制御回路において行われる疑似遊技後リール演出処理を示すフローチャートである。
【図４９】主制御回路において行われるリール演出後疑似遊技中処理を示すフローチャートである。
【図５０】主制御回路において行われるリール回転開始処理を示すフローチャートである。
【図５１】主制御回路において行われるランダム遅延処理を示すフローチャートである。
【図５２】疑似遊技が行われる場合におけるリール制御状態の時間的変化の一例を示す図である。

【図５３】疑似遊技が行われる場合におけるリール制御状態の時間的変化の一例を示す図である。
【図５４】疑似遊技が行われる場合におけるリール制御状態の時間的変化の一例を示す図である。
【図５５】第３実施形態に係る主制御回路において行われるロック演出実行処理を示すフローチャートである。
【図５６】主制御回路において行われる疑似遊技開始用処理を示すフローチャートである。
【図５７】主制御回路において行われる通常疑似遊技中処理を示すフローチャートである。
【図５８】主制御回路において行われるストップボタン操作受付処理を示すフローチャートである。
【図５９】主制御回路において行われる揺動制御処理を示すフローチャートである。
【図６０】主制御回路において行われる疑似遊技終了用処理を示すフローチャートである。
【図６１】主制御回路において行われる疑似遊技チャレンジ操作受付処理を示すフローチャートである。
【図６２】メイン表示装置に表示される画像の一例を示す図である。
【図６３】主制御回路において行われるボーナス当籤時処理を示すフローチャートである。
【図６４】主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出決定処理を示すフローチャートである。
【図６５】主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出実行処理を示すフローチャートである。
【図６６】主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出開始用処理を示すフローチャートである。
【図６７】主制御回路のメモリマップを示す図である。
【図６８】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の遊技性を説明するための図である。
【図６９】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の優遇制御例（通常中）を説明するための図である。
【図７０】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の優遇制御例（ＳＴ中）を説明するための図である。
【図７１】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７２】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７３】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７４】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７５】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７６】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７７】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７８】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例を説明するための図である。
【図７９】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の押し順ベルの変形例３（送信情

報制御例（その１））を説明するための図である。
【図８０】第１実施形態に係る第１の遊技機（変形例）の押し順ベルの変形例３（送信情報制御例（その２））を説明するための図である。
【図８１】（ａ）は、本発明の第４実施形態に係る遊技状態の移行遷移を示す図である。（ｂ）は、本発明の第４実施形態に係る遊技状態の移行条件をまとめた表である。
【図８２】（ａ）は、図柄配置テーブルを示す図である。（ｂ）は、図柄コード表を示す図である。
【図８３】図柄組合せテーブルを示す図である。
【図８４】図柄組合せテーブルを示す図である。
【図８５】フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。
【図８６】フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。
【図８７】フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。
【図８８】フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。
【図８９】フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。
【図９０】ＲＴ０遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。
【図９１】（ａ）は、ＲＴ１遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。（ｂ）は、ＢＢ遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。
【図９２】内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係の一例を示す図である。
【図９３】本発明の第４実施形態に係る非有利区間及び有利区間における遊技状態の遷移フローの一例を示す図である。
【図９４】本発明の第４実施形態に係る出玉状態の移行遷移を示す図である。
【図９５】本発明の第４実施形態に係る出玉状態の移行条件をまとめた表である。
【図９６】（ａ）は、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて指示モニタに表示される数値を示す図である。（ｂ）は、指示モニタに表示される数値に対応する内容を示す図である。
【図９７】内部当籤役とサブフラグと出玉フラグとの対応関係を示す図である。
【図９８】主制御回路において行われる非有利区間用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図９９】（ａ）は、有利区間移行抽籤テーブルを示す図である。（ｂ）は、有利区間移行時抽籤テーブルを示す図である。
【図１００】主制御回路において行われる連荘準備用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１０１】（ａ）は、連荘準備モード抽籤テーブル（１）を示す図である。（ｂ）は、連荘準備モード抽籤テーブル（２）を示す図である。
【図１０２】連荘チャレンジ移行抽籤テーブルを示す図である。
【図１０３】（ａ）は、連荘チャレンジ移行時確定抽籤テーブルを示す図である。（ｂ）は、連荘準備転落抽籤テーブルを示す図である。
【図１０４】主制御回路において行われる通常ステージ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１０５】主制御回路において行われる通常ステージ開始時処理を示すフローチャートである。
【図１０６】（ａ）は、通常移行時モード抽籤テーブルを示す図である。（ｂ）は、通常移行時天井抽籤テーブルを示す図である。
【図１０７】ポイントモード抽籤テーブルを示す図である。
【図１０８】主制御回路において行われる通常ステージ専用処理を示すフローチャートである。
【図１０９】通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルを示す図である。
【図１１０】通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルを示す図である。
【図１１１】通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルを示す図である。
【図１１２】通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルを示す図である。
【図１１３】主制御回路において行われる通常出玉状態共通処理を示すフローチャートで

ある。
【図１１４】主制御回路において行われる通常規定遊技数カウンタ更新処理を示すフローチャートである。
【図１１５】通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルを示す図である。
【図１１６】通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルを示す図である。
【図１１７】天井フェイク準備中抽籤テーブルを示す図である。
【図１１８】主制御回路において行われる天井関連処理を示すフローチャートである。
【図１１９】天井到達時当籤種別抽籤テーブルを示す図である。
【図１２０】天井到達時当籤種別抽籤テーブルを示す図である。
【図１２１】主制御回路において行われるポイント関連処理を示すフローチャートである。
【図１２２】ポイント獲得抽籤テーブルを示す図である。
【図１２３】ポイント到達時抽籤テーブルを示す図である。
【図１２４】主制御回路において行われる通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１２５】主制御回路において行われる通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１２６】主制御回路において行われる通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１２７】（ａ）は、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。（ｂ）は、通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。（ｃ）は、通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。
【図１２８】（ｄ）は、通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。（ｅ）は、通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。（ｆ）は、通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。
【図１２９】主制御回路において行われる通常ステージ用前兆遊技数カウンタ管理処理を示すフローチャートである。
【図１３０】主制御回路において行われる確率モード関連処理を示すフローチャートである。
【図１３１】（ａ）は、高確２移行抽籤テーブル（１）を示す図である。（ｂ）は、高確２移行抽籤テーブル（２）を示す図である。（ｃ）は、高確２移行抽籤テーブル（３）を示す図である。（ｄ）は、高確２転落抽籤テーブルを示す図である。
【図１３２】主制御回路において行われる昇格チャンス前処理を示すフローチャートである。
【図１３３】昇格チャンス移行時抽籤テーブルを示す図である。
【図１３４】主制御回路において行われるチャンスステージ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１３５】チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤テーブルを示す図である。
【図１３６】チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルを示す図である。
【図１３７】チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルを示す図である。
【図１３８】主制御回路において行われるチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１３９】チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。
【図１４０】主制御回路において行われるチャンスステージ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【図１４１】主制御回路において行われる昇格チャンス用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１４２】昇格チャンスモード抽籤テーブルを示す図である。
【図１４３】昇格チャンスモード抽籤テーブルを示す図である。
【図１４４】昇格チャンス中抽籤テーブルを示す図である。
【図１４５】次回疑似遊技抽籤テーブルを示す図である。
【図１４６】規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤テーブルを示す図である。
【図１４７】今回疑似遊技抽籤テーブルを示す図である。
【図１４８】疑似遊技の内容を示す図である。
【図１４９】昇格チャンスにおける遊技の流れを示す図である。
【図１５０】昇格チャンスの１ゲーム目で疑似ＢＩＧに当籤した場合における演出例を示す図である。
【図１５１】昇格チャンスの１ゲーム目～４ゲーム目で疑似ＢＩＧに全て非当籤となった場合における演出例を示す図である。
【図１５２】主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１５３】主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ開始時処理を示すフローチャートである。
【図１５４】疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。
【図１５５】疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルを示す図である。
【図１５６】主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。
【図１５７】主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ終了時処理（１）を示すフローチャートである。
【図１５８】成立リプ数不足時抽籤テーブルを示す図である。
【図１５９】主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ終了時処理（２）を示すフローチャートである。
【図１６０】最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。
【図１６１】主制御回路において行われる疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１６２】疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。
【図１６３】疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルを示す図である。
【図１６４】主制御回路において行われる疑似ＲＥＧ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。
【図１６５】主制御回路において行われる連荘チャレンジ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。
【図１６６】連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤テーブルを示す図である。
【図１６７】連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤テーブルを示す図である。
【図１６８】連荘チャレンジ中抽籤テーブルを示す図である。
【図１６９】連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤テーブルを示す図である。
【図１７０】主制御回路において行われる連荘チャレンジ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。
【図１７１】主制御回路において管理されるカウンタの一覧を示す図である。
【図１７２】主制御回路において行われるレバーオン時ＡＴ関連処理を示すフローチャートである。
【図１７３】主制御回路において行われる全停止時ＡＴ関連処理を示すフローチャートである。
【図１７４】昇格チャンスにおいてペナルティが発生した場合における演出例を示す図である。
【図１７５】本発明の第５実施形態に係る主制御基板のマイクロプロセッサの構成例を示

す図である。
【図１７６】本発明の第５実施形態に係るメインＣＰＵが有する各種レジスタの構成図である。
【図１７７】本発明の第５実施形態に係るマイクロプロセッサのメモリマップを示す図である。
【図１７８】本発明の第５実施形態における、電断検知に係る外部割込み処理の概要を説明するための図である。
【図１７９】本発明の第５実施形態における、メイン処理を示すフローチャートである。
【図１８０】本発明の第５実施形態における、電源投入時処理を示すフローチャートである。
【図１８１】本発明の第５実施形態における、ＣＲＣ検査処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１８２】本発明の第５実施形態における、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１８３】本発明の第５実施形態における、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１８４】本発明の第５実施形態における、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、及び指定ＲＡＭ初期化処理を示すフローチャートである。
【図１８５】本発明の第５実施形態における、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、及び指定ＲＡＭ初期化処理を示すフローチャートである。
【図１８６】本発明の第５実施形態における、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）、及び使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）を示すフローチャートである。
【図１８７】本発明の第５実施形態における、乱数値取得処理、内部抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１８８】本発明の第５実施形態における、乱数値取得処理、内部抽籤処理を示すフローチャートである。
【図１８９】本発明の第５実施形態における、インタフェース２出力処理（使用領域外）、及びインタフェース２出力処理（継続）を示すフローチャートである。
【図１９０】本発明の第５実施形態における、メダル通過枚数異常判定処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９１】本発明の第５実施形態における、メダル払出・再遊技作動処理、精算実行処理、及びメダル払出処理を示すフローチャートである。
【図１９２】本発明の第５実施形態における、メダル払出・再遊技作動処理、精算実行処理、及びメダル払出処理を示すフローチャートである。
【図１９３】本発明の第５実施形態における、メダル通過枚数計上処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９４】本発明の第５実施形態における、役比モニタ集計開始処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９５】本発明の第５実施形態における、定期割込み処理を示すフローチャートである。
【図１９６】本発明の第５実施形態における、試射試験信号制御処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９７】本発明の第５実施形態における、エラー検知処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９８】本発明の第５実施形態における、設定値チェック処理（使用領域外）、及び乱数検査処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図１９９】本発明の第５実施形態における、電断割込み処理を示すフローチャートである。
【図２００】本発明の第５実施形態における、ＣＲＣ生成処理（使用領域外）を示すフローチャートである。

【図２０１】本発明の第５実施形態における、使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）を示すフローチャートである。
【図２０２】本発明の第５実施形態における、ＣＡＬＬＥＸでの呼出先指定に関する状況を説明するための図である。
【図２０３】本発明の第５実施形態における、メインＲＡＭのＣＲＣチェックに関する処理を説明するための図である。
【図２０４】本発明の第５実施形態における、４ビットデータ取得処理を示すフローチャートである。
【図２０５】本発明の第５実施形態における、４ビットデータ取得処理に関する処理を説明するための図である。
【図２０６】本発明の第５実施形態における、４ビットデータ取得処理を適用して読み出せるよう定義されたテーブルの例を示す図である。
【図２０７】本発明の第５実施形態における、４ビットデータ取得処理を適用して読み出せるよう定義されたテーブルの例を示す図である。
【図２０８】本発明の第５実施形態における、４ビットデータ取得処理を適用して読み出せるよう定義されたテーブルの例を示す図である。
【図２０９】本発明の第５実施形態における、２ビットデータ取得処理を示すフローチャートである。
【図２１０】本発明の第５実施形態における、２ビットデータ取得処理に関する処理を説明するための図である。
【図２１１】本発明の第５実施形態における、２ビットデータ取得処理を適用して読み出せるよう定義されたテーブルの例を示す図である。
【図２１２】本発明の第５実施形態における、カウンタの下位アドレスを入力パラメータとした共通処理に関する処理を説明するための図である。
【図２１３】本発明の第５実施形態における、カウンタの下位アドレスを入力パラメータとした共通処理に関する処理を説明するための図である。
【図２１４】本発明の第５実施形態における、使用領域外ＲＡＭエリアのクリア開始アドレス決定方法を説明するための図である。
【図２１５】本発明の第５実施形態における、ストップボタン入力監視処理を示すフローチャートである。
【図２１６】本発明の第５実施形態における、共通情報バックアップ生成処理、及び共通情報バックアップ復帰処理を示すフローチャートである。
【図２１７】本発明の第５実施形態における、共通情報復帰処理を示すフローチャートである。
【図２１８】本発明の第５実施形態における、バックアップ生成、及びバックアップ復帰における共通処理を説明するための図である。
【図２１９】本発明の第６実施形態に係る主制御基板が搭載された遊技機の電気的構成を示すブロック図である。
【図２２０】本発明の第６実施形態に係る主制御基板が搭載された遊技機に設けられた遊技情報表示ユニット、メダル数表示ユニット、及びメダル貸表示ユニットの構成例を示す図である。
【図２２１】本発明の第６実施形態に係る主制御基板の主制御用マイクロプロセッサ、及びメダル数制御用マイクロプロセッサの構成例を示す図である。
【図２２２】本発明の第６実施形態に係る主制御基板の回路構成例の概略図である。
【図２２３】有利区間払出数カウンタの初期値として複数種類の値を設定した場合の差枚数の推移例を説明するための図である。
【図２２４】遊技機の出玉性能のうちＡＴ状態における１遊技当りの平均純増枚数を考慮して有利区間払出数カウンタの初期値を設定する場合を説明するための図である。
【図２２５】契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否の具体例１～３を説明するための図である。

【図２２６】契機毎にクリアの対象外となるデータ（保持されるデータ）の一例を説明するための図である。
【図２２７】具体例３の場合における設定変更時の状態遷移を示す図である。
【図２２８】設定変更前後における有利区間払出数カウンタの更新例を天井枚数との関係で説明するための図である。
【図２２９】コンプリート機能に関連して行われる報知例を説明するための図である。
【図２３０】ＣＭＰ＿ＭＹの更新などを行うためのコンプリート機能算出処理を示すフローチャートである。
【図２３１】エラー処理のうちコンプリート機能の作動に関する処理を主として部分的に説明するためのフローチャートである。
【図２３２】ＣＭＰ＿ＭＹに基づいて各種報知を行うためのコンプリート関連報知処理を説明するためのフローチャートである。
【図２３３】パチスロ機と、パチスロ機の上部に配置されたデータ表示器と、ホールコンピュータとを含む遊技システムを示す図である。
【図２３４】ランプの点灯パターンについて説明するための図である。
【図２３５】機種識別用パターンについて説明するための図である。
【図２３６】データ表示機において行われる点灯パターン検出処理を示すフローチャートである。
【図２３７】所定の有利関連情報および事前報知の表示例を説明するための図である。
【図２３８】所定の有利関連情報および事前報知の表示例を説明するための図である。
【図２３９】２桁の７セグＬＥＤにおいてＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う場合の具体例を示す図である。
【図２４０】ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行うためのＬＥＤの例を示す図である。
【図２４１】本実施形態に係る第２の遊技機におけるパチスロ機のボーナス状態及び非ボーナス状態間における遊技状態の遷移フローを示す図である。
【図２４２】本実施形態に係る第２の遊技機における図柄配置テーブルの一例を示す図である。
【図２４３】本実施形態に係る第２の遊技機における図柄組合せの内容の一例を示す図である。
【図２４４】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ０，ＲＴ１用の図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
【図２４５】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ０，ＲＴ１用の図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
【図２４６】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ２用の図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
【図２４７】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ２用の図柄組合せ決定テーブルの一例を示す図である。
【図２４８】本実施形態に係る第２の遊技機における当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表の一例を示す図である。
【図２４９】本実施形態に係る第２の遊技機における当籤役グループ番号と当籤役グループ名との対応表の一例を示す図である。
【図２５０】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ状態（ＲＴ０～ＲＴ２）で当籤可能な当籤役の表の一例を示す図である。
【図２５１】本実施形態に係る第２の遊技機における内部抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２５２】本実施形態に係る第２の遊技機における指示モニタを用いた押し順の報知の一例を示す図である。
【図２５３】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＴ状態及び押し順に応じた当籤択の配当（再遊技、ＢＢ、メダル払出枚数）の一例を示す図である。
【図２５４】本実施形態に係る第２の遊技機におけるシナリオグループ抽籤テーブルの一

例を示す図である。
【図２５５】本実施形態に係る第２の遊技機におけるシナリオグループＡ用のシナリオ抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２５６】本実施形態に係る第２の遊技機におけるシナリオグループＢ用のシナリオ抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２５７】本実施形態に係る第２の遊技機におけるシナリオ書き換え抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２５８】本実施形態に係る第２の遊技機における高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２５９】本実施形態に係る第２の遊技機における高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６０】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＧＳＢ連ランク抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６１】本実施形態に係る第２の遊技機における低確用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６２】本実施形態に係る第２の遊技機における高確１用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６３】本実施形態に係る第２の遊技機における高確２用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６４】本実施形態に係る第２の遊技機における天井用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６５】本実施形態に係る第２の遊技機における初期ＡＴレベル抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６６】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＡＴレベル昇格抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６７】本実施形態に係る第２の遊技機における前兆ゲーム数抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６８】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２６９】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７０】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７１】本実施形態に係る第２の遊技機における疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７２】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７３】本実施形態に係る第２の遊技機における補償モード移行抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７４】本実施形態に係る第２の遊技機における補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７５】本実施形態に係る第２の遊技機における補償モード時ナビ回数抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７６】本実施形態に係る第２の遊技機における規定チェリー書き換え抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図２７７】本実施形態に係る第２の遊技機におけるシナリオ関連データテーブルの一例を示す図である。
【図２７８】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＴＹ値＿上乗せ１データテーブルの一例を示す図である。
【図２７９】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＴＹ値＿上乗せ２データテーブルの

一例を示す図である。
【図２８０】本実施形態に係る第２の遊技機における非ＡＴ時＿補償ポイントデータテーブルの一例を示す図である。
【図２８１】本実施形態に係る第２の遊技機におけるＡＴ時＿補償ポイントデータテーブルの一例を示す図である。
【図２８２】本実施形態に係る第２の遊技機における指示無し時＿前兆ポイント数データテーブルの一例を示す図である。
【図２８３】本実施形態に係る第２の遊技機における指示有りＴ時＿前兆ポイント数データテーブルの一例を示す図である。
【図２８４】上記実施施形態に係る第２の遊技機におけるパチスロの報知を考慮した遊技状態の遷移フローを示す図である。
【図２８５】本発明の第７実施形態に係る遊技機において用いられる同軸ケーブルの構成を示す斜視図である。
【図２８６】図２８５の同軸ケーブルの断面図である。
【図２８７】図２８５の同軸ケーブルの電磁ノイズに対する耐性とディスクリートケーブルの電磁ノイズに対する耐性とを比較するための図である。
【図２８８】第７実施形態に係る遊技機において用いられる一のケーブルアッセンブリ（ハーネス）の外観を示す模式図である。
【図２８９】（ａ）は、第７実施形態に係る遊技機において用いられる他のケーブルアッセンブリの概略の平面図であり、（ｂ）は（ａ）のケーブルアッセンブリの概略の断面図である。
【図２９０】（ａ）は図２８５の同軸ケーブルを構成部品として有するオール細線同軸タイプのケーブルサブアッセンブリの斜視図であり、（ｂ）は細線同軸／ディスクリートケーブル混合結線タイプのケーブルサブアッセンブリの斜視図であり、（ｃ）はグランドフィンガータイプのケーブルサブアッセンブリの斜視図である。
【図２９１】表示装置の解像度、画素数、縦横比を示す図である。
【図２９２】細線同軸ケーブルを捻じ曲げた状態の概略を示す図である。
【図２９３】細線同軸ケーブルを少なくとも備えるケーブルアッセンブリ（ハーネス）を用いて部品間の接続例を示すための前面扉の背面斜視図である。
【図２９４】細線同軸ケーブルを少なくとも備えるケーブルアッセンブリ（ハーネス）を用いて部品間を接続した場合のケーブルアッセンブリ（ハーネス）の第１の状態を示す図である。
【図２９５】細線同軸ケーブルを少なくとも備えるケーブルアッセンブリ（ハーネス）を用いて部品間を接続した場合のケーブルアッセンブリ（ハーネス）の第２の状態を示す図である。
【図２９６】細線同軸ケーブルを少なくとも備えるケーブルアッセンブリ（ハーネス）を用いて部品間を接続した場合のケーブルアッセンブリ（ハーネス）の第３の状態を示す図である。
【図２９７】メダルレス遊技機とサンドとの概念図。
【図２９８】管理遊技機とサンドとの概念図。
【図２９９】操作台座部の概念図（仕様例１）。
【図３００】メダル数表示ユニット近傍の概念図（仕様例１）。
【図３０１】メダル数表示ユニット近傍の断面の概念図（仕様例１）。
【図３０２】遊技機の全体イメージ図（仕様例２）。
【図３０３】操作台座部の概念図（仕様例２）。
【図３０４】メダル数表示ユニット近傍の概念図（仕様例２）。
【図３０５】メダル数表示ユニット近傍の断面の概念図（仕様例２）。
【図３０６】遊技機の全体イメージ図（仕様例３）。
【図３０７】メダル数表示ユニット近傍の概念図（仕様例３）。
【図３０８】メダル数表示ユニット近傍の断面の概念図（仕様例３）。

【図３０９】メダルレス遊技機のクレジット加算音（貸出音）の仕様例。
【図３１０】メダルレス遊技機の１枚計数音（遊技機→サンドへの１枚転送音）の仕様例。
【図３１１】メダルレス遊技機の長押し計数音（遊技機→サンドへのまとめて転送音）の仕様例。
【図３１２】メダルレス遊技機の計数ボタンの計数完了音、オフエッジ音。
【図３１３】管理遊技機（パチンコ機）の持玉加算、計数時の効果音の仕様例Ａ。
【図３１４】貸出時のクレジット加算の仕様例１。
【図３１５】第８実施形態に係る遊技機の外部構造を示す斜視図である。
【図３１６】第８実施形態に係る遊技機の側面図である。
【図３１７】第８実施形態に係る遊技機の分解斜視図である。
【図３１８】第８実施形態に係る遊技機におけるキャビネットに第２形態用マスクを接続した状態の正面図である。
【図３１９】第８実施形態に係る遊技機におけるキャビネットに第２形態用マスクを接続した状態の側面図である。
【図３２０】第８実施形態に係る遊技機における上マスクの分解斜視図である。
【図３２１】第８実施形態に係る遊技機における下マスクを正面側から見た斜視図である。
【図３２２】第８実施形態に係る遊技機における下マスクを背面側から見た斜視図である。
【図３２３】第８実施形態に係る遊技機における下マスクの側面図である。
【図３２４】第８実施形態に係る遊技機における操作部ユニットの斜視図である。
【図３２５】第８実施形態に係る遊技機におけるスタートレバー装置の斜視図である。
【図３２６】第８実施形態に係る遊技機におけるスタートレバー装置の分解斜視図である。
【図３２７】第８実施形態に係る遊技機におけるスタートレバーを背面側から見た斜視図である。
【図３２８】第８実施形態に係る遊技機における導光ベースを前方から見た分解斜視図である。
【図３２９】第８実施形態に係る遊技機における導光ベースを後方から見た分解斜視図である。
【図３３０】第８実施形態に係る遊技機におけるレバー支持ベースの分解斜視図である。
【図３３１】第８実施形態に係る遊技機におけるスタートレバー装置の動作を説明する断面図である。
【図３３２】第８実施形態に係る遊技機における非操作状態のスタートレバーに入射する光を説明する断面図である。
【図３３３】第８実施形態に係る遊技機における操作状態のスタートレバーに入射する光を説明する断面図である。
【図３３４】第８実施形態に係る遊技機の第１変形例における操作部ユニットの斜視図である。
【図３３５】第１変形例におけるスタートレバー装置の斜視図である。
【図３３６】第８実施形態に係る遊技機の第２変形例における下マスクを正面側から見た斜視図である。
【図３３７】第２変形例におけるトレイの斜視図である。
【図３３８】第２変形例におけるトレイの分解斜視図である。
【図３３９】第２変形例におけるトレイを退避位置に配置した状態を示す下マスクの斜視図である。
【図３４０】第２変形例における操作部ユニットの側面図である。
【図３４１】第２変形例における音量操作部の構成を説明する図である。
【図３４２】第２変形例におけるストップボタン操作補助部材の斜視図である。

【図３４３】第２変形例におけるストップボタン操作補助部材の分解斜視図である。
【図３４４】第２変形例におけるストップボタン操作補助部材を使用位置から回動させた状態を示す操作部ユニットの斜視図である。
【図３４５】第２変形例におけるストップボタン操作補助部材の動作を説明する説明図である。
【図３４６】第２変形例におけるストップボタン操作補助部材の他の例の動作を説明する説明図である。
【図３４７】第８実施形態に係る遊技機の第３変形例における操作部ユニットの構成を示す概略図である。
【図３４８】第８実施形態に係る遊技機における上マスクの側面図である。
【図３４９】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の上部拡大図である。
【図３５０】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の本体側接続部を示す斜視図である
【図３５１】第８実施形態に係る遊技機におけるトップパネルを下方から見た斜視図である。
【図３５２】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の分解斜視図である。
【図３５３】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体を背面側から見た斜視図である。
【図３５４】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の上部スピーカユニットを正面側から見た斜視図である。
【図３５５】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の上部スピーカユニットの分解斜視図である。
【図３５６】第８実施形態に係る遊技機におけるフレームレンズの斜視図である。
【図３５７】第８実施形態に係る遊技機における上マスク本体の上部スピーカユニットからスピーカカバーを取り外した状態を示す図である。
【図３５８】第８実施形態に係る遊技機における音量つまみの斜視図である。
【図３５９】第８実施形態に係る遊技機における音量つまみの分解斜視図である。
【図３６０】第８実施形態に係る遊技機におけるポケット収納部の斜視図である。
【図３６１】第８実施形態に係る遊技機の第４変形例における発光スピーカユニットの斜視図である。
【図３６２】第８実施形態に係る遊技機の第４変形例における発光スピーカユニットの分解斜視図である。
【図３６３】第８実施形態に係る遊技機の第４変形例における発光スピーカユニットの導光部材にＬＥＤ基板を固定した状態を背面側からみた斜視図である。
【図３６４】第８実施形態に係る遊技機の下ドアベースを正面側から見た斜視図である。
【図３６５】第８実施形態に係る遊技機の下ドアベースを背面側から見た斜視図である。
【図３６６】第８実施形態に係る遊技機のキャビネットから下ドアベースを取り外した状態を示す斜視図である。
【図３６７】第８実施形態に係る遊技機のキャビネットから主制御及びリール組立体を取り外した状態を示す斜視図である。
【図３６８】図３６７に示すキャビネットの上方から見た水平方向断面図である
【図３６９】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニット固定部材の斜視図である。
【図３７０】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニット固定部材の分解斜視図である。
【図３７１】第８実施形態に係る遊技機における主制御及びリール組立体の斜視図である。
【図３７２】第８実施形態に係る遊技機における主制御及びリール組立体の側面図である。
【図３７３】第８実施形態に係る遊技機におけるリールユニットを正面側から見た斜視図

である。
【図３７４】第８実施形態に係る遊技機におけるリールユニットを背面側から見た斜視図である。
【図３７５】第８実施形態に係る遊技機におけるリールユニットの分解斜視図である。
【図３７６】第８実施形態に係る遊技機におけるリールユニットの基板カバーの斜視図である。
【図３７７】第８実施形態に係る遊技機におけるリール部材の分解斜視図である。
【図３７８】第８実施形態に係る遊技機におけるリール部材のホイールフレームの斜視図である。
【図３７９】第８実施形態に係る遊技機におけるユニット接続部材の分解斜視図である。
【図３８０】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットの分解斜視図である。
【図３８１】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットの基板ケースの分解斜視図である。
【図３８２】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットの外部装置接続基板の斜視図である。
【図３８３】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットの断面図である。
【図３８４】第８実施形態に係る遊技機における基板封止体の分解斜視図である。
【図３８５】第８実施形態に係る遊技機における基板上ケースの斜視図である。
【図３８６】第８実施形態に係る遊技機の基板上ケースと基板下ケースのかしめ部を示す断面図である。
【図３８７】第８実施形態に係る遊技機の接続部材に対する主制御ユニットの取付作業を説明する図である。
【図３８８】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットの組立状態を模式的に示す説明図である。
【図３８９】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットを特定位置に配置した状態を示す斜視図である。
【図３９０】第８実施形態に係る遊技機における主制御ユニットを特定位置に固定する作業を示す図である。
【図３９１】第８実施形態に係る遊技機のキャビネットから下ドアベースを取り外して、主制御ユニットを特定位置に固定した状態を示す正面図である。
【図３９２】第８実施形態に係る遊技機における電源装置に接続された電源供給ハーネスの取り回しを示す図である。
【図３９３】第９実施形態に係る主制御基板を収容する主基板ケースをキャビネットに取り付けた状態を示す正面図である。
【図３９４】第９実施形態に係る主制御基板を収容した主基板ケースをキャビネットから取り外した状態を示す斜視図である。
【図３９５】第９実施形態に係る主制御基板の実装面を示す平面図である。
【図３９６】第９実施形態に係る主基板ケースの分解斜視図である。
【図３９７】第９実施形態に係る主基板ケースにおける上ケースの斜視図である。
【図３９８】第９実施形態に係る主基板ケースにおける上ケースの内側を示す平面図である。
【図３９９】第９実施形態に係る主基板ケースにおける上ケースの右側面を示す図である。
【図４００】第９実施形態に係る主基板ケースにおける上ケースの左側面を示す図である。
【図４０１】第９実施形態に係る主制御基板を収容した主基板ケースを示す平面図である。
【図４０２】第９実施形態に係る主基板ケースの開封作業を説明する図である。
【図４０３】第９実施形態に係る主基板ケースの開封作業を説明する図である。
【図４０４】第９実施形態に係る主基板ケースの開封作業を説明する図である。

【図４０５】第９実施形態に係る主基板ケースの開封作業を説明する図である。
【図４０６】第９実施形態に係る主基板ケースの開封作業を説明する図である。
【図４０７】第９実施形態に係る主基板ケースの封印作業を説明する図である。
【図４０８】第９実施形態に係る下ドア機構の分解斜視図である。
【図４０９】第９実施形態に係る装飾ユニットの正面図である。
【図４１０】第９実施形態に係る装飾ユニットの裏面側を示す図である。
【図４１１】第９実施形態に係る下ドア本体の裏面側を示す図である。
【図４１２】第９実施形態に係る下ドア本体の裏面にスライド部材を取り付けた状態を裏面側からみた説明図である。
【図４１３】第９実施形態に係る下ドア本体の裏面にスライド部材を取り付けた状態を表面側からみた説明図である。
【図４１４】第９実施形態に係る第１スライド部材の斜視図である。
【図４１５】第９実施形態に係る第１スライド部材の分解斜視図である。
【図４１６】第９実施形態に係る第１スライド部材における第１部材の下面図である。
【図４１７】第９実施形態に係る第２スライド部材の正面図である。
【図４１８】第９実施形態に係る第３スライド部材の斜視図である。
【図４１９】第９実施形態に係る第４スライド部材の正面図である。
【図４２０】第９実施形態に係る下ドア機構の裏面側を示す図である。
【図４２１】第９実施形態に係る装飾ユニットの上フック部を下ドア本体の上フック貫通孔に挿入した状態を説明する図である。
【図４２２】第９実施形態に係る装飾ユニットの上フック部を第１スライド部材の上フック受け部に係合させた状態を説明する図である。
【図４２３】第９実施形態に係る装飾ユニットの下フック部を下ドア本体の下フック貫通孔に挿入した状態を説明する図である。
【図４２４】第９実施形態に係る装飾ユニットの下フック部を第３スライド部材の下フック受け部に係合させた状態を説明する図である。
【図４２５】可動役物の動作例を示す図である。
【図４２６】第１０実施形態に係る遊技機の可動役物の初期動作例を示す図である。
【図４２７】可動役物の別例を示す図である。
【図４２８】第１０実施形態に係る遊技機におけるナビカスタムに応じたボイスパターン例を示す図である。
【図４２９】第１０実施形態に係る遊技機におけるパスワード入力時の操作音量を説明する図である。
【図４３０】ストップボタンの基本的なランプ制御を示す図である。
【図４３１】フリーズが発生し得るチャンスゾーンの遊技の流れを示す図である。
【図４３２】第１０実施形態に係る遊技機におけるフリーズ発生時のストップボタンのランプ制御を示す図である。
【図４３３】第１０実施形態に係る遊技機におけるフリーズ発生時のストップボタンのランプ制御を示す図である。
【図４３４】第１０実施形態に係る遊技機における音量等調節画面の表示制御を説明する図である。
【図４３５】第１０実施形態に係るメダルレス遊技機における下皿の形状を示す図である。
【図４３６】第１０実施形態に係るメダルレス遊技機における下皿の形状を示す図である。
【図４３７】第１０実施形態に係る遊技機におけるケーブルの配線例を示す図である。
【図４３８】第１０実施形態に係る遊技機におけるケーブルの配線例を示す図である。
【図４３９】第１１実施形態に係る遊技機の図柄配置テーブルを示す図である。
【図４４０】第１１実施形態に係る遊技機の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態：構成例１）を示す図である。

【図４４１】第１１実施形態に係る遊技機の内部抽籤テーブル（ボーナス状態：構成例１）を示す図である。
【図４４２】第１１実施形態に係る遊技機の内部抽籤テーブル（ボーナス状態：構成例２）を示す図である。
【図４４３】第１１実施形態に係る遊技機の内部抽籤テーブル（ボーナス状態：構成例３）を示す図である。
【図４４４】第１１実施形態に係る遊技機のボーナス状態（構成例３）を説明する図である。
【図４４５】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１を説明する図である。
【図４４６】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例２を説明する図である。
【図４４７】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例３を説明する図である。
【図４４８】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例４を説明する図である。
【図４４９】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例５を説明する図である。
【図４５０】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例６を説明する図である。
【図４５１】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例７を説明する図である。
【図４５２】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例８を説明する図である。
【図４５３】第１１実施形態に係る遊技機の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態：構成例２）を示す図である。
【図４５４】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例９を説明する図である。
【図４５５】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１０を説明する図である。
【図４５６】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１１を説明する図である。
【図４５７】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１２を説明する図である。
【図４５８】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１３を説明する図である。
【図４５９】ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１４を説明する図である。
【図４６０】内部抽籤テーブル（非ボーナス状態：従来例）、第１１実施形態（変形例）に係る遊技機の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態：構成例３）、及び第１１実施形態（変形例）に係る遊技機の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態：構成例４）を示す図である。
【図４６１】ボーナス終了後を有利にする従来例を説明する図である。
【図４６２】ボーナス終了後を有利にする変形例１を説明する図である。
【図４６３】ボーナス終了後を有利にする変形例２を説明する図である。
【図４６４】ボーナス終了後を有利にする従来例と変形例との比較を説明する図である。
【図４６５】ボーナス終了後を有利にする変形例３（別例）を説明する図である。
【図４６６】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４６７】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４６８】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４６９】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７０】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７１】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７２】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７３】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７４】メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する図である。
【図４７５】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４７６】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４７７】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４７８】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４７９】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８０】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８１】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８２】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。

【図４８３】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８４】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８５】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８６】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８７】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８８】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４８９】本実施形態に係る遊技機の色報知演出抽籤テーブルの一例を示す図である。
【図４９０】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４９１】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４９２】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４９３】入賞図柄表示等の仕様例を説明する図である。
【図４９４】第１２実施形態に係る遊技機の分解斜視図である。
【図４９５】第１２実施形態に係るトップパネルを前方から見た斜視図である。
【図４９６】第１２実施形態に係るトップパネルを後方から見た斜視図である。
【図４９７】第１２実施形態に係るトップパネルを前方から見た分解斜視図である。
【図４９８】第１２実施形態に係るトップパネルを後方から見た分解斜視図である。
【図４９９】第１２実施形態に係るトップパネルにおけるフロントブロックの分解斜視図である。
【図５００】第１２実施形態に係る上マスクの上部を示す斜視図である。
【図５０１】第１２実施形態に係る上マスクにおける錠前ベースの上面図である。
【図５０２】第１２実施形態に係る上マスクにおける錠前ベースの斜視図である。
【図５０３】第１２実施形態に係る上マスクにおける錠前ベースの分解斜視図である。
【図５０４】第１２実施形態に係るトップパネル本体の分解斜視図である。
【図５０５】第１２実施形態に係るトップパネル本体における枠部を前方から見た斜視図である。
【図５０６】第１２実施形態に係るトップパネル本体における枠部を後方から見た斜視図である。
【図５０７】第１２実施形態に係る枠ドアの分解斜視図である。
【図５０８】第１２実施形態に係る枠ドアを遮光枠に取り付ける状態を示す図である。
【図５０９】第１２実施形態に係るトップパネル基板組立体の斜視図である。
【図５１０】第１２実施形態に係るトップパネル基板組立体の分解斜視図である。
【図５１１】第１２実施形態に係る人検出部の分解斜視図である。
【図５１２】第１２実施形態に係る人検出部の取付位置を示す概念図である。
【図５１３】第１２実施形態に係るバックケースの分解斜視図である。
【図５１４】第１２実施形態に係るバックドアの分解斜視図である。
【図５１５】第１２実施形態に係るバックドアをバックケースに取り付ける状態を示す図である。
【図５１６】第１２実施形態に係るバックドアのロック状態を示す断面図である。
【図５１７】第１２実施形態に係るバックドアのロック解除状態を示す断面図である。
【図５１８】第１２実施形態に係るトップパネルのバックドアを開位置へ回動させた状態を示す斜視図である。
【図５１９】第１２実施形態に係るトップパネルのバックドアを開位置へ回動させた状態を模式的に示す概念図である。
【図５２０】第１２実施形態に係るトップパネルの枠ドアを開準備位置に移動させた状態を示す斜視図である。
【図５２１】第１２実施形態に係るトップパネルの枠ドアを開準備位置に移動させた状態を模式的に示す概念図である。
【図５２２】第１２実施形態に係るトップパネルの枠ドアを開位置へ回動させた状態を示す斜視図である。
【図５２３】第１２実施形態に係るトップパネルの枠ドアを開位置へ回動させた状態を模

式的に示す概念図である。
【図５２４】第１２実施形態に係るトップパネルの後パネルを第１位置に配置した状態を示す断面図である。
【図５２５】第１２実施形態に係るトップパネルの後パネルを第２位置に配置した状態を示す断面図である。
【図５２６】第１２実施形態に係るトップパネルの後パネルを第２位置に配置した状態を模式的に示す概念図である。
【図５２７】第１２実施形態に係る下マスクの斜視図である。
【図５２８】第１２実施形態に係る下マスクにおける上部の分解斜視図である。
【図５２９】第１２実施形態に係る下マスクにおける下部の分解斜視図である。
【図５３０】第１２実施形態に係る中間スピーカユニットの分解斜視図である。
【図５３１】第１２実施形態に係る操作部外装カバーを後方から見た斜視図である。
【図５３２】第１２実施形態に係る中間スピーカユニットから出力される音の進行を模式的に示す図である。
【図５３３】第１２実施形態に係るストップボタンユニットの分解斜視図である。
【図５３４】第１２実施形態に係るストップボタン用スペーサの斜視図である。
【図５３５】第１２実施形態に係るストップボタンユニットを操作部外装体に取り付けた状態を示す図である。
【図５３６】第１２実施形態に係る操作部ユニットの断面図である。
【図５３７】第１２実施形態に係るスタートレバーユニットの斜視図である。
【図５３８】第１２実施形態に係るスタートレバーユニットの分解斜視図である。
【図５３９】第１２実施形態に係るスタートレバーユニットの断面図である。
【図５４０】第１２実施形態に係るスタートレバーの分解斜視図である。
【図５４１】第１２実施形態に係るメダル数表示ユニットの斜視図である。
【図５４２】第１２実施形態に係るメダル数表示ユニットの分解斜視図である。
【図５４３】第１２実施形態に係るメダル数表示ユニットにおける導光部と遮光部との第１の関係を示す概念図である。
【図５４４】第１２実施形態に係るメダル数表示ユニットにおける導光部と遮光部との第２の関係を示す概念図である。
【図５４５】第１２実施形態に係る演出ボタンユニットの断面図である。
【図５４６】第１２実施形態に係る音量つまみユニットの断面を模式的に示す図である。
【図５４７】第１２実施形態に係る演出ボタンユニットの変形例を示す断面図である。
【図５４８】第１２実施形態に係るメダル数表示ユニット及び操作部パネルの変形例を示す断面図である。
【図５４９】第１２実施形態に係るトップパネルの変形例を後方から見た斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１３】
［第１実施形態］
以下、図面を参照して、本実施形態に係る遊技機について説明する。なお、本実施形態では、遊技機としてパチスロ機を例に挙げて説明する。
【００１４】
［１．パチスロ機の構造］
まず、図１及び図２を参照して、パチスロ機１の構造について説明する。なお、図１は、パチスロ機１の外部構造を示す図であり、図２は、パチスロ機１の内部構造を示す図である。また、説明の便宜上、以下の外部構造の説明において、内部構造の一部を説明する場合があり、内部構造の説明において、外部構造の一部を説明する場合がある。
【００１５】
［１－１．外部構造］
［１－１－１．筐体］
パチスロ機１は、矩形箱状の筐体２により構成されている。また、筐体２は、遊技機本

体として前面側に矩形状の開口を有する金属製のキャビネットＧと、キャビネットＧの前面上部に配置された上ドア機構ＵＤと、キャビネットＧの前面下部に配置された下ドア機構ＤＤとを有している。

【００１６】

キャビネットＧは、中間支持板Ｇ１と、左右一対の側面壁Ｇ２と、背面壁Ｇ３と、上面壁Ｇ４と、底面壁Ｇ５とを有している。なお、図１及び図２においては、背面壁Ｇ３及び底面壁Ｇ５の図示を省略している。また、キャビネットＧの上面壁Ｇ４には、左右方向に所定の間隔を空けて、上下方向に貫通する２つの開口Ｇ４ａが形成されている。そして、この２つの開口Ｇ４ａそれぞれを塞ぐように木製の板部材Ｇ４ｂが上面壁Ｇ４に取付けられている。

【００１７】

なお、板部材Ｇ４ｂは、パチスロ機１を遊技店に設置する際に遊技島（不図示）に固定するために用いられるが、このような固定の方法が確保される限り、金属材や樹脂材で構成することもできるし、上面壁Ｇ４と一体に形成することもできる。また、キャビネットＧについて一定の強度が確保される限り、各構成部材の一部又は全部を木材や樹脂材で構成することもできる。

【００１８】

また、キャビネットＧは、その内部において、中間支持板Ｇ１を挟んで上側に、前方に開口する上側開口部Ｇ１０１が形成されており、中間支持板Ｇ１を挟んで下側に、前方に開口する下側開口部Ｇ１０２が形成されている。すなわち、キャビネットＧ内は、中間支持板Ｇ１を挟んで上部空間と下部空間とに仕切られており、中間支持板Ｇ１は、キャビネットＧ内を上部空間と下部空間とに仕切る仕切板として機能している。上部空間は、キャビネットＧ内の上ドア機構ＵＤの後側となる空間であり、後述のメイン表示装置２１０等が収容される。また、下部空間は、キャビネットＧ内の下ドア機構ＤＤの後側となる空間であり、後述のリールユニットＲＵや主制御基板７１等が収容される。

【００１９】

なお、キャビネットＧは、必ずしも中間支持板Ｇ１を含んで構成されていなくともよい。すなわち、キャビネットＧ内において各装置等が適切に収容される限り、上部空間と下部空間を仕切らない構成としてもよい。また、キャビネットＧは、単に「箱体」や「本体」と称することもできるし、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤを支持、あるいは固定する枠体として機能するため、「本体枠」、「支持体」、「支持枠」、あるいは「固定枠」等と称することもできる。

【００２０】

［１－１－２．前面扉］

上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤは、キャビネットＧの開口の形状及び大きさに対応するように形成され、キャビネットＧにおける開口の上部空間及び下部空間を閉塞可能に設けられている。すなわち、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤは、パチスロ機１の前面側に設けられた前面扉（フロントドア）として機能している。

【００２１】

また、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤのそれぞれは、例えば、左側の側面壁Ｇ２に設けられたヒンジ等の開閉機構（不図示）によって、キャビネットＧに対して開閉自在に取付けられている。なお、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤのいずれか一方については上述の開閉機構によって開閉自在とし、他方については一方のドア機構が開放状態となったときにのみ着脱可能となるように構成することもできる。

【００２２】

上ドア機構ＵＤは、その中央部に設けられた演出表示窓ＵＤ１と、演出表示窓ＵＤ１の上部に設けられた上部ランプ２３とを有している。演出表示窓ＵＤ１は、例えば、樹脂製の透明パネルとして構成され、その背面側に設けられた後述のメイン表示装置２１０を構成するスクリーン装置Ｃに表示された演出画像を視認可能としている。なお、本実施形態では、演出表示窓ＵＤ１を介して演出表示を行うメイン表示装置２１０を、メイン演出表

示部２１として説明する場合がある。

【００２３】

下ドア機構ＤＤは、その上部の略中央部に設けられたメイン表示窓４と、メイン表示窓４の背面側であって、キャビネットＧの内部側に取付けられたリールユニットＲＵとを有している。

【００２４】

リールユニットＲＵは、３個のリール３Ｌ（左リール），３Ｃ（中リール），３Ｒ（右リール）を主体に構成されている。各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、例えば、円筒状に形成されたリール本体と、リール本体の周面に装着された透光性のリール帯から構成され、リール帯には、複数（例えば、２０個）の図柄がリールの回転方向に沿って所定の間隔を空けて描かれている。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、それぞれが縦方向に一定の速度で回転できるように並列状態（横一列）に配設される。メイン表示窓４は、例えば、樹脂製の透明パネルとして構成され、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの周面上の図柄について少なくとも一部（例えば、３個）を視認可能としている。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの内部には、少なくともメイン表示窓４から図柄が視認される位置に光源（後述のランプ・ＬＥＤ類に含まれるリールランプ）が設けられ、少なくとも各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが回転中であるときにはこれらを内部から一定の輝度で照明することで、図柄の視認性を確保している。

【００２５】

また、下ドア機構ＤＤは、メイン表示窓４の左側に設けられたサブ演出表示部２２と、メイン表示窓４の右側に設けられた演出用ボタン１０ｂとを有している。サブ演出表示部２２は、後述のサブ表示装置２２０に表示された演出画像を表示する。なお、サブ演出表示部２２をタッチパネルとして構成し、演出表示を行う機能のみならず、演出用ボタンの１つとして機能させることもできる。演出用ボタン１０ｂは、遊技者の演出用の操作（演出操作）を受付ける操作部である。

【００２６】

また、下ドア機構ＤＤは、メイン表示窓４の下方に形成された略水平面の台座部において、左側に設けられたＭＡＸベットボタン６ａ，１ベットボタン６ｂ，精算ボタン９と、略中央部に設けられた演出用ボタン１０ａと、右側に設けられたメダル投入口５とを有している。

【００２７】

ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂは、パチスロ機１の内部に預けられている（クレジットされている）メダルを使用するための遊技者の遊技操作（ベット操作。「投入操作」や「掛け操作」等と称することもできる）を受付ける操作部である。ＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合、現在のベット数が最大ベット数（例えば、３枚）未満であり、クレジットされているメダルがその差分以上ある場合には、最大ベット数のメダルがベットされる。一方、クレジットされているメダルがその差分以上ない場合には、メダルはベットされない。また、１ベットボタン６ｂが操作された場合、現在のベット数が最大ベット数未満であり、クレジットされているメダルが１枚以上ある場合には、１枚のメダルがベットされる。

【００２８】

精算ボタン９は、クレジットされているメダルを返却（精算）するための遊技者の遊技操作（精算操作）を受付ける操作部である。なお、クレジットされているメダルがない状態で精算ボタン９が操作された場合、投入され、あるいは払出されるメダルに関し、クレジット可能数（例えば、５０枚）の範囲内において、当該メダルをクレジットするクレジットモード（Ｃモード）と、当該メダルをクレジットしないペイモード（Ｐモード）とのいずれかのモードを選択可能とするための遊技者の遊技操作（Ｃ／Ｐモード選択操作）を受付可能としてもよい。すなわち、精算ボタン９をいわゆるＣ／Ｐボタンとして機能させることもできる。演出用ボタン１０ａは、遊技者の演出用の操作（演出操作）を受付ける操作部である。

【００２９】
　メダル投入口５は、遊技者によって外部からパチスロ機１に投入されるメダルを受入れる。受入れたメダルは、後述のセレクタ３１によって検出されるとともに、適正なメダルであるか否かが判定される。受入れた１枚のメダルが適正なものでない場合、受入れたメダルが後述のメダル払出口１１から返却される。また、受入れた１枚のメダルが適正なものである場合、現在のベット数が最大ベット数未満である場合には、１枚のメダルがベットされる。現在のベット数が最大ベット数であり、クレジットされているメダルがクレジット可能数に到達していない場合には、１枚のメダルがクレジットされる。一方、クレジットされているメダルがクレジット可能数に到達している場合には、受入れたメダルが後述のメダル払出口１１から返却される。
【００３０】
　また、下ドア機構ＤＤは、メイン表示窓４と上述の台座部との間に設けられた情報表示装置１４を有している。情報表示装置１４は、複数のランプ（ＬＥＤ）や７セグメントＬＥＤを含んで構成され、その点灯態様により遊技に関する情報を表示する。
【００３１】
　また、下ドア機構ＤＤは、上述の台座部の下方において、左側に設けられたスタートレバー７と、略中央部に設けられた３個のストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒと、右側に設けられた施錠機構１５とを有している。スタートレバー７は、所定の角度範囲で傾動自在に取付けられ、遊技を開始させるための遊技者の遊技操作（開始操作）を受付ける操作部である。各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒは、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対応して設けられ、それぞれの回転を停止させるための遊技者の遊技操作（停止操作）を受付ける操作部である。
【００３２】
　施錠機構１５は、例えば、キーシリンダー錠から構成され、下ドア機構ＤＤが閉鎖状態であるとき、遊技店側の管理者（例えば、遊技店の店員等。以下同じ）が鍵穴にドアキー（不図示）を挿入した状態で右に回すと解錠し、下ドア機構ＤＤが開放状態となる。なお、施錠機構１５には、ドア機構の開閉を管理する機能のみならず、リセットスイッチとしての機能をもたせてもよい。例えば、遊技店側の管理者が鍵穴にドアキーを挿入した状態で左に回した場合には、後述のリセットスイッチ５３と同様のリセット操作を検出可能としてもよい。また、本実施形態では、下ドア機構ＤＤが開放状態となったとき、これに連動して上ドア機構ＵＤも開放状態となるように構成することもできるし、上ドア機構ＵＤに対応する施錠機構を別途設けるようにし、それぞれ独立して開閉を管理可能とすることもできる。
【００３３】
　また、下ドア機構ＤＤは、その下部の中央部に設けられた腰部パネル１３と、腰部パネル１３の下方に設けられたメダル受皿１２と、メダル受皿１２の上方に設けられたメダル払出口１１と、メダル払出口１１の左右に設けられた透音孔２４ａ，２４ｂとを有している。
【００３４】
　腰部パネル１３は、例えば、機種の名称を表すロゴやモチーフを表すキャラクタ等の機種情報が描かれた装飾パネルと、この装飾パネルを背面側から照明するための光源（後述のランプ・ＬＥＤ類に含まれる腰部ランプ）から構成される。メダル受皿１２は、メダル払出口１１から払出されたメダルを貯留する。メダル払出口１１は、パチスロ機１の内部から払出される（あるいは返却される）メダルを外部に排出する。なお、メダル払出口１１から排出されるメダルは、後述のホッパー装置３２から払出されたものと、後述のセレクタ３１からキャンセルシュート（不図示）を通って返却されたものとがある。透音孔２４ａ，２４ｂは、それぞれの背面側であって、キャビネットＧの内部側に取付けられたスピーカ３５ａ，３５ｂ（スピーカ３５ａは図２において符号省略）から出力される効果音やＢＧＭ等の音をパチスロ機１の前面側に向かって透過する。
【００３５】

なお、本実施形態では、キャビネットＧ内が上部空間と下部空間とに仕切られていることに対応して上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤを設けることとしているが、キャビネットＧにおける開口を適切に開閉可能とする限り、単一のドア機構として構成することもできるし、３つ以上のドア機構として構成することもできる。また、前後方向に二重に構成されたドア機構（例えば、外扉と内扉等）として構成することもできる。また、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤは、単に「扉」や「ドア」と称することもできるし、キャビネットＧにおける開口を開閉可能とする部材として機能するため、「開閉部材」、「扉部材」、あるいは「ドア部材」等と称することもできる。

【００３６】

［１－１－３．変動表示部］

上述のとおり、パチスロ機１は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ及びメイン表示窓４を備える。各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、スタートレバー７が操作されると（遊技者によって開始操作が行われると）、後述のステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒが駆動制御されることにより回転を開始する。これにより、メイン表示窓４に表示される図柄が変動表示される。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されると（遊技者によって停止操作が行われると）、後述のステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒが駆動制御されることによりそれぞれの回転を停止する。これにより、メイン表示窓４に表示される図柄が停止表示される。

【００３７】

すなわち、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ及びメイン表示窓４は、複数の図柄を複数列に変動表示（及び停止表示）可能な変動表示部（手段）、あるいは複数の図柄を変動表示（及び停止表示）可能な複数の変動表示部（手段）を構成する。なお、変動表示部（手段）は、「図柄表示部（手段）」や「可変表示部（手段）」等と称することもできる。また、図柄は、「絵柄」や「柄」等と称することもできるし、遊技者が視認により識別可能な情報であればよいことから、その意味において「識別情報」等と称することもできる。

【００３８】

また、メイン表示窓４は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止されたとき、それぞれについて連続して配置された３個の図柄がその枠内に表示されるように構成されている。すなわち、メイン表示窓４は、各列において上段、中段及び下段の各領域にそれぞれ１個の図柄（合計で３個）を表示する（メイン表示窓４の枠内には、３行×３列の態様で図柄が表示される）。なお、メイン表示窓４は、「図柄表示領域」や「窓部」等と称されることがある。

【００３９】

また、メイン表示窓４には、有効ラインが定義される。有効ラインは、遊技者の停止操作に応じて全ての列の図柄が停止表示されたときに、規定された図柄の組合せが表示されたか否かを判定するためのラインである。その意味において、有効ラインは、「入賞ライン」や「判定ライン」等と称することもできる。また、有効ラインは、各列の各領域のいずれかを結ぶラインとして構成される。すなわち、メイン表示窓４が３行×３列の態様で図柄を表示するように構成される場合、最大２７通りの有効ラインを定義することが可能である。もっとも、実際には、そのうちの一又は複数通りのラインを有効ラインとして定義し、他のラインは有効ラインではない無効ラインとして定義することができる。

【００４０】

なお、例えば、リール３Ｌの中段領域、リール３Ｃの中段領域、及びリール３Ｒの中段領域を結ぶラインは「センターライン」、リール３Ｌの上段領域、リール３Ｃの上段領域、及びリール３Ｒの上段領域を結ぶラインは「トップライン」、リール３Ｌの下段領域、リール３Ｃの下段領域、及びリール３Ｒの下段領域を結ぶラインは「ボトムライン」、リール３Ｌの下段領域、リール３Ｃの中段領域、及びリール３Ｒの上段領域を結ぶラインは「クロスアップライン」、リール３Ｌの上段領域、リール３Ｃの中段領域、及びリール３Ｒの下段領域を結ぶラインは「クロスダウンライン」等と称され、これらは各列の各領域を一直線で結ぶラインであることから、これらのうちの一又は複数通りのラインが有効ラ

インとして定義されることが多い。もっとも、上述のとおり、各列の各領域を折れ線で結ぶ、いわゆる変則ラインを有効ラインとして定義することもできる。

【００４１】

また、有効ラインが有効化されるためには、遊技者の開始操作に先立って、今回の遊技に必要な分の（遊技開始可能枚数分の）メダルがベットされている必要があるが、有効化される有効ライン数は、ベット数にかかわらず同じであってもよいし、ベット数に応じて変動してもよい。例えば、上述の「センターライン」、「トップライン」、及び「ボトムライン」の３通りのラインが有効ラインとして定義されているとした場合、前者の場合には、ベット数が１～３のいずれであっても「センターライン」、「トップライン」、及び「ボトムライン」が有効化されるようにする。一方、後者の場合には、ベット数が１であれば「センターライン」のみが有効化され、ベット数が２であれば「センターライン」及び「トップライン」が有効化され、ベット数が３（最大ベット数）であれば「センターライン」、「トップライン」、及び「ボトムライン」が有効化されるようにする。

【００４２】

なお、本実施形態では、変動表示部が、３個のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒと、各列において３個ずつの図柄を表示可能とするメイン表示窓４とを有することで、３行×３列の態様で図柄を表示するものとしていたが、変動表示部における図柄表示態様はこれに限られない。例えば、リール数を１個、２個、あるいは４個以上とし、また、例えば、各列における図柄の表示数を１個、２個、あるいは４個以上とすることで上述の態様とは異なる態様で図柄を表示することもできる。また、この場合、定義可能な有効ライン数も適宜増減する。

【００４３】

また、本実施形態では、変動表示部が、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転させることによって図柄を変動表示するものとしていたが、変動表示部の構成はこれに限られない。例えば、後述のメイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０と同様の画像表示装置を用いた構成としてもよいし、その他の表示装置（例えば、有機ＥＬや７セグメントＬＥＤ等）を用いた構成としてもよい。また、例えば、その他の物理的装置（例えば、ベルト等）を用いた構成としてもよい。また、変動表示部の配置や大きさ等は適宜変更可能である。

【００４４】

また、本実施形態では、変動表示部が、後述の主制御回路１００によって制御される、遊技に直接関連するメイン側表示部として機能とするものとしていたが、これとともに、後述の副制御回路２００によって制御される、遊技に直接関連しない演出に関連するサブ側表示部としての変動表示部を設けるようにしてもよい。なお、サブ側表示部は、例えば、メイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０を用いた構成とすることができる。すなわち、遊技者の開始操作（あるいは、その他開始条件の成立）に応じて図柄を変動表示させ、遊技者の停止操作（あるいは、その他停止条件の成立）に応じて図柄を停止表示させる変動表示部として、メイン側表示部のみならず、サブ側表示部を設けるようにしてもよい。なお、この場合、遊技者が変動表示部について遊技に直接関連するものであるか否かを識別可能とするため、メイン側表示部の近傍には、「回胴」ないし「メインリール」といった文字が表示された識別表示を付しておき、当該変動表示部がメイン側表示部であることを識別可能とすればよい。なお、このような識別表示は、メイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０において表示されるようにしてもよい。

【００４５】

［１－１－４．メダル投入口］

上述のとおり、パチスロ機１は、遊技者によって外部からパチスロ機１に投入されるメダルを受け入れるメダル投入口５を備える。なお、メダル投入口５及び後述のセレクタ３１は、ＭＡＸベットボタン６ａや１ベットボタン６ｂと同様に、１回の遊技に必要なメダル数をベットする機能を有することから、このような投入動作は、例えば、ベット操作と換言することもできる。したがって、メダル投入口５は、遊技者のベット操作を検出可能なベット操作検出部（手段）であるともいえる。なお、メダル投入口の形状、配置及び大

きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須の構成とはならない。

【００４６】

なお、本実施形態では、遊技に使用し、あるいは遊技結果に応じて付与される遊技価値として、遊技媒体としてのメダルを用いることを一例として説明しているが、このように用いられる遊技価値はこれに限られない。例えば、コイン、遊技球、遊技用のポイントデータ又はトークン等を用いることもできる。また、遊技価値は、単に「価値」、あるいは「遊技用価値」等と称することもできる。

【００４７】

［１－１－５．操作部］

パチスロ機１は、遊技者が操作可能な操作部として、例えば、以下に示す各操作部を備える。なお、以下に示す各操作部はあくまで一例であって、これらとは異なる操作部を備える構成としてもよいし、これらのうち必ずしも必須のものでない操作部については、これを備えない構成としてもよい。

【００４８】

［１－１－５－１．ベットボタン］

上述のとおり、パチスロ機１は、その内部に預けられている（クレジットされている）メダルを使用するための遊技者のベット操作を受付けるＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂを備える。また、このようなベット操作は、後述のベットスイッチ６Ｓによって検出される。したがって、ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂ、並びにベットスイッチ６Ｓは、遊技者のベット操作を検出可能なベット操作検出部（手段）を構成する。なお、ベットボタンは、あくまで遊技者のベット操作を検出可能であればよく、その形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、本実施形態では、ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂを設けているが、１ベットボタン６ｂを設けることなくＭＡＸベットボタン６ａのみを設けるようにしてもよい。また、２枚のメダルがベットされる２ベットボタンを別途設けるようにしてもよい。

【００４９】

［１－１－５－２．スタートレバー］

上述のとおり、パチスロ機１は、遊技を開始させるための遊技者の開始操作を受付けるスタートレバー７を備える。また、このような開始操作は、後述のスタートスイッチ７Ｓによって検出される。したがって、スタートレバー７及びスタートスイッチ７Ｓは、遊技者の開始操作を検出可能な開始操作検出部（手段）を構成する。なお、スタートレバーは、あくまで遊技者の開始操作を検出可能であればよく、その形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。

【００５０】

［１－１－５－３．ストップボタン］

上述のとおり、パチスロ機１は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対応して設けられ、それぞれの回転を停止させるための遊技者の停止操作を受付ける各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを備える。また、このような停止操作は、後述のストップスイッチ８Ｓによって検出される。したがって、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒ及びストップスイッチ８Ｓは、遊技者の停止操作を検出可能な停止操作検出部（手段）を構成する。なお、ストップボタンは、あくまで遊技者の停止操作を検出可能であればよく、その形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。

【００５１】

［１－１－５－４．精算ボタン］

上述のとおり、パチスロ機１は、クレジットされているメダルを返却（精算）するための遊技者の精算操作（返却操作）を受付ける精算ボタン９を備える。また、このような精算操作は、後述の精算スイッチ９Ｓによって検出される。したがって、精算ボタン９及び精算スイッチ９Ｓは、遊技者の精算操作を検出可能な精算操作検出部（手段）を構成するなお、精算ボタンは、あくまで遊技者の精算操作を検出可能であればよく、その形状、配

置及び大きさ等は適宜変更可能である。
【００５２】
［１－１－５－５．演出用ボタン］
上述のとおり、パチスロ機１は、遊技者の演出操作を受付ける演出用ボタン１０ａ，１０ｂを備える。なお、このような演出操作は、それぞれの演出用ボタンに対応して設けられた検出スイッチ（不図示）によって検出される。したがって、演出用ボタン１０ａ，１０ｂ及び当該検出スイッチは、遊技者の演出操作を検出可能な演出操作検出部（手段）を構成する。なお、演出用ボタンは、あくまで遊技者の演出操作を検出可能であればよく、その形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、本実施形態では、２個の演出用ボタン１０ａ，１０ｂを設けているが、これらのいずれも設けることなく構成することもできるし、これらのうちいずれかのみを設けるように構成することもできる。また、３個以上の演出用ボタンを設けるように構成することもできる。
【００５３】
なお、演出用ボタンの主な用途としては、特定の演出（例えば、後述の操作連動演出）実行時に演出態様を変化させること、後述のユーザーメニューにおいて選択・決定操作を行うこと等である。したがって、用途に応じた演出用ボタンを設けるように構成することもできる。例えば、前者の用途では演出用ボタン１０ａ，１０ｂが使用されるものとし、後者の用途では上述のタッチパネルを使用するように構成することもできる。なお、後者の用途で用いるために、別の演出用ボタンとして、選択・決定操作を受付可能なジョグダイヤルや十字キー等を設けるように構成することもできる。
【００５４】
［１－１－６．メダル払出口］
上述のとおり、パチスロ機１は、パチスロ機１の内部から払出される（あるいは返却される）メダルを外部に排出するメダル払出口１１を備える。なお、入賞が発生してメダルを払出す場合、メダル払出口１１は、後述のホッパー装置３２から払出されたメダルを遊技者に付与するものであることから、遊技者に特典を付与する特典付与手段の一部であるともいえる。また、メダル払出口の形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須の構成とはならない。
【００５５】
［１－１－７．メダル受皿］
上述のとおり、パチスロ機１は、メダル払出口１１から払出されたメダルを貯留するメダル受皿１２を備える。すなわち、メダル受皿１２は、付与された遊技価値を貯留可能な貯留部（手段）を構成する。なお、メダル受皿の形状、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須の構成とはならない。
【００５６】
［１－１－８．腰部パネル］
上述のとおり、パチスロ機１は、例えば、機種情報が描かれた装飾パネルと、この装飾パネルを背面側から照明するための腰部ランプから構成される腰部パネル１３を備える。なお、腰部パネル１３は、基本的にはそのパチスロ機１がどういった機種であるかを遊技者にわかりやすく示すものであるが、例えば、腰部ランプの点灯態様により、あるいは、腰部パネル１３そのものを画像表示装置等で構成することにより演出を実行可能な演出実行手段の１つとして構成することもできる。
【００５７】
［１－１－９．情報表示部］
上述のとおり、パチスロ機１は、その点灯態様により遊技に関する情報を表示する情報表示装置１４を備える。すなわち、情報表示装置１４は、遊技に関する情報を表示可能な情報表示部（手段）を構成する。
【００５８】

情報表示装置１４は、例えば、インサートランプと、スタートランプと、リプレイランプと、ベット数ランプと、クレジットランプと、払出数ランプと、指示モニタと、リミットランプ等を含んで構成される。

【００５９】

インサートランプは、点灯することでメダルの投入が可能であることを表示する。スタートランプは、点灯することでスタートレバー７の操作にともなって遊技の開始が可能であることを表示する。リプレイランプは、点灯することで再遊技の作動によりメダルが自動投入されたことを表示する。ベット数ランプは、点灯することでベットされたメダル数を表示する。クレジットランプは、その点灯態様によりクレジットされているメダル数を表示する。払出数ランプは、その点灯態様により遊技結果に応じて払出されたメダル数（払出数）を表示する。

【００６０】

また、指示モニタは、報知ランプ（停止操作表示部）と、区間ランプ（状態表示部）と、を含んで構成される。報知ランプは、遊技者に対して停止操作の情報が報知される状況下（例えば、ＡＴ状態）において、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で点灯することで、停止操作の情報を表示する。なお、「報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様」とは、例えば、押し順（本実施形態では、これを「打順」として説明する場合がある）「１ｓｔ（第１停止操作をリール３Ｌに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「１」を表示し、押し順「２ｎｄ（第１停止操作をリール３Ｃに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「２」を表示し、押し順「３ｒｄ（第１停止操作をリール３Ｒに対して行うこと）」を報知する場合には指示モニタに数値「３」を表示する等の態様のことである。なお、報知ランプは、クレジットランプや払出数ランプとは必ずしも別に設けられていなくともよい。例えば、クレジットランプ又は払出数ランプのいずれかを用いて、停止操作の情報を表示してもよい。

【００６１】

このように、本実施形態では、遊技者に対して停止操作の情報が報知される状況下においては、後述の副制御回路２００によって制御されるサブ側報知手段（例えば、メイン演出表示部２１）のみならず、後述の主制御回路１００によって制御されるメイン側報知手段としての指示モニタにおいても停止操作の情報が報知される。なお、メイン側報知手段における報知の態様と、サブ側報知手段における報知の態様とは、互いに異なる態様であってもよい。すなわち、メイン側報知手段では、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で報知すればよく、必ずしも、停止操作の情報を直接的に報知する必要はない。例えば、押し順「１ｓｔ」を報知する場合、指示モニタにおいて数値「１」が表示されたとしても、遊技者によっては報知内容を特定できない可能性もある。一方、サブ側報知手段では、停止操作の情報を直接的に報知すればよい。例えば、押し順「１ｓｔ」を報知する場合、メイン演出表示部２１では、リール３Ｌに対して第１停止操作を行わせるための指示情報を直接的に報知すればよい。

【００６２】

また、区間ランプは、点灯することで現在の状態が後述の有利区間中であることを表示する。区間ランプは、例えば、後述の非有利区間から有利区間に移行するとき、当該有利区間の遊技が開始されるまでの任意のタイミングで点灯し、当該有利区間が終了して非有利区間に移行するとき、当該非有利区間の遊技が開始されるまでの任意のタイミングで消灯する。なお、区間ランプの点灯タイミングはこれに限られない。例えば、非有利区間又は有利区間における後述の演出区間（通常有利区間）から最初に有利区間における後述の増加区間（ＡＴ状態）に移行するとき、当該増加区間の遊技が開始されるまでの任意のタイミングで点灯するものとしてもよい。すなわち、区間ランプは、演出区間であるか増加区間であるかを問わず有利区間中であることを報せるものであってもよいし、少なくとも最初の増加区間の開始からこれを含めた有利区間が終了するまでの期間を報せるものであってもよい。

【００６３】

また、リミットランプは、その点灯態様により後述のリミット処理が実行されたこと、あるいはその可能性を表示する。例えば、リミット処理が実行された場合に点灯することで遊技者に有利な状態（例えば、ＡＴ状態）がリミット処理の実行によって強制的に終了されたことを報せる。また、例えば、リミット処理の実行が近い場合に点滅することで当該有利な状態がリミット処理の実行によって強制的に終了される可能性が高いことを報せる。なお、これら以外にも点灯、点滅又は消灯の契機を設けることで、リミット処理に関するその他の情報を適宜報せることもできる。

【００６４】

［１－１－１０．演出表示部］

上述のとおり、パチスロ機１は、演出画像を表示するメイン演出表示部２１及びサブ演出表示部２２を備える。メイン演出表示部２１及びサブ演出表示部２２は、演出表示を行うことが可能な演出表示部（手段）を構成する。また、遊技者に対し視覚的な観点での演出を実行可能な演出実行手段の１つとして構成される。

【００６５】

メイン演出表示部２１は、演出表示窓ＵＤ１を介して演出表示を行うメイン表示装置２１０を含んで構成される。また、メイン表示装置２１０は、キャビネットＧ内の中間支持板Ｇ１上に交換可能に載置された表示ユニットＡとして構成される。表示ユニットＡは、画像表示用の照射光を出射する照射ユニットＢと、照射ユニットＢからの照射光が照射されることにより画像を出現させるスクリーン装置Ｃとを有するいわゆるプロジェクションマッピング装置である。なお、本実施形態では、メイン表示装置２１０をこのように構成することで、高度で、かつ迫力のある演出表示を可能としているが、メイン表示装置２１０の構成はこれに限られない。すなわち、遊技者に対し視覚的な観点での演出を実行可能であればよく、液晶表示装置や有機ＥＬ等の画像表示装置や７セグメントＬＥＤ等の表示装置として構成することもできるし、サブリール等の変動表示装置やドット表示装置として構成することもできる。また、このような観点より、その形状、配置及び大きさ等も適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、例えば、いわゆる出目によって楽しませることを主体とする遊技性である等の場合には、メイン演出表示部２１を設けないように構成することもできる（サブ演出表示部２２も同様）。

【００６６】

サブ演出表示部２２は、サブ表示装置２２０を含んで構成される。また、サブ表示装置２２０は、液晶表示装置として構成される。なお、サブ表示装置２２０もメイン表示装置２１０と同様に、他の画像表示装置や表示装置として構成することができるし、変動表示装置やドット表示装置として構成することもできる。また、このような観点より、その形状、配置及び大きさ等も適宜変更可能である。また、メイン演出表示部２１は、大画面で構成されていることから、押し順の報知や当り報知、あるいは連続演出等といった今回の遊技と密接に関連する演出を主として表示し、サブ演出表示部２２は、小画面で構成されていることから、遊技履歴等といった今回の遊技とはそこまで密接に関連しない演出を主として表示するといったように、目的に応じて表示内容を分けて表示することが可能である。また、本実施形態では、メイン演出表示部２１及びサブ演出表示部２２の２個の演出表示部を設けるように構成しているが、これらのいずれも設けることなく構成することもできるし、これらのうちいずれかのみを設けるように構成することもできる。また、３個以上の演出表示部を設けるように構成することもできる。

【００６７】

［１－１－１１．ランプ］

上述のとおり、パチスロ機１は、一例として挙げた上部ランプ２３のように、その発光態様（点灯、点滅、あるいは消灯のみならず、フルカラーＬＥＤとして構成される場合にはその輝度や発光色を含む）によって演出を行うことが可能な一又は複数のランプ（発光手段）を備える。また、このような発光手段は、遊技者に対し視覚的な観点での演出を実行可能な演出実行手段の１つとして構成される。なお、このような観点より、その数、形状、配置及び大きさ等も適宜変更可能である。

【００６８】
なお、後述のランプ・ＬＥＤ類に含まれるその他のランプとしては、例えば、上ドア機構ＵＤの両側端面や下ドア機構ＤＤの両側端面に設けられたサイドランプや各操作部内に設けられた操作部ランプ等を挙げることができる。なお、後者は、それぞれの操作部が操作可能であるか否かを遊技者に報せる機能を含むことから、このような機能を発揮させる場合には演出内容に応じて発光態様を変動させず、一義的な発光態様によって発光するように制御することができる。
【００６９】
［１－１－１２．スピーカ］
上述のとおり、パチスロ機１は、効果音やＢＧＭ等の音を出力するスピーカ３５ａ，３５ｂを備える。スピーカ３５ａ，３５ｂは、音声の出力によって演出を行うことが可能な音声出力手段を構成する。また、遊技者に対し聴覚的な観点での演出を実行可能な演出実行手段の１つとして構成される。なお、このような観点より、その数、形状、配置及び大きさ等も適宜変更可能である。
【００７０】
［１－１－１３．その他演出装置］
なお、パチスロ機１では、上述の各種演出装置（演出実行手段）以外の演出装置を設けることもできる。例えば、いわゆる役物といった可動演出装置、振動により演出を行う振動演出装置、あるいは空気を噴射することで演出を行うエアー演出装置等の演出装置を設け、演出を実行することも可能である。すなわち、遊技者の五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）のいずれかに訴えかけることができる（遊技者に演出が実行されていることを認識可能とさせる）演出を実行可能な演出装置であれば、それらのうちいずれを用いることもできる。したがって、本実施形態において「演出を実行する」とは、特段の説明がない限り、上述の各種演出装置（演出実行手段）のうち、一又は複数の演出装置のいずれの演出装置を用いて演出を実行してもよいこと示している。
【００７１】
［１－２．内部構造］
［１－２－１．セレクタ］
セレクタ３１（図２において符号省略）は、メダル投入口５から投入されたメダルの流下路であって、下ドア機構ＤＤの背面側に設けられている。セレクタ３１は、例えば、後述のメダルセンサ３１Ｓと、振分装置とを有している。
【００７２】
メダルセンサ３１Ｓは、メダル投入口５から投入されたメダルを検出するとともに、検出されたメダルが適切なメダルであるか否かを判定する。振分装置は、メダルセンサ３１Ｓにより、検出されたメダルが適切なメダルであると判定された場合であって、メダルの受入れが可能な状態である場合、当該メダルが後述のホッパー装置３２側に案内されるように駆動制御される。なお、この場合、ベット数あるいはクレジット数が１加算される。一方、振分装置は、メダルセンサ３１Ｓにより、検出されたメダルが適切なメダルでないと判定された場合、及びメダルの受入れが可能な状態でない場合、当該メダルがキャンセルシュートを通ってメダル払出口１１から返却されるように駆動制御される。メダルセンサ３１Ｓによるメダルの検出に異常が発生した場合にはセレクタエラーが発生する。なお、この場合、異常の発生要因（例えば、メダル詰まり）を解消した上で、リセット操作が行われると当該エラー状態が解除される。
【００７３】
すなわち、セレクタ３１は、投入された遊技媒体を検出可能な遊技媒体検出部（手段）を構成する。また、セレクタ３１は、投入された遊技媒体が適正であるか否かを判定可能な判定手段を構成する。また、セレクタ３１は、投入された遊技媒体が適正である場合には内部に貯留する一方、投入された遊技媒体が適正でない場合には外部に排出する振分手段を構成する。また、セレクタ３１の構成、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須

の構成とはならない。
【００７４】
［１－２－２．ホッパー装置］
ホッパー装置３２は、キャビネットＧ内の下部空間に設けられている。ホッパー装置３２は、例えば、メダル投入口５から投入され、セレクタ３１によって案内されたメダルを貯留するバケット部と、バケット部の底部に設けられ、バケット部に貯留されたメダルを撹拌するとともに、１枚ずつ排出部に案内するディスク部と、ディスク部によって案内されたメダルを１枚ずつ排出する排出部と、排出部から排出されたメダルをカウントするカウントセンサとを有している。
【００７５】
バケット部は、一定数のメダルを貯留可能に構成される。一定数を超えたメダルは、上面側に設けられた案内通路を通って後述のメダル補助収納庫３３に案内される。なお、バケット部に貯留されたメダルが空となった場合にはホッパーエンプティエラーが発生する。なお、この場合、メダルを補充した上で、リセット操作が行われると当該エラー状態が解除される。
【００７６】
ディスク部は、中心から放射状にメダル形状のくり抜き部が複数形成され、駆動信号にしたがって中心軸が回転駆動されることで、くり抜き部に嵌ったメダルを１枚ずつ排出部に案内する。なお、ディスク部が回転することでバケット部に貯留されたメダルが撹拌される。また、ディスク部の回転に異常が発生した場合にはホッパージャムエラーが発生する。なお、この場合、異常の発生要因（例えば、メダル詰まり）を解消した上で、リセット操作が行われると当該エラー状態が解除される。
【００７７】
カウントセンサは、排出部から排出されたメダルを検出するとともに、その枚数をカウントする。例えば、１枚のメダルを払出す場合、ディスク部が回転を開始し、続いてカウントセンサが１枚のメダルの払出をカウントしたことに応じてディスク部の回転が停止する。このようにして、適正枚数のメダルが払出されるようにしている。
【００７８】
すなわち、ホッパー装置３２は、遊技媒体を払出可能な遊技媒体払出部（手段）を構成する。また、上述のとおり、遊技者に特典を付与する特典付与手段の一部であるともいえる。また、ホッパー装置３２の構成、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須の構成とはならない。
【００７９】
［１－２－３．メダル補助収納庫］
メダル補助収納庫３３は、キャビネットＧ内の下部空間に設けられている。メダル補助収納庫３３は、例えば、ホッパー装置３２のバケット部から案内されたメダルを収納する収納部と、収納部の近傍に設けられ、収納部に収納されたメダルの容量を検出するメダル補助収納庫スイッチ３３Ｓとを有している。
【００８０】
収納部は、一定数のメダルを収納可能に構成される。メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓにより、当該一定数以上のメダルが収納されたと判定された場合にはメダル補助収納庫エラーが発生する。なお、この場合、収納部に収納されたメダルを少なくとも一定数未満に減らした上で、リセット操作が行われると当該エラー状態が解除される。
【００８１】
すなわち、メダル補助収納庫３３は、余剰の遊技媒体を貯留可能な余剰遊技媒体貯留部（手段）を構成する。なお、メダル補助収納庫３３の構成、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。また、パチスロ機１が、後述のメダルレス遊技機として構成される場合には、必ずしも必須の構成とはならない。
【００８２】

［１－２－４．電源装置］
　電源装置３４は、キャビネットＧ内の下部空間に設けられている。電源装置３４は、例えば、電源基板３４ａと、電源スイッチ３４ｂとを有しており、電源スイッチ３４ｂがオンされることに応じてパチスロ機１に電力を供給する。なお、電源装置３４は、家庭用電気製品等と同じく電源ケーブル（不図示）から供給された交流電圧１００Ｖの電力を各部で必要な直流電圧の電力に変換して、変換した電力を各部へ供給する。すなわち、電源装置３４は、必要な電力を遊技機に供給可能な電源部（手段）を構成する。なお、電源装置３４の構成、配置及び大きさ等は適宜変更可能である。
【００８３】
　なお、本実施形態では、後述の設定用鍵型スイッチ５２やリセットスイッチ５３が主制御基板７１（より詳細には後述の主制御基板ケース上）に設けられるように構成しているが、これらのスイッチを電源装置３４に設けるように構成することもできる。
【００８４】
［１－２－５．基板］
　パチスロ機１は、各種制御に必要な基板として、例えば、以下に示す各基板を備える。なお、以下に示す各基板はあくまで一例であって、これらとは異なる基板を備える構成としてもよいし、これらのうち必ずしも必須のものでない基板については、これを備えない構成としてもよい。
【００８５】
［１－２－５－１．主制御基板］
　主制御基板７１は、キャビネットＧ内において、リールユニットＲＵの背面側に取付けられている。なお、主制御基板７１は、遊技に関する制御を行う遊技制御基板であり、その状態が視認可能となるように透明（あるいは略透明）に構成された樹脂製の主制御基板ケース（不図示）内に収容されている。主制御基板７１の電気的構成については後述する。
【００８６】
　なお、主制御基板７１の仕様には種々の制約があり、基本的に各種電子部品がＤＩＰ実装されて構成されるものとなっているが、各種電子部品の一部又は全部についてＳＭＴ実装（表面実装）されて構成されるものとしてもよい。また、この場合、テスターやオシロスコープを用いて動作確認を行うためのテストポイントを設けるようにしてもよい。また、各種電子部品の一部又は全部について６平方ｍｍを超えない小さい電子部品を使用してもよい。また、主制御基板７１の基板面を多層化して構成してもよい。
【００８７】
［１－２－５－２．副制御基板］
　副制御基板７２は、キャビネットＧ内において、中間支持板Ｇ１の裏面側に取付けられている。なお、副制御基板７２は、演出に関する制御を行う演出制御基板であり、樹脂製の副制御基板ケース（不図示）内に収容されている。なお、副制御基板ケースは、主制御基板ケースと同様に透明（あるいは略透明）に構成された樹脂製のケースとして構成することもできるし、不透明（あるいは略不透明）に構成された他の材料を用いたケースとして構成することもできる。副制御基板７２の電気的構成については後述する。
【００８８】
［１－２－５－３．その他基板］
（主中継基板）
　主中継基板７３（図２において符号省略）は、キャビネットＧ内の特定位置（例えば、下ドア機構ＤＤの背面側）に取付けられており、主中継基板７３に接続された各種デバイス等と主制御基板７１との間、及び主制御基板７１と副制御基板７２との間を中継するための中間制御基板である。なお、主中継基板７３は、制御効率や配線効率の便宜から主制御基板７１とは別の基板として構成されたものであるため、特段の支障がなければ主中継基板７３の機能を全て主制御基板７１にもたせ、主中継基板７３を設けない構成とすることもできる。また、このような観点より、主中継基板７３をさらに複数の中継基板に分割

し、制御効率や配線効率の向上を図るようにしてもよい。すなわち、主中継基板として複数の基板を設けるようにしてもよい。

【００８９】

（副中継基板）

副中継基板７４は、キャビネットＧ内の特定位置（例えば、下ドア機構ＤＤの背面側）に取付けられており、副中継基板７４に接続された各種デバイス等と副制御基板７２との間、及び主制御基板７１と副制御基板７２との間を中継するための中間制御基板である。なお、副中継基板７４は、制御効率や配線効率の便宜から副制御基板７２とは別の基板として構成されたものであるため、特段の支障がなければ副中継基板７４の機能を全て副制御基板７２にもたせ、副中継基板７４を設けない構成とすることもできる。また、このような観点より、副中継基板７４をさらに複数の中継基板に分割し、制御効率や配線効率の向上を図るようにしてもよい。すなわち、副中継基板として複数の基板を設けるようにしてもよい。

【００９０】

（外部集中端子板）

外部集中端子板５５は、キャビネットＧ内の特定位置（例えば、下部空間の奥側）に取付けられており、例えば、メダル投入信号、メダル払出信号、外部信号１～４及びセキュリティ信号等の信号をパチスロ機１の外部へ出力する。なお、外部信号１～４は、その出力開始条件及び出力終了条件を適宜設定可能であり、その遊技性に応じてパチスロ機１の内部状態（例えば、ボーナス状態やＡＴ状態）の遷移を外部に報せることを可能としている。そして、外部集中端子板５５は、通常、外部のデータ表示機やホールコンピュータに接続されることから、これらの機器においても、パチスロ機１におけるメダルの投入・払出状況やエラーの発生状況のみならず、そのような内部状態の遷移状況が認識可能となっている。

【００９１】

（試験機用インターフェースボード）

試験機用第１インターフェースボード３０１及び試験機用第２インターフェースボード３０２は、ともにパチスロ機１の検定試験（試射試験）において、遊技に関する各種信号を試験機に出力する際に用いられる中継基板である（なお、販売用のリリース製品としてのパチスロ機１にはこれらの中継基板は搭載されていないので、販売用の主制御基板７１には、試験機用第１インターフェースボード３０１及び試験機用第２インターフェースボード３０２に接続するために必要な各種電子部品もまた実装されていない）。例えば、遊技に係る主要な動作（例えば、内部抽籤、リール停止制御等）を制御するための試験信号は、試験機用第１インターフェースボード３０１を介して出力され、また、主制御基板７１で決定された押し順ナビに係る試験信号等は、試験機用第２インターフェースボード３０２を介して出力される。

【００９２】

［２．パチスロ機の電気的構成］

続いて、図３を参照して、パチスロ機１の電気的構成について説明する。なお、図３は、パチスロ機１の電気的構成を示すブロック図である。

【００９３】

上述のとおり、パチスロ機１は、主制御基板７１と、副制御基板７２と、主中継基板７３と、副中継基板７４とを有している。主制御基板７１と主中継基板７３、主中継基板７３と副中継基板７４、及び副中継基板７４と副制御基板７２は、それぞれ電気的に接続されている。また、主制御基板７１と副制御基板７２は、主中継基板７３及び副中継基板７４を介して、主制御基板７１から副制御基板７２に対して一方向のシリアル通信が可能となるように電気的に接続されている。

【００９４】

主制御基板７１には、遊技に関する制御を行う遊技制御部としての主制御回路１００が実装されている。主制御回路１００は、例えば、メインＣＰＵ１０１、メインＲＯＭ１０

２、メインＲＡＭ１０３、クロックパルス発生回路（不図示）、乱数回路（不図示）等を含んで構成される。メインＲＯＭ１０２には、メインＣＰＵ１０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、副制御回路２００に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等が記憶される。メインＲＡＭ１０３には、制御プログラムの実行により決定された内部当籤役等の各種データを格納する格納領域が設けられる。クロックパルス発生回路は、メインＣＰＵ１０１作動用のクロックパルス信号を生成する。乱数回路は、予め定められた範囲の乱数（例えば、０～６５５３５又は０～２５５等）を発生させる。メインＣＰＵ１０１は、生成されたクロックパルス信号に基づいて各種制御プログラムを実行する。また、発生された乱数の中から必要に応じて一又は複数の値を乱数値として抽出する。このようにして、遊技動作全般に係る制御を行う。

【００９５】

副制御基板７２には、演出に関する制御を行う演出制御部としての副制御回路２００が実装されている。副制御回路２００は、例えば、サブＣＰＵ２０１、サブＲＡＭ２０３等を含んで構成される。また、副制御基板７２には、ロムカートリッジ基板２０２が接続されている。ロムカートリッジ基板２０２には、サブＣＰＵ２０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、各種演出データ（例えば、メイン表示装置２１０に係る映像データや駆動データ、サブ表示装置２２０に係る映像データ、ランプ・ＬＥＤ群に係るランプデータ、スピーカ群に係るサウンドデータ等）等が記憶される。サブＲＡＭ２０３には、制御プログラムの実行により決定された演出内容や各種演出データを登録する格納領域や、主制御基板７１から送信される各種制御指令（コマンド）に係るデータを格納する格納領域等が設けられる。なお、演出に係る演出用乱数値については、予め定められた範囲の乱数（例えば、０～３２７６７等）の中から、サブＣＰＵ２０１内で発生及び抽出が行われるようにしてもよいし、主制御回路１００と同様に乱数回路を設けることでその発生及び抽出が行われるようにしてもよい。また、ロムカートリッジ基板２０２ではなく、副制御回路２００内にサブＲＯＭが含まれるようにし、各種制御プログラム等はサブＲＯＭに記憶されるように構成してもよい。また、ロムカートリッジ基板２０２に各種演出データを記憶させ、副制御回路２００内のサブＲＯＭに各種制御プログラム及び各種データテーブルを記憶させるように構成してもよい。また、副制御回路２００には、ＧＰＵ等の画像専用のマイクロプロセッサ（例えば、「ＶＤＰ」とも称される）が含まれるようにし、これによってメイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０で表示される映像を生成（編集）するように構成してもよい。

【００９６】

主制御基板７１には、ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒ、設定用鍵型スイッチ５２、リセットスイッチ５３、役比モニタ装置５４、外部集中端子板５５、ホッパー装置３２、メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓ、電源装置３４が電気的に接続されている。また、主制御基板７１には、主中継基板７３を介して、ドア開閉監視スイッチ５６、メダルセンサ３１Ｓ、ベットスイッチ６Ｓ、スタートスイッチ７Ｓ、ストップスイッチ８Ｓ、精算スイッチ９Ｓ、情報表示装置１４が電気的に接続されている。なお、仮に試験機用第１インターフェースボード３０１及び試験機用第２インターフェースボード３０２が搭載される場合には、例えば、主中継基板７３を介して主制御基板７１に電気的に接続される。

【００９７】

なお、外部集中端子板５５、ホッパー装置３２、メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓ、電源装置３４、メダルセンサ３１Ｓ、ベットスイッチ６Ｓ、スタートスイッチ７Ｓ、ストップスイッチ８Ｓ、精算スイッチ９Ｓ、情報表示装置１４、試験機用第１インターフェースボード３０１及び試験機用第２インターフェースボード３０２についてはすでに説明したため、ここでの説明は省略する。

【００９８】

各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒは、それぞれ所定の減速比をもったギアを介して各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに接続され、その駆動により各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転及び停止させる。なお、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒに対して

１回のパルスが出力されるごとに、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが一定の角度で回転することから、メインＣＰＵ１０１は、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒに対してパルスを出力した回数をカウントし、このカウント結果に基づいて各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの図柄位置を管理する。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒには、このような管理を行うための初期位置を定めるリールインデックス（不図示）と、リールインデックスの位置を検出するためのインデックスセンサ（不図示）が設けられる。

【００９９】

設定用鍵型スイッチ５２は、パチスロ機１の設定値（例えば、６段階の設定１～設定６）を変更するとき（設定変更）、もしくは、パチスロ機１の設定を確認するとき（設定確認）に使用される。ここで、設定値は、遊技に関する遊技者の有利さの度合いを示すものであり、通常は、設定値が低いほど（例えば、設定１に近いほど）遊技者の有利さの度合いが相対的に低くなり、設定値が高いほど（例えば、設定６に近いほど）遊技者の有利さの度合いが相対的に高くなる。設定用鍵型スイッチ５２は、例えば、遊技店側の管理者が鍵穴に設定キー（不図示）を挿入して初期位置から左に回すとオン状態となり、左に回した状態から初期位置に戻すとオフ状態となる。なお、パチスロ機１の電源がオフ状態のとき、設定用鍵型スイッチ５２をオン状態としてから電源をオン状態とすると設定変更が可能な状態となり、パチスロ機１の電源がオン状態のままで設定用鍵型スイッチ５２をオン状態とすると設定確認が可能な状態となる。

【０１００】

リセットスイッチ５３は、遊技店側の管理者によるリセット操作を検出可能としている。リセット操作は、各種のエラー状態を解除するための操作である。また、リセットスイッチ５３は、設定変更が可能な状態において、遊技店側の管理者による設定値決定操作を検出可能としている。なお、設定変更が可能な状態においてリセットスイッチ５３が操作されると、操作される度に設定値が順次１ずつ増加する（設定６まで到達すると次は設定１に戻る）。このようにして、設定値決定操作が行えるようになっている。また、このように決定された設定値は、その後スタートレバー７が１回操作されると確定する。すなわち、スタートスイッチ７Ｓは、遊技店側の管理者による設定値確定操作を検出可能としている。このように、設定変更を行う場合には、設定用鍵型スイッチ５２をオン状態とし、リセットスイッチ５３を操作して設定値を選択し、スタートレバー７を操作して選択した設定値を確定させた後、設定用鍵型スイッチ５２をオフ状態とするといった設定変更操作が必要となっている。なお、これは、設定変更操作の一例であり、他の操作によって設定変更を行い得るように構成することもできる。また、設定変更や設定確認に際しては、例えば、上述のクレジットランプあるいは払出数ランプにおいて現在の設定値が表示されるものすればよい。

【０１０１】

役比モニタ装置５４は、例えば、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成され、主制御基板ケースの内部に設けられる。役比モニタ装置５４は、メインＣＰＵ１０１によって集計・算出された遊技に関する各種割合情報を順次表示する。これらの割合情報は、遊技店の管理者がパチスロ機１に不正改造がないかを確認する際等に使用される。なお、役比モニタ装置５４は、主制御基板７１上に実装されるようにしてもよいし、主制御基板７１に接続された他の基板（例えば、割合表示基板）上に実装されるようにしてもよい。また、キャビネットＧ内であれば、他の場所に設けられるようにしてもよい。例えば、主制御基板ケース上に設けられるようにしてもよい。また、役比モニタ装置５４における表示を開始させ、あるいはその内容を切替えるための管理スイッチをキャビネットＧ内に設けるようにし、これが操作された場合に上述の各種割合情報が表示されるようにしてもよい。また、このような管理スイッチを使用することを前提として、例えば、情報表示装置１４を役比モニタ装置５４と兼用して用いる構成としてもよい。また、電源投入直後又は電源投入から所定時間（例えば、１０秒程度。主制御回路１００及び副制御回路２００の立ち上げに要する時間を考慮したバッファとなる時間）の経過後に、役比モニタ装置５４の４桁の７セグメントＬＥＤが正常に機能していることを確認可能とするため、例えば、「８．８

．」といったようなテストパターン（全てのセグ及びデシマルのＬＥＤが点灯するパターン）で所定期間点灯（ないし点滅）させる構成とすることが望ましい。

【０１０２】

役比モニタ装置５４では、例えば、上位２桁にはその割合情報の種類が表示され、下位２桁にはその割合情報を示す値（％）が表示される。ここで、役比モニタ装置５４に表示される各種割合情報には、例えば、累計の特定区間割合情報、直近６０００ゲーム間の連続役物割合情報及び役物割合情報、累計の連続役物割合情報及び役物割合情報等がある。

【０１０３】

特定区間割合情報とは、対象の遊技数（例えば、「累計」であれば１７５０００ゲーム。「直近６０００ゲーム」であれば６０００ゲーム。以下同じ）の遊技区間のうち、遊技者に有利な停止操作の情報の報知が行われていた遊技区間（例えば、ＡＴ状態）の遊技数（あるいは、単に有利区間中の遊技数であってもよい）の割合を示す情報である。また、連続役物割合情報とは、対象の遊技数の遊技区間において払出されたメダル数のうち、第一種特別役物（ＲＢ）の作動中（第一種特別役物に係る役物連続作動装置（ＢＢ）が作動している状態における第一種特別役物（ＲＢ）の作動中を含む）に払出されたメダル数の割合を示す情報である。また、役物割合情報は、対象の遊技数の遊技区間において払出されたメダル数のうち、第一種特別役物（ＲＢ）、第二種特別役物（ＣＢ）、及び普通役物（ＳＢ）の作動中に払出されたメダル数の割合を示す情報であり、ここでの第一種特別役物（ＲＢ）の作動中とは、第一種特別役物に係る役物連続作動装置（ＢＢ）が作動している状態における第一種特別役物（ＲＢ）の作動中を含む概念であり、また、第二種特別役物（ＣＢ）の作動中とは、第二種特別役物に係る役物連続作動装置（ＭＢ）が作動している状態における第二種特別役物（ＣＢ）の作動中を含む概念である。

【０１０４】

なお、遊技者に有利な停止操作の情報の報知が行われていた遊技区間（例えば、ＡＴ状態）を役物の作動中、あるいは役物連続作動装置の作動中としてとらえ、それぞれの割合情報において集計・算出の対象とすることもできる。すなわち、役比モニタ装置５４は、必要な割合情報を適切に表示するものであればよく、表示可能な各種割合情報はこれらに限定されない。また、例えば、第一種特別役物（ＲＢ）が搭載されていない機種において連続役物割合情報を表示する場合、あるいは有利区間機能（ＡＴ機能）が搭載されていない機種において特定区間割合情報を表示する場合等、該当する数値情報（対応情報）が存在しない機種においては、当該項目の表示時に、４桁の７セグメントＬＥＤのうちの数値情報（割合を示す％情報）を表示する下２桁の７セグメントＬＥＤにおいて、例えば、「－ －」といったように、中央の縦棒２本を点灯表示させる等の非対応情報用識別表示を行うことで、対応情報が存在しない機種である点を確認者が一目で認識可能とすることが望ましい。

【０１０５】

ドア開閉監視スイッチ５６は、例えば、下ドア機構ＤＤの開閉側（右側）に設けられる。なお、下ドア機構ＤＤの背面側に設けられるように構成してもよいし、キャビネットＧ側に設けられるように構成してもよい。また、上ドア機構ＵＤにも同様のドア開閉監視スイッチが設けられるように構成してもよい。ドア開閉監視スイッチ５６は、下ドア機構ＤＤが開放状態となったときにオン状態となり、閉鎖状態となったときにオフ状態となることで、下ドア機構ＤＤの開閉を監視する。なお、ドア開閉監視スイッチ５６がオン状態となるとドア開放エラーが発生する。この場合、下ドア機構ＤＤを閉鎖状態とすると当該エラー状態が解除される。

【０１０６】

副制御基板７２には、ロムカートリッジ基板２０２、メイン表示装置２１０、サブ表示装置２２０が電気的に接続されている。また、副制御基板７２には、副中継基板７４を介して、２４ｈドア監視ユニット６１、演出用ボタン１０ａ，１０ｂ等の演出用ボタン群、上部ランプ２３等のランプ・ＬＥＤ類、スピーカ３５ａ，３５ｂ等のスピーカ群が電気的に接続されている。

【０１０７】
　なお、ロムカートリッジ基板２０２、メイン表示装置２１０、サブ表示装置２２０、演出用ボタン群、ランプ・ＬＥＤ類及びスピーカ群についてはすでに説明したため、ここでの説明は省略する。
【０１０８】
　２４ｈドア監視ユニット６１は、ドア開閉監視スイッチ５６と同様に、例えば、下ドア機構ＤＤの開閉側（右側）に設けられる。なお、下ドア機構ＤＤの開閉を監視するという機能を有する点においてはドア開閉監視スイッチ５６と同じであるが、このような監視を副制御回路２００側でも行い得るようにすることで、さらに下ドア機構ＤＤの開閉履歴を一定期間保存することができるようにしている。なお、この開閉履歴は、後述のホールメニューから確認することができる。したがって、例えば、営業時間外であって、遊技店の管理者が退出した後に開放履歴があった場合や、営業時間内において長時間にわたって開放された開閉履歴があった場合には、これにより不正行為が行われた可能性が高いことを認識できるようになっている。
【０１０９】
［３．パチスロ機の機能フロー］
　続いて、図４を参照して、パチスロ機１の機能フローについて説明する。なお、図４は、パチスロ機１の機能フローを説明するための図である。
【０１１０】
　遊技者によりパチスロ機１にメダルが投入され（ベット操作が行われ）、スタートレバー７が操作される（開始操作が行われる）と、予め定められた範囲（例えば、０～６５５３５）の乱数から１つの乱数値（本実施形態では、これを「内部抽籤用乱数値」として説明する場合がある）が抽出される。
【０１１１】
　内部抽籤手段（後述の内部抽籤処理を行うメインＣＰＵ１０１）は、抽出された乱数値に基づいて抽籤を行い、内部当籤役を決定する。内部当籤役の決定により、有効ライン上に表示されることが許可される図柄の組合せが事前に決定される。なお、図柄の組合せの種別としては、メダルの払い出し、再遊技（リプレイ）の作動、ボーナスの作動等といった特典が遊技者に与えられる「入賞」に係るものと、それ以外のいわゆる「はずれ」に係るものとが設けられる。なお、メダルの払い出しに係る役を「小役」と称し、再遊技（リプレイ）の作動に係る役を「リプレイ役」と称し、ボーナス（ボーナス状態）の作動に係る役を「ボーナス役」と称する。また、内部当籤し得る役（すなわち、成立が許可される図柄の組合せ）は、単に「役」と称されることがある。また、内部当籤役は、「当籤役」、「事前決定結果」、あるいは「導出許容条件」等と称されることがある。また、内部抽籤手段は、「役決定手段」、「当籤役決定手段」、「事前決定手段」、あるいは「導出許容条件決定手段」等と称されることがある。
【０１１２】
　また、スタートレバー７が操作される（開始操作が行われる）と、複数のリールの回転が行われる。その後、遊技者によりリール（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）に対応するストップボタン（各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒ）が操作される（停止操作が行われる）と、リール停止制御手段（後述のリール停止制御処理を行うメインＣＰＵ１０１）は、内部当籤役とストップボタンが押されたタイミング（あるいはその押し順を含む）とに基づいて、該当するリールの回転を停止する制御を行う。なお、開始操作を行うための操作手段は、スタートレバー７のようにレバー形状をしたものに限られず、遊技者が開始操作を行うことが可能であれば、どのような操作手段であってもよい。また、停止操作を行うための操作手段は、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒのようにボタン形状をしたものに限られず、遊技者が停止操作を行うことが可能であれば、どのような操作手段であってもよい。
【０１１３】
　パチスロ機１では、基本的に、ストップボタンが押されたときから規定時間（１９０ｍ

ｓｅｃ）内に、該当するリールの回転を停止する制御が行われる。本実施形態では、この規定時間内にリールの回転にともなって移動する図柄の数を「滑り駒数」という。そして、本実施形態では、規定期間が１９０ｍｓｅｃである場合には、滑り駒数の最大数（最大滑り駒数）を図柄４個分に定める。

【０１１４】

リール停止制御手段は、入賞に係る図柄の組合せの表示を許可する内部当籤役が決定されているときは、通常、１９０ｍｓｅｃ（図柄４駒分）の規定時間内に、その図柄の組合せが有効ライン上に極力表示されるようにリールの回転を停止させる。また、リール停止制御手段は、規定時間を利用して、内部当籤役によってその表示が許可されていない図柄の組合せが有効ライン上に表示されないようにリールの回転を停止させる。なお、リールの回転が停止したときに表示された図柄は、「停止表示」、あるいは「表示結果」等と称されることがある。また、リールの回転が停止したときに図柄が表示されることは、「停止表示の導出」、あるいは「表示結果の導出」等と称されることがある。

【０１１５】

また、リール停止制御手段は、リールが回転してから、予め定められた自動停止時間が経過した場合には、遊技者が停止操作を行っていない場合でも、自動的に各リールを停止させる自動停止制御を行うようにしてもよい。この場合には、遊技者の停止操作を介さずにリールが停止することとなるため、いずれかの内部当籤役が決定されている場合であっても、いずれの入賞に係る図柄の組合せも有効ラインに沿って表示されていないようにリールの回転を停止させることが望ましい。

【０１１６】

このようにして、複数のリールの回転が全て停止されると、入賞判定手段（後述の入賞作動判定処理を行うメインＣＰＵ１０１）は、有効ライン上に表示された図柄の組合せが、入賞に係るもの（あるいは、その他予め定められたもの）であるか否かの判定を行う。すなわち、入賞に係る図柄の組合せ（あるいは、その他予め定められた図柄の組合せ）が成立したか否かの判定を行う。そして、表示された図柄の組合せが、入賞判定手段により入賞に係るもの（あるいは、その他予め定められたもの）である（すなわち、入賞に係る図柄の組合せ（あるいは、その他予め定められた図柄の組合せ）が成立した）と判定されると、メダルの払い出し等の特典が遊技者に与えられ、あるいは、それを契機として各種の制御が行われる。パチスロ機１では、一例として、以上のような一連の流れで１回の遊技（単位遊技）として行われる。

【０１１７】

なお、入賞判定手段は、有効ライン上に表示された図柄の組合せが、単に予め定められた複数の図柄の組合せのうちのいずれかの図柄の組合せに該当するか否かを判定するものであってもよいし、内部抽籤手段によって決定された内部当籤役に係る図柄の組合せに該当するか否かを判定するものであってもよい。すなわち、前者では、内部当籤役と切り離して、入賞に係る図柄の組合せであるか否かを判定するものであってもよい。この場合、リール停止制御手段によって適切に停止制御が行われる限り、誤入賞の発生の防止は十分に担保され得ることから、誤入賞検知に係る制御負担を低減させることが可能となる。一方、後者では、入賞に係る図柄の組合せが、入賞が許可されていた図柄の組合せであるか否かも判定可能とすることで、リールの不具合等により誤入賞が発生した場合に、その誤入賞を検知することができるため、セキュリティ性を向上させることが可能となる。

【０１１８】

また、パチスロでは、前述した一連の遊技動作の流れの中で、表示装置（例えば、メイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０等）による映像の表示、各種ランプ（例えば、上部ランプ２３等）による光の出力、スピーカ（例えば、スピーカ３５ａ，３５ｂ等）による音の出力、或いは、これらの組合せを利用して様々な演出が行われる。すなわち、これらは演出を実行する演出実行手段である。なお、演出実行手段により実行される演出の内容は、主制御回路１００側（メイン側）で決定される場合もあれば、副制御回路２００側（サブ側）で決定される場合もある。すなわち、これらはそのいずれもが演出内容決定手

段となり得る。
【０１１９】
　例えば、スタートレバー７が操作される（開始操作が行われる）と、内部抽籤用乱数値とは別に、演出用乱数値が抽出される。演出用乱数値が抽出されると、演出内容決定手段は、内部当籤役に対応付けられた複数種類の演出内容の中から今回実行する演出を抽籤によって（あるいは予め定められた決定条件にしたがって）決定する。
【０１２０】
　次いで、演出内容決定手段により演出内容が決定されると、演出実行手段は、リールの回転開始時、各リールの回転停止時、入賞の有無の判定時等の各契機に連動させて対応する演出を実行する。このように、パチスロ機１では、例えば、内部当籤役に対応付けられた演出内容を実行することによって、決定された内部当籤役（狙うべき図柄の組合せや操作すべき押し順等と換言することもできる）を知る機会又は予想する機会が遊技者に提供され、遊技者の興味の向上を図ることができる。
【０１２１】
［４．パチスロ機の遊技性に関する基本仕様］
　続いて、パチスロ機１の遊技性に関する基本仕様について説明する。
【０１２２】
［４－１．図柄配置］
　上述のとおり、パチスロ機１では、複数の図柄が変動表示及び停止表示されることで遊技が行われる仕様となっている。したがって、主制御回路１００は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて、どの図柄がどの位置に配置されているかを把握可能に構成されている必要がある。このため、メインＲＯＭ１０２には、少なくとも各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒそれぞれの各図柄位置にある図柄の種類を識別するためのデータが記憶されている。なお、このような目的が達成される限り、そのデータ構成は種々の構成を採用することができるが、本実施形態では、その一例として後述の図柄配置テーブル（図９参照）を用いている。
【０１２３】
　図柄配置テーブルには、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒそれぞれの回転方向における各図柄位置を示す図柄位置データ（例えば、「０」～「１９」）が規定されている。また、各図柄位置データに対して図柄の種類を特定するためのデータ（例えば、図柄コード）が対応付けられている。また、図柄配置テーブルでは、リールインデックスが検出されたときにメイン表示窓４の枠内における各リールの中段領域に位置する図柄の位置を「０」と規定している。なお、各列の図柄数、図柄の種類数、あるいは最大滑り駒数等は適宜変更して規定可能である。
【０１２４】
［４－２．図柄組合せ］
　上述のとおり、パチスロ機１では、表示された図柄の組合せが遊技結果に影響を与える仕様となっている。すなわち、パチスロ機１は、表示された図柄の組合せに応じて、各種特典を付与したり、現在の状態から相対的に有利な状態に移行させたり、現在の状態から相対的に不利な状態に移行させたりすることを可能としている。したがって、主制御回路１００は、このような図柄の組合せについて把握可能に構成されている必要がある。このため、メインＲＯＭ１０２には、このような図柄の組合せを特定するためのデータが規定されている。なお、このような目的が達成される限り、そのデータ構成は種々の構成を採用することができるが、本実施形態では、その一例として後述の図柄組合せテーブル（図１１～図１４参照）を用いている。
【０１２５】
　図柄組合せテーブルには、有効ライン上に表示され得る図柄の組合せのうちで予め定められた複数の図柄の組合せの種類を示すデータ（例えば、「表示役」あるいは「入賞作動フラグ」）が規定されている。なお、それぞれの図柄の組合せを構成する図柄は、例えば、上述の図柄コード等を用いて特定することができる。また、各図柄の組合せに対して特

典等の種類を示すデータ（例えば、「払出等」）が対応付けられている。また、図柄組合せテーブルは、基本的に後述の当籤フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域、及び図柄コード格納領域（図１７参照）と対応するデータ構成となっている。なお、図柄の組合せの種類数、あるいは特典の付与内容等は適宜変更して規定可能である。

【０１２６】

［４－３．内部当籤役］

上述のとおり、パチスロ機１では、いずれの図柄の組合せが表示されることが許可されるか（事前に決定されるか）が遊技結果に影響を与える仕様となっている。すなわち、パチスロ機１は、遊技者の停止操作に先立って（事前に）、内部当籤役（すなわち、表示され得る図柄の組合せの種類（あるいは、付与され得る特典の種類））を決定することを可能としている。したがって、主制御回路１００は、このような内部当籤役について把握可能に構成されている必要がある。このため、メインＲＯＭ１０２には、このような内部当籤役を特定するためのデータが規定されている。なお、このような目的が達成される限り、そのデータ構成は種々の構成を採用することができるが、本実施形態では、その一例として後述の内部抽籤テーブル（図１０参照）を用いている。

【０１２７】

内部抽籤テーブルには、予め定められた複数の内部当籤役の種類を示すデータ（例えば、「Ｎｏ．」あるいは「当籤番号」）と、各遊技状態において各内部当籤役が決定される抽籤値とが規定される。なお、抽籤値は、設定された設定値によっても変動する場合がある。また、各内部当籤役に対して表示が許可される（対応する）図柄の組合せの種類が対応付けられている。なお、パチスロ機１では、１つの内部当籤役に対して複数の図柄の組合せを対応付けることを可能としており、このような内部当籤役が決定された場合、いずれの図柄の組合せが表示されるかは停止制御によって決定されるものとなっている。

【０１２８】

ここで、例えば、本実施形態の後述の内部抽籤処理（図２６参照。より詳細には、Ｓ６４の内部当籤役決定処理）では、まず、乱数回路によって予め定められた数値の範囲（例えば、０～６５５３５）から抽出された乱数値を、各内部当籤役に対応して規定された抽籤値で順次加算更新する。次いで、抽籤結果（抽籤値＋乱数値）が６５５３５を超えたか否か（抽籤結果がオーバーフローしたか否か）の判定を行う。そして、所定の内部当籤役において、当該判定の結果が６５５３５を超えた場合、当該内部当籤役に当籤させる（当該内部当籤役を決定する）。もっとも、全ての内部当籤役について当該判定を行っても６５５３５を超えるものがなかった場合、今回の遊技における内部当籤役は「はずれ」となる。なお、これはあくまで内部抽籤処理の一例であり、抽籤値（当籤確率）に応じて適切な抽籤が行われる限り、その抽籤処理の手法は種々の手法を採用することができる。例えば、抽出された乱数値を、各内部当籤役に対応して規定された抽籤値で順次減算更新し、次いで、減算結果（抽籤結果）が０を下回ったか否か（抽籤結果がアンダーフローしたか否か）を判定して、内部当籤役を決定してもよい。

【０１２９】

このように、内部抽籤テーブルにおいては、規定されている抽籤値の数値が大きい内部当籤役ほど決定される確率（当籤確率）が高くなる。なお、各内部当籤役の当籤確率は、「各当籤番号に規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：６５５３６）」によって表すことができる。

【０１３０】

［４－４．停止制御］

上述のとおり、パチスロ機１では、内部当籤役の決定によって表示されることが許可された図柄の組合せのうち、遊技者の停止操作によって最終的にいずれの図柄の組合せを表示させるかが遊技結果に影響を与える仕様となっている。すなわち、パチスロ機１は、決定された内部当籤役の種類のみならず、遊技者の停止操作タイミングや押し順（「停止操作態様」や「停止操作手順」とも称される）によって最終的に表示される図柄の組合せの種類を変動させる（決定する）制御（停止制御）を行うことを可能としている。したがっ

て、主制御回路１００は、各内部当籤役に対して、遊技者の停止操作態様に応じてどのような態様で停止制御を行うかを把握可能に構成されている必要がある。このため、メインＲＯＭ１０２には、このような停止制御の態様を特定するためのデータが規定されている。なお、このような目的が達成される限り、そのデータ構成は種々の構成を採用することができるが、本実施形態では、その一例として停止テーブルや引込優先順位テーブル（不図示）等を用いている。

【０１３１】

停止テーブルには、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの各図柄位置データに対して、図柄の移動量を示すデータ（例えば、「滑り駒数」）が規定されている。例えば、所定の内部当籤役が決定された遊技において所定の停止テーブルが選択されたとする。次いで、回転中のリール３Ｌに対して停止操作が行われたとする。このとき、停止開始位置（停止操作が行われたときのリール３Ｌの中段領域の図柄位置データ）が「０」であったとする。そして、所定の停止テーブルにおいて、図柄位置データ「０」に規定された滑り駒数が「４」であったとする。そうすると、主制御回路１００は、４図柄分移動した図柄位置（図柄位置データ「４」の位置）でリール３Ｌを停止させる（停止予定位置が「４」となる）ように制御を行う。このように、停止テーブルには、停止させる位置を直接的に決定することを可能とするデータ（滑り駒数）が規定されている。なお、このようなデータ構成もあくまで一例である。また、このような停止テーブルを用いて停止制御を行うことは、一般的に「テーブル制御」と称される。

【０１３２】

引込優先順位テーブルには、表示されることが許可された図柄の組合せが複数ある場合に、いずれの図柄の組合せを優先的に表示させるか（引込むか）を示すデータ（例えば、「引込優先順位」）が規定されている。例えば、所定の内部当籤役が決定された遊技において所定の引込優先順位テーブルが選択されたとする。ここで、所定の内部当籤役は、図柄組合せＡと図柄組合せＢの表示を許可するものとし、所定の引込優先順位テーブルは、図柄組合せＡよりも図柄組合せＢを優先的に表示させるように引込優先順位が規定されているものとする。次いで、回転中のリール３Ｌに対して停止操作が行われたとする。このとき、停止開始位置が「０」であったとする。

【０１３３】

そうすると、主制御回路１００は、停止開始位置を含めた最大滑り駒数（例えば、「４」）の範囲内の各図柄位置について、図柄組合せＡを構成する図柄と図柄組合せＢを構成する図柄があるかどうかを検索する。双方の図柄がなければ、予め定められたルール（例えば、より近い位置で停止させる、より遠い位置で停止させる等）にしたがって停止させる位置を決定する。図柄組合せＡを構成する図柄のみがあれば、当該図柄に対応する位置で停止させることを決定する。図柄組合せＢを構成する図柄のみがあれば、当該図柄に対応する位置で停止させることを決定する。双方の図柄があれば、図柄組合せＡよりも図柄組合せＢを優先的に表示させるのであるから、図柄組合せＢを構成する図柄に対応する位置で停止させることを決定する。なお、引込優先順位は、選択された引込優先順位テーブルにしたがって、対象となるリールの回転中に全図柄位置について格納されるようにしてもよいし、対象となるリールに対して停止操作が行われたときに、停止開始位置を含めた最大滑り駒数の範囲内の各図柄位置について格納されるようにしてもよい。また、このようなデータ構成もあくまで一例である。また、このような引込優先順位テーブルを用いて停止制御を行うことは、一般的に「コントロール制御」と称される。

【０１３４】

なお、本実施形態では、「テーブル制御」のみを行うことによって停止制御を実行する構成とすることもできるし、「コントロール制御」のみを行うことによって停止制御を実行する構成とすることもできる。あるいは、まず「テーブル制御」を行うことによって停止させる位置を仮決定し、次に「コントロール制御」を行うことによってより適切な停止位置があるかを検索し、検索結果によっては停止させる位置を変更することを可能とする停止制御を実行する構成とすることもできる。

【０１３５】
このように、パチスロ機１では、最終的に有効ライン上に表示される図柄の組合せがどの図柄の組合せとなるかは、例えば、以下の３つの要素に基づいて決定される。
【０１３６】
第１の要素は、決定された内部当籤役（内部抽籤処理の抽籤結果）である。例えば、内部抽籤処理の結果が「はずれ」であった場合、いずれかのリプレイ役に係る図柄の組合せ、小役に係る図柄の組合せ又はボーナス役に係る図柄の組合せが最終的に有効ライン上に表示されることはない。なお、「はずれ」は、内部当籤役の１つであると捉えることもできるし、内部当籤役が決定されなかった抽籤結果であると捉えることもできる。
【０１３７】
第２の要素は、遊技者の停止操作タイミング（遊技者がいずれかのストップボタンを操作したときの図柄の位置（押下位置））である。例えば、本実施形態においては、最大滑り駒数として図柄４個分が定められているため、内部抽籤処理の結果、いずれかの内部当籤役に当籤していたとしても、表示が許可されている図柄の組合せを構成する図柄が有効ライン（複数ある場合には各有効ライン）に対して図柄４個分を超えて配置されていた場合には、遊技者の停止操作タイミングによっては当該図柄の組合せが表示されない場合がある。これをいわゆる「取りこぼし」という。
【０１３８】
第３の要素は、遊技者の押し順（遊技者がストップボタンを操作した順番）である。例えば、本実施形態においては、複数の図柄の組合せが対応付けられた内部当籤役が決定される場合があり、この場合には、遊技者の押し順に応じて最終的に有効ライン上に表示される図柄の組合せが変動する場合がある。なお、このような内部当籤役を「押し順役」といい、それがリプレイ役の場合には「押し順リプレイ」と称されることがあり、小役の場合には「押し順小役」と称されることがある。
【０１３９】
［４－５．遊技状態］
パチスロ機１では、遊技者の有利度合いを変動させるため、あるいは企図した遊技性とするために、遊技を行う状態として種々の遊技状態を設けることが可能となっている。以下、その遊技状態の一例について説明する。
【０１４０】
［４－５－１．ボーナス状態］
パチスロ機１では、ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に係る図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、ボーナス状態に移行させる（ボーナス状態を作動させる）ことが可能となっている。なお、このようなボーナス状態を設けないように構成することもできる。また、複数種類のボーナス役を設けることで、複数のボーナス状態を設けるように構成することもできる。ボーナス役に当籤すると、当該ボーナス役に係る図柄の組合せが有効ライン上に表示されるまで複数回の遊技にわたって当該ボーナス役が内部当籤役として持越された状態（持越状態）が発生する。このようなボーナス役は「持越役」と称されることがある。また、このような持越状態は「（ボーナス）フラグ間」や「（ボーナス）内部中」等と称されることがある。
【０１４１】
ボーナス状態は、ボーナス状態が作動していない状態（非ボーナス状態）に対して小役の抽籤態様（当籤確率やその内容、あるいは停止制御の態様等も含む。以下同じ）を変動させることが可能な状態となっている（リプレイ役の抽籤態様を変動させることが可能な状態ともなっているため、ボーナス状態を後述のＲＴ状態の一態様として捉えることもできる）。したがって、このような抽籤態様が遊技者に相対的に有利な抽籤態様となる場合には、ボーナス状態は非ボーナス状態よりも有利な遊技状態となる。一方、このような抽籤態様が遊技者に相対的に不利な抽籤態様となる場合には、ボーナス状態は非ボーナス状態よりも不利な遊技状態となる。
【０１４２】

ボーナス役としては、例えば、第一種特別役物（ＲＢ）、第一種特別役物に係る役物連続作動装置（ＢＢ）、第二種特別役物（ＣＢ）（ただし持越役ではない）、第二種特別役物に係る役物連続作動装置（ＭＢ）、及び普通役物（ＳＢ）（ただし持越役ではない）等を挙げることができる。また、例えば、各ボーナス役に対応するボーナス状態は以下のように構成される。ＲＢ状態は、予め定められた任意の入賞回数（例えば、上限は８回）又は予め定められた任意の遊技回数（例えば、上限は１２回）の遊技が行われた場合に終了する遊技状態として構成される。ＢＢ状態は、予め定められた任意の払出数（例えば、上限は２８５枚）を超えるメダルの払出があった場合に終了する遊技状態として構成される。

【０１４３】

ＣＢ状態は、１回の遊技が行われた場合に終了する遊技状態として構成される。ＭＢ状態は、予め定められた任意の払出数（例えば、上限は１５３枚）を超えるメダルの払出があった場合、あるいはＭＢ状態中にＲＢやＳＢに当籤した場合に終了する遊技状態として構成される。ＳＢ状態は、１回の遊技が行われた場合に終了する遊技状態として構成される。

【０１４４】

なお、ボーナス状態の作動条件は、ボーナス役に係る図柄の組合せが有効ライン上に表示されたことのみに限られない。例えば、第一種特別役物に係る役物連続作動装置（ＢＢ）の作動中においては、第一種特別役物に係る役物連続作動装置（ＢＢ）の作動開始時、第一種特別役物の作動中ではない場合の遊技開始時、あるいは第一種特別役物の作動終了時等において自動的に第一種特別役物（ＲＢ）を作動させるように構成することもできる。すなわち、ＲＢに係る図柄の組合せを規定することなく、ＢＢの作動中は常にＲＢの作動中となるように制御することもできる。ここで、ＢＢ作動中のＲＢは「ＪＡＣ」等と称されることがあり、このように自動的にＢＢ作動中のＲＢが作動する仕様は「オートＪＡＣ」等と称されることがある。また、ＢＢの作動中においては、規定されたＲＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に表示されたことをもってＲＢの作動中となるように制御することもできる。このように対応する図柄の組合せの表示に基づいてＲＢが作動する仕様は「マニュアルＪＡＣ」等と称されることがある。また、第二種特別役物に係る役物連続作動装置（ＭＢ）と、第二種特別役物（ＣＢ）との関係も同様である。すなわち、ＣＢに係る図柄の組合せを規定することなく、ＭＢの作動中は常にＣＢの作動中となるように制御することもできるし、ＭＢの作動中においては、規定されたＣＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に表示されたことをもってＣＢの作動中となるように制御することもできる。

【０１４５】

［４－５－２．ＲＴ状態］

パチスロ機１では、予め定められた移行条件が成立した場合に、ＲＴ状態に移行させる（ＲＴ状態を作動させる）ことが可能となっている。なお、このようなＲＴ状態を設けないように構成することもできる。また、複数のＲＴ状態を設けるように構成することもできる。ＲＴ状態は、ＲＴ状態が作動していない状態（非ＲＴ状態）に対してリプレイ役の抽籤態様を変動させることが可能な状態となっている。したがって、このような抽籤態様が遊技者に相対的に有利な抽籤態様となる場合には、ＲＴ状態は非ＲＴ状態よりも有利な遊技状態となる。一方、このような抽籤態様が遊技者に相対的に不利な抽籤態様となる場合には、ＲＴ状態は非ＲＴ状態よりも不利な遊技状態となる。また、複数のＲＴ状態を設ける場合、当該複数のＲＴ状態間についても同様である。なお、この場合、リプレイ役の抽籤態様（特に、当籤確率）が遊技者に相対的に有利なＲＴ状態は「高ＲＴ状態」や「高確率再遊技状態」等と称され、リプレイ役の抽籤態様（特に、当籤確率）が遊技者に相対的に不利なＲＴ状態は「低ＲＴ状態」や「低確率再遊技状態」等と称されることがある。

【０１４６】

ＲＴ状態は、例えば、以下のいずれの移行条件の成立によって移行させることができる。また、複数のＲＴ状態を設ける場合、当該複数のＲＴ状態間についても同様である。

【０１４７】

（１）ＲＢ、ＢＢ又はＭＢに当籤したとき
（２）ＲＢ、ＢＢ又はＭＢに係る図柄の組合せが表示されたとき
（３）ＲＢ状態、ＢＢ状態又はＭＢ状態が終了したとき
（４）ＲＢ、ＢＢ又はＭＢに当籤しておらず（持越されておらず）、ＲＢ状態、ＢＢ状態又はＭＢ状態中でもない場合において、特定の図柄の組合せが表示されたとき
（５）（３）又は（４）の移行条件成立後に予め定められた回数の遊技が行われたとき
【０１４８】
［４－５－３．ＡＴ状態］
パチスロ機１では、予め定められた移行条件が成立した場合に、ＡＴ状態に移行させる（ＡＴ状態を作動させる）ことが可能となっている。なお、このようなＡＴ状態を設けないように構成することもできる。また、複数のＡＴ状態を設けるように構成することもできる。ＡＴ状態は、例えば、上述の押し順役に当籤したときに、遊技者に有利な停止操作の情報が報知されることにより、ＡＴ状態が作動していない状態（非ＡＴ状態）よりも有利な状態として構成される遊技状態である。
【０１４９】
なお、複数のＡＴ状態を設ける場合、それぞれのＡＴ状態の遊技期間（当該期間の延長（あるいは「上乗せ」ともいう。以下同じ）を可能とする場合には延長のされやすさ等を含む）、停止操作の情報が報知される報知対象役の種類、あるいは停止操作の情報の報知が発生する発生確率等をそれぞれ異なるものとすることで、遊技者の有利度合いを変動させることができる。また、ＡＴ状態の移行条件及び終了条件は、遊技性に応じて適宜設定可能である（ただし後述のリミット処理の実行による終了を除く）。また、ＡＴ状態は、あたかも上述のボーナス状態と同様に扱われる場合があり、この場合には「疑似ボーナス状態」等と称されることがある。
【０１５０】
また、ＡＴ状態の遊技期間は、当該期間が適切に管理される限り、ゲーム数（遊技回数）によって管理されるようにしてもよく（ゲーム数管理）、所定ゲーム数を１セットとし、セット数によって管理されるようにしてもよい（セット数管理）。また、ＡＴ状態中の払出数や純増数（差枚数）によって管理されるようにしてもよい（払出数管理、差枚数管理）。また、ＡＴ状態においてメダルの払出に影響を与える報知（例えば、押し順小役当籤時の押し順ナビ）を行った回数（ナビ回数）によって管理されるようにしてもよい（ナビ回数管理）。また、ＡＴ状態が延長される場合も同様である。また、ＡＴ状態に移行したときに付与される遊技期間と、ＡＴ状態が延長されるときに付与される遊技期間とは異なる管理手法によって管理されるようにしてもよい。また、複数のＡＴ状態を設ける場合、同じ管理手法によって管理されるようにしてもよく、異なる管理手法によって管理されるようにしてもよい。
【０１５１】
［４－５－４．ＡＲＴ状態］
パチスロ機１では、予め定められた移行条件が成立した場合に、上述の高ＲＴ状態とＡＴ状態を組合せたＡＲＴ状態に移行させる（ＡＲＴ状態を作動させる）ことが可能となっている。すなわち、ＡＲＴ状態とは、高ＲＴ状態において行われるＡＴ状態を意味するものであるから、ＲＴ状態として少なくとも低ＲＴ状態と高ＲＴ状態とを設け、高ＲＴ状態に移行させる（あるいは低ＲＴ状態に移行することが回避される）制御が行われる点でＡＴ状態と相違するものの、基本的な制御はＡＴ状態と同様である（遊技者に有利な停止操作の情報が報知される結果として高ＲＴ状態に移行する（あるいは低ＲＴ状態に移行することが回避される）ものであれば、ＡＴ状態と同義であるともいえる）。なお、ＡＲＴ状態の移行条件が成立した場合、まずＡＴ状態に移行し、その後高ＲＴ状態に移行することでＡＲＴ状態に移行するものであってもよいし、高ＲＴ状態及びＡＴ状態に同時（あるいは略同時）に移行することでＡＲＴ状態に移行するものであってもよい。
【０１５２】
［４－５－５．その他遊技状態］

なお、パチスロ機１では、上述の各種遊技状態以外の遊技状態を設けることもできる。例えば、後述の有利区間中の各モード（図５及び図６参照）であるが、これらも遊技者が遊技を行う状態であって、疑似ボーナス状態としてのＡＴ状態に移行するか否かの有利度合いを変動させ得るものであることから、これらを遊技状態として捉えることができる。また、同様の観点より、例えば、ボーナス状態に移行するか否かの有利度合いを変動させ得る遊技状態を設けることができる。例えば、ボーナス役に当籤している（持越されている）場合に、停止制御によってボーナス役に係る図柄の組合せが表示されやすい遊技状態と、これよりも当該ボーナス役に係る図柄の組合せが相対的に表示されにくい遊技状態とを設けることで、遊技者の有利度合いを変動させ得るように構成することもできる。また、例えば、ボーナス役が所定の確率で当籤する（当籤しやすい）遊技状態と、当該ボーナス役が当該所定の確率よりも低い確率で当籤する（相対的に当籤しにくい）遊技状態とを設けることで、遊技者の有利度合いを変動させ得るように構成することもできる。

【０１５３】

また、ＡＴ状態に移行するか否か（ＡＴ状態において当該ＡＴ状態の遊技期間を延長するか否かも含み得る。以下同じ）の有利度合いを変動させ得る手法としては、以下のような手法を採用することもできる。例えば、内部当籤役として「特定役」が決定され得るようにする。当該特定役は、遊技者の停止操作態様（停止操作タイミングであってもよいし、押し順であってもよいし、これらの組合せであってもよい）に応じて付与されるメダル数が変動するものとする（例えば、停止操作態様が適切（正解）であれば８枚の払出、不適切（不正解）であれば１枚の払出又は払出なし）。

【０１５４】

そして、特定の遊技状態において当該特定役に当籤した場合、８枚の払出があった場合には今回の遊技においてＡＴ状態に移行するか否かの有利度合いを有利なものに変動させるか否かの決定（直接ＡＴ状態に移行させるか否か、あるいは直接当該ＡＴ状態の遊技期間を延長するか否かの決定も含み得る。以下「有利決定」として説明する）を行わない。一方、８枚の払出がなかった場合には今回の遊技において当該有利決定を行う。あるいは、上述の特定の遊技状態において当該特定役に当籤した場合、８枚の払出があった場合には今回の遊技において当該有利決定を行う。一方、８枚の払出がなかった場合には今回の遊技において当該有利決定を行わない。

【０１５５】

このように、遊技者が特定の遊技方法で遊技を行った場合に、その遊技結果として今回の遊技において有利決定が行われる場合と、当該有利決定が行わない（有利決定が行われることが制限される）場合とがあるように構成することもできる。なお、今回の遊技と次回の遊技で遊技者が替わる場合もあり、このような制限が次回の遊技以降も継続する場合には、（次の）遊技者が著しい不利益を被るおそれがあることから、このような制限は今回の遊技限りとし、次回の遊技以降には継続しないものとすることが望ましい。また、このような制限は「ペナルティ」と称されることがある。

【０１５６】

［４－６．遊技区間］

パチスロ機１では、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するために、上述の遊技状態とは異なる概念で遊技を行う状態として種々の遊技区間を設けることが可能となっている。以下、その遊技区間の一例について説明する。なお、遊技区間は、大別すると非有利区間と有利区間から構成される。

【０１５７】

（非有利区間）

非有利区間は、遊技者に有利な停止操作態様の報知が可能でない遊技期間として構成され、以下の要件を備える。なお、以下の要件はあくまで一例であり、少なくともいずれかの要件について緩和ないし厳格化される場合には、それにともなって適宜変更可能である。

【０１５８】

（１）遊技者に対して有利な停止操作態様の報知（例えば、押し順ナビ等）を行うことはできない。したがって、上述のＡＴ状態やＡＲＴ状態に制御することはできない。
【０１５９】
（２）設定値が変更（設定変更）された場合、あるいは後述の「ＲＡＭ異常」等の初期化条件が成立した場合、初期状態として非有利区間が設定される。
【０１６０】
（３）有利区間において後述のリミット処理が実行された場合（すなわち、有利区間中の遊技の進行にともなって更新される所定値（例えば、後述の有利区間ゲーム数カウンタや有利区間払出数カウンタの値）が規定値（例えば、１５００ゲームや２４００枚）となった場合）、初期状態として非有利区間が設定される。なお、当該所定値を参照し、当該所定値が規定値となる前であっても特定の更新値となっている場合にはそれを条件として非有利区間が設定されるようにしてもよい。また、有利区間中に所定終了条件が成立して終了決定された場合（例えば、有利区間終了抽籤が行われるように構成した場合であって、これに当籤した場合等）にはそれを条件として非有利区間が設定されるようにしてもよい。
【０１６１】
（４）非有利区間では、有利区間に関する処理（例えば、有利区間に移行させるか否かの判定処理等）は、決定された内部当籤役を参照した処理のみが可能であって、導出された結果表示（図柄の組合せ）や非有利区間（あるいは移行前の有利区間）中のゲーム数等の内部当籤役以外の各種パラメータを参照した処理を行うことはできない。なお、いずれの内部当籤役が決定されたかは、当籤番号等の直接的に内部当籤役を示すデータを参照することもできるし、内部当籤役のデータから生成あるいは変換されたサブフラグ（複数の役を１つの判定対象データとしたもの）等の間接的に内部当籤役を示すデータを参照することもできる。
【０１６２】
（５）非有利区間は基本的に１の状態であり、非有利区間内で複数の状態を設定することはできない。例えば、有利区間終了後の非有利区間を非有利区間Ａ、設定変更後の非有利区間を非有利区間Ｂというように異なる状態として設定することはできない。
【０１６３】
（有利区間）
　有利区間は、遊技者に有利な停止操作態様の報知が可能である遊技期間として構成され、以下の要件を備える。なお、以下の要件はあくまで一例であり、少なくともいずれかの要件について緩和ないし厳格化される場合には、それにともなって適宜変更可能である。
【０１６４】
（１）遊技者に対して有利な停止操作態様の報知（例えば、押し順ナビ等）を行うことができる。したがって、上述のＡＴ状態やＡＲＴ状態に制御することができる。
【０１６５】
（２）設定値が変更（設定変更）された場合、あるいは後述の「ＲＡＭ異常」等の初期化条件が成立した場合、その初期状態として有利区間を設定することはできない。
【０１６６】
（３）有利区間において後述のリミット処理が実行された場合、当該有利区間を終了させる必要がある。
【０１６７】
（４）有利区間では、有利区間に関する処理（例えば、有利区間中に遊技状態（モード）を移行させるか否か、あるいは特定の遊技状態（モード）を延長させるか否かの判定処理等）は、決定された内部当籤役を参照した処理のみならず、導出された結果表示（図柄の組合せ）や有利区間中のゲーム数等の内部当籤役以外の各種パラメータを参照した処理を行うことができる。なお、参照可能な各種パラメータの他の例としては、例えば、上述の各種パラメータに応じて付与可能なポイント等の特典情報、ボーナス状態の種類、ＲＴ状態の種類、いずれかのリールの停止操作タイミング、あるいは押し順等を挙げることがで

きる。

【０１６８】

（５）有利区間内で複数の状態を設定することができる。例えば、遊技者にとって不利な通常状態、ＡＴ状態へ移行しやすいＣＺ状態、あるいは報知にしたがって停止操作を行った場合にメダル増加の期待値がプラスとなるＡＴ状態等の状態を設定可能である。また、例えば、通常状態においてＣＺ状態移行が決定されたことに応じ、実際にＣＺ状態に移行するまでの待機状態として設定され、ＣＺ状態への移行が示唆される前兆演出が行われ得るＣＺ前兆状態、あるいは通常状態若しくはＣＺ状態においてＡＴ状態移行が決定されたことに応じ、実際にＡＴ状態に移行するまでの待機状態として設定され、ＡＴ状態への移行が示唆される前兆演出が行われ得るＡＴ前兆状態等の状態も遊技性に応じて設定可能である。

【０１６９】

（６）非有利区間及び有利区間のいずれの区間であるかを報知可能な区間ランプ（状態表示部）の点灯により、有利区間中であることを報知することができる（区間ランプが消灯していれば非有利区間中であることを報知することができる）。なお、区間ランプの点灯開始タイミングについては、上述のとおり、ある程度任意のタイミングに設定することが可能である。基本的に非有利区間から有利区間に移行したときに点灯を開始し、非有利区間に移行するまで点灯を継続するものとしてもよいし、非有利区間から有利区間に移行した（有利区間が開始された）が、移行した有利区間が通常状態であれば点灯を開始せず、最初にＡＴ状態となったときから点灯を開始するものとしてもよい。なお、移行した有利区間がＡＴ状態であれば、そのときから点灯を開始すればよい。

【０１７０】

［４－７．リミッタ］

パチスロ機１では、有利区間が長く継続し過ぎることに起因して射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するために、有利区間が連続して継続する期間について上限（制限）を設けることが可能となっている。このような上限は「リミッタ」と称される。また、本実施形態では、このようなリミッタにより有利区間を終了することを、リミット処理の実行、あるいはリミッタの作動として説明している。以下、そのリミッタの一例について説明する。

【０１７１】

（ゲーム数リミッタ）

ゲーム数リミッタは、有利区間中のゲーム数（遊技回数）が「１５００」回となったときにリミット処理が実行されるリミッタとして構成されている。例えば、後述の有利区間ゲーム数カウンタは、有利区間が開始されたときからカウントを開始し、１回の遊技が消化される度に１ずつカウントを加算していく。そして、有利区間ゲーム数カウンタの値が規定値（例えば、「１５００」以上）となったことに基づいて（例えば、ＡＴ状態の遊技期間が残存する場合であっても）有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。なお、ゲーム数リミッタが作動するゲーム数は、上限である「１５００」回以下のゲーム数であれば任意のゲーム数を設定可能である。また、このようなゲーム数リミッタの要件について緩和ないし厳格化される場合には、それにともなって適宜変更可能である。また、有利区間中のゲーム数に応じて段階的に射幸性を抑制していくものであってもよい。

【０１７２】

（払出数リミッタ）

払出数リミッタは、有利区間中のメダルの払出数が「２４００」枚となったときにリミット処理が実行されるリミッタとして構成されている。例えば、後述の有利区間払出数カウンタは、有利区間が開始されたときからカウントを開始し、メダルの払出がある度に対応する枚数分（より詳細には、払出数からベット数を減じた純増数分）カウントを加算していく。そして、有利区間払出数カウンタの値が規定値（例えば、「２４００」以上）となったことに基づいて（例えば、ＡＴ状態の遊技期間が残存する場合であっても）有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。なお、払出数リミッタが作動する払出

数は、上限である「２４００」枚以下の払出数であれば任意の払出数を設定可能である。また、このような払出数リミッタの要件について緩和ないし厳格化される場合には、それにともなって適宜変更可能である。また、有利区間中のメダルの払出数に応じて段階的に射幸性を抑制していくものであってもよい。

【０１７３】

また、例えば、後述の有利区間払出数カウンタは、有利区間の開始時から最もメダル数の絶対値が減った地点を最下点（起点）として、直近の最下点からのプラス分をカウントする（すなわち、払出がなかった場合にはカウントを減算していく等）ように構成してもよい。すなわち、払出数リミッタは、有利区間中においてメダルが増加することとなったとき（例えば、ＡＴ状態が開始されたとき）から最大「２４００」枚のメダルの払出があったときにリミット処理が実行されるリミッタとして構成することもできる。また、例えば、後述の有利区間払出数カウンタは、上述の純増数ではなく、単に実払出数（すなわち、払出数からベット数を減じないもの）をカウントするものであってもよい。

【０１７４】

なお、パチスロ機１は、ゲーム数リミッタのみを用いて有利区間のリミット処理を実行してもよく、払出数リミッタのみを用いて有利区間のリミット処理を実行してもよく、ゲーム数リミッタと払出数リミッタの双方を用いて有利区間のリミット処理を実行してもよい。なお、双方のリミッタを用いる場合、有利区間が開始してから何れか一方のリミッタの作動条件を満たした場合に、有利区間を終了させることが望ましい。

【０１７５】

また、リミッタの種類も、上述のゲーム数リミッタ及び払出数リミッタのみに限られない。例えば、ＡＴ状態中の押し順小役のナビ回数（すなわち、メダルの払出に係る役について遊技者に有利な停止操作の情報が報知された回数）が所定回数（例えば、「４００」回）となったときにリミット処理が実行されるナビ回数リミッタを設けるようにしてもよい。すなわち、射幸性を適切に抑制することができる限り、遊技に関する各種の条件を用いてリミット処理を実行することが可能である。

【０１７６】

［４－８．外部信号］

上述のとおり、パチスロ機１では、複数種類の外部信号を外部に出力可能な仕様となっている。例えば、ボーナス状態が開始されたことに基づいて外部信号１をオン状態とし、ボーナス状態が終了されたことに基づいて当該外部信号１をオフ状態とすれば、外部のデータ表示機においてもこれに連動したボーナス状態中演出を行うことができる。また、例えば、ＢＢ状態が開始されたことに基づいて外部信号１をオン状態とし、ＢＢ状態が終了されたことに基づいて当該外部信号１をオフ状態とし、ＭＢ状態が開始されたことに基づいて外部信号２をオン状態とし、ＭＢ状態が終了されたことに基づいて当該外部信号２をオフ状態とすれば、外部のデータ表示機においても上述のボーナス状態中演出を行うのみならず、ボーナス回数をその種類別にカウントすることができる。

【０１７７】

また、例えば、ＡＴ状態が開始されたことに基づいて外部信号１をオン状態とし、ＡＴ状態が終了されたことに基づいて当該外部信号１をオフ状態とすれば、外部のデータ表示機においてもこれに連動したＡＴ状態中演出を行うことができる。また、例えば、所定のＡＴ状態が開始されたことに基づいて外部信号１をオン状態とし、所定のＡＴ状態が終了されたことに基づいて当該外部信号１をオフ状態とし、特定のＡＴ状態が開始されたことに基づいて外部信号２をオン状態とし、特定のＡＴ状態が終了されたことに基づいて当該外部信号２をオフ状態とすれば、外部のデータ表示機においても上述のＡＴ状態中演出を行うのみならず、ＡＴ回数をその種類別にカウントすることができる。

【０１７８】

また、例えば、ＡＴ状態をセット数管理のＡＴ状態として構成し、最初の１セット目のＡＴ状態が開始されたことに基づいて外部信号１をオン状態とし、２セット目以降は当該セットが開始される度に外部信号２をオン状態とすれば、外部のデータ表示機においても

ＡＴ状態の初当り回数と、ＡＴ状態の延長回数とをカウントすることができる。なお、各外部信号についてオン状態とするタイミングとオフ状態とするタイミングは適宜設定可能である。すなわち、外部のデータ表示機やホールコンピュータ等によって状況が適切に認識される限り、各外部信号の出力態様は適宜設定可能である。例えば、オフ状態からオン状態となって再度オフ状態なるまでの期間は、所定時間、１回の遊技の間、状態が変化するまで等の種々の条件を採用することができる。

【０１７９】

［４－９．コマンド］

上述のとおり、パチスロ機１では、複数種類のコマンドを主制御回路１００から副制御回路２００に送信可能な仕様となっている。なお、パチスロ機１では、主制御回路１００と副制御回路２００とが相互に通信を行うことはできず、主制御回路１００から副制御回路２００の一方向にのみ通信を行うことが要件となっている。したがって、主制御回路１００は、パチスロ機１における状態の変化等を報せるための情報（コマンド）を適時副制御回路２００に送信する必要がある。以下にこのようなコマンドの一例について説明する。

【０１８０】

主制御回路１００は、副制御回路２００に対し、例えば、設定変更操作が行われたときには初期化コマンドを送信する。初期化コマンドは、設定値や遊技状態等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、ベット操作が行われたときにはメダル投入コマンドを送信する。メダル投入コマンドは、ベット数等を特定するためのパラメータを含んで構成される。また、例えば、開始操作が行われたときにはスタートコマンドを送信する。スタートコマンドは、内部当籤役や遊技状態等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、ロック演出が行われるときにはロックコマンドを送信する。ロックコマンドは、ロック演出の内容等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始するときにはリール回転開始コマンドを送信する。リール回転開始コマンドは、リールの回転が開始されたこと等を特定するパラメータを含んで構成される。

【０１８１】

また、例えば、停止操作が行われたときにはリール停止コマンドを送信する。リール停止コマンドは、停止されるリールや当該リールが停止される位置等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、全てのリールが停止され、表示役（入賞作動フラグ）が確定したときには入賞作動コマンドを送信する。入賞作動コマンドは、表示役の種類や付与される特典の内容等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、有利区間を開始するときには有利区間開始コマンドを送信する。有利区間開始コマンドは、有利区間を開始することやモード（遊技状態）等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、有利区間を終了するときには有利区間終了コマンドを送信する。有利区間終了コマンドは、有利区間を終了することやその終了要因等を特定するパラメータを含んで構成される。また、例えば、精算操作が行われたときには精算コマンドを送信する。精算コマンドは、返却数等を特定するためのパラメータを含んで構成される。なお、これらはあくまで一例であり、これら以外のコマンドを必要に応じて送信することもできるし、これらのうち不要なコマンドについては送信しないようにすることもできる。

【０１８２】

［４－１０．演出］

上述のとおり、パチスロ機１では、遊技の興趣を高めるため、有益な情報を遊技者に報せるため、あるいは企図した遊技性とするために、種々の演出を種々の演出装置を用いて実行することが可能となっている。以下、そのような演出の一例について説明する。

【０１８３】

［４－１０－１．メイン側演出］

パチスロ機１では、主制御回路１００側（メイン側）の制御により、例えば、以下のような演出を行い得る。なお、上述のとおり、パチスロ機１では、指示モニタによって停止

操作の情報の報知を行うことを可能としているが、これも広義の意味において演出に含まれる。

【０１８４】

（ロック演出）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、遊技の進行を所定期間停止させる（遊技者の遊技操作を所定期間無効にする）演出を行い得る。このような演出は、「ロック演出（あるいは単に「ロック」）」と称される他、「フリーズ演出（あるいは単に「フリーズ」）」等とも称される。なお、このようなロック演出が行われないように構成することもできるし、複数種類のロック演出を行い得るように構成することもできる。

【０１８５】

また、無効とする対象の遊技操作は、例えば、開始操作であってもよいし、停止操作であってもよいし、他の操作であってもよい。例えば、開始操作が所定期間無効にされる場合には、全ての停止操作が行われた後の所定期間において遊技の進行が停止される。また、例えば、停止操作が所定期間無効にされる場合には、開始操作が行われた後の所定期間において遊技の進行が停止される。また、複数種類のロック演出を設ける場合には、ロック演出ごとに、遊技の進行が停止される期間（遊技者の遊技操作を無効にする期間）や無効とする遊技操作の種類等が設定されるようにすればよい。

【０１８６】

（リール演出）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、上述のロック演出の実行中において各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの演出表示態様（変動表示態様のみならず、停止表示態様との組合せを含む）による演出を行い得る。このような演出は、「リール演出」と称される他、「図柄演出」等とも称される。なお、このようなリール演出が行われないように構成することもできるし、複数種類のリール演出を行い得るように構成することもできる。また、「ロック演出を行う（実行する）」という場合には、これに加えてリール演出が行われる場合と行われない場合のいずれもが含まれるものとする。

【０１８７】

リール演出は、要するに、遊技者の遊技操作を無効とした期間中において、遊技者の遊技操作によらずして各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転させたり、停止（仮停止）させたりすることで演出を行うものである。したがって、回転速度や最大滑り駒数等を考慮することなく、このような演出動作を行わせる動作パターンを設定することができる。また、動作パターンを複数設定すれば、複数種類のリール演出を設けることができる。また、複数種類のリール演出と複数種類のロック演出との組合せによって、さらに多岐にわたる演出パターンを設定することができる。なお、リール演出に用いられるのは、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒのうちの任意の１個のみでもよいし、任意の２個であってもよいし、３個全てであってもよい。

【０１８８】

（疑似遊技）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、上述のロック演出の実行中において疑似的な遊技を行わせる演出を行い得る。このような演出は、「疑似遊技」と称される。なお、このような疑似遊技が行われないように構成することもできるし、複数種類の疑似遊技を行い得るように構成することもできる。また、「ロック演出を行う（実行する）」という場合には、これに加えて疑似遊技が行われる場合と行われない場合のいずれもが含まれる。

【０１８９】

疑似遊技は、要するに、遊技者の遊技操作を無効とした期間中において、遊技者の遊技操作を疑似的に受付け、これによって各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転させたり、停止（仮停止）させたりすることで演出を行うものである。すなわち、上述のリール演出について、さらに遊技者の遊技操作を介在させて演出を行うものである。なお、例えば、ＭＡＸ

ベットボタン６ａ、１ベットボタン６ｂ、スタートレバー７、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒ、及び精算ボタン９等は、基本的に遊技操作に使用されること目的として設けられるものであることから、これ以外の目的で使用されることは本来的には望ましくない。しかしながら、疑似遊技においては、実際の遊技中であると遊技者が誤認しないための措置がなされることを前提として、これらの操作を受付けることを可能としている。

【０１９０】

ここで、疑似遊技の流れについて、一例を挙げて説明する。疑似遊技は、例えば、以下のような流れで行われる。

【０１９１】

（１）遊技者の実際の開始操作（ここで実行条件が成立して疑似遊技開始）

（２）疑似的に各リールが回転（疑似遊技中）

（３）疑似的に停止操作を受付け、これによって各リールが仮停止（疑似遊技中）

（４）ランダム遅延処理を経てから実際に各リールが回転開始（疑似遊技が終了して実際の遊技開始）

なお、ランダム遅延処理とは、例えば、上述の（３）の状況で特定の図柄が並んで表示された状態となり、そのまま上述の（４）の状況で各リールが通常回転を開始すると、遊技者が特定の図柄を目印として停止操作しやすくなってしまう（いわゆる「目押し」の補助となってしまう）場合があることから、これを是正するために各リールそれぞれに対してランダムに遅延期間を発生させてから回転を開始させるための処理である（このような遅延期間は「再配置期間」とも称される）。また、上述の（３）及び（４）の状況で各リールが仮停止している場合には、完全に停止していると誤認されないように、各ステッピングモータの励磁制御における位相信号は必ず所定時間（例えば、５００ｍｓ）未満としてリールを順方向と逆方向とに交互に変化させるようにすることが望ましい。

【０１９２】

上述の措置の１つとしては、例えば、上述の（３）の状況で任意の図柄の組合せが仮停止した場合（３個目のリールが仮停止して全てのリールが仮停止した場合）、上述の（４）の状況でランダム遅延処理が開始されるまでの間、各リールを上下に微振動させる（揺動させる）ことが挙げられる。なお、位相信号が上述の所定時間未満で変化するものである限り、１個目のリールが仮停止したとき、２個目のリールが仮停止したときには、このような揺動は行われないようにしてもよい。

【０１９３】

また、上述の措置の１つとしては、例えば、疑似遊技中であることを報せるための疑似遊技ランプを設け、上述の（１）の状況で疑似遊技が開始されてから、上述の（４）の状況でランダム遅延処理が開始されるまでの間、当該疑似遊技ランプを点灯させることが挙げられる。なお、疑似遊技ランプは、遊技者の遊技操作を受付ける操作部よりも上方、かつ遊技中に視認可能な位置に設置されることが望ましい。また、疑似遊技ランプは、他の用途に使用しない独立したランプであり、当該疑似遊技ランプの表示部全体は単色の縁で覆われていることが望ましい。また、疑似遊技ランプは、当該疑似遊技ランプの説明部分を含めた表示範囲が一定の表面積（例えば、１辺が１０ｍｍを超え、かつ表面積が６４２平方ｍｍを超えること等）を有することが望ましい。また、疑似遊技ランプの説明部分は、当該疑似遊技ランプが疑似遊技中であることを報せるためのランプであることが認識できる記載（例えば、「ＦＲＥＥＰＬＡＹ」、「疑似遊技演出中」、あるいは「リール自動演出中」等の記載）であることが望ましく、また、このような記載部分は、表面積の１／３以上を占めることが望ましい。なお、疑似遊技ランプを制御するのは、主制御回路１００であってもよいし、副制御回路２００であってもよい。

【０１９４】

また、上述の措置の１つとしては、例えば、疑似遊技中であることを報せるための疑似遊技中表示を、上述の（１）の状況で疑似遊技が開始されてから、上述の（４）の状況でランダム遅延処理が開始されるまでの間、メイン表示装置２１０又はサブ表示装置２２０（あるいはその双方）で行うことが挙げられる。なお、疑似遊技中表示は、遊技者の遊技

操作を受付ける操作部よりも上方、かつ遊技中に視認可能な位置に表示されることが望ましい（本実施形態では、メイン表示装置２１０及びサブ表示装置２２０のいずれもが操作部よりも上方となっているため、いずれを使用してもよい）。また、疑似遊技中表示は、その説明部分を含めた表示範囲が一定の表面積（例えば、１辺が１０ｍｍを超えること、表示画面が７インチ未満である場合には表面積が６４２平方ｍｍを超えること、表示画面が７インチ以上である場合には表面積が画面全体の８．２％以上となること等）を有することが望ましい。また、疑似遊技中表示の説明部分は、当該疑似遊技中表示が疑似遊技中であることを報せるための表示であることが認識できる記載（例えば、「ＦＲＥＥＰＬＡＹ」、「疑似遊技演出中」、あるいは「リール自動演出中」等の記載）であることが望ましく、また、隠蔽等されることなく遊技者が読み取れる大きさであることが望ましい。

【０１９５】

また、例えば、疑似遊技中（例えば、上述の（１）の状況で疑似遊技が開始されてから、上述の（４）の状況でランダム遅延処理が開始されるまでの間）は、指示モニタにおいて停止操作の情報が報知されないように構成する（当該遊技で指示モニタに停止操作の情報を表示する必要がある場合には、ランダム遅延処理が開始されるタイミングで表示を開始する）ことが望ましい。このようにすれば、疑似遊技中において実際の遊技中であると遊技者が誤認してしまうことをさらに抑制することができる。なお、上述のいずれかの措置がなされていれば、疑似遊技中において、サブ側の演出装置（例えば、メイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０）では停止操作の情報が報知されるようにしてもよい。また、同様に、疑似遊技中において、サブ側の演出装置では疑似遊技の遊技結果にしたがった（疑似的な遊技操作に連動した）演出が行われるようにしてもよい。

【０１９６】

また、実際の遊技では、試験機用第１インターフェースボード３０１を介して遊技者の遊技操作、あるいは当該遊技操作が可能な状態となったことに対応する試験信号が出力されるが、疑似遊技中は、遊技者の疑似的な遊技操作あるいは当該疑似的な遊技操作が可能な状態となったことに対応する試験信号は出力されない。したがって、疑似遊技中は、試験機側で疑似遊技中であることを認識可能とするための試験信号（疑似遊技信号）が出力されるようにしてもよい。なお、試験機用第１インターフェースボード３０１は、主制御基板７１から疑似遊技信号を受信した場合、疑似遊技進行制御用の信号を主制御基板７１に出力することで、主制御基板７１側で疑似遊技が進行されるようにしてもよい（すなわち、試験機用第１インターフェースボード３０１に疑似遊技進行機能をもたせてもよい）。また、試験機用第１インターフェースボード３０１にこのような疑似遊技進行機能をもたせる場合、当該機能のオン・オフを切替え可能な切替スイッチを設けるようにしてもよい。これにより、パチスロ機１の検定試験（試射試験）において、疑似遊技の演出内容を確認するか否かを任意に設定することが可能となる。

【０１９７】

［４－１０－２．サブ側演出］

パチスロ機１では、副制御回路２００側（サブ側）の制御により、例えば、以下のような演出を行い得る。なお、上述のとおり、パチスロ機１では、メイン表示装置２１０等によって停止操作の情報の報知を行うことを可能としているが、これも広義の意味において演出に含まれる。

【０１９８】

（通常演出）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、今回の遊技において完結する（すなわち、１ゲームで終了する）演出を行い得る。このような演出は、「通常演出」と称される他、「単発演出」等とも称される。なお、このような通常演出が行われないように構成することもできるし、複数種類の通常演出を行い得るように構成することもできる。

【０１９９】

（連続演出）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、複数回の遊技にわたって連続する（すなわち、複数ゲームの間継続する）演出を行い得る。このような演出は、「連読演出」と称される他、「継続演出」等とも称される。なお、このような連続演出が行われないように構成することもできるし、複数種類の連続演出を行い得るように構成することもできる。

【０２００】

（操作連動演出）

パチスロ機１では、予め定められた実行条件が成立した場合に、遊技者の演出操作に応じて演出内容を変化させることが可能な演出を行い得る。このような演出は、「操作連動演出」と称される他、「ボタン演出」等とも称される。なお、このような操作連動演出が行われないように構成することもできるし、複数種類の操作連動演出を行い得るように構成することもできる。また、操作連動演出は、通常演出として構成することもできるし、連続演出として構成することもできる。また、演出操作は、演出用ボタン群に対する操作のみならず、各種遊技操作を含むものとすることができる。

【０２０１】

なお、上述の各種演出は、種々の用途に用いることができる。例えば、設定値、内部当籤役、遊技状態、遊技区間、特典の付与内容、特典が付与されるまでの期間等の示唆ないし報知を行うために用いることができる。また、これらの有利度合いの示唆ないし報知を行うために用いることができる。また、これらの用途もあくまで一例である。

【０２０２】

（その他演出）

パチスロ機１では、上述の各種演出以外の演出を行うこともできる。例えば、上述の用途以外に用いられるものとして、遊技者又は遊技店に対する各種の報知（例えば、のめり込み防止報知や忘れ物防止報知、エラー状態報知、デモ状態報知等）も広義の意味において演出に含まれる。なお、のめり込み防止報知は、例えば、有利区間が終了したときに、その旨を示す警告等が報知されるものとすることができる。また、忘れ物防止報知は、例えば、有利区間が終了したときや精算操作が行われたときに、その旨を示す警告等が報知されるものとすることができる。また、エラー状態報知は、エラーが発生してから解消されるまで、その旨を示す警告等が報知されるものとすることができる。また、デモ状態報知は、遊技されていない期間が所定期間となったときや精算操作が行われたときに、空き台であること等が報知されるものとすることができる。

【０２０３】

［５．第１の遊技機］

続いて、図５～図２２を参照して、パチスロ機１の遊技性に関する仕様の一具体例について、これを「第１の遊技機」として説明する。なお、本実施形態において第１の遊技機として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機として説明するものに適用可能であり、また、本実施形態において他の遊技機として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において第１の遊技機として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【０２０４】

まず、第１の遊技機では、有効ラインが、上述の「センターライン」の１ラインのみと定義される。また、第１の遊技機では、遊技状態として、非ボーナス状態と、ボーナス状態とが設けられる。また、非ボーナス状態は、後述の「Ｆ＿２ＢＢ」（２枚ベット状態でのみ当籤可能なボーナス役。以下、単に「２ＢＢ」として説明する場合がある）が持越されている２ＢＢフラグ間と、後述の「Ｆ＿３ＢＢ」（３枚ベット状態でのみ当籤可能なボーナス役。以下、単に「３ＢＢ」として説明する場合がある）が持越されている３ＢＢフラグ間と、いずれのボーナス役も当籤していない（持越されていない）非フラグ間とを含んで構成される。また、ボーナス状態は、２ＢＢに係る図柄の組合せが表示されたことに応じて移行する２ＢＢ状態と、３ＢＢに係る図柄の組合せが表示されたことに応じて移行

する３ＢＢ状態とを含んで構成される。

【０２０５】

また、第１の遊技機では、２枚のメダルをベットした状態（２枚ベット状態）と、３枚のメダルをベットした状態（３枚ベット状態）とで遊技を行うことが可能となっている。なお、「ベット」とは、遊技に供するため、遊技者が２枚又は３枚のメダルをメダル投入口５に対して投入すること、遊技者がＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂを操作してクレジットから２枚又は３枚分のメダルを掛けること、及びリプレイ役の入賞によって自動的に２枚又は３枚分のメダルが掛けられることのいずれもが含まれる。

【０２０６】

［５－１．第１の遊技機の遊技性］

続いて、図５～図８を参照して、第１の遊技機における遊技の流れについて説明する。なお、図５は、第１の遊技機における非有利区間及び有利区間における遊技状態の遷移フローの一例を示す図であり、図６は、第１の遊技機における各モードの一例を説明するための図であり、図７及び図８は、第１の遊技機における各種テーブルの一例を示す図である。

【０２０７】

図５に示すように、第１の遊技機では、遊技者が遊技を行う状態として、非有利区間及び有利区間に大別され、有利区間には、さらに演出区間（有利区間・通常遊技）及び増加区間（有利区間・疑似ボーナス）が設けられる。非有利区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態（非ＡＴ状態）であり、遊技者にとって不利な遊技状態である。演出区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態（非ＡＴ状態）であり、遊技者にとって不利な遊技状態である点は非有利区間と同様であるが、後述するように、モード移行が行われる点において非有利区間とは異なる。

【０２０８】

すなわち、非有利区間は、有利区間での遊技が終了したとき、設定変更操作が行われたとき、その他の初期化条件が成立したとき、あるいは工場出荷時等の場合に制御される初期状態としての制御状態であり、演出区間は、モード移行等によって増加区間移行（付与）の期待度を変動可能とし、遊技者が通常遊技を行う通常状態としての制御状態である。

【０２０９】

一方、増加区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される遊技状態（ＡＴ状態）であり、遊技者にとって有利な遊技状態である。すなわち、増加区間は、遊技者がメダルを増加させることができる有利状態としての制御状態である。なお、演出区間と増加区間とはともに有利区間であり、これらの区間を相互に移行することで一連の有利区間として構成されるものである。

【０２１０】

なお、第１の遊技機では、図７の（ａ）に示すように、非有利区間において、内部当籤役（後述の図１０参照）に応じた二次情報（サブフラグ）としての非有利区間サブフラグが決定される。なお、サブフラグは、主制御回路１００による遊技性に関する各種抽籤（有利区間に関連する各種処理）において、同様の役割（抽籤対象役であるか否かやその当籤確率等）を担う内部当籤役をグループ化して同じ情報を割り当てることで、そのグループを識別可能とするための情報である。これにより、内部当籤役ごとに各種データテーブルを設ける必要がなくなることから、データ量を圧縮することができ、メインＲＯＭ１０２の容量の圧迫を回避することができる。非有利区間では、この非有利区間サブフラグを用いた抽籤が行われる。

【０２１１】

非有利区間サブフラグ「リプベル」は、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）、「Ｆ＿リプレイＢ」（Ｎｏ．「４」）、及び「Ｆ＿ベル１２３Ａ１」～「Ｆ＿ベル３２１Ｂ２」（Ｎｏ．「１０」～Ｎｏ．「３３」）のいずれかであるときに決定される。非有利区間サブフラグ「弱チェ」は、内部当籤役が「Ｆ＿チェリー」（Ｎｏ．「５」）であるときに決定される。非有利区間サブフラグ「スイカ」は、内部当籤役が「Ｆ＿スイカ

」（Ｎｏ．「９」）であるときに決定される。非有利区間サブフラグ「確定役」は、内部当籤役が「Ｆ＿確定チェリー」（Ｎｏ．「６」）及び「Ｆ＿リーチ目」（Ｎｏ．「８」）のいずれかであるときに決定される。非有利区間サブフラグ「中チェ」は、内部当籤役が「Ｆ＿中段チェリー」（Ｎｏ．「７」）であるときに決定される。なお、非有利区間においても、有利区間と同様に、当籤時サブフラグと入賞時サブフラグが決定され得るように構成することもできる。また、これらの対応関係も上述のものに限られない。

【０２１２】

また、第１の遊技機では、図７の（ａ）に示すように、有利区間において、内部当籤役（後述の図１０参照）に応じた二次情報（サブフラグ）としての有利区間当籤時サブフラグが決定される。さらに、有利区間においては、表示された図柄の組合せに応じた二次情報（サブフラグ）としての有利区間入賞時サブフラグが決定される。有利区間では、これらの有利区間当籤時サブフラグ及び有利区間入賞時サブフラグを用いた抽籤が行われる。

【０２１３】

有利区間当籤時サブフラグ「ベル」は、内部当籤役が「Ｆ＿ベル１２３Ａ１」～「Ｆ＿ベル３２１Ｂ２」（Ｎｏ．「１０」～Ｎｏ．「３３」）のいずれかであるときに決定される。有利区間当籤時サブフラグ「弱チェ」は、内部当籤役が「Ｆ＿チェリー」（Ｎｏ．「５」）であるときに決定される。有利区間当籤時サブフラグ「スイカ」は、内部当籤役が「Ｆ＿スイカ」（Ｎｏ．「９」）であるときに決定される。有利区間当籤時サブフラグ「確定役」は、内部当籤役が「Ｆ＿確定チェリー」（Ｎｏ．「６」）及び「Ｆ＿リーチ目」（Ｎｏ．「８」）のいずれかであるときに決定される。有利区間当籤時サブフラグ「中チェ」は、内部当籤役が「Ｆ＿中段チェリー」（Ｎｏ．「７」）であるときに決定される。

【０２１４】

有利区間入賞時サブフラグ「通リプ１」は、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）及び「Ｆ＿リプレイＢ」（Ｎｏ．「４」）のいずれかであるとき、「右上がりリプ」の図柄の組合せが表示された場合（すなわち、入賞役が「右上がりリプ」である場合）に決定される。有利区間入賞時サブフラグ「通リプ２」は、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）及び「Ｆ＿リプレイＢ」（Ｎｏ．「４」）のいずれかであるとき、「平行リプ」の図柄の組合せが表示された場合（すなわち、入賞役が「平行リプ」である場合）に決定される。

【０２１５】

ここで、第１の遊技機では、後述するように、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）であるとき、３ＢＢフラグ間では、「右上がりリプ」の図柄の組合せが表示され、２ＢＢフラグ間及び非フラグ間では、「平行リプ」の図柄の組合せが表示されるようになっている。

【０２１６】

すなわち、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）であるとき、３ＢＢフラグ間では有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ１」が決定され、２ＢＢフラグ間及び非フラグ間では有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ２」が決定されるようになっている。そして、第１の遊技機では、このように有利区間入賞時サブフラグが異なる場合、後述する各種抽籤（例えば、図７の（ｃ）に示す疑似ボーナス移行抽籤テーブルを用いた疑似ボーナス移行抽籤や図８（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルを用いたモード移行抽籤）における有利度合いを変動させるようにしている。

【０２１７】

なお、第１の遊技機では、例えば、３ＢＢフラグ間であるか、あるいは２ＢＢフラグ間であるかに応じて、有利区間入賞時サブフラグが変動する役として「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）を例に挙げて説明しているが、有利区間入賞時サブフラグが変動する態様はこれに限られない。例えば、後述するように、内部当籤役が「Ｆ＿ベル１２３Ｂ１」（Ｎｏ．「１２」）であるとき、３ＢＢフラグ間である場合と、２ＢＢフラグ間である場合とで停止制御を異ならせることにしているので、このような役に当籤した場合、メダルの払出数を変動させず（あるいは変動させるようにしてもよい）、表示される図柄の組合せ

が異なるようにし、これによって異なる有利区間入賞時サブフラグが決定されるようにしてもよい。そして、有利区間入賞時サブフラグが異なることに応じて、後述する各種抽籤における有利度合いを変動させるようにすればよい。

【０２１８】

また、例えば、後述するように、内部当籤役が「Ｆ＿スイカ」（Ｎｏ．「９」）であるとき、いずれのフラグ間（非フラグ間）であるかにかかわらず、押下位置（停止操作タイミング）が適切であれば「スイカ」の図柄の組合せが表示され、押下位置が適切でなければ取りこぼしが発生して「スイカこぼし」の図柄の組合せが表示されるようにしているので、このような役に当籤した場合、取りこぼしが発生することなく入賞させることができた場合と、取りこぼしが発生した場合とで異なる有利区間入賞時サブフラグが決定されるようにしてもよい。そして、有利区間入賞時サブフラグが異なることに応じて、後述する各種抽籤における有利度合いを変動させるようにすればよい。

【０２１９】

また、例えば、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」（Ｎｏ．「３」）であるとき、３ＢＢフラグ間では、停止操作が特定の態様（この特定の態様は、例えば、停止操作が予め定義された打順（正解押し順）で行われる態様、押下位置（停止操作のタイミング）が適切である態様、及びこれらの組合せの態様、いずれの態様であってもよい）で行われた場合には「平行リプ」の図柄の組合せが表示され、特定の態様で行われなかった場合には「右上がりリプ」の図柄の組合せが表示されるようにし、これにより異なる有利区間入賞時サブフラグが決定されるようにしてもよい。そして、有利区間入賞時サブフラグが異なることに応じて、後述する各種抽籤における有利度合いを変動させるようにすればよい。

【０２２０】

すなわち、第１の遊技機では、特定役に関し、ベット数、遊技状態、停止操作の態様、あるいはこれらのうちいずれかの組合せによって、最終的な停止表示態様が異なる場合があることを可能とし、異なった停止表示態様に応じて異なる二次情報を決定可能とし、それによって有利度合いを変動可能とする態様全てを適用することができる。

【０２２１】

第１の遊技機の遊技性の説明に戻る。非有利区間では、遊技毎に、有利区間移行抽籤が行われる。具体的には、図７の（ｂ）に示す有利区間移行抽籤テーブルが参照され、内部当籤役が決定され、当該内部当籤役に応じて非有利区間サブフラグが決定された以降の当該遊技中の所定のタイミングで、非遊技区間サブフラグに応じて、移行先モード等が決定される。なお、この決定に際しては、有利区間に移行した際のモードの種別のみが決定される場合（図５中、「有利区間開始」）と、当該モードの種別のみならず疑似ボーナスに移行することも決定される場合（図５中、「有利区間開始＋疑似ボーナス開始」）とがある。もっとも、非有利区間においては、疑似ボーナスに移行することが決定されない仕様とすることもできる。

【０２２２】

ここで、図６を参照して、第１の遊技機における各モードについて説明する。第１の遊技機において、モードは、演出区間（通常遊技）における増加区間（疑似ボーナス）移行（付与）の期待度を変動させるための制御情報（遊技状態や制御状態と言い換えてもよい）であり、演出区間（通常遊技）においては、このモードにしたがって、疑似ボーナス移行の有無が決定されたり、有利区間を維持させたり、有利区間を終了させて非有利区間に移行させることが決定されたりするようになっている。

【０２２３】

スタートモードは、非有利区間から有利区間（演出区間）に移行するときに滞在しやすく、相対的に不利なモードとなっており、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に低く（後述の図７の（ｃ）参照）、また、より有利なモードに移行する期待度も相対的に低い（後述の図８の（ｆ）参照）。なお、図示は省略しているが、スタートモードでは、天井ゲーム数が「９６５ゲーム」に設定される。天井ゲーム数は、疑似ボーナスに移行しない期間が一定期間となったとき、強制的に疑似ボーナスに移行させるために用いられる。そ

れゆえ、天井ゲーム数が少ないほど遊技者に有利であり、天井ゲーム数が多いほど遊技者に不利となる。

【０２２４】

通常Ａモードは、遊技者が遊技を行う上で最も滞在しやすく、相対的に不利なモードとなっており、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に低く（後述の図７の（ｃ）参照）、また、より有利なモードに移行する期待度も相対的に低い（後述の図８の（ｆ）参照）。なお、通常Ａモードでは、天井ゲーム数が「９６５ゲーム」に設定される。また、図６中、「疑似ボーナス後約９９９Ｇ」とあるのは、疑似ボーナス終了後に、後述の終了Ａモード又は終了Ｂモードに移行し、当該モードにて疑似ボーナスに移行することなく３２ゲームの遊技が行われ、一度非有利区間に移行した後、非有利区間から有利区間に移行する際にこの通常Ａモードが選択された場合、見かけ上の天井ゲーム数は、「９６５ゲーム」＋終了Ａモード又は終了Ｂモードでの遊技期間「３２ゲーム」＋非有利区間から有利区間に移行するのに要したゲーム数となるため、これを表現したものである。以下、通常Ｂモード、天国準備モード、チャンスモードにおいても同様である。

【０２２５】

通常Ｂモードは、遊技者が遊技を行う上で比較的滞在しやすく、相対的に不利なモードではあるが、通常Ａモードよりは有利なモードとなっており、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に低く（後述の図７の（ｃ）参照）、また、より有利なモードに移行する期待度も相対的に低い（後述の図８の（ｆ）参照）。なお、通常Ｂモードでは、天井ゲーム数が「９６５ゲーム」に設定される。

【０２２６】

天国準備モードは、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に低い（後述の図７の（ｃ）参照）ものの、天井ゲーム数は「４６６ゲーム」に設定され、また、疑似ボーナスに移行した場合、その終了後は天国モードに移行することが確定するため（後述の図８の（ｆ）参照）、その意味において相対的に有利なモードとなっている。

【０２２７】

チャンスモードは、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に高く（後述の図７の（ｃ）参照）、天井ゲーム数は「２２２ゲーム」に設定されているため、その意味において相対的に有利なモードとなっている。もっとも、天国モードに移行する期待度は高いものとはなっていない（後述の図８の（ｆ）参照）。

【０２２８】

終了Ａモードは、疑似ボーナスに移行した場合、その終了後に天国モード（天国準備モードを含む）に移行しない場合に滞在しやすく、相対的に不利なモードとなっており、疑似ボーナスに移行する期待度は最も低く（後述の図７の（ｃ）参照）、また、より有利なモードに移行する期待度も相対的に低い（後述の図８の（ｆ）参照）。当該終了Ａモードでは、疑似ボーナス終了後に疑似ボーナスに移行することなく３２ゲームの遊技が行われると、有利区間そのものが終了し、非有利区間に移行する。

【０２２９】

終了Ｂモードは、疑似ボーナスに移行した場合、その終了後に天国モード（天国準備モードを含む）に移行しない場合に滞在しやすく、相対的に不利なモードではあるが、終了Ａモードよりは有利なモードとなっており、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に低く（後述の図７の（ｃ）参照）、また、より有利なモードに移行する期待度も相対的に低い（後述の図８の（ｆ）参照）。当該終了Ｂモードでは、終了Ａモードと同様、疑似ボーナス終了後に疑似ボーナスに移行することなく３２ゲームの遊技が行われると、有利区間そのものが終了し、非有利区間に移行する。なお、終了Ａモード及び終了Ｂモードは、「終了モード」と総称することもできる。

【０２３０】

保障モードは、天国Ｃモードが終了した場合に滞在するモードであり、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に高く（後述の図７の（ｃ）参照）、天井ゲーム数は「３２ゲーム」に設定されているため、その意味において相対的に有利なモードとなっている。もっ

とも、天国モードに移行する期待度は高いものとはなっていない（後述の図８の（ｆ）参照）。すなわち、天国Ｃモードが終了したとき、それによる興趣の低下を防止するため、一定期間は相対的に有利な状態を維持（保障）しようするモードとして位置付けられる。

【０２３１】

天国Ａモードは、疑似ボーナスが連荘する（ＡＴ状態が、ＡＴ状態中に延長（上乗せ）の決定が行われることによって継続する仕様の場合には、当該延長（上乗せ）することも含み得る。以下同じ）ことが期待できるモードであり、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に高く（後述の図７の（ｃ）参照）、天井ゲーム数は「３２ゲーム」に設定され、また、天井モードが維持される確率（天国モードループ率）が中程度に設定された相対的に有利なモードとなっている。なお、図６においては図示を省略しているが、例えば、この天井モードループ率には設定差を設けるようにすることもできる。例えば、設定値が奇数（１，３，５）であるとき、天井モードループ率が７５％程度となり、設定値が偶数（２，４，６）であるとき、天井モードループ率が６７％程度となるように抽籤値を設定することもできるし、単に設定値が高いほど天井モードループ率も高くなるように抽籤値を設定することもできる。後述の天国Ｂモード及び天国Ｃモードにおいても同様であり、天井モードループ率に設定差を設けることもできる。

【０２３２】

天国Ｂモードは、疑似ボーナスが連荘することが期待できるモードであり、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に高く（後述の図７の（ｃ）参照）、天井ゲーム数は「３２ゲーム」に設定され、また、天井モードが維持される確率（天国モードループ率）が高く設定された相対的に有利なモードとなっている。すなわち、天井モードループ率の点で、天国Ａモードよりもさらに有利なモードとなっている。

【０２３３】

天国Ｃモードは、疑似ボーナスが連荘することが期待できるモードであり、疑似ボーナスに移行する期待度は相対的に高く（後述の図７の（ｃ）参照）、天井ゲーム数は「３２ゲーム」に設定され、また、天井モードが維持される確率（天国モードループ率）がかなり高く設定された相対的に有利なモードとなっている。すなわち、天井モードループ率の点で、天国Ａモード及び天国Ｂモードよりもさらに有利なモードとなっている。なお、天国Ａモード、天国Ｂモード、及び天国Ｃモードは、「天国モード」と総称することができる。

【０２３４】

なお、上述の各モードは、あくまでも一例を示すものであり、モードの構成はこれに限られない。上述の各モード以外のモードを設定することもできるし、上述の各モードのうち一部のモードを設定しないようにすることもできる。

【０２３５】

また、ここまで、非有利区間は有利区間に比べて相対的に有利度が低い状態として説明したが、非有利区間と有利区間との関係はこのような態様に限定されない。例えば、非有利区間である場合のほうが、有利区間において少なくとも１つ以上のモードが設定されている場合よりも増加区間への移行割合が高かったり、増加区間への移行に要する平均ゲーム数が短くしたりする等の仕様、あるいは非有利区間が最も増加区間にしやすい仕様とすることもできる。このようにすることで、設定変更後等の非有利区間であることが確定する状態においても遊技を行うインセンティブが生まれるため、開店時からでも遊技を開始する動機づけとなる。また、疑似ボーナス終了後３２ゲームを経過したときに区間ランプの点灯が終了した場合であっても、最も不利な状態となることが確定しないため、このようなときでも遊技が継続される動機づけとなる。また、ここまで、演出区間は遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態であるとして説明したが、増加区間と比べて不利な態様（例えば、報知の頻度を下げたり、報知の対象となる役を変更したりする等）であれば、停止操作の情報が報知される遊技状態とすることもできる。

【０２３６】

第１の遊技機の遊技性の説明に戻る。演出区間（通常遊技）では、まず、遊技毎に、有

利区間当籤時サブフラグを参照して、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）が行われる。具体的には、図７の（ｃ）に示す疑似ボーナス移行抽籤テーブルが参照され、内部当籤役が決定され、当該内部当籤役に応じて有利区間当籤時サブフラグが決定された以降の当該遊技中の所定のタイミングで、有利区間当籤時サブフラグに応じて、疑似ボーナスに移行させるか否かが決定される。なお、図７の（ｃ）中、「非当籤」は、疑似ボーナスに移行させないことを意味し、「当籤（今回遊技）」は、今回の遊技から疑似ボーナスに移行させることを意味し、「当籤（次回遊技）」は、次回の遊技から疑似ボーナスに移行させることを意味する。

【０２３７】

なお、第１の遊技機では、「当籤（今回遊技）」が決定された場合には今回遊技の開始時に、「当籤（次回遊技）」が決定された場合には次回遊技の開始時に、遊技操作（停止操作）が一定期間無効とされるとともに、当該無効期間において、メイン表示窓４に「赤７」図柄が揃って表示されるリール演出（「赤７揃い」演出）が行われた後、疑似ボーナスが開始され、「赤７揃い」演出が行われた遊技で、停止操作の情報を報知する必要がある場合には、少なくとも当該無効期間が終了して遊技操作（停止操作）が有効となるとき（それ以前でもよいが、上述のランダム遅延処理が開始されるよりも前のタイミングではないとき）に、停止操作の情報の報知が行われるようになっている。

【０２３８】

演出区間（通常遊技）において、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定された場合、モード移行抽籤（当籤時）が行われる。具体的には、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルが参照され、現在のモード及び有利区間当籤時サブフラグに応じて、移行先モードが決定される。なお、この移行先モードは、疑似ボーナス中を含めたモードであってもよいし、疑似ボーナス終了後のモードであってもよい。また、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定され、モード移行抽籤（当籤時）が行われた場合、後述の疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）、モード移行抽籤（入賞時）、及びモード移行抽籤（天井時）は行われない。

【０２３９】

演出区間（通常遊技）において、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定されなかった場合、遊技ごとに（より詳細には、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」に当籤した遊技において）、有利区間入賞時サブフラグを参照して、疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）が行われる。具体的には、図７の（ｃ）に示す疑似ボーナス移行抽籤テーブルが参照され、入賞役が決定され、当該入賞役に応じて有利区間入賞時サブフラグが決定された以降の当該遊技中（次回遊技開始前）の所定のタイミングで、有利区間入賞時サブフラグに応じて、疑似ボーナスに移行させるか否かが決定される。

【０２４０】

なお、図７の（ｃ）に示す疑似ボーナス移行抽籤テーブルでは、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ１」が決定された場合よりも、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ２」が決定された場合のほうが、疑似ボーナスに移行させることが決定される割合が高くなっている。もっとも、「通リプ２」を「通リプ１」よりも優遇させる態様はこれに限られない。例えば、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ２」が決定された場合には、所定確率で疑似ボーナスに移行させることが決定され得るが、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ１」が決定された場合には、疑似ボーナスに移行させることが決定され得ないようにしてもよい。

【０２４１】

演出区間（通常遊技）において、疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定された場合、モード移行抽籤（入賞時）が行われる。具体的には、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルが参照され、現在のモード及び有利区間入賞時サブフラグに応じて、移行先モードが決定される。なお、この移行先モードは、疑似ボーナス中を含めたモードであってもよいし、疑似ボーナス終了後のモードであっても

よい。また、疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定され、モード移行抽籤（入賞時）が行われた場合、後述のモード移行抽籤（天井時）は行われない。

【０２４２】

なお、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルでは、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ１」が決定された場合よりも、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ２」が決定された場合のほうが、遊技者に相対的に有利なモードに移行させることが決定される割合が高くなっている。もっとも、「通リプ２」を「通リプ１」よりも優遇させる態様はこれに限られない。例えば、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ２」が決定された場合には、所定確率で遊技者に相対的に有利なモードに移行させることが決定され得るが、有利区間入賞時サブフラグとして「通リプ１」が決定された場合には、遊技者に相対的に有利なモードに移行させることが決定され得ないようにしてもよい。

【０２４３】

演出区間（通常遊技）において、疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）の結果、疑似ボーナスに移行させることが決定されなかった場合、天井ゲーム数を更新し（加算方式でも減算方式でもよい）、天井ゲーム数が現在のモードに対応付けられた（あるいは、有利区間移行時等において予め決定された）天井ゲーム数に達した場合には、疑似ボーナスに移行させることが決定される。この場合、必ず「当籤（今回遊技）」が決定されるようにすることもできるし、必ず「当籤（次回遊技）」が決定されるようにすることもできる。また、抽籤によりこれらのいずれが決定されるようにすることもできる。

【０２４４】

演出区間（通常遊技）において、天井ゲーム数の到達により、疑似ボーナスに移行させることが決定された場合、モード移行抽籤（天井時）が行われる。具体的には、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルが参照され、現在のモードに応じて、移行先モードが決定される。なお、この移行先モードは、疑似ボーナス中を含めたモードであってもよいし、疑似ボーナス終了後のモードであってもよい。

【０２４５】

なお、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）及び疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）に係る処理は、サブフラグの種類が異なるだけで、あとは同一の処理内容であることから、同一の抽籤テーブルや制御フローを用いて制御することができる。また、モード移行抽籤（当籤時）及びモード移行抽籤（入賞時）に係る処理は、サブフラグの種類が異なるだけで、あとは同一の処理内容であることから、同一の抽籤テーブルや制御フローを用いて制御することができる。

【０２４６】

また、仮に、疑似ボーナスの当籤の種類として「当籤（今回遊技）」を設けないのであれば、有利区間入賞時サブフラグが決定されるタイミングでは、有利区間当籤時サブフラグも決定済みであり、また、天井ゲーム数も更新済みとすることができるため、疑似ボーナス移行抽籤（当籤時）、疑似ボーナス移行抽籤（入賞時）及び天井到達時の疑似ボーナス移行処理を１回の処理でまとめて行うこともできる。また、同様に、モード移行抽籤（当籤時）、モード移行抽籤（入賞時）及びモード移行抽籤（天井時）を１回の処理でまとめて行うこともできる。

【０２４７】

第１の遊技機の遊技性の説明に戻る。上述のとおり、演出区間（通常遊技）において、疑似ボーナスに移行させることが決定され、疑似ボーナスが開始された場合（図５中、「疑似ボーナス開始」）、増加区間（疑似ボーナス）に移行する。また、上述のとおり、演出区間（通常遊技）において、終了Ａモード又は終了Ｂモードに制御され、疑似ボーナスに移行することなく３２ゲームの遊技が消化された場合（図５中、「有利区間終了（終了Ａ・Ｂ経由）」）、非有利区間に移行する。また、後述の図１６に示すリミット処理の条件が成立した場合には、有利区間は強制的に終了されることになり（図５中、「有利区間終了（リミット処理）」）、その結果、非有利区間に移行する。

【０２４８】
増加区間（疑似ボーナス）では、当該疑似ボーナスが開始されるときに、天井短縮抽籤が行われる。具体的には、図８の（ｅ）に示す天井短縮抽籤テーブルが参照され、現在のモードに応じて、当該疑似ボーナス終了後の天井ゲーム数を短縮するか否かが決定される。なお、図８の（ｅ）中、「非当籤」は、天井ゲーム数を短縮させないことを意味し、「当籤（天井ゲーム数＝０更新）」は、当該疑似ボーナス終了後、モードにかかわらず、セットされる天井ゲーム数を「０」とする（短縮させる）ことを意味する。なお、天井短縮抽籤は、疑似ボーナスが開始されるときのみならず、疑似ボーナス中は毎遊技行われるようにすることもできる。
【０２４９】
天井短縮抽籤の結果、天井ゲーム数を短縮させないことが決定された場合、疑似ボーナスが終了したときに、後述の１Ｇ連ストックも保有していない場合には、現在のモードに応じて天井ゲーム数がセットされ（終了モードの場合には、３２ゲーム経過後に有利区間が終了する（これにともなってクリアされる）ためセットされないが、ここで天井ゲーム数が仮セットされるようにしてもよい）、疑似ボーナスが終了し（図５中、「疑似ボーナス終了」）、演出区間（通常遊技）に移行する。一方、天井短縮抽籤の結果、天井ゲーム数を短縮させることが決定された場合、疑似ボーナスが終了したときに、天井ゲーム数として「０ゲーム」がセットされる。これにより、疑似ボーナス終了後の次回遊技から再度疑似ボーナスが開始されることとなる。なお、この場合、天井ゲーム数の到達により疑似ボーナスが開始されたことになるため、上述のモード移行抽籤（天井時）が行われる。
【０２５０】
増加区間（疑似ボーナス）では、遊技ごとに（より詳細には、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」又は「中チェ」が決定された遊技において）、モード移行抽籤（当籤時）が行われる。具体的には、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルが参照され、現在のモード及び有利区間当籤時サブフラグに応じて、移行先モードが決定される。なお、上記以外の有利区間当籤時サブフラグが決定された場合にも、移行先モードが決定されるようにしてもよいが、この場合、原則として現在のモードよりも相対的に不利なモードが移行先モードとして決定されないようにするため、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルとは抽籤値が異なる別のモード移行抽籤テーブルが参照されるようにしてもよい。
【０２５１】
増加区間（疑似ボーナス）では、遊技ごとに（より詳細には、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」に当籤した遊技において）、モード移行抽籤（入賞時）が行われる。具体的には、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルが参照され、現在のモード及び有利区間入賞時サブフラグに応じて、移行先モードが決定される。なお、この場合、上記と同様、原則として現在のモードよりも相対的に不利なモードが移行先モードとして決定されないようにするため、図８の（ｆ）に示すモード移行抽籤テーブルとは抽籤値が異なる別のモード移行抽籤テーブルが参照されるようにしてもよい。
【０２５２】
増加区間（疑似ボーナス）では、遊技ごとに、１Ｇ連抽籤が行われる。具体的には、図７の（ｄ）に示す１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、現在のモード及び有利区間当籤時サブフラグ又は有利区間入賞時サブフラグに応じて、１Ｇ連を発生させるか否かが決定される。なお、図７の（ｄ）中、「非当籤」は、１Ｇ連を発生させないことを意味し、「当籤（１Ｇ連＋１）」は、１Ｇ連を発生させる権利（１Ｇ連ストック）が１個付与される（１Ｇ連ストックカウンタが１加算される）ことを意味する。なお、１Ｇ連ストックは、１Ｇ連ストックカウンタによって複数個（最大２５５個）ストック（貯留）されることが可能となっている。したがって、１回の疑似ボーナス中に複数個の１Ｇ連ストックが付与される場合もある。また、１回の１Ｇ連抽籤で、複数個の１Ｇ連ストックが付与され得るように、１Ｇ連抽籤テーブルを構成することもできる。
【０２５３】

疑似ボーナスが終了したときに、１Ｇ連ストックカウンタの値が１以上である場合（すなわち、１Ｇ連ストックを保有している場合）には、１Ｇ連ストックが１つ消化され（１Ｇ連ストックカウンタが１減算され）、疑似ボーナス終了後の次回遊技から再度疑似ボーナスが開始されることとなる。なお、この場合、１Ｇ連ストックという権利に応じた疑似ボーナスの開始となるため、上述のモード移行抽籤は行われない。一方、疑似ボーナスが終了したときに、１Ｇ連ストックカウンタの値が１以上でない場合（すなわち、１Ｇ連ストックを保有していない場合）、上述の天井短縮抽籤にも当籤していない場合には、現在のモードに応じて天井ゲーム数がセットされ（終了モードの場合には、３２ゲーム経過後に有利区間が終了する（これにともなってクリアされる）ためセットされないが、ここで天井ゲーム数が仮セットされるようにしてもよい）、疑似ボーナスが終了し（図５中、「疑似ボーナス終了」）、演出区間（通常遊技）に移行する。

【０２５４】

なお、天井短縮抽籤に当籤し、１Ｇ連ストックも保有している場合、天井短縮抽籤の結果が優先され、天井短縮に応じた疑似ボーナスが実行された後、１Ｇ連ストックに応じた疑似ボーナスが実行されるようにしてもよいし、１Ｇ連ストックが優先され、１Ｇ連ストックに応じた疑似ボーナスが実行された後、天井短縮に応じた疑似ボーナスが実行されるようにしてもよい。後者の場合、天井短縮があることを持越せる情報を別途記憶しておけばよい。

【０２５５】

第１の遊技機では、増加区間（疑似ボーナス）の構成として、「５５ゲーム」間継続し、最大２７５枚獲得可能としたものを一例として挙げているが、疑似ボーナスの構成はこれに限られない。例えば、当該疑似ボーナスを「疑似ＢＢ（ビッグボーナス）」として構成し、他に「２２ゲーム」間継続し、最大１１０枚獲得可能とした疑似ボーナスである「疑似ＲＢ（レギュラーボーナス）」を搭載するようにしてもよい。この場合、上述の疑似ボーナス移行抽籤、天井到達時、１Ｇ連抽籤において、疑似ボーナスに移行させること（権利を付与すること）が決定される際には、その種類（例えば、「疑似ＢＢ」とするのか、「疑似ＲＢ」とするのか）が所定確率（例えば、５０％ずつ）で決定されるようにすればよい。なお、「疑似ＲＢ」は、「疑似ＢＢ」との間で価値が異なる（より詳細には、「疑似ＢＢ」よりも価値が低い）ものとすればよいため、例えば、継続ゲーム数は「疑似ＢＢ」と同じであるが、ベルナビ率（停止操作の情報が報知される報知確率）を低いものとすることで、最大獲得可能枚数に差をつけ、価値が異なるようにすることもできる。また、「疑似ＲＢ」を開始させる際には、メイン表示窓４に「ＢＡＲ」図柄が揃って表示されるリール演出、あるいは「赤７－赤７－ＢＡＲ」が表示されるリール演出が行われるようにすればよい。さらに、増加区間は疑似ボーナスとして構成されるものに限られない。例えば、継続する遊技数（遊技期間）を変化させることが可能なＡＴ状態やＡＲＴ状態として構成することもできる。

【０２５６】

また、疑似ボーナス中に、後述の図１６に示すリミット処理の実行条件が成立した場合には、有利区間は強制的に終了されることになり（図５中、「リミット処理による有利区間終了」）、その結果、非有利区間に移行する。

【０２５７】

なお、第１の遊技機において、上述の遊技の流れは、基本的に３枚ベット状態で遊技が行われることを前提としたものである。したがって、２枚ベット状態で遊技が行われる場合には、例えば、図７の（ａ）～（ｄ）、図８の（ｅ）及び（ｆ）等を用いた各種抽籤は行われず、また、天井ゲーム数も更新されない。また、疑似ボーナス中に２枚ベット状態で遊技が行われた場合、２枚ベット状態ではメダルが増加しないように構成されていることから、疑似ボーナス中が増加区間とはならない。すなわち、第１の遊技機では、２枚ベット状態で遊技を行うと基本的に遊技者は不利となるように構成されている。

【０２５８】

ここで、２枚ベット状態で遊技が行われる場合には、有利区間（ＡＴ）に関する抽籤（

例えば、図７の（ａ）～（ｄ）、図８の（ｅ）及び（ｆ）等を用いた各種抽籤）や処理（例えば、天井ゲーム数の更新等）は行われないものの、上述のゲーム数リミッタ用の有利区間ゲーム数カウンタや、上述の払出数リミッタ用の有利区間払出数カウンタの更新は行われるものとすることが望ましい。これらのリミッタは、有利区間の滞在ゲーム数や獲得枚数の上限を制限することで射幸性を適切に抑制する機能を有するものであることから、仮に、２枚ベット状態ではこれらのカウンタが更新されないものとすると、２枚ベット状態での遊技が介在することで設定された有利区間の滞在ゲーム数や獲得枚数の上限を超えてしまう場合が生じ、その結果適切に射幸性を抑制できない場合が生じ得るためである。それゆえ、リミッタ用のカウンタは、ベット数不問で毎ゲーム更新可能に構成されることが望ましい。

【０２５９】

また、第１の遊技機において、上述の遊技の流れは、基本的に非ボーナス状態で遊技が行われることを前提としたものである。したがって、ボーナス状態（２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態）で遊技が行われる場合には、例えば、図７の（ａ）～（ｄ）、図８の（ｅ）及び（ｆ）等を用いた各種抽籤は行われず、また、天井ゲーム数も更新されない。また、疑似ボーナス中にボーナス状態となった場合、ボーナス状態は非ボーナス状態（より詳細には非ボーナス状態の３枚ベット状態）よりもメダルの増加期待値が低い状態として構成されていることから、疑似ボーナス中が増加区間とはならない場合もある。すなわち、第１の遊技機では、ボーナス状態で遊技を行うと遊技者は不利となる場合があるように構成されている。

【０２６０】

それゆえ、第１の遊技機では、２ＢＢフラグ間の３枚ベット状態で遊技を行うことが推奨される構成となっている（本実施形態では、２ＢＢフラグ間の３枚ベット状態を「推奨遊技状態」として説明し、その他の状態を「非推奨遊技状態」として説明する場合がある）。すなわち、第１の遊技機では、２ＢＢは２枚ベット状態でのみ当籤するボーナス役であり、２ＢＢフラグ間において２ＢＢに係る図柄の組合せは２枚ベット状態でのみ入賞し、３枚ベット状態では入賞しない構成となっている。また、３ＢＢは３枚ベット状態でのみ当籤するボーナス役であり、３ＢＢフラグ間において３ＢＢに係る図柄の組合せは３枚ベット状態でのみ入賞し、２枚ベット状態では入賞しない構成となっている。また、２ＢＢフラグ間では３ＢＢが当籤する場合はなく、３ＢＢフラグ間では２ＢＢが当籤する場合はない構成となっている。

【０２６１】

そして、第１の遊技機では、これらの構成を用いて、例えば、非フラグ間の２枚ベット状態で２ＢＢを当籤させて（２ＢＢを入賞させず）２ＢＢフラグ間とした後、３枚ベット状態で遊技を行えば、ボーナス役を入賞させるか否かを気にすることなく、上述の推奨遊技状態で遊技を行うことが可能となっている。

【０２６２】

上述のとおり、第１の遊技機では、疑似ボーナス中において、天井短縮抽籤が行われる。ここで、図８の（ｅ）に示す天井短縮抽籤テーブルをみると、現在のモードが、保障モード、天国Ａモード、天国Ｂモード、及び天国Ｃモードのいずかのモードであるとき、１／８（３２／２５６）の確率で天井短縮抽籤に当籤する一方、その他のモードであるときには天井短縮抽籤に当籤しないようになっている。すなわち、天井ゲーム数が「３２ゲーム」であるモードの場合には、その「３２ゲーム」が「０ゲーム」に短縮される場合があり、天井ゲーム数がそれよりも多いモードの場合には、天井ゲーム数が短縮される場合がないようになっている。

【０２６３】

なお、天井ゲーム数が「３２ゲーム」よりも多いモードの場合であっても、天井ゲーム数が「３２ゲーム」であるモードの場合よりも低い確率（例えば、１／６４）で、天井ゲーム数が短縮されることが決定されるようにしてもよい。

【０２６４】

また、天井ゲーム数を短縮する態様も上述のものに限られない。例えば、「３２ゲーム」をそれより少ない所定ゲーム（０～３１ゲーム）に短縮すれば、同様の作用効果を発揮できることから、天井短縮抽籤に当籤したときに短縮するゲーム数がさらに決定されるようにしてもよいし、天井短縮抽籤において、何ゲーム分短縮するのかを予め決定するようにしてもよい。

【０２６５】

また、天井短縮抽籤が行われる契機も上述のものに限られない。例えば、疑似ボーナス中には、遊技ごとに天井短縮抽籤が行われるようにしてもよい。また、有利区間（通常遊技）において、現在のモードが、保障モード、天国Ａモード、天国Ｂモード、及び天国Ｃモードのいずかのモードであるときには、遊技ごとに天井短縮抽籤が行われるようにしてもよい。これらの場合には、有利区間当籤時サブフラグや有利区間入賞時サブフラグが参照されて、天井短縮抽籤に当籤するか否かが決定されるようにすればよい。

【０２６６】

また、上述のとおり、第１の遊技機では、疑似ボーナス中において、１Ｇ連抽籤が行われる。ここで、図７の（ｄ）に示す１Ｇ連抽籤テーブルをみると、現在のモードがいずれのモードであっても、１Ｇ連ストックが付与される場合があるようになっている。すなわち、天井ゲーム数が「３２ゲーム」であるモードであるか否かにかかわらず、疑似ボーナスを継続させるための権利が付与可能となっている。

【０２６７】

なお、当該権利を付与する態様は上述のものに限られない。例えば、天井ゲーム数が「３２ゲーム」であるモードであるときには、天井短縮抽籤が行われることを考慮して１Ｇ連抽籤が行われないようにし、天井ゲーム数が「３２ゲーム」よりも多いモードであるときに１Ｇ連抽籤が行われるようにすることで、遊技の射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制してもよい。

【０２６８】

また、１Ｇ連抽籤が行われる契機も上述のものに限られない。例えば、疑似ボーナス以外の有利区間（演出区間）においても、１Ｇ連抽籤が行われるようにし、その結果ストックされた１Ｇ連ストックは、次の疑似ボーナスにおいて消化されるようにしてもよい。

【０２６９】

なお、図５～図８においては図示を省略しているが、第１の遊技機では、疑似ボーナスの開始時、あるいは疑似ボーナス中において、現在のモードが天国モードであるとき、有利な状態であることを示唆するための特別ボーナス中演出が所定確率で実行されるようになっている。したがって、特別ボーナス中演出が実行された場合、天井短縮抽籤が実行されることを期待させることができる。また、この特別ボーナス中演出は、天井短縮抽籤に当籤したときには１００％の確率で実行されるようにしてもよい。このようにすれば、例えば、疑似ボーナスの開始時に特別ボーナス中演出が実行された場合、少なくとも天国モードに滞在していることが示唆され、さらに天井短縮抽籤にも当籤したかもしれないとの期待感を抱かせることができる。また、この特別ボーナス中演出は、疑似ボーナス中に１Ｇ連抽籤に当籤したときにも、所定確率であるいは１００％の確率で実行されるようにしてもよい。このようにすれば、（１）天国モードのみ、（２）天国モード＋天井短縮当籤、（３）天国モード＋１Ｇ連当籤、（４）天国モード＋天井短縮当籤＋１Ｇ連当籤、（５）１Ｇ連当籤のみ、等の様々な可能性を示唆することでき、遊技の興趣を向上させることができる。

【０２７０】

このように、第１の遊技機では、有利状態（例えば、疑似ボーナス）が終了してから所定期間（例えば、３２ゲーム）内に再度有利状態に制御されることが確定している場合（例えば、天国モードの場合）、その期間をさらに短縮できる場合があることから、一連の有利区間の遊技期間が制限される場合（例えば、リミット処理が実行される場合）であっても、遊技者がなるべく有利度合いの高い状態で遊技を行えるようにして遊技の興趣の低下を防止することができる。

【０２７１】
　また、第１の遊技機では、有利状態が終了してから所定期間内に再度有利状態に制御されることが確定していない場合（例えば、終了モードの場合）であっても、権利（例えば、１Ｇ連ストック）の付与によって再度有利状態が開始される場合があることから、遊技者の期待感を高めて遊技の興趣を向上させることができる。
【０２７２】
　また、図５～図８においては図示を省略しているが、第１の遊技機では、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」が決定された場合（すなわち、「Ｆ＿確定チェリー」又は「Ｆ＿リーチ目」が内部当籤役として決定された場合）であって、上述のモード移行抽籤の結果、天国Ｃモードに移行することが決定された場合には、１／２の確率（この確率は任意である）で特別ロック演出が実行可能となっている。なお、遊技者は、有利区間当籤時サブフラグ「中チェ」が決定された場合（すなわち、「Ｆ＿中段チェリー」が内部当籤役として決定された場合）にも、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」が決定された場合と同様の恩恵を受けることができることから、有利区間当籤時サブフラグ「中チェ」が決定された場合には、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」が決定された場合と同様に、特別ロック演出を実行可能としてもよい。
【０２７３】
　ここで、「確定役」は、疑似ボーナス移行も確定する役であることから（図７の（ｃ）参照）、遊技者は特別ロック演出が実行されると、疑似ボーナス移行及び天国Ｃモード移行があったことが認識できるようになっており、遊技者にとって非常に興趣が高まるようになっている。特別ロック演出は、例えば、遊技開始時に約２０秒間にわたって遊技操作（停止操作）が無効とされる演出として構成される。なお、この間には、各リールが振動したり、逆回転したりする特別リール演出が行われるようにしてもよいし、メイン演出表示部２１において、通常は表示されない特別映像等が表示されるようにしてもよい。また、通常は出力されない特別楽曲が出力されるようにしてもよい。むろん、これらの組合せによって演出を行うこともできる。また、遊技操作は無効とされないが、遊技者が次の遊技操作を行うまで、これらの演出が行われるようにすることもできる（すなわち、演出を最後まで実行させるか、あるいは中途でキャンセルして遊技を進行させるかの決定を遊技者に委ねることもできる）。
【０２７４】
　ただし、第１の遊技機では、後述の図１６に示すように、例えば、天国Ｃモードに滞在していたとしても、リミット処理の実行によって有利区間が強制的に終了される場合があることから、上述の特別ロック演出を何度も実行することが望ましくない場合もある。
【０２７５】
　そこで、第１の遊技機では、同じ一連の有利区間内では、特別ロック演出は一度しか実行されないようになっている。具体的には、一連の有利区間内において、最初に特別ロック演出を実行することが決定された場合には特別ロック演出が実行されるが、それ以降同じ一連の有利区間内では、同じ条件が成立した場合であっても特別ロック演出が実行されないように制御する。なお、手法としては、一度特別ロック演出が実行された場合、その旨を示す情報を格納しておき、それ以降同じ一連の有利区間内において当該情報が格納されている場合には、そもそも特別ロック演出を実行するか否かの決定が行われないようにしてもよいし、当該決定は行われるが、当該情報が格納されている場合にはその決定結果が実行することを示すものであっても、実行しないことを示すものに書き換えるようにしてもよい。そして、格納された当該情報は、有利区間が終了するときにクリアされるようにすればよい。
【０２７６】
　なお、特別ロック演出の実行が制限される態様は上述のものに限られない。例えば、特別ロック演出の実行が制限される上限の回数を「１回」ではなく、「２回」や「３回」として定めてもよい。すなわち、特別ロック演出の実行は制限されるが、その上限は複数回として定めてもよい。これは、特別ロック演出１回あたりの出玉の期待値に応じて適宜設

定することができる。

【０２７７】

また、特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われる条件も上述のものに限られない。すなわち、上記では、「確定役」の当籤を契機として、モード移行が行われ、当該モードが天国Ｃモードであったことを条件として、特別ロック演出が実行されるか否かの決定を行うようにしているが、例えば、「確定役」の当籤以外の契機によっても天国Ｃモードに移行する場合があることから（図８の（ｆ）参照）、これらの場合にも特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われるものとし、所定確率（「確定役」の当籤を契機とする場合と同じ確率であってもよいし、異なる確率であってもよい）で特別ロック演出が実行されることが決定されるようにしてもよい。

【０２７８】

また、例えば、「確定役」の当籤を契機として、まず、特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われるものとし、特別ロック演出が実行されることが決定された場合に、天国Ｃモードに移行させるようにしてもよい。すなわち、天国Ｃモードに移行することが決定されたことに応じて特別ロック演出が実行されるようにしてもよいし、特別ロック演出が実行されることが決定されたことに応じて天国Ｃモードに移行させるようにしてもよい。

【０２７９】

また、例えば、特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われる条件として、有利区間中の遊技の進行度合いを採用してもよい。例えば、後述の有利区間ゲーム数カウンタないし制御用ゲーム数カウンタの値が「７５０」未満であるとき、あるいは後述の有利区間払出数カウンタないし制御用払出数カウンタの値が「１２０１」未満であるときには、上記のように特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われ、後述の有利区間ゲーム数カウンタないし制御用ゲーム数カウンタの値が「７５０」以上となったとき、あるいは後述の有利区間払出数カウンタないし制御用払出数カウンタの値が「１２０１」以上となったときには、以降同じ一連の有利区間においては、特別ロック演出が実行されるか否かの決定が行われないようにすることもできる。

【０２８０】

このように、第１の遊技機では、一連の有利区間の遊技期間が一定期間に制限される（後述の図１６参照）。そして、同じ一連の有利区間内においては、遊技者にとって有利度合いの高い制御情報（例えば、天国Ｃモード）が複数回設定される場合であっても、その都度特別演出（例えば、特別ロック演出）が行われることがないように制御される。したがって、遊技の射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技の興趣の低下を防止することができる。

【０２８１】

また、第１の遊技機では、一連の有利区間内においては、特定役（例えば、「確定役」）の当籤を契機として、有利状態（例えば、疑似ボーナス）に制御されることが確定するとともに、遊技者にとって有利度合いの高い制御情報（例えば、天国Ｃモード）が設定される場合がある。そして、同じ一連の有利区間内においては、このような場合が複数回発生する場合であっても、その都度特別演出（例えば、特別ロック演出）が行われることがないように制御される。したがって、遊技の射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技の興趣の低下を防止することができる。

【０２８２】

また、第１の遊技機では、決定された内部当籤役に応じた二次情報（例えば、有利区間当籤時サブフラグ）を決定可能であるとともに、表示される図柄の組合せに応じた二次情報（例えば、有利区間入賞時サブフラグ）を決定可能とし、それぞれ決定された二次情報に応じて、遊技者の停止操作に関する情報が報知される有利状態（例えば、疑似ボーナス）を付与するか否かを決定可能としている。

【０２８３】

このように、第１の遊技機では、内部当籤役が決定された際のみならず、図柄の組合せ

が表示された際にも有利状態の付与に関する期待感を与えることができるため、有利状態の付与に関する遊技性を多様化することができる。

【０２８４】

また、第１の遊技機では、決定された内部当籤役に対応する情報と、表示された図柄の組合せに対応する情報と、をともに共通の二次情報として管理しているため、有利状態の付与に関する制御負荷や情報量が増大してしまうことを抑制することができる。

【０２８５】

また、第１の遊技機では、ベットされた遊技価値が第１の量（例えば、３枚）である場合、第１特別役（例えば３ＢＢ）を当籤可能とする一方、第２特別役（例えば、２ＢＢ）を当籤可能としない。また、ベットされた遊技価値が第２の量（例えば、２枚）である場合、第２特別役を当籤可能とする一方、第１特別役を当籤可能としない。また、特定役（例えば、「Ｆ＿リプレイＡ」）に当籤した場合、第１特別許可状態（例えば３ＢＢフラグ間）であれば所定図柄の組合せ（例えば、「右上がりリプ」）を表示させ、第２特別許可状態（例えば２ＢＢフラグ間）であれば特定図柄の組合せ（例えば、「平行リプ」）を表示させることを可能としている（後述の図１５参照）。

【０２８６】

そして、第１の遊技機では、所定図柄の組合せが表示された場合と、特定図柄の組合せが表示された場合と、で異なる二次情報を決定可能としている。すなわち、第１の遊技機では、いずれの特別許可状態となっているかに応じて、同じ特定役が決定された場合であっても有利状態の付与に関する決定内容を変動させることができるため、有利状態の付与に関する制御負荷や情報量が増大してしまうことを抑制しつつ、その遊技性をさらに多様化することができる。

【０２８７】

また、第１の遊技機では、少なくとも特定役に当籤した場合であって特定図柄の組合せが表示された場合に、有利状態を付与するか否かを決定可能とする。

【０２８８】

ここで、第１の遊技機では、所定図柄の組合せと特定図柄の組合せとは、ともに再遊技に係る図柄の組合せであることから、いずれが表示された場合であっても再遊技の作動という同じ特典が付与されることとなる。

【０２８９】

なお、同じ特典を付与する態様は上述のものに限られない。例えば、特定役を遊技価値の付与に係る特定小役として構成する。そして、特定小役に当籤した場合、例えば、第１特別許可状態であれば、１枚（この値は任意であり、ベットされた遊技価値以下の他の値であってもよいし、ベットされた遊技価値を超える値であってもよい）の遊技価値が付与される所定図柄の組合せ（「右上がりリプ」に相当する遊技価値の付与に係る図柄の組合せ）を表示させ、第２特別許可状態であれば、所定図柄の組合せが表示された場合と同数の遊技価値が付与される特定図柄の組合せ（「平行リプ」に相当する遊技価値の付与に係る図柄の組合せ）を表示させるようにしてもよい。

【０２９０】

また、所定図柄の組合せと特定図柄の組合せとをともに「はずれ」の図柄の組合せ（もっとも、有利状態を付与するか否かを決定可能とするため、純粋な「はずれ」の場合とは異なる図柄の組合せであることは識別可能な図柄の組合せとする）として構成するようにしてもよい。この場合であっても、価値が同じである点にかわりはない。

【０２９１】

このように、第１の遊技機では、いずれの特別許可状態となっているかに応じて、同じ特定役が決定された場合であっても有利状態の付与に関する決定内容を変動させることができるため、有利状態の付与に関する制御負荷や情報量が増大してしまうことを抑制しつつ、その遊技性を多様化することができる。また、特定役が決定された遊技では、いずれの特別許可状態となっていても同じ特典が付与されることから、遊技性を変動させる場合であっても、遊技者が直接的な不利益を被ってしまうこと防止することができる。

【０２９２】
　また、第１の遊技機では、特定役に当籤した場合、第２特別許可状態である場合に、特定の態様で停止操作が行われるときには特定図柄の組合せを表示させることを可能とし、特定の態様で停止操作が行われないときには特定図柄の組合せを表示させることを可能しないように構成してもよい。
【０２９３】
　そして、少なくとも特定役に当籤した場合であって特定図柄の組合せが表示された場合に、有利状態を付与するか否かを決定可能としてもよい。特定役が内部当籤役として決定された場合、特定図柄の組合せが表示されたときと、特定図柄の組合せが表示されなかったときとで有利状態の付与に関する有利度を異ならせることを可能としてもよい。
【０２９４】
　また、特定役に当籤した場合、第１特別許可状態である場合には、停止操作態様にかかわらず所定図柄の組合せを表示させ、第２特別許可状態である場合に、特定の態様で停止操作が行われるときには特定図柄の組合せを表示させ、特定の態様で停止操作が行われないときには所定図柄の組合せを表示させるようにしてもよい。
【０２９５】
　この場合、特定役は、少なくとも１つのリールにおいて、停止操作のタイミングが適切である場合（本実施形態では、これを「押下位置○」や「押下位置正解」等として説明する場合がある）に特定図柄の組合せが表示され、停止操作のタイミングが適切でない場合（本実施形態では、これを「押下位置×」や「押下位置不正解」等として説明する場合がある）に所定図柄の組合せが表示されるものとして構成することができる。これにより、遊技者の停止操作（のタイミング）に起因して有利状態の付与に関する有利度を変動させることができるため、遊技者はより遊技に集中することとなり、遊技の興趣を向上させることができる。
【０２９６】
　また、上述のとおり、特定役は特定小役として構成することも可能であり、この場合、少なくとも１つのリールにおいて、停止操作のタイミングが適切である場合（押下位置○の場合）に特定図柄の組合せが表示されて所定数の遊技価値が付与され、停止操作のタイミングが適切でない場合（押下位置×の場合）に所定図柄の組合せが表示されて特定数の遊技価値が付与されるものとして構成することができる。なお、この場合、所定数は特定数と同じ（すなわち、同じ特典）としてもよい。また、所定数のほうが特定数よりも多い遊技価値が付与されるものとしてもよい。また、所定数のほうが特定数よりも少ない遊技価値が付与されるものとしてもよい。また、特定図柄の組合せ及び所定図柄の組合せの少なくともいずれかを取りこぼしが発生したときの図柄の組合せとしてもよい。すなわち、所定数及び特定数のいずれかを「０」に設定するようにしてもよい。これにより、遊技者の停止操作（のタイミング）に起因して有利状態の付与に関する有利度を変動させることができるのみならず、直接的な特典の内容も変動させることができるため、遊技者はより遊技に集中することとなり、また遊技性をさらに多様化させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。
【０２９７】
　また、特定役が１種類であると、停止操作のタイミングが適切となるタイミングも限定されてしまうため、停止操作のタイミングが適切となるタイミングが異なる複数の特定役を設けることが望ましい。例えば、１つのリールにおいて、停止操作のタイミングが第１のタイミングであるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが表示され、第１のタイミング以外のタイミングであるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第１特定役と、停止操作のタイミングが第１のタイミングとは異なる第２のタイミングであるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが表示され、第２のタイミング以外のタイミングであるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第２特定役と、停止操作のタイミングが第１のタイミング及び第２のタイミングとは異なる第３のタイミングであるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが

表示され、第３のタイミング以外のタイミングであるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第３特定役と、が設けられ、これらが同じ当籤確率で当籤するようにすればよい。

【０２９８】

また、この場合、特定役は、打順が適切である場合（正解押し順の場合）に特定図柄の組合せが表示され、打順が適切でない場合（不正解押し順の場合）に所定図柄の組合せが表示されるものとして構成することができる。これにより、遊技者の停止操作（の手順）に起因して有利状態の付与に関する有利度を変動させることができるため、遊技者はより遊技に集中することとなり、遊技の興趣を向上させることができる。

【０２９９】

また、特定役は、上述のとおり特定小役として構成することも可能であり、この場合、打順が適切である場合（正解押し順の場合）に特定図柄の組合せが表示されて所定数の遊技価値が付与され、打順が適切でない場合（不正解押し順の場合）に所定図柄の組合せが表示されて特定数の遊技価値が付与されるものとして構成することができる。なお、この場合、所定数は特定数と同じ（すなわち、同じ特典）としてもよい。また、所定数のほうが特定数よりも多い遊技価値が付与されるものとしてもよい。また、所定数のほうが特定数よりも少ない遊技価値が付与されるものとしてもよい。また、特定図柄の組合せ及び所定図柄の組合せの少なくともいずれかを、取りこぼしが発生したときの図柄の組合せとしてもよい。すなわち、所定数及び特定数のいずれかを「０」に設定するようにしてもよい。これにより、遊技者の停止操作（の手順）に起因して有利状態の付与に関する有利度を変動させることができるのみならず、直接的な特典の内容も変動させることができるため、遊技者はより遊技に集中することとなり、また遊技性をさらに多様化させることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【０３００】

また、特定役が１種類であると、適切となる打順も限定されてしまうため、適切となる打順が異なる複数の特定役を設けることが望ましい。例えば、左第１停止であるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが表示され、中・右第１停止であるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第１特定役と、中第１停止であるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが表示され、左・右第１停止であるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第２特定役と、右第１停止であるとき、適切な停止操作となって特定図柄の組合せが表示され、左・中第１停止であるとき、適切な停止操作とならずに特定図柄の組合せは表示されない第３特定役とが設けられ、これらが同じ当籤確率で当籤するようにすればよい。

【０３０１】

ここまで、特定役に当籤した単位遊技において、停止操作態様（停止操作のタイミングや打順のうち、少なくとも一方又は両方）に起因して、非有利区間における有利区間への移行判定処理や、有利区間における有利状態の付与に関する判定処理（疑似ボーナス移行抽籤やモード移行抽籤、その他有利区間における遊技状況の有利度を変化させるための処理を含む）を変化させることを述べたが、このような変化のうち、遊技者に相対的に不利となる（結果的に不利となる場合がある）変化は上述のペナルティと捉えることができる。したがって、そのような変化が発生した場合には、注意喚起をするための任意の演出（警告報知）を発生可能な構成としてもよい。

【０３０２】

また、第１の遊技機では、特定役に当籤した場合、所定図柄の組合せが表示された場合よりも、特定図柄の組合せが表示された場合のほうが、有利状態が付与される可能性が高くなっている。すなわち、３枚ベットすることを前提とすれば、第２特別許可状態（例えば、２ＢＢフラグ間）は、第１特別許可状態（例えば、３ＢＢフラグ間）よりも有利状態の付与が優遇される状態である。

【０３０３】

また、第１の遊技機では、所定役（例えば、後述の「押し順ベルＢ」）に当籤した場合

、第１特別許可状態であれば打順不問で付与図柄の組合せ（例えば、８枚の払出となる図柄の組合せ）が表示される一方、第２特別許可状態であれば、打順が予め定義された正解押し順であった場合には付与図柄の組合せが表示されるが、打順が予め定義された正解押し順でなかった場合には付与図柄の組合せは表示されず、遊技価値が付与されない取りこぼしとなるか、又は付与図柄の組合せが表示された場合よりも少ない量の遊技価値しか付与されない図柄の組合せ（例えば、１枚の払出となる図柄の組合せ）が表示されるように構成されている。すなわち、有利状態の作動を考慮しなければ、第１特別許可状態は、第２特別許可状態よりも遊技価値の付与が優遇される状態である。

【０３０４】

すなわち、遊技者が、非推奨遊技状態であっても３ＢＢフラグ間の３枚ベット状態で遊技を行えば、有利状態の付与確率は優遇されないものの、有利状態が作動していないときの遊技価値の付与確率は優遇されるため、有利状態が作動しているときと作動していないときとの傾斜値の差が相対的に少ない状態で遊技を進めることができる。このように、遊技者が急激に遊技価値を増加させることができる可能性は少なくなるものの、遊技者の遊技価値が減りにくいといった状態は、例えば、「安定状態」と定義することができる。

【０３０５】

一方、遊技者が、推奨遊技状態で遊技を行えば、有利状態の付与確率は優遇されるものの、有利状態が作動していないときの遊技価値の付与確率は優遇されないため、有利状態が作動しているときと作動していないときとの傾斜値の差が相対的に多い状態で遊技を進めることができる。このように、遊技者が急激に遊技価値を増加させることができる可能性は高くなるものの、遊技者の遊技価値が減りやすいといった状態は、例えば、「荒波状態」と定義することができる。

【０３０６】

ここで、安定状態と荒波状態の２つの状態を創出する手法は上述のものに限られない。例えば、「安定状態」では、上述の疑似ボーナス移行抽籤において、疑似ボーナスの移行確率を「荒波状態」よりも高める一方、上述のモード移行抽籤において、天国モードの移行確率を「荒波状態」よりも低める。また、「荒波状態」では、上述の疑似ボーナス移行抽籤において、疑似ボーナスの移行確率を「安定状態」よりも低める一方、上述のモード移行抽籤において、天国モードの移行確率を「安定状態」よりも高める。このようにすれば、「安定状態」では、疑似ボーナスに初当りしやすいが、連荘しにくいという状態を創出でき、「荒波状態」では、疑似ボーナスに初当りしにくいが、連荘しやすいという状態を創出できる。なお、所定役の停止制御については、上述のとおり、２ＢＢフラグ間と３ＢＢフラグ間とで変動するものとしてもよいし、これとは異なる（すなわち、３ＢＢフラグ間で優遇しない）ものとしてもよい。

【０３０７】

［５－２．第１の遊技機の図柄配置構成］

続いて、図９を参照して、第１の遊技機の図柄配置構成について説明する。図９は、第１の遊技機の図柄配置テーブルの一例を示す図である。図９に示すように、第１の遊技機では、「赤７」、「ＢＡＲ」、「リプレイ」、「ベル」、「スイカ」、「チェリー」、「赤ブランク」、「黄ブランク」、「白ブランク１」及び「白ブランク２」の１０種類の図柄が、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒそれぞれにおいて図９に示す位置に配置されている。また、図柄コード表に示すように、各図柄には図柄コード１～１０が割り当てられている。

【０３０８】

［５－３．第１の遊技機の内部当籤役構成］

続いて、図１０～図１５を参照して、第１の遊技機の内部当籤役構成について説明する。図１０は、第１の遊技機の内部抽籤テーブルの一例を示す図である。また、図１１～図１４は、第１の遊技機の図柄組合せテーブルの一例を示す図である。また、図１５は、第１の遊技機の内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係の一例を示す図である。すなわち、以下では、第１の遊技機において抽籤される内部当籤役の種類や、それぞれの内部当籤役に当籤した場合に停止操作態様（すなわち、打順や停止操作タイミング等）に

応じていずれの図柄の組合せ（表示役、入賞役、停止表示態様、表示結果等と換言することもできる）が表示されるのか等について説明する。

【０３０９】

まず、第１の遊技機では、後述の内部抽籤処理（図２６参照）において、図１０に示す各内部当籤役が、図１０に示す確率（抽籤値／確率分母：６５５３６）で当籤する。なお、それぞれの内部当籤役に当籤した場合に表示が許可される図柄の組合せは、図１０中、「対応する図柄組合せ」に示したとおりである。また、図１１～図１４中、「ＢＢ」はボーナス役に係る図柄の組合せを示し、「ＲＥＰ」は、リプレイ役に係る図柄の組合せを示し、「ＦＲＵ」は、小役に係る図柄の組合せを示している。

【０３１０】

「Ｆ＿２ＢＢ」は、非ボーナス状態（より詳細には、非フラグ間）において、２枚ベット状態で遊技が行われた場合に内部当籤役として決定可能である一方、３枚ベット状態で遊技が行われた場合には内部当籤役として決定されないように構成されている。２枚ベット状態で、「Ｆ＿２ＢＢ」が当籤した遊技、あるいは２ＢＢフラグ間で「はずれ」となった遊技において、各リールについて押下位置○であれば「ＢＢ０１」が表示され、２ＢＢ状態（２ＢＢに基づくボーナス状態）に移行する。一方、２ＢＢフラグ間であっても３枚ベット状態では「ＢＢ０１」が表示される場合はない。

【０３１１】

「Ｆ＿３ＢＢ」は、非ボーナス状態（より詳細には、非フラグ間）において、３枚ベット状態で遊技が行われた場合に内部当籤役として決定可能である一方、２枚ベット状態で遊技が行われた場合には内部当籤役として決定されないように構成されている。３枚ベット状態で、「Ｆ＿３ＢＢ」が当籤した遊技、あるいは３ＢＢフラグ間で「はずれ」となった遊技において、各リールについて押下位置○であれば「ＢＢ０２」が表示され、３ＢＢ状態（３ＢＢに基づくボーナス状態）に移行する。一方、３ＢＢフラグ間であっても２枚ベット状態では「ＢＢ０２」が表示される場合はない。

【０３１２】

なお、２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態では、図１０中、「ボーナス状態」の列の抽籤値が参照され、内部当籤役が決定される（遊技開始可能枚数は３枚ベットのみ）。２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態中は、常に第一種特別役物であるＲＢが作動している状態（ＲＢ状態）に制御される。なお、ＲＢ状態は、作動してから２回の入賞が発生又は２回の遊技が行われた場合に一旦終了して再び作動するといった制御が繰り返される。また、第１の遊技機において、２ＢＢ状態の終了条件は、２ＢＢ状態において１枚を超えるメダルが払出されたことと規定されており、３ＢＢ状態の終了条件は、３ＢＢ状態において１７６枚を超えるメダルが払出されたことと規定されている。

【０３１３】

ここで、２ＢＢ状態又は３ＢＢ状態が終了したときには、特殊モード移行処理が行われる。例えば、ボーナス状態に移行したとき（ボーナス状態中は、モード移行が行われないため、ボーナス状態が終了したときと同義）のモード、すなわち、現在のモードが「スタートモード」であれば、移行先のモードは「スタートモード」となる。また、現在のモードが「通常Ａモード」「通常Ｂモード」「天国準備モード」「チャンスモード」のいずれかであれば、移行先のモードは「通常Ａモード」となる。また、現在のモードが「終了Ａモード」「終了Ｂモード」のいずれかであれば、移行先のモードは「終了Ａモード」となる。また、現在のモードが「保障モード」「天国Ａモード」「天国Ｂモード」「天国Ｃモード」のいずれかであれば、移行先のモードは「保障モード」となる。

【０３１４】

「Ｆ＿リプレイＡ」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。内部当籤役として決定された場合、非フラグ間及び２ＢＢフラグ間では、停止操作態様にかかわらず「ＲＥＰ６４」～「ＲＥＰ７２」のいずれか（これらは、「リプレイ」図柄を下段一直線、あるいは中段一直線に表示させるものであることから、これらを「平行リプ」と総称することができる。また、「ＲＥＰ６４」～「

ＲＥＰ７１」は、「下段リプ」と総称することができ、「ＲＥＰ７２」は、「中段リプ」と称することができる）が表示され、再遊技が付与される。一方、３ＢＢフラグ間では、停止操作態様にかかわらず「ＲＥＰ７３」（これは、「リプレイ」図柄を右上がりに表示させるものであることから、これを「右上がりリプ」と称することができる）が表示され、再遊技が付与される。

【０３１５】

「Ｆ＿リプレイＢ」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、３枚ベット状態では内部当籤役として決定可能であるが、２枚ベット状態では内部当籤役として決定されないように構成することもできる。内部当籤役として決定された場合、いずれの状態であっても停止操作態様にかかわらず「平行リプ」が表示され、再遊技が付与される。

【０３１６】

「Ｆ＿チェリー」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、３枚ベット状態では内部当籤役として決定可能であるが、２枚ベット状態では内部当籤役として決定されないように構成することもできる。内部当籤役として決定された場合、２枚ベット状態では停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。３枚ベット状態では、少なくとも左リール３Ｌについて押下位置○であれば「ＲＥＰ２８」、「ＲＥＰ６０」～「ＲＥＰ６３」のいずれか（これらは、左リール３Ｌにおいて「チェリー」図柄を下段に表示させるものであることから、これらを「チェリーリプ」と総称することができる）が表示され、再遊技が付与される。一方、押下位置×であれば、その他リプ（例えば、「ＲＥＰ５７」～「ＲＥＰ５９」）が表示され、再遊技が付与される。

【０３１７】

「Ｆ＿確定チェリー」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、３枚ベット状態では内部当籤役として決定可能であるが、２枚ベット状態では内部当籤役として決定されないように構成することもできる。内部当籤役として決定された場合、２枚ベット状態では停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。３枚ベット状態では、押し順が「打順１」～「打順４」のいずれかである場合、少なくとも左リール３Ｌについて押下位置○であれば「ＲＥＰ４２」～「ＲＥＰ５６」のいずれか（これらは、左リール３Ｌにおいて「チェリー」図柄を下段に表示させるものであって、例えば、「ＲＥＰ４２」のように、他のリールにおいて遊技者が期待を高めることができる図柄も表示されることから、これらを「確定チェリーリプ」と総称することができる）が表示され、再遊技が付与される。一方、押下位置×であれば、その他リプ（例えば、上述の「チェリーリプ」や「ＲＥＰ２９」～「ＲＥＰ４１」）が表示され、再遊技が付与される。また、押し順が「打順５」及び「打順６」のいずれかである場合、停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。

【０３１８】

「Ｆ＿中段チェリー」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、３枚ベット状態では内部当籤役として決定可能であるが、２枚ベット状態では内部当籤役として決定されないように構成することもできる。内部当籤役として決定された場合、２枚ベット状態では停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。３枚ベット状態では、押し順が「打順１」～「打順４」のいずれかである場合、少なくとも左リール３Ｌについて押下位置○であれば「ＲＥＰ１５」～「ＲＥＰ１９」のいずれか（これらは、左リール３Ｌにおいて「チェリー」図柄を中段に表示させるものであることから、これらを「中段チェリーリプ」と総称することができる）が表示され、再遊技が付与される。一方、押下位置×であれば、その他リプ（例えば、「ＲＥＰ２０」～「ＲＥＰ２７」）が表示され、再遊技が付与される。また、押し順が「打順５」及び「打順６」のいずれかである場合、停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。

【０３１９】
「Ｆ＿リーチ目」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、３枚ベット状態では内部当籤役として決定可能であるが、２枚ベット状態では内部当籤役として決定されないように構成することもできる。内部当籤役として決定された場合、２枚ベット状態では停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。３枚ベット状態では、押し順が「打順１」～「打順４」のいずれかである場合、停止操作態様にかかわらず「ＲＥＰ０１」～「ＲＥＰ１４」のいずれか（これらは、慣習上、遊技者にとって有利な状態への移行を確定報知する（ないし示唆する）ことが可能な図柄の組合せとして構成されており、これらを「リーチ目リプ」を総称することができる）が表示され、再遊技が付与される。また、押し順が「打順５」及び「打順６」のいずれかである場合、停止操作態様にかかわらず「中段リプ」が表示され、再遊技が付与される。

【０３２０】
「Ｆ＿スイカ」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。内部当籤役として決定された場合、各リールについて押下位置○であれば、「ＦＲＵ１０」～「ＦＲＵ１２」のいずれか（これらは、「スイカ」図柄を並んで表示させるものであることから、これらを「スイカ」と総称することができる）が表示され、３枚ベット状態であれば３枚のメダルが払出され、２枚ベット状態であれば２枚のメダルが払出される。一方、押下位置×であれば、「ＦＲＵ０８」及び「ＦＲＵ０９」のいずれか（これらは、「スイカ」図柄を並んで表示されるものでないため、これらを「スイカこぼし」と総称することができる）が表示され、１枚のメダルが払出される。なお、押下位置×の場合、取りこぼしを発生させてメダルの払出が０枚となるように構成することもできる。

【０３２１】
「Ｆ＿ベル１２３Ａ１」、「Ｆ＿ベル１２３Ａ２」、「Ｆ＿ベル１３２Ａ１」、「Ｆ＿ベル１３２Ａ２」、「Ｆ＿ベル２１３Ａ１」、「Ｆ＿ベル２１３Ａ２」、「Ｆ＿ベル２３１Ａ１」、「Ｆ＿ベル２３１Ａ２」、「Ｆ＿ベル３１２Ａ１」、「Ｆ＿ベル３１２Ａ２」、「Ｆ＿ベル３２１Ａ１」、及び「Ｆ＿ベル３２１Ａ２」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、これらは、「押し順ベルＡ」と総称することができる。

【０３２２】
図１５に示すように、「押し順ベルＡ」は６択（「打順１」～「打順６」のうちいずれか１つの打順が正解押し順となっている）の押し順小役となっており、内部当籤役として決定された場合、対応する正解押し順で停止操作が行われた場合には、「右下がりベル」（「ＦＲＵ０３」）、「上段ベル」（「ＦＲＵ０１」及び「ＦＲＵ０２」）、「中段ベル」（「ＦＲＵ０４」）、「右上がりベル」（「ＦＲＵ０５」）、「小山ベル」（「ＦＲＵ０６」）、及び「下段ベル」（「ＦＲＵ０７」）のいずれかの「ベル」が表示され、３枚ベット状態であれば８枚のメダルが払出され、２枚ベット状態であれば２枚のメダルが払出される。一方、対応する正解押し順で停止操作が行われなかった場合には、第１停止操作が正解していれば、残りの停止操作において１／２の確率で押下位置○となり、押下位置○であれば当籤している「１枚役」（「ＦＲＵ１３」～「ＦＲＵ１１６」）のうちいずれが表示され、１枚のメダルが払出される。一方、押下位置×であれば取りこぼしが発生してメダルは払出されない。また、第１停止操作が正解していなければ、残りの停止操作において１／８の確率で押下位置○となり、押下位置○であれば当籤している「１枚役」のうちいずれが表示され、１枚のメダルが払出される。一方、押下位置×であれば取りこぼしが発生してメダルは払出されない。

【０３２３】
「Ｆ＿ベル１２３Ｂ１」、「Ｆ＿ベル１２３Ｂ２」、「Ｆ＿ベル１３２Ｂ１」、「Ｆ＿ベル１３２Ｂ２」、「Ｆ＿ベル２１３Ｂ１」、「Ｆ＿ベル２１３Ｂ２」、「Ｆ＿ベル２３１Ｂ１」、「Ｆ＿ベル２３１Ｂ２」、「Ｆ＿ベル３１２Ｂ１」、「Ｆ＿ベル３１２Ｂ２」

、「Ｆ＿ベル３２１Ｂ１」、及び「Ｆ＿ベル３２１Ｂ２」は、非ボーナス状態において、ベット数にかかわらず内部当籤役として決定可能に構成されている。なお、これらは、「押し順ベルＢ」と総称することができる。

【０３２４】

図１５に示すように、「押し順ベルＢ」は、２枚ベット状態、及び３枚ベット状態の３ＢＢフラグ間においては押し順小役となっていない。内部当籤役として決定された場合、停止操作態様にかかわらず上述のいずれかの「ベル」が表示され、３枚ベット状態であれば８枚のメダルが払出され、２枚ベット状態であれば２枚のメダルが払出される。

【０３２５】

また、図１５に示すように、「押し順ベルＢ」は、３枚ベット状態の３ＢＢフラグ間以外の状態（３枚ベット状態の非フラグ間、３枚ベット状態の２ＢＢフラグ間）においては押し順小役となっており、内部当籤役として決定された場合、対応する正解押し順で停止操作が行われた場合には、上述のいずれかの「ベル」が表示され、８枚のメダルが払出される。一方、対応する正解押し順で停止操作が行われなかった場合には、第１停止操作が正解していれば、残りの停止操作において１／２の確率で押下位置○となり、押下位置○であれば当籤している「１枚役」のうちいずれが表示され、１枚のメダルが払出される。一方、押下位置×であれば取りこぼしが発生してメダルは払出されない。また、第１停止操作が正解していなければ、残りの停止操作において１／８の確率で押下位置○となり、押下位置○であれば当籤している「１枚役」のうちいずれが表示され、１枚のメダルが払出される。一方、押下位置×であれば取りこぼしが発生してメダルは払出されない。

【０３２６】

「Ｆ＿ＲＢ役８枚」は、ボーナス状態において、内部当籤役として決定可能に構成されている。内部当籤役として決定された場合、停止操作態様にかかわらず上述のいずれかの「ベル」が表示され、８枚のメダルが払出される。

【０３２７】

「Ｆ＿ＲＢ役１枚」は、ボーナス状態において、内部当籤役として決定可能に構成されている。内部当籤役として決定された場合、停止操作態様にかかわらず上述のいずれかの「１枚役」（より詳細には、「ＦＲＵ１１７」～「ＦＲＵ１２０」が追加されている）が表示され、１枚のメダルが払出される。

【０３２８】

なお、図１０に示す内部抽籤テーブル、図１１～図１４に示す図柄組合せテーブル、及び図１５に示す内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係はあくまで一例であり、これらに示した態様に限定されるものではない。

【０３２９】

例えば、第１の遊技機では、純粋な「はずれ」のとき、「ＢＢ０１」が表示可能な２ベット状態において、「ＢＢ０１」を取りこぼして「はずれ」となったとき、「ＢＢ０２」が表示可能な３ベット状態において、「ＢＢ０２」を取りこぼして「はずれ」となったとき、２ＢＢフラグ間において３ベット状態であることに起因して「はずれ」となったとき、３ＢＢフラグ間において２ベット状態であることに起因して「はずれ」となったとき、「押し順小役」を取りこぼして「はずれ」となったとき等、様々な状態で「はずれ」が発生することがある。そこで、これらのうち一部又は全部の場合にそれぞれ「はずれ」として表示される図柄の組合せを異ならせるため、これら異なる図柄の組合せを図柄組合せテーブルにおいて予め規定しておき、決定された内部当籤役に応じてこれらも「対応する図柄の組合せ」として表示が許可されるようにすることで、状態等に応じて表示される「はずれ」に係る図柄の組合せを異ならせるようにすることもできる。

【０３３０】

［５－４．第１の遊技機のリミット処理構成］

続いて、図１６を参照して、第１の遊技機のリミット処理構成について説明する。図１６は、第１の遊技機における各リミット処理の一例を説明するための図である。図１６に示すように、第１の遊技機では、通常リミット処理（ゲーム数）、通常リミット処理（払

出数）、特殊リミット処理（ゲーム数）、特殊リミット処理（払出数）、準リミット処理（ゲーム数）、及び準リミット処理（払出数）の各リミット処理が実行されるようになっている。なお、これは、実行可能なリミット処理の一例であり、これらの各リミット処理以外のリミット処理が実行されるようにすることもできるし、これらの各リミット処理のうち一部のリミット処理は実行されないようにすることもできる。

【０３３１】

通常リミット処理（ゲーム数）は、有利区間ゲーム数カウンタの値が「１５００」以上となったとき（すなわち、有利区間中の遊技が連続して１５００回行われたとき）に実行される。なお、有利区間ゲーム数カウンタは、有利区間（演出区間を含む）が開始されたときから遊技回数の計数を開始し、有利区間が終了されたとき（当該リミット処理の作動による終了を含む）にその計数を終了してクリア（初期化）されるようになっている。また、有利区間ゲーム数カウンタは、ベット数が２枚及び３枚のいずれの場合にもその計数を行う。また、有利区間ゲーム数カウンタは、２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態においてもその計数を行う。

【０３３２】

通常リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）と、演出区間中であるか、増加区間（疑似ボーナス）中であるかにかかわらず、有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、有利区間に関する情報（例えば、演出区間や増加区間に制御するための情報、現在のモードに係る情報、疑似ボーナスの遊技期間に係る情報、天井ゲーム数や天井短縮の有無に係る情報、１Ｇ連ストックカウンタの値等の当該有利区間中に得られた各種情報や当該有利区間を制御するために必要であった各種情報）も全てクリア（初期化）される。

【０３３３】

通常リミット処理（払出数）は、有利区間払出数カウンタの値が「２４０１」以上となったとき（すなわち、有利区間中に払出されたメダル数が２４００枚を超えたとき）に実行される。なお、有利区間払出数カウンタは、有利区間（演出区間を含む）が開始されたときから払出されたメダル数（ここでは、例えば、「純増数（差枚数）」）の計数を開始し、有利区間が終了されたとき（当該リミット処理の作動による終了を含む）にその計数を終了してクリア（初期化）されるようになっている。また、有利区間払出数カウンタは、ベット数が２枚及び３枚いずれの場合にもその計数を行う。また、有利区間払出数カウンタは、２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態においてもその計数を行う。また、有利区間払出数カウンタは、例えば、有利区間中に「はずれ」や「取りこぼし」が発生した際、実払出数（例えば、「－２枚」又は「－３枚」等）にしたがって適宜計数する値が減算される。したがって、有利区間が開始してからメダルが増加せず減少していった等の場合には、負の値となることもある（あるいは、負の値となる場合には常に「０」が維持されるように構成することもできる）。すなわち、有利区間払出数カウンタは、有利区間中の払出されたメダル数の最下点から定義された最高点（差枚数：２４００枚）までを計数することが可能となっている。

【０３３４】

通常リミット処理（払出数）が実行される（作動する）と、演出区間中であるか、増加区間（疑似ボーナス）中であるかにかかわらず、有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、上述の有利区間に関する情報も全てクリア（初期化）される。

【０３３５】

特殊リミット処理（ゲーム数）は、制御用ゲーム数カウンタの値が「１４４５」以上となったとき（すなわち、有利区間中の遊技が連続して１４４５回行われたとき）に実行される。なお、制御用ゲーム数カウンタは、有利区間（演出区間を含む）が開始されたときから遊技回数の計数を開始し、有利区間が終了されたとき（当該リミット処理の作動による終了を含む）にその計数を終了してクリア（初期化）されるようになっている。また、制御用ゲーム数カウンタは、ベット数が３枚であるときにその計数を行い、ベット数が２

枚であるときにはその計数を行わない。また、制御用ゲーム数カウンタは、非ボーナス状態であるときにその計数を行い、２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態であるときにはその計数を行わない。もっとも、制御用ゲーム数カウンタを、有利区間ゲーム数カウンタと同様の構成とすることもできる。

【０３３６】

特殊リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）と、疑似ボーナス中であれば（すなわち、増加区間中であれば）、当該疑似ボーナスを途中で強制的に終了させることなく、疑似ボーナスが終了されたときにそれにしたがって有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、上述の有利区間に関する情報も全てクリア（初期化）される。

【０３３７】

一方、疑似ボーナス中でなければ（すなわち、演出区間中であれば）、まず、疑似ボーナスに強制的に移行させる。すなわち、疑似ボーナス移行抽籤に当籤しなくとも、この特殊リミット処理（ゲーム数）の実行によって疑似ボーナスに移行させる。そして、移行させた疑似ボーナスが終了されたときにそれにしたがって有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、上述の有利区間に関する情報も全てクリア（初期化）される。

【０３３８】

ここで、通常リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）有利区間ゲーム数カウンタの値は「１５００」であるのに対し、特殊リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）制御用ゲーム数カウンタの値は「１４４５」である点に着目すると、第１の遊技機では、疑似ボーナス中の最大遊技数（継続可能期間）は「５５ゲーム」となっていることから（図５参照）、この差は、疑似ボーナス中の遊技可能期間が考慮されたものとなっている。

【０３３９】

すなわち、通常リミット処理（ゲーム数）は、遊技の射幸性が過度に高くなってしまう抑制するため、有利区間において予め定められた規制期間分の遊技が行われた場合に実行されるものであるが、例えば、疑似ボーナスが開始された直後やその途中にこの通常リミット処理（ゲーム数）が実行されてしまうと、遊技者は不信感や喪失感等を抱き、遊技の興趣を低下させてしまう場合がある。そこで、第１の遊技機では、通常リミット処理（ゲーム数）が実行される遊技よりも、増加区間１回あたりの継続可能期間（５５ゲーム）分手前の遊技で特殊リミット処理（ゲーム数）を実行することで、疑似ボーナスが途中で終了して遊技者が不信感や喪失感等を抱いてしまうことを防止している。

【０３４０】

なお、このような観点からは、特殊リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）タイミングは上述のものに限られない。例えば、通常リミット処理（ゲーム数）が実行される遊技よりも、増加区間２回あたりの継続可能期間（５５ゲーム×２セット＝１１０ゲーム）分手前の遊技で特殊リミット処理（ゲーム数）が実行されるようにしてもよい。また、例えば、若干の猶予期間を与えるために、通常リミット処理（ゲーム数）が実行される遊技よりも、増加区間１回あたりの継続可能期間（５５ゲーム）＋猶予期間（２ゲーム）分手前の遊技で特殊リミット処理（ゲーム数）が実行されるようにしてもよい。また、例えば、疑似ボーナスに移行する前に前兆状態を経由する等の仕様の場合であって、この前兆状態の最大遊技数が「４ゲーム」である場合、通常リミット処理（ゲーム数）が実行される遊技よりも、増加区間１回あたりの継続可能期間（５５ゲーム）＋最大前兆期間（４ゲーム）分手前の遊技で特殊リミット処理（ゲーム数）が実行されるようにしてもよい。すなわち、特殊リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）タイミングは、通常リミット処理（ゲーム数）が実行されるタイミングよりも前のタイミングであればいずれのタイミングであってもよく、個別の遊技仕様等に応じて適宜設定可能であるものとする。

【０３４１】

特殊リミット処理（払出数）は、制御用払出数カウンタの値が「２１２６」以上となったとき（すなわち、有利区間中に払出されたメダル数が２１２５枚を超えたとき）に実行される。なお、制御用払出数カウンタは、有利区間（演出区間を含む）が開始されたときから払出されたメダル数（ここでは、例えば、「純増数（差枚数）」）の計数を開始し、有利区間が終了されたとき（当該リミット処理の作動による終了を含む）にその計数を終了してクリア（初期化）されるようになっている。また、制御用払出数カウンタは、ベット数が３枚であるときにその計数を行い、ベット数が２枚であるときにはその計数を行わない。また、制御用払出数カウンタは、非ボーナス状態であるときにその計数を行い、２ＢＢ状態及び３ＢＢ状態であるときにはその計数を行わない。

【０３４２】

また、制御用払出数カウンタは、有利区間中に「はずれ」が発生した際、実払出数（例えば、「－３枚」等）にしたがって適宜計数する値が減算される。もっとも、制御用払出数カウンタは、有利区間中に「取りこぼし」発生した際（少なくとも、メダルの払出数の最大値から差分が発生した際）には、「取りこぼし」（あるいは、差分）が生じなかったものとして、メダルの払出数を計数する。具体的には、例えば、３枚ベットで「押し順ベルＡ」に当籤した遊技において、打順が適切である場合にはメダルの払出数（最大値）は「８枚」（差枚数としては「＋５枚」）となる一方、打順が適切でない場合、押下位置が適切であればメダルの払出数は「１枚」（差枚数としては「－２枚」）となり、押下位置が適切でなければ取りこぼしが発生してメダルの払出数は「０枚」（差枚数としては「－３枚」）となるが、制御用払出数カウンタは、当該遊技においていずれの場合であっても、差枚数「＋５枚」を計数する。

【０３４３】

また、例えば、２ＢＢ状態や３ＢＢ状態が作動する等して、有利区間払出数カウンタの値が制御用払出数カウンタの値よりも大きくなった場合には、制御用払出数カウンタの値は、有利区間払出数カウンタの値に補正される。なお、制御用払出数カウンタを、有利区間払出数カウンタと同様の構成とすることもできる。

【０３４４】

特殊リミット処理（払出数）が実行される（作動する）と、疑似ボーナス中であれば（すなわち、増加区間中であれば）、当該疑似ボーナスを途中で強制的に終了させることなく、疑似ボーナスが終了されたときにそれにしたがって有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、上述の有利区間に関する情報も全てクリア（初期化）される。

【０３４５】

一方、疑似ボーナス中でなければ（すなわち、演出区間中であれば）、まず、疑似ボーナスに強制的に移行させる。すなわち、疑似ボーナス移行抽籤に当籤しなくとも、この特殊リミット処理（払出数）の実行によって疑似ボーナスに移行させる。そして、移行させた疑似ボーナスが終了されたときにそれにしたがって有利区間を強制的に終了させ、非有利区間に移行させる。また、このとき、上述の有利区間に関する情報も全てクリア（初期化）される。

【０３４６】

ここで、通常リミット処理（払出数）が実行される（作動する）有利区間払出数カウンタの値は「２４０１」であるのに対し、特殊リミット処理（払出数）が実行される（作動する）制御用ゲーム数カウンタの値は「２１２６」である点に着目すると、第１の遊技機では、疑似ボーナス中の最大獲得枚数（付与可能遊技価値量）は「２７５枚」となっていることから（図５参照）、この差は、疑似ボーナス中の付与可能遊技価値量が考慮されたものとなっている。

【０３４７】

すなわち、通常リミット処理（払出数）は、遊技の射幸性が過度に高くなってしまう抑制するため、有利区間において予め定められた規制遊技価値量分の遊技価値が付与された場合に実行されるものであるが、例えば、疑似ボーナスが開始された直後やその途中にこ

の通常リミット処理（払出数）が実行されてしまうと、遊技者は不信感や喪失感を抱き、遊技の興趣が低下してしまう場合がある。そこで、第１の遊技機では、通常リミット処理（払出数）が実行される遊技価値量よりも、増加区間１回あたりの付与可能遊技価値量（２７５枚）分少ない遊技価値量が付与されたときに特殊リミット処理（払出数）を実行することで、疑似ボーナスが途中で終了して遊技者が不信感や喪失感を抱いてしまうことを防止している。

【０３４８】

なお、このような観点からは、特殊リミット処理（払出数）が実行される（作動する）タイミングは上述のものに限られない。例えば、通常リミット処理（払出数）が実行される遊技価値量よりも、増加区間２回あたりの付与可能遊技価値量（２７５枚×２セット＝５５０枚）分少ない遊技価値量が付与されたときに特殊リミット処理（払出数）が実行されるようにしてもよい。また、例えば、若干の猶予期間を与えるために、通常リミット処理（払出数）が実行される遊技価値量よりも、増加区間１回あたりの付与可能遊技価値量（２７５枚）＋猶予期間に相当する遊技価値量（８枚）分少ない遊技価値量が付与されたときに特殊リミット処理（ゲーム数）が実行されるようにしてもよい。すなわち、特殊リミット処理（払出数）が実行される（作動する）タイミングは、通常リミット処理（払出数）が実行されるタイミングよりも前のタイミングであればいずれのタイミングであってもよく、個別の遊技仕様等に応じて適宜設定可能であるものとする。

【０３４９】

準リミット処理（ゲーム数）は、制御用ゲーム数カウンタの値に、１Ｇ連カウンタの値（天井短縮抽籤に当籤して「天井短縮あり」となっている場合にはさらに「１」を加算する）に「５５」（すなわち、疑似ボーナスの継続可能期間）を乗じた値を加算し、加算結果が「１３９０」以上となったときに実行される。例えば、１Ｇ連カウンタの値が「１」であり、「天井短縮あり」となっている場合、後者の値は「５５×２＝１１０」となるから、制御用ゲーム数カウンタの値が「１２８０」となったときに準リミット処理（ゲーム数）が実行される（作動する）こととなる。

【０３５０】

準リミット処理（払出数）は、制御用払出数カウンタの値に、１Ｇ連カウンタの値（天井短縮抽籤に当籤して「天井短縮あり」となっている場合にはさらに「１」を加算する）に「２７５」（すなわち、疑似ボーナスの付与可能遊技価値量）を乗じた値を加算し、加算結果が「１８５１」以上となったときに実行される。例えば、１Ｇ連カウンタの値が「１」であり、「天井短縮あり」となっている場合、後者の値は「２７５×２＝５５０」となるから、制御用払出数カウンタの値が「１３０１」となったときに準リミット処理（払出数）が実行される（作動する）こととなる。なお、準リミット処理（ゲーム数）と準リミット処理（払出数）とは、ともに同じ内容の規制を行うものであるから、一方の作動条件が成立して作動した後は、もう一方の作動条件が成立したとしても重複して作動する必要ないものとなっている。

【０３５１】

準リミット処理（ゲーム数）、又は準備リミット処理（払出数）が実行される（作動する）と、以後の一連の有利区間において、疑似ボーナス中は、上述の１Ｇ連抽籤及び天井短縮抽籤が実行されなくなる。すなわち、増加区間における遊技期間の延長が抑制される。なお、増加区間における遊技期間の延長が抑制される手法はこれに限られない。例えば、上述の１Ｇ連抽籤において、１Ｇ連の当籤確率が通常よりも低くなるようにしてもよいし、上述の天井短縮抽籤において、天井短縮の当籤確率が通常よりも低くなるようにしてもよい。すなわち、上述の１Ｇ連抽籤及び天井短縮抽籤そのものは実行されるが、これらの抽籤に当籤しにくくなるようにしてもよい。また、例えば、準リミット処理（ゲーム数）の実行後の演出区間では、疑似ボーナス移行抽籤において当籤となる抽籤値を低くして、疑似ボーナスに移行しにくくしてもよい。あるいは、モード移行抽籤において遊技者に有利なモード移行が決定される抽籤値を低くして、疑似ボーナスが連荘しにくくしてもよい。

【０３５２】
　また、準リミット処理（ゲーム数）、又は準リミット処理（払出数）が実行される（作動する）と、以後の一連の有利区間において、演出区間中は、「確定役」（図７の（ａ）参照）の当籤時に特殊処理が行われるようになっている。以下、この特殊処理について、「確定役」が「Ｆ＿確定チェリー」（以下、単に「確定チェリー」として説明する場合がある）である場合を例に挙げて説明する。
【０３５３】
　準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれも作動していないとき、演出区間中（増加区間中であってもよい）に「確定チェリー」が当籤すると、疑似ボーナス移行抽籤において「当籤（次回遊技）」が決定される（図７の（ｃ）参照）。また、第１の遊技機では、左リール３Ｌの「チェリー」図柄が遊技者にとって期待度の高い図柄となっているので、停止操作の情報が報知されない遊技にあっては、遊技者は左第１停止で、かつ「チェリー」図柄を狙って（目安として「ＢＡＲ」図柄を狙って）して停止操作を行うことが一般的な手順となっている。したがって、一般的な手順で遊技が行われる場合、「確定チェリー」当籤時には、まず、左第１停止で左リール３Ｌの下段に「チェリー」図柄が停止される。なお、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれも作動していないとき、「確定チェリー」が当籤した場合には、左第１停止（「打順１」及び「打順２」）をすべき旨の報知が行われるようにしてもよい。また、「当籤（次回遊技）」は、次回遊技から疑似ボーナスが開始されるものに限られず、次回遊技以降の遊技から疑似ボーナスが開始されるものであってもよい。
【０３５４】
　ここで、技量のある遊技者は、さらに「弱チェ」であるか「確定チェリー」であるかを判別するために、例えば、中リール３Ｃ及び右リール３Ｒにおいても「ＢＡＲ」図柄を狙って停止操作を行う。その結果、各リールの中段に「ＢＡＲ」図柄が揃い、「確定チェリー」に当籤したことが認識できる（例えば、図１１中、「ＲＥＰ４２」参照）。一方、技量のない遊技者は、例えば、中リール３Ｃ及び右リール３Ｒにおいて「ＢＡＲ」図柄を狙って停止操作を行わない、あるいは行えないことにより、停止表示態様からは「弱チェ」であるか「確定チェリー」であるかを判別できない場合がある（例えば、図１１中、「ＲＥＰ２８」参照）。
【０３５５】
　なお、第１の遊技機では、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれも作動していないとき、「確定チェリー」に当籤した場合であって、「確定チェリーリプ」の図柄の組合せが表示された場合、特別入賞音が出力されるようになっている。また、「確定チェリー」に当籤した場合であって、「確定チェリーリプ」の図柄の組合せは表示されなかったが、「チェリーリプ」の図柄の組合せが表示された場合にも、特別入賞音が出力されるようになっている。なお、特別入賞音の出力は、１００％の確率で行われるようにしてもよいし、所定確率（例えば、５０％の確率）で行われるようにしてもよい。
【０３５６】
　いずれにしても、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれも作動していないとき、「確定チェリー」に当籤した場合には、次回遊技の開始時において「赤７揃い」演出が行われて疑似ボーナスが開始されることが報知され、疑似ボーナスが開始されることとなる。
【０３５７】
　一方、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれかが作動した後、演出区間中（増加区間中であってもよい）に「確定チェリー」が当籤すると、疑似ボーナス移行抽籤において一旦、「当籤（次回遊技）」は決定されるものの（図７の（ｃ）参照）、特殊処理の実行により、この決定結果が「当籤（今回遊技）」に書き換えられる。そして、今回遊技の開始時において「赤７揃い」演出が行われて疑似ボーナスが開始されることが報知され、疑似ボーナスが開始されることとなる。

【０３５８】
このとき、今回遊技においては、「確定チェリーリプ」の図柄の組合せ（「チェリーリプ」の図柄の組合せを含む）を表示させず、「中段リプ」の図柄の組合せを表示させるための停止操作の情報の報知（特殊報知）が行われる。例えば、第１の遊技機では、右第１停止（「打順５」及び「打順６」）をすべき旨の特殊報知が行われる（図１５参照）。これにより、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれも作動していないときには、「確定チェリーリプ」表示→次回遊技から疑似ボーナス開始といった遊技の流れであったものが、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれかの作動後にあっては、今回遊技から疑似ボーナス開始→特殊報知にしたがって停止操作が行われることにより「中段リプ」表示という遊技の流れに変更される。なお、特殊報知は、メイン（主制御基板７１）側の制御によって行われるようにしてもよいし、結果として疑似ボーナスに移行することにかわりなく遊技者が不利益を被らないという観点から、サブ（副制御基板７２）側のみの制御によって行われるようにしてもよい。
【０３５９】
なお、準リミット処理（ゲーム数）及び準リミット処理（払出数）のいずれかが作動した後、「確定チェリー」に当籤した場合であって、特殊報知が行われたにもかかわらず、「確定チェリーリプ」の図柄の組合せが表示された場合には、特別入賞音は出力さない。
【０３６０】
また、第１の遊技機では、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合、基本的には停止操作の手順が報知されない。このため、停止操作の手順が報知されて「中段リプ」が表示されるのが上述の特殊報知が行われた場合のみであるとすると、このような状態が発生した場合には、いずれかの準リミット処理が作動したことを遊技者に明確に認識されてしまい、その結果遊技の興趣を低下させてしまう可能性もある。したがって、有利区間中においては、いずれかの準リミット処理が作動しているか否かにかかわらず（あるいは、いずれかの準リミット処理の作動後からであってもよい）、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合に、所定確率で特殊報知と同様の報知が行われるようにしてもよい。このようにすれば、特殊報知が行われることに対して遊技者が不自然に感じてしまうこと防止することができる。また、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合に特殊報知と同様の報知が行われるのは、疑似ボーナス移行抽籤に当籤した場合としてもよい。また、この場合、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合の疑似ボーナス移行抽籤では、所定確率で「当籤（今回遊技）」が決定され得るようにしてもよい。
【０３６１】
ここまで、通常リミット処理、特殊リミット処理、及び準リミット処理を作動させるため、「ゲーム数」及び「払出数」を用いて有利区間の遊技期間を監視することを例に挙げて説明したが、各リミット処理が実行される条件は上述のものに限られず、適宜変更可能であるものとする。例えば、各リミット処理が実行されるとした、有利区間ゲーム数カウンタの値、有利区間払出数カウンタの値、制御用ゲーム数カウンタの値、制御用払出数カウンタの値、並びに１Ｇ連カウンタの値及び天井短縮の有無（すなわち、準リミット処理を作動させるための変数）等は、遊技仕様や市場動向等に応じて適宜変更可能である。
【０３６２】
また、有利区間の遊技期間を監視するための手法も上述のものに限られない。例えば、有利区間の遊技期間を監視するために「ナビ回数」を用いるとしたならば、上記と同様に、通常リミット処理（ナビ回数）や特殊リミット処理（ナビ回数）、あるいは準リミット処理（ナビ回数）が実行されるようにすることもできる。すなわち、有利区間の遊技期間を監視するために値を計数可能な要素（パラメータ）であればどのような要素も採用することができ、採用した要素に対して、通常リミット処理が実行される値と、特殊リミット処理が実行される値と、準リミット処理が実行される値と、を規定することで、上述のものと同様に、各リミット処理が実行されるものとすることができる。

【０３６３】
上述のとおり、第１の遊技機では、有利状態（例えば、疑似ボーナス）及び特定状態（例えば、演出区間）は一連の有利区間として制御され、この一連の有利区間における遊技期間が所定期間（例えば、有利区間ゲーム数カウンタの値が「１５００」以上）となったとき、又はこの一連の有利区間において付与された遊技価値量が所定量（例えば、有利区間払出数カウンタの値が「２４０１」以上）となったときには、この一連の有利区間が強制的に終了されるが、この一連の有利区間における遊技期間が所定期間よりも短い特定期間（例えば、制御用ゲーム数カウンタの値が「１４４５」以上）となったとき、又はこの一連の有利区間において付与された遊技価値量が所定量よりも少ない特定量（例えば、制御用払出数カウンタの値が「２１２６」以上）となったときに、有利状態である場合には、特定状態に移行するときに、一連の有利区間を終了させるようにしている。

【０３６４】
すなわち、第１の遊技機では、有利状態の途中で一連の有利区間が強制的に終了されることがなく、有利状態の終了にともなった自然な流れで一連の有利区間を一定期間内に終了させることを可能としている。これにより、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者が不信感や喪失感等を抱くことを防止することができるので、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。

【０３６５】
また、第１の遊技機では、有利状態（例えば、疑似ボーナス）及び特定状態（例えば、演出区間）は一連の有利区間として制御され、この一連の有利区間における遊技期間が所定期間（例えば、有利区間ゲーム数カウンタの値が「１５００」以上）となったとき、又はこの一連の有利区間において付与された遊技価値量が所定量（例えば、有利区間払出数カウンタの値が「２４０１」以上）となったときには、この一連の有利区間が強制的に終了されるが、この一連の有利区間における遊技期間が所定期間よりも短い特定期間（例えば、制御用ゲーム数カウンタの値が「１４４５」以上）となったとき、又はこの一連の有利区間において付与された遊技価値量が所定量よりも少ない特定量（例えば、制御用払出数カウンタの値が「２１２６」以上）となったときに、有利状態でない場合には有利状態に移行させ、移行させた有利状態が終了して特定状態に移行するときに、一連の有利区間を終了させるようにしている。

【０３６６】
すなわち、第１の遊技機では、有利状態の途中で一連の有利区間が強制的に終了されることがなく、有利状態の終了にともなった自然な流れで一連の有利区間を一定期間内に終了させることを可能としている。また、このようにして一連の有利区間を終了させる際には、有利状態でなければ有利状態に移行させた上で終了させるようにしている。これにより、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者が不信感や喪失感等を抱くことを防止することができるので、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。

【０３６７】
また、第１の遊技機では、特定期間又は特定量は、有利状態の継続可能期間（例えば、「５５ゲーム」）又は付与可能遊技価値量（例えば、「２７５枚」）を考慮して設定されているため、遊技者の感情に配慮しつつも、遊技者に付与される遊技価値量が極端に規制されることを防止することができる。

【０３６８】
また、第１の遊技機では、有利状態は付与された権利（例えば、「１Ｇ連ストック」及び「天井短縮」）によって延長される場合があるが、一連の有利区間における遊技期間が、特定期間よりも短く、付与された権利数に応じて設定された特別期間となったとき（例えば、制御用ゲーム数カウンタの値が準リミット処理（ゲーム数）が実行される値となったとき）、又は一連の有利区間において付与された遊技価値量が、特定量よりも少なく、付与された権利数に応じて設定された特別量となったとき（例えば、制御用払出数カウンタの値が準リミット処理（払出数）が実行される値となったとき）には、以後の一連の有

利区間において権利の付与が抑制されるようになっている。これにより、例えば、遊技者が消費しきれないほどの権利が付与され、このような状態で一連の有利区間が強制的に終了される結果、遊技者が不信感や喪失感等を抱いてしまうことを防止できるので、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。

【０３６９】

また、第１の遊技機では、上述の「特定量」や「特別量」を計数する上では、例えば、遊技者の操作ミスや指示の無視等に起因して、本来付与されるはずであった遊技価値量と実際に付与された遊技価値量との間で差分が生じた場合であっても、この差分を考慮せず、本来付与されるはずであった遊技価値量を基準として計数が行われるようになっている。これにより、このような遊技者の行為によって一連の有利区間が必要以上に延長されてしまうことや、このような行為を行った遊技者と行っていない遊技者との間で不公平が生じてしまうことを防止することができるので、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。

【０３７０】

また、第１の遊技機では、権利の付与が抑制されている状態（例えば、準リミット処理作動後の状態）において有利状態への移行が確定する確定役（例えば、「確定チェリー」）に当籤したときには、この確定役の当籤が明確に認識できる特別図柄の組合せ（例えば、「確定チェリーリプ」）を表示させないための特殊報知が行われるようになっている。これにより、例えば、確定役の当籤が無駄な当籤であった等といった感情を遊技者が抱いてしまうことを防止できる。すなわち、権利の付与が抑制されている状態では有利状態が開始された契機を遊技者に明確に認識させないようにすることで、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。なお、特殊報知を行うのはいずれの演出実行手段を用いてもよい。

【０３７１】

また、第１の遊技機では、特殊報知が行われる場合、本来次回遊技から開始されるはずであった有利状態を、今回遊技から開始するようにしている。これにより、遊技者に自然な流れで特殊報知にしたがった停止操作を行わせることができるので、このような特殊報知を行う場合であっても、遊技者が違和感等を抱いてしまうことを防止できる。

【０３７２】

また、第１の遊技機では、権利の付与が抑制されていない状態で、確定役に当籤して特別図柄の組合せが表示された場合には特別報知（例えば、特別入賞音の出力）を行うことを可能とする一方、権利の付与が抑制されている状態で、確定役に当籤して特別図柄の組合せが表示された場合には特別報知を行うことを可能としないようになっている。これにより、例えば、確定役の当籤が無駄な当籤であった等といった感情を遊技者が抱いてしまうことを防止できる。すなわち、権利の付与が抑制されている状態では有利状態が開始された契機を遊技者に明確に認識させないようにすることで、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。なお、特別報知を行うのはいずれの演出実行手段を用いてもよい。

【０３７３】

また、第１の遊技機では、確定役に当籤したか否か、特別図柄の組合せが表示されたか否か、及び特殊報知が行われたか否かに応じて、特別報知を行うか否かを決定するようにしている。これにより、特別報知が行われる状況をより適切に管理することができる。

【０３７４】

また、第１の遊技機では、有利区間ゲーム数カウンタ及び有利区間払出数カウンタは、ベットされた遊技価値量にかかわらず計数を行う結果、３枚ベット状態のみならず２枚ベット状態においても、通常リミット処理（ゲーム数）及び通常リミット処理（払出数）が実行されることを可能としている。

【０３７５】

また、第１の遊技機では、制御用ゲーム数カウンタ及び制御用払出数カウンタは、３枚

ベット状態では計数を行うが、２枚ベット状態では計数を行わない。したがって、３枚ベット状態では、特殊リミット処理（ゲーム数）及び特殊リミット処理（払出数）が実行されることを可能としているが、２枚ベット状態では、特殊リミット処理（ゲーム数）及び特殊リミット処理（払出数）が実行されることを可能としていない。したがって、２枚ベット状態では、通常リミット処理（ゲーム数）又は通常リミット処理（払出数）の実行によって、疑似ボーナス中であっても一連の有利区間が強制的に終了してしまう場合がある。

【０３７６】

なお、第１の遊技機では、３枚ベット状態と２枚ベット状態とでは、例えば、小役の当籤確率、及びメダルの払出数が異なる結果（図１０～図１５参照）、３枚ベット状態で遊技を行う場合よりも２枚ベット状態で遊技を行う場合のほうが、遊技者に不利となっている。もっとも、このように、２枚ベット状態で遊技を行う場合のほうが遊技者に不利となる手法はこれに限られない。例えば、疑似ボーナス中に２枚ベット状態で遊技が行われた場合には、停止操作の手順が報知されないようすることで、遊技者に不利となるように構成してもよい。

【０３７７】

このように、第１の遊技機では、第１の量（例えば、「３枚」）の遊技価値がベットされて遊技が行われた場合には、有利状態の途中で一連の有利区間が強制的に終了されることがなく、有利状態の終了にともなった自然な流れで一連の有利区間を一定期間内に終了させることを可能としている。これにより、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制しつつも、遊技者が不信感や喪失感等を抱くことを防止することができるので、遊技者の感情にも配慮することを可能としている。一方、第２の量（例えば、「２枚」）の遊技価値がベットされて遊技が行われた場合には、有利状態の途中で一連の有利区間が強制的に終了される場合があることから、これによって遊技者に企図された遊技方法で遊技を行わなかったことを気付かせることができるので、遊技者に対して企図された遊技方法で遊技を行うことを促すことができる。

【０３７８】

なお、一連の有利区間において、第１の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる場合よりも、第２の量の遊技価値がベットされて遊技が行われる場合のほうが、遊技者にとって不利となっているので、このような注意喚起を可能にすることで、遊技者により有利な状態で遊技を行うべきであることも促すことができ、遊技者が企図しない遊技方法で遊技を行うことに起因して遊技の興趣が低下してしまうことを防止することができる。

【０３７９】

［５－５．第１の遊技機の格納領域構成］

続いて、図１７～図２２を参照して、第１の遊技機の格納領域構成について説明する。図１７は、第１の遊技機の当籤フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域、及び図柄コード格納領域の一例を示す図である。また、図１８は、第１の遊技機の持越役格納領域の一例を示す図である。また、図１９は、第１の遊技機の遊技状態フラグ格納領域の一例を示す図である。また、図２０は、第１の遊技機のモードフラグ格納領域の一例を示す図である。また、図２１は、第１の遊技機の作動ストップボタン格納領域の一例を示す図である。また、図２２は、第１の遊技機の押下順序格納領域の一例を示す図である。

【０３８０】

（当籤フラグ格納領域、入賞作動フラグ格納領域、及び図柄コード格納領域）

まず、図１７を参照して、当籤フラグ格納領域（内部当籤役格納領域）、入賞作動フラグ格納領域（表示役格納領域）、及び図柄コード格納領域の構成について説明する。なお、第１の遊技機では、当籤フラグ格納領域と、入賞作動フラグ格納領域と、図柄コード格納領域とが同じデータ構成となっている。

【０３８１】

上述の各格納領域は、それぞれ１バイトのデータにより表される格納領域１～２６で構成される。なお、各格納領域に格納されるデータは、図１７中の「データ」欄の１バイト

データのみであるが、図１７では、説明の便宜上、各格納領域のビットに対応付けられた図柄組合せを示す「コンビネーション」（図１７中では、リール３Ｌの図柄、リール３Ｃの図柄及びリール３Ｒの図柄の順で記載）及びその内容（図１１～図１４参照）も併せて記載する。

【０３８２】

当籤フラグ格納領域に格納されるデータは、メインＣＰＵ１０１が、内部当籤役に対応する図柄の組合せの種類（すなわち、今回の遊技において表示されることが許可された図柄の組合せの種類）を識別可能とするために用いられる。例えば、今回の遊技において２ＢＢに当籤した場合（持越されている場合）、格納領域１のビット０に「１」が格納される。

【０３８３】

入賞作動フラグ格納領域に格納されるデータは、メインＣＰＵ１０１が、表示役に対応する図柄の組合せの種類（すなわち、今回の遊技において有効ライン上に表示された図柄の組合せの種類）を識別可能とするために用いられる。例えば、今回の遊技において２ＢＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合、格納領域１のビット０に「１」が格納される。

【０３８４】

図柄コード格納領域に格納されるデータは、メインＣＰＵ１０１が、少なくともいずれかのリールの回転中において、今回の遊技において未だ有効ライン上に表示可能となっている図柄の組合せの種類を識別可能とするために用いられる。例えば、今回の遊技において少なくともいずれかのリールが回転しているときに、２ＢＢに係る図柄の組合せが有効ライン上に表示され得るものとなっている場合、格納領域１のビット０に「１」が格納される。

【０３８５】

（持越役格納領域）

続いて、図１８を参照して、持越役格納領域の構成について説明する。持越役格納領域は、１バイトのデータにより表される格納領域で構成される。

【０３８６】

内部抽籤処理の結果、「Ｆ＿２ＢＢ」（２ＢＢ）又は「Ｆ＿３ＢＢ」（３ＢＢ）のボーナス役が内部当籤役として決定されたときには、これらのボーナス役は、持越役として持越役格納領域に格納される（対応するビットに「１」が格納される）。持越役格納領域に格納された持越役は、対応する図柄の組合せが有効ライン上に表示されるまでクリアされずに保持される。また、持越役格納領域に持越役が格納されている間、内部抽籤処理によって決定された内部当籤役（小役・リプレイ役）に加えて、持越役（ボーナス役）が当籤フラグ格納領域に格納される。

【０３８７】

（遊技状態フラグ格納領域）

続いて、図１９を参照して、遊技状態フラグ格納領域の構成について説明する。遊技状態フラグ格納領域は、１バイトのデータにより表される格納領域で構成される。例えば、現在の遊技状態が２ＢＢ状態である場合、格納領域のビット０に「１」が格納される。

【０３８８】

なお、第１の遊技機では、ＲＴ状態が設けられていないので、図１９に示す遊技状態フラグ格納領域にはＲＴ状態の種類を示す領域は設けられていないが、例えば、ＲＴ状態が設けられている場合には、現在のＲＴ状態に対応する格納領域のビットに「１」が格納される。なお、第１の遊技機では、有利区間中の遊技状態（モード）の種類を示すデータを別途後述のモードフラグ格納領域に格納するものとしているが、この遊技状態フラグ格納領域において格納して管理することもできる。また、非有利区間及び有利区間の遊技区間についても同様である。図示しない有利区間フラグ格納領域を設けて管理することもできるし、この遊技状態フラグ格納領域において格納して管理することもできる。また、ＡＴ状態やＡＲＴ状態等の遊技状態についても同様である。図示しないＡＴ状態（ＡＲＴ状態

）フラグ格納領域を設けて管理することもできるし、この遊技状態フラグ格納領域において格納して管理することもできる。

【０３８９】

（モードフラグ格納領域）

続いて、図２０を参照して、モードフラグ格納領域の構成について説明する。モードフラグ格納領域は、それぞれ１バイトのデータにより表される格納領域１及び格納領域２で構成される。例えば、現在のモードがスタートモードである場合、格納領域１のビット０に「１」が格納される。また、例えば、現在のモードが天国Ａモードである場合、格納領域２のビット０に「１」が格納される。なお、第１の遊技機では、疑似ボーナス状態もモードの１つとして管理している。

【０３９０】

（作動ストップボタン格納領域）

次に、図２１を参照して、作動ストップボタン格納領域の構成について説明する。作動ストップボタン格納領域は、１バイトのデータにより表される格納領域で構成される。なお、作動ストップボタン格納領域のビット０～２は、すでに操作されたストップボタンの種類（停止したリールの種類）を示すデータを格納し、ビット４～６は、未だ操作されていないストップボタンの種類（回転中のリールの種類）を示すデータを格納する。

【０３９１】

例えば、ストップボタン８Ｌが今回押されたストップボタン、すなわち、作動ストップボタンである場合には、作動ストップボタン格納領域のビット０に「１」が格納される。また、例えば、ストップボタン８Ｌが未だ押されていないストップボタン、すなわち、有効ストップボタンである場合には、ビット４に「１」が格納される。メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域に格納されているデータに基づいて、今回押されたストップボタンと未だ押されていないストップボタンとを識別する。

【０３９２】

（押下順序格納領域）

次に、図２２を参照して、押下順序格納領域の構成について説明する。押下順序格納領域は、１バイトのデータにより表される格納領域で構成される。なお、押下順序は、ストップボタンが押された順序、すなわち、押し順（打順）を示すものである。

【０３９３】

例えば、全てのリールが回転中であるときには、押下順序格納領域のビット０～５に「１」が格納される。次いで、ストップボタン８Ｌが押されたときには（「左」第１停止であるから）、ビット０及び１には「１」が格納されたままとなるが、ビット２～５には「０」が格納されるようになる。次いで、ストップボタン８Ｃが押されたときには（「左」第１停止、「中」第２停止であることから）、ビット０には「１」が格納されたままとなるが、ビット１には「０」が格納されるようになる。メインＣＰＵ１０１は、押下順序格納領域に格納されているデータに基づいて、今回の遊技の押し順を識別する。

【０３９４】

［６．主制御回路による処理］

続いて、図２３～図３２を参照して、主制御回路１００のメインＣＰＵ１０１が各プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。なお、以下に示す各種処理の説明では、第１の遊技機の仕様を用いてその処理内容の一具体例を説明する場合があるが、以下に示す各種処理の処理内容はこれに限定されるものではない。

【０３９５】

［６－１．メイン処理］

まず、図２３を参照して、主制御回路１００のメインＣＰＵ１０１により実行されるメイン処理（主要動作処理）について説明する。なお、図２３は、メイン処理の手順の一例を示すフローチャートである。また、図２３においては、メイン処理の開始に先立って実行される電源投入時処理についても併せて示している。

【０３９６】

まず、メインＣＰＵ１０１は、パチスロ機１に電力が供給されると（電源が投入されると）、電源投入時処理を行う（Ｓ１）。この処理では、電源投入時に必要な各種処理を行う。なお、電源投入時処理の詳細については後述する。

【０３９７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、一遊技終了時の初期化処理を行う（Ｓ２）。この処理では、メインＲＡＭ１０３における指定格納領域のデータをクリアする。なお、ここでの指定格納領域は、例えば、当籤フラグ格納領域や入賞作動フラグ格納領域等の１回の単位遊技（ゲーム）ごとにデータの消去が必要な格納領域である。

【０３９８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、メダル受付・スタートチェック処理を行う（Ｓ３）。この処理では、例えば、メダルセンサ３１Ｓ、ベットスイッチ６Ｓ、及びスタートスイッチ７Ｓ等の入力状態をチェックし、遊技開始時に必要な各種処理を行う。なお、メダル受付・スタートチェック処理の詳細については後述する。

【０３９９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、乱数値取得処理を行う（Ｓ４）。この処理では、内部抽籤用乱数値（例えば、０～６５５３５の範囲）や遊技性に関する各種抽籤で用いられる演出用乱数値（その他抽籤用乱数値）（例えば、０～６５５３５の範囲、あるいは０～２５５の範囲）等を抽出し、抽出した各種乱数値をメインＲＡＭ１０３に設けられた乱数値格納領域（不図示）に格納する。なお、各種乱数値の取得態様は上述のものに限られない。それぞれ予め定められた数値範囲（例えば、０～６５５３５の範囲、０～３２７６７の範囲、０～２５５の範囲、あるいは０～１２７の範囲等）から必要な個数の乱数値を適宜取得することができる。

【０４００】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、内部抽籤処理を行う（Ｓ５）。この処理では、現在の遊技状態等に応じた内部抽籤テーブルや内部抽籤用乱数値に基づいて内部当籤役を決定するために必要な各種処理を行う。なお、内部抽籤処理の詳細については後述する。

【０４０１】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、遊技開始時状態制御処理を行う（Ｓ６）。この処理では、各種遊技状態について、遊技を開始するときに、（例えば、決定された内部当籤役等に基づいて）移行条件が成立する場合には成立した移行条件にしたがって遊技状態を移行させるため、あるいは現在の遊技状態の遊技期間を管理するために必要な各種処理を行う。なお、遊技開始時状態制御処理の詳細については後述する。

【０４０２】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、スタートコマンド生成格納処理を行う（Ｓ７）。この処理では、副制御回路２００に送信するスタートコマンドのデータを生成し、生成したデータをメインＲＡＭ１０３に設けられた通信データ格納領域（不図示）に格納する。なお、通信データ格納領域に格納されたデータは、後述の通信データ送信処理（図３２のＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００に送信される。また、その他のコマンドのデータの生成、格納、及び送信手法も基本的に同様である。

【０４０３】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、遊技開始時メイン側演出制御処理を行う（Ｓ８）。この処理では、遊技を開始するときに、主制御回路１００側（メイン側）の制御による各種演出を行う場合、当該演出を行うために必要な各種処理を行う。例えば、遊技開始時にロック演出が行われる場合には当該ロック演出の実行を制御する。また、これが疑似遊技を含むものであれば当該疑似遊技の進行（あるいは疑似遊技に関する報知）を制御する。また、例えば、ＡＴ状態であって指示モニタによって停止操作の情報を報知する場合にはその報知態様を制御する。また、詳細は省略するが、ロック演出が行われる場合には、この処理においてロックコマンド生成格納処理が行われる。

【０４０４】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、リール停止初期設定処理を行う（Ｓ９）。この処理で

は、内部当籤役や遊技状態等に基づいて、今回の遊技で使用する停止テーブルの種類や引込優先順位テーブルの種類等の停止制御に必要な各種情報を設定する。

【０４０５】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、リール回転開始処理を行う（Ｓ１０）。この処理では、全てのリールの回転開始を要求する。そして、全てのリールの回転開始が要求されると、後述のリール制御処理（図３２のＳ２０３参照）により、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒの駆動が制御され、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始される。回転を開始した各リールは、その回転速度が一定速度に達するまで加速制御され、その後、当該一定速度が維持される。また、詳細は省略するが、この処理においてはリール回転開始コマンド生成格納処理が行われる。

【０４０６】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、引込優先順位格納処理を行う（Ｓ１１）。この処理では、回転中のリール（この場合は全てのリール）の各図柄（図柄位置）に対して、設定された内部当籤役と設定された引込優先順位テーブルとを参照して引込優先順位を示すデータを取得し、引込優先順位データ格納領域（不図示）に格納する。なお、図示は省略するが、この処理に先立って後述の図柄コード格納処理が行われる。

【０４０７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、リール停止制御処理を行う（Ｓ１２）。この処理では、決定された内部当籤役（あるいはこれに応じて設定された各種停止制御に係る情報）と各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの停止操作態様と基づいて該当するリールの回転を停止させるために必要な各種処理を行う。なお、リール停止制御処理の詳細については後述する。

【０４０８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、入賞作動判定処理を行う（Ｓ１３）。この処理では、有効ライン上に表示された図柄の組合せが、図柄組合せテーブルに規定されたいずれかの図柄の組合せであるか否かを判定する。例えば、入賞作動フラグ格納領域において「１」が格納されているビットがあるか否かを判定する。また、詳細は省略するが、この処理においては入賞作動コマンド生成格納処理が行われる。

【０４０９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、メダル払出・再遊技作動処理を行う（Ｓ１４）。この処理では、上述の入賞作動判定処理において判定された図柄の組合せが、小役に係る図柄の組合せであればこれに対応するメダル数を払出し、リプレイ役に係る図柄の組合せであれば次回の遊技において再遊技を作動させるために必要な各種処理を行う。なお、例えば、上述の入賞作動判定処理において判定された図柄の組合せがリプレイ役に係る図柄の組合せである場合には、今回の遊技におけるベット数と同数の値を後述の自動投入メダルカウンタにセットする処理を行う。また、この処理では、払出すメダル数に応じたメダル払出信号を外部集中端子板５５から出力する。

【０４１０】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、遊技終了時状態制御処理を行う（Ｓ１５）。この処理では、各種遊技状態について、遊技が終了するときに、（例えば、表示された図柄の組合せ等に基づいて）移行条件が成立する場合には成立した移行条件にしたがって遊技状態を移行させるため、あるいは現在の遊技状態の遊技期間を管理するために必要な各種処理を行う。なお、遊技終了時状態制御処理の詳細については後述する。

【０４１１】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、遊技終了時メイン側演出制御処理を行う（Ｓ１６）。この処理では、遊技が終了するときに、主制御回路１００側（メイン側）の制御による各種演出を行う場合、当該演出を行うために必要な各種処理を行う。例えば、遊技終了時にロック演出が行われる場合には当該ロック演出の実行を制御する。また、これが疑似遊技を含むものであれば当該疑似遊技の進行（あるいは疑似遊技に関する報知）を制御する。また、詳細は省略するが、ロック演出が行われる場合には、この処理においてロックコマ

ンド生成格納処理が行われる。

【０４１２】

このように、パチスロ機１では、上述のＳ２～Ｓ１６の処理が行われることで１回の単位遊技が制御され、また、これらの処理が繰り返されることで遊技の進行が制御される。なお、必要に応じてこれらの処理以外の処理が適宜行われるように構成することもできるし、これらの処理のうち一部の処理については行われないように構成することもできる。すなわち、上述の各種処理はあくまで一例である。

【０４１３】

（電源投入時処理）

続いて、図２４を参照して、上述のメイン処理のＳ１において行われる電源投入時処理について説明する。なお、図２４は、電源投入時処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４１４】

まず、メインＣＰＵ１０１は、図示しない電源投入時の初期化処理を行った後、メインＲＡＭ１０３の書込みテストを行い、当該テストの結果、メインＲＡＭ１０３への書込みが正常に行われたか否かを判定する（Ｓ２１）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３に異常が発生していないか否かを判定する。

【０４１５】

メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３への書込みが正常に行われたと判定した場合（Ｓ２１がＹＥＳ）、設定用鍵型スイッチ５２がオン状態であるか否かを判定する（Ｓ２２）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、設定変更が可能な状態であるか否かを判定する。

【０４１６】

メインＣＰＵ１０１は、設定用鍵型スイッチ５２がオン状態であると判定した場合（Ｓ２２がＹＥＳ）、設定変更時の初期化処理を行う（Ｓ２３）。この処理では、メインＲＡＭ１０３における指定格納領域のデータをクリアする。なお、ここでの指定格納領域は、例えば、持越役格納領域、遊技状態フラグ格納領域やモードフラグ格納領域等の設定変更時にデータの消去が必要な格納領域である。

【０４１７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、初期化コマンド生成格納処理を行う（Ｓ２４）。この処理では、副制御回路２００に送信する設定変更処理が開始されたことを示す初期化コマンドのデータを生成し、生成したデータを通信データ格納領域に格納する。

【０４１８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、設定変更処理を行う（Ｓ２５）。この処理では、上述の設定値決定操作や設定値確定操作を受付けることにより、メインＲＡＭ１０３が初期化された後、新たな設定値がメインＲＡＭ１０３の設定値格納領域（不図示）に設定（格納）される。続いて、メインＣＰＵ１０１は、設定用鍵型スイッチ５２がオフ状態となったか否かを判定する（Ｓ２６）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、新たに設定値が設定された後、設定変更が可能な状態が終了したか否かを判定する。

【０４１９】

メインＣＰＵ１０１は、設定用鍵型スイッチ５２がオフ状態となっていないと判定した場合（Ｓ２６がＮＯ）、設定用鍵型スイッチ５２がオフ状態となるまで処理を待機する。一方、設定用鍵型スイッチ５２がオフ状態となったと判定した場合（Ｓ２６がＹＥＳ）、初期化コマンド生成格納処理を行う（Ｓ２７）。この処理では、副制御回路２００に送信する設定変更処理が終了したことを示す初期化コマンドのデータを生成し、生成したデータを通信データ格納領域に格納する。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、電源投入時処理を終了する。

【０４２０】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ２２において、設定用鍵型スイッチ５２がオン状態でないと判定した場合（Ｓ２２がＮＯ）、バックアップデータが正常であるか否かを判定する（Ｓ

２８）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、パチスロ機１への電力の供給が断たれたとき（電断時）にバックアップされた各種情報が正常であるか否かを判定する。

【０４２１】

メインＣＰＵ１０１は、バックアップデータが正常であると判定した場合（Ｓ２８がＹＥＳ）、遊技復帰処理を行う（Ｓ２９）。この処理では、パチスロ機１を電断前の状態に復帰させる処理を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、電源投入時処理を終了する。

【０４２２】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ２１において、メインＲＡＭ１０３への書込みが正常に行わなかったと判定した場合（Ｓ２１がＮＯ）、及びＳ２８において、バックアップデータが正常でないと判定した場合（Ｓ２８がＮＯ）、電源投入時エラー処理を行う（Ｓ３０）。なお、この電源投入時エラー処理によって発生したエラーは、上述のリセット操作によっては解消されず、新たに設定値が設定されたことに応じて解消するものとなっている。したがって、メインＣＰＵ１０１は、電源投入時エラー処理の後、一度パチスロ機１の電源がオフとなり、その後、新たに設定値が設定されるまで（上述のＳ２２～Ｓ２６の処理が行われるまで）通常の処理（図２３のＳ２以降）に移行しない。

【０４２３】

（メダル受付・スタートチェック処理）

続いて、図２５を参照して、上述のメイン処理のＳ３において行われるメダル受付・スタートチェック処理について説明する。なお、図２５は、メダル受付・スタートチェック処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４２４】

まず、メインＣＰＵ１０１は、自動投入メダルカウンタの値が「０」であるか否かを判定する（Ｓ４１）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、前回の単位遊技でリプレイ役に入賞したか（再遊技が作動したか）否かを判定する。

【０４２５】

メインＣＰＵ１０１は、自動投入メダルカウンタの値が「０」でないと判定した場合（Ｓ４１がＮＯ）、自動投入処理を行う（Ｓ４２）。この処理では、前回の単位遊技で投入されたメダルと同数のメダルが自動投入される。また、詳細は省略するが、自動投入が行われる場合には、この処理においてメダル投入コマンド生成格納処理が行われる。また、この処理では、メダル投入信号を外部集中端子板５５から出力する。

【０４２６】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ４１において、自動投入メダルカウンタの値が「０」であると判定した場合（Ｓ４１がＹＥＳ）、及びＳ４２の処理の後、メダル補助収納庫スイッチチェック処理を行う（Ｓ４３）。この処理では、メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓがオン状態となっているか（すなわち、メダル補助収納庫３３に一定数以上のメダルが収納されているか）否かを判定し、メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓがオン状態となっていると判定した場合にはメダル補助収納庫エラーを発生させる。この場合、当該エラーが解消されるまで処理が待機される。また、メダル補助収納庫スイッチ３３Ｓがオン状態となっていないと判定した場合には、この処理を終了する。

【０４２７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、メダル投入状態チェック処理を行う（Ｓ４４）。この処理では、現在のベット数やクレジット数のチェックを行うとともに、メダルの受付が禁止されているか、あるいはセレクタエラーが発生しているか等も判定し、メダルの受付が可能であれば、メダルの受付が可能な状態（ベット操作を受付可能な状態）とする（メダルの受付を許可する）。なお、セレクタエラーが発生している場合には、当該エラーが解消されるまで処理が待機される。

【０４２８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、メダルの受付が可能な状態であるか否かを判定する（Ｓ４５）。メインＣＰＵ１０１は、メダルの受付が可能な状態であると判定した場合（Ｓ

４５がＹＥＳ）、メダル投入チェック処理を行う（Ｓ４６）。この処理では、メダルセンサ３１Ｓの検出結果やベットスイッチ６Ｓの検出結果に基づいてベット数やクレジット数を更新する。また、詳細は省略するが、ベット操作が行われた場合には、この処理においてメダル投入コマンド生成格納処理が行われる。また、この処理では、メダル投入信号を外部集中端子板５５から出力する。

【０４２９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、メダルの投入又はクレジットが可能な状態であるか否かを判定する（Ｓ４７）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、ベット数が「３」枚であって、かつクレジット数も「５０」枚となっていないか否かを判定する。メインＣＰＵ１０１は、メダルの投入又はクレジットが可能な状態でない（すなわち、ベット数が「３」枚であって、かつクレジット数も「５０」枚となっている）と判定した場合（Ｓ４９がＮＯ）、メダルの受付を禁止する（Ｓ４８）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、メダルの受付が可能でない状態（ベット操作を受付可能としない状態）とする。

【０４３０】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ４５において、メダルの受付が可能な状態でないと判定した場合（Ｓ４５がＮＯ）、Ｓ４７において、メダルの投入又はクレジットが可能な状態であると判定した場合（Ｓ４７がＹＥＳ）、及びＳ４８の処理の後、投入枚数が遊技開始可能枚数であるか否かを判定する（Ｓ４９）。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、現在のベット数が「２」又は「３」枚であるか否かが判定される。

【０４３１】

メインＣＰＵ１０１は、投入枚数が遊技開始可能枚数であると判定した場合（Ｓ４９がＹＥＳ）、スタートスイッチ７Ｓがオン状態となったか否かを判定する（Ｓ５０）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、遊技者によって開始操作が行われたか否かを判定する。

【０４３２】

メインＣＰＵ１０１は、スタートスイッチ７Ｓがオン状態となったと判定した場合（Ｓ５０がＹＥＳ）、メダルの受付を禁止する（Ｓ５１）。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、メダル受付・スタートチェック処理を終了する。

【０４３３】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ４９において、投入枚数が遊技開始可能枚数でないと判定した場合（Ｓ４９がＮＯ）、及びＳ５０において、スタートスイッチ７Ｓがオン状態となっていないと判定した場合（Ｓ５０がＮＯ）、処理をＳ４４に戻す。

【０４３４】

（内部抽籤処理）

続いて、図２６を参照して、上述のメイン処理のＳ５において行われる内部抽籤処理について説明する。なお、図２６は、内部抽籤処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４３５】

まず、メインＣＰＵ１０１は、設定値・メダル投入枚数チェック処理を行う（Ｓ６１）。この処理では、今回の単位遊技における設定値及びベット数のチェックを行う。続いて、メインＣＰＵ１０１は、設定値、ベット数及び遊技状態等に応じた内部抽籤テーブルをセットする（Ｓ６２）。続いて、メインＣＰＵ１０１は、乱数値格納領域から内部抽籤用乱数値を取得する（Ｓ６３）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、上述のメイン処理のＳ４で取得した内部抽籤用乱数値のデータを取得する。なお、この処理において、設定値が「１」～「６」以外又はベット数が「１」～「３」以外であると判定された場合には、メインＣＰＵ１０１は、重篤なエラーが発生したと判断し、上述の電源投入時エラー処理（図２４のＳ３０参照）を実行する。

【０４３６】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役決定処理を行う（Ｓ６４）。この処理では、取得した内部抽籤用乱数値を、セットされた内部抽籤テーブルに規定された各内部当籤役の抽籤値を用いて順次更新（例えば、加算更新）し、更新結果が所定結果となったか（

例えば、オーバーフローしたか）否かを判定する。所定結果となった場合にはその内部当籤役を今回の単位遊技の内部当籤役として決定する。なお、全ての内部当籤役について判定しても所定結果とならなかった場合には、今回の単位遊技の結果は「はずれ」となる（内部当籤役として「はずれ」が決定される）。

【０４３７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役が決定されたか否かを判定する（Ｓ６５）。メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役が決定されなかったと判定した場合（Ｓ６５がＮＯ）、処理をＳ６４に戻す。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、判定対象となる内部当籤役を順次更新し（内部抽籤用乱数値も順次更新し）、全ての内部当籤役について判定が行われるまで（あるいは、その中途で内部当籤役が決定されるまで）Ｓ６４の処理を繰り返す。

【０４３８】

メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役が決定されたと判定した場合（Ｓ６５がＹＥＳ）、決定された内部当籤役が持越非対象役であるか（すなわち、持越役であるボーナス役でなく、小役又はリプレイ役であるか）否かを判定する（Ｓ６６）。メインＣＰＵ１０１は、決定された内部当籤役が持越非対象役であると判定した場合（Ｓ６６がＹＥＳ）、当籤フラグ格納領域を更新する（Ｓ６７）。この処理では、Ｓ６４の処理で決定された内部当籤役に基づいて当籤フラグ格納領域のデータを更新する。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、当籤フラグ格納領域において、決定された内部当籤役に対応して表示が許可される図柄の組合せに対応するデータにビットに「１」を格納する。

【０４３９】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ６６において、決定された内部当籤役が持越非対象役でないと判定した場合（Ｓ６６がＮＯ）、及びＳ６７の処理の後、決定された内部当籤役が持越対象役であるか（すなわち、持越役であるボーナス役であるか）否かを判定する（Ｓ６８）。

【０４４０】

メインＣＰＵ１０１は、決定された内部当籤役が持越対象役であると判定した場合（Ｓ６８がＹＥＳ）、持越役格納領域のデータが「０」であるか否かを判定する（Ｓ６９）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、未だいずれのボーナス役も持越されていないか否かを判定する。メインＣＰＵ１０１は、持越役格納領域のデータが「０」であると判定した場合（Ｓ６９がＹＥＳ）、持越役格納領域を更新する（Ｓ７０）。この処理では、Ｓ６４の処理で決定された内部当籤役に基づいて持越役格納領域のデータを更新する。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、持越役格納領域において、決定された内部当籤役に対応して表示が許可される図柄の組合せに対応するデータにビットに「１」を格納する。

【０４４１】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ６８において、決定された内部当籤役が持越対象役でないと判定した場合（Ｓ６８がＮＯ）、Ｓ６９において、持越役格納領域のデータが「０」でないと判定した場合（Ｓ６９がＮＯ）、及びＳ７０の処理の後、再度、持越役格納領域のデータが「０」であるか否かを判定する（Ｓ７１）。

【０４４２】

メインＣＰＵ１０１は、持越役格納領域のデータが「０」でないと判定した場合（Ｓ７１がＮＯ）、当籤フラグ格納領域を更新する（Ｓ７２）。この処理では、持越役格納領域に格納されているデータを当籤フラグ格納領域のデータに反映させる。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、ボーナス役が持越されている（あるいは今回の単位遊技で当籤した）場合、当籤フラグ格納領域において、当該ボーナス役に対応して表示が許可される図柄の組合せに対応するデータにビットに「１」を格納する。

【０４４３】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ７１において、持越役格納領域のデータが「０」であると判定した場合（Ｓ７１がＹＥＳ）、及びＳ７２の処理の後、サブフラグ等設定処理を行う（Ｓ７３）。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、内部当籤役に基づいて非

有利区間サブフラグや有利区間当籤時サブフラグが設定される。なお、この処理では、例えば、ＡＴ状態であるとき、指示モニタによって報知される停止操作の情報に対応する情報等が設定されるようにしてもよい。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、内部抽籤処理を終了する。

【０４４４】

（遊技開始時状態制御処理）

続いて、図２７を参照して、上述のメイン処理のＳ６において行われる遊技開始時状態制御処理について説明する。なお、図２７は、遊技開始時状態制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４４５】

まず、メインＣＰＵ１０１は、遊技状態移行条件成立チェック処理を行う（Ｓ８１）。この処理では、遊技を開始するときに、いずれかの遊技状態からいずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したか否かのチェックを行う。例えば、所定のボーナス役に当籤したことに基づいて所定のＲＴ状態としてのフラグ間に移行させる場合、この処理において所定のボーナス役に当籤したか否かのチェックを行う。なお、第１の遊技機の場合、フラグ間はＲＴ状態として（すなわち、遊技状態フラグ格納領域に格納される遊技状態として）構成されていないため、ここでのチェックは不要となる。また、例えば、特定の移行条件の成立から特定の遊技数の遊技を行ったことにより開始又は終了する特定のＲＴ状態がある場合、この処理においてこの特定の遊技数を管理することもできる。

【０４４６】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したか否かを判定する（Ｓ８２）。メインＣＰＵ１０１は、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したと判定した場合（Ｓ８２がＹＥＳ）、遊技状態フラグ格納領域を更新する（Ｓ８３）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、成立した移行条件にしたがって遊技状態をセットする。続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされた遊技状態に応じた設定処理を行う（Ｓ８４）。この処理では、遊技状態が移行したことに応じて、例えば、当該遊技状態の遊技期間を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。

【０４４７】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ８２において、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立していないと判定した場合（Ｓ８２がＮＯ）、及びＳ８４の処理の後、現在の遊技区間が非有利区間であるか否かを判定する（Ｓ８５）。メインＣＰＵ１０１は、現在の遊技区間が非有利区間であると判定した場合（Ｓ８５がＹＥＳ）、有利区間開始条件成立チェック処理を行う（Ｓ８６）。この処理では、遊技を開始するときに、非有利区間から有利区間に移行させるための移行条件（有利区間の開始条件）が成立したか否かのチェックを行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、上述の有利区間移行抽籤を行い、この抽籤結果が有利区間を開始させるものであるか否かがチェックされる。

【０４４８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立したか否かを判定する（Ｓ８７）。メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立していないと判定した場合（Ｓ８７がＮＯ）、遊技開始時状態制御処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立したと判定した場合（Ｓ８７がＹＥＳ）、有利区間開始時の設定処理を行う（Ｓ８８）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、有利区間を開始させる（セットする）。この処理では、有利区間が開始したことに応じて、例えば、各種リミット処理に係る各種カウンタ（図１６参照）のカウントを開始する（すなわち、一連の有利区間の遊技期間の監視を開始する）等の設定処理を適宜行う。

【０４４９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、モードフラグ格納領域を更新する（Ｓ８９）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、開始された有利区間中のモード（遊技状態）をセットする。

なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、上述の有利区間移行抽籤の抽籤結果にしたがって決定された移行先モードがセットされる。

【０４５０】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされたモードに応じた設定処理を行う（Ｓ９０）。この処理では、セットされたモードに応じて、当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、セットされた移行先モードにしたがい、疑似ボーナスに移行する場合にはその遊技期間として「５５ゲーム」が設定され、終了モードに移行する場合にはその遊技期間として「３２ゲーム」が設定され、それ以外のモードに移行する場合にはそれぞれに対応する天井ゲーム数が設定される。また、各種抽籤（図７及び図８等参照）における抽籤値（抽籤テーブル）が設定される。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、遊技開始時状態制御処理を終了する。

【０４５１】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ８５において、現在の遊技区間が非有利区間でない（すなわち、有利区間である）と判定した場合（Ｓ８５がＮＯ）、有利区間中遊技開始時処理を行う（Ｓ９１）。なお、有利区間中遊技開始時処理の詳細については後述する。

【０４５２】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間終了条件成立チェック処理を行う（Ｓ９２）。この処理では、遊技を開始するときに、有利区間から非有利区間に移行させるための移行条件（有利区間の終了条件）が成立したか否かのチェックを行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間中のゲーム数に基づいて各種リミット処理の作動条件を満たしたか（図１６参照）、あるいは現在のモードが終了モードである場合において３２ゲームが経過したか等がチェックされる。

【０４５３】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立したか否かを判定する（Ｓ９３）。メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立したと判定した場合（Ｓ９３がＹＥＳ）、有利区間終了時の初期化処理を行う（Ｓ９４）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、有利区間を終了させて非有利区間をセットする。この処理では、有利区間が終了したことに応じて、例えば、各種リミット処理に係る各種カウンタ（図１６参照）、有利区間中のモード（遊技状態）、及び当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）等に関する情報（すなわち、有利区間に関する情報）を全てクリアする初期化処理を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、遊技開始時状態制御処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立していないと判定した場合（Ｓ９３がＮＯ）、遊技開始時状態制御処理を終了する。

【０４５４】

（有利区間中遊技開始時処理）

続いて、図２８を参照して、上述の遊技開始時状態制御処理のＳ９１において行われる有利区間中遊技開始時処理について説明する。なお、図２８は、有利区間中遊技開始時処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４５５】

まず、メインＣＰＵ１０１は、各種カウンタ更新処理（遊技開始時）を行う（Ｓ１０１）。この処理では、例えば、有利区間中のゲーム数に基づいて各種リミット処理に係る各種カウンタ（図１６参照）、有利区間中の各種モード（遊技状態）等の遊技期間を管理する各種カウンタ、あるいはその他有利度合いを管理する各種カウンタを所定の更新条件（例えば、１ゲームにつき１ずつ減算（加算）する等）にしたがって更新する。

【０４５６】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、特定モード（ＡＴ状態）中であるか否かを判定する（Ｓ１０２）。メインＣＰＵ１０１は、特定モード中であると判定した場合（Ｓ１０２がＹＥＳ）、ＡＴ期間管理処理（遊技開始時）を行う（Ｓ１０３）。この処理では、例えば、

遊技開始時において、ＡＴ状態の遊技期間の延長（例えば、ゲーム数延長やセット数上乗せ等）を可能とする場合に、このような延長の実行条件が成立するか否かを判定したり、この判定結果に基づいて当該遊技期間を延長したりする等の処理を行う（仮に、ＡＴ状態の遊技期間短縮を可能とする場合には当該短縮に関する処理を行う）。また、この処理では、延長されるか否かにかかわらずＡＴ状態の遊技期間を管理してもよいし、ＡＴ状態の遊技期間は上述のＳ１０１の処理において管理し、この処理では延長に関する処理のみが行われるようにしてもよい。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間当籤時サブフラグに基づいて上述の１Ｇ連抽籤が行われ、１Ｇ連抽籤が行われ、この抽籤結果にしたがって疑似ボーナスを延長させるための処理が行われる。

【０４５７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、ナビ設定処理を行う（Ｓ１０４）。この処理では、指示モニタによって報知される停止操作の情報に対応する情報やスタートコマンドに含ませる停止操作の情報に対応する情報等を設定する。なお、この処理では、ナビを発生させるか否かを決定可能としてもよい。すなわち、ＡＴ状態において報知対象役が当籤した場合に、必ずしもナビが発生しない場合があってもよく、この処理においてナビ発生の可否を所定条件（例えば、報知対象役の種類や予め定められたナビ発生確率）にしたがって決定するようにしてもよい。

【０４５８】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ１０２において、特定モード中でないと判定した場合（Ｓ１０２がＮＯ）、及びＳ１０４の後、モード移行条件が成立したか否かを判定する（Ｓ１０５）。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間当籤時サブフラグに基づく上述のモード移行抽籤の抽籤結果にしたがって移行先モードが決定されたか否かを判定する。

【０４５９】

メインＣＰＵ１０１は、モード移行条件が成立したと判定した場合（Ｓ１０５がＹＥＳ）、モードフラグ格納領域を更新する（Ｓ１０６）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、移行した有利区間中のモード（遊技状態）をセットする。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間当籤時サブフラグに基づく上述のモード移行抽籤の抽籤結果にしたがって決定された移行先モードがセットされる。

【０４６０】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされたモードに応じた設定処理を行う（Ｓ１０７）。この処理では、セットされたモードに応じて、当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、上述のＳ９０の処理と同様の処理が行われる。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、有利区間中遊技開始時処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、モード移行条件が成立していないと判定した場合（Ｓ１０５がＮＯ）、有利区間中遊技開始時処理を終了する。

【０４６１】

なお、図２７に示す遊技開始時状態制御処理と図３０に示す遊技終了時状態制御処理、及び図２８に示す有利区間中遊技開始時処理と図３１に示す有利区間中遊技終了時処理は、基本的にほとんど同様の処理構成となっている。これは、遊技を開始するとき、又は遊技が終了するときのいずれで処理を行ってもよいもの（例えば、遊技状態やモードの移行等、決定された内部当籤役を参照する処理であるが、処理結果が今回の遊技が終了するまで（あるいは、次回の遊技が開始されるまで）に反映されればよい処理等）については、いずれか一方で行われればよいことを意味し、双方で同様の処理が重複して行われることを意味するものではない。したがって、このような処理については、遊技を開始するとき、又は遊技が終了するときのいずれで行われるようにしてもよい。

【０４６２】

これに対し、遊技を開始するときに処理が行われる必要があるもの（例えば、上述のナ

ビ設定処理等）については、遊技を開始するときに行われるものとし、また、遊技が終了するときに処理が行われる必要があるもの（例えば、表示された図柄の組合せを参照する処理等）については、遊技が終了するときに行われるものとすればよい。また、例えば、遊技開始後であって遊技終了前の所定時期に処理が行われる必要があるもの、あるいは処理を行ったほうがよいもの（例えば、第１停止操作の停止操作態様を参照する処理等）については、そのときに行われるものとすればよい。

【０４６３】

（リール停止制御処理）

続いて、図２９を参照して、上述のメイン処理のＳ１２において行われるリール停止制御処理について説明する。なお、図２９は、リール停止制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４６４】

まず、メインＣＰＵ１０１は、全てのリールの回転速度が所定の一定速度（例えば、８０回転／１分）に到達したか（すなわち、定速回転しているか）否かを判定する（Ｓ１１１）。メインＣＰＵ１０１は、全てのリールが定速回転していないと判定した場合（Ｓ１１１がＮＯ）、全てのリールが定速回転するまで処理を待機する。一方、全てのリールが定速回転していると判定した場合（Ｓ１１１がＹＥＳ）、各リールの停止を許可する（Ｓ１１２）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、各ストップボタンを有効化する。また、これにともなって作動ストップボタン格納領域が更新される（第１の遊技機の場合、例えば、作動ストップボタン格納領域のビット４～６に「１」が格納される）。

【０４６５】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンが操作されたか否かを判定する（Ｓ１１３）。メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンが操作されていないと判定した場合（Ｓ１１３がＮＯ）、有効なストップボタンが操作されるまで処理を待機する。なお、自動停止制御を行う場合には、この待機時間を計測し、計測結果が所定時間となったときに自動停止制御を行うように構成することができる。

【０４６６】

メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンが操作されたと判定した場合（Ｓ１１３がＹＥＳ）、作動ストップボタン格納領域及び押下順序格納領域を更新する（Ｓ１１４）。なお、第１の遊技機の場合、例えば、リール３Ｌに対して第１停止操作が行われた場合（ストップボタン８Ｌが押された場合）には、この処理では、作動ストップボタン格納領域のビット０に「１」が格納され、ビット４が「０」に更新される。また、押下順序格納領域のビット２～５が「０」に更新される。

【０４６７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタンから制御対象リールを決定する（Ｓ１１５）。この処理では、例えば、ストップボタン８Ｌが押された場合、リール３Ｌを制御対象リールとして決定する。

【０４６８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、図柄カウンタから停止開始位置を格納する（Ｓ１１６）。図柄カウンタは、図柄位置データ（例えば、「０」～「１９」）を把握するためのカウンタとして構成される。この処理では、例えば、ストップボタン８Ｌが押された場合、ストップボタン８Ｌが押されたときのリール３Ｌの中段領域の図柄位置データを停止開始位置として格納する。

【０４６９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、滑り駒数決定処理を行う（Ｓ１１７）。この処理では、例えば、上述の停止テーブルに規定された滑り駒数や上述の引込優先順位データ格納領域のデータ等を参照し、最も適切な滑り駒数（図柄の移動量）を決定する。

【０４７０】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、停止開始位置及び滑り駒数から停止予定位置を格納する（Ｓ１１８）。この処理では、上述のＳ１１６の処理で格納された停止開始位置と、上

述のＳ１１７の処理で決定された滑り駒数から最終的に図柄が停止する位置の図柄位置データを停止予定位置として格納する。

【０４７１】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、リール停止コマンド生成格納処理を行う（Ｓ１１９）。この処理では、副制御回路２００に送信するリール停止コマンドコマンドのデータを生成し、生成したデータをメインＲＡＭ１０３に設けられた通信データ格納領域に格納する。なお、リール停止コマンドは、停止予定位置のみならず、停止開始位置や滑り駒数が特定できるパラメータを含んで構成することができる。

【０４７２】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、図柄コード格納処理を行う（Ｓ１２０）。この処理では、すでに停止予定位置が決定されたリールにおける停止予定位置の図柄の種類（図柄コード）も参照しながら、図柄コード格納領域を更新する。続いて、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンがあるか否かを判定する（Ｓ１２１）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、未だ回転中のリールがあるか（全てのリールに対して停止操作が行われていないか）否かを判定する。

【０４７３】

メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンがあると判定した場合（Ｓ１２１がＹＥＳ）、制御変更処理を行う（Ｓ１２２）。この処理では、ここまでの遊技者の停止操作態様に応じて、例えば、上述のリール停止初期設定処理で設定された停止テーブルや引込優先順位テーブル等の変更が必要である場合に、このような停止制御に必要な各種情報を再設定する。

【０４７４】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、引込優先順位格納処理を行う（Ｓ１２３）。この処理では、回転中のリールの各図柄（図柄位置）に対して、すでに停止予定位置が決定されたリールにおける停止予定位置の図柄の種類も参照しながら、設定された内部当籤役と設定された引込優先順位テーブルとを参照して引込優先順位を示すデータを取得し、引込優先順位データ格納領域に格納する。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、処理をＳ１１３に戻す。また、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタンがないと判定した場合（Ｓ１２１がＮＯ）、リール停止制御処理を終了する。

【０４７５】

（遊技終了時状態制御処理）

続いて、図３０を参照して、上述のメイン処理のＳ１５において行われる遊技終了時状態制御処理について説明する。なお、図３０は、遊技終了時状態制御処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４７６】

まず、メインＣＰＵ１０１は、遊技状態移行条件成立チェック処理を行う（Ｓ１３１）。この処理では、遊技が終了するときに、いずれかの遊技状態からいずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したか否かのチェックを行う。例えば、所定の図柄の組合せが表示されたことに基づいて所定のＲＴ状態や所定のボーナス状態に移行させる場合、この処理において所定の図柄の組合せが表示されたか否かのチェックを行う。また、所定のＲＴ状態や所定のボーナス状態である場合、この処理においてこれらの遊技状態の終了条件が成立したか否かのチェックを行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、２ＢＢ又は３ＢＢに係る図柄の組合せが表示されたか否かのチェックを行う。また、例えば、２ＢＢ状態又は３ＢＢ状態である場合、メダルの払出によってこれらの遊技状態の終了条件が成立したか否かのチェックを行う。

【０４７７】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したか否かを判定する（Ｓ１３２）。メインＣＰＵ１０１は、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立したと判定した場合（Ｓ１３２がＹＥＳ）、遊技状態フラグ格納領域を更新する（Ｓ１３３）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、成立した移行条

件にしたがって遊技状態をセットする。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、２ＢＢ又は３ＢＢに係る図柄の組合せが表示された場合、遊技状態フラグ格納領域のビット０又はビット１に「１」を格納し、２ＢＢ状態又は３ＢＢ状態をセットする。また、例えば、２ＢＢ状態又は３ＢＢ状態である場合に、これらの遊技状態の終了条件が成立した場合には、遊技状態フラグ格納領域のビット０又はビット１を「０」に更新する。

【０４７８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされた遊技状態に応じた設定処理を行う（Ｓ１３４）。この処理では、遊技状態が移行したことに応じて、例えば、当該遊技状態の遊技期間を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、２ＢＢ状態がセットされた場合であればその終了条件としての払出数に「１」を設定し、３ＢＢ状態がセットされた場合であればその終了条件としての払出数に「１７６」を設定する。

【０４７９】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ１３２において、いずれかの遊技状態に移行させるための移行条件が成立していないと判定した場合（Ｓ１３２がＮＯ）、及びＳ１３４の処理の後、現在の遊技区間が非有利区間であるか否かを判定する（Ｓ１３５）。メインＣＰＵ１０１は、現在の遊技区間が非有利区間であると判定した場合（Ｓ１３５がＹＥＳ）、有利区間開始条件成立チェック処理を行う（Ｓ１３６）。なお、上述のとおり、非有利区間では決定された内部当籤役を参照した処理のみが可能となっているため、この処理は上述のＳ８６の処理（遊技開始時状態制御処理）と同様となる。

【０４８０】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立したか否かを判定する（Ｓ１３７）。メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立していないと判定した場合（Ｓ１３７がＮＯ）、遊技終了時状態制御処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の開始条件が成立したと判定した場合（Ｓ１３７がＹＥＳ）、有利区間開始時の設定処理を行う（Ｓ１３８）。なお、上述のとおり、非有利区間では決定された内部当籤役を参照した処理のみが可能となっているため、この処理は上述のＳ８８の処理（遊技開始時状態制御処理）と同様となる。

【０４８１】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、モードフラグ格納領域を更新する（Ｓ１３９）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、開始された有利区間中のモード（遊技状態）をセットする。なお、上述のとおり、非有利区間では決定された内部当籤役を参照した処理のみが可能となっているため、この処理は上述のＳ８９の処理（遊技開始時状態制御処理）と同様となる。

【０４８２】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされたモードに応じた設定処理を行う（Ｓ１４０）。この処理では、セットされたモードに応じて、当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。なお、上述のとおり、非有利区間では決定された内部当籤役を参照した処理のみが可能となっているため、この処理は上述のＳ９０の処理（遊技開始時状態制御処理）と同様となる。

【０４８３】

メインＣＰＵ１０１は、Ｓ１３５において、現在の遊技区間が非有利区間でない（すなわち、有利区間である）と判定した場合（Ｓ１３５がＮＯ）、有利区間中遊技終了時処理を行う（Ｓ１４１）。なお、有利区間中遊技終了時処理の詳細については後述する。

【０４８４】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間終了条件成立チェック処理を行う（Ｓ１４２）。この処理では、遊技が終了するときに、有利区間から非有利区間に移行させるための移行条件（有利区間の終了条件）が成立したか否かのチェックを行う。なお、第１の遊技機

の場合、この処理では、例えば、有利区間中の払出数に基づいて各種リミット処理の作動条件を満たしたか（図１６参照）、あるいは現在のモードが終了モードである場合において３２ゲームが経過したか等がチェックされる。

【０４８５】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立したか否かを判定する（Ｓ１４３）。メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立したと判定した場合（Ｓ１４３がＹＥＳ）、有利区間終了時の初期化処理を行う（Ｓ１４４）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、有利区間を終了させて非有利区間をセットする。この処理では、有利区間が終了したことに応じて、例えば、各種リミット処理に係る各種カウンタ（図１６参照）、有利区間中のモード（遊技状態）、及び当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）等に関する情報（すなわち、有利区間に関する情報）を全てクリアする初期化処理を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、遊技終了時状態制御処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、有利区間の終了条件が成立していないと判定した場合（Ｓ１４３がＮＯ）、遊技終了時状態制御処理を終了する。

【０４８６】

（有利区間中遊技終了時処理）

続いて、図３１を参照して、上述の遊技終了時状態制御処理のＳ１４１において行われる有利区間中遊技終了時処理について説明する。なお、図３１は、有利区間中遊技終了時処理の手順の一例を示すフローチャートである。

【０４８７】

まず、メインＣＰＵ１０１は、各種カウンタ更新処理（遊技終了時）を行う（Ｓ１５１）。この処理では、例えば、有利区間中の払出数に基づいて各種リミット処理に係る各種カウンタ（図１６参照）、有利区間中の各種モード（遊技状態）等の遊技期間を管理する各種カウンタ、あるいはその他有利度合いを管理する各種カウンタを所定の更新条件（例えば、払出数、所定の図柄の組合せの表示回数や停止操作態様等）にしたがって更新する。

【０４８８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、特定モード（ＡＴ状態）中であるか否かを判定する（Ｓ１５２）。メインＣＰＵ１０１は、特定モード中であると判定した場合（Ｓ１５２がＹＥＳ）、ＡＴ期間管理処理（遊技終了時）を行う（Ｓ１５３）。この処理では、例えば、遊技終了時において、ＡＴ状態の遊技期間の延長（例えば、ゲーム数延長やセット数上乗せ等）を可能とする場合に、このような延長の実行条件が成立するか否かを判定したり、この判定結果に基づいて当該遊技期間を延長したりする等の処理を行う（仮に、ＡＴ状態の遊技期間短縮を可能とする場合には当該短縮に関する処理を行う）。また、この処理では、延長されるか否かにかかわらずＡＴ状態の遊技期間を管理してもよいし、ＡＴ状態の遊技期間は上述のＳ１５１の処理において管理し、この処理では延長に関する処理のみが行われるようにしてもよい。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間入賞時サブフラグに基づいて上述の１Ｇ連抽籤が行われ、この抽籤結果にしたがって疑似ボーナスを延長させるための処理が行われる。

【０４８９】

メインＣＰＵ１０１は、特定モード中でないと判定した場合（Ｓ１５２がＮＯ）、及びＳ１５３の後、モード移行条件が成立したか否かを判定する（Ｓ１５４）。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間入賞時サブフラグに基づく上述のモード移行抽籤の抽籤結果にしたがって移行先モードが決定されたか否かを判定する。

【０４９０】

メインＣＰＵ１０１は、モード移行条件が成立したと判定した場合（Ｓ１５４がＹＥＳ）、モードフラグ格納領域を更新する（Ｓ１５５）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、移行した有利区間中のモード（遊技状態）をセットする。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、有利区間入賞時サブフラグに基づく上述のモード移行抽籤の抽籤結果にしたがって決定された移行先モードがセットされる。

【０４９１】
　続いて、メインＣＰＵ１０１は、セットされたモードに応じた設定処理を行う（Ｓ１５６）。この処理では、セットされたモードに応じて、当該モードの遊技期間（天井ゲーム数等も含む）を設定したり、内部抽籤処理以外の各種抽籤処理における抽籤値（抽籤テーブル）を設定したりする必要がある場合に、このような設定処理を適宜行う。なお、第１の遊技機の場合、この処理では、例えば、上述のＳ１４０の処理と同様の処理が行われる。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、有利区間中遊技終了時処理を終了する。また、メインＣＰＵ１０１は、モード移行条件が成立していないと判定した場合（Ｓ１５４がＮＯ）、有利区間中遊技終了時処理を終了する。
【０４９２】
［６－２．定期割込処理］
　まず、図３２を参照して、主制御回路１００のメインＣＰＵ１０１により実行される定期割込処理について説明する。なお、図３２は、定期割込処理の手順の一例を示すフローチャートである。
【０４９３】
　ここで、本実施形態では、定期割込処理の周期（１割込時間）を「１．１１７２ｍｓ」としている。もっとも、定期割込処理の周期はこれに限られない。例えば、これとは異なる周期で定期割込処理が実行されるようにしてもよいし、あるいは、これと同じ周期が設定されていても、一部又は全部の処理について実際に処理が行われる割込回数を「２」以上とすることにより、結果的にこれとは異なる周期で定期割込処理が実行されるようにしてもよい。
【０４９４】
　まず、メインＣＰＵ１０１は、レジスタの退避処理を行う（Ｓ２０１）。続いて、メインＣＰＵ１０１は、入力ポートチェック処理を行う（Ｓ２０２）。この処理では、主制御基板７１に接続された（主中継基板７３を介して接続されたものを含む）各種センサやスイッチの入力状態（オン状態又はオフ状態）のチェックを行う。例えば、前回の割込時の入力状態と今回の割込時の入力状態とを比較し、入力状態に変化があったか否かのチェックを行い、入力状態に変化があった場合、メインＲＡＭ１０３の入力ポート格納領域０（不図示）にその変化を格納し、変化にかかわらない入力状態についてはそのままメインＲＡＭ１０３の入力ポート格納領域１（不図示）に格納する。
【０４９５】
　続いて、メインＣＰＵ１０１は、リール制御処理を行う（Ｓ２０３）。この処理では、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒの駆動を制御し、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転及び停止を制御する。続いて、メインＣＰＵ１０１は、通信データ送信処理を行う（Ｓ２０４）。この処理では、通信データ格納領域に格納された各コマンドの各パラメータを副制御回路２００に送信する。なお、この処理では、通信データ格納領域にコマンドデータが格納されていない場合、入力ポート格納領域０及び入力ポート格納領域１に格納されているデータを入力状態コマンドとして副制御回路２００に送信する。
【０４９６】
　なお、本実施形態では、各種コマンドデータが一旦通信データ格納領域に格納された後、定期割込処理において副制御回路２００に送信する構成としているが、例えば、各種コマンドデータを通信データ格納領域に格納することなく、主制御回路１００内に設けられた通信回路（不図示）に直接格納して副制御回路２００に送信する構成としてもよい。また、本実施形態では、詳細な説明は省略しているが、各種コマンドデータがシリアル通信によって副制御回路２００に送信される構成としているが、例えば、各種コマンドデータがパラレル通信によって副制御回路２００に送信される構成としてもよい。
【０４９７】
　続いて、メインＣＰＵ１０１は、７セグＬＥＤ駆動処理を行う（Ｓ２０５）。この処理では、主制御基板７１に接続された（主中継基板７３を介して接続されたものを含む）、例えば、情報表示装置１４等の表示内容を制御する。続いて、メインＣＰＵ１０１は、タ

イマ更新処理を行う（Ｓ２０６）。この処理では、主制御回路１００で管理される各種タイマを更新する。

【０４９８】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、エラー検知処理を行う（Ｓ２０７）。この処理では、上述のＳ２０２でチェックされた入力状態等に基づいて、各種エラー状態が発生しているか否かを検知する。続いて、メインＣＰＵ１０１は、ドア開閉チェック処理を行う（Ｓ２０８）。この処理では、例えば、ドア開閉監視スイッチ５６の入力状態に基づいて、下ドア機構ＤＤ開閉状態のチェックを行う。なお、各種エラー状態が発生している場合、及びドア開閉監視スイッチ５６の入力状態が開状態（オフ状態）の場合、外部集中端子板５５からセキュリティ信号が出力される。

【０４９９】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、レジスタの復帰処理を行う（Ｓ２０９）。そして、メインＣＰＵ１０１は、この処理の後、定期割込処理を終了する。

【０５００】

［７．副制御回路による処理］

続いて、図３３を参照して、副制御回路２００のサブＣＰＵ２０１が各プログラムを用いて実行するサブ側制御処理の概要について説明する。図３３は、サブ側制御処理の概要の一例を示すフローチャートである。

【０５０１】

なお、パチスロ機１では、不正行為や不正改造防止の観点より、主制御回路１００側（主制御基板７１及び主制御基板ケースを含む）には種々の制約が設けられているが、副制御回路２００側（副制御基板７２及び副制御基板ケースを含む）にはそれほどの制約は設けられていない。したがって、副制御基板７２（及び副制御回路２００）は、接続される演出装置の種類、その数、あるいはその演出装置によって行われる演出の種類等と、製造コスト等との兼ね合いに応じて種々の構成を用いることが可能となっている。図３３において「概要」としているのはそのためである。

【０５０２】

まず、サブＣＰＵ２０１は、電源投入時にはメインＣＰＵ１０１と同様、電源投入時処理を行う（Ｓ３０１及びＳ３０２）。この処理では、電源投入時に異常が発生しているか否かを検知したり、サブＲＡＭ２０３に格納されているデータを初期化したり、また、後述の各種演出実行制御処理を行うために必要な各種タスクを起動させたりする等の処理が行われる。

【０５０３】

また、サブＣＰＵ２０１は、主制御回路１００から送信されたコマンドを受信した場合、コマンド受信時演出実行制御処理を行う（Ｓ３０３及びＳ３０４）。この処理では、例えば、初期化コマンドを受信した場合、受信した初期化コマンドのパラメータの情報を参照し、設定変更がされていればサブ側でも適宜初期化処理が実行され、設定変更されていなければサブ側でも電断前の状態に復帰させる処理が実行される。

【０５０４】

また、例えば、スタートコマンドを受信した場合、受信したスタートコマンドのパラメータの情報を参照し、非ＡＴ状態であれば、内部当籤役や遊技状態等を示唆ないし報知する演出の内容を（必要に応じて抽籤により）決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。また、ＡＴ状態であれば、これに加え、有利な停止操作態様を報知する演出の内容を決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。

【０５０５】

また、例えば、ロックコマンドを受信した場合、受信したロックコマンドのパラメータの情報を参照し、ロック演出の内容と連動する演出の内容を決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。また、例えば、リール停止コマンドを受信した場合、受信したリール停止コマンドのパラメータの情報を参照し、停止開始位置や停

止予定位置（あるいは、単に何番目の停止操作が行われたか等）と連動する演出の内容を決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。また、例えば、入賞作動コマンドを受信した場合、受信した入賞作動コマンドのパラメータの情報を参照し、特典が付与される場合に、付与される特典と連動する演出の内容を決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。

【０５０６】

また、サブＣＰＵ２０１は、副制御基板７２に接続された（副中継基板７４を介して接続されたものを含む）、例えば、演出用ボタン１０ａ，１０ｂが操作された場合、演出ボタン操作時演出実行制御処理を行う（Ｓ３０５及びＳ３０６）。この処理では、例えば、操作連動演出の実行中に、当該演出に沿った演出用ボタンが操作された場合、操作連動演出の内容が変化するように各種演出装置を制御する。また、例えば、非遊技中に、後述のユーザーメニュー呼出のために演出用ボタンが操作された場合、ユーザーメニューを表示するための制御を行う。また、ユーザーメニューの表示中に、選択・決定操作のために演出用ボタンが操作された場合、これらの操作にしたがった制御を行う。

【０５０７】

また、サブＣＰＵ２０１は、上述の契機以外の契機が成立した場合、その他演出実行制御処理を行う（Ｓ３０７）。この処理では、例えば、遊技に関する操作及びユーザーメニューに関する操作が行われていない非操作期間が所定期間（例えば、３０秒程度）となった場合、デモ状態報知に係る演出の内容を決定し、決定した内容の演出が実行されるように各種演出装置を制御する。

【０５０８】

［８．パチスロ機のその他の機能］

上述のとおり、パチスロ機１は、遊技を制御する各種機能及び演出を制御する各種機能、並びにこれらの機能を実現するための各種構成を備えるものであるが、例えば、以下に示すようなその他の機能を備えることもできる。なお、以下では、遊技者側のその他の機能の一例と、遊技店側のその他の機能の一例について説明する。

【０５０９】

［８－１．遊技者側］

例えば、遊技者の演出操作によってユーザーメニューが表示され、当該ユーザーメニューにおいて所望のメニューが選択され、さらに、選択されたメニューについて適宜選択・決定操作が行われると、遊技者は各種情報を得たり、各種設定を行ったりすることが可能となっている。

【０５１０】

例えば、「配列・配当表」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における図柄配列と、規定された図柄組合せ及びその入賞時の配当（特典の内容）等を示す遊技情報が確認可能となる情報画面が演出表示部において表示される。

【０５１１】

また、例えば、「音量・光量調整」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における各種表示装置の輝度、スピーカ群から出力される音の音量、あるいはランプ・ＬＥＤ群の光量等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、このような設定時においては、より詳細な設定を可能とするため、あるいはより簡単に設定に係る操作の受付を可能とするため、遊技者の遊技操作を受付ける各種操作部を、当該設定に係る操作を受付ける操作部（すなわち、演出操作を受付ける操作部）の一部として使用することができるものとする。

【０５１２】

また、例えば、「カスタム」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における演出態様（例えば、演出に用いられるキャラクタの種類（当該キャラクタ（表示態様）自体の種類、当該キャラクタに対応する音声の種類、あるいは当該キャラクタに係る衣装やアイテム（個別表示態様）の種類等も含む）、演出発生確率（演出発生時の期待度の種類等も含む）、あるいは示唆ないし報知の態様（演出実行タイミング等も含む）等）が設定可能

となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、このような設定時においては、より詳細な設定を可能とするため、あるいはより簡単に設定に係る操作の受付を可能とするため、遊技者の遊技操作を受付ける各種操作部を、当該設定に係る操作を受付ける操作部（すなわち、演出操作を受付ける操作部）の一部として使用することができるものとする。

【０５１３】

また、例えば、「ユニメモ」が選択・決定された場合には、遊技者の携帯端末（例えば、携帯電話やスマートフォン等）を利用した情報提供サービスを受けること可能となっている。このような情報提供サービスでは、例えば、遊技者がログイン操作して遊技を開始し（ログイン操作なしに遊技を開始させた場合でもよい）、遊技終了時にログアウト操作することで、遊技履歴情報（例えば、累計何ゲーム遊技したか、有利な遊技状態を何回発生させたか、最高獲得枚数は何枚かなど種々の遊技の結果に応じた情報）を確認、あるいは取得できる。

【０５１４】

また、例えば、遊技履歴情報には、遊技の結果（開放条件の成立）に応じて、遊技中に表示可能となったキャラクタの種類や出力可能となった楽曲の種類を示す情報、遊技者の携帯端末上で表示可能となったキャラクタの種類や出力可能となった楽曲の種類を示す情報など、付帯する特典に関する情報も含まれる。

【０５１５】

なお、このような情報提供サービスにおけるログイン・ログアウトの手法は種々の手法を採用することができる。例えば、遊技者の端末を利用し、遊技者に演出表示部上に表示される二次元コードを読み取らせることでログイン・ログアウトが行われるようにしてもよいし、また、遊技者にパスワードを入力させ、あるいはパスワードを記憶させる（具体的には、例えば、遊技終了時のログアウト時には、二次元コードにかえて、４ケタ～１０ケタ程度の文字列を次回入力用パスワードとして表示可能とし、それを遊技者が紙媒体でメモしたり、携帯端末で写真として撮影したり等によって取得可能とし、次回の遊技開始前のログイン時には、このようにして取得されたパスワードを入力可能とする）ことでログイン・ログアウトが行われるようにしてもよい。また、これらの手法を適宜組み合わせてログイン・ログアウトが行われるようにすることもできる。

【０５１６】

［８－２．遊技店側］

例えば、遊技店側の管理者の設定確認操作（設定変更操作、あるいは遊技店側の管理者によるその他の操作であってもよい）によってホールメニューが表示され、当該ホールメニューにおいて所望のメニューが選択され、さらに、選択されたメニューについて適宜選択・決定操作が行われると、遊技店側の管理者は各種情報を得たり、各種設定を行ったりすることが可能となっている。

【０５１７】

例えば、「時刻設定」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における日時等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、日時は、例えば、上述のサブ側電源投入時処理（図３３のＳ３０２参照）において自動的に更新されるように構成することもできる。

【０５１８】

また、例えば、「トータルメダル情報」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における所定期間内（例えば、７営業日分の各営業日）の投入枚数及び払出枚数等を示す履歴情報が確認可能となる情報画面が演出表示部において表示される。なお、このようなメニューは、ユーザーメニューにおけるメニューとして構成することもできる。

【０５１９】

また、例えば、「設定変更・確認履歴」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における所定期間内（例えば、７営業日分の各営業日）の設定変更操作及び設定確認操作回数等を示す履歴情報が確認可能となる情報画面が演出表示部において表示される。また、

例えば、「エラー情報履歴」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における所定期間内（例えば、７営業日分の各営業日）のエラー発生日時やその内容等を示す履歴情報が確認可能となる情報画面が演出表示部において表示される。

【０５２０】

また、例えば、「監視履歴」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における所定期間内（例えば、７営業日分の各営業日）のドア開放日時やその期間等を示す履歴情報が確認可能となる情報画面が演出表示部において表示される。また、例えば、「警告設定」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における各種警告報知の態様や頻度等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。

【０５２１】

また、例えば、「省電力モード設定」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における省電力機能を作動させるか否か等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、このようなメニューは、ユーザーメニューにおけるメニューとして構成することもできる。また、このような設定時においては、より詳細な設定を可能とするため、あるいはより簡単に設定に係る操作の受付を可能とするため、遊技者の遊技操作を受付ける各種操作部を、当該設定に係る操作を受付ける操作部（すなわち、演出操作を受付ける操作部）の一部として使用することができるものとする。

【０５２２】

また、例えば、「打ち止め設定」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における打ち止め機能を作動させるか否か等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、打ち止め機能は、所定の作動条件が成立した場合に、遊技店の管理者の解除操作（例えば、リセット操作）がなされるまで遊技不能状態とする機能をいう。また、所定の作動条件は、例えば、有利区間が上述のリミット処理の実行によって強制的に終了したときに成立するようにしてもよいし、特定の状態（例えば、ボーナス状態や増加区間、あるいは有利区間（演出区間を含む）のいずれか）が終了したときに成立するようにしてもよい。また、打ち止め機能がオン状態に設定された場合、これに連動して後述の自動精算機能もオン状態に設定されるようにしてもよい。

【０５２３】

また、例えば、「自動精算設定」が選択・決定された場合には、パチスロ機１における自動精算機能を作動させるか否か等が設定可能となる設定画面が演出表示部において表示される。なお、自動精算機能は、所定の作動条件が成立した場合に、自動的にクレジットが精算される（すなわち、クレジットされていた遊技価値全てが自動的に返却される）機能をいう。また、所定の作動条件は、例えば、有利区間が上述のリミット処理の実行によって強制的に終了したときに成立するようにしてもよいし、特定の状態（例えば、ボーナス状態や増加区間、あるいは有利区間（演出区間を含む）のいずれか）が終了したときに成立するようにしてもよい。また、自動精算機能がオン状態に設定された場合、これに連動して上述の打ち止め機能もオン状態に設定されるようにしてもよい。

【０５２４】

なお、打ち止め機能や自動精算機能の設定時においては、より詳細な設定を可能とするため、あるいはより簡単に設定に係る操作の受付を可能とするため、遊技者の遊技操作を受付ける各種操作部を、当該設定に係る操作を受付ける操作部（すなわち、演出操作を受付ける操作部）の一部として使用することができるものとする。もっとも、この場合、いたずらに受付可能とする操作部を増加させることも望ましくないので、特定の操作部（例えば、ストップボタン）のみを当該設定に係る操作を受付ける操作部の一部として使用することができるものとしてもよい。

【０５２５】

［９．拡張例］

ここまで、本実施形態に係る発明が適用可能な遊技機として、パチスロ機１を一例に挙げて説明したが、本実施形態に係る発明が適用可能な遊技機はこれに限定されない。例えば、いわゆる「パチンコ機」や「スロットマシン」等と称される遊技機にも適用可能であ

り、同様の作用効果が得られる。すなわち、本実施形態に係る発明は、遊技者の遊技動作（操作）に応じて遊技を行う（遊技制御を行う）ことが可能な遊技機であれば、その全てに適用することができる。また、パチスロ機１を含む遊技機について、その構成やその機能等も上述のものに限定されず、種々の変更・拡張が可能である。以下、あくまで一例であるが、このような拡張例について説明する。

【０５２６】

（パチンコ機）

パチンコ機は、例えば、遊技球が転動流下可能な遊技領域を有する遊技盤、遊技領域を外部から視認可能としつつ保護する保護ガラスを含むガラスドア、遊技領域の所定領域に設けられる演出表示装置（遊技領域外に設けられるものであってもよい）、遊技球を払出す払出ユニット、及び、遊技や演出に関する各種制御を行う各種制御基板を含む基板ユニット等を有し、これらは枠体（単に「枠」等と称される場合もある）によって支持される。

【０５２７】

また、パチンコ機の前面側には、例えば、遊技者の操作手段の一つとしての発射ハンドル、遊技に供する遊技球を貯留可能な上皿、及び、払出された遊技球を貯留可能な下皿等が設けられている。なお、上述した演出用ボタンや可動演出装置が設けられているものも多い。また、遊技領域には、例えば、遊技球が通過可能な始動領域（「始動口」等と称される場合もある）や特定領域（「Ｖ入賞口」等と称される場合もある）、遊技球が入賞しやすい状態と入賞しにくい状態との間で変移可能な可変入賞装置（「大入賞口」等と称される場合もある）、及び、識別情報（「図柄」等と称される場合があり、「特別図柄」と「普通図柄」を含む）を可変表示可能な可変表示装置等が設けられる。

【０５２８】

そして、パチンコ機では、遊技者は発射ハンドルを操作し、遊技球を遊技領域に発射することで遊技を行う。例えば、発射された遊技球が始動領域を通過すると、可変表示が開始される。また、このとき、現在の状態（例えば、当り確率が相対的に高い確変遊技状態であるか等）や始動領域の種類等に応じた確率で、遊技状態を移行させるか否か（例えば、遊技者に有利な大当り遊技状態や小当り遊技状態に移行させるか否か）が決定される（すなわち、遊技状態を移行させるか否かが抽籤（あるいは、判定）される）。その後、可変表示の停止条件（例えば、設定された変動時間が終了したこと）が成立すると、上記決定結果に応じた停止態様で可変表示が停止する。このとき、上記決定結果が遊技状態を移行させるもの（当り）であれば、停止される停止態様も当該当りに対応する表示結果となり、当該表示結果が表示されたことに応じて当該当りに対応する遊技状態に移行する。一方、上記決定結果が遊技状態を移行させないもの（はずれ）であれば、停止される停止態様もはずれに対応する表示結果となり、遊技状態は移行しない。なお、例えば、発射された遊技球が特定領域を通過すると（特定領域は、通常は遊技球の通過が困難な状態におかれていることが多い）、可変表示装置によらず、遊技状態を移行させることが決定される。

【０５２９】

すなわち、パチスロ機１は、必要なメダルをベットし、遊技者が開始操作することを開始契機として遊技が開始されるのに対し、パチンコ機は、遊技者が必要な遊技球を発射ハンドルの操作によって発射し、例えば、これによって始動領域を遊技球が通過したことを開始契機として遊技が開始される点においては異なるものの、ともに遊技者の遊技動作によって遊技が開始される点においては共通する。また、パチスロ機１とパチンコ機とは、その開始契機が成立したときに、最終的に表示が許可される停止態様（換言すれば、付与される特典の内容）が決定される点において共通する。

【０５３０】

また、パチスロ機１は、基本的には遊技者の停止操作によって可変表示が停止されるのに対し、パチンコ機は、停止条件が成立したことによって（遊技者の停止操作によらずして）可変表示が停止される点においては異なるものの、ともに事前の決定結果にしたがっ

て可変表示を停止させ、停止した停止態様に応じた特典を付与する点においては共通する。また、パチスロ機１とパチンコ機とは、遊技に関連する演出を実行可能な点において共通する。例えば、上記演出表示装置は、上述した演出表示部や情報表示部として機能する。また、パチンコ機においても、上述したランプ、スピーカ、あるいはその他演出装置等の演出実行手段を設け、これらによって演出を実行してもよいことはもちろんである。

【０５３１】

なお、パチンコ機では、上記演出表示装置において、装飾図柄（これも「識別情報」等と称される場合がある）が変動表示されるものが多い。上述のとおり、本来の遊技結果は上記可変表示装置にて表示されるものであるが、上記可変表示装置は小型に構成され、また、その表示結果も複数個のＬＥＤの点灯パターンで表示されるため、遊技者が遊技結果を認識し難くなっているものが多い。このため、パチンコ機では、上記可変表示装置の可変表示に連動するように、上記演出表示装置上で装飾図柄を変動表示（及び停止表示）させることで遊技を行うようにしたものが主流である。そして、このような装飾図柄の変動表示は、（演出上、開始契機が成立したときに一定期間遅延してから変動表示を開始したり、あるいは停止条件の成立前に仮停止したりする場合もあるが）基本的には上記可変表装置と同様、遊技の進行にしたがって識別情報を変動表示あるいは停止表示するものである（例えば、当りの場合には装飾図柄が特別停止態様（例えば、図柄揃い）で停止表示される一方、はずれの場合には装飾図柄が非特別停止態様（例えば、バラケ目）で停止表示される）ことから、これを上述した変動表示部の一態様であるとして、本実施形態に係る発明を適用することも可能である。

【０５３２】

すなわち、本実施形態において、パチスロ機１の外部構造あるいは内部構造の構成として説明する各種事項は、パチスロ機１独特の性質があるもの（例えば、メダルを必須とし、遊技球には置き換えできないもの等）を除き、パチンコ機の外部構造あるいは内部構造の構成として適用することができる。

【０５３３】

また、パチンコ機においても、遊技に関する各種制御は、主制御基板に実装された遊技制御部としての主制御回路によって行われ（一部、払出に関する制御は、主制御基板に電気的に接続された払出制御基板に実装された払出制御回路によって行われる場合があるが、これを含む）、演出に関する各種制御は、副制御基板に実装された演出制御部としての副制御回路によって行われることから、パチスロ機１の電気的構成として説明する各種事項は、パチスロ機１独特の性質があるもの（例えば、停止操作に関するもの等）を除き、パチンコ機の電気的構成として適用することができる。

【０５３４】

また、パチスロ機１においては、上述のとおり、遊技者に相対的に有利な（あるいは、その構成内容によっては不利となる場合もあり得るが）遊技状態として、ボーナス状態、ＲＴ状態、ＡＴ状態、これらを組み合わせたＡＲＴ状態等を設けることが可能となっている。例えば、ボーナス状態では、小役の抽籤態様を非ボーナス状態よりも有利とすることで、メダルが付与されやすい（増加する）状態を一定期間継続させることを可能とし、ＲＴ状態では、リプレイ役の抽籤態様を非ＲＴ状態よりも有利とすることで、はずれが発生しにくい（結果として、メダルが減少しにくい）状態を一定期間継続させることを可能とし、ＡＴ状態では、有利な停止操作態様が報知されることで、メダルが付与されやすい（増加する）状態を一定期間継続させることを可能としている。

【０５３５】

これに対し、パチンコ機においても、これらと同様の性質を有する各種遊技状態を設けることが可能となっている。例えば、大当り遊技状態や小当り遊技状態では、上記可変入賞装置について通常とは異なる制御が行われることで、遊技球が入賞しやすい状態に変移することを可能とし、これによって遊技球が付与されやすい（増加する）状態を一定期間継続させることを可能としている。また、例えば、時短遊技状態（「電サポ状態」等と称される場合がある）では、普通図柄について通常とは異なる制御が行われることで、始動

領域を遊技球が通過しやすい状態とすることを可能とし、これによって上記可変表示装置による抽籤頻度を高めるとともに、遊技球が減少しにくい状態を一定期間継続させることを可能としている。また、例えば、確変遊技状態では、特別図柄について通常とは異なる制御が行われることで、上記可変表示装置による当籤確率が高まる（結果として、遊技球が増加しやすい）状態を一定期間継続させることを可能としている。

【０５３６】

すなわち、本実施形態において、パチスロ機１の遊技性として、遊技状態の遷移（あるいは、移行）に関する制御の構成として説明する各種事項は、パチスロ機１独特の性質があるもの（例えば、遊技区間の移行をともなうもの等）を除き、パチンコ機の遊技状態の遷移（あるいは、移行）に関する制御の構成として適用することができる。また、パチスロ機１の遊技性として他に説明する各種事項についても同様である。

【０５３７】

なお、時短遊技状態であるが、パチンコ機においても、非時短遊技状態（通常遊技状態）中の遊技回数が規定回数となったことに応じて、時短遊技状態に移行することが可能となっている。すなわち、パチンコ機においても、天井機能（有利状態（例えば、大当り遊技状態）に移行することなく不利状態（例えば、通常遊技状態）が所定期間（例えば、９００ゲーム（回転））継続した場合に、ハマリ救済として有利状態（例えば、時短遊技状態）に移行させることができる機能）を搭載することができるため、パチスロ機１の天井機能に関する構成として説明する各種事項は、パチンコ機の天井機能に関する構成として適用することができる。

【０５３８】

また、時短遊技状態であるが、パチンコ機においても、非時短遊技状態（通常遊技状態）中において、上記可変表示装置の停止態様が特定のはずれに対応する表示結果となった場合には、これを契機として時短遊技状態に移行することが可能となっている。すなわち、パチンコ機においても、特定の表示結果（特定の図柄の組合せ）の表示による（大当り遊技状態等への移行を契機としない）遊技状態の遷移（移行）が可能となっているため、例えば、パチスロ機１の特定の図柄の組合せの表示によるＲＴ状態の遷移（移行）に関する構成として説明する各種事項は、パチンコ機の特定の表示結果の表示による時短遊技状態の遷移（移行）に関する構成として適用することができる。

【０５３９】

（メダルレス遊技機）

本実施形態のパチスロ機１では、遊技者のベット操作（すなわち、手持ちのメダルをメダル投入口５に対して投入してベットする操作、あるいは、クレジットされたメダルをＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂを操作してベットする操作）があることを開始条件の１つとして遊技を開始し、遊技が終了したときにメダルの払出がある場合には、ホッパー装置３２を駆動させてメダル払出口１１からメダルを払出し、あるいは、クレジットされる形態について説明したが、パチスロ機１の構成はこれに限られない。

【０５４０】

例えば、遊技者によって遊技に必要な遊技価値がベットされ、それに基づいて遊技が行われ、その遊技の結果に基づいて特典が付与（例えば、遊技価値が付与される）形態全てについて、本実施形態に係る発明を適用可能である。すなわち、遊技者の動作によって物理的にメダルが投入され（掛けられ）、メダルが払出される形態のみならず、パチスロ機１の内部で、遊技者が保有する遊技価値を電磁的に管理し（あるいは、電磁的でなくとも、少なくとも遊技者が遊技価値に直接接触できない態様で管理し）、メダルレスで遊技を可能とするものにも適用可能である。ここでは、このようなパチスロ機１を「メダルレス遊技機」と称する。なお、メダルレス遊技機は、「管理遊技機」や「封入式遊技機」等と称されることがある。

【０５４１】

なお、遊技者が保有する遊技価値を電磁的に管理するのは、主制御回路１００（主制御基板７１）自体であってもよいし、主制御回路１００（主制御基板７１）に装着される（

接続される）遊技価値管理装置（以下では、このような管理装置を「メダル数制御基板」として説明する場合がある）であってもよい。以下では、この遊技価値管理装置が設けられる一例を説明する。

【０５４２】

遊技価値管理装置は、少なくともＲＯＭ及びＲＷＭ（あるいは、ＲＡＭ）を備え、パチスロ機１に設けられる装置であって、通信装置（以下では、このような通信装置を「接続端子板」として説明する場合がある）を介して外部の遊技価値提供装置（以下では、このような遊技価値提供装置を「通信専用ユニット」として説明する場合がある）と双方向通信可能に接続される。遊技価値管理装置は、外部の遊技価値提供装置との間で必要な通信を行うことにより、遊技価値の貸出動作（すなわち、遊技者が遊技価値のベット操作を行う上で必要な遊技価値を提供する動作）、遊技価値の付与動作（すなわち、遊技価値の付与に係る役に入賞（当該役が成立）した等の場合に遊技者に対して付与に係る遊技価値を提供する動作）、及びこれらの動作によって提供された遊技価値を電磁的に記録する動作等を行い得るものとする。なお、遊技価値提供装置は、「遊技価値（遊技媒体）取扱装置」、「遊技価値（遊技媒体）貸出装置」あるいは「サンド」等と称されることがある。

【０５４３】

また、外部の遊技価値提供装置は、外部の出玉管理装置（出玉管理サーバ）に接続されており、遊技価値管理装置は、外部の出玉管理装置に対し、通信装置及び外部の遊技価値提供装置を介して出玉管理情報を送信可能に構成される。ここで、出玉管理情報は、外部の出玉管理装置が出玉の管理を可能とするために必要な各種の情報で構成される。なお、出玉管理情報の一例については後述する。また、外部の遊技価値提供装置と外部の出玉管理装置との間は、例えば、インターネット回線によって接続される。

【０５４４】

ここで、「出玉」とは、直接的には払出された遊技媒体数を意味するものであるが、本実施形態では、例えば、払出数からベット数を減じた差枚数（純増数）等の遊技者に対する特典の付与度合い（例えば、遊技者がどの程度プラスとなったか（遊技店がどの程度マイナスとなったか）、あるいは遊技者がどの程度マイナスとなったか（遊技店がどの程度プラスとなったか等））や、有利状態（例えば、ボーナス状態、ＡＴ状態、あるいは一連の有利区間等）の継続度合い、あるいはこれらの組合せによって想定される射幸性の程度等も含む概念となっている。

【０５４５】

また、例えば、パチスロ機１の前面側に、保有する遊技価値数を表示する保有遊技価値数表示装置（不図示）を設けることとし、遊技価値管理装置は、その遊技価値数の管理結果に基づいてこの保有遊技価値数表示装置に表示される遊技価値数を管理するようにしてもよい。すなわち、遊技価値管理装置は、遊技者が遊技の用に供することができる遊技価値の総数を電磁的方法により記録するのみならず、当該記録結果の表示を制御可能なものとして構成してもよい。なお、この場合、遊技価値管理装置は、遊技者が、記録された遊技価値数を示す信号を外部の遊技価値提供装置に対して自由に送信させることできる性能を有し、また、遊技者が直接操作する場合以外には記録された遊技価値数を減ずることができない性能を有し、また、記録された遊技価値数を示す信号は、通信装置を介してでなければ送信できない性能を有することが望ましい。

【０５４６】

なお、遊技価値管理装置は、外部の遊技価値提供装置を用いて遊技者の遊技価値を電磁的に管理する機能のみならず、遊技者の物理的動作によってベットされる遊技価値数やパチスロ機１の物理的動作によって払出される遊技価値数を管理する機能を有していてもよい。すなわち、従来のパチスロ機１における実際のメダルの投入や払出の管理をも可能とするものであってもよい。このようにすれば、パチスロ機１を従来の手法によって制御することもできるし、上述のメダルレス遊技機のような手法によって制御することもできるため、パチスロ機１がいずれの仕様となった場合であっても共通の構成とすることができる。また、この場合、遊技価値管理装置が、上述のセレクタ３１やホッパー装置３２を直

接的に制御する方式を採用することもできるし、これらが主制御回路１００（主制御基板７１）によって制御され、その制御結果が送信されることにより間接的に制御する方式を採用することもできる。

【０５４７】

また、パチスロ機１には上記の他、遊技者が操作可能な貸出操作手段や返却（精算）操作手段等のメダルレス遊技機の動作に必要な各種操作手段が設けられるものとすればよい。また、遊技価値提供装置には、紙幣等の有価価値の投入口、記録媒体（例えばＩＣカード）の挿入口、携帯端末から電子マネー等の入金を行うための非接触通信アンテナ等の各種装置に加え、遊技者が操作可能な貸出操作手段や返却操作手段等のメダルレス遊技機の動作に必要な各種操作手段が設けられるものとすればよい（いずれも不図示）。なお、挿入可能な記録媒体には、遊技店で当日発行される非会員記録媒体のみならず、遊技店の会員が保有する会員記録媒体も含まれる。非会員記録媒体に記録された遊技価値は当日限り有効となる（翌日以降は無効となる）が、会員記録媒体に記録された遊技価値は翌日以降も有効となる。

【０５４８】

この場合の遊技の流れの一例を説明する。例えば、まず、遊技者は遊技価値提供装置に対しいずれかの方法で有価価値を入金する。遊技価値提供装置は、遊技者のいずれかの貸出操作手段への操作に応じて、所定数の有価価値を減算し、減算した有価価値に対応する遊技価値をパチスロ機１に提供する。そして、遊技者は遊技を行い、さらに遊技価値が必要となった場合には上記操作を繰り返し行う。その後、遊技の結果によって所定数の遊技価値を獲得してから遊技を終了する際には、遊技者はいずれかの返却操作手段を操作する。遊技価値管理装置は、遊技者のいずれかの返却操作手段への操作に応じて、遊技価値提供装置に対し遊技価値数を送信する。遊技価値提供装置は、送信された遊技価値数を記録した記録媒体を排出する。遊技価値管理装置は、遊技価値数を送信したときに自身が記憶する遊技価値数をクリアする。遊技者は、排出された記録媒体を景品に交換するために景品交換所等に持っていくこともできるし、また、排出された記録媒体を他のパチスロ機１に対応する遊技価値提供装置に挿入することで、台移動して遊技を続けることもできる。また、排出された記録媒体が会員記録媒体であれば、翌日以降も有効であるため、ここで遊技をやめることもできる。

【０５４９】

なお、上記の一例では、遊技者の返却操作に応じて、遊技価値管理装置が遊技価値提供装置に対して全遊技価値数を送信するものとしていたが、遊技者の返却操作の態様により、遊技者が所望する遊技価値数のみを送信可能に構成してもよい。すなわち、遊技者が保有する遊技価値を分割できるようにしてもよい。また、遊技価値提供装置は、送信された遊技価値数を記録媒体に記録して排出するものとしていたが、上述の非接触通信アンテナ等を用いて遊技者の携帯端末にこれと同様の価値となる情報を送信してもよいし、また、同等の価値となるものを遊技者に提供するものである限り、例えば、現金又は現金等価物を排出するようにしてもよい。

【０５５０】

また、パチスロ機１又は遊技価値提供装置において、遊技者が操作可能なロック操作手段を設け、このロック操作手段への操作に応じて、遊技価値管理装置と遊技価値提供装置との間で通信できない状態（ロック状態）に制御可能としてもよい。なお、この場合、パチスロ機１又は遊技価値提供装置において、例えば、暗証番号の設定（及び設定した暗証番号の入力）、ワンタイムパスワードの発行（及び発行したワンタイムパスワードの入力）、あるいは生体認証等の認証処理が行い得るようにし、当該認証処理の結果が正常である場合に当該ロック状態が解除されるように構成すればよい。

【０５５１】

ここまで説明したメダルレス遊技機によれば、遊技媒体が物理的に遊技に供される場合と比べて、例えば、メダル投入口５やメダル払出口１１等の一部の外部構造、あるいはセレクタ３１やホッパー装置３２等の一部の内部構造についてはこれを設ける必要がなくな

ることから、遊技機の原価や製造コストを削減することができるのみならず、遊技機の消費電力を減らすことができる。また、遊技機の内部にアクセスすることがより困難となることから、遊技機に対する不正行為を防止することができる。さらに、遊技者が遊技媒体に直接的に接触しないことから、遊技環境が改善し、騒音も減らすことができる。すなわち、遊技機をとりまく種々の環境を改善することができる遊技機を提供することが可能となる。

【０５５２】

（メダルレス遊技機の構成例）

続いて、図３４を参照して、パチスロ機１をメダルレス遊技機として構成した場合の構成例について説明する。図３４は、メダルレス遊技機の構成の一例を示す図である。なお、以下では、主として、メダル数制御基板（遊技価値管理装置）が設けられた場合の構成例について説明する。

【０５５３】

上述のとおり、メダル数制御基板は、主制御基板７１に接続され、遊技者が保有するメダル数（遊技価値数）を管理する。また、メダル数制御基板は、接続端子板（通信装置）を介して通信専用ユニット（遊技価値提供装置）に接続される。また、メダル数制御基板は、接続端子板及び通信専用ユニットを介し、出玉管理装置に対して出玉管理情報を送信する。また、メダル数制御基板には、メダル数制御回路（不図示）が搭載される。また、メダル数制御回路は、例えば、メダル数制御ＣＰＵ（不図示）と、メダル数制御ＲＯＭ（不図示）と、メダル数制御ＲＷＭ（不図示）とを含んで構成される。

【０５５４】

なお、出玉管理装置は、例えば、遊技機メーカが加入する組合（の情報センタ）が管理する出玉管理用のサーバであり、送信された出玉管理情報が出玉管理装置に蓄積されることで、各遊技機の射幸性が適切なものであるか否か（出玉性能）を監視可能にする目的で設けられるものである。

【０５５５】

したがって、このような観点より、メダル数制御基板及び接続端子板は、主制御基板７１と同様にパチスロ機１において重要な機能を担うものであることから、不正行為や不正改造を防止できる態様でパチスロ機１の内部に設けられている必要がある。図３４に示す構成例１及び構成例２は、そのような態様の一例を示している。

【０５５６】

＜構成例１＞

図３４に示す構成例１は、メダル数制御基板及び接続端子板が、主制御基板７１と同様に、主制御基板ケース内に収容されていることを示している。ここで、主制御基板ケースには、通常、その開放（あるいは取り外し）を困難とするため、あるいは開放された痕跡（あるいは開放された回数）を認識できるようにするための種々の封印処理が施されている（例えば、かしめによる封印や封印シールの貼付、あるいはかしめを切断した記録を記載するかしめシールの貼付等）。

【０５５７】

したがって、メダル数制御基板及び接続端子板を主制御基板ケース内に収容すれば、主制御基板７１と同様のセキュリティ効果を得ることができ、不正行為や不正改造を適切に防止できる。

【０５５８】

＜構成例２＞

図３４に示す構成例２は、メダル数制御基板及び接続端子板が、上述の構成例１とは異なり、主制御基板ケースとは別体に設けられたメダル数制御基板ケース内に収容されていることを示している。なお、メダル数制御基板ケースは、主制御基板ケースと同様に透明（あるいは略透明）に構成された樹脂製のケースとして構成されるものとし、その内部に収容されたメダル数制御基板及び接続端子板が、容易に視認可能な状態で収容されるものとする。

【０５５９】
ここで、構成例２のメダル数制御基板ケースでは、主制御基板ケースと同様の封印処理が施される構成とすることもできるし、少なくともその一部の封印処理のみが施される構成とすることもできる。例えば、メダル数制御基板ケースでは、主制御基板ケースと同様にかしめによる封印は行われるが、封印シールは貼付されないといった構成としてもよい。また、例えば、主制御基板ケースでは、予め定められたかしめシールを使用することが義務付けられるが、メダル数制御基板ケースでは、かしめシールとして任意のシールを使用することができるようにしてもよい。
【０５６０】
＜蓄積データ例＞
図３４に示す蓄積データ例は、出玉管理装置に蓄積される各種データの一例を示している。すなわち、メダル数制御基板が、接続端子板及び通信専用ユニットを介して出玉管理装置に送信する出玉管理情報の一例を示している。なお、これはあくまで一例であり、図３４に示す各種の情報のうち、その一部を送信しない構成とすることもできるし、図３４に示す各種の情報以外の情報を送信する構成とすることもできる。
【０５６１】
また、メダル数制御基板が通信専用ユニットに情報を送信するタイミングも任意であるし、通信専用ユニットが出玉管理装置に情報を送信するタイミングも任意である。出玉管理装置により、少なくとも一単位（例えば、遊技店の１営業日）ごとに各遊技機の出玉性能を監視可能とする態様であれば、いずれのタイミングで送信されるようにしてもよい。例えば、メダル数制御基板が通信専用ユニットに情報を送信するタイミングと、通信専用ユニットが出玉管理装置に情報を送信するタイミングとは異なるタイミングであってもよい。また、例えば、メダル数制御基板が通信専用ユニットに情報を送信するタイミングは、情報の種類に応じて異なるタイミングであってもよい。
【０５６２】
蓄積データ「総投入枚数」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位あたりの累積投入枚数である。例えば、メダル数制御基板は、再遊技の作動によってベットされたものを除き、遊技者のベット操作によってベットされた遊技価値数の情報を所定のタイミング（例えば、単位遊技ごと）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報の累計を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。
【０５６３】
蓄積データ「総払出枚数」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位あたりの累積払出枚数である。例えば、メダル数制御基板は、再遊技の作動によって付与されたものを除き、遊技機の払出処理によって付与された遊技価値数の情報を所定のタイミング（例えば、単位遊技ごと）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報の累計を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。
【０５６４】
蓄積データ「ＭＹ」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位中に発生した最大差枚数（要するに、一単位中において最も遊技価値が増加した期間で得られた差枚数。これを「ＭＹ」と称する）である。例えば、メダル数制御基板は、このような最大差枚数を算出し、算出した情報を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。
【０５６５】
蓄積データ「役物総払出枚数」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位あたりの累積払出枚数であって、かつ、各種役物の作動中に払出された累積払出枚数である。例えば、メダル数制御基板は、各種役物の作動中に遊技機の払出処理によって付与された遊技価値数の情報を所定のタイミング（例えば、各種役物の作動中の単位遊技ごと）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報の累計を所定のタイミング（例えば

、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。

【０５６６】

蓄積データ「連続役物総払出枚数」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位あたりの累積払出枚数であって、かつ、連続役物（ＲＢ。ＢＢ作動中のＲＢを含む）の作動中に払出された累積払出枚数である。例えば、メダル数制御基板は、連続役物の作動中に遊技機の払出処理によって付与された遊技価値数の情報を所定のタイミング（例えば、連続役物の作動中の単位遊技ごと）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報の累計を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。

【０５６７】

また、メダル数制御基板は、役比モニタ装置５４に表示可能な各種の情報を所定のタイミング（例えば、役比モニタ装置５４での算出時点）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報を所定のタイミング（例えば、メダル数制御基板からの送信時点）で出玉管理装置に送信する。なお、蓄積データ「役物比率」は、例えば、上述の役物割合情報に相当し、蓄積データ「連続役物比率」は、例えば、上述の連続役物割合情報に相当し、蓄積データ「有利区間比率」は、例えば、上述の特定区間割合情報に相当し、蓄積データ「指示込役物比率」は、例えば、ＡＴ状態中も集計・算出の対象とした上述の役物割合情報に相当し、蓄積データ「役物等状態比率」は、例えば、各種役物の作動中も集計・算出の対象とした上述の特定区間割合情報に相当するものである。

【０５６８】

蓄積データ「遊技回数」は、各遊技機の電源が投入されてからの一単位あたりの累積遊技回数である。例えば、メダル数制御基板は、遊技が行われた遊技数の情報を所定のタイミング（例えば、単位遊技ごと）で通信専用ユニットに送信し、通信専用ユニットは、当該情報の累計を所定のタイミング（例えば、遊技店の営業終了時点）で出玉管理装置に送信する。

【０５６９】

蓄積データ「主制御チップＩＤ番号」は、各遊技機の主制御回路１００の個体識別番号（「ＣＰＵＩＤ」ともいう。これを「チップＩＤ番号」と称する）である。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、この個体識別番号を含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこの個体識別番号を含む情報を送信する。

【０５７０】

蓄積データ「主制御チップメーカコード」は、各遊技機の主制御回路１００のメインＲＯＭ１０２の管理エリアに記録されたメーカコードである。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、このメーカコードを含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこのメーカコードを含む情報を送信する。

【０５７１】

蓄積データ「主制御チップ製品コード」は、各遊技機の主制御回路１００のメインＲＯＭ１０２の管理エリアに記録された製品コードである。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、この製品コードを含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこの製品コードを含む情報を送信する。

【０５７２】

蓄積データ「メダル数制御チップＩＤ番号」は、各遊技機のメダル数制御回路の個体識別番号である。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、この個体識別番号を含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこの個体識別番号を含む情報を送信する。なお、メダル数制御基板を設けることなく、主制御基板７１によって各種情報が通信専用ユニットに送信されるように構成した場合、当該情報は「０」となる。

【０５７３】
蓄積データ「メダル数制御チップメーカコード」は、各遊技機のメダル数制御回路のメダル数制御ＲＯＭの管理エリアに記録されたメーカコードである。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、このメーカコードを含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこのメーカコードを含む情報を送信する。なお、メダル数制御基板を設けることなく、主制御基板７１によって各種情報が通信専用ユニットに送信されるように構成した場合、当該情報は「０」となる。
【０５７４】
蓄積データ「メダル数制御チップ製品コード」は、各遊技機のメダル数制御回路のメダル数制御ＲＯＭの管理エリアに記録された製品コードである。例えば、メダル数制御基板は、通信専用ユニットに各種情報を送信する際、この製品コードを含む情報を送信し、通信専用ユニットは、出玉管理装置に各種情報を送信する際、送信されたこの製品コードを含む情報を送信する。なお、メダル数制御基板を設けることなく、主制御基板７１によって各種情報が通信専用ユニットに送信されるように構成した場合、当該情報は「０」となる。
【０５７５】
このように、出玉管理装置は、遊技機から送信された各種の情報（出玉管理情報）を蓄積可能としている。また、出玉管理情報には、遊技機の個体を識別可能な複数の個体識別情報（例えば、上述の「主制御チップＩＤ番号」～「メダル数制御チップ製品コード」）が含まれる。したがって、出玉管理装置は、これらの個体識別情報によって送信元の遊技機を特定することができるとともに、例えば、あるときから、「主制御チップＩＤ番号」と「メダル数制御チップＩＤ番号」との対応関係が異なるものとなった場合には、いずれかの制御基板が交換された可能性（すなわち、不正行為や不正改造が行われた可能性）を認識することができる。
【０５７６】
また、出玉管理情報には、一単位あたりの出玉性能を識別可能な複数の出玉情報（例えば、上述の「総投入枚数」～「遊技回数」）が含まれる。したがって、出玉管理装置は、これらの出玉情報によって送信元の遊技機の射幸性が適切な範囲のものとなっているかを認識することができる。例えば、あるときから、「総払出枚数」や「指示込役物比率」が著しく高い値となった場合には、不正行為や不正改造が行われた可能性、あるいはそもそもの仕様設計に何らかの不備があった可能性等を認識することができる。
【０５７７】
そして、出玉管理装置によって上述のような可能性が認識された場合には、遊技店あるいは遊技機メーカ等にその結果が知らされ、適切な対処が行われることが期待できる。すなわち、複数の管理遊技機と、管理遊技機から送信された出玉管理情報を出玉管理装置に送信する遊技価値提供装置（通信専用ユニット）と、送信された出玉管理情報に基づいて各管理遊技機の出玉性能を管理する出玉管理装置とを含む管理システムが構築されることで、管理下にある全ての管理遊技機を適切に管理することを可能としている。
【０５７８】
＜変形例１＞
上述のとおり、メダルレス遊技機では、メダル数制御基板によって、遊技者の保有する遊技価値数が管理されるように構成することができる。したがって、このような管理状況、あるいはその他の情報を遊技店の管理者が把握できるように、メダル数制御基板には、メダル数モニタ装置（不図示）が設けられるようにしてもよい。
【０５７９】
メダル数モニタ装置は、例えば、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成され、メダル数制御基板ケースの内部に設けられる。メダル数モニタ装置は、メダル数制御ＣＰＵ（あるいは、メインＣＰＵ１０１であってもよい）によって集計・算出された遊技価値数に関する各種の情報（例えば、上述の出玉管理情報の一部又は全部）を順次表示する。なお、メ

ダル数モニタ装置によって役比モニタ装置５４の表示内容が全て表示されるのであれば、役比モニタ装置５４を設けないようにしてもよい。あるいは、役比モニタ装置５４をメダル数モニタ装置と兼用して用いる構成としてもよい。

【０５８０】

また、メダル数モニタ装置は、メダル数制御基板上に実装されるようにしてもよいし、メダル数制御基板に接続された他の基板（例えば、接続端子板）上に実装されるようにしてもよい。また、キャビネットＧ内であれば、他の場所に設けられるようにしてもよい。例えば、メダル数制御基板ケース上に設けられるようにしてもよい。また、メダル数モニタ装置における表示を開始させ、あるいはその内容を切替えるための管理スイッチをキャビネットＧ内に設けるようにし、これが操作された場合に各種の情報が表示されるようにしてもよい。また、このような管理スイッチを使用することを前提として、例えば、情報表示装置１４をメダル数モニタ装置と兼用して用いる構成としてもよい。

【０５８１】

なお、メダル数モニタ装置は、自身に関連する各種エラー状態が発生したとき、発生したエラー状態の種類を表示するものとしてもよい。例えば、主制御基板７１との通信エラーが発生した場合、接続端子板との通信エラーが発生した場合、遊技価値提供装置との通信エラーが発生した場合、あるいはメダル数制御ＲＷＭに異常が発生した場合等の場合には、これに対応する数値を表示するものとしてもよい。なお、この場合、表示された数値がいずれのエラー状態に対応するものであるかを遊技店の管理者が容易に認識可能とするため、メダル数制御基板ケース又はその近傍に、その対応関係を示す説明部（シールの貼付や印字等）を設けるようにすればよい。

【０５８２】

＜変形例２＞

上述のとおり、メダルレス遊技機では、メダル数制御基板は接続端子板を介して外部に出玉管理情報を送信するように構成することができる。ここで、本実施形態では、外部に情報を送信するものとして他に外部集中端子板５５が設けられている。したがって、接続端子板と外部集中端子板５５とを、例えば、以下のように構成することができる。

【０５８３】

例えば、接続端子板と外部集中端子板５５とを共通の端子板として構成する。これにより、部品点数を削減することができるのみならず、外部に向けた配線も削減することができるため、セキュリティ効果を高めることができる。

【０５８４】

また、例えば、接続端子板と外部集中端子板５５とを１つのユニットとして構成する。また、例えば、接続端子板と外部集中端子板５５とを少なくともキャビネットＧ内において近傍に配置する。これにより、接続時の作業効率を高めることができる。また、配線の長さを一定のものとすることができ、また、配線箇所を限定することもできるため、セキュリティ効果を高めることができる。

【０５８５】

＜変形例３＞

上述のとおり、メダルレス遊技機では、出玉管理装置に対して出玉管理情報が送信されるように構成することができる。また、出玉管理装置では、送信された出玉管理情報によって各メダルレス遊技機の出玉性能を適切に管理することができる。したがって、このようにして出玉性能が適切に管理され得ることを前提として、上述のリミッタを設けないようにしてもよい。すなわち、一定の規制条件が成立したことに基づいて有利区間を強制的に終了させる機能を有しないものとしてもよい。

【０５８６】

また、出玉性能を適切に管理する機能をメダル数制御基板にもたせるようにし、このようにして出玉性能が適切に管理され得ることを前提として、上述のリミッタを設けないようにしてもよい。すなわち、一定の規制条件が成立したことに基づいて有利区間を強制的に終了させる機能を有しないものとしてもよい。

【０５８７】
例えば、メダル数制御基板が、出玉監視用ＲＷＭ（上述のメダル数制御ＲＷＭであってもよいし、別のＲＷＭであってもよい）を含んで構成されるようにする。出玉監視用ＲＷＭは、例えば、設定変更時には初期化されるが、有利区間終了時には初期化されないようにして出玉を監視する。そして、監視した出玉が一定の閾値を超えた場合には、例えば、有利区間自体は強制的に終了させないが、ナビ発生確率を低下させたり、ＡＴ状態が延長される確率を低下させたり、あるいはＡＴ状態自体は終了させたりして出玉性能を低下させる制御を行い得るものとする。このようにしても、出玉性能を適切に管理することが可能となる。なお、この場合、このような制御結果を出玉管理情報として出玉管理装置に送信可能としてもよい。すなわち、メダル数制御基板と出玉管理装置との双方において、各メダルレス遊技機の出玉性能を管理し得る構成としてもよい。

【０５８８】
（パチスロ機の主制御基板の構成例）
続いて、図３５を参照して、パチスロ機１の主制御基板７１の構成例について説明する。図３５は、主制御基板７１の構成の一例を示す図である。なお、以下では、主として、主制御基板７１のリユース（再利用）の構成例について説明する。

【０５８９】
上述のとおり、パチスロ機１では、主制御基板７１の仕様には種々の制約があり、その１つとして、主制御基板７１上には、製造業者名及び基板管理番号を印字することが必要となっている。製造業者名は、パチスロ機１を製造する遊技機メーカ名であり、管理番号は、主制御基板７１の型式を特定するための番号である。

【０５９０】
＜構成例１＞
図３５に示す構成例１は、主制御基板７１において、製造業者名及び基板管理番号を従来のように文字にて印字していることを示している。ここで、図３５に示す構成例１では、まず、株式会社ＢＢによって当該主制御基板７１が搭載されたパチスロ機１（以下、「機種Ａ」として説明する）が製造されたものとする。このとき、当初は、下段の製造業者名「株式会社ＢＢ」及び基板管理番号「ＢＢ－００－１１－２２」しか印字されていない。その後、機種Ａが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＡＡが当該主制御基板７１をリユースして異なるパチスロ機１（以下、「機種Ｂ」として説明する）を製造しようとした場合、株式会社ＡＡは、印字されていた下段の製造業者名及び基板管理番号をレーザー刻印で削除し、違うスペースに自社に係る製造番号及び基板管理番号（例えば、図３５に示す構成例１の上段の製造業者名「株式会社ＡＡ」及び基板管理番号「ＡＡ－００－１１－２２」）を新たに印字しなければならない。

【０５９１】
そして、その後、機種Ｂが遊技店から撤去され、仮に、例えば、株式会社ＢＢが当該主制御基板７１をリユースして異なるパチスロ機１（以下、「機種Ｃ」として説明する）を製造しようとした場合、株式会社ＢＢは、印字されていた上段の製造業者名及び基板管理番号をレーザー刻印で削除し、違うスペースに自社に係る製造番号及び基板管理番号を新たに印字しなければならないわけであるが、図３５に示す構成例１ではもう空きスペースがないため、ハードウェア的にはまだ十分にリユースが可能であるにもかかわらず、上述のような制約のために当該主制御基板７１をリユースできない場合があるという問題があった。

【０５９２】
なお、これは、当初から複数の製造業者名及び基板管理番号を印字していた場合であっても同様である。例えば、株式会社ＡＡと株式会社ＢＢの双方に係る製造番号及び基板管理番号が予め印字されていたとしても、機種Ａを製造する時点で株式会社ＡＡに係る製造番号及び基板管理番号はレーザー刻印で削除されてしまうからである。よって、株式会社ＢＢではリユースできる可能性はあるものの、株式会社ＡＡではリユースできなくなってしまう。これに対し、以下の構成例２及び構成例３では上述のような問題を解消すること

が期待できる。すなわち、主制御基板７１のような遊技の制御に用いる基板について、そのリユース性を高めることができる。

【０５９３】

＜構成例２＞

図３５に示す構成例２は、製造業者名及び基板管理番号を含む符号を印刷することを示している。なお、図３５に示す構成例２では、製造業者名及び基板管理番号を含む符号の一例として、二次元コードであるＱＲコード（登録商標）を用いているが、ＪＡＮコード（バーコード）や他のコードを用いることができる。すなわち、符号（コード）は、確認者が何らかの手段（例えば、携帯端末等）によって一義的に製造業者名及び基板管理番号を特定可能な情報を含むものであれば、どのようなものであってもよい。

【０５９４】

図３５に示す構成例２では、まず、株式会社ＢＢによって機種Ａが製造されたものとしたとき、右から１番目の符号が印刷される。右から１番目の符号には、株式会社ＢＢに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれる。その後、機種Ａが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＡＡが機種Ｂを製造しようとしたとき、右から２番目の符号が印刷され、右から１番目の符号はレーザー刻印で削除される。右から２番目の符号には、株式会社ＡＡに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれる。

【０５９５】

その後、機種Ｂが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＢＢが機種Ｃを製造しようとしたとき、右から３番目の符号が印刷され、右から２番目の符号はレーザー刻印で削除される。右から３番目の符号には、株式会社ＢＢに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれる。その後、機種Ｃが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＡＡが当該主制御基板７１をリユースして異なるパチスロ機１を製造しようとしたときであっても、株式会社ＡＡは、右から３番目の符号をレーザー刻印で削除し、右から４番目の符号を印刷し、右から４番目の符号には、株式会社ＡＡに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれるようにすれば、さらに新たなパチスロ機１に当該主制御基板７１をリユースすることが可能となる。

【０５９６】

すなわち、図３５に示す構成例２では、製造業者名及び基板管理番号を含む符号を印刷することで、主制御基板７１の表面において、製造業者名及び基板管理番号の１個あたりの印字（印刷）スペースを節約することができるので、図３５に示す構成例１と比べて、そのリユース性を高めることが可能となっている。

【０５９７】

＜構成例３＞

図３５に示す構成例３は、上述の構成例２と同様に、製造業者名及び基板管理番号を含む符号を印刷することを示している。なお、図３５に示す構成例３では、当初から複数（例えば、４個）の符号が印刷されている。例えば、株式会社ＡＡ分及び株式会社ＢＢ分がそれぞれ２個ずつ印刷されているものとする。また、主制御基板７１の表面（あるいは、これに対応する主制御基板ケース上であってもよい）において、各符号に対応する箇所を、例えば、帯状部材等によってかしめることにより、符号を読み取り不可能な状態に固定することを可能としている。また、例えば、帯状部材等を切断することにより、固定を解除して符号を読み取り可能な状態とすることを可能としている。

【０５９８】

図３５に示す構成例３では、まず、株式会社ＢＢによって機種Ａが製造されたものとしたとき、右から１番目の符号のみが読み取り可能な状態とされ、右から２番目～４番目の符号は読み取り不可能な状態とされる。右から１番目の符号には、株式会社ＢＢに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれる。その後、機種Ａが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＡＡが機種Ｂを製造しようとしたとき、右から２番目の符号のみが読み取り可能な状態とされ、右から１番目、３番目及び４番目の符号は読み取り不可能な状態とされる。右から２番目の符号には、株式会社ＡＡに係る製造番号及び基板管理番

号を特定可能な情報が含まれる。

【０５９９】

その後、機種Ｂが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＢＢが機種Ｃを製造しようとしたとき、右から３番目の符号のみが読み取り可能な状態とされ、右から１番目、２番目及び４番目の符号は読み取り不可能な状態とされる。右から３番目の符号には、株式会社ＢＢに係る製造番号及び基板管理番号を特定可能な情報が含まれる。その後、機種Ｃが遊技店から撤去され、例えば、株式会社ＡＡが当該主制御基板７１をリユースして異なるパチスロ機１を製造しようとしたときであっても、株式会社ＡＡは、右から４番目の符号のみを読み取り可能な状態とし、右から１番目～３番目の符号を読み取り不可能な状態とすれば、さらに新たなパチスロ機１に当該主制御基板７１をリユースすることが可能となる。

【０６００】

また、図３５に示す構成例３では、少なくとも１つの符号を読み取り可能な状態とし、それ以外の符号読み取り不可能な状態とすればよいのであるから、さらなるリユースも可能であり、また、より多くの遊技機メーカでリユースすることも可能である。なお、図３５に示す構成例３においても、かしめ穴だけを設けておき、リユースの度にかしめ穴に対応する箇所に符号を印刷していくように構成することもできる。

【０６０１】

［第２実施形態］

以上、第１実施形態について説明した。以下、第２実施形態について説明する。第２実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態における説明が第２実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。

【０６０２】

なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第２実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第２実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第２実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。

【０６０３】

また、第１実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。

【０６０４】

＜ロック演出＞

図３６は、ロック演出の例を示す図である。図３７は、ロック演出番号「１」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。図３８は、ロック演出番号「２」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。図３９は、ロック演出番号「３」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。図４０は、ロック演出番号「４」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。図４１は、ロック演出番号「５」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。図４２は、ロック演出番号「６」に対応するロック演出の具体的態様を示す図である。

【０６０５】

第１実施形態で説明したように、ロック演出は、遊技の進行を所定期間停止させる（遊技者の遊技操作を所定期間無効にする）演出である。本実施形態では、第１実施形態と同様に、ロック演出の実行中にリール演出乃至疑似遊技を実行することが可能なように構成されている。

【０６０６】
第１実施形態で説明したように、リール演出は、遊技者の遊技操作を無効とした期間中において、遊技者の遊技操作によらずして各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転させたり、停止（仮停止）させたりすることで演出を行うものである。また、疑似遊技は、遊技者の遊技操作を無効とした期間中において、遊技者の遊技操作を疑似的に受け付け、これによって各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを回転させたり、停止（仮停止）させたりすることで演出を行うものである。
【０６０７】
なお、ロック演出（リール演出乃至疑似遊技）においては、図柄の組合せが停止表示されることがあるが、当該図柄の組合せが停止表示されたことに基づいて遊技者に特典が付与されることはない。例えば、リール演出乃至疑似遊技において停止表示された図柄の組合せが図柄組合せテーブル（図１１～図１４参照）に規定された図柄の組合せと一致する場合であっても、当該図柄の組合せに応じたメダルの払出は行われない。
【０６０８】
また、例えば、本実施形態では、リール演出乃至疑似遊技において特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示される場合に、ＡＴ状態に移行することがあるが、これは、ＡＴ状態に移行させることが既に決定されている状態において、特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）を介して、ＡＴ状態に移行させることが決定されたことを報知（示唆）しているにすぎず、特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されたことを受けて、ＡＴ状態に移行させることが決定されるものではない。
【０６０９】
本実施形態では、このようなロック演出として、図３６に示すようなロック演出（ロック演出番号「１」～「６」に対応するロック演出）が設けられている。ロック演出番号「１」～「６」に対応するロック演出は、それぞれ、下記（ｉ）～（ｉｖ）のロック演出のうちの一のロック演出、又は、これらのロック演出のうちの２つのロック演出の組合せにより構成されている。
【０６１０】
（ｉ）リール演出において「赤７」図柄が揃う
（ｉｉ）リール演出において「赤７」図柄が揃わない
（ｉｉｉ）疑似遊技において「赤７」図柄が揃う
（ｉｖ）疑似遊技において「赤７」図柄が揃わない
ロック演出番号「１」に対応するロック演出においては、上記（ｉ）の演出が行われる。ロック演出番号「２」に対応するロック演出においては、上記（ｉｉ）の演出が行われる。ロック演出番号「３」に対応するロック演出においては、上記（ｉｉｉ）の演出が行われる。ロック演出番号「４」に対応するロック演出においては、上記（ｉｖ）の演出が行われる。ロック演出番号「５」に対応するロック演出においては、上記（ｉｖ）の演出が行われた後、上記（ｉ）の演出が行われる。ロック演出番号「６」に対応するロック演出においては、上記（ｉｉ）の演出が行われた後、上記（ｉｉｉ）の演出が行われる。
【０６１１】
なお、本実施形態では、第１実施形態と同様の図柄配置テーブル（図９参照）が用いられており、「赤７」は、図柄位置「０」に配置されている。図３７～図４２では、停止表示される図柄に対応する図柄位置を示す数字を併せて示している。
【０６１２】
具体的に、図３７に示すように、ロック演出番号「１」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図３７（ａ）参照）、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３７（ｂ）参照）。続いて、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３７（ｃ）参照）。そして、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」が停止表示される（図

３７（ｄ）参照）。

【０６１３】

図３８に示すように、ロック演出番号「２」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図３８（ａ）参照）、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３８（ｂ）参照）。続いて、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３８（ｃ）参照）。そして、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」以外の図柄（この例では、「白ブランク１」）が停止表示される（図３８（ｄ）参照）。

【０６１４】

図３９に示すように、ロック演出番号「３」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図３９（ａ）参照）、右リール３Ｒに対する停止操作に応じて右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３９（ｂ）参照）。この状態において、右リール３Ｒは、所定のタイミングで揺動している。続いて、中リール３Ｃに対する停止操作に応じて中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３９（ｃ）参照）。この状態において、中リール３Ｃは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒの揺動も継続している。そして、左リール３Ｌに対する停止操作に応じて左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」が停止表示される（図３９（ｄ）参照）。この状態において、左リール３Ｌは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃの揺動も継続している。

【０６１５】

図４０に示すように、ロック演出番号「４」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図４０（ａ）参照）、右リール３Ｒに対する停止操作に応じて右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４０（ｂ）参照）。この状態において、右リール３Ｒは、所定のタイミングで揺動している。続いて、中リール３Ｃに対する停止操作に応じて中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４０（ｃ）参照）。この状態において、中リール３Ｃは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒの揺動も継続している。そして、左リール３Ｌに対する停止操作に応じて左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」以外の図柄（この例では、「白ブランク１」）が停止表示される（図４０（ｄ）参照）。この状態において、左リール３Ｌは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃの揺動も継続している。

【０６１６】

図４１に示すように、ロック演出番号「５」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図４１（ａ）参照）、右リール３Ｒに対する停止操作に応じて右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４１（ｂ）参照）。この状態において、右リール３Ｒは、所定のタイミングで揺動している。続いて、中リール３Ｃに対する停止操作に応じて中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４１（ｃ）参照）。この状態において、中リール３Ｃは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒの揺動も継続している。そして、左リール３Ｌに対する停止操作に応じて左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」以外の図柄（この例では、「白ブランク１」）が停止表示される（図４１（ｄ）参照）。この状態において、左リール３Ｌは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃの揺動も継続している。その後、左リール３Ｌが再度回転し（図４１（ｅ）参照）、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４１（ｆ）参照）。この状態において、左リール３Ｌは、所定のタイミングで揺動しており、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃの揺動も継続している。

【０６１７】
図４２に示すように、ロック演出番号「６」に対応するロック演出においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後（図４２（ａ）参照）、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）右リール３Ｒの回転が停止し、右リール３Ｒの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４２（ｂ）参照）。続いて、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）中リール３Ｃの回転が停止し、中リール３Ｃの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４２（ｃ）参照）。そして、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」以外の図柄（この例では、「白ブランク１」）が停止表示される（図４２（ｄ）参照）。その後、左リール３Ｌが再度回転し（図４２（ｅ）参照）、左リール３Ｌに対する停止操作に応じて左リール３Ｌの回転が停止し、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」が停止表示される（図４２（ｆ）参照）。この状態において、左リール３Ｌは、所定のタイミングで揺動している一方、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃは揺動していない。なお、左リール３Ｌの中段領域に「赤７」が停止表示された後に、左リール３Ｌと同様に、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃが所定のタイミングで揺動するようにしてもよい。

【０６１８】
＜ロック演出決定処理＞
図４３は、主制御回路において行われるロック演出決定処理を示すフローチャートである。

【０６１９】
図４３に示すロック演出決定処理は、図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）が実行された後に、主制御回路１００において行われる処理である。

【０６２０】
ロック演出決定処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、現在の遊技区間が有利区間であるか否かを判断する（ステップＳ１００１）。第１実施形態で説明したように、有利区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される遊技状態（ＡＴ状態）に制御可能な遊技期間であり、有利区間としては、演出区間（有利区間・通常遊技）及び増加区間（有利区間・疑似ボーナス）が設けられている（図５参照）。演出区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態（非ＡＴ状態）であり、遊技者にとって不利な遊技状態である点においては非有利区間と同様であるが、モード移行が行われる点において非有利区間と異なっている。増加区間は、ＡＴ状態（遊技者にとって有利な遊技状態）である。

【０６２１】
現在の遊技区間が有利区間ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、現在の遊技区間が有利区間であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ボーナス中であるか否かを判断する（ステップＳ１００２）。第１実施形態で説明したように、疑似ボーナスは、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される遊技状態（ＡＴ状態）である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３のモードフラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、疑似ボーナス中であるか否かを判断することができる。

【０６２２】
疑似ボーナス中であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ボーナスに移行したのが今回遊技であるか否かを判断する（ステップＳ１００３）。第１実施形態で説明したように、内部抽籤処理（図２３のステップＳ５参照）により内部当籤役が決定されると、当該内部当籤役に応じた二次情報（サブフラグ）としての有利区間当籤時サブフラグ（図７（ａ）参照）が決定される。そして、演出区間（有利区間・通常遊技）においては、疑似ボーナス移行抽籤テーブル（図７（ｃ）参照）が参照され、乱数値及び有利区間当籤時サブフラグに基づく抽籤（疑似ボーナス移行抽籤）が行われることにより、疑似ボーナス移行抽籤の結果として「当籤」又は「非当籤」が決定される。「当籤」としては、「当

籤（今回遊技）」及び「当籤（次回遊技）」が設けられている。

【０６２３】

「当籤（今回遊技）」が決定された場合には、例えば、今回の遊技（当該疑似ボーナス移行抽籤が行われた遊技）における有利区間中遊技開始時処理（図２８参照）のステップＳ１０６において、モードフラグ格納領域（図２０参照）における「疑似ボーナス」に対応するビットが「１」にセットされる。これにより、「当籤（今回遊技）」が決定された場合には、今回の遊技から疑似ボーナスに移行する。同様に、「当籤（次回遊技）」が決定された場合には、例えば、次回の遊技（当該疑似ボーナス移行抽籤が行われた遊技の次回の遊技）における有利区間中遊技開始時処理（図２８参照）のステップＳ１０６において、モードフラグ格納領域（図２０参照）における「疑似ボーナス」に対応するビットが「１」にセットされる。これにより、「当籤（次回遊技）」が決定された場合には、次回の遊技から疑似ボーナスに移行する。

【０６２４】

疑似ボーナスに移行したのが今回遊技ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、１Ｇ連抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ１００４）。第１実施形態で説明したように、疑似ボーナスにおいては、１Ｇ連抽籤テーブル（図７（ｄ）参照）が参照され、乱数値及び有利区間当籤時サブフラグに基づく抽籤（１Ｇ連抽籤）が行われることにより、１Ｇ連抽籤の結果として「当籤」又は「非当籤」が決定される。「当籤」としては、「当籤（１Ｇ連＋１）」が設けられている。

【０６２５】

「当籤（１Ｇ連＋１）」が決定された場合には、例えば、有利区間中遊技開始時処理（図２８参照）のステップＳ１０３において、１Ｇ連を発生させる権利（１Ｇ連ストック）が１個付与される（１Ｇ連ストックカウンタが１加算される）。疑似ボーナスが終了したときに、１Ｇ連ストックカウンタの値が１以上である場合（すなわち、１Ｇ連ストックを保有している場合）には、１Ｇ連ストックが１つ消化され（１Ｇ連ストックカウンタが１減算され）、疑似ボーナス終了後の次回遊技から再度疑似ボーナスが開始されることになる。

【０６２６】

ステップＳ１００３において疑似ボーナスに移行したのが今回遊技であると判断した場合、又は、ステップＳ１００４において１Ｇ連抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出番号「１」及び「６」（図３６参照）のうちの何れかを抽籤により選択する（ステップＳ１００５）。そして、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオンにセットし（ステップＳ１００６）、本サブルーチンを終了する。これにより、ロック演出番号「１」又は「６」に対応するロック演出が行われることになる。ロック演出番号「１」又は「６」に対応するロック演出は、第１実施形態で説明した「赤７揃い」演出に相当する演出である。なお、１Ｇ連抽籤に当籤した場合には、疑似ボーナスに移行した場合に行われるロック演出（「赤７揃い」演出）とは異なるロック演出（例えば、第１実施形態で説明した特別ボーナス中演出）が行われるように構成してもよい。

【０６２７】

ステップＳ１００２において疑似ボーナス中ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、特別ロック演出発生条件が成立したか否かを判断する（ステップＳ１００７）。第１実施形態で説明したように、特別ロック演出は、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」（図７（ａ）参照）が決定され、且つ、モード移行抽籤（図８（ｆ）参照）により天国Ｃモード（図６参照）に移行することが決定された場合に、所定の確率で実行可能な演出である。すなわち、特別ロック演出発生条件は、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」が決定され、モード移行抽籤により天国Ｃモードに移行することが決定され、且つ、所定の確率で当籤可能な特別ロック演出発生抽籤に当籤すること、である。

【０６２８】

なお、有利区間当籤時サブフラグとして「確定役」が決定された場合には、疑似ボーナス移行抽籤の結果として、必ず「当籤（次回遊技）」が決定され（図７（ｃ）参照）、疑

似ボーナスへの移行が確定する。また、天国Ｃモードは、疑似ボーナスが連荘することが期待できるモードとなっている。疑似ボーナスが開始するとき、天井短縮抽籤テーブル（図８（ｅ）参照）が参照され、乱数値に基づく抽籤（天井短縮抽籤）が行われることにより、天井短縮抽籤の結果として「当籤」又は「非当籤」が決定される。「当籤」が決定された場合には、疑似ボーナスが終了するときに、天井ゲーム数として「０ゲーム」がセットされる。これにより、疑似ボーナス終了後の次回遊技から再度疑似ボーナスが開始されることになる。天国Ｃモードは、天井短縮抽籤に当籤可能なモード（天国モード）であり、且つ、天国モードが維持されやすいモード（遊技者にとって有利なモード）となっている。

【０６２９】

ステップＳ１００４において１Ｇ連抽籤に当籤していないと判断した場合、又は、ステップＳ１００７において特別ロック演出発生条件が成立していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出抽籤を実行する（ステップＳ１００８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、「当籤」又は「非当籤」を決定する。続いて、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ１００９）。ロック演出抽籤に当籤していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６３０】

一方、ロック演出抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出番号「２」及び「４」（図３６参照）のうちの何れかを抽籤により選択する（ステップＳ１０１０）。そして、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオンにセットし（ステップＳ１０１１）、本サブルーチンを終了する。これにより、ロック演出番号「２」又は「４」に対応するロック演出（所謂ガセ演出）が行われることになる。

【０６３１】

ステップＳ１００７において特別ロック演出発生条件が成立したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出番号「３」及び「５」（図３６参照）のうちの何れかを抽籤により選択する（ステップＳ１０１２）。そして、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオンにセットし（ステップＳ１０１３）、本サブルーチンを終了する。これにより、ロック演出番号「３」又は「５」に対応するロック演出が行われることになる。

【０６３２】

ロック演出番号「３」又は「５」に対応するロック演出は、第１実施形態で説明した特別ロック演出に相当する演出となっている。第１実施形態と同様に、特別ロック演出は、有利区間中における遊技の進行度合い（遊技履歴）が所定の条件を満たす場合には実行されないように構成することが可能である。このような遊技履歴としては、有利区間ゲーム数カウンタの値、制御用ゲーム数カウンタの値、有利区間払出数カウンタの値、制御用払出数カウンタの値等（リミット処理において参照される値）を採用することができる。有利区間が継続する期間には上限（リミッタ）が設けられており、リミット処理は、当該リミッタに到達したことより有利区間を終了させるための処理である（図１６参照）。

【０６３３】

なお、図４３に示すロック演出決定処理では、疑似ボーナス移行抽籤乃至１Ｇ連抽籤に当籤した場合にロック演出番号「１」又は「６」に対応するロック演出が行われる（ロック演出番号「３」及び「５」に対応するロック演出は行われない）こととして説明した。もっとも、本実施形態においては、疑似ボーナス移行抽籤乃至１Ｇ連抽籤に当籤した場合にロック演出番号「３」又は「５」に対応するロック演出（特別ロック演出）が行われ得ることとしてもよい。第１実施形態で説明したように、準リミット処理（ゲーム数）又は準リミット処理（払出数）が作動すると、１Ｇ連抽籤が実行されなくなる（図１６参照）。また、準リミット処理（ゲーム数）又は準リミット処理（払出数）が作動すると、疑似ボーナス移行抽籤が実行されなくなるようにしてもよい。疑似ボーナス移行抽籤及び１Ｇ連抽籤が実行されなくなると、図４３のステップＳ１００３、ステップＳ１００４、及び、ステップＳ１００７における判断結果が全て「ＮＯ」となり、ロック演出は実行されな

くなる。本実施形態においては、例えば、有利区間中の変数（有利区間ゲーム数カウンタの値、制御用ゲーム数カウンタの値、有利区間払出数カウンタの値、若しくは、制御用払出数カウンタの値、又は、これらの値と１Ｇ連ストックカウンタの値とに基づいて算出される値等）が所定の値以上となった場合に、ロック演出（特別ロック演出としての疑似遊技）が実行されなくなるように構成することが可能である。

【０６３４】

＜ロック演出実行処理＞

図４４は、主制御回路において行われるロック演出実行処理を示すフローチャートである。図４５は、疑似遊技においてメイン表示装置に表示される画像の一例を示す図である。

【０６３５】

図４４に示すロック演出実行処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ８（遊技開始時メイン側演出制御処理）で行われる処理である。

【０６３６】

ロック演出実行処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグ（図４３のステップＳ１００６、ステップＳ１０１１、及び、ステップＳ１０１３参照）がオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１０２１）。ロック演出開始フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６３７】

一方、ロック演出開始フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロックコマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１０２２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ロックコマンドデータを生成し、生成したロックコマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納されたロックコマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、リールのロックが開始されたことを認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。

【０６３８】

具体的に、ロックコマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、各種ロック演出に対応する演出データがセットされる。これにより、例えば、ロック演出決定処理（図４３参照）においてロック演出番号「３」～「５」のうちの何れかに対応するロック演出が選択されている場合には、図４５に示す「７を狙え」演出画像１１００がメイン表示装置２１０に表示される。「７を狙え」演出画像１１００は、「右リール３Ｒ→中リール３Ｃ→左リール３Ｌ」の順序、及び、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「赤７」図柄が停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。「７を狙え」演出画像１１００を表示することによって、示唆される順序で遊技者にストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを操作させることが可能であり、その結果、遊技者を疑似遊技に参加させることができる。

【０６３９】

次に、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオフにセットする（ステップＳ１０２３）。続いて、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出用加速処理を実行する（ステップＳ１０２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転の開始を要求する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転開始が要求されると、リール制御処理（図３２のステップＳ２０３参照）によってステッピングモータの駆動が制御され、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始される。そして、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、その回転が定速に達するまで加速が行われ、その後、定速が維持されるように制御される。なお、当該定速に達するまでの各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転態様は、通常の回転（順回転）に限定されず、スロー回転、高速回転、逆回転、これらの組合せ等のリールアクションを含むものであってもよい。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、定速での回転状

態を維持せずに、所定速度に達した後、すぐに減速させることとしてもよい。

【０６４０】

リール制御処理（図３２のステップＳ２０３参照）において、メインＣＰＵ１０１は、励磁相の励磁パターンを経時的に切り換えることによって、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが図３７～図４２に示すような態様で回転し停止するように、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒを制御する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転を加速させる場合、メインＣＰＵ１０１は、加速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるようにパルス信号を出力する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを定速で回転させる場合、メインＣＰＵ１０１は、定速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるようにパルス信号を出力する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転を減速させる場合、メインＣＰＵ１０１は、減速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるようにパルス信号を出力する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを停止させた状態で維持する場合、メインＣＰＵ１０１は、停止用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるようにパルス信号を出力する。リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを揺動させる場合、メインＣＰＵ１０１は、揺動用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるようにパルス信号を出力する。各励磁パターンは、予め定められた時間に亘って保持される。当該時間は、タイマ更新処理（図３２のステップＳ２０６参照）によって管理される。なお、励磁方式は、特に限定されず、２相励磁乃至１－２相励磁等を適宜採用することが可能である。また、ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒは、ＰＭ型のステッピングモータであってもよいし、ＨＢ型のステッピングモータであってもよい。駆動方式は、バイポーラ方式であってもよいし、ユニポーラ方式であってもよい。

【０６４１】

ステップＳ１０２４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技中フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１０２５）。疑似遊技中フラグは、疑似遊技が実行されている状態であることを示すフラグである。図示しないが、ロック演出番号「３」～「５」のうちの何れかに対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１０２４の処理において、疑似遊技中フラグをオンにセットする処理を併せて行う。また、ロック演出番号「６」に対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、リール演出において左リール３Ｌを停止させた状態で維持する制御（図４２（ｄ）参照）を開始するとき（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始してから所定時間が経過したとき）に、疑似遊技中フラグをオンにセットする。

【０６４２】

疑似遊技中フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技中処理を実行する（ステップＳ１０２６）。疑似遊技中処理については、後に図４６を用いて説明する。

【０６４３】

ステップＳ１０２５において疑似遊技中フラグがオンにセットされていないと判断した場合、又は、ステップＳ１０２６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出終了フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１０２７）。ロック演出終了フラグは、ロック演出が終了したことを示すフラグである。図示しないが、ロック演出番号「１」又は「２」に対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌを停止させた状態で維持する制御（図３７（ｄ）及び図３８（ｄ）参照）を開始するとき（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始してから所定時間が経過したとき）に、ロック演出終了フラグをオンにセットする。また、ロック演出番号「３」又は「４」に対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌを揺動させる制御（図３９（ｄ）及び図４０（ｄ）参照）を開始するとき（疑似遊技における各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対する停止操作が全て完了したとき）に、ロック演出終了フラグをオンにセットする（図４７のステップＳ１０７３参照）。また、ロック演出番号「５」に対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、再回転後に停止した左リール３Ｌを揺動させる制御（図４１（ｆ）参照）を開始するとき（左リール３Ｌの再回転が開始してから所定時間が経過したとき）に、ロック演出終了

フラグをオンにセットする（図４８のステップＳ１０８４参照）。また、ロック演出番号「６」に対応するロック演出が選択されている場合、メインＣＰＵ１０１は、再回転後に停止した左リール３Ｌを揺動させる制御（図４２（ｆ）参照）を開始するとき（再回転後の疑似遊技における左リール３Ｌに対する停止操作が完了したとき）に、ロック演出終了フラグをオンにセットする（図４９のステップＳ１１１２参照）。

【０６４４】

ロック演出終了フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１０２５に処理を戻す。一方、ロック演出終了フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延フラグをオンにセットし（ステップＳ１０２８）、本サブルーチンを終了する。ランダム遅延フラグは、ランダム遅延処理を行うために用いられるフラグである。第１実施形態で説明したように、ランダム遅延処理は、ロック演出の後、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対してランダムに遅延期間を発生させてから回転を開始させるための処理であり、ロック演出の結果として遊技者が「目押し」を行いやすくなってしまうことを防止するために行われる。ランダム遅延処理の詳細については、後に図５１を用いて説明する。

【０６４５】

＜疑似遊技中処理＞

図４６は、主制御回路において行われる疑似遊技中処理を示すフローチャートである。

【０６４６】

図４６に示す疑似遊技中処理は、主制御回路１００において図４４（ロック演出実行処理）のステップＳ１０２６で行われる処理である。

【０６４７】

疑似遊技中処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出決定処理（図４３参照）において選択されたロック演出番号がロック演出番号「６」であるか否かを判断する（ステップＳ１０４１）。

【０６４８】

選択されたロック演出番号がロック演出番号「６」ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常疑似遊技中処理を実行する（ステップＳ１０４２）。通常疑似遊技中処理については、後に図４７を用いて説明する。ステップＳ１０４２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６４９】

一方、選択されたロック演出番号がロック演出番号「６」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、リール演出後疑似遊技中処理を実行する（ステップＳ１０４３）。リール演出後疑似遊技中処理については、後に図４９を用いて説明する。ステップＳ１０４３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６５０】

＜通常疑似遊技中処理＞

図４７は、主制御回路において行われる通常疑似遊技中処理を示すフローチャートである。

【０６５１】

図４７に示す通常疑似遊技中処理は、主制御回路１００において図４６（疑似遊技中処理）のステップＳ１０４２で行われる処理である。

【０６５２】

通常疑似遊技中処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１０６１～ステップＳ１０６８の処理を実行するが、これらの処理は、図２９（リール停止制御処理）のステップＳ１１１～ステップＳ１２０の処理と基本的に同様の処理である。

【０６５３】

ここで、図４７に示す通常疑似遊技中処理では、図２９のステップＳ１１６及びステップＳ１１７に相当する処理が行われないこととしている。すなわち、滑り駒数（ステップＳ１１７参照）は決定されず、ステップＳ１０６６の処理において、メインＣＰＵ１０１

は、停止開始位置（ステップＳ１１６参照）にかかわらず、最終的に図柄が停止する位置として予め定められた位置を停止予定位置として決定し格納する。これにより、図３９（ｂ）～（ｄ）、図４０（ｂ）～（ｄ）、及び、図４１（ｂ）～（ｄ）に示すような態様で、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止する。疑似遊技においては、このように、停止開始位置及び滑り駒数とは無関係に予め定められた図柄が停止表示されることとしてもよいし、図２９に示す（メイン遊技における）リール停止制御処理と同様に、停止開始位置及び滑り駒数に基づいて各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを停止させる制御を行うこととしてもよい。この場合には、例えば、ロック演出番号「３」又は「５」に対応するロック演出が選択されていても、停止操作のタイミングが適切でなかった場合には、「赤７」図柄が揃わないことになる。なお、停止開始位置及び滑り駒数に基づいて各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを停止させる場合、疑似遊技における最大滑り駒数は、メイン遊技における最大滑り駒数と同じであることとしてもよいし、メイン遊技における最大滑り駒数よりも多いこととしてもよいし、メイン遊技における最大滑り駒数よりも少ないこととしてもよい。

【０６５４】

また、図２９のステップＳ１１１では、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが定速で回転しているときの速度（定速回転速度）の例として、８０回転／１分を挙げて説明した。疑似遊技における定速回転速度は、メイン遊技における定速回転速度と同じである（例えば、８０回転／１分）こととしてもよいし、メイン遊技における定速回転速度よりも速い（例えば、９０～１８０回転／１分、あるいは、１２０～１６０回転／１分）こととしてもよいし、メイン遊技における定速回転速度よりも遅い（例えば、１０～６０回転／１分、あるいは、３０～４５回転／１分）こととしてもよい。また、図４７に示す通常疑似遊技中処理では、疑似遊技においても、メイン遊技と同様に、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転速度が定速回転速度に達するのを待って、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを有効化することとしている（ステップＳ１０６２参照）。しかし、疑似遊技においては、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転速度が定速回転速度に達する前に、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを有効化することとしてもよい。

【０６５５】

ステップＳ１０６８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リール（ステップＳ１０６５参照）が停止したか否かを判断する（ステップＳ１０６９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールの回転を減速させる制御が終了したか否かを判断する。メインＣＰＵ１０１は、減速用の励磁パターンの保持時間が満了したとき（制御対象リールの回転を停止させるのに要する時間が経過したとき）に、制御対象リールの回転を減速させる制御が終了した（制御対象リールが停止した）ことを認識することができる。

【０６５６】

制御対象リールが停止していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１０６９の処理を実行する。一方、制御対象リールが停止したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールを揺動させる制御を実行する（ステップＳ１０７０）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールを揺動させるための揺動用の励磁パターンに対応するデータをセットする。これにより、制御対象リールに対応するステッピングモータ５１が駆動制御され、制御対象リールが所定の態様で揺動する。揺動用の励磁パターンは、特に限定されないが、以下のように励磁パターンＩと励磁パターンＩＩとを繰り返すように２相励磁を行う構成を採用することが可能である。

【０６５７】

図示しないが、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒには、４つの励磁相（Ａ相、Ｂ相、Ｃ相、及び、Ｄ相）が時計回りに順次配置されており、１－２相励磁のパターンとして、８つの励磁パターン（Ａ相－Ｂ相、Ｂ相、Ｂ相－Ｃ相、Ｃ相、Ｃ相－Ｄ相、Ｄ相、Ｄ相－Ａ相、及び、Ａ相）が設けられている。例えば、上記励磁パターンＩとして基準となる励磁パターンからのオフセット値が２となる励磁パターン（例えば、Ｂ相－Ｃ相）を時間Ｔ１（例えば、３割込時間）に亘って保持し、上記励磁パターンＩＩとして基

準となる励磁パターンからのオフセット値が０となる励磁パターン（例えば、Ａ相－Ｂ相）を時間Ｔ２（例えば、３００割込時間）に亘って保持するような構成を採用することが可能である。Ｔ２は５００ｍｓ未満とすることが望ましく、また、Ｔ１とＴ２との合計時間も５００ｍｓ未満とすることが望ましく、例えば、Ｔ１を１～２０ｍｓ（あるいは、２～１０ｍｓ）程度の時間とし、Ｔ２を１００～４９０ｍｓ（あるいは、２００～４５０ｍｓ）程度の時間とすることが可能である。また、揺動用の励磁パターンに基づく励磁制御が行われる際のステッピングモータ５１の使用電流は、停止用の励磁パターンに基づく励磁制御が行われる際のステッピングモータ５１の使用電流よりも多くなるように構成し、定速用の励磁パターンに基づく励磁制御が行われる際のステッピングモータ５１の使用電流と同程度としてもよい。例えば、揺動用の励磁パターンに基づく励磁制御が行われる際のステッピングモータ５１の使用電流は、加速用の励磁パターン乃至減速用の励磁パターンに基づく励磁制御が行われる際のステッピングモータ５１の使用電流の６０％程度（例えば、４０～８０％、あるいは、５０～７０％程度）としてもよい。

【０６５８】

以上のようにステッピングモータ５１を駆動制御することにより、リール３を上下に揺動させることができる（図３９（ｂ）～（ｄ）、図４０（ｂ）～（ｄ）、及び、図４１（ｂ）～（ｄ）参照）。リール３の揺動態様は、遊技者が認識可能な程度にリール３が動いている限り、特に限定されない。もっとも、「揺動」とは、微振動であり、「仮停止」とも言い得るものであるため、振動の幅は、１図柄分（あるいは、１／２図柄分、１／４図柄分、１／８図柄分、又は、１／１６図柄分）を超えないことが望ましい。なお、「揺動」は、リール３が一定の周期で動作する場合だけでなく、リール３が非周期的に動作する場合を含む概念である。また、リール３が略完全に停止している期間が含まれる場合も、「揺動」に含まれるが、当該期間は、５００ｍｓ未満（例えば、１００～４９０ｍｓ、あるいは、２００～４５０ｍｓ）であることが望ましい。すなわち、５００ｍｓ未満の範囲でリール３が何らかの動作を行う場合には、「揺動」と呼ぶことが可能である。

【０６５９】

ステップＳ１０７０の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが存在するか否かを判断する（ステップＳ１０７１）。この処理は、図２９（リール停止制御処理）のステップＳ１２１の処理と同様の処理である。メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域（図２１参照）を参照することにより、ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの操作状況を認識することができる。

【０６６０】

有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが存在すると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１０６３に処理を移す。一方、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが存在しないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出決定処理（図４３参照）において選択されたロック演出番号がロック演出番号「５」であるか否かを判断する（ステップＳ１０７２）。

【０６６１】

選択されたロック演出番号がロック演出番号「５」ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出終了フラグをオンにセットし（ステップＳ１０７３）、本サブルーチンを終了する。一方、選択されたロック演出番号がロック演出番号「５」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技後リール演出処理を実行する（ステップＳ１０７４）。疑似遊技後リール演出処理については、後に図４８を用いて説明する。ステップＳ１０７４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６６２】

＜疑似遊技後リール演出処理＞

図４８は、主制御回路において行われる疑似遊技後リール演出処理を示すフローチャートである。

【０６６３】

図４８に示す疑似遊技後リール演出処理は、主制御回路１００において図４７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１０７４で行われる処理である。

【０６６４】

疑似遊技後リール演出処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、再加速処理を実行する（ステップＳ１０８１）。この処理は、図４４（ロック演出実行処理）のステップＳ１０２４の処理と同様の処理である。ステップＳ１０２４の処理において、メインＣＰＵ１０１は、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転の開始を要求するが、ステップＳ１０８１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌの回転の開始のみを要求する。これ以外の点については、ステップＳ１０２４において説明した通りである。ステップＳ１０８１の処理が実行されることにより、ステッピングモータ５１Ｌの駆動が制御され、左リール３Ｌの回転が開始される（図４１（ｅ）参照）。

【０６６５】

次に、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌが停止したか否かを判断する（ステップＳ１０８２）。この処理は、図４７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１０６９の処理と同様の処理である。メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌの再回転が開始してから所定時間が経過したときに、左リール３Ｌが停止したことを認識することができる。

【０６６６】

左リール３Ｌが停止していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１０８２の処理を実行する。一方、左リール３Ｌが停止したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌを揺動させる制御を実行する（ステップＳ１０８３）。この処理は、図４７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１０７０の処理と同様の処理である。これにより、ステッピングモータ５１Ｌの駆動が制御され、左リール３Ｌを上下に揺動させることができる（図４１（ｆ）参照）。

【０６６７】

その後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出終了フラグをオンにセットし（ステップＳ１０８４）、本サブルーチンを終了する。

【０６６８】

＜リール演出後疑似遊技中処理＞

図４９は、主制御回路において行われるリール演出後疑似遊技中処理を示すフローチャートである。

【０６６９】

図４９に示すリール演出後疑似遊技中処理は、主制御回路１００において図４６（疑似遊技中処理）のステップＳ１０４３で行われる処理である。上述したように、ロック演出番号「６」に対応するロック演出が選択されている場合、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転（図４４のステップＳ１０２４参照）が開始してから所定時間が経過したときに、疑似遊技中フラグがオンにセットされる。これにより、図４４のステップＳ１０２５の判断結果が「ＹＥＳ」となり、図４９に示すリール演出後疑似遊技中処理が開始されることになる。

【０６７０】

リール演出後疑似遊技中処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、リール演出後疑似遊技開始コマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１１０１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、リール演出後疑似遊技開始コマンドデータを生成し、生成したリール演出後疑似遊技開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納されたリール演出後疑似遊技開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、上記（ｉｉ）のリール演出が終了して上記（ｉｉｉ）の疑似遊技が開始されること（図３６参照）を認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。具体的に、リール演出後疑似遊技開始コマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、リール演出が終了して疑似遊技が開始されることに対応する演出デ

ータがセットされる。これにより、例えば、図示しないが、「レバーを叩け」といった内容の文字画像（「レバーを叩け」画像）がメイン表示装置２１０に表示され、遊技者に対してスタートレバー７を操作することを促すことができる。

【０６７１】

次に、メインＣＰＵ１０１は、スタートレバー７が操作されたか否かを判断する（ステップＳ１１０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、スタートスイッチ７Ｓがオン状態（図２５のステップＳ５０参照）となったか否かを判断する。スタートレバー７が操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１１０２の処理を実行する。一方、スタートレバー７が操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再加速処理を実行する（ステップＳ１１０３）。この処理は、図４８（疑似遊技後リール演出処理）のステップＳ１０８１の処理と同様の処理である。これにより、ステッピングモータ５１Ｌの駆動が制御され、左リール３Ｌの回転が開始される（図４２（ｅ）参照）。このように、図４９に示すリール演出後疑似遊技中処理では、リール演出の終了後、スタートレバー７が操作されることを条件として左リール３Ｌの再回転が行われることとして説明している。しかし、左リール３Ｌの再回転は、リール演出の終了後自動的に（リール演出において全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止してから所定時間が経過したときに）行われることとしてもよい。

【０６７２】

次に、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌの回転速度が定速回転速度に到達したか否かを判断する（ステップＳ１１０４）。上述したように、疑似遊技における定速回転速度は、メイン遊技における定速回転速度（８０回転／１分）と異なっていてもよい（図４７のステップＳ１０６１参照）。左リール３Ｌの回転速度が定速回転速度に到達していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１１０４の処理を実行する。一方、左リール３Ｌの回転速度が定速回転速度に到達したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌの停止を許可する（ステップＳ１１０５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域（図２１参照）のビット４に「１」を格納する。これにより、左ストップボタン８Ｌが有効化される。なお、上述したように、左リール３Ｌの回転速度が定速回転速度に達する前に、左ストップボタン８Ｌを有効化することとしてもよい（図４７のステップＳ１０６２参照）。

【０６７３】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１１０６～ステップＳ１１１１の処理を実行するが、これらの処理は、図４７のステップＳ１０６３～ステップＳ１０７０の処理と基本的に同様の処理である。図４７に示す通常疑似遊技中処理では、操作されたストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒに対応するリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが制御対象リールとして決定されるが、図４９に示すリール演出後疑似遊技中処理では、左リール３Ｌが制御対象リールとなっている。ステップＳ１１１１の処理が実行されることにより、ステッピングモータ５１Ｌの駆動が制御され、左リール３Ｌを上下に揺動させることができる（図４２（ｆ）参照）。その後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出終了フラグをオンにセットし（ステップＳ１１１２）、本サブルーチンを終了する。

【０６７４】

＜リール回転開始処理＞

図５０は、主制御回路において行われるリール回転開始処理を示すフローチャートである。

【０６７５】

図５０に示すリール回転開始処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１０で行われる処理である。

【０６７６】

リール回転開始処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延フラグ（図４４のステップＳ１０２８参照）がオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１１２１）。

【０６７７】
　ランダム遅延フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延フラグがオンにセットされてから（ロック演出が終了してから）所定時間が経過したか否かを判断する（ステップＳ１１２２）。所定時間が経過していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１１２２の処理を実行する。一方、所定時間が経過したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延処理を実行する（ステップＳ１１２３）。上述したように、ランダム遅延処理は、ロック演出の後、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対してランダムに遅延期間を発生させてから回転を開始させるための処理である。ランダム遅延処理の詳細については、後に図５１を用いて説明する。ステップＳ１１２３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延フラグをオフにセットし（ステップＳ１１２４）、本サブルーチンを終了する。
【０６７８】
　一方、ステップＳ１１２１においてランダム遅延フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常時加速処理を実行する（ステップＳ１１２５）。この処理は、図２３（メイン処理）のステップＳ１０で説明した通りの処理である。ステップＳ１１２５の処理において、メインＣＰＵ１０１は、ランダム遅延処理とは異なり、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転の開始を同時に要求する。これにより、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおける回転の開始及び加速が同時に行われ、同時に定速に達する。ステップＳ１１２５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【０６７９】
　図５０に示すリール回転開始処理では、ロック演出が終了すると、遊技者による操作を要することなく自動的にランダム遅延処理が実行されることとして説明している。しかし、ロック演出の終了後、遊技者による操作（例えば、スタートレバー７操作）が行われることを条件として、ランダム遅延処理が実行されることとしてもよい。この場合には、例えば、ステップＳ１１２２の判断結果が「ＹＥＳ」となったときに、上述した「レバーを叩け」画像（図４９のステップＳ１１０１参照）をメイン表示装置２１０に表示させるとよい。その後、スタートレバー７が操作されると、スタートレバー７が操作されたタイミングでランダム遅延処理（ステップＳ１１２３の処理）を開始するように構成することが可能である。一方、「レバーを叩け」画像が表示された後、所定時間以内にスタートレバー７が操作されなかった場合には、所定時間が経過したタイミングでランダム遅延処理を開始するようにしてもよい。
【０６８０】
＜ランダム遅延処理＞
　図５１は、主制御回路において行われるランダム遅延処理を示すフローチャートである。
【０６８１】
　図５１に示すランダム遅延処理は、主制御回路１００において図５０（リール回転開始処理）のステップＳ１１２３で行われる処理である。
【０６８２】
　ランダム遅延処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、左リール用乱数値、中リール用乱数値、及び、右リール用乱数値をそれぞれ取得する（ステップＳ１１４１）。左リール用乱数値、中リール用乱数値、及び、右リール用乱数値は、それぞれ、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転開始タイミングをランダムに決定するための乱数値である。ステップＳ１１４１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、左リール用乱数値として０～２０のうちの一の数値を取得し、中リール用乱数値として０～２０のうちの一の数値を取得し、右リール用乱数値として０～２０のうちの一の数値を取得する。
【０６８３】
　次に、メインＣＰＵ１０１は、左リール用乱数値、中リール用乱数値、及び、右リール用乱数値に対応する値を、それぞれ、左リール加速用タイマ、中リール加速用タイマ、及

び、右リール加速用タイマにセットする（ステップＳ１１４２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、左リール用乱数値に所定数（例えば、３２）を乗じて得られる値を左リール加速用タイマにセットし、中リール用乱数値に所定数（例えば、３２）を乗じて得られる値を中リール加速用タイマにセットし、右リール用乱数値に所定数（例えば、３２）を乗じて得られる値を右リール加速用タイマにセットする。例えば、左リール用乱数値が５であれば、左リール加速用タイマに「１６０」をセットし、中リール用乱数値が１０であれば、左リール加速用タイマに「３２０」をセットし、右リール用乱数値が１５であれば、右リール加速用タイマに「４８０」をセットする。左リール加速用タイマ、中リール加速用タイマ、及び、右リール加速用タイマは、それぞれ、タイマ更新処理（図３２のステップＳ２０６参照）により更新される。すなわち、左リール加速用タイマ、中リール加速用タイマ、及び、右リール加速用タイマは、それぞれ、定期割込処理（図３２参照）が１回行われるごとに１減少する。

【０６８４】

次に、メインＣＰＵ１０１は、左リール３Ｌが加速済みであるか否かを判断する（ステップＳ１１４３）。メインＣＰＵ１０１は、左リール加速済フラグ（ステップＳ１１４６参照）がオンにセットされている場合に、左リール３Ｌが加速済みであることを認識することができる。左リール３Ｌが加速済みではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール加速用タイマが０であるか否かを判断する（ステップＳ１１４４）。左リール加速用タイマが０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、左リール加速処理を実行する（ステップＳ１１４５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２４参照）において左リール３Ｌを加速させる際に用いられる励磁パターンと同じ励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるように制御を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、左リール加速済フラグをオンにセットする（ステップＳ１１４６）。

【０６８５】

ステップＳ１１４３において左リール３Ｌが加速済みであると判断した場合、ステップＳ１１４４において左リール加速用タイマが０ではないと判断した場合、又は、ステップＳ１１４６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、中リール３Ｃが加速済みであるか否かを判断する（ステップＳ１１４７）。メインＣＰＵ１０１は、中リール加速済フラグ（ステップＳ１１５０参照）がオンにセットされている場合に、中リール３Ｃが加速済みであることを認識することができる。中リール３Ｃが加速済みではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、中リール加速用タイマが０であるか否かを判断する（ステップＳ１１４８）。中リール加速用タイマが０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、中リール加速処理を実行する（ステップＳ１１４９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２４参照）において中リール３Ｃを加速させる際に用いられる励磁パターンと同じ励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるように制御を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、中リール加速済フラグをオンにセットする（ステップＳ１１５０）。

【０６８６】

ステップＳ１１４７において中リール３Ｃが加速済みであると判断した場合、ステップＳ１１４８において中リール加速用タイマが０ではないと判断した場合、又は、ステップＳ１１５０の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、右リール３Ｒが加速済みであるか否かを判断する（ステップＳ１１５１）。メインＣＰＵ１０１は、右リール加速済フラグ（ステップＳ１１５４参照）がオンにセットされている場合に、右リール３Ｒが加速済みであることを認識することができる。右リール３Ｒが加速済みではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、右リール加速用タイマが０であるか否かを判断する（ステップＳ１１５２）。右リール加速用タイマが０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、右リール加速処理を実行する（ステップＳ１１５３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２４参照）において右リール３Ｒを加速させる際に用いられる励磁パターンと同じ励磁パターンに基づいて励磁相が励磁さ

れるように制御を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、右リール加速済フラグをオンにセットする（ステップＳ１１５４）。

【０６８７】

ステップＳ１１５１において右リール３Ｒが加速済みであると判断した場合、ステップＳ１１５２において右リール加速用タイマが０ではないと判断した場合、又は、ステップＳ１１５４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが加速済みであるか否かを判断する（ステップＳ１１５５）。メインＣＰＵ１０１は、左リール加速済フラグ、中リール加速済フラグ、及び、右リール加速済フラグが全てオンにセットされている場合に、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが加速済みであることを認識することができる。少なくとも一のリール３が加速済みではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１１４３に処理を戻す。一方、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが加速済みであると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０６８８】

以上より、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転開始タイミングは、ランダムに決定され、この点において、ランダム遅延処理（ロック演出が行われた場合におけるリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの加速処理）は、通常時加速処理（ロック演出が行われなかった場合におけるリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの加速処理）と異なっている。もっとも、回転後の各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの挙動（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始してから定速に達するまでの時間）は、ロック演出が行われた場合とロック演出が行われなかった場合とで同じとなっている。

【０６８９】

＜疑似遊技におけるリール制御状態＞

図５２～図５４は、疑似遊技が行われる場合におけるリール制御状態の時間的変化の一例を示す図である。

【０６９０】

図５２及び図５３では、ロック演出番号「３」（図３６参照）に対応するロック演出が行われる場合における遊技者による操作とリール制御状態との関係性を示している。図５４では、ロック演出番号「６」（図３６参照）に対応するロック演出が行われる場合における遊技者による操作とリール制御状態との関係性を示している。図中、「加速」は、リール制御状態が加速制御状態であることを示し、「定速」は、リール制御状態が定速制御状態であることを示し、「減速」は、リール制御状態が減速制御状態であることを示し、「停止」は、リール制御状態が停止制御状態であることを示し、「揺動」は、リール制御状態が揺動制御状態であることを示す。

【０６９１】

加速制御状態は、加速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁される状態であり、定速制御状態は、定速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁される状態であり、減速制御状態は、減速用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁される状態であり、停止制御状態は、停止用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁される状態であり、揺動制御状態は、揺動用の励磁パターンに基づいて励磁相が励磁される状態である。リール制御状態を示す情報（リール制御状態フラグ）は、メインＲＡＭ１０３のリール制御状態フラグ格納領域（図示せず）に格納されている。メインＣＰＵ１０１は、リール制御状態フラグ格納領域を参照することにより、現在のリール制御状態を認識し、リール制御処理（図３２のステップＳ２０３参照）において、当該リール制御状態に応じた励磁パターンに基づいて励磁相が励磁されるように、各ステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒを制御する。

【０６９２】

図５２に示す例では、スタートレバー７が操作されると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、所定時間が経過すると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。その後、第１停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第１停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第１停止リールの回転

が停止すると、当該第１停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。同様に、第２停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第２停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第２停止リールの回転が停止すると、当該第２停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。同様に、第３停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第３停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第３停止リールの回転が停止すると、当該第３停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。そして、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が揺動制御状態となった後、ランダム遅延処理が行われると、ランダムなタイミングで、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、その後、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。

【０６９３】

図５３に示す例では、スタートレバー７が操作されると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、所定時間が経過すると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。その後、第１停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第１停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第１停止リールの回転が停止すると、当該第１停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。同様に、第２停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第２停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第２停止リールの回転が停止すると、当該第２停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。同様に、第３停止操作として何れかのストップボタン８が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第３停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第３停止リールの回転が停止すると、当該第３停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。そして、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が揺動制御状態となってから所定時間が経過したときに、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が停止制御状態となる。その後、ランダム遅延処理が行われると、ランダムなタイミングで、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、その後、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。

【０６９４】

以上のように、ランダム遅延処理が行われるとき、図５２に示す例では、揺動制御状態から加速制御状態に直接移行させることとしているのに対し、図５３に示す例では、揺動制御状態からいったん停止制御状態に移行させ、その後、停止制御状態から加速制御状態に移行させることとしている。本実施形態では、このように、揺動制御状態と加速制御状態との間に停止制御状態を介在させてもよいし介在させなくてもよい。停止制御状態を介在させる場合、揺動制御状態から停止制御状態に移行させるタイミングは、特に限定されない。例えば、図５０のステップＳ１１２２の判断結果が「ＹＥＳ」となったときに、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態を揺動制御状態から停止制御状態に移行させることとしてもよい。また、疑似遊技からメイン遊技に移行させる際に（例えば、図５０のステップＳ１１２２の判断結果が「ＹＥＳ」となったときに）、上述した「レバーを叩け」画像（図４９のステップＳ１１０１参照）をメイン表示装置２１０に表示させることとし、スタートレバー７が操作されたときに、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態を揺動制御状態から停止制御状態に移行させることとしてもよい。これらの場合には、停止制御状態に移行するタイミングで、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの揺動が同時に終了することになる。当該タイミングは、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）が開始される前であってもよいし、ランダム遅延処理が開始された後であってもよい。一方で、本実施形態では、リール３ごとに異なるタイミングで（停止操作が行われた順序で）、揺動を終了させることとしてもよい。例えば、それぞれのリール３について、リール制御状態が揺動制御状態に移行してから（回転が停止してから）所

定時間が経過したときに、揺動制御状態から停止制御状態に移行させることとしてもよい。

【０６９５】

図５４に示す例では、スタートレバー７が操作されると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、所定時間が経過すると、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。その後、所定時間が経過すると、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）に対するリール制御状態が減速制御状態を経て停止制御状態となる。同様に、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）、第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）に対するリール制御状態が減速制御状態を経て停止制御状態となる。同様に、遊技者の停止操作によらずして（自動的に）、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）に対するリール制御状態が減速制御状態を経て停止制御状態となる。その後、上述した「レバーを叩け」画像（図４９のステップＳ１１０１参照）がメイン表示装置２１０に表示され、スタートレバー７が操作されると、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）に対するリール制御状態が加速制御状態を経て定速制御状態となる。そして、第３停止リールに対応するストップボタン８（例えば、左ストップボタン８Ｌ）が操作されると、当該停止操作の対象となったリール３（第３停止リール）に対するリール制御状態が減速制御状態となり、当該第３停止リールの回転が停止すると、当該第３停止リールのリール制御状態は、揺動制御状態となる。その後、ランダム遅延処理が行われると、ランダムなタイミングで、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態が加速制御状態となり、その後、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対するリール制御状態は、定速制御状態となる。

【０６９６】

以上のように、図５４に示す例では、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）及び第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）の回転が自動的に停止されるところ、これらのリールについては、停止後にリール制御状態が揺動制御状態とならないこととしている。このように、本実施形態においては、遊技者の停止操作によらずして一のリール３が停止する場合、当該リール３を揺動させないように構成することが可能である。例えば、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）及び第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）の回転が自動的に停止された後、遊技者の停止操作に応じて第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）の回転が停止される場合、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）及び第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）が停止したときにはこれらのリール３を揺動させない一方、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）が停止したときには当該リール３を揺動させることとしてもよい。この場合、図５４に示す例のように、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）をいったん自動的に停止させ、再回転後に行われる停止操作に応じて当該第３停止リールを再度停止させてもよいし、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）をいったん自動的に停止させることなく、（再回転を経由することなく最初から）停止操作に応じて第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）を停止させることとしてもよい。同様に、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）の回転が自動的に停止された後、遊技者の停止操作に応じて第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）及び第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）の回転が停止される場合、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）が停止したときには当該リール３を揺動させない一方、第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）及び第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）が停止したときにはこれらのリール３を揺動させることとしてもよい。以上では、先に停止されるリール３が自動的に停止され、後で停止されるリール３が遊技者の停止操作に応じて停止されることとして説明したが、逆に、先に停止されるリール３が遊技者の停止操作に応じて停止され、後で停止されるリール３が自動的に停止されることとしてもよい。

【０６９７】

なお、本実施形態においては、遊技者の停止操作によらずして一のリール３が停止する場合であっても、当該リール３を揺動させるように構成することも可能である。例えば、図５４に示すような態様で第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）～第３停止リール（

例えば、左リール３Ｌ）の回転が自動的に停止される場合、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）が停止したときに第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）を揺動させ、第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）が停止したときに第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）を揺動させ、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）が停止したときに第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）を揺動させることとしてもよい。

【０６９８】

図５２～図５４では、遊技者が一のストップボタン８を操作し、当該ストップボタン８が操作状態から非操作状態に変化した（ストップスイッチ８Ｓがオン状態からオフ状態に変化した、すなわち、オフエッジとなった）後、当該ストップボタン８に対応するリール３に対するリール制御状態が揺動制御状態となるものとして図示した。本実施形態では、ストップボタン８が操作状態から非操作状態に変化した（オフエッジとなった）ときに当該ストップボタン８に対応するリール３の揺動を開始してもよいし、ストップボタン８が非操作状態から操作状態に変化した（ストップスイッチ８Ｓがオフ状態からオン状態に変化した、すなわち、オンエッジとなった）ときに当該ストップボタン８に対応するリール３の揺動を開始してもよい。例えば、第１停止操作のオンエッジ時（第１停止リールの揺動無し）→第１停止操作のオフエッジ時（第１停止リールの揺動開始）→第２停止操作のオンエッジ時（第２停止リールの揺動無し）→第２停止操作のオフエッジ時（第２停止リールの揺動開始）→第３停止操作のオンエッジ時（第３停止リールの揺動無し）→第３停止操作のオフエッジ時（第３停止リールの揺動開始）となるように構成してもよい。

【０６９９】

また、本実施形態では、遊技者の停止操作に応じて第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）～第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）の回転が停止される場合（図５２及び図５３参照）、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）及び第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）が停止したときにはこれらのリール３を揺動させず、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）が停止したときに全てのリール３を揺動させることとしてもよい。例えば、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）に対応するストップスイッチ８Ｓのオフエッジが検出されたときに、全てのリール３を揺動させることとしてもよい。あるいは、このとき、第１停止リール（例えば、右リール３Ｒ）及び第２停止リール（例えば、中リール３Ｃ）は揺動させず、第３停止リール（例えば、左リール３Ｌ）のみを揺動させることとしてもよい。例えば、第１停止操作のオンエッジ時（第１停止リールの揺動無し）→第１停止操作のオフエッジ時（第１停止リールの揺動無し）→第２停止操作のオンエッジ時（第２停止リールの揺動無し）→第２停止操作のオフエッジ時（第２停止リールの揺動無し）→第３停止操作のオンエッジ時（第３停止リールの揺動無し）→第３停止操作のオフエッジ時（全てのリールの揺動開始）となるように構成してもよい。

【０７００】

以上、本発明の一実施形態として、第２実施形態に係るパチスロ機１について説明した。

【０７０１】

［第３実施形態］

以上、第１、第２実施形態について説明した。以下、第３実施形態について説明する。第３実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１、第２実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１、第２実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１、第２実施形態における説明が第３実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。

【０７０２】

なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第３実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第３実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２実施形態

に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第３実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第３実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１、第２実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第３実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。

【０７０３】

また、第１、第２実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１、第２実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。

【０７０４】

＜ロック演出実行処理＞

図５５は、主制御回路において行われるロック演出実行処理を示すフローチャートである。図５６は、主制御回路において行われる疑似遊技開始用処理を示すフローチャートである。

【０７０５】

図５５に示すロック演出実行処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ８（遊技開始時メイン側演出制御処理）で行われる処理である。第３実施形態では、図２３（メイン処理）のステップＳ８（遊技開始時メイン側演出制御処理）で行われる処理として、図４４に示すロック演出実行処理が行われることとして説明した。本実施形態では、図２３（メイン処理）のステップＳ８（遊技開始時メイン側演出制御処理）で行われる処理として、図４４に示すロック演出実行処理が行われることとしてもよいし、図５５に示すロック演出実行処理が行われることとしてもよい。

【０７０６】

ロック演出実行処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグ（図４３のステップＳ１００６、ステップＳ１０１１、及び、ステップＳ１０１３参照）がオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１２０１）。ロック演出開始フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７０７】

一方、ロック演出開始フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始用処理を実行する（ステップＳ１２０２）。ここで、図５６を用いて、疑似遊技開始用処理について説明する。

【０７０８】

疑似遊技開始用処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出決定処理（図４３参照）において選択されたロック演出番号がロック演出番号「３」、「４」、及び、「５」のうちの何れかであるか否かを判断する（ステップＳ１２２１）。選択されたロック演出番号がロック演出番号「３」、「４」、及び、「５」のうちの何れでもないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７０９】

一方、選択されたロック演出番号がロック演出番号「３」、「４」、及び、「５」のうちの何れかであると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、所定時間（例えば、５秒）に対応する値を疑似遊技開始時ロックタイマにセットする（ステップＳ１２２２）。疑似遊技開始時ロックタイマは、タイマ更新処理（図３２のステップＳ２０６参照）により更新される。すなわち、疑似遊技開始時ロックタイマは、定期割込処理（図３２参照）が１回行われるごとに１減少する。

【０７１０】

次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始時ロックタイマが０であるか否かを判断する（ステップＳ１２２３）。疑似遊技開始時ロックタイマが０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、再度ステップＳ１２２３の処理を実行する。これにより、所定時

間（例えば、５秒）に亘って疑似遊技開始時ロックが行われることになる。疑似遊技開始時ロックは、リール演出及び疑似遊技を伴わないロック演出（フリーズ）であってもよいし、リール演出（スロー回転、高速回転、逆回転等のリールアクション）を伴うロック演出であってもよい。疑似遊技開始時ロックが行われている間、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒは、停止した状態が維持されており、遊技者が何らかの操作を行ったとしても、当該操作は無効となる。

【０７１１】

一方、疑似遊技開始時ロックタイマが０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始コマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１２２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始コマンドデータを生成し、生成した疑似遊技開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された疑似遊技開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、疑似遊技が開始するタイミングであることを認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。

【０７１２】

具体的に、疑似遊技開始コマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、疑似遊技が開始されることに対応する演出データがセットされる。これにより、例えば、図示しないが、「レバーを叩け」といった内容の文字画像（「レバーを叩け」画像）がメイン表示装置２１０に表示され、遊技者に対してスタートレバー７を操作することを促すことができる。

【０７１３】

次に、メインＣＰＵ１０１は、スタートレバー７が操作されたか否かを判断する（ステップＳ１２２５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、スタートスイッチ７Ｓがオン状態（図２５のステップＳ５０参照）となったか否かを判断する。スタートレバー７が操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７１４】

一方、スタートレバー７が操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始コマンド生成格納処理を実行してから（「レバーを叩け」画像が表示されてから）所定時間が経過したか否かを判断する（ステップＳ１２２６）。所定時間が経過していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１２２５に処理を戻す。一方、所定時間が経過したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技キャンセルフラグをオンにセットする（ステップＳ１２２７）。疑似遊技キャンセルフラグは、疑似遊技をキャンセルするために用いられるフラグである。その後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオフにセットし（ステップＳ１２２８）、本サブルーチンを終了する。

【０７１５】

以上、図５６を用いて、図５５のステップＳ１２０２で行われる疑似遊技開始用処理について説明した。図５５に説明を戻す。

【０７１６】

ステップＳ１２０２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技キャンセルフラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１２０３）。疑似遊技キャンセルフラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７１７】

一方、疑似遊技キャンセルフラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１２０４～ステップＳ１２１０の処理を実行するが、これらの処理は、図４４のステップＳ１０２２～ステップＳ１０２８の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７１８】
以上より、ロック演出決定処理（図４３参照）においてロック演出番号「３」～「５」のうちの何れかに対応するロック演出が選択された場合には、疑似遊技開始時ロックが行われる。その後、スタートレバー７が操作された場合には、疑似遊技用にリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始されて疑似遊技が行われ（図５５のステップＳ１２０６及びステップＳ１２０８参照）、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。一方、「レバーを叩け」画像が表示されてから所定時間以内にスタートレバー７が操作されなかった場合には、疑似遊技（疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転）が行われずに、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２５参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。

【０７１９】
このように、図５５に示すロック演出実行処理では、スタートレバー７が操作されることを条件として、疑似遊技が開始されることとして説明した。しかし、第２実施形態で説明したように、疑似遊技が開始されるための条件は、スタートレバー７の操作に限定されず、任意の操作部（例えば、スタートレバー７、ＭＡＸベットボタン６ａ、１ベットボタン６ｂ、精算ボタン９等）の操作を適宜採用することが可能である。また、疑似遊技がキャンセルされる（疑似遊技キャンセルフラグがオンにセットされる）ための条件は、所定時間の経過に限定されず、任意の操作部（例えば、スタートレバー７、ＭＡＸベットボタン６ａ、１ベットボタン６ｂ、精算ボタン９等）の操作を適宜採用することが可能である。

【０７２０】
＜通常疑似遊技中処理＞
図５７は、主制御回路において行われる通常疑似遊技中処理を示すフローチャートである。図５８は、主制御回路において行われるストップボタン操作受付処理を示すフローチャートである。図５９は、主制御回路において行われる揺動制御処理を示すフローチャートである。図６０は、主制御回路において行われる疑似遊技終了用処理を示すフローチャートである。

【０７２１】
図５７に示す通常疑似遊技中処理は、主制御回路１００において図４６（疑似遊技中処理）のステップＳ１０４２で行われる処理である。第２実施形態では、図４６（疑似遊技中処理）のステップＳ１０４２で行われる処理として、図４７に示す通常疑似遊技中処理が行われることとして説明した。本実施形態では、図４６（疑似遊技中処理）のステップＳ１０４２で行われる処理として、図４７に示す通常疑似遊技中処理が行われることとしてもよいし、図５７に示す通常疑似遊技中処理が行われることとしてもよい。

【０７２２】
通常疑似遊技中処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１２４１及びステップＳ１２４２の処理を実行するが、これらの処理は、図４７のステップＳ１０６１及びステップＳ１０６２の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。

【０７２３】
ステップＳ１２４２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作受付処理を実行する（ステップＳ１２４３）。ここで、図５８を用いて、ストップボタン操作受付処理について説明する。

【０７２４】
ストップボタン操作受付処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１２６１）。ストップボタン操作キャンセルフラグは、疑似遊技においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にセットされるフラグである（ステップＳ１２６４参照）。ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７２５】
一方、ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されたか否かを判断する（ステップＳ１２６２）。この処理は、図４７のステップＳ１０６３の処理と同様の処理である。メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域（図２１参照）を参照することにより、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを認識することができる。

【０７２６】
有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ＭＡＸベットボタン６ａが操作されたか否かを判断する（ステップＳ１２６３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ベットスイッチ６Ｓがオン状態となったか否かを判断する。

【０７２７】
ＭＡＸベットボタン６ａが操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作キャンセルフラグをオンにセットする（ステップＳ１２６４）。ストップボタン操作キャンセルフラグは、残っているストップボタン操作を全て省略することを示すフラグである。ステップＳ１２６４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７２８】
一方、ＭＡＸベットボタン６ａが操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、図５８に示すストップボタン操作受付処理を開始してから所定時間が経過したか否かを判断する（ステップＳ１２６５）。所定時間が経過していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１２６２に処理を戻す。一方、所定時間が経過したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作省略フラグをオンにセットする（ステップＳ１２６６）。ストップボタン操作省略フラグは、今回のストップボタン操作を省略することを示すフラグである。ステップＳ１２６６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７２９】
以上、図５８を用いて、図５７のステップＳ１２４３で行われるストップボタン操作受付処理について説明した。図５７に説明を戻す。

【０７３０】
ステップＳ１２４３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域及び押下順序格納領域を更新し（ステップＳ１２４４）、制御対象リールを決定する（ステップＳ１２４５）。これらの処理において、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作キャンセルフラグ及びストップボタン操作省略フラグが何れもオンにセットされていない場合、図４７のステップＳ１０６４及びステップＳ１０６５の処理と同様の処理を行う。一方、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作キャンセルフラグ又はストップボタン操作省略フラグがオンにセットされている場合、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒのうち最も左に位置するストップボタン８が操作されたものとして、作動ストップボタン格納領域を更新するとともに、制御対象リールを決定する。

【０７３１】
例えば、全てのストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが有効である場合、メインＣＰＵ１０１は、左ストップボタン８Ｌが操作されたときと同様に、作動ストップボタン格納領域のビット０に「１」を格納し、ビット４を「０」に更新するとともに、左リール３Ｌを制御対象リールとして決定する。また、中ストップボタン８Ｃ及び右ストップボタン８Ｒが有効である場合、メインＣＰＵ１０１は、中ストップボタン８Ｃが操作されたときと同様に、作動ストップボタン格納領域のビット１に「１」を格納し、ビット５を「０」に更新するとともに、中リール３Ｃを制御対象リールとして決定する。また、左ストップボタン８Ｌ及び中ストップボタン８Ｃが有効である場合、メインＣＰＵ１０１は、左ストップボタ

ン８Ｌが操作されたときと同様に、作動ストップボタン格納領域のビット０に「１」を格納し、ビット４を「０」に更新するとともに、左リール３Ｌを制御対象リールとして決定する。また、右ストップボタン８Ｒのみが有効である場合、メインＣＰＵ１０１は、右ストップボタン８Ｒが操作されたときと同様に、作動ストップボタン格納領域のビット２に「１」を格納し、ビット６を「０」に更新するとともに、右リール３Ｒを制御対象リールとして決定する。

【０７３２】

続いて、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１２４６～ステップＳ１２４９の処理を実行するが、これらの処理は、図４７のステップＳ１０６６～ステップＳ１０６９の処理と基本的に同様の処理である。ステップＳ１２４６の処理において、ステップＳ１０６６の処理と同様に、メインＣＰＵ１０１は、停止開始位置（ステップＳ１１６参照）にかかわらず、最終的に図柄が停止する位置として予め定められた位置を停止予定位置として決定し格納する。これにより、ストップボタン操作キャンセルフラグ乃至ストップボタン操作省略フラグがオンにセットされているか否かにかかわらず、図３９（ｂ）～（ｄ）、図４０（ｂ）～（ｄ）、及び、図４１（ｂ）～（ｄ）に示すような態様で、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止する。

【０７３３】

ここで、ストップボタン操作キャンセルフラグ乃至ストップボタン操作省略フラグがオンにセットされている場合には、ストップボタン操作キャンセルフラグ及びストップボタン操作省略フラグがオンにセットされていない場合と比較して、制御対象リールが停止するまでの回転態様を異ならせることとしてもよい。例えば、ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされている場合（ＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合）には、ストップボタン操作キャンセルフラグ及びストップボタン操作省略フラグが何れもオンにセットされていない場合（ストップボタン８が操作された場合）と比較して、当該ボタンが操作されてから制御対象リールが停止するまでの時間が長くなるようにしてもよい（例えば、制御対象リールを１回余分に回転させた上で停止させることとしてもよい）。ただ、回転態様に差異があったとしても、最終的に停止表示される図柄は、ストップボタン操作キャンセルフラグ乃至ストップボタン操作省略フラグがオンにセットされているか否かにかかわらず同じ図柄となっている。

【０７３４】

ステップＳ１２４９において制御対象リールが停止したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、揺動制御処理を実行する（ステップＳ１２５０）。ここで、図５９を用いて、揺動制御処理について説明する。

【０７３５】

揺動制御処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１２８１）。ストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作省略フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１２８２）。ストップボタン操作省略フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ストップボタン操作省略フラグをオフにセットする（ステップＳ１２８３）。

【０７３６】

ステップＳ１２８１においてストップボタン操作キャンセルフラグがオンにセットされていると判断した場合、又は、ステップＳ１２８３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールを停止させる制御を実行する（ステップＳ１２８４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールを停止させるための停止用の励磁パターンに対応するデータをセットする。これにより、図３９（ｂ）～（ｄ）、図４０（ｂ）～（ｄ）、及び、図４１（ｂ）～（ｄ）に示すような態様で制御対象リールが停止した状態が維持される（図示とは異なり、揺動は発生しない）。

【０７３７】

ステップＳ１２８２においてストップボタン操作省略フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、制御対象リールを揺動させる制御を実行する（ステップＳ１２８５）。この処理は、図４７のステップＳ１０７０の処理と同様の処理である。これにより、図３９（ｂ）～（ｄ）、図４０（ｂ）～（ｄ）、及び、図４１（ｂ）～（ｄ）に示すような態様で制御対象リールが揺動する。

【０７３８】

ステップＳ１２８４又はステップＳ１２８５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７３９】

以上、図５９を用いて、図５７のステップＳ１２５０で行われる揺動制御処理について説明した。図５７に説明を戻す。

【０７４０】

ステップＳ１２５０の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが存在するか否かを判断する（ステップＳ１２５１）。この処理は、図４７のステップＳ１０７１の処理と同様の処理である。有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが存在しないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技終了用処理を実行する（ステップＳ１２５２）。ここで、図６０を用いて、疑似遊技終了用処理について説明する。

【０７４１】

疑似遊技終了用処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出決定処理（図４３参照）において選択されたロック演出番号がロック演出番号「３」であるか否かを判断する（ステップＳ１３０１）。選択されたロック演出番号がロック演出番号「３」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、外部集中端子板５５を介してＡＴ相当信号を出力する（ステップＳ１３０２）。第１実施形態で説明したように、外部集中端子板５５は、パチスロ機１外部のデータ表示機やホールコンピュータに接続されており、これらの機器においても、パチスロ機１におけるメダルの投入状況や遊技状態の遷移状況が認識可能となっている。

【０７４２】

ＡＴ相当信号は、ＡＴ状態が開始されることに基づいてオン状態とされ、ＡＴ状態が終了されることに基づいてオフ状態とされる外部信号である。ステップＳ１３０２の処理において、メインＣＰＵ１０１は、当該外部信号をオン状態とする。同様に、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、図４８のステップＳ１０８３の処理を実行した後、当該外部信号をオン状態とする。これにより、データ表示機やホールコンピュータでは、ＡＴ状態が開始されたと認識されることになる。

【０７４３】

このように、本実施形態では、ロック演出番号「３」又は「５」に対応するロック演出が終了する際（「赤７」図柄揃いが停止表示されたとき）に、ＡＴ相当信号をオン状態とするように構成されている。また、第１実施形態で説明したように、複数のＡＴ状態（所定のＡＴ状態及び特定のＡＴ状態）を設け、各ＡＴ状態は、遊技者にとっての有利度が互いに異なるようにしてもよい。このようなＡＴ状態としては、例えば、第１実施形態で説明した疑似ＢＢ（ビッグボーナス）及び疑似ＲＢ（レギュラーボーナス）を採用することができる。そして、疑似ＢＢに移行させることが決定された場合及び疑似ＲＢに移行させることが決定された場合の双方において、疑似遊技で同一の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されるようにしてもよい。さらに、疑似ＢＢに移行させることが決定された場合に疑似遊技で特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されたときと、疑似ＲＢに移行させることが決定された場合に疑似遊技で特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されたときとで、同一のＡＴ相当信号をオン状態とするようにしてもよい。これにより、疑似遊技で特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示された時点では、疑似ＢＢと疑似ＲＢとのうち何れの疑似ボーナスに移行させることが決定されたのかを分からなくすることが可能であり、遊技者に対

して期待感を抱かせることができる。なお、実際に疑似ＢＢ乃至疑似ＲＢが開始するタイミングは、特に限定されないが、疑似遊技で特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示された後（当該疑似遊技が行われた単位遊技、又は、当該単位遊技よりも所定回数後に行われる単位遊技）とすることが可能である。例えば、メイン遊技において「赤７」図柄揃いが有効ラインに沿って停止表示されたことを契機として疑似ＢＢが開始され、メイン遊技において「ＢＡＲ」図柄揃いが有効ラインに沿って停止表示されたことを契機として疑似ＲＢが開始されるようにしてもよい。

【０７４４】

以上では、疑似遊技において特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されたとき（ランダム遅延処理が開始される前）にＡＴ相当信号をオン状態とすることとして説明したが、同様に、リール演出において特定の図柄組合せ（例えば、「赤７」図柄揃い）が停止表示されたとき（ランダム遅延処理が開始される前）にＡＴ相当信号をオン状態とすることとしてもよい。また、実際に疑似ボーナスが開始するタイミング（例えば、図２８のステップＳ１０６）でＡＴ相当信号をオン状態とすることとしてもよい。また、ＡＴ相当信号をオフ状態とするタイミングも、特に限定されないが、実際に疑似ボーナスが終了するタイミング（例えば、図３１のステップＳ１５５）でＡＴ相当信号をオフ状態とすることが可能である。なお、第１実施形態で説明したように、最初の１セット目のＡＴ状態が開始されたことに基づいて外部信号１（上記ＡＴ相当信号）をオン状態とし、２セット目以降は当該セットが開始される度に外部信号２をオン状態としてもよい。この観点から、疑似遊技は、最初の１セット目のＡＴ状態に移行させることが決定された場合にのみ行われる（例えば、１Ｇ連抽籤に当籤した場合には行われない）こととしてもよい。また、ＡＴ相当信号をオン状態とするときには、第１実施形態で説明した区間ランプが点灯した状態となっている。

【０７４５】

ステップＳ１３０１においてロック演出番号がロック演出番号「３」ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出決定処理（図４３参照）において選択されたロック演出番号がロック演出番号「５」であるか否かを判断する（ステップＳ１３０３）。ステップＳ１３０２の処理を実行した後、又は、ステップＳ１３０３においてロック演出番号がロック演出番号「５」ではない（すなわち、ロック演出番号「４」である）と判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、外部集中端子板５５を介してメダル投入信号を出力する（ステップＳ１３０４）。

【０７４６】

第１実施形態で説明したように、メダル投入信号は、メダルが投入された場合に外部集中端子板５５から出力される信号である（図２５のステップＳ４２及びステップＳ４６参照）。すなわち、メダル投入信号は、メイン遊技が１回行われるごとに出力され、メダル投入信号を介して、データ表示機やホールコンピュータにおいてパチスロ機１で行われた遊技の回数を認識することができるようになっている。本実施形態では、疑似遊技においてもメダル投入信号を出力することにより、当該遊技の回数は、疑似遊技も含めた回数（メイン遊技の回数と疑似遊技の回数との合計回数）となっている。これにより、疑似遊技が行われた場合においても遊技回数がカウントアップされる仕様となっている。図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、図４８のステップＳ１０８３の処理を実行した後においても、メダル投入信号を出力する。

【０７４７】

メダル投入信号は、疑似遊技が開始するタイミング又は疑似遊技が終了するタイミングで出力することが可能である。疑似遊技が開始するタイミングとしては、例えば、スタートレバー７が操作されたとき（例えば、図５６のステップＳ１２２５の判断結果が「ＹＥＳ」となったとき）や、疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始するとき（例えば、図５５のステップＳ１２０６の処理が行われるタイミング）を挙げることができる。疑似遊技が終了するタイミングとしては、例えば、疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したとき（例えば、図６０の処理が行われるタイミング）や、メイン遊技

用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始するとき（例えば、図５０のステップＳ１１２２の判断結果が「ＹＥＳ」となったときや、ランダム遅延処理により１つ目のリールが回転を開始するタイミング）を挙げることができる。なお、疑似遊技においてメダル投入信号が出力される場合、当該疑似遊技の行われる単位遊技においては、メダルが投入された際にメダル投入信号が出力されないように構成してもよい。

【０７４８】

ステップＳ１３０４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出終了フラグをオンにセットし（ステップＳ１３０５）、本サブルーチンを終了する。一方、ステップＳ１３０３においてロック演出番号がロック演出番号「５」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技後リール演出処理を実行する（ステップＳ１３０６）。疑似遊技後リール演出処理については、図４８を用いて説明した通りであるため、ここでの説明は省略する。ステップＳ１３０６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７４９】

以上、図６０を用いて、図５７のステップＳ１２５２で行われる疑似遊技終了用処理について説明した。図５７に説明を戻す。ステップＳ１２５２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７５０】

＜疑似遊技チャレンジ操作受付処理＞

図６１は、主制御回路において行われる疑似遊技チャレンジ操作受付処理を示すフローチャートである。

【０７５１】

図６１に示す疑似遊技チャレンジ操作受付処理は、主制御回路１００において図５７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１２４３で行われる処理である。以上では、図５７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１２４３で行われる処理として、図５８に示すストップボタン操作受付処理が行われることとして説明した。本実施形態では、図５７（通常疑似遊技中処理）のステップＳ１２４３で行われる処理として、図６１に示す疑似遊技チャレンジ操作受付処理が行われる場合があることとしてもよい。

【０７５２】

具体的に、全てのストップボタン８が有効である場合（ストップボタン８がまだ１つも操作されていない場合）、すなわち、今回の停止操作が第１停止操作である場合には、図６１に示す疑似遊技チャレンジ操作受付処理が行われることとし、無効なストップボタン８が存在する場合（少なくとも一のストップボタン８が操作済みである場合）、すなわち、今回の停止操作が第２停止操作又は第３停止操作である場合には、図５８に示すストップボタン操作受付処理が行われることとしてもよい。メインＣＰＵ１０１は、作動ストップボタン格納領域（図２１参照）を参照することにより、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒ及び無効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを認識することができる。

【０７５３】

疑似遊技チャレンジ操作受付処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技進行用ストップボタンを決定する（ステップＳ１３２１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、左ストップボタン８Ｌ、中ストップボタン８Ｃ、及び、右ストップボタン８Ｒのうちの一のストップボタン８を疑似遊技進行用ストップボタンとして決定する。

【０７５４】

次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始コマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１３２２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技開始コマンドデータを生成し、生成した疑似遊技開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された疑似遊技開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、疑似遊技が開始するタ

イミングであることを認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。

【０７５５】

具体的に、疑似遊技開始コマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、疑似遊技が開始されることに対応する演出データがセットされる。これにより、例えば、図示しないが、「ストップボタンの３択正解で疑似遊技スタート」といった内容の文字画像がメイン表示装置２１０に表示され、遊技者に対してストップボタン８を操作することを促すことができる。

【０７５６】

次に、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されたか否かを判断する（ステップＳ１３２３）。この処理は、図４７のステップＳ１０６３の処理と同様の処理である。有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、操作されたストップボタン８がステップＳ１３２１で決定した疑似遊技進行用ストップボタンと一致するか否かを判断する（ステップＳ１３２４）。

【０７５７】

操作されたストップボタン８が疑似遊技進行用ストップボタンと一致すると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了し、図５７のステップＳ１２４４に処理を移す。一方、操作されたストップボタン８が疑似遊技進行用ストップボタンと一致しないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技キャンセルフラグをオンにセットし（ステップＳ１３２５）、本サブルーチンを終了する。

【０７５８】

図示しないが、疑似遊技キャンセルフラグがオンにセットされている場合、メインＣＰＵ１０１は、図６１に示す疑似遊技チャレンジ操作受付処理を終了した後、図５７のステップＳ１２４４～ステップＳ１２５２の処理を行うことなく、図５７に示す通常疑似遊技中処理を終了し、さらに、図５５のステップＳ１２０９及びステップＳ１２１０の処理を行うことなく、図５５に示すロック演出実行処理を終了する。

【０７５９】

ステップＳ１３２３において有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１３２６～ステップＳ１３２９の処理を実行するが、これらの処理は、図５８のステップＳ１２６３～ステップＳ１２６６の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７６０】

以上より、第１停止操作として疑似遊技進行用ストップボタン（例えば、左ストップボタン８Ｌ）が操作された場合（ストップボタンの３択に正解した場合）には、疑似遊技が続行し、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。一方、第１停止操作として疑似遊技進行用ストップボタン以外のストップボタン８（例えば、中ストップボタン８Ｃ又は右ストップボタン８Ｒ）が操作された場合（ストップボタンの３択に失敗した場合）には、その時点で疑似遊技が終了し、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２５参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。

【０７６１】

このように、本実施形態では、疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始された後、適切なストップボタン８が操作されたことを条件として疑似遊技が進行するように構成することが可能である。一方、このような適切なストップボタン８の操作は、疑似遊技が開始されるための条件として採用してもよい。例えば、図５６では、スタートレバー７が操作されることを条件として疑似遊技が開始されることとして説明したが、スタートレバー７の操作に代えて、適切なストップボタン８（例えば、左ストップボタン８Ｌ）が操作されることを条件として疑似遊技（疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転）が

開始されることとしてもよい。そして、不適切なストップボタン８（例えば、中ストップボタン８Ｃ又は右ストップボタン８Ｒ）が操作された場合には、疑似遊技がキャンセルされる（そもそも、疑似遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転も行われない）ようにしてもよい。

【０７６２】

＜フリーズ種別の決定＞

図６２は、メイン表示装置に表示される画像の一例を示す図である。

【０７６３】

図６２では、メイン表示装置２１０においてフリーズ種別決定画面が表示されている様子を示している。本実施形態では、複数種類のフリーズ（フリーズＡ、フリーズＢ、及び、フリーズＣ）が設けられている。フリーズＡは、リール演出及び疑似遊技を伴わないロック演出である。フリーズＢは、順回転のリール演出を伴うロック演出である。フリーズＣは、逆回転のリール演出を伴うロック演出である。フリーズ種別決定画面は、フリーズＡ、フリーズＢ、及び、フリーズＣのなかから一のフリーズを決定するための画面である。決定されたフリーズは、例えば、疑似遊技開始時ロック（図５６のステップＳ１２２３参照）として実行されることになる。

【０７６４】

具体的に、図６２では、フリーズ種別決定画面として、フリーズＡ画像１２０１、フリーズＢ画像１２０２、フリーズＣ画像１２０３、及び、矢印画像１２０４が表示されている様子を示している。矢印画像１２０４は、フリーズＡ画像１２０１、フリーズＢ画像１２０２、及び、フリーズＣ画像１２０３のうちの何れの画像が選択されているのかを示すための画像である。図６２に示す例では、矢印画像１２０４がフリーズＡ画像１２０１の横に近接して表示されており、フリーズＡ画像１２０１が選択されていることを示している。

【０７６５】

このように、フリーズＡ画像１２０１が選択されている状態（フリーズＡ選択状態）においては、矢印画像１２０４がフリーズＡ画像１２０１の横に表示される。同様に、フリーズＢ画像１２０２が選択されている状態（フリーズＢ選択状態）においては、矢印画像１２０４がフリーズＢ画像１２０２の横に表示される。フリーズＣ画像１２０３が選択されている状態（フリーズＣ選択状態）においては、矢印画像１２０４がフリーズＣ画像１２０３の横に表示される。

【０７６６】

矢印画像１２０４の位置は、下記（ａ）～（ｃ）のうちの何れかの方法で、切り替えることが可能である。例えば、ホールメニューにおいて、これらの方法のうちの一の方法が設定されるようになっている。

【０７６７】

（ａ）ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの操作

（ｂ）ＭＡＸベットボタン６ａの操作

（ｃ）タイマ管理

上記（ａ）が設定されている場合、遊技者は、フリーズ種別決定画面がメイン表示装置２１０に表示されているときに、ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを操作することにより、矢印画像１２０４の位置を切り替えることが可能であり、ＭＡＸベットボタン６ａを操作することにより、フリーズの種別を決定することができる。具体的に、フリーズＡ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＡが決定され、フリーズＢ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＢが決定され、フリーズＣ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＣが決定される。

【０７６８】

上記（ｂ）が設定されている場合、遊技者は、フリーズ種別決定画面がメイン表示装置２１０に表示されているときに、ＭＡＸベットボタン６ａを操作することにより、矢印画

像１２０４の位置を切り替えることが可能であり、スタートレバー７を操作することにより、フリーズの種別を決定することができる。具体的に、フリーズＡ選択状態においてスタートレバー７が操作された場合にはフリーズＡが決定され、フリーズＢ選択状態においてスタートレバー７が操作された場合にはフリーズＢが決定され、フリーズＣ選択状態においてスタートレバー７が操作された場合にはフリーズＣが決定される。

【０７６９】

上記（ｃ）が設定されている場合には、フリーズ種別決定画面がメイン表示装置２１０に表示されているときに、フリーズＡ選択状態、フリーズＢ選択状態、フリーズＣ選択状態にうちの一の状態から他の状態へと（例えば、フリーズＡ選択状態→フリーズＢ選択状態→フリーズＣ選択状態→フリーズＡ選択状態・・・といったように）、所定時間ごとに切り替わる。このとき、遊技者は、ＭＡＸベットボタン６ａを操作することにより、フリーズの種別を決定することができる。具体的に、フリーズＡ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＡが決定され、フリーズＢ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＢが決定され、フリーズＣ選択状態においてＭＡＸベットボタン６ａが操作された場合にはフリーズＣが決定される。なお、予め定められた時間以内にＭＡＸベットボタン６ａが操作されなかった場合には、当該時間が経過したときの状態に応じた種別のフリーズが決定される。あるいは、抽籤により選択された種別のフリーズが決定されることとしてもよい。

【０７７０】

フリーズ種別決定画面がメイン表示装置２１０に表示されるタイミングは、特に限定されないが、例えば、ＢＢに係る図柄の組合せが有効ラインに沿って停止表示された（ＢＢが入賞した）場合にフリーズ種別決定画面が表示されるように構成することが可能である。例えば、一の単位遊技においてＢＢが入賞し、次の単位遊技におけるスタートレバー７操作が行われたときに、フリーズ種別決定画面が表示されるようにしてもよい。あるいは、一の単位遊技においてＢＢが入賞したとき、次の単位遊技におけるスタートレバー７操作が行われるまでの間に、フリーズ種別決定画面が表示されるようにしてもよい。

【０７７１】

以上では、フリーズの種別が決定される場合について説明したが、同様の方法により、疑似ボーナス移行抽籤に当籤した場合や１Ｇ連抽籤に当籤した場合に行われるロック演出の種別を決定することとしてもよい。例えば、図６２と同様の画面において、上記（ａ）～（ｃ）のような方法で、ロック演出Ａ（例えば、リール演出及び疑似遊技を伴わないロック演出）、ロック演出Ｂ（例えば、リール演出を伴うロック演出）、及び、ロック演出Ｃ（例えば、疑似遊技を伴うロック演出）のうちの一のロック演出を決定することができるように構成してもよい。図４３のステップＳ１００５、ステップＳ１０１０、及び、ステップＳ１０１２においては、このようにして決定されたロック演出を選択することとしてもよい。また、同様の方法により、揺動パターンの種別（例えば、第２実施形態で説明した揺動パターンＡ、揺動パターンＢ、及び、揺動パターンＣのうちの一の揺動パターン）を決定することができるように構成してもよい。なお、このようにして決定される演出は、主制御回路１００により制御される演出に限定されず、副制御回路２００により制御される演出であってもよい。

【０７７２】

＜ボーナス当籤時処理＞

図６３は、主制御回路において行われるボーナス当籤時処理を示すフローチャートである。

【０７７３】

図６３に示すボーナス当籤時処理は、図２６（内部抽籤処理）のステップＳ７０の処理が実行された後に、主制御回路１００において行われる処理である。すなわち、ボーナス当籤時処理は、ボーナス当籤ゲーム（ボーナス役が内部当籤役として決定されることにより、非ボーナス状態（ボーナス状態でなく持越状態でもない状態）から持越状態（フラグ間）へと移行した単位遊技）において、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する前に

行われる処理である。

【０７７４】

ボーナス当籤時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ＢＢが内部当籤役として決定されているか（今回の単位遊技がＢＢ当籤ゲームであるか）否かを判断する（ステップＳ１３４１）。ＢＢが内部当籤役として決定されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０７７５】

一方、ＢＢが内部当籤役として決定されていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出番号「１」、「３」、「５」、及び、「６」（図３６参照）のうちの何れかを抽籤により選択する（ステップＳ１３４２）。そして、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオンにセットし（ステップＳ１３４３）、本サブルーチンを終了する。これにより、ロック演出番号「１」、「３」、「５」、又は、「６」に対応するロック演出が行われることになる。

【０７７６】

第２実施形態では、疑似遊技に対応するロック演出番号が選択された場合、「７を狙え」演出画像１１００（図４５参照）がメイン表示装置２１０に表示される（図４４のステップＳ１０２２参照）こととして説明した。これにより、疑似遊技中、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「赤７」図柄が停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。本実施形態においても、同様に、「７を狙え」演出画像１１００がメイン表示装置２１０に表示されることとしてもよいが、ここでは、「ＢＡＲを狙え」演出画像（図示せず）がメイン表示装置２１０に表示されることとする。これにより、疑似遊技中、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「ＢＡＲ」図柄が停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。

【０７７７】

また、ここでは、ＢＢが内部当籤役として決定された後、メイン遊技において「赤７」図柄揃いが有効ラインに沿って停止表示された（「赤７」図柄揃いが成立した）場合にＢＢ状態が開始され、ＭＢが内部当籤役として決定された後、メイン遊技において「ＢＡＲ」図柄揃いが有効ラインに沿って停止表示された（「ＢＡＲ」図柄揃いが成立した）場合にＭＢ状態が開始されることとする。この場合、ＢＢ当籤ゲーム（メイン遊技）において、遊技者は、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを操作するに当たって、「赤７」図柄を狙うべきであると言える。

【０７７８】

しかしながら、上記のように、疑似遊技において「ＢＡＲを狙え」演出画像が表示される場合、仮に、疑似遊技が終了しメイン遊技に移行した後も、「ＢＡＲを狙え」演出画像が継続的に表示されるとすると、遊技者に対して、本来狙うべき図柄（「赤７」図柄）とは異なる図柄（「ＢＡＲ」図柄）を狙わせることになる。そうすると、「赤７」図柄揃いが有効ラインに沿って停止表示されない（ＢＢが入賞しない）可能性が高くなってしまう。

【０７７９】

とりわけ、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「赤７」図柄と「ＢＡＲ」図柄とが離間して配置されている場合には、その蓋然性が非常に高い。例えば、図９に示すように、少なくとも一のリール３（中リール３Ｃ）において、「赤７」図柄に対応する図柄位置（「０」）が「ＢＡＲ」図柄に対応する図柄位置（「９」）に対して最大滑り駒数（４図柄）の範囲内に存在しない場合、当該リール３（中リール３Ｃ）に対して、「ＢＡＲ」図柄が有効ライン上に表示されるタイミングで停止操作が行われたとすると、ＢＢが入賞することは不可能となる。この意味において、当該「ＢＡＲを狙え」演出画像は、ＢＢを入賞させないようにするための示唆となってしまう。

【０７８０】

何れにしても、疑似遊技において表示された「ＢＡＲを狙え」演出画像は、遊技者が狙うべき図柄（内部当籤役）を誤認してしまうことを抑制することができるように、所定の

タイミングで表示を終了することが望ましい。当該タイミングは、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）が開始される前であってもよいし、ランダム遅延処理が開始された後であってもよい。具体的に、当該タイミングとしては、例えば、疑似遊技において第２停止リールが停止した後第３停止リールが停止するまでの間（例えば、図５８のステップＳ１２６２の判断結果が「ＹＥＳ」となり当該ストップボタン８の操作が第３停止操作であるときや、図５８のステップＳ１２６５の判断結果が「ＹＥＳ」となり第３停止操作が省略されるとき）、残っているストップボタン操作が全て省略されたとき（例えば、図５８のステップＳ１２６３の判断結果が「ＹＥＳ」となったとき）、第３停止リールが停止した後当該第３停止リールが揺動を開始するまでの間（例えば、図５７のステップＳ１２４９の判断結果が「ＹＥＳ」となり当該制御対象リールが第３停止リールであるとき）、疑似遊技において全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止したタイミング（例えば、図５７のステップＳ１２５１の判断結果が「ＹＥＳ」となった後、ステップＳ１２５２の処理が行われる前）、メイン遊技用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始するとき（例えば、図５０のステップＳ１１２２の判断結果が「ＹＥＳ」となったときや、ランダム遅延処理により１つ目のリールが回転を開始するタイミング）、メイン遊技用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が定速に達するまでの間等を挙げることができる。

【０７８１】

また、「ＢＡＲを狙え」演出画像の表示を終了するタイミングで、他に疑似遊技用の演出（例えば、揺動制御）が行われていれば、当該演出も終了するとよい。さらに、当該タイミングで、ＢＢが内部当籤役として決定されたことに対応する演出（ＢＢ示唆演出）を開始する（ＢＢが内部当籤役として決定されたことを示唆する画像（例えば、「７を狙え」演出画像１１００）を表示する）こととしてもよい。これにより、遊技者が狙うべき図柄（内部当籤役）を誤認してしまうことを効果的に防止するとともに、「赤７」図柄を狙うべき示唆を与えることができる。

【０７８２】

なお、第２実施形態で説明したように、疑似遊技においては、停止開始位置及び滑り駒数とは無関係に予め定められた図柄が停止表示されるように構成することが可能である。そこで、疑似遊技では、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒを操作するに当たって、遊技者が「ＢＡＲ」図柄を狙ったとしても（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「ＢＡＲ」図柄が停止表示され得るタイミングで停止操作が行われたとしても）、「赤７」図柄揃いが成立するようにしてもよい。これにより、当該「赤７」図柄揃いを介して、ＢＢが内部当籤役として決定されたことを示唆することができる。疑似遊技で「赤７」図柄揃いが成立した場合には、メイン遊技において上記ＢＢ示唆演出を行わないこととしてもよい。

【０７８３】

あるいは、疑似遊技では、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「ＢＡＲ」図柄が停止表示され得るタイミングで停止操作が行われたことに応じて「ＢＡＲ」図柄揃いが成立する（適切なタイミングで停止操作が行われなかった場合には、「ＢＡＲ」図柄揃いが成立しない）ように構成してもよい。また、疑似遊技では、停止開始位置及び滑り駒数とは無関係に「ＢＡＲ」図柄揃いが成立するようにしてもよい。あるいは、疑似遊技では、「ＢＡＲ」図柄がテンパイするものの、「ＢＡＲ」図柄揃いが成立しない（残り１つの「ＢＡＲ」図柄が停止表示されない）ようにしてもよい。疑似遊技で「赤７」図柄揃いが成立しなかった場合には、メイン遊技において上記ＢＢ示唆演出を行うことが望ましい。

【０７８４】

このように、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて「赤７」図柄乃至「ＢＡＲ」図柄が停止表示されるごとに、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対して揺動制御（図５９のステップＳ１２８５参照）が行われる。第２実施形態で説明したように、当該揺動制御は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが振動の中心に位置している状態乃至各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが略完全に停止している状態において、「赤７」図柄乃至「ＢＡＲ」図柄が有効ライン上に位置付けられるように行われる。

【０７８５】
以上、図６３に示すボーナス当籤時処理が行われる場合には、図４３に示すロック演出決定処理が行われないこととしてもよいし、図６３に示すボーナス当籤時処理と併せて、図４３に示すロック演出決定処理も行われることとしてもよい。また、図示しないが、ＢＢが内部当籤役として決定されていない場合に、ロック演出番号「２」又は「４」に対応するロック演出（所謂ガセ演出）が行われることとしてもよい。
【０７８６】
＜遊技終了時ロック演出決定処理＞
図６４は、主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出決定処理を示すフローチャートである。
【０７８７】
図６４に示す遊技終了時ロック演出決定処理は、図３１（有利区間中遊技終了時処理）のステップＳ１５６の処理が実行された後に、主制御回路１００において行われる処理である。
【０７８８】
遊技終了時ロック演出決定処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、現在の遊技区間が有利区間であるか否かを判断する（ステップＳ１３６１）。この処理は、図４３のステップＳ１００１の処理と同様の処理である。現在の遊技区間が有利区間ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【０７８９】
一方、現在の遊技区間が有利区間であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ボーナス移行抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ１３６２）。第１実施形態で説明したように、メイン遊技におけるリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止すると、停止表示された図柄の組合せに応じた二次情報（サブフラグ）としての有利区間入賞時サブフラグ（図７（ａ）参照）が決定される。そして、演出区間（有利区間・通常遊技）においては、疑似ボーナス移行抽籤テーブル（図７（ｃ）参照）が参照され、乱数値及び有利区間入賞時サブフラグに基づく抽籤（疑似ボーナス移行抽籤）が行われることにより、疑似ボーナス移行抽籤の結果として「当籤」又は「非当籤」が決定される。なお、「当籤」としては、「当籤（今回遊技）」及び「当籤（次回遊技）」が設けられているが、ここでは、これらを区別しないこととする。
【０７９０】
疑似ボーナス移行抽籤に当籤していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、疑似ボーナス移行抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出番号「１」、「３」、「５」、及び、「６」（図３６参照）のうちの何れかを抽籤により選択する（ステップＳ１３６３）。そして、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオンにセットし（ステップＳ１３６４）、本サブルーチンを終了する。これにより、ロック演出番号「１」、「３」、「５」、又は、「６」に対応するロック演出が行われることになる。
【０７９１】
なお、図示しないが、１Ｇ連抽籤（図７（ｄ）参照）に当籤した場合においても、ロック演出番号「１」、「３」、「５」、及び、「６」のうちの何れかが選択される（ロック演出番号「１」、「３」、「５」、又は、「６」に対応するロック演出が行われる）ようにしてもよい。また、疑似ボーナス移行抽籤（及び１Ｇ連抽籤）に当籤していない場合に、ロック演出番号「２」及び「４」のうちの何れかが選択される（ロック演出番号「２」又は「４」に対応するロック演出が行われる）ようにしてもよい。
【０７９２】
＜遊技終了時ロック演出実行処理＞
図６５は、主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出実行処理を示すフローチャートである。図６６は、主制御回路において行われる遊技終了時ロック演出開始用処理を示すフローチャートである。

【０７９３】
図６５に示す遊技終了時ロック演出実行処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１６（遊技終了時メイン側演出制御処理）で行われる処理である。
【０７９４】
遊技終了時ロック演出実行処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグ（図６４のステップＳ１３６４参照）がオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１３８１）。ロック演出開始フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【０７９５】
一方、ロック演出開始フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、遊技終了時ロック演出開始用処理を実行する（ステップＳ１３８２）。ここで、図６６を用いて、遊技終了時ロック演出開始用処理について説明する。
【０７９６】
遊技終了時ロック演出開始用処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、リプレイが入賞したか否かを判断する（ステップＳ１４０１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、有効ラインに沿って停止表示された図柄の組合せがリプレイ役に係る図柄の組合せ（図１１～図１４参照）であるか否かを判断する。
【０７９７】
リプレイが入賞したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ入賞時ロック演出開始コマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１４０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ入賞時ロック演出開始コマンドデータを生成し、生成したリプレイ入賞時ロック演出開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納されたリプレイ入賞時ロック演出開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、リプレイが入賞してロック演出が開始されるタイミングであることを認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。
【０７９８】
具体的に、リプレイ入賞時ロック演出開始コマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、リプレイが入賞してロック演出が開始されることに対応する演出データがセットされる。これにより、例えば、図示しないが、「ベットして下さい」といった内容の文字画像（ベット要求画像）がメイン表示装置２１０に表示され、遊技者に対してベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）を操作することを促すことができる。リプレイが入賞した場合には、ベットボタンの操作は不要であるはずところ、ベット要求画像を通じて、遊技者を意外に感じさせることができる。
【０７９９】
次に、メインＣＰＵ１０１は、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されたか否かを判断する（ステップＳ１４０３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ベットスイッチ６Ｓがオン状態となったか否かを判断する。ＭＡＸベットボタン６ａと１ベットボタン６ｂとのうちの何れかが操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【０８００】
一方、ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂが何れも操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、スタートレバー７が操作されたか否かを判断する（ステップＳ１４０４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、スタートスイッチ７Ｓがオン状態（図２５のステップＳ５０参照）となったか否かを判断する。スタートレバー７が操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ入賞時ロック演出開始コマンド生成格納処理を実行してから（ベット要求画像が表示されてから）所定時間（例えば、３０秒）が経過したか否かを判断する（ステップＳ１４０５）。

【０８０１】
所定時間が経過していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１４０３に処理を戻す。ステップＳ１４０４においてスタートレバー７が操作されたと判断した場合、又は、ステップＳ１４０５において所定時間が経過したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出キャンセルフラグをオンにセットする（ステップＳ１４０６）。ロック演出キャンセルフラグは、ロック演出をキャンセルするために用いられるフラグである。その後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオフにセットし（ステップＳ１４０７）、本サブルーチンを終了する。
【０８０２】
ステップＳ１４０１においてリプレイが入賞していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンド生成格納処理を実行する（ステップＳ１４０８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンドデータを生成し、生成したリプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納されたリプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、リプレイ以外の役が入賞してロック演出が開始されるタイミングであることを認識することができるようになり、各種の演出を実行するタイミング等を決定することができる。
【０８０３】
具体的に、リプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンドデータを受信したことを契機として、副制御回路２００では、リプレイ以外の役が入賞してロック演出が開始されることに対応する演出データがセットされる。これにより、例えば、図示しないが、「レバーを叩け」といった内容の文字画像（「レバーを叩け」画像）がメイン表示装置２１０に表示され、遊技者に対してスタートレバー７を操作することを促すことができる。リプレイ以外の役が入賞した場合には、スタートレバー７を操作する前に、ベットボタンの操作が必要であるはずところ、「レバーを叩け」画像を通じて、遊技者を意外に感じさせることができる。
【０８０４】
次に、メインＣＰＵ１０１は、スタートレバー７が操作されたか否かを判断する（ステップＳ１４０９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、スタートスイッチ７Ｓがオン状態（図２５のステップＳ５０参照）となったか否かを判断する。スタートレバー７が操作されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【０８０５】
一方、スタートレバー７が操作されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、リプレイ以外入賞時ロック演出開始コマンド生成格納処理を実行してから（「レバーを叩け」画像が表示されてから）所定時間（例えば、３０秒）が経過したか否かを判断する（ステップＳ１４１０）。所定時間が経過していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１４０９に処理を戻す。一方、所定時間が経過したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出キャンセルフラグをオンにセットする（ステップＳ１４１１）。ロック演出キャンセルフラグは、ロック演出をキャンセルするために用いられるフラグである。その後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出開始フラグをオフにセットし（ステップＳ１４１２）、本サブルーチンを終了する。
【０８０６】
以上、図６６を用いて、図６５のステップＳ１３８２で行われる遊技終了時ロック演出開始用処理について説明した。図６５に説明を戻す。
【０８０７】
ステップＳ１３８２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ロック演出キャンセルフラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ１３８３）。ロック演出キャンセルフラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、

本サブルーチンを終了する。

【０８０８】

一方、ロック演出キャンセルフラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ１３８４～ステップＳ１３９０の処理を実行するが、これらの処理は、図４４のステップＳ１０２２～ステップＳ１０２８の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【０８０９】

以上より、リプレイが入賞した単位遊技においてロック演出が行われる旨決定された場合には、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されることにより、ロック演出用にリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始されてロック演出が行われ（図６５のステップＳ１３８６及びステップＳ１３８８参照）、次回の単位遊技において、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。一方、リプレイが入賞した単位遊技においてロック演出が行われる旨決定されたが、ベット要求画像が表示されてから所定時間以内にベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されなかった場合、又は、スタートレバー７が操作された場合には、ロック演出（ロック演出用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転）が行われずに、次回の単位遊技において、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２５参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。

【０８１０】

なお、図６６に示す遊技終了時ロック演出開始用処理では、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されずにスタートレバー７が操作された場合には、次回の単位遊技へと進行することとしている。この場合、次回の単位遊技におけるスタートレバー７操作を省略することとしてもよい。すなわち、図６６のステップＳ１４０４の判断結果が「ＹＥＳ」となった場合には、次回の単位遊技においてスタートレバー７が操作されるのを待つことなく、図２５のステップＳ５０の判断結果が「ＹＥＳ」となるように構成してもよい。もっとも、図６６に示す遊技終了時ロック演出開始用処理とは異なり、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されない限り次回の単位遊技へと進行しないように構成してもよい。また、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されない場合であっても次回の単位遊技へと進行するとしても、相当長い時間（例えば、１分）に亘ってベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ又は１ベットボタン６ｂ）が操作されない場合にようやく次回の単位遊技へと進行するように構成してもよい。

【０８１１】

また、リプレイ以外の役が入賞した単位遊技においてロック演出が行われる旨決定された場合には、スタートレバー７が操作されることにより、ロック演出用にリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始されてロック演出が行われ（図６５のステップＳ１３８６及びステップＳ１３８８参照）、次回の単位遊技において、ランダム遅延処理（図５０のステップＳ１１２３参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。一方、リプレイ以外の役が入賞した単位遊技においてロック演出が行われる旨決定されたが、「レバーを叩け」画像が表示されてから所定時間以内にスタートレバー７が操作されなかった場合には、ロック演出（ロック演出用のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転）が行われずに、次回の単位遊技において、通常時加速処理（図５０のステップＳ１１２５参照）を経て、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転がメイン遊技用の定速回転となる。なお、スタートレバー７が操作されない限り次回の単位遊技へと進行しないように構成してもよいし、相当長い時間（例えば、１分）に亘ってスタートレバー７が操作されない場合にようやく次回の単位遊技へと進行するように構成してもよい。

【０８１２】

＜疑似遊技中ストップボタン発光制御処理＞

図示しないが、主制御回路１００では、疑似遊技中に疑似遊技中ストップボタン発光制御処理が行われる。具体的に、メインＣＰＵ１０１は、図５７のステップＳ１２４３の処理を実行した後、疑似遊技中ストップボタン発光制御処理を実行する。これにより、例えば、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの点灯態様が変化する。以下、詳細に説明する。

【０８１３】

各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒは、それぞれ、同様の構成を有しており、遊技者が接触可能な押圧部分を有するストップボタンカバーと、ストップボタンカバーよりも奥まった箇所に配設されたストップボタン用ＬＥＤと、を備えている。ストップボタン用ＬＥＤは、フルカラーＬＥＤであり、赤色、青色、及び、緑色を含む複数種類の色を発することが可能となっている。ストップボタンカバーは、透光性を有する素材により形成されており、ストップボタン用ＬＥＤから出射された光は、ストップボタンカバーを透過して、パチスロ機１の外部へと放出され、遊技者から視認可能となっている。

【０８１４】

本実施形態では、疑似遊技において、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒのストップボタン用ＬＥＤを発光させるように構成されている。具体的に、図５７のステップＳ１２４２において、メインＣＰＵ１０１は、全てのストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒのストップボタン用ＬＥＤが点灯するように制御する。また、図５７のステップＳ１２４４において、メインＣＰＵ１０１は、今回操作されたストップボタン８（又は、ストップボタン操作が省略され、操作されたと見做されたストップボタン８）のストップボタン用ＬＥＤが消灯するように制御する。あるいは、ステップＳ１２４４ではなく、ステップＳ１２４９において制御対象リールが停止したと判断した場合に、今回操作されたストップボタン８（又は、ストップボタン操作が省略され、操作されたと見做されたストップボタン８）のストップボタン用ＬＥＤが消灯するように制御してもよい。

【０８１５】

また、メインＣＰＵ１０１は、有効なストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒのストップボタン用ＬＥＤを点灯させるとき、当該ストップボタン用ＬＥＤの発光色が特定の色（例えば、赤色）となるように制御してもよい。また、メインＣＰＵ１０１は、今回操作されたストップボタン８（又は、ストップボタン操作が省略され、操作されたと見做されたストップボタン８）のストップボタン用ＬＥＤが特定の色（例えば、赤色）で発光するように制御してもよい。

【０８１６】

このとき、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）に、当該特典を付与することが決定されていない場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤していない場合）と比較して、高い確率でストップボタン用ＬＥＤが特定の色（例えば、赤色）で発光するように制御してもよい。また、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）には、ストップボタン用ＬＥＤの発光色が所定の色（例えば、青色）となる確率よりも、ストップボタン用ＬＥＤの発光色が特定の色（例えば、赤色）となる確率が高くなるように制御してもよい。

【０８１７】

これにより、ストップボタン用ＬＥＤの発光色を通じて、遊技者に対して当該疑似遊技の期待度を示唆することができる。このような制御は、３つのストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒに対して個別に行うことが可能である。例えば、ストップボタン８が３つとも特定の色（例えば、赤色）で点灯した場合には遊技者を大いに期待させ、１つのストップボタン８のみが特定の色（例えば、赤色）で点灯した場合には遊技者の期待感を相対的に低下させるといったこともできる。

【０８１８】

以上では、各ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒの点灯態様が変化する演出について説明したが、スタートレバー７やベットボタン（ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂ）の点灯態様を変化させることとしてもよい。例えば、スタートレバー７、並びに、

ＭＡＸベットボタン６ａ及び１ベットボタン６ｂは、それぞれ、ストップボタン８と同様に、透光性を有するカバー及びＬＥＤを備えることとする。スタートレバー７のカバーは、遊技者が把持可能な球状部分とすることが可能である。例えば、上述した「レバーを叩け」画像がメイン表示装置２１０に表示されたときにスタートレバー７のＬＥＤを点灯させることとしてもよいし、上述したベット要求画像がメイン表示装置２１０に表示されたときにＭＡＸベットボタン６ａ乃至１ベットボタン６ｂのＬＥＤを点灯させることとしてもよい。

【０８１９】

また、このとき、スタートレバー７乃至ベットボタンにおけるＬＥＤの発光色を通じて、遊技者に対して当該疑似遊技の期待度を示唆することとしてもよい。例えば、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）に、当該特典を付与することが決定されていない場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤していない場合）と比較して、高い確率でスタートレバー７乃至ベットボタンのＬＥＤが特定の色（例えば、赤色）で発光するように制御してもよい。また、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）には、スタートレバー７乃至ベットボタンにおけるＬＥＤの発光色が所定の色（例えば、青色）となる確率よりも、スタートレバー７乃至ベットボタンにおけるＬＥＤの発光色が特定の色（例えば、赤色）となる確率が高くなるように制御してもよい。

【０８２０】

ストップボタン８、スタートレバー７、ＭＡＸベットボタン６ａ、及び、１ベットボタン６ｂに設けられたＬＥＤは、主制御回路１００により制御されることとしてもよいし、副制御回路２００により制御されることとしてもよい。当該ＬＥＤが副制御回路２００により制御されるように構成されている場合、メインＣＰＵ１０１は、当該ＬＥＤの点灯態様を変化させるとき、当該点灯態様の変化に対応するコマンドデータを生成し、生成したコマンドデータを副制御回路２００へと送信するようにすればよい。なお、メイン遊技においても、疑似遊技と同様に、当該ＬＥＤの点灯態様を変化させる演出を行うこととしてもよい。

【０８２１】

＜バックライト演出＞

第１実施形態で説明したように、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの内部には、少なくともメイン表示窓４から図柄が視認される位置に光源（リールランプ）が設けられ、少なくとも各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが回転中であるときにはこれらを内部から一定の輝度で照明することで、図柄の視認性を確保している。

【０８２２】

本実施形態では、このようなリールランプ（リールバックライト）を用いた演出（バックライト演出）が行われる。図示しないが、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒには、リールバックライトとしてＬＥＤ（リール照明用ＬＥＤ）が複数配設されている。これらのリール照明用ＬＥＤは、メイン表示窓４の枠内に停止表示された９個の図柄を１個ずつ個別に照射することができるように、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおけるリール本体の内側に配置されている。

【０８２３】

以下では、左リール３Ｌの上段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを左上リール照明用ＬＥＤと呼び、左リール３Ｌの中段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを左中リール照明用ＬＥＤと呼び、左リール３Ｌの下段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを左下リール照明用ＬＥＤと呼び、中リール３Ｃの上段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを中上リール照明用ＬＥＤと呼び、中リール３Ｃの中段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを中中リール照明用ＬＥＤと呼び、中リール３Ｃの下段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを中下リール照明用ＬＥＤと呼び、右リール３Ｒの上段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを右上リール照明用ＬＥＤと呼び、右リール３Ｒの中段領域を照射可能なリール

照明用ＬＥＤを右中リール照明用ＬＥＤと呼び、右リール３Ｒの下段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを右下リール照明用ＬＥＤと呼ぶこととする。

【０８２４】

左上リール照明用ＬＥＤ、左中リール照明用ＬＥＤ、左下リール照明用ＬＥＤ、中上リール照明用ＬＥＤ、中中リール照明用ＬＥＤ、中下リール照明用ＬＥＤ、右上リール照明用ＬＥＤ、右中リール照明用ＬＥＤ、及び、右下リール照明用ＬＥＤとしては、それぞれ、複数のＬＥＤが設けられており、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて複雑な点灯パターンを有するバックライト演出を実現することができるようになっている。

【０８２５】

バックライト演出は、疑似遊技において、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止するのに伴って、点灯中のリール照明用ＬＥＤを消灯させることにより行われる。具体的に、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技において各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転を開始させるとき（図５５のステップＳ１２０６及び図６５のステップＳ１３８６参照）、左上リール照明用ＬＥＤ、左中リール照明用ＬＥＤ、左下リール照明用ＬＥＤ、中上リール照明用ＬＥＤ、中中リール照明用ＬＥＤ、中下リール照明用ＬＥＤ、右上リール照明用ＬＥＤ、右中リール照明用ＬＥＤ、及び、右下リール照明用ＬＥＤが全て点灯するように制御する。

【０８２６】

そして、メインＣＰＵ１０１は、図５７のステップＳ１２４９において制御対象リールが停止したと判断した場合に、制御対象リールの上段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤ、制御対象リールの中段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤ、及び、制御対象リールの下段領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤのうち、有効ライン上に位置しない領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤが消灯するように制御する。例えば、有効ラインがセンターラインであり、制御対象リールが左リール３Ｌであるとする。この場合、メインＣＰＵ１０１は、左上リール照明用ＬＥＤ及び左下リール照明用ＬＥＤが消灯する一方、左中リール照明用ＬＥＤは点灯した状態が維持されるように制御する。有効ライン上に位置しない領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを消灯させる際、当該リール照明用ＬＥＤとして設けられた複数のＬＥＤを全て消灯させることとしてもよいし、当該複数のＬＥＤのうちの一部のＬＥＤを消灯させることとしてもよい。

【０８２７】

これにより、有効ライン上に位置しない領域に停止表示された図柄の視認性は低下するが、有効ライン上に位置する領域に停止表示された図柄の視認性は確保される。例えば、ロック演出番号「３」に対応するロック演出（図３６参照）において、図３９（ｂ）に示す状態では、右リール３Ｒに関し、「ＢＡＲ」及び「リプレイ」の視認性が低下する一方、「赤７」の視認性は確保される。図３９（ｃ）に示す状態では、右リール３Ｒに関しては図３９（ｂ）に示す状態と同じであり、中リール３Ｃに関しては、「スイカ」及び「黄ブランク」の視認性が低下する一方、「赤７」の視認性は確保される。図３９（ｄ）に示す状態では、右リール３Ｒ及び中リール３Ｃに関しては図３９（ｃ）に示す状態と同じであり、左リール３Ｌに関しては、「白ブランク１」及び「スイカ」の視認性が低下する一方、「赤７」の視認性は確保される。従って、一部のリール照明用ＬＥＤが消灯したとしても、「赤７」図柄が揃ったことを遊技者に対して明確に認識させることができる。

【０８２８】

なお、有効ライン上に位置しない領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを消灯させる場合、当該リール照明用ＬＥＤが消灯することにより、有効ライン上に位置する領域における図柄の視認性が低下しないように構成することが望ましい。例えば、各領域における図柄の視認性が他の領域におけるリール照明用ＬＥＤの点灯態様によって干渉されないように、隣接する領域間に仕切り板等を設けた構造にするとよい。

【０８２９】

また、有効ライン上に位置しない領域を照射可能なリール照明用ＬＥＤを消灯させた後、当該ＬＥＤを再度点灯させたり消灯させたりすることとしてもよい。その際、当該ＬＥＤの点灯パターンを通じて、遊技者に対して当該疑似遊技の期待度を示唆することとして

もよい。例えば、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）に、当該特典を付与することが決定されていない場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤していない場合）と比較して、高い確率で特定のパターンで当該ＬＥＤが点灯するように制御してもよい。また、遊技者に対して特典を付与することが決定されている場合（例えば、疑似ボーナス移行抽籤（ＡＴ抽籤）に当籤している場合）には、所定のパターンで当該ＬＥＤが点灯する確率よりも、特定のパターンで当該ＬＥＤが点灯する確率が高くなるように制御してもよい。

【０８３０】

リール照明用ＬＥＤは、主制御回路１００により制御されることとしてもよいし、副制御回路２００により制御されることとしてもよい。リール照明用ＬＥＤが副制御回路２００により制御されるように構成されている場合、メインＣＰＵ１０１は、リール照明用ＬＥＤの点灯態様を変化させるとき、当該点灯態様の変化に対応するコマンドデータを生成し、生成したコマンドデータを副制御回路２００へと送信するようにすればよい。なお、メイン遊技においても、疑似遊技と同様に、リール照明用ＬＥＤの点灯態様を変化させる演出を行うこととしてもよい。

【０８３１】

＜メインＲＯＭ及びメインＲＡＭの内部構成（メモリマップ）＞

次に、図６７Ａ～図６７Ｃを参照しながら、主制御回路１００に含まれるメインＲＯＭ１０２及びメインＲＡＭ１０３の内部構成（以下「メモリマップ」という）について説明する。なお、図６７Ａは、メモリ全体のメモリマップを示す図であり、図６７Ｂは、メインＲＯＭ１０２のメモリマップを示す図であり、図６７Ｃは、メインＲＡＭ１０３のメモリマップを示す図である。

【０８３２】

主制御回路１００が備えるメモリ全体のメモリマップでは、図６７Ａに示すように、アドレスの先頭（０００００Ｈ）側から、メインＲＯＭ１０２のメモリ領域、メインＲＡＭ１０３のメモリ領域、内蔵レジスタエリア及びＸＣＳデコードエリアが、不使用領域を間に挟んでこの順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【０８３３】

メインＲＯＭ１０２のメモリマップでは、図６７Ｂに示すように、メインＲＯＭ１０２のアドレスの先頭（００００Ｈ）側から、プログラムエリア、データエリア、規定外エリア、商標記録エリア、プログラム管理エリア及びセキュリティ設定エリアが、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。

【０８３４】

なお、プログラムエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メインＣＰＵ１０１により実行される各種処理の制御プログラムが記憶される。データエリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する各種制御処理において、メインＣＰＵ１０１により使用される各種データ（例えば、内部抽籤テーブル等のデータテーブル、副制御回路４２に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等）が記憶される。すなわち、プログラムエリアとデータエリアとからなる遊技用ＲＯＭ領域（遊技用記憶領域）には、遊技店で遊技者が実際に行う遊技の遊技性に関連する制御処理（遊技性に関する処理）に必要な各種プログラム及び各種データが格納される。

【０８３５】

また、規定外エリアには、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理（遊技性に影響を与えない処理）の制御プログラム及びデータが記憶される。例えば、パチスロ１の検定試験（試射試験）で使用されるプログラム及びデータ、電断時のチェックサム生成処理や電源復帰時のサムチェック処理などで使用される制御プログラム及びデータ、並びに、不正対策プログラム及びそれに必要なデータ等が、規定外エリアに格納される。

【０８３６】
　メインＲＡＭ１０３のメモリマップでは、図６７Ｃに示すように、メインＲＡＭ１０３のアドレスの先頭（Ｆ０００Ｈ）側から、遊技用ＲＡＭ領域（所定格納領域、遊技用一時記憶領域）及び規定外ＲＡＭ領域（規定外一時記憶領域）が、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。
【０８３７】
　遊技用ＲＡＭ領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に関連する制御プログラムの実行により決定された例えば内部当籤役等の各種データを一時的に格納する作業領域及びスタックエリアが設けられる。そして、各種データのそれぞれは、遊技用ＲＡＭ領域内の所定アドレスの作業領域に格納される。
【０８３８】
　また、規定外ＲＡＭ領域には、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理の作業領域となる規定外作業領域と、規定外スタックとが設けられる。本実施形態では、この規定外ＲＡＭ領域を使用して、例えばサムチェック処理等の遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理が実行される。
【０８３９】
　上述のように、本実施形態のパチスロ機１では、メインＲＯＭ１０２内において、遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理に使用される各種プログラム及び各種データ（テーブル）を、遊技用ＲＯＭ領域とは異なるアドレスに配置された規定外ＲＯＭ領域（規定外記憶領域）に格納する。また、そのような遊技者により実施される遊技の遊技性に直接関与しない各種処理は、メインＲＡＭ１０３内において、遊技用ＲＡＭ領域とは異なるアドレスに配置された規定外ＲＡＭ領域を使用して行われる。
【０８４０】
　このようなメインＲＯＭ１０２の構成では、従来の規則上においてプログラム等の配置不可とされていたＲＯＭ領域（規定外ＲＯＭ領域）に、遊技者が実際に行う遊技そのものには不要なプログラム及びデータを配置することができる。それゆえ、本実施形態では、遊技用ＲＯＭ領域の容量の圧迫を回避することができる。
【０８４１】
＜試射試験信号制御処理（規定外）＞
　図示しないが、主制御回路１００では、定期割込処理（図３２参照）において試射試験信号制御処理（規定外）が行われる。メインＣＰＵ１０１は、図３２のステップＳ２０８の処理を実行した後、試射試験信号制御処理（規定外）を実行する。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、試験機用第１インターフェースボード３０１及び試験機用第２インターフェースボード３０２（図３参照）を介して試験機に各種試験信号を出力する際の制御処理を行う。
【０８４２】
　具体的に、メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３のスタックエリアのアドレスを退避させ、スタックポインタ（ＳＰ）に規定外スタックエリアのアドレスをセットし、全レジスタのデータを退避させる。そして、メインＣＰＵ１０１は、試験機用第１インターフェースボード３０１乃至試験機用第２インターフェースボード３０２を介して試験機に出力される信号に関する処理として、各リールの回転制御信号（駆動信号）、ボーナス（特賞）のＯＮ／ＯＦＦ信号（試験信号）、条件装置信号制御フラグの状態に対応する制御信号等を出力するための処理を行う。そして、メインＣＰＵ１０１は、退避させた全レジスタのデータの復帰処理を行い、退避させたスタックエリアのアドレスをスタックポインタ（ＳＰ）にセットする。
【０８４３】
　このような試射試験信号制御処理（規定外）は、メインＲＡＭ１０３の規定外作業領域（図６７Ｃ参照）を用いて実行される。なお、試射試験信号制御処理（規定外）は、試射試験時以外のとき（パチスロ機１が遊技店に設置された後）にも行われるが、このときには、主制御基板７１が試験機用第１インターフェースボード３０１乃至試験機用第２イン

ターフェースボード３０２を介して試験機に接続されていないので、各種試験信号は生成されても出力されない。

【０８４４】

ここで、第１実施形態で説明したように、疑似遊技中は、試験機側で疑似遊技中であることを認識可能とするための試験信号（疑似遊技信号）が出力されるように構成することが可能である。疑似遊技信号を出力する際の制御処理は、試射試験信号制御処理（規定外）において行われることとしてもよい。この場合、疑似遊技信号を出力する際の制御処理は、メインＲＡＭ１０３の規定外作業領域（図６７Ｃ参照）を用いて実行されることになる。

【０８４５】

また、第１実施形態で説明したように、試験機用第１インターフェースボード３０１は、疑似遊技信号を受信した場合、疑似遊技進行制御用の信号を主制御基板７１に出力することで、主制御基板７１側で疑似遊技が進行されるようにしてもよい（すなわち、試験機用第１インターフェースボード３０１に疑似遊技進行機能をもたせてもよい）。この場合、主制御基板７１から試験機用第２インターフェースボード３０２に疑似遊技信号を入力し、試験機用第２インターフェースボード３０２から試験機用第１インターフェースボード３０１に疑似遊技信号を入力するように構成してもよい。その上で、試験機用第１インターフェースボード３０１から主制御基板７１に疑似遊技進行制御用の信号（停止信号）を送信することで、疑似遊技において各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止（疑似停止）されるように構成することが可能である。これにより、試射試験をスムーズに進めることができる。

【０８４６】

また、リプレイが入賞して疑似遊技が行われる場合には（図６６参照）、リプレイが入賞したことをキャンセルする旨を試験機側で認識可能とするための試験信号（キャンセル信号）が出力されるように構成することが可能である。この場合、試験機用第１インターフェースボード３０１（試験機用第２インターフェースボード３０２）を介して主制御基板７１から試験機にキャンセル信号（ベットボタンの操作を催促する旨の信号）を出力することとしてもよいし、主制御基板７１から試験機用第１インターフェースボード３０１（試験機用第２インターフェースボード３０２）に、リプレイが入賞して疑似遊技が行われることを示す信号を入力した上で、試験機用第１インターフェースボード３０１（試験機用第２インターフェースボード３０２）から試験機にキャンセル信号を出力することとしてもよい。その後、ベットが行われたことに対応する信号（ベット信号）を試験機に出力することにより、次の遊技が開始されるようにすることが可能であり、試射試験を円滑に進めることができる。このような信号を出力する際の制御処理も、試射試験信号制御処理（規定外）において行われるように構成することが可能である。なお、リプレイが入賞して疑似遊技が行われる場合としては、有効ライン外において各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに停止表示された図柄の組合せが「ベル」－「ベル」－「ベル」となっているが入賞役がリプレイであるような場合を採用することができる。

【０８４７】

以上、本発明の一実施形態として、第３実施形態に係るパチスロ機１について説明した。

【０８４８】

［第１の遊技機の変形例］

続いて、図６８～図８０を参照して、第１実施形態において第１の遊技機として説明したものについて、さらなる変形例（拡張例）を説明する。なお、本実施形態において第１の遊技機の変形例として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機として説明するものに適用可能であり、また、本実施形態において他の遊技機として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において第１の遊技機の変形例として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【０８４９】
上述の第１の遊技機では、所定役（例えば、押し順ベル）が当籤役として決定されたときに、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合にはＡＴ関連処理を有利とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合には当該ＡＴ関連処理を不利とする仕様を採用してもよい。
【０８５０】
そして、上述の第１の遊技機では、その仕様を適用した一例として、所定役が当籤役として決定されたときに、特定態様にて停止操作が行われた場合にはＳＲ情報としてＳＲ１が設定される一方、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合にはＳＲ情報としてＳＲ２が設定され、ＳＲ１が設定された場合には天井ポイントが必ず１減算されるのに対し、ＳＲ２が設定された場合には天井ポイントが１減算されない場合があるように構成することで、ＡＴ関連処理を有利・不利とするように構成してもよい。
【０８５１】
ＳＲ情報は、遊技者が特定の遊技方法で遊技を行ったかを識別するための情報として構成される。具体的には、押し順ベルに当籤した遊技において、左第１停止で停止操作が行われたか（第１リールに対して最初に停止操作が行われたか）を識別する。押し順ベルに当籤した遊技において、左第１停止で停止操作が行われた場合には、ＳＲ情報として「ＳＲ１」が設定される。一方、押し順ベルに当籤した遊技において、左第１停止以外で停止操作が行われた場合には、ＳＲ情報として「ＳＲ２」が設定される。また、押し順ベル以外の役に当籤した遊技においては、押し順にかかわらず「ＳＲ０」が設定される。
【０８５２】
もっとも、このような仕様は、上述のものとは異なる遊技性においても適用可能であるし、また、上述の第１の遊技機の項で説明した点以外にも、さらに種々の工夫をなす余地もあると考えられることから、本変形例ではそれらについて説明する。
【０８５３】
なお、このような仕様では、所定役が、特定態様にて停止操作が行われた場合には付与される遊技価値の期待値が低くなる一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には付与される遊技価値の期待値が高くなるように構成されることで、結果として、その遊技機全体の特性としても、特定態様にて停止操作が行われた場合には遊技価値の付与が不利となる一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には遊技価値の付与が一方的に有利となるように構成されるものとなる。
【０８５４】
したがって、本変形例では、基本的に、所定役が当籤役として決定されたか否かにかかわらず、所定の制御条件が満たされるときには、特定態様にて停止操作が行われた場合にはＡＴに関連する決定（ＡＴ関連処理）が優遇され得る制御が行われ、特定態様にて停止操作が行われなかった場合にはＡＴに関連する決定（ＡＴ関連処理）が優遇され得る制御が行われないものとして説明する。
【０８５５】
＜第１の遊技機（変形例）の遊技性＞
まず、図６８を参照して、本変形例における遊技の流れについて説明する。図６８は、本変形例における非有利区間及び有利区間における遊技状態の遷移フローの一例を示す図である。
【０８５６】
遊技者が遊技を行う状態（遊技区間）として、非有利区間及び有利区間が設けられている点は上述の第１の遊技機と同様である。また、上述の第１の遊技機では、非有利区間の遊技性に係る遊技状態として、通常中（非有利区間）が設けられていたが、この点は本変形例も同様である。上述の第１の遊技機と異なる点は、有利区間の遊技性に係る遊技状態として、ＣＺ中、ＳＴ中、第１ボーナス中及び第２ボーナス中が設けられている点である。
【０８５７】

ＣＺ中及びＳＴ中は、通常有利区間（演出区間）として構成される状態であるが、通常中（有利区間）よりもＡＴ状態に移行しやすい（あるいは、通常中（有利区間）とは異なる条件でＡＴ状態に移行するか否かを決定可能とする）点で、通常中（有利区間）よりも有利な遊技状態となっている。また、第１ボーナス中及び第２ボーナス中は、増加区間（ＡＴ状態）として構成される状態であり、基本的には、上述の第１の遊技機における疑似ボーナス中と同様の遊技状態となっている。また、本変形例では、ＳＴ中及び第２ボーナス中は、双方の遊技状態で連チャンゾーンを構成している。これについては後述する。

【０８５８】

通常中（非有利区間）において、有利区間に移行することが決定される（有利区間移行抽籤に当籤する）と、通常中（有利区間）に移行する（有利区間移行）。すなわち、有利区間が開始される。なお、有利区間移行抽籤の結果として、ＣＺ中や第１ボーナス中に移行することが決定され得るようにし、当該決定結果となった場合には直接該当の状態に移行する場合があるようにしてもよい。

【０８５９】

通常中（有利区間）において遊技が行われ、ＣＺ移行条件が成立すると、ＣＺ中に移行する（ＣＺ移行条件成立）。なお、ＣＺ移行条件は、例えば、当籤役に応じて設定された当籤確率でＣＺ移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合に成立するように構成してもよいし、当籤役（あるいは、遊技期間の進行）に応じてポイントが付与されるようにし、付与されたポイントが規定値となった（周期到達となった）場合に成立する（あるいは、周期到達となったときにＣＺ移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合に成立する）ように構成してもよい。すなわち、ＣＺ中に移行させるか否かが所定契機ごとに決定され得るようにすればよく、上述のものもあくまで一例である。

【０８６０】

また、通常中（有利区間）において遊技が行われ、ＡＴ移行条件が成立すると、第１ボーナス中に移行する（ＡＴ移行条件成立）。なお、ＡＴ移行条件は、例えば、当籤役に応じて設定された当籤確率でＡＴ移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合に成立するように構成してもよいし、上述の周期到達となったときにＡＴ移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合に成立する（あるいは、ＣＺ移行抽籤の一部の決定結果としてＡＴ当籤が決定される）ように構成してもよい。また、例えば、設定された天井ゲーム数やＣＺ失敗回数が規定値となった場合に成立するように構成してもよい。すなわち、第１ボーナス中に移行させるか否かが所定契機ごとに決定され得るようにすればよく、上述のものもあくまで一例である。

【０８６１】

なお、本変形例では、基本的に、通常中（有利区間）からＣＺ中に移行し、ＣＺ中にＡＴ移行条件が成立して第１ボーナス中に移行するというルートが遊技性のメインルートとなっているため、通常中（有利区間）から直接第１ボーナス中に移行する確率は必ずしも高いものではない。また、ＡＴ移行条件が成立した場合、その一部では第２ボーナス中に移行することが決定され得るように構成してもよい。

【０８６２】

なお、通常中（有利区間）では、例えば、ＣＺ移行条件が成立するか否かに関連する決定、あるいは、ＡＴ移行条件が成立するか否かに関連する決定においては、現在の状態が優遇状態であるか、あるいは非優遇状態であるかによってその決定確率に差異が生じるように構成されている。具体的には、現在の状態が優遇状態であれば、上述の決定が優遇され、現在の状態が非優遇状態であれば、上述の決定が優遇されないものとなっている。

【０８６３】

例えば、通常中（有利区間）において、現在の状態が優遇状態であるときは、少なくとも非優遇状態と比べてＣＺ移行抽籤に当籤しやすくし、現在の状態が非優遇状態であるときは、少なくとも優遇状態と比べてＣＺ移行抽籤に当籤しにくくする。なお、「当籤しにくくする」ことには、当該抽籤自体が行われなくなる（あるいは、当該抽籤は行われるが、当籤の抽籤値に「０」が設定されることによって実質的に当籤しなくなる（若しくは、

当籤の抽籤値に極めて小さい値（例えば「１」など）が設定されることによって現実的にほぼ当籤しなくなる））ことが含まれるものとする。

【０８６４】

また、例えば、通常中（有利区間）において、現在の状態が優遇状態であるときは、少なくとも非優遇状態と比べてポイントが付与されやすくし、現在の状態が非優遇状態であるときは、少なくとも優遇状態と比べてポイントが付与されにくくする。なお、「付与されにくくする」ことには、当該付与決定自体が行われなくなる（あるいは、当該付与決定は行われるが、決定結果が必ず「０」となることによって実質的に付与されなくなる（若しくは、決定結果が「１」以上となる確率が極めて低くなることによって現実的にほぼ付与されなくなる））ことが含まれるものとする。むろん、例えば、「スイカ」に当籤したときに、優遇状態であれば「５」ポイントが付与されるが、非優遇状態であれば「１」ポイントしか付与されないといった態様で差異を生じさせることも可能である。また、例えば、１ゲームにつき１ポイント付与されるものである場合、優遇状態であれば当該付与処理が行われるが、非優遇状態であれば当該付与処理は行われないといった態様で差異を生じさせることも可能である。

【０８６５】

また、例えば、通常中（有利区間）において、現在の状態が優遇状態であるときは、少なくとも非優遇状態と比べてＡＴ移行抽籤に当籤しやすくし、現在の状態が非優遇状態であるときは、少なくとも優遇状態と比べてＡＴ移行抽籤に当籤しにくくする。なお、「当籤しにくくする」ことには、当該抽籤自体が行われなくなる（あるいは、当該抽籤は行われるが、当籤の抽籤値に「０」が設定されることによって実質的に当籤しなくなる（若しくは、当籤の抽籤値に極めて小さい値（例えば「１」など）が設定されることによって現実的にほぼ当籤しなくなる））ことが含まれるものとする。

【０８６６】

また、例えば、通常中（有利区間）において、現在の状態が優遇状態であるときは、ＣＺ移行条件が成立するか否かに関連する決定については非優遇状態よりも優遇するが、ＡＴ移行条件が成立するか否かに関連する決定については非優遇状態と同様とする（すなわち、優遇しない）といった態様を採用することもできるし、通常中（有利区間）において、現在の状態が優遇状態であるときは、ＡＴ移行条件が成立するか否かに関連する決定については非優遇状態よりも優遇するが、ＣＺ移行条件が成立するか否かに関連する決定については非優遇状態と同様とする（すなわち、優遇しない）といった態様を採用することもできる。

【０８６７】

ＣＺ中は、例えば、規定期間（例えば、１６ゲーム）継続可能に構成され、その間にＡＴ移行条件が成立した場合に第１ボーナス中に移行するものとなっている（ＣＺ成功・ＡＴ当籤）。一方、その間にＡＴ移行条件が成立しなかった場合には通常中（有利区間）に移行するものとなっている（ＣＺ失敗・ＡＴ非当籤）。なお、ＣＺ中のＡＴ移行条件は、例えば、通常中（有利区間）におけるものと同様のものを採用することもできるし、後述のＳＴ中におけるものと同様のものを採用することもできる。

【０８６８】

また、後述の優遇制御に関し、例えば、ＣＺ中において、通常中（有利区間）におけるものと同様のＡＴ移行条件を採用する場合（あるいは、少なくともＳＴ中におけるものとは異なるＡＴ移行条件を採用する場合）には、通常中（有利区間）と同様の優遇制御が行われるものとすることができるし、ＳＴ中におけるものと同様のＡＴ移行条件を採用する場合（あるいは、少なくとも通常中（有利区間）におけるものとは異なるＡＴ移行条件を採用する場合）には、ＳＴ中と同様の優遇制御が行われるものとすることができる。

【０８６９】

また、ＣＺ中のＡＴ移行条件は、これらとは異なるものを採用することもできる。例えば、ＣＺ中においては、その前半期間（例えば、１～１０ゲーム）で所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）にＡＴ当籤期待度を決定する（あるい

は、昇格させる）ための期待度抽籤が行われ、その後半期間（例えば、１１～１５ゲーム）で決定されたＡＴ当籤期待度を用いたＡＴ抽籤が所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）に行われ、これに当籤した場合には最終ゲーム（例えば、１６ゲーム目）でＡＴ当籤（ＣＺ成功）が告知された上で次ゲームから第１ボーナス中に移行し、これに当籤しなかった場合には最終ゲーム（例えば、１６ゲーム目）でＡＴ非当籤（ＣＺ失敗）が告知された上で次ゲームから通常中（有利区間）に戻るなどといった遊技性を採用することができる。

【０８７０】

この場合、例えば、前半期間において、現在の状態が優遇状態であるときは、少なくとも非優遇状態と比べて期待度抽籤に当籤しやすくし、現在の状態が非優遇状態であるときは、少なくとも優遇状態と比べて期待度抽籤に当籤しにくくするようにすればよい。また、後半期間において、現在の状態が優遇状態であるときは、少なくとも非優遇状態と比べてＡＴ抽籤に当籤しやすくし、現在の状態が非優遇状態であるときは、少なくとも優遇状態と比べてＡＴ抽籤に当籤しにくくするようにすればよい。なお、「当籤しにくくする」の態様は上述のものと同様である。

【０８７１】

なお、ＣＺ中の規定期間はあくまで例示であり、その期間は上述のものに限られない。例えば、ゲーム数管理とする場合、その期間は変動しない他の期間（例えば、３２ゲーム）であってもよいし、変動し得る他の期間（例えば、１６～３２ゲームのうちで抽籤により決定されたもの）であってもよい。また、例えば、ＡＴ抽籤が行われる回数が規定されている（あるいは、抽籤によって決定される）ものとし、この規定回数（例えば、３回）のＡＴ抽籤が行われるまでは継続するものとしてもよい。また、例えば、規定回数（例えば、３回）の継続抽籤が行われるものとし、途中の継続抽籤で非当籤となった場合にはＣＺ失敗となって終了し、全ての継続抽籤で当籤となった場合にはＣＺ成功となって終了するものとしてもよい。

【０８７２】

また、ＣＺ中においては、一又は複数の抽籤や決定結果にしたがい、第１ボーナス中に移行させるか否かが最終的に決定され得るようにすればよく、その態様も上述のものに限られない。また、ＣＺ中から第１ボーナス中に移行させる時期も上述のものに限られない。例えば、最終ゲームを待つことなく、ＡＴ移行条件が成立したゲームの次ゲームから第１ボーナス中に移行させるようにしてもよい。

【０８７３】

また、ＣＺ中は、基本的に非ＡＴ状態である通常有利区間として構成されるものとしているが、少なくとも一部の期間（例えば、開始から押し順ベルが３回当籤するまでなど）においてはＡＴ状態（増加区間）となるようにしてもよいし、あるいは、全期間をＡＴ状態である増加区間として構成してもよい。

【０８７４】

第１ボーナス中は、例えば、規定期間（例えば、２０ゲーム）継続可能に構成されるＡＴ状態（増加区間）であり、規定期間の遊技が消化されると連チャンゾーンに移行する（第１ボーナス終了条件成立）。なお、第１ボーナス中は、少なくとも所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）に第２ボーナスストック抽籤が行われ、これに当籤した場合には第２ボーナスカウンタの値が１加算される。そして、規定期間の遊技が消化されたときに、第２ボーナスカウンタの値が１以上である場合には第２ボーナスカウンタの値を１減算した上で第２ボーナス中に移行し、第２ボーナスカウンタの値が０である場合にはＳＴ中に移行するものとなっている。

【０８７５】

なお、第１ボーナス中の規定期間はあくまで例示であり、その期間は上述のものに限られない。例えば、ゲーム数管理とする場合、その期間は変動しない他の期間（例えば、２５ゲーム）であってもよいし、変動し得る他の期間（例えば、２０・２５・３０ゲームのうちで抽籤により決定されたもの）であってもよい。また、押し順ベル当籤時にナビが発

生する回数（ナビ回数）によって管理されるもの（例えば、ナビ回数が「１０」回となったときに終了するなど）であってもよいし、差枚数によって管理されるもの（例えば、差枚数が「１００」枚を超えるものとなったときに終了するなど）であってもよい。

【０８７６】

第２ボーナス中は、例えば、規定期間（例えば、１０ゲーム）継続可能に構成されるＡＴ状態（増加区間）であり、規定期間の遊技が消化されると１セットが終了する。また、第２ボーナス中は、少なくとも所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）に第２ボーナスストック抽籤が行われ、これに当籤した場合には第２ボーナスカウンタの値が１加算される。そして、規定期間の遊技が消化されたとき（１セットが終了したとき）に、第２ボーナスカウンタの値が１以上である場合（第１ボーナス中やＳＴ中で加算されていたものも含む）には第２ボーナスカウンタの値を１減算した上で第２ボーナス中の次セットが開始されるものとなっている。なお、このとき（第１ボーナス中から最初に移行するとき、ＳＴ中から移行するときを含む）、規定期間を抽籤し（例えば、１０・２０・４０ゲームのうちから一のゲーム数を決定し）、当該抽籤結果にしたがった規定期間が設定されるようにしてもよい。

【０８７７】

また、第２ボーナス中において、規定期間の遊技が消化されたとき（１セットが終了したとき）に、第２ボーナスカウンタの値が０である場合にはＳＴ中に移行するものとなっている（第２ボーナス終了条件成立）。なお、第２ボーナス中の規定期間の管理手法は、第１ボーナス中の説明で述べたものと同様、種々の管理手法を採用することができる。

【０８７８】

ＳＴ中は、例えば、規定期間（例えば、１６ゲーム）継続可能に構成され、その間に第２ボーナス移行条件が成立した場合には第２ボーナス中に移行するものとなっている（第２ボーナス移行条件成立）。一方、その間に第２ボーナス移行条件が成立しなかった場合には、連チャンゾーンの終了（すなわち、有利区間の終了）となり、有利区間終了時の初期化処理が行われるとともに、通常中（非有利区間）に移行するものとなっている（連チャンゾーン終了）。

【０８７９】

ＳＴ中は、基本的に非ＡＴ状態である通常有利区間として構成され、所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）に、当籤役と後述の抽籤ＭＡＰの種類とに応じて設定された当籤確率でＡＴ移行抽籤（第２ボーナス移行抽籤）が行われるとともに、所定契機ごと（例えば、特定役に当籤するごと、あるいは一遊技ごと）に第２ボーナスストック抽籤が行われる。また、これらの抽籤（決定）に際しては、現在の状態が優遇状態であるか、あるいは非優遇状態であるかによってその決定確率に差異が生じるように構成されている。具体的には、現在の状態が優遇状態であれば、上述の決定が優遇され、現在の状態が非優遇状態であれば、上述の決定が優遇されないものとなっている。なお、これについては、図７０を用いて後で詳述する。

【０８８０】

ＳＴ中において、第２ボーナス移行抽籤に当籤した場合には次ゲームから（規定期間の遊技が消化されたときとしてもよい）第２ボーナス中に移行する（第２ボーナス移行条件成立）。また、第２ボーナス移行抽籤に当籤することなく規定期間の遊技が消化されたときに、第２ボーナスカウンタの値が１以上である場合には第２ボーナスカウンタの値を１減算した上で第２ボーナス中に移行する（第２ボーナス移行条件成立）。一方、第２ボーナス移行抽籤に当籤することなく規定期間の遊技が消化されたときに、第２ボーナスカウンタの値も０である場合には上述のとおり連チャンゾーンが終了し、通常中（非有利区間）に移行する（連チャンゾーン終了）。なお、ＳＴ中の規定期間の管理手法は、ＣＺ中の説明で述べたものと同様、種々の管理手法を採用することができる。

【０８８１】

このように、本変形例では、第１ボーナス中の終了後は、第２ボーナス中とＳＴ中とを相互に行き来（ループ）可能とし、ＳＴ中自体は増加区間として構成されていないが、第

２ボーナス中に移行する期待度が高い（第２ボーナスが連チャンしやすい）状態として構成することで、遊技者にとって興趣の高い遊技期間である連チャンゾーンとして構成することを可能としている。また、第２ボーナス中はそれ単体で連チャンする（延長される）場合もあることから、これによっても興趣を高めることを可能としている。

【０８８２】

なお、このような連チャンゾーンをさらに複数設けるようにしてもよい。例えば、上述の連チャンゾーンを第１連チャンゾーンとし、この第１連チャンゾーンにおいて、特定の移行条件が成立した場合にはこれよりも有利な第２連チャンゾーンに移行させるようにしてもよい。この場合、特定の移行条件は、例えば、第１連チャンゾーンにおいて、規定回数（例えば、累計５セット）の第２ボーナスが実行された場合に成立するなどとすればよい。また、例えば、第１連チャンゾーンにおいて、規定期間（例えば、累計１００ゲーム）の第２ボーナスが実行された場合に成立するなどとしてもよい。むろんこれらも一例であり、遊技者の遊技結果によって成立し得る各種の条件を採用することができる。

【０８８３】

また、第２連チャンゾーンを有利とする態様であるが、例えば、第１連チャンゾーンにおいては、第２ボーナスが連チャンする（ループする）確率がトータル５０～７５％程度に設定されるのに対し、第２連チャンゾーンにおいては、当該確率がトータル８５％程度に設定されるものとして、相対的に第２ボーナス中に移行しやすくなる（連チャンゾーンが終了しにくくなる）といった態様を採用することもできるし、また、例えば、第１連チャンゾーンにおいては、第２ボーナス中の規定期間として４０ゲームが所定確率で決定されるのに対し、第２連チャンゾーンにおいては、これによりも４０ゲームが決定されやすくなる、あるいは、第１連チャンゾーンにおいては、第２ボーナスストック抽籤の当籤確率が所定確率であるのに対し、第２連チャンゾーンにおいては、これによりも当籤しやすくなることで、一回あたりの第２ボーナス中の継続度合いが有利となるといった態様を採用することもできる。むろんこれらも一例であり、結果として遊技者に有利となるのであればどのような態様も採用することができる。

【０８８４】

なお、図示は省略しているが、本変形例においても、各種リミット処理が作動するものとなっており、例えば、第１ボーナス中、第２ボーナス中及びＳＴ中のいずれかの状態において、有利区間ゲーム数カウンタの値が「１４２０」以上となった場合、又は有利区間払出数カウンタの値が「２０６４」以上となった場合にはエンディング状態に移行する。エンディング状態は、払出数リミッタが作動するまで、又は、ゲーム数リミッタが作動するまで、押し順ベルについてナビが発生し得る状態として構成される。エンディング状態において、これらのうちいずれかのリミッタが作動した場合には、有利区間が強制的に終了され、通常中（非有利区間）に移行する。

【０８８５】

また、いずれの状態であっても、有利区間ゲーム数カウンタの値が「１５００」以上となった場合にはゲーム数リミッタが作動し、有利区間払出数カウンタの値が「２４００」以上となった場合には払出数リミッタが作動する。この場合には、上述の如く、有利区間は強制的に終了となり、有利区間終了時の初期化処理が行われるとともに、通常中（非有利区間）に移行することとなる。

【０８８６】

なお、ゲーム数リミッタは、ゲーム数の消化のみによって作動し得るものであるため、例えば、作動直前から遊技を開始した遊技者が（すぐにリミッタが作動して）興趣を低下させてしまう可能性があり、また、有利区間移行抽籤の抽籤内容などによっては、一度有利区間を終了させて非有利区間に移行させたときのほうが遊技者に有利となる場合があることから、有利区間を頻繁に終了させることがかえって射幸性の適切な管理に資することとならない可能性もある。したがって、このような観点より、リミッタとしては払出数リミッタのみを搭載し、ゲーム数リミッタについては搭載しないように構成してもよい。

【０８８７】

＜第１の遊技機（変形例）の優遇制御例（通常中）＞

続いて、図６９を参照して、本変形例における通常中（有利区間）の優遇制御例について説明する。なお、図６９では、通常中（有利区間）の優遇制御例を説明するために、当該処理の一例を示す概要的なフローチャートを示している。したがって、当該優遇制御における具体的な制御処理は必ずしも図６９に示すものに限られない。

【０８８８】

まず、メインＣＰＵ１０１は、遊技が開始されるとき（例えば、開始操作が行われたとき）に、優遇カウンタは１以上であるか否かを判定する（Ｓ４００１）。優遇カウンタは、当該遊技を優遇状態とするか、非優遇状態とするかを管理するためのカウンタであり、遊技開始時に、優遇カウンタが１以上であれば当該遊技は優遇状態に制御され、優遇カウンタが０であれば当該遊技は非優遇状態に制御されるものとなっている。

【０８８９】

メインＣＰＵ１０１は、優遇カウンタは１以上であると判定した場合（Ｓ４００１がＹＥＳ）、当該遊技の状態を優遇状態にセットする（Ｓ４００２）。次いで、優遇カウンタを１減算する（Ｓ４００３）。その後、処理をＳ４００５に移す。

【０８９０】

一方、メインＣＰＵ１０１は、優遇カウンタは１以上でない（すなわち、０である）と判定した場合（Ｓ４００１がＮＯ）、当該遊技の状態を非優遇状態にセットする（Ｓ４００４）。その後、処理をＳ４００５に移す。

【０８９１】

なお、図６９では図示を省略しているが、Ｓ４００１～Ｓ４００４の処理によって、当該遊技の状態として優遇状態又は非優遇状態が設定されると、メインＣＰＵ１０１は、当該設定結果を参照して、ＣＺ移行条件が成立するか否かに関連する決定やＡＴ移行条件が成立するか否かに関連する決定などのＡＴ状態（例えば、第１ボーナス中）に関連する決定を行う。

【０８９２】

例えば、メインＣＰＵ１０１は、優遇状態が設定されていれば、当該遊技においてＣＺ移行抽籤を行ったり、ＡＴ移行抽籤を行ったりするなどの処理を行う。また、当該遊技において、ポイントを付与したり、天井ゲーム数を進行させたりするなどの処理を行う。一方、メインＣＰＵ１０１は、非優遇状態が設定されていれば、当該遊技においてＣＺ移行抽籤を行ったり、ＡＴ移行抽籤を行ったりするなどの処理を行わない。また、当該遊技において、ポイントを付与したり、天井ゲーム数を進行させたりするなどの処理を行わない。なお、優遇状態を非優遇状態と比べてどのように有利とするかの態様、あるいは、非優遇状態を優遇状態と比べてどのように不利とするかの態様については、これらに限られないことは上述のとおりである。

【０８９３】

次いで、メインＣＰＵ１０１は、当該遊技の停止操作が左第１停止であるか否かを判定する（Ｓ４００５）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、当該遊技において特定態様にて停止操作が行われたかを判定する。なお、この判定は、第１停止操作が行われたときに実行されるものであってもよいし、第３停止操作後に実行されるものであってもよい。

【０８９４】

メインＣＰＵ１０１は、当該遊技の停止操作が左第１停止であると判定した場合（Ｓ４００５がＹＥＳ）、優遇カウンタ加算抽籤を行い、当該抽籤に当籤なら優遇カウンタを１加算する（Ｓ４００６）。その後、当該処理を終了させる。一方、メインＣＰＵ１０１は、当該遊技の停止操作が左第１停止でないと判定した場合（Ｓ４００５がＮＯ）、そのまま当該処理を終了させる。

【０８９５】

優遇カウンタ加算抽籤では、例えば、確率分母を「６５５３６」とし、「優遇カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３５」が割り当てられ、「優遇カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられた優遇カウンタ加算

抽籤テーブルが参照され、抽出された乱数値に基づいて当該抽籤が行われる。この場合、「６５５３５／６５５３６」の確率で優遇カウンタが１加算されることが決定され、「１／６５５３６」の確率で優遇カウンタは加算されないことが決定される。すなわち、本変形例では、優遇状態の遊技において、左第１停止にて停止操作が行われた場合であっても優遇カウンタの値を１加算しないときがあるように構成されている。

【０８９６】

なお、上記の優遇カウンタ加算抽籤テーブルの構成はあくまで一例である。例えば、確率分母を「２５６」とし、「優遇カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「２５５」が割り当てられ、「優遇カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられるものであってもよい。すなわち、２バイト乱数でなく、１バイト乱数を用いて当該抽籤が行われるものとしてもよい。

【０８９７】

また、例えば、「優遇カウンタ加算せず」が決定される確率を上記のものよりも増加させてもよい。例えば、１バイト乱数の例で説明すると、「優遇カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１９２」や「１２８」が割り当てられるものとし、「優遇カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６４」や「１２８」が割り当てられるものとしてもよい。すなわち、優遇状態の有利の程度（あるいは、非優遇状態の不利の程度）などに応じて、適宜確率が設定されるようにすればよい。これは、他の例についても同様である。

【０８９８】

また、例えば、確率分母を「６５５３６」とし、「優遇カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３６」が割り当てられ、「優遇カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「０」が割り当てられるものであってもよい。すなわち、抽籤処理自体は行われるが、当該遊技の停止操作が左第１停止である場合には実質的に必ず優遇カウンタが１加算されるものとしてもよい。なお、これに付随して、例えば、Ｓ４００５の処理において、メインＣＰＵ１０１が当該遊技の停止操作が左第１停止であると判定した場合には、Ｓ４００６の処理においては単に優遇カウンタを１加算する処理が行われるものとし、抽籤は行われないものとしてもよい。

【０８９９】

また、Ｓ４００５の処理において、メインＣＰＵ１０１が当該遊技の停止操作が左第１停止であると判定した場合には、Ｓ４００６の処理において次遊技を対象として優遇状態がセットされる処理が行われるものとし、メインＣＰＵ１０１が当該遊技の停止操作が左第１停止以外であると判定した場合には、その後の処理（仮にＳ４００７とする）において次遊技を対象として非優遇状態がセットされる処理が行われるものとして、優遇カウンタを用いることなくこのような制御が行われ得るものとしてもよい。

【０９００】

また、例えば、確率分母を「６５５３６」とし、「優遇カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３４」が割り当てられ、「優遇カウンタ２加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられ、「優遇カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられるものであってもよい。すなわち、一回の遊技で優遇カウンタの値が２以上加算される場合があるものとして、一回の遊技の結果に応じて複数の遊技分、優遇状態が継続することが決定され得るものとしてもよい。

【０９０１】

このように、メインＣＰＵ１０１は、Ｓ４００５及びＳ４００６の処理によって、当該遊技の停止操作が左第１停止である場合には、原則として優遇カウンタを１加算する。そうすると、次遊技においては優遇状態が設定されることとなる（Ｓ４００１及びＳ４００２参照）。一方、当該遊技の停止操作が左第１停止でない場合には、原則として優遇カウンタを加算しない。そうすると、次遊技においては非優遇状態が設定されることとなる（Ｓ４００１、Ｓ４００３及びＳ４００４参照）。

【０９０２】

すなわち、本変形例では、上述のような優遇制御が行われることで、遊技者が左第１停止で遊技を行うと、少なくともその次遊技は優遇状態となることから、遊技者がずっと左第１停止で遊技を行えば、基本的にずっと優遇状態で遊技が行われることとなる。一方、遊技者が左第１停止以外で遊技を行うと、少なくともその次遊技は非優遇状態となることから、遊技者がずっと左第１停止以外で遊技を行えば、基本的にずっと非優遇状態で遊技が行われることとなる。

【０９０３】

なお、上述の一例では、特定態様にて停止操作が行われた場合、Ｓ４００６の処理において優遇カウンタが加算更新されることで、次遊技が優遇状態とされるようにしていたが、優遇カウンタの制御手法はこれに限られない。例えば、Ｓ４００３又はＳ４００４の処理後、Ｓ４００５の処理前に、優遇カウンタを１加算する処理が行われるものとし、Ｓ４００５がＹＥＳの場合にはそのまま処理を終了する一方、Ｓ４００５がＮＯの場合には優遇カウンタ減算抽籤を行い、当該抽籤に当籤なら優遇カウンタを１減算し、当該処理を終了させるようにしてもよい。この場合、例えば、「優遇カウンタ１減算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３５」が割り当てられ、「優遇カウンタ減算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられた優遇カウンタ減算抽籤テーブルが参照され、抽出された乱数値に基づいて当該抽籤が行われるものとすればよい。

【０９０４】

また、この場合、優遇カウンタ減算抽籤テーブルは、例えば、確率分母を「６５５３６」とし、「優遇カウンタ１減算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３４」が割り当てられ、「優遇カウンタ２減算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられ、「優遇カウンタ減算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられるものであってもよい。すなわち、一回の遊技で優遇カウンタの値が実質的に２以上減算される場合があるものとして、一回の遊技の結果に応じて複数の遊技分、非優遇状態が継続することが決定され得るものとしてもよい。

【０９０５】

なお、本変形例では、上述のような優遇制御は、少なくとも通常中（有利区間）においてはいずれの当籤役が決定されたとしても行われ得るように構成されている。すなわち、本変形例では、通常中（有利区間）における全ての遊技で上述のような優遇制御を実行可能であるものとしている。また、これは、ＣＺ中も同様の優遇制御を行うように構成する場合には当該ＣＺ中も同様であるし、ＳＴ中も同様の優遇制御を行うように構成する場合には当該ＳＴ中も同様である。すなわち、本変形例では、少なくともＡＴ状態（第１ボーナス中又は第２ボーナス中）に制御されていないときには、上述のような優遇制御を実行可能である。

【０９０６】

もっとも、ＡＴ状態においても上述のような優先制御を実行可能としてもよい。例えば、ＡＴ状態であるか否かで処理が分岐することで制御負荷が増加する可能性がある場合には、上述のような優先制御は常に実行されることとしてもよい。この場合、例えば、ＡＴ状態である場合には優遇カウンタの値を参照することなく各種の決定や抽籤が行われるようにすればよい。あるいは、ＡＴ状態では固有の処理として、遊技ごとに優遇カウンタを１加算する処理が行われるものとし、これによってＡＴ状態中は優遇カウンタの値が常に１以上となるようにしてもよい。なお、この場合には、ＳＴ中に移行することとなったときに、優遇カウンタの値の初期値として「１」がセットされるようにすればよい。

【０９０７】

ここで、上述の第１の遊技機では、例えば「押し順ベル」のように、停止操作態様（打順）によって付与される遊技価値の期待値が変動する押し順小役と、この押し順小役以外の停止操作態様（打順）によって付与される遊技価値の期待値は変動しない不問役（例えば各リプレイ役やその他の各小役）とを有し、押し順小役が当籤役として決定された遊技で、特定態様（例えば左第１停止）にて停止操作が行われた場合を、ＡＴ関連処理は有利となるが、付与される遊技価値の期待値は低くなるＡＴ優遇打順とし、特定態様とは異な

る態様（例えば左第１停止以外）にて停止操作が行われた場合を、ＡＴ関連処理は不利となるが、付与される遊技価値の期待値は高くなる獲得優遇打順（換言すれば、ＡＴ非優遇打順）としてもよい。本変形例では、これとは異なる態様にてこれらの打順を構成するものとしている。

【０９０８】

具体的には、上述の如く、遊技機全体の特性として、特定態様にて停止操作が行われた場合には遊技価値の付与が不利となる一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には遊技価値の付与が一方的に有利となると捉え、遊技ごとの当籤役にかかわらず、特定態様にて停止操作が行われた場合には、これをＡＴ優遇打順とし（すなわち、優遇状態に制御可能とし）、特定態様とは異なる態様にて停止操作が行われた場合には、これをＡＴ非優遇打順とする（すなわち、非優遇状態に制御可能とする）ものとしている。換言すれば、全ての役をこのような優遇制御の対象としているのである。

【０９０９】

もっとも、このような優遇制御は、基本的に推奨遊技状態で遊技が行われることを前提としていることから、例えば、推奨遊技状態では原則として当籤することがないボーナス役（例えば、「Ｆ＿ＢＢ」など）については対象外としてもよい。

【０９１０】

また、例えば、「Ｆ＿チェリー」や「Ｆ＿スイカ」など、当籤確率は低いが遊技者にとって期待度の高い態様にて各種の抽籤や決定が行われ得る、いわゆるレア役については対象外としてもよい。なお、レア役を対象外とする態様であるが、例えば、現在の状態が優遇状態でレア役が当籤役として決定された場合には対象外とする一方、現在の状態が非優遇状態でレア役が当籤役として決定された場合には対象外とはしないといった態様を採用することもできる。

【０９１１】

また、例えば、現在の状態が優遇状態でレア役が当籤役として決定された場合に、例えば、ＣＺ移行抽籤やＡＴ移行抽籤に当籤するなどして有利状態に移行することが決定された場合には対象外とする一方、有利状態に移行することが決定されなかった場合には対象外とはしないといった態様を採用することもできる。

【０９１２】

また、通常役のみを優遇制御の対象とするように構成してもよい。なお、ここでいう「通常役」は、例えば、上述の如く、ボーナス役を除く全ての役として定義することもできるし、ボーナス役及びレア役を除く全ての役として定義することもできる。また、ボーナス役の持越状態（フラグ間）で遊技が進行する場合においては、フラグ間におけるレア役以外の役として定義することもできる。例えば、押し順ベル等の小役とフラグ間のボーナス役との重複役や、リプレイ役とフラグ間のボーナス役との重複役をまとめて「通常役」として扱うものとしてもよい。また、これらとは異なる捉え方によって定義することもできる。例えば、全ての役のうちで、優遇制御の対象とする役と、優遇制御の対象外としない役とを予め定めておき（役種は問わない）、優遇制御の対象とする役は全て通常役であるとして定義することもできる。なお、このように、優遇制御の対象とする役は「ペナルティくじ」等と称されることがある。

【０９１３】

また、例えば、リプレイ役について、押し順リプレイを設けるようにし、当該押し順リプレイは、特定態様にて停止操作が行われた場合には特定の図柄組合せが表示される一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には当該特定の図柄組合せが表示されないように構成し（ただし、最終的に付与されるのはともに再遊技である）、この押し順リプレイと押し順小役とを通常役として定義し、その他の不問役は対象外とするとして定義することもできる。

【０９１４】

＜第１の遊技機（変形例）の優遇制御例（ＳＴ中）＞

続いて、図７０を参照して、本変形例におけるＳＴ中の優遇制御例について説明する。

図７０では、ＳＴ中の優遇制御例を説明するために、ＳＴ中の遊技の流れの一部の概要を示している。なお、各遊技を優遇状態又は非優遇状態のいずれに制御するかは、図６９を用いて説明したものと同様の手法を採用することもできるし、これとは異なる手法を採用することもできる。

【０９１５】

（ＳＴ中の仕様例）

まず、ＳＴ中の仕様例について説明する。上述のとおり、また、図７０に示すように、ＳＴ中は、例えば、規定期間（例えば、１６ゲーム）継続可能に構成される。この規定期間は、期間管理情報であるＳＴゲーム数カウンタによって管理される。ＳＴゲーム数カウンタの値は、その遊技における停止操作態様が順押し（左第１停止）であるか、変則押し（左第１停止以外）であるかにかかわらず（換言すれば、優遇状態に制御されるか、非優遇状態に制御されるかにかかわらず）、１ゲームにつき１ずつ加算される。すなわち、ＳＴ状態の遊技期間（期間管理情報）は、打順不問で進行する。なお、ＳＴゲーム数カウンタは減算更新によって対応する情報を管理するものであってもよい。

【０９１６】

また、例えば、変動表示部を３つのリール（左リール３Ｌ,中リール３Ｃ，右リール３Ｒ）で構成する場合、より詳細には、「左→中→右」の順に停止操作を行う場合は「順押し」、「左→右→中」の順に停止操作を行う場合は「ハサミ打ち」などともいうが、図７０の説明（他において左第１停止を「順押し」と説明している場合も同様）においては、左第１停止（左→中→右、及び、左→右→中の両方）を含めて「順押し」と表記している。そして、少なくとも本例では、左第１停止の場合は、左→中→右の順で停止操作する場合と、左→右→中の順で停止操作する場合とで特に差を設けない（処理の上でも同じ扱い）として、第１停止時点で優遇状態に関する処理を可能としている。もっとも、左→中→右の順で停止操作する場合と、左→右→中の順で停止操作する場合とで優遇状態とするか否かの処理に関して差を設けるものとしてもよく、例えば、左→中→右の順で停止操作した場合は優遇状態となる推奨打法（特定態様となる停止操作）がなされたとして扱い、左→右→中の順で停止操作した場合は第２停止の時点で、変則押し（中第１停止、右第１停止）と同じく非推奨打法（特定態様とならない停止操作）がなされたと扱うものとしてもよい。

【０９１７】

また、ＳＴ中の有利度合いを管理する抽籤管理情報であるＭＡＰゲーム数カウンタが設けられる。ＭＡＰゲーム数カウンタの値は、その遊技における停止操作態様が順押しである場合には１加算され、変則押しである場合には加算されないように構成される。なお、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は、抽籤ＭＡＰを設定するために用いられ、基本的にその値が大きいほど、第２ボーナス移行抽籤に当籤する確率が高くなるように構成される。すなわち、ＳＴ中の有利度合い（抽籤管理情報）は、順押しの場合には有利なものに変動し（進行し）、変則押しの場合には有利なものに変動しない（進行しない）。なお、ＭＡＰゲーム数カウンタは減算更新によって対応する情報を管理するものであってもよい。

【０９１８】

また、少なくとも変則押しの場合よりも確率は低いが、順押しの場合にもＭＡＰゲーム数カウンタの値が加算されない場合があるようにしてもよい。この場合、例えば、確率分母を「６５５３６」とし、「ＭＡＰゲーム数カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３５」が割り当てられ、「ＭＡＰゲーム数カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り当てられたＭＡＰゲーム数カウンタ加算抽籤テーブルが参照され、抽出された乱数値に基づいて当該抽籤が行われるものとすればよい。

【０９１９】

また、少なくとも順押しの場合よりも確率は低いが、変則押しの場合にもＭＡＰゲーム数カウンタの値が加算される場合があるようにしてもよい。この場合、例えば、「ＭＡＰゲーム数カウンタ加算せず」の抽籤結果が決定される抽籤値に「６５５３５」が割り当てられ、「ＭＡＰゲーム数カウンタ１加算」の抽籤結果が決定される抽籤値に「１」が割り

当てられたＭＡＰゲーム数カウンタ加算抽籤テーブルが参照され、抽出された乱数値に基づいて当該抽籤が行われるものとすればよい。

【０９２０】

また、ＭＡＰゲーム数カウンタの値と抽籤ＭＡＰとの関係であるが、ＭＡＰゲーム数カウンタの値が大きいほど抽籤ＭＡＰが有利となるという基本的な関係性はそのままに、例えば、ＭＡＰゲーム数カウンタの値と抽籤ＭＡＰとが一義的に対応するものとして、ＭＡＰゲーム数カウンタの値に応じた抽籤ＭＡＰが設定されるものとしてもよいし、ＭＡＰゲーム数カウンタの値に応じた抽籤値で複数の抽籤ＭＡＰの中から一の抽籤ＭＡＰが抽籤によって決定されるものとしてもよい。

【０９２１】

また、抽籤ＭＡＰであるが、例えば、単に第２ボーナス移行抽籤に当籤する確率が進行するのに応じて高くなる（当籤が決定される抽籤値が大きくなる）といった態様で有利度合いを有利なものに変動可能とするものであってもよいし、第２ボーナス移行抽籤が行われる対象役が進行するのに応じて増加する（結果として当籤確率が高くなる）といった態様で有利度合いを有利なものに変動可能とするものであってもよい。また、これらを組み合わせて有利度合いを有利なものに変動可能とするものであってもよい。なお、これらもあくまで一例であり、これら以外の態様にて有利度合いを有利なものに変動可能とするものであってもよい。

【０９２２】

図７０に示すもので例示すると、例えば、抽籤ＭＡＰ「Ａ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」及び「チェリー」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「１」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５５」が割り当てられるものとする。また、抽籤ＭＡＰ「Ｂ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」及び「チェリー」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「２」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５４」が割り当てられるものとする。また、抽籤ＭＡＰ「Ｃ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」及び「チェリー」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「３」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５３」が割り当てられるものとする。

【０９２３】

また、抽籤ＭＡＰ「Ｄ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」、「チェリー」及び「特殊役」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「１」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５５」が割り当てられるものとする。また、抽籤ＭＡＰ「Ｅ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」、「チェリー」及び「特殊役」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「２」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５４」が割り当てられるものとする。また、抽籤ＭＡＰ「Ｆ」であるときは、抽籤対象役は「スイカ」、「チェリー」及び「特殊役」であり、確率分母を「２５６」とし、それぞれで当籤が決定される抽籤値に「３」が割り当てられ、非当籤が決定される抽籤値に「２５３」が割り当てられるものとする。例えば、このようにして順次有利度合いが高めるように構成することができる。

【０９２４】

（制御例１）

続いて、ＳＴ中の１～６ゲーム目において、全て順押しで遊技を行った場合を制御例１として説明する（図７０の（ａ）参照）。

【０９２５】

１ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ａ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９２６】

２ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押

しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｂ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９２７】

３ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｃ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９２８】

４ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｄ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９２９】

５ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｅ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３０】

６ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｆ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３１】

（制御例２）

続いて、ＳＴ中の１～６ゲーム目において、１ゲーム目に変則押しで遊技を行い、残りを順押しで遊技を行った場合を制御例２として説明する（図７０の（ｂ）参照）。

【０９３２】

１ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ａ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３３】

２ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９３４】

３ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｂ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３５】

４ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｃ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３６】

５ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技

は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｄ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３７】

６ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｅ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９３８】

ここで、制御例１と比較してみると、制御例１では、６ゲーム目において抽籤ＭＡＰが「Ｆ」まで進行しているのに対し、制御例２では、６ゲーム目において抽籤ＭＡＰが「Ｅ」までしか進行していない。また、制御例２では、２ゲーム目が非優遇状態に制御されたため、当該遊技では第２ボーナス移行抽籤や第２ボーナスストック抽籤が行われていない（一例として、無抽籤としている）。すなわち、制御例２では、１ゲーム目において、例えば、「押し順ベル」に当籤し、偶々正解打順となって多くの遊技価値が付与される場合があったとしても、少なくともＡＴ関連処理は制御例１よりも不利となっており、しかも、ＳＴ中の遊技期間が延長されるわけでもないため、全体としてみれば、制御例１よりも遊技者に不利となり得るものとなっている。

【０９３９】

（制御例３）

続いて、ＳＴ中の１～６ゲーム目において、１～４ゲーム目に変則押しで遊技を行い、残りを順押しで遊技を行った場合を制御例３として説明する（図７０の（ｃ）参照）。

【０９４０】

１ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ａ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９４１】

２ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９４２】

３ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９４３】

４ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９４４】

５ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９４５】

６ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。また、順押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値も１加算される。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ｂ」とに応じて第２ボーナス移行抽

籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９４６】

ここで、制御例１と比較してみると、制御例１では、６ゲーム目において抽籤ＭＡＰが「Ｆ」まで進行しているのに対し、制御例３では、６ゲーム目において抽籤ＭＡＰが「Ｂ」までしか進行していない。また、制御例３では、２～５ゲーム目が非優遇状態に制御されたため、当該遊技では第２ボーナス移行抽籤や第２ボーナスストック抽籤が行われていない（一例として、無抽籤としている）。すなわち、制御例３では、１～４ゲーム目において、例えば、「押し順ベル」に当籤し、偶々正解打順となって多くの遊技価値が付与される場合があったとしても、少なくともＡＴ関連処理は制御例１よりも不利となっており、しかも、ＳＴ中の遊技期間が延長されるわけでもないため、全体としてみれば、制御例１よりも遊技者に不利となり得るものとなっている。

【０９４７】

（制御例４）

続いて、ＳＴ中の１～６ゲーム目において、全て変則押しで遊技を行った場合を制御例４として説明する（図７０の（ｄ）参照）。

【０９４８】

１ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。また、当該遊技は優遇状態に制御されるため、当籤役と抽籤ＭＡＰ「Ａ」とに応じて第２ボーナス移行抽籤が行われるとともに、第２ボーナスストック抽籤が行われる。

【０９４９】

２ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５０】

３ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５１】

４ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５２】

５ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５３】

６ゲーム目においては、まず、ＳＴゲーム数カウンタの値が１加算される。一方、変則押しで遊技が行われたので、ＭＡＰゲーム数カウンタの値は１加算されない。なお、当該遊技は非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行われず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５４】

なお、このような制御例４において、仮にＳＴ中の全期間において変則押しで遊技が行われたとした場合、７～１５ゲーム目までは同様の制御が行われる。そして、１６ゲーム目においては、当該遊技がＳＴ中に第２ボーナスが付与されるか否かが決定され得る最終ゲームとなるが、当該遊技も非優遇状態に制御されるため、第２ボーナス移行抽籤は行わ

れず、第２ボーナスストック抽籤も行われない。

【０９５５】

そして、次ゲームでは（例えば、１ゲーム目で第２ボーナスストック抽籤に当籤していれば第２ボーナス中に移行する場合はあるとしても）、基本的に第２ボーナスが付与されるか否かの決定は行われず、連チャンゾーンの結果表示（例えば、連チャンゾーン中に、第２ボーナスが何セット実行されたかや何枚獲得できたか等）を行うための１ゲームのＳＴ終了準備状態に制御され、当該遊技でＳＴ中が終了し、また、これによって連チャンゾーンも終了する（すなわち、有利区間が終了する）こととなる。

【０９５６】

＜第１の遊技機（変形例）の期待感演出の制御例＞

続いて、図７１～図７８を参照して、本変形例の期待感演出の制御例について説明する。なお、図７１及び図７２は、演出データ１が決定された場合の制御例（制御例１）を示す図であり、図７３及び図７４は、演出データ２が決定された場合の制御例（制御例２）を示す図であり、図７５～図７８は、演出データ３が決定された場合の制御例（制御例３）を示す図である。また、この制御例においては説明をわかりやすくするため、本実施形態のとおり、変動表示部が３つのリール（左リール３Ｌ,中リール３Ｃ，右リール３Ｒ）を具備するものとして説明する。

【０９５７】

また、ここでいう「期待感演出」は、遊技者に何らかの期待感を与えることが可能な演出を意味するものであり、例えば、通常中（有利区間）において、レア役に当籤した遊技で実行され得る（レア役でない役に当籤した遊技でも実行され得る）演出や、ＣＺ中（あるいは、第１ボーナス中）に移行することが決定されているが未だＣＺ中（あるいは、第１ボーナス中）に移行していない前兆状態で実行され得る（いわゆるガセ前兆状態でも実行され得る）演出である。

【０９５８】

すなわち、遊技者に有利な状況が発生すること（あるいは、発生しないこと）を報知したり、遊技者に有利な状況が発生し得る可能性（例えば、その高低ないし期待度など）を示唆したりすることを可能とする演出として定義することもできる。また、そのような報知ないし示唆は、遊技の進行に応じて演出内容が変化する（演出が進行する）ことによって行われるものとなっている。

【０９５９】

なお、上述の用途はあくまで一例であり、むろん他の用途で用いることもできる。例えば、ＣＺ中やＳＴ中に、ＡＴ状態移行の期待感を報知ないし示唆するものであってもよいし、第１ボーナス中や第２ボーナス中に、ＡＴ状態延長の期待感を報知ないし示唆するものであってもよい。また、この例では、期待感演出の一例として、メイン演出表示部２１における表示内容の変化（表示内容の進行）によって報知ないし示唆を行うものとしているが、これに限られず、例えば、ランプやスピーカ等の他の演出実行手段の演出態様によって演出を進行させ、そのような報知ないし示唆を行うものであってもよい。

【０９６０】

（制御例１）

まず、図７１及び図７２を参照して、期待感演出の一例として演出データ１が決定された場合の制御例（制御例１）を説明する。なお、図７１は、この例において、順押し（左第１停止）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図であり、図７２は、この例において、順押し以外（左第１停止以外）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図である。

【０９６１】

この例では、最初に、開始操作時において、演出内容や期待度を示す導入表示（図７１及び図７２中、「宝を見つけろ！」の表示画面）が行われた後、演出の進行が開始されている（図７１及び図７２中、「どこだ？」の表示画面）。

【０９６２】

このとき、図７１に示すように、左第１停止で停止操作が行われたとする。この場合には、第１停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７１中、「どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【０９６３】

次いで、残りのストップボタンに対して第２停止操作が行われた場合、第２停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７１中、「どこだ？どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【０９６４】

次いで、残りのストップボタンに対して第３停止操作が行われた場合、第３停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する。この場合、有利な状況の発生を報知ないし示唆する場合には、有利結果表示を行う（図７１中、「ＧＥＴ！ＣＨＡＮＣＥ！」の表示画面）。一方、有利な状況の発生を報知ないし示唆しない場合には、不利結果表示を行う（図７１中、「残念・・・」の表示画面）。このように、順押しである場合には、最終的な表示内容（あるいは、中途の表示内容によって予測可能な場合があってもよい）によって、遊技者に所定の期待感が示されるものとなっている。

【０９６５】

一方、演出の進行が開始された後、図７２に示すように、左第１停止以外で停止操作が行われたとする。この場合には、演出の進行が停止され、その後は、当該演出に対応する待機表示が行われるものとなっている（図７２中、「宝ステージ待機中」の表示画面）。この待機表示は、第２停止操作や第３停止操作が行われて遊技が進行した場合にも継続して行われるものとなっている。すなわち、左第１停止以外で停止操作が行われた場合には、以後当該演出が進行しないものとなり、遊技者に所定の期待感は示されなくなる。

【０９６６】

このように左第１停止以外で停止操作が行われるとＡＴに関する処理が不利となることのある遊技機において、左第１停止以外で停止操作が行われた場合には、「変則押しをしています」「中リールを最初に止めています」「右リールを最初に止めています」など、状況説明を行う音声や文字表示などの状況説明演出を行うものとすると良い。左第一停止で操作した場合は、このような状況説明演出は発生しないため、変則押しをした遊技者にそれとなく違和感を抱かせて、左リールを最初に止めようという気持ちを喚起することができる。

【０９６７】

このような状況説明演出は、待機表示の発生とともに発生させるものであってもよい。また、このような状況説明演出は、変則押しによってＡＴに関する処理が不利となる遊技に限り発生させるものであってもよいし、打順ナビ非発生のいわゆる通常遊技において変則押しが行われた場合でＡＴに関する処理が不利とならない遊技においても発生可能としてもよい。状況説明演出の発生タイミングは、ストップボタン押下時点でも良いし、ストップボタンを離したタイミングでも良いし、停止操作したリールが停止した時点でもよい。

【０９６８】

また、状況説明演出は、第一停止時点でのみ発生させてもよいし、第二停止以降の時点で重ねて発生されるものとしてもよい。例えば、中→右→左の順に停止操作した場合は、第一停止時点で「中リールを最初に止めています」、第二停止時点で「右リールを止めています」、第三停止時点で「左リールを止めています」との音声などの状況説明演出を行っても良い。

【０９６９】

また、状況説明演出は、例えば、下パネル（腰部パネル１３）やリール周辺ランプ、リールバックライトなどの装飾ランプを消灯や点滅など通常の点灯状態と異なる特別態様とするものでもよい。例えば、左から停止した場合は下パネルは点灯したままであり、中や右から停止した場合は下パネルが消灯するといった仕様とすることができ、このような態様となれば、中又は右から停止させるという操作態様が何らかの不利益を生じさせるもの

であると遊技者に推認させることが可能となる。

【０９７０】

このような状況説明演出を行うことで、偶然操作ミスで中リールや右リールを停止させてしまった遊技者に対して、直接的な警告表現で不快感を与えることなく、左第一停止などの推奨遊技態様での遊技を促すことができる。

【０９７１】

（制御例２）

まず、図７３及び図７４を参照して、期待感演出の一例として演出データ２が決定された場合の制御例（制御例２）を説明する。なお、図７３は、この例において、順押し（左第１停止）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図であり、図７４は、この例において、順押し以外（左第１停止以外）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図である。

【０９７２】

この例では、最初に、開始操作時において、演出内容や期待度を示す導入表示（図７３及び図７４中、「敵から逃げろ！」の表示画面）が行われた後、演出の進行が開始されている（図７３及び図７４中、「急げ！」の表示画面）。

【０９７３】

このとき、図７３に示すように、左第１停止で停止操作が行われたとする。この場合には、第１停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７３中、「急げ！急げ！」の表示画面）。

【０９７４】

次いで、残りのストップボタンに対して第２停止操作が行われた場合、第２停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７３中、「急げ！急げ！急げ！」の表示画面）。

【０９７５】

次いで、残りのストップボタンに対して第３停止操作が行われた場合、第３停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する。この場合、有利な状況の発生を報知ないし示唆する場合には、有利結果表示を行う（図７３中、「成功！」の表示画面）。一方、有利な状況の発生を報知ないし示唆しない場合には、不利結果表示を行う（図７３中、「失敗・・・」の表示画面）。このように、順押しである場合には、最終的な表示内容（あるいは、中途の表示内容によって予測可能な場合があってもよい）によって、遊技者に所定の期待感が示されるものとなっている。

【０９７６】

一方、演出の進行が開始された後、図７４に示すように、左第１停止以外で停止操作が行われたとする。この場合には、演出の進行が停止され、その後は、当該演出に対応する待機表示が行われるものとなっている（図７４中、斜線で示す表示画面。なお、これは、制御例１とは異なる待機表示が行われることを示したものに過ぎず、例えば、「逃亡ステージ待機中」といったように当該演出に対応することが認識しやすい表示画面が表示されるものとしてもよい）。この待機表示は、第２停止操作や第３停止操作が行われて遊技が進行した場合にも継続して行われるものとなっている。すなわち、左第１停止以外で停止操作が行われた場合には、以後当該演出が進行しないものとなり、遊技者に所定の期待感は示されなくなる。

【０９７７】

なお、上述の制御例１及び制御例２では、それぞれにおいて、第１停止操作が左第１停止以外であった場合、そのときからそれぞれの演出に対応する待機表示が行われるものとしていたが、待機表示が開始される時期はこれに限られない。例えば、第２停止操作が行われたときとしてもよいし、第３停止操作が行われたときとしてもよい。また、それぞれで待機表示が開始される時期が異なるものであってもよい。これは、後述の制御例３についても同様である。

【０９７８】

また、上述の制御例１及び制御例２では、異なる種類の期待感演出が複数あることを例示するために、制御例１における期待感演出と、制御例２における期待感演出とがあることを説明したが、むろん、このような演出の種類は２種類に限られない。少なくとも一部の表示内容が異なるそれ以上の種類があるように構成することが可能である。また、この場合、それぞれの演出に対応する待機表示が設けられるようにすればよい。また、後述の制御例３では、上述の制御例１が連続演出の一部である場合を例示するために、制御例３における期待感演出があることを説明したが、むろん、このような演出の種類は１種類に限られない。少なくとも一部の表示内容が異なるそれ以上の種類があるように構成することが可能である。また、この場合、それぞれの演出に対応する待機表示が設けられるようにすればよい。

【０９７９】

また、上述の制御例１及び制御例２では、待機表示を行う場合に、それぞれの演出の演出内容とできる限り齟齬が生じないように、それぞれの演出に対応する固有の待機表示が行われるものとしていたが、例えば、データ量の削減等を図るために共通の待機表示が行われるものとしてもよい。これは、後述の制御例３についても同様である。

【０９８０】

また、上述の制御例１及び制御例２では、第１停止操作が左第１停止以外であるときは一律に待機表示が行われるものとしていたが、例えば、実行される演出が最終的に有利結果表示を行うものである場合には待機表示を行わず、最終的に不利結果表示を行うものである場合に待機表示を行うものとしてもよい。すなわち、左第１停止以外で遊技が行われ、非優遇状態に制御される場合であっても、それが遊技状況に影響を与えない（あるいは、与えにくい）場合（例えば、すでにＡＴ抽籤に当籤していて、次遊技からＡＴ状態に移行することが予定されている場合など）には、待機表示を行わないものとしてもよい。これは、後述の制御例３についても同様である。

【０９８１】

一方、例えば、実行される演出が最終的に不利結果表示を行うものである場合には待機表示を行わず、最終的に有利結果表示を行うものである場合に待機表示を行うものとしてもよい。すなわち、当該演出がもともとガセ演出であり、最終的な結果表示を行わなくとも、それが必ずしも遊技者にとって不利とならない場合には、待機表示を行わないものとしてもよい。これは、後述の制御例３についても同様である。

【０９８２】

また、上述の制御例１及び制御例２における期待感演出は、単発演出として構成されるものであってもよいし、連続演出の一部として構成されるものであってもよい。例えば、単発演出として構成されるものである場合、当該演出が行われ、待機表示が行われた当該遊技の次遊技においては、当該演出と同じ演出が再度実行されるものとしてもよい。あるいは、当該演出が行われ、待機表示が行われた当該遊技の次遊技においては、演出抽籤は実行されず、演出無し（基本的な表示画面は除く）となるようにしてもよい。また、待機表示は、その表示が開始された後、次遊技を開始するための開始操作が行われたときにその表示が終了されるものとしてもよい。この場合、待機表示の表示が終了すると、予定されていた演出の表示が開始ないし再開されるものとすればよい。なお、待機表示の表示が終了するのは、開始操作が行われたときではなく、次遊技のためのベット操作が行われたときとしてもよい。

【０９８３】

また、あるいは、当該演出が行われ、待機表示が行われた当該遊技の次遊技においては、当該遊技で表示された待機表示がそのまま継続して行われるものとしてもよい。この場合、当該次遊技において順押しで停止操作が行われた場合には、その次の遊技（最初に待機表示が行われた遊技の２ゲーム後の遊技）において、当該演出と同じ演出が再度実行されるものとしてもよいし、特段の制御を行うことなく、通常のルールにしたがって演出が決定され得るものとしてもよい。また、当該演出が行われ、待機表示が行われた当該遊技の次遊技においては、特段の制御を行うことなく、通常のルールにしたがって演出が決定

され得るものとしてもよい。

【０９８４】

また、例えば、連続演出として構成されるものである場合、当該演出が行われ、待機表示が行われた当該遊技の次遊技においては、待機表示が行われた遊技で実行されたものと同じ演出が再度実行されるものとすればよい。例えば、連続演出が、１ゲーム目で第１演出が実行され、２ゲーム目で第２演出が実行され得る２ゲーム構成であったとする。このとき、全ての遊技が順押しで行われた場合には、１ゲーム目で第１演出が実行され、２ゲーム目で第２演出が実行される。

【０９８５】

一方、例えば、１ゲーム目が変則押しで行われた場合、当該遊技では第１演出の途中から待機表示が行われることとなる。このとき、２ゲーム目では第１演出が再度実行されるようにし、２ゲーム目が順押しで行われた場合、当該遊技では第１演出が最後まで実行され、３ゲーム目で第２演出が実行されるようにする。また、このとき、２ゲーム目が変則押しで行われた場合、当該遊技では１ゲーム目と同様の制御が行われるものとすればよい。すなわち、２ゲーム目では第１演出の途中から待機表示が行われ、３ゲーム目では第１演出が再度実行されるようにし、３ゲーム目が順押しで行われた場合、当該遊技では第１演出が最後まで実行され、４ゲーム目で第２演出が実行されるようにすればよい。

【０９８６】

また、例えば、１ゲーム目は順押しで行われ、２ゲーム目が変則押しで行われた場合、当該遊技では第２演出の途中から待機表示が行われることとなる。このとき、３ゲーム目では第２演出が再度実行されるようにし、３ゲーム目が順押しで行われた場合、当該遊技では第２演出が最後まで実行されるようにする。また、このとき、３ゲーム目が変則押しで行われた場合、当該遊技では２ゲーム目と同様の制御が行われるものとすればよい。すなわち、３ゲーム目では第２演出の途中から待機表示が行われ、４ゲーム目では第２演出が再度実行されるようにし、４ゲーム目が順押しで行われた場合、当該遊技では第２演出が最後まで実行されるようにすればよい。

【０９８７】

もっとも、ずっと変則押しが行われることで、同じ演出がずっと繰り返されることに支障がある場合には、そのような制御が行われ得る遊技数に上限（例えば、１０ゲームなど）を設けるようにし、上限の遊技数が消化されても演出が完結していなかった場合には、演出が途中で終了する制御が行われるようにしてもよい。なお、連続演出として構成される場合の制御例は、後述の制御例３を用いて後で詳述する。

【０９８８】

また、順押しで遊技が行われなかった場合に待機表示を行う制御は、期待感演出とは異なる演出が実行される場合にも行われるようにしてもよい。すなわち、このような制御が行われる対象となる演出は期待感演出に限られない。例えば、演出がその後も継続するか（発展するか）否かを報知ないし示唆可能な発展演出が実行される場合にもこのような制御が行われ得るものとしてもよい。また、例えば、ＣＺ中やＳＴ中において、ＡＴ状態に移行するか否かを報知ないし示唆可能なバトル演出が実行される場合にもこのような制御が行われ得るものとしてもよい。また、例えば、当籤役や状態などを報知ないし示唆可能な一般演出が実行される場合にもこのような制御が行われ得るものとしてもよい。すなわち、このような制御が行われる対象となる演出は、全ての演出のうちの任意の演出とすることができる。

【０９８９】

（制御例３）

続いて、図７５～図７８を参照して、期待感演出の一例として演出データ３が決定された場合の制御例（制御例３）を説明する。なお、図７５及び図７６は、この例において、１ゲーム目及び２ゲーム目に順押し（左第１停止）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図であり、図７７及び図７８は、この例において、１ゲーム目に順押し以外（左第１停止以外）で停止操作が行われて遊技が進行し、２ゲ

ーム目に順押し（左第１停止）で停止操作が行われて遊技が進行した場合の表示内容の進行を模式的に示した図である。

【０９９０】

この例では、１ゲーム目の開始操作時において、演出内容や期待度を示す導入表示（図７５及び図７７中、「宝を見つけろ！」の表示画面）が行われた後、演出の進行が開始されている（図７５及び図７７中、「どこだ？」の表示画面）。

【０９９１】

このとき、図７５に示すように、左第１停止で停止操作が行われたとする。この場合には、第１停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７５中、「どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【０９９２】

次いで、残りのストップボタンに対して第２停止操作が行われた場合、第２停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７５中、「どこだ？どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【０９９３】

次いで、残りのストップボタンに対して第３停止操作が行われた場合、第３停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７５中、「ＮＥＸＴ・・・」の表示画面）。すなわち、当該演出が１ゲーム目では終了せず、２ゲーム目に継続することが示される。

【０９９４】

次いで、２ゲーム目の開始操作が行われた場合、開始操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７６中、「どこだー！？」の表示画面）。

【０９９５】

このとき、図７６に示すように、左第１停止で停止操作が行われたとする。この場合には、第１停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７６中、「どこだー！？どこだー！？」の表示画面）。

【０９９６】

次いで、残りのストップボタンに対して第２停止操作が行われた場合、第２停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７６中、「どこだー！？どこだー！？どこだー！？」の表示画面）。

【０９９７】

次いで、残りのストップボタンに対して第３停止操作が行われた場合、第３停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する。この場合、有利な状況の発生を報知ないし示唆する場合には、有利結果表示を行う（図７６中、「ＧＥＴ！ＣＨＡＮＣＥ！」の表示画面）。一方、有利な状況の発生を報知ないし示唆しない場合には、不利結果表示を行う（図７６中、「残念・・・」の表示画面）。このように、１ゲーム目、２ゲーム目ともに順押しである場合には、２ゲーム目の最終的な表示内容（あるいは、中途の表示内容によって予測可能な場合があってもよい）によって、遊技者に所定の期待感が示されるものとなっている。

【０９９８】

一方、１ゲーム目で演出の進行が開始された後、図７７に示すように、左第１停止以外で停止操作が行われたとする。この場合には、演出の進行が停止され、その後は、１ゲーム目では当該演出に対応する待機表示が行われるものとなっている（図７７中、「宝ステージ待機中」の表示画面）。この待機表示は、第２停止操作や第３停止操作が行われて遊技が進行した場合にも継続して行われるものとなっている。すなわち、左第１停止以外で停止操作が行われた遊技では、以後当該演出が進行しないものとなる。

【０９９９】

もっとも、２ゲーム目が開始されると、図７８に示すように、当該２ゲーム目においては、１ゲーム目の演出が再度実行されるものとなっている。具体的には、２ゲーム目の開始操作が行われた場合、開始操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出の進行が

開始（再開）される（図７８中、「どこだ？」の表示画面）。なお、図７８においては、導入表示は行われないものとなっているが、導入表示も含めて演出が最初から再度実行されるように構成することも可能である。

【１０００】

このとき、図７８に示すように、左第１停止で停止操作が行われたとする。この場合には、第１停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７８中、「どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【１００１】

次いで、残りのストップボタンに対して第２停止操作が行われた場合、第２停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７８中、「どこだ？どこだ？どこだ？」の表示画面）。

【１００２】

次いで、残りのストップボタンに対して第３停止操作が行われた場合、第３停止操作が行われて遊技が進行したのにともない、演出がさらに進行する（図７８中、「ＮＥＸＴ・・・」の表示画面）。すなわち、当該演出が２ゲーム目では終了せず、３ゲーム目に継続することが示される。

【１００３】

その後、３ゲーム目において、左第１停止で停止操作が行われた場合には、図７６に示したものと同様に演出を進行させる制御が行われる一方、左第１停止以外で停止操作が行われた場合には、図７６に示した開始操作までの演出が再度実行されたのち、図７７に示したものと同様に演出の進行を待機させる制御が行われることとなる。

【１００４】

なお、２ゲーム目において、仮に左第１停止以外で停止操作が行われたとした場合には、再度１ゲーム目（図７７参照）と同様の制御が行われ、３ゲーム目において、再度２ゲーム目（図７８参照）と同様の制御が行われることとなる。

【１００５】

（電断復帰時の制御例）

電源装置３４の電源スイッチ（不図示）がオフにされる（電源がオフ状態とされる）か、停電などのその他の要因の発生によってパチスロ機１への電力の供給が断たれて電断が発生し、その後、電力の供給が再開されて当該電断状態から復帰する場合、基本的に遊技状態及び演出状態は電断前の状態に復帰することとなる。ここで、電断時に上述の待機表示が行われていた場合、その復帰の態様としては以下の態様を挙げることができる。

【１００６】

第１の態様は、電断復帰時にはそのまま待機表示が行われる（再開される）という態様である。例えば、待機表示が行われたまま遊技店が閉店して電源がオフ状態とされ、設定変更が行われることなく翌日の開店に合わせて電断がオン状態とされた場合、待機表示が解除されるとすると、最初に遊技を行う遊技者は、最初の遊技が非優遇状態に制御であることを知らないまま遊技を行うことになり、遊技者が不測の不利益を被ってしまう場合がある。この第１の態様によれば、このような問題が生じることを抑制できる。

【１００７】

第２の態様は、電断復帰時には待機表示ではなく、他の表示（例えば、初期画面を表示する）が行われるという態様である。例えば、待機表示が行われたまま遊技店が閉店して電源がオフ状態とされ、設定変更が行われることなく翌日の開店に合わせて電断がオン状態とされた場合には待機表示が再開されるが、設定変更が行われた場合には初期画面が表示されるものとした場合、開店時に待機表示が表示されているか否かで設定変更が行われたか否かが簡単に見抜けるようになってしまい、遊技店が不測の不利益を被ってしまう場合がある。この第２の態様によれば、このような問題が生じることを抑制できる。なお、上述の第１の態様の場合も同様であるが、少なくとも、電断復帰時の表示態様と後述の設定変更時の表示態様とが同じ表示態様となるように表示制御を行うことが望ましいと考えられる。このようにすれば、いずれの態様であっても上述の問題が生じることを抑制でき

る。また、ここでいう初期画面とは、例えば、いわゆる通常時の滞在ステージを表示する画面などが該当する。なお、非有利区間専用の表示画面を設け、これを初期画面としてもよいし、非有利区間と有利区間のいずれでも表示され得るステージ表示画面などを設け、これを初期画面としてもよい。

【１００８】

（設定変更時の制御例）

設定用鍵型スイッチ５２などへの操作によって、パチスロ機１の設定値が変更されたとき（設定変更が行われたとき）、設定変更前の遊技において上述の待機表示が行われていた場合、その復帰の態様としては以下の態様を挙げることができる。

【１００９】

第１の態様は、設定変更後もあえてそのまま待機表示が行われるという態様である。上述のとおり、設定変更が行われることなく電断のオフ・オンがされた場合には待機表示が再開されるが、設定変更が行われた場合には初期画面が表示されるものとした場合、開店時に待機表示が表示されているか否かで設定変更が行われたか否かが簡単に見抜けるようになってしまい、遊技店が不測の不利益を被ってしまう場合がある。この第１の態様によれば、このような問題が生じることを抑制できる。

【１０１０】

第２の態様は、設定変更後は待機表示ではなく、他の表示（例えば、初期画面を表示する）が行われるという態様である。直前の遊技において変則押しで停止操作が行われたとしても、設定変更時の初期化処理によって、設定変更後の最初の遊技が非優遇状態となることはなく（この場合、最初の遊技では固定処理で優遇カウンタが１加算されることとすればよい）、また、そもそも演出データも初期化されるため、最初に遊技を行う遊技者が不利益を被る可能性はないからである。

【１０１１】

また、例えば、パチスロ機１を、設定用鍵型スイッチ５２などを用いた設定変更手順と異なる初期化手順として、電源オフ状態において、主制御基板７１に設けられたリセットボタン（不図示）を押しながら（すなわち、初期化操作手段に対して所定の初期化操作を行い）、電源オン状態とする（すなわち、所定の電源投入操作を行う）と、設定値はそのままで有利区間がリセット（初期化される）される（すなわち、有利区間が終了し、有利区間終了時の初期化処理が行われた上で非有利区間に移行する）といった特別リセット操作が可能となるように構成することもできるが、この場合、特別リセット操作が行われる前に上述の待機表示が行われていた場合には、特別リセット操作後（有利区間のリセット後）は待機表示でなく、例えば、上述のものと同様の初期画面が表示されるものとすればよい。むろん、このような特別リセット操作が行われたことを見抜かれにくくするため、特別リセット操作後（有利区間のリセット後）もあえてそのまま待機表示が行われるものとしてもよい。なお、特別リセット操作が行われると、有利区間に関する状態が初期化され、初期状態としての非有利区間が設定されるが、ボーナス役の持越状態が推奨遊技状態となる仕様の場合には、持越中のボーナス役に関する情報（持越役格納領域の情報）は維持されるものとすればよい。

【１０１２】

（その他の制御例）

開始操作が行われた後に、所定の演出用操作を伴う操作演出（例えば、上述の操作連動演出）を行う場合がある。チャンスボタン（例えば、上述の演出用ボタン１０ａ，１０ｂ）やタッチパネル（例えば、上述のサブ演出表示部２２）など所定の演出用操作手段に対する操作に応じて期待度示唆などの応答演出が発生する演出である。この場合、演出用操作の受付開始後に対象となる演出用操作手段に対する操作を行わない場合は、操作待ち状態となるが、この操作待ち状態でも変則押しが行われた場合は待機表示へと切り替わり、演出用操作の操作待ち状態も終了し、それ以後に演出用操作手段を操作しても当該操作演出で予定されていた応答演出は発生しないものとすることが望ましい。このようにすることで、待機表示中に期待度示唆などの役割を持つ応答演出が発生するという遊技者にとっ

て分かりにくい状況の発生を抑制できる。

【１０１３】

また、リール回転中及びリール停止中のいずれであっても演出状態設定（例えば、音量調整、光量調整等の）が可能な仕様の場合は、変則押しに伴う待機表示の表示中であっても適時演出状態設定ができるものとしてもよい。また、リール回転中は演出状態設定ができないが、リール停止中は演出状態設定（音量調整、光量調整等）が可能な仕様の場合には、変則押しに伴う待機表示の表示中であってもリール停止中であれば演出状態設定ができるものとしてもよい。また、遊技履歴の表示、携帯連動メニューの表示、一部の配当表の表示、ゲームフローの表示などが可能となるユーザーメニュー画面の表示についても同様であり、変則押しに伴う待機表示の表示中であっても、仕様上、これらを表示可能な状態であれば通常時と同じく所定操作にしたがってこれらを表示可能としてもよい。また、演出状態設定は、例えば、上述の操作演出における操作待ち状態においても、仕様上、これを設定可能な状態であれば適時行えるものとすることができる。

【１０１４】

また、開始操作が行われた後に、リールの回転開始から定速回転に至るまでの期間において、リール回転動作を行いストップボタン押下に基づいてリールを仮停止させるといった上述の疑似遊技を行う場合がある。このような疑似遊技においては、変則押しで停止操作が行われたとしても非推奨打法とはならないため、待機表示は行われず、ＡＴ関連処理が不利とならないようにすればよい。また、疑似遊技中は、上述の如く、疑似遊技中であることを明確にするために「ＦＲＥＥＰＬＡＹ」等の疑似遊技中表示が行われるとすることが望ましい。なお、仮に、待機表示の表示中において疑似遊技が行われるものとなったときは、待機表示とともに疑似遊技中表示が行われるものとすればよい。

【１０１５】

＜第１の遊技機（変形例）の押し順ベルの変形例及び送信情報制御例＞

続いて、図７９及び図８０を参照して、本変形例の押し順ベルの変形例の構成、及びサブ側に送信する送信情報の制御例について説明する。本変形例の送信情報の制御例は、そのまま第１の遊技機の送信情報の制御例であるともいい得る。もっとも、本変形例では、図７９に示すものを送信情報制御例１として説明し、図８０に示すものを送信情報制御例２として説明している。

【１０１６】

また、本変形例において変動表示部が３つのリール（左リール３Ｌ,中リール３Ｃ，右リール３Ｒ）を具備するものとして説明する。また、押し順ベルの変形例においては、押し順ベル以外の役についてもこれと同様にグルーピングされる場合を説明するため、第１の遊技機とは一部の役構成を変更している。これについては後で詳述する。

【１０１７】

（押し順ベルの変形例の役構成）

図７９に示す変形例では、例えば、内部当籤役として、リプレイ役である「Ｆ＿通常リプ」及び「Ｆ＿チェリー」と、小役である「Ｆ＿共通ベル」、「Ｆ＿押し順ベルＡ＿１２３」～「Ｆ＿押し順ベルＡ＿３２１」（変形例の「押し順ベルＡ」）、「Ｆ＿押し順ベルＢ＿２１３」～「Ｆ＿押し順ベルＢ＿３２１」（変形例の「押し順ベルＢ」）、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、及び「Ｆ＿スイカ」とを含んで構成される。

【１０１８】

「Ｆ＿通常リプ」は、リプレイ役であり、打順及び押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて再遊技が付与されるものとなっている。また、「Ｆ＿チェリー」は、リプレイ役であり、打順及び押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて再遊技が付与されるものとなっている。

【１０１９】

「Ｆ＿共通ベル」は、小役であり、打順及び押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて１３枚入賞が発生するものとなっている。

【１０２０】
　変形例の「押し順ベルＡ」は、６択の押し順小役となっており、正解打順で停止操作が行われた場合には対応する図柄組合せが表示されて１３枚入賞が発生し、不正解打順で停止操作が行われた場合であって、第１停止操作は正解打順であった場合には、押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、不正解打順で停止操作が行われた場合であって、第１停止操作も不正解打順であった場合には、所定のリールに対する押下位置が適切であれば（１／２のタイミングで押下位置正解となる）、対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、所定のリールに対する押下位置が適切でなければ（残りの１／２のタイミングで押下位置不正解となる）、取りこぼしが発生して入賞は発生しない（０枚となる）ものとなっている。
【１０２１】
　変形例の「押し順ベルＢ」は、左第１停止が正解打順として規定されない４択の押し順小役となっており、正解打順で停止操作が行われた場合には対応する図柄組合せが表示されて１３枚入賞が発生し、不正解打順で停止操作が行われた場合であって、第１停止操作は正解打順であった場合には、押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、不正解打順で停止操作が行われた場合であって、第１停止操作も不正解打順であった場合には、所定のリールに対する押下位置が適切であれば（１／２のタイミングで押下位置正解となる）、対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、所定のリールに対する押下位置が適切でなければ（残りの１／２のタイミングで押下位置不正解となる）、取りこぼしが発生して入賞は発生しない（０枚となる）ものとなっている。
【１０２２】
　なお、変形例の「押し順ベルＢ」は、左第１停止では正解打順となる場合がなく、左第１停止以外で正解打順となる場合があるように構成されたものであり、左第１停止が遊技価値の付与が不利となる打順として規定され、左第１停止以外が遊技価値の付与に関し一方的に有利となる打順として規定された、偏りベルを構成する押し順小役となっている。
【１０２３】
　また、図７９に示すとおり、変形例の「押し順ベルＢ」がこのように構成されることで、遊技機全体としてみた場合も、打順「１２３」又は「１３２」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値が「１．１６１２」枚となるのに対し、打順「２１３」、「２３１」、「３１２」又は「３２１」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値は「２．７１６」枚となる。すなわち、左第１停止で停止操作が行われた場合、左第１停止以外で停止操作が行われた場合よりも付与される遊技価値の期待値が低くなるように構成されている。
【１０２４】
　もっとも、上述の獲得期待値は、非ＡＴ状態（すなわち、有利な停止操作態様が報知されない状況下）における１ゲームあたりの獲得期待値であり、また、１ゲームを行うために必要なベット数は３枚であることから、非ＡＴ状態ではいずれの打順で遊技を行ったとしても獲得期待値が「３」を超えない（換言すれば、出玉率が「１」を超えない）ように構成されている。したがって、例えば、非ＡＴ状態において、ずっと左第１停止以外で停止操作を行っていたとしても、それによって、少なくとも確率上は、遊技者が遊技価値を増加させ続けることが可能となるようには構成されていない。
【１０２５】
　「Ｆ＿２択１枚役Ａ」及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」は、打順ではなく、押下位置２択の小役となっており、例えば、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」が当籤役として決定された場合、所定のリールに対する押下位置が適切であれば（１／２のタイミング（第１のタイミング）で押下位置正解となる）、対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、所定のリールに対する押下位置が適切でなければ（残りの１／２のタイミング（第２のタイミング）で押下位置不正解となる）、取りこぼしが発生して入賞は発生せず（０枚となる）、また、「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」が当籤役として決定された場合、所定のリールに対する押下位置が適切であれば（１／２のタイミング（第２のタイミング）で押下位置正解となる）、対応

する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生し、所定のリールに対する押下位置が適切でなければ（残りの１／２のタイミング（第１のタイミング）で押下位置不正解となる）、取りこぼしが発生して入賞は発生しない（０枚となる）ものとなっている。

【１０２６】

「Ｆ＿共通１枚役Ａ」及び「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」は、小役であり、打順及び押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて１枚入賞が発生するものとなっている。

【１０２７】

「Ｆ＿スイカ」は、小役であり、打順及び押下位置不問で対応する図柄組合せが表示されて５枚入賞が発生するものとなっている。なお、この「Ｆ＿スイカ」については、所定のリールに対する押下位置が適切であれば５枚入賞が発生する一方、所定のリールに対する押下位置が適切でなければ１枚入賞が発生するものとして構成してもよい。

【１０２８】

（押し順ベルの変形例の送信情報制御例（その１））

続いて、図７９を参照して、押し順ベルの変形例を用いた内部当籤情報及び指示情報の設定態様を説明する。なお、これを送信情報制御例（その１）としているのは、図８０を参照して後で説明する送信情報制御例（その２）と区別するためである。

【１０２９】

送信情報制御例（その１）は、非ＡＴ状態であっても、遊技ごとに、内部当籤役に関する何らかの情報をサブ側に送信するものとして構成された制御例である。これに対し、送信情報制御例（その２）は、非ＡＴ状態であるときには、基本的にサブ側には内部当籤役に関する情報を送信しないものとして構成された制御例である。

【１０３０】

（非ＡＴ状態（有利区間）における設定態様１）

図７９に示す態様１は、有利区間の非ＡＴ状態（通常有利区間）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の一例を示したものである。

【１０３１】

この態様１では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「１」、「２」、「１６」、「１７」、又は「１８」）が設定される。

【１０３２】

また、「Ｆ＿共通ベル」及び変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「９９」）が設定される。すなわち、「Ｆ＿共通ベル」及び変形例の「押し順ベルＡ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。

【１０３３】

また、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「９８」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。

【１０３４】

また、いずれの役に当籤した場合であっても、打順がサブ側で特定可能とならない指示情報（「９９」）が設定される。すなわち、全ての役がグルーピングされた指示情報が設定される。

【１０３５】

（非ＡＴ状態（有利区間）における設定態様２）

図７９に示す態様２は、有利区間の非ＡＴ状態（通常有利区間）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の他の例を示したものである。

【１０３６】

この態様２では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通ベル」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「１」、「２」、「３」、「１６」、「１７」、又は「１８」）が設定される。

【１０３７】

また、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８０」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＡ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。

【１０３８】

また、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「９８」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。

【１０３９】

また、いずれの役に当籤した場合であっても、打順がサブ側で特定可能とならない指示情報（「指示なし」となる指示情報）が設定される点は上述の態様１と同様であるが、この態様２では、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合には指示情報として「９９」が設定され、その他の役に当籤した場合には指示情報として「０」が設定される。

【１０４０】

なお、この態様２では、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合に、内部当籤情報に「８０」が設定され、指示情報に「９９」ではなく、「０」が設定されることで、例えば、サブ側で「押し順チャレンジ演出」（例えば、表示画面で「？－？－？」といったような表示がなされ、少なくとも押し順役に当籤していることが示唆される演出）を行うこと可能となっている。これについては後で詳述する。

【１０４１】

（非ＡＴ状態（有利区間）における設定態様３）

図７９に示す態様３は、有利区間の非ＡＴ状態（通常有利区間）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の他の例を示したものである。

【１０４２】

この態様３では、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「２」、「１７」、又は「１８」）が設定される。

【１０４３】

また、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿共通ベル」、変形例の「押し順ベルＡ」、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿共通１枚役Ａ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「９７」）が設定される。すなわち、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿共通ベル」、変形例の「押し順ベルＡ」、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」、及び「Ｆ＿共通１枚役Ａ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。

【１０４４】

また、いずれの役に当籤した場合であっても、打順がサブ側で特定可能とならない指示情報（「指示なし」となる指示情報）が設定される点は上述の態様１と同様であるが、この態様３では、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合には指示情報として「０」が設定され、その他の役に当籤した場合には指示情報として「９９」が設定される。

【１０４５】

なお、上述の態様１～態様３のいずれについても、その目的とするところは、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが内部当籤役に含まれるように構成する場合に、非ＡＴ状態にあっては、サブ側での演出を含め、その当籤を遊技者に認識可能な状態としないことにある。

【１０４６】

例えば、非ＡＴ状態であるから正解打順自体は報知されないとしても、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが当籤したことを遊技者が認識可能となれば、遊技者が、このような認識をした遊技では、（遊技性が左第１停止を行ってＡＴ関連処理を有利としていくものであったとしても）意図的に左第１停止以外で停止操作を行う場合も出てくることになる。この場合、当初企図していた出玉率と乖離する出玉率となる可能性が高まり、結果として遊技の公平性を害するおそれが生じることになる。

【１０４７】

また、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが当籤したことを遊技者が認識可能となるということは、実質的に遊技価値の付与に関し有利な打順の絞り込みが可能となるのと同じであることから、換言すれば、このように認識可能となる状態にすることはＡＴ状態の一態様であるともいい得る。してみると、現状の規則上は、例えば、上述の指示モニタにおいてもこれと対応する指示情報を表示する必要が生じ、また、このような状態で得られた出玉は、上述の「指示込役物比率」（例えば、ＡＴ状態中も集計・算出の対象とした役物割合情報）に算入される必要が生じることとなる。

【１０４８】

そして、このような必要が生じるとすれば、出玉設計が困難を極め、また、非ＡＴ状態からＡＴ状態に移行させることで飛躍的に出玉を増加させることができるようになるといった遊技性を担保し得なくなり、遊技者の興趣も著しく低下させてしまうことになる。

【１０４９】

そこで、本変形例では、以下の要件を満たすことを前提として、上述の態様１～態様３のように各情報を設定することで、ＡＴ状態と解釈される余地がなくなるようにしている。

【１０５０】

例えば、第１の要件は、内部当籤情報に関し、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが含まれる（グルーピングされる）内部当籤情報が設定される遊技では、左第１停止以外（変則押し）のいずれの打順で停止操作が行われた場合あっても出玉率が１未満（あるいは、１以下）とするというものである。

【１０５１】

例えば、上述の態様１及び態様２では、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされ、内部当籤情報「９８」が設定されている。そして、内部当籤情報「９８」が設定された遊技（換言すれば、当該グループ役に当籤した遊技）では、打順「１２３」又は「１３２」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値が「０．５００」枚となるのに対し、打順「２１３」、「２３１」、「３１２」又は「３２１」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値は「２．７０２」枚となるように構成されている。すなわち、いずれの打順で停止操作を行ったとしても、獲得期待値が「３」を超えない（換言すれば、出玉率が「１」を超えない）ものとなっている。

【１０５２】

また、例えば、上述の態様３では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿共通ベル」、変形例の「押し順ベルＡ」、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」、及び「Ｆ＿共通１枚役Ａ」がグルーピングされ、内部当籤情報「９７」が設定されている。そして、内部当籤情報「９７」が設定された遊技（換言すれば、当該グループ役に当籤した遊技）では、打順「１２３」又は「１３２」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値が「１．６０１」枚となるのに対し、打順「２１３」、「２３１」、「３１２」又は「３２１」で停止操作が行われたと仮定した場合の獲得期待値は「２．７０

８」枚となるように構成されている。すなわち、いずれの打順で停止操作を行ったとしても、獲得期待値が「３」を超えない（換言すれば、出玉率が「１」を超えない）ものとなっている。

【１０５３】

このようにすることで、例えば、仮に、内部当籤役情報「９８」や「９７」が設定されたことを遊技者が認識可能となり、変則押しで遊技が行われたとしても、それによって、遊技者が遊技価値を増加させることができるようになるといった攻略の余地が生じることはなくなる。なお、グルーピングの手法しだいでは、獲得期待値が「３」を超える場合も出てくると思われるが、遊技の公平性を害さないことが担保される限り、このような場合があっても差し支えない。もっとも、上述の観点からすれば、やはり獲得期待値が「３」を超えないように構成することが望ましい。

【１０５４】

例えば、第２の要件は、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが含まれる（グルーピングされる）内部当籤情報が設定される遊技では、サブ側において、例えば、上述の「押し順チャレンジ演出」のように、押し順役に当籤したことが認識可能な（あるいは、遊技者が打順ナビと認識してしまう可能性がある）演出（打順関連演出）を行わないというものである。

【１０５５】

そこで、例えば、上述の態様１では、全ての役について指示情報「９９」が設定されている。また、例えば、上述の態様２では、内部当籤情報「９８」が設定される遊技では指示情報「９９」が設定されている。また、例えば、上述の態様３では、内部当籤情報「９７」が設定される遊技では指示情報「９９」が設定されている。すなわち、サブ側では、指示情報「０」を受信した遊技では、上述の打順関連演出を行い得るように制御することが可能となる一方で、指示情報「９９」を受信した遊技では、上述の打順関連演出を行い得ないように制御することが可能となる。

【１０５６】

なお、サブ側が指示情報「９９」を受信した遊技においても、例えば、白ナビや黄色ナビなどの色ナビで小役の当籤を示唆する演出や、左第１停止で停止操作が行われた場合にチャンス予告を行う演出など、少なくとも打順と関連しない演出であれば、これを行うことは差し支えない。また、例えば、上述の態様１の場合に、内部当籤情報「９９」の場合と、内部当籤情報「９８」の場合と、内部当籤情報「０」（はずれ）の場合とで、同じ演出が行われるようにしてもよいし、異なる演出が行われるようにしてもよい。

【１０５７】

このようにすることで、遊技者が偏りベルの当籤を意識せず、ＡＴ関連処理が有利となる特定態様（左第１停止）で遊技を行いやすくなる。また、上述のように内部当籤情報や指示情報が設定されることで、偏りベルを含んで構成されるグルーピング情報がサブ側に送信されたとしても、これによって有利な打順の絞り込みが可能とはならないため、そのような遊技での払出は、指示による払出には該当せず、また、上述の「指示込役物比率」に算入される必要もなくなるものと考えられる。そして、これにより、ＡＴ状態及び役物作動中の実質的な有利状態の払出を正確にカウントすることが可能となり、遊技店側も上述の役比モニタ装置５４で当該遊技機の挙動を把握しやすくなると考えられる。

【１０５８】

なお、さらに以下の要件（第３の要件）を追加することも考えられる。例えば、第３の要件は、指示情報「９９」が設定される遊技では、メイン側で制御される報知手段によってその旨が報知されるようにするというものである。

【１０５９】

例えば、情報表示装置１４において、特別ランプを新たに設けるようにし、指示情報「９９」が設定される遊技では、この特別ランプを点灯させる（あるいは、所定の表示態様を表示させる）ようにする。あるいは、指示情報「９９」が設定される遊技では、指示モニタで「－」などの指示非発生を示唆する表示を行うようにする。なお、これらはあくま

で一例であって、何らかの表示態様で遊技者に指示非発生を示唆することが可能であれば、別の報知手段を用いることもできる。

【１０６０】

このようにすることで、例えば、特別ランプが点灯した（あるいは、指示モニタに「－」が表示された）遊技では、ナビが発生しない（停止操作態様が報知されない、指示が行われない）ことを遊技者に報知ないし示唆できるため、遊技者が偏りベルの当籤を意識せず、ＡＴ関連処理が有利となる特定態様（左第１停止）で遊技を行いやすくなる。また、このように推奨される遊技方法にて遊技を行うように促すことができる。

【１０６１】

なお、特別ランプを用いる場合、サブ側に対して、特別ランプの点灯／非点灯の情報をさらに送信するようにしてもよい。そして、サブ側では、当該情報を参照して、特別ランプの点灯を認識した場合には上述の打順関連演出を行わない制御が実行されるものとしてもよい。もっとも、このような情報を送信することなく、内部当籤情報及び指示情報を総合的に判断して（あるいは、指示情報「９９」が送信されたかを判断して）、上述の打順関連演出を行わない制御が実行されるものとしてもよい。

【１０６２】

また、指示モニタを用いる場合、例えば、指示情報「０」が設定される場合には、指示モニタには「０」が表示されるようにしてもよいし、あるいは、指示モニタには何らの情報も表示されない（非表示となる）ようにしてもよい。いずれの場合であってもメイン側での指示は発生しないものとなる。もっとも、この場合、サブ側では、上述の打順関連演出を行うことが許容されるものとする。一方、指示情報「９９」が設定される場合には、指示モニタに「－」（あるいは、少なくとも上述の「０」や非表示とは異なる態様であって、かつ、各指示とも異なる態様となる別の識別情報）が表示されるようにすればよい。この場合にも同様に、メイン側での指示は発生しないものとなる。もっとも、この場合、サブ側では、上述の打順関連演出を行うことが禁止されるものとする。

【１０６３】

指示モニタに「０」が表示される（あるいは、非表示となる）場合には、例えば、押し順リプレイなどに当籤したときに、上乗せ報知として７を揃わせるための７揃いナビ（ナビにしたがわなくとも出玉に影響を与えない）のような演出用の打順関連演出がサブ側で行われるようにすることは可能となる。もっとも、このような演出用の打順関連演出は行われず、打順に関連しない期待感演出を行うことは当然ながら可能である。

【１０６４】

また、指示モニタに「１」～「６」が表示される場合には、それぞれに対応する打順ナビがサブ側で行われるようにすればよい。例えば、指示モニタが「１」なら左、中、右の順にリールを停止させる打順「１２３」を指示し、指示モニタが「２」なら左、右、中の順にリールを停止させる打順「１３２」を指示し、指示モニタが「３」なら中、左、右の順にリールを停止させる打順「２１３」を指示し、指示モニタが「４」なら中、右、左の順にリールを停止させる打順「３１２」を指示し、指示モニタが「５」なら右、左、中の順にリールを停止させる打順「２３１」を指示し、指示モニタが「６」なら右、中、左の順にリールを停止させる打順「３２１」を指示すればよい。また、指示モニタに「－」が表示される場合には、上述のとおり、サブ側で打順関連演出が行われないようにすればよい。

【１０６５】

続いて、ＡＴ状態における内部当籤情報及び指示情報の設定態様、並びに非有利区間における内部当籤情報及び指示情報の設定態様についても説明する。

【１０６６】

（ＡＴ状態（有利区間）における設定態様１）

図７９に示す態様１は、有利区間のＡＴ状態（増加区間）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の一例を示したものである。

【１０６７】

この態様１では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通ベル」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「１」、「２」、「３」、「１６」、「１７」、又は「１８」）が設定される。

【１０６８】

また、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８０」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＡ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。もっとも、それぞれの正解打順がサブ側で特定可能となる指示情報「１」～「６」が設定されるため、このように構成されていても有利な停止操作態様の報知を行うことが可能になる。

【１０６９】

また、変形例の「押し順ベルＢ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８１」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＢ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。もっとも、それぞれの正解打順がサブ側で特定可能となる指示情報「３」～「６」が設定されるため、このように構成されていても有利な停止操作態様の報知を行うことが可能になる。

【１０７０】

また、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８２」）が設定される。すなわち、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。もっとも、これらは押し順小役でないため、このように構成されていてもＡＴ状態に影響は与えない。なお、それぞれで異なる指示情報が設定されるようにし、正解となる押下位置が報知され得るものとしてもよい。

【１０７１】

（ＡＴ状態（有利区間）における設定態様２）

図７９に示す態様２は、有利区間のＡＴ状態（増加区間）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の他の例を示したものである。

【１０７２】

この態様２では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通ベル」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「１」、「２」、「３」、「１６」、「１７」、又は「１８」）が設定される。

【１０７３】

また、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８０」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＡ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。なお、この態様２では、「Ｆ＿押し順ベルＡ＿１２３」及び「Ｆ＿押し順ベルＡ＿１３２」に当籤した場合には指示情報「１０」が設定されるものとなっている。この指示情報「１０」は、例えば、「１－？－？」といったように、第１停止操作（左第１停止）のみ正解打順が報知される指示情報として構成される。すなわち、この態様２では、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合に、第２停止操作の２択チャレンジ演出が行われるものなっている。これはあくまで一例である。

【１０７４】

また、同様に、指示情報「２０」は、例えば、「？－１－？」といったように、第１停止操作（中第１停止）のみ正解打順が報知される指示情報として構成され、指示情報「３０」は、例えば、「？－？－１」といったように、第１停止操作（右第１停止）のみ正解打順が報知される指示情報として構成される。

【１０７５】
　また、変形例の「押し順ベルＢ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８１」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＢ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。もっとも、それぞれの正解打順がサブ側で特定可能となる指示情報「３」～「６」が設定されるため、このように構成されていても有利な停止操作態様の報知を行うことが可能になる。
【１０７６】
　また、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８２」）が設定される。すなわち、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。もっとも、これらは押し順小役でないため、このように構成されていてもＡＴ状態に影響は与えない。なお、それぞれで異なる指示情報が設定されるようにし、正解となる押下位置が報知され得るものとしてもよい。
【１０７７】
（非有利区間における設定態様）
　図７９に示す態様は、非有利区間（非ＡＴ状態）における内部当籤情報及び指示情報の設定態様の一例を示したものである。
【１０７８】
　この態様では、「Ｆ＿通常リプ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿共通ベル」、「Ｆ＿共通１枚役Ａ」、「Ｆ＿共通１枚役Ｂ」、又は「Ｆ＿スイカ」に当籤した場合、それぞれの当籤がサブ側で特定可能となる内部当籤情報（「１」、「２」、「３」、「１６」、「１７」、又は「１８」）が設定される。
【１０７９】
　また、変形例の「押し順ベルＡ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「８０」）が設定される。
【１０８０】
　また、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合、このうちのいずれかに当籤したことはサブ側で特定可能となるが、いずれに当籤したかはサブ側で特定可能とならない内部当籤情報（「９８」）が設定される。すなわち、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、及び「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」がグルーピングされた内部当籤情報が設定される。
【１０８１】
　また、この態様では、変形例の「押し順ベルＢ」、「Ｆ＿２択１枚役Ａ」、又は「Ｆ＿２択１枚役Ｂ」に当籤した場合には指示情報として「９９」が設定され、その他の役に当籤した場合には指示情報として「０」が設定される。
【１０８２】
（押し順ベルの変形例の送信情報制御例（その２））
　続いて、図８０を参照して、押し順ベルの変形例を用いた送信情報制御例（その２）を説明する。なお、上述のとおり、この送信情報制御例（その２）は、非ＡＴ状態であるときには、基本的にサブ側には内部当籤役に関する情報を送信しないものとして構成された制御例である。また、図８０では、この送信情報制御例（その２）を説明するために、当該処理の一例を示す概要的なフローチャートを示している。したがって、当該送信情報制御における具体的な制御処理は必ずしも図８０に示すものに限られない。
【１０８３】
　まず、メインＣＰＵ１０１は、遊技が開始されるとき（例えば、開始操作が行われたとき）に、ＡＴ中であるか否かを判定する（Ｓ４０１１）。すなわち、メインＣＰＵ１０１は、現在の状態がＡＴ状態であるか否かを判定する。メインＣＰＵ１０１は、ＡＴ中であ

ると判定した場合（Ｓ４０１１がＹＥＳ）、処理をＳ４０１３に移す。

【１０８４】

一方、メインＣＰＵ１０１は、ＡＴ中でないと判定した場合（Ｓ４０１１がＮＯ）、レア役に当籤したか否かを判定する（Ｓ４０１２）。メインＣＰＵ１０１は、レア役に当籤していないと判定した場合（Ｓ４０１２がＮＯ）、そのまま当該処理を終了させる。

【１０８５】

一方、メインＣＰＵ１０１は、レア役に当籤したと判定した場合（Ｓ４０１２がＹＥＳ）、処理をＳ４０１３に移す。メインＣＰＵ１０１は、Ｓ４０１１がＹＥＳの場合、又はＳ４０１２がＹＥＳの場合、送信情報設定処理を行う（Ｓ４０１３）。その後、当該処理を終了させる。

【１０８６】

なお、送信情報設定処理では、ＡＴ状態である場合（Ｓ４０１１がＹＥＳの場合）、例えば、図７９に示したＡＴ状態のいずれかの設定態様により、内部当籤情報及び指示情報を送信する。また、非ＡＴ状態であるが（Ｓ４０１１がＮＯであるが）、レア役に当籤した場合（Ｓ４０１２がＹＥＳの場合）、例外的に当籤したレア役に対応する内部当籤情報を送信する。また、この場合、当籤したレア役に対応する指示情報が「０」であれば、指示情報も送信されるようにしてもよい。

【１０８７】

一方、非ＡＴ状態であり（Ｓ４０１１がＮＯであり）、レア役にも当籤していない場合（Ｓ４０１２もＮＯである場合）には、そもそも内部当籤役に関連する情報が設定されず（Ｓ４０１３の処理が行われないようにし）、いずれの情報もサブ側に送信されないようにしている。なお、ここでいう「レア役」は、例えば、「Ｆ＿チェリー」や「Ｆ＿スイカ」等の役を示すものである。

【１０８８】

このようにすれば、例えば、変形例の「押し順ベルＢ」のような偏りベルが含まれるものとしても、ＡＴ状態以外では、この当籤をサブ側で認識することはできなくなるので、遊技者が偏りベルの当籤を意識せず、ＡＴ関連処理が有利となる特定態様（左第１停止）で遊技を行いやすくなる。しかも、非ＡＴ状態の内部当籤情報や指示情報をどのような構成するかを考慮する必要がなくなることから、制御負荷やデータ量を少なくすることができるとともに、遊技機の設計のしやすさも向上させることができる。

【１０８９】

もっとも、いかなる役についても内部当籤役に関連する情報が送信されないとすれば、サブ側では内部当籤役の種類に応じた期待感演出などの演出が何ら行われなくことから、遊技の興趣が著しく低下するおそれがある。そこで、この例においては、レア役に当籤したときは、非ＡＴ状態であっても例外的に送信情報設定処理が行われるものとしている。

【１０９０】

なお、上述の趣旨からすれば、Ｓ４０１２の処理を設けることなく、Ｓ４０１１でＡＴ状態であると判定された場合にはＳ４０１３の処理を行うが、Ｓ４０１１でＡＴ状態でない（非ＡＴ状態である）と判定された場合にはそのまま当該処理を終了させるようにし、レア役についても例外とせずに送信情報設定処理が行われないようにしてもよい。

【１０９１】

また、このような構成とした上で、例えば、レア役、あるいは少なくとも偏りベル以外（あるいは、偏りベルが含まれるグループ以外）の他の役について、これに当籤した場合には、それぞれ異なる種別のロック演出が実行されるようにし、ロック演出の種別がロックコマンドでサブ側に送信されるようにして、偏りベルについて打順関連演出が行われないことを担保しつつ、これと関連しない役については、内部当籤役に関連する演出が行われ得るようにしてもよい。

【１０９２】

＜第１の遊技機（変形例）の仕様を用いた遊技機＞

第１の遊技機（変形例）によれば、その仕様を用いることで、例えば、以下のような構

成の遊技機を提供することができる。

【１０９３】

例えば、ＡＴ状態に関連する決定が優遇される優遇状態と、当該優遇状態でない非優遇状態とを有し、少なくともＡＴ状態に制御されていないときに、いずれかの状態に制御可能であり、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合よりも付与される遊技価値の期待値が低くなるように構成され、当該特定態様にて停止操作が行われた場合に少なくとも次遊技を優遇状態に制御可能とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合に少なくとも次遊技を非優遇状態に制御可能とする優遇制御を実行可能であり、遊技の進行に応じて表示内容が進行する特定演出（例えば、期待感演出）において、優遇状態の遊技において当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合には、実行されている特定演出の種類に応じた特定待機表示（例えば、待機表示）を行うことが可能である遊技機である。

【１０９４】

なお、特定態様となる停止操作は、打順が左第１停止である態様に限られない。例えば、その他のリールに対して第１停止操作を行うことが特定態様の停止操作となるように構成してもよい。また、例えば、変動表示部を４つのリールで構成する場合、そのうちの二つの特定のリールに対して特定の順番にて停止操作を行うことが特定態様の停止操作となるように構成してもよい。また、特定のリール（例えば、左リール）に対して特定の押下位置で停止操作を行うことが特定態様の停止操作となるように構成してもよい。

【１０９５】

また、優遇状態に制御される停止操作態様は、非優遇状態に制御される停止操作態様よりも付与される遊技価値の期待値が低くなるように構成されるものしているが、遊技価値の期待値が同じであってもこのような優遇制御が行われるものとしてもよい。すなわち、偏りベルが含まれないように役構成した場合であっても、優遇状態に制御され得る停止操作の特定態様を定め、当該特定態様にて停止操作が行われた場合には優遇状態に制御可能とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合には非優遇状態に制御可能とするように構成してもよい。

【１０９６】

また、特定待機表示は、種々の用途に用いることができる。例えば、演出の進行が待機されることを報知ないし示唆するために用いることができるし、非優遇状態に制御されることを報知ないし示唆するために用いることができる。また、例えば、演出が中途で終了したことを報知ないし示唆するために用いることができる。また、例えば、特定態様にて停止操作が行われないことによって遊技者に不利となったことを報知ないし示唆するために用いることができる。また、推奨される遊技方法で遊技を行う（例えば、特定態様にて停止操作を行う）べきことを報知ないし示唆するために用いることができる。すなわち、優遇制御に関連する種々の情報、あるいは演出の進行に関連する種々の情報を報知ないし示唆するために用いることができる。

【１０９７】

また、例えば、優遇制御は、通常役を当籤役として決定した場合に実行可能である遊技機である。

【１０９８】

また、例えば、優遇制御は、いずれの役を当籤役として決定した場合にも実行可能である遊技機である。

【１０９９】

優遇制御が行われ得る遊技は、所定の制御条件にしたがって任意に設定可能である。例えば、通常中（有利区間）と、ＣＺ中と、ＳＴ中とでそれぞれ異なる条件で優遇制御が行われ得るものとしてもよい。例えば、これらのうちいずかの状態では、いずれの役を当籤役として決定した場合にも実行されるものとし、その他の状態では、通常役を当籤役として決定した場合に実行されるものとしてもよい。また、例えば、同じ状態であっても、ある遊技期間ではいずれの役を当籤役として決定した場合にも実行されるものとし、他の遊

技期間では通常役を当籤役として決定した場合に実行されるものとしてもよい。

【１１００】

また、例えば、優遇状態又は非優遇状態のいずれとするかを一遊技単位で制御可能である遊技機である。もっとも、上述の如く、複数遊技単位でそのような優遇制御を行う場合があるようにしてもよいし、一遊技の中の、停止操作単位でもそのような優遇制御を行う場合があるようにしてもよい。

【１１０１】

例えば、優遇状態の遊技において、特定態様にて第１停止操作が行われた場合には優遇状態に制御することを決定可能とするが、第２停止操作においてさらに優遇状態に制御するか否かを決定可能とし、ここで優遇状態に制御しないことが決定された場合には非優遇状態に制御されるものとしてもよい。また、例えば、優遇状態の遊技において、特定態様にて第１停止操作が行われなかった場合には非優遇状態に制御することを決定可能とするが、第２停止操作において、例えば、獲得優遇打順とならなかったなどの所定の条件を満たす場合には、優遇状態に制御することを決定可能とし、ここで優遇状態に制御することが決定された場合には優遇状態に制御されるものとしてもよい。

【１１０２】

また、例えば、優遇状態の遊技において優遇カウンタの値を１減算し、当該遊技において、特定態様にて停止操作が行われた場合には優遇カウンタの値を１加算する一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には優遇カウンタの値を１加算せず、優遇カウンタの値が１以上である遊技を優遇状態に制御する遊技機である。

【１１０３】

また、例えば、優遇状態の遊技において、特定態様にて停止操作が行われた場合であっても優遇カウンタの値を１加算しないときがある遊技機である。

【１１０４】

なお、優遇カウンタに替えて、非優遇状態の遊技期間を管理する非優遇カウンタを設けるようにし、優遇状態の遊技において非優遇カウンタの値を１加算し、当該遊技において、特定態様にて停止操作が行われた場合には非優遇カウンタの値を１減算する一方、特定態様にて停止操作が行われなかった場合には非優遇カウンタの値を１減算せず、非優遇カウンタの値が１以上である遊技を非優遇状態に制御するように構成してもよい。

【１１０５】

また、この場合、優遇状態の遊技において、特定態様にて停止操作が行われた場合であっても非優遇カウンタの値を１減算しないときがあるように構成してもよい。

【１１０６】

また、例えば、特定待機表示が行われているときに電断が発生した場合、当該電断からの復帰後も特定待機表示を行うことが可能である遊技機である。

【１１０７】

また、例えば、特定待機表示が行われているときに設定変更が行われた場合、当該設定変更後も特定待機表示を行うことが可能である遊技機である。

【１１０８】

なお、一の状況から他の状況に遷移した場合に特定待機表示を継続させる態様は上述のものに限られない。例えば、遊技が終了され、そのまま所定時間（例えば、３０秒）が経過して非遊技状態であると判定された場合、通常であればデモンストレーション画面が表示されることとなるが、特定待機表示が行われていた場合には、デモンストレーション画面に替えて、特定待機表示が継続して表示されるように構成してもよい。また、この場合、例えば、非遊技状態であると判定されてからさらに所定時間（例えば、２時間）が経過した場合には、特定待機表示を行うことを終了し、通常のデモンストレーション画面が表示されるようにしてもよい。

【１１０９】

また、例えば、特定演出は、複数遊技にわたって実行される連続演出を含み、優遇状態の遊技において連続演出が実行されているときに、特定態様にて停止操作が行われなかっ

た場合には、当該遊技において特定待機表示を行った後、当該遊技における表示内容の演出を次遊技において再度実行可能である遊技機である。

【１１１０】

なお、再度実行するとは、最初から全て実行することのみならず、一部を実行することも含む。また、再度実行する際に調整が必要な場合には、演出の全体構成は変えずに実行時間のみを変えて調整することもできるし、一部について演出内容を省略するあるいは追加するなどして調整することもできる。すなわち、遊技者に違和感を与えることなく、同じ演出が再度実行されたと認識される演出が実行されればよく、必ずしも全く同じ演出でなくともよい。

【１１１１】

また、連続演出は、少なくとも関連する演出が複数遊技にわたって実行されるものであればよく、複数遊技を１セットとして所定の情報が報知ないし示唆されるもののみならず、一遊技ごとに所定の情報が報知ないし示唆される演出が複数遊技にわたって実行され得るものを含む。また、必ずしも連続する遊技で実行されるものでなくともよく、例えば、前兆状態などの特定の遊技期間では演出傾向を制御するための演出シナリオ（演出制御状態）が決定され得るものとし、連続しない遊技間においても関連する演出が実行され得るようにした場合には、連続しない遊技間であっても、ある遊技で実行された演出を、その後の遊技で再度実行され得るようにすることもできる。

【１１１２】

また、例えば、最初に停止操作が検出されたときに、当該停止操作が特定の表示列(例えば、左リール)に対するものである場合には特定態様となり、当該停止操作が特定の表示列に対するものでない場合には特定態様とならないように構成され、特定演出は、遊技が開始されるときから実行される期待感演出であり、優遇状態の遊技において特定演出が実行される場合に、最初の停止操作が特定の表示列に対するものでなかったときは、そのときから特定待機表示を行う遊技機である。

【１１１３】

なお、最初に停止操作が検出されたときとは、第１停止操作が行われたまさにそのとき（ストップボタンが操作されてオン状態となったとき、あるいはストップボタンが操作された後、これがオフ状態となったとき）であってもよいし、第１停止操作後、第２停止操作前の任意のタイミングであってもよい。

【１１１４】

また、例えば、ＡＴ状態に関連する決定が優遇される優遇状態と、当該優遇状態でない非優遇状態とを有し、少なくともＡＴ状態に制御されていないときに、いずれかの状態に制御可能であり、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合よりも付与される遊技価値の期待値が低くなるように構成され、非ＡＴ状態であるＳＴ中は、通常中（有利区間）よりも遊技者にとって有利であり、かつ、規定期間（例えば、１６ゲーム）は継続されるように構成され、当該特定態様にて停止操作が行われた場合に少なくとも次遊技を優遇状態に制御可能とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合に少なくとも次遊技を非優遇状態に制御可能とする優遇制御を実行可能であり、規定期間は、優遇状態であるか否かにかかわらず、１回の遊技が行われることに応じて進行し、ＳＴ中の有利度合いは、優遇状態での遊技が行われた場合には有利なものに変動する場合がある一方、非優遇状態での遊技が行われた場合には有利なものに変動する場合はない遊技機である。

【１１１５】

なお、ＳＴ中は、必ずしも通常中（有利区間）よりも有利な状態でなくともよい。また、このような制御は、通常中（有利区間）やＣＺ中において行われるものであってもよい。また、この遊技機においても、むろん、上述のものと同様に特定待機表示を行うことが可能であるし、これに関連する種々の制御を行うことが可能である。また、例えば、通常中（有利区間）とＳＴ中とで同じ期待感演出が実行され得るように構成したときに、特定待機表示を行う場合には、通常中（有利区間）とＳＴ中とで異なる内容の特定待機表示を

行うように構成してもよい。

【１１１６】

［第４実施形態］

以上、第１実施形態～第３実施形態について説明した。以下、第４実施形態について説明する。第４実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１実施形態～第３実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態～第３実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態～第３実施形態における説明が第４実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。

【１１１７】

なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第４実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第４実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２、第３実施形態に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第４実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第４実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態～第３実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第４実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。

【１１１８】

また、第１実施形態～第３実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態～第３実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。

【１１１９】

＜遊技状態の遷移フロー＞

図８１（ａ）は、本発明の第４実施形態に係る遊技状態の移行遷移を示す図である。図８１（ｂ）は、本発明の第４実施形態に係る遊技状態の移行条件をまとめた表である。

【１１２０】

第１実施形態で説明したように、パチスロ機１では、遊技者の有利度合いを変動させるため、あるいは企図した遊技性とするために、遊技を行う状態として種々の遊技状態を設けることが可能となっている。本実施形態では、図８１（ａ）に示すような遊技状態が主制御回路１００によって管理されている。このような遊技状態としては、ボーナス非当籤状態、フラグ間状態、及び、ボーナス状態が設けられている。

【１１２１】

ボーナス非当籤状態は、ボーナスに非当籤であり、かつ、ボーナスが作動（入賞）していない状態である。フラグ間状態は、ボーナス役が内部当籤役として持ち越されている状態、すなわち、ボーナス役が当籤し、かつ、ボーナスが作動していない状態である。ボーナス状態は、ボーナスが作動している状態である。第１実施形態で説明したように、フラグ間状態は、持越状態、（ボーナス）フラグ間、（ボーナス）内部中等と称されることもある。ボーナス役に当籤し、当該ボーナス役に係る図柄の組合せが有効ライン上に表示された場合に、ボーナス状態に移行させる（ボーナス状態を作動させる）ことが可能となっている。

【１１２２】

本実施形態では、ボーナス状態として、３ＢＢ遊技状態が設けられている。３ＢＢ遊技状態に対応するボーナス役としては、「Ｆ＿３ＢＢ」が設けられている（図８５～図８９参照）。また、フラグ間状態として、３ＢＢフラグ間状態が設けられている。

【１１２３】

３ＢＢフラグ間状態は、ＲＴ状態（ＲＴ１遊技状態）として構成されている。第１実施形態で説明したように、ＲＴ状態は、ＲＴ状態が作動していない状態（非ＲＴ状態）に対

してリプレイ役の抽籤態様を変動させることが可能な状態となっている。ボーナス非当籤状態は、非ＲＴ状態（ＲＴ０遊技状態）として構成されている。

【１１２４】

図８１（ａ）及び図８１（ｂ）を参照して具体的に説明すると、ボーナス非当籤状態において、「Ｆ＿３ＢＢ」が内部当籤役として決定されると（内部当籤すると）、主制御回路１００は、ボーナス非当籤状態から３ＢＢフラグ間状態へと遊技状態を移行させる（移行条件（１）参照）。

【１１２５】

「Ｆ＿３ＢＢ」（３ＢＢ）は、持越役である（図１８参照）。３ＢＢが内部当籤すると、３ＢＢに対応する図柄の組合せ（図８３に示す「Ｃ＿３ＢＢ」）が有効ラインに沿って停止表示されるまで（３ＢＢが入賞するまで）、３ＢＢが内部当籤した状態が持ち越される。３ＢＢフラグ間状態は、３ＢＢが内部当籤した状態が持ち越されている状態である。

【１１２６】

３ＢＢフラグ間状態において、「Ｃ＿３ＢＢ」に係る図柄の組合せが有効ラインに沿って停止表示されると（３ＢＢが入賞すると）、主制御回路１００は、３ＢＢフラグ間状態から３ＢＢ遊技状態へと遊技状態を移行させる（移行条件（２）参照）。３ＢＢ遊技状態において規定枚数（５５枚）を超えるメダルが払い出されると、主制御回路１００は、３ＢＢ遊技状態からボーナス非当籤状態へと遊技状態を移行させる（移行条件（３）参照）。

【１１２７】

＜図柄配置テーブル＞

図８２（ａ）は、図柄配置テーブルを示す図である。

【１１２８】

図８２（ａ）に示す図柄配置テーブルは、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、及び、右リール３Ｒの各々の表面に配されている図柄の配列を表している。図柄配置テーブルは、２０個の図柄位置「０」～「１９」と、これらの図柄位置の各々に対応する図柄との対応関係を規定する。

【１１２９】

図柄位置「０」～「１９」は、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、及び、右リール３Ｒの各々において回転方向に沿って配されている図柄の位置を示す。図柄位置「０」～「１９」に対応する図柄は、図柄カウンタの値を用いて図柄配置テーブルを参照することによって特定することができる。図柄の種類としては、「ブイ」、「セブン」、「バー」、「スイカ」、「チェリー」、「ベルＡ」、「ベルＢ」、「リプＡ」、「リプＢ」、及び、「ブランク」を含んでいる。

【１１３０】

＜図柄コード表＞

図８２（ｂ）は、図柄コード表を示す図である。

【１１３１】

図８２（ｂ）に示すように、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに配された各図柄は、図柄コード表によって特定され、本実施形態においては、１バイト（８ビット）のデータによって区別される。図８２（ｂ）に示す図柄コード表は、３つのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの表面に配された図柄を特定するためのデータとしての図柄コードを表している。

【１１３２】

例えば、図８２（ａ）に示した図柄配置テーブルは、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、及び、右リール３Ｒの各々の表面に配されている図柄の配列を表すものとして説明したが、実際にメインＲＯＭ１０２に記憶されている図柄配置テーブルは、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、及び、右リール３Ｒの各々の表面に配されている図柄を特定する図柄コードの配列を表している。

【１１３３】

本実施形態において、パチスロ機１で用いる図柄は、上述のように、「ブイ」、「セブ

ン」、「バー」、「スイカ」、「チェリー」、「ベルＡ」、「ベルＢ」、「リプＡ」、「リプＢ」、及び、「ブランク」の１０種類である。図柄コード表では、「ブイ」、「セブン」、「バー」、「スイカ」、「チェリー」、「ベルＡ」、「ベルＢ」、「リプＡ」、「リプＢ」、及び、「ブランク」の各図柄に対する図柄コードとして「１」から「１０」が割り当てられている。

【１１３４】

＜図柄組合せテーブル＞

図８３及び図８４は、図柄組合せテーブルを示す図である。

【１１３５】

図柄組合せテーブルは、有効ライン上に停止表示可能な図柄組合せ（コンビネーション）と、当該図柄組合せが有効ライン上に停止表示された場合に払い出されるメダルの枚数（払出枚数）との対応関係を規定している。図柄組合せ（コンビネーション）については、左リール３Ｌにおける図柄、中リール３Ｃにおける図柄、及び、右リール３Ｒにおける図柄を、左から順に示している。各コンビネーションに対して付された名称も併せて示している。

【１１３６】

メダルの払出枚数については、１枚掛け遊技が行われた場合における払出枚数（１枚掛け時の払出）、２枚掛け遊技が行われた場合における払出枚数（２枚掛け時の払出）、及び、３枚掛け遊技が行われた場合における払出枚数（３枚掛け時の払出）をそれぞれ示している。本明細書では、１枚のメダルが投入されることにより行われる単位遊技を１枚掛け遊技と呼び、２枚のメダルが投入されることにより行われる単位遊技を２枚掛け遊技と呼び、３枚のメダルが投入されることにより行われる単位遊技を３枚掛け遊技と呼ぶ場合がある。本実施形態では、各遊技状態において投入可能なメダルの枚数が３枚として設定されている。

【１１３７】

有効ラインとしては、左リール３Ｌの上段領域、中リール３Ｃの中段領域、及び、右リール３Ｒの下段領域を結ぶ擬似的なライン（上段－中段－下段）が設定されている。第１実施形態で説明したように、有効ラインは、今回の遊技に必要な分の（遊技開始可能枚数分の）メダルがベットされた場合に有効化される。

【１１３８】

図８３及び図８４に示す図柄組合せテーブルは、１３バイトで表される格納領域識別データによって識別される図柄の組合せ（「コンビネーション」）と、１枚掛け、２枚掛け、乃至、３枚掛け時に有効ライン上にコンビネーションが表示された場合におけるメダルの各払出枚数とが対応付けられている。

【１１３９】

図中、複数のコンビネーションを纏めて示しているものがある。例えば、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」は、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１」及び「Ｃ＿外しリプＢ＿０２」という２つのコンビネーションにより構成されている。「Ｃ＿外しリプＢ＿０１」と呼ばれるコンビネーションは、「ブイ－リプＡ－バー」という図柄組合せに対応しており、「Ｃ＿外しリプＢ＿０２」と呼ばれるコンビネーションは、「ブイ－リプＡ－チェリー」という図柄組合せに対応している。これらのコンビネーションが有効ラインに沿って表示された場合、メダルの払出はないが、再遊技が作動する。

【１１４０】

同様に、「Ｃ＿３２１ベルＢ＿０１～０６」は、「Ｃ＿３２１ベルＢ＿０１」～「Ｃ＿３２１ベルＢ＿０６」という６つのコンビネーションにより構成されている。図中、「Ｃ＿３２１ベルＢ＿０１～０６」に対しては、左リール３Ｌにおける図柄として３種類の図柄（「セブン」、「ブイ」、及び、「チェリー」）が規定され、中リール３Ｃにおける図柄として２種類の図柄（「ベルＢ」及び「ベルＡ」）が規定され、右リール３Ｒにおける図柄として１種類の図柄（「ベルＡ」）が規定されている。これにより、「Ｃ＿３２１ベルＢ＿０１～０６」は、３×２×１＝６つのコンビネーションを含むことになる。これら

のコンビネーションが有効ラインに沿って表示された場合には、１５枚のメダルが払い出される。

【１１４１】

また、「Ｃ＿３ＢＢ」と呼ばれる「ブイ－リプＢ－ブイ」のコンビネーションが有効ラインに沿って表示された場合には、メダルの払出はないが、遊技状態が３ＢＢ遊技状態に移行する。

【１１４２】

なお、図中、「ＲＥＰ」は、入賞時にリプレイ（再遊技）を作動させるコンビネーションを示し、「ＦＲＵ」は、入賞時にメダルが払い出されるコンビネーションを示し、「ＢＢ」は、入賞時にＢＢ遊技状態（３ＢＢ遊技状態）を作動させるコンビネーションを示している（図１１～図１４参照）。

【１１４３】

＜フラグ別コンビネーションテーブル＞

図８５～図８９は、フラグ別コンビネーションテーブルを示す図である。

【１１４４】

フラグ別コンビネーションテーブルは、各種内部当籤役と有効ライン上に停止表示可能な図柄組合せ（コンビネーション）との対応関係を規定している。これにより、内部当籤役が決定されると、有効ライン上に停止表示可能な図柄組合せの種別（入賞可能な表示役の種別）が一義的に決定されることになる。

【１１４５】

具体的に、図８５～図８９に示すフラグ別コンビネーションテーブルは、内部当籤役に対応して有効ライン上に表示させることが許可されるコンビネーションを示している。本実施形態における内部当籤役としては、「Ｆ＿３ＢＢ」、「Ｆ＿リプレイＡ」、「Ｆ＿リプレイＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、「Ｆ＿３２１ベルＤ」、「Ｆ＿共通ベルＡ」、「Ｆ＿共通ベルＢ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿平行スイカ」、「Ｆ＿斜めスイカ」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」、「Ｆ＿共通１枚役」、及び、「Ｆ＿共通１５枚役」がある。

【１１４６】

例えば、内部当籤役が「Ｆ＿３ＢＢ」である場合には、「Ｃ＿３ＢＢ」を有効ライン上に表示させることが許可される。すなわち、内部当籤役が「Ｆ＿３ＢＢ」である場合には、ＢＢ（３ＢＢ）に内部当籤していることを表す。

【１１４７】

また、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合には、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」、「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」、「Ｃ＿中段リプＡ＿０１～０４」、「Ｃ＿下段リプＡ＿０１～０６」、「Ｃ＿ＣＵリプ＿０１～０３」、「Ｃ＿上段リプＢ＿０１～０６」、「Ｃ＿上段リプＡ＿０１～０３」、及び、「Ｃ＿ＣＤリプ＿０１～０４」を有効ライン上に表示させることが許可される。

【１１４８】

また、内部当籤役が「Ｆ＿２１３ベルＡ」である場合には、「Ｃ＿一枚役Ｃ６＿０１～０２」、「Ｃ＿一枚役Ｃ２＿０１～０２」、「Ｃ＿一枚役Ｃ１＿０１～０２」、「Ｃ＿中右一枚Ｂ＿０１～０４」、「Ｃ＿中右一枚Ａ＿０１～０４」、「Ｃ＿制御役Ｅ１＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｄ６＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｄ５＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｄ１＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｂ３＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｂ２＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ｂ１＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ａ４＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ａ２＿０１～０２」、「Ｃ＿制御役Ａ１＿０１～０２」、及び、「Ｃ＿２１３ベルＡ

＿０１～０３」を有効ライン上に表示させることが許可される。

【１１４９】

＜内部抽籤テーブル＞

本実施形態に係る内部抽籤テーブルとしては、ボーナス非当籤状態（ＲＴ０遊技状態）において参照される内部抽籤テーブル（図９０参照）と、３ＢＢフラグ間状態（ＲＴ１遊技状態）において参照される内部抽籤テーブル（図９１（ａ）参照）と、ＢＢ遊技状態（３ＢＢ遊技状態）において参照される内部抽籤テーブル（図９１（ｂ）参照）と、が設けられている。

【１１５０】

図９０は、ＲＴ０遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。図９１（ａ）は、ＲＴ１遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。図９１（ｂ）は、ＢＢ遊技状態用内部抽籤テーブルを示す図である。

【１１５１】

図９０及び図９１に示す複数の内部抽籤テーブルは、各遊技状態及び各投入枚数に対応してメインＲＯＭ１０２に記憶され、設定１～６ごとに分母を６５５３６とした各フラグの当籤確率を示している。例えば、図９０では、「Ｆ＿２１３ベルＡ」に抽籤値「４３０８」が規定されている。これにより、「Ｆ＿２１３ベルＡ」が内部当籤する確率は「４３０８／６５５３６」となっている。

【１１５２】

「Ｆ＿３ＢＢ」が内部当籤する場合としては、「Ｆ＿３ＢＢ」が単独で内部当籤する場合と、「Ｆ＿３ＢＢ」が他の内部当籤役と重複して内部当籤する場合と、が設けられている。図９０及び図９１では、「Ｆ＿３ＢＢ」が単独で内部当籤する場合を「Ｆ＿３ＢＢ」と表記し、「Ｆ＿３ＢＢ」が他の内部当籤役と重複して内部当籤する場合を「Ｆ＿３ＢＢ＋（他の内部当籤役）」と表記している。

【１１５３】

図９０に示すように、ＲＴ０遊技状態において、「Ｆ＿共通ベルＢ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿平行スイカ」、「Ｆ＿斜めスイカ」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」は、「Ｆ＿３ＢＢ」と重複して内部当籤することが可能となっている。また、「Ｆ＿共通ベルＢ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿平行スイカ」、「Ｆ＿斜めスイカ」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」が内部当籤した場合には、必ず、「Ｆ＿３ＢＢ」が内部当籤している。

【１１５４】

上述したように、ＲＴ１遊技状態では、「Ｆ＿３ＢＢ」が既に内部当籤している。従って、図９１（ａ）に示すように、ＲＴ１遊技状態においては、「Ｆ＿共通ベルＢ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿平行スイカ」、「Ｆ＿斜めスイカ」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」以外の内部当籤役についても、「Ｆ＿３ＢＢ」と重複して内部当籤することとされている。なお、ＲＴ１遊技状態では、「はずれ」のみが当籤することはないので、「はずれ」には抽籤値「０」が規定されている。

【１１５５】

なお、図９０及び図９１に示した各当籤役の抽籤値は、全設定で共通の値となっているが、一部又は全部の当籤役について設定差を設けても良い。

【１１５６】

＜内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係＞

図９２は、内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係の一例を示す図である。

【１１５７】

第１実施形態では、各内部当籤役に当籤した場合に停止操作態様に応じていずれの図柄の組合せ（表示役、入賞役、停止表示態様、表示結果等と換言することもできる）が表示

されるのか等について説明した（図１５参照）。本実施形態では、内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係が図９２に示すように構成されている。

【１１５８】

図中、「１→２→３」は、左リール３Ｌに対する停止操作が第１停止操作として行われ、中リール３Ｃに対する停止操作が第２停止操作として行われ、右リール３Ｒに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順１）を示している。「１→３→２」は、左リール３Ｌに対する停止操作が第１停止操作として行われ、右リール３Ｒに対する停止操作が第２停止操作として行われ、中リール３Ｃに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順２）を示している。

【１１５９】

「２→１→３」は、中リール３Ｃに対する停止操作が第１停止操作として行われ、左リール３Ｌに対する停止操作が第２停止操作として行われ、右リール３Ｒに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順３）を示している。「２→３→１」は、中リール３Ｃに対する停止操作が第１停止操作として行われ、右リール３Ｒに対する停止操作が第２停止操作として行われ、左リール３Ｌに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順４）を示している。

【１１６０】

「３→１→２」は、右リール３Ｒに対する停止操作が第１停止操作として行われ、左リール３Ｌに対する停止操作が第２停止操作として行われ、中リール３Ｃに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順５）を示している。「３→２→１」は、右リール３Ｒに対する停止操作が第１停止操作として行われ、中リール３Ｃに対する停止操作が第２停止操作として行われ、左リール３Ｌに対する停止操作が第３停止操作として行われる場合（打順６）を示している。

【１１６１】

具体的に、「Ｆ＿リプレイＡ」が内部当籤役として決定された場合には、打順１又は打順２により停止操作が行われると、「通常リプ」が有効ラインに沿って表示され、打順３～打順６のうちの何れかにより停止操作が行われると、目押し成功で「外しリプ」が有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で「通常リプ」が有効ラインに沿って表示される。同様に、「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合には、打順１又は打順２により停止操作が行われると、「通常リプ」が有効ラインに沿って表示され、打順３～打順６のうちの何れかにより停止操作が行われると、目押し成功で「外しリプ」が有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で「通常リプ」が有効ラインに沿って表示される。

【１１６２】

「通常リプ」は、「Ｃ＿中段リプＡ＿０１～０４」、「Ｃ＿下段リプＡ＿０１～０６」、「Ｃ＿ＣＵリプ＿０１～０３」、「Ｃ＿上段リプＢ＿０１～０６」、「Ｃ＿上段リプＡ＿０１～０３」、及び、「Ｃ＿ＣＤリプ＿０１～０４」（図８３参照）の総称である。「外しリプ」は、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」及び「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」（図８３参照）の総称である。

【１１６３】

図８９に示すように、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合と内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合とでは、有効ライン上に表示させることが許可される「外しリプ」の内容が異なっている。具体的に、上述したように、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合には、「外しリプ」として、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」及び「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可される。これに対し、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合には、「外しリプ」として、「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可されるが、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることは許可されない。このことが疑似ＢＩＧ（図９３参照）の遊技性に関わっている。詳細については後述する。

【１１６４】

また、「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、及び、

「Ｆ＿２１３ベルＤ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順３により停止操作が行われると、目押し成功で１５枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、打順３以外の打順により停止操作が行われると、目押しにかかわらず１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示される。

【１１６５】

また、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿２３１ベルＤ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順４により停止操作が行われると、目押し成功で１５枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、打順４以外の打順により停止操作が行われると、目押しにかかわらず１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示される。

【１１６６】

また、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３１２ベルＤ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順５により停止操作が行われると、目押し成功で１５枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、打順５以外の打順により停止操作が行われると、目押しにかかわらず１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示される。

【１１６７】

また、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３２１ベルＤ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順６により停止操作が行われると、目押し成功で１５枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、目押し失敗で１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示され、打順６以外の打順により停止操作が行われると、目押しにかかわらず１枚のメダルが払い出されるコンビネーションが有効ラインに沿って表示される。

【１１６８】

このように、「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３２１ベルＤ」は、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対する停止操作の順序（押し順）に応じて、有効ラインに沿って停止表示されるコンビネーション（図柄の組合せ）が異なる内部当籤役（押し順ベル）となっている。押し順ベルが内部当籤役として決定された場合には、押し順が正解であり、且つ、目押しが成功であれば、１５枚のメダルが払い出されることになる。

【１１６９】

なお、「Ｆ＿平行スイカ」、「Ｆ＿斜めスイカ」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順１又は打順２により停止操作が行われた場合と、打順３～打順６のうちの何れかにより停止操作が行われた場合とで、有効ラインに沿って停止表示されるコンビネーションが異なっている。

【１１７０】

例えば、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順１又は打順２により停止操

作が行われると、「リーチ目一枚」が有効ラインに沿って表示され、打順３～打順６のうちの何れかにより停止操作が行われると、「通常出目一枚」が有効ラインに沿って表示される。「リーチ目一枚」は、図８３及び図８４に示す図柄組合せのうち「リーチ目」という単語を含むものの総称である。「リーチ目一枚」は、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にのみ有効ラインに沿って表示され得る図柄組合せとなっている。

【１１７１】

また、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、打順１又は打順２により停止操作が行われると、「ＢＢ確定リーチ一枚」が有効ラインに沿って表示され、打順３～打順６のうちの何れかにより停止操作が行われると、「通常出目一枚」が有効ラインに沿って表示される。「ＢＢ確定リーチ一枚」は、図８３及び図８４に示す図柄組合せのうち「ＢＢ確定役」という単語を含むものの総称である。「ＢＢ確定リーチ一枚」は、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にのみ有効ラインに沿って表示され得る図柄組合せとなっている。

【１１７２】

＜遊技性＞

図９３は、本発明の第４実施形態に係る非有利区間及び有利区間における遊技状態の遷移フローの一例を示す図である。図９４は、本発明の第４実施形態に係る出玉状態の移行遷移を示す図である。図９５は、本発明の第４実施形態に係る出玉状態の移行条件をまとめた表である。

【１１７３】

第４実施形態に係るパチスロ機１では、主制御回路１００において、図８１に示す遊技状態とは別途、図９３に示す遊技状態（出玉状態）が管理されている。図９３に示すように、出玉状態は、非有利区間及び有利区間に大別される。

【１１７４】

第１実施形態で説明したように、有利区間は、遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知される遊技状態（ＡＴ状態）に制御可能な遊技期間である（図５参照）。有利区間としては、演出区間（有利区間・通常遊技）及び増加区間（有利区間・ＡＴ状態）が設けられている。演出区間は、基本的には遊技者にとって有利な停止操作の情報が報知されない遊技状態（非ＡＴ状態）であり、ＡＴ状態と比較して遊技者にとって不利な遊技状態である点においては非有利区間と同様であるが、出玉状態の移行が行われる点において非有利区間と異なっている。増加区間は、ＡＴ状態（遊技者にとって有利な遊技状態）である。

【１１７５】

演出区間においては、通常ステージ、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、連荘準備、連荘チャレンジ、及び、昇格チャンスのうちの何れかの出玉状態に制御可能となっている。通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢを総称して、通常出玉状態と表記することとする。また、増加区間においては、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧのうちの何れかの出玉状態に制御可能となっている。各出玉状態の特徴については、以下で詳述する。

【１１７６】

図９４及び図９５に示すように、非有利区間において、有利区間移行抽籤（図９８のステップＳ４００１参照）に当籤し、有利区間移行時抽籤（図９８のステップＳ４００３参照）の結果、連荘準備に移行させることが決定されると、主制御回路１００は、非有利区間から連荘準備へと出玉状態を移行させる（移行条件（Ａ）参照）。また、非有利区間において、有利区間移行抽籤（図９８のステップＳ４００１参照）に当籤し、有利区間移行時抽籤（図９８のステップＳ４００３参照）の結果、連荘チャレンジに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、非有利区間から連荘チャレンジへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｂ）参照）。

【１１７７】

連荘準備において連荘準備転落抽籤（図１００のステップＳ４０３１参照）に当籤すると、主制御回路１００は、連荘準備から通常ステージへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｃ）参照）。連荘準備において連荘チャレンジ移行抽籤（図１００のステップＳ４０２７参照）に当籤すると、主制御回路１００は、連荘準備から連荘チャレンジへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｄ）参照）。

【１１７８】

通常ステージにおいて、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）の結果、チャンスステージＡに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、通常ステージからチャンスステージＡへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｅ）参照）。チャンスステージＡにおいて、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤（図１３４のステップＳ４３０３参照）により決定された回数の単位遊技が行われると、主制御回路１００は、チャンスステージＡから通常ステージへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｆ）参照）。

【１１７９】

通常ステージにおいて、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）の結果、チャンスステージＢに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、通常ステージからチャンスステージＢへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｇ）参照）。チャンスステージＢにおいて、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤（図１３４のステップＳ４３０３参照）により決定された回数の単位遊技が行われると、主制御回路１００は、チャンスステージＢから通常ステージへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｈ）参照）。

【１１８０】

通常ステージにおいて、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）の結果、昇格チャンスに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、通常ステージから昇格チャンスへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｉ）参照）。また、チャンスステージＡにおいて、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）の結果、昇格チャンスに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、チャンスステージＡから昇格チャンスへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｉ）参照）。また、チャンスステージＢにおいて、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）の結果、昇格チャンスに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、チャンスステージＢから昇格チャンスへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｉ）参照）。

【１１８１】

また、通常ステージにおいて、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）の結果、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、通常ステージから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｊ）参照）。また、チャンスステージＡにおいて、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）の結果、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、チャンスステージＡから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｊ）参照）。また、チャンスステージＢにおいて、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）の結果、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、前兆状態を経由して、チャンスステージＢから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｊ）参照）。

【１１８２】

昇格チャンスにおいて、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されると、主制御回路１００は、昇格チャンスから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｋ）参照）。昇格チャンスにおいて、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されずに、単位遊技が所定回数（４回）行われる

と、主制御回路１００は、昇格チャンスから疑似ＲＥＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｌ）参照）。

【１１８３】

疑似ＢＩＧにおいて、連荘チャレンジ抽籤（図１５３のステップＳ４４０８参照）に当籤すると、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに、主制御回路１００は、疑似ＢＩＧから連荘チャレンジへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｍ）参照）。疑似ＲＥＧにおいて、連荘チャレンジ抽籤（図１６１のステップＳ４４８３参照）に当籤すると、疑似ＲＥＧの終了条件が成立したときに、主制御回路１００は、疑似ＲＥＧから連荘チャレンジへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｍ）参照）。疑似ＢＩＧの終了条件及び疑似ＲＥＧの終了条件については、後に図９６を用いて説明する。

【１１８４】

疑似ＲＥＧにおいて、１Ｇ連抽籤（図１６１のステップＳ４４８４参照）に当籤すると、疑似ＲＥＧの終了条件が成立したときに、主制御回路１００は、疑似ＲＥＧから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｎ）参照）。なお、疑似ＢＩＧにおいて、１Ｇ連抽籤（図１５２のステップＳ４３８４参照）に当籤すると、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに、主制御回路１００は、出玉状態を再度疑似ＢＩＧに制御する。

【１１８５】

連荘チャレンジにおいて、連荘チャレンジ中抽籤（図１６５のステップＳ４５２５参照）の結果、昇格チャンスに移行させることが決定されると、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤（図１６５のステップＳ４５２３参照）により決定された回数の単位遊技が行われたときに、主制御回路１００は、連荘チャレンジから昇格チャンスへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｏ）参照）。連荘チャレンジにおいて、連荘チャレンジ中抽籤（図１６５のステップＳ４５２５参照）の結果、疑似ＢＩＧに移行させることが決定されると、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤（図１６５のステップＳ４５２３参照）により決定された回数の単位遊技が行われたときに、主制御回路１００は、連荘チャレンジから疑似ＢＩＧへと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｐ）参照）。

【１１８６】

連荘チャレンジにおいて、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤（図１６５のステップＳ４５２８参照）の結果、非有利区間に移行させることが決定されると、主制御回路１００は、連荘チャレンジから非有利区間へと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｑ）参照）。連荘チャレンジにおいて、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤（図１６５のステップＳ４５２８参照）の結果、連荘準備に移行させることが決定されると、主制御回路１００は、連荘チャレンジから連荘準備へと出玉状態を移行させる（移行条件（Ｒ）参照）。

【１１８７】

以上では、各出玉状態の移行ルートとして代表的なものについて説明した。本実施形態では、出玉状態の移行条件として、上記移行条件（Ａ）～（Ｒ）以外の条件も設けられており、各移行条件が成立した場合に、一の出玉状態から他の出玉状態へと移行するようになっている。以下、より詳細に説明する。

【１１８８】

なお、演出区間は、遊技者にとって不利な状態（メダル等の遊技価値が減少する状態）とすることが可能であるが、遊技者に有利な停止操作の情報の一部（例えば、特定の打順役の正解打順や揃えるべきボーナス図柄組合せなど）を報知可能な状態としてもよい。

【１１８９】

＜ＡＴ状態（疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧ）＞

図９６（ａ）は、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて指示モニタに表示される数値を示す図である。図９６（ｂ）は、指示モニタに表示される数値に対応する内容を示す図である。

【１１９０】

第１実施形態で説明したように、遊技者に対して停止操作の情報が報知される状況下（ＡＴ状態）においては、副制御回路２００によって制御されるサブ側報知手段（例えば、

メイン演出表示部２１）のみならず、主制御回路１００によって制御されるメイン側報知手段としての指示モニタにおいても停止操作の情報が報知される。第１実施形態と同様に、指示モニタは、報知ランプ（停止操作表示部）を含んで構成される。報知ランプは、遊技者に対して停止操作の情報が報知される状況下（ＡＴ状態）において、報知する停止操作の情報と一義的に対応する態様で点灯することで、停止操作の情報を表示する。

【１１９１】

図９６（ａ）に示すように、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２１３ベルＡ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「１」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２１３ベルＢ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「５」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２１３ベルＣ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「１」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２１３ベルＤ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「５」が表示される。

【１１９２】

また、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２３１ベルＡ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「２」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２３１ベルＢ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「６」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２３１ベルＣ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「２」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿２３１ベルＤ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「６」が表示される。

【１１９３】

また、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３１２ベルＡ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「３」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３１２ベルＢ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「７」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３１２ベルＣ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「３」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３１２ベルＤ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「７」が表示される。

【１１９４】

また、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３２１ベルＡ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「４」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３２１ベルＢ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「８」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３２１ベルＣ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「４」が表示される。疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿３２１ベルＤ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「８」が表示される。

【１１９５】

図９６（ｂ）に示すように、指示モニタの数値「１」により、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「セブン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行い、第３停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行うことが報知される。指示モニタの数値「２」により、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「セブン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知される。

【１１９６】

指示モニタの数値「３」により、第１停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を「セブン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行い、第３停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を行うことが報知される。指示モニタの数値「４」により、第１停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を「セブ

ン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知される。

【１１９７】

指示モニタの数値「５」により、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「ブイ」を狙った目押しで行い、第２停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行い、第３停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行うことが報知される。指示モニタの数値「６」により、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「ブイ」を狙った目押しで行い、第２停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知される。

【１１９８】

指示モニタの数値「７」により、第１停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を「ブイ」を狙った目押しで行い、第２停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行い、第３停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を行うことが報知される。指示モニタの数値「８」により、第１停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を「ブイ」を狙った目押しで行い、第２停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知される。

【１１９９】

以上のように、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、押し順ベルが内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに「１」～「８」のうちの何れかの数値が表示される。指示モニタに「１」～「８」のうちの何れかの数値が表示されること（押し順ベルを入賞させるための停止操作の情報が報知されること）を「ベルナビ」とも呼ぶ。遊技者は、報知（ベルナビ）に従った停止操作を行うことで、１５枚のメダルを獲得することができる（図９２参照）。これにより、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧは、遊技者にとって有利な遊技状態（ＡＴ状態）となっている。また、以下で説明するように、疑似ＢＩＧは、疑似ＲＥＧと比較してベルナビが行われる回数が多く、疑似ＲＥＧよりも有利な遊技状態となっている。

【１２００】

ここで、疑似ＢＩＧとしては、第１疑似ＢＩＧ及び第２疑似ＢＩＧが設けられている。疑似ＢＩＧが開始するときには、第１疑似ＢＩＧに制御される。第１疑似ＢＩＧにおいて、「Ｃ＿中段リプＡ＿０１～０４」、「Ｃ＿下段リプＡ＿０１～０６」、「Ｃ＿ＣＵリプ＿０１～０３」、「Ｃ＿上段リプＢ＿０１～０６」、「Ｃ＿上段リプＡ＿０１～０３」、及び、「Ｃ＿ＣＤリプ＿０１～０４」のうちの何れか（通常リプ）が有効ラインに沿って表示されると、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行する。

【１２０１】

１回の疑似ＢＩＧにおいて第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な回数には上限が設けられており、当該上限回数は３回となっている。第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行回数（通常リプの入賞回数）が２回以下である場合、第２疑似ＢＩＧにおいて所定回数（９回）のベルナビが行われると、第２疑似ＢＩＧから第１疑似ＢＩＧへと移行する。一方、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行回数（通常リプの入賞回数）が３回である場合、第２疑似ＢＩＧにおいて所定回数（９回）のベルナビが行われると、第２疑似ＢＩＧから第１疑似ＢＩＧに移行することなく、疑似ＢＩＧが終了する。

【１２０２】

また、第１疑似ＢＩＧにおいて所定回数（３０回）のベルナビが行われると、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行回数（通常リプの入賞回数）にかかわらず、疑似ＢＩＧが終了する。また、疑似ＲＥＧにおいて所定回数（５回）のベルナビが行われると、疑似ＲＥＧが終了する。

【１２０３】

第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数は、第１ベルナビ回数カウンタにより管理され、第２疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数及び疑似ＲＥＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数は、第２ベルナビ回数カウンタにより管理される

。また、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な残り回数は、通常リプ残り入賞回数カウンタにより管理される。

【１２０４】

疑似ＢＩＧが開始するとき、第１ベルナビ回数カウンタに「３０」がセットされ、通常リプ残り入賞回数カウンタに「３」がセットされる。第１ベルナビ回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。通常リプ残り入賞回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと１回移行する（第１疑似ＢＩＧにおいて通常リプが入賞する）ごとに１減算される。

【１２０５】

第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行するとき、第２ベルナビ回数カウンタに「９」がセットされる。第２ベルナビ回数カウンタの値は、第２疑似ＢＩＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。また、疑似ＲＥＧが開始するとき、第２ベルナビ回数カウンタに「５」がセットされる。第２ベルナビ回数カウンタの値は、疑似ＲＥＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。

【１２０６】

以上より、疑似ＢＩＧの終了条件は、下記（ｉ）及び（ｉｉ）のうちの何れかが成立することであり、疑似ＲＥＧの終了条件は、下記（ｉｉｉ）が成立することである。

【１２０７】

（ｉ）第１ベルナビ回数カウンタの値が０であること

（ｉｉ）通常リプ残り入賞回数カウンタの値が０であり、且つ、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であること

（ｉｉｉ）第２ベルナビ回数カウンタの値が０であること

従って、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第１ベルナビ回数カウンタの値）が多く残っている状況において、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な回数が上限に達すると、第１疑似ＢＩＧにおけるベルナビの恩恵を最大限享受することができないまま、疑似ＢＩＧが終了してしまうことになる。疑似ＢＩＧにおけるメダルの払出枚数を最大化するためには、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第１ベルナビ回数カウンタの値）がなるべく少なくなってから、最終（３回目）の第２疑似ＢＩＧへと移行させる必要がある。このような観点から、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第１ベルナビ回数カウンタの値）が多く残っており、且つ、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な残り回数（通常リプ残り入賞回数カウンタの値）が１回である状況においては、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行（通常リプの入賞）を回避することが望ましい。

【１２０８】

この点、本実施形態では、第１疑似ＢＩＧにおいて、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合であっても、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」及び「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」のうちの何れか（外しリプ）が有効ラインに沿って表示された場合には、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行することはなく、通常リプ残り入賞回数カウンタの値は減算されない。すなわち、外しリプを入賞させることによって、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行（通常リプの入賞）を回避することが可能である。

【１２０９】

図９６（ａ）に示すように、疑似ＢＩＧにおいて、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「９」又は「１０」が表示される。具体的に、疑似ＢＩＧにおいて「Ｆ＿リプレイＡ」が内部当籤役として決定されたとき、通常リプ残り入賞回数カウンタの値が２以上である場合、又は、第１ベルナビ回数カウンタの値が６以下である場合には、指示モニタに数値「９」が表示される。同様に、疑似ＢＩＧにおいて「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定されたとき、通常リプ残り入賞回数カウンタの値が２以上である場合、又は、第１ベルナビ回数カウンタの値が６以下である場合には、指示モニタに数値「９」が表示される。

【１２１０】
　これに対し、疑似ＢＩＧにおいて「Ｆ＿リプレイＡ」が内部当籤役として決定されたとき、通常リプ残り入賞回数カウンタの値が１であり、且つ、第１ベルナビ回数カウンタの値が７以上である場合には、指示モニタに数値「１０」が表示される。同様に、疑似ＢＩＧにおいて「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定されたとき、通常リプ残り入賞回数カウンタの値が１であり、且つ、第１ベルナビ回数カウンタの値が７以上である場合には、指示モニタに数値「１０」が表示される。
【１２１１】
　図９６（ｂ）に示すように、指示モニタの数値「９」により、通常リプを入賞させるための停止操作を行うことが報知され、指示モニタの数値「１０」により、外しリプを入賞させるための停止操作を行うことが報知される。通常リプ残り入賞回数カウンタの値が１であり、且つ、第１ベルナビ回数カウンタの値が７以上である場合において、「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定されたとき、遊技者は、報知に従って、外しリプを入賞させるための停止操作を行うことで、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへの移行（通常リプの入賞）を回避することができる。これにより、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第１ベルナビ回数カウンタの値）が多く（７回以上）残っている状態で疑似ＢＩＧが終了してしまうことを防止することが可能であり、第１疑似ＢＩＧにおけるベルナビの恩恵を享受しながら、疑似ＢＩＧを継続することができる。
【１２１２】
　なお、上述したように、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合には、「外しリプ」として「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可され、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合には、「外しリプ」として、「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」に加えて、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可される（図８９参照）。
【１２１３】
　「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させるためには、左リール３Ｌに対する停止操作が、図柄位置「６」の図柄（「バー」）が中段領域に表示されているタイミングで行われる（図柄位置「６」の「バー」がビタ押しされる）必要がある。内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合、及び、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合の何れの場合においても、「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可されているため、「バー」のビタ押しに成功することにより、「Ｃ＿外しリプＡ＿０１～０２」を入賞させる（通常リプの入賞を回避する）ことができる。
【１２１４】
　これに対し、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させるためには、左リール３Ｌに対する停止操作が、図柄位置「１３」～「１５」の何れかの図柄（何れも「ブイ」）が中段領域に表示されているタイミングで行われる（図柄位置「１３」～「１５」の「ブイ」が目押しされる）必要がある。内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合には、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可されているため、「ブイ」の目押しに成功することにより、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を入賞させる（通常リプの入賞を回避する）ことができる。一方、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合には、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を有効ライン上に表示させることが許可されていないため、「ブイ」の目押しを行っても、「Ｃ＿外しリプＢ＿０１～０２」を入賞させることはできず、この場合には、通常リプが入賞することになる。
【１２１５】
　指示モニタに数値「１０」が表示された場合、遊技者は、「Ｆ＿リプレイＡ」及び「Ｆ＿リプレイＢ」のうちの何れかが内部当籤役として決定されたことを認識することができる。しかし、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」である場合と、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」である場合とで、指示モニタに表示される数値は同じ（「１０」）であり、メイン演出表示部２１において行われる演出の内容も同じ（例えば、「外しチャレンジ」といっ

た文字画像の表示）となっている。そのため、遊技者は、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」と「Ｆ＿リプレイＢ」とのうちの何れであるのかを認識することができない。

【１２１６】

「バー」のビタ押しに成功することさえできれば、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」と「Ｆ＿リプレイＢ」とのうちの何れであっても、外しリプを入賞させることができるため、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」と「Ｆ＿リプレイＢ」とのうちの何れであるのかは、問題とならない。しかし、一般的に、ビタ押しには、高度な技術が求められ、成功させることは難しい。

【１２１７】

「ブイ」の目押しに成功するための停止操作のタイミング（狙うべき図柄の範囲）は、「バー」のビタ押しに成功するための停止操作のタイミング（狙うべき図柄の範囲）よりも幅広くなっているため、「ブイ」の目押しは、「バー」のビタ押しよりも簡単と言える。しかし、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」と「Ｆ＿リプレイＢ」とのうちの何れであるのかを認識することができない状況で、「ブイ」の目押しを行ったとき、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＢ」であれば外しリプを入賞させることができるが、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」であれば外しリプを入賞させることはできない。

【１２１８】

「Ｆ＿リプレイＡ」が内部当籤役として決定される確率と「Ｆ＿リプレイＢ」が内部当籤役として決定される確率との割合は、約１：３である（図９０及び図９１参照）。従って、内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」と「Ｆ＿リプレイＢ」とのうちの何れであるのかを認識することができない状況で「ブイ」の目押しを行ったとき、（正確な目押しが行われることを前提とすれば）外しリプを入賞させることができる確率は約７５％である。これに対し、「バー」のビタ押しを行ったときには、（正確なビタ押しが行われることを前提とすれば）外しリプを入賞させることができる確率は１００％である。以上より、遊技者は、難易度が高いが成功すれば確実に外しリプを入賞させることが可能な「バー」のビタ押しと、難易度が低いが正確な操作を行っても外しリプを入賞させることができない可能性のある「ブイ」の目押しと、のうちの何れかを選択しながら、第１疑似ＢＩＧにおける遊技を行うことになる。

【１２１９】

なお、図９６（ａ）及び（ｂ）に示すように、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、「Ｆ＿共通ベルＡ」及び「Ｆ＿共通ベルＢ」（図中、まとめて「Ｆ＿共通ベル」と表記）、「Ｆ＿平行スイカ」、並びに、「Ｆ＿斜めスイカ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、指示モニタに数値「１１」が表示される。指示モニタの数値「１１」により、第１停止操作として左リール３Ｌ以外（中リール３Ｃ又は右リール３Ｒ）に対する停止操作を行うことが報知される。指示モニタの構成は、適宜設計することが可能であり、例えば、指示モニタの数値「１」～「８」は、３ＢＢフラグ間状態においてのみ表示し、指示モニタの数値「９」～「１１」は、３ＢＢフラグ間状態であるか否かにかかわらず表示することとしてもよい。

【１２２０】

＜内部当籤役とサブフラグと出玉フラグとの対応関係＞

図９７は、内部当籤役とサブフラグと出玉フラグとの対応関係を示す図である。

【１２２１】

第１実施形態で説明したように、サブフラグは、主制御回路１００による遊技性に関する各種抽籤（有利区間に関連する各種処理）において、同様の役割（抽籤対象役であるか否かやその当籤確率等）を担う内部当籤役をグループ化して同じ情報を割り当てることで、そのグループを識別可能とするための情報である。

【１２２２】

図９７には、内部当籤役とサブフラグとの対応関係が示されている。具体的に、内部当籤役「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「

Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、「Ｆ＿３２１ベルＤ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿共通１枚役」、及び、「Ｆ＿共通１５枚役」に対しては、サブフラグ番号「０」（「はずれ」）が設定されている。

【１２２３】

内部当籤役「Ｆ＿リプレイＡ」及び「Ｆ＿リプレイＢ」に対しては、サブフラグ番号「１」（「リプレイ」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿共通ベルＡ」及び「Ｆ＿共通ベルＢ」に対しては、サブフラグ番号「２」（「共通ベル」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿平行スイカ」に対しては、サブフラグ番号「３」（「平行スイカ」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿斜めスイカ」に対しては、サブフラグ番号「４」（「斜めスイカ」）が設定されている。

【１２２４】

内部当籤役「Ｆ＿チェリー」に対しては、サブフラグ番号「５」（「チェリー」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」に対しては、サブフラグ番号「６」（「リーチ目役」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」に対しては、サブフラグ番号「７」（「ＢＢ確定役Ａ」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」に対しては、サブフラグ番号「８」（「ＢＢ確定役Ｂ」）が設定されている。内部当籤役「Ｆ＿１枚役Ａ」に対しては、サブフラグ番号「９」（「１枚役」）が設定されている。内部当籤役「はずれ」に対しては、サブフラグ番号「１０」（「はずれ（単独ＢＢ）」）が設定されている。

【１２２５】

これにより、内部当籤役が「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、「Ｆ＿３２１ベルＤ」、「Ｆ＿１枚役Ｂ」、「Ｆ＿共通１枚役」、及び、「Ｆ＿共通１５枚役」のうちの何れかである場合には、サブフラグ「はずれ」が決定される。

【１２２６】

内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」及び「Ｆ＿リプレイＢ」のうちの何れかである場合には、サブフラグ「リプレイ」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿共通ベルＡ」及び「Ｆ＿共通ベルＢ」のうちの何れかである場合には、サブフラグ「共通ベル」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿平行スイカ」である場合には、サブフラグ「平行スイカ」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿斜めスイカ」である場合には、サブフラグ「斜めスイカ」が決定される。

【１２２７】

内部当籤役が「Ｆ＿チェリー」である場合には、サブフラグ「チェリー」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかである場合には、サブフラグ「リーチ目役」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」である場合には、サブフラグ「ＢＢ確定役Ａ」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」である場合には、サブフラグ「ＢＢ確定役Ｂ」が決定される。内部当籤役が「Ｆ＿１枚役Ａ」である場合には、サブフラグ「１枚役」が決定される。内部当籤役が「はずれ」である場合には、サブフラグ「はずれ（単独ＢＢ）」が決定される。

【１２２８】

以上のサブフラグは、主制御回路１００において、第１実施形態で説明したサブフラグ等設定処理（図２６のステップＳ７３参照）で決定される。そして、決定されたサブフラグを示す情報は、基本的に、スタートコマンドデータ（図２３のステップＳ７参照）に含まれることで、副制御回路２００へと送信される。これにより、副制御回路２００では、

決定されたサブフラグを認識することが可能であり、当該サブフラグに応じた演出を行うことができる。

【１２２９】

ただし、本実施形態では、非ＡＴ状態であり、指示モニタにおいて停止操作の情報が報知されない場合において、内部当籤役が「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３２１ベルＤ」のうちの何れか（押し順ベル）である場合には、サブフラグを示す情報が副制御回路２００に送信されないようになっている。

【１２３０】

これらの押し順ベルは、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行った場合には押し順が不正解であり、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作を行った場合に押し順が正解となり得る偏りベルを構成している。このような偏りベルが内部当籤役として決定された場合に、サブフラグを示す情報が副制御回路２００に送信されないようにすることで、非ＡＴ状態において偏りベルを入賞させることを狙った停止操作（変則押し）が行われてしまうことを防止することができる。もっとも、偏りベルが内部当籤役として決定された場合においても、サブフラグを示す情報が副制御回路２００に送信されるように構成してもよい。

【１２３１】

なお、偏りベルの構成は、特に限定されず、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行った場合に押し順が正解となり得る内部当籤役がそもそも設けられていなくてもよいし（図９０及び図９１参照）、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行った場合に押し順が正解となり得る内部当籤役を設けつつ、当該内部当籤役が決定される確率が、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作を行った場合に押し順が正解となり得る内部当籤役が決定される確率よりも低くなるように構成されていてもよい。

【１２３２】

また、図９７には、内部当籤役と出玉フラグとの対応関係が示されている。内部当籤役と出玉フラグとの対応関係としては、６種類（出玉フラググループ１、出玉フラググループ２、出玉フラググループ３、出玉フラググループ４、出玉フラググループ５、及び、出玉フラググループ６）設けられている。遊技の状況に応じて、これらの出玉フラググループのうちの一の出玉フラググループにおける出玉フラグが決定される。

【１２３３】

具体的に、内部当籤役が「はずれ」である場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「除外役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「リーチ目ＢＢ」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「リーチ目ＢＢ」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「リーチ目ＢＢ」が決定される。

【１２３４】

内部当籤役が「Ｆ＿リプレイＡ」及び「Ｆ＿リプレイＢ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「除外役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「リプベル」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２３５】

内部当籤役が「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３２１ベルＤ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２３６】

内部当籤役が「Ｆ＿共通ベルＡ」及び「Ｆ＿共通ベルＢ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「リプベル」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２３７】

内部当籤役が「Ｆ＿平行スイカ」である場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「弱レア役」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「弱レア役」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「平行スイカ」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２３８】

内部当籤役が「Ｆ＿斜めスイカ」である場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「斜めスイカ」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「斜めスイカ」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「斜めスイカ」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２３９】

内部当籤役が「Ｆ＿チェリー」である場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「弱レア役」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「弱レア役」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「チェリー」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２４０】

内部当籤役が「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「リーチ目」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「リーチ目」が決定される。

【１２４１】

内部当籤役が「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フ

ラググループ２における出玉フラグとして「リーチ目ＢＢ」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「非転落役」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「リーチ目ＢＢ」が決定される。

【１２４２】

内部当籤役が「Ｆ＿１枚役Ａ」及び「Ｆ＿１枚役Ｂ」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「移行役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「１枚役」が決定される。

【１２４３】

内部当籤役が「Ｆ＿共通１枚役」及び「Ｆ＿共通１５枚役」のうちの何れかである場合には、出玉フラググループ１における出玉フラグとして「除外役」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ３における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ４における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ５における出玉フラグとして「その他」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグとして「その他」が決定される。

【１２４４】

以上のようにして決定された出玉フラグは、以下で説明する各種抽籤において用いられることになる。

【１２４５】

＜非有利区間用遊技開始時処理＞

図９８は、主制御回路において行われる非有利区間用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図９９（ａ）は、有利区間移行抽籤テーブルを示す図である。図９９（ｂ）は、有利区間移行時抽籤テーブルを示す図である。

【１２４６】

図９８に示す非有利区間用遊技開始時処理は、現在の遊技区間が非有利区間（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＹＥＳ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の遊技区間が非有利区間であることを認識することができる。

【１２４７】

非有利区間用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、有利区間移行抽籤処理を実行する（ステップＳ４００１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、有利区間移行抽籤テーブル（図９９（ａ）参照）を参照して、出玉フラググループ１における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、有利区間移行抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１２４８】

図９９（ａ）に示す有利区間移行抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ１における出玉フラグ（「除外役」及び「移行役」）ごとに、有利区間移行抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。有利区間移行抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、出玉フラググループ１における出玉フラグが「除外役」である場合には、０／２５６の確率で有利区間移行抽籤に当籤し、出玉フラググループ１における出玉フラグが「移行役」である場合には、２５６／２５６の確率で有利区間移行抽籤に当籤する。

【１２４９】
ステップＳ４００１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、有利区間移行抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ４００２）。有利区間移行抽籤に当籤していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１２５０】
一方、有利区間移行抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、有利区間移行時抽籤処理を実行する（ステップＳ４００３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、有利区間移行時抽籤テーブル（図９９（ｂ）参照）を参照して、出玉フラググループ２における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、有利区間移行時抽籤の結果として、「連荘準備」、「連荘チャレンジ」、及び、「確定連荘チャレンジ」のうちの何れかを決定する。
【１２５１】
図９９（ｂ）に示す有利区間移行時抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ２における出玉フラグ（「その他」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、「リーチ目」、及び、「リーチ目ＢＢ」）ごとに、有利区間移行時抽籤の結果（「連荘準備」、「連荘チャレンジ」、及び、「確定連荘チャレンジ」）に対応する抽籤値が規定されている。有利区間移行時抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１２５２】
例えば、出玉フラググループ２における出玉フラグが「その他」である場合には、有利区間移行時抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「連荘準備」が決定され、出玉フラググループ２における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、有利区間移行時抽籤の結果として、１２８／２５６の確率で「連荘チャレンジ」が決定され、１２８／２５６の確率で「確定連荘チャレンジ」が決定される。
【１２５３】
有利区間移行時抽籤の結果として「連荘準備」が決定された場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行フラグをオンにセットする。連荘準備移行フラグは、連荘準備を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘準備に移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ａ）参照）。
【１２５４】
また、有利区間移行時抽籤の結果として「連荘チャレンジ」又は「確定連荘チャレンジ」が決定された（連荘チャレンジに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグをオンにセットする。連荘チャレンジ移行フラグは、連荘チャレンジを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘チャレンジに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｂ）参照）。また、有利区間移行時抽籤の結果として「確定連荘チャレンジ」が決定された場合、メインＣＰＵ１０１は、確定連荘チャレンジフラグをオンにセットする。確定連荘チャレンジフラグは、連荘チャレンジにおいて参照され、連荘チャレンジが有利に制御される。
【１２５５】
ステップＳ４００３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１２５６】
なお、本実施例では、出玉フラググループ１における出玉フラグが「移行役」である場合（移行役成立時）の有利区間移行抽籤は、必ず当籤となるものであるが、非当籤の係数を１以上として、必ずしも当籤しないものとしてもよい。また、非有利区間において移行役の成立を示唆する演出や、除外役の成立を示唆する演出などを発生可能として、有利区

間への移行が行われるかどうかの期待感を高める仕様としてもよいし、連荘チャレンジ又は確定連荘チャレンジなど有利度合いの高い状態への移行期待度が高い当籤役（例えば、図９９（ｂ）に示す「その他」以外の出玉フラグ（弱レア役・斜めスイカ・リーチ目・リーチ目ＢＢ）に対応する当籤役など）の成立を示唆ないし報知する演出を発生可能としてもよい。

【１２５７】

＜連荘準備用遊技開始時処理＞

図１００は、主制御回路において行われる連荘準備用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１０１（ａ）は、連荘準備モード抽籤テーブル（１）を示す図である。図１０１（ｂ）は、連荘準備モード抽籤テーブル（２）を示す図である。図１０２は、連荘チャレンジ移行抽籤テーブルを示す図である。図１０３（ａ）は、連荘チャレンジ移行時確定抽籤テーブルを示す図である。図１０３（ｂ）は、連荘準備転落抽籤テーブルを示す図である。

【１２５８】

図１００に示す連荘準備用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が連荘準備（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１２５９】

連荘準備用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４０２１）。上述したように、連荘準備へは、連荘準備移行フラグ（図９８のステップＳ４００３参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。連荘準備に移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより連荘準備に移行させた後、続けて、図１００に示す連荘準備用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４０２１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において連荘準備に移行した場合（今回の単位遊技が連荘準備の１ゲーム目である場合）に、連荘準備開始時であると判断する。

【１２６０】

連荘準備開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、現在の遊技状態が３ＢＢフラグ間状態（図８１参照）であるか否かを判断する（ステップＳ４０２２）。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の持越役格納領域（図１８参照）を参照することにより、現在の遊技状態が３ＢＢフラグ間状態であることを認識することができる。

【１２６１】

現在の遊技状態が３ＢＢフラグ間状態であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備保障遊技数カウンタに「５」をセットする（ステップＳ４０２３）。連荘準備保障遊技数カウンタの値は、連荘準備に滞在することが保障される単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。連荘準備保障遊技数カウンタの値は、０よりも大きい場合に、連荘準備において単位遊技が１回行われるごとに１減算される。図示しないが、当該減算は、図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる。

【１２６２】

次に、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備モード抽籤処理（１）を実行する（ステップＳ４０２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備モード抽籤テーブル（１）（図１０１（ａ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘準備モード抽籤（１）の結果（連荘準備モード）として、「モード１」及び「モード２」のうちの何れかを決定する。

【１２６３】

図１０１（ａ）に示す連荘準備モード抽籤テーブル（１）においては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、連荘準備モード抽籤（１）の結果（「モード１」及び「モード２」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘準備モード抽籤（１）の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、設定値にかかわらず、連荘準備モード抽籤（１）の結果（連荘準備モード）として、２５６／２５６の確率で「モード２」が決定される。

【１２６４】

ステップＳ４０２２において現在の遊技状態が３ＢＢフラグ間状態ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備保障遊技数カウンタに「０」をセットする（ステップＳ４０２５）。次に、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備モード抽籤処理（２）を実行する（ステップＳ４０２６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備モード抽籤テーブル（２）（図１０１（ｂ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘準備モード抽籤（２）の結果（連荘準備モード）として、「モード１」及び「モード２」のうちの何れかを決定する。

【１２６５】

図１０１（ｂ）に示す連荘準備モード抽籤テーブル（２）においては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、連荘準備モード抽籤（２）の結果（「モード１」及び「モード２」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘準備モード抽籤（２）の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、設定値にかかわらず、連荘準備モード抽籤（２）の結果（連荘準備モード）として、２５６／２５６の確率で「モード１」が決定される。

【１２６６】

ステップＳ４０２１において連荘準備開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４０２４若しくはステップＳ４０２６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行抽籤処理を実行する（ステップＳ４０２７）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行抽籤テーブル（図１０２参照）を参照して、出玉フラググループ３における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ移行抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１２６７】

図１０２に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルは、出玉フラググループ３における出玉フラグ（「その他」、「リプベル」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、及び、「リーチ目ｏｒリーチ目ＢＢ」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ３における出玉フラグが「その他」である場合には、図１０２（ａ）に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リプベル」である場合には、図１０２（ｂ）に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「弱レア役」である場合には、図１０２（ｃ）に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、図１０２（ｄ）に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１０２（ｅ）に示す連荘チャレンジ移行抽籤テーブルが参照される。

【１２６８】

各連荘チャレンジ移行抽籤テーブルにおいては、連荘準備モード（「モード１」及び「モード２」）ごとに、連荘チャレンジ移行抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘チャレンジ移行抽籤の各結果が決定される確率は、「

当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１２６９】

例えば、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リプベル」であり、連荘準備モード抽籤処理（１）（ステップＳ４０２４参照）又は連荘準備モード抽籤処理（２）（ステップＳ４０２６参照）で決定された連荘準備モードが「モード２」である場合には、３２／２５６の確率で連荘チャレンジ移行抽籤に当籤する。また、連荘準備モード抽籤処理（１）（ステップＳ４０２４参照）又は連荘準備モード抽籤処理（２）（ステップＳ４０２６参照）で決定された連荘準備モードが「モード１」である場合には、出玉フラググループ３における出玉フラグにかかわらず、連荘チャレンジ移行抽籤に当籤しない。

【１２７０】

連荘チャレンジ移行抽籤に当籤した（連荘チャレンジに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグをオンにセットする。上述したように、連荘チャレンジ移行フラグは、連荘チャレンジを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘チャレンジに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｄ）参照）。後述するように、連荘チャレンジは、相対的に高い確率で疑似ＢＩＧ乃至昇格チャンスに移行することが可能な出玉状態であり、連荘準備は、このような連荘チャレンジに移行することが可能な出玉状態となっている。

【１２７１】

ステップＳ４０２７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ４０２８）。連荘チャレンジ移行抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行時確定抽籤処理を実行する（ステップＳ４０２９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行時確定抽籤テーブル（図１０３（ａ）参照）を参照して、出玉フラググループ３における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ移行時確定抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１２７２】

図１０３（ａ）に示す連荘チャレンジ移行時確定抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ３における出玉フラグ（「その他」、「リプベル」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、及び、「リーチ目ｏｒリーチ目ＢＢ」）ごとに、連荘チャレンジ移行時確定抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘チャレンジ移行時確定抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１２７３】

例えば、出玉フラググループ３における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、１２８／２５６の確率で連荘チャレンジ移行時確定抽籤に当籤し、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」である場合には、連荘チャレンジ移行時確定抽籤に必ず非当籤となる。連荘チャレンジ移行時確定抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、確定連荘チャレンジフラグをオンにセットする。上述したように、確定連荘チャレンジフラグは、連荘チャレンジにおいて参照され、連荘チャレンジが有利に制御される。なお、連荘チャレンジ当籤回数カウンタ（図１７１参照）の値が所定値（例えば、３）以上である場合には、連荘チャレンジ移行時確定抽籤に必ず当籤させることとしてもよい。

【１２７４】

ステップＳ４０２８において連荘チャレンジ移行抽籤に当籤していないと判断した場合、又は、ステップＳ４０２９の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備保障

遊技数カウンタ（ステップＳ４０２３及びステップＳ４０２５参照）の値が「０」であるか否かを判断する（ステップＳ４０３０）。連荘準備保障遊技数カウンタの値が「０」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備転落抽籤処理を実行する（ステップＳ４０３１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備転落抽籤テーブル（図１０３（ｂ）参照）を参照して、出玉フラググループ４における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘準備転落抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１２７５】

図１０３（ｂ）に示す連荘準備転落抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ４における出玉フラグ（「その他」及び「非転落役」）ごとに、連荘準備転落抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘準備転落抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、出玉フラググループ４における出玉フラグが「その他」である場合には、１９２／２５６の確率で連荘準備転落抽籤に当籤し、出玉フラググループ４における出玉フラグが「非転落役」である場合には、連荘準備転落抽籤に必ず非当籤となる。

【１２７６】

連荘準備転落抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ移行フラグをオンにセットする。通常ステージ移行フラグは、通常ステージを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、通常ステージに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｃ）参照）。

【１２７７】

ステップＳ４０３０において連荘準備保障遊技数カウンタの値が「０」ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４０３１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１２７８】

＜通常ステージ用遊技開始時処理＞

図１０４は、主制御回路において行われる通常ステージ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。

【１２７９】

図１０４に示す通常ステージ用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が通常ステージ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１２８０】

通常ステージ用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４０４１）。上述したように、通常ステージへは、通常ステージ移行フラグ（図１００のステップＳ４０３１参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。通常ステージに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより通常ステージに移行させた後、続けて、図１０４に示す通常ステージ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４０４１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において通常ステージに移行した場合（今回の単位遊技が通常ステージの１ゲーム目である場合）に、通常ステージ開始時であると判断する。

【１２８１】

通常ステージ開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ開始時処理を実行する（ステップＳ４０４２）。通常ステージ開始時処理については、後に図１０５を用いて説明する。

【１２８２】

ステップＳ４０４１において通常ステージ開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４０４２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常出玉状態共通処理を実行する（ステップＳ４０４３）。通常出玉状態共通処理については、後に図１１３を用いて説明する。

【１２８３】

ステップＳ４０４３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ専用処理を実行する（ステップＳ４０４４）。通常ステージ専用処理については、後に図１０８を用いて説明する。

【１２８４】

ステップＳ４０４４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１２８５】

＜通常ステージ開始時処理＞

図１０５は、主制御回路において行われる通常ステージ開始時処理を示すフローチャートである。図１０６（ａ）は、通常移行時モード抽籤テーブルを示す図である。図１０６（ｂ）は、通常移行時天井抽籤テーブルを示す図である。図１０７は、ポイントモード抽籤テーブルを示す図である。

【１２８６】

図１０５に示す通常ステージ開始時処理は、主制御回路１００において図１０４（通常ステージ用遊技開始時処理）のステップＳ４０４２で行われる処理である。

【１２８７】

通常ステージ開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、通常移行時モード抽籤処理を実行する（ステップＳ４０６１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常移行時モード抽籤テーブル（図１０６（ａ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常移行時モード抽籤の結果（通常モード）として、「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」のうちの何れかを決定する。

【１２８８】

図１０６（ａ）に示す通常移行時モード抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、通常移行時モード抽籤の結果（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）に対応する抽籤値が規定されている。通常移行時モード抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１２８９】

例えば、設定値が設定１である場合には、通常移行時モード抽籤の結果（通常モード）として、９８／２５６の確率で「モード１」が決定され、９８／２５６の確率で「モード２」が決定され、２４／２５６の確率で「モード３」が決定され、１２／２５６の確率で「モード４」が決定され、１２／２５６の確率で「モード５」が決定され、１／２５６の確率で「モード６」が決定され、３／２５６の確率で「モード７」が決定され、８／２５６の確率で「モード８」が決定される。

【１２９０】

ステップＳ４０６１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常移行時天井抽籤処理を実行する（ステップＳ４０６２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常移行時天井抽籤テーブル（図１０６（ｂ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行

うことにより、通常移行時天井抽籤の結果（天井ゲーム数）として、「１」、「５１」、「１０１」、「１５１」、「２０１」、「２５１」、「３０１」、「３５１」、「４０１」、「４５１」、「５０１」、「５５１」、「６０１」、「６５１」、「７０１」、「８０１」、及び、「９０１」のうちの何れかを決定する。

【１２９１】

図１０６（ｂ）に示す通常移行時天井抽籤テーブルにおいては、通常モード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）ごとに、通常移行時モード抽籤の結果（「１」、「５１」、「１０１」、「１５１」、「２０１」、「２５１」、「３０１」、「３５１」、「４０１」、「４５１」、「５０１」、「５５１」、「６０１」、「６５１」、「７０１」、「８０１」、及び、「９０１」）に対応する抽籤値が規定されている。通常移行時天井抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１２９２】

例えば、通常移行時モード抽籤処理（ステップＳ４０６１参照）で決定された通常モードが「モード１」である場合には、通常移行時天井抽籤の結果（天井ゲーム数）として、１６／２５６の確率で「２０１」が決定され、１６／２５６の確率で「３０１」が決定され、４８／２５６の確率で「４０１」が決定され、１６／２５６の確率で「５０１」が決定され、４８／２５６の確率で「６０１」が決定され、１６／２５６の確率で「７０１」が決定され、４０／２５６の確率で「８０１」が決定され、５６／２５６の確率で「９０１」が決定される。

【１２９３】

ステップＳ４０６２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤処理を実行する（ステップＳ４０６３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤テーブル（図１０７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、ポイントモード抽籤の結果（ポイントモード）として、「ポイントモード１」、「ポイントモード２」、及び、「ポイントモード３」のうちの何れかを決定する。

【１２９４】

図１０７に示すポイントモード抽籤テーブルは、ポイント到達回数カウンタの値（「０～２」、「３～５」、「６～８」、及び、「９以上」）のそれぞれに対して設けられている。ポイント到達回数カウンタの値は、通常ポイント（図１２１参照）の値が所定値（１００）に到達した回数を示す。ポイント到達回数カウンタの値が「０」～「２」の何れかである場合には、図１０７（ａ）に示すポイントモード抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「３」～「５」の何れかである場合には、図１０７（ｂ）に示すポイントモード抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「６」～「８」の何れかである場合には、図１０７（ｃ）に示すポイントモード抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「９」以上である場合には、図１０７（ｄ）に示すポイントモード抽籤テーブルが参照される。

【１２９５】

各ポイントモード抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、ポイントモード抽籤の結果（「ポイントモード１」、「ポイントモード２」、及び、「ポイントモード３」）に対応する抽籤値が規定されている。ポイントモード抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１２９６】

例えば、ポイント到達回数カウンタの値が「０」～「２」の何れかであり、設定値が設定６である場合には、２５３／２５６の確率で「ポイントモード１」が決定され、２／２５６の確率で「ポイントモード２」が決定され、１／２５６の確率で「ポイントモード３」が決定される。なお、今回のポイントモード抽籤で決定されたポイントモードの値（１

～３の何れか）が既に決定されているポイントモードの値よりも小さな値である場合、今回のポイントモード抽籤で決定されたポイントモードの値は破棄される。

【１２９７】

＜通常ステージ専用処理＞

図１０８は、主制御回路において行われる通常ステージ専用処理を示すフローチャートである。図１０９は、通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルを示す図である。図１１０～図１１２は、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルを示す図である。

【１２９８】

図１０８に示す通常ステージ専用処理は、主制御回路１００において図１０４（通常ステージ用遊技開始時処理）のステップＳ４０４４で行われる処理である。

【１２９９】

通常ステージ専用処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中フリーズ抽籤処理を実行する（ステップＳ４０８１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中フリーズ抽籤テーブル（図１０９参照）を参照して、出玉フラググループ６における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として、「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」のうちの何れかを決定する。

【１３００】

図１０９に示す通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルは、出玉フラググループ６における出玉フラグ（「その他」、「リーチ目」、「リーチ目ＢＢ」、及び、「１枚役」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、図１０９（ａ）に示す通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１０９（ｂ）に示す通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１０９（ｃ）に示す通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、図１０９（ｄ）に示す通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルが参照される。

【１３０１】

各通常ステージ中フリーズ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」）に対応する抽籤値が規定されている。通常ステージ中フリーズ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１３０２】

例えば、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」であり、設定値が設定１である場合には、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として、２５４／２５６の確率で「非当籤」が決定され、２／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定される。また、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、設定値にかかわらず、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として、２５５／２５６の確率で「非当籤」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１３０３】

通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、当該通常ステージ中フリーズ抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、昇格チャンスに移行する。また、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、当該通常ステージ中フリーズ抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステッ

プＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する。

【１３０４】

また、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定された（昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した）場合、当該通常ステージ中フリーズ抽籤が行われた単位遊技が終了するときにフリーズが発生する。第１実施形態で説明したように、フリーズは、遊技の進行を所定期間停止させる（遊技者の遊技操作を所定期間無効にする）演出である。メインＣＰＵ１０１は、当該単位遊技における遊技終了時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ１６参照）で、フリーズの実行を制御する。これにより、当該単位遊技における第３停止操作が行われた後、所定期間に亘って遊技操作が無効となる。その後、次の単位遊技を開始させるためのスタートレバー７操作を契機として、昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに移行することになる。

【１３０５】

なお、当該フリーズの実行中は、フリーズに対応する演出として、画像、音声、ランプなどにより昇格チャンス又は疑似ＢＩＧの当籤を示唆ないし報知する演出が行われる。また、当該フリーズが行われる状況においてはメインリール（リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）にてリーチ目（疑似ボーナス等の当たりを示唆する出目）が停止していることが多いため、リールバックライト（例えば、メイン表示窓４の枠内に停止表示された９個の図柄を１個ずつ個別に照射することができるように、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおけるリール本体の内側に配置されたリール照明用ＬＥＤ）の点灯・点滅・消灯などによる演出を行ってリーチ目に着目させるものとしてもよい。後述するように、本実施形態では、「リーチ目一枚」及び「ＢＢ確定リーチ一枚」（図９２参照）がリーチ目の役割を果たしている。このようなリーチ目は、フリーズが行われる状況において、所定の押し順（例えば、左第１停止）で停止操作が行われた場合に必ず停止させることとしてもよいし、停止操作のタイミングによっては停止されないことがあってもよい。

【１３０６】

また、前兆状態中の一の単位遊技において、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定された（昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆ゲーム数カウンタの値（ステップＳ４０８４参照）をクリアする。これにより、前兆状態は終了する。なお、ステップＳ４０８１の処理が実行される時点で、既に昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤している場合（昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中フリーズ抽籤を行わず、ステップＳ４０８２に処理を移す。

【１３０７】

ステップＳ４０８１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤処理を実行する（ステップＳ４０８２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（図１１０～図１１２参照）を参照して、出玉フラググループ５における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として、「非当籤」、「チャンスステージＡ」、「チャンスステージＢ」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」のうちの何れかを決定する。

【１３０８】

通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルとしては、非高確において参照される通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（図１１０参照）と、高確１乃至高確２において参照される通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（図１１１参照）と、高確３において参照される通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（図１１２参照）と、が設けられている。通常出玉状態においては、非高確、高確１、高確２、及び、高確３のうちの何れかの確率モードに制御される（ステップＳ４０８５参照）。通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤では、図１１０～図１１２の通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルのうち、現在の確率モードに応じた通常

ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルが参照される。

【１３０９】

図１１０～図１１２に示す通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルは、出玉フラググループ５における出玉フラグ（「その他」、「平行スイカ」、「斜めスイカ」、及び、「チェリー」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ５における出玉フラグが「その他」である場合には、図１１０（ａ）、図１１１（ａ）、又は、図１１２（ａ）に示す通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「平行スイカ」である場合には、図１１０（ｂ）、図１１１（ｂ）、又は、図１１２（ｂ）に示す通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、図１１０（ｃ）、図１１１（ｃ）、又は、図１１２（ｃ）に示す通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「チェリー」である場合には、図１１０（ｄ）、図１１１（ｄ）、又は、図１１２（ｄ）に示す通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルが参照される。

【１３１０】

各通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果（「非当籤」、「チャンスステージＡ」、「チャンスステージＢ」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」）に対応する抽籤値が規定されている。通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１３１１】

例えば、現在の確率モードが高確１又は高確２であり、出玉フラググループ５における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、設定値にかかわらず、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として、１／２５６の確率で「チャンスステージＡ」が決定され、２５５／２５６の確率で「チャンスステージＢ」が決定される。また、現在の確率モードが高確３であり、出玉フラググループ５における出玉フラグが「平行スイカ」である場合には、設定値にかかわらず、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として、１２８／２５６の確率で「非当籤」が決定され、１１２／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、１６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１３１２】

非高確、高確１、及び、高確２においては、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」の決定される確率が０であり、「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定され得るのは、高確３のみとなっている。これにより、高確３が最も有利な確率モードとなっている。高確１乃至高確２においては、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「チャンスステージＡ」乃至「チャンスステージＢ」の決定される確率が、非高確よりも高くなっている。これにより、高確１及び高確２は、非高確よりも有利な確率モードとなっている。

【１３１３】

通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「チャンスステージＡ」が決定された（チャンスステージＡに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に１を加算する。チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＡに当籤していることを示す。詳細については後述するが、チャンスステージＡに当籤すると、前兆状態を経由してチャンスステージＡに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｅ）参照）。チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＡに当籤した回数を示す。チャンスステージＡの当籤は、ストックすることができ、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に相当する回数だけ、通常ステージからチャンスステージＡへと移行することが可能となる。通常ステージ

からチャンスステージＡに移行するとき、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１減算される。

【１３１４】

また、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「チャンスステージＢ」が決定された（チャンスステージＢに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値に１を加算する。チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＢに当籤していることを示す。詳細については後述するが、チャンスステージＢに当籤すると、前兆状態を経由してチャンスステージＢに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｇ）参照）。チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＢに当籤した回数を示す。チャンスステージＢの当籤は、ストックすることができ、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値に相当する回数だけ、通常ステージからチャンスステージＢへと移行することが可能となる。通常ステージからチャンスステージＢに移行するとき、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１減算される。

【１３１５】

また、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、昇格チャンスに当籤すると、前兆状態を経由して昇格チャンスに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｉ）参照）。

【１３１６】

また、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、疑似ＢＩＧに当籤すると、前兆状態を経由して疑似ＢＩＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｊ）参照）。なお、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている状態で、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグを破棄する（オフにセットする）。

【１３１７】

ステップＳ４０８２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ポイント関連処理を実行する（ステップＳ４０８３）。ポイント関連処理については、後に図１２１を用いて説明する。

【１３１８】

ステップＳ４０８３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４０８４）。通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理については、後に図１２４を用いて説明する。

【１３１９】

ステップＳ４０８４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、確率モード関連処理を実行する（ステップＳ４０８５）。確率モード関連処理については、後に図１３０を用いて説明する。

【１３２０】

ステップＳ４０８５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１３２１】

なお、詳細については後述するが、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）においては、非高確、高確１、高確２、及び、高確３のうちの何れかの確率モードに制御される。高確１～３は、基本的に通常ステージを前提としたモードとなっている。高確１は、通常出玉状態において行われた単位遊技の回数が所定値（「２５１」、「３５１」、「４５１」、「５５１」、「６５１」、及び、「７５１」

のうちの何れか）に到達したとき（有利区間開始からの規定ハマりゲーム数到達時）に行われる抽籤（図１１４のステップＳ４１２３、並びに、図１１５及び図１１６参照）で移行する高確である。当該抽籤は、通常モード１～８に応じて行われる。

【１３２２】

高確２は、通常ポイント（図１２１のステップＳ４１６３参照）の値が１００ポイントに到達したとき（ポイント到達時）に行われる抽籤（図１２１のステップＳ４１６７、図１２３、図１３０のステップＳ４２６５、及び、図１３１（ｂ）参照）やチェリー当籤時に行われる抽籤（図１３０のステップＳ４２６２及び図１３１（ａ）参照）などで移行する高確である。抽籤状態（確率モード）の有利度合いは、高確１と高確２とで同等となっている。高確３は、高確１中の高確２当籤又は高確２中の高確１当籤で移行する高確（いわゆる超高確）であり、高確１及び高確２よりもさらに有利度合いの高い状態となっている。

【１３２３】

高確１～３は、このような関係性となっている。本遊技機では、いわゆる通常状態（図９３での通常ステージ）から遊技者が当たりと認識する状態（「昇格チャンス」及び「疑似ＢＩＧ」）への主な当籤ルートは、単位遊技の回数が天井ゲーム数（図１０６（ｂ）参照）に到達したとき、リーチ目役などの当籤役（例えば、図１０９に示す「リーチ目」乃至「リーチ目ＢＢ」に対応する当籤役）による抽籤での当籤、通常ポイントの１００ポイント到達毎の抽籤での当籤の３つである。当籤役による抽籤においては、通常ステージよりもチャンスステージＡ乃至チャンスステージＢの方が、「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」に当籤しやすくなっている。

【１３２４】

そのため、通常ステージでは、まず非高確から高確１・２へ移行させ、高確１・２からチャンスステージ（チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢ）に移行させて当たりを目指すというゲーム性となる。つまり、高確１・２はチャンスステージへの移行優遇状態として機能する。上述の通り、高確１はゲーム数消化を条件に移行可能なので、いわゆるレア役（スイカやチェリー）が引けない（当籤しない）場合でも高確移行が期待できるものとなっている。高確２は、ポイント到達時に行われる抽籤やチェリー当籤時に行われる抽籤に基づいて移行するため、当籤役によって移行が期待できるものとなっている。

【１３２５】

また、高確３は、高確１滞在中の高確２当籤、高確２滞在中の高確１当籤という高確状態の重複によって移行する状態であり、図１１２（後述）の通り、チャンスステージへの移行はなく、「昇格チャンス」「疑似ＢＩＧ」の当籤が期待できる状態として機能する。高確３はチャンスステージよりも有利度合いが高いので、チャンスステージへの移行を抑制する仕様とすることにより、高確３の残りゲーム数が存在する状態においては、高確３よりも有利度合いが低い状態への移行によって高確３が終了することがないようになっている。

【１３２６】

なお、高確３のような高確の重複で移行する特殊高確状態を持たずに、複数の高確状態が重なった場合（高確１の残りゲーム数と高確２の残りゲーム数の両方が１以上となった場合）に、例えば、高確１のゲーム数消化後に、高確２のゲーム数を消化させる（高確１の終了後に高確2へと移行させる）仕様としてもよい。また、本実施例では、高確１・２は有利度合いが同等の状態としているが、高確２の方が高確１よりも有利度合いが高いこととしてもよいし、その逆としてもよい。

【１３２７】

演出面では、非高確は主に昼ステージ、高確１・２は主に夕方ステージ、高確３は主に夜ステージなどとして滞在状態を示唆する演出などを行うとよい。また、特定演出（夜ステージへの移行や、赤文字セリフなど）が発生したときは、高確３への滞在が確定するなど、滞在している状態を確定的に報知する演出を実行可能としてもよい。また、高確１・２の両方で発生する演出や、高確１では発生するが高確２で発生しない演出などを設けて

、高確移行の契機を推測可能なゲーム性としてもよい。

【１３２８】

＜通常出玉状態共通処理＞

図１１３は、主制御回路において行われる通常出玉状態共通処理を示すフローチャートである。

【１３２９】

図１１３に示す通常出玉状態共通処理は、主制御回路１００において図１０４（通常ステージ用遊技開始時処理）のステップＳ４０４３で行われる処理である。

【１３３０】

通常出玉状態共通処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役決定処理（図２６のステップＳ６４参照）により「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」（図９０及び図９１参照）が内部当籤役として決定されたか否かを判断する（ステップＳ４１０１）。

【１３３１】

「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」が内部当籤役として決定されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常中ロングフリーズ抽籤処理を実行する（ステップＳ４１０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常中ロングフリーズ抽籤テーブル（図示せず）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常中ロングフリーズ抽籤（１）の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定し、通常中ロングフリーズ抽籤（１）の結果が「当籤」である場合に、通常中ロングフリーズ抽籤（２）の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。これにより、通常中ロングフリーズ抽籤（１）には１／２５６の確率で当籤し、通常中ロングフリーズ抽籤（２）には６４／２５６の確率で当籤する。

【１３３２】

通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合には、ロングフリーズが発生する。ロングフリーズは、フリーズの一態様であり、上述したフリーズ（図１０８のステップＳ４０８１参照）と比較して、遊技操作が無効にされる期間が長くなっている。通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、当該通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）が行われた単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、ロングフリーズの実行を制御する。

【１３３３】

また、通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、当該通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、疑似遊技の実行を制御する。また、メインＣＰＵ１０１は、当該通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、ロングフリーズが発生した単位遊技が消化され、次の単位遊技を開始させるためのスタートレバー７操作を契機として、疑似遊技が行われ、疑似ＢＩＧに移行する。

【１３３４】

また、通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。第１実施形態で説明したように、有利区間においてリミット処理（図１６参照）が実行された場合（すなわち、有利区間中の遊技の進行にともなって更新される所定値（例えば、有利区間ゲーム数カウンタや有利区間払出数カウンタの値）が規定値（例えば、３０００ゲームや１９９９枚）となった場合）に、有利区間から非有利区

間へと移行する。このとき、疑似ＢＩＧも終了することになる。なお、このようなリミット処理は行われないこととしてもよい。

【１３３５】

なお、通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値、昇格チャンス当籤フラグ、疑似ＢＩＧ当籤フラグ、及び、前兆ゲーム数カウンタの値（図１０８のステップＳ４０８２及びステップＳ４０８４参照）を全てクリアする。

【１３３６】

ステップＳ４１０１において「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」が内部当籤役として決定されていないと判断した場合、又は、ステップＳ４１０２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数カウンタ更新処理を実行する（ステップＳ４１０３）。通常規定遊技数カウンタ更新処理については、後に図１１４を用いて説明する。

【１３３７】

ステップＳ４１０３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、天井関連処理を実行する（ステップＳ４１０４）。天井関連処理については、後に図１１８を用いて説明する。

【１３３８】

ステップＳ４１０４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス前処理を実行する（ステップＳ４１０５）。昇格チャンス前処理については、後に図１３２を用いて説明する。

【１３３９】

ステップＳ４１０５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１３４０】

＜通常規定遊技数カウンタ更新処理＞

図１１４は、主制御回路において行われる通常規定遊技数カウンタ更新処理を示すフローチャートである。図１１５及び図１１６は、通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルを示す図である。図１１７は、天井フェイク準備中抽籤テーブルを示す図である。

【１３４１】

図１１４に示す通常規定遊技数カウンタ更新処理は、主制御回路１００において図１１３（通常出玉状態共通処理）のステップＳ４１０３で行われる処理である。

【１３４２】

通常規定遊技数カウンタ更新処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数カウンタの値に１加算する（ステップＳ４１２１）。通常規定遊技数カウンタの値は、通常出玉状態において行われた単位遊技の回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。通常規定遊技数カウンタの値は、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）においてのみ加算され、通常出玉状態以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１３４３】

次に、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数カウンタの値が所定値（「２５１」、「３５１」、「４５１」、「５５１」、「６５１」、及び、「７５１」のうちの何れか）であるか否かを判断する（ステップＳ４１２２）。

【１３４４】

通常規定遊技数カウンタの値が「２５１」、「３５１」、「４５１」、「５５１」、「６５１」、及び、「７５１」のうちの何れかであると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数高確１移行抽籤処理を実行する（ステップＳ４１２３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブル（図１１５及び図１１６参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常規定遊技数高確１移行抽籤の結果として、「非当籤」及び「高確１」のうちの何れかを決定する。

【１３４５】
図１１５及び図１１６に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルは、通常移行時モード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６１参照）で決定された通常モード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）のそれぞれに対して設けられている。通常モードが「モード１」である場合には、図１１５（ａ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード２」である場合には、図１１５（ｂ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード３」である場合には、図１１５（ｃ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード４」である場合には、図１１５（ｄ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード５」である場合には、図１１６（ｅ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード６」である場合には、図１１６（ｆ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード７」である場合には、図１１６（ｇ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード８」である場合には、図１１６（ｈ）に示す通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルが参照される。

【１３４６】
各通常規定遊技数高確１移行抽籤テーブルにおいては、通常規定遊技数カウンタの値（「２５１」、「３５１」、「４５１」、「５５１」、「６５１」、及び、「７５１」）ごとに、通常規定遊技数高確１移行抽籤の結果（「非当籤」及び「高確１」）に対応する抽籤値が規定されている。通常規定遊技数高確１移行抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、通常モードが「モード１」であり、通常規定遊技数カウンタの値が「２５１」である場合には、通常規定遊技数高確１移行抽籤の結果として、２４０／２５６の確率で「非当籤」が決定され、１６／２５６の確率で「高確１」が決定される。

【１３４７】
通常規定遊技数高確１移行抽籤の結果として「高確１」が決定された（高確１に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、上述した確率モード（図１０８のステップＳ４０８２参照）として高確１をセットするとともに、高確１遊技数カウンタに「５０」をセットする。高確１遊技数カウンタの値は、高確１に滞在可能な単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。高確１遊技数カウンタの値は、０よりも大きい場合に、単位遊技が１回行われるごとに１減算される。高確１遊技数カウンタの値が０になると、高確１から非高確へと移行する。図示しないが、当該減算は、図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる。

【１３４８】
なお、確率モードとして高確２がセットされている状態（図１０８のステップＳ４０８５参照）で、通常規定遊技数高確１移行抽籤の結果として「高確１」が決定された（高確１に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確３をセットするとともに、高確３遊技数カウンタに「２０」をセットし、高確１遊技数カウンタの値及び後述する高確２保障遊技数カウンタの値をクリアする。高確３遊技数カウンタの値は、高確３に滞在可能な単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。高確３遊技数カウンタの値は、０よりも大きい場合に、単位遊技が１回行われるごとに１減算される。高確３遊技数カウンタの値が０になると、高確３から高確２へと移行する。図示しないが、当該減算は、図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる。

【１３４９】
ステップＳ４１２３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。なお、ステップＳ４１２３の処理が実行される時点で、確率モードとして高確３がセットされている場合、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数高確１移行抽籤を行わ

ず、本サブルーチンを終了する。

【１３５０】

ステップＳ４１２２において通常規定遊技数カウンタの値が「２５１」、「３５１」、「４５１」、「５５１」、「６５１」、及び、「７５１」のうちの何れでもないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数カウンタの値が天井ゲーム数（通常移行時天井抽籤（図１０５のステップＳ４０６２参照）で決定された値）であるか否かを判断する（ステップＳ４１２４）。

【１３５１】

通常規定遊技数カウンタの値が天井ゲーム数であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中をセットする（ステップＳ４１２５）。天井準備中は、通常出玉状態において制御される状態であり、前兆状態（チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧの何れかに移行することを示唆する前兆演出が行われる状態）に移行するための準備期間となっている。ステップＳ４１２５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１３５２】

なお、ステップＳ４１２５の処理が実行される時点で、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤している場合（昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中をセットせずに、本サブルーチンを終了する。また、天井準備中がセットされている状態で、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中をクリアする。

【１３５３】

ステップＳ４１２４において通常規定遊技数カウンタの値が天井ゲーム数ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常規定遊技数カウンタの値が特定値（「５１」、「１５１」、「２０１」、「３０１」、「４０１」、「５０１」、「６０１」、「７０１」、及び、「８０１」のうちの何れか）であるか否かを判断する（ステップＳ４１２６）。

【１３５４】

通常規定遊技数カウンタの値が「５１」、「１５１」、「２０１」、「３０１」、「４０１」、「５０１」、「６０１」、「７０１」、及び、「８０１」のうちの何れかであると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中抽籤処理を実行する（ステップＳ４１２７）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中抽籤テーブル（図１１７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、天井フェイク準備中抽籤の結果として、「非当籤」及び「天井フェイク準備中」のうちの何れかを決定する。

【１３５５】

図１１７に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルは、通常移行時モード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６１参照）で決定された通常モード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）のそれぞれに対して設けられている。通常モードが「モード１」である場合には、図１１７（ａ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード２」である場合には、図１１７（ｂ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード３」である場合には、図１１７（ｃ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード４」である場合には、図１１７（ｄ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード５」である場合には、図１１７（ｅ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード６」である場合には、図１１７（ｆ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード７」である場合には、図１１７（ｇ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード８」である場合には、図１１７（ｈ）に示す天井フェイク準備中抽籤テーブルが参照される。

【１３５６】

各天井フェイク準備中抽籤テーブルにおいては、通常規定遊技数カウンタの値（「５１」、「１５１」、「２０１」、「３０１」、「４０１」、「５０１」、「６０１」、「７０１」、及び、「８０１」）ごとに、天井フェイク準備中抽籤の結果（「非当籤」及び「天井フェイク準備中」）に対応する抽籤値が規定されている。天井フェイク準備中抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、通常モードが「モード１」であり、通常規定遊技数カウンタの値が「５１」である場合には、天井フェイク準備中抽籤の結果として、１９２／２５６の確率で「非当籤」が決定され、６４／２５６の確率で「天井フェイク準備中」が決定される。

【１３５７】

天井フェイク準備中抽籤の結果として「天井フェイク準備中」が決定された（天井フェイク準備中に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中をセットする。天井フェイク準備中は、通常出玉状態において制御される状態であり、ガセ前兆状態（チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧの何れにも当籤していないにもかかわらず前兆演出が行われる状態）に移行するための準備期間となっている。

【１３５８】

ステップＳ４１２６において通常規定遊技数カウンタの値が「５１」、「１５１」、「２０１」、「３０１」、「４０１」、「５０１」、「６０１」、「７０１」、及び、「８０１」のうちの何れでもないと判断した場合、又は、ステップＳ４１２７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１３５９】

なお、ステップＳ４１２７の処理が実行される時点で、確率モードとして高確３がセットされている場合、乃至、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤している場合（昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中抽籤を行わず、本サブルーチンを終了する。また、天井フェイク準備中がセットされている状態で、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中をクリアする。また、通常規定遊技数カウンタの値が「５１」、「１５１」、「２０１」、「３０１」、「４０１」、「５０１」、「６０１」、「７０１」、及び、「８０１」のうちの何れかである場合であっても、当該値が天井ゲーム数である場合には、ステップＳ４１２４の判断結果が「ＹＥＳ」となるため、天井フェイク準備中抽籤は行われないことになる。

【１３６０】

なお、本実施形態では、滞在している通常モード（モード１～８）に応じて、ガセ前兆が発生する契機となるゲーム数（発生ゲーム数）の割合に差異を持たせている（天井フェイク準備中抽籤に当籤しやすい通常規定遊技数カウンタの値が、通常モードごとに異なっている）。これにより、発生した前兆が結果として特典（チャンスステージ、昇格チャンス、疑似ＢＩＧへの移行）につながらないガセ前兆で終わったとしても、単にハズレであったと遊技者を落胆させるだけにはならず、ガセ前兆の発生ゲーム数に滞在中のモードを推測する手がかりとしての役割を担わせることができる。そのため、モード推測の楽しみや、モードからさらに設定値を推測する楽しみを遊技者に与えることができる。

【１３６１】

＜天井関連処理＞

図１１８は、主制御回路において行われる天井関連処理を示すフローチャートである。図１１９及び図１２０は、天井到達時当籤種別抽籤テーブルを示す図である。

【１３６２】

図１１８に示す天井関連処理は、主制御回路１００において図１１３（通常出玉状態共通処理）のステップＳ４１０４で行われる処理である。

【１３６３】

天井関連処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中（図１１４のステッ

プＳ４１２５参照）がセットされているか否かを判断する（ステップＳ４１４１）。

【１３６４】

天井準備中がセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中フラグセット抽籤処理を実行する（ステップＳ４１４２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中フラグセット抽籤テーブル（図示せず）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、天井準備中フラグセット抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。これにより、１６／２５６の確率で天井準備中フラグセット抽籤に当籤する。

【１３６５】

なお、天井準備中遊技数カウンタの値が所定値（１７）を超えている場合、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中フラグセット抽籤の結果として必ず「当籤」を決定する。天井準備中遊技数カウンタの値は、天井準備中がセットされてから行われた単位遊技の回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。また、ステップＳ４１４２の処理が実行される時点で、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤している場合（昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中フラグセット抽籤を行わず、ステップＳ４１４３に処理を移す。

【１３６６】

ステップＳ４１４２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中フラグセット抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ４１４３）。天井準備中フラグセット抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井到達時当籤種別抽籤処理を実行する（ステップＳ４１４４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、天井到達時当籤種別抽籤テーブル（図１１９及び図１２０参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、天井到達時当籤種別抽籤の結果として、「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」のうちの何れかを決定する。

【１３６７】

図１１９及び図１２０に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルは、通常移行時モード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６１参照）で決定された通常モード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）のそれぞれに対して設けられている。通常モードが「モード１」である場合には、図１１９（ａ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード２」である場合には、図１１９（ｂ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード３」である場合には、図１１９（ｃ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード４」である場合には、図１１９（ｄ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード５」である場合には、図１２０（ｅ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード６」である場合には、図１２０（ｆ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード７」である場合には、図１２０（ｇ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード８」である場合には、図１２０（ｈ）に示す天井到達時当籤種別抽籤テーブルが参照される。

【１３６８】

各天井到達時当籤種別抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、天井到達時当籤種別抽籤の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」）に対応する抽籤値が規定されている。天井到達時当籤種別抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、通常モードが「モード１」であり、設定値が設定１である場合には、天井到達時当籤種別抽籤の結果として、２５５／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１３６９】

天井到達時当籤種別抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに

当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、昇格チャンスに当籤すると、前兆状態を経由して昇格チャンスに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、天井到達時当籤種別抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、天井到達時昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。天井到達時昇格チャンス当籤フラグは、天井到達時当籤種別抽籤により昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。

【１３７０】

また、天井到達時当籤種別抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、疑似ＢＩＧに当籤すると、前兆状態を経由して疑似ＢＩＧに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、天井到達時当籤種別抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグは、天井到達時当籤種別抽籤により疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。

【１３７１】

ステップＳ４１４３において天井準備中フラグセット抽籤に当籤していないと判断した場合、又は、ステップＳ４１４４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。なお、ステップＳ４１４４の処理を実行した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井準備中をクリアする。

【１３７２】

ステップＳ４１４１において天井準備中がセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中（図１１４のステップＳ４１２７参照）がセットされているか否かを判断する（ステップＳ４１４５）。

【１３７３】

天井フェイク準備中がセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中フラグセット抽籤処理を実行する（ステップＳ４１４６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中フラグセット抽籤テーブル（図示せず）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、天井フェイク準備中フラグセット抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。これにより、２０／２５６の確率で天井フェイク準備中フラグセット抽籤に当籤する。なお、天井フェイク準備中遊技数カウンタの値が所定値（１７）を超えている場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中フラグセット抽籤の結果として必ず「当籤」を決定する。天井フェイク準備中遊技数カウンタの値は、天井フェイク準備中がセットされてから行われた単位遊技の回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。

【１３７４】

天井フェイク準備中フラグセット抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク当籤フラグをオンにセットする。天井フェイク当籤フラグは、天井フェイクに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、天井フェイクに当籤すると、前兆状態に移行する。もっとも、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧのうちの何れかに当籤しない限り、前兆状態が終了しても、これらの出玉状態に移行することはない。すなわち、当該前兆状態は、ガセ前兆演出が行われる状態（ガセ前兆状態）である。また、天井フェイク準備中フラグセット抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中をクリアする。

【１３７５】

ステップＳ４１４５において天井フェイク準備中がセットされていないと判断した場合、又は、ステップＳ４１４６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチ

ンを終了する。なお、ステップＳ４１４６の処理が実行される時点で、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤している場合（昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク準備中フラグセット抽籤を行わず、本サブルーチンを終了する。

【１３７６】

＜ポイント関連処理＞

図１２１は、主制御回路において行われるポイント関連処理を示すフローチャートである。図１２２は、ポイント獲得抽籤テーブルを示す図である。図１２３は、ポイント到達時抽籤テーブルを示す図である。

【１３７７】

図１２１に示すポイント関連処理は、主制御回路１００において図１０８（通常ステージ専用処理）のステップＳ４０８３で行われる処理である。

【１３７８】

ポイント関連処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役決定処理（図２６のステップＳ６４参照）により「Ｆ＿チェリー」（図９０及び図９１参照）が内部当籤役として決定されたか否かを判断する（ステップＳ４１６１）。「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チェリーカウンタの値に１加算する（ステップＳ４１６２）。チェリーカウンタの値は、「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定された回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。チェリーカウンタの値は、通常ステージにおいてのみ加算され、上限値は４となっている。

【１３７９】

ステップＳ４１６１において「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定されていないと判断した場合、又は、ステップＳ４１６２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ポイント獲得抽籤処理を実行する（ステップＳ４１６３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ポイント獲得抽籤テーブル（図１２２参照）を参照して、出玉フラググループ３における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、ポイント獲得抽籤の結果として、「非当籤」、「５」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、「５０」、及び、「１００」のうちの何れかを決定する。

【１３８０】

図１２２に示すポイント獲得抽籤テーブルは、出玉フラググループ３における出玉フラグ（「その他」、「リプベル」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、及び、「リーチ目ｏｒリーチ目ＢＢ」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ３における出玉フラグが「その他」である場合には、図１２２（ａ）に示すポイント獲得抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リプベル」である場合には、図１２２（ｂ）に示すポイント獲得抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「弱レア役」である場合には、図１２２（ｃ）に示すポイント獲得抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、図１２２（ｄ）に示すポイント獲得抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１２２（ｅ）に示すポイント獲得抽籤テーブルが参照される。

【１３８１】

各ポイント獲得抽籤テーブルにおいては、チェリーカウンタの値（「０」、「１」、「２」、「３」、及び、「４」）ごとに、ポイント獲得抽籤の結果（「非当籤」、「５」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、「５０」、及び、「１００」）に対応する抽籤値が規定されている。ポイント獲得抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、出玉フラググループ３における出玉フラグが「リプベル」であり、チェリーカウンタの値が「４」である場合には、ポイント獲得抽籤の結果として、１９２／２５６の確率で「３０」が決定され、３２／２５６の確率で「５０」が決定され、３２／２５６の確率で「１００」が決定される。

【１３８２】
ポイント獲得抽籤の結果として「０」よりも大きな値が決定された（ポイント獲得抽籤に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、当該値を通常ポイントの値に加算する。通常ポイントの値は、ポイント到達時抽籤（ステップＳ４１６５参照）において使用されるものであり、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。サブ演出表示部２２（図１参照）には、通常ポイントの値に対応する画像（例えば、メーター等）が表示されており、通常ポイントがどの程度溜まっているのかを遊技者が視認可能となっている。当該メーターが満タンになったとき、ポイント到達時抽籤が行われることになる。
【１３８３】
なお、通常ポイントの値が加算される際（ポイント獲得時）には、ポイント獲得を示す演出を行っても良い。本実施例では、図１２２（ｂ）に示す「リプベル」に対応する内部当籤役（リプレイ乃至共通ベル）に応じて通常ポイントが加算されるため、例えば、全リール停止後にリプレイ乃至共通ベルが入賞した状態でリプレイ乃至共通ベルの入賞後エフェクト（画面又はリールバックライトなどから通常ポイントの値に対応する画像（メーター等）へ向けて光が流れるような演出）を行って、リプレイ乃至共通ベルの当籤によってメーターの値が増えるというゲーム性を遊技者に分かりやすいものとしてもよい。また、スタートレバー操作後から全リール停止より前のタイミングでポイントの獲得を示唆する演出やポイント獲得確定演出を発生可能としてもよい。このような構成とすることで、特にあと少しで１００ポイントに到達するという局面での興趣が高まる。
【１３８４】
また、加算後の通常ポイントの値が１００以上である場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達フラグをオンにセットする。ポイント到達フラグは、通常ポイントの値が１００に到達したことを示すフラグである。一の単位遊技においてポイント到達フラグがオンにセットされた場合、当該単位遊技の次の単位遊技におけるポイント関連処理が開始するとき、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達フラグをオフにセットし、ポイント到達時抽籤フラグをオンにセットする。ポイント到達時抽籤フラグは、ポイント到達時抽籤が行われることを示すフラグである。
【１３８５】
ステップＳ４１６３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、前回の単位遊技で通常ポイントの値が１００に到達したか否かを判断する（ステップＳ４１６４）。メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時抽籤フラグを参照することにより、前回の単位遊技で通常ポイントの値が１００に到達したことを認識することができる。
【１３８６】
前回の単位遊技で通常ポイントの値が１００に到達したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達回数カウンタの値に１加算する（ステップＳ４１６５）。上述したように、ポイント到達回数カウンタの値は、通常ポイントの値が１００に到達した回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。ポイント到達回数カウンタの値は、通常ステージにおいてのみ加算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。
【１３８７】
そして、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤処理を実行する（ステップＳ４１６６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤テーブル（図１０７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、ポイントモード抽籤の結果（ポイントモード）として、「ポイントモード１」、「ポイントモード２」、及び、「ポイントモード３」のうちの何れかを決定する。この処理は、図１０５のステップＳ４０６３の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。
【１３８８】
次に、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時抽籤処理を実行する（ステップＳ４１６７）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時抽籤テーブル（図１２３参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、ポイント到達時抽籤の結果

として、「高確２」、「チャンスステージＡ」、「チャンスステージＢ」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」のうちの何れかを決定する。

【１３８９】

図１２３に示すポイント到達時抽籤テーブルは、『ポイント到達回数カウンタ「０」』、『ポイント到達回数カウンタ「１、３、５、７」』、『ポイント到達回数カウンタ「２、４、６、８」』、並びに、『ポイント到達回数カウンタ「９以上」ｏｒ「ポイントモード３」』のそれぞれに対して設けられている。ポイント到達回数カウンタの値が「０」である場合には、図１２３（ａ）に示すポイント到達時抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「１」、「３」、「５」、及び、「７」のうちの何れか（奇数）である場合には、図１２３（ｂ）に示すポイント到達時抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「２」、「４」、「６」、及び、「８」のうちの何れか（偶数）である場合には、図１２３（ｃ）に示すポイント到達時抽籤テーブルが参照され、ポイント到達回数カウンタの値が「９」以上である場合、又は、ポイントモード（ステップＳ４１６６参照）が「ポイントモード３」である場合には、図１２３（ｄ）に示すポイント到達時抽籤テーブルが参照される。

【１３９０】

各ポイント到達時抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、ポイント到達時抽籤の結果（「高確２」、「チャンスステージＡ」、「チャンスステージＢ」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」）に対応する抽籤値が規定されている。ポイント到達時抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１３９１】

例えば、ポイント到達回数カウンタの値が「１」、「３」、「５」、及び、「７」のうちの何れか（奇数）であり、設定値が設定６である場合には、ポイント到達時抽籤の結果として、１７０／２５６の確率で「高確２」が決定され、７６／２５６の確率で「チャンスステージＡ」が決定され、２／２５６の確率で「チャンスステージＢ」が決定され、８／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定される。また、ポイント到達回数カウンタの値が「９」以上である場合、又は、ポイントモードが「ポイントモード３」である場合には、設定値にかかわらず、２５６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１３９２】

ポイント到達時抽籤の結果として「高確２」が決定された場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時高確２当籤フラグをオンにセットする。ポイント到達時高確２当籤フラグは、ポイント到達時抽籤の結果として「高確２」が決定されたことを示すフラグである。詳細については後述するが、ポイント到達時高確２当籤フラグがオンにセットされている場合には、非高確乃至高確１から高確２乃至高確３へと確率モードが移行する可能性がある（図１０８のステップＳ４０８５参照）。

【１３９３】

また、ポイント到達時抽籤の結果として「チャンスステージＡ」が決定された（チャンスステージＡに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に１を加算する。上述したように、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＡに当籤していることを示す。詳細については後述するが、チャンスステージＡに当籤すると、前兆状態を経由してチャンスステージＡに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、ポイント到達時抽籤の結果として「チャンスステージＡ」が決定された（チャンスステージＡに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に１を加算する。ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、ポイント到達時抽籤によりチャンスステージＡに当籤していることを示す。

【１３９４】

また、ポイント到達時抽籤の結果として「チャンスステージＢ」が決定された（チャン

スステージＢに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値に１を加算する。上述したように、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＢに当籤していることを示す。詳細については後述するが、チャンスステージＢに当籤すると、前兆状態を経由してチャンスステージＢに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、ポイント到達時抽籤の結果として「チャンスステージＢ」が決定された（チャンスステージＢに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値に１を加算する。ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、ポイント到達時抽籤によりチャンスステージＢに当籤していることを示す。

【１３９５】

また、ポイント到達時抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、昇格チャンスに当籤すると、前兆状態を経由して昇格チャンスに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、ポイント到達時抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。ポイント到達時昇格チャンス当籤フラグは、ポイント到達時抽籤により昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。

【１３９６】

また、ポイント到達時抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、疑似ＢＩＧに当籤すると、前兆状態を経由して疑似ＢＩＧに移行する（図１０８のステップＳ４０８４参照）。また、ポイント到達時抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグは、ポイント到達時抽籤により疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。

【１３９７】

以上より、ポイント到達回数カウンタの値が「９」以上である場合、又は、ポイントモードとしてポイントモード３がセットされている場合において、ポイント到達時抽籤が行われた場合には、疑似ＢＩＧに移行することが確定する。上述した通常ポイントの値に対応する画像（例えば、メーター等）には、現在のポイントモードに応じた色が付されている。これにより、例えば、ポイントモードとしてポイントモード３がセットされている場合には、当該メーターの色が所定色（例えば、金色）となる。なお、ステップＳ４１６７の処理を実行したとき、メインＣＰＵ１０１は、通常ポイントの値から１００を減算する。

【１３９８】

ステップＳ４１６４において前回の単位遊技で通常ポイントの値が１００に到達していないと判断した場合、又は、ステップＳ４１６７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１３９９】

なお、ステップＳ４１６４において前回の単位遊技で通常ポイントの値が１００に到達したと判断した場合であっても、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、又は、疑似ＢＩＧに当籤している場合（チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値若しくはチャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上である場合、又は、昇格チャンス当籤フラグ若しくは疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合）、確率モードとして高確３がセットされている場合、乃至、前兆状態中である場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４１６５～ステップＳ４１６７の処理を実行せずに、本サブルーチンを終了する。もっとも、これらの場合であっても、ポイントモードとしてポイントモード

３がセットされている場合には、ステップＳ４１６５～ステップＳ４１６７の処理を実行することとしてもよい。

【１４００】

ここで、前兆状態にはガセ前兆状態も含まれているところ、ガセ前兆状態中である場合においても、ステップＳ４１６５～ステップＳ４１６７の処理（ポイント到達時抽籤）は実行されない。上述したように、ポイント到達時抽籤が行われた場合には通常ポイントの値から１００が減算されるところ、サブ演出表示部２２に表示されている上記メーターを見ることで、遊技者は、ポイント到達時抽籤が行われたことを認識することができる。仮に、本前兆状態中にはポイント到達時抽籤を行わない一方、ガセ前兆状態中にはポイント到達時抽籤を行うこととすれば、当該メーターを通じて、現在行われている前兆演出がガセ前兆演出であることが遊技者に見抜かれてしまう可能性がある。この点、本実施形態では、本前兆状態と同様に、ガセ前兆状態も主制御回路１００で管理しているため（図１１８のステップＳ４１４６参照）、ガセ前兆状態中においてポイント到達時抽籤を行わないように構成することが可能であり、これにより、本前兆演出とガセ前兆演出との区別を行うことを困難にし、前兆演出に対する遊技者の期待感を確保することができる。

【１４０１】

なお、通常ポイントの値が規定値（１００ポイント）に到達した場合（１００ポイント到達時）には、１００ポイント到達を示す到達演出を行っても良い。ここで、単にポイントによる抽籤（ポイント到達時抽籤）を受けられる旨を示すだけの演出でも良いが、滞在中のポイントモードや設定値、ポイント到達回数カウンタの値などを参照して、特典の当籤期待度や当たりやすい特典の種別を示唆するような演出を行うものとしてもよい。例えば、１００ポイント到達時にメーターが点滅するパターンをデフォルト演出とし、メーターに雷が落ちるエフェクトが発生すれば特典（例えば、昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧ）の当籤期待度が高いなどとしても良い。また、通常ポイントの値に対応するメーター等の画像と関連のない画像などを表示する演出としてもよい。例えば、画面に登場するミニキャラの種別で期待度などを示唆するものとしてもよい。

【１４０２】

また、本実施形態では、１００ポイント到達の次の単位遊技でポイント到達時抽籤処理が実行されるため、以上のような特典の当籤期待度や当たりやすい特典の種別を示唆する演出などを、上述したリプレイ乃至共通ベルの入賞後エフェクトが発生した単位遊技の次の単位遊技中に発生させるように構成することが可能である。例えば、ポイント到達時抽籤が行われてから当該抽籤の結果の報知が行われるよりも前に（例えば、ポイント到達時抽籤が行われた単位遊技におけるスタートレバー操作後全リール停止前）に当該ポイント到達時抽籤の結果に応じて当該演出を行うこととしてもよい。この場合、ポイント到達時抽籤の結果は、当該抽籤が行われた単位遊技における全リール停止時に報知されることとしてもよい。

【１４０３】

また、前兆状態中のポイント関連処理については、以下のような構成を採用することが可能である。例えば、前兆状態中はガセ前兆・本前兆のいずれである場合においてもメーターを非表示として、前兆演出に遊技者が集中できるようにしてもよい（仕様例１）。また、ガセ前兆中に通常ポイントの値が１００ポイントに到達し、ポイント到達時抽籤が行われた場合であっても結果は即座に報知せず、前兆終了後に、ポイント到達を示す演出やポイント到達時抽籤が行われた旨を示す演出を行ったり、抽籤結果の報知を行ったりするものとしてもよい（仕様例２）。また、仕様例１と仕様例２とを組み合わせてもよい。

【１４０４】

ここで、非前兆状態においてポイント到達時抽籤が行われた場合、当該ポイント到達時抽籤の結果は、当該ポイント到達時抽籤が行われた単位遊技における全リール停止時に報知するように構成することが可能である。仕様例２は、前兆状態においてポイント到達時抽籤が行われた場合に、前兆終了後に当該結果を報知するのを原則としつつ、抽籤結果が昇格チャンスや疑似ＢＩＧの当籤である場合には、前兆中に当該結果を報知するものであ

ることが望ましい。この場合は、ガセ前兆中の演出状態に対応する当り報知演出を出すものとして違和感なく演出を行うとよい。なお、上述したように、ガセ前兆が発生した場合には、設定値を推測することが可能であるところ、ガセ前兆中にポイント到達時抽籤により昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤したことを報知する場合、当該前兆がガセであったのか否かが不明であるものとした方が、設定推測の難易度を高めることができる。

【１４０５】

また、ガセ前兆中に通常ポイントの値が１００ポイントに到達した場合は、ポイント到達時抽籤の実行を当該ガセ前兆の終了時、あるいは、ガセ前兆終了から１～３ゲーム後などまで先送りしてもよい（仕様例３）。この場合は、ポイント到達を示す演出やポイント到達時抽籤が行われた旨を示す演出、抽籤結果の報知等も合わせて先送りされる。このようにすることで、昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤して移行する状況において、当該当籤を契機として前兆に移行したのか、あるいは、前兆中に行われたポイント到達時抽籤により昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤したのかが、遊技者にとって分かりやすい仕様となる。

【１４０６】

＜通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理＞

図１２４は、主制御回路において行われる通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。図１２５は、主制御回路において行われる通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。図１２６は、主制御回路において行われる通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。図１２７（ａ）は、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１２７（ｂ）は、通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１２７（ｃ）は、通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１２８（ｄ）は、通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１２８（ｅ）は、通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１２８（ｆ）は、通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。

【１４０７】

図１２４に示す通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理は、主制御回路１００において図１０８（通常ステージ専用処理）のステップＳ４０８４で行われる処理である。

【１４０８】

通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４１８１）。前兆遊技数カウンタの値は、前兆状態に制御される単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。通常ステージ中の前兆状態においては、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧのうちの何れかに移行することを示唆する前兆演出が行われる。前兆遊技数カウンタの値が０ではない（１以上である）ことは、前兆状態中であることを示している。

【１４０９】

前兆遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４１８２）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１０８のステップＳ４０８２、図１１８のステップＳ４１４４、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４１０】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０

１は、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４１８３）。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１０８のステップＳ４０８２、図１１８のステップＳ４１４４、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４１１】

ステップＳ４１８２において疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、又は、ステップＳ４１８３において昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４１８４）。ここで、図１２５を用いて、通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理について説明する。

【１４１２】

通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ又はポイント到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４２０１）。上述したように、ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグは、ポイント到達時抽籤により疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグであり、ポイント到達時昇格チャンス当籤フラグは、ポイント到達時抽籤により昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４１３】

ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ又はポイント到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４２０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２７（ａ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４１４】

図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルにおいては、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の結果（「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」）に対応する抽籤値が規定されている。通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１４１５】

これにより、通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、６４／２５６の確率で「０」が決定され、３２／２５６の確率で「１～４」が決定され、１２８／２５６の確率で「５～８」が決定され、１６／２５６の確率で「９～１２」が決定され、１６／２５６の確率で「１３～１６」が決定される。決定された前兆遊技数候補には、複数の数値が含まれる場合がある。この場合、メインＣＰＵ１０１は、さらに乱数値に基づく抽籤を行うことにより、当該複数の数値のうちの一の数値を決定する。メインＣＰＵ１０１は、このようにして決定された一の数値を前兆遊技数として決定する。なお、ポイントモードとしてポイントモード３がセットされている場合には、前兆遊技数として「０」を決定することとしてもよい。

【１４１６】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２０２で決定された前兆遊技数に１を加

えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４２０３）、本サブルーチンを終了する。

【１４１７】

ステップＳ４２０１においてポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ及びポイント到達時昇格チャンス当籤フラグが何れもオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ又は天井到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４２０４）。上述したように、天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグは、天井到達時当籤種別抽籤により疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグであり、天井到達時昇格チャンス当籤フラグは、天井到達時当籤種別抽籤により昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１１８のステップＳ４１４４参照）。

【１４１８】

天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ又は天井到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４２０５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２７（ｂ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４１９】

図１２７（ｂ）に示す通常ステージ中（天井到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルの基本的な構成は、図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルと同様である。これにより、メインＣＰＵ１０１は、一の数値を前兆遊技数として決定する。

【１４２０】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２０５で決定された前兆遊技数に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４２０６）、本サブルーチンを終了する。

【１４２１】

ステップＳ４２０４において天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ及び天井到達時昇格チャンス当籤フラグが何れもオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４２０７）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２７（ｃ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４２２】

図１２７（ｃ）に示す通常ステージ中（基本）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルの基本的な構成は、図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルと同様である。これにより、メインＣＰＵ１０１は、一の数値を前兆遊技数として決定する。

【１４２３】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２０７で決定された前兆遊技数に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４２０８）、本サブルーチンを終了する。

【１４２４】

以上、図１２５を用いて、図１２４のステップＳ４１８４で行われる通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理について説明した。図１２４に説明を戻す。ステップＳ４１８４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４２５】

ステップＳ４１８３において昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４１８５）。上述したように、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＢに当籤していることを示す（図１０８のステップＳ４０８２及び図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４２６】

チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４１８６）。上述したように、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＡに当籤していることを示す（図１０８のステップＳ４０８２及び図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４２７】

ステップＳ４１８５においてチャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であると判断した場合、又は、ステップＳ４１８６においてチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４１８７）。ここで、図１２６を用いて、通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理について説明する。

【１４２８】

通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値又はポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４２２１）。上述したように、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、ポイント到達時抽籤によりチャンスステージＡに当籤していることを示し、ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、ポイント到達時抽籤によりチャンスステージＢに当籤していることを示す（図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４２９】

ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値又はポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４２２２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２８（ｄ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４３０】

図１２８（ｄ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルの基本的な構成は、図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルと同様である。これにより、メインＣＰＵ１０１は、一の数値を前兆遊技数として決定する。

【１４３１】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２２２で決定された前兆遊技数に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４２２３）、本サブルーチンを終了

する。

【１４３２】

ステップＳ４２２１においてポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値及びポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が何れも１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４２２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２８（ｅ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４３３】

図１２８（ｅ）に示す通常ステージ中（基本）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルの基本的な構成は、図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルと同様である。これにより、メインＣＰＵ１０１は、一の数値を前兆遊技数として決定する。

【１４３４】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２２４で決定された前兆遊技数に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４２２５）、本サブルーチンを終了する。

【１４３５】

以上、図１２６を用いて、図１２４のステップＳ４１８７で行われる通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理について説明した。図１２４に説明を戻す。ステップＳ４１８７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。なお、チャンスステージＡの当籤及びチャンスステージＢの当籤がストックされている場合には、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢから通常ステージへと移行した最初の単位遊技（通常ステージの１ゲーム目）においてステップＳ４１８７の処理が実行されることになる。

【１４３６】

ステップＳ４１８６においてチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、天井フェイク当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４１８８）。上述したように、天井フェイク当籤フラグは、天井フェイクに当籤したことを示すフラグである（図１１８のステップＳ４１４６参照）。

【１４３７】

天井フェイク当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、天井フェイク当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４１８９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１２８（ｆ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤の結果（前兆遊技数候補）として、「０」、「１～４」、「５～８」、「９～１２」、「１３～１６」、「１７～２０」、「２１～２４」、「２５～２８」、及び、「２９～３２」のうちの何れかを決定する。

【１４３８】

図１２８（ｆ）に示す通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤テーブルの基本的な構成は、図１２７（ａ）に示す通常ステージ中（ポイント到達時）疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブルと同様である。これにより、メインＣＰＵ１０１は、一の数値を前兆遊技数として決定する。

【１４３９】

そして、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４１８９で決定された前兆遊技数に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４１９０）、本サブルーチンを終了する。

【１４４０】

以上のように、図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、若しくは、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３若しくはステップＳ４２２５、又は、図１２４のステップＳ４１９０において、前兆遊技数カウンタに初期値がセットされた場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出開始コマンドデータを生成し、生成した前兆演出開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された前兆演出開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、前兆演出を開始させるタイミングであることを認識することができるようになり、前兆演出のための画像の表示、音の出力、光の出力等を開始させる処理が行われる。その結果、前兆遊技数カウンタにセットされた値に相当する回数の単位遊技に亘って前兆演出が行われる（前兆状態に制御される）ことになる。

【１４４１】

＜通常ステージ用前兆遊技数カウンタ管理処理＞

図１２９は、主制御回路において行われる通常ステージ用前兆遊技数カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【１４４２】

図１２９に示す通常ステージ用前兆遊技数カウンタ管理処理は、現在の出玉状態が通常ステージ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１４４３】

通常ステージ用前兆遊技数カウンタ管理処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタ（図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、及び、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３及びステップＳ４２２５、並びに、図１２４のステップＳ４１９０参照）の値が０よりも大きいか否かを判断する（ステップＳ４２４１）。前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４４４】

一方、前兆遊技数カウンタの値が０よりも大きいと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値から１減算する（ステップＳ４２４２）。そして、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４２４３）。前兆遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４４５】

一方、前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出を終了する（ステップＳ４２４４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出終了コマンドデータを生成し、生成した前兆演出終了コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された前兆演出終了コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、前兆演出を終了させるタイミングであることを認識することができるようになり、前兆演出のために行っている画像の表示、音の出力、光の出力等を終了させる処理が行われる。

【１４４６】

次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否か

を判断する（ステップＳ４２４５）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１０８のステップＳ４０８２、図１１８のステップＳ４１４４、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４４７】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４２４６）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオフにセットし、ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ乃至天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合、メインＣＰＵ１０１は、これらのフラグもオフにセットする。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４４８】

疑似ＢＩＧ移行フラグは、疑似ＢＩＧを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する。

【１４４９】

ステップＳ４２４５において疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４２４７）。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１０８のステップＳ４０８２、図１１８のステップＳ４１４４、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４５０】

昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４２４８）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオフにセットし、ポイント到達時昇格チャンス当籤フラグ乃至天井到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている場合、メインＣＰＵ１０１は、これらのフラグもオフにセットする。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４５１】

昇格チャンス移行フラグは、昇格チャンスを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、昇格チャンスに移行する。

【１４５２】

ステップＳ４２４７において昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４２４９）。上述したように、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＢに当籤していることを示す（図１０８のステップＳ４０８２、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４５３】

チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４２５０）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値から１減算する。また、今回終了する前兆状態が通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤（図１２６のステップＳ４２２２参照）が行われることにより開始されたものである場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値から１減算する。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４５４】

チャンスステージＢ移行フラグは、チャンスステージＢを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＢ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、チャンスステージＢに移行する。

【１４５５】

ステップＳ４２４９においてチャンスステージＢ当籤回数カウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４２５１）。上述したように、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であることは、チャンスステージＡに当籤していることを示す（図１０８のステップＳ４０８２、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４５６】

一方、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４２５２）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値から１減算する。また、今回終了する前兆状態が通常ステージ中（ポイント到達時）チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤（図１２６のステップＳ４２２２参照）が行われることにより開始されたものである場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値から１減算する。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４５７】

チャンスステージＡ移行フラグは、チャンスステージＡを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、チャンスステージＡに移行する。

【１４５８】

以上より、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧのうちの何れかに当籤した場合には、前兆状態を経由して、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、又は、疑似ＢＩＧへと移行する。一方、天井フェイクに当籤しても、出玉状態の移行は行われない。また、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、昇格チャンス、及び、疑似ＢＩＧのうち、複数の出玉状態に当籤した場合には、疑似ＢＩＧへの移行が最も優先的に行われ、昇格チャンスへの移行が次に優先的に行われ、チャンスステージＢへの移行が次に優先的に行われ、チャンスステージＡへの移行が次に優先的に行われる。

【１４５９】

なお、天井フェイクに当籤することにより前兆状態に移行した場合において、前兆状態中に昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した場合には、前兆状態が終了したとき、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧへと移行させるようにしてもよい。また、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢに当籤することにより前兆状態に移行した場合において、前兆状態中に昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した場合には、前兆状態が終了したとき、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧへと移行させるようにしてもよいし、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢへと移行させるようにしてもよい。

【１４６０】

＜確率モード関連処理＞

図１３０は、主制御回路において行われる確率モード関連処理を示すフローチャートである。図１３１（ａ）は、高確２移行抽籤テーブル（１）を示す図である。図１３１（ｂ）は、高確２移行抽籤テーブル（２）を示す図である。図１３１（ｃ）は、高確２移行抽

籤テーブル（３）を示す図である。図１３１（ｄ）は、高確２転落抽籤テーブルを示す図である。

【１４６１】

図１３０に示す確率モード関連処理は、主制御回路１００において図１０８（通常ステージ専用処理）のステップＳ４０８５で行われる処理である。

【１４６２】

確率モード関連処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役決定処理（図２６のステップＳ６４参照）により「Ｆ＿チェリー」（図９０及び図９１参照）が内部当籤役として決定されたか否かを判断する（ステップＳ４２６１）。

【１４６３】

「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤処理（１）を実行する（ステップＳ４２６２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤テーブル（１）（図１３１（ａ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、高確２移行抽籤（１）の結果として、「０」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、及び、「５０」のうちの何れかを決定する。

【１４６４】

図１３１（ａ）に示す高確２移行抽籤テーブル（１）においては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、高確２移行抽籤（１）の結果（「０」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、及び、「５０」）に対応する抽籤値が規定されている。高確２移行抽籤（１）の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、設定値１が設定１である場合には、高確２移行抽籤（１）の結果として、１７０／２５６の確率で「０」が決定され、５８／２５６の確率で「１０」が決定され、２８／２５６の確率で「２０」が決定される。

【１４６５】

上述したように、通常出玉状態においては、非高確、高確１、高確２、及び、高確３のうちの何れかの確率モードに制御される。現在の確率モードが非高確である場合において、高確２移行抽籤（１）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（１）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確２をセットするとともに、高確２移行抽籤（１）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする（ステップＳ４２６３）。高確２保障遊技数カウンタの値は、高確２に滞在することが保障される単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。高確２保障遊技数カウンタの値は、０よりも大きい場合に、高確２において単位遊技が１回行われるごとに１減算される。図示しないが、当該減算は、図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる。

【１４６６】

また、現在の確率モードが高確２である場合において、高確２移行抽籤（１）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（１）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤（１）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値よりも大きな値である場合には、当該高確２移行抽籤（１）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする一方、高確２移行抽籤（１）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値以下である場合には、当該高確２移行抽籤（１）の結果として決定された値を破棄する。

【１４６７】

また、現在の確率モードが高確１である場合において、高確２移行抽籤（１）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（１）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確３をセットして、高確３遊技数カウンタに「２０」をセットするとともに、高確１遊技数カウンタの値をクリアし、高確２移行抽籤（１

）の結果として決定された値を破棄する。なお、現在の確率モードが高確３である場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２６１の判断結果が「ＹＥＳ」でも、高確２移行抽籤（１）を実行しない。

【１４６８】

ステップＳ４２６１において「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定されていないと判断した場合、又は、ステップＳ４２６３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ポイント到達時高確２当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４２６４）。上述したように、ポイント到達時高確２当籤フラグは、ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）の結果として「高確２」が決定されたことを示すフラグである。

【１４６９】

ポイント到達時高確２当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤処理（２）を実行する（ステップＳ４２６５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤テーブル（２）（図１３１（ｂ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、高確２移行抽籤（２）の結果として、「０」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、及び、「５０」のうちの何れかを決定する。図１３１（ｂ）に示す高確２移行抽籤テーブル（２）の基本的な構成は、図１３１（ａ）に示す高確２移行抽籤テーブル（１）と同様である。

【１４７０】

ステップＳ４２６３の処理と同様に、現在の確率モードが非高確である場合において、高確２移行抽籤（２）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（２）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確２をセットするとともに、高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする（ステップＳ４２６６）。

【１４７１】

また、現在の確率モードが高確２である場合において、高確２移行抽籤（２）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（２）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値よりも大きな値である場合には、当該高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする一方、高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値以下である場合には、当該高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値を破棄する。

【１４７２】

また、現在の確率モードが高確１である場合において、高確２移行抽籤（２）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（２）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確３をセットして、高確３遊技数カウンタに「２０」をセットするとともに、高確１遊技数カウンタの値をクリアし、高確２移行抽籤（２）の結果として決定された値を破棄する。なお、現在の確率モードが高確３である場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２６４の判断結果が「ＹＥＳ」でも、高確２移行抽籤（２）を実行しない。

【１４７３】

ステップＳ４２６４においてポイント到達時高確２当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、又は、ステップＳ４２６６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢから通常ステージへの移行時であるか否かを判断する（ステップＳ４２６７）。上述したように、通常ステージへは、通常ステージ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。通常ステージに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより通常ステージに移行させた後、続けて、図１０４に示す通常ステージ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４２６７の処理において、メインＣＰＵ１０１は、

今回の単位遊技において通常ステージに移行した場合（今回の単位遊技が通常ステージの１ゲーム目である場合）において、移行元の出玉状態がチャンスステージＡ又はチャンスステージＢである場合に、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢから通常ステージへの移行時であると判断する。

【１４７４】

チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢから通常ステージへの移行時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤処理（３）を実行する（ステップＳ４２６８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤テーブル（３）（図１３１（ｃ）参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、高確２移行抽籤（３）の結果として、「０」、「１０」、「２０」、「３０」、「４０」、及び、「５０」のうちの何れかを決定する。図１３１（ｃ）に示す高確２移行抽籤テーブル（３）の基本的な構成は、図１３１（ａ）に示す高確２移行抽籤テーブル（１）と同様である。

【１４７５】

ステップＳ４２６３の処理と同様に、現在の確率モードが非高確である場合において、高確２移行抽籤（３）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（３）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確２をセットするとともに、高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする（ステップＳ４２６９）。

【１４７６】

また、現在の確率モードが高確２である場合において、高確２移行抽籤（３）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（３）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値よりも大きな値である場合には、当該高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値を高確２保障遊技数カウンタにセットする一方、高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値が現在の高確２保障遊技数カウンタの値以下である場合には、当該高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値を破棄する。

【１４７７】

また、現在の確率モードが高確１である場合において、高確２移行抽籤（３）の結果として「０」よりも大きな値が決定された（高確２移行抽籤（３）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確３をセットして、高確３遊技数カウンタに「２０」をセットするとともに、高確１遊技数カウンタの値をクリアし、高確２移行抽籤（３）の結果として決定された値を破棄する。なお、現在の確率モードが高確３である場合、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２６７の判断結果が「ＹＥＳ」でも、高確２移行抽籤（３）を実行しない。

【１４７８】

ステップＳ４２６７においてチャンスステージＡ乃至チャンスステージＢから通常ステージへの移行時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４２６９の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、現在の確率モードが高確２及び高確３のうちの何れかであるか否かを判断する（ステップＳ４２７０）。現在の確率モードが高確２及び高確３のうちの何れかであると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２保障遊技数カウンタの値が「０」であるか否かを判断する（ステップＳ４２７１）。

【１４７９】

高確２保障遊技数カウンタの値が「０」であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２転落抽籤処理を実行する（ステップＳ４２７２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、高確２転落抽籤テーブル（図１３１（ｄ）参照）を参照して、出玉フラググループ４における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、高確２転落抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１４８０】

図１３１（ｄ）に示す高確２転落抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ４における出玉フラグ（「その他」及び「非転落役」）ごとに、高確２転落抽籤の結果（「非当

籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。高確２転落抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、出玉フラググループ４における出玉フラグが「その他」である場合には、１９２／２５６の確率で高確２転落抽籤に当籤し、出玉フラググループ４における出玉フラグが「非転落役」である場合には、高確２転落抽籤に必ず非当籤となる。高確２転落抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２乃至高確３から非高確へと確率モードを移行させる。

【１４８１】

ステップＳ４２７０において現在の確率モードが高確２及び高確３のうちの何れでもないと判断した場合、ステップＳ４２７１において高確２保障遊技数カウンタの値が「０」ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４２７２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４８２】

＜昇格チャンス前処理＞

図１３２は、主制御回路において行われる昇格チャンス前処理を示すフローチャートである。図１３３は、昇格チャンス移行時抽籤テーブルを示す図である。

【１４８３】

図１３２に示す昇格チャンス前処理は、主制御回路１００において図１１３（通常出玉状態共通処理）のステップＳ４１０５で行われる処理である。

【１４８４】

昇格チャンス前処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタ（図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、及び、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３及びステップＳ４２２５、並びに、図１２４のステップＳ４１９０参照）の値が１であるか否かを判断する（ステップＳ４２８１）。前兆遊技数カウンタの値が１ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４８５】

一方、前兆遊技数カウンタの値が１であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４２８２）。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１０８のステップＳ４０８２、図１１８のステップＳ４１４４、及び、図１２１のステップＳ４１６７参照）。

【１４８６】

なお、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている状態で、疑似ＢＩＧに当籤した場合、昇格チャンス当籤フラグはオフにセットされるため、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていることは、疑似ＢＩＧに当籤していないことを意味する。従って、ステップＳ４２８２の判断結果が「ＹＥＳ」となるのは、次回の単位遊技において昇格チャンスに移行することが予定されている場合であると言える。

【１４８７】

昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤処理を実行する（ステップＳ４２８３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ポイントモード抽籤テーブル（図１０７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、ポイントモード抽籤の結果（ポイントモード）として、「ポイントモード１」、「ポイントモード２」、及び、「ポイントモード３」のうちの何れかを決定する。

【１４８８】

この処理は、図１０５のステップＳ４０６３の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。なお、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４２８３の処理を実行するに当たり、通常ポイント（図１２１参照）の値が１００以上である場合、当該通常ポイントの値を１００で割ったときの商をポイント到達回数カウンタの値に加算する。例えば、通

常ポイントの値が２５０である場合、２５０÷１００＝２余り５０であるところ、ポイント到達回数カウンタの値に２が加算され、余りの５０ポイントは破棄される。

【１４８９】

ステップＳ４２８３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行時抽籤処理を実行する（ステップＳ４２８４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行時抽籤テーブル（図１３３参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、昇格チャンス移行時抽籤の結果として、「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１４９０】

図１３３に示す昇格チャンス移行時抽籤テーブルにおいては、「ポイントモード１」、「ポイントモード２」、並びに、「ポイントモード３、通常モード７又は通常モード８」のそれぞれについて、昇格チャンス移行時抽籤の結果（「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。昇格チャンス移行時抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１４９１】

これにより、ポイントモードとしてポイントモード１がセットされている場合には、昇格チャンス移行時抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定され、ポイントモードとしてポイントモード２がセットされている場合には、昇格チャンス移行時抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定される。また、ポイントモードとしてポイントモード３がセットされている場合、乃至、通常モードがモード７又はモード８である場合には、昇格チャンス移行時抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１４９２】

昇格チャンス移行時抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオフにセットする。そして、メインＣＰＵ１０１は、当該昇格チャンス移行時抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する。

【１４９３】

ステップＳ４２８４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１４９４】

以上では、図１０４～図１３３を用いて、通常ステージにおいて行われる各種抽籤処理（通常中ロングフリーズ抽籤処理、通常規定遊技数高確１移行抽籤処理、天井フェイク準備中抽籤処理、天井準備中フラグセット抽籤処理、天井到達時当籤種別抽籤処理、天井フェイク準備中フラグセット抽籤処理、昇格チャンス移行時抽籤処理、通常ステージ中フリーズ抽籤処理、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤処理、ポイント獲得抽籤処理、ポイントモード抽籤処理、ポイント到達時抽籤処理、通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理、高確２移行抽籤処理（１）～（３）、及び、高確２転落抽籤処理）について説明した。

【１４９５】

これらの処理が行われる順序は特に限定されず、例えば、通常中ロングフリーズ抽籤処理、通常規定遊技数高確１移行抽籤処理、通常ステージ中フリーズ抽籤処理、天井フェイク準備中抽籤処理、天井準備中フラグセット抽籤処理、天井フェイク準備中フラグセット抽籤処理、天井到達時当籤種別抽籤処理、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤処理、ポイント獲得抽籤処理、ポイントモード抽籤処理、ポイント到達時抽籤処理、通常ステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理、高確２移行抽籤処理（１）～（３）、高確２転落抽籤処理、及び、昇格チャンス移行時抽籤処理の順に実行されるように構成してもよい。

【１４９６】
　この場合において、通常中ロングフリーズ抽籤に当籤した場合（通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合）には、以降の処理を実行しないようにしてもよい。また、通常ステージ中フリーズ抽籤に当籤した場合（通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として「昇格チャンス」又は「疑似ＢＩＧ」が決定された場合）には、以降の処理を実行しないようにしてもよい。
【１４９７】
＜チャンスステージ用遊技開始時処理＞
　図１３４は、主制御回路において行われるチャンスステージ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１３５は、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１３６は、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルを示す図である。図１３７は、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルを示す図である。
【１４９８】
　図１３４に示すチャンスステージ用遊技開始時処理は、現在の出玉状態がチャンスステージＡ又はチャンスステージＢ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。
【１４９９】
　チャンスステージ用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢの開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４３０１）。上述したように、チャンスステージＡへは、チャンスステージＡ移行フラグ（図１２９のステップＳ４２５２参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。チャンスステージＡに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することによりチャンスステージＡに移行させた後、続けて、図１３４に示すチャンスステージ用遊技開始時処理が行われる。同様に、チャンスステージＢへは、チャンスステージＢ移行フラグ（図１２９のステップＳ４２５０参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。チャンスステージＢに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することによりチャンスステージＢに移行させた後、続けて、図１３４に示すチャンスステージ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４３０１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技においてチャンスステージＡ又はチャンスステージＢに移行した場合（今回の単位遊技がチャンスステージＡ又はチャンスステージＢの１ゲーム目である場合）に、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢの開始時であると判断する。
【１５００】
　チャンスステージＡ又はチャンスステージＢの開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、高確２をクリアする（ステップＳ４３０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、確率モードとして高確２がセットされている場合、高確２保障遊技数カウンタの値をクリアするとともに、高確２から非高確へと確率モードを移行させる。
【１５０１】
　次に、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４３０３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤テーブル（図１３５参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤の結果（チャンスステージ保障遊技数）として、「２０」、「４０」、「６０」、「８０」、及び、「１００」のうちの何れかを決定する。

【１５０２】
図１３５に示すチャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤テーブルにおいては、「チャンスステージＡ」及び「チャンスステージＢ」のそれぞれについて、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤の結果（「２０」、「４０」、「６０」、「８０」、及び、「１００」）に対応する抽籤値が規定されている。チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１５０３】
これにより、チャンスステージＡにおいては、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤の結果（チャンスステージ保障遊技数）として、２５０／２５６の確率で「４０」が決定され、５／２５６の確率で「６０」が決定され、１／２５６の確率で「１００」が決定される。また、チャンスステージＢにおいては、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤の結果（チャンスステージ保障遊技数）として、２５０／２５６の確率で「２０」が決定され、５／２５６の確率で「４０」が決定され、１／２５６の確率で「１００」が決定される。チャンスステージＢにおいては、チャンスステージＡと比較して、チャンスステージ保障遊技数として、小さな値が決定されやすくなっている。
【１５０４】
ステップＳ４３０３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４３０３で決定されたチャンスステージ保障遊技数をチャンスステージ保障遊技数カウンタにセットする（ステップＳ４３０４）。チャンスステージ保障遊技数カウンタの値は、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢに滞在することが保障される単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。後述するように、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値は、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢにおいて単位遊技が１回行われるごとに１減算される。
【１５０５】
ステップＳ４３０１においてチャンスステージＡ又はチャンスステージＢの開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４３０４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、通常出玉状態共通処理を実行する（ステップＳ４３０５）。この処理は、図１０４のステップＳ４０４３の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。なお、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいては、天井フェイク準備中抽籤（図１１４のステップＳ４１２７参照）の結果として「天井フェイク準備中」が決定された（天井フェイク準備中に当籤した）場合であっても、天井フェイク準備中はセットされず、当該抽籤結果は破棄される。
【１５０６】
ステップＳ４３０５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤処理を実行する（ステップＳ４３０６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブル（図１３６参照）を参照して、出玉フラググループ６における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として、「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」のうちの何れかを決定する。
【１５０７】
図１３６に示すチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルは、出玉フラググループ６における出玉フラグ（「その他」、「リーチ目」、「リーチ目ＢＢ」、及び、「１枚役」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、図１３６（ａ）に示すチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１３６（ｂ）に示すチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・

昇格チャンス抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１３６（ｃ）に示すチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、図１３６（ｄ）に示すチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルが参照される。

【１５０８】

各チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤テーブルにおいては、「チャンスステージＡ」及び「チャンスステージＢ」のそれぞれについて、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、及び、「疑似ＢＩＧ」）に対応する抽籤値が規定されている。チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１５０９】

これにより、チャンスステージＡにおいては、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として、出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、２５６／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、２５６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定される。

【１５１０】

また、チャンスステージＢにおいては、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として、出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、２５６／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、２５６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、１９２／２５６の確率で「非当籤」が決定され、５８／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。

【１５１１】

このように、出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」、「リーチ目」、又は、「リーチ目ＢＢ」である場合、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の各結果が決定される確率は、チャンスステージＡとチャンスステージＢとで同じになっている。一方、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合、チャンスステージＡにおいては、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として、「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定され得ないのに対し、チャンスステージＢにおいては、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として、「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定され得るようになっている。これにより、チャンスステージＢは、チャンスステージＡよりも有利な出玉状態となっている。

【１５１２】

また、上述したように、通常ステージ中の非高確、高確１、及び、高確２においては、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）の結果として「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」の決定される確率が０となっている（図１１０及び図１１１参照）。これに対し、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいてチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として「昇格チャンス」乃至「疑似ＢＩＧ」が決定される確率は、相対的に高くなっている。これにより、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢは、通常ステージよりも有利な出玉状態となっている。

【１５１３】
　チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、昇格チャンスに当籤すると、前兆状態を経由して昇格チャンスに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｉ）参照）。
【１５１４】
　また、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、疑似ＢＩＧに当籤すると、前兆状態を経由して疑似ＢＩＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｊ）参照）。なお、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている状態で、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグを破棄する（オフにセットする）。
【１５１５】
　なお、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいて、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合、すなわち、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合（図９７参照）には、昇格チャンスに必ず当籤する。また、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいて、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合、すなわち、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合（図９７参照）には、疑似ＢＩＧに必ず当籤する。
【１５１６】
　ここで、上述したように、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作が行われると、「リーチ目一枚」が有効ラインに沿って停止表示される（図９２参照）。「リーチ目一枚」は、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にのみ入賞可能なコンビネーションである。従って、「リーチ目一枚」が有効ラインに沿って停止表示されることは、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、及び、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」のうちの何れかが内部当籤役として決定されたことを意味しており、遊技者は、「リーチ目一枚」を視認することを通じて、昇格チャンスに当籤したことを把握することができる。
【１５１７】
　また、上述したように、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作が行われると、「ＢＢ確定リーチ一枚」が有効ラインに沿って停止表示される（図９２参照）。「ＢＢ確定リーチ一枚」は、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にのみ入賞可能なコンビネーションである。従って、「ＢＢ確定リーチ一枚」が有効ラインに沿って停止表示されることは、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」及び「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定されたことを意味しており、遊技者は、「ＢＢ確定リーチ一枚」を視認することを通じて、疑似ＢＩＧに当籤したことを把握することができる。
【１５１８】
　このように、「リーチ目一枚」及び「ＢＢ確定リーチ一枚」は、昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤したこと（ＡＴ状態への移行が確定したこと）を遊技者に報知する役割を担っている。なお、後述するように、本実施形態では、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われた場合にペナルティが発生する。

従って、ＡＴ状態（疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧ）以外の出玉状態において、遊技者は、基本的に、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことで遊技を行う。

【１５１９】

これに対し、通常ステージにおいては、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合、すなわち、出玉フラググループ５における出玉フラグが「その他」である場合（図９７参照）に昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤する確率は、非常に低くなっている（図１１０～図１１２参照）。「リーチ目一枚」及び「ＢＢ確定リーチ一枚」の上記役割に鑑みると、昇格チャンス及び疑似ＢＩＧの何れにも当籤していないにもかかわらず、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」を遊技者に見せることは妥当でない。

【１５２０】

そこで、通常ステージにおいて、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合に、昇格チャンス及び疑似ＢＩＧの何れにも当籤していないときには、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）を行うことが報知される。当該報知（変則押しナビ）は、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）を行うことを示唆する画像がメイン表示装置２１０に表示されることによって行われる。変則押しナビに従った停止操作が行われることにより、「通常出目一枚」が有効ラインに沿って停止表示され、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」は出現しない。なお、この場合、指示モニタでの報知は行われないが、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れが内部当籤役として決定された場合においても、停止操作の態様によってメダルの払出枚数が異なることはないため（図９２参照）、特に問題はない。

【１５２１】

このように、チャンスステージＡ及びチャンスステージＢは、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」を通じてＡＴ状態への移行が報知されやすい出玉状態となっている。これに対し、通常ステージは、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」よりも、副制御回路２００によって制御される演出を通じて、ＡＴ状態に移行する期待度が示唆される出玉状態となっている。通常ステージにおいては、確率モードやポイントモード等に応じた複数の演出モードが設けられており、各演出モードにおいては、メイン表示装置２１０に表示される背景画像が異なっている。これにより、何れの演出モードに滞在するのか（背景画像）によって、当該期待度が示唆されるようになっている。

【１５２２】

なお、通常ステージでは、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合に、通常ステージ中フリーズ抽籤（図１０８のステップＳ４０８１及び図１０９参照）乃至通常中ロングフリーズ抽籤（図１１３のステップＳ４１０２参照）において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤する可能性がある。通常ステージ中フリーズ抽籤乃至通常中ロングフリーズ抽籤において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤した場合に、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作が行われると、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」が有効ラインに沿って停止表示される。一方、通常ステージ中フリーズ抽籤乃至通常中ロングフリーズ抽籤において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤しなかった場合には、上記変則押しナビが行われ、変則押しナビに従った停止操作が行われることにより、「リーチ目一枚」乃至「ＢＢ確定リーチ一枚」は出現しない。

【１５２３】

ステップＳ４３０６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４３０７）。チャンスステージ

中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理については、後に図１３８を用いて説明する。

【１５２４】

ステップＳ４３０７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤処理を実行する（ステップＳ４３０８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブル（図１３７参照）を参照して、出玉フラググループ５における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤の結果として、「０」、「２０」、「４０」、「６０」、「８０」、及び、「１００」のうちの何れかを決定する。

【１５２５】

図１３７に示すチャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルは、出玉フラググループ５における出玉フラグ（「その他」、「平行スイカ」、「斜めスイカ」、及び、「チェリー」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ５における出玉フラグが「その他」である場合には、図１３７（ａ）に示すチャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「平行スイカ」である場合には、図１３７（ｂ）に示すチャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、図１３７（ｃ）に示すチャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ５における出玉フラグが「チェリー」である場合には、図１３７（ｄ）に示すチャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルが参照される。

【１５２６】

各チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤の結果（「０」、「２０」、「４０」、「６０」、「８０」、及び、「１００」）に対応する抽籤値が規定されている。チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１５２７】

例えば、出玉フラググループ５における出玉フラグが「斜めスイカ」であり、設定値が設定６である場合には、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤の結果として、１２６／２５６の確率で「０」が決定され、１２８／２５６の確率で「２０」が決定され、１／２５６の確率で「４０」が決定され、１／２５６の確率で「６０」が決定される。メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤の結果として決定された値をチャンスステージ保障遊技数カウンタの値に加算する。

【１５２８】

ステップＳ４３０８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５２９】

＜チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理＞

図１３８は、主制御回路において行われるチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理を示すフローチャートである。図１３９は、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルを示す図である。

【１５３０】

図１３８に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理は、主制御回路１００において図１３４（チャンスステージ用遊技開始時処理）のステップＳ４３０７で行われる処理である。

【１５３１】

チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４３２１）。前兆遊技数カウンタの値は、前兆状態に制御される単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢ中の前兆状態

においては、昇格チャンス及び疑似ＢＩＧのうちの何れかに移行することを示唆する前兆演出が行われる。前兆遊技数カウンタの値が０ではない（１以上である）ことは、前兆状態中であることを示している。

【１５３２】

前兆遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。一方、前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４３２２）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１３４のステップＳ４３０６及び図１１８のステップＳ４１４４参照）。

【１５３３】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４３２３）。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１３４のステップＳ４３０６及び図１１８のステップＳ４１４４参照）。昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５３４】

ステップＳ４３２２において疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、又は、ステップＳ４３２３において昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤を実行する（ステップＳ４３２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル（図１３９参照）を参照して、出玉フラググループ６における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の結果として、「０」、「１」、「２」、「３」、「４」、「５」、「６」、「７」、及び、「８」のうちの何れかを決定する。

【１５３５】

図１３９に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルは、出玉フラググループ６における出玉フラグ（「その他」、「リーチ目」、「リーチ目ＢＢ」、及び、「１枚役」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、図１３９（ａ）に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１３９（ｂ）に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１３９（ｃ）に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、図１３９（ｄ）に示すチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルが参照される。

【１５３６】

各チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブルにおいては、「チャンスステージＡ」及び「チャンスステージＢ」のそれぞれについて、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の結果（「０」、「１」、「２」、「３」、「４」、「５」、「６」、「７」、及び、「８」）に対応する抽籤値が規定されている。チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１５３７】

例えば、チャンスステージＡにおいて、出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の結果として

、６４／２５６の確率で「０」が決定され、１９２／２５６の確率で「１」が決定される。また、チャンスステージＢにおいて、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の結果として、８／２５６の確率で「１」が決定され、１９２／２５６の確率で「２」が決定され、５６／２５６の確率で「３」が決定される。

【１５３８】

ステップＳ４３２５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤の結果として決定された値に１を加えた数を前兆遊技数カウンタにセットし（ステップＳ４３２５）、本サブルーチンを終了する。

【１５３９】

このように、前兆遊技数カウンタに初期値がセットされた場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出開始コマンドデータを生成し、生成した前兆演出開始コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された前兆演出開始コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、前兆演出を開始させるタイミングであることを認識することができるようになり、前兆演出のための画像の表示、音の出力、光の出力等を開始させる処理が行われる。その結果、前兆遊技数カウンタにセットされた値に相当する回数の単位遊技に亘って前兆演出が行われる（前兆状態に制御される）ことになる。

【１５４０】

＜チャンスステージ用カウンタ管理処理＞

図１４０は、主制御回路において行われるチャンスステージ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【１５４１】

図１４０に示すチャンスステージ用カウンタ管理処理は、現在の出玉状態がチャンスステージＡ又はチャンスステージＢ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１５４２】

チャンスステージ用カウンタ管理処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタ（図１３８のステップＳ４３２５参照）の値が０よりも大きいか否かを判断する（ステップＳ４３４１）。前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値から１減算する（ステップＳ４３４２）。そして、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４３４３）。チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５４３】

一方、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ移行フラグをオンにセットし（ステップＳ４３４４）、本サブルーチンを終了する。上述したように、通常ステージ移行フラグは、通常ステージを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、通常ステージ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、通常ステージに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｆ）及び（Ｈ）参照）。

【１５４４】

ステップＳ４３４１において前兆遊技数カウンタの値が０よりも大きいと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０よりも大きいか

否かを判断する（ステップＳ４３４５）。チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０よりも大きいと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値から１減算する（ステップＳ４３４６）。

【１５４５】

ステップＳ４３４５においてチャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、又は、ステップＳ４３４６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値から１減算する（ステップＳ４３４７）。そして、メインＣＰＵ１０１は、前兆遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４３４８）。前兆遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５４６】

一方、前兆遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出を終了する（ステップＳ４３４９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、前兆演出終了コマンドデータを生成し、生成した前兆演出終了コマンドデータをメインＲＡＭ１０３の通信データ格納領域に格納する。通信データ格納領域に格納された前兆演出終了コマンドデータは、通信データ送信処理（図３２のステップＳ２０４参照）において主制御回路１００から副制御回路２００へ送信される。これにより、副制御回路２００では、前兆演出を終了させるタイミングであることを認識することができるようになり、前兆演出のために行っている画像の表示、音の出力、光の出力等を終了させる処理が行われる。

【１５４７】

次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４３５０）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１３４のステップＳ４３０６及び図１１８のステップＳ４１４４参照）。

【１５４８】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４３５１）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオフにセットし、天井到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合には、当該フラグもオフにセットする。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５４９】

上述したように、疑似ＢＩＧ移行フラグは、疑似ＢＩＧを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する。

【１５５０】

ここで、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいては、疑似ＢＩＧ又は昇格チャンスに当籤した場合にのみ前兆状態に移行する。従って、ステップＳ４３５０の判断結果が「ＮＯ」となる場合には、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていることになる。そこで、ステップＳ４３５０において疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４３５２）。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオフにセットし、天井到達時昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている場合には、当該フラグもオフにセットする。その後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１５５１】

上述したように、昇格チャンス移行フラグは、昇格チャンスを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグがオンにセ

ットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、昇格チャンスに移行する。

【１５５２】

以上より、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおいて、昇格チャンス及び疑似ＢＩＧのうちの何れかに当籤した場合には、前兆状態を経由して、昇格チャンス又は疑似ＢＩＧへと移行する。また、上述したように、通常ステージにおいて、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢに当籤することにより前兆状態に移行した場合において、当該前兆状態中に昇格チャンス又は疑似ＢＩＧに当籤した場合には、当該前兆状態が終了したときに、チャンスステージＡ又はチャンスステージＢへと移行させるように構成することが可能である。この場合には、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢの開始時（チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢの１ゲーム目）におけるチャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理（図１３８参照）で、前兆遊技数カウンタに初期値がセットされることにより、前兆状態に移行し、当該前兆状態が終了したときに昇格チャンス又は疑似ＢＩＧへと移行することになる。

【１５５３】

＜昇格チャンス用遊技開始時処理＞

図１４１は、主制御回路において行われる昇格チャンス用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１４２及び図１４３は、昇格チャンスモード抽籤テーブルを示す図である。図１４４は、昇格チャンス中抽籤テーブルを示す図である。図１４５は、次回疑似遊技抽籤テーブルを示す図である。図１４６は、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤テーブルを示す図である。図１４７は、今回疑似遊技抽籤テーブルを示す図である。図１４８は、疑似遊技の内容を示す図である。

【１５５４】

図１４１に示す昇格チャンス用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が昇格チャンス（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１５５５】

昇格チャンス用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４３６１）。上述したように、昇格チャンスへは、昇格チャンス移行フラグ（図１２９のステップＳ４２４８及び図１４０のステップＳ４３５２参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。昇格チャンスに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより昇格チャンスに移行させた後、続けて、図１４１に示す昇格チャンス用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４３６１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において昇格チャンスに移行した場合（今回の単位遊技が昇格チャンスの１ゲーム目である場合）に、昇格チャンス開始時であると判断する。

【１５５６】

昇格チャンス開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス遊技数カウンタに所定値をセットする（ステップＳ４３６２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、基本的に、昇格チャンス遊技数カウンタに「３」をセットするが、ポイントモード（図１３２のステップＳ４２８３参照）としてポイントモード２がセットされている場合には、昇格チャンス遊技数カウンタに「５」をセットする。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、通常出玉状態においてセットした各種情報（カウンタ等）をクリアする。昇格チャンス遊技数カウンタの値は、昇格チャンスに滞在可能な単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。昇格チャンス遊技数カウンタの値

は、単位遊技が１回行われるごとに１減算される。図示しないが、当該減算は、図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる。

【１５５７】

次に、メインＣＰＵ１０１は、突入時ロングフリーズ抽籤処理を実行する（ステップＳ４３６３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、突入時ロングフリーズ抽籤テーブル（図示せず）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、突入時ロングフリーズ抽籤（１）の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定し、突入時ロングフリーズ抽籤（１）の結果が「当籤」である場合に、突入時ロングフリーズ抽籤（２）の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。これにより、突入時ロングフリーズ抽籤（１）には１／２５６の確率で当籤し、突入時ロングフリーズ抽籤（２）には１／２５６の確率で当籤する。

【１５５８】

突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合には、ロングフリーズが発生する。突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）に当籤したときに発生するロングフリーズの期間は、通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）（図１１３のステップＳ４１０２参照）に当籤したときに発生するロングフリーズの期間と同じである。突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、当該突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）が行われた単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、ロングフリーズの実行を制御する。

【１５５９】

また、突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、当該突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）が行われた単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、ロングフリーズの終了後、疑似遊技の実行を制御する。これにより、ロングフリーズに続いて疑似遊技が行われる。

【１５６０】

また、突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）の双方に当籤した場合、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する。また、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。

【１５６１】

なお、本実施例において、「有利区間が終了するまで継続する」とは、実質的に差枚数リミッタ（払出数リミッタ：例えば、２４００枚到達）により有利区間終了となるということを意味する。後述するように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に移行した）場合には、疑似ＢＩＧストックカウンタの値に２が加算される。これにより、少なくとも３回疑似ＢＩＧに制御されることが保障され、この場合、３回の疑似ＢＩＧが終了する前に差枚数リミッタを作動させるように構成することが可能である。

【１５６２】

もっとも、ロングフリーズの恩恵は、上記のような疑似ＢＩＧ（ＥＤ）への移行以外のものとしてもよい。例えば、ロングフリーズ発生時は、少なくとも疑似ＢＩＧ又は疑似ＢＩＧ以上の特典が確定するものとしてもよい。疑似ＢＩＧ以上の特典としては、例えば、疑似ＢＩＧへの移行が所定回数保証される（疑似ＢＩＧ連荘保障）や、疑似ＢＩＧよりも価値が大きな所定の有利遊技（疑似ボーナスやＡＴ）などを別途設けて移行させるものでもよい。また、差枚数や遊技回数のリミッタを搭載していない機種においては、所定期間（例えば、１０００枚獲得や５００ゲーム継続など）が経過するまで継続するロングフリ

ーズ対応の特別疑似ボーナスを設けることとしてもよい。

【１５６３】

また、本実施形態では、ボーナス状態においてロングフリーズ抽籤は行われないが、メダルが増加するリアルボーナス（特別役物や役物連続作動装置）を搭載した機種においては、昇格チャンス開始ゲームや昇格チャンス中にリアルボーナス役を引いた（例えば、３ＢＢが内部当籤した）場合にロングフリーズを発生させ、当該ボーナス作動中を上乗せ特化ゾーン（例えば、疑似ＢＩＧに当籤しやすい状態、すなわち、疑似ＢＩＧストックカウンタの値が加算されやすい状態）にするなどとしてもよい。

【１５６４】

なお、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御される場合、疑似ＢＩＧ終了画面を表示して一旦終了を示した後に、次のスタートレバー操作時に疑似ＢＩＧ対応の疑似遊技（「ブイ」揃い等）を発生させる連荘風の演出としてもよいし、継続時に疑似遊技を発生させずに継続を示す演出（「まだまだ！」などの継続を意味する画像の表示や音声など）のみで疑似ＢＩＧを継続させるものとしてもよい。

【１５６５】

ステップＳ４３６３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンスモード抽籤処理を実行する（ステップＳ４３６４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンスモード抽籤テーブル（図１４２及び図１４３参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、昇格チャンスモード抽籤の結果（昇格チャンスモード）として、「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」のうちの何れかを決定する。

【１５６６】

図１４２及び図１４３に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルは、通常移行時モード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６１参照）で決定された通常モード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、「モード４」、「モード５」、「モード６」、「モード７」、及び、「モード８」）、並びに、「連荘チャレンジ→昇格チャンス移行時」のそれぞれに対して設けられている。

【１５６７】

昇格チャンスへの移行元の出玉状態が通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、又は、チャンスステージＢ）である場合には、図１４２及び図１４３（ａ）～（ｈ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルのうちの一の昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照される。具体的に、通常モードが「モード１」である場合には、図１４２（ａ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード２」である場合には、図１４２（ｂ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード３」である場合には、図１４２（ｃ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード４」である場合には、図１４２（ｄ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード５」である場合には、図１４２（ｅ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード６」である場合には、図１４３（ｆ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード７」である場合には、図１４３（ｇ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照され、通常モードが「モード８」である場合には、図１４３（ｈ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照される。また、昇格チャンスへの移行元の出玉状態が連荘チャレンジである場合には、図１４３（ｉ）に示す昇格チャンスモード抽籤テーブルが参照される。

【１５６８】

各昇格チャンスモード抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、昇格チャンスモード抽籤の結果（「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」）に対応する抽籤値が規定されている。昇格チャンスモード抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分

母：２５６）」によって表すことができる。

【１５６９】

例えば、昇格チャンスへの移行元の出玉状態が通常出玉状態であり、通常モードが「モード３」である場合には、設定値にかかわらず、昇格チャンスモード抽籤の結果（昇格チャンスモード）として、２５６／２５６の確率で「モード３」が決定される。また、昇格チャンスへの移行元の出玉状態が通常出玉状態であり、通常モードが「モード６」である場合には、設定値にかかわらず、昇格チャンスモード抽籤の結果（昇格チャンスモード）として、１９２／２５６の確率で「モード３」が決定され、６４／２５６の確率で「モード４」が決定される。また、昇格チャンスへの移行元の出玉状態が連荘チャレンジである場合には、設定値にかかわらず、昇格チャンスモード抽籤の結果（昇格チャンスモード）として、２５６／２５６の確率で「モード２」が決定される。

【１５７０】

ステップＳ４３６１において昇格チャンス開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４３６４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス遊技数カウンタ（ステップＳ４３６２参照）の値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４３６５）。

【１５７１】

昇格チャンス遊技数カウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス中抽籤処理を実行する（ステップＳ４３６６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス中抽籤テーブル（図１４４参照）を参照して、出玉フラググループ２における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、昇格チャンス中抽籤の結果として、「フェイク疑似遊技」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１５７２】

図１４４に示す昇格チャンス中抽籤テーブルは、出玉フラググループ２における出玉フラグ（「その他」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、「リーチ目」、及び、「リーチ目ＢＢ」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ２における出玉フラグが「その他」である場合には、図１４４（ａ）に示す昇格チャンス中抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ２における出玉フラグが「弱レア役」である場合には、図１４４（ｂ）に示す昇格チャンス中抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ２における出玉フラグが「斜めスイカ」である場合には、図１４４（ｃ）に示す昇格チャンス中抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ２における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１４４（ｄ）に示す昇格チャンス中抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ２における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１４４（ｅ）に示す昇格チャンス中抽籤テーブルが参照される。

【１５７３】

各昇格チャンス中抽籤テーブルにおいては、ステップＳ４３６４で決定された昇格チャンスモード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」）ごとに、昇格チャンス中抽籤の結果（「フェイク疑似遊技」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。昇格チャンス中抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１５７４】

例えば、出玉フラググループ２における出玉フラグが「その他」であり、昇格チャンスモードが「モード４」である場合には、昇格チャンス中抽籤の結果として、２０４／２５６の確率で「フェイク疑似遊技」が決定され、５２／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。また、出玉フラググループ２における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」であり、昇格チャンスモードが「モード１」である場合には、昇格チャンス中抽籤の結果として、２５５／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。

【１５７５】
昇格チャンス中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。
【１５７６】
ステップＳ４３６６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、次回疑似遊技抽籤処理を実行する（ステップＳ４３６７）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、次回疑似遊技抽籤テーブル（図１４５参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、疑似遊技抽籤の結果として、「疑似遊技１」、「疑似遊技２」、「疑似遊技３」、「疑似遊技４」、「疑似遊技５」、「疑似遊技６」、「疑似遊技７」、及び、「疑似遊技８」のうちの何れかを決定する。
【１５７７】
図１４５に示す次回疑似遊技抽籤テーブルは、昇格チャンス中抽籤の結果（「フェイク疑似遊技」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）のそれぞれに対して設けられている。ステップＳ４３６６において「フェイク疑似遊技」が決定された場合には、図１４５（ａ）に示す次回疑似遊技抽籤テーブルが参照され、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ」が決定された場合には、図１４５（ｂ）に示す次回疑似遊技抽籤テーブルが参照され、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合には、図１４５（ｃ）に示す次回疑似遊技抽籤テーブルが参照される。
【１５７８】
各次回疑似遊技抽籤テーブルにおいては、ステップＳ４３６４で決定された昇格チャンスモード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」）ごとに、次回疑似遊技抽籤の結果（「疑似遊技１」、「疑似遊技２」、「疑似遊技３」、「疑似遊技４」、「疑似遊技５」、「疑似遊技６」、「疑似遊技７」、及び、「疑似遊技８」）に対応する抽籤値が規定されている。次回疑似遊技抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１５７９】
例えば、昇格チャンスモードが「モード１」であり、ステップＳ４３６６において「フェイク疑似遊技」が決定された場合には、次回疑似遊技抽籤の結果として、８６／２５６の確率で「疑似遊技１」が決定され、１７０／２５６の確率で「疑似遊技２」が決定される。また、昇格チャンスモードが「モード１」であり、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ」が決定された場合には、次回疑似遊技抽籤の結果として、１１２／２５６の確率で「疑似遊技３」が決定され、１１２／２５６の確率で「疑似遊技４」が決定され、３２／２５６の確率で「疑似遊技５」が決定される。また、昇格チャンスモードが「モード１」であり、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合には、次回疑似遊技抽籤の結果として、３２／２５６の確率で「疑似遊技３」が決定され、３２／２５６の確率で「疑似遊技４」が決定され、３２／２５６の確率で「疑似遊技５」が決定され、１６０／２５６の確率で「疑似遊技６」が決定される。
【１５８０】
メインＣＰＵ１０１は、次回疑似遊技抽籤により決定された疑似遊技をセットする。これにより、メインＣＰＵ１０１は、当該次回疑似遊技抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、当該疑似遊技の実行を制御する。また、昇格チャンス中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている）場合、メインＣＰＵ１０１は、当該昇格チャンス中抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｋ）参照）。

【１５８１】
　また、昇格チャンス中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。
【１５８２】
　ステップＳ４３６７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１５８３】
　ステップＳ４３６５において昇格チャンス遊技数カウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４３６８）。疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１５８４】
　一方、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤処理を実行する（ステップＳ４３６９）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤テーブル（図１４６参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として、「フェイク疑似遊技」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。
【１５８５】
　図１４６に示す規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤テーブルにおいては、ステップＳ４３６４で決定された昇格チャンスモード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」）ごとに、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果（「フェイク疑似遊技」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１５８６】
　例えば、昇格チャンスモードが「モード１」である場合には、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として、２３２／２５６の確率で「フェイク疑似遊技」が決定され、２４／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。また、昇格チャンスモードが「モード４」である場合には、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として、２２４／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、３２／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。
【１５８７】
　ステップＳ４３６９の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、今回疑似遊技抽籤処理を実行する（ステップＳ４３７０）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回疑似遊技抽籤テーブル（図１４７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、今回疑似遊技抽籤の結果として、「疑似遊技１」、「疑似遊技２」、「疑似遊技３」、「疑似遊技４」、「疑似遊技５」、「疑似遊技６」、「疑似遊技７」、及び、「疑似遊技８」のうちの何れかを決定する。
【１５８８】
　図１４７に示す今回疑似遊技抽籤テーブルは、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果（「疑似ＢＩＧ」及び「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）のそれぞれに対して設けられている。ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ」が決定された場合には、図１４７（ａ）に示す今回疑似遊技抽籤テーブルが参照され、ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合には、図１４７（ｂ）に示す今回疑似遊技抽籤テーブルが参照される。

【１５８９】
各今回疑似遊技抽籤テーブルにおいては、ステップＳ４３６４で決定された昇格チャンスモード（「モード１」、「モード２」、「モード３」、及び、「モード４」）ごとに、今回疑似遊技抽籤の結果（「疑似遊技１」、「疑似遊技２」、「疑似遊技３」、「疑似遊技４」、「疑似遊技５」、「疑似遊技６」、「疑似遊技７」、及び、「疑似遊技８」）に対応する抽籤値が規定されている。今回疑似遊技抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１５９０】
例えば、昇格チャンスモードが「モード１」であり、ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ」が決定された場合には、今回疑似遊技抽籤の結果として、１２８／２５６の確率で「疑似遊技７」が決定され、１２８／２５６の確率で「疑似遊技８」が決定される。また、昇格チャンスモードが「モード１」であり、ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合には、今回疑似遊技抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「疑似遊技６」が決定される。なお、ステップＳ４３６９において「フェイク疑似遊技」が決定された場合には「疑似遊技７」が決定される。
【１５９１】
メインＣＰＵ１０１は、今回疑似遊技抽籤により決定された疑似遊技をセットする。これにより、メインＣＰＵ１０１は、当該今回疑似遊技抽籤が行われた単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、当該疑似遊技の実行を制御する。その結果、ステップＳ４３６７で決定された疑似遊技に続いて、ステップＳ４３６９で決定された疑似遊技が実行されることになる。
【１５９２】
また、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新し、これにより、疑似ＢＩＧに移行する。また、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として「フェイク疑似遊技」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤しなかった）場合、メインＣＰＵ１０１は、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新し、これにより、疑似ＲＥＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｌ）参照）。
【１５９３】
また、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。
【１５９４】
ステップＳ４３７０の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１５９５】
以上では、８種類の疑似遊技（疑似遊技１、疑似遊技２、疑似遊技３、疑似遊技４、疑似遊技５、疑似遊技６、疑似遊技７、及び、疑似遊技８）が設けられていることとして説明した。第１実施形態で説明したように、疑似遊技は、ロック演出の実行中に実行することが可能なように構成されている。ロック演出（ロック）は、遊技の進行を所定期間停止させる（遊技者の遊技操作を所定期間無効にする）演出である。
【１５９６】
図１４８に示すように、疑似遊技１では、トップラインにおいて、「ブイ」、「セブン」、又は、「バー」がテンパイとなるが、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインの何れのラインにおいても、「ブイ」、「セブン」、及び、「バー」が揃わない。疑似遊技１は、ステップＳ４３６６において

「フェイク疑似遊技」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。疑似遊技２では、ボトムラインにおいて、「ブイ」、「セブン」、又は、「バー」がテンパイとなるが、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインの何れのラインにおいても、「ブイ」、「セブン」、及び、「バー」が揃わない。疑似遊技２は、ステップＳ４３６６において「フェイク疑似遊技」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。

【１５９７】

疑似遊技３では、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインのうちの何れかのライン（左リール３Ｌに対する停止操作が第１停止操作として行われた場合にはトップライン）において「ブイ」が揃うか、センターラインにおいて「セブン」が揃う。疑似遊技３は、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。疑似遊技４では、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインのうちの何れかのライン（左リール３Ｌに対する停止操作が第１停止操作として行われた場合にはボトムライン）において「ブイ」が揃うか、センターラインにおいて「セブン」が揃う。疑似遊技４は、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。

【１５９８】

疑似遊技５では、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインのうちの何れかのライン（左リール３Ｌに対する停止操作が第１停止操作として行われた場合にはクロスアップライン）において「ブイ」が揃うか、センターラインにおいて「セブン」が揃う。疑似遊技５は、ステップＳ４３６６において「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。疑似遊技６では、センターライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインにおいて「ブイ」がテンパイとなりセンターラインにおいて「ブイ」が揃うか、センターラインにおいて「セブン」が揃い、「バー」は何れのラインにおいても揃わない。疑似遊技６は、ステップＳ４３６６又はステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。

【１５９９】

また、疑似遊技６は、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合にのみ実行され得る疑似遊技である。すなわち、疑似遊技６が実行された場合には、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）（有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続すること）が確定する。例えば、通常中ロングフリーズ抽籤（１）及び通常中ロングフリーズ抽籤（２）（図１１３のステップＳ４１０２参照）に当籤した場合に行われる疑似遊技、並びに、突入時ロングフリーズ抽籤（１）及び突入時ロングフリーズ抽籤（２）（図１４１のステップＳ４３６３参照）に当籤した場合に行われる疑似遊技も、疑似遊技６となっている。

【１６００】

疑似遊技７では、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインの何れのラインにおいても、「ブイ」及び「セブン」が揃わず、センターラインにおいて「バー」が揃う。疑似遊技７は、ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ」又は「フェイク疑似遊技」が決定された場合に実行され得る疑似遊技である。なお、「疑似ＢＩＧ」が決定された場合において、疑似遊技７が実行された場合には、疑似遊技７の終了後にリール演出（リールの再回転）が行われ、何れかのラインにおいて「ブイ」又は「セブン」が揃う。一方、「フェイク疑似遊技」が決定された場合において、疑似遊技７が実行された場合には、リールの再回転は行われない。

【１６０１】

疑似遊技８では、センターライン、トップライン、ボトムライン、クロスアップライン、及び、クロスダウンラインの何れかのラインにおいて、「バー」がテンパイとなるが、何れのラインにおいても、「ブイ」、「セブン」、及び、「バー」が揃わない。疑似遊技８は、ステップＳ４３６９において「疑似ＢＩＧ」が決定された場合に実行され得る疑似

遊技である。なお、「疑似ＢＩＧ」が決定された場合において、疑似遊技８が実行された場合には、疑似遊技８の終了後にリール演出（リールの再回転）が行われ、何れかのラインにおいて「ブイ」又は「セブン」が揃う。

【１６０２】

＜昇格チャンスにおける遊技の流れ＞

図１４９は、昇格チャンスにおける遊技の流れを示す図である。

【１６０３】

図１４９に示すように、昇格チャンスの１ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：３）においては、ロングフリーズ（図１４１のステップＳ４３６３参照）が発生する場合がある。当該フリーズが発生した場合には、フリーズに続いてＢＢ狙い疑似遊技（疑似遊技６）が発生し、疑似ＢＢ（疑似ＢＩＧ）が開始する。一方、フリーズが発生しなかった場合には、当該昇格チャンスの１ゲーム目が消化され、スタートレバー７の操作を契機として、昇格チャンスの２ゲーム目に移行する。

【１６０４】

昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）においては、１ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が発生する。当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技１回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃った場合には、疑似ＢＢ（疑似ＢＩＧ）が開始する。一方、当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技１回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃わなかった場合には、当該昇格チャンスの２ゲーム目が消化され、スタートレバー７の操作を契機として、昇格チャンスの３ゲーム目に移行する。

【１６０５】

昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）においては、２ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が発生する。当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技２回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃った場合には、疑似ＢＢ（疑似ＢＩＧ）が開始する。一方、当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技２回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃わなかった場合には、当該昇格チャンスの３ゲーム目が消化され、スタートレバー７の操作を契機として、昇格チャンスの４ゲーム目に移行する。

【１６０６】

昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）においては、３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が発生する。当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技３回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃った場合には、疑似ＢＢ（疑似ＢＩＧ）が開始する。一方、当該疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技３回目）において、疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃わなかった場合には、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）で疑似ＢＩＧに当籤しない限り、ＲＢ狙い疑似遊技（疑似遊技７）が発生し、疑似ＲＢ（疑似ＲＥＧ）が開始する。

【１６０７】

なお、以上では、昇格チャンスの３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果として「フェイク疑似遊技」が決定された場合には、当該結果に基づいてフェイク疑似遊技（疑似遊技１又は疑似遊技２）が決定され（図１４１のステップＳ４３６７参照）、昇格チャンスの４ゲーム目においては、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果にかかわらず、ＢＢ狙い疑似遊技３回目として、当該フェイク疑似遊技が行われることとして説明した。しかし、昇格チャンスの３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果として「フェイク疑似遊技」が決定され、昇格チャンスの４ゲーム目

において規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）で疑似ＢＩＧに当籤した場合には、当該フェイク疑似遊技を破棄し、当該規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３７０参照）を、ＢＢ狙い疑似遊技３回目として行うこととしてもよい。

【１６０８】

また、図１４９では、疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技乃至ＲＢ狙い疑似遊技）が行われた後に疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが開始するものとして示している。遊技者は、疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技乃至ＲＢ狙い疑似遊技）において疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）乃至疑似ＲＥＧ移行図柄（「バー」）が揃うことを通じて、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが開始することを認識することができる。もっとも、実際に疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが開始するタイミング（出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新するタイミング）は、疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技乃至ＲＢ狙い疑似遊技）が行われた後（例えば、遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）中）であってもよいし、疑似遊技（ＢＢ狙い疑似遊技乃至ＲＢ狙い疑似遊技）が行われる前（例えば、遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）中）であってもよい。

【１６０９】

＜昇格チャンスにおける演出例（１ゲーム目で疑似ＢＩＧ当籤時）＞

図１５０は、昇格チャンスの１ゲーム目で疑似ＢＩＧに当籤した場合における演出例を示す図である。

【１６１０】

図１５０に示す演出例として、図１５０（ａ）では、昇格チャンスに移行する単位遊技の１つ前の単位遊技（通常出玉状態から昇格チャンスに移行する場合においては通常出玉状態の最終ゲーム：当籤報知ゲーム）において、「ＷＩＮ」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。

【１６１１】

図１５０（ｂ）では、図１５０（ａ）に示す状態の後、昇格チャンスの１ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：３）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、昇格チャンス中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定されたものとする。なお、ロングフリーズ（図１４１のステップＳ４３６３参照）には非当籤となっている。

【１６１２】

図１５０（ｃ）では、図１５０（ｂ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、１ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が開始するときに、「Ｖを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「ブイ」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。

【１６１３】

図１５０（ｄ）では、図１５０（ｃ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）で行われる疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「Ｖ・Ｖ・Ｖ」「ビッグボーナス！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」が揃ったこと、及び、ビッグボーナス（疑似ＢＩＧ）に移行することを遊技者に報知することができる。なお、疑似ＢＩＧ移行図柄が揃ったとき（疑似ＢＩＧが開始するとき）、第１実施形態で説明した外部信号１がオン状態とされる。

【１６１４】

図１５０（ｄ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）においては、疑似遊技に続いて（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止している状態で）、ロックが発生し、遊技の進行がさらに所定期間停止する。図１５０（ｅ）では、当該ロックが行われている期間中に、疑似ＢＩＧにおいて行われる演出（ＢＢ演出）を選択するための画面がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。遊技者は、演出ボタンを操作することにより、演出Ａ、演出Ｂ、及び、演出Ｃのうちの何れかの演出を、ＢＢ演出として選択することができる。

【１６１５】

図１５０（ｆ）では、図１５０（ｅ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、ＢＢ演出として一の演出（ここでは、演出Ｂ）が決定されたときに、「レバーで遊技が進行します」「獲得０枚」「残りナビ３０回」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことが可能であり、スタートレバー７が操作されたときに、ロックは終了する。また、スタートレバー７が操作されなくても、疑似遊技において全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止してから所定時間（例えば、５０秒）が経過したときに、ロックは終了する。「獲得０枚」は、疑似ＢＩＧにおいて遊技者が獲得したメダルの枚数（払出枚数と投入枚数との差）を示し、「残りナビ３０回」は、上述した第１疑似ＢＩＧ（図９６参照）において実行可能なベルナビの残り回数（第１ベルナビ回数カウンタの値）を示している。

【１６１６】

図１５０（ｆ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、実遊技（メイン遊技）用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する（ランダム遅延処理が行われて遊技が進行する）。図１５０（ｇ）では、このときに押し順ナビ画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。押し順ナビ画像は、押し順ベルにおける正解の押し順を報知（ベルナビ）するための画像である。ここでは、「Ｆ＿３２１ベルＤ」が内部当籤役として決定されたことに伴い、第１停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を「ブイ」を狙った目押しで行い、第２停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知されている（図９６参照）。また、ベルナビが１回行われたことに伴い、「残りナビ」の回数が１回減って「２９回」となっている。

【１６１７】

図１５０（ｈ）では、図１５０（ｇ）に示す状態の後、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「ＧＥＴ １５枚」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、報知（ベルナビ）に従った停止操作が行われたことにより、押し順ベルが入賞したことに伴い、１５枚のメダルが払い出されている（図９２参照）。また、「獲得」枚数が、当該払出枚数（１５枚）と投入枚数（３枚）との差（１２枚）に更新されている。

【１６１８】

なお、図１５０（ｅ）～（ｈ）に示す状態においては、既に昇格チャンスから疑似ＢＩＧへと移行しており、疑似ＢＩＧの１ゲーム目について示すものであるが、便宜上、昇格チャンスの２ゲーム目であることとして説明している。

【１６１９】

＜昇格チャンスにおける演出例（疑似ＢＩＧ非当籤時）＞

図１５１は、昇格チャンスの１ゲーム目～４ゲーム目で疑似ＢＩＧに全て非当籤となった場合における演出例を示す図である。

【１６２０】

図１５１に示す演出例として、図１５１（ａ）では、昇格チャンスに移行する単位遊技の１つ前の単位遊技（通常出玉状態から昇格チャンスに移行する場合においては通常出玉状態の最終ゲーム：当籤報知ゲーム）において、「ＷＩＮ」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。

【１６２１】
図１５１（ｂ）では、図１５１（ａ）に示す状態の後、昇格チャンスの１ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：３）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、昇格チャンス中抽籤の結果として「フェイク疑似遊技」が決定されたものとする。なお、ロングフリーズ（図１４１のステップＳ４３６３参照）には非当籤となっている。
【１６２２】
図１５１（ｃ）では、図１５１（ｂ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、１ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が開始するときに、「Ｖを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「ブイ」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。
【１６２３】
図１５１（ｄ）では、図１５１（ｃ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）で行われる疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「ざんねん」「レバーオンで遊技が進行します」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」が揃わなかった（疑似ＢＩＧに当籤しなかった）ことを遊技者に報知するとともに、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことができる。
【１６２４】
図１５１（ｄ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、実遊技（メイン遊技）用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する（ランダム遅延処理が行われて遊技が進行する）。図１５１（ｅ）では、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、昇格チャンス中抽籤の結果として「フェイク疑似遊技」が決定されたものとする。
【１６２５】
図１５１（ｆ）では、図１５１（ｅ）に示す状態の後、昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）において、２ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が開始するときに、「Ｖを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「ブイ」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。
【１６２６】
図１５１（ｇ）では、図１５１（ｆ）に示す状態の後、昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）で行われる疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「ざんねん」「レバーオンで遊技が進行します」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」が揃わなかった（疑似ＢＩＧに当籤しなかった）ことを遊技者に報知するとともに、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことができる。
【１６２７】

図１５１（ｇ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、実遊技（メイン遊技）用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する（ランダム遅延処理が行われて遊技が進行する）。図１５１（ｈ）では、昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、昇格チャンス中抽籤の結果として「フェイク疑似遊技」が決定されたものとする。

【１６２８】

図１５１（ｉ）では、図１５１（ｈ）に示す状態の後、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）において、３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）が開始するときに、「Ｖを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「ブイ」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。なお、ここでは、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果として、「フェイク疑似遊技」が決定されたものとする。また、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）では、疑似遊技が２回行われるところ、３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）を第１疑似遊技と表記することとする。

【１６２９】

図１５１（ｊ）では、図１５１（ｉ）に示す状態の後、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）で行われる第１疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「ざんねん」「レバーオンで遊技が進行します」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、疑似ＢＩＧ移行図柄としての「ブイ」が揃わなかった（疑似ＢＩＧに当籤しなかった）ことを遊技者に報知するとともに、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことができる。

【１６３０】

図１５１（ｊ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３７０参照）が開始する。当該疑似遊技を第２疑似遊技と表記することとする。図１５１（ｋ）では、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）で行われる第２疑似遊技が開始するときに、「ＢＡＲを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＲＥＧ移行図柄としての「バー」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「バー」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。

【１６３１】

図１５１（ｌ）では、図１５１（ｋ）に示す状態の後、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）で行われる第２疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「レギュラーボーナス！」「レバーオンで遊技が進行します」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、レギュラーボーナス（疑似ＲＥＧ）に移行することを遊技者に報知するとともに、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことができる。なお、疑似ＲＥＧ移行図柄が揃ったとき（疑似ＲＥＧが開始するとき）、第１実施形態で説明した外部信号２がオン状態とされる。

【１６３２】

図１５１（ｌ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、実遊技（メイン遊

技）用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する（ランダム遅延処理が行われて遊技が進行する）。図１５１（ｍ）では、このときに押し順ナビ画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。押し順ナビ画像は、押し順ベルにおける正解の押し順を報知（ベルナビ）するための画像である。ここでは、「Ｆ＿２３１ベルＡ」乃至「Ｆ＿２３１ベルＣ」が内部当籤役として決定されたことに伴い、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「セブン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知されている（図９６参照）。また、「残りナビ４回」は、疑似ＲＥＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第２ベルナビ回数カウンタの値）を示している。「残りナビ」の初期値は５回であるが、ベルナビが１回行われたことに伴い、「残りナビ」の回数が１回減って「４回」に更新されている。

【１６３３】

図１５１（ｎ）では、図１５１（ｍ）に示す状態の後、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「ＧＥＴ １５枚」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。ここでは、報知（ベルナビ）に従った停止操作が行われたことにより、押し順ベルが入賞したことに伴い、１５枚のメダルが払い出されている（図９２参照）。

【１６３４】

なお、図１５１（ｍ）及び（ｎ）に示す状態においては、既に昇格チャンスから疑似ＲＥＧへと移行しており、疑似ＲＥＧの１ゲーム目について示すものであるが、便宜上、昇格チャンスの４ゲーム目であることとして説明している。

【１６３５】

以上で説明したように、昇格チャンスに移行した場合には、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧのうちの何れかのＡＴ状態に必ず移行することになる。すなわち、昇格チャンスは、ＡＴ状態に移行することが確定した出玉状態である。そして、昇格チャンスでは、何れのＡＴ状態に移行させるのかが決定されるとともに、疑似遊技を通じて、移行先のＡＴ状態を報知する演出が行われる。１ゲーム目から最終ゲームまでの間に行われる疑似遊技において疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃った場合には、疑似ＢＩＧに移行する。最終ゲームで行われる第１疑似遊技において疑似ＢＩＧ移行図柄（「ブイ」又は「セブン」）が揃わなかった場合には、第２疑似遊技において疑似ＲＥＧ移行図柄（「バー」）が揃い、疑似ＲＥＧに移行する。疑似ＲＥＧへは最終ゲームのみで移行可能であり、最終ゲーム以外のゲームにおいて疑似ＲＥＧに移行することはない。

【１６３６】

ここまで、遊技者が停止操作可能な疑似遊技により疑似ボーナス開始時等の図柄表示を行う仕様について説明したが、疑似遊技に代えて、あるいは疑似遊技と併用する形で、遊技者の停止操作を伴わずに自動的にリールが停止するリール演出を用いて、疑似ボーナス開始時等の図柄表示が行われることとしても良い。リール演出を用いることとした場合、演出効果は疑似遊技に劣るものの、疑似遊技と比べメインプログラムの容量を軽減することできる。

【１６３７】

また、疑似遊技においても、疑似遊技用のリールの回転開始あるいは停止操作有効となったときから所定時間（例えば、３０秒など）経過で自動的にリールが停止して疑似ボーナス開始時等の図柄表示が行われるものとなっている。そのため、広義では、疑似遊技もリール演出の１種とみることもできる。時間経過による自動停止の場合は、予定された図柄組合せ（ブイ揃い、セブン揃い、バー揃いなど）が止まるように制御してもよいし、時間経過時点で各リールに停止信号を入力して停止させるものとしてもよい。後者の場合は、たまたまタイミングが合えば予定された図柄組合せが揃うものの、当該図柄組合せが揃わない場合があることとしてもよい。

【１６３８】

疑似遊技のリール停止制御としては、上述した実施形態で説明した態様を適宜採用する

ことが可能である。例えば、通常遊技（メイン遊技）と同様あるいは類似させる形で、滑りコマ数を最大４コマなどとして押下位置（停止操作タイミング）に応じて疑似停止出目が変化する仕様でもよいし、押下位置不問で疑似遊技の種別（疑似遊技１～８）により予め定められた位置まで図柄を滑らせて停止させるものでもよい。また、押下位置に応じて出目が変化するタイプでも、停止候補位置を２～３通り（例えば、疑似遊技３なら、ブイ揃いまたはセブン揃いのいずれかとなるように、押下位置によっては４コマ以上滑らせる）に限定するような停止制御を行って、遊技者に分かりやすい出目を停止させるものとしてもよい。なお、押下位置に応じて出目が変化するタイプである場合に、例えば、疑似ＢＩＧ開始時にブイ揃い・セブン揃いのいずれも停止しなかった場合でも、疑似ＢＩＧ開始時演出（例えば、図１５０（ｄ）に示すブイ揃い対応演出）は、ブイ揃い時と同じ態様で行って遊技者が状況を把握できるようにすることが望ましい。

【１６３９】

なお、本実施例では、昇格チャンス中の最大遊技回数は４ゲーム（又は６ゲーム）であり、ゲーム数の加算は行われない仕様であるが、所定条件を満たした場合に昇格チャンスのゲーム数を延長可能な仕様としてもよい。例えば、レア役当籤かつ疑似ＢＩＧ非当籤の場合に残りゲーム数を延長するといった仕様としてもよい。また、昇格チャンスを延長する場合、＋１ゲーム、+５ゲームといったゲーム数の上乗せとしてもよいし、疑似ＢＩＧに当籤するまで継続する無限昇格チャンスといった状態を設けて移行させるものとしてもよい。

【１６４０】

＜疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理＞

図１５２は、主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１５３は、主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ開始時処理を示すフローチャートである。図１５４は、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。図１５５は、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルを示す図である。

【１６４１】

図１５２に示す疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が疑似ＢＩＧ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１６４２】

疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４３８１）。上述したように、疑似ＢＩＧへは、疑似ＢＩＧ移行フラグ（図１２９のステップＳ４２４６及び図１４０のステップＳ４３５１参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技、又は、昇格チャンスにおいて昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）で疑似ＢＩＧに当籤した単位遊技の次の単位遊技、若しくは、昇格チャンスにおいて規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）で疑似ＢＩＧに当籤した単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。疑似ＢＩＧに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより疑似ＢＩＧに移行させた後、続けて、図１５２に示す疑似ＢＩＧ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４３８１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において疑似ＢＩＧに移行した場合（今回の単位遊技が疑似ＢＩＧの１ゲーム目である場合）に、疑似ＢＩＧ開始時であると判断する。

【１６４３】

疑似ＢＩＧ開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ開始時処理を実行する（ステップＳ４３８２）。ここで、図１５３を用いて、疑似ＢＩＧ開始時処理について説明する。

【１６４４】
疑似ＢＩＧ開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンスからの移行時であるか否かを判断する（ステップＳ４４０１）。この処理は、今回の単位遊技において疑似ＢＩＧに移行した場合（今回の単位遊技が疑似ＢＩＧの１ゲーム目である場合）に行われるところ、メインＣＰＵ１０１は、移行元の出玉状態が昇格チャンスである場合に、昇格チャンスからの移行時であると判断する。
【１６４５】
昇格チャンスからの移行時ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似遊技をセットする（ステップＳ４４０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグ（図１１３のステップＳ４１０２、並びに、図１４１のステップＳ４３６３、ステップＳ４３６６、及び、ステップＳ４３６９参照）がオンにセットされている場合、疑似遊技６（図１４８参照）をセットし、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされていない場合、疑似遊技５（図１４８参照）をセットする。これにより、メインＣＰＵ１０１は、当該単位遊技における遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、セットされた疑似遊技の実行を制御する。また、図示しないが、メインＣＰＵ１０１は、通常出玉状態においてセットした各種情報（カウンタ等）をクリアする。
【１６４６】
ステップＳ４４０１において昇格チャンスからの移行時であると判断した場合、又は、ステップＳ４４０２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、第１疑似ＢＩＧをセットする（ステップＳ４４０３）。上述したように、疑似ＢＩＧとしては、第１疑似ＢＩＧ及び第２疑似ＢＩＧが設けられているところ、疑似ＢＩＧ開始時においては第１疑似ＢＩＧに制御される。
【１６４７】
次に、メインＣＰＵ１０１は、第１ベルナビ回数カウンタに「３０」をセットする（ステップＳ４４０４）。上述したように、第１ベルナビ回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。第１ベルナビ回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。
【１６４８】
次に、メインＣＰＵ１０１は、通常リプ残り入賞回数カウンタに「３」をセットする（ステップＳ４４０５）。上述したように、通常リプ残り入賞回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。通常リプ残り入賞回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと１回移行する（第１疑似ＢＩＧにおいて通常リプが入賞する）ごとに１減算される。
【１６４９】
次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグ（図１１３のステップＳ４１０２、並びに、図１４１のステップＳ４３６３、ステップＳ４３６６、及び、ステップＳ４３６９参照）がオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４４０６）。疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１６５０】
一方、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタの値に２を加算する（ステップＳ４４０７）。疑似ＢＩＧストックカウンタの値は、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御可能な残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。
【１６５１】
次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理を実行する（ステップＳ４４０８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブル（図１５４参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うこと

により、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１６５２】

図１５４に示す疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、設定値にかかわらず、１／２５６の確率で疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤に当籤する。

【１６５３】

疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグをオンにセットする。連荘チャレンジ当籤フラグは、連荘チャレンジに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、連荘チャレンジに当籤すると、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに、連荘チャレンジに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｍ）参照）。

【１６５４】

ステップＳ４４０８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、突入時ロングフリーズ抽籤処理を実行する（ステップＳ４４０９）。この処理は、図１４１のステップＳ４３６３の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。ステップＳ４４０９の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６５５】

以上、図１５３を用いて、図１５２のステップＳ４３８２で行われる疑似ＢＩＧ開始時処理について説明した。図１５２に説明を戻す。

【１６５６】

ステップＳ４３８１において疑似ＢＩＧ開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４３８２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタの値が２以上であるか否かを判断する（ステップＳ４３８３）。疑似ＢＩＧストックカウンタの値が２以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６５７】

疑似ＢＩＧストックカウンタの値が２未満であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤処理を実行する（ステップＳ４３８４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブル（図１５５参照）を参照して、出玉フラググループ６における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の結果として、「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１６５８】

図１５５に示す疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルは、出玉フラググループ６における出玉フラグ（「その他」、「リーチ目」、「リーチ目ＢＢ」、及び、「１枚役」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、図１５５（ａ）に示す疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１５５（ｂ）に示す疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１５５（ｃ）に示す疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、図１５５（ｄ）に示す疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照される。

【１６５９】

各疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤テーブルにおいては、「第１疑似ＢＩＧ」及び「第２疑似ＢＩＧ」のそれぞれについて、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の結果（「非当籤」、「疑似ＢＩＧ

」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１６６０】

これにより、第１疑似ＢＩＧにおいては、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の結果として、出玉フラググループ６における出玉フラグにかかわらず、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定される。また、第２疑似ＢＩＧにおいては、疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の結果として、出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」又は「１枚役」である場合には、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」又は「リーチ目ＢＢ」である場合には、２５５／２５６の確率で「非当籤」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。疑似ＢＩＧ中１Ｇ連抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（１Ｇ連抽籤に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタの値に１を加算する。

【１６６１】

ステップＳ４３８４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６６２】

＜疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理＞

図１５６は、主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【１６６３】

図１５６に示す疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理は、現在の出玉状態が疑似ＢＩＧ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１６６４】

疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、第１疑似ＢＩＧに制御されているか否かを判断する（ステップＳ４４２１）。第１疑似ＢＩＧに制御されていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、内部当籤役決定処理（図２６のステップＳ６４参照）によりリプレイ（「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」（図９０及び図９１参照））が内部当籤役として決定されたか否かを判断する（ステップＳ４４２２）。

【１６６５】

リプレイが内部当籤役として決定されたと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値に１加算する（ステップＳ４４２３）。第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値は、第１疑似ＢＩＧ中にリプレイ（「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」）が内部当籤役として決定された回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。

【１６６６】

次に、メインＣＰＵ１０１は、通常リプが入賞したか否かを判断する（ステップＳ４４２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、有効ラインに沿って停止表示された図柄の組合せが「通常リプ」（「Ｃ＿中段リプＡ＿０１～０４」、「Ｃ＿下段リプＡ＿０１～０６」、「Ｃ＿ＣＵリプ＿０１～０３」、「Ｃ＿上段リプＢ＿０１～０６」、「Ｃ＿上段リプＡ＿０１～０３」、及び、「Ｃ＿ＣＤリプ＿０１～０４」（図８３参照）のうちの何れか）であるか否かを判断する。

【１６６７】

通常リプが入賞したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常リプ残り入賞回数カウンタ（図１５３のステップＳ４４０５参照）の値から１減算する（ステップＳ４４２５

）。そして、メインＣＰＵ１０１は、第２疑似ＢＩＧをセットする（ステップＳ４４２６）。これにより、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行する。

【１６６８】

次に、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタに「９」をセットする（ステップＳ４４２７）。上述したように、第２ベルナビ回数カウンタの値は、第２疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。第２ベルナビ回数カウンタの値は、第２疑似ＢＩＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。

【１６６９】

ステップＳ４４２４において通常リプが入賞していないと判断した場合、又は、ステップＳ４４２７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６７０】

ステップＳ４４２２においてリプレイが内部当籤役として決定されていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ベルナビが発生したか否かを判断する（ステップＳ４４２８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、押し順ベル（「Ｆ＿２１３ベルＡ」、「Ｆ＿２１３ベルＢ」、「Ｆ＿２１３ベルＣ」、「Ｆ＿２１３ベルＤ」、「Ｆ＿２３１ベルＡ」、「Ｆ＿２３１ベルＢ」、「Ｆ＿２３１ベルＣ」、「Ｆ＿２３１ベルＤ」、「Ｆ＿３１２ベルＡ」、「Ｆ＿３１２ベルＢ」、「Ｆ＿３１２ベルＣ」、「Ｆ＿３１２ベルＤ」、「Ｆ＿３２１ベルＡ」、「Ｆ＿３２１ベルＢ」、「Ｆ＿３２１ベルＣ」、及び、「Ｆ＿３２１ベルＤ」（図８３及び図８４参照）のうちの何れか）が内部当籤役として決定されたか否かを判断する。上述したように、疑似ＢＩＧにおいては、押し順ベルが内部当籤役として決定された場合に、押し順ベルを入賞させるための停止操作の情報が報知される（ベルナビが行われる）。

【１６７１】

ベルナビが発生したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第１ベルナビ回数カウンタ（図１５３のステップＳ４４０４参照）の値から１減算する（ステップＳ４４２９）。そして、メインＣＰＵ１０１は、第１ベルナビ回数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４４３０）。第１ベルナビ回数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ終了時処理（１）を実行する（ステップＳ４４３１）。疑似ＢＩＧ終了時処理（１）については、後に図１５７を用いて説明する。

【１６７２】

ステップＳ４４２８においてベルナビが発生していないと判断した場合、ステップＳ４４３０において第１ベルナビ回数カウンタの値が０ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４４３１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６７３】

ステップＳ４４２１において第１疑似ＢＩＧに制御されていない（第２疑似ＢＩＧに制御されている）と判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、ベルナビが発生したか否かを判断する（ステップＳ４４３２）。この処理は、ステップＳ４４２８の処理と同様の処理である。ベルナビが発生していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６７４】

一方、ベルナビが発生したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタ（ステップＳ４４２７参照）の値から１減算する（ステップＳ４４３３）。そして、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４４３４）。第２ベルナビ回数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６７５】

一方、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、通常リプ残り入賞回数カウンタ（ステップＳ４４２５参照）の値が０であるか否かを

判断する（ステップＳ４４３５）。通常リプ残り入賞回数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ終了時処理（２）を実行する（ステップＳ４４３６）。疑似ＢＩＧ終了時処理（２）については、後に図１５９を用いて説明する。

【１６７６】

一方、通常リプ残り入賞回数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第１疑似ＢＩＧをセットする（ステップＳ４４３７）。これにより、第２疑似ＢＩＧから第１疑似ＢＩＧへと移行する。

【１６７７】

ステップＳ４４３６又はステップＳ４４３７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１６７８】

＜疑似ＢＩＧ終了時処理（１）＞

図１５７は、主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ終了時処理（１）を示すフローチャートである。図１５８は、成立リプ数不足時抽籤テーブルを示す図である。

【１６７９】

図１５７に示す疑似ＢＩＧ終了時処理（１）は、主制御回路１００において図１５６（疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理）のステップＳ４４３１で行われる処理である。また、この処理は、疑似ＢＩＧの終了条件として、上述した「（ｉ）第１ベルナビ回数カウンタの値が０であること」という条件が成立したときに行われる処理である。

【１６８０】

疑似ＢＩＧ終了時処理（１）において、まず、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタ（図１５３のステップＳ４４０７参照）の値が２以上であるか否かを判断する（ステップＳ４４４１）。

【１６８１】

疑似ＢＩＧストックカウンタの値が２未満であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタ（図１５６のステップＳ４４２３参照）の値が２以下であるか否かを判断する（ステップＳ４４４２）。

【１６８２】

第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値が２以下であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、成立リプ数不足時抽籤処理を実行する（ステップＳ４４４３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、成立リプ数不足時抽籤テーブル（図１５８参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、成立リプ数不足時抽籤の結果として、「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１６８３】

図１５８に示す成立リプ数不足時抽籤テーブルにおいては、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値、すなわち、第１疑似ＢＩＧ中にリプレイが内部当籤役として決定された回数（「０回」、「１回」、及び、「２回」）ごとに、成立リプ数不足時抽籤の結果（「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。成立リプ数不足時抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１６８４】

例えば、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値が「１」である場合には、成立リプ数不足時抽籤の結果として、２２４／２５６の確率で「非当籤」が決定され、３２／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。成立リプ数不足時抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」が決定された（成立リプ数不足時抽籤に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタの値に１を加算する。

【１６８５】

ステップＳ４４４２において第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値が３以上であると判断した場合、又は、ステップＳ４４４３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、

疑似ＢＩＧストックカウンタの値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４４４４）。

【１６８６】

ステップＳ４４４１において疑似ＢＩＧストックカウンタの値が２以上であると判断した場合、又は、ステップＳ４４４４において疑似ＢＩＧストックカウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ継続フラグをオンにセットする（ステップＳ４４４５）。疑似ＢＩＧ継続フラグは、疑似ＢＩＧを継続することを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ継続フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、疑似ＢＩＧ開始時処理（図１５３参照）を実行する。これにより、疑似ＢＩＧが継続する。

【１６８７】

また、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４４４５の処理を実行したとき、疑似ＢＩＧストックカウンタの値から１減算する。なお、１回の有利区間中に疑似ＢＩＧに制御される（疑似ＢＩＧ開始時処理が実行される）回数が３回以上となることが確定した場合には、疑似ＢＩＧストックカウンタの値から減算しないこととしてもよい。この場合には、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）（有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続すること）が確定する。

【１６８８】

ステップＳ４４４４において疑似ＢＩＧストックカウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４４４６）。上述したように、連荘チャレンジ当籤フラグは、連荘チャレンジに当籤したことを示すフラグである（図１５３のステップＳ４４０８参照）。

【１６８９】

連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４４４７）。上述したように、連荘チャレンジ移行フラグは、連荘チャレンジを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘チャレンジに移行する。

【１６９０】

一方、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４４４８）。非有利区間移行フラグは、非有利区間を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、非有利区間に移行する。

【１６９１】

ステップＳ４４４５、ステップＳ４４４７、又は、ステップＳ４４４８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされている場合、当該フラグをオフにセットし、本サブルーチンを終了する。なお、疑似ＢＩＧが継続する場合には、連荘チャレンジ当籤フラグを持ち越すこととし、この場合には、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５３のステップＳ４４０８参照）を行わないこととしてもよい。

【１６９２】

＜疑似ＢＩＧ終了時処理（２）＞

図１５９は、主制御回路において行われる疑似ＢＩＧ終了時処理（２）を示すフローチャートである。図１６０は、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。

【１６９３】

図１５９に示す疑似ＢＩＧ終了時処理（２）は、主制御回路１００において図１５６（疑似ＢＩＧ用カウンタ管理処理）のステップＳ４４３６で行われる処理である。また、この処理は、疑似ＢＩＧの終了条件として、上述した「（ｉｉ）通常リプ残り入賞回数カウンタの値が０であり、且つ、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であること」という条件が成立したときに行われる処理である。

【１６９４】

疑似ＢＩＧ終了時処理（２）において、まず、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧストックカウンタ（図１５３のステップＳ４４０７参照）の値が１以上であるか否かを判断する（ステップＳ４４６１）。

【１６９５】

疑似ＢＩＧストックカウンタの値が１以上であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ継続フラグをオンにセットする（ステップＳ４４６２）。上述したように、疑似ＢＩＧ継続フラグは、疑似ＢＩＧを継続することを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ継続フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、疑似ＢＩＧ開始時処理（図１５３参照）を実行する。これにより、疑似ＢＩＧが継続する。

【１６９６】

また、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４４６２の処理を実行したとき、疑似ＢＩＧストックカウンタの値から１減算する。なお、１回の有利区間中に疑似ＢＩＧに制御される（疑似ＢＩＧ開始時処理が実行される）回数が３回以上となることが確定した場合には、疑似ＢＩＧストックカウンタの値から減算しないこととしてもよい。この場合には、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）（有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続すること）が確定する。

【１６９７】

一方、疑似ＢＩＧストックカウンタの値が１未満（０）であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４４６３）。上述したように、連荘チャレンジ当籤フラグは、連荘チャレンジに当籤したことを示すフラグである（図１５３のステップＳ４４０８参照）。

【１６９８】

連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤処理を実行する（ステップＳ４４６４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブル（図１６０参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１６９９】

図１６０に示す最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルは、最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値（「６未満」及び「６以上」）のそれぞれに対して設けられている。最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値は、最終（３回目）の第２疑似ＢＩＧに移行したとき（ステップＳ４４２５の処理が行われることにより通常リプ残り入賞回数カウンタの値が０となった状態で、ステップＳ４４２６の処理が行われたとき）の第１ベルナビ回数カウンタ（図１５６のステップＳ４４２９参照）の値である。最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値が「６」未満である場合には、図１６０（ａ）に示す最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルが参照され、最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値が「６」以上である場合には、図１６０（ｂ）に示す最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルが参照される。

【１７００】

各最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応

する抽籤値が規定されている。最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１７０１】

これにより、最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値が「６」未満である場合には、設定値にかかわらず、２５６／２５６の確率で最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤に非当籤となる。また、最終第２疑似ＢＩＧ突入時第１ベルナビ回数カウンタの値が「６」以上である場合には、設定値にかかわらず、２／２５６の確率で最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤に当籤する。ステップＳ４４６４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤に当籤したか否かを判断する（ステップＳ４４６５）。

【１７０２】

ステップＳ４４６３において連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、又は、ステップＳ４４６５において最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤に当籤したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４４６６）。上述したように、連荘チャレンジ移行フラグは、連荘チャレンジを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘チャレンジに移行する。

【１７０３】

ステップＳ４４６５において最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤に当籤していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４４６７）。上述したように、非有利区間移行フラグは、非有利区間を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、非有利区間に移行する。

【１７０４】

なお、当該有利区間において点灯していた区間ランプ（状態表示部、有利区間ランプともいう）は、非有利区間への移行が決定された当該遊技の全リール停止後に点灯状態から消灯状態へと変化する。第１実施形態で説明したように、区間ランプは、点灯することで現在の状態が有利区間中であることを表示するものである。

【１７０５】

ステップＳ４４６２、ステップＳ４４６６、又は、ステップＳ４４６７の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされている場合、当該フラグをオフにセットし、本サブルーチンを終了する。なお、疑似ＢＩＧが継続する場合には、連荘チャレンジ当籤フラグを持ち越すこととし、この場合には、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５３のステップＳ４４０８参照）を行わないこととしてもよい。

【１７０６】

＜疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理＞

図１６１は、主制御回路において行われる疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１６２は、疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルを示す図である。図１６３は、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルを示す図である。

【１７０７】

図１６１に示す疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が疑似ＲＥＧ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３

の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１７０８】

疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＲＥＧ開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４４８１）。上述したように、疑似ＲＥＧへは、昇格チャンスの最終ゲーム（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。疑似ＲＥＧに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより疑似ＲＥＧに移行させた後、続けて、図１６１に示す疑似ＲＥＧ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４４８１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において疑似ＲＥＧに移行した場合（今回の単位遊技が疑似ＲＥＧの１ゲーム目である場合）に、疑似ＲＥＧ開始時であると判断する。

【１７０９】

疑似ＲＥＧ開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタに「５」をセットする（ステップＳ４４８２）。上述したように、第２ベルナビ回数カウンタの値は、疑似ＲＥＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。第２ベルナビ回数カウンタの値は、疑似ＲＥＧにおいてベルナビが１回行われるごとに１減算される。

【１７１０】

次に、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理を実行する（ステップＳ４４８３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブル（図１６２参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の結果として、「非当籤」及び「当籤」のうちの何れかを決定する。

【１７１１】

図１６２に示す疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルは、出玉用有利区間遊技数カウンタの値（「１９９以下」及び「２００以上」）のそれぞれに対して設けられている。出玉用有利区間遊技数カウンタは、上述した有利区間ゲーム数カウンタであり、出玉用有利区間遊技数カウンタの値は、有利区間において行われた単位遊技の回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。図示しないが、出玉用有利区間遊技数カウンタの値は、有利区間においてのみ加算され、非有利区間に移行するときにクリアされる。出玉用有利区間遊技数カウンタの値が「１９９」以下である場合には、図１６２（ａ）に示す疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルが参照され、出玉用有利区間遊技数カウンタの値が「２００」以上である場合には、図１６２（ｂ）に示す疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルが参照される。

【１７１２】

各疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）ごとに、疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の結果（「非当籤」及び「当籤」）に対応する抽籤値が規定されている。疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。これにより、出玉用有利区間遊技数カウンタの値が「１９９」以下である場合には、設定値にかかわらず、１／２５６の確率で疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤に当籤する。また、例えば、出玉用有利区間遊技数カウンタの値が「２００」以上であり、設定値が設定６である場合には、４０／２５６の確率で疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤に当籤する。

【１７１３】

疑似ＲＥＧ開始時連荘チャレンジ抽籤に当籤した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、連荘チャレンジ当籤フラグは、連荘チャレンジに当籤したことを示すフラグである。詳細については後述するが、連荘

チャレンジに当籤すると、疑似ＲＥＧの終了条件が成立したときに、連荘チャレンジに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｍ）参照）。

【１７１４】

ステップＳ４４８１において疑似ＲＥＧ開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４４８３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤処理を実行する（ステップＳ４４８４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブル（図１６３参照）を参照して、出玉フラググループ６における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の結果として、「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１７１５】

図１６３に示す疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルは、出玉フラググループ６における出玉フラグ（「その他」、「リーチ目」、「リーチ目ＢＢ」、及び、「１枚役」）のそれぞれに対して設けられている。出玉フラググループ６における出玉フラグが「その他」である場合には、図１６３（ａ）に示す疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目」である場合には、図１６３（ｂ）に示す疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、図１６３（ｃ）に示す疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照され、出玉フラググループ６における出玉フラグが「１枚役」である場合には、図１６３（ｄ）に示す疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルが参照される。

【１７１６】

各疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤テーブルにおいては、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の結果（「非当籤」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。例えば、出玉フラググループ６における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の結果として、２４０／２５６の確率で「非当籤」が決定され、１５／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。

【１７１７】

疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（１Ｇ連抽籤に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。また、疑似ＲＥＧ中１Ｇ連抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。

【１７１８】

ステップＳ４４８４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７１９】

＜疑似ＲＥＧ用カウンタ管理処理＞

図１６４は、主制御回路において行われる疑似ＲＥＧ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【１７２０】

図１６４に示す疑似ＲＥＧ用カウンタ管理処理は、現在の出玉状態が疑似ＲＥＧ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在

の出玉状態を認識することができる。

【１７２１】

疑似ＲＥＧ用カウンタ管理処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ベルナビが発生したか否かを判断する（ステップＳ４５０１）。この処理は、図１５６のステップＳ４４２８の処理と同様の処理であるため、ここでの説明は省略する。ベルナビが発生していないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７２２】

一方、ベルナビが発生したと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタ（図１６１のステップＳ４４８２参照）の値から１減算する（ステップＳ４５０２）。そして、メインＣＰＵ１０１は、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４５０３）。第２ベルナビ回数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７２３】

一方、第２ベルナビ回数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４５０４）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１６１のステップＳ４４８４参照）。

【１７２４】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５０５）。上述したように、疑似ＢＩＧ移行フラグは、疑似ＢＩＧを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｎ）参照）。

【１７２５】

一方、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４５０６）。上述したように、連荘チャレンジ当籤フラグは、連荘チャレンジに当籤したことを示すフラグである（図１６１のステップＳ４４８３参照）。

【１７２６】

連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５０７）。上述したように、連荘チャレンジ移行フラグは、連荘チャレンジを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘チャレンジに移行する。

【１７２７】

一方、連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５０８）。非有利区間移行フラグは、非有利区間を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、非有利区間に移行する。

【１７２８】

ステップＳ４５０５、ステップＳ４５０７、又は、ステップＳ４５０８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグ乃至連荘チャレンジ当籤フラグがオンにセットされている場合、これらのフラグをオフにセットし、本サブルーチンを終了する。なお、疑似ＢＩＧに移行する場合には、連荘チャレンジ当籤フラグを持ち越すことと

し、この場合には、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５３のステップＳ４４０８参照）を行わないこととしてもよい。

【１７２９】

ここまで、疑似ＲＥＧに関する処理について説明を行ったが、前述の通り、疑似ＲＥＧは疑似ＢＩＧと比べ出玉面での有利度合いが低い。そのため、疑似ＲＥＧ中又は疑似ＲＥＧ終了時などに、疑似ＢＩＧ中には発生しない設定示唆演出などを実行可能なものとして、遊技者の興趣が低下することをなるべく抑制できるようにすることが望ましい。設定示唆演出としては、上述した実施形態で説明した態様を適宜採用することが可能である。

【１７３０】

＜連荘チャレンジ用遊技開始時処理＞

図１６５は、主制御回路において行われる連荘チャレンジ用遊技開始時処理を示すフローチャートである。図１６６は、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤テーブルを示す図である。図１６７は、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤テーブルを示す図である。図１６８は、連荘チャレンジ中抽籤テーブルを示す図である。図１６９は、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤テーブルを示す図である。

【１７３１】

図１６５に示す連荘チャレンジ用遊技開始時処理は、現在の出玉状態が連荘チャレンジ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で（例えば、図２７のステップＳ８５の判断結果が「ＮＯ」となった場合に）行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１７３２】

連荘チャレンジ用遊技開始時処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ開始時であるか否かを判断する（ステップＳ４５２１）。上述したように、連荘チャレンジへは、連荘チャレンジ移行フラグ（図９８のステップＳ４００３、図１００のステップＳ４０２７、図１５７のステップＳ４４４７、図１５９のステップＳ４４６６、及び、図１６４のステップＳ４５０７参照）がオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において移行する。連荘チャレンジに移行する単位遊技における遊技開始時状態制御処理では、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新することにより連荘チャレンジに移行させた後、続けて、図１６５に示す連荘チャレンジ用遊技開始時処理が行われる。ステップＳ４５２１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、今回の単位遊技において連荘チャレンジに移行した場合（今回の単位遊技が連荘チャレンジの１ゲーム目である場合）に、連荘チャレンジ開始時であると判断する。

【１７３３】

連荘チャレンジ開始時であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤処理を実行する（ステップＳ４５２２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤テーブル（図１６６参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として、「非当籤」、「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１７３４】

図１６６に示す連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤テーブルにおいては、設定値（「設定１」、「設定２」、「設定３」、「設定４」、「設定５」、及び、「設定６」）、並びに、「確定連荘チャレンジ」のそれぞれについて、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。「確定連荘チャレンジ」は、確定連荘チャレンジフラグ（図９８のステップＳ４００３及び図１００のステップＳ４０２９参照）がオンにセットされていることを指している。連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の

各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１７３５】

これにより、確定連荘チャレンジフラグがオンにセットされていない場合には、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として、設定値にかかわらず、１７８／２５６の確率で「非当籤」が決定され、７７／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。また、確定連荘チャレンジフラグがオンにセットされている場合には、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として、設定値にかかわらず、２２４／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定され、３１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。すなわち、確定連荘チャレンジフラグがオンにセットされている場合には、疑似ＢＩＧ乃至昇格チャンスに移行することが確定する。

【１７３６】

連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。また、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。また、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。

【１７３７】

ステップＳ４５２２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤処理を実行する（ステップＳ４５２３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤テーブル（図１６７参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤の結果（連荘チャレンジ遊技数）として、「１」、「２」、「３」、及び、「４」のうちの何れかを決定する。

【１７３８】

図１６７に示す連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤テーブルにおいては、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤（ステップＳ４５２２参照）の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）ごとに、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤の結果（「１」、「２」、「３」、及び、「４」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１７３９】

これにより、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果が「非当籤」である場合には、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤の結果（連荘チャレンジ遊技数）として、２５６／２５６の確率で「３」が決定される。また、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤の結果が「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、又は、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」である場合には、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤の結果（連荘チャレンジ遊技数）として、１９２／２５６の確率で「３」が決定され、６４／２５６の確率で「４」が決定される。

【１７４０】

ステップＳ４５２３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４５２３で決定された連荘チャレンジ遊技数を連荘チャレンジ遊技数カウンタにセットする（ステ

ップＳ４５２４）。連荘チャレンジ遊技数カウンタの値は、連荘チャレンジに滞在可能な単位遊技の残り回数を示し、メインＲＡＭ１０３に記憶されている。後述するように、連荘チャレンジ遊技数カウンタの値は、単位遊技が１回行われるごとに１減算される。

【１７４１】

ステップＳ４５２１において連荘チャレンジ開始時ではないと判断した場合、又は、ステップＳ４５２４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ中抽籤処理を実行する（ステップＳ４５２５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ中抽籤テーブル（図１６８参照）を参照して、出玉フラググループ２における出玉フラグ（図９７参照）及び乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ中抽籤の結果として、「非当籤」、「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」のうちの何れかを決定する。

【１７４２】

図１６８に示す連荘チャレンジ中抽籤テーブルにおいては、出玉フラググループ２における出玉フラグ（「その他」、「弱レア役」、「斜めスイカ」、「リーチ目」、及び、「リーチ目ＢＢ」）ごとに、連荘チャレンジ中抽籤の結果（「非当籤」、「昇格チャンス」、「疑似ＢＩＧ」、及び、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」）に対応する抽籤値が規定されている。連荘チャレンジ中抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。

【１７４３】

これにより、出玉フラググループ２における出玉フラグが「その他」である場合には、連荘チャレンジ中抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「非当籤」が決定される。また、出玉フラググループ２における出玉フラグが「弱レア役」である場合には、連荘チャレンジ中抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「昇格チャンス」が決定される。また、出玉フラググループ２における出玉フラグが「斜めスイカ」又は「リーチ目」である場合には、連荘チャレンジ中抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定される。また、出玉フラググループ２における出玉フラグが「リーチ目ＢＢ」である場合には、連荘チャレンジ中抽籤の結果として、２５５／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ」が決定され、１／２５６の確率で「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定される。

【１７４４】

連荘チャレンジ中抽籤の結果として「昇格チャンス」が決定された（昇格チャンスに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグをオンにセットする。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである。また、連荘チャレンジ中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである。また、連荘チャレンジ中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグをオンにセットする。上述したように、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグがオンにセットされた場合には、疑似ＢＩＧの終了条件が成立したときに再度疑似ＢＩＧに制御され、これにより、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することになる。

【１７４５】

なお、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされている状態で、連荘チャレンジ中抽籤の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された（疑似ＢＩＧに当籤した）場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグを破棄する（オフにセットする）。また、今回の連荘チャレンジ中抽籤で決定された結果が、それまでに行われた連荘チャレンジ中抽籤乃至連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤（ステップＳ４５２２参照）で決定された結果よりも不利なものである場合、メインＣＰＵ１０１は、今回の連荘チャレンジ中抽籤で決定された結果を破棄する。

【１７４６】
ステップＳ４５２５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（ステップＳ４５２４参照）の値が１であるか否かを判断する（ステップＳ４５２６）。連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が１であることは、当該単位遊技が連荘チャレンジの最終ゲームであることを意味する。連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が１ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１７４７】
一方、連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が１であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４５２７）。昇格チャンス当籤フラグ又は疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。
【１７４８】
一方、昇格チャンス当籤フラグ及び疑似ＢＩＧ当籤フラグが何れもオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤処理を実行する（ステップＳ４５２８）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤テーブル（図１６９参照）を参照して、乱数値に基づく抽籤を行うことにより、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果として、「非有利区間」及び「連荘準備」のうちの何れかを決定する。
【１７４９】
図１６９に示す連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤テーブルにおいては、「その他」及び「疑似ボーナス→連荘チャレンジ」のそれぞれについて、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果（「非有利区間」及び「連荘準備」）に対応する抽籤値が規定されている。「疑似ボーナス→連荘チャレンジ」は、現在滞在する連荘チャレンジへの移行元の出玉状態が疑似ボーナス（疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧ）であることを示している。「その他」は、現在滞在する連荘チャレンジへの移行元の出玉状態が疑似ボーナス（疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧ）以外の出玉状態であることを示している。連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の各結果が決定される確率は、「当該結果に対して規定された抽籤値／抽出される可能性のある全ての乱数値の個数（乱数分母：２５６）」によって表すことができる。
【１７５０】
これにより、現在滞在する連荘チャレンジへの移行元の出玉状態が疑似ボーナス（疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧ）である場合には、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「非有利区間」が決定される。また、現在滞在する連荘チャレンジへの移行元の出玉状態が疑似ボーナス（疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧ）以外の出玉状態である場合には、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果として、２５６／２５６の確率で「連荘準備」が決定される。
【１７５１】
すなわち、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧから連荘チャレンジへと移行した場合（図１５７のステップＳ４４４７、図１５９のステップＳ４４６６、及び、図１６４のステップＳ４５０７参照）、当該連荘チャレンジの最終ゲームで行われる連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果としては、必ず「非有利区間」が決定される。また、非有利区間乃至連荘準備から連荘チャレンジへと移行した場合（図９８のステップＳ４００３及び図１００のステップＳ４０２７参照）、当該連荘チャレンジの最終ゲームで行われる連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果としては、必ず「連荘準備」が決定される。
【１７５２】
連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果として「非有利区間」が決定された場合、メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行予約フラグをオンにセットする。非有利区間移行予約フラグは、非有利区間を開始することが予約されていることを示すフラグである。また、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果として「連荘準備」が決定された場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行予約フラグをオンにセットする。連荘準備移行予約フラ

グは、連荘準備を開始することが予約されていることを示すフラグである。

【１７５３】

ステップＳ４５２８の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７５４】

＜連荘チャレンジ用カウンタ管理処理＞

図１７０は、主制御回路において行われる連荘チャレンジ用カウンタ管理処理を示すフローチャートである。

【１７５５】

図１７０に示す連荘チャレンジ用カウンタ管理処理は、現在の出玉状態が連荘チャレンジ（図９３参照）であるときに、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。メインＣＰＵ１０１は、メインＲＡＭ１０３の出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を参照することにより、現在の出玉状態を認識することができる。

【１７５６】

連荘チャレンジ用カウンタ管理処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（図１６５のステップＳ４５２４参照）の値から１減算する（ステップＳ４５４１）。そして、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が０であるか否かを判断する（ステップＳ４５４２）。連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が０ではないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７５７】

一方、連荘チャレンジ遊技数カウンタの値が０であると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４５４３）。上述したように、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、疑似ＢＩＧに当籤したことを示すフラグである（図１６５のステップＳ４５２２及びステップＳ４５２５参照）。

【１７５８】

疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５４４）。上述したように、疑似ＢＩＧ移行フラグは、疑似ＢＩＧを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、疑似ＢＩＧに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｐ）参照）。

【１７５９】

一方、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされているか否かを判断する（ステップＳ４５４５）。上述したように、昇格チャンス当籤フラグは、昇格チャンスに当籤したことを示すフラグである（図１６５のステップＳ４５２２及びステップＳ４５２５参照）。

【１７６０】

昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５４６）。上述したように、昇格チャンス移行フラグは、昇格チャンスを開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、昇格チャンス移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、昇格チャンスに移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｏ）参照）。

【１７６１】

一方、昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行予約フラグ（図１６５のステップＳ４５２８参照）がオンに

セットされているか否かを判断する（ステップＳ４５４７）。連荘準備移行予約フラグがオンにセットされていると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５４８）。上述したように、連荘準備移行フラグは、連荘準備を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、連荘準備移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、連荘準備に移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｒ）参照）。

【１７６２】

ステップＳ４５４７の判断結果が「ＮＯ」となる場合には、非有利区間移行予約フラグ（図１６５のステップＳ４５２８参照）がオンにセットされていることになる。ステップＳ４５４７において連荘準備移行予約フラグがオンにセットされていないと判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグをオンにセットする（ステップＳ４５４９）。上述したように、非有利区間移行フラグは、非有利区間を開始するタイミングであることを示すフラグである。メインＣＰＵ１０１は、非有利区間移行フラグがオンにセットされた単位遊技の次の単位遊技における遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）で、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）を更新する。これにより、非有利区間に移行する（図９４及び図９５の移行条件（Ｑ）参照）。

【１７６３】

ステップＳ４５４４、ステップＳ４５４６、ステップＳ４５４８、又は、ステップＳ４５４９の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１７６４】

以上で説明したように、連荘チャレンジは、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが終了したときに移行する可能性がある一方、相対的に高い確率で疑似ＢＩＧ乃至昇格チャンスに当籤し得る出玉状態となっている。これにより、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧから連荘チャレンジへと移行した場合には、再度疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧへと移行する（連荘する）ことを目指して遊技を行うことになる。

【１７６５】

また、以上では、連荘チャレンジの最終ゲームにおいて、連荘チャレンジ中抽籤（図１６５のステップＳ４５２５参照）が行われた後に、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤（図１６５のステップＳ４５２８参照）が行われることとして説明した。しかし、以下で説明するように、連荘チャレンジの最終ゲームにおいては、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤が行われた後に、連荘チャレンジ中抽籤が行われることとしてもよい。この場合には、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤により連荘準備移行予約フラグ乃至非有利区間移行予約フラグがオンにセットされた後に、連荘チャレンジ中抽籤により疑似ＢＩＧ当籤フラグ乃至昇格チャンス当籤フラグがオンにセットされる可能性がある。そして、この場合には、疑似ＢＩＧ乃至昇格チャンスへと移行することになるところ（図１７０のステップＳ４５４４及びステップＳ４５４６参照）、ステップＳ４５４４又はステップＳ４５４６の処理を実行したとき、連荘準備移行予約フラグ乃至非有利区間移行予約フラグをオフにセットする（破棄する）こととしてもよい。

【１７６６】

［第４実施形態の変形例（ペナルティ）］

以上では、第４実施形態に係るパチスロ機１の遊技性について説明した。当該遊技性は、図９８～図１７０を用いて説明したような処理が行われることによって創出することが可能であるが、当該遊技性を実現するための処理は、以上の例に限定されない。以下で説明する変形例においては、遊技者が特定の遊技方法で遊技を行った場合にペナルティが発生する。

【１７６７】

ペナルティに関し、第１実施形態では、遊技者の停止操作態様（停止操作タイミングであってもよいし、押し順であってもよいし、これらの組合せであってもよい）に応じて付与されるメダル数が変動する（例えば、停止操作態様が適切（正解）であれば８枚の払出

、不適切（不正解）であれば１枚の払出又は払出なし）特定役が設けられる場合について説明した。

【１７６８】

そして、特定の遊技状態において当該特定役に当籤した場合、８枚の払出があった場合には今回の遊技においてＡＴ状態に移行するか否かの有利度合いを有利なものに変動させるか否かの決定（直接ＡＴ状態に移行させるか否か、あるいは直接当該ＡＴ状態の遊技期間を延長するか否かの決定も含み得る。以下「有利決定」として説明する）を行わない一方、８枚の払出がなかった場合には今回の遊技において当該有利決定を行うことが可能であることとして説明した。本明細書では、このように有利決定が行われることが制限されることを「ペナルティ」と呼んでいる。

【１７６９】

このようなペナルティの例として、第１の遊技機の変形例（図６８～図８０参照）として、所定役（例えば、押し順ベル）が当籤役として決定されたときに、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合にはＡＴ関連処理を有利とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合には当該ＡＴ関連処理を不利とする仕様を採用する場合について説明した。第１の遊技機の変形例として説明した事項は、本実施形態に係るパチスロ機１の基本的な遊技性が損なわれない限り、本実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。

【１７７０】

ここで、本実施形態における押し順ベルは、第１の遊技機の変形例における押し順ベルと同様に、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対する停止操作の順序（押し順）に応じて、有効ラインに沿って停止表示されるコンビネーション（図柄の組合せ）が異なり、その結果、払い出されるメダルの枚数にも差異が生じるものである。また、当該押し順ベルは、上述した偏りベルを構成するものである。

【１７７１】

これにより、第１の遊技機の変形例と同様に、押し順ベル（偏りベル）が内部当籤役として決定された単位遊技において、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合に払い出されるメダルの枚数の期待値は、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合に払い出されるメダルの枚数の期待値よりも小さくなっている。また、押し順ベル（偏りベル）が内部当籤役として決定されたか否かにかかわらず、一の単位遊技において、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合に払い出されるメダルの枚数の期待値は、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合に払い出されるメダルの枚数の期待値よりも小さくなっている。また、非ＡＴ状態全体としても、非ＡＴ状態中の全ての単位遊技において特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合に払い出されるメダルの枚数の期待値は、非ＡＴ状態中の全ての単位遊技において当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合に払い出されるメダルの枚数の期待値よりも小さくなっている。

【１７７２】

以下では、第１の遊技機の変形例と同様に、特定態様（例えば、左第１停止）にて停止操作が行われた場合にはＡＴ関連処理を有利とし、当該特定態様にて停止操作が行われなかった場合には当該ＡＴ関連処理を不利とする仕様を採用する場合について説明する。

【１７７３】

なお、「ＡＴ関連処理」は、ＡＴ状態に移行することを直接決定する（ＡＴ移行抽籤を行う）ための処理の他、ＣＺ状態（ＣＺ）に移行することを決定する（ＣＺ移行抽籤を行う）ための処理、ＣＺ状態が継続可能な期間（ＣＺ期間）を設定する（ＣＺ期間抽籤を行う）ための処理、複数種類のＡＴ状態のうち相対的に有利なＡＴ状態に移行すること（ＡＴ状態の有利度）を決定する（ＡＴ有利度抽籤を行う）ための処理、ＡＴ移行抽籤、ＣＺ移行抽籤、又は、ＡＴ有利度抽籤において参照されるモード（参照モード）を設定する（参照モード抽籤を行う）ための処理、相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な期間を短縮するための処理、相対的に有利な状態（参照モード）の終了後に移行する状態（

参照モード）を決定する（転落後移行先抽籤を行う）ための処理、ＡＴ状態又はＣＺ状態に移行するまでの期間に関する処理、ＡＴ移行抽籤又はＣＺ移行抽籤が行われるための条件に関する処理、ＡＴ状態への移行を報知する演出（ＡＴ確定演出）を行うための処理等を含む概念である。

【１７７４】

ＡＴ状態としては、疑似ＢＩＧ（相対的に有利なＡＴ状態）及び疑似ＲＥＧ（相対的に不利なＡＴ状態）を挙げることができる。ＣＺ状態は、通常中（有利区間）よりもＡＴ状態に移行しやすい状態である。通常中（有利区間）としては、通常ステージを挙げることができ、ＣＺ状態としては、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、及び、連荘チャレンジを挙げることができる。昇格チャンスは、ＡＴ状態に移行することが確定した状態であるところ、このような状態もＣＺ状態に含めることとしてもよい。

【１７７５】

上記「ＡＴ移行抽籤」としては、例えば、通常ステージ中フリーズ抽籤（図１０８のステップＳ４０８１参照）、通常中ロングフリーズ抽籤（図１１３のステップＳ４１０２参照）、天井到達時当籤種別抽籤（図１１８のステップＳ４１４４参照）、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤（図１６５のステップＳ４５２２参照）、連荘チャレンジ中抽籤（図１６５のステップＳ４５２５参照）等を挙げることができる。この例では、通常中（有利区間）とＣＺ状態とで、基本的に異なるＡＴ移行抽籤が行われることとしているが、同じＡＴ移行抽籤が行われることとしてもよい。

【１７７６】

上記「ＣＺ移行抽籤」としては、例えば、連荘チャレンジ移行抽籤（図１００のステップＳ４０２７参照）、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）、ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）等を挙げることができる。通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤及びポイント到達時抽籤は、一部の抽籤結果がＡＴ状態への移行が決定されるものであり、ＡＴ移行抽籤を兼ねている。

【１７７７】

上記「ＣＺ期間抽籤」としては、例えば、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤（図１３４のステップＳ４３０３参照）、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤（図１３４のステップＳ４３０８参照）、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤（図１６５のステップＳ４５２３参照）等を挙げることができる。ＣＺ期間抽籤は、ＣＺ期間の初期値を決定するための抽籤、及び、ＣＺ期間を延長するための抽籤を含む。

【１７７８】

上記「ＡＴ有利度抽籤」としては、例えば、昇格チャンス移行時抽籤（図１３２のステップＳ４２８４参照）、突入時ロングフリーズ抽籤（図１４１のステップＳ４３６３参照）、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）等を挙げることができる。ＡＴ有利度抽籤は、ＡＴ状態に移行することが確定した状態において行うことが可能である。

【１７７９】

上記「参照モード抽籤」としては、例えば、連荘準備モード抽籤（図１００のステップＳ４０２４及びステップＳ４０２６参照）、連荘チャレンジ移行時確定抽籤（図１００のステップＳ４０２９参照）、通常移行時モード抽籤（図１０５のステップＳ４０６１参照）、ポイントモード抽籤（図１０５のステップＳ４０６３、図１２１のステップＳ４１６６、及び、図１３２のステップＳ４２８３参照）、通常規定遊技数高確１移行抽籤（図１１４のステップＳ４１２３参照）、高確２移行抽籤（図１３０のステップＳ４２６２、ステップＳ４２６５、及び、ステップＳ４２６８参照）、昇格チャンスモード抽籤（図１４１のステップＳ４３６４参照）等を挙げることができる。参照モード抽籤は、参照モードの初期値を決定するための抽籤、及び、参照モードを移行させるための抽籤を含む。

【１７８０】

上記「相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な期間を短縮するための処理」としては、相対的に有利な状態（参照モード）から不利な状態（参照モード）へと移行することを決定する（転落抽籤を行う）ための処理、及び、相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な残り期間を減少させるための処理を挙げることができる。転落抽籤としては、例えば、連荘準備転落抽籤（図１００のステップＳ４０３１参照）、高確２転落抽籤（図１３０のステップＳ４２７２参照）等を挙げることができる。相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な残り期間を減少させるための処理としては、例えば、連荘準備保障遊技数カウンタ（図１００のステップＳ４０２３参照）の値、高確２保障遊技数カウンタ（図１３０のステップＳ４２６３、ステップＳ４２６６、及び、ステップＳ４２６９参照）の値、チャンスステージ保障遊技数カウンタ（図１３４のステップＳ４３０４参照）の値、昇格チャンス遊技数カウンタ（図１４１のステップＳ４３６２参照）の値、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（図１６５のステップＳ４５２４参照）の値等を減算する処理を挙げることができる。上記転落後移行先抽籤としては、例えば、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤（図１６５のステップＳ４５２８参照）を挙げることができる。

【１７８１】

上記「ＡＴ状態又はＣＺ状態に移行するまでの期間に関する処理」としては、ＡＴ状態又はＣＺ状態に移行するまでの期間を決定する（前兆期間抽籤を行う）ための処理、及び、ＡＴ状態又はＣＺ状態に移行するまでの残り期間を減少させるための処理を挙げることができる。上記前兆期間抽籤としては、例えば、通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤（図１２５のステップＳ４２０２、ステップＳ４２０５、及び、ステップＳ４２０７参照）、通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤（図１２６のステップＳ４２２２及びステップＳ４２２４）、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤（図１３８のステップＳ４３２４参照）等を挙げることができる。ＡＴ状態又はＣＺ状態に移行するまでの残り期間を減少させるための処理としては、例えば、前兆遊技数カウンタ（図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、及び、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３及びステップＳ４２２５、並びに、図１３８のステップＳ４３２５参照）の値を減算する処理等を挙げることができる。

【１７８２】

上記「ＡＴ移行抽籤又はＣＺ移行抽籤が行われるための条件に関する処理」としては、当該条件として所定の抽籤に当籤することという条件を採用する場合においては、当該所定の抽籤を行うための処理を挙げることができ、当該条件として所定の変数が所定値に達することという条件を採用する場合においては、当該所定値を設定する（条件設定抽籤を行う）ための処理、及び、当該所定の変数を更新する処理を挙げることができる。当該所定の抽籤としては、例えば、天井準備中フラグセット抽籤（図１１８のステップＳ４１４２参照）等を挙げることができる。上記条件設定抽籤としては、例えば、通常移行時天井抽籤（図１０５のステップＳ４０６２参照）等を挙げることができる。当該所定の変数を更新する処理としては、例えば、通常規定遊技数カウンタの値を加算する処理（図１１４のステップＳ４１２１参照）、通常ポイントの値を加算する処理（図１２１のステップＳ４１６３参照）等を挙げることができる。

【１７８３】

上記ＡＴ確定演出は、ＡＴ状態に移行することが決定された場合にのみ行われる演出であり、ＡＴ状態に移行する旨の事実を報知するものであってもよいし、複数種類のＡＴ状態が設けられている場合において移行先のＡＴ状態の種別（上記ＡＴ有利度抽籤の結果）を報知するものであってもよい。ＡＴ確定演出としては、上述したロック演出を採用することが可能であり、当該ロック演出は、疑似遊技を伴うロック演出であってもよいし、リール演出を伴うロック演出であってもよいし、リール演出及び疑似遊技を伴わないロック演出（フリーズ）であってもよい。ＡＴ確定演出として疑似遊技を行うための処理としては、例えば、次回疑似遊技抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６７参照）、今回疑似遊技抽籤処理（図１４１のステップＳ４３７０参照）等を挙げることができる。ＡＴ確定演出としてフリーズを行うための処理としては、例えば、通常ステージ中フリーズ抽籤処理

（図１０８のステップＳ４０８１参照）、通常中ロングフリーズ抽籤処理（図１１３のステップＳ４１０２参照）、突入時ロングフリーズ抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６３参照）等を挙げることができる。

【１７８４】

なお、以上では、ＡＴ関連処理の例として、ＡＴ状態以外の状態で行われる処理を示したが、もちろん、ＡＴ状態において行われる処理もＡＴ関連処理に含まれる。また、有利区間において行われる処理だけでなく、非有利区間において行われる処理も、以上で説明した態様に該当する限り、ＡＴ関連処理であると言える。

【１７８５】

ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理としては、例えば、疑似ＢＩＧ開始時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５３のステップＳ４４０８参照）、１Ｇ連抽籤処理（図１５２のステップＳ４３８４及び図１６１のステップＳ４４８４参照）、最終第２疑似ＢＩＧ終了時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５９のステップＳ４４６４参照）、成立リプ数不足時抽籤処理（図１５７のステップＳ４４４３参照）等を挙げることができる。非有利区間において行われるＡＴ関連処理としては、例えば、有利区間移行抽籤処理（例えば、図９８のステップＳ４００１参照）、有利区間移行時抽籤処理（図９８のステップＳ４００３参照）等を挙げることができる。

【１７８６】

＜カウンター覧＞

図１７１は、主制御回路において管理されるカウンタの一覧を示す図である。

【１７８７】

図１７１では、主制御回路１００において管理される各カウンタの名称とクリアタイミングと加減算タイミングと数値範囲と副制御回路２００への送信の有無とが対応付けて示されている。図中、「ＬＥＶ」は、スタートレバー７が操作されたとき（遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）が行われるとき）を指し、「３ＯＦＦ」は、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したとき（遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５参照）が行われるとき）を指し、「特賞作動中」は、ボーナス状態（図８１に示す３ＢＢ遊技状態）を指している。なお、この例では、ボーナス状態においてＡＴ関連処理を行わないこととしているが、ボーナス状態においてもＡＴ関連処理を行うこととしてもよい。

【１７８８】

連荘準備保障遊技数カウンタは、連荘準備に滞在することが保障される単位遊技の残り回数を管理するカウンタである（図１００のステップＳ４０２３及びステップＳ４０２５参照）。連荘準備保障遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く連荘準備における毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、連荘準備以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。また、連荘準備保障遊技数カウンタの値が０となった単位遊技の次の単位遊技から連荘準備転落抽籤（図１００のステップＳ４０３１参照）が行われることになる。

【１７８９】

出玉用有利区間遊技数カウンタは、有利区間において行われた単位遊技の回数を管理するカウンタである（図１６２参照）。出玉用有利区間遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く有利区間における毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１加算され、非有利区間に移行するときにクリアされる。

【１７９０】

通常規定遊技数カウンタは、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）において行われた単位遊技の回数を管理するカウンタである（図１１４のステップＳ４１２１参照）。通常規定遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常出玉状態における毎回の単位遊技で「ＬＥＶ」（遊技開始時）に１加算され、通常出玉状態以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９１】

前兆遊技数カウンタは、前兆状態に制御される単位遊技の残り回数を管理するカウンタである（図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、及び、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３及びステップＳ４２２５、並びに、図１３８のステップＳ４３２５参照）。前兆遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く前兆状態における毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、出玉状態が移行するときにクリアされる。

【１７９２】

通常ポイントカウンタは、ポイント獲得抽籤（図１２１のステップＳ４１６３参照）で獲得したポイントを管理するカウンタである。ポイント獲得抽籤は、特賞作動中を除く通常ステージにおける毎回の単位遊技で行われる。通常ポイントカウンタの値は、ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）において使用され、ポイント到達時抽籤が行われたとき（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１００減算される。また、通常ポイントカウンタの値は、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９３】

ポイント到達回数カウンタは、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）において通常ポイントの値が１００に到達した回数を管理するカウンタである（図１２１のステップＳ４１６５参照）。ポイント到達回数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージにおいて、確率モードとして高確３がセットされておらず、前兆状態ではなく、ポイント獲得抽籤（図１２１のステップＳ４１６３参照）が行われる前の時点における通常ポイントの値が１００以上である場合に、当該ポイント獲得抽籤が行われた後（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、ポイント到達回数カウンタの値は、通常出玉状態以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９４】

チェリーカウンタは、通常ステージにおいて「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定された回数を管理するカウンタである（図１２１のステップＳ４１６２参照）。チェリーカウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージにおいて「Ｆ＿チェリー」が内部当籤役として決定された場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、チェリーカウンタの値は、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９５】

チャンスステージＡ当籤回数カウンタは、チャンスステージＡに当籤した回数を管理するカウンタである（図１０８のステップＳ４０８２及び図１２１のステップＳ４１６７参照）。チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージ中に行われる通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２）乃至ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）においてチャンスステージＡに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＡに移行するときに１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９６】

ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタは、ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）においてチャンスステージＡに当籤した回数を管理するカウンタである。ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージ中に行われるポイント到達時抽籤においてチャンスステージＡに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＡに移行するときに１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９７】

チャンスステージＢ当籤回数カウンタは、チャンスステージＢに当籤した回数を管理するカウンタである（図１０８のステップＳ４０８２及び図１２１のステップＳ４１６７参照）。チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージ中に行われる通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２）乃至ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）においてチャンスステージＢに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＢに移行するときに１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９８】

ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタは、ポイント到達時抽籤（図１２１のステップＳ４１６７参照）においてチャンスステージＢに当籤した回数を管理するカウンタである。ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージ中に行われるポイント到達時抽籤においてチャンスステージＢに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタの値は、チャンスステージＢに移行するときに１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１７９９】

チャンスステージ保障遊技数カウンタは、チャンスステージＡ乃至チャンスステージＢに滞在することが保障される単位遊技の残り回数を管理するカウンタである（図１３４のステップＳ４３０４参照）。チャンスステージ保障遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除くチャンスステージＡ乃至チャンスステージＢにおける毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。また、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０となった単位遊技の次の単位遊技において通常ステージへと移行する。

【１８００】

高確１遊技数カウンタは、高確１に滞在可能な単位遊技の残り回数を管理するカウンタであり、通常規定遊技数高確１移行抽籤（図１１４のステップＳ４１２３参照）において高確１に当籤したときに「５０」がセットされる。高確１遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）において、高確１がセットされている状態における毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１８０１】

高確２保障遊技数カウンタは、高確２に滞在することが保障される単位遊技の残り回数を管理するカウンタである（図１３０のステップＳ４２６３、ステップＳ４２６６、及び、ステップＳ４２６９参照）。高確２保障遊技数カウンタの値は、特賞作動中を除く通常ステージにおいて、高確２がセットされている状態における毎回の単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、通常ステージ以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。また、高確２保障遊技数カウンタの値が０となった単位遊技の次の単位遊技から高確２転落抽籤（図１３０のステップＳ４２７２参照）が行われることになる。

【１８０２】

第１ベルナビ回数カウンタは、第１疑似ＢＩＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数を管理するカウンタである（図１５３のステップＳ４４０４参照）。第１ベルナビ回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧにおいてベルナビが行われた単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、疑似ＢＩＧが終了するときにクリアされる。

【１８０３】

通常リプ残り入賞回数カウンタは、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行可能な

残り回数を管理するカウンタである（図１５３のステップＳ４４０５参照）。以上の説明において、通常リプ残り入賞回数カウンタの値は、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧへと移行する（第１疑似ＢＩＧにおいて通常リプが入賞した）ときに１減算されることとしたが（図１５６のステップＳ４４２５参照）、ここでは、第１疑似ＢＩＧから第２疑似ＢＩＧに移行した後当該第２疑似ＢＩＧが終了するとき（「３ＯＦＦ」（遊技終了時））、すなわち、図１５６のステップＳ４４３４の判断結果が「ＹＥＳ」となったときに１減算されることとする。また、通常リプ残り入賞回数カウンタの値は、疑似ＢＩＧが終了するときにクリアされる。

【１８０４】

第２ベルナビ回数カウンタは、第２疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数を管理するカウンタであり、第２疑似ＢＩＧが開始するときに「９」がセットされ、疑似ＲＥＧが開始するときに「５」がセットされる（図１５６のステップＳ４４２７及び図１６１のステップＳ４４８２参照）。第２ベルナビ回数カウンタの値は、第２疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧにおいてベルナビが行われた単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１減算され、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが終了するときにクリアされる。

【１８０５】

疑似ＢＩＧストックカウンタは、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧの終了条件が成立したときに疑似ＢＩＧに制御可能な残り回数を管理するカウンタである（図１５７のステップＳ４４４１及びステップＳ４４４４、並びに、図１５９のステップＳ４４６１参照）。以上の説明では、疑似ＲＥＧの終了条件が成立したときに疑似ＢＩＧに制御するか否かは、疑似ＢＩＧ当籤フラグにより管理することとしたが（図１６４のステップＳ４５０４参照）、ここでは、疑似ＲＥＧにおいても、疑似ＢＩＧと同様に、疑似ＢＩＧストックカウンタにより管理することとしている。疑似ＢＩＧストックカウンタの値は、１Ｇ連抽籤（図１５２のステップＳ４３８４及び図１６１のステップＳ４４８４参照）において疑似ＢＩＧに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算され、疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが終了して新たな疑似ＢＩＧに移行するときに１減算される。また、疑似ＢＩＧストックカウンタの値は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）（エンディングＢＢ）に移行するときにクリアされる。

【１８０６】

なお、以上の説明では、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）フラグ（図１５３のステップＳ４４０６参照）を用いて、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続することが制御されることとしたが、ここでは、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）が疑似ＢＩＧとは別の出玉状態として、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）において管理されていることとする。これにより、１Ｇ連抽籤（図１５２のステップＳ４３８４及び図１６１のステップＳ４４８４参照）等において疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した場合には、出玉状態としての疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に移行することになる。疑似ＢＩＧ（ＥＤ）は、有利区間が終了するまで疑似ＢＩＧが継続する出玉状態であってもよいし、疑似ＢＩＧ開始時に疑似ＢＩＧストックカウンタの値に２が加算される点を除いて、通常の疑似ＢＩＧと同じ出玉状態であってもよい。

【１８０７】

第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタは、第１疑似ＢＩＧ中にリプレイ（「Ｆ＿リプレイＡ」又は「Ｆ＿リプレイＢ」）が内部当籤役として決定された回数を管理するカウンタである（図１５６のステップＳ４４２３参照）。第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値は、第１疑似ＢＩＧにおいてリプレイが内部当籤役として決定された単位遊技で「３ＯＦＦ」（遊技終了時）に１加算される。また、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタの値は、疑似ＢＩＧ若しくは疑似ＲＥＧが終了するとき、又は、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に移行するときにクリアされる。

【１８０８】

通常モードカウンタは、通常モードを管理するカウンタであり、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）以外の出玉状態から通常出玉状態に移行したとき（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に、通常移行時モード抽籤（図１０５

のステップＳ４０６１参照）において決定された値がセットされる。通常モードカウンタの値は、通常出玉状態及び昇格チャンス以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１８０９】

ポイントモードカウンタは、ポイントモードを管理するカウンタであり、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）中（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に行われるポイントモード抽籤（図１０５のステップＳ４０６３、図１２１のステップＳ４１６６、及び、図１３２のステップＳ４２８３参照）において決定された値がセットされる。ポイントモードカウンタの値は、通常出玉状態及び昇格チャンス以外の出玉状態に移行するときにクリアされる。

【１８１０】

連荘チャレンジ当籤回数カウンタは、非有利区間乃至連荘準備において連荘チャレンジに当籤した回数を管理するカウンタである。連荘チャレンジ当籤回数カウンタの値は、有利区間移行時抽籤（図９８のステップＳ４００３参照）乃至連荘チャレンジ移行抽籤（図１００のステップＳ４０２７参照）において連荘チャレンジに当籤した場合（「ＬＥＶ」（遊技開始時））に１加算される。また、連荘チャレンジ当籤回数カウンタの値は、通常出玉状態（通常ステージ、チャンスステージＡ、及び、チャンスステージＢ）に移行するとき、並びに、疑似ボーナス（疑似ＢＩＧ、疑似ＢＩＧ（ＥＤ）、若しくは、疑似ＲＥＧ）が終了するときにクリアされる。

【１８１１】

＜レバーオン時ＡＴ関連処理＞

図１７２は、主制御回路において行われるレバーオン時ＡＴ関連処理を示すフローチャートである。

【１８１２】

図１７２に示すレバーオン時ＡＴ関連処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ６の処理（遊技開始時状態制御処理）で行われる処理である。

【１８１３】

レバーオン時ＡＴ関連処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、ペナルティの影響を受けない処理を実行する（ステップＳ４６０１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、上述したＡＴ関連処理のうちの一部の処理を実行し、当該ＡＴ関連処理の結果に基づいて各種情報（カウンタやフラグ等）を更新する。

【１８１４】

ステップＳ４６０１で行われる処理としては、遊技者にとって不利な処理、ＡＴ確定演出を行うための処理、一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理、一の出玉状態が終了するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の最終ゲームである場合）に行われる処理等を挙げることができる。また、ＡＴ状態乃至非有利区間において行われるＡＴ関連処理も、ステップＳ４６０１で行われる処理に含まれる。

【１８１５】

上記「遊技者にとって不利な処理」としては、例えば、連荘準備転落抽籤処理（図１００のステップＳ４０３１参照）や高確２転落抽籤処理（図１３０のステップＳ４２７２参照）等を挙げることができる。連荘準備転落抽籤処理及び高確２転落抽籤処理は、上述した「相対的に有利な状態（参照モード）から不利な状態（参照モード）へと移行することを決定する（転落抽籤を行う）ための処理」である。

【１８１６】

上記「ＡＴ確定演出を行うための処理」としては、例えば、通常中ロングフリーズ抽籤処理（図１１３のステップＳ４１０２参照）や突入時ロングフリーズ抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６３参照）等を挙げることができる。通常中ロングフリーズ抽籤処理及び突入時ロングフリーズ抽籤処理は、上述した「ＡＴ確定演出としてフリーズを行うための処理」である。上述したように、一の単位遊技において通常中ロングフリーズ抽籤処理乃至突入時ロングフリーズ抽籤に当籤した場合には、当該単位遊技における遊技開始時メ

イン側演出制御処理（図２３のステップＳ８参照）で、ロングフリーズの実行が制御される。これにより、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する前（第１停止操作が行われる前）にロングフリーズが発生する。

【１８１７】

上記「一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理」としては、例えば、連荘準備モード抽籤処理（図１００のステップＳ４０２４及びステップＳ４０２６参照）、通常移行時モード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６１参照）、通常移行時天井抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６２参照）、ポイントモード抽籤処理（図１０５のステップＳ４０６３参照）、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤処理（図１３４のステップＳ４３０３参照）、昇格チャンスモード抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６４参照）、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤処理（図１６５のステップＳ４５２２参照）、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤処理（図１６５のステップＳ４５２３参照）等を挙げることができる。

【１８１８】

これらの処理のうち、連荘準備モード抽籤処理、通常移行時モード抽籤処理、ポイントモード抽籤処理、及び、昇格チャンスモード抽籤処理は、上述した「ＡＴ移行抽籤、ＣＺ移行抽籤、又は、ＡＴ有利度抽籤において参照されるモード（参照モード）を設定する（参照モード抽籤を行う）ための処理」である。なお、ポイントモード抽籤処理は、通常ステージが開始するとき（図１０５のステップＳ４０６３参照）、通常ポイントの値が１００に到達したとき（図１２１のステップＳ４１６６参照）、及び、通常出玉状態から昇格チャンスに移行するとき（図１３２のステップＳ４２８３参照）に行われるところ、ここでは、これらのポイントモード抽籤処理のうち、通常ステージが開始するときに行われるポイントモード抽籤処理だけをステップＳ４６０１の処理対象とする。

【１８１９】

また、チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤処理、及び、連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤処理は、上述した「ＣＺ状態が継続可能な期間（ＣＺ期間）を設定する（ＣＺ期間抽籤を行う）ための処理」である。また、通常移行時天井抽籤処理は、上述した「ＡＴ移行抽籤又はＣＺ移行抽籤が行われるための条件に関する処理」である。また、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤処理は、上述した「ＡＴ状態に移行することを直接決定する（ＡＴ移行抽籤を行う）ための処理」である。

【１８２０】

上記「一の出玉状態が終了するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の最終ゲームである場合）に行われる処理」としては、例えば、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤（図１６５のステップＳ４５２８参照）等を挙げることができる。連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤は、上述した「相対的に有利な状態（参照モード）の終了後に移行する状態（参照モード）を決定する（転落後移行先抽籤を行う）ための処理」である。

【１８２１】

ステップＳ４６０１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、バックアップ処理を実行する（ステップＳ４６０２）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、ＡＴ関連パラメータをメインＲＡＭ１０３の所定領域にバックアップデータとして記憶させる。ＡＴ関連パラメータとは、ＡＴ関連処理が行われた結果として更新され得る各種情報（カウンタやフラグ等）である。例えば、図１７１に示すカウンタや各種当籤フラグ等がＡＴ関連パラメータに含まれる。当籤フラグは、ＡＴ移行抽籤乃至ＣＺ移行抽籤に当籤したことを示すフラグ（例えば、疑似ＢＩＧ当籤フラグ、昇格チャンス当籤フラグ、連荘チャレンジ当籤フラグ等）である。

【１８２２】

ステップＳ４６０２の処理が行われることにより、多くのＡＴ関連パラメータは、バックアップデータとして記憶されることになるが、一部のＡＴ関連パラメータは、バックアップデータとして記憶されないこととされている（バックアップの対象外となっている）。「ペナルティの影響を受けない処理」（ステップＳ４６０１及び図１７３のステップＳ

４６２６参照）が行われることにより更新され得る情報については、基本的にバックアップの対象外とすることができる。

【１８２３】

例えば、バックアップの対象外となっているＡＴ関連パラメータとしては、上述した「相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な残り期間を減少させるための処理」が行われることにより更新され得る情報、ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理により更新され得る情報、上述した「一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理」が行われることにより更新され得る情報等を挙げることができる。

【１８２４】

上記「相対的に有利な状態（参照モード）が継続可能な残り期間を減少させるための処理が行われることにより更新され得る情報」としては、例えば、連荘準備保障遊技数カウンタ（図１００のステップＳ４０２３参照）、高確２保障遊技数カウンタ（図１３０のステップＳ４２６３、ステップＳ４２６６、及び、ステップＳ４２６９参照）、チャンスステージ保障遊技数カウンタ（図１３４のステップＳ４３０４参照）、昇格チャンス遊技数カウンタ（図１４１のステップＳ４３６２参照）、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（図１６５のステップＳ４５２４参照）、高確１遊技数カウンタ（図１１４のステップＳ４１２３参照）等を挙げることができる。

【１８２５】

上記「ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理により更新され得る情報」としては、例えば、第１ベルナビ回数カウンタ（図１５３のステップＳ４４０４参照）、通常リプ残り入賞回数カウンタ（図１５３のステップＳ４４０５参照）、第２ベルナビ回数カウンタ（図１５６のステップＳ４４２７及び図１６１のステップＳ４４８２参照）、第１疑似ＢＩＧ中成立リプカウンタ（図１５６のステップＳ４４２３参照）、疑似ボーナス終了後連荘チャレンジ当籤フラグ（図１５３のステップＳ４４０８及び図１６１のステップＳ４４８３参照）、疑似ＢＩＧストックカウンタ（図１５７のステップＳ４４４１及びステップＳ４４４４、並びに、図１５９のステップＳ４４６１参照）、１Ｇ連抽籤（図１５２のステップＳ４３８４及び図１６１のステップＳ４４８４参照）において疑似ＢＩＧ（ＥＤ）に当籤した場合にセットされるフラグ等を挙げることができる。なお、ここでは、ＡＴ状態においてオンにセットされる連荘チャレンジ当籤フラグを、ＡＴ状態以外の状態においてオンにセットされる連荘チャレンジ当籤フラグと区別して、疑似ボーナス終了後連荘チャレンジ当籤フラグと表記している。ＡＴ状態において確定連荘チャレンジフラグがセットされることがある場合には、当該フラグ（疑似ボーナス終了後確定連荘チャレンジフラグ）も、「ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理により更新され得る情報」に含めることができる。

【１８２６】

上記「一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理が行われることにより更新され得る情報」としては、例えば、連荘準備モードカウンタ、通常モードカウンタ、昇格チャンスモードカウンタ等を挙げることができる。連荘準備モードカウンタ、通常モードカウンタ、及び、昇格チャンスモードカウンタは、それぞれ、連荘準備モード、通常モード、及び、昇格チャンスモードを管理するカウンタである。連荘準備モードカウンタ、通常モードカウンタ、及び、昇格チャンスモードカウンタは、それぞれ、連荘準備モード抽籤処理、通常移行時モード抽籤処理、及び、昇格チャンスモード抽籤処理が行われることにより更新され得る情報である。連荘準備モード抽籤処理、通常移行時モード抽籤処理、及び、昇格チャンスモード抽籤処理は、上述した「一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理」である。なお、ポイントモード抽籤処理も、「一の出玉状態が開始するとき（今回の単位遊技が当該出玉状態の１ゲーム目である場合）に行われる処理」に含まれるが、当該処理は、通常ステージが開始するとき（図１０５のステップＳ４０６３参照）の他に、通常ポイントの値が１００に到達したとき（図１２１のステップ

Ｓ４１６６参照）及び通常出玉状態から昇格チャンスに移行するとき（図１３２のステップＳ４２８３参照）にも行われる点に鑑み、ここでは、ポイントモードカウンタ（ポイントモードを管理するカウンタ）をバックアップの対象としている。

【１８２７】

以上で説明したバックアップの対象外となっているＡＴ関連パラメータ以外のＡＴ関連パラメータについては、バックアップの対象とすることができる。ここでは、ステップＳ４６０３の処理乃至図１７３のステップＳ４６２１の処理が行われることにより更新され得る情報については、バックアップの対象としている。

【１８２８】

例えば、バックアップの対象となっているＡＴ関連パラメータとしては、上述した「ＡＴ状態に移行することを直接決定する（ＡＴ移行抽籤を行う）ための処理」乃至「ＣＺ状態（ＣＺ）に移行することを決定する（ＣＺ移行抽籤を行う）ための処理」が行われることにより更新され得る情報、各種状態（参照モード）を示す情報等を挙げることができる。

【１８２９】

上記『「ＡＴ状態に移行することを直接決定する（ＡＴ移行抽籤を行う）ための処理」乃至「ＣＺ状態（ＣＺ）に移行することを決定する（ＣＺ移行抽籤を行う）ための処理」が行われることにより更新され得る情報』としては、例えば、チャンスステージＡ当籤回数カウンタ、ポイント到達時チャンスステージＡ当籤回数カウンタ、チャンスステージＢ当籤回数カウンタ、ポイント到達時チャンスステージＢ当籤回数カウンタ、昇格チャンス当籤フラグ、ポイント到達時昇格チャンス当籤フラグ、疑似ＢＩＧ当籤フラグ、ポイント到達時疑似ＢＩＧ当籤フラグ等を挙げることができる。

【１８３０】

上記「各種状態（参照モード）を示す情報」としては、例えば、図９３に示す出玉状態（非有利区間、通常ステージ、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、連荘準備、連荘チャレンジ、昇格チャンス、疑似ＢＩＧ、及び、疑似ＲＥＧ）を示す情報、確率モード（非高確、高確１、高確２、及び、高確３）を示す情報、出玉状態に対して補佐的な役割を果たすための情報等を挙げることができる。出玉状態を示す情報としては、現在の出玉状態（現在出玉状態）を示す情報、次回の出玉状態（次回出玉状態）を示す情報等を挙げることができる。現在出玉状態は、出玉状態フラグ格納領域（図２０参照）において管理されており、次回出玉状態も同様に、次回出玉状態フラグ格納領域（図示せず）において管理されている。

【１８３１】

次回出玉状態としては、「なし」、「次回非有利区間」、「次回通常ステージ」、「次回チャンスステージＡ」、「次回チャンスステージＢ」、「次回連荘準備」、「次回連荘チャレンジ」、「次回昇格チャンス」、「次回疑似ＢＩＧ」、及び、「次回疑似ＲＥＧ」が設けられている。前兆状態に制御される場合には、次回出玉状態フラグ格納領域において、何れかの次回出玉状態に対応するビットに「１」が格納されることになる。例えば、現在出玉状態が「通常ステージ」であり、次回出玉状態が「次回チャンスステージＡ」である場合には、通常ステージにおいてチャンスステージＡに当籤したことにより前兆状態に制御されていることを示す。前兆遊技数カウンタの値が０になったときに次回出玉状態が「なし」以外である場合には、当該次回出玉状態に対応する出玉状態に移行する。一方、前兆遊技数カウンタの値が０になったときに次回出玉状態が「なし」である場合には、現在出玉状態が継続する。

【１８３２】

出玉状態に対して補佐的な役割を果たすための情報としては、天井準備中（図１１４のステップＳ４１２５参照）であることを示す情報（天井到達状態フラグ）、天井フェイク準備中（図１１４のステップＳ４１２７参照）であることを示す情報（天井フェイク状態フラグ）、確定連荘チャレンジフラグ（図９８のステップＳ４００３及び図１００のステップＳ４０２９参照）、連荘準備開始時において３ＢＢフラグ間状態（図１００のステッ

プＳ４０２２参照）ではないことを示す情報（連荘準備開始時非内部中状態フラグ）等を挙げることができる。また、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧについては、適宜フラグ（疑似ＢＩＧ作動状態フラグ、疑似ＲＥＧ作動状態フラグ、第２疑似ＢＩＧ開始状態フラグ、第２疑似ＢＩＧ作動状態フラグ等）により管理することが可能であり、これらのフラグも、出玉状態に対して補佐的な役割を果たすための情報と言える。

【１８３３】

なお、出玉状態を示す情報としては、前回の出玉状態（前回出玉状態）を示す情報も管理されているが、当該情報については、バックアップの対象外となっている。前回出玉状態は、前回の単位遊技において滞在していた出玉状態であり、前回出玉状態と現在出玉状態とを比較することにより、出玉状態の遷移の有無をチェックすることができる。

【１８３４】

また、図１７１に示すカウンタのうち、バックアップの対象外として上述したカウンタ以外のカウンタ（出玉用有利区間遊技数カウンタ、通常規定遊技数カウンタ、前兆遊技数カウンタ、通常ポイントカウンタ、ポイント到達回数カウンタ、チェリーカウンタ、ポイントモードカウンタ、連荘チャレンジ当籤回数カウンタ等）については、バックアップの対象となっている。また、図１７１には示していないが、天井準備中遊技数カウンタ（図１１８のステップＳ４１４２参照）も、バックアップの対象となっている。

【１８３５】

ステップＳ４６０２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、レバーオン時の各種ＡＴ関連処理を実行する（ステップＳ４６０３）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、スタートレバー７が操作されたとき（遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）が行われるとき）に行われるＡＴ関連処理のうち、ステップＳ４６０１で行われる処理以外のＡＴ関連処理を実行する。図９８～図１７０を用いて遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において行われるものとして説明した処理のうち、ステップＳ４６０１で行われない処理については、全てステップＳ４６０３乃至ステップＳ４６０４で行われることになる。

【１８３６】

具体的に、ステップＳ４６０３で行われる処理としては、連荘チャレンジ移行抽籤処理（図１００のステップＳ４０２７参照）、連荘チャレンジ移行時確定処理抽籤（図１００のステップＳ４０２９参照）、通常ステージ中フリーズ抽籤処理（図１０８のステップＳ４０８１参照）、通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤処理（図１０８のステップＳ４０８２参照）、通常規定遊技数高確１移行抽籤処理（図１１４のステップＳ４１２３参照）、天井準備中フラグセット抽籤処理（図１１８のステップＳ４１４２参照）、天井到達時当籤種別抽籤処理（図１１８のステップＳ４１４４参照）、ポイントモード抽籤処理（図１２１のステップＳ４１６６参照）、ポイント到達時抽籤処理（図１２１のステップＳ４１６７参照）、通常ステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤処理（図１２５のステップＳ４２０２、ステップＳ４２０５、及び、ステップＳ４２０７参照）、通常ステージ中チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤処理（図１２６のステップＳ４２２２及びステップＳ４２２４参照）、高確２移行抽籤処理（図１３０のステップＳ４２６２、ステップＳ４２６５、及び、ステップＳ４２６８参照）、昇格チャンス移行時抽籤処理（図１３２のステップＳ４２８４参照）、チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤処理（図１３４のステップＳ４３０６参照）、チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤処理（図１３４のステップＳ４３０８参照）、チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤処理（図１３８のステップＳ４３２４参照）、昇格チャンス中抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６６参照）、次回疑似遊技抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６７参照）、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６９参照）、今回疑似遊技抽籤処理（図１４１のステップＳ４３７０参照）、連荘チャレンジ中抽籤処理（図１６５のステップＳ４５２５参照）等を挙げることができる。

【１８３７】

これらの処理は、基本的に遊技者にとって有利な処理であり、上述した「有利決定」に

相当するものである。本変形例では、後述するペナルティ条件（図１７３のステップＳ４６２３参照）が成立する場合に、このような有利決定が行われることが制限される（有利決定の結果がキャンセルされる）ことになる。

【１８３８】

なお、上述した「ＡＴ確定演出としてフリーズを行うための処理」のうち、通常中ロングフリーズ抽籤処理（図１１３のステップＳ４１０２参照）及び突入時ロングフリーズ抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６３参照）については、ステップＳ４６０１で行われる。これに対し、通常ステージ中フリーズ抽籤処理（図１０８のステップＳ４０８１参照）は、ステップＳ４６０３で行われることとしている。上述したように、通常中ロングフリーズ抽籤乃至突入時ロングフリーズ抽籤の結果として制御されるロングフリーズは、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する前（第１停止操作が行われる前）に発生する。これに対し、通常ステージ中フリーズ抽籤の結果として制御されるフリーズは、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止した後（第３停止操作が行われた後）に発生する。この点で、通常ステージ中フリーズ抽籤処理は、通常中ロングフリーズ抽籤処理及び突入時ロングフリーズ抽籤処理と異なっている。

【１８３９】

ステップＳ４６０３の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４６０３で行われたＡＴ関連処理の結果に基づいて各種情報（カウンタやフラグ等）を更新する（ステップＳ４６０４）。また、この処理において、メインＣＰＵ１０１は、バックアップの対象となっているカウンタのうち、スタートレバー７が操作されたとき（図１７１に示す「ＬＥＶ」）に加減算が実行され得るもの（例えば、通常規定遊技数カウンタ、通常ポイントカウンタ、ポイント到達回数カウンタ、チェリーカウンタ、ポイントモードカウンタ、連荘チャレンジ当籤回数カウンタ等）について、加減算のタイミングである場合には、その値を更新する。ステップＳ４６０４の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終了する。

【１８４０】

＜全停止時ＡＴ関連処理＞

図１７３は、主制御回路において行われる全停止時ＡＴ関連処理を示すフローチャートである。

【１８４１】

図１７３に示す全停止時ＡＴ関連処理は、主制御回路１００において図２３（メイン処理）のステップＳ１５の処理（遊技終了時状態制御処理）で行われる処理である。

【１８４２】

全停止時ＡＴ関連処理において、まず、メインＣＰＵ１０１は、全停止時の各種ＡＴ関連処理を実行する（ステップＳ４６２１）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したとき（遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５参照）が行われるとき）に行われるＡＴ関連処理のうち、ステップＳ４６２６で行われる処理以外のＡＴ関連処理を実行する。図９８～図１７０を用いて遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５参照）において行われるものとして説明した処理のうち、ステップＳ４６２６で行われない処理については、全てステップＳ４６２１乃至ステップＳ４６２２で行われることになる。

【１８４３】

なお、以上では、昇格チャンス前処理（図１１３のステップＳ４１０５参照）、及び、高確２移行抽籤処理（３）（図１３０のステップＳ４２６７～ステップＳ４２６９参照）が遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において行われることとして説明したが、ここでは、昇格チャンス前処理（図１１３のステップＳ４１０５参照）、及び、高確２移行抽籤処理（３）（図１３０のステップＳ４２６７～ステップＳ４２６９参照）が遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５参照）において行われることとする。また、ステップＳ４６２１において、ペナルティ条件（ステップＳ４６２３参照）が成立するか否かを判断し、ペナルティ条件が成立すると判断した場合には、高確２移行抽

籤処理（３）を実行しないこととしてもよい。
【１８４４】
　ステップＳ４６２１の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ステップＳ４６２１で行われたＡＴ関連処理の結果に基づいて各種情報（カウンタやフラグ等）を更新する（ステップＳ４６２２）。また、この処理において、メインＣＰＵ１０１は、バックアップの対象となっているカウンタのうち、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したとき（図１７１に示す「３ＯＦＦ」）に加減算が実行され得るもの（例えば、出玉用有利区間遊技数カウンタ、前兆遊技数カウンタ等）について、加減算のタイミングである場合には、その値を更新する。
【１８４５】
　ステップＳ４６２２の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ペナルティ条件が成立するか否かを判断する（ステップＳ４６２３）。ここで、ペナルティ条件は、下記（ａ）～（ｇ）の全てが成立することである。
【１８４６】
（ａ）非有利区間中（有利区間に移行する単位遊技を含む）ではないこと
（ｂ）第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われること
（ｃ）疑似ＢＩＧ中ではないこと
（ｄ）疑似ＲＥＧ中ではないこと
（ｅ）疑似ＢＩＧ（ＥＤ）中ではないこと
（ｆ）通常ステージ中乃至連荘準備中である場合において、内部当籤役として、「はずれ」、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、及び、「Ｆ＿１枚役Ｂ」が何れも決定されていないこと
（ｇ）ボーナス状態（図８１に示す３ＢＢ遊技状態）中ではないこと
　上述したように、通常ステージにおいて、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合に、昇格チャンス及び疑似ＢＩＧの何れにも当籤していないときには、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作を行うことが報知（変則押しナビ）される。この場合、変則押しナビに従った停止操作が行われたにもかかわらずペナルティを発生させることは妥当でない。そこで、通常ステージにおいて、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合には、ペナルティ条件が成立しないこととされている（上記（ｆ））。
【１８４７】
　また、通常ステージにおいて「はずれ」が内部当籤役として決定された場合においても、第１停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作が行われると、遊技者に「リーチ目」と受け取られる可能性のある図柄組合せ（例えば、左リール３Ｌにおいて「ブイ」が３つ表示される出目）が出現する可能性があるため、同様に変則押しナビが行われることとしている。また、変則押しナビが発生する場面が限定されると、変則押しナビが発生したことに基づいて遊技者がＡＴ関連処理の結果を推測することができてしまう可能性がある。そこで、通常ステージにおいて、「Ｆ＿１枚役Ａ」及び「Ｆ＿１枚役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にも、同様に変則押しナビが行われることとしている。これにより、通常ステージにおいて、「Ｆ＿リーチ目役Ａ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｂ」、「Ｆ＿リーチ目役Ｃ」、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ａ」、及び、「Ｆ＿ＢＢ確定役Ｂ」に加え、「はずれ」、「Ｆ＿１枚役Ａ」、及び、「Ｆ＿１枚役Ｂ」のうちの何れかが内部当籤役として決定された場合にも、ペナルティ条件が成立しないこととされている。連荘準備についても、同様に、これらの役が内部当籤役として決定された場合に、ペナルティ条件が成立しないこととされている（上記（ｆ））。

【１８４８】
　ステップＳ４６２３においてペナルティ条件が成立すると判断した場合、メインＣＰＵ１０１は、バックアップ情報を各種カウンタ／フラグに代入する（ステップＳ４６２４）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、図１７２のステップＳ４６０４乃至図１７３のステップＳ４６２２により更新した後の情報（カウンタやフラグ等）に、図１７２のステップＳ４６０２でバックアップデータとして記憶した情報（カウンタやフラグ等）を上書きする。これにより、当該更新した後の情報から、当該バックアップデータとして記憶した情報へと、ＡＴ関連パラメータが変更される。すなわち、当該ＡＴ関連パラメータは、前回の単位遊技の時点で記憶されていた情報に戻り、今回の単位遊技において行われたＡＴ関連処理の結果がキャンセルされることになる。

【１８４９】
　そして、メインＣＰＵ１０１は、次の単位遊技において疑似遊技を行うことが決定されている場合、当該疑似遊技情報を破棄する（ステップＳ４６２５）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、図１７２のステップＳ４６０４乃至図１７３のステップＳ４６２２の処理が行われることにより、次の単位遊技において疑似遊技を行うことを示す情報（疑似遊技情報）が記憶された場合に、当該疑似遊技情報を消去する。例えば、メインＣＰＵ１０１は、現在の出玉状態が昇格チャンスである場合に、次回疑似遊技抽籤（図１４１のステップＳ４３６７参照）により決定された疑似遊技がセットされたとき、当該疑似遊技を示す情報を消去する。これにより、当該次回疑似遊技抽籤が行われた単位遊技の次の単位遊技において行われる予定であった疑似遊技がキャンセルされることになる。

【１８５０】
　ここで、ステップＳ４６２５の処理において破棄される疑似遊技情報は、図１７２のステップＳ４６０３乃至図１７３のステップＳ４６２１で行われたＡＴ関連処理の結果に基づいて更新されるものである。この点、上述したように、次回疑似遊技抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６７参照）は、図１７２のステップＳ４６０３で行われるのに対し、通常中ロングフリーズ抽籤処理（図１１３のステップＳ４１０２参照）は、図１７２のステップＳ４６０１で行われる。通常中ロングフリーズ抽籤に当籤した場合にも、次の単位遊技において疑似遊技を行うことが決定されることになるが、この場合には、ステップＳ４６２５の処理対象とならず、当該疑似遊技はキャンセルされない。

【１８５１】
　ステップＳ４６２３においてペナルティ条件が成立しないと判断した場合、又は、ステップＳ４６２５の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、ペナルティの影響を受けない処理を実行する（ステップＳ４６２６）。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、上述したＡＴ関連処理のうちの一部の処理を実行し、当該ＡＴ関連処理の結果に基づいて各種情報（カウンタやフラグ等）を更新する。ステップＳ４６２６で行われる処理としては、遊技者にとって不利な処理、ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理等を挙げることができる。

【１８５２】
　ステップＳ４６２６の処理において、メインＣＰＵ１０１は、上記「遊技者にとって不利な処理」として、例えば、連荘準備保障遊技数カウンタ（図１００のステップＳ４０２３参照）、高確２保障遊技数カウンタ（図１３０のステップＳ４２６３、ステップＳ４２６６、及び、ステップＳ４２６９参照）、チャンスステージ保障遊技数カウンタ（図１３４のステップＳ４３０４参照）、昇格チャンス遊技数カウンタ（図１４１のステップＳ４３６２参照）、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（図１６５のステップＳ４５２４参照）、高確１遊技数カウンタ（図１１４のステップＳ４１２３参照）について、その値を更新（１減算）する。また、メインＣＰＵ１０１は、チャンスステージ保障遊技数カウンタの値が０である場合に、通常ステージへと移行させる（図１４０のステップＳ４３４４参照）。

【１８５３】
　上記「ＡＴ状態において行われるＡＴ関連処理」としては、例えば、最終第２疑似ＢＩ

Ｇ終了時連荘チャレンジ抽籤処理（図１５９のステップＳ４４６４参照）、成立リプ数不足時抽籤処理（図１５７のステップＳ４４４３参照）等を挙げることができる。また、メインＣＰＵ１０１は、上述した前回出玉状態を示す情報を更新する。

【１８５４】

また、ステップＳ４６２６の処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備転落抽籤処理（図１００のステップＳ４０３１参照）の補足例外処理を実行する。この処理は、図１７２のステップＳ４６０１で行われる連荘準備転落抽籤に当籤した場合において、図１７２のステップＳ４６０３で行われる連荘チャレンジ移行抽籤（図１００のステップＳ４０２７参照）にも当籤し、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされている場合、当該連荘準備転落抽籤の結果を破棄する処理である。これにより、当該補足例外処理が実行される結果として、次の単位遊技において連荘チャレンジに移行することになる。一方、連荘準備転落抽籤に当籤し、連荘チャレンジ移行抽籤にも当籤したが、ペナルティ条件が成立した場合には、ステップＳ４６２４で連荘チャレンジ移行フラグがオフにセットされる。従って、この場合には、当該補足例外処理が実行されず、次の単位遊技において通常ステージに移行することになる。

【１８５５】

また、ステップＳ４６２６の処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤処理（図１６５のステップＳ４５２８参照）の補足例外処理を実行する。この処理は、図１７２のステップＳ４６０１で行われる連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤が行われた結果として、非有利区間乃至連荘準備に移行することが予約された場合において、図１７２のステップＳ４６０３で行われる連荘チャレンジ中抽籤処理（図１６５のステップＳ４５２５参照）で昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤し、昇格チャンス当籤フラグ乃至疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされている場合、当該連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤の結果を破棄する処理である。これにより、当該補足例外処理が実行される結果として、次の単位遊技において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに移行することになる。一方、連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤により非有利区間乃至連荘準備に移行することが予約され、連荘チャレンジ中抽籤において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤したが、ペナルティ条件が成立した場合には、ステップＳ４６２４で昇格チャンス当籤フラグ乃至疑似ＢＩＧ当籤フラグがオフにセットされる。従って、この場合には、当該補足例外処理が実行されず、次の単位遊技において非有利区間乃至連荘準備に移行することになる。また、図１６５では、ステップＳ４５２７の判断結果が「ＮＯ」となった場合に連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤処理を実行することとして説明したが、ステップＳ４５２７の処理を行わずに（昇格チャンス当籤フラグ乃至疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされているか否かにかかわらず）連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤処理を実行することとしてもよい。この場合には、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤（図１６５のステップＳ４５２２参照）において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤した場合にも、当該補足例外処理を実行することとすればよい。なお、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤処理は、図１７２のステップＳ４６０１で行われるため、連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤において昇格チャンス乃至疑似ＢＩＧに当籤した場合、ペナルティ条件が成立したとしても、ステップＳ４６２４で昇格チャンス当籤フラグ乃至疑似ＢＩＧ当籤フラグがオフにセットされることはない。

【１８５６】

また、ステップＳ４６２６の処理において、メインＣＰＵ１０１は、連荘準備転落抽籤処理（図１００のステップＳ４０３１参照）の補足例外処理を実行する。この処理は、図１７２のステップＳ４６０１で行われる連荘準備転落抽籤に当籤した場合において、図１７２のステップＳ４６０３で行われる連荘チャレンジ移行抽籤（図１００のステップＳ４０２７参照）にも当籤し、連荘チャレンジ移行フラグがオンにセットされている場合、当該連荘準備転落抽籤の結果を破棄する処理である。

【１８５７】

ステップＳ４６２６の処理を実行した後、メインＣＰＵ１０１は、本サブルーチンを終

了する。

【１８５８】

以上より、例えば、通常ステージにおいては、図１７２のステップＳ４６０２で、現在のチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値がバックアップデータとして記憶される。その後、ステップＳ４６０３で行われる通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤（図１０８のステップＳ４０８２参照）においてチャンスステージＡに当籤した場合、ステップＳ４６０４でチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に１が加算される。その後、当該単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合には、図１７３のステップＳ４６２４で、ステップＳ４６０４による加算後のチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値に、ステップＳ４６０２でバックアップデータとして記憶されたチャンスステージＡ当籤回数カウンタの値が上書きされる。これにより、チャンスステージＡ当籤回数カウンタの値は、当該通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤が行われる前の時点における値に戻り、当該通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤の結果がキャンセルされたことになる。

【１８５９】

また、例えば、チャンスステージＡにおいては、図１７２のステップＳ４６０２で、現在の疑似ＢＩＧ当籤フラグを示す情報（ここでは「ＯＦＦ」）がバックアップデータとして記憶される。その後、ステップＳ４６０３で行われるチャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤（図１３４のステップＳ４３０６参照）において疑似ＢＩＧに当籤した場合、ステップＳ４６０４で疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされる。その後、当該単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合には、図１７３のステップＳ４６２４で、ステップＳ４６０４の処理後の疑似ＢＩＧ当籤フラグを示す情報（「ＯＮ」）に、ステップＳ４６０２でバックアップデータとして記憶された疑似ＢＩＧ当籤フラグを示す情報（「ＯＦＦ」）が上書きされる。これにより、疑似ＢＩＧ当籤フラグは、オフにセットされた状態に戻り、当該チャンスステージ中疑似ＢＩＧ・昇格チャンス抽籤の結果がキャンセルされたことになる。なお、以上では、疑似ＢＩＧに当籤したことを示す情報をフラグにより管理する例について説明しているが、疑似ＢＩＧに当籤したことを示す情報についても、チャンスステージＡに当籤したことを示す情報と同様に、カウンタにより管理することとしてもよい。

【１８６０】

また、例えば、連荘準備においては、図１７２のステップＳ４６０１で行われる連荘準備転落抽籤（図１００のステップＳ４０３１参照）に当籤した場合、通常ステージ移行フラグがオンにセットされる。ステップＳ４６０１が行われることにより更新され得る情報はバックアップの対象外となっているところ、ステップＳ４６０２で、当該フラグを示す情報はバックアップデータとして記憶されない。そして、図１７３のステップＳ４６２４の処理対象となるＡＴ関連パラメータは、ステップＳ４６０３乃至ステップＳ４６２１で行われたＡＴ関連処理の結果に基づいて更新される情報であるところ、連荘準備転落抽籤はステップＳ４６０１で行われるため、当該通常ステージ移行フラグは、ステップＳ４６２４の処理対象にならない。従って、当該単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合においても、ステップＳ４６０１の処理後の通常ステージ移行フラグを示す情報（「ＯＮ」）が維持され、次の単位遊技において通常ステージへと移行することになる。

【１８６１】

また、例えば、連荘準備保障遊技数カウンタ（図１００のステップＳ４０２３参照）、高確２保障遊技数カウンタ（図１３０のステップＳ４２６３、ステップＳ４２６６、及び、ステップＳ４２６９参照）、チャンスステージ保障遊技数カウンタ（図１３４のステップＳ４３０４参照）、昇格チャンス遊技数カウンタ（図１４１のステップＳ４３６２参照）、連荘チャレンジ遊技数カウンタ（図１６５のステップＳ４５２４参照）、及び、高確１遊技数カウンタ（図１１４のステップＳ４１２３参照）については、バックアップの対象外となっている。そのため、図１７２のステップＳ４６０２において、これらのカウンタの値は、バックアップデータとして記憶されない。そして、バックアップの対象外となっているＡＴ関連パラメータは、図１７３のステップＳ４６２４の処理対象にもならない

。従って、ペナルティ条件が成立したか否かにかかわらず、その値が１以上である場合には、毎回の単位遊技において、ステップＳ４６２６でその値が１減算される。

【１８６２】

また、例えば、前兆遊技数カウンタ（図１２５のステップＳ４２０３、ステップＳ４２０６、及び、ステップＳ４２０８、図１２６のステップＳ４２２３及びステップＳ４２２５、並びに、図１３８のステップＳ４３２５参照）については、バックアップの対象となっている。また、バックアップの対象となっているＡＴ関連パラメータは、図１７３のステップＳ４６２４の処理対象になっている。従って、前兆状態に制御されている場合には、ステップＳ４６０２において、現在の前兆遊技数カウンタの値がバックアップデータとして記憶される。そして、ステップＳ４６２２で前兆遊技数カウンタの値から１減算される。その後、ペナルティ条件が成立している場合には、ステップＳ４６２４において、ステップＳ４６２２による減算後の前兆遊技数カウンタの値に、ステップＳ４６０２でバックアップデータとして記憶された前兆遊技数カウンタの値が上書きされる。これにより、前兆遊技数カウンタの値は、当該単位遊技が開始された時点における値に戻り、当該減算がキャンセルされたことになる。

【１８６３】

以上で説明したように、第４実施形態に係るパチスロ機１の遊技性を実現するためには、数多くのＡＴ関連処理を実行する必要があるが、フローチャートにおいて、ペナルティの影響を受けない処理及びペナルティの影響を受ける処理について複雑な分岐を組むことなく、比較的簡便な処理によりペナルティ機能を導入することができる。これにより、ペナルティに係る処理に必要な容量を節約しつつ、適切にペナルティを実現することができる。その際、仮に、ペナルティ条件の成否を判断してからＡＴ関連処理を実行することとすれば、ＡＴ関連処理のタイミングを第１停止操作以降とする必要があり、ＡＴ関連処理（ＡＴ移行抽籤等）の結果を演出に反映させ難くなる。この点、上記の例によれば、ペナルティ条件の成否を判断する前に（スタートレバー７が操作された時点で）ＡＴ関連処理を実行することが可能であるため、ＡＴ関連処理（ＡＴ移行抽籤等）の結果を即座に演出に反映させることができる。なお、ＡＴ関連処理の結果に基づいた演出を行うためには、ＡＴ関連処理の結果を示す情報をスタートコマンドデータ（図２３のステップＳ７参照）に含めることとすればよい。

【１８６４】

また、以上では説明を省略したが、図１７２のステップＳ４６０１又は図１７３のステップＳ４６２６の処理において、メインＣＰＵ１０１は、各カウンタのクリアタイミング（図１７１参照）である場合に、当該カウンタをクリアする。また、図１７２のステップＳ４６０１の処理において、メインＣＰＵ１０１は、現在の出玉状態が昇格チャンスであり、昇格チャンス遊技数カウンタの値が１である場合、昇格チャンスが終了した後の移行先の出玉状態（疑似ＲＥＧ又は疑似ＢＩＧ）を仮に設定する。この処理において、メインＣＰＵ１０１は、当該移行先の出玉状態として、昇格チャンスモードが「モード１」～「モード３」の何れかである場合には疑似ＲＥＧを設定し、昇格チャンスモードが「モード４」である場合には疑似ＢＩＧを設定する。このようにして移行先の出玉状態を仮に設定することを「強制設定」と呼ぶことにする。

【１８６５】

ここで、昇格チャンスの最終ゲーム（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）において、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤処理（図１４１のステップＳ４３６９参照）が行われた時点で、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていれば、メインＣＰＵ１０１は、当該疑似ＢＩＧ当籤フラグに基づいて疑似ＢＩＧへと移行させることができる。しかし、当該時点で、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされていなければ、メインＣＰＵ１０１は、疑似ＢＩＧ当籤フラグに基づいて疑似ＢＩＧに移行させることができず、（この場合には疑似ＲＥＧ当籤フラグもオンにセットされていないため）疑似ＲＥＧ当籤フラグに基づいて疑似ＲＥＧに移行させることもできない。この場合、メインＣＰＵ１０１は、上記強制設定した出玉状態を参照し、当該出玉状態へと移行させる。このような状況は

、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）及び規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果として「疑似ＲＥＧ」が設けられていない（疑似ＲＥＧ当籤フラグがオンにセットされない）こと、及び、ペナルティ条件が成立することにより疑似ＢＩＧ当籤フラグがオフにセットされる可能性があることに起因して発生し得る。

【１８６６】

例えば、昇格チャンス遊技数カウンタの値が１である場合において、図１７２のステップＳ４６０３で行われる昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）で疑似ＢＩＧに当籤し、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされたが、ペナルティ条件が成立した場合には、図１７３のステップＳ４６２４で当該疑似ＢＩＧ当籤フラグがオフにセットされる。その後、次の単位遊技（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）において、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）で疑似ＢＩＧに当籤しなかった場合には、疑似ＢＩＧ当籤フラグも疑似ＲＥＧ当籤フラグもオンにセットされていないことになる。この場合、メインＣＰＵ１０１は、上記強制設定した出玉状態を参照し、当該出玉状態へと移行させる。

【１８６７】

また、昇格チャンス遊技数カウンタの値が１である場合において、図１７２のステップＳ４６０３で行われる昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）で疑似ＢＩＧに当籤せず、次の単位遊技（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）においても、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）で疑似ＢＩＧに当籤しなかった場合、疑似ＢＩＧ当籤フラグも疑似ＲＥＧ当籤フラグもオンにセットされていないことになる。この場合、メインＣＰＵ１０１は、上記強制設定した出玉状態を参照し、当該出玉状態へと移行させる。

【１８６８】

＜昇格チャンスにおける演出例（ペナルティ発生時）＞

図１７４は、昇格チャンスにおいてペナルティが発生した場合における演出例を示す図である。

【１８６９】

図１７４に示す演出例として、図１７４（ａ）では、昇格チャンスに移行する単位遊技の１つ前の単位遊技（通常出玉状態から昇格チャンスに移行する場合においては通常出玉状態の最終ゲーム：当籤報知ゲーム）において、「ＷＩＮ」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。

【１８７０】

図１７４（ｂ）では、図１７４（ａ）に示す状態の後、昇格チャンスの１ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：３）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。なお、ロングフリーズ（図１４１のステップＳ４３６３参照）には非当籤となっている。

【１８７１】

図１７４（ｃ）では、図１７４（ｂ）に示す状態の後、昇格チャンスの１ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：３）において、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われたときに、「変則押ししています」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像も引き続き表示されている。

【１８７２】

図１７４（ｄ）では、図１７４（ｃ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。１ゲーム目におい

て変則押しが行われたことに伴い、ペナルティ条件が成立し、当該１ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）はキャンセルされている（図１７３のステップＳ４６２５参照）。

【１８７３】

図１７４（ｅ）では、図１７４（ｄ）に示す状態の後、昇格チャンスの２ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：２）において、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われたときに、「変則押ししています」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像も引き続き表示されている。

【１８７４】

図１７４（ｆ）では、図１７４（ｅ）に示す状態の後、昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）において、昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）が行われることに応じて、「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。２ゲーム目において変則押しが行われたことに伴い、ペナルティ条件が成立し、当該２ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）はキャンセルされている（図１７３のステップＳ４６２５参照）。

【１８７５】

図１７４（ｇ）では、図１７４（ｆ）に示す状態の後、昇格チャンスの３ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：１）において、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始した後、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われたときに、「変則押ししています」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。「ボーナス昇格抽選中」という文字に対応する画像も引き続き表示されている。

【１８７６】

図１７４（ｈ）では、図１７４（ｇ）に示す状態の後、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）において、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３７０参照）が開始するときに、「ＢＡＲを狙え！」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。当該画像は、疑似ＲＥＧ移行図柄としての「バー」図柄が各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒにおいて停止表示され得るタイミングで停止操作を行うことを示唆する画像である。これにより、「バー」を狙った停止操作を行うことを遊技者に促すことができる。３ゲーム目において変則押しが行われたことに伴い、ペナルティ条件が成立し、当該３ゲーム目で行われた昇格チャンス中抽籤（図１４１のステップＳ４３６６参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技（図１４１のステップＳ４３６７参照）はキャンセルされている（図１７３のステップＳ４６２５参照）。これに対し、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果に基づいて決定された疑似遊技は、ペナルティの影響を受けずに発生している。

【１８７７】

図１７４（ｉ）では、図１７４（ｈ）に示す状態の後、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）で行われる疑似遊技において、全てのリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が停止したときに、「レギュラーボーナス！」「レバーオンで遊技が進行します」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。これにより、レギュラーボーナス（疑似ＲＥＧ）に移行することを遊技者に報知するとともに、スタートレバー７の操作を遊技者に促すことができる。

【１８７８】

図１７４（ｉ）に示す状態の後、スタートレバー７が操作されると、実遊技（メイン遊技）用に各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転が開始する（ランダム遅延処理が行われて遊技が進行する）。図１７４（ｊ）では、このときに押し順ナビ画像がメイン表示装置２１０に表示されている様子を示している。押し順ナビ画像は、押し順ベルにおける正解の押し順を報知（ベルナビ）するための画像である。ここでは、「Ｆ＿２３１ベルＡ」乃至「Ｆ＿２３１ベルＣ」が内部当籤役として決定されたことに伴い、第１停止操作として中リール３Ｃに対する停止操作を「セブン」を狙った目押しで行い、第２停止操作として右リール３Ｒに対する停止操作を行い、第３停止操作として左リール３Ｌに対する停止操作を行うことが報知されている（図９６参照）。また、「残りナビ４回」は、疑似ＲＥＧにおいて実行可能なベルナビの残り回数（第２ベルナビ回数カウンタの値）を示している。「残りナビ」の初期値は５回であるが、ベルナビが１回行われたことに伴い、「残りナビ」の回数が１回減って「４回」に更新されている。

【１８７９】

以上では、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果として「フェイク疑似遊技」が決定された場合について説明している。これにより、「ＢＡＲ」狙いの疑似遊技が発生し（図１７４（ｈ）参照）、疑似ＲＥＧへと移行している（図１７４（ｉ）及び（ｊ）参照）。これに対し、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤（図１４１のステップＳ４３６９参照）の結果として「疑似ＢＩＧ」又は「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」が決定された場合には、図１７４（ｈ）～（ｊ）の演出に代えて、例えば、図１５０（ｃ）～（ｈ）のような演出が行われ、疑似ＢＩＧへと移行する。

【１８８０】

以上で説明したように、本実施形態では、一の単位遊技で行われるＡＴ関連処理（例えば、昇格チャンス中抽籤）において疑似ＢＩＧに当籤し、疑似ＢＩＧ当籤フラグがオンにセットされた場合であっても、当該単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合には、当該疑似ＢＩＧ当籤フラグがオフにセットされた状態に戻る（図１７３のステップＳ４６２４参照）。これにより、当該ＡＴ関連処理（例えば、昇格チャンス中抽籤）の結果が無効にされたことになる。一方で、バックアップの対象外となっているＡＴ関連パラメータ（例えば、昇格チャンス遊技数カウンタ）については、ペナルティ条件が成立した場合であっても更新される（図１７３のステップＳ４６２６参照）。従って、昇格チャンスにおいてペナルティ条件が成立するごとに、結果的に疑似ＢＩＧへの昇格の機会を１回失うことになる。なお、前兆状態を経由して昇格チャンスに移行することが決定されている場合において、当籤報知ゲーム（図１７４（ａ）参照）でペナルティ条件が成立した場合には、前兆遊技数カウンタの値が更新されない（図１７３のステップＳ４６２４参照）ため、ペナルティ条件が成立する限り、昇格チャンスに移行しない。

【１８８１】

また、本実施形態では、一の単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合において、当該単位遊技において実行されたＡＴ関連処理（例えば、昇格チャンス中抽籤）の結果として疑似遊技を行うことが決定された場合には、当該疑似遊技が破棄される。一方、一の単位遊技においてペナルティ条件が成立した場合において、当該単位遊技以外の単位遊技（例えば、次の単位遊技）において実行されたＡＴ関連処理（例えば、規定遊技数消化時疑似ＢＩＧ昇格抽籤）の結果として疑似遊技を行うことが決定された場合には、当該ペナルティ条件が成立したことに基づいて当該疑似遊技は破棄されない。もっとも、このような場合においても、当該疑似遊技を破棄することとしてもよい。なお、ここでは、遊技開始時に（遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６参照）において）疑似遊技が行われることを前提に、ペナルティ条件が成立した単位遊技の次の単位遊技において行うことが予定されている疑似遊技が破棄されることとして説明している。しかし、疑似遊技は、遊技終了時に（遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５参照）において）行われることとしてもよく、この場合には、ペナルティ条件が成立した当該単位遊技において行うことが予定されている疑似遊技が破棄されることとしてもよい。

【１８８２】

なお、ペナルティ条件は、第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われた場合に成立し得るところ、当該停止操作は、もちろん、実遊技（メイン遊技）における停止操作であって、疑似遊技における停止操作ではない。従って、昇格チャンスの４ゲーム目（昇格チャンス遊技数カウンタの値：０）で発生する疑似遊技において第１停止操作として中リール３Ｃ又は右リール３Ｒに対する停止操作が行われたとしても、当該単位遊技において疑似ＢＩＧ乃至疑似ＲＥＧが開始する。

【１８８３】

また、図１７４では、変則押しが行われた場合に、「変則押ししています」という文字に対応する画像がメイン表示装置２１０に表示されることとして説明した。第１の遊技機の変形例で説明したように、ペナルティ条件が成立し得る態様で停止操作が行われた場合には、文字表示や音声により「変則押ししています」という状況説明を行う演出を行うように構成することが可能である。

【１８８４】

また、ペナルティ条件が成立し得る態様で停止操作が行われた場合には、演出内容を変更する（実行中の演出を終了する）こととしてもよい。例えば、上述したように、通常ステージにおいては、複数の演出モードが設けられているところ、相対的に期待度の高い演出モード（特殊演出モード）に滞在しているときに変則押しが行われた場合には、第１停止操作が行われた時点で、最も期待度の低い演出モード（基本演出モード）へと画面を切り替えることとしてもよい。また、チャンスステージＡ、チャンスステージＢ、又は、連荘準備に滞在しているときには、通常ステージとは異なる演出モードに滞在しているところ、これらの出玉状態において変則押しが行われた場合にも、同様に、基本演出モードへと画面を切り替えることとしてもよい。一方、連荘チャレンジ又は昇格チャンスに滞在しているときにも、通常ステージとは異なる演出モードに滞在しているが、これらの出玉状態において変則押しが行われた場合には、演出モードを切り替えない（現在表示されている背景画像を維持する）こととしてもよい。

【１８８５】

［第５実施形態］

以上、第１実施形態～第４実施形態について説明した。以下、第５実施形態について説明する。第５実施形態に係るパチスロ機２００１の基本的な構成は、第１実施形態～第４実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態～第４実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態～第４実施形態における説明が第５実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。

【１８８６】

なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第５実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第５実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２実施形態～第４実施形態に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第５実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第５実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態～第４実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第５実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。

【１８８７】

また、第１実施形態～第４実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態～第４実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。

【１８８８】

（マイクロプロセッサ）

本実施形態のパチスロ機２００１は、上述した第１実施形態のパチスロ機１と同様の構成を有しており、主制御基板２０７１は、第１実施形態の主制御基板７１（図１参照）の構成に類似するものである。また、主制御基板２０７１に含まれるマイクロプロセッサ（主制御回路）２１００に関して詳細に示せば、例えば、図１７５に示すような構成になっている。ここで、図１７５に示すマイクロプロセッサ２１００は、図１に示す、第１実施形態の主制御回路１００に対応し、図１７５に示す、メインＣＰＵ２１０１、メインＲＯＭ２１０２、メインＲＡＭ２１０３は、図１に示す、第１実施形態のメインＣＰＵ１０１、メインＲＯＭ１０２、メインＲＡＭ１０３に、それぞれ対応する。なお、図１には示されていないが、本実施形態では、上述のマイクロプロセッサ２１００のほか、乱数回路２１５０、クロックパルス発生回路２１６０、及び電源管理回路２１７０が、主制御基板２０７１に含まれる。

【１８８９】

乱数回路２１５０は、内部抽籤処理に用いられる役抽籤用乱数値（第１実施形態の内部抽籤用乱数値に対応する乱数値）を発生し、クロックパルス発生回路２１６０は、メインＣＰＵ作動用のクロックパルス信号を生成して、該生成したクロックパルス信号をマイクロプロセッサ２１００内の後述のクロック回路２１０５（ＥＸ）に出力する。マイクロプロセッサ２１００は、入力されたクロックパルス信号に基づいて、制御プログラムを実行する。

【１８９０】

電源管理回路２１７０は、電源基板から供給される直流１２Ｖの電源電圧の変動を管理し、マイクロプロセッサ２１００に直流５Ｖ（ＶＣＣ）の電源を供給する。そして、電源管理回路２１７０は、例えば、電源が投入された際（電源電圧が０Ｖから起動電圧値（１０Ｖ）を上回った際）には、リセット信号をマイクロプロセッサ２１００内の後述のリセットコントローラ２１０６（ＸＳＲＳＴ）に出力し、電断が発生した際（電源電圧が１２Ｖから停電電圧値（１０．５Ｖ）を下回った際）には、電断検知信号をマイクロプロセッサ２１００内の後述のパラレル入力ポート２１１１（ＸＩＮＴ）に出力する。すなわち、電源管理回路２１７０は、電源投入時に、マイクロプロセッサ２１００にリセット信号（起動信号）を出力する手段（起動手段）として機能し、さらに、電断発生時に、マイクロプロセッサ２１００に電断検知信号（停電信号）を出力する手段（停電手段）として機能する。

【１８９１】

さらに、マイクロプロセッサ２１００は、ＸＳＲＳＴ端子に、リセット信号を入力すると、リセットコントローラ２１０６が、リセット割込みを発生させ、メインＣＰＵ２１０１は、アドレス「００００」Ｈから動作を開始する。アドレス「００００」Ｈは、後述する電源投入時処理（図１８０）が記憶されている開始アドレスであり、ＸＳＲＳＴ端子にリセット信号が入力されてアドレス「００００」Ｈから動作を開始することを「パワーオンリセット」とも称する。

【１８９２】

次に、図１７５を参照して、本実施形態のマイクロプロセッサ２１００の構成例について説明する。マイクロプロセッサ２１００は、遊技機用のセキュリティ機能付きマイクロプロセッサである。

【１８９３】

マイクロプロセッサ２１００は、メインＣＰＵ２１０１、メインＲＯＭ２１０２、メインＲＡＭ２１０３、外部バスインタフェース２１０４（信号バス２１１６（ローカルバス））、クロック回路２１０５、リセットコントローラ２１０６、演算回路２１０７、照合用ブロック２１０８、固有情報２１０９、乱数回路２１１０（乱数発生回路）、パラレル入力ポート２１１１、割込みコントローラ２１１２、タイマ回路２１１３、シリアル通信回路２１１４、及びパラレル出力ポート２１１５を有する。そして、マイクロプロセッサ２１００を構成する信号バス２１１６以外の各部は信号バス２１１６を介して互いに接続されている。

【１８９４】
　メインＣＰＵ２１０１は、クロック回路２１０５で生成されたクロックパルスに基づいて、各種制御プログラムを実行して各種制御を行う。なお、メインＣＰＵ２１０１は、各種制御プログラムを実行して、遊技動作や、払出時及び精算時における遊技媒体（遊技価値）の計数動作に係る制御等を行う。
【１８９５】
　メインＲＯＭ２１０２には、メインＣＰＵ２１０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル等が記憶される。なお、メインＲＯＭ２１０２の記憶容量は、例えば１２キロバイトである。マイクロプロセッサ２１００では、メインＲＯＭ２１０２に、メインＣＰＵ２１０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、副制御基板７２に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等が記憶される。
【１８９６】
　メインＲＡＭ２１０３には、メインＣＰＵ２１０１による各種制御プログラムの実行時に用いられる各種データ（パラメータ、フラグ等）が格納される各種格納領域が設けられる。なお、メインＲＡＭ２１０３の記憶容量は、例えば１キロバイトである。マイクロプロセッサ２１００では、メインＲＡＭ２１０３に、制御プログラムの実行により決定された内部当籤役等の各種データを格納する格納領域や、払出制御等の実行時に用いられる各種カウンタ（例えば、メダルカウンタ、投入カウンタ等）、各種フラグ等を格納する格納領域等が設けられる。
【１８９７】
　外部バスインタフェース２１０４は、マイクロプロセッサ２１００の外部に設けられた各種構成部が接続された外部信号バスと、マイクロプロセッサ２１００とを電気的に接続するためのインタフェース回路である。
【１８９８】
　クロック回路２１０５は、例えば分周器（不図示）等を含んで構成され、クロックパルス発生回路から入力されたクロックパルス信号を、メインＣＰＵ作動用及びその他の構成部（例えば、タイマ回路２１１３）で使用される複数種類の周波数のクロックパルス信号に変換する。なお、クロック回路２１０５で生成された複数種類の周波数のクロックパルス信号は、マイクロプロセッサ２１００内のクロック回路２１０５を除く全ての回路（メインＣＰＵ２１０１～外部バスインタフェース２１０４、及びリセットコントローラ２１０６～パラレル出力ポート２１１５）に、各回路の作動に応じた周波数で出力される。
【１８９９】
　リセットコントローラ２１０６は、電源管理回路から入力されたリセット信号に基づいて、ＩＡＴ（Ｉｌｌｅａｇａｌ Ａｄｄｒｅｓｓ Ｔｒａｐ）２１０６ａやＷＤＴ（ｗａｔｃｈｄｏｇ ｔｉｍｅｒ）２１０６ｂのリセットを行う。演算回路２１０７は、乗算回路２１０７ａ、除算回路２１０７ｂ、及びＣＲＣ回路（巡回冗長検査（ＣＲＣ１６）回路）２１０７ｃを含んで構成される。照合用ブロック２１０８は、検査装置が接続された際に、接続された検査装置が正規のものであるかをその信号レベルで照合する。
【１９００】
　固有情報２１０９には、マイクロプロセッサ２１００の固有情報（識別情報）が記憶される。マイクロプロセッサ２１００のチップ個別ナンバーは、４バイトのデータで構成され、チップ作製時に設定される。また、マイクロプロセッサＭＰのチップ個別ナンバーは、チップ毎に異なった番号が設定される。
【１９０１】
　なお、マイクロプロセッサ２１００では、マイクロプロセッサ２１００の固有情報（識別情報）が、固有情報２１０９に記憶される。また、メインＲＯＭ２１０２のＲＯＭコードや、マイクロプロセッサ２１００のチップ個別ナンバーなどが、固有情報２１０９に記憶される。メインＲＯＭ２１０２のＲＯＭコードは、４バイト×４個のデータ、すなわち、１６バイトのデータで構成される。なお、メインＲＯＭ２１０２のＲＯＭコードを構成

する４バイト毎の各データは、内蔵ＲＯＭ（メインＲＯＭ２１０２）のアドレス「００００ｈ」～「２ＦＢＦｈ」の領域に格納されているデータから生成され、４バイトのデータ生成方法も４バイトのデータ毎に異なる。

【１９０２】

乱数回路２１１０は、予め定められた範囲の乱数（例えば、０～６５５３５又は０～２５５）を発生させる。乱数回路２１１０は、複数の乱数レジスタで構成され、例えば、２バイトのハードラッチ乱数を得るための乱数レジスタ０と、２バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ１～３と、１バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ４～７とで構成することができる。なお、本実施形態のマイクロプロセッサ２１００では、メインＣＰＵ２１０１は、乱数回路２１１０とは異なる外部の乱数回路２１５０で発生させた所定範囲の乱数の中から１つの値を、例えば役抽籤用乱数値（内部抽籤用の乱数値）として取得する。但し、乱数回路２１５０の替わりに、２バイトのハードラッチ乱数を得るための乱数レジスタ０を使用して内部抽籤用の乱数値を取得するようにしてもよい。

【１９０３】

パラレル入力ポート２１１１は、マイクロプロセッサ２１００の外部に設けられた各種回路（例えば、電源管理回路等）からマイクロプロセッサ２１００に入力される信号の入力ポート（メモリーマップＩ／Ｏ）である。また、パラレル入力ポート２１１１は、乱数回路２１１０及び割込みコントローラ２１１２にも接続される。なお、マイクロプロセッサ２１００では、パラレル入力ポート２１１１にスタートスイッチ（例えば、第１実施形態のスタートスイッチ７Ｓに対応するスタートスイッチ）が接続され、そのスタートスイッチがスタートレバー（例えば、第１実施形態のスタートレバー７Ｓ）の操作に応じてオン状態になったタイミング（オンエッジ）で、パラレル入力ポート２１１１から乱数回路２１１０の所定の乱数レジスタ（例えば、乱数レジスタ０）にラッチ信号が出力される。そして、乱数回路２１１０では、ラッチ信号が入力されることにより所定の乱数レジスタがラッチされ、２バイトのハードラッチ乱数が取得される。

【１９０４】

割込みコントローラ２１１２は、パラレル入力ポート２１１１を介して電源管理回路から入力されるリセット信号、電断検知信号、又は、タイマ回路２１１３から所定周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メインＣＰＵ２１０１による割込処理の実行タイミングを制御する。また、割込みコントローラ２１１２は、電源管理回路からリセット信号、電断検知信号が入力された場合、又は、タイマ回路２１１３からタイムアウト信号が入力された場合には、割込処理開始指令を示す割込要求信号をメインＣＰＵ２１０１に出力する。そして、メインＣＰＵ２１０１は、割込みコントローラ２１１２から入力される割込要求信号に基づいて、各種割込処理を行う。

【１９０５】

具体的には、マイクロプロセッサ２１００では、割込みコントローラ２１１２は、パラレル入力ポート２１１１を介して電源管理回路から入力されるリセット信号、電断検知信号、又は、タイマ回路２１１３から１．１１７２ｍｓｅｃ周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メインＣＰＵ２１０１による割込処理（例えば、タイムアウト信号の場合には、図３２に示す定期割込処理）の実行タイミングを制御する。そして、メインＣＰＵ２１０１は、タイマ回路２１１３からのタイムアウト信号に応じて割込みコントローラ２１１２から入力される割込要求信号に基づいて、定期割込処理（例えば、図３２参照）内の各種処理を行う。なお、リセット信号に基づいて実行されるメインＣＰＵ２１０１による割込処理は、図２３に示すメイン処理が該当する。すなわち、メインＣＰＵ２１０１が実行する全ての処理では、割込みコントローラ２１１２が発する割込要求信号が各処理開始の起点となる。

【１９０６】

タイマ回路２１１３（ＰＴＣ）は、クロック回路２１０５で生成されたクロックパルス信号（ＣＰＵ作動用のクロックパルス信号を分周器（不図示）で分周された周波数のクロ

ックパルス信号）で動作する（経過時間をカウントする）。そして、タイマ回路２１１３は、所定周期（マイクロプロセッサ２１００では１．１１７２ｍｓｅｃの周期）で割込みコントローラ２１１２にタイムアウト信号（トリガー信号）を出力する。

【１９０７】

シリアル通信回路２１１４は、当該通信回路が実装されている制御基板と、当該制御基板の外部に設けられた各種基板との間で各種データをシリアル通信する際の制御を行う通信回路である。なお、マイクロプロセッサ２１００では、シリアル通信回路２１１４は、主制御基板２０７１の外部に設けられた各種基板（例えば、副制御基板２０７２等）との間でデータ（各種制御指令（コマンド）、各種データ等）をシリアル通信する。また、シリアル通信回路２１１４は、例えば、５つの通信回路ＳＣＵ０（上述した「非同期シリアル送受信０」）、ＳＣＵ１（上述した「非同期シリアル送受信１」）、ＳＴＵ２～ＳＴＵ４で構成され、通信回路ＳＣＵ０、ＳＣＵ１が双方向シリアル通信回路で構成され、通信回路ＳＴＵ２～ＳＴＵ４は送信専用のシリアル通信回路で構成される。

【１９０８】

例えば、本実施形態では、試射試験信号制御処理（送信処理）に関しては、送信専用のシリアル通信回路である通信回路ＳＴＵ２（インタフェース２（Ｉ／Ｆ２）への送信用）を使用する。また、主制御基板２０７１と副制御基板２０７２とをシリアル通信で接続する場合、送信専用のシリアル通信回路である通信回路ＳＴＵ３を使用する。なお、このような通信仕様は、ゴト対策（不正行為防止）の観点から定められたシリアル通信回路の使用方法である。なお、上述したインタフェース２（Ｉ／Ｆ２）は、図３の試験機用第２インターフェースボード３０２である。

【１９０９】

パラレル出力ポート２１１５は、マイクロプロセッサ２１００からその外部に設けられた各種回路に出力される信号の出力ポート（メモリーマップＩ／Ｏ）である。なお、本例では、例えば、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ Ｉｎ Ｆｉｒｓｔ Ｏｕｔ）方式でデータ出力が行われる。

【１９１０】

（メインＣＰＵが有するレジスタ）

ここで、図１７６を参照して、メインＣＰＵ２１０１が有する各種レジスタについて説明する。なお、図１７６は、メインＣＰＵ２１０１に含まれる各種レジスタの概略構成図である。

【１９１１】

図１７６（Ａ）に示すように、メインＣＰＵ２１０１は、メインレジスタとして、拡張レジスタ（Ｑレジスタ、Ｕレジスタ）、汎用レジスタ（Ａレジスタ、Ｂレジスタ、Ｃレジスタ、Ｄレジスタ、Ｅレジスタ、Ｈレジスタ、Ｌレジスタ）、フラグレジスタ（Ｆレジスタ）、インデックスレジスタ（ＩＸレジスタ、ＩＹレジスタ）、及びスタックポインタ（スタックポインタＳＰ）を有する。

【１９１２】

また、メインＣＰＵ２１０１は、サブレジスタとして、拡張レジスタ（Ｑ’レジスタ）、汎用レジスタ（Ａ’レジスタ、Ｂ’レジスタ、Ｃ’レジスタ、Ｄ’レジスタ、Ｅ’レジスタ、Ｈ’レジスタ、Ｌ’レジスタ）、フラグレジスタ（Ｆ’レジスタ）、及びインデックスレジスタ（ＩＸ’レジスタ、ＩＹ’レジスタ）を有する。なお、上述したメインレジスタ、サブレジスタのそれぞれは、１バイトのレジスタで構成される。

【１９１３】

また、本実施形態では、ＢレジスタとＣレジスタとをペアレジスタ（ＢＣレジスタ）として用い、ＤレジスタとＥレジスタとをペアレジスタ（ＤＥレジスタ）として用いる。さらに、本実施形態では、ＨレジスタとＬレジスタとをペアレジスタ（ＨＬレジスタ）として用いる。

【１９１４】

また、本実施形態では、２つのバンク（バンク０、バンク１）を切り替えて処理を行う

ように制御することができ、上述したメインレジスタとサブレジスタに関しても、バンク０のメインレジスタ、サブレジスタと、バンク１のメインレジスタ、サブレジスタとが用意され、バンクの切り替えによって、プログラムの命令が利用・参照するレジスタが、バンク０のレジスタ、及びバンク１のレジスタの間で切り替えられる。

【１９１５】

なお、本実施形態のプログラムでは、アドレスの上位側のアドレスデータ（アドレス値）がＱレジスタに格納される。例えば、メインＣＰＵ２１０１がリセットされると、Ｑレジスタには、バンク０において利用されるメインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）「Ｆ０」Ｈがセットされ、バンクを切り替えてバンク１を利用する場合には、バンク１において利用されるメインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）「Ｆ２」ＨがＱレジスタにセットされるように制御（処理）してもよい。

【１９１６】

また、上位側のアドレスデータとしてＱレジスタを使用する場合以外にも、Ｑレジスタ以外のレジスタ（例えば、Ｈレジスタ）に、メインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）「Ｆ０」Ｈをセットし、Ｑレジスタ以外のレジスタ（例えば、Ｄレジスタ）に、メインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）「Ｆ２」Ｈがセットされるように制御（処理）してもよい。

【１９１７】

特に、メインＲＡＭ２１０３の遊技用エリア（後述する使用領域内ＲＡＭエリア）と領域外エリア（後述する使用領域外ＲＡＭエリア）を参照する場合に、遊技用エリアの上位側のアドレスを参照する場合はＱレジスタ（特定のレジスタ）を使用する命令を使用して参照し、領域外エリアの上位側のアドレスを参照する場合はＱレジスタ以外のレジスタを使用する命令を使用して参照するように制御してもよく、このとき、バンク１に切り替える前、または切り替えた後に、Ｑレジスタ以外のレジスタに先頭アドレス（上位側）「Ｆ２」Ｈが設定されるように制御（処理）してもよい。

【１９１８】

なお、本実施形態のプログラムにおいて、メインＲＡＭ２１０３の遊技用エリアと領域外エリアを参照、及び書き込みを行う制御（処理）の過多に応じて、ＱレジスタにセットするメインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）を「Ｆ０」Ｈ、または「Ｆ２」Ｈをセットすることが望ましい。

【１９１９】

例えば、メインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）が「Ｆ０」Ｈのエリアを参照、及び書き込みを行う処理回数が多い場合であれば、Ｑレジスタに「Ｆ０」Ｈをセットし、また、メインＲＡＭ２１０３の先頭アドレス（上位側）が「Ｆ２」Ｈのエリアを参照、及び書き込みを行う処理回数が多い場合であれば、Ｑレジスタに「Ｆ２」Ｈをセットする。

【１９２０】

さらに、本実施形態では、１バイトのレジスタで構成された、インタラプトページアドレスレジスタ（Ｉレジスタ）、メモリリフレッシュレジスタ（Ｒレジスタ）、プログラムカウンタ（ＰＣ）、割込み許可レジスタ１、及び割込み許可レジスタ２を、制御レジスタとして有する。

【１９２１】

また、図１７６（Ｂ）に示すように、フラグレジスタのＦレジスタ、Ｆ′レジスタのそれぞれには、各ビットに演算処理の結果等を示す所定のフラグ情報がセットされる。例えばビット６（Ｄ６）には、演算結果の判定処理において演算結果が「０」であるか否かを示すデータ（ゼロ・フラグ）がセットされる。具体的には、演算結果が「０」である場合、ビット６にデータ「１」がセットされ、演算結果が「０」でない場合には、ビット６にデータ「０」がセットされる。そして、演算結果の判定処理では、メインＣＰＵ２１０１は、ビット６のデータ「０」／「１」を参照して演算結果の判定を行う。

【１９２２】

また、フラグレジスタのビット２（Ｄ２）には、パリティフラグ、またはオーバーフローフラグがセットされる。例えば、パリティフラグとして利用される場合、論理演算を実行した際に、演算結果が格納されるディスティネーション内のビット「１」の数をカウントし、合計が奇数であれば「０」をセットし、偶数であれば「１」をセットする。また、オーバーフローフラグとして利用される場合、符号付き算術演算を実行した際に、オーバーフローとなったときにオーバーフローフラグがセットされる。

【１９２３】

また、所定の命令によって、フラグレジスタの各ビット（例えば、ビット２）に、他のレジスタの値をセットするように制御することもできる。

【１９２４】

（メインＲＯＭ及びメインＲＡＭの内部構成（メモリマップ））

次に、図１７７を参照してマイクロプロセッサ２１００に含まれるメインＲＯＭ２１０２、及びメインＲＡＭ２１０３の内部構成（以下「メモリマップ」という）について説明する。なお、図１７７（Ａ）が、メモリ全体のメモリマップを示しており、図１７７（Ｂ）が、当該メモリ全体の内蔵ＲＯＭの構成を示しており、図１７７（Ｃ）が、当該メモリ全体の内蔵ＲＡＭの構成を示している。図１７７（Ａ）の内蔵ＲＯＭは、例えば、図１７５のメインＲＯＭ２１０２に対応し、図１７７（Ａ）の内蔵ＲＡＭは、図１７５のメインＲＡＭ２１０３に対応する。

【１９２５】

マイクロプロセッサ２１００が備えるメモリ全体のメモリマップでは、図１７７（Ａ）に示すように、アドレスの先頭（例えば、「００００」Ｈ）から、メインＲＯＭ２１０２のメモリ領域、メインＲＡＭ２１０３のメモリ領域、機能レジスタのエリアが、未使用領域を間に挟んでこの順で配置される。ここで、機能レジスタは、例えば、各周辺機能の動作設定のために用いられる第１のレジスタと、モニタや制御のための第２のレジスタからなる２種類の内蔵レジスタを含む。

【１９２６】

メインＲＯＭ２１０２のメモリマップでは、図１７７（Ｂ）に示すように、メインＲＯＭ２１０２のアドレスの先頭（「００００」Ｈ）から、使用領域内プログラム領域２１０２ａ、使用領域内データ領域２１０２ｂ、未使用領域、使用領域外プログラム領域２１０２ｃ、使用領域外データ領域２１０２ｄ、未使用領域、商標記録エリア２１０２ｅ、及びプログラム管理等エリア（例えば、プログラム管理やセキュリティ設定のためのエリア）２１０２ｆが、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。また、使用領域内プログラム領域２１０２ａ、及び使用領域内データ領域２１０２ｂをまとめて使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａとし、使用領域外プログラム領域２１０２ｃ、及び使用領域外データ領域２１０２ｄをまとめて使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂとする。

【１９２７】

本実施形態では、上記のように、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａと使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂの間、及び使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂと商標記録エリア２１０２ｅの間にそれぞれ、所定サイズ（例えば、１６バイト）の未使用領域が設けられている。

【１９２８】

図１７７（Ｂ）の例では、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａは、アドレス「００００」Ｈからアドレス「１ＦＦ０」Ｈまでの領域であり、使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂは、アドレス「２０００」Ｈからアドレス「３ＤＦ０」Ｈまでの領域である。

【１９２９】

なお、使用領域内プログラム領域２１０２ａには、遊技の進行及び遊技性に関連する各種制御処理において、メインＣＰＵ２１０１により実行される各種処理の制御プログラムが記憶される。使用領域内データ領域２１０２ｂには、遊技の進行及び遊技性に関連する各種制御処理において、メインＣＰＵ２１０１により使用される各種データ（例えば、内部抽籤テーブル（図１０参照）等のデータテーブル、副制御回路２２００（第１実施形態

の副制御回路２００に対応）に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等）が記憶される。

【１９３０】

すなわち、使用領域内プログラム領域２１０２ａと使用領域内データ領域２１０２ｂとからなる使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａには、遊技店で遊技者が実際に行う遊技に関連する制御処理（遊技性に関する処理）に必要な各種プログラム及び各種データが格納される。

【１９３１】

また、使用領域外プログラム領域２１０２ｃと使用領域外データ領域２１０２ｄとからなる使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂには、遊技者により実施される遊技（遊技の進行及び遊技性）に直接関与しない各種処理（遊技性に影響を与えない処理）の制御プログラム及びデータが記憶される。例えば、遊技機の検定試験（試射試験）で使用されるプログラム及びデータ、電断時のチェックサム生成処理や電断復帰時（電源復帰時）のサムチェック処理などで使用される制御プログラム及びデータ、並びに、不正対策プログラム及びそれに必要なデータ等が格納される。

【１９３２】

メインＲＡＭ２１０３のメモリマップでは、図１７７（Ｃ）に示すように、メインＲＡＭ２１０３のアドレスの先頭（「Ｆ０００」Ｈ）から、使用領域内作業領域２１０３ａ、使用領域内スタック領域２１０３ｂ、未使用領域、使用領域外作業領域２１０３ｃ、及び使用領域外スタック領域２１０３ｄが、この順で、それぞれ所定のアドレスに配置される。また、使用領域内作業領域２１０３ａ、及び使用領域内スタック領域２１０３ｂをまとめて使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａとし、使用領域外作業領域２１０３ｃ、及び使用領域外スタック領域２１０３ｄをまとめて使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂとする。

【１９３３】

本実施形態では、上記のように、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａと使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの間に、所定サイズ（例えば、１６バイト）の未使用領域が設けられている。

【１９３４】

使用領域内作業領域２１０３ａ、及び使用領域内スタック領域２１０３ｂには、遊技者により実施される遊技（遊技の進行及び遊技性）に関連する制御プログラムの実行により決定された各種データ（各種乱数値、内部当籤役等）が一時的に格納される。

【１９３５】

また、使用領域外作業領域２１０３ｃ、及び使用領域外スタック領域２１０３ｄは、遊技者により実施される遊技（遊技の進行及び遊技性）に直接関与しない各種処理の作業領域である。本実施形態では、この使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂを使用して、例えばサムチェック処理等の遊技者により実施される遊技に直接関与しない各種処理が実行される。

【１９３６】

上述のように、本実施形態のパチスロ機２００１では、メインＲＯＭ２１０２内において、遊技者により実施される遊技に直接関与しない各種処理に使用される各種プログラム、及び各種データ（テーブル）を、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａとは異なるアドレスに配置された使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂに格納する。また、そのような遊技者により実施される遊技に直接関与しない各種処理は、メインＲＡＭ２１０３内において、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａとは異なるアドレスに配置された使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂを使用して行われる。

【１９３７】

このようなメインＲＯＭ２１０２の構成では、遊技者が実際に行う遊技そのものには不要なプログラム及びデータを他のエリア（使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂ）に配置することができ、そのために、遊技用エリアとして設定されている使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａの容量の圧迫を回避することができる。

【１９３８】
　また、本実施形態では、上述のように、バンクの切り替えを行うことによって、バンク０に係る処理とバンク１に係る処理を切り替えることができるが、ここで、バンク０に係る処理は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａに記憶されているプログラムとデータを用いて、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａを一時的に利用しながら、遊技者により実施される遊技の動作を制御するための演算処理を行う。すなわち、バンク０に係る処理は、遊技用のエリア（使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａ、及び使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）に係る処理ということもできる。また、このときに用いられるメインレジスタとサブレジスタは、図１７６で説明した、バンク０のレジスタである。
【１９３９】
　一方、バンク１に係る処理は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂに記憶されているプログラムとデータを用いて、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂを一時的に利用しながら、遊技者により実施される遊技に直接関係しない処理（遊技以外の処理を行うための演算処理）を行う。すなわち、バンク１に係る処理は、領域外のエリア（使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂ、及び使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）に係る処理ということもできる。また、このときに用いられるメインレジスタとサブレジスタは、図１７６で説明した、バンク１のレジスタである。
【１９４０】
　なお、バンク０に係る処理（遊技用のエリアに係る処理）は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムによって起動され、その処理において、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内データ領域２１０２ｂに記憶されているデータを参照し、さらに、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａを利用してデータの参照・更新を行うが、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃ等に記憶されたデータの参照を行うこともある。
【１９４１】
　同様に、バンク１に係る処理（領域外のエリアに係る処理）は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムによって起動され、その処理において、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外データ領域２１０２ｄに記憶されているデータを参照し、さらに、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃを利用してデータの参照・更新を行うが、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａ等に記憶されたデータの参照を行うこともある。
【１９４２】
　バンク０の処理からバンク１の処理に切り替えるには、例えば、所定のサブプログラム（「サブルーチン」とも称す。）を特定の呼び出し命令（例えば、「ＣＡＬＬＥＸ」）を実行することによって行われ、バンク１の処理からバンク０の処理に戻すには、例えば、上述した特定の呼び出し命令でコールされた所定のサブプログラムにおいて特定のリターン命令（例えば、「ＲＥＴＥＸ」）を実行することによって行われる。
【１９４３】
　また、図１７７は、メモリ内の領域を模式的に示したものであり、本発明の構成が、例示したアドレスや、各領域の見た目のサイズ（容量）等に限定されるものではない。
【１９４４】
（割込み許可レジスタ）
　次に、図１７６に示した割込み許可レジスタ１、及び割込み許可レジスタ２について、より詳細に説明する。
【１９４５】
　割込み許可レジスタ１は、その値と割込み要因マスクによって、特定の割込み要因について割込み処理を行わないように制御可能なマスカブル割込みの許可／禁止が決定され、割込み許可レジスタ２は、特定の割込み要因について割込み処理を行わないように制御できないノンマスカブル割込み処理後に割込み許可レジスタ１の値を復帰させるために利用

される。

【１９４６】

また、割込み許可レジスタ２に関しては、上記のような、ノンマスカブル割込み処理からの復帰以外に、使用領域外エリア（例えば、使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂや使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）に係る処理の呼び出し命令（以降、「使用領域外エリア処理呼出命令」と称する）を実行した後に、使用領域外エリアに係る処理から、使用領域内エリア（例えば、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａや使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）に係る処理に復帰する命令（以降、「使用領域内エリア処理復帰命令」とする）がされた場合に、それまで割込み許可レジスタ２に格納されていた値が、割込み許可レジスタ１にコピーされる（割込み許可レジスタ２の値を割込み許可レジスタ１に復帰させる）。

【１９４７】

また、ノンマスカブル割込みを受け付けた場合、または、使用領域外エリア処理呼出命令実行時には、割込み許可レジスタ１の値がクリアされ（値は「０」になる）、結果的に、その値が維持される間、マスカブル割込みが禁止される。

【１９４８】

さらに、割込み許可レジスタ２の値は、所定の命令により、フラグレジスタ（Ｆレジスタ）のパリティ／オーバーフロー・フラグに格納され、割込み許可レジスタ２の値を参照したり、一時的に退避したりすることができる。

【１９４９】

また、割込み許可命令を実行すると、割込み許可レジスタ１の値は、割込み許可を表す値「１」となり、同時に割込み許可レジスタ２の値も、割込み許可を表す値「１」となる。このように、割込み許可命令が実行されると、マスカブル割込みが許可される。また、割込み禁止命令を実行すると、割込み許可レジスタ１の値は、割込み禁止を表す値「０」となり、同時に割込み許可レジスタ２の値も、割込み禁止を表す値「０」となる。

【１９５０】

（割込み処理）

次に、本実施形態における、電断を検知した際の外部マスカブル割込み処理の概要について、図１７８を参照して説明する。

【１９５１】

メインＣＰＵ２１０１は、パラレル入力ポート２１１１を経由して、外部端子（ＸＩＮＴ端子）からの割込み要求信号を受信すると、この外部端子に対応付けられた設定領域のエントリアドレスを開始アドレスとするプログラムを開始する。このプログラムは、外部マスカブル割込み処理である。また、この設定領域には、割込み処理の優先順位を示すデータが含まれる。例えば、設定領域の上位ビット側にエントリアドレスが記憶され、下位ビット側に優先順位を示すデータが記憶され、エントリアドレスと優先順位を示すデータとの間には、少なくとも１ビットの「０」が配置される。

【１９５２】

また、本実施形態では、タイマ回路２１１３のタイマカウンタ（例えば、タイマカウンタＰＴＣ２）からタイマ割込みの信号を受信すると、このタイマカウンタに対応付けられた設定領域のエントリアドレスを開始アドレスとするプログラムを開始する。このプログラムは、システムタイマ割込み処理である。また、この設定領域には、割込み処理の優先順位を示すデータが含まれる。例えば、設定領域の上位ビット側にエントリアドレスが記憶され、下位ビット側に優先順位を示すデータが記憶され、エントリアドレスと優先順位を示すデータとの間には、少なくとも１ビットの「０」が配置される。

【１９５３】

このように、外部端子（ＸＩＮＴ端子）からの外部割込みや、タイマカウンタからのタイマ割込みといった割込み要因ごとに、上述した設定領域が設けられ、その対応する設定領域に記憶されたデータによって、割込みに応じて実行される処理プログラムのエントリアドレス、及び割込みの優先順位が規定される。

【１９５４】
上述した外部マスカブル割込み処理が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、パラレル入力ポート２１１１の所定のアドレスをチェックして、電断信号を受信したか否かを判定する。この処理は、割込み要因が電断であるか否かを判定する処理であり、電断信号を受信した場合、図１７８（Ａ）に示すような割込み要因マスクで割込みマスクレジスタを更新し、所定の割込み要因をマスクする。
【１９５５】
ここで、割込みマスクレジスタには、図１７８（Ａ）に示す割込み要因マスクにより、電源投入後の初期設定において、例えば、タイマカウンタを割込みの要因とする割込み（タイマカウンタ割込み）と、電断を割込みの要因とする割込み（電断割込み）とを受け付けるように、対応するビット（例えば、ビット０～７において、ビット位置２とビット位置３）に「０」がセットされている。そして、上記の外部マスカブル割込み処理では、電断が生じた時点で、割込みマスクレジスタに対し、ビット位置２とビット位置３に、それぞれ「１」をセットする。
【１９５６】
このように、割込みマスクレジスタのビット位置２と、ビット位置３に、それぞれ「１」をセットすると、これ以降、メインＣＰＵ２１０１は、タイマカウンタ割込みと電断割込みを受け付けないように制御される（すなわち、外部マスカブル割込み処理と、システムタイマ割込み処理が新たに開始されないように制御される）。
【１９５７】
次に、外部マスカブル割込み処理では、ＸＩＮＴ検知フラグをセットし、電断が発生しているというステータスをセットする。その後、このＸＩＮＴ検知フラグの内容が参照され、電断が発生しているか否かを判定し、電断が発生していれば、電断割込み処理（図１９９参照）が実行される。
【１９５８】
図１７８（Ｂ）には、メインＣＰＵ２１０１がプログラムを実行するのに必要な情報を格納するプログラム管理エリアに記憶される割込み初期設定データが示されている。このデータには、割込み優先順の設定値が記憶されている。
【１９５９】
図１７８（Ｃ）には、割込み優先順の設定値が「０１」の場合の、割込み要因ごとの優先順位が示されている。図１７８（Ｂ）に示したように、割込み優先順位の設定値がビット「０１」である場合、タイマカウンタ割込（タイマカウンタＰＴＣ２の割込み）のほうが、電断割込（ＸＩＮＴ端子からの信号による割込み）より割込の優先順位が高くなるように設定される。なお、この優先順位は、設定値を変えれば、それに応じて変更されるようになっている。また、本実施形態では、この優先順位の設定内容をプログラムで規定する必要はない。
【１９６０】
また、図１７８（Ａ）の割込みマスクレジスタは、各ビットがそれぞれ割込み要因に対応付けられるが、ここでは、ビット位置０からビット位置５に向かって、図１７８（Ｃ）に示す割込み要因が、優先順位の高い順に対応付けられている。すなわち、割込みマスクレジスタのビット位置０には、タイマカウンタＰＴＣ０の割込みが対応付けられ、ビット位置１には、タイマカウンタＰＴＣ１の割込みが対応付けられ、ビット位置２には、タイマカウンタＰＴＣ２の割込みが対応付けられ、ビット位置３には、外部端子（ＸＩＮＴ端子）からの外部割込みが対応付けられ、ビット位置４には、非同期シリアル送受信０による割込みが対応付けられ、ビット位置５には、非同期シリアル送受信１による割込みが対応付けられる。なお、ビット位置７とビット位置６は未使用である。
【１９６１】
上記のように、本実施形態では、タイマカウンタ割込みと電断割込みの発生を前提としているが、上記のように、少なくとも、複数のタイマカウンタによる割込み、複数の非同期シリアル送受信による割込み、及びＸＩＮＴ端子から入力する外部からの割込みに関す

る要因に対応することができる。

【１９６２】

このような、割込み要因マスクを利用した構成によって、電断が発生した後の他の割込みの発生を制限することができるため、当該他の割込みを想定した処理のために分岐命令を記載しなくて済み、結果的に、プログラムの構成を簡潔にできるとともに、サイズを小さくすることができる。

【１９６３】

また、割込み要因マスクを利用した構成によって、電断が発生した後の他の割込みの発生を制限することができるため、電断の検知後、早急に電断に係る処理を実行することができ、また、当該他の割込みによる処理との実行タイミングや処理順を考慮する必要がなくなる。

【１９６４】

このように、割込みマスクレジスタに「１」をセットするビット位置によって、割込み要因ごとに発生の検知を行うか否かを調整することができるため、例えば、電断の検知により外部マスカブル割込み処理が実行された後に、特定の割込み要因に係る割込み処理については、その処理を許容するように制御することも可能である。

【１９６５】

（主制御回路による処理）

次に、図１７９～図２０１を参照して、主制御回路２１００のメインＣＰＵ２１０１が各プログラムを用いて実行する各種処理の内容について説明する。なお、以下に示す各種処理の説明では、パチスロ機２００１の仕様を用いてその処理内容の一具体例を説明するが、以下に示す各種処理の処理内容はこれに限定されるものではない。

【１９６６】

まず、図１７９を参照して、主制御回路２１００のメインＣＰＵ２１０１により実行されるメイン処理（主要動作処理）について説明する。なお、図１７９は、メイン処理の手順の一例を示すフローチャートであって、上述した第１実施形態の図２３に示すフローに概ね対応するものであり、同様の処理については、適宜説明を省略する。また、図１７９においては、メイン処理の開始に先立って実行される電源投入時処理についても併せて示している。

【１９６７】

まず、メインＣＰＵ２１０１は、パチスロ機１に電力が供給されると（電源が投入されると）、電源投入時処理を行う（ステップＳ２００１）。この処理では、電源投入時に必要な各種処理を行う。なお、電源投入時処理の詳細については後述する。

【１９６８】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、１遊技終了時の初期化処理を行う（ステップＳ２００２）。この処理では、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理のサブプログラムがコールされ、そこで、未送信データの取得とメインＲＡＭ２１０３における指定格納領域のクリア等が実行される。送信待機＆ＲＡＭ初期化処理のサブプログラムで実行される処理の詳細について後述する。

【１９６９】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、メダル受付・スタートチェック処理を行う（ステップＳ２００３）。この処理では、メダルセンサ、ベットスイッチ、及びスタートスイッチ（例えば、第１実施形態のメダルセンサ３１Ｓ、ベットスイッチ６Ｓ、及びスタートスイッチ７Ｓに対応する各構成要素）の入力状態等をチェックし、遊技開始時に必要な各種処理を行う。なお、このメダル受付・スタートチェック処理は、第１実施形態のメダル受付・スタートチェック処理（図２３のステップＳ３、図２５参照）と同様の処理である。

【１９７０】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、乱数値取得処理を行う（ステップＳ２００４）。この処理では、役抽籤用乱数値（例えば、０～６５５３５の範囲）や遊技性に関する各種抽籤で用いられる演出用乱数値（その他抽籤用乱数値）（例えば、０～６５５３５の範囲、

あるいは０～２５５の範囲）等を抽出し、抽出した各種乱数値をメインＲＡＭ２１０３に設けられた乱数値格納領域（不図示）に格納する。なお、各種乱数値の取得態様は上述のものに限られない。それぞれ予め定められた数値範囲（例えば、０～６５５３５の範囲、０～３２７６７の範囲、０～２５５の範囲、あるいは０～１２７の範囲等）から必要な個数の乱数値を適宜取得することができる。なお、この乱数値取得処理については後述する。

【１９７１】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、内部抽籤処理を行う（ステップＳ２００５）。この処理では、現在の遊技状態等に応じた内部抽籤テーブルや役抽籤用乱数値に基づいて内部当籤役を決定するために必要な各種処理を行う。なお、内部抽籤処理の詳細については後述する。

【１９７２】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、遊技開始時状態制御処理を行う（ステップＳ２００６）。この処理では、各種遊技状態について、遊技を開始するときに、（例えば、決定された内部当籤役等に基づいて）移行条件が成立する場合には成立した移行条件にしたがって遊技状態を移行させるため、あるいは現在の遊技状態の遊技期間を管理するために必要な各種処理を行う。なお、この遊技開始時状態制御処理は、第１実施形態の遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６、図２７参照）と同様の処理である。

【１９７３】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、スタートコマンド生成格納処理を行う（ステップＳ２００７）。この処理では、副制御回路２２００に送信するスタートコマンドのデータを生成し、生成したデータをメインＲＡＭ２１０３に設けられた通信データ格納領域（不図示）に格納する。なお、通信データ格納領域に格納されたデータは、後述の定期割込処理で実行される通信データ送信処理において、主制御回路２１００から副制御回路２２００に送信される。また、その他のコマンドのデータの生成、格納、及び送信手法も基本的に同様である。なお、このスタートコマンド生成格納処理は、第１実施形態のスタートコマンド生成格納処理（図２３のステップＳ７）と同様の処理である。

【１９７４】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、インタフェース２出力処理を行う（ステップＳ２０１７）。この処理では、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されたインタフェース出力処理が呼び出され、そこで送信データを生成した後、生成されたデータを、シリアル通信によりインタフェース２（Ｉ／Ｆ２）に出力する。なお、インタフェース２出力処理の詳細については後述する。

【１９７５】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、遊技開始時メイン側演出制御処理を行う（ステップＳ２００８）。この処理では、遊技を開始するときに、主制御回路２１００側（メイン側）の制御による各種演出を行う場合、当該演出を行うために必要な各種処理を行う。例えば、遊技開始時に所定の演出（例えば、「ロック演出」または「フリーズ演出」、「疑似遊技」と呼ばれる、リール３Ｌ、３Ｃ、３Ｒを使用したリールによる演出）が行われる場合には当該演出の実行を制御する。また、これが疑似遊技を含むものであれば当該疑似遊技の進行（あるいは疑似遊技に関する報知）を制御する。なお、この遊技開始時メイン側演出制御処理は、第１実施形態の遊技開始時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ８）と同様の処理である。

【１９７６】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、回胴停止初期設定処理を行う（ステップＳ２００９）。この処理では、内部当籤役や遊技状態等に基づいて、今回の遊技で使用する停止テーブルの種類や引込優先順位テーブルの種類等の停止制御に必要な各種情報を設定する。なお、この回胴停止初期設定処理は、第１実施形態のリール停止初期設定処理（図２３のステップＳ９）と同様の処理である。

【１９７７】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、回胴回転開始処理を行う（ステップＳ２０１０）。この処理では、全てのリールの回転開始を要求する。そして、全てのリールの回転開始が要求されると、リール制御処理（例えば、第１実施形態の図３２におけるステップＳ２０３の処理参照）により、各ステッピングモータ（例えば、第１実施形態の５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒに対応するステッピングモータ）の駆動が制御され、各リール（例えば、第１実施形態の３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対応するリール）の回転が開始される。回転を開始した各リールは、その回転速度が一定速度に達するまで加速制御され、その後、当該一定速度が維持される。また、詳細は省略するが、この処理においてはリール回転開始コマンド生成格納処理が行われる。なお、この回胴回転開始処理は、第１実施形態のリール回転開始処理（図２３のステップＳ１０）と同様の処理である。

【１９７８】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、引込優先順位格納処理を行う（ステップＳ２０１１）。この処理では、回転中のリール（この場合は全てのリール）の各図柄（図柄位置）に対して、設定された内部当籤役と設定された引込優先順位テーブルとを参照して引込優先順位を示すデータを取得し、引込優先順位データ格納領域（不図示）に格納する。なお、図示は省略するが、この処理に先立って、図柄コード格納処理が行われる。なお、この引込優先順位格納処理は、第１実施形態の引込優先順位格納処理（図２３のステップＳ１１）と同様の処理である。

【１９７９】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、回胴停止制御処理を行う（ステップＳ２０１２）。この処理では、決定された内部当籤役（あるいはこれに応じて設定された各種停止制御に係る情報）と各ストップボタン（例えば、第１実施形態の８Ｌ，８Ｃ，８Ｒに対応するストップボタン）の停止操作態様と基づいて該当するリールの回転を停止させるために必要な各種処理を行う。なお、この回胴停止制御処理は、第１実施形態のリール停止制御処理（図２３のステップＳ１２、図２９参照）と同様の処理である。

【１９８０】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、入賞作動判定処理を行う（ステップＳ２０１３）。この処理では、有効ライン上に表示された図柄の組合せが、図柄組合せテーブルに規定されたいずれかの図柄の組合せであるか否かを判定する。例えば、入賞作動フラグ格納領域において「１」が格納されているビットがあるか否かを判定する。また、詳細は省略するが、この処理においては入賞作動コマンド生成格納処理が行われる。なお、この入賞作動判定処理は、第１実施形態の入賞作動判定処理（図２３のステップＳ１３）と同様の処理である。

【１９８１】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、メダル通過枚数異常判定処理を行う（ステップＳ２０１８）。この処理では、セレクタ（例えば、第１実施形態のセレクタ３１に対応するセレクタ）の内部で検出されたメダルの数と、当該セレクタの出口でカウントされるメダルの枚数の差（差枚数）を算出し、その差枚数が許容範囲内か否かを判定する。なお、メダル通過枚数異常判定処理の詳細については後述する。

【１９８２】

続いて、メインＣＰＵ２１０１は、メダル払出・再遊技作動処理を行う（ステップＳ２０１４）。この処理では、上述の入賞作動判定処理において判定された図柄の組合せが、小役に係る図柄の組合せであればこれに対応するメダル数を払出し、リプレイ役に係る図柄の組合せであれば次回の遊技において再遊技を作動させるために必要な各種処理を行う。なお、例えば、上述の入賞作動判定処理において判定された図柄の組合せがリプレイ役に係る図柄の組合せである場合には、今回の遊技におけるベット数と同数の値を後述の自動投入メダルカウンターにセットする処理を行う。また、この処理では、払出すメダル数に応じたメダル払出信号を外部集中端子板（例えば、第１実施形態の外部集中端子板５５に対応する外部集中端子板）から出力する。なお、メダル払出・再遊技作動処理の詳細については後述する。

【１９８３】
　続いて、メインＣＰＵ２１０１は、役比モニタ集計開始処理を行う（ステップＳ２０１９）。この処理では、役比モニタ装置（例えば、第１実施形態の役比モニタ装置５４に対応する役比モニタ装置）に表示される、遊技に関する各種割合情報を算出するためのデータを集計用格納装置に格納する。なお、役比モニタ集計開始処理の詳細については後述する。
【１９８４】
　続いて、メインＣＰＵ２１０１は、遊技終了時状態制御処理を行う（ステップＳ２０１５）。この処理では、各種遊技状態について、遊技が終了するときに、（例えば、表示された図柄の組合せ等に基づいて）移行条件が成立する場合には成立した移行条件にしたがって遊技状態を移行させるため、あるいは現在の遊技状態の遊技期間を管理するために必要な各種処理を行う。なお、この遊技終了時状態制御処理は、第１実施形態の遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５、図３０参照）と同様の処理である。
【１９８５】
　続いて、メインＣＰＵ２１０１は、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理を行う（ステップＳ２０２０）。この処理では、ＢＢ（特賞）の作動終了を判定して、ＲＡＭ初期化アドレスに「ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレス」をセットする。ここで、ＢＢ（特賞）遊技数は、例えば、第１実施形態におけるＢＢ状態での遊技回数である。その後、ステップＳ２０２０では、続けて、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、及び指定ＲＡＭ初期化処理を実行する。なお、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、及び指定ＲＡＭ初期化処理の詳細については後述する。
【１９８６】
　続いて、メインＣＰＵ２１０１は、遊技終了時メイン側演出制御処理を行う（ステップＳ２０１６）。この処理では、遊技が終了するときに、主制御回路２１００側（メイン側）の制御による各種演出を行う場合、当該演出を行うために必要な各種処理を行う。例えば、遊技終了時に所定の演出が行われる場合には当該所定の演出の実行を制御する。また、これが疑似遊技を含むものであれば当該疑似遊技の進行（あるいは疑似遊技に関する報知）を制御する。なお、この遊技終了時メイン側演出制御処理は、第１実施形態の遊技終了時メイン側演出制御処理（図２３のステップＳ１６）と同様の処理である。
【１９８７】
　このように、パチスロ機２００１では、上述のステップＳ２００２～ステップＳ２０２０の処理が行われることで１回の単位遊技が制御され、また、これらの処理が繰り返されることで遊技の進行が制御される。なお、必要に応じてこれらの処理以外の処理が適宜行われるように構成することもできるし、これらの処理のうち一部の処理については行われないように構成することもできる。すなわち、上述の各種処理はあくまで一例である。
【１９８８】
（電源投入時処理）
　次に、図１８０を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される電源投入時処理について説明する。図１８０は、電源投入時処理の処理手順を示すフローチャートである。この電源投入時処理は、図１７９で説明したように、メインＣＰＵ２１０１におけるメイン処理の前、電源投入の直後に呼び出され、実行される（図１７９のステップＳ２００１）。
【１９８９】
　電源投入時処理では、最初に、ＣＲＣ検査処理（使用領域外）を呼び出して、メインＲＡＭ２１０３のＣＲＣ検査を行う（ステップＳ２０３１）。なお、図１８０では、ステップＳ２０３１におけるこの処理を「ＣＲＣ検査処理（使用領域外）」と表記しているが、括弧書きで示される「使用領域外」の意味は、「ＣＲＣ検査処理」のプログラムが、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されていることを表している（以下、「・・・処理」の後の（使用領域外）の表記は、同じ意味で用いられる）。また、この処理を実行するサブプログラムは、図１７９のステップＳ２００１において、

使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムから呼び出される場合、例えば、プログラム上、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出され、「ＲＥＴＥＸ」で、呼び出し元のプログラムに戻る。

【１９９０】

また、このＣＲＣ検査処理の検査対象は、メインＲＡＭ２１０３の、使用領域内作業領域２１０３ａ、使用領域内スタック領域２１０３ｂ、及び使用領域外作業領域２１０３ｃである。

【１９９１】

ＣＲＣ検査処理は、その検査の結果に応じて、３つの状態（遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）、遊技復帰不可能状態２（電断発生異常）、及び遊技復帰可能状態（正常））のうち１つの状態を示すデータを遊技復帰状態格納領域に格納する。なお、ＣＲＣ検査処理の詳細は後述する。

【１９９２】

次に、ステップＳ２０３２において、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」をセットする。ここで、遊技復帰状態格納領域に遊技復帰不可能状態（すなわち、遊技復帰不可能状態１、又は遊技復帰不可能状態２）を示すデータが格納されているか否か、及び、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰不可」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ２０３３）。遊技復帰状態格納領域、及び遊技復帰不可能エラーフラグに遊技復帰不可能状態を示すデータが格納されていない場合（ステップＳ２０３３のＮｏ）、ステップＳ２０３４において、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」をセットし、ステップＳ２０３５に進む。

【１９９３】

遊技復帰状態格納領域、又は遊技復帰不可能エラーフラグに遊技復帰不可能状態を示すデータが格納されている場合（ステップＳ２０３３のＹｅｓ）、ステップＳ２０３４の処理をスキップしてステップＳ２０３５に進む。

【１９９４】

次に、ステップＳ２０３５において、設定変更条件が成立しているか否か、すなわち、設定変更を行うための操作が行われているか否かを判定する。設定用鍵型スイッチ（例えば、第１実施形態の設定用鍵型スイッチ５２に対応するスイッチ）を、遊技店の管理者が（設定変更処理を行うために）鍵穴に設定キーを挿入して（初期位置から）左に回すことでオン状態とし、かつ、ドア開閉監視スイッチ（例えば、第１実施形態のドア開閉監視スイッチ５６に対応するスイッチ）が、下ドア機構（例えば、第１実施形態の下ドア機構ＤＤに対応する下ドア機構）が開放状態になり、メインＣＰＵ２１０１がオン状態を検知できる状態で電源を投入すると（ステップＳ２０３５のＹｅｓ）、ステップＳ２０３６で指定ＲＡＭ初期化処理を呼び出して、メインＲＡＭ２１０３の初期化を行う。

【１９９５】

一方、上述したステップＳ２０３５のＹｅｓの条件に該当せず、遊技復帰状態格納領域に遊技復帰不可能状態（すなわち、遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）や遊技復帰不可能状態２（電断発生異常））を示すデータが格納されている場合は（ステップＳ２０３５のＮｏ_１）、使用領域外作業領域２１０３ｃの遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰不可」を示すデータをセットし、遊技復帰不可能エラー処理を呼び出す。なお、遊技復帰不可能エラー処理の詳細については後述する。

【１９９６】

また、上述したステップＳ２０３５のＹｅｓの条件に該当せず、遊技復帰状態格納領域に遊技復帰可能状態（すなわち、遊技復帰可能状態（正常））を示すデータが格納されている場合は（ステップＳ２０３５のＮｏ_２）、遊技復帰処理を呼び出す。遊技復帰処理は、例えば、第１実施形態の遊技復帰処理（図２４のステップＳ２９）に対応する処理であり、遊技の状態を電断検知前の状態に復帰させる処理を行う。

【１９９７】

上述したステップＳ２０３５のＹｅｓの条件に該当した場合、ステップＳ２０３６において、指定ＲＡＭ初期化処理を呼び出す。この場合、ＲＡＭ初期化アドレスに「設定変更時クリアアドレス」がセットされた状態で指定ＲＡＭ初期化処理が呼び出されることになり、当該指定ＲＡＭ初期化処理により、メインＲＡＭ２１０３の、使用領域内作業領域２１０３ａや使用領域外作業領域２１０３ｃ等の初期化が行われる。なお、指定ＲＡＭ初期化処理の詳細については後述する。

【１９９８】

次に、ステップＳ２０３７において、設定変更処理を実行する。設定変更処理では、例えば、上述した設定用鍵型スイッチを用いて、パチスロ機２００１の設定値（例えば、６段階の設定１～設定６）を変更する。なお、このような設定変更処理は、第１実施形態のパチスロ機１で説明した設定変更と同様のものである。

【１９９９】

次に、ステップＳ２０３８において、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」をセットし、ステップＳ２０３９において、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理を呼び出す。なお、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理の詳細については後述する。

【２０００】

（ＣＲＣ検査処理（使用領域外））

次に、図１８１を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるＣＲＣ検査処理（使用領域外）について説明する。図１８１は、ＣＲＣ検査処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このＣＲＣ検査処理（使用領域外）は、前述した通り、図１８０のステップＳ２０３１で、プログラム上、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出される処理である。

【２００１】

ＣＲＣ検査処理（使用領域外）では、最初に、ステップＳ２０５１において、スタックポインタに使用領域外スタック領域をセットし、その領域に、呼び出し元のプログラムカウンタを格納する。具体的には、バンク１のレジスタに備えられたスタックポインタ（ＳＰ）に使用領域外スタック領域２１０３ｄのスタック先頭アドレス（「Ｆ４００」Ｈ）がセットされる。また、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出され、「ＲＥＴＥＸ」で呼び出し元に戻るまで、スタックポインタ（ＳＰ）は、バンク１のレジスタのＳＰが使用され、使用されるスタックエリアは、使用領域外スタック領域２１０３ｄとなる。

【２００２】

次に、ステップＳ２０５２において、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）を呼び出し、そこで、使用領域内作業領域２１０３ａや使用領域外作業領域２１０３ｃ等に関するＣＲＣ演算を行う。この処理は、「ＣＲＣ演算処理（使用領域外）」と表記されているが、括弧書きで示される「使用領域外」の意味は、「ＣＲＣ演算処理」のプログラムがメインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されていることを示している。また、この処理を実行するサブプログラムは、図１８１のステップＳ２０５２において、例えば、プログラム上、「ＣＡＬＬ」等で呼び出され、「ＲＥＴ」で、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２００３】

上記のように、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）は、通常の「ＣＡＬＬ」等により呼び出され、「ＣＡＬＬＥＸ」は使用されないが、これは、呼び出し元のプログラム（ＣＲＣ検査処理（使用領域外））と、この処理のプログラムがともに、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、バンクの切換がないためである。

【２００４】

次に、ステップＳ２０５３において、所定領域に、遊技復帰不可能状態１を示すデータ（ＣＲＣ異常を表すデータ）をセットし、ステップＳ２０５４において、電断発生時のＣＲＣ値を取得する。本実施形態では、電断が発生した場合に、上述したＣＲＣ演算処理（使用領域外）と同様の処理を行い、電源がオフになる直前のメインＲＡＭ２１０３に関す

るＣＲＣ値が記憶されている。なお、このＣＲＣ値は、使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ値格納領域２１０３ｅから取得するものであり、電断発生時のＣＲＣ演算は、使用領域外作業領域２１０３ｃに関し、そのＣＲＣ値格納領域２１０３ｅを含まない範囲で行われる。

【２００５】

次に、ステップＳ２０５５において、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）で求められた演算結果（ＣＲＣ１６演算結果）と、ステップＳ２０５４で取得したＣＲＣ値の差を算出し、ステップＳ２０５６において、その算出結果が０か否かを判定する。

【２００６】

算出結果＝０、すなわち、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）で求められた演算結果（ＣＲＣ１６演算結果）と、ステップＳ２０５４で取得したＣＲＣ値が一致した場合（ステップＳ２０５６のＹｅｓ）、ステップＳ２０５７において、所定領域に、遊技復帰不可能状態２を示すデータ（電断発生異常を表すデータ）をセットし、一致しない場合は（ステップＳ２０５６のＮｏ）、ステップＳ２０６０に進む。

【２００７】

次に、ステップＳ２０５８において、電断発生フラグがオンか否かを判定する。本実施形態では、電断が発生した場合に、電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）（図１９９のステップＳ２４５５）のステップＳ２４７１において、電断発生フラグにオンをセットするように構成されている。電断発生フラグがオンの場合（ステップＳ２０５８のＹｅｓ）、ステップＳ２０５９において、所定領域に、遊技復帰可能状態を示すデータ（正常を表すデータ）をセットする。電断発生フラグがオンでない場合（ステップＳ２０５８のＮｏ）、すなわち、電断割込み処理において、上記のＣＲＣ生成処理（使用領域外）が行われていない場合は、ステップＳ２０６０に進むことで、最終的に、電断発生異常（遊技復帰不可能状態２）のセット内容が、遊技復帰状態格納領域に格納される。

【２００８】

最後に、ステップＳ２０６０において、所定領域にセットしたデータ（状態）を、遊技復帰状態格納領域に格納する。また、ここで、電断発生フラグがオフに設定される。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、使用領域外スタック領域にセーブした呼び出し元のプログラムカウンタの次のアドレスに戻り、元のプログラムの実行を継続する。

【２００９】

このようなＣＲＣ検査処理（使用領域外）の結果、ＣＲＣ演算結果が、電断発生時と電源投入時で一致しなければ、遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）となり、ＣＲＣ演算結果が一致していても、電断発生フラグがオンでなければ、遊技復帰不可能状態２（電断発生異常）となり、その他の条件では、遊技復帰可能状態（正常）となる。

【２０１０】

（ＣＲＣ演算処理（使用領域外））

次に、図１８２を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるＣＲＣ演算処理（使用領域外）について説明する。図１８２は、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このＣＲＣ演算処理（使用領域外）は、前述した通り、図１８１のＣＲＣ検査処理（使用領域外）のステップＳ２０５２で、プログラム上、「ＣＡＬＬ」等で呼び出される処理である。このＣＲＣ演算処理（使用領域外）を実行するプログラムは、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されている「ＣＲＣ検査処理（使用領域外）」から呼び出され、必ずそのＣＲＣ検査処理（使用領域外）に戻る「通常サブルーチン」である。この他、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムであって、同じく使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムから呼び出され、必ずその呼び出したプログラムに戻るプログラムは、同様に「通常サブルーチン」である。

【２０１１】

ＣＲＣ演算処理（使用領域外）では、最初に、ステップＳ２０８１において、ＣＲＣレ

ジスタポート（図１７７（Ａ）の「機能レジスタ」に割り当てられたアドレス）がセットされる。例えば、ＣＲＣ演算対象データを、ＣＲＣ回路２１０７ｃに出力するためのポート番号を、例えば、Ｃレジスタにセットする。次に、ステップＳ２０８２において、使用領域内作業領域２１０３ａのＣＲＣ演算バイト数を、例えば、Ｂレジスタにセットし、さらに、ステップＳ２０８３において、使用領域内作業領域２１０３ａの先頭アドレスを、例えば、ＨＬレジスタにセットする。ここで、ＢレジスタにセットされたＣＲＣ演算バイト数は、使用領域内作業領域２１０３ａでの、ＣＲＣ演算の対象となるデータサイズである。なお、本実施形態で使用しているマイクロプロセッサ２１００において、マイクロプロセッサ２１００に内蔵されている各回路への入出力ポートは、全て、図１７７（Ａ）の「機能レジスタ」にアドレスが割り当てられている。

【２０１２】

次に、メインＣＰＵ２１０１は、ＣＲＣ回路２１０７ｃに、上記のＣＲＣ演算バイト数と先頭アドレスで特定されるデータを出力する（ステップＳ２０８４）。この処理は、例えば、ＯＴＩＲ命令により行われる。ＯＴＩＲ命令では、ＣレジスタとＵレジスタ（メインＣＰＵ２１０１側の図１７７（Ａ）の「機能レジスタ」に割り当てられたアドレス）により指定される入出力ポートに、ＨＬレジスタで指定される領域の内容を書き込み、その後、Ｂレジスタの内容から１を減算し、ＨＬレジスタの内容を１加算し、この処理を、Ｂレジスタが０になるまで繰り返し、ＣＲＣ演算対象データを、ＣＲＣ回路２１０７ｃに出力する。そして、ＣＲＣ回路２１０７ｃは、受け取ったＣＲＣ演算対象データに対してＣＲＣ演算を行う。ＣＲＣ演算対象のデータの出力が終了すると、Ｂレジスタは０となり、ＨＬレジスタは、使用領域内スタック領域２１０３ｂの先頭アドレス（例えば、使用領域内作業領域２１０３ａの最終アドレス＋１のアドレス）になる。

【２０１３】

次に、メインＣＰＵ２１０１は、ステップＳ２０８５において、使用領域内スタック領域２１０３ｂのＣＲＣ演算バイト数をＢレジスタにセットし、ＣＲＣ回路２１０７ｃに、上記の先頭アドレスで特定されるデータを出力する（ステップＳ２０８６）。この出力処理は、上述した、ＯＴＩＲ命令による使用領域内作業領域２１０３ａのＣＲＣ演算対象データを出力する処理と同様である。この処理によって、使用領域内スタック領域２１０３ｂのＣＲＣ対象データがＣＲＣ回路２１０７ｃに出力され、このデータに対してＣＲＣ演算が行われる。このとき、ＣＲＣ回路２１０７ｃによるＣＲＣ演算は、使用領域内作業領域２１０３ａのＣＲＣ演算対象データに関するＣＲＣ演算から継続して行われることになる。

【２０１４】

この後、同様に、使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ演算を行う。すなわち、ステップＳ２０８７において、使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ演算バイト数をＢレジスタにセットし、ステップＳ２０８８において、使用領域外作業領域２１０３ｃの先頭アドレスをＨＬレジスタにセットし、ステップＳ２０８９において、ＣＲＣ回路２１０７ｃに、上記のＣＲＣ演算バイト数と先頭アドレスで特定されるデータを、例えば、上述したＯＴＩＲ命令により出力する。その後、このデータに対してＣＲＣ演算が行われる。このとき、ＣＲＣ回路２１０７ｃによるＣＲＣ演算は、使用領域内スタック領域２１０３ｂのＣＲＣ演算対象データに関するＣＲＣ演算から継続して行われることになる。

【２０１５】

なお、ここでは、ＣＲＣ演算を行う使用領域外作業領域２１０３ｃの範囲には、電断発生時のＣＲＣ演算により求められたＣＲＣ値が記憶されるＣＲＣ値格納領域２１０３ｅは除かれるものとする。例えば、使用領域外作業領域２１０３ｃの最終アドレスにＣＲＣ値格納領域２１０３ｅを配置し、ＣＲＣ演算対象データが、その最終アドレスの前までになるように、ＣＲＣ演算バイト数を調整する。このような構成とする理由は、電断発生時に、使用領域外作業領域２１０３ｃを含めたＣＲＣ演算の演算結果が、そのＣＲＣ演算後に使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納されるからである。

【２０１６】

その後、ステップＳ２０９０において、ＣＲＣ回路２１０７ｃによる演算確定（１サイクル～５サイクル）を待ち、ステップＳ２０９１において、ＣＲＣ回路２１０７ｃからＣＲＣ演算結果（ＣＲＣ１６の演算結果）を取得し、処理を終了する。ここで、ＣＲＣ演算結果は、例えば、ＣＲＣ回路２１０７ｃに係る所定のパラレル入力ポートから受信し、例えば、ＨＬレジスタにセットする。

【２０１７】

（遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外））

次に、図１８３を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）について説明する。図１８３は、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。この遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）は、前述した通り、図１８０のステップＳ２０３５でＮｏ_１の判定であった場合、すなわち、電源投入時に設定変更の操作が行われず、かつ、遊技復帰状態格納領域に、遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）または、遊技復帰不可能状態２（電断発生異常）を示すデータが格納されている場合に（例えば、ＣＡＬＬＥＸにより）呼び出される。

【２０１８】

なお、本実施形態では、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）が、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムによって実行されるが、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムによって実行されるように構成してもよい。

【２０１９】

また、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）は、後述するメイン処理の内部抽選処理（ステップＳ２００５）から（例えば、ＣＡＬＬＥＸによって）も呼び出される。

【２０２０】

遊技復帰不可能エラーは、電源をオフにして、設定変更を行わなければ復旧しないエラーであり、設定変更の操作を行わずに電源をオンにした場合は、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）によって、通信データの送信が持ち越しとなったまま待機状態となる。この処理は、第１実施形態の図２４のステップＳ３０に示される、電源投入時エラー処理と同様のものである。

【２０２１】

遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）では、最初に、ステップＳ２１１１において、割込み禁止の設定がされ、これによって、電断割込み処理等の発生が抑止される。次に、ステップＳ２１１２において、メダルの投入（及びベット操作）が禁止される。なお、メダルレス機の場合は、ベット操作のみ禁止となる。

【２０２２】

次に、ステップＳ２１１３において、遊技復帰不可能エラーが発生したことを、情報表示装置（例えば、第１実施形態の情報表示装置１４の７セグＬＥＤを用いた表示装置）に表示するよう設定する。

【２０２３】

次に、ステップＳ２１１４において、リセットコントローラ２１０６のＷＤＴ２１０６ｂのリセット（クリア）を行う。この処理によって、ＷＤＴ２１０６ｂは、初期値に戻ってカウントを再開し、その後すぐにまたステップＳ２１１４によるリセットが行われるので、ＷＤＴ２１０６ｂが所定のカウント値になったことを契機とする処理（リセットによる再起動）が開始されることはない。

【２０２４】

ステップＳ２１１５では、残り通信データの送信持ち越し制御を行う。残り通信データの送信持ち越し制御は、遊技復帰不可能エラーが検知された時点で、通信データ格納領域に通信データが格納されていた場合、その格納されている通信データを、電断復帰直後に副制御回路２２００に送信させるための処理である。具体的には、送信間隔タイマーの値を１減算する処理が無限ループで繰り返され、すぐに、送信間隔タイマーの値が０になる

（ただし、マイナスの値にまで減算されることはない）。

【２０２５】

本実施形態では、後述する定期割込処理の通信データ送信処理において、副制御回路２２００に通信データを一定周期（例えば、約８ｍｓｅｃ）で送信するため、送信間隔タイマーに所定値をセットした後、各周期でその送信間隔タイマーの値を１減算し、値が０になった場合に、未送信の通信データを送信する。

【２０２６】

しかしながら、遊技復帰不可能エラーが検知されると、上述したように、ステップＳ２１１１で割込み禁止にされるために、定期割込処理において、通信データ格納領域に記憶されている通信データ送信処理は停止され、残りの通信データの送信は持ち越しになる。その後、電源のオフ・オンがされ、そこで設定変更処理がされると、送信間隔タイマーの値が０となっているため、即座に、未送信の通信データが副制御回路２２００に送信される。ここで、副制御回路２２００に送信する通信データには、例えば、遊技の演出に係る各種制御指令（コマンド）や、当該コマンドに係るデータが含まれる。

【２０２７】

また、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）の無限ループの間（ステップＳ２１１４とステップＳ２１１５を無限に繰り返す処理）に電源をオフにしても、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）のステップＳ２１１１で割込み禁止としているため、電断割込み処理が発生することがなく、設定キーの操作を行わずに、オフ状態（設定変更処理を行わない状態）とし、その後、電源を投入しても、遊技復帰状態格納領域に遊技復帰不可能状態（すなわち、遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）や遊技復帰不可能状態２（電断発生異常））を示すデータが格納されたままであり、電源を投入した直後に、ふたたび上記の無限ループが発生し、待機状態となる。

【２０２８】

したがって、設定変更処理を行わなければ、正常な遊技機動作に移行することができず、設定変更処理を行えば、通信データ格納領域に記憶されている通信データがクリアされるため、遊技復帰不可能エラー発生前に通信データ格納領域に記憶されている未送信の通信データは破棄されることになる。このような、遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）によって、本実施形態のパチスロ機２００１において、効果的な再起動の管理が行われる。

【２０２９】

（ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、指定ＲＡＭ初期化処理）

次に、図１８４、及び図１８５を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される３つの処理（すなわち、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理、指定ＲＡＭ初期化処理）について説明する。

【２０３０】

図１８４、図１８５は、上述の３つの処理の処理手順を示すフローチャートであり、一連の連続するプログラムコードからなる１つのサブプログラムである。また、このフローチャートでは、２つの終了記号（角丸四角形で「ＲＥＴ」の表記）と、３つの開始記号（それ以外の角丸四角形で「ＲＥＴ」以外の表記、すなわち、「ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理」、「送信待機＆ＲＡＭ初期化処理」、及び「指定ＲＡＭ初期化処理」の表記）が含まれており、終了記号は、フローがその終了記号に達した場合に、呼び出し元のプログラムにリターンする（戻る）ことを示しており、開始記号は、他の呼び出しプログラムが呼び出し可能なアドレス（エントリーポイント）を示している。

【２０３１】

なお、ここでは、終了記号（リターン）、及び開始記号（エントリーポイント）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。

【２０３２】

ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイン

トＳ２１３１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１７９に示したメイン処理から、このＢＢ（特賞）遊技数チェック処理が呼び出される（ステップＳ２０２０）。

【２０３３】

メインＣＰＵ２１０１は、図１８４に示すステップＳ２１３２において、ＢＢ（特賞）が作動中か否かを判定し、作動中でなければ（ステップＳ２１３２のＮｏ）、リターンＳ２１３３に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。作動中である場合（ステップＳ２１３２のＹｅｓ）、ステップＳ２１３４に進み、そこで、ＢＢ（特賞）の作動が終了したか否かを判定する。

【２０３４】

ＢＢ（特賞）の作動が終了していない場合（ステップＳ２１３４のＮｏ）、ステップＳ２１３５において、ＲＢ遊技回数の減算を行い、ステップＳ２１３６において、ＲＢが終了か否かを判定する。ＲＢが終了していない場合（ステップＳ２１３６のＮｏ）、リターンＳ２１３３に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２０３５】

ＢＢ（特賞）の作動が終了している場合（ステップＳ２１３４のＹｅｓ）、またはＲＢが終了している場合（ステップＳ２１３６のＹｅｓ）、ステップＳ２１３７において、ＲＢ差動信号オフ（試験信号）を設定し、ステップＳ２１３８において、２サイクル分、割込みを待機する。

【２０３６】

次に、ステップＳ２１３９において、ＢＢ（特賞）の作動が終了したか否かを判定し、ＢＢ（特賞）の作動が終了していない場合（ステップＳ２１３９のＮｏ）、リターンＳ２１３３に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。一方、ＢＢ（特賞）の作動が終了している場合（ステップＳ２１３９のＹｅｓ）、ステップＳ２１４０において、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレス」をセットする。

【２０３７】

次に、図１８５に示すエントリーポイントＳ２１４１に進み、そこから、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理が開始される。また、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２１４１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１８０に示したステップＳ２０３９の処理から、この送信待機＆ＲＡＭ初期化処理が呼び出され、ステップＳ２０３９の処理から呼び出された場合のＲＡＭ初期化アドレスには、ステップＳ２０３８でセットされたアドレスがセットされている。

【２０３８】

次に、ステップＳ２１４２において、割込み禁止の設定がされ、その後、ステップＳ２１４３において、通信データ格納領域に格納されている通信データを取得し、ステップＳ２１４４において、割込み許可の設定を行う。割込み禁止から割込み許可までの間は、定期割込み処理や電断割込み処理等の割込み処理の発生が抑止されることにより、定期割込み処理の通信データ送信処理（図１９５参照）が行われて通信データ格納領域に格納されている通信データが送信されてしまう不具合を抑止することもできる。

【２０３９】

次に、ステップＳ２１４５において、未送信の通信データがあるか否かを判定し、未送信の通信データがある場合（ステップＳ２１４５のＹｅｓ）、ステップＳ２１４２～ステップＳ２１４４の処理を繰り返す。未送信の通信データがない場合（ステップＳ２１４５のＮｏ）、エントリーポイントＳ２１４６に進み、そこから、指定ＲＡＭ初期化処理が開始される。

【２０４０】

また、指定ＲＡＭ初期化処理は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２１４６のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１８０に示したステップＳ２０３６の処理から、この指定ＲＡＭ初期化処理が呼び出され、ステップＳ２０３６の処理から呼び出された場合のＲＡＭ初期化アドレスは、ステップＳ２０３２またはステップＳ２０３４でセットされたアドレスがセットされている。

【２０４１】

次に、ステップＳ２１４７において、戻り番地の保護（スタック領域へのプログラムカウンタの格納）、ＲＡＭ初期化アドレスのセット、初期化回数（＝初期化を行うバイト数）のセットを行う。その後、ステップＳ２１４８において、割込み禁止の設定を行い、ステップＳ２１４９において、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るクリアアドレスがセットされているＲＡＭ初期化アドレスの内容を開始アドレス格納領域に保存する。具体的には、ＲＡＭ初期化アドレスのセットは、ＤＥレジスタにセットされているアドレスをＨＬレジスタにセットする処理であり、初期化回数は、ＨＬレジスタにセットされたアドレスから戻り番地の保護されているスタック領域がクリアされないアドレスまでを算出したバイト数であり、ＢＣレジスタにセットされた値である。

【２０４２】

次に、ステップＳ２１５０において、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）を、（ＣＡＬＬＥＸにより）呼び出して、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの初期化を行う。なお、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）の詳細については、後述する。

【２０４３】

その後、ステップＳ２１５１において、使用領域内ＲＡＭ初期化、すなわち、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに関する初期化を行い、ステップＳ２１５２において割込み許可の設定を行う。割込み禁止から割込み許可までの間は、定期割込み処理や電断割込み処理等の割込み処理の発生が抑止される。具体的には、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに対して、ステップＳ２１４７でセットされたＲＡＭ初期化アドレスから初期化回数（＝初期化を行うバイト数）が、０で上書きされる。ここでは図示されていないが、例えば、「ＣＬＲＩＲ」命令を実行することで、ステップＳ２１５１における初期化が行われる。

【２０４４】

この使用領域内ＲＡＭ初期化の処理では、もともと、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る初期化開始アドレスが記憶されているので、初期化開始アドレスとして、そのアドレスをそのまま用いる。また、本実施形態では、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａの初期化エンドアドレスは、固定的に設定されているが、初期化開始アドレスに応じて、異なるアドレスにセットされてもよい。

【２０４５】

処理は、その後、リターンＳ２１５３に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２０４６】

（使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外））

次に、図１８６を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）について説明する。

【２０４７】

図１８６は、上述の使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。図１８６では、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）と、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）の２つ処理が示されているが、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）で、例えば、ジャンプ命令を実行することによって、その後、続けて、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）が実行されるため、これらを一連のプログラムとして説明する。

【２０４８】

なお、ここでは、２つの開始記号（角丸四角形で「ＲＥＴＥＸ」以外の表記、すなわち

「使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）」と「使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）」の表記）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。

【２０４９】

使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２１７１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１８５のステップＳ２１５０から、この使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）が（ＣＡＬＬＥＸにより）呼び出される。

【２０５０】

メインＣＰＵ２１０１は、図１８６に示すステップＳ２１７２において、例えば、ジャンプ命令などで、エントリーポイントＳ２１７３のアドレス（使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって移動（ジャンプ）し、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）の制御を移動させる。移動後の処理は、便宜上、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）と称する。また、ステップＳ２１７２が示す移動（ジャンプ）処理は、便宜上、台形の記号で表記されている。なお、このような移動（ジャンプ）処理は、ジャンプ命令を含む様々な方法で実現することができる。

【２０５１】

使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）が開始されると、ステップＳ２１７４において、開始アドレス格納領域の下位アドレス（例えば、１バイト）を取得し、例えば、使用領域外作業領域２１０３ｃの所定領域（記憶判定領域）に格納する。ここで、開始アドレス格納領域には、ＲＡＭ初期化アドレスにセットされた、例えば、２バイトの、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るクリアアドレスが格納されており（図１８５のステップＳ２１４９）、状況に応じて、例えば、ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス、設定変更時クリアアドレス、ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレス、及び１遊技終了時クリアアドレスのうちいずれかが格納される。これらのクリアアドレスは、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るアドレスである。なお、１遊技終了時クリアアドレスは、例えば、図１７９に示す遊技終了時メイン側演出制御処理（ステップＳ２０１６）においてＲＡＭ初期化アドレスにセットされる。

【２０５２】

次に、ステップＳ２１７５において、使用領域外ＲＡＭ初期化（ステップＳ２１８３）を行うために使用する初期化開始アドレスを、とりあえず、ＲＡＭ異常発生時の使用領域外クリアアドレスにセットする。ここで、記憶判定領域のアドレスが、ＲＡＭ異常発生時クリアアドレスでない場合（ステップＳ２１７６のＮｏ）、次の候補として、初期化開始アドレスを、設定変更時の使用領域外クリアアドレスにセットする（ステップＳ２１７７）。

【２０５３】

次に、記憶判定領域のアドレスが、設定変更時クリアアドレスでない場合（ステップＳ２１７８のＮｏ）、次の候補として、初期化開始アドレスを、ＢＢ（特賞）終了時の使用領域外クリアアドレスにセットする（ステップＳ２１７９）。

【２０５４】

さらにその後、記憶判定領域のアドレスが、ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレスでない場合（ステップＳ２１８０のＮｏ）、最終的に、初期化開始アドレスを、１遊技終了時の使用領域外クリアアドレスにセットし（ステップＳ２１８１）、その後、ステップＳ２１８２に進む。

【２０５５】

ステップＳ２１７６、ステップＳ２１７８、ステップＳ２１８０でＹｅｓ判定となった場合はそれぞれ、初期化開始アドレスの内容を変更することなく、ステップＳ２１８２に進む。

【２０５６】

以上の処理によって、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るＲＡＭ初期化アドレスが保存されている開始アドレス格納領域の下位アドレス（記憶判定領域のアドレス）のみを参照することで、その下位アドレスに対応する、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの初期化開始アドレスを指定することができる。

【２０５７】

次に、ステップＳ２１８２では、初期化回数（＝初期化を行うバイト数）を算出して所定の領域にセットし、その後、上記処理でセットされた初期化開始アドレスを用いて、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの初期化を行う（ステップＳ２１８３）。具体的には、ＨＬレジスタにセットされている初期化開始アドレスと、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの初期化エンドアドレスとで減算を行うことで、初期化回数がＢＣレジスタにセットされ、上述した「ＣＬＲＩＲ」命令を実行することで、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの指定された範囲が初期化される。なお、本実施形態では、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂの初期化エンドアドレスは、開始アドレス格納領域の下位アドレスがどのようなものであっても固定的にセットされるが、初期化開始アドレスと同様に、開始アドレス格納領域の下位アドレスに応じて、異なるアドレスにセットされてもよい。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２０５８】

使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）を実行するプログラムは、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶され、かつ、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されている、図１８４、図１８５に示す処理のステップＳ２１５０から呼び出されて、当該処理に戻る「特定サブルーチン」である。

【２０５９】

（乱数値取得処理、内部抽籤処理）

次に、図１８７、図１８８を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される乱数値取得処理と内部抽籤処理について説明する。

【２０６０】

図１８７は、上述の乱数値取得処理の処理手順を示すフローチャートである。図１８８は、上述の内部抽籤処理の処理手順を示すフローチャートである。これら２つの処理は、一連の連続するプログラムコードからなる１つのサブプログラムである。また、このフローチャートでは、１つの終了記号（角丸四角形で「ＲＥＴ」の表記）と、２つの開始記号（それ以外の角丸四角形で「ＲＥＴ」以外の表記、すなわち、「乱数値取得処理」と「内部抽籤処理」の表記）が含まれており、終了記号は、フローがその終了記号に達した場合に、呼び出し元のプログラムにリターンする（戻る）ことを示しており、開始記号は、他の呼び出しプログラムが呼び出し可能なアドレス（エントリーポイント）を示している。

【２０６１】

なお、ここでは、２つの開始記号（「乱数値取得処理」と「内部抽籤処理」の表記）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。

【２０６２】

乱数値取得処理は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２２０１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１７９のステップＳ２００４から、この乱数値取得処理が呼び出される。

【２０６３】

内部抽籤処理は、図１８７、図１８８からわかるように、上述の乱数値取得処理を呼び出すと、その後、処理は自動的に、内部抽籤処理のエントリーポイントＳ２２０５に進むようになっており、特段、呼び出し元のプログラムから呼び出す必要はない。図１７９においては、処理内容をわかりやすくするために、ステップＳ２００４の後のステップＳ２００５で内部抽籤処理を呼び出すように表現しているが、実際は、ステップＳ２００４において、乱数値取得処理を呼び出すと、その乱数値取得処理が実行された後、自動的に、内部抽籤処理が実行されることになる。

【２０６４】
最初に、乱数値取得処理が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、図１８７に示すステップＳ２２０２において、割込み禁止の設定を行い、次に、ステップＳ２２０３において、役抽籤用乱数値を取得し、取得した乱数値を役抽籤乱数値格納領域に保存する。本実施形態では、役抽籤用乱数値は、マイクロプロセッサ２１００に接続された乱数回路２１５０によって生成される。
【２０６５】
次に、ステップＳ２２０４において、割込み許可の設定が行われる。割込み禁止から割込み許可までの間は、定期割込み処理や電断割込み処理等の割込み処理の発生が抑止される。
【２０６６】
次に、内部抽籤処理が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、図１８８に示すステップＳ２２０６において、メダル投入枚数チェック処理を実行する。この処理では、メダルの受付が可能な期間において、メダルセンサ（例えば、第１実施形態のメダルセンサ３１Ｓに対応するメダルセンサ）の検出結果や、ベットスイッチ（例えば、第１実施形態のベットスイッチ６Ｓに対応するベットスイッチ）の検出結果に基づいてメダル投入カウンターやクレジットカウンターに記憶されているメダル数を更新する。
【２０６７】
次に、ステップＳ２２０７において、遊技復帰不可能エラーフラグからセット内容を取得する。例えば、図１９８に示す、後述する設定値チェック処理（使用領域外）や、乱数検査処理（使用領域外）により遊技復帰不可能状態（異常）と判定された場合、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰不可」を示すデータ（例えば、「０」以外の値）がセットされ、遊技復帰可能状態（正常）と判定された場合には、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰可」を示すデータ（例えば、「０」の値）がセットされた状態が維持される。
【２０６８】
ここで、遊技復帰不可能エラーフラグのセット内容が「復帰不可」か否かの判定が行われ（ステップＳ２２０８）、遊技復帰不可能エラーフラグのセット内容が「復帰不可」である場合は（ステップＳ２２０８のＹｅｓ）、遊技復帰不可能エラー処理（図１８３参照）を呼び出す。なお、本実施形態では「遊技復帰不可能状態」としているが、正確には「遊技継続不可能状態」と表す場合もある。
【２０６９】
遊技復帰不可能エラーフラグのセット内容が「復帰不可」でない場合（ステップＳ２２０８のＮｏ）、すなわち、遊技復帰可能状態（正常）である場合、ステップＳ２２０９において、内部抽籤処理に用いる内部抽籤テーブル（のアドレス）をセットする。
【２０７０】
以降の内部抽籤処理（ステップＳ２２１０～ステップＳ２２２０）は、第１実施形態の図２６に示されているステップＳ６２～ステップＳ７３と同じであるため、説明は省略する。
【２０７１】
（インタフェース２出力処理（使用領域外））
次に、図１８９を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるインタフェース２出力処理（使用領域外）について説明する。なお、本処理は、図３の試験機用第２インターフェースボード３０２への送信専用のシリアル通信回路である通信回路ＳＴＵ２を使用して出力するためのサブプログラムである。
【２０７２】
図１８９は、上述のインタフェース２出力処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。図１８９では、インタフェース２出力処理（使用領域外）と、インタフェース２出力処理（継続）の２つ処理が示されているが、インタフェース２出力処理（使用領域外）でジャンプ命令を実行することによって、その後、続けて、インタフェース２出力処理（継続）が実行されるため、これらを一連のプログラムとして説明する。

【２０７３】
なお、ここでは、２つの開始記号（角丸四角形で「ＲＥＴＥＸ」以外の表記、すなわち、「インタフェース２出力処理（使用領域外）」と「インタフェース２出力処理（継続）」の表記）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。
【２０７４】
インタフェース２出力処理（使用領域外）は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２２４１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１７９のステップＳ２０１７から、このインタフェース２出力処理（使用領域外）が（ＣＡＬＬＥＸにより）呼び出される。
【２０７５】
メインＣＰＵ２１０１は、図１８９に示すステップＳ２２４２において、例えば、ジャンプ命令などで、エントリーポイントＳ２２４３のアドレス（使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって移動（ジャンプ）し、インタフェース２出力処理（使用領域外）の制御を移動させる。移動後の処理は、便宜上、インタフェース２出力処理（継続）と称する。また、ステップＳ２２４２が示す移動（ジャンプ）処理は、便宜上、台形の記号で表記されている。なお、この移動（ジャンプ処理）は、上記の通り、様々な方法で実現可能である。
【２０７６】
インタフェース２出力処理（継続）が開始されると、ステップＳ２２４４において、現在、インタフェース２（Ｉ／Ｆ２）に送信中か否かの判定が行われる。インタフェース２は、主制御基板２０７１と副制御基板２０７２とをシリアル通信で接続するインタフェースを表し、例えば、上述したシリアル通信回路２１１４のうちの１つで、送信専用のシリアル通信回路であるＳＴＵ３が、この主制御基板２０７１と副制御基板２０７２の間の通信を制御する。
【２０７７】
インタフェース２への送信中でないと判定された場合（ステップＳ２２４４のＮｏ）、ステップＳ２２４５において、送信データの送信に用いる送信パラメータテーブル（のアドレス）をセットし、次に、ステップＳ２２４６において、セットした送信パラメータテーブルにより送信データを生成する。
【２０７８】
その後、ステップＳ２２４７において、生成された送信データをインタフェース２（副制御基板２０７２、副制御回路２２００）に向けて送信し、その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。
【２０７９】
また、インタフェース２への送信中であると判定された場合は（ステップＳ２２４４のＹｅｓ）、何も処理を行わずに、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。
【２０８０】
インタフェース２出力処理（継続）を実行するプログラムは、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶され、かつ、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されている、図１７９に示すメイン処理のステップＳ２０１７から「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出されて、当該メイン処理に戻る「特定サブルーチン」である。
【２０８１】
（メダル通貨枚数異常判定処理（使用領域外））
次に、図１９０を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるメダル通貨枚数異常判定処理（使用領域外）について説明する。図１９０は、メダル通貨枚数異常判定処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このメダル通貨枚数異常判定処理（使用領域外）は、前述した通り、図１７９のステップＳ２０１８で、プログラム上

、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出される処理である。

【２０８２】

メダル通貨枚数異常判定処理（使用領域外）では、最初に、ステップＳ２２６１において、メダル投入カウンターをセットし、ステップＳ２２６２において、ガイドレールメダル通貨枚数をセットする。ここで、メダル投入カウンターは、セレクタ（例えば、第１実施形態のセレクタ３１に対応するセレクタ）の出口に接続されているメダル排出ガイドを通過したメダルの枚数をカウントしたものであり、ガイドレールメダル通貨枚数は、当該セレクタの内部に設けられているガイドレールを通過したとして（メダル検出センサにより）検出されたメダルの枚数である。

【２０８３】

次に、ステップＳ２２６３において、メダル投入カウンターとガイドレールメダル通貨枚数との差枚数を算出し、ステップＳ２２６４において、その差枚数が許容範囲か否かを判定する。

【２０８４】

差枚数が許容範囲でないと判定された場合（ステップＳ２２６４のＮｏ）、差枚数異常エラーを示すデータを、使用領域外エラーフラグにセットする（ステップＳ２２６５）。ステップＳ２２６５の後、または差枚数が許容範囲であると判定された場合（ステップＳ２２６４のＹｅｓ）、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２０８５】

（メダル払出・再遊技作動処理、精算実行処理、メダル払出処理）

次に、図１９１、及び図１９２を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される３つの処理（すなわち、メダル払出・再遊技作動処理、精算実行処理、メダル払出処理）について説明する。

【２０８６】

図１９１、図１９２は、上述の３つの処理の処理手順を示すフローチャートであり、一連の連続するプログラムコードからなる１つのサブプログラムである。また、このフローチャートでは、２つの終了記号（角丸四角形で「ＲＥＴ」の表記）と、３つの開始記号（それ以外の角丸四角形で「ＲＥＴ」以外の表記、すなわち、「メダル払出・再遊技作動処理」、「精算実行処理」、及び「メダル払出処理」の表記）が含まれており、終了記号は、フローがその終了記号に達した場合に、呼び出し元のプログラムにリターンする（戻る）ことを示しており、開始記号は、他の呼び出しプログラムが呼び出し可能なアドレス（エントリーポイント）を示している。

【２０８７】

なお、ここでは、終了記号（リターン）、及び開始記号（エントリーポイント）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。

【２０８８】

メダル払出・再遊技作動処理は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２２８１のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１７９に示したメイン処理から、このメダル払出・再遊技作動処理が呼び出される（ステップＳ２０１４）。なお、この処理は、第１実施形態では、図２３に示すメダル払出・再遊技作動処理（ステップＳ１４）に対応する。

【２０８９】

メインＣＰＵ２１０１は、図１９１に示すステップＳ２２８２において、入賞が再遊技か否かを判定し、再遊技でなければ（ステップＳ２２８２のＮｏ）、ステップＳ２２８４に進む。再遊技である場合（ステップＳ２２８２のＹｅｓ）、ステップＳ２２８３に進み、そこで、自動投入メダルカウンターに、投入されたメダルの枚数を表すメダル投入カウンターの値をセットする。

【２０９０】

次に、ステップＳ２２８４において、入賞作動コマンドを通信データ格納領域に格納し

、ステップＳ２２８５において、入賞枚数カウンター＝０か否かを判定する。入賞枚数カウンター＝０の場合（ステップＳ２２８５のＹｅｓ）、リターンＳ２２９２に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２０９１】

入賞枚数カウンター＝０でない場合（ステップＳ２２８５のＮｏ）、ステップＳ２２８６において、所定のレジスタに、払出枚数カウンター格納領域のアドレスをセットする。次に、ステップＳ２２８７において、クレジットのメダル枚数が上限（例えば、５０枚）か否かを判定する。

【２０９２】

クレジットのメダル枚数が上限でない場合（ステップＳ２２８７のＮｏ）、ステップＳ２２８８において、クレジットカウンターに１を加算し、これによって、入賞によって払い出されたメダルが１枚ずつ、クレジットに貯留される。

【２０９３】

ステップＳ２２８９において、メダル払出枚数チェック処理を実行する。このメダル払出枚数チェック処理は、払出枚数カウンターを１減算したり、外部集中端子板（例えば、第１実施形態の外部集中端子板５５に対応する外部集中端子板）に出力するメダル払出信号のためのカウンター（メダルアウトカウンター）に１を加算したり、メダル投入カウンターの更新を行う。

【２０９４】

次に、ステップＳ２２９１において、払出終了か否か、すなわち、メダル払出枚数が０になったか否かを判定し、払出終了と判定された場合は（ステップＳ２２９１のＹｅｓ）、リターンＳ２２９２に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。払出終了でないと判定された場合は（ステップＳ２２９１のＮｏ）、ステップＳ２２８７に戻り、クレジットのメダル枚数が上限か否かを判定する。

【２０９５】

クレジットのメダル枚数が上限と判定された場合は（ステップＳ２２８７のＹｅｓ）、図１９２のステップＳ２２９８に進み、そこで、払出枚数カウンターに係るメダル払出処理が開始される。メダル払出処理は、このように、図１９１に示すフローチャートで、クレジットのメダル枚数が上限と判定された場合に実行されるほか、後述するように、図１９２に示す精算実行処理（ステップＳ２２９３）が開始された場合に呼び出される（ステップＳ２２９５）。

【２０９６】

メダル払出処理では、払出枚数を入力パラメータとして受け取り、そこで把握される払出枚数について払出処理を行うようになっており、本実施形態では、この処理の呼び出し時に、払出枚数カウンター、クレジットカウンター、メダル投入カウンターのいずれかを入力パラメータとして受け取り、受け取ったカウンターの数を払出枚数とする。また、このとき、入力パラメータは、各カウンターを格納している（使用領域内作業領域２１０３ａにおける）アドレスの下位アドレス（例えば、下位８ビット）である。

【２０９７】

メダル払出処理が開始されると、ステップＳ２２９９において、メダルを払出すためのホッパー装置（例えば、第１実施形態のホッパー装置３２と同様の構成の装置）を作動させるホッパードライブをオンにし、ステップＳ２３００において、メダルがホッパカウントスイッチを通過したか否かを判定する。メダルがホッパカウントスイッチを通過していないと判定された場合は（ステップＳ２３００のＮｏ）、ステップＳ２３０１でホッパーエラーチェック処理を行う。

【２０９８】

ホッパーエラーチェック処理は、ホッパジャムエラー、ホッパエンプティエラーの検知を行う。ホッパジャムエラーであれば、ホッパカウントスイッチがオンのまま一定時間経過したときに、エラーを検知したと判断し、ホッパエンプティエラーであれば、ホッパカウントスイッチがオフのまま一定時間経過したときに、エラーを検知したと判断する。こ

れらのエラーを検知した場合、検知したエラーの種類を、情報表示装置（例えば、第１実施形態の情報表示装置１４に対応する表示装置）の所定の７セグＬＥＤに表示する。

【２０９９】

その後、ステップＳ２３００に進み、メダルがホッパカウントスイッチを通過したか否かの判定を繰り返す。メダルがホッパカウントスイッチを通過したと判定された場合は（ステップＳ２３００のＹｅｓ）、ステップＳ２３０２に進み、そこで、メダル払出枚数チェック処理を行う。このメダル払出枚数チェック処理は、図１９１で示したステップＳ２２８９のメダル払出枚数チェック処理と同様の処理である。

【２１００】

次に、ステップＳ２３０３において、払出終了か否か、すなわち、メダル払出枚数が０になったか否かを判定し、払出終了と判定された場合は（ステップＳ２３０３のＹｅｓ）、リターンＳ２３０５に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。払出終了でないと判定された場合は（ステップＳ２３０３のＮｏ）、ステップＳ２３００に進み、メダルがホッパカウントスイッチを通過したか否かの判定を繰り返す。

【２１０１】

払出終了と判定された場合は（ステップＳ２３０３のＹｅｓ）、ステップＳ２３０４に進み、そこで、ホッパードライブをオフにし、その後、リターンＳ２３０５に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１０２】

図１９２のフローチャートには、精算実行処理に係る別のエントリーポイントＳ２２９３が示されている。

【２１０３】

この精算実行処理は、遊技者が、図１７９のメイン処理におけるメダル受付・スタートチェック処理（ステップＳ２００３）において、精算ボタン（例えば、第１実施形態の精算ボタン９に対応するボタン）を押下した場合に、所定のプログラムが起動され、そのプログラムが、エントリーポイントＳ２２９３のアドレス（使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定して呼び出す処理である。なお、この処理は、第１実施形態では、図２３に示すメダル受付・スタートチェック処理（ステップＳ３）において、精算ボタンを押下された場合に実行される処理に対応する。

【２１０４】

精算実行処理が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、図１９２に示すステップＳ２２９４において、所定のレジスタに、クレジットカウンター格納領域のアドレスをセットし、ステップＳ２２９５において、クレジットカウンターに係るメダル払出処理を実行する（呼び出す）。このメダル払出処理は、前述した、図１９２のステップＳ２２９８～ステップＳ２３０５までの処理である。

【２１０５】

このメダル払出処理が終了すると、ステップＳ２２９６に進み、そこで、再遊技中か否かを判定し、再遊技中であれば（ステップＳ２２９６のＹｅｓ）、リターンＳ２３０５に進み、呼び出し元のプログラムに戻る。再遊技中でなければ（ステップＳ２２９６のＮｏ）、メインＣＰＵ２１０１は、ステップＳ２２９７において、所定のレジスタに、メダル投入カウンター格納領域のアドレスをセットして次のステップに進み、そこで、メダル投入カウンターに係るメダル払出処理を実行する。このメダル払出処理は、前述した、図１９２のステップＳ２２９８～ステップＳ２３０５までの処理である。なお、図１９２のフローチャートでは、精算実行処理（ステップＳ２２９３～ステップＳ２２９７）が終了すると、リターンすることなく次の払出処理に進んでいるが、プログラム上もこうした連続的な記述になっており、払出処理に対するＣＡＬＬ命令を無くすことができ、さらに、ＲＥＴ命令を１つ少なくできるので、その分だけメインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａの使用容量を節約することができる。

【２１０６】

このメダル払出処理が終了すると、リターンＳ２３０５により、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１０７】

（メダル通過枚数計上処理（使用領域外））

次に、図１９３を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるメダル通過枚数計上処理（使用領域外）について説明する。図１９３は、メダル通過枚数計上処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このメダル通過枚数計上処理（使用領域外）は、図１９１、図１９２に示したメダル払出数チェック処理（ステップＳ２２８９、ステップＳ２３０２）で、そのプログラムは、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、呼び出し元のプログラムから、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出される処理である。

【２１０８】

メダル通過枚数計上処理（使用領域外）では、ステップＳ２３２１において、メダル投入カウンターの更新を行う。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、元のプログラムに戻る。

【２１０９】

（役比モニタ集計開始処理（使用領域外））

次に、図１９４を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される役比モニタ集計開始処理（使用領域外）について説明する。図１９４は、役比モニタ集計開始処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。この役比モニタ集計開始処理（使用領域外）は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントのアドレス（使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１７９のステップＳ２０１９から、この役比モニタ集計開始処理（使用領域外）が（ＣＡＬＬＥＸにより）呼び出される。

【２１１０】

役比モニタ集計開始処理（使用領域外）は、役比モニタ装置（例えば、第１実施形態の役比モニタ装置５４に対応する役比モニタ装置）に、遊技に関する各種割合情報を表示するための集計開始処理であり、役比モニタ装置に表示するための当該情報の集計、算出、表示制御処理は、例えば、定期割込み処理のステップＳ２３６４において実行される。

【２１１１】

役比モニタ集計開始処理（使用領域外）が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、ステップＳ２３４１において、役比集計開始フラグをセットし、ステップＳ２３４２において、特賞中信号（ボーナス（特賞）状態であることを示す信号）を役比集計用格納領域に格納する。

【２１１２】

次に、ステップＳ２３４３において、払出枚数を集計用格納領域に格納し、ステップＳ２３４４において、ナビデータを集計用格納領域に格納する。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、元のプログラムに戻る。

【２１１３】

（定期割込み処理）

次に、図１９５を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される定期割込み処理について説明する。図１９５は、定期割込み処理の処理手順を示すフローチャートである。

【２１１４】

本実施形態では、定期割込み処理の周期（１割込時間）を「１．１１７２ｍｓ」としているが、定期割込み処理の周期はこれに限られない。また、本実施形態の定期割込み処理は、ステップＳ２３６４の試射試験信号制御処理（使用領域外）と、ステップＳ２３６８のエラー検知処理（使用領域外）以外は、図３２に示される第１実施形態の定期割込処理と同様の処理であるため、ここでは、試射試験信号制御処理（使用領域外）とエラー検知処理（使用領域外）のみについて説明を行う。

【２１１５】
　ステップＳ２３６４では、試射試験信号制御処理（使用領域外）を行う。この試射試験信号制御処理（使用領域外）は、役比モニタ装置（例えば、第１実施形態の役比モニタ装置５４に対応する役比モニタ装置）に、遊技に関する各種割合情報を表示するための集計、算出、表示制御処理を行う。なお、試射試験信号制御処理（使用領域外）の詳細については後述する。
【２１１６】
　ステップＳ２３６８では、エラー検知処理（使用領域外）を行う。このエラー検知処理（使用領域外）は、第１実施形態のエラー検知処理（図３２のステップＳ２０７）に対応するものであり、ステップＳ２３６２でチェックされた入力状態等に基づいて、各種エラー状態が発生しているか否かを検知する。本実施形態では、さらに、特徴的な構成によって、設定値チェック処理と乱数検査処理を実行している。なお、エラー検知処理（使用領域外）の詳細については後述する。
【２１１７】
（試射試験信号制御処理（使用領域外））
　次に、図１９６を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される試射試験信号制御処理（使用領域外）について説明する。図１９６は、試射試験信号制御処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。この試射試験信号制御処理（使用領域外）は、前述した通り、図１９５のステップＳ２３６４で、「ＣＡＬＬＥＸ」により呼び出される処理である。
【２１１８】
　試射試験信号制御処理（使用領域外）では、最初に、ステップＳ２３９１において、試験信号生成処理を行う。次に、ステップＳ２３９２において、リールストップ可能信号出力処理を行う。
【２１１９】
　次に、ステップＳ２３９３において、特賞信号制御処理を行い、ステップＳ２３９４において疑似遊技中信号制御処理を行い、ステップＳ２３９５において条件装置信号制御処理を行う。
【２１２０】
　次に、ステップＳ２３９６において、役比モニタ集計処理を行い、ステップＳ２３９７において、役比モニタ表示管理処理を行い、ステップＳ２３９８において、試験信号出力処理を行う。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。主な機能として、役比モニタ表示管理処理は、役比モニタ装置５４への表示制御を含む表示管理処理であり、試験信号出力処理は、試験機用第１インターフェースボード３０１への試験信号出力処理である。
【２１２１】
（エラー検知処理（使用領域外））
　次に、図１９７を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるエラー検知処理（使用領域外）について説明する。図１９７は、エラー検知処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このエラー検知処理（使用領域外）は、前述した通り、図１９５のステップＳ２３６８で、「ＣＡＬＬＥＸ」により呼び出される処理である。
【２１２２】
　エラー検知処理（使用領域外）は、第１実施形態の定期割込処理で実行されるエラー検知処理（図３２のステップＳ２０７）に対応するものである。最初に、ステップＳ２４１１において、設定値チェック処理（使用領域外）を呼び出す。この設定値チェック処理（使用領域外）は、設定値の値が正常か否かを判定する処理であり、詳細については後述する。
【２１２３】
　次に、ステップＳ２４１２において、メダル通過チェック処理を行い、ステップＳ２４１３において、ホッパーチェック処理を行う。なお、これらの処理は、メダルレス機の場

合、不要となる。

【２１２４】

次に、ステップＳ２４１４において、乱数検査処理（使用領域外）を呼び出す。この乱数検査処理（使用領域外）は、乱数回路が正常に動作しているか否かを判定する処理であり、詳細については後述する。その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１２５】

（設定値チェック処理（使用領域外）、乱数検査処理（使用領域外））

次に、図１９８を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される２つの処理（すなわち、設定値チェック処理（使用領域外）と、乱数検査処理（使用領域外））について説明する。

【２１２６】

図１９８は、上述の２つの処理の処理手順を示すフローチャートであり、一連の連続するプログラムコードからなる１つのサブプログラムである。また、このフローチャートでは、３つの終了記号（角丸四角形で「戻る」の表記１つと、角丸四角形で「ＲＥＴ」の表記２つ）と、２つの開始記号（それ以外の角丸四角形で「ＲＥＴ」以外の表記、すなわち、「設定値チェック処理（使用領域外）」、及び「乱数検査処理（使用領域外）」の表記）が含まれており、終了記号は、フローがその終了記号に達した場合に、呼び出し元のプログラムにリターンする（戻る）ことを示しており、開始記号は、他の呼び出しプログラムが呼び出し可能なアドレス（エントリーポイント）を示している。

【２１２７】

なお、ここでは、終了記号（リターン）、及び開始記号（エントリーポイント）のそれぞれについて、便宜上、ステップ番号を付すものとする。

【２１２８】

設定値チェック処理（使用領域外）は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２４３１のアドレス（使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１９７に示したエラー検知処理（使用領域外）から、この設定値チェック処理（使用領域外）が呼び出される（ステップＳ２４１１）。

【２１２９】

設定値チェック処理（使用領域外）が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、ステップＳ２４３２において、設定値は正常値か否かを判定し、正常値でなければ（ステップＳ２４３２のＮｏ）、ステップＳ２４３４に進み、そこで遊技復帰不可能エラーフラグに復帰不可を表すデータをセットし、ステップＳ２４３５の「ＲＥＴ」で呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１３０】

一方、設定値が正常値と判定された場合は（ステップＳ２４３２のＹｅｓ）、呼び出し元のプログラムに戻る（ステップＳ２４３３）。なお、ここでは、ステップＳ２４３２の処理とステップＳ２４３３の処理は単一命令によって実行されているため、呼び出し元のプログラムに戻る終了記号には、「ＲＥＴ」ではなく「戻る」の表記がされている。なお、本実施形態において、設定値が正常値とは、使用領域内作業領域２１０３ａに割り当てられた、設定値格納領域に記憶された値が０～５（設定１～設定６）であり、正常値とする値以外は、全て異常値となる。

【２１３１】

上述した単一命令は、例えば、「ｏｐｃｏｄｅ１ Ｃ，（Ａｄｄｒ１），６」といった命令であり、ここで、ｏｐｃｏｄｅ１は、所定の命令を表す記述であり、第１オペランドの「Ｃ」は、フラグレジスタＦ（図１７６（Ｂ）参照）のＣ（キャリー）ビットを表し、第２オペランドの「（Ａｄｄｒ１）」は、アドレスＡｄｄｒ１に格納された値を表し、第３オペランドの「６」は、アドレスＡｄｄｒ１に格納された値の比較対象である。この単一命令を実行すると、アドレスＡｄｄｒ１に格納された値－６の計算を行った結果、フラ

グレジスタＦのＣビットが「１」であれば呼び出し元に戻り、「０」であれば次のステップに進む。

【２１３２】

アドレスＡｄｄｒ１は、この場合、使用領域内作業領域２１０３ａのなかの、設定値が格納されている場所を表しており、この命令により、格納されている設定値が６以上であれば、フラグレジスタＦのＣビットが「０」となって、上述するステップＳ２４３４に進み、５以下であれば、フラグレジスタＦのＣビットが「１」となって、設定値が正常と判断され、呼び出し元に戻る。なお、本実施形態では、設定変更処理により、設定値は「０」～「５」の範囲で変更される。

【２１３３】

乱数検査処理（使用領域外）は、呼び出し元のプログラムから、エントリーポイントＳ２４３６のアドレス（使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムのアドレス）や、そのアドレスに対応するラベルを指定することによって呼び出される。具体的には、図１９７に示したエラー検知処理（使用領域外）から、この乱数検査処理（使用領域外）が呼び出される（ステップＳ２４１４）。

【２１３４】

乱数検査処理（使用領域外）が開始されると、メインＣＰＵ２１０１は、ステップＳ２４３７において、役抽籤用乱数回路（マイクロプロセッサ２１００に接続された乱数回路２１５０）が正常か否かを判定する。この判定は、例えば、乱数回路２１５０のステータスを読み込むことによって行う。また、乱数回路２１５０から乱数値を複数回取得し、取得した複数の乱数値が一致したような場合に、乱数回路２１５０が乱数を更新しておらず、異常が発生したと判断することもできる。

【２１３５】

役抽籤用乱数回路が正常である場合（ステップＳ４３７のＹｅｓ）、別の乱数回路の検査を行うためにステップＳ２４３８に進み、正常でない場合は（ステップＳ４３７のＮｏ）、ステップＳ２４３４に進み、そこで遊技復帰不可能エラーフラグに復帰不可を表すデータをセットし、ステップＳ２４３５の「ＲＥＴ」で呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１３６】

次に、ステップＳ２４３８において、マイクロプロセッサ２１００の内部にある乱数回路２１１０について検査を行う。本実施形態では、乱数回路２１１０により、演出に係る乱数値や、ＡＴ状態に移行させるための乱数値などを生成する。ここでは、内部情報レジスタの乱数ステータスは正常か否かを判定する。

【２１３７】

マイクロプロセッサ２１００が有する内部情報レジスタ（ＣＩＦ）には、乱数更新の異常や乱数更新クロック周波数の異常を通知する領域があり、ここでは、これらの領域の値をチェックすることにより、乱数回路２１１０が正常か否かを判定している。内部情報レジスタの乱数ステータスが正常である（すなわち、乱数回路２１１０が正常である）場合（ステップＳ２４３８のＹｅｓ）、ステップＳ２４３９の「ＲＥＴ」で呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１３８】

内部情報レジスタの乱数ステータスが正常でない（すなわち、乱数回路２１１０が正常でない）場合（ステップＳ２４３８のＮｏ）、乱数回路２１５０の場合と同様に、ステップＳ２４３４に進み、そこで遊技復帰不可能エラーフラグに復帰不可を表すデータをセットし、ステップＳ２４３５の「ＲＥＴ」で呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１３９】

（電断割込み処理）

次に、図１９９を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される電断割込み処理について説明する。図１９９は、電断割込み処理の処理手順を示すフローチャートである。なお、本実施形態では、上述したように、電断が発生した際には、パラレル入力ポート２１１１（ＸＩＮＴ）に出力される電断検知信号により電断が検知され、その場合に、電

断割込み処理が実行される。

【２１４０】

電断割込み処理では、最初に、メインＣＰＵ２１０１が、全レジスタをスタックエリアに退避する（ステップＳ２４５１）。本実施形態では、バンク０のメインレジスタ（汎用レジスタＡ、Ｂ、Ｃ、Ｅ、Ｄ、Ｈ、Ｌ、フラグレジスタＦ、インデックスレジスタＩＸ、ＩＹ）、及びこれらのメインレジスタに対応するサブレジスタについて退避を行う。ただし、バンク１のレジスタについては退避を行わない。

【２１４１】

次に、ステップＳ２４５２において、メダルの受付を禁止し、ステップＳ２４５３においてホッパモータをオフにする。その後、ステップＳ２４５４において、現在のスタックポインタＳＰを所定の格納領域に格納する。なお、現在のスタックポインタＳＰを保存しておくのは、図１８０の電源投入時処理で示した遊技復帰処理において、格納したスタックポインタＳＰに基づいて、処理を電断発生直前の処理に復帰させるためである。

【２１４２】

次に、ステップＳ２４５５において、ＣＲＣ生成処理（使用領域外）を呼び出し、ステップＳ２４５６において、ＲＡＭ（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａと使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）のアクセスを禁止するよう設定する。

【２１４３】

（ＣＲＣ生成処理（使用領域外））

次に、図２００を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）について説明する。図２００は、ＣＲＣ生成処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。このＣＲＣ生成処理（使用領域外）は、前述した通り、図１９９のステップＳ２４５６で、「ＣＡＬＬＥＸ」により呼び出される処理である。

【２１４４】

ＣＲＣ生成処理（使用領域外）は、最初に、ステップＳ２４７１において、電断発生フラグをオンに設定する。次に、ステップＳ２４７２において、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）を呼び出し、そこで、使用領域内作業領域２１０３ａや使用領域外作業領域２１０３ｃ等に関するＣＲＣ演算を行う。なお、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）は、図１８２を参照して説明した処理と同じである。

【２１４５】

次に、ステップＳ２４７３において、ステップＳ２４７２で呼び出したＣＲＣ演算処理（使用領域外）の結果（ＣＲＣ値）を、所定の格納領域に格納する。こうして格納された電断割込み時のＣＲＣ値は、電源投入時のＣＲＣ検査処理（使用領域外）（図１８０のステップＳ２０３２）で取得され、電源投入時のＣＲＣ値と比較される（図１８１のステップＳ２０５４、ステップＳ２０５５）。

【２１４６】

ＣＲＣ生成処理（使用領域外）は、その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。

【２１４７】

（使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外））

次に、図２０１を参照して、メインＣＰＵ２１０１によって実行される使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）について説明する。図２０１は、使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）の処理手順を示すフローチャートである。

【２１４８】

使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）は、図１９０のメダル通過枚数異常判定処理（使用領域外）で使用領域外エラーフラグにセットされた差枚数異常エラー等をクリアするための処理である。この処理は、例えば、ホッパジャムエラーやホッパエンプティエラーを含む何らかの遊技復帰可能エラーが発生しているときに、主制御基板２０７１に設けられたリセットボタン（第１実施形態に係る第１の遊技機の変形例に関連して説明された、主制御基板７１に設けられたリセットボタンと同様のボタン）を押下することに

より開始される。
【２１４９】
　使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）は、最初に、ステップＳ２４９１において、エラーフラグを取得し、ステップＳ２４９２において、そのエラーフラグ（のビット）を反転する。次に、ステップＳ２４９３において、使用領域外エラーフラグと反転データとの論理積を算出し、ステップＳ２４９４において、論理積の算出結果を使用領域外エラーフラグにセットする。
【２１５０】
　使用領域外エラー要因クリア処理（使用領域外）は、その後、「ＲＥＴＥＸ」により、呼び出し元のプログラムに戻る。
【２１５１】
　次に、本実施形態の特徴的な構成・機能について、これまで説明してきた図１７９～図２０１を参照して詳細に説明する。また、この説明に際して、さらに図２０２～図２１８を参照する。
【２１５２】
［１．ＣＡＬＬＥＸの呼出先指定］
　上述したように、メインＲＯＭ２１０２内において、遊技者により実施される遊技に直接関与しない各種処理に使用される各種プログラム、及び各種データ（テーブル）を、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａとは異なるアドレスに配置された使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂに格納して、その分、遊技用エリアとして設定されている使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａの容量の圧迫を回避することができる。
【２１５３】
　また、バンク０に係る処理は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａに記憶されているプログラムとデータを用いて、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａを一時的に利用しながら、遊技者により実施される遊技の動作を制御するための演算処理を行う。すなわち、バンク０に係る処理は、遊技用のエリア（使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａ、及び使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）に係る処理ということができる。
【２１５４】
　一方、バンク１に係る処理は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂに記憶されているプログラムとデータを用いて、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂを一時的に利用しながら、遊技者により実施される遊技に直接関係しない処理（遊技以外の処理を行うための演算処理）を行う。すなわち、バンク１に係る処理は、領域外のエリア（使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂ、及び使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）に係る処理ということができる。
【２１５５】
　メインＲＯＭ２１０２の使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａは、遊技者により実施される遊技の動作を制御するためのプログラムやデータを記憶する領域であるが、遊技機の処理の多様化・複雑化によって、規定されている使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａの容量が年々切迫してきている。そのため、遊技者により実施される遊技に直接関係しない処理に関するプログラムやデータについて確実にメインＲＯＭ２１０２の使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂに記憶させるとともに、いかにメインＲＯＭ２１０２の使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａの容量を節約するかということが大きな課題となっている。
【２１５６】
　また、バンク０の処理において、バンク１の処理を実行するサブプログラムを呼び出すための命令は、例えば、「ＣＡＬＬＥＸ」であり、さらに「ＲＥＴＥＸ」で呼び出し元のプログラムに戻る。ここで、こうした呼び出し命令（例えば、「ＣＡＬＬＥＸ」）は、サブプログラムが、使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂの所定アドレス（例えば、「２１００」Ｈ）より前、すなわち、本実施形態の場合、「２０００」Ｈ～「２０ＦＦ」Ｈに記憶されていると２バイト命令になり、当該所定アドレス以降（すなわち、「２１００」Ｈ～

「２４ＢＦ」Ｈ）に記憶されているサブプログラムを呼び出す場合は、４バイト命令になる、というメインＣＰＵ２１０１の特性を生かした設計になっている。

【２１５７】

上記のように、「ＣＡＬＬＥＸ」といった命令で呼び出すサブプログラムの記憶位置によって、その命令のサイズが異なるというのは、その命令が、呼び出すサブプログラムを特定するために、そのサブプログラムの呼出先アドレス（以下、「スタートポイント」と称す。）をアドレスで指定する場合に、「２０００」Ｈ～「２０ＦＦ」Ｈのアドレスについては、上位アドレスの「２０」を省略して指定でき、アドレスについて１バイトを保持すればよいＣＰＵの設計仕様となっており、一方、呼び出すサブプログラムのスタートポイントが「２１００」Ｈ以降のアドレスである場合は、アドレスについて上位・下位アドレスで２バイトの容量を確保する必要があるからである。これは、メインＣＰＵ２１０１の設計者が、遊技機業界の制約を考慮し、使用領域内ＲＯＭエリアの容量を少しでも確保することを容易にするため行った工夫である。なお、上記のようなアドレスの保持に関する事情によれば、呼び出すサブプログラムのスタートポイントが「２１００」Ｈ以降のアドレスである場合は、「ＣＡＬＬＥＸ」の命令を３バイト命令とすることも考えられる。従って、「ＣＡＬＬＥＸ」命令は、スタートポイントによって、マシン語（ＣＰＵが理解できる言語）が異なるため、遊技機のプログラム設計者は、「ＣＡＬＬＥＸ」命令で指定するサブプログラムのスタートポイントを注意する必要がある。

【２１５８】

いずれにせよ、「ＣＡＬＬＥＸ」といった命令で呼び出すサブプログラムの記憶位置を「２０００」Ｈ～「２０ＦＦ」Ｈのアドレスにとどめておくことで、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａにおいて、当該命令ごとに２バイトの節約が可能となる。なお、「ＣＡＬＬＥＸ」において、呼び出すサブプログラムのスタートポイントが「２１００」Ｈ以降のアドレスである場合に、３バイト命令になっていれば、節約可能なバイト数は１バイトとなる。

【２１５９】

上記のような状況に鑑み、本実施形態では、バンク０の処理において、バンク１の処理を実行するサブプログラムを呼び出すための命令（例えば、「ＣＡＬＬＥＸ」）を用いる際に、少しでも使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａの容量が抑えられるような構成をとるようにした。また、遊技機のプログラム設計者が「ＣＡＬＬＥＸ」命令を使用する際に、スタートポイントを注意する必要が無くなる。

【２１６０】

図２０２（Ａ）に示すメインＲＯＭ２１０２は、図１７７（Ｂ）のメインＲＯＭ２１０２の構成を部分的に抜き出したものであり、従来のＣＡＬＬＥＸによるサブプログラムの呼び出しを概念的に表している。

【２１６１】

図２０２（Ａ）では、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａにプログラムＰＲＧ１が記憶されており、ＰＲＧ１は、呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」でサブプログラムＥＸ_Ｐｒｏｃ１とＥＸ_Ｐｒｏｃ２を呼び出している状況が示されている。ここで、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１とＥＸ_Ｐｒｏｃ２は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、さらに、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈより前である。したがって、ＰＲＧ１で使用している呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズはいずれも２バイトである。図２０２（Ａ）には、ＰＲＧ１から、「ＣＡＬＬＥＸ」により、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１が呼び出されている状況が、点線で示されている。

【２１６２】

さらに、図２０２（Ａ）では、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａにプログラムＰＲＧ２が記憶されており、ＰＲＧ２は、呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」でサブプログラムＥＸ_Ｐｒｏｃ３、ＥＸ_Ｐｒｏｃ４、及びＥＸ_Ｐｒｏｃ５を呼び出している状況が示されている。ここで、ＥＸ_Ｐｒｏｃ３は、メインＲＯＭ２１０２の

使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、さらに、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈより前である。したがって、ＰＲＧ２において、ＥＸ_Ｐｒｏｃ３を呼び出す命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズは２バイトである。また、ＥＸ_Ｐｒｏｃ４、ＥＸ_Ｐｒｏｃ５は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、さらに、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈ以降となっている。したがって、ＰＲＧ２において、ＥＸ_Ｐｒｏｃ４、ＥＸ_Ｐｒｏｃ５を呼び出す命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズはそれぞれ４バイトとなる。図２０２（Ａ）には、ＰＲＧ２から、「ＣＡＬＬＥＸ」により、ＥＸ_Ｐｒｏｃ４が呼び出されている状況が、点線で示されている。

【２１６３】

このように、呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」等の利用において、スタートポイントが「２１００」Ｈ以降のサブプログラムを呼び出す場合には、各呼び出し命令ごとに、使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量を２バイト余計に消費していることになる。

【２１６４】

図２０２（Ｂ）に示すメインＲＯＭ２１０２は、図２０２（Ａ）と同様に、図１７７（Ｂ）のメインＲＯＭ２１０２の構成を部分的に抜き出したものであり、本実施形態のＣＡＬＬＥＸによるサブプログラムの呼び出しを概念的に表している。

【２１６５】

図２０２（Ｂ）では、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａにプログラムＰＲＧ３が記憶されており、ＰＲＧ３は、呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」でサブプログラムＥＸ_Ｐｒｏｃ６とＥＸ_Ｐｒｏｃ７を呼び出している状況が示されている。ここで、ＥＸ_Ｐｒｏｃ６とＥＸ_Ｐｒｏｃ７は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、さらに、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈより前である。したがって、ＰＲＧ３で使用している呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズはいずれも２バイトである。このようなＲＰＧ３は、図２０２（Ａ）で示したＰＲＧ１と同様の構成である。図２０２（Ｂ）には、ＰＲＧ３から、「ＣＡＬＬＥＸ」により、ＥＸ_Ｐｒｏｃ６が呼び出されている状況が、点線で示されている。

【２１６６】

さらに、図２０２（Ｂ）では、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａにプログラムＰＲＧ４が記憶されており、ＰＲＧ４は、呼び出し命令「ＣＡＬＬＥＸ」でサブプログラムＥＸ_Ｐｒｏｃ８、アドレス（ラベル）ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＰ、及びアドレス（ラベル）ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＰを指定して呼び出しを行っている状況が示されている。ここで、ＥＸ_Ｐｒｏｃ８は、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、さらに、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈより前である。したがって、ＰＲＧ４において、ＥＸ_Ｐｒｏｃ８を呼び出す命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズは２バイトである。

【２１６７】

また、ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲは、メインＲＯＭ２１０２の使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されており、そのスタートポイント（記憶位置の先頭アドレス）は、「２１００」Ｈより前である。したがって、ＰＲＧ４において、ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲを呼び出す命令「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズはそれぞれ２バイトとなる。そして、このＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲで示される「２１００」Ｈより前のアドレスには、例えば、ジャンプ命令「ＪＲ」といったプログラムが配置されており、このジャンプ命令「ＪＲ」により、さらにサブプログラムＥＸ_Ｐｒｏｃ９、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０にジャンプし、そこで、これらのサブプログラムが実行される。

【２１６８】

ＥＸ_Ｐｒｏｃ９、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０のアドレスは、図２０２（Ｂ）に示すように、「２１００」Ｈ以降となっている。しかしながら、ＰＲＧ４で、最終的にＥＸ_Ｐｒｏｃ

９、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０を呼び出すための「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズは、上記のように２バイトとなっている。図２０２（Ｂ）には、ＰＲＧ４から、「ＣＡＬＬＥＸ」により、ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲが呼び出され、さらに、継続して、ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲがＥＸ_Ｐｒｏｃ９にジャンプしている（呼び出している）状況が、点線で示されている。また、同様に、ＰＲＧ４から、「ＣＡＬＬＥＸ」により、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲが呼び出され、さらに、継続して、ＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲがＥＸ_Ｐｒｏｃ１０にジャンプする（呼び出す）。なお、このような、ＥＸ_Ｐｒｏｃ９とＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲの関係、及びＥＸ_Ｐｒｏｃ１０とＥＸ_Ｐｒｏｃ１０_ＪＲの関係は、後述するように、上述の図１８６に示す、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）と使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）の関係や、図１８７に示す、インタフェース２出力（継続）とインタフェース２出力（使用領域外）の関係に対応するものである。

【２１６９】

図２０２（Ｂ）に示す構成により、実質的に「２１００」Ｈ以降に配置されるサブプログラムを呼び出すための「ＣＡＬＬＥＸ」の命令サイズを２バイトとすることができる。ただし、そのために、使用領域外プログラム領域２１０２ｃの、アドレス「２１００」Ｈより前の領域では、ジャンプ命令のための命令サイズ（例えば、２バイトまたは３バイト）が必要となり、トータルでは、＋１バイト、または＋２バイトとなる。しかしながら、このような構成によって、使用領域内プログラム領域２１０２ａより比較的容量に余裕がある使用領域外プログラム領域２１０２ｃの容量を無駄にしたとしても、容量がより切迫している使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量を節約できる意味は大きい。

【２１７０】

また、本実施形態による上記の構成によって、使用領域外プログラム領域２１０２ｃの「２１００」Ｈより前のアドレスに係る容量も切迫してきた場合には、その領域に記憶されているサブプログラム（例えば、図２０２（Ｂ）のＥＸ_Ｐｒｏｃ６、ＥＸ_Ｐｒｏｃ７、ＥＸ_Ｐｒｏｃ８）についても、「２１００」Ｈ以降のアドレスに移動させ、「２１００」Ｈより前のアドレスにおいて、そのサブプログラムにジャンプするジャンプ命令を配置するようにできる。

【２１７１】

なお、本実施形態に係る実行環境のジャンプ命令には、大きく分けて、ＪＰ系命令とＪＲ系命令があり、ＪＰ系命令は、命令コード（コマンド）＝１バイト＋絶対番地アドレス＝２バイトの計３バイトで構成される３バイト命令であり、ＪＲ系命令は、命令コード（コマンド）＝１バイト＋相対番地アドレス＝１バイトの計２バイトで構成される２バイト命令である。したがって、使用領域外プログラム領域２１０２ｃの「２１００」Ｈより前のアドレスに係る容量も節約しようとする場合は、ＪＲ系命令を用いることが好ましい。ただし、ＪＲ系命令では、上記のように、１バイトの相対番地アドレスを用いるので、相対位置で１２８バイト以内（又は、「未満」）に記憶されているサブプログラムにしかジャンプできない点に注意する必要がある。また、「ＣＡＬＬＥＸ」で呼び出すサブプログラムはジャンプ命令に限定されるものではない。「ＣＡＬＬＥＸ」による呼び出しにより、最終的に「２１００」Ｈ以降に配置されるサブプログラムを呼び出すことができれば、どのようなプログラム（命令や他のステートメントを含む）でも構わない。

【２１７２】

本実施形態のこのような構成は、例えば、図１８６に示す、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）を実行するプログラムに適用されている。

【２１７３】

まず、図１８４、図１８５の処理を実行するプログラムは、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されており、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）のＰＲＧ４に対応する。そして、このプログラムが、図１８４、図１８５に示すステップＳ２１５０において、図１８６に示す使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）（ステップＳ２１７１、ステップＳ２１７２）を「ＣＡＬＬＥＸ」により呼び出す。この呼び出しは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＣＡＬＬＥＸ ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ」に

対応する。

【２１７４】

図１８６に示す使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）は、図１８６に示す使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）にジャンプする（呼び出す）処理であり、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ」に対応する。そして、最終的に、図１８６に示す使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）が実行され、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＥＸ_Ｐｒｏｃ９」に対応する。

【２１７５】

最後に、図１８６に示す使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）の最後の「ＲＥＴＥＸ」により、「ＣＡＬＬＥＸ」によって呼び出しを行った呼び出し元のプログラムに戻り、処理は、図１８５のステップＳ２１５１に進む。

【２１７６】

また、この方法は、図１８９に示す、インタフェース２出力処理（使用領域外）を実行するプログラムにも適用されている。

【２１７７】

まず、図１７９のメイン処理を実行するプログラムは、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されており、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）のＰＲＧ４に対応する。そして、このプログラムが、図１７９に示すステップＳ２０１７において、図１８９に示すインタフェース２出力処理（使用領域外）（ステップＳ２２４１、ステップＳ２２４２）を「ＣＡＬＬＥＸ」により呼び出す。この呼び出しは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＣＡＬＬＥＸ ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ」に対応する。

【２１７８】

図１８９に示すインタフェース２出力処理（使用領域外）は、図１８９に示すインタフェース２出力処理（継続）にジャンプする（呼び出す）処理であり、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＥＸ_Ｐｒｏｃ９_ＪＲ」に対応する。そして、最終的に、図１８９に示すインタフェース２出力処理（継続）が実行され、このプログラムは、例えば、図２０２（Ｂ）の「ＥＸ_Ｐｒｏｃ９」に対応する。

【２１７９】

最後に、図１８６に示すインタフェース２出力処理（継続）の最後の「ＲＥＴＥＸ」により、「ＣＡＬＬＥＸ」によって呼び出しを行った呼び出し元のプログラムに戻り、処理は、図１７９のステップＳ２００８に進む。

【２１８０】

なお、規則上の制限として、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａへの書き込みは、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムでしか行うことができず、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂへの書き込みは、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムでしか行うことができない。したがって、本実施形態に係るフローチャートで「・・・格納する」との記載があれば、そのフローチャートが、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムか、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムかによって、格納領域が特定される。

【２１８１】

一方、使用領域内作業領域２１０３ａ、及び使用領域外作業領域２１０３ｃの読み込みに関しては、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されているプログラムでも、使用領域外プログラム領域２１０２ｃに記憶されているプログラムでも行うことができる。

【２１８２】

［２．メインＲＡＭのＣＲＣチェック］

本実施形態におけるメインＲＡＭチェックは、電断発生時に、メインＲＡＭに関してＣＲＣ演算結果（ＣＲＣ値）を取得し、電源投入時に、メインＲＡＭに関してＣＲＣ演算結果（ＣＲＣ値）を取得し、これら２つのＣＲＣ値を、電源投入時に比較し、差が０であった場合に、正常（遊技復帰可能状態）とし、その後、遊技復帰処理を行う。一方、差が０でなかった場合は、ＣＲＣ異常（遊技復帰不可能状態１）とし、その後、（電源投入時に

設定変更に係る操作がされていない限り）遊技復帰不可能処理に進む（図１８０、図１８１参照）。

【２１８３】

また、本実施形態では、メインＲＡＭチェックに関し、マイクロプロセッサ２１００に含まれるＣＲＣ回路２１０７ｃを用いてＣＲＣ演算を行う。ここで、図２０３を参照して、本実施形態におけるメインＲＡＭのＣＲＣチェックの概念について説明する。図２０３には、左側に電断時の処理、右側に電源投入時の処理が表されている。

【２１８４】

（電断時の処理）

電断が発生すると、電断検知信号によって電断が検知（電断検知信号がパラレル入力ポート３１１１（ＸＩＮＴ端子）に入力）され、その場合に、割込みコントローラ２１１２（図１７５、及び図１７８参照）により、図１９９に示す電断割込み処理が実行される。そうすると、電断割込み処理のなかで、メインＲＡＭ２１０３のＣＲＣ値を取得するため、ステップＳ２４５５において、ＣＲＣ生成処理（使用領域外）が呼び出される。

【２１８５】

ＣＲＣ生成処理（使用領域外）のフローは、図２００に示されている。この処理において、電断発生フラグをオンにし（ステップＳ２４７１）、さらに、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）を呼び出す（ステップＳ２４７２）。そして、このＣＲＣ演算処理（使用領域外）で得られた演算結果は、電断発生時のＣＲＣ値２３０１として、使用領域外作業領域２１０３ｃに格納される（ステップＳ２４７３）。

【２１８６】

このＣＲＣ演算処理（使用領域外）のフローは、図１８２に示されている。この処理において、図２０３に示すように、メインＲＡＭ２１０３の、使用領域内作業領域２１０３ａ、使用領域内スタック領域２１０３ｂ、及び使用領域外作業領域２１０３ｃのそれぞれについて、領域の先頭アドレスと演算バイト数がセットされ、ＣＲＣ回路２１０７ｃに、演算対象のデータが出力される。

【２１８７】

なお、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）では、上述したメインＲＡＭ２１０３内の３つの領域に係るデータが順次、ＣＲＣ回路２１０７ｃに出力され、ＣＲＣ回路２１０７ｃは、これらのデータをまとめて、１つのＣＲＣ演算結果を求めるようにしているが、それぞれの領域についてＣＲＣ演算結果を求め、３つのＣＲＣ演算結果を取得するようにしてもよい。

【２１８８】

また、本実施形態では、ＣＲＣ演算によるメインＲＡＭ２１０３のチェックは、上記のように、使用領域内作業領域２１０３ａ、使用領域内スタック領域２１０３ｂ、及び使用領域外作業領域２１０３ｃの３つの領域に対して行っており、このように使用領域外スタック領域２１０３ｄを省略しているのは、遊技の進行に直接関与しないものであって、重要性が乏しいからである。ただし、メインＲＡＭ２１０３のチェック範囲として、使用領域外スタック領域２１０３ｄを含めるようにしてもよいし、本実施形態とは異なる領域や範囲とすることもできる。

【２１８９】

また、電断発生時におけるＣＲＣ演算結果（ＣＲＣ値２３０１）は、図２０３に示すように、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納されるので、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）におけるＣＲＣ演算は、使用領域外作業領域２１０３ｃに関し、ＣＲＣ値格納領域２１０３ｅを除くように指定される。なお、本実施形態、及び他の実施形態において、電断が発生した場合の処理は、電断割込み処理で実行されているが、これに限られない。例えば、定期割込み処理（図１９５）内に電断検知信号を監視するサブプログラムを設け、電断検知信号を検出した場合に、図１９９の電断割込み処理を実行するようにしてもよい。この場合、電断検知信号が、２～４割込時間（１割込時間＝１．１１７２ｍｓ）にわたって電断状態を示す状態（電断検知信号

＝ＯＮ状態）であることを確認した後に、図１９９の電断割込み処理を実行することが望ましく、電断検知信号に対する瞬停やノイズによる誤動作対策となる。

【２１９０】

（電源投入時の処理）

電源が投入されると、図１７９に示すフローが開始され、最初に、図１８０に示す電源投入時処理が実行される。そうすると、電源投入時処理のなかで、メインＲＡＭ２１０３のＣＲＣ値を取得するため、ステップＳ２０３１において、ＣＲＣ検査処理（使用領域外）が呼び出される。なお、電源投入時処理が実行される前に、メインＣＰＵ２１０１は、プログラム管理等エリア２１０２ｆに記憶されているセキュリティ設定、及び、割込み初期設定データ等の設定を行う。この設定を行うための処理は、使用領域内プログラム領域２１０２ａに記憶されていないため、フローに表されることがない。これは、マイクロプロセッサ２１００自身の機能であり、使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量を節約するために、マイクロプロセッサ２１００に設けられた機能でもある。

【２１９１】

ＣＲＣ検査処理（使用領域外）のフローは、図１８１に示されている。この処理において、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）を呼び出す（ステップＳ２０５２）。そして、求められたＣＲＣ演算結果（電源投入時のＣＲＣ値２３０２）を、電断発生時のＣＲＣ値２３０１と比較し、差が０で、かつ、電断発生フラグがオンであれば、遊技復帰状態は正常（遊技復帰可能状態）として、遊技復帰処理や設定変更処理に進む（図１８０のステップＳ２０３５）。なお、電断発生時のＣＲＣ値２３０１は、上述したように、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃのＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納されており、ＣＲＣ値２３０１は、そこから取得される。

【２１９２】

ＣＲＣ検査処理（使用領域外）で呼び出されたＣＲＣ演算処理（使用領域外）のフローは、図１８２に示されており、電断時の処理で、ＣＲＣ生成処理（使用領域外）により呼び出されるＣＲＣ演算処理（使用領域外）と同じである。なお、電断発生時には、ＣＲＣ演算処理（使用領域外）におけるＣＲＣ演算は、使用領域外作業領域２１０３ｃに関し、ＣＲＣ値格納領域２１０３ｅを除くように指定されるとしたが、（両者のＣＲＣ値を比較する必要があるため）電源投入時のＣＲＣ演算においても、同じ範囲についてＣＲＣ演算を行う。

【２１９３】

上述したような本実施形態の構成により、メインＲＡＭチェックが、電断時と電源投入時でそれぞれ、ＣＲＣ回路２１０７ｃを用いたＣＲＣ演算により行われる。この処理では、図１８２を参照して上述したように、ＣＲＣ演算対象を指定するための先頭アドレスとバイト数をＣＲＣ回路２１０７ｃに渡すように記述するだけで済む。一方、サム値の演算を行う場合は、メインＲＡＭの演算対象エリアを１バイト（又は２バイト）ずつレジスタに読み込み、その値を別のレジスタに累積加算し、この処理を演算対象エリアのサイズだけ繰り返すようにメインプログラムで記述する必要がある。また、メインＲＡＭにおいて、使用領域内に係る領域、及び使用領域外に係る領域といった複数の演算対象エリアについてサム値の演算を行う場合は、それらの演算対象エリアについてそれぞれ、上記のような累積加算を行うプログラムを記述する必要がある。

【２１９４】

これに対し、本実施形態では、メインＣＰＵ２１０１で実行されるプログラムで、このような個別の処理を記載する必要がなくなる。そのため、当該プログラムにおいて、サム値の演算やサム値の比較に係るロジックを展開しなくてもよく、その分、プログラムのサイズを小さくすることができ、結果的にメインＲＯＭ２１０２のプログラム領域を節約することができる。

【２１９５】

また、こうして節約できたプログラム領域は、遊技機に関する遊技の実現に費やすことができ、遊技者に対して、より充実し洗練された遊技を提供することにつながる。

【２１９６】
　また、メインＲＡＭのチェックを、メインＣＰＵ２１０１とは異なる独立した回路である、ＣＲＣ回路２１０７ｃで行うことになるので、サム値を求めるようなチェック方法と比べて、メインＣＰＵ２１０１の負荷が軽減される。さらに、メインＣＰＵ２１０１で実行されるプログラムにおいて、サム値の演算やサム値の比較に係るロジックを展開する必要がなくなるので、当該プログラムの単純化、簡素化、及び処理時間短縮を図ることができ、結果的に、プログラムの開発効率を向上させるとともに、当該プログラムに関するメンテナビリティーを向上させることができ、また、短時間でＣＲＣチェックができるようになる。
【２１９７】
［３．４ビットデータ取得処理］
　次に、図２０４～図２０８を参照して、本実施形態における４ビットデータ取得処理について説明する。
【２１９８】
　メインＲＯＭ２１０２の使用領域内データ領域２１０２ｂに記憶されるテーブルにデータを格納する場合、通常は、各データを、１バイト単位、または２バイト単位で記憶するようにプログラムが構成される。しかしながら、格納するデータが、例えば、０から１５といった１６通りの範囲であり、最大でも４ビットしか必要でない場合、１バイトの領域に、最大４ビットのデータを２つずつ格納するようにして、実質的に未使用となっている記憶領域を減らし、結果として、メインＲＯＭ２１０２の容量を節約することが考えられる。
【２１９９】
　また、異なる種類のデータ群が、それぞれこのような、最大４ビットのデータである場合、これらすべてを１つのテーブルに格納し、共通のプログラムで対象となる４ビットのデータを取得するようにすれば、データの種類ごとにプログラムを作成する必要がなく、この点でも、メインＲＯＭ２１０２の容量を節約することにつながる。なお、異なる種類のデータ群を１つのテーブルに格納した場合でも、どのエントリー（相対アドレス位置）にどの種類のどのデータが配置されるかを把握していれば、共通のプログラムによって、所望のデータを取得するように指定することができる。
【２２００】
　図２０４には、１バイトの領域に最大４ビットのデータを２つ格納したテーブルから、指定したエントリーに応じて、そのデータを個別に取り出す共通サブプログラム（４ビットデータ取得処理）が示されている。
【２２０１】
　図２０４は、上記のような共通サブプログラム（４ビットデータ取得処理）の処理手順を示すフローチャートである。
【２２０２】
　４ビットデータ取得処理では、最初に、ステップＳ２５１１において、選択値を２で割った商をオフセット値とし、余りを奇遇判定データとする。ここで、選択値は、テーブルに記憶されたデータが、そのテーブルで何番目のデータであるかを示す値であり、いわゆる「エントリー」と同じ意味である。次に、ステップＳ２５１２において、テーブル内の対象データを取得する。ここで、データは、テーブルに記憶されている１バイト単位のデータであり、対象データには、４ビットデータが２つ含まれ、そのうちの１つが、取得しようとする４ビットデータである。対象データは、テーブルの先頭アドレス＋オフセット値の位置にある１バイトのデータである。
【２２０３】
　次に、ステップＳ２５１３において、奇遇判定データにより、選択値が偶数か奇数かを判定する。奇遇判定データが０である場合（ステップＳ２５１３のＹｅｓ）、選択値は偶数であり、ステップＳ２５１４において、取得した対象データをスワップ命令で上位４ビットと下位４ビットを入れ換え、ステップＳ２５１５に進む。奇遇判定データが１である

場合（ステップＳ２５１３のＮｏ）、選択値は奇数であり、この場合は、入れ換えをせずに、ステップＳ２５１５に進む。

【２２０４】

ステップＳ２５１５では、４ビットデータを求める。取得した対象データは、選択値が偶数であれば、上位４ビットと下位４ビットが入れ換えられている。このようなデータに対し、「０Ｆ」Ｈ（すなわち、ビット列では「００００１１１１」）との論理積（ＡＮＤ）を取ることによって、取得しようとする４ビットデータが求められ、その後、呼び出し元のプログラムに戻る。求められた４ビットデータは、最終的に、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａや、使用領域外作業領域２１０３ｃの所定領域に格納される。なお、終了記号（角丸四角形）の「ＲＥＴ」の表記の右側の（「４ビットデータ」）の記載は、論理積によって求められた４ビットデータがＡレジスタに格納（返値）されていることを意味し、呼び出し元のプログラムは、Ａレジスタから４ビットデータを使用して参照／取得することができる。

【２２０５】

次に、図２０４のフローチャートで説明した４ビットデータ取得処理を、図２０５に示す具体的な例を用いて説明する。

【２２０６】

図２０５に示すように、対象のテーブルは、アドレス「１Ｆ００」Ｈから始まり、１バイトのデータ（データ１、データ２、データ３、・・・）を有する。この例では、データ１の上位４ビットは選択値（エントリー）＝０で、値は２、下位４ビットはエントリー＝１で、値は３である。データ２の上位４ビットはエントリー＝２で、値は１２、下位４ビットはエントリー＝３で、値は８である。データ３の上位４ビットはエントリー＝４で、値は１５、下位４ビットはエントリー＝５で、値は０である。

【２２０７】

また、データ１の先頭のアドレスは、テーブルの先頭と同じ「１Ｆ００」Ｈであり、データ２の先頭アドレスは、「１Ｆ０１」Ｈであり、データ３の先頭アドレスは、「１Ｆ０２」Ｈである。

【２２０８】

ここで、（１）に示すように、取得しようとする４ビットデータの選択値（エントリー）を「２」とする。そうすると、（２）で示すように、商（オフセット値）＝１であり、余り（奇遇判定データ）＝０である。

【２２０９】

次に（３）では、対象のデータの先頭は、テーブルの先頭アドレス「１Ｆ００」＋オフセット値「１」、すなわち、「１Ｆ０１」Ｈであり、対象のテーブルにおいてデータ２が該当する。データ２は、上位４ビットはエントリー＝２で、値は１２、下位４ビットはエントリー＝３で、値は８である。

【２２１０】

次に、（４）では、奇遇判定データが０、すなわち偶数であるため、データ２の上位４ビットと下位４ビットを入れ換える。すなわち、上位４ビットを、エントリー＝３の値８、下位ビットをエントリー＝２の値１２とする。そこで、入れ換え後のデータと、「０Ｆ」Ｈ（すなわち、ビット列「００００１１１１」）との論理積をとると、ビット列「００００１１００」となり、エントリー＝２に対応する右端の４ビットにおいてビット列「１１００」（値「８」）が取得でき、これが取得した４ビットデータとなる。

【２２１１】

このような、４ビットデータ取得処理によって、０～１５の値をとるデータが複数のエントリーに亘って数多く存在する場合に、メインＲＯＭ２１０２上で上記のようなデータ構成のテーブルを作成することで、これらのデータを効果的に記憶することができる。

【２２１２】

例えば、図２０５に示した各エントリーのデータは、図２０６（Ａ）のようなテーブル（ｄ４ＢＩＴＴＢＬ）として定義することができる。上記のように、各エントリーのデー

タは、それぞれ０～１５のうちいずれかの値をとる。なお、「ＤＢ」は１バイトのデータの内容を定義する疑似命令である。ここで、図２０５のデータ１は、例えば、図２０６（Ａ）に示す、「ＤＢ ２ ＊ １０Ｈ ＋ ３」といった計算によって生成、定義される。「＊１０Ｈ」は、エントリー＝０の値２を、上位４ビットにシフトさせるための乗算である。図２０５のデータ２は、図２０６（Ａ）では、「ＤＢ １２ ＊ １０Ｈ ＋８」で生成、定義され、図２０５のデータ３は、図２０６（Ａ）では、「ＤＢ １５＊ １０Ｈ ＋ ０」で生成、定義される。なお、このような各１バイトデータを求める計算は事前に行われ、こうして求められた１バイトデータの集合であるテーブルデータは、例えば、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内データ領域２１０２ｂ等に格納される。

【２２１３】

なお、上述した「疑似命令」とは、ＣＰＵに対して、処理を実行させる命令（上述した「ＣＡＬＬＥＸ」命令等）ではなく、プログラムソースファイルをＲＯＭに書き込む（遊技機の製造工程で記憶させる）ためのデータに変換する際に、使用される変換アプリケーション（通称「アセンブラ」、「コンパイラ」等と称す。）のための命令を意味する。

【２２１４】

また、例えば、第１３実施形態で用いた、図８２（ａ）の図柄配置テーブルに上記のような、４ビットデータ取得の仕組みを適用すると、当該テーブルは、図２０６（Ｂ）のように定義することができる。「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ１」のテーブルは、図柄配置テーブルの左リールに関するデータであり、「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ２」のテーブルは、図柄配置テーブルの中リールに関するデータであり、「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ３」のテーブルは、図柄配置テーブルの右リールに関するデータである。

【２２１５】

また、「ＤＢ」で定義される各１ビットデータは、右端にコメントがされており、どの図柄位置の図柄コードに対応するかが示されている。もちろん、このデータを用いるプログラムでは、どのエントリーのデータが、どの図柄位置の図柄コードを記憶しているかが事前に把握されている。各「ＤＢ」の定義で、「１０」Ｈを乗じることによって上位４ビットにシフトされるデータは、図柄位置が奇数の図柄コードであり、下位４ビットは、図柄位置が偶数の図柄コードを表している。

【２２１６】

図柄コードは、それぞれのテーブルの定義では、変数で示されているが、各変数の値（ビット列）は、テーブルの定義の下に示されている。これは、第１３実施形態で用いた、図８２（ｂ）の図柄配置コード表（メインリール）に対応するものである。全部で１０パターンであり、最大の値でも、１０（ビット列で「１０１０」）であり、すべて４ビットデータとして表現できる。例えば、図柄「Ｖ」の図柄コードは１（ビット列で「０００１」）、図柄「ベルＢ」の図柄コードは７（ビット列で「０１１１」）である。

【２２１７】

なお、図２０６（Ｂ）に示す例では、３つのテーブル「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ１」、「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ２」、「ｄＲＥＥＬ_ＺＵ３」が示されているが、これらを（使用領域内データ領域２１０２ｂ内で連続した記憶位置の）１つのテーブルとして定義し、共通のプログラムで実行される上述の４ビットデータ取得処理で（テーブルのアドレスと選択値を指定することによって）各４ビットデータを取り出すようにすることができる。また、これらのデータと、他の種類の４ビットデータをさらに結合して、１つのテーブルとして定義することもできる（図２０７、図２０８、図２１１で説明するテーブルについても同じ）。

【２２１８】

さらに、例えば、第１３実施形態で用いた、図８３、図８４の図柄組合せ配置テーブルに上記のような、４ビットデータ取得の仕組みを適用すると、当該テーブルは、図２０７のように定義することができる。「ｄＰａｙＣｎｖ」のテーブルは、図柄組合せテーブルにおける、１３バイトの格納領域種別データごと（図柄の組合せごと）の払出枚数（３枚掛け時の払出枚数）のデータを表している。

【２２１９】
　また、「ＤＢ」で定義される各１ビットデータは、右端にコメントがされており、それぞれの払出枚数が、どの格納領域識別データに対応するかが示されている。もちろん、このデータを用いるプログラムでは、どのエントリーのデータが、どの格納領域識別データに対応する払出枚数を記憶しているかが事前に把握されている。各「ＤＢ」の定義で、「１０」Ｈを乗じることによって上位４ビットにシフトされるデータは、格納領域識別データの奇数ビットで表される図柄の組合せに対応する払出枚数のデータであり、下位４ビットは、格納領域識別データの偶数ビットで表される図柄の組合せに対応する払出枚数のデータである。例えば、最初の「ＤＢ」で定義される１ビットデータでは、格納領域種別データの１バイト目のビット「Ｂ１」で表される図柄の組合せに対応する払出枚数を上位ビットに含み、格納領域種別データの１バイト目のビット「Ｂ０」で表される図柄の組合せに対応する払出枚数を下位ビットに含む。
【２２２０】
　またさらに、例えば、第１３実施形態で、疑似ＢＩＧ及び疑似ＲＥＧにおいて、指示モニタに数値を表示する場合に、図９６（ａ）に示すような内部当籤役と数値との対応関係を、本実施形態の４ビットデータ取得の仕組みを適用して、新たなテーブル（指示モニタ決定テーブルとする）として定義することが考えられる。ここで、指示モニタ決定テーブルは、図２０８のように定義することができる。「ｄＮａｖｉＴｂｌ」のテーブルは、図９６（ａ）に示す、内部当籤役と指示モニタに表示される数値との対応関係を示している。
【２２２１】
　「ＤＢ」で定義される各１ビットデータは、右端にコメントがされており、どの内部当籤役に対応する数値であるかが示されている。もちろん、このデータを用いるプログラムでは、どのエントリーのデータが、どの内部当籤役に対応する数値を記憶しているかが事前に把握されている。各「ＤＢ」の定義で、「１０」Ｈを乗じることによって上位４ビットにシフトされるデータは、疑似ＲＥＧにおいて、対応する内部当籤役の場合に表示される数値であり、下位４ビットは、疑似ＢＩＧにおいて、対応する内部当籤役の場合に表示される数値である。なお、本実施形態では、上位４ビットを偶奇判定データの奇数とし、下位４ビットを偶奇判定データの偶数と定義したが、上位４ビットを偶奇判定データの偶数とし、下位４ビットを偶奇判定データの奇数と定義してもよい。その場合は、４ビットデータ取得処理のステップＳ２５１３の判断が逆になり、上述した各データの配置を考慮する必要がある。
【２２２２】
　以上、ここまで４ビットデータ取得処理について説明してきたが、このような４ビットデータ取得処理によって、取りうるパターンが少ないために、より小さなサイズで済むようなデータを、例えば、１バイトの領域に２つ格納するような構成をとることができる。このような構成は、容量が切迫している使用領域内データ領域２１０２ｂに対して適用することが効果的であるが、プログラムの共通化に伴う開発効率の向上やメンテナビリティの向上を目的として、また、将来的に要請される可能性のある領域の節約を目的として、使用領域外データ領域２１０２ｄに記憶されているデータ対して適用することも可能である。
【２２２３】
［４．２ビットデータ取得処理］
　次に、図２０９～図２１１を参照して、本実施形態における２ビットデータ取得処理について説明する。
【２２２４】
　メインＲＯＭ２１０２の使用領域内データ領域２１０２ｂに記憶されるテーブルにデータを格納する場合、通常は、各データを、１バイト単位、または２バイト単位で記憶するようにプログラムが構成される。しかしながら、格納するデータが、例えば、０から３といった４通りの範囲であり、最大でも２ビットしか必要でない場合、１バイトの領域に、

最大２ビットのデータを４つずつ格納するようにして、実質的に未使用となっている記憶領域を減らし、結果として、メインＲＯＭ２１０２の容量を節約することが考えられる。

【２２２５】

また、異なる種類のデータ群が、それぞれこのような、最大２ビットのデータである場合、これらすべてを１つのテーブルに格納し、共通のプログラムで対象となる２ビットのデータを取得するようにすれば、データの種類ごとにプログラムを作成する必要がなく、この点でも、メインＲＯＭ２１０２の容量を節約することにつながる。なお、異なる種類のデータ群を１つのテーブルに格納した場合でも、どのエントリー（相対アドレス位置）にどの種類のどのデータが配置されるかを把握していれば、共通のプログラムによって、所望のデータを取得するように指定することができる。

【２２２６】

図２０９には、１バイトの領域に最大２ビットのデータを４つ格納したテーブルから、指定したエントリーに応じて、そのデータを個別に取り出す共通サブプログラム（２ビットデータ取得処理）が示されている。

【２２２７】

図２０９は、上記のような共通サブプログラム（２ビットデータ取得処理）の処理手順を示すフローチャートである。

【２２２８】

２ビットデータ取得処理では、最初に、ステップＳ２５３１において、選択値を４で割った商をオフセット値とし、余りをシフトカウンタとする。ここで、選択値は、テーブルに記憶されたデータが、そのテーブルで何番目のデータであるかを示す値であり、いわゆる「エントリー」と同じ意味である。次に、ステップＳ２５３２において、対象データを取得する。ここで、データは、テーブルに記憶されている１バイト単位のデータであり、対象データには、２ビットデータが４つ含まれ、そのうちの１つが、取得しようとする２ビットデータである。対象データは、テーブルの先頭アドレス＋オフセット値の位置にある１バイトのデータである。

【２２２９】

次に、ステップＳ２５３３において、シフトカウンタに１加算する。ただし、加算結果が４になった場合は、０とする。次に、ステップＳ２５３４において、シフトカウンタが０か否かを判定し、０であると判定された場合は（ステップＳ２５３４のＹｅｓ）、ステップＳ２５３７に進む。

【２２３０】

一方、シフトカウンタが０でないと判定された場合は（ステップＳ２５３４のＮｏ）、ステップＳ２５３５において、対象データを２ビット左にシフトする。この左シフト操作は、操作前に左端にあった２ビットを右端の２ビットとして対象データに戻すものである。

【２２３１】

次に、ステップＳ２５３６において、シフトカウンタを１減算した後、ステップＳ２５３４に戻り、シフトカウンタが０になるまで、２ビットの左シフトを繰り返す。このようなフローにより、選択値（エントリー）が３、７、１１といった、データの右端に位置する２ビットデータについては、左シフト操作を１回もせずにステップＳ２５３７に進むことになる。

【２２３２】

ステップＳ２５３７では、２ビットデータを求める。取得した対象データは、上記の処理により、適宜、左シフト操作が行われている。このようなデータに対し、「０３」Ｈ（すなわち、ビット列では「００００００１１」）との論理積（ＡＮＤ）を取ることによって、取得しようとする２ビットデータが求められ、その後、呼び出し元のプログラムに戻る。なお、終了記号（角丸四角形）の「ＲＥＴ」の表記の右側の「（２ビットデータ）」の記載は、求められた２ビットデータがＡレジスタに格納（返値）されていることを意味し、呼び出し元のプログラムは、Ａレジスタから２ビットデータを使用して参照／取得す

ることができる。

【２２３３】

次に、図２０９のフローチャートで説明した２ビットデータ取得処理を、図２１０に示す具体的な例を用いて説明する。

【２２３４】

図２１０に示すように、対象のテーブルは、アドレス「１Ｆ００」Ｈから始まり、１バイトのデータ（データ１、データ２、データ３、・・・）を有する。この例では、データ１の第１の２ビットは選択値（エントリー）＝０で、値は１、第２の２ビットはエントリー＝１で、値は１であり、第３の２ビットはエントリー＝２で、値は０であり、第４の２ビットはエントリー＝３で、値は３である。

【２２３５】

また、データ２の第１の２ビットは選択値（エントリー）＝４で、値は２、第２の２ビットはエントリー＝５で、値は１であり、第３の２ビットはエントリー＝６で、値は２であり、第４の２ビットはエントリー＝７で、値は３である。データ３の第１の２ビットは選択値（エントリー）＝８で、値は１、第２の２ビットはエントリー＝９で、値は１であり、第３の２ビットはエントリー＝１０で、値は３であり、第４の２ビットはエントリー＝１１で、値は０である。

【２２３６】

また、データ１の先頭のアドレスは、テーブルの先頭と同じ「１Ｆ００」Ｈであり、データ２の先頭アドレスは、「１Ｆ０１」Ｈであり、データ３の先頭アドレスは、「１Ｆ０２」Ｈである。

【２２３７】

ここで、（１）に示すように、取得しようとする２ビットデータの選択値（エントリー）を「５」とする。そうすると、（２）で示すように、商（オフセット値）＝１であり、余り（シフトカウンタ）＝１である。

【２２３８】

次に（３）では、対象のデータの先頭は、テーブルの先頭アドレス「１Ｆ００」＋オフセット値「１」、すなわち、「１Ｆ０１」Ｈであり、対象のテーブルにおいてデータ２が該当する。データ２は、エントリー＝４～７の４つの２ビットデータを含んでいる。

【２２３９】

次に、（４）では、シフトカウンター＝１＋１＝２、であり、データ２について、左方向の２ビットシフトを２回繰り返す。このような左シフト操作により、データ２において当初、第２の２ビットの位置にあったエントリー＝５の値１が、データ２の右端である第４の２ビットの位置にシフトされている。そこで、シフトした後のデータと、「０３」Ｈ（すなわち、ビット列「００００００１１」）との論理積をとると、ビット列「００００００００１」となり、エントリー＝５に対応する右端の２ビットにおいてビット列「０１」（値「１」）が取得でき、これが取得した２ビットデータとなる。

【２２４０】

このような、２ビットデータ取得処理によって、０～３の値をとるデータが複数のエントリーに亘って数多く存在する場合に、メインＲＯＭ２１０２上で上記のようなデータ構成のテーブルを作成することで、これらのデータを効果的に記憶することができる。

【２２４１】

例えば、第１３実施形態で用いた、図８３、図８４の図柄組合せ配置テーブルに上記のような、２ビットデータ取得の仕組みを適用すると、当該テーブルは、図２１１のように定義することができる。「ｄＡｔｔＣｎｖ」のテーブルは、図柄組合せテーブルにおける、１３バイトの格納領域種別データごと（図柄の組合せごと）の属性のデータを表している。

【２２４２】

また、「ＤＢ」で定義される各１バイトデータは、右端にコメントがされており、それぞれの属性が、どの格納領域識別データに対応するかが示されている。もちろん、このデ

ータを用いるプログラムでは、どのエントリーのデータが、どの格納領域識別データに対応する属性を記憶しているかが事前に把握されている。

【２２４３】

また各「ＤＢ」では、「４０」Ｈを乗じることによって第１の２ビット（第１の２ビット～第４の２ビットについては、図２１０参照）にシフトされるデータは、格納領域識別データのビット「Ｂ７」、ビット「Ｂ３」で表される図柄の組合せに対応する属性のデータであり、「１０」Ｈを乗じることによって第２の２ビットにシフトされるデータは、格納領域識別データのビット「Ｂ６」、ビット「Ｂ２」で表される図柄の組合せに対応する属性のデータであり、「４」Ｈを乗じることによって第３の２ビットにシフトされるデータは、格納領域識別データのビット「Ｂ５」、ビット「Ｂ１」で表される図柄の組合せに対応する属性のデータであり、下位２ビット（第４の２ビット）は、格納領域識別データのビット「Ｂ４」、ビット「Ｂ０」で表される図柄の組合せに対応する属性のデータである。なお、このような各１バイトデータは、例えば、上記のように、「４０」Ｈ、「１０」Ｈ、「４」Ｈを乗じたデータとそのままのデータの４つを加算することによって求められるが、このような計算は事前に行われ、こうして求められた１バイトデータの集合であるテーブルデータは、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内データ領域２１０２ｂ等に格納されているものである。

【２２４４】

なお、図２１１は、１バイトを８ビット単位で記載した例であり、「４０」Ｈ、「１０」Ｈ、「４」Ｈを乗じた場合は、例えば、図２１１の「ｄＡｔｔＣｎｖ」のテーブルの２バイト目の「ＤＢ ００００００１１Ｂ」なら「ＤＢ ０＊４０Ｈ＋０＊１０Ｈ＋０＊４Ｈ＋３」となり、３バイト目の「ＤＢ ０１０１０１０１Ｂ」なら「ＤＢ １＊４０Ｈ＋１＊１０Ｈ＋１＊４Ｈ＋１」となる。

【２２４５】

例えば、最初の「ＤＢ」で定義される１ビットデータでは、格納領域種別データの０バイト目のビット「Ｂ７」で表される図柄の組合せに対応する属性を第１の２ビットとし、格納領域種別データの０バイト目のビット「Ｂ６」で表される図柄の組合せに対応する属性を第２の２ビットとし、格納領域種別データの０バイト目のビット「Ｂ５」で表される図柄の組合せに対応する属性を第３の２ビットとし、格納領域種別データの０バイト目のビット「Ｂ４」で表される図柄の組合せに対応する属性を第４の２ビットとしている。

【２２４６】

なお、ここで、属性は、「ＮＯＮ」、「ＲＥＰ」、「ＦＲＵ」、「ＢＢ」の４パターンが設定されており、それぞれビット列では、「００」、「０１」、「１０」、「１１」として表される。

【２２４７】

なお、本実施形態では、左方向へ２ビットシフトすることで２ビットデータを取得する方法を説明したが、右方向へ２ビットシフトする方法で同じように２ビットデータを取得するようにしてもよい。その場合は、２ビットデータ取得処理のステップＳ２５３５で「データを２ビット右シフト」とすることにともない、上述した各データの配置を考慮する必要がある。

【２２４８】

以上、ここまで２ビットデータ取得処理について説明してきたが、このような２ビットデータ取得処理によって、取りうるパターンが少ないために、より小さなサイズで済むようなデータを、例えば、１バイトの領域に４つ格納するような構成をとることができる。このような構成は、容量が切迫している使用領域内データ領域２１０２ｂに対して適用することが効果的であるが、プログラムの共通化に伴う開発効率の向上やメンテナビリティの向上を目的として、また、将来的に要請される可能性のある領域の節約を目的として、使用領域外データ領域２１０２ｄに記憶されているデータ対して適用することも可能である。

【２２４９】

［５．カウンタの下位アドレスを入力パラメータとした共通処理］
図２１２は、図１９１、及び図１９２に示した３つの処理（メダル払出・再遊技作動処理、精算実行処理、メダル払出処理）において、メダル払出処理を共通的に用いる処理の流れを概念的に表している。
【２２５０】
図２１２では、メダル払出・再遊技動作処理（ステップＳ２２８１）の開始記号と終了記号（ステップＳ２２９２、ＲＥＴ)が、詳細処理を省略した形で示されており、さらに、精算実行処理（ステップＳ２２９３）の開始記号と終了記号（ステップ２３０５、ＲＥＴ）が、これも詳細処理を省略した形で示されている。また、精算実行処理には、メダル払出処理（ステップＳ２２９８）の開始記号が含まれており、このメダル払出処理が呼び出された場合も、上記の終了記号（ステップ２３０５、ＲＥＴ）に進む。
【２２５１】
メダル払出・再遊技動作処理は、上記の通り、図１７９に示したメイン処理から呼び出され（ステップＳ２０１４）、より具体的には、単位遊技終了時のタイミングで、メダルの払い出しが行われるときに呼び出される。一方、精算実行処理は、遊技者が精算ボタンを押下した場合（メダルの受付が可能な単位遊技開始待ち状態）に、所定のプログラム（例えば、図１７９のメイン処理におけるメダル受付・スタートチェック処理（ステップＳ２００３）の精算ボタン押下検出処理（精算ボタンの押下を検出するプログラム））から呼び出される。
【２２５２】
メダル払出処理は、３つのフローにおいて呼び出される。第１のフローでは、メダル払出・再遊技動作処理から、クレジットカウンターが上限に達した場合に、クレジットから溢れた分のメダルを払出すために呼び出され、第２のフローでは、精算実行処理から、精算指示により、クレジットカウンターに係るメダルを払い出す場合に呼び出され、第３のフローでは、同じく精算実行処理から、メダル投入カウンターに係るメダルを払出す場合に呼び出される。上記のように、精算実行処理においては、所定条件下で、メダル払出処理が２回呼び出されることになる。
【２２５３】
ここで、図２１２を参照して、上述した第１～第３のフローについて詳細に説明する。第１のフローは、太実線矢印で示されている。最初に、メイン処理が、メダル払出・再遊技作動処理（ステップＳ２２８１）を呼び出し、そこで、メダルの払い出し、再遊技作動に係る処理を実行し、払出枚数カウンター格納領域のアドレスを所定のレジスタにセットして、メダル払出処理（ステップＳ２２９８）を呼び出し、そこで、メダルの払い出しに係る処理を実行し、終了（ステップ２３０５、ＲＥＴ）により、呼び出し元のメイン処理に戻る。
【２２５４】
ここで、メダル払出処理の呼び出しは、例えば、ジャンプ命令（ＪＰ）によって行われる。ジャンプ命令では、プログラムカウンタをスタック領域に保存せず、その後も、命令を実行するあいだプログラムカウンタが順次更新されるため、メダル払出処理が終了しても、呼び出し元（ジャンプ命令の次の命令）に戻ることはなく、メダル払出処理の終了（ステップＳ２３０５、ＲＥＴ）によって、メイン処理の、メダル払出・再遊技動作処理を呼び出した命令に戻り、その次の命令が実行されることになる。
【２２５５】
一方、コール命令（ＣＡＬＬ）は、呼び出した命令のプログラムカウンタをスタック領域に保存し、呼び出した処理が終了した場合は、呼び出し元に戻り、スタック領域に保存したプログラムカウンタの次の命令が実行される。
【２２５６】
第２のフローは、点線矢印で示されている。最初に、メイン処理におけるメダル受付・スタートチェック処理の精算ボタン押下検出処理が、精算ボタンの押下に応じて、精算実行処理（ステップＳ２２９３）を呼び出して、精算に係る処理を実行し、そこで、クレジ

ットカウンター格納処理のアドレスを所定のレジスタにセットして、メダル払出処理（ステップＳ２２９８）をコール命令（ＣＡＬＬ）で呼び出し、そこで、メダルの払い出しに係る処理を実行し、終了（ステップ２３０５、ＲＥＴ）により、呼び出し元に戻る。

【２２５７】

第３のフローは、一点鎖線矢印で示されている。第２のフローで、呼び出し元に戻った後、次の命令に進み、そこで、メダル投入カウンター格納領域のアドレスを所定のレジスタにセットして、ふたたびメダル払出処理（ステップＳ２２９８）を実行し、そこで、メダルの払い出しに係る処理を実行し、終了（ステップ２３０５、ＲＥＴ）により、精算実行処理の呼び出し元の精算ボタン押下検出処理に戻る。

【２２５８】

図２１２に示したように、メダル払出処理は、この処理が呼び出される直前に、３種類のメダルカウンターの格納領域が所定のレジスタにそれぞれセットされる。このような処理によって、メダル払出処理が、それぞれのメダルカウンターの数のメダルを払い出す処理として、共通的に用いることができ、その結果、メダルカウンターごとにメダル払出処理を記述する必要がなく、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量を節約することができる。

【２２５９】

図２１３は、図２１２で説明したメダル払出処理を呼び出す際に、各メダルカウンターの格納領域がどのようにセットされ、その結果、どのように、各メダルカウンターの格納領域が参照されるかを示した図である。

【２２６０】

共通処理であるメダル払出処理は、例えば、ＤＥレジスタ、又はＨＬレジスタに、各メダルカウンターの格納領域の下位アドレス（本実施形態では、２バイトアドレスのうち、下位１バイト）を呼び出し側のプログラムから受け取り、そのレジスタに所定の上位アドレスをセットして、各メダルカウンターの格納領域のアドレスを特定し、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａから、各メダルカウンターを参照して、それぞれのメダル数を取得し、取得したメダル数の払い出しを行う（メダル払出枚数チェック処理（ステップＳ２３０２）等の処理）。

【２２６１】

例えば、呼び出し側では、払出枚数カウンターについての払出処理を行おうとする場合、ＤＥレジスタに、払出枚数カウンターの格納領域の下位アドレス「２０」Ｈを、入力パラメータとして設定し、メダル払出処理を呼び出す。そうすると、メダル払出処理では、払出枚数カウンターに係る払出処理であることが分かり、例えば、ＤＥレジスタの上位バイトに「Ｆ０」Ｈをセットして「Ｆ０２０」Ｈとし、これをアドレスとして、使用領域内作業領域２１０３ａで払出枚数カウンターを参照する（例えば、「（ＬＤ Ａ，ＤＥ）」のコードで参照する）。この例では、「Ｆ０２０」Ｈのアドレス位置に記憶されている１バイトの払出枚数カウンターには、メダル枚数「１５」が記憶されている。

【２２６２】

なお、ここで、ＤＥレジスタの上位ビットに「Ｆ０」Ｈをセットしたが、これは呼び出し側のプログラムと呼び出されるメダル払出処理のプログラムとの間で予め決められている設定である。このような設定によって、入力パラメータでは、「Ｆ０」Ｈの値を入力パラメータとしてメダル払出処理のプログラムに送らなくて済み、その分、呼び出し側プログラムでのロード命令等のサイズが小さくなり、ひいては、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量節約につながる。なお、ここでは、「Ｆ０」Ｈといった固定値を設定しているが、入力パラメータとして受け取った下位アドレスの値に応じて、上位アドレスを変化させてもよい。例えば、下位アドレスが「８０」Ｈより小さい場合は、上位アドレスとして「Ｆ１」Ｈを用い、下位アドレスが「８０」Ｈ以上の場合は、上位アドレスとして「Ｆ０」Ｈを用いるといった方法を採用することができる。

【２２６３】

クレジットカウンターの場合も同様であり、まず、ＤＥレジスタに、クレジットカウン

ターの格納領域の下位アドレス「４０」Ｈを、入力パラメータとして設定し、メダル払出処理を呼び出す。そうすると、メダル払出処理では、クレジットカウンターに係る払出処理であることが分かり、例えば、ＤＥレジスタの上位ビットに「Ｆ０」Ｈをセットして「Ｆ０４０」Ｈとし、これをアドレスとして、使用領域内作業領域２１０３ａでクレジットカウンターを参照する（例えば、「（ＬＤ Ａ，ＤＥ）」といったコードで値を参照する）。この例では、「Ｆ０４０」Ｈのアドレス位置に記憶されている１バイトのクレジットカウンターには、メダル枚数「４２」が記憶されている。

【２２６４】

メダル投入カウンターの場合も同様である。まず、ＤＥレジスタに、メダル投入カウンターの格納領域の下位アドレス「６０」Ｈを、入力パラメータとして設定し、メダル払出処理を呼び出す。そうすると、メダル払出処理では、メダル投入カウンターに係る払出処理であることが分かり、例えば、ＤＥレジスタの上位ビットに「Ｆ０」Ｈをセットして「Ｆ０６０」Ｈとし、これをアドレスとして、使用領域内作業領域２１０３ａでメダル投入カウンターを参照する（例えば、「（ＬＤ Ａ，ＤＥ）」のコードで参照する）。この例では、「Ｆ０６０」Ｈのアドレス位置に記憶されている１バイトのメダル投入カウンターには、メダル枚数「２」が記憶されている。

【２２６５】

上記のように、メダル払出処理では、払出枚数を入力パラメータとして受け取り、そこで把握される払出枚数について払出処理を行うようになっており、本実施形態では、この処理の呼び出し時に、払出枚数カウンター、クレジットカウンター、メダル投入カウンターのいずれかを入力パラメータとして受け取り、受け取ったカウンターの数を払出枚数とする。また、このとき、入力パラメータは、各メダルカウンターを格納している（使用領域内作業領域２１０３ａにおける）アドレスの下位アドレス（例えば、２バイトで示されるアドレスの下位１バイト（８ビット））を用いるため、アドレスの上位、下位をすべて指定するよりも、ロード命令等のサイズを小さくすることができ、このことは、メインＲＯＭ２１０２の使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量節約につながる。また、このようなパラメータの受け渡しで、メダル払出処理を共通処理として用いるために、メダルカウンターごとにメダルを払い出す処理を記述しなくてもよいので、この点でも、使用領域内プログラム領域２１０２ａの容量を節約することができる。

【２２６６】

［６．使用領域外ＲＡＭエリアのクリア開始アドレス決定方法］

図１８１を参照するとわかるように、遊技機の電源が投入されてＣＲＣ検査処理（使用領域外）が行われ、そこで、ＣＲＣ異常が検出された場合は、遊技復帰状態格納領域に「遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）」がセットされ、電断発生フラグがオンでない場合（すなわち、電断割込み処理が正常に行われていない場合）は、遊技復帰状態格納領域に「遊技復帰不可能状態２（電断発生異常）」がセットされ、それ以外の場合は、遊技復帰状態格納領域に「遊技復帰可能状態（正常）」がセットされる。

【２２６７】

そして、図１８０を参照すると、設定変更を行うための操作が行われている場合のみ（ステップＳ２０３５のＹｅｓ）、メインＲＡＭ２１０３の初期化が行われる（指定ＲＡＭ初期化処理（ステップＳ２０３６））。また、この初期化が行われる前に、上述した遊技復帰状態格納領域が、「遊技復帰不可能状態１（ＣＲＣ異常）」又は「遊技復帰不可能状態２（電断発生異常）」である場合、または、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰不可」を表すデータがセットされていた場合は、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」がセットされ、遊技復帰状態格納領域が、「遊技復帰可能状態（正常）」である場合、且つ、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰可」を表すデータがセットされていた場合は、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」がセットされ、そこで、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化（ステップＳ２１４６）に進むと、ＲＡＭ初期化アドレスが開始アドレス格納領域に保存され、このアドレスに基づいて、まずは、使用

領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）（ステップＳ２１５０）が行われる。

【２２６８】

図１８６には、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）のフローが記載されているが、このときは、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」か、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」がセットされている。ここで、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）は、開始アドレス格納領域に保存されたＲＡＭ初期化アドレスの下位アドレス（例えば、全２バイトのうち、下位１バイト）を記憶判定領域に格納されている下位１バイトが、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」の下位アドレスの場合は、ＲＡＭ異常発生時使用領域外クリアアドレスを初期化開始アドレスとして使用領域外ＲＡＭ初期化を行う（ステップＳ２１８３）。すなわち、ここでは、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るクリアアドレスがなにかを下位アドレスによって判定し、初期化開始アドレスを、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂのクリアアドレスに設定したのである。

【２２６９】

同様に、記憶判定領域に格納されている下位１バイトが、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」の下位アドレスの場合は、設定変更時クリアアドレスを初期化開始アドレスとして使用領域外ＲＡＭ初期化を行い、記憶判定領域に格納されている下位１バイトが、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレス」の下位アドレスの場合は、設定変更時クリアアドレスを初期化開始アドレスとして使用領域外ＲＡＭ初期化を行い、その他の場合は、１遊技終了時クリアアドレスを初期化開始アドレスとして使用領域外ＲＡＭ初期化を行う。

【２２７０】

このような判定は、例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る初期化アドレス（ＲＡＭ初期化アドレス）の下位１バイト（すなわち、記憶判定領域に格納される下位アドレス）と、使用領域外ＲＡＭエリア２２０ｂに係る初期化開始アドレスとを対応付けた対応データを参照することによって行うことができる。また、この場合、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂに係る初期化開始アドレスの上位１バイトが、「Ｆ２」といった固定値であれば、こちらアドレスについてもの下位１バイトを記憶するだけでよい。また、図１８６に示す例では、１遊技終了時使用領域クリアアドレスをセットするのは、それ以前にどのアドレスにも一致しなかった場合であるから、上記の対応データとして、１遊技終了時に係る使用領域クリアアドレスについての対応関係を保持しておく必要はない。対応データは、例えば、使用領域内データ領域２１０２ｂに記憶されている。

【２２７１】

その後、図１８５に戻って、使用領域内ＲＡＭ初期化（ステップＳ２１５１）を行うが、このときは、初期化開始アドレスとしてセットされている（ＲＡＭ初期化アドレスである）使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」か、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」等が用いられる。

【２２７２】

その後、図１８０に戻って、設定変更処理（ステップＳ２０３７）を行うと、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」がセットされ（ステップＳ２０３８）、その後、送信待機＆ＲＡＭ初期化処理（ステップＳ２０３９）を呼び出すと、図１８５の送信待機＆ＲＡＭ初期化処理（ステップＳ２１４１）から処理を開始し、最初に未送信データの取得（ステップＳ２１４２～ステップＳ２１４５）を行った後、再度、指定ＲＡＭ初期化処理（ステップＳ２１４６）からの処理を開始する。今回は、ＲＡＭ初期化アドレスに、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」がセットされている場合しかないので、使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外）（ステップＳ２１５０）で、使用領域外に関しては、設定変更時クリアアドレスを初期化開始アドレスとして使用領域外ＲＡＭ初期化を行い、使用領

域内に関しては、（ステップＳ２１５１）、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係る「設定変更時クリアアドレス」が用いられる。

【２２７３】

その他、図１７９に示したメイン処理から、ＢＢ（特賞）遊技数チェック処理（ステップＳ２１３１）が呼び出され、ＢＢ（特賞）作動終了と判定された場合に、ＲＡＭ初期化アドレスにＢＢ（特賞）終了時クリアアドレスがセットされ、その後、上記と同様に、そのアドレスの下位アドレスを記憶判定領域に格納し、この下位１バイトに基づいて、ＢＢ（特賞）終了時使用領域外クリアアドレスがセットされて、使用領域外ＲＡＭ初期化が行われ、その後、ＲＡＭ初期化アドレスのＢＢ（特賞）終了時クリアアドレスを用いて、使用領域内ＲＡＭ初期化が実行される。

【２２７４】

また、図１７９に示す遊技終了時メイン側演出制御処理（ステップＳ２０１６）においてＲＡＭ初期化アドレスに１遊技終了時クリアアドレスがセットされ、その後、上記と同様に、そのアドレスの下位アドレスを記憶判定領域に格納し、この下位１バイトに基づいて、１遊技終了時使用領域外クリアアドレスがセットされて、使用領域外ＲＡＭ初期化が行われ、その後、ＲＡＭ初期化アドレスの１遊技終了時クリアアドレスを用いて、使用領域内ＲＡＭ初期化が実行される。

【２２７５】

図２１４には、上述した各クリアアドレスの概要が示されている。メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａに関しては、上記のように、ＲＡＭ初期化アドレスにセットされる、「ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス」、「設定変更時クリアアドレス」、「ＢＢ（特賞）終了時クリアアドレス」、「１遊技終了時クリアアドレス」のアドレス位置が実線矢印により指示されている。また、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに関しては、クリアエンドアドレスが固定的に設定されており、上記各クリアアドレスから、使用領域内スタック領域２１０３ｂを含み、このクリアエンドアドレスまでが初期化の範囲となる。

【２２７６】

クリアエンドアドレスは、例えば、使用領域内スタック領域２１０３ｂの最初のアドレス（アドレス値としては最も大きい値、２バイト分）を初期化しないように設定される。ここには、呼び出し元のプログラムのプログラムカウンタが記憶されており、ＲＡＭ初期化の後に、実行中のプログラムから呼び出し元のプログラムに戻る必要があるためである。

【２２７７】

メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃに関しては、上記のように、ＲＡＭ初期化アドレスの下位アドレスに基づいて変換された、「ＲＡＭ異常発生時使用領域外クリアアドレス」、「設定変更時使用領域外クリアアドレス」、「ＢＢ（特賞）終了時使用領域外クリアアドレス」、「１遊技終了時使用領域外クリアアドレス」のアドレス位置が点線矢印により指示されている。なお、各クリアアドレスの名称は、使用領域内のクリアアドレスを代用し、表示を省略する。また、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂに関しても、クリアエンドアドレスが固定的に設定されており、上記各クリアアドレスから、このクリアエンドアドレスまでが初期化の範囲となる。なお、ここでは、使用領域外スタック領域２１０３ｄは、初期化の対象になっていないが、この領域をクリアの対象に含めるようにしてもよい。この領域は、遊技に関係するデータを記憶しておらず、本実施形態では、クリアの対象外としている。

【２２７８】

メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａに係るクリアアドレスは、図２１４に示すように、それぞれ異なるアドレス位置に設定されている。一方、メインＲＡＭ２１０３の使用領域外作業領域２１０３ｃに係るクリアアドレスは、図２１４に示すように、一部で同じアドレス位置に設定されているが、すべて異なるアドレス位置にしてもよい。なお、本実施形態では、使用領域内作業領域２１０３ａに係るクリアアドレスの下位

アドレスに応じて、対応する使用領域外作業領域２１０３ｃに係るクリアアドレスを決定しているので、使用領域内作業領域２１０３ａに係るクリアアドレスに同じアドレスが含まれていたり、下位アドレスが同じ値とならないように設定する必要がある。

【２２７９】

また、メインＲＡＭ２１０３の使用領域内作業領域２１０３ａの先頭や使用領域外作業領域２１０３ｃの先頭には、どの状況においても初期化されない、非クリア領域が設定される。この領域には、ＲＡＭが初期化される場合であっても保持すべきデータが格納される。

【２２８０】

このような本実施形態の構成によって、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａに係るＲＡＭ初期化のクリアアドレス（クリア開始アドレス）を、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂに係るＲＡＭ初期化のクリアアドレス（クリア開始アドレス）の選択条件にしているので、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂに係るＲＡＭ初期化のクリアアドレスを、遊技機の状態に応じて選択する個々の処理条件プログラムを作成する必要がなくなり、結果的に、メインＲＯＭ２１０２の容量の節約につながる。

【２２８１】

また、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂのクリア処理を完全に独立させることができるので、他の規格のためのプログラム作成やメンテナンスが容易になる。

【２２８２】

［７．実際の遊技、及び疑似遊技における回胴停止制御処理の共通化］

本実施形態では、第１実施形態と同様に、疑似遊技が行われるように構成されている。疑似遊技は、第１実施形態に関して説明したように、予め定められた実行条件が成立した場合に、演出の実行中において擬似的な遊技を行うようにした演出である。また、疑似遊技においては、ストップボタン（例えば、第１実施形態のストップボタン８Ｌ、８Ｃ、８Ｒに対応するストップボタン）を用いた停止操作も、通常の遊技と同様に受け付けられ、特に、ストップボタンの操作を監視する処理は、通常の遊技の場合と同じである。

【２２８３】

そこで、本実施形態では、通常の遊技におけるストップボタン入力監視処理と、疑似遊技におけるストップボタン入力監視処理とを共通化する（すなわち、同一のサブルーチンで処理する）。これによって、プログラム全体の容量を小さくすることができ、結果的に、メインＲＯＭのプログラム領域を節約することができる。また、上記の共通処理をサブルーチンとすることで、プログラムの構成が簡潔になり、その結果、プログラムの開発効率や、メンテナビリティを向上させることができる。

【２２８４】

本実施形態のストップボタン入力監視処理は、有効なストップボタンの押下があったか否かを判定し、有効な押下があった場合は、呼び出し元のプログラムに、有効な押下があったことを示すデータを提供し、また、ストップボタンの状態情報等を更新する。

【２２８５】

なお、このようなストップボタン入力監視処理は、通常の遊技においては、例えば、第１実施形態のメイン処理（図２３）で呼び出されるリール停止制御処理（図２９）のステップＳ１１３の判定処理に概ね対応するものであり、そこで、有効なストップボタンの押下があったか否かを判定する。本実施形態のストップボタン入力監視処理は、後で、フローチャートにより詳細に説明するが、本実施形態に適用した例を抜き出して示したものであるため、上述した、第１実施形態のリール停止制御処理の上記判定処理として、そのまま組み込むことができるとは限らない。後述する本実施形態のストップボタン入力監視処理は、本願の技術的思想を説明するために例示するものである。

【２２８６】

また、上述した本実施形態のストップボタン入力監視処理は、疑似遊技においては、例えば、第２実施形態の疑似遊技中処理（図４６）で呼び出される通常疑似遊技中処理（図４７）のステップＳ１０６３、Ｓ１０６４の各処理や、第２実施形態の疑似遊技中処理（

図４６）で呼び出されるリール演出後疑似遊技中処理（図４９）のステップＳ１１０６の判定処理に概ね対応するものであり、また、第３実施形態の通常疑似遊技中処理（図５７）のステップＳ１２５１の判定処理や、ストップボタン操作受付処理（図５８）のステップＳ１２６２の判定処理に概ね対応するものであり、そこで、有効なストップボタンの押下があったか否かを判定する。本実施形態のストップボタン入力監視処理は、後で、フローチャートにより詳細に説明するが、本実施形態に適用した例を抜き出して示したものであるため、上述した、第２実施形態の通常疑似遊技中処理、リール演出後疑似遊技中処理や、第３実施形態の通常疑似遊技中処理のなかに、そのまま組み込むことができるとは限らない。後述する本実施形態のストップボタン入力監視処理は、本願の技術的思想を説明するために例示するものである。

【２２８７】

図２１５には、本実施形態のストップボタン入力監視処理のフローチャートが示されている。この処理では最初に、ステップＳ２５５１において、ストップボタン入力状態格納領域のアドレスを所定のレジスタにセットする。これは、図１９５の定期割込み処理の入力ポート処理（ステップＳ２３６２）で入力した、ストップボタンの入力ポートの状態を格納する入力ポート格納領域１（メインＲＡＭ２１０３内の領域）のアドレスを（例えば、ＨＬレジスタ）にセットするものである。

【２２８８】

次に、ステップＳ２５５２において、入力ポートオンエッジデータを取得する。ここでは、図１９５の定期割込み処理の入力ポート処理（ステップＳ２３６２）で入力した、ストップボタンの入力ポートエッジ状態を格納する入力ポート格納領域０（メインＲＡＭ２１０３内の領域）のアドレスを（例えば、ＤＥレジスタ）にセットする。

【２２８９】

次に、ステップＳ２５５３において、ステップＳ２５５１で取得したデータとステップＳ２５５２で取得したデータに論理和演算を施し、その演算結果から、有効なストップボタン入力のデータを取得する。有効なストップボタン入力は、チャタリングでない押下があり、押下に対応する回胴が回転中であることが条件である。複数のストップボタンが同時に押下された場合は、左側のストップボタンを優先する（例えば、第１実施形態では、ストップボタン８Ｌ、８Ｃ、８Ｒの順で優先される）。また、第１回胴停止、かつ第２回胴回転中で、ストップボタン８Ｌ、８Ｃを同時に押下した場合、ストップボタン８Ｌが優先され、ストップボタン８Ｃは無効とされる。

【２２９０】

次に、ステップＳ２５５４において、有効な押下入力か否かを判定し、有効でない場合（ステップＳ２５５４のＮｏ）、判定結果「無効」を示すデータを保持して処理を終了する。有効である場合（ステップＳ２５５４のＹｅｓ）、以下で、取得した有効な押下のストップボタンに係る情報に対応するストップボタンの情報と、ストップボタンの動作状態情報を取得する。

【２２９１】

すなわち、ステップＳ２５５５において、第１回胴制御データ格納領域アドレスを所定のレジスタにセットし、ステップＳ２５５６において、ストップボタン作動ビットを所定のレジスタにセットし、ステップＳ２５５７において、上記アドレスを１リール分更新し、ステップＳ２５５８において、ストップボタン作動ビットを１ストップボタン分更新し、ステップＳ２５５９において、取得したストップボタン入力から有効／無効情報を抽出する。

【２２９２】

次に、ステップＳ２５６０において、有効情報か否かを判定し、有効情報でなければ（ステップＳ２５６０のＮｏ）、ステップＳ２５５７に戻り、有効情報であれば（ステップＳ２５６０のＹｅｓ）、ストップボタンの状態情報等を更新する。

【２２９３】

すなわち、ステップＳ２５６１において、ストップボタン入力状態格納領域のストップ

ボタン情報を更新し、ステップＳ２５６２において、ストップボタン作動状態格納領域に作動状態を格納し、ステップＳ２５６３において、ストップボタン作動カウンタを１減算する。その後、判定結果「有効」を示すデータを保持して処理を終了する。

【２２９４】

このような構成のストップボタン入力監視処理は、通常の遊技、及び疑似遊技で個別に呼び出され、ストップボタン入力状態格納領域、ストップボタン作動状態格納領域、及びストップボタン作動カウンターは、通常の遊技、及び疑似遊技の両方で使用するため、処理を共有することができる。

【２２９５】

［８．バックアップ生成、及びバックアップ復帰における共通処理］

図２１６に示した共通情報バックアップ生成処理のうち、共通情報バックアップの生成に係る処理は、例えば、上述した第４実施形態のバックアップ処理（図１７２のステップＳ４６０２）に概ね該当する。なお、図２１６に示した共通情報バックアップの生成に係る処理は、本実施形態で実現される処理を示したものであるため、上述した、第４実施形態のバックアップ生成処理として、そのまま組み込むことができるとは限らない。ここで説明する共通情報バックアップ生成処理は、本願の技術的思想を説明するために例示するものである。

【２２９６】

図２１６に示される、共通情報バックアップの生成に係る処理は、例えば、図１７２に示した第４実施形態のレバーオン時ＡＴ関連処理に対応する本実施形態の処理で実行される。レバーオン時ＡＴ関連処理では、最初にペナルティの影響を受けない処理を実行し、次に、ペナルティがあった場合に各種情報（ＡＴ関連パラメータのカウンタやフラグ）の更新をキャンセルするために、各種情報の元の情報を記憶しておくバックアップ処理を実行し、その後、レバーオン時ＡＴ関連処理では、レバーオン時の各種ＡＴ関連抽籤、及びレバーオン時のＡＴ関連抽籤結果に応じた各種情報の更新を行う。ここで、各種情報は、後述する本実施形態の「共通情報格納領域」に記憶されたデータに対応し、バックアップ情報は、後述する本実施形態の「共通情報バックアップ格納領域」に記憶されたデータに対応する。

【２２９７】

なお、レバーオン時ＡＴ関連処理は、第１実施形態のメイン処理の遊技開始時状態制御処理（図２３のステップＳ６）において実行される処理であり、この処理は、本実施形態におけるメイン処理の遊技開始時状態制御処理（図１７９のステップＳ２００６）に対応する。遊技開始時状態制御処理では、スタートレバーが操作されたときに、（第４実施形態の）図１７２に示されるような「レバーオン時ＡＴ関連処理」が行われる。また、上述のように、ＡＴ状態では、有利な停止操作態様が報知手段（例えば、第１実施形態における報知モニタやメイン表示装置２１０に対応する装置）に報知される。

【２２９８】

図２１６に示した共通情報バックアップ復帰処理、及び図２１７に示した共通情報復帰処理のうち、共通情報の復帰に係る処理は、例えば、上述した第４実施形態の処理（図１７３のステップＳ４６２４（バックアップされた情報を各種カウンタ、フラグに代入する処理、すなわち、共通情報バックアップ格納領域のデータを共通情報格納領域に戻す処理））に該当する。なお、図２１６、図２１７に示した共通情報バックアップの復帰に係る処理は、本実施形態で実現される処理を示したものであるため、上述した、第４実施形態のバックアップ復帰処理として、そのまま組み込むことができるとは限らない。ここで説明する共通情報復帰処理は、本願の技術的思想を説明するために例示するものである。

【２２９９】

図２１７に示される、共通情報復帰処理は、例えば、図１７３に示した第４実施形態の全停止時ＡＴ関連処理に対応する本実施形態の処理で呼び出される。全停止時ＡＴ関連処理では、全リールが停止したときに、全停止時の各種ＡＴ関連抽籤を実行した後、全停止時のＡＴ関連抽籤結果に応じた各種情報（カウンタやフラグ等）の更新を行い、ここで、

所定のペナルティ条件が成立した場合に、更新された上述の各種情報がバックアップ情報のデータに書き戻され、各種情報の更新（すなわち、図１７２に示したレバーオン時のＡＴ関連抽籤結果に応じた更新と、全停止時のＡＴ関連抽籤結果に応じた更新）がキャンセルされる。ここで、各種情報は、後述する本実施形態の「共通情報格納領域」に記憶されたデータに対応し、バックアップ情報は、後述する本実施形態の「共通情報バックアップ格納領域」に記憶されたデータに対応する。

【２３００】

したがって、ここでは、各種情報のキャンセルは、図１７２に示したような、バックアップ処理（ステップＳ４６０２）以降に更新された各種情報の内容（すなわち、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２で更新された各種情報）が、ステップＳ４６０２でバックアップしたデータの状態に戻されることになる。

【２３０１】

なお、第４実施形態の全停止時ＡＴ関連処理（図１７３）は、第４実施形態のメイン処理の遊技終了時状態制御処理（図２３のステップＳ１５）において実行される処理であり、この処理は、本実施形態におけるメイン処理の遊技終了時状態制御処理（図１７９のステップＳ２０１５）に対応する。

【２３０２】

図２１６には、共通情報バックアップ生成処理の処理手順を説明するためにフローチャートが示されている。この処理では、最初に、共通情報バックアップ生成に関する設定を所定のレジスタにセットする（ステップＳ２５８１）。その後、ステップＳ２５８４において、次疑似遊技選択演出番号をクリアし、ステップＳ２５８５で、共通情報バックアップ格納領域のアドレス（すなわち、共通情報格納領域に記憶されているデータをバックアップする領域）を、例えば、ＨＬレジスタにセットし、ステップＳ２５８６において、共通情報格納領域のアドレスを、例えば、ＤＬレジスタにセットする。

【２３０３】

共通情報格納領域は、この例ではバックアップ対象（データ復帰対象）であり、例えば、上述した第４実施形態と同様に、ＡＴ関連パラメータ（ＡＴ関連処理が行われた結果として更新され得る各種情報（カウンタやフラグ等））が含まれ、このＡＴ関連パラメータの一部の例が、図１７１に示されている。

【２３０４】

次に、ステップＳ２５８７において、共通情報格納領域のデータ長を所定のレジスタにセットし、ステップＳ２５８８において、バックアップ復帰かバックアップかを判定する。バックアップ復帰でない（すなわち、バックアップ生成である）場合は（ステップＳ２５８８のＮｏ）、ステップＳ２５８９で共通情報バックアップ格納領域と共通情報格納領域のアドレスを入れ替える。

【２３０５】

ステップＳ２５８９の後、及びステップＳ２５８８においてバックアップ復帰であると判定された場合は（ステップＳ２５８８のＹｅｓ）、いずれも、ステップＳ２５９０に進み、そこで、転送元のアドレスで示される格納領域のデータを、転送先のアドレスで示される格納領域に転送する。

【２３０６】

ここでは、上記のように、メイン処理の遊技開始時状態制御処理（図１７９のステップＳ２００６）で呼び出された共通情報バックアップ生成処理であるため、ステップＳ２５８８でのバックアップ復帰かバックアップかの判定はＮｏとなり、ステップＳ２５８９でアドレスの入れ換えが行われる。そして、ステップＳ２５９０の転送処理では、転送元のアドレスが共通情報格納領域のアドレス、転送先のアドレスが共通情報バックアップ格納領域のアドレスとなり、この処理によって、ＡＴ関連パラメータのバックアップが取得される。

【２３０７】

また、後述する図２１７に示す共通情報復帰処理のステップＳ２６１７から共通情報バックアップ復帰処理がＡレジスタを引数として呼び出されると、図２１６のステップＳ２５８２の処理が開始され、この処理は、復帰ありか否か（すなわち、バックアップ判定値（Ａレジスタ）＝０か否か）を判定する。この処理で、復帰あり（Ａレジスタ＝０）と判定された場合（ステップＳ２５８２のＹｅｓ）、上述したステップＳ２５８３に進む。復帰なし（Ａレジスタ≠０）と判定された場合（ステップＳ２５８２のＮｏ）、処理を終了する。

【２３０８】

ステップＳ２５８２でＹｅｓの判定となった場合、上述したステップＳ２５８３に進み、上記と同様の処理を行うが、今回は、共通情報復帰処理からの処理であるため、ステップＳ２５８８でのバックアップ復帰かバックアップかの判定はＹｅｓとなり、ステップＳ２５８９でアドレスの入れ換えは行われない。そして、ステップＳ２５９０の転送処理では、転送元のアドレスが共通情報バックアップ格納領域のアドレス、転送先のアドレスが共通情報格納領域のアドレスとなり、この処理によって、ＡＴ関連パラメータのバックアップ復帰が行われる。

【２３０９】

図２１７には、共通情報復帰処理の処理手順を説明するためにフローチャートが示されている。この処理では、共通情報バックアップ復帰処理を行うか否か、すなわち、ペナルティ条件が成立するかしないかが判定される。なお、このような判定は、上述した第４実施形態で、図１７３のステップＳ４６２３に関連して説明した条件と同様のものである。

【２３１０】

最初に、ステップＳ２６１１において、有利区間中である（すなわち、非有利区間中でない）場合（ステップＳ２６１１のＹｅｓ）、これが、ペナルティ条件の１つであり、ステップＳ２６１２に進む。有利区間中でなければ（ステップＳ２６１１のＮｏ）、処理を終了する。次に、ステップＳ２６１２において、第１回胴が第１停止か否かを判定する。第１回胴（例えば、リール３Ｌ）が第１停止でない（すなわち、第１停止操作として、中リール３Ｃ、又は右リール３Ｒに対する停止操作（変則押し）が行われている）場合（ステップＳ２６１２のＮｏ）、これが、ペナルティ条件の１つであり、ステップＳ２６１３に進む。第１回胴が第１停止である場合（ステップＳ２６１２のＹｅｓ）、ステップＳ２６１７に進み、この場合、バックアップ判定値＝出玉遊技状態フラグで、このとき出玉遊技状態フラグは取得されていないので、Ａレジスタに０以外の値がセットされ、ステップＳ２６１７の共通情報バックアップ復帰処理に進むと、実質的なバックアップ復帰処理は行われずに処理は終了する。

【２３１１】

ステップＳ２６１３では、出玉遊技状態フラグを取得する。出玉遊技状態フラグにより、どのような出玉状態であるかが把握できる。例えば、第４実施形態の例では、「疑似ＢＩＧ」、「疑似ＲＥＧ」、「疑似ＢＩＧ（ＥＤ）」といった疑似ボーナスや、図８１に示す３ＢＢ遊技状態といった状態を把握することができる。ここで、ステップＳ２６１４において、取得した出玉遊技状態フラグが何れかのボーナス状態か否かを判定する。何れかのボーナス状態である場合は（ステップＳ２６１４のＹｅｓ）、ステップＳ２６１７の共通情報バックアップ復帰処理に進むが、ここでは、例えば、出玉遊技状態フラグの値に応じて、バックアップ復帰処理が行われるか否かが決定される。例えば、Ａレジスタに出玉遊技状態フラグの値がセットされ、その内容が０にセットされれば、ペナルティ条件が成立し、バックアップ復帰処理が行われる。

【２３１２】

何れのボーナス状態でもない場合は（ステップＳ２６１４のＮｏ）、ステップＳ２６１５に進み、内部当籤役が判定対象役か否かを判定する。判定対象役でない場合は（ステップＳ２６１５のＮｏ）、ステップＳ２６１７に進む。ここでは、Ａレジスタに０以外の値がセットされ、ステップＳ２６１７で共通情報バックアップ復帰処理を呼び出した場合、実質的なバックアップ復帰処理は行われずに処理は終了する。

【２３１３】
判定対象役である場合は（ステップＳ２６１５のＹｅｓ）、ステップＳ２６１６において、内部当籤役に応じて、バックアップ判定値を取得する。すなわち、内部当籤役によって、ペナルティ条件を満たすか否かが判定される。なお、バックアップ判定値には、復帰あり（Ａレジスタ＝０）、または復帰なし（Ａレジスタは０以外）を表すデータが記憶される。次に、ステップＳ２６１７に進み、そこで、図２１６の共通情報バックアップ復帰処理をＡレジスタを引数として呼び出し、処理を終了する。また、図２１６の共通情報バックアップ復帰処理では、Ａレジスタが０の場合に、バックアップ復帰処理を行う。
【２３１４】
ステップＳ２６１１～ステップＳ２６１５の判定は、ペナルティ条件に関するものであり、このペナルティ条件を満たす場合に、バックアップ復帰処理が行われ、各種情報の更新が元に戻される。上記のように、ペナルティ条件は、有利区間中か否か、第１回胴の停止態様、ボーナス状態、及び内部当籤役に応じて決定される。
【２３１５】
ここで、図２１８を参照して、本実施形態における共通情報バックアップ生成処理と、共通情報バックアップ復帰処理について、概要を説明する。
【２３１６】
図２１８（Ａ）は、共通情報バックアップ復帰処理におけるバックアップ復帰処理（いわゆるリストア処理）の概要を示したものである。左側に示すメインＲＡＭ２１０３では、使用領域内作業領域２１０３ａのアドレス「Ｆ０２０」Ｈから長さＬ１に亘って共通情報が記憶されており、左斜め下方向の斜線で網掛けされた領域が、共通情報格納領域である。また、アドレス「Ｆ０２０」Ｈは、ＤＥレジスタに記憶される。一方、使用領域内作業領域２１０３ａのアドレス「Ｆ０３０」Ｈから長さＬ１に亘っては、以前のバージョンの共通情報である、共通情報バックアップが記憶されており、右斜め下方向の斜線で網掛けされた領域が、共通情報バックアップ格納領域である。また、アドレス「Ｆ０３０」Ｈは、ＨＬレジスタに記憶される。
【２３１７】
このようなメインＲＡＭ２１０３の状況で（１）に示す転送命令を実行すると、ＨＬレジスタに記憶されているアドレスから長さＬ１の領域が、ＤＥレジスタに記憶されているアドレスを先頭とした領域に転送される。その結果、右側に示すようなメインＲＡＭ２１０３の状況になる。すなわち、共通情報のデータが、共通情報バックアップのデータに書き換えられる。
【２３１８】
この転送命令は、例えば、図２１６に示すステップＳ２５９０の処理に対応する。
【２３１９】
図２１８（Ｂ）は、共通情報バックアップ生成処理におけるバックアップ生成処理（いわゆるバックアップ処理）の概要を示したものである。左側に示すメインＲＡＭ２１０３では、使用領域内作業領域２１０３ａのアドレス「Ｆ０２０」Ｈから長さＬ１に亘って共通情報が記憶されており、格子状の斜線で網掛けされた領域が、共通情報格納領域であり、図２１８（Ａ）における状態から、データの更新がされたことを表している。
【２３２０】
一方、使用領域内作業領域２１０３ａのアドレス「Ｆ０３０」Ｈから長さＬ１に亘っては、図２１８（Ａ）でバックアップ復帰に用いたバージョンの共通情報が記憶されており、右斜め下方向の斜線で網掛けされた領域が、共通情報バックアップ格納領域である。
【２３２１】
このようなメインＲＡＭ２１０３の状況で（１）に示すエクスチェンジ命令を実行すると、ＨＬレジスタに記憶されているアドレスとＤＥレジスタに記憶されているアドレスの入れ換えが行われる。そうすると、図２１８（Ａ）とは逆に、アドレス「Ｆ０２０」Ｈは、ＨＬレジスタに記憶され、また、アドレス「Ｆ０３０」Ｈは、ＤＥレジスタに記憶される。

【２３２２】
さらに、ここで、（２）の転送命令を実行すると、ＨＬレジスタに記憶されているアドレスから長さＬ１の領域が、ＤＥレジスタに記憶されているアドレスを先頭とした領域に転送される。その結果、右側に示すようなメインＲＡＭ２１０３の状況になる。すなわち、共通情報バックアップのデータが、共通情報のデータに書き換えられる。
【２３２３】
このエクスチェンジ命令は、例えば、図２１６に示すステップＳ２５８９の処理に対応し、転送命令は、例えば、図２１６に示すステップＳ２５９０の処理に対応する。転送命令は、図２１８（Ａ）と図２１８（Ｂ）で、データの転送方向が逆であるが、図２１８（Ｂ）では、スエクスチェンジ命令によりレジスタの値入れ換えられているからであり、コード自体は同じである。
【２３２４】
上記のように、遊技開始時状態制御処理（ステップＳ２００６）において実行される図２１６の共通情報バックアップ生成処理で、各種情報に関するバックアップが取得され、遊技終了時状態制御処理（ステップＳ２０１５）において実行される図２１７の共通情報復帰処理で、各種情報に関して取得されたバックアップにより、各種情報が遊技開始時の状態に戻される。ただし、各種情報は、上述したペナルティ条件が成立した場合に、遊技終了時において各種情報の更新をキャンセルすべく、バックアップ復帰処理を行う。
【２３２５】
また、共通情報復帰処理は、ペナルティ条件の判定を除いたほとんどの処理を、共通情報バックアップ生成処理と共有しており、次の疑似遊技演出番号のクリア、各格納領域アドレスのセット、格納領域の長さのセット等は共通化されており、データの転送を行う際には、共通情報復帰処理と共通情報バックアップ生成処理とで、格納領域アドレスを入れ替えることによってデータの転送方向を逆にしている。
【２３２６】
こうしたプログラムの共通化によって、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２３２７】
［９．遊技復帰不可能エラーの検出］
図１８３に示されている遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）は、この処理が呼び出された場合に、割込み禁止の設定を行った後、メダル投入を禁止し、情報表示装置（７セグＬＥＤ）に、遊技復帰不可能エラーである旨の表示を行い、その後、無限ループを開始する。この処理により、遊技復帰不可能エラーが検知されて遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）が呼び出された場合、パチスロ機２００１は、無限ループにより待機状態となり、このときパチスロ機２００１は、電源のオフ以外の操作を受け付けない、又は少なくとも、遊技を開始するための操作ができないようにすることができる。ここで、パチスロ機２００１の電源をオフし、再び電源をオンするときに、設定キーを用いて設定変更を行うための操作をすると、設定変更の操作が可能となる（図１８０参照）。電源をオンする場合に設定変更を行うための操作をしないと、また同じ待機状態になる。
【２３２８】
また、遊技復帰不可能エラーとなる原因としては、（１）電源投入時に算出されたＣＲＣ値と、電断時に算出され、ＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納されたＣＲＣ値とを比較した結果、不一致となった場合（図１８０、図１８１参照）、上述したＣＲＣ値の比較結果が一致となった場合であって、電断割込み処理において、ＣＲＣ値の演算が行われなかった（又は正常に行われなかった）場合（図１８１、図１９９、図２００参照）、（３）定期割込み処理におけるエラー検知処理（使用領域外）において、設定値の異常、または乱数回路の異常が検知された場合（図１９５、図１９７、図１９８参照）である。
【２３２９】

ここで、上記の原因（１）、（２）については、電源投入時、遊技復帰不可能エラーが検知されてすぐに、上述の遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）が実行されるが、原因（３）については、電源投入時に遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）が実行されることはなく、内部抽籤処理において遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）が実行される（図１８８参照）。

【２３３０】

このような処理のために、原因（３）の場合には、遊技復帰不可能エラーフラグに「復帰不可」を表すデータをセットし、内部抽籤処理でこのフラグの内容を判定している。内部抽籤処理は、図１７９に示すように、メダル受付・スタートチェック処理の後で実行される処理であり、メダルが投入され（又はクレジットが利用可能であり）、スタートレバーの操作によってスタートスイッチがオンになった場合に（すなわち、遊技者によって遊技の始が指示された場合に）実行される処理である。

【２３３１】

本実施形態のこのような構成により、設定値の異常、または乱数回路の異常が検知された場合は、検知がされた時点では、異常の表示や待機処理（無限ループ）が行われず、次に、スタートレバーが操作されて遊技が開始された時点で、異常が表示され、待機状態となる。

【２３３２】

こうしたパチスロ機２００１の振る舞いは、遊技店の閉店後に、不正行為（いわゆる、ゴト行為）を行い、次の日の、遊技店の開店直後に不正行為をした者（例えば、打ち子）が遊技を開始して、不正による利益を得ようとする状況を想定している。本実施形態による上記の仕組みにより、不正行為をした者は、開店直後に遊技を開始して初めて、その遊技台に異常が表示され、待機状態となるので、不正行為をした者をその場で特定することができる（その場で取り押さえることができなくても、遊技台を操作した遊技者の映像等を取得することができる）。このとき、不正行為をした者は、前日の不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技を開始することになる。

【２３３３】

一方、不正行為による異常が検出された時点で、遊技台に、その異常が表示され、待機状態になると、上記のように、前日の閉店後に不正行為がされた状況では、遊技店の開店前にスタッフが遊技台の電源をオンにした時点で異常が表示され、待機状態となるので、不正行為をした者がその場におらず、不正行為をした者を特定することができない。

【２３３４】

以上、本発明の第５実施形態について、図面を参照して説明してきたが、これらの構成や処理は例示に過ぎず、様々な他の構成・方法で本発明の技術的思想を実現することができる。また、上記では、本願の技術的思想を、主としてパチスロ機に適用する場合について説明しているが、パチンコ機や、後述する第６実施形態のメダルレス遊技機に対して適用することもできる。

【２３３５】

［第６実施形態］

（メダルレス遊技機）

本実施形態のパチスロ機２５０１では、遊技者のベット操作（すなわち、手持ちのメダルをメダル投入口２５０５に対して投入してベットする操作、あるいは、クレジットされたメダルをＭＡＸベットボタン２５０６ａ又は１ベットボタン２５０６ｂを操作してベットする操作）があることを開始条件の１つとして遊技を開始し、遊技が終了したときにメダルの払出がある場合には、ホッパー装置２５３２を駆動させてメダル払出口２５１１からメダルを払出し、あるいは、クレジットされる形態について説明したが、パチスロ機２５０１の構成はこれに限られない。

【２３３６】

例えば、遊技者によって遊技に必要な遊技価値がベットされ、それに基づいて遊技が行われ、その遊技の結果に基づいて特典が付与される（例えば、遊技価値が付与される）形

態全てについて、本実施形態に係る発明を適用可能である。すなわち、遊技者の動作によって物理的にメダルが投入され（掛けられ）、メダルが払出される形態のみならず、パチスロ機２５０１の内部で、遊技者が保有する遊技価値を電磁的に管理し（あるいは、電磁的でなくとも、少なくとも遊技者が遊技価値に直接接触できない態様で管理し）、メダルレスで遊技を可能とするものにも適用可能である。ここでは、このようなパチスロ機２５０１を「メダルレス遊技機」と称する。なお、メダルレス遊技機は、「管理遊技機」や「封入式遊技機」等と称されることがある。

【２３３７】

なお、遊技者が保有する遊技価値を電磁的に管理するのは、主制御回路２６００（主制御基板２５７１）自体であってもよいし、主制御回路２６００（主制御基板２５７１）に装着される（接続される）遊技価値管理装置（以下では、このような管理装置を「メダル数制御基板」として説明する場合がある）であってもよい。以下では、この遊技価値管理装置が設けられる一例を説明する。

【２３３８】

遊技価値管理装置は、少なくともＲＯＭ及びＲＷＭ（あるいは、ＲＡＭ）を備え、パチスロ機２５０１に設けられる装置であって、通信装置（以下では、このような通信装置を「接続端子板」として説明する場合がある）を介して外部の遊技価値提供装置（以下では、このような遊技価値提供装置を「通信専用ユニット」として説明する場合がある）と双方向通信可能に接続される。遊技価値管理装置は、外部の遊技価値提供装置との間で必要な通信を行うことにより、遊技価値の貸出動作（すなわち、遊技者が遊技価値のベット操作を行う上で必要な遊技価値を提供する動作）、遊技価値の付与動作（すなわち、遊技価値の付与に係る役に入賞（当該役が成立）した等の場合に遊技者に対して付与に係る遊技価値を提供する動作）、及びこれらの動作によって提供された遊技価値を電磁的に記録する動作等を行い得るものとする。なお、遊技価値提供装置は、「遊技価値（遊技媒体）取扱装置」、「遊技価値（遊技媒体）貸出装置」あるいは「サンド」等と称されることがある。

【２３３９】

また、外部の遊技価値提供装置は、外部の出玉管理装置（出玉管理サーバ）に接続されており、遊技価値管理装置は、外部の出玉管理装置に対し、通信装置及び外部の遊技価値提供装置を介して出玉管理情報を送信可能に構成される。ここで、出玉管理情報は、外部の出玉管理装置が出玉の管理を可能とするために必要な各種の情報で構成される。なお、出玉管理情報の一例については後述する。また、外部の遊技価値提供装置と外部の出玉管理装置との間は、例えば、インターネット回線によって接続される。

【２３４０】

ここで、「出玉」とは、直接的には払出された遊技媒体数を意味するものであるが、本実施形態では、例えば、払出数からベット数を減じた差枚数（純増数）等の遊技者に対する特典の付与度合い（例えば、遊技者がどの程度プラスとなったか（遊技店がどの程度マイナスとなったか）、あるいは遊技者がどの程度マイナスとなったか（遊技店がどの程度プラスとなったか等））や、有利状態（例えば、ボーナス状態、ＡＴ状態、あるいは一連の有利区間等）の継続度合い、あるいはこれらの組合せによって想定される射幸性の程度等も含む概念となっている。

【２３４１】

また、例えば、パチスロ機２５０１の前面側に、保有する遊技価値数を表示する保有遊技価値数表示装置（不図示）を設けることとし、遊技価値管理装置は、その遊技価値数の管理結果に基づいてこの保有遊技価値数表示装置に表示される遊技価値数を管理するようにしてもよい。すなわち、遊技価値管理装置は、遊技者が遊技の用に供することができる遊技価値の総数を電磁的方法により記録するのみならず、当該記録結果の表示を制御可能なものとして構成してもよい。なお、この場合、遊技価値管理装置は、遊技者が、記録された遊技価値数を示す信号を外部の遊技価値提供装置に対して自由に送信させることできる性能を有し、また、遊技者が直接操作する場合以外には記録された遊技価値数を減ずる

ことができない性能を有し、また、記録された遊技価値数を示す信号は、通信装置を介してでなければ送信できない性能を有することが望ましい。

【２３４２】

なお、遊技価値管理装置は、外部の遊技価値提供装置を用いて遊技者の遊技価値を電磁的に管理する機能のみならず、遊技者の物理的動作によってベットされる遊技価値数やパチスロ機２５０１の物理的動作によって払出される遊技価値数を管理する機能を有していてもよい。すなわち、従来のパチスロ機２５０１における実際のメダルの投入や払出の管理をも可能とするものであってもよい。このようにすれば、パチスロ機２５０１を従来の手法によって制御することもできるし、上述のメダルレス遊技機のような手法によって制御することもできるため、パチスロ機２５０１がいずれの仕様となった場合であっても共通の構成とすることができる。また、この場合、遊技価値管理装置が、上述のセレクタ２５３１やホッパー装置２５３２を直接的に制御する方式を採用することもできるし、これらが主制御回路２６００（主制御基板２５７１）によって制御され、その制御結果が送信されることにより間接的に制御する方式を採用することもできる。

【２３４３】

また、パチスロ機２５０１には上記の他、遊技者が操作可能な貸出操作手段や返却（精算）操作手段等のメダルレス遊技機の動作に必要な各種操作手段が設けられるものとすればよい。また、遊技価値提供装置には、紙幣等の有価価値の投入口、記録媒体（例えばＩＣカード）の挿入口、携帯端末から電子マネー等の入金を行うための非接触通信アンテナ等の各種装置に加え、遊技者が操作可能な貸出操作手段や返却操作手段等のメダルレス遊技機の動作に必要な各種操作手段が設けられるものとすればよい（いずれも不図示）。なお、挿入可能な記録媒体には、遊技店で当日発行される非会員記録媒体のみならず、遊技店の会員が保有する会員記録媒体も含まれる。非会員記録媒体に記録された遊技価値は当日限り有効となる（翌日以降は無効となる）が、会員記録媒体に記録された遊技価値は翌日以降も有効となる。

【２３４４】

この場合の遊技の流れの一例を説明する。例えば、まず、遊技者は遊技価値提供装置に対しいずれかの方法で有価価値を入金する。遊技価値提供装置は、遊技者のいずれかの貸出操作手段への操作に応じて、所定数の有価価値を減算し、減算した有価価値に対応する遊技価値をパチスロ機２５０１に提供する。そして、遊技者は遊技を行い、さらに遊技価値が必要となった場合には上記操作を繰り返し行う。その後、遊技の結果によって所定数の遊技価値を獲得してから遊技を終了する際には、遊技者はいずれかの返却操作手段を操作する。遊技価値管理装置は、遊技者のいずれかの返却操作手段への操作に応じて、遊技価値提供装置に対し遊技価値数を送信する。遊技価値提供装置は、送信された遊技価値数を記録した記録媒体を排出する。遊技価値管理装置は、遊技価値数を送信したときに自身が記憶する遊技価値数をクリアする。遊技者は、排出された記録媒体を景品に交換するために景品交換所等に持っていくこともできるし、また、排出された記録媒体を他のパチスロ機２５０１に対応する遊技価値提供装置に挿入することで、台移動して遊技を続けることもできる。また、排出された記録媒体が会員記録媒体であれば、翌日以降も有効であるため、ここで遊技をやめることもできる。

【２３４５】

なお、上記の一例では、遊技者の返却操作に応じて、遊技価値管理装置が遊技価値提供装置に対して全遊技価値数を送信するものとしていたが、遊技者の返却操作の態様により、遊技者が所望する遊技価値数のみを送信可能に構成してもよい。すなわち、遊技者が保有する遊技価値を分割できるようにしてもよい。また、遊技価値提供装置は、送信された遊技価値数を記録媒体に記録して排出するものとしていたが、上述の非接触通信アンテナ等を用いて遊技者の携帯端末にこれと同様の価値となる情報を送信してもよいし、また、同等の価値となるものを遊技者に提供するものである限り、例えば、現金又は現金等価物を排出するようにしてもよい。

【２３４６】

また、パチスロ機２５０１が遊技価値提供装置（通信専用ユニット）と正常に接続されていない場合に、遊技者の返却操作に応じて遊技価値数に対応する情報が通信専用ユニットに送信されてしまうと、当該情報が消失してしまうおそれがある。そこで、主制御回路２６００（主制御基板２５７１）は、通信専用ユニットと正常に接続されていない状態では、例えば、遊技が開始されるときにエラー状態に制御し、当該エラー状態では、遊技を行うことが不可能な状態（例えば、ベット操作、返却操作、開始操作等を受付不能とする状態）とすることで遊技が進行しないように制御し得るものとしてもよい。これにより、遊技価値数に対応する情報が消失してしまうことを未然に防止することが可能となる。

【２３４７】

また、パチスロ機２５０１又は遊技価値提供装置において、遊技者が操作可能なロック操作手段を設け、このロック操作手段への操作に応じて、遊技価値管理装置と遊技価値提供装置との間で通信できない状態（ロック状態）に制御可能としてもよい。なお、この場合、パチスロ機２５０１又は遊技価値提供装置において、例えば、暗証番号の設定（及び設定した暗証番号の入力）、ワンタイムパスワードの発行（及び発行したワンタイムパスワードの入力）、あるいは生体認証等の認証処理が行い得るようにし、当該認証処理の結果が正常である場合に当該ロック状態が解除されるように構成すればよい。

【２３４８】

ここまで説明したメダルレス遊技機によれば、遊技媒体が物理的に遊技に供される場合と比べて、例えば、メダル投入口２５０５やメダル払出口２５１１等の一部の外部構造、あるいはセレクタ２５３１やホッパー装置２５３２等の一部の内部構造についてはこれを設ける必要がなくなることから、遊技機の原価や製造コストを削減することができるのみならず、遊技機の消費電力を減らすことができる。また、遊技機の内部にアクセスすることがより困難となることから、遊技機に対する不正行為を防止することができる。さらに、遊技者が遊技媒体に直接的に接触しないことから、遊技環境が改善し、騒音も減らすことができる。すなわち、遊技機をとりまく種々の環境を改善することができる遊技機を提供することが可能となる。

【２３４９】

（メダルレス遊技機の構成例）

次に、図２１９～図２２２を参照して、パチスロ機の主制御基板の別例（別構成例・変形例・拡張例）について説明する。なお、本実施形態において主制御基板の別例として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機（他の構成例）として説明するものに適用可能であり、また、本実施形態において他の遊技機（他の構成例）として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において主制御基板の別例として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【２３５０】

［別例に係る主制御基板が搭載されたパチスロ機］

まず、図２１９、及び図２２０を参照して、別例に係る主制御基板が搭載されたパチスロ機（これを本例ではパチスロ機３００１とする）について説明する。図２１９は、主制御基板３０１１が搭載されたパチスロ機３００１の電気的構成を示すブロック図であり、図２２０は、主制御基板３０１１が搭載されたパチスロ機３００１に設けられた遊技情報表示ユニット３０３７、メダル数表示ユニット３０４１及びメダル貸表示ユニット３０４２の構成例を示す図である。なお、本例では、別例に係る主制御基板３０１１が搭載されたパチスロ機３００１をメダルレス遊技機として構成しているが、これはあくまで一例であり、本例において説明する発明のうちでその構成を必須としないものは、当然ながら物理的な遊技価値を用いて遊技を行う遊技機（パチスロ機１、パチスロ機２００１等）にも適用可能である。

【２３５１】

パチスロ機３００１は、図２１９に示す各種構成を有することで遊技を実行可能に構成されている。また、パチスロ機３００１は、遊技媒体貸出装置３００２及びデータ表示器

等周辺機器３００３とともに、遊技に関する種々の動作を実行可能な遊技システムを構成している。なお、図示は省略しているが、遊技媒体貸出装置３００２やデータ表示器等周辺機器３００３は、遊技店の管理コンピュータ（ホールコンピュータ）と、例えばＬＡＮ回線によって接続され、管理コンピュータに対してデータを送信可能に構成されている。また、遊技媒体貸出装置３００２は、上述の遊技価値提供装置（通信専用ユニット）と同様の機能を備えるものである。

【２３５２】

パチスロ機３００１は、主制御基板３０１１と、副制御基板３０１２と、ドア中継基板３０１３と、副中継基板３０１４とを有する。主制御基板３０１１とドア中継基板３０１３、ドア中継基板３０１３と副中継基板３０１４、及び副中継基板３０１４と副制御基板３０１２は、それぞれ電気的に接続されている。また、主制御基板３０１１と副制御基板３０１２は、ドア中継基板３０１３及び副中継基板３０１４を介して、主制御基板３０１１から副制御基板３０１２に対して一方向のシリアル通信が可能となるように電気的に接続されている。

【２３５３】

主制御基板３０１１は、遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御部）としての主制御部３０１１ａと、遊技価値の管理に関する制御を行う遊技価値制御手段（遊技価値制御部）としてのメダル数制御部３０１１ｂとを有する。なお、主制御部３０１１ａは、上述の主制御基板２５７１と同様の機能を備えるものであり、メダル数制御部３０１１ｂは、上述の遊技価値管理装置（メダル数制御基板）と同様の機能を備えるものである。

【２３５４】

ここで、図２１９では、主制御部３０１１ａと、メダル数制御部３０１１ｂとを、同じ主制御基板３０１１に搭載するものとしているが、これらをそれぞれ別の基板に搭載し（別基板として構成し）、これらが電気的に接続されることで、同様の機能が発揮されるように構成してもよい。

【２３５５】

副制御基板３０１２は、演出に関する制御を行う演出制御基板であり、樹脂製の副制御基板ケース（不図示）内に収容されている。また、ドア中継基板３０１３は、キャビネットＧ内の特定位置（例えば、下ドア機構ＤＤの背面側）に取付けられており、各種デバイス等と主制御基板３０１１との間、及び主制御基板３０１１と副制御基板３０１２との間を中継するための中間制御基板である。また、副中継基板３０１４は、キャビネットＧ内の特定位置（例えば、下ドア機構ＤＤの背面側）に取付けられており、副中継基板３０１４に接続された各種デバイス等と副制御基板３０１２との間等を中継するための中間制御基板である。

【２３５６】

また、パチスロ機３００１は、電源基板３０１５ａ、及び電源スイッチ３０１５ｂを含む電源ユニット３０１５を有する。

【２３５７】

また、パチスロ機３００１は、リールユニット３０２１と、リセットスイッチ３０２２と、設定用鍵型スイッチ３０２３と、精算スイッチ３０２４とを有しており、これらは主制御部３０１１ａと電気的に接続されている。なお、これらはドア中継基板３０１３を介して主制御部３０１１ａに接続されるものであってもよい。また、制御が円滑に行われる限り、メダル数制御部３０１１ｂに接続されるものであってもよい。

【２３５８】

リールユニット３０２１は、上述のリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ（及びステッピングモータ５１Ｌ，５１Ｃ，５１Ｒ）と同様の機能を備えるものである。また、リセットスイッチ３０２２は、上述のリセットスイッチ５３と同様の機能を備えるものである。また、設定用鍵型スイッチ３０２３は、上述の設定用鍵型スイッチ５２と同様の機能を備えるものである。また、精算スイッチ３０２４は、上述の精算スイッチ９Ｓと同様の機能を備えるものである。

【２３５９】
もっとも、本例のパチスロ機３００１はメダルレス遊技機として構成されているので、精算スイッチ３０２４により対応する精算ボタン（不図示）が押下されたことが検出された際には、クレジットされているメダル数が、後述の遊技球等接続端子板３０４３を介して後述の遊技媒体貸出装置３００２に送信される（クレジット精算が行われる）。
【２３６０】
また、パチスロ機３００１は、スタートスイッチ３０３１と、返却スイッチ３０３２と、１ＢＥＴスイッチ３０３３と、ＭＡＸＢＥＴスイッチ３０３４と、ストップスイッチ基板３０３５と、ドア開閉スイッチ３０３６と、遊技情報表示ユニット３０３７とを有しており、これらはドア中継基板３０１３を介して主制御部３０１１ａと電気的に接続されている。なお、これらはドア中継基板３０１３を介することなく主制御部３０１１ａに直接接続されるものであってもよい。また、制御が円滑に行われる限り、メダル数制御部３０１１ｂに接続されるものであってもよい。
【２３６１】
スタートスイッチ３０３１は、上述のスタートスイッチ７Ｓと同様の機能を備えるものである。また、１ＢＥＴスイッチ３０３３は、上述の１ベットボタン６ｂが押下された際のベットスイッチ６Ｓと同様の機能を備えるものである。また、ＭＡＸＢＥＴスイッチ３０３４は、上述のＭＡＸベットボタン６ａが押下された際のベットスイッチ６Ｓと同様の機能を備えるものである。また、ストップスイッチ基板３０３５は、上述のストップスイッチ８Ｓと同様の機能を備えるものである。また、ドア開閉スイッチ３０３６は、上述のドア開閉監視スイッチ５６と同様の機能を備えるものである。
【２３６２】
ここで、返却スイッチ３０３２及びこれに対応する返却ボタン（不図示）は、遊技者の返却操作を検出可能な返却操作検出部（手段）として構成され、返却スイッチ３０３２により対応する返却ボタンが押下されたことが検出された際には、ベットされたメダル数がクレジットに返却される（ベット精算が行われる）。なお、遊技情報表示ユニット３０３７については、図２２０を参照しながら後で説明する。
【２３６３】
また、パチスロ機３００１は、メダル数表示ユニット３０４１と、メダル貸操作基板３０４２ａ、貸出スイッチ３０４２ｂ、及び返却スイッチ３０４２ｃを含むメダル貸表示ユニット３０４２と、遊技球等接続端子板３０４３と、メダル数クリアスイッチ３０４４とを有しており、これらはメダル数制御部３０１１ｂと電気的に接続されている。なお、これらはドア中継基板３０１３を介してメダル数制御部３０１１ｂに接続されるものであってもよい。また、制御が円滑に行われる限り、主制御部３０１１ａに接続されるものであってもよい。なお、メダル数表示ユニット３０４１、及びメダル貸表示ユニット３０４２については、図２２０を参照しながら後で説明する。
【２３６４】
遊技球等接続端子板３０４３は、上述の外部集中端子板５５と同様の機能を備えるものであるとともに、上述の通信装置（接続端子板）と同様の機能を備えるものである。なお、遊技球等接続端子板３０４３には、遊技媒体貸出装置３００２とメダル数制御部３０１１ｂとを接続するため、及び、データ表示器等周辺機器３００３とメダル貸操作基板３０４２ａと接続するための接続機構部（不図示）が実装され、接続機構部３０４５ａには、ハーネスを介して遊技媒体貸出装置３００２と接続される複数の接続ピンで構成されたコネクタ（例えば、２５ピンの接続コネクタ）が設けられる。
【２３６５】
メダル数クリアスイッチ３０４４は、パチスロ機３００１内にクレジットされたメダル数を遊技店側の管理者がクリアする（初期化する）際に、当該初期化操作（例えば、押下操作）を検出可能なスイッチであり、メダル数クリアスイッチ３０４４に対して押下操作が行われると、検出信号（メダル数クリア信号）をメダル数制御部３０１１ｂに出力する。この場合、メダル数制御部３０１１ｂは、当該メダル数クリア信号に基づいて、後述の

メダル数表示ユニット３０４１に設けられたクレジット表示用の５桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ｂ）参照）の表示が「００００００」（クレジット数＝０）となるように、メダル数表示ユニット３０４１を制御する。

【２３６６】

また、パチスロ機３００１は、表示装置３０５１を有しており、これは副制御基板３０１２と電気的に接続されている。なお、表示装置３０５１は副中継基板３０１４を介して副制御基板３０１２に接続されるものであってもよい。ここで、表示装置３０５１は、上述のメイン表示装置２１０やサブ表示装置２２０と同様の機能を備えるものである。

【２３６７】

また、パチスロ機３００１は、スピーカ群３０５２と、ＬＥＤドライブ基板３０５３と、演出スイッチ３０５４と、操作スイッチ３０５５とを有しており、これらは副中継基板３０１４を介して副制御基板３０１２と電気的に接続されている。なお、これらは副中継基板３０１４を介することなく副制御基板３０１２に直接接続されるものであってもよい。

【２３６８】

スピーカ群３０５２は、上述のスピーカ群３５ａ，３５ｂ等と同様の機能を備えるものである。また、ＬＥＤドライブ基板３０５３は、各ＬＥＤ基板３０５６の駆動回路が実装された基板であり、各ＬＥＤ基板３０５６は、上述のランプ・ＬＥＤ群２３等と同様の機能を備えるものである。また、演出スイッチ３０５４、及び操作スイッチ３０５５は、上述の演出用ボタン群１０ａ，１０ｂ等と同様の機能を備えるものである。

【２３６９】

続いて、図２２０（Ａ）を参照して、遊技情報表示ユニット３０３７の構成例について説明する。遊技情報表示ユニット３０３７は、各種遊技情報を表示可能に構成され、その表示動作は、主制御部３０１１ａ内の後述の主制御用マイクロプロセッサ３０７０（主制御回路）により制御される。なお、遊技情報表示ユニット３０３７は、遊技者が容易に視認できる位置であれば任意の位置に設けることが可能である。例えば、パチスロ機１における前面扉の台座部（図１において、メダル投入口５や演出用ボタン１０ａが設けられている位置、あるいはその近傍）に設けられるようにすればよい。

【２３７０】

図２２０（Ａ）に示すように、遊技情報表示ユニット３０３７には、遊技媒体の払出数（遊技価値の付与数）の情報を表示するための払出表示部が設けられる。払出表示部は、当該情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための２桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ａ）中、「払出表示」）で構成される。

【２３７１】

また、遊技情報表示ユニット３０３７には、遊技の動作情報を示すランプとして、図２２０（Ａ）Ａ中において「ＳＴＡＲＴ」、「ＲＥＰＬＡＹ」、「１ＢＥＴ」、「２ＢＥＴ」、「３ＢＥＴ」と表記されたベット数表示用のＬＥＤ（以下、「ラインＬＥＤ」という）が設けられる。

【２３７２】

例えば、遊技媒体のベット数（投入数）が０の状態（全てのラインＬＥＤが消灯状態）において、１ベットボタン６ｂが押下されると「１ＢＥＴ」のラインＬＥＤが点灯し、続けて、１ベットボタン６ｂが押下されると「１ＢＥＴ」及び「２ＢＥＴ」のラインＬＥＤが点灯し、さらに続けて、１ベットボタン６ｂが押下されると「１ＢＥＴ」～「３ＢＥＴ」の全てのラインＬＥＤが点灯するとともに、「ＳＴＡＲＴ」のラインＬＥＤが点灯する。この際、１ベットボタン６ｂが押下される度に、後述のメダル数表示ユニット３０４１内の５桁の７セグＬＥＤで表示された遊技媒体の貯留数（クレジット数）の値が１減算される。

【２３７３】

また、例えば、遊技媒体のベット数（投入数）が０の状態（全てのラインＬＥＤが消灯状態）において、ＭＡＸベットボタン６ａが押下されると、「１ＢＥＴ」～「３ＢＥＴ」

の全てのラインＬＥＤが点灯するとともに、「ＳＴＡＲＴ」のラインＬＥＤが点灯する。この際、１回のベット操作で、後述のメダル数表示ユニット４４１内の５桁の７セグＬＥＤで表示されている遊技媒体の貯留数（クレジット数）の値は３減算される。

【２３７４】

さらに、例えば、前回のゲームでリプレイ役が入賞した場合には、「ＳＴＡＲＴ」及び「ＲＥＰＬＡＹ」のラインＬＥＤが点灯する。この際、後述のメダル数表示ユニット３０４１内の後述の５桁の７セグＬＥＤで表示されている遊技媒体の貯留数（クレジット数）の値は減算されない。

【２３７５】

また、遊技情報表示ユニット３０３７には、遊技者に対して停止操作の情報が報知される状況下（例えば、ＡＴ状態）において、報知する停止操作の情報を表示するための指示表示部が設けられる。指示表示部は、当該情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための３桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ａ）中、「指示表示」）で構成される。なお、指示表示部は、上述の指示モニタ（報知ランプ）と同様、報知する停止操作の情報と一義的に対応する情報を表示する（例えば、「左→中→右」の押し順を報知する場合には「１」を表示する）ものであってもよいし、報知する停止操作の情報を直接的に表示する（例えば、「左→中→右」の押し順を報知する場合には「１２３」を表示する）ものであってもよい。

【２３７６】

続いて、図２２０（Ｂ）を参照して、メダル数表示ユニット３０４１の構成例について説明する。メダル数表示ユニット３０４１は、パチスロ機３００１の内部に預けられている遊技媒体の貯留数（遊技価値の保有数）に関する情報等を表示可能に構成され、その表示動作は、メダル数制御部３０１１ｂ内の後述のメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０（遊技価値制御回路）により制御される。なお、メダル数表示ユニット３０４１は、遊技者が容易に視認できる位置であれば任意の位置に設けることが可能である。例えば、パチスロ機１における前面扉の台座部（図１において、メダル投入口５や演出用ボタン１０ａが設けられている位置、あるいはその近傍）に設けられるようにすればよい。また、メダル数表示ユニット３０４１は、上述の保有遊技価値数表示装置と同様の機能を備えるものである。

【２３７７】

図２２０（Ｂ）に示すように、メダル数表示ユニット３０４１には、遊技媒体の貯留数（遊技価値の保有数）の情報を表示するためのクレジット表示部が設けられる。クレジット表示部は、当該情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための５桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ｂ）中、「クレジット表示」）で構成される。なお、例えば、遊技媒体貸出装置３００２において同様のクレジット表示が行われる場合には、パチスロ機３００１においてはクレジット表示部を設けないようにしてもよいし、あるいは従来のパチスロ機１と同様、所定数（例えば、５０枚）を上限とするクレジット表示が行われるものとしてもよい。

【２３７８】

また、メダル数表示ユニット３０４１には、メダル数制御部３０１１ｂで管理されるメダル数（クレジット数）の制御に係るエラーの情報を表示するためのエラー表示部が設けられる。エラー表示部は、当該情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための１桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ｂ）中、「エラー表示」）で構成される。メダル数制御部３０１１ｂで管理されるメダル数（クレジット数）の制御に係るエラーが発生した場合には、このエラー表示用の１桁の７セグＬＥＤにより、エラー種別に対応するエラーコード（文字や数字等）が表示される。エラー表示部は、メダル数（遊技価値）の管理制御専用のエラー表示手段となるので、例えば、メダル数の管理制御に関するエラーと、その他のエラーとの混同が無くなり、メダル数の管理制御に関するエラーが発生していることが認識されやすくなる。

【２３７９】

ここで、メダル数制御部３０１１ｂで管理されるメダル数（クレジット数）の制御に係るエラーとしては、例えば、上限超過エラー等が挙げられる。上限超過エラーは、メダル数制御部３０１１ｂ内に設けられた、遊技媒体の貯留数を計数するためのクレジットカウンタに上限値（例えば、「１６３６９」）が設定されている場合、クレジットカウンタに払出数を加算するとその上限値を超えてしまうと判断されたときに発生するエラーである。なお、上限超過エラーが発生した場合には、クレジット精算を行うことでこれを解消（解除）できる。

【２３８０】

続いて、図２２０（Ｃ）を参照して、メダル貸表示ユニット３０４２の構成例について説明する。メダル貸表示ユニット３０４２は、遊技媒体貸出装置３００２内に挿入されている遊技用カード（不図示）に残っている遊技媒体（遊技価値）の数（これを「度数」とする）に関する情報等を表示可能に構成され、その表示動作は、メダル数制御部４１１ｂ内の後述のメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０（遊技価値制御回路）により制御される。なお、メダル貸表示ユニット３０４２は、遊技者が容易に視認できる位置であれば任意の位置に設けることが可能である。例えば、パチスロ機１における前面扉の台座部（図１において、メダル投入口５や演出用ボタン１０ａが設けられている位置、あるいはその近傍）に設けられるようにすればよい。また、度数は、遊技媒体貸出装置３００２に投入された金額に応じて貸出可能な遊技媒体（遊技価値）の数を含んでいてもよい。

【２３８１】

図２２０（Ｃ）に示すように、メダル貸表示ユニット３０４２には、残りの度数の情報を表示するための度数表示部が設けられる。度数表示部は、当該情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための３桁の７セグＬＥＤ（図２２０（Ｃ）中、「度数表示」）で構成される。

【２３８２】

また、メダル貸表示ユニット３０４２には、遊技媒体の貸出操作の可／不可の情報を示す、図２２０（Ｃ）中において「貸」と表記された貸出ランプが設けられる。貸出ランプは、遊技媒体の貸出操作が可能な状態（貸出操作前）では点灯し、遊技媒体の貸出操作が不可である状態（貸出中、精算中、返却中、異常発生中）では消灯する。なお、貸出ランプは押下操作が可能な貸出ボタンとしても機能するように構成されており、その押下操作（すなわち、貸出操作）は貸出スイッチ３０４２ｂにより検出される。

【２３８３】

そして、貸出操作が検出されたときに、貸出ランプが点灯状態であれば（すなわち、貸出操作が可能な状態であれば）、遊技媒体貸出装置３００２側で管理されている度数から、所定数の遊技媒体がパチスロ機３００１側で管理されているクレジット数に加算される。また、これにともない、度数表示部では所定数の遊技媒体に対応する度数を減じた残りの度数の値が表示されるようになる。なお、本例では、貸出ランプが貸出ボタンとしても機能するように構成しているが、貸出ボタンを貸出ランプとは別に設けるようにし、貸出ランプは表示機能のみを担うように構成してもよい。

【２３８４】

また、メダル貸表示ユニット３０４２には、遊技媒体の返却操作の可／不可の情報を示す、図２２０（Ｃ）中において「返」と表記された返却ランプが設けられる。返却ランプは、遊技媒体の返却操作が可能な状態（返却操作前）では点灯し、遊技媒体の返却操作が不可である状態（貸出中、精算中、返却中、異常発生中）では消灯する。なお、返却ランプは押下操作が可能な返却ボタンとしても機能するように構成されており、その押下操作（すなわち、返却操作）は返却スイッチ３０４２ｃにより検出される。

【２３８５】

そして、返却操作が検出されたときに、返却ランプが点灯状態であれば（すなわち、返却操作が可能な状態であれば）、パチスロ機３００１側で管理されているクレジット数やベット数が、遊技媒体貸出装置３００２側で管理されている度数に加算され、その後、その度数が記憶された遊技用カード（遊技用カードでは度数自体は記憶されず、これに対応

付けられた情報が記憶される態様も含む）が遊技媒体貸出装置３００２から排出される。なお、本例では、返却ランプが返却ボタンとしても機能するように構成しているが、返却ボタンを返却ランプとは別に設けるようにし、返却ランプは表示機能のみを担うように構成してもよい。

【２３８６】

なお、本例では、遊技情報表示ユニット３０３７、メダル数表示ユニット３０４１、及びメダル貸表示ユニット３０４２に設けられた各種７セグＬＥＤの制御方式として、ダイナミック点灯制御が採用されているが、これとは異なる制御方式（例えば、スタティック点灯制御）を採用してもよい。

【２３８７】

［別例に係る主制御基板の主制御部及びメダル数制御部の構成例］

続いて、図２２１を参照して、別例に係る主制御基板の主制御部及びメダル数制御部の構成例について説明する。図２２１は、主制御基板３０１１の主制御用マイクロプロセッサ３０７０、及びメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の構成例を示す図である。

【２３８８】

上述のように、主制御基板３０１１には、主制御部３０１１ａと、メダル数制御部３０１１ｂとが搭載されるとともに、メダル数クリアスイッチ３０４４が実装されている。なお、主制御部３０１１ａ、及びメダル数制御部３０１１ｂの詳細については後述する。主制御基板３０１１は、例えば、上述の主制御基板７１と同様に、透明（あるいは略透明）な樹脂製の基板ケース（本例では、主制御基板ケース３０６０）に収容された状態でパチスロ機３００１の内部に取り付けられる。

【２３８９】

なお、図示は省略しているが、主制御基板ケース３０６０は、不正防止等の観点から、それが容易に開放されないように、あるいは開放された場合にもその痕跡が認識できるように種々の封印構造を有している。すなわち、主制御基板ケース３０６０は、基本的に、主制御基板３０１１の視認性は確保しながらも、主制御基板３０１１へのアクセスが困難となるように構成されている。

【２３９０】

ここで、本例では、メダル数クリアスイッチ３０４４を主制御基板３０１１上に実装しているため、そのような安全性を確保しながらも（すなわち、主制御基板ケース３０６０が開放されないままで）、メダル数クリアスイッチ３０４４へのアクセス（メダル数クリアスイッチ３０４４への操作）を可能とする必要がある。

【２３９１】

そこで、本例では、主制御基板ケース３０６０において、メダル数クリアスイッチ３０４４の配置場所に対応する位置に、主制御基板ケース３０６０の外部からメダル数クリアスイッチ３０４４を押下できるようにするための小穴３０６１ａを形成している。

【２３９２】

なお、メダル数クリアスイッチ３０４４が人の指等で簡単に操作されないように、小穴３０６１ａのサイズを、例えば、直径が約２ｍｍ以下とすればよい。そして、遊技店の店員は、例えば、専用の器具を使用してこれを押下するようにすればよい。メダル数クリアスイッチ３０４４は、上述のとおり、パチスロ機３００１内にクレジットされたメダル数を遊技店側の管理者がクリアする（初期化する）ために使用されるスイッチであることから、通常の状況では使用しないスイッチであり、遊技媒体の貯留数（クレジット数）の管理に係るメダル数制御（払出に関する制御等）に想定外の状態が発生した場合に使用することを目的として設けられたものである。それゆえ、このように構成しても問題は生じにくいし、メダル数クリアスイッチ３０４４が誤って押下操作が行われることも防止できる。

【２３９３】

続いて、主制御部３０１１ａの構成例について説明する。主制御部３０１１ａは、主制御用マイクロプロセッサ３０７０（遊技制御回路）と、クロックパルス発生回路３０７１

（不図示）と、電源管理回路３０７２（不図示）とを有する。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０の詳細については後述する。

【２３９４】

クロックパルス発生回路３０７１は、メインＣＰＵ作動用のクロックパルス信号を生成し、該生成したクロックパルス信号を主制御用マイクロプロセッサ３０７０内のクロック回路３１０５（ＥＸ）に出力する。主制御用マイクロプロセッサ３０７０は、入力されたクロックパルス信号に基づいて、制御プログラムを実行する。

【２３９５】

電源管理回路３０７２は、電源基板３０１５ａ（図２１９参照）から供給される直流１２Ｖの電源電圧の変動を管理し、主制御用マイクロプロセッサ３０７０に直流５Ｖ（ＶＣＣ）の電源を供給する。そして、電源管理回路３０７２は、例えば、電源が投入された際（電源電圧が０Ｖから起動電圧値（１０Ｖ）を上回った際）には、リセット信号を主制御用マイクロプロセッサ３０７０内の後述のリセットコントローラ３１０６（ＸＳＲＳＴ）に出力し、電断が発生した際（電源電圧が１２Ｖから停電電圧値（１０．５Ｖ）を下回った際）には、電断検知信号を主制御用マイクロプロセッサ３０７０内の後述のパラレル入力ポート３１１１（ＸＩＮＴ）に出力する。すなわち、電源管理回路３０７２は、電源投入時に、主制御用マイクロプロセッサ３０７０にリセット信号（起動信号）を出力する手段（起動手段）、及び、電断発生時に、主制御用マイクロプロセッサ３０７０に電断検知信号（停電信号）を出力する手段（停電手段）も兼ねる。

【２３９６】

続いて、メダル数制御部３０１１ｂの構成例について説明する。メダル数制御部３０１１ｂは、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０（遊技価値制御回路）と、クロックパルス発生回路３０８１（不図示）と、電源管理回路３０８２（不図示）と、役比モニタ３０８３（不図示）とを有する。なお、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の詳細については後述する。

【２３９７】

また、主制御部３０１１ａとメダル数制御部３０１１ｂの比較から明らかなように、メダル数制御部３０１１ｂは、主制御部３０１１ａに役比モニタ３０８３を加えた構成であり、メダル数制御部３０１１ｂに設けられたクロックパルス発生回路３０８１、及び電源管理回路３０８２の構成、及び機能は、それぞれ、主制御部３０１１ａに設けられたクロックパルス発生回路３０７１、及び電源管理回路３０７２の構成、及び機能と同様である。それゆえ、ここでは、クロックパルス発生回路３０８１、及び電源管理回路３０８２の構成及び機能の説明は省略する。

【２３９８】

なお、本例では、主制御用マイクロプロセッサ３０７０とメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０は、同じ半導体メーカで設計製造された遊技機専用マイクロプロセッサであり、上述のとおり、クロックパルス発生回路（３０７１，３０８１）及び電源管理回路（３０７２，３０８２）の構成、及び機能は同様となっている。したがって、本例のように、主制御用マイクロプロセッサ３０７０とメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０が同一の制御基板（主制御基板３０１１）に実装される場合には、それぞれに対応するクロックパルス発生回路及び電源管理回路を個々に設けるのではなく、１つのクロックパルス発生回路及び電源管理回路が、２つのマイクロプロセッサで共用されるようにしてもよい。

【２３９９】

すなわち、クロックパルス発生回路３０７１とクロックパルス発生回路３０８１は、１つの同じクロックパルス発生回路として構成することができる。また、電源管理回路３０７２と電源管理回路３０８２は、１つの同じ電源管理回路として構成することができる。なお、クロックパルス発生回路は共用するが、電源管理回路は個々に設けるように構成することもできるし、電源管理回路は共用するが、クロックパルス発生回路は個々に設けるように構成することもできる。

【２４００】
役比モニタ３０８３は、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成され、上述の役比モニタ装置５４と同様の機能を備えるものである。本例では、役比モニタ３０８３が、主制御基板ケース３０６０内に設けられる点は上述の役比モニタ装置５４と同様であるが、メダル数制御部３０１１ｂの一構成として主制御基板３０１１上に実装され、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０によってその表示内容（各種割合情報）が制御される点で上述の役比モニタ装置５４とは異なる。もっとも、主制御部３０１１ａの一構成として主制御基板３０１１上に実装され、主制御用マイクロプロセッサ３０７０によってその表示内容（各種割合情報）が制御されるようにしてもよい。
【２４０１】
また、主制御基板ケース３０６０内に設けられ、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０によってその表示内容（各種割合情報）が制御されるが、メダル数制御部３０１１ｂに接続された他の基板（例えば、割合表示基板）上に実装されるように構成してもよいし、そのような表示ユニットが別途設けられ、これがメダル数制御部３０１１ｂに接続されるように構成してもよい。主制御基板３０１１が主制御基板ケース３０６０に収容され、パチスロ機３００１の内部に取り付けられた状態において、役比モニタ３０８３の視認性が確保され得るのであれば、いずれの態様を採用することもできる。
【２４０２】
続いて、図２２１を参照して、主制御用マイクロプロセッサ３０７０、及びメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の構成例について説明する。主制御用マイクロプロセッサ３０７０、及びメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０はともに、遊技機用のセキュリティ機能付きマイクロプロセッサであり、本例では、主制御用マイクロプロセッサ３０７０の構成と、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の構成とは同じである（むろん、異なる構成としてもよい）。
【２４０３】
したがって、ここでは、主制御用マイクロプロセッサ３０７０及びメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０を、単に、「マイクロプロセッサＭＰ」と称して説明する。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０とメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０との間で機能が異なる構成部については、その差異を適宜説明する。
【２４０４】
マイクロプロセッサＭＰは、ＣＰＵ３１０１と、ＲＯＭ３１０２と、ＲＡＭ３１０３と、外部バスインタフェース３１０４（信号バス３１１６（ローカルバス））と、クロック回路３１０５と、リセットコントローラ３１０６と、演算回路３１０７と、照合用ブロック３１０８と、固有情報３１０９と、乱数回路３１１０（乱数発生回路）と、パラレル入力ポート３１１１と、割込みコントローラ３１１２と、タイマ回路３１１３と、シリアル通信回路３１１４と、パラレル出力ポート３１１５とを有する。そして、マイクロプロセッサＭＰを構成する信号バス３１１６以外の各部は信号バス３１１６を介して互いに接続されている。なお、後述のＩＣ１のＤ０～Ｄ７端子やＩＣ２のＤ０～Ｄ７端子が、外部バスインタフェース３１０４のための端子である（後述の図２２２参照）。
【２４０５】
ＣＰＵ３１０１は、クロック回路３１０５で生成されたクロックパルスに基づいて、各種制御プログラムを実行して各種制御を行う。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、ＣＰＵ３１０１（以下、「メインＣＰＵ」ともいう）は、各種制御プログラムを実行して、遊技動作全般に係る制御を行う。一方、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では、ＣＰＵ３１０１（以下、「メダル数制御ＣＰＵ」ともいう）は、各種制御プログラムを実行して、主に、払出時及び精算時における遊技媒体（遊技価値）の計数動作に係る制御を行う。
【２４０６】
ＲＯＭ３１０２には、ＣＰＵ３１０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル等が記憶される。なお、ＲＯＭ３１０２の記憶容量は１２キロバイトである。

主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、ＲＯＭ３１０２（以下、「メインＲＯＭ」ともいう）に、メインＣＰＵ３１０１により実行される各種制御プログラム、各種データテーブル、副制御基板３０１２に対して各種制御指令（コマンド）を送信するためのデータ等が記憶される。一方、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では、ＲＯＭ３１０２（以下、「メダル数制御ＲＯＭ」ともいう）に、メダル数制御ＣＰＵ３１０１により実行される各種制御プログラム、主制御部３０１１ａや遊技球等接続端子板３０４３（遊技媒体貸出装置３００２、データ表示器等周辺機器３００３）との間で行われる信号及びデータの入出力動作で必要とされる各種データ等が記憶される。

【２４０７】

ＲＡＭ３１０３には、ＣＰＵ３１０１による各種制御プログラムの実行時に用いられる各種データ（パラメータ、フラグ等）が格納される各種格納領域が設けられる。なお、ＲＡＭ３１０３の記憶容量は１キロバイトである。主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、ＲＡＭ３１０３（以下、「メインＲＡＭ」ともいう）に、制御プログラムの実行により決定された内部当籤役等の各種データを格納する格納領域が設けられる。一方、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では、ＲＡＭ３１０３（以下、「メダル数制御ＲＡＭ」ともいう）に、払出制御等の実行時に用いられる各種カウンタ（例えば、メダルカウンタ、投入カウンタ等）、各種フラグ等を格納する格納領域が設けられる。

【２４０８】

外部バスインタフェース３１０４は、マイクロプロセッサＭＰの外部に設けられた各種構成部が接続された外部信号バスと、マイクロプロセッサＭＰとを電気的に接続するためのインタフェース回路である。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０及びメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０における接続構成例については、図２２２を参照しながら後で説明する。

【２４０９】

クロック回路３１０５は、例えば分周器（不図示）等を含んで構成され、クロックパルス発生回路３０７１、３０８１から入力されたクロックパルス信号を、ＣＰＵ作動用及びその他の構成部（例えば、タイマ回路３１１３）で使用される複数種類の周波数のクロックパルス信号に変換する。なお、クロック回路３１０５で生成された複数種類の周波数のクロックパルス信号は、マイクロプロセッサＭＰ内のクロック回路３１０５を除く全ての回路（ＣＰＵ３１０１～外部バスインタフェース３１０４、及びリセットコントローラ３１０６～パラレル出力ポート３１１５）に、各回路の作動に応じた周波数で出力される。

【２４１０】

リセットコントローラ３１０６は、電源管理回路３０７２、３０８２から入力されたリセット信号に基づいて、ＩＡＴ（Ｉｌｌｅｇａｌ Ａｄｄｒｅｓｓ Ｔｒａｐ）やＷＤＴ（ｗａｔｃｈｄｏｇ ｔｉｍｅｒ）のリセットを行う。演算回路３１０７は、乗算回路及び除算回路を含んで構成される。照合用ブロック３１０８は、検査装置が接続された際に、接続された検査装置が正規のものであるかをその信号レベルで照合する。

【２４１１】

固有情報３１０９には、マイクロプロセッサＭＰの固有情報（識別情報）が記憶される。マイクロプロセッサＭＰのチップ個別ナンバーは、４バイトのデータで構成され、チップ作製時に設定される。また、マイクロプロセッサＭＰのチップ個別ナンバーは、チップ毎に異なった番号が設定される。

【２４１２】

なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、主制御用マイクロプロセッサ３０７０の固有情報（識別情報）が、固有情報３１０９に記憶される。また、ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードや、主制御用マイクロプロセッサ３０７０のチップ個別ナンバーなどが、固有情報３１０９に記憶される。ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードは、４バイト×４個のデータ、すなわち、１６バイトのデータで構成される。なお、ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードを構成する４バイト毎の各データは、内蔵ＲＯＭ（ＲＯＭ３１０２）のアドレス「００００ｈ」～「２ＦＢＦｈ」の領域に格納されているデータから生成され、４バイトのデータ

生成方法も４バイトのデータ毎に異なる。

【２４１３】

一方、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の固有情報（識別情報）が、固有情報３１０９に記憶される。また、メダル数制御ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードや、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０のチップ個別ナンバーなどが、固有情報３１０９に記憶される。メダル数制御ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードは、４バイト×４個のデータ、すなわち、１６バイトのデータで構成される。なお、メダル数制御ＲＯＭ３１０２のＲＯＭコードを構成する４バイト毎の各データは、内蔵ＲＯＭ（メダル数制御ＲＯＭ３１０２）のアドレス「００００ｈ」～「０ＦＢＦｈ」の領域に格納されているデータから生成され、４バイトのデータ生成方法も４バイトのデータ毎に異なる。

【２４１４】

乱数回路３１１０は、予め定められた範囲の乱数（例えば、０～６５５３５又は０～２５５）を発生させる。乱数回路３１１０は、複数の乱数レジスタで構成され、例えば、２バイトのハードラッチ乱数を得るための乱数レジスタ０と、２バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ１～３と、１バイトのソフトラッチ乱数を得るための乱数レジスタ４～７とで構成することができる。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、メインＣＰＵ３１０１は、乱数回路３１１０で発生させた所定範囲の乱数の中から１つの値を、例えば内部抽籤用の乱数値として抽出する。

【２４１５】

パラレル入力ポート３１１１は、マイクロプロセッサＭＰの外部に設けられた各種回路（例えば、電源管理回路３０７２、３０８２等）からマイクロプロセッサＭＰに入力される信号の入力ポート（メモリーマップＩ／Ｏ）である。また、パラレル入力ポート３１１１は、乱数回路３１１０及び割込みコントローラ３１１２にも接続される。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、パラレル入力ポート３１１１にスタートスイッチ３０３１が接続され、スタートスイッチ３０３１がオン状態になったタイミング（オンエッジ）で、パラレル入力ポート３１１１から乱数回路３１１０の所定の乱数レジスタ（例えば、乱数レジスタ０）にラッチ信号が出力される。そして、乱数回路３１１０では、ラッチ信号が入力されることにより所定の乱数レジスタがラッチされ、２バイトのハードラッチ乱数が取得される。

【２４１６】

割込みコントローラ３１１２は、パラレル入力ポート３１１１を介して電源管理回路３０７２、３０８２から入力されるリセット信号、電断検知信号、又は、タイマ回路３１１３から所定周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、ＣＰＵ３１０１による割込処理の実行タイミングを制御する。また、割込みコントローラ３１１２は、電源管理回路３０７２、３０８２からリセット信号、電断検知信号が入力された場合、又は、タイマ回路３１１３からタイムアウト信号が入力された場合には、割込処理開始指令を示す割込要求信号をＣＰＵ３１０１に出力する。そして、ＣＰＵ３１０１は、割込みコントローラ３１１２から入力される割込要求信号に基づいて、各種割込処理を行う。

【２４１７】

具体的には、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、割込みコントローラ３１１２は、パラレル入力ポート３１１１を介して電源管理回路３０７２から入力されるリセット信号、電断検知信号、又は、タイマ回路３１１３から１．１１７２ｍｓｅｃ周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メインＣＰＵ３１０１による割込処理（例えば、タイムアウト信号の場合には、図３２に示す定期割込処理）の実行タイミングを制御する。そして、メインＣＰＵ３１０１は、タイマ回路３１１３からのタイムアウト信号に応じて割込みコントローラ３１１２から入力される割込要求信号に基づいて、定期割込処理（例えば、図３２参照）内の各種処理を行う。なお、リセット信号に基づいて実行されるメインＣＰＵ３１０１による割込処理は、図２３に示すメイン処理が該当する。すなわち、メインＣＰＵ３１０１が実行する全ての処理では、割込みコントローラ３１１２が発する割込

要求信号が各処理開始の起点となる。

【２４１８】

一方、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では、割込みコントローラ３１１２は、パラレル入力ポート３１１１を介して電源管理回路３０８２から入力されるリセット信号、電断検知信号、又は、タイマ回路３１１３から１ｍｓｅｃ周期で入力されるタイムアウト信号に基づいて、メダル数制御ＣＰＵ３１０１による割込処理の実行タイミングを制御する。そして、メダル数制御ＣＰＵ３１０１は、上記と同様、リセット信号、電断検知信号、又は、タイムアウト信号に応じて割込みコントローラ３１１２から入力される割込要求信号に基づいて、例えば、ポート入力処理、遊技情報受信時処理、主制御部３０１１ａへのデータ送信処理、周辺機器へのデータ送信処理、周辺機器からのデータ受信処理、ポート出力処理等の各種処理を行う。すなわち、メダル数制御ＣＰＵ３１０１が実行する全ての処理でも、割込みコントローラ３１１２が発する割込要求信号が各処理開始の起点となる。

【２４１９】

タイマ回路３１１３（ＰＴＣ）は、クロック回路３１０５で生成されたクロックパルス信号（ＣＰＵ作動用のクロックパルス信号を分周器（不図示）で分周された周波数のクロックパルス信号）で動作する（経過時間をカウントする）。そして、タイマ回路３１１３は、所定周期（主制御用マイクロプロセッサ３０７０では１．１１７２ｍｓｅｃの周期、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０では１ｍｓｅｃの周期）で割込みコントローラ３１１２にタイムアウト信号（トリガー信号）を出力する。

【２４２０】

シリアル通信回路３１１４は、当該通信回路が実装されている制御基板と、当該制御基板の外部に設けられた各種基板との間で各種データをシリアル通信する際の制御を行う通信回路である。なお、主制御用マイクロプロセッサ３０７０では、シリアル通信回路３１１４は、主制御部３０１１ａと、主制御基板３０１１の外部に設けられた各種基板（例えば、副制御基板３０１２等）との間でデータ（各種制御指令（コマンド）、各種データ等）をシリアル通信する。また、シリアル通信回路３１１４は、４つの通信回路ＳＣＵ０、ＳＣＵ１、ＳＴＵ２～ＳＴＵ４で構成され、通信回路ＳＣＵ０、ＳＣＵ１が双方向シリアル通信回路で構成され、通信回路ＳＴＵ２～ＳＴＵ４は送信専用のシリアル通信回路で構成される。例えば、主制御基板３０１１（主制御部３０１１ａ）と副制御基板３０１２とをシリアル通信で接続する場合、送信専用のシリアル通信回路である通信回路ＳＴＵ２を使用し、主制御部３０１１ａとメダル数制御部３０１１ｂとをシリアル通信で接続する場合、双方向シリアル通信回路である通信回路ＳＣＵ０を使用する。なお、これは、ゴト対策（不正行為防止）の観点から定められたシリアル通信回路の使用方法である。

【２４２１】

パラレル出力ポート３１１５は、マイクロプロセッサＭＰからその外部に設けられた各種回路に出力される信号の出力ポート（メモリーマップＩ／Ｏ）である。なお、本例では、例えば、ＦＩＦＯ（Ｆｉｒｓｔ Ｉｎ Ｆｉｒｓｔ Ｏｕｔ）方式でデータ出力が行われる。

【２４２２】

［別例に係る主制御基板の回路構成例］

続いて、図２２２を参照して、別例に係る主制御基板の回路構成例について説明する。図２２２は、主制御基板３０１１の回路構成例の概略図である。

【２４２３】

遊技機に用いられる制御基板は、プリント基板（ＰＣＢ）として構成されることが一般的であり、本例においても主制御基板３０１１はプリント基板として構成される。プリント基板は、例えば、両面基板の場合、ガラス繊維や樹脂等を加工し、絶縁体として構成された基板本体（絶縁基板）の両面に銅箔が貼られた銅張積層板を必要なサイズにカットした後、スルーホールやＶＩＡホール等を通電可能に形成し、必要な配線パターン（回路パターン）として残す部分の銅箔をマスキングし、マスキングした部分以外の銅箔を除去す

ることで配線パターンを形成し、形成した配線パターンにおいて露出させる必要がある部分（後で半田付けをする部分等）以外は、インク材やフィルム材からなる絶縁性のソルダーレジストで被覆する（絶縁層を積層して保護する）といった工程を経て製造される。そして、このようにして製造された基板に、必要となる複数の電子部品が実装されて、特定の機能を担う制御基板となる。

【２４２４】

ここで、このような制御基板に実装される電子部品には、制御基板の表面側（片面側）でその端子が半田付けされることで実装される表面実装部品（ＳＭＤ）と、スルーホールに制御基板の表面側（一面側）からその端子を挿通させ、その裏面側（他面側）で（あるいは、表面側及び裏面側で）その端子が半田付けされるディップ実装部品（ＤＩＰ）（以下、単に「ディップ部品」として説明する場合もある）とがある。

【２４２５】

表面実装部品は、同等のディップ実装部品と比較すると部品自体も小型であり、また、実装するためのスルーホール等が不要になるため、実装面の省スペース化を図ることができるというメリットがある。また、近年はディップ実装部品よりも広く普及しているため、同等のディップ実装部品と比較すると入手しやすく安価となりやすいというメリットもある。反面、小型である分、例えばデジタルオシロスコープ等の測定器を用いた検査は行いにくく、また、同等のディップ実装部品と比較すると実装後の強度が劣るというデメリットもある。

【２４２６】

一方、ディップ実装部品は、同等の表面実装部品と比較すると実装面のスペースを確保しにくくなり、また、入手しにくく高価となりやすいというデメリットがある反面、同等の表面実装部品と比較すると取り扱いやすく、上記のような検査を容易に行えるとともに、実装後の強度も勝るといったメリットもある。

【２４２７】

そこで、本例では、そのようなメリット・デメリットを考慮した上で一定の条件を定め、その条件を満たす場合には、対象の電子部品に表面実装部品を採用して主制御基板３０１１に実装し、満たさない場合には、対象の電子部品にディップ実装部品を採用して主制御基板３０１１に実装する構成としている。ここでは、その点に着目して主制御基板３０１１の回路構成例を説明する。

【２４２８】

（主制御基板３０１１の回路構成例の概略）

図２２２を参照して、主制御基板３０１１の回路構成例の概略について説明する。なお、図２２２は、主制御基板３０１１において、特定箇所（主制御用マイクロプロセッサ３０７０とメダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０との間の接続経路）を抜き出してその一例の概略を示したものであり、主制御基板３０１１上の全ての回路構成を示したものではない。すなわち、所定の条件を満たす場合には、図２２２に示す以外の箇所においても表面実装部品を採用し、それら表面実装部品間の接続経路においてテストパターンを設けることが可能である。

【２４２９】

図２２２において、ＩＣ１は、主制御用マイクロプロセッサ３０７０（図２２１参照）を示したものであり、ＩＣ２は、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０（図４０参照）を示したものである。また、ＩＣ３～ＩＣ６は、例えばバッファＩＣとして構成された２０ピンのＩＣであり、表面実装部品である。

【２４３０】

図２２２に示すように、ＩＣ１とＩＣ３は、ＩＣ１のＤ０～Ｄ７端子（データバス）と、ＩＣ３のＹ１～Ｙ８端子（信号出力）との間が外部信号バスによって接続されている。すなわち、ＩＣ３は、主制御用マイクロプロセッサ３０７０の外部バスインタフェース３１０４に電気的に接続されている。また、ＩＣ１とＩＣ４は、ＩＣ１のＤ０～Ｄ７端子（データバス）と、ＩＣ４のＹ１～Ｙ８端子（信号出力）との間が外部信号バスによって接

続されている。すなわち、ＩＣ４は、主制御用マイクロプロセッサ３０７０の外部バスインタフェース３１０４に電気的に接続されている。これにより、ＩＣ３又はＩＣ４から、主制御用マイクロプロセッサ３０７０にデータの出力が可能となっている。

【２４３１】

なお、ＩＣ３及びＩＣ４のＹ１～Ｙ８端子（信号出力）を、例えば、Ｄ０～Ｄ７端子（データバス）として構成することで、主制御用マイクロプロセッサ３０７０と、ＩＣ３又はＩＣ４との間で、データの出入力が可能となるように構成してもよい。あるいは、主制御用マイクロプロセッサ３０７０から、ＩＣ３又はＩＣ４にデータの出力が可能となるように構成してもよい。

【２４３２】

ここで、「データバス」は、データを扱う（データ転送を行うための）信号バスである。すなわち、「データバス」とは、扱う信号の種類が「データ」である信号バスを意味している。また、本実施形態では使用していないが、アドレスを扱う（アドレス指定を行うための）「アドレスバス」といった信号バスも存在する。すなわち、「アドレスバス」は、扱う信号の種類が「アドレス」である信号バスを意味している。これに対し、「ローカルバス」は、「ローカル」とあるように、信号バスの中で比較的転送速度が遅い信号バスを意味するものである。したがって、例えば、「データバス」と表記した信号バスが「ローカルバス」に相当する場合もあるし、「ローカルバス」と表記した信号バスが「データバス」に相当する場合もあるが、これらには何ら矛盾が生じるものではない。

【２４３３】

また、ＩＣ１とＩＣ３は、ＩＣ１のＸＣＳ０端子（チップセレクト）と、ＩＣ３のＧ１・Ｇ２端子（ゲート入力）との間が信号線によって接続されている。また、ＩＣ１とＩＣ４は、ＩＣ１のＸＣＳ１端子（チップセレクト）と、ＩＣ４のＧ１・Ｇ２端子（ゲート入力）との間が信号線によって接続されている。これにより、ＩＣ１側で、ＩＣ３又はＩＣ４のいずれからデータが出力されるのかを切替可能となっている。なお、ＸＣＳ０端子及びＸＣＳ１端子は、パラレル出力ポート３１１５（図２２１参照）からの出力端子である。

【２４３４】

また、図２２２に示すように、ＩＣ２とＩＣ５は、ＩＣ２のＤ０～Ｄ７端子（データバス）と、ＩＣ５のＤ０～Ｄ７端子（データバス）との間が外部信号バスによって接続されている。すなわち、ＩＣ５は、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の外部バスインタフェース３１０４に電気的に接続されている。また、ＩＣ２とＩＣ６は、ＩＣ２のＤ０～Ｄ７端子（データバス）と、ＩＣ６のＤ０～Ｄ７端子（データバス）との間が外部信号バスによって接続されている。すなわち、ＩＣ６は、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の外部バスインタフェース３１０４に電気的に接続されている。これにより、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０と、ＩＣ５又はＩＣ６との間で、データの出入力（あるいは、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０から、ＩＣ５又はＩＣ６へのデータ出力）が可能となっている。

【２４３５】

なお、ＩＣ５及びＩＣ６のＤ０～Ｄ７端子（データバス）を、例えば、Ｙ１～Ｙ８端子（信号出力）として構成することで、ＩＣ５又はＩＣ６から、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０にデータの出力が可能となるように構成してもよい。

【２４３６】

また、ＩＣ２のＤ０～Ｄ７端子（データバス）は、役比モニタ３０８３の入力端子（出入力端子であってもよい。不図示）との間が外部信号バスによって接続されている。すなわち、役比モニタ３０８３は、メダル数制御用マイクロプロセッサ３０８０の外部バスインタフェース３１０４に電気的に接続されている。

【２４３７】

また、ＩＣ２とＩＣ５は、ＩＣ２のＸＣＳ２端子（チップセレクト）と、ＩＣ５のＣＰ端子（クロック入力）との間が信号線によって接続されている。また、ＩＣ２とＩＣ６は

、ＩＣ２のＸＣＳ３端子（チップセレクト）と、ＩＣ６のＣＰ端子（クロック入力）との間が信号線によって接続されている。これにより、ＩＣ２側で、ＩＣ５又はＩＣ６のいずれにデータを出力するのかを切替可能となっている。なお、ＸＣＳ２端子及びＸＣＳ３端子は、パラレル出力ポート３１１５（図２２１参照）からの出力端子である。

【２４３８】

また、ＩＣ３とＩＣ５は、ＩＣ３のＡ１～Ａ８端子（信号入力）と、ＩＣ５のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）との間が信号線によって接続されている。これにより、ＩＣ５からＩＣ３にデータの出力が可能となっている。すなわち、ＩＣ２から出力されたデータは、ＩＣ５（の入力→出力）及びＩＣ３（の入力→出力）を介してＩＣ１に出力されるように構成されている。換言すれば、ＩＣ１とＩＣ２は、ＩＣ３及びＩＣ５がその接続経路に実装される態様にて電気的に接続されるように構成されている。

【２４３９】

また、ＩＣ４とＩＣ６は、ＩＣ４のＡ１～Ａ８端子（信号入力）と、ＩＣ６のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）との間が信号線によって接続されている。これにより、ＩＣ６からＩＣ４にデータの出力が可能となっている。すなわち、ＩＣ２から出力されたデータは、ＩＣ６（の入力→出力）及びＩＣ４（の入力→出力）を介してＩＣ１に出力されるように構成されている。換言すれば、ＩＣ１とＩＣ２は、ＩＣ４及びＩＣ６がその接続経路に実装される態様にて電気的に接続されるように構成されている。

【２４４０】

なお、これらはあくまで一例であり、ＩＣ１とＩＣ２との接続態様は上述のものに限られない。例えば、ＩＣ３とＩＣ５の配置を入れ替え、ＩＣ１・ＩＣ２間において、ＩＣ３及びＩＣ５が実装される接続経路では、ＩＣ１から出力されたデータは、ＩＣ５（の入力→出力）及びＩＣ３（の入力→出力）を介してＩＣ２に出力されるように構成してもよい。また、例えば、ＩＣ４とＩＣ６の配置を入れ替え、ＩＣ１・ＩＣ２間において、ＩＣ４及びＩＣ６が実装される接続経路では、ＩＣ１から出力されたデータは、ＩＣ６（の入力→出力）及びＩＣ４（の入力→出力）を介してＩＣ２に出力されるように構成してもよい。

【２４４１】

また、例えば、ＩＣ３のＹ１～Ｙ８端子（信号出力）、Ａ１～Ａ８端子（信号入力）、及びＩＣ５のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）を全て出入力端子（例えば、データバス）とし、ＩＣ１・ＩＣ２間において、ＩＣ３及びＩＣ５が実装される接続経路では、相互にデータの出入力が可能となるように構成してもよい。また、例えば、ＩＣ４のＹ１～Ｙ８端子（信号出力）、Ａ１～Ａ８端子（信号入力）、及びＩＣ６のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）を全て出入力端子（例えば、データバス）とし、ＩＣ１・ＩＣ２間において、ＩＣ４及びＩＣ６が実装される接続経路では、相互にデータの出入力が可能となるように構成してもよい。

【２４４２】

なお、図２２２においては符号を省略しているが、ＩＣ３のＡ１～Ａ８端子（信号入力）と、ＩＣ５のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）との接続経路には、それぞれの信号線に接続される８個のテストポイント（後述のＴＰ１～ＴＰ８）が設けられている。また、ＩＣ４のＡ１～Ａ８端子（信号入力）と、ＩＣ６のＱ０～Ｑ７端子（信号出力）との接続経路には、それぞれの信号線に接続される８個のテストポイント（後述のＴＰ９～ＴＰ１６）が設けられている。

【２４４３】

以下、本発明に係る遊技機の構成とその効果について付記する。

【２４４４】

＜付記Ａ－１＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による

操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２４４５】

このような遊技機では、制御領域１（主制御ＲＯＭ領域）のプログラムから制御領域２（遊技媒体数制限ＲＯＭ領域）のプログラムを呼び出す際に、ＣＡＬＬＥＸ命令を用いるプログラム技術が開示されている（例えば、特開２０２２－００１２２３号公報）。

【２４４６】

上記のような遊技機のように、使用領域内ＲＯＭエリアに記憶されたプログラムから、使用領域外ＲＯＭエリアに記憶されたプログラムを「ＣＡＬＬＥＸ」命令で呼び出す場合、呼び出し先のプログラムが、使用領域外ＲＯＭエリアの第１アドレス範囲（「２０００」Ｈ～「２０ＦＦ」Ｈ）に存在すれば、「ＣＡＬＬＥＸ」命令は２バイト命令となるが、第２アドレス範囲（「２１００」Ｈ～）に存在する場合、「ＣＡＬＬＥＸ」命令は４バイト命令となってしまい、このような状況では、「ＣＡＬＬＥＸ」命令を用いるたびに、使用領域内ＲＯＭエリアの容量を圧迫してしまう。

【２４４７】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、メインＲＯＭの特定のプログラム記憶領域に関し、その使用容量を効果的に節約することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【２４４８】

また、本発明は、開発やメンテナンスが容易な、簡潔で見やすいプログラムコードを有する遊技機を提供することを目的とする。

【２４４９】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－１－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２４５０】

演算回路（例えば、メインＣＰＵ２１０１）、リードメモリ（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、及びリードライトメモリ（例えば、メインＲＡＭ２１０３）を含んだマイクロプロセッサ（例えば、マイクロプロセッサ２１００）を実装して遊技の進行を制御する遊技機（例えば、パチスロ機２００１）であって、

前記リードメモリは、遊技の進行に直接関与するプログラム、及びデータが記憶された第１記憶手段（例えば、使用領域内ＲＯＭエリア２２０２ａ）と、遊技の進行に直接関与しないプログラム、及びデータが記憶された第２記憶手段（例えば、使用領域外ＲＯＭエリア２２０２ｂ）で構成され、

前記第２記憶手段に記憶されたプログラムには、前記第１記憶手段に記憶されたプログラムより呼び出されて処理を実行した後、必ず、呼び出した前記第１記憶手段のプログラムに戻る特定サブルーチン（例えば、図１８６に示した使用領域外ＲＡＭ初期化処理（継続）を実行するサブプログラムや、図１８９に示したインタフェース２出力処理（継続）を実行するサブプログラム）と、前記第２記憶手段に記憶されたプログラムより呼び出されて処理を実行した後、必ず、呼び出した前記第２記憶手段のプログラムに戻る通常サブルーチン（例えば、図１８２に示したＣＲＣ演算処理（使用領域外））とがあり、

前記演算回路は、前記特定サブルーチンを呼び出す場合に使用する特定コール命令（例えば、「ＣＡＬＬＥＸ」）を実行して前記特定サブルーチンを呼び出し、

前記特定コール命令は、呼び出す特定サブルーチンが、前記第２記憶手段の特定アドレス（例えば、「２１００」Ｈ）より前に記憶されたプログラムを呼び出す場合と、前記特

定アドレス以降のアドレスに記憶されたプログラムを呼び出す場合とでは、前記第１記憶手段に記憶される命令容量が異なり（例えば、特定アドレスより前のプログラムを呼び出す場合は２バイト命令、特定アドレス以降のプログラムを呼び出す場合は４バイト命令）、

前記命令容量は、前記特定アドレスより前に記憶されたプログラムを呼び出す場合より、前記特定アドレス以降のアドレスに記憶されたプログラムを呼び出す場合の方が多く必要であり、

前記特定サブルーチンのプログラム本体が前記特定アドレス以降のアドレスに記憶されている場合に、前記命令容量を少なくするため、前記特定コール命令が、前記特定アドレスより前のアドレスに記憶されているプログラム（例えば、「ＪＲ」や「ＪＰ」命令）の呼び出しを経由して、前記特定サブルーチンのプログラム本体を実行することを特徴とする遊技機。

【２４５１】

このような本発明の構成によれば、メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定することで、本来４バイト長の命令を２バイト長の命令とすることができ、当該メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に関し、その使用容量を効果的に節約することができる。

【２４５２】

（Ａ－１－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２４５３】

前記特定サブルーチンのプログラム本体が前記特定アドレス以降のアドレスに記憶されている場合に、前記特定アドレスより前のアドレスには、当該特定サブルーチンのプログラム本体を実行するための処理コード（例えば、メインＣＰＵ２１０１が解釈可能なコード）を記憶し、

前記特定コール命令は、前記処理コードを実行することによって、前記特定サブルーチンのプログラム本体を実行するように構成される。

【２４５４】

このような本発明の構成によれば、メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定することで、本来４バイト長の命令を２バイト長の命令とすることができ、当該メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に関し、その使用容量を効果的に節約することができる。

【２４５５】

（Ａ－１－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。

【２４５６】

前記処理コードは、前記特定サブルーチンのプログラム本体にジャンプするためのジャンプ命令（例えば、「ＪＲ」や「ＪＰ」命令）であるように構成される。

【２４５７】

このような本発明の構成によれば、メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定することで、本来４バイト長の命令を２バイト長の命令とすることができ、当該メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に関し、その使用容量を効果的に節約することができる。

【２４５８】

（Ａ－１－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第３の実施態様において下記の構成を有する。

【２４５９】

前記ジャンプ命令は、前記特定サブルーチンのプログラム本体を、相対アドレスによって特定する命令（例えば、「ＪＲ」命令）であるように構成される。

【２４６０】

このような本発明の構成によれば、メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定することで、本来４バイト長の命令を２バイト長の命令とすることができ、さらに、ジャンプ命令を相対アドレスで設定することにより、その命令サイズも小さくするこができ、結果的に、当該メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に関し、その使用容量を効果的に節約することができる。

【２４６１】

（Ａ－１－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２４６２】

前記特定コール命令が、前記第２記憶手段の特定アドレスより前に記憶されたプログラムを呼び出す場合、当該プログラムが記憶されているアドレスの下位アドレスを用いてそのプログラムを特定するように構成される。

【２４６３】

このような本発明の構成によれば、メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定することで、本来４バイト長の命令を２バイト長の命令とすることができ、当該メインＲＯＭの使用領域内プログラム領域に関し、その使用容量を効果的に節約することができる。

【２４６４】

（Ａ－１－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２４６５】

前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、

遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、

精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、

前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、

前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、

前記払出処理手段は、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されるように構成される。
【２４６６】
このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４６７】
（Ａ－１－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。
【２４６８】
前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２４６９】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４７０】
（Ａ－１－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２４７１】
前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、
遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートレバー）と、
前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
複数の表示列を含み、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段と（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴回転開始処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）、
遊技者による停止操作（例えば、ストップボタンを押下する操作）の検出を行う停止操作検出手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記内部当籤役決定手段の決定結果と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を備え、
前記変動表示手段の変動表示は、遊技価値を付与するための遊技変動（通常の遊技）と、遊技価値を付与することが無い疑似変動（疑似遊技）とがあり、
前記停止制御手段は、前記遊技変動のために前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行し、
前記遊技制御手段は、
前記疑似変動での前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行する疑似停止

制御手段と、
　前記停止操作検出手段による停止操作の検出が有効か否かを判断するための停止操作検出入力監視手段（例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を更に有し、
　前記停止制御手段、及び前記疑似停止制御手段はそれぞれ、前記停止操作検出入力監視手段を実行して前記停止操作が有効か否かを判定する（通常の遊技と疑似遊技において、共通の処理（すなわち、例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理）を実行する）ように構成される。
【２４７２】
　このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４７３】
（Ａ－１－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２４７４】
　前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、
　前記リードライトメモリは、遊技に関する情報群を格納するための第１格納領域（共通情報格納領域）と、前記第１格納領域とは異なる位置にある第２格納領域（共通情報バックアップ格納領域）と、を有し、
　前記遊技制御手段は、
　所定の条件が成立している場合に、前記第１格納領域に記憶された情報の全てを前記第２格納領域に退避する退避手段（例えば、図２１６の共通情報バックアップ生成処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記所定の条件の成立、及び、特定の条件（例えば、ペナルティ条件）が成立している場合に、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる復帰手段（例えば、図２１７の共通情報復帰処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
　前記退避手段、及び前記復帰手段は、一部の処理を除き共通のプログラムであり、前記退避手段、及び前記復帰手段は、前記第１格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第１のレジスタ（例えば、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ）にセットし、前記第２格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第２のレジスタ（例えば、ＨＬレジスタ、ＤＥレジスタ）にセットし、
　前記第１のレジスタにセットされた転送元アドレスから前記第２のレジスタにセットされた転送先アドレスに転送命令で前記転送元アドレスに格納された情報を転送し、
　前記復帰手段による処理が実行される場合は、前記転送命令を実行する前に、前記第１のレジスタにセットされた前記転送元アドレスと、前記第２のレジスタにセットされた前記転送先アドレスを入れ替えるように構成される。
【２４７５】
　このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４７６】
（Ａ－１－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２４７７】
遊技者が遊技の開始を指示する遊技開始指示手段（例えば、スタートレバー）と、
前記遊技開始指示手段の操作に応じて複数の識別情報を変動表示可能な可変表示手段（例えば、各リール）と、
当籤役を決定可能な役決定手段（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記可変表示手段の変動表示を停止させる停止操作を検出可能な停止操作検出手段（例えば、ストップボタン、及びストップスイッチ）と、
前記役決定手段により決定された当籤役と、前記停止操作検出手段により検出された停止操作態様とに基づいて、前記可変表示手段の変動表示を停止させて停止表示を導出可能な停止制御手段（例えば、図１７９に示す回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記停止表示に応じた入賞を発生可能な入賞手段（例えば、図１７９のステップＳ２０１３等の処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
有利な停止操作態様を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタやメイン表示装置）と、をさらに備え、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合に、
前記退避手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報であって、前記報知手段による報知を実行可能な有利状態（例えば、ＡＴ状態）に関する情報（例えば、各種情報）を、前記第２格納領域に退避し（例えば、図１７２のステップＳ４６０２に対応する処理）、
前記有利状態に関する情報を更新する遊技状態関連処理手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報を更新し（例えば、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２等に対応する処理）、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合であって、所定のペナルティ条件が成立する場合に、前記復帰手段は、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる（例えば、図１７３のステップＳ４６２４に対応する処理）ように構成される。
【２４７８】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４７９】
（Ａ－１－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。
【２４８０】
前記特定の条件は、所定の有利な遊技状態をキャンセルするペナルティ条件であり、前記ペナルティ条件は、遊技状態、及び遊技者における所定操作に基づく条件であるように構成される。
【２４８１】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２４８２】

本発明によれば、メインＲＯＭの特定領域（使用領域内プログラム領域）に記憶されるプログラムのサイズを小さくすることで、その特定領域の使用容量を効果的に節約することができる。また、本発明によれば、メインＲＯＭの特定領域に記憶されるプログラムにおいて、呼び出し先のサブプログラムの実質的な記憶位置を所定アドレスより前に設定するように構成することによって、簡潔で見やすいプログラムコードが実現され、結果的に、開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２４８３】

また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２４８４】

また、本発明によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２４８５】

＜付記Ａ－２＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２４８６】

このような遊技機に関し、メインプログラムにおいて、電断発生時にメインＲＡＭのサム値を算出して記憶しておき、電断復帰時に、メインプログラムにおいて、記憶しておいた電断発生時のサム値と電断復帰時に求めたメインＲＡＭのサム値を比較して、メインＲＡＭに異常がないか否かをチェックする遊技機が開示されている（例えば、特開２０１８－０２７１０７号公報）。なお、サム値は、例えば、検査対象の領域のデータ列を整数値の列とみなして総和を求め、これを所定の定数で割った余りである。

【２４８７】

このようなメインＲＡＭのチェック処理は、遊技機においては最も重要な処理の１つであるが、サム値の算出処理や、求めたサム値を使ってメインＲＡＭの異常を判定する処理等を、すべてメインプログラムで実行する必要があり、このことが、メインプログラムが記憶されるメインＲＯＭのプログラム領域を圧迫している。また、このような処理を実行するために、メインプログラムの構成や記述はより複雑なものとなり、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も大きい。

【２４８８】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、メインＲＡＭのチェックに係る処理プログラムのサイズを小さくし、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫しないように構成された遊技機を提供することを目的とする。

【２４８９】

また、本発明は、メインＲＡＭのチェックに係る計算処理をメインＣＰＵ以外で行うことで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとし、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させ、またさらに、メインＣＰＵの負荷を低減させ、処理時間を短縮することを目的とする。

【２４９０】

また、本発明は、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、効果的な再起動を管理することを目的とする。

【２４９１】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－２－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２４９２】

演算回路（例えば、メインＣＰＵ２１０１）、リードメモリ（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、リードライトメモリ（例えば、メインＲＡＭ２１０３）、及び巡回冗長検査回路（例えば、ＣＲＣ回路２０１７ｃ）を含んだマイクロプロセッサ（例えば、マイクロプロセッサ２１００）を実装して遊技の進行を制御する遊技機（例えば、パチスロ機２００１）であって、

前記マイクロプロセッサは、

電源電圧の低下を検出すると電源断絶処理を実行する電源断絶手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

電源投入時に電源投入に伴う電源投入処理を実行する電源投入手段（例えば、図１８０に示す電源投入時処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記電源断絶手段は、前記巡回冗長検査回路を使用して前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内（例えば、メインＲＡＭ２１０３の一部）の演算を行い、演算結果（例えば、ＣＲＣ値）を前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲以外の演算結果格納領域（例えば、ＣＲＣ値格納領域２１０３ｅ）に記憶し、

前記電源投入手段は、前記巡回冗長検査回路を使用して前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行うことを特徴とする遊技機。

【２４９３】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、サム値の計算処理を削除することで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができる。またさらに、メインプログラムでサム値の計算処理を含むメインＲＡＭチェックに係る計算処理を行わないことにより、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も低減させることができる。

【２４９４】

（Ａ－２－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２４９５】

前記マイクロプロセッサは、前記特定アドレス範囲内の演算を前記巡回冗長検査回路に行わせるために、前記巡回冗長検査回路に対して前記特定アドレス範囲内のデータを送信し、前記巡回冗長検査回路から、当該演算の演算結果を受信するように構成される。

【２４９６】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、サム値の計算処理を削除することで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができる。またさら

に、メインプログラムでサム値の計算処理を含むメインＲＡＭチェックに係る計算処理を行わないことにより、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も低減させることができる。

【２４９７】

（Ａ－２－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。

【２４９８】

前記巡回冗長検査回路に対して送信される前記特定アドレス範囲内のデータは、前記リードライトメモリにおいて連続しない複数の領域のデータを含み、

前記巡回冗長検査回路から受信する前記演算結果は、単一のデータであるように構成される。

【２４９９】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、サム値の計算処理を削除することで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができる。またさらに、メインプログラムでサム値の計算処理を含むメインＲＡＭチェックに係る計算処理を行わないことにより、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も低減させることができる。

【２５００】

（Ａ－２－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５０１】

前記電源投入手段による演算の演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合結果が一致しない場合は（例えば、照合結果が一致しない場合、図１８１においてＣＲＣ異常（遊技復帰不可能状態１）をセットし（ステップＳ２０５３）、図１８０において遊技復帰不可能状態であり、所定の条件を満たす場合に、遊技復帰不可能エラー処理を実行し（ステップＳ２０３５のＮ０_１）、割込み禁止を設定したあとループする）、前記遊技機の電源をオフにするまで待機する待機処理を実行するように構成される。

【２５０２】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、サム値の計算処理を削除することで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができる。またさらに、メインプログラムでサム値の計算処理を含むメインＲＡＭチェックに係る計算処理を行わないことにより、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も低減させることができる。

【２５０３】

（Ａ－２－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５０４】

前記電源断絶手段により前記特定アドレス範囲内の演算が行われていないと判定された場合は、前記遊技機の電源をオフにするまで待機する待機処理を実行するように構成される。

【２５０５】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲ

ＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５０６】

（Ａ－２－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第４または第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２５０７】

前記待機処理が実行されているあいだは、前記電源断絶処理が実行されることがないように制御されるように構成される。

【２５０８】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５０９】

（Ａ－２－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第４または第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２５１０】

前記電源投入手段は、

前記電源投入手段による演算の演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合結果が一致しない場合であっても、前記遊技機の電源を投入する際に所定の操作を行うことにより、前記待機処理を実行しないように制御するように構成される。

【２５１１】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５１２】

（Ａ－２－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第４または第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２５１３】

前記待機処理が実行されている場合に、

遊技の復帰が不可能であることを示す復帰不可能表示がなされ、

前記遊技機の電源をオフし、その後、前記遊技機の電源を投入した場合、再度、前記待機処理が実行され、前記復帰不可能表示がなされるように構成される。

【２５１４】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５１５】

（Ａ－２－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第８の実施態様において下記の構成を有する。

【２５１６】

前記待機処理が実行されている場合に、前記遊技機の電源をオフした場合であっても、その後、前記遊技機の電源を投入する際に所定の操作を行うことにより、再度の前記待機処理が実行されないように制御されるように構成される。

【２５１７】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５１８】

（Ａ－２－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第４または第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２５１９】

前記マイクロプロセッサに接続された、前記遊技の演出に係る制御を行う制御部に、一定周期で通信データを送信する通信データ送信処理を実行する通信制御手段をさらに有し、前記待機処理が実行されているあいだは、前記通信データ送信処理が停止されるように構成される。

【２５２０】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５２１】

（Ａ－２－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第１０の実施態様において下記の構成を有する。

【２５２２】

前記通信制御手段は、

前記通信データを一定周期で前記制御部に送信するために、送信間隔タイマーを有し、

前記送信間隔タイマーの値が、所定値になった場合に、前記通信データを前記制御部に送信するよう制御し、

前記待機処理が実行されているあいだは、前記送信間隔タイマーのタイマー値が前記所定値になるよう、繰り返し前記タイマー値を更新し、

前記通信制御手段は、前記通信データ送信処理の停止によって、未送信の通信データが残っている場合に、前記遊技機の電源が再び投入され、前記通信データ送信処理が開始されるとすぐに、前記通信データを前記制御部に送信するよう制御するように構成される。

【２５２３】

このような本発明の構成によれば、メインプログラムで計算していたメインＲＡＭチェックを、マイクロプロセッサ内に設けられたＣＲＣ回路を用いることで、サム値の計算処理が不要になり、メインプログラムで当該計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができる。また、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５２４】

本発明によれば、メインプログラムでサム値の計算処理を記述する必要がなくなり、メインＲＯＭのプログラム領域の空きを広げることができ、結果として、その空いたプログラム領域を、遊技性を充実させるためのロジック等に使用することができる。また、サム値の計算処理を削除することで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとする

ことができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。またさらに、メインプログラムでサム値の計算処理を含むメインＲＡＭチェックに係る計算処理を行わないことにより、そのメインプログラムを実行するメインＣＰＵの負荷も低減させることができ、また、短時間でのＣＲＣチェックが可能となる。

【２５２５】

また、本発明によれば、メインＣＰＵによる計算を用いずに演算したＣＲＣ値に基づいて、メインＲＡＭの異常を適切に検出でき、効果的な再起動を管理することができる。

【２５２６】

＜付記Ａ－３＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２５２７】

このような遊技機では、メインＲＯＭに複数のテーブルを記憶し、制御処理プログラムが、そのテーブルからデータを取得する技術が開示されている（例えば、特開２０２１－０７９１２９号公報）。

【２５２８】

しかしながら、主制御部の各制御処理プログラムにおいて、それぞれに応じたテーブルからデータを取得する場合、データを取得する処理をそれぞれ設けることが一般的であるが、制御処理とテーブルの種類が増えると同時に、データを取得するための処理も増え、そのために、制御処理プログラムを記憶するメインＲＯＭの容量が圧迫されることになる。

【２５２９】

また、テーブルに、１バイト単位でデータを格納することが一般的であるが、データのパターンが少なく、テーブルに格納する場合に、実際には１バイトの容量が必要でない場合も多く、その場合は、実質的に未使用の領域が多く存在することになり、このことがメインＲＯＭの容量を圧迫する。

【２５３０】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、共通のデータ取得処理を使用して、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用することでメインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【２５３１】

また、本発明は、テーブルのデータ格納単位に複数のデータを格納して、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。また、上述した共通のデータ取得処理は、テーブルのデータ格納単位に複数のデータが格納されている場合に、これらのデータを展開することができる。

【２５３２】

また、本発明は、領域ごとにＲＡＭ初期化範囲を決定する必要がなく、使用領域内作業領域、使用領域外作業領域のそれぞれに関してメインＲＡＭの初期化を行うことができる、より小さなサイズのプログラムを備える遊技機を提供することを目的とする。

【２５３３】

また、本発明は、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることを目的とする。

【２５３４】

また、本発明は、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を、使用領域内作業領域のＲＡＭクリア処理等とは完全に独立したものとし、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易にすることを目的とする。

【２５３５】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－３－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２５３６】

遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、メインＣＰＵ２１０１）と、

プログラム、及びテーブルデータが記憶された第１記憶手段と（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、

前記プログラムの実行に伴いデータを記憶する第２記憶手段と（例えば、メインＲＡＭ２１０３）、を備え、

前記テーブルデータには、複数のテーブルデータがあり、

前記複数のテーブルデータの内の所定のテーブルデータは、１バイトデータが複数バイト集まったデータ群であり、

前記データ群の前記１バイトデータは、上位４ビットと下位４ビットのデータで構成された４ビットデータテーブルであり、

前記遊技制御手段は、前記４ビットデータテーブルの前記１バイトデータから前記上位４ビット、又は下位４ビットのデータのみの４ビットデータを取得し、その４ビットデータを前記第２記憶手段の所定領域に格納する４ビットデータ取得手段を有し、

前記４ビットデータ取得手段は、

前記４ビットデータテーブルから前記１バイトデータを取得した後、所定の条件に応じて、前記１バイトデータに含まれる上位４ビットのデータと下位４ビットのデータを入れ替えることで前記４ビットデータを取得することを特徴とする遊技機。

【２５３７】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、４ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに２つの４ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の４ビットデータ取得処理により、１バイトデータに２つの４ビットデータを格納している特殊な状況でも、容易に所望の４ビットデータを取得することができる。

【２５３８】

（Ａ－３－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５３９】

前記４ビットデータ取得手段を実行させる処理によって、前記所定のテーブルデータの位置（例えば、テーブルデータの先頭アドレス）、及び選択値（例えば、取得するデータの相対位置を示すエントリー）がセットされ、

前記４ビットデータ取得手段は、前記選択値を特定数で除算した結果に基き、前記所定のテーブルデータから取得する１バイトデータが記憶された位置、及び、前記上位４ビットのデータと前記下位４ビットのデータを入れ替えるか否かの値を求める（例えば、選択値を２で除算し、商と余りに基づいて判断する）ように構成される。

【２５４０】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サ

イズが同じ（例えば、４ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに２つの４ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の４ビットデータ取得処理により、１バイトデータに２つの４ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の４ビットデータを取得することができる。

【２５４１】

（Ａ－３－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。

【２５４２】

前記４ビットデータ取得手段は、前記選択値を２で除算して商と余りを算出し、前記所定のテーブルデータの位置に、前記商に基づく相対位置を加算することによって、前記取得する１バイトデータに係る位置を求め、前記余りが奇数か偶数かによって、前記上位４ビットのデータと前記下位４ビットのデータを入れ替えるか否かを判定するように構成される。

【２５４３】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、４ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに２つの４ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の４ビットデータ取得処理により、１バイトデータに２つの４ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の４ビットデータを取得することができる。

【２５４４】

（Ａ－３－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５４５】

前記４ビットデータテーブルのなかの１バイトデータは、上位４ビットに格納する４ビットデータに「１０」Ｈを乗じて４ビットシフトしてから下位４ビットに格納する４ビットデータと加算することによって生成されているように構成される。

【２５４６】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、４ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに２つの４ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の４ビットデータ取得処理により、１バイトデータに２つの４ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の４ビットデータを取得することができる。

【２５４７】

（Ａ－３－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５４８】
前記データ群の前記１バイトデータは、２ビット単位のデータで構成された２ビットデータテーブルであり、
前記遊技制御手段は、前記２ビットデータテーブルの前記１バイトデータから２ビットデータを取得し、その２ビットデータを前記第２記憶手段の所定領域に格納する２ビットデータ取得手段を有し、
前記２ビットデータ取得手段は、
前記２ビットデータテーブルから１バイトデータを取得した後、所定の条件に応じて、取得したデータに対して２ビット単位のシフトを実行することで前記２ビットデータを取得するように構成される。
【２５４９】
このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。
【２５５０】
（Ａ－３－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第５の実施態様において下記の構成を有する。
【２５５１】
前記２ビットデータ取得手段を実行させる処理によって、前記所定のテーブルデータの位置、及び選択値がセットされ、
前記２ビットデータ取得手段は、前記選択値を特定数で除算した結果に基き、前記所定のテーブルデータから取得する１バイトデータが記憶された位置と、前記２ビット単位のシフトの回数を求めるように構成される。
【２５５２】
このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。
【２５５３】
（Ａ－３－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。
【２５５４】
前記２ビットデータ取得手段は、前記選択値を４で除算して商と余りを算出し、前記所定のテーブルデータの位置に、前記商に基づく相対位置を加算することによって、前記取得する１バイトデータに係る位置を求め、前記余りに基づいて、前記２ビット単位のシフトの回数を求めるように構成される。
【２５５５】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。

【２５５６】

（Ａ－３－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２５５７】

前記２ビットデータテーブルのなかの１バイトデータは、第１の２ビットに格納する２ビットデータに「４０」Ｈを乗じ、第２の２ビットに格納する２ビットデータに「１０」Ｈを乗じ、第３の２ビットデータに「４」Ｈを乗じてそれぞれの２ビットデータをシフトさせ、こうしてシフトされた２ビットデータと第４の２ビットに格納する２ビットデータを加算することによって生成されているように構成される。

【２５５８】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。

【２５５９】

（Ａ－３－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５６０】

設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）をさらに備え、

前記第２記憶手段は、遊技の進行に直接関与するデータを記憶するための第３記憶手段（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）と、遊技の進行に直接関与しないデータを記憶するための第４記憶手段（例えば、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）で構成され、

前記遊技制御手段は、

前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果を演算結果格納領域に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）でＣＲＣ演算処理を行うＣＲＣ回路２１０７ｃと、演算結果のＣＲＣ値をＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）で、ＣＲＣ値の比較を行うメインＣＰＵ２１０１）と、

前記第２記憶手段を初期化する初期化手段（例えば、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化処理等の初期化処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記遊技制御手段は、
電源投入時の前記設定スイッチの状態と、前記範囲照合手段の照合結果に応じて、前記第３記憶手段の開始位置を決定し、
前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて、前記第４記憶手段の開始位置を決定し、
前記初期化手段は、前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて前記第３記憶手段の初期化を行い、前記決定された前記第４記憶手段の開始位置に基づいて前記第４記憶手段の初期化を行うように構成される。
【２５６１】
このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２５６２】
（Ａ－３－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。
【２５６３】
初期化する最終位置（例えば、図２１４に示すクリアエンドアドレス）は、前記第３記憶手段の開始位置、及び第４記憶手段の開始位置に拘わらず、前記第３記憶手段、前記第４記憶手段に関して１つずつ設定されているように構成される。
【２５６４】
このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２５６５】
（Ａ－３－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。
【２５６６】
前記初期化手段は、前記第３記憶手段の開始位置に係る下位アドレスと、前記第４記憶手段の開始位置に係るアドレスとの対応関係を示す対応データを用いて、前記第４記憶手段の開始位置を決定するように構成される。
【２５６７】
このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。
【２５６８】
本発明によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、４ビット単位や２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯ

Ｍのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。

【２５６９】

た、本発明によれば、テーブルのデータ格納単位に複数のデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量の節約することができる。さらに、こうした共通のデータ取得処理により、テーブルのデータ格納単位（例えば、１バイトデータ）に複数のデータを格納している特殊な状況でも、容易に所望のデータを取得することができる。

【２５７０】

た、本発明によれば、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化範囲に基づいて使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定するので、領域ごとにＲＡＭ初期化範囲を決定する必要がなく、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。

【２５７１】

＜付記Ａ－４＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２５７２】

このような遊技機では、メインＲＯＭに複数のテーブルを記憶し、制御処理プログラムが、そのテーブルからデータを取得する技術が開示されている（例えば、特開２０２１－０７９１２９号公報）。

【２５７３】

かしながら、主制御部の各制御処理プログラムにおいて、それぞれに応じたテーブルからデータを取得する場合、データを取得する処理をそれぞれ設けることが一般的であるが、制御処理とテーブルの種類が増えると同時に、データを取得するための処理も増え、そのために、制御処理プログラムを記憶するメインＲＯＭの容量が圧迫されることになる。

【２５７４】

また、テーブルに、１バイト単位でデータを格納することが一般的であるが、データのパターンが少なく、テーブルに格納する場合に、実際には１バイトの容量が必要でない場合も多く、その場合は、実質的に未使用の領域が多く存在することになり、このことがメインＲＯＭの容量を圧迫する。

【２５７５】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、共通のデータ取得処理を使用して、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用することでメインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することが可能な

遊技機を提供することを目的とする。
【２５７６】
　また、本発明は、テーブルのデータ格納単位に複数のデータを格納して、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。また、上述した共通のデータ取得処理は、テーブルのデータ格納単位に複数のデータが格納されている場合に、これらのデータを展開することができる。
【２５７７】
　上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。
（Ａ－４－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。
【２５７８】
　遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、メインＣＰＵ２１０１）と、
　プログラム、及びテーブルデータが記憶された第１記憶手段と（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、
　前記プログラムの実行に伴いデータを記憶する第２記憶手段と（例えば、メインＲＡＭ２１０３）、を備え、
　前記テーブルデータには、複数のテーブルデータがあり、
　前記複数のテーブルデータの内の所定のテーブルデータは、１バイトデータが複数バイト集まったデータ群であり、
　前記データ群の前記１バイトデータは、２ビット単位のデータで構成された２ビットデータテーブルであり、
　前記遊技制御手段は、前記２ビットデータテーブルの前記１バイトデータから２ビットデータを取得し、その２ビットデータを前記第２記憶手段の所定領域に格納する２ビットデータ取得手段を有し、
　前記２ビットデータ取得手段は、
　前記２ビットデータテーブルから１バイトのデータを取得した後、所定の条件に応じて、取得したデータに対して２ビット単位のシフトを実行することで前記２ビットデータを取得することを特徴とする遊技機。
【２５７９】
　このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。
【２５８０】
（Ａ－４－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２５８１】
　前記２ビットデータ取得手段を実行させる処理によって、前記所定のテーブルデータの位置（例えば、テーブルデータの先頭アドレス）、及び選択値（例えば、取得するデータの相対位置を示すエントリー）がセットされ、
　前記２ビットデータ取得手段は、前記選択値を特定数で除算した結果に基き、前記所定のテーブルデータから取得する１バイトデータが記憶された位置と、前記２ビット単位のシフトの回数を求める（例えば、選択値を４で除算し、商と余りに基づいて求める）ように構成される。
【２５８２】
　このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サ

イズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。

【２５８３】

（Ａ－４－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。

【２５８４】

前記２ビットデータ取得手段は、前記選択値を４で除算して商と余りを算出し、前記所定のテーブルデータの位置に、前記商に基づく相対位置を加算することによって、前記取得する１バイトデータに係る位置を求め、前記余りに基づいて、前記２ビット単位のシフトの回数を求めるように構成される。

【２５８５】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。

【２５８６】

（Ａ－４－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５８７】

前記２ビットデータテーブルのなかの１バイトデータは、第１の２ビットに格納する２ビットデータに「４０」Ｈを乗じ、第２の２ビットに格納する２ビットデータに「１０」Ｈを乗じ、第３の２ビットデータに「４」Ｈを乗じてそれぞれの２ビットデータをシフトさせ、こうしてシフトされた２ビットデータと第４の２ビットに格納する２ビットデータを加算することによって生成されているように構成される。

【２５８８】

このような本発明の構成によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。また、テーブルデータの各１バイトデータに４つの２ビットデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量を節約することができる。さらに、こうした共通の２ビットデータ取得処理により、１バイトデータに４つの２ビットデータを格納している特殊な状況でも、テーブルデータの位置と、取得するデータの相対位置を示す選択値を指定することで、容易に所望の２ビットデータを取得することができる。

【２５８９】

（Ａ－４－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構

成を有する。
【２５９０】
遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、
精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、
前記遊技制御手段は、
前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、
前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、
前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、
前記払出処理手段は、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されるように構成される。
【２５９１】
このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２５９２】
（Ａ－４－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第５の実施態様において下記の構成を有する。
【２５９３】
前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２５９４】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラム

の開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２５９５】

（Ａ－４－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５９６】

設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）をさらに備え、

前記第２記憶手段は、遊技の進行に直接関与するデータを記憶するための第３記憶手段（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）と、遊技の進行に直接関与しないデータを記憶するための第４記憶手段（例えば、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）で構成され、

前記遊技制御手段は、

前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果を演算結果格納領域に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）でＣＲＣ演算処理を行うＣＲＣ回路２１０７ｃと、演算結果のＣＲＣ値をＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）で、ＣＲＣ値の比較を行うメインＣＰＵ２１０１）と、

前記第２記憶手段を初期化する初期化手段（例えば、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化処理等の初期化処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記遊技制御手段は、

電源投入時の前記設定スイッチの状態と、前記範囲照合手段の照合結果に応じて、前記第３記憶手段の開始位置を決定し、

前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて、前記第４記憶手段の開始位置を決定し、

前記初期化手段は、前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて前記第３記憶手段の初期化を行い、前記決定された前記第４記憶手段の開始位置に基づいて前記第４記憶手段の初期化を行うように構成される。

【２５９７】

このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２５９８】

（Ａ－４－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２５９９】

遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートレバー）と、

前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

複数の表示列を含み、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段と（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴回転開始処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）、

遊技者による停止操作（例えば、ストップボタンを押下する操作）の検出を行う停止操検出手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記内部当籤役決定手段の決定結果と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を備え、

前記変動表示手段の変動表示は、遊技価値を付与するための遊技変動（通常の遊技）と、遊技価値を付与することが無い疑似変動（疑似遊技）とがあり、

前記停止制御手段は、前記遊技変動のために前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行し、

前記遊技制御手段は、

前記疑似変動での前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行する疑似停止制御手段と、

前記停止操作検出手段による停止操作の検出が有効か否かを判断するための停止操作検出入力監視手段（例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を更に有し、

前記停止制御手段、及び前記疑似停止制御手段はそれぞれ、前記停止操作検出入力監視手段を実行して前記停止操作が有効か否かを判定する（通常の遊技と疑似遊技において、共通の処理（すなわち、例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理）を実行する）ように構成される。

【２６００】

このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６０１】

（Ａ－４－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２６０２】

前記第２記憶手段は、遊技に関する情報群を格納するための第１格納領域（共通情報格納領域）と、前記第１格納領域とは異なる位置にある第２格納領域（共通情報バックアップ格納領域）と、を有し、

前記遊技制御手段は、

所定の条件が成立している場合に、前記第１格納領域に記憶された情報の全てを前記第２格納領域に退避する退避手段（例えば、図２１６の共通情報バックアップ生成処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記所定の条件の成立、及び、特定の条件（例えば、ペナルティ条件）が成立している場合に、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる復帰手段（例えば、図２１７の共通情報復帰処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記退避手段、及び前記復帰手段は、一部の処理を除き共通のプログラムであり、

前記退避手段、及び前記復帰手段は、前記第１格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第１のレジスタ（例えば、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ）にセットし、前記第２格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第２のレジスタ（例えば、ＨＬレジスタ、ＤＥレジスタ）にセットし、

前記第１のレジスタにセットされた転送元アドレスから前記第２のレジスタにセットされた転送先アドレスに転送命令で前記転送元アドレスに格納された情報を転送し、

前記復帰手段による処理が実行される場合は、前記転送命令を実行する前に、前記第１のレジスタにセットされた前記転送元アドレスと、前記第２のレジスタにセットされた前記転送先アドレスを入れ替えるように構成される。

【２６０３】

このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰

処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６０４】

（Ａ－４－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２６０５】

遊技者が遊技の開始を指示する遊技開始指示手段（例えば、スタートレバー）と、

前記遊技開始指示手段の操作に応じて複数の識別情報を変動表示可能な可変表示手段（例えば、各リール）と、

当籤役を決定可能な役決定手段（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記可変表示手段の変動表示を停止させる停止操作を検出可能な停止操作検出手段（例えば、ストップボタン、及びストップスイッチ）と、

前記役決定手段により決定された当籤役と、前記停止操作検出手段により検出された停止操作態様とに基づいて、前記可変表示手段の変動表示を停止させて停止表示を導出可能な停止制御手段（例えば、図１７９に示す回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記停止表示に応じた入賞を発生可能な入賞手段（例えば、図１７９のステップＳ２０１３等の処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

有利な停止操作態様を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタやメイン表示装置）と、をさらに備え、

前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合に、

前記退避手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報であって、前記報知手段による報知を実行可能な有利状態（例えば、ＡＴ状態）に関する情報（例えば、各種情報）を、前記第２格納領域に退避し（例えば、図１７２のステップＳ４６０２に対応する処理）、

前記有利状態に関する情報を更新する遊技状態関連処理手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報を更新し（例えば、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２等に対応する処理）、

前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合であって、所定のペナルティ条件が成立する場合に、前記復帰手段は、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる（例えば、図１７３のステップＳ４６２４に対応する処理）ように構成される。

【２６０６】

このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６０７】

（Ａ－４－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２６０８】

前記特定の条件は、所定の有利な遊技状態をキャンセルするペナルティ条件であり、

前記ペナルティ条件は、遊技状態、及び遊技者における所定操作に基づく条件であるように構成される。

【２６０９】
　このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６１０】
　本発明によれば、異なる種類のデータ群であっても、データの最大サイズが同じ（例えば、２ビット単位）であれば、共通のデータ取得処理（データ展開処理）を使用できるので、データの種類ごとにデータ取得処理を設ける必要がなく、メインＲＯＭのプログラム記憶領域を効率的に使用して、メインＲＯＭの容量の圧迫を軽減することができる。
【２６１１】
　また、本発明によれば、テーブルのデータ格納単位に複数のデータを格納できるため、未使用となる領域を減らし、メインＲＯＭの容量の節約することができる。さらに、こうした共通のデータ取得処理により、テーブルのデータ格納単位（例えば、１バイトデータ）に複数のデータを格納している特殊な状況でも、容易に所望のデータを取得することができる。
【２６１２】
　このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６１３】
　このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６１４】
　このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６１５】
　このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６１６】
＜付記Ａ－５＞
　従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を

出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２６１７】

このような遊技機のなかには、単位遊技開始待ち状態で精算ボタンが押下された際に実行される精算処理と、単位遊技の終了時で実行される払出処理が、別処理で実行される遊技機が開示されている（例えば、特開２０１９－１７０６０５号公報）。

【２６１８】

遊技媒体を払い出すことに関しては、精算処理と払出処理で違いはなく、共通処理部分が存在するものの、上記の遊技機のように、精算処理と払出処理が別処理となっていることは一般的であり、このような共通処理部分を有した別処理がそれぞれ記述されていることが、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫する要因の１つとなっている。

【２６１９】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、単位遊技開始待ち状態での精算ボタンの押下や、単位遊技の終了時で実行される遊技媒体の払出処理を共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【２６２０】

また、本発明は、精算ボタンの押下や単位遊技の終了時で実行される遊技媒体の払出処理を実行する際に、対象のカウンタの下位アドレスをセットすることで、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【２６２１】

さらに、本発明は、払出処理の共通化を行うことにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることを目的とする。

【２６２２】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－５－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２６２３】

遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、メインＣＰＵ２１０１）と、

遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、

精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、
前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、
前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、
前記払出処理手段は、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されることを特徴とする遊技機。
【２６２４】
このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６２５】
（Ａ－５－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２６２６】
前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２６２７】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６２８】
（Ａ－５－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２６２９】
前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合、前記払出処理は、異なる払出動作に対して２回実行され得るように構成される。
【２６３０】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６３１】
（Ａ－５－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第３の実施態様において下記の構成を有する。

【２６３２】
前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合であって、前記払出処理が２回実行される場合、
第１の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記入賞役に応じた遊技媒体の払出数から移動された数が記憶されている貯留数記憶領域（例えば、クレジットカウンター格納領域）のアドレスに係る情報であり、
第２の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記遊技価値入力手段によって検知された遊技媒体の遊技価値が記憶されている入力数記憶領域（例えば、メダル投入カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２６３３】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６３４】
（Ａ－５－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第２または第４の実施態様において下記の構成を有する。
【２６３５】
前記アドレスに係る情報は、対応する記憶領域のアドレスの一部（例えば、記憶領域の記憶位置を表す２バイトのアドレスデータのうち、下位１バイトのアドレス）であるように構成される。
【２６３６】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。また、対応する記憶領域のアドレスの一部をセットするため、その分、呼び出し側のプログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。
【２６３７】
（Ａ－５－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。
【２６３８】
前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理を実行させる命令（例えば、ジャンプ（ＪＰ）命令）と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記第１の払出処理を実行させる命令（例えば、コール（ＣＡＬＬ）命令）は、異なる種類の命令（処理を終了した場合に、呼び出し元のプログラムに戻るか否かが異なる）であるように構成される。
【２６３９】
このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６４０】
（Ａ－５－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。
【２６４１】

前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理を実行させる呼び出し命令は、前記払出処理を呼び出した前記呼び出し命令の次のステップに戻らない命令であり（例えば、ジャンプ（ＪＰ）命令）、

前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記第１の払出処理を実行させる命令は、前記払出処理を呼び出した前記呼び出し命令の次のステップに戻る命令（例えば、コール（ＣＡＬＬ）命令）であるように構成される。

【２６４２】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６４３】

（Ａ－５－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第３の実施態様において下記の構成を有する。

【２６４４】

前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合であって、前記払出処理が２回実行される場合、

前記払出処理の実行に際して、それぞれ異なるパラメータが付与されるように構成される（例えば、第１の払出処理では、クレジットカウンター格納領域のアドレス情報、第２の払出処理では、メダル投入カウンター格納領域のアドレス情報が付与される）。

【２６４５】

このような本発明の構成よれば、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６４６】

（Ａ－５－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第５の実施態様において下記の構成を有する。

【２６４７】

前記払出処理手段は、パラメータで受け取った下位アドレスに所定の上位アドレスを結合して格納領域を特定し、前記格納領域に記憶されている払出数に基づいた払出処理を行うように構成される。

【２６４８】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６４９】

（Ａ－５－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第８の実施態様において下記の構成を有する。

【２６５０】

前記精算処理手段を実行するプログラムは、前記払出処理を実行するプログラムを含み、

前記払出処理を２回実行する場合は、同じ前記払出処理に係るプログラム範囲を呼び出すように制御されるように構成される。

【２６５１】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた

場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６５２】

（Ａ－５－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第１０の実施態様において下記の構成を有する。

【２６５３】

前記入賞払出処理は、前記払出処理を実行させる場合、前記払出処理に係るプログラム範囲を呼び出すように制御されるように構成される。

【２６５４】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６５５】

本発明によれば、精算ボタンの押下や単位遊技の終了時で実行される遊技媒体の払出処理を共通化することにより、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。

【２６５６】

また、本発明によれば、精算ボタンの押下や単位遊技の終了時で実行される遊技媒体の払出処理を実行する際に、対象のカウンタの下位アドレスをセットするため、その分、呼び出し側のプログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。

【２６５７】

さらに、本発明によれば、払出処理の共通化を行うことにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６５８】

＜付記Ａ－６＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２６５９】

このような遊技機のなかには、遊技制御作業領域の条件に応じて、複数の先頭アドレスから初期化を行う遊技機が開示されている（例えば、特開２０１９－１４１４５５号公報）。

【２６６０】

上記のような遊技機では、遊技制御作業領域のみを初期化しているが、現在では、遊技制御作業領域であるメインＲＡＭの使用領域内の領域と、遊技制御作業領域ではないメインＲＡＭの使用領域外の領域とを同じ条件で初期化する必要があり、遊技機業界特有の規

則により、使用領域内、使用領域外のそれぞれで、条件に応じたプログラムを作成してメインＲＯＭに記憶しておかなければならない。しかしながら、このようなプログラムをそれぞれ用意することは、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫する要因の１つとなり、また、メインプログラムの煩雑化にもつながる。

【２６６１】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、使用領域内作業領域、使用領域外作業領域のそれぞれに関してメインＲＡＭの初期化を行うことができる、より小さなサイズのプログラムを備える遊技機を提供することを目的とする。

【２６６２】

また、本発明は、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることを目的とする。

【２６６３】

また、本発明は、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を、使用領域内作業領域のＲＡＭクリア処理等とは完全に独立したものとし、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易にすることを目的とする。

【２６６４】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－６－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２６６５】

演算回路（例えば、メインＣＰＵ２１０１）、リードメモリ（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、及びリードライトメモリ（例えば、メインＲＡＭ２１０３）を含んだマイクロプロセッサ（例えば、マイクロプロセッサ２１００）を実装して遊技の進行を制御する遊技制御手段と、

設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果を前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲以外の演算結果格納領域に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）でＣＲＣ演算処理を行うＣＲＣ回路２１０７ｃと、演算結果のＣＲＣ値をＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）で、ＣＲＣ値の比較を行うメインＣＰＵ２１０１）と、

前記リードライトメモリを初期化する初期化手段（例えば、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化処理等の初期化処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

遊技の進行に伴うメイン処理を行うメイン処理手段（例えば、図１７９に示すメイン処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記リードライトメモリは、遊技の進行に直接関与するデータを記憶するための第１記憶手段（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）と、遊技の進行に直接関与しないデータを記憶するための第２記憶手段（例えば、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）で構成され、

前記複数の範囲は、

電源投入時に前記設定スイッチがオン状態であり、且つ、前記範囲照合手段により照合不一致が検出されていた場合の前記第１記憶手段の第１開始位置（例えば、ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス）と、

電源投入時に前記設定スイッチがオン状態であり、且つ、前記範囲照合手段により照合不一致が検出されていない場合の前記第１記憶手段の第２開始位置（例えば、設定変更時クリアアドレス）と、

前記メイン処理手段の単位遊技終了後であり、且つ、次の単位遊技が開始する前の場合

の前記第１記憶手段の第３開始位置（例えば、１遊技終了時クリアアドレス）と、が設定され、

前記第１開始位置、前記第２開始位置、及び前記第３開始位置を含む第１記憶手段の初期化開始位置は、２バイトのアドレスで表され、

前記初期化手段は、

前記第１開始位置、前記第２開始位置、又は前記第３開始位置のなかから選択した１つの開始位置に関する２バイトのアドレスの値を記憶判定領域に格納し、

前記記憶判定領域に格納されたアドレスの下位アドレスの値に応じて、前記第２記憶手段の初期化開始位置を決定し、

前記第１記憶手段に関して、前記第１開始位置、前記第２開始位置、及び前記第３開始位置のいずれかの前記第１記憶手段の初期化開始位置から初期化を行い（例えば、図１８５に示すステップＳ２１５１の使用領域内ＲＡＭ初期化）、

前記第２記憶手段に関して、決定された前記第２記憶手段の初期化開始位置から初期化を行う（例えば、図１８５に示すステップＳ２１５０の使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外））ことを特徴とする遊技機（例えば、パチスロ機２００１）。

【２６６６】

このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。

【２６６７】

（Ａ－６－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２６６８】

初期化する最終位置（例えば、図２１４に示すクリアエンドアドレス）は、前記第１記憶手段の初期化開始位置、及び第２記憶手段の初期化開始位置に拘わらず、前記第１記憶手段、前記第２記憶手段に関して１つずつ設定されているように構成される。

【２６６９】

このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。

【２６７０】

（Ａ－６－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２６７１】

前記第２記憶手段には、前記第１記憶手段の初期化開始位置に係る下位アドレスと、前記第２記憶手段の初期化開始位置に係るアドレスとの対応関係を示す対応データが記憶され、

前記初期化手段は、前記対応データを用いて、前記記憶判定領域に格納された前記下位

アドレスの値に対応する前記第２記憶手段の初期化開始位置を決定するように構成される。

【２６７２】

このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。

【２６７３】

（Ａ－６－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２６７４】

前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、

遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、

精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、

前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、

前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、

前記払出処理手段は、

前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、

前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されるように構成される。

【２６７５】

このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用される

ことにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６７６】

（Ａ－６－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。

【２６７７】

前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。

【２６７８】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６７９】

（Ａ－６－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。

【２６８０】

前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合、前記払出処理は、異なる払出動作に対して２回実行され得るように構成される。

【２６８１】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６８２】

（Ａ－６－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。

【２６８３】

前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合であって、前記払出処理が２回実行される場合、

第１の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記入賞役に応じた遊技媒体の払出数から移動された数が記憶されている貯留数記憶領域（例えば、クレジットカウンター格納領域）のアドレスに係る情報であり、

第２の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記遊技価値入力手段によって検知された遊技媒体の遊技価値が記憶されている入力数記憶領域（例えば、メダル投入カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。

【２６８４】

このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６８５】

（Ａ－６－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２６８６】

前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、
遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートレバー）と、
前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
複数の表示列を含み、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段と（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴回転開始処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）、
遊技者による停止操作（例えば、ストップボタンを押下する操作）の検出を行う停止操作検出手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記内部当籤役決定手段の決定結果と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を備え、
前記変動表示手段の変動表示は、遊技価値を付与するための遊技変動（通常の遊技）と、遊技価値を付与することが無い疑似変動（疑似遊技）とがあり、
前記停止制御手段は、前記遊技変動のために前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行し、
前記遊技制御手段は、
前記疑似変動での前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行する疑似停止制御手段と、
前記停止操作検出手段による停止操作の検出が有効か否かを判断するための停止操作検出入力監視手段（例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を更に有し、
前記停止制御手段、及び前記疑似停止制御手段はそれぞれ、前記停止操作検出入力監視手段を実行して前記停止操作が有効か否かを判定する（通常の遊技と疑似遊技において、共通の処理（すなわち、例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理）を実行する）ように構成される。
【２６８７】
このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２６８８】
（Ａ－６－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２６８９】
前記演算回路は、遊技の進行を制御する遊技制御手段として機能し、
プログラム、及びテーブルデータが記憶された第３記憶手段（例えば、メインＲＯＭ２１０２）と、
前記プログラムの実行に伴い、データを記憶する第４記憶手段（例えば、メインＲＡＭ２１０３）と、を備え、
前記第４記憶手段は、遊技に関する情報群を格納するための第１格納領域（共通情報格納領域）と、前記第１格納領域とは異なる位置にある第２格納領域（共通情報バックアップ格納領域）と、を有し、
前記遊技制御手段は、
所定の条件が成立している場合に、前記第１格納領域に記憶された情報の全てを前記第２格納領域に退避する退避手段（例えば、図２１６の共通情報バックアップ生成処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記所定の条件の成立、及び、特定の条件（例えば、ペナルティ条件）が成立している場合に、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる復帰手段（例えば、図２１７の共通情報復帰処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記退避手段、及び前記復帰手段は、一部の処理を除き共通のプログラムであり、

前記退避手段、及び前記復帰手段は、前記第１格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第１のレジスタ（例えば、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ）にセットし、前記第２格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第２のレジスタ（例えば、ＨＬレジスタ、ＤＥレジスタ）にセットし、

前記第１のレジスタにセットされた転送元アドレスから前記第２のレジスタにセットされた転送先アドレスに転送命令で前記転送元アドレスに格納された情報を転送し、

前記復帰手段による処理が実行される場合は、前記転送命令を実行する前に、前記第１のレジスタにセットされた前記転送元アドレスと、前記第２のレジスタにセットされた前記転送先アドレスを入れ替えるように構成される。

【２６９０】

このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６９１】

（Ａ－６－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２６９２】

遊技者が遊技の開始を指示する遊技開始指示手段（例えば、スタートレバー）と、

前記遊技開始指示手段の操作に応じて複数の識別情報を変動表示可能な可変表示手段（例えば、各リール）と、

当籤役を決定可能な役決定手段（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記可変表示手段の変動表示を停止させる停止操作を検出可能な停止操作検出手段（例えば、ストップボタン、及びストップスイッチ）と、

前記役決定手段により決定された当籤役と、前記停止操作検出手段により検出された停止操作態様とに基づいて、前記可変表示手段の変動表示を停止させて停止表示を導出可能な停止制御手段（例えば、図１７９に示す回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

前記停止表示に応じた入賞を発生可能な入賞手段（例えば、図１７９のステップＳ２０１３等の処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

有利な停止操作態様を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタやメイン表示装置）と、をさらに備え、

前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合に、

前記退避手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報であって、前記報知手段による報知を実行可能な有利状態（例えば、ＡＴ状態）に関する情報（例えば、各種情報）を、前記第２格納領域に退避し（例えば、図１７２のステップＳ４６０２に対応する処理）、

前記有利状態に関する情報を更新する遊技状態関連処理手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報を更新し（例えば、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２等に対応する処理）、

前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合であって、所定のペナルティ条件が成立する場合に、前記復帰手段は、前記第２格納領域に退避してある情報を、前

記第１格納領域に復帰させる（例えば、図１７３のステップＳ４６２４に対応する処理）ように構成される。

【２６９３】

このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６９４】

（Ａ－６－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２６９５】

前記特定の条件は、所定の有利な遊技状態をキャンセルするペナルティ条件であり、

前記ペナルティ条件は、遊技状態、及び遊技者における所定操作に基づく条件であるように構成される。

【２６９６】

このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２６９７】

本発明によれば、使用領域内作業領域、使用領域外作業領域のそれぞれに関してメインＲＡＭの初期化を行うことができる、より小さなサイズのプログラムを備えることにより、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。

【２６９８】

また、本発明によれば、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができ、さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができるので、他の規格に応じたプログラムの作成や変更が容易になる。

【２６９９】

また、本発明によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７００】

またさらに、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７０１】

またさらに、本発明によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７０２】
＜付記Ａ－７＞
従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。
【２７０３】
このような遊技機においては、図柄の停止制限に係る回胴停止の処理が通常の遊技と、疑似遊技とで別々の処理になっているのが一般的である（例えば、特開２０２２－０６７９８８号公報）。
【２７０４】
上記の遊技機のように、通常の遊技と、疑似遊技とを別々の処理とし、それぞれ対応するプログラムを作成すると、その分プログラムサイズが大きくない、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫することになる。
【２７０５】
本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。
【２７０６】
また、本発明は、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることを目的とする。
【２７０７】
上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。
（Ａ－７－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。
【２７０８】
遊技の進行に関する制御を行う遊技制御手段（例えば、メインＣＰＵ２１０１）と、
遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートレバー）と、
前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
複数の表示列を含み、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段と（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴回転開始処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）、
遊技者による停止操作（例えば、ストップボタンを押下する操作）の検出を行う停止操作検出手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記内部当籤役決定手段の決定結果と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を備え、
前記変動表示手段の変動表示は、遊技価値を付与するための遊技変動（通常の遊技）と、遊技価値を付与することが無い疑似変動（疑似遊技）とがあり、
前記停止制御手段は、前記遊技変動のために前記図柄の変動表示を停止させるための制

御処理を実行し、
前記遊技制御手段は、
前記疑似変動での前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行する疑似停止制御手段と、
前記停止操作検出手段による停止操作の検出が有効か否かを判断するための停止操作検出入力監視手段（例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を更に有し、
前記停止制御手段、及び前記疑似停止制御手段はそれぞれ、前記停止操作検出入力監視手段を実行して前記停止操作が有効か否かを判定する（通常の遊技と疑似遊技において、共通の処理（すなわち、例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理））を実行することを特徴とする遊技機（例えば、パチスロ機２００１）。
【２７０９】
このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７１０】
（Ａ－７－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７１１】
遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、
精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、
前記遊技制御手段は、
前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、
前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、
前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、
前記払出処理手段は、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、
前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されるように構成される。

【２７１２】
　このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７１３】
（Ａ－７－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。
【２７１４】
　前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２７１５】
　このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７１６】
（Ａ－７－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。
【２７１７】
　前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合、前記払出処理は、異なる払出動作に対して２回実行され得るように構成される。
【２７１８】
　このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７１９】
（Ａ－７－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。
【２７２０】
　前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合であって、前記払出処理が２回実行される場合、
　第１の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記入賞役に応じた遊技媒体の払出数から移動された数が記憶されている貯留数記憶領域（例えば、クレジットカウンター格納領域）のアドレスに係る情報であり、
　第２の払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、前記遊技価値入力手段によって検知された遊技媒体の遊技価値が記憶されている入力数記憶領域（例えば、メダル投入カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２７２１】
　このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７２２】
（Ａ－７－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７２３】
演算回路（例えば、メインＣＰＵ２１０１）、リードメモリ（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、及びリードライトメモリ（例えば、メインＲＡＭ２１０３）を含んだマイクロプロセッサ（例えば、マイクロプロセッサ２１００）を実装して遊技の進行を制御する遊技制御手段と、
設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）と、を備え、
前記遊技制御手段は、
前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果を前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲以外の演算結果格納領域に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）でＣＲＣ演算処理を行うＣＲＣ回路２１０７ｃと、演算結果のＣＲＣ値をＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）で、ＣＲＣ値の比較を行うメインＣＰＵ２１０１）と、
前記リードライトメモリを初期化する初期化手段（例えば、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化処理等の初期化処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
遊技の進行に伴うメイン処理を行うメイン処理手段（例えば、図１７９に示すメイン処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
前記リードライトメモリは、遊技の進行に直接関与するデータを記憶するための第１記憶手段（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）と、遊技の進行に直接関与しないデータを記憶するための第２記憶手段（例えば、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）で構成され、
前記複数の範囲は、
電源投入時に前記設定スイッチがオン状態であり、且つ、前記範囲照合手段により照合不一致が検出されていた場合の前記第１記憶手段の第１開始位置（例えば、ＲＡＭ異常発生時クリアアドレス）と、
電源投入時に前記設定スイッチがオン状態であり、且つ、前記範囲照合手段により照合不一致が検出されていない場合の前記第１記憶手段の第２開始位置（例えば、設定変更時クリアアドレス）と、
前記メイン処理手段の単位遊技終了後であり、且つ、次の単位遊技が開始する前の場合の前記第１記憶手段の第３開始位置（例えば、１遊技終了時クリアアドレス）と、が設定され、
前記第１開始位置、前記第２開始位置、及び前記第３開始位置を含む第１記憶手段の初期化開始位置は、２バイトのアドレスで表され、
前記初期化手段は、
前記第１開始位置、前記第２開始位置、又は前記第３開始位置のなかから選択した１つの開始位置に関する２バイトのアドレスの値を記憶判定領域に格納し、
前記記憶判定領域に格納されたアドレスの下位アドレスの値に応じて、前記第２記憶手段の初期化開始位置を決定し、
前記第１記憶手段に関して、前記第１開始位置、前記第２開始位置、及び前記第３開始位置のいずれかの前記第１記憶手段の初期化開始位置から初期化を行い（例えば、図１８５に示すステップＳ２１５１の使用領域内ＲＡＭ初期化）、
前記第２記憶手段に関して、決定された前記第２記憶手段の初期化開始位置から初期化を行う（例えば、図１８５に示すステップＳ２１５０の使用領域外ＲＡＭ初期化処理（使用領域外））ように構成される。

【２７２４】
　このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。
【２７２５】
（Ａ－７－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。
【２７２６】
　初期化する最終位置（例えば、図２１４に示すクリアエンドアドレス）は、前記第１記憶手段の初期化開始位置、及び第２記憶手段の初期化開始位置に拘わらず、前記第１記憶手段、前記第２記憶手段に関して１つずつ設定されているように構成される。
【２７２７】
　このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。
【２７２８】
（Ａ－７－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第６の実施態様において下記の構成を有する。
【２７２９】
　前記第２記憶手段には、前記第１記憶手段の初期化開始位置に係る下位アドレスと、前記第２記憶手段の初期化開始位置に係るアドレスとの対応関係を示す対応データが記憶され、
　前記初期化手段は、前記対応データを用いて、前記記憶判定領域に格納された前記下位アドレスの値に対応する前記第２記憶手段の初期化開始位置を決定するように構成される。
【２７３０】
　このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。
【２７３１】
（Ａ－７－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。

【２７３２】
　プログラム、及びテーブルデータが記憶された第３記憶手段（例えば、メインＲＯＭ２１０２）と、
前記プログラムの実行に伴い、データを記憶する第４記憶手段（例えば、メインＲＡＭ２１０３）と、を備え、
前記第４記憶手段は、遊技に関する情報群を格納するための第１格納領域（共通情報格納領域）と、前記第１格納領域とは異なる位置にある第２格納領域（共通情報バックアップ格納領域）と、を有し、
　前記遊技制御手段は、
　所定の条件が成立している場合に、前記第１格納領域に記憶された情報の全てを前記第２格納領域に退避する退避手段（例えば、図２１６の共通情報バックアップ生成処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記所定の条件の成立、及び、特定の条件（例えば、ペナルティ条件）が成立している場合に、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる復帰手段（例えば、図２１７の共通情報復帰処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
　前記退避手段、及び前記復帰手段は、一部の処理を除き共通のプログラムであり、
　前記退避手段、及び前記復帰手段は、前記第１格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第１のレジスタ（例えば、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ）にセットし、前記第２格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第２のレジスタ（例えば、ＨＬレジスタ、ＤＥレジスタ）にセットし、
　前記第１のレジスタにセットされた転送元アドレスから前記第２のレジスタにセットされた転送先アドレスに転送命令で前記転送元アドレスに格納された情報を転送し、
　前記復帰手段による処理が実行される場合は、前記転送命令を実行する前に、前記第１のレジスタにセットされた前記転送元アドレスと、前記第２のレジスタにセットされた前記転送先アドレスを入れ替えるように構成される。
【２７３３】
　このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７３４】
（Ａ－７－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。
【２７３５】
　遊技者が遊技の開始を指示する遊技開始指示手段（例えば、スタートレバー）と、
　前記遊技開始指示手段の操作に応じて複数の識別情報を変動表示可能な可変表示手段（例えば、各リール）と、
　当籤役を決定可能な役決定手段（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記可変表示手段の変動表示を停止させる停止操作を検出可能な停止操作検出手段（例えば、ストップボタン、及びストップスイッチ）と、
　前記役決定手段により決定された当籤役と、前記停止操作検出手段により検出された停止操作態様とに基づいて、前記可変表示手段の変動表示を停止させて停止表示を導出可能な停止制御手段（例えば、図１７９に示す回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記停止表示に応じた入賞を発生可能な入賞手段（例えば、図１７９のステップＳ２０１３等の処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、

有利な停止操作態様を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタやメイン表示装置）と、をさらに備え、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合に、
前記退避手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報であって、前記報知手段による報知を実行可能な有利状態（例えば、ＡＴ状態）に関する情報（例えば、各種情報）を、前記第２格納領域に退避し（例えば、図１７２のステップＳ４６０２に対応する処理）、
前記有利状態に関する情報を更新する遊技状態関連処理手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報を更新し（例えば、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２等に対応する処理）、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合であって、所定のペナルティ条件が成立する場合に、前記復帰手段は、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる（例えば、図１７３のステップＳ４６２４に対応する処理）ように構成される。

【２７３６】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７３７】
（Ａ－７－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第９の実施態様において下記の構成を有する。

【２７３８】
前記特定の条件は、所定の有利な遊技状態をキャンセルするペナルティ条件であり、
前記ペナルティ条件は、遊技状態、及び遊技者における所定操作に基づく条件であるように構成される。

【２７３９】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７４０】
本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７４１】
また、本発明によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７４２】
また、本発明によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メイン

ＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。さらに、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を、使用領域内作業領域のＲＡＭ初期化開始アドレスの一部に基づいて決定しているため、使用領域外作業領域のＲＡＭクリア処理を完全に独立させることができ、そのために、他の規格に応じたプログラムの作成や変更を容易に行うことができる。

【２７４３】

またさらに、本発明によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７４４】

＜付記Ａ－８＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２７４５】

このような遊技機において、総合状態情報を生成する技術が記載された遊技機が開示されている（例えば、特開２０１９－１９８４３５号公報）。

【２７４６】

近年の遊技機では、開始時に複数の抽籤処理で、上記の遊技機のような総合状態情報を生成するが、遊技者の遊技によって、生成した総合状態情報を次の遊技で適用しない場合があり、この場合、当該総合状態情報を遊技前の状態に戻す必要があり、このような処理を実行するプログラムを作成することが、メインＲＡＭのプログラム領域を圧迫する要因の１つになっている。

【２７４７】

本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【２７４８】

また、本発明は、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることを目的とする。

【２７４９】

上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。

（Ａ－８－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

【２７５０】

遊技の進行、及び遊技に関する状態を制御する遊技制御手段（例えば、マイクロプロセッサ２１００）と、

プログラム、及びテーブルデータが記憶された第１記憶手段（例えば、メインＲＯＭ２１０２）と、
前記プログラムの実行に伴い、データを記憶する第２記憶手段（例えば、メインＲＡＭ２１０３）と、を備え、
前記第２記憶手段は、遊技に関する情報群を格納するための第１格納領域（共通情報格納領域）と、前記第１格納領域とは異なる位置にある第２格納領域（共通情報バックアップ格納領域）と、を有し、
前記遊技制御手段は、
所定の条件が成立している場合に、前記第１格納領域に記憶された情報の全てを前記第２格納領域に退避する退避手段（例えば、図２１６の共通情報バックアップ生成処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記所定の条件の成立、及び、特定の条件（例えば、ペナルティ条件）が成立している場合に、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる復帰手段（例えば、図２１７の共通情報復帰処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
前記退避手段、及び前記復帰手段は、一部の処理を除き共通のプログラムであり、
前記退避手段、及び前記復帰手段は、前記第１格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第１のレジスタ（例えば、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ）にセットし、前記第２格納領域の先頭アドレスを、２バイトのデータをセット可能な第２のレジスタ（例えば、ＨＬレジスタ、ＤＥレジスタ）にセットし、
前記第１のレジスタにセットされた転送元アドレスから前記第２のレジスタにセットされた転送先アドレスに転送命令で前記転送元アドレスに格納された情報を転送し、
前記復帰手段による処理が実行される場合は、前記転送命令を実行する前に、前記第１のレジスタにセットされた前記転送元アドレスと、前記第２のレジスタにセットされた前記転送先アドレスを入れ替えることを特徴とする遊技機。
【２７５１】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７５２】
（Ａ－８－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７５３】
遊技者が遊技の開始を指示する遊技開始指示手段（例えば、スタートレバー）と、
前記遊技開始指示手段の操作に応じて複数の識別情報を変動表示可能な可変表示手段（例えば、各リール）と、
当籤役を決定可能な役決定手段（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記可変表示手段の変動表示を停止させる停止操作を検出可能な停止操作検出手段（例えば、ストップボタン、及びストップスイッチ）と、
前記役決定手段により決定された当籤役と、前記停止操作検出手段により検出された停止操作態様とに基づいて、前記可変表示手段の変動表示を停止させて停止表示を導出可能な停止制御手段（例えば、図１７９に示す回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記停止表示に応じた入賞を発生可能な入賞手段（例えば、図１７９のステップＳ２０１３等の処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
有利な停止操作態様を報知可能な報知手段（例えば、指示モニタやメイン表示装置）と

、をさらに備え、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合に、
前記退避手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報であって、前記報知手段による報知を実行可能な有利状態（例えば、ＡＴ状態）に関する情報（例えば、各種情報）を、前記第２格納領域に退避し（例えば、図１７２のステップＳ４６０２に対応する処理）、
前記有利状態に関する情報を更新する遊技状態関連処理手段は、前記第１格納領域に記憶されている情報を更新し（例えば、図１７２のステップＳ４６０３、ステップＳ４６０４、図１７３のステップＳ４６２２等に対応する処理）、
前記遊技者によって前記遊技開始指示手段が操作された場合であって、所定のペナルティ条件が成立する場合に、前記復帰手段は、前記第２格納領域に退避してある情報を、前記第１格納領域に復帰させる（例えば、図１７３のステップＳ４６２４に対応する処理）ように構成される。
【２７５４】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７５５】
（Ａ－８－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７５６】
前記特定の条件は、所定の有利な遊技状態をキャンセルするペナルティ条件であり、
前記ペナルティ条件は、遊技状態、及び遊技者における所定操作に基づく条件であるように構成される。
【２７５７】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７５８】
（Ａ－８－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。
【２７５９】
前記所定のペナルティ条件は、遊技状態が、特定の遊技状態であるか否か（例えば、有利区間中か否か）に基づく条件であるように構成される。
【２７６０】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７６１】
（Ａ－８－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。

【２７６２】
前記所定のペナルティ条件は、前記遊技者における前記停止操作が、特定の態様で行われたか否か（例えば、第１回胴が第１停止か否か）に基づく条件であるように構成される。
【２７６３】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７６４】
（Ａ－８－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。
【２７６５】
前記所定のペナルティ条件は、遊技状態が、特定のボーナス状態か否か（例えば、疑似ＢＩＧや疑似ＲＥＧといったボーなる状態であるか否か）に基づく条件であるように構成される。
【２７６６】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７６７】
（Ａ－８－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第２の実施態様において下記の構成を有する。
【２７６８】
前記所定のペナルティ条件は、役決定手段で決定された当籤役が所定の当籤役か否かに基づく条件であるように構成される。
【２７６９】
このような本発明の構成によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７７０】
（Ａ－８－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７７１】
遊技の進行に応じて遊技媒体を払出す払出手段（例えば、ホッパ装置）と、
精算動作を行わせるために遊技者が押下することのできる精算手段（例えば、精算ボタン）と、を備え、
前記遊技制御手段は、
前記遊技媒体を検知しその遊技価値を入力する遊技価値入力手段（例えば、メダルを投入してベットする操作を検知する処理や、クレジットされたメダルをベットボタンの操作によりベットする操作を検知する処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
入賞役に応じて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための入賞払出処理を行う入賞払

出手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記精算手段の押下に基づいて、前記払出手段から遊技媒体を払出すための精算処理を行う精算処理手段（例えば、図１９２に示す精算実行処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記払出手段に払出動作を行わせて払出処理を行う払出処理手段（例えば、図１９１に示すメダル払出・再遊技作動処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
　前記遊技価値入力手段は、第１の期間（例えば、単位遊技開始待ち状態（メダルの受付やベットが可能な期間で、スタートレバーによる開始操作前））において遊技価値の入力が可能であり、
　前記入賞払出手段は、前記第１の期間と重複しない第２の期間（例えば、単位遊技の終了時で、払出が完了するまでの期間）において前記入賞払出処理を行うことが可能であり、
　前記精算処理手段は、前記第１の期間において前記精算手段が押下された場合に、前記精算処理を行うことが可能であり、
　前記払出処理手段は、
　前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合、及び前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合に、前記払出処理を実行可能であり、
　前記入賞払出手段により前記入賞払出処理が行われた場合と、前記精算処理手段により前記精算処理が行われた場合とでは、前記払出処理の実行に際して異なるパラメータ（例えば、それぞれ対応するメダルカウンターのアドレス）が付与されるように構成される。
【２７７２】
　このような本発明の構成によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７７３】
（Ａ－８－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第８の実施態様において下記の構成を有する。
【２７７４】
　前記入賞払出処理により前記入賞払出処理が行われた場合に、前記払出処理の実行に際して付与されるパラメータは、入賞役に応じた遊技媒体の払出数に基づく値が記憶されている払出数記憶領域（例えば、払出枚数カウンター格納領域）のアドレスに係る情報であるように構成される。
【２７７５】
　このような本発明の構成よれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７７６】
（Ａ－８－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７７７】
　設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）をさらに備え、
　前記第２記憶手段は、遊技の進行に直接関与するデータを記憶するための第３記憶手段（例えば、使用領域内ＲＡＭエリア２２０３ａ）と、遊技の進行に直接関与しないデータを記憶するための第４記憶手段（例えば、使用領域外ＲＡＭエリア２２０３ｂ）で構成さ

れ、
　前記遊技制御手段は、
　前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果を演算結果格納領域に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９に示す電断割込み処理で呼び出されるＣＲＣ生成処理（使用領域外）でＣＲＣ演算処理を行うＣＲＣ回路２１０７ｃと、演算結果のＣＲＣ値をＣＲＣ値格納領域２１０３ｅに格納するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記第２記憶手段の特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と、前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）で、ＣＲＣ値の比較を行うメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記第２記憶手段を初期化する初期化手段（例えば、図１８５に示す指定ＲＡＭ初期化処理等の初期化処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、
　前記遊技制御手段は、
　電源投入時の前記設定スイッチの状態と、前記範囲照合手段の照合結果に応じて、前記第３記憶手段の開始位置を決定し、
　前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて、前記第４記憶手段の開始位置を決定し、
　前記初期化手段は、前記決定された前記第３記憶手段の開始位置に基づいて前記第３記憶手段の初期化を行い、前記決定された前記第４記憶手段の開始位置に基づいて前記第４記憶手段の初期化を行うように構成される。
【２７７８】
　このような本発明の構成によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。
【２７７９】
（Ａ－８－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７８０】
　遊技者による開始操作を検出する開始操作検出手段（例えば、スタートレバー）と、
　前記開始操作検出手段による開始操作の検出に基づいて、予め定められた確率で内部当籤役を決定する内部当籤役決定手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される内部抽籤処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　複数の表示列を含み、各表示列に設けられた図柄を変動表示する変動表示手段と（図１０に示すメイン処理で呼び出される回胴回転開始処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）、
　遊技者による停止操作（例えば、ストップボタンを押下する操作）の検出を行う停止操作検出手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記内部当籤役決定手段の決定結果と、前記停止操作検出手段による停止操作の検出とに基づいて、前記図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（図１７９に示すメイン処理で呼び出される回胴停止制御処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を備え、
　前記変動表示手段の変動表示は、遊技価値を付与するための遊技変動（通常の遊技）と、遊技価値を付与することが無い疑似変動（疑似遊技）とがあり、
　前記停止制御手段は、前記遊技変動のために前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行し、
　前記遊技制御手段は、
　前記疑似変動での前記図柄の変動表示を停止させるための制御処理を実行する疑似停止制御手段と、

前記停止操作検出手段による停止操作の検出が有効か否かを判断するための停止操作検出入力監視手段（例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を更に有し、

前記停止制御手段、及び前記疑似停止制御手段はそれぞれ、前記停止操作検出入力監視手段を実行して前記停止操作が有効か否かを判定する（通常の遊技と疑似遊技において、共通の処理（すなわち、例えば、図２１５に示すストップボタン入力監視処理）を実行する）ように構成される。

【２７８１】

このような本発明の構成によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７８２】

本発明によれば、所定の情報を遊技前の情報に戻すバックアップ復帰処理と、当該所定の情報をバックアップするバックアップ処理を一部共通化し、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このように、プログラムの共通化を進めることで、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７８３】

また、本発明によれば、入賞払出処理が行われた場合や、精算処理が行われた場合に、共通の払出処理が使用されるので、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、このような、共通の払出処理が使用されることにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７８４】

また、本発明によれば、使用領域外作業領域のＲＡＭ初期化範囲を決定する際に、遊技機の状態等を判定しないので、その分プログラムサイズを小さくすることができ、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、上記のような構成によって、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができるため、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７８５】

またさらに、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理に関し、一部を共通化するため、メインＲＯＭのプログラム領域の容量が圧迫されることを軽減することができる。また、本発明によれば、通常の遊技と疑似遊技の処理を一部共通化することにより、プログラムの構成や記述をより簡潔なものとすることができ、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させることができる。

【２７８６】

＜付記Ａ－９＞

従来、複数の図柄が夫々の周面に配された複数のリールと、各リールに対応するように設けられ、各リールの周面に配された複数の図柄のうちの一部の図柄を遊技者が視認可能なように表示する複数の表示窓と、メダルが投入されていることを条件に、遊技者による操作（以下「開始操作」という）を検出すると、各リールの回転の開始を要求する信号を出力するスタートスイッチと、遊技者による操作（以下「停止操作」という）を検出すると、リールの種別に応じて当該リールの回転の停止を要求する信号を出力するストップスイッチと、スタートスイッチ及びストップスイッチにより出力された信号に基づいて、ステッピングモータの動作を制御し、各リールの回転及びその停止を行う制御部と、を備えたパチスロ機からなる遊技機が知られている。通常、このようなパチスロ機では、複数の表示窓により表示される図柄の組合せに基づいて、入賞か否かが判別され、入賞と判別されるとメダルがホッパーから払い出されてメダル受け部に貯留される。

【２７８７】
　また、電源投入時に、ＲＡＭのチェックを行い、ＲＡＭの異常を検出した場合に、その異常の解除を促す報知を行う遊技機が開示されている（例えば、特開２００６－３２６２０３号公報）。
【２７８８】
　しかしながら、上記のような遊技機では、ホール店舗のスタッフが遊技機の電源をオンすると、即座に異常があることを報知するため、不正行為（いわゆる、ゴト行為）が行われた場合でも、すぐに異常が解除されてしまうため、当該不正行為を行った者がこの遊技機を使用することがなく、不正行為を行う者を発見できない。
【２７８９】
　本発明は、上記のような点に鑑みてなされたものであり、不正行為の対象となった遊技機で、その不正行為を行った者が遊技を開始できるようにした遊技機を提供することを目的とする。
【２７９０】
　また、本発明は、メインＲＡＭのチェックに係る処理プログラムのサイズを小さくし、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫しないように構成された遊技機を提供することを目的とする。また、メインＲＡＭのチェックに係る計算処理をメインＣＰＵ以外で行うことで、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとし、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させ、またさらに、メインＣＰＵの負荷を低減させることを目的とする。
【２７９１】
　上記目的を達成するため、本発明は、以下の遊技機を提供する。
（Ａ－９－１）本発明の第１の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。
【２７９２】
　演算回路（例えば、メインＣＰＵ２１０１）、リードメモリ（例えば、メインＲＯＭ２１０２）、リードライトメモリ（例えば、メインＲＡＭ２１０３）、及び乱数値を発生させる乱数回路（例えば、乱数回路２１１０、乱数回路２１５０）を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、主制御基板２０７１）と、
　設定値を変更、又は確認するために設けられた設定スイッチ（例えば、設定用鍵型スイッチ）と、を備え、
　前記遊技制御手段は、
　遊技の進行に伴うメイン処理を行うメイン処理手段（例えば、図１７９に示すメイン処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　一定周期で処理を実行する定期処理手段（例えば、図１９５に示す定期割込み処理を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内（メインＲＡＭ２１０３の所定領域）の演算を行い、演算結果を前記リードライトメモリの前記特定アドレス範囲以外の演算結果格納領域（ＣＲＣ値格納領域２１０３ｅ）に記憶する範囲演算手段（例えば、図１９９の電断割込み処理で呼び出される、図２００のＣＲＣ生成処理（使用領域外）を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
前記リードライトメモリの特定アドレス範囲内の演算を行い、演算結果と前記演算結果格納領域に記憶された演算結果との照合を行う範囲照合手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記設定値が格納された設定値格納領域と、
　前記遊技制御手段のエラーを検出するエラー検出手段（例えば、図１８１に示すＣＲＣ検査処理（使用領域外）、及び図１９８に示す設定値チェック処理（使用領域外）を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、
　前記エラー検出手段がエラーを検出した場合に、エラー処理を行うエラー処理手段（例えば、図１８３に示す遊技復帰不可能エラー処理（使用領域外）を実行するメインＣＰＵ２１０１）と、を有し、

前記エラー検出手段は、前記乱数回路の異常を検出した場合、又は、前記設定値格納領域に格納された設定値が予め定められた値とは異なる値の場合に、エラーフラグ（例えば、遊技復帰不可能エラーフラグ）にエラー（「復帰不可」を表すデータ）をセットし、
前記遊技制御手段は、
前記範囲照合手段により照合不一致が検出された場合に、前記エラー処理手段を実行し（例えば、図１８０に示す電源投入時処理で遊技復帰不可能エラー処理を呼び出し）、
前記メイン処理（例えば、内部抽籤処理のなか）で、前記エラーフラグにエラーがセットされていた場合に前記エラー処理手段（例えば、図１８０に示す電源投入時処理で遊技復帰不可能エラー処理を呼び出し）を実行することを特徴とする遊技機。
【２７９３】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２７９４】
（Ａ－９－２）本発明の第２の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７９５】
前記遊技制御手段は、電源投入時に電源投入に伴う電源投入処理を実行する電源投入手段をさらに有し、
前記範囲照合手段は、前記電源投入手段によって実行するよう制御され（例えば、図１８０に示す電源投入時処理で実行され）、
前記遊技制御手段は、
前記範囲照合手段により照合不一致が検出された場合に、前記メイン処理手段が前記メイン処理を行う前に、前記エラー処理手段を実行するよう制御する（例えば、図１８０に示す電源投入時処理で、ＣＲＣ異常の場合に遊技復帰不可能エラー処理を呼び出す）ように構成される。
【２７９６】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２７９７】
（Ａ－９－３）本発明の第３の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２７９８】
前記エラー検出手段は、前記定期処理手段によって一定周期で実行され（例えば、図１９５に示す定期割込み処理で実行され）、
前記遊技制御手段は、
前記エラーフラグにエラーがセットされた場合に、遊技者によって遊技の開始が指示された後で（例えば、遊技者がスタートレバーを操作した後で）、前記エラー処理手段を実行するよう制御する（例えば、図１８８に示す内部抽籤処理で、遊技復帰不可能エラー処理を呼び出す）ように構成される。
【２７９９】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定するこ

とができる。
【２８００】
（Ａ－９－４）本発明の第４の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２８０１】
前記遊技制御手段のマイクロプロセッサ（例えば、マイクロプロセッサ２１００）が、前記演算回路、前記リードメモリ、及び前記リードライトメモリを備え、
前記乱数回路は、前記マイクロプロセッサに備えられた第１乱数回路と、前記マイクロプロセッサの外部に配置された第２乱数回路を含み、
前記エラー検出手段は、前記第１乱数回路と前記第２乱数回路のどちらかに異常を検出した場合に、前記エラーフラグにエラーをセットするように構成される。
【２８０２】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８０３】
（Ａ－９－５）本発明の第５の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。
【２８０４】
前記エラー検出手段は、前記第１乱数回路と前記第２乱数回路に対し、それぞれ異なる方法で異常を検出するように構成される。
【２８０５】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８０６】
（Ａ－９－６）本発明の第６の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２８０７】
前記遊技制御手段は、電源電圧の低下を検出すると電源断絶処理を実行する電源断絶手段をさらに有し、
前記範囲演算手段は、前記電源断絶手段によって実行するよう制御され、
前記遊技制御手段は、前記範囲照合手段により照合不一致が検出されていない場合であっても、前記範囲演算手段が実行されていないと判定された場合は（例えば、電断発生フラグがオフになっている場合）、前記エラー処理手段を実行する（例えば、図１８０に示す電源投入時処理で遊技復帰不可能エラー処理を呼び出す）ように構成される。
【２８０８】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８０９】
（Ａ－９－７）本発明の第７の実施態様に係る発明は、第１の実施態様において下記の構成を有する。
【２８１０】

前記エラー処理手段が行うエラー処理は、
エラーの内容を表示部に表示し、
前記遊技を開始させる操作を受け付けない待機状態を維持するように構成される。
【２８１１】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８１２】
（Ａ－９－８）本発明の第８の実施態様に係る発明は、第７の実施態様において下記の構成を有する。
【２８１３】
前記待機状態において、電源をオフにした後、電源をオンにする際に前記設定スイッチで所定の操作を行うと、設定値を変更、又は確認する処理が実行され、前記メイン処理が実行されるように構成される。
【２８１４】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８１５】
（Ａ－９－９）本発明の第９の実施態様に係る発明は、第８の実施態様において下記の構成を有する。
【２８１６】
前記待機状態において、電源をオフにした後、電源をオンにする際に前記設定スイッチで所定の操作を行わないと、再び前記待機状態になるように構成される。
【２８１７】
このような本発明の構成によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。
【２８１８】
（Ａ－９－１０）本発明の第１０の実施態様に係る発明は、第４の実施態様において下記の構成を有する。
【２８１９】
前記マイクロプロセッサは、巡回冗長検査回路をさらに有し、
前記マイクロプロセッサは、前記特定アドレス範囲内の演算を前記巡回冗長検査回路に行わせるために、前記巡回冗長検査回路に対して前記特定アドレス範囲内のデータを送信し、前記巡回冗長検査回路から、当該演算の演算結果を受信するように構成される。
【２８２０】
このような本発明の構成によれば、メインＲＡＭのチェックに係る計算処理をメインＣＰＵ以外で行うことで、メインＲＡＭのチェックに係る処理プログラムのサイズを小さくし、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫しないようにすることができる。また、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとし、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させ、またさらに、メインＣＰＵの負荷を低減させることができる。
【２８２１】
（Ａ－９－１１）本発明の第１１の実施態様に係る発明は、第１０の実施態様において下

記の構成を有する。

【２８２２】

前記巡回冗長検査回路に対して送信される前記特定アドレス範囲内のデータは、前記リードライトメモリにおいて連続しない複数の領域のデータを含み、

前記巡回冗長検査回路から受信する前記演算結果は、単一のデータであるように構成される。

【２８２３】

このような本発明の構成によれば、メインＲＡＭのチェックに係る計算処理をメインＣＰＵ以外で行うことで、メインＲＡＭのチェックに係る処理プログラムのサイズを小さくし、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫しないようにすることができる。また、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとし、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させ、またさらに、メインＣＰＵの負荷を低減させることができる。

【２８２４】

本発明によれば、不正行為が行われた場合に、当該不正行為を実行した時点で遊技復帰不可能エラーが発生することがなく、その後の、単位遊技の開始時に遊技復帰不可能エラーが発生するので、不正行為を行った者が、当該不正行為が成功したと勘違いした状態で遊技機を開始し、その結果、不正行為を行った者をその場で特定することができる。

【２８２５】

また、本発明によれば、メインＲＡＭのチェックに係る計算処理をメインＣＰＵ以外で行うことで、メインＲＡＭのチェックに係る処理プログラムのサイズを小さくし、メインＲＯＭのプログラム領域を圧迫しないようにすることができる。また、メインプログラムの構成や記述をより簡潔なものとし、当該プログラムの開発効率やメンテナビリティを向上させ、またさらに、メインＣＰＵの負荷を低減させることができる。

【２８２６】

［１０．遊技性等に関するその他の拡張例］

上述のとおり、本実施形態では、遊技機（例えば第１の遊技機など）の仕様や機能等を例示して遊技性についての説明を行ったが、その遊技性に関する仕様や機能等は上述のものに限定されず、種々の変更・拡張が可能である。以下、あくまで一例であるが、そのような拡張例について説明する。なお、この項において説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【２８２７】

（拡張例１：有利区間払出数カウンタの初期値について）

上述のとおり、本実施形態では、有利区間中のメダル枚数の増減に応じて有利区間払出数カウンタのカウンタ値が更新される（例えば、図２８のステップＳ１０１、図３１のステップＳ１５１など）。また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づき、有利区間の開始時から最もメダル数の絶対値が減った地点を最下点として、直近の最下点からのプラス分が規定値（例えば、「２４００」枚など）となったときには、有利区間を強制的に終了させて非有利区間に移行させる（ＡＴ状態の遊技期間が残存する場合であってもＡＴ状態を終了させる）制御が行われ得る払出数リミッタ（例えば、図３０のステップＳ１４３、Ｓ１４４など）を搭載した遊技機を例示した。しかし、払出数リミッタとしては、これに限らず、例えば有利区間の開始時を起点（±０）とし、遊技の進行（メダルの増減）に応じてカウントされた有利区間払出数カウンタの値が規定値となったときに、有利区間を強制的に終了させて非有利区間に移行させる制御が行われ得るものであってもよい。

【２８２８】

このように構成した場合において、有利区間が開始してからメダルが増加せず減少したときには、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が負の値となるが、遊技機としては当該負の値を正確に管理・特定する必要がある。しかし、一般的に、負の値を管理・特定するためには、正の値のみを管理する場合と比較して、より多くのデータ量を要することとな

る。また、特定種別の遊技機（例えばメダルレス遊技機などの機種）について、例えばゲーム数リミットを搭載せずにゲーム数によっては有利区間を終了させないようにした場合には、長期間（例えば、１週間～２週間）に亘り１度も有利区間が終了せずに維持されて負の値（吸い込み枚数）が大きくなることが想定される。このため、有利区間払出数カウンタとしては、データ量を抑制しつつも極力広い範囲でカウント可能とすることにより、メダルの減少数である吸い込み枚数（遊技者側の負け枚数）を極力多くカウントできるように設計することが望ましい。そこで、有利区間払出数カウンタとして、例えば、２バイトカウンタを用いて、吸い込み枚数を含む差枚数を０～６５５３５の範囲の正の値によりカウントする例を示す。なお、規定値として「２４００」枚が設定されている例を示すが、前述したように規定値は、「２４００」枚以下の払出数であれば任意の払出数を設定可能である。

【２８２９】

図２２３は、有利区間払出数カウンタの初期値として複数種類の値を設定した場合の差枚数の推移例を説明するための図である。縦軸は、差枚数である有利区間払出数カウンタのカウンタ値を示しており、横軸は、遊技の進行（時間軸）を示している。図２２３（ａ）は、有利区間が開始されるときの初期値として１０００を設定した場合の推移例であり、図２２３（ｂ）は、初期値として６５０００を設定した場合の推移例であり、図２２３（ｃ）は、初期値として６３１３５を設定した場合の推移例であり、図２２３（ｄ）は、初期値として２４００を設定した場合の推移例である。なお、図２２３（ａ）～図２２３（ｃ）では、有利区間払出数カウンタを、投入で減算カウントし払出で加算カウントする例を示し、図２２３（ｄ）では、有利区間払出数カウンタを、投入で加算カウントし払出で減算カウントする例を示している。

【２８３０】

有利区間払出数カウンタは、前述したとおり０～６５５３５の範囲でカウントできる。図２２３（ａ）に示すように、初期値として１０００を設定した場合、３４００を越えたときに払出数リミッタの制御が行われる。一方、遊技が進行してメダルが増加せず減少したときには、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が減少するため、図２２３（ａ）に示すように右下がりとなる。しかし、有利区間払出数カウンタは、０までしかカウントできない。このため、仮に図２２３（ａ）に示すように、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達してから以降においてもメダルが減少した後に、ＡＴ状態などの有利状態に制御されたとしても、獲得可能となる最大数が３４００枚となり、図２２３（ａ）に示すＡ分（遊技者が投入したがカウントされなかった枚数分）について遊技者に還元されることはない。このため、有利区間払出数カウンタの初期値として１０００が設定された場合には、遊技者にとっては不利となる一方、遊技場にとっては有利となる。

【２８３１】

次に、図２２３（ｂ）に示すように、有利区間払出数カウンタの初期値として６５０００が設定された場合、遊技が進行してメダルが増加せず減少したときで図２２３（ｂ）に示すように右下がりとなっても、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達するまで差枚数をカウント可能となり、図２２３（ａ）と比較して、吸い込み枚数分を還元できる範囲が広くなり、ＡＴ状態などの有利状態に制御されることにより獲得可能となる最大数が６５５３５枚となる。しかし、有利区間払出数カウンタは、６５５３５までしかカウントできず、６５５３５に達したときに払出数リミッタの制御が行われる。このため、仮に有利区間の開始直後にＡＴ状態などの有利状態に制御されるとすぐに（純増５３５枚で）有利区間が終了することになる。

【２８３２】

そこで、純増数が規定値である２４００となったときに６５５３５となる値、すなわち６３１３５（＝６５５３５－２４００）を有利区間払出数カウンタの初期値に設定した場合、仮に有利区間の開始直後にＡＴ状態などの有利状態に制御されたときであっても、純増数が規定値である２４００に達するまでに有利区間が終了することはない。

【２８３３】

また、遊技が進行してメダルが増加せず減少したときで図２２３（ｃ）に示すように右下がりとなっても、図２２３（ｃ）に示すようにタイミングＸにおいてＡＴ状態などの有利状態に制御されたときには、獲得可能となる最大数が、規定値である２４００とタイミングＸまでの吸い込み枚数の合計Ｙとなり、タイミングＸまでの吸い込み枚数について遊技者に還元可能となる。

【２８３４】

さらに、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達するまで差枚数をカウント可能となり、図２２３（ａ）と比較して、吸い込み枚数分を還元できる範囲が広くなり、ＡＴ状態などの有利状態に制御されることにより獲得可能となる最大数が６５５３５枚となる。一方で、有利区間払出数カウンタは、０までしかカウントできない。このため、仮に図２２３（ｃ）に示すように、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達してから以降においてもメダルが減少した後に、ＡＴ状態などの有利状態に制御されたとしても、獲得可能となる最大数は６５５３５枚のままとなり、図２２３（ｃ）に示すＡ枚（遊技者が投入したがカウントされなかった枚数分）について遊技者に還元されない。しかし、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達する吸い込み枚数である６３１３５枚とは、一般的な遊技場における営業期間内において、当該遊技機において常に遊技が行われた状態（フル稼働状態）で１週間以上ＡＴ状態などの有利状態に制御されなかったときに到達し得るような極めて到達し難い枚数である。このため、一般的な遊技場を想定した場合において、吸い込み枚数が６３１３５枚に達することは現実的に起こり得ず実害はない。その結果、６３１３５が有利区間払出数カウンタの初期値に設定された場合、遊技者および遊技場のいずれか一方のみが有利あるいは不利になることを防止でき、遊技者および遊技場間におけるバランスの均衡を図ることができる。

【２８３５】

図２２３（ｃ）では、有利区間払出数カウンタを、投入で減算カウントし払出で加算カウントする場合に初期値として最も好ましい値を例示した。これに対して、図２２３（ｄ）では、有利区間払出数カウンタを、投入で加算カウントし払出で減算カウントする場合に初期値として最も好ましい値を例示する。図２２３（ｄ）では、純増数が規定値である２４００となったときに０となる値、すなわち２４００（＝０＋２４００）が有利区間払出数カウンタの初期値に設定された場合を示している。この場合においても、仮に有利区間の開始直後にＡＴ状態などの有利状態に制御されたときであっても、純増数が規定値である２４００に達するまでに有利区間が終了することはない。

【２８３６】

また、遊技が進行してメダルが増加せず減少したときで図２２３（ｄ）に示すように右上がりとなっても、図２２３（ｄ）に示すようにタイミングＸにおいてＡＴ状態などの有利状態に制御されたときには、獲得可能となる最大数が、規定値である２４００とタイミングＸまでの吸い込み枚数の合計Ｙとなり、タイミングＸまでの吸い込み枚数について遊技者に還元可能となる。

【２８３７】

さらに、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が０に達するまで差枚数をカウント可能となり、図２２３（ａ）と比較して、吸い込み枚数分を還元できる範囲が広くなり、ＡＴ状態などの有利状態に制御されることにより獲得可能となる最大数が６５５３５枚となる。一方で、有利区間払出数カウンタは、６５５３５までしかカウントできず、６５５３５に達する吸い込み枚数を超える枚数については遊技者に還元されないこととなる。しかし、図２２３（ｃ）で説明したように、一般的な遊技場を想定した場合において、吸い込み枚数が６３１３５枚に達することは現実的に起こり得ず実害はない。その結果、２４００が有利区間払出数カウンタの初期値に設定された場合、遊技者および遊技場のいずれか一方のみが有利あるいは不利になることを防止でき、遊技者および遊技場間におけるバランスの均衡を図ることができる。

【２８３８】

図２２３（ｃ）および図２２３（ｄ）では、有利区間払出数カウンタとして２バイトカ

ウンタを用いて、少なくとも払出数リミッタの規定値分について遊技者に還元可能でありかつ吸い込み枚数についても最大限に還元可能となる有利区間払出数カウンタの初期値を例示した。しかし、有利区間払出数カウンタの初期値は、払出数リミッタの規定値などを考慮して設定されるものであればこれに限らず、払出数リミッタの規定値に加えて遊技機の仕様（例えば出玉性能など）を考慮して設定されるものであってもよい。図２２４では、遊技機の出玉性能のうちＡＴ状態における１遊技当りの平均純増枚数を考慮して有利区間払出数カウンタの初期値を設定する場合を例示する。

【２８３９】

図２２４では、遊技機の仕様として、払出数リミッタの規定値が２３２６に設定され、有利区間において遊技可能となる上限ゲーム数が４０００に設定され、有利区間払出数カウンタのカウント範囲が４３８４～１８７９０に設定され、ＡＴ状態における１遊技当りの平均純増枚数が２．２枚となるように設定されている場合を例示する。このような仕様の遊技機では、理論上、１回の有利区間の全期間においてＡＴ状態であったとしても、平均８８００枚（＝４０００×２．２）となる。また、実際には当籤確率や入賞確率などにある程度のブレが生じることを考慮し、１回の有利区間の全期間においてＡＴ状態であった場合の枚数として、約１．５倍となる１２０００枚と見積ることができる。

【２８４０】

図２２４に示すような仕様の遊技機において、有利区間払出数カウンタを投入で減算カウントし払出で加算カウントする場合、有利区間払出数カウンタの初期値を、例えば有利区間払出数カウンタのカウント範囲の上限値から払出数リミッタの規定値を差し引いた１６４６４（＝１８７９０－２３２６）に設定するものであってもよい。これにより、仮に有利区間の開始直後にＡＴ状態などの有利状態に制御されたときであっても、純増数が規定値である２３２６に達するまでに有利区間が終了することはない。また、吸い込み枚数としては、１２０８０（＝１６４６４－４３８４）まで管理でき最大数として還元できる。一方で、遊技が進行してメダルが増加せず減少して有利区間払出数カウンタのカウント値が下限値の４３８４に達したときには、１２０８０以上（実際の吸い込み枚数）の還元はできない。しかし、有利区間払出数カウンタのカウント値が下限値に達している時点から有利状態（例えば、ＡＴ状態やボーナス作動中などメダルが増加する遊技状態）が開始されて全期間においてＡＴ状態となったとしても、規定値に達することなく（払出数リミットの制御が開始されることなく）前述のように１回の有利区間において最大純増数として見積もった１２０００枚を獲得することが可能となる。これにより、遊技者は吸い込み枚数などの限界値を気にすることなく遊技できる。

【２８４１】

なお、ゲーム数リミットを搭載していない特定種別の遊技機の場合には、ＡＴ状態が極めて長いゲーム数に亘り続くこともあり得る。このため、有利区間払出数カウンタのカウント範囲を広げるとともに、より多くの吸い込み枚数を還元可能となるように、有利区間払出数カウンタの初期値を設定してもよい。例えば、有利区間払出数カウンタのカウント範囲を０～６５５３５とし、規定値を２３２６とした場合、有利区間払出数カウンタの初期値を６３２０９（＝６５５３５－２３２６）に設定することにより、吸い込み枚数として６３２０９まで還元可能となるようにしてもよい。

【２８４２】

また、電源投入時からの所定期間における毎ゲーム終了時のメダルが最も減少したとき（ベットしたメダルと払い出されたメダルとに基づく差数を累計した累計数の最下値）を基準（基点）として、当該基準からのメダルの増加数（基点からの累計数、これを以下では「ＣＭＰ＿ＭＹ」と称する）が上限数（例えば、１９０００）に達したときに、遊技の進行を不能化するコンプリート機能（詳細については後述する）を備える遊技機の場合には、払出数リミットの規定値と吸い込み枚数との合計が上限数（例えば、１９０００）以上であったとしても、払出数リミットの制御が行われるまでにコンプリート機能が作動し得ることとなる。このため、有利区間払出数カウンタのカウント範囲を例えば０～１９０００とし、規定値を２４００とした場合、有利区間払出数カウンタの初期値を１６６００

（＝１９０００－２４００）に設定することにより、下限値ＭＡＸを－１６６００枚とし、吸い込み枚数として１６６００まで還元可能となる。その結果、コンプリート機能による打止によってＡＴなどで獲得できるはずの枚数が獲得できないといった事象を抑制しつつ、コンプリート機能によって還元できない吸い込み枚数の範囲まで無駄に有利区間払出数カウンタのカウンタ値を更新させてしまうことを防止できる。

【２８４３】

また、払出数リミッタは、規定値（例えば２３２６や２４００、以下、第１の規定値ともいう）に達したときに行われるもの（有利区間終了）に限らず、これに加えて、特定の状態（例えばメイン遊技状態が低ＲＴであってなおかつボーナス非作動中の場合など）においては、第１の規定値とは異なる第２の規定値に達したときに行われる（有利区間終了）ようにしてもよい。第２の規定値は、例えば、第１の規定値（２３２６）よりも小さい値（例えば２２８５など）が定められているものであってもよい。これは、有利区間中の通常時において例えばボーナス（純増１２０枚程）とＡＴ状態とを行き来する機種において、ボーナス中に指示機能にかかる抽籤（例えば、ＡＴ抽籤など）も行うため、あと少しの純増で払出数リミッタが作動するという状況でボーナスを引いてしまうと遊技者にとって損となり不満感を抱かせてしまう虞がある。これを回避するために、特定の状態（例えばメイン遊技状態が低ＲＴであってなおかつボーナス非作動中の場合など）の場合には、第１の規定値よりも少し早めのタイミングとなる第２の規定値に達することにより有利区間を打ち切ることができる。

【２８４４】

また、有利区間払出数カウンタのカウント値が規定値まで所定数となる所定値に達したときには、払出数リミッタの制御が開始されるまでの間において、予め定められているエンディング状態に移行（エンディング演出実行）するようにしてもよい。この場合の所定値は、例えば初期値＋２１７６に定められているものなどであってもよい。また、有利区間において遊技されたゲーム数が上限ゲーム数（４０００）まで特定数となる特定値に達したときには、ゲーム数リミッタの制御が開始されるまでの間において、予め定められているエンディング状態に移行（エンディング演出実行）するようにしてもよい。この場合の特定値は、例えば３８６８に定められているものなどであってもよい。

【２８４５】

（拡張例２：有利区間払出数カウンタの初期化について）

上述のとおり、前述の実施形態（拡張例１を含むすべての実施形態）では、設定変更時に例えば図２４のＳ２３や図１８０のＳ２０３６などで示したとおり初期化処理が行われて、メインＲＡＭ１０３における指定格納領域のデータ（有利区間払出数カウンタのカウンタ値を含む）がクリア（初期化）される例について説明した。しかし、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が、初期値から減少方向に更新されており吸い込まれている状態においてクリアされると、最大払出数が減少するため遊技者にとって不利となるとともに、吸い込み枚数が還元されることに対する期待を抱くことができないために設定変更後の稼働率を低下させてしまう虞がある。遊技者が使用（消費）したメダル数（差枚数）によって指示機能に係る性能が変動する遊技機においては、例えば、ＡＴが当選しないまま遊技場における営業が終了した場合であっても、設定変更が行われてクリアされてしまう可能性があるために、次の日に使用したメダル数が還元されることに対する期待感を遊技者に抱かせることができないか半減させてしまう虞がある。また、遊技場における営業が終了したときの遊技機の状態（差枚数）に応じて設定変更を行うことが可能となることから、遊技場の管理者などが意図的もしくは意図せずに遊技者側が不利となる状態に設定できてしまう虞がある。

【２８４６】

このような不具合を解消するために、有利区間払出数カウンタのカウンタ値については、設定変更によってはクリアせずに、その後も維持されるようにしてもよい。具体的には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を、例えばメインＲＡＭ１０３における指定格納領域以外の設定変更時にクリアされない領域において格納・更新するようにしてもよい。

これにより、遊技者が不利となることや、稼働率を低下させてしまうことを防止できる。例えば、遊技者が使用（消費）したメダル数（差枚数）によって指示機能に係る性能が変わる遊技機においては、ＡＴが当選しないまま遊技場における営業が終了した場合であっても、次の日は使用したメダル数のＡＴを期待して遊技者は遊技に臨むことができることに加えて、設定変更が行われた場合であっても指示機能に係る性能の変化にも期待できるため、稼働率の向上に大きく寄与する。また、遊技場の管理者などが意図的もしくは意図せずに客が不利となる状態に設定できてしまうことを防止できる。これに対して、有利区間払出数カウンタに関連するパラメータ以外のＡＴ関連パラメータは、設定変更によってクリアされる。

【２８４７】

ここで、図２２５を参照して、契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否の具体例１～３を説明する。図２２５では、有利区間払出数カウンタの処理として、有利区間払出数カウンタの初期化（初期値設定）の可否、メダルの増減に応じて有利区間払出数カウンタのカウンタ値を更新するカウンタ更新処理の可否、ＡＴ抽籤などにおける有利区間払出数カウンタのカウンタ値参照の可否、および、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を特定するためのカウンタ情報送信の可否が例示されている。また、契機としては、ＲＷＭクリア後の起動時、遊技場管理者による操作のうち特定ボタン等への操作時、遊技場管理者による設定変更時、遊技中のうち通常区間中（非有利区間中）、通常区間（非有利区間）から有利区間への移行時、遊技中のうち有利区間中、有利区間において規定値である２４００枚到達による有利区間終了時、および、有利区間において任意の契機成立（ＡＴ状態終了など）による有利区間終了時が例示されている。

【２８４８】

「ＲＷＭクリア後の起動時」とは、いわゆるラムクリア手順（例えばリセットボタン押下したまま電源投入で設定値維持のまま設定変更時と同様の領域を初期化）を搭載している遊技機における当該ラムクリア手順によるラムクリア後ではなく、工場出荷時やＲＷＭエラー後の電源投入時などにおけるＲＷＭを初期化して起動させたときである。また、「特定ボタン等への操作時」とは、設定変更操作以外の特定の操作部が操作されたとき（例えばラムクリア手順など）であり、遊技場管理者などが意図して初期化に加担できるようにするものである。

【２８４９】

図２２５（ａ）～図２２５（ｃ）に示す具体例１～３では、各々、有利区間払出数カウンタの処理の種類と、契機の種類とが交差する欄内において、当該契機において当該処理を行うことが必須である場合に「必須」が示され、当該契機において当該処理を行うことができる場合に「可」が示され、当該契機において当該処理を行うことができない場合に「不可」が示されるとともに、※により特記事項が示されている。具体例１～３では、いずれも、設定変更時における有利区間払出数カウンタの初期化が「不可」に定められているが、その他の事項について具体例１～３毎に以下説明する。

【２８５０】

まず、図２２５（ａ）に示す具体例１では、有利区間払出数カウンタの初期化が、設定変更時のみならず特定ボタン等への操作時においても不可に定められているのに対して、通常区間から有利区間への移行時や、任意の契機成立による有利区間終了時においても可に定められている。このため、有利区間移行時と終了時に有利区間払出数カウンタを初期化するか否かが定まる（判定させる）ため、遊技者に不利かどうかの判断を機械側で管理させることができる。また、通常区間から有利区間への移行時や、任意の契機成立による有利区間終了時において有利区間払出数カウンタの初期化をしないようにすることにより、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を次の有利区間に持ち越す（維持）させることができる。さらに、ＲＷＭクリア後の起動時においては有利区間払出数カウンタの初期化が必須に定められている。

【２８５１】

また、具体例１では、遊技中の通常区間中におけるカウンタ更新処理が「必須」に定め

られており、非有利区間においても遊技の進行に応じて有利区間払出数カウンタが更新可能となる。つまり、具体例１では、通常区間（非有利区間）であるか有利区間であるかを問わず、常時、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が更新される。これにより、実際の吸い込み枚数をより正確に特定することができる。

【２８５２】

また、遊技中の通常区間中におけるカウンタ更新処理を「必須」とすることにより、例えば、指示機能に係る性能に設定差を設けず、有利区間中のゲーム数が全体のゲーム数の７割未満（有利区間滞在比率７０％未満）となるように定められた遊技機（いわゆる７Ｕタイプの遊技機）の設計幅を広げることができ、遊技性を多様化できる。その理由を以下に説明する。

【２８５３】

７Ｕタイプの遊技機では、有利区間滞在比率７０％未満という制限が課せられるため、非有利区間に３０％以上滞在させるように設計する必要がある。一方で、非有利区間においては、内部当籤役を参照した有利区間移行抽籤以外のＡＴ関連処理を行うことができず、押し順を参照してペナルティを課すことができない。このため、非有利区間においては、変則押しで遊技を進行させたとしてもペナルティが課されることがない。その結果、いわゆる偏りベル（例えば正解押し順が中第一停止あるいは右第一停止となるベルの当籤確率が高い）などを搭載してしまうと非有利区間における出玉率が高まるため、低ベース化を図ることができない。

【２８５４】

しかし、前述したように遊技中の通常区間中におけるカウンタ更新処理を行うことができ、非有利区間における吸い込み枚数を更新できるように構成した場合、７Ｕタイプの遊技機においても、非有利区間で吸い込ませた方がその後の有利区間移行後に結果的にＡＴの恩恵が大きくなるように設計することにより、いわゆる偏りベルを搭載させたとしても、非有利区間中でも低ベースとなる左第一停止を順守させることができ、非有利区間中でも遊技者に低ベースの打ち方を促すことができる。つまり、通常区間において例えば設計段階において意図せぬ押し順で停止操作されてしまうような不都合の発生を抑止あるいは防止できる。その結果、指示込役物比率による制約を取っ払って設計することができる７Ｕタイプの遊技機の設計幅を広げることができ、遊技性を多様化できる。

【２８５５】

次に、図２２５（ｂ）に示す具体例２は、有利区間払出数カウンタの初期化と、有利区間の初期化とが同じとなるように一対一に対応させた例である。このため、有利区間払出数カウンタの初期化は、通常区間から有利区間への移行時に不可に定められ、任意の契機成立による有利区間終了時においては必須に定められている。また、有利区間払出数カウンタの初期化は、特定ボタン等への操作時や設定変更時のいずれにおいても不可に定められているが、設定変更時の※に示すように有利区間にかかわる情報についての初期化も不可となるように定められている。これにより、有利区間中に設定変更が行われた場合でも、有利区間払出数カウンタとともに有利区間にかかわる情報を維持できる。なお、有利区間中に設定変更が行われた場合には、有利区間にかかわる情報を維持するが、仮にＡＴ状態中であった場合にはＡＴ状態中の演出から開始されることを防止するための情報に更新等する処理や、ＡＴ状態にかかわるＡＴ情報を初期化する処理などを行うようにしてもよい。

【２８５６】

また、具体例２では、有利区間中における設定変更時において、有利区間払出数カウンタのカウンタ値参照が可に定められている。これにより、有利区間中における設定変更時において、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照してＡＴ抽籤などを行うことができる。その結果、例えば、有利区間中における設定変更時において、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して、規定値までの残り数や吸い込み枚数などに応じた態様（有利度合いが異なる態様）でＡＴ抽籤（天井ゲーム数抽籤など）を行うことができ、設定変更後の遊技者が極力損をしないように（不利にならないように）設計することができる。

【２８５７】
図２２５（ｃ）に示す具体例３は、有利区間払出数カウンタの初期化が、特定ボタン等への操作時や設定変更時のいずれにおいても不可に定められているが、具体例２と異なり設定変更時の※に示すように有利区間にかかわる情報についての初期化は必須となるように定められている。これにより、有利区間中に設定変更が行われた場合には、有利区間払出数カウンタを維持する一方で、有利区間払出数カウンタ以外の有利区間にかかわる情報（ＡＴ関連パラメータ）については初期化できる。
【２８５８】
なお、遊技機は、契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否について、具体例１～３のいずれかに定められているものであってもよく、有利区間払出数カウンタの処理毎に具体例１～３のいずれか（任意の組合せ）となるように定められているものであってもよく、契機後に具体例１～３のいずれか（任意の組合せ）となるように定められているものであってもよく、具体例１～３に示されていない組合せに定められているものであってもよい。
【２８５９】
図２２５では、有利区間払出数カウンタの初期化などについて説明したが、有利区間払出数カウンタ以外のデータのうち、クリアの契機毎に当該クリアの対象外となるデータを例示する。図２２６は、契機毎にクリアの対象外となるデータ（保持されるデータ）の一例を説明するための図である。図２２６では、クリアの契機として、有利区間終了時などの初期化時と、設定変更時とを示している。有利区間終了時などの初期化時における遊技者に不利とならないように保持する必要のあるデータには、例えば、ボーナス役の当籤フラグなどの役物及び役物連続作動装置に係る条件装置作動状態を特定するためのデータや、ボーナス中などの役物及び役物連続作動状態を特定するためのデータ、ＲＴなどの再遊技確率抽せん状態を特定するためのデータ、クレジットなどの貯留枚数を特定するためのデータが含まれる。また、有利区間終了時などの初期化時における動作不良を起こさないようにハード構成上保持する必要のあるデータには、例えば、ステッピングモータの励磁制御などに用いる回胴励磁情報や、発生しているエラーなどを特定するためのエラーに係る情報、役比モニタ装置５４に表示する各種の情報を特定するための役比等表示モニタに係る情報が含まれる。
【２８６０】
これに対して、設定変更時における遊技者に不利とならないように保持してもよいデータには、例えば、役物及び役物連続作動装置に係る条件装置作動状態を特定するためのデータや、役物及び役物連続作動状態を特定するためのデータ、再遊技確率抽せん状態を特定するためのデータが含まれる。なお、図示していないが、図２２５などで説明済のとおり、設定変更時における遊技者に不利とならないように保持してもよいデータには、有利区間払出数カウンタのカウント値が含まれる。また、設定変更時におけるハード構成上保持してもよいデータには、例えば、回胴励磁情報や、役比等表示モニタに係る情報が含まれる。
【２８６１】
（拡張例３：有利区間払出数カウンタ維持の場合における設定変更時の挙動例について）
上述のとおり、前述の実施形態（拡張例１および２を含むすべての実施形態）では、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を、設定変更によってはクリアせずに、その後も維持される例として具体例１～３を例示した。このうち、例えば具体例３の場合における設定変更時の挙動について説明する。図２２７は、具体例３の場合における設定変更時の状態遷移を示す図である。
【２８６２】
図２２７に示すように、有利区間中であるときに設定変更が行われたときには、図２２５（Ｃ）の設定変更時の※に示す有利区間にかかわる情報（例えば、有利区間払出数カウンタ以外のＡＴ関連パラメータ）についての初期化が必須に定められているため、非有利区間に遷移し、その後有利区間移行条件が成立することにより有利区間に移行する。一方

、設定変更時には、図２２５（Ｃ）の設定変更時および通常区間中（非有利区間中）の有利区間移行時に示すように有利区間払出数カウンタの初期化が不可に定められている。また、通常区間中におけるカウンタ更新処理は不可に定められている。このため、設定変更時の有利区間払出数カウンタのカウンタ値が、非有利区間から移行された有利区間に引き継がれることとなる。

【２８６３】

なお、図２２５に示す具体例１～３における設定変更時には、有利区間払出数カウンタの初期化が不可に定められており、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を維持する例を示したが、これに限らず、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して当該カウンタ値を維持するか初期値を設定するかを判定するようにしてもよい。

【２８６４】

第１の例として、設定変更時には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して当該カウンタ値が初期値であるか否かを判定して、初期値であるときにはカウンタ値に改めて初期値を格納（あるいは初期値を維持）する一方、初期値でないときには現在のカウンタ値が初期値よりも大きい値であるか小さい値であるかにかかわらず当該カウンタ値を維持するようにしてもよい。

【２８６５】

第２の例として、設定変更時には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して当該カウンタ値が初期値よりも減少方向の値であって吸い込み枚数が生じているか否かを判定して、初期値よりも減少方向の値ではなく吸い込み枚数が生じていないときにはカウンタ値に改めて初期値を格納する一方、初期値よりも減少方向の値であって吸い込み枚数が生じているときには現在のカウンタ値を維持するようにしてもよい。これにより、設定変更後において獲得可能となる最大数が規定値に満たないといった遊技者にとって不利となる状況を回避できる。

【２８６６】

第３の例として、設定変更時には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して当該カウンタ値が初期値よりも増加方向の値であって吸い込み枚数が生じていないか否かを判定して、初期値よりも増加方向の値であって吸い込み枚数が生じていないときにはカウンタ値に改めて初期値を格納する一方、初期値よりも増加方向の値ではなく吸い込み枚数が生じているときおよび初期値であるときには現在のカウンタ値を維持するようにしてもよい。これにより、設定変更後において獲得可能となる最大数が規定値に満たないといった遊技者にとって不利となる状況を回避できる。

【２８６７】

第４の例として、上記第１～第３の例などに加えて、設定変更時において有利区間払出数カウンタのカウンタ値が維持などされた結果、設定変更後の吸い込み枚数が所定枚数以上となる場合に、当該カウンタ値として初期値から減少方向に所定枚数分となる値を設定（補正）するようにしてもよい。所定枚数は、例えば、還元可能となる最大枚数として許容し得る範囲内の枚数であり、設定変更後に還元可能とする枚数を１万枚とする場合には、７６００（＝１００００－２４００）となる。例えば、設定変更の際に有利区間払出数カウンタのカウンタ値が吸い込み枚数２万となる値であった場合には、吸い込み枚数が７６００となる値（初期値が６３１３５のときには５５５３５）に補正されることとなる。また、所定枚数は、例えば、設定変更後に還元可能とする枚数をコンプリート機能（詳細については後述する）作動となる上限数の１９０００枚とする場合には、１６６００（＝１９０００－２４００）となる。例えば、設定変更の際に有利区間払出数カウンタのカウンタ値が吸い込み枚数２万となる値であった場合には、吸い込み枚数が１６６００となる値（初期値が６３１３５のときには４６５３５）に補正されることとなる。これにより、ひとつの目安として規定値に所定枚数を加えた合計枚数を還元できる状態からスタートさせることである程度の出玉を許容することができる一方、還元可能となる枚数が極端に多くなり過ぎてしまうことを防止できる。

【２８６８】

なお、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を参照して当該カウンタ値を維持するか初期値を設定するかを設定変更時に判定して維持・設定等する例を示したが、これに限らず、設定変更時に判定して、初期値を設定すると判定されたときには設定フラグをオン状態とし、有利区間移行時に設定フラグがオン状態であるか否かを判定して、オン状態であるときに初期値を格納し、オン状態でないときにはカウンタ値が維持されるようにしてもよい。

【２８６９】

（拡張例４：仕様例について）

前述の実施形態（拡張例１～３を含み得るすべての実施形態、以下では単に実施形態ともいう）で説明した遊技機についての仕様例を以下に列挙する。なお、実施形態で説明した遊技機に対して、以下に記載する仕様例のいずれかを適用するものであってもよく、２つ以上の仕様例を適用するものであってもよい。

【２８７０】

（１ゲームにおけるＡＴ付与の一撃抑制仕様）

上記実施形態のように構成した場合、例えば、ＡＴ状態開始の起点において、カウントされた値がマイナス５０００枚であれば、差枚数が「５０００枚＋２４００枚」を超える（すなわち、「７４０１」枚以上となる）まで払出数リミッタは作動しない。このため、払出数リミッタ以外のリミッタを搭載しないことを前提とすると、このような状況でＡＴ状態の開始が決定された場合であって、例えば、有利区間の終了までＡＴ状態が継続すること（断続的に継続する態様を含む）が決定された場合には、事実上、遊技者にはＡＴ差枚数７４００枚という特典が付与されることになる。このとき、例えば、「ＡＴ差枚数７４００枚ＧＥＴ」などと演出して大量獲得をアピールする仕様とすることも可能である。しかしながら、１ゲームの契機であまりにも大量のメダルを獲得できる仕様とした場合は、射幸性を適切に抑制できないおそれがある。

【２８７１】

そこで、１ゲームにおけるＡＴ付与処理（ＡＴ状態を付与する（初当りさせる）ことを決定する処理のみならず、ＡＴ状態を延長する（上乗せする）ことを決定する処理も含む）において付与しうるＡＴ期待値（差枚数）が特定値を超えないように制限した（いわゆる「一撃」で特定値を超えるＡＴ差枚数が付与されることを抑制する）設計とすることが望ましい。例えば、１ゲームにおけるＡＴ付与処理で付与しうるＡＴ期待値は３０００枚以下とするなどとして設計することが望ましい。なお、特定値の値はあくまで一例であり、出玉率や射幸性の度合い等を総合して任意の値に設定することができる。例えば、規定値と同じ２４００枚としてもよいし、規定値を超える他の任意の値（３６００枚や４８００枚）としてもよい。また、付与の態様は種々の態様を採用することができる。

【２８７２】

例えば、ＡＴ状態を差枚数で管理する場合（差枚数管理の場合）には、そのまま３０００枚を超えるＡＴ差枚数が付与されないようにすればよいし、ＡＴ状態をゲーム数で管理する場合（ゲーム数管理の場合）には、１ゲームあたりの純増枚数の期待値を考慮し、これが例えば１ゲームあたり３枚であれば、１０００ゲームを超えるＡＴゲーム数が付与されないようにすればよい。また、例えば、ＡＴ状態をセット数で管理する場合（セット数管理の場合）には、１セットあたりのゲーム数も考慮し、これが例えば１セットあたり１００ゲーム（上述の如く、１ゲームあたりの純増枚数の期待値は３枚）であれば、１０セットを超えるセット数が付与されないようにすればよい。

【２８７３】

この技術思想は、例えば以下のように整理することができる。

【２８７４】

有利区間開始時を起点として規定値（例えば、２４００枚）を超える遊技価値が増加したときに当該有利区間を終了させる差数リミッタ（例えば、払出数リミッタ）を備える遊技機において、前記差数リミッタに用いられる差数カウンタ（例えば、有利区間払出数カウンタ）により計数された遊技価値の減少数（例えば、有利区間開始からの吸い込み枚数

（遊技者側の負け枚数））が所定値（例えば、５０００枚）であっても、１ゲームのＡＴ付与処理において付与し得るＡＴ状態中の遊技価値の付与期待値は、前記所定値よりも少ない特定値（例えば、３０００枚）以下となるように構成され、前記所定値と前記規定値を加算した値（例えば、７４００枚）は、前記特定値を上回る場合がある遊技機である。

【２８７５】

上記構成の遊技機によれば、射幸性を適切に抑制できるという効果を奏する。

【２８７６】

（一撃抑制に関連する表現規制仕様）

上記実施形態のように構成した場合、上述のとおり、射幸性抑制の観点から、１ゲームで付与されるＡＴ期待値（ここでは一例のＡＴ差枚数）は特定値（ここでは一例の３０００枚）を超えないようにすることが望ましく、また、同様の観点から、１ゲームで３０００枚を超えるＡＴ差枚数が付与された旨が報知される演出（例えば、上述の「ＡＴ差枚数７４００枚ＧＥＴ」といったような演出。以下「一撃演出」とする）も行われないようにすることが望ましい。

【２８７７】

ところで、このような制限下でも、実際には１ゲームで付与されたものではないが（例えば、数ゲームの累積結果として付与されたものであるが）、演出の表現上、結果的に１ゲームで３０００枚を超えるＡＴ差枚数が付与されたかのようにみえる報知は行われる可能性がある。しかしながら、そのような報知により、遊技者が１ゲームで３０００枚を超えるＡＴ差枚数が付与されたと誤認してしまうことがあるとすれば、そのような報知は一撃演出に該当するおそれがある。そこで、上述の制限を適切に機能させる（射幸性を適切に抑制する）ためには、そのような一撃演出に該当するおそれのある演出表現も制限される（実行されない）ことが望ましい。

【２８７８】

ここで、一撃演出に該当するおそれがある演出表現の一例を以下に説明する。ここでは、例えば、ＡＴ差枚数が付与される３ゲーム間の付与期間があり、１～３ゲーム目のそれぞれでＡＴ差枚数が付与され（例えば、それぞれのゲームで１２００枚ずつＡＴ差枚数が付与されたものとする）、３ゲーム目で３０００枚を超えるＡＴ差枚数（例えば、３６００枚）が付与された旨が報知されるものとする。

【２８７９】

第１の演出例は、１ゲーム目・２ゲーム目では、付与期間に滞在している旨のみ（あるいは、ＡＴ差枚数が付与された旨のみ）が報知され、３ゲーム目で、同様の報知が行われた後、付与期間で付与されたＡＴ差枚数が３６００枚であった旨が報知される（結果報知が行われる）演出表現である。この場合、結果報知以外では付与されたＡＴ差枚数について具体的な報知が行われていないため、最終的な結果報知をみると、一撃で３６００枚のＡＴ差枚数が付与されたと誤認してしまうおそれがある。したがって、この場合の結果報知は一撃演出に該当するおそれがあることから、このような演出表現は制限されることが望ましい。

【２８８０】

なお、同様の演出表現であっても、例えば、上記の結果報知において、「１ゲーム目：プラス１２００枚、２ゲーム目：プラス１２００枚、３ゲーム目：プラス１２００枚、合計：プラス３６００枚」といったように、付与期間のそれぞれのゲームで付与されたＡＴ差枚数について具体的な報知が行われ、当該ゲームの結果報知はその累計を示すものに過ぎないと十分に認識され得る演出表現であれば、これは一撃演出に該当するおそれはないものとし、制限しなくともよいと考えられる。

【２８８１】

第２の演出例は、１ゲーム目・２ゲーム目では、それぞれのゲームで１２００枚のＡＴ差枚数が付与された旨が報知され（経過報知が行われ）、３ゲーム目で、同様の経過報知が行われた後、付与期間で付与されたＡＴ差枚数が３６００枚であった旨が報知される（結果報知が行われる）演出表現である。この場合、経過報知により付与されたＡＴ差枚数

について具体的な報知が行われているため、最終的な結果報知をみても、一撃で３６００枚のＡＴ差枚数が付与されたと誤認してしまうおそれはないと考えられる。したがって、このような演出表現は制限しなくともよいと考えられる。

【２８８２】

第２の演出例に示すように、例えば、各ゲームで付与されたＡＴに関する特典が特定量未満（例えば、ＡＴ期待値が３０００枚未満の値であるＡＴ差枚数１２００枚）であることが各ゲームで報知された後に、一連の上乗せ期間（付与期間）での特典の合計量が特定量を超える旨が報知される（例えば、ＡＴ期待値３０００枚を超えるＴＯＴＡＬ３６００枚ＧＥＴといった表示がなされる）といった演出表現を行うことで、１ゲームで特定量を超える特典が付与されたと遊技者が誤認することを抑制して過度の射幸性を適切に抑制しつつ、発生した特典の量を適切に遊技者に理解させることができるという効果を奏する。なお、これは、この項において制限しなくともよいとして説明した他の演出表現の一例についても同様である。

【２８８３】

なお、例えば、上記の経過報知において、付与されたＡＴ差枚数について具体的な報知はなくとも、付与されたＡＴ差枚数が段階的に増加していることを示唆可能な報知（例えば、宝玉の数が追加されていく、あるいはメーターが増加していく等）は行われ、結果報知がそれに基づいて行われるもの（例えば、異なる単位遊技で獲得した宝玉が一個ずつ割れてＡＴ差枚数が加算されていく、あるいはメーターの目盛に順次ＡＴ差枚数を表す数字が表記されていく等）であれば、これは一撃演出に該当するおそれはないものとし、制限しなくともよいと考えられる。

【２８８４】

（吸い込み枚数を参照したＡＴ付与性能の変化仕様）

上記実施形態のように構成した場合、上述のとおり、例えば、ＡＴ状態開始の起点において、カウントされた値がマイナス１０００枚であるとき（吸い込み枚数（例えば、有利区間払出数カウンタの初期値よりも減少したメダル枚数、遊技者側の負け枚数など）が１０００枚であるとき）には、差枚数が「１０００枚＋２４００枚」を超える（すなわち、「３４０１」枚以上となる）まで払出数リミッタは作動しない。また、例えば、ＡＴ状態開始の起点において、カウントされた値がマイナス５０００枚であるとき（吸い込み枚数が５０００枚であるとき）には、差枚数が「５０００枚＋２４００枚」を超える（すなわち、「７４０１」枚以上となる）まで払出数リミッタは作動しない。

【２８８５】

すなわち、払出数リミッタ以外のリミッタを搭載しないことを前提とすると、ＡＴ状態開始の起点において、より多くの枚数を吸い込んでいたとき（カウントされた値のマイナスがより大きいとき）のほうが、払出数リミッタの作動が遠のくことになり、同じ有利区間中に獲得できる遊技価値の数は多くなる。そのため、そのような吸い込み枚数に応じて、ＡＴ付与性能を変化させる構成としてもよい。なお、払出数リミッタ以外に有利区間開始からの経過ゲーム数に応じて有利区間を終了させるゲーム数リミッタ（例えば、３０００ゲームや４０００ゲーム経過でリミッタを作動させるもの等）を搭載する遊技機であっても、同様に吸い込み枚数に応じてＡＴ付与性能を変化させる構成としてもよい。ＡＴ状態における１ゲームあたりの純増枚数とゲーム数リミッタによる有利区間終了までの残りゲーム数を考慮した結果、ＡＴ状態が途中で打ち切られることが無い程度に有利区間終了までの残りゲーム数が確保されている場合は、吸い込み枚数が多い状況ほど遊技者にとって払出数リミッタの作動が遠のくといえるためである。

【２８８６】

例えば、吸い込み枚数が相対的に多いときのほうが、吸い込み枚数が相対的に少ないときよりも、（イ）ＡＴ当籤確率が高くなる、（ロ）ＡＴの有利度合い（例えば、獲得期待値や継続期待値）が高くなるといったように、特典の一例であるＡＴについてのＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにしてもよい。具体的には、吸い込み枚数が特定の閾値・特定枚数以上であるときには、吸い込み枚数が特定の閾値・特定枚数未満であると

きよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにしてもよい。また、吸い込み枚数が特定範囲であるときには、吸い込み枚数が特定範囲と異なる範囲（例えば、特定範囲未満となる範囲、特定範囲を超える範囲など）であるときよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにしてもよい。

【２８８７】

例えば、吸い込み枚数が５０００枚であるときのほうが、吸い込み枚数が１０００枚であるときよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにすればよい。すなわち、吸い込み枚数が５０００枚などの所定数以上であるときには、吸い込み枚数が５０００枚などの所定数未満のときよりも、ＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにしてもよい。また、有利度合いを高める態様は種々の態様を採用できる。例えば、（イ）のみを採用することもできるし、（ロ）のみを採用することもできる。また、（イ）及び（ロ）の両方を採用することもできる。なお、吸い込み枚数が相対的に少ないときのほうが、吸い込み枚数が相対的に多いときよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにして、吸い込み枚数が極端に多くなることを抑制してもよい。

【２８８８】

また、吸い込み枚数が特定の枚数以上である場合に限って移行し得る特別ＡＴ状態を設けてもよい。例えば、６００枚以上の吸い込みがある場合に限り期待値３０００枚の特別ＡＴ状態に当籤可能になる等の仕様としてもよい。すなわち、吸い込み枚数が６００枚などの特定数未満のときにはＡＴ抽籤対象に含まれない遊技者にとって有利な特別ＡＴ状態への移行を、吸い込み枚数が６００枚などの特定数以上であるときにはＡＴ抽籤対象に含めることにより、吸い込み枚数が６００枚などの特定数以上であるときの有利度合いが高まるようにＡＴ付与処理を行うようにしてもよい。なお、特別ＡＴ状態とは必ず払出数リミッタ（差枚数リミッタ）到達までの枚数（例えば、６００枚＋２４００枚＝３０００枚）が獲得できるＡＴであってもよいし、期待値が３０００枚となるＡＴであって３０００枚以下の純増で終了することがあり得るＡＴであってもよい。また、特別ＡＴ状態であっても当該特別ＡＴ状態中の展開（例えば、上乗せに成功したかなど）により２４００枚以下の獲得で終了することがあり得るものであってもよい。また、特別ＡＴ状態の期待値は、吸い込み枚数に応じて可変（変動）し得るものであってもよい。例えば、６００枚吸い込んだ状態であれば期待値３０００枚、１６００枚吸い込んだ状態であれば期待値４０００枚などとなるように、特別ＡＴ状態の期待値が吸い込み枚数に応じて可変（変動）し得るものであってもよい。また、有利区間払出数カウンタの値を直接１枚単位で期待値に反映させてもよいし、第１の閾値は６００～１５９９枚、第２の閾値は１６００～２５９９枚などといったように、複数の閾値を設けて有利区間払出数カウンタの値によって把握される吸い込み枚数がどの閾値に合致するかを判定して特別ＡＴ状態の期待値（有利度合い）を決定可能としてもよい。また、吸い込み枚数が６００枚以上という条件を満たせばそれ以上の吸い込み枚数に関係なく特別ＡＴ状態は期待値３０００枚などとして一撃の出玉性能を適切に抑えるものでもよい。さらに、このような特別ＡＴ状態を複数種類設けて、吸い込み枚数に応じて期待値が変化する特別ＡＴ状態と、吸い込み枚数に応じて期待値が変化しない特別ＡＴ状態とを含む複数種類の特別ＡＴ状態のいずれかに制御可能となるもの（例えば、移行条件に応じた種類の特別ＡＴ状態に制御するものや、移行条件に応じたテーブルを参照して抽籤で決定された種類の特別ＡＴ状態に制御するものなど）であってもよい。

【２８８９】

また、吸い込み枚数が特定の枚数以上である場合に限って当籤し得るＡＴゲーム数を設けてもよい。例えば、６００枚以上の吸い込みがある場合に限りＡＴゲーム数として３０００ゲームが当籤可能になる等の仕様としてもよい。すなわち、吸い込み枚数が６００枚などの特定数未満のときにはＡＴ抽籤対象に含まれない遊技者にとって有利なＡＴゲーム数を、吸い込み枚数が６００枚などの特定数以上であるときにはＡＴ抽籤対象に含めることにより、吸い込み枚数が６００枚などの特定数以上であるときの有利度合いが高まるようにＡＴ付与処理を行うようにしてもよい。

【２８９０】
　また、吸い込み枚数に応じてＡＴ付与性能を変化させる場合、例えば、吸い込み枚数０～５００枚、５０１～１０００枚、１００１～２０００枚、２００１～３０００枚、３０００枚以上といったように吸い込み枚数の閾値（範囲）に応じて異なるＡＴ抽籤テーブルが参照されることで、ＡＴ付与処理の有利度合いを変化させるようにすればよい。例えば、吸い込み枚数が大きい範囲である程、ＡＴ付与処理の有利度合いが高まるように、吸い込み枚数の範囲に応じたＡＴ抽籤テーブルが定められているものであってもよい。また、この場合、有利区間開始を起点としたカウント値がプラスである（吸い込み枚数が逆にマイナスとなる）ときにも、その純増枚数（あるいは負の値となる吸い込み枚数）の閾値（範囲）に応じて異なるＡＴ抽籤テーブル（例えば、純増枚数０～５００枚、５０１～１０００枚、１００１～２４００枚で異なるテーブル）が参照されることで、ＡＴ付与処理の有利度合いを変化させるようにしてもよい。なお、この場合には、純増枚数が相対的に少ないときのほうが、純増枚数が相対的に多いときよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まるようにすればよい。
【２８９１】
　また、吸い込み枚数に応じてＡＴ付与性能を変化させる場合、例えば、吸い込み枚数０～５００枚（以下では第１範囲という）、５０１～６００枚（以下では第２範囲という）、６０１～１０００枚（以下では第３範囲という）、１００１～１１００枚（以下では第４範囲という）、１１０１～１５００枚（以下では第５範囲という）、１５０１～１６００枚（以下では第６範囲という）・・・といったように吸い込み枚数の範囲に応じて異なるＡＴ抽籤テーブルが参照されることで、ＡＴ付与処理の有利度合いを変化させるようにすればよい。例えば、吸い込み枚数が第１範囲よりも大きい第２範囲では、第１範囲よりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まり、吸い込み枚数が第３範囲よりも大きい第４範囲では、第３範囲よりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まり、吸い込み枚数が第５範囲よりも大きい第６範囲では、第５範囲よりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まるようにＡＴ抽籤テーブルが定められているものであってもよい。この場合に、吸い込み枚数が大きい範囲である程、ＡＴ付与処理の有利度合いが高まるように、第３範囲では、第２範囲よりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まり、第５範囲では、第４範囲よりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まるようにＡＴ抽籤テーブルが定められているものであってもよい。つまり、ＡＴ付与処理の有利度合いは、吸い込み枚数が大きい範囲である程大きく、例えば、第６範囲＞第５範囲＞第４範囲＞第３範囲＞第２範囲＞第１範囲となるものであってもよい。また、これに限らず、ＡＴ付与処理の有利度合いは、ＡＴ付与処理の有利度合いは、例えば、第６範囲＞第４範囲＞第２範囲＞第１範囲＝第３範囲＝第５範囲となるものであってもよく、第６範囲＝第４範囲＝第２範囲＞第１範囲＝第３範囲＝第５範囲となるものなどであってもよい。
【２８９２】
　また、拡張例１～３に示したように有利区間払出数カウンタが設定変更で初期化されないようにした場合には、設定変更で初期化される場合と比較して、吸い込み枚数が大きくなりやすくなる。このため、上記のように有利区間払出数カウンタのカウンタ値（差枚数）に応じて所定条件（例えば、所定数あるいは特定数以上であるか否か、吸い込み枚数が大きい範囲であるか否かなど）を満たすときに、ＡＴ付与処理の有利度合いを変化させる仕様を採用した場合には、有利区間払出数カウンタが設定変更で初期化されないことによる恩恵（優遇措置）を遊技者が受けやすくなる。例えば、１０００枚以上の吸い込みでＡＴ付与抽籤が優遇される場合に、１０００枚以上吸い込んだ値に更新されている有利区間払出数カウンタが設計変更時においても初期化されないため、設定変更後においても優遇状態のままで遊技者は遊技できる。
【２８９３】
　また、ＡＴ付与処理は、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に加えて、他のパラメータの値に基づいて、有利度合いを変化させる（異ならせる）ようにしてもよい。他のパラメータとしては、有利区間中における遊技の進行に応じて更新可能なものであればよく、

例えば以下のものであってもよい。
１：ＡＴ抽籤に係る有利度合いに関する状態（低確・高確・超高確）やモード
２：ＲＴ状態
３：ボーナスの作動に関する遊技状態。非持越中、ボーナス持越中、ボーナス作動中やボーナスの種別など
４：ＣＺ当籤回数やＣＺに当籤したもののＣＺでＡＴ当籤しなかったというＣＺ連続失敗回数
５：前回（直近）の当り（ＡＴやボーナス）終了からの消化ゲーム数
６：有利区間中の遊技の進行に応じて更新されるポイント。ハマリゲーム数に応じたポイントや所定小役の当選回数や入賞回数、あるいは取りこぼし回数などに応じて付与/更新されるポイント、当籤役に応じて付与/更新されるポイントなど。ポイントとは例えばＡＴ抽籤やＣＺ抽籤などにおいて参照されるポイントであって多い程有利な態様で抽籤されることになるポイントなど。
７：直近に消化した所定ゲーム数（例えば、５００、１０００ゲームなど）における吸い込み枚数。有利区間払出数カウンタに基づく吸い込み枚数のうち直近に消化した所定ゲーム数（例えば、１０００ゲームなど）における吸い込み枚数が占める割合。
８：今回の有利区間開始時を起点とする差枚数（純増枚数、吸い込み枚数）。なお、１回目の有利区間の場合には有利区間払出数カウンタと同じとなるため除く。
９：ＡＴ中の場合には今回のＡＴ開始時を起点とする純増枚数。今回の有利区間開始時を起点とする差枚数（純増枚数、吸い込み枚数）のうち今回のＡＴ開始時を起点とする純増枚数が占める割合。有利区間払出数カウンタに基づく吸い込み枚数のうち今回のＡＴ開始時を起点とする純増枚数が占める割合。
【２８９４】
　また、ＡＴ付与処理の有利度合いを変化させる手法はこれに限られない。例えば、異なるＡＴ抽籤テーブルを設けるのでなく、吸い込み枚数（あるいは、増加枚数）に応じた変数（例えば、抽籤値そのものであってもよいし、基準の抽籤値に対して所定の演算を行うための値であってもよい）を規定し、その値を参照してＡＴ付与処理を行うことで、ＡＴ付与性能を変化させるものとしてよい。ＡＴ付与処理の手法自体は任意であり、吸い込み状況に応じてＡＴ付与性能を変化させ、多彩な遊技性が実現可能となるものであれば上記以外の手法も採用することができる。また、ＡＴ付与処理の有利度合いを有利区間払出数カウンタのカウンタ値から特定される吸い込み枚数に応じて変化させる例を示したが、これに限らず、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に準ずる所定カウンタのカウンタ値から特定される吸い込み枚数（負け数）に応じてＡＴ付与処理の有利度合いを変化させるものであってもよい。所定カウンタとしては、例えば投入時と払出時とにおいて基本的に有利区間払出数カウンタと同じ態様で更新されるが、押し順ナビが行われたゲームにおいては、実際の操作態様にかかわらず（操作ミスした場合であっても）、払い出されることが想定されていた枚数分を更新するものであってもよい。なお、所定カウンタのカウンタ値についても、有利区間払出数カウンタと同様に設定変更時に初期化しないものであってもよく、設定変更時に有利区間払出数カウンタのカウンタ値と同じ値を設定する（同期させる）ものなどであってもよい。
【２８９５】
（吸い込み枚数に関連する演出仕様）
　有利区間中の任意の時期（例えば、非ＡＴ状態で一定の周期ごと、ＣＺ状態でＣＺ失敗となったとき、連続演出でＡＴ非移行が示されたとき、ＡＴ状態が終了したとき、上述の吸い込み枚数の閾値（範囲）が変動したとき等）において、現在の吸い込み枚数を示唆ないし報知可能な演出が実行されるようにしてもよい。なお、当該演出では、現在の吸い込み枚数（その範囲や、何枚以上（あるいは何枚以下）であるといったものを含む）が確定的に報知されるものとしてもよいし、確定的な報知ではないが、出現頻度や態様によって現在の吸い込み枚数を予測可能とするものであってもよい。また、当該演出は、遊技者が事前に特有の情報を持ち合わせている場合に現在の吸い込み枚数（報知内容）を理解でき

、当該特有の情報を持ち合わせていない場合には現在の吸い込み枚数（報知内容）を理解できない演出であってもよく、遊技者が持ち合わせている情報にかかわらず現在の吸い込み枚数（報知内容）を理解である演出であってもよい。

【２８９６】

例えば、上記の拡張例１～３のように構成した場合、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じて演出を実行するようにしてもよい。有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じた演出としては、例えば、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が初期値よりも減少方向の値であって吸い込まれている場合に、初期値よりも吸い込まれている状態であることを示唆する示唆演出を実行するようにしてもよい。当該示唆演出が実行されることにより、初期値よりも増えておらず少なくとも最大数として２４００枚以上還元されることを遊技者が把握可能となる。

【２８９７】

また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じた演出としては、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が特定の閾値である場合に、特定の閾値である旨（可能性）を示唆する示唆演出を実行するようにしてもよい。具体的には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づいて吸い込み枚数が特定枚数（例えば、１０００枚）以上である場合に、特定枚数以上である場合に対応する示唆演出を実行し得るようにしてもよい。これにより、吸い込み枚数が特定枚数以上であることを遊技者が把握可能となる。なお、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づいて吸い込み枚数が特定枚数（例えば、１０００枚）以上である場合には、特定枚数未満であるときよりも高い割合で、特定枚数である旨（可能性）を示唆する示唆演出を実行し得るものであってもよい。また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づいて吸い込み枚数が特定範囲（例えば、１０００枚～３０００枚）内である場合に、特定範囲（例えば、１０００枚～３０００枚）内である場合に対応する示唆演出を実行し得るようにしてもよい。これにより、吸い込み枚数が特定範囲内であることを遊技者が把握可能となる。なお、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づいて吸い込み枚数が特定範囲（例えば、１０００枚～３０００枚）内である場合には、特定範囲（例えば、１０００枚～３０００枚）未満であるときよりも高い割合で、特定範囲である旨（可能性）を示唆する示唆演出を実行し得るものであってもよい。この場合における特定の閾値、特定枚数、および、特定範囲は、“（吸い込み枚数を参照したＡＴ付与性能の変化仕様）”欄で例示したように、ＡＴ付与処理の有利度合いが高まる吸い込み枚数に定められているものであってもよい。

【２８９８】

例えば、特定の閾値である場合には、特定の閾値とは異なる値であるときよりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まるように定められているものであってもよい。また、特定枚数（例えば、１０００枚）以上である場合には、特定枚数未満であるときよりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まるように定められているものであってもよい。また、特定範囲（例えば、１０００枚～３０００枚）内である場合には、特定範囲未満であるときよりもＡＴ付与処理の有利度合いが高まるように定められているものであってもよい。

【２８９９】

また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じた演出としては、有利区間払出数カウンタのカウンタ値のみならず、設定されている設定値とに基づいて実行され得る演出、すなわち、有利区間払出数カウンタのカウンタ値と設定値とに応じた示唆演出であってもよい。具体的には、例えば、ＡＴ状態終了時に示唆演出としてＧＯＬＤアイコンが出現することにより、設定値が４以上でありなおかつ吸い込み枚数が３０００枚以上である旨を示唆するようにしてもよい。

【２９００】

このような演出が実行され得るものとすれば、仮に非ＡＴ状態での滞在が長くなったとしても、吸い込み枚数が多いことが示唆ないし報知されれば、ＡＴ付与性能が高まることを予測し得ることから、遊技の興趣を低下させず、遊技意欲や期待感を高めることができるという効果を奏する。一方で、吸い込み枚数が少ないことが示唆ないし報知された場合

には、遊技をやめるという選択肢を遊技者に与えることもできるため、遊技ののめり込みを防止することもできるという効果を奏する。

【２９０１】

なお、遊技性を高めるという観点から、上記演出においては、吸い込み枚数に替え、あるいはこれとともに、当該有利区間中の滞在ゲーム数（滞在期間）を示唆ないし報知するようにしてもよい。また、当該有利区間中において非ＡＴ状態であったゲーム数（非ＡＴ期間）、若しくは当該有利区間中においてＡＴ状態であったゲーム数（ＡＴ期間）を示唆ないし報知するようにしてもよい。このようにすれば、例えば、遊技店に設置されたデータ表示器に表示される遊技データや、遊技店がそのサイトで公開している遊技データ等も加味しながら、現在の吸い込み枚数を予測するという楽しみを与えることができるという効果を奏する。

【２９０２】

遊技店の開店後の任意の時期（例えば、遊技店の開店直後（最初の１ゲーム目や１００ゲーム目等）、最初のＣＺ状態でＣＺ失敗となったとき、最初の連続演出でＡＴ非移行が示されたとき、最初のＡＴ状態が終了したとき、上述の吸い込み枚数の閾値（範囲）が最初に変動したとき等。なるべく、遊技店の開店後から早期に到来する時期であることが望ましい）において、設定変更が行われたか否かを示唆ないし報知可能な演出が実行されるようにしてもよい。なお、当該演出では、設定変更が行われたことを確定的に報知するものとしてもよいし、確定的な報知ではないが、出現頻度や態様によって設定変更が行われたか否かを予測可能とするものであってもよい。

【２９０３】

例えば、設定変更が行われた場合、有利区間が終了して非有利区間に移行し、吸い込み枚数も初期化されることを前提とすると、このような演出が実行され、設定変更が行われたことが示唆ないし報知されれば、前日の吸い込み枚数は引き継がれていないことが予測できるし、設定変更は行われていないことが示唆ないし報知されれば、前日の吸い込み枚数が引き継がれていないことが予測できるため、上述の如く、現在の吸い込み枚数を予測するという楽しみを与えることができ、また、戦略性に富んだ遊技性を提供することが可能となる。これにより、稼働の促進を図ることができるという効果を奏する。なお、そのような演出が実行されるか否かを、遊技店側がホールメニュー等で設定できるようにしてもよい。そのような演出（例えば、これを「設定据え置き示唆演出」とする）を実行不可に設定した場合は、遊技者に設定変更を見抜かれにくくするという効果を奏する。一方、設定据え置き示唆演出を実行可に設定した場合は、遊技者は有益な情報（勝ちにつながるヒント）を得られることから、その遊技店が優良店であるといったイメージを遊技者に与えることとなるため、集客力を高め得るという効果を奏する。

【２９０４】

有利区間が終了し得る（終了する可能性がある）時期（例えば、ＡＴ状態が終了するとき、ＡＴ状態終了後３２ゲームを消化したとき等）において、当該有利区間が終了する（あるいは終了した）か否かを示唆ないし報知可能な演出が実行されるようにしてもよい。なお、当該演出では、当該有利区間が終了する（あるいは終了した）ことを確定的に報知するものとしてもよいし、確定的な報知ではないが、出現頻度や態様によって当該有利区間が終了する（あるいは終了した）か否かを予測可能とするものであってもよい。

【２９０５】

例えば、上述の区間ランプ（状態表示部）が設けられていない仕様を前提とすると、このような演出が実行され、当該有利区間が終了する（あるいは終了した）ことが示唆ないし報知されれば、その後の遊技で吸い込み枚数が引き継がれていないことが予測できるし、当該有利区間は終了していないことが示唆ないし報知されれば、その後の遊技で吸い込み枚数が引き継がれていることが予測できるようになる。

【２９０６】

そのため、仮に非ＡＴ状態での滞在が長くなった後、ようやくＡＴ状態に移行したがこれがすぐに終了してしまった等の場合に、当該有利区間は終了していないことが示唆ない

し報知されれば、ＡＴ付与性能が高まっていることを予測し得ることから、遊技の興趣を低下させず、遊技意欲や期待感を高めることができるという効果を奏する。一方で、仮にＡＴ状態で一定の遊技価値が獲得できたときに、当該有利区間が終了する（あるいは終了した）ことが示唆ないし報知されれば、吸い込み枚数によってはＡＴ付与性能が高まらないことを予測し得ることから、この場合には、遊技をやめるという選択肢を遊技者に与えることもできるため、遊技ののめり込みを防止することもできるという効果を奏する。

【２９０７】

なお、上述の如く、メイン側で制御する区間ランプ（状態表示部）を設けない構成とした場合であっても、上記のような演出を行い得ることを目的として、サブ側で制御するサブ側区間ランプ（サブ側状態表示部）を設ける構成としてもよい。なお、サブ側区間ランプは、非有利区間から有利区間に移行するとき、あるいは、有利区間において最初にＡＴ状態が開始されるときから点灯が開始され、有利区間が終了して非有利区間に移行するときに消灯するといったように、メイン側で制御する区間ランプと同様の態様で制御されるものであってもよいし、これとは異なる態様で制御されるものであってもよい。これにより、メイン側で区間ランプの制御に係るプログラムを不要としてメイン側のデータの空き容量を増大させることができるという効果を奏する。また、有利区間の滞在に関して遊技者に適切な示唆ないし報知を行うことで吸い込み枚数や有利区間のリセット状況の推測を取り入れた多彩なゲーム性を実現できるという効果を奏する。

【２９０８】

例えば、ＡＴ状態が終了するとき、有利区間は終了しない場合であっても消灯させるか否かについて抽籤が行われ、これに当籤した場合には消灯する、あるいは、ＡＴ状態が終了するとき、有利区間が終了する場合であっても点灯させたままとするか否かについて抽籤が行われ、これに当籤した場合には点灯させたままとするといったように、従来設けられていたメイン側の区間ランプとは異なる挙動をとり得るものとして、遊技性がより多様化するものとしてもよい。なお、上記のような演出は、そのようなサブ側区間ランプを設けることなく、既存の各種演出装置によって行うことができる。すなわち、この項において説明した各種の演出は、遊技者に対して適切に示唆ないし報知が行われ得る限りどのような演出実行手段でも実行され得る。

【２９０９】

（吸い込み枚数として初期値以外の値をセットする仕様）

上記の拡張例１～３のように構成し、さらに吸い込み枚数に応じてＡＴ抽籤の有利度合いが変化する仕様の場合、遊技場で数週間以上の稼働を続けて数万枚吸い込んだ状態と、試験機関おいて初期値から出玉試験を行う場合とで、出玉性能の乖離が生じる虞がある。また、遊技機を稼働させて設計値通りの出玉率となっているか遊技機の製造メーカの社内でテストする場合においても、吸い込み状態での出玉率を把握することが困難となる虞がある。

【２９１０】

そこで、差枚数が大きくマイナスの状況をセットする方法を備えることが望ましい。例えば、ラムクリア手順（例えばリセットスイッチを押下したまま、電源を立ち上げる等）を行った場合は、有利区間払出数カウンタに吸い込み枚数として最大数となる値（マックス値）を設定するなど、吸い込み状態を強制的にセットする機能を持たせるようにしてもよい。

【２９１１】

有利区間払出数カウンタに吸い込み枚数として最大数となる値（マックス値）とは、例えば有利区間払出数カウンタのカウンタ上限値＝６５５３５、初期値＝６３１３５（６５５３５から払出数リミッタを作動させる規定値である２４００を差し引いた値）とし、投入で減算カウントし払出で加算カウントする場合、有利区間払出数カウンタのカウンタ値＝０を意味する。つまり、これ以上の有利区間払出数カウンタを吸い込み枚数の増加方向であるマイナス方向（負け方向）に更新できない値である。

【２９１２】

なお、吸い込み枚数を設定する操作手順は、遊技場管理者などにより操作可能な手順であればラムクリア手順に限らず、例えば、設定キー、リセットスイッチ、電源投入スイッチなどに対する操作による任意の手順（組合せ）を用いてもよい。

【２９１３】

また、操作により設定可能となる吸い込み枚数は、吸い込み状態となる値であれば吸い込み枚数として最大数となる値に限らず、予め定められている値（例えば、マイナス１００００００枚となる５３１３５、マイナス２００００００枚となる４３１３５、第４の例で示した所定枚数：設定変更後に還元可能とする枚数を１万枚とする７６００、設定変更後に還元可能とする枚数をコンプリート機能（詳細については後述する）作動となる上限数の１９０００００枚とする１６６００（＝１９０００－２４００）など）であってもよく、また、予め定められている複数種類の値（例えば、５３１３５、４３１３５…３１３５、０など）のうちから操作（例えば、設定可能な状態にしてリセットスイッチへの操作で選択、スタートレバー７への操作で設定）に応じて決定された値、操作（例えば、設定可能な状態にしてストップボタン８Ｌへの操作で増加、ストップボタン８Ｒへの操作で減少、スタートレバー７への操作で設定）に応じてその都度入力される任意の値などであってもよい。このような吸い込み枚数を設定可能とする機能により、所望の状態（例えば、吸い込み枚数として最大数が設定されている状態、所定のマイナス状態など）から出玉試験や開発中の遊技機による出玉性能の確認を容易に行えるようになるとともに、効率を向上させることができる。

【２９１４】

また、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を維持する場合において、上記のように操作により吸い込み枚数を設定可能とする場合は、設定前の有利区間払出数カウンタのカウンタ値をクリア又は上書きする形で、設定用の吸い込み枚数を設定する。操作により吸い込み枚数を設定可能とする場合であって、例えば吸い込み枚数として最大数となる値以外の値が設定される場合であっても、設定される値として吸い込み枚数がある程度大きいマイナスの値（例えば、初期値から見てマイナス１００００枚、マイナス２００００枚など）とすることにより、それ以前の値が消されたとしても遊技者の不利益は必ずしも大きいものとはならない。

【２９１５】

なお、操作により設定用の吸い込み枚数を設定可能とする場合であっても、設定用の吸い込み枚数が、現在の有利区間払出数カウンタのカウンタ値から特定される吸い込み枚数よりも小さい場合であって、設定用の吸い込み枚数を設定すると吸い込み枚数が小さくなってしまう場合には、吸い込み枚数を設定できないようにし、設定用の吸い込み枚数が、現在の有利区間払出数カウンタのカウンタ値から特定される吸い込み枚数よりも大きい場合であって吸い込み枚数が大きく小さくなってしまう場合に限って、設定用の吸い込み枚数を設定可能となるようにしてもよい。

【２９１６】

（特殊低設定を設ける仕様）

上記の拡張例１～３のように構成し、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を維持する遊技機が遊技場に設置された場合、有利区間払出数カウンタのカウント値が初期値から約マイナス６００００～３００００程度のある程度吸い込んだ範囲で増減する挙動となることが想定される。このため、製造メーカ側は、このような遊技機を出荷する際に多少打ち込みを行い、有利区間払出数カウンタのカウンタ値をマイナスの値としてある程度吸い込ませてから出荷することも想定される。このようにある程度吸い込ませる作業の効率を向上させるために、例えば、吸い込みが早い出玉性能が低い特殊設定値を設けて、当該特殊設定値に設定して出荷前の打ち込みを行うようにしてもよい。

【２９１７】

特殊設定値は、出玉率が例えば８０％前後となるように定められており、設定可能となる設定値のうちで型式試験用の最低出玉率となるように定められている設定値である。遊技機において特殊設定値が設定されているときには、例えば遊技が行われているか否かに

かかわらず腰部パネル１３を常時消灯させる制御や、客待ち状態であるときには腰部パネル１３を常時消灯させる制御など、少なくとも遊技者による遊技がされていない非遊技状態において特殊設定値以外の設定値が設定されているときと異なる態様（区別できる態様）で設定報知演出が実行される。これにより、例えば、実際の遊技場において、特殊設定値が誤って設定されて一般遊技者により遊技が行われてしまうことや、特殊設定値が誤って設定されている遊技機については遊技者が遊技を開始する前に気付くことができる。

【２９１８】

（型式試験時における有利区間払出数カウンタの初期化仕様）

遊技機の型式試験時には、複数の設定値各々において試射試験が行われる。一方、上記の拡張例１～３のように構成し、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を維持する遊技機について、型式試験する際にも有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化できないこととなる。この場合、例えば、製造メーカから試験機関に持ち込まれた試験用の遊技機について、最初に有利区間払出数カウンタのカウンタ値＝初期値のところから、設定値１で試射試験を開始し、次に設定値６に設定値を変更して試射試験を行うような場合には、設定値１の試験で遊技が進行したことによる有利区間払出数カウンタのカウンタ値が、その後の設定値６の試射試験の開始時点の値となってしまう。このため、には、設定値毎に公平な試験開始条件で試験を行うことができず、試験開始条件を統一することが困難となってしまう虞がある。

【２９１９】

このような不具合の発生を防止するために、試験機関において有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化できる機能を搭載することが望ましい。例えば、電源投入後の設定変更処理において、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出していることを条件として（つまり試験機接続状態であると判定していることを条件として）、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化可能とするようにしてもよい。

【２９２０】

第１の例として、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出していないときには、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化しない一方で、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出している状態での設定変更時には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化するようにしてもよい。

【２９２１】

第２の例として、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出している状態での設定変更時であっても、当該設定変更が通常手順での設定変更時であるときには有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化しない一方で、当該設定変更が特別な手順での設定変更時であるときには有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化するようにしてもよい。特別な手順は、通常手順とは異なる手順であればよく、例えば、設定用鍵型スイッチ５２をオン状態としてから特定のボタン（リセットスイッチなど）をオン状態としながら電源をオン状態とする操作などであってもよい。これにより、試験機関が行ないたい試験内容に応じて有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化したりしなかったりすることができる。

【２９２２】

第３の例として、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出していないときには、ラムクリア（同一設定のまま有利区間払出数カウンタを除くＡＴ関連パラメータを初期化する）時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化しない一方で、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出している状態でのラムクリア時には、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化するようにしてもよい。

【２９２３】

第４の例として、試験用端子とＩＦ基板との接続を検出している状態でのラムクリア時であっても、当該ラムクリアが通常手順でのラムクリア時であるときには有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化しない一方で、当該ラムクリアが特別な手順でのラムクリア時であるときには有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化するようにしてもよい。特別な手順は、通常手順とは異なる手順であればよく、例えば、電源投入をした後もリ

セットボタン押下を所定時間（例えば３秒）以上に亘って維持した後に押下を解除する操作などであってもよい。これにより、試験機関が行ないたい試験内容に応じて有利区間払出数カウンタのカウンタ値を初期化したりしなかったりすることができる。

【２９２４】

（吸い込み枚数で天井を設ける仕様）

上述の実施形態においては、有利区間中において前回ＡＴ状態終了から次のＡＴ状態に制御されることなく、前回ＡＴ状態終了から消化したゲーム数が所定の天井ゲーム数（例えば５００ゲームなど。予め定められているゲーム数であってもよく、抽籤で決定されたゲーム数であってもよい。）に到達することによりＡＴ状態に制御する例について説明した。しかし、これに替えてあるいは加えて、有利区間中において前回ＡＴ状態終了から次のＡＴ状態に制御されることなく、有利区間払出数カウンタに基づく前回ＡＴ状態終了からの吸い込み枚数が所定の天井枚数（例えば１０００枚など。予め定められている枚数であってもよく、抽籤で決定された枚数であってもよい。）に到達することによりＡＴ状態に制御するようにしてもよい。また、上記の拡張例１～３のように構成し、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタのカウンタ値を維持する遊技機において、前回ＡＴ状態終了からの吸い込み枚数が所定の天井枚数に到達することによりＡＴ状態に制御するようにしてもよい。これにより、例えば、遊技場における遊技者の立ち回りとして、前日の吸い込み枚数をスランプグラフなどで確認して、天井枚数に近いか否かを予測して、実際に遊技する遊技機を選別するといった面白さを提供することが可能となる。以下に、このような遊技機の一例を説明する。

【２９２５】

図２２８は、設定変更前後における有利区間払出数カウンタの更新例を天井枚数との関係で説明するための図である。図２２８では、有利区間払出数カウンタとして０～６５５３５の範囲において投入で減算カウントし払出で加算カウントするカウンタを用い、初期値として６３１３５を設定し、天井枚数が所定範囲（例えば１００～５０００）から抽籤で決定される場合を例示する。なお、図２２８では、有利区間払出数カウンタに初期値である６３１３５が設定され、初回の天井枚数として１０００に決定されて、次回天井特定値として６２１３５（＝６３１３５－１０００）が設定されているものとする。

【２９２６】

図２２８（ａ）は、有利区間払出数カウンタに初期値が設定されていた状態から、吸い込み枚数が天井枚数である１０００になったときの遷移が示されている。吸い込み枚数が１０００となったことにより、有利区間払出数カウンタのカウンタ値は、６２１３５（＝６３１３５－１０００）になっている。また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が次回天井特定値以下となったことにより天井枚数に達したと判定されることにより、ＡＴ状態に制御されて吸い込まれたメダルが遊技者に還元されることとなる。

【２９２７】

図２２８（ｂ）は、図２２８（ａ）において制御されたＡＴ状態において例えば８６５枚純増して当該ＡＴ状態が終了したときの遷移が示されている。８６５枚純増したことにより、有利区間払出数カウンタのカウンタ値は、６３０００（＝６２１３５＋８６５）になっている。

【２９２８】

図２２８（ｃ）は、ＡＴ状態終了後も有利区間が継続され、次回の天井枚数として再度１０００に決定されて、次回天井特定値として６２０００（＝６３０００－１０００）が設定された状態を示している。なお、次回の天井枚数は、例えば、所定範囲（例えば１００～５０００）の数値に対して当籤確率が振り分けられているテーブルを参照して抽籤により決定されるものであってもよく、また、有利度合いが異なる複数種類のテーブルを設けて現在の有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じたテーブル（有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づく吸い込み枚数が特定カウンタ値（例えば、５０００など）以上であるときに特定カウンタ値未満であるときよりも高い割合で少ない枚数に決定されるテーブル参照）を参照して抽籤により決定されるものであってもよい。また、次回の天井枚

数は、例えば、予め定められた枚数であってもよく、有利区間払出数カウンタのカウンタ値に応じて予め定められている枚数（有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づく吸い込み枚数が特定カウンタ値（例えば、５０００など）以上であるときに特定カウンタ値未満であるときよりも少ない枚数が定められている）であってもよい。

【２９２９】

図２２８（ｄ）は、図２２８（ｃ）に示す状態から、吸い込み枚数が５００になったときの遷移が示されている。吸い込み枚数が５００となったことにより、有利区間払出数カウンタのカウンタ値は、６２５００（＝６３０００－５００）になっている。この状態において、遊技機が設置されている遊技場における営業が終了したものとする。また、営業終了後において、当該遊技機について設定変更されたものとする。設定変更時であっても有利区間払出数カウンタについては初期化されず維持される。また、次回天井特定値についても、有利区間払出数カウンタに準ずる値であるため設定変更時であっても初期化されず維持されるものとする。

【２９３０】

図２２８（ｅ）は、翌営業日における当該遊技機についての状態が示されている。前述したとおり、有利区間払出数カウンタのカウンタ値は、図２２８（ｄ）と同じ６２５００が維持されている。また、次回天井特定値である６２０００についても維持されている。これにより、例えば翌営業日などであっても天井到達による恩恵を引き継ぐことができ、当該翌営業日における吸い込み枚数が５００に達することで天井枚数に達したと判定されることにより、ＡＴ状態に制御させて前日を含めて吸い込まれたメダルが遊技者に還元可能となる。その結果、前述したとおり、遊技場における遊技者の立ち回りとして、前日の吸い込み枚数をスランプグラフなどで確認して、天井枚数に近いか否かを予測して、実際に遊技する遊技機を選別するといった面白さを提供することが可能となる。

【２９３１】

なお、図２２８では、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタとともに初期化されず維持されるデータとして、次回天井特定値を例示したが、これに替えて、例えば、前回ＡＴ終了時における有利区間払出数カウンタのカウンタ値であってもよい。天井枚数が予め定められた枚数である場合には、前回ＡＴ終了時における有利区間払出数カウンタのカウンタ値に基づき改めて次回天井特定値を設定することができる。また、天井枚数を抽籤で決定する場合には、改めて抽籤を行って枚数を決定して次回天井特定値を設定することができる。なお、設定変更時であっても有利区間払出数カウンタとともに初期化されず維持されるデータは、有利区間払出数カウンタに準ずる値であれば上記のものに限るものではなく、また、次回天井特定値および前回ＡＴ終了時における有利区間払出数カウンタのカウンタ値のいずれも初期化せず維持されるようにしてもよい。

【２９３２】

なお、ここまでは、吸い込み枚数で天井を設ける仕様について有利区間払出数カウンタの吸い込み枚数を直接参照して天井の特典（恩恵）を付与する仕様を説明したが、吸い込み枚数と相関関係を有する他のパラメータを参照して、間接的に吸い込み枚数を参照する形で天井の特典を付与するようにしてもよい。例えば、変則押しでペナルティが生じ得る機種において非ＡＴ中に左第一停止で遊技された回数やその回数に通常遊技での１ゲームあたりの減算期待値（例えば、１ゲームにつき２枚）などを乗じた値などを、間接的に吸い込み枚数（差枚数）を参照するためのパラメータとして用いてもよい。また、所定役（例えば、共通１枚役などメダルが確実に減る当籤役や押し順ベル（打順ベル）など非ＡＴ中で期待値がマイナスとなる役など）の成立回数を、間接的に吸い込み枚数（差枚数）を参照するためのパラメータとして用いてもよい。このように間接的に吸い込み枚数（差枚数）を参照することで、実際の吸い込み枚数と天井の発動条件との間にゆらぎが生まれることとなり、例えばデータ表示器などから厳密に吸い込み枚数を把握できる遊技者であってもいつ天井の恩恵が発動するか分かり難くなることで、決まりきった天井を目指す場合と比べて天井待ち遊技での興趣が低下しにくくなる。

【２９３３】

（有利区間払出数カウンタのカウンタ値を表示する仕様）
上述の実施形態において、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を表示する差枚数モニタ装置を搭載するようにしてもよい。差枚数モニタ装置は、例えば、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成されて主制御基板ケースの内部に設けられるもの（例えば、主制御基板７１上に実装されるものや、主制御基板７１に接続された他の基板（例えば、割合表示基板）上に実装されるものなどであってもよい）や、役比モニタ装置５４を兼用するものであってもよい。差枚数モニタ装置は、有利区間払出数カウンタのカウンタ値を常に表示するものであってもよく、役比モニタ装置５４を兼用する場合には有利区間払出数カウンタのカウンタ値を含む各種割合情報を順次表示するものであってもよい。これにより、差枚数の状況を遊技場の管理者などが把握できる。

【２９３４】
また、有利区間払出数カウンタのカウンタ値は、１００枚単位で表示されるようにしてもよい。例えば、４桁の７セグメントＬＥＤのうち、４桁目（千の位に相当）に差枚数の頭文字となる「Ｓ」を表示し、３桁目（百の位に相当）に有利区間払出数カウンタのカウンタ値の万の位の値を表示し、２桁目（十の位に相当）に有利区間払出数カウンタのカウンタ値の千の位の値を表示し、１桁目（一の位に相当）に有利区間払出数カウンタのカウンタ値の百の位の値を表示するようにしてもよい。よって、有利区間払出数カウンタのカウンタ値が、例えば６５５００～６５５３５のいずれかである場合には、「Ｓ６５５」と表示され、当該値が最大値となる。

【２９３５】
以下に有利区間払出数カウンタに関する工夫を列記する。いずれか１つを採用してもよく、矛盾しない範囲で複数を組み合わせて採用してもよい。

【２９３６】
（有利区間払出数カウンタに関する工夫１：再遊技作動時の枚数更新なし）
再遊技に係る図柄組合せが有効ラインに停止表示され、再遊技が作動した時に、有利区間払出枚数カウンタは、加算減算処理を行わずにその時点での値を維持するものとしてもよい。技術的思想として整理すると以下のように表現できる。
「再遊技作動時に差数カウンタ（有利区間払出枚数カウンタ）の更新処理を行わないことを特徴とする遊技機」
このようにすることで、差枚数の変化が生じない再遊技時に処理を行わないことで、メインプログラムを簡素化できる。また、２枚掛け専用で消化する第一種特別役物（例えば、８回の小役入賞又は１２ゲーム消化で終了）があり、通常遊技が３枚掛け専用の場合、１２ゲーム目に再遊技が作動した場合は、次のゲームは通常遊技となるため強制的に３枚掛けとして扱われる。つまり、１２ゲーム目の遊技開始時に２枚ベットして再遊技により３枚が自動ベットされることとなる。このような場合に差枚を更新すると処理が複雑化するといった問題についても、再遊技作動時は有利区間払出枚数カウンタの値を一律で更新しないとすることで、解決を図ることができるという効果を奏する。

【２９３７】
（有利区間払出数カウンタに関する工夫２：超過判定は再遊技や純ハズレでも行う）
リミッタによる有利区間終了となる閾値（有利区間開始から差枚数で＋２４００枚を超過した値）となったかを判定する超過判定は、小役（払出役、遊技価値付与役）の入賞が発生した場合のみ行うものではなく、再遊技役作動時やハズレ時（払出なし、役物、再遊技の作動もなしのハズレ目が有効ライン上に停止）の場合でも全リール停止後に行われるものとすることが望ましい。技術的思想として整理すると以下のように表現できる。
「当籤役を決定可能な役決定手段と、
遊技価値数の増減を認識可能な差数カウンタ（有利区間払出枚数カウンタ）と、
前記差数カウンタが所定の閾値に達したときに有利区間を終了させるリミット手段（２４００枚リミッタ）と、
備え、
前記役決定手段により決定可能な当籤役として、遊技価値の付与にかかる付与役（払出有

の小役）と、再遊技の作動に係る再遊技役と、が少なくとも含まれ、
前記差数カウンタが所定の閾値（有利区間開始から差枚数で＋２４００枚を超過した値。）に達したか否かの到達判定は、再遊技が作動した場合においても行われることを特徴とする遊技機。
前記遊技機であって、前記到達判定は、いずれの特典も付与されないハズレ時であっても行われることを特徴とする遊技機」
　このようにカウンタの値がリミッタ作動に近づく方向での更新がされない遊技（払出をプラスで計算する方式であれば加算処理が行われない遊技。払出をマイナスで計算する方式であれば減算処理が行われない遊技。）であっても、到達判定を行うことで、処理を画一的にすることでメインプログラムの容量を削減できるという効果を奏する。
【２９３８】
（有利区間払出数カウンタに関する工夫３：リミッタ用と出玉処理用で別の差枚数カウンタを設ける）
　差数カウンタ（有利区間払出数カウンタ）を複数持ち、１つはリミッタ作動による有利区間管理用カウンタとして、もう１つはＡＴ関連の判定、抽せんなどに用いる出玉処理用としてもよい。なお、出玉処理用の差数カウンタは複数設けてもよい。技術的思想として整理すると以下のように表現できる。
「遊技価値数の増減を認識可能な第１差数カウンタ（リミッタ用カウンタ）と第２差数カウンタ（出玉用カウンタ）と、
前記第１差数カウンタが所定の閾値に達したときに有利区間を終了させるリミット手段（２４００枚リミッタ）と、
遊技者に有利な停止操作態様を報知可能な特別遊技状態（ＡＴ状態）を制御可能な状態制御手段と、
前記第２差数カウンタの値を参照して前記特別遊技状態に関する特別処理（ＡＴ抽籤等）を実行可能な特別処理手段と、
を備えることを特徴とする遊技機。」
　リミッタ処理は機種により共通であるため、メインプログラムにおいて機種共通のモジュールに記憶し、機種により相違する特別処理を機種固有のモジュールに記憶することで、開発の効率を高めることができるという効果を奏する。
【２９３９】
　特別処理は、ＡＴ抽籤やＡＴ判定以外にも、ＡＴ関連の抽籤状態移行（低確、高確状態の移行やモード移行）の抽籤やＡＴ関連のポイントの付与や、利益の大きなＡＴ状態への移行の許容判定など種々のＡＴ関連判定が挙げられる。
【２９４０】
　また、リミッタ用カウンタは、３枚掛け推奨遊技機での２枚掛け遊技、ゲームフロー上作動しないことが推奨されるボーナスを遊技者が押し順ミスなどで揃えてしまった場合のボーナス作動中、変則押しペナルティ機における変則打ち時などイレギュラーな状態であっても更新されるが、出玉用カウンタはイレギュラーな状態では更新しないものとすることで、仕様上想定していない吸い込みをＡＴ関連の判定に反映させるといった攻略を抑制することができるという効果も奏する。
【２９４１】
　なお、差枚数を参照する処理のうちリミッタ処理以外の全ての判定において出玉用カウンタを参照してもよいが、一部の判定についてはリミッタ用カウンタを参照することとしてもよい。出玉処理の内容に応じて参照先のカウンタを適宜設定してもよい。
【２９４２】
（有利区間払出数カウンタに関する工夫４：リミッタ用は差枚数カウンタとし、別にＭＹカウンタを設けて出玉判定用に用いる）
　前述の工夫３のように複数の差枚カウンタを設ける場合において、出玉用カウンタを差枚数カウンタ（有利区間開始時を基準点として遊技価値の増減を計数可能なカウンタ）に代えてＭＹカウンタ（有利区間開始から最も遊技価値が減った地点を基準点としてそこか

らの増加遊技価値数を把握するカウンタ）を採用してもよい。技術的思想として整理すると以下のように表現できる。
「遊技価値数の増減を認識可能な第１差数カウンタ（リミッタ用カウンタ）と第２差数カウンタ（出玉用カウンタ）と、
遊技者に有利な停止操作態様の報知を可能な有利区間と、該報知が行われない非有利区間を制御する有利区間制御手段と、
前記第１差数カウンタが所定の閾値に達したときに前記有利区間を終了させるリミット手段（２４００枚リミッタ）と、
遊技者に有利な特別遊技状態（ＡＴ状態）を制御可能な状態制御手段と、
前記第２差数カウンタの値を参照して前記特別遊技状態に関する特別処理（ＡＴ抽籤等）を実行可能な特別処理手段と、
を備え、
前記第１差数カウンタは前記有利区間開始時を基準点として遊技価値数の差数を計数可能であり、
前記第２差数カウンタは前記有利区間中の最も遊技価値が減少したところを基準点として遊技価値数の差数を計数可能である
ことを特徴とする遊技機。」
　このような仕様とすることで、例えば、もっとも吸い込んだところから１０００枚で特別遊技状態（ＡＴ）を一旦終了させるといった、射幸性を抑制する仕様についての開発が行いやすくなるといった効果を奏する。
【２９４３】
（有利区間払出数カウンタに関する工夫５：差枚カウンタの値を有利区間終了判定に用いる）
　例えば、リミッタ作動以外の状況で、ＡＴ終了時やＣＺ終了時、ＡＴ等の終了から所定ゲーム数経過時等の有利区間の終了候補となる所定の条件を満たす場合に、差数カウンタ（有利区間払出数カウンタ）の値を参照して、値が１０００枚以上なら有利区間終了、１０００枚未満なら有利区間継続などとして、リミッタ発動までの残り獲得可能枚数が少ない状態にならないようにして、リミッタによりＡＴが打ち切られる頻度を低減させてもよい。この場合に参照するカウンタは工夫３で述べたリミッタ用カウンタの値でも、出玉用カウンタの値のどちらとしてもよい。以下、出玉用カウンタを有利区間終了判定のために参照する仕様例について技術的思想として整理した記載である。
「遊技価値数の増減を認識可能な第１差数カウンタ（リミッタ用カウンタ）と第２差数カウンタ（出玉用カウンタ）と、
遊技者に有利な停止操作態様の報知を可能な有利区間と、該報知が行われない非有利区間を制御する有利区間制御手段と、
前記第１差数カウンタが所定の閾値に達したときに前記有利区間を終了させるリミット手段（２４００枚リミッタ）と、
所定条件を満たした場合（ＡＴ等終了時やＡＴ後所定ゲーム数経過などリミッタ到達以外で有利区間終了となりえる条件を満たした場合）に現在滞在している有利区間を終了させる旨を決定可能な有利区間終了決定手段と、
を備え、
前記有利区間終了決定手段は、前記第２差数カウンタの値を参照し、所定の閾値に該当する場合（例えば、差枚１０００以上のプラスである場合）に現在滞在している有利区間を終了させる旨を決定可能である
ことを特徴とする遊技機。」
　このようにすることで、当該有利区間で獲得可能な枚数が少ない状況で遊技が進行し、ＡＴ等に当たったとしてもあまりメダルを獲得できずにリミッタが作動してしまうといった遊技者のストレスを高める事象を抑制できる。
【２９４４】
　また、有利区間開始からのプラス差枚が１～９９９枚など第１の閾値の場合は５０％で

有利区間終了、１０００枚以上など第２の閾値の場合は１００％で有利区間終了などとして有利区間の終了タイミングが分かりにくくなるものとしてもよい。

【２９４５】

また、マイナス差枚の場合は、リミッタ発動までの獲得可能枚数が増加しない状況なので、前記所定条件を満たした場合でも有利区間が終了する確率がプラス差枚の状況よりも低い（０％＝終了する旨の決定がされない場合含む）ものとすることが望ましい。

【２９４６】

なお、有利区間終了後については、有利区間移行確率が１分の１～５分の１程度と非常に高確率とし、さらに非有利区間から有利区間へ移行した直後が有利度合いの高いチャンス状態（ＡＴの引き戻し当籤した場合に獲得期待値の大きい上位ＡＴとなる、あるいは、ＡＴの引き戻し当籤率が高いなど）となる仕様として、有利区間が終了した直後に遊技の興趣がそがれることがないものとするとよい。仮にこのような有利区間終了直後（非有利区間、有利区間開始直後）が有利度合いの高い状態とする場合は、有利区間移行時にボーナス持越中なら有利度合いの高い状態にするという仕様で、設定変更でボーナスを消す、かつ、非有利区間では１Ｇ目に必ず有利区間移行とすることで、設定変更後１ＧでＣＺには入らないようして設定変更直後だけが狙い打たれるようにしないものするとよい。

【２９４７】

（有利区間払出数カウンタに関する工夫６：差枚カウンタのクリアを示唆／報知）

有利区間が終了した際に、「差枚数カウンタをクリアしました」などの表記を行ったり、「０／２４００」などといった表示を行ったりして遊技者に差枚数カウンタがクリアされたことを報知する演出を行ってもよい。また、報知に限らずクリアを示唆する演出を行ってもよい。例えば、ＡＴ終了画面にキャラＡ（青ドンちゃん）が出現した場合は、差枚数クリアの可能性低、キャラＢ（緑ドンちゃん）出現で、差枚数クリアの可能性中、キャラＣ（赤ドンちゃん）出現で差枚数クリア確定などとして、状況を推測させるものでもよい。技術的思想として整理すると以下のようになる。

「遊技価値数の増減を認識可能な差数カウンタ（リミッタ用カウンタ）と、
遊技者に有利な停止操作態様の報知を可能な有利区間と、該報知が行われない非有利区間を制御する有利区間制御手段と、
前記差数カウンタが所定の閾値に達したときに前記有利区間を終了させるリミット手段（２４００枚リミッタ）と、
を備え、
所定条件を満たした場合（ＡＴ等終了時やＡＴ後所定ゲーム数経過などリミッタ到達以外で有利区間終了となりえる条件を満たした場合）に現在滞在している有利区間を終了させることがあり、
前記所定条件を満たした場合に所定のタイミング（当該ゲーム又は有利区間終了後の任意のゲーム）で前記有利区間が終了した旨を示唆ないし報知の少なくともいずれか一方の役割を果たす演出（示唆演出又は報知演出、どちらか一方でも両方でもよい）を有する
ことを特徴とする遊技機。」

このようにすることで、仮に多くのメダルを獲得した場合でも、差枚数カウンタがリセットされてまた多くのメダルを獲得しうる状況であることを遊技者に推測させることができるという効果を奏する。

【２９４８】

なお、このような示唆等の演出は以下のようなタイミングのいずれかで発生させるものとするとよい。

・有利区間の最終ゲーム
・有利区間終了直後の非有利区間のゲーム
・有利区間終了後から任意の条件を満たしたゲーム（例えば、有利区間終了から３２ゲーム、１００ゲーム経過などゲーム数に関する条件や、レア役1回成立など任意の当籤役の成立に関する条件、示唆演出の発生抽籤に当籤した場合など）

また、これらの発生条件を満たした場合において、演出用操作手段を遊技者が操作した

場合にのみ発生可能として、有利区間終了の推測したい遊技者は演出用ボタンを押下するといったゲーム性にしてもよい。

【２９４９】

（離席表示機能について）

上記の遊技機においては、遊技途中で遊技者が離席した際に、他の客がよく確認せずに空き台であると認識してしまい遊技してしまうといったトラブルや、私物を置いて離席することで盗難が起きるといったトラブルなどが発生する虞がある。このようなトラブルは、いずれの遊技機においても起こり得るが、特にメダルの受け皿を備えていない特定種別の遊技機（例えばメダルレス遊技機などの機種）において頻発することが予想される。

【２９５０】

このようなトラブルが発生することを未然に防止するために、例えば、遊技中の遊技者が一時的に離席する状況（トイレ休憩、たばこ休憩、電話対応など）が発生した際に、当該遊技者が遊技機のメニュー画面を操作し、遊技機の液晶表示器などに「休憩中」や「離席中」といった画像などを表示することにより、離席中である旨を報知できるようにしてもよい。これにより、当該遊技機が遊技中であることを他の遊技者や遊技場管理者などに対して明確に報知できる。例えば、以下の第１の機能～第３の機能などを備えるものであってもよい。

【２９５１】

第１の機能としては、メダルを投入可能な状態やスタートレバーを操作してリール回転を開始可能な状態において、遊技者が演出用ボタンを操作することにより、液晶表示器に「休憩中」や「離席中」といった画像などを表示するものであってもよい。また、当該画像は、遊技者による所定の操作（メダル投入、スタートレバー操作、演出ボタン操作など）により終了するようにしてもよい。

【２９５２】

第２の機能としては、上記第１の例で表示する画像に、当該画像の表示開始からの経過時間（例えば、「１０分経過」など）を表示するようにしてもよい。これにより、遊技場管理者が遊技機の状況（特に離席してからどの程度時間が経過している状況など）を把握することができる。

【２９５３】

第３の機能としては、第１の機能などを利用できるようにするか否かを設定できるようにしてもよい。具体的には、設定確認中に「離席機能の設定」画面を表示するとともに「ＯＮ」および「ＯＦＦ」の選択アイコンを表示し、遊技場管理者が演出用ボタンなどを操作することにより、第１の機能および第２の機能を有効（利用可能）または無効（利用不可能）のいずれかに設定できるようにしてもよい。これにより、必要に応じて、遊技場毎に有効または無効を選択することができる。

【２９５４】

（外部信号出力を示すランプ）

上述のとおり、本実施形態では、外部端子板（図３に示す外部集中端子板５５、あるいは図３６に示す遊技球等接続端子板４４３）を介し、複数種類の外部信号を外部に出力可能な仕様となっているが、外部信号が出力される場合には、主制御基板（主制御基板７１、あるいは主制御基板４１１）で制御されるいずれかのランプを外部信号出力ランプとして点灯させることにより、外部信号出力に誤りがないかを外部から視認可能とすることが望ましい。

【２９５５】

そこで、本実施形態の如く、メイン側で制御する区間ランプを設ける構成とした場合は、例えばＡＴ状態を示す信号を外部端子板から出力するときには当該区間ランプを外部信号出力ランプとして兼用し、当該区間ランプの点灯により外部信号の出力を視認可能な構成としてもよい。一方、上述の如く、メイン側で制御する区間ランプ（状態表示部）を設けない構成とした場合は、外部信号の出力を視認可能とする外部信号出力ランプを別途設ける構成としてもよい。

【２９５６】
　いずれの構成においても、外部信号出力が行われていることを所定のランプの点灯態様から確認可能となるため、遊技機から適切に信号が出力されているか、店舗側（例えば、ホールコンピュータなど）で遊技機からの信号を適切に受信できているか等を作業者が確認する場合の利便性が向上するという効果を奏する。例えば、当該所定のランプが点灯している場合において、ホールコンピュータ側でその台からの外部信号出力が検出できていない場合には、外部信号の受信に係るハーネス（例えば、遊技機とホールコンピュータを繋ぐハーネスや、メダルレス遊技機のサンドと通信装置とホールコンピュータを繋ぐハーネスなど）が正しく接続されていなかったり、内部で断線していたり、といったトラブルを察知することが可能となる。
【２９５７】
［有利区間払出数カウンタに関する拡張例１～４を含むすべての実施形態における遊技機に係る発明のまとめ（付記）］
　従来の遊技機において、遊技者にとって有利となる打順を報知するＡＴ状態などに滞在させることが可能な有利区間に制御可能であり、当該有利区間におけるメダルの投入数とメダルの払出数との差数がしきい値に達したことに基づいて有利区間を終了するものがあった（例えば、特開２０１７－１８９２１５号公報参照）。
【２９５８】
　しかしながら、このような遊技機では、ＡＴ状態などの有利状態に関する抽籤に差数が考慮されていない。このため、例えば、遊技者が投入した投入数が多くなった場合であっても有利状態に関する抽籤におけるメリットがなく、遊技を継続することへのモチベーションを低下させ、ひいては稼働率を低下させてしまう虞があった。
【２９５９】
　本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、稼働率の低下を抑止できる遊技機を提供することを目的とする。
【２９６０】
　上記目的を達成するために、本実施形態では以下のような構成の遊技機を提供することができる。
【２９６１】
（１）　遊技価値（例えば、メダル、遊技球、クレジット、特典など）を消費して遊技を進行し、当該遊技の進行に応じて遊技価値を付与可能な遊技機（例えば、パチスロ機、パチンコ機、メダルレス遊技機など）において、
　所定カウンタ（例えば、有利区間払出数カウンタなど）のカウンタ値を初期値（例えば、６３１３５など）から遊技価値の増減（消費した遊技価値（例えば、ベットに用いたメダルなど）と付与された遊技価値（例えば、払い出されたメダルなど））に応じて更新するカウンタ更新手段（例えば、図２８のステップＳ１０１、図３１のステップＳ１５１。図２２５におけるカウンタ更新処理など）と、
　前記カウンタ値が前記初期値よりも遊技価値が減少している状況となる減少範囲のうちの特定カウンタ値であるときに（例えば、吸い込み枚数が５０００枚などの所定数以上となる特定の閾値・特定枚数・特定範囲であるとき）、当該特定カウンタ値でないときよりも遊技者にとって有利度合いが高くなるように特典を付与可能とする特典付与手段（例えば、ＡＴ付与処理における有利度合いが高まる。“（吸い込み枚数を参照したＡＴ付与性能の変化仕様）”欄参照）と、
　前記カウンタ値が特定カウンタ値である可能性を示唆する示唆演出を実行する示唆演出実行手段（例えば、特定の閾値である場合に特定の閾値である旨（可能性）を示唆する示唆演出を実行。“（吸い込み枚数に関連する演出仕様）”欄参照）とを備える。
【２９６２】
　このような構成によれば、遊技者にとって有利度合いが高くなるように特典が付与可能となる特定カウンタ値である可能性を示唆する示唆演出が実行され得る。これにより、カウンタ値が特定カウンタ値であることを遊技者が推測し易くなるとともに、遊技者にとっ

て有利度合いが高くなるように特典が付与され得ることに対する期待感を抱かせることができ、遊技の興趣を向上させるとともに稼働率の低下を抑止できる。

【２９６３】

（２）　上記（１）の遊技機において、

遊技者にとって有利な操作態様（例えば、押し順ナビなど）を報知可能な区間である有利区間を制御可能とする有利区間制御手段（例えば、図２７のステップＳ８８など）を備え、

前記カウンタ更新手段は、

所定条件が成立することにより前記カウンタ値に前記初期値を設定し（例えば、図２２５において有利区間払出数カウンタの初期化が「可」に定められている契機成立時に初期値を設定）、

前記初期値よりも遊技価値が減少する方向における減少限界値（例えば、０）から、前記初期値よりも遊技価値が増加する方向における増加限界値（例えば、６５５３５）までの間でカウンタ値を更新可能であり（例えば、図２２３（ｃ）など）、

前記初期値と前記減少限界値との差（例えば、６３１３５－０）は、前記初期値と前記増加限界値との差（例えば、６５５３５－６３１３５）よりも大きく、

前記有利区間制御手段は、前記カウンタ値が前記増加限界値に達することにより、前記有利区間を終了する（例えば、図２７のステップＳ９３、Ｓ９４。図２２５において有利区間中に２４００枚などの規定値到達により有利区間終了）。

【２９６４】

このような構成によれば、初期値から減少方向の方が増加方向よりも広い範囲で更新可能となるとともに、最大で初期値からの減少分と増加限界値までの分との合計を還元可能となる。このため、減少分がただの損になるだけでなく、将来的に還元される許容量を増大させることとなる。その結果、減少している状況であってもひとまず特典などが付与されるまで遊技を継続しようという遊技意欲を高めることができる。

【２９６５】

（３）　上記（２）の遊技機において、

前記特典付与手段は、前記カウンタ値と、前記有利区間中における遊技の進行に応じて更新可能な所定のパラメータ（例えば、有利区間中における遊技の進行に応じて更新可能なパラメータ。“（吸い込み枚数を参照したＡＴ付与性能の変化仕様）”欄における１～９などのパラメータ）とに基づいて、前記特典の付与に関する処理を実行可能である。

【２９６６】

このような構成によれば、特典の付与面における遊技性の多様化を図ることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２９６７】

（４）　上記（１）～（３）のいずれかの遊技機において、

遊技の有利度合いに影響する設定値を変更可能な設定値変更手段（例えば、図２４のステップＳ２５など）を備え、

前記カウンタ更新手段は、有利区間を終了する終了条件が成立することに応じて前記カウンタ値に前記初期値を設定する一方、前記設定値変更手段により設定値が変更されたときであっても前記カウンタ値を維持可能である（例えば、図２２５の有利区間の終了時に初期化する一方、設定変更時に初期化不可など）。

【２９６８】

このような構成によれば、設定値が変更された後であってもカウンタ値が維持されるため、例えば初期値からの減少分を還元可能となり、設定値が変更される可能性のあるタイミング以降における遊技機の稼働率を向上させることができる。

【２９６９】

（４）　上記（１）～（３）のいずれかの遊技機において、

前記特定カウンタ値でないカウンタ値は、前記特定カウンタ値よりも遊技価値が増加している状況となる減少範囲のカウンタ値を含む（例えば、吸い込み枚数が特定の閾値・特

定枚数以上であるときには、吸い込み枚数が特定の閾値・特定枚数未満であるときよりもＡＴ付与処理における有利度合いが高まる）。

【２９７０】

このような構成によれば、初期値からの減少分が多くなる程、遊技者にとって有利度合いが高くなるように特典が付与され得ることに対する期待感を抱かせることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【２９７１】

また、上記構成の遊技機によれば、稼働率の低下を抑止できる遊技機を提供できる。

【２９７２】

［コンプリート機能関連について］

（電源投入時からのＭＹ数を参照したコンプリート機能について）

上述のとおり、本実施形態では、所定の作動条件が成立した場合に、遊技店の管理者の解除操作（例えば、設定変更）やＲＡＭ異常による初期化がなされるまで遊技不能状態とする打ち止め機能を搭載可能であるが、このような打ち止め機能として、射幸性を適切に抑制するため、例えば、以下に示すコンプリート機能を搭載することもできる。

【２９７３】

コンプリート機能は、電源投入時からの所定期間における毎ゲーム終了時のメダルが最も減少したとき（ベットしたメダルと払い出されたメダルとに基づく差数を累計した累計数の最下値）を基準（基点）として、当該基準からのメダルの増加数（基点からの累計数、これを以下では「ＣＭＰ＿ＭＹ」と称する）が上限数に達したときにコンプリート機能が作動して遊技の進行が不能化されるコンプリート機能作動状態に制御するものである。コンプリート機能作動状態においては、メダルの投入や、ベット操作・スタートレバー操作の受付などの遊技を進行するための操作・検出が無効化（不能化）される。上限数としては、例えば、１９０００を例示するが、予め定められた値であれば１９０００に限るものではない。

【２９７４】

コンプリート機能作動状態においては、遊技を続行できないこと（遊技の進行が不能化される旨）が遊技者や遊技店に対して報知される。図２２９は、コンプリート機能に関連して行われる報知例を説明するための図である。図２２９では、報知例として、メイン演出表示部２１における表示画像が示されている。なお、図２２９におけるメイン演出表示部２１の表示領域の中央においては、遊技の進行に応じた演出画像あるいは背景画像（ここではキャラクタなどが動作している画像）が表示されている例が示されている。

【２９７５】

図２２９（ａ）は、コンプリート機能作動状態中における報知例を示している。コンプリート機能作動状態中においては、コンプリート機能作動状態に対応する報知パターンとして、例えば、メイン演出表示部２１の表示領域内の所定の上方領域において、四角い枠内に「コンプリート機能作動中 本日の遊技は終了しました」といったコンプリート機能が作動した旨（不能化される旨ともいえる）を示すメッセージ画像が継続して表示される。コンプリート機能が作動した旨を示すメッセージ画像は、いずれの演出画像あるいは背景画像よりも優先して（上位レイヤにおいて）表示される。このような報知を行うことで、遊技者や店員に遊技停止となった理由や状況などを分かりやすく伝えることができるため、遊技者と遊技店との間でトラブルが発生することを抑制できるという効果を奏する。なお、コンプリート機能作動状態の画面には、例えばコンプリート時の日時や「称号」など、著しく射幸心をそそるおそれがある要素を含めるべきではない。これにより、コンプリート機能の作動によって射幸性を適切に抑制しようとする効果をより高めることができる。

【２９７６】

図２２９（ａ）では、コンプリート機能作動状態に対応する報知パターンとして、メイン演出表示部２１における報知例を示しているが、これに加えて、スピーカからの音や、ランプの発光によっても報知するようにしてもよい。例えば、スピーカから「ピコーン♪

コンプリート機能作動中 本日の遊技は終了しました」との音声が第１回数（例えば、３回）あるいは第１時間（例えば、１分程度）出音され、ランプ（例えば、上ドア機構ＵＤの上部に配置される枠ランプなど）が第１態様（例えば、全点灯）で発光されるものであってもよい。なお、コンプリート機能の作動を示唆ないし報知する音（効果音やボイス等）は、音量調整機能の影響を受けずに特定の音量（例えば、８５ｄｂ以上となるある程度大きな音量、エラー発生時と同じ音量など）で出音されることが望ましい。

【２９７７】

また、ＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達した場合であっても、いわゆる役物連続作動装置（いわゆる、ビッグボーナス、ＢＢ）や第一種特別役物（いわゆる、レギュラーボーナス、ＲＢ）の作動中である場合には、当該役物連続作動装置や第一種特別役物（以下ではまとめて役物等とも称する）の作動終了時までコンプリート機能の作動を待機させるコンプリート機能作動待機状態に制御し、役物等の作動終了時にコンプリート機能作動状態に制御する。コンプリート機能作動待機状態に制御されたときには、その後のＣＭＰ＿ＭＹの値にかかわらず（仮に１９０００未満となった場合でも）、役物等の作動終了時にコンプリート機能作動状態に制御する。このような仕様とすることにより、例えば、ボーナス作動中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達した後に、意図的に小役を取りこぼすなどのメダルを減らす打ち方でＣＭＰ＿ＭＹを１８９９９以下に調整してから当該ボーナスを終了させて、次のボーナスを待つなどといった攻略打ちを抑制することができる。

【２９７８】

図２２９（ｂ）は、コンプリート機能作動待機状態中における報知例を示している。コンプリート機能作動待機状態中においては、遊技を続行できない状態となることが確定しており当該状態となることを待機していること（遊技の進行が不能化される旨）が遊技者や遊技店に対して報知される。コンプリート機能作動待機状態に対応する報知パターンとしては、例えば、メイン演出表示部２１の表示領域内の所定の上方領域において、四角い枠内に「コンプリート機能作動待機中です」といったコンプリート機能作動が確定しておりその作動を待機している旨を示すメッセージ画像がメイン演出表示部２１に継続して表示される。コンプリート機能作動待機状態に対応する報知は、コンプリート機能作動が確定している旨を報知するため、遊技の進行が不能化される旨の不能化報知であるといえる。

【２９７９】

コンプリート機能作動が確定しておりその作動を待機している旨を示すメッセージ画像は、いずれの演出画像あるいは背景画像よりも優先して（上位レイヤにおいて）表示される。このような報知を行うことで、遊技者や店員に遊技停止となることが確定しており待機している状況であることを分かりやすく伝えることができる。なお、図２２９（ａ）および図２２９（ｂ）では、図２２９（ａ）のコンプリート機能が作動した旨を示すメッセージ画像の方が、図２２９（ｂ）のコンプリート機能作動が確定しておりその作動を待機している旨を示すメッセージ画像よりも視認性が高い態様（例えば、文字サイズが大きい、四角い枠が大きいなど）で表示される例について示しているが、これに限らず、視認性が同じ態様（例えば、文字サイズが同じなど）で表示されるものであってもよい。

【２９８０】

また、コンプリート機能作動が確定しておりその作動を待機している旨を示すメッセージ画像を表示する場合には、作動中の役物等の作動終了条件を合わせて表示してもよい。例えば、作動中の役物が第一種役物連続作動装置又は第二種役物連続作動装置である場合には、当該役物の作動終了条件として「残り１００枚の払出でボーナスが終了します。ボーナス終了で遊技終了となります。」などと表示するものであってもよい。また、例えば、作動中の役物が第一種特別役物である場合には、当該役物の作動終了条件として「残り１２ゲーム又は８回の入賞でボーナスが終了します。ボーナス終了で遊技終了となります。」などと表示するものであってもよい。

【２９８１】

また、これらの役物等の作動終了条件を示す表示は、図２２９（ｂ）に示す「コンプリ

ート機能作動待機中です」の表示領域や、押し順ナビ画像の表示領域などと重畳しない位置あるいは一部が重畳したとしても「コンプリート機能作動待機中です」や押し順ナビ画像の視認性を極端に低下させることのない態様（例えば、端部が少し重畳したり、重畳する部分では表示を半透明にしたりするなど）で表示させることが好ましい。

【２９８２】

なお、コンプリート機能と表示（報知）されても遊技者によっては分からない場合もあるため、「遊技終了」や「打ち止め」など平易な表現での説明も「コンプリート機能作動待機中です」の表示と合わせて表示するものであってもよい。後述の音声によるコンプリート機能報知の場合も同様に平易な表現での説明を合せて行うことが好ましい。

【２９８３】

図２２９（ｂ）では、コンプリート機能作動待機状態に対応する報知パターンとして、メイン演出表示部２１における報知例を示しているが、これに加えて、スピーカからの音や、ランプの発光によっても報知するようにしてもよい。例えば、スピーカから「ピコーン♪ コンプリート機能作動待機中です」との音声が第２回数（例えば、１回）あるいは第２時間（例えば、３０秒程度）出音され、ランプ（例えば、上ドア機構ＵＤの上部に配置される枠ランプなど）が第２態様（例えば、音声再生中において点滅）で発光されるものであってもよい。なお、コンプリート機能作動の待機を示唆ないし報知する音（効果音やボイス等）は、音量調整機能の影響を受けずに特定の音量（例えば、８５ｄｂ以上となるある程度大きな音量、エラー発生時と同じ音量など）で出音されることが望ましいが、これに限らず、遊技進行中であることを考慮して通常の音量（音量調整機能で設定されている音量など）で出音されるものであってもよい。

【２９８４】

ＣＭＰ＿ＭＹについては、毎ゲーム、全リール停止からメダル投入（ベット操作）が可能となるまでの間に更新される。図２３０は、ＣＭＰ＿ＭＹの更新などを行うためのコンプリート機能算出処理を示すフローチャートである。コンプリート機能算出処理は、図２３で示したメインＣＰＵ１０１により実行されるメイン処理に含まれる処理であって、例えばＳ１２が終了してからＳ２に移行するまでの間に実行される処理である。コンプリート機能算出処理の制御プログラム及びデータは、メインＲＯＭ１０２の規定外エリアに記憶されている。

【２９８５】

ＳＡ０１では、コンプリート機能作動状態中であるか否かを特定するためのコンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。コンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであると判定されなかったときには、コンプリート機能作動状態中でもコンプリート機能作動待機状態中でもないため、ＳＡ０２に移行して、終了した遊技においてリプレイ役に入賞して再遊技作動中であるか否かが判定される。コンプリート機能作動フラグの値は、メインＲＡＭ１０３の規定外ＲＡＭ領域であってコンプリート機能作動フラグ専用として確保された１Ｂｙｔｅの領域において記憶・更新される。

【２９８６】

ＳＡ０２において再遊技作動中であると判定されなかったときには、ＳＡ０３において現在のＣＭＰ＿ＭＹを特定するためのＣＭＰ＿ＭＹカウンタから、終了した遊技にベットされていたメダルの数である規定数（１遊技の賭数）を差し引くとともに、終了した遊技において払い出された（付与された）メダルの数である払出枚数を加算した値が０未満であるか否かが判定される。つまり、ＳＡ０３では、終了した遊技の結果を踏まえた差数を累計した累計数が０未満であるか否かが判定される。ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値は、メインＲＡＭ１０３の規定外ＲＡＭ領域であってＣＭＰ＿ＭＹ専用として確保された２Ｂｙｔｅ以上の領域において記憶・更新される。

【２９８７】

ＳＡ０３において０未満であると判定されなかったときには、ＳＡ０４において現在のＣＭＰ＿ＭＹカウンタから、終了した遊技にベットされていたメダルの数である規定数を差し引くとともに、終了した遊技において払い出された（付与された）メダルの数である

払出枚数を加算した値を、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値として設定する。つまり、ＳＡ０４では、終了した遊技の結果を踏まえた差数を累計した累計数がＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値として設定（更新）される。

【２９８８】

一方、ＳＡ０３において０未満であると判定されたときには、ＳＡ０５においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値として０を設定（更新）する。なお、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値は、図２３のＳ１などの電源投入時（ＲＡＭ異常時や設定変更時を含む）においてのみ初期化（０が設定）される。これにより、電源投入時からベットしたメダルと払い出されたメダルとに基づく差数を累計した累計数の最下値を基点として、当該基点からのメダルの累計数（増加数）をＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値から特定可能となる。

【２９８９】

ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値がＳＡ０４またはＳＡ０５において更新された後は、ＳＡ０６においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１９０００以上であるか否か（１９０００に達したか否か）が判定される。ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１９０００以上であると判定されたときには、制御されている遊技状態がＡＴやボーナスなどの遊技者がメダルを増加させることができる有利状態（メダル増加区間）であるか、通常状態などの遊技者がメダルを増加させることができない所定状態であるかにかかわらず、ＳＡ０７においてコンプリート機能作動フラグの値としてＦＦｈを設定してコンプリート機能算出処理を終了する。

【２９９０】

コンプリート機能作動フラグの値は、ＲＡＭ異常時や設定変更時においてのみ初期化（００ｈ設定）される。例えばリセットボタンを押下した状態で電源投入することによってＲＡＭクリアとともに同じ設定値を再設定する処理を実行可能であっても、リセットボタンを押下した状態で電源投入することによっては、コンプリート機能作動フラグの値を初期化することはできないように構成されている。

【２９９１】

一方、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１９０００以上であると判定されなかったときには、ＳＡ０８において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。遊技中断出力フラグとは、遊技中断信号を出力することを特定するためのフラグである。遊技中断信号は、試験機用第２インターフェースボード３０２（以下ではＩＦ２とも称する）を介して出力される試験信号であって、試験が実施されているときに試験上の遊技を一度中断したほうがよい事象が発生した場合に出力される信号である。

【２９９２】

ＳＡ０８において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであると判定されなかったときには、遊技中断信号が出力されていないときであり、ＳＡ０９においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタが所定値（例えば、１８５００）に達したか否かが判定される。所定値は、上限数よりも小さい数であれば、例えば１８５００に限るものではない。ＳＡ０９においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１８５００に達していると判定されなかったときには、そのままコンプリート機能算出処理を終了する。

【２９９３】

一方、ＳＡ０９においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１８５００に達していると判定されたときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、ＳＡ１０において遊技中断出力フラグの値としてＦＦｈを設定してコンプリート機能算出処理を終了する。なお、ＳＡ０８において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであると判定されたときには、すでに遊技中断信号が出力されているため、そのままコンプリート機能算出処理を終了する。

【２９９４】

これに対して、ＳＡ０１においてコンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであると判定されたときや、ＳＡ０２において再遊技作動中であると判定されたときには、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを更新する処理などを行うことなく、コンプリート機能算出処理を終了する。このように、すでにコンプリート機能を作動させることが確定しているときや再遊技作

動中であって累計数に変動が生じないときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを更新する処理などが行われないのに対し、コンプリート機能を作動させることが確定しておらずかつ再遊技作動中でないときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを更新する処理やＣＭＰ＿ＭＹカウンタが１９０００以上であるか否かの判定処理などが行われる。このため、適切なタイミングでＣＭＰ＿ＭＹカウンタやコンプリート機能作動フラグを確実に更新でき、無駄（必要のないとき）にＳＡ０３～ＳＡ１０を行うことによりメインＣＰＵ１０１による処理負担を増大させてしまうことを未然に防止できる。

【２９９５】

コンプリート機能作動フラグの値に基づくコンプリート機能の作動に関する処理は、図２３で示したメインＣＰＵ１０１により実行されるメイン処理のうちの、例えばＳ２などの１遊技を開始する際に行われる処理（メダルが投入可能となるまでに行われる処理）などに含まれている。より具体的には、Ｓ２などの１遊技を開始する際に行われる処理のうち、例えば、遊技機においてエラーが発生しているか否かを判定し、エラーが発生している場合には当該エラーに対応する処理（エラー監視、エラー停止処理などを含む）を行うエラー処理中において、コンプリート機能の作動に関する処理が行われる。

【２９９６】

図２３１は、エラー処理のうちコンプリート機能の作動に関する処理を主として部分的に説明するためのフローチャートである。エラー処理の制御プログラム及びデータは、メインＲＯＭ１０２の規定内エリア（プログラムエリア、データエリアなどのエリア、規定外エリアとは異なるエリア）に記憶されている。

【２９９７】

ＳＡ２１では、図２３０のＳＡ０４やＳＡ０５において更新されたＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値を特定可能とするためのＣＭＰ＿ＭＹコマンドを副制御回路２００に出力するための処理が行われる。これにより、副制御回路２００側において１遊技毎に現在のＣＭＰ＿ＭＹを特定可能となり、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知が実行可能となる。

【２９９８】

ＳＡ２２においては、コンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。ＳＡ２２においてコンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであると判定されたときには、ＳＡ２３において役物等が作動中であるか否かが判定される。役物等作動中であると判定されなかったときには、コンプリート機能作動状態に制御されて遊技の進行が不能化されるときであるため、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず（例えば役物等が終了した後において本来であればＡＴに制御されていたのか通常状態に制御されていたのかなどにかかわらず）、ＳＡ２４においてコンプリート機能作動状態中である旨を特定可能とするコンプリート機能作動コマンドを副制御回路２００に出力するための処理が行われる。これにより、副制御回路２００側において図２２９（ａ）で例示したコンプリート機能作動状態中における報知が実行可能となる。

【２９９９】

ＳＡ２５においては、自動精算処理が行われる。これにより、クレジットされているメダルが自動返却（自動精算）される。なお、ＳＡ２５の自動精算処理を行うか否かについては、任意であり、例えば、精算ボタン９への操作（遊技を進行させるための操作ではないため受付可能）により精算処理を行うものであってもよく、遊技店により自動精算処理を行うか操作により精算処理を行うかを設定できるものであってもよい。

【３０００】

ＳＡ２６においては、外部端子板から外部信号としてセキュリティ信号を一定時間（例えば、３０秒）に亘って出力するための処理が行われる。これにより、外部のデータ表示器やホールコンピュータ等においてもセキュリティ関連の事象が発生した旨を把握できる。なお、遊技機が前述したメダルレス遊技機である場合、ＳＡ２６では、セキュリティ信号の出力に加えて、例えば遊技価値提供装置（通信専用ユニット）などに対してコンプリ

ート信号を一定時間（例えば、３０秒）に亘って出力する。

【３００１】

ＳＡ２６が行われた後においては、図２３１に示されるようにループ処理に移行することにより、遊技の進行が不能化されてコンプリート機能作動状態に制御される。コンプリート機能作動フラグの値は、ＲＡＭ異常時や設定変更時においてのみ初期化（００ｈ設定）される。遊技店では、基本的に、営業時間中に設定変更作業や電断復帰作業を行うことはない。このため、１営業日中でコンプリート機能が作動した場合は、その台は閉店までコンプリート機能作動状態となる。そのため、コンプリート機能作動状態に制御された場合、遊技者はその台での遊技を終了することとなる。これにより、極めてまれなケースとして大量のメダル（ここでは１９０００枚）が獲得された場合には遊技を停止することができるため、射幸性を抑制できるという効果を奏する。

【３００２】

一方、ＳＡ２３において役物等作動中であると判定されたときには、コンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであるが役物等作動中のため、コンプリート機能作動待機状態となる。ＳＡ２７においては、コンプリート機能作動待機状態中である旨を特定可能とするコンプリート機能作動待機コマンドを副制御回路２００に出力済であるか否かが判定される。ＳＡ２７においてコンプリート機能作動待機コマンドを副制御回路２００に出力済であると判定されなかったときには、ＳＡ２８においてコンプリート機能作動待機コマンドを副制御回路２００に出力するための処理が行われる。これにより、副制御回路２００側において図２２９（ｂ）で例示したコンプリート機能作動待機状態中における報知が実行可能となる。なお、ＳＡ２３において役物等作動中であるか否かを判定しているが、ＳＡ２２においてコンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈでありコンプリート機能が作動するときあるいは確定しているときには、ＳＡ２４においてコンプリート機能作動コマンドが出力されるか、あるいはＳＡ２８においてコンプリート機能作動待機コマンドが出力されるため、結果的に、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず図２２９（ａ）および（ｂ）で示した遊技の進行が不能化される旨が報知されることとなる。

【３００３】

コンプリート機能作動待機コマンドを出力済あるいは出力するための処理が行われたときには、ＳＡ３２に移行して各種のエラー（例えば、ホッパーエンプティエラーやドア開放エラーなど）についてのエラー処理（エラー監視、エラー停止処理など）が行われる。

【３００４】

ＳＡ２２においてコンプリート機能作動フラグの値がＦＦｈであると判定されなかったときには、ＳＡ２９において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。ＳＡ２９において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであると判定されなかったときには、そのままＳＡ３２へ移行する。

【３００５】

一方、ＳＡ２９において遊技中断出力フラグの値がＦＦｈであると判定されたときには、ＳＡ３０において試験信号として遊技中断信号をＩＦ２に出力済であるか否かが判定される。ＳＡ３０において遊技中断信号をＩＦ２に出力済であると判定されなかったときには、ＳＡ３１において遊技中断信号をＩＦ２に出力するための処理が行われる。これにより、パチスロ機１の検定試験（試射試験）中においてもコンプリート機能の作動が近づいていることを報知可能となりコンプリート機能が作動する前に一旦中断できるため、実際にコンプリート機能が作動してしまい当該作動を解除（初期化）する手間を生じさせてしまうことを未然に防止できる。遊技中断信号を出力済あるいは出力するための処理が行われたときには、ＳＡ３２に移行して各種のエラーについてのエラー処理が行われる。

【３００６】

なお、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達することにより遊技中断信号を出力するタイミングは、エラー処理において出力されるため、メダルが投入可能となるまでのタイミングとなるが、これに限らず、例えば、メダルが投入可能となったタイミングや、スタートレバ

ー７が操作されたタイミング、スタートレバー７操作後であってリール回転中のタイミングなどであってもよい。また、遊技中断信号の送信情報生成処理や、ポートへの送信処理、送信判定処理などの制御プログラム及びデータは、メインＲＯＭ１０２の規定外エリアに記憶されているものであってもよい。

【３００７】

（コンプリート機能作動前の事前報知）

ところで、何らの前触れもなく急にコンプリート機能が作動してコンプリート機能作動状態あるいはコンプリート機能作動待機状態に制御させてしまった場合、仮にＡＴ差枚数等が残存していてもその時点で遊技が続行できなくなるため遊技者に対して突然遊技不能となったことへの苛立ちを抱かせてしまうとともに遊技意欲を低下させてしまう虞や、コンプリート機能が作動していることに気付いていないあるいは把握できていない遊技者に対して遊技機が故障したのではといった誤解を抱かせてしまう虞がある。また、コンプリート機能が作動するタイミングが近づいている遊技機を遊技店の店員が事前に把握し難いために、コンプリート機能が作動した遊技者に対するサポートを十分に行うことができない虞がある。そこで、コンプリート機能作動状態あるいはコンプリート機能作動待機状態となるまでに遊技者や店員に事前に認識させるため、コンプリート機能が作動する前に遊技者や店員への事前報知を行う事前報知状態に制御する。

【３００８】

事前報知状態には、例えば、コンプリート機能用のＣＭＰ＿ＭＹが上限数（例えば、１９０００枚）よりも小さい所定数（例えば、１８５００枚）に達することにより、そのときに制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず制御される。事前報知状態においては、制御されてからコンプリート機能が作動するまでのＣＭＰ＿ＭＹについての定量的な変化（例えば、１９０００枚までの残り枚数）を視覚的に、かつ、途中で遊技者が交替しても認識可能とするために継続的に報知する。

【３００９】

事前報知状態に制御する契機となる所定数としては、例えば、１８５００を例示するが、上限数よりも小さい値であって予め一律に定められた値であれば１８５００に限るものではなく、また遊技中断出力フラグの値をＦＦｈとして遊技中断信号を出力する契機となる所定数と異なる値（例えば、遊技中断信号を出力する契機となる値よりも小さい値（例えば１８４００等））であってもよい。

【３０１０】

図２２９（ｃ）および（ｄ）は、事前報知状態中における事前報知例を示している。図２２９（ｃ）は、例えば小役入賞によるメダル払出に伴ってＣＭＰ＿ＭＹが１８５０４枚に達したときの事前報知例であり、メイン演出表示部２１の表示領域内の所定の上方領域において、四角い枠内に「コンプリート機能の作動まで 残り４９６枚です」といった旨を示すメッセージ画像が表示される。事前報知状態中においては、原則としてコンプリート機能が作動するまで、遊技の結果に応じて更新されるＣＭＰ＿ＭＹを上限数（１９０００）から差し引いた残り枚数が継続的に表示されることとなる。事前報知のメッセージ画像についても、いずれの演出画像あるいは背景画像よりも優先して（上位レイヤにおいて）表示される。

【３０１１】

図２２９（ｃ）では、事前報知状態に制御されたときの報知パターンとして、メイン演出表示部２１における報知例を示しているが、これに加えて、スピーカからの音や、ランプの発光によっても報知するようにしてもよい。例えば、スピーカから「ピコーン♪ コンプリート機能作動まで、残り５００枚以下になりました」との音声が第２回数（例えば、１回）あるいは第２時間（例えば、３０秒程度）出音され、ランプ（例えば、上ドア機構ＵＤの上部に配置される枠ランプなど）が第２態様（例えば、音声再生中において点滅）で発光されるものであってもよい。事前報知状態に制御されたときのスピーカからの音やランプの発光の回数・時間・発光態様などについては、コンプリート機能作動待機状態に制御されたときと同じであってもよく、異なるものであってもよい。

【３０１２】
なお、事前報知状態に制御された旨を示唆ないし報知する音（効果音やボイス等）は、遊技進行中であることを考慮して通常の音量（音量調整機能で設定されている音量など）で出音されるものであるが、これに限らず、音量調整機能の影響を受けずに特定の音量（例えば、８５ｄｂ以上となるある程度大きな音量、エラー発生時と同じ音量など）で出音されるものであってもよい。また、事前報知状態中における音声による報知は、例えば、残り枚数が予め定められた枚数だけ減る毎（例えば、５０枚、あるいは１００枚減る毎）に段階的な残り枚数（残り４００枚以下となったときには、スピーカから「ピコーン♪コンプリート機能作動まで、残り４００枚以下になりました」）を特定するための音声を出力することにより行われるものであってもよい。

【３０１３】
図２２９（ｄ）は、ＣＭＰ＿ＭＹが１８７５７枚に達したときの事前報知例であり、メイン演出表示部２１の表示領域内の所定の上方領域において、四角い枠内に「コンプリート機能の作動まで 残り２４３枚です」といった旨を示すメッセージ画像が表示されている。これにより、コンプリート機能が作動するまでの残り枚数を遊技者および店員双方が把握可能となるため、急にコンプリート機能を作動させる場合よりも、遊技者の苛立ちを事前報知状態中の期間に亘って分散させつつ遊技機が故障したのではといった誤解をまねくことも防止でき、また残り枚数に応じて店員がサポート対応の段取りを前もって検討等することができるためにコンプリート機能が作動した遊技者に対するサポート力を高めることができる。

【３０１４】
なお、図２２９（ｃ）および図２２９（ｄ）に示すメッセージ画像は、図２２９（ａ）や図２２９（ｂ）において示すメッセージ画像よりも視認性が低い態様（例えば、文字サイズが小さい、四角い枠が小さいなど）で表示される例について示している。これにより、事前報知状態中に遊技の進行に応じてメイン演出表示部２１に表示される演出画像のうち、事前報知のメッセージ画像によって視認できなくなる部分（領域）を小さくできる。なお、図２２９（ｃ）および図２２９（ｄ）に示すメッセージ画像と、図２２９（ａ）や図２２９（ｂ）において示すメッセージ画像とは、視認性が同じ態様（例えば、文字サイズが同じなど）で表示されるものであってもよい。また、事前報知により報知するメッセージは、図２２９（ｃ）および図２２９（ｄ）で示したものに限らず、例えば「コンプリート機能作動まで４９６枚 （※コンプリート機能作動で本日の遊技は終了となります）」といったように、「本日」「終了」の文言を入れて誤認遊技を抑止するようにしてもよい。

【３０１５】
また、図２２９（ｃ）および図２２９（ｄ）では、コンプリートまでの残り枚数を１枚刻みで数字により報知する例について説明したが、これに限らず、残り枚数を１００枚刻みで変化するメーター表示のような態様（例えば、残り枚数が少なくなる毎にメーターのメモリが増えるような態様、図２４０（ｃ１）として後述するものを画像で表示するようなバージョンなど）で事前報知を行うものであってもよく、また、残り枚数を１００枚単位で切り替えて表示するような態様（例えば、「残り約５００枚でコンプリート機能が作動します」～「残り約１００枚でコンプリート機能が作動します」など）で事前報知を行うものや、「１９０００枚に到達するとコンプリート機能が作動します。作動まで残り約xxx枚」や「コンプリート機能が作動する上限が近づいています。作動まで残り約xxx枚」といったメッセージを表示するものであってもよい。

【３０１６】
また、図２２９（ｃ）および図２２９（ｄ）では、メッセージ画像を原則として常時表示する例について説明したが、これに限らず、遊技者への報知が自明となる範囲で、例えば、メッセージ画像を所定期間（例えば、２，３秒）間隔で点滅表示（じんわり消えて、じんわり表示）させるものであってもよい。

【３０１７】

図２２９では、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をメイン演出表示部２１で行う例について説明したが、複数の画像表示装置を搭載している場合（パチスロ機１のようにメイン演出表示部２１に加えてサブ表示装置２２０を搭載している場合）には、いずれかの画像表示装置においてＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知が行われているものであればよく、また、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をまず表示領域が広いメイン演出表示部２１において一定時間行った後に、当該各種報知を表示領域がメイン演出表示部２１よりも狭いサブ表示装置２２０に移動させるものであってもよい。

【３０１８】

図２３２は、ＣＭＰ＿ＭＹに基づいて各種報知を行うためのコンプリート関連報知処理を説明するためのフローチャートである。コンプリート関連報知処理は、サブＣＰＵ２０１により実行される処理（例えば、図３３のＳ３０４など）に含まれる処理であって、例えば図２３１で示した各種コマンドを受信したときに実行される。このため、コンプリート関連報知処理は、実質的に、全リール停止からメダル投入（ベット操作）が可能となるまでの間に実行されることになる。

【３０１９】

ＳＡ４１では、コンプリート機能作動状態中であるか否かが判定される。具体的には、コンプリート機能作動コマンドを受信することによりコンプリート機能作動状態中であると判定される。ＳＡ４１において、コンプリート機能作動状態中であると判定されたときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、図２２９（ａ）で例示したようにコンプリート機能作動状態である旨を報知するための処理が行われる。

【３０２０】

ＳＡ４１においてコンプリート機能作動状態中であると判定されなかったときには、ＳＡ４３においてコンプリート機能作動待機状態中であるか否かが判定される。具体的には、コンプリート機能作動待機コマンドを受信することによりコンプリート機能作動待機状態中であると判定される。ＳＡ４３において、コンプリート機能作動待機状態中であると判定されたときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、図２２９（ｂ）で例示したようにコンプリート機能作動待機状態である旨を報知するための処理が行われる。

【３０２１】

ＳＡ４３においてコンプリート機能作動待機状態中であると判定されなかったときには、ＳＡ４５においてＣＭＰ＿ＭＹコマンドから特定されるＣＭＰ＿ＭＹが所定数である１８５００以上であるか否か（達しているか否か）が判定される。つまり、事前報知状態中か否かが判定される。

【３０２２】

ＳＡ４５においてＣＭＰ＿ＭＹが１８５００以上であると判定されたときには、ＳＡ４６において事前報知状態であるか否かを特定するための事前報知作動フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。事前報知作動フラグの値がＦＦｈであると判定されたときには、ＳＡ４８に移行する一方、事前報知作動フラグの値がＦＦｈであると判定されなかったときには、ＳＡ４７において事前報知作動フラグの値としてＦＦｈを設定してＳＡ４８に移行する。これにより、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、事前報知作動フラグの値としてＦＦｈが設定されて事前報知状態となる。

【３０２３】

ＳＡ４８においては、ＣＭＰ＿ＭＹの値に応じた態様で事前報知するための処理が行われる。これにより、事前報知状態中においては、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、図２２９（ｃ）などで例示したように、ＣＭＰ＿ＭＹの値に応じて上限数（１９０００）までの残り枚数などが報知される。

【３０２４】

ＳＡ４５に戻り、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００以上であると判定されなかったときには、

ＳＡ６０において事前報知作動フラグの値がＦＦｈであるか否かが判定される。つまり、ＣＭＰ＿ＭＹが一旦１８５００以上となったが、その後の遊技結果の影響で、１８５００未満となっている状況であるか否かが判定される。ＳＡ６０において事前報知作動フラグの値がＦＦｈであると判定されたときには、ＳＡ６１において制御されている遊技状態が有利状態中であるか否かが判定される。つまり、有利状態が継続しているために、以降においてＣＭＰ＿ＭＹが再び１８５００以上となる可能性が高いか否かが判定される。ＳＡ６１において制御されている遊技状態が有利状態中であると判定されたときには、ＳＡ４８に移行する。なお、この場合も、ＣＭＰ＿ＭＹの値に応じて上限数（１９０００）までの残り枚数が報知されるため、５００を越える残り枚数が報知されることとなる。

【３０２５】

一方、ＳＡ６１において制御されている遊技状態が有利状態中であると判定されなかったときには、ＳＡ６２において事前報知を終了するとともに、事前報知作動フラグの値として初期値である００ｈが設定されて、コンプリート関連報知処理を終了する。これにより、事前報知状態中におけるＣＭＰ＿ＭＹが１８５００未満（１８４９９以下）となった場合において、制御されている遊技状態が有利状態中である場合には小役に当籤しなかったことなどが原因で一時的に１８５００未満となった状況であると判定してＣＭＰ＿ＭＹの値に応じた態様で事前報知を継続するのに対し、有利状態中ではない場合には再び１８５００以上となる可能性が低い状況であると判定してＣＭＰ＿ＭＹが１８５００未満（１８４９９以下）となったときに即座に事前報知を終了させることができる。その結果、事前報知が非表示となった直後において事前報知が再開されることや、ＣＭＰ＿ＭＹが低下して１９０００までの残り枚数が増えていく傾向にあるにもかかわらずいつまでも事前報知が行われてしまうことを極力防止できる。

【３０２６】

以上のように、コンプリート機能が作動される前から事前報知が行われることにより、コンプリート機能が作動するまでの残り枚数を遊技者および店員双方が把握可能となるため、遊技者の苛立ちを分散させつつ遊技機が故障したのではといった誤解をまねくことも防止でき、またコンプリート機能が作動した遊技者に対する店員のサポート力を高めることができるといった一定の効果が見込まれる。また、ＣＭＰ＿ＭＹは、電源投入時（ＲＡＭ異常時や設定変更時を含む）においてのみ初期化され、当該ＣＭＰ＿ＭＹに基づく事前報知は、基本的に電源が遮断されるまで継続して行われる。このため、事前報知中において遊技者が当該遊技機での遊技を終了した場合でも、別の遊技者（例えば、これから当該遊技機を打とうかと検討している遊技者）にもコンプリート機能の作動が近いことを認識させることができるため、別の遊技者に対する不測の損害を発生させてしまうことを抑制することができるという効果も奏する。

【３０２７】

しかし、一般的に遊技店には多数の遊技機が設置されているために事前報知が行われたとしても、例えば店員が事前報知を見逃していたり失念してしまっていたり、あるいは店員間の連携・調整が上手くとれておらず他の遊技者へのサポートタイミングと重なってしまうなどにより、コンプリート機能が作動した遊技者に対するサポートを確実に行うことができない虞がある。また、このような場合には、遊技者の苛立ちを倍増させてしまうとともに、当該遊技店に対して遊技者が抱く印象を悪化させてしまい、遊技店の評価を低下させてしまうことに繋がってしまう。このような不都合の発生を未然に防止するために、パチスロ機１では、事前報知とは別個にＣＭＰ＿ＭＹに基づく報知を行うように構成されている。具体的には、ＣＭＰ＿ＭＹが所定数（１８５００）に達するまでの第１タイミングにおいて第１報知を実行可能とし、ＣＭＰ＿ＭＹが所定数（１８５００）に達した後であってより上限数（１９０００）に近づく第２タイミングにおいて第２報知を実行可能としている。

【３０２８】

図２３２に示すコンプリート関連報知処理では、ＳＡ４５においてＣＭＰ＿ＭＹが１８５００以上であると判定されず、かつＳＡ６０において事前報知作動フラグの値がＦＦｈ

であると判定されなかったときに、ＳＡ６３～ＳＡ６５に示す処理を行うことにより第１報知を実行可能としている。ＳＡ６３においては、ＣＭＰ＿ＭＹが第１特定数である１８０００に達したタイミング（第１タイミング）であるか否かが判定される。ＳＡ６３においてＣＭＰ＿ＭＹが１８０００に達したタイミングであると判定されたときには、ＳＡ６４において有利状態中であるか否かが判定される。ＳＡ６４において有利状態中であると判定されたときには、ＳＡ６５において第１報知を行うための第１報知処理を行ってコンプリート関連報知処理を終了する。これにより、ＣＭＰ＿ＭＹが１８０００に達しておりＣＭＰ＿ＭＹがその後も増加する可能性が高いときに第１報知が実行可能となる。一方、ＳＡ６３においてＣＭＰ＿ＭＹが１８０００に達したタイミングであると判定されなかったときや、ＳＡ６４において有利状態中であると判定されずＣＭＰ＿ＭＹがその後も増加する可能性が低いときには第１報知処理を行うことなくコンプリート関連報知処理を終了する。なお、ＳＡ６３においてＹＥＳと判定されたときには一律にＳＡ６５に移行させて第１報知処理を行うようにしてもよい。

【３０２９】

第１報知としては、例えば、「あと約５００枚で事前報知が開始されます」といったメッセージ画像をメイン演出表示部２１に所定期間（例えば、１分、新たな遊技が開始されるまでの期間、新たな遊技が開始されて終了するまでの期間、事前報知が開始されるまでの期間など）に亘って表示するものであってもよい。第１報知としてのメッセージ画像には、上限数である１９０００までの残り枚数に関する情報を含まない例について説明したが、これに限らず、１９０００までの残り枚数に関する情報を含むもの（例えば、コンプリートまで約１０００枚です）であってもよい。

【３０３０】

また、第１報知としては、メッセージ画像を所定時間に亘って表示させた後において、さらに第１報知済である旨を示す画像（例えば、銅色のトロフィーを模した画像など）を少なくとも事前報知が開始されるまで表示するようにしてもよい。また、第１報知は、コンプリートまでの残り枚数が予め定められた枚数だけ減る毎（例えば、１００枚減る毎）に、残り枚数を段階的に切り替えたメッセージ画像（例えば、残り９００以下となったときに、コンプリートまで約９００枚です）を表示するものであってもよい（そのタイミングで所定期間に亘り表示するものや、そのタイミング以降継続的に表示するものを含む）。また、第１報知は、事前報知と同じ態様で残り枚数（例えば、残り１０００枚～５０１枚までの間）を更新表示し、その後の事前報知に繋げるものであってもよい。

【３０３１】

また、第１報知としては、例えば、遊技機に搭載されている特定のＬＥＤを点灯させるものなどであってもよい。特定のＬＥＤは、第１報知専用のＬＥＤであってもよく、他の情報を報知するＬＥＤを兼用するものであってもよく、さらに、下ドア機構ＤＤなどの前面扉を閉じた状態において視認可能となるＬＥＤであってもよく、筐体２内に搭載されており下ドア機構ＤＤなどの前面扉を開いた状態において視認可能となるＬＥＤであってもよい。さらに、第１報知としては、前述したものに替えてあるいは加えて、スピーカからの音やランプで発光（例えば、上ドア機構ＵＤの上部に配置される枠ランプを所定期間（１０分など）に亘って点滅）されるものであってもよい。

【３０３２】

このように、事前報知が開始されるまでのタイミングにおいて第１報知が行われるため、事前報知の開始タイミングやコンプリート機能の作動タイミングが近づいてきていることを遊技者や店員に把握させることができるため、遊技者に対してはコンプリート機能が作動して遊技が継続できなくなることに対する苛立ちをより時間をかけて分散させることができ、また、店員に対してはサポートが必要となる可能性を有している遊技機を特定でき当該遊技機の遊技状況などへの注目度・注意力を高めることができる。

【３０３３】

なお、遊技店としては、開店前に電源投入し閉店後に電源遮断するのが一般的であるところ、開店・閉店に伴って電源投入・電源遮断という作業を行わない遊技店も存在し得る

。このような遊技店のある営業日において事前報知や第１報知（少なくとも事前報知が開始されるまで継続する第１報知）が行われたパチスロ機については、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されないために、翌営業日の開店当初から事前報知や第１報知が行われた状態が維持される。ここで、事前報知については、上限数まで残り５００枚以下というコンプリート機能の作動が間近に迫っている状況であるため確実に報知して遊技者に不利益を生じさせないようにすべきである。その一方で、第１報知については、上限数まで残り１０００枚以下（少なくとも５００枚を超える枚数が残っている）であり、実際にコンプリート機能が作動する可能性が事前報知されているときよりも低い状況であるといえる。このような状況において開店当初から第１報知が行われてしまうと、当該パチスロ機で遊技することを検討している遊技者に対して必要以上に警戒感を抱かせてしまい、その結果当該パチスロ機の稼働率を低下させてしまう虞がある。そこで、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されないときであっても、日を跨ぐことなどにより成立し得る特定条件が成立することにより、第１報知については終了させ、事前報知については継続して行うようにしてもよい。以下に具体例を説明する。

【３０３４】

副制御回路２００には、サブＣＰＵ２０１やサブＲＡＭ２０３などの他に、サブＲＴＣ（Real Time Clock）が搭載されている。サブＲＴＣは、パチスロ機１への電源が投入されているか否かにかかわらず、搭載されているバッテリーにより常に日時を計時する計時回路であり、サブＣＰＵ２０１のリクエストに応じて現在日時を示す情報、すなわち年、月、日、時、分、秒そして曜日を示す情報を出力する。

【３０３５】

副制御回路２００は、パチスロ機１への電源が投入されている状態において、サブＲＴＣからの日時情報に基づき所定時刻（例えば、深夜２時など）を経過したときに特定処理（例えば、割り込み処理など）を実行する。特定処理では、少なくとも事前報知が開始されるまで継続する第１報知が実行されているか否かが判定され、当該第１報知が実行されていないと判定されたときにはそのまま特定処理を終了する一方、当該第１報知が実行されていると判定されたときには、ＣＭＰ＿ＭＹの値や、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、当該第１報知を終了するための処理を行って特定処理を終了する。つまり、所定時刻（例えば、深夜２時など）を経過したときに第１報知が実行されているときには、当該第１報知を終了するための処理が行われる。

【３０３６】

これにより、開店・閉店に伴って電源投入・電源遮断という作業を行わない遊技店において、前日の営業中に行われた第１報知が、翌営業日の開店当初から継続して行われてしまうことを防止できる。その結果、当該パチスロ機で遊技することを検討している遊技者に対して必要以上に警戒感を抱かせてしまうことを回避でき、当該パチスロ機の稼働率を低下させてしまうことを防止できる。これに対して、特定処理では、事前報知が行われている場合であっても、所定時刻が経過することによって当該事前報知を終了させるような処理などを行わないため、当該事前報知が継続して行われる。これにより、上限数まで残り５００枚以下というコンプリート機能の作動まで迫っている状況であることを確実に報知して遊技者に不利益を生じさせてしまうことを防止できる。

【３０３７】

図２３２に戻り、コンプリート関連報知処理では、ＳＡ４５においてＣＭＰ＿ＭＹが１８５００以上であると判定されたときなどであって、ＳＡ４８において既に事前報知が行われているときに、ＳＡ４９～ＳＡ５１に示す処理を行うことにより第２報知を実行可能としている。

【３０３８】

ＳＡ４９においては、ＣＭＰ＿ＭＹが第２特定数である１８７５０に達したタイミング（第２タイミング）であるか否かが判定される。ＳＡ４９においてＣＭＰ＿ＭＹが１８７５０に達したタイミングであると判定されたときには、ＳＡ５０において有利状態中であるか否かが判定される。ＳＡ５０において有利状態中であると判定されたときには、ＳＡ

５１において第２報知を行うための第２報知処理を行ってコンプリート関連報知処理を終了する。これにより、ＣＭＰ＿ＭＹが１８７５０に達しておりＣＭＰ＿ＭＹがその後も増加する可能性が高いときに第２報知が実行可能となる。一方、ＳＡ４９においてＣＭＰ＿ＭＹが１８７５０に達したタイミングであると判定されなかったときや、ＳＡ５０において有利状態中であると判定されずＣＭＰ＿ＭＹがその後増加する可能性が低いときには第２報知処理を行うことなくコンプリート関連報知処理を終了する。なお、ＳＡ４９においてＹＥＳと判定されたときには一律にＳＡ５１に移行させて第２報知処理を行うようにしてもよい。

【３０３９】

なお、ＳＡ５０およびＳＡ６４における判定対象となる有利状態には、ＡＴやボーナスなどの遊技者がメダルを増加させることができる状態をすべて含むが、リプレイの当選確率が高まるリプレイタイムなどをも含むものであってもよい。逆に、例えば、押し順ナビを行い得るが押し順ナビの発生頻度が低いなどによりメダルが増加しないあるいは減少するＡＴや、小役の当選確率は通常時よりも向上するが小役当選が重複することにより合算した場合の当選確率が低いためにメダルが増加しないあるいは減少するボーナスなどについては、ＳＡ５０およびＳＡ６４における判定対象となる有利状態に含まず、通常状態などの遊技者がメダルを増加させることができない所定状態に含まれるものとする。

【３０４０】

また、ＳＡ５０およびＳＡ６４における判定対象となる有利状態には、例えばボーナスを含まずにＡＴだけとしてもよく、逆にＡＴを含まずにボーナスだけとしてもよい。また、ＡＴには、１遊技当りの純増数が高い高純増ＡＴや、１遊技当りの純増数が低い低純増ＡＴなどが存在するところ、ＳＡ５０およびＳＡ６４における判定対象となる有利状態には、高純増ＡＴおよび低純増ＡＴのいずれをも含むものであってもよく、高純増ＡＴのみ含むものとし、低純増ＡＴを含まないものであってもよい。また、ボーナスには、終了となる払出枚数が比較的多いボーナスや、終了となる払出枚数が比較的少ないボーナスなどが存在するところ、ＳＡ５０およびＳＡ６４における判定対象となる有利状態には、払出枚数が比較的多いボーナスおよび払出枚数が比較的少ないボーナスのいずれをも含むものであってもよく、払出枚数が比較的多いボーナスのみ含むものとし、払出枚数が比較的少ないボーナスを含まないものであってもよい。

【３０４１】

第２報知としては、例えば、「コンプリート機能作動が迫ってきました」といったメッセージ画像をメイン演出表示部２１に所定期間（例えば、１分、新たな遊技が開始されるまでの期間、新たな遊技が開始されて終了するまでの期間など）に亘って表示するものであってもよい。第２報知としてのメッセージ画像には、上限数である１９０００までの残り枚数に関する情報を含まない例について説明したが、これに限らず、１９０００までの残り枚数に関する情報を含むもの（例えば、事前報知の画像の周辺を強調させて事前報知の残り枚数を目立たせる画像を表示するものなど）であってもよい。また、第２報知としては、さらに、メッセージ画像を所定時間に亘って表示させた後において、第２報知済である旨を示す画像（例えば、トロフィーを模した画像の色を金色に更新など）をコンプリート機能が作動するまで表示するようにしてもよい。

【３０４２】

また、第２報知としては、例えば、第１報知に用いられる特定のＬＥＤを点滅させるものや、第１報知に用いられるＬＥＤとは別のＬＥＤを点灯させるものなどであってもよい。また、第２報知に用いられるＬＥＤは、専用のＬＥＤ（第１報知に用いられるＬＥＤを兼用する場合を含む）であってもよく、他の情報を報知するＬＥＤを兼用するものであってもよく、さらに、下ドア機構ＤＤなどの前面扉を閉じた状態において視認可能となるＬＥＤであってもよく、筐体２内に搭載されており下ドア機構ＤＤなどの前面扉を開いた状態において視認可能となるＬＥＤであってもよい。さらに、第２報知としては、前述したものに替えてあるいは加えて、スピーカからの音やランプの発光（例えば、上ドア機構ＵＤの上部に配置される枠ランプを常時点灯）によって報知するものであってもよい。

【３０４３】
このように、事前報知が行われてから時間が経過することにより事前報知への注目度が低下してきたタイミングで第２報知が行われるため、コンプリート機能の作動タイミングが迫ってきていることを遊技者や店員に再度把握させることができる。また、各店員の状況を加味して、店員間の連携・調整を行うことができるため、コンプリート機能が作動した際に迅速にサポート対応でき、その結果、遊技店に対して遊技者が抱く印象を悪化させてしまうことを回避でき、遊技店の評価・印象を向上させることができる。
【３０４４】
なお、日を跨ぐことなどにより成立し得る特定条件（例えば、深夜２時を経過など）が成立することにより、第１報知については終了させてその後（例えば、翌営業日の開店開始時など）に継続して行われないようにする例を示したが、第２報知については、事前報知が行われているために特定条件が成立しても終了させずにその後も継続して行うようにしてもよく、あるいは、第１報知と同様に特定条件が成立することにより終了させてその後（例えば、翌営業日の開店開始時など）に継続して行われないようにしてもよい。
【３０４５】
（コンプリート機能関連報知を周辺機器で報知する場合について）
図２３２では、パチスロ機１に搭載されている機器において、第１報知、第２報知、事前報知状態中（この場合は１９０００までの残り枚数を含む）、コンプリート機能作動待機状態中、および、コンプリート機能作動状態中に関するコンプリート機能関連報知を行う例について説明したが、これに加えてあるいは替えて、パチスロ機１とは異なるデータ表示器等などの周辺機器においてコンプリート機能関連報知を行うようにしてもよい。以下では、例えば、パチスロ機１の上部に配置されたデータ表示器においてコンプリート機能関連報知を行う例について説明する。
【３０４６】
遊技システムは、図２３３に示すように、パチスロ機１と、パチスロ機１の上部に配置されたデータ表示器２００１と、ホールコンピュータとを含むものである。パチスロ機１は、その上部に、演出パターン等のデータを送信するためのランプ３３０５ａおよびランプ３３０５ｂ（以下ではまとめてランプ３３０５ともいう）を備え、データ表示器２００１は、パチスロ機１のランプ３３０５からの光を受信することによって、パチスロ機１から、遊技状態や演出パターン等のデータを受信する。このように、パチスロ機１のランプ３３０５からの光が、データ表示器２００１で受信されることによって遊技状態や演出パターン等のデータが、パチスロ機１からデータ表示器２００１に送信されることになるので、多くの情報を効率的かつ高精度に伝達することができる。なお、このような通信は、データ表示器２００１にとっては外部装置であるパチスロ機１から、データ表示器２００１への、一方向の非接触通信ということができる。
【３０４７】
図２３３に示すデータ表示器２００１は、例えば、サイネージと呼ばれるデータ表示器である。このデータ表示器２００１は、液晶ディスプレイ２００２、ＬＥＤ２００３、スピーカ２００４、コールボタン２００５、及びイメージセンサユニット２３１１を備える。なお、コールボタン２００５は、遊技店の店員を呼び出すためのボタンであり、コールボタン２００５の押下をタッチセンサが検知すると、液晶ディスプレイ２００２、ＬＥＤ２００３、スピーカ２００４等に対して、当該検知に応じた出力が行われるよう制御される。
【３０４８】
データ表示器２００１は、パチスロ機１のランプ３３０５からの光をイメージセンサユニット２３１１で検知し、検知結果に基づいて、パチスロ機１の遊技状態や演出パターン等を把握し、把握された遊技状態や演出パターンに応じて、液晶ディスプレイ２００２に、対応する画像を表示するよう制御する。また、必要に応じて、スピーカーから演出パターンに対応する音声を出力したり、ＬＥＤ２００３を点灯させたりするよう制御する。
【３０４９】

イメージセンサユニット２３１１は、例えば、所定の時間間隔でパチスロ機１のランプ３３０５を含む映像を撮像するＣＭＯＳイメージセンサを備える。このＣＭＯＳイメージセンサは、例えば、２２０ｆｐｓ、又は４４０ｆｐｓでランプ３３０５の撮像を行うように構成される。

【３０５０】

また、このＣＭＯＳイメージセンサは、所定の画角（例えば、３０°以下の画角）と光源距離（即ち、ＣＭＯＳイメージセンサとランプ３３０５との距離であって、例えば、３０ｍｍ～３００ｍｍ）により、パチスロ機１のランプ３３０５とその周辺の画像を撮影するようになっている。そのため、ＣＭＯＳイメージセンサにより取得された撮影画像には、パチスロ機１のランプ３３０５だけでなく、パチスロ機１の演出用ランプ（例えば、パチスロ機１のトップランプ、枠ランプ）や、隣のパチスロ機１からの光、遊技店の照明器具からの光、それらの光の反射光などが含まれることになる。

【３０５１】

なお、パチスロ機１のランプ３３０５は、パチスロ機１の遊技状態や演出パターン等のデータを送信するための専用の光出力装置として機能することも、パチスロ機１の演出表現を実施するとともに、遊技状態や演出パターン等のデータを送信する、兼用の光出力装置として機能することもできる。

【３０５２】

ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂは、それぞれ、フルカラーＬＥＤを有して構成されており、白色、赤色、黄色、黄緑色、緑色、青緑色、青色、紫色、赤紫色、及び、桃色を含む複数種類の色を発することが可能である。

【３０５３】

パチスロ機１は、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂをそれぞれ、パチスロ機１の状態に応じた色で点灯させることが可能なように構成されている。すなわち、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せがパチスロ機１の状態と対応することとなる（図２３４参照）。本明細書では、「ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せ」をランプ３３０５の点灯パターンとも表記する。

【３０５４】

データ表示器２００１は、ＣＭＯＳイメージセンサでランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂを撮像することにより、ランプ３３０５ａの発光色及びランプ３３０５ｂの発光色を認識することができる。これにより、データ表示器２００１は、パチスロ機１におけるランプ３３０５の点灯パターン（パチスロ機１の状態）に応じた態様で、液晶ディスプレイ２００２、ＬＥＤ２００３、スピーカ２００４等を制御したり、ホールコンピュータと通信を行ったりする。

【３０５５】

また、データ表示器２００１は、遊技媒体貸出装置４０２とハーネスにより接点出入力方式で接続されており、双方向通信が可能となっている。また、データ表示器２００１とホールコンピュータとは、同軸ケーブルにより有線ＬＡＮ方式で接続されるとともに、ハーネスにより接点出力方式で接続されており、双方向通信が可能となっている。

【３０５６】

また、データ表示器２００１は、ＲＡＭを備えており、パチスロ機１の遊技状態や演出パターン等を判定するためのデータテーブル（遊技状態判定テーブル）や、遊技状態や演出パターン等に応じた演出を実行するためのデータテーブル（演出パターンテーブル）を格納している。

【３０５７】

データ表示器２００１は、遊技状態判定テーブルや、演出パターンテーブル（演出に用いる映像データ、及び音声データ等を含む）を、通信インターフェースを介して、ホールコンピュータからダウンロードすることができる。

【３０５８】

なお、パチスロ機１の遊技状態や演出パターン等を判定するためのデータテーブルや、

遊技状態や演出パターン等に応じた演出を実行するためのデータテーブルは、通信インターフェースのＵＳＢ接続端子を経由して、外部記憶装置等からＲＡＭに転送されてもよく、その他、様々な方法・ルートにより、上記データテーブルを転送することができる。

【３０５９】

図２３４は、ランプの点灯パターンについて説明するための図である。ランプ３３０５の点灯パターンとしては、多数の点灯パターンが設けられているが、図２３４では、一部の点灯パターンについて示している。図中、「ＬＥＤ左」は、ランプ３３０５ａを示し、「ＬＥＤ右」は、ランプ３３０５ｂを示している。

【３０６０】

「パターン１」においては、ランプ３３０５ａが赤色に発光し、ランプ３３０５ｂが青緑色に発光する。「パターン１」は、電源がＯＦＦとなっている状態で前扉が開けられたことが検知された場合に出現する点灯パターンである。パチスロ機１の前扉は、上ドア６２ａ又は下ドア６２ｂ（図２参照）である。なお、電源がＯＦＦのときにはランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂを点灯させることができないところ、電源が投入されたときに常時監視の（ドアの開閉状態を常時監視している）ドア監視ユニットにより上記検知が行われた旨の情報を受けた場合に、電源投入後の所定のタイミングにて、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが当該パターンにより点灯することとなる。

【３０６１】

「パターン２」においては、ランプ３３０５ａが赤色に発光し、ランプ３３０５ｂが緑色に発光する。「パターン２」は、前扉が閉じられた状態で設定変更又は設定確認が行われた可能性が検知された場合に出現する点灯パターンである。

【３０６２】

「パターン３」においては、ランプ３３０５ａが赤色に発光し、ランプ３３０５ｂが赤紫色に発光する。「パターン３」は、ホッパーエンプティが発生したことが検知された場合に出現する点灯パターンである。

【３０６３】

「パターン４」においては、ランプ３３０５ａが赤色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄緑色に発光する。「パターン４」は、メダルオーバーフローが発生したことが検知された場合に出現する点灯パターンである。

【３０６４】

「パターン１」～「パターン４」は、それぞれ、「エラー用パターン」の一例である。エラー用パターンは、パチスロ機１において異常（エラー）が検知された場合に出現する点灯パターンである。

【３０６５】

「パターン１０」においては、ランプ３３０５ａが黄色に発光し、ランプ３３０５ｂが赤色に発光する。「パターン１０」は、キャラクタＡによるカスタム遊技が開始された場合に出現する点灯パターンである。「パターン１１」においては、ランプ３３０５ａが黄色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄緑色に発光する。「パターン１１」は、キャラクタＢによるカスタム遊技が開始された場合に出現する点灯パターンである。「パターン１２」においては、ランプ３３０５ａが黄色に発光し、ランプ３３０５ｂが緑色に発光する。「パターン１２」は、キャラクタＣによるカスタム遊技が開始された場合に出現する点灯パターンである。

【３０６６】

「パターン１０」～「パターン１２」は、それぞれ、「カスタム開始用パターン」の一例である。カスタム開始用パターンは、カスタム遊技が開始された（カスタム開始操作が行われた）場合に出現する点灯パターンである。

【３０６７】

「パターン２０」においては、ランプ３３０５ａが黄色に発光し、ランプ３３０５ｂが桃色に発光する。「パターン２０」は、カスタム遊技が終了された（カスタム終了操作が行われた）場合に出現する点灯パターン（カスタム終了用パターン）である。

【３０６８】
「パターン３０」においては、ランプ３３０５ａが黄緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが桃色に発光する。「パターン３０」は、ＡＴ中且つカスタム遊技が行われていない状態において出現する点灯パターンである。「パターン３１」においては、ランプ３３０５ａが黄緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが緑色に発光する。「パターン３１」は、ＡＴ中且つキャラクタＡによるカスタム遊技が行われている状態において出現する点灯パターンである。「パターン３２」においては、ランプ３３０５ａが黄緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが青緑色に発光する。「パターン３２」は、ＡＴ中且つキャラクタＢによるカスタム遊技が行われている状態において出現する点灯パターンである。「パターン３３」においては、ランプ３３０５ａが黄緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが青色に発光する。「パターン３３」は、ＡＴ中且つキャラクタＣによるカスタム遊技が行われている状態において出現する点灯パターンである。

【３０６９】
「パターン３０」～「パターン３３」は、それぞれ、「ＡＴ中用パターン」の一例である。ＡＴ中用パターンは、ＡＴ中に出現する点灯パターンである。ＡＴ中用パターンは、遊技中演出用パターン（遊技中に行われる演出に応じた点灯パターン）の一例である。なお、ＡＴ中には、液晶表示装置やスピーカ等により所定の演出が行われるため、ＡＴ中用パターンは、該所定の演出が行われるときに出現する点灯パターンであると言うこともできる。

【３０７０】
「パターン４０」においては、ランプ３３０５ａが緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが桃色に発光する。「パターン４０」は、カスタム遊技が行われていない状態でＡＴが開始されるときに出現する点灯パターンである。「パターン４１」においては、ランプ３３０５ａが緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが赤色に発光する。「パターン４１」は、キャラクタＡによるカスタム遊技が行われている状態でＡＴが開始されるときに出現する点灯パターンである。「パターン４２」においては、ランプ３３０５ａが緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄色に発光する。「パターン４２」は、キャラクタＢによるカスタム遊技が行われている状態でＡＴが開始されるときに出現する点灯パターンである。「パターン４３」においては、ランプ３３０５ａが緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄緑色に発光する。「パターン４３」は、キャラクタＣによるカスタム遊技が行われている状態でＡＴが開始されるときに出現する点灯パターンである。

【３０７１】
「パターン４０」～「パターン４３」は、それぞれ、「ＡＴ開始用パターン」の一例である。ＡＴ開始用パターンは、ＡＴが開始される（ＡＴに突入する）ときに出現する点灯パターンである。ＡＴ開始用パターンは、遊技中演出用パターンの一例である。なお、ＡＴが開始されるときには、液晶表示装置やスピーカ等により所定の演出が行われるため、ＡＴ開始用パターンは、該所定の演出が行われるときに出現する点灯パターンであると言うこともできる。

【３０７２】
「パターン５０」においては、ランプ３３０５ａが赤紫色に発光し、ランプ３３０５ｂが赤色に発光する。「パターン５０」は、演出Ａが行われるときに出現する点灯パターンである。「パターン５１」においては、ランプ３３０５ａが赤紫色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄色に発光する。「パターン５１」は、演出Ｂが行われるときに出現する点灯パターンである。「パターン５２」においては、ランプ３３０５ａが赤紫色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄緑色に発光する。「パターン５２」は、演出Ｃが行われるときに出現する点灯パターンである。

【３０７３】
「パターン５０」～「パターン５２」は、それぞれ、「遊技中演出用パターン」の一例である。演出Ａ～Ｃは、スタートレバーが操作されたときに内部当籤役の種別に基づいて行われる演出である。演出Ａ～Ｃとしては、例えば、ＡＴへの移行が確定する役やレア役

、ボーナス役等が内部当籤役として決定されたときに行われる演出を採用することができる。

【３０７４】

「パターン６０」においては、ランプ３３０５ａが青緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが赤色に発光する。「パターン６０」は、ＳＡ６５における第１報知処理にて第１報知が行われるときに出現する点灯パターンである。「パターン６１」においては、ランプ３３０５ａが青緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄色に発光する。「パターン６１」は、ＳＡ５１における第２報知処理にて第２報知が行われるときに出現する点灯パターンである。「パターン６２」においては、ランプ３３０５ａが青緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが黄緑色に発光する。「パターン６２」は、事前報知状態中であってＳＡ４８における事前報知処理にて事前報知が行われるときに出現する点灯パターンである。

【３０７５】

「パターン６３」においては、ランプ３３０５ａが青緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが緑色に発光する。「パターン６３」は、コンプリート機能作動待機状態中であってＳＡ４４におけるコンプリート機能作動待機状態報知処理にてコンプリート機能作動待機状態報知が行われるときに出現する点灯パターンである。「パターン６４」においては、ランプ３３０５ａが青緑色に発光し、ランプ３３０５ｂが青色に発光する。「パターン６４」は、コンプリート機能作動状態中であってＳＡ４２におけるコンプリート機能作動状態報知処理にてコンプリート機能作動状態報知が行われるときに出現する点灯パターンである。なお、事前報知状態中であるときに出現する点灯パターンについては、残り５００未満となったときの点灯パターン、残り４００未満となったときの点灯パターン、・・・残り１００未満となったときの点灯パターンといったように、残り枚数１００枚単位毎に５種類の点灯パターンを設けて、１９０００までの残り枚数に応じて異なる点灯パターンで発光させるようにしてもよい。

【３０７６】

「パターン６０」～「パターン６４」は、それぞれ、「コンプリート機能関連用パターン」の一例である。コンプリート機能関連用パターンは、前述のとおり図２３２のＳＡ４２、ＳＡ４４、ＳＡ４８、ＳＡ５１、および、ＳＡ６５における処理が実行された場合に出現する点灯パターンである。

【３０７７】

以上で説明したように、遊技中演出用パターンとしては、所定の遊技状態（例えば、ＡＴ、ＡＲＴ、ＢＢ等）中に出現する点灯パターン、所定の遊技状態（例えば、ＡＴ、ＡＲＴ、ＢＢ等）が開始するときに出現する点灯パターン、スタートレバーが操作されたときに出現する点灯パターンの他、所定の遊技状態（例えば、ＡＴ、ＡＲＴ、ＢＢ等）が終了するときに出現する点灯パターンや、有効ラインに沿って図柄の組合せが停止表示されたときに出現する点灯パターン等が設けられている。

【３０７８】

また、遊技中演出用パターンには、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが所定の色で点灯した状態が１回の単位遊技のなかで発生する（当該状態が次回の単位遊技に持ち越されない）点灯パターン、及び、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが所定の色で点灯した状態が複数の単位遊技に亘って継続する点灯パターンが含まれる。例えば、「パターン５０」～「パターン５２」は、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが所定の色で点灯した状態が１回の単位遊技のなかで発生する点灯パターンであり、「パターン５０」においては、スタートレバーが操作されたことを契機としてランプ３３０５ａが赤紫色に発光しランプ３３０５ｂが赤色に発光した後、当該単位遊技が終了するまでに、ランプ３３０５ａの赤紫色での発光及びランプ３３０５ｂの赤色での発光は終了する。また、「パターン３０」～「パターン３３」は、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが所定の色で点灯した状態が複数回の単位遊技に亘って継続する点灯パターンであり、「パターン３０」においては、ランプ３３０５ａの黄緑色での発光及びランプ３３０５ｂの桃色での発光が、ＡＴが終了するまで継続する。

【３０７９】
なお、図示しないが、デモ画面の表示中や、非カスタム時の通常中（キャラクタのカスタマイズが行われておらず、且つ、特定の演出が発生しない場合）には、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂがともに白色に発光する。特定の演出は、図２３４に示すようなパターンでランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂを点灯させる契機（点灯パターンの変更要因）となる演出である。すなわち、カスタム遊技が行われていない状態においては、基本的に、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂがともに白色に点灯することとなる。
【３０８０】
図２３５は、機種識別用パターンについて説明するための図である。ランプ３３０５の点灯パターンとしては、図２３４を用いて説明した点灯パターン以外に、図２３５に示す機種識別用パターンが設けられている。機種識別用パターンは、パチスロ機１の属する機種に応じた点灯パターンであり、データ表示器２００１又はホールコンピュータに当該機種を認識させるために用いられる。
【３０８１】
パチスロ機１において電源が投入され、所定の初期化処理が実行された後、図２３５に示すパターンでランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが点灯することとなる。通常、ホール（遊技店）においては、島単位で遊技機及び周辺機器を一斉に立ち上げる方法を採るのが一般的である。これにより、周辺機器（データ表示器２００１）側の初期化処理は、遊技機（パチスロ機１）側の初期化処理よりも先に完了し、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂが点灯する時点で、データ表示器２００１のカメラ（ＣＭＯＳイメージセンサ）は、立ち上がった状態となっている。従って、データ表示器２００１は、図２３５に示す機種識別用パターンを取りこぼすことなく認識することができる。
【３０８２】
具体的に、機種識別用パターンにおいては、まず、第１ステップとして、ランプ３３０５ａが白色に発光するとともにランプ３３０５ｂが白色に発光し、その状態が１０秒間継続する。続いて、第２ステップとして、ランプ３３０５ａが青緑色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青緑色に発光した状態が１秒間継続し、同様に、第３ステップとして、ランプ３３０５ａが桃色に発光するとともにランプ３３０５ｂが桃色に発光した状態が１秒間継続し、第４ステップとして、ランプ３３０５ａが緑色に発光するとともにランプ３３０５ｂが緑色に発光した状態が１秒間継続し、第５ステップとして、ランプ３３０５ａが赤紫色に発光するとともにランプ３３０５ｂが赤紫色に発光した状態が１秒間継続し、第６ステップとして、ランプ３３０５ａが黄緑色に発光するとともにランプ３３０５ｂが黄緑色に発光した状態が１秒間継続し、第７ステップとして、ランプ３３０５ａが紫色に発光するとともにランプ３３０５ｂが紫色に発光した状態が１秒間継続し、第８ステップとして、ランプ３３０５ａが黄色に発光するとともにランプ３３０５ｂが黄色に発光した状態が１秒間継続し、第９ステップとして、ランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光した状態が１秒間継続し、第１０ステップとして、ランプ３３０５ａが赤色に発光するとともにランプ３３０５ｂが赤色に発光した状態が１秒間継続する。
【３０８３】
続いて、第１１ステップとして、ランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光した状態が１秒間継続し、第１２ステップとして、ランプ３３０５ａが赤色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光した状態が１秒間継続し、第１３ステップとして、ランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが赤色に発光した状態が１秒間継続する。
【３０８４】
第１１ステップにおける点灯パターンは、パチスロ機１を製造したメーカー（メーカー情報）に対応しており、例えば、第１１ステップとしてランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光することは、パチスロ機１が遊技機メーカーＸ社の製品であることを示している。また、第１２ステップ及び第１３ステップにおける点

灯パターンは、パチスロ機１の属する機種（機種情報）に対応しており、例えば、第１２ステップとしてランプ３３０５ａが赤色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光し、第１３ステップとしてランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが赤色に発光することは、パチスロ機１が機種Ａに属することを示している。

【３０８５】

なお、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂは、第１１ステップ～第１３ステップにおいてメーカー情報及び機種情報に応じたパターンで点灯する前に、第１ステップ～第１０ステップにおいて所定のパターン（学習用パターン）で点灯するように構成されている。

【３０８６】

図２３６は、データ表示器において行われる点灯パターン検出処理を示すフローチャートである。図２３６に示す点灯パターン検出処理は、データ表示器２００１の制御部において所定のタイミングで繰り返し行われる処理である。イメージセンサユニット２３１は、外乱光の影響を除去しつつ、光源（ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂの位置）を探査することが可能であり、これにより、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色及びランプ３３０５ｂの発光色を特定する（ランプ３３０５の点灯パターンを検出する）ことができる。

【３０８７】

点灯パターン検出処理において、まず、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せが機種識別用パターンに相当する点灯パターンであるか否かを判断する（ステップＳ１１０１）。具体的に、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、図２３５に示す第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンが検出されたか否かを判断する。

【３０８８】

機種識別用パターンのうち第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、学習用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１０２）。上述したように、学習用パターンは、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂがメーカー情報及び機種情報に応じたパターンで点灯する前に出現する点灯パターン（図２３５に示す第１ステップ～第１０ステップにおける点灯パターン）である。ステップＳ１１０２の処理において、データ表示器２００１の制御部は、第１１ステップにおける点灯パターンが検出される前の所定時間（１９秒間）に亘って第１ステップ～第１０ステップにおける点灯パターンが検出されたか否かを判断する。なお、機種識別用パターン（第１ステップ～第１３ステップにおける各点灯パターン）におけるランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せは、図２３４に示す点灯パターンのうちの何れかの点灯パターンにおけるランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せと同じであってもよい。これらの組合せが同じであったとしても、点灯時間を異ならせることにより、データ表示器２００１の制御部は、発光色の組合せと点灯時間とを検出することによって、点灯パターンの種別を判別し、機種識別用パターンを認識することができる。

【３０８９】

学習用パターンに相当する点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３０９０】

一方、学習用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンに対応する機種用のデータが記憶されているか否かを判断する（ステップＳ１１０３）。

【３０９１】

ステップＳ１１０３の処理を行うのに先立ち、データ表示器２００１の制御部は、第１

１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンを検出している。データ表示器２００１の制御部は、ＲＯＭ等の記憶装置に記憶されている機種識別テーブルを参照することにより、第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンに対応する機種を特定する。

【３０９２】

機種識別テーブルにおいては、３つの点灯パターン（図中、「１１」、「１２」、及び、「１３」）に対して、１つの機種及び１つのメーカーが対応付けて規定されている。「１１」、「１２」、及び、「１３」は、それぞれ、機種識別用パターンにおける第１１ステップ、第１２ステップ、及び、第１３ステップを示している。データ表示器２００１の制御部は、検出された３つの点灯パターン（第１１ステップ～第１３ステップ）と、機種識別テーブルとに基づいて、当該３つの点灯パターンに対応する機種を特定する。例えば、データ表示器２００１の制御部は、直近で検出された３つの点灯パターンが、ランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光するパターン、ランプ３３０５ａが赤色に発光するとともにランプ３３０５ｂが青色に発光するパターン、及び、ランプ３３０５ａが青色に発光するとともにランプ３３０５ｂが赤色に発光するパターンである場合、機種Ａを特定する。

【３０９３】

ステップＳ１１０３の処理において、データ表示器２００１の制御部は、特定された機種（第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンに対応する機種）用のデータがＲＡＭ等の記憶装置に記憶されているか否かを判断する。「機種用のデータ」とは、特定された機種に応じた演出を行うための演出データである。後述するように、当該演出データは、ホールコンピュータからダウンロードされるように構成されているため、ステップＳ１１０３の処理は、特定された機種に応じた演出データがダウンロード済みであるか否かを判断する処理と言い換えることもできる。

【３０９４】

特定された機種に応じた演出データがダウンロード済みであると判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３０９５】

一方、特定された機種に応じた演出データがダウンロード済みではないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、当該機種に応じた演出データの送信をホールコンピュータに対して要求する（ステップＳ１１０４）。そして、データ表示器２００１の制御部は、当該機種に応じた演出データをホールコンピュータから受信する（ステップＳ１１０５）。

【３０９６】

ステップＳ１１０４の処理において、データ表示器２００１の制御部は、特定された機種を示す情報（機種情報）を含む演出データ要求信号をホールコンピュータに送信する。ホールコンピュータにおいては、機種Ａ～機種Ｆを含む複数の機種に応じた演出データが、ハードディスクドライブ等の記憶装置に記憶されている。演出データ要求信号を受信すると、ホールコンピュータは、演出データ要求信号に含まれる機種情報によって示される一の機種に応じた演出データをデータ表示器２００１に送信する。これにより、データ表示器２００１は、パチスロ機１の属する機種に応じた演出データをホールコンピュータからダウンロードすることができる。ステップＳ１１０５の処理において、データ表示器２００１の制御部は、ダウンロードした演出データをＲＡＭ等の記憶装置に記憶させる。

【３０９７】

ステップＳ１１０５の処理を実行した後、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する 。

【３０９８】

なお、ここでは、データ表示器２００１により機種の特定が行われることとして説明したが、機種の特定は、ホールコンピュータにより行われることとしてもよい。この場合には、例えば、ホールコンピュータに機種識別テーブルを記憶させておき、データ表示器２

００１で検出された機種識別用パターンを示す情報をホールコンピュータに送信するように構成するとよい。

【３０９９】

また、機種に応じた演出データは、ホールコンピュータに記憶されていることとして説明したが、当該演出データは、ホールコンピュータに記憶しないこととしてもよい。この場合、演出データ要求信号を受信する毎にホールコンピュータが外部から演出データをダウンロードし、ダウンロードした演出データをデータ表示器２００１に送信するように構成してもよい。また、データ表示器２００１においては、ホールコンピュータから演出データをダウンロードする毎に、記憶装置に記憶される演出データとして、古い演出データを削除して新しい演出データに入れ替えることとしてもよいし、所定数の機種に対応する演出データ（例えば、直近にダウンロードした３機種分の演出データ）を記憶することとしてもよい。

【３１００】

ステップＳ１１０１において第１１ステップ～第１３ステップにおける点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、エラー用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１０６）。上述したように、エラー用パターンは、パチスロ機１において異常（エラー）が検知された場合に出現する点灯パターンである（図２３４参照）。なお、点灯パターンとパターン種別（エラー用パターン、カスタム開始用パターン、カスタム終了用パターン、遊技中演出用パターン、コンプリート機能関連用パターン等）とが対応付けられたデータテーブル（図２３４に対応するテーブル）がＲＯＭ等の記憶装置に格納されており、データ表示器２００１の制御部は、当該データテーブルを参照することにより、パターン種別を認識することができる。

【３１０１】

エラー用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、エラーが発生したことを報知する（ステップＳ１１０７）。具体的に、データ表示器２００１の制御部は、映像表示部や音声出力部を制御することにより、エラーが発生したことを報知する画像を液晶ディスプレイ２００２に表示させたり、エラーが発生したことを報知する音をスピーカ２００４から出力させたりする。その際、データ表示器２００１の制御部は、検出されたエラー用パターンに対応するエラーの種別に応じて、報知態様を異ならせる。

【３１０２】

そして、データ表示器２００１の制御部は、エラーが発生したことを示すエラー信号をホールコンピュータに対して送信する（ステップＳ１１０８）。エラー信号には、エラーの種別を示す情報が含まれる。ステップＳ１１０８の処理を実行した後、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３１０３】

ステップＳ１１０６においてエラー用パターンに相当する点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、カスタム開始用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１０９）。上述したように、カスタム開始用パターンは、カスタム遊技が開始された（カスタム開始操作が行われた）場合に出現する点灯パターンである（図２３４参照）。

【３１０４】

カスタム開始用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、カスタム開始用演出を実行する（ステップＳ１１１０）。カスタム開始用演出は、カスタム遊技が開始することを示す演出であり、検出されたカスタム開始用パターンに対応するキャラクタの種別に応じた演出である。これにより、カスタム開始操作により選択されたキャラクタに対応する画像が液晶ディスプレイ２００２に表示されたり、当該キャラクタに対応する音声がスピーカ２００４から出力されたりする。

ステップＳ１１１０の処理を実行した後、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３１０５】

ステップＳ１１０９においてカスタム開始用パターンに相当する点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、カスタム終了用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１１１）。上述したように、カスタム終了用パターンは、カスタム遊技が終了された（カスタム終了操作が行われた）場合に出現する点灯パターンである（図２３４参照）。すなわち、カスタム終了操作が行われたことを契機として、ランプ３３０５ａ及びランプ３３０５ｂは、図２３４に示す点灯パターン２０（カスタム終了用パターン）により発光する。

【３１０６】

カスタム終了用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、カスタム終了用演出を実行する（ステップＳ１１１２）。カスタム終了用演出は、カスタム遊技が終了することを示す演出であり、カスタムにより選択されていたキャラクタに対応する画像が液晶ディスプレイ２００２に表示されたり、当該キャラクタに対応する音声がスピーカ２００４から出力されたりする。ステップＳ１１１２の処理を実行した後、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３１０７】

ステップＳ１１１１においてカスタム終了用パターンに相当する点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、遊技中演出用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１１３）。上述したように、遊技中演出用パターンは、遊技中に行われる演出（パチスロ機において一般的に行われる演出）に応じた点灯パターンである（図２３４参照）。

【３１０８】

遊技中演出用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、遊技中演出を実行する（ステップＳ１１１４）。遊技中演出は、検出された遊技中演出用パターンの種別に応じた演出（パチスロ機１において遊技中に行われる演出に対応する演出）であり、遊技の状況に応じた画像が液晶ディスプレイ２００２に表示されたり、遊技の状況に応じた音声がスピーカ２００４から出力されたりする。これにより、パチスロ機１で行われる演出とデータ表示器２００１で行われる演出とを連動させることができる。また、カスタム遊技が行われている期間中（カスタム開始操作が行われてからカスタム終了操作が行われるまでの間）であれば、カスタマイズの内容及び遊技の状況に応じた演出が行われることもある。

【３１０９】

ステップＳ１１１３において遊技中演出用パターンに相当する点灯パターンが検出されていないと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、ランプ３３０５ａの発光色とランプ３３０５ｂの発光色との組合せとして、コンプリート機能関連用パターンに相当する点灯パターンが検出されたか否かを判断する（ステップＳ１１１５）。上述したように、コンプリート機能関連用パターンは、図２３２のＳＡ４２、ＳＡ４４、ＳＡ４８、ＳＡ５１、および、ＳＡ６５における処理が実行された場合に出現する点灯パターンである（図２３４参照）。

【３１１０】

コンプリート機能関連用パターンに相当する点灯パターンが検出されたと判断した場合、データ表示器２００１の制御部は、コンプリート機能に関連する報知を行う（ステップＳ１１１６）。具体的に、データ表示器２００１の制御部は、映像表示部や音声出力部を制御することにより、第１報知、第２報知、事前報知状態中、コンプリート機能作動待機状態中、および、コンプリート機能作動状態中のいずれかを報知する画像を液晶ディスプ

レイ２００２に表示させたり、対応する報知する音をスピーカ２００４から出力させたりする。

【３１１１】

例えば、第１報知の場合には、「あと１０００でコンプリート」といったメッセージ画像を所定期間（例えば、１０分、あるいは、事前報知が開始されるまで残り枚数あるいは１００枚単位の数値などを表示）に亘って液晶ディスプレイ２００２に表示させる。また、事前報知状態中の場合には、「あと５００でコンプリート」といったメッセージ画像を所定期間（例えば、１０分、第２報知あるいはコンプリート機能作動まで残り枚数あるいは１００枚単位の数値などを表示）に亘って液晶ディスプレイ２００２に表示させる。

【３１１２】

なお、事前報知状態中であって、前述したように残り枚数１００枚単位毎に５種類の点灯パターンが設けられている場合には、当該点灯パターンに応じた残り枚数を報知するようにしてもよい。例えば、残り枚数が３００未満の点灯パターンであった場合には、「あと３００でコンプリート」といったメッセージ画像を所定期間に亘って液晶ディスプレイ２００２に表示させる。第２報知の場合には、「まもなくコンプリート」といったメッセージ画像を所定期間（例えば、１０分、あるいは、コンプリート作動まで）に亘って液晶ディスプレイ２００２に表示させる。コンプリート機能作動状態中の場合には、「コンプリート作動」といったメッセージ画像をパチスロ機１あるいはデータ表示器２００１の電源が遮断されるまで液晶ディスプレイ２００２に表示させる。

【３１１３】

また、データ表示器２００１の制御部は、第１報知、第２報知、事前報知状態中（この場合は１９０００までの残り枚数を含むものであってもよい）、コンプリート機能作動待機状態中、および、コンプリート機能作動状態中のいずれであるかを特定可能なコンプリート機能関連信号をホールコンピュータに対して送信する（ステップＳ１１１７）。ステップＳ１１１５においてＮＯと判定されるか、又は、ステップＳ１１１７の処理を実行した後、データ表示器２００１の制御部は、本サブルーチンを終了する。

【３１１４】

これにより、パチスロ機１の上方に設置されているデータ表示器２００１の表示状態から、第１報知、第２報知、事前報知状態中（この場合は１９０００までの残り枚数を含むものであってもよい）、コンプリート機能作動待機状態中、および、コンプリート機能作動状態中のいずれであるかを、店員が把握できるとともに、ホールコンピュータを管理する管理者が把握できる。このため、店員に対してサポートが必要となる可能性を有している遊技機を特定でき当該遊技機の遊技状況などへの注目度・注意力を高めることにより、迅速かつ的確なサポートを提供できる。

【３１１５】

なお、図２３６で示す点灯パターン検出処理では、ステップＳ１１１５においてコンプリート機能関連用パターンが検出されたと判断した場合、ステップＳ１１１６において点灯パターンに対応するコンプリート機能関連報知が行われるとともに、ステップＳ１１１７において点灯パターンに対応するコンプリート機能関連信号がホールコンピュータに送信される例について説明したが、これに限らず、ステップＳ１１１６およびステップＳ１１１７のうちのいずれか一方のみを実行するものであってもよい。

【３１１６】

（有利状態中の報知内容と事前報知との関係について）

パチスロ機１においては、ＡＴやボーナスなどの有利状態中において、当該有利状態に関連する所定の有利関連情報がメイン演出表示部２１に表示される。所定の有利関連情報には、例えば、有利状態への制御が開始されてから当該有利状態中や、当該有利状態からの一連の有利状態中（特定期間）における純増数（純増枚数、累計数）や、当該有利状態に継続して制御可能な残り数（ＡＴ中はＡＴ終了となるまでの残りゲーム数、ボーナス中はボーナス終了となるまでの残りメダル枚数など）、ＡＴ中においては押し順ナビなどが含まれる。図２３７および図２３８は、所定の有利関連情報および事前報知の表示例を説

明するための図である。

【３１１７】

図２３７（ａ）は、有利状態中（ここではＡＴ中）のメイン演出表示部２１における表示例を示している。メイン演出表示部２１の表示領域の左上においては、ＡＴの残りゲーム数（本例ではＬＡＳＴ：３０３Ｇ）が表示され、表示領域の右上においては、当該ＡＴを含む一連の有利状態中における純増数（本例ではＴＯＴＡＬ：６７３。以下では有利中純増報知ともいう）が表示される。なお、ボーナス中であるときには、メイン演出表示部２１の表示領域の左上においてボーナスが終了となるまでの残りメダル枚数（ＬＡＳＴ：１００枚など）が表示される。

【３１１８】

また、メイン演出表示部２１の表示領域の中央においては、遊技の進行に応じた演出画像あるいは背景画像（ここではキャラクタなどが動作している画像）が表示されるとともに、押し順ナビを行うときには当該背景画像に重畳（優先）させて押し順ナビ画像が表示される。なお、一連の有利状態中には、連続して有利状態に制御されている期間のみならず、一時的に通常状態に制御されたときであっても所定期間内（例えば３２ゲーム以内など）に再び制御された有利状態も含まれる。このように、一時的に通常状態に制御されたときには、残り数や有利中純増報知は非表示となるが、当該通常状態中の遊技の進行・結果に応じて純増数が内部的にカウント更新され、再び有利状態に制御されたときには、当該カウント更新された純増数（通常状態中の差数が反映された純増数）を特定可能な数値画像が表示されることとなる。

【３１１９】

有利状態中に表示される残り数（ＬＡＳＴ）や純増数（ＴＯＴＡＬ）は、遊技の進行に応じて更新表示される。このうち、有利中純増報知である純増数（ＴＯＴＡＬ）は、遊技の結果に応じて小役入賞したときには払出枚数を加算した値に達するまで１ずつインクリメント表示（加算更新）され、ベットしてスタートレバー７を操作して新たな遊技を開始したときには、ベット分を減算更新される。具体的に、例えば、図２３７（ａ）の状態において遊技の結果に応じて８枚払出の小役に入賞したときには、当該８枚を加算した「６８１」に達するまで１ずつインクリメント表示（加算更新）して、最終的に図２３７（ｂ）に示すように「ＴＯＴＡＬ：６８１」に更新表示される。その後、３枚ベットしてスタートレバー７を操作して新たな遊技を開始したときには、３枚分を一時（一気）に減算して図２３７（ｃ）に示すように「ＴＯＴＡＬ：６７８」に更新表示される。なお、残り数（ＬＡＳＴ）については、遊技終了時において更新表示される（図２３７（ｂ）に示されるようにＡＴ中においては１減算。ボーナス中においては払出枚数分減算など）。

【３１２０】

一方、事前報知は、前述したとおり電源投入時からの所定期間における純増数の累計数が１８５００に達したことにより、コンプリート機能が作動する上限数である１９０００までの残り枚数を報知するものである。有利状態中において事前報知を行う場合には、事前報知のメッセージ画像と、所定の有利関連情報とが重畳しないように表示される。有利状態中において事前報知を行う場合、図２３７（ｄ）に示すように、事前報知のメッセージ画像を、所定の有利関連情報と重畳しない領域に表示する。なお、この場合には、事前報知のメッセージ画像が背景画像や遊技の進行に応じた演出画像と重畳し得る。このため、事前報知を行っていないときに所定の有利関連情報を表示する位置にかかわらず、図２３７（ｅ）に示すように、事前報知のメッセージ画像を所定領域（演出画像などへの影響が最も少ない領域、例えばメイン演出表示部２１の上方）に表示するとともに、所定の有利関連情報を表示する位置（ここでは、残り数（ＬＡＳＴ）や純増数（ＴＯＴＡＬ）の表示位置）を事前報知と重畳しない位置に移動表示するものであってもよい。

【３１２１】

ここで、報知対象となる数値が、事前報知は１９０００までの残り枚数であるのに対し、有利中純増報知は一連の有利状態中における純増数である点で報知内容が異なっている。しかし、事前報知と有利中純増報知とは遊技の進行・結果に応じた差数分が遊技毎に更

新される点で共通しているため、両者を同じ態様で更新表示してしまうと、遊技者を混乱させてしまう虞がある。このため、パチスロ機１では、事前報知における残り枚数を第１態様で更新表示し、有利中純増報知における純増数を第１態様とは異なる第２態様で更新表示する。これにより、両者の区別がつきやすくなるようにして遊技者を混乱させてしまうことを防止できる。以下では、事前報知における第１態様と、有利中純増報知における第２態様との具体例について説明する。

【３１２２】

第１の例：事前報知の第１態様としては、残り枚数を、遊技開始時には更新表示せず、遊技終了時には小役入賞していない場合でも更新表示するのに対して、有利中純増報知の第２態様としては、純増数を、遊技開始時に更新表示し、遊技終了時には小役入賞しているときにのみ更新表示するものであってもよい。図２３８（ａ）は、図２３７（ｄ）の状態において遊技が開始されたときの表示例を示し、図２３８（ｂ）は、当該遊技が終了して小役に入賞して８枚払出が開始されたときの表示例を示し、図２３８（ｃ）は、８枚払出が完了したときの表示例を示している。遊技開始時においては、図２３８（ａ）に示されるように、事前報知の残り枚数については更新表示されないのに対し、有利中純増報知の純増数についてはベット分が減算更新表示されている。また、遊技終了時においては、図２３８（ｃ）に示されるように、事前報知の残り枚数については差数分（ここでは、８枚払出－３ベット＝５）が更新表示され、有利中純増報知の純増数については８枚払出分が更新表示されている。なお、遊技終了時において、小役入賞が発生せずにメダル払出がない場合でも事前報知の残り枚数については差数分（ベット分）が更新表示され、有利中純増報知の純増数については更新表示されない。これは、事前報知に用いられるＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値を更新するための処理が、図２３０で説明したとおり、全リール停止からメダル投入可能となるまでの間にのみ行われることに起因している。このために、事前報知における残り枚数は、遊技終了時にのみ更新表示し、ベットしてスタートレバー７を操作して新たな遊技を開始したときには更新表示しない態様を採用している。これにより、事前報知を行うにあたり、遊技開始時においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値からベット分を減算する処理や減算した値に更新表示する処理などを行う必要がなく処理負担を増大させてしまうことを防止しつつ、更新表示の態様からも有利中純増報知との区別がつきやすくなるようにして遊技者を混乱させてしまうことを防止できる。本例においては、遊技開始時においてＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値からベット分を減算する処理や減算した値に更新表示する処理などを行わないことにより、報知する枚数とコンプリート作動までの実質差枚数に最大３枚の差異が発生するが、「約」といった文言も表示することなく遊技終了時の残り枚数を維持することにより、処理負担を増大させないことを優先している。

【３１２３】

第２の例：事前報知の第１態様としては、１ずつインクリメントあるいはデクリメントして残り枚数に更新表示するのではなく、一時（一気）に残り枚数に切り替えて更新表示するのに対して、有利中純増報知の第２態様としては、少なくとも遊技終了時であって小役入賞しているときに、前述したとおり、払出枚数を加算した純増数に達するまで１ずつインクリメント表示することにより純増数まで更新表示するものであってもよい。具体的には、図２３８（ｂ）に示されるように、事前報知の残り枚数については、遊技終了時において一時（一気）に更新後の残り枚数である「４９１」に切り替えて更新表示されている。これに対して、有利中純増報知の純増数については、１ずつインクリメント表示（図２３８（ｂ）では下向き矢印により１ずつインクリメント表示されていることを示している）された結果、図２３８（ｃ）に示すように払出枚数を加算した純増数まで更新表示される。

【３１２４】

第３の例：事前報知の第１態様と、有利中純増報知の第２態様とは、更新表示を開始するタイミングが異なるものであってもよい。事前報知における更新表示を開始するタイミングの方が有利中純増報知において更新表示を開始するタイミングよりも先となるように定められているものであってもよく、例えば、図２３８（ｂ）に示すように事前報知にお

ける更新表示を完了した後に、有利中純増報知における更新表示を開始するものであってもよい。また、有利中純増報知において更新表示を開始するタイミングの方が事前報知における更新表示を開始するタイミングよりも先となるように定められているものであってもよく、例えば、有利中純増報知における更新表示を完了した後に、事前報知における更新表示を開始するものであってもよい。

【３１２５】

第４の例：事前報知においても、有利中純増報知と同様に、インクリメントあるいはデクリメントして残り枚数に更新表示するようにした場合であっても、事前報知と有利中純増報知とで、１回にインクリメントあるいはデクリメントする数（第１態様では３であるのに対し、第２態様では１であるなど）が異なるように定められているものであってもよく、１回のインクリメントあるいはデクリメントをしてから次のインクリメントあるいはデクリメントするまでの時間的な間隔（第１態様では０．１秒であるのに対し、第２態様では０．３秒であるなど）が異なるように定められているものであってもよい。

【３１２６】

なお、事前報知における第１態様と、有利中純増報知における第２態様とは、異なる態様であれば、第１の例～第４の例のいずれかに限るものではなく、また、第１の例～第４の例を任意に組み合わせた態様としてもよい。

【３１２７】

また、パチスロ機１では、遊技の進行に応じて各種の演出が実行可能であり、実行される演出に応じた演出画像がメイン演出表示部２１に表示される。また、各種演出のうち、例えばＡＴ当籤あるいはボーナス当籤している可能性が高いことを報知するような演出などを含む特定演出（プレミア演出などを含む）が実行されるときには、メイン演出表示部２１の表示領域全域において迫力のある演出画像が表示される。また、有利状態中であって有利中純増報知が行われているときに特定演出が実行されたときには、特定演出の演出画像により遊技者の期待感を高めるために、有利中純増報知を中断する制御（純増数を非表示とする制御）を行い、特定演出が終了した後に有利中純増報知を再開する制御を行う。

【３１２８】

一方、有利状態中であって事前報知が行われているときに特定演出が実行されたときには、事前報知について維持する。これは、事前報知によりすでにコンプリート機能の作動が近づいていることが報知されているために特定演出により遊技者の期待感を高めることが難しく、そのような状況においてわざわざ事前報知を中断等させてまで特定演出を実行してしまうと、意図的（積極的）に特定演出を遊技者に視認させているような印象を与えてしまう結果、かえって遊技者の心情を逆なでしてしまう虞があるためである。

【３１２９】

図２３８（ｄ）は、図２３８（ｃ）の状態において遊技が開始されたときに特定演出が実行されたときの表示例を示している。図２３８（ｄ）では、特定演出の演出画像として、メイン演出表示部２１の表示領域全域において大きなキャラクタが３体と、爆発したかのような画像とが表示されている。図２３８（ｄ）に示されるように、特定演出が実行されたときであっても、事前報知のメッセージ画像については、特定演出実行前と同じ態様で、特定演出の演出画像に重畳させて（優先して）表示される。これに対して、有利中純増報知については、中断されて純増数が非表示となっている。これにより、特定演出の演出画像を極力遊技者が視認可能としつつも、事前報知については維持されるため、当該事前報知を中断等するものと比較して、遊技者の心情を逆なでしてしまうことを極力防止できる。

【３１３０】

なお、図２３８（ｄ）では、特定演出が実行されたときに有利中純増報知を中断する制御を行い、特定演出が終了した後に有利中純増報知を再開する制御を行う例について説明したが、これに限らず、特定演出が実行されたときに有利中純増報知の視認性を低下させる制御を行い、特定演出が終了した後に有利中純増報知の視認性を元に（通常時に）戻す

制御を行うものであってもよい。

【３１３１】

図２３８（ｅ）は、有利中純増報知の視認性を低下させる例として、有利中純増報知である「ＴＯＴＡＬ：６８６」という画像の表示サイズを残り数の「ＬＡＳＴ：３０１」という画像とともに小さくするとともに、メイン演出表示部２１の表示領域の左上隅の領域に移動表示する例を示している。なお、有利中純増報知の視認性を低下させる例としては、表示サイズを小さくするものに替えてあるいは加えて、例えば、有利中純増報知の透過率を高めて半透明とするものや、メイン演出表示部２１において非表示とする一方でサブ表示装置２２０において表示するものなどであってもよい。

【３１３２】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタおよび有利区間払出数カウンタの初期化について）

ＣＭＰ＿ＭＹカウンタは、電源投入時からの所定期間におけるメダルの差数の累計数に応じて事前報知やコンプリート機能を作動させるか否かを判定するためのカウンタであり、基本的には電源投入時から電源が遮断されるまでの所定期間であって開店前に電源投入し閉店後に電源遮断する一般的な遊技店の１営業日中における射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するものである。このため、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタは、前述したとおり、ＲＡＭ異常時や設定変更時のみならず、開店前に行われるであろう電源投入時においても初期化される。

【３１３３】

しかし、電源投入時において一律にＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化する場合、例えば、１営業日中においてＲＡＭ異常以外のエラーが発生したときに当該エラー解除に併せて電源遮断して電源投入する方が望ましい状況となることも考えられるが、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化せずに電源投入することができない。また、１営業日中であるにもかかわらず、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化することを意図して電源遮断して電源投入するといった不正行為が行われることも予想される。

【３１３４】

このように、電源投入時において一律にＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化することによる不具合を未然に防止するために、パチスロ機１では、電源投入時に特定条件が成立していないときにＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化し、電源投入時であっても特定条件が成立しているときにはＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化しないようにしてもよい。特定条件として、以下に具体例を例示するが、これに限らず、能動的に店員などから操作・設定を受け付けることにより成立するものであってもよく、能動的な操作・設定を要することなく所定事象が起こっていることにより成立するものであってもよく、２つ以上の条件がＡＮＤ条件あるいはＯＲ条件として組み合わされるものであってもよい。

【３１３５】

（ア）　パチスロ機１においてＲＡＭ異常以外のエラー（例えば、いずれかのエラー、あるいは、エラーのうち特定種類のエラー（例えば、ホッパーエンプティエラーなど））が発生している状況下において電源遮断された後の電源投入であることにより成立する条件

（イ）　特定の操作部への操作（例えば、設定用鍵型スイッチ５２やリセットスイッチ５３への操作など）を受け付けている状況下において電源遮断された後の電源投入であることにより成立する条件

なお、特定の操作部は、電源投入時においてＣＭＰ＿ＭＹの初期化を回避するためだけの専用の操作部であってもよく、遊技の管理・進行に応じて操作され得る操作部を兼用するものであってもよい

（ウ）　電源遮断時から経過した時間を内部的に計時し（所定のカウンタの値を定期的にカウントアップするなど）、電源投入時において当該電源投入されるまでに計時された時間（カウントアップされた値）が所定時間（比較的長い時間、例えば６時間に相当する値など）に満たないことにより成立する条件

（エ）　有利状態中において電源遮断された後の電源投入であることにより成立する条件

（オ）　１つ以上のリールが回転中であるときに電源遮断された後の電源投入であること

により成立する条件
（カ）　１ベット以上されている状況下において電源遮断された後の電源投入であることにより成立する条件
（キ）　再遊技作動中であるときに電源遮断された後の電源投入であることにより成立する条件
　また、パチスロ機１においては、一の有利区間中におけるメダルの差数の累計数に応じて払出数リミッタを作動させるか否かを判定するための有利区間払出数カウンタが搭載されている。有利区間払出数カウンタは、射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するためのカウンタである点でＣＭＰ＿ＭＹカウンタと共通する。このため、有利区間払出数カウンタについても、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタと同様に、電源投入時に特定条件が成立していないときに有利区間払出数カウンタを初期化し、電源投入時であっても特定条件が成立しているときには有利区間払出数カウンタを初期化しないようにすることが考えられる。
【３１３６】
　しかし、有利区間払出数カウンタは、遊技店の１営業日中における射幸性を抑制することを目的とするＣＭＰ＿ＭＹカウンタとは異なり、一の有利区間中における射幸性を抑制することを目的としている。また、一の有利区間は、メダルの差数のみならず有利区間において遊技可能となるゲーム数として上限ゲーム数（４０００等）が定められており、上限ゲーム数に到達することにより当該一の有利区間が終了するため有利区間払出数カウンタも初期化される。
【３１３７】
　なお、有利区間の上限ゲーム数への到達による有利区間終了リミッタを備えず、メダルの差数が上限枚数に到達した場合及び遊技機の仕様に応じた有利区間終了条件（例えば、ＡＴ終了時など）を満たしたときに、当該一の有利区間が終了するものとしてもよい。以下、上限ゲーム数とのバランスについての説明は、上限ゲーム数を備える遊技機を前提とした説明である。
【３１３８】
　このため、電源投入されたときであって特定条件が成立していないときに有利区間払出数カウンタを初期化してしまうと、有利区間払出数カウンタが初期化され過ぎてしまう虞や、一の有利区間における上限ゲーム数とのバランスが崩れてしまい一の有利区間中における射幸性を適正に抑制できない虞がある。
【３１３９】
　そこで、パチスロ機１では、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタについて、電源投入時に特定条件が成立していないときに初期化し、電源投入時であっても特定条件が成立しているときには初期化しないようにした場合であっても、有利区間払出数カウンタについては、電源遮断された後に電源投入されることのみによっては特定条件が成立しているときのみならず特定条件が成立していないときであっても初期化しないようにしてもよい。これにより、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタについては電源投入されたときであっても特定条件が成立しているか否かにより初期化するか否かを異ならせることができるため、利便性を向上させることができる。これに対して、有利区間払出数カウンタについては電源投入されることのみによっては特定条件が成立しているときのみならず特定条件が成立していないときであっても初期化されないため、処理を複雑化することなくかつ有利区間における上限ゲーム数とのバランスを担保することにより一の有利区間中における射幸性を適正に抑制できる。
【３１４０】
（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例）
　前述の通り、１営業日中であるにもかかわらず、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化することを意図して、あるいは意図せずに操作ミスなどで電源遮断して電源投入するといった事態が生じることも考えられる。営業時間中にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されることを抑制する仕様としてここまでに例示した以外の仕様例を以下で説明する。なお、有利区間払出数カウンタの初期化については、前述と同様であるため説明を割愛する。
【３１４１】

仕様１：メインプログラムのソフトウェアタイマ（以下「クリア時間用タイマ」ということがある）で、電源投入後から電源オン状態が維持された時間を計時可能とする。電源オフ状態でも計測された時間値情報は維持されるが、更新は行われない。
仕様２：電源投入時にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されてからの電源オン状態で経過した累計時間（以下「累計経過時間」ともいう）が特定時間値（例えば、１２時間）に至るよりも前の電断復帰時ではＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化しない。
仕様３：「累計経過時間」が特定時間値以上（例えば、１２時間以上）に至った後の電断復帰時ではＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化する。
仕様４：「累計経過時間」が特定時間値に達したか否かに関わらず、設定変更操作を行った場合はＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。
仕様５：「累計経過時間」が特定時間値に達したか否かに関わらず、ラムクリア操作（ＲＷＭクリア操作、ＲＡＭクリア操作と記載する場合もある。主制御基板２０７１に設けられたリセットボタンを押しながら電源を投入する操作。）を行った場合はＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。
仕様６：電源投入時にＲＷＭエラー（ＲＷＭ異常、ＲＷＭメモリエラー、ＲＡＭ異常などともいう）となった場合は、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。

【３１４２】

このような仕様１～６を備える遊技機とすることで、店舗運営時の店員の負担をなるべく増やすことなく、電源投入後１２時間以内の電断復帰時にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されることを抑制できる。なお、ラムクリア手順非搭載の遊技機においては、仕様５を搭載しないものとしてもよい。また設定１段階のパチスロ機や設定値概念のないパチンコ機の場合は、仕様４を搭載しないものとしてもよい。つまり、仕様４又は５は少なくともいずれか一方を搭載していればよい。なお、特定時間値は１２時間として例示したがそれ以外の時間値でもよい。

【３１４３】

一例として、１０時開店、２３時閉店。遊技可能時間は、会員カードを持つ客なら２２時５０分。会員カードを持たない客なら２２時４５分まで、という営業時間の店で、特定時間値が１２時間の遊技機を前提として説明する。電源投入は、開店の１時間前から概ね１０分くらい前までに行われることが多いためここでは９時３０分に電源が投入されるものとする。９時３０分の電源投入時にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。そして電源投入直後から仕様１に記載したソフトウェアタイマによる経過時間の計時が行われる。その後、開店した１０時から当該遊技機で遊技が行われる。９時５０分から「累計経過時間」が１２時間に到達する２１時３０分までの間は、電断復帰が行われてもＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されない。２１時３０分以降に、電断復帰が行われた場合には、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されることとなるが、残りの遊技可能時間は会員カードを持つ客でも１時間２０分ほどである。その遊技機の仕様にもよるが、１時間２０分で獲得できる遊技価値の量には限界があるため、仮に２１時３０分以降に電断復帰が行われたとしても１日に獲得できる遊技価値のＭＹ値が青天井となることは防止することができる。

【３１４４】

上記のような１３時間営業の店を想定した場合は、特定時間値が１３時間と営業時間の長さと合致する遊技機の方が、営業時間中のＣＭＰ＿ＭＹカウンタの初期化を完全に抑制できるため、そのような仕様としてもよい。

しかし、特定時間値を営業時間と同じ時間（１３時間）とした場合は以下のような問題点がある。９時５０分に電源投入を行った場合、電断復帰でＣＭＰ＿ＭＹカウンタの初期化可能となる時刻は２２時５０分以降となる。閉店間際まで遊技していた客が会員カードを持たない客だけで２２時４５分までに全ての客が遊技終了し、退店していた場合、２２時５０分を待たずに電断作業を開始する可能性がある。ここで、初期化可能時刻より前である２２時４６分に電源を落とし、翌日電源投入された場合、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタは維持されてしまうことになる。仮にその台が当日にＭＹ１８０００枚であった場合、翌日ＭＹがプラス１０００となった時点で打止となってしまい遊技客はすぐに打止になったこと

で損失感を抱き、店側はその台の稼働がすぐに止まってしまう（原則、営業時間中の設定変更やラムクリアは行わない運用が一般的であるため）という損害を被ることとなる。このような場合を想定して主な営業時間の尺である１３時間よりも短い時間値を特定時間値とすることが望ましい。

【３１４５】

新台入れ替えの作業などの都合により、１７時から２３時までなど短縮営業を行う場合もある。このような場合は、翌日に設定変更又はラムクリア手順で解除すればＣＭＰ＿ＭＹカウンタがクリアされるため、前日の獲得枚数の影響でその次の日に早めにコンプリート機能が作動してしまうということが抑制できる。一般的に短縮営業はまれに行うものなので、当該遊技機の全台について、設定変更又はラムクリア手順を行うとしても店側の負担はそこまで大きなものとならない。

【３１４６】

特定時間値を一般的な営業時間尺（例えば１３時間）以上として、営業時間中のＣＭＰ＿ＭＹカウンタを強く抑制する仕様としてもよいが、通常営業の場合でも全台に対して設定変更又はラムクリア手順を行う運用にしてもらうか、電源投入から１３時間以上が経過した深夜に電断を行ってもらう運用としてもらう必要があり、店舗側の負担が大きいというデメリットもある。そのため、上述の通り一般的な営業時間尺よりも短い特定時間値とした方が店舗側の負担は軽減できる。

【３１４７】

なお、クリア時間用タイマの更新処理やＣＭＰ＿ＭＹカウンタの初期化処理、コンプリート機能に関する処理は、ＲＯＭの使用領域外の記憶領域に記憶され、ＲＡＭの使用領域外作業領域を使って処理が行われるものとするとよい。領域外を使うことで、メイン側の領域内プログラム及び領域内作業領域のリソースを節約できる。もっともメイン容量に余裕がある場合は、領域内を用いてこれらの処理を行うものとしてもよい。

【３１４８】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例　クリア可能状態の報知等）

電断復帰でＣＭＰ＿ＭＹカウンタがクリアされる状態（以下、「クリア可能状態」ともいう。直近のＣＭＰ＿ＭＹカウンタが行われた電源投入から特定時間値の経過以降）なのか、クリアされない状態（以下、「クリア不能状態」ともいう。直近のＣＭＰ＿ＭＹカウンタが行われた電源投入から特定時間値の経過より前）なのか店側の作業担当者が認識可能とすることが望ましい。以下のような仕様が考えられる。

【３１４９】

仕様Ａ：所定操作時に、クリア可能状態である旨の報知または示唆の少なくともいずれか１つが行われる。クリア不能状態での所定操作時には、クリア不能状態である旨の報知または示唆の少なくともいずれか１つが行われる。

仕様Ｂ：所定操作時に、クリア可能状態である旨の報知または示唆の少なくともいずれか１つが行われる。クリア不能状態では所定操作時でも特にその状態である旨の報知／示唆は行われない。

仕様Ｃ：所定操作時に、クリア可能状態である旨の報知／示唆は行われない。クリア不能状態での所定操作時には、クリア不能状態である旨の報知または示唆の少なくともいずれか１つが行われる。

仕様Ａ、Ｂ、Ｃのいずれかを採用することができる。

【３１５０】

ここで所定操作とは前扉の開放、ドアキーを左に回す簡易的なエラー解除操作、前扉を開放した状態でリセットスイッチを押下するなど、遊技者が行うことが困難か不可能な操作であり店員が行うことができる操作であればどの操作を報知等の前提条件としてもよい。クリア可能状態で報知／示唆が行われるための所定操作と、クリア不能状態で報知／示唆が行われるための所定操作は、同じ操作としてもよいし、異なる操作としてもよい。

“報知”とは、画面に「電断を行った場合にコンプリート機能用カウンタがリセットされます」と表示されたり、そのような趣旨のガイド音声が出音されたりして明瞭に状態と分か

る場合である。
“示唆”とは、所定操作時の画面表示の背景色をクリア可能状態と不能状態で異ならせる、クリア不能状態と可能状態で任意のランプ（装飾ランプの一部であっても、当該機能専用ランプでも、セグのドットなどでもよい）の点灯態様を異ならせるなど、そのルールを知っている者であれば理解できる態様での通知という意味である。
“報知または示唆の少なくともいずれか１つ”とは、報知と示唆の両方の機能をもっていてそのうちの１つ以上を行う場合であっても、報知機能のみ、あるいは示唆機能のみのいずれかのみをもっていてもそのうちの１つ以上を行うものであってもよい。以下、“報知または示唆の少なくともいずれか１つ”を指す場合に「報知等」と略記することがある。
【３１５１】
仕様Ａは、クリア可能状態とクリア不能状態のいずれについても報知等が行われるため、状態が分かり易いというメリットがある。
仕様Ｂは、クリア可能状態でのみ状態について報知等が行われる。クリア不能状態ではその旨の報知等が行われないが、クリア可能状態で発生する報知等が発生しないことで間接的にクリア不能状態であることは察知可能な態様であると言える。
仕様Ｃは、クリア不能状態でのみ状態について報知等が行われる。クリア可能状態ではその旨の報知等が行われないが、クリア不能状態で発生する報知等が発生しないことで間接的にクリア可能状態であることは察知可能な態様であると言える。
【３１５２】
（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例　ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化に関する報知）
クリア可能状態で電断復帰が行われることで、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された場合は、その旨を報知することが望ましい。ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの初期化を目的として電断復帰を行った店員に、初期化が完了した旨を認識させることができるからである。報知は、画像、セグ等の表示、音声などのいずれか又は複数で行うとよい。
例えば、電源投入後に「コンプリート機能用枚数カウンタがクリアされました」などの画像が表示される、音声が出音される、払出セグやクレジットセグなど所定のセグメントにクリアされた旨を示す識別子「ＣＣ」（complete clearの頭文字）を表示してもよい。あるいは電源投入時に所定のセグにてドットだけ点灯するなどといったカウンタクリアに対応する専用発光態様で光らせることでクリアを報知してもよい。
【３１５３】
クリア不能状態で電断復帰が行われた場合は、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されなかった旨を報知するものとしてもよいし、特にその旨を報知しないものとしてもよい。報知する仕様の場合は、「コンプリート機能用枚数カウンタは維持されています」といった内容の画像や音声などの報知を行ってもよいし、「コンプリート機能用枚数カウンタは維持されています。ラムクリアか設定変更を行うとカウンタはクリアされます。」というように、クリア手順を案内する内容も含めた報知を行って、作業者の利便性を図るものとしてもよい。
【３１５４】
設定変更操作に伴ってＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された場合は、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨を報知するものとしてもよいし、しないものとしてもよい。報知する場合は、設定変更処理の完了時に「設定変更が完了しました。コンプリート機能用枚数カウンタをクリアしました。」といった画像表示や音声の出音が行われる。報知しない場合は、設定変更処理の完了時に「設定変更が完了しました。」といった画像表示や音声の出音が行われる。また、第１の報知手段（例えば、画面）ではカウンタ初期化の報知を行うが、第２の報知手段（例えば、スピーカー）ではカウンタ初期化の報知を行わないといったものとしてもよい。例えば、設定操作完了時の音声が冗長であるといった印象を抑制したい場合などにこのような仕様としてもよい。また、画面が小さい場合などは第１の報知手段をスピーカー、第２の報知手段を画面として音声では報知を行うが、画面ではカウンタ初期化の報知を行わないといった仕様でもよい。ところで、設定変更作業はスロットであれば前扉を開いた状態、パチンコであれば本体枠を外枠に対して開いた状態で行われ

、いずれにせよドアオープンエラーの状態に該当する。ドアオープンエラーの状態では「扉が開いています」などのエラー報知音声が出音されるが、上述の「設定変更完了」や「カウンタ初期化」の音声と同じタイミングで出音されると聞き取りにくい。そのため、「設定変更完了」や「カウンタ初期化」の音声の出音が終了してから、「扉が開いています」といったエラー報知音声を出音することが望ましい。もっとも、出音処理を簡素したい場合は、「設定変更完了」等の音とエラー報知音の出音タイミングが少なくとも一部において重なってしまっても差し支えない。

【３１５５】

ラムクリア操作に伴ってＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された場合は、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨を報知するものとしてもよいし、しないものとしてもよい。報知態様としては設定変更時と同様の仕様を適宜採用できる。カウンタの初期化を報知するか否かは以下の４通りの仕様が考えられる。いずれの仕様としてもよい。

また、報知手段（画面、スピーカー等）により異なる報知ルールを採用してもよい。

・設定変更時：報知する　ラムクリア時：報知する
・設定変更時：報知する　ラムクリア時：報知しない
・設定変更時：報知しない　ラムクリア時：報知する
・設定変更時：報知しない　ラムクリア時：報知しない

【３１５６】

クリア可能状態であるか、クリア不能状態であるかはあくまでＣＭＰ＿ＭＹカウンタが電断復帰時に初期化されうるかどうかといったものであり、設定変更やラムクリアの場合は、こうしたクリア可能／不能状態に関係なく操作後にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。そのため、設定変更時やラムクリア時にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨を報知する仕様の場合は、クリア可能状態での初期化であってもクリア不能状態の初期化であっても同様の報知態様（例えば、報知音声が同じ内容）とすることが望ましい。店員は、少なくとも初期化されたことだけを把握できれば十分であり、クリア前の状態がどういった状態であったかは不要な状態であるため、余計な情報を伝えないことでＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の作業者が混乱することを防止できる。

【３１５７】

ところで、遊技機の電源投入時においては、サブ側の画像制御系などの起動に数十秒～１分ほど時間がかかる場合があり、この間は画面に「起動中です」「ＮＯＷ　ＬＯＡＤＩＮＧ」といった画像（ローディング画面）を表示して、起動待ちであることを分かり易くするよい。起動完了後に、ローディング画面の表示を終了し、ただの電断復帰であれば、通常画面へ、設定変更、ラムクリアであればその旨を示す画面表示に切り替わるものとなる。

ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化を示す画像もローディング画面の表示終了後に表示するとよい。ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化を示す画像は、対応画像（画面全体の１枚絵や黒背景にシステムフォントでの表示等）としてもよいし、通常の電断復帰時に初期化が行われた場合は、通常ステージ背景の手前に「コンプリート機能用枚数カウンタがクリアされました」との画像を表示してもよい。いずれの場合も所定時間の経過（数秒程度）で初期化を示す画像の表示を終了することが望ましい。当該画像の表示を終了させるために、何らかの操作が必要とすると作業者の負荷が増大するからである。

【３１５８】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例　ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化と履歴画面）

例えば、電源投入状態のまま設定キーを左にひねるなどの所定の操作を行った場合に、ホール向けのメニュー画面を表示する機能を有してもよい。この中で設定変更、設定確認、ラムクリア、エラー発生、ドア開放、ドア閉鎖、電源断、電源投入などのイベントの発生及び、発生時刻または日時を履歴として表示するものとしてもよい。

例えば、以下のような表示となる。履歴番号、イベント、日付、時間（何時何分何秒）という記載である。

履歴番号が若いほど現時点（履歴表示時点）に時間的に近いイベントとなっている。

履歴番号１　設定確認　２０２３／０１／０１　２３：１０：００
履歴番号２　ドア開放　２０２３／０１／０１　２３：０９：００
履歴番号３　ドア閉鎖　２０２３／０１／０１　０９：５０：００
履歴番号４　設定変更　２０２３／０１／０１　０９：４９：００
履歴番号５　ドア開放　２０２３／０１／０１　０９：４８：００
履歴番号６　電源投入　２０２３／０１／０１　０９：４８：００

この例では、９時４８分に電源投入し、電源投入時点でドア開放状態であるため同時刻にドア開放が記録され、その後設定変更、ドア閉鎖が行われている。営業時間中は特にイベントなく営業を終了し、閉店後の２３時９分に店員がドアを開放して設定確認操作を行うことで履歴を閲覧しているといった状況である。この例では、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化は履歴に表示していないが、表示するものとしてもよい。

履歴番号１　設定確認　　２０２３／０１／０２　０９：５０：００
履歴番号２　コンプリートカウンタ初期化　２０２３／０１／０２　０９：４８：００
履歴番号３　ドア開放　　２０２３／０１／０２　０９：４８：００
履歴番号４　電源投入　　２０２３／０１／０２　０９：４８：００

といったように電源投入時に初期化が行われたかどうかを履歴で表示する。これにより店員が直近や過去の電源投入時にカウンタ初期化が行われた時間を把握することが可能となる。コンプリートカウンタ初期化の履歴項目は電源投入後の初期化のみを表示対象としてもよいし、設定変更時やラムクリア後のコンプリートカウンタ初期化も含めて表示の対象としてもよい。

仮に、上記の状況で電源投入時に初期化が行われない場合は以下のような表示となり、カウンタ初期化が発生していないことを作業者は認識することが可能となる。

履歴番号１　設定確認　　２０２３／０１／０２　０９：５０：００
履歴番号２　ドア開放　　２０２３／０１／０２　０９：４８：００
履歴番号３　電源投入　　２０２３／０１／０２　０９：４８：００

【３１５９】

なお、コンプリートカウンタ初期化以外の種々の項目については、表示すべきイベントの種別は任意である。

シンプルに「設定変更・設定確認・ＲＡＭクリア」をといった少ない種類のイベントを表示対象としてもよいし、さらに、エラー種別やドア開放、ドア閉鎖などを表示対象としてもよい。表示時刻も、日付と何時何分だけで秒数は表示しないものとしてもよい。また、ホールメニューの中で日時設定（現在が何年何日何時何分何秒かを入力する項目）ができるものとするとして、時間のずれなどを調整できるものとするとよい。

【３１６０】

また、電源投入からの経過時間を時刻に代えて表示してもよい。以下の履歴表示で説明する。この例では設定変更、設定確認、ラムクリア、カウンタクリア、電源投入等は表記するがドア開放、閉鎖は表示項目としていない。

履歴番号１　設定確認　　００：０１：００
履歴番号２　コンプリートカウンタ初期化　００：００：０２
履歴番号３　電源投入　　００：００：００
履歴番号４　電断　　１３：２０：００
履歴番号５　コンプリートカウンタ初期化　００：００：０２
履歴番号６　ラムクリア　００：００：０２
履歴番号７　電源投入　　００：００：００

１日目は９時５０分にラムクリア操作しつつ（リセットスイッチを押下しながら）電源投入し、それに伴いカウンタ初期化した場合である。履歴番号７、６、５である。なお、電源投入の時刻は経過時間タイプの履歴からは読み取れないので、必要であれば電源投入時刻を別途メモしておくとよい。

初期化は電源投入後の２秒後に完了しているため経過時間の値は「００：００：０２（０時間０分２秒）」と表示されている。ここまで厳密に表示せず電源投入などに合わせて

行われる処理については電源投入と同時刻「００：００：００」という経過時間表示でもよい。

１日目は１３時間２０分が経過した閉店後の２３時１０分に電断を行っている。履歴番号４である。

電断の時刻は不明であるが、少なくとも電源投入からの１３時間２０分後（特定時間値である１２時間経過以降）に電断されたことが分かり、次の電源投入時にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されるという流れが事後的に履歴で確認できる。

翌日、９時５０分に電源投入を行っている。履歴番号３である。この履歴では電源投入からの経過時間が記録されるため、履歴の経過時間は０：００：００となっている。電源投入に伴いＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される。履歴番号２である。電源投入の１分後に念のため、設定確認操作（電源オンのまま設定キーをひねる）を行い設定変更などの履歴画面を閲覧しているという状況が履歴番号１に相当する。このように履歴画面においてイベント種別と電源投入からの経過時間を対応した表示態様としてもカウンタの初期化が適切に行われたことが把握でき、また電源投入からの経過時間が見えるという点では特定時間値の経過が認識しやすいというメリットもある。

【３１６１】

履歴表示のために電源投入を示す信号が電源投入時に主制御回路（例えば、主制御回路１００）から副制御回路（例えば、副制御回路２００）へ送信される。また、設定変更や、ラムクリアを行った場合も同様に対応する信号が主制御回路から副制御回路へ送信される。電源投入に伴いＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された場合も主制御回路から副制御回路へ初期化されたことに対応する信号が送信されることとするとよい。もっとも、主制御回路から副制御回路へ初期化されたことに対応する信号を送信することなく、副制御回路側で、前回の電源投入からの経過時刻が１２時間以上経過してからの電断復帰である場合を判断して、履歴表示画面でＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨の表示を出すこととしてもよい。なお、設定変更や、ラムクリアが行われた場合はその旨の信号を主制御回路から受信できるため、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨の信号を、設定変更などを示す信号とは別に受信することがない仕様であっても副制御回路はＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された旨を把握して、履歴表示を行うことができる。

【３１６２】

なお、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化された場合に、外部信号を出力してもよい。外部信号としては、試験用信号、外部端子板から出力される外端信号、遊技球等貸出端子板からスマート遊技機用のサンドへ向けて出力される外部出力信号などが挙げられる。試験用信号は、試験機関の試験機で受信されることで遊技機の状況を適切に把握でき円滑な試験の進行が可能となる。外端信号、外部出力信号は、直接、あるいは他の中継機器を経由して、最終的にホールコンピュータに送信され、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されたことを店舗側が認識することが可能となり、適切な状況の把握が可能となる。

【３１６３】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例　ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化に関する説明）

ところで、市場においては特定時間値を持たずにいつ電断復帰してもＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される遊技機と、特定時間値（例えば、１２時間）も持ち、電源投入から特定時間値が経過するまでは電断復帰でＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されない遊技機がともに存在する状況も考えられ、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化の作業をする際に店員が混乱をきたす可能性がある。そこで、特定時間値を有する機種においては、特定時間値を有する機種であることを少なくとも店員が認識可能な態様で説明する表示を有することが望ましい。

例えば、設定確認中に表示されるホールメニューで特定時間値を有するので電断復帰時に注意して欲しい旨の説明を表示するものとするとよい。画面を有しない機種の場合は、腰部パネルや遊技機筐体内の電源スイッチの近傍など任意の位置に「特定時間値以内の電断復帰ではＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されない」「特定時間値経過後の電断復帰ではＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化される」「特定時間値以内でもラムクリアや設定変更では、Ｍ

Ｐ＿ＭＹカウンタが初期化される点」などの説明に関する記載部を有するものとしてもよい。また、特定時間値以内の電断復帰ではカウンタが初期化されないということをロゴ化したマークなどを例えば、特定時間値を示す１２という数字を○で囲んでデザイン化したマークなどを遊技機の外観部の任意の位置に有するものとしてもよい。

【３１６４】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ初期化の変形例　ソフトウェアタイマ以外を用いた経過時間管理方法）

上述の例では、ソフトウェアタイマで電源投入からの経過時間を計時したが、他の計時手段を用いてもよい。

例えば、主制御基板あるいはメインＣＰＵにＲＴＣ機能を搭載することとしてもよい。また、電源オン状態が維持された累積時間ではなく、電源オフ状態で経過した時間を監視可能な別途の基板などをハード的に用意して、短時間での電源入り切り（電断から電源投入までが４時間以内等）ではＣＭＰ＿ＭＹカウンタは初期化されないなどとして、営業時間中にＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されることを抑制することとしてもよい。

【３１６５】

（ＣＭＰ＿ＭＹカウンタおよび有利区間払出数カウンタの報知について）

ＣＭＰ＿ＭＹカウンタは、遊技店における営業の開始時において電源投入し、営業の終了時に電源遮断する一般的な遊技店の１営業日中における射幸性が過度に高くなってしまうことを抑制するものである。しかし、遊技店の運営方針によっては、射幸性をより細かく・厳しく抑制するため、あるいは、電源遮断・電源投入に要する作業量を低減させるために、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値が１８５００などに達していなくても１８５００などに迫る値となっている遊技機についてのみ電源遮断・電源投入したいといったニーズが存在することも想定される。このため、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報は、報知条件が成立することにより１８５００などに達しているか否かにかかわらず報知して、報知された情報に基づいて遊技店側において電源遮断・電源投入するか否かを選別できるようにしてもよい。

【３１６６】

報知条件は、遊技店の店員などによる特定の操作により成立する条件であってもよい。例えば、設定確認操作により報知条件が成立したものとし、所定の表示部に、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報として、当該ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値を報知するものであってもよい。また、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報としては、当該ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に限らず、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値をコンプリート機能作動となる上限数から差し引いた残り枚数そのものであってもよく、また、おおよその残り枚数（例えば、百の位以下の数値を切り捨てて千の位以上の数値のみ報知するものであってＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値が１２５５１の場合には「１２０００」を報知するもの）であってもよい。

【３１６７】

所定の表示部は、メイン演出表示部２１や、筐体２内に搭載されており下ドア機構ＤＤなどの前面扉を開いた状態において視認可能となる７セグＬＥＤ、下ドア機構ＤＤなどの前面扉を閉じた状態において視認可能となる７セグＬＥＤなどであってもよい。

【３１６８】

また、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値をコンプリート機能作動となる上限数から差し引いた残り枚数が予め定められた数未満（例えば、２０００未満）となっているパチスロ機については、報知条件が成立した場合に、所定のランプを特定態様で発光させる（例えば、下ドア機構ＤＤの下部の中央部に設けられた腰部パネル１３を裏面側から照射可能なランプを点滅態様で発光させるなど）ことにより残り枚数が予め定められた数未満であることを報知するようにしてもよい。

【３１６９】

このようにＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報を報知することにより、報知された内容を踏まえて、遊技店の店員は、電源遮断して電源投入することによりＣＭＰ＿ＭＹカウンタを初期化すべきか否かを判断可能となり、利便性を向上させることができる。この

ように、報知条件が成立することによりＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報を報知可能とした場合であっても、ＣＭＰ＿ＭＹの値に基づき事前報知やコンプリート機能作動の報知などが行われるものとする。

【３１７０】

なお、報知条件は、設定確認操作によってホールメニューが表示されることにより成立する条件であってもよく、また、ホールメニューに「ＣＭＰ＿ＭＹ情報」というメニューを含めて、当該「ＣＭＰ＿ＭＹ情報」が選択・決定されることにより成立する条件であってもよい。ホールメニューを経由する場合には、例えば、メイン演出表示部２１に電源投入からのスランプグラフとともにＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値を表示するものや、これらを表示する際に設定値なども合せて表示するものであってもよい。これにより、稼働データの概況を店員が把握しやすくなる。

【３１７１】

また、報知条件として、ホールメニューに含まれる「ＣＭＰ＿ＭＹ情報」が選択・決定されることにより成立する条件を採用した場合には、設定確認操作などによって表示され得るホールメニューのトップ画面や「ＣＭＰ＿ＭＹ情報」が選択可能となるまでに至る画面において「電断復帰でＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値は初期化されます」といったＣＭＰ＿ＭＹに関する参考情報を表示するものであってもよい。

【３１７２】

一方、有利区間払出数カウンタの値については、報知条件が成立したときであっても報知されることはない。これは、有利区間払出数カウンタの値が、電源投入という遊技店の売り上げへの影響が小さい事項によっては初期化されず、設定変更という遊技店の売り上げへの影響が大きくなる可能性を有する事項によって初期化されることに起因している。すなわち、有利区間払出数カウンタの値を遊技店の経営者が把握したところで、その値の大小に応じて、わざわざ遊技店の売り上げへの影響が大きくなる可能性を有する設定変更を行うか否かの判断に直結し難いために、有利区間払出数カウンタの値を把握したいというニーズが存在しないことが想定されるためである。

【３１７３】

このため、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報については、報知条件が成立することにより１８５００などに達しているか否かにかかわらず報知して、報知された情報に基づいて遊技店側において電源遮断・電源投入するか否かを選別できるようにしつつも、有利区間払出数カウンタの値については、たとえ報知条件が成立したときであっても報知されることはない。これにより、有利区間払出数カウンタの値に関する情報を報知するための処理を無駄に行うことがなく、処理負担が増大してしまうことを未然に防止できる。

【３１７４】

（ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う報知器について）

図２２９などにおいては、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を、メイン演出表示部２１であるメイン表示装置２１０（画像を表示可能な画像表示装置）において行う例について説明したが、これに限らず、サブ表示装置２２０において行うものであってもよい。また、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知は、パチスロ機に搭載されているＬＥＤにおいて行うものであってもよい。これにより、例えば、画像表示装置を搭載していないパチスロ機においてもＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行うことができる。以下に、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をＬＥＤにおいて行う場合の具体例について説明する。

【３１７５】

図２３９は、遊技の進行・結果に応じた情報を遊技者に対してデジタル表示（報知）するための２桁の７セグＬＥＤにおいて、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う場合の具体例を示している。図２３９では、主制御回路１００により制御される７セグＬＥＤであって、例えば遊技結果に応じて払出されたメダル数を表示するとともに、ＡＴ中においては押し順ナビを表示する払出表示部（払出数ランプ）を兼用する例について説明するが、その他の情報を表示する７セグＬＥＤ（例えば、情報表示装置１４に含まれる７セグＬＥＤ、副制御回路２００により制御される７セグＬＥＤなど）であってもよい。ＣＭＰ＿ＭＹ

に基づく各種報知は、遊技者が認識できることが必須であるため、当該各種報知を行う７セグＬＥＤは、大きさや配置などを含め、見えやすい態様であることや、ＬＥＤによる表示に加えて音声や効果音、ランプなどによる報知を加えることが好ましい。

【３１７６】

なお、主制御回路１００により制御される７セグＬＥＤにおいてＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う場合、図２３２で示したコンプリート関連報知処理は、主制御回路１００のメインＣＰＵ１０１により実行されるものとする。この場合、例えば、図２３１のＳＡ２３でＹＥＳと判定されることにより図２３２のＳＡ４１でＹＥＳと判定され、図２３１のＳＡ２３でＮＯと判定されることにより図２３２のＳＡ４３においてＹＥＳと判定される。また、図２３２のＳＡ４５、ＳＡ４８、ＳＡ４９、ＳＡ６３などにおいては、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値を参照するものとする。また、コンプリート関連報知処理がメインＣＰＵ１０１により実行される場合、当該コンプリート関連報知処理の制御プログラム及びデータは、メインＲＯＭ１０２の規定外エリアに記憶されることとなる。

【３１７７】

図２３９（ａ）は、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達している事前報知状態中の表示例であって、ＡＴ中であり押し順ナビが実行されて小役が入賞して８枚払出されたときの表示状態の遷移を示している。図２３９（ａ１）は、コンプリート（１９０００）までの残り枚数が４０１枚以上であって５００枚以下であるときの表示例であり、ＬＡＳＴの頭文字である「Ｌ」と、５００枚以下のうちの百の位である「５」とが表示される。

【３１７８】

事前報知状態中におけるＣＭＰ＿ＭＹについての定量的な変化を２桁の７セグＬＥＤで報知する場合には、予め定められた枚数（１００枚）単位で区切られた複数の範囲（１枚～１００枚、１０１枚～２００枚、…４０１枚～５００枚）のうち、コンプリートまでの残り枚数が属する範囲に応じた数値を１桁目に表示することにより行われる。

【３１７９】

コンプリートまでの残り枚数が属する範囲に応じた数値としては、各範囲内における最大枚数の百の位の数値である。このため、残り枚数が４０１枚～５００枚のときには「Ｌ５」と表示され、残り枚数が３０１枚～４００枚のときには「Ｌ４」と表示され、残り枚数が２０１枚～３００枚のときには「Ｌ３」と表示され、残り枚数が１０１枚～２００枚のときには「Ｌ２」と表示され、残り枚数が１枚～１００枚のときには「Ｌ１」と表示される。

【３１８０】

また、事前報知状態中におけるＣＭＰ＿ＭＹについての定量的な変化は、遊技が終了（払出時には当該払出終了）してからスタートレバー７が操作されるまでのメダル投入可能時に表示される。スタートレバー７が操作されてリール回転開始されるときには、図２３９（ａ２）に示すように、事前報知が一旦非表示となる。その後、押し順ナビが行われる場合、リールの回転速度が定速に達したときに当該押し順ナビが表示される。図２３９（ａ３）では、押し順ナビとして前述した「打順１」に対応する数値として１桁目に「１」が表示されている。全リールが停止されて遊技が終了したときには、再び図２３９（ａ１）の表示状態に切り替えられる。なお、全リールが停止されてメダル払出が行われるときには、払出枚数が表示された後に図２３９（ａ１）の表示状態に切り替えられる。

【３１８１】

図２３９（ａ４）では、８枚払出されたときの例であり、１桁目に「８」が表示されている。メダル払出に伴いコンプリートまでの残り枚数が属する範囲に変化が生じたときには、メダル投入可能となったときに当該属する範囲に応じた数値が１桁目に表示されることとなる。図２３９（ａ）では、スタートレバー操作から遊技終了までの間において事前報知を非表示としている。これは、リール回転開始から遊技の結果が得られるまでの間において遊技者が入れ替わる蓋然性が低いためである。しかし、スタートレバー操作から遊技終了までの間においても、他の報知器などを用いて視覚的に認識できる態様で事前報知を行うものであってもよい。

【３１８２】
図２３９（ｂ）は、コンプリートまでの残り枚数が１枚以上であって１００枚以下であるときの表示例であって、押し順ナビが実行されず、リプレイに入賞して再遊技が作動したときの表示状態の遷移を示している。メダル投入可能時においては、図２３９（ｂ１）に示すように、コンプリートまでの残り枚数が属する範囲に応じて「Ｌ１」が表示される。
【３１８３】
スタートレバー７が操作されてリール回転開始されるときには、図２３９（ｂ２）に示すように、事前報知が一旦非表示となり、押し順ナビもされない場合であるためにリールの回転速度が定速に達したときも非表示の状態が維持される。その後、全リールが停止されて遊技が終了（リプレイ入賞して再遊技作動）したときにも、メダル払出を伴わないため図２３９（ｂ４）に示すように非表示となる。また、再遊技作動中においては、メダル投入可能となっても図２３９（ｂ１）に示す表示状態には遷移せず、スタートレバー７が操作されるまで図２３９（ｂ４）の表示状態が維持される。
【３１８４】
図２３９（ｂ）では、再遊技作動中においてはメダル投入可能となっても事前報知を非表示としている。これは、大半の遊技機においてリプレイ入賞したことを演出やＬＥＤランプ等で遊技者に報知することから、事前報知を非表示としている間に遊技者が入れ替わる蓋然性は低く、入れ替わったとしても次の遊技者が不利益とならないためである。しかし、再遊技作動中におけるメダル投入可能な間においても、他の報知器などを用いて視覚的に認識できる態様で事前報知を行うものであってもよい。
【３１８５】
図２３９（ｃ）は、コンプリート機能作動待機状態中の表示例である。コンプリート機能作動待機状態中においては、遊技が終了（払出時には当該払出終了）してからスタートレバー７が操作されるまでのメダル投入可能時に、図２３９（ｃ）に示すように「Ｌ０」が表示される。図２３９（ｄ）は、コンプリート機能作動状態中の表示例である。コンプリート機能作動状態中においては、図２３９（ｄ）に示すように「ＣＰ」が表示される。なお、コンプリート機能作動状態中である旨を報知する識別子として、「ＣＰ」を例示したが、専用の識別子であればこれに限らず、例えば「Ｅｄ」などであってもよい。
【３１８６】
ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をＬＥＤにおいて行う例について説明したが、２桁の７セグＬＥＤの表示のみからでは報知している内容を理解・把握できないことも想定される。このため、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をＬＥＤにおいて行う場合には、例えば腰部パネル１３などの遊技機のパネルに、報知内容を説明するための説明表示を記載するのが好ましい。図２３９（ｅ）は、腰部パネル１３に記載される説明表示例を示す図である。これにより、予備知識などを有していない遊技者であってもＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知の意味内容を理解・把握できる。
【３１８７】
説明表示は、各種報知の意味内容を理解・把握できる態様であれば、報知内容すべての態様について説明表示（図２３９（ｅ）ではＬ３、Ｌ２についての説明表示）がされていないものであってもよい。また、文字数を減らすために「ＰＡＹＯＵＴ表示器に表示される記号の意味 Ｌ５/Ｌ４/Ｌ３/Ｌ２/Ｌ１：コンプリートまで残り５００/４００/３００/２００/１００枚以下 ＣＰ：コンプリート（打ち止め）」といった説明表示であってもよい。
【３１８８】
説明表示は、ＬＥＤの表示から報知している内容を遊技者が理解・把握できるようなサイズでパネルに記載されるとともに、ＣＭＰ＿ＭＹの値にかかわらず常時遊技者が認識可能となる態様であることが好ましい。例えば、サイズが小さくて認識できないものや、通常時はランプを消灯させて見えないような態様とし、事前報知を開始すると同時にランプを点灯させてはっきりと見えるような態様とする仕様は避けるべきである。

【３１８９】
図２３９では、主制御回路１００により制御される７セグＬＥＤを兼用してＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う例について説明したが、これに限らず、副制御回路２００により制御される７セグＬＥＤにおいてＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行うものであってもよく、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知専用のＬＥＤを用いるものであってもよい。
【３１９０】
図２４０は、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行うためのＬＥＤの例を示す図である。副制御回路２００により制御されるランプ・ＬＥＤ類には、例えば、演出や有利状態中の純増数の報知などに用いられる４桁の７セグＬＥＤが含まれ、遊技者が視認可能となる位置に設けられているものとする。
【３１９１】
図２４０（ａ１）は、副制御回路２００により制御される４桁の７セグＬＥＤを兼用した場合の表示例であり、図２４０（ａ２）は、腰部パネル１３に記載される説明表示例を示している。４桁の７セグＬＥＤでは、事前報知状態となるまでは演出や有利状態中の純増数の報知が行われ、事前報知状態となった後においてはＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う専用の報知器として用いられる。４桁の７セグＬＥＤにおいて事前報知する場合には、４桁の７セグＬＥＤのうち最上位桁（最も左の桁）において「Ｌ」が表示され、下位３桁においてコンプリートまでの残り枚数が常時表示される。
【３１９２】
図２４０（ａ１）では、「Ｌ５００」と表示されており、コンプリートまでの残り枚数が「５００」枚であることが報知されている。残り枚数は、１枚単位で更新表示される。なお、残り枚数が１００未満となったときには百の位の数値として「０」を表示あるいは非表示（例えば９９の場合は「Ｌ０９９」あるいは「Ｌ＿９９」と表示）とされ、１０未満となったときには百の位と十の位の数値として「０」を表示あるいは非表示（例えば９の場合は「Ｌ００９」あるいは「Ｌ＿＿９」と表示）とされる。
【３１９３】
また。コンプリート機能作動状態中においては、上位２桁は非表示となり下位２桁において「＿＿ＣＰ」が常時表示される。コンプリート機能作動待機状態中においては、「Ｌ０００」が常時表示されるなど、予め定められた表示状態となるものであればよい。なお、各種報知を常時表示するものに限らず、例えば、遊技が終了（払出時には当該払出終了）してからスタートレバー７が操作されるまでのメダル投入可能時にＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行い、その他の間においては本来の報知（例えば、演出や有利状態中の純増数の報知）を行うようにしてもよい。
【３１９４】
図２４０（ｂ１）は、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知専用のＬＥＤとして３桁の７セグＬＥＤを設けた場合の表示例であり、図２４０（ｂ２）は、腰部パネル１３に記載される説明表示例を示している。３桁の７セグＬＥＤは、遊技者が視認可能となる位置に設けられているものとする。３桁の７セグＬＥＤにおいて事前報知する場合には、当該３桁においてコンプリートまでの残り枚数が常時表示される。
【３１９５】
図２４０（ｂ１）では、「５００」と表示されており、コンプリートまでの残り枚数が「５００」枚であることが報知されている。残り枚数は、１枚単位で更新表示される。なお、残り枚数が１００未満となったときには百の位の数値として「０」を表示あるいは非表示（例えば９９の場合は「０９９」あるいは「＿９９」と表示）とされ、１０未満となったときには百の位と十の位の数値として「０」を表示あるいは非表示（例えば９の場合は「００９」あるいは「＿＿９」と表示）とされる。
【３１９６】
また。コンプリート機能作動状態中においては、下位２桁において「ＣＰ」が常時表示される。なお、コンプリート機能作動待機状態中においては、「０００」が常時表示されるなど、予め定められた表示状態となるものであればよい。

【３１９７】
図２４０（ｃ１）は、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知専用のＬＥＤとして５個のＬＥＤからなる報知器を設けた場合の表示例であり、図２４０（ｃ２）は、腰部パネル１３に記載される説明表示例を示している。５個のＬＥＤからなる報知器は、遊技者が視認可能となる位置に設けられているものとする。
【３１９８】
５個のＬＥＤからなる報知器において事前報知する場合には、予め定められた枚数（１００枚）単位で区切られた複数の範囲（１枚～１００枚、１０１枚～２００枚、…４０１枚～５００枚）のうち、コンプリートまでの残り枚数が属する範囲に応じたＬＥＤを点灯させることにより行われる。図２４０（ｃ１）に示されるように、５個のＬＥＤが横に並べて配置されており、左側のＬＥＤから順に第１ＬＥＤ、第２ＬＥＤ、第３ＬＥＤ、第４ＬＥＤとし、最も右側に位置するＬＥＤを第５ＬＥＤと称した場合、コンプリートまでの残り枚数が属する範囲に応じたＬＥＤとしては、残り枚数が４０１枚～５００枚のときには第１ＬＥＤのみが点灯し、残り枚数が３０１枚～４００枚のときには第１ＬＥＤと第２ＬＥＤとが点灯し、残り枚数が２０１枚～３００枚のときには第１ＬＥＤ～第３ＬＥＤが点灯し、残り枚数が１０１枚～２００枚のときには第１ＬＥＤ～第４ＬＥＤが点灯し、残り枚数が１枚～１００枚のときには第１ＬＥＤ～第５ＬＥＤのすべてが点灯するように定められている。
【３１９９】
また。コンプリート機能作動状態中においては、第１ＬＥＤ～第５ＬＥＤのすべてが点滅するように定められている。なお、コンプリート機能作動待機状態中においては、第１ＬＥＤと第５ＬＥＤのみを点灯させるなど、予め定められた状態となるものであればよい。
【３２００】
図２３９および図２４０においては、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をＬＥＤで行う例を説明したが、図２２９での説明と同様に、当該ＬＥＤにおける報知に加えて、スピーカからの音（効果音＋音声、音声を伴わず効果音のみ）や、ランプの発光によっても報知するようにしてもよい。また、図２３９および図２４０においては、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知のうち、事前報知、コンプリート機能作動待機状態・コンプリート機能作動状態における報知の態様について説明したが、第１報知や第２報知についても遊技者や店員が理解し把握できる態様で行われるものとする。
【３２０１】
また、メイン演出表示部２１などの画像表示装置を搭載している遊技機については、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を、図２２９などで示したように当該画像表示装置で行うことを必須とし、画像表示装置を搭載していない遊技機に限りＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をＬＥＤで行うようにしてもよい。なお、メイン演出表示部２１などの画像表示装置を搭載している遊技機において、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を図２２９などで示したように当該画像表示装置で行うものであれば、これに加えて図２３９および図２４０で例示したようにＬＥＤでも行ってもよい。
【３２０２】
また、図２３９および図２４０（ｃ１）などでは、事前報知を残り枚数が５００枚から１００枚単位で報知する例について説明したが、単位数は、１００枚に限らず、５０枚や、２００枚などであってもよいが、より小さな値を設定することが好ましい。
（ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知に関するその他の例および変形例）
● 図２２９で例示したＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知のための報知画像は、優先的（最上位レイヤ）かつ継続的に常駐表示されるが、予め定められた条件が成立したときには、非表示とするようにしてもよい。予め定められた条件としては、例えば、遊技機にエラーが発生している旨を報知するエラー報知画面が表示されることや、設定確認操作によってホールメニュー画面が表示されること、遊技者の演出操作によってユーザーメニュー画面が表示されることなどにより成立するものであってもよい。この場合において、エラー解

除やホールメニュー終了となった後においては、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知のための報知画像を再び表示するようにしてもよい。

【３２０３】

また、予め定められた条件は、「ユニメモ」などの情報提供サービスにログインしているときにおいて遊技終了時にログアウトするための二次元コードを表示することなどにより成立するものであってもよい。これに関連して、情報提供サービスにログインしているときにおいて例えば強制的に遊技終了となるコンプリート機能作動状態に制御されたときには、情報提供サービスにログインしているときと異なり、図２２９（ａ）のメッセージ画像に加えて、例えば「ＣＨＡＮＣＥボタンで終了時２次元コードを表示可能です」といったメッセージ画像を表示するようにしてもよい。また、当該画面が表示されているときに、ＣＨＡＮＣＥボタンが操作されることにより、コンプリート機能作動状態中である旨を報知するメッセージ画像が非表示となり、２次元コードが表示されるとともに例えば「ＣＨＡＮＣＥボタンで表示終了」といったメッセージ画像を表示するようにしてもよい。また、２次元コードが表示されている画面でＣＨＡＮＣＥボタンが操作されることにより、コンプリート機能作動状態中である旨を報知するメッセージ画像を含む元の画面が再表示されるようにしてもよい。

【３２０４】

コンプリート機能作動状態に制御されたときに限らず、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知が行われているときに、ログアウトするための二次元コードが表示されるときには、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を非表示とし、２次元コードが表示されるようにし、ＣＨＡＮＣＥボタンが操作されることによりＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を再表示されるようにしてもよい。また、ログアウトするための二次元コードを表示する画面においても、ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を継続して表示するものであってもよく、この場合、二次元コードをＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知よりも優先して（重畳させて）表示するものであってもよい。

【３２０５】

● 役物として複数種類のボーナスに制御可能な遊技機において、ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときには、当該ボーナスの種類にかかわらず一律に当該ボーナスが終了するまでコンプリート機能作動待機状態に制御する例について説明した。しかし、ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときには、当該ボーナスの種類にかかわらず一律にコンプリート機能作動待機状態に制御せずに即座にコンプリート機能作動状態に制御するものであってもよい。ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときに当該ボーナスが終了するまでコンプリート機能作動待機状態に制御するか、即座にコンプリート機能作動状態に制御するかについては任意に定めることができる。

【３２０６】

また、ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときには、当該ボーナスの種類に応じてコンプリート機能作動待機状態に制御するか即座にコンプリート機能作動状態に制御するかが予め定められているもの（具体的には、第１種類のボーナス中に１９０００に達したときには当該第１種類のボーナスが終了するまでコンプリート機能作動待機状態に制御し、第２種類のボーナス中に１９０００に達したときにはコンプリート機能作動待機状態に制御せずに即座にコンプリート機能作動状態に制御するように一律に定められているもの）であってもよい。これにより、遊技機の設計の自由度を向上させることができる。

【３２０７】

例えば、有利度合いの高い所定ボーナス（例えば、ボーナス作動中に遊技価値が増加するボーナス）を第１種類のボーナスとし、有利度合いの低い特定ボーナス（例えば、所定ボーナスよりも作動中の遊技価値の増加数が少ないものや、ボーナス作動中に遊技価値が微増程度や現状維持程度あるいは遊技価値が減少するもの）を第２種類のボーナスとして、作動したとしてもあまり有利ではない、あるいは不利なボーナス（第２種類のボーナス）の作動中の場合はすぐにコンプリート機能を作動（発動）させるのに対し、遊技者にと

って有利度合いが高いボーナス（第１種類のボーナス）の作動中の場合に当該ボーナスが終了するまでコンプリート機能作動待機状態に制御してコンプリート機能の作動を待機するようにしてもよい。

【３２０８】

なお、ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときに即座にコンプリート機能作動状態に制御する場合、遊技機の動作を停止するのみであり、コンプリート機能作動がボーナスの終了条件に含まれるものではない。

【３２０９】

● ボーナスには、消化したゲーム数が特定のゲーム数に達することを終了条件に含み、最終ゲームにおいてリプレイに当選して再遊技が作動した状態で終了し得るボーナス（例えば、第一種特別役物）が含まれる。このようなボーナス中において１９０００に達したときにコンプリート機能作動待機状態に制御するように定められている場合には、当該ボーナスの最終ゲームにおいてリプレイに当選して再遊技が作動した状態で終了し、実質的に再遊技を行うことができない状況が発生し得るものであってもよい。これにより、再遊技作動中か否かで処理を異ならせる必要がなく、コンプリート機能作動待機状態中にボーナスが終了したときに一律にコンプリート機能作動状態に制御することができるため、処理を複雑化させてしまうことを防止できる。

【３２１０】

● コンプリート機能作動状態に制御されるときには、図２３１のＳＡ２６で示したとおり、所定時間（例えば、３０秒）に亘りセキュリティ信号が出力される。なお、セキュリティ信号出力中に設定変更等が行われてコンプリート機能作動状態が初期化されたときには、セキュリティ信号が所定時間に亘って出力されていなかったときでも、初期化後においてセキュリティ信号を再び出力する処理を行わないように構成されている。これは、セキュリティ信号が出力されることにより所定時間に満たないときであっても外部においてコンプリート機能作動状態に制御されたことを特定できるためである。これにより、コンプリート機能作動状態の初期化後においてセキュリティ信号を再び出力するといった処理が無駄に行われることや、処理が複雑化してしまうことを防止できる。

【３２１１】

● セキュリティ信号は、遊技機においてエラーが発生したときなどの他の要因によっても出力され得る信号である。このため、他の要因によりセキュリティ信号が既に出力されている最中に、コンプリート機能作動状態に制御されることも生じ得る。例えば、小役入賞に伴うメダルが払い出されていた場合には１９０００に達してコンプリート機能作動状態に制御される状況下において、ホッパーエンプティエラーが発生した（このタイミングからセキュリティ信号出力）ことによりドアを開状態としメダルを補給してエラー解除することによりメダルが払い出されてコンプリート機能作動状態に制御されることとなる。しかし、このタイミングではドアが未だ開状態であることに伴ってセキュリティ信号の出力が維持されているために、コンプリート機能作動状態に制御されるときに既にセキュリティ信号が出力されている状況が発生し得る。この場合、コンプリート機能作動状態に制御されてから所定時間（例えば、３０秒）に亘るセキュリティ信号の出力が担保されているものであれば、所定時間経過後においてもドアの開状態に伴ってセキュリティ信号の出力が継続されるものであってもよい。

【３２１２】

● 図２３１では、ＳＡ２３においてＹＥＳと判定されてコンプリート機能作動状態に制御された後においては、ＳＡ２６以降においてループ処理が行われる例について説明したが、コンプリート機能作動状態においては、遊技の進行が不能化されるものであればよく、例えば、エラーの発生の有無を監視するエラー監視処理や、設定確認するための設定確認処理などの遊技の進行に関連しない処理が有効に実行されるものとする。このため、コンプリート機能作動状態に制御されてセキュリティ信号が所定時間に亘って出力された後に、他の要因（エラー発生など）が生じた場合には、セキュリティ信号が出力される。この場合には、他の要因に応じた解除条件が成立するまでセキュリティ信号が出力されるた

め、所定時間以上に亘って出力されることもあり得ることとなる。

【３２１３】

● コンプリート機能作動状態に制御されてセキュリティ信号が出力されている最中に、電源が遮断されて再び電源投入された場合には、ｉ）所定時間までの残り時間に亘ってセキュリティ信号を出力するものであってもよく、ｉｉ）再び所定時間に亘ってセキュリティ信号を出力するものであってもよく、ｉｉｉ）セキュリティ信号を出力しない（所定時間を計時するタイマをクリアする）ものであってもよい。

【３２１４】

● ボーナス中においては、ボーナス状態の遷移を外部に報せるために外部信号を出力するが、例えば、ボーナス中にＣＭＰ＿ＭＹが１９０００に達したときにコンプリート機能作動待機状態に制御せずに即座にコンプリート機能作動状態に制御する場合には、ボーナスの終了条件が成立せずとも当該ボーナス中の外部信号の出力を停止するようにしてもよい。これにより、ボーナス状態の遷移を外部に報せるために外部信号が長時間にわたり出力され続けてしまうことにより遊技機の電源が遮断されてしまうことを未然に防止できる。これに対して、ボーナス中に関連して出力される試験信号については、コンプリート機能作動状態に制御された場合であっても出力を維持するものであってもよい。

【３２１５】

● 図２３１のＳＡ２６で示したように、セキュリティ信号は、ＳＡ２２においてコンプリート機能作動フラグがＦＦｈであり、ＳＡ２３において役物等作動中であると判定されず、実際にコンプリート機能作動状態に制御されるときに出力されるものであればよく、コンプリート機能作動フラグがＦＦｈに設定されたが役物等作動中であるコンプリート機能作動待機状態中に出力する必要はない。

【３２１６】

● コンプリート機能を作動させるタイミングは、図２３１で示したとおり、遊技の結果が得られた後、メダルが投入可能となるまでの間であればよく、例えば、遊技の結果が得られた後、次回遊技までの待機時間が設けられている遊技機においても、メダルが投入可能となるまでの間であれば当該待機時間が経過した後のタイミングであってもよい。なお、ここで待機時間とは、例えば、全リール停止後や払出終了後などに発生する操作無効化状態（ロックやフリーズなどともいう）の時間のことなどであってもよい。

【３２１７】

● エラー発生中のエラー音の音量は、不正に強い遊技機づくりのために、例えば８５ｄＢ以上となるように定められている。これに対して、コンプリート機能作動報知の音量は、８５ｄＢ未満の音量であってもよいが、エラー音と同様に前述したように８５ｄＢ以上となるように定められているものであってもよい。

【３２１８】

● 事前報知の開始タイミングとして、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したタイミングを例示したが、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したタイミングにおいて事前報知されているものであれば、例えば、ＣＭＰ＿ＭＹが１８０００に達したタイミングに定められているものであってもよい。例えば、前述した第１報知を、コンプリートまで残り１０００枚となったときに開始される事前報知として実行するものであってもよい。この場合には、事前報知と同じ態様で残り枚数（例えば、残り１０００枚～５０１枚までの間）を更新表示し、その後の事前報知に繋げるような態様で実行するものであってもよい。

【３２１９】

なお、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達するまでに事前報知を開始した場合であっても、遊技中断信号については、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したときにＩＦ２から出力することが好ましい。

【３２２０】

● 事前報知は、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達して表示した後は、制御されている遊技状態やＣＭＰ＿ＭＹの値にかかわらず、継続して行うようにしてもよい。ただし、コンプリート機能作動状態となるまでに電源遮断・投入されたときには、ＣＭＰ＿ＭＹが初期化

されるため、事前報知されることはない。なお、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００未満となった場合、１８５００に達しているときと同じ数値情報を事前報知してしまうと、継続的な変化が視覚化できないため、ＣＭＰ＿ＭＹの値に応じて数値情報（例えば、５００以上の残り枚数そのものを表示、１００枚単位で表示（例えば、残り約６００枚、残り約７００枚など））を更新して事前報知することが好ましい。

【３２２１】

● 主制御回路１００は、ＣＭＰ＿ＭＹの値に基づいて演出抽籤の割合や抽籤対象となる演出の種類など演出抽籤態様を異ならせるといった制御（演出管理）を行うことはなく、例えば、コンプリート機能の作動が近づいてきたときに前述したロック演出や、リール演出、疑似遊技などを発生させない、あるいは実行確率を低下させるようにするといった制御を行うことはない。これにより、ＣＭＰ＿ＭＹの値が遊技機の遊技性に影響を与えることを防止できる。

【３２２２】

なお、主制御回路１００は、コンプリート機能の作動にかかわるＣＭＰ＿ＭＹカウンタとは別個の演出用ＭＹカウンタ（メインＲＡＭ１０３の規定外ＲＡＭ領域で更新されるカウンタ）を設けて、演出用ＭＹカウンタをＣＭＰ＿ＭＹカウンタと同じカウント条件にしたがって更新させ、当該演出用ＭＹカウンタの値に基づいて演出抽籤態様を異ならせるといった制御（演出管理）を行うようにしてもよい。主制御回路１００は、例えば、演出用ＭＹカウンタの値が１８０００（実質的にＣＭＰ＿ＭＹの値も１８０００）に達している場合には、特定演出（ロック演出や、リール演出、疑似遊技など）が実行されない、あるいは実行確率を低下させるように制御してもよい。規制される対象となる特定演出は、演出用ＭＹカウンタの値が１８０００に達している場合、例えば、期待値が２０００枚となるロングフリーズなど、当たったとしても２０００枚を獲得する前にコンプリート機能が作動してしまい、結果的に遊技者に対して損失感を抱かせてしまう虞のある演出としてもよい。

【３２２３】

また、ＣＭＰ＿ＭＹの値に基づいて演出抽籤態様を異ならせるといった制御（演出管理）を行う対象となる特定演出が、副制御回路２００側の抽籤によって管理される演出である場合、副制御回路２００は、図２３１のＳＡ２１において出力されるＣＭＰ＿ＭＹコマンドに基づき特定される値を参照することにより、ＣＭＰ＿ＭＹの値が１８０００に達している場合には、特定演出（例えば、期待値が２０００枚となる大量ストックの報知演出）が実行されないように制御してもよい。この場合には、ある程度のストックを未報知状態で潜伏させることにより、結果的に遊技者に対して損失感を抱かせてしまうことを防止できる。

【３２２４】

● コンプリート機能を搭載する場合には、指示機能（ＡＴ）が搭載されていない遊技機（いわゆるノーマルタイプ）であっても、検定試験（試射試験）中においてコンプリート機能が作動する前に一旦中断できるようにするために、ＩＦ２から遊技中断信号を出力可能とすることが好ましい。また、ＩＦ２が遊技中断信号を出力するか判断するための情報は、毎遊技終了時に主制御回路１００からメインＲＯＭ１０２の規定内エリアの制御プログラムおよびデータを用いた処理で出力しているが、送信データの作成はメインＲＯＭ１０２の規定外エリアの制御プログラムおよびデータを用いた処理で行うものであってもよい。

【３２２５】

● 図２３２のＳＡ６０～ＳＡ６２では、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００未満（ＣＭＰ＿ＭＹが１８４９９以下）となった場合に、有利状態中でないときには即座に事前報知を終了し、有利状態中であるときには事前報知を終了しない例について説明したが、これに限らず、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００未満となった場合で、有利状態中でないときには例えばＣＭＰ＿ＭＹが１８４８０以下となった場合に事前報知を終了し、有利状態中であるときには事前報知を終了しないかあるいはＣＭＰ＿ＭＹが１８４８０よりも小さい１８４００以下

となった場合に事前報知を終了するようにしてもよい。

【３２２６】

また、図２３２のＳＡ６０～ＳＡ６２では、有利状態中であるか否かで事前報知を終了するタイミングを異ならせる例について説明したが、これに限らず、ＳＡ６１の処理を行わず、一律にＳＡ６２の処理を行って事前報知を終了させるようにしてもよく、また、一律にＣＭＰ＿ＭＹが予め定められた数（例えば１８４５０）以下となったときにＳＡ６２の処理を行って事前報知を終了させるようにしてもよい。

【３２２７】

また、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達して事前報知が開始された後に１８５００未満となり事前報知を終了した後において、再びＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したときには、その都度、画像やＬＥＤなどによる事前報知を開始するが、音声や効果音については出力するものであってもよく、出力しないものであってもよい。

【３２２８】

例えば、ＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達して事前報知が開始された後に１８５００未満となり事前報知を終了した後において、再びＣＭＰ＿ＭＹが１８５００に達したときであっても、事前報知を終了後から再び１８５００に達するまでの間においてＣＭＰ＿ＭＹが予め定められた値（例えば１８４００）以下となっていた場合には、画像やＬＥＤなどとともに音声や効果音を出力する事前報知を開始する一方、事前報知を終了後から再び１８５００に達するまでの間においてＣＭＰ＿ＭＹが予め定められた値（例えば１８４００）以下となっていない場合には、画像やＬＥＤなどによる事前報知を開始するが音声や効果音については出力しないものであってもよい。これにより、有利状態中でありながら一時的に１８５００未満となって再び１８５００に達する度に音声や効果音が出力されることに対して遊技者に煩わしさを抱かせてしまうことを防止できる。

【３２２９】

● コンプリート機能の事前報知中に客待ちデモムービー表示をする場合、例えば、客待ちデモムービー中の間は事前報知を消去（非表示）とし、客待ちデモムービー終了後に待機画面に戻った際に事前報知を復帰（表示）させるようにしてもよい。また、待機画面で所定期間に亘り操作が無い場合において、再度客待ちデモムービーを表示する（事前報知を非表示）場合には、客待ちデモムービーを表示する期間（事前報知が非表示となる期間）よりも待機画面を表示する所定期間（事前報知が表示される期間）の方が長く定められていることが好ましい。また、客待ちデモムービー中も事前報知を継続するが、客待ちデモムービーにおいて例えばメーカーロゴ表示や、のめり込み防止表示が行われる間のみ事前報知を消去するものであってもよい。遊技者が交替してもコンプリートまでの残り枚数などを継続的に認識できるものとなるように、事前報知を非表示とする期間などについて設計することが好ましい。

【３２３０】

以下では、事前報知中に音量調整・光量調整など（以下、音量等）の演出調整を行える場合について説明する。メニュー画面から該当項目を選択することで、あるいは、十字キーや左右キーなどを操作した場合に音量等を調整できるものとする。ここで音量等の調整操作をした場合に、音量の大きさを示すサンプル音を出音したり、音量の大きさを示す画像（以下、音量等表示）を表示したりすることが好ましい。

【３２３１】

音量等表示の表示態様としては、例えば以下の５タイプが考えられる。タイプ１：現在の画面表示の上に音量等表示をかぶせて出す（重畳させて表示）タイプ２：音量等調整専用画面に切り替えるタイプ３：サブ画面（サブ液晶等）に表示するタイプ４：音量等を示す画像を表示しないタイプ５：画面なしの非液晶機で７セグに音量等の値を表示 まず、タイプ１の仕様では、音量等調整中も事前報知を継続して、事前報知の画像とは重畳しない位置に音量等表示を表示させてもよいし、事前報知の両像と音量等表示の少なくとも一部が重畳する態様で表示してもよい。また、音量等調整中は、一時的に事前報知の表示を中断してもよい。

【３２３２】
　タイプ２の仕様では、音量等調整専用画面において事前報知を表示しないこととしてもよい。音量等の調整をする遊技者は、概ね遊技を続行する意思があることが多いからである。もっとも、音量等調整専用画面では事前報知を表示するものとしてもよく、この場合は前述のタイプ１の通り事前報知の画像と音量等表示は重畳しなくてもよいし、少なくとも一部が重畳してもよいし、音量等調整中は事前報知を中断してもよい。
【３２３３】
　タイプ３の仕様では、メイン画面（メイン演出表示部２１など）に事前報知が表示されている場合、サブ画面（サブ表示装置２２０など）では事前報知によるレイアウト上の影響はないため、事前報知前と同様の態様でサブ画面に音量等表示を表示すればよい。仮にサブ画面に事前報知が出る場合は、タイプ１と同じく音量等表示が事前報知と重畳しない、一部が重畳する、音量等表示が出る間は一時的に事前報知を中断するといった仕様のいずれかとすればよい。
【３２３４】
　タイプ４の仕様では、調整操作後の音量をサンプル音の出音から判断することとなり、また、調整操作後の光量を発光手段の光り方から判断することになるため、タイプ１～３と比べるとやや不親切ではあるものの、レイアウト上の問題が発生しないというメリットもある。
【３２３５】
　タイプ５の仕様では、そもそも画面がないため、画像レイアウトに関する問題は生じないが、音量等の値を示す７セグが事前報知用の７セグと兼用である場合は、音量等調整操作時は、事前報知を一時的に中断し、音量等の値を表示することが好ましい。なお、事前報知中は、音量等を示す数値を表示せず事前報知の表示を維持してもよい。
【３２３６】
● 図２３７（ｄ）では、事前報知のメッセージ画像が、押し順ナビなどを含む所定の有利関連情報と重畳しない領域に表示される例について説明したが、これに限らず、事前報知のメッセージ画像を、押し順ナビなどを含む所定の有利関連情報と重畳し得る領域に表示されるものであってもよい。この場合は、例えば、事前報知のメッセージ画像を押し順ナビよりも優先して表示するものであってもよく、遊技者が交替しても継続的にコンプリートまでの残り枚数を認識できるものであれば押し順ナビを事前報知のメッセージ画像よりも優先して表示するものであってもよい。
【３２３７】
　また、図２３８（ｄ）では、事前報知のメッセージ画像が、特定演出よりも優先して表示される例について説明したが、遊技者が交替しても継続的にコンプリートまでの残り枚数を認識できるものであれば特定演出を事前報知のメッセージ画像よりも優先して表示するものであってもよい。
【３２３８】
● コンプリート機能作動フラグの値が設定変更により初期化されたときには、メイン演出表示部２１などにおいて「コンプリート機能を解除しました。」といったメッセージ画像を表示するようにしてもよい。また、メッセージ画像とともに、「コンプリート機能を解除しました。」という音声も合わせて出力するようにしてもよい。これに対して、電源投入時に、例えば「コンプリート機能作動用のカウンタ(ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ)をクリアしました。」といったメッセージ画像については表示しないようにしてもよい。これにより、コンプリート機能作動の解除については明確に報知されるため操作者を安心させる一方で、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの初期化について明確に報知しないことにより、電源遮断・電源投入を行うことで同日営業日において基準となる増加数を超えても稼働させることなどを助長するおそれを極力払拭できる。
【３２３９】
● メインＲＡＭ１０３には、ボーナス中や有利区間中に使用する領域が設けられているが、コンプリート機能作動状態に制御されることを契機としては、当該ボーナス中や有利

区間中に使用する領域をクリアする処理が行われるものではない。

【３２４０】

● 図２３１に示すエラー処理の制御プログラム及びデータは、メインＲＯＭ１０２の規定内エリア（プログラムエリア、データエリアなどのエリア、規定外エリアとは異なるエリア）に記憶されている例について説明した。しかし、ＳＡ２３における役物作動中か否かの判定処理は、メインＲＯＭ１０２の規定外エリアに記憶されている制御プログラム及びデータを用いるものであってもよい。

【３２４１】

また、図２３１に示すエラー処理は、主制御回路１００により実行される例について説明したが、これに限らず、例えばメダル数制御回路により実行されるものであってもよい。また、この場合、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの更新処理は、規定外エリアに記憶されている制御プログラム及びデータを用いるものであってもよい。

【３２４２】

（その他）

払出数リミッタについても、同様の事前報知が行われ得るものとしてもよい。例えば、払出数リミッタのカウンタが特定枚数（例えば、２３００枚）となった場合に、「払出数リミッタ作動まで残り１００枚です」といった表示を演出表示部に表示することで、払出数リミッタの作動が近い旨の事前報知を行うものとすればよい。また、コンプリート機能と払出数リミッタの両方が搭載されている場合には、両方について事前報知が行われ得るものとしてもよい。例えば、上記のＭＹカウンタが特定枚数（例えば、１８５００枚）となるとともに、払出数リミッタのカウンタが特定枚数（例えば、２３００枚）となった場合には、「コンプリート機能作動まで残り５００枚です」といった表示とともに、「払出数リミッタ作動まで残り１００枚です」といった表示を演出表示部に表示するものとすればよい。

【３２４３】

なお、この場合、そのまま遊技を続行すると、払出数リミッタが先に作動してＡＴ状態が終了することとなるが、払出数リミッタの作動によって上記のＭＹカウンタは初期化（クリア）されないため、コンプリート機能作動まで残り４００枚という状況は継続することになる。したがって、そのような場合には、「払出数リミッタ作動まで残り１００枚です」といった表示は終了させるが、「コンプリート機能作動まで残り４００枚です」といった表示は引き続き継続されるものとすればよい。この場合、上述のとおり、上記のＭＹカウンタの値が１８５００枚を下回った場合（事前報知終了の条件が事前報知開始の条件とは異なるようにした場合には、事前報知終了の条件である枚数となった場合）は事前報知が終了され得る構成としてもよいし、一度事前報知が開始された以後は、コンプリート機能作動まで事前報知を継続するものとしてもよい。

【３２４４】

ところで、コンプリート機能作動まで残り５０枚、払出数リミッタ作動まで残り１００枚といったように、払出数リミッタの作動よりも前にコンプリート機能が作動することが確定している状況もある。ここで、少なくともＡＴ状態が残り５０枚分以上のメダル増加が確定していることを前提として、コンプリート機能作動の事前報知条件となる獲得枚数（例えば、電源投入時からの最下点を起点として１８５００枚以上等）及び払出数リミッタ作動の事前報知条件となる獲得枚数（例えば、有利区間開始時を起点として２３００枚以上等）の両方を満たしているとする。このような状況においては、コンプリート機能作動の事前報知及び払出数リミッタ作動の事前報知の両方を表示する構成としてもよい。これにより、遊技者が正確に状況把握できるという効果を奏する。

【３２４５】

また、このような状況においては、コンプリート機能が先に作動することにより払出数リミッタが作動することはないので、コンプリート機能作動の事前報知のみを行い、払出数リミッタ作動の事前報知は行わないものとしてもよい。作動することがないリミッタに関する情報は、必ずしも遊技者にとって必要な情報ではなく、特にＡＴ状態では押し順ナ

ビなどの報知が頻繁に行われる状況であることを考慮すると、あまり表示項目を増やさないほうが遊技者にとって快適にＡＴ状態を消化できるともいえるからである。すなわち、情報過多となることを抑制し得るという効果を奏する。なお、後述の演出表示部非搭載機においても同様にコンプリート機能作動の事前報知と払出数リミッタ作動の事前報知の両方を表示しうる状況において、作動することがないリミッタに関する情報は非表示としてもよい。

【３２４６】

（演出表示部非搭載機でコンプリート機能作動の事前報知と、払出数リミッタ作動の事前報知を行う場合）

上述のとおり、コンプリート機能と払出数リミッタの両方が搭載される場合、演出表示部（例えば、液晶表示装置等）を設ける遊技機では、その表示画面上で、（イ）コンプリート機能作動の事前報知と、（ロ）払出数リミッタ作動の事前報知の両方を表示可能に構成することができる。

【３２４７】

ここで、演出表示部非搭載機でコンプリート機能が搭載された場合に、（イ）の事前報知を行うための工夫については上述のとおりであるが、演出表示部非搭載機においてもコンプリート機能と払出数リミッタの両方が搭載され得ることから、その場合にはさらに（ロ）の事前報知を行うための工夫をなす必要があると考えられる。以下ではそのような手法の一例について説明する。なお、上記と同様、演出表示部を設ける遊技機であっても以下の手法による事前報知が行われるものとしてもよい。

【３２４８】

まず、演出表示部非搭載機であっても、例えば、第１表示部（２～４桁程度の７セグメントＬＥＤ）と、これとは異なる第２表示部（２～４桁程度の７セグメントＬＥＤ）を備え、それぞれで事前報知を表示可能とする場合は、（イ）の事前報知を第１表示部に表示し、（ロ）の事前報知を第２表示部に表示するなどして、（イ）及び（ロ）を同時に表示可能とすることができる。なお、第１表示部や第２表示部としては、例えば、上記の表示手段のいずれかをそれぞれ用いることができる。また、この場合、後述の如く、識別子や表示態様を異なるものとすることができる。

【３２４９】

一方、演出表示部非搭載機において、複数の表示部は備えるが事前報知に用いることができる表示部は一つと定める場合や、一つの表示部しか備えていない場合、コンプリート機能作動の事前報知条件及び払出数リミッタ作動の事前報知条件の両方を満たしている状態では、（イ）又は（ロ）のどちらをどのように表示するかについて工夫が必要となる。

【３２５０】

いずれか一方を表示する場合、例えば、上述の如く、先に作動するほうの事前報知を優先して行うように構成することができる。すなわち、コンプリート機能が払出数リミッタよりも先に作動する状況下であれば（イ）の事前報知を行い、また、払出数リミッタがコンプリート機能よりも先に作動する状況下であれば（ロ）の事前報知を行うといった構成としてもよい。これにより、より好適な情報を報知し得るという効果を奏する。

【３２５１】

また、例えば、所定時間（例えば、１０秒など）経過ごとに、表示内容を（イ）→（ロ）、（ロ）→（イ）と切り替えるものとして、遊技者が操作することなく自然と両方の表示が視認できるものとしてもよい。なお、切り替えが発生するのは、遊技待機中（例えば、払出終了後～次遊技開始操作時まで）のみとしてもよいし、遊技中（例えば、開始操作後～払出終了時まで）としてもよいし、その両方としてもよい。また、遊技待機中は、遊技者の入れ替わりが生じ得るため、遊技待機中は（イ）の表示を（ロ）の表示よりも優先的に行い（（ロ）は表示されない）、遊技中は（ロ）の表示を（イ）の表示よりも優先的に行う（（イ）は表示されない）ものとしてもよい。あるいはその逆であってもよい。あるいは、いずれか一方の期間では、（イ）及び（ロ）の両方が上記のように切り替えられて表示されるものとしてもよい。

【３２５２】
　また、例えば、時間経過ではなく遊技者の切り替え操作に基づいて（イ）と（ロ）の表示を切り替え可能としてもよい。この場合、表示部がメイン側で制御されるものであれば、例えば、遊技中のベット操作（例えば、ＭＡＸベットボタン６ａ押下）など遊技の進行に影響を与えない任意の操作手段への操作に基づいて表示が切り替わるものとすればよい。
【３２５３】
　また、表示部がサブ側で制御されるものであれば、例えば、演出用の操作部（例えば、演出用ボタン）への操作に基づいて表示が切り替わるものとすればよい。もっとも、演出用の操作部を設けない遊技機の場合は、メイン側で操作を検出可能な操作手段への操作（例えば、遊技中のベット操作や、リール回転中の開始操作、あるいはリール停止後の停止操作など。遊技の進行に影響を与えない操作）に基づいて、（これに対応する情報をサブ側で受信したときに）表示が切り替わるものとすればよい。
【３２５４】
　なお、表示を切り替え可能な操作は、遊技の進行に影響を与えない操作に限られない。遊技の進行に影響を与える操作（例えば、未ベット時のベット操作、リール回転前の開始操作、あるいはリール停止前の停止操作など）に基づいて表示が切り替わるものとしてもよい。すなわち、遊技の進行に影響を与えない操作によって表示を切り替え可能とし、遊技者に任意のタイミングで表示を切り替えることができるようにしてもよいし、遊技の進行に影響を与える操作によって表示を切り替え可能とし、別操作を必要とすることなく表示を切り替えることができるようにしてもよい。いずれによっても、利便性を高め得るという効果を奏する。
【３２５５】
　また、別の報知態様としては、例えば、（イ）の事前報知は表示部で行うが、（ロ）の事前報知は、例えば、スピーカから「リミッタ作動まであと５００枚です。」や「リミッタ作動まであとわずかです。」といった音声を出音することで報知されるものとしてもよい。あるいは、その逆であってもよい。あるいは、上述の如く、優先されるほうの事前報知を表示部で行う、優先されないほうの事前報知をスピーカで行うようにしてもよい。また、スピーカによって事前報知を行う場合、これに替えて、あるいはこれとともにランプを用いることも可能である。これにより、事前報知に用いることができる表示部が一つであってもより多くの情報を提供できるという効果を奏する。なお、これは、事前報知の内容を切り替え可能とする場合も同様である。
【３２５６】
　なお、（イ）の事前報知と（ロ）の事前報知とで異なる識別子を表示するようにしてもよい。これにより、いずれの事前報知が行われているかをわかりやすく示すことができるという効果を奏する。例えば、（イ）の事前報知において、コンプリート機能作動まで残り５００枚である場合には「Ｌ５００」と表示する。一方、（ロ）の事前報知において、払出数リミッタ作動まで残り５００枚である場合には「Ｈ５００」と表示する。すなわち、７セグメントＬＥＤの先頭桁に表示する「Ｌ」や「Ｈ」が識別子となり、同じ残り枚数を表示する場合でもこれらが異なる事前報知であることを認識可能とする。なお、これらの識別子はあくまで一例である。例えば、７セグメントＬＥＤで表示可能であって、その表示態様から異なる事前報知が行われていることを認識可能とするものであれば、任意の文字、数字、記号及びドットパターンなどを識別子として用いることができる。
【３２５７】
　また、桁数に余裕があれば２桁又はそれ以上の桁で構成された識別子を用いることもできる。例えば、「ＬＭ」や「ＳＨＬ」などいった識別子を用いてもよい。なお、１桁の識別子を用いる場合、例えば、エラー報知と勘違いしやすい「Ｅ（イー）」、セグ表示では数字と区別できない「Ｓ（エス）」（セグ表示では「５」と同じになる）、あるいは「Ｏ（オー）」（セグでは「０」と同じになる）などは、識別子として用いないようにすることが望ましい。

【３２５８】
　また、（イ）の事前報知と（ロ）の事前報知とで異なる表示態様（ここでは、例えば色とする）を表示してもよい。これにより、いずれの事前報知が行われているかをわかりやすく示すことができるという効果を奏する。例えば、セグ表示が複数の色で表示可能な場合、（イ）の事前報知は赤色で表示し、（ロ）の事前報知は青色で表示するなどとすればよい。なお、上述の識別子を異ならせる手法と、この表示態様を異ならせる手法を組み合わせて採用することもできるし、いずれかの手法のみを採用することもできる。また、例えば、一方は点灯、他方は点滅（あるいはそのパターンが異なる）といった態様にて表示態様を異ならせることも可能である。
【３２５９】
（イ）の事前報知と（ロ）の事前報知とを異なる識別子や表示態様で表示可能とする場合（いずれか一方のみの事前報知を行う場合であって、識別子や表示態様を特定のものとする場合を含む）には、事前報知に関する表示の見方を遊技者が確認できる構成としてもよい。例えば、（イ）の事前報知を一例とした場合、前面扉の表面の任意の位置（例えば、台座部や腰部パネル１３の一部など）に、「『Ｌ〇〇〇』はコンプリート機能までの残り枚数を意味します。」といった説明が表示されるものとすればよい。これにより、事前報知の内容がよりわかりやすくなるという効果を奏する。
【３２６０】
　ここまで説明した事前報知のいずれかを行いうる遊技機においては、例えば、遊技を開始して急に打ち止めになるといった、打ち止めによる不測の損害発生を抑制できるという効果を奏する。
【３２６１】
（ＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知をパチンコ機で行う場合について）
　パチスロ機においてＣＭＰ＿ＭＹに基づく各種報知を行う例について説明したが、前述したパチンコ機においてもＭＹに基づく各種報知を行うとともに当該各種報知に関連する技術事項（例えば、図２２９～図２４０などを参照して説明した技術事項）を適用するようにしてもよい。パチンコ機におけるコンプリート機能は、電源投入時からの所定期間における遊技の結果が得られたときの遊技球が最も減少したときを基準として、当該基準からの遊技球の増加数（基点からの累計数、「基準値カウンタ」）が上限数に達したときにコンプリート機能が作動して遊技の進行が不能化されるコンプリート機能作動状態に制御するものである。
【３２６２】
　コンプリート機能作動状態においては、いわゆる始動口、作動口、および、ゲートなどが無効化され、大入賞口・電チューなどが閉鎖状態となる。なお、遊技球を発射するための制御は、不能となるものであっても、不能とはならないものであってもよい。また、払い出すべき遊技球がある場合、コンプリート機能作動状態中においても遊技球の払い出しが継続される。上限数としては、例えば、９５０００を例示するが、予め定められた値であれば９５０００に限るものではない。
【３２６３】
　パチンコ機におけるコンプリート機能作動状態においては、制御されている遊技状態が有利状態（例えば、大当り遊技状態、小当り遊技状態、確変遊技状態、時短遊技状態など）であるか所定状態（例えば、通常状態）であるかにかかわらず（例えば、大当り遊技状態が終了した後において本来であれば確変遊技状態に制御されていたのか通常状態に制御されていたのかなどにかかわらず）、遊技を続行できないことが遊技者や遊技店に対して報知される。パチンコ機におけるコンプリート機能作動状態においては、例えば、図柄変動表示を行う画像表示装置などにおいて「コンプリート機能作動中 １日に払出可能な上限に達しました 本日は遊技終了です」といったメッセージ画像が表示される。また、パチンコ機におけるコンプリート機能作動状態においては、スピーカから一定時間（例えば１０秒）以上に亘って所定の効果音や音声が出力され、電飾ＬＥＤ（枠ランプ）などが所定態様で発光される。これにより、パチンコ機においてコンプリート機能作動状態に制御

されたことが報知される。

【３２６４】

また、パチンコ機においてコンプリート機能作動状態に制御されたときには、外部信号としてセキュリティ信号を一定時間（例えば、３０秒）に亘って出力するための処理が行われる。なお、パチンコ機がスマートパチンコ機である場合、セキュリティ信号の出力に加えて、例えば遊技価値提供装置などに対してコンプリート信号を一定時間（例えば、３０秒）に亘って出力する。コンプリート機能作動状態は、設定変更を伴うＲＡＭクリアか、設定変更を伴わないＲＡＭクリアのいずれか一方のクリアで初期化されるものであってもよく、いずれのＲＡＭクリアでも初期化されるものであってもよい。

【３２６５】

また、基準値カウンタが９５０００に達した場合であっても、いわゆる特別電動役物または条件装置（例えば、大当り遊技状態や小当り遊技状態など）の作動中である場合には、作動終了時までコンプリート機能の作動を待機させるコンプリート機能作動待機状態に制御し、作動終了時にコンプリート機能作動状態に制御する。コンプリート機能作動待機状態に制御されたときには、その後の基準値カウンタの値にかかわらず（仮に一時的に９５０００未満となった場合でも）、作動終了時にコンプリート機能作動状態に制御する。なお、基準値カウンタが９５０００に達した場合には、特別電動役物等の作動中であっても即座にコンプリート機能作動状態に制御するようにしてもよい。

【３２６６】

パチンコ機におけるコンプリート機能作動待機状態中においては、制御されている遊技状態が有利状態（例えば、確変遊技状態など）であるか所定状態（例えば、通常状態など）であるかにかかわらず、例えば装飾図柄を変動表示させる演出表示装置などにおいて「当り終了後にコンプリート機能が作動します」などといったメッセージ画像が表示される。なお、コンプリート機能作動待機状態中に表示されるメッセージ画像は、これに限らず、例えば、「コンプリートカウンター ９５０００／９５０００」といった画像や、「まもなくコンプリート機能が作動します」といった画像、「コンプリート機能 作動直前！！」といった画像、「大当り中です。遊技を継続してください。当り終了後コンプリート機能が作動します 作動した場合、本日の遊技は終了になります。」といった画像であってもよい。また、パチンコ機におけるコンプリート機能作動待機状態においては、スピーカから一定時間（例えば１０秒）以上に亘って所定の効果音や音声が出力され、電飾ＬＥＤ（枠ランプ）などが所定態様で発光されるようにしてもよい。これにより、パチンコ機においてコンプリート機能作動待機状態に制御されたことが報知される。

【３２６７】

パチンコ機における基準値カウンタ（ＭＹ）は、セーフ数（払出遊技球数）からアウト数（発射遊技球数）を減算した値となる。すなわち、現在の基準値カウンタの値からアウト数を減算しセーフ数を加算することにより更新される。基準値カウンタが０の場合、アウトがあっても減算しない。基準値カウンタの値は、電源投入時においてのみ初期化（０が設定）される。これにより、電源投入時からの所定期間における差数を累計した累計数の最下値を基点として、当該基点からの累計数（増加数）を基準値カウンタの値から特定可能となる。なお、基準値カウンタの値は、電源投入時においても特定条件が成立しているときには初期化されないようにしてもよい。特定条件としては、例えば、エラー発生時の電断復帰時や特定の操作部への操作などにより成立する条件であってもよい。

【３２６８】

パチンコ機における基準値カウンタの値に関する情報は、特定の操作（例えば、設定確認操作など）により報知条件が成立したときに、所定の表示部において表示可能である。パチンコ機における基準値カウンタは、パチスロ機のＣＭＰ＿ＭＹカウンタに相当するものであり、当該値に基づいて各種報知が行われることとなる。

【３２６９】

パチンコ機の場合、実際に払い出された数（実払出）をカウントに用いるセーフ数とするとコンプリートによる遊技停止タイミングが遅れる可能性があるため、基準値カウンタ

更新処理は、払出制御回路ではなく主制御回路にて行われ、賞球予定数をセーフ数として用いる。一方、スマートパチンコ機の場合には、基準値カウンタ更新処理を、主制御回路および払出制御回路のいずれで行うものであってもよく、払出制御回路で行う場合には「賞球予定数＝実払出」となる。基準値カウンタの減算は、アウト検出を契機として行うものであってもよく、また、発射検出を契機として行うものであってもよい。なお、発射検出を契機として基準値カウンタの減算を行う場合には、戻り球について加算を行うことにより、実際の差数とずれが生じないようにする。

【３２７０】

また、基準値カウンタが７５０００に達しているときには、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、試験信号としてコンプリート機能作動前信号を出力する。これにより、型式試験中にコンプリート機能が作動することにより試験続行不能となることを防止できる。

【３２７１】

また、パチンコ機においては、基準値カウンタが９００００に達することにより、そのときに制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、事前報知状態に制御される。なお、事前報知状態に制御する基準値カウンタの値は、９００００を例示するが、上限数である９５０００よりも小さい値であって予め一律に定められた値であれば９００００に限るものではなく、より小さい８５０００などであってもよい。

【３２７２】

パチンコ機における事前報知状態中においては、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、例えば、演出表示装置などにおいて「コンプリート機能作動まで残り約５０００発です」などといったメッセージ画像が表示される。なお、事前報知状態中に表示されるメッセージ画像は、これに限らず、例えば、「コンプリートカウンター ９００１２／９５０００」といったように上限数を分母とし現在の基準値カウンタの値を分子とする画像（ただし、基準値カウンタの値が９５０００を上回ったとしても分子は表示上９５０００を上回らない）や、所定数単位（例えば、５００単位、あるいは１０００単位）で残り数が変化する画像（例えば９００００に達することにより「コンプリート作動まで残り約５０００個」を表示した後、８９５００に達することにより「コンプリート作動まで残り約４５００個」を表示するものなど）、所定数単位（例えば、５００単位、あるいは１０００単位）で区切られた範囲のうち残り数が属する範囲を表示する画像（例えば、９００００に達することにより「コンプリート機能作動まで残り約４００１個～５０００個」を表示した後、８９０００に達することにより「コンプリート機能作動まで残り約３００１個～４０００個」を表示するものなど）、残り数が所定数単位（例えば、５００単位、あるいは１０００単位）で少なくなる毎にメーターのメモリが増えるような画像であってもよい。

【３２７３】

また、パチンコ機における事前報知状態においては、スピーカから一定時間（例えば１０秒）以上に亘って所定の効果音や音声が出力され、電飾ＬＥＤ（枠ランプ）などが所定態様で発光されるようにしてもよい。これにより、パチンコ機において事前報知状態に制御されたことが報知される。なお、パチンコ機において事前報知状態に制御されたときには、所定の試験信号やセキュリティ信号などを出力するようにしてもよい。

【３２７４】

また、パチンコ機においても以下の構成を備えるものであってもよい。基準値カウンタの値が上限数である９５０００に到達することにより、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、コンプリート機能作動状態あるいはコンプリート機能作動待機状態となり遊技の進行が不能化される旨が報知される。また、基準値カウンタの値が上限数よりも小さい所定数である９００００に到達することにより、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、９５０００までの残り数あるいは残り数に応じたメッセージ画像等を表示する事前報知が行われる。

【３２７５】

また、図２３２のＳＡ４９～ＳＡ５１やＳＡ６３～ＳＡ６５と同様に、基準値カウンタの値が上限数よりも小さい数であって所定数とは異なる特定数である８５０００や９２５００などに到達することにより、所定数である９００００到達により表示されるメッセージ画像とは異なる報知（例えば、第１報知や、第２報知参照）を行うようにしてもよい。この場合、第１報知や第２報知は、特定数である８５０００や９２５００などに到達したときに、制御されている遊技状態が有利状態であることを条件として行われるようにしてもよい。

【３２７６】

さらに、基準値カウンタの値が特定数である８５０００に到達して第１報知が行われているが、未だ所定数である９００００に到達しておらず事前報知が行われていないときにおいて、日時を計時する計時回路からの日時情報に基づき所定時刻（例えば、深夜２時など）を経過したと判定された場合には、基準値カウンタの値や、制御されている遊技状態が有利状態であるか所定状態であるかにかかわらず、当該第１報知を終了させるようにしてもよい。つまり、所定時刻（例えば、深夜２時など）を経過したときに第１報知が実行されているときには、当該第１報知を終了するための処理が行われるようにしてもよい。これに対して、事前報知について、所定時刻（例えば、深夜２時など）を経過したことによって当該事前報知を終了させるための処理などが行われることはない。

【３２７７】

また、パチンコ機においては、例えば、大当り遊技状態中や、大当り遊技状態に制御されたことを契機として確変遊技状態や時短遊技状態に制御されて再び大当り遊技状態に制御されることなどにより有利状態が連なる特定期間（一連の有利状態）中において計数された純増数が報知（例えば、「ＴＯＴＡＬ：２３００」等表示）されるとともに、事前報知状態中においても基準値カウンタの値に基づくコンプリート機能作動までの残り数に応じた情報が報知される。これらの報知に関して、パチンコ機においても、事前報知における残り数を第１態様で更新表示し、特定期間における純増数を第１態様とは異なる第２態様で更新表示するようにしてもよい。例えば、事前報知の第１態様としては、例えば１０００単位で残り数を変化させるのに対して、特定期間における第２態様としては、計数された純増数そのものを表示するものや、１００単位で純増数を変化させるものであってもよく、逆に、事前報知の第１態様としては、例えば基準値カウンタの値に基づくコンプリートまでの残り数そのものを表示するものや、１００単位で残り数を変化させるのに対して、特定期間における第２態様としては、１０００単位で純増数を変化させるものであってもよい。

【３２７８】

また、演出表示装置において実行される各種演出のうち、例えば大当り当籤している可能性が高いことを報知するような特定演出（プレミア演出などを含む）に関して、前述した特定期間（一連の有利状態）における純増数が表示されているときに当該特定演出が実行されるときには、当該純増数の表示を中断する制御または純増数画像の視認性を低下させる制御を行う一方、事前報知における残り数については特定演出が実行されるときであっても当該残り数画像の表示態様を維持したまま表示するようにしてもよい。

【３２７９】

また、基準値カウンタの値が所定数である９００００に到達して事前報知が開始された後であっても、その後の遊技の進行に応じて基準値カウンタの値が所定数未満となることにより成立し得る表示終了条件が成立したときには当該事前報知を終了するようにしてもよい。また、この場合における表示終了条件は、制御されている遊技状態に応じて異なり、例えば、所定状態であるときの表示終了条件は、基準値カウンタの値が所定数未満の予め定められた数（例えば８９９９９、８９０００など）となることにより成立する。一方、有利状態であるときの表示終了条件は、基準値カウンタの値が前記予め定められた数（例えば８９９９９、８９０００など）となっても成立しないように構成してもよく、例えば、基準値カウンタの値にかかわらず成立しないものであってもよく、また、前記予め定められた数（例えば８９９９９、８９０００など）よりも小さい数（例えば、８８０００

など）となることにより成立するものであってもよい。

【３２８０】

［コンプリート機能の仕様を用いた遊技機に係る発明のまとめ（付記）］

以上説明したように、コンプリート機能の仕様を用いた遊技機では以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【３２８１】

従来の遊技機において、ビッグボーナスなどの大当り中に所定条件が成立することにより、遊技機に対する操作を受け付けない打ち止め状態とし、以降における遊技の続行を規制するものがあった（例えば、特開２００４－１４７８７４号公報参照）。

【３２８２】

しかしながら、このような遊技機では、例えば、突然遊技不能となったことへの苛立ちを遊技者に抱かせてしまう虞や、打ち止め状態となっていることに気付いていない遊技者に対して遊技機が故障したのではといった誤解を抱かせてしまう虞があった。また、遊技店の店員にとっても、打ち止め状態となるタイミングが近づいていることを把握し難いために打ち止め状態となった遊技者に対するサポートを十分に行うことができない虞があった。

【３２８３】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技者や遊技店の双方にとってユーザフレンドリーとなる遊技機を提供することを目的とする。

【３２８４】

上記目的を達成するために、本実施形態では以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【３２８５】

（１）　遊技価値（例えば、メダル、遊技球、クレジット、特典など）を消費して遊技を進行し、当該遊技の進行に応じて遊技価値を付与可能な遊技機（例えば、パチスロ機、パチンコ機、メダルレス遊技機など）において、

消費した遊技価値（例えば、ベットに用いたメダル、発射した遊技球など）と付与された遊技価値（例えば、払い出されたメダル・遊技球など）とに基づく差数を累計した累計数を特定する累計数特定手段（例えば、図２３０のＳＡ０３～ＳＡ０５、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタ、基準値カウンタなど）と、

所定期間（例えば、電源投入されてからの期間）における前記累計数の最下値を基点とし、当該基点からの累計数が上限数（例えば、パチスロ機：１９０００、パチンコ機：９５０００など）に到達することにより、遊技の進行を不能化する遊技不能化手段（例えば、遊技を進行するための操作・検出が無効化、始動口・作動口・ゲートなどが無効化、大入賞口・電チューなどが閉鎖状態など）と、

制御されている間において付与される遊技価値よりも消費する遊技価値の方が大きくなる所定状態（例えば、通常状態）と、制御されている間において消費する遊技価値よりも付与される遊技価値の方が大きくなる有利状態（例えば、パチスロ機：ＡＴやボーナスなどの遊技者がメダルを増加させることができる状態、パチンコ機：大当り遊技状態、小当り遊技状態、確変遊技状態、時短遊技状態など）とを含む複数種類の状態のいずれかに御可能な状態制御手段（例えば、主制御回路により遊技状態を制御するための処理）と、

前記状態制御手段により前記所定状態に制御されているか前記有利状態に制御されているかにかかわらず前記基点からの累計数が前記上限数に到達することにより、前記遊技不能化手段により遊技の進行が不能化される旨の不能化報知を行う不能化報知手段（例えば、図２２９（ａ）、図２２９（ｂ）、図２３１のＳＡ２４、ＳＡ２８、図２３２のＳＡ４１～ＳＡ４４など）と、

前記状態制御手段により前記所定状態に制御されているか前記有利状態に制御されているかにかかわらず、前記基点からの累計数が前記上限数よりも小さい所定数（例えば、パチスロ機：１８５００、パチンコ機：９００００など）に到達することにより、前記上限数までの残り数に応じた数値情報を特定可能とする事前報知を行うことが可能な事前報知

手段（例えば、図２２９（ｃ）、図２２９（ｄ）、図２３９、図２４０、図２３１のＳＡ２１、図２３２のＳＡ４５～ＳＡ４８など）とを備える。

【３２８６】

このような構成によれば、制御されている遊技状態にかかわらず遊技の進行が不能化されるまでの残り数に応じた数値情報が報知されて、遊技者および店員双方が把握可能となる。このため、急に遊技の進行が不能化されてしまう場合よりも、遊技者の苛立ちを例えば事前報知が行われている期間に亘って分散させつつ遊技機が故障したのではといった誤解をまねくことも防止できる。また、残り数に応じて店員がサポート対応の段取りを前もって検討等することができるために、遊技の進行が不能化された遊技機で遊技していた遊技者に対するサポート力を高めることができる。

【３２８７】

（２）　上記（１）の遊技機において、

前記基点からの累計数が前記上限数よりも小さい数であって前記所定数とは異なる特定数（例えば、パチスロ機：１８０００、１８７５０、パチンコ機：８５０００、９２５００などに到達することにより、前記数値情報とは異なる特定情報（例えば、第１報知、第２報知など）を報知可能な特定報知手段（例えば、図２３２のＳＡ４９～ＳＡ５１、ＳＡ６３～ＳＡ６５など）を備える。

【３２８８】

このような構成によれば、遊技店に多数の遊技機が設置されていることなどに起因して、店員が事前報知を見逃したり失念してしまったりすることや店員間の連携・調整の不足により、遊技の進行が不能化された遊技機で遊技していた遊技者に対するサポートを行うことができない、あるいは遅れてしまうことを極力防止できる。

【３２８９】

（３）　上記（２）の遊技機において、

前記特定報知手段は、前記基点からの累計数が前記特定数に到達したときには、前記有利状態に制御されていることを条件として前記特定情報を報知可能である（例えば、図２３２のＳＡ５０、ＳＡ６４など）。

【３２９０】

このような構成によれば、基点からの累計数がその後も増加する可能性が高いときに絞って特定情報を効率的に報知できる。

【３２９１】

（４）　上記（２）または（３）の遊技機において、

前記基点からの累計数が前記特定数に到達したときではなく前記所定数に到達したときに遊技中断信号を外部に出力可能な信号出力手段（例えば、図２３０のＳＡ０８～ＳＡ１０、図２３１のＳＡ２９～ＳＡ３１など）を備える。

【３２９２】

このような構成によれば、基点からの累計数が所定数に到達していることを外部において特定可能となる。その結果、例えば遊技中断信号を試験信号として出力する場合には、試射試験中においても遊技の進行が不能化されるタイミングが近づいていることを報知可能となり不能化される前に一旦中断できるため、実際に遊技の進行が不能化されてしまい当該不能化を解除（初期化）する手間を生じさせてしまうことを未然に防止できる。

【３２９３】

（５）　上記（２）または（３）の遊技機において、

日時を計時する計時手段（例えば、サブＲＴＣなど）を備え、

前記特定報知手段は、前記特定情報を報知しているときにおいて前記計時手段が計時する日時に基づいて特定条件が成立したときに、当該特定情報の報知を終了し（例えば、電源投入されたまま深夜２時を経過したときに第１報知を終了する処理など）、

前記事前報知手段は、前記事前報知を行っているときには、前記計時手段が計時する日時に基づいて前記特定条件が成立したときであっても当該事前報知を継続して行う（例えば、電源投入されたまま深夜２時を経過したときであっても事前報知知を継続する処理）

。
【３２９４】
　このような構成によれば、基点からの累計数が初期化されないときであっても、計時される日時に基づいて特定条件が成立したときには特定情報の報知について終了させる一方、事前報知については継続される。このため、特定情報が報知されることにより遊技者に対して必要以上に警戒感を抱かせてしまい当該遊技機の稼働率を低下させてしまうことを防止しつつ、事前報知が行われているときには当該事前報知が継続されることより遊技の進行の不能化が間近に迫っている状況であることを確実に報知して遊技者に不利益を生じさせてしまうことを防止できる。
【３２９５】
（６）　上記（１）の遊技機において、
　前記有利状態に制御されてからの特定期間（例えば、ボーナス、ＡＴ、ボーナスやＡＴを含む一連の期間など）における累計数を報知する特定期間累計数画像を表示可能な特定期間累計数表示手段（例えば、図２３７（ａ）のＴＯＴＡＬを表示するための処理など）を備え、
　前記事前報知手段は、前記数値情報として、前記上限数までの残り数を報知する残り数画像を表示可能であり、当該残り数画像を遊技の進行に応じて第１態様で更新表示し、
　前記特定期間累計数表示手段は、前記特定期間累計数画像を遊技の進行に応じて前記第１態様とは異なる第２態様で更新表示する（例えば、図２３７（ｄ）、図２３８（ａ）～（ｃ）など）。
【３２９６】
　このような構成によれば、残り数画像と特定期間累計数画像とについて、ともに累計数であり遊技の進行・結果などに応じて更新される点で共通しているものの、更新表示の態様を異ならせることによって、両者の区別がつきやすくなり遊技者を混乱させてしまうことを防止できる。
【３２９７】
（７）　上記（６）の遊技機において、
　遊技の進行に応じて特定演出を実行可能な特定演出実行手段（例えば、特定演出を実行するための処理）を備え、
　前記特定期間累計数表示手段は、前記特定演出が実行されるときに前記特定期間累計数画像の表示を中断する制御または前記特定期間累計数画像の視認性を低下させる制御を行う一方、前記事前報知手段は、前記特定演出が実行されるときであっても前記残り数画像の表示態様を維持したまま表示する（例えば、図２３８（ｄ）、図２３８（ｅ）など）。
【３２９８】
　このような構成によれば、特定演出が実行されるときに、特定期間累計数画像の表示を中断する制御または特定期間累計数画像の視認性を低下させる制御が行われることにより、特定演出を遊技者が極力視認できるようにしつつも、残り数画像については表示態様を維持したまま表示されるため、当該残り数画像を非表示にするものなどと比較して、遊技者の心情を逆なでしてしまうことを極力防止できる。
【３２９９】
（８）　上記（１）の遊技機において、
　前記事前報知手段は、前記基点からの累計数が前記所定数に到達して前記事前報知が開始された後であっても前記累計数が前記所定数未満となることにより成立し得る表示終了条件が成立したときには前記事前報知を終了し（例えば、図２３２のＳＡ６２など）、
　前記所定状態であるときの表示終了条件は、前記基点からの累計数が前記所定数未満の予め定められた数となることにより成立する一方、前記有利状態であるときの表示終了条件は、前記基点からの累計数が前記予め定められた数となっても成立しない（例えば、図２３２のＳＡ６１など）。
【３３００】
　このような構成によれば、基点からの累計数が所定数未満となった場合において、制御

されている遊技状態が有利状態である場合には一時的に所定数未満となった状況であるとして事前報知を継続するのに対し、所定状態である場合には再び所定数に到達する可能性が低い状況であるとして累計数が所定数未満の予め定められた数となることにより事前報知を終了することができる。その結果、事前報知の終了直後において再び所定数に到達して事前報知が再開されることや、基点からの累計数が低下して上限数までの残り数が増えていく傾向にあるにもかかわらずいつまでも事前報知が継続して行われることを極力防止できる。

【３３０１】

（９）　上記（１）の遊技機において、

開始条件が成立することにより有利区間に制御し、当該有利区間における累計数（例えば、有利区間払出数カウンタ）が区間上限数に到達することにより当該有利区間を終了する有利区間制御手段（例えば、有利区間に制御するための処理など）を備え、

前記所定期間における前記基点からの累計数は、電源が遮断された後に電源投入されたときに、特定条件が成立していないときには初期化される一方で特定条件が成立しているときには初期化されないのに対し（例えば、ＲＡＭ異常以外のエラー発生時、特定の操作部への操作時など予め定められた条件が成立しているときにはＣＭＰ＿ＭＹカウンタが初期化されない）、前記有利区間における累計数は、電源が遮断された後に電源投入されることのみによっては前記特定条件が成立していないときであっても初期化されない（例えば、有利区間払出数カウンタは電源が遮断された後に電源投入されることのみによっては初期化されない）。

【３３０２】

このような構成によれば、所定期間における基点からの累計数については電源投入されたときであっても特定条件が成立しているか否かにより初期化するか否かを異ならせることができるため、利便性を向上させることができる。これに対して、有利区間における累計数については電源投入されることのみによっては特定条件が成立しているときのみならず特定条件が成立していないときであっても初期化されないため、処理を複雑化することなくかつ有利区間における上限ゲーム数とのバランスを担保することにより一の有利区間中における射幸性を適正に抑制できる。

【３３０３】

（１０）　上記（９）の遊技機において、

前記特定条件は、電源が遮断されたときにエラーが発生していたことにより成立する条件を含む。

【３３０４】

このような構成によれば、エラーが発生したときに当該エラー解除に併せて電源遮断して電源投入する方が望ましい状況となった場合であっても、所定期間における基点からの累計数を初期化せずに電源投入できるため、利便性を向上させることができる。

【３３０５】

（１１）　上記（１）の遊技機において、

開始条件が成立することにより有利区間に制御し、当該有利区間における累計数（例えば、有利区間払出数カウンタ）が区間上限数に到達することにより当該有利区間を終了する有利区間制御手段（例えば、有利区間に制御するための処理など）を備え、

前記所定期間における前記基点からの累計数に関する情報は、報知条件が成立することにより前記所定数に到達しているか否かにかかわらず報知可能である一方、前記有利区間における累計数に関する情報は、前記報知条件が成立したときであっても報知不可能である（例えば、特定の操作などにより、ＣＭＰ＿ＭＹカウンタの値に関する情報については報知可能である一方、有利区間払出数カウンタの値については報知不可能）。

【３３０６】

このような構成によれば、報知条件が成立することによって報知される基点からの累計数に関する情報に基づいて遊技店側において電源遮断・電源投入するか否かを選別できるようにして利便性を向上させことができる。これに対して、有利区間における累計数に関

する情報については、たとえ報知条件が成立したときであっても報知されることはないため、有利区間における累計数に関する情報を報知するための処理を無駄（不必要）に行うことがなく、処理負担が増大してしまうことを未然に防止できる。

【３３０７】

（音量調整について）

上述のとおり、本実施形態では、少なくとも遊技者によるユーザーメニュー上の操作によってスピーカ群から出力される音の音量を調整可能としていたが、これに加え、遊技店側でも音量調整を可能にする構成としてもよい。例えば、遊技店側のメニュー画面であるホールメニューで「音量設定」が選択できるようにし、ここで音量レベルを選択できるようにする。そして、選択可能な音量レベルのうち少なくとも１つは、仮に遊技者がユーザーメニュー上の操作で最大音量を設定したとしても概ね所定の音量値（例えば、８５ｄｂ）を超えない音量とすることが可能な音量レベルとする。

【３３０８】

このようにすれば、大きな音を好む遊技者が最大音量で遊技したとしても、近くの遊技者の遊技環境のみならず、遊技店の店員や近隣の住民等の生活環境にも配慮した遊技機を提供することができるという効果を奏する。なお、遊技店側が音量レベルを設定可能な態様はこれに限られない。例えば、筐体内部や背面にスライドスイッチやボリュームスイッチ等の物理的なスイッチを設け、そのスイッチを操作することにより、所望の音量レベルが選択され得るようにしてもよい。

【３３０９】

［１１．第２の遊技機］

続いて、図２４１～図２８４を参照して、パチスロ機１の別仕様について、これを「第２の遊技機」として説明する。なお、図２４１～図２８４の各図の説明にないパチスロ機１の構成の全ては、図１～図２４０の各図で説明された実施形態が適用される。

【３３１０】

第２の遊技機であるパチスロ機１では、メイン表示窓４の枠内に表示される３行×３列の図柄を結ぶラインのうち、左リール３Ｌの中段、中リール３Ｃの下段、右リール３Ｒの下段を結ぶラインを有効ラインとして用い、その他のラインを疑似ラインとして用いる。すなわち、パチスロ機１は、メイン表示窓４において各リールの一つの図柄を表示する３行×３列の単位図柄表示領域のうちの、左リール３Ｌの中段の単位図柄表示領域、中リール３Ｃの下段の単位図柄表示領域、及びリール３Ｒの下段の単位図柄表示領域を夫々結ぶことにより形成されるラインを有効ラインとして用い、それ以外の単位図柄表示領域を結ぶことにより形成されるラインを疑似ラインとして用いる。また、第２の遊技機であるパチスロ機１では、３枚掛けのみ対象となっている。

【３３１１】

［１２－１．遊技状態の遷移フロー］

初めに、図２４１を参照しながら、第２の遊技機であるパチスロ機１の主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）により管理される各種遊技状態及びその遷移フローについて説明する。

【３３１２】

［１１－１－１．基本的な遊技状態の遷移フロー］

第２の遊技機であるパチスロ機１では、ボーナスゲームの種類として、ビッグボーナス（以下、「ＢＢ」と記す場合がある。）が設けられる。ＢＢは、第１種特別役物と呼ばれるレギュラーボーナス（以下、「ＲＢ」と記す場合がある。）に係る役物連続作動装置であり、ＲＢを連続して作動させる。それゆえ、第２の遊技機であるパチスロ機１では、ビッグボーナス役の当籤／作動（入賞）の有無などに基づいて遊技状態を管理する。

【３３１３】

具体的には、図２４１に示すように、主制御回路１００は、ビッグボーナス役（後述の当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿目押し役」

＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役を構成する図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」の図柄組合せ）の当籤／作動（入賞）の有無などに基づいて、「ＲＴ０」、「ＲＴ１」、「ＲＴ２」と称する３種類の遊技状態を管理する。

【３３１４】

なお、ＲＴ０は、ビッグボーナス役に非当籤であり、かつ、ビッグボーナスが作動していない状態である。また、ＲＴ２は、ビッグボーナスが作動している状態である。また、本実施形態では、ビッグボーナス役が内部当籤役として決定されると、ビッグボーナス役が入賞するまで複数回の遊技に渡りビッグボーナス役が内部当籤役として持ち越された状態が発生する。ＲＴ１は、ビッグボーナス役が内部当籤役として持ち越されている状態、すなわち、ビッグボーナス役が当籤し、かつ、ビッグボーナスが作動していない状態である。ＲＴ０，ＲＴ１，ＲＴ２は、遊技に係る当籤役の種別及びその当籤確率が互いに異なり、第２の遊技機であるパチスロ機１では、ＲＴ０の再遊技確率は８９７８／６５５３６であり、ＲＴ１の再遊技確率は８９８２／６５５３６であり、ＲＴ２の再遊技確率は０／６５５３６である（図２５１参照）。

【３３１５】

設定変更がされると（移行条件（０）が成立すると）、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ０～ＲＴ２からＲＴ０に移行させる。第４の遊技機であるパチスロ機１では、ＲＴ０，ＲＴ１，ＲＴ２は、他のＲＴ状態への移行契機として遊技回数を用いることのないＲＴ状態、つまり、無限ＲＴ状態であり、ＲＴ状態間の移行は次のように制御される。

【３３１６】

ＲＴ０においてビッグボーナス役が当籤役として決定され、決定された当該遊技でビッグボーナス役が非表示であると、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ０からＲＴ１に移行させる。具体的には、後述する当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿目押し役」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」，「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役のいずれかに当籤し、当籤した当該遊技で後述する図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」の図柄組合せが有効ラインに揃わないと（移行条件（１）が成立すると）、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ０からＲＴ１に移行させる。

【３３１７】

第２の遊技機であるパチスロ機１では、引き込み優先順位は、再遊技役（優先順位１）、入賞役（優先順位２）、ボーナス役（優先順位３）の順となっている。第２の遊技機であるパチスロ機１では、ＲＴ１において、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの図柄配列、当該遊技で有効ラインに揃うことが許容される当該遊技で当選した当選役や持越し中の「Ｃ＿ＢＢ」などの図柄組合せ、引き込み優先順位などにより、持越し中の図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」の図柄組合せが有効ラインに揃うことがないように設計されている。このため、一旦遊技状態がＲＴ１になると、設定変更が行われない限り、遊技状態がＲＴ１に滞在し続けるようになっている。

【３３１８】

また、ＲＴ０においてビッグボーナス役が当籤役として決定され、決定された当該遊技でビッグボーナス役が表示されると、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ０からＲＴ２に移行させる。具体的には、後述する当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿目押し役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役のいずれかに当籤し、当籤した当該遊技で後述する図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」の図柄組合せが有効ラインに揃うと（移行条件（２）が成立すると）、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ０からＲＴ２に移行させる。なお、第２の遊技機であるパチスロ機１では、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの図柄配列、当該遊技で有効ラインに揃うことが許容される当該遊技で当選した当選役の図柄組合せ、引き込み優先順位などにより、図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」の図柄組合せが有効ラインに揃う可能性があるのは、後述する当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、

「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿目押し役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役のうち、後述する当籤役名「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役に当籤した場合に限られる。

【３３１９】

また、ＲＴ２において規定枚数を超えるメダルが払い出され、ＢＢ状態が終了すると（移行条件（３）が成立すると）、主制御回路１００は、遊技状態をＲＴ２からＲＴ０に移行させる。ここで、本実施形態では、ＲＴ２の終了契機となる規定枚数は、「１４枚」である。

【３３２０】

［１１－２．図柄配置テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、図柄配置テーブルが記憶されており、図２４２を参照して、図柄配置テーブルについて説明する。図柄配置テーブルは、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ及び右リール３Ｒのそれぞれの回転方向における各図柄の位置と、各位置に配置された図柄の種類（各位置に配置された図柄の種類を特定するデータ）との対応関係を規定する。

【３３２１】

なお、第２の遊技機であるパチスロ機１では、各リールには、図柄「赤７」「青７」「ＢＡＲ１」「ＢＡＲ２」「プラム」「オレンジ」「チェリー１」「チェリー２」「ブランクＡ」及び「ブランクＢ」の１０種類の図柄が表示されている。

【３３２２】

［１１－３．図柄組合せの内容（図柄組合せテーブル）］

メインＲＯＭ１０２には、図柄組合せの内容（図柄組合せテーブル）が記憶されており、図２４３を参照して、図柄組合せの具体的な内容について説明する。図２４３において、「図柄組合せ」欄は、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、右リール３Ｒが停止した場合に、有効ラインに沿って表示される左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、右リール３Ｒの図柄を示し、「図柄組合せ名」欄は、対応する「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの１又は複数の図柄と、中央欄に図示している中リール３Ｃの１又は複数の図柄と、右欄に図示している右リール３Ｒの１又は複数の図柄との組み合わせからなる図柄の組合せをまとめた名称（図柄組合せ名）を示す。また、「配当」欄は、対応する「図柄組合せ」欄が示す図柄組合せが有効ラインに表示された際に付与される配当を規定する。

【３３２３】

「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」は、第一種特別役物の連続作動装置（ＢＢ）に係る図柄組合せであり、図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」に係る図柄組合せは「ＢＡＲ２」「チェリー２」「ＢＡＲ１」である。図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、遊技状態がＲＴ２（ビッグボーナス）に移行する（図２３２参照）。

【３３２４】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＡ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＡ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「ＢＡＲ１」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している中リール３Ｒの図柄「ＢＡＲ１」／「オレンジ」／「ブランクＡ」とを組み合わせた１２通りである。なお、図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＡ」に係る図柄組合せは、左リール３Ｌの上段、中リール３Ｃの上段、右リール３Ｒの上段に図柄「オレンジ」「オレンジ」「オレンジ」が表示される図柄組合せ、または、左リール３Ｌの上段、中リール３Ｃの上段、右リール３Ｒの下段に図柄「オレンジ」「オレンジ」「オレンジ」が表示される図柄組合せである。

【３３２５】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＢ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＢ

」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「ＢＡＲ１」／「ブランクＡ」とを組み合わせた４通りある。なお、図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＢ」に係る図柄組合せは、左リール３Ｌの下段、中リール３Ｃの上段、右リール３Ｒの上段に図柄「オレンジ」「オレンジ」「オレンジ」が表示される図柄組合せである。

【３３２６】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＣ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、再遊技の作動が行われる。図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＣ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」とを組み合わせた２通りある。なお、図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＣ」に係る図柄組合せは、左リール３Ｌの中段、中リール３Ｃの上段、右リール３Ｒの中段に図柄「オレンジ」「オレンジ」「オレンジ」が表示される図柄組合せである。

【３３２７】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ａ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ａ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた２通りである。

【３３２８】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｂ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｂ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「オレンジ」とを組み合わせた１通りである。

【３３２９】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｃ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｃ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた１通りである。

【３３３０】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｄ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｄ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」とを組み合わせた１通りである。

【３３３１】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｅ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｅ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」と

を組み合わせた１通りである。

【３３３２】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｆ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｆ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「オレンジ」とを組み合わせた１通りである。

【３３３３】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｇ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｇ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた１通りである。

【３３３４】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ｈ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ｈ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「チェリー１」／「チェリー２」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」とを組み合わせた２通りである。

【３３３５】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｉ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１５枚役Ｉ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」とを組み合わせた１通りである。

【３３３６】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ｊ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１５枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ｊ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「青７」とを組み合わせた４通りである。

【３３３７】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ａ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、３枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ａ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」／「チェリー１」とを組み合わせた８通りである。

【３３３８】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｂ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、３枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｂ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」／「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「チェリー１」／「チェリー２」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「オレンジ」とを組み合わせた６通りである。

【３３３９】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｃ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、３枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｃ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」／「チェリー１」とを組み合わせた２通りである。
【３３４０】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｄ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、３枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ｄ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「オレンジ」とを組み合わせた２通りである。
【３３４１】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ａ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ａ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「ＢＡＲ１」／「ＢＡＲ２」／「プラム」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」／「青７」／「チェリー１」とを組み合わせた１８通りである。
【３３４２】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｂ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｂ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」／「チェリー１」とを組み合わせた６通りである。
【３３４３】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｃ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｃ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」／「チェリー１」とを組み合わせた６通りである。
【３３４４】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｄ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｄ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「ＢＡＲ１」／「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「チェリー１」とを組み合わせた２通りである。
【３３４５】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｅ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｅ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」とを組み合わせた１通りである。

【３３４６】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｆ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｆ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「チェリー１」とを組み合わせた１通りである。
【３３４７】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｇ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｇ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた１通りである。
【３３４８】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｈ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｈ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた１通りである。
【３３４９】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｉ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｉ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「赤７」とを組み合わせた２通りである。
【３３５０】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｊ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｊ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「チェリー１」とを組み合わせた２通りである。
【３３５１】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｋ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｋ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた２通りである。
【３３５２】
　また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｌ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｌ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「青７」／「ＢＡＲ２」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた２通りである。
【３３５３】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｍ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｍ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「プラム」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「オレンジ」とを組み合わせた２通りである。

【３３５４】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｎ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｎ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「ＢＡＲ１」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた２通りである。

【３３５５】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｏ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｏ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「ＢＡＲ１」／「ブランクＡ」とを組み合わせた８通りである。

【３３５６】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｐ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｐ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」／「ブランクＢ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｃの図柄「ブランクＡ」とを組み合わせた２通りである。

【３３５７】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｑ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｃ＿１枚役Ｑ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「チェリー１」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「プラム」とを組み合わせた１通りである。

【３３５８】

また、「図柄組合せ名」欄の図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｒ」に係る図柄組合せが有効ラインに沿って表示されると、１枚のメダルが払い出される。図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｒ」に係る図柄組合せは、「図柄組合せ」欄での左欄に図示している左リール３Ｌの図柄「赤７」／「青７」／「プラム」／「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での中央欄に図示している中リール３Ｃの図柄「プラム」／「オレンジ」と、「図柄組合せ」欄での右欄に図示している右リール３Ｒの図柄「ＢＡＲ１」／「ブランクＡ」とを組み合わせた１６通りである。

【３３５９】

［１１－４．当籤役名と図柄組合せ名との対応表（図柄組合せ決定テーブル）］

メインＲＯＭ１０２には、当籤役名と図柄組合せ名との対応表（図柄組合せ決定テーブル）が記憶されており、図２４４～図２４７を参照して、当籤役と図柄組合せとの対応表（図柄組合せ決定テーブル）について説明する。図２４４および図２４５はＲＴ０およびＲＴ１での３枚賭けの場合に用いられる図柄組合せ決定テーブルであり、図２４６および図２４７はＲＴ２での３枚賭けの場合に用いられる図柄組合せ決定テーブルである。

【３３６０】

図柄組合せ決定テーブルは、各種当籤役を示す当籤役名と、各当籤役名に対応付けられた、有効ライン上に表示可能な図柄組合せに対応する図柄組合せ名との対応関係を規定する。すなわち、当籤役が決定されると、有効ライン上に表示可能な図柄組合せの種別（入賞可能な表示役の種別）が一義的に決定される。

【３３６１】

図柄組合せ決定テーブル中の「図柄組合せ名」欄に記載の「●」印は、「当籤役名」欄の当籤役名の当籤役に当籤した場合に、有効ライン上に表示可能な図柄組合せに対応する図柄組合せ名を示す。

【３３６２】

第２の遊技機であるパチスロ機１では、主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）は、当籤役、遊技状態（ＲＴ０～ＲＴ２）およびリールの停止順序に応じて停止制御を異ならせ、所定の役が当籤役として決定された場合に、ＲＴ０およびＲＴ１での３枚賭けの場合に用いられる図２４４および図２４５又はＲＴ２での３枚賭けの場合に用いられる７７および図２４７に示す決定した当籤役の当籤役名と対応関係にある図柄組合せ名に係る図柄組合せを表示可能とするようにリール回転停止制御を行う。なお、図２４４および図２４５、並びに、７７および図２４７に示す対応表では、決定された当籤役に対して表示可能な全ての図柄組合せに対応する図柄組合せ名を「●」印で列挙しているが、優先して引き込む図柄の関係上、「●」印が付された図柄組合せ名の図柄組合せであっても表示されないことがある。

【３３６３】

［１１－５．当籤役と当籤役グループとの対応関係］

メインＲＯＭ１０２には、当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表（当籤役番号－当籤役名－当籤役グループ番号データ）、および、当籤役グループ番号と当籤役グループ名との対応表（当籤役グループデータ）とが記憶されており、図２４８を参照して、当籤役番号－当籤役名－当籤役グループ番号データについて説明し、図２４９を参照して、当籤役グループデータについて説明する。図２４８に示す当籤役番号－当籤役名－当籤役グループ番号データは、当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応関係を規定する。また、図２４９に示す当籤役グループデータは、当籤役グループ番号と当籤役グループ名との対応関係を規定する。

【３３６４】

図２４８および図２４９の図示から、当籤役グループ番号「０」の当籤役グループ名「その他」の当籤役グループは、当籤役番号「０」の当籤役名「ハズレ」、当籤役番号「１」の当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＡ」、当籤役番号「２」の当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＢ」、当籤役番号「３」の当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＣ」、当籤役番号「４」の当籤役名「Ｆ＿ＲＢ中１５枚」、当籤役番号「１５」の当籤役名「Ｆ＿３枚役」、当籤役番号「２０」の当籤役名「Ｆ＿目押し役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、当籤役番号「２１」の当籤役名「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」、当籤役番号「２２」の当籤役名「Ｆ＿ＢＢ」の各当籤役を含む。

【３３６５】

また、当籤役グループ番号「１」の当籤役グループ名「択役」の当籤役グループは、当籤役番号「５」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ２１３」、当籤役番号「６」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ２３１」、当籤役番号「７」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ３１２」、当籤役番号「８」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ３２１」、当籤役番号「９」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＢ２１３」、当籤役番号「１０」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＢ２３１」、当籤役番号「１１」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＢ３１２」、当籤役番号「１２」の当籤役名「Ｆ＿択プラムＢ３２１」の各当籤役を含む。

【３３６６】

また、当籤役グループ番号「２」の当籤役グループ名「左プラム」の当籤役グループは、当籤役番号「１３」の当籤役名「Ｆ＿左プラム」の当籤役を含む。

【３３６７】

また、当籤役グループ番号「３」の当籤役グループ名「通常チェリー」の当籤役グループは、当籤役番号「１４」の当籤役名「Ｆ＿チェリー」の当籤役を含む。

【３３６８】

また、当籤役グループ番号「４」の当籤役グループ名「規定チェリー」の当籤役グループは、規定チェリー書き換え抽籤の抽籤結果が「規定チェリー書き換え」である場合に、当籤役グループ名「通常チェリー」の当籤役グループを書き換えたものである。

【３３６９】

［１１－６．ＲＴ状態で当籤可能な当籤役］

メインＲＯＭ１０２には、ＲＴ状態で当籤可能な当籤役の表（ＲＴ当籤可能当籤役データ）が記憶されており、図２５０を参照して、ＲＴ状態（ＲＴ０～ＲＴ２）で当籤可能な当籤役について説明する。

【３３７０】

図２５０のＲＴ当籤可能当籤役データの「ＲＴ状態（ＲＴ０～ＲＴ２）」欄に記載の「○」印は、ＲＴ状態（ＲＴ０～ＲＴ２）において当籤可能な当籤役名の当籤役を示す。

【３３７１】

ＲＴ０では、当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＢ」、「Ｆ＿オレンジリプＣ」、「Ｆ＿択プラムＡ２１３」、「Ｆ＿択プラムＡ２３１」、「Ｆ＿択プラムＡ３１２」、「Ｆ＿択プラムＡ３２１」、「Ｆ＿択プラムＢ２１３」、「Ｆ＿択プラムＢ２３１」、「Ｆ＿択プラムＢ３１２」、「Ｆ＿択プラムＢ３２１」、「Ｆ＿左プラム」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿３枚役」、「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿目押し役」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿リーチ目し役」＋「ＦＢＢ」、「ＦＢＢ」の当籤役が当籤可能である。

【３３７２】

ＲＴ１では、当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＡ」、「Ｆ＿オレンジリプＢ」、「Ｆ＿オレンジリプＣ」、「Ｆ＿択プラムＡ２１３」、「Ｆ＿択プラムＡ２３１」、「Ｆ＿択プラムＡ３１２」、「Ｆ＿択プラムＡ３２１」、「Ｆ＿択プラムＢ２１３」、「Ｆ＿択プラムＢ２３１」、「Ｆ＿択プラムＢ３１２」、「Ｆ＿択プラムＢ３２１」、「Ｆ＿左プラム」、「Ｆ＿チェリー」、「Ｆ＿３枚役」、「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｂ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｃ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿択１枚役Ｄ」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿目押し役」＋「ＦＢＢ」、「Ｆ＿リーチ目し役」＋「ＦＢＢ」の当籤役が当籤可能である。

【３３７３】

ＲＴ２では、当籤役名「はずれ」、「Ｆ＿ＲＢ中１５枚」、「Ｆ＿リーチ目し役」＋「ＦＢＢ」の当籤役が当籤可能である。

【３３７４】

［１１－７．内部抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、当籤役を決定する際に参照される内部抽籤テーブルが記憶されており、図２５１を参照して、当籤役を決定する際に参照される内部抽籤テーブルについて説明する。内部抽籤テーブルは、遊技状態（ＲＴ０～ＲＴ２）毎に設けられ、当籤役番号と、当籤役と、当籤役が決定されるときの抽籤値との対応関係を設定値（設定１～設定６）毎に規定する。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）の各内部抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「６５５３５」のうち、各当籤役名の当籤役が決定される乱数の個数が示される。なお、ＲＴ０では、図２５１（ａ）のＲＴ０用の内部抽籤テーブルが参照され、ＲＴ１では、図２５１（ｂ）のＲＴ１用の内部抽籤テーブルが参照され、ＲＴ２では、図２５１（ｃ）のＲＴ２用の内部抽籤テーブルが参照される。

【３３７５】

ＲＴ１においては、「Ｆ＿３枚役」～「Ｆ＿オレンジリプＡ」が抽籤された場合、「持越中のボーナス役との重複当籤役と扱われる。例えば、「Ｆ＿ＢＢ」の持越中のＲＴ１において内部抽籤テーブルを用いた抽籤で「Ｆ＿オレンジリプＡ」が選択された場合は「Ｆ＿赤ＢＢ」十「Ｆ＿オレンジリプＡ」が最終的な当籤役として決定される。

【３３７６】
［１１－８．指示モニタを用いた押し順の報知］
　メインＲＯＭ１０２には、当籤役に当選した場合に指示モニタを用いた押し順の報知に関わる表（押し順報知データ）が記憶されており、図２５２を参照して、押し順報知データについて説明する。押し順報知データは、非ＡＴ中のＲＴ０、非ＡＴ中のＲＴ１、ＡＴ中のＲＴ０、ＡＴ中のＲＴ１の各々に関して、当籤役に関する当籤役名の当籤役各々に対して、指示モニタを用いた押し順の報知に関わる情報を規定する。なお、ＡＴは前兆Ｂ中に当籤するＧＳＢ、ＢＧ、ＢＣを含み、非ＡＴはこれ以外の状態を含む。図２５２の押し順報知データ中の「指示モニタの表示」欄の「０」は、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、右リール３Ｒを停止させるストップボタン８Ｌ、８Ｃ、８Ｒの押し順を報知しないことを意味する。「指示モニタの表示」欄の「１」は、第１停止リールが中リール３Ｃ、第２停止リールが左リール３Ｌ、第３停止リールが右リール３ＲとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を報知することを意味する。また、「指示モニタの表示」欄の「２」は、第１停止リールが中リール３Ｃ、第２停止リールが右リール３Ｒ、第３停止リールが左リール３ＬとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を報知することを意味する。また、「指示モニタの表示」欄の「３」は、第１停止リールが右リール３Ｒ、第２停止リールが左リール３Ｌ、第３停止リールが中リール３ＣとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を報知することを意味する。また、「指示モニタの表示」欄の「４」は、第１停止リールが右リール３Ｒ、第２停止リールが中リール３Ｃ、第３停止リールが左リール３ＬとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を報知することを意味する。
【３３７７】
［１１－９．ＲＴ状態及び押し順に応じた当籤択の配当］
　第２の遊技機であるパチスロ機１では、当籤可能な当籤役はＲＴ状態（ＲＴ０～ＲＴ２）毎に規定されており（図２５０参照）、当籤役に属する図柄組合せは当籤役毎に規定されている（（図２４４～図２４７参照）。当籤役毎に有効ラインに揃う図柄組合せは左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、右リール３Ｒを停止させるストップボタン８Ｌ、８Ｃ、８Ｒの押し順に応じて規定されており、図２５３を参照して、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、右リール３Ｒを停止させるストップボタン８Ｌ、８Ｃ、８Ｒの押し順に応じて有効ラインに揃う図柄組合せについて説明する。
【３３７８】
　図２５３中の「１－２－３」は、第１停止リールが左リール３Ｌ、第２停止リールが中リール３Ｃ、第３停止リールが右リール３ＲとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。また、「１－３－２」は、第１停止リールが左リール３Ｌ、第２停止リールが右リール３Ｒ、第３停止リールが中リール３ＣとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。また、「２－１－３」は、第１停止リールが中リール３Ｃ、第２停止リールが左リール３Ｌ、第３停止リールが右リール３ＲとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。また、「２－３－１」は、第１停止リールが中リール３Ｃ、第２停止リールが右リール３Ｒ、第３停止リールが左リール３ＬとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。また、「３－１－２」は、第１停止リールが右リール３Ｒ、第２停止リールが左リール３Ｌ、第３停止リールが中リール３ＣとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。また、「３－２－１」は、第１停止リールが右リール３Ｒ、第２停止リールが中リール３Ｃ、第３停止リールが左リール３ＬとなるストップボタンＬ、８Ｃ、８Ｒの押し順を意味する。
【３３７９】
　図２５３中の「－」は抽籤対象となっていないことを意味する。例えば、「－」が記されている当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＡ」の当籤役はＲＴ０では抽籤対象となっていない。図２５３中の「ＲＰ」は配当として再遊技を付与する図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「１枚」は配当として１枚のメダルが払い出される図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「１５枚」は配当として１５枚のメダルが払い出される図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「３枚

」は配当として３枚のメダルが払い出される図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「１枚」は配当として１枚のメダルが払い出される図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「１枚ｏｒ０枚」は配当として１枚のメダルが払い出される図柄組合せが有効ラインに揃うか、配当（１枚、３枚、１５枚、ＲＰ、ＢＢ）が得られない図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。図２５３中の「ＢＢ入賞ｏｒ０枚」はＢＢ入賞となる図柄組合せが有効ラインに揃うか、配当（１枚、３枚、１５枚、ＲＰ、ＢＢ）が得られない図柄組合せが有効ラインに揃うことを意味する。

【３３８０】

例えば、ＲＴ１で当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＢ」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２－３」、「１－３－２」、「２－１－３」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」のいずれの押し順であっても、当籤役名「Ｆ＿オレンジリプＢ」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿リプレイＡ」、「Ｓ＿リプレイＢ」、「Ｓ＿リプレイＣ」の図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。

【３３８１】

また、ＲＴ１で当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ２１３」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２－３」、「１－３－２」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」のいずれかの押し順であったときは、当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ２１３」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ａ」、「Ｓ＿１枚役Ｂ」、「Ｓ＿１枚役Ｄ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。一方、「２－１－３」の押し順であったときは、当籤役名「Ｆ＿択プラムＡ２１３」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ａ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。

【３３８２】

また、ＲＴ１で当籤役名「Ｆ＿左プラム」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２－３」、「１－３－２」のいずれかの押し順であったときは、当籤役名「Ｆ＿左プラム」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１５枚役Ａ」、「Ｃ＿１５枚役Ｊ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。一方、「２－１－３」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」の押し順のいずれかであったときは、当籤役名「Ｆ＿左プラム」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｂ」、「Ｓ＿１枚役Ｃ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。

【３３８３】

また、ＲＴ１で当籤役名「Ｆ＿チェリー」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２－３」、「１－３－２」のいずれかの押し順であったときは、当籤役名「Ｆ＿チェリー」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿３枚役Ａ」～「Ｓ＿３枚役Ｄ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。一方、「２－１－３」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」の押し順のいずれかであったときは、当籤役名「Ｆ＿チェリー」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ｒ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。

【３３８４】

また、ＲＴ０で当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２－３」、「１－３－２」のいずれかの押し順であったときは、当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ａ」、「Ｃ＿１枚役Ｅ」、「Ｃ＿１枚役Ｇ」に属する図柄組合せのいずれかが必ず有効ラインに揃うようになっている。一方、「２－１－３」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」の押し順のいずれかであったときは、当籤役名「Ｆ＿択１枚役Ａ」＋「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｓ＿１枚役Ａ」、「Ｃ＿１枚役Ｅ」、「Ｃ＿１枚役Ｇ」に属する図柄組合せのいずれかが有効ラインに揃うか、配当（１枚、３枚、１５枚、ＲＰ、ＢＢ）が得られない図柄組合せが有効ラインに揃う。

【３３８５】

また、ＲＴ０で当籤役名「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役が役抽籤結果で当籤した場合、「１－２

－３」、「１－３－２」、「２－１－３」、「２－３－１」、「３－１－２」、「３－２－１」のいずれの押し順であっても、当籤役名「Ｆ＿ＢＢ」の当籤役に属する図柄組合せ名「Ｃ＿ＢＢ」に属する図柄組合せが有効ラインに揃う（ＢＢ入賞）か、配当（１枚、３枚、１５枚、ＲＰ、ＢＢ）が得られない図柄組合せが有効ラインに揃う。

【３３８６】

［１１－１０．シナリオグループ抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、シナリオグループを決定する際に参照されるシナリオグループ抽籤テーブルが記憶されており、図２５４を参照して、シナリオグループ抽籤テーブルについて説明する。シナリオグループ抽籤テーブルは、抽籤結果（シナリオグループＡ～シナリオグループＢ）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２５４のシナリオグループ抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「６５５３５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３８７】

［１１－１１．シナリオ抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、シナリオを決定する際に参照されるシナリオ抽籤テーブルが記憶されており、図２５５および図２５６を参照して、シナリオ抽籤テーブルについて説明する。シナリオ抽籤テーブルは、抽籤結果（シナリオ０１～シナリオ４８）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を設定値（設定１～設定６）毎に規定する。ここで、図２５５および図２５６それぞれのシナリオ抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「６５５３５」のうち、各シナリオが決定される乱数の個数が示される。なお、シナリオグループＡがシナリオグループ抽籤で決定された場合には、図２５５のシナリオグループＡ用のシナリオ抽籤テーブルが参照され、シナリオグループＢがシナリオグループ抽籤で決定された場合には、図２５６のシナリオグループＢ用のシナリオ抽籤テーブルが参照される。

【３３８８】

［１１－１２．シナリオ書き換え抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、シナリオをシナリオ０２に書き換えるか否かを決定する際に参照されるシナリオ書き換え抽籤テーブルが記憶されており、図２５７を参照して、シナリオ書き換え抽籤テーブルについて説明する。シナリオ書き換え抽籤テーブルは、抽籤結果（書き換えなし、シナリオ０２）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２５７のシナリオ書き換え抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３８９】

［１１－１３．高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、高確１とするＭＡＰの位置を決定する際に参照される高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルが記憶されており、図２５８を参照して、高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルについて説明する。高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルは、シナリオ（シナリオ０１～シナリオ４８）毎に、抽籤結果（なし、１回目＿０１～１回目＿１３）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２５８の高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。ここで、図２５８の高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブル中の抽籤結果の「１回目＿○○」の「○○」の部分が高確１とするＭＡＰの位置を示す。

【３３９０】

［１１－１４．高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、高確２とするＭＡＰの位置を決定する際に参照される高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルが記憶されており、図２５９を参照して、高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルについて説明する。高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルは、シナリオ（シナリオ０１～シナリオ４８）毎に、抽籤結果（なし、２回目＿０１～２回目＿１３）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２５９の高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数

の個数が示される。図２５９の高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブル中の抽籤結果の「２回目＿□□」の「□□」の部分が高確２とするＭＡＰの位置を示す。

【３３９１】

［１１－１５．ＧＳＢ連ランク抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、ＧＳＢ連ランクを決定する際に参照されるＧＳＢ連ランク抽籤テーブルが記憶されており、図２６０を参照して、ＧＳＢ連ランク抽籤テーブルについて説明する。ＧＳＢ連ランク抽籤テーブルは、抽籤結果（ランク０～ランク４）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６０のＧＳＢ連ランク抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３９２】

［１１－１６．ＴＳ種別０～ＴＳ種別５＿前兆移行抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、前兆の種類を決定する際に参照されるＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルが記憶されており、図２６１～図２６４を参照して、ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルについて説明する。ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルは、ＴＳ種別０において用いられる前兆移行抽籤テーブルであり、当籤役グループ番号（０（その他）、１（択役）、２（左プラム）、３（通常チェリー）、４（規定チェリー））毎に、抽籤結果（ハズレ、ＢＧ前兆、ＢＣ前兆、ＲＵＳＨ前兆、ＧＳＢ連前兆）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６１～図２６４のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。なお、ＴＳ種別０において、低確である場合には、図２６１の低確用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルが参照され、高確１である場合には、図２６２の高確１用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルが参照され、高確２である場合には、図２６３の高確２用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルが参照され、天井である場合には、図２６４の天井用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルが参照される。

【３３９３】

なお、ＴＳ種別１～ＴＳ種別５のそれぞれについても、低確用、高確１用、高確２用、天井用のＴＳ種別１＿前兆移行抽籤テーブル～ＴＳ種別５＿前兆移行抽籤テーブルが用意されており、これらはメインＲＯＭ１０２に記憶されている。低確用、高確１用、高確２用、天井用のＴＳ種別１＿前兆移行抽籤テーブル～ＴＳ種別５＿前兆移行抽籤テーブルは、低確用、高確１用、高確２用、天井用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブルと同様に、当籤役グループ番号（０（その他）、１（択役）、２（左プラム）、３（通常チェリー）、４（規定チェリー））毎に、抽籤結果（ハズレ、ＢＧ前兆、ＢＣ前兆、ＲＵＳＨ前兆、ＧＳＢ連前兆）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。

【３３９４】

［１１－１７．初期ＡＴレベル抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、初期のＡＴレベルを決定する際に参照される初期ＡＴレベル抽籤テーブルが記憶されており、図２６５を参照して、初期ＡＴレベル抽籤テーブルについて説明する。初期ＡＴレベル抽籤テーブルは、シナリオ（シナリオ０１～シナリオ４８）毎に、抽籤結果（ＡＴレベル０～ＡＴレベル７）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６５の初期ＡＴレベル抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３９５】

［１１－１８．ＡＴレベル昇格抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、ＡＴレベルの昇格を決定する際に参照されるＡＴレベル昇格抽籤テーブルが記憶されており、図２６６を参照して、ＡＴレベル昇格抽籤テーブルについて説明する。ＡＴレベル昇格抽籤テーブルは、当籤役グループ番号（０（その他）、１（択役）、２（左プラム）、３（通常チェリー）、４（規定チェリー））毎に、抽籤結果（ハズレ、昇格）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。抽籤結果が「昇格」の場合ＡＴレベルを１ランクアップさせる。ここで、図２６６のＡＴレベ

ル昇格抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３９６】

［１１－１９．前兆ゲーム数抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、前兆ゲーム数を決定する際に参照される前兆ゲーム数抽籤テーブルが記憶されており、図２６７を参照して、前兆ゲーム数抽籤テーブルについて説明する。前兆ゲーム数抽籤テーブルは、状態（ＢＧ＿一般、ＢＣ＿一般、ＲＵＳＨ一般、ＧＳＢ連＿一般、フェイク＿ＲＵＳＨ中、ＢＧ＿ＲＵＳＨ中、ＢＣ＿ＲＵＳＨ中、パンク待機）毎に、抽籤結果（前兆ゲーム数０回～５回）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６７の前兆ゲーム数抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。なお、「〇〇＿一般」の「〇〇」前兆は「前兆種別＿一般中」記憶領域に記憶されている前兆に対応し、「□□＿ＲＵＳＨ中」の「□□」前兆およびパンク待機は「前兆種別＿ＲＵＳＨ中」記憶領域に記憶されている前兆に対応する。

【３３９７】

［１１－２０．ＲＵＳＨ昇格抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、ＲＵＳＨに昇格するか否かを決定する際に参照されるＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルが記憶されており、図２６８を参照して、ＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルについて説明する。ＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルは、当籤役グループ番号（０（その他）、１（択役）、２（左プラム）、３（通常チェリー）、４（規定チェリー））毎に、抽籤結果（ハズレ、ＢＧ前兆、ＢＣ前兆、ＲＵＳＨ昇格）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６８のＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数値の数を示す。なお、図２６８では、抽籤結果として「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」も図示しているが、第２の遊技機であるパチスロ機１では抽籤結果が「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」となることはない。

【３３９８】

［１１－２１．ＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、ＲＵＳＨ開始時のナビ回数を決定する際に参照されるＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルが記憶されており、図２６９を参照して、ＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルについて説明する。ＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルは、ＡＴレベル（ＡＴレベル０～ＡＴレベル７）毎に、抽籤結果（ナビ回数０回、３２回、４８回、７２回、９６回、１２０回、１４４回、１６８回、１９２回、２１６回、２４０回）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２６９のＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３３９９】

［１１－２２．ＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、疑似ＢＮＳを決定する際に参照されるＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルが記憶されており、図２７０を参照して、ＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルについて説明する。ＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルは、当籤役グループ番号（０（その他）、１（択役）、２（左プラム）、３（通常チェリー）、４（規定チェリー））毎に、抽籤結果（ハズレ、フェイク＿ＲＵＳＨ中、ＢＧ＿ＲＵＳＨ中、ＢＣ＿ＲＵＳＨ中）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２７０のＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４００】

［１１－２３．疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、疑似ＢＮＳを決定する際に参照される疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルが記憶されており、図２７１を参照して、疑似ＢＮＳ終

了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルについて説明する。疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルは、抽籤結果（ハズレ、フェイク＿ＲＵＳＨ中、ＢＧ＿ＲＵＳＨ中、ＢＣ＿ＲＵＳＨ中）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２７１の疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０１】

［１１－２４．ＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、ＲＵＳＨパンク時にＢＣに書き換えるかを決定する際に参照されるＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルが記憶されており、図２７２を参照して、ＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルについて説明する。ＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルは、抽籤結果（ハズレ、ＢＣ書き換え）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２７２のＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０２】

［１１－２５．補償モード移行抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、補償モードへ移行するか否かを決定する際に参照される補償モード移行抽籤テーブルが記憶されており、図２７３を参照して、補償モード移行抽籤テーブルについて説明する。補償モード移行抽籤テーブルは、補償レベル（補償レベル０～補償レベル７）毎に、抽籤結果（ハズレ、補償モード移行）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。抽籤結果が「補償モード移行」である場合に、補償モードへの移行が決定される。ここで、図２７３の補償モード移行抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０３】

［１１－２６．補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、補償モード中においてＡＴレベルを昇格するか否かを決定する際に参照される補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルが記憶されており、図２７４を参照して、補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルについて説明する。補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルは、ＡＴレベル（ＡＴレベル０～ＡＴレベル７）毎に、抽籤結果（ハズレ、昇格）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。抽籤結果が「昇格」である場合にＡＴレベルを１ランクアップさせる。ここで、図２７４の補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０４】

［１１－２７．補償モード時ナビ回数抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、補償モード時のナビ回数を決定する際に参照される補償モード時ナビ回数抽籤テーブルが記憶されており、図２７５を参照して、補償モード時ナビ回数抽籤テーブルについて説明する。補償モード時ナビ回数抽籤テーブルは、ＡＴレベル（ＡＴレベル０～ＡＴレベル７）毎に、抽籤結果（０回、３２回、４８回、７２回、９６回、１２０回、１４４回、１６８回、１９２回、２１６回、２４０回）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２７５の補償モード時ナビ回数抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０５】

［１１－２８．規定チェリー書き換え抽籤テーブル］

メインＲＯＭ１０２には、当籤役グループ名「通常チェリー」（当籤役グループ番号「３」）の当籤役グループを当籤役グループ名「規定チェリー」（当籤役グループ番号「４」）の当籤役グループに書き換えるか否かを決定する際に参照される規定チェリー書き換え抽籤テーブルが記憶されており、図２７６を参照して、規定チェリー書き換え抽籤テーブルについて説明する。規定チェリー書き換え抽籤テーブルは、抽籤結果（ハズレ、規定

チェリー書き換え）と、抽籤結果が決定されるときの抽籤値との対応関係を規定する。ここで、図２７６の規定チェリー書き換え抽籤テーブルでは、乱数の範囲「０」～「２５５」のうち、各抽籤結果が決定される乱数の個数が示される。

【３４０６】

［１１－２９．シナリオ関連データテーブル］

メインＲＯＭ１０２には、決定されたシナリオに応じてシナリオ関連データ（ＭＡＰゲーム数、天井ＭＡＰ数、ＧＳＢ総回数、ＴＳ種別、補償レベル、ＴＹ値＿疑似ＢＮＳ初期値、ＴＹ値＿ＲＵＳＨ初期値）を決定する際に参照されるシナリオ関連データテーブルが記憶されており、図２７７を参照して、シナリオ関連データテーブルについて説明する。シナリオ関連データテーブルは、シナリオ（シナリオ００～シナリオ４８）毎に、ＭＡＰゲーム数、天井ＭＡＰ数、ＧＳＢ総回数、ＴＳ種別、補償レベル、ＴＹ値＿疑似ＢＮＳ初期値、ＴＹ値＿ＲＵＳＨ初期値を規定する。なお、ＭＡＰゲーム数、天井ＭＡＰ数、ＧＳＢ総回数、ＴＳ種別、補償レベル、ＴＹ値＿疑似ＢＮＳ初期値、ＴＹ値＿ＲＵＳＨ初期値の詳細については後述する。

【３４０７】

［１１－３０．ＴＹ値＿上乗せ１～上乗せ２データテーブル］

メインＲＯＭ１０２には、高確ＭＡＰ１消化後に上乗せするＴＹ値を決定する際に参照されるＴＹ値＿上乗せ１データテーブル、および、高確ＭＡＰ２消化後に上乗せするＴＹ値を決定する際に参照されるＴＹ値＿上乗せ２データテーブルが記憶されており、図２７８および図２７９を参照して、ＴＹ値＿上乗せ１データテーブルおよびＴＹ値＿上乗せ２データテーブルについて説明する。ＴＹ値＿上乗せ１データテーブルおよびＴＹ値＿上乗せ２データテーブルは、シナリオ（シナリオ００～シナリオ４８）毎に、疑似ＢＮＳおよびＲＵＳＨそれぞれに応じて高確ＭＡＰ１消化後に上乗せするＴＹ値および高確ＭＡＰ１消化後に上乗せするＴＹ値を規定する。なお、ＴＹ値の詳細については後述する。

【３４０８】

［１１－３１．補償ポイントデータテーブル］

メインＲＯＭ１０２には、非ＡＴ時およびＡＴ時それぞれで補償ポイントを決定する際に参照される補償ポイントデータテーブルが記憶されており、図２８０および図２８１を参照して、補償ポイントデータテーブルについて説明する。補償ポイントデータテーブルは、当籤役番号（当選役番号「０」（当選役名「ハズレ」）～当選役番号「２１」（当選役名「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」））毎に、補償ポイント数を規定する。なお、非ＡＴ時である場合には、図２８０の非ＡＴ時用の非ＡＴ時＿補償ポイントデータテーブルが参照され、ＡＴ時である場合には、図２８１のＡＴ時用のＡＴ時＿補償ポイントデータテーブルが参照される。なお、ＡＴは前兆Ｂ中に当籤するＧＳＢ、ＢＧ、ＢＣを含み、非ＡＴはこれ以外の状態を含む。

【３４０９】

［１１－３２．前兆ポイント数データテーブル］

メインＲＯＭ１０２には、押し順の指示無し時および指示有り時それぞれで前兆ポイント数を決定する際に参照される前兆ポイント数データテーブルが記憶されており、図２８２および図２８３を参照して、前兆ポイント数データテーブルについて説明する。前兆ポイント数データテーブルは、当籤役番号（当選役番号「０」（当選役名「ハズレ」）～当選役番号「２１」（当選役名「Ｆ＿リーチ目役」＋「Ｆ＿ＢＢ」））毎に、前兆ポイント数を規定する。なお、押し順の指示が無い場合には、図２８２の指示無し時用の指示無し時＿前兆ポイント数データテーブルが参照され、押し順の指示が有る場合には、図２８３の指示有り時用の指示有り時＿前兆ポイント数データテーブルが参照される。

【３４１０】

［１１－３３．報知（ＡＴ）機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フロー］

続いて、図２８４を参照して報知（ＡＴ）機能の作動の有無を考慮した遊技状態の遷移フローについて説明する。遊技状態の遷移フローの各処理は主制御回路１００により実行される。なお、図２８４は、遊技状態の遷移フローである。

【３４１１】
本実施形態では、主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）により、押し順によって有利／不利が生じる押し順役（例えば「Ｆ_択プラムＡ２１３」等）に当籤したときに有利な押し順を報知する機能の作動の有無が決定される。したがって、本実施形態では、ＲＴ１においてＡＴ機能の作動／非作動状態も遊技状態として管理する。なお、この実施形態では、ＲＴ１において、押し順プラム（「Ｆ_択プラムＡ２１３」、「Ｆ_択プラムＡ２３１」、「Ｆ_択プラムＡ３１２」、「Ｆ_択プラムＡ３２１」、「Ｆ_択プラムＢ２１３」、「Ｆ_択プラムＢ２３１」、「Ｆ_択プラムＢ３１２」、「Ｆ_択プラムＢ３２１」）のいずれか当籤した場合に、ＡＴ機能を作動させることにより、疑似的にボーナス遊技状態を形成する、いわゆる疑似ボーナスが設けられている（図２５２参照）。疑似ボーナスの種類としては、押し順プラムのいずれかに当籤したときに１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知される回数が３０回になるまで継続する第１疑似ボーナス（ＢＧ）と、押し順プラムのいずれかに当籤したときに有利な押し順が報知される回数が６回になるまで継続する第２疑似ボーナス（ＢＣ）と、押し順プラムのいずれかに当籤したときに有利な押し順が報知される回数が１回または２回になるまで継続する疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）とが設けられている。各疑似ボーナス（ＢＧ、ＢＣ、ＧＳＢ）については後述する。

【３４１２】
また、この実施形態では、主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）により、再遊技役の抽籤対象と抽籤データなどが異なる遊技状態（ＲＴ０～ＲＴ２）間の遷移のみならず、押し順役（例えば「Ｆ_択プラムＡ２１３」等）に当籤したときに有利な押し順を報知することを許容する有利区間と、当該報知を禁止する非有利区間との間の遷移が管理される。したがって、ＡＴ機能の作動は、有利区間に限られ、非有利区間では常にＡＴ機能が非作動の状態となる。

【３４１３】
本実施形態では、主制御回路１００は、ＲＴ０、ＲＴ１において、非有利区間である「通常（非有利区間）」、それぞれ有利区間である「一般（有利区間）」、「前兆Ａ」、「前兆Ｂ」、「第１疑似ボーナス（ＢＧ）」、「第２疑似ボーナス（ＢＣ）」、「ＲＵＳＨ」を個別の遊技状態（出玉状態）として管理する。なお、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）については、出玉状態としては管理せず、「前兆Ｂ」または「ＲＵＳＨ」の遊技状態において、後述するＧＳＢ表示許可フラグの設定により管理する。

【３４１４】
（通常（非有利区間））
「通常（非有利区間）」は、押し順役（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤しても有利な押し順が報知されない遊技状態であり、遊技者にとって不利な遊技状態に設定されている。なお、「通常（非有利区間）」はＲＴ０、ＲＴ１のいずれかで構成されている。

【３４１５】
通常（非有利区間）では、毎遊技で行われる役抽籤結果に応じて有利区間に移行させるか否かが決定される。具体的には、通常（非有利区間）のＲＴ０では、当籤役名「Ｆ_オレンジリプＢ」、「Ｆ_オレンジリプＣ」、「Ｆ_択プラムＡ２１３」、「Ｆ_択プラムＡ２３１」、「Ｆ_択プラムＡ３１２」、「Ｆ_択プラムＡ３２１」、「Ｆ_択プラムＢ２１３」、「Ｆ_択プラムＢ２３１」、「Ｆ_択プラムＢ３１２」、「Ｆ_択プラムＢ３２１」、「Ｆ_左プラム」、「Ｆ_チェリー」、「Ｆ_３枚役」、「Ｆ_択１枚Ａ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｂ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｃ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｄ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_目押し役」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_リーチ目役」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_ＢＢ」の当籤役いずれかに当籤したときに、有利区間に移行すると決定される。また、通常（非有利区間）のＲＴ１では、当籤役名「Ｆ_オレンジリプＢ」、「Ｆ_オレンジリプＣ」、「Ｆ_択プラムＡ２１３」、「Ｆ_択プラムＡ２３１」、「Ｆ_択プラムＡ３１２」、「Ｆ_択プラムＡ３２１」、「Ｆ_択プラムＢ２１３」、「Ｆ_択プラムＢ２３

１」、「Ｆ_択プラムＢ３１２」、「Ｆ_択プラムＢ３２１」、「Ｆ_左プラム」、「Ｆ_チェリー」、「Ｆ_３枚役」、「Ｆ_択１枚Ａ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｂ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｃ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_択１枚Ｄ」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_目押し役」＋「Ｆ_ＢＢ」、「Ｆ_リーチ目役」＋「Ｆ_ＢＢ」の当籤役いずれかに当籤したときに、有利区間に移行すると決定される。ただし、通常（非有利区間）のＲＴ２では、役抽籤の結果のいかんに関わらず、有利区間に移行すると決定されることはない。

【３４１６】

なお、通常（非有利区間）で有利区間に移行すると決定された場合は、次の遊技から一般（有利区間）に移行する。有利区間の終了条件は、（ｉ）有利区間の継続ゲーム数が上限値（有利区間カウンタ＝４０００）に到達した場合、（ｉｉ）差数カウンタが有利区間開始時の値よりも２４００大きくなった場合、（ｉｉｉ）第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）が終了した場合（ＲＵＳＨ中に当籤した場合、および、当該ボーナス遊技状態（ＢＧ）中のＲＵＳＨ昇格抽籤に当選した場合を除く）、（ｉｖ）第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）が終了した場合（ＲＵＳＨ中に当籤した場合、および、当該ボーナス遊技状態（ＢＣ）中のＲＵＳＨ昇格抽籤に当選した場合を除く）、（ｖ）遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了した場合を含む。

【３４１７】

ここで、非有利区間から有利区間への移行が決定されると、有利区間カウンタの値を初期値「０」に設定する。その後の有利区間の毎ゲームで有利区間カウンタを１加算し、有利区間カウンタを１加算し、有利区間カウンタの値が４０００に到達すると、次ゲームから非有利間の遊技となる。

【３４１８】

また、非有利区間から有利区間への移行が決定されると、差数カウンタの値を初期値（第２の遊技機であるパチスロ機１では例えば初期値＝１１８４９）に設定する。その後の有利区間の毎ゲームで差数カウンタの値から１遊技当たりのメダル投入枚数（第２の遊技機であるパチスロ機１では１遊技当たりのメダル投入枚数＝３）を減算し、差数カウンタの値に実際に払い出されるメダル払出枚数を加算する。なお、配当として「ＲＰ」が得られたゲームではメダル払出枚数を０とし、配当として「ＲＰ」が得られたゲームの次ゲームでは１遊技当たりのメダル投入枚数を０として、差数カウンタの更新が行われる。更新後の差数カウンタの値が初期値＋規定値（第２の遊技機であるパチスロ機１では例えば規定値＝２４００）を超えた場合、次ゲームから非有利区間の遊技となる。

【３４１９】

また、この実施形態では、有利区間の移行時に複数種類（シナリオ０１～シナリオ４８）のシナリオの中から一のシナリオが決定され、当該決定されたシナリオに基づいて当該有利区間が運営される。各シナリオには、

（ａ）ＭＡＰゲーム数（１つのＭＡＰのゲーム数）、

（ｂ）天井ＭＡＰ数（天井に到達するまでのＭＡＰ数）、

（ｃ）ＧＳＢ総回数（当該有利区間における疑似シングルボーナス（一般中に当籤した疑似シングルボーナス）の上限回数）、

（ｄ）前兆移行抽籤テーブルの選択に使用されるＴＳ種別、

（ｅ）後述する補償モードへの移行のし易さを示す補償レベル、

（ｆ）当該有利区間の第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）において許容されるナビ回数（有利な押し順の報知回数）の初期的な上限値を示すＴＹ値_疑似ＢＮＳ初期値、

（ｇ）当該有利区間の遊技状態（ＲＵＳＨ）中において許容されるナビ回数の初期的な上限値を示すＴＹ値_ＲＵＳＨ初期値の（ａ）～（ｇ）の項目の値が予め定められている（図２７７に一例を示すシナリオ関連テーブル参照）。ＭＡＰゲーム数は、当籤役グループ番号「１」の当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役の当籤回数であり、各ＭＡＰにおいてシナリオの種類に応じて決められた回数（ＭＡＰゲーム数）の当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤する

と当該シナリオ内の次のＭＡＰに移行する。天井ＭＡＰ数は、強制的に第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）または遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する天井が設定されるＭＡＰ数であり、例えば、天井ＭＡＰ数が「２」に設定された場合は、２番目のＭＡＰが天井ＭＡＰになり、当該天井ＭＡＰが終了すると、前兆移行抽籤で当籤していない場合であっても、強制的に第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）または遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。

【３４２０】

なお、第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）において許容されるナビ回数（有利な押し順の報知回数）の初期的な上限値（ＴＹ値_疑似ＢＮＳ初期値）がシナリオの種類に応じて決まっているが、これはシナリオの種類によって、第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）で付与される遊技媒体（メダル）の総数がおおよそ決められているということを意味する。同様に、遊技状態（ＲＵＳＨ）中において許容されるナビ回数の初期的な上限値（ＴＹ値_ＲＵＳＨ初期値）がシナリオの種類に応じて決まっているが、これは、シナリオの種類によって、遊技状態（ＲＵＳＨ）で付与される遊技媒体（メダル）の総数がおおよそ決められていることを意味する。さらに、疑似シングルボーナス（一般中に当籤した疑似シングルボーナス）の上限回数（ＧＳＢ総回数）がシナリオの種類に応じて決まっているが、これは、シナリオの種類によって、一般中（有利区間）で疑似シングルボーナスによって付与される遊技媒体（メダル）の総数がおおよそ決められていることを意味する。つまり、シナリオの種類によって、当該有利区間で付与される遊技媒体（メダル）の上限がおおよそ決まっている。

【３４２１】

また、天井ＭＡＰの最終ゲームでは、第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）または遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行し、それが終了すると非有利区間に移行する。したがって、シナリオの種類によって定められたＭＡＰゲーム数と天井ＭＡＰ数により、当該有利区間の継続ゲーム数の上限がおおよそ決まっている。有利区間の継続ゲーム数の上限が定まると、当該有利区間の遊技媒体の減少量の下限が管理できる。つまり、この第２の遊技機であるパチスロ機１では、シナリオの種類によって、遊技媒体の増加量の上限と、減少量の下限とがおおよそ管理できるように構成されている。

【３４２２】

なお、有利区間に移行すると決定された場合は、図２５４に示すシナリオグループ抽籤テーブルを用いたシナリオグループ抽籤が行われる。シナリオグループ抽籤は、シナリオ抽籤で用いられるシナリオ抽籤テーブルの種類を決定する抽籤であり、当該抽籤によりシナリオグループＡかシナリオグループＢのいずれかに決定される。

【３４２３】

有利区間に移行すると決定された場合は、シナリオグループ抽籤で決まったシナリオグループに対応したシナリオ抽籤テーブル（シナリオグループ抽籤でシナリオグループＡに決まった場合は図２５５に一例を示すシナリオグループＡ用のシナリオ抽籤テーブル、シナリオグループ抽籤でシナリオグループＢに決まった場合は図２５６に一例を示すシナリオグループＢ用のシナリオ抽籤テーブル）の現設定（設定１から設定６のいずれか）部分を用いてシナリオ抽籤が行われる。この第２の遊技機であるパチスロ機１では、シナリオの種類（シナリオ番号）として、シナリオ０１～シナリオ４８が予め定められている。シナリオグループＡ用のシナリオ抽籤テーブルでは、シナリオ０１～４８のうち、シナリオ０５、シナリオ０７、シナリオ０８、シナリオ２１、シナリオ２２、シナリオ２４、シナリオ２７、シナリオ３２～シナリオ３４、シナリオ３８、シナリオ４５を除くシナリオのいずれかに決定されるように抽籤値データが設定されている。一方、シナリオグループＢ用のシナリオ抽籤テーブルでは、シナリオ０１～４８のうち、シナリオ０５、シナリオ０７、シナリオ０８、シナリオ２１、シナリオ２２、シナリオ２４、シナリオ２７、シナリオ３２～シナリオ３４、シナリオ３８、シナリオ４５のいずれかに決定されるように抽籤値データが設定されている。決定されたシナリオ番号は、メインＲＡＭ１０３に設定されたシナリオ記憶領域に記憶される。

【３４２４】
なお、ＲＴ０で有利区間に移行すると決定された場合は、図２５７に示すシナリオ書き換え抽籤テーブルを用いたシナリオ書き換え抽籤が行われる。当該抽籤によりシナリオの書き換えを行うと決定された場合は（抽籤結果が「シナリオ０２」である場合は）、シナリオ記憶領域の記憶内容が書き換えられる。具体的には、この実施形態では、シナリオの書き換えを行うと決定された場合は、シナリオ記憶領域の記憶内容が「シナリオ０２」に書き換えられる。
【３４２５】
有利区間に移行すると決定された場合は、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われる。ＡＴレベルは、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行したときに行われるＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤に用いられるＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルの種類を決めるものである。ＡＴレベルはＡＴレベル１～ＡＴレベル７まであり、初期ＡＴレベル抽籤によりＡＴレベル１～ＡＴレベル７のいずれかに決定される。初期ＡＴレベル抽籤により決定されたＡＴレベルは、メインＲＡＭ１０３に設定されたＡＴレベル記憶領域に記憶される。
【３４２６】
有利区間に移行すると決定された場合は、図２５８に一例を示す高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた高確１ＭＡＰ位置抽籤が行われる。シナリオ番号に応じて定まる１または複数のＭＡＰの各々には、低確、高確１、高確２、天井のいずれかが設定される。低確が設定されたＭＡＰでは、後述する前兆移行抽籤において、低確用の前兆移行抽籤テーブル（図２６１など）が使用される。高確１が設定されたＭＡＰでは、前兆移行抽籤において、高確１用の前兆移行抽籤テーブル（図２６２など）が使用される。高確２が設定されたＭＡＰでは、前兆移行抽籤において、高確２用の前兆移行抽籤テーブル（図２６３など）が使用される。天井が設定されたＭＡＰでは、前兆移行抽籤において、天井用の前兆移行抽籤テーブル（図２６４など）が使用される。高確１用の前兆移行抽籤テーブル、高確２用の前兆移行抽籤テーブルは、いずれも低確用の前兆移行抽籤テーブルよりも前兆移行抽籤で当籤（ＢＧ前兆、ＢＣ前兆、ＲＵＳＨ前兆、ＧＳＢ連前兆のいずれかに当籤）しやすくなるように構成されている。また、天井用の前兆移行抽籤テーブルは、低確用の前兆移行抽籤テーブル、高確１用の前兆移行抽籤テーブル、高確２用の前兆移行抽籤テーブルよりも前兆移行抽籤で当籤しやすくなるように構成されている。
【３４２７】
高確１ＭＡＰ位置抽籤は、シナリオ番号に応じて設定されたＭＡＰ数のＭＡＰうちのどのＭＡＰに高確１を配置するかを決定するものである。例えば、当該抽籤により高確１を２番目のＭＡＰに配置すると決定された場合は（抽籤結果が「１回目＿０２」である場合は）、２番目のＭＡＰに高確１が設定される。
【３４２８】
有利区間に移行すると決定された場合は、図２５９に一例を示す高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた高確２ＭＡＰ位置抽籤が行われる。高確２ＭＡＰ位置抽籤は、シナリオの種類に応じて設定されたＭＡＰ数のＭＡＰうちのどのＭＡＰに高確２を配置するかを決定するものである。例えば、当該抽籤により高確２を４番目のＭＡＰに配置すると決定された場合は（抽籤結果が「２回目＿０４」である場合は）、４番目のＭＡＰに高確２が設定される。
【３４２９】
なお、シナリオ番号に応じて決定されたＭＡＰ数のＭＡＰうち、高確１ＭＡＰ位置抽籤により決定された高確１のＭＡＰ位置、高確２ＭＡＰ位置抽籤により決定された高確２のＭＡＰ位置以外のＭＡＰには最終ＭＡＰを除く全てに低確が設定され、最終ＭＡＰには天井が設定される。
【３４３０】

シナリオ番号が決定されると、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されているＭＡＰゲーム数が、メインＲＡＭ１０３に設けられたＭＡＰゲーム数カウンタに設定される。また、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されている「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ初期値」が、メインＲＡＭ１０３に設けられた「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域に設定される。また、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されている「ＴＹ値_ＲＵＳＨ初期値」が、メインＲＡＭ１０３に設けられた「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域に設定される。また、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されている「ＧＳＢ総回数」が、メインＲＡＭ１０３に設けられたＧＳＢ残り回数カウンタに設定される。また、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されている「ＴＳ種別」が、メインＲＡＭ１０３に設けられたＴＳ種別記憶領域に設定される。また、図２７７に一例を示すシナリオ関連データのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分に設定されている「補償レベル」が、メインＲＡＭ１０３に設けられた補償レベル記憶領域に設定される。

【３４３１】

また、シナリオ番号、高確１ＭＡＰ位置、高確２ＭＡＰ位置が決定されると、当該シナリオ番号に基づいて、当該有利区間中に使用するＭＡＰの一覧が生成される。例えば、高確１ＭＡＰ位置抽籤で決定された高確１のＭＡＰ位置が、メインＲＡＭ１０３に設けられたＭＡＰ一覧記憶領域の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域に設定されるとともに、高確２ＭＡＰ位置抽籤で決定された高確２のＭＡＰ位置が、メインＲＡＭ１０３に設けられたＭＡＰ一覧記憶領域の「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域に設定される。また、当該シナリオ番号に設定されている「天井ＭＡＰ数」の値がメインＲＡＭ１０３に設けられたＭＡＰ一覧記憶領域の「天井ＭＡＰ位置」記憶領域に設定される。さらに、「ＭＡＰ種別」記憶領域には、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域に「１」が設定されている場合には「高確１」を、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域に「１」が設定されている場合には「高確２」を、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域に「１」が設定されている場合には「天井」を、それ以外の場合には「低確」が設定される。

【３４３２】

ＭＡＰ一覧記憶領域は、「ＭＡＰ種別」記憶領域、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域を含む。例えば、高確１ＭＡＰ位置抽籤で決定された高確１のＭＡＰ位置が２で（抽籤結果が「１回目＿０２」で）、高確２ＭＡＰ位置抽籤で決定された高確２のＭＡＰ位置が４で（抽籤結果が「２回目＿０４」で）、天井ＭＡＰ数が１４であった場合は、ＭＡＰ一覧記憶領域の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域に「２」が設定され、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域に「４」が設定され、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域に「１４」が設定される。「ＭＡＰ種別」記憶領域には、当該遊技が進行しているＭＡＰに設定された状態（低確、高確１、高確２、天井のいずれか）が設定される。この場合、一般中（有利区間）に移行した最初の遊技では、１番目のＭＡＰ（低確）であるため、「ＭＡＰ種別」記憶領域には「低確」が設定される。次のＭＡＰに移行する場合は、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域それぞれの値が１つ減算され、１減算後の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確１」が設定され、１減算後の「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確２」が設定され、１減算後の「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「天井」が設定され、それ以外の場合は「ＭＡＰ種別」記憶領域には「低確」が設定される。したがって、次のＭＡＰ（２番目のＭＡＰ）では、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「３」、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１３」になり、「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確１」が設定される。つまり、次のＭＡＰに移行するたびに、「高確

１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域に設定された値が１ずつ減算される。そして、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」になると最終ＭＡＰ（１４番目のＭＡＰ）となり、「ＭＡＰ種別」記憶領域に「天井」が設定される。また、次のＭＡＰに移行する場合は、シナリオ番号に対応するＭＡＰゲーム数（図２７７）が、ＭＡＰゲーム数カウンタに再設定される。

【３４３３】

また、有利区間に移行すると決定され、図２７７に一例を示すシナリオ関連データに基づく「補償レベル」を補償レベル記憶領域に設定された後、後述する補償モード関連の初期設定として、図２７７に一例を示すシナリオ関連データに基づいて補償レベル記憶領域に設定された「補償レベル」が「補償レベル０」以外である場合、補償レベル記憶領域の値が１つ減算される。また、補償モードへの移行の許可／禁止を規定する補償モード許可フラグに「許可」が設定される。補償モードのアップに使用される補償モード管理用ゲーム数カウンタに補償モード用規定択役回数（この実施形態では、８０回）が設定される。また、補償モード管理フラグに補償モード移行待機が設定される。補償モード許可フラグ、補償モード管理用ゲーム数カウンタ、補償モード管理フラグは、それぞれメインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設定されている。

【３４３４】

（一般中（有利区間））

通常（非有利区間）で有利区間に移行すると決定された場合は、次の遊技から一般中（有利区間）に移行する。一般中（有利区間）では、基本的に毎遊技で前兆移行抽籤テーブル（図２６１から図２６４など）を用いた前兆移行抽籤が行われる。前兆移行抽籤結果には、「ハズレ」「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」「ＲＵＳＨ前兆」「ＧＳＢ連前兆」があり、当該抽籤によりこれらのいずれかに決定される。当該抽籤で「ＢＧ前兆」に決定された場合は、後述する前兆Ａに移行したあと、前兆Ａの終了後に第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）に移行する。当該抽籤で「ＢＣ前兆」に決定された場合は、後述する前兆Ａに移行したあと、前兆Ｃの終了後に第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）に移行する。当該抽籤で「ＲＵＳＨ前兆」に決定された場合は、後述する前兆Ａに移行したあと、前兆Ａの終了後に遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。当該抽籤で「ＧＳＢ連前兆」に決定された場合は、後述する前兆Ｂに移行したあと、前兆Ｂの終了後に基本的に遊技状態（ＲＵＳＨ）または一般中（有利区間）に移行する。

【３４３５】

ＴＳ種別記憶領域に設定されているＴＳ種別、「ＭＡＰ種別」記憶領域に設定されているＭＡＰ種別に対して設けられた前兆移行抽籤テーブルの当該遊技の当籤役が属している当籤役グループ番号部分を用いて前兆移行抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号が前兆移行抽籤に用いられる。例えば、ＴＳ種別記憶領域に「ＴＳ種別０」が設定されており、「ＭＡＰ種別」記憶領域に「高確１」が設定されており、当該遊技の当籤役が当籤役グループ番号「１」に属している場合は、ＴＳ種別０、高確１用の前兆移行抽籤テーブル（図２６２に一例を示す高確１用のＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブル）の当籤役グループ番号「１」部分を用いて前兆移行抽籤が行われる。

【３４３６】

（前兆移行抽籤：ＭＡＰ種別が「天井」以外の場合）

ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が「ＢＧ前兆」または「ＢＣ前兆」であった場合、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値と「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値」とが比較される。ここで、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「３４」であり、当該値が予めメインＲＯＭ１０２に記憶されている。

【３４３７】
ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値と、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」とが比較される。ここで、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「４８」であり、当該値が予めメインＲＯＭ１０２に記憶されている。
【３４３８】
ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が「ＧＳＢ連前兆」であった場合、ＧＳＢ残り回数カウンタが参照される。ここで、ＧＳＢ残り回数カウンタの値が「０」であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。また、出玉状態記憶領域に「前兆Ｂ」が設定されていた場合も、当該抽籤結果が破棄される。出玉状態記憶領域は、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設定されている。
【３４３９】
ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が当籤（「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」「ＲＵＳＨ前兆」「ＧＳＢ連前兆」にいずれか）であった場合に、上記した抽籤結果の破棄がなければ、「前兆種別_一般中」記憶領域に当該抽籤結果が設定される。
【３４４０】
（前兆移行抽籤：ＭＡＰ種別が「天井」の場合）
ＭＡＰ種別が「天井」のときに、前兆移行抽籤で当籤（「ＲＵＳＨ前兆」）した場合は、まず、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値に加算される。加算後は、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値がクリアされる。
【３４４１】
加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値＿ＲＵＳＨ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＣ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定される。「ＴＹ値_ＢＣ閾値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「３４」であり、当該値が予めメインＲＯＭ１０２に記憶されている。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値＿ＢＣ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＧ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定される。「ＴＹ値_ＢＧ閾値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「７」であり、当該値が予めメインＲＯＭ１０２に記憶されている。なお、ＭＡＰ種別が「天井」のときに、前兆移行抽籤で当籤（「ＲＵＳＨ前兆」）した場合において、後述する補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。また、「前兆種別_一般中」記憶領域にＲＵＳＨ前兆、ＢＣ前兆、ＢＧ前兆が設定されなかった場合は、前兆移行抽籤の結果が破棄される。
【３４４２】
前兆移行抽籤の結果が当籤（「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」「ＲＵＳＨ前兆」「ＧＳＢ連前兆」にいずれか）であり、上記の（前兆移行抽籤：ＭＡＰ種別が「天井」以外の場合）、上記の（前兆移行抽籤：ＭＡＰ種別が「天井」の場合）で抽籤結果が破棄されなかった場合、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「前兆種別_一般中」記憶領域に記憶されている前兆種別部分（「ＢＧ＿一般」、「ＢＣ＿一般」、「ＧＳＢ連＿一般」、または、「ＲＵＳＨ＿一般」の部分）を用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。なお、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブル中の「〇〇＿一般」の「〇〇」前兆は「前兆種別＿一般中」記憶領域に記憶されている前兆に対応し、「□□＿ＲＵＳＨ中」の「□□」前兆およびパンク待機は「前兆種別＿ＲＵＳＨ中」記憶領域に記憶されている前兆、パンク待機に対応する。当該抽籤の結果は、メインＲＡＭ１０３に設定された前兆ゲーム

数カウンタに設定される。前兆ゲーム数カウンタは、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役の残り当選回数を管理するものである。

【３４４３】

また、当該場合、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」、「ＢＧ前兆」、「ＲＵＳＨ前兆」のいずれかが設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。これにより、次の遊技から遊技状態（前兆Ａ）に移行する。

【３４４４】

また、当該場合、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＧＳＢ連前兆」が設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ｂ」が設定される。このとき、ＧＳＢ連ランク記憶領域にランク１が設定される。また、ＧＳＢ残り回数カウンタの値＞ＧＳＢ連表示制限数の場合は、図２６０に一例を示すＧＳＢ連ランク抽籤テーブルを用いたＧＳＢ連ランク抽籤が行われる。当該抽籤により、ＧＳＢ連ランクがランク１～ランク４のいずれかに決定される。当該抽籤結果は、ＧＳＢ連ランク記憶領域に設定される。ただし、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」未満の場合は、設定されたＧＳＢ連ランクがランク４の場合に限り、ランク１に書き換えられる。

【３４４５】

また、当該場合、前兆ゲーム数抽籤により設定された前兆ゲーム数カウンタの値が０である場合、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」が設定される。

【３４４６】

（前兆移行抽籤で当籤しないまま天井に到達した場合）

当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤し、かつ、後に詳述するＧＳＢ表示許可フラグが１以下である場合、ＭＡＰゲーム数カウンタを１減算する。前兆移行抽籤で当籤しないままＭＡＰ種別が「天井」の最終遊技に到達した場合は（ＭＡＰ種別が「天井」のＭＡＰでＭＡＰゲーム数カウンタの値が０になった場合は）、天井に到達する。天井に到達した場合、まず、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値に加算される。加算後は、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値がクリアされる。

【３４４７】

加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＲＵＳＨ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＣ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＢＣ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＧ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定される。なお、天井に到達したときに、補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。

【３４４８】

「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」、「ＢＧ前兆」、「ＲＵＳＨ前兆」のいずれかが設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。これにより、次の遊技から遊技状態（前兆Ａ）に移行する。なお、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されており、かつ、ＧＳＢ表示許可フラグが１以下の場合は、ＧＳＢ表示許可フラグ、ＧＳＢ連ランク、前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数のそれぞれがクリアされる。ＧＳＢ表示許可フラグは、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤したときに、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）への移行を遊技者に報知するための停止図柄の表示を許可するか否か等を決めるフラグであり、ＧＳＢ表示許可フラグが０の場合は、ＧＳＢ表示が禁止され、ＧＳＢ表示許可フラグが１の場合は表示が許可される。また、ＧＳＢ表示許可フラグが２の場合は、ＧＳＢへの移行にかかる停止図柄が停止した後の状態（ＧＳＢ中）であることを示している。ＧＳＢ表示許可フラグ、ＧＳＢ連ランク、前兆Ｂ

中ＧＳＢ表示回数については、それぞれメインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設定される。なお、ＧＳＢ連ランク、前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数については後述する。

【３４４９】

出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されたときは、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「前兆種別＿一般中」記憶領域の記憶内容に対応する部分（ＢＧ前兆の場合はＢＧ＿一般、ＢＣ前兆の場合はＢＣ＿一般、ＲＵＳＨ前兆の場合はＲＵＳＨ＿一般、ＧＳＢ連前兆の場合はＧＳＢ連＿一般）を用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。当該抽籤の結果は、メインＲＡＭ１０３に設定された前兆ゲーム数カウンタに設定される。

【３４５０】

また、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤し、かつ、ＧＳＢ表示許可フラグが１以下である場合、ＭＡＰゲーム数カウンタを１減算する。ＭＡＰ種別が「高確１」、「高確２」、「天井」のＭＡＰでＭＡＰゲーム数カウンタの値が０になった場合は、ＭＡＰ種別が「高確１」であればＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定され、ＭＡＰ種別が「高確２」であればＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定され、ＭＡＰ種別が「天井」であればＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定される。

【３４５１】

また、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤し、かつ、ＧＳＢ表示許可フラグが１以下である場合、ＭＡＰゲーム数カウンタを１減算する。ＭＡＰ種別が「低確」、「高確１」、「高確２」のＭＡＰでＭＡＰゲーム数カウンタの値が０になった場合は、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域それぞれの値が１つ減算され、１減算後の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確１」が設定され、１減算後の「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確２」が設定され、１減算後の「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「天井」が設定され、それ以外の場合は「ＭＡＰ種別」記憶領域には「低確」が設定される。また、この場合は、当該有利区間のシナリオ番号に対応するＭＡＰゲーム数（図２７７に一例を示すシナリオ関連データを参照）が、ＭＡＰゲーム数カウンタに再設定される。

【３４５２】

（特定ＭＡＰが終了したときの処理）

高確１のＭＡＰの最終遊技では、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定される。一般中（有利区間）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定された場合、メインＲＯＭ１０２に記憶されている図２７８に一例を示すＴＹ値_上乗せ１データテーブルより、疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加算されるとともに、ＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算され、ＭＡＰ終了フラグがクリアされる。なお、ＴＹ値_上乗せ１データテーブルには、シナリオ番号ごとに疑似ＢＮＳの上乗せ値とＲＵＳＨの上乗せ値とが規定されており、当該有利区間のシナリオ番号に対応する上乗せ値が取得される。

【３４５３】

高確２のＭＡＰの最終遊技では、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定される。一般中（有利区間）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定された場合、メインＲＯＭ１０２に記憶されている図２７９に一例を示すＴＹ値_上乗せ２データテーブルより、疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加算されるとともに、ＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算され、ＭＡＰ終了フラグがクリアされる。なお、ＴＹ値_上乗せ２データテーブルには、シナリオ番号ごとに疑似ＢＮＳの上乗せ値とＲＵＳＨの上乗せ値とが規定されており、当該有利区間のシナリオ番号に対応する上乗せ値が取得される。

【３４５４】

天井のＭＡＰの最終遊技では、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定される。このと

き、出玉状態記憶領域に有利区間終了要求が設定される。

【３４５５】

（その他）

一般中（有利区間）において役抽籤結果が、当籤役グループ番号「３」の当籤役グループ名「通常チェリー」の当籤役グループに属する当籤役名「Ｆ＿チェリー」の当籤役への当籤であった場合は、図２７６に一例を示す規定チェリー書き換え抽籤テーブルを用いた規定チェリー書き換え抽籤が行われる。当該抽籤で当籤した場合は（当選結果が「規定チェリーの書き換え」である場合は）、役抽籤結果が、当籤役グループ番号「４」の当籤役グループ名「規定チェリー」に書き換えられる。なお、規定チェリー書き換え抽籤により当籤役グループ番号「３」の当籤役グループ名「通常チェリー」の当籤役グループが当籤役グループ番号「４」の当籤役グループ名「規定チェリー」の当籤役グループに書き換えられた場合、前兆移行抽籤やＡＴレベル昇格抽籤などでは各テーブルの当籤役グループ番号「４」部分が用いられる。

【３４５６】

一般中（有利区間）において、前兆移行抽籤で非当籤（ハズレ）となった場合や、当籤したが抽籤結果が破棄された場合は、図２６６に一例を示すＡＴレベル昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＡＴレベル昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＡＴレベル昇格抽籤に用いられる。当該抽籤で当籤した場合は（抽籤結果が「昇格」である場合は）、メインＲＡＭ１０３に設けられた「ＡＴレベル」記憶領域の値が１つ加算される。ただし、ＡＴレベルの上限は７であり、これ以上の加算は行われない。

【３４５７】

（補償モード関連）

この第２の遊技機であるパチスロ機１では、所定の補償モード移行条件が成立すると、補償モードに移行する。補償モードに移行する際に、補償ポイントカウンタの値が０に設定され、その後、遊技媒体の増減が補償ポイントカウンタによりカウントされる。一般中（有利区間）の補償モード中に前兆移行抽籤で所定の前兆（ＢＧ前兆、ＢＣ前兆、ＲＵＳＨ前兆：「前兆種別_一般中」）に当籤した場合は、いずれの前兆であっても、「前兆種別_一般中」がＲＵＳＨ前兆に設定される。当該ＲＵＳＨ前兆から移行した遊技状態（ＲＵＳＨ）では、補償ポイントカウンタの値が０よりも大きくなるまで、「ＴＹ_ＲＵＳＨ」および「ＲＵＳＨナビ数カウンタ」の減算が行われない。一般中（有利区間）の補償モード中に前兆移行抽籤でＧＳＢ連前兆（「前兆種別_一般中」）であって場合も、その後に遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行した場合も当該ＲＵＳＨ前兆から移行した遊技状態（ＲＵＳＨ）では、補償ポイントカウンタの値が０よりも大きくなるまで、「ＴＹ_ＲＵＳＨ」および「ＲＵＳＨナビ数カウンタ」の減算が行われない。つまり、補償モード中に遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行した場合は、補償モード中の間に減少した遊技媒体（メダル）の分が払い出されるまで、少なくとも遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了しないように構成されている。主制御回路１００は、補償モードに関しても遊技状態として管理する。

【３４５８】

上記したように、有利区間に移行すると決定された場合は、補償モード許可フラグが「許可」に設定されるとともに、補償モード管理用ゲーム数カウンタに「補償モード用規定択役回数（８０回）」が設定される。一般中（有利区間）において、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤であって、補償モード許可フラグが「許可」に設定されていた場合、図２７３に一例を示す補償モード移行抽籤テーブルの補償レベル記憶領域に記憶されている補償レベル部分を用いた補償モード移行抽籤が行われる。当該抽籤の抽籤結果が「補償モード移行」であった場合は、補償モード管理フラグが「補償モード中」に設定される。

【３４５９】
　また、補償モード移行抽籤の抽籤結果が「補償モード移行」であった場合は、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われる。初期ＡＴレベル抽籤により決定されたＡＴレベルは、メインＲＡＭ１０３に設定されたＡＴレベル記憶領域に記憶される。
【３４６０】
　また、一般中（有利区間）において、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤であって、補償モード許可フラグが「許可」に設定されていた場合は、その都度、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が１つ減算される。そして、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が０になった場合は、再度、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値に、「補償モード用規定択役回数（８０回）」が設定されるとともに、補償モードに関連する種々の処理が行われる。例えば、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理用フラグが「補償モード中」であった場合は、図２７４に一例を示す補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルのＡＴレベル記憶領域に記憶されているＡＴレベルの部分を用いた補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤が行われる。当該抽籤で当籤した場合は（抽籤結果が「昇格」である場合は）、ＡＴレベル記憶領域に記憶されている値に１つ加算された値に書き換えられる。
【３４６１】
　また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理用フラグが「補償モード中」であった場合は、図２７５に一例を示す補償モード時ナビ回数抽籤テーブルのＡＴレベル記憶領域に記憶されているＡＴレベルの部分を用いた補償モード時ナビ回数抽籤が行われる。当該抽籤の抽籤結果（ナビ回数）は、補償モード用ＲＵＳＨナビ数カウンタに加算される。なお、補償モード用ＲＵＳＨナビ数カウンタは、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。
【３４６２】
　また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが、「補償モード移行許可中」に設定されており、かつ、補償レベル記憶領域に補償レベル７が記憶されていた場合は、補償モード管理フラグが、「補償モード中」に設定される。また、当該場合は、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われる。初期ＡＴレベル抽籤により決定されたＡＴレベルは、メインＲＡＭ１０３に設定されたＡＴレベル記憶領域に記憶される。一方、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード記憶領域の記憶内容が補償レベル６以下であった場合は、補償モード記憶領域の記憶内容が、当該補償レベルに１つ加算された補償レベルに書き換えられる。
【３４６３】
　また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが「補償モード移行待機」に設定されていた場合は、補償モード管理フラグが「補償モード移行許可中」に設定される。
【３４６４】
　以上のように、この第２の遊技機であるパチスロ機１では、一般中（有利区間）において、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤した遊技では、図２７３に一例を示す補償モード移行抽籤テーブルの補償レベル記憶領域に記憶されている補償レベルの部分を用いて補償モード移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合は、補償モード中（補償モード管理用フラグ）に移行する。当該抽籤で当籤しない状態が継続していても、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役への当籤回数が「補償モード用規定択役回数（８０回）」になるたびに、補償モードが１つ加算され、その結果、補償レベルが「７」まで上がると、次に当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤した遊技で補償モード中（補償モード管理用フラグ）に移行するように構成されている。
【３４６５】

補償モード管理フラグが「補償モード中」の場合は、毎ゲームで図２８０および図２８１それぞれに一例を示す補償ポイント数データテーブルを参照して補償ポイントカウンタの更新が行われる。補償ポイント数データテーブルは、押し順によって遊技媒体（メダル）の払い出し枚数が異なる押し順役（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したときに有利な押し順が報知される遊技状態で使用される図２８１に一例を示すＡＴ時_補償ポイント数データテーブルと、押し順役に当籤しても有利な押し順が報知されない遊技状態で使用される図２８０に一例を示す非ＡＴ時_補償ポイント数データテーブルとが設けられている。ＡＴ時_補償ポイント数データテーブルは、例えば、出玉状態記憶領域に「ＢＧ（第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ））」、「ＢＣ（第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ））」の毎ゲーム、および「ＲＵＳＨ（遊技状態（ＲＵＳＨ））」と「前兆Ｂ（遊技状態（前兆Ｂ））」が設定されているときであって、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定されているゲームで用いられる。その他のゲームでは、基本的に非ＡＴ時_補償ポイント数データテーブルが参照されて補償ポイントカウンタの更新が行われる。

【３４６６】

補償ポイント数データテーブルは、当籤役番号と、補償ポイント数（遊技媒体（メダル）の予想払い出し枚数）とが対応付けられており、メインＲＯＭ１０２に予め記憶されている。つまり、例えば、押し順役（「Ｆ_択プラム２１３」）の当籤時に有利な押し順が報知されるゲームでは、その報知に従うことが予想され、この場合は、１５枚のメダルの払い出しが予想されることから、ＡＴ時_補償ポイント数テーブルの「Ｆ_択プラム２１３（当籤役番号５）」には１５が対応付けられている。一方、押し順役（「Ｆ_択プラム２１３」）の当籤時に有利な押し順が報知されないゲームでは、第１停止が左リール３Ｌなる押し順でストップボタン８Ｌが操作されることから、非ＡＴ時_補償ポイント数テーブルの「Ｆ_択プラム２１３（当籤役番号５）」には１が対応付けられている。また、本実施形態では、非ＡＴ時において左第１停止以外の停止操作が行われた場合は、変則打ちペナルティとしてＡＴ関連の判定・抽籤・数値の更新などについては左第１停止で停止操作した場合よりも不利な扱いとなる。そのため、非ＡＴ時（打順指示が出ていないゲーム）では、推奨される停止操作態様である左第１停止で遊技が行われるものとして図２８０の押し順役（当籤役番号５番～１２番のＦ＿択プラム役）では、左第１停止で遊技が行われた場合に入賞する１枚役（図２５３参照）相当の補償ポイント数である１を対応づけている。なお、変則打ちペナルティは、押し順役の当籤ゲームのみで発生し、押し順により利益が変化しない当籤役（例えば、リプレイ役やＦ＿リーチ目役など）の場合は発生しないものとしてもよいし、非ＡＴ中は当籤役に関係なく発生するものとしてもよい。

【３４６７】

補償モード管理フラグが「補償モード中」のゲームでは、毎ゲームにおいて、１回のゲームを行うのに必要な遊技媒体（メダル）の枚数である３枚が補償ポイントカウンタから減算されるとともに、ＡＴ時や非ＡＴ時などの遊技状態に応じた補償ポイント数データテーブルが参照されて、当籤役番号に応じた補償ポイント数（予想メダル払い出し枚数）が補償ポイントカウンタに加算されることにより、補償ポイントカウンタの更新が行われる。すなわち、この第２の遊技機であるパチスロ機１では、補償ポイント数データテーブルを参照し、有利な押し順の報知の有無に基づいて実際に払い出されるであろうメダル枚数を予想した上で、補償モード中における実際のメダルの増減量を補償ポイントカウンタでカウントしている。換言すると、補償ポイントカウンタの値は、補償モード中のメダルの増減量に相当する。

【３４６８】

（前兆Ａ）

前兆移行抽籤の抽籤結果が「ＢＧ前兆」「ＢＣ前兆」「ＲＵＳＨ前兆」のいずれかであって、「前兆種別_一般中」記憶領域に当該抽籤結果が設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されると、次の遊技から遊技状態（前兆Ａ）に移行する。遊技状態（前兆Ａ）は、基本的に前兆ゲーム数抽

籤で決定されたゲーム数継続し、その後前兆移行抽籤の抽籤結果に応じた遊技状態（第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）、遊技状態（ＲＵＳＨ））に移行する。なお、遊技状態（前兆Ａ）の最終ゲームが終了した場合は、各リールを利用した疑似遊技が行われる。当該疑似遊技では、最終的にそれぞれの移行先の遊技状態に応じた表示出目が表示されるように各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒを停止させることで、遊技者に移行先の遊技状態が報知される。以下、遊技状態（前兆Ａ）での各種処理について説明する。

【３４６９】

遊技状態（前兆Ａ）において、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役への当籤であったゲームで、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定されていた場合は、前兆ゲーム数カウンタの値が１つ減算される。

【３４７０】

遊技状態（前兆Ａ）では、「前兆種別_一般中」記憶領域に、「ＢＧ前兆」または「ＢＣ前兆」が設定されていた場合は、毎遊技で図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）の内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８の当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＲＵＳＨ昇格抽籤に用いられる。抽籤結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合は、当該抽籤時の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が参照される。ここで、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。一方、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域の記憶内容が、「ＲＵＳＨ前兆」に書き換えられる。

【３４７１】

（ＭＡＰの管理）

シナリオ番号に基づいて生成されたＭＡＰについては、遊技状態（前兆Ａ）においても進行する。基本的に役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤したゲームでは、当該ＭＡＰが１ゲーム進められ、その結果、シナリオ番号に応じて決定されたＭＡＰゲーム数（例えば、シナリオ番号「０１」の場合は４０）に到達すると、次のＭＡＰに移行する。ここで、当該ＭＡＰが高確１（「ＭＡＰ種別」＝「高確１」）であって、その最終ゲームであった場合は、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定される。遊技状態（前兆Ａ）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定された場合、一般中（有利区間）のときと同様に、メインＲＯＭ１０２に記憶されている図２７８に一例を示すＴＹ値_上乗せ１データテーブルより、疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加算されるとともに、ＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算される。なお、ＴＹ値_上乗せ１データテーブルには、シナリオ番号ごとに疑似ＢＮＳの上乗せ値とＲＵＳＨの上乗せ値とが規定されており、当該有利区間のシナリオ番号に対応する上乗せ値が取得される。

【３４７２】

また、ＭＡＰが進行した結果、当該ＭＡＰが高確２（「ＭＡＰ種別」＝「高確２」）であって、高確２のＭＡＰの最終ゲームでは、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定される。遊技状態（前兆Ａ）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定された場合、一般中（有利区間）のときと同様に、メインＲＯＭ１０２に記憶されている図２７９に一例を示すＴＹ値_上乗せ２データテーブルより、疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加算されるとともに、ＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算される。なお、ＴＹ値_上乗せ２データテーブルには、シナリオ番号ごとに疑似ＢＮＳの上乗せ値とＲＵＳＨの上乗せ値とが規定されており、当該有利区間のシナリオ番号に対応する上乗せ値が取得される。

【３４７３】

また、遊技状態（前兆Ａ）においてＭＡＰが進行した結果、当該ＭＡＰが天井（「ＭＡ

Ｐ種別」＝「天井」）以外のＭＡＰの最終ゲームであった場合は、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域それぞれの値が１つ減算され、１減算後の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確１」が設定され、１減算後の「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確２」が設定され、１減算後の「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「天井」が設定され、それ以外の場合は「ＭＡＰ種別」記憶領域には「低確」が設定される。また、この場合は、当該有利区間のシナリオ番号に対応するＭＡＰゲーム数（図２７７に一例を示すシナリオ関連データを参照）が、ＭＡＰゲーム数カウンタに再設定される。

【３４７４】

さらに、遊技状態（前兆Ａ）においてＭＡＰが進行した結果、当該ＭＡＰが天井（「ＭＡＰ種別」＝「天井」）の最終ゲーム（いわゆる、天井到達）であった場合、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定される。このとき、まず、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値に加算される。加算後は、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値がクリアされる。

【３４７５】

加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＲＵＳＨ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＣ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＢＣ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＧ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定される。なお、天井に到達したときに、補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。

【３４７６】

遊技状態（前兆Ａ）では、毎ゲームで図２６６に一例を示すＡＴレベル昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分を用いたＡＴレベル昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＡＴレベル昇格抽籤に用いられる。当該抽籤で当籤した場合は、メインＲＡＭ１０３に設けられた「ＡＴレベル」記憶領域の値が１つ加算される。

【３４７７】

遊技状態（前兆Ａ）において、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合（現時点のＭＡＰの最終ゲームになった場合）、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＢＧ」が設定される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＧナビ回数初期値」が設定される。また、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が０でなければ「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」が減算される。「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が０であれば「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」が減算される。なお、「ＢＧナビ回数初期値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「６」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。

【３４７８】

遊技状態（前兆Ａ）において、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＢＣ」が設定される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＣナビ回数初期値」が設

定される。また、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が０でなければ「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」が減算される。「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が０であれば「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」が減算される。なお、「ＢＣナビ回数初期値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「３０」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。

【３４７９】

遊技状態（前兆Ａ）において、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定される。このとき、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタに「ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタ初期値」が設定される。なお、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタは、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。また、「ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタ初期値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「７５」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。また、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定され、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に、「ＲＵＳＨ」が設定される。「ＲＵＳＨ中種別」は、「０：なし」、「１：ＲＵＳＨ」があり、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域はメインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。

【３４８０】

また、遊技状態（前兆Ａ）において、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定された場合は、図２６９に一例を示すＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルの「ＡＴレベル」記憶領域に記憶されているＡＴレベル部分を用いたＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤が行われる。当該抽籤の結果は、ＲＵＳＨナビ数カウンタに設定される。ただし、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されたときの、「ＭＡＰ種別」記憶領域の記憶内容が「天井」であった場合は、ＲＵＳＨナビ数カウンタに、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が設定される。なお、ＲＵＳＨナビ数カウンタは、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。

【３４８１】

遊技状態（前兆Ａ）において、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されたときに、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されていた場合は、ＲＵＳＨナビ数カウンタと、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域に、補償モード用ＲＵＳＨナビ数カウンタの値が設定される。また、補償ポイントカウンタの値が「補償ポイント最低値」よりも大きい場合は、補償ポイントカウンタに「補償ポイント最低値」と「補償補正値」とが加算される。一方、補償ポイントカウンタの値が「補償ポイント最低値」以下の場合は、補償ポイントカウンタに「補償補正値」が加算される。補償ポイントカウンタは、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。また、この第２の遊技機であるパチスロ機１では、「補償ポイント最低値」は「－５００」、「補償補正値」は「－２６」であり、それぞれメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。

【３４８２】

遊技状態（前兆Ａ）において、前兆ゲーム数カウンタの値が０になって、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されたときは、ＢＣパンクフラグがクリアされる。

【３４８３】

遊技状態（前兆Ａ）において、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域の記憶内容がクリアされる。

【３４８４】

なお、遊技状態（前兆Ａ）では、有利区間は終了せず、前兆（ＢＣ前兆、ＢＧ前兆、ＲＵＳＨ前兆）を経て移行した遊技状態（ＢＣ、ＢＧ、ＲＵＳＨ）が終了したときに終了する。また、遊技状態（前兆Ａ）では、補償モードへの移行は行われない。

【３４８５】

（前兆Ｂ）

一般中（有利区間）での前兆移行抽籤の結果、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＧＳ

Ｂ連前兆」が設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ｂ」が設定され、次のゲームから遊技状態が、遊技状態（前兆Ｂ）に移行する。遊技状態（前兆Ｂ）では、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が最大で４回連続する前兆であり、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）の連続回数は、前兆移行抽籤の当籤時に行われたＧＳＢ連ランク抽籤の抽籤結果に基づいて決まる。

【３４８６】

具体的な遊技状態（前兆Ｂ）の基本的な流れについて説明する。一般中（有利区間）での前兆移行抽籤の結果、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＧＳＢ連前兆」が設定された場合は、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「ＧＳＢ連＿一般」部分を用いて前兆ゲーム数抽籤が行われ、当該抽籤の結果が前兆ゲーム数カウンタに設定される。前兆ゲーム数カウンタは、遊技状態（前兆Ｂ）において、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役いずれかであった場合は１つ減算される。ただし、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定されていた場合は、前兆ゲーム数カウンタの減算は行われない。つまり、遊技状態（前兆Ｂ）において、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役であった場合は、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定されていた場合を除き、前兆ゲーム数カウンタの値が１つ減算される。

【３４８７】

前兆ゲーム数カウンタの値が０になった後、再度役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役いずれかであったゲームでは、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ表示許可」に設定される。ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ表示許可」に設定された状態で、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役に当籤したゲームでは、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定されるとともに、「前兆中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が１つ加算される。当該ゲームでは、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）に当籤したことを遊技者が分かる停止図柄組合せが表示される。なお、「前兆中ＧＳＢ表示回数」記憶領域は、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。

【３４８８】

その後のゲームにおいて、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤した場合は、１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知される、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われる。遊技状態（前兆Ｂ）での疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）は、有利な押し順が１回報知されると終了する。遊技状態（前兆Ｂ）で疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われた場合、ＧＳＢ残り回数カウンタの値が０であった場合は、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」が１つ減算される。また、遊技状態（前兆Ｂ）で疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われた場合、ＧＳＢ残り回数カウンタの値が０よりも大きかった場合は、ＧＳＢ残り回数カウンタの値が１つ減算される。その後、再度前兆ゲーム数抽籤が行われ、当該抽籤結果が前兆ゲーム数カウンタに設定される。その後、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値よりも小さい場合は、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ表示許可」に設定される。したがって、その後に当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役いずれかに当籤したゲームで再度ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定され、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われる。これらの一連の処理が「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が３になるまで繰り返される。

【３４８９】

繰り返された結果、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合（ＧＳＢ連ランク記憶領域の値が「３」以下の場合）は、前兆ゲーム数カウンタに「前兆Ｂ終了ゲーム数」が設定される。前兆ゲーム数カウンタに「前兆Ｂ終了ゲーム数」が設定された後、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合は遊技状態（前兆Ｂ）が終了する。「前兆Ｂ終了ゲーム数」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「５」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている

。

【３４９０】

一方、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値が「４」に設定されていた場合に、これらの一連の処理が繰り返された結果、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合は、遊技状態（ＲＵＳＨ）への移行が確定する。このとき、遊技状態（ＲＵＳＨ）への移行の初期処理として、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタに「ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタ初期値」が設定される。「ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタ初期値」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「７５」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。

【３４９１】

また、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合は、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定される。

【３４９２】

また、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合は、図２６９に一例を示すＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルの「ＡＴレベル」記憶領域に記憶されているＡＴレベル部分を用いたＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤が行われる。当該抽籤結果は、ＲＵＳＨナビ数カウンタに設定する。

【３４９３】

また、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合に、「ＭＡＰ種別」記憶領域に「天井」が設定されていた場合は、ＲＵＳＨナビ数カウンタに「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域に記憶されている値を設定する。

【３４９４】

また、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになったときに、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されていた場合は、ＲＵＳＨナビ数カウンタと「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域それぞれに、補償モード用ＲＵＳＨナビ数カウンタを設定する。さらに、補償ポイントカウンタの値が「補償ポイント最低値」よりも大きい場合は、補償ポイントカウンタに「補償ポイント最低値」と「補償補正値」とが加算される。一方、補償ポイントカウンタの値が「補償ポイント最低値」以下の場合は、補償ポイントカウンタに「補償補正値」が加算される。

【３４９５】

ＧＳＢ連ランク記憶領域の値が「４」に設定されていた場合に、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が、ＧＳＢ連ランク記憶領域の値と同じになった場合において、これらの処理が終了した場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域、ＧＳＢ連ランク記憶領域、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域、ＢＣパンクフラグの夫々がクリアされ、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定される（遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行）。

【３４９６】

遊技状態（前兆Ｂ）において、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定されており、かつ、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に設定されているＧＳＢ連ランクが３以下であって、前兆Ｂ中ＲＵＳＨ昇格待機フラグに「なし」が設定されていた場合は、毎ゲームで図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。当該抽籤で当籤した場合は（抽籤結果が「ＲＵＳＨ前兆」である場合は）、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が参照され、その結果、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」未満であった場合は、当該抽籤の結果が破棄される。一方、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定され、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「ＲＵＳＨ＿一般」部分を用いて前兆ゲーム数抽籤が行われる。前兆ゲーム数抽籤の結果は、前兆ゲーム数カウンタに設定される。そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」以上であった場合

は、前兆Ｂ中ＲＵＳＨ昇格待機フラグに「待機中」が設定される。また、前兆Ｂ中ＲＵＳＨ昇格待機フラグは、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。

【３４９７】

遊技状態（前兆Ｂ）において、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定されている状態で押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当籤時に、１５枚のメダルの払い出しが得られる有利な押し順が報知されたときに、前兆Ｂ中ＲＵＳＨ昇格待機フラグに「待機中」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定され、遊技状態（前兆Ｂ）が終了し前兆Ａに移行する。このとき、前兆Ｂ中ＲＵＳＨ昇格待機フラグ、ＧＳＢ表示許可フラグ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の記憶内容、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域の記憶内容の夫々がクリアされる。つまり、遊技状態（前兆Ｂ）でＲＵＳＨ昇格抽籤に当籤した場合は、遊技状態（前兆Ｂ）の途中であっても遊技状態（前兆Ａ）に移行する。そして、移行先の遊技状態（前兆Ａ）の終了後に疑似遊技により遊技状態（ＲＵＳＨ）に対応した停止図柄組合せが表示されたあと、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。

【３４９８】

遊技状態（前兆Ｂ）において、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定され、かつ、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に記憶されているＧＳＢ連ランクが「ランク３」以下の場合、毎ゲームで、ＴＳ種別記憶領域に設定されているＴＳ種別、「ＭＡＰ種別」記憶領域に設定されているＭＡＰ種別に対して設けられた前兆移行抽籤テーブル（図２６１～図２６４など）の当該遊技の当籤役が属している当籤役グループ番号の部分を用いた前兆移行抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号が前兆移行抽籤に用いられる。

【３４９９】

ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が「ＢＧ前兆」または「ＢＣ前兆」であった場合、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値と「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値」とが比較される。ここで、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。

【３５００】

ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値と、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」とが比較される。ここで、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。

【３５０１】

なお、第２の遊技機であるパチスロ機１では、前兆Ｂで行われる前兆移行抽籤の結果が「ＧＳＢ連前兆」となることはない。

【３５０２】

ＭＡＰ種別が「天井」以外のときに、前兆移行抽籤の結果が当籤であった場合に、上記した抽籤結果の破棄がなければ、「前兆種別_一般中」記憶領域に当該抽籤結果が設定される。

【３５０３】

前兆移行抽籤の結果が当籤であって、かつ、当該抽籤結果が破棄されなかった場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。また、ＧＳＢ表示許可フラグ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の記憶内容、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域の記憶内容の夫々がクリアされる。また、前兆ゲーム数カウンタに１が加算される（前兆Ａを最短１ゲーム行うため）。

【３５０４】

ＭＡＰ種別が「天井」のときに、前兆移行抽籤で当籤（「ＲＵＳＨ前兆」）した場合は、まず、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値が、「ＴＹ

値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値に加算される。加算後は、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値がクリアされる。

【３５０５】

加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＲＵＳＨ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＣ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＢＣ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＧ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定される。なお、ＭＡＰ種別が「天井」のときに、前兆移行抽籤で当籤（「ＲＵＳＨ前兆」）した場合において、後述する補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。これらの処理で「前兆種別_一般中」記憶領域が設定されなかった場合は前兆移行抽籤の抽籤結果が破棄される。

【３５０６】

前兆移行抽籤で当籤し、かつ、当該抽籤結果が破棄されなかった場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。また、ＧＳＢ表示許可フラグ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の記憶内容、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域の記憶内容の夫々がクリアされる。また、前兆ゲーム数カウンタに１が加算される（前兆Ａを最短１ゲーム行うため）。

【３５０７】

前兆移行抽籤で当籤しないままＭＡＰ種別が「天井」の最終遊技に到達した場合は、天井に到達する。天井に到達した場合、まず、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値に加算される。加算後は、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値とＧＳＢ残り回数カウンタの値がクリアされる。

【３５０８】

加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＲＵＳＨ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＣ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定される。加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が、「ＴＹ値__ＢＣ閾値」未満であって、「ＴＹ値_ＢＧ閾値」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定される。なお、天井に到達したときに、補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、加算後の「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定される。

【３５０９】

「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＢＣ前兆」、「ＢＧ前兆」、「ＲＵＳＨ前兆」のいずれかが設定された場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される。これにより、次の遊技から遊技状態（前兆Ａ）に移行する。ここで、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されており、かつ、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定されていた場合は、ＧＳＢ表示許可フラグ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の記憶内容、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域の記憶内容の夫々がクリアされる。また、前兆ゲーム数カウンタに１が加算される（前兆Ａを最短１ゲーム行うため）。

【３５１０】

遊技状態（前兆Ｂ）では、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定され、かつ、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に記憶されているＧＳＢ連ランクが「ランク３」以下であることを前提として、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役のいずれかに当籤であったときに、補償モード許可フラグが「許可」に設定されていた場合、図２７３に一例を示す補償モード移行抽籤テーブルの補償レベル記憶領域に記憶されている補償レベルの部分を用いた補償モード移行抽籤が行われる。当該抽籤の抽籤結果が「補償モード移行」であった場合は、補償モード管理フラグが「補償モ

ード中」に設定される。

【３５１１】

補償モード移行抽籤の抽籤結果が「補償モード移行」であった場合は、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われ、当該抽籤の結果がＡＴレベル記憶領域に設定される。

【３５１２】

また、遊技状態（前兆Ｂ）において、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定され、かつ、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に記憶されているＧＳＢ連ランクが「ランク３」以下であることを前提として、補償モード許可フラグが「許可」に設定されており、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役に当籤であった場合は、その都度、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が１つ減算される。そして、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が０になった場合は、再度、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値に、「補償モード用規定択役回数（８０回）」が設定されるとともに、補償モードに関連する種々の処理が行われる。例えば、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、図２７４に一例を示す補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブルのＡＴレベル記憶領域に記憶されているＡＴレベルの部分を用いた補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤が行われる。当該抽籤で当籤した場合は（抽籤結果が「昇格」である場合は）、ＡＴレベル記憶領域に記憶されている値に１つ加算された値に書き換えられる。

【３５１３】

また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが「補償モード中」であった場合は、図２７５に一例を示す補償モード時ナビ回数抽籤テーブルのＡＴレベル記憶領域に記憶されているＡＴレベルの部分を用いた補償モード時ナビ回数抽籤が行われる。当該抽籤の抽籤結果（ナビ回数）は、補償モード用ＲＵＳＨナビ数カウンタに加算される。

【３５１４】

また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが、「補償モード移行許可中」に設定されており、かつ、補償レベル記憶領域に補償レベル７が記憶されていた場合は、補償モード管理フラグが、「補償モード中」に設定される。このとき、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われ、当該抽籤結果がＡＴレベル記憶領域に設定される。

【３５１５】

一方、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード記憶領域の記憶内容が補償レベル６以下であった場合は、補償モード記憶領域の記憶内容が、当該補償レベルに１つ加算された補償レベルに書き換えられる。

【３５１６】

また、補償モード管理用ゲーム数カウンタの値が再設定された際、補償モード管理フラグが「補償モード移行待機」に設定されていた場合は、補償モード管理フラグが「補償モード移行許可中」に設定される。

【３５１７】

以上のように、この実施形態では、一般中（有利区間）のみならず遊技状態（前兆Ｂ）においても、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役に当籤した遊技では、補償モード移行抽籤が行われる場合があり、当該抽籤に当籤した場合は、補償モード中（補償モード管理フラグが「補償モード中」）に移行する。当該抽籤で当籤しない状態が継続していても、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役への当籤回数が「補償モード用規定択役回数（８０回）」になるたびに、補償モードが１つ加算され、その結果、補償レベルが「７」まで上がると、次に当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役に当籤した遊技で補償モード中（補償モード管理

フラグ）に移行するように構成されている。

【３５１８】

ここまでの説明した補償レベルの上昇を経て補償モードへ移行する場合について具体例を挙げつつ箇条書きで説明すると、以下のようになる。

・補償レベルの初期値として、有利区間移行時に決定された図２７７のシナリオ１～４８に応じた値がセットされる。例えば、最も補償レベルの初期値が高いシナリオ０６なら、補償レベル５となる。なお、補償レベルセット時に１減算されるので、補償レベルの実質的な初期値は４となる。

・択プラム役の確率は約１／２．１（３０８８０／６５５３６、図２５１参照）となる。

・そのため、８０回の択プラム役の成立には約１６８ゲームを要する。

・図２７３の補償モード移行抽籤テーブルによる抽籤で１／２５６を引き当てて補償モードに移行する場合を除くと、レベル４→５→６→７と３段階補償レベルを上昇させるには約１６８×３＝５０４ゲームを要する。

・約５０４ゲームで補償レベル７になったあと、補償モードに移行するには、さらに約１／２．１の択プラム役に当籤する必要がある。

・したがって、シナリオ０６では有利区間開始からいずれのＡＴにも入らなかったと仮定した場合に約５０４＋２＝５０６ゲームが補償モードへ移行するのに要する平均ゲーム数と言える。

・メダル５０枚あたりの平均ゲーム数は３１．５ゲーム（設定により微差あり）なので、５０６ゲーム÷３１．５ゲーム×５０枚＝約８０３枚。最も優遇されたシナリオでも択プラム役の規定回数成立による段階的な補償レベルの上昇という補償モード移行へのメインルートで補償モードに到達するためには８００枚強のメダルが必要となる。

【３５１９】

このように基本的にはある程度メダルを消費した状態で補償モードへ移行することが一般的なゲーム性となっており、補償モードは、ある程度メダルを消費した遊技者に対する救済的な役割も果たしている。

【３５２０】

なお、このような補償レベルは補償モードへ移行するための重要な要素となっているため、その値を示唆ないし報知する演出を備えるものとしてもよいし、あえて、示唆ないし報知する演出を設けずに遊技者の期待感を過剰にあおらないものとしてよい。

【３５２１】

補償モード中（補償モード管理フラグ：補償モード中）に移行してからは、一般中（有利区間）で補償モード中（補償モード管理フラグ：補償モード中）に移行した場合と同様の構成で、毎ゲームで補償ポイントカウンタの更新が行われる。

【３５２２】

（ＭＡＰ関連処理）

遊技状態（前兆Ｂ）においても、一般中（有利区間）と同様に、基本的に役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役のいずれかに当籤したときに、ＭＡＰが１つ（１ゲーム）進行する。ＭＡＰが進行していった結果、シナリオ番号に応じて決定された高確１のＭＡＰの最終ゲームでは、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定される。遊技状態（前兆Ｂ）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確１終了」が設定された場合、図２７８に一例を示すＴＹ値_上乗せ１データテーブルより、当該有利区間のシナリオ番号に対応する疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加算されるとともに、当該有利区間のシナリオ番号に対応するＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算される。

【３５２３】

また、高確２のＭＡＰの最終ゲームでは、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定される。遊技状態（前兆Ｂ）において、ＭＡＰ終了フラグに「高確２終了」が設定された場合、図２７９に一例を示すＴＹ値_上乗せ２データテーブルより、当該有利区間のシナリオ番号に対応する疑似ＢＮＳの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」に加

算されるとともに、当該有利区間のシナリオ番号に対応するＲＵＳＨの欄の値が取得され、当該値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」に加算される。

【３５２４】

天井のＭＡＰの最終ゲームでは、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定される。このとき、出玉状態記憶領域に有利区間終了要求が設定される。

【３５２５】

また、ＭＡＰが天井（「ＭＡＰ種別」＝「天井」）以外のＭＡＰの最終ゲームでは、「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域、「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域、「天井ＭＡＰ位置」記憶領域それぞれの値が１つ減算され、１減算後の「高確１ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確１」が設定され、１減算後の「高確２ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「高確２」が設定され、１減算後の「天井ＭＡＰ位置」記憶領域の値が「１」である場合には「ＭＡＰ種別」記憶領域には「天井」が設定され、それ以外の場合は「ＭＡＰ種別」記憶領域には「低確」が設定される。また、当該有利区間のシナリオ番号に対応するＭＡＰゲーム数（図２７７に一例を示すシナリオ関連データを参照）が、ＭＡＰゲーム数カウンタに再設定される。

【３５２６】

（ＡＴレベル昇格抽籤）

遊技状態（前兆Ｂ）中は、毎ゲームで図２６６に一例を示すＡＴレベル昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分を用いたＡＴレベル昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＡＴレベル昇格抽籤に用いられる。当該抽籤で当籤した場合は、ＡＴレベル記憶領域の値が１つ加算される。

【３５２７】

（前兆Ｂの終了判定処理）

遊技状態（前兆Ｂ）では、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定され、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されていたときに、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属する当籤役名の当籤役のいずれかに当籤したゲームにおいて、前兆ゲーム数カウンタの値が０で、かつ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に記憶されているＧＳＢ連ランクよりも小さい場合は、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」が設定される。

【３５２８】

一方、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定され、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定されていたときに、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役に当籤したゲームにおいて、前兆ゲーム数カウンタの値が０で、かつ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の値が「ＧＳＢ連ランク」記憶領域に記憶されているＧＳＢ連ランクと同じであった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域の記憶内容、ＧＳＢ表示許可フラグ、「前兆Ｂ中ＧＳＢ表示回数」記憶領域の記憶内容、「ＧＳＢ連ランク」記憶領域の記憶内容の夫々がクリアされる。また、出玉状態記憶領域に「一般中」が設定される。

【３５２９】

以上のように構成された遊技状態（前兆Ｂ）において創出されるゲーム展開の一例について、以下に示す。

【３５３０】

例えば、ＧＳＢ連ランクがランク「１」の場合、前兆Ｂの前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われ、その後に再設定された前兆ゲーム数カウンタが消化されるまでの間にＲＵＳＨ昇格抽籤や前兆移行抽籤に当籤しなければ、再設定された前兆ゲーム数カウンタの消化後に遊技状態（前兆Ｂ）が終了して一般中（有利区間

）に移行する。

【３５３１】

また、ＧＳＢ連ランクがランク「４」の場合、前兆ゲーム数カウンタの消化→疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）の繰り返しが４回行われたあと、遊技状態（前兆Ｂ）が終了し、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。

【３５３２】

また、例えば、ＧＳＢ連ランクがランク「１」で、前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）への移行が許可されている状態（ＧＳＢ表示許可フラグ＝「ＧＳＢ中」）でＲＵＳＨ昇格抽籤に当籤した場合は、遊技状態（前兆Ｂ）が終了し、遊技状態（前兆Ａ）に移行する。遊技状態（前兆Ａ）では、前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似遊技が行われて、遊技状態（ＲＵＳＨ）に対応する停止図柄組合せが表示され、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。

【３５３３】

また、例えば、ＧＳＢ連ランクがランク「２」の場合、前兆Ｂの前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われ、その後に再設定された前兆ゲーム数カウンタが消化されるまでの間に前兆移行抽籤に当籤し、その結果が「ＢＣまたはＢＧ前兆」であった場合は、遊技状態（前兆Ｂ）が終了し、遊技状態（前兆Ａ）に移行する。遊技状態（前兆Ａ）では、前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似遊技が行われて、遊技状態（ＢＣまたはＢＧ）に対応する停止図柄組合せが表示され、遊技状態（ＢＣまたはＢＧ）に移行する。

【３５３４】

また、例えば、ＧＳＢ連ランクがランク「２」の場合、前兆Ｂの前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われ、その後に再設定された前兆ゲーム数カウンタが消化されるまでの間に前兆移行抽籤に当籤し、その結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合は、遊技状態（前兆Ｂ）が終了し、遊技状態（前兆Ａ）に移行する。遊技状態（前兆Ａ）では、前兆ゲーム数カウンタの消化後に疑似遊技が行われて、遊技状態（ＲＵＳＨ）に対応する停止図柄組合せが表示され、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。

【３５３５】

（第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ））

出玉状態記憶領域に「ＢＧ」が設定されると、遊技状態（ＢＧ）に移行する。その際、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＧナビ回数初期値（６）」が設定される。また、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が「０」でなければ、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」が減算される。

【３５３６】

第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）では、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したときに、１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が１つ減算される。また、遊技状態（ＢＧ）で「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されており、かつ、補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されていた場合、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したゲームでは、ＲＵＳＨナビ数カウンタの値が１つ減算される。

【３５３７】

疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が減算された結果、「０」になった場合は、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグがクリアされる。また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「一般中」が設定される（遊技状態（ＢＧ）の終了）。また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されており、かつ、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される（遊技状態（ＢＧ）の終了）。また、疑似

ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されており、かつ、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定されているか、または、強制終了フラグに「強制終了」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「有利区間終了要求」が設定される（遊技状態（ＢＧ）の終了＋有利区間の終了）。なお、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグは、「非ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」と「ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」のいずれかが設定されるものであり、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられている。

【３５３８】

また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が減算された結果、「０」になったときに、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されるとともに、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」が設定される（遊技状態（ＢＧ）の終了）。

【３５３９】

遊技状態（ＲＵＳＨ）でない遊技状態から第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）に移行した場合は、毎ゲームで図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。具体的には、第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）において、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「なし」が設定されている場合は、毎ゲームで図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）の内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８の当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＲＵＳＨ昇格抽籤に用いられる。

【３５４０】

抽籤結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合は、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が参照され、その結果、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」未満であった場合は、当該抽籤の結果が破棄される。一方、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定され、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「ＲＵＳＨ＿一般」部分を用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。前兆ゲーム数抽籤の結果は、前兆ゲーム数カウンタに設定される。

【３５４１】

第１疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ）において、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグに「非ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」が設定されていた場合は、毎ゲームで、図２６６に一例を示すＡＴレベル昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分を用いたＡＴレベル昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＡＴレベル昇格抽籤に用いられる。当該抽籤に当籤した場合は、ＡＴレベル記憶領域の値に１が加算される。

【３５４２】

（第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ））

出玉状態記憶領域に「ＢＣ」が設定されると、遊技状態（ＢＣ）に移行する。その際、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＣナビ回数初期値（３０）」が設定される。また、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値が「０」でなければ、「ＴＹ値_疑似ＢＮＳ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」が減算される。

【３５４３】

第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）では、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したときに、１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知される。このとき、疑

似ＢＮＳナビ数カウンタの値が１つ減算される。また、遊技状態（ＢＣ）で「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されており、かつ、補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されていた場合、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したゲームでは、ＲＵＳＨナビ数カウンタの値が１つ減算される。

【３５４４】

疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が減算された結果、「０」になった場合は、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグがクリアされる。また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「一般中」が設定される（遊技状態（ＢＣ）の終了）。また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されており、かつ、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「前兆Ａ」が設定される（遊技状態（ＢＣ）の終了）。また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が「０」になったときに、「ＲＵＳＨ種別」記憶領域に「なし」が設定されており、かつ、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定されているか、または、強制終了フラグに「強制終了」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「有利区間終了要求」が設定される（遊技状態（ＢＣ）の終了＋有利区間の終了）。

【３５４５】

また、疑似ＢＮＳナビ数カウンタの値が減算された結果、「０」になったときに、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定されるとともに、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」が設定される（遊技状態（ＢＣ）の終了）。

【３５４６】

遊技状態（ＲＵＳＨ）でない遊技状態から第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）に移行した場合は、毎ゲームで図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。具体的には、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）において、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「なし」が設定されている場合は、毎ゲームで図２６８に一例を示すＲＵＳＨ昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号の部分を用いたＲＵＳＨ昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）の内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８の当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＲＵＳＨ昇格抽籤に用いられる。

【３５４７】

抽籤結果が「ＲＵＳＨ前兆」であった場合は、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が参照され、その結果、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」未満であった場合は、当該抽籤の結果が破棄される。一方、そのゲームでの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＲＵＳＨ閾値（４８）」以上であった場合は、「前兆種別_一般中」記憶領域に「ＲＵＳＨ前兆」が設定され、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「ＲＵＳＨ__一般」部分を用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。前兆ゲーム数抽籤の結果は、前兆ゲーム数カウンタに設定される。

【３５４８】

第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）において、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグに「非ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」が設定されていた場合は、毎ゲームで、図２６６に一例を示すＡＴレベル昇格抽籤テーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分を用いたＡＴレベル昇格抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＡＴレベル昇格抽籤に用いられる。当該抽籤に当籤した場合は、ＡＴレベル記憶領域の値に１が加算される。

【３５４９】
（ＲＵＳＨ）
出玉状態記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定された場合は、遊技状態が遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する。遊技状態（ＲＵＳＨ）は、ＲＵＳＨナビ数カウンタの値が０になるか、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が０になるか、有利区間の強制終了条件が成立（強制終了フラグ＝「強制終了」）するかのいずれかのＲＵＳＨ終了条件が成立するまでの間、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）のいずれかに当籤したときに有利な押し順が報知される疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が頻繁に行われる、いわば疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が短期間に集中して付与される遊技状態である。
【３５５０】
より具体的には、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する際の初期処理として、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタに「ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタ初期値」が設定され、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定され、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域に「ＲＵＳＨ」が設定され、図２６９に一例を示すＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブルの「ＡＴレベル」記憶領域に記憶されているＡＴレベル部分を用いて行われるＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤の抽籤結果がＲＵＳＨナビ数カウンタに設定される。また、「ＭＡＰ種別」記憶領域に「天井」が設定されている場合は、ＲＵＳＨナビ数カウンタに、そのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域に記憶されている値が設定される。その後、役抽籤結果が押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）のいずれかへの当籤であった場合に、１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知される。このとき、ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が０の場合は、当該カウンタに「２」が設定されたあと、当該カウンタが１つ減算される。その次に、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）のいずれかに当籤した場合にも、１５枚の払い出しが得られる有利な押し順が報知され、ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が１つ減算される。これにより、ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が０になり、これに伴って、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」に設定される（１回の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が終了）。すなわち、この実施形態では、遊技状態（ＲＵＳＨ）の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）は、有利な押し順の報知が２回行われるまで継続する。
【３５５１】
その後、その後のゲームにおいて、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」への当籤であった場合は、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）に移行することが分かるリール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの停止図柄組合せ（ＧＳＢ移行表示）が表示される。このとき、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」が設定される。そして、次ゲーム以降のゲームにおいて押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）のいずれかに当籤したときに有利な押し順が報知されるゲームが２回続いて、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」に設定される（２回の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が終了）。これ以降も基本的には、ＧＳＢ移行表示から疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が行われる一連の流れＲＵＳＨ終了条件が成立するまでの間繰り返し行われる。
【３５５２】
ただし、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）と、次の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）との間に前兆期間が設けられ、前兆期間の間は、ＧＳＢ移行表示が禁止される場合がある。その場合について、具体的に説明すると、遊技状態（ＲＵＳＨ）中は、毎ゲームで、図２８２又は図２８３に一例を示す前兆ポイント数データテーブルの当該遊技での当籤役に関わる当籤役グループ番号部分に対応する前兆ポイント数が読み出されて、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタに読み出された前兆ポイント数が加算される。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対

応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号が前兆ポイント数データテーブルからの前兆ポイント数の読み出しに用いられる。なお、前兆ポイント数テーブルは、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）に当籤したときに有利な押し順が報知されるゲーム用の図２８３に一例を示す指示有り時_前兆ポイント数データテーブルと、有利な押し順が報知されないゲーム用の図２８３に一例を示す指示無し時_前兆ポイント数データテーブルとがあり、有利な押し順の報知の有無に基づいた前兆ポイント数がＲＵＳＨ中前兆管理カウンタに加算される。

【３５５３】

その結果、ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が０になった際（１回の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が終了した際）、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタの値が「ＲＵＳＨ中前兆判定値_減速用」の値以下であった場合は、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「フェイク前兆」が設定され、前兆ゲーム数カウンタに「ＲＵＳＨ中前兆書き換え_ロング」の値が設定された上で、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示不許可」が設定される。これにより、その後に前兆ゲーム数カウンタの値が０になるまでの間はＧＳＢ移行表示が禁止され、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）への移行が禁止される。なお、「ＲＵＳＨ中前兆判定値_減速用」は、この実施形態では「１０」であり、メインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に予め記憶されている。また、「ＲＵＳＨ中前兆書き換え_ロング」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「４」であり、メインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に予め記憶されている。

【３５５４】

一方、ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が０になった際（１回の疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が終了した際）、ＲＵＳＨ中前兆管理カウンタの値が「ＲＵＳＨ中前兆判定値_加速用」の値以上であって、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「フェイク前兆」が設定され、かつ、前兆ゲーム数カウンタの値が、「ＲＵＳＨ中前兆書き換え_ショート」の値よりも大きかった場合は、前兆ゲーム数カウンタに「ＲＵＳＨ中前兆書き換え_ショート」の値が設定される。これにより、その後に前兆ゲーム数カウンタの値が０になるまでの間はＧＳＢ移行表示が禁止され、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）への移行が禁止される。なお、「ＲＵＳＨ中前兆判定値_加速用」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「１２８」であり、メインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に予め記憶されている。また、「ＲＵＳＨ中前兆書き換え_ショート」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「１」であり、メインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に予め記憶されている。なお、遊技状態（ＲＵＳＨ）中において、前兆ゲーム数カウンタは、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定されているゲームであって、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」に属するいずれかの当籤役への当籤であったゲーム毎に１つ減算される。

【３５５５】

ＲＵＳＨ終了条件として、ＲＵＳＨナビ数カウンタの値が０になるか、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が０になるかがあるが、これらの値は、以下のように減算される。例えば、補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されている場合、すなわち、補償モードに移行していない場合は、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当選時に有利な押し順が報知されるたびにＲＵＳＨナビ数カウンタの値が１つ減算されるとともに、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値も１つ減算される。

【３５５６】

一方、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されている場合、すなわち、補償モードへの移行後の場合は、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当選時に有利な押し順が報知されても、ＲＵＳＨナビ数カウンタおよび「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値のいずれも減算されない。なお、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されているときに、補償ポイントカウンタの値が０よりも大きく

なった場合は、補償モード管理フラグに「補償モード後」が設定され、補償モードが終了する。遊技状態（ＲＵＳＨ）中に補償モード管理フラグに「補償モード後」が設定された後は、押し順プラムの当選時に有利な押し順が報知されるたびにＲＵＳＨナビ数カウンタの値が１つ減算されるとともに、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値も１つ減算される。

【３５５７】

すなわち、この実施形態では、補償モード中に移行した遊技状態（ＲＵＳＨ）は、補償モードに移行してから減少した遊技媒体（メダル）分が払い出されるまではＲＵＳＨナビ数カウンタおよび「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値の減算が開始されない。したがって、補償モード中に移行した遊技状態（ＲＵＳＨ）では、補償モードに移行したあとの遊技状態の減少分は遊技媒体（メダル）が払い出される（補償モード中のメダルの減少分は補償される）。その後、ＲＵＳＨ終了条件が成立するＲＵＳＨナビ数カウンタおよび「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値のいずれかが０になるまでのメダルの増加分は、補償モード移行時の所持メダルに対する増加分に相当する。

【３５５８】

ＧＳＢ中ナビ回数カウンタの値が０になったとき、つまり、疑似シングルボーナス（ＧＳＢ）が終了したゲームでは、メインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている図２７１に一例を示す疑似ＢＮＳ終了時_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルを用いた疑似ＢＮＳ終了時_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤が行われる。当該抽籤の結果が「ＢＧ_ＲＵＳＨ中」であった場合は、そのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値と、「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」とが比較され、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。当該抽籤結果が破棄されなかった場合は、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「ＢＧ前兆」）。

【３５５９】

補償モード管理フラグに「補償中」が設定されているときに疑似ＢＮＳ終了時_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤で「ＢＧ_ＲＵＳＨ中」に当籤した場合は、そのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「ＢＧ前兆」）。疑似ＢＮＳ終了時_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤で「フェイク_ＲＵＳＨ中」に当籤した場合は、補償モード管理フラグの設定内容やそのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「フェイク前兆」）。

【３５６０】

補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されている状態で、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定されており、かつ、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当籤ゲームで有利な押し順が報知された結果、ＧＳＢ中ナビ数カウンタの値が０になった際、ＲＵＳＨ終了条件が成立した場合は、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されるとともに、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示不許可」が設定される。さらに、このときに「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」以上であって、ＢＣパンクフラグに「ＢＣパンク不許可」以外が設定されている場合は、図２７２に一例を示すＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブルを用いたＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤が行われる。当該抽籤結果は、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられたＢＣパンクフラグに設定される。

【３５６１】

ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定されており、かつ、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当籤ゲームで有利な押し順が報知された結果、ＧＳＢ中ナビ数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「なし」以外が設定されていた場合は、図２６７に一例を示す前兆ゲーム数抽籤テーブルの「前兆種別__ＲＵＳＨ中」記憶領域の記憶内容に対応する部分（フェイク前兆の場合はフェイク__一般、ＢＧ前

兆の場合はＢＧ＿ＲＵＳＨ中、ＢＣ前兆の場合はＢＣ＿ＲＵＳＨ中、パンク待機の場合はパンク待機）を用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。当該抽籤結果は、前兆ゲーム数カウンタに設定された上で、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示不許可」が設定される。

【３５６２】

ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」に設定されており、かつ、押し順プラム（当籤役番号「５」の「Ｆ_択プラムＡ２１３」～当籤役番号「１２」の「Ｆ_択プラムＢ３２１」：図２５２参照）の当籤ゲームで有利な押し順が報知された結果、ＧＳＢ中ナビ数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」以外が設定されており、かつ、メインＲＡＭ１０３の所定の記憶領域に設けられた短時間ガード用ゲーム数カウンタの値が「短時間_判定ゲーム数」の値よりも大きかった場合は、ＢＣパンクフラグに「ＢＣパンク不許可」が設定された上で、短時間ガード用ゲーム数カウンタの値がクリアされる。ここで、「短時間_判定ゲーム数」は、この第２の遊技機であるパチスロ機１では「１５０」であり、予めメインＲＯＭ１０２の所定の記憶領域に記憶されている。

【３５６３】

なお、遊技状態（ＲＵＳＨ）中は、当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役に当籤するたびに短時間ガード用ゲーム数カウンタの値が１つ加算される。したがって、この実施形態では、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役への当籤回数が１５０になった以降は、遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了したあとに第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＣ）に移行することはない（ＢＣパンクはない）。

【３５６４】

遊技状態（ＲＵＳＨ）において、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に「なし」または「フェイク前兆」が設定されている場合は、毎ゲームで図２７０に一例を示すＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブルの当該遊技の当籤役が属している当籤役グループ番号部分を用いたＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤が行われる。ここで、図２５１（ａ）～（ｃ）に一例を示す内部抽籤テーブルを用いて当籤役番号が決定され、さらに、決定された当籤役番号から図２４８に一例を示す当籤役番号と当籤役名と当籤役グループ番号との対応表を用いて当籤役グループ番号が決定されて、決定された当籤役グループ番号がＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤に用いられる。当該抽籤の結果が「ＢＧ_ＲＵＳＨ中」であった場合は、そのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値と、「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」とが比較され、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値が「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」未満であった場合は、当該抽籤結果が破棄される。当該抽籤結果が破棄されなかった場合は、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「ＢＧ前兆」）。

【３５６５】

補償モード管理フラグに「補償中」が設定されているときにＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤で「ＢＧ_ＲＵＳＨ中」に当籤した場合は、そのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「ＢＧ前兆」）。ＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤で「フェイク_ＲＵＳＨ中」に当籤した場合は、補償モード管理フラグの設定内容やそのときの「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値とは無関係に、当該抽籤結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」に設定される（「前兆種別_ＲＵＳＨ中」＝「フェイク前兆」）。

【３５６６】

そして、ＲＵＳＨ中_ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤の結果が「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に設定されたあとに、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域の記憶内容が参照され、その結果、当該記憶領域に「なし」以外が設定されていた場合は、前兆ゲーム数抽籤テーブルを用いた前兆ゲーム数抽籤が行われる。当該前兆ゲーム数抽籤の結果は、前兆ゲーム数カウンタに設定されるとともに、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示不許可」が設定

される。なお、当該前兆ゲーム数抽籤の構成は、一般中（有利区間）で行われる前兆ゲーム数抽籤と同じであるため説明を省略する。また、遊技状態（ＲＵＳＨ）において、前兆ゲーム数カウンタの値は、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ中」以外が設定されている状態、役抽籤結果が当籤役グループ名「択役」の当籤役グループに属するいずれかの当籤役への当籤であったゲームの毎ゲームで１つ減算される。

【３５６７】

遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合は、ＧＳＢ表示許可フラグに「ＧＳＢ表示許可」が設定される。

【３５６８】

遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合において、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「一般中」が設定されるとともに、ＲＵＳＨナビ数カウンタの値がクリアされる。また、「ＲＵＳＨ中種別」記憶領域の記憶内容、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域の記憶内容、ＧＳＢ表示許可フラグも夫々クリアされる。

【３５６９】

また、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されており、かつ、ＢＣパンクフラグに「パンク時ＢＣ移行」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＢＣ」が設定される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＣナビ回数初期値（３０）」が設定され、「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」が減算される。また、ＢＣパンクフラグがクリアされる。

【３５７０】

また、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されている状態で、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されていた場合において、ＭＡＰ終了フラグに「天井終了」が設定されているか、強制終了フラグに「強制終了」が設定されているか、補償モード管理フラグに「補償モード後」が設定されているかのいずれかの場合は、出玉状態記憶領域に「有利区間終了要求」が設定される。

【３５７１】

また、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合において、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されていた場合は、短時間ガード用ゲーム数カウンタの値がクリアされる。

【３５７２】

また、遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった場合において、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「パンク待機」が設定されていた場合は、図２６５に一例を示す初期ＡＴレベル抽籤テーブルのシナリオ記憶領域に記憶されているシナリオ番号部分を用いた初期ＡＴレベル抽籤が行われ、当該抽籤結果がＡＴレベル記憶領域に設定される。

【３５７３】

遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「ＢＧ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＢＧ」が設定される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＧナビ回数初期値（６）」が設定されるとともに、補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されていた場合は「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＧ移行時減算値（７）」が減算される。さらに、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域の記憶内容がクリアされ、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフ

ラグに「ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」が設定される。

【３５７４】

遊技状態（ＲＵＳＨ）中に、ＧＳＢ表示許可フラグが「ＧＳＢ中」以外が設定されているときに、前兆ゲーム数カウンタの値が０になった際、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域に「ＢＣ前兆」が設定されていた場合は、出玉状態記憶領域に「ＢＣ」が設定される。このとき、疑似ＢＮＳナビ数カウンタに「ＢＣナビ回数初期値（３０）」が設定されるとともに、補償モード管理フラグに「補償モード中」以外が設定されていた場合は「ＴＹ値_ＲＵＳＨ」記憶領域の値から「ＴＹ値_ＢＣ移行時減算値（３４）」が減算される。さらに、「前兆種別_ＲＵＳＨ中」記憶領域の記憶内容がクリアされ、ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳフラグに「ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ」が設定される。

【３５７５】

上記した第２の遊技機であるパチスロ機１において、補償モード中になった場合はその旨を遊技者に報知する報知手段を備えていてもよい。報知手段は、音声報知であっても、ランプ点灯報知であってもよく、その旨を遊技者に報知できる手段であれば適宜採用可能である。

【３５７６】

上記した第２の遊技機であるパチスロ機１において、遊技状態（前兆Ａ）または遊技状態（前兆Ｂ）の遊技では、第１、第２疑似ボーナス遊技状態（ＢＧ、ＢＣ）、遊技状態（ＲＵＳＨ）に移行する可能性を示唆する演出（前兆演出）が行われるようにしてもよい。前兆演出としては、例えば、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒのバウンドストップ演出や、リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの回転開始タイミングの遅れ演出などが挙げられる。

【３５７７】

また、上記した実施形態において、補償モード中に減少した遊技媒体（メダル）の増減のカウント（補償ポイントカウンタのカウント）を、メダルの賭け数と、有利な押し順の報知が有るとき（ＡＴ時_補償ポイントデータテーブル）と、有利な押し順の報知がないとき（非ＡＴ時_補償ポイントデータテーブル）とで個別に設けられた補償ポイントデータテーブルを用いておおよそを把握するようにしたが、メダルの賭け数と、実際に払い出されたメダルの枚数を参照して、補償ポイントカウンタの値を更新するようにしてもよい。また、推奨された停止操作態様（本実施形態の左第１停止）である場合には、補償ポイントデータテーブルを参照して補償ポイントを更新し、推奨された停止操作態様以外（例えば、中第１停止や右第１停止）である場合には、実際に払い出されたメダルの枚数を参照して、補償ポイントカウンタの値を更新するものとしてもよい。また、推奨された停止操作態様以外の場合は、補償ポイントカウンタの更新を行わないようにしてもよい。

【３５７８】

また、上記した実施形態において、「ＭＡＰ種別」記憶領域に「天井」が設定されているときに、前兆移行抽籤に当籤するか、天井（ＭＡＰ種別＝「天井」の最終ゲーム）に到達した際、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されていた場合は、その後の遊技状態（ＲＵＳＨ）で、少なくとも補償モード中に減少した遊技媒体（メダル）が付与されるまで（補償ポイントカウンタ＞０）、当該遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了しないように構成したが、その他の「ＭＡＰ種別」のＭＡＰが進行しているときに、前兆移行抽籤で当籤（「ＲＵＳＨ前兆」）した際、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されていれば、少なくとも補償モード中に減少した遊技媒体（メダル）が付与されるまで（補償ポイントカウンタ＞０）、当該遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了しないように構成してもよい。

【３５７９】

また、上記した第２の遊技機であるパチスロ機１において、ＭＡＰ種別」記憶領域に「天井」が設定されているときに、前兆移行抽籤に当籤するか、天井（ＭＡＰ種別＝「天井」の最終ゲーム）に到達した際、補償モード管理フラグに「補償モード中」が設定されていた場合は、その後の遊技状態（ＲＵＳＨ）で、少なくとも補償モード中に減少した遊技媒体量（メダル枚数）が付与されるまで（補償ポイントカウンタ＞０）、当該遊技状態（

ＲＵＳＨ）が終了しないように構成したが、補償モード中に減少した遊技媒体量（メダル枚数）の一部が付与されるまでは少なくとも当該遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了しないように構成してもよい。すなわち、当該遊技状態（ＲＵＳＨ）において、補償モード中に減少したメダルの全てが回復するのではなく、当該減少したメダルの部分的に回復する構成であってもよい。この場合、例えば、補償モード中にメダルの減少量がＡ枚であった場合は、０～Ａ枚の範囲の値を抽籤（回復枚数抽籤）により決定し、少なくとも回復枚数抽籤で決定された枚数分が回復するまで、当該遊技状態（ＲＵＳＨ）が終了しないように構成してもよい。

【３５８０】

［１１－３４．付記］

従来の遊技機において、１の有利区間の上限ゲーム数を１５００ゲームとすることで、射幸性を抑制した遊技機が知られている（例えば、特開２０１７－１６９９６８号公報（例えば、段落０１６８）参照）。

【３５８１】

しかしながら、このような遊技機では射幸性を抑制できるものの、一方で獲得できる出玉の上限も分かり易く遊技の興趣が低下する場合があった。

【３５８２】

付記は、上記課題に鑑みてなされたものであり、適切に射幸性を抑制しつつ、遊技の興趣の低下を抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【３５８３】

上記目的を達成するために、付記に係る遊技機によれば、以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【３５８４】

（１）の遊技機は、複数種類の図柄を可変表示する可変表示列を複数有する表示手段（リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｃ）と、前記可変表示列それぞれの可変表示を停止させる停止操作手段（ストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｃ）とを備え、所定量の遊技用価値を１回の賭け量として遊技が行われるとともに、全ての前記可変表示列が停止したときの図柄組合せに応じて遊技者に前記遊技用価値を付与する（図２４３）遊技機において、

前記停止操作手段の操作態様によって遊技者に付与する付与量が異なる特定役を含む複数の役（図２５３）のうちのいずれの役に当籤したか否かを決定する役抽籤を行う役抽籤手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１））と、

前記特定役に当籤したときに、遊技者に前記停止操作手段の有利な操作態様を報知することが許容される有利区間（図２８４の有利区間）と、前記特定役に当籤したときに、遊技者の前記停止操作手段の有利な操作態様を報知することが禁止される非有利区間（図２８４の有利区間）との間の移行を制御する有利区間移行制御手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１））と、

前記遊技用価値の増減量をカウントする第１遊技用価値増減量カウント手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）の差数カウンタ）と、を備え、

前記第１遊技用価値増減量カウント手段は、前記有利区間に移行してからの前記遊技用価値の増減量をカウントできるように構成され、

前記有利区間移行制御手段による前記有利区間から前記非有利区間に移行させる条件として、

前記第１遊技用価値増減量カウント手段によりカウントされた前記有利区間に移行してからの前記遊技用価値の増加量が、所定の閾値（差数カウンタの規定値）を超えることを含むこと

を特徴とする。

【３５８５】

このような構成によれば、有利区間開始時を基準とし、有利区間開始からの遊技用価値の増加量が所定の閾値を超えた場合に、有利区間から非有利区間に移行させるため、有利区間における遊技用価値の最下点からの遊技用価値の増加量を大きくしつつ、有利区間開

始時からの遊技用価値の増加量を所定の閾値を超えないようにすることができ、これにより、適切に射幸性を抑制しつつ、遊技の興趣の低下を抑制できる。

【３５８６】

（２）の遊技機は、上記（１）の遊技機において、

有利区間は、通常区間（図２８４の一般中）と、前記通常区間よりも有利な出玉区間（図２８４のＲＵＳＨ）とを含み、

所定の出玉区間移行条件が成立した（図２６１などの前兆移行抽籤テーブルを用いて行われる前兆移行抽籤の抽籤結果が「ＲＵＳＨ前兆」である）ことを契機として、前記出玉区間に移行させる（図２８４の前兆Ｂを経由してＲＵＳＨ）出玉区間移行制御手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１））と、

前記出玉区間を終了させる出玉区間終了制御手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１））と、

所定の特定遊技状態移行条件が成立した（図２７３の補償モード移行抽籤テーブルを用いた補償モード移行抽籤の抽籤結果が「補償モード移行」である）ことを契機として、前記出玉区間への移行前の前記通常区間に始まる特定遊技状態（補償モード中の状態）に移行させる特定遊技状態移行制御手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１））と、

前記特定遊技状態に移行してからの前記遊技用価値の増減量をカウントする第２遊技用価値増減量カウント手段（主制御回路１００（メインＣＰＵ１０１）の補償ポイントカウンタ）とを備え、

前記出玉区間終了制御手段は、前記特定遊技状態のときに移行した前記出玉区間について、前記第２遊技用価値増減量カウント手段によりカウントされた前記遊技用価値が増加に転じるまでは（補償ポイントカウンタの値が補償モード開始時の値を超えるまでは）少なくとも当該出玉区間を終了させない出玉区間終了禁止制御を行うことが可能に構成されている ことを特徴とする。

【３５８７】

このような構成によれば、出玉区間を終了させない出玉区間終了禁止制御を、特定遊技状態の開始時を基準として行うことにより、有利区間開始後に、早期に特定遊技状態が開始された場合の方が、遅くに特定遊技状態が開始された場合に比べて、遊技者にとって有利なり、このため、遊技の興趣の向上を図ることができる。

【３５８８】

（３）の遊技機は、

上記（２）の遊技機において、

前記出玉区間終了制御手段は、所定の禁止制御実行条件が成立した場合に（ＭＡＰ種別＝天井のＭＡＰでの最終遊技に到達した場合などに）前記出玉区間終了禁止制御を実行する ことを特徴とする。

【３５８９】

このような構成によれば、出玉区間を終了させない出玉区間終了禁止制御が常に行われることがないので、遊技の興趣の向上を図ることができる。

【３５９０】

上記の実施形態及び上記の変形例等の内容を適宜組み合わせることができる。

【３５９１】

［第７実施形態］

以下、第７実施形態について説明する。第７実施形態は、遊技機（例えば、いわゆる「パチンコ機」や「パチスロ機（スロットマシン）」等と称される遊技機）において電子部品間の信号の伝送に用いられる伝送手段に関する。

【３５９２】

第７実施形態の遊技機は、少なくとも一部の電子部品間で信号を伝送するための伝送手段として、同軸ケーブルを用いるものである。

【３５９３】

まず、同軸ケーブル７００について、図２８５および図２８６を参照して説明する。図

２８５は同軸ケーブル７００の構成を示す斜視図であり、図２８６は図２８５の同軸ケーブル７００の断面図である。

【３５９４】

同軸ケーブル７００は、図２８５および図２８６に示すように、内側導体７００ａと、内側導体７００ａの外周を取り巻く内側絶縁体７００ｂと、内側絶縁体７００ｂの外周を取り巻く外側導体７００ｃと、外側導体７００ｃの外周を取り巻く外側絶縁体７００ｄと、を有し、内側導体７００ａ、内側絶縁体７００ｂ、外側導体７００ｃおよび外側絶縁体７００ｄは軸を同じくしている。なお、例えば、内側導体を「中心導体」と称し、内側絶縁体を「絶縁体」と称し、外側導体を「外部導体（シールド）」と称し、外側絶縁体を「ジャケット」と称することがある。

【３５９５】

同軸ケーブル７００の一端側の部分に関して、ここでは、同軸ケーブル７００の一端側の先端から順に「一端側の第１部分」、「一端側の第２部分」、「一端側の第３部分」と呼ぶことにする。図２８５に斜視図を示す同軸ケーブル７００の例では、同軸ケーブル７００は、その一端側の第１部分において、内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃと外側絶縁体７００ｄとが取り除かれて内側導体７００ａだけになっており、つまり、内側導体７００ａが剥き出しとなっており、例えば、剥き出しとなった内側導体７００ａが伝送経路（例えば、信号ラインを形成するコネクタのコネクタ端子など）に電気的に接続される。また、同軸ケーブル７００は、その一端側の第２部分において、外側導体７００ｃと外側絶縁体７００ｄとが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂとだけになっており、つまり、内側絶縁体７００ｂが剥き出しとなっている。また、同軸ケーブル７００は、その一端側の第３部分において、外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっており、つまり、外側導体７００ｃが剥き出しとなっており、例えば、剥き出しとなった外側導体７００ｃがグランド（例えば、コネクタのグランドバーなど）に電気的に接続される。

【３５９６】

また、同軸ケーブル７００の他端側の部分に関して、ここでは、同軸ケーブル７００の他端側の先端から順に「他端側の第１部分」、「他端側の第２部分」、「他端側の第３部分」と呼ぶことにする。同軸ケーブル７００は、その他端側において図２８５に斜視図を示す同軸ケーブル７００の一端側と同じ構造となっている。同軸ケーブル７００は、その他端側の第１部分において、内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃと外側絶縁体７００ｄとが取り除かれて内側導体７００ａだけになっており、つまり、内側導体７００ａが剥き出しとなっており、例えば、剥き出しとなった内側導体７００ａが伝送経路（例えば、信号ラインを形成するコネクタのコネクタ端子など）に電気的に接続される。また、同軸ケーブル７００は、その他端側の第２部分において、外側導体７００ｃと外側絶縁体７００ｄとが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂとだけになっており、つまり、内側絶縁体７００ｂが剥き出しとなっている。また、同軸ケーブル７００は、その他端側の第３部分において、外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっており、つまり、外側導体７００ｃが剥き出しとなっており、例えば、剥き出しとなった外側導体７００ｃがグランド（例えば、コネクタのグランドバーなど）に電気的に接続される。

【３５９７】

同軸ケーブル７００は、同軸ケーブル７００の一端側の第１部分、一端側の第２部分および一端側の第３部分、並びに、同軸ケーブル７００の他端側の第１部分、他端側の第２部分および他端側の第３部分を除く部分では、内側導体７００ａ、内側絶縁体７００ｂ、外側導体７００ｃ、および、外側絶縁体７００ｄのいずれも取り除かれておらず、外側導体７００ｃなどが外側絶縁体７００ｄにより保護されている。

【３５９８】

同軸ケーブル７００は、内側導体７００ａを覆う外側導体７００ｃが電磁シールドの役割を果たすため、内側導体７００ａを伝送する電気信号が外部から到来する電磁波（電磁

ノイズ（以下、単に、「ノイズ」と称することもある。））の影響を受けにくいという特徴を有している。

【３５９９】

ここで、同軸ケーブル７００の電磁ノイズに対する耐性とディスクリートケーブル７０１の電磁ノイズに対する耐性とを図２８７を参照して比較する。

【３６００】

ディスクリートケーブル７０１は、図２８７（ｂ）に示すように、電気信号が伝送する導体７０１ａと、導体７０１ａの外周を取り巻く絶縁体７０１ｂとを有するケーブルである。ただし、ディスクリートケーブル７０１は、同軸ケーブル７００のように導体７０１ａを覆って電磁シールドの役割を果たす導体（シールド）を有していない。なお、例えば、絶縁体を「ジャケット」と称することがある。

【３６０１】

ディスクリートケーブル７０１は、ディスクリートケーブル７０１の一方側の先端部および他方側の先端部のそれぞれにおいて絶縁体７０１ｂが取り除かれて導体７０１ａだけになっており、つまり、導体７０１ａが剥き出しとなっており、例えば、剥き出しとなった導体７０１ａが伝送ライン（例えば、信号ラインを形成するコネクタのコネクタ端子、電力ラインなど）に電気的に接続される。ディスクリートケーブル７０１は、ディスクリートケーブル７０１の一方側の先端部および他方側の先端部を除く部分では、導体７０１ａおよび絶縁体７０１ｂのいずれも取り除かれておらず、導体７０１ａが絶縁体７０１ｂにより保護されている。

【３６０２】

図２８７（ｂ）のように２本のディスクリートケーブル７０１を近い距離に配置した場合、ディスクリートケーブル７０１には、導体７０１ａを覆う導体（シールド）がないため、２本のディスクリートケーブル７０１を伝送する信号間で干渉が生じやすいなど、ディスクリートケーブル７００を伝送する信号にノイズが重畳しやすい。このため、高速通信を行うと通信エラーが発生しやすい。

【３６０３】

一方、図２８７（ａ）のように２本の同軸ケーブル７００を近い距離に配置した場合、同軸ケーブル７００には内側導体７００ａを覆う外側導体７００ｃ（内側導体７００ａに対してシールドとして機能する外側導体７００ｃ）があるため、２本の同軸ケーブル７００を伝送する信号間で干渉が生じにくいなど、同軸ケーブル７００を伝送する信号にノイズが重畳しにくい。このため、高速通信を行っても通信エラーが発生しにくい。

【３６０４】

従って、同軸ケーブル７００とディスクリートケーブル７０１とを比べた場合、同軸ケーブル７００の方がディスクリートケーブル７０１よりもノイズ耐性が強くなっており、高速通信を行う場合には、ディスクリートケーブル７０１を用いるよりも同軸ケーブル７００を用いる方が有利である。

【３６０５】

第７実施形態の遊技機では、同軸ケーブル７００の外径（外側絶縁体７００ｄの外周の径）を図２８６に示すようにＤミリメートルとした場合、外径Ｄミリメートルが略１ミリメートル以下である同軸ケーブル７００を伝送手段として用いることにする。外径Ｄミリメートルが略１ミリメートル以下の細い同軸ケーブル７００を用いることで、同軸ケーブル７００の背後などにゴト部品を隠すことが困難となり、セキュリティの向上を図ることができる。なお、以下では、外径Ｄミリメートルが略１ミリメートル以下である同軸ケーブル７００を、適宜、「細線同軸ケーブル７００」と記載して説明する。

【３６０６】

なお、遊技機において電子部品間の信号の伝送に用いる同軸ケーブル７００は、外径Ｄミリメートルが略１ミリメートル以下である同軸ケーブル７００（細線同軸ケーブル７００）に限定されるものではなく、外径Ｄミリメートルが略１ミリメートルを超える同軸ケーブル７００であってもよい。

【３６０７】
　続いて、遊技機において用いられる一のケーブルアッセンブリ（ハーネス）Ｈについて図２８８を参照して説明する。図２８８はケーブルアッセンブリ（ハーネス）Ｈの外観を示す模式図である。
【３６０８】
　ケーブルアッセンブリＨは、ケーブルサブアッセンブリ７１０と、ケーブルサブアッセンブリ７１０の一端側に取り付けた第１のコネクタ７２０Ａと、ケーブルサブアッセンブリ７１０の他端側に取り付けた第２のコネクタ７２０Ｂとを有するようにして構成されている。
【３６０９】
　第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂは、それぞれ、複数のコネクタ端子を有するオス側のコネクタであり、複数のコネクタ端子を有するメス側の第１のコネクタおよび第２のコネクタに取り付けられる。取り付ける相手の第１のコネクタおよび第２のコネクタは、例えば、互いに異なる回路基板に設けられている。なお、第７実施形態の遊技機の説明においては、ケーブルアッセンブリＨが備える第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂなど、ケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタおよび第２のコネクタをオス側とし、取り付ける相手の第１のコネクタおよび第２のコネクタをメス側とするが、オス側とメス側とが逆であってもよい。
【３６１０】
　ケーブルサブアッセンブリ７１０は、複数（例えば、３０本）の細線同軸ケーブル７００を有するように構成されている。なお、図２８８では、図面の簡略化のために、細線同軸ケーブル７００の本数を２本として描いている。ケーブルサブアッセンブリ７１０は、細線同軸ケーブル７００を有しているが、細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１など）を有していないケーブルサブアッセンブリ（例えば、図２９０（ａ）に一端側の斜視図を示すオール細線同軸タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ａ、図２９０（ｃ）に一端側の斜視図を示すグランドフィンガータイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｃなど）である。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０は、例えば、複数の細線同軸ケーブル７００および細線同軸ケーブル７００以外の複数（例えば、４本）のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１）を有するケーブルサブアッセンブリ（例えば、図２９０（ｂ）に一端側の斜視図を示す細線同軸／ディスクリートケーブル混合結線タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｂなど）であってもよい。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａ，７１０ｂ，７１０ｃの詳細については、図２９０（ａ），（ｂ），（ｃ）を参照して後述する。
【３６１１】
　図２８８ではケーブルアッセンブリＨを２本の細線同軸ケーブル７００を一巻きした状態で描いており、細線同軸ケーブル７００は屈曲性が高い特徴を有している。このため、ケーブルアッセンブリＨを遊技機に設置する場合に細線同軸ケーブル７００を大きく曲げながら設置することができる。よって、第１のコネクタ７２０Ａを取り付ける相手の第１のコネクタと第２のコネクタ７２０Ｂを取り付ける相手の第２のコネクタとの位置関係による制約、および、第１のコネクタ７２０Ａを取り付ける相手の第１のコネクタと第２のコネクタ７２０Ｂを取り付ける相手の第２のコネクタとの間に部品などが存在するか否かによる制約をあまり受けずに、第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂを取り付け相手の第１のコネクタおよび第２のコネクタに取り付けることができる。なお、この点については、図２９４から図２９６を参照して後述する。
【３６１２】
　続いて、遊技機において用いられる他のケーブルアッセンブリ（ハーネス）Ｈ１について図２８９を参照して説明する。図２８９（ａ）はケーブルアッセンブリＨ１の概略の平面図であり、図２８９（ｂ）は図２８９（ａ）ケーブルアッセンブリＨ１の概略の断面図である。
【３６１３】

ケーブルアッセンブリＨ１は、図２８９（ａ），（ｂ）に示すように、ケーブルサブアッセンブリ７１０と、ケーブルサブアッセンブリ７１０の一端側に取り付けた第１のコネクタ７２０Ａと、ケーブルサブアッセンブリ７１０の他端側に取り付けた第２のコネクタ７２０Ｂと、チューブ７２１とを有するようにして構成されている。なお、ケーブルアッセンブリＨ１は、チューブ７２１を有している点を除いて、図２８８のケーブルアッセンブリＨと同様の構造である。

【３６１４】

第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂは、それぞれ、複数のコネクタ端子を有するオス側のコネクタであり、複数のコネクタ端子を有するメス側の第１のコネクタおよび第２のコネクタに取り付けられる。取り付ける相手のメス側の第１のコネクタおよび第２のコネクタは、例えば、互いに異なる回路基板に設けられている。

【３６１５】

ケーブルサブアッセンブリ７１０は、複数（例えば、３０本）の細線同軸ケーブル７００を有するように構成されている。なお、図２８９では、図面の簡略化のために、細線同軸ケーブル７００の本数を５本として描いている。ケーブルサブアッセンブリ７１０は、細線同軸ケーブル７００を有しているが、細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１など）を有していないケーブルサブアッセンブリ（例えば、図２９０（ａ）に一端側の斜視図を示すオール細線同軸タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ａ、図２９０（ｃ）に一端側の斜視図を示すグランドフィンガータイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｃなど）である。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０は、例えば、１または複数の細線同軸ケーブル７００および細線同軸ケーブル７００以外の１または複数のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１）を有するケーブルサブアッセンブリ（例えば、図２９０（ｂ）に一端側の斜視図を示す細線同軸／ディスクリートケーブル混合結線タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｂ）など）であってもよい。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａ，７１０ｂ，７１０ｃの詳細については、図２９０（ａ），（ｂ），（ｃ）を参照して後述する。

【３６１６】

ケーブルを保持する保持部材としてのチューブ７２１は、例えば、円筒形状をしている。ケーブルサブアッセンブリ７１０が細線同軸ケーブル７００を有しているが、細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１）を有していないケーブルサブアッセンブリである場合、細線同軸ケーブル７００の全てがチューブ７２１の内側に束ねて収容されてチューブ７２１の内側に保持される。なお、例えば、ケーブルサブアッセンブリ７１０が細線同軸ケーブル７００および細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１）を有するケーブルサブアッセンブリである場合、細線同軸ケーブル７００の全ておよび細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えばディスクリートケーブル７０１）の全てがチューブ７２１の内側に束ねて収容されてチューブ７２１の内側に保持されるようにする。

【３６１７】

また、チューブ７２１は、例えば、弾力性のある樹脂製であり、屈曲性に優れている。チューブ７２１の内側に収容されている細線同軸ケーブル７００に加えて、チューブ７２１も屈曲性を高くすることで、ケーブルアッセンブリＨ１を遊技機に設置する場合にチューブ７２１と細線同軸ケーブル７００とを大きく曲げながら設置することができる。よって、第１のコネクタ７２０Ａを取り付ける相手の第１のコネクタと第２のコネクタ７２０Ｂを取り付ける相手の第２のコネクタとの位置関係による制約、および、第１のコネクタ７２０Ａを取り付ける相手の第１のコネクタと第２のコネクタ７２０Ｂを取り付ける相手の第２のコネクタとの間に部品などが存在するか否かによる制約をあまり受けずに、第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂを取り付け相手の第１のコネクタおよび第２のコネクタに取り付けることができる。

【３６１８】

また、チューブ７２１は、チューブ７２１の外側からチューブ７２１が介在するように

してチューブ７２１の内側を見た場合に、チューブ７２１の内側が視認可能となる程度の透過性を有しており、例えば透明や半透明になっている。このため、細線同軸ケーブル７００のうちのチューブ７２１の内側に収容されている部分はチューブ７２１の外部から視認可能である。なお、図２８９（ａ）では、外部から視認可能な細線同軸ケーブル７００のうちのチューブ７２１の内側に収容されている部分を点線で描いている。

【３６１９】

透過性のあるチューブ７２１を利用することで、チューブ７２１の外側から細線同軸ケーブル７００の視認が可能となって細線同軸ケーブル７００の不正使用を防ぐことができる。また、透過性のあるチューブ７２１を利用することで、チューブ７２１がチューブ７２１の内側やチューブ７２１の背後の視認の妨げとならず、ゴト部品を隠すことが困難となり、セキュリティの向上を図ることができる。

【３６２０】

また、チューブ７２１には、図２８９（ａ）に示すように、ケーブルアッセンブリＨ１（細線同軸ケーブル７００などを有するケーブルサブアッセンブリ７１０、第１のコネクタ７２０Ａ、第２のコネクタ７２０Ｂ、および、チューブ７２１を備えるケーブルアッセンブリＨ１）を識別するための識別情報（ケーブルアッセンブリ用識別情報）７２２が付されており、図２８９（ａ）の例では、ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２として識別番号「ＵＥ－１２３４５６」が付されている。なお、ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２は、識別番号に限定されるものではなく、例えば、識別記号であってもよいし、ケーブルアッセンブリＨ１の識別を可能にする情報を取得可能なコード（例えば、バーコード、ＱＲコード（登録商標））などであってもよい。

【３６２１】

外径の小さい細線同軸ケーブル７００に当該細線同軸ケーブル７００を識別するための識別情報（細線同軸ケーブル用識別情報）を付すことは困難である場合もあり、また、複数の細線同軸ケーブル７００それぞれに細線同軸ケーブル用識別情報を付すのは識別情報を付す部品点数が多くなって製造時の作業効率が悪く、コストもかかることも想定される。これに対して、内側に複数の細線同軸ケーブル７００を束ねて保持するチューブ７２１は一本の細線同軸ケーブル７００に比べて外径が大きいため、ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２をチューブ７２１に容易に付すことができ、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付す場合は複数の細線同軸ケーブル７００それぞれに細線同軸ケーブル用識別情報を付す場合に比べて識別情報を付す部品点数が少なくなるため、製造時の作業効率の向上を図ることができ、コストも抑えることができる。

【３６２２】

これと同様の利点は、ケーブルアッセンブリが細線同軸ケーブル７００および細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えば、ディスクリートケーブル７０１）を有する場合、ケーブルアッセンブリが細線同軸ケーブル７００と細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えば、ディスクリートケーブル７０１）とをあわせて２本以上有し、ケーブルアッセンブリが有する細線同軸ケーブル７００および細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えば、ディスクリートケーブル７０１）をチューブ７２１に収容して、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付するときにも得られる。

【３６２３】

なお、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付す仕組みは、ケーブルアッセンブリが細線同軸ケーブル７００を有するが、細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（例えば、ディスクリートケーブル７０１）を有しない場合において、ケーブルアッセンブリが有する細線同軸ケーブル７００が１本の場合であっても適用可能である。この場合、内側に１本の細線同軸ケーブル７００を保持するチューブ７２１は一本の細線同軸ケーブル７００に比べて外径が大きいため、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付すことが容易となる。

【３６２４】

ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２のチューブ７２１への形成は、ケーブルアッセ

ンブリ用識別情報７２２をチューブ７２１に直接印刷したりレーザー刻印したりなどして行うことができる。また、ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２のチューブ７２１への形成は、予めケーブルアッセンブリ用識別情報７２２をシールに印刷しておいて当該シールをチューブ７２１に貼付して行うようにしてもよく、この場合、ケーブルアッセンブリ用識別情報７２２が印刷されたシールを用意してチューブ７２１に貼付するという簡単な作業を行えば足りるので、ケーブルアッセンブリＨ１の製造効率の向上を図ることができる。

【３６２５】

なお、チューブ７２１に付すケーブルアッセンブリ用識別情報７２２は、ケーブルアッセンブリＨ１を識別するための識別情報としたが、これに限定されるものではなく、例えば、ケーブルサブアッセンブリ７１０を識別するための識別情報（ケーブルサブアッセンブリ用識別情報）であってもよい。

【３６２６】

また、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付す代わりに、または、チューブ７２１にケーブルアッセンブリ用識別情報７２２を付すとともに、細線同軸ケーブル７００を含む複数のケーブルそれぞれに当該ケーブルを識別するための識別情報（ケーブル用識別情報）を付すようにしてもよい。この場合、ケーブルの各々にケーブル用識別情報が付されているので、ケーブルそれぞれが正規品かどうかを確認できる。

【３６２７】

なお、チューブ７２１に、ケーブルアッセンブリＨ１の部品情報（ケーブルアッセンブリＨ１の例えば性能や仕様などの情報）の取得を可能にするコード（例えば、バーコード、ＱＲコード（登録商標）など）を付すようにしてもよい。作業員はコードを読み取ってコードに書かれたＵＲＬにアクセスすることでケーブルアッセンブリＨ１の部品情報を容易に取得して確認でき、ケーブルアッセンブリＨ１の部品情報を確認しながらケーブルアッセンブリＨ１を遊技機に取り付けることができる。

【３６２８】

部品情報のチューブ７２１への形成は、部品情報をチューブ７２１に直接印刷したりレーザー刻印したりなどして行うことができる。また、部品情報のチューブ７２１への形成は、予め部品情報をシールに印刷しておいて当該シールをチューブ７２１に貼付するようにしてもよく、この場合、部品情報が印刷されたシールを用意してチューブ７２１に貼付するという簡単な作業を行えば足りるので、ケーブルアッセンブリＨ１の製造効率の向上を図ることができる。

【３６２９】

なお、チューブ７２１に付す部品情報は、ケーブルアッセンブリＨ１の部品情報としたが、これに限定されるものではなく、例えば、ケーブルサブアッセンブリ７１０の部品情報（ケーブルサブアッセンブリ７１０の例えば性能や仕様などの情報）であってもよい。

【３６３０】

ケーブルアッセンブリ（ハーネス）Ｈ，Ｈ１が備えるオス側の第１のコネクタ７２０Ａおよび第２のコネクタ７２０Ｂ、並びに、第１のコネクタ７２０Ａを取り付ける第１の部材（液晶表示装置などの表示装置や回路基板など）に設けられたメス側の第１のコネクタ、および、第２のコネクタ７２０Ｂを取り付ける第２の部材（液晶表示装置などの表示装置や回路基板など）に設けられたメス側の第２のコネクタは、細線同軸ケーブル７００を使用して主に第１の部材と第２の部材間のデジタル信号を差動伝送方式で接続する際に利用される。細線同軸ケーブル７００を使用して適切なデジタル信号の伝送を行うために、例えば、次の接続が行われる。

【３６３１】

ケーブルアッセンブリＨ，Ｈ１のオス側の第１のコネクタ７２０Ａを、第１の部材のメス側の第１のコネクタに取り付けた場合、内側導体７００ａは、オス側の第１のコネクタ７２０Ａのコネクタ端子およびメス側の第１のコネクタのコネクタ端子を経由して第１の部材の信号回路に電気的に接続され、外側導体７００ｃは、オス側の第１のコネクタ７２

０Ａの金属構造部品（シェル）およびメス側の第１のコネクタの金属構造部品（シェル）を経由して第１の部材のグランドに接続される。また、ケーブルアッセンブリＨ，Ｈ１のオス側の第２のコネクタ７２０Ｂを、第２の部材のメス側の第２のコネクタに取り付けた場合、内側導体７００ａは、オス側の第２のコネクタ７２０Ｂのコネクタ端子およびメス側の第２のコネクタのコネクタ端子を経由して第２の部材の信号回路に電気的に接続され、外側導体７００ｃは、オス側の第２のコネクタ７２０Ｂの金属構造部品（シェル）およびメス側の第２のコネクタの金属構造部品（シェル）を経由して第２の部材のグランドに接続される。このように、外側導体７００ｃをグランドに接続することで、外側導体７００ｃのシールド性能が高まり、高速通信などの通信品質を向上させることができる。

【３６３２】

続いて、細線同軸ケーブル７００を構成部品として有するケーブルサブアッセンブリ７１０ａ，７１０ｂ，７１０ｃについて図２９０（ａ），（ｂ），（ｃ）を参照して説明する。

【３６３３】

図２９０（ａ）はオール細線同軸タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ａの斜視図である。なお、図２９０（ａ）では、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａの一方の端部側を図示しており、他方の端部側も同じ構造となっている。

【３６３４】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ａは、ケーブルとして電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む細線同軸ケーブル７００のみを結線させたものである。ケーブルサブアッセンブリ７１０ａは、複数（例えば、３０本）の細線同軸ケーブル７００と、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられた第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａと、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられた第２の細線同軸ケーブル用グランドバー（不図示）とを有する。複数の細線同軸ケーブル７００の各々は、例えば、図２８５および図２８６を用いて説明した構造を有しており、外径Ｄミリメートルがほぼ１ミリメートル以下である。ケーブルサブアッセンブリ７１０ａは、ケーブルとして、複数の細線同軸ケーブル７００のみを有し、細線同軸ケーブル７００以外のケーブル（ディスクリートケーブルなど）を有していない。なお、図２９０（ａ）では、図面の簡略化のために、細線同軸ケーブル７００の本数を７本として描いている。

【３６３５】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ａが備える複数の細線同軸ケーブル７００は、全て同じ径の細線同軸ケーブル７００であるとする。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａが備える複数の細線同軸ケーブル７００として、異なる径の細線同軸ケーブル７００を使用することも可能であり、例えば、ＤＡ＋ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００のうち、ＤＡ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄａの細線同軸ケーブル７００を用い、ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄｂの細線同軸ケーブル７００を用いることも可能である（Ｄａ≠Ｄｂ）。

【３６３６】

また、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａは、複数の細線同軸ケーブル７００を内側に収容する、上述したチューブ７２１に相当する部品（不図示）を備えている。なお、当該部品を備えていなくてもよい。

【３６３７】

第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａには、図２９０（ａ）に示すように、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の一方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側

絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａに電気的に接続される。

【３６３８】

第２の細線同軸ケーブル用グランドバーは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーには、第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ａと同様に、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の他方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに電気的に接続される。

【３６３９】

複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａの各々が、ケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａの一方側が第１のコネクタに取り付けられる。また、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａの各々が、ケーブルアッセンブリが備える第２のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａの他方側が第２のコネクタに取り付けられる。これにより、ケーブルアッセンブリが完成する。

【３６４０】

このように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部の各々を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に結線し、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部の各々を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に結線する前に、ケーブルサブアッセンブリ７１０ａを作成する。このようにすることで、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部の各々を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となり、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部の各々を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となる。これにより、複数の細線同軸ケーブル７００の第１のコネクタへの結線工程および複数の細線同軸ケーブル７００の第２のコネクタへの結線工程が簡素化され、品質の安定性も向上する。

【３６４１】

図２９０（ｂ）は細線同軸／ディスクリートケーブル混合結線タイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｂの斜視図である。なお、図２９０（ｂ）では、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂの一方の端部側を図示しており、他方の端部側も同じ構造となっている。

【３６４２】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂは、ケーブルとして電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む細線同軸ケーブル７００と電源供給用としてのケーブル（図２９０（ｂ）では、ディスクリートケーブル７０１）とを一緒に結線させるものである。ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂは、複数（例えば、３０本）の細線同軸ケーブル７００と、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられた第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂと、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられた第２の細線同軸ケーブル用グランドバー（不図示）と、複数（例えば、４本）のディスクリートケーブル７０１とを有する。複数の細線同軸ケーブル７００の各々は、例えば、図２８５および図２８６を用いて説明した構造を有しており、外径Ｄミリメートルがほぼ１ミリメートル以下である。また、ディスクリートケーブル７０１は、例えば、図２８７（ｂ）を用いて説明した構造を有している。なお、図２９０（ｂ）では、図面の簡略化

のために、細線同軸ケーブル７００の本数を７本とし、ディスクリートケーブル７０１の本数を４本として描いている。

【３６４３】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂが備える複数の細線同軸ケーブル７００は、全て同じ径の細線同軸ケーブル７００であるとする。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂが備える複数の細線同軸ケーブル７００として、異なる径の細線同軸ケーブル７００を使用することも可能であり、例えば、ＤＡ＋ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００のうち、ＤＡ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄａの細線同軸ケーブル７００を用い、ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄｂの細線同軸ケーブル７００を用いることも可能である（Ｄａ≠Ｄｂ）。

【３６４４】

また、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂは、複数の細線同軸ケーブル７００および複数のディスクリートケーブル７０１を内側に収容する、上述したチューブ７２１に相当する部品（不図示）を備えている。なお、当該部品を備えていなくてもよい。

【３６４５】

第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂには、図２９０（ｂ）に示すように、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の一方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂに電気的に接続される。

【３６４６】

第２の細線同軸ケーブル用グランドバーは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーには、第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｂと同様に、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の他方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに電気的に接続される。

【３６４７】

複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａおよび複数のディスクリートケーブル７０１の一方側の端部で剥き出しになった導体７０１ａの各々が、ケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂの一方側が第１のコネクタに取り付けられる。また、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａおよび複数のディスクリートケーブル７０１の他方側の端部で剥き出しになった導体７０１ａの各々が、ケーブルアッセンブリが備える第２のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂの他方側が第２のコネクタに取り付けられる。これにより、ケーブルアッセンブリが完成する。

【３６４８】

このように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部および複数のディスクリートケーブル７０１の一方側の端部を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に結線し、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部および複数のディスクリートケーブル７０１の他方側の端部を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に結線する前に、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂを作成する。このようにすることで、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部および複数のディスクリートケーブル７０１の一方側の端部の各々を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となり、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部および複数のディスクリートケーブル７０１の他方側の端部の各々を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となる。これにより、複数の細線同軸ケーブル７００および複数のディスクリートケーブル７０１の第１のコネクタへの結線工程並びに複数の細線同軸ケーブル７００および複数のディスクリートケーブル７０１の第２のコネクタへの結線工程が簡素化され、品質の安定性も向上する。

【３６４９】

また、ケーブルアッセンブリ７１０ｂと第１のコネクタと第２のコネクタとを有するケーブルアッセンブリでは、ケーブルアッセンブリが備えるオス側の第１のコネクタを、第１の部材（液晶表示装置などの表示装置や回路基板など）が備えるメス側の第１のコネクタに取り付ける作業工程により、電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む複数の細線同軸ケーブル７００と電源供給用の複数のディスクリートケーブル７０１とを同時に第１の部材に接続可能となり、ケーブルアッセンブリが備えるオス側の第２のコネクタを、第２の部材（液晶表示装置などの表示装置や回路基板など）が備えるメス側の第２のコネクタに取り付ける作業工程により、電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む複数の細線同軸ケーブル７００と電源供給用の複数のディスクリートケーブル７０１とを同時に第２の部材に接続可能となる。これにより、作業者の作業負担の軽減が図られる。

【３６５０】

さらに、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｂと第１のコネクタと第２のコネクタとを有するケーブルアッセンブリでは、電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む複数の細線同軸ケーブル７００と電源供給用の複数のディスクリートケーブル７０１とに共通のコネクタ利用することにより、細線同軸ケーブル７００とディスクリートケーブル７０１とに別個のコネクタを利用する場合に比べて、遊技機の内部空間を効率的に使用できる。

【３６５１】

図２９０（ｃ）はグランドフィンガータイプのケーブルサブアッセンブリ７１０ｃの斜視図である。なお、図２９０（ｃ）では、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃの一方の端部側を図示しており、他方の端部側も同じ構造となっている。

【３６５２】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃは、第１の同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃに形成されたフィンガー（突起）７１１ｃ１を、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃと第１のコネクタと第２のコネクタとを含むケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続させ、第２の同軸ケーブル用グランドバー（不図示）に形成されたフィンガー（突起）（不図示）を、第２のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続させたものである。

【３６５３】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃは、電気信号の伝送用の細線同軸ケーブルを含む複数（例えば、３０本）の細線同軸ケーブル７００と、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられた第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃと、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられた第２の細線同軸ケーブル用グランドバー（不図示）とを有する。複数の細線同軸ケーブル７００の各々は、例えば、図２８５および図２８６を用いて説明した構造を有しており、外径Ｄミリメートルがほぼ１ミリメートル以下である。なお、図２９０（ｃ）では、図面の簡略化のために、細線同軸ケーブル７００の本数を４本とし、フィンガー７１１ｃ１の個数を３個として描い

ている。

【３６５４】

ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃが備える複数の細線同軸ケーブル７００は、全て同じ径の細線同軸ケーブル７００であるとする。なお、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃが備える複数の細線同軸ケーブル７００として、異なる径の細線同軸ケーブル７００を使用することも可能であり、例えば、ＤＡ＋ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００のうち、ＤＡ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄａの細線同軸ケーブル７００を用い、ＤＢ本の細線同軸ケーブル７００に直径Ｄ＝Ｄｂの細線同軸ケーブル７００を用いることも可能である（Ｄａ≠Ｄｂ）。

【３６５５】

また、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃは、複数の細線同軸ケーブル７００を内側に収容する、上述したチューブ７２１に相当する部品（不図示）を備えている。なお、当該部品を備えていなくてもよい。

【３６５６】

第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃには、図２９０（ｃ）に示すように、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の一方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃに電気的に接続される。

【３６５７】

第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃにはフィンガー７１１ｃ１が形成されており、フィンガー７１１ｃ１は、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃと第１のコネクタと第２のコネクタとを含むケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続される。

【３６５８】

第２の細線同軸ケーブル用グランドバーは、上述したように、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部に対応して設けられたグランドバーであり、例えば、導電性のある金属製である。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーには、第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃと同様に、複数の細線同軸ケーブル７００の各々に対応して細線同軸ケーブル７００が挿通する貫通孔が設けられている。第２の細線同軸ケーブル用グランドバーの貫通孔の内側に、細線同軸ケーブル７００の他方側の端部のうちの外側導体７００ｃが剥き出しになった部分（外側絶縁体７００ｄが取り除かれて内側導体７００ａと内側絶縁体７００ｂと外側導体７００ｃとだけになっている部分）が配置される。この状態で、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃが第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに半田付けなどされ、これにより、細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃは第２の細線同軸ケーブル用グランドバーに電気的に接続される。

【３６５９】

第２の細線同軸ケーブル用グランドバーには、第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃと同様に、フィンガーが形成されており、フィンガーは、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃと第１のコネクタと第２のコネクタとを含むケーブルアッセンブリが備える第２のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続される。

【３６６０】

複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａおよび第１の同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃに形成されたフィンガー７１１ｃ１の各

々が、ケーブルアッセンブリが備える第１のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃの一方側が第１のコネクタに取り付けられる。また、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部で剥き出しになった内側導体７００ａおよび第２の同軸ケーブル用グランドバーに形成されたフィンガーの各々が、ケーブルアッセンブリが備える第２のコネクタの対応するコネクタ端子に半田付けなどされるなどして、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃの他方側が第２のコネクタに取り付けられる。これにより、ケーブルアッセンブリが完成する。

【３６６１】

このように、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部の各々を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に結線し、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部の各々を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に結線する前に、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃを作成する。このようにすることで、複数の細線同軸ケーブル７００の一方側の端部の各々を第１のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となり、複数の細線同軸ケーブル７００の他方側の端部の各々を第２のコネクタの対応するコネクタ端子に一括して結線することが可能となる。これにより、複数の細線同軸ケーブル７００の第１のコネクタへの結線工程および複数の細線同軸ケーブル７００の第２のコネクタへの結線工程が簡素化され、品質の安定性も向上する。

【３６６２】

また、ケーブルサブアッセンブリ７１０ｃでは使用する細線同軸ケーブル７００の本数の削減を図ることができる。また、第１の細線同軸ケーブル用グランドバー７１１ｃのフィンガー７１１ｃを第１のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続し、第２の細線同軸ケーブル用グランドバーのフィンガーを第２のコネクタの対応するコネクタ端子に直接接続することで、複数の細線同軸ケーブル７００の各々の外側導体７００ｃをグランドにより確実に電気的に接続できてケーブルアッセンブリ７１０ｃの電気特性の向上を図ることができる。

【３６６３】

続いて、上述した細線同軸ケーブル７００を、フレキシブルフラットケーブル（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ Ｆｌａｔ Ｃａｂｌｅ：ＦＦＣ）、フレキシブル基板（ＦｌｅｘｉｂｌｅＰｒｉｎｔｅｄ Ｃｉｒｃｕｉｔｓ：ＦＰＣ）、シールド付きＦＦＣ（ＳｈｉｅｌｄｅｄＦＦＣ）、および、シールド付きＦＰＣ（Ｓｈｉｅｌｄｅｄ ＦＰＣ）と比較する。

【３６６４】

ＦＦＣは、例えば、一定間隔で並列に配置された複数の平板状の導体をフィルム状の絶縁体で上下より挟んだ構造を有するものなどがある。シールド付きＦＦＣは、例えば、ＦＦＣの両側の絶縁体の外面にシールド材を配置した構造を有するものなどがある。ＦＰＣは、例えば、フィルム状の絶縁体（ベース）の一の面に当該一の面から順に接着剤、導体箔、接着剤、絶縁体（カバーレイ）を形成した片面構造を有し、又は、フィルム状の絶縁体（ベース）の一の面に当該一の面から順に接着剤、導体箔、接着剤、絶縁体（カバーレイ）を形成し、他の面に当該他の面から順に接着剤、導体箔、接着剤、絶縁体（カバーレイ）を形成した両面構造を有するものなどがある。シールド付きＦＰＣは、例えば、ＦＰＣの両側の外面に当該外面側から順に接着剤、シールド材を形成した構造を有するものなどがある。

【３６６５】

通信可能な最大伝送速度に関して細線同軸ケーブル７００、ＦＦＣ、ＦＰＣ、シールド付きＦＦＣ、シールド付きＦＰＣと比較すると、細線同軸ケーブル７００の通信可能な最大伝送速度＞シールド付きＦＰＣ、シールド付きＦＦＣの通信可能な最大伝送速度＞ＦＰＣ、ＦＦＣの通信可能な最大伝送速度である。また、通信可能な最大伝送距離に関して細線同軸ケーブル７００、ＦＦＣ、ＦＰＣ、シールド付きＦＦＣ、シールド付きＦＰＣと比較すると、細線同軸ケーブル７００の通信可能な最大伝送距離＞シールド付きＦＰＣ、シールド付きＦＦＣの通信可能な最大伝送距離＞ＦＰＣ、ＦＦＣの通信可能な最大伝送距離である。つまり、細線同軸ケーブル７００は他と比較してノイズ耐性が強いため、細線同

軸ケーブル７００を用いることで高速・長距離の伝送が可能になる。

【３６６６】

例えば、遊技機において現状採用されているＦＰＣでは、実機を用いた試験で、伝送速度が約１Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）で通信可能であることを確認している。なお、ＦＰＣの周辺の環境によっては（例えば、ＦＰＣの近くに他の信号線や電源などのノイズ源があるなどによっては）、ＦＰＣでは約１Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）の伝送速度であっても安定した通信品質の通信ができない虞もある。また、それ自体が基板であるＦＰＣはグランドを有しているため、ＦＰＣ内の信号線から発生したノイズがグランドに流れることでノイズ対策ができており、シールドなしでもＦＦＣよりもノイズ耐性が強いため、ＦＰＣの方がＦＦＣよりも通信可能な最大伝送速度で優れている。

【３６６７】

一方、細線同軸ケーブル７００の通信可能な最大伝送速度＞シールド付きＦＰＣ、シールド付きＦＦＣの通信可能な最大伝送速度＞ＦＰＣ、ＦＦＣの通信可能な最大伝送速度であることから、細線同軸ケーブル７００、シールド付きＦＰＣおよびシールド付きＦＦＣそれぞれの通信可能な最大伝送速度は、ＦＰＣに関して実機での試験で確認した１Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）を超えると考えることができる。細線同軸ケーブル７００では、実機を用いた試験で、伝送速度が約２．７Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）で通信可能であることを確認している。

【３６６８】

以上のことから、１Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）以上の伝送では、または、１Ｇｂｐｓ（ギガビットバーセコンド）を超える伝送では、伝送手段として、シールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣ、細線同軸ケーブル７００が適している。

【３６６９】

続いて、細線同軸ケーブル７００を用いる液晶表示装置などの表示装置の解像度について説明する。遊技機の液晶表示装置などの表示装置の解像度は年々高くなっており、ＶＧＡからＸＧＡとなり、現在はフルＨＤが主流となっているが、近年ＱＨＤ、４Ｋ、８Ｋパネルの製品ラインナップも充実してきていることから、さらなる高解像度の表示装置が遊技機に使用されることがあり得る。フルＨＤであればＬＶＤＳでＦＦＣを用いて所望の画質を得ることが可能であるが、ＱＨＤ、４Ｋ、８ＫになるとＬＶＤＳでは所望の画質を得るための伝送速度を出すことができず、ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔなどの高速伝送のインターフェース規格を採用する。

【３６７０】

ＶＧＡ、ＸＧＡ、ＦＨＤ、ＱＨＤ（ＷＱＨＤ）、４Ｋ、８Ｋの解像度、画素数、縦横比は、図２９１に示す通りである。ＶＧＡ（Ｖｉｄｅｏ Ｇｒａｈｉｃｓ Ａｒｒａｙ）の解像度、画素数、縦横比は、「６４０×４８０」、「３０７２００」、「４：３」である。また、ＸＧＡ（ｅＸｔｅｎｄｅｄ Ｇｒａｈｉｃｓ Ａｒｒａｙ）の解像度、画素数、縦横比は、「１０２４×７６８」、「７８６４３２」、「４：３」である。また、ＦＨＤ（Ｆｕｌｌ Ｈｉｇｈ Ｄｅｆｉｎｉｔｉｏｎ）の解像度、画素数、縦横比は、「１９２０×１０８０」、「２０７３６００」、「１６：９」である。また、ＱＨＤ（Ｑｕａｄ－Ｈｉｇｈ Ｄｅｆｉｎｉｔｉｏｎ）（ＷＱＨＤ（Ｗｉｄｅ Ｑｕａｄ－Ｈｉｇｈ Ｄｅｆｉｎｉｔｉｏｎ））の解像度、画素数、縦横比は、「２５６０×１４４０」、「３６８６４００」、「１６：９」であり、例えば３１．５インチの液晶表示装置に使用される。また、４Ｋの解像度、画素数、縦横比は、「３８４０×２１６０」、「８２９４４０」、「１６：９」である。また、８Ｋの解像度、画素数、縦横比は、「７６８０×４３２０」、「３３１７７６００」、「１６：９」である。

【３６７１】

遊技機において現状使用されている、または、今後使用され得るインターフェース規格として、ＬＶＤＳ、ＣｌｏｃｋｌｅｓｓＬｉｎｋ、ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔを挙げることができる。ＬＶＤＳ（Ｌｏｗ Ｖｏｌｔａｇｅ Ｄｉｆｆｅｒｅｎｔｉａｌ Ｓｉｇｎａｌｉｎｇ）は、３．５ｍＡの定電流源で駆動し、１００オームの終端時に３５０ｍＶの振幅

の差動信号でデータを高速伝送する、差動シリアルインターフェース規格であり、最大伝送速度は１Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）である。また、ＣｌｏｃｋｌｅｓｓＬｉｎｋは、クロックデータリカバリー方式の差動シリアルインターフェース規格であり、最大伝送速度は１．６Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）である。また、ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔは、Ｓｏｕｒｃｅ（例えば、コンピュータ）とＳｉｎｋ（例えば、ディスプレイ）間のデジタルインターフェース規格であり、映像のＲＧＢデータと音声データとをパケット化して伝送するものであり、最大伝送速度は８．１Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）である。なお、他のインターフェース規格として、ＨＤＭＩ（登録商標）、ＵＳＢ３．１などがあり、ＨＤＭＩ（登録商標）の最大伝送速度は６Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）であり、ＵＳＢ３．１の最大伝送速度は１０Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）である。

【３６７２】

ＱＨＤ（ＷＱＨＤ）以上の解像度の場合（ＱＨＤ（ＷＱＨＤ）、４Ｋ、８Ｋなどの場合）、所望の画質を得るには足りずＬＶＤＳの最大伝送速度（１Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド））では足りず、より高速の伝送速度が必要とされる。ＦＦＣやＦＰＣでは１Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）を超える伝送速度を出せないため、ＱＨＤ（ＷＱＨＤ）以上の解像度に対してＦＦＣやＦＰＣを用いた場合には所望の画質を確保できない。一方、ノイズ耐性の強いシールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣ、細線同軸ケーブル７００では１Ｇｂｐｓ（ギガビットパーセコンド）を超える伝送速度を出せるため、ＱＨＤ（ＷＱＨＤ）以上の解像度に対してシールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣ、細線同軸ケーブルを用いた場合には所望の画質を確保できる。シールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣおよび細線同軸ケーブル７００はシールドなしのＦＦＣおよびシールドなしのＦＰＣに比べて一般的に高価であることから、シールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣ、細線同軸ケーブル７００はＱＨＤ（ＷＱＨＤ）以上の解像度の場合に伝送手段として用いることが好ましい。

【３６７３】

続いて、細線同軸ケーブル７００の伝送優位性について説明する。

【３６７４】

信号の伝送特性には特性インピーダンス、インサーションロス、リターンロス、クロストークなど様々なパラメータが影響するが、高速伝送を行う場合、細線同軸ケーブル７００は高い伝送優位性を有している。同軸ケーブル７００が高い伝送優位性を有している主な理由は、（１）リターンロスの低減、（２）インサーションロスの低減、（３）高いシールド性による電磁ノイズ対策とクロストークの低減などである。

【３６７５】

（リターンロスの低減）内側導体７００ａ、内側絶縁体７００ｂ、外側導体７００ｃを含むように構成される細線同軸ケーブル７００は特定のインピーダンスにマッチングさせることが可能であり、リターンロスを低減させることができる。

【３６７６】

（インサーションロスの低減）特定のインピーダンスにマッチングさせる際、細線同軸ケーブル７００はＦＰＣおよびＦＦＣと比べ内側導体７００ａの断面積を大きく確保できることからインサーションロスを低減させることができる。

【３６７７】

細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃはそれ自身がシールド効果を持っているため、外側導体７００ｃにより、内側導体７００ａで伝送している信号に起因する電磁ノイズの発生を抑えることができるとともに、伝送している信号を外部から到来する電磁ノイズから守ることができ、また、外側導体７００ｃのシールド効果により信号ライン間のクロストークを低減させることができる。

【３６７８】

続いて、細線同軸ケーブル７００の機械的優位性について説明する。

【３６７９】

細線同軸ケーブル７００は、シールド付きＦＰＣおよびシールド付きＦＦＣよりも屈曲性が高く、図２８８に示すように折り曲げたり、図２９２に示すように捻じ曲げたりなど曲げやすく、ある程度折り曲げたり捻じ曲げたりなど曲げた状態でも電気特性が安定するという機械的優位性を有している。この細線同軸ケーブル７００の機械的優位性のため、細線同軸ケーブル７００を曲げて遊技機の部品間を接続することが可能であり、具体例を図２９４から図２９６を参照して後述する。

【３６８０】

続いて、ケーブルアッセンブリ（ハーネス）ＨＨを用いて接続する部品同士の一例について図２９３を参照しつつ説明する。ケーブルアッセンブリＨＨは、例えば、上述したケーブルアッセンブリＨ、Ｈ１などであり、ケーブルとして、例えば、細線同軸ケーブル７００のみを備え、または、細線同軸ケーブル７００に加えてディスクリートケーブル７０１を備えるなどである。

【３６８１】

図２９３は、ケーブルアッセンブリＨＨを用いて部品間の接続例を示すための前面扉７３０の背面斜視図である。図２９３では、液晶表示装置などの表示装置７３１と、表示装置７３１の表示を制御する表示制御回路が実装されている表示制御基板７３２とをケーブルアッセンブリＨＨで接続している。なお、表示制御基板７３２として、例えば、第１実施形態の副制御基板７２を用いたり、専用の制御基板を用いたりなどすることができる。

【３６８２】

ケーブルアッセンブリＨＨは、ケーブルアッセンブリＨＨが備えるオス側の第１のコネクタ（不図示）を、表示装置７３１が備えるメス側の第１のコネクタ（不図示）に嵌め込むことで、表示装置７３１に接続される。また、ケーブルアッセンブリＨＨは、ケーブルアッセンブリＨＨが備えるオス側の第２のコネクタ（不図示）を、表示制御基板７３２が備えるメス側の第２のコネクタ（不図示）に嵌め込むことで、表示制御基板７３２に接続される。これにより、表示制御基板７３２と表示装置７３１との間でのデータ伝送などが可能になる。

【３６８３】

表示制御基板７３２から表示装置７３１へ伝送される映像データのデータ量は大きいため、高速の伝送速度が必要である。表示制御基板７３２と表示装置７３１との間をシールドなしのＦＦＣやシールドなしのＦＰＣで接続した場合には必要な伝送速度が出すことができず、表示装置７３１の画面に表示する映像の品質を保てない虞がある。一方で、表示制御基板７３２と表示装置７３１との間を細線同軸ケーブル７００で接続した場合、細線同軸ケーブル７００はシールドとして機能する外側導体７００ｃを有することでノイズ耐性が強いため、必要な伝送速度が出すことができ、表示装置７３１の画面に表示する映像の品質を保つことができる。なお、表示制御基板７３２と表示装置７３１との間をシールド付きのＦＦＣやシールド付きのＦＰＣで接続するようにしてもよく、この場合も細線同軸ケーブル７００の場合と同様に、表示装置７３１の画面に表示する映像の品質を保つことができる。

【３６８４】

表示制御基板７３２はケース７３３に収容され、ケース７３３はアルミなどの金属メッキが施されている。このように金属メッキが施されたケース７３３内に表示制御基板７３２を収容することで、表示制御基板７３２上に配置された回路や配線などを伝送する電気信号を電磁ノイズから守ることができる。表示制御基板７３２と表示装置７３１間を伝送する電気信号に対しては細線同軸ケーブル７００の外側導体７００ｃでノイズ対策が施され、表示制御基板７３２上に配置された回路や配線などを伝送する電気信号に対してはケース７３３の金属メッキによりノイズ対策が施されることで、信号が電磁ノイズの影響をより受けにくくすることができる。

【３６８５】

なお、表示制御基板７３２から表示装置７３１への映像データの伝送が、中継基板により中継されて行われる場合、表示制御基板７３２と中継基板との間を細線同軸ケーブル７

００により接続し、中継基板と表示装置７３０との間を細線同軸ケーブル７００により接続するようにしてもよい。この場合も、表示制御基板７３２と表示装置７３１間をケーブルアッセンブリＨＨの細線同軸ケーブル７００を用いて接続する場合と同様に、表示装置７３１の画面に表示する映像の品質を保つことができる。

【３６８６】

また、ケーブルアッセンブリＨＨのオス側の第１のコネクタを嵌め込むメス側の第１のコネクタが設けられた第１の回路基板、および、ケーブルアッセンブリＨＨのオス側の第２のコネクタを嵌め込むメス側の第２のコネクタが設けられた第２の回路基板の双方の回路基板が金属メッキされたケースに収容されるようにしてもよいし、一方の回路基板が金属メッキされたケースに収容されるようにしてもよい。

【３６８７】

なお、ケーブルアッセンブリＨＨなどのケーブルアッセンブリを用いて接続する部品間の例として、上記の部品間の例を含めて、例えば、

●主制御基板と払出制御基板との間
●主制御基板と副制御基板との間
●第１のサブ制御基板と第２のサブ制御基板（サブ制御基板が２枚構成の場合）との間
●サブ制御基板と表示制御基板（サブ制御基板と表示制御基板とが別基板の場合）との間
●表示制御基板（例えば、副制御基板）と表示装置との間
●サブ制御基板と中継基板との間
●中継基板と表示装置との間
●主制御基板と外部端子板との間
●サブ制御基板とＬＥＤ基板（ＬＥＤ基板はＬＥＤのみ搭載された基板やＬＥＤおよびＬＥＤドライバが搭載された基板）との間
●主制御基板とストップボタン操作検出用基板／ベット操作検出用基板／精算ボタン操作検出用基板／スタートレバー操作検出用基板（これらの各検出用基板は扱いとしては主制御基板の一種）との間
●主制御基板とリールユニットのリール制御基板との間
●サブ制御基板とタッチモジュール基板との間
●サブ制御基板と赤外線センサ基板（赤外線センサ基板は遊技者の近接操作を検出するセンサを搭載した基板）との間
●遊技機の試験用端子と試験用インターフェース基板（ＩＦ１基板、ＩＦ２基板、ＩＦ３基板）との間などを挙げることができる。

【３６８８】

上記の各例において、細線同軸ケーブル７００を伝送する伝送信号はシールドとして機能する外側導体７００ｃにより電磁ノイズから保護されるため、遊技機の動作の安定性を高めることができる。

【３６８９】

続いて、ケーブルアッセンブリ（ハーネス）ＨＡを用いて部品同士を接続する場合のケーブルアッセンブリ（ハーネス）ＨＡの状態について図２９４から図２９６を参照しつつ説明する。ケーブルアッセンブリＨＡは、例えば、上述したケーブルアッセンブリＨ、Ｈ１などであり、ケーブルとして、例えば、細線同軸ケーブル７００のみを備え、または、細線同軸ケーブル７００に加えてディスクリートケーブル７０１を備えるなどである。

【３６９０】

図２９４から図２９６では、ケーブルアッセンブリＨＡは、細線同軸ケーブル７００を少なくとも有するケーブルサブアッセンブリ７１０ＨＡと、ケーブルサブアッセンブリ７１０ＨＡの一端側に設けられた第１のコネクタ７２０ＨＡＡと、ケーブルサブアッセンブリ７１０ＨＡの他端側に設けられた第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを備えるものとして説明を行う。

【３６９１】

図２９４の例は、間に障害物７５０がある、第１の部材７４０Ａのメス側の第１のコネ

クタ７４１Ａと第２の部材７４０Ｂのメス側の第２のコネクタ７４１Ｂとに、ケーブルアッセンブリＨＡのオス側の第１のコネクタ７２０ＨＡＡとオス側の第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、取り付ける場合を対象としている。図２９４および後述する図２９５から図２９６の第１の部材７４０Ａは例えば液晶表示装置などの表示装置であり、第２の部材７４０Ｂは例えば表示制御基板である。

【３６９２】

図２９４の例では、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとの間に障害物７５０が存在するため、細線同軸ケーブル７００がまっすぐの状態では、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることはできない。しかしながら、細線同軸ケーブル７００は屈曲性に優れていて曲げることができ、ある程度曲げた状態でも電気特性が安定している（上記した細線同軸ケーブルの機械的優位性）。このため、障害物７５０を迂回するように細線同軸ケーブル７００を曲げることで、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることができ、細線同軸ケーブル７００を用いることで信号の高速伝送が可能である。

【３６９３】

図２９４の例では、細線同軸ケーブル７００を４か所で曲げているが、これに限定されるものではなく、１か所以上で曲げる（屈曲／湾曲）ようにして、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けるようにしてもよい。

【３６９４】

図２９５の例は、第１の部材７４０Ａと第２の部材７４０Ｂとは同じ配置面にあり、間に障害物７５０がある、第１の部材７４０Ａのメス側の第１のコネクタ７４１Ａと第２の部材７４０Ｂのメス側の第２のコネクタ７４１Ｂとに、ケーブルアッセンブリＨＡのオス側の第１のコネクタ７２０ＨＡＡとオス側の第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、取り付ける場合を対象としている。

【３６９５】

図２９５の例では、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとの間に障害物７５０が存在するため、細線同軸ケーブル７００がまっすぐの状態では、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることはできない。しかしながら、細線同軸ケーブル７００は屈曲性に優れていて曲げることができ、ある程度曲げた状態でも電気特性が安定している（上記した細線同軸ケーブルの機械的優位性）。このため、障害物７５０を迂回するように（例えば、図２９５に示すように障害物７５０の上を回り込むように、障害物７５０の横を回り込むように）細線同軸ケーブル７００を曲げることで、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることができ、細線同軸ケーブル７００を用いることで信号の高速伝送が可能である。

【３６９６】

図２９５の例では、細線同軸ケーブル７００を４か所で曲げているが、これに限定されるものではなく、１か所以上で曲げる（屈曲／湾曲）ようにして、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けるようにしてもよい。

【３６９７】

なお、図２９４の例および図２９５の例では、第１の部材７４０Ａの第１のコネクタ７４１Ａと第２の部材７４０Ｂの第２のコネクタ７４１Ｂとの間に障害物７５０が一つある場合であるが、これに限定されるものでなく、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとの間に２つ以上の障害物があっても、細線同軸ケーブル７００を当該２以上の障害物のそれぞれを迂回するように曲げることにより、ケーブルアッセンブリＨＡの第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと

第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることが可能である。

【３６９８】

図２９６の例は、第１の部材７４０Ａのメス側の第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面と第２の部材７４０Ｂのメス側の第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面とが平行に向き合わずに、前者のコネクタ面を含む面と後者のコネクタ面を含む面とが垂直に交差する関係にある（第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面の法線と第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面の法線とが垂直に交わる関係にある）、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、ケーブルアッセンブリＨＡのオス側の第１のコネクタ７２０ＨＡＡとオス側の第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、取り付ける場合を対象としている。

【３６９９】

図２９６の例では、第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面と第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面とが平行に向き合っていないため、細線同軸ケーブル７００がまっすぐの状態では、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることはできない。しかしながら、細線同軸ケーブル７００は屈曲性に優れていて曲げることができ、ある程度曲げた状態でも電気特性が安定している（上記した細線同軸ケーブルの機械的優位性）。このため、複数の細線同軸ケーブル７００を曲げることで、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることができ、細線同軸ケーブル７００を用いることで信号の高速伝送が可能である。

【３７００】

図２９６の例では、細線同軸ケーブル７００を３か所で曲げているが、これに限定されるものではなく、１か所以上で曲げる（屈曲／湾曲）ようにして、第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けるようにしてもよい。

【３７０１】

なお、図２９６の例では、第１の部材７４０Ａの第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面の法線と第２の部材７４０Ｂの第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面の法線とが垂直に交わる関係にある場合であるが、これに限定されるものでなく、両者の法線が垂直に交わる関係以外で第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面と第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面とが平行に向き合っていない場合（例えば、第１のコネクタ７４１Ａのコネクタ面と第２のコネクタ７４１Ｂのコネクタ面とが反対方向を向いている場合など）であっても、細線同軸ケーブル７００を曲げることにより、ケーブルアッセンブリＨＡの第１のコネクタ７２０ＨＡＡと第２のコネクタ７２０ＨＡＢとを、第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７４１Ｂとに、取り付けることが可能である。

【３７０２】

以上、図２９４から図２９６に具体例を挙げて説明したように、第１のコネクタ７２０ＨＡＡを取り付ける第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７２０ＨＡＢを取り付ける第２のコネクタ７４１Ｂとの位置関係による制約、および、第１のコネクタ７２０ＨＡＡを取り付ける第１のコネクタ７４１Ａと第２のコネクタ７２０ＨＡＢを取り付ける第２のコネクタ７４１Ｂとの間に部品などの障害物が存在するか否かによる制約をあまり受けずに、細線同軸ケーブル７００を曲げるなどすることで、取り付け相手の第１のコネクタ７４１Ａおよび取り付け相手の第２のコネクタ７４１Ｂに第１のコネクタ７２０ＨＡＡおよび第２のコネクタ７２０ＨＡＢを取り付けることができ、細線同軸ケーブル７００を用いることで信号の高速伝送が可能である。

【３７０３】

続いて、部品間のデータ伝送に伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いる例を挙げる。

【３７０４】

例えば、可動役物（例えば、可動液晶など）と基板（ドライバ基板、中継基板、副制御基板など）との間のデータ伝送に伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いる。可動

役物と基板との相対的な位置関係は当該可動役物の可動により変化するため、可動役物と基板との間のデータ伝送に用いるケーブルは可動役物の可動に応じて変形する必要がある。細線同軸ケーブル７００は柔軟性があって変形が容易であることから、細線同軸ケーブル７００は可動役物と基板との間のデータ伝送用の伝送手段として好適である。この場合、細線同軸ケーブル７００を用いているため、可動役物と基板との間の高速通信も可能となる。

【３７０５】

また、遊技機のドア側（パチスロ機（スロットマシン）のフロントドア側、パチンコ機の盤側）に設けられた第１の部材と、遊技機の本体側（パチスロ機（スロットマシン）の筐体側、パチンコ機の枠側）に設けられた第２の部材との間のデータ伝送に伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いる。第１の部材と第２の部材との相対的な位置関係は遊技機のドアの開閉により変化するため、第１の部材と第２の部材との間のデータ伝送に用いるケーブルは遊技機のドアの開閉に応じて変形する必要がある。細線同軸ケーブル７００は柔軟性があって変形が容易であることから、細線同軸ケーブル７００は、遊技機のドア側に設けられた第１の部材と、遊技機の本体側に設けられた第２の部材との間のデータ伝送用の伝送手段として好適である。この場合、細線同軸ケーブル７００を用いているため、第１の部材と第２の部材との間の高速通信も可能となる。

【３７０６】

なお、上記の２つの例（可動役物と基板との間のデータ伝送に細線同軸ケーブル７００を用いる例、遊技機のドア側に設けられた第１の部材と遊技機の本体側に設けられた第２の部材との間のデータ伝送に細線同軸ケーブル７００を用いる例）は、細線同軸ケーブル７００の柔軟性に着目した例である。

【３７０７】

また、遊技機が複数の表示装置を備え、そのうちの第１の表示装置は描画に必要なデータ量が小さい（１画面の描画に必要なデータ量が所定のデータ量より小さい）、つまり、高速通信を必要としない表示装置（例えば、小型液晶表示装置、サブ液晶表示装置など、解像度がＶＧＡ、ＸＧＡ、ＦＨＤなどの表示装置など）であり、そのうちの第２の表示装置は描画に必要なデータ量が大きい（１画面の描画に必要なデータ量が所定のデータ量以上である）、つまり、高速通信を必要とする表示装置（例えば、プロジェクタユニットや大型液晶表示装置など、解像度がＱＨＤ（ＷＱＨＤ）、４Ｋ、８Ｋなどの表示装置など）である。この場合、第１の表示装置と表示制御基板との間は伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いずに細線同軸ケーブル７００以外の所定の伝送手段（例えば、通常のハーネス、ＦＦＣ、ＦＰＣ）を用い、第２の表示装置と表示制御基板との間は伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いる。このように、高価な細線同軸ケーブル７００を、高速通信を必要としない第１の表示装置と表示制御基板との間には使用せず、高速通信が必要な第２の表示装置と表示制御基板との間に使用することで、高価な細線同軸ケーブル７００の使用箇所を減らして遊技機全体でのコストを抑えることができる。なお、第２の表示装置と表示制御基板との間は、伝送手段として、シールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣなどを用いてもよい。

【３７０８】

また、第１の部材と第２の部材との間を接続する伝送手段がノイズ源（例えば、電源ユニットやリールユニットなどノイズの発生源となる機器）から所定の距離内に配置される、つまり、所定の値以上のノイズが存在する場所に配置される場合には当該伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用い、第３の部材と第４の部材との間を接続する伝送手段がノイズ源から所定の距離よりも離れて配置される、つまり、所定の値以上のノイズが存在しない場所に配置される場合には当該伝送手段として細線同軸ケーブル７００を用いずに細線同軸ケーブル７００以外の所定の伝送手段（例えば、通常のハーネス、ＦＦＣ、ＦＰＣ）を用いる。このように、高価な細線同軸ケーブル７００を、ノイズの影響を受けにくい第３の部材と第４の部材との間には使用せず、ノイズの影響を受けやすい第１の部材と第２の部材との間に使用することで、高価な細線同軸ケーブル７００の使用箇所を減らし

て遊技機全体でのコストを抑えることができる。なお、第１の部材と第２の部材との間は、伝送手段として、シールド付きのＦＦＣ、シールド付きのＦＰＣなどを用いてもよい。

【３７０９】

なお、ＦＰＣ、シールド付きＦＦＣは基板間で高速通信する画像表示器（液晶表示装置、プロジェクションなど）用インターフェースに好適である。また、タッチパネルセンサ（平面状センサ）と基板の接続にＦＰＣを用いてもよく、チップ部品を実装したＦＰＣを用いてもよい。また、シールドしていない柔軟性の比較的高いＦＦＣは可動役物ユニットや、小スペースで通常のハーネス接続が困難な場所に使用するとよい。

【３７１０】

また、主に映像データにおいて画面の高解像度化により、遊技機において少なくとも一部の部品間において伝送手段として高速通信規格のケーブルを用いるようにしてもよい。この場合、従来のハーネスでは通信品質が保てない状況で、シールド部分を有するケーブルを利用することで通信品質を保つことができる。また、ケーブルのノイズ耐性の向上により、ノイズ対策部品削減によるコストダウンを図ることができる。

【３７１１】

高速通信規格のケーブルとして、例えば、ＵＳＢケーブル、ＨＤＭＩ（登録商標）ケーブル、ＳＡＴＡケーブル、ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔケーブルなどがある。

【３７１２】

ＵＳＢケーブルは、ＵＳＢ（Ｕｎｉｖｅｒｓａｌ Ｓｅｒｉａｌ Ｂｕｓ）規格において利用されるものであり、例えばコンピュータと周辺機器とを接続する際に利用される。ＵＳＢケーブルの場合、遊技機側の差し込み口がＵＳＢポートとなるため、遊技機の開発中に遊技機をコンピュータに繋いで例えばコンピュータから遊技機に映像データを送信して遊技機の画面に映像を映すことで、遊技機（実機）での映像の確認ができるため、遊技機の開発を円滑に行うことができる。

【３７１３】

ＵＳＢケーブルのコネクタの形状の種類として、ＵＳＢ Ｔｙｐｅ－Ａ（２．０）、ＵＳＢ Ｔｙｐｅ－Ｂ（２．０）、ｍｉｎｉ ＵＳＢ Ｔｙｐｅ－Ｂ、Ｍｉｃｒｏ ＵＳＢＴｙｐｅ－Ｂ（２．０）、Ｍｉｃｒｏ ＵＳＢ Ｔｙｐｅ－Ｂ（３．０）、ＵＳＢ Ｔｙｐｅ－Ｃ、Ｌｉｇｈｔｎｉｎｇなどがある。

【３７１４】

ＨＤＭＩ（登録商標）ケーブルは、ＨＤＭＩ（登録商標）（Ｈｉｇｈ－Ｄｅｆｉｎｉｔｉｏｎ Ｍｕｌｔｉｍｅｄｉａ Ｉｎｔｅｆａｃｅ）規格において利用されるものであり、例えばテレビとハードディスクレコーダやゲーム機などとの間を接続する際に利用され、映像信号と音声信号と制御信号とを１本にまとめて送ることができるケーブルである。

【３７１５】

ＨＤＭＩ（登録商標）ケーブルのスピード（バージョン）の種類として、スタンダード（Ｖｅｒ．１．２以前）、ハイスピード（Ｖｅｒ．１．３～１．４）、プレミアムハイスピード（Ｖｅｒ．２．０）、ウルトラハイスピード（Ｖｅｒ．２．０）などがある。

【３７１６】

また、ＨＤＭＩ（登録商標）ケーブルのコネクタの形状の種類として、ＨＤＭＩ（登録商標）タイプＡコネクタ、ＨＤＭＩ（登録商標）タイプＣコネクタ、ＨＤＭＩ（登録商標）タイプＤコネクタ、ＨＤＭＩ（登録商標）タイプＥコネクタなどがある。

【３７１７】

ＳＡＴＡケーブルは、インターフェース規格の一つであるＳＡＴＡ（Ｓｅｒｉａｌ Ａｄｖａｎｃｅｄ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ Ａｔｔａｃｈｍｅｎｔ）規格において利用されるものであり、例えばコンピュータとストレージ（ＨＤＤやＳＤＤなど）や光学ドライブなどとの間を接続する際に利用される。

【３７１８】

ＳＴＡ規格には、「ＳＴＡ１」、「ＳＴＡ２」、「ＳＴＡ３」の３つの規格があり、これらの主な違いはデータの転送速度である。

【３７１９】
　また、ＳＡＴＡケーブルのケーブル部分の形状として、平たいフラットタイプや折り曲げて使える取り回しのしやすいラウンドタイプなどがある。
【３７２０】
　また、ＳＴＡケーブルの接続端子として、端子からケーブルが真っすぐに伸びている「ストレート型」や、コネクタ部分がＬ字に曲がっている「Ｌ字型」などがある。
【３７２１】
　ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔケーブルは、インターフェース規格の一つであるＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔ規格において使用されるものであり、例えばコンピュータとディスプレイ装置との間を接続する際に利用される。
【３７２２】
　ＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔケーブルの端子として、通常のＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔ、ＭｉｎｉＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔ端子などがある。
【３７２３】
　また、基板などに実装される電子部品の一部について部品型番の印字を付していないものを用いるようにしてもよい。例えば、所定の電子部品（チップ、コンデンサ、コネクタなど）に部品型番が記載されていないものを用いてもよい。これによれば、印字省略によるコストダウンを図ることができる。また、遊技機業界向けに部品番号の印字がなされた専用品が生産終了などにより入手困難となった場合に、代用品を使うことができる。
【３７２４】
　また、部品型番が同じであれば、電子部品の一部に印字（マーキング）の統一ができていない部品を用いてもよい。例えば、同一型式の遊技機（つまり、同じ機種の遊技機）を製造する場合に、一の遊技機では特定の電子部品（チップ、コンデンサ、コネクタなど）として印字されたものを用い、他の遊技機では特定の電子部品として印字がされていないものや印字のデザインが異なるものを用いるようにしてもよい。これによれば、遊技機業界向けに部品番号の印字がなされた専用品が生産終了などにより入手困難となった場合に、代用品を使うことができる。
【３７２５】
　また、型式試験の申請書類のデータシートに電子部品への部品型番の印字の説明書を添付すれば、複数種類の電子部品を使用してもよく、追加でデータシートに電子部品への部品型番の印字の種類を増やして増やした電子部品を使用してもよい。これによれば、遊技機に使用できる電子部品の種類が増えることで、電子部品の入手を容易に行うことができる。
【３７２６】
　また、基板に空き端子（ケーブルなどが接続されていない端子）があってもよく、また、空きコネクタ（コネクタが接続されていない端子）があってもよい。これによれば、基板の共通化などによるコストダウンを図ることができる。また、基板の共通化により資源消費の削減につながり、環境負荷を減らすことができる。
【３７２７】
　また、基板（主制御基板など）において未実装部品があってもよい。これによれば、基板の共通化などによるコストダウンを図ることができる。また、基板の共通化により資源消費の削減につながり、環境負荷を減らすことができる。
【３７２８】
［第７実施形態の付記］
　従来から、電子部品間の信号の伝送手段としてハーネスを用いた遊技機がある。例えば、特許文献１に開示された遊技機では、主制御基板と、各リールの駆動を制御するリール停止基板とが、ハーネスにより接続されている（例えば、特開２００７－２０２６９８号公報参照）。
【３７２９】
　ところで、昨今、遊技機内の電子部品の増加や、液晶ディスプレイなどの画像表示装置

の大型化または高解像度化などに伴う伝送信号の伝送量の増加により、伝送速度の高速化が要求されるようになっている。伝送速度が高速化する程、信号がノイズの影響を受けやすくなって受信側の電子部品は当該信号を誤って受信してしまう、つまり、送信側の電子部品から受信側の電子部品への信号の伝送を適切に行うことができないという問題が発生する。

【３７３０】

付記は、上記の課題に鑑みてなされたものであり、電子部品間の信号の伝送を媒介する伝送手段のノイズ耐性を高くすることでノイズに強く安定した電子部品間の伝送を可能にする遊技機を提供することを目的とする。

【３７３１】

上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。

【３７３２】

付記の第１の実施態様に係る遊技機は、

内側導体（図２８５の内側導体７００ａ）と、前記内側導体の外周を取り巻く内側絶縁体（図２８５の内側絶縁体７００ｂ）と、前記内側絶縁体の外周を取り巻く外側導体（図２８５の外側導体７００ｃ）と、前記外側導体の外周を取り巻く外側絶縁体（図２８５の外側絶縁体７００ｄ）と、を有する同軸ケーブル（図２８５の同軸ケーブル７００）を備え、

伝送手段として前記同軸ケーブルを用いるものであり、

前記同軸ケーブルは、外径がほぼ１ミリメートル以下である（図２８６のＤミリメートル≦ほぼ１ミリメートル）

ことを特徴とする。

【３７３３】

この構成によれば、伝送信号に対してノイズを遮蔽する外側導体を有する同軸ケーブルを伝送手段として用いることにより伝送手段のノイズ耐性が高くなり、これにより、ノイズに強く安定した電子部品間の信号の伝送を可能にし、伝送速度の高速化を通信エラーが高くなるのを抑えながら実現できる。また、外径がほぼ１ミリメートル以下の細い同軸ケーブルを用いることで、同軸ケーブルの背後などにゴト部品を隠すことが困難となり、セキュリティの向上を図ることができる。

【３７３４】

付記の第２の実施態様に係る遊技機は、付記の第１の実施態様に係る遊技機において、

画像表示手段（図２９３の表示装置７３１）と、

前記画像表示手段の表示を制御する表示制御手段（図２９３の表示制御基板７３２）と、

をさらに備え、

前記同軸ケーブルは、前記画像表示手段と前記表示制御手段との間の信号の伝送手段として用いられる

ことを特徴とする。

【３７３５】

この構成によれば、伝送速度の高速化が特に要求される映像信号の伝送において、伝送信号に対してノイズを遮蔽する外側導体を有する同軸ケーブルを伝送手段として用いることにより、伝送品質の向上を図ることができる。

【３７３６】

付記の第３の実施態様に係る遊技機は、付記の第１の実施態様に係る遊技機または付記の第２の実施態様に係る遊技機において、

前記同軸ケーブルを含む複数のケーブル（図２８９の細線同軸ケーブル７００）と、前記複数のケーブルの両端側それぞれに設けられる第１のコネクタ（図２８９の第１のコネクタ７２０Ａ）及び第２のコネクタ（図２８９の第２のコネクタ７２０Ｂ）と、透過性があり、内側に前記複数の同軸ケーブルを束ねて保持する保持部材（図２８９のチューブ７２１）と、を少なくとも有するケーブルアッセンブリ（図２８９のケーブルアッセンブリ

Ｈ１）をさらに備え、
　前記保持部材に前記ケーブルアッセンブリを識別するための識別情報（図２８９の識別情報７２２）が付されている
　ことを特徴とする。
【３７３７】
　外径の小さい同軸ケーブルなどのケーブルに当該ケーブルを識別するための識別情報（ケーブル用識別情報）を付すことは困難であることが想定され、また、複数のケーブルそれぞれにケーブル用識別情報を付すのは識別情報を付す部品点数が多くなって製造時の作業効率が悪く、コストもかかる。これに対して、この構成によれば、内側に複数のケーブルを束ねて保持する保持部材は一本のケーブルに比べて外径が大きいため、保持部材にケーブルアッセンブリを識別するための識別情報（ケーブルアッセンブリ用識別情報）を付すことが容易となり、また、保持部材にケーブルアッセンブリ用識別情報を付す場合は複数のケーブルそれぞれにケーブル用識別情報を付す場合に比べて識別情報を付す部品点数が少なくなるため、製造時の作業効率の向上を図ることができ、コストも抑えることができる。さらに、保持部材として透過性のあるものを利用することにより、同軸ケーブルの外部からの視認を可能とすることで同軸ケーブルの不正使用を防ぐことができるとともに、保持部材が保持部材の内側や保持部材の背後の視認の妨げとならず、ゴト部品を隠すことが困難となり、セキュリティの向上を図ることができる。
【３７３８】
　上記の実施形態及び上記の変形例等の内容を適宜組み合わせることができる。
【３７３９】
［その他］
［１．貸出操作時のクレジット加算音］
　サンドの貸出ボタン（現金からの貸出、再プレイボタン、貯メダル再プレイボタンを含む）を押すと、５０枚分（１０００円４６枚貸しなら４６枚分）のメダルが台のクレジットに加算される。
【３７４０】
　加算時（例えば、加算処理の終了時など）に、加算の効果音（以下、「加算音」と記載する場合もある。）が発生する。
【３７４１】
　加算音は、１～２秒程度のピコーンといった電子音など短い時間尺の音でもよいし、３～５秒程度の遊技者が聞き逃しにくいような時間尺の音でもよい。短い時間尺の加算音であれば遊技の効果音の妨げになりにくい。
【３７４２】
　一方、小役などの入賞時にも入賞音の効果音（従来のメダル機で言うところの払出効果音）が発生する。
【３７４３】
　サンドの貸出ボタンをリール回転中に押した場合であっても貸出処理は有効に行われるため、貸出ボタン押下後にリールの停止操作を行った場合は、クレジット加算の効果音と入賞時の効果音がほぼ同じタイミングで出音されることとがある。
【３７４４】
　クレジットの加算音の音量＞入賞音の音量という音量設定にすることで、リール回転中等に貸出ボタンを押下し、全リール停止時に入賞が発生し、入賞音が発生した場合であっても、貸出処理が完了したことを加算音によって遊技者は認識しやすくなる。
【３７４５】
　また、入賞が発生した場合、クレジット１０→１９（ベル入賞９枚分加算）→６９（貸出分５０枚加算）とクレジットが２段階で変化するため、正しく貸出処理が行われたのかをクレジットの数字から瞬時に読み取りにくい場合もあるので、加算音を認識しやすい態様で出音することにより、遊技者に正常に貸出が完了したと伝えることで安心感を与えることができる。

【３７４６】
再遊技時やボーナス時の入賞音発生時でも同様にクレジットの加算音が聞き取れるように出音している。
【３７４７】
加算音は、上記の入賞音とは別の音声チャネルを利用する場合、加算音と上記の入賞音とが同時に出音される場合が起こり得る。
【３７４８】
加算音を聞き取りやすい音量で出音するための手法として、（手法１）そもそもの音量を、クレジットの加算音の音量＞他の演出音（入賞音やＢＧＭなど）の音量という関係性で設定する、（手法２）他の演出音の出音中に加算音を出音する場合に、加算音以外の音についてはダッキング（音量を一時的に低下させて出音を継続、又は、音量を０にして出音処理を継続、又は、一時的に出音を停止して他の音を聞こえやすくする）を行う、（手法３）加算音を出音する場合に、同一チャネルに設定された他の演出音よりも優先的に出音する（同一チャネルの他の演出音の出音を停止し、この場合、加算音の出音終了後に他の演出音の出音を再開するようにしてもよいし、再開しないようにしてもよい。）などがある。
【３７４９】
上記の（手法１）から（手法３）の一つだけ採用してもよいし、組み合わせて複数採用してもよい。また、他の演出音などの種類に応じて採用する手法を設定してもよい。
【３７５０】
［１．１．加算音よりも優先的に出音される音］
なお、加算音よりも優先的に出音される音があってもよい。例えば、このような音として、エラー音（ドア開放エラー、イリーガルヒットエラーなど遊技機とサンドとの通信が正常な状態でも生じ得るエラーの報知音など）があり、エラー音の出音タイミングと加算音の発生タイミングとが重畳した場合は、エラー音の出音を加算音の出音よりも優先してもよい。
【３７５１】
この場合は、加算音の出音を行わないものとしてもよいし、通常の加算音よりも小さい音量（音量「０」を含む）で出音してもよい。いずれの方法であってもクレジットの加算よりも遊技の進行に際して重大な事象を適切に報知しうるという効果を奏する。
【３７５２】
［１．２．遊技者用音量調整の影響］
音量調整用操作手段（専用キー、または、ボタンやタッチパネルなどの演出用操作手段と兼用の操作手段）により遊技者が任意の音量に調整できる機能を有する遊技機もある。
【３７５３】
加算音は、遊技者用の音量調整の影響を受けるものとして、遊技者の設定した音量段階に応じた音量で出音するものとしてもよい。この場合は、周囲の環境に合わせて設定した音量に沿って出音されるために、加算音が大きすぎてうるさいといった事象を抑制できる。
【３７５４】
また、加算音は、遊技者用の音量調整の影響を受けないものとして、一定の比較的大きな音量で出音するものとしてもよい。この場合は、遊技者が加算音を聞き逃す可能性を低く抑えることができる。
【３７５５】
なお、計数音等が音量調整の影響を受けない場合、音量調整可能な最大の値にしたとしても、「クレジットの加算音の音量＞入賞音の音量という音量設定」の関係性は変化しないものとしてもよい。遊技者が音量設定を調整したとしても、クレジット加算音を聞き取りやすくできる。
【３７５６】
また、計数音等が音量調整の影響を受ける場合、音量調整可能な最小の値にしたとして

も、０にはならない（消音されない）ものとすることが望ましい。仮に計数関連音（計数音、加算音、精算音など）が消音されてしまうとすると、計数処理が適切に行われなかったのではないかという不安を遊技者に与えるおそれがあるからである。

【３７５７】

［１．３．遊技者用音量調整ができるタイミング］

エラー中など遊技不能な状況や、音量調整用の左・右キーやタッチパネルなどを別の機能の操作手段として使う状況（例えば、光量調整や演出選択、携帯連動機能のパスワード入力など）など所定の音量調整不能状況を除く全ての状況（回胴回転中、停止中、デモ画面など）で音量調整ができるものとしてもよい。

【３７５８】

また、回動回転停止中などに限り音量調整ができるものとしてもよい。

【３７５９】

音量調整操作手段と異なる演出用操作手段（演出ボタン、演出用レバー、タッチセンサー、測距センサーなど副制御基板側で管理される操作手段であってもよいし、リール演出の目的で操作されるスタートレバーやベットボタンなど主制御基板側で管理される操作手段であってもよい）の操作演出の操作待ち中（例えば、「演出ボタンを押せ！」と画面に表示される演出中）であっても音量調整を可能として、操作応答演出の音量を適切に調整できるものとしてもよい。

【３７６０】

遊技機の左・右キーなど１回の操作で音量調整メニュー画面（音量表示バーなど）を開けるものでもよいし、遊技者メニュー画面から音量調整メニュー画面を開けるものでもよい。

【３７６１】

［１．４．ホール用音量調整の影響］

遊技者用の音量調整とは別にホール管理者用の音量調整機能を備える遊技機もある。加算音は、ホール管理者用の音量調整の影響を受けるものとして、ホール管理者の設定した音量段階に応じた音量で出音するものとしてもよい。この場合は、周囲の環境に合わせて設定した音量に沿って出音されるために、加算音が大きすぎてうるさいといった事象を抑制できる。

【３７６２】

また、加算音は、ホール管理者用の音量調整の影響を受けないものとして、一定の比較的大きな音量で出音するものとしてもよい。この場合は、遊技者が加算音を聞き逃す可能性を低く抑えることができる。

【３７６３】

なお、加算音は、ホール用音量調整の影響を受けるが、遊技者用の音量調整には影響を受けないといった仕様としてもよい。

【３７６４】

［１．５．遊技者用の音量調整操作中の加算音出音時］

遊技者用の音量調整中に音量上昇操作（例えば、上・下キーで調整する仕様なら上キー押下時）や音量低下操作（例えば、上・下キーで調整する仕様なら下キー押下時）には、調整後の音量でサンプル音が出音され、遊技者が概ねどの程度の音量レベルなのかを認識できるものとしてもよい。

【３７６５】

例えば、音量レベル３（概ね８０デシベル）である状況で上キーを１回押した場合は、音量レベル４（概ね８２デシベル）となり、音量レベル４の音量でサンプル音が出音される。

【３７６６】

サンプル音の出音と加算音の出音のタイミングが重なった場合であっても、遊技者が加算音を認識できるように加算音を出力することが好ましい。現金または貯メダルを用いたクレジットの加算が完了したことは、遊技者にとって一般的にはサンプル音の音量よりも

重要な情報だからである。
【３７６７】
　この場合は、上述の（手法１）から（手法３）のいずれかを採用して、サンプル音の音量よりも加算音を優先的に出音するものとしてもよいし、加算音の出音が終わってから、サンプル音を出力するものとしてもよい。
【３７６８】
　また、加算音の出音中に音量レベルが変化した場合は、音量レベルが変化するまでは変化前の音量（例えば、音量レベル３の音量）で出音し、音量レベルが変化した後に変化後の音量（例えば、音量レベル４の音量）で出音するものとして加算音の音量変化を遊技者が認識しうるものとしてもよいし、加算音の出音開始時点の音量で最後まで出音するものとしてもよい。
【３７６９】
　なお、遊技者用の音量調整で設定しうる最低音量とした場合に、効果音などが極めて小さい音量または無音として静音性を高める仕様も考えられるが、このような仕様であり、遊技者用の音量調整が加算音の音量に影響を与える遊技機であっても、加算音は遊技者が認識できるように他の効果音などと比べて音量調整の影響が少ないものとして遊技者が十分に聞き取れる程度の音量（４０～７０デシベル程度）で出音することが望ましい。
【３７７０】
［２．クレジット加算時のクレジットのＬＥＤセグの動作］
　クレジットのＬＥＤセグにおいて、１→２→３→・・・と１つずつ、あるいは、複数の値ごとに加算値を表示していく過程を表示するインクリメント動作を発生させて０→１→・・・→４９→５０と加算を示してもよいし、インクリメント動作を発生させずに一気に０→５０としてもよい。
【３７７１】
　インクリメント動作を発生させない場合は、加算音も０．５～２秒程度の短い時間尺の音であることが好ましい。
【３７７２】
　インクリメント終了後にも長い時間、加算音の出音が続いてしまうと、まだクレジット加算が終了していないかのような印象を与えてしまうおそれがあるからである。
【３７７３】
　なお、インクリメント動作がない場合は一瞬でセグが変化するので、厳密にいえば、例えば１秒程度の短い時間尺の加算音であってもクレジット表示が加算後の値に変化した後も出音が続くことになるが、そもそもの時間が短いので遊技者に特に違和感や誤解を与えるおそれは少ない。
【３７７４】
［３．画面でのクレジット表示］
　主制御基板またはメダル数管理制御基板で制御されるクレジットのセグ以外に液晶やプロジェクション等の画像表示手段の画面にクレジット数を表記して遊技者が見やすいものとしてもよい。
【３７７５】
　加算時にインクリメント動作を行うかどうかは、クレジットのセグと同様でもよいし、クレジットのセグと異なる設定にしてもよい。
【３７７６】
［４．加算音以外のクレジットやサンドの操作に関する効果音について］
　ここまでは、サンド側の貸出ボタン操作に応じたクレジットの加算音に関する工夫について説明した。
【３７７７】
　このクレジットの加算音以外に、メダルレス遊技機や管理遊技機（封入式パチンコ）などの物理的な遊技媒体ではなくデータで遊技価値が管理されるスマート遊技機においては以下のような効果音が発生する場合がある。

・遊技終了時に遊技機からサンドの遊技価値記憶媒体（会員カードやゲストカードなど）に向けてクレジット内の遊技価値を転送する際のクレジット転送音。例えば、クレジットのセグ近傍などの転送ボタンの押下で行う。
・ベット済の遊技価値をクレジットへ戻す精算音。例えば、遊技機のマックスＢＥＴボタン付近の精算ボタンなどの押下で行う。
・遊技者が休憩などで一時的に離籍するときにサンド側で遊技価値記憶媒体（会員カードやゲストカードなど）が抜かれた際の一時的に遊技価値記憶媒体へのクレジットの転送ができない状態となったことを示唆又は報知する効果音。
【３７７８】
　これらのクレジット関連効果音の少なくとも１つまたは全てについて可能な範囲で上記加算音と同様の遊技者が聞き逃しにくいものとなるような工夫を適宜採用するものとしてもよい。
【３７７９】
［５．クレジット加算タイミング］
　リールの回転中にサンドの貸出ボタンを操作した場合であっても、クレジット加算処理は有効であり、貸出ボタンの押下から数秒でクレジット加算処理が行われる。例えば、ストップボタンの操作検出中などであってもクレジットの加算処理は有効に行われる。
【３７８０】
［６．計数音等に関するその他の工夫例］・遊技中でも計数可能であり、計数完了と入賞のタイミングが被ったとき、計数完了音の方が音量が大きく出音時間は短い、入賞音の方が音量が小さく出音時間は長い、などとして、計数完了音は聞き取りやすく、入賞音は聞き取りにくいものの出音自体は認識可能とするものとしてもよい。少なくとも両音の出音時間及び音量の少なくとも一方は、異なる態様とすることが望ましい。
・同様に遊技中でもクレジット加算が可能であり、加算と入賞のタイミングが被ったとき、加算音や加算完了音の方が音量が大きく出音時間は短い、入賞音の方が音量が小さく出音時間は長い、などとしてもよい。
・画像とし計数完了時において計数完了表示と、入賞表示（例えば、１０枚ベル入賞時に「ＧＥＴ１０」などと表示する画像）を備える場合、入賞表示の方が表示時間が短いものとしてもよい。入賞音は計数関連音より比較的出音が長く、画像については入賞表示の方が時間を短くすることで、複数の事象が重複発生した場合に状況を把握しにくくなる。
・別パターンとして、計数処理が終わってから計数中（或いは計数完了）の表示が消えるまでの時間と、入賞処理（クレジット加算等、任意に特定）が終わってから入賞画像（例えば、１０枚ベル入賞時に「ＧＥＴ１０」などと表示する画像）が消えるまでの時間と、を比べると後者の方が短いものとしてもよい。
・計数完了音の出音時間の長さは、ＢＥＴ、開始、停止、入賞、何れの音の長さとも異なるものとするとよい。仮に音の長さが完全に一致すると、タイミングが一致したときに聞き逃す可能性が高いからである。
【３７８１】
　上記の実施形態及び上記の変形例等の内容を適宜組み合わせることができる。
【３７８２】
［６．メダルレス遊技機、管理遊技機］
（メダルレス遊技機の貸出処理イメージ）
　図２９７（１）は、貸出前の遊技機１Ｘと遊技媒体貸出装置（遊技価値貸出装置、専用ユニット、サンドなどとも言う）２Ｘの概念図である。また、マックスベットボタン１１Ｘ、１ＢＥＴボタン１２Ｘ、クレジットセグ１４Ｘなどは操作台座部（台座部、コントロールパネル、またその略称である“コンパネ”などと表記することもある遊技機前側の膨出部ないし突出部）１０Ｘの天面に設けてあるため、正面視では見えにくい。そのため、この概念図では、位置関係が分かるように、操作台座部１０Ｘの場所については、上から見たときの位置関係で図示している。
【３７８３】

なお、以下、説明の便宜上、メダル相当の遊技価値をメダルと記載することがあるが、あくまでメダルに相当する価値のベット、クレジット加算という意味であり、物理的なメダルの排出などは行われない。

【３７８４】

また、メダルレスパチスロのクレジットセグと、封入式パチンコ（管理遊技機）の持玉セグの両方を指す表現として「貯留セグ」、「貯留数表示手段」、「保有遊技価値数を示すセグ」、「保有遊技価値数表示手段」などという表現を用いる場合がある。パチスロとパチンコで実施例を記載しているが、クレジットセグについての仕様をパチンコの持玉セグに、持玉セグの仕様をパチスロのクレジットセグに矛盾のない範囲で適宜採用することが可能である。

【３７８５】

（クレジットセグの態様及び画面内のクレジット関連表示）

遊技機１Ｘには、クレジットセグ（例えばメダル数表示ユニットのクレジット表示用７ＳＥＧ。５ケタまたは６ケタからなる。貯留セグ等とも言う。）１４Ｘが設けられている。

【３７８６】

また、画像表示手段（リール前に設けられた透過式の液晶表示器）３Ｘの左下には貯留メダルを示すＣＲＥＤＩＴ表示が、右下には当該ゲームでの付与メダルを示すＰＡＹ表示の画像が表示されている。

【３７８７】

この時点では、まだメダル相当の遊技価値の貸出が行われていないため、画面でのＣＲＥＤＩＴ表示は「００」、クレジットセグの表示「０」となっている。

【３７８８】

この場合の「０」の表示桁数は、何ケタとしてもよいが、クレジットセグＺ４は、１ケタ表示の「０」とすることが望ましい。電源投入中のほぼ全ての状態でこのセグＺ４には、数値が表示されるため、セグの表示桁数を少なくすることで消費電力の節約につながるからである。一方、画面のＣＲＥＤＩＴ表示は、「００」としてＰＡＹ表示と同じ桁数にして左右の遊技価値関連表示欄の桁数を揃えて、見た目のバランスを良くするとよい。

【３７８９】

なお、画面のＣＲＥＤＩＴ表示およびＰＡＹ表示は、（１）どちらも存在しない、（２）ＣＲＥＤＩＴのみ、（３）ＰＡＹのみ、（４）ＣＲＥＤＩＴとＰＡＹの両方のいずれの仕様としても良い。また、場面に応じて表示の有無を変更してもよい。例えば、デモ画面（客待ち画面）ではＣＲＥＤＩＴ表示とＰＡＹ表示のどちらの画像も表示せず、クレジット加算後などに表示される遊技待ちの通常画面では（２）～（４）のいずれかの予め定められた画像を表示とするなどとしてもよい。

【３７９０】

また、エラー中は、エラーと関係性の低い情報の表示を中断した方が状況を把握しやすくなるため、ＣＲＥＤＩＴ及びＰＡＹ画像の表示を行わないことが望ましい。

【３７９１】

なお、クレジットセグ１４Ｘは単色セグを用いているが、画面のＣＲＥＤＩＴ表示もクレジットセグ１４Ｘと同系色を使うと同じ意味の情報である点が把握しやすくなってよい。例えば、クレジットセグ１４Ｘが赤色単色セグで、ＣＲＥＤＩＴ表示が赤系統色などとする場合である。

【３７９２】

（サンドについて）

サンド２Ｘに遊技者が５００枚の貯メダル（再プレイ、つまりカードに貯めてあるメダルのうち貸出が可能なメダル。）がある会員カードを入れ、サンド２Ｘに３０００円分の紙幣を入金した状態である。

【３７９３】

サンド２Ｘの小型画面には入金額と再プレイ可能メダル数が表示されている。なお、サ

ンド２Ｘには紙幣挿入口、会員カード・１日カードの挿入口、カードを排出するための返却ボタン２１Ｘ、入金した現金からの貸出操作を行う貸出ボタン２２Ｘ、貯メダルからの貸出操作を行う再プレイボタン２３Ｘが設けられている。また、図ではサンド２Ｘの下方に「遊技料金１０００円５０枚」とその店の貸出ルールに関する記載シールが貼り付けてある。

【３７９４】

（貸出後の状態について）

図２９７（２）は、図２９７（１）の状態から１回再プレイボタン２３Ｘを押し、５０枚分のメダルに相当する遊技価値を遊技機１Ｘのクレジットに加算した後の概念図である。

【３７９５】

サンド２Ｘの貸出ボタン２２Ｘを操作すると加算されて、クレジット表示が変化する。そして、貸出音（クレジット加算音）が出音される。また、合わせて液晶のクレジット画像も「００」から「５０」に変化する。

【３７９６】

なお、加算と説明したが、プログラム上は、加算処理ではなく加算後の値に結果として更新されればよく、その手法は任意の更新処理を適宜採用可能である。また、厳密には一瞬でクレジットの加算処理が行われており、その後にクレジットセグの数値が更新されることとなる。詳しくは後述する。

【３７９７】

（管理遊技機（パチンコ機）の貸出処理イメージ）

図２９８（１）は、貸出前の遊技機（パチンコ機）１Ｙと遊技媒体貸出装置（遊技価値貸出装置、専用ユニット、サンドなどとも言う）２Ｙの概念図である。また、持玉セグ１１Ｙ、演出用ボタン１２Ｙ、音量・光量調整キー１３Ｙなどは操作台座部（台座部、コントロールパネル、またその略称である“コンパネ”などと表記することもある遊技機前側の膨出部ないし突出部）１０Ｙの天面に設けてあるため、正面視では見えにくい。そのため、この概念図では、位置関係が分かるように、操作台座部１０Ｙの場所については、上から見たときの位置関係で図示している。なお、従来の遊技球を借りて遊技機内に取り込んで発射するタイプのパチンコ機と異なり、コンパネには玉皿が設けられておらず、その分のスペースを用いて、演出用ボタン１２Ｙの大型化などを図っている。

【３７９８】

一般的に、パチスロ機の場合は遊技機１Ｘの右側にサンド２Ｘが設置されるが、パチンコ機の場合は、遊技機１Ｙの左側にサンド２Ｙが設置される。

【３７９９】

なお、以下説明内においての便宜上、球技玉相当の遊技価値を玉、遊技球などと記載することがあるが、サンド２Ｙとの通信により持玉データとして加算されるのは、あくまで玉に相当する価値の加算という意味であり、サンド２Ｙからの遊技球の払出や、パチンコ機の機外に遊技球の排出などは行われない。パチンコ機の遊技球流下領域である遊技領域および、パチンコ機内の遊技球の循環機構内で封入された遊技球は循環することになる。具体的には、盤面左下、又は左上の発射部から発射された実際の遊技球は、遊技領域を流下したのちに、アウト口や入賞口に入り、遊技機内の循環通路を通って、後、再度発射装置から発射されるにいたる。

【３８００】

（持玉セグの態様及び画面内の持玉関連表示）

遊技機１Ｙの前扉（遊技盤と遊技枠では枠側に含まれる）には、５桁又は６桁の持玉セグ（パチスロ機でのクレジットセグ、貯留セグに相当する保有遊技価値数を示す７セグ）１１Ｙが設けられている。なお、持玉セグ１１Ｙと計数ボタン１４Ｙは１つのユニット（持玉数表示ユニット）として遊技機に取り付け可能としてもよい。

【３８０１】

図２９８（１）に図示した時点では、まだ遊技価値（遊技価値１＝遊技球１発を打ち出

す権利に相当）の貸出が行われていないため持玉セグ１１Ｙの表示「０」となっている。この場合の「０」の表示桁数は、何ケタとしてもよいが、持玉セグ１１Ｙは、１ケタ表示の「０」とすることが望ましい。電源投入中のほぼ全ての状態でこのセグには、数値が表示されるため、セグの表示桁数をなるべく少なくした方が消費電力の節約につながるからである。

【３８０２】

なお、図示していないが、画面内に持玉数を表示することとしてもよい。

【３８０３】

なお、画面の持玉表示は、場面に応じて表示の有無を変更してもよい。例えば、デモ画面（客待ち画面）では表示せず、サンド２Ｙからの持玉データの加算後などに表示される遊技待ちの通常画面では表示するとしたり、大当り中や時短・確変・小当たりＲＵＳＨ状態など、遊技者にとって有利な状態に限って持玉を画面に表示するなどとしてもよい。

【３８０４】

また、エラー中は、エラーと関係性の低い情報の表示を中断した方が状況を把握しやすくなるため、持玉数を示す画像の表示を行わないことが望ましい。

【３８０５】

なお、持玉セグ１１Ｙは単色セグを用いているが、画面の持玉表示も持玉セグ１１Ｙと同系色（類似色）を使うと同じ意味の情報である点が把握しやすくなってよい。例えば、持玉セグ１１Ｙが赤色単色セグで、持玉表示が赤系統色などとする場合である。

【３８０６】

（サンドについて）

図２９８（１）は、サンド２Ｙに遊技者が５００枚の貯メダル（再プレイ、つまりカードに貯めてあるメダルのうち貸出が可能なメダル。）がある会員カードを入れ、サンド２Ｙに３０００円分の紙幣を入金した状態である。

【３８０７】

サンド２Ｙの小型画面には入金額と再プレイ可能メダル数が表示されている。なお、サンドＺ１２には紙幣挿入口、会員カード・１日カードの挿入口、カードを排出するための返却ボタン２１Ｙ、入金した現金からの貸出操作を行う貸出ボタン２２Ｙ、貯メダルからの貸出操作を行う再プレイボタン２３Ｙが設けられている。また、図ではサンドの下方に「遊技料金１０００円２５０玉」とその店の貸出ルールに関する記載シールが貼り付けてある。

【３８０８】

（貸出後の状態について）

図２９８（２）は、図２９８（１）の状態から１回再プレイボタン２３Ｙを押し、１２５球分の玉に相当する遊技価値を遊技機のクレジットに加算した後の概念図である。

【３８０９】

サンド２Ｙの貸出ボタン２２Ｙを操作すると加算されて、クレジット表示が変化する。そして、貸出音（クレジット加算音）が出音される。また、合わせて液晶のクレジット画像も「００」から「５０」に変化する。

【３８１０】

（スピーカーの配置について）

図２９８に示す遊技機では、斜線の円形で図示するスピーカー１６Ｙが遊技機１Ｙの右上、左上、右下、左下（右下スピーカーの反対側）、そして遊技機１Ｙ下部のハンドルと同じくらいの高さの位置にある下方スピーカーの合計５つが配置されている。このうち、持玉セグ１１Ｙの更新（サンド２Ｙからの貸出による加算又はサンド２Ｙへの転送による減算）が行われた場合の効果音は、（１）右下スピーカーから出音する、また、（２）右下及び右上スピーカーから出音として、持玉セグ１１Ｙに近い位置である遊技機１Ｙのうち右側から出音すると、変化するセグと出音位置が近いため遊技者に違和感を持たれにくい。変化しているセグと離れたスピーカーから効果音が鳴ると、若干であるが違和感を覚えることがあるからである。なお、メダルレスパチスロにおいてもクレジットセグに近い

方のスピーカーからクレジットセグの更新時の効果音を出音するものとしてもよい。

【３８１１】

もっとも、上記以外の出音態様としても遊技者に適切に聞き取れる音量で出音していれば特に問題はない。

【３８１２】

（操作台座部の概念図 仕様例１について）

図２９９は、図２９７に示す遊技機１Ｘの操作台座部１０Ｘの概念図である。実際は、点線Ａ－Ｂより上は、操作台座部１０Ｘの天面を上から見下ろした位置での概念図であり、点線Ａ－Ｂよりも下は、実際には操作台座部１０Ｘの前側側面部（遊技者に対向する略鉛直の面）を並べて図示したものである。

【３８１３】

操作台座部１０Ｘの天面にこれらすべての操作手段が設けられているわけではなく、操作台座部１０Ｘの前方側面の操作手段も含めて図示して、操作台座部１０Ｘの操作手段などについて一通りの概念図として図示している。

【３８１４】

なお、点線で補助線を引いているＳ１－Ｓ２をつなぐラインで切断した場合の概念図として後述の図３００（２）を作成している。

【３８１５】

各操作手段や表示部の説明は以下の通りである。

・指示モニタセグ３１Ｘ：ＡＴ機能による停止操作態様（打順や狙うべき図柄）を示す指示情報を表示する２ケタセグ。操作台座部天面の左上に配置。なお、このほかに当該単位遊技での付与メダル数を示すＰＡＹセグ（ＰＡＹＯＵＴセグ）を設けてもよい。ＣＲＥＤＩＴセグと位置を離す配置としている。これにより、遊技者が指示情報を示す番号（例えば、指示ありゲームのリール回転中に１～１８などの指示種別を示す数字が表示される）をクレジットの残りメダル数と見間違えすることを防止できる。

【３８１６】

なお、指示モニタセグ３１Ｘは、後述のクレジットセグ１４Ｘと異なり斜め前方（遊技者の目線方向）に傾斜しておらず、ほぼ真上に向けて配置されており、クレジットセグ１４Ｘと比べてやや視認しづらいようになっている。

【３８１７】

これは指示モニタ番号に相当する指示情報が画面に分かりやすく表示されるので、特に遊技者は指示モニタを意識することなく遊技を可能としているからである。

【３８１８】

・ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘ、１ＢＥＴボタン１２Ｙ：操作台座部１０Ｘの指示モニタ３１Ｘ近傍には、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘと１ＢＥＴボタン１２Ｘが用意されている。３枚掛け専用の遊技機であっても１ＢＥＴボタン１２Ｘの押下により１枚ずつのベットが可能となっているが、当然３枚掛け専用機ではベット枚数が２枚以下の状態ではスタートレバー３２Ｘを叩いても遊技を開始することはできない。なお、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘと１ＢＥＴボタン１２Ｘはユニット化されており、ユニットとして操作台座部１０Ｘに組み付けられている。

【３８１９】

・演出用ボタン：操作台座部１０Ｘ天面の略中央に配置。なお、演出用操作手段として演出用ボタンは複数種類でもよく、演出用ボタンに代えてまたは演出用ボタンとともに演出用レバーやタッチパネル、測距センサなどを設けてもよい。また、演出用操作手段に振動機構を備えて、遊技者操作した際に振動を感じることが出来るものとしてもよい。また、チャンスボタン３３Ｘが２重構造となっており、表側のフタが開閉可能となっており、内側にさらなるチャンスボタンが用意されているものでもよい。

【３８２０】

・メダル数表示ユニット３４Ｘ：操作台座部１０Ｘ天面の右側に設けられている。詳細は改めて後述するが、ここでは位置関係と大まかな形状について述べる。奥行５ｃｍ程度、

横幅９ｃｍ程度の上面視で長方形のユニットで、黒色の樹脂に白文字で説明テキストやＣＲＥＤＩＴ、計数の文字が付されている。なお、セグの前方は透過性の樹脂で構成されてとなっておりセグの点灯態様が視認できる。

【３８２１】

操作台座部１０Ｘ天面の奥行Ｄ１は約１０ｃｍである。メダル数表示ユニット３４Ｘの奥行（前後方向の長さ）は約５ｃｍである。メダル数表示ユニット３４Ｘのうち遊技機の画面（上記図では不図示だが図面の上側に存在している）に近い方の端部から、画面までの距離であるＤ２は約２ｃｍである。メダル数表示ユニット３４Ｘの手前側（遊技者側）の端部から操作台座部天面の手前側の縁までの距離であるＤ３は約３ｃｍである。なお、これらの数字は一例であり、クレジット操作部が例示されたサイズより大きくてもよく、小さくても良い。なお、左右方向（筐体の横幅）は４７．５ｃｍとなっているため、操作台座部１０Ｘの横幅も概ね４７．５ｃｍほどとなっている。

【３８２２】

・計数ボタン１５Ｘ：直径２ｃｍ弱の円形であり、目立つように赤色となっている。この仕様の場合は、コストダウン及び省スペース化のために計数ボタン１５Ｘは点灯しないボタンとなっている。

【３８２３】

・精算ボタン１３Ｘ：操作台座部Ｚ２０の前側面（遊技者に向けて対向する略垂直の面）のうちの左側に配置。ベット済みのメダルを一括してクレジットに戻すためのボタンである。これも計数ボタン１５Ｘと勘違いされないように、計数ボタン１５Ｘとは離れた位置となっている。ある程度離されていれば、反対側でなくてもよいが、このように計数ボタン１５Ｘを筐体の中央よりも右方向側に、精算ボタン１３Ｘを筐体の中央よりも左方向側に配置すると遊技者の誤認を防ぎやすいという効果がある。

【３８２４】

また、ベット操作をした後に、敢えてベット済みのメダルを戻すシーンは比較的少ないため、やや目立たない位置に設けられており、ボタンの色も黒色と、計数ボタン１５Ｘと異なる色として計数ボタン１５Ｘとの混同されにくいようにしている。また、精算ボタン１３Ｘは直径１ｃｍ程度と計数ボタン１５Ｘよりも小さいサイズとしている。

【３８２５】

・ストップボタン３５Ｘ：操作台座部１０Ｘの前面側側面のほぼ中央に位置する。ユニット化されている。詳細は割愛する。

【３８２６】

・音量・光量調整ボタン及びメニューボタン３６Ｘ：右側の円形は、遊技データや遊び方ガイドの表示、携帯連動機能、演出カスタム項目などのメニュー画面を表示させるメニューボタン。上下左右の三角形は、上キーで光量の上昇、下キーで光量の低下、左キーで音量の低下、右キーで音量の上昇操作が可能である。これらは、操作台座部１０Ｘの前方側面の右側に配置されており、これらのボタンは、ユニット化されており、組付け作業の効率化が図られている。

【３８２７】

・鍵穴１６Ｘ：遊技機１Ｘの前扉を開放させるためのドアキー（鍵）を差し込む鍵穴である。ドアキーは店員が操作するものであり、遊技者に鍵穴を意識させる必要はないため、遊技機１Ｘの右側に設けられている。少なくとも鍵穴１６Ｘよりも右には遊技者用操作手段は配置しないこととしている。また、鍵穴１６Ｘは正面視では計数ボタン１５Ｘよりも遊技機１Ｘの端部側（右端側）に配置されており、計数ボタン１５Ｘを操作する際にも遊技者にあまり目立たない位置となっている。

【３８２８】

（メダル数表示ユニット 上面視の概念図について）

図３００（１）は、図２９９で簡略化していたメダル数表示ユニット３４Ｘ近傍を説明するための概念図である。

【３８２９】

メダル数表示ユニット３４Ｘは上面視で長方形であり、全体は黒色の樹脂製のカバー部材の内部にクレジットセグ１４Ｘを備え、カバー部材の表面に説明記載が白文字で表記されており、またカバー部材の円形の開口部に、計数ボタン１５Ｘを備える。

【３８３０】

遊技機１Ｘの手前側から奥に向かって、Ｆ地点、Ｃ地点、Ｔ地点、Ｂ地点と便宜上呼ぶ。詳しくは後述する。

【３８３１】

クレジットセグ１４Ｘは、遊技機１Ｘに記録されているクレジット数を表示可能な５桁のＬＥＤ７セグである。遊技機１Ｘからサンド２Ｘへのメダルの転送を行うための計数ボタン１５Ｘがクレジットセグ１４Ｘ近傍に配置されている。

【３８３２】

また、計数ボタン１５Ｘの操作方法の説明記載が記載されており、遊技者が遊技終了時や休憩時にメダルをサンド２Ｘ（サンドＺ２の会員カード等）へ移動させる際に操作に迷わないような配慮がなされている。

【３８３３】

仕様例１では、計数ボタン１５Ｘは発光しないタイプであり、赤色の樹脂製ボタンを用いている。

【３８３４】

計数ボタン１５Ｘの周囲は注目用装飾部として、白色の円（図では黒線の円で記載）が設けられており、黒地のところで白い円があるため計数ボタン１５Ｘが目立つようになっている。なお、注目用装飾部の色は一例であり、地の色と異なる色であればよく、また円形以外の装飾態様であってもよい。周囲を取り囲む模様以外にも近傍に注目を引く何等かのデザインを施すものであってもよい。

【３８３５】

これらのクレジットセグ１４Ｘ及び計数ボタン１５Ｘ、及び、説明記載部がメダル数表示ユニット３４Ｘとしてユニット化されており、遊技機１Ｘ前側の操作台座部１０Ｘに設けられている。

【３８３６】

（変形例：計数ボタンを発光させる仕様例）

もっとも、計数ボタン１５Ｘを発光可能な仕様として、計数可能状態を緑点灯、計数中を赤点灯、計数不能状態（クレジットが０の状態等）は青色などと発光色を異ならせることで、遊技者に計数ボタン１５Ｘの操作可能状況を示唆可能としてもよい。なお、ここでの「示唆」とは点灯ルールを知らない者であっても何となくランプの色でイメージがつくといったものであり、ルールを知っている遊技者にとっては明確に状態を認識可能となるという意味で「報知」と捉えることもできる。便宜上、「示唆及び報知」を含むものを示唆と表記する場合がある。同様に他の記載においても「示唆」は「報知」を含みうる概念として説明している。

【３８３７】

（メダル数表示ユニット 断面の概念図について）

図３００（２）は、図２９９の切断面Ｓ１－Ｓ２、つまりメダル数表示ユニット３４Ｘの付近で切断した場合の断面の概念図である。

【３８３８】

操作台座部（コントロールパネル、コンパネと略記することもある）１０Ｘとは、スタートレバー３２Ｘやストップボタン３５Ｘ、演出用ボタン、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘ、ペイアウトセグ、クレジットセグ１４Ｘなどが設けられた膨出部である。図示の都合上、この図では操作台座部１０Ｘ及びメダル数表示ユニット３４Ｘを、実際よりも大きく描いている。なお、操作台座部１０Ｘ前面側の各種操作手段（例えば、メニューボタン）については図示を省略している。

【３８３９】

遊技機１Ｘの手前側から奥に向かって３つの傾斜面からなり、手前からＦ地点、Ｃ地点

、Ｔ地点、Ｂ地点と便宜上呼ぶ。各地点及び各地点間を構成する面部について説明する。Ｆ地点：メダル数表示ユニット３４Ｘの一番手前の地点（遊技者側）。Ｃ地点：メダル数表示ユニット３４Ｘの手前から全体の２／３ほどの中腹地点。ここから上のＣ地点－Ｔ地点間は、傾斜角度がＦ地点－Ｃ地点間よりも急になっている。Ｔ地点：メダル数表示ユニット３４Ｘのうち、もっとも操作台座部１０Ｘから高くなっている地点。Ｂ地点：メダル数表示ユニット３４Ｘの一番後ろ側（奥側、遊技機の画面に近い側）の地点。

【３８４０】

Ｆ地点－Ｃ地点の面（第１の面）：説明記載及び計数ボタン１５Ｘ及び計数ボタン１５Ｘ用の開口部が設けられている面。特に内部を透過させる必要がないため、黒塗装がなされており、その上に白文字の塗装がなされている。もっとも、塗装をほどこさずに光を透過しない樹脂で任意の色で構成してもよい。

【３８４１】

操作台座部１０Ｘの天面に対する傾斜角度（図の角度Ｒ）は、約２０度である。２０度以外の角度としてもよく、操作台座部１０Ｘと、メダル数表示ユニット３４Ｘの傾斜面との角度Ｒは概ね１０度～４０度程度とすると、遊技中に見下ろす遊技者からも見えやすく、かつ、ある程度前方からの視認性も良くなる。

【３８４２】

なお、計数ボタン１５Ｘの操作部（ボタンとして押下される面）も概ね２０度と当該第１の面と近い角度（厳密に同じ角度にするのは難しいため数度の角度差はある）に傾斜しており、手前側から操作しやすいものとなっている。

【３８４３】

Ｃ地点－Ｔ地点の面（第２の面）：ＣＲＥＤＩＴの文字表示、及び、クレジットセグ１４Ｘが設けられた面。少なくともクレジットセグ１４Ｘの前方はセグの点灯態様が視認できるように透過性を有する。

【３８４４】

操作台座部１０Ｘの天面に対する傾斜角度は、約３０度である。

【３８４５】

補助線Ｈは、クレジットセグ１４Ｘの表示面の傾きを分かりやすくするために引いたクレジットセグ１４Ｘの表面から引いた垂線である。

【３８４６】

Ｔ地点－Ｂ地点の面（第３の面）：奥側に向かって傾斜した面。操作台座部１０Ｘの天面に対する傾斜角度は、約７０度である。なお、操作台座部１０Ｘの天面に対する傾斜角度は、垂直（９０度）としてメダル数表示ユニット３４Ｘの後ろ側壁部を直立した壁部として構成しても良いが、後述のようにスマートフォンなどを立てかけやすくするといった効果や、三角形の頂点にあたるＴ地点の角度が上方向に向かって尖りすぎていると、遊技者が操作時にケガをするおそれがあるため、垂直ではなく約７０度の傾斜面としている。角度は一例であり、７０度以外の角度でもよいが概ね４５度～８０度くらいのある程度の傾斜角を持たせることがスペース的な観点からは望ましい。

【３８４７】

このようにメダル数表示ユニット３４Ｘのクレジットセグ１４Ｘは、前方向（遊技者方向）に向けて傾斜しており、これにより、クレジットセグ１４Ｘが真上ではなく斜め前方に対向する配置となるため、遊技者から見やすくなる。また、下皿にメダルが置いてあるかどうかで遊技者が一時的に離席している台か空き台かを判別できるメダル遊技機と異なり、メダルレス遊技機では一見して空き台かどうか分かりにくいため、空き台であることが示唆されるクレジット「０」という表示を遠くから視認しやすくすることで、空き台を探す遊技者にも空き台であることを認識させやすくなるという効果もある。

【３８４８】

なお、液晶画面の表面（アクリル製の透明板、ガラスでもよい）の手前側操作台座部１０Ｘの上面部には、画面のフレーム（保護枠）部材が設けられている。なお、フレームは、台座部と画面の表面との隙間を埋めることでゴトを防止する役割も果たしている。その

ため、画面のフレーム部材に代えて、またはフレームと併用するかたちで図における画面フレーム５Ｘのある位置にゴト防止目的の“所定の段差部”を設けることとしてもよい。

【３８４９】

（メダル数表示ユニットの断面を拡大した概念図について）

図３０１（１）では、Ｔ地点－Ｂ地点の面（第３の面）であるメダル数表示ユニット３４Ｘの背面部と画面との距離について説明する。

【３８５０】

メダル数表示ユニット３４Ｘの頂点であるＴ地点と画面との距離であるＤ５は約２ｃｍである。少なくとも１ｃｍ以上あればよい。メダル数表示ユニット３４Ｘの第３の面の操作台座部１０Ｘとの接点であるＢ地点と画面前方に設けられた画面フレーム（以下、画面保護部材ということがある）５Ｘとの距離であるＤ４は約１．５ｃｍ。こちらはＤ５より狭ければ何センチでもよい。メダル数表示ユニット３４Ｘの第３の面は画面側に向かって概ね７０度程度で傾斜している。

【３８５１】

（一般的なスマートフォンを置いた場合の概念図について）

図３０１（２）を用いて図３０１（１）に一般的なスマートフォンを置いた場合の概念図について説明する。

【３８５２】

そのため、画面に向けて一般的なサイズのスマートフォン（一例として厚さ０．８８ｃｍ、縦１６．６ｃｍ、横幅７．８ｃｍ、画面サイズ６．７インチ）ＳＦを立てかけて置いた場合に安定するようになっている。

【３８５３】

クレジットセグ１４Ｘを前方に傾けることで、遊技者に見やすくするだけでなく、傾斜部を操作台座部１０Ｘから突出させ、かつ、画面との間に一般的なスマートフォンＳＦを入れ込むことが可能な幅を持たせる（操作台座部１０Ｘとメダル数表示ユニット３４Ｘとの対向部のうち広い部分の幅が１ｃｍ以上とする）ことで、スマートフォンＳＦを安定して立てかけることができる。

【３８５４】

また、メダル数表示ユニット３４Ｘの高さは最も高い位置で操作台座部Ｚ２０から約２ｃｍほどなので、立てかけたスマートフォンＳＦの視認性もあまり低下させないものとなっている。

【３８５５】

また、メダル数表示ユニット３４Ｘの第３の面を画面側に向けて傾斜させることで、スマートフォンＳＦを立てかけた際に、スマートフォンＳＦの底面が操作台座部１０Ｘと第３の面との２点に接して画面が前方斜め上に向くように立てかけやすいので、操作台座部１０Ｘの第３の面が操作台座部１０Ｘの天面に対して垂直に設けられている場合よりも立てかけたスマートフォンＳＦの安定感を高めることができる。なお、第３の面を操作台座部１０Ｘに対して垂直にした場合であっても、Ｄ５が１ｃｍ以上あればメダル数表示ユニット３４Ｘと画面との間の隙間にスマートフォンＳＦを立てかけることは可能であり、第３の面を傾斜面とした場合よりもスマートフォンＳＦの画面を斜め前方に向けにくくなるものの、スペースを考慮して第３の面を略垂直にしてＤ５の距離を調整してスマートフォンＳＦを立てかけ可能な構造としてもよい。遊技しながらスマートフォンＳＦで動画や機種情報などを見ることもできるようにすることで、遊技者のタイムパフォーマンスを向上させることができる。遊技者は、退屈な通常時で、遊技の興趣が低下したとしても、ある程度は気分を紛らわすことができる。また、このようなスマートフォンＳＦ等の立てかけを容易とする構造については、メダル数表示ユニット３４Ｘ以外について採用してもよい。操作台座部１０Ｘの天面に所定の突出部（ここまでに説明したメダル数表示ユニット３４Ｘ以外だと、演出ボタンや演出用レバーなどの演出用操作手段やその操作手段を備えるユニット部、音量・光量調整キーやそのキーを備えるユニット部、ＭＡＸＢＥＴボタンやボタンユニット、特に機能を有しない装飾目的の突出部など）を設けて、後方側の面を遊

技機の奥側方向に向かって傾斜させ、後方の壁部（例えば、画面前方の保護板やミドルパネル、装飾部など）との間に１ｃｍ以上の間隔を設ければよい。なお、立てかける物は、スマートフォン以外でもよく例えば、タブレットや手帳、電子タバコ、メモ帳、台の説明が記載された小冊子などサイズ的に許容されるものであれば他のものも立てかけることが可能となる。

【３８５６】

なお、Ｆ地点からＴ地点までの傾斜面を同じ傾きの一の面としても良い。また、第１の面（Ｆ～Ｃ面）と第２の面（Ｃ～Ｔ面）は傾斜角度が異なっていれば、角度はどちらが急としてもよい。

【３８５７】

画面フレーム（以下、「奥側部材」と記載することがある）５Ｘの上面、または前面など画面フレーム５Ｘの遊技者から視認可能な部位に遊技者向けの注意書きや操作手段やランプの名称、所定の装飾デザインを施しても良い。なお、奥側部材は操作台座部の奥側の位置にある段差部や突出部や膨出部であればよく、画面フレームに限定されない。例えば、装飾用段部等や操作台座部１０Ｘと画面との隙間にモノを挿入されにくいようにする保護用段部等について本段落の内容を適用することとしてもよい。図３００では画面の前方（厳密には画面の前の透光板のさらに前方）に段差部を設けているが、画面がリールよりも正面視で上方の位置にあるような構成の場合は、奥側部材は、ミドルボード（リール前方の保護板）や遊技機の装飾部など所定の壁部の近傍かつ操作台座部の奥側位置に配置されていればよい。

【３８５８】

注意書きなどの記載は直接フレームにプリントしてもよいし、シールなどを貼り付けてもよい。このような記載を備えることで限られた操作台座部のスペースを有効に活用できる。例えば、注意書きであれば「光を長時間凝視しないでください」、「演出ボタンの可動時に指を挟まないように注意してください」などと記載することが考えられる。注意書きのテキストの周縁や近傍に警告色（黄色と黒の交互のラインなど）や赤色など遊技者の注目を集めるための所定の装飾部をさらに設けて、遊技者の目に止まるようにしてもよい。操作手段の名称であれば、「１ＢＥＴ」、「精算」、「ＭＡＸＢＥＴ」などと記載すればよい。ランプの名称であれば各ベット枚数表示ランプがフレームの近傍に配置されている場合に、「１ＢＥＴ」、「２ＢＥＴ」、「３ＢＥＴ」、リプレイランプがフレームの近傍に配置されている場合に「ＲＥＰＬＡＹ」など、各種ランプの近傍の位置に当該ランプの役割を示す文字を表記しておけばよい。

【３８５９】

（操作台座部の概念図 仕様例２について）

図３０２は、仕様例１と異なる設計案の概念図である。図２９７などと同様に、正面視では見えにくい操作台座部５０Ｘについては、位置関係が分かるように、操作台座部５０ＡにおけるＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘやメダル数表示ユニット５２Ｘなどについては、操作台座部５０Ｘを上方から見たときの位置関係で図示している。なお、本仕様を前提としてのそのうちの一部の仕様について矛盾のない範囲で別仕様例のものを採用してもよく、本仕様例の内容を一部別仕様例で採用してもよい。

【３８６０】

画像表示手段５１Ｘ：液晶画面である。プロジェクターとスクリーンなど他の表示手段を採用してもよい。

【３８６１】

この仕様例では、リール前方に透過液晶を配置したタイプではなく、一般的な画面とリール窓という構成となっている。もっとも、画面を備えずに画面がある場所に装飾ランプや装飾パネルなど配置してもよい。

【３８６２】

スピーカー５３Ｘ：画面より上部の左右に２つ、リール窓上端付近の左右に２つ配置されている。左右装飾部５４Ｘ：斜線を掛けた両サイドの長方形に相当する部位には装飾ラ

ンプや装飾部材が配置されている。

【３８６３】

長方形の装飾部という意味ではなく、おおよそ装飾部が配置される位置を図示したものであり、装飾部のデザインは任意のものを採用できる。

【３８６４】

リール窓５５Ｘ：画面５１Ｘの下方に配置されている。なお、リールの位置を明示するため、３つ窓を記載しているが、窓（透明部分）自体は１つとしても１つの窓から全リールが見えるものでもよい。ミドルパネル５６Ｘ：リール窓５５Ｘ及び演出ランプ領域（当たりを報知するランプ、期待感示唆ランプ、チャンスゾーンなどを示す状態ランプなどの領域）、メインリールの位置を明示する「回胴」、「メインリール」といった文字表示などが設けられている。操作台座部５０Ｘの上方から液晶画面の下方までの領域がミドルパネル５６Ｘの部分に該当する。

【３８６５】

なお、操作台座部５０Ｘについては図３０３に沿って説明する。

【３８６６】

（操作台座部の概念図 仕様例２）

図３０３は仕様例２の操作台座部５０Ｘの概念図である。実際は、点線Ａ－Ｂより上は、操作台座部５０Ｘを天面から見下ろした位置での概念図であり、点線Ａ－Ｂよりも下は、実際には操作台座部５０Ｘの前側側面部（遊技者に対向する略鉛直の面）を並べて図示したものである。操作台座部５０Ｘは、前方に向けて１５度程度の緩やかな傾斜がつけられている。

【３８６７】

操作台座部５０Ｘの天面にこれらすべての操作手段が設けられているわけではなく、側面の操作手段も含めて図示して、操作台座部５０Ｘの操作手段などについて一通り概念図として図示している。

【３８６８】

なお、点線で補助線を引いているＳ１－Ｓ２をつなぐラインで切断した場合の概念図として後述の断面図を作成している。

【３８６９】

各操作手段や表示部の説明は以下の通りである。図の左上付近から順を追って説明する。

【３８７０】

（仕様例２における各操作手段や表示部の説明）・左右の装飾部５４Ｘ：左右の斜線の長方形の部位である。詳細は前述の通りである。

・ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘ、１ＢＥＴボタン５７Ｘ：操作台座部５０Ｘの指示モニタ近傍には、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘと１ＢＥＴボタン５７Ｘが用意されている。３枚掛け専用の遊技機であっても１ＢＥＴボタン５７Ｘの押下により１枚ずつのベットが可能となっているが、当然３枚掛け専用機ではベット枚数が２枚以下の状態ではスタートレバー３２Ｘを叩いても遊技を開始することはできない。なお、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘと１ＢＥＴボタン５７Ｘはユニット化されていない。

【３８７１】

また、１ＢＥＴボタン５７Ｘは長押し（５００ｍｓ以上押下状態を維持）した場合に、精算ボタン５７Ｘとして機能し、ベット済みメダル（１～３枚）をクレジットに戻す（ベット枚数が０になり、クレジットにベット済み枚数分のメダルが加算される）という精算処理が行われる。また、ベット操作時や精算操作時に効果音が出音される。

【３８７２】

ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘは直径３ｃｍほどの円形で操作可能時に、内部のＬＥＤが白点灯となり、操作不能時は消灯している。１ＢＥＴボタン５７Ｘは直径約１ｃｍ程度の黒樹脂で押下面が形成されたボタンであり、発光はしない。操作頻度が低いボタンであるためＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘよりも相対的に小さいボタンを採用している。

【３８７３】
・演出用ボタン６０Ｘ：操作台座部５０Ｘ天面の略中央に配置。略台形となっている。なお、演出用操作手段として演出ボタンは複数種類でもよく、ボタンに代えてまたは演出用ボタンとともに演出用レバーやタッチパネル、測距センサなどを設けてもよい。また、演出用操作手段に振動機構を備えて、遊技者操作した際に振動を感じることが出来るものとしてもよい。また、期待度の高いボタン押下演出（当たりや上乗せが確定する場合であってもよい）の場合にソレノイド等でボタンが通常位置よりも突出するといったギミックを搭載してもよい。
【３８７４】
・メダル数表示ユニット５２Ｘ：操作台座部５０Ｘ天面の右側には、設けられている。詳細は改めて後述するが、ここでは位置関係と大まかな形状について述べる。奥行５ｃｍ程度、横幅７ｃｍ程度の上面視で長方形のユニットで、表面の透過性のカバー部は操作台座部の天面と略同様の傾斜面となっている。
【３８７５】
　操作台座部５０Ｘ天面の奥行Ｄ１は約７ｃｍである。メダル数表示ユニット５２Ｘの奥行（前後方向の長さ）は約５ｃｍである。メダル数表示ユニット５２Ｘのうち遊技機の画面（上記図では不図示だが図面の上側に存在している）に近い方の端部から、画面までの距離であるＤ２は約１ｃｍである。メダル数表示ユニット５２Ｘの手前側（遊技者側）の端部から操作台座部天面の手前側の縁までの距離であるＤ３は約１ｃｍである。なお、これらの数字は一例であり、クレジット操作部が例示されたサイズより大きくてもよく、小さくても良い。なお、左右方向（筐体の横幅）は４７．５ｃｍとなっているため、左右装飾部５４Ｘも含めた操作台座部の横幅も概ね４７．５ｃｍほどとなっている。
【３８７６】
・計数ボタン１５Ｘ：ボタンのハード構成としては、１ＢＥＴボタン５７Ｘと同じボタン部材を採用している。直径約１ｃｍ程度の黒樹脂で押下面が形成されたボタンであり、発光はしない。見た目が同じなので混同しないように、１ＢＥＴボタン（精算ボタン）５７Ｘと離れた位置としている。具体的には計数ボタン１５Ｘは遊技機の中央よりも右側に、１ＢＥＴボタン５７Ｘは遊技機の中央よりも左側に配置すること混同を防止している。
・ストップボタン３５Ｘ：操作台座部の前面側側面のほぼ中央に位置する。ユニット化されている。詳細は割愛する。
・音量、光量調整ボタン及びメニューボタン３６Ｘ：中央の円形は、遊技データや遊び方ガイドの表示、携帯連動機能、演出カスタム項目などのメニュー画面を表示させるメニューボタン。上下左右の三角形は、上キーで光量の上昇、下キーで光量の低下、左キーで音量の低下、右キーで音量の上昇操作が可能である。これらは、操作台座部５０Ｘの前方側面の右側に配置されており、これらのボタンは、ユニット化されており、組付け作業の効率化が図られている。
【３８７７】
・鍵穴１６Ｘ：遊技機の前扉を開放させるためのドアキー（鍵）を差し込む鍵穴である。ドアキーは店員が操作するものであり、遊技者に鍵穴を意識させる必要はないため、遊技機の右側に設けられている。少なくとも鍵穴１６Ｘよりも右には遊技者用操作手段は配置しないこととしている。また、鍵穴１６Ｘは正面視では計数ボタン１５Ｘよりも遊技機の端部側（右端側）に配置されており、計数ボタン１５Ｘを操作する際にも遊技者にあまり目立たない位置となっている。
【３８７８】
（メダル数表示ユニット近傍の概念図 仕様例２）
　図３０４は仕様例２の機種のメダル数表示ユニット５２Ｘ近傍を上から見た場合の概念図である。仕様例１の機種と異なり、計数ボタン１５Ｘとクレジットセグ１４Ｘは一体的なユニットとはなっておらず、別部品として操作台座部５０Ｘに取り付けられている。
【３８７９】
　メダル数表示ユニット５２Ｘには、ＩＮＳＥＲＴランプ６１Ｘ、ＳＴＡＲＴランプ６２

Ｘ、ＲＥＰＬＡＹランプ６３Ｘ、１～３ＢＥＴランプ６４Ｘ、５桁のクレジットセグ１４Ｘ及び、クレジットセグの右隣のドットＬＥＤ６５Ｘ、２桁のＰＡＹセグ６６Ｘが設けられている。各箇所の機能は以下のようになっている。

【３８８０】

・ＩＮＳＥＲＴランプ６１Ｘ：ベット操作が可能な状況を示すランプ。ベット待ち状態かつクレジット１以上で点灯。リール回転中やフリーズ中などベット操作無効状態では消灯。クレジットが０枚の場合も消灯となる。なお、３枚掛け専用機であっても１枚以上のクレジットが貯留されていれば、１ＢＥＴ操作自体は可能であるため、ＩＮＳＥＲＴランプ６１Ｘは点灯状態となる。

・ＳＴＡＲＴランプ６２Ｘ：スタートレバー３２Ｘ操作により遊技開始できる旨を示すランプ。非遊技中は状態は消灯。遊技可能枚数のベット操作完了後に、点灯。

【３８８１】

・ＲＥＰＬＡＹランプ６３Ｘ：非遊技中は状態は消灯。再遊技役の入賞による再遊技の作動時に点灯。再遊技として行われる次ゲームの終了まで点灯が維持され、当該ゲームが再遊技ではない場合に消灯。

・１ＢＥＴ～３ＢＥＴランプ６４Ｘ：ベット済み枚数分のランプが点灯する。１枚ベットしたら１ＢＥＴランプのみ点灯。２枚ベットしたら１ＢＥＴランプ及び２ＢＥＴランプが点灯。３枚ベットしたら１～３ＢＥＴランプの全てが点灯する。遊技終了後も所定時間（例えば、３０秒）は直前のゲームのベット枚数を示す態様を維持し、その後、消灯する。

【３８８２】

（クレジットセグ、ＰＡＹセグ、ドットＬＥＤの仕様とクレジット数と付与メダル数を認識しやすくする工夫）・クレジットセグ１４Ｘ：５桁の７セグ。貯留枚数を表示する。ＰＡＹセグ６６Ｘとは異なる発光色で数値を表示する。例えば、白色の単色ＬＥＤからなるセグとなっている。図では白抜きで３１枚クレジット保有している状態を図示している。なお、当然、白以外のＬＥＤ色でもよいが、ＰＡＹセグ６６Ｘよりも明るい色（白色に近い色。）とすることが望ましい。

【３８８３】

フルカラーＬＥＤを用いて状況に応じて色を変化させても良い。なお、「００００３１」のように保持していない万の位、千の位、百の位に０を表示する仕様とすることも可能ではあるが、今回の仕様例では電力消費低減と見間違え防止（特に乱視や近眼、老眼の者がセグで遠目にみると０と８の識別が認識しにくいので）、遊技価値を保有していない上位の桁については非表示としている。

【３８８４】

・ＰＡＹセグ６６Ｘ： ２桁のセグ。当該ゲームの入賞に応じた付与メダル数の表示セグ。メダル遊技機の払出セグに相当。全リール停止後に入賞に応じた付与メダル数を表示し、次ゲームのためのベット操作時に付与メダル数の表示は終了しセグは消灯状態に戻る。なお、当該ゲームでメダル付与に係る入賞が発生しなかった場合（ハズレや再遊技揃いやボーナス揃い時を含む）は、付与メダル数として「０」を表示するのではなく、消灯状態を維持することで入賞の非発生を分かりやすくしている。クレジットセグ１４Ｘとは異なる発光色で数値を表示可能。例えば、赤色の単色ＬＥＤとなっている。図では黒塗りで数字を図示している。クレジットセグ１４Ｘの５つの各７セグの大きさとＰＡＹセグ６６Ｘの２つの各７セグ大きさは略同様としている。発光色違いで同じ規格のセグ部品（例えば、縦１３ｍｍ、横１０ｍｍ、奥行７ｍｍ、文字高９．９ｍｍの市販の小型７セグ等）を採用して全く同じサイズにしてもいいし、近い大きさのセグを採用してもよい。例えば、一方を前述の小型セグを採用し、もう一方に縦１７．５ｍｍ、横１２ｍｍ、奥行７ｍｍ、文字高１３．２ｍｍの市販の中型７セグを採用してもよい。また、ドットＬＥＤ６５Ｘ右端と、ＰＡＹセグ６６Ｘの右端セグは補助線Ｅで示すように、左右方向の位置が略同じとなっている。ドットＬＥＤ６５Ｘの左右幅は７セグＬＥＤの１/４（今回の仕様例では横幅は約２．５ｍｍ）と狭いため、クレジットセグ１４Ｘの１の位と、ＰＡＹセグ６６Ｘの１の位は左右方向で２．５ｍｍ程度のずれがあるものの、その左右方向の位置は、おおよそ

同じとなっている。同様に、クレジットセグ１４Ｘの１０の位と、ＰＡＹセグ６６Ｘの１０の位は左右方向で２．５ｍｍ程度のずれがあるものの、おおよそ同じ位置となっている。これは異なる桁の数字を表記するセグを前後方向に並べて配置してしまうと（例えば、クレジットセグ１４Ｘの１の位とＰＡＹセグ６６Ｘの１０の位が左右方向で略同じ位置前後とした場合）、前後に視線を移動させた際に見ている桁が何ケタ目なのか混乱しやすいので、こうした混乱を防止するためである。つまり、近いサイズの７セグで構成される複数桁のセグ群を前後に並列して並べる場合に、第１の列のセグ（クレジットセグ１４Ｘ）の桁を示すセグと、第２の列のセグ（ＰＡＹセグ６６Ｘ）との左右方向のずれが、少なくともそのセグの横幅の１/２以下（セグの横幅が１０ｍｍの場合は、第１の列と第２の列の左右の位置の差異は５ｍｍ以下）とすると、前後に視線移動が生じる場合でも数値の認識をスムーズにすることができるという効果を奏する。

【３８８５】

この仕様例では指示情報を示す情報（指示モニタの指示番号）をナビ発生時のリール回転中にＰＡＹセグ６６Ｘに表示しており、全リール停止時に指示モニタの数字は消え、入賞に応じた付与枚数の値が表示される。つまり、指示モニタ表示用の専用セグは備えていない。このようにＰＡＹセグ６６Ｘを指示モニタと兼用と構成にすることで部品点数を削減できる。なお、ＰＡＹセグ６６Ｘ以外の所定の情報（指示モニタ番号、エラーコード、演出用セグ表示）を表示可能な所定セグをクレジットセグ１４Ｘの近傍に設けることとしてもよく、その場合もクレジットセグ１４Ｘと所定セグの発光色は異なる色とすることが望ましい。

【３８８６】

・ドットＬＥＤ６５Ｘ：ＡＴ中やボーナス作動中など、所定の有利状態である旨を示す外部信号を遊技機の外部に向けて出力する期間において点灯状態となり、それ以外の状態（いわゆる通常時など）では消灯するＬＥＤである。仕様例では横幅は約２．５ｍｍ、縦は約２．５ｍｍであり、ドットのサイズは約２ｍｍ×約２ｍｍである。例えば、ＡＴ開始時に点灯し、ＡＴ終了時（外部信号の出力終了時）に消灯する。クレジットセグ１４Ｘと同様、主制御基板で制御される。このようなランプを設けることで、メダル数制御基板又は主制御基板から出力される外部信号をサンド経由などでホールコンピュータで受け取った際に、当該ランプの点灯状況を確認することでボーナス中などを示す信号用のハーネス（店内の島設備側の配線）が正しく接続されているか否かを店員が設置時やメンテナンス時に確認することが可能となる。また、この外部信号は、ＡＴやボーナス、大当りなどの開始時にワンショットで送信されるものでもよいし、ＡＴ中やボーナス中など有利な状態が維持される間は出力を継続し、有利な状態が終了したときに出力を終了するものでもよい。また、有利な状態の種別に応じて出力する信号を異ならせるものでもよくビッグボーナスなら信号種別１、レギュラーボーナスなら信号種別２、ＡＴなら信号種別３などとしてもよい。なお、ＡＴ（疑似ボーナス）の開始時に、通常遊技の７揃い役揃いや、疑似遊技やリール自動停止アクション演出で７図柄等を揃えてからＡＴが開始する場合は、当該７揃いの遊技の開始時点（リール回転開始時）から当該ドットを点灯させてもよいし、疑似遊技などで７揃い時からドットを点灯させてもよいし、７揃い後のレバーオン（実遊技での７揃いなら次ゲーム開始のレバーオンであり、疑似遊技等ならリール演出の７揃い状態解除操作となるレバーオン）時にドットを点灯させてもよい。

【３８８７】

・計数ボタン１５Ｘ：上述の通りである。

【３８８８】

（仕様例２の断面の概念図ついて）

図３０５（１）は、図３０３の切断面Ｓ１－Ｓ２で切断した概念図であり、操作台座部５０Ｘの天面Ａ（以下「天面Ａ」と記載することがある）及びセグ配置面Ｂ（以下「配置面Ｂ」と記載することがある）の傾斜を説明するための図である。説明の便宜上、操作台座部５０Ｘは、実際よりも拡大して図示している。

【３８８９】

操作台座部５０Ｘの天面Ａは、前方に向けて概ね１５度程度傾斜している。メダル数表示ユニット５２Ｘは、操作台座部５０Ｘの開口部に裏面側から挿入されネジ止め（不図示）で固定されている。メダル数表示ユニット５２Ｘの天面Ｃ（以下「天面Ｃ」と記載することがある）は、操作台座部５０Ｘの天面Ａと略水平（双方の傾き角度が同じ）となっている。仕様例１のようなメダル数表示ユニットが操作台座部の天面から上方に突出する構造とは異なり、操作台座部５０Ｘのメダル数表示ユニット５２Ｘ周辺は略同一の平面として構成されている。例えば、メダル数表示ユニットが操作台座部に対して凹んでいる場合だと、やや視認性が低下するが、操作台座部５０Ｘとメダル数表示ユニット５２Ｘの天面との間に段差を設けない（あったとしても数ミリ程度の非常に小さい段差とすることで）で、クレジットセグ１４Ｘ等の視認性の低下を抑制している。

【３８９０】

メダル数表示ユニット５２Ｘは、少なくとも天面Ｃに相当する部分を含む透光性樹脂のカバー部材を備えている。カバー部材は、図では点線で記載している。カバー部材は、ユニットの土台となり、セグ配置面Ｂを含むベース部材と組みつけられて一体化したユニットとなっている。なお、天面Ｃは全て透光性を持たせているがクレジットセグ１４Ｘ及びＰＡＹセグ６６Ｘが視認可能となるように透光部を持たせていれば、天面Ｃの一部が非透光性であってもよい。

【３８９１】

ドアベース６７Ｘは、遊技機の前扉のドア部材のベース部材に相当する。なお、操作台座部５０Ｘは前扉に設けられていればよく、必ずしもドアベース６７Ｘの部分に直接固定しなくともよい。ドアベース６７Ｘの上方には、ミドルパネル５６Ｘが配置されている。

【３８９２】

（セグ配置面Ｂの傾斜について）

図３０５（２）では、天面Ａ・Ｃ（以下「天面Ａ等」と書くことがある）、配置面Ｂの傾斜角度を示す実線と、水平を示す補助線Fを図示している。垂線は略鉛直の線である。

【３８９３】

天面Ａ等の傾斜角度（補助線Ｆと天面Ａ等の傾斜を示す線との角度）であるＲ１は約１５度である。

【３８９４】

配置面Ｂの傾斜角度（補助線Ｆと配置面Ｂの傾斜を示す線との角度）であるＲ２は約３０度である。

【３８９５】

Ｒ２とＲ１の差分は約１５度である。

【３８９６】

このようにセグ配置面を操作台座部５０Ｘの傾斜面よりも斜め前方に向けて傾斜させることで、クレジットセグ１４Ｘ、ドットＬＥＤ６５Ｘ及びＰＡＹセグ６６Ｘの視認性が向上する。（１）のクレジットセグ１４Ｘの垂線Ｈ１及びＰＡＹセグ６６Ｘの垂線Ｈ２の通り、遊技機の手前に座って遊技する遊技者から見やすくなっているとともに、遠くからの視認性も傾けることで向上している。

【３８９７】

なお、角度は一例であり、Ｒ２＞Ｒ１という関係性であれば、前述の角度に限定されない。

【３８９８】

もっとも、天面Ｃの透光部から視認する都合上、あまり配置面Ｂの角度が急（垂直に近い角度）だと、かえって視認性が低下するため、角度Ｒ２は概ね６０度以下とすることが好ましい。

【３８９９】

なお、ＰＡＹセグ６６Ｘは配置面Ｂの手前側（遊技者寄り）の位置に設けられているが、セグ配置空間の手前壁（メダル数表示ユニットの手前側の壁部）に近すぎると、壁に遮られて斜め前方からの視認性が低下するため、この仕様ではＰＡＹセグ６６Ｘの下端部分

は、約０．５ｃｍほど壁部からの距離を取っている。ＰＡＹセグ６６Ｘの視認性低下に寄与する距離であれば０．５ｃｍ以外の距離でもよい。

【３９００】

（仕様例３の遊技機の全体イメージ）

図３０６は仕様例１、２と異なる設計案の概念図である。図２９７などと同様に、正面視では見えにくい操作台座部７０Ｘについては、位置関係が分かるように、操作台座部７０ＸにおけるＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘやメダル数表示ユニット７１Ｘなどについては、操作台座部７０Ｘを上方から見たときの位置関係で図示している。

【３９０１】

図示の都合上、下パネルは小さく記載している。点線Ａ－Ａと点線Ｂ－Ｂで囲まれるランプ群等配置領域は、実際には上下幅が２ｃｍ程度で狭いが大きく記載している。

【３９０２】

画像表示手段７２Ｘ：液晶画面である。仕様例１と同じくリール前方に透過液晶を配置したタイプである。ＰＡＹ画像表示領域７３Ｘ：液晶画面右下のメダル数表示ユニット７１Ｘに比較的近い領域に、１ゲーム終了時に当該ゲームでの入賞に応じた付与メダル数を示す画像を表示する“ＰＡＹ画像表示領域”が設けられている。ＰＡＹの３文字の下に２ケタの数字で付与メダル数が表示される。例えば、８枚ベルが入賞した場合は「０８」という画像が表示される。ＰＡＹの文字と２ケタの数字は円形の台座画像（ＰＡＹの文字と２ケタの数字とは色が異なる画像）の上に表示されており、通常時のステージ変化や演出などで背景色が変化したときであっても付与メダル数の文字が背景色と同化して見にくくなるといった問題が起きないようになっている。

【３９０３】

なお、ＰＡＹの文字色、付与数の２ケタ数字の文字色、台座画像などは遊技状態に応じて変化するものとしてもよい。例えば、通常時はＰＡＹは白色、２ケタセグは青色、台座画像は灰色の円形。ＡＴ中はＰＡＹは赤色、２ケタセグは赤色、台座画像は黄色の四角形などと変化させて各状態の演出の雰囲気に合わせたものとしてもよい。

【３９０４】

状態に応じて場所が変化すると遊技者が混乱するので、通常時やＡＴ中など通常の遊技の中で滞在しうる遊技状態では表示位置はほぼ固定されている（台座画像のデザイン変化により状態に応じてわずかにズレることがあるが画面右下に滞在しづける）。なお、フリーズ演出など所定の演出時やエラー時などに表示を行わないものとしてもよい。デモ画面（客待ち画面）ではＰＡＹ画像は表示されないものとして、空き台が遊技中の台と誤認されにくいようにしている。また、クレジット加算後の遊技操作待→ベット操作→リール回転開始→リール停止までの間はＰＡＹ画像の表示部に「００」が表示されており、初めて遊技する者にも、この領域が付与メダルを表示する領域であることが分かりやすくなっている。また、この仕様例では付与枚数を示すセグがないため、当該領域が設けられているが、付与枚数を示すセグがある機種でＰＡＹ画像表示領域を用意してもよい。

【３９０５】

・計数中画像表示領域７４Ｘ：液晶画面の一部の領域である。正面視で右リールの下方に位置する。計数ボタン１５Ｘの操作による計数処理中に「計数中」などの画像が表示される領域である。計数処理中に目に入りやすいように、計数ボタン１５Ｘやクレジットセグ１４Ｘと比較的近い領域としている。なお、リール回転中などにも計数処理は行えるため、主要な演出画像が表示される画面の端の方に表示している。ＡＴ機能による打順ナビや特定の図柄を狙えナビの画像は、リールより上の表示領域に表示されるため打順ナビが発生している最中に計数処理を行ったとしても、「計数中」の表示とナビ画像が重畳することがないように画像を表示して遊技者の利便性を高めている。特に閉店間際など大量にメダルを獲得している場合には転送に時間がかかるため、ＡＴを消化しつつメダルを転送するといった状況がありえるため、そのような状況で便利である。また、管理遊技機（パチンコ機）においてこの思想を適用する場合、大当り中の右打ち指示や、時短終了や大当り終了時などのハンドルを左に戻せなどの操作指示画像と計数中である旨を示す画像を重畳

しない位置に表示することとすればよい。また、パチンコ機の場合は、保留アイコンの画像や第４図柄（特図が変動中である旨を示す装飾図柄とは異なる小サイズのマーク画像）など遊技の進行上表示を阻害しないことが望ましい画像とは重畳しない位置に計数中の表示を出すとよい。

【３９０６】

また、「計数中」の文字は前述のＰＡＹ画像と重畳しないようにしている。本仕様例では画面にＣＲＥＤＩＴ画像（ＣＲＥＤＩＴ数を示す数値画像）は表示していないが、仮にＣＲＥＤＩＴ画像を表示する仕様の場合は、「計数中」の文字はＣＲＥＤＩＴ画像と重畳しない位置に表示することが望ましい。また、「計数中」画像は、音量調整時に表示される音量画像（音量の大きさを示す画像）や、光量調整用の画像（光量の強さを示す画像）と重畳しない位置に表示しても調整の利便性を高めてもよいし、これらの調整用画像はさほど重要な情報ではないので計数中の画像を調整用画像よりも手前側のレイヤーに重畳して表示してしまってもよい。また、大型の主たる画面と小型のサブ画面とを備える場合は計数中の画像はどちらに表示してもよいが、計数ボタン１５Ｘなどから近い方の画面に表示することが望ましい。もっとも、この「計数中」の画像は仕様上必ずしも必要なものではないので、表示しない態様としてもよい。

【３９０７】

・スピーカー７５Ｘ：円形の斜線で示した位置にスピーカーが配置されている。画面より上部の左右に２つずつ合計４つ、下皿（メダルは排出されないので物置スペースとして機能）の奥の立壁部のうち筐体の中央より左側に配置されている。

【３９０８】

上部の左２連スピーカーのうち、上側は通常のスピーカー（低音～中音域向け）であり、下側は主に高音域の出音に適したツイータースピーカーとなっている。右２連スピーカーも同様に上は通常スピーカー、下はツイータースピーカーである。遊技者の耳の高さに近い位置に音域に応じたスピーカーを配置することで音響効果を高めている。また、下部スピーカーはいわゆるウーハー（低音域用スピーカー）であり、筐体下部から重低音を響かせることができる。

【３９０９】

・左右装飾部：図示は省略しているが、筐体の両サイドには装飾ランプや装飾部材が配置されている。

・ミドルパネル７６Ｘ：液晶画面及びランプ群表示領域の前方の透明板（保護板）である。

・ランプ群表示領域７７Ｘ：点線Ａ－Ａと点線Ｂ－Ｂで囲まれる領域であり、縦方向に約２ｃｍ、左右方向に約４７．５ｃｍにわたる領域である。左から順に３ケタセグＳ３、２ケタセグＳ２、１～３ＢＥＴランプ、ＲＥＰＬＡＹランプ、ＳＴＡＲＴランプ、ＩＮＳＥＲＴランプのランプ群が配置されている。また、セグやランプが配置されていない部分には装飾が施されている。領域ランプ群の各ランプの機能については、図３０４の説明の中で述べたものと同様であるため説明を割愛する。

【３９１０】

・３ケタセグＳ３：主制御基板により制御される指示モニタ用のセグである。ＡＴ機能による停止操作態様の指示番号を表示可能である。

・２ケタセグＳ２：本仕様例では、遊技の進行中に用いられないセグである。主制御基板により制御されエラーコード（Ｅ１～Ｅ８、８８などエラー種別を示す情報）の表示や、設定変更時に設定値を表示可能である。なお、このセグをＰＡＹセグ（当該ゲームの入賞に応じた付与メダル数を表示可能なセグ）として用いてもよい。

・下パネル７８Ｘ：モチーフとなったキャラクターや機種名がデザインされている。状態に応じてバックライトの点灯・消灯・点滅などをしてもよい。正常な状態では下パネル７８Ｘのバックライトは、点灯している。例えば、高期待度演出や所定の当り報知時に下パネル７８Ｘの点灯態様が変化する（点滅や一時的な消灯が発生する）ものとしてもよい。また、試験対策として用いられる極めて出玉率が低い設定である設定Ｌが出玉率に関する

設定値として設定された場合は消灯状態になるものとして、店員が操作ミスで設定Ｌをセットしないように注意喚起するものとしてもよい。

【３９１１】

（下皿部の説明と手前側の透光性壁部）・下皿部７９Ｘ：ドアベース部材は樹脂製（例えば、青色、赤色など）となっており天面（下皿の上方向に向いている面）には機種名のロゴがデザインされている。ドアベース部材の上に透光性でほぼ透明の透過性カバー８０Ｘが配置されている。実体のメダルを使わないので、遊技者用の物置として機能する。透明カバー８０Ｘは下皿７９Ｘの奥側の立壁部左側のスピーカーがある位置にはスピーカー用の出音開口部（ゴミなどが入りこまないように、小さい直径３～５ｍｍ程度の出音孔を複数集合させて略円形に配置）が設けられている。また、下パネルは下皿７９Ｘよりも手前側に位置しており、下パネル７８Ｘ配置部の下向きの壁部にはＬＥＤが配置されており、入賞発生時に下皿に向けて発光演出を行い遊技価値の付与を遊技者に印象付けている。透過性カバー８０Ｘは、下皿７９Ｘの手前側端部から上方向に向けて２ｃｍ程度の高さの透光性の立壁部を備えている。下皿７９Ｘの手前側の立壁部を透光性としたことにより、下皿７９Ｘに置いた物が視認しやすくなり、電子タバコやスマートフォンなど置いた際に遊技終了時に置き忘れる可能性を低減できる。メダル遊技機と違い、遊技終了時にはメダルの計数（転送）やサンドからメダルを転送したカードを抜くなどの作業が発生するため、作業の流れ上、下皿７９Ｘへの注意が失われやすいため、上記のような工夫をしている。

【３９１２】

なお、下皿７９Ｘの手前側の立壁部は、透光性であればよく、完全な透明でもよいが、スモークが入っていたり、少し色が入っていたりしてもよい。

【３９１３】

（操作台座部について）

図３０６の操作台座部７０Ｘについて、左上から順に説明する。

【３９１４】

操作台座部の天面には、音量・光量調整ボタン及びメニューボタンユニット３６Ｘ、１ＢＥＴボタン１２Ｘ、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘ、演出用チャンスボタン８１Ｘ、メダル数表示ユニット７１Ｘが設けられている。操作台座部７０Ｘの手前側の面には、精算ボタン１３Ｘ、スタートレバー３２Ｘ、ストップボタンユニット３５Ｘ、鍵穴１６Ｘが設けられている。

【３９１５】

音量・光量調整ボタン及びメニューボタンユニット３６Ｘ：中央に遊技者用メニュー画面を表示するためのメニューボタンがあり、上下キーで光量を、左右キーで音量を調整できる。詳細は前述の仕様例１等と同様である。

【３９１６】

なお、リール回転中やメダルの計数中（遊技機→サンドへの転送中）、クレジット加算中（サンド→遊技機への転送中）でも音量、光量の調整は適宜行えるようになっており、転送時の効果音など大きすぎる、小さすぎると感じた遊技者は即座に音量調整できる。なおデモ画面（客待ち画面）で画面下部に左右キーで音量調整可能、上下キーで光量調整可能である旨の説明画像が表示される。

【３９１７】

１ＢＥＴボタン１２Ｘ：ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘとユニット化されている。ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘ：１ＢＥＴボタン１２Ｘとユニット化されている。チャンスボタン８１Ｘ：演出制御基板で制御される演出用チャンスボタン。期待感演出としてのボタン操作演出などで操作可能なタイミングで白点灯し、普段は消灯している。なお、赤点灯や虹色点灯など高期待度パターンや当たり等確定となる点灯態様を備えていてもよい。

【３９１８】

また、ボタン操作演出中ではない消灯中にクレジットの計数ボタン１５Ｘを押下した場合は、計数ボタン１５Ｘの押下継続中はチャンスボタン８１Ｘが白点灯となり、計数ボタン１５Ｘの押下を終了した場合に消灯状態に戻る。

【３９１９】
　クレジットセグ１４Ｘに近い演出ボタンを計数中（転送中）に点灯させることで、照明が暗いホールでも転送中のクレジットセグ１４Ｘの減算が見やすくなるという効果を奏する。
【３９２０】
　なお、ボタン操作演出中のボタン押下待ちで演出用チャンスボタンが白点灯している場合に計数ボタン１５Ｘを押下した場合は、白点灯を維持する。転送中にチャンスボタン８１Ｘを押下して押下待ちを示す白点灯の終了条件を満たした場合であっても計数ボタン１５Ｘを押下するかぎり白点灯（転送中を示す点灯態様）を維持する。
【３９２１】
　また、赤点灯中に転送を開始した場合は、転送を示す白点灯に変化する。これは期待感演出（遊技の結果に影響を及ぼさないお楽しみ演出）である演出ボタン押下演出よりも、クレジットの転送の方が遊技上重要な情報なので、転送中を示す点灯態様である白点灯を優先的に行うようにしている。
【３９２２】
　なお、転送中はチャンスボタン８１Ｘ以外の装飾ランプ部を点滅、点灯などして転送中を遊技者に示唆/報知してもよいし、チャンスボタン８１Ｘの白点灯を行わずに、所定の装飾ランプの点灯態様を転送中対応パターンに変化させることで遊技者に転送中であることを示唆/報知してもよい。
【３９２３】
・メダル数表示ユニット７１Ｘ：図３０７及び図３０８で説明する。
・精算ボタン１３Ｘ：ベット済みのメダルをクレジットに戻すためのボタンである。発光しない。
・スタートレバー３２Ｘ：遊技開始操作検出手段。
・ストップボタン３５Ｘ：３つのボタンがユニット化されている。
・鍵穴１６Ｘ：前扉の右端近傍に設けられる前扉開放用の鍵穴。左右方向で計数ボタンよりも右側に設けられている。
【３９２４】
　なお、操作台座部７０Ｘについては図３０７に沿って説明する。
【３９２５】
（操作台座部について）
　図３０７はメダル数表示ユニット７１Ｘを上から見た場合の概念図である。左右方向は約７ｃｍ、前後方向は約５ｃｍほどである。
【３９２６】
　黒樹脂のカバー部材に、「ＣＲＥＤＩＴを貸出ユニットへ転送」「※長押しで高速転送」などの説明書きが白文字で記載されている。
【３９２７】
・計数ボタン１５Ｘ：直径１ｃｍほどの灰色のボタン。周囲に略円形の白色の強調装飾部９０Ｘが設けられており、ボタンの位置が初見の遊技者にも分かりやすいようになっている。
・計数の文字９１Ｘ：右向きの矢印をモチーフにしたデザインに、計数の文字が記載されている。パチスロ機の場合は右側にメダル（遊技価値としてのメダル）の転送先であるサンドが配置されていることが一般的であるため、転送されたメダル数が表示されるサンドの小型液晶などに目線が向かうように、右方向をイメージさせるデザインとなっている。なお、パチンコ遊技機の場合は左方向をイメージさせるデザインとするとよい。
【３９２８】
・ランプ１：エラー報知ランプ。サンドとの通信障害時などに赤点灯する。・計数ランプ９２Ｘ：隣に「計数可」の文字が付されている。計数可能な状態であるクレジットセグに貯留メダルがある状態で緑色に点灯する。計数不能な状態（クレジットが０）の場合は消灯している。なお、リール回転中やフリーズ演出中などレバーオン操作後の遊技進行中や

遊技の進行を遅延させる演出発生中であっても計数は可能となっている。一時的にトイレなどで離席したい場合には、盗難防止のためサンドからカードを排出する必要があるが、カードを排出するためには遊技機に貯留されているメダルを一旦全部転送する必要がある。貯留メダルがある状態ではサンドからカードを排出できない仕様となっているサンドが多いためである。そのため、エラー時などをのぞき遊技中であっても遊技機からサンドへの計数（転送）可能な仕様となっている。

【３９２９】

・クレジットセグ１４Ｘ：５桁のクレジットセグ。６桁でもよい。少なくともクレジットセグの前方の領域は、光透過性となっている。

・クレジットセグの強調装飾部９３Ｘ：クレジットセグ１４Ｘを取り囲むように、白色の囲み線が付されている。メダル数貸出ユニットは黒字なので、白色線で囲むことでクレジット表示部が目立つようになっている。強調装飾部９３Ｘの線の近傍にＣＲＥＤＩＴの文字が付されている。図では、黒塗りに白字でＣＲＥＤＩＴと表記されているが、実際の設計案では白色の塗りつぶし部に黒抜きでＣＲＥＤＩＴの文字が付されている。色は例示したものに限定されない。

【３９３０】

（メダル数表示ユニット近傍の断面の概念図 仕様例３）

図３０８は、図３０６の切断面Ｓでメダル数表示ユニット付近を切断した場合の断面の概念図である。

【３９３１】

操作台座部７０Ｘの天面Ａ（以下「天面Ａ」と記載することがある）は、前方に向けて緩やかに傾斜している。傾斜角度は概ね１０度程度である。天面Ａの開口部に裏面からはめ込まれる形でメダル数表示ユニット７１Ｘがネジ止め（不図示）で固定されている。メダル数表示ユニット７１Ｘの天面Ｃ（以下「天面Ｃ」と記載することがある）は、天面Ａよりも少し上方向に突出した位置にある。遊技者が天面Ｃの端部の角でケガをしないように、角部が鋭角にならないように、角部を斜め又は円弧状として形成している。天面Ａと天面Ｃの傾きは略同様である。

【３９３２】

前述の仕様例２と同様に、セグ配置面Ｂは天面Ａより前方に向けた傾斜角度が大きくつけられており、遊技者からクレジットセグ１４Ｘが見やすいようになっている。セグ配置面の傾斜角は概ね３０度程度である。

【３９３３】

・計数ボタン１５Ｘ：クレジットセグ１４Ｘよりも奥側（液晶に近い側）には、天面Ｃの開口部に計数ボタン１５Ｘが用意されており、計数ボタン１５Ｘの押下面は、天面Ｃよりも奥まった位置に設けられている。また計数ボタン１５Ｘの周縁は斜めに短い傾斜がつけられているので、数千枚というメダルを転送するために１０秒以上長押しする場合に指の一部（人差し指の腹など）を傾斜面で支えることができるので長押しをしても疲れにくいようになっている。

・計数ランプ９２Ｘ：実際は、計数ボタン１５Ｘとは、左右方向の位置が異なるので切断面Ｓでの断面図には表示されないが、前後関係を説明するために便宜上図示している。計数ボタン１５Ｘよりも手前側（遊技者側）にＬＥＤが配置されている。当該ＬＥＤは、傾斜面Ｂではなくユニット自体に配置されているため、傾きは天面Ｃと略同様である。

【３９３４】

・ランプ群表示列９５Ｘ：切断面Ｓの左右位置ではランプ群は存在しないため、当該箇所はデザインが施されたパネル部となっている。メダル数表示ユニット７１Ｘ近傍に、遊技に関するランプなどを配置すると、状況が分かりにくくなるため、このようにメダル数表示ユニット７１Ｘを遊技機の中央よりも右側に配置し、ベットランプなどを遊技機の中央よりも左側に配置している。なお、配置を逆にしてベットランプなどを右側に配置して、メダル数表示ユニット７１Ｘを左側に配置する設計とすることも可能である。

・ＰＡＹ画像表示領域７３Ｘ：画面の正面視で右下付近に配置されている。各ゲームの付

与メダル数に応じて、クレジットセグも更新されるため、ＰＡＹ枚数とクレジットセグ１４Ｘが自然と同じ視界に入るように遊技機内の近い領域に配置されている。

【３９３５】

（メダルレス遊技機のクレジット加算音（貸出音）の仕様例について）

図３０９は、図２９７で説明したサンドからのメダル相当の遊技価値の貸出を受ける場合のクレジット加算時の効果音（以下、「クレジット加算音」、「加算音」、「貸出音」などともいう）について説明した表である。演出制御基板（サブ基板）により出音が制御される。仕様例１は、図２９９等で説明した仕様例１と同じ機種仕様を指す。同様に仕様例２は、図３０２等で説明した仕様例２と同じ機種仕様を指す。仕様例３は、図３０６等で説明した仕様例３と同じ機種仕様を指す。仕様例４は、仕様例１～３とは別の仕様例である。

【３９３６】

なお、ここで説明したメダルレス遊技機のクレジット加算音の仕様については、管理遊技機（封入式パチンコ機）の持玉加算時の効果音（こちらも「加算音」、「貸出音」などという）において採用してもよい。

【３９３７】

なお、クレジット加算音、持玉加算音、短押し転送音、長押し転送音などの遊技価値の転送処理に関する効果音は、他の効果音（例えば、期待感演出や当落報知の効果音等、メニュー画面関連の操作や音量・光量調整などの操作音）として出音されることはないものとすることが望ましい。遊技の進行中やメニュー等の操作時に、転送が行われてしまったのではないかとの遊技者に誤解を与えないようすることができる。

【３９３８】

（クレジット加算音の出音開始タイミング及びクレジットセグのインクリメント）・出音開始タイミング：仕様例１～４のいずれもクレジットセグの変化開始と略同じタイミングでクレジット加算音が出音される。詳しくは後述するが、厳密にはサンドから遊技機へ貸出枚数データが送信され、遊技機側で貸出枚数データが適切な範囲内（５０枚以下であるか否か）を判断し適切な範囲内であると判断した場合に、クレジットの値が更新（加算）されてメインプログラムでのクレジット加算が完了し、その後、更新データ後のクレジットの値（保有する遊技価値としてのメダル数の値）に応じてクレジットセグが更新される。

【３９３９】

仕様例１及び２では、クレジットセグのインクリメント動作がない。インクリメント動作とは、０→１→２→・・→４９→５０と順次数値を変化させていく動作のことである。必ずしも１ずつ変化させる必要はなく、０→２→４・・と２ずつ変化させたり、合計の変化量に応じて１回ごとの変化量を適宜決定させたりするものでもよい。インクリメント動作がないため、５０枚貸出を行う場合「０」→「５０」と一気に変化する。変化に要する時間は一瞬（概ね２００ｍｓ以下）であるので、図３０９の仕様例１・２における「クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング」とはクレジットセグの変化終了時と略同じタイミング、あるいは、クレジットセグの変化終了直後と略同じタイミングということもできる。仕様例３では、インクリメント動作に要する時間と略同じ時間値で出音されるように効果音の長さを設定してある。仕様例４では、インクリメント動作開始と略同時に加算音の出音が開始され、インクリメント動作終了と略同じタイミングで加算音の出音が終了する。なお、これらの加算音は通常時やＡＴ等のＢＧＭが出音されている場合や演出音（セリフの音声やその他の演出効果音）が出音されている場合でも出音可能となっている。具体的には演出音やＢＧＭとは別のサウンドチャンネルが割り当てられている。また、加算音を聞き取りやすいように、加算音の出音時にＢＧＭや演出効果音について一時的に音量を低下（音量０にする場合を含む）させるダッキング処理を行ってもよい。

【３９４０】

（クレジット加算音の出音イメージ）

仕様例１及び３は、単発の効果音が１回出音される態様である。仕様例２は、ボイス（

人声音）での「貸し出しました」という音声が１回出音される。仕様例４では、クレジットのインクリメント動作中は、ループ再生の効果音が出音される。

【３９４１】

（クレジット加算音の出音時間）

仕様例１、２、３においては枚数に関係なく、固定の時間値で効果音が出音される。仕様例３は、クレジットセグのインクリメント動作があり、加算枚数に関係なくピロンという効果音が１回出音させる。概ね５０枚ほどのインクリメントに要する時間と同じである。例えば、会員カードの持ちメダル１０枚だけをサンドからクレジットに転送する場合など貸出枚数が少ない場合でも出音される効果音の出音時間は同じである。一方、仕様例４もインクリメント動作があるが、インクリメント動作中は、ループ再生の効果音が出音され続ける。なお、音制御においては、例えば、単発の出音を連続して行うなどループ再生以外の制御で出音が途切れないように出音を続けるものであってもよい。仕様例４では加算枚数に応じて時間値が異なるため、例えば、１～２枚など少ない枚数であれば出音時間は短くなるが、５０枚などでは出音時間は長くなる。なお、１回あたりのクレジット加算枚数は５０枚以下とし、５０枚を超える貸出要求コマンド（クレジット加算コマンド）を受信した場合は遊技機側で不正なコマンドとして判定して当該コマンドを破棄して、クレジット更新を行わないものとしてもよい。この場合はクレジット更新（加算）を行わないため、クレジット加算音は出音されない。

【３９４２】

（貸出種別とクレジット加算音）

なお、貸出種別として以下の４種類がある。

・現金からの貸出・貯メダルからの貸出：貯メダルとは、前日までに貯めたメダルのことである。地域や店舗により１日あたりの再プレイ可能枚数が異なるが、１日５００枚まであるいは１日４６０枚までとされていることが多い。

・持メダルからの貸出：持ちメダルとは、当日計数したメダルのことである。上限なく再プレイとしてクレジットへの加算できる。

・共有メダルからの貸出：友人同士など複数の遊技者で持ちメダルを共有することが出来る場合がある。この場合は、他の遊技者の保有する持ちメダルから共有許可操作を行い共有状態とした後で、貸出を行うことができる。

【３９４３】

いずれの貸出種別であっても、遊技機側のクレジット加算音は同じ態様として処理を簡素化している。

【３９４４】

（メダルレス遊技機の１枚計数音（遊技機→サンドへの１枚転送音）の仕様例について）

図３１０は、遊技機からサンドへのメダル１枚分相当の遊技価値の転送を行う場合のクレジット減算時の効果音（以下、「１枚転送音」、「１枚計数音」、「短押し転送音」、「短押し計数音」などともいう）について説明した表である。計数とは、遊技機からサンドへの遊技価値の転送という意味であり、「転送」と「計数」は同じ意味あいで説明をしている。１枚のメダルの転送は、計数ボタンへの５００ｍｓ未満の押下である短押し検出時に行われる。

【３９４５】

具体的には、最初の押下時（操作時）、つまり、計数ボタンの押下検出センサが非押下を示すオフエッジ状態から押下中を示すオンエッジ状態への変化を検出し、そこから５００ｍｓ未満でオンエッジ状態からオフエッジ状態への変化が検出された場合に主制御手段は、計数ボタンの短押し操作と判定し、サンドへの１枚転送処理を行う。一方、オンエッジ状態への変化後に５００ｍｓを超えるオンエッジ状態の維持を検出した場合は、短押し操作と判定せずに長押し操作であると判断し、１枚転送処理を行わずに、長押し転送処理を開始する。仕様例１～４は、図３０９の説明で述べた通り前述の仕様例１～４と同じ機種仕様を意味する。なお、メダルレス遊技機の１枚転送音の仕様については、管理遊技機（封入式パチンコ機）の持玉を１玉転送する時の効果音（こちらも「１玉転送音」「１玉

計数音」などという）において採用してもよい。また、スロットの１枚転送とパチンコの１玉転送の両方を指す表現として「１の遊技価値の転送音／計数音」と記載することがある。

【３９４６】

（１枚計数音の出音開始タイミング）

仕様例１～４のいずれもクレジットセグの変化開始と略同じタイミングで１枚計数音が出音される。１枚計数により変化するクレジットの変化量は１だけであり、例えば、１０→１１などと変化する。クレジット表示の変化に要する時間は一瞬（概ね２００ｍｓ以下）であるため、「クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング」とはクレジットセグの変化終了時と略同じタイミング、あるいは、クレジットセグの変化終了直後と略同じタイミングということもできる。なお、１枚計数音や長押し計数音は通常時やＡＴ等のＢＧＭが出音されている場合や演出音（セリフの音声やその他の演出効果音）が出音されている場合でも出音可能となっている。具体的には演出音やＢＧＭとは別のサウンドチャンネルが割り当てられている。また、計数音を聞き取りやすいように、計数音の出音時にＢＧＭや演出効果音について一時的に音量を低下（音量０にする場合や出音中断する場合を含む）させるダッキング処理を行ってもよい。

【３９４７】

（１枚計数音の出音イメージ）

各仕様の効果音のイメージである。仕様例１・２では、５０枚計数音（長押し計数音）の効果音と１枚計数音の効果音は同じ種類の効果音を出音している。仕様例３・４では長押し計数音と１枚計数音は異なる効果音を出音している。異なる効果音を用いた場合は、長押しと短押しの操作状況が音で認識できる点で便利である。一方、長押しと１枚計数で同じ効果音を用いた場合は、効果音の種類数を削減できるため、サウンドＲＯＭの容量の節約につながる。

【３９４８】

（１枚計数音の出音時間）

図３１０の表のとおりであり、概ね４６枚ないし５０枚が加算時に出音されることが多い加算音よりも短い時間尺の効果音となっている。１枚だけの計数なので、５０枚分の加算よりも短めの効果音とすることで遊技価値の移動量が少ないことを示唆している。

【３９４９】

（メダルレス遊技機の長押し計数音（遊技機→サンドへのまとめて転送音）の仕様例について）

図３１１は、遊技機からサンドへの遊技価値の転送をまとめて行う場合のクレジット減算時の効果音（以下、「長押し転送／計数音」、「連続転送／計数音」、「多数転送／計数音」などともいう）について説明した表である。以下図３１１に沿って長押し計数音を説明する。多くのメダルをまとめて転送する処理は、計数ボタンへの５００ｍｓ以上の押下である長押し検出時に行われる。仕様例１～４については、図３０９の説明で述べた通りである。なお、メダルレス遊技機の長押し転送音の仕様については、管理遊技機（封入式パチンコ機）の持玉をまとめて転送する時の効果音（こちらも「長押し転送／計数音」、「連続転送／計数音」、「多数転送／計数音」などという）において採用してもよい。また、スロットとパチンコのまとめて転送時の効果音を指す表現として「複数の遊技価値の転送音／計数音」と記載することがある。

【３９５０】

（長押し計数音の出音開始タイミング）

仕様例１～４のいずれもクレジットセグの変化開始と略同じタイミングで出音が開始される。略同じタイミングとは、完全に同じタイミングに限らず、わずかにクレジットセグの変化開始より早いタイミング又は遅いタイミングを含むものである。クレジットセグの変化より前に主制御基板又は／及びメダル数制御基板でデータとして把握されるクレジット数は変化している。計数押下検出→３００ｍｓ毎に長押し１期間相当の５０枚分のメダルを転送→クレジットセグの数値を５０枚分更新という流れとなる。

【３９５１】
（長押し計数音の出音イメージ 仕様例１・２の連続出音タイプ）
仕様例１、２をまとめて説明する。この仕様例では、長押し計数音として１枚転送音と同じ効果音を連続的に出音してまとめてメダルを転送しているというイメージが遊技者に伝わりやすいようにしている。長押し操作は、計数ボタンを押下してから５００ｍｓ経過後に初回の５０枚転送が行われ、その後は押下状態が維持される期間が３００ｍｓ経過するごとに５０枚転送が行われる。計数ボタンの長押しを続けた場合は、残りクレジット数が０になった時点で転送処理は終了する。ここで仕様例１では転送音が約０．６秒（６００ｍｓ）、仕様例２では転送音が約０．５秒（５００ｍｓ）と５０枚の転送時間である０．３秒（３００ｍｓ）よりも長い時間尺である。仕様例１では５０枚転送するたびに転送音を出音するため、長押しした場合は、１の転送音の出音が完了するよりも前に次の転送音の出音が開始され、当該１の転送音は最後まで出音されずに出音を途中で完了する。具体的には仕様例１で計数ボタンを短押しした場合はピロロンという転送音が０．６秒かけて最後まで出音される。長押しした場合は、ピロ→ピロ→ピロ→・・・→ピロロンと最後の１回を除き途中までしか転送音が出音されない。
【３９５２】
遊技者からすると５０枚計数のたびにピロという音が出音されるため、ピロという音の出音回数から転送枚数を推認できるというメリットがある。仕様例１ではまとめて転送中であることを示すコマンド（５０枚転送を示すコマンド又は３００ｍｓ相当の長押し維持検出コマンドなどでもよい）を演出制御手段が主制御手段から受信した際に、効果音を１回出音するようにしている。この仕様であると、とにかく１回転送するたびに１回転送音出音という処理でよく１枚転送時による出音と長押し転送時による出音で出音制御を共通化できるというメリットがある。なお、短押しと長押しで出音制御を個別に用意して、長押し時は押下検出中は、連続出音用のサウンドとして上記のピロ→ピロ→ピロ・・・といったサウンドを再生しつづけるものとしてもよい。
【３９５３】
（長押し計数音の出音イメージ 仕様例３・４のＢＧＭ再生タイプ）
仕様例３、４をまとめて説明する。この仕様例では、長押し計数音として１枚転送音と異なる効果音（ＢＧＭ）を出音している。長押し検出中は、所定のＢＧＭが再生され続ける。なお、ＢＧＭ以外の効果音であってもよい。短押しと長押しで同じ転送音出音する仕様例１・２と比べて、１枚転送音と異なる音を長押し時に出音することで、長押し操作をしていることが遊技者に分かりやすくなる。
【３９５４】
仕様例３・４では各ＢＧＭはループ再生されるが、同じようなサウンドが繰り返し流れるＢＧＭデータをループせずに流し続けるものでもよい。仕様例１～４の機種では、クレジットに記憶できるメダル数の上限値は１６３８３枚となっているため、その転送にかかる時間尺以上のＢＧＭを用意しておけばループ再生せずに出音維持できる。仕様例３では転送枚数に応じて効果音の種別は変化しないが、仕様例４では１回の長押しで転送が完了した（あるいは転送中の）枚数に応じてＢＧＭを変化させ、大量のメダルを獲得した遊技者が遊技を完了して転送する際の高揚感を高めるものとしている。また、音の種類に応じてどれくらいの枚数を転送したのかおおよそ推測できるという効果もある。なお、大量にメダルを保有している場合でも途中で長押しをやめて、改めて長押しを行った場合は、０～１０００枚の範囲の通常転送音が出音される。例えば、クレジット２０００枚保有時に長押しで１０００枚転送完了時に計数ボタンから手を離し、再び長押し操作を行った場合は、１０００枚以上のやや高音の転送効果音ではなく、通常転送音が出音される。そのため、転送の累積枚数の多いとき転送音を聞きたい場合は連続で長押しを継続するとよい。また、仕様例４での枚数が多い場合の転送音は遊技者に対する祝福の意味合いもあるので、通常転送音よりも後から出音される転送合計数が多い状況で流れるサウンドの方が、豪華な印象を与える効果音・ＢＧＭとするとよい。
【３９５５】

（残りクレジット数が５０未満の場合の長押し）
　長押し中にクレジットに記憶されている残りメダルが５０枚未満となった場合や長押し開始時点でクレジットが５０未満の場合は、残りの全メダルを転送してクレジットを０とすることで長押しを続けるだけで計数が完了するようにして遊技者の利便性を高めている。なお、クレジットの残りメダルが１枚の場合は長押しをしても結果的に転送されるメダルは１枚であるので、長押し転送音は出音せず１枚転送音のみを出音して１枚転送であることを分かりやすくするものとしてもよいし、操作自体は長押しであるので、クレジットが２枚以上ある場合と同じく長押し転送音を出音して転送音の出音制御フローを簡素化してもよい。
【３９５６】
（クレジットセグのデクリメントについて）
　デクリメントとは、セグの減算表示のことである。２００→１９９→１９８→・・・→１→０と順次減っていく数値を減らしていく過程を表示する仕様については、デクリメント「有」と表記している。
【３９５７】
　デクリメント「無」と記載した、仕様例１・２も２００→１５０→１００→５０→０と５０枚単位のデクリメント表示は行われるので、広い意味であるデクリメント有と言えるが、説明の便宜上、５０枚単位で表示を更新する仕様についてはデクリメント無と記載している。仕様例１・２では３００ｍｓ毎の５０枚分のメダル転送に応じて３００ｍｓ毎に表示を５０ずつ更新していく。更新と転送音の出音タイミングはほぼ同期している。仕様例３・４では、５０枚単位での更新ではなく２００→１９９→１９８→・・・→１→０と順次減っていくので、高速でクレジットセグに表示された値が変化していくこととなる。つまり、クレジットセグの更新と転送音の出音は同期していない。
【３９５８】
（インクリメント、デクリメントについて）
　クレジットセグは、サンドからの加算時や転送時以外にも数値の更新時に変化途中の値を表示するインクリメント、デクリメント（以下「インクリメント等」とまとめて記載することあり）の表示動作を行ってもよい。例えば、小役入賞による遊技価値の加算時のインクリメントやベット済み枚数の精算時のインクリメント、ＭＡＸＢＥＴ操作による３枚減少の時などにおいてデクリメント動作を行っても良い。また、画面に表示されるクレジット表示（以下、「クレジット画像」と称することがある）やペイ表示（当該ゲームの結果に基づく付与遊技価値数を表示。以下、「ペイ画像」と称することがある）についてもインクリメント等のアニメーションを行っても良い。なお、クレジット画像、ペイ画像はいずれか一方のみ画面に表示する仕様でもよいし、両方を有する仕様でもよい。
【３９５９】
　以下にインクリメント、デクリメントの有無のパターンを例示する。なお、クレジット画像とペイ画像は同様の態様を前提としているが、別仕様としてもよい。パターン１：クレジットセグ：無 クレジット画像、ペイ画像：無パターン２：クレジットセグ：有 クレジット画像、ペイ画像：無パターン３：クレジットセグ：無 クレジット画像、ベイ画像：有パターン４：クレジットセグ：有 クレジット画像、ペイ画像：有機種の仕様に応じていずれかのパターンを採用可能である。
【３９６０】
（クレジットセグとクレジット画像、ペイ画像のインクリメント等の時間値）
　上記のパターン４の場合は、クレジットセグのインクリメント等とクレジット画像、ペイ画像のインクリメント等に要する時間の関係性を以下のように設定しうる。以下、インクリメント等に要する時間を更新時間と表記する。時間値例１：クレジットセグの更新時間 ＞
　クレジット画像、ペイ画像の更新時間時間値例２：クレジットセグの更新時間　　クレジット画像、ペイ画像の更新時間時間値例３：クレジットセグの更新時間 ＜ クレジット画像、ペイ画像の更新時間

時間値例１の仕様によれば、クレジットセグを比較的ゆっくり更新するという見せ方となる。この仕様の場合は、どちらかといえば遊技者の視界に入りやすい画像の方を速やかに更新することで、遊技の進行をスムーズにすることができる。

【３９６１】

時間値例２は、ほぼ同じ時間値とする仕様である。セグのＬＥＤ と画像では更新周期が異なるので、厳密には差が生じるが、ほぼ同じ時間値とする仕様である。この仕様では両者のずれを小さくできるため、遊技者の違和感を低減できる。

【３９６２】

時間値例３は、上述の仕様例３で採用されている仕様である。画像の方のセグと比べてゆっくりとすることで、数字の変化していく様子を遊技者に見やすく表現することができる。この仕様ではクレジットセグの更新完了後もクレジット画像、ペイ画像の更新が続けられて、その後画像の更新完了という流れとなる。計数音等の効果音は、クレジットセグの更新時間に合わせて出音してもよいし、画像の更新時間に合わせて出音してもよい。

【３９６３】

（メダルレス遊技機の計数ボタンの計数完了音、オフエッジ音）

図３１２は、メダルレス遊技機の計数ボタンの計数完了音、オフエッジ音の表である。

【３９６４】

仕様例３と４では、長押し転送によってクレジットの残りメダル数が０となって計数が完了したときに、計数が完了した旨の報知音を出音することとしており、出音完了が音声からも遊技者が認識可能となっている。仕様例３では、「計数完了でい。また、遊んでくれよな。」というドンちゃん（当該遊技機のモチーフとなっているキャラクター）のボイスを１回出音する。また、リール回転中など遊技を行っている最中においても長押し転送は可能であり、リール回転中に長押し転送が完了した場合も「計数完了でい。また、遊んでくれよな。」というボイスが出音される。同様にリール回転前に転送を開始して、リール回転中に転送完了した場合も同様のボイスが出音される。このように状況を問わず長押し転送完了時に同じ種別の計数完了音を出音することで、出音処理を簡素化することができる。リール回転中に転送完了させても遊技者がリールを止めずに遊技を終了することは考えにくいため特に問題はない。また、リール回転中に計数完了し、当該遊技で小役が入賞した場合にはクレジットに１～１５枚のメダルが入った状態となり、また計数が可能な状態となる。計数ボタン押下による転送中に小役入賞が発生した場合は一度転送完了を待ってからクレジットへの小役分の遊技価値が加算される。また、転送完了後も計数ボタンを押下したままの状態で小役入賞が発生した場合は、クレジットへの加算は行われるものの、即座に転送が始まることがないように、計数ボタンのオフエッジ状態（非押下検出状態）からオンエッジ状態（押下検出状態）へ切り替わったことを条件にクレジットの転送を開始するようにしている。なお、転送枚数に応じて転送完了ボイスの種別を異ならせてもよい。例えば、転送枚数が所定数未満（１０００枚等）未満なら通常の計数完了ボイスが、所定数以上（１０００枚以上等）なら「計数完了です。大量獲得おめでとうございます。」といった祝福ボイスを出音してもよい。仕様例４の場合は、計数完了時及び長押し転送の途中で計数ボタンの押下を終了した場合とで同じ効果音を出音している。この仕様では、長押し転送状態が終了した場合は原因を問わず一律で同じ効果音の出音を行うこととしているため、出音処理を簡素化できるという効果がある。なお、変形例として、仕様例４のようにオフエッジ音を備える仕様で、オフエッジ音と異なる計数完了音を備える仕様として計数完了前に計数ボタンから手を放してしまったのか、計数完了したのかが音声で遊技者が識別できるようにしてもよい。また、変形例として、クレジットが残り１枚の場合に、短押しで転送を行いクレジットが０になった場合に転送完了音を出音して、クレジットの残りが０であることを音声で遊技者に伝える仕様としてもよい。仕様例１～４では、クレジット残り１枚の場合から短押し転送で１枚サンドに転送してクレジットが０になった場合である。

【３９６５】

（少ない遊技価値数の計数を長押しで行った場合の出音態様について）

ここまで仕様例３・４について、計数ボタンの長押しで計数を行った場合に長押し計数音を出音してから計数完了音を出音するという流れで説明した。クレジットに記憶されている枚数が少ないとき（例えば、１０枚以下）において長押しで計数をした場合は、長押し計数音を出音せずに即座に計数完了音を出音することとしてもよい。実際に計数に係る時間が短いので、長押し計数音を出音してから計数完了音を出音すると、計数を行うタイミングと効果音の出音タイミングのズレが大きくなってしまうおそれがあるので、計数完了まで（あるいは計数完了を反映したクレジットセグの数値更新の完了まで）に要する時間が短い場合は、長押し計数音を出音せずに計数完了音を出音することするとこのズレを小さくでき遊技者に違和感を与えにくくなる。例えば、３枚ベット済みの状態でうっかり計数を行ってしまい、後からベット済みのメダルに気付いて、精算ボタンを操作し、ベット済みメダルからクレジットへ３枚移動させてから再度、計数する場合などが少ない枚数の計数を行うこととなる状況として考えられる。

【３９６６】

（少ない遊技価値数の計数を長押しで行った場合の出音処理について）

クレジットに記憶されている枚数に応じて出音処理を変化させて長押し計数音を出音するかどうかの分岐判定を持たせてもよい（例えば、１０枚以下なら長押し計数音を出音せず、計数完了音のみ出音するなど）。また、クレジットの枚数を問わずに長押し計数時の出音処理は共通のものとして処理が完了次第にすみやかに計数完了音を出音するという流れ処理を行うものでもよい。こちらの処理によれば結果的に、枚数が少ない場合は、（１）長押し計数音が出音されない、（２）長押し計数音の出音時間が、遊技者が認識困難な程度の短時間、のいずれかとなり、状況的に長押し計数音が出音されずに、計数完了音が出音されたと遊技者が認識可能な態様で出音を行うことが可能となる。分岐を設けずに済むので、後者の手法の方が出音処理に係るプログラム量を削減できる。

【３９６７】

（管理遊技機（パチンコ機）の持玉加算、計数時の効果音の仕様例Ａ）

図３１３では、図３０９～図３１２までで説明した計数関連仕様について管理遊技機（封入式パチンコ機、電子データで遊技価値の管理を行うパチンコ機）の仕様を仕様例Ａとして説明している。持玉セグは、メダルレス遊技機のクレジットセグに対応する。サンド側の貸出ボタン（現金から玉の貸出を行うボタン）又は再プレイボタン（貯玉からの貸出を行うボタン）の操作により、持玉データが加算される。持玉加算音は、持玉セグの変化表示開始と略同じタイミングで出音される。仕様例Ａでは持玉セグの玉数表示の数値は、途中の数値の増加を見せるインクリメントを行わず、０→１２５玉（貸玉料金４円で５００円分）と一気に変化するためセグの変化は一瞬（概ね２００ｍｓ以下）であるため、「持玉セグの変化表示開始と略同じタイミング」とはセグの変化開始と同じタイミング以外に、変化よりも若干早いタイミングや若干遅いタイミングも含む概念である。計数ボタンを短押し（５００ｍｓ未満の押下）した場合は、１玉が遊技機からサンドへ転送される。この際は、持玉加算音と異なる効果音が出音される。計数ボタンを長押し（５００ｍｓ以上の押下）した場合は、持玉から３００ｍｓ毎に２５０玉ずつサンドに転送される。ピモという長押し計数音は１回の出音が０．５秒ほどであり、毎回最後まで出音される。そのため、持玉セグは３００ｍｓに１回更新されるが、計数音は５００ｍｓに１回出音されるということとなり、セグの更新周期と計数音の出音周期が異なるものとなっている。出音回数から転送玉数を推測するのは難しくなる仕様ではあるが、各回の計数音が途中で出音が停止することがないため、違和感の低減が図れている。

【３９６８】

この仕様では計数ボタンのオフエッジ音は非搭載となっている。また、計数完了時には、ピロリンという効果音の後に、「計数完了しました」というボイスが発生している。このボイスは当該機種のモチーフとなったキャラクター（ドンちゃん）のものではなく、他機種でも利用できるような汎用のナレーションボイスを採用している。

【３９６９】

（貸出時のクレジット加算の仕様例１）

図３１４は、仕様例１のメダルレス遊技機のクレジット加算時の仕様を説明するタイムチャートである。なお、他の仕様例（パチンコ含む）についてもこのタイムチャートと類似した挙動となるため、他の仕様例についてもここで説明する。

【３９７０】

Ｔ１～Ｔ８のタイミングで発生しているイベント、及びＸ１～Ｘ３の期間の説明は、下記の通りである。Ｔ１：サンドでの貸出ボタンの押下オンエッジ検出Ｔ２：サンドでの貸出ボタンの押下オフエッジ検出Ｔ３：サンドから遊技機への貸出コマンド送信。厳密には、計数通知コマンド（これから遊技価値の転送を開始する旨を遊技機へ伝えるコマンド）を送信してから、１７０ｍｓ以内に貸出通知コマンド（貸出通番情報、貸出枚数を示す情報、チェックサムを含むコマンド）を送信するが、作図の便宜上Ｔ３と記載している。１７０ｍｓを計測するための１バイトタイマーが遊技機側に設けられている。Ｔ４：遊技機の貸出コマンド受信。計数通知コマンドを受け取り、その後、１７０ｍｓ以内に貸出通知コマンドを受信するという流れであるが作図の便宜上Ｔ４と記載している。貸出通知コマンドを受信した際に、貸出通番情報（貸出の回数を示す情報：０～２５５）が前回の受信した番号の次の番号であり、貸出枚数が０～５０枚の範囲内であり、チェックサムの値が正常であるかをチェックして全て正常であれば、貸出受領結果応答コマンドを「正常」でサンド側へ返信して、クレジットの加算処理を行い、そして、クレジットセグの更新処理を行う。Ｔ５：クレジットセグの加算変化開始Ｔ６：クレジット加算音の出音開始Ｔ７：クレジットセグの加算変化終了Ｔ８：クレジット加算音の出音終了 Ｘ１：貸出ボタンの押下時間。遊技者操作のため任意の時間だが、オフ→オンに変わった時点で貸出処理が開始されるので、この時間値は特にその後の処理に影響しない。長押し操作などもない。Ｘ２：クレジットセグの更新変化が行われる期間。例えば、５０枚貸出を受けた場合は、０→５０などと更新される。インクリメント動作が無い機種のため、遊技者の体感では一瞬である。概ね0.1～0.3秒程度。なお、インクリメント動作がある仕様例では時間はやや長くしてもよい。Ｘ３：クレジット加算音の出音期間。仕様例１では約０．９秒である。

【３９７１】

便宜上、Ｔ３（貸出コマンド送信）はＴ２（貸出ボタンオフエッジ）よりも後として図示しているが、遊技者が貸出ボタンを長めに押した場合などＴ２よりも前に貸出コマンドが送信される場合がある。Ｔ５とＴ６は、時間差を設けているがクレジット表示の変化と出音開始は、同じタイミングでもよいし、Ｔ６（出音）がＴ５（セグ変化）より早く開始されても良い。

【３９７２】

（その他の工夫１：１ＢＥＴボタン）

１ＢＥＴボタンに精算機能（ベット済みの遊技価値を一括してクレジットへ戻す機能）を持たせても良い。例えば、１ＢＥＴボタンを長押しした場合に精算機能が作動するものとしてもよい。

【３９７３】

（その他の工夫２：クレジット数等の上限値を設定する）

あまりにも多くのメダル／玉に相当する遊技価値をクレジット／持玉データとして記憶した場合に、置き引きなどに狙われやすいなどの問題がある。そこで、貯留する遊技価値数に上限を持たせるとよい。

【３９７４】

例えば、メダルレス遊技機であれば１６３８３枚を上限とし、管理遊技機であれば６５５３５玉を上限とするなどとすればよい。これらの上限値は打ち止め機能（例えば、当日のＭＹ又は差枚数が１９０００枚、９５０００発で打ち止めとなる）より少ない値となっている。多すぎる遊技価値が貯留されないように以下のような仕様としてもよい。以下はクレジットの貯留数の閾値ごとの仕様である。

【３９７５】

貯留数０～１４９９９枚：特になし。枚数が多い場合適宜、遊技者に計数を推奨する旨の報知を行っても良い。

【３９７６】
貯留数１５０００～１６３６８枚：遊技は継続可能であるが、周辺基板（演出制御基板）により画面や音声などで計数を促す報知を行うものとする。また、貸出需要結果応答（サンドから貸出コマンドを送信された場合に、遊技機からサンドへ返信する正常な貸出が行われた旨の応答コマンド）を異常で応答し、遊技メダルの貸出処理不可の状態（サンド側の貸出ボタンを押しても、クレジットが加算されない状態）とする。なお、遊技者にとっては影響しないが遊技機の型式試験の途中で遊技不能とならないように、試験用計数信号を５００枚分のメダルを転送するほどの期間において（約３５００ｍｓほど）出力するとよい。
【３９７７】
貯留数１６３８９枚以上：１６３８９＋１５＝１６３８４枚＞１６３８３枚（上限値）という関係性である。つまり、１６３８９枚以上のクレジットがある状態で１ゲームあたりの規則上の最大付与数である１５枚の遊技価値が付与された場合は上限値を超えてオーバーフローしてしまう。このような状況では、主制御手段のエラー状態として遊技不能状態（スタートレバー、ベットボタン、精算ボタンの受付不能状態）とする。
【３９７８】
なお、この状態では計数ボタンの操作による計数は可能である。計数により貯留メダルが１６３６９枚未満となった場合に、当該エラー状態は自動的に解除されため、店員などを呼ばずに解除が行える。なお、計数により貯留メダルが１６３６９枚未満となった場合に、自動的にエラー解除とならずに、店員によるリセットスイッチの操作や、キーリセット（ドアキーを左方向に回すことで行えるエラー解除手法）などによりエラー解除を必要としてもよい。なお、このエラー状態中は、エラー状態を示す信号が外部に出力されホールコンピュータでも当該エラーを把握できるものとするよい。また、このエラー状態中には画面や音声などで計数を促す旨の報知を行うことが望ましい。
【３９７９】
（技術的思想１：保有遊技価値数の表示セグにおいて不要な桁は表示を行わない）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【３９８０】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
複数桁のセグメント表示器（５桁又は６桁のセグ）からなる保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）を備え、
前記遊技価値数表示手段は、遊技価値の保有数を示すために必要な桁のセグメント表示器において数値を表示し、それよりも上の桁のセグメント表示器においては、数値の表示を行わない（例えば、図２９７のように遊技価値を保有していない場合は「０」のみを表示し、図２９８のように５０枚分の遊技価値を保有している場合は、「５０」を表示し百の位以上の桁を非表示とする）ことを特徴とする遊技機。
【３９８１】
このような遊技機によれば、消費電力の削減を図ることができる。
【３９８２】
（技術的思想２：保有遊技価値数の表示セグは遊技価値を保有していない場合に「０」を表示）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【３９８３】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）を備え、
前記遊技価値数表示手段は、遊技価値を保有してない場合において０を表示する（例えば、図２９７、図２９８のように遊技価値を保有していない場合は「０」を表示）
ことを特徴とする遊技機。
【３９８４】

このような遊技機によれば、遊技価値が貯留されていない空き台であってもクレジットセグの場所が分かりやすくなる。

【３９８５】

（技術的思想３：計数関連効果音は、遊技価値数表示手段に近いスピーカーから出音可能）

以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。

【３９８６】

データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、

保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、

複数の出音手段（図２９８、図３０２などの複数のスピーカー）を備え、

計数関連の処理を行った場合に出音される所定の効果音（クレジット加算音、転送音のうち少なくともいずれか）は、前記複数の出音手段のうち前記遊技価値数表示手段に近い出音手段から出音可能である　ことを特徴とする遊技機。

【３９８７】

このような遊技機によれば、遊技価値数を示すセグの変化が生じる場合の効果音がセグから近い位置で出音されるため、遊技者の視線を自然とセグに誘導することができる。

【３９８８】

（技術的思想４：遊技価値数表示手段は前方に傾斜して設けられる）

以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。

【３９８９】

データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、

保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）を備え、

前記遊技価値数表示手段は、遊技機の前方側に向けて傾斜している（図３００（２）等に示すクレジットセグの傾斜などを参照）

ことを特徴とする遊技機。

【３９９０】

このような遊技機によれば、遊技価値数を示すセグが遊技者や、空き台を探している来店客から見えやすくなる。

【３９９１】

（技術的思想５：遊技価値数表示ユニットのうち遊技価値数表示手段を視認させる面は、他の面よりも前方に傾斜して設けられる）

以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。

【３９９２】

データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、

保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、

前記遊技価値数表示手段及び計数用操作手段（計数ボタン）を含むユニット（メダル数表示ユニット、持玉数表示ユニット）を備え、

前記ユニットのうち遊技価値数表示手段を備えていない第１の面（図３０１に示す計数ボタンのある面）は所定の角度で前方に傾斜しており、

前記ユニットのうち遊技価値数表示手段が第１の面（図３０１に示す計数ボタンのある面）は所定の角度で前方に傾斜しており、

前記遊技価値数表示手段が視認可能となる第２の面は、前記所定の角度よりも大きな傾斜角度で前方側に向けて傾斜している（図３００（２）等に示すクレジットセグのある面）

ことを特徴とする遊技機。

【３９９３】

このような遊技機によれば、遊技価値数表示ユニットが見えやすくなるとともに、さらに遊技価値数を示すセグが遊技者や、空き台を探している来店客から見えやすくなる。

【３９９４】

（技術的思想６：操作台座部の天面に所定の突出部があり、該突出部は奥側に向かって傾斜した所定面を有し、所定面とその奥側の壁部との幅のうち広い部分が１ｃｍ以上）
　操作手段（図２９９に示すマックスベットボタン、１ベットボタン、チャンスボタン、スタートレバー等）と、
　前記操作手段が配置された操作台座部（図３０１に示す操作台座部）を備え、
　前記操作台座部の天面に所定の突出部（図３０１に示すメダル数表示ユニットや、変形例として説明したその他の突出部等）を備え、
　前記所定の突出部は遊技機の奥側方向に向かって傾斜した所定面を有し、
　前記所定の突出部よりも遊技機の奥側にある壁部（図３０１に示す画面、具体的には画面の前方に存在する保護板）と前記所定面との間隔が広い部分（図３０１のＤ５）において少なくとも１ｃｍ以上距離が空いている　ことを特徴とする遊技機。
【３９９５】
　このような構造とすることで、操作台座部の天面にスマートフォンなどを立てかけやすくなり、遊技者の利便性を高めることができる。
【３９９６】
（技術的思想７-１：保有遊技価値数を示すセグと、他のセグが近傍に配置され、セグの発光色が異なる）
（技術的思想７-２：他のセグは当該ゲームでの遊技価値付与数を表示可能なセグである）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【３９９７】
　データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
　複数のセグ表示器からなる保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、
　セグ表示器からなる保有遊技価値数と異なる情報を表示可能な特定表示手段（図３０４に示すＰＡＹセグ、指示モニタ用セグなど）と、
　を備え、
　前記遊技価値数表示手段と前記特定表示手段は近傍に設けられ、
　前記遊技価値数表示手段のセグ表示器は、第１の色（例えば、白）で点灯可能であり、
　前記特定表示手段のセグ表示器は、第２の色（例えば、赤）で点灯可能である　ことを特徴とする遊技機。
【３９９８】
　前記特定表示手段は、当該ゲームでの遊技価値付与数を表示可能なセグ（ＰＡＹセグ）であることを特徴とする前述の遊技機。
【３９９９】
　このような遊技機によれば、セグを近い場所に集約して配置することができるため、配線をまとめて行うことができ、かつ、セグの色が異なることによって、情報の混同を抑制することができる。
【４０００】
　また、保有遊技価値数と関連性の高い情報である当該ゲームの獲得遊技価値数を示すセグを近傍に設けることで、遊技価値数の把握に必要な情報を把握しやすくなる。
【４００１】
（技術的思想８：保有遊技価値数を示すセグと、他のセグが並列して並べられる場合に、左右方向のずれがセグ１つの横幅の半分以下である）
　以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４００２】
　データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
　複数のセグ表示器からなる保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、
　複数のセグ表示器からなる保有遊技価値数と異なる情報を表示可能な特定表示手段（図

３０４に示すＰＡＹセグ、指示モニタ用セグなど）と、
を備え、
前記遊技価値数表示手段と前記特定表示手段は並列に設けられ、
前記遊技価値数表示手段のセグ表示器のうち右端のセグ（クレジットセグの１の位のセグ）の左右方向の位置と、
前記特定表示手段のセグ表示器のうち右端のセグ（ＰＡＹセグの１の位のセグ）の左右方向の位置の距離は、前記遊技価値数表示手段の１つのセグ表示器の横幅の半分以下である（図３０４参照。１０ｍｍ幅のセグであれば、左右方向のずれが５ｍｍ以下）
ことを特徴とする遊技機。
【４００３】
このような構成とすることで、前後に視線移動が生じる場合でも桁がズレないので、数値の認識をスムーズにすることができるという効果を奏する。
【４００４】
（技術的思想９：保有遊技価値数の近傍に有利状態信号の出力と対応するランプを設ける）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４００５】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、遊技者にとって有利な特定遊技状態を制御可能な状態制御手段（主制御手段）と、前記特定遊技状態である旨を示す特定信号（特定遊技状態開始時にワンショットで出力される信号又は、特定遊技状態中に出力が維持される信号）を外部に出力可能な信号出力手段（メダル数制御基板など）と、
前記特定信号を出力する場合に点灯する所定のランプ（図３０４のドットＬＥＤ）と、
を備え、
前記所定のランプは、前記遊技価値数表示手段の近傍に設けられる（図３０４のクレジットセグとドットＬＥＤの位置を参照）
ことを特徴とする遊技機。
【４００６】
このような遊技機によれば、遊技価値数表示手段やランプを近い場所に集約して配置することができるため、配線をまとめて行うことができる。
【４００７】
（技術的思想１０：遊技価値数表示手段は、操作台座部の天面より下方側に設けられた傾斜面に設けられ、全面側に向けて傾斜している）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４００８】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
保有遊技価値数を表示可能な遊技価値数表示手段（クレジットセグ、持玉セグ）と、操作手段（図３０３に示すマックスベットボタン、１ベットボタン、チャンスボタン、スタートレバー等）と、
前記操作手段が配置された操作台座部（図３０３に示す操作台座部）と、
を備え、
前記遊技価値数表示手段は、前記操作台座部の天面よりも下方側に設けられ遊技機の前方側に向けて傾斜する傾斜面（図３０３（１）等に示すセグ配置面Ｂ）に配置されていることを特徴とする遊技機。
【４００９】
このような遊技機によれば、遊技価値数を示すセグが遊技者や、空き台を探している来店客から見えやすくなるとともに、傾斜面を台座部の天面よりも下方に配置することができるため、操作台座部の天面の凹凸を少なくすることが可能となり、遊技機の外観をスッキリとさせてスペースを確保することで遊技時の操作性を向上させることができる。

【４０１０】
（技術的思想１１：計数ボタンの近傍の「計数」の文字の周辺には、右方向へ視線を誘導可能なデザインが施されている遊技機）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４０１１】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
遊技価値の計数を行うための操作を検出可能な計数用操作手段（計数ボタン）を備え、
前記計数用操作手段の近傍には「計数」の文字が記されており、
前記「計数」の文字の周辺には右方向へ視線を誘導可能なデザイン（図３０７に示す右向き矢印）がほどこされている ことを特徴とする遊技機。
【４０１２】
このような遊技機によれば、計数操作時に、一般的にサンドが配置されている方向である右方向に向けて遊技者の視線を自然と誘導でき、計数されたメダル等をサンド側の表示手段で視認させることができる。
【４０１３】
（技術的思想１２-１：計数中に画像表示手段のうち、計数ボタンに近い領域において計数中である旨を示す画像を表示）
（技術的思想１２-２：計数中である旨を示す画像を表示は、遊技の進行に関する操作報知画像とは重畳しない位置に表示される）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４０１４】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
遊技価値の計数を行うための操作を検出可能な計数用操作手段（計数ボタン）と、
画像表示手段と、
を備え、
遊技価値の計数中に、前記画像表示手段のうち前記計数用操作手段に近い所定の表示領域（図３０６に示す計数中画像表示領域）において、計数中である旨を示す画像を表示可能である　ことを特徴とする遊技機。
【４０１５】
さらに、遊技の進行に関する操作報知画像（パチスロ機のＡＴのナビ画像、パチンコ機の右打ち指示画像等）を表示可能であり、
前記計数中である旨を示す画像は、前記操作報知画像と重畳しない領域に表示可能である　ことを特徴とする遊技機。
【４０１６】
このような遊技機によれば、遊技者に計数中であることを分かりやすく報知することができる。
【４０１７】
また、操作報知画像との重畳しないように計数中の画像を表示することで、操作報知画像が表示された遊技中に計数を行った場合でも、遊技の進行を妨げにくい態様で計数中であることを報知できる。
【４０１８】
（技術的思想１３：長押し計数する場合に、計数音を最後まで出音せず、転送周期に合わせて計数音が出音される）
以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４０１９】
データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
遊技価値の計数を行うための操作を検出可能な計数用操作手段（計数ボタン）と、出音手段と、
を備え、
前記計数用操作手段を操作し続けた場合（長押しした場合）において所定周期毎に所定

数の遊技価値の計数される連続計数状態（例えば、３００ｍｓ毎に５０枚、２５０玉相当の遊技価値が転送される状態）とすることが可能であり、
　前記連続計数状態で出音される計数音は、当該計数音の出音の途中であっても前記所定の周期毎に新たな計数音が出音される（図３１１の仕様例１、２参照）ことを特徴とする遊技機。
【４０２０】
　このような遊技機によれば、転送周期に合わせて計数音が出音されるため、計数音の出音回数から転送枚数を推測することが容易となる。
【４０２１】
（技術的思想１４：長押し計数する場合に、操作開始から計数した累積遊技価値数に応じて計数音が変化）
　以下にこの技術的思想についてまとめた記載を行う。
【４０２２】
　データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、
　遊技価値の計数を行うための操作を検出可能な計数用操作手段（計数ボタン）と、出音手段と、
　を備え、
　前記計数用操作手段を操作し続けた場合（長押しした場合）において所定周期毎に所定数の遊技価値の計数される連続計数状態（例えば、３００ｍｓ毎に５０枚、２５０玉相当の遊技価値が転送される状態）とすることが可能であり、
　前記連続計数状態で出音される計数音は、前記計数用操作手段の操作開始から累積して計数された遊技価値の数に応じて変化可能である（図３１１の仕様例４の出音イメージ欄の記載参照）
　ことを特徴とする遊技機。
【４０２３】
　このような遊技機によれば、多くの遊技価値を獲得して計数する場合などに遊技者に高揚感を感じさせることができる。
【４０２４】
［７．１．メダルレス遊技機、管理遊技機のその他の工夫 遊技価値数クリアスイッチ］
　店員が遊技機に記録されたメダル数、持玉数をクリア（値を０にする）するための操作を行うことができる遊技価値数クリアスイッチ（以下「クリアスイッチ」と記載することもある）を設けてもよい。当該クリアスイッチは、主制御基板が１枚構成の場合は、主制御基板に設けられ、主制御基板とメダル数等制御基板（パチンコ機では持玉数等制御基板。以下両者を含むものとして「遊技価値数制御基板」と記載する）の２枚からなる基板構成の場合は遊技価値数制御基板に設けられる。つまり、遊技機の筐体内、パチンコ機の場合は遊技機の裏側に配置されており、パチンコ機の場合は遊技機の裏側に配置されており、遊技者は操作困難な位置に設けられている。店員がエラー解除などのためにドアを開放した場合に、誤って接触して遊技者の持ちメダル等をクリアしてしまわないように、以下のようなクリア手順とすることが好ましい。手順１：遊技機の電源スイッチを操作し、電源をＯＦＦ状態にする。手順２：遊技価値数クリアスイッチを押しながら、電源スイッチを操作し、遊技機の電源をＯＮにする。この電源起動時に遊技価値数がクリアされ、遊技価値数クリアステータス（クリアした状態であることを示すステータス。例えば、所定のビット情報）がＯＮとなる。手順３：クリア処理後に、通常の遊技状態がセットされ、遊技可能な状態となる。手順４：遊技が可能となってから３秒以上経過で、遊技価値数クリアステータスがＯＦＦとなり一連のクリア処理が終了する。
【４０２５】
　このような電源のＯＮ、ＯＦＦ操作をクリア時に要することで、うっかりクリアスイッチに触れてしまった場合に遊技価値数が消えてしまうといった事態を抑制できる。
【４０２６】
　なお、クリアスイッチには誤作動を防止するために蓋を設けるとよい。また、蓋はバネ

などで付勢されて普段は閉じた状態（クリアスイッチを操作できない状態）とし、指で蓋を動かした状態で操作できるものとするとよい。また、蓋は透過性のもの（有色又は無色の透明のもの）としてクリアスイッチの位置が視認しやすいようにするとよい。また、クリアスイッチの近傍に「クリアスイッチ」、「メダル数クリアスイッチ」、「持玉クリアスイッチ」、「持玉消去」などスイッチの機能を説明するための文言を付しておくとよい。

【４０２７】

また、遊技価値数のクリアが行われた場合は、その旨を示す外部信号（サンドを経由してホールコンピュータで、クリアの発生を確認できるようにするための信号）出力するとよい。この信号は取りこぼしが発生しにくいように遊技が可能になってから遊技が可能になってから最低でも３秒程度（上記遊技価値数クリアステータスがＯＦＦとなるまでの間）出力を維持することが望ましい。

【４０２８】

［７．２．メダルレス遊技機、管理遊技機のその他の工夫 遊技価値数セグにエラーコードを表示］

クレジットセグ、持玉セグに、発生しているエラーの種別を示す文字や数字であるエラーコードを表示してもよい。例えば、各種エラーを示すＥ１～Ｅ８、ＲＷＭ異常など重篤なエラーを示す８８などである。エラーコードは、遊技不能かつ、貸出・計数不能の状態において表示される。遊技可能な状態で軽微なエラーを意味するエラーコードの表示によりクレジット数が確認しづらくなってしまうと遊技者の利便性を損なうこととなるからである。

【４０２９】

なお、エラーコードを表示することとなるエラー発生中であっても、遊技者が保有している遊技価値数を確認することができるように、遊技価値数とエラーコードの表示を切り替えながら表示するとよい。例えば、約２０００ｍｓ（２秒）ごとに遊技価値数→エラーコード→遊技価値数→エラーコード→・・・とエラーが解除されるまで交互に表示するとよい。

【４０３０】

また、エラーコードと遊技価値数は誤認されないようにセグの表示態様を工夫するとよい。例えば、エラーコード表示は上位桁詰めで下位桁を空白とする。遊技価値数は下位桁詰めで上位桁を空白とする。このようにすると、仮にセグが単色ＬＥＤからなるものであっても誤認を適切に防止することができる。この使用であると、５０枚メダルを保持している状態でＥ１エラー「Ｅ１□□□」→「□□□５０」→「Ｅ１□□□」→・・・とセグの表示が変化する。なお、ＲＷＭメモリエラーなど主制御基板において遊技価値数の把握ができなくなってしまうような重篤なエラーの場合は、遊技価値数を表示することができないので、例えば、「８８□□□」というようなエラーコードの表示を維持し、上述のような切替表示を行わないものでもよい。

【４０３１】

また、遊技価値数セグに複数色が表示可能なＬＥＤ（フルカラーＬＥＤなど）を採用して、遊技価値数表示は第１の色（例えば、白）、エラーコードは第１の色とは異なる第２の色（例えば、赤）などとするとより両者の区別がしやすくなる。なお、フロントドア開放などはエラーとも捉えることができる事象ではあるが、発生中（ドア開放中）も遊技価値の計数が可能であるため、エラーコードは表示されない。

【４０３２】

［７．３．メダルレス遊技機、管理遊技機のその他の工夫 計数中の保有遊技価値数変化について］

メダルや玉の計数中（遊技機からのサンドへの転送中）にクレジットセグや持玉セグの保有遊技価値数が増減する事象が発生してしまうと、正確に計数が出来ないおそれがある。そのため以下のような仕様とするとよい。

【４０３３】

１：計数中に遊技価値数の減少につながる操作／処理を規制する仕様 パチスロ機の計数中（計数ボタンの長押し中など）では、１ベットボタンやマックスベットボタンの操作が行われたとしても当該操作を無効とする。ベットボタンの操作を検出したとしても、計数中であればクレジット値を減算して減算分をベット数に加算するといった処理を行わないものとするとよい。なお、結果的に各ベット手段を操作してベットが行われなければよく処理の詳細は例示したものに限定されない。また、無効な操作であることを示唆するために計数中でベットボタンを操作した場合は、ベット時の効果音が出音されないものとするとよい。なお、計数中であっても演出用ベットボタン操作（例えば、リールアクションやフリーズの開始や進展時用のベットボタン操作や、画像変化演出用にベットボタン操作をさせる演出が発生したときの操作）は有効としてもよいし、計数中は一律でベットボタンの操作は無効と扱ってもよい。パチンコ機の計数中では、発射ハンドルを操作しても玉が遊技領域に向けて発射されないものとして持玉数が減らないようにするとよい。

【４０３４】

２：計数中に遊技価値数の増加につながる精算処理を規制する仕様 メダルレス遊技機の精算を行った場合は、ベット分のメダルが減算されて０になり、クレジットにベット分のメダルが加算される。計数中にクレジットの値が増加した場合、正しく計数が行われないおそれがあるため、計数中は精算ボタンの操作を無効として、精算操作（精算ボタンの押下、１ベットボタン長押しで精算される場合は１ベットボタンの長押し）が行われたとしても精算処理を行わないものとする。また、無効な操作であることを示唆するために計数中で精算操作をした場合は、精算時の効果音が出音されないものとするとよい。

【４０３５】

なお、変形例として、精算ボタンが操作された場合に計数処理を一旦中断（終了）して、精算によるクレジット加算を行うものとしてもよく、その後、再度計数ボタン押下が検出された場合に計数処理を開始するものとしてもよい。

【４０３６】

３：計数中に遊技価値数の増加につながる事象が発生した場合の処理・メダルレス遊技機での小役の入賞・管理遊技機での始動口、一般入賞口、大入賞口などへの遊技球の入球・管理遊技機で発射した遊技球の勢いが弱く遊技領域へ射出されずに、発射位置に玉が逆流してしまった場合

これらの場合は、保有している遊技価値数が増加することとなる。遊技の進行中（リール回転中、停止操作中、遊技球の発射中・流下中）も計数は可能であるため、計数中に上記の事象が発生することがある。このような場合においては、計数が一旦完了するまで入賞等による遊技価値の加算処理を待機し、計数操作に基づく計数処理が完了してから入賞等による増加分相当の遊技価値を保有遊技価値数に加算するとよい。なお、変形例として、計数中に遊技価値数の増加につながる事象が発生した場合に計数処理を一旦中断（終了）して、入賞等による遊技価値の加算を行うものとしてもよい。その、再度計数ボタン押下が検出された場合に計数処理が開始される。

【４０３７】

［７．４．メダルレス遊技機、管理遊技機のその他の工夫 貸出受付、計数ができない期間］

遊技機の動作の安定性を担保する観点からサンドからの貸出信号の受付や、遊技機からサンドへの遊技価値の転送である計数処理が行えない期間をもうけてもよい。例えば、以下のような期間が挙げられる。

【４０３８】

・設定変更中

パチスロ機や設定機能付きパチンコ機の出玉性能の有利度合いに関する設定値の変更作業中の状態である。電源オフ状態で、設定キーを主制御基板などの鍵穴に挿入しひねった状態としてから電源投入し、電源起動後にこの状態になる。設定値変更ボタンの操作で設定値として任意の値（設定１～６）を選択し、スタートレバー操作などで設定値を確定させて、終了となる。設定変更時に係る電源起動時には遊技状態に関する情報は基本的に初

期化される。また、必ずしも全ての遊技状態を初期化する必要はなく予め定められた遊技状態に関する領域を初期化すればよく、例えば、ボーナス役の持ち越し状態を維持することを前提とした仕様の場合は、ボーナス役の持ち越しに係る記憶領域は初期化しないものとすることが望ましい。また、記憶されている遊技価値数は設定変更時の処理（設定変更に係る電源起動時処理を含む）では、初期化されず維持されることとしている。この状態では、貸出や計数が行えないものとするとよい。

【４０３９】

・設定確認中

パチスロ機や設定機能付きパチンコ機の出玉性能の有利度合いに関する設定値の確認作業中の状態である。電源投入状態のまま設定キーを主制御基板などの鍵穴に挿入しひねった状態とすると、設定確認中状態となり、筐体内の設定値表示セグ又は遊技機前面のセグ（ＰＡＹセグ、ＣＲＥＤＩＴセグなど）に設定値を示す数値が表示される。この状態では、貸出や計数が行えないものとするとよい。

【４０４０】

・ラムクリア中

遊技機を初期化する処理である。パチンコ機の場合は、電源オフ状態で、主制御基板などのラムクリアボタンを押下したまま電源スイッチを操作して電源投入した場合にラムクリア処理が行われる。完了時に「ラムクリアが完了しました」などの報知ボイスが出音されるものでもよい。パチスロ機の場合も同様の流れであるが設定値（設定１～６等）はラムクリアの場合は維持される。専用のラムクリアボタンは設けずにエラー解除スイッチなどを押した状態で電源投入した場合にラムクリア処理が行われるようにして他の操作手段とラムクリアボタンを兼用するものでもよい。

【４０４１】

また、必ずしも全ての遊技状態を初期化する必要はなく予め定められた遊技状態に関する領域を初期化すればよく、例えば、ボーナス役の持ち越し状態を維持することを前提とした仕様の場合は、ボーナス役の持ち越しに係る記憶領域は初期化しないものとすることが望ましい。なお、ラムクリアのみを行う手順を設けず、設定変更時に係る電源起動時の初期化処理をもって遊技情報のクリアを行える仕様であっても問題ないが、ラムクリアは設定キーを用いずに初期化処理が行えるため、設定変更手順とは別にラムクリア手順を設けた方がホールの運用の利便性は高まる。また、記憶されている遊技価値数はラムクリア処理では、初期化されず維持されることとしている。ラムクリア処理中は、貸出や計数が行えないものとするとよい。

【４０４２】

・電源投入による起動中

特に設定変更やラムクリアなどを行わず、電源オフ状態で電源スイッチを操作して普通に電源投入した場合である。電源投入後、主制御基板及びメダル数制御基板（遊技球等貸出制御基板）により制御される主制御系がまず起動完了し、ついで立ち上がりに時間のかかる演出制御基板により制御される演出制御系の起動が完了する。主制御系の起動後に主制御基板の役比モニタ（パチンコ機の場合は、ベースモニタ）でセグが正常に点灯するかをデモンストレーションする点灯パターンチェック動作が行われるが、これは起動後の処理であるため、点灯パターンチェック動作に要する時間は本項の説明においては、主制御系の起算時間に含んでいない。主制御系の起動は概ね３秒から１０秒程度で完了することが多く、演出制御系は機種の仕様により大きく異なるが概ね１０秒程度から１分程度で完了することが多い。少なくともいずれの遊技機においても起動に要する時間は、演出制御系＞主制御系となっている。なお、演出制御系の起動に時間がかかる機種においては起動の進捗率をインジケータ（進捗率に応じて横向きのバーが伸びていくメータ画像）などで表示するとともに「ＮＯＷ ＬＯＤＩＮＧ」、「起動中」などのテキスト表示を行って店員に故障と誤解されないようにするとよい。電源投入から主制御系の起動が完了するまでの間は、動作の安定性を高めるために貸出や計数が行えないものとするとよい。一方、主制御系の起動が完了した後は、演出制御系の起動が完了する前であっても貸出や計数が行

えるものとするとよい。例えば、電源投入時にクレジットに残されていた遊技価値（前日の閉店時から残っていたもの）などに店員が気づいた場合は、演出系の起動完了を待たずに速やかに計数処理をして開店準備としての端玉処理を完了させることができる。なお、主制御系、演出制御系の両方の起動が完了した状態では当然、貸出や計数は行える。また、主制御系の起動が完了した後は、演出制御系の起動が完了する前であっても遊技の進行は可能となり、設置時などにリールが正しく回転するか演出制御系の起動を待たずに１ゲーム回してみることでチェックすることも可能となっている。

【４０４３】

［７．５．メダルレス遊技機、管理遊技機のその他の工夫 サンド未接続状態］

サンド（貸出用の専用ユニット）がメダルレス遊技機、管理遊技機に接続されていない場合は、当然であるが、サンドと遊技機の通信が行ないため、貸出及び計数処理を行うことができない。既に貸し出されたメダル等が遊技機側で記憶されている場合であっても、このようにサンドと未接続の状態では遊技の進行に関する操作を受け付けないことが望ましい。仮に遊技を進行できるとした場合、当りを引いた遊技価値を獲得したとしても遊技機外に遊技価値データを送信することができず、景品との交換などが行えないため、遊技者に不利益を与えることになってしまうからである。通常、接続した遊技機とサンドとのハーネスが抜ける、壊れるといった事象はあまり生じないが地震や部材の劣化・サンド側の故障などで未接続状態（通信不能状態）となった場合は、速やかに遊技不能状態とすることが望ましい。なお、未接続状態（通信不能状態）であるか接続状態であるかは、以下のように認識される。サンド側とハーネスで接続されるのは、遊技機の遊技球等貸出接続端子板である。当該遊技球等貸出接続端子板では接続確認用電源（ＶＬともいう）によりサンドとの接続状態を確認できる。この電源がオン状態であれば遊技球等貸出接続端子板は、正常な接続であると判断して、メダル数制御基板（遊技球数制御基板）に向けて接続確認信号（ＶＬ接続信号ともいう）を出力する。メダル数制御基板等ではメダル数制御ＣＰＵで当該接続確認信号の受信を確認することでサンドとの正常な接続を認識する。なお、メダル数制御基板を持たず主制御基板１枚構成の場合は、遊技球等貸出接続端子板からの接続確認信号は主制御基板で受信することとなる。なお、説明の便宜上、他の段落において「メダル数制御基板や主制御基板から計数信号等が出力される」、「サンドからのメダル数制御基板等が貸出信号を受信する」という趣旨の説明している箇所があるが、厳密には遊技球等貸出接続端子板を経由して、サンドに向けた遊技から信号及びサンドから遊技機への信号の入力がされているという趣旨である。

【４０４４】

上記の実施形態及び上記の変形例等の内容を適宜組み合わせることができる。

【４０４５】

（オート計数状態の設定機能）

ここまで、５００ｍｓ未満の計数ボタンの押下（短押し）で、１回の押下につき１枚のメダル計数が行われ、５００ｍｓ以上の計数ボタンの押下（長押し）で、押下継続し続ける限り３００ｍｓごとに５０枚のメダル計数が行われる連続計数状態となる点を説明した。ところで、この仕様の場合は、数千枚など大量のメダルを獲得した場合に数十秒の間計数ボタンを押下し続ける必要があり、遊技者の負担になるおそれがあった。そのため、所定時間（例えば、５０００ｍｓ＝５秒）の計数ボタンの長押しを行うことにより、以後計数ボタンから手を離したとして遊技機に記憶されたクレジットの値が０になるまで自動的に計数が継続される機能を持たせることが望ましい。ここで自動的に計数が継続される状態（以下「オート計数状態」とも称する）では、３００ｍｓ毎にメダルが５０枚ずつ計数される、つまり、３００ｍｓ毎に遊技機からサンドに向けて５０枚計数を意味する信号が出力されるとともにクレジットの保有メダル数が５０枚ずつ減算されていく処理が行われる。このように３００ｍｓ毎に５０枚ずつのメダルが連続して計数され続けてクレジットの値が０になると計数が完了する。なお、最後の１回の転送についてはクレジットの値が５０枚未満の場合は、その全枚数（１～４９枚）が転送されクレジットが０になる。なお、オート計数状態が設定されるために必要な長押し時間は５秒に限らず、５秒より短い時

間かつ基本の長押し時間（５００ｍｓ）より長い時間、つまり５００ｍｓ～５０００ｍｓの間の任意の時間値としてもよいし、５秒より長い時間としてもよい。以下に技術的思想として整理した記載を述べる。

【４０４６】

（技術的思想：オート計数状態の設定機能）

「データで遊技価値を管理する遊技機（メダルレス遊技機、管理遊技機）であって、

遊技価値の計数を行うための操作を検出可能な計数用操作手段（計数ボタン）を備え、

前記計数用操作手段の継続操作時間が第１の時間を経過した場合（長押しの時間が５００ｍｓを経過した場合）において、操作を続ける限り所定周期毎に所定数の遊技価値が計数される連続計数状態（例えば、長押しし続ける限り３００ｍｓ毎に５０枚、２５０玉相当の遊技価値が転送される状態）とすることが可能であり、

前記計数用操作手段の継続操作時間が前記第１の時間よりも長い第２の時間を経過した場合（長押しの時間が５０００ｍｓを経過した場合）において、操作を終了したとしても所定周期毎に所定数の遊技価値が計数される自動計数状態（例えば、計数ボタンの操作をやめても３００ｍｓ毎に５０枚、２５０玉相当の遊技価値が転送されるオート計数状態）とすることが可能であることを特徴とする遊技機。」

このような仕様とすることで遊技者の計数操作時の負担を軽減できる。なお、オート計数機能は、説明は主にメダルレス遊技機（回胴式遊技機）について記載しているが、管理遊技機（パチンコ機）にも適宜採用可能である。パチンコ機の場合は、３００ｍｓ毎に２５０玉相当の遊技価値がオート計数中に遊技機からサンドへ転送される。

【４０４７】

（オート計数状態の転送例と、転送中断機能）

一例として１０００枚のメダルを計数ボタンの長押しで転送を行ったときの長押し開始からの経過時間と残りクレジット数の変化を説明する。

０ｍｓ　１０００枚
３００ｍｓ　１０００枚
５００ｍｓ　９５０枚
８００ｍｓ　９００枚
１１００ｍｓ　８５０枚
１４００ｍｓ　８００枚
１７００ｍｓ　７５０枚
２０００ｍｓ　７００枚
２３００ｍｓ　６５０枚
２６００ｍｓ　６００枚
２９００ｍｓ　５５０枚
３２００ｍｓ　５００枚
３５００ｍｓ　４５０枚
３８００ｍｓ　４００枚
４１００ｍｓ　３５０枚
４４００ｍｓ　３００枚
４７００ｍｓ　２５０枚
５０００ｍｓ　２００枚
５３００ｍｓ　１５０枚
５６００ｍｓ　１００枚
５９００ｍｓ　５０枚
６２００ｍｓ　０枚

まず、計数ボタン押下開始から０～４９９ｍｓまでは長押しの場合は計数が行われない。

【４０４８】

次に、５００ｍｓ到達時点で長押し状態であると判定されると、３００ｍｓ毎に５０枚

転送が行われる連続計数状態となる。そこから５０００ｍｓ到達までに合計で８００枚ほどの転送が完了している。５０００ｍｓ経過以降は計数ボタンから手を離したとしても自動的に計数が継続されるオート計数状態となる。今回の例では５０００ｍｓ～６２００ｍｓの約１．２秒の間は手を離しても計数が継続されることとなる。１０００枚の場合は操作負担の軽減効果は小さいが枚数が多いほど計数ボタンから手を離してもよい時間が長くなり、操作負担の効果は高まる。遊技者は、オート計数中の時間を利用して帰宅の準備（例えば、財布やスマホをしまうなど）を行うことができる。また、オート計数状態で計数ボタンの押下を一度やめた後に、再度計数ボタンを所定時間（例えば、３００ｍｓ間）押下した場合は、オート計数状態を解除して、計数が行われない状態とするオート計数中断機能を持たせてもよい。転送中に気が変わってやっぱり遊技を継続しようと思い立った遊技者の利便性を高めることができる。オート計数状態が解除された後は、計数ボタンは普通の操作待ちの状態となるため、また短押しで１枚計数、５００ｍｓ長押しで連続計数、５０００ｍｓ長押しでオート計数を行うことができる。

【４０４９】

（オート計数中を示す表示画像やランプの点灯態様）

オート計数状態（以下、オート計数中ともいう）は、所定のランプを点灯・点滅させたり、画面にオート計数中であることを示す表示を出してもよい。

【４０５０】

例えば、図３０７の計数ランプ９２Ｘを、計数不能時（クレジット０等）は消灯、計数可能状態は点灯、１枚計数・連続計数中は点滅、オート計数中は高速点滅などと計数状態（非計数状態を含む）に応じて異なる点灯態様としてもよい。またフルカラーＬＥＤを用いて計数状態に応じて色を変えてもよいし、メダル数表示ユニットに「ＡＵＴＯ」ランプを搭載してオート計数状態になったら点灯させるといったものでもよい。また、図３０６の計数中画像表示領域７４Ｘのような計数ボタンから比較的近い表示領域に「オート計数中」「手を離しても自動計数します」などの表示を行ってもよい。また、図２９８の計数ボタン１４Ｙのように発光色を異ならせることができる計数ボタンを備える遊技機の場合は、計数可能な状態では緑点灯。計数ボタンの押下中(1枚～連続計数中）は赤点灯。オート計数中は、赤点滅。計数完了後（転送不能状態）は、青点灯などとして、オート計数中を示す発光態様を備えるものとして遊技者に計数状態を示唆／報知してもよい。なお、オート計数状態と１枚計数、連続計数状態の点灯パターンや表示画像を異ならせる例を説明したが、仕様の簡素化のために１枚計数、連続計数状態とオート計数状態が同じ、あるいは、１枚計数とオート計数状態の示唆は異なるが連続計数状態とオート計数状態は同じとしてもよい。

【４０５１】

（計数プログラムの共通化）

前述の通り、連続計数状態とオート計数状態における転送速度は、いずれも３００ｍｓ毎に５０枚と共通化している。これにより、３００ｍｓ毎に５０枚の転送を行う所定の計数プログラムを連続計数状態の計数処理と、オート計数状態における計数処理の両方で参照することができ、それぞれ別々に転送処理を規定するプログラムを用意する必要がなくなるため、メインプログラムの容量を節約することができる。

【４０５２】

（オート計数状態の転送音）

図３１０～３１２で図示した通り、計数時に効果音（上述の通り、計数時の効果音やＢＧＭ、ボイス等を「計数音」と称する）を出音することで遊技者に計数が行われていることを分かり易く伝えるものとしている。そのため、オート計数状態で計数が行われる間においても所定の計数音（以下「オート計数音」と称する）を出音することが望ましい。図３１１に示す長押し計数音とは、５００ｍｓ以上の連続計数状態で出音される効果音を指すが、オート計数音と紛らわしいので、５００ｍｓ以上の連続計数状態（オート計数状態を除く）で出音される効果音は、この説明では「連続計数音」と記載する。以下の説明では一例として、図３１１に示すような長押し計数音（連続計数音）と同じ種類の効果音を

オート計数音として出音するものとしてもよい。例えば、仕様例１の機種であれば♪ピロロンという音が連続出音され、♪ピロ→♪ピロ→♪ピロ→・・・♪ピロロンといった態様で出音される。連続計数音とオート計数音の区別は特にないので、出音処理を簡素化することができる。また、図３１１の仕様例４に示すような連続して計数された累積枚数で計数音が変化する仕様の場合は、連続計数音とオート計数音で変化させると枚数に応じた音変化が行いにくいので、連続計数音とオート計数音を分けずにトータルの計数枚数で効果音を変化させてもよい。もっとも、計数ボタンを５秒間長押しした場合、連続計数でトータル８００枚が計数されるため、８００枚までは計数音１、８０１枚以上は計数音２、２０００枚以上は計数音３などとして、第１計数音と第２計数音の切り替わりタイミングとオート計数機能設定のタイミングを略同様となるように設定してもよい。

【４０５３】

別例として、連続計数音とオート計数音を別の効果音としてもよい。例えば、図３１１の仕様例３で別効果音の仕様を採用した場合、「長押し計数開始→計数ボタン押下開始から５秒経過」までの連続計数状態の期間では、♪テンテンテロリン～という第１ＢＧＭが連続計数音として出音され、５秒経過以降のオート計数状態の期間では「自動計数中です。計数ボタンから手を離しても計数が実行されます」といったボイスがループ再生で、オート計数音として出音される。このように直接的なアナウンスとすることで遊技者に適切にオート計数機能を伝えることができる。もっとも、説明ボイスとはせずに前記第１ＢＧＭと異なる第２ＢＧＭや、第１ＢＧＭと異なる任意の効果音などを出音することとしてもよい。なお、クレジットの保有数が８００枚未満で５秒押下未満で計数が完了する場合（あるいは８００枚ちょうどなど５秒ちょうどで計数完了となる場合や８０１～８５０など５秒＋３００ｍｓなど別の効果音を出音するには短い場合などを含んでもよい）は、計数完了後に計数ボタンの長押しを押下開始から５秒以上となる期間まで継続したとしてもオート計数状態は設定されず、オート計数音は出音されない。これにより遊技者に適切に計数状況を伝えることができる。

【４０５４】

（オート計数状態の中断音）

前述の通り、オート計数状態で計数ボタンの押下を一度やめた後に、再度計数ボタンを所定時間（例えば、３００ｍｓ間）押下した場合は、オート計数状態を解除して、計数が行われない状態とするオート計数中断機能を持たせてもよい。この場合に再度計数ボタンを３００ｍｓ間押下してオート計数状態が解除される場合に所定の効果音（以下「オート計数中断音」）を出音することが望ましい。例えば、オート計数中断音は、♪ポーンという０．５秒程度の効果音でもよく、「自動計数を中断しました」といった説明ボイスでもよい。遊技者が認識しやすいように、オート計数中断音は、少なくとも出音されているオート計数音とは異なる効果音を出音することが望ましい。なお、オート計数中断音を出音せずに、中断された場合にオート計数音の出音が終了するだけといった仕様としてもよい。

【４０５５】

（オート計数機能に関する説明表記）

所定時間（例えば、５秒）の計数ボタンの長押しでオート計数状態になることについて、計数ボタンの近傍に説明を記載しておくことが望ましい。例えば、図３００の示すメダル数表示ユニットでの説明部に「５秒の長押しで自動計数となり、自動計数中はボタンを押さなくても全クレジットが計数されます。」などと記載すればよい。また、液晶などの画像表示手段を備える遊技機の場合は、画面でオート計数機能に関する説明の画像を表示してもよい。例えば、遊技機の外観（全体でも操作部など一部をクローズアップした図や写真でもよい）の中で計数ボタンの位置を分かり易く図示した画像や映像を表示し、さらに操作方法に応じた計数(１枚計数、連続計数、オート計数）が可能である点を説明する画像などを表示するとよい。こうした説明画像等は、デモ画面（客待ち画面）やメニュー画面などで表示可能とするとよい。

【４０５６】

（オート計数中のその他の機能、ＱＲ、メニュー、音量光量調整）
　オート計数中は計数ボタンを押し続ける必要がないので、計数完了までの待ち時間で遊技者は別の操作を行うことができる。遊技者の利便性を高めるために、オート計数中でもボタン（サブ制御側の演出ボタンや当該機能用ボタン等）やタッチパネルなどの所定の操作手段で下記の操作（いずれか１つでもよいし、複数でもよい）を可能とするとよい。
【４０５７】
１：携帯連動機能の二次元コードの表示
　携帯連動機能の二次元コードを表示可能とするとよい。計数中は遊技終了時であるので、特にログイン状態で行われた遊技の履歴データなどを含む情報を読み取り可能な終了時二次元コードや、遊技者が誰であるか、ログインの有無を問わず当日の総合遊技履歴データを読み取りできる閉店時二次元コードなどを表示可能とするとよい。
【４０５８】
２：メニュー画面の表示
　メニュー画面を表示可能とするとよい。特にメニュー画面で当日のゲーム数やボーナス回数、ＡＴ回数、設定示唆画像の出現履歴などの遊技履歴に関する所定の情報が見られる仕様としておくと遊技終了時に遊技者が結果を確認することができるので便利である。もっとも、メニュー画面ではそれ以外の項目を表示してもよい。例えば、遊技機でモチーフとされた版権やキャラクターの紹介画像、機種紹介サイトやメーカーの公式ページ等の遊技機関連情報サイトへ移動するＵＲＬ情報を含む二次元コード（アプリ等の連動機能ではない単なる二次元コード）、現時点での前回ボーナス（ＡＴでもよい）終了からのハマリゲーム数、現在滞在しているモードや状態など出玉性能に関する有利度合いを示唆／報知する画像などをメニュー画面で表示してもよい。
【４０５９】
３：演出カスタム及び音量・光量調整機能
　打順ナビのボイスやカットイン等で出現しやすいキャラクター、演出背景ステージや画面の端の方やサブ画面に待機する常駐キャラクターなど演出期待度等に影響しない（あるは影響の小さい）外観面の設定を遊技者が任意で選択する演出カスタムや、演出の出現頻度や演出期待度のバランスをカスタマイズできるバランスカスタムを可能としてもよい。バランスカスタムの一例としてパチンコ遊技機（管理遊技機）で先読み演出の出現頻度や入賞時の高期待度先告知演出の頻度調整、群演出の頻度調整など各演出の出現頻度・期待度を選択したり、あるいは演出バランスのパッケージとして先読み演出による期待感演出の比重が重くなる「先読み重視モード」、演出の出現頻度が減り無駄な煽りの減る「シンプルモード」、可動役物や虹色発光など一発確定系の演出頻度が高まる「一発告知優先モード」の複数の演出モードから任意の１つを遊技者選択するものでもよい。また、これらのカスタムを初期化する所定の操作（特定のボタンの長押しや同時押し等）を設けて、遊技を終了する者が次の遊技者に対する配慮として初期設定のキャラ等やバランスに戻せるようにしてもよい。なお、キャラ等のカスタムのみ、バランスカスタムのみとしてもよく両者を搭載するものとしてもよい。
また、音量、光量調整のいずれか、または両方をオート計数中に可能としてもよい。オート計数中の計数対応演出（計数音や計数対応ランプパターン）は、遊技者用の音量調整、光量調整の影響を受けるものとしても、影響がないものとしてもよい。
【４０６０】
４：可動役物の位置変更操作
・遊技機の上部等からキャラクターを模した可動役物が突出する
・可動液晶が遊技機の所定位置から上方向などに突出する
・メイン画面の前に、可動役物やサブ液晶が待機してメイン画面の視認性が低下した状態
　このような状態を所定の操作で解除できる機能を有する場合は、オート計数中にこうした可動役物の位置変更操作を行えるものとしてもよい。
例えば、位置変更操作によって、上部から突出した可動役物や可動液晶を待機位置に収容することができるようにすることで、一般的にホール内で遊技機の上部に設置されるデー

タ表示器が見やすくなったり、遊技機の上方の棚などに置いた荷物が取りやすくなったりするので、遊技終了時の利便性が高まる。
また、所定操作でメイン画面の前から可動役物やサブ液晶を待機位置に移動させてメイン画面の視認性を向上させるものとしてもよい。なお、位置変更操作はメニュー画面やカスタム表示、音量・光量調整等の表示操作などと同一としてもよい。具体的には、メニュー画面等を表示するボタン押下を行った場合に、メイン画面前に待機した可動役物が待機位置や退避位置に移動してメイン画面の視認性が向上されるものとしてもよい。
【４０６１】
（オート計数中のベット、精算や入賞などについて）
　オート計数中に保有遊技価値数（クレジット数、持玉数）の増減が発生する事象（以下「増減事象」と略すことがある）が発生しうる。
例えば、メダルレス遊技機での１ＢＥＴボタン押下、マックスＢＥＴボタン押下によるクレジット減少。ベット済みメダルがある状態での精算ボタン押下や小役の入賞によるクレジット加算。管理遊技機での遊技球の発射による持玉数の減少、入賞口への入球による持玉数の加算、発射した遊技球が遊技領域へ届かずに発射位置に戻ったときの持玉数の加算などが挙げられる。
これらの増減事象がオート計数中に発生する場合に、適切に計数を行うために以下のような仕様とすることが考えられる。
【４０６２】
　仕様Ａ：計数中に増減事象が発生したら、すみやかに計数終了とする
このようにすることで、クレジットの値が変動しつつ計数（サンドへの転送）が行われることを抑制でき、遊技者が自分の手持ちクレジットを正確に認識しやすくするとともに、転送時の処理エラーなどの発生も抑制できる。なお、このような増減事象の発生による計数中止を示唆ないし報知する押下音を出音したり、画面に「ベット操作により計数が中断されました」といった表示を出してもよい。
【４０６３】
　仕様Ｂ：計数中は、増減事象の要因となる操作を無効化する
例えば、計数中は精算ボタンを押下しても精算処理が行われない、ベットボタンを押下してもベットされないといった仕様である。遊技球の動作など無効化できない事象もあるが、ボタン押下による増減などを抑制することで安定した計数を行うことが可能となる。
【４０６４】
　仕様Ｃ：増加事象のみ、計数中断せずに計数終わってからクレジットに反映
減少事象については、仕様ＡかＢを採用し、増加事象（精算、小役入賞、入賞口への入球等）については、オート計数が完了して一旦クレジット数（持玉数）が０になってから、増加分を０に対して加算するといった仕様である。このようにすることで、計数中に発生した遊技価値の増加を遊技者が把握しやすくなる。この場合は、増加事象の発生時（例えば、小役入賞なら全リール停止時）に増加事象の発生を示す演出（入賞音やＧＥＴ１０枚などの表示）を出してもよいし、計数完了後に出して、計数後にメダルなどを置き忘れないように注意喚起をするタイミングで遊技価値増加演出を行ってもよい。
なお、事象の種別（前述のベット操作、精算操作、入賞など）に応じて、第１の事象については仕様Ａ、第２の事象について仕様Ｂなどと、仕様Ａ～Ｃを適宜設定してもよい。また、これらの仕様は、オート計数中だけでなく、１枚計数中や連続計数中について採用してもよい。
【４０６５】
（オート計数中の遊技機の電断復帰）
　オート計数中に停電や遊技機島の給電設備故障などにより遊技機の電源が落ちてしまう場合がある。また、設置テスト等で店員がメダル計数を行っている最中に誤って遊技機の電源スイッチや島全体の電源スイッチを操作して電源を落としてしまうことがありえる。
このような場合、電気の供給を確保し、電断後に電源スイッチを操作して電源投入を行った後は、オート計数状態ではなく計数が行われていない状態で復帰させることが望ましい

。起動直後でいきなりオート計数が再開されてしまうと、エラーなどの原因になりえるからである。もっとも、電断復帰後はあくまで電断前の状態に戻すべきとの考えである場合は、オート計数中の電断復帰後はオート計数状態で復帰させる仕様としてもよい。

【４０６６】

（オート計数中のサンド側との通信異常）

オート計数中にサンド側との通信異常を遊技機が把握した場合は、すみやかにオート計数を中止する。その後、通常異常から復旧した場合でもオート計数状態にそのまま戻ることはなく、計数ボタンの操作検出を待ってから計数を再開することが望ましい。復旧後に操作を介さずに計数が再開されてしまうと、意図せず計数が始まってしまうおそれがあるからである。なお、通信異常の原因となる事象としては、サンド側の電源オフ、通信用ハーネスが物理的に抜ける、通信エラーの発生などが挙げられる。

【４０６７】

（サブ起動待ちのオート計数）

前述の通り、多くの遊技機において起動に要する時間は、演出制御系＞主制御系となっている。演出制御系の起動に時間がかかる機種においては起動の進捗率を示唆するインジケータ（進捗率に応じて横向きのバーが伸びていくメータ画像）などで表示するとともに「ＮＯＷ ＬＯＤＩＮＧ」、「起動中」などのテキスト表示を行って店員に故障と誤解されないようにするとよい。電源投入から主制御系の起動が完了するまでの間は、動作の安定性を高めるために貸出や計数が行えないが、主制御系の起動が完了して演出制御系の起動が完了する前（以下、「サブ起動待ち」ともいう）は貸出や計数が行えるものとするとよい。サブ起動待ちの期間でも計数ボタンを操作した場合は１枚計数、連続計数、オート計数が可能となる仕様としてもよい。例えば、電源投入時にクレジットに残されていた遊技価値（前日の閉店時から残っていたもの）などに店員が気づいた場合は、演出系の起動完了を待たずに速やかに計数処理をして開店準備としての端玉処理を完了させることができる。多くのクレジットが電源投入直後に残されている状況で、設置時のテストプレイなど消去しても問題ないメダルであれば、メダル数クリアスイッチ３０４４等の操作によりクレジットに記憶されたメダル数を消去すればよいが、営業中に店全体が停電し、その後復旧したが、多くの遊技者がもう帰りたいといった局面では店員が複数台のクレジットをサンド側へ速やかに送信しなければならない。このような局面でサブ起動待ちのオート計数ができることで、速やかに電源投入直後の台の遊技価値をサンド側へ転送することができるという利便性が発揮される。

【４０６８】

［第８実施形態］

以下、図面を参照して、第８実施形態に係る遊技機について説明する。なお、本実施形態では、遊技機としてパチスロ機を例に挙げて説明する。

【４０６９】

［パチスロ機の構造］

まず、図３１５～図３１７を参照して、パチスロ機４００１の構造について説明する。図３１５は、パチスロ機４００１の斜視図であり、図３１６は、パチスロ機４００１の側面図である。また、図３１７はパチスロ機４００１の分解斜視図である。

【４０７０】

パチスロ機４００１は、遊技者が保有する遊技価値を電磁的に管理し（あるいは、電磁的でなくとも、少なくとも遊技者が遊技価値に直接接触できない態様で管理し）、メダルレスで遊技を可能とするメダルレス遊技機である。なお、第８実施形態に係る発明は、メダルレス遊技機に適用されることに限定されず、遊技者の手持ちのメダルをメダル投入口に対して投入してベットする操作が可能な遊技機に適用することも可能である。

【４０７１】

パチスロ機４００１は、筐体４００２により構成されている。また、筐体４００２は、遊技機本体として前面側に矩形状の開口を有するキャビネットＧと、キャビネットＧの前面上部に配置された上マスクＵＭと、キャビネットＧの前面下部に配置された下マスクＤ

Ｍとを有している。図３１５及び図３１６に示すように、上マスクＵＭ及び下マスクＤＭは、パチスロ機４００１の前面側の意匠を形成する。

【４０７２】

キャビネットＧは、一面が開口された略直方体状に形成されており、左右一対の側面壁Ｇ２と、背面壁Ｇ３と、上面壁Ｇ４と、底面壁Ｇ５とを有している。キャビネットＧは、単に「箱体」や「本体」と称することもできるし、上ドア機構ＵＤ及び下ドア機構ＤＤを支持、あるいは固定する枠体として機能するため、「本体枠」、「支持体」、「支持枠」、あるいは「固定枠」等と称することもできる。

【４０７３】

図３１７に示すように、キャビネットＧの内部空間における上部には、キャビネット側スピーカ装置４０１１が配置されている。キャビネット側スピーカ装置４０１１から出力される効果音やＢＧＭ等の音声は、上マスクＵＭの両側部に設けられた後述する透音孔４１１０を透過する。キャビネットＧの内部空間における中間部には、リールユニットＲＵや主制御基板４０７１等が配置されている。キャビネットＧの内部空間における上部及び中間部は、上マスクＵＭによって塞がれる。

【４０７４】

キャビネットＧの下部には、下ドアベースＤＢが取り付けられている。下ドアベースＤＢは、キャビネットＧの内部空間における下部を開閉する。キャビネットＧの内部空間における下部には、電源装置（不図示）が配置されている。また、下ドアベースＤＢには、下マスクＤＭが着脱可能に接続される下マスク接続部４０８１が設けられている。

【４０７５】

上マスクＵＭは、キャビネットＧの内部空間における中間部及び上部を閉塞する。上マスクＵＭは、キャビネットＧの側面壁Ｇ２に設けられた上マスク接続部４０１２に着脱可能に接続される。上マスクＵＭは、上下方向に長い略長方形に形成されている。上マスクＵＭの上部は、キャビネットＧの上面壁Ｇ４よりも上方に突出している。上マスクＵＭは、上マスク本体４１０１と、上マスク本体４１０１の上部に着脱可能に取り付けられるトップパネル４１０２とを有している。

【４０７６】

下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢに設けられた下マスク接続部４０８１に着脱可能に接続される。下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢを覆う下マスクベース４２０１と、下マスクベース４２０１の上部に取り付けられた操作部ユニット４２０２とを有している。図３１６に示すように、操作部ユニット４２０２は、上マスクＵＭとの干渉を避けるために、下マスクベース４２０１の上部から前方（遊技者側）に突出している。

【４０７７】

［第２形態用マスク］

次に、本実施形態に係るキャビネットＧに接続可能な第２形態用マスクについて、図３１８及び図３１９を参照して説明する。

図３１８は、キャビネットＧに第２形態用マスクを接続した状態の正面図である。図３１９は、キャビネットＧに第２形態用マスクを接続した状態の側面図である。

【４０７８】

図３１８及び図３１９に示すように、キャビネットＧは、第２形態用マスクを接続可能に構成されている。第２形態用マスクは、上述した上マスクＵＭ及び下マスクＤＭ（図３１５参照）と異なる意匠を形成する。すなわち、上マスクＵＭ及び下マスクＤＭを外したキャビネットＧに、第２形態用マスクを接続することにより、異なる機種の遊技機に対応した意匠に変更することができる。したがって、キャビネットＧは、遊技店の遊技島（不図示）から取り外さずに、リユースすることができる。

【４０７９】

第２形態用マスクは、第２形態用上マスクＵＭ２と、第２形態用下マスクＤＭ２から構成されている。第２形態用上マスクＵＭ２は、キャビネットＧに着脱可能に接続されている。第２形態用下マスクＤＭ２は、下ドアベースＤＢ（図３１７参照）に着脱可能に接続

されている。

【４０８０】

第２形態用上マスクＵＭ２は、キャビネットＧに取り付けられた支持ベース４００５と、支持ベース４００５に回転可能に支持された上マスク本体４００６とを有している。支持ベース４００５は、四角形の枠状に形成されている。支持ベース４００５の開口部は、キャビネットＧの内部空間における中間部及び上部に対向している。

【４０８１】

上マスク本体４００６は、支持ベース４００５の左片部に回転可能に接続されている。上マスク本体４００６の回転軸は、上下方向に延びている。上マスク本体４００６は、キャビネットＧの内部空間における中間部及び上部を開閉する。図３１９に示すように、第２形態用上マスクＵＭ２の上面（支持ベース４００５の上面及び上マスク本体４００６の上面）は、キャビネットＧの上面壁Ｇ４と同一平面を形成している。

【４０８２】

図３１８に示すように、上マスク本体４００６の正面における上部には、表示装置４００７が設けられている。また、上マスク本体４００６の正面における下部には、表示窓４００６ａが設けられている。表示窓４００６ａは、例えば、樹脂製の透明パネルとして構成されている。遊技者は、表示窓４００６ａを介して、その背面側に設けられたリールユニットＲＵの３つのリールを視認することができる。

【４０８３】

第２形態用下マスクＤＭ２の上部には、台座部４００８が設けられている。台座部４００８には、ＭＡＸベットボタン、１ベットボタン、精算ボタン、演出用ボタン等が配置されている。また、第２形態用下マスクＤＭ２は、上述の台座部の下方において、左側に配置されたスタートレバーと、略中央部に配置された３個のストップボタンと、右側に配置された施錠機構とを有している。

【４０８４】

また、第２形態用下マスクＤＭ２の中央部及び下部には、腰部パネル４００９が配置されている。腰部パネル４００９は、例えば、機種の名称を表すロゴやモチーフを表すキャラクタ等の機種情報が描かれた装飾パネルと、この装飾パネルを背面側から照明するための光源（後述のランプ・ＬＥＤ類に含まれる腰部ランプ）から構成される。

【４０８５】

［上マスクＵＭ］

次に、上マスクＵＭの構成について、図３２０を参照して説明する。

図３２０は、上マスクＵＭの分解斜視図である。

【４０８６】

図３２０に示すように、上マスクＵＭは、上マスク本体４１０１と、トップパネル４１０２とを有している。上マスク本体４１０１は、キャビネットＧに着脱可能に接続され、トップパネル４１０２は、上マスク本体４１０１に着脱可能に接続される。

【４０８７】

上マスク本体４１０１は、上下方向に長い長方形の本体枠４１０４と、本体枠４１０４に保持された表示装置４１０５とを有している。本体枠４１０４は、左右の側辺部が背面側に凸となるように湾曲している。本体枠４１０４の上辺部には、上部ランプ４１０７と、透音孔４１０８と、本体側接続部４１０９と、上部スピーカ装置（不図示）が設けられている。

【４０８８】

上部ランプ４１０７は、発光手段を有しており、その発光態様（点灯、点滅、あるいは消灯のみならず、フルカラーＬＥＤとして構成される場合にはその輝度や発光色を含む）によって演出を行うことが可能である。透音孔４１０８は、上部ランプ４１０７の両側に配置されており、上マスク本体４１０１の前方に向いている。上部スピーカ装置から出力される音声は、透音孔４１０８を透過する。

【４０８９】

本体側接続部４１０９は、本体枠４１０４の上辺部における上面から露出している。本体側接続部４１０９には、トップパネル４１０２のパネル側接続部４１２３が着脱可能に接続される。また、本体側接続部４１０９には、トップパネル４１０２と上マスク本体４１０１とを電気的に接続するための接続端子が設けられている。

【４０９０】

なお、上マスク本体４１０１には、トップパネル４１０２を接続しなくてもよい。この場合は、本体枠４１０４の上辺部に、本体側接続部４１０９を覆う接続部カバーを取り付ける。これにより、上マスク本体４１０１の意匠性を向上させることができる。また、本体側接続部４１０９の破損や、本体側接続部４１０９を介したパチスロ機４００１に対する不正行為を防止することができる。

【４０９１】

本体枠４１０４の左右の側辺部には、透音孔４１１０と、透音孔４１１１と、側部スピーカ装置（不図示）が設けられている。透音孔４１１０は、本体枠４１０４の側方に向いている。上述したように、透音孔４１１０には、キャビネット側スピーカ装置４０１１（図３１７参照）から出力される音声が透過する。また、透音孔４１１１は、本体枠４１０４の前方に向いており、側部スピーカ装置に対向している。側部スピーカ装置から出力される音声は、透音孔４１１１を透過する。

【４０９２】

表示装置４１０５は、周囲を本体枠４１０４に囲まれており、上下方向に長い長方形に形成されている。表示装置４１０５は、前方を向く表示面４１０５ａを有している。表示面４１０５ａは、本体枠４１０４の長辺に沿うように湾曲している。これにより、表示面４１０５ａは、上方に向かうにつれて遊技者側を向くように反り返る。その結果、遊技者から表示面４１０５ａ全体を視認し易くすることができる。また、表示面４１０５ａには、キャビネットＧに配置されたリールユニットＲＵの３つのリール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒを視認可能にする表示窓４１１２が設けられている。

【４０９３】

トップパネル４１０２は、左右方向に長い長方形のパネル枠４１２１と、パネル枠４１２１に保持された表示パネル（不図示）と、表示パネルの前面を覆う透明カバー４１２２と、表示パネルの背面に光を照射する照明部（不図示）とを有している。パネル枠４１２１の下辺部には、パネル側接続部４１２３が設けられている。パネル側接続部４１２３は、上マスク本体４１０１の本体側接続部４１０９に接続される。パネル側接続部４１２３には、本体側接続部４１０９に設けられた接続端子に接続される接続端子が設けられている。

【４０９４】

表示パネルは、例えば、パチスロ機４００１に関する情報が記載されている。パチスロ機４００１に関する情報としては、例えば、パチスロ機４００１の機種名、パチスロ機４００１に対応付けられたキャラクタや、パチスロ機４００１の「配列・配当表」などを挙げることができる。透明カバー４１２２は、透明又は半透明の樹脂製のパネルであり、その背面側に配置された表示パネルを視認可能としている。

【４０９５】

なお、本発明に係るトップパネルは、表示パネル及び照明装置の代わりに表示装置を有していてもよい。また、本発明に係るトップパネルは、表示パネル及び照明装置と、表示装置を有していてもよい。トップパネルの表示装置に表示させる画像は、例えば、上マスク本体４１０１の表示装置４１０５に表示させる画像と連動するもの、ボーナス（疑似ボーナス）終了後から現在までのゲーム数、ボーナス（疑似ボーナス）の当籤回数等を挙げることができる。

【４０９６】

［下マスクＤＭ］

次に、下マスクＤＭの構成について、図３２１～図３２３を参照して説明する。

図３２１は、下マスクＤＭを正面側から見た斜視図である。図３２２は、下マスクＤＭ

を背面側から見た斜視図である。図３２３は、下マスクＤＭの側面図である。

【４０９７】

上述したように、下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢを覆う下マスクベース４２０１と、下マスクベース４２０１の上部に取り付けられた操作部ユニット４２０２とを有している。

【４０９８】

下マスクベース４２０１は、上面及び背面が開口された略直方体状に形成されている。図３２１に示すように、下マスクベース４２０１の正面には、ポケット収納部４２１１と、透音孔４２１２が設けられている。ポケット収納部４２１１は、下マスクベース４２０１の正面における略中央部に形成されている。ポケット収納部４２１１には、遊技者が所持する携帯端末や飲料水のボトル等を収納可能な凹部として構成されている。透音孔４２１２は、ポケット収納部４２１１の下方に配置されており、後述する下部スピーカ装置４２１８に対向している。ポケット収納部４２１１の奥に位置する壁部は、下マスクベース４２０１の一部である。操作部ユニット４２０２が前方に膨出しているため、当該壁部は、遊技者からの視認性が低い。これにより、当該壁部には、機種名やキャラクタなどを記載したデザインが施されていない。なお、当該壁部に何らかのデザインを施して、当該壁部を装飾部にしてもよい。

【４０９９】

図３２２及び図３２３に示すように、下マスクベース４２０１の内側には、複数の接続用フック４２１４と、２本のガイドピン４２１５と、マスク側中継基板４２１６と、接続端子４２１７と、下部スピーカ装置４２１８が設けられている。

【４１００】

複数の接続用フック４２１４は、後方に突出しており、左右方向又は上下方向に貫通する貫通孔を有している。複数の接続用フック４２１４の貫通孔には、下ドアベースＤＢに設けられた下マスク接続部４０８１が貫通する。２本のガイドピン４２１５は、下ドアベースＤＢに設けられたガイド孔（不図示）に挿入される。

【４１０１】

マスク側中継基板４２１６は、下マスクベース４２０１の背面における略中央部に配置されている。マスク側中継基板４２１６には、基板カートリッジ４２１０が着脱可能に接続されている。接続端子４２１７は、マスク側中継基板４２１６の側方に配置されている。この接続端子４２１７は、配線（不図示）を用いてマスク側中継基板４２１６と電気的に接続されている。接続端子４２１７は、ドロワコネクタであり、下ドアベースＤＢ（図３１７参照）に設けられた接続端子（ドロワコネクタ）に接続される。

【４１０２】

下ドアベースＤＢに設けられた接続端子は、ドア側中継端子板に実装されており、ドア側中継端子板は、配線（不図示）を用いて主制御基板４０７１と電気的に接続されている。したがって、マスク側中継基板４２１６は、接続端子４２１７及びドア側中継端子板等を介して、主制御基板４０７１と電気的に接続されている。

【４１０３】

下部スピーカ装置４２１８は、マスク側中継基板４２１６の下方に配置されている。下部スピーカ装置４２１８から出力される音声は、透音孔４２１２（図３２１参照）を透過する。

【４１０４】

操作部ユニット４２０２は、下マスクベース４２０１の上部に設けられた操作パネル固定部（不図示）にねじを用いて固定されている。操作部ユニット４２０２は、下マスクベース４２０１の上面を覆う。

【４１０５】

［操作部ユニット］

次に、操作部ユニット４２０２の構成について、図３２４を参照して説明する。

図３２４は、操作部ユニット４２０２の斜視図である。

【４１０６】
図３２４に示すように、操作部ユニット４２０２は、操作部ベース４２２１を有している。操作部ベース４２２１は、左右方向に長い中空の略直方体状に形成されている。操作部ベース４２２１の下面には、貫通孔（不図示）が設けられている。これにより、操作部ベース４２２１の内部空間は、下マスクベース４２０１（図３２１参照）の内部空間と連通している。
【４１０７】
操作部ベース４２２１の上面には、ＭＡＸベットボタン４２２２と、１ベットボタン４２２３と、精算ボタン４２２４と、演出用ボタン４２２５と、左ボタン４２２６Ｌと、右ボタン４２２６Ｒと、音量つまみ４２２７と、情報表示装置４２２９が設けられている。ＭＡＸベットボタン４２２２、１ベットボタン４２２３、精算ボタン４２２４、演出用ボタン４２２５、及び情報表示装置４２２９は、第１実施形態において説明したものと同様であるため、説明を省略する。
【４１０８】
左ボタン４２２６Ｌ及び右ボタン４２２６Ｒは、例えば、表示装置４１０５の表示面４１０５ａに選択画面が表示された場合に、遊技者の選択操作を受付ける操作部である。音量つまみ４２２７は、音量の調節操作を受付ける操作部である。音量つまみ４２２７を右回り（時計回り）に回した場合は音量が徐々に大きくなり、音量つまみ４２２７を左回り（反時計回り）に回した場合は音量が徐々に小さくなる。
【４１０９】
操作部ベース４２２１の前面には、３個のストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒが設けられている。各ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒは、各リール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒに対応して設けられ、それぞれのリールの回転を停止させるための遊技者の遊技操作（停止操作）を受付ける操作部である。
【４１１０】
操作部ベース４２２１の左角部には、スタートレバー４２４１を有するスタートレバー装置４２４０が設けられている。スタートレバー装置４２４０におけるスタートレバー４２４１以外の構成部品は、操作部ベース４２２１の内部に配置されている。スタートレバー４２４１は、操作部ベース４２２１の左角部に設けられたレバー貫通溝４２２１ａを貫通して操作部ベース４２２１の前方及び左側方に突出している。非操作状態におけるスタートレバー４２４１の上面は、操作部ベース４２２１の上面と略同一平面を形成している。
【４１１１】
操作部ベース４２２１の右角部には、装飾部４２３３が設けられている。装飾部４２３３は、スタートレバー４２４１と左右対称な形状に形成されている。装飾部４２３３は、操作部ベース４２２１の右角部に設けられた装飾用貫通溝４２２１ｂを貫通して操作部ベース４２２１の前方及び右側方に突出している。
【４１１２】
また、装飾部４２３３は、光を透過する半透明の樹脂によって形成されている。操作部ベース４２２１の内部には、光源であるＬＥＤが実装された基板と、ＬＥＤから出射された光を装飾部４２３３に導く導光部材が設けられている。これにより、装飾部４２３３に光を透過させて光らせる演出を行うことができる。
【４１１３】
［スタートレバー装置］
次に、スタートレバー装置４２４０の構成について、図３２５及び図３２６を参照して説明する。
図３２５は、スタートレバー装置４２４０の斜視図である。図３２６は、スタートレバー装置４２４０の分解斜視図である。
【４１１４】
図３２５及び図３２６に示すように、スタートレバー装置４２４０は、スタートレバー

４２４１と、照明ベース４２４２と、レバー支持ベース４２４３とを有している。スタートレバー４２４１は、光を透過する半透明の樹脂によって形成されている。照明ベース４２４２は、スタートレバー４２４１に光を照射する。レバー支持ベース４２４３は、スタートレバー４２４１を所定の角度範囲で傾動可能に支持する。

【４１１５】

（スタートレバー）

次に、スタートレバー４２４１の構成について、図３２６及び図３２７を参照して説明する。

図３２７は、スタートレバー４２４１を背面側から見た斜視図である。

【４１１６】

図３２６及び図３２７に示すように、スタートレバー４２４１は、操作板部４２５１と、操作板部４２５１に連続する固定板部４２５２とを有している。

【４１１７】

操作板部４２５１は、平面形状が略Ｌ字状に形成された中空の板体からなる。操作板部４２５１は、操作部ベース４２２１（図３２４参照）から突出する体裁側端面４２５１ａと、照明ベース４２４２に対向する入光側端面４２５１ｂを有している。スタートレバー４２４１における上面及び下面と体裁側端面４２５１ａとにより形成される角部は、丸みを帯びるように面取り加工が施されている。入光側端面４２５１ｂには、操作板部４２５１の内部空間を開口する開口部が形成されている。そして、スタートレバー４２４１の内部には、入光側端面４２５１ｂから入射した光を体裁側端面４２５１ａ側へ導く複数の導光リブ４２５３が設けられている。

【４１１８】

固定板部４２５２は、操作板部４２５１の下面から略垂直に突出している。固定板部４２５２は、入光側端面４２５１ｂに沿う略Ｌ字状の板体からなる。固定板部４２５２は、照明ベース４２４２に対向する入光側壁面４２５２ａを有している。固定板部４２５２は、入光側壁面４２５２ａから入射した光を操作板部４２５１へ導く。

【４１１９】

固定板部４２５２には、２つのねじ貫通孔４２５４と、２つの位置決め突起４２５５が設けられている。２つのねじ貫通孔４２５４には、スタートレバー４２４１をレバー支持ベース４２４３に固定するためのねじが貫通する。２つの位置決め突起４２５５は、入光側壁面４２５２ａから略垂直に突出している。２つの位置決め突起４２５５は、レバー支持ベース４２４３に設けられた２つの位置決め孔４３０５（図３２６参照）に嵌合する。

【４１２０】

（照明ベース）

次に、照明ベース４２４２の構成について図３２８及び図３２９を参照して説明する。

図３２８は、照明ベース４２４２を正面側から見た分解斜視図である。図３２９は、照明ベース４２４２を背面側から見た分解斜視図である。

【４１２１】

図３２８及び図３２９に示すように、照明ベース４２４２は、基板保持部材４２６１と、導光部材４２６２と、取付部材４２６３とを有している。

【４１２２】

基板保持部材４２６１は、後面が開口された中空の略直方体状に形成されている。基板保持部材４２６１の前面４２６１ａには、第１ＬＥＤ基板４２８１が取り付けられている。第１ＬＥＤ基板４２８１の一方の平面は、基板保持部材４２６１の前面４２６１ａに対向する。第１ＬＥＤ基板４２８１の他方の平面には、複数のＬＥＤ４２８０Ａが実装されている。複数のＬＥＤ４２８０Ａは、水平方向に適当な間隔を空けて並んでいる。また、基板保持部材４２６１の前面４２６１ａは、取付部材４２６３にねじを用いて固定される。

【４１２３】

基板保持部材４２６１の左側面４２６１ｂには、第２ＬＥＤ基板４２８２が取り付けら

れている。第２ＬＥＤ基板４２８２の一方の平面は、基板保持部材４２６１の左側面４２６１ｂに対向する。第２ＬＥＤ基板４２８２の他方の平面には、複数のＬＥＤ４２８０Ｂが実装されている。複数のＬＥＤ４２８０Ｂは、水平方向に適当な間隔を空けて並んでいる。

【４１２４】

図３２９に示すように、基板保持部材４２６１の右側面４２６１ｃには、操作検出手段の一具体例を示すフォトセンサ４２７４が取り付けられている。フォトセンサ４２７４は、レバー支持ベース４２４３の後述する検知片４３１６を検出する。フォトセンサ４２７４は、例えば、透過型のフォトセンサであり、左右方向において発光部と受光部が対向している。また、フォトセンサ４２７４の発光部と受光部との間の空間の開口部は、遊技機の背面側（遊技者と反対側）を向いている。これにより、遊技者側からフォトセンサ４２７４の受光部に不正にアクセスすることが難しくなり、不正行為を防止或いは抑制することができる。

【４１２５】

また、基板保持部材４２６１には、固定部４２６５が設けられている。固定部４２６５は、基板保持部材４２６１の下面４２６１ｄから下方に突出している。固定部４２６５には、導光部材４２６２がねじを用いて固定される。また、固定部４２６５は、取付部材４２６３にねじを用いて固定される。

【４１２６】

導光部材４２６２は、上方から見た形状が略Ｌ字状の板体からなり、第１導光部４２６７と、第２導光部４２６８を有している。

【４１２７】

第１導光部４２６７は、第１ＬＥＤ基板４２８１に実装された複数のＬＥＤ４２８０Ａと対向する光入射面４２６７ａと、光入射面４２６７ａと反対側の光出射面４２６７ｂとを有する。第１導光部４２６７は、光入射面４２６７ａから入射した複数のＬＥＤ４２８０Ａの光を拡散して、光出射面４２６７ｂから均等に出射する。

【４１２８】

第２導光部４２６８は、第２ＬＥＤ基板４２８２に実装された複数のＬＥＤ４２８０Ｂと対向する光入射面４２６８ａと、光入射面４２６８ａと反対側の光出射面４２６８ｂとを有する。第２導光部４２６８は、光入射面４２６８ａから入射した複数のＬＥＤ４２８０Ｂの光を拡散して、光出射面４２６８ｂから均等に出射する。

【４１２９】

第２導光部４２６８の下端には、固定片４２６９が設けられている。固定片４２６９は、基板保持部材４２６１の固定部４２６５にねじを用いて固定される。以下、導光部材４２６２が固定された基板保持部材４２６１を照明本体４２７０とする。

【４１３０】

取付部材４２６３は、照明固定部４２７１と、支持機構固定部４２７２と、取り付け用突部４２７３とを有している。

【４１３１】

照明固定部４２７１は、右側面及び後面が開口された中空の略直方体状に形成されている。照明固定部４２７１の内部空間には、照明本体４２７０が収納される。照明固定部４２７１の前面板部４２７１ａは、導光部材４２６２の光出射面４２６７ｂに対向する。また、照明固定部４２７１の左側面板部４２７１ｂは、導光部材４２６２の光出射面４２６８ｂに対向する。前面板部４２７１ａ及び左側面板部４２７１ｂには、複数の照明用貫通孔４２７５が設けられている。複数の照明用貫通孔４２７５は、スタートレバー４２４１（図３２５）に対向する。

【４１３２】

図３２９に示すように、前面板部４２７１ａの内側には、ねじ孔ボス部４２７６が設けられている。ねじ孔ボス部４２７６には、基板保持部材４２６１の前面４２６１ａを照明固定部４２７１に固定するためのねじが螺合される。照明固定部４２７１の下面板部４２

７１ｃには、開口部４２７７が形成されている。開口部４２７７には、基板保持部材４２６１の右側面４２６１ｃ及びフォトセンサ４２７４が挿入される。

【４１３３】

図３２８に示すように、支持機構固定部４２７２は、前面が開口された中空の略直方体状に形成されている。そして、照明固定部４２７１の下面板部４２７１ｃは、支持機構固定部４２７２の上面板部を兼ねている。

【４１３４】

支持機構固定部４２７２の内部空間には、レバー支持ベース４２４３（図３２６参照）の後部側が収納される。支持機構固定部４２７２の左側面板部４２７２ａには、固定片４２７８が設けられている。固定片４２７８には、ねじ孔が設けられている。固定片４２７８のねじ孔には、基板保持部材４２６１の固定部４２６５を照明固定部４２７１に固定するためのねじが螺合される。支持機構固定部４２７２の後面板部４２７２ｂには、レバー支持ベース４２４３がねじを用いて固定される。

【４１３５】

取り付け用突部４２７３は、支持機構固定部４２７２の下面板部４２７２ｃから下方に突出している。取り付け用突部４２７３は、背面が開口する略直方体状に形成されている、取り付け用突部４２７３は、操作部ユニット４２０２の操作部ベース４２２１（図３２４参照）にねじを用いて固定される。

【４１３６】

（レバー支持ベース）

次に、レバー支持ベース４２４３の構成について、図３３０を参照して説明する。

図３３０は、レバー支持ベース４２４３の分解斜視図である。

【４１３７】

図３３０に示すように、レバー支持ベース４２４３は、可動部材４２９１と、可動部材４２９１に固定される検知部材４２９２と、可動部材４２９１を回動可能に支持する支持部材４２９３とを有している。

【４１３８】

可動部材４２９１は、上方から見た形状が略Ｃ字状に形成されており、レバー固定部４３０１と、レバー固定部４３０１から略垂直に突出する左アーム部４３０２及び右アーム部４３０３とを有している。レバー固定部４３０１は、前後方向に略垂直な平面を有し、左右方向に長い長方形の板体からなる。レバー固定部４３０１の前方を向く平面は、スタートレバー４２４１（図３２６参照）に対向する。

【４１３９】

レバー固定部４３０１には、２つの位置決め孔４３０５が設けられている。２つの位置決め孔４３０５には、スタートレバー４２４１の２つの位置決め突起４２５５（図３２７参照）が嵌合する。レバー固定部４３０１には、スタートレバー４２４１の固定板部４２５２がねじを用いて固定される。

【４１４０】

左アーム部４３０２及び右アーム部４３０３は、それぞれレバー固定部４３０１の短辺に連続し、後方に突出している。左アーム部４３０２及び右アーム部４３０３は、左右方向に略垂直な平面を有し、前後方向に長い長方形の板体からなる。

【４１４１】

左アーム部４３０２の上側の長辺には、上当接片４３０６と、ばね係合片４３０７が設けられている。上当接片４３０６は、ばね係合片４３０７よりもレバー固定部４３０１側に位置している。また、左アーム部４３０２の下側の長辺には、下当接片４３０８が設けられている。上当接片４３０６、ばね係合片４３０７及び下当接片４３０８は、それぞれ右アーム部４３０３側に突出しており、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなる。

【４１４２】

右アーム部４３０３の上側の長辺には、上当接片４３１１が設けられている。また、右アーム部４３０３の下側の長辺には、下当接片４３１２が設けられている。上当接片４３

１１及び下当接片４３１２は、それぞれ左アーム部４３０２側に突出しており、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなる。また、左アーム部４３０２及び右アーム部４３０３のレバー固定部４３０１側と反対側の端部には、それぞれシャフト貫通孔４３１０が設けられている。

【４１４３】

検知部材４２９２は、右アーム部４３０３に固定される固定片４３１５と、固定片４３１５から突出する検知片４３１６とを有している。固定片４３１５は、前後方向に長い略直方体状に形成されている。固定片４３１５の前端部は、右アーム部４３０３における上当接片４３１１と下当接片４３１２との間に配置される。検知片４３１６は、固定片４３１５の上面から略垂直に突出している。検知片４３１６は、左右方向に略垂直な平面を有する板体からなる。

【４１４４】

支持部材４２９３は、前面及び上面が開口された中空の略直方体状に形成されており、左側部４２９３ａと、右側部４２９３ｂと、後部４２９３ｃと、底部４２９３ｄとを有している。

【４１４５】

左側部４２９３ａの上端には、上ストッパ４３１７が設けられている。上ストッパ４３１７は、右側部４２９３ｂ側に突出しており、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなる。上ストッパ４３１７の下面は、可動部材４２９１の上当接片４３０６に対向する。上ストッパ４３１７の下面には、緩衝材４３２１が貼付されている。

【４１４６】

右側部４２９３ｂの上端には、上ストッパ４３１８が設けられている。上ストッパ４３１８は、左側部４２９３ａ側に突出しており、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなる。上ストッパ４３１８の下面は、可動部材４２９１の上当接片４３１１に対向する。上ストッパ４３１８の下面には、緩衝材４３２２が貼付されている。

【４１４７】

後部４２９３ｃは、照明ベース４２４２の後面板部４２７２ｂ（図３２８参照）にねじを用いて固定される。底部４２９３ｄにおける後部４２９３ｃ側には、ばね係合溝４３１９が設けられている。底部４２９３ｄの内面における前面側は、可動部材４２９１の下当接片４３０８，４３１２に対向する。底部４２９３ｄの内面における前面側には、緩衝材４３２３が貼付されている。これにより、緩衝材４３２３は、可動部材４２９１の下当接片４３０８，４３１２に対向している。

【４１４８】

左側部４２９３ａ及び右側部４２９３ｂには、シャフト４２９４が固定される。シャフト４２９４は、左側部４２９３ａ及び右側部４２９３ｂに設けられた貫通孔を貫通した状態で、両端部を軸受ブッシュ４３２５と止め輪４３２６によってカシメ固定されている。なお、シャフト４２９４の固定には、溶接、接着材、圧入などの固定方法を適宜採用することができる。また、シャフト４２９４は、可動部材４２９１のシャフト貫通孔４３１０を貫通している。これにより、シャフト４２９４は、可動部材４２９１を回動可能に支持している。

【４１４９】

シャフト４２９４は、ねじりばね４３２８のコイル部と、ばね押さえ４３２９を貫通している。ねじりばね４３２８のコイル部及びばね押さえ４３２９は、可動部材４２９１の左アーム部４３０２と右アーム部４３０３との間に配置される。ばね押さえ４３２９は、ねじりばね４３２８がシャフト４２９４の軸方向へ移動することを係止して、ねじりばね４３２８を左アーム部４３０２側の所定の位置に配置させる。

【４１５０】

ねじりばね４３２８の一方のアーム４３２８ａは、可動部材４２９１のばね係合片４３０７に係合する。また、ねじりばね４３２８の他方のアーム（不図示）は、底部４２９３ｄのばね係合溝４３１９に係合する。ねじりばね４３２８は、レバー固定部４３０１が上

方に変位する回転方向（以下、「第１回転方向」とする）に可動部材４２９１を付勢する。可動部材４２９１の第１回転方向への回転は、上当接片４３０６，４３１１が支持部材４２９３の上ストッパ４３１７，４３１８に当接することにより係止される。

【４１５１】

可動部材４２９１の第１回転方向への回転が係止された状態において、可動部材４２９１の下当接片４３０８，４３１２は、支持部材４２９３の底部４２９３ｄから離れている。可動部材４２９１は、下当接片４３０８，４３１２が支持部材４２９３の底部４２９３ｄに当接するまで、レバー固定部４３０１が下方に変位する回転方向（以下、「第２回転方向」とする）に移動可能である。

【４１５２】

［スタートレバー装置の動作］

次に、スタートレバー装置４２４０の動作について、図３３１を参照して説明する。

図３３１は、操作前（非操作状態）のスタートレバー装置４２４０の断面図であり、図３３１Ｂは、操作後（操作状態）のスタートレバー装置４２４０の断面図である。

【４１５３】

図３３１Ａに示すように、スタートレバー４２４１は、可動部材４２９１に固定されている。スタートレバー４２４１が押圧操作されていない非操作状態のスタートレバー装置４２４０において、可動部材４２９１は、ねじりばね４３２８によって第１回転方向（図３３１において時計回り）に付勢されている。そして、可動部材４２９１の上当接片４３０６（４３１１）は、支持部材４２９３の上ストッパ４３１７（４３１８）に当接している。これにより、可動部材４２９１の第１回転方向への回転が係止されている。

【４１５４】

支持部材４２９３における上ストッパ４３１７（４３１８）の下面には、緩衝材４３２１（４３２２）が貼付されている。これにより、上当接片４３０６（４３１１）は、緩衝材４３２１（４３２２）を介して上ストッパ４３１７（４３１８）に当接する。その結果、可動部材４２９１や支持部材４２９３の破損を防止或いは抑制することができる。また。上当接片４３０６（４３１１）が上ストッパ４３１７（４３１８）に当接する際に生じる音を小さくすることができる。

【４１５５】

可動部材４２９１には、検知部材４２９２が固定されている。非操作状態のスタートレバー装置４２４０において、検知部材４２９２の検知片４３１６は、フォトセンサ４２７４によって検知されている。この検知結果は、マスク側中継基板４２１６を介して主制御基板４０７１に送信される。フォトセンサ４２７４が検知片４３１６を検知している場合に、主制御基板４０７１は、スタートレバー４２４１が押圧操作されていないことを検出する。

【４１５６】

図３３１Ｂに示すように、スタートレバー４２４１が下方に押圧（押圧操作）されると、可動部材４２９１は、ねじりばね４３２８のばね力に抗して第２回転方向（図３３１において反時計回り）に回転する。これにより、スタートレバー４２４１は、下方に傾動する。可動部材４２９１の第２回転方向への回転は、下当接片４３０８（４３１２）が支持部材４２９３の底部４２９３ｄに当接することにより係止される。

【４１５７】

支持部材４２９３における底部４２９３ｄの内面には、緩衝材４３２３が貼付されている。これにより、下当接片４３０８（４３１２）は、緩衝材４３２３を介して支持部材４２９３の底部４２９３ｄに当接する。その結果、可動部材４２９１や支持部材４２９３の破損を防止或いは抑制することができる。また。下当接片４３０８（４３１２）が底部４２９３ｄに当接する際に生じる音を小さくすることができる。

【４１５８】

可動部材４２９１が第２回転方向に回転すると、検知部材４２９２の検知片４３１６は、フォトセンサ４２７４によって検知されなくなる。フォトセンサ４２７４が検知片４３

１６を検知している状態から検知していない状態に切り替わると、主制御基板４０７１は、スタートレバー４２４１が押圧操作されたことを検出する。

【４１５９】

［スタートレバーの光演出］

次に、スタートレバー４２４１の光演出について、図３３２及び図３３３を参照して説明する。

図３３２は、非操作状態のスタートレバー４２４１に入射する光を説明する断面図である。図３３３は、操作状態のスタートレバー４２４１に入射する光を説明する断面図である。

【４１６０】

図３３２に示すように、非操作状態のスタートレバー装置４２４０において、照明固定部４２７１の複数の照明用貫通孔４２７５は、スタートレバー４２４１の固定板部４２５２に対向している。図３３２Ａに示すように、複数のＬＥＤ２４８０Ａから出射された光は、導光部材４２６２の第１導光部４２６７に入射して、光出射面４２６７ｂから出射される。そして、光出射面４２６７ｂから出射した光は、複数の照明用貫通孔４２７５を通って、スタートレバー４２４１の固定板部４２５２に入射する。

【４１６１】

また、図３３２Ｂに示すように、複数のＬＥＤ２４８０Ｂから出射された光は、導光部材４２６２の第２導光部４２６８に入射して、光出射面４２６８ｂから出射される。そして、光出射面４２６８ｂから出射した光は、複数の照明用貫通孔４２７５を通って、スタートレバー４２４１の固定板部４２５２に入射する。

【４１６２】

固定板部４２５２は、入射した光を乱反射させて、スタートレバー４２４１の操作板部４２５１全体を明るくする。このように、非操作状態のスタートレバー装置４２４０のスタートレバー４２４１を光らせる演出を行う場合は、スタートレバー４２４１の固定板部４２５２の全体に光を入射させて、操作板部４２５１の輝度を高くすることができる。

【４１６３】

図３３３に示すように、操作状態のスタートレバー装置４２４０において、照明固定部４２７１の複数の照明用貫通孔４２７５は、スタートレバー４２４１の入光側端面４２５１ｂに対向している。図３３３Ａに示すように、第１導光部４２６７の光出射面４２６７ｂから出射した光は、複数の照明用貫通孔４２７５を通って、スタートレバー４２４１の入光側端面４２５１ｂ及び複数の導光リブ４２５３（図３２７参照）の側面に入射する。また、光出射面４２６７ｂから出射した光の一部は、複数の導光リブ４２５３間を通って体裁側端面４２５１ａに達する。

【４１６４】

また、図３３３Ｂに示すように、第２導光部４２６８の光出射面４２６８ｂから出射した光は、複数の照明用貫通孔４２７５を通って、スタートレバー４２４１の入光側端面４２５１ｂ及び複数の導光リブ４２５３（図３２７参照）の側面に入射する。さらに、光出射面４２６８ｂから出射した光の一部は、複数の導光リブ４２５３間を通って体裁側端面４２５１ａに達する。

【４１６５】

このように、操作状態のスタートレバー装置４２４０のスタートレバー４２４１を光らせる演出を行う場合は、スタートレバー４２４１の操作板部４２５１に直接光を入射させることができる。しかも、操作板部４２５１の内部に複数の導光リブ４２５３を設けているため、体裁側端面４２５１ａ側まで光を到達させることができる。その結果、操作板部４２５１の輝度を高くすることができる。

【４１６６】

また、スタートレバー装置４２４０は、スタートレバー４２４１が平板状の操作板部４２５１を有している。これにより、スタートレバー４２４１を手で押し下げやすく、操作性の向上を図ることができる。また、スタートレバー装置４２４０は、シャフトの先端に

球体状の操作部が設けられた従来のスタートレバーとは異なるユニークな操作感を提供することができる。なお、操作状態では、非操作状態と比べてスタートレバー４２４１が複数のＬＥＤ４２８０Ａ，４２８０Ｂから離れた位置関係となる。しかし、上述した構造により、スタートレバー４２４１は、操作状態においても複数のＬＥＤ４２８０Ａ，４２８０Ｂから十分な量の光を受けることができる。これにより、操作時のスタートレバー４２４１の輝度の低下を抑制することができ、操作状態においてもスタートレバー４２４１の発光による演出の迫力を出すことができる。

【４１６７】

また、非操作状態のスタートレバー装置４２４０において、スタートレバー４２４１（操作板部４２５１）の上面は、操作部ベース４２２１の上面と略同一平面を形成している（図３２４参照）。これにより、操作部ベース４２２１の上面とスタートレバー４２４１の上面に手を置いた状態で、スタートレバー４２４１を掌で押し下げることができる。その結果、最小限の動作でスタートレバー４２４１を操作することができ、手の疲労を抑制することができる。

【４１６８】

［スタートレバーの光演出の例１：操作可能／不能状態の報知等］

前述の通り本実施形態のスタートレバー４２４１は、シャフトの先端に球体状の操作部が設けられた従来のスタートレバーとは異なり、平板状の操作板部４２５１を有している。そのため、初見の遊技者には、スタートレバー４２４１がスタート操作を行う操作部であることが分かりにくい。そこで、遊技価値のベット操作が行われる前やリール回転中などスタートレバーの操作不能状態（操作無効状態）では、スタートレバー４２４１の発光に係るＬＥＤの制御状態を第１態様（消灯や所定のパターン）とし、遊技価値のベット操作が行われた後のスタートレバー操作可能状態では、スタートレバー４２４１の発光に係るＬＥＤの制御状態を第１態様と異なる第２態様とするとよい。このようにすることでベットの有無に応じて発光態様が変化するため、初見の遊技者でもベットの次に操作するべきスタートレバー４２４１の位置を容易に認識することができる。

【４１６９】

また、本実施形態に係るスタートレバー４２４１は、現在の状況が、スタート操作が不可能な操作不能状態と、スタート操作が可能な操作可能状態のいずれであるかを、発光態様で報知ないし示唆できる。以下に第１態様と第２態様の仕様例を示す。以下に示す仕様は、いずれか１つを採用してもよいし、矛盾のない範囲で複数を組み合わせて採用してもよい。

【４１７０】

（仕様例１：点灯消灯）

第１態様：消灯

第２態様：点灯／点滅

仕様例１では、操作不能状態においてスタートレバー４２４１を消灯（第１態様）としておき、ベット操作でスタートレバー４２４１を点灯又は点滅（第２態様）とする。仕様例１は、状態の切り替わりが明瞭である。

【４１７１】

（仕様例２：輝度相違）

第１態様：低輝度点灯

第２態様：高輝度点灯

仕様例２では、操作不能状態においてスタートレバー４２４１を低輝度で点灯（第１態様）させておき、ベット操作でスタートレバー４２４１を高輝度で点灯（第２態様）させる。仕様例２は、現在の状況に応じて発光態様を変化させるため、遊技機の外観が極端に暗くなることを防ぐことができる。

【４１７２】

（仕様例３：色相違）

第１態様：第１の発光色（例えば、白）

第２態様：第２の発光色（例えば、青）
　仕様例３は、色の変化で操作可能／不能状態を報知／示唆する。例えば、操作不能状態においてスタートレバー４２４１を白点灯（第１態様）させておき、ベット操作でスタートレバー４２４１を青点灯（第２態様）させる。なお、仕様例１と仕様例３を組合せて、第１態様は消灯、第２態様は青点灯などとしてもよい。
【４１７３】
（仕様例４：色相違の変形例１）
第１態様：消灯
第２態様：特定発光色（例えば、青）
　ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒも操作有効状態、無効状態に応じて発光色を異ならせる仕様としてもよい。
ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒの発光色
　有効状態：青
　無効状態：赤
　指示状態：白
　非指示状態：消灯
　この例では、打順ナビ（打順＋図柄目押しのナビでもよい）が行われない遊技において、操作有効状態はストップボタンを青発光させ、操作無効状態ではストップボタンを赤発光させる。また、ＡＴ中に停止操作すべきストップボタンを発光態様で指示する仕様となっており、打順ナビが発生する遊技において、その時点で停止操作すべきリールに対応するストップボタンを白発光させ、それ以外の回転中リールに対応するストップボタンを消灯状態としている。例えば、正解打順が中→右→左の場合。全リール回転中では、ストップボタン４２３１Ｃを白発光させ、ストップボタン４２３１Ｌ、４２３１Ｒを消灯状態とする。中リールを第１停止させた後は、停止済みの中リールに対応するストップボタン４２３１Ｃを赤発光させる。そして、次に押すべき右リールに対応するストップボタン４２３１Ｒを白発光させ、左リールに対応するストップボタン４２３１Ｌを消灯させる。この仕様では、ストップボタンの基本的な操作可能色が「青」であり、スタートレバーの操作可能色も「青」となっている。これにより、青色の操作部は操作可能であるということが遊技者に分かり易くなる。なお、完全に同じ青色（ＲＧＢデータの値が完全に同じ）である必要はなくスタートレバーとストップボタンが同系色として遊技者に認識可能であれば、各部材の見た目のバランスなどを考慮して色が若干異なっていてもよい。また、この仕様例では、スタートレバーの操作可能色は青色で、指示により押すべきストップボタンは白と異なる色としている。仮にストップボタンの指示色（白）とスタートレバーの操作可能色を同じ色にしてしまうと、筐体の左側でスタートレバーが白く発光していたのに気を取られて、中リールを最初に止めるべき局面で誤って第一停止を左から止めてしまうといった打順ミスを誘発するおそれがある。このようなミスを誘発しないように、指示色とレバーオン可能色は異なる色とすることが望ましい。
【４１７４】
（仕様例５：色相違の変形例２）
第１態様：消灯
第２態様：特定発光色（例えば、青）
ＭＡＸベットボタン４２２２の発光色
有効状態：赤
無効状態：消灯
　仕様例５は、ＭＡＸベットボタン４２２２の発光色で有効状態（遊技価値のベット操作可能状態）と、無効状態（遊技価値のベット操作不能状態）が分かる仕様である。なお、発光色「赤」とはフルカラーＬＥＤでの赤発光でも、赤色単色ＬＥＤでの赤発光、白色ＬＥＤでボタンに赤色のシートなどが入っていて赤く見える場合のいずれでもよい。操作有効時の発光色を異ならせることで、操作手段の誤認（例えば、１枚ベットした後にさらにベットして３ベットにするべき局面で誤ってレバーを叩いてしまうなど）を抑制できる。

なお、レバーオン可能色とＭＡＸベットボタンの操作有効色を同じ又は同系統色としても差し支えない。

【４１７５】

なお、ここまでに説明した各操作手段における発光色の工夫は、平板状スタートレバー以外の任意の形状である発光部を備えるスタートレバーについて適用するものとしてもよい。

【４１７６】

［スタートレバーの光演出の例２：期待感演出］

スタートレバー４２４１の発光色や発光態様を用いて以下のような期待感演出を行ってもよい。なお、以下で説明する示唆演出とは、確定的な報知となるパターンを含むものとしてもよい。

【４１７７】

（仕様例１：レバージャッジ演出の成功示唆）

レバーで特典付与に関する当否が報知される演出として、操作可能時にレバーの発光色で期待度示唆してもよい。例えば、通常のレバーオン可能色は青色であるところ、ベット後のレバーオン操作可能状態でスタートレバーが赤色に光ればチャンス、虹色なら当たり確定などとしてもよい。よ通常の遊技開始用のレバーオン操作待ちでこのような演出を行ってもよい。また、遊技開始用のレバーオンを受け付けた後に、一旦フリーズ状態とし、フリーズを解除するためのレバーオン操作を受け付けるといった構成で当該演出を行ってもよい。

【４１７８】

（仕様例２：レバー操作でリールアクションを行う場合の成功示唆）

付与された特典（ＡＴストック等）の報知を行う際の演出として、レバーオンでリールアクションが継続すればＡＴストック報知といった演出構成としてもよい。この場合は、通常の遊技開始用レバーオン操作を受け付けた後に、リールアクション（定速回転前のリール動作演出）が開始され、レバーオンのたびに所定のリール動作が発生するごとに特典の付与が報知ないし示唆され、終了となるリール動作（動作なしで終了含む）となったときに当該演出は終了する。例えば、内部的に８０％ループでストックを加算しておき、演出用レバーオンでリールが逆回転して７が揃うたびにストック＋１が報知され、順回転開始で終了といった演出において、演出用レバーオン操作の受付中にレバーの発光色で成功（７揃いアクション）の発生期待度を示唆する。

【４１７９】

（仕様例３：成立役示唆演出）

リール回転中など、従来スタートレバー４２４１が消灯している期間のうち任意のタイミングで発光させることで、成立役を示唆するものとしてもよい。なお、レバーオン操作可能状態と遊技者が誤認しないように、操作可能色とは異なる色で成立役示唆発光の演出を行うことが望ましい。

【４１８０】

（仕様例４：違和感演出）

ボーナスやＡＴ当選を報知／示唆する演出として、本来消灯しているタイミングでスタートレバーが発光すれば当りや高期待度という演出構成としてもよい。なお、長時間にわたって点灯／点滅していると操作待ち状態と遊技者が誤認するおそれがあれるので、１～２秒程度の短時間の演出とすると好適である。

【４１８１】

（仕様例５：設定値示唆演出）

出玉性能の有利度合いに関する設定値（例えば、設定１～６）を示唆する発光演出を、スタートレバーを用いて行ってもよい。例えば、ＡＴ終了時にスタートレバーの色が白ならデフォルト、青なら偶数示唆、黄色なら奇数示唆、赤なら設定４以上、虹なら設定６確定といった仕様としてもよい。

【４１８２】

［スタートレバーの光演出の例３：状態報知／示唆演出］
以下のような状態報知／示唆演出をスタートレバーの発光態様で行ってもよい。なお、仕様例番号は、前項目から連番としている。各仕様例を適宜組合せて採用することも可能である。
【４１８３】
（仕様例６：設定Ｌ報知演出）
出玉試験用に著しく出玉率が低い設定（設定Ｌ）を有する遊技機の場合、設定変更作業を行う店員が誤って設定Ｌを決定しないように、それ以外の設定とは異なると一目で分かるような報知演出を行うことが望ましい。例えば、筐体下部の腰部パネル４００９が消灯するなどといった態様である。本実施形態の遊技機では、下パネルに相当する部分がポケット収納部４２１１となっているので、そうした演出が行いにくい。そこで、設定Ｌの場合、客待ち状態などでスタートレバー４２１１が赤点滅するなどとして店員や遊技者に対して何らかの良くない状態であることを示唆ないし報知するとよい。
【４１８４】
（仕様例７：エラー報知演出）
エラー発生時などに、スタートレバー４２１１も赤点滅させるなどしてエラーであることを分かり易く報知するものとしてもよい。
【４１８５】
（仕様例８：コンプリート機能作動中報知演出）
コンプリート機能作動による打止中に当該状態に対応した発光態様としてもよい。例えば、打止中のスタートレバー４２１１は常に消灯としてもよいし、打止中のスタートレバー４２１１は赤点灯のまま（操作可能色と異なる色）としてもよい。
【４１８６】
［スタートレバーの光演出の例４：デモ画面など］
デモ状態（遊技が行われていない客待ち状態）などの発光演出において、その他の装飾用ランプと合わせて、あるいはスタートレバー４２１１単独で、任意の発光態様として遊技者の注目を集めやすいものとしてもよい。また、遊技者用メニュー画面を開いた状態や、ホールメニューを開いた状態、設定変更・確認作業の状態など各状態で適宜状態に応じた発光態様でスタートレバー４２１１を光らせるようにしてもよい。
【４１８７】
［スタートレバーの光演出の例５：レバーと関連する外観の装飾部との相違］
前述の通り、操作部ベース４２２１の右角部には、スタートレバー４２４１と左右対称な形状の発光演出が可能な装飾部４２３３が設けられている。初見の遊技者は、スタートレバー４２４１と左右対称な装飾部４２３３も、スタートレバー（スタート操作が可能な操作部）であると勘違いする可能性がある。仮にスタートレバー４２４１が操作可能な状態（例えば、遊技価値のベット後）において、スタートレバー４２４１と、装飾部４２３３を同じ色で発光させる場合は、遊技者が装飾部４２３３をスタートレバーと誤認する可能性が高まってしまう。そこで、スタートレバー４２４１を操作可能な状態であることを示す発光色（例えば、青）で発光させる状況において、装飾部４２３３は、スタートレバー４２１１と異なる発光制御態様（例えば、白発光、あるいは消灯状態など）とすることが望ましい。本実施形態では、装飾部４２３３も発光可能な装飾部であるが、スタートレバーと関連する外観の装飾部（デザイン的に類似している物。左右対称の物。デザインは類似していないが配置された位置が近くて紛らわしい物等）は非発光装飾部としてもよい。この場合、スタートレバーは操作可能時に発光するが、当該非発光装飾部は当然発光しないので、遊技者には操作すべきスタートレバーの位置が一目で分かるようになる。
【４１８８】
［第１変形例］
次に、第８実施形態に係る遊技機の第１変形例について説明する。第１変形例が、第８実施形態に係る遊技機と異なる点は、操作部ユニットである。そのため、ここでは、第１変形例に係る操作部ユニット４５０２について説明する。

【４１８９】
［操作部ユニット］
まず、操作部ユニット４５０２の構成について、図３３４を参照して説明する。
図３３４は、操作部ユニット４５０２の斜視図である。
【４１９０】
図３３４に示すように、操作部ユニット４５０２は、操作部ベース４５２１を有している。操作部ベース４５２１は、左右方向に長い中空の略直方体状に形成されている。操作部ベース４５２１の下面には、貫通孔（不図示）が設けられている。これにより、操作部ベース４５２１の内部空間は、下マスクベース４２０１（図３２１参照）の内部空間と連通している。
【４１９１】
操作部ベース４５２１の上面には、ＭＡＸベットボタン４２２２と、１ベットボタン４２２３と、精算ボタン４２２４と、演出用ボタン４２２５と、左ボタン４２２６Ｌと、右ボタン４２２６Ｒが設けられている。また、操作部ベース４５２１の前面には、３個のストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒが設けられている。ＭＡＸベットボタン４２２２、１ベットボタン４２２３、精算ボタン４２２４、演出用ボタン４２２５、左ボタン４２２６Ｌ、右ボタン４２２６Ｒ、及びストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒは、図３２４を用いて説明したものと同様であるため、説明を省略する。
【４１９２】
また、操作部ベース４５２１には、左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒを有するスタートレバー装置４５４０が設けられている。スタートレバー装置４５４０における左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒ以外の構成部品は、操作部ベース４５２１の内部に配置されている。左スタートレバー４５４１Ｌは、操作部ベース４５２１の左端部に設けられたレバー用開口部（不図示）を貫通して操作部ベース４５２１の前方に突出している。右スタートレバー４５４１Ｒは、操作部ベース４５２１の右端部に設けられたレバー用開口部（不図示）を貫通して操作部ベース４５２１の前方に突出している。
【４１９３】
［スタートレバー装置］
次に、スタートレバー装置４５４０の構成について、図３３５を参照して説明する。
図３３５は、スタートレバー装置４５４０の斜視図である。
【４１９４】
図３３５に示すように、スタートレバー装置４５４０は、左スタートレバー４５４１Ｌと、右スタートレバー４５４１Ｒと、左レバー支持ベース４５４３Ｌと、右レバー支持ベース４５４３Ｒと、軸連結機構４５４４と、検出手段の一具体例を示すフォトセンサ４５４５とを有している。
【４１９５】
左スタートレバー４５４１Ｌは、操作板部４５５１と、支持腕部４５５２とを有している。操作板部４５５１は、適当な厚みを有する略長方形の平板状に形成されている。操作板部４５５１は、右上角部を切り欠いて形成された角傾斜面４５５１ａを有している。この角傾斜面４５５１ａには、操作する遊技者の左手の親指が接触する。角傾斜面４５５１ａを設けることにより、遊技者の左手を操作板部４５５１に載せやすくすることができる。
【４１９６】
支持腕部４５５２は、操作板部４５５１の背面に接続されている。支持腕部４５５２は、操作部ベース４５２１（図３３４参照）の左端部に設けられたレバー用開口部（不図示）を貫通する。支持腕部４５５２は、左レバー支持ベース４５４３Ｌの後述する左シャフト４５６２に固定されている。支持腕部４５５２の上部には、ばね係合突起４５５３が設けられている。ばね係合突起４５５３は、操作部ベース４５２１内に配置されている。
【４１９７】

右スタートレバー４５４１Ｒは、操作板部４５５６と、支持腕部４５５７とを有している。操作板部４５５６は、左スタートレバー４５４１Ｌの操作板部４５５１と左右対称な形状であり、左上角部を切り欠いて形成された角傾斜面４５５６ａを有している。この角傾斜面４５５６ａには、操作する遊技者の右手の親指が接触する。角傾斜面４５５６ａを設けることにより、遊技者の右手を操作板部４５５１に載せやすくすることができる。

【４１９８】

支持腕部４５５７は、操作板部４５５６の背面に接続されている。支持腕部４５５７は、操作部ベース４５２１（図３３４参照）の右端部に設けられたレバー用開口部（不図示）を貫通する。支持腕部４５５７は、右レバー支持ベース４５４３Ｒの後述する右シャフト４５６７に固定されている。支持腕部４５５７の上部には、ばね係合突起４５５８が設けられている。ばね係合突起４５５８は、操作部ベース４５２１内に配置されている。

【４１９９】

左レバー支持ベース４５４３Ｌは、軸受け部４５６１と、左シャフト４５６２とを有している。軸受け部４５６１は、左右方向に延びる左シャフト４５６２を回転可能に支持する。左シャフト４５６２には、左スタートレバー４５４１Ｌの支持腕部４５５２が固定されている。これにより、左シャフト４５６２は、左スタートレバー４５４１Ｌと一緒に回転する。

【４２００】

軸受け部４５６１の上部には、ばね係合フック４５６３が設けられている。ばね係合フック４５６３には、付勢部材の一具体例を示す引っ張りコイルばね４５６０の一端が係合されている。引っ張りコイルばね４５６０の他端は、左スタートレバー４５４１Ｌのばね係合突起４５５３に係合している。引っ張りコイルばね４５６０とばね係合突起４５５３との係合位置は、引っ張りコイルばね４５６０とばね係合フック４５６３との係合位置よりも低い。これにより、引っ張りコイルばね４５６０は、操作板部４５５１が上方に変位する回転方向（以下、「第１回転方向ｒ１」とする）に支持腕部４５５２を付勢する。

【４２０１】

支持腕部４５５２の第１回転方向ｒ１への回転は、支持腕部４５５２の上部が軸受け部４５６１に当接することにより係止される。したがって、支持腕部４５５２は、操作板部４５５１が下方に変位する回転方向（以下、「第２回転方向ｒ２」とする）に回転可能な状態で軸受け部４５６１に保持されている。なお、支持腕部４５５２の上部と軸受け部４５６１との間には、緩衝材（不図示）が設けられている。また、軸受け部４５６１は、取り付けブラケット４５６４を介して操作部ベース４５２１（図３３４参照）に固定されている。

【４２０２】

右レバー支持ベース４５４３Ｒは、軸受け部４５６６と、右シャフト４５６７とを有している。軸受け部４５６６は、左右方向に延びる右シャフト４５６７を回転可能に支持する。右シャフト４５６７には、右スタートレバー４５４１Ｒの支持腕部４５５７が固定されている。これにより、右シャフト４５６７は、右スタートレバー４５４１Ｒと一緒に回転する。

【４２０３】

軸受け部４５６６の上部には、ばね係合フック４５６８が設けられている。ばね係合フック４５６８には、付勢部材の一具体例を示す引っ張りコイルばね４５６０の一端が係合されている。引っ張りコイルばね４５６０の他端は、右スタートレバー４５４１Ｒのばね係合突起４５５８に係合している。引っ張りコイルばね４５６０とばね係合突起４５５８との係合位置は、引っ張りコイルばね４５６０とばね係合フック４５６８との係合位置よりも低い。これにより、引っ張りコイルばね４５６０は、第１回転方向ｒ１に支持腕部４５５７を付勢する。

【４２０４】

支持腕部４５５７の第１回転方向ｒ１への回転は、支持腕部４５５７の上部が軸受け部４５６６に当接することにより係止される。したがって、支持腕部４５５７は、第２回転

方向ｒ２に回転可能な状態で軸受け部４５６６に保持されている。なお、支持腕部４５５７の上部と軸受け部４５６６との間には、緩衝材（不図示）が設けられている。また、軸受け部４５６６は、取り付けブラケット４５６９を介して操作部ベース４５２１（図３３４参照）に固定されている。

【４２０５】

軸連結機構４５４４は、本発明に係る接続部に対応し、左シャフト４５６２と右シャフト４５６７を連結する。軸連結機構４５４４は、連結シャフト４５７１と、左連結部４５７２と、左リンク部４５７３と、右連結部４５７４と、右リンク部４５７５とを有している。

【４２０６】

連結シャフト４５７１は、左右方向に延びている。連結シャフト４５７１の左端部には、左連結部４５７２が固定されており、連結シャフト４５７１の右端部には、右連結部４５７４が固定されている。したがって、連結シャフト４５７１、左連結部４５７２及び右連結部４５７４は、一緒に回転する。

【４２０７】

左連結部４５７２には、左シャフト４５６２の右端部が回転可能に接続されている。左シャフト４５６２の軸心は、連結シャフト４５７１の軸心と一致している。左リンク部４５７３は、左連結部４５７２と軸受け部４５６１との間に配置され、左シャフト４５６２に固定されている。左リンク部４５７３は、左連結部４５７２に係合する係合ピン（不図示）を有している。係合ピンは、左右方向に延びており、連結シャフト４５７１よりも取り付けブラケット４５６４側（後方）に位置する。したがって、係合ピンの軸心は、左シャフト４５６２及び連結シャフト４５７１の軸心と一致しない。

【４２０８】

左リンク部４５７３（左シャフト４５６２）が第２回転方向ｒ２に回転すると、左リンク部４５７３の係合ピンは、左連結部４５７２に係合して左連結部４５７２を押し上げる。これにより、左連結部４５７２は、左シャフト４５６２を中心に第２回転方向ｒ２に回転する。すなわち、左リンク部４５７３（左シャフト４５６２）が第２回転方向ｒ２に回転すると、左連結部４５７２は、左リンク部４５７３と一緒に２回転方向ｒ２に回転する。

【４２０９】

一方、左リンク部４５７３に対して左連結部４５７２が第２回転方向ｒ２に回転すると、左連結部４５７２は、左リンク部４５７３の係合ピンから離れる。したがって、左リンク部４５７３は、第２回転方向ｒ２に回転しない。すなわち、左連結部４５７２が第２回転方向ｒ２に回転しても、左リンク部４５７３（左シャフト４５６２）は、左連結部４５７２と一緒に回転しない。

【４２１０】

右連結部４５７４には、右シャフト４５６７の左端部が回転可能に接続されている。右シャフト４５６７の軸心は、連結シャフト４５７１の軸心と一致している。右リンク部４５７５は、右連結部４５７４と軸受け部４５６６との間に配置され、右シャフト４５６７に固定されている。右リンク部４５７５は、右連結部４５７４に係合する係合ピン（不図示）を有している。係合ピンは、左右方向に延びており、連結シャフト４５７１よりも取り付けブラケット４５６９側（後方）に位置する。したがって、係合ピンの軸心は、右シャフト４５６７及び連結シャフト４５７１の軸心と一致しない。

【４２１１】

右リンク部４５７５（右シャフト４５６７）が第２回転方向ｒ２に回転すると、右リンク部４５７５の係合ピンは、右連結部４５７４に係合して左連結部４５７２を押し上げる。これにより、右連結部４５７４は、右シャフト４５６７を中心に第２回転方向ｒ２に回転する。すなわち、右リンク部４５７５（右シャフト４５６７）が第２回転方向ｒ２に回転すると、右連結部４５７４は、右リンク部４５７５と一緒に２回転方向ｒ２に回転する。

【４２１２】
一方、右リンク部４５７５に対して右連結部４５７４が第２回転方向ｒ２に回転すると、右連結部４５７４は、右リンク部４５７５の係合ピンから離れる。したがって、右リンク部４５７５は、第２回転方向ｒ２に回転しない。すなわち、右連結部４５７４が第２回転方向ｒ２に回転しても、右リンク部４５７５（右シャフト４５６７）は、右連結部４５７４と一緒に回転しない。
【４２１３】
右連結部４５７４の上部には、検知片４５７６が設けられている。検知片４５７６は、フォトセンサ４５４５に検知される。フォトセンサ４５４５は、操作部ベース４５２１（図３３４参照）に設けられたセンサ取付け部（不図示）に取り付けられている。フォトセンサ４５４５は、例えば、投光型のフォトセンサであり、上下方向において発光部と受光部が対向している。
【４２１４】
右連結部４５７４は、ばね係合部４５７７を有している。ばね係合部４５７７には、付勢部材の一具体例を示す引っ張りコイルばね４５７０の一端が係合されている。引っ張りコイルばね４５７０の他端は、操作部ベース４５２１（図３３４参照）に設けられた内部部材４５２８に設けられたばねフック４５２９に係合している。引っ張りコイルばね４５７０は、右連結部４５７４を第１回転方向ｒ１に付勢している。これにより、右連結部４５７４は、検知片４５７６がフォトセンサ４５４５に検知される位置で連結シャフト４５７１に保持されている。
【４２１５】
［スタートレバー装置の動作］
次に、スタートレバー装置４５４０の動作について説明する。非操作状態のスタートレバー装置４５４０において、左スタートレバー４５４１Ｌ及び右スタートレバー４５４１Ｒは、各ねじりコイルばね４５６０によって第１回転方向ｒ１に付勢されている。そして、左スタートレバー４５４１Ｌ及び右スタートレバー４５４１Ｒは、第２回転方向ｒ２に回転可能な状態で軸受け部４５６１，４５６６に支持されている。
【４２１６】
非操作状態のスタートレバー装置４５４０において、右連結部４５７４の検知片４５７６は、フォトセンサ４５４５によって検知されている。この検知結果は、マスク側中継基板（不図示）を介して主制御基板４０７１（図３１７参照）に送信される。フォトセンサ４５４５が検知片４５７６を検知している場合に、主制御基板４０７１は、左スタートレバー４５４１Ｌ及び右スタートレバー４５４１Ｒが押圧操作されていないことを検出する。
【４２１７】
例えば、左スタートレバー４５４１Ｌの操作板部４５５１が下方に押圧（押圧操作）されると、支持腕部４５５２は、ねじりコイルばね４５６０のばね力に抗して第２回転方向ｒ２に回転する。これにより、操作板部４５５１は、下方に傾動する。支持腕部４５５２の第２回転方向ｒ２への回転は、支持腕部４５５２が軸受け部４５６１のストッパ（不図示）に当接することにより係止される。なお、ストッパには、緩衝材が貼付されている。
【４２１８】
支持腕部４５５２が第２回転方向ｒ２に回転すると、左シャフト４５６２及び左リンク部４５７３が支持腕部４５５２と一緒に第２回転方向ｒ２に回転する。そして、左リンク部４５７３が左連結部４５７２を第２回転方向ｒ２に回転させる。その結果、左連結部４５７２と一体に接続された連結シャフト４５７１及び右連結部４５７４が第２回転方向ｒ２に回転する。このとき、右リンク部４５７５は、第２回転方向ｒ２に回転しないため、右スタートレバー４５４１Ｒは、左スタートレバー４５４１Ｌに連動して傾動することは無い。
【４２１９】
右連結部４５７４が第２回転方向ｒ２に回転すると、右連結部４５７４に設けた検知片

４５７６がフォトセンサ４５４５から離れる。その結果、検知片４５７６は、フォトセンサ４５４５によって検知されなくなる。フォトセンサ４５４５が検知片４５７６を検知している状態から検知していない状態（ＯＮからＯＦＦ）に切り替わると、主制御基板４０７１は、左スタートレバー４５４１Ｌ又は右スタートレバー４５４１Ｒが押圧操作されたことを検出する。

【４２２０】

左スタートレバー４５４１Ｌの操作板部４５５１が押圧されなくなると、左スタートレバー４５４１Ｌは、ねじりコイルばね４５６０のばね力によって第１回転方向ｒ１に付勢され、非操作状態の位置に戻る。このとき、左連結部４５７２に対する左リンク部４５７３の係合が外れる。そして、左連結部４５７２、連結シャフト４５７１及び右連結部４５７４は、引っ張りコイルばね４５７０のばね力によって第１回転方向ｒ１へ付勢される。その結果、検知片４５７６は、フォトセンサ４５４５によって検知される。

【４２２１】

一方、右スタートレバー４５４１Ｒの操作板部４５５６が下方に押圧（押圧操作）されると、支持腕部４５５７は、ねじりコイルばね４５６０のばね力に抗して第２回転方向ｒ２に回転する。これにより、操作板部４５５６は、下方に傾動する。支持腕部４５５７の第２回転方向ｒ２への回転は、支持腕部４５５７が軸受け部４５６６のストッパ（不図示）に当接することにより係止される。なお、ストッパには、緩衝材が貼付されている。

【４２２２】

支持腕部４５５７が第２回転方向ｒ２に回転すると、右シャフト４５６７及び右リンク部４５７５が支持腕部４５５７と一緒に第２回転方向ｒ２に回転する。そして、右リンク部４５７５が右連結部４５７４を第２回転方向ｒ２に回転させる。その結果、上述したように、検知片４５７６は、フォトセンサ４５４５によって検知されなくなる。そして、主制御基板４０７１は、左スタートレバー４５４１Ｌ又は右スタートレバー４５４１Ｒが押圧操作されたことを検出する。

【４２２３】

右連結部４５７４が第２回転方向ｒ２に回転すると、右連結部４５７４と一体に接続された連結シャフト４５７１及び左連結部４５７２が第２回転方向ｒ２に回転する。このとき、左リンク部４５７３は、第２回転方向ｒ２に回転しないため、左スタートレバー４５４１Ｌは、右スタートレバー４５４１Ｒに連動して傾動することは無い。

【４２２４】

このように、スタートレバー装置４５４０は、遊技者が左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒのいずれを選んで操作しても、同じように操作を検出することができる。そして、同じ検出結果を得るスタートレバー（操作手段）が複数設けられているため、操作性の向上を図ることができる。また、左スタートレバー４５４１Ｌの操作と右スタートレバー４５４１Ｒの操作を共通のフォトセンサ４５４５によって検出するため、部品点数の削減を図ることができる。

【４２２５】

また、スタートレバー装置４５４０は、１つの検知片４５７６によって左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒのいずれかの操作が行われたことを検出する。これにより、部品点数の削減を図ることができる。さらに、左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒを軸連結機構４５４４によって連結（接続）るため、左スタートレバー４５４１Ｌを操作した場合の検出結果と、右スタートレバー４５４１Ｒを操作した場合の検出結果が異ならないようにすることができる。

【４２２６】

また、スタートレバー装置４５４０は、左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒが平板状の操作板部４５５１，４５５６を有している。これにより、左スタートレバー４５４１Ｌ及び右スタートレバー４５４１Ｒを手で押し下げやすく、操作性の向上を図ることができる。また、スタートレバー装置４５４０は、シャフトの先端に球体状の操作部が設けられた従来のスタートレバーとは異なるユニークな操作感を提供するこ

とができる。
【４２２７】
　なお、本例では、操作手段の一具体例として、スタートレバーを例に挙げて説明したが、本発明に係る操作手段は、スタートレバーに限定されず、ベッドボタン、精算ボタン、遊技価値を貸し出すボタン、ストップボタンなど遊技者が操作する各種の入力装置に適用することができる。
【４２２８】
　また、本例の左スタートレバー４５４１Ｌと右スタートレバー４５４１Ｒの少なくとも一方の操作板部は、透明或いは半透明の樹脂によって形成してもよい。その場合に、上述した第８実施形態のように、照明ベースを設けて、操作板部を光らせる演出を行うようにしてもよい。
【４２２９】
［第２変形例］
　次に、第８実施形態に係る遊技機の第２変形例について説明する。第２変形例が、第８実施形態に係る遊技機と異なる点は、下マスクＤＭである。そのため、ここでは、第２変形例に係る下マスクＤＭについて説明する。
【４２３０】
［下マスクＤＭ］
　まず、第２変形例の下マスクＤＭの構成について、図３３６を参照して説明する。
　図３３６は、第２変形例における下マスクＤＭを正面側から見た斜視図である。
【４２３１】
　第２変形例の下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢを覆う下マスクベース４６０１と、下マスクベース４６０１の上部に取り付けられた操作部ユニット４６０２とを有している。
【４２３２】
　下マスクベース４６０１は、上面及び背面が開口された略直方体状に形成されている。図３３６に示すように、下マスクベース４６０１の正面には、トレイ４６１１と、透音孔４２１２が設けられている。トレイ４６１１は、使用時に遊技者の前に展開され、非使用時に下マスクベース４６０１の正面と略平行な状態となる退避位置に配置される。透音孔４２１２は、第８実施形態と同じである（図３２１参照）。
【４２３３】
　下マスクベース４６０１の内側には、第８実施形態と同じように、複数の接続用フック４２１４と、２本のガイドピン４２１５と、マスク側中継基板４２１６と、接続端子４２１７と、下部スピーカ装置４２１８が設けられている（図３２２参照）。
【４２３４】
　操作部ユニット４６０２は、下マスクベース４６０１の上部に設けられた操作パネル固定部（不図示）にねじを用いて固定されている。操作部ユニット４６０２は、下マスクベース４６０１の上面を覆う。
【４２３５】
［トレイ］
　次に、トレイ４６１１の構成について、図３３７及び図３３８を参照して説明する。
　図３３７は、トレイ４６１１の斜視図である。図３３８は、トレイ４６１１の分解斜視図である。
【４２３６】
　図３３７に示すように、トレイ４６１１は、トレイパネル４６１２と、左回動アーム４６１３及び右回動アーム４６１４と、左支持ブラケット４６１５及び右支持ブラケット４６１６とを有している。
【４２３７】
　トレイパネル４６１２は、左右方向に長い中空の板状に形成されている。使用位置に配置されたトレイパネル４６１２の一方の長辺は、前方を向く（図３３６参照）。また、退避位置に配置されたトレイパネル４６１２の一方の長辺は、下方を向く（図３３９参照）

。トレイパネル４６１２は、透明の樹脂により形成されている。

【４２３８】

図３３８に示すように、トレイパネル４６１２は、上パネル４６２１と、下パネル４６２２とを有している。上パネル４６２１は、使用位置においてトレイパネル４６１２の上面を形成する。上パネル４６２１の表面における略中央部には、凹部４６２１ａが設けられている。凹部４６２１ａは、左右方向に長い長方形に形成されており、例えば、スマートフォンなどの携帯端末が立てかけられるようになっている。

【４２３９】

使用位置において、上パネル４６２１の一方の長辺は、前方に位置し、他方の長辺は、後方（下マスクベース４６０１側）に位置する。上パネル４６２１の他方の長辺には、堤防リブ４６２１ｂが形成されている。堤防リブ４６２１ｂは、上パネル４６２１の表面から略垂直に突出している。堤防リブ４６２１ｂは、使用時のトレイパネル４６１２上に載置されているものが、下マスクベース４６０１側に落下することを防止する。また、堤防リブ４６２１ｂは、トレイパネル４６１２上にこぼれた飲料水などの液体が、下マスクベース４６０１側に流れないようにすることができる。

【４２４０】

下パネル４６２２は、使用位置においてトレイパネル４６１２の下面を形成する。下パネル４６２２の内面は、上パネル４６２１に覆われる。下パネル４６２２の内面における左側には、スマートフォンやタブレット装置の充電が可能な非接触給電装置４６３０が配置されている。つまり、トレイパネル４６１２の内部には、非接触給電装置４６３０が配置されている。トレイパネル４６１２は、透明の樹脂によって形成されているため、遊技者は、トレイパネル４６１２の内部に非接触給電装置４６３０が配置されていることを認識することができる。なお、トレイパネル４６１２を光が透過しない樹脂で形成してもよい。その場合は、トレイパネル４６１２に非接触給電装置４６３０の位置を示す表示を設けるとよい。

【４２４１】

左回動アーム４６１３は、アーム本体４６２３と、アームブラケット４６２４とを有している。アーム本体４６２３は、左支持ブラケット４６１５に支持された回動部４６２３ａを有している。回動部４６２３ａは、ロック機構を備えており、使用位置と非使用位置においてアーム本体４６２３の回動をロックする。使用位置においてロックされたアーム本体４６２３に、さらに退避位置と反対側に回動させる力が加わると、回動部４６２３ａのロックが解除される。これにより、アーム本体４６２３を退避位置側に回動させることができる。一方、退避位置においてロックされたアーム本体４６２３に、さらに使用位置と反対側に回動させる力が加わると、回動部４６２３ａのロックが解除される。これにより、アーム本体４６２３を使用位置側に回動させることができる。

【４２４２】

アームブラケット４６２４は、アーム本体４６２３にねじを用いて固定される。また、アームブラケット４６２４は、上パネル４６２１と下パネル４６２２に挟まれるパネル固定部４６２５を有している。上パネル４６２１の内面には、下パネル４６２２を固定するためのねじが螺合する複数のボス部（不図示）が設けられている。そして、パネル固定部４６２５には、上パネル４６２１の複数のボス部（不図示）のうちの２つが挿入される貫通孔が設けられている。

【４２４３】

右回動アーム４６１４は、左回動アーム４６１３と左右対称に形成されており、アーム本体４６２６と、アームブラケット４６２７とを有している。アーム本体４６２７は、右支持ブラケット４６１６に支持された回動部４６２６ａを有している。回動部４６２６ａは、回動部４６２３ａと同じロック機構を備えている。

【４２４４】

アームブラケット４６２７は、アーム本体４６２６にねじを用いて固定される。アームブラケット４６２７は、上パネル４６２１と下パネル４６２２に挟まれるパネル固定部４

６２８を有している。パネル固定部４６２８には、上パネル４６２１の複数のボス部（不図示）のうちの２つが挿入される貫通孔が設けられている。

【４２４５】

左支持ブラケット４６１５及び右支持ブラケット４６１６は、下マスクベース４６０１（図３３６参照）の正面にねじを用いて固定されている。左支持ブラケット４６１５及び右支持ブラケット４６１６を下マスクベース４６０１に固定するねじは、下マスクベース４６０１を内面側（背面側）から貫通する。しかし、本発明に係る左支持ブラケット及び右支持ブラケットは、下マスクベース４６０１を正面側から貫通するねじを用いて固定してもよい。この場合は、下マスクベース４６０１（下マスクＤＭ）を下ドアベースＤＢから取り外さなくても、下マスクベース４６０１に対してトレイを着脱することができる。

【４２４６】

［トレイの動作］

次に、トレイ４６１１の動作について、図３３６及び図３３９を参照して説明する。

図３３９は、トレイ４６１１を退避位置に配置した状態を示す下マスクＤＭの斜視図である。

【４２４７】

トレイ４６１１を使用しない場合は、トレイ４６１１を退避位置に配置する。図３３９に示すように、トレイ４６１１が退避位置に配置されると、トレイパネル４６１２が下マスクベース４６０１の正面と略平行になり、上パネル４６２１が、前方（遊技者側）を向く。

【４２４８】

退避位置に配置されたトレイ４６１１の回動部４６２３ａ，４６２６ａは、ロックされている。これにより、トレイ４６１１は、退避位置で固定されている。したがって、手や指がトレイパネル４６１２に引っ掛かって、トレイパネル４６１２に使用位置側に回動する方向の力（トレイパネル４６１２を上方に持ち上げる力）が加わっても、トレイ４６１１は、使用位置側に回動しない。

【４２４９】

上述したように、トレイパネル４６１２は、透明な樹脂によって形成されている。そのため、退避位置においてトレイパネル４６１２が下マスクベース４６０１に対向していても、トレイパネル４６１２を介して下マスクベース４６０１の正面に設けられた装飾（デザイン）を視認することができる。なお、下マスクベース４６０１の正面に設ける装飾は、例えば、機種毎に用意されるデザインシートやロゴパネルであってもよい。

【４２５０】

トレイ４６１１を使用する場合は、まず、アーム本体４６２３，４６２６を下マスクベース４６０１側に回動させて、回動部４６２３ａ，４６２６ａのロックを解除する。４６２３，４６２６を下マスクベース４６０１側に回動させるには、トレイ４６１１の一方の長辺（下方の長辺）側の端部を、下マスクベース４６０１側に押圧するとよい。

【４２５１】

次に、アーム本体４６２３，４６２６を下マスクベース４６０１側と反対側に回動させて、図３３６に示すように、トレイパネル４６１２を水平方向と略平行にする。これにより、トレイ４６１１が使用位置に配置され、回動部４６２３ａ，４６２６ａがロックされる。その結果、トレイ４６１１は、使用位置で固定される。遊技者は、使用位置に配置されたトレイ４６１１のトレイパネル４６１２上に腕や手首などを置いて、楽な状態で遊技を行うことができる。また、遊技者は、トレイパネル４６１２上に携帯端末や飲料水が入った容器などを置くことができる。

【４２５２】

［操作部ユニット］

次に、操作部ユニット４６０２の構成について、図３３６を参照して説明する。

図３３６に示すように、操作部ユニット４６０２は、操作部ベース４６４１を有している。操作部ベース４６４１は、左右方向に長い中空の略直方体状に形成されている。操作

部ベース４６４１の下面には、貫通孔（不図示）が設けられている。これにより、操作部ベース４６４１の内部空間は、下マスクベース４６０１の内部空間と連通している。

【４２５３】

操作部ベース４６４１の上面には、スタートレバー４６５１を有するスタートレバー装置４６４２と、音量操作部４６４３が設けられている。なお、操作部ベース４５２１の上面には、精算ボタン、演出用ボタン等が設けてもよい。また、操作部ベース４５２１の前面には、３個のストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒと、ストップボタン操作補助部材４６４４が設けられている。ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒは、図３２４を用いて説明したものと同様であるため、説明を省略する。

【４２５４】

［スタートレバー装置］

次に、スタートレバー装置４６４２の構成について、図３４０を参照して説明する。

図３４０は、操作部ユニット４６０２の側面図である。

【４２５５】

図３４０に示すように、スタートレバー装置４６４２は、スタートレバー４６５１と、レバー支持ベース（不図示）と、操作検知部（不図示）とを有している。スタートレバー４６５１は、操作部４６５２と、操作部４６５２に接続されたシャフト部４６５３とを有している。レバー支持ベースと操作検知部は、操作部ベース４６４１の内部に配置されている。

【４２５６】

操作部４６５２は、掌で包むように把持することができる大きさの略直方体状に形成されている。操作部４６５２の上面における前側（遊技者側）は、掌の付け根部分（手根部）がフィットするように曲面に形成されている。操作部４６５２の上面における後側には、ＭＡＸベットボタン４６５４が設けられている。これにより、操作部４６５２を把持する手の指でＭＡＸベットボタン４６５４を押圧操作することができる。

【４２５７】

なお、操作部４６５２には、ＭＡＸベットボタン４６５４以外のボタン、例えば、演出用ボタン等を設けてもよい。また、操作部４６５２には、ＭＡＸベットボタン４６５４の他に、１ベットボタン、精算ボタン、演出用ボタン等を設けてもよい。例えば、精算ボタンは、スタート操作を行う場合に誤って操作されないように、操作部４６５２の側面や下面に設けてもよい。

【４２５８】

シャフト部４６５３は、操作部４６５２を軸方向に移動可能に支持する。したがって、操作部４６５２は、シャフト部４６５３に対して押し込み操作（操作部ベース４６４１側に押し込む操作）が可能である。シャフト部４６５３は、操作部ベース４６４１の上面を貫通している。レバー支持ベースは、シャフト部４６５３を前後左右に傾動可能に支持する。したがって、操作部４６５２は、前後左右にスライド操作することができる。

【４２５９】

操作検知部は、操作部４６５２におけるシャフト部４６５３の軸方向への移動と、シャフト部４６５３の前後左右の傾動を検知する。この検知結果は、マスク側中継基板（不図示）を介して主制御基板４０７１（図３１７参照）に送信される。操作検知部が操作部４６５２におけるシャフト部４６５３の軸方向への移動又はシャフト部４６５３の傾動を検知した場合に、スタートレバー４６５１が操作されたことを検出する。

【４２６０】

上述したように、スタートレバー装置４６４２は、操作部４６５２にＭＡＸベットボタン４６５４が設けられている。そのため、遊技者は、ＭＡＸベットボタン４６５４によるベット操作と、スタートレバー４６５１によるスタート操作を連続した動作で行うことができる。例えば、ＭＡＸベットボタン４６５４を押圧して、操作部４６５２を後方に押し込むと、ベット操作とスタート操作を連続した動作で行うことができる。

【４２６１】

［音量操作部］
次に、音量操作部４６４３の構成について、図３４１を参照して説明する。
図３４１は、音量操作部４６４３の構成を説明する図である。
【４２６２】
図３４１Ａは音量操作部４６４３の平面図であり、図３４１Ｂは音量操作部４６４３の断面図である。図３４１に示すように、音量操作部４６４３は、表示プレート４６６１と、静電容量フィルム４６６２と、ＬＥＤ基板４６６３とを有している。すなわち、音量操作部４６４３は、静電容量式タッチパネルを用いた操作部である。
【４２６３】
表示プレート４６６１は、操作部ベース４６４１の上面と同一平面を形成している（図３３６参照）。図３４１Ｂに示すように、表示プレート４６６１の裏面には、音量ゲージを示す複数のゲージ印刷部４６６５と、複数のゲージ印刷部４６６５以外の背景印刷部４６６６が設けられている。
【４２６４】
複数のゲージ印刷部４６６５は、それぞれ左右方向の長さが同じ四角形に設定されており、左側から右側に向かうにつれて徐々に高さ（遊技機の前後方向に平行な長さ）が高くなる。背景印刷部４６６６は、黒色の非透光性の塗料によって印刷されている。背景印刷部４６６６の印刷としては、例えば、シルク印刷やパッド印刷を適用することができる。
【４２６５】
複数のゲージ印刷部４６６５は、ステルス印刷によって形成されている。したがって、複数のゲージ印刷部４６６５は、表示プレート４６６１の裏面側から光が照射された場合に所定の色で光る。一方、複数のゲージ印刷部４６６５は、表示プレート４６６１の裏面側から光が照射されない場合に、背景印刷部４６６６と同じ黒色に見える。
【４２６６】
静電容量フィルム４６６２は、表示プレート４６６１の裏面と対向している。静電容量フィルム４６６２は、指との間に発生する微弱な静電容量の変化から指のタッチしている位置を検出する。静電容量フィルム４６６２の検出結果は、ＬＥＤ基板４６６３に送信される。また、静電容量フィルム４６６２の検出結果は、マスク側中継基板（不図示）を介して主制御基板４０７１（図３１７参照）に送信される。
【４２６７】
ＬＥＤ基板４６６３は、静電容量フィルム４６６２における表示プレート４６６１に対向する側と反対側の面に対向する。ＬＥＤ基板４６６３には、複数のＬＥＤ４６６８が実装されている。複数のＬＥＤ４６６８は、複数のゲージ印刷部４６６５に対向する位置に配置されている。各ＬＥＤ４６６８から出射された光は、静電容量フィルム４６６２を通過して対向するゲージ印刷部４６６５に照射される。
【４２６８】
遊技者が音量を調整する場合は、表示プレート４６６１の表面を指でタッチする。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、タッチした箇所に一番近いゲージ印刷部４６６５に対応する音量に設定する。また、ＬＥＤ基板４６６３は、タッチした箇所に一番近いゲージ印刷部４６６５と、そのゲージ印刷部４６６５よりも左側にあるゲージ印刷部４６６５に対向するＬＥＤ４６６８を点灯させる。これにより、タッチした箇所に一番近いゲージ印刷部４６６５と、そのゲージ印刷部４６６５よりも左側にあるゲージ印刷部４６６５が所定の色で光る。その結果、遊技者は、光っているゲージ印刷部４６６５の数から調整後の音量を確認することができる。
【４２６９】
なお、表示プレート４６６１には、「音量１」、「音量２」等の音量表示を設けてもよい。音量表示は、対応するゲージ印刷部４６６５の近傍に配置するとよい。これにより、遊技者は、調整したい音量に対応するゲージ印刷部４６６５の位置を認識し易くなり、音量調整を円滑に行うことができる。
【４２７０】

ＬＥＤ基板４６６３は、所定の時間が経過すると、複数のＬＥＤ４６６８を消灯させる。これにより、全てのゲージ印刷部４６６５が、背景印刷部４６６６と同じように、黒色に見える。すなわち、複数のＬＥＤ４６６８の消灯時には、複数のゲージ印刷部４６６５を目立たなくさせることができる。その結果、音量操作部４６４３を設けた操作部ベース４６４１の上面の見栄えを向上させることができる。

【４２７１】

本例では、表示プレート４６６１にステルス印刷を施した音量操作部４６４３を設けた。しかし、同様の構成を有する操作部としては、音量を調整するものに限定されず、例えば、表示装置の光量を調整するものや、遊技機に関するその他の調整を行うものに適用することができる。また、静電容量式タッチパネルを用いてストップボタン、演出用ボタン、スタートボタン等の操作を検出するようにしてもよい。

【４２７２】

また、本例では、静電容量式タッチパネルを用いた操作部を説明した。しかし、本発明に係る操作部としては、例えば、ひずみゲージを用いて押下箇所を検出する構成を採用してもよい。ひずみゲージは、板などのベース材料に抵抗材料を取り付けて電気的な抵抗値の変化からひずみを検出する力学センサである。例えば、十字キーの代わりにひずみゲージを用いて操作方向を検出する操作部を設けることができる。

【４２７３】

［ストップボタン操作補助部材］

次に、ストップボタン操作補助部材４６４４の構成について、図３４２及び図３４３を参照して説明する。

図３４２は、ストップボタン操作補助部材４６４４の斜視図である。図３４３は、ストップボタン操作補助部材４６４４の分解斜視図である。図３４４は、ストップボタン操作補助部材４６４４を使用位置から回動させた状態を示す操作部ユニット４６０２の斜視図である。

【４２７４】

図３４２及び図３４３に示すように、ストップボタン操作補助部材４６４４は、操作補助部４６７１と、シャフト４６７２と、シャフト支持部４６７３，４６７４とを有している。ストップボタン操作補助部材４６４４は、使用位置に配置された場合に（図３３６参照）、ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒに対する操作（停止操作）を補助することが可能になる。

【４２７５】

操作補助部４６７１は、補助板４６８１と、２つの軸受け部４６８２，４６８３と、軸受けカバー４６８４，４６８５とを有している。操作補助部４６７１は、シャフト４６７２に回動可能に支持されている。

【４２７６】

補助板４６８１は、左右方向に長い長方形の板体からなる。補助板４６８１は、ボタン対向面４６８１ａと、押圧操作面４６８１ｂとを有している。ストップボタン操作補助部材４６４４を使用位置に配置すると、ボタン対向面４６８１ａは、３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒと対向し、押圧操作面４６８１ｂは、遊技者と対向する（図３３６参照）。

【４２７７】

ボタン対向面４６８１ａには、３つのボタン押圧部４６８７Ｌ，４６８７Ｃ，４６８７Ｒが形成されている（図３４４参照）。使用位置に配置されたストップボタン操作補助部材４６４４の３つのボタン押圧部４６８７Ｌ，４６８７Ｃ，４６８７Ｒは、それぞれ３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒと間隙を空けて対向する。３つのボタン押圧部４６８７Ｌ，４６８７Ｃ，４６８７Ｒは、ボタン対向面４６８１ａから略垂直に突出している。ボタン押圧部４６８７Ｃは、ボタン押圧部４６８７Ｒよりもボタン対向面４６８１ａから突出する高さが高い。また、ボタン押圧部４６８７Ｌは、ボタン押圧部４６８７Ｃよりもボタン対向面４６８１ａから突出する高さが高い。

【４２７８】
２つの軸受け部４６８２，４６８３は、補助板４６８１のボタン対向面４６８１ａにおいて、左右両側の短辺から突出している。２つの軸受け部４６８２，４６８３は、左右方向に略垂直な平面を有する板体からなり、補助板４６８１の短辺に沿う方向に長い略長方形に形成されている。２つの軸受け部４６８２，４６８３には、シャフト４６７２が貫通する貫通孔が設けられている。
【４２７９】
軸受けカバー４６８４，４６８５は、それぞれ外側カバー４６８８と、内側カバー４６８９から構成されている。外側カバー４６８８は、それぞれシャフト支持部４６７３，４６７４に対向する。外側カバー４６８８のシャフト支持部４６７３，４６７４に対向する面には、係合凹部４６８８ａが設けられている。内側カバー４６８９は、それぞれ軸受け部４６８２，４６８３を挟んで外側カバー４６８８と対向する。外側カバー４６８８と内側カバー４６８９は、軸受け部４６８２，４６８３を挟んだ状態でねじを用いて互いに固定されている。
【４２８０】
シャフト支持部４６７３，４６７４は、操作部ベース４６４１（図３３６）の前面にねじを用いて固定されている。シャフト支持部４６７３，４６７４を操作部ベース４６４１に固定するねじは、操作部ベース４６４１を内面側から貫通する。しかし、本発明に係るシャフト支持部は、操作部ベース４６４１を前面側から貫通するねじを用いて固定してもよい。この場合は、操作部ベース４６４１を下マスクベース４６０１から取り外さなくても、操作部ベース４６４１に対してストップボタン操作補助部材を着脱することができる。
【４２８１】
シャフト支持部４６７３，４６７４は、左右方向に所定の距離を空けて配置されている。シャフト支持部４６７３，４６７４は、それぞれシャフト挿入孔４６７３ａ，４６７４ａを有している。シャフト挿入孔４６７３ａ，４６７４ａには、シャフト４６７２の両端部が挿入される。シャフト４６７２の両端部は、シャフト支持部４６７３，４６７４にねじを用いて固定される。このとき、シャフト支持部４６７３，４６７４とねじ頭との間には、それぞれ山形座金４６７７が介在される。これにより、ねじの緩みを防止することができると共に、ねじ頭が山形座金４６７７に挿入されるため、見栄えをよくすることができる。
【４２８２】
また、シャフト支持部４６７３，４６７４には、それぞれストッパ突部４６７３ｂ，４６７４ｂが設けられている。ストッパ突部４６７３ｂ，４６７４ｂは、前方に突出する円柱状に形成されている。ストッパ突部４６７３ｂ，４６７４ｂは、補助板４６８１のボタン対向面４６８１ａと接触して、補助板４６８１の操作部ベース４６４１側への移動を係止する。
【４２８３】
シャフト支持部４６７３，４６７４における操作補助部４６７１の外側カバー４６８８に対向する面には、ボールプランジャ（不図示）が取り付けられている。ボールプランジャは、外側カバー４６８８を付勢する。これにより、操作補助部４６７１は、回動範囲の任意の位置で固定することができる。
【４２８４】
ストップボタン操作補助部材４６４４の使用位置において、ボールプランジャは、外側カバー４６８８の係合凹部４６８８ａに係合する。これにより、操作補助部４６７１を回動させている遊技者の手にクリック感を生じさせることができる。その結果、ストップボタン操作補助部材４６４４を使用位置に配置したことを遊技者に認識させることができる。
【４２８５】
操作補助部４６７１は、使用位置（図３３６参照）からさらにストップボタン４２３１

Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒ側に回動可能である。すなわち、使用位置に配置された操作補助部４６７１は、２つの軸受け部４６８２，４６８３がシャフト支持部４６７３，４６７４のストッパ突部４６７３ｂ，４６７４ｂに当接する係止位置まで回動可能である。

【４２８６】

操作補助部４６７１の使用位置から係止位置までの回動距離は、ボールプランジャが係合凹部４６８８ａを乗り越えない程度の距離である。したがって、遊技者が係止位置にある操作補助部４６７１の押圧を止めると、ボールプランジャが係合凹部４６８８ａ内に戻る。その結果、操作補助部４６７１は、使用位置に戻る。

【４２８７】

操作補助部４６７１は、押圧操作面４６８１ｂが操作部ベース４６４１の下面に接触するまで使用位置（係止位置）と反対側に回動させることができる。そして、遊技者は、操作補助部４６７１を、停止操作の邪魔にならない任意の位置に配置することができる。なお、本発明に係る操作補助部は、係止手段を用いて退避位置を設定してもよい。その場合は、退避位置において遊技者の手にクリック感を生じさせる構成にすることが好ましい。

【４２８８】

［ストップボタン操作補助部材の動作］

次に、ストップボタン操作補助部材４６４４の動作について、図３４５を参照して説明する。

図３４５は、ストップボタン操作補助部材４６４４の動作を説明する説明図である。

【４２８９】

図３４５Ａに示すように、ストップボタン操作補助部材４６４４を使用位置に配置すると、補助板４６８１に設けた３つのボタン押圧部４６８７Ｌ，４６８７Ｃ，４６８７Ｒは、操作部ベース４６４１の３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒと間隙を空けて対向する。このとき、３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒは、いずれも押圧されていない。そして、ボタン押圧部４６８７Ｌとストップボタン４２３１Ｌとの間隙が一番小さく、ボタン押圧部４６８７Ｒとストップボタン４２３１Ｒとの間隙が一番大きい。

【４２９０】

次に、遊技者がストップボタン操作補助部材４６４４の補助板４６８１（操作補助部４６７１）を操作部ベース４６４１側に押圧すると、操作補助部４６７１が回動して、ボタン押圧部４６８７Ｌがストップボタン４２３１Ｌを押圧する（図３４５Ｂ参照）。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、ストップボタン４２３１Ｌに対して停止操作が行われたこと（第１停止操作）を検出する。このとき、ボタン押圧部４６８７Ｃ，４６８７Ｒは、ストップボタン４２３１Ｃ，４２３１Ｒを押圧していない。

【４２９１】

操作補助部４６７１がさらに回動すると、ボタン押圧部４６８７Ｃがストップボタン４２３１Ｃを押圧する（図３４５Ｃ参照）。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、ストップボタン４２３１Ｃに対して停止操作が行われたこと（第２停止操作）を検出する。このとき、ボタン押圧部４６８７Ｒは、ストップボタン４２３１Ｒを押圧していない。

【４２９２】

操作補助部４６７１がさらに回動すると、ボタン押圧部４６８７Ｒがストップボタン４２３１Ｒを押圧する（図３４５Ｄ参照）。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、ストップボタン４２３１Ｒに対して停止操作が行われたこと（第３停止操作）を検出する。

【４２９３】

このように、ストップボタン操作補助部材４６４４の補助板４６８１を１回押圧することにより、３つの停止操作を順番に行うことができる。その結果、遊技者の停止操作を行うための動作を少なくすることができ、遊技者の疲労感を軽減することができる。なお、本例の遊技機は、一の停止操作の検出から次の停止操作の検出までに、一定時間（例えば

、１５０ｍｓ）の経過を待つ必要が無い、いわゆる停止操作無効化時間が無い遊技機とする。

【４２９４】

本実施形態では、ストップボタン４２３１Ｌ、ストップボタン４２３１Ｃ、ストップボタン４２３１Ｒの順（いわゆる、順押し）で停止操作を行うことができる。しかし、本発明に係るストップボタン操作補助部材は、ストップボタン４２３１Ｒを最初に押圧する、いわゆる逆押しの停止操作を補助するものであってもよく、押し順を適宜設定することができる。

【４２９５】

［ストップボタン操作補助部材の他の例］

次に、ストップボタン操作補助部材の変形例について、図３４６を参照して説明する。

図３４６は、ストップボタン操作補助部材の他の例の動作を説明する説明図である。

【４２９６】

ストップボタン操作補助部材の他の例であるストップボタン操作補助部材４６９１は、使用位置に配置された場合に（図３４６Ａ参照）、ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒに対する停止操作を補助することが可能になる。ストップボタン操作補助部材４６９１は、補助板４６９２を有している。

【４２９７】

補助板４６９２は、左右方向に長い長方形の板体からなる。補助板４６９２は、上下方向に延びるシャフト（不図示）に回動可能に支持されている。補助板４６９２の軸受け部は、左側端部に設けられている。ストップボタン操作補助部材４６９１が使用位置に配置されると、補助板４６９２は、操作部ベース４６４１の前面と対向する。このとき、補助板４６９２の左側端部は、補助板４６９２の右側端部よりも操作部ベース４６４１の前面に接近している。

【４２９８】

補助板４６９２には、３つのボタン押圧部４６９３Ｌ，４６９３Ｃ，４６９３Ｒが形成されている。３つのボタン押圧部４６９３Ｌ，４６９３Ｃ，４６９３Ｒは、補助板４６９２における操作部ベース４６４１の前面に対向する面から略垂直に突出している。３つのボタン押圧部４６９３Ｌ，４６９３Ｃ，４６９３Ｒの補助板４６９２から突出する高さは、同じに設定されている。

【４２９９】

ストップボタン操作補助部材４６９１が使用位置に配置されると、３つのボタン押圧部４６９３Ｌ，４６９３Ｃ，４６９３Ｒは、それぞれ３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒと間隙を空けて対向する。このとき、３つのストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒは、いずれも押圧されていない。そして、ボタン押圧部４６９３Ｌとストップボタン４２３１Ｌとの間隙が一番小さく、ボタン押圧部４６９３Ｒとストップボタン４２３１Ｒとの間隙が一番大きい。

【４３００】

次に、遊技者が補助板４６９２の右側端部を押圧して、補助板４６９２を操作部ベース４６４１側に回動させると、ボタン押圧部４６９３Ｌがストップボタン４２３１Ｌを押圧する（図３４６Ｂ参照）。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、ストップボタン４２３１Ｌに対して停止操作が行われたこと（第１停止操作）を検出する。このとき、ボタン押圧部４６９３Ｃ，４６９３Ｒは、ストップボタン４２３１Ｃ，４２３１Ｒを押圧していない。

【４３０１】

補助板４６９２を操作部ベース４６４１側にさらに回動すると、ボタン押圧部４６９３Ｃがストップボタン４２３１Ｃを押圧し、その後、ボタン押圧部４６９３Ｒがストップボタン４２３１Ｒを押圧する。これにより、主制御基板４０７１（図３１７参照）は、ストップボタン４２３１Ｃに対して停止操作が行われたこと（第２停止操作）を検出し、その後、ストップボタン４２３１Ｒに対して停止操作が行われたこと（第３停止操作）を検出

する。
【４３０２】
　このように、ストップボタン操作補助部材４６９１の補助板４６９２を１回押圧することにより、３つの停止操作を順番に行うことができる。その結果、遊技者の停止操作を行うための動作を少なくすることができ、遊技者の疲労感を軽減することができる。
【４３０３】
［第３変形例］
　次に、第８実施形態に係る遊技機の第３変形例について説明する。第３変形例が、第８実施形態に係る遊技機と異なる点は、操作部ユニットである。そのため、ここでは、第３変形例に係る操作部ユニット４７０２について説明する。
【４３０４】
［操作部ユニット］
　まず、操作部ユニット４７０２の構成について、図３４７を参照して説明する。
　図３４７は、操作部ユニット４７０２の構成を示す概略図である。
【４３０５】
　図３４７に示すように、操作部ユニット４７０２は、操作部ベース４７２１を有している。操作部ベース４７２１は、左右方向に長い中空の略直方体状に形成されている。操作部ベース４７２１の下面には、貫通孔（不図示）が設けられている。これにより、操作部ベース４７２１の内部空間は、下マスクベース４２０１（図３２１参照）の内部空間と連通している。
【４３０６】
　操作部ベース４７２１の上面には、ＭＡＸベットボタン４７２２と、１ベットボタン（不図示）と、精算ボタン（不図示）と、演出用ボタン（不図示）が設けられている。また、操作部ベース４７２１の前面には、スタートレバー４７２３と、３個のストップボタン（不図示）が設けられている。ＭＡＸベットボタン４７２２、１ベットボタン、精算ボタン、演出用ボタン、及びストップボタンは、図３２４を用いて説明したものと同様であるため、説明を省略する。
【４３０７】
　スタートレバー４７２３は、操作部ベース４７２１の前面を貫通するシャフト４７２３ａと、シャフト４７２３ａの先端に設けられた球体状の操作部４７２３ｂとを有している。また、操作部ベース４７２１の内部には、シャフト４７２３ａの傾動を検出するスタート操作検出部（不図示）が設けられている。スタート操作検出部の検出結果は、マスク側中継基板４２１６（図３２２参照）を介して主制御基板４０７１（図３１７参照）に送信される。
【４３０８】
　操作部ベース４７２１の後面は、斜め上方を向く傾斜面４７２１ａを有している。そして、傾斜面４７２１ａには、スタートボタン４７２４が設けられている。スタートボタン４７２４とＭＡＸベットボタン４７２２は、前後方向において適当な距離を空けて並んでいる。
【４３０９】
　上述のスタート操作検出部は、スタートボタン４７２４の押圧操作を検出する。すなわち、第３変形例に係るスタートレバー装置は、スタートレバー４７２３と、スタートボタン４７２４と、スタート操作検出部（不図示）とを有している。遊技者は、スタートレバー４７２３とスタートボタン４７２４のいずれかを操作（スタート操作）することで、遊技を開始させることができる。
【４３１０】
　スタートボタン４７２４を操作する場合に、遊技者は、掌をＭＡＸベットボタン４７２２の上に置いて、人差し指や中指をスタートボタン４７２４の上に置く。そして、掌を押し下げてＭＡＸベットボタン４７２２を押圧して、人差し指や中指でスタートボタン４７２４を押圧する。これにより、遊技者は、ベット操作とスタート操作を片手の動作で円滑

に行うことができる。
【４３１１】
［その他の変形例］
　第８実施形態、及び第１～３変形例では、ＭＡＸベットボタン４２２２，４６５４，４７２２を設けた。しかし、本発明に係るＭＡＸベットボタンとしては、液晶ディスプレイや有機ＥＬディスプレイ等の小型表示装置を有するものであってもよい。小型表示装置は、
ＭＡＸベットボタンの表面における遊技者が視認可能な位置に設けられる。小型表示装置の表示は、状態に応じて変化する。例えば、ベット可能な状態とベット不可能な状態で小型表示装置の表示を変化させる。これにより、遊技者は、ベット可能な状態を確認してから、ＭＡＸベットボタンによるベット操作を行うことができる。
【４３１２】
　上述の第１実施形態の表示ユニットＡ（図２参照）は、画像表示用の照射光を出射する照射ユニットＢと、照射ユニットＢからの照射光が照射されることにより画像を出現させるスクリーン装置Ｃとを有するいわゆるプロジェクションマッピング装置である。この照射ユニットＢは、スクリーン装置Ｃに向けて照射光を反射させる反射ミラーを有している。このような照射ユニットＢは、反射ミラーの反射面に対して風を送るファンを備えていてもよい。ファンは、反射ミラーが反射する照射光に影響を与えない位置に配置される。ファンは、例えば、遊技機の電源投入時に駆動して反射ミラーの反射面に所定期間が経過するまで風を送る。これにより、反射ミラーの反射面にある塵や埃を風によって除去することができ、反射面にある塵や埃の影響を受けてスクリーン装置Ｃに出現する画像がぼやけることを防ぐことができる。
【４３１３】
［第８実施形態の付記１］
　従来、遊技機本体の左側寄りの位置にスタートレバーが設けられた遊技機が知られている。一般的なスタートレバーは、シャフトの先端に球体状の操作部が設けられた構造である。（例えば、特開２００４－１０５６２５号公報）。
【４３１４】
　しかしながら、スタートレバーなどの操作手段には、さらなる改良の余地がある。
【４３１５】
　付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、操作手段の操作性の向上を図ることを目的とする。
【４３１６】
　上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４３１７】
（１）　第１操作手段（例えば、左スタートレバー４５４１Ｌ）及び該第１操作手段と離間した位置に設けられた第２操作手段（例えば、右スタートレバー４５４１Ｒ）と、
　操作を検出可能な操作検出手段（例えば、フォトセンサ４５４５）と、
　を備え、
　前記操作検出手段は、前記第１操作手段が操作された場合と、前記第２操作手段が操作された場合のいずれであっても、その操作を検出可能である
　ことを特徴とする遊技機。
【４３１８】
　このような構成によれば、遊技者が第１操作手段と第２操作手段のいずれを選んで操作しても、同じように操作を検出することができる。そして、同じ検出結果を得る操作手段が複数設けられているため、操作手段の操作性の向上を図ることができる。また、第１操作手段の操作と第２操作手段の操作を共通の操作検出手段によって検出するため、部品点数の削減を図ることができる。
【４３１９】
（２）　上記（１）の遊技機において、

前記第１操作手段と前記第２操作手段を繋ぐ接続部（例えば、軸連結機構４５４４）を備え、
前記接続部は、被検出部（例えば、検知片４５７６）を有し、
前記操作検出手段は、前記被検出部の位置が変化したときに操作が行われた旨を検出可能である。
【４３２０】
このような構成によれば、１つの被検出部によって第１操作手段と第２操作手段のいずれかの操作が行われたことを検出する。これにより、部品点数の削減を図ることができる。また、第１操作手段と第２操作手段を接続するため、第１操作手段を操作した場合の検出結果と、第２操作手段を操作した場合の検出結果が異ならないようにすることができる。
【４３２１】
（３）　上記（２）の遊技機において、
前記第１操作手段と前記第２操作手段のうち少なくともいずれか一方は、平板状に形成されている。
【４３２２】
このような構成によれば、平板状の操作手段を手で押し下げやすく、操作性の向上を図ることができる。また、ユニークな操作感を提供することができる。
【４３２３】
［上マスクＵＭの自立構造］
次に、上マスクＵＭの自立について、図３４８を参照して説明する。
図３４８は、上マスクＵＭの側面図である。
【４３２４】
図３４８に示すように、上マスクＵＭは、キャビネットＧ（図３１７参照）に接続していない状態で自立可能に構成されている。上マスク本体４１０１における本体枠４１０４の下辺部は、上辺部よりも前後方向に大きく形成されている。
【４３２５】
上マスク本体４１０１の本体枠４１０４は、左右の側辺部が背面側に凸となるように湾曲している。そのため、上マスク本体４１０１は、後方に重心が偏っている。そこで、本体枠４１０４における下辺部の接地面４１０４ａは、上マスクＵＭをキャビネットＧに接続した状態において、前方を向くように傾斜している。これにより、上マスク本体４１０１を床などの平面に置く際に、キャビネットＧに接続した状態よりも重心が前方にずれる。その結果、上マスクＵＭを床などの平面に安定した姿勢で自立させることができる。また、上マスクＵＭからトップパネル４１０２を外した状態である上マスク本体４１０１においても、床などの平面に安定した姿勢で自立させることができる。このように、上マスクＵＭや上マスク本体４１０１を床などに自立（直立）させて置いておけるので、パチスロ機４００１を遊技店の遊技島（不図示）に設置する際や工場における組立時の作業性を向上させることができる。また、上マスクＵＭが倒れて、表示装置４１０５が破損したり、周囲の物や人に衝突したりする心配がない。なお、キャビネットＧ（図３１７参照）にそのキャビネットＧの開口を開閉するドア機構を接続する場合においても、ドア機構の接地面を上マスク本体４１０１の接地面４１０４ａと同様に構成することができる。これにより、キャビネットＧに取り付ける前のドア機構を、床などの平面に安定した姿勢で自立させることができる。
【４３２６】
［上マスク本体とトップパネルの接続構造］
次に、上マスク本体４１０１とトップパネル４１０２の接続構造について、図３４９～図３５１を参照して説明する。
図３４９は、上マスク本体４１０１の上部拡大図である。図３５０は、上マスク本体４１０１の本体側接続部４１０９を示す斜視図である。図３５１は、トップパネル４１０２を下方から見た斜視図である。

【４３２７】
図３４９に示すように、上マスク本体４１０１における本体枠４１０４の上辺部には、上部ランプ４１０７と、透音孔４１０８を有する上部スピーカカバー４９０１と、本体側接続部４１０９が設けられている。上部ランプ４１０７と上部スピーカカバー４９０１は、本体枠４１０４の上辺部における正面側の体裁面を形成している。
【４３２８】
本体側接続部４１０９は、本体枠４１０４の上辺部における背面側設けられた凹部４１０１ｂに配置されている。また、本体枠４１０４の凹部４１０１ｂには、２つの接続端子４７６１が配置されている。２つの接続端子４７６１は、配線（不図示）を用いて副制御基板４７５１（図３５３参照）と電気的に接続されている。２つの接続端子４７６１は、ドロワコネクタであり、トップパネル４１０２（図３５１参照）に設けられた接続端子４８３２に接続される。また、本体枠４１０４の上辺部における背面には、レバー用貫通孔４１０６が設けられている。レバー用貫通孔４１０６には、本体側接続部４１０９の後述する解除レバー４８２２が貫通する。
【４３２９】
（本体側接続部）
図３５０に示すように、上マスク本体４１０１の本体側接続部４１０９は、接続ベース４８０１と、ロックスライダ４８０２と、付勢部材４８０３と、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５と、本体ガイドピン挿入ブロック４８０６，４８０７とを有している。
【４３３０】
接続ベース４８０１は、板金を折り曲げ加工することにより形成されている。接続ベース４８０１は、左右方向に長い長方形のベース板４８１１と、ベース板４８１１の上側の長辺から略垂直に突出する上側板４８１２と、ベース板４８１１の下側の長辺から略垂直に突出する下側板４８１３とを有する。
【４３３１】
接続ベース４８０１には、２つのロックピン用溝４８１４が形成されている。２つのロックピン用溝４８１４は、上側板４８１２とベース板４８１１に連続する溝状に形成されている。２つのロックピン用溝４８１４には、トップパネル４１０２（図３５１参照）の後述する２つのロックピン４８３４が挿入される。
【４３３２】
ベース板４８１１は、前後方向に略垂直な平面を有する板体からなり、前面４８１１ａ及び後面４８１１ｂを有している。ベース板４８１１の前面４８１１ａは、上部ランプ４１０７に対向する。ベース板４８１１の後面４８１１ｂは、本体枠４１０４の上辺部における背面側に露出される（図３４９参照）。
【４３３３】
ベース板４８１１の前面４８１１ａにおける中央部の上側には、ばね接続突起４８１６が設けられている。ばね接続突起４８１６には、付勢部材４８０３の一端が接続される。また、ベース板４８１１の前面４８１１ａにおける左右方向の両端部には、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５が固定されている。
【４３３４】
トップガイドピン挿入ブロック４８０４は、左右方向の左側に配置されており、トップガイドピン挿入ブロック４８０５は、左右方向の右側に配置されている。トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５は、略直方体状に形成されている。トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５には、上下方向に貫通するガイドピン挿入孔（不図示）がそれぞれ形成されている。
【４３３５】
上側板４８１２は、上下方向に対して略垂直な平面を有する板体からなる。上側板４８１２には、２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８が形成されている。２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８は、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０

５のガイドピン挿入孔（不図示）に対向する。２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８には、トップパネル４１０２（図３５１参照）の後述する２つのガイドピン４８３３が貫通する。そして、２つのガイドピン４８３３は、ガイドピン挿入孔（不図示）に挿入される。

【４３３６】

下側板４８１３は、上下方向に対して略垂直な平面を有する板体からなり上側板４８１２と対向している。下側板４８１３の左右方向の略中央部には、レバー貫通用開口部４８１９が形成されている。レバー貫通用開口部４８１９には、ロックスライダ４８０２の後述する解除レバー４８２２が貫通する。

【４３３７】

また、下側板４８１３には、２つのガイドピン用貫通孔（不図示）が形成されている。下側板４８１３の２つのガイドピン用貫通孔は、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５のガイドピン挿入孔（不図示）に対向する。トップパネル４１０２の２つのガイドピン４８３３は、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５のガイドピン挿入孔を貫通した後に、下側板４８１３の２つのガイドピン用貫通孔を貫通する。

【４３３８】

さらに、下側板４８１３における上側板４８１２と対向する面と反対側の面には、本体ガイドピン挿入ブロック４８０６，４８０７が固定されている。本体ガイドピン挿入ブロック４８０６，４８０７は左右方向に適当な間隔を空けて並んでいる。本体ガイドピン挿入ブロック４８０６，４８０７は、略直方体状に形成されている。本体ガイドピン挿入ブロック４８０６，４８０７には、前後方向に貫通するガイドピン挿入孔４８０６ａ，４８０７ａがそれぞれ形成されている。ガイドピン挿入孔４８０６ａ，４８０７ａには、上マスク本体４１０１に設けられた２つのガイドピンが挿入される。

【４３３９】

ロックスライダ４８０２は、トップガイドピン挿入ブロック４８０４，４８０５間に配置されている。ロックスライダ４８０２は、スライダ本体４８２１と、スライダ本体４８２１から略垂直に突出する解除レバー４８２２とを有する。スライダ本体４８２１は、前後方向に対して略垂直な平面を有する板体からなる。ロックスライダ４８０２は、左右方向に長い長方形に形成されており、２つの短辺である左端及び右端と、２つの長辺である上端及び下端を有している。

【４３４０】

ロックスライダ４８０２には、２つのガイド溝４８２４が形成されている。２つのガイド溝４８２４は、それぞれ左右方向に延びている。２つのガイド溝４８２４には、接続ベース４８０１のベース板４８１１に固定された２つの係合ピン４８１０がそれぞれ係合する。２つの係合ピン４８１０は、ロックスライダ４８０２の前後方向及び上下方向への移動を規制する。その結果、ロックスライダ４８０２は、左右方向に移動可能となる。

【４３４１】

ロックスライダ４８０２の上端には、ばね接続突部４８２５が形成されている。ばね接続突部４８２５には、付勢部材４８０３の他端が接続される。付勢部材４８０３、例えば、引っ張りコイルばねであり、ロックスライダ４８０２を左右方向の左側（トップガイドピン挿入ブロック４８０４側）へ付勢する。本発明に係る付勢部材としては、引っ張りコイルばねに限定されず、圧縮コイルばねやその他のばね部材、ゴム部材等を適用することができる。

【４３４２】

ロックスライダ４８０２は、付勢部材４８０３に付勢されると、ロック位置に配置される。ロック位置において、ロックスライダ４８０２における２つのガイド溝４８２４の右側端部が、２つの係合ピン４８１０に当接する。これにより、ロックスライダ４８０２は、ロック位置に配置された状態を維持する。一方、付勢部材４８０３の付勢力に抗してロックスライダ４８０２を左右方向の右側（トップガイドピン挿入ブロック４８０５側）へ移動させると、ロックスライダ４８０２における２つのガイド溝４８２４の左側端部が、

２つの係合ピン４８１０に当接する。これにより、ロックスライダ４８０２の左右方向の右側への移動が係止される。

【４３４３】

ロックスライダ４８０２の上端には、２つのロック爪４８２６と、２つのロック用切欠き４８２７が形成されている。ロック爪４８２６は、左右方向の左側に突出している。ロック爪４８２６の左側の端面には、傾斜面が形成されている。傾斜面は、左右方向の左側へ向かうにつれて徐々に低くなるように傾いている。ロック用切欠き４８２７は、上下方向においてロック爪４８２６に対向している。

【４３４４】

解除レバー４８２２は、ロックスライダ４８０２の上端から後方へ略垂直に突出している。解除レバー４８２２は、ロックスライダ４８０２を付勢部材４８０３の付勢力に抗して移動させる際に把持する（指を掛ける）突起である。

【４３４５】

（パネル側接続部）

図３５１に示すように、トップパネル４１０２のパネル側接続部４１２３は、カバーケース４８３１と、カバーケース４８３１に配置された２つの接続端子４８３２と、２つのガイドピン４８３３と、２つのロックピン４８３４を有している。

【４３４６】

カバーケース４８３１は、パネル枠４１２１の下辺部に設けられた首部４８３０に連続しており、上マスク本体４１０１における本体枠４１０４の凹部４１０１ｂ（図３４９参照）を覆う。カバーケース４８３１は、上面カバー部４８４１と、背面カバー部４８４２とを有している。

【４３４７】

上面カバー部４８４１は、上下方向に略垂直な平面を有し、左右方向に長い長方形の板体からなる。上面カバー部４８４１は、本体枠４１０４の上辺部における上面と同一平面を形成する。背面カバー部４８４２は、前後方向に略垂直な平面を有し、左右方向に長い長方形の板体からなる。背面カバー部４８４２は、本体枠４１０４の上辺部における背面と同一平面を形成する。

【４３４８】

２つの接続端子４８３２と、２つのガイドピン４８３３と、２つのロックピン４８３４は、固定部材４８３６を介して上面カバー部４８４１に固定されている。固定部材４８３６は、上下方向に直交する平面を有する固定板部４８４４と、固定板部４８４４に連続する前板部４８４５及び後板部４８４６とを有する。

【４３４９】

固定板部４８４４は、左右方向に長い長方形の板体からなる。固定板部４８４４は、上述した上面カバー部４８４１にねじを用いて固定される。固定板部４８４４の下方を向く平面には、２つの接続端子４８３２と、２つのガイドピン４８３３がそれぞれねじを用いて固定されている。２つの接続端子４８３２は、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。また、２つのガイドピン４８３３は、２つの接続端子４８３２よりも後方に位置し、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。

【４３５０】

２つのガイドピン４８３３は、固定板部４８４４に固定される基端部と、基端部と反対側の先端部を有している。２つのガイドピン４８３３は、上述した本体側接続部４１０９の２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８（図３５０参照）に挿入される。２つのガイドピン４８３３の先端部は、先端に向かうにつれて細くなるテーパー状に形成されている。これにより、２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８に２つのガイドピン４８３３を容易に挿入することができる。

【４３５１】

前板部４８４５及び後板部４８４６は、固定板部４８４４の２つの長辺にそれぞれ連続しており、下方に突出している。前板部４８４５及び後板部４８４６は、前後方向に略垂

直な平面を有する板体からなる。前板部４８４５及び後板部４８４６には、２つのロックピン４８３４が固定されている。

【４３５２】

２つのロックピン４８３４は、前後方向に延びる円柱状に形成されている。ロックピン４８３４の軸方向の一端は、前板部４８４５に固定されており、ロックピン４８３４の軸方向の他端は、後板部４８４６に固定されている。これにより、２つのロックピン４８３４が固定部材４８３６に強固に固定されている。２つのロックピン４８３４は、上述した本体側接続部４１０９の２つのロックピン用溝４８１４（図３５０参照）に挿入される。

【４３５３】

（トップパネルの接続作業）

次に、上マスク本体４１０１に対するトップパネル４１０２の接続作業について説明する。パチスロ機４００１は、トップパネル４１０２を上マスク本体４１０１から外した状態（図３２０参照）で出荷される。トップパネル４１０２は、出荷先で上マスク本体４１０１に接続される。このとき、上マスク本体４１０１を自立させることができるため、トップパネル４１０２の接続作業を容易に行うことができる。

【４３５４】

上マスク本体４１０１にトップパネル４１０２を接続する場合は、上マスク本体４１０１の上方でトップパネル４１０２を把持し、トップパネル４１０２を下方に移動させる。そして、トップパネル４１０２の２つのガイドピン４８３３（図３５１参照）を、上マスク本体４１０１の２つのガイドピン用貫通孔４８１７，４８１８（図３５０参照）に挿入する。

【４３５５】

これにより、トップパネル４１０２の２つの接続端子４８３２が、上マスク本体４１０１の２つの接続端子４７６１（図３５０参照）に接続される。また、トップパネル４１０２の２つのロックピン４８３４が、上マスク本体４１０１の２つのロックピン用溝４８１４に挿入される。そして、２つのロックピン４８３４は、上マスク本体４１０１における２つのロック爪４８２６の傾斜面を下方に押圧する。これにより、ロックスライダ４８０２は、付勢部材４８０３の付勢に抗してロック位置から左右方向の右側（トップガイドピン挿入ブロック４８０５側）へ移動する。

【４３５６】

さらに、トップパネル４１０２を下降させると、２つのロックピン４８３４は、上マスク本体４１０１の２つのロック爪４８２６を乗り越えて、２つのロック爪４８２６の下方に移動する。このとき、ロックスライダ４８０２は、付勢部材４８０３に付勢されてロック位置に戻る。これにより、ロックピン４８３４は、ロック爪４８２６とロック用切欠き４８２７との間に配置される。その結果、ロック爪４８２６とロック用切欠き４８２７が、ロックピン４８３４の上下方向への移動を係止する。

【４３５７】

また、ロックピン４８３４は、左右方向いおいて、ロック用切欠き４８２７とロックピン用溝４８１４との間に配置される。その結果、ロック用切欠き４８２７とロックピン用溝４８１４が、ロックピン４８３４の左右方向への移動を係止する。したがって、ロックピン４８３４の上下左右への移動が規制され、トップパネル４１０２が上マスク本体４１０１に固定される。これにより、上マスク本体４１０１に対するトップパネル４１０２の接続作業が完了する。

【４３５８】

上マスク本体４１０１からトップパネル４１０２を取り外す場合は、まず、解除レバー４８２２を操作して、ロックスライダ４８０２を左右方向の右側（トップガイドピン挿入ブロック４８０５側）へ押圧する。これにより、ロックスライダ４８０２は、付勢部材４８０３の付勢に抗してロック位置から左右方向の右側（トップガイドピン挿入ブロック４８０５側）へ移動する。その結果、ロックピン４８３４とロック爪４８２６の係合が外れて、トップパネル４１０２を上方へ移動させることが可能になる。そして、トップパネル

４１０２を把持して上方へ移動させると、トップパネル４１０２は、上マスク本体４１０１から外れる。

【４３５９】

［上マスク本体の構成］

次に、上マスク本体４１０１の構成について、図３５２及び図３５３を参照して説明する。

図３５２は、上マスク本体の分解斜視図である。図３５３は、上マスク本体を背面側から見た斜視図である。

【４３６０】

図３５２に示すように、上マスク本体４１０１は、本体枠４１０４と、表示装置４１０５と、裏押さえ枠部４８５１と、透明カバー４８５２と、表押さえ枠部４８５３とを有している。裏押さえ枠部４８５１と表押さえ枠部４８５３は、透明カバー４８５２の周縁部を挟持する。

【４３６１】

表示装置４１０５は、縦長の表示面４１０５ａを有している。上マスク本体４１０１の上部は、遊技店の遊技島（不図示）に配置されたデータ表示器を遮蔽する可能性がある。そこで、表示装置４１０５は、表示面４１０５ａの上部に各パチスロ機４００１の遊技に関するデータを表示可能に構成されている。各パチスロ機４００１の遊技に関するデータとしては、例えば、ボーナス（疑似ボーナス）終了時から現在までのゲーム数、電源投入時から現在までの累計ゲーム数、ボーナス（疑似ボーナス）の当選回数、ボーナス（疑似ボーナス）までのゲーム数（１００ゲーム単位の棒グラフ等であってもよい）の履歴、日ごとのボーナス（疑似ボーナス）当籤回数の履歴等を挙げることができる。

【４３６２】

なお、遊技に関するデータは、表示面４１０５ａの上部に常時表示することに限定されず、所定のタイミングで表示するようにしてもよい。所定のタイミングとしては、例えば、ボーナス（疑似ボーナス）当籤時、デモ画面表示時（遊技待機中）、遊技者によるデータ表示操作が行われたときなどを挙げることができる。また、遊技に関するデータの表示は、例えば、表示面４１０５ａ全体に演出画面を表示する際に中断し、その演出画面の表示の終了後に再開するようにしてもよい。また、遊技に関するデータは、遊技待機中に上部の所定領域に表示し、遊技中に所定領域の表示よりも縮小化して表示するようにしてもよい。

【４３６３】

裏押さえ枠部４８５１は、上下方向に長い長方形の枠状に形成されている。裏押さえ枠部４８５１における左右の側辺部は、背面側に凸となるように湾曲している。裏押さえ枠部４８５１の前面は、前後方向において、透明カバー４８５２の周縁部に対向する。また、裏押さえ枠部４８５１の後面は、前後方向において、表示装置（液晶表示装置）４１０５のベゼルに対向する。すなわち、裏押さえ枠部４８５１は、表示装置４１０５におけるベゼルの目隠し部としての役割を兼ねている。さらに、裏押さえ枠部４８５１は、表示装置４１０５と透明カバー４８５２との間のスペーサーとしての役割も兼ねている。

【４３６４】

透明カバー４８５２は、上下方向に長い長方形の板体からなる。透明カバー４８５２における左右の側辺部は、後面が凸となるように湾曲している。透明カバー４８５２は、例えば、透明或いは半透明のガラスやアクリル樹脂によって形成されている。これにより、表示装置４１０５の表示窓４１１２から露出される３つのリール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒは、透明カバー４８５２を介して視認可能となる。

【４３６５】

また、透明カバー４８５２の裏面における上下方向の下部には、タッチセンサ領域４８５５が形成されている。タッチセンサ領域４８５５と表示装置４１０５の表示面４１０５ａと共にタッチパネルを構成している。タッチセンサ領域４８５５は、表示面４１０５ａにおける表示窓４１１２よりも下方の領域に対向する。これにより、タッチ操作を用いた

演出を行う場合に、透明カバー４８５２における３つのリール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒに対向するリール対向領域に、遊技者の手指が接触しないようにすることができる。その結果、透明カバー４８５２のリール対向領域が汚れることを防止して、３つのリール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒの視認性が低下しないようにすることができる。

【４３６６】

タッチパネルによる操作としては、例えば、上記のデータ表示操作、音量・光量調整操作、演出傾向や演出種類の各種カスタム選択操作、演出の一部に含まれる選択操作、「ユニメモ」等の遊技機連動サービスのログイン・ログアウト及び情報表示操作、データ表示、機種サイト等のホームページにアクセスするための二次元バーコードの表示操作を挙げることができる。

【４３６７】

表押さえ枠部４８５３は、上下方向に長い長方形の枠状に形成されている。裏押さえ枠部４８５１における左右の側辺部は、背面側に凸となるように湾曲している。表押さえ枠部４８５３の後面は、前後方向において、透明カバー４８５２の周縁部に対向する。表押さえ枠部４８５３と裏押さえ枠部４８５１は、透明カバー４８５２の周縁部を挟持した状態で本体枠４１０４の正面側にねじを用いて固定されている。

【４３６８】

このように、裏押さえ枠部４８５１、透明カバー４８５２、表押さえ枠部４８５３を表示装置４１０５の前方で重ね合わせる構成にすることで、透明カバー４８５２に外圧が加わっても、表示装置４１０５に影響を及ぼさないようにすることがき、かつ、透明カバー４８５２を強固に固定することができる。また、表示装置４１０５の表示可能な領域のすべてを表示領域として用いることができ、インパクトのある表示演出を行うことができる。

【４３６９】

本体枠４１０４の上辺部における前面側には、上部スピーカユニット４８６１が取り付けられている。また、本体枠４１０４の左側辺部には、左サイドスピーカユニット４８６２が取り付けられ、本体枠４１０４の右側辺部には、右サイドスピーカユニット４８６３が取り付けられている。

【４３７０】

左サイドスピーカユニット４８６２は、スピーカケース４８７１と、側部スピーカ装置４８７２と、側部スピーカカバー４８７３を有している。スピーカケース４８７１は、前面が開口された上下方向に長い筐体状に形成されている。スピーカケース４８７１の内部における上下方向の略中央部には、側部スピーカ装置４８７２が配置されている。

【４３７１】

側部スピーカカバー４８７３は、上下方向に長い略板状に形成されている。側部スピーカカバー４８７３は、スピーカケース４８７１の前面の開口を塞ぐ。側部スピーカカバー４８７３は、側部スピーカ装置４８７２に対向する透音孔４１１１を有している。側部スピーカ装置４８７２から出力される音声は、側部スピーカカバー４８７３の透音孔４１１１を通過する。なお、側部スピーカカバー４８７３の側部スピーカ装置４８７２に対向していない領域には、裏側まで貫通しないダミーの透音孔が形成されている。これにより、側部スピーカカバー４８７３の全体に透音孔が形成されているように見せることができる。

【４３７２】

右サイドスピーカユニット４８６３は、スピーカケース４８７５と、側部スピーカ装置４８７６と、スピーカカバー４８７７を有している。スピーカケース４８７５は、前面が開口された上下方向に長い筐体状に形成されている。スピーカケース４８７５の内部における上下方向の略中央部には、側部スピーカ装置４８７６が配置されている。

【４３７３】

側部スピーカカバー４８７７は、上下方向に長い略板状に形成されている。側部スピー

カカバー４８７７は、スピーカケース４８７５の前面の開口を塞ぐ。側部スピーカカバー４８７７は、側部スピーカ装置４８７６に対向する透音孔４１１１を有している。側部スピーカ装置４８７６から出力される音声は、側部スピーカカバー４８７７の透音孔４１１１を通過する。なお、側部スピーカカバー４８７７の側部スピーカ装置４８７６に対向していない領域には、裏側まで貫通しないダミーの透音孔が形成されている。これにより、側部スピーカカバー４８７７の全体に透音孔が形成されているように見せることができる。

【４３７４】

図３５３に示すように、スピーカケース４８７１の後面における上部には、取っ手用凹部４８７４が形成されている。また、スピーカケース４８７５の後面における上部には、取っ手用凹部４８７８が形成されている。すなわち、スピーカケース４８７１，４８７５は、側部スピーカ装置４８７２，４８７６を収容するケースと、上マスク本体４１０１を把持する際の取っ手とを兼ねている。これにより、上マスクＵＭの表示面４１０５ａや装飾部を触らずに上マスクＵＭ（上マスク本体４１０１）を把持することができる。

【４３７５】

本体枠４１０４の背面における略中央部には、副制御基板４７５１が配置されている。副制御基板４７５１は、表示装置４１０５、側部スピーカ装置４８７２，４８７６、上部ランプ４１０７、後述する上部スピーカ装置４９９２，４９９３等の駆動を制御する。

【４３７６】

上マスク本体４１０１の副制御基板４７５１は、キャビネットＧに配置されたキャビネット側スピーカ装置４０１１（図３１７参照）と対向する。そのため、キャビネット側スピーカ装置４０１１から出力された音声が上マスク本体４１０１の前方から外部に放出されにくい。そこで、本実施形態では、副制御基板４７５１の左右の側方に、複数の音通過孔４８７９を形成している。複数の音通過孔４８７９は、透音孔４１１０に連通している。キャビネット側スピーカ装置４０１１から出力される音声は、複数の音通過孔４８７９を通って透音孔４１１０に到達し、透音孔４１１０からパチスロ機４００１の外部に放出される。これにより、キャビネット側スピーカ装置４０１１から出力される音声を効率よく遊技者に聞かせることができる。

【４３７７】

（上部スピーカユニット）

次に、上部スピーカユニット４８６１の構成について、図３５４～図３５６を参照して説明する。

図３５４は、上部スピーカユニット４８６１を正面側から見た斜視図である。図３５５は、上部スピーカユニット４８６１の分解斜視図である。図３５６は、上部スピーカユニット４８６１におけるフレームレンズの斜視図である。図３５７は、上部スピーカユニット４８６１からスピーカカバーを取り外した状態を示す図である。

【４３７８】

図３５４及び図３５５に示すように、上部スピーカユニット４８６１は、スピーカベース４８８１と、フレームレンズ４８８２と、上部スピーカカバー４８８３とを有している。

【４３７９】

スピーカベース４８８１は、上部スピーカケース４９９１と、上部スピーカ装置４９９２，４９９３と、上左部ランプ４９９４と、上右部ランプ４９９５と、上部ランプ４１０７とを有している。

【４３８０】

上部スピーカケース４９９１は、中空の略直方体状に形成されている。上部スピーカケース４９９１の内部には、上部ランプ４１０７と、上部スピーカ装置４９９２，４９９３と、ＬＥＤ基板（不図示）が配置されている。上部ランプ４１０７は、上部スピーカケース４９９１における左右方向の略中央部に位置し、上部スピーカ装置４９９２，４９９３は、上部ランプ４１０７の左右方向の両側に位置する。

【４３８１】
上部スピーカケース４９９１の前面及び上面には、上部ランプ４１０７を露出させるランプ用開口部４９９１ａが形成されている。上部ランプ４１０７は、例えば、光源であるＬＥＤが実装されたＬＥＤ基板と、導光部材と、光透過カバーとを有している。上左部ランプ４９９４は、上部スピーカケース４９９１の左側面に配置されている。上右部ランプ４９９５は、上部スピーカケース４９９１の右側面に配置されている。上左部ランプ４９９４及び上右部ランプ４９９５は、例えば、光源であるＬＥＤが実装されたＬＥＤ基板と、光透過カバーとを有している。
【４３８２】
上部スピーカケース４９９１の前面には、スピーカ用開口部４９９１ｂ，４９９１ｃと、複数のＬＥＤ用開口部４９９１ｄが形成されている。スピーカ用開口部４９９１ｂ，４９９１ｃは、上部スピーカ装置４９９２，４９９３の放音部を露出させる。複数のＬＥＤ用開口部４９９１ｄは、複数のＬＥＤ４９９６を露出させる。複数のＬＥＤ４９９６は、上部スピーカケース４９９１の内部に配置されたＬＥＤ基板に実装されている。また、上部スピーカケース４９９１の上面において、上部ランプ４１０７の左右方向の両側には、それぞれＬＥＤ基板４９９８，４９９９が取り付けられている。ＬＥＤ基板４９９８，４９９９には、それぞれ複数のＬＥＤ４９９７が実装されている。
【４３８３】
フレームレンズ４８８２は、複数のＬＥＤ４９９６，４９９７に対向する。フレームレンズ４８８２には、複数のＬＥＤ４９９６，４９９７から出射された光が入射される。フレームレンズ４８８２の構成については、後で図３５６を参照して説明する。
【４３８４】
上部スピーカカバー４８８３は、側面形状が略Ｌ字状の板体からなる。上部スピーカカバー４８８３は、上部スピーカケース４９９１の上面及び前面を覆う。上部スピーカカバー４８８３には、上部ランプ４１０７を露出させるランプ用開口部４８８３ａが形成されている。上部スピーカカバー４８８３は、透音孔４１０８を有している。透音孔４１０８は、上部スピーカカバー４８８３におけるフレームレンズ４８８２に対向する領域に形成されている。上部スピーカ装置４９９２，４９９３から出力される音声は、透音孔４１０８を通過する。
【４３８５】
（フレームレンズ）
図３５６に示すように、フレームレンズ４８８２は、スピーカ対向筒部５００１，５００２と、上導光部５００３，５００４と、前導光部５００５とを有している。
【４３８６】
スピーカ対向筒部５００１は、筒状に形成されている。スピーカ対向筒部５００１の軸方向は、前後方向に略平行である。スピーカ対向筒部５００１の筒孔は、上部スピーカ装置４９９２（図３５５参照）の放音部に対向する。スピーカ対向筒部５００１の内周面における上部には、上下方向に略垂直な反射平面５００１ａが形成されている。反射平面５００１ａは、上部スピーカ装置４９９２から出力された音声を反射させる。
【４３８７】
スピーカ対向筒部５００２は、スピーカ対向筒部５００１と同様に、筒状に形成されている。スピーカ対向筒部５００２の筒孔は、上部スピーカ装置４９９３（図３５５参照）の放音部に対向する。スピーカ対向筒部５００２の内周面における上部には、上下方向に略垂直な反射平面５００２ａが形成されている。反射平面５００２ａは、上部スピーカ装置４９９３から出力された音声を反射させる。
【４３８８】
上導光部５００３は、スピーカ対向筒部５００１から後方に突出する板体からなる。上導光部５００３は、上方を向く光出射面５００３ａと、下方を向く光入射面とを有する。上導光部５００３の光入射面は、スピーカベース４８８１のＬＥＤ基板４９９８（図３５５参照）に対向する。ＬＥＤ基板４９９８に実装された複数のＬＥＤ４９９７から出射さ

れた光は、上導光部５００３の光入射面に入射する。上導光部５００３は、光入射面から入射した複数のＬＥＤ４９９７の光を拡散して、光出射面５００３ａから均等に出射する。

【４３８９】

上導光部５００４は、スピーカ対向筒部５００２から後方に突出する板体からなる。上導光部５００４は、上方を向く光出射面５００４ａと、下方を向く光入射面とを有する。上導光部５００４の光入射面は、スピーカベース４８８１のＬＥＤ基板４９９９（図３５５参照）に対向する。ＬＥＤ基板４９９９に実装された複数のＬＥＤ４９９７から出射された光は、上導光部５００４の光入射面に入射する。上導光部５００４は、光入射面から入射した複数のＬＥＤ４９９７の光を拡散して、光出射面５００４ａから均等に出射する。

【４３９０】

前導光部５００５は、左右方向に長い略板状に形成されている。前導光部５００５は、前方を向く光出射面５００５ａと、後方を向く光入射面とを有する。前導光部５００５の光入射面は、スピーカベース４８８１の複数のＬＥＤ４９９６（図３５５参照）に対向する。複数のＬＥＤ４９９６から出射された光は、前導光部５００５の光入射面に入射する。前導光部５００５は、光入射面から入射した複数のＬＥＤ４９９７の光を拡散して、光出射面５００５ａから均等に出射する。

【４３９１】

上導光部５００３の光出射面５００３ａ、上導光部５００４の光出射面５００４ａ、及び前導光部５００５の光出射面５００５ａから出射された光は、上部スピーカカバー４８８３の透音孔４１０８を通過する。これにより、上部スピーカカバー４８８３に覆われた上部スピーカ装置４９９２，４９９３が発光しているように見せることができ、光を用いた演出の興趣を向上させることができる。

【４３９２】

図３５７示すように、上部スピーカユニット４８６１のスピーカ対向筒部５００２は、下方を向いた反射平面５００２ａを有している。これにより、反射平面５００２ａは、上部スピーカ装置４９９３から出力されて上方に向かう音声を下方に向けて反射させる。また、スピーカ対向筒部５００１（図３５６参照）の反射平面５００１ａは、上部スピーカ装置４９９２（図３５６参照）から出力されて上方に向かう音声を下方に向けて反射させる。その結果、上部スピーカユニット４８６１よりも下方に位置する遊技者に、上部スピーカ装置４９９２，４９９３から出力された音声を効率よく届けることができる。

【４３９３】

なお、上部スピーカ装置４９９２，４９９３から出力された音声を下方（遊技者側）に向かわせるには、放音部が斜め下方を向くように上部スピーカ装置４９９２，４９９３を配置することが考えられる。そして、スピーカ対向筒部を一般的な円錐台形に形成する。この場合は、上部スピーカ装置４９９２，４９９３を配置するためのスペースを広く確保する必要がある。これに対し、本実施形態では、スピーカ対向筒部５００１，５００２に反射平面５００１ａ，５００２ａを設けて、上部スピーカ装置４９９２，４９９３から出力された音声を下方（遊技者側）に向かわせる。したがって、上部スピーカ装置４９９２，４９９３を配置するためのスペースの大型化を抑制すると共に、音声を下方（遊技者側）に向かわせることができる。

【４３９４】

上述した上部スピーカ装置４９９２，４９９３は、遊技者（の耳）よりも上方に配置されているため、スピーカ対向筒部５００１，５００２の内周面における上部に、下方向への指向性を待たせる反射平面５００１ａ，５００２ａを設けた。例えば、遊技者（の耳）よりも下方にスピーカ装置が配置されている場合に、本実施形態と同様の効果を発揮させるには、スピーカ対向筒部の内周面における下部に、上方向のへの指向性を待たせる反射平面を設けるとよい。また、左右のスピーカ装置においても同様であり、スピーカ対向筒部の内周面における遊技者がいる方向を反対側に反射平面を設けることにより、本実施形

態と同様の効果を得ることができる。

【４３９５】

［音量つまみの構成］

次に、操作部ユニット４２０２（図３２４参照）における音量つまみ４２２７の構成について、図３５８及び図３５９を参照して説明する。

図３５８は、音量つまみ４２２７の斜視図である。図３５９は、音量つまみ４２２７の分解斜視図である。

【４３９６】

図３５８及び図３５９に示すように、音量つまみ４２２７は、つまみベース５０１１と、光拡散部材５０１２と、つまみケース５０１３と、導光部材５０１４と、操作つまみ５０１５とを有している。

【４３９７】

図３５９に示すように、つまみベース５０１１は、カバー５０２１と、つまみ用基板５０２２とを有している。カバー５０２１は、略四角形の板体からなり、つまみケース５０１３の後述する開口を塞ぐ。つまみ用基板５０２２は、カバー５０２１より小さい四角形に形成されており、カバー５０２１の一方の平面に固定されている。

【４３９８】

つまみ用基板５０２２のカバー５０２１と対向する側と反対側の実装面には、ロータリスイッチ５０２３と、接続端子５０２４と、複数（本実施形態では３つ）のＬＥＤ５０２５が実装されている。ロータリスイッチ５０２３は、つまみ用基板５０２２の実装面における略中央に配置されている。複数のＬＥＤ５０２５は、ロータリスイッチ５０２３の周りに適当な間隔を空けて並んでいる。接続端子５０２４は、つまみ用基板５０２２の一辺に沿うように配置されている。

【４３９９】

光拡散部材５０１２は、同軸の円筒状に形成された第１筒部５０３１と第２筒部５０３２を有している。第１筒部５０３１は、つまみ用基板５０２２側が開口された有底の筒状に形成されている。第２筒部５０３２は、第１筒部５０３１の底部の端面から突出している。第１筒部５０３１の径は、第２筒部５０３２の径よりも大きく、第１筒部５０３１の筒孔と第２筒部５０３２の筒孔は、連通している。

【４４００】

第１筒部５０３１のつまみ用基板５０２２側の端面は、光入射面５０３１ａであり、つまみ用基板５０２２に実装された複数のＬＥＤ５０２５と対向する。第１筒部５０３１の底部の端面は、光出射面５０３１ｂであり、導光部材５０１４と対向する。光拡散部材５０１２は、光入射面５０３１ａから入射した光を光出射面５０３１ｂによって拡散して出射する。

【４４０１】

第１筒部５０３１の光入射面５０３１ａには、複数の支持脚部５０３３が形成されている。複数の支持脚部５０３３は、第１筒部５０３１の周方向に適当な間隔を空けて並んでおり、つまみ用基板５０２２の実装面に接触する。これにより、第１筒部５０３１の光入射面５０３１ａとつまみ用基板５０２２の実装面との間に、複数のＬＥＤ５０２５を配置するスペースが形成される。

【４４０２】

第１筒部５０３１の外周面には、遮光壁５０３４が形成されている。遮光壁５０３４は、第１筒部５０３１の外周面から径方向の外側に突出している。遮光壁５０３４は、第１筒部５０３１の軸方向において。接続端子５０２４と対向する。遮光壁５０３４は、光出射面５０３１ｂから出射された光が接続端子５０２４の上方を通らないように遮光する。これにより、つまみケース５０１３の後述する端子用開口部５０４２から光が漏れないようにすることができる。

【４４０３】

第１筒部５０３１の光出射面５０３１ｂには、嵌合筒部５０３５が設けられている。嵌

合筒部５０３５は、第１筒部５０３１及び第２筒部５０３２と同軸の筒状に形成されている。嵌合筒部５０３５は、導光部材５０１４に嵌合する。

【４４０４】

つまみケース５０１３は、有底の角筒状に形成されており、底部５０４１を有している。つまみケース５０１３の底部５０４１は、四角形であり、つまみケース５０１３は、４つの側壁を有している。つまみケース５０１３の底部５０４１と反対側の開口は、つまみベース５０１１のカバー５０２１によって塞がれる。

【４４０５】

つまみケース５０１３の１つの側壁には、端子用開口部５０４２が形成されている。端子用開口部５０４２は、つまみ用基板５０２２に実装された接続端子５０２４を露出させる。また、つまみケース５０１３の残りの３つの側壁には、それぞれブラケット５０４３が形成されている。ブラケット５０４３は、側壁の外面から略垂直に突出している。各ブラケット５０４３には、ねじ貫通孔を有している。ブラケット５０４３のねじ貫通孔には、音量つまみ４２２７を操作部ユニット４２０２の操作部ベース４２２１に固定するためのねじが貫通する。

【４４０６】

つまみケース５０１３の底部５０４１には、円形の嵌合孔５０４４が形成されている。嵌合孔５０４４には、光拡散部材５０１２の第１筒部５０３１が嵌合する。また、嵌合孔５０４４には、光拡散部材５０１２の遮光壁５０３４との干渉を避けるための切欠き部５０４５が形成されている。

【４４０７】

また、つまみケース５０１３の底部５０４１には、複数の位置決め突部５０４６が形成されている。複数の位置決め突部５０４６は、底部５０４１から略垂直に突出しており、導光部材５０１４の後述するフランジ部５０５２の輪郭に沿うように形成されている。複数の位置決め突部５０４６は、導光部材５０１４のフランジ部５０５２と係合し、導光部材５０１４を位置決めする。

【４４０８】

導光部材５０１４は、円筒状の筒部５０５１と、筒部５０５１の軸方向の一端に設けられたフランジ部５０５２とを有している。筒部５０５１の内径は、光拡散部材５０１２の第１筒部５０３１の外径よりも大きい。光拡散部材５０１２の第１筒部５０３１は、導光部材５０１４における筒部５０５１の筒孔に挿入される。ロータリスイッチ５０２３は、光拡散部材５０１２の第１筒部５０３１及び第２筒部５０３２の筒孔と、導光部材５０１４における筒部５０５１の筒孔を貫通する。

【４４０９】

筒部５０５１の一方の端面は、光入射面であり、光拡散部材５０１２の光出射面５０３１ｂに対向する。筒部５０５１の他方の端面は、光出射面５０５１ａである。光拡散部材５０１２は、光入射面から入射した光拡散部材５０１２の光を導光して、光出射面５０５１ａから均等に出射する。光出射面５０５１ａは、操作部ユニット４２０２の操作部ベース４２２１（図３２４参照）に設けたつまみ用貫通孔から露出される。筒部５０５１の光入射面は、光出射面５０５１ａよりも幅広に形成されている。筒部５０５１の光入射面には、光拡散部材５０１２の嵌合筒部５０３５が嵌合する嵌合溝（不図示）が形成されている。

【４４１０】

フランジ部５０５２は、筒部５０５１の光入射面側の端部から径方向外側に突出している。フランジ部５０５２は、つまみケース５０１３の底部５０４１に載置され、複数の位置決め突部５０４６によって位置決めされる。そして、フランジ部５０５２は、つまみケース５０１３の底部５０４１にねじを用いて固定される。また、フランジ部５０５２には、光拡散部材５０１２の遮光壁５０３４を収容する壁収容部５０５３を有している。

【４４１１】

操作つまみ５０１５は、略円柱状に形成されている。操作つまみ５０１５の軸方向の一

方の端面には、ロータリスイッチ５０２３が嵌合されるスイッチ嵌合孔（不図示）が形成されている。操作つまみ５０１５の外周面には、ねじ貫通孔（不図示）が形成されている。操作つまみ５０１５は、ねじ貫通孔（不図示）を貫通するねじを用いてロータリスイッチ５０２３に固定されている。これにより、ロータリスイッチ５０２３は、操作つまみ５０１５と一緒に回転する。

【４４１２】

操作つまみ５０１５の外径は、導光部材５０１４における筒部５０５１の内径より少し小さい。操作つまみ５０１５の外周面における軸方向の中央部からスイッチ嵌合孔（不図示）を設けた側の端部までは、導光部材５０１４における筒部５０５１の内周面に摺動可能に嵌合する。そして、操作つまみ５０１５の軸方向の中央部からスイッチ嵌合孔（不図示）を設けた側と反対側の端部までは、導光部材５０１４における筒部５０５１の筒孔から突出する。この突出部分は、操作部ユニット４２０２の操作部ベース４２２１（図３２４参照）に設けたつまみ用貫通孔を貫通する。

【４４１３】

このような構成を有する音量つまみ４２２７は、操作つまみ５０１５の周囲を囲む光出射面５０５１ａを均一的に光らせる演出を行うことができる。また、音量を調節可能である場合に、光出射面５０５１ａを光らせることができる。これにより、音量を調節可能であるタイミングを遊技者に認識させることができ、音量調節を円滑に行わせることができる。

【４４１４】

また、本実施形態に係る音量つまみとしては、油圧式のロータリダンパを用いる構造を採用して、操作つまみを軸方向に押す度に、筒部５０５１からのせり上がりと筒部５０５１への収納を繰り返すようにしてもよい。

【４４１５】

［ポケット収納部の構成］

次に、下マスクユニットＤＭ（図３２１参照）におけるポケット収納部４２１１の構成について、図３６０を参照して説明する。

図３６０は、ポケット収納部４２１１の斜視図である。

【４４１６】

図３６０に示すように、ポケット収納部４２１１は、上面及び前面にかけて大きく開口した開口部５０６７を有する中空の略直方体状に形成されている。ポケット収納部４２１１は、天板部５０６１と、底板部５０６２と、左側板部５０６３と、右側板部５０６４と、前板部５０６５と、奥板部５０６６とを有している。

【４４１７】

ポケット収納部４２１１の奥板部５０６６は、下マスクベース４２０１（図３２１参照）の正面にねじを用いて固定されている。奥板部５０６６を下マスクベース４２０１に固定するねじは、下マスクベース４２０１を内面側（背面側）から貫通する。しかし、本発明に係る奥板部５０６６は、下マスクベース４２０１を正面側から貫通するねじを用いて固定してもよい。この場合は、下マスクベース４２０１（下マスクＤＭ）を下ドアベースＤＢから取り外さなくても、下マスクベース４２０１に対してポケット収納部４２１１を着脱することができる。

【４４１８】

天板部５０６１には、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃが取り付けられている。３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃは、非接触で物体との距離を測定するセンサ（測距センサ）である。３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃは、天板部５０６１に設けられた開口部を通して、底板部５０６２に置かれた物体を検出する。３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃとしては、例えば、反射型光学センサを採用することができる。なお、ポケット収納部４２１１に設ける物体検出センサとしては、透過型光学センサや、超音波センサ等を採用してもよい。

【４４１９】
物体検出センサ５０７１Ａは、天板部５０６１における左側端部に配置されており、底板部５０６２の左側端部に置かれた物体（例えば、遊技者が所持する携帯端末、本や雑誌、飲料水のボトル等）を検出する。物体検出センサ５０７１Ｂは、天板部５０６１における中央部に配置されており、底板部５０６２の中央部に置かれた物体を検出する。物体検出センサ５０７１Ｃは、天板部５０６１における右側端部に配置されており、底板部５０６２の右側端部に置かれた物体を検出する。これにより、ポケット収納部４２１１における底板部５０６２に置かれた物体を確実に検出することができる。
【４４２０】
遊技者による操作が所定期間に達するまで行われなかった場合に、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃの何れかが物体を検出すると、表示装置４１０５（図３１５参照）の表示面４１０５ａに「ＫＥＥＰ」や「休憩中」などの遊技中であることを報知する文字や図を表示させる。これにより、遊技者が離席中である台であるか、空き台であるかを遊技する遊技機を選んでいる人や店員に知らせることができる。さらに、遊技者が遊技の終了操作を行った場合に、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃの何れかが物体を検出すると、表示面４１０５ａに「忘れ物にご注意ください」などのポケット収納部４２１１にある荷物の取り忘れに対して注意を促す文字や図を表示させる。これにより、遊技者の忘れ物を抑制或いは防止することができる。
【４４２１】
また、天板部５０６１には、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃの何れかの投光部を閉塞可能なスライダを設けてもよい。手荷物を持たずに遊技している遊技者は、離席する際にスライダを操作して、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃの何れかの投光部を閉塞する。これにより、底板部５０６２に物体を置いた場合と同じ状況にすることができる。例えば、回転式のスライダを設けて、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃの何れかの投光部を閉塞した場合に、スライダの一部が前方（遊技者側）に突出するようにしてもよい。この場合は、表示面４１０５ａに「ＫＥＥＰ」や「休憩中」などの文字が表示される前（遊技者による操作が行われていない時間が所定時間に達していない場合）のタイミングであっても、パチスロ機４００１に接近することにより、遊技者が離席中であるか否かを確認できる。
【４４２２】
底板部５０６２の中央部には、排水口５０７２が形成されている。排水口５０７２は、上下方向において、物体検出センサ５０７１Ｂに対向しないように、物体検出センサ５０７１Ｂよりも前方に位置している。ポケット収納部４２１１内において液体をこぼした場合は、排水口５０７２から排水することができる。また、底板部５０６２の内面は、中央に向かうにつれて低くなるような傾斜面を有している。これにより、ポケット収納部４２１１内の液体を排水口５０７２に導くことができる。
【４４２３】
前板部５０６５には、左貫通孔５０７３と、右貫通孔５０７４が形成されている。左貫通孔５０７３は、前板部５０６５の左側の端部に位置し、右貫通孔５０７４は、前板部５０６５の右側の端部に位置している。例えば、パチスロ機４００１の近傍に設けられた充電設備を使用して携帯端末の充電を行う場合に、左貫通孔５０７３や左貫通孔５０７３を通した充電ケーブルを、ポケット収納部４２１１の底板部５０６２に置いた携帯端末に接続することができる。
【４４２４】
［第４変形例］
次に、第８実施形態に係る遊技機の第４変形例について説明する。第４変形例が、第８実施形態に係る遊技機と異なる点は、下マスクＤＭの下部に設けられる発光スピーカユニット５１０１である。そのため、ここでは、第４変形例に係る発光スピーカユニット５１０１について説明する。
【４４２５】

［発光スピーカユニット］

発光スピーカユニット５１０１の構成について、図３６１～図３６３を参照して説明する。

図３６１は、発光スピーカユニット５１０１の斜視図である。図３６２は、発光スピーカユニット５１０１の分解斜視図である。図３６３は、発光スピーカユニット５１０１の導光部材にＬＥＤ基板を固定した状態を背面側からみた斜視図である。

【４４２６】

発光スピーカユニット５１０１は、下マスクＤＭにおける下マスクベース４２０１（３２１）の下部に取り付けられている。発光スピーカユニット５１０１は、２つ設けられており、２つの発光スピーカユニット５１０１は、左右対称に形成されている。第４変形例では、左側に配置される発光スピーカユニット５１０１を例に挙げて、構成を説明する。

【４４２７】

図３６１及び図３６２に示すように、発光スピーカユニット５１０１は、下部スピーカ装置４２１８と、ベース部材５１１１と、ＬＥＤ基板５１１２と、導光部材５１１３と、スピーカカバー５１１４と、装飾カバー５１１５とを有している。

【４４２８】

図３６２に示すように、下部スピーカ装置４２１８は、コーン型の振動板４２１８ａ（コーン紙）を有している。なお、下部スピーカ装置の振動板は、コーン型に限定されず、ドーム型であってもよい。コーン型やドーム型の振動板は、本発明に係る放音部に対応する。また、下部スピーカ装置は、ホーン型スピーカ装置であってもよい。ホーン型スピーカ装置を採用する場合は、振動板の前方に位置するホーンが、本発明に係る放音部に対応する。

【４４２９】

ベース部材５１１１は、略四角形の板体からなる。ベース部材５１１１は、ＬＥＤ基板５１１２と対向する前面と、下部スピーカ装置４２１８と対向する後面とを有している。下部スピーカ装置４２１８は、ベース部材５１１１の後面にねじを用いて固定される。

【４４３０】

ベース部材５１１１には、スピーカ用開口部５１１１ａと、端子貫通孔５１１１ｂが形成されている。スピーカ用開口部５１１１ａは、円形に形成されており、下部スピーカ装置４２１８の振動板４２１８ａを露出させる。端子貫通孔５１１１ｂは、ベース部材５１１１の右下角部に位置しており、略四角形に形成されている。端子貫通孔５１１１ｂには、ＬＥＤ基板５１１２の後述する接続端子５１２２が貫通する。

【４４３１】

ＬＥＤ基板５１１２は、本発明に係る発光基板に対応する。ＬＥＤ基板５１１２は、スピーカ用開口部５１１１ａ及び下部スピーカ装置４２１８の振動板４２１８ａ（放音部）に沿って湾曲する略Ｕ字状に形成されている。ＬＥＤ基板５１１２は、導光部材５１１３と対向する前面と、ベース部材５１１１と対向する後面とを有している。ＬＥＤ基板５１１２は、導光部材５１１３にねじを用いて固定される（図３６３参照）。

【４４３２】

ＬＥＤ基板５１１２の前面には、複数のＬＥＤ５１２１が実装されている。複数のＬＥＤ５１２１は、ＬＥＤ基板５１１２におけるスピーカ用開口部５１１１ａ（振動板４２１８ａ）側の端部に配置されており、スピーカ用開口部５１１１ａ（振動板４２１８ａ）に沿って適当な間隔を空けて並んでいる。また、ＬＥＤ基板５１１２の後面には、接続端子５１２２が実装されている。

【４４３３】

図３６２及び図３６３に示すように、導光部材５１１３は、導光筒部５１２５と、固定用フランジ部５１２６とを有している。導光筒部５１２５は、ベース部材５１１１側が開口する有底の円筒状に形成されている。導光筒部５１２５の外周部は、光入射部５１２５ａであり、ＬＥＤ基板５１１２に実装された複数のＬＥＤ５１２１と対向する。

【４４３４】

導光筒部５１２５の底部における内面は、下部スピーカ装置４２１８の振動板４２１８ａ（放音部）と対向する。導光筒部５１２５の底部における外面には、光出射部５１２５ｂが形成されている。光出射部５１２５ｂは、複数のＬＥＤ５１２１に応じて区画されており、円形の底部における一部を切り欠いた領域に設定されている。光出射部５１２５ｂには、複数の導光側放音孔５１２７が形成されている。導光部材５１１３は、光入射部５１２５ａから入射した複数のＬＥＤ５１２１の光を導光して、光出射部５１２５ｂから均等に出射する。

【４４３５】

なお、ＬＥＤ基板５１１２を円環状に形成し、複数のＬＥＤ５１２１を、導光筒部５１２５の外周部における全周に亘って対向するように配置してもよい。この場合は、導光筒部５１２５における円形の底部の全面を光出射部にしてもよい。

【４４３６】

固定用フランジ部５１２６は、導光筒部５１２５の外周部（光入射部５１２５ａ）から径方向の外側に突出している。固定用フランジ部５１２６の外形は、ベース部材５１１１と略等しい大きさの四角形に形成されている。ＬＥＤ基板５１１２は、スピーカカバー５１１４と対向する前面と、固定用フランジ部５１２６のベース部材５１１１と対向する後面とを有している。

【４４３７】

固定用フランジ部５１２６の前面には、位置決め突部５１２８が形成されている。位置決め突部５１２８は、固定用フランジ部５１２６の前面から略垂直に突出しており、スピーカカバー５１１４の輪郭に沿うように形成されている。位置決め突部５１２８は、スピーカカバー５１１４の外縁部に係合し、スピーカカバー５１１４を位置決めする。図３６３に示すように、固定用フランジ部５１２６の後面には、ＬＥＤ基板５１１２がねじを用いて固定されている。ＬＥＤ基板５１１２に実装された複数のＬＥＤ５１２１は、ＬＥＤ基板５１１２の内側の端面に沿って並んでおり、導光筒部５１２５の光入射部５１２５ａに対向する。

【４４３８】

スピーカカバー５１１４は、導光部材５１１３の前面に対向する。すなわち、導光部材５１１３は、スピーカカバー５１１４の背面側に配置されている。スピーカカバー５１１４は、光を透過させない樹脂により円形の一部を切り欠いた板状に形成されている。スピーカカバー５１１４は、導光部材５１１３の光出射部５１２５ｂを覆う大きさに設定されている。スピーカカバー５１１４における光出射部５１２５ｂに対向する領域には、複数の放音孔５１２９が形成されている。

【４４３９】

複数の放音孔５１２９は、複数の導光側放音孔５１２７と対向する。複数の放音孔５１２９と複数の導光側放音孔５１２７は、等しい径の円形に形成されている。なお、複数の放音孔５１２９と複数の導光側放音孔５１２７は、円形に限定されず、種々の形状を適宜設定することができる。例えば、複数の放音孔５１２９と複数の導光側放音孔５１２７は、１種類の形状に限定されず、複数種類の形状を採用してもよい。複数の放音孔５１２９と複数の導光側放音孔５１２７に複数種類の形状を採用する場合は、対向する放音孔同士を同一形状、同一サイズにする。

【４４４０】

スピーカカバー５１１４は、位置決め突部５１２８によって導光部材５１１３の前面に位置決めされ、ねじを用いて導光部材５１１３に固定されている。これにより、発光スピーカユニット５１０１に衝撃が加わってもスピーカカバー５１１４と導光部材５１１３との間にズレが生じないようにすることができる。導光部材５１１３にスピーカカバー５１１４を位置決めすると、スピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９が導光部材５１１３の複数の導光側放音孔５１２７と対向する。すなわち、前後方向において、各放音孔５１２９と各導光側放音孔５１２７の中心が一致する。言い換えれば、同じ大きさの各放音孔５１２９，５１２７が完全に重なり連通する。これにより、下部スピーカ装置４２１

８から出力された音声を効率よく外部に放出することができる。また、複数のＬＥＤ５１２１を消灯させた場合に、スピーカカバー５１１４の正面側から導光部材５１１３を視認し難い（導光部材５１１３の存在が目立たない）ようにすることができる。

【４４４１】

装飾カバー５１１５は、スピーカカバー５１１４の正面側に配置されている。装飾カバー５１１５は、光を透過させない樹脂により形成されている。装飾カバー５１１５は、ベース部材５１１１と略等しい大きさの四角形の板体からなる。装飾カバー５１１５は、開口部５１１５ａを有している。開口部５１１５ａは、導光部材５１１３の光出射部５１２５ｂの形状に応じた形状、すなわち、円形の一部を切り欠いた形状に形成されている。開口部５１１５ａは、スピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９を露出させる。また、装飾カバー５１１５は、発光スピーカユニット５１０１における複数の放音孔５１２９が形成された領域以外の体裁面を形成する。

【４４４２】

このように構成された発光スピーカユニット５１０１によれば、スピーカカバー５１１４の背面側に配置された導光部材５１１３の光出射部５１２５ｂから光を出射することにより、スピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９が発光しているように見せることができる。したがって、発光部となる導光部材５１１３をスピーカカバー５１１４の前面側に露出させることなく、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる。また、複数のＬＥＤ５１２１を消灯させた場合に、スピーカカバー５１１４の正面側から導光部材５１１３の存在を確認し難い。そのため、複数のＬＥＤ５１２１を点灯させて、複数の放音孔５１２９が発光しているように見せる演出を行うときに与える印象（インパクト）を大きくすることができる。

【４４４３】

スピーカカバー５１１４の色は、黒やグレーなどの暗色や、シルバーなどの金属色にすることが好ましい。これにより、発光演出時のインパクトをより強める（一見発光演出を行わないように見せかける）ことができる。また、導光部材５１１３は、複数のＬＥＤ５１２１から出射された光を導光可能な透光性を有する必要があり、有色、無色は問わない。が、スピーカカバー５１１４と同系統の色、若しくは無色透明とすることがこのましい。これにより、複数のＬＥＤ５１２１の非発光時に、スピーカカバー５１１４の奥側に発光部材の存在を感じさせないようにすることができる。

【４４４４】

発光スピーカユニット５１０１の発光演出時に、より発光を目立たせたい場合には、スピーカカバー５１１４の厚みよりも導光部材５１１３における導光筒部５１２５の底部（複数の導光側放音孔５１２７を備えた面）の厚みを厚く設計するとよい。この場合は、視差によりスピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９から直接視認可能となる導光部材５１１３の領域が増加し、より目立つ発光演出が可能となる。逆に、発光演出を控え目にしたい場合や、非発光時に前面視で導光部材５１１３の存在を目立たせたくない場合には、スピーカカバー５１１４の厚みよりも導光部材５１１３の厚みを薄く設計するとよい。この場合は、視差によりスピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９から直接視認可能となる導光部材５１１３の領域が減少し、導光部材５１１３がより隠れた状態で発光演出を行うことができる。また、導光部材５１１３の存在を更に目立たないようにしたい場合には、導光部材５１１３の複数の導光側放音孔５１２７の径をスピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９の径よりも大きく設計したり、複数の導光側放音孔５１２７を前面側から奥側に向かって広がるテーパー状に形成したりするとよい。

【４４４５】

スピーカカバー５１１４と導光部材５１１３における導光筒部５１２５の底部（複数の導光側放音孔５１２７を備えた面）は互いに完全に密着させて配置することが好ましい。これにより、発光スピーカユニット５１０１を前面視したときに、視差により複数の放音孔５１２９からのぞく導光部材５１１３の存在を目立たせないようにすることができ、且つ、音響効果を高めることができる。しかし、近隣部材の配置スペースの問題や発光によ

る発熱を放熱すること、あるいは発光演出の見せ方の都合などを考慮して、スピーカカバー５１１４と導光部材５１１３における導光筒部５１２５の底部との間に一定の間隙を設けるようにしてもよい。その場合であっても、各部材の成形を工夫するなどしてスピーカカバー５１１４と導光部材５１１３との間隙は、極力０に近い略密着状態とすることが望ましい。

【４４４６】

複数の放音孔５１２９と複数の導光側放音孔５１２７は、例えば、各素材の熱膨張率や剛性の差を考慮して、わずかに径を変更するなどの差異を設けるものとしてもよい。また、前述のとおり、導光部材５１１３を目立たせたくない等の事情がある場合は、放音孔５１２７，５１２９が連通する形状である点が守られれば、必ずしも放音孔５１２７と導光側放音孔５１２７が完全に同一形状である必要はない。

【４４４７】

ところで、本発明においては、スピーカカバー５１１４の前面側に装飾カバー５１１５を配置しており、装飾カバー５１１５の開口から放音孔５１２７と導光側放音孔５１２７が連通して露出するような構成となっている。そのため、スピーカカバー５１１４と導光部材５１１３において、前面視で装飾カバー５１１５により塞がれる箇所（下部スピーカ装置４２１８からの放音が望めない箇所）の加工パターンについては、必ずしも同一である必要はない。例えば、一方の部材においては加工がされており、他方の部材においては加工がされていない、または一方の部材と他方の部材で異なる加工がされていたとしても、発光及び音響の面で何ら問題が生じない。すなわち、スピーカカバー５１１４と導光部材５１１３は、音響または発光に影響する一部のパターンが略同一であればよい。なお、装飾カバー５１１５に透光性を持たせる場合においては、発光については影響が生じ得るため、この限りではない。

【４４４８】

また、下マスクＤＭにおける下マスクベース４２０１の内側には、位置決め凸部（不図示）が設けられている。位置決め凸部は、下マスクＤＭの内側に設けられた部品のうち最も後方に突出している。下ドアベースＤＢ（図３１７参照）の下部に設けられた位置決め受け部に摺動可能に係合する。位置決め凸部及び位置決め受け部は、所定の剛性や耐久性を有しており、下マスクＤＭの荷重が加わっても破損しない。

【４４４９】

下マスクＤＭを下ドアベースＤＢに接続する際に、下マスクＤＭの位置決め凸部は、下ドアベースＤＢの位置決め受け部上に載せられる。これにより、下ドアベースＤＢの荷重が下ドアベースＤＢに加わるため、下ドアベースＤＢを持っている作業者の身体的な負担を軽減させることができる。その後、下マスクＤＭをキャビネットＧ側に押し込むと、下マスクＤＭの位置決め凸部は、下ドアベースＤＢの位置決め受け部に案内されて、位置決め受け部上を摺動する。そして、下マスクＤＭの２本のガイドピン４２１５（図３２２参照）が、下ドアベースＤＢに設けられたガイド孔（不図示）に挿入され、下マスクＤＭの複数の接続用フック４２１４が、下ドアベースＤＢの下マスク接続部４０８１（図３１７参照）に接続される。これにより、下ドアベースＤＢに対する下マスクＤＭの接続を容易に行うことができる。

【４４５０】

［発光スピーカユニットによる演出］

次に、発光スピーカユニット５１０１を用いた演出を説明する。

【４４５１】

（客待ち状態中の演出態様）

遊技者によって遊技がなされていない客待ち状態において、表示装置４１０５や発光スピーカユニット５１０１以外の発光部など、表立って演出を行う他の演出手段を用いて客待ち用演出（所謂デモ演出）が行われる。しかし、発光スピーカユニット５１０１を用いた発光演出を遊技者に容易に想像させないという観点に立つと、発光スピーカユニット５１０１を用いて客待ち用の発光演出を行わないことが好ましい。ただし、遊技の稼働促進

という側面を鑑みた場合、あらゆる演出手段を用いて演出を行うことで、より遊技者の目に留まりやすくなるため、発光スピーカユニット５１０１を用いて客待ち用の発光演出を行うこととしてもよい。その場合、他の演出手段に合わせた態様でランプ（ＬＥＤ５１２１）を発光させ、遊技機全体として一体感のある演出を行うようにすることが好ましい。

【４４５２】

（エラー中の演出態様）

例えば、ドアオープンエラーなどの種々のエラーの発生時において、他の演出手段によってエラー報知演出が行われるが、発光スピーカユニット５１０１を用いた発光演出を遊技者に容易に想像させないという観点に立つと、発光スピーカユニット５１０１を用いてエラー報知用の発光演出を行わないことが好ましい。ただし、遊技の公平性や遊技機の安全性などの側面を鑑みた場合、あらゆる演出手段を用いてエラー報知を行うことで店員や客を含めた遊技者の目に留まりやすくなるため、発光スピーカユニット５１０１を用いてエラー報知用の発光演出を行うこととしてもよい。その場合、他の演出手段に合わせて発光を行うことが考えられるが、例えば、より注意を惹きつけることができるように、異常な状態であることを察知しやすい発光パターンで発光することが好ましい。さらに、エラーの発生時には、下部スピーカ装置４２１８によるエラー音の発報も行うこととし、これに合わせた態様でエラー報知用の発光演出を行うものとしてもよい。

【４４５３】

（電源投入時の演出態様）

電源が投入されたときにおいて、例えば可動役物や発光部、スピーカ装置、振動モータなど他の演出手段に故障が発生していないかなどを確認するためのテスト動作が行われる場合がある。電源投入は、遊技場の開店前に行われることが殆どであることから、電源投入を行う状況に遊技者が立ち会うケースは稀であり、発光スピーカユニット５１０１を用いた発光演出を遊技者に容易に想像させないという観点にたっても、敢えて発光スピーカユニット５１０１のみ発光を行わないようにする理由もない。ただし、エラーの解除や停電等により遊技場の営業中に電断及び電源の投入が行われる可能性もあるため、そういったイレギュラーな場合を考慮するのであれば、発光スピーカユニット５１０１を用いた発光演出を行わないようにしてもよい。そもそも、他の演出手段においてテスト動作や電源投入時特有の作動を行わずに客待ち状態中などの演出を実行する場合には、発光スピーカユニット５１０１においても前述の通り客待ち状態中の演出態様を開始するものとしてもよい。

【４４５４】

（通常演出としての演出態様）

発光スピーカユニット５１０１を演出としての使用時以外に発光させないことによって、演出としての使用時にインパクトを与えることができる。例えば、下記のような仕様が考えられる。

【４４５５】

仕様例１：確定演出

例えば、大当たり（ボーナスやＡＴ、ＡＲＴなどの有利な状態）やチャンスゾーンなどに当せんした場合、数ゲーム間の前兆や連続演出を経由して当せんを報知する「確定演出」というものがある。他の演出手段によって当落を煽る演出が行われ、当せんを報知するタイミングに発光スピーカユニット５１０１を高速点滅、高輝度発光など、激しく発光させることで、遊技者の視線外において突然激しい演出が行われることになるため、遊技者を驚嘆させることができ、遊技の興趣向上につながる。また、大当たりなどを祝福する演出であるため、発光スピーカユニット５１０１の発光色は、赤や白、黄色などの明るいものが好ましい。

【４４５６】

仕様例２：確定演出

例えば、大当たり中やチャンスゾーン中などにおいて、更に有利な恩恵を付与することが可能な図柄揃い役に当せんした場合に、任意の打順で図柄を目押しさせ、図柄が揃うこ

とで恩恵の付与を報知する図柄狙い演出がある。図柄狙い演出の発生時には、目押しをすると必ず揃うというものではなく、図柄をテンパイさせるが揃わない図柄揃いフェイク役が、図柄揃い役の他に存在する。そこで、図柄狙い演出が発生したタイミングでは図柄が揃うか否か（恩恵が付与されるか否か）が不明なところ、図柄を狙う前から、図柄が確実に揃い恩恵が得られることを示す「先バレ演出」というものがある。当該演出において、図柄狙い演出が発生したタイミングで外見上発光演出を行うことが想像できない発光スピーカユニット５１０１を発光させることで、例え先バレ演出の存在を知らない遊技者であっても、普段の図柄狙い演出とは異なることが察知可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。この場合の発光スピーカユニット５１０１の発光態様は、できるだけ目立つものがよく、先述の確定演出と同様かそれに近いものとすることが好ましい。

【４４５７】

仕様例３：違和感演出

例えば、大当たりのチャンスを知らせるタイミングで、先述の確定演出や先バレ演出ほど強く主張はしないものの、通常の演出とは異なる様相を遊技者に察知させる「違和感演出」というものがある。例えば、通常は完全に消灯している発光スピーカユニット５１０１を、チャンス役に当せんしたレバーオンのタイミングにおいて低輝度で点灯させたり、例えば、チャンスゾーンなどにおいて発光スピーカユニット５１０１を白色に点灯させるところ、内部的に大当たりの期待度が高いチャンスゾーンにおいては発光スピーカユニット５１０１を赤色に点灯させたり、例えば、小役の入賞時に小役に対応した色（ベルなら黄色、スイカなら緑、チェリーなら赤など）で発光スピーカユニット５１０１を発光させるところ、内部的に良い状態である場合には入賞した小役と矛盾する色で発光スピーカユニット５１０１を発光させたり、などの演出がある。いずれも注意しないと見逃してしまうような演出であり、遊技者にとって有利な報知をさりげなく行うことで周りの客には悟られず遊技者のみで楽しめる演出であるが、これを遊技者の視線外の発光スピーカユニット５１０１で行うことで遊技者自身にも注意して演出を見てもらうことができるというような効果が得られる。

【４４５８】

また、使用例１～３を含む発光スピーカユニット５１０１における種々の発光演出において、同時に発光スピーカユニット５１０１における音による演出も行うものとすることで、演出がより効果的に作用する。

【４４５９】

（その他の演出態様）

上記はパチスロ機を想定した演出であるが、パチンコ機において行うものとしてもよく、例えば、レバーオン時の演出であれば、遊技球のスタートチェッカー通過時、または変動開始時とすることができるし、ストップボタン押下時の演出であれば、変動終了時、または（一の）図柄停止時とするなど、それぞれ対応する状況における演出として置き換えて実行することができる。また、上記の演出はいずれも発光スピーカユニット５１０１において行われるものとしたが、外見上発光演出を行うことが想像できない遊技者の目線外にある別の発光手段（意匠に同化したランプや、腰部パネルなど）によって行われるものとしてもよい。

【４４６０】

［その他の変形例］

第４変形例では、複数のＬＥＤ５１２１から出射された光を導光する導光部材５１１３を設けた。しかし、本発明に係る発光スピーカユニットとしては、導光部材５１１８を設けることに限定されず、下部スピーカ装置４２１８に、光を反射する色（例えば、白色）の振動板４２１８ａを採用し、振動板４２１８ａが複数のＬＥＤ５１２１から出射された光をスピーカカバー５１１４側に反射させる構成にしてもよい。これにより、スピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９が発光しているように見せることができる。また、スピーカカバー５１１４における振動板４２１８ａに対向する面を鏡面加工し、複数のＬＥＤ５１２１から出射されてスピーカカバー５１１４に向かう光を、振動板４２１８ａ側

へ反射させてもよい。これにより、振動板４２１８ａに向かう光の量を多くすることができ、スピーカカバー５１１４の複数の放音孔５１２９が発光しているように見せる演出の光量を増加させることができる。

【４４６１】

また、第４変形例では、導光部材５１１３における導光筒部５１２５の外周部（側周面）を光入射部５１２５ａとした。しかし、第４変形例に係る導光部材としては、導光筒部の背面側端面（筒の背面側の縁部）を光入射部としてもよい。この場合は、導光筒部の背面側端面に複数のＬＥＤを対向させる。この場合の導光部材は、導光筒部の背面側端面（光入射部）から入射した複数のＬＥＤの光を導光して、光出射部５１２５ｂから均等に出射する。

【４４６２】

また、第４変形例に係る発光スピーカユニットとしては、スピーカカバーと導光部材を一体に構成してもよい。この場合は、導光部材の前面側の光出射部の表面のみを黒などの透光性の低い色で塗装する。これにより、部品点数を増やさずに、且つ、発光部を露出させずに、複数の導光側放音孔が発光しているように見せることができる。その結果、上述した発光スピーカユニット５１０１と同様に、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる。

【４４６３】

また、第８実施形態に係る上部スピーカユニット４８６１は、複数のＬＥＤ４９９６が実装されたＬＥＤ基板を有している。しかし、本発明に係る上部スピーカユニットとしては、複数のＬＥＤ４９９６が実装されたＬＥＤ基板の代わりに、ＬＥＤテープを用いる構成にしてもよい。ＬＥＤテープは、テープ状の樹脂に配線と共に複数のＬＥＤを適当な間隔を空けて並べたものである。本発明に係る上部スピーカユニットとしては、例えば、上部スピーカ装置４９９２，４９９３の前方を遮らない領域に、ＬＥＤテープを敷き詰めて、その前方にスポンジを配置し、スポンジの前方に拡散レンズ、拡散レンズの前方に布部材を配置する。これにより、ＬＥＤの粒感を軽減させて滑らかな発光演出を実現することができる。

【４４６４】

［第８実施形態の付記２］

従来、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる遊技機が知られている（例えば、特開２００６－４３０５７号公報参照）。

【４４６５】

しかしながら、特開２００６－４３０５７号公報に記載されているような遊技機においては、スピーカの周辺を発光させるための導光板がスピーカの前面側に露出している。そのため、遊技者がスピーカ周辺を発光させる演出の存在を、その演出が行われる前に容易に想像できてしまい、遊技の興趣が低下してしまうという問題があった。

【４４６６】

付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、発光部をスピーカの前面側に露出させることなく、スピーカ周辺を発光させる演出を実行可能な遊技機を提供することを目的とする。

【４４６７】

上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。

【４４６８】

（１）　スピーカ（例えば、下部スピーカ装置４２１８）と、

スピーカに対向する複数の放音孔（例えば、放音孔５１２９）を有するスピーカカバー（例えば、スピーカカバー５１１４）と、

スピーカカバーの背面側に配置された発光部材（例えば、複数のＬＥＤ５１２１）と、を備え、

前記発光部材を発光させることにより、前記スピーカカバーの前記スピーカに対向する放音領域が発光しているように見せる発光演出を実行する

ことを特徴とする遊技機。

【４４６９】

このような構成によれば、発光部材を発光させることにより、スピーカカバーの複数の放音孔が発光しているように見せることができる。したがって、発光部材をスピーカカバーの前面側に露出させることなく、スピーカ周辺を発光させる演出を行うことができる。

【４４７０】

（２）　上記（１）の遊技機において、

前記発光部材が出射した光が入射する光入射部（例えば、光入射部５１２５ａ）を有する導光部材（例えば、導光部材５１１３）を備え、

前記導光部材は、前記スピーカカバーの背面側に配置され、前記スピーカカバーの複数の放音孔に対向する複数の導光側放音孔（例えば、導光側放音孔５１２７）を有する。

【４４７１】

このような構成によれば、下部スピーカ装置４２１８から出力された音声を導光部材で遮らないようにすることができる。

【４４７２】

（３）　上記（２）の遊技機において、

前記発光部材が実装された発光基板（例えば、ＬＥＤ基板５１１２）を備え、

前記発光基板は、前記スピーカの放音部（例えば、振動板４２１８ａ）に沿った形状であり、

前記発光部材は、前記発光基板における前記放音部側の端部に複数配置されており、

前記導光部材の前記入射部は、前記発光基板における前記放音部側の端部に近接して配置されており、

前記発光部材は、前記導光部材の前記入射部へ向けて光を出射する。

【４４７３】

このような構成によれば、スピーカの放音部とスピーカカバーの複数の放音孔との間に、発光部材が配置されない。これにより、発光部材の光を導光部材によって導光することにより、光のムラを抑制することができ、光を用いた演出の演出効果を高めることができる。

【４４７４】

（４）　上記（３）の遊技機において、

前記導光部材は、有底の筒状に形成されており、前記複数の導光側放音孔が形成された底部と、前記光入射部である外周部（例えば、光入射部５１２５ａ）とを有し、前記光入射部から入射した光を前記底部から出射させる。

【４４７５】

このような構成によれば、複数の導光側放音孔が形成された底部を光らせることができ、複数の放音孔が均一に発光しているように見せることができる。

【４４７６】

従来、スピーカ装置を備える遊技機が知られている。このようなスピーカ装置から出力される音声を下方に向かわせるには、放音部が斜め下方を向くようにスピーカ装置を配置することが考えられる。

【４４７７】

しかしながら、放音部が斜め下方を向くようにスピーカ装置を配置すると、スピーカ装置を配置するためのスペースを広く確保する必要があり、遊技機に配置するその他の装置と干渉する、或いは遊技機の大型化を招くという問題があった。

【４４７８】

付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、スピーカ装置を配置するためのスペースの大型化を抑制すると共に、音声を下方に向かわせることができる遊技機を提供することを目的とする。

【４４７９】

上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。

【４４８０】
前方に向かって放音可能に配置されたスピーカ（例えば、上部スピーカ装置４４９２，４９９３）と、
前記スピーカの前方に配置されたスピーカカバー（例えば、上部スピーカカバー４８８３）と、
前記スピーカと前記スピーカカバーとの間の空間を区画するスピーカ対向筒部（例えば、スピーカ対向筒部５００１，５００２）と、を備え、
前記スピーカ対向筒部の内面は、遊技時における遊技者の耳が位置する所定位置に対して前記スピーカから出力された音を反射させる反射平面（例えば、反射平面５００１ａ，５００２ａ）を有する
ことを特徴とする遊技機。
【４４８１】
このような構成によれば、スピーカを配置するためのスペースの大型化を抑制すると共に、音声を所定位置（遊技者の耳）側に向かわせることができる。
【４４８２】
メダルを用いるメダル遊技機は、下皿にメダルが置いてあるかどうかで遊技者が一時的に離席している台か空き台かを判別できる。一方、メダルレスのパチスロ機は、メダルが無いため、遊技者が一時的に離席している台か空き台かを判別しにくい。そこで、メダルレスのパチスロ機には、遊技者の荷物を野出ておくことが可能なトレイを備えるものがある。
【４４８３】
しかしながら、遊技者の荷物が小さい場合やトレイと同系色である場合は、トレイに荷物が載せられていることに気づきにくく、遊技者が一時的に離席している台か空き台であるかの判別が煩雑になるという問題があった。
【４４８４】
付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技者が一時的に離席している台か空き台であるかの判別が容易なメダルレスの遊技機を提供することを目的とする。
【４４８５】
上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４４８６】
操作部（例えば、操作部ユニット４２０２）よりも上部に配置された表示部と、
前記操作部よりも下部に配置された荷物収納部（例えば、ポケット収納部４２１１）と、を備え、
前記荷物収納部は、物体が収納されていることを検出可能なセンサ（例えば、３つの物体検出センサ５０７１Ａ，５０７１Ｂ，５０７１Ｃ）と、流入した液体を排出可能な排水口（例えば、排水口５０７２）と、を有し、
前記センサが物体を検出している状態であって、遊技が行われていない所定の状態である場合に、前記表示部に所定の表示（例えば、「ＫＥＥＰ」や「休憩中」）を行わせることが可能である
ことを特徴とする遊技機。
【４４８７】
このような構成によれば、遊技者が一時的に離席している台か空き台であるかを容易に判別することができる。
【４４８８】
［下ドアベースの構成］
次に、下ドアベースＤＢの構成について、図３６４及び図３６５を参照して説明する。
図３６４は、下ドアベースＤＢを正面側から見た斜視図である。図３６５は、下ドアベースＤＢを背面側から見た斜視図である。
【４４８９】
図３６４及び図３６５に示すように、下ドアベースＤＢは、ドア本体５２０１と、ドア

本体５２０１に設けられた上縁部５２０２、左縁部５２０３、及び右縁部５２０４とを有している。

【４４９０】

ドア本体５２０１は、正面が開口された筐体状に形成されており、上板部５２１１と、下板部５２１２と、左板部５２１３と、右板部５２１４と、背板部５２１５と、を有している。

【４４９１】

図３６４に示すように、下板部５２１２における左右方向の略中央部には、位置決め受け部５２１６が形成されている。位置決め受け部５２１６には、下マスクＤＭ（図３２２参照）の不図示の位置決め凸部が係合する。左板部５２１３の内面における下部には、略垂直に突出する左側段部５２１７が形成されている。左側段部５２１７の前方を向く面には、フック挿通孔５２１８が形成されている。また、右板部５２１４の内面における下部には、略垂直に突出する右側段部５２１９が形成されている。右側段部５２１９の前方を向く面には、フック挿通孔５２２０が形成されている。また、下板部５２１２には、左当接段部５２２６Ｌと右当接段部５２２６Ｒが形成されている。左当接段部５２２６Ｌは、背板部５２１５の前側であり位置決め受け部５２１６の左側に位置する。右当接段部５２２６Ｒは、背板部５２１５の前側であり位置決め受け部５２１６の右側に位置する。

【４４９２】

背板部５２１５の内面における上部には、略垂直に突出する背側段部５２２１が形成されている。背側段部５２２１における左右方向の略中央部には、カートリッジ用開口部５２２２が形成されている。カートリッジ用開口部５２２２には、基板カートリッジ４２１０が貫通する。これにより、下ドアベースＤＢと基板カートリッジ４２１０の干渉を避けることができる。また、下ドアベースＤＢの背面側（図３６５参照）のカートリッジ用開口部５２２２を通して、マスク側中継基板４２１６（図３２２参照）に基板カートリッジ４２１０着脱可能である。したがって、下ドアベースＤＢから下マスクＤＭを取り外さなくても、マスク側中継基板４２１６に対して基板カートリッジ４２１０を着脱することができる。

【４４９３】

基板カートリッジ４２１０（図３２２参照）は、所定の制御基板と、所定の制御基板を収容するカートリッジカバーとを有している。所定の制御基板は、操作部ユニット４２０２における主制御（例えば、スタートレバー４２４１や、ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒ等に関する制御）に関わる基板である。このように、所定の制御基板をカートリッジ化することにより、パチスロ機４００１の製造時やリユース時における所定の制御基板の取り付けを容易に行うことができる。

【４４９４】

所定の制御基板には、複数（例えば、８個）のメーカー名をレーザー刻印可能な刻印エリアが設けられている。これにより、前のメーカー名の刻印を消して、新たなメーカー名を刻印することができる。したがって、所定の制御基板は、複数回（例えば、７回）リユースすることができる。また、カートリッジカバーには、少なくとも刻印エリアを視認可能な透明或いは半透明の窓部が形成されている。なお、カートリッジカバーを透明の樹脂で形成し、所定の制御基板全体を視認可能にしてもよい。

【４４９５】

背側段部５２２１には、ドア側中継端子板５２２３が取り付けられている。ドア側中継端子板５２２３は、背側段部５２２１における左側の端部に配置されている。ドア側中継端子板５２２３には、接続端子５２２４が実装されている。接続端子５２２４は、ドロワコネクタであり、下マスクＤＭの接続端子４２１７（図３２２参照）に接続される。ドア側中継端子板５２２３は、配線（不図示）を用いて主制御基板４０７１（図３１７参照）と電気的に接続されている。

【４４９６】

上縁部５２０２、左縁部５２０３、及び右縁部５２０４は、ドア本体５２０１の正面側

の端面に連続し、ドア本体５２０１の開口を囲むコ字状の縁部を形成している。上縁部５２０２は、上板部５２１１に連続しており、前後方向に略垂直な上当接片５２３１と、上当接片５２３１から後方に突出する補強片５２３２からなる。上当接片５２３１の前方を向く面は、下マスクＤＭの下マスクベース４２０１（図３２２参照）に当接する。

【４４９７】

上当接片５２３１には、３つのフック挿通孔５２３３と、２つのガイド孔５２３４が形成されている。フック挿通孔５２１８，５２２０，５２３３には、下マスクＤＭの複数の接続用フック４２１４が挿通される。２つのガイド孔５２３４には、下マスクＤＭの２本のガイドピン４２１５が嵌合する。

【４４９８】

左縁部５２０３は、左板部５２１３に連続しており、前後方向に略垂直な左当接片５２３５と、左当接片５２３５から後方に突出する補強片５２３６からなる。左当接片５２３５の前方を向く面は、下マスクＤＭの下マスクベース４２０１（図３２２参照）に当接する。また、左当接片５２３５の後方を向く面には、ドアヒンジ５２３７がねじを用いて固定されている。ドアヒンジ５２３７は、キャビネットＧに設けられたキャビネットヒンジ５２５１（図３６６参照）に回転可能に接続される。

【４４９９】

右縁部５２０４は、右板部５２１４に連続しており、前後方向に略垂直な板状に形成されている。右縁部５２０４の前方を向く面は、下マスクＤＭの下マスクベース４２０１（図３２２参照）に当接する。また、右縁部５２０４の後方を向く面には、錠前部材５２３８がねじを用いて固定されている。錠前部材５２３８は、キャビネットＧに設けられた鍵受け５２５２（図３６６参照）に係合する。また、錠前部材５２３８は、不図示のカギを用いて、下ドアベースＤＢの回転が不可能なロック状態（係合が外れない状態）と、下ドアベースＤＢの回転が可能なロック解除状態（係合が外れる状態）にすることができる。

【４５００】

図３６５に示すように、上縁部５２０２の上当接片５２３１の後方を向く面には、３つのロックスライダ５２４１と、３つのスライダガイド５２４２とが取り付けられている。ロックスライダ５２４１は、左右方向に長い略角柱状に形成されており、後方に突出する操作片を有している。スライダガイド５２４２は、上当接片５２３１にねじを用いて固定されている。スライダガイド５２４２は、ロックスライダ５２４１と係合しており、ロックスライダ５２４１を左右方向に案内する。

【４５０１】

３つのロックスライダ５２４１は、それぞれロック位置とロック解除位置に配置可能である。ロック位置に配置された３つのロックスライダ５２４１の一部は、それぞれ３つのフック挿通孔５２３３と対向する。ロック解除位置に配置された３つのスライダガイド５２４２は、それぞれ３つのフック挿通孔５２３３と対向しない。

【４５０２】

また、右側段部５２１９の後方を向く面には、ロックスライダ５２４３と、スライダガイド５２４４とが取り付けられている。ロックスライダ５２４３は、上下方向に長い略角柱状に形成されており、後方に突出する操作片を有している。スライダガイド５２４４は、右側段部５２１９にねじを用いて固定されている。スライダガイド５２４４は、ロックスライダ５２４３と係合しており、ロックスライダ５２４３を上下方向に案内する。なお、図３６５には表されないが、左側段部５２１７の後方を向く面には、右側段部５２１９に取り付けられ得たものと同じ、ロックスライダ５２４３と、スライダガイド５２４４とが取り付けられている。

【４５０３】

２つのロックスライダ５２４３は、それぞれロック位置とロック解除位置に配置可能である。ロック位置に配置された２つのロックスライダ５２４３の一部は、フック挿通孔５２１８，５２２０と対向する。ロック解除位置に配置された２つのロックスライダ５２４３は、フック挿通孔５２１８，５２２０と対向しない。

【４５０４】
（下マスクの接続作業）
下ドアベースＤＢに下マスクＤＭ（図３２２参照）を接続する場合は、まず、ロックスライダ５２４１，５２４３をロック解除位置に配置させておく。これにより、ロックスライダ５２４１，５２４３が、フック挿通孔５２１８，５２２０，５２３３と対向しない。したがって、下ドアベースＤＢは、フック挿通孔５２１８，５２２０，５２３３に下マスクＤＭの複数の接続用フック４２１４を挿入可能な状態になる。
【４５０５】
次に、下ドアベースＤＢの前方で下マスクＤＭを把持し、下マスクＤＭを後方（下ドアベースＤＢ側）に移動させる。そして、下マスクＤＭの２本のガイドピン４２１５を、下ドアベースＤＢの２つのガイド孔５２３４に挿入する。これにより、下マスクＤＭの接続端子４２１７が、下ドアベースＤＢの接続端子５２２４（図３６４参照）に接続される。また、下マスクＤＭの複数の接続用フック４２１４が、下ドアベースＤＢのフック挿通孔５２１８，５２２０，５２３３に挿入される。下マスクＤＭを位置決め受け部５２１６に沿って後方までスライド移動させるときに、つまり、作業者が下マスクＤＭを把持して、できるだけ奥側まで押し込んだときに、下マスクＤＭの背面側壁部（下ドアベースＤＢ側に対向する壁部、図３２２参照）が、左当接段部５２２６Ｌ及び右当接段部５２２６Ｒに当接する。この当接する位置において、下マスクＤＭの接続端子４２１７と下ドアベースＤＢの接続端子５２２４は接続される。そして、この接続状態から、下マスクＤＭの接続端子４２１７を下ドアベースＤＢの接続端子５２２４に向かってさらに１ｍｍ押し込むことが可能なクリアランス（隙間）を持たせるようになっている。このクリアランスにより、下マスクＤＭを取り付ける際に押し込む力が下ドアベースＤＢの接続端子５２２４に集中せず、左当接段部５２２６Ｌ及び右当接段部５２２６Ｒによって分散され、取り付け時に下ドアベースＤＢの接続端子５２２４が破損することを抑制できる。なお、１ｍｍのクリアランスがある状態でも接続端子による電気的接続は十分に担保されている。
【４５０６】
次に、ロックスライダ５２４１，５２４３をロック位置に移動させる。これにより、ロックスライダ５２４１，５２４３は、複数の接続用フック４２１４の貫通孔を貫通する。その結果、ロックスライダ５２４１，５２４３が複数の接続用フック４２１４に嵌合し、下マスクＤＭが下ドアベースＤＢに固定される。これにより、下ドアベースＤＢに対する下マスクＤＭの接続作業が完了する。
【４５０７】
下ドアベースＤＢから下マスクＤＭを取り外す場合は、まず、ロックスライダ５２４１，５２４３をロック解除位置に移動させる。これにより、ロックスライダ５２４１，５２４３と複数の接続用フック４２１４の嵌合が外れて、下マスクＤＭを前方に移動させることが可能になる。そして、下マスクＤＭを把持して前方へ移動させると、下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢから外れる。
【４５０８】
［キャビネットの構成］
次に、キャビネットＧの構成について、図３６６～図３６８を参照して説明する。
図３６６は、キャビネットＧから下ドアベースＤＢを取り外した状態を示す斜視図である。図３６７は、キャビネットＧから主制御及びリール組立体を取り外した状態を示す斜視図である。図３６８は、図３６７に示すキャビネットＧの上方から見た水平方向断面図である
【４５０９】
図３６６に示すように、キャビネットＧの左側面壁Ｇ２には、キャビネットヒンジ５２５１がねじを用いて固定されている。キャビネットＧの右側面壁Ｇ２には、鍵受け５２５２がねじを用いて固定されている。上面壁Ｇ４は、左右方向に長い略長方形の板体からなる。上面壁Ｇ４の短辺は、左側面壁Ｇ２の上辺と同じ長さに設定されている。上面壁Ｇ４の長辺は、背面壁Ｇ３の上辺と同じ長さに設定されている。そして、上面壁Ｇ４の２つの

長辺のうち、キャビネットＧの開口を形成する長辺には、島固定用突部５２５３が形成されている。

【４５１０】

パチスロ機４００１は、キャビネットＧに上マスクＵＭを接続するために、キャビネットＧの左右一対の側面壁Ｇ２の前側端面は、上方に向かうにつれて側面壁Ｇ２が小さくなるように傾斜している。これにより、上面壁Ｇ４は、底面壁Ｇ５よりも前方側が欠けて面積が小さくなる。その結果、上面壁Ｇ４が、遊技島（不図示）に設けられた固定部と対向しなくなる。そこで、上面壁Ｇ４には、島固定用突部５２５３が設けられている。島固定用突部５２５３は、遊技島（不図示）に設けられた固定部と対向し、ねじを用いて遊技島（不図示）の固定部に固定される。なお、上マスクＵＭの背面における中間部には、上面壁Ｇ４の島固定用突部５２５３との干渉を避けるように凹み部が形成された接続片が形成されている（図３５３参照）

【４５１１】

キャビネットＧの内部空間における上部には、キャビネット側スピーカ装置４０１１が配置されている。そして、キャビネット側スピーカ装置４０１１の下方には、主制御及びリール組立体５３００が配置されている。主制御及びリール組立体５３００は、リールユニットＲＵと、主制御基板４０７１を含む主制御ユニットＳＵとを一体的に組み立てたものである。したがって、主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧに取り付けることにより、キャビネットＧの内部空間にリールユニットＲＵと主制御ユニットＳＵを配置することができる。したがって、パチスロ機４００１の組立作業の作業性を向上させることができる。

【４５１２】

図３６７に示すように、キャビネットＧの背面壁Ｇ３には、銘板用開口部５２５４が形成されている。銘板用開口部５２５４は、横長の略四角形に形成されている。銘板用開口部５２５４には、リールユニットＲＵの後述する銘板用突部５３３７（図３７４参照）が嵌合する。これにより、キャビネットＧの背面側から銘板用突部５３３７に固定された銘板５３４０を確認することができる。

【４５１３】

キャビネットＧの内部には、左上ストッパ受け５２５５と、右上ロック受け５２５６と、組立体取り付けブラケット５２５７，５２５８と、ガイドシャフト５２５９，５２６０と、キャビネット側中継端子板５２６１，５２６２と、電源装置５２６３と、主制御ユニット固定部材５２６４が設けられている。

【４５１４】

左上ストッパ受け５２５５は、キャビネットＧにおける上下方向の上部であって、キャビネット側スピーカ装置４０１１の下方に位置しており、左側面壁Ｇ２にねじを用いて固定されている。左上ストッパ受け５２５５は、上下方向から見た形状が略Ｌ字状の多面体に形成されている。左上ストッパ受け５２５５の前方を向く面には、リールユニットＲＵの後述するストッパ片５３３５が係合する係合部を有している。

【４５１５】

右上ロック受け５２５６は、キャビネットＧにおける上下方向の上部であって、キャビネット側スピーカ装置４０１１の下方に位置しており、右側面壁Ｇ２にねじを用いて固定されている。右上ロック受け５２５６は、上下方向から見た形状が略Ｌ字状の多面体に形成されている。右上ロック受け５２５６の前方を向く面には、リールユニットＲＵの後述するストッパ片５３３５が係合する係合部が形成されている。

【４５１６】

図３６７及び図３６８に示すように、組立体取り付けブラケット５２５７は、キャビネットＧにおける上下方向の略中央に位置しており、左側面壁Ｇ２と背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。組立体取り付けブラケット５２５７は、ガイドベース５２７１と、ガイドレール５２７２と、左下ストッパ受け５２７３とを有している。

【４５１７】

ガイドベース５２７１は、略直方体状に形成されており、上面５２７１ａと前面５２７１ｂとを有している。ガイドベース５２７１の上面５２７１ａは、前後方向に長い長方形に形成されている。ガイドベース５２７１の上面５２７１ａには、リールユニットＲＵの後述する載置凸部５３２４（図３７４参照）が載置される。リールユニットＲＵの載置凸部５３２４は、上面５２７１ａ上を摺動して取付位置に配置される。ガイドベース５２７１の上面５２７１ａは、後方（キャビネットＧの奥側）に向かうにつれて低くなるように傾斜している。上面５２７１ａの傾斜角度としては、例えば、３度程度に設定されている。

【４５１８】

ガイドレール５２７２は、ガイドベース５２７１の上面５２７１ａから略垂直に突出している。ガイドレール５２７２は、前後方向に長い長方形の板状に形成されている。ガイドレール５２７２には、リールユニットＲＵにおける載置凸部５３２４の側面が係合する。これにより、ガイドレール５２７２は、リールユニットＲＵの後方（取付位置）への移動を案内する。ガイドレール５２７２は、後方（キャビネットＧの奥側）に向かうにつれてキャビネットＧの左右方向の中央に近づくように傾斜している。

【４５１９】

左下ストッパ受け５２７３は、ガイドベース５２７１の前面５２７１ｂを切り欠くことで形成されており、前後方向に略垂直な平面を有する板体からなる。左下ストッパ受け５２７３には、リールユニットＲＵの後述するストッパ片５３３５が係合する。

【４５２０】

ガイドシャフト５２５９は、ガイドベース５２７１における上面５２７１ａの上方に位置しており、背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。ガイドシャフト５２５９は、前後方向に延びる円柱状に形成されている。ガイドシャフト５２５９は、リールユニットＲＵの後述する係合筒部５３２５（図３７４参照）に嵌合する。

【４５２１】

組立体取り付けブラケット５２５８は、キャビネットＧにおける上下方向の略中央に位置しており、右側面壁Ｇ２及び背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。組立体取り付けブラケット５２５８は、組立体取り付けブラケット５２５７と左右対称に形成されており、ガイドベース５２７６と、ガイドレール５２７７（図３６８参照）と、右下ストッパ受け５２７８とを有している。

【４５２２】

ガイドベース５２７６の上面５２７６ａには、リールユニットＲＵの後述する載置凸部５３２６（図３７４参照）が載置される。リールユニットＲＵの載置凸部５３２６は、ガイドベース５２７６の上面５２７６ａ上を摺動して取付位置に配置される。ガイドベース５２７６の上面５２７６ａは、後方（キャビネットＧの奥側）に向かうにつれて低くなるように傾斜している。上面５２７６ａの傾斜角度は、ガイドベース５２７１の上面５２７１ａの傾斜角度と同じであり、例えば、３度程度に設定されている。

【４５２３】

このように、ガイドベース５２７１，５２７６の上面５２７１ａ，５２７６ａを後方（キャビネットＧの奥側）に向かうにつれて低くなるように傾斜させたため、ガイドベース５２７１の上面５２７１ａに載置した（仮置きした）リールユニットＲＵを容易に後方へ押し込むことができる。また、組立体取り付けブラケット５２５７，５２５８に設置したリールユニットＲＵ（主制御及びリール組立体５３００）が、振動等によって前方にずれてしまうことを防止できる。その結果、リールユニットＲＵ（主制御及びリール組立体５３００）の取付作業を容易にすることができる。

【４５２４】

ガイドレール５２７７には、リールユニットＲＵの載置凸部５３２６の側面が係合する。これにより、ガイドレール５２７７は、リールユニットＲＵの後方（取付位置）への移動を案内する。ガイドレール５２７７は、後方（キャビネットＧの奥側）に向かうにつれてキャビネットＧの左右方向の中央に近づくように傾斜している。また、右下ストッパ受

け５２７８には、リールユニットＲＵの後述するストッパ片５３３５が係合する。

【４５２５】

図３６８に示すように、ガイドレール５２７２，５２７７は、後方に向かうにつれてリールユニットＲＵを収容する空間を狭めるテーパー部を形成している。これにより、リールユニットＲＵをガイドレール５２７２，５２７７間に挿入しやすくすることができ、その後、リールユニットＲＵの取付位置に容易に配置することができる。

【４５２６】

ガイドシャフト５２６０は、ガイドベース５２７６における上面５２７６ａの上方に位置しており、背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。ガイドシャフト５２６０は、前後方向に延びる円柱状に形成されている。ガイドシャフト５２６０は、リールユニットＲＵの後述する係合筒部５３２７（図３７４参照）に嵌合する。

【４５２７】

図３６７に示すように、キャビネット側中継端子板５２６１，５２６２は、組立体取り付けブラケット５２５７，５２５８間に位置しており、背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。キャビネット側中継端子板５２６１には、接続端子５２８１が実装されており、キャビネット側中継端子板５２６２には、接続端子５２８２が実装されている。

【４５２８】

接続端子５２８１，５２８２は、ドロワコネクタである。接続端子５２８１，５２８２には、リールユニットＲＵの後述する接続端子５３５１，５３５２（図３７４参照）に接続される。キャビネット側中継端子板５２６１，５２６２は、配線（不図示）を用いて主制御基板４０７１（図３６６参照）と電気的に接続されている。

【４５２９】

なお、接続端子５２８１，５２８２が実装されるキャビネット側中継端子板５２６１，５２６２は、ガイドベース５２７６の上面５２７６ａの傾斜に合わせて、斜め上方を向くように傾斜している。これにより、接続端子５２８１，５２８２は、ガイドベース５２７６の上面５２７６ａの傾斜に合わせて、斜め上方を向くように傾斜する。これにより、リールユニットＲＵの後述する接続端子５３５１，５３５２を、キャビネットＧの接続端子５２８１，５２８２に円滑に接続することができる。

【４５３０】

電源装置５２６３は、キャビネットＧにおける上下方向の下部に位置している。電源装置５２６３は、電源ボックス５２８４と、電源ボックス５２８４に収容された電源ユニット（不図示）及びサブ電源ユニット（不図示）とを有している。これにより、電源ユニットとサブ電源ユニットをそれぞれ別の電源ボックスに収容する場合よりも、部品点数を削減することができると共に、パチスロ機４００１の組立工数を削減することができる。

【４５３１】

電源ボックス５２８４は、背面壁Ｇ３にねじを用いて固定されている。電源ボックス５２８４は、左右方向に長く、前後方向の長さが短い扁平の筐体状に形成されている。電源ボックス５２８４の左右方向の長さは、背面壁Ｇ３の左右方向の長さの大部分を占める長さに設定されている。電源ボックス５２８４の前面、上面、下面、及び左右の側面には、複数の放熱用孔が形成されている。また、電源ボックス５２８４の下面とキャビネットＧの底面壁Ｇ５との間には、隙間（空間）が設けられている。これにより、電源ボックス５２８４の放熱効果を高めることができる。また、電源ボックス５２８４を構成するカバー体（図３６７に示す電源ユニットを覆う多数の放熱孔を備えるカバー体）は樹脂製となっており、金属製の電源ボックスよりも軽量化が図られている。なお、当該カバー体を金属製の部材としてもよい。また、電源ボックス５２８４は、カバー体とその背面側にある金属製の板金ケース（後述の図３９１においてネジ５２８３ａ～５２８３ｄを用いてキャビネットＧの背面板に固定されているケース体）から構成される。カバー体と板金ケースは左右の側面にねじ孔が設けられており、ねじで固定されている。

【４５３２】

このように、電源装置５２６３をキャビネットＧの背面壁Ｇ３に沿って配置するため、

キャビネットＧの底面壁Ｇ５が露出される領域を確保することができる。これにより、キャビネットＧを遊技島に固定するためのビスを、底面壁Ｇ５の内側から打ち込みやすくすることができる。

【４５３３】

キャビネットＧの底面壁Ｇ５には、スイッチベース５２８５がねじを用いて固定されている。スイッチベース５２８５は、底面壁Ｇ５における左側面壁Ｇ２側の端部に配置されている。スイッチベース５２８５は、前後方向に延びる略長方形の筐体状に形成されており、スイッチベース５２８５の前面は、キャビネットＧの開口側に位置している。

【４５３４】

スイッチベース５２８５の前面には、電源スイッチ５２８６が取り付けられている。これにより、電源スイッチ５２８６は、主制御ユニットＳＵ（図３６６参照）の左側方に位置する。電源スイッチ５２８６は、スイッチベース５２８５の内部を通る配線を用いて電源ボックス５２８４内の電源ユニット（不図示）と電気的に接続されている。電源スイッチ５２８６を操作することにより、電源装置５２６３（電源）のオン・オフを切り替えることができる。したがって、電源装置５２６３の前方に主制御ユニットＳＵが配置されていても、電源装置５２６３（電源）のオン・オフを容易に切り替えることができる。

【４５３５】

図３６６に示すように、電源装置５２６３の前方には、主制御ユニットＳＵが位置する。そのため、電源スイッチ５２８６を電源装置５２６３に隣接させて配置すると、電源スイッチ５２８６を操作するには、主制御ユニットＳＵを移動させる必要がある。そこで、本実施形態では、スイッチベース５２８５を設けて、電源スイッチ５２８６を主制御基板４０７１の左側方であって、電源装置５２６３よりもキャビネットＧの開口側に配置した。これにより、主制御ユニットＳＵを移動させなくても、電源スイッチ５２８６を操作することができる。

【４５３６】

なお、後述するが、主制御ユニットＳＵは、後述するユニット接続部材５３０１に回転可能に支持されている。したがって、主制御ユニットＳＵを回転させることで、その後方にある電源装置５２６３をキャビネットＧの開口側に露出させることができる。すなわち、主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧから取り外さなくても、キャビネットＧに対する電源装置５２６３の取り外し、或いは取り付けを行うことができる。

【４５３７】

主制御ユニット固定部材５２６４は、キャビネットＧの底面壁Ｇ５にねじを用いて固定されている。主制御ユニット固定部材５２６４は、電源装置５２６３の前方に位置する。主制御ユニット固定部材５２６４は、主制御ユニットＳＵに係合し、主制御ユニットＳＵの回転を係止する。

【４５３８】

［主制御ユニット固定部材の構成］

次に、主制御ユニット固定部材５２６４の構成について、図３６９及び図３７０を参照して説明する。

図３６９は、主制御ユニット固定部材５２６４の斜視図である。図３７０は、主制御ユニット固定部材５２６４の分解斜視図である。

【４５３９】

図３６９及び図３７０に示すように、主制御ユニット固定部材５２６４は、スライダベース５２８７と、係止スライダ５２８８と、スライダカバー５２８９とを有している。

【４５４０】

スライダベース５２８７は、下面が開口された扁平の筐体状に形成されている。スライダベース５２８７の上面には、凹状の当接段部５２８７ａが形成されている。当接段部５２８７ａは、スライダベース５２８７の上面における前後方向の中間部から前端に達する大きさに設定されている。当接段部５２８７ａは、前側の斜め上方を向く傾斜面と後ろ側の斜め上方を向く傾斜面とを有し、両傾斜面は略直交している。当接段部５２８７ａには

、主制御ユニットＳＵの後述する基板トレイ５４５１（図３７９参照）が当接する。

【４５４１】

スライダベース５２８７の上面及び当接段部５２８７ａには、２つのねじ用凹部５２９０が形成されている。２つのねじ用凹部５２９０の底部には、スライダベース５２８７をキャビネットＧの底面壁Ｇ５に固定するためのねじが貫通する貫通孔が形成されている。

【４５４２】

スライダベース５２８７の前面は、斜め上方を向く傾斜面である。スライダベース５２８７の前面には、凹状の係合段部５２８７ｂと、２つのガイドレール５２９１と、２つの抵抗発生突部５２９２とが形成されている。係合段部５２８７ｂは、スライダベース５２８７の前面における左端部から中間部に達する大きさに設定されている。

【４５４３】

２つのガイドレール５２９１は、スライダベース５２８７の前面における左右方向の略中央部に位置している。２つのガイドレール５２９１は、上下方向に所定の距離を空けて対向しており、それぞれ左右方向に延びる突条に形成されている。２つのガイドレール５２９１は、係止スライダ５２８８の上下方向への移動を係止して、係止スライダ５２８８の左右方向への移動を案内する。

【４５４４】

２つの抵抗発生突部５２９２は、スライダベース５２８７の前面における左右方向の右側端部に位置している。２つの抵抗発生突部５２９２は、上下方向に所定の距離を空けて対向しており、互いに対向する側が頂点となる略三角形状に形成されている。２つの抵抗発生突部５２９２には、係止スライダ５２８８の後述する２つの係合爪５２９６が係合する。

【４５４５】

係止スライダ５２８８は、スライダ本体５２９３と、操作凸部５２９４と、係止片５２９５と、２つの係合爪５２９６とを有している。

【４５４６】

スライダ本体５２９３は、前後方向を向く平面を有し、左右方向に長い長方形の板状に形成されている。スライダ本体５２９３の長辺を形成する上下の端面は、スライダベース５２８７の２つのガイドレール５２９１に摺動可能に係合する。操作凸部５２９４は、スライダ本体５２９３の前方を向く平面から突出している。操作凸部５２９４は、略直方体状に形成されている。操作凸部５２９４の前面における左右方向の両側端部には、指を掛けやすくする円弧状に凹んだ曲面が形成されている。

【４５４７】

係止片５２９５は、スライダ本体５２９３の左上の角部から突出している。係止片５２９５は、上下方向を向く平面を有する板状に形成されている。係止片５２９５は、スライダベース５２８７における係合段部５２８７ｂの前方に配置される。

【４５４８】

２つの係合爪５２９６は、スライダ本体５２９３の右側端面から略垂直に突出している。２つの係合爪５２９６は、上下方向に所定の距離を空けて対向している。２つの係合爪５２９６は、上下方向を向く平面を有する薄板状に形成されており、上下方向に撓み変形可能である。２つの係合爪５２９６は、互いに対向する面と反対側の面から突出する爪部５２９６ａを有している。

【４５４９】

スライダカバー５２８９は、ねじを用いてスライダベース５２８７の前面に固定されている。スライダカバー５２８９は、カバー本体５２９７と、筐体カバー部５２９８とを有している。カバー本体５２９７は、前後方向を向く平面を有し、左右方向に長い長方形の板状に形成されている。カバー本体５２９７の左右方向の長さは、スライダベース５２８７の前面における右端部から係合段部５２８７ｂの一部（右端部）に対向するまでの長さに設定されている。

【４５５０】

カバー本体５２９７は、操作用開口部５２９７ａを有している。操作用開口部５２９７ａは、カバー本体５２９７の略中央部に位置しており、左右方向に長い略長方形に形成されている。操作用開口部５２９７ａは左右方向に長い略長方形に形成されている。操作用開口部５２９７ａには、係止スライダ５２８８の操作凸部５２９４が貫通する。そして、操作凸部５２９４は、操作用開口部５２９７ａに沿って左右方向に移動可能である。

【４５５１】

筐体カバー部５２９８は、カバー本体５２９７の左端部に連続しており、後方が開口された略四角形の筐体状に形成されている。筐体カバー部５２９８の上面には、カバー本体５２９７との間に空間部を形成する凹部５２９８ａが形成されている。凹部５２９８ａは、筐体カバー部５２９８の前端から後端に達する大きさに設定されている。凹部５２９８ａには、主制御ユニットＳＵの後述する係合突起５４９７が挿入される。

【４５５２】

主制御ユニット固定部材５２６４の係止スライダ５２８８は、非係止位置と係止位置に移動可能である。非係止位置は、係止スライダ５２８８の左右方向の移動範囲における右端位置となる。係止スライダ５２８８が非係止位置に配置されると、２つの係合爪５２９６の爪部５２９６ａは、２つの抵抗発生突部５２９２の右端面に係合する。そして、係止スライダ５２８８の操作凸部５２９４は、操作用開口部５２９７ａの右内側面の当接し、係止片５２９５は、前後方向においてカバー本体５２９７の右端部と対向する。

【４５５３】

係止位置は、係止スライダ５２８８の左右方向の移動範囲における左端位置となる。係止スライダ５２８８が係止位置に配置されると、２つの係合爪５２９６の爪部５２９６ａは、２つの抵抗発生突部５２９２の左端面に係合する。そして、係止スライダ５２８８の操作凸部５２９４は、操作用開口部５２９７ａの左内側面の当接し、係止片５２９５は、筐体カバー部５２９８の凹部５２９８ａ内に位置する。凹部５２９８ａ内において、係止片５２９５は、制御ユニットＳＵの係合突起５４９７と係合し、制御ユニットＳＵの回転移動を係止する。

【４５５４】

主制御ユニット固定部材５２６４では、係止スライダ５２８８を非係止位置から係止位置に移動させる際に、２つの係合爪５２９６が撓み変形して、爪部５２９６ａが２つの抵抗発生突部５２９２を右から左へ乗り越える必要がある。したがって、係止スライダ５２８８を非係止位置から係止位置に移動させようとすると、係止スライダ５２８８の移動に対して抵抗力が生じる。これにより、非係止位置に配置された係止スライダ５２８８が、振動等によって係止位置側に移動しないようにすることができる。

【４５５５】

係止スライダ５２８８を係止位置から非係止位置に移動させる場合は、２つの係合爪５２９６が撓み変形して、爪部５２９６ａが２つの抵抗発生突部５２９２を左から右へ乗り越える必要がある。したがって、係止スライダ５２８８を係止位置から非係止位置に移動させようとすると、係止スライダ５２８８の移動に対して抵抗力が生じる。これにより、係止位置に配置された係止スライダ５２８８が、振動等によって非係止位置側に移動しないようにすることができる。その結果、振動等によって係止片５２９５と制御ユニットＳＵの係合突起５４９７との係合が外れないようにすることができる。

【４５５６】

［主制御及びリール組立体の構成］

次に、主制御及びリール組立体５３００の構成について、図３７１及び図３７２を参照して説明する。

図３７１は、主制御及びリール組立体５３００の斜視図である。図３７２は、主制御及びリール組立体の側面図である。

【４５５７】

主制御及びリール組立体５３００は、本発明に係る特定ユニットに対応する。図３７１及び図３７２に示すように、主制御及びリール組立体５３００は、リールユニットＲＵと

、主制御ユニットＳＵと、ユニット接続部材５３０１とを備えている。ユニット接続部材５３０１の上部は、リールユニットＲＵの下部に固定されている。また、ユニット接続部材５３０１の下部は、主制御ユニットＳＵを回転可能に支持する。

【４５５８】

主制御及びリール組立体５３００は、リールユニットＲＵを前述した組立体取り付けブラケット５２５７，５２５８に固定することで、キャビネットＧに取り付けられている。キャビネットＧに主制御及びリール組立体５３００を取り付けた場合に、主制御ユニットＳＵの回転軸は、左右方向に延びている。

【４５５９】

キャビネットＧの内部において、主制御ユニットＳＵは、主制御基板４０７１の一面が前側（キャビネットＧの開口側）の斜め上方を向く姿勢で固定される。このときの主制御ユニットＳＵの位置を、主制御ユニット設置位置とする。主制御ユニット設置位置において、主制御ユニットＳＵは、下ドアベースＤＢと干渉しない。主制御ユニットＳＵを主制御ユニット設置位置から回転させる場合は、下ドアベースＤＢを開いて、主制御ユニットＳＵを把持する必要がある。したがって、主制御ユニットＳＵを主制御ユニット設置位置から回転させる場合は、下ドアベースＤＢが主制御ユニットＳＵと干渉しない位置に配置される。

【４５６０】

主制御ユニットＳＵの固定は、前述した主制御ユニット固定部材５２６４の係止片５２９５を、主制御ユニットＳＵの係合突起５４９７に係合させることで行われている。主制御ユニットＳＵを回転させる場合は、下ドアベースＤＢを開く。そして、係合突起５４９７に対する係止片５２９５の係合を外す。これにより、主制御基板４０７１の一面がリールユニットＲＵに接近する回転方向Ｒへ主制御ユニットＳＵを回転させることができる。

【４５６１】

なお、主制御ユニット設置位置において、主制御ユニットＳＵは、前述した主制御ユニット固定部材５２６４の当接段部５２８７ａに当接する。当接段部５２８７ａは、主制御ユニットＳＵのキャビネットＧの背面壁Ｇ３側に向かう方向への回転を係止する。したがって、主制御ユニット設置位置において、主制御ユニットＳＵを背面壁Ｇ３側に向かう方向へ回転させることはできない。

【４５６２】

［リールユニットの構成］

次に、リールユニットＲＵの構成について、図３７３～図３７５を参照して説明する。

図３７３は、リールユニットＲＵを正面側から見た斜視図である。図３７４は、リールユニットＲＵを背面側から見た斜視図である。図３７５は、リールユニットＲＵの分解斜視図である。

【４５６３】

図３７３～図３７５に示すように、リールユニットＲＵは、リールケース５３１１と、回胴中継端子板５３１２と、回胴バックライト中継端子板５３１３と、基板カバー５３１４と、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒとを有している。

【４５６４】

リールケース５３１１は、正面が開口された筐体状に形成されており、上壁部が円弧状に湾曲している。リールケース５３１１における奥壁部の内面には、端子板取り付け用リブ５３２１が形成されている。端子板取り付け用リブ５３２１には、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の非実装面（後面）が当接する。

【４５６５】

また、端子板取り付け用リブ５３２１は、複数のねじ螺合部と、複数の爪部を有している。複数のねじ螺合部には、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３をリールケース５３１１に固定するためのねじが螺合する。複数の爪部は、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の実装面（前面）に係合して、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の前方への移動を係

止する。

【４５６６】

リールケース５３１１における底部の内面には、３つのリールガイド溝５３２２が形成されている。リールガイド溝５３２２は、正面側の端面から後方向に延びる略長方形に設定されている。３つのリールガイド溝５３２２は、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒをその取付位置に案内する。リールガイド溝５３２２は、短手方向の長さが正面側に向かうにつれて長くなるテーパー状に形成されている。これにより、リール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒをリールガイド溝５３２２に挿入しやすくすることができ、その後、リール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒを取付位置に容易に配置することができる。

【４５６７】

なお、リールケース５３１１における上壁部の内面には、３つのリールガイド溝（不図示）が形成されている。上壁部の３つのリールガイド溝は、３つのリールガイド溝５３２２と一緒に３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒをその取付位置に案内する。上壁部の３つのリールガイド溝は、正面側の端面から後方向に延びる略長方形であり、３つのリールガイド溝５３２２と同様に、短手方向の長さが正面側に向かうにつれて長くなるテーパー状に形成されている。

【４５６８】

また、リールケース５３１１の底部には、配線用開口部５２２３Ａ，５２２３Ｂが形成されている。配線用開口部５２２３Ａは、リールケース５３１１の底部における左右方向の左側であって、前後方向の後側に位置している。配線用開口部５２２３Ａには、回胴中継端子板５３１２に接続された配線（不図示）が貫通する。配線用開口部５２２３Ｂは、リールケース５３１１の底部における左右方向の中央部であって、前後方向の後側に位置している。配線用開口部５２２３Ｂには、回胴バックライト中継端子板５３１３に接続された配線（不図示）が貫通する。

【４５６９】

リールケース５３１１における左壁部の外面には、載置凸部５３２４が設けられている。載置凸部５３２４は、リールケース５３１１の外側に凸となる段部として形成されており、上面、下面、側面、及び後面を有している。載置凸部５３２４の下面は、上述の組立体取り付けブラケット５２５７におけるガイドベース５２７１の上面５２７１ａ（図３６７参照）に載置される。載置凸部５３２４の下面は、ガイドベース５２７１の上面５２７１ａの傾きに合わせて傾斜している。

【４５７０】

載置凸部５３２４の側面は、上述の組立体取り付けブラケット５２５７におけるガイドレール５２７２（図３６７参照）に係合する。載置凸部５３２４の内側には、係合筒部５３２５が形成されている（図３７４参照）。係合筒部５３２５の一端は、載置凸部５３２４の後面から露出されている。係合筒部５３２５には、キャビネットＧに固定されたガイドシャフト５２５９が嵌合する。

【４５７１】

リールケース５３１１における右壁部の外面には、載置凸部５３２６が設けられている。載置凸部５３２６は、リールケース５３１１の外側に凸となる段部として形成されており、上面、下面、側面、及び後面を有している。載置凸部５３２６の下面は、上述の組立体取り付けブラケット５２５８におけるガイドベース５２７６の上面５２７６ａ（図３６７参照）に載置される。載置凸部５３２６の下面は、ガイドベース５２７６の上面５２７６ａの傾きに合わせて傾斜している（図３７１参照）。

【４５７２】

載置凸部５３２６の側面は、上述の組立体取り付けブラケット５２５８におけるガイドレール５２７７（図３６８参照）に係合する。載置凸部５３２６の内側には、係合筒部５３２７が形成されている（図３７４参照）。係合筒部５３２７の一端は、載置凸部５３２６の後面から露出されている。係合筒部５３２７には、キャビネットＧに固定されたガイ

ドシャフト５２６０が嵌合する。

【４５７３】

リールケース５３１１における前面側の４つの角部には、左上ストッパ５３３１と、右上ストッパ５３３２と、左下ストッパ５３３３と、右下ストッパ５３３４とが取り付けられている。各ストッパ５３３１～５３３４は、前方に位置する操作部と、後方に位置するストッパ片５３３５を有している。ストッパ片５３３５は、操作部に接続されており、操作部と一緒に前後方向に延びる回転軸を中心に９０度回転可能に構成されている。ストッパ片５３３５は、解除位置と、解除位置から９０度回転した係止位置との間で回転する。

【４５７４】

左上ストッパ５３３１のストッパ片５３３５（不図示）は、係止位置においてキャビネットＧの左上ストッパ受け５２５５（図３６７参照）に係合する。右上ストッパ５３３２のストッパ片５３３５は、係止位置において右上ストッパ受け５２５６に係合する。左下ストッパ５３３３のストッパ片５３３５（不図示）は、係止位置において左下ストッパ受け５２７３に係合する。右下ストッパ５３３４のストッパ片５３３５は、係止位置において右下ストッパ受け５２７８に係合する。

【４５７５】

図３７４に示すように、リールケース５３１１における奥壁部の外面には、銘板用突部５３３７が形成されている。また、リールケース５３１１の奥壁部には、第１基板用開口部５３３８と、第２基板用開口部５３３９が形成されている。

【４５７６】

銘板用突部５３３７は、リールケース５３１１における奥壁部の外面から略垂直に突出しており、扁平の略四角形に形成されている。銘板用突部５３３７は、キャビネットＧの背面壁Ｇ３に設けた銘板用開口部５２５４（図３６７参照）に嵌合する。銘板用突部５３３７の外周面は、銘板用開口部５２５４の内面に当接する。これにより、銘板用突部５３３７と背面壁Ｇ３との間からキャビネットＧの内部に不正にアクセスすることを防ぐことができる。

【４５７７】

銘板用突部５３３７には、銘板５３４０が固定されている。すなわち、銘板５３４０は、キャビネットＧの背面側から露出される。銘板５３４０には、例えば、遊技機の製造業者名や遊技機の性能に関する情報が記載されている。遊技機の性能に関する情報としては、例えば、定格電圧、定格消費電力、定格周波数、定格入力電流、使用場所（屋内用）、製造時管理用二次元バーコード、ＰＳＥ（Product Safety Electrical appliance & materials）マーク等を挙げることができる。

【４５７８】

本実施形態では、上マスクＵＭ、下マスクＤＭ、主制御及びリール組立体５３００を取り換えることで、キャビネットＧをリユースして、機種が異なる遊技機を構成することができる。ところで、キャビネットＧに銘板５３４０を貼り付ける構成にすると、キャビネットＧをリユースする際に、銘板５３４０の貼り換え作業が必要になる。そこで、本実施形態では、主制御及びリール組立体５３００のリールユニットＲＵに銘板５３４０を着脱可能に貼り付けて、キャビネットＧの背面側から露出させている。これにより、主制御及びリール組立体５３００（リールユニットＲＵ）を取り換えることで、銘板５３４０の取り換えも行うことができ、リユース作業の作業工数を削減することができる。すなわち、リユース時の作業効率を高めることができ、リールユニットＲＵの改良を図ることができる。

【４５７９】

また、銘板５３４０は、リールユニットＲＵにおけるリールケース５３１１の背面側に着脱可能に取り付けられている。これにより、リールユニットＲＵのリールケース５３１１から銘板５３４０を取り外すことで、リールケース５３１１をリユースすることができる。

【４５８０】

リールケース５３１１における奥壁部の外面には、複数の緩衝材５３４１と、端子ブラケット５３４２が取り付けられている。複数の緩衝材５３４１は、リールケース５３１１の奥壁部とキャビネットＧの背面壁Ｇ３との間に介在される。複数の緩衝材５３４１は、主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧに取り付ける作業において、リールケース５３１１とキャビネットＧが接触する際の衝撃をやわらげる。

【４５８１】

端子ブラケット５３４２は、リールケース５３１１の奥壁部に固定される取付け部５３４４と、取付け部５３４４に連続する中間部５３４５と、中間部５３４５に連続する端子固定部５３４６とを有している。

【４５８２】

取付け部５３４４は、リールケース５３１１の奥壁部と平行な板状に形成されており、中間部５３４５は、リールケース５３１１の底部と平行な板状に形成されている。取付け部５３４４は、リールケース５３１１の奥壁部にねじを用いて固定されている。取付け部５３４４及び中間部５３４５には、配線用開口部５３４７が形成されている。配線用開口部５３４７は、リールケース５３１１の底部に設けられた配線用開口部５３２３ｂと対向する。

【４５８３】

端子固定部５３４６は、取付け部５３４４と平行な板状に形成されており、リールケース５３１１における底部の下方に配置されている。端子固定部５３４６の後方を向く面には、接続端子５３５１，５３５２がねじを用いて取り付けられている。

【４５８４】

接続端子５３５１は、配線用開口部５３２３ａを貫通する配線を用いて回胴中継端子板５３１２（図３７５参照）と電気的に接続されている。接続端子５３５２は、配線用開口部５３４７及び配線用開口部５３２３ｂを貫通する配線を用いて回胴バックライト中継端子板５３１３（図３７５参照）と電気的に接続されている。接続端子５３５１，５３５２は、ドロワコネクタである。主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧに取り付けると、リールユニットＲＵの接続端子５３５１，５３５２は、キャビネットＧの接続端子５２８１，５２８２（図３６７参照）に接続される。

【４５８５】

リールケース５３１１における底部には、連結用突部５３４９が形成されている。連結用突部５３４９は、下方から見た形状が略コ字状であり、底部の前面側の１辺と、左右の２辺に沿って延びている。連結用突部５３４９には、ユニット接続部材５３０１がねじを用いて固定される。

【４５８６】

図３７５に示すように、回胴中継端子板５３１２と回胴バックライト中継端子板５３１３は、左右方向に長い略長方形に形成されている。回胴中継端子板５３１２と回胴バックライト中継端子板５３１３は、前方を向く実装面と、後方を向く非実装面とを有している。

【４５８７】

回胴中継端子板５３１２の非実装面は、リールケース５３１１の端子板取り付け用リブ５３２１に当接する。回胴中継端子板５３１２の非実装面には、基板管理番号（不図示）が付されている。回胴中継端子板５３１２の基板管理番号は、リールケース５３１１の第１基板用開口部５３３８（図３７４参照）に対向する。したがって、回胴中継端子板５３１２の基板管理番号は、リールケース５３１１の背面側から視認可能である。

【４５８８】

回胴中継端子板５３１２は、リールケース５３１１の端子板取り付け用リブ５３２１にねじを用いて固定される。回胴中継端子板５３１２の実装面には、３つの中継側回胴接続端子５３５４が実装されている。３つの中継側回胴接続端子５３５４は、ドロワコネクタであり、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒの後述するリール側回胴接続端子５３８１が接続される。また、回胴中継端子板５３１２は、配線（不図示）を用

いてリールケース５３１１の接続端子５３５１（図３７４参照）と電気的に接続されている。

【４５８９】

回胴バックライト中継端子板５３１３の非実装面は、リールケース５３１１の端子板取り付け用リブ５３２１に当接する。回胴バックライト中継端子板５３１３の非実装面には、基板管理番号（不図示）が付されている。回胴バックライト中継端子板５３１３の基板管理番号は、リールケース５３１１の第２基板用開口部５３３９（図３７４参照）に対向する。したがって、回胴バックライト中継端子板５３１３の基板管理番号は、リールケース５３１１の背面側から視認可能である。

【４５９０】

回胴バックライト中継端子板５３１３は、リールケース５３１１の端子板取り付け用リブ５３２１にねじを用いて固定される。回胴バックライト中継端子板５３１３の実装面には、３つの中継側バックライト接続端子５３５５が実装されている。３つの中継側バックライト接続端子５３５５は、ドロワコネクタであり、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒの後述するリール側バックライト接続端子５３８２が接続される。また、回胴バックライト中継端子板５３１３は、配線（不図示）を用いてリールケース５３１１の接続端子５３５２（図３７４参照）と電気的に接続されている。

【４５９１】

回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３は、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒの奥側に配置されている。したがって、キャビネットＧのリユース時に、リールユニットＲＵを交換することで、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３も交換することができる。また、リールユニットＲＵから３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒを外せば、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３を交換できる。そのため、リールケース５３１１のリユース時や、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の修理時に、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の交換作業を容易に行うことができ、作業効率を高めることができる。さらに、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の前方に３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒが配置されているため、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３に対する不正行為（所謂、ゴト）を抑制することができる。

【４５９２】

（基板カバーの構成）

次に、基板カバー５３１４の構成について、図３７５及び図３７６を参照して説明する。

図３７６は、基板カバー５３１４の斜視図である。

【４５９３】

図３７６に示すように、基板カバー５３１４は、後面が開口された筐体状に形成されている。基板カバー５３１４は、ねじを用いてリールケース５３１１における奥壁部の内面に固定される。基板カバー５３１４は、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の実装面側（前方を向く面側）を覆う。すなわち、基板カバー５３１４とリールケース５３１１の奥壁部は、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３を収容する収容空間を形成する。これにより、回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３を収容するケースを設ける場合よりも、リールユニットＲＵの部品点数を削減することができる。

【４５９４】

また、基板カバー５３１４は、透明又は半透明の樹脂により形成されている。これにより、基板カバー５３１４を介して回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３の実装面を視認することができる。その結果、回胴中継端子板５３１２又は回胴バックライト中継端子板５３１３に対して不正行為や不正改造が行われたことを発見し

やすくすることができる。

【４５９５】

基板カバー５３１４の左側板は、リールケース５３１１における左壁部の内面と僅かな隙間を空けて対向する。基板カバー５３１４の左側板には、端子板取り付け用リブ５３２１の複数の爪部との干渉を避けるための切欠き５３６１が形成されている。基板カバー５３１４の右側板は、リールケース５３１１における右壁部の内面と僅かな隙間を空けて対向する。基板カバー５３１４の右側板には、端子板取り付け用リブ５３２１の複数の爪部との干渉を避けるための切欠き５３６２が形成されている。

【４５９６】

図３７５に示すように、基板カバー５３１４の前側板には、３つの端子収容凹部５３６３が形成されている。３つの端子収容凹部５３６３は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。各端子収容凹部５３６３の底部には、第1端子貫通孔５３６４と、第２端子貫通孔５３６５が形成されている。第1端子貫通孔５３６４には、回胴中継端子板５３１２に実装された中継側回胴接続端子５３５４が貫通する。第２端子貫通孔５３６５には、回胴バックライト中継端子板５３１３に実装された中継側バックライト接続端子５３５５が貫通する。

【４５９７】

３つの端子収容凹部５３６３には、中継側回胴接続端子５３５４及び中継側バックライト接続端子５３５５と、後述するリール側回胴接続端子５３８１及びリール側バックライト接続端子５３８２が収容される。端子収容凹部５３６３において、中継側回胴接続端子５３５４には、リール側回胴接続端子５３８１が接続され、中継側バックライト接続端子５３５５には、リール側バックライト接続端子５３８２が接続される。

【４５９８】

基板カバー５３１４の前側板には、複数のねじ挿通部５３６６が形成されている。複数のねじ挿通部５３６６は、基板カバー５３１４の内側に突出するボス部である。複数のねじ挿通部５３６６には、中継側回胴接続端子５３５４及び中継側バックライト接続端子５３５５を端子板取り付け用リブ５３２１固定するためのねじが挿通される。すなわち、中継側回胴接続端子５３５４及び中継側バックライト接続端子５３５５は、基板カバー５３１４と一緒にリールケース５３１１に固定されている。したがって、基板カバー５３１４をリールケース５３１１から取り外すと、中継側回胴接続端子５３５４及び中継側バックライト接続端子５３５５の取り外しが可能になる。

【４５９９】

図３７６に示すように、基板カバー５３１４の前側板及び左側板には、配線用切欠き５３６７が形成されている。配線用切欠き５３６７には、回胴中継端子板５３１２と接続端子５３５１（図３７４参照）を電気的に接続する配線が通る。さらに、基板カバー５３１４の下側板には、配線用切欠き５３６８が形成されている。配線用切欠き５３６８には、回胴バックライト中継端子板５３１３と接続端子５３５２（図３７４参照）を電気的に接続する配線が通る。

【４６００】

（リール部材の構成）

次に、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒの構成について、図３７５、図３７７及び図３７８を参照して説明する。

図３７７は、リール部材５３１５Ｌの分解斜視図である。図３７８は、リール部材５３１５Ｌにおけるホイールフレームの斜視図である。

【４６０１】

図３７５に示す３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒは、同じ構成であり、前後方向に移動させてリールケース５３１１の取り付け位置に配置される。取付位置に配置された３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒは、前後方向から見て重なる部分が無い。したがって、３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒは、順不同でリールケース５３１１に取り付けることができる。

【４６０２】
３つのリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｌは、それぞれリール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒを有している。そして、リール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒは、複数種類の図柄が描かれた透光性の帯状シートを有している。リール４００３Ｌ，４００３Ｃ，４００３Ｒは、帯状シートに描かれている複数種類の図柄の配列が異なる。
【４６０３】
以下、リール部材５３１５Ｌの構成について、図３７７及び図３７８を参照して説明する。上述したように、リール部材５３１５Ｃ，５３１５Ｒの構成は、リール部材５３１５Ｌの構成と同一であるため、リール部材５３１５Ｃ，５３１５Ｒの構成についての説明は省略する。
【４６０４】
図３７７に示すように、リール部材５３１５Ｌは、支持ベース５３７１と、リール４００３Ｌとを有している。
【４６０５】
支持ベース５３７１は、ベース部５３７５と、回転駆動部５３７６と、センサ５３７７と、センサ５３７８と、ランプケース５３７９と、リール側回胴接続端子５３８１と、リール側バックライト接続端子５３８２とを有している。
【４６０６】
ベース部５３７５は、略円形の板体からなる。ベース部５３７５の２つの平面は、左右方向を向く。ベース部５３７５の左方向を向く面は、リール４００３Ｌの内側に位置する。以下、ベース部５３７５の左方向を向く面を、ベース部５３７５の内面とする。
【４６０７】
ベース部５３７５の内面には、リールガイド突起５３８４が設けられている。リールガイド突起５３８４は、ベース部５３７５の前側に位置しており、ベース部５３７５の周縁に沿って湾曲した突条に形成されている。リールガイド突起５３８４には、リール４００３Ｌの後述するリングフレーム５４０２が摺動可能に係合する。
【４６０８】
ベース部５３７５の周縁における上部には、上係合片５３８５が設けられている。上係合片５３８５は、ベース部５３７５の周縁から上方に突出しており、前後方向に長い略直方体状に形成されている。上係合片５３８５の上部は、長方形であり、上下方向に略垂直な平面となっている。上係合片５３８５の上部は、リールケース５３１１の上壁部に設けたリールガイド溝（不図示）に摺動可能に係合する。
【４６０９】
上係合片５３８５の上部には、上固定片５３８６が設けられている。上固定片５３８６は、上係合片５３８５の上部から上方に突出しており、前後方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。上固定片５３８６は、リールケース５３１１における上壁部の開口側端面にピン状の固定具５３８０を用いて固定される。固定具５３８０は、リールケース５３１１における上壁部の開口側端に設けられた会合孔に着脱可能に圧入固定される。
【４６１０】
ベース部５３７５の周縁における上部には、下係合片５３８７が設けられている。下係合片５３８７は、ベース部５３７５の周縁から上方に突出しており、前後方向に長い略直方体状に形成されている。下係合片５３８７の下部は、長方形であり、上下方向に略垂直な平面となっている。下係合片５３８７の下部は、リールケース５３１１の底部に設けられたリールガイド溝５３２２（図３７５参照）に摺動可能に係合する。
【４６１１】
下係合片５３８７の下部には、下固定片５３８８が設けられている。下固定片５３８８は、下係合片５３８７の下部から下方に突出しており、前後方向に略垂直な平面を有する四角形の板状に形成されている。下係合片５３８７の右辺は、ベース部５３７５に連続している。下固定片５３８８は、リールケース５３１１における底部の開口側端面に固定具

５３８０を用いて固定される。

【４６１２】

下係合片５３８７の後部には、端子取付片５３８９が設けられている。端子取付片５３８９は、下係合片５３８７の後部から上方に突出しており、前後方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。端子取付片５３８９には、リール側回胴接続端子５３８１とリール側バックライト接続端子５３８２がねじを用いて取り付けられている。

【４６１３】

リール側回胴接続端子５３８１とリール側バックライト接続端子５３８２は、ドロワコネクタであり、リール部材５３１５Ｌがリールケース５３１１の取付位置に配置されると、中継側回胴接続端子５３５４と中継側バックライト接続端子５３５５に接続される。リール側回胴接続端子５３８１は、不図示の配線を用いて回転駆動部５３７６と電気的に接続されている。リール側バックライト接続端子５３８２は、不図示の配線を用いてバックライト用ＬＥＤ基板（不図示）と電気的に接続されている。バックライト用ＬＥＤ基板は、ランプケース５３７９に固定される。

【４６１４】

回転駆動部５３７６は、例えば、ステッピングモータであり、ベース部５３７５の内面における中央部にねじを用いて固定されている。回転駆動部５３７６の回転軸５３７６ａは、リール４００３Ｌに接続される。これにより、リール４００３Ｌは、ベース部５３７５に回転可能に支持されている。

【４６１５】

センサ５３７７は、センサ台５３９１を介してベース部５３７５の内面に取り付けられている。センサ台５３９１は、ベース部５３７５に設けられた爪受け（不図示）に着脱可能に係合する係合爪（不図示）を有している。センサ５３７７は、例えば、フォトセンサであり、後述するホイールフレーム５４０３の検知片５４１６を検知する。

【４６１６】

センサ５３７８は、センサ台５３９２を介してベース部５３７５の内面に取り付けられている。センサ台５３９２は、ベース部５３７５に設けられた爪受け（不図示）に着脱可能に係合する係合爪（不図示）を有している。センサ５３７８は、例えば、フォトセンサであり、後述するリングフレーム５４０２の検知片を検知する。

【４６１７】

センサ５３７７とセンサ５３７８は、共にリール４００３Ｌの回転位置と回転速度を検出するために設けられている。そのため、センサ５３７７のみでリール４００３Ｌの回転位置と回転速度を検出し、センサ５３７８を設けないようにしてもよい。すなわち、センサ５３７８は、予備のセンサとして設けてもよい。なお、センサ５３７８を設けない場合は、後述するリングフレーム５４０２に検知片を設けなくてもよい。

【４６１８】

ランプケース５３７９は、ベース部５３７５の内面における前側に位置する。ランプケース５３７９は、固定部５３９３と、基板保持部５３９４とを有している。固定部５３９３は、ベース部５３７５に設けられた爪受け（不図示）に着脱可能に係合する係合爪（不図示）を有している。

【４６１９】

基板保持部５３９４は、固定部５３９３から略垂直に突出している。基板保持部５３９４は、上下方向に長い略直方体状に形成されており、前面がベース部５３７５の周縁に沿って湾曲している。基板保持部５３９４は、リール４００３Ｌの内側に対向する。基板保持部５３９４は、前方を向く３つのランプ窓を有している。３つのランプ窓は、リール４００３Ｌを挟んで、上マスクＵＭの表示窓４１１２（図３２０参照）と対向する。

【４６２０】

３つのランプ窓には、３つのバックライト用ＬＥＤ基板（不図示）が取り付けられている。バックライト用ＬＥＤ基板の実装面は、３つのランプ窓を介して前方に露出されている。バックライト用ＬＥＤ基板の実装面には、複数のＬＥＤが実装されている。複数のＬ

ＥＤは、少なくとも回転中のリール４００３Ｌを内部から一定の輝度で照明する。

【４６２１】

リール４００３Ｌは、帯状シート５４０１と、リングフレーム５４０２と、ホイールフレーム５４０３とを有している。

【４６２２】

帯状シート５４０１は、透光性を有する樹脂により円筒状に形成されており、周面に複数種類の図柄が描かれている。リングフレーム５４０２は、円環状に形成されており、帯状シート５４０１の軸方向の一端（右端）に嵌合される。リングフレーム５４０２は、ベース部５３７５のリールガイド突起５３８４に摺動可能に係合する。

【４６２３】

リングフレーム５４０２には、径方向の内側に突出した検知片（不図示）が形成されている。この検知片は、リングフレーム５４０２の周方向に延びており、リングフレーム５４０２の半周の長さに設定されている。すなわち、検知片の両端とリングフレーム５４０２の中心を結ぶ２つの直線が交わる角度は、１８０度である。リール４００３Ｌが回転すると、リングフレーム５４０２の検知片は、支持ベース５３７１におけるセンサ５３７８の光路を通過する。

【４６２４】

図３７８に示すように、ホイールフレーム５４０３は、リム５４１１と、軸連結部５４１２と、複数の接続片５４１３と、内側リング５４１４とを有している。リム５４１１は、円環状に形成されており、ホイールフレーム５４０３の外周縁である。リム５４１１は、帯状シート５４０１の軸方向の他端（左端）に嵌合される。

【４６２５】

軸連結部５４１２は、リム５４１１と同軸であって、リム５４１１よりも小さい径の略円柱状に形成されている。すなわち、軸連結部５４１２は、ホイールフレーム５４０３の中心に位置している。軸連結部５４１２の軸方向の一端における中心部には、軸固定部５４１５が形成されている。軸固定部５４１５には、回転駆動部５３７６の回転軸５３７６ａが固定される。

【４６２６】

複数の接続片５４１３は、リム５４１１の径方向に延びる板状に形成されており、軸連結部５４１２の外周面とリム５４１１の内周面に連続している。内側リング５４１４は、リム５４１１と軸連結部５４１２の間に位置している。内側リング５４１４は、リム５４１１及び軸連結部５４１２と同軸であって、リム５４１１よりも小さい径の円環状に形成されている。内側リング５４１４は、複数の接続片５４１３の中間部に接続されている。

【４６２７】

内側リング５４１４におけるベース部５３７５に対向する面には、検知片５４１６が形成されている。検知片５４１６は、内側リング５４１４の周方向に延びており、内側リング５４１４の半周の長さに設定されている。すなわち、検知片５４１６の両端と内側リング５４１４の軸心を結ぶ２つの直線が交わる角度は、１８０度である。検知片５４１６は、支持ベース５３７１におけるセンサ５３７７の光路を通過する。

【４６２８】

例えば、センサ５３７７は、検知片５４１６を検出すると、ＯＮ信号を出力する。したがって、ＯＮ信号（又はＯＦＦ信号）が出力されている時間から、リール４００３Ｌの回転速度を算出することができる。また、リール４００３Ｌが定速で回転しているときは、ＯＮ信号の出力が開始されてからの経過時間に基づいて、リール４００３Ｌの回転位置（図柄位置）を検出することができる。

【４６２９】

リングフレーム５４０２は、帯状シート５４０１を介してホイールフレーム５４０３に接続されている。そのため、帯状シート５４０１とホイールフレーム５４０３の中心軸がずれていると、帯状シート５４０１が回転したときに、リングフレーム５４０２の検出片がバタつくことある。その結果、リール４００３Ｌの回転速度や回転位置の検出精度が低

下してしまう。一方、ホイールフレーム５４０３の内側リング５４１４に検知片５４１６を設けた場合は、帯状シート５４０１とホイールフレーム５４０３の中心軸がずれていても、検知片５４１６がバタつかない。その結果、リール４００３Ｌの回転速度や回転位置の検出精度の低下を抑制することができる。

【４６３０】

［ユニット接続部材の構成］

次に、ユニット接続部材５３０１の構成について、図３７９を参照して説明する。

図３７９は、ユニット接続部材５３０１の分解斜視図である。

【４６３１】

図３７９に示すように、ユニット接続部材５３０１は、接続部本体５４２１と、左係合壁５４２２と、右係合壁５４２３とを有している。そして、接続部本体５４２１は、リールユニット接続部５４２５と、主制御ユニット支持部５４２６とを有している。

【４６３２】

リールユニット接続部５４２５は、左接続壁５４３１と、右接続壁５４３２と、左接続壁５４３１及び右接続壁５４３２に連続する上接続片５４３３とを有している。

【４６３３】

左接続壁５４３１と右接続壁５４３２は、左右方向において所定の距離を空けて対向している。左接続壁５４３１は、左右方向に略直交する平面を有し、前後方向に長い略長方形の板状に形成されている。右接続壁５４３２は、左接続壁５４３１と左右対称な板状に形成されている。以下、左接続壁５４３１及び右接続壁５４３２の互いに対向する平面を内面とし、内面と反対側の面を外面とする。

【４６３４】

左接続壁５４３１の外面における下部には、左支持脚５４３４がねじを用いて固定されている。また、右接続壁５４３２の外面における下部には、右支持脚５４３５がねじを用いて固定されている。左支持脚５４３４及び右支持脚５４３５の下面は、平面に形成されている。主制御及びリール組立体５３００を床などの平面に置く際に、左支持脚５４３４及び右支持脚５４３５の下面が床などに接触する。なお、制御及びリール組立体５３００を床などの平面に置く場合は、主制御ユニットＳＵを後述する特定位置（図３８９参照）に配置して、主制御ユニットＳＵが床などの平面と干渉しないようにする。

【４６３５】

上接続片５４３３は、左右方向に長い扁平の略直方体状に形成されている。上接続片５４３３の左端部は、左接続壁５４３１における前側の上角部に連続している。上接続片５４３３の右端部は、右接続壁５４３２における前側の上角部に連続している。上接続片５４３３、左接続壁５４３１と右接続壁５４３２の上部は、リールケース５３１１の連結用突部５３４９にねじを用いて固定される。

【４６３６】

主制御ユニット支持部５４２６は、左右方向に長い扁平の略直方体状に形成されている。主制御ユニット支持部５４２６の左端部は、左接続壁５４３１の下面における前側の領域に連続している。主制御ユニット支持部５４２６の右端部は、右接続壁５４３２の下面における前側の領域に連続している。

【４６３７】

主制御ユニット支持部５４２６の前面には、軸受け部５４３６，５４３７が形成されている。軸受け部５４３６は、主制御ユニット支持部５４２６の前面における左端部に位置し、軸受け部５４３７は、主制御ユニット支持部５４２６の前面における右端部に位置している。軸受け部５４３６は、左右方向に貫通する軸受孔を有している。軸受け部５４３７は、右方に開口された軸受孔を有している。軸受け部５４３６，５４３７の軸受孔には、主制御ユニットＳＵの後述する連結軸５４８６，５４８７が回転可能に嵌合する。

【４６３８】

また、主制御ユニット支持部５４２６の前面における左右方向の略中央部には、丁番用凹部５４３８が形成されている。丁番用凹部５４３８は、上方を向く底面を有している。

丁番用凹部５４３８の底面には、丁番５４４０の一方の羽根部がねじを用いて固定されている。丁番５４４０の他方の羽根部は、主制御ユニットＳＵの後述する基板トレイ５４５１にねじを用いて固定される。

【４６３９】

左係合壁５４２２と右係合壁５４２３は、左右方向に所定の距離を空けて対向している。左係合壁５４２２及び右係合壁５４２３は、左右方向に略垂直な平面を有する板体からなる。以下、左係合壁５４２２及び右係合壁５４２３の互いに対向する平面を内面とし、内面と反対側の面を外面とする。

【４６４０】

左係合壁５４２２は、接続部本体５４２１における左接続壁５４３１の外面にねじを用いて固定される。左係合壁５４２２の前面及び内面には、略四角形の係合凹部５４４１が形成されている。係合凹部５４４１には、主制御ユニットＳＵの後述する左ストッパ５４６２が係合する。

【４６４１】

左係合壁５４２２の内面は、軸受け部５４３６の左側端面に当接する。左係合壁５４２２の内面には、嵌合突部５４４２が形成されている。嵌合突部５４４２は、左係合壁５４２２の内面から略垂直に突出する円柱状に形成されている。嵌合突部５４４２は、接続部本体５４２１における軸受け部５４３６の軸受孔に嵌合する。

【４６４２】

右係合壁５４２３は、接続部本体５４２１における右接続壁５４３２の外面にねじを用いて固定される。右係合壁５４２３の前面及び内面には、略四角形の係合凹部５４４３が形成されている。係合凹部５４４３には、主制御ユニットＳＵの後述する右ストッパ５４６４が係合する。また、右係合壁５４２３の後部には、切欠き５４４４が形成されている。切欠き５４４４は、接続部本体５４２１における軸受け部５４３７の右側端面を露出させる。

【４６４３】

左係合壁５４２２及び右係合壁５４２３の下面は、接続部本体５４２１における左支持脚５４３４及び右支持脚５４３５の下面と同一平面を形成する。したがって、主制御及びリール組立体５３００を床などの平面に置く際に、左支持脚５４３４、右支持脚５４３５、左係合壁５４２２及び右係合壁５４２３の下面が床などに接触する。これにより、主制御及びリール組立体５３００を安定して自立させることができる。

【４６４４】

［主制御ユニットの構成］

次に、主制御ユニットＳＵの構成について、図３８０を参照して説明する。

図３８０は、主制御ユニットＳＵの分解斜視図である。

【４６４５】

図３８０に示すように、主制御ユニットＳＵは、基板トレイ５４５１と、係止ブロック５４５２と、外部装置接続端子板５４５３と、端子板カバー５４５４と、主制御基板４０７１を含む基板封止体５４５５とを有している。外部装置接続端子板５４５３としては、例えば、遊技球等貸出装置接続端子板を挙げることができる。また、外部装置の一例である遊技球等貸出装置は、メダルレスのものであってもよい。

【４６４６】

基板トレイ５４５１には、係止ブロック５４５２がねじ５４５６を用いて固定される。また、基板トレイ５４５１には、外部装置接続端子板５４５３がねじを用いて固定される。さらに、基板トレイ５４５１には、外部装置接続端子板５４５３を覆う端子板カバー５４５４がねじを用いて固定される。そして、基板トレイ５４５１には、主制御基板４０７１を含む基板封止体５４５５が載置されて、カシメ固定される。

【４６４７】

（基板トレイの構成）

まず、基板トレイ５４５１の構成について、図３８０及び図３８１を参照して説明する

。

図３８１は、基板トレイ５４５１の分解斜視図である。

【４６４８】

図３８１に示すように、基板トレイ５４５１は、トレイ本体５４６１と、左ストッパ５４６２と、左ストッパカバー５４６３と、右ストッパ５４６４と、右ストッパカバー５４６５とを有している。

【４６４９】

トレイ本体５４６１は、透明又は半透明の樹脂により、一面が開口された長方形の筐体状に形成されている。トレイ本体５４６１は、底板５４７１と、第１側板５４７２と、第２側板５４７３と、第３側板５４７４と、第４側板５４７５とを有している。底板５４７１は、横長の長方形に形成されている。第１側板５４７２及び第２側板５４７３は、底板５４７１の２つの長辺から略垂直に立ち上がっている。第３側板５４７４及び第４側板５４７５は、底板５４７１の２つの短辺から略垂直に立ち上がっている。

【４６５０】

キャビネットＧに主制御ユニットＳＵを取り付けた場合（図３６６参照）に、第１側板５４７２は、ユニット接続部材５３０１と対向し、第２側板５４７３は、キャビネットＧの底面壁Ｇ５と対向する。また、第３側板５４７４は、キャビネットＧの左側面壁Ｇ２と対向し、第４側板５４７５は、キャビネットＧの右側面壁Ｇ２と対向する。以下、第１側板５４７２と第２側板５４７３が対向する方向を第１方向Ｙとし、第３側板５４７４と第４側板５４７５が対向する方向を第２方向Ｘとする。また、第１方向Ｙと第２方向Ｘに直交する方向を第３方向Ｚとする。

【４６５１】

底板５４７１には、基板封止体５４５５（図３８０参照）が載置される。底板５４７１及び側板５４７２～５４７５は、基板封止体５４５５を囲む。以下、底板５４７１及び各側板５４７２～５４７５において、基板封止体５４５５側の面を内面とし、内面と反対側の面を外面とする。

【４６５２】

底板５４７１における基板封止体５４５５の主制御基板４０７１と対向する領域には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、底板５４７１の外面側から主制御基板４０７１を視認し易くしている。底板５４７１の内面には、カシメ筒部５４７７，５４７８と、ブロック固定部５４７９と、端子板収容部５４８１が設けられている。

【４６５３】

カシメ筒部５４７７，５４７８は、底板５４７１における第１側板５４７２と第３側板５４７４に連続する角部に位置し、第２方向Ｘに適当な距離を空けて並んでいる。カシメ筒部５４７７，５４７８は、底板５４７１の内面から略垂直に突出する円筒状に形成されている。カシメ筒部５４７７，５４７８には、後述するカシメブロック５４５７が嵌合する。

【４６５４】

ブロック固定部５４７９は、底板５４７１における第１側板５４７２と第３側板５４７４に連続する角部に位置している。ブロック固定部５４７９は、底板５４７１の内面から略垂直に突出する直方体状に形成されている。ブロック固定部５４７９には、係止ブロック５４５２（図３８０参照）が固定される。ブロック固定部５４７９の第３方向Ｚに略垂直な面である天面には、ねじ孔５４７９ａが形成されている。ねじ孔５４７９ａには、係止ブロック５４５２をブロック固定部５４７９に固定するためのねじ５４５６が螺合される。また、底板５４７１におけるブロック固定部５４７９の第2方向Ｘの両側には、貫通孔が形成されている。この貫通孔には、係止ブロック５４５２の後述するブロック係合爪５５２３が貫通する。

【４６５５】

端子板収容部５４８１は、底板５４７１における第２側板５４７３と第３側板５４７４に連続する角部に位置している。端子板収容部５４８１には、外部装置接続端子板５４５

３が収容される。端子板収容部５４８１は、外部装置接続端子板５４５３を収容する領域と基板封止体５４５５を収容する領域を区画する仕切り壁５４８２を有している。そして、仕切り壁５４８２には、後述するハーネス５５３０（図３８３参照）を通すための切欠き５４８２ａが形成されている。

【４６５６】

端子板収容部５４８１における底板５４７１は、外部装置接続端子板５４５３の実装面が対向する。端子板収容部５４８１の底板５４７１における外部装置接続端子板５４５３と対向する領域には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、底板５４７１の外面側から外部装置接続端子板５４５３を視認し易くしている。

【４６５７】

端子板収容部５４８１における底板５４７１には、外部用端子貫通孔５４８３と、内部用端子収容凹部５４８４が形成されている。外部用端子貫通孔５４８３は、端子板収容部５４８１における第１側板５４７２側の端部に位置し、内部用端子収容凹部５４８４は、端子板収容部５４８１における第２側板５４７３側の端部に位置する。

【４６５８】

第１側板５４７２には、連結軸５４８６，５４８７と、丁番固定部５４８９と、ケース側係合爪５４９１，５４９２と、係止片用切欠き部５４９３が設けられている。

【４６５９】

連結軸５４８６，５４８７は、第１側板５４７２の外面において第２方向Ｘの両端部に位置している。連結軸５４８６，５４８７は、第１側板５４７２から突出する軸ベースと、軸ベースから第２方向Ｘの第３側板５４７４側に突出する軸本体から構成されている。連結軸５４８６，５４８７は、ユニット接続部材５３０１の軸受け部５４３６，５４３７（図３７９参照）に回転可能に嵌合される。これにより、主制御ユニットＳＵの基板トレイ５４５１は、ユニット接続部材５３０１の主制御ユニット支持部５４２６に回転可能に支持される。

【４６６０】

丁番固定部５４８９は、第１側板５４７２の外面において第２方向Ｘの略中央部に位置する。丁番固定部５４８９は、第１側板５４７２から突出しており、第２方向Ｘに長い長方形に形成されている。丁番固定部５４８９には、丁番５４４０（図３７９参照）の他方の羽根部がねじを用いて固定される。

【４６６１】

ケース側係合爪５４９１は、連結軸５４８６と丁番固定部５４８９との間に位置し、ケース側係合爪５４９２は、丁番固定部５４８９と連結軸５４８７との間に位置する。ケース側係合爪５４９１，５４９２は、第１側板５４７２に開口側から第３方向Ｚに延びる溝を設けることで形成されている。ケース側係合爪５４９１，５４９２は、第１方向Ｙに撓み変形可能であり、基板封止体５４５５に係合する。

【４６６２】

係止片用切欠き部５４９３は、丁番固定部５４８９とケース側係合爪５４９２との間に位置し、第１方向Ｙにおいて底板５４７１に設けたブロック固定部５４７９に対向する。係止片用切欠き部５４９３は、開口側から第３方向Ｚに延びる略長方形に形成されている。係止片用切欠き部５４９３には、係止ブロック５４５２の後述する係止片５５２２が貫通する。

【４６６３】

第２側板５４７３には、２つの係合孔５４９６と、係合突起５４９７が設けられている。２つの係合孔５４９６は、第２側板５４７３における第２方向Ｘの両端部に位置している。２つの係合孔５４９６は、第２側板５４７３を貫通しており、略四角形に形成されている。２つの係合孔５４９６には、基板封止体５４５５の後述する２つの係合凸部５６４２が係合する。

【４６６４】

係合突起５４９７は、第２側板５４７３の外面において第２方向Ｘの略中央部に位置し

ている。係合突起５４９７は、第１方向Ｘ及び第２方向Ｙに平行な側面が略Ｌ字状であり、第２側板５４７３から突出する突出片と、突出片に連続する係合片とを有する。突出片は、第２方向Ｘに略垂直な平面を有する板状に形成されており、係合片は、第１方向Ｙに略垂直な平面を有する板状に形成されている。係合突起５４９７は、主制御ユニット固定部材５２６４の係止片５２９５（図３６９参照）と係合する。

【４６６５】

第４側板５４７５には、ガイド枠５４９９が形成されている。ガイド枠５４９９は、第４側板５４７５の外面から突出しており、第１方向Ｙから見た形状がコ字状に形成されている。ガイド枠５４９９には、右ストッパ５４６４の後述するストッパ片５５１２が摺動可能に嵌合する。これにより、ストッパ片５５１２のガタツキを抑制することができる。また、第３側板５４７４には、ガイド枠（不図示）が形成されている。第３側板５４７４のガイド枠は、第４側板５４７５と同じ形状である。第３側板５４７４のガイド枠には、左ストッパ５４６２の後述するストッパ片５５０２が摺動可能に嵌合する。これにより、ストッパ片５５０２のガタツキを抑制することができる。

【４６６６】

左ストッパ５４６２は、第３側板５４７４の外面に摺動可能に接触する。左ストッパカバー５４６３は、第３側板５４７４の外面にねじを用いて取り付けられており、左ストッパ５４６２の移動を案内する。左ストッパ５４６２は、第２方向Ｘに略垂直な平面を有し、平面形状がクランク状の板体からなる。左ストッパ５４６２は、第１方向Ｙに延びる係合摺動部５５０１及びストッパ片５５０２を有している。

【４６６７】

係合摺動部５５０１は、操作部５５０３と、２つの係合爪５５０４とを有している。操作部５５０３は、係合摺動部５５０１における第３側板５４７４側と反対側の面から突出している。２つの係合爪５５０４は、係合摺動部５５０１における第３方向Ｚに略垂直な面である両側面に形成されている。２つの係合爪５５０４は、第３方向Ｚに略垂直な平面を有する薄板状に形成されており、第３方向Ｚに撓み変形可能である。ストッパ片５５０２は、左ストッパ５４６２の先端部を形成している。ストッパ片５５０２は、ユニット接続部材５３０１における左係合壁５４２２の係合凹部５４４１に係合する。

【４６６８】

左ストッパカバー５４６３は、第１方向Ｙに長い略長方形の板体からなり、左ストッパ５４６２の係合摺動部５５０１を覆う。左ストッパカバー５４６３は、操作部用貫通孔５５０６を有している。操作部用貫通孔５５０６は、第１方向Ｙに長い略長方形に形成されている。操作部用貫通孔５５０６には、左ストッパ５４６２の操作部５５０３が貫通する。そして、操作部５５０３は、操作部用貫通孔５５０６に沿って第１方向Ｙに移動可能である。

【４６６９】

左ストッパカバー５４６３の左ストッパ５４６２と対向する面には、ガイド溝５５０７が形成されている。ガイド溝５５０７は、第１方向Ｙに延びており、左ストッパカバー５４６３における第１方向Ｙの一端である端面５４６３ａに開口している。ガイド溝５５０７は、左ストッパ５４６２の係合摺動部５５０１の第３の方向Ｚへの移動を係止して、左ストッパ５４６２の係合摺動部５５０１の第１の方向Ｙへの移動を案内する。ガイド溝５５０７は、係合摺動部５５０１の２つの係合爪５５０４に係合して、左ストッパ５４６２の第１方向Ｙへの移動に対して抵抗力を発生する抵抗力発生突部を有している。

【４６７０】

また、ガイド溝５５０７は、係合摺動部５５０１の移動範囲を制限する。これにより、左ストッパ５４６２は、非係合位置から係合位置までの範囲を移動可能となる。左ストッパ５４６２を非係合位置から係合位置に移動させるとき、２つの係合爪５２９６は、撓み変形して抵抗力発生突部を乗り越える。これにより、左ストッパ５４６２の移動に対して抵抗力が生じる。

【４６７１】

左ストッパ５４６２が係合位置に配置されると、係合摺動部５５０１の一端部が左ストッパカバー５４６３の端面５４６３ａから突出する。このとき、左ストッパ５４６２のストッパ片５５０２は、ユニット接続部材５３０１における左係合壁５４２２の係合凹部５４４１に係合可能な位置に配置される。

【４６７２】

左ストッパ５４６２を係合位置から非係合位置に移動させるとき、２つの係合爪５２９６は、撓み変形して抵抗力発生突部を乗り越える。これにより、左ストッパ５４６２の移動に対して抵抗力が生じる。左ストッパ５４６２が非係合位置に配置されると、係合摺動部５５０１がガイド溝５５０７内に収納される。このとき、左ストッパ５４６２のストッパ片５５０２は、ユニット接続部材５３０１における左係合壁５４２２の係合凹部５４４１に係合不可能な位置に配置される。

【４６７３】

右ストッパ５４６４は、第４側板５４７５の外面に摺動可能に接触する。右ストッパカバー５４６５は、第４側板５４７５の外面にねじを用いて取り付けられており、右ストッパ５４６４の移動を案内する。右ストッパ５４６４は、上述の左ストッパ５４６２と左右対称に形成されており、係合摺動部５５１１及びストッパ片５５１２を有している。ストッパ片５５１２は、ユニット接続部材５３０１における右係合壁５４２３の係合凹部５４４３に係合する。また、係合摺動部５５１１は、操作部５５１３と、２つの係合爪５５１４とを有している。

【４６７４】

右ストッパカバー５４６５は、右ストッパ５４６４の係合摺動部５５１１を覆う。左ストッパカバー５４６３は、操作部用貫通孔５５１６と、ガイド溝５５１７を有している。操作部用貫通孔５５１６には、右ストッパ５４６４の操作部５５１３が貫通する。そして、操作部５５１３は、操作部用貫通孔５５１６に沿って第１方向Ｙに移動可能である。ガイド溝５５１７は、右ストッパカバー５４６５における第１方向Ｙの一端である端面５４６５ａに開口している。

【４６７５】

また、ガイド溝５５１７は、係合摺動部５５１１の移動範囲を制限する。これにより、右ストッパ５４６４は、非係合位置から係合位置までの範囲を移動可能となる。右ストッパ５４６４を非係合位置から係合位置に移動させるとき、２つの係合爪５２９６は、撓み変形して抵抗力発生突部を乗り越える。これにより、右ストッパ５４６４の移動に対して抵抗力が生じる。

【４６７６】

右ストッパ５４６４が係合位置に配置されると、係合摺動部５５１１の一端部が右ストッパカバー５４６５の端面５４６５ａから突出する。このとき、右ストッパ５４６４のストッパ片５５１２は、ユニット接続部材５３０１における右係合壁５４２３の係合凹部５４４３に係合可能な位置に配置される。

【４６７７】

右ストッパ５４６４を係合位置から非係合位置に移動させるとき、２つの係合爪５５１４は、撓み変形して抵抗力発生突部を乗り越える。これにより、右ストッパ５４６４の移動に対して抵抗力が生じる。右ストッパ５４６４が非係合位置に配置されると、係合摺動部５５１１がガイド溝５５１７内に収納される。このとき、右ストッパ５４６４のストッパ片５５１２は、ユニット接続部材５３０１における右係合壁５４２３の係合凹部５４４３に係合不可能な位置に配置される。

【４６７８】

（係止ブロックの構成）

次に、係止ブロック５４５２の構成について、図３８０を参照して説明する。

図３８０に示すように、係止ブロック５４５２は、固定片５５２１と、固定片５５２１に連続する係止片５５２２とを有している。固定片５５２１は、略四角形の直方体状に形成されている。固定片５５２１は、ねじ５４５６を用いて、基板トレイ５４５１のブロッ

ク固定部５４７９に固定されている。ねじ５４５６は、固定片５５２１を第３方向Ｚに貫通する。

【４６７９】

固定片５５２１の第２方向Ｘに略直交する面である２つの側面には、それぞれブロック係合爪５５２３が設けられている。ブロック係合爪５５２３は、第２方向Ｘに略直交する平面を有する薄板状に形成されており、第２方向Ｘに撓み変形可能である。ブロック係合爪５５２３は、ブロック固定部５４７９に係合する。

【４６８０】

係止片５５２２は、固定片５５２１における第３方向Ｚに略直交する面である一方の側面から略垂直に突出している。係止片５５２２は、第３方向Ｚに薄い扁平の直方体状に形成されている。係止片５５２２は、基板トレイ５４５１における第１側板５４７２の係止片用切欠き部５４９３を貫通して、基板トレイ５４５１の外側に突出する。主制御ユニットＳＵがユニット接続部材５３０１（図３７９参照）に回転可能に支持された状態において、係止片５５２２は、主制御ユニット支持部５４２６における軸受け部５４３７の左側端面に当接する。

【４６８１】

（外部装置接続端子板の構成）

次に、外部装置接続端子板５４５３の構成について、図３８２を参照して説明する。

図３８２は、外部装置接続端子板５４５３の実装面を示す斜視図である。

【４６８２】

図３８２に示すように、外部装置接続端子板５４５３は、第１方向Ｙに長い長方形に形成されている。外部装置接続端子板５４５３は、基板トレイ５４５１の端子板収容部５４８１（図３８１参照）にねじを用いて固定される。

【４６８３】

外部装置接続端子板５４５３は、実装面５４５３ａと、非実装面（ハンダ面）５４５３ｂ（図３８０参照）を有している。外部装置接続端子板５４５３の実装面５４５３ａは、端子板収容部５４８１内の底板５４７１に対向する。外部装置接続端子板５４５３の非実装面５４５３ｂは、端子板カバー５４５４（図３８０参照）に対向する。

【４６８４】

外部装置接続端子板５４５３の実装面５４５３ａには、少なくとも外部用接続端子５５３１と、内部用接続端子５５３２が実装されている。外部用接続端子５５３１は、実装面５４５３ａにおける第１方向Ｙの一側（図３８２において上側）に位置し、内部用接続端子５５３２は、実装面５４５３ａにおける他側（図３８２において下側）に位置する。

【４６８５】

外部用接続端子５５３１は、端子板収容部５４８１の外部用端子貫通孔５４８３（図３８１参照）を貫通する。そして、外部用接続端子５５３１は、ハーネス５５２９（図３７２参照）を用いて外部装置（例えば、遊技球等貸出装置）と電気的に接続される。内部用接続端子５５３２は、基板トレイ５４５１の内部用端子収容凹部５４８４（図３８１参照）内に挿入される。そして、内部用接続端子５５３２は、ハーネス５５３０（図３８３参照）を用いて主制御基板４０７１の外部端子板用コネクタ５５６３に接続される。

【４６８６】

また、外部用接続端子５５３１は、Ｄ－ｓｕｂ９ピンのスプリングロック付きソケットタイプコネクタであり、ハーネス５５２９の一端側にあるＤ－ｓｕｂ９ピンのピンタイプコネクタを挿入可能である。スプリングロックとは、外部用接続端子５５３１の両端に配置された針金のような金属製の環状部材である（図３８２参照）。ハーネス５５２９の挿入にともない、ハーネス５５２９の係合部であるロックプレート（不図示）にスプリングロックが係合してハーネスが外れることを抑制する。メダル等の物理的な遊技媒体を用いないスマート遊技機では、遊技球等貸出装置との接続が途切れると遊技不能状態となるため、スプリングロックを用いてハーネス５５２９が遊技中に抜けにくいようにしている。なお、コネクタは上記に例示したもの以外を採用してもよい。

【４６８７】
　ハーネス５５２９は、遊技機の部品ではない。ハーネス５５２９は、遊技球等貸出端子板と外部装置（遊技球等貸出装置等）を通信可能に接続できるハーネスを遊技店側が用意する。ハーネス５５２９の一端側（遊技機接続側）のコネクタは、上述の通り外部用接続端子５５３１に対応するコネクタ形状である。ハーネス５５２９の他端側（遊技球等貸出装置側）のコネクタは、その遊技店で採用している遊技球等貸出装置のコネクタに合わせた形状である。ハーネス５５２９は、遊技球等貸出装置とセットでサンドの販売業者から購入する場合もあれば、遊技機と遊技球貸出装置のコネクタ仕様を確認して独自に購入する場合もある。なお、ハーネス５５３０は遊技機の構成部品の１つである。
【４６８８】
（端子板カバーの構成）
　次に、端子板カバー５４５４の構成について、図３８０及び図３８３を参照して説明する。
　図３８３は、主制御ユニットＳＵの断面図である。
【４６８９】
　端子板カバー５４５４は、基板トレイ５４５１にねじを用いて固定されている。図３８０に示すように、端子板カバー５４５４は、第３方向Ｚに略直交する一面（裏面）が開口された多面体の筐体状に形成されており、カバー本体５５４１と、端子カバー部５５４２とを有している。
【４６９０】
　カバー本体５５４１は、第３方向Ｚから見た形状が長方形に形成されており、端子板収容部５４８１を塞ぐ。端子カバー部５５４２は、カバー本体５５４１の一方の長辺に連続しており、第３方向Ｚから見た形状が四角形に形成されている。端子カバー部５５４２は、基板封止体５４５５の後述する第２コネクタ用凹部５６３２を塞ぐ。第２コネクタ用凹部５６３２には、主制御基板４０７１の外部端子板用コネクタ５５６３が露出される。
【４６９１】
　端子板カバー５４５４は、基板トレイ５４５１と同様に、透明又は半透明の樹脂によって形成されている。したがって、外部装置接続端子板５４５３の非実装面５４５３ｂ及び外部端子板用コネクタ５５６３は、端子板カバー５４５４を介して視認可能である。なお、外部装置接続端子板５４５３の実装面５４５３ａは、基板トレイ５４５１の底板５４７１を介して視認可能である。
【４６９２】
　図３８３に示すように、外部装置接続端子板５４５３の実装面５４５３ａに実装された外部用接続端子５５３１は、基板トレイ５４５１の外部用端子貫通孔５４８３を貫通して、底板５４７１の外側に突出する。基板トレイ５４５１の底板５４７１は、キャビネットＧの背面壁Ｇ３側を向いている。そして、背面壁Ｇ３には、外部用接続端子５５３１に接続されるハーネス５５２９（図３７２参照）を通す配線用貫通孔が形成されている。これにより、ハーネス５５２９の湾曲部分を少なくすることができ、外部用接続端子５５３１にハーネス５５２９を容易に接続することができる。
【４６９３】
　カバー本体５５４１の内側には、補強突部５５４３が設けられている。補強突部５５４３は、第１方向Ｙに略垂直な平面を有する板状に形成されている。補強突部５５４３は、外部装置接続端子板５４５３の非実装面５４５３ｂにおいて、外部用接続端子５５３１と反対側の部分に当接する。これにより、外部用接続端子５５３１にハーネス５５２９を接続する際に、外部装置接続端子板５４５３に力が加わっても、外部装置接続端子板５４５３が撓まないようにすることができ、外部装置接続端子板５４５３の破損を防止或いは抑制することができる。
【４６９４】
　外部装置接続端子板５４５３の実装面５４５３ａに実装された内部用接続端子５５３２は、基板トレイ５４５１の内部用端子収容凹部５４８４内に挿入される。内部用接続端子

５５３２は、主制御基板４０７１の外部端子板用コネクタ５５６３にハーネス５５３０を用いて接続されている。ハーネス５５３０は、内部用接続端子５５３２から内部用端子収容凹部５４８４を通って、非実装面５４５３ｂ側に配置される。そして、ハーネス５５３０は、基板トレイ５４５１の仕切り壁５４８２に設けた切欠き５４８２ａを通って、主制御基板４０７１側に配置される。ハーネス５５３０は、外部用接続端子５５３１に接続されるハーネス５５２９よりも細い。そのため、端子板カバー５４５４で閉じられた狭い空間内で折り曲げることができる。

【４６９５】

なお、前述の通り、ハーネス５５２９は、遊技店側が用意するため、遊技店により採用するハーネスの太さが異なる可能性がある。一般的なＤ－ｓｕｂ９ピンのハーネスの太さは、直径４．５～５．０ｍｍのものが多く、それと比べてハーネス５５３０は細く取り回しがしやすいものを採用している。また、背面壁Ｇ３の配線用貫通孔は、一般的なＤ－ｓｕｂ９ピンのハーネス及び同ハーネスのうち幅の広い部分であるコネクタ部（Ｄ－ｓｕｂ９ピンのスプリングロックに対応するロックプレート付きコネクタ）を通すことが可能な大きさに設定されている。

【４６９６】

［基板封止体の構成］

次に、基板封止体５４５５の構成について、図３８４及び図３８５を参照して説明する。

図３８４は、基板封止体５４５５の分解斜視図である。図３８５は、基板封止体５４５５における主基板上ケースの斜視図である。

【４６９７】

図３８４に示すように、基板封止体５４５５は、主制御基板４０７１と、バックアップ基板５５５０と、主制御基板４０７１及びバックアップ基板５５５０を収容する基板ケース５５５１とを有している。そして、基板ケース５５５１は、基板下ケース５５５２と、基板上ケース５５５３から構成されている。

【４６９８】

（主制御基板の構成）

主制御基板４０７１は、左右方向に長い長方形の板体からなる。主制御基板４０７１の一方の平面は、実装面４０７１ａであり、主制御基板４０７１の他方の平面は、非実装面（ハンダ面）４０７１ｂである。なお、本発明に係る主制御基板としては、両平面に部品を実装するものであってもよい。主制御基板４０７１の実装面４０７１ａは、基板上ケース５５５３に対向し、非実装面４０７１ｂは、基板下ケース５５５２に対向する。主制御基板４０７１は、基板上ケース５５５３にねじを用いて固定される。

【４６９９】

主制御基板４０７１の実装面４０７１ａには、制御信号コネクタ５５６１、ＣＰＵチップ５５６２、外部端子板用コネクタ５５６３、検査用コネクタ５５６４、設定操作スイッチ５５６５等が実装されている。制御信号コネクタ５５６１は、実装面４０７１ａを正面視した場合に、左上の角部に配置されている。制御信号コネクタ５５６１は、細長い直方体状に形成されている。制御信号コネクタ５５６１には、主制御信号ハーネス（不図示）が着脱可能に接続される。

【４７００】

ＣＰＵチップ５５６２は、実装面４０７１ａを正面視した場合に、中央の下部に配置されている。ＣＰＵチップ５５６２は、遊技の制御に関わる電子部品の一具体例を示すものである。遊技の制御に関わる電子部品は、ＣＰＵチップに限定されず、例えば、ＭＣＵ（Micro-Control Unit）チップなど各種の制御用電子部品を適用することができる。

【４７０１】

外部端子板用コネクタ５５６３、検査用コネクタ５５６４、設定操作スイッチ５５６５は、実装面４０７１ａを正面視した場合に、右下の角部に配置されている。外部端子板用コネクタ５５６３には、上述のハーネス５５３０が接続される。検査用コネクタ５５６４

には、パチスロ機４００１を遊技店に設置後に主制御基板４０７１に関する検査を行う場合に、検査用ハーネス（不図示）が接続される。設定操作スイッチ５５６５は、設定値を変更する場合に操作される。

【４７０２】

（バックアップ基板の構成）

バックアップ基板５５５０は、主制御基板４０７１よりも小さい長方形の板体からなる。バックアップ基板５５５０の一方の平面は、実装面５５５０ａであり、バックアップ基板５５５０の他方の平面は、非実装面５５５０ｂである。バックアップ基板５５５０の実装面５５５０ａは、基板上ケース５５５３に対向し、バックアップ基板５５５０の非実装面は、基板下ケース５５５２に対向する。バックアップ基板５５５０は、基板上ケース５５５３にねじを用いて固定される。

【４７０３】

バックアップ基板５５５０には、役比等のバックアップ情報が記憶される。バックアップ基板５５５０の実装面５５５０ａには、バックアップ用コンデンサ５５６７等が実装されている。本実施形態では、バックアップ基板５５５０を基板ケース５５５１に収納している。そして、バックアップ基板５５５０は、基板ケース５５５１内において主制御基板４０７１とハーネス（不図示）を用いて電気的に接続されている。これにより、封印を壊して基板ケース５５５１を開かなければ、バックアップ基板５５５０から役比等のバックアップ情報を取り出すことができない。

【４７０４】

（基板ケースの構成）

基板ケース５５５１は、透明又は半透明の筐体状に形成されており、第３方向Ｚにおいて対向する基板下ケース５５５２及び基板上ケース５５５３から構成されている。基板下ケース５５５２は、基板トレイ５４５１の底板５４７１側に位置し、基板上ケース５５５３は、基板トレイ５４５１の開口側に位置する。

【４７０５】

基板下ケース５５５２は、透明又は半透明の樹脂により形成されており、下ケース本体５５７１と、拡張下ケース部５５７２とを有している。

【４７０６】

下ケース本体５５７１は、一面が開口された長方形の筐体状に形成されている。下ケース本体５５７１は、底板５５８１と、第１下側板５５８２と、第２下側板５５８３と、第３下側板５５８４と、第４下側板５５８５とを有している。

【４７０７】

底板５５８１は、第２方向Ｘに長い長方形に形成されており、主制御基板４０７１の非実装面４０７１ｂに対向する。第１下側板５５８２及び第２下側板５５８３は、底板５５８１の２つの長辺から略垂直に立ち上がっている。第３下側板５５８４及び第４下側板５５８５は、底板５５８１の２つの短辺から略垂直に立ち上がっている。以下、下ケース本体５５７１の底板５５８１及び各下側板５５８２～５５８５において、主制御基板４０７１側の面を内面とし、内面と反対側の面を外面とする。

【４７０８】

底板５５８１における主制御基板４０７１の非実装面４０７１ｂと対向する領域には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、底板５５８１の外面側から（基板トレイ５４５１の底板５４７１を介して）主制御基板４０７１の非実装面４０７１ｂを視認し易くしている。

【４７０９】

第２下側板５５８３の端面には、３つの係合溝５５８７が形成されている。３つの係合溝５５８７は、第２方向Ｘに所定の間隔を空けて並んでいる。係合溝５５８７は、第２下側板５５８３の端面から第３方向Ｚに延びた後、第２方向Ｘの第４下側板５５８５側に延びている。３つの係合溝５５８７には、基板上ケース５５５３の後述する３つの係合突起５６４１がそれぞれ係合する。

【４７１０】
第３下側板５５８４の外面には、封印シール用突部５５８８と、カシメ用突部５５８９が設けられている。封印シール用突部５５８８は、第３下側板５５８４の外面から略垂直に突出しており、第３方向Ｚに略垂直な平面を有する板状に形成されている。封印シール用突部５５８８には、第２方向Ｘに延びるスリットが形成されている。封印シール用突部５５８８には、不図示のシールカッター部材の刃部が挿入される。
【４７１１】
カシメ用突部５５８９は、第３下側板５５８４の外面から略垂直に突出する四角形の略筐体状に形成されている。カシメ用突部５５８９は、第３方向Ｚに略垂直な平面を有する底面部を有し、この底面部に下ケース側カシメ孔５５８９ａが形成されている。下ケース側カシメ孔５５８９ａは、基板上ケース５５５３の後述する第１カシメ筒部５６９１と対向する。
【４７１２】
拡張下ケース部５５７２は、第１下側板５５８２及び第４下側板５５８５に連続しており、第２方向Ｘに長い長方形の略筐体状に形成されている。拡張下ケース部５５７２の第２方向Ｘの長さは、下ケース本体５５７１の第２方向Ｘの長さよりも長い。拡張下ケース部５５７２の第２方向Ｘの片側は、下ケース本体５５７１の第４下側板５５８５よりも第２方向Ｘに突出している。拡張下ケース部５５７２は、拡張底板５５９１と、拡張第１下側板５５９２と、拡張第２下側板５５９３と、拡張第３下側板５５９４とを有している。
【４７１３】
拡張底板５５９１は、底板５５８１の内面と同一平面を形成する内面と、底板５５８１の外面と同一平面を形成する外面を有している。拡張第１下側板５５９２は、第１方向Ｙにおいて第１下側板５５８２と対向しており、第１下側板５５８２と平行な板状に形成されている。拡張第２下側板５５９３は、第４下側板５５８５から略垂直に突出しており、第１方向Ｙにおいて拡張第１下側板５５９２と適当な距離を空けて対向している。拡張第３下側板５５９４は、拡張第１下側板５５９２と拡張第２下側板５５９３に連続しており、第４下側板５５８５と略平行な板状に形成されている。
【４７１４】
拡張第１下側板５５９２には、第１方向Ｙに凹となる凹部５５９５が形成されている。凹部５５９５は、拡張底板５５９１を第１領域５５９１ａと第２領域５５９１ｂに区画する。拡張底板５５９１の内面における第１領域５５９１ａは、バックアップ基板５５５０の非実装面５５５０ｂに対向する。拡張底板５５９１におけるバックアップ基板５５５０と対向する領域には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、拡張底板５５９１の外面側から（基板トレイ５４５１の底板５４７１を介して）バックアップ基板５５５０の非実装面５５５０ｂを視認し易くしている。
【４７１５】
また、拡張底板５５９１の内面における第１領域５５９１ａおいて、バックアップ基板５５５０と対向しない領域には、係合突部５５９７が形成されている。係合突部５５９７は、拡張底板５５９１の内面から突出する略直方体状に形成されている。係合突部５５９７は、基板上ケース５５５３の後述する係合枠部５６８５に係合する
【４７１６】
拡張底板５５９１の内面における第２領域５５９１ｂには、カシメ用突起５５９８が形成されている（図３８６参照）。カシメ用突起５５９８は、拡張底板５５９１の内面から略垂直に突出しており、略直方体状に形成されている。そして、カシメ用突起５５９８には、ケース封印用カシメ部材５６００が嵌合されている。ケース封印用カシメ部材５６００は、基板上ケース５５５３の後述するケース封印用カシメ筒部５６８８（図３８５参照）に係合する。
【４７１７】
拡張第１下側板５５９２の端面には、２つの係合溝５６０１が形成されている。２つの係合溝５６０１は、第２方向Ｘに所定の距離を空けて並んでいる。係合溝５６０１は、拡

張第１下側板５５９２の端面から第３方向Ｚに延びた後、第２方向Ｘの拡張第３下側板５５９４側に延びている。２つの係合溝５６０１には、基板上ケース５５５３の後述する２つの係合突起５６９７がそれぞれ係合する。

【４７１８】

図３８４及び図３８５に示すように、基板上ケース５５５３は、透明又は半透明の樹脂により形成されており、上ケース本体５６１１と、拡張上ケース部５６１２とを有している。

【４７１９】

上ケース本体５６１１は、一面が開口された長方形の筐体状に形成されている。上ケース本体５６１１は、天板５６２１と、第１上側板５６２２と、第２上側板５６２３と、第３上側板５６２４と、第４上側板５６２５とを有している。

【４７２０】

天板５６２１は、第２方向Ｘに長い長方形に形成されており、主制御基板４０７１の実装面４０７１ａに対向する。第１上側板５６２２及び第２上側板５６２３は、天板５６２１の２つの長辺から略垂直に立ち上がっている。第３上側板５６２４及び第４上側板５６２５は、天板５６２１の２つの短辺から略垂直に立ち上がっている。以下、上ケース本体５６１１の天板５６２１及び各上側板５６２２～５６２５において、主制御基板４０７１側の面を内面とし、内面と反対側の面を外面とする。

【４７２１】

天板５６２１における主制御基板４０７１の実装面４０７１ａと対向する領域には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、天板５６２１の外面側から主制御基板４０７１の実装面４０７１ａを視認し易くしている。

【４７２２】

図３８４に示すように、天板５６２１の外面には、第１コネクタ用凹部５６３１と、第２コネクタ用凹部５６３２が形成されている。

【４７２３】

第１コネクタ用凹部５６３１は、天板５６２１における第１上側板５６２２と第３上側板５６２４に連続する角部に位置している（図３８５参照）。第１コネクタ用凹部５６３１は、第２方向Ｘに長い長方形に形成されている。第１コネクタ用凹部５６３１の底部には、コネクタ用貫通孔５６３４が形成されている。コネクタ用貫通孔５６３４には、制御信号コネクタ５５６１が貫通する。第１コネクタ用凹部５６３１の底部は、主制御基板４０７１の実装面４０７１ａに面接触する。これにより、制御信号コネクタ５５６１とコネクタ用貫通孔５６３４との間から主制御基板４０７１や主制御基板４０７１に実装された部品に不正にアクセスされることを防止することができる。

【４７２４】

第１コネクタ用凹部５６３１には、コネクタ封止カバー５５５６が係合する。コネクタ封止カバー５５５６は、上ケース本体５６１１の天板５６２１にねじを用いて固定される。コネクタ封止カバー５５５６は、制御信号コネクタ５５６１におけるハーネス取り外しボタンが形成された側面を覆う。したがって、制御信号コネクタ５５６１に接続された主制御信号ハーネス（不図示）を引き抜くには、コネクタ封止カバー５５５６は、取り外す必要がある。

【４７２５】

第２コネクタ用凹部５６３２は、天板５６２１における第２上側板５６２３と第４上側板５６２５に連続する角部に位置している。第２コネクタ用凹部５６３２は、段状に形成されており、上段と、上段よりも深い下段を有している。第２コネクタ用凹部５６３２の上段には、上段コネクタ貫通孔５６３６が形成されており、上段コネクタ貫通孔５６３６には、検査用コネクタ５５６４が貫通する。第２コネクタ用凹部５６３２の下段には、下段コネクタ貫通孔５６３７が形成されており、下段コネクタ貫通孔５６３７には、外部端子板用コネクタ５５６３が貫通する。

【４７２６】

第２コネクタ用凹部５６３２の下段は、前述した端子板カバー５４５４の端子カバー部５５４２によって塞がれる。すなわち、端子板カバー５４５４によって塞がれた内部空間には、外部端子板用コネクタ５５６３と外部装置接続端子板５４５３が配置される（図３７７参照）。一方、第２コネクタ用凹部５６３２の上段は、端子板カバー５４５４によって塞がれない。したがって、検査用コネクタ５５６４は、基板上ケース５５５３の外側に露出される。

【４７２７】

第２コネクタ用凹部５６３２の底部は、主制御基板４０７１の実装面４０７１ａに面接触する。これにより、検査用コネクタ５５６４と上段コネクタ貫通孔５６３６との間、及び外部端子板用コネクタ５５６３と下段コネクタ貫通孔５６３７との間から主制御基板４０７１や主制御基板４０７１に実装された部品に不正にアクセスされることを防止することができる。

【４７２８】

また、基板上ケース５５５３における天板５６２１の外面には、スイッチカバー５６２８が回動可能に取り付けられている。スイッチカバー５６２８は、設定操作スイッチ５５６５を開閉する。

【４７２９】

図３８５に示すように、天板５６２１の内面には、第１内壁５６３８と、第２内壁５６３９が設けられている。第１内壁５６３８は、第１方向Ｙに略垂直な平面を有する板状に形成されており、第２上側板５６２３と僅かな隙間を空けて対向している。第１内壁５６３８と第２上側板５６２３との間には、基板下ケース５５５２の第２下側板５５８３が挿入される。第２内壁５６３９は、第２方向Ｙに略垂直な平面を有する板状に形成されており、第３上側板５６２４と僅かな隙間を空けて対向している。第２内壁５６３９の第３上側板５６２４と反対側の面は、基板下ケース５５５２における第３下側板５５８４の外面と当接する。

【４７３０】

第２上側板５６２３の内面には、３つの係合突起５６４１が形成されている。３つの係合突起５６４１は、第２方向Ｘに所定の間隔を空けて並んでおり、それぞれ第１内壁５６３８と接合している。３つの係合突起５６４１は、基板下ケース５５５２における第２下側板５５８３の３つの係合溝５５８７に係合する。

【４７３１】

第２上側板５６２３の外面には、２つの係合凸部５６４２が設けられている。２つの係合凸部５６４２は、第２上側板５６２３における第２方向Ｘの両端部に位置している。２つの係合凸部５６４２は、第２上側板５６２３の外面から略垂直に突出しており、略直方体状に形成されている。２つの係合凸部５６４２は、基板トレイ５４５１の２つの係合孔５４９６にそれぞれ係合する。

【４７３２】

第３上側板５６２４の外面には、封印シール用突部５６４３が設けられている。封印シール用突部５６４３は、第３上側板５６２４の外面から略垂直に突出しており、第３方向Ｚに略垂直な平面を有する板状に形成されている。封印シール用突部５６４３には、第２方向Ｘに延びるスリットが形成されている。封印シール用突部５６４３は、第３方向Ｚにおいて、基板下ケース５５５２の封印シール用突部５５８８と間隙を空けて対向する。

【４７３３】

封印シール用突部５６４３と封印シール用突部５５８８との間には、不図示のシールカッター部材が配置される。シールカッター部材は、封印シール用突部５６４３と封印シール用突部５５８８のスリットに挿入される刃部を有している。そして、封印シール用突部５６４３と封印シール用突部５５８８の表面には、不図示の封印シールが貼り付けられる。

【４７３４】

封印シールが貼り付けられた封印シール用突部５６４３及び封印シール用突部５５８８

は、封印シールカバー５５５４（図３８４参照）によって覆われる。封印シールカバー５５５４は、一面が開口された筐体状に形成されており、基板下ケース５５５２及び基板上ケース５５５３に接続されている。封印シールカバー５５５４は、シールカッター部材と係合する。これにより、シールカッター部材は、封印シールカバー５５５４と一緒に移動する。

【４７３５】

基板下ケース５５５２から基板上ケース５５５３を取り外すには、封印シールカバー５５５４を第２方向Ｘに移動させて、基板下ケース５５５２及び基板上ケース５５５３から取り外す。このとき、シールカッター部材は、封印シールカバー５５５４と一緒に移動し、封印シール用突部５６４３と封印シール用突部５５８８のスリットに挿入された刃部で封印シールを切り裂く。これにより、基板ケース５５５１を開封した痕跡を残すことができ、主制御基板４０７１に対する不正行為の発見することができる。なお、封印シールカバー５５５４は、封印シールの状態を視認可能な透明又は半透明の樹脂によって形成されている。

【４７３６】

図３８５に示すように、拡張上ケース部５６１２は、第１上側板５６２２、第３上側板５６２４及び第４上側板５６２５に連続しており、第２方向Ｘに長い長方形の略筐体状に形成されている。拡張上ケース部５６１２の第２方向Ｘの長さは、上ケース本体５６１１の第２方向Ｘの長さよりも長い。拡張上ケース部５６１２の第２方向Ｘの両側は、上ケース本体５６１１の第３上側板５６２４と第４上側板５６２５よりも第２方向Ｘに突出している。

【４７３７】

拡張上ケース部５６１２は、拡張天板５６７１と、拡張第１上側板５６７２と、拡張第２上側板５６７３と、拡張第３上側板５６７４とを有している。また、拡張上ケース部５６１２の第２方向Ｘにおける拡張第３上側板５６７４と反対側の端部は、開口されている。この端部は、基板下ケース５５５２の拡張第３下側板５５９４によって塞がれる。

【４７３８】

拡張天板５６７１は、天板５６２１の内面と同一平面を形成する内面と、底板５５８１の外面と同一平面を形成する外面を有している。拡張第１上側板５６７２は、第１方向Ｙにおいて第１上側板５６２２と対向しており、第１上側板５６２２と平行な板状に形成されている。拡張第２上側板５６７３は、第３上側板５６２４と第４上側板５６２５に連続しており、第３上側板５６２４と第４上側板５６２５から略垂直に突出している。拡張第２上側板５６７３は、第１方向Ｙにおいて拡張第１上側板５６７２と適当な距離を空けて対向している。拡張第３上側板５６７４は、拡張第１上側板５６７２と拡張第２上側板５６７３に連続しており、第４上側板５６２５と略平行な板状に形成されている。

【４７３９】

拡張天板５６７１の内面には、内壁５６８１と、複数の仕切り壁５６８２とが設けられている。内壁５６８１は、第１方向Ｙに略垂直な平面を有する板状に形成されており、拡張第１上側板５６７２と僅かな隙間を空けて対向している。内壁５６８１と拡張第１上側板５６７２との間には、基板下ケース５５５２の拡張第１下側板５５９２（図３８４参照）が挿入される。

【４７４０】

複数の仕切り壁５６８２は、拡張天板５６７１の内面を第１領域５６７１ａと、第２領域５６７１ｂと、第３領域５６７１ｃに区画する。第１領域５６７１ａは、拡張天板５６７１の内面における第２方向Ｘの中央部に位置する。第２領域５６７１ｂは、第１領域５６７１ａよりも第２方向Ｘの一側に位置し、第３領域５６７１ｃは、第１領域５６７１ａよりも第２方向Ｘの他側に位置する。

【４７４１】

拡張天板５６７１の内面における第１領域５６７１ａには、バックアップ基板取付部５６８４と、係合枠部５６８５が形成されている。第１領域５６７１ａにおけるバックアッ

プ基板取付部５６８４に囲まれた部分は、バックアップ基板５５５０の実装面５５５０ａに対向する。第１領域５６７１ａにおけるバックアップ基板取付部５６８４に囲まれた部分には、リブなどの突起が形成されていない。これにより、拡張天板５６７１の外面側からバックアップ基板５５５０の実装面５５５０ａを視認し易くしている。

【４７４２】

第１領域５６７１ａにおける係合枠部５６８５は、四角形の枠状に形成されている。係合枠部５６８５は、基板下ケース５５５２の係合突部５５９７（図３８４参照）が係合する。係合枠部５６８５の第１の方向Ｙの長さは、係合突部５５９７の第１の方向Ｙの長さと略等しい。係合枠部５６８５の第２の方向Ｘの長さは、係合突部５５９７の第２の方向Ｙの長さよりも長い。したがって、係合突部５５９７は、係合枠部５６８５に第２の方向Ｘに摺動可能に係合する。

【４７４３】

拡張天板５６７１の内面における第２領域５６７１ｂは、基板下ケース５５５２の拡張底板５５９１における第２領域５５９１ｂ、及び拡張第１下側板５５９２の凹部５５９５に対向する。第２領域５６７１ｂは、キー開口部５６８７を有している。キー開口部５６８７は、基板上ケース５５５３に取り付けられた設定キーシリンダ（不図示）のキー挿入面を露出させる。拡張天板５６７１の外面には、キーカバー５６２７（図３８４参照）が回動可能に取り付けられている。キーカバー５６２７は、設定キーシリンダ（不図示）のキー挿入面を開閉する。

【４７４４】

拡張天板５６７１の内面における第２領域５６７１ｂには、ケース封印用カシメ筒部５６８８と、ケース固定用ねじボス部５６８９と、仕切り片５６９０が設けられている。ケース封印用カシメ筒部５６８８は、軸方向が第２方向Ｘと平行な筒状に形成されている。ケース封印用カシメ筒部５６８８は、基板下ケース５５５２に取り付けたケース封印用カシメ部材５６００に嵌合（係合）して、カシメ固定される。

【４７４５】

ケース固定用ねじボス部５６８９は、拡張天板５６７１の内面から略垂直に突出する円柱状に形成されている。ケース固定用ねじボス部５６８９は、軸方向に延びるねじ孔を有している。ケース固定用ねじボス部５６８９のねじ孔には、基板上ケース５５５３に基板下ケース５５５２を固定するためのねじが螺合する。このねじは、拡張天板５６７１の外面側に露出しない。そのため、ケース固定用ねじボス部５６８９からねじを外す場合は、基板ケース５５５１を基板トレイ５４５１から取り外す必要がある。

【４７４６】

仕切り片５６９０は、拡張天板５６７１の内面における第２領域５６７１ｂを、ケース封印用カシメ筒部５６８８及びケース固定用ねじボス部５６８９が設けられる領域と、設定キーシリンダ（不図示）が配置される領域とに区画する。

【４７４７】

拡張天板５６７１の内面における第３領域５６７１ｃには、第１カシメ筒部５６９１と、第２カシメ筒部５６９２と、第３カシメ筒部５６９３と、複数の仕切り片５６９４が設けられている。

【４７４８】

第１カシメ筒部５６９１、第２カシメ筒部５６９２、及び第３カシメ筒部５６９３は、同一形状であり、軸方向が第３方向Ｚと平行な筒状に形成されている。各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３は、カシメブロック５４５７が嵌合可能に形成されている。複数の仕切り片５６９４は、拡張天板５６７１の内面における第３領域５６７１ｃを、各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３が設けられる３つの領域に区画する。

【４７４９】

カシメブロック５４５７は、略円筒状に形成されている。カシメブロック５４５７は、軸方向の両端部が同じ形状であり、両端部にそれぞれ係合爪が設けられている。したがって、カシメブロック５４５７は、軸方向の一端部と他端部のいずれも各カシメ筒部５６９

１，５６９２，５６９３に係合可能である。また、カシメブロック５４５７は、軸方向の一端部と他端部のいずれも、基板下ケース５５５２のカシメ用突部５５８９（図３８４参照）、及び基板トレイ５４５１のカシメ筒部５４７７，５４７８（図３８０参照）に係合可能である。

【４７５０】

カシメブロック５４５７の軸方向の一端部又は他端部を、各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３、カシメ用突部５５８９の下ケース側カシメ孔５５８９ａ、カシメ筒部５４７７，５４７８に挿入すると、挿入側の係合爪が撓み変形する。に挿入すると、一端部側の係合爪が撓み変形する。そして、係合爪は、各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３の内周部、カシメ用突部５５８９、カシメ筒部５４７７，５４７８に設けられた爪係合凹部に係合する。これにより、カシメブロック５４５７は、各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３、カシメ用突部５５８９、カシメ筒部５４７７，５４７８から引き抜けなくなり、各カシメ筒部５６９１，５６９２，５６９３、カシメ用突部５５８９、カシメ筒部５４７７，５４７８に固定される。

【４７５１】

第１カシメ筒部５６９１は、基板下ケース５５５２のカシメ用突部５５８９（図３８４参照）と対向する。第１カシメ筒部５６９１を用いて基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２をカシメ固定する場合は、第１カシメ筒部５６９１とカシメ用突部５５８９の下ケース側カシメ孔５５８９ａにカシメブロック５４５７を嵌合させてカシメ固定する。第２カシメ筒部５６９２は、基板トレイ５４５１のカシメ筒部５４７７（図３８０参照）と対向する。第２カシメ筒部５６９２を用いて基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１をカシメ固定する場合は、第２カシメ筒部５６９２とカシメ筒部５４７７にカシメブロック５４５７を嵌合させてカシメ固定する。第３カシメ筒部５６９３は、基板トレイ５４５１のカシメ筒部５４７８（図３８０参照）と対向する。第３カシメ筒部５６９３を用いて基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１をカシメ固定する場合は、第３カシメ筒部５６９３とカシメ筒部５４７８にカシメブロック５４５７を嵌合させてカシメ固定する。

【４７５２】

拡張第１上側板５６７２には、略四角形の切欠き５６９６が形成されている。切欠き５６９６は、第１方向Ｙにおいて、基板下ケース５５５２の凹部５５９５と対向する。切欠き５６９６には、係止ブロック５４５２の係止片５５２２が貫通する。拡張第１上側板５６７２の内面には、２つの係合突起５６９７が形成されている。２つの係合突起５６９７は、第２方向Ｘに所定の距離を空けて並んでおり、それぞれ内壁５６８１と接合している。２つの係合突起５６９７は、基板下ケース５５５２における拡張第１下側板５５９２の２つの係合溝５６０１に係合する。

【４７５３】

［基板封止体の組立作業］

次に、基板封止体５４５５の組立作業について、図３８４及び図３８６を参照して説明する。

図３８６は、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２のかしめ部を示す断面図である。

【４７５４】

基板封止体５４５５を組み立てるには、まず、主制御基板４０７１とバックアップ基板５５５０を基板上ケース５５５３にねじを用いて取り付ける。次に、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２を第３方向Ｚに重ね合わせる。

【４７５５】

このとき、基板上ケース５５５３の拡張第１上側板５６７２と内壁５６８１との間に、基板下ケース５５５２の拡張第１下側板５５９２が挿入される。そして、拡張第１上側板５６７２の２つの係合突起５６９７が、拡張第１下側板５５９２の２つの係合溝５６０１に挿入される。また、基板上ケース５５５３の第２上側板５６２３と第１内壁５６３８との間に、基板下ケース５５５２の第２上側板５６２３が挿入される。そして、第２上側板

５６２３の３つの係合突起５６４１が、第２下側板５５８３の３つの係合溝５５８７に挿入される。これにより、基板下ケース５５５２は、基板上ケース５５５３の第１方向Ｙへの移動を係止する。

【４７５６】

また、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２を第３方向Ｚに重ね合わせると、基板下ケース５５５２の係合突部５５９７が、基板上ケース５５５３の係合枠部５６８５に挿入される。また、基板上ケース５５５３のケース封印用カシメ筒部５６８８が、第２方向Ｘにおいて基板下ケース５５５２のケース封印用カシメ部材５６００と対向する。

【４７５７】

次に、基板下ケース５５５２に対して基板上ケース５５５３を第２の方向Ｘに移動させる。これにより、拡張第１上側板５６７２の２つの係合突起５６９７が、拡張第１下側板５５９２の２つの係合溝５６０１における第２方向Ｘに延びる部分に係合する。また、第２上側板５６２３の３つの係合突起５６４１が、第２下側板５５８３の３つの係合溝５５８７における第２方向Ｘに延びる部分に係合する。これにより、基板下ケース５５５２は、基板上ケース５５５３の第３方向Ｚへの移動を係止する。

【４７５８】

また、基板下ケース５５５２に対して基板上ケース５５５３を第２の方向Ｘに移動させると、基板下ケース５５５２の係合突部５５９７が、基板上ケース５５５３の係合枠部５６８５内を摺動し、係合枠部５６８５に設けられた係合突部と基板下ケース５５５２の係合突部５５９７が係合する。

【４７５９】

さらに、図３８６に示すように、基板上ケース５５５３のケース封印用カシメ筒部５６８８が、基板下ケース５５５２のケース封印用カシメ部材５６００に嵌合して固定される。これにより、基板下ケース５５５２は、基板上ケース５５５３の第２方向Ｘへの移動を係止する。その結果、基板上ケース５５５３が基板下ケース５５５２に取り付けられ、基板封止体５４５５が組み立てられる。

【４７６０】

［主制御ユニットの取付作業］

次に、ユニット接続部材５３０１に対する主制御ユニットＳＵの取付作業について、図３８７を参照して説明する。

図３８７は、ユニット接続部材５３０１に対する主制御ユニットＳＵの取付作業を説明する図である。

【４７６１】

ユニット接続部材５３０１に主制御ユニットＳＵを回転可能に取り付けるには、まず、ユニット接続部材５３０１における軸受け部５４３６，５４３７の軸受孔に、基板トレイ５４５１の連結軸５４８６，５４８７を対向させる（図３８７Ａ参照）。軸受け部５４３６，５４３７の軸受孔は、左右方向の右方に開口しているため、連結軸５４８６，５４８７は、軸受け部５４３６，５４３７の右方に位置する。このとき、連結軸５４８７は、ユニット接続部材５３０１における右係合壁５４２３の切欠き５４４４（図３７９参照）を貫通して、軸受け部５４３７の軸受け孔に対向する。

【４７６２】

次に、ユニット接続部材５３０１における軸受け部５４３６，５４３７の軸受孔に、基板トレイ５４５１の連結軸５４８６，５４８７を挿入する（図３８７Ｂ参照）。これにより、基板トレイ５４５１は、ユニット接続部材５３０１の左係合壁５４２２と右係合壁５４２３との間に配置され、ユニット接続部材５３０１に回転可能に支持される。

【４７６３】

次に、基板トレイ５４５１のブロック固定部５４７９に係止ブロック５４５２を固定する（図３８７Ｃ参照）。すなわち、ブロック固定部５４７９に係止ブロック５４５２の固定片５５２１を、ねじ５４５６を用いて固定する。このとき、係止ブロック５４５２の係止片５５２２は、基板トレイ５４５１の係止片用切欠き部５４９３を貫通して、軸受け部

５４３７の左側端面に当接する。これにより、係止片５５２２は、基板トレイ５４５１の右方への移動を係止する。その結果、基板トレイ５４５１をユニット接続部材５３０１から取り外せなくなる。

【４７６４】

次に、基板トレイ５４５１に基板封止体５４５５（図３８０参照）を取り付ける。すなわち、基板トレイ５４５１の２つの係合孔５４９６に、基板封止体５４５５の２つの係合凸部５６４２を挿入し、基板トレイ５４５１のケース側係合爪５４９１，５４９２を基板封止体５４５５の基板上ケース５５５３に係合させる。これにより、係止ブロック５４５２の固定片５５２１は、基板上ケース５５５３の天板５６２１に覆われる。その結果、基板封止体５４５５を基板トレイ５４５１から取り外さなければ、係止ブロック５４５２をブロック固定部５４７９から取り外すことができなくなる。したがって、基板封止体５４５５を基板トレイ５４５１から取り外さなければ、基板トレイ５４５１をユニット接続部材５３０１から取り外すことができなくなり、基板トレイ５４５１と一緒に主制御ユニットＳＵ（主制御基板４０７１）を取り外して行われる不正行為を抑制或いは防止することができる。

【４７６５】

次に、外部装置接続端子板５４５３を基板トレイ５４５１の端子板収容部５４８１にねじを用いて固定する。そして、外部装置接続端子板５４５３の内部用接続端子５５３２と主制御基板４０７１の外部端子板用コネクタ５５６３を、ハーネス５５３０（図３８３参照）を用いて接続する。その後、端子板カバー５４５４を基板トレイ５４５１に取り付ける。これにより、ユニット接続部材５３０１に回転可能に支持された主制御ユニットＳＵが組み立てられる。

【４７６６】

［主制御ユニットの組立状態］

次に、主制御ユニットＳＵの組立状態について、図３８８を参照して説明する。

図３８８は、主制御ユニットＳＵの組立状態を模式的に示す説明図である。

【４７６７】

パチスロ機４００１を出荷する際の主制御ユニットＳＵは、ケース封印用カシメ筒部５６８８とカシメ用突起５５９８にケース封印用カシメ部材５６００を係合させて、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２をカシメ固定する。また、第２カシメ筒部５６９２とカシメ筒部５４７７にカシメブロック５４５７を係合させて、基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１をカシメ固定する。

【４７６８】

さらに、パチスロ機４００１を出荷する際の主制御ユニットＳＵでは、係止ブロック５４５２の固定片５５２１が、基板トレイ５４５１にねじ５４５６を用いて固定されている。係止ブロック５４５２の係止片５５２２は、ユニット接続部材５３０１の軸受け部５４３７に係合（図３８６Ｃ参照）し、基板トレイ５４５１のユニット接続部材５３０１から取り外す方向への移動を係止している。

【４７６９】

係止ブロック５４５２の固定片５５２１及びねじ５４５６の頭部は、基板上ケース５５５３に覆われている。したがって、係止ブロック５４５２を基板トレイ５４５１から取り外すには、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２、或いは基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１のカシメ固定を解除する必要がある。

【４７７０】

遊技店において主制御基板４０７１の検査を行う場合は、ケース封印用カシメ筒部５６８８（図３８４の「Ａ」が形成された箇所）を破壊して、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２のカシメ固定を解除する。また、第２カシメ筒部５６９２（図３８４の「Ｂ」が形成された箇所）を破壊して、基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１のカシメ固定を解除する。このとき、第２カシメ筒部５６９２に係合されていたカシメブロック５４５７を回収する。そして、基板ケース５５５１を開封して、主制御基板４０７１の検

査を行う。

【４７７１】

検査後は、基板上ケース５５５３のケース固定用ねじボス部５６８９にねじ５４５８を螺合させて、基板上ケース５５５３に基板下ケース５５５２を固定する。また、封印シール用突部５５８８，５６４３に封印シール５４５９を貼り付ける。そして、不図示のシールカッター部材に封印シールカバー５５５４を係合させると共に、封印シールカバー５５５４を基板ケース５５５１に取り付けて、封印シールカバー５５５４で封印シール用突部５５８８，５６４３を覆う。

【４７７２】

さらに、検査後は、第３カシメ筒部５６９３とカシメ筒部５４７８にカシメブロック５４５７を係合させて、基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１をカシメ固定する。このとき、第２カシメ筒部５６９２から回収したカシメブロック５４５７を使用する。基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２を固定したねじ５４５８の頭部は、基板トレイ５４５１と対向している。そのため、基板封止体５４５５を基板トレイ５４５１に取り付けると、ねじ５４５８にアクセスできない。したがって、基板封止体５４５５が基板トレイ５４５１に取り付けられた状態で、基板ケース５５５１を開封することはできない。

【４７７３】

遊技店に設置されているパチスロ機４００１から主制御基板４０７１（基板封止体５４５５）を回収する際は、第３カシメ筒部５６９３（図３８４の「Ｃ」が形成された箇所）を破壊して、基板上ケース５５５３と基板トレイ５４５１のカシメ固定を解除する。このとき、第３カシメ筒部５６９３に固定されていたカシメブロック５４５７を回収する。そして、基板封止体５４５５を基板トレイ５４５１から取り外す。

【４７７４】

次に、第１カシメ筒部５６９１（図３８５参照）とカシメ用突部５５８９（図３８４参照）にカシメブロック５４５７を係合させて、基板上ケース５５５３と基板下ケース５５５２をカシメ固定する。このとき、第３カシメ筒部５６９３から回収したカシメブロック５４５７を使用する。なお、カシメブロック５４５７は、基板下ケース５５５２の外面側から下ケース側カシメ孔５５８９ａに挿入され、第１カシメ筒部５６９１とカシメ用突部５５８９に係合される。その後、基板封止体５４５５（主制御基板４０７１）を回収する。

【４７７５】

［主制御ユニットの特定位置固定］

次に、主制御ユニットＳＵを特定位置に固定する場合について、図３８９及び図３９０を参照して説明する。

図３８９は、主制御ユニットＳＵを特定位置に配置した状態を示す斜視図である。図３９０は、主制御ユニットＳＵを特定位置に固定する作業を示す図である。

【４７７６】

上述したように、パチスロ機４００１のキャビネットＧ内に主制御及びリール組立体５３００を取り付けて、下ドアベースＤＢを閉じた状態にする場合は、主制御ユニットＳＵを主制御ユニット設置位置に配置する（図３６６参照）。主制御ユニット設置位置において、主制御ユニットＳＵの基板上ケース５５５３は、前方の斜め上を向いている。これにより、基板上ケース５５５３を介して主制御基板４０７１の実装面４０１７ａを視認することができる。

【４７７７】

主制御基板４０７１の非実装面（ハンダ面）４０７１ｂを視認する場合は、主制御ユニット固定部材５２６４の係合を外して、主制御ユニットＳＵを回転可能にする。また、右ストッパ５４６４及び左ストッパ５４６２を、非係合位置に移動させておく。これにより、主制御ユニットＳＵを回転方向Ｒへ回転させても、右ストッパ５４６４及び左ストッパ５４６２が、左係合壁５４２２及び右係合壁５４２３と干渉しない。

【４７７８】

主制御ユニットＳＵを回転方向Ｒへ回転させると、図３８９に示すように、主制御ユニットＳＵは、リールユニットＲＵに接近した特定位置に配置される。主制御ユニットＳＵは、特定位置で固定させることができる。

【４７７９】

図３９０Ａに示すように、主制御ユニットＳＵの特定位置において、基板上ケース５５５３は、後方の斜め上を向いており、リールユニットＲＵと対面している。一方、基板下ケース５５５２（基板トレイ５４５１）は、前方の斜め下を向いている。これにより、パチスロ機４００１の前方にいる店員などの管理者は、基板下ケース５５５２及び基板トレイ５４５１を介して、主制御基板４０７１の非実装面（ハンダ面）４０７１ｂを視認可能である。

【４７８０】

特定位置において、主制御ユニットＳＵの基板トレイ５４５１における右ストッパ５４６４のストッパ片５５１２は、ユニット接続部材５３０１における右係合壁５４２３の係合凹部５４４３に対向する。また、基板トレイ５４５１における左ストッパ５４６２のストッパ片５５０２（図３８１参照）は、ユニット接続部材５３０１における左係合壁５４２２の係合凹部５４４１（図３７９参照）に対向する。

【４７８１】

主制御ユニットＳＵを特定位置で固定するには、右ストッパ５４６４及び左ストッパ５４６２を係合位置まで移動させる。これにより、右ストッパ５４６４のストッパ片５５１２が、右係合壁５４２３の係合凹部５４４３に係合される。また、左ストッパ５４６２のストッパ片５５０２（図３８１参照）が、左係合壁５４２２の係合凹部５４４１（図３７９参照）に係合される。その結果、主制御ユニットＳＵの基板トレイ５４５１は、ユニット接続部材５３０１の右係合壁５４２３及び左係合壁５４２２に固定される。

【４７８２】

ここまで説明した主制御ユニットＳＵを特定位置で固定するまでの流れを、遊技機のフロントドアが閉じた状態（遊技店での基本的な状態）から作業者視点で整理すると以下の通りである。

作業１：ドアキーを下ドアの鍵穴に挿入して回し、下ドアを開放する。なお、図３１８のようなフロントドアが上下ドア２枚ではなく１枚の場合は、フロントドアを開放となる。上マスクＵＭを外しても良いが、外さなくても主制御ユニットＳＵを動かすことは可能である。

作業２：キャビネットＧの下方にある主制御ユニット固定部材５２６４の係止スライダ５２８８の操作凸部５２９４を左から右へスライドさせてロックを解除し、主制御ユニットＳＵを非ロック状態とする（図３６７、図３６９参照）。

作業３：主制御ユニットＳＵを上方向に回動させる（図３７２参照）。

作業４：主制御ユニットＳＵの右側面にある右ストッパ５４６４及び左側面にある左ストッパ５４６２を手前（筐体の手前に近い位置）から奥（筐体の奥に近い位置）に向けてスライドさせて係合位置まで移動させる。手前から奥とは、図３８１に示すＹ方向に各ストッパを押し込む方向であり、図３９０では左ストッパ５４６４を図の左上寄りの位置（図３９０Ａ）から右下寄りの位置（図３９０Ｂ）まで移動させるという意味である。この４作業で、主制御ユニットＳＵが特定位置に固定される。

【４７８３】

特定位置に固定された主制御ユニットＳＵ（図３８９参照）をキャビネットＧに固定された状態（図３６６参照））とするまでの作業の流れを説明する。上述の作業とは逆の順序となる。

作業１：主制御ユニットＳＵの右側面にある右ストッパ５４６４及び左側面にある左ストッパ５４６２を奥（筐体の奥に近い位置）から手前（筐体の手前に近い位置）にスライドさせて非係合位置まで移動させる（図３９０Ｂ→Ａ）。奥から手前とは、図３８１に示すＹの逆方向に各ストッパを押し込む方向であり、図３９０では左ストッパ５４６４を図の右下寄りの位置（図３９０Ｂ）から右下寄りの位置（図３９０Ａ）まで移動させるとい

う意味である。
　作業２：主制御ユニットＳＵを下方向に回動させる（図３７２参照）。
　作業３：キャビネットＧの下方にある主制御ユニット固定部材５２６４の係止スライダ５２８８の操作凸部５２９４を右から左へスライドさせて主制御ユニットＳＵをロック状態とする。（図３６７、図３６９、３７０参照）
【４７８４】
　このように、左右のストッパ２か所を動かし、基板ユニットＳＵを回動させ、スライダを横にスライドさせるという３作業で固定位置に戻すことができる。特に工具なども必要なく短時間で主制御ユニットＳＵの位置変化と固定が行えるため製造時や遊技店での利便性が高い構造となっている。
【４７８５】
　また、主制御ユニットＳＵを特定位置に固定すると、電源装置５２６３（図３６７参照）がキャビネットＧの開口側に露出される（図３９１参照）。これにより、主制御ユニットＳＵにおける各カシメ固定を解除しなくても、電源装置５２６３の点検や、電源装置５２６３の取り外し及び取り付け（交換）を行うことができる。特に遊技店において主制御ユニットＳＵ等を交換せずに、電源装置５２６３等の電源回りの部品を交換する際の利便性を高めることができる。また、主制御ユニットＳＵを特定位置に固定した状態で行える作業としては一例として以下のものが挙げられる。
・主制御基板４０７１の裏面チェック
・サンドとの接続を行うハーネス５５２９（図３７２参照）を外部装置接続端子板５４５３に差し込む
・キャビネットＧの底面に溜まったホコリ等の拭き掃除
・パチスロ機４００１を島設備に固定するためのビスをキャビネットＧの底面に打ち込む
・電源装置５２３６と上マスクユニット中継基板５６９９を接続する電源供給ハーネスＨの着脱及び取り回し（図３９２参照）
【４７８６】
　なお、工場や遊技店において、主制御及びリール組立体５３００を床などに置く場合や持ち運ぶ場合においても、主制御ユニットＳＵを特定位置で固定するとよい。これにより、主制御及びリール組立体５３００をコンパクトにして持ち運びやすくすることができる。また、主制御及びリール組立体５３００を床などに置く場合に、主制御ユニットＳＵが床に衝突しないようにすることができる。また、主制御及びリール組立体５３００を持ち運ぶ際に、主制御ユニットＳＵが回転して遊技店の椅子などに衝突しないようにすることができる。なお、パチスロ機４００１の出荷時に、下ドアベースＤＢをキャビネットＧに取り付けない場合は、主制御ユニットＳＵを特定位置で固定してもよい。また、例えば、遊技店でリールユニットＲＵが破損した場合などは、工場から遊技店へ交換用の主制御及びリール組立体５３００を段ボール箱等に入れて発送することがある。この場合も主制御ユニットＳＵを特定位置で固定することで、輸送中に主制御ユニットＳＵが動いて破損することを抑制できる。
【４７８７】
　図３９２は、電源装置５２６３からキャビネットＧの左側壁部に設けられた上マスクユニット中継基板５６９９に向かう電源供給ハーネスＨの取り回しを示した図である。電源装置５２６３の天面に設けられたコネクタには、電源供給ハーネスＨの一端が接続される。電源供給ハーネスＨの他端は、上マスクユニット中継基板５６９９のコネクタに電気的に接続される。電源供給ハーネスＨは、キャビネットＧの背面壁Ｇ３や左側面壁Ｇ２に沿って、主制御及びリール組立体５３００を避けるように配線されている。このような配線とすることで、主制御ユニットＳＵを特定位置（図３９１参照）に固定した状態で、主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧ（遊技機本体）から取り外すことなく、ハーネスＨの着脱や交換を行うことができる。
【４７８８】
　なお、上マスクユニット中継基板５６９９から電源供給ハーネスＨとは別のハーネスで

遊技機の各部へ電源が供給されるが、図３９２では、別のハーネスについて図示を省略している。別のハーネスについても主制御及びリール組立体５３００を避けるように配線してもよいが、主制御基板４０７１やリールユニットＲＵに対して電力を供給するハーネス以外については、主制御及びリール組立体５３００に向かってハーネスを取り回す必要があるためこの限りではない。

【４７８９】

［電源装置の取り外し］

ここで図３９１、図３９２に沿って遊技店の島にパチスロ機４００１が設置された状態における電源装置５２６３（電源ユニットを内包する電源ボックス５２８４）の取り外し方法を説明する。

手順１：ねじ５２６６をねじ回し（ドライバー）で回して外し、電源スイッチカバー５２６５を外す。

手順２：電源装置５２６３の左側面のコネクタに差し込まれているスイッチハーネス（不図示）のコネクタを外す。

手順３：電源装置５２６３の天面に設けられたコネクタに差し込まれている電源供給ハーネスＨのコネクタを取り外す。

手順４：ねじ５２８３ａ～５２８３ｄをねじ回しで回して外す。

手順５：電源装置５２６３を手前側（パチスロ機４００１の前側）に向けて引っ張る。

手順６：電源装置５２６３をある程度手前（フロントドアがあるくらい手前側）まで持ってきたら、電源装置５２６３の背面側に挿入されているコンセントケーブル（ＡＣ１００Ｖの電源供給ケーブル）を手で抜く。

手順７：電源装置５２６３を完全に取り外す。

【４７９０】

各手順について詳しく説明する。手順１では、電源スイッチカバー５２６５を外す手順である。電源スイッチカバー５２６５は、電源ボックス５２８４を構成する樹脂製カバー体（図３６７に示す電源ユニットを覆う多数の放熱孔を備えるカバー体）にねじ５２６６を用いて固定されている。電源スイッチカバー５２６５の後方には、電源スイッチ５２８６に至るハーネスであるスイッチハーネスの一部が配置されており、電源スイッチカバー５２６５によりスイッチハーネスが前方から接触できないように保護されている。電源ボックス５２８４を外す際は、まず、ねじ５２６６を外して電源スイッチカバー５２６５を取り外す。

【４７９１】

そして、手順２で、電源装置ボックス５２８４の左側面の開口部にあるスイッチハーネス用コネクタ（電源ユニットの基板に実装されている受け側のコネクタ）に挿入されているスイッチハーネス側のコネクタ（ハーネスの端部にあるコネクタ）を抜く。これにより、スイッチベース５２８５及び電源スイッチ５２８６及びスイッチハーネスからなるスイッチユニットと電源装置５２８６とを分離することができる。したがって、スイッチユニットをキャビネットＧの底面に設置したままの状態で、電源装置５２６３をキャビネットＧから取りはずし可能となる。電源関連のトラブルの多くは、電源ユニットの基板側のトラブル（主にコンデンサの経年による劣化）であり、スイッチやハーネスのトラブルは少ない。そこで、スイッチユニットを残したまま電源装置５２６３を交換できる設計とすることにより、交換する必要の低い部品を残したまま、電源装置５２６３の適切な交換を行うことができる。

【４７９２】

手順３では、電源供給ハーネスＨを電源装置５２６３から外す（抜く）。正面図である図３９１を見ると、特定位置に固定された主制御ユニットＳＵが邪魔で電源供給ハーネスＨが抜けないようにも見える。しかし、図３９０に示すように、連結軸５４８７の手前の空間（図３９０内での連結軸５４８７の左側に図示される空間）に電源供給ハーネスＨが通っており、主制御ユニットＳＵの右側の空間から手を入れて電源供給ハーネスＨのコネクタをつまみ上げることが可能となっている。なお、電源供給ハーネスＨは、直流の電力

（１２Ｖ，５Ｖなど）を供給するハーネスである。なお、交流１００Ｖでコンセントから供給された電源は電源ユニット（電源ボックス内の電源回路を有する基板）で交流から直流への変換及び電圧の変化が行われている。

【４７９３】

手順４において、ねじ５２８３ａ～５２８３ｄをドライバーで外すと、電源装置５２６３は、キャビネットＧから取り外された状態となる。ねじ５２８３ａ～５２８３ｄのねじ頭は、パチスロ機４００１の前側に向いている。そのため、ドライバーでねじ５２８３ａ～５２８３ｄを回す作業が行いやすくなっている。

【４７９４】

手順５に登場するコンセントケーブルとは、ＡＣ１００Ｖの電圧に対応する電源供給ケーブルである。コンセントケーブルは、一端に電源装置５２６３の背面側にある電源コネクタ（不図示）に差し込み可能な遊技機側コネクタを有し、他端にコンセントの穴に差し込むためのプラグを有している。さらに、アースに接地できるアース線がコンセントケーブルと一体的な部品として形成されている。アース線は緑色の被覆部（絶縁体の外装部）、コンセントケーブルは黒色の被覆部となっており、作業時に見分けやすくなっている。コンセントケーブルの遊技機側コネクタには、樹脂製の上下の係止爪が電源装置５２６３の背面側にある電源コネクタの受部に係合して抜けにくくなるロック機構が設けられている。このロック機構により、遊技中にケーブルが抜けて電気が落ちるといった事態を抑制している。また、遊技機側コネクタの上下の係止爪を押し込むことで係合が解除されてコンセントケーブルを電源装置５２６３から抜くことができる。製造工程などでは作業者が遊技機の裏側に容易に回り込めるので、手順５を行わずに遊技機の裏側からコンセントケーブルを電源装置５２６３から抜いてもよい。一方、遊技店で島に設置された状態では、パチスロ機４００１の裏側に人が回り込むことは困難であることが多い。また、コンセントケーブルを電源装置５２６３から外すためにパチスロ機４００１を島から取外すことは、手間がかかる。そのため、パチスロ機４００１は、遊技店の島に固定したまま、作業者がパチスロ機４００１の前側にいる状態で電源装置５２６３からコンセントケーブルを取り外しできるように設計されている。手順５において、パチスロ機４００１の前に立った作業員は、コンセントケーブルが刺さったままの電源装置５２６３を手前に向けて引っ張ることができる。

【４７９５】

手順６において、ある程度手前まで電源装置５２６３を持ってきたら、電源装置５２６３の裏側に手が届く状況となる。そこで、電源装置５２６３の裏側にある電源コネクタに挿入されたコンセントケーブルを外す。これにより、電源装置５２６３に挿入されていた全てのハーネス、ケーブルが外された状態となり、電源装置５２６３は、パチスロ機４００１から完全に離れた状態となる。

【４７９６】

手順７においてパチスロ機４００１から完全に離れた状態の電源装置５２６３を、キャビネットＧの外へ出すことにより、電源装置５２６３の取り外し作業が完了となる。電源装置５２６３は、箱状の電源ボックス５２８４が電源ユニットを内包した状態であり、箱のまま着脱できる。そのため、電源装置５２６３は、取り外し後に持ち運びや段ボールによる梱包が容易であり、搬送が煩雑にならない。

【４７９７】

手順７の後は、新規の電源装置５２６３に交換したり、取り外した電源装置５２６３の点検をしたりすることができる。また、電源ボックス５２８４は、樹脂製カバー体（図３６７に示す電源ユニットを覆う多数の放熱孔を備えるカバー体）と背面側にある金属製の板金ケースから構成される。そのため、電源ボックス５２８４の左右のネジを回して樹脂製カバー体と板金ケースを分離して中身の電源ユニット（電源回路を有する基板）を容易に取り出すことができる。そして、分離した樹脂製カバー体及び板金ケースと、新しい電源ユニットによって交換用の電源装置５２６３を組み立てて、キャビネットＧに取り付けてもよい。

【４７９８】
［電源装置を着脱可能となる主制御ユニットＳＵの位置］
ここまでは、主制御ユニットＳＵを上方向にできるだけ回転させた位置である特定位置（図３８９、図３９０参照）で固定した状態で電源装置５２６３を取り外す場合について説明した。しかし、主制御ユニットＳＵが特定位置よりも下の位置であっても、ねじ５２６６，５２８３ａ～５２８３ｄが正面から見える所定位置まで主制御ユニットＳＵ持ち上げれば、ねじ５２６６，５２８３ａ～５２８３ｄの取り外し及び電装置５２６３からスイッチハーネス、電源供給ハーネスＨ、コンセントケーブルの取り外しを行うことができる。したがって、主制御ユニットＳＵを特定位置で固定しなくても、電源装置５２６３の取り外し作業を行うことができる。例えば、上マスクＵＭ（図３２０参照）として遊技機の下方までせり出した形状のもの採用した場合は、上マスクＵＭの下端と主制御ユニットＳＵが衝突して、主制御ユニットＳＵを特定位置まで持ち上げることができない構造となる可能性がある。仮にそのような形状の上マスクＵＭを採用した場合であっても、前述のねじ５２６６，５２８３ａ～５２８３ｄが正面から見える所定位置まで主制御ユニットＳＵを持ち上げることができれば、主制御及びリール組立体５３００（図３６６、図３７１等参照）をキャビネットＧから取りはずすことなく、電源装置５２６３の取り外し作業を行うことができる。
【４７９９】
［筐体の分離運用について］
遊技機をキャビネットとリールユニットを容易に分離できる構造とし、リールユニットの交換を前提としてキャビネットを使い回せるという分離運用を行う場合がある。その場合は、ゴト防止などの観点からリールユニットの取り外し時に痕跡が残るように、リールユニットとキャビネットの固定箇所に例えば樹脂製の結束バンドなどを設けて、リールユニットの取り外し時には結束バンドを切断しなければならない構造とする。これにより、リールユニットの不正な交換がされたことを、メーカーや遊技店が気付くことができる。なお、結束バンドは、封印構造（取り外し時に痕跡が残る構造）の一例であり、シールやキャップなどリールユニットの取り外し時に痕跡が残るようなその他の封印構造を用いてもよい。
【４８００】
ここまでの実施例で説明した遊技機で分離運用を行ってもよく、その場合は主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧから取り外す際に封印構造を破壊する必要があるが、再封印を行うのは手間がかかる。そのため、前述のように主制御及びリール組立体５３００をキャビネットＧから外すことなく電源装置５２６３を着脱できる構造は、分離運用を行う際に利便性が向上する設計となっている。
【４８０１】
［電源装置に関する変形例］
図３９２に示す予備ねじ孔５２８４ａ，５２８４ｂは、電源ボックス５２８４の背面側を構成する板金ベースに設けられた突出部に形成されている。この予備ねじ孔５２８４ａ，５２８４ｂにねじを通しキャビネットＧと締結することで板金ベースとキャビネットＧを固定する。これにより、さらに電源装置５２６３を強固にキャビネットＧに固定することが可能である。なお、本発明に係る電源装置は、このような予備ねじ孔５２８４ａ，５２８４ｂを有しないものとしてもよい。
【４８０２】
図３９２では、ねじ５２８３ａ～５２８３ｄを用いて、電源ボックス５２８４の板金ベースをキャビネットＧに固定しているが、ねじの本数は４本以外でもよい。例えば、最低限、板金ベースの左右１か所ずつをねじで固定すれば、電源ボックス５２８４を安定して固定できるため、作業性を重視してねじの本数を減らしてもよい。
【４８０３】
［第８実施形態の付記３］
従来、制御に係る基板を基板ケースに収めた遊技機が知られている（例えば、特開２０

０２－２３２０９５号公報参照）。
【４８０４】
しかしながら、基板ケースの構造には、さらなる改良の余地がある。
【４８０５】
付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、基板ケースの改良を図ることを目的とする。
【４８０６】
上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４８０７】
（１）　基板ユニット（例えば、図３６６の主制御ユニットＳＵ）と、リールユニット（例えば、リールユニットＲＵ）と、前記基板ユニットと前記リールユニットを接続する接続部材（例えば、ユニット接続部材５３０１）と、を有する特定ユニット（例えば、図３７１の主制御及びリール組立体５３００）を備え、
前記特定ユニットは、遊技機本体（例えば、キャビネットＧ）に対して着脱可能に構成され、
前記基板ユニットは、
第１基板（例えば、主制御基板４０７１）と、
前記第１基板を収容可能な基板ケース（例えば、図３８４の基板ケース５５５１）と、
前記基板ケースが載置される載置部材（例えば、図３８０の基板トレイ５４５１）と、を有し
前記載置部材は、前記接続部材に回転可能に支持され（例えば、図３７１、図３７２、図３８９等を参照）、
前記載置部材を特定位置で前記接続部材に固定するロック機構（例えば、左ストッパ５４６２、図３８９の右ストッパ５４６４）を備える
ことを特徴とする遊技機。
【４８０８】
このような構成によれば、第１基板を収容可能な基板ケースの姿勢を変更することができ、基板ケースの表面及び裏面を介して第１基板の様子を確認することができる。また、輸送中に主制御ユニットＳＵが回転してキャビネットＧ内で破損してしまうことを防止できる。したがって、基板ユニットの改良を図ることができる。
【４８０９】
（２）　上記（１）の遊技機において、
前記載置部材に固定されており（例えば、図３８８に示すねじ５４５６による固定）、前記接続部材に係合し、前記接続部材から取り外すための前記載置部材の移動を係止する係止ブロック（例えば、図３８０、図３８８の係止ブロック５４５２）を備え、
前記基板ケースは、前記載置部材に対する前記係止ブロックの固定部分を覆う（例えば、図３８８で基板上ケース５５５３がねじ５４５６を覆う）。
【４８１０】
このような構成によれば、接続部材から載置部材と一緒に第１基板を取り外して行われる不正を防ぐことができる。
【４８１１】
（３）　上記（２）の遊技機において、
前記載置部材に載置されており、前記遊技機本体の外部（例えば、遊技球等貸出装置）へ信号を出力可能な第２基板（例えば、図３８２の外部装置接続端子板５４５３）を備え、
前記第２基板の非実装面（例えば、図３８３の非実装面５４５３ｂ）は、前記遊技機本体の正面側（例えば、下ドアベースＤＢ側）を向き、
前記第２基板の実装面（例えば、図３８３の実装面５４５３ａ）は、前記遊技機本体の背面側（例えば、背面壁Ｇ３側）を向き（例えば、図３７２、図３８３で実装面が背面壁Ｇの方向に相当する図面の右方向を向いている）、

前記第２基板の実装面には、前記遊技機本体の外部へ信号を送るための信号線（例えば、図３７２のハーネス５５２９）を接続可能なコネクタ（例えば、図３８２の外部用接続端子５５３１）が実装され、
前記遊技機本体の背面側には、前記信号線を通すことが可能な貫通孔が形成されている。
【４８１２】
このような構成によれば、信号線の湾曲部分を少なくすることができ、第２基板のコネクタに信号線を容易に接続することができる。
【４８１３】
従来、リールユニットの改良案として、リールユニットの両サイドに取っ手を設けた遊技機が知られている（例えば、特開２００７－３１９３２２号公報参照）。
【４８１４】
しかしながら、リールユニットには、さらなる改良の余地がある。
【４８１５】
付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、リールユニットの改良を図ることを目的とする。
【４８１６】
上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４８１７】
（１）　遊技機本体（例えば、図３６７のキャビネットＧ）と、
前記遊技機本体に着脱可能に構成されたリールユニット（例えば、図３７３のリールユニットＲＵ）と、
遊技機の製造業者名及び遊技機の性能に関する情報が記載された情報部材（例えば、図３７２の銘板５３４０）と、
を備え、
前記情報部材は、前記リールユニットの背面側に着脱可能に取り付けられており、
前記遊技機本体の背面側（例えば、背面壁Ｇ３）には、前記情報部材を視認可能にする情報部材用開口部（例えば、図３６７の銘板用開口部５２５４）が形成されている
ことを特徴とする遊技機。
【４８１８】
このような構成によれば、リールユニットを交換することで情報部材の交換も一緒に行うことができ、リユース時の作業効率を高めることができる。したがって、リールユニットの改良を図ることができる。また、情報部材がリールユニットの背面側に着脱可能に取り付けられているため、リールユニットから情報部材を取り外すことで、リールユニットの背面側を構成する部品をリユースすることができる。
【４８１９】
（２）　上記（１）の遊技機において、
前記リールユニットは、回転可能に構成されたリール部材（例えば、図３７３のリール部材５３１５Ｌ，５３１５Ｃ，５３１５Ｒ）と、前記リール部材を保持するリールケース（例えば、図３７３のリールケース５３１１）と、を有し、
前記リールケースは、前記リール部材の後方に位置する奥壁部（例えば、図３７４のリールケース５３１１の奥壁部）を有し、
前記リールケースの前記奥壁部と前記リール部材との間に配置される所定の基板（例えば、図３７５の回胴中継端子板５３１２及び回胴バックライト中継端子板５３１３）と、
前記所定の基板の前記リール部材に対向する面を覆う基板カバー（例えば、図３７５、図３７６の基板カバー５３１４）と、を備え、
前記リールケースの前記奥壁部と前記基板カバーは、前記所定の基板を収納する収納部を形成する。
【４８２０】
このような構成によれば、所定の基板を収容する基板ケースを設ける場合に比べて、リ

ールユニットの部品点数を削減することができる。
【４８２１】
従来、正面視で遊技機本体（キャビネット）における左下の壁部付近に電源装置を配置した遊技機が知られている（例えば、特開２００６－１９７９９１号公報参照）。
【４８２２】
しかしながら、遊技機本体の構成や部材の配置には、さらなる改良の余地がある。
【４８２３】
付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技機本体の構成や部材の配置の改良を図ることを目的とする。
【４８２４】
上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４８２５】
（１）　筐体（例えば、図３６７のキャビネットＧ）と、
前記筐体内に配置され、電気部品に電力の供給を行うための電源装置（例えば、図３６７の電源装置５２６３）と、
前記電源装置の電源オン状態と電源オフ状態を切り替えるための電源スイッチ（例えば、図３６７の電源スイッチ５２８６）と、
を備え、
前記筐体は、正面が開口されており、
前記電源装置は、前記筐体の背板側（例えば、背面壁Ｇ３側）に配置され、
前記電源スイッチは、前記電源装置から前方に向けて延在するように設けられた延在部（例えば、図３６７のスイッチベース５２８５）に配置される
ことを特徴とする遊技機。
【４８２６】
このような構成によれば、電源装置の前方（筐体の開口側）に他の装置が配置されていても、電源装置のオン状態とオフ状態を容易に切り替えることができる。したがって、遊技機本体の構成や部材の配置の改良を図ることができる。
【４８２７】
（２）　上記（１）の遊技機において、
前記筐体の天面板（例えば、図３６６の上面壁Ｇ４）は、前記筐体の底面板よりも前後方向の長さが短く、
前記天面板は、前方に向かって突出した突出部（例えば、図３６６の島固定用突部５２５３）を有する。
【４８２８】
このような構成によれば、突出部を遊技島に設けられた固定部と対向させることができる。その結果、筐体の天面板を遊技島に固定するためのビスを突出部と遊技島の固定部に打ち込むことができる。
【４８２９】
従来、キャビネットの正面側に開閉可能なフロントドアを設けた遊技機が知られている（例えば、特開２０１０－５０８１号公報参照）。
【４８３０】
しかしながら、フロントドアの構造には、さらなる改良の余地がある。
【４８３１】
付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技機のドア構造の改良を図ることを目的とする。
【４８３２】
上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【４８３３】
（１）　筐体（例えば、図３１７のキャビネットＧ）と、
前記筐体に回動可能に設けられた扉部材（例えば、図３６４、図３６５の下ドアベース

ＤＢ）と、
　前記扉部材の前側に着脱可能に接続され、遊技用操作部（例えば、図３２１のスタートレバー４２４１や、ストップボタン４２３１Ｌ，４２３１Ｃ，４２３１Ｒ）を有するマスク部材（例えば、図３２１の下マスクＤＭ）と、
　を備える
　ことを特徴とする遊技機。
【４８３４】
　このような構成によれば、マスク部材を交換することで筐体及び扉部材をリユースすることができる。その結果、リユース時に交換する部品を少なくして、リユース時の作業効率を向上させると共に、コストダウンを図ることができる。したがって、遊技機のドア構造の改良を図ることができる。
【４８３５】
（２）　上記（１）の遊技機において、
　前記マスク部材は、所定の基板（例えば、所定の制御基板）を収容した基板カートリッジ（例えば、図３２２の基板カートリッジ４２１０）と、前記基板カートリッジが着脱可能に接続されるカートリッジ接続部（例えば、図３２２のマスク側中継基板４２１６）と、を有し、
　前記扉部材は、前記カートリッジ接続部に対向する開口部（例えば、図３６５のカートリッジ用開口部５２２２）を有する。
【４８３６】
　このような構成によれば、扉部材からマスク部材を取り外さなくても、カートリッジ接続部に対して基板カートリッジを着脱することができる。
【４８３７】
［第９実施形態］
　以上、第１実施形態～第８実施形態について説明した。以下、第９実施形態について説明する。第９実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態～第８実施形態における説明が第９実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。
【４８３８】
　なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第９実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第９実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第９実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第９実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態～第８実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第９実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。
【４８３９】
　また、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。
【４８４０】
［１２．主制御基板ケースの別例］
　図３９３～図４０７を参照して、パチスロ機における主基板ケースの別構成例について説明する。なお、本実施形態において主基板ケースの別例として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機（他の構成例）と

して説明するものに適用可能であり、また、他の遊技機（他の構成例）として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において主基板ケースの別例として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【４８４１】

［１２－１．別例に係る主基板ケースが取り付けられたパチスロ機］

まず、図３９３及び図３９４を参照して、別例に係る主基板ケースが取り付けられたパチスロ機（これを本例ではパチスロ機６０１とする）について説明する。図３９３は、主基板ケースをパチスロ機６０１のキャビネットＧに取り付けた状態を示す正面図である。図３９４は、主基板ケースをパチスロ機６０１のキャビネットＧから取り外した状態を示す斜視図である。なお、本例のパチスロ機６０１は、物理的な遊技価値を用いて遊技を行う遊技機として構成している。しかし、本例において説明する発明は、メダルレス遊技機に適用することもできる。

【４８４２】

図３９３及び図３９４に示す主基板ケース６２０は、主制御基板６１０（図４００参照）を収容して密封する。主基板ケース６２０は、キャビネットＧ内の上部に着脱可能に取り付けられている。主基板ケース６２０は、主制御基板６１０の状態が視認可能となるように透明（あるいは略透明）な樹脂によって形成されている。

【４８４３】

以下、キャビネットＧの開口を正面視で上下方向、左右方向、奥行き方向を使用する。また、奥行き方向の視認側を手前側とし、奥行き方向の視認側と反対側を奥側とする。

主基板ケース６２０は、左右方向に長い扁平の略直方体に形成されている。主基板ケース６２０は、奥行き方向の手前側の面である正面と、奥行き方向の奥側の面である背面を有する。主基板ケース６２０の背面は、後述の回胴部裏ベースＧ１１０の背面板１１０ａに対向する。主基板ケース６２０の正面は、主制御基板６１０の実装面に対向する。したがって、遊技店の管理者は、上ドア機構ＵＤ（不図示）を開けると、主基板ケース６２０の正面から主制御基板６１０の実装面を視認することができる。

【４８４４】

主基板ケース６２０の右側面には、本体固定用かしめ部６２０ａと、検査用かしめ部６２０ｂと、基板回収用かしめ部６２０ｃと、封印用かしめ部６２０ｄが設けられている。

【４８４５】

本体固定用かしめ部６２０ａは、パチスロ機６０１の出荷時にキャビネットＧ内に設けられた第１ケースブラケットＧ１２０ａ（図３９４参照）と接続される。本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａとの接続には、後述する本体かしめフック６５８（図４０２参照）が用いられる。本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａを接続すると、主基板ケース６２０とキャビネットＧ（遊技機本体）が封印される。パチスロ機６０１を設置後、主制御基板６１０の検査を行う場合は、本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａの接続を解除する。本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａの接続を解除するには、本体固定用かしめ部６２０ａをニッパー等の工具で完全に切断する必要がある。したがって、本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａの接続を解除すると、主基板ケース６２０をキャビネットＧから取り外した痕跡が残る。

【４８４６】

検査用かしめ部６２０ｂは、主制御基板６１０の検査後に、キャビネットＧ内に設けられた第２ケースブラケットＧ１２０ｂ（図３９４参照）と接続される。検査用かしめ部６２０ｂと第２ケースブラケットＧ１２０ｂとの接続には、後述する本体かしめフック６５６（図４０７参照）が用いられる。検査用かしめ部６２０ｂと第２ケースブラケットＧ１２０ｂを接続すると、主基板ケース６２０が封印されると共に、主基板ケース６２０とキャビネットＧ（遊技機本体）が封印される。主制御基板６１０の検査後、主基板ケース６２０をキャビネットＧから取り外す場合は、検査用かしめ部６２０ｂと第２ケースブラケ

ットＧ１２０ｂの接続を解除する。検査用かしめ部６２０ｂと第２ケースブラケットＧ１２０ｂの接続を解除するには、検査用かしめ部６２０ｂをニッパー等の工具で完全に切断する必要がある。したがって、検査用かしめ部６２０ｂと第２ケースブラケットＧ１２０ｂの接続を解除すると、主基板ケース６２０を開封した痕跡、及び主基板ケース６２０をキャビネットＧから取り外した痕跡が残る。

【４８４７】

基板回収用かしめ部６２０ｃは、主制御基板６１０を回収する際に用いられる。基板回収用かしめ部６２０ｃには、後述するケースかしめフック６５７（図３９７参照）が接続される。これにより、主基板ケース６２０が封印される。基板回収用かしめ部６２０ｃとケースかしめフック６５７の接続を解除するには、基板回収用かしめ部６２０ｃをニッパー等の工具で完全に切断する必要がある。したがって、基板回収用かしめ部６２０ｃとケースかしめフック６５７の接続を解除すると、主基板ケース６２０を開封した痕跡が残る。

【４８４８】

封印用かしめ部６２０ｄは、出荷時にケースかしめフック６５７が接続される。これにより、主基板ケース６２０が封印される。パチスロ機６０１を設置後、主制御基板６１０の検査を行う際に、封印用かしめ部６２０ｄとケースかしめフック６５７の接続を解除する。封印用かしめ部６２０ｄとケースかしめフック６５７の接続を解除するには、封印用かしめ部６２０ｄをニッパー等の工具で完全に切断する必要がある。したがって、封印用かしめ部６２０ｄとケースかしめフック６５７の接続を解除すると、主基板ケース６２０を開封した痕跡が残る。

【４８４９】

図３９４に示すように、主基板ケース６２０の左側面には、２つの係合突部６２０ｅが設けられている。２つの係合突部６２０ｅは、主基板ケース６２０の左側面から略垂直に突出している。２つの係合突部６２０ｅは、キャビネットＧに設けられた回胴部裏ベースＧ１１０の２つの係合孔Ｇ１２１に挿入される。すなわち、主基板ケース６２０は、キャビネットＧに設けられた回胴部裏ベースＧ１１０に取り付けられる。

【４８５０】

回胴部裏ベースＧ１１０は、背板Ｇ１１０ａと、上板Ｇ１１０ｂと、左右の側板Ｇ１１０ｃ，Ｇ１１０ｄとを有する。背板Ｇ１１０ａは、キャビネットＧの背面壁Ｇ３と対向し、上板Ｇ１１０ｂは、上面壁Ｇ４と対向する。また、左右の側板Ｇ１１０ｃ，Ｇ１１０ｄは、キャビネットＧの左右の側面壁Ｇ２と対向する。回胴部裏ベースＧ１１０は、ねじを用いてキャビネットＧに固定されている。

【４８５１】

背板Ｇ１１０ａは、左右方向に長い長方形に形成されている。背板Ｇ１１０ａにおける奥行き方向の手前側を向く面の右側の端部には、上述の第１ケースブラケットＧ１２０ａ及び第２ケースブラケットＧ１２０ｂが取り付けられている。また、背板Ｇ１１０ａにおける奥行き方向の手前側を向く面において、第１ケースブラケットＧ１２０ａ及び第２ケースブラケットＧ１２０ｂが取り付けられる部分以外、すなわち、主基板ケース６２０に対向する部分には、複数のリブＧ１２３が形成されている。

【４８５２】

複数のリブＧ１２３は、上下方向に延びる縦リブと、左右方向に延びる横リブを有し、格子状に形成されている。これにより、主基板ケース６２０は、複数のリブＧ１２３に接触する。その結果、主基板ケース６２０が背板Ｇ１１０ａに面接触しないようにすることができ、主基板ケース６２０の排熱を妨げないようにすることができる。また、複数のリブＧ１２３で区画された領域の多くには、通気孔Ｇ１２４が設けられている。これにより、主基板ケース６２０よりも奥行き方向の奥側に背面壁Ｇ３に通じる空間を形成することができる。その結果、排熱性能を高めることができる。なお、キャビネットＧの背面壁Ｇ３における背板Ｇ１１０ａの通気孔Ｇ１２４に対向する領域には、貫通孔が設けられていない。したがって、背面壁Ｇ３側（キャビネットＧの背面側）から主基板ケース６２０（

主制御基板６１０）に不正にアクセスすることを防止することができる。

【４８５３】

上板Ｇ１１０ｂは、背板１１０ａの上辺に連続している。上板Ｇ１１０ｂには、２つの開口部Ｇ１２５が設けられている。キャビネットＧの上面壁Ｇ４における２つの開口部Ｇ１２５に対向する領域には、貫通孔が設けられていない。したがって、上面壁Ｇ４側（キャビネットＧの上面側）からキャビネットＧの内部や主基板ケース６２０（主制御基板６１０）に不正にアクセスすることを防止することができる。

【４８５４】

左の側板Ｇ１１０ｃは、背板１１０ａの左辺に連続している。左の側板Ｇ１１０ｃには、上述の２つの係合孔Ｇ１２１が形成されている。２つの係合孔Ｇ１２１は、上下方向に適当な距離を空けて並んでおり、左の側板Ｇ１１０ｃを左右方向に貫通する。２つの係合孔Ｇ１２１は、略四角形に形成されており、奥行き方向の奥側の一辺は、左側面板１１０ａと背面板１１０ｂが形成する角部に位置している。キャビネットＧの左の側面壁Ｇ２における２つの係合孔Ｇ１２１に対向する領域には、貫通孔が設けられていない。したがって、左の側面壁Ｇ２側（キャビネットＧの左側面側）からキャビネットＧの内部や主基板ケース６２０（主制御基板６１０）に不正にアクセスすることを防止することができる。

【４８５５】

右の側板Ｇ１１０ｃは、背板１１０ａの右辺に連続している。左の側板Ｇ１１０ｃには、開口部Ｇ１２６が設けられている。これにより、第１ケースブラケットＧ１２０ａ及び第２ケースブラケットＧ１２０ｂと、主基板ケース６２０の検査用かしめ部６２０ｂ本体固定用かしめ部６２０ａとの接続作業又は接続の解除作業等を行う際の作業スペースを確保することができる。キャビネットＧの右の側面壁Ｇ２における開口部Ｇ１２６に対向する領域には、貫通孔が設けられていない。したがって、右の側面壁Ｇ２側（キャビネットＧの右側面側）からキャビネットＧの内部や主基板ケース６２０（主制御基板６１０）に不正にアクセスすることを防止することができる。

【４８５６】

主基板ケース６２０の正面には、第１の貼付部材である基板管理番号証シール６０４と、第２の貼付部材である製品型式名シール６０５と、第３の貼付部材である記録シール６０６が貼付されている。基板管理番号証シール６０４には、例えば、基板管理番号や、主制御基板６１０に係る情報が記載されたＷｅｂページを表示するための２次元バーコードが記載されている。製品型式名シール６０５には、パチスロ機６０１の製品名及び型式や、製造業者名が記載されている。記録シール６０６には、例えば、製造業者を特定可能な記号、基板管理番号、製造年月日等が記載されている。また、記録シール６０６には、本体固定用かしめ部６２０ａ、検査用かしめ部６２０ｂ、基板回収用かしめ部６２０ｃ、封印用かしめ部６２０ｄの封印年月日及び封印者（担当者）名を記載する欄が設けられている。さらに、記録シール６０６には、基板管理番号、製造年月日、封印年月日等の情報が記載されたＷｅｂページを表示するための２次元バーコードが記載されている。

【４８５７】

製品型式名シール６０５及び記録シール６０６は、背景部分が透明なシールである（透明な素材から形成されている）。したがって、製品型式名シール６０５及び記録シール６０６を介して主基板ケース６２０の内部（主制御基板６１０）が見える。一方、基板管理番号証シール６０４は、不透明なシールである（不透明な素材から形成されている）。そして、基板管理番号証シール６０４は、製品型式名シール６０５及び記録シール６０６よりも小さい。これにより、主基板ケース６２０の内部の視認性を低下させないようにすることができる。

【４８５８】

［１２－２．別例に係る主制御基板に実装される部品］

次に、図３９５を参照して、主制御基板６１０に実装される部品について説明する。

図３９５は、主制御基板６１０の実装面を示す平面図である。

【４８５９】

図３９５に示すように、主制御基板６１０は、左右方向に長い長方形に形成されている。主制御基板６１０の一方の平面は、各種部品が実装される実装面であり、主制御基板６１０の他方の平面には、部品が実装されていない。なお、本発明に係る主制御基板としては、両平面に部品を実装するものであってもよい。主制御基板６１０が主基板ケース６２０に収容された状態において、主制御基板６１０の実装面は、奥行き方向の手前側を向いている。

【４８６０】

主制御基板６１０の四隅には、２つのねじ貫通孔６１０ａ，６１０ｂと、２つの位置決め孔６１０ｃ，６１０ｄが設けられている。ねじ貫通孔６１０ａは、主制御基板６１０の右下角部に配置され、ねじ貫通孔６１０ｂは、主制御基板６１０の左上角部に配置されている。２つのねじ貫通孔６１０ａ，６１０ｂには、主制御基板６１０を主基板ケース６２０に固定するための基板固定ねじ（不図示）が貫通する。位置決め孔６１０ｃは、主制御基板６１０の左下角部に配置され、位置決め孔６１０ｄは、主制御基板６１０の右上角部に配置されている。２つの位置決め孔６１０ｃ，６１０ｄには、主基板ケース６２０に設けられた後述する位置決め突起６７２，６７６（図３９８参照）が嵌合する。これにより、主制御基板６１０を主基板ケース６２０に固定するための基板固定ねじを２つにすることができ、主制御基板６１０の組付け工数を削減することができる。また、基板固定ねじによる固定を行う場合に、位置決め突起６７２，６７６と２つの位置決め孔６１０ｃ，６１０ｄとの嵌合により、主制御基板６１０を仮固定することができる。その結果、主制御基板６１０の組付け作業を容易に行うことができる。

【４８６１】

主制御基板６１０の実装面には、ＣＰＵチップ６１１と、電源用コネクタ６１２と、主制御信号コネクタ６１３と、副制御信号コネクタ６１４と、打止・精算スイッチ６１５が実装されている。また、主制御基板６１０の実装面には、設定キーシリンダ６１６と、設定操作スイッチ６１７と、検査用コネクタ６１８と、役比モニタ装置６１９と、その他の部品が実装されている。

【４８６２】

ＣＰＵチップ６１１は、遊技の制御に関わる所定の電子部品の一具体例を示すものである。なお、本発明に係る所定の電子部品は、遊技の制御に関わる電子部品であれば、ＣＰＵチップに限定されず、例えば、ＭＣＵ（Micro-Control Unit）チップなど各種の制御用電子部品を適用することができる。

【４８６３】

ＣＰＵチップ６１１は、主制御基板６１０の実装面における中央部よりも少し上に配置されている。ＣＰＵチップ６１１は、ＣＰＵ、ＲＯＭ、及びＲＡＭを１チップ化したものである。電源用コネクタ６１２、主制御信号コネクタ６１３、副制御信号コネクタ６１４、及び打止・精算スイッチ６１５は、主制御基板６１０の実装面における下部に配置されている。電源用コネクタ６１２、主制御信号コネクタ６１３、副制御信号コネクタ６１４、及び打止・精算スイッチ６１５は、主制御基板６１０の下辺に沿って適当な間隔を空けて並んでいる。

【４８６４】

主制御信号コネクタ６１３は、左右方向における略中央部に配置されている。主制御信号コネクタ６１３は、左右方向に細長い直方体状に形成されている。主制御信号コネクタ６１３には、主制御信号ハーネス（不図示）が着脱可能に接続される。電源用コネクタ６１２は、主制御信号コネクタ６１３の右隣りに配置されている。電源用コネクタ６１２は、左右方向に僅かに長い直方体状に形成されている。電源用コネクタ６１２には、主基板電源ハーネス（不図示）が接続される。

【４８６５】

副制御信号コネクタ６１４は、主制御信号コネクタ６１３の左隣りに配置されている。副制御信号コネクタ６１４は、左右方向に長い直方体状に形成されている。副制御信号コネクタ６１４には、副制御信号ハーネス（不図示）が接続される。副制御信号コネクタ６

１４よりも左側には、位置決め孔６１０ｃを設けた主制御基板６１０の左下角部がある。主制御基板６１０の左下角部は、その他の領域に比べて配置される部品が少ない領域である。

【４８６６】

打止・精算スイッチ６１５は、電源用コネクタ６１２の右隣りに配置されている。打止・精算スイッチ６１５は、ボーナス終了後に打ち止め及び自動精算を行うか否かを設定するためのスイッチである。打止・精算スイッチ６１５のよりも右側には、ねじ貫通孔６１０ａを設けた主制御基板６１０の右下角部がある。

【４８６７】

設定キーシリンダ６１６と設定操作スイッチ６１７は、主制御基板６１０の右上角部に配置されている。設定キーシリンダ６１６と設定操作スイッチ６１７は、上下方向に適当な距離を空けて並んでいる。設定キーシリンダ６１６は、設定操作スイッチ６１７よりも下方に位置する。設定キーシリンダ６１６は、実装面に対して略垂直な軸を有する略円柱状のシリンダ本体を有している。シリンダ本体の端面には、設定キーの差込口が形成されている。設定操作スイッチ６１７は、実装面に対して略垂直な軸を有する略円柱状の操作摘みを有している。設定キーシリンダ６１６の差込口に設定キーを差し込んでＯＮにすると、設定操作スイッチ６１７の操作により設定値を変更することができる。変更した設定値は、例えば、スタートレバー（不図示）を操作すると、確定（決定）することができる。

【４８６８】

検査用コネクタ６１８は、主制御基板６１０の左上角部に配置されている。検査用コネクタ６１８は、実装面に対して略垂直に突出する四角形の角柱状に形成されている。検査用コネクタ６１８には、パチスロ機６０１を遊技店に設置後に主制御基板６１０に関する検査を行う場合に、検査用ハーネス（不図示）が接続される。役比モニタ装置６１９は、例えば、４桁の７セグメントＬＥＤにより構成されている。役比モニタ装置６１９は、ＣＰＵチップ６１１（メインＣＰＵ）によって集計・算出された遊技に関する各種割合情報を順次表示する。これらの割合情報は、遊技店の管理者がパチスロ機６０１に不正改造がないかを確認する際等に使用される。

【４８６９】

主制御基板６１０上に配置される各部品の周辺には、それぞれアルファベットまたは数字またはその組み合わせによって各部品を識別可能なシルク印刷が施されている。これにより、主制御基板６１０を製造時の作業効率を向上させることができる。また、部品とシルク印刷の照合を行うことにより、主制御基板６１０に対する不正改造を容易に確認することができる。

【４８７０】

［１２－３．別例に係る主基板ケースの構成］

次に、図３９６～図４００を参照して、主基板ケース６２０の構成について説明する。

図３９６は、主基板ケース６２０の分解斜視図である。図３９７は、主基板ケース６２０における上ケースの斜視図である。図３９８は、主基板ケース６２０における上ケースの内側を示す平面図である。図３９９は、主基板ケース６２０における上ケースの右側面を示す図である。図４００は、主基板ケース６２０における上ケースの左側面を示す図である。

【４８７１】

図３９６に示すように、主基板ケース６２０は、奥行き方向において対向する下ケース６２１及び上ケース６２２から構成されている。下ケース６２１は、奥行き方向の奥側に位置し、主基板ケース６２０の背面を形成する。上ケース６２２は、奥行き方向の手前側に位置し、主基板ケース６２０の正面を形成する。

【４８７２】

（下ケースの構成）

下ケース６２１は、背面板６２１ａと、上側面板６２１ｂと、下側面板６２１ｃと、左

側面板６２１ｄと、右側面板６２１ｅを有する。背面板６２１ａは、左右方向に長い略長方形の板体である。上側面板６２１ｂは、背面板６２１ａの上側の長辺に連続して奥行き方向の手前側へ略垂直に突出している。下側面板６２１ｃは、背面板６２１ａの下側の長辺に連続して奥行き方向の手前側へ略垂直に突出している。左側面板６２１ｄは、背面板６２１ａの左側の短辺に連続して奥行き方向の手前側へ略垂直に突出している。右側面板６２１ｅは、背面板６２１ａの右側の短辺に連続して奥行き方向の手前側へ略垂直に突出している。

【４８７３】

（下ケースの背面板）

以下、下ケース６２１における背面板６２１ａの上ケース６２２に対向する面を内面とし、背面板６２１ａの内面と反対側の面を外面とする。背面板６２１ａの内面には、上リブ６３２と、下リブ６３３と、右リブ６３４が設けられている。

【４８７４】

上リブ６３２は、背面板６２１ａの上部に配置されている。上リブ６３２は、上側面板６２１ｂと僅かな隙間を空けて対向しており、左右方向に延びている。上リブ６３２は、上下方向に略垂直な平面を有する板体である。上リブ６３２の一方の長辺は、背面板６２１ａの内面に連続している。上側面板６２１ｂと上リブ６３２との間には、４つの上係合片（不図示）が設けられている。４つの上係合片は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。４つの上係合片は、上側面板６２１ｂと上リブ６３２の少なくとも一方に連続している。４つの上係合片は、上ケース６２２の後述する４つの上係合溝６８２に係合する。

【４８７５】

下リブ６３３は、背面板６２１ａの下部に配置されている。下リブ６３３は、下側面板６２１ｃと僅かな隙間を空けて対向しており、左右方向に延びている。下リブ６３３は、上下方向に略垂直な平面を有する板体である。下リブ６３３の一方の長辺は、背面板６２１ａの内面に連続している。下側面板６２１ｃと下リブ６３３との間には、４つの下係合片（不図示）が設けられている。４つの下係合片は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。４つの下係合片は、下側面板６２１ｃと下リブ６３３の少なくとも一方に連続している。４つの下係合片は、上ケース６２２の後述する４つの下係合溝６８５に係合する。

【４８７６】

右リブ６３４は、背面板６２１ａの右側に配置されている。右リブ６３４は、右側面板６２１ｅと適当な隙間を空けて対向しており、上下方向に延びている。右リブ６３４は、左右方向に略垂直な平面を有する板体である。右リブ６３４の一方の長辺は、背面板６２１ａの内面に連続している。主制御基板６１０を固定するための基板固定ねじ（不図示）の締め付けが弱い状態で下ケース６２１と上ケース６２２を係合させると、右リブ６３４は、基板固定ねじと干渉する。したがって、基板固定ねじの締め付けが弱い状態では、主基板ケース６２０を組み立てられない。また、右リブ６３４は、上ケース６２２の第１内壁部６６７（図３９７参照）と共に、主制御基板６１０を収容する内部空間と上述のかしめ部６２０ａ～６２０ｄを設ける領域とを区画する。これにより、かしめ部６２０ａ～６２０ｄ側から主制御基板６１０に不正にアクセスすることを防止することができる。

【４８７７】

（下ケースの下側面板）

下ケース６２１の下側面板６２１ｃには、封印シール貼付用板部６３５が設けられている。封印シール貼付用板部６３５は、下側面板６２１ｃの左端部に連続して、奥行き方向の手前側に突出している。封印シール貼付用板部６３５は、下側面板６２１ｃと同一平面を形成する板体である。封印シール貼付用板部６３５は、上ケース６２２の後述するケース固定部６８４と共に封印シール貼付面を形成する。

【４８７８】

（下ケースの左側面板）

下ケース６２１の左側面板６２１ｄには、上述した２つの係合突部６２０ｅと、２つの左側蓋片６３６ａと、奥側蓋片６３６ｂが設けられている。２つの係合突部６２０ｅは、上下方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの係合突部６２０ｅは、左側面板６２１ｄから略垂直に突出している。２つの係合突部６２０ｅは、左右方向に直交する断面がコ字状に形成されている。左側面板６２１ｄには、各係合突部６２０ｅの内側の空間に対向する貫通孔（不図示）が形成されている。左側面板６２１ｄの貫通孔には、上ケース６２２の後述する補強片６９１が貫通する。左側面板６２１ｄの貫通孔を貫通した補強片６９１は、係合突部６２０ｅの内側の空間に挿入される。

【４８７９】

２つの左側蓋片６３６ａは、２つの係合突部６２０ｅ間に配置されている。２つの左側蓋片６３６ａは、左側面板６２１ｄから外側に略垂直に突出する段部６３７に設けられている。２つの左側蓋片６３６ａは、段部６３７を切り欠くことで四角形の板状に形成されている。２つの左側蓋片６３６ａにおける奥行き方向の奥側の一辺は、段部６３７を介して左側面板６２１ｄに連続している。奥側蓋片６３６ｂは、左側面板６２１ｄから内側に略垂直に突出する四角形の板状に形成されている。奥側蓋片６３６ｂは、奥行き方向に略垂直な平面を有する。奥側蓋片６３６ｂは、左右方向において段部６３７に対向する。奥側蓋片６３６ｂの上下方向に延びる一辺の長さは、段部６３７の上下方向の長さと略等しい。２つの左側蓋片６３６ａ及び奥側蓋片６３６ｂは、上ケース６２２に設けられた後述するかしめフック保管部６５４のフック挿脱用開口部６５４ａ（図４００参照）を塞ぐ。

【４８８０】

（下ケースの右側面板）

下ケース６２１の右側面板６２１ｅには、本体固定用かしめ部品６３８ａと、検査用かしめ部品６３８ｂと、基板回収用かしめ部品６３８ｃと、封印用かしめ部品６３８ｄと、ボス部６３９が設けられている。本体固定用かしめ部品６３８ａは、上述した本体固定用かしめ部６２０ａ（図３９４参照）の一部を構成する。検査用かしめ部品６３８ｂは、上述した検査用かしめ部６２０ｂの一部を構成する。基板回収用かしめ部品６３８ｃは、上述した基板回収用かしめ部６２０ｃの一部を構成する。封印用かしめ部品６３８ｄは、上述した封印用かしめ部６２０ｄの一部を構成する。

【４８８１】

ボス部６３９は、右側面板６２１ｅの下端部に配置されている。ボス部６３９は、奥行き方向の手前側へ突出する略円柱状に形成されている。ボス部６３９には、奥行き方向に延びるねじ孔が形成されている。ボス部６３９のねじ孔には、下ケース６２１に上ケース６２２を固定するためのケース固定用ねじ６４０（図４０５）が螺合する。

【４８８２】

（上ケースの構成）

上ケース６２２は、正面板６２２ａと、上側面板６２２ｂと、下側面板６２２ｃと、左側面板６２２ｄと、右側面板６２２ｅを有する。正面板６２２ａは、左右方向に長い略長方形の板体である。上側面板６２２ｂは、正面板６２２ａの上側の長辺に連続して奥行き方向の奥側へ略垂直に突出している。下側面板６２２ｃは、正面板６２２ａの下側の長辺に連続して奥行き方向の奥側へ略垂直に突出している。左側面板６２２ｄは、正面板６２２ａの左側の短辺に連続して奥行き方向の奥側へ略垂直に突出している。右側面板６２２ｅは、正面板６２２ａの右側の短辺に連続して奥行き方向の奥側へ略垂直に突出している。

【４８８３】

（上ケースの正面板）

上ケース６２２の正面板６２２ａは、主制御基板６１０の実装面と対向する。以下、正面板６２２ａにおける主制御基板６１０（下ケース６２１）に対向する面を内面とし、正面板６２２ａの内面と反対側の面を外面とする。正面板６２２ａの外面は、第１外面６４１ａと、第１外面６４１ａよりも奥行き方向の奥側に凹んだ第２外面６４１ｂと、第２外面６４１ｂよりも奥行き方向の奥側に凹んだ第３外面６４１ｃを有する。第２外面６４１

ｂは、正面板６２２ａの上端部の左側及び右側に形成されている。第３外面６４１ｃは、正面板６２２ａの左端部及び下端部に亘って連続する平面として形成されている。第１外面６４１ａは、正面板６２２ａにおける第２外面６４１ｂ及び第３外面６４１ｃ以外の領域であり、正面板６２２ａの大半の領域を占有している。

【４８８４】

第１外面６４１ａには、面落ち部６４３と、第１の貼付部材用面落ち部である第１シール用面落ち部６４４と、第２の貼付部材用面落ち部である第２シール用面落ち部６４５と、第３の貼付部材用面落ち部である第３シール用面落ち部６４６が設けられている。面落ち部６４３、第１シール用面落ち部６４４、第２シール用面落ち部６４５、及び第３シール用面落ち部６４６は、奥行き方向の奥側に凹んでいる。

【４８８５】

面落ち部６４３は、第１外面６４１ａの上部における略中央に設けられている。面落ち部６４３は、左右方向に長い長方形の凹部として形成されている。面落ち部６４３は、所定の深さに設定されており、面落ち部６４３の底部６４３ａは、主制御基板６１０に実装されたＣＰＵチップ６１１（図４０１参照）と間隙を空けて対向する。面落ち部６４３の底部６４３ａは、左右方向に長い長方形に形成されている。面落ち部６４３の底部６４３ａの輪郭は、ＣＰＵチップ６１１の外形よりも大きい。そして、主基板ケース６２０に主制御基板６１０を取り付けた状態において正面板６２２ａ側からＣＰＵチップ６１１を見ると、ＣＰＵチップ６１１の外形が面落ち部６４３の底部６４３ａの輪郭の内側に収まっている。

【４８８６】

面落ち部６４３は、底部６４３ａから離れる（第１外面６４１ａに向かう）につれて開口が広がるように形成されている。すなわち、面落ち部６４３の開口面積は、底部６４３ａの面積よりも大きい。言い換えれば、面落ち部６４３における開口の輪郭は、底部６４３ａの輪郭よりも大きく、面落ち部６４３を正面視した場合に、面落ち部６４３の開口の内側に底部６４３ａがある。面落ち部６４３の４つの側壁は、それぞれ底部６４３ａから離れるにつれて開口が広がるように傾斜している。なお、面落ち部を円形や楕円形の凹部として形成してもよい。この場合の面落ち部の側壁は、底部６４３ａから離れるにつれて開口が広がるようなテーパー状に形成するとよい。また、この場合の面落ち部における底部の輪郭は、ＣＰＵチップ６１１の外形よりも大きくする。

【４８８７】

第１シール用面落ち部６４４は、第１外面６４１ａの左下の角部に設けられている。第１シール用面落ち部６４４は、左右方向に長い長方形の凹部として形成されている。第１シール用面落ち部６４４には、基板管理番号証シール６０４（図３９３参照）が貼付される。すなわち、第１シール用面落ち部６４４は、基板管理番号証シール６０４の貼付領域に設けられている。第１シール用面落ち部６４４の外形は、基板管理番号証シール６０４の外形よりも僅かに大きい。第１シール用面落ち部６４４を設けることにより、基板管理番号証シール６０４を貼付する位置を容易に認識することができる。

【４８８８】

第１シール用面落ち部６４４は、基板管理番号証シール６０４の厚み程度の深さに設定されている。これにより、基板管理番号証シール６０４は、第１外面６４１ａよりも奥行き方向の手前側に突出しない、或いは突出したとしてもごく僅かに突出する。その結果、第１シール用面落ち部６４４に貼付した基板管理番号証シール６０４が剥がれ難くなる。また、第１シール用面落ち部６４４の四隅の角部は、直角（略９０度）に形成されている。これにより、基板管理番号証シール６０４の四隅が、直角であっても角丸加工されていても、基板管理番号証シール６０４を第１シール用面落ち部６４４に容易に貼付することができる。

【４８８９】

第２シール用面落ち部６４５は、面落ち部６４３の下方に設けられている。第２シール用面落ち部６４５は、略正方形の凹部として形成されている。第２シール用面落ち部６４

５には、製品型式名シール６０５（図３９３参照）が貼付される。すなわち、第２シール用面落ち部６４５は、製品型式名シール６０５の貼付領域に設けられている。第２シール用面落ち部６４５の外形は、製品型式名シール６０５の外形よりも僅かに大きい。そして、第２シール用面落ち部６４５の外形は、第１シール用面落ち部６４４の外形よりも大きい。第２シール用面落ち部６４５を設けることにより、製品型式名シール６０５を貼付する位置を容易に認識することができる。

【４８９０】

第２シール用面落ち部６４５は、製品型式名シール６０５の厚み程度の深さに設定されている。これにより、製品型式名シール６０５は、第１外面６４１ａよりも奥行き方向の手前側に突出しない、或いは突出したとしてもごく僅かに突出する。その結果、第２シール用面落ち部６４５に貼付した製品型式名シール６０５が剥がれ難くなる。また、第２シール用面落ち部６４５の四隅の角部は、直角（略９０度）に形成されている。これにより、製品型式名シール６０５の四隅が、直角であっても角丸加工されていても、製品型式名シール６０５を第２シール用面落ち部６４５に容易に貼付することができる。

【４８９１】

第３シール用面落ち部６４６は、面落ち部６４３及び第２シール用面落ち部６４５の右側方に設けられている。第３シール用面落ち部６４６は、略正方形の凹部として形成されている。第３シール用面落ち部６４６には、記録シール６０６（図３９３参照）が貼付される。すなわち、第３シール用面落ち部６４６は、記録シール６０６の貼付領域に設けられている。第３シール用面落ち部６４６の外形は、記録シール６０６の外形よりも僅かに大きい。そして、第３シール用面落ち部６４６の外形は、第２シール用面落ち部６４５の外形よりも大きい。第３シール用面落ち部６４６を設けることにより、記録シール６０６を貼付する位置を容易に認識することができる。

【４８９２】

第３シール用面落ち部６４６は、記録シール６０６の厚み程度の深さに設定されている。これにより、記録シール６０６は、第１外面６４１ａよりも奥行き方向の手前側に突出しない、或いは突出したとしてもごく僅かに突出する。その結果、第３シール用面落ち部６４６に貼付した記録シール６０６が剥がれ難くなる。また、第３シール用面落ち部６４６の四隅の角部は、直角（略９０度）に形成されている。これにより、記録シール６０６の四隅が、直角であっても角丸加工されていても、記録シール６０６を第３シール用面落ち部６４６に容易に貼付することができる。

【４８９３】

基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６は、異なる大きさに設定されている。そのため、第１シール用面落ち部６４４、第２シール用面落ち部６４５、及び第３シール用面落ち部６４６を設けることにより、主基板ケース６２０を製造する際に、基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６を貼付する位置を間違えないようにすることができる。

【４８９４】

正面板６２２ａの上端部における左側に形成された第２外面６４１ｂには、検査用コネクタ貫通孔６４７が設けられている。検査用コネクタ貫通孔６４７は、四角形に形成されている。検査用コネクタ貫通孔６４７には、主制御基板６１０に設けられた検査用コネクタ６１８（図３９５参照）が貫通する。検査用コネクタ貫通孔６４７の外形は、検査用コネクタ６１８の外形よりも大きい。したがって、検査用コネクタ貫通孔６４７と検査用コネクタ６１８との間には、間隙が形成されている。これにより、検査用コネクタ６１８に検査用ハーネスを接続したときに、検査用コネクタ６１８の位置が僅かにずれても、検査用コネクタ６１８が上ケース６２２と干渉しない。その結果、上ケース６２２に余計な力が加わらないようにすることができ、上ケース６２２の破損を防止することができる。

【４８９５】

正面板６２２ａの上端部における右側に形成された第２外面６４１ｂには、シリンダ貫通孔６４８と、スイッチ貫通孔６４９が設けられている（図３９８参照）。シリンダ貫通

孔６４８は、円形に形成されている。シリンダ貫通孔６４８には、主制御基板６１０に設けられた設定キーシリンダ６１６（図３９５参照）が貫通する。シリンダ貫通孔６４８の径（外形）は、設定キーシリンダ６１６の径（外形）よりも大きい。したがって、シリンダ貫通孔６４８と設定キーシリンダ６１６との間には、間隙が形成されている。これにより、設定キーシリンダ６１６に設定キー（不図示）を差し込んで操作したときに、設定キーシリンダ６１６の位置が僅かにずれても、設定キーシリンダ６１６が上ケース６２２と干渉しない。その結果、設定キーの操作時に上ケース６２２に余計な力が加わらないようにすることができ、上ケース６２２の破損を防止することができる。

【４８９６】

スイッチ貫通孔６４９は、円形に形成されている。スイッチ貫通孔６４９には、主制御基板６１０に設けられた設定操作スイッチ６１７（図３９５参照）の操作摘みが貫通する。スイッチ貫通孔６４９の径（外形）は、設定操作スイッチ６１７の操作摘みの径（外形）よりも大きい。したがって、スイッチ貫通孔６４９と設定操作スイッチ６１７の操作摘みとの間には、間隙が形成されている。これにより、設定操作スイッチ６１７の操作摘みを操作したときに、設定操作スイッチ６１７の操作摘みの位置が僅かにずれても、設定操作スイッチ６１７の操作摘みが上ケース６２２と干渉しない。その結果、設定操作スイッチ６１７の操作時に上ケース６２２に余計な力が加わらないようにすることができ、上ケース６２２の破損を防止することができる。

【４８９７】

シリンダ貫通孔６４８及びスイッチ貫通孔６４９は、カバー部材６５１によって開閉される。すなわち、シリンダ貫通孔６４８及びスイッチ貫通孔６４９から突出する設定キーシリンダ６１６及び設定操作スイッチ６１７は、カバー部材６５１によって開閉される。カバー部材６５１は、設定キーシリンダ６１６及び設定操作スイッチ６１７が視認可能となるように透明（あるいは略透明）な樹脂によって形成されている。

【４８９８】

図３９９に示すように、カバー部材６５１は、一面が開口された中空の筐体状に形成された部材である。カバー部材６５１は、上側面板６２２ｂに設けられたヒンジ受け部６８１に回動可能に接続されている。カバー部材６５１が第２外面６４１ｂを閉じた場合に、カバー部材６５１の開口は第２外面６４１ｂに対向する。これにより、カバー部材６５１と第２外面６４１ｂは、閉じられた空間部を形成する。この空間部には、シリンダ貫通孔６４８を貫通する設定キーシリンダ６１６と、スイッチ貫通孔６４９を貫通する設定操作スイッチ６１７が収納される。

【４８９９】

また、カバー部材６５１が第２外面６４１ｂを閉じた場合に、カバー部材６５１の開口に対向するカバー面６５１ａは、第１外面６４１ａと略同一平面を形成する（図３９６参照）。これにより、カバー部材６５１と第１外面６４１ａとの一体感を生じさせることができ、デザイン性を高めることができる。また、キャビネットＧに配置するその他の部品や装置、及び上ドア機構ＵＤに配置された部品や装置の配置を決める際に、カバー部材６５１が邪魔にならないようにすることができる。カバー面６５１ａの設定キーシリンダ６１６に対向する位置には、「設定キー」という文字が形成されている。また、カバー面６５１ａの設定操作スイッチ６１７に対向する位置には、「設定変更」という文字が形成されている。

【４９００】

また、設定キーシリンダ６１６に設定キー（不図示）を差し込んだ状態でカバー部材６５１が閉じる方向に回動させると、設定キーとカバー部材６５１が干渉する。そして、カバー部材６５１は、第２外面６４１ｂから少し浮いた状態になる。この状態において、上ドア機構ＵＤを閉めても、上ドア機構ＵＤの裏側に設けられた部品とカバー部材６５１が干渉しないように、上ドア機構ＵＤの裏側の部品が配置されている。これにより、設定キーシリンダ６１６に設定キーを差し込んだまま上ドア機構ＵＤを閉めても、上ドア機構ＵＤの裏側に設けられた部品及びカバー部材６５１が破損しないようにすることができる。

【４９０１】
正面板６２２ａの左端部に形成された第３外面６４１ｃには、フック保管部６５４が設けられている。図４００に示すように、フック保管部６５４は、中空の筐体状に形成されている。フック保管部６５４における奥行き方向の奥側の端部は、左側面板６２２ｄを切り欠いた部分に配置されている。フック保管部６５４の内部には、２つのフック収容室６５５ａ，６５５ｂが設けられている。フック収容室６５５ａ，６５５ｂは、上下方向において隣り合っている。フック保管部６５４は、フック収容室６５５ａ，６５５ｂを開口するフック挿脱用開口部６５４ａを有している。フック挿脱用開口部６５４ａは、フック保管部６５４の左側面から奥行き方向の奥側の端面に連続している。
【４９０２】
フック収容室６５５ａには、本体かしめフック６５６が収容されている。本体かしめフック６５６は、フック収容室６５５ａに嵌合されている。フック収容室６５５ａに対する本体かしめフック６５６の嵌合は、本体かしめフック６５６を奥側に引っ張ることにより解除される。なお、正面板６２２ａを上方に向けた状態（図４００に示す状態）で上ケース６２２を台などに載置した場合は、本体かしめフック６５６を下方に引っ張ることになる。本体かしめフック６５６を奥側（又は下方）に引っ張る場合は、本体かしめフック６５６のフック挿脱用開口部６５４ａから露出される部分を手指で引っ掛けることができる。
【４９０３】
フック収容室６５５ｂには、ケースかしめフック６５７が収容されている。ケースかしめフック６５７は、フック収容室６５５ｂに嵌合されている。フック収容室６５５ｂに対するケースかしめフック６５７の嵌合は、ケースかしめフック６５７を奥側に引っ張ることにより解除される。なお、正面板６２２ａを上方に向けた状態（図４００に示す状態）で上ケース６２２を台などに載置した場合は、ケースかしめフック６５７を下方に引っ張ることになる。本体かしめフック６５６を奥側（又は下方）に引っ張る場合は、ケースかしめフック６５７のフック挿脱用開口部６５４ａから露出される部分を手指で引っ掛けることができる。
【４９０４】
本実施形態では、本体かしめフック６５６とケースかしめフック６５７を同一形状に形成している。すなわち、本体かしめフック６５６とケースかしめフック６５７を共通の部品にしている。これにより、検査用かしめ部６２０ｂと基板回収用かしめ部６２０ｃに使用するかしめフックを共通部品にすることができる。その結果、検査用かしめ部６２０ｂや基板回収用かしめ部６２０ｃのかしめ作業を行う際に、使用するかしめフックがフック収容室６５５ａ，６５５ｂの何れに収容されているのか確認する必要がない。したがって、検査用かしめ部６２０ｂや基板回収用かしめ部６２０ｃのかしめ作業における作業性の向上、作業時間の短縮を図ることができる。なお、本発明に係る本体かしめフックとケースかしめフックは、異なる形状であってもよい。
【４９０５】
上ケース６２２に下ケース６２１（図３９６参照）を固定して主基板ケース６２０を組み立てた場合に、フック挿脱用開口部６５４ａは、下ケース６２１の２つの左側蓋片６３６ａ及び奥側蓋片６３６ｂによって塞がれる。本体かしめフック６５６やケースかしめフック６５７は、主基板ケース６２０を開封した後に必要になる部品である。そこで、本実施形態では、主基板ケース６２０を開封して下ケース６２１と上ケース６２２が別々に分かれた状態になったときに、本体かしめフック６５６やケースかしめフック６５７を、フック保管部６５４から取り出すことができるようにした。これにより、主基板ケース６２０から本体かしめフック６５６とケースかしめフック６５７が不正に取り出されることを防止することができる。その結果、主基板ケース６２０に対する不正を抑制或いは防止することができる。
【４９０６】
図３９７及び図３９８に示すように、正面板６２２ａの下端部に形成された第３外面６

４１ｃには、第１コネクタ用開口部６６２と、第２コネクタ用開口部６６３と、第３コネクタ用開口部６６４と、打止・精算スイッチ用開口部６６５が設けられている。なお、正面板６２２ａの内面は、第１内面６４２ａと、第２内面６４２ｂと、第３内面６４２ｃとを有する。第１内面６４２ａは、第１外面６４１ａの反対側の面であり、第２内面６４２ｂは、第２外面６４１ｂの反対側の面である。また、第３内面６４２ｃは、第３外面６４１ｃの反対側の面である。

【４９０７】

第１コネクタ用開口部６６２には、主制御基板６１０に設けられた電源用コネクタ６１２（図３９５参照）が貫通する。第２コネクタ用開口部６６３には、主制御基板６１０に設けられた主制御信号コネクタ６１３が貫通する。第３コネクタ用開口部６６４には、主制御基板６１０に設けられた副制御信号コネクタ６１４が貫通する。打止・精算スイッチ用開口部６６５には、主制御基板６１０に設けられた打止・精算スイッチ６１５（図３９５参照）が貫通する。

【４９０８】

正面板６２２ａの下端部に形成された第３内面６４２ｃは、主制御基板６１０の実装面と密着する。これにより、コネクタ６１２，６１３，６１４とコネクタ用開口部６６２，６６３，６６４との間や、打止・精算スイッチ６１５と打止・精算スイッチ用開口部６６５との間から主制御基板６１０や主制御基板６１０に実装された部品にアクセスされることを防止することができる。

【４９０９】

第１内面６４２ａには、第１内壁部６６７と、基板固定用ボス部６６８と、２つの突出片６６９と、４つのリブ６７０ａ～６７０ｄが設けられている。

【４９１０】

第１内壁部６６７は、第１内面６４２ａにおける右側面板６２２ｅ側の端部に設けられている。第１内壁部６６７は、左右方向に略直交する平面を有する板体からなる。第１内壁部６６７の上下方向に延びる２辺のうちの１辺は、第１内面６４２ａに連続している。第１内壁部６６７の奥行き方向に延びる２辺のうちの１辺は上側面板６２２ｂに連続しており、残りの１辺は下側面板６２２ｃに連続している。第１内壁部６６７は、下ケース６２１の右リブ６３４（図３９６参照）と面接触する。これにより、第１内壁部６６７と右リブ６３４は、主制御基板６１０が配置される領域と、かしめ部６２０ａ～６２０ｄ（図３９４参照）を設ける領域とを区画する。

【４９１１】

基板固定用ボス部６６８は、第１内面６４２ａにおける下側面板６２２ｃ側の端部であって、第１内壁部６６７側に設けられている。基板固定用ボス部６６８は、第１内面６４２ａから略垂直（奥行き方向）に突出する円柱状に形成されている。基板固定用ボス部６６８には、奥行き方向に延びるねじ孔が形成されている。基板固定用ボス部６６８のねじ孔には、主制御基板６１０を上ケース６２２に固定するための基板固定用ねじ（不図示）が螺合する。すなわち、基板固定用ボス部６６８のねじ孔には、主制御基板６１０のねじ貫通孔６１０ａ（図３９５参照）を貫通した基板固定用ねじが螺合される。

【４９１２】

２つの突出片６６９は、第１内面６４２ａにおける面落ち部６４３の底部６４３ａに設けられている。２つの突出片６６９は、底部６４３ａにおける左右方向の両端部に配置されており、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない。２つの突出片６６９は、底部６４３ａと平行な断面形状がコ字状に形成されており、左右方向に略垂直な平面を有する板体からなる対向部６６９ａと、対向部６６９ａの上下方向の両端に接続された２つの接続部６６９ｂとを有する。２つの突出片６６９の対向部６６９ａは、主制御基板６１０に設けたＣＰＵチップ６１１の左右方向に略直交する第１の側面と第２の側面にそれぞれ対向する。

【４９１３】

リブ６７０ａ，６７０ｂは、面落ち部６４３における上下方向に交差する平面を有する

２つの側壁のうちの上側面板６２２ｂ側の側壁と、底部６４３ａと、上側面板６２２ｂに連続している。すなわち、リブ６７０ａ，６７０ｂは、面落ち部６４３の上側面板６２２ｂ側の側壁と上側面板６２２ｂとに架け渡されるように設けられている。リブ６７０ａ，６７０ｂは、左右方向に所定の距離を空けて並んでいる。リブ６７０ａ，６７０ｂの底部６４３ａに連続している部分は、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない大きさに設定されている。このようなリブ６７０ａ，６７０ｂを設けることにより、面落ち部６４３の底部６４３ａと、面落ち部６４３における上側面板６２２ｂ側の側壁の剛性を高めることができる。その結果、面落ち部６４３の破損や変形を抑制或いは防止することができる。

【４９１４】

リブ６７０ｃ，６７０ｄは、面落ち部６４３における上下方向に交差する平面を有する２つの側壁のうちの下側面板６２２ｃ側の側壁と、底部６４３ａに連続している。リブ６７０ｃ，６７０ｄは、左右方向に所定の距離を空けて並んでいる。リブ６７０ｃ，６７０ｄの底部６４３ａに連続している部分は、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない大きさに設定されている。したがって、奥行き方向の手前側から面落ち部６４３を介してＣＰＵチップ６１１を視認する際に、リブ６７０ｃ，６７０ｄが邪魔にならない。また、リブ６７０ｃ，６７０ｄを設けることにより、面落ち部６４３の底部６４３ａと、面落ち部６４３における下側面板６２２ｃ側の側壁の剛性を高めることができる。その結果、面落ち部６４３の破損や変形を抑制或いは防止することができる。

【４９１５】

第２内面６４２ｂには、第２内壁部６７１と、位置決め突起６７２と、第３内壁部６７３が設けられている。

【４９１６】

第２内壁部６７１は、シリンダ貫通孔６４８及びスイッチ貫通孔６４９が形成された第２内面６４２ｂに設けられている。第２内壁部６７１は、奥行き方向から見た形状が略Ｌ字状の板体からなる。第２内壁部６７１の上下方向の上端部は、上側面板６２２ｂに連続している。また、奥行き方向の手前側から見て、第２内壁部６７１の左右方向の右先端部は、第１内壁部６６７に連続している。したがって、シリンダ貫通孔６４８及びスイッチ貫通孔６４９が形成された第２内面６４２ｂは、上側面板６２２ｂ、第１内壁部６６７、及び第２内壁部６７１によって囲まれている。

【４９１７】

第２内壁部６７１の奥行き方向の奥側の端面は、主制御基板６１０の実装面に当接する。これにより、第２内壁部６７１は、主制御基板６１０に設けられた設定キーシリンダ６１６と設定操作スイッチ６１７を、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品から隔離する。上述したように、シリンダ貫通孔６４８と設定キーシリンダ６１６との間や、スイッチ貫通孔６４９と設定操作スイッチ６１７との間には、間隙が形成される。そのため、この間隙から主基板ケース６２０の内部に不正にアクセスされることが考えられる。そこで、本実施形態では、第２内壁部６７１を設けて、設定キーシリンダ６１６と設定操作スイッチ６１７を、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品から隔離した。これにより、シリンダ貫通孔６４８と設定キーシリンダ６１６との間や、スイッチ貫通孔６４９と設定操作スイッチ６１７との間から、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品へアクセスすることを防止することができる。

【４９１８】

また、第２内壁部６７１を設けることにより、正面板６２２ａの第２内面６４２ｂ（第２外面６４１ｂ）を形成する部分の剛性を高めることができる。その結果、設定キーシリンダ６１６や設定操作スイッチ６１７の操作時に力が加わりやすい正面板６２２ａの破損を抑制或いは防止することができる。

【４９１９】

図３９８に示すように、位置決め突起６７２は、左右方向においてスイッチ貫通孔６４９と第１内壁部６６７との間に配置されている。位置決め突起６７２は、第２内面６４２

ｂから略垂直に突出する円柱状（ピン状）に形成されている。位置決め突起６７２は、主制御基板６１０の位置決め孔６１０ｄ（図３９５参照）に嵌合する。

【４９２０】

第３内壁部６７３は、検査用コネクタ貫通孔６４７が形成された第２内面６４２ｂに設けられている。第３内壁部６７３は、奥行き方向から見た形状が略Ｌ字状の板体からなる。第３内壁部６７３の上下方向の上端部は、上側面板６２２ｂに連続している。また、奥行き方向の手前側から見て、第３内壁部６７３の左右方向の左先端部は、左側面板６２２ｄに連続している。したがって、検査用コネクタ貫通孔６４７が形成された第２内面６４２ｂは、上側面板６２２ｂ、左側面板６２２ｄ、及び第３内壁部６７３によって囲まれている。

【４９２１】

第３内壁部６７３の奥行き方向の奥側の端面は、主制御基板６１０の実装面に当接する。これにより、第３内壁部６７３は、主制御基板６１０に設けられた検査用コネクタ６１８を、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品から隔離する。上述したように、検査用コネクタ貫通孔６４７と検査用コネクタ６１８との間には、適当な間隙が形成される。そのため、この間隙から主基板ケース６２０の内部に不正にアクセスされることが考えられる。そこで、本実施形態では、第３内壁部６７３を設けて、検査用コネクタ６１８を、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品から隔離した。これにより、検査用コネクタ貫通孔６４７と検査用コネクタ６１８との間から、ＣＰＵチップ６１１を含む他の部品へアクセスすることを防止することができる。

【４９２２】

第３内面６４２ｃには、基板固定用ねじ孔６７５と、位置決め突起６７６が設けられている。

【４９２３】

基板固定用ねじ孔６７５は、正面板６２２ａの左端部に形成された第３外面６４１ｃに設けられている。基板固定用ねじ孔６７５は、奥行き方向の手前側から見て、検査用コネクタ貫通孔６４７の左側に位置している。基板固定用ねじ孔６７５のねじ孔には、主制御基板６１０を上ケース６２２に固定するための基板固定用ねじ（不図示）が螺合する。すなわち、基板固定用ねじ孔６７５のねじ孔には、主制御基板６１０のねじ貫通孔６１０ｂ（図３９５参照）を貫通した基板固定用ねじが螺合される。

【４９２４】

位置決め突起６７６は、正面板６２２ａの下端部に形成された第３外面６４１ｃに設けられている。位置決め突起６７６は、奥行き方向の手前側から見て、第３コネクタ用開口部６６４の左側に位置している。位置決め突起６７６は、第３内面６４２ｃから略垂直に突出する円柱状（ピン状）に形成されている。位置決め突起６７６は、主制御基板６１０の位置決め孔６１０ｃ（図３９５参照）に嵌合する。

【４９２５】

（上ケースの上側面板）

図３９６及び図３９７に示すように、上ケース６２２の上側面板６２２ｂには、ヒンジ受け部６８１と、４つの上係合溝６８２が設けられている。

【４９２６】

ヒンジ受け部６８１は、奥行き方向の手前側から見て、上側面板６２２ｂの右側端部に設けられている。ヒンジ受け部６８１は、上側面板６２２ｂから上方に突出している。ヒンジ受け部６８１には、カバー部材６５１のヒンジ部が回動可能に接続されている。

【４９２７】

４つの上係合溝６８２は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。上係合溝６８２は、左右方向に延びている。奥行き方向の手前側から見て、上係合溝６８２の左側端部は、上側面板６２２ｂにおける奥行き方向の奥側の端面に開口している。４つの上係合溝６８２には、下ケース６２１（図３９６参照）の４つの上係合片（不図示）が係合する。上係合片は、上係合溝６８２の左側端部から上係合溝６８２内に挿入される。そして、上ケ

ース６２２を、奥行き方向の手前側から見て左右方向の左側にスライドさせることで、上係合片は、上係合溝６８２の右側端部に当接する。これにより、上ケース６２２の奥行き方向への移動が係止される。また、上ケース６２２の上側面板６２２ｂにおける外側の面は、下ケース６２１の上側面板６２１ｂにおける内側の面に当接する。これにより、上ケース６２２の上方への移動が係止される。

【４９２８】

（上ケースの下側面板）

上ケース６２２の下側面板６２２ｃには、ケース固定部６８４と、４つの下係合溝６８５が設けられている。

【４９２９】

ケース固定部６８４は、奥行き方向の手前側から見て、下側面板６２２ｃの右側端部に設けられている。ケース固定部６８４は、下側面板６２２ｃに連続する平面を有する直方体状の突部として形成されている。ケース固定部６８４は、奥行き方向の手前側に突出している。ケース固定部６８４における奥行き方向の手前側を向く面は、封印面６８４ａ（図３９６参照）である。封印面６８４ａには、ねじ貫通孔６８６が形成されている。ねじ貫通孔６８６には、下ケース６２１に上ケース６２２を固定するためのケース固定用ねじ６４０（図４０５）が貫通する。ねじ貫通孔６８６を貫通したケース固定用ねじ６４０は、下ケース６２１のボス部６３９に設けたねじ孔に螺合する。

【４９３０】

ケース固定部６８４の下方を向く面には、下ケース６２１の封印シール貼付用板部６３５が当接する。そして、封印シール貼付用板部６３５における奥行き方向の手前側の端面は、ケース固定部６８４の封印面６８４ａと同一平面を形成する。ケース固定用ねじ６４０を用いて下ケース６２１に上ケース６２２を固定した後に、ケース固定部６８４の封印面６８４ａと封印シール貼付用板部６３５の下方を向く面とに亘って封印シール６８８（図４０４参照）が貼付される。これにより、ケース固定用ねじ６４０は、封印面６８４ａと共に封印シール６８８に覆われる。

【４９３１】

下ケース６２１から上ケース６２２を取り外す場合は、封印シール６８８を切って、ケース固定用ねじ６４０を露出させる。そして、ケース固定用ねじ６４０を下ケース６２１のボス部６３９から取り外す。したがって、封印シール６８８の状態から、下ケース６２１から上ケース６２２を取り外した痕跡を確認することができる。封印面６８４ａ及び封印シール貼付用板部６３５に貼付された封印シール６８８は、封印シールカバー６８９によって覆われる。

【４９３２】

封印シールカバー６８９は、ケース固定部６８４に接続される。封印シールカバー６８９は、透明な樹脂により形成されている。そのため、封印シールカバー６８９をケース固定部６８４に接続した後であっても、封印シール６８８の状態を視認することができる。封印シールカバー６８９の接続を解除するには、封印シールカバー６８９の一部をニッパー等の工具で切断する必要がある。したがって、本来、接続されているはずの封印シールカバー６８９が無ければ、少なくとも主基板ケース６２０の開封を試みた痕跡が残る。

【４９３３】

４つの下係合溝６８５は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。下係合溝６８５は、左右方向に延びている。奥行き方向の手前側から見て、下係合溝６８５の左側端部は、下側面板６２２ｃにおける奥行き方向の奥側の端面に開口している。４つの下係合溝６８５には、下ケース６２１（図３９６参照）の４つの下係合片（不図示）が係合する。下係合片は、下係合溝６８５の左側端部から下係合溝６８５内に挿入される。そして、上ケース６２２を、奥行き方向の手前側から見て左右方向の左側にスライドさせることで、下係合片は、下係合溝６８５の右側端部に当接する。これにより、上ケース６２２の奥行き方向への移動が係止される。また、上ケース６２２の下側面板６２２ｃにおける外側の面は、下ケース６２１の下側面板６２１ｃにおける内側の面に当接する。これにより、上ケ

ース６２２の下方への移動が係止される。
【４９３４】
（上ケースの左側面板）
上ケース６２２の左側面板６２２ｄには、２つの補強片６９１が設けられている。２つの補強片６９１は、左側面板６２２ｄの外側の面から略垂直に突出している。２つの補強片６９１は、上下方向に所定の距離を空けて並んでいる。２つの補強片６９１は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。２つの補強片６９１は、下ケース６２１における２つの係合突部６２０ｅの内側の空間に挿入されて、２つの係合突部６２０ｅに嵌合する。上述したように、２つの係合突部６２０ｅは、キャビネットＧの左側の側面壁Ｇ２に設けられた２つの係合孔Ｇ１２１（図３９４参照）に挿入される。
【４９３５】
キャビネットＧにおいて主基板ケース６２０の取り付ける際の作業用スペースを大きく確保できない。そのため、２つの係合孔Ｇ１２１に対する２つの係合突部６２０ｅ出し入れは、左右方向に対して角度をつけて行われる。このとき、２つの係合突部６２０ｅが２つの係合孔Ｇ１２１の縁部に接触して力が加わる。そこで、本実施形態では、２つの係合突部６２０ｅに２つの補強片６９１を嵌合させて、２つの係合突部６２０ｅを補強する。これにより、２つの係合突部６２０ｅの剛性或いは強度を高めることができ、２つの係合突部６２０ｅの変形や破損を防止することができる。また、２つの係合突部６２０ｅと２つの補強片６９１は、下ケース６２１と上ケース６２２の固定部を兼ねる。
【４９３６】
上ケース６２２の左側面板６２２ｄにおける外側の面は、下ケース６２１の左側面板６２１ｄにおける内側の面に当接する。これにより、上ケース６２２の左側方への移動が係止される。
【４９３７】
（上ケースの右側面板）
上ケース６２２の右側面板６２２ｅには、本体固定用かしめ部品６９３ａと、検査用かしめ部品６９３ｂと、基板回収用かしめ部品６９３ｃと、封印用かしめ部品６９３ｄが設けられている。本体固定用かしめ部品６９３ａは、下ケース６２１の本体固定用かしめ部品６３８ａに接続され、上述した本体固定用かしめ部６２０ａ（図３９４参照）を形成する。検査用かしめ部品６９３ｂは、下ケース６２１の検査用かしめ部品６３８ｂに接続され、上述した検査用かしめ部６２０ｂを形成する。基板回収用かしめ部品６９３ｃは、下ケース６２１の基板回収用かしめ部品６３８ｃに接続され、上述した基板回収用かしめ部６２０ｃを形成する。封印用かしめ部品６９３ｄは、下ケース６２１の封印用かしめ部品６３８ｄに接続され、上述した封印用かしめ部６２０ｄを形成する。
【４９３８】
［１２－４．別例に係る主制御基板を収容した主基板ケース］
次に、図４０１を参照して、主制御基板６１０を収容した主基板ケース６２０について説明する。
図４０１は、主制御基板６１０を収容した主基板ケース６２０を示す平面図である。
【４９３９】
図４０１に示すように、主基板ケース６２０を奥行き方向の手前側から視認すると、主基板ケース６２０の内部に収容された主制御基板６１０を視認することができる。主制御基板６１０に設けた電源用コネクタ６１２、主制御信号コネクタ６１３、副制御信号コネクタ６１４、打止・精算スイッチ６１５、設定キーシリンダ６１６、設定操作スイッチ６１７、及び検査用コネクタ６１８は、主基板ケース６２０の上ケース６２２を貫通している。
【４９４０】
電源用コネクタ６１２、主制御信号コネクタ６１３、副制御信号コネクタ６１４を貫通させるコネクタ用開口部６６２，６６３，６６４は、上ケース６２２の第３内面６４２ｃ（図３９７参照）に設けられている。この上ケース６２２の第３内面６４２ｃは、主制御

基板６１０の実装面と密着する。これにより、コネクタ６１２，６１３，６１４とコネクタ用開口部６６２，６６３，６６４との間から主制御基板６１０や主制御基板６１０に実装された部品に不正にアクセスされることを防止することができる。

【４９４１】

主基板ケース６２０の上ケース６２２には、ＣＰＵチップ６１１に対向する箇所がＣＰＵチップ側に凹となる面落ち部６４３が設けられている。これにより、主基板ケース６２０を奥行き方向の手前側から視認した場合に、面落ち部６４３からＣＰＵチップ６１１を確認することができる。また、上ケース６２２とＣＰＵチップ６１１との距離を、上ケース６２２と主制御基板６１０に実装されたその他の部品との距離よりも短くすることができる。その結果、不正改造が行われやすいＣＰＵチップ６１１の配置箇所であって、確認すべき箇所が誰にでも一目でわかるようになるとともに、後述のシールの影の影響などを受けづらくなることでＣＰＵチップ６１１の視認性を向上させることができる。したがって、ＣＰＵチップ６１１に対する不正を防止すると共に、ＣＰＵチップ６１１に不正が行われたことを早期に発見することができる。また、面落ち部６４３を設けることで、主基板ケース６２０がＣＰＵチップ６１１の不正改造を容易に発見できる形状になっていることが明白である。これにより、ＣＰＵチップ６１１の不正改造を牽制することができ、ＣＰＵチップ６１１の不正改造を未然に防ぐことができる。

【４９４２】

面落ち部６４３における底部６４３ａの輪郭（外形）は、ＣＰＵチップ６１１における底部６４３ａに対向する面の輪郭（外形）よりも大きい。そして、主基板ケース６２０に主制御基板６１０を取り付けた状態において正面板６２２ａ側からＣＰＵチップ６１１を見ると、ＣＰＵチップ６１１の外形が面落ち部６４３の底部６４３ａの輪郭の内側に収まっている。これにより、面落ち部６４３の底部６４３ａからＣＰＵチップ６１１の対向面全体を視認することができる。また、底部６４３ａを正面視ではなく斜め方向から見た場合であっても、ＣＰＵチップ６１１を視認することができる。つまり、ＣＰＵチップ６１１の視野角を広げることができる。したがって、底部６４３ａを斜め方向（角度をつけた位置）から見た場合であっても、ＣＰＵチップ６１１に対する不正を容易に発見することができる。

【４９４３】

また、面落ち部６４３は、底部６４３ａから離れるにつれて開口が広がるように形成されている。これにより、ＣＰＵチップ６１１の視野角をさらに広げることができる。したがって、底部６４３ａを斜め方向（角度をつけた位置）から見た場合であっても、ＣＰＵチップ６１１を視認することができ、ＣＰＵチップ６１１に対する不正を容易に発見することができる。

【４９４４】

面落ち部６４３の底部６４３ａは、ＣＰＵチップ６１１と間隙を空けて対向している。底部６４３ａとＣＰＵチップ６１１を密着させると、ＣＰＵチップ６１１における空気に触れる表面積が減少して、排熱性能が低下してしまう虞がある。しかし、本実施形態では、底部６４３ａとＣＰＵチップ６１１との間に間隙があるため、ＣＰＵチップ６１１における空気に触れる表面積を減少させないようにすることができる。その結果、ＣＰＵチップ６１１の排熱性能の低下を防ぐことができる。さらに、主基板ケース６２０（上ケース６２２）に加えられた衝撃や振動が直接ＣＰＵチップ６１１に伝わらないようにすることができる。その結果、ＣＰＵチップ６１１の破損や故障を抑制或いは防止することができる。さらに、面落ち部６４３の底部６４３ａとＣＰＵチップ６１１との間隙は、僅かな距離である。そのため、ＣＰＵチップ６１１と基板本体との間に不正部品を介在させるような不正が行われて、ＣＰＵチップ６１１の高さが本来よりも高くなった状態では、ＣＰＵチップ６１１が底部６４３ａに干渉してしまう。したがって、主制御基板６１０を主基板ケース６２０（上ケース６２２）に固定することができなくなる。また、ＣＰＵチップ６１１と基板本体との間に不正部品を介在させた状態で、ＣＰＵチップ６１１が底部６４３ａに干渉しない場合であっても、両者の間隙が無くなっている、或いは小さくなっている

ことを確認することで、不正が行われていること発見することができる。

【４９４５】

また、面落ち部６４３における上下方向に対向するの２つの側壁には、４つのリブ６７０ａ～６７０ｄが設けられている。これにより、面落ち部６４３の２つの側壁の剛性を高めることができる。その結果、面落ち部６４３の破損や変形を抑制或いは防止することができる。さらに、リブ６７０ａ，６７０ｂは、面落ち部６４３の上側面板６２２ｂ側の側壁と上側面板６２２ｂとに架け渡されるように設けられている。これにより、面落ち部６４３の上側面板６２２ｂ側の側壁と上側面板６２２ｂの剛性を高めることができる。その結果、面落ち部６４３の強度をより向上させることができ、面落ち部６４３の破損や変形を抑制或いは防止することができる。

【４９４６】

面落ち部６４３を補強する４つのリブ６７０ａ～６７０ｄの底部６４３ａに連続している部分は、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない大きさに設定されている。或いは、４つのリブ６７０ａ～６７０ｄの底部６４３ａに連続している部分は、ＣＰＵチップ６１１と重ならない位置に配置されている。したがって、底部６４３ａを介してＣＰＵチップ６１１を視認する際に、４つのリブ６７０ａ～６７０ｄが邪魔にならない。また、リブ６７０ａ，６７０ｂは、面落ち部６４３の側壁と上側面板６２２ｂとに連続している。これにより、面落ち部６４３の側壁と上側面板６２２ｂの剛性を高めることができる。

【４９４７】

また、２つの突出片６６９は、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない大きさに設定されている。或いは、２つの突出片６６９は、奥行き方向においてＣＰＵチップ６１１と重ならない位置に配置されている。したがって、底部６４３ａを介してＣＰＵチップ６１１を視認する際に、２つの突出片６６９が邪魔にならない。

【４９４８】

また、２つの突出片６６９は、主制御基板６１０に実装されたＣＰＵチップ６１１の左右方向に略直交する第１の側面と第２の側面に対向する。これにより、ＣＰＵチップ６１１の左右方向の両側からＣＰＵチップ６１１に不正にアクセスすることを防止することができる。なお、２つの突出片６６９（対向部６６９ａ）は、主制御基板６１０の実装面に当接させてもよい。これにより、ＣＰＵチップ６１１への不正なアクセスをより困難にすることができる。また、２つの突出片６６９は、底部６４３ａと平行な断面形状がコ字状に形成されているため、２つの突出片６６９自体の強度を高めることができる。したがって、不正を行う目的で２つの突出片６６９を破壊することを防止或いは抑制することができる。さらに、２つの突出片６６９は、底部６４３ａと平行な断面形状がコ字状に形成されているため、底部６４３ａの補強リブとしての役割を兼ねている。これにより、底部６４３ａの破損や変形を抑制或いは防止することができる。

【４９４９】

主基板ケース６２０の上ケース６２２には、基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６が貼付されている。これにより、主基板ケース６２０に収容した主制御基板６１０を正しく管理することができる。基板管理番号証シール６０４は、不透明な素材から形成されたシールであり、製品型式名シール６０５及び記録シール６０６よりも小さい。これにより、主基板ケースを介した主制御基板６１０の視認を妨げないようにすることができる。

【４９５０】

また、基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６は、上ケース６２２に設けた第１シール用面落ち部６４４、第２シール用面落ち部６４５、及び第３シール用面落ち部６４６に貼付される。これにより、基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６を貼付する位置を容易に認識することができる。その結果、基板管理番号証シール６０４、製品型式名シール６０５、及び記録シール６０６を貼付する位置を間違えないようにすることができる。

【４９５１】
　また、シール用面落ち部６４４，６４５，６４６の外形は、各シール６０４，６０５，６０６の外形よりも僅かに大きい。これにより、外形の異なる３つのシールの貼付位置を間違えないようにすることができる。また、シール用面落ち部６４４，６４５，６４６における四隅の角部は、直角（略９０度）に形成されている。これにより、各シール６０４，６０５，６０６の四隅が、直角であっても角丸加工されていても、各シール６０４，６０５，６０６をシール用面落ち部６４４，６４５，６４６のに容易に貼付することができる。
【４９５２】
　また、基板管理番号証シール６０４は、不透明な素材から形成されている。そして、基板管理番号証シール６０４を貼付する第１シール用面落ち部６４４は、製品型式名シール６０５を貼付する第２シール用面落ち部６４５や記録シール６０６を貼付する第３シール用面落ち部６４６よりも、主制御基板６１０の対向する位置に実装される部品が少ない。これにより、基板管理番号証シール６０４が主制御基板６１０に対する不正や主制御基板６１０の故障、破損の発見を妨げないようにすることができる。
【４９５３】
［１２－５．別例に係る主基板ケースの開封作業］
　次に、図４０２～図４０６を参照して、主基板ケース６２０の開封作業について説明する。
　図４０２～図４０６は、主基板ケース６２０の開封作業を説明する図である。
【４９５４】
　例えば、主制御基板６１０の検査を行う場合は、キャビネットＧに取り付けられた主基板ケース６２０を開封する開封作業を行う。開封作業を行う場合は、まず、本体固定用かしめ部６２０ａと第１ケースブラケットＧ１２０ａとの接続に用いた本体かしめフック６５８をニッパー等の工具で完全に切断する（図４０２参照）。これにより、本体固定用かしめ部６２０ａが露出される。
【４９５５】
　次に、本体固定用かしめ部６２０ａをニッパー等の工具で切断して、第１ケースブラケットＧ１２０ａとの接続を解除する（図４０３参照）。このとき、第１ケースブラケットＧ１２０ａは切断されない。したがって、主基板ケース６２０を交換する場合は、第１ケースブラケットＧ１２０ａと新たな主基板ケース６２０の本体固定用かしめ部６２０ａを接続することができる。
【４９５６】
　次に、主基板ケース６２０をキャビネットＧから取り外す。そして、主基板ケース６２０のケース固定部６８４に取り付けられている封印シールカバー６８９をニッパー等の工具で切断する（図４０４参照）。そして、ケース固定部６８４から封印シールカバー６８９を取り外す。これにより、封印シール６８８が露出される。封印シール６８８は、上ケース６２２のケース固定部６８４（封印面６８４ａ）と、下ケース６２１の封印シール貼付用板部６３５に貼付されている。
【４９５７】
　次に、封印シール６８８のケース固定部６８４に貼付されている部分を切り取る。これにより、下ケース６２１に上ケース６２２を固定するためのケース固定用ねじ６４０が露出される（図４０５参照）。そして、ケース固定用ねじ６４０を取り外す。次に、封印用かしめ部６２０ｄをニッパー等の工具で完全に切断する（図４０６参照）。これにより、封印用かしめ部６２０ｄとケースかしめフック６５７（図４０６では不図示）の接続が解除され、主基板ケース６２０の開封作業が完了する。開封作業を終えると、上ケース６２２を下ケース６２１から取り外すことができる。そして、上ケース６２２から主制御基板６１０を取り外すことができる。
【４９５８】
［１２－６．別例に係る主基板ケースの封印作業］

次に、図４０７を参照して、主基板ケース６２０の封印作業について説明する。
図４０７は、主基板ケース６２０の封印作業を説明する図である。
【４９５９】
例えば、主制御基板６１０の検査結果に問題が無ければ、主基板ケース６２０を封印する封印作業を行う。封印作業を行う場合は、下ケース６２１に上ケース６２２を固定する前に、フック保管部６５４から本体かしめフック６５６を取り出しておく（図３９７参照）。
【４９６０】
次に、上ケース６２２に主制御基板を基板固定ねじ（不図示）を用いて固定する。そして、下ケース６２１の上係合片及び下係合片を上ケース６２２の上係合溝６８２及び下係合溝６８５（図３９６参照）に挿入して、上ケース６２２を下ケース６２１に対して左右方向の左側へスライドさせる。このとき、基板固定用ボス部６６８に螺合した基板固定ねじ（不図示）の締め付けが弱いと、下ケース６２１の右リブ６３４が、その基板固定ねじと干渉する。これにより、上ケース６２２のスライドが途中で止まり、主基板ケース６２０を組み立てられない。一方、基板固定ねじの締め付けが適度な状態であれば、右リブ６３４が基板固定ねじと干渉せず、主基板ケース６２０を組み立てることができる。
【４９６１】
次に、ケース固定用ねじ６４０を用いて下ケース６２１に上ケース６２２を固定する。これにより、主基板ケース６２０が組み立てられる。そして、主基板ケース６２０の２つの係合突部６２０ｅを、キャビネットＧの２つの係合孔Ｇ１２１に挿入する（図３９４参照）。これにより、主基板ケース６２０がキャビネットＧ内の取り付け位置に配置される。このとき、主基板ケース６２０の検査用かしめ部６２０ｂは、第２ケースブラケットＧ１２０ｂと対向する（図４０７参照）。
【４９６２】
次に、フック保管部６５４から取り出した本体かしめフック６５６を第２ケースブラケットＧ１２０ｂと検査用かしめ部６２０ｂにはめ込む。その結果、主基板ケース６２０が封印されると共に、主基板ケース６２０とキャビネットＧ（遊技機本体）が封印される。これにより、主基板ケース６２０の封印作業が完了する。
【４９６３】
なお、主制御基板６１０を回収する場合にも、主基板ケース６２０を開封する開封作業と、主基板ケース６２０を封印する封印作業を行う。開封作業を行うときに、主制御基板６１０の検査が行われていない場合は、上述した検査時の開封作業を行う。開封作業を行うときに、既に主制御基板６１０の検査が行われていた場合は、検査用かしめ部６２０ｂをニッパー等の工具で完全に切断する。そして、主基板ケース６２０をキャビネットＧから取り外す。次に、ケース固定用ねじ６４０を取り外す。これにより、主基板ケース６２０の開封作業が完了する。
【４９６４】
その後、上ケース６２２を下ケース６２１から取り外す。そして、フック保管部６５４からケースかしめフック６５７を取り出す。その後の主基板ケース６２０を組み立ては、検査時と同様であるため、省略する。次に、フック保管部６５４から取り出したケースかしめフック６５７を、組み立てた主基板ケース６２０の基板回収用かしめ部６２０ｃにはめ込む。その結果、主基板ケース６２０が封印される。これにより、主基板ケース６２０の封印作業が完了する。
【４９６５】
［１２－７．主基板ケースを備えた遊技機に係る発明のまとめ（付記）］
以上説明したように、主基板ケース６２０を備えた遊技機では以下のような構成の遊技機を提供することができる。
【４９６６】
従来から制御基板へ不正にアクセスされないように、セキュリティを高めた基板ケースを備える遊技機が知られている（例えば、特開２００８－５５１１２号公報参照）。この

ような基板ケースは、壊さない限り制御用ＲＯＭを交換できないように構成されている。

【４９６７】

ところで、このような基板ケースは、制御基板へのアクセスのみならず、制御基板に実装されたＣＰＵ（Central Processing Unit）チップに対するセキュリティを高めることが求められている。

【４９６８】

本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、ＣＰＵチップに対する不正を防止すると共に、ＣＰＵチップに不正が行われたことを早期に発見することが可能な遊技機を提供することを目的とする。

【４９６９】

上記目的を達成するために、本実施形態では以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【４９７０】

（１）

遊技の制御に関わる所定の電子部品（例えば、ＣＰＵチップ６１１）が実装された制御基板（例えば、主制御基板６１０）と、

前記制御基板を収容する透明な基板ケース（例えば、主基板ケース６２０）と、を備え、

前記基板ケースは、前記所定の制御部品に対向する箇所が前記所定の制御部品側に凹となる面落ち部（例えば、面落ち部６４３）を有する

ことを特徴とする遊技機。

【４９７１】

このような構成によれば、所定の制御部品に対する不正を防止すると共に、所定の制御部品に不正が行われたことを早期に発見することができる。

【４９７２】

（２）

前記基板ケースは、前記面落ち部が形成された正面板（例えば、正面板６２２ａ）を有し、

前記正面板の前記面落ち部以外の領域には、少なくとも第１の貼付部材（例えば、基板管理番号証シール６０４）、第２の貼付部材（例えば、製品型式名シール６０５）が貼付される貼付領域が設けられ、

前記第１の貼付部材と、前記第２の貼付部材との大きさがそれぞれ異なり、

前記正面板の各前記貼付領域には、各貼付部材の貼付面の逆側へ凹となり、各貼付部材に応じた大きさの貼付部材用面落ち部（例えば、シール用面落ち部６４４～６４６）が形成されている

ことを特徴とする上記（１）に記載の遊技機。

【４９７３】

このような構成によれば、第１～第３の貼付部材が貼付されるため、収容した主制御基板を正しく管理することができる。また、各貼付部材に応じた大きさの貼付部材用面落ち部が形成されているため、複数ある貼付部材のそれぞれと対応する貼付領域とが一目瞭然であり、各貼付領域を容易に認識することができる。また、貼付領域が面落ちしているため、貼付した貼付部材が剥がれ辛くなり、基板ケースを取り外し後に、正面板を下にして床置きした状態で摩擦してしまったりしても貼付部材が凸となっていないので貼付部材の印字や記載が消えにくい。

【４９７４】

（３）

前記面落ち部の底部（例えば、底部６４３ａ）の輪郭は、前記所定の電子部品の上面の輪郭よりも大きく、

前記面落ち部は、底部から離れるにつれて開口が広がるように形成されている

ことを特徴とする上記（２）に記載の遊技機。

【４９７５】
　このような構成によれば、面落ち部の底部から所定の電子部品の対向面全体を視認することができる。また、面落ち部の底部を正面視ではなく斜め方向から見た場合であっても、所定の制御部品を視認することができる。つまり、所定の制御部品の視野角を広げることができる。したがって、面落ち部の底部を斜め方向（角度をつけた位置）から見た場合であっても、所定の制御部品に対する不正を容易に発見することができる。また、面落ち部が、底部から離れるにつれて開口が広がるように形成されているため、面落ち部の底部を斜め方向（角度をつけた位置）から見た場合であっても、面落ち部の側壁が邪魔にならず、視認性を確保することができる。
【４９７６】
　（４）
　前記基板ケースは、前記面落ち部に連続し、前記所定の電子部品の第１の側面と第２の側面とのそれぞれに対向する位置に、前記面落ち部の底部に平行な断面形状がコ字状に形成された突出片（例えば、突出片６６９）と、前記面落ち部の側壁に連続する複数のリブ（例えば、４つのリブ６７０ａ～６７０ｄ）を有する
　ことを特徴とする上記（２）又は（３）に記載の遊技機。
【４９７７】
　このような構成によれば、突出片を有するため、所定の電子部品の第１の側面と第２の側面から所定の電子部品に不正にアクセスすることを防止することができる。また、突出片の面落ち部の底部に平行な断面形状がコ字状に形成されているため、突出片自体の強度を高めることができる。したがって、不正を行う目的で突出片を破壊することを防止或いは抑制することができる。さらに、突出片が、面落ち部における底部の補強リブとしての役割を兼ねることができる。その結果、面落ち部における底部の破損や変形を抑制或いは防止することができる。また、面落ち部の側壁に連続する複数のリブを有するため、面落ち部の側壁の破損や変形を抑制或いは防止することができる。
【４９７８】
　（５）
　前記複数のリブのうち少なくとも１つ（例えば、２つのリブ６７０ａ，６７０ｂ）は、前記面落ち部が形成された前記正面板、及び前記正面板に略垂直な側面板（例えば、上側面板６２２ｂ）に連続する
　ことを特徴とする上記（４）に記載の遊技機。
【４９７９】
　このような構成によれば、複数のリブのうち少なくとも１つが正面板及び側面板に連続するため、面落ち部における側面板側の側壁と側面板の剛性を高めることができる。その結果、面落ち部の強度をより向上させることができ、面落ち部の破損や変形を抑制或いは防止することができる。
【４９８０】
　（６）
　前記第１の貼付部材及び前記第２の貼付部材のうち一方の貼付部材は不透明の素材からなるとともに他方の貼付部材は透過性を有する素材からなり、
　当該一方の貼付部材は、前記正面板側から見たときに他方の貼付部材よりも前記制御基板に実装される電子部品が少ない前記貼付領域に貼付される
　ことを特徴とする請求項（５）に記載の遊技機。
【４９８１】
　このような構成によれば、不透明な素材からなる一方の貼付部材が、主制御基板に対する不正、及び主制御基板の故障、破損の発見を妨げないようにすることができる。
【４９８２】
　なお、本発明に係る主制御基板（副制御基板）としては、多層基板を採用してもよい。これにより、基板の面積を小さくして主制御基板の小型化を図ることができる。また、本発明に係る主制御基板としては、多層基板を採用して、ＰＯＷＥＲ（電源）とＧＮＤ（グ

ランド）の少なくとも１つを内層で構成するようにしてもよい。例えば、内層を１層にして、ＰＯＷＥＲ、ＧＮＤ（グランド）のみに内層を使用してもよく（信号線は内層に使用しない）、４層の多層基板を採用して、内層にＰＯＷＥＲ層とＧＮＤ層を設けるようにしてもよい。これにより、主制御基板の耐ノイズ性を向上させることができ、ノイズ対策部品の削減を図ることができる。その結果、主制御基板のコストを削減することができる。また、電波を用いて行う主制御基板への不正を抑制或いは防止することができる。

【４９８３】

また、本発明に係る主制御基板（副制御基板）としては、第１面と第２面（表裏面）を実装面にしてもよい。例えば、制御に関する所定の電子部品等を第１面（表面）に実装し、コネクタを第２面（裏面）に実装するようにしてもよい。これにより、基板の小型化を図ることができ、遊技機の内部構造における設計の自由度を高めることができる。

【４９８４】

また、本発明に係る主制御基板（副制御基板）としては、特定の電子部品を実装しないものであってもよい。すなわち、本発明に係る主制御基板（副制御基板）としては、未実装の電子部品がある状態で完成品としてもよい。これにより、主制御基板の共通化を図ることができ、主制御基板のコストを削減することができる。例えば、第１の遊技機には、特定の電子部品を実装した主制御基板を使用し、第２の遊技機では、不要である特定の電子部品を実装していない（実装する場所は確保されている）主制御基板を使用することができる。なお、特定の電子部品を実装していない製品（制御基板）であるか否かは、予め撮影した完成品の主制御基板の画像（写真）と見比べることにより確認することができる。

【４９８５】

また、本発明に係る主制御基板（副制御基板）としては、使用していない部品、例えば、空き端子や空きコネクタを有するものであってもよい。この場合は、空き端子や空きコネクタを透明なケース等によって覆う。そして、透明なケース等を外した場合は、痕跡が残るようにする。これにより、空き端子や空きコネクタに外部からアクセスできないようにすることができる。また、空き端子や空きコネクタを利用した不正を防止することができる。

【４９８６】

［１３．下ドア機構の別例］

次に、図４０８から図４２４を参照して、パチスロ機の下ドア機構の別構成例について説明する。なお、本実施形態において下ドア機構の別例として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において他の遊技機（他の構成例）として説明するものに適用可能であり、また、他の遊技機（他の構成例）として説明する各種の仕様や機能等については、その一部又は全部を、本実施形態において下ドア機構の別例として説明するものに適用可能である。すなわち、これらを適宜組合せたものを本実施形態に係る発明とすることができる。

【４９８７】

［１３－１．別例に係る下ドア機構を備えたパチスロ機］

まず、図４０８を参照して、別例に係る下ドア機構を備えるパチスロ機（これを本例ではパチスロ機６０１とする）について説明する。図４０８は、別例に係る下ドア機構の分解斜視図である。なお、本例では、パチスロ機６０１を物理的な遊技価値を用いて遊技を行う遊技機として構成している。しかし、本例において説明する発明は、メダルレス遊技機に適用することもできる。

【４９８８】

パチスロ機６０１は、遊技機本体として前面側に矩形状の開口を有するキャビネットＧ（図３９３参照）と、キャビネットＧの前面上部に配置された上ドア機構（不図示）と、キャビネットＧの前面下部に配置された下ドア機構７０２とを有している。

【４９８９】

上ドア機構及び下ドア機構７０２は、キャビネットＧの開口の形状及び大きさに対応す

るように形成され、キャビネットＧにおける開口の上部空間及び下部空間を閉塞可能に設けられている。すなわち、上ドア機構及び下ドア機構７０２は、パチスロ機６０１の前面側に設けられた前面扉（フロントドア）として機能している。

【４９９０】

また、上ドア機構及び下ドア機構７０２のそれぞれは、例えば、キャビネットＧの左側の側面壁Ｇ２（図３９３参照）に設けられたヒンジ等の開閉機構（不図示）によって、キャビネットＧに対して開閉自在に取付けられている。なお、上ドア機構及び下ドア機構７０２のいずれか一方については上述の開閉機構によって開閉自在とし、他方については一方のドア機構が開放状態となったときにのみ着脱可能となるように構成することもできる。

【４９９１】

［１３－２．別例に係る下ドア機構の構成］

次に、図４０８～図４１０を参照して、下ドア機構７０２の構成について説明する。

図４０９は、下ドア機構７０２における装飾ユニットの正面図である。図４１０は、下ドア機構７０２における装飾ユニットの背面図である。

【４９９２】

図４０８に示すように、下ドア機構７０２は、下ドア本体７０４と、ストップボタンユニット７０５と、装飾ユニット７０６と、メダル受皿７０７とを有している。ストップボタンユニット７０５、装飾ユニット７０６、及びメダル受皿７０７は、下ドア本体７０４に取り付けられている。

以下、下ドア本体７０４の装飾ユニット７０６等が取り付けられる面を正面視で上下方向、左右方向、奥行き方向を使用する。また、奥行き方向の視認側を手前側とし、奥行き方向の視認側と反対側を奥側とする。

【４９９３】

下ドア本体７０４は、奥行き方向の長さが短い扁平な略筐体状に形成されており、上面及び背面の全面が開口されている。下ドア本体７０４は、正面部７０４ａと、下面部７０４ｂと、左側面部７０４ｃと、右側面部７０４ｄを有している。以下、正面部７０４ａの奥行き方向の手前側を向く面を表面とし、正面部７０４ａの奥行き方向の奥側を向く面を裏面とする。正面部７０４ａの表面側には、台座部７１１と、複数の補強部７１２が設けられている。

【４９９４】

台座部７１１は、正面部７０４ａの上部に設けられており、横長の略直方体状に形成されている。台座部７１１の壁面は、奥行き方向の手前側に凸となるように湾曲している。台座部７１１の上面には、左側から順にベットボタン用開口部７１１ａ、演出ボタン用開口部７１１ｂ、メダル投入用開口部７１１ｃが設けられている。

【４９９５】

ベットボタン用開口部７１１ａには、ベットボタンユニット（不図示）が取り付けられる。ベットボタンユニットは、例えば、ＭＡＸベットボタンと、１ベットボタンと、精算ボタンを有する。ベットボタンユニットには、ベットボタン信号ハーネスの一端が接続されている。ベットボタン信号ハーネスの他端は、下ドア本体７０４の裏側に設けられたメイン中継基板８４３（図４２０参照）に接続されている。ベットボタンユニットの各ボタンの操作信号は、メイン中継基板８４３を介して主制御基板６１０（図４０１参照）に送信される。

【４９９６】

演出ボタン用開口部７１１ｂには、演出ボタンユニット（不図示）が取り付けられる。演出ボタンユニットは、演出ボタンと、演出ボタンを振動させる振動モータを有する。演出ボタンは、例えば、決定ボタンと、左選択ボタンと、右選択ボタンを有していてもよい。このように、演出ボタンを複数のボタンから構成することにより、演出ボタンを用いて多様な演出を行うことができる。演出ボタンユニットには、演出ボタン信号ハーネスの一端が接続されている。演出ボタン信号ハーネスの他端は、下ドア本体７０４の裏側に設け

られたサブ中継基板８４５（図４２０参照）に接続されている。演出ボタンの操作信号は、サブ中継基板８４５を介して副制御基板（不図示）に送信される。また、副制御基板は、振動モータの駆動信号を、サブ中継基板８４５を介して振動モータに供給する。また、メダル投入用開口部７１１ｃには、メダル投入口部材（不図示）が取り付けられる。

【４９９７】

台座部７１１の壁面には、左側から順にレバー用開口部７１１ｄ、ストップボタン用嵌合部７１１ｅ、施錠機構用開口部７１１ｆが設けられている。レバー用開口部７１１ｄには、スタートレバー（不図示）が貫通する。スタートレバーには、回転始動信号ハーネスの一端が接続されている。回転始動信号ハーネスの他端は、下ドア本体７０４の裏側に設けられたメイン中継基板８４３に接続されている。スタートレバーを操作すると、回転始動信号がメイン中継基板８４３を介して主制御基板６１０（図４０１参照）に送信される。

【４９９８】

ストップボタン用嵌合部７１１ｅには、ストップボタンユニット７０５が取り付けられる。ストップボタンユニット７０５は、３つのストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒを有する。ストップボタンユニット７０５には、ストップボタン信号ハーネス７１４の一端（ストップボタンに合わせて３つの端部に分かれている）が接続されている。ストップボタン信号ハーネス７１４は、ストップボタン用嵌合部７１１ｅに設けられたハーネス貫通孔（不図示）を貫通する。ストップボタン信号ハーネス７１４の他端は、下ドア本体７０４の裏側に設けられたメイン中継基板８４３に接続されている。３つのストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒの操作信号は、メイン中継基板８４３を介して主制御基板６１０（図４０１参照）に送信される。

【４９９９】

施錠機構用開口部７１１ｆには、施錠機構７１５が貫通する。施錠機構７１５は、例えば、シリンダ錠から構成されている。下ドア機構７０２が閉鎖状態であるとき、遊技店側の管理者が鍵穴にドアキー（不図示）を挿入した状態で右に回すと解錠し、下ドア機構ＤＤが開くことができるようになる。

【５０００】

台座部７１１の壁面は、装飾ユニット７０６によって覆われる。台座部７１１の壁面に取り付けたスタートレバー、ストップボタンユニット７０５、及び施錠機構７１５は、装飾ユニット７０６を貫通して、奥行き方向の手前側に露出される。

【５００１】

また、台座部７１１の壁面には、複数のＬＥＤ７２０を実装したＬＥＤ基板７１６Ａ，７１６Ｂが取り付けられている。ＬＥＤ基板７１６Ａ，７１６は、例えば、表面発光用の白色のフレキシブル基板であり、略四角形に形成されている。ＬＥＤ基板７１６Ａの複数のＬＥＤ７２０は、装飾ユニット７０６の後述する左装飾レンズ７３８に対して光を照射する。ＬＥＤ基板７１６Ｂの複数のＬＥＤ７２０は、装飾ユニット７０６の後述する右装飾レンズ７３９に対して光を照射する。

【５００２】

複数の補強部７１２は、正面部７０４ａにおける上下方向の中間部に位置しており、上下方向に適当な間隔を空けて並んでいる。複数の補強部７１２は、装飾ユニット７０６によって覆われる。複数の補強部７１２は、それぞれ上下方向に略垂直な平面を有する適当な厚みの板状に形成されており、左右方向に延びている。

【５００３】

複数の補強部７１２には、複数のＬＥＤ７２０を実装したＬＥＤ基板７１６Ｃが取り付けられている。ＬＥＤ基板７１６Ｃは、例えば、表面発光用の白色のフレキシブル基板であり、補強部７１２の壁面に沿う帯状に形成されている。ＬＥＤ基板７１６Ｃの複数のＬＥＤ７２０は、装飾ユニット７０６の後述する装飾シート７３３（図４０９参照）に対して光を照射する。

【５００４】

下ドア本体７０４の下部には、メダル払出口７１７と、スピーカ用開口部７１８ａ，７１８ｂが設けられている。メダル払出口７１７は、左右方向の略中央部に位置し、スピーカ用開口部７１８ａ，７１８ｂは、メダル払出口７１７の左右両側に位置する。また、下ドア本体７０４の下部には、メダル受皿７０７が取り付けられる。メダル受皿７０７は、装飾ユニット７０６の下方に配置される。パチスロ機６０１の内部から払出される（あるいは返却される）メダルは、メダル払出口７１７を通過してメダル受皿７０７に貯留される。スピーカ用開口部７１８ａ，７１８ｂは、下ドア本体７０４の裏面側に設けられたスピーカ７０８ａ，７０８ｂを露出させる。

【５００５】

図４０９に示すように、装飾ユニット７０６は、腰部パネル部７２１と、左装飾部７２２と、右装飾部７２３と、ボタンカバー部７２４とを有する。

【５００６】

腰部パネル部７２１は、パネル枠７３１と、パネル枠７３１の開口を塞ぐ透明カバー７３２と、透明カバー７３２の裏面側と対向する装飾シート７３３とを有する。パネル枠７３１は、左右方向に長い略長方形の枠体からなる。パネル枠７３１の上辺及び下辺は、奥行き方向の手前側に凸となるように湾曲している。パネル枠７３１は、光を透過させない色の樹脂により形成されている。そして、パネル枠７３１は、透明カバー７３２の外周を囲んで保持する。透明カバー７３２は、例えば、アクリル樹脂により横長の長方形に形成されている。透明カバー７３２は、光を透過させる。透明カバー７３２の表面は、パネル枠７３１の開口から奥行き方向の手前側に露出する。

【５００７】

装飾シート７３３は、透明又は半透明の樹脂により形成されており、光を透過させる。装飾シート７３３には、機種の名称を表すロゴやモチーフを表すキャラクタ等の機種情報が描かれている。装飾シート７３３には、台座部７１１に設けたＬＥＤ基板７１６Ｃの複数のＬＥＤ７２０から出射された光が照射される。すなわち、装飾シート７３３は、裏側から照明される。

【５００８】

装飾シート７３３の表面における周縁部と透明カバー７３２の裏面における周縁部との間には、所定の厚みのスペーサが介在されている。これにより、装飾シート７３３の表面は、透明カバー７３２の裏面と所定の距離（例えば、５ｍｍ程度）を開けて対向している。これにより、装飾シート７３３と透明カバー７３２との間に液体が浸入した場合に、液体が装飾シート７３３と透明カバー７３２との両方に接触した状態になり難い。その結果、ニュートンリングが生じないようにすることができる。

【５００９】

パネル枠７３１の上辺には、左装飾片７３４と、右装飾片７３５が設けられている。左装飾片７３４及び右装飾片７３５は、パネル枠７３１の上辺における左端部及び右端部に連続しており、パネル枠７３１と一体に形成されている。すなわち、左装飾片７３４及び右装飾片７３５は、パネル枠７３１と同じ樹脂により一体成形されている。左装飾片７３４及び右装飾片７３５は、左装飾部７２２及び右装飾部７２３の一部を構成する。これにより、腰部パネル部７２１と左装飾部７２２及び右装飾部７２３とに一体感を持たせることができ、意匠性を高めることができる。

【５０１０】

左装飾片７３４及び右装飾片７３５における奥行き方向の手前側を向く面には、例えば、機種のモチーフを表す装飾が施されている。これにより、腰部パネル部７２１に機種に応じた個性を持たせることができる。また、右装飾片７３５には、施錠機構用貫通孔７３５ａが形成されている。施錠機構用貫通孔７３５ａには、施錠機構７１５が貫通する。

【５０１１】

パネル枠７３１の上辺には、仕切り部材７３６が接続されている。仕切り部材７３６は、腰部パネル部７２１と、左装飾部７２２と、右装飾部７２３と、ボタンカバー部７２４との間に配置され、各部を仕切る。仕切り部材７３６は、パネル枠７３１とは異なる色の

樹脂により形成されている。仕切り部材７３６は、パネル枠片７３６ａと、パネル枠片７３６ａに連続する左意匠仕切り片７３６ｂ及び右意匠仕切り片７３６ｃから形成されている。

【５０１２】

パネル枠片７３６ａは、上下方向に略垂直な平面を有し、左右方向に延びる板状に形成されている。パネル枠片７３６ａは、パネル枠７３１の上辺における左右方向の中央部に設けられた切欠き部分に嵌合されている。したがって、仕切り部材７３６のパネル枠片７３６ａは、腰部パネル部７２１におけるパネル枠７３１の一部を形成している。

【５０１３】

左意匠仕切り片７３６ｂは、左斜め上方に延びる傾斜部と、傾斜部に連続して水平方向に延びる上面部を有する。左意匠仕切り片７３６ｂと左装飾片７３４は、左装飾レンズ７３８を保持する枠体を形成する。そして、左装飾部７２２は、左装飾片７３４と左装飾レンズ７３８から構成されている。

【５０１４】

右意匠仕切り片７３６ｃは、右斜め上方に延びる傾斜部と、傾斜部に連続して水平方向に延びる上面部を有する。右意匠仕切り片７３６ｃと右装飾片７３５は、右装飾レンズ７３９を保持する枠体を形成する。そして、右装飾部７２３は、右装飾片７３５と右装飾レンズ７３９から構成されている。

【５０１５】

左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９は、透明又は半透明の樹脂により形成されており、光を透過させる。左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９には、台座部７１１に設けたＬＥＤ基板７１６Ａ，７１６Ｂの複数のＬＥＤ７２０から出射された光が照射される。すなわち、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９は、裏側から照明される。また、左装飾レンズ７３８には、スタートレバー（不図示）が貫通するレバー貫通孔７３８ａが設けられている。

【５０１６】

左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９における表面には、例えば、機種のモチーフを表す装飾が施されている。左装飾レンズ７３８に施される装飾と左装飾片７３４に施される装飾は、一体感を持つように形成されている。また、右装飾レンズ７３９に施される装飾と右装飾片７３５に施される装飾は、一体感を持つように形成されている。これにより、光を透過させない装飾と光を透過させる装飾に関連性を持たせることができ、意匠性を高めることができる。

【５０１７】

ボタンカバー部７２４は、下辺が上辺よりも短い略台形の板状に形成されている。ボタンカバー部７２４は、仕切り部材７３６にねじを用いて固定されている。ボタンカバー部７２４には、３つのボタン貫通孔７２４ａが設けられている。３つのボタン貫通孔７２４ａには、３つのストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒ（図４０８参照）が貫通する。３つのストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒは、遊技者が操作する操作部である。そのため、３つのボタン貫通孔７２４ａとストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒとの間にゴミが溜まると、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒの操作性が低下する虞がある。本実施形態のパチスロ機６０１では、下ドア本体７０４から装飾ユニット７０６を容易に取り外すことができるため、３つのボタン貫通孔７２４ａとストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒとの間に溜まったゴミを容易に取り除くことができる。また、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒ周りの清掃やストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒのメンテナンスを容易に行うことができる。

【５０１８】

ボタンカバー部７２４の上辺、左意匠仕切り片７３６ｂ及び右意匠仕切り片７３６ｃの上面部、及び左装飾片７３４及び右装飾片７３５の上面は、台座部７１１（図４０８参照）の上面と略同一平面を形成する。言い換えれば、装飾ユニット７０６の上面は、台座部７１１の上面と略同一平面を形成する。これにより、台座部７１１と装飾ユニット７０６

とに一体感を持たせることができる。また、台座部７１１の上面とその周囲に段差が生じないため、遊技者が手や服を引っ掛けてけてしまわないようにすることができる。

【５０１９】

図４１０に示すように、装飾ユニット７０６の裏面側には、第１補強部材７４１と、第２補強部材７４２が設けられている。

【５０２０】

第１補強部材７４１は、レンズ対向部７４４と、上接続部７４５と、左固定部７４６と、右固定部７４７とを有する。

【５０２１】

レンズ対向部７４４は、左右方向に延びる略長方形の板体からなる。レンズ対向部７４４の左右の長さは、パネル枠７３１の左右方向の長さと略等しい。レンズ対向部７４４の上辺及び下辺は、奥行き方向の手前側に凸となるように湾曲している。そして、レンズ対向部７４４の左側端部及び右側端部は、左右方向に略垂直な平面となる。レンズ対向部７４４は、ボタンカバー部７２４、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９と対向する。レンズ対向部７４４は、仕切り部材７３６の裏面に複数の固定ねじを用いて固定されている。

【５０２２】

レンズ対向部７４４は、透明又は半透明の樹脂により形成されており、光を透過させる。したがって、台座部７１１に設けたＬＥＤ基板７１６Ａ，７１６Ｂの複数のＬＥＤ７２０から出射された光は、レンズ対向部７４４と、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９を透過する。なお、本実施形態では、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９の両方に光を透過させる演出と、片方のみに光を透過させる演出を行うことができる。

【５０２３】

また、レンズ対向部７４４には、ストップボタンユニット７０５との干渉を避けるための切欠き７４４ａが設けられている。さらに、レンズ対向部７４４には、スタートレバー（不図示）が貫通するレバー貫通孔７４４ｂと、施錠機構７１５（図４０８参照）が貫通する施錠機構用貫通孔７４４ｃが設けられている。

【５０２４】

レンズ対向部７４４の左側端部には、嵌合孔７４９が形成されている。嵌合孔７４９は、レンズ対向部７４４の左側端部を左右方向に貫通する。嵌合孔７４９には、後述する第１スライド部材７８１の嵌合挿入部７９３（図４１４参照）が挿入される。レンズ対向部７４４の右側端部には、２つの嵌合孔７５０が形成されている。２つの嵌合孔７５０は、上下方向に適当な距離を空けて並んでおり、レンズ対向部７４４の右側端部を左右方向に貫通する。２つの嵌合孔７５０には、後述する第２スライド部材７８２の２つの嵌合挿入部８１６（図４１７参照）が挿入される。

【５０２５】

レンズ対向部７４４におけるボタンカバー部７２４と対向する位置には、２つの上係合突起７５１が設けられている。２つの上係合突起７５１は、左右方向に特定の距離を空けて並んでいる。２つの上係合突起７５１は、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。２つの上係合突起７５１には、左右方向に貫通する係合孔７５１ａが形成されている。２つの上係合突起７５１は、下ドア本体７０４の後述する２つの上突起貫通孔７７１（図４１１参照）を貫通する。係合孔７５１ａには、後述する第１スライド部材７８１の２つの上係合挿入部８０３（図４１４参照）が挿入される。

【５０２６】

上接続部７４５は、レンズ対向部７４４の下部に連続している。上接続部７４５は、上下方向に略垂直な板体からなり、左右方向に長い略長方形に形成されている。上接続部７４５における奥行き方向の奥側の端面（以下、「奥端面」とする）は、下ドア本体７０４の１つの補強部７１２に当接する。上接続部７４５の奥端面には、当接する補強部７１２の凹凸に合わせて切欠きが形成されている。

【５０２７】

上接続部７４５の奥端面には、２つの上フック部７５２が設けられている。２つの上フック部７５２は、上接続部７４５の奥端面から、奥行き方向の奥側に突出しており、上接続部７４５と同一平面を形成する板体からなる。２つの上フック部７５２は、左右方向の右側に突出する凸部と、左右方向の左側に凹む凹部を有している。２つの上フック部７５２は、下ドア本体７０４の後述する２つの上フック貫通孔７７６（図４１１参照）を貫通する。また、２つの上フック部７５２には、後述する第１スライド部材７８１の上フック受け部７９６，７９７（図４１６参照）が係合する。

【５０２８】

上接続部７４５の下面には、光を反射する反射板が取り付けられている。これにより、ＬＥＤ基板７１６Ｃの複数のＬＥＤ７２０から出射された光が、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９に向かわないようにすることができる。また、ＬＥＤ基板７１６Ａ，７１６Ｂの複数のＬＥＤ７２０から出射された光が、装飾シート７３３に向かわないようにすることができる。その結果、装飾シート７３３、左装飾レンズ７３８及び右装飾レンズ７３９に意図しないタイミングで光が照射されないようにすることができる。

【５０２９】

左固定部７４６は、奥行き方向に略垂直な板体からなり、左固定部７４６の上部がレンズ対向部７４４の左側端部に連続している。左固定部７４６は、パネル枠７３１の左側辺に複数の固定ねじを用いて固定されている。右固定部７４７は、奥行き方向に略垂直な板体からなり、右固定部７４７の上部がレンズ対向部７４４の右側端部に連続している。右固定部７４７は、パネル枠７３１の右側辺に複数の固定ねじを用いて固定されている。

【５０３０】

第２補強部材７４２は、下接続部７５５と、左固定部７５６と、右固定部７５７とを有する。

【５０３１】

下接続部７５５は、上接続部７４５の下方に位置している。下接続部７５５は、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に延びる略長方形に形成されている。下接続部７５５は、パネル枠７３１の下辺に複数の固定ねじを用いて固定されている。下接続部７５５における奥行き方向の奥側の端面（以下、「奥端面」とする）は、下ドア本体７０４の１つの補強部７１２に当接する。

【５０３２】

下接続部７５５の奥端面には、２つの下フック部７５９が設けられている。２つの下フック部７５９は、上接続部７４５の奥端面から、奥行き方向の奥側に突出しており、下接続部７５５と同一平面を形成する板体からなる。２つの下フック部７５９は、左右方向の右側に突出する凸部と、左右方向の左側に凹む凹部を有している。２つの下フック部７５９は、下ドア本体７０４の後述する２つの下フック貫通孔７７７（図４１１参照）を貫通する。また、２つの下フック部７５９には、後述する第３スライド部材７８３の２つのフック受け部８２６，８２７（図４１８参照）が係合する。

【５０３３】

左固定部７５６は、奥行き方向に略垂直な板体からなり、左固定部７５６の下部が下接続部７５５の左側端部に連続している。左固定部７５６は、第１補強部材７４１の左固定部７４６と共にパネル枠７３１の左辺部に複数の固定ねじを用いて固定されている。左固定部７５６の下部には、下係合突起７６１が形成されている。

【５０３４】

下係合突起７６１は、上述の上係合突起７５１と同一形状に形成されている。すなわち、下係合突起７６１は、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。下係合突起７６１には、左右方向に貫通する係合孔７６１ａが形成されている。下係合突起７６１は、下ドア本体７０４の後述する下突起貫通孔７７２（図４１１参照）を貫通する。係合孔７６１ａには、後述する第３スライド部材７８３の下係合挿入部８２３（図４１８参照）が挿入される。

【５０３５】

右固定部７５７は、奥行き方向に略垂直な板体からなり、右固定部７５７の下部が下接続部７５５の左側端部に連続している。右固定部７５７は、第１補強部材７４１の右固定部７４７と共にパネル枠７３１の左辺部に複数の固定ねじを用いて固定されている。右固定部７５７の下部には、下係合突起７６２が形成されている。

【５０３６】

下係合突起７６２には、上述の上係合突起７５１と同一形状に形成されている。すなわち、下係合突起７６２は、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。下係合突起７６２は、下ドア本体７０４の後述する下突起貫通孔７７３（図４１１参照）を貫通する。係合孔７６２ａには、後述する第４スライド部材７８４の下係合挿入部８３４（図４１９参照）が挿入される。第１補強部材７４１に設けた２つの上係合突起７５１間の特定の距離は、第２補強部材７４２に設けた下係合突起７６１，７６２間の距離よりも短い。

【５０３７】

（下ドア本体に設けられたロック用貫通孔）

次に、図４１１を参照して、下ドア本体７０４に設けられたロック用貫通孔について説明する。

図４１１は、下ドア本体７０４の裏面側を示す説明図である。

【５０３８】

装飾ユニット７０６は、第１～第３ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される（ロックされる）。図４１１に示すように、下ドア本体７０４には、第１ロック機構に係る２つの上突起貫通孔７７１及び下突起貫通孔７７２，７７３と、第２ロック機構に係る第１スライド部材貫通孔７７４及び２つの第２スライド部材貫通孔７７５が設けられている。さらに、下ドア本体７０４には、第３ロック機構に係る２つの上フック貫通孔７７６及び２つの下フック貫通孔７７７が設けられている。

【５０３９】

２つの上突起貫通孔７７１は、台座部７１１の壁面（下ドア本体７０４の上部）における左右方向の略中央部に設けられており、左右方向に特定の距離を空けて並んでいる。２つの上突起貫通孔７７１は、上下方向に細長い長方形に形成されており、台座部７１１の壁面を奥行き方向に貫通している。２つの上突起貫通孔７７１には、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１（図４１０参照）が、正面部７０４ａの表面側から裏面側へ貫通する。

【５０４０】

下突起貫通孔７７２，７７３は、下ドア本体７０４の正面部７０４ａにおける複数の補強部７１２のうちの１つの補強部７１２の両側に設けられている。下突起貫通孔７７２，７７３間の距離は、上述の２つの上突起貫通孔７７１間の特定の距離よりも長い。下突起貫通孔７７２，７７３は、上突起貫通孔７７１と同一形状に形成されており、台座部７１１の壁面を奥行き方向に貫通している。下突起貫通孔７７２，７７３には、装飾ユニット７０６の下係合突起７６１，７６２（図４１０参照）が、正面部７０４ａの表面側から裏面側へ貫通する。

【５０４１】

第１スライド部材貫通孔７７４は、台座部７１１の壁面（下ドア本体７０４の上部）における左側端部に設けられている。第１スライド部材貫通孔７７４は、略正方形に形成されており、台座部７１１の壁面を左右方向に貫通している。第１スライド部材貫通孔７７４には、後述する第１スライド部材７８１の嵌合挿入部７９３（図４１４参照）が貫通する。

【５０４２】

２つの第２スライド部材貫通孔７７５は、台座部７１１の壁面（下ドア本体７０４の上部）における右側端部に設けられており、上下方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの第２スライド部材貫通孔７７５は、略正方形に形成されており、台座部７１１の壁面を左右方向に貫通している。２つの第２スライド部材貫通孔７７５には、後述する第２ス

ライド部材７８２の２つの嵌合挿入部８１６（図４１７参照）が貫通する。

【５０４３】

２つの上フック貫通孔７７６は、台座部７１１の壁面における下部に設けられており、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの上フック貫通孔７７６は、左右方向に細長い長方形に形成されており、台座部７１１の壁面を奥行き方向に貫通している。２つの上フック貫通孔７７６には、装飾ユニット７０６の２つの上フック部７５２（図４１０参照）が、正面部７０４ａの表面側から裏面側へ貫通する。

【５０４４】

２つの下フック貫通孔７７７は、複数の補強部７１２のうちの１つの補強部７１２の壁面における上部に設けられており、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの下フック貫通孔７７７は、左右方向に細長い長方形に形成されており、補強部７１２の壁面を奥行き方向に貫通している。２つの下フック貫通孔７７７には、装飾ユニット７０６の２つの下フック部７５９（図４１０参照）が、正面部７０４ａの表面側から裏面側へ貫通する。

【５０４５】

また、下ドア本体７０４における正面部７０４ａの裏面には、複数のガイドボス部７８０が設けられている。複数のガイドボス部７８０は、奥行き方向の奥側へ突出する円柱状に形成されている。複数のガイドボス部７８０は、後述する４つのスライド部材７８１～７８４におけるガイド溝を貫通する。また、複数のガイドボス部７８０には、奥行き方向に延びるねじ孔が形成されている。複数のガイドボス部７８０のねじ孔には、後述する抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。

【５０４６】

（下ドア本体に取り付けられたロック用スライド部材）

次に、図４１２及び図４１３を参照して、下ドア本体７０４に設けられたロック用のスライド部材について説明する。

図４１２は、下ドア本体７０４の裏面にスライド部材を取り付けた状態を裏面側からみた説明図である。図４１３は、下ドア本体７０４の裏面にスライド部材を取り付けた状態を表面側からみた説明図である。

【５０４７】

図４１２に示すように、下ドア本体７０４における正面部７０４ａの裏面には、第１スライド部材７８１と、第２スライド部材７８２と、第３スライド部材７８３と、第４スライド部材７８４が左右方向にスライド移動可能に取り付けられている。４つのスライド部材７８１～７８４は、第１～第３ロック機構を構成する部品である。

【５０４８】

４つのスライド部材７８１～７８４は、下ドア本体７０４を形成する樹脂とは異なる色の樹脂により形成されている。例えば、下ドア本体７０４を黒色の樹脂によって形成し、４つのスライド部材７８１～７８４を朱色の樹脂によって形成する。これにより、下ドア本体７０４の裏面側にスピーカ７０８ａ，７０８ｂなどの所定の別部材を設けた場合に、４つのスライド部材７８１～７８４が、下ドア本体７０４の裏面のどこにあるか容易に視認することができる。なお、４つのスライド部材７８１～７８４を形成するの樹脂の色と、下ドア本体７０４を形成する樹脂の色は、適宜設定することができるが、同系色でないことが好ましい。

【５０４９】

第１スライド部材７８１は、台座部７１１の裏面側において、２つの上突起貫通孔７７１、第１スライド部材貫通孔７７４、及び２つの上フック貫通孔７７６と対向する位置に配置されている。したがって、下ドア本体７０４を表面側から見ると、第１スライド部材７８１は、２つの上突起貫通孔７７１、第１スライド部材貫通孔７７４、及び２つの上フック貫通孔７７６から露出されている（図４１３参照）。

【５０５０】

第２スライド部材７８２は、台座部７１１の裏面側において、２つの第２スライド部材

貫通孔７７５と対向する位置に配置されている。したがって、下ドア本体７０４を表面側から見ると、第２スライド部材７８２は、２つの第２スライド部材貫通孔７７５から露出されている（図４１３参照）。

【５０５１】

第３スライド部材７８３は、補強部７１２の裏面側において、下突起貫通孔７７２、及び２つの下フック貫通孔７７７と対向する位置に配置されている。したがって、下ドア本体７０４を表面側から見ると、第３スライド部材７８３は、下突起貫通孔７７２、及び２つの下フック貫通孔７７７から露出されている（図４１３参照）。

【５０５２】

第４スライド部材７８４は、補強部７１２の裏面側において、下突起貫通孔７７３と対向する位置に配置されている。したがって、下ドア本体７０４を表面側から見ると、第４スライド部材７８４は、下突起貫通孔７７３から露出されている（図４１３参照）。

【５０５３】

（第１スライド部材の構成）

次に、図４１４～図４１６を参照して、第１スライド部材７８１の構成について説明する。

図４１４は、第１スライド部材７８１の斜視図である。図４１５は、第１スライド部材７８１の分解斜視図である。図４１６は、第１スライド部材７８１における第１部材の下面図である。

【５０５４】

図４１４及び図４１５に示すように、第１スライド部材７８１は、第１部材７８６と、第２部材７８７から構成されている。第１部材７８６と第２部材７８７は、個別に下ドア本体７０４（台座部７１１）の裏面に取り付けられる。第１部材７８６は、奥行き方向の奥側（下ドア本体７０４の裏面を正面視した場合は手前側になる）に位置し、第２部材７８７は、奥行き方向の手前側（下ドア本体７０４の裏面を正面視した場合は奥側になる）に位置する。したがって、第２部材７８７を下ドア本体７０４の裏面に取り付けた後に、第１部材７８６を下ドア本体７０４の裏面に取り付ける。このとき、第１部材７８６は、第２部材７８７に接続される。その結果、第１部材１８６と第２部材７８７は、第１スライド部材７８１として一体に構成され、一緒に左右方向へ移動する。

【５０５５】

第１部材７８６は、ベース部７９１と、延長部７９２と、嵌合挿入部７９３と、連結部７９４とを有する。

【５０５６】

ベース部７９１は、左右方向に長い略直方体状に形成されている。ベース部７９１の奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）には、凹部が形成されている。そして、凹部の底面には、ガイド溝７９１ａが設けられている。ガイド溝７９１ａは、ベース部７９１を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。

【５０５７】

ガイド溝７９１ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝７９１ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。これにより、ガイドボス部７８０は、第１部材７８６の上下方向の移動を係止する。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。抜け止め用ねじ７９０は、第１部材７８６の奥行き方向の奥側への移動を係止する。また、ガイド溝７９１ａは、第１部材７８６（第１スライド部材７８１）の左右方向の移動範囲を、ロック解除位置からロック位置までに規定する。ロック解除位置は、第１部材７８６の左右方向の移動範囲のうちの右端の位置であり、ロック位置は、第１部材７８６の左右方向の移動範囲のうちの左端の位置である。

【５０５８】

ベース部７９１における奥行き方向の手前側の面には、係合片７９５が設けられている

。係合片７９５は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板状に形成されており、左右方向に延びている。係合片７９５の右側の端部は、ベース部７９１に連続しており、係合片７９５の左側の端部は、爪状に形成されている。係合片７９５は、水平方向に沿って撓み変形可能である。

【５０５９】

係合片７９５は、下ドア本体７０４の裏面に設けられた第１係合溝と第２係合溝に係合する。第１部材７８６がロック解除位置に配置されると、係合片７９５は、第１係合溝に係合する。また、第１部材７８６がロック位置に配置されると、係合片７９５は、第２係合溝に係合する。係合片７９５が第１係合溝又は第２係合溝に係合することにより、第１部材７８６の左右方向への移動に抵抗感を生じさせることができる。これにより、第１部材７８６（第１スライド部材７８１）が、ロック解除位置やロック位置に配置されたことを操作者に認識させることができる。また、振動等が生じても、第１部材７８６（第１スライド部材７８１）が、ロック解除位置やロック位置から簡単に移動しないようにすることができる。

【５０６０】

延長部７９２は、ベース部７９１の左側面から略垂直に突出する水平部と、水平部から上方に突出する垂直部とを有する。延長部７９２の水平部における奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）には、固定方向表示（不図示）が設けられている。固定方向表示は、例えば、第１部材７８６（第１スライド部材７８１）のロック位置への移動方向を示す矢印と「固定」という文字からなる。これにより、作業者は、第１スライド部材７８１のロック位置への移動方向を容易に確認することができる。また、固定方向表示は、装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に固定する際に、第１スライド部材７８１をロック位置に移動させることを忘れないように注意を促す表示としての役割を兼ねている。なお、本発明に係る固定方向表示としては、第１スライド部材７８１のロック位置への移動方向を示すものあれば、適宜設定することができる。また、本発明に係る固定方向表示としては、第１スライド部材７８１のロック解除位置への移動方向を示すものであってもよい。

【５０６１】

延長部７９２の垂直部には、ガイド溝７９２ａと、指かけ部７９２ｂが設けられている。ガイド溝７９２ａは、延長部７９２の垂直部を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝７９２ａは、ガイド溝７９１ａと同様に、第１部材７８６の左右方向の移動範囲を規定する。ガイド溝７９２ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝７９２ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０が螺合される。

【５０６２】

指かけ部７９２ｂは、延長部７９２の垂直部を奥行き方向に貫通する貫通孔であり、略四角形に形成されている。指かけ部７９２ｂの左右方向に対向する２辺は、互いに離れる方向に凸となる円弧状に形成されている。これにより、第１部材７８６（第１スライド部材７８１）を左右方向へ移動させる際に、指かけ部７９２ｂに指を引っ掛け易くすることができる。なお、本発明に係る指かけ部は、貫通孔に限定されず、例えば、奥行き方向の奥側に開口する凹部であってもよい。

【５０６３】

嵌合挿入部７９３は、延長部７９２の垂直部から左右方向の左側へ突出している。嵌合挿入部７９３は、左右方向に長い直方体状に形成されている。第１スライド部材７８１がロック解除位置に配置されると、嵌合挿入部７９３は、下ドア本体７０４の第１スライド部材貫通孔７７４に対向する。第１スライド部材７８１がロック位置に配置されると、嵌合挿入部７９３は、第１スライド部材貫通孔７７４を貫通し、装飾ユニット７０６の嵌合孔７４９に挿入されて嵌合する。

【５０６４】

連結部７９４は、ベース部７９１における奥行き方向の手前側を向く面に設けられている。連結部７９４は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。図４１５に示すように、連結部７９４は、第１嵌合凹部７９４ａと、第２嵌合凹部７９４ｂを有する。第１嵌合凹部７９４ａと第２嵌合凹部７９４ｂは、左右方向において隣り合っている。

【５０６５】

第１嵌合凹部７９４ａは、略四角形に形成されており、上面及び奥行き方向の手前側の面が開口されている。第１嵌合凹部７９４ａには、第２部材７８７の後述する連結部８０４の第１嵌合片８０４ａが嵌合する。第２嵌合凹部７９４ｂは、略四角形に形成されており、下面及び奥行き方向の手前側の面が開口されている。第２嵌合凹部７９４ｂには、第２部材７８７の後述する連結部８０４の第２嵌合片８０４ｂが嵌合する。

【５０６６】

図４１６に示すように、第１部材７８６の下面には、上フック受け部７９６，７９７が形成されている。上フック受け部７９６は、ベース部７９１の下面における右側の端部に設けられている。上フック受け部７９６は、ベース部７９１の下面の一部である係合面７９６ａと、係合面７９６ａから略垂直に突出する係合リブ７９６ｂとを有している。係合面７９６ａには、装飾ユニット７０６における上フック部７５２の上面が面接触する。係合リブ７９６ｂは、ベース部７９１の下面を正面視した場合に、略コ字状の湾曲部に形成されている。係合リブ７９６ｂは、装飾ユニット７０６における上フック部７５２の凹部に係合する。

【５０６７】

上フック受け部７９７は、延長部７９２の下面における右側の端部（ベース部７９１側）に設けられている。上フック受け部７９７は、延長部７９２の下面の一部である係合面７９７ａと、係合面７９７ａから略垂直に突出する係合リブ７９７ｂとを有している。係合面７９７ａには、装飾ユニット７０６における上フック部７５２の上面が面接触する。係合リブ７９７ｂは、延長部７９２の下面を正面視した場合に、略コ字状の湾曲部に形成されている。係合リブ７９７ｂは、装飾ユニット７０６における上フック部７５２の凹部に係合する。

【５０６８】

第２部材７８７は、ベース部８０１と、延長部８０２と、２つの上係合挿入部８０３と、連結部８０４を有する。

【５０６９】

ベース部８０１は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に細長い長方形に形成されている。ベース部８０１の左右方向の右側の端部には、ガイド溝８０１ａが設けられている。ガイド溝８０１ａは、ベース部８０１を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。

【５０７０】

ガイド溝８０１ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８０１ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。これにより、ガイドボス部７８０は、第２部材７８７の上下方向の移動を係止する。そして、ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。また、ガイド溝８０１ａは、第２部材７８７（第１スライド部材７８１）の左右方向の移動範囲を、ロック解除位置からロック位置までに規定する。ロック解除位置は、第２部材７８７の左右方向の移動範囲のうちの右端の位置であり、ロック位置は、第２部材７８７の左右方向の移動範囲のうちの左端の位置である。

【５０７１】

延長部８０２は、ベース部８０１の左側面から略垂直に突出している。延長部８０２は、ベース部７９１と同一平面を形成する板体である。延長部８０２には、ガイド溝８０２ａが設けられている。ガイド溝８０２ａは、延長部８０２を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝８０２ａは、ガイド溝８０１ａと同様に、第２部材７８

７の左右方向の移動範囲を規定する。ガイド溝８０２ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。そして、ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０が螺合される。

【５０７２】

２つの上係合挿入部８０３は、ベース部８０１の上面における右側の端部と、延長部８０２の左側面に設けられている。２つの上係合挿入部８０３は、奥行き方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。第２部材７８７がロック位置に配置されると、２つの上係合挿入部８０３は、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１の係合孔７５１ａ（図４１０参照）に挿入される。これにより、２つの上係合挿入部８０３は、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１に係合する。

【５０７３】

連結部８０４は、ベース部８０１における奥行き方向の奥側を向く面に設けられている。連結部８０４は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。図４１５に示すように、連結部８０４は、第１嵌合片８０４ａと、第２嵌合片８０４ｂを有する。第１嵌合片８０４ａと第２嵌合片８０４ｂは、左右方向において隣り合っている。

【５０７４】

第１嵌合片８０４ａは、上方に凸となる略四角形の段部に形成されている。第１嵌合片８０４ａは、第１部材７８６における連結部７９４の第１嵌合凹部７９４ａに嵌合する。第２嵌合片８０４ｂは、下方に凸となる略四角形の段部に形成されている。第２嵌合片８０４ｂは、第１部材７８６における連結部７９４の第２嵌合凹部７９４ｂに嵌合する。これにより、第１部材７８６の連結部７９４と第２部材７８７の連結部８０４は、噛み合うように嵌合して連結される。

【５０７５】

（第２スライド部材の構成）

次に、図４１７を参照して、第２スライド部材７８２の構成について説明する。

図４１７は、第２スライド部材７８２の正面図である。

【５０７６】

図４１７に示すように、第２スライド部材７８２は、略Ｃ字状の板体からなり、平行部８１１，８１２と、平行部８１１，８１２を接続する接続部８１３とを有する。平行部８１１，８１２は、上下方向において互いに対向しており、それぞれ左右方向に細長い略長方形に形成されている。接続部８１３は、平行部８１１，８１２の左側端部に連続しており、上下方向に長い略長方形に形成されている。

【５０７７】

上方に位置する平行部８１１には、ガイド溝８１１ａが設けられている。また、接続部８１３には、ガイド溝８１３ａと、指かけ部８１３ｂが設けられている。

【５０７８】

ガイド溝８１１ａは、平行部８１１を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝８１３ａは、接続部８１３を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝８１１ａ，８１３ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８１１ａ，８１３ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。

【５０７９】

ガイド溝８１１ａ，８１３ａは、第２スライド部材７８２の左右方向の移動範囲をロック解除位置からロック位置までに規定する。ロック解除位置は、第２スライド部材７８２の左右方向の移動範囲のうちの左端の位置であり、ロック位置は、第２スライド部材７８２の左右方向の移動範囲のうちの右端の位置である。

【５０８０】

指かけ部８１３ｂは、接続部８１３を奥行き方向に貫通する貫通孔であり、略四角形に形成されている。指かけ部８１３ｂの左右方向に対向する２辺は、互いに離れる方向に凸

となる円弧状に形成されている。これにより、第２スライド部材７８２を左右方向へ移動させる際に、指かけ部８１３ｂに指を引っ掛け易くすることができる。

【５０８１】

平行部８１１の上部には、ラベル部８１５が設けられている。ラベル部８１５は、左右方向に長い長方形の板状に形成されている。ラベル部８１５の奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）には、固定方向表示８１５ａが設けられている。固定方向表示８１５ａは、例えば、第２スライド部材７８２のロック位置への移動方向を示す矢印と「固定」という文字からなる。これにより、作業者は、第２スライド部材７８２のロック位置への移動方向を容易に確認することができる。また、固定方向表示８１５ａは、装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に固定する際に、第２スライド部材７８２をロック位置に移動させることを忘れないように注意を促す表示としての役割を兼ねている。

【５０８２】

また、第２スライド部材７８２には、２つの嵌合挿入部８１６が設けられている。２つの嵌合挿入部８１６は、平行部８１１，８１２における左右方向の右側の端面から略垂直に突出している。各嵌合挿入部８１６は、上下方向に適当な距離を空けて並ぶ２つの直方体から形成されている。第２スライド部材７８２がロック解除位置に配置されると、２つの嵌合挿入部８１６は、下ドア本体７０４の２つの第２スライド部材貫通孔７７５に対向する。第２スライド部材７８２がロック位置に配置されると、２つの嵌合挿入部８１６は、２つの第２スライド部材貫通孔７７５を貫通し、装飾ユニット７０６の２つの嵌合孔７５０に挿入されて嵌合する。

【５０８３】

（第３スライド部材の構成）

次に、図４１８を参照して、第３スライド部材７８３の構成について説明する。

図４１８は、第３スライド部材７８３の斜視図である。

【５０８４】

図４１８に示すように、第３スライド部材７８３は、ベース部８２１と、延長部８２２と、下係合挿入部８２３を有する。

【５０８５】

ベース部８２１は、左右方向に長い略直方体状に形成されている。ベース部８２１の奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）には、凹部が形成されている。そして、凹部の底面には、ガイド溝８２１ａが設けられている。ガイド溝８２１ａは、ベース部８２１を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。

【５０８６】

ガイド溝８２１ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８２１ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。また、ガイド溝８２１ａは、第３スライド部材７８３の左右方向の移動範囲を、ロック解除位置からロック位置までに規定する。ロック解除位置は、第３スライド部材７８３の左右方向の移動範囲のうちの右端の位置であり、ロック位置は、第３スライド部材７８３の左右方向の移動範囲のうちの左端の位置である。

【５０８７】

ベース部８２１における奥行き方向の手前側の面には、係合片８２５が設けられている。係合片８２５は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板状に形成されており、左右方向に延びている。係合片８２５の右側の端部は、ベース部８２１に連続しており、係合片８２５の左側の端部は、爪状に形成されている。係合片８２５は、水平方向に撓み変形可能である。

【５０８８】

係合片８２５は、下ドア本体７０４の裏面に設けられた第１係合溝と第２係合溝に係合

する。第３スライド部材７８３がロック解除位置に配置されると、係合片８２５は、第１係合溝に係合する。また、第３スライド部材７８３がロック位置に配置されると、係合片８２５は、第２係合溝に係合する。係合片８２５が第１係合溝又は第２係合溝に係合することにより、第３スライド部材７８３の左右方向への移動に抵抗感を生じさせることができる。これにより、第３スライド部材７８３が、ロック解除位置やロック位置に配置されたことを作業者に認識させることができる。また、振動等が生じても、第３スライド部材７８３が、ロック解除位置やロック位置から簡単に移動しないようにすることができる。

【５０８９】

ベース部８２１の上面には、下フック受け部８２６，８２７が形成されている。下フック受け部８２６は、ベース部８２１の上面における右側の端部に設けられている。下フック受け部８２６は、ベース部８２１の上面の一部である係合面８２６ａと、係合面８２６ａから略垂直に突出する係合リブ８２６ｂとを有している。係合面８２６ａには、装飾ユニット７０６における下フック部７５９の下面が面接触する。係合リブ８２６ｂは、ベース部８２１の上面を正面視した場合に、略コ字状の湾曲部に形成されている。係合リブ８２６ｂは、装飾ユニット７０６における下フック部７５９の凹部に係合する。

【５０９０】

下フック受け部８２７は、ベース部８２１の上面における左側の端部に設けられている。下フック受け部８２７は、ベース部８２１の上面の一部である係合面８２７ａと、係合面８２７ａから略垂直に突出する係合リブ８２７ｂとを有している。係合面８２７ａには、装飾ユニット７０６における下フック部７５９の下面が面接触する。係合リブ８２７ｂは、ベース部８２１の上面を正面視した場合に、略コ字状の湾曲部に形成されている。係合リブ８２７ｂは、装飾ユニット７０６における下フック部７５９の凹部に係合する。

【５０９１】

延長部８２２は、ベース部７９１の左側面から略垂直に突出している。延長部８２２は、左右方向に細長い板状に形成されている。延長部７９２における奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）には、固定方向表示（不図示）が設けられている。固定方向表示は、例えば、第３スライド部材７８３のロック位置への移動方向を示す矢印と「固定」という文字からなる。これにより、作業者は、第３スライド部材７８３のロック位置への移動方向を容易に確認することができる。また、固定方向表示は、装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に固定する際に、第３スライド部材７８１をロック位置に移動させることを忘れないように注意を促す表示としての役割を兼ねている。

【５０９２】

延長部８２２には、ガイド溝８２２ａと、指かけ部８２２ｂが設けられている。ガイド溝８２２ａは、延長部８２２における左右方向の左側端部に形成されている。ガイド溝８２２ａは、延長部８２２を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝８２２ａは、ガイド溝８２１ａと同様に、第３スライド部材７８３の左右方向の移動範囲を規定する。ガイド溝８２２ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８２２ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０が螺合される。

【５０９３】

指かけ部８２２ｂは、延長部８２２における左右方向の中央部に設けられている。指かけ部８２２ｂは、奥行き方向に開口する略四角形の枠状に形成されており、指かけ部８２２ｂの下辺が延長部８２２に連続している。指かけ部８２２ｂの左右方向に対向する２辺は、互いに離れる方向に凸となる円弧状に形成されている。これにより、第３スライド部材７８３を左右方向へ移動させる際に、指かけ部８２２ｂに指を引っ掛け易くすることができる。

【５０９４】

下係合挿入部８２３は、延長部７９２の左右方向の左側の端面から略垂直に突出してい

る。下係合挿入部８２３は、奥行き方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。第３スライド部材７８３がロック位置に配置されると、下係合挿入部８２３は、装飾ユニット７０６の下係合突起７６１の係合孔７６１ａ（図４１０参照）に挿入される。これにより、下係合挿入部８２３は、装飾ユニット７０６の下係合突起７６１に係合する。

【５０９５】

（第４スライド部材の構成）

次に、図４１９を参照して、第４スライド部材７８４の構成について説明する。

図４１９は、第４スライド部材７８４の正面図である。

【５０９６】

図４１９に示すように、第４スライド部材７８４は、ベース部８３１と、操作部８３２と、延長部８３３と、下係合挿入部８３４を有する。

【５０９７】

ベース部８３１は、左右方向に長い長方形の板状に形成されている。ベース部８３１には、ガイド溝８３１ａと、固定方向表示８３１ｂと、係合片８３５が設けられている。ガイド溝８３１ａは、ベース部８３１の右側の上部に形成されている。ガイド溝８３１ａは、ベース部８３１を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。

【５０９８】

ガイド溝８３１ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８３１ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０（図４１２参照）が螺合される。また、ガイド溝８３１ａは、第４スライド部材７８４の左右方向の移動範囲を、ロック解除位置からロック位置までに規定する。ロック解除位置は、第４スライド部材７８４の左右方向の移動範囲のうちの左端の位置であり、ロック位置は、第４スライド部材７８４の左右方向の移動範囲のうちの右端の位置である。

【５０９９】

固定方向表示８３１ｂは、ベース部８３１の奥行き方向の奥側を向く面（下ドア本体７０４の正面部７０４ａに対向する面と反対側の面）において、ガイド溝８３１ａの下方に配置されている。固定方向表示８３１ｂは、例えば、第４スライド部材７８４のロック位置への移動方向を示す矢印と「固定」という文字からなる。これにより、作業者は、第４スライド部材７８４のロック位置への移動方向を容易に確認することができる。また、固定方向表示８３１ｂは、装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に固定する際に、第４スライド部材７８４をロック位置に移動させることを忘れないように注意を促す表示としての役割を兼ねている。

【５１００】

ベース部８３１の左右方向の左側には、略四角形の開口部が設けられている。係合片８３５は、ベース部８３１における開口部内に配置されている。係合片８３５は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板状に形成されており、左右方向に延びている。係合片８３５の左側の端部は、ベース部８３１における開口部の一辺に連続しており、係合片８３５の右側の端部は、爪状に形成されている。係合片８３５は、水平方向に撓み変形可能である。

【５１０１】

係合片８３５は、下ドア本体７０４の裏面に設けられた第１係合溝と第２係合溝に係合する。第４スライド部材７８４がロック解除位置に配置されると、係合片８３５は第１係合溝に係合する。また、第４スライド部材７８４がロック位置に配置されると、係合片８３５は第２係合溝に係合する。係合片８３５が第１係合溝又は第２係合溝に係合することにより、第４スライド部材７８４の左右方向への移動に抵抗感を生じさせることができる。これにより、第４スライド部材７８４が、ロック解除位置やロック位置に配置されたことを作業者に認識させることができる。また、振動等が生じても、第４スライド部材７８４が、ロック解除位置やロック位置から簡単に移動しないようにすることができる。

【５１０２】
操作部８３２は、上下方向から見ると、略コ字状に形成されている。操作部８３２は、ベース部８３１の右側の端部に連続して奥行き方向の奥側に突出する第１突出片と、第１突出片に連続する操作片と、操作片に連続して奥行き方向の手前側に突出する第２突出片からなる。操作部８３２の操作片は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。操作部８３２の操作片には、指かけ部８３２ａが設けられている。
【５１０３】
指かけ部８３２ａは、操作部８３２の操作片を奥行き方向に貫通する貫通孔であり、略四角形に形成されている。指かけ部８３２ａの左右方向に対向する２辺は、互いに離れる方向に凸となる円弧状に形成されている。これにより、第４スライド部材７８４を左右方向へ移動させる際に、指かけ部８３２ａに指を引っ掛け易くすることができる。
【５１０４】
延長部８３３は、操作部８３２の第２突出片に連続して左右方向の右側に突出している。延長部８３３は、奥行き方向に略垂直な平面を有する板体であり、左右方向に長い長方形に形成されている。延長部８３３の奥行き方向の位置は、ベース部８３１の奥行き方向の位置と略同じに設定されている。
【５１０５】
延長部８３３には、ガイド溝８３３ａが設けられている。ガイド溝８３３ａは、延長部８３３を奥行き方向に貫通しており、左右方向に延びている。ガイド溝８３３ａは、ガイド溝８３１ａと同様に、第４スライド部材７８４の左右方向の移動範囲を規定する。ガイド溝８３３ａには、下ドア本体７０４の裏面に設けられたガイドボス部７８０（図４１１参照）が貫通する。ガイド溝８３３ａの幅の長さは、ガイドボス部７８０の直径よりも僅かに長い。ガイドボス部７８０には、抜け止め用ねじ７９０が螺合される。
【５１０６】
下係合挿入部８３４は、延長部７９２の左右方向の右側の端面から略垂直に突出している。下係合挿入部８３４は、奥行き方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。第４スライド部材７８４がロック位置に配置されると、下係合挿入部８３４は、装飾ユニット７０６における下係合突起７６２の係合孔７６２ａ（図４１０参照）に挿入される。これにより、下係合挿入部８３４は、装飾ユニット７０６の下係合突起７６２に係合する。
【５１０７】
上述したように、装飾ユニット７０６は、第１ロック機構、第２ロック機構、及び第３ロック機構により、下ドア本体７０４に固定されている。
第１ロック機構は、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１及び下係合突起７６１，７６２と、下ドア本体７０４の２つの上突起貫通孔７７１及び下突起貫通孔７７２，７７３と、第１スライド部材７８１の２つの上係合挿入部８０３と、第３スライド部材７８３の下係合挿入部８２３と、第４スライド部材７８４の下係合挿入部８３４から構成されている。第１ロック機構により、装飾ユニット７０６の上下方向、左右方向、奥行き方向への移動をロック（係止）することができる。
【５１０８】
第２ロック機構は、装飾ユニット７０６の嵌合孔７４９，７５０と、下ドア本体７０４の第１スライド部材貫通孔７７４及び第２スライド部材貫通孔７７５と、第１スライド部材７８１の嵌合挿入部７９３と、第２スライド部材７８２の嵌合挿入部８１６から構成されている。第２ロック機構により、装飾ユニット７０６の上下方向、奥行き方向への移動をロック（係止）することができる。また、第２ロック機構により、下ドア本体７０４の外側でスライド部材７８１，７８２と装飾ユニット７０６を嵌合させることができる。その結果、下ドア本体７０４に配置するその他の部品との干渉を考慮する必要が無く、下ドア本体７０４の設計の自由度を高めることができる。
【５１０９】
第３ロック機構は、装飾ユニット７０６の２つの上フック部７５２及び２つの下フック

部７５９と、下ドア本体７０４の２つの上フック貫通孔７７６及び２つの下フック貫通孔７７７と、第１スライド部材７８１の上フック受け部７９６，７９７と、第３スライド部材７８３の下フック受け部８２６，８２７から構成されている。第３ロック機構により、装飾ユニット７０６の上下方向、奥行き方向への移動をロック（係止）することができる。また、第３ロック機構により、簡単な構成で下ドア本体７０４に装飾ユニット７０６を固定することができる。

【５１１０】

本実施形態のパチスロ機６０１では、腰部パネル部７２１と、その周辺の左装飾部７２２及び右装飾部７２３がユニット化した装飾ユニット７０６を備える。これにより、腰部パネル部７２１、左装飾部７２２、及び右装飾部７２３を一緒に下ドア本体７０４から取り外すことができる。また、腰部パネル部７２１、左装飾部７２２、及び右装飾部７２３を一緒に下ドア本体７０４に取り付けることができる。その結果、腰部パネル部７２１とその周囲の装飾部７２２，７２３を容易に変更することができる。

【５１１１】

また、本実施形態のパチスロ機６０１では、下ドア本体７０４の裏面側に設けた４つのスライド部材７８１～７８４を操作するだけで、装飾ユニット７０６のロック及びロック解除を行うことができる。したがって、装飾ユニット７０６の取り換え作業（取り外し作業と取り付け作業）を容易に行うことができる。

【５１１２】

また、装飾ユニット７０６は、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒを露出させるボタンカバー部７２４を有する。これにより、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒを囲む部材を容易に取り外すことができる。その結果、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒ周りの清掃やストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒのメンテナンスを容易に行うことができる。

【５１１３】

また、第１スライド部材７８１は、第１ロック機構に係る２つの上係合挿入部８０３と、第２ロック機構に係る嵌合挿入部７９３と、第３ロック機構に係る上フック受け部７９６，７９７とを有している。したがって、１つのスライド部材７８１で３つのロック機構のロック及びロック解除を行うことができる。これにより、ロック機構の部材数を削減することができる。

【５１１４】

また、第１スライド部材７８１は、第２ロック機構に係る嵌合挿入部７９３と、第３ロック機構に係る上フック受け部７９６，７９７とが設けられた第１部材７８６と、第１ロック機構に係る２つの上係合挿入部８０３が設けられた第２部材７８７とを有する。そして、第１部材７８６と第２部材７８７は、それぞれを下ドア本体７０４の裏面側に取り付けられると、連結部７９４，８０４が噛み合って連結する。これにより、第１スライド部材を一体のものとして形成する場合に比べて、強度が低い部分が生じないようにすることができる。その結果、第１スライド部材の破損を抑制或いは防止することができる。また、手が届かない位置や所定の別部材の裏に隠れてしまう位置にロック機構に係るスライド部材（第２部材７８７）を設ける場合に、操作可能な部材（第１部材７８６）と一緒にロック位置及びロック解除位置に移動させることができる。

【５１１５】

さらに、第１スライド部材７８１は、第１ロック機構に関わる４つの係合挿入部のうちの２つの係合挿入部（２つの上係合挿入部８０３）を有する。これにより、第１スライド部材７８１を操作することで、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１に、２つの上係合挿入部８０３を係合させることができる。したがって、スライド部材の削減を図ることができる。

【５１１６】

［１３－３．別例に係る装飾ユニットの取り付け作業］

次に、図４１２、図４２０～図４２４を参照して、装飾ユニット７０６を下ドア本体７

０４に取り付ける作業について説明する。

図４２０は、下ドア機構の裏面側を示す図である。図４２１は、装飾ユニット７０６の上フック部７５２を下ドア本体７０４の上フック貫通孔７７６に挿入した状態を説明する図である。図４２２は、装飾ユニット７０６の上フック部７５２を第１スライド部材７８１の上フック受け部７９６，７９７に係合させた状態を説明する図である。図４２３は、装飾ユニット７０６の下フック部７５９を下ドア本体７０４の下フック貫通孔７７７に挿入した状態を説明する図である。図４２４は、装飾ユニット７０６の下フック部７５９を第３スライド部材７８３の下フック受け部８２６，８２７に係合させた状態を説明する図である。

【５１１７】

図４２０に示すように、下ドア本体７０４には、４つのスライド部材７８１～７８４だけでなく、所定の別部材も取り付けられている。所定の別部材としては、例えば、メダルセレクタ８４１、メダル返却通路部材８４２、メイン中継基板８４３、サブ中継基板８４５、スタートレバー８４６、スピーカ７０８ａ，７０８ｂがある。下ドア本体７０４の裏面側を正面視した場合に、４つのスライド部材７８１～７８４は、メダルセレクタ８４１やスピーカ７０８ａ，７０８ｂ等の所定の別部材よりも奥側（奥行き方向の手前側）に配置されている。そして、４つのスライド部材７８１～７８４の指かけ部７９２ｂ，８１３ａ，８２２ｂ，８３２ａが、所定の別部材の隙間から露出されている。これにより、下ドア本体７０４の裏面側に所定の別部材が配置されていても、４つのスライド部材７８１～７８４を操作することができる。また、指かけ部７９２ｂ，８１３ａ，８２２ｂ，８３２ａの他に、４つのスライド部材７８１～７８４の固定方向表示（８１５ａ，８３１ｂ等）が露出されている。したがって、作業者は、係合挿入部８０３，８２３，８３４や、嵌合挿入部７９３，８１６を視認できなくても、４つのスライド部材７８１～７８４をロック位置に移動させる方向（ロック解除位置に移動させる方向）を認識することができる。

【５１１８】

装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に取り付ける場合は、装飾ユニット７０６の裏面側を下ドア本体７０４の表面側に対向させて、装飾ユニット７０６を奥行き方向の奥側に押し込む。これにより、装飾ユニット７０６の２つの上係合突起７５１（図４１０参照）、下係合突起７６１，７６２、２つの上フック部７５２、及び２つの下フック部７５９が、下ドア本体７０４の２つの上突起貫通孔７７１（図４１１参照）、下突起貫通孔７７２，７７３、２つの上フック貫通孔７７６、及び２つの下フック貫通孔７７７を、それぞれ貫通する。そして、装飾ユニット７０６の嵌合孔７４９，７５０が、下ドア本体７０４の第１スライド部材貫通孔７７４及び第２スライド部材貫通孔７７５と対向する。

【５１１９】

一方、下ドア本体７０４の裏面側には、４つのスライド部材７８１～７８４がスライド移動可能に取り付けられており、それぞれロック解除位置に配置されている（図４１２参照）。図４２１に示すように、２つの上突起貫通孔７７１を貫通した２つの上フック部７５２は、第１スライド部材７８１の上フック受け部７９６，７９７に挿入される。このとき、２つの上フック部７５２の上面は、上フック受け部７９６，７９７の係合面７９６ａ，７９７ａに面接触する。また、図４２３に示すように、下突起貫通孔７７２，７７３を貫通した２つの下フック部７５９は、第３スライド部材７８３の下フック受け部８２６，８２７に挿入される。このとき、２つの下フック部７５９の下面は、下フック受け部８２６，８２７の係合面８２６ａ，８２７ａに面接触する。

【５１２０】

次に、４つのスライド部材７８１～７８４をロック位置にスライド移動させる。これにより、装飾ユニット７０６は、第１～第３ロック機構によって下ドア本体７０４に固定され、下ドア本体７０４の取り付け作業が完了する。

【５１２１】

（第１スライド部材によるロック）

第１スライド部材７８１をロック位置に移動させると、第１スライド部材７８１の上係

合挿入部８０３が、装飾ユニット７０６における上係合突起７５１の係合孔７５１ａ（図４１０参照）に挿入され、上係合挿入部８０３が上係合突起７５１に係合する。その結果、装飾ユニット７０６が、第１ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

また、第１スライド部材７８１の嵌合挿入部７９３が、下ドア本体７０４の第１スライド部材貫通孔７７４を貫通し、装飾ユニット７０６の嵌合孔７４９に嵌合される。その結果、装飾ユニット７０６が、第２ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

さらに、第１スライド部材７８１の上フック受け部７９６，７９７が、装飾ユニット７０６の２つの上フック部７５２に係合する（図４２２参照）。具体的には、上フック受け部７９６，７９７の係合リブ７９６ｂ，７９７ｂが、上フック部７５２の凹部に係合する。その結果、装飾ユニット７０６が、第３ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

【５１２２】

（第２スライド部材によるロック）

第２スライド部材７８２をロック位置に移動させると、第２スライド部材７８２の２つの嵌合挿入部８１６が、下ドア本体７０４の２つの第２スライド部材貫通孔７７５を貫通し、装飾ユニット７０６の２つの嵌合孔７５０に嵌合される。その結果、装飾ユニット７０６が、第２ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

【５１２３】

（第３スライド部材によるロック）

第３スライド部材７８３をロック位置に移動させると、第３スライド部材７８３の下係合挿入部８２３が、装飾ユニット７０６における下係合突起７６１の係合孔７６１ａ（図４１０参照）に挿入され、下係合挿入部８２３が下係合突起７６１に係合する。その結果、装飾ユニット７０６が、第１ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

また、第３スライド部材７８３の下フック受け部８２６，８２７が、装飾ユニット７０６の２つの下フック部７５９に係合する（図４２４参照）。具体的には、下フック受け部８２６，８２７の係合リブ８２６ｂ，８２７ｂが、下フック部７５９の凹部に係合する。その結果、装飾ユニット７０６が、第３ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

【５１２４】

（第４スライド部材によるロック）

第４スライド部材７８４をロック位置に移動させると、第４スライド部材７８４の下係合挿入部８３４が、装飾ユニット７０６における下係合突起７６２の係合孔７６２ａ（図４１０参照）に挿入され、下係合挿入部８３４が下係合突起７６２に係合する。その結果、装飾ユニット７０６が、第１ロック機構によって下ドア本体７０４に固定される。

【５１２５】

［１３－４．別例に係る装飾ユニットの取り外し作業］

装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４から取り外す場合は、４つのスライド部材７８１～７８４をロック解除位置にスライド移動させる。これにより、第１～第３ロック機構によるロックが解除され、装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４から取り外すことができる。このように、本実施形態では、腰部パネル部７２１と、左装飾部７２２及び右装飾部７２３を有する装飾ユニット７０６を下ドア本体７０４に対して容易に着脱することができる。したがって、腰部パネル部とその周囲の装飾部を容易に変更することができる。

【５１２６】

［１３－５．別例に係る装飾ユニットを備えた遊技機に係る発明のまとめ（付記）］

以上説明したように、主基板ケース６２０を備えた遊技機では以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【５１２７】

従来から、機種を識別するための要素となる腰部パネルを備えた遊技機が知られている（例えば、特開２０１９－０２４５８３号公報参照）。このような遊技機の腰部パネルは、内部に配置したシートを視認可能な表示面を有しており、シートを入れ替えることで表

示面の表示内容を変更可能であった。
【５１２８】
しかしながら、このような遊技機では、機種特有の装飾（意匠）を腰部パネルのように手軽に変更することが困難であった。
【５１２９】
本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、腰部パネルだけでなく腰部パネルの周囲の装飾も容易に変更することが可能な遊技機を提供することを目的とする。
【５１３０】
上記目的を達成するために、本実施形態では以下のような構成の遊技機を提供することができる。
【５１３１】
（１）
キャビネット（例えば、キャビネットＧ）と、
前記キャビネットに開閉可能に取り付けられたドア本体（例えば、下ドア本体７０４）と、
前記ドア本体の表面側に着脱可能に取り付けられた装飾ユニット（例えば、装飾ユニット７０６）と、を備え、
前記装飾ユニットは、腰部パネル部（例えば、腰部パネル部７２１）と、前記腰部パネル部の周辺に設けられた装飾部（例えば、左装飾部７２２及び右装飾部７２３）と、前記ドア本体の裏面側に設けたスライド部材（例えば、第１スライド部材７８１）が係合する係合部（例えば、嵌合孔７４９、上係合突起７５１、上フック部７５２）を少なくとも有し、
前記スライド部材が前記係合部に係合すると、前記装飾ユニットが前記ドア本体に対してロックされ、前記スライド部材が前記係合部から外れると、前記ロックが外れる
ことを特徴とする遊技機。
【５１３２】
このような構成によれば、腰部パネル部とその周囲の装飾部を容易に変更することができる。
【５１３３】
（２）
前記装飾ユニットは、前記ドア本体の表面側に配置されるストップボタン（例えば、ストップボタン７１３Ｌ，７１３Ｃ，７１３Ｒ）が前面側に露出するように前記ストップボタンの周囲をカバーするボタンカバー部（例えば、ボタンカバー部７２４）を前記腰部パネル部の周辺に有する
ことを特徴とする上記（１）に記載の遊技機。
【５１３４】
このような構成によれば、装飾ユニットをドア本体から取り外すことで、ストップボタン周りの清掃やストップボタンのメンテナンスを容易に行うことができる。
【５１３５】
（３）
前記係合部は、前記装飾ユニットと前記ドア本体が対向する奥行き方向に対して交差する方向に貫通する係合孔を有する係合突起（例えば、上係合突起７５１）と、嵌合孔（例えば、嵌合孔７４９）と、フック部（例えば、上フック部７５２）を含んで構成され、
前記ドア本体は、前記係合突起が表面側から裏面側へ貫通する突起貫通孔（例えば、上突起貫通孔７７１）と、前記嵌合孔に対向し、前記スライド部材が裏面側から表面側へ貫通するスライド部材貫通孔（例えば、第１スライド部材貫通孔７７４）と、前記フック部が表面側から裏面側へ貫通するフック貫通孔（例えば、上フック貫通孔７７６）を有し、
前記スライド部材は、前記突起貫通孔を貫通した前記係合突起の前記係合孔に挿入される係合挿入部（例えば、上係合挿入部８０３）と、前記スライド部材貫通孔を貫通して前記嵌合孔に嵌合する嵌合挿入部（例えば、嵌合挿入部７９３）と、前記フック貫通孔を貫

通した前記フック部に係合するフック受け部（例えば、上フック受け部７９６）と、を有する
　ことを特徴とする上記（２）に記載の遊技機。
【５１３６】
　このような構成によれば、装飾ユニット側の複数種類の係合部（係合突起の係合孔、嵌合孔、フック部）と、スライド部材側の複数種類の部材（係合挿入部、嵌合挿入部、フック受け部）とがそれぞれ噛み合うことでロックが行われるが、装飾ユニット側の係合突起の係合孔（凹）と、スライド部材側の係合挿入部（凸）とが係合するロック機構と、装飾ユニット側のフック部（凸）と、スライド部材側のフック受け部（凹）とが係合するロック機構と、があるように、ロック機構によって部材毎の凹凸をテレコにすることでロックを解除せずに無理矢理装飾ユニットを取り外そうとする力が加わった場合などにおいても各部材にかかる負担が分散され、より破損しづらい構成となっている。
　また、１つのスライド部材で３つのロック機構のロック及びロック解除を行うことができるため、ロック機構の部材数を削減することができる。
【５１３７】
　（４）
　前記係合突起及び前記スライド部材は、複数設けられており、
　複数の前記スライド部材のうちの１つ（例えば、第１スライド部材７８１）は、複数の前記係合挿入部（例えば、上係合挿入部８０３）を有し、
　複数の前記係合突起は、複数の上係合突起（例えば、２つの上係合突起７５１）と、複数の下係合突起（例えば、２つの下係合突起７６２）とからなり、
　複数の前記上係合突起のうち第１の上係合突起と第２の上係合突起間の距離は、複数の前記下係合突起のうち第１の下係合突起と第２の下係合突起間の距離よりも短く、
　複数の前記スライド部材のうちの１つに設けられた複数の前記係合挿入部は、前記第１の上係合突起の前記係合孔及び前記第２の上係合突起の前記係合孔に挿入される
　ことを特徴とする上記（３）に記載の遊技機。
【５１３８】
　このような構成によれば、１つのスライド部材を操作することで、複数の係合突起に複数の係合挿入部を係合させることができる。したがって、スライド部材の削減を図ることができる。また、第１の上係合突起と第２の上係合突起間の距離が第１の下係合突起と第２の下係合突起間の距離よりも短いため、複数の係合挿入部を有するスライド部材の小型化を図ることができる。
【５１３９】
　（５）
　前記スライド部材（例えば、第１スライド部材７８１）は、前記ドア本体の裏面側に配置される所定の別部材（例えば、メダルセレクタ８４１やスタートレバー８４６）よりも奥側に配置され、前記ドア本体の裏面側に前記所定の別部材を配置した状態で操作可能な指かけ部（例えば、指かけ部７９２ｂ）を有する
　ことを特徴とする上記（４）に記載の遊技機。
【５１４０】
　このような構成によれば、ドア本体の裏面側に所定の別部材を配置した状態であっても、スライド部材を操作することができる。したがって、ドア本体に装飾ユニットを固定する場合や、ドア本体から装飾ユニットを取り外す場合に、所定の別部材を取り外す必要が無い。これにより、ドア本体に対する装飾ユニットの着脱作業が煩雑にならないようにすることができる。
【５１４１】
　（６）
　前記スライド部材のうち１つ（例えば、第１スライド部材７８１）は、前記嵌合挿入部及び前記フック受け部が設けられた第１部材（例えば、第１部材７８６）と、前記係合挿入部が設けられた第２部材（例えば、第２部材７８７）とを有し、

前記第１部材と前記第２部材は、それぞれを前記ドア本体の裏面側にスライド移動可能に取り付けられると噛み合って連結する
ことを特徴とする上記（５）に記載の遊技機。
【５１４２】
このような構成によれば、３つのロック機構に係るスライド部材を第１部材と第２部材に分けて連結する構造であるため、スライド部材を一体のものとして形成する場合に比べて、強度が低い部分が生じないように設計することができる。その結果、３つのロック機構に係るスライド部材の破損を抑制或いは防止することができる。さらに、複数種類のロック機構を備えるスライド部材を設けることにより、万が一その他のスライド部材が破損した場合であても、３つのロック機構に係るスライド部材によって最低限のロック機能を果たすことができる。
【５１４３】
本実施形態では、４つのスライド部材７８１～７８４を左右方向にスライド移動させるようにした。しかし、本発明に係るスライド部材は、奥行き方向に交差する方向であれば、いずれの方向にスライド移動させるものであってもよい。また、全てのスライド部材の移動方向を揃える必要は無く、個別にスライド部材の移動方向を設定することができる。
【５１４４】
また、本発明に係る構成として、パチスロ機を前提として説明を行ったが、パチンコ機に対しても同様の構成でロック機構を実装することが可能である。例えば、キャビネットＧを枠体等のベース部材、下ドア本体７０４をベース部材に取り付けられたドア部材、装飾ユニット７０６や左装飾部７２２及び右装飾部７２３をドア部材に配置した装飾ユニット、腰部パネルをドア部材に配した装飾シートなどとして当て嵌めて構成することができる。また、パチンコ機に対して同様のロック機構を実装する場合、必ずしも同様の構成とする必要は無く、必要に応じて各構成の加減を行うものとしてもよい。
【５１４５】
［第１０実施形態］
以上、第１実施形態～第９実施形態について説明した。以下、第１０実施形態について説明する。第１０実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１実施形態～第９実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態～第９実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態～第９実施形態における説明が第１０実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。
【５１４６】
なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第１０実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第１０実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２実施形態～第９実施形態に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第１０実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第１０実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態～第９実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第１０実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。
【５１４７】
また、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態～第８実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。
【５１４８】
［可動役物の初期動作］
初めに、図４２５～図４２７を参照して、パチスロ機１に電源が投入された際に行われ

る可動役物の初期動作について説明する。ここで、可動役物とは、モータやソレノイド等の各種駆動機構によって動作させることが可能な役物であり、可動しない飾り役物は含まない。パチスロ機１では、可動役物を用いる演出が決定されると、主制御回路１００又は副制御回路２００は、モータやソレノイド等の各種駆動機構に対して各種制御信号（例えば、励磁データ等）を出力する。可動役物は、可動役物の駆動機構が受信した制御信号に基づき動作することで、演出に対応する動作を行う。なお、以下において説明する可動役物の初期動作では、可動役物の駆動機構は任意である。すなわち、可動役物の駆動機構としては、演出に対応する動作を実現可能な駆動機構を用いればよい。また、可動役物は、樹脂製の透明パネルなどによって、遊技者が触れることができないように保護されていることが好ましい。

【５１４９】

（可動役物の概要）

まず、図４２５を参照して、可動役物の概要について説明する。図４２５（Ａ）は、可動役物の動作例を示す図であり、図４２５（Ｂ）は、可動役物が動作する際のタイムチャートを示す図である。図４２５に示す例では、遊技者に対する特典付与の成否を報知する演出において可動役物を用いることとしており、遊技者に対して特典を付与する場合には、可動役物が稼働し演出成功であることを報知する一方で、遊技者に対して特典を付与しない場合には、可動役物が稼働せずに演出失敗であることを報知する。なお、図４２５に示す演出例は、可動役物の動作例を示す一例に過ぎず、可動役物の動作はこれに限られるものではない。

【５１５０】

図４２５（Ａ）に示すように、パチスロ機１は、可動役物５００１とメイン表示装置２１０と上部ユニット５００２とを有している。メイン表示装置２１０は、例えば、液晶表示装置であり、遊技者に対し視覚的な観点での演出を実行する。また、上部ユニット５００２は、メイン表示装置２１０の上方に設けられた飾り役物である。図４２５に示す例では、可動役物５００１は、役物が稼働する前の初期状態では上部ユニット５００２に収納され、遊技者が視認できないようになっている。なお、可動役物５００１は、正面視では視認できないものの、下方から覗き込むことで可動役物５００１の下端、底面又はその両方を視認可能に配置されるものであってもよい。

【５１５１】

同図に示す演出例では、図４２５（Ａ）（ａ）に示すように、メイン表示装置２１０に「ボタンを押せ！」と表示され、遊技者が不図示の演出ボタンを操作することで、演出の成否が報知される。すなわち、同図に示す例では、遊技者による演出ボタンの操作が、可動役物の動作契機となっている。もちろん、可動役物の動作契機は、演出ボタンの操作に限るものではなく、実行したい演出の内容に応じて任意に設定可能である。

【５１５２】

同図（ｂ）に示すように、演出成功時（遊技者に対して特典付与が決定されている場合）には、遊技者による演出ボタンの操作に伴い可動役物５００１が初期位置から稼働位置に移動することで、演出成功であることを報知する。図４２５に示す例では、上部ユニット５００２に収納されている状態（同図（Ａ）（ａ））が初期位置であり、メイン表示装置２１０の前面に移動した状態（同図（Ａ）（ｂ））が稼働位置となっている。なお、可動役物５００１を用いた演出では、他の演出手段も連動して動作することで、可動役物５００１とともに演出成功を盛り上げる。一例としては、メイン表示装置２１０において演出成功である旨の表示を行い、また、上部ユニット５００２に設けられたランプを通常とは異なる態様で発光させ、また、スピーカから通常とは異なる演出音を出力することで、可動役物５００１の動作に連動した演出を各種の演出手段において行う。後述にて、具体的な演出の一例を説明する。

【５１５３】

一方で、同図（ｃ）に示すように、演出失敗時（遊技者に対して特典付与が決定されている場合）には、遊技者が演出ボタンを操作しても可動役物５００１は初期位置のまま動

かず、演出失敗であることを報知する。すなわち、可動役物５００１は、上部ユニット５００２に収納されたまま動作しない。なお、演出失敗時には、可動役物５００１が動作しないだけでなく、他の演出手段が演出失敗である旨の演出を行うこととしてもよい。例えば、メイン表示装置２１０などの液晶表示装置において演出失敗である旨の表示（例えば、「失敗」のように直接的に表示するものであってもよく、表示画面を暗転するなど失敗したことを察知可能に表示するものであってもよい）を行うものであってもよく、また、ランプやスピーカなどにおいて、少なくとも演出成功時とは異なる、失敗を察知可能な演出を行うものであってもよい。後述にて、具体的な演出の一例を説明する。

【５１５４】

演出成功時と演出失敗時とのその他の演出装置の演出の具体例について説明する。

まず、メイン表示装置２１０などの液晶表示装置において行われる演出について説明する。メイン表示装置２１０では、複数遊技を跨いだ連続演出が行われる。前遊技以前から味方キャラクタと敵キャラクタとがバトルする映像が表示され、当落判定遊技において、バトルの決着がつくシーンの直前に「ボタンを押せ！」と遊技者の操作介入を促す操作指示演出が行われる。図示は無いが、操作指示演出では「ボタンを押せ！」という表示と合わせて演出ボタンを模したボタン画像を表示してもよい。この例では、操作指示演出は、当該遊技の第３停止に伴うストップスイッチがＯＮからＯＦＦになったタイミング（以下、第３停止オフ）で行われるものとするが、例えば、スタートレバーがＯＮになった後、第３停止オフ後、また、第３停止オフに応じた任意の演出の実行後など任意に設定することができる。

演出成功時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出の成功を報知する成功演出を行う。具体的には、可動役物５００１が出現する稼働位置に対して、集中線や虹色のオーラを纏うような映像エフェクトを表示させる。そして、この状態で一定時間が経過すると、可動役物５００１の初期位置への移動動作が開始され、これに合わせて映像をバトルの決着がついたシーン（勝利）へとフェードで切り替える。

一方で、演出失敗時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出の失敗を報知する失敗演出を行う。具体的には、演出失敗時には可動役物５００１が稼働位置に移動しないため、演出ボタンが操作された直後からバトルの決着がついたシーン（敗北）を表示する。

【５１５５】

次に、スピーカから出力される音演出について説明する。上述の連続演出では、当落判定遊技よりも前の遊技からパチスロ機１が備えるスピーカからキャラクタ同士のバトル演出に対応したボイス及びＢＧＭが出力され、当落判定遊技の第３停止オフ後にメイン表示装置２１０における操作指示演出と合わせて「ボタンを押せ」といったボイスやボタン操作を促す効果音が出力される。

演出成功時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出の成功を報知する祝福音を出力する。具体的には、「キュインキュインキュイン」という効果音や「大当たり～」というボイスなどを組み合わせた音がスピーカから出力される。そして、この状態で一定時間が経過すると、可動役物５００１の初期位置への移動動作が開始され、これに合わせてＢＧＭをバトル勝利ＢＧＭへと切り替える。

一方で、演出失敗時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出失敗を報知する効果音を出力する。具体的には、演出失敗時には可動役物５００１が稼働位置に移動しないため、演出ボタンが操作された直後からバトル敗北ＢＧＭを出力する。

【５１５６】

次に、ランプ演出について説明する。上述の連続演出では、当落判定遊技よりも前の遊技からパチスロ機１が備える装飾ランプ（例えば、メイン表示装置２１０の左右に備えたサイドランプなど）においてバトル演出に対応した態様でランプが発光している。その後、当落判定遊技の第３停止オフ後になると、メイン表示装置２１０における操作指示演出と合わせて、ランプをゆっくり白く明滅する態様で発光させ、遊技者の演出ボタンの操作

を促す。

演出成功時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出の成功を報知する態様でランプを発光させる。具体的には、レインボーで発光し続ける。そして、この状態で一定時間が経過すると、可動役物５００１の初期位置への移動動作が開始され、これに合わせてランプの発光態様をバトル勝利演出に合わせたものへと切り替える。

一方で、演出失敗時には、操作指示演出に応じて遊技者が演出ボタンの操作を行うと、演出失敗を報知する態様でランプを発光させる。具体的には、演出失敗時には可動役物５００１が稼働位置に移動しないため、演出ボタンが操作された直後からバトル敗北演出に合わせた態様でランプを発光させる。

【５１５７】

続いて、同図（Ｂ）は、演出成功時（すなわち、可動役物５００１が稼働する場合）のタイムチャートである。同図に示すように、可動役物５００１は、稼働前は初期位置に滞在している。可動役物５００１は、初期位置では上部ユニット５００２に収納されているため、遊技者は、可動役物５００１が初期位置に滞在している状態では、可動役物５００１を視認することができない。その後、可動役物５００１の動作契機がＯＮになると、主制御回路１００又は副制御回路２００から出力される制御信号に基づき各種駆動機構が動作することで、可動役物５００１は、稼働を開始する。可動役物５００１が稼働を開始することで、初期位置において隠れていた可動役物５００１が現れ、遊技者が視認可能になる。すなわち、可動役物５００１が稼働を開始した直後は、遊技者は、可動役物５００１の一部を視認可能になる。その後、可動役物５００１は、初期位置から稼働位置に移動する。これにより、遊技者は、可動役物５００１の全てを視認できるようになる。可動役物５００１は、稼働位置に移動すると、一定時間当該稼働位置において待機し、その後、初期位置に移動することで動作を終了する。この初期位置に移動する動作に伴い、遊技者が認可能できていた可動役物５００１は、上部ユニット５００２に収納され、遊技者から視認できなくなる。このように稼働位置において待機する時間を設けることで、その間に演出成功であることを示す各種の演出を行うことができ、結果、遊技者に対して演出成功であることを確実に報知することができる。

なお、稼働位置から初期位置への移動契機は、上述の通り基本的には一定時間の経過であるが、これに限られるものではなく、例えば、次遊技の開始操作が行われることを契機としてもよい。この場合は、稼働位置における待機時間を切り上げてもよく、また、開始操作がされても一定時間が経過していない場合には稼働位置での待機を継続するものであってもよく、また、そもそも一定時間中は次遊技の開始操作を行うことができないロック状態とすることとしてもよい。また、可動役物５００１の稼働に合わせた他の演出についても同様である。

【５１５８】

続いて、同図を参照して、可動役物５００１が動作する場合の他の演出手段の動作について説明する。なお、同図では、他の演出手段として、メイン表示装置２１０などの液晶表示装置の動作に関するタイムチャートと、スピーカ及びランプの動作に関するタイムチャートとを示している。

可動役物５００１の稼働前において液晶表示装置では、例えば、味方キャラクタと敵キャラクタとが対決するバトル演出が行われている。その後、可動役物５００１が稼働する前に液晶表示装置には、「ボタンを押せ」などのメッセージが表示される。この表示に伴い遊技者が演出ボタンを操作すると、可動役物５００１の動作契機がＯＮになり、稼働役物５００１の稼働開始と合わせて、液晶表示装置には、可動役物５００１が出現する稼働位置に対して、集中線や虹色のオーラを纏うような映像エフェクトが表示される。そして、この状態で一定時間が経過すると、可動役物５００１の初期位置への移動動作が開始され、これに合わせて映像をバトルの決着がついたシーン（勝利）へとフェードで切り替える。

【５１５９】

また、可動役物５００１の稼働前においてスピーカからは、例えば、バトル演出の対決中に応じたＢＧＭが出力され、ランプは、例えば、バトル演出の対決中に応じた態様で発光する。その後、液晶表示装置における「ボタンを押せ」などのメッセージ表示と合わせて、スピーカからは、「ボタンを押せ」といったボイスやボタン操作を促す効果音が出力され、また、ランプは、ゆっくり白く明滅する態様で発光するなどして、遊技者の演出ボタンの操作を促す。その後、遊技者が演出ボタンを操作し、可動役物５００１の動作契機がＯＮになると、スピーカからは、稼働役物の動作に合わせて「キュインキュインキュイン」といった祝福音が出力される。また、ランプも同様に、稼働役物５００１の動作に合わせてレインボーで発光し、演出成功であることを報せる。そして、この状態で一定時間が経過すると、可動役物５００１の初期位置への移動動作が開始され、これに合わせてスピーカから出力する効果音をバトル勝利ＢＧＭへと切り替え、同様に、ランプの発光態様をバトル勝利演出に合わせたものへと切り替える。

このように、演出実行時の動作では、液晶表示装置などの他の演出手段は、可動役物５００１の動作に合わせて演出を切り替える。

【５１６０】

また、可動役物５００１の初期位置を遊技者が視認困難な位置（例えば、上部ユニット５００２に収納）とし、稼働位置を遊技者が視認可能な位置（例えば、メイン表示装置２１０の前面）としているが、これに限られるものではない。例えば、初期位置を遊技者が視認可能な位置とし、稼働位置を遊技者が視認困難な位置としてもよく、また、初期位置及び稼働位置の双方を、遊技者が視認可能な位置としてもよい。また、初期位置及び稼働位置の双方を、遊技者が視認不可能な位置としてもよい。例えば、初期位置を上部ユニット５００２に収納される位置とし、稼働位置をメイン表示装置２１０の下方に設けられた下部ユニットに収納される位置又はメイン表示装置２１０の側方に設けられたサイドユニットに収納される位置とすることで、可動役物５００１を上部ユニット５００２から下部ユニットやサイドユニットに移動する役物とすることができる。この態様を採用した場合の演出の流れとして、可動役物５００１の稼働前に、液晶表示装置ではバトル演出、スピーカからはバトル演出に対応するＢＧＭ、ランプではバトル演出の対決中に応じた態様の発光が行われ、このタイミングでは可動役物５００１は視認することができない。続いて、液晶表示装置にて「ボタンを押せ」などのメッセージを表示するとともに、ランプは白く明滅する。遊技者のボタン操作に応じて可動役物５００１の動作契機がＯＮになることで、可動役物５００１が稼働を開始し、視認可能となるとともに、これに合わせて液晶表示装置には、可動役物５００１が出現する稼働位置に対して、集中線や虹色のオーラを纏うような映像エフェクトが表示され、スピーカからは可動役物５００１の動作に合わせて「キュインキュインキュイン」といった祝福音が出力される。また、ランプも同様に、可動役物５００１の動作に合わせてレインボーで発光し、演出成功であることを報せる。この間、可動役物５００１は、下部ユニットへ向けて移動し続け、下部ユニットに収納される位置へ到達することで視認不可となるとともに、これに合わせて映像をバトルの決着がついたシーン（勝利）へとフェードで切り替えるとともにスピーカから出力する効果音をバトル勝利ＢＧＭへと切り替え、同様に、ランプの発光態様をバトル勝利演出に合わせたものへと切り替える、などのようにすればよい。

【５１６１】

また、同図に示す例では、遊技者が演出ボタンを操作した場合に、動作契機がＯＮになり、可動役物５００１が動作するものとしているが、例えば、遊技者が演出ボタンを操作しない場合には、所定時間が経過した後、又は、当該遊技の終了時、又は、次遊技の開始時（例えば、次遊技のＢＥＴ操作時や、次遊技のスタートレバー操作時）に可動役物５００１を動作させることとしてもよい。もちろん、遊技者が演出ボタンを操作しない限り可動役物５００１を動作させないこととしてもよく、その場合、演出ボタンを操作せずに次遊技を開始した場合には、可動役物５００１の動作はスキップされ、可動役物５００１の稼働及びそれに応じた種々の演出は行われない。

【５１６２】

なお、可動役物５００１の位置は、例えば、検出片とセンサとにより特定される。一例として、上述のような初期位置と稼働位置との２箇所を移動する可動役物５００１の場合には、可動役物５００１の位置を判定するためのセンサとして、初期位置判定用のセンサと稼働位置判定用のセンサとを有し、可動役物５００１自体又は駆動機構などの可動役物５００１の移動に合わせて位置が変位し得る部材に検出片を設ける。そして、初期位置判定用のセンサが検出片を検知している場合には、可動役物５００１が初期位置にあると特定し、稼働位置判定用のセンサが検出片を検知している場合には、可動役物５００１が稼働位置にあると特定する。なお、検出片は、初期位置判定用のセンサ及び稼働位置判定用のセンサの夫々に対して個別に設けるものであってもよく、また、両センサに共用の１つの検出片であってもよい。また、センサは、初期位置及び稼働位置の双方に設けず、何れか一方のみに設けることとしてもよい。このような場合には、センサが検出片を検知している場合（ＯＮ）には、可動役物５００１がセンサを設置した位置にあると特定し、センサが検出片を検知していない場合（ＯＦＦ）には、可動役物５００１がセンサを設置した位置にないと特定することができる。

【５１６３】

そして、初期位置判定用のセンサが検出片を検知している状態（初期位置）において、動作契機がＯＮになり、役物稼働に係る信号を制御回路から受信すると、駆動機構が動作し、可動役物５００１を稼働位置に移動させる。なお、初期位置判定用のセンサが検出片を検知していない状態（初期位置以外）では、動作契機がＯＮになった場合であっても、可動役物５００１が故障などにより初期位置にないものと判断し、可動役物５００１を稼働させないこととしてもよい。例えば、制御回路から駆動機構に対して役物稼働に係る信号を出力しないことで、初期位置以外からは可動役物５００１を稼働させないこととしてもよい。遊技中における演出時の動作契機ＯＮのタイミングにおいては上述の通りの構成とすることで、故障中の可動役物５００１の処理を省くことができ、処理負担の軽減となる。ただし、後述する初期動作時においてはこの限りではなく、例えば、ドア開閉による衝撃などによって可動役物５００１が初期位置から移動してしまう場合などもあるため、位置の判定を行う前に（若しくは、位置の判定を行わずに）初期動作を行うものとすることが好ましい。

【５１６４】

また、パチスロ機１では、制御回路は、役物稼働を行わない遊技においても、遊技開始時などの任意のタイミングにおいて初期位置判定用のセンサがＯＮであるか（検出片を検知しているか）を確認し、ＯＮ状態でない場合には、何らかのエラーにより可動役物５００１が初期位置にないものと判断し、初期位置への移動動作を行わせることが好ましい。すなわち、このようなエラーが生じている場合には、制御回路は、駆動機構に対して、可動役物５００１を初期位置に移動させるための信号を出力することが好ましい。この場合において、初期位置への移動動作により可動役物５００１が初期位置に移動した場合（初期位置判定用のセンサがＯＮ）には、可動役物５００１の稼働を終了する。一方で、一定時間経過しても可動役物５００１が初期位置に移動しない場合（初期位置判定用のセンサがＯＦＦ）には、可動役物５００１や駆動機構に異常が発生している可能性が高いため、制御回路は、可動役物５００１の稼働を終了する。

なお、異常発生に伴い可動役物５００１の稼働を終了した場合には、パチスロ機１の制御回路は、遊技店側の管理者に対してその旨を通知することが好ましい。例えば、メイン表示装置２１０に可動役物５００１に異常が発生している旨の表示を行うこととしてもよく、また、スピーカから異常発生の音声や効果音を出力することとしてもよく、また、制御回路からホールコンピュータなどに対して可動役物５００１に異常が発生している旨の信号を出力することとしてもよい。なお、異常発生に伴い可動役物５００１の稼働を終了した場合であっても、可動役物５００１の稼働領域がリール（付言するなら、リールの有効ライン）の視認を阻害し得る位置でなければ最低限の遊技に支障をきたすものではないといえるため、特段の通知を行わないものとしてもよい。

【５１６５】

また、遊技開始時などの任意のタイミングにおいて初期位置判定用のセンサがＯＦＦのままの期間が一定期間継続した場合には、パチスロ機１は、可動役物５００１や駆動機構に異常が発生している可能性が高いものと判断し、以降電断復帰まで役物動作に関する制御を行わないこととしてもよい。すなわち、可動役物５００１を用いる演出が決定された場合であっても、可動役物５００１を稼働させない。具体的には、制御回路から駆動機構に対して役物稼働に係る信号を出力しないことで、可動役物５００１を稼働させないこととしてもよい。若しくは、初期位置判定用のセンサがＯＦＦのままの期間が一定期間継続した場合には、以降電断復帰まで復帰信号の出力は中止するものの、演出による役物稼働に係る信号は出力することとしてもよい。なお、「初期位置判定用のセンサがＯＦＦのままの期間が一定期間継続した場合」とは、初期位置判定用のセンサがＯＦＦのまま所定回数の遊技が行われることであってもよく、また、初期位置判定用のセンサがＯＦＦのまま所定時間が経過することであってもよく、また、可動役物５００１が初期位置にいない場合の初期位置への移動動作に関する復帰信号を所定回数送ることであってもよい。

【５１６６】

（可動役物の初期動作）

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１に特有の可動役物の初期動作について説明する。可動役物を用いた演出は遊技者の注意をひきやすく遊技を盛り上げるため、営業時に動作しないと興趣を損ねてしまう。そのため、遊技店の管理者からすると、可動役物が適切に動作するか関心を持つものの、可動役物を用いた演出は頻繁に行われるものではなく、また、遊技店には多数の遊技機が設置されることから、開店前に動作確認のために、可動役物を用いた演出が行われるまで遊技を行うことは現実的ではない。そこで、第１０実施形態では、遊技機に電源が投入されたタイミングにおいて可動役物を自動的に動作させることで、可動役物の動作確認を可能にしている。

【５１６７】

図４２６は、可動役物の初期動作を説明するための図であり、可動役物を用いた演出実行時の動作との比較例を示している。初期動作は、可動役物が適切に動作するかの確認のために行われるため、演習実行時の動作と基本的には同じ動作を行うものの、一部異なる点があるため、この点について説明する。なお、可動役物の初期動作とは、パチスロ機１に電源が投入された際に自動的に行われる動作をいい、また、可動役物を用いた演出実行時の動作とは、遊技中に可動役物を用いる演出が決定された場合の可動役物の動作をいう。

【５１６８】

図４２６（Ａ）（ａ）に示すように、演出時の動作では、演出開始時（ａ－１）において、可動役物は初期位置（例えば、トップユニットに収納）に位置している。続いて、可動役物は、決定された演出データに基づいて制御される結果、初期位置から稼働位置に移動する（ａ－２）。演出時の動作では、稼働位置において他の演出手段と連動した動作により遊技を盛り上げるため、可動役物は、稼働位置に移動すると、その位置のまま一定時間待機する（ａ－３）。そして、稼働位置に待機した状態で、他の演出手段と連動した演出を十分な時間行った後に、可動役物は、稼働位置から初期位置に移動することで（ａ－４）、演出時の動作が終了する。なお、可動役物と他の演出手段との連動した演出は、可動役物が稼働位置に移動したタイミングにおいてのみ行われるものではなく、可動役物を用いた演出中継続して行われるものである。

【５１６９】

続いて、図４２６（Ａ）（ｂ）に示すように、初期動作では、パチスロ機１に電源が投入された時点において可動役物は初期位置に位置している（ｂ－１）。続いて、パチスロ機１に電源が投入されると、可動役物は、予め定められた電源ＯＮ時の動作にデータに基づいて制御される結果、初期位置から稼働位置に移動する（ｂ－２）。このとき、初期動作では、可動役物の動作確認（言い換えると、可動役物を駆動する駆動機構の動作確認）が目的であるため、可動役物は、演出時の動作とは異なり、稼働位置において待機しない（又は、演出時よりも待機時間が短い）。すなわち、初期動作では、可動役物は、稼働位

置に移動すると、その後直ちに初期位置に移動することで（ｂ－３）、初期動作を終了する。

【５１７０】

なお、演出時の動作では、可動役物に加えて他の演出手段も連動して演出を実行するものの、電源投入時の初期動作では、可動役物の動作確認が目的であるため、他の演出手段は可動役物と連動した演出は行わない。例えば、メイン表示装置２１０が電源投入時にデモ画面で復帰する場合には、可動役物の初期動作中にメイン表示装置２１０ではデモ画面が表示される。また、例えば、メイン表示装置２１０が電源投入時に電断前に実行中の演出画面で復帰する場合には、可動役物の初期動作中にメイン表示装置２１０では復帰時の演出画面が表示される。また、電源の投入／切断は、基本的には、筐体の前面扉を開けないと行うことができないため、電源投入時にはメイン表示装置２１０などにおいてドアオープンエラーなどのエラー報知（例えば、メイン表示装置２１０などの液晶表示装置において「ドアが開いてます」などのメッセージを表示し、また、サイドランプなどのランプを赤色で発光させることでエラー状態であることを報せ、また、スピーカから「ドアが開いてます」などのメッセージを出力する）を行う場合がある。このようなエラー報知が行われる場合には、メイン表示装置２１０では、前面扉を閉めてドアオープンエラーが解除された後に、電断復帰時の演出画面が表示されることが好ましい。

【５１７１】

続いて、図４２６（Ｂ）は、演出実行時の可動役物のタイムチャートと、初期動作時の可動役物のタイムチャートとの比較例を示す図である。

【５１７２】

同図に示すように、可動役物の動作は、演出実行時及び初期動作時ともに、初期位置から稼働位置に移動するものであるため、両者の動作は、類似する動作であるといえる。また、動作契機がＯＮになると可動役物が初期位置から稼働位置に移動する点は、両者において共通する。一方で、稼働位置において滞在する期間、言い換えると、可動役物を用いた演出を構成する動作のうちの少なくとも一部の動作の時間尺が、両者では異なる。具体的には、電源投入時の初期動作では、可動役物が稼働位置に滞在する期間が短く、可動役物は、演出実行時よりも早く稼働位置から初期位置に移動する。

【５１７３】

また、演出実行時は、可動役物とその他の演出手段とを連動して動作させることで（図４２５（Ｂ））、演出効果を高めるものであるが、初期動作では、可動役物の動作確認が目的であるため、その他の演出手段を連動させることがない。なお、図４２６（Ｂ）に示す例では、可動役物の初期動作時のタイムチャートと合わせてその他の演出手段のタイムチャートを示している。上述のように、初期動作の動作契機は、電源が投入されることであるが、電源投入時には前面扉を開けなければならないため、電源が投入された直後は、前面扉も開いている。そのため、他の演出手段は、ドアオープンエラーなどのエラー報知を行う。なお、同図に示すタイムチャートでは、可動役物の初期動作の開始とエラー報知の開始とが連動しているように図示されているが、それぞれは独立して動作するものである。すなわち、可動役物の初期動作は、電源がＯＮになることが動作契機であり、ドアオープンエラーのエラー報知は、可動役物の初期動作が契機となって行われるのではなく、電源がＯＮの状態で前面扉が開くことが契機となって行われるものである。

その後、前面扉が閉じられると、ドアオープンエラーのエラー報知も終了する。このエラー報知の終了は、当然、可動役物の初期動作とは関係なく行われるため、例えば、可動役物の初期動作中に前面扉が閉じられた場合には、エラー報知は、初期動作の最中に終了し、また、可動役物の初期動作が終了した後に前面扉が閉じられた場合には、エラー報知は、初期動作が終了した後も前面扉が閉じられるまでは継続して行われる。

【５１７４】

このように、パチスロ機１では、電源投入時に、演出実行時と類似する動作で可動役物を駆動させる初期動作制御を実行するため、遊技店の管理者は、開店前に可動役物が適切に動作することを確認することができ、結果、遊技実行中に可動役物が動作せずに興趣が

削がれてしまうことを防止することができる。また、電源の切断／投入は、停電時やエラー解除時などにも生じることがあるため、初期動作を行う遊技機では、遊技中の一時的な電断からの復帰時にも可動役物の初期動作が行われる可能性がある。通常の遊技中に可動役物が動作した場合、基本的には遊技者にとって好ましい状況であることが多い。そのため、一時的な電断からの復帰時における遊技中の遊技者からすると、初期動作により可動役物が動作すると、何か遊技者にとって好ましい状況になったと誤認してしまう可能性がある。このような場合であっても、演出実行時の動作とは時間尺が異なるため、可動役物の動作が遊技の結果によるものと誤認し難くなり、遊技の興趣を損ねることがない。

【５１７５】

なお、図４２５や図４２６に示す例では、可動役物５００１の動作を、初期位置と稼働位置との２箇所の移動のみとしているが、これに限られるものではない。例えば、稼働位置として複数の位置を有し３箇所以上の複数個所の移動を行うものであってもよく、また、位置の移動だけでなく、振動や回転などを行うものであってもよい。また、位置の移動についても、同図に示す例では、直線的な上下の移動のみを例示しているが、例えば、左右の移動を行うものであってもよく、また、弧を描くような移動を行うものであってもよく、また、前後方向への移動を加えて三次元的な動きを行うものであってもよく、また、これらを組み合わせて複数段階の動きを行うものであってもよい。

例えば、演出実行時の動作として初期位置から中途位置へと移動し当該中途位置で一時停止した後に可動位置へと移動させる３箇所の移動をする場合には、電源投入時の初期動作では、初期位置から中途位置を経由して稼働位置へと移動するものの、中途位置において一時停止をしないものであってもよい。もちろん、演出実行時の動作が中途位置だけでなく稼働位置においても一時停止を行うものである場合には、初期動作では、中途位置だけでなく稼働位置における一時停止も行わないものであってよい。このようにすることで、演出実行時の動作と初期動作とで差を設けることができるため、誤認を防ぐことができる。

【５１７６】

また、上述の例では、演出実行時の可動役物の動作が１回の遊技で終了するものを想定しているが、可動役物の使い方としては、例えば、有利状態（ボーナスやＡＴ）中は、有利状態が終了するまで継続して稼働位置に滞在させる使い方もある。すなわち、複数回の遊技において継続して稼働位置に滞在することもある。このような遊技機においては、初期動作として可動役物が初期位置から稼働位置に移動した後にすぐに初期位置に戻る動作を行うことで、遊技者に有利状態であるとの誤認をさせないようにすることができる。

【５１７７】

なお、演出実行時の動作契機は任意であるが、初期動作時の動作契機は、電源が投入されたこととする。すなわち、通常、電源の投入は、前面扉を開けた状態で行われるが、パチスロ機１の初期動作では、前面扉を開けた状態であっても電源が投入されたタイミングで動作契機がＯＮになり、可動役物の初期動作が開始する（前面扉は開いたまま可動役物が動作を開始する）。このように構成することで、初期動作を直ちに開始することができるため、動作確認に要する時間を節約することができる。

【５１７８】

なお、初期動作の動作契機は、電源が投入されたことに限るものではなく、電源投入時に所定のボタン（リセットスイッチや演出用ボタン、初期動作専用ボタンなど）が押下されていることを動作契機としてもよく、また、ホールメニューにて初期動作設定の有無を決定可能とし、電源投入時に初期動作設定がＯＮになっていることを動作契機としてもよく、また、ホールメニューにて役物動作確認の項目を設け、当該項目を選択することを動作契機としてもよい。

【５１７９】

また、上述の例では、電源投入時に必ず可動役物の初期動作を行うものとしているが、これに限られるものではない。例えば、停電時や接続不良などにより、電源が一瞬だけ切断される瞬断が発生した場合には、復帰時に可動役物の初期動作を行わないものとしても

よい。具体的には、パチスロ機１の制御回路は、電源が切断されてから投入されるまでの時間を計時しておき、所定時間未満である場合には、可動役物の初期動作を行わず、所定時間以上である場合に限り、可動役物の初期動作を行うこととしてもよい。また、電源が切断されてから投入されるまでの時間ではなく、電源が投入された時刻に基づいて、可動役物の初期動作を行うか否か制御することとしてもよい。例えば、電源が投入された時刻が、所定の範囲内（午前６時から午前９時までの間）である場合には、可動役物の初期動作を行う一方で、所定の範囲外である場合には、可動役物の初期動作を行わないこととしてもよい。なお、初期動作を行うことになる所定の範囲については、管理者が任意に設計可能であることが好ましい。これにより、遊技店の営業時間に合わせて、可動役物の初期動作を行うか否かを制御することができる。

【５１８０】

また、可動役物が稼働中に電源が切断された場合、電源投入時に可動役物が初期位置に位置しない可能性が考えられる。このような場合には、制御回路は、可動役物の初期動作制御を行わずに、可動役物を稼働位置から初期位置に移動させる制御を行うこととしてもよい。具体的には、制御回路は、電源投入時に可動役物が初期位置に位置するか否かを判定し、初期位置に位置する場合には、上述の初期動作制御を行う一方で、初期位置に位置しない場合（又は、稼働位置に位置する場合）には、可動役物を初期位置に移動させるように駆動機構に対して信号を出力することとしてもよい。可動役物の初期動作は、可動役物が適切に動作するか否か、言い換えると、駆動機構が適切に動作するか否かを確認することを目的とするものであるため、初期位置に戻す動作を実行可能であれば、可動役物が適切に動作する可能性が高いためである。

【５１８１】

（可動役物の別例）

続いて、図４２７を参照して、可動役物の別例について説明する。同図（Ａ）は、展開型の可動役物の一例を示す図であり、同図（Ｂ）は、合体型の可動役物の一例を示す図であり、同図（Ｃ）は、筐体形状変形型の可動役物の一例を示す図である。

【５１８２】

（展開型の可動役物）

本実施形態において、展開型の可動役物とは、最初は１つの役物に見えた可動役物が動作に伴い次々と展開されることで、展開前と展開後とで異なる形状になる役物をいう。このような展開型の可動役物としては、同図（Ａ）（ａ）に示すパターン１の可動役物５０１０と、同図（Ａ）（ｂ）に示すパターン２の可動役物５０２０とが考えられる。パターン１の可動役物５０１０は、展開前には隠れていて見えなかった役物が展開に伴い現れることで、展開前と展開後とで異なる形状になる可動役物であり、パターン２の可動役物５０２０は、展開前から見えていた役物が展開することで、展開前と展開後とで異なる形状になる可動役物である。

【５１８３】

同図（Ａ）（ａ）に示すように、可動役物５０１０は、「大当たり」と表示された役物５０１１と、「おめでとう」と表示された役物５０１２とから構成される。役物５０１２は、可動役物５０１０が展開する前は、役物５０１１の背後に配置され、遊技者が視認できないようになっている。

【５１８４】

図示は省略するものの、可動役物５０１０は、初期状態では、例えば、上部ユニットに収納され、動作契機がＯＮになると、駆動機構により駆動され、初期位置から稼働位置に移動する。可動役物５０１０は、稼働位置に移動すると、続いて、駆動機構の動作に伴い役物５０１２を展開する。これにより、「大当たり」「おめでとう」という１つの連結した役物として機能することになる。なお、役物５０１２は、役物５０１１の背後に配置されているため、単に展開しただけでは役物５０１１と役物５０１２との間に段差が生じてしまう。そこで、役物５０１２を展開した場合には、役物５０１２を前方に移動させることで、役物５０１１，５０１２を段差のないフラットな状態にすることとしてもよい。も

ちろん、役物５０１２を前方に移動させるのではなく、役物５０１１を後方に移動させるものであってもよく、また、双方を移動させることで段差のないフラットな状態にしてもよい。

また、可動役物５０１０は、役物５０１２を展開した後に規定時間が経過すると、駆動機構の動作に伴い、役物５０１２の展開を終了して役物５０１２を役物５０１１の背後に移動させるとともに、稼働位置から初期位置に移動することで、動作を終了する。

【５１８５】

このような可動役物５０１０において、電源投入時の初期動作では、稼働位置への移動及び役物５０１２の展開を実行するものの、展開した状態を維持する時間尺を演出実行時の時間尺と異ならせる。これにより、展開型の可動役物であっても、電源投入時に適切に動作確認を行うことができる。

【５１８６】

続いて、同図（Ａ）（ｂ）に示すように、可動役物５０２０は、中心に配置された円形の役物５０２１と、役物５０２１の周囲に配置された円弧状の役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５と、から構成される。可動役物５０２０は、展開する前は、役物５０２１～５０２５が結合することで、１つの大きな円形の役物として用いられる一方で、展開することで、全体が花開いたかのような印象を与える役物として用いられる。

【５１８７】

図示は省略するものの、可動役物５０２０は、初期状態では、例えば、上部ユニットに収納され、動作契機がＯＮになると、駆動機構により駆動され、初期位置から稼働位置に移動する。可動役物５０２０は、稼働位置に移動すると、続いて、駆動機構の動作に伴い役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５を展開する。また、可動役物５０２０は、役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５を展開した後に規定時間が経過すると、駆動機構の動作に伴い、役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５の展開を終了して役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５を役物５０２１に結合させるとともに、稼働位置から初期位置に移動することで、動作を終了する。

【５１８８】

このような可動役物５０２０において、電源投入時の初期動作では、稼働位置への移動及び役物５０２２，５０２３，５０２４，５０２５の展開を実行するものの、展開した状態を維持する時間尺を演出実行時の時間尺と異ならせる。これにより、展開型の可動役物であっても、電源投入時に適切に動作確認を行うことができる。

【５１８９】

（合体型の可動役物）

本実施形態において、合体型の可動役物とは、複数の役物が合体することで１つの役物として機能する役物をいう。例えば、左右開き又は上下開きの扉が開閉する役物や、漢字の「へん」と「つくり」とが合体することで１つの漢字を表す役物や、複数の漢字が合体することで１つの熟語を表す役物などが該当する。同図（Ｂ）に示す例では、左右に配置された役物５０３１、５０３２が中央に移動することで合体し、１つの可動役物５０３０となる例を示している。

【５１９０】

同図（Ｂ）に示すように、可動役物５０３０は、正面から見て左側のサイドユニットに収納される役物５０３１と、正面から見て右側のサイドユニットに収納される役物５０３２と、から構成される。役物５０３１，５０３２は、初期状態では、左右のサイドユニットに収納され、動作契機がＯＮになると、駆動機構により駆動され、初期位置から稼働位置に移動する。役物５０３１，５０３２は、稼働位置に移動することで合体し、１つの可動役物５０３０として機能する。また、可動役物５０３０は、役物５０３１，５０３２を合体した後に規定時間が経過すると、駆動機構により駆動され、稼働位置から初期位置に移動することで、合体を解除し、動作を終了する。

【５１９１】

このような可動役物５０３０において、電源投入時の初期動作では、稼働位置への移動

（及び移動に伴う役物５０３１，５０３２の合体）を実行するものの、合体した状態を維持する時間尺を演出実行時の時間尺と異ならせる。これにより、合体型の可動役物であっても、電源投入時に適切に動作確認を行うことができる。

【５１９２】

（筐体形状変形型の可動役物）

本実施形態において、筐体形状変形型の可動役物とは、可動役物が動作すると筐体の形状が変形し、可動役物の動作前後でパチスロ機１の外観を異ならせる役物をいう。例えば、パチスロ機１の一部が前面、左右、上下に突出することで、動作前に比べてパチスロ機１の外観を大きく見せる役物などが該当する。なお、「可動役物の動作前後でパチスロ機１の外観を異ならせる」とは、可動役物が動作することでパチスロ機１の外観を大きく見せることに限るものではなく、可動役物が動作することでパチスロ機１の外観を小さく見せることも含み、また、大きさではなく、形状が異なることも含む。同図（Ｃ）に示す例では、初期状態において前面扉に収納されている役物が、動作時にはトップユニットの上部から突出し、かつ、前方に傾くことで、パチスロ機１の上方にメイン表示装置２１０とは異なる新たな液晶表示装置が出現する可動役物５０４０を示している。すなわち、同図（Ｃ）に示す筐体形状変形型の可動役物５０４０は、可動式の液晶表示装置である。

【５１９３】

同図（Ｃ）に示すように、可動役物５０４０は、初期状態において前面扉に収納されている。可動役物５０４０は、動作契機がＯＮになると、駆動機構の動作により上方に移動することで、初期位置から第１の稼働位置に移動する。これにより、可動役物５０４０は、トップユニットの上部から突出することになる。その後、所定位置まで移動すると、駆動機構の動作により可動役物５０４０の回転軸を軸にして回転することで、第１の稼働位置から第２の稼働位置に移動する。これにより、可動役物５０４０は、パチスロ機１の上方において前方側に傾くため、着席中の遊技者からの視認性が向上する。また、可動役物５０４０は、第２の稼働位置に移動した後に規定時間が経過すると、駆動機構により駆動され、第２の稼働位置から第１の稼働位置を経由して初期位置に移動し、動作を終了する。

【５１９４】

このような可動役物５０４０において、電源投入時の初期動作では、初期位置から第１の稼働位置への移動及び第１の稼働位置から第２の稼働位置への移動を実行するものの、第２の稼働位置において待機する時間尺を演出実行時の時間尺と異ならせる。これにより、筐体形状変形型の可動役物であっても、電源投入時に適切に動作確認を行うことができる。

【５１９５】

なお、同図では、可動式の液晶表示装置を用いることで、役物稼働時に非稼働時とは異なる液晶表示が可能になる例について説明したが、これに限られるものではない。例えば、トップユニットの背面に液晶表示装置を備え、トップユニット自体を上方に移動させることで、非稼働時にはトップユニットにより隠されていた液晶表示装置が、稼働時に現れることになるものであってもよい。

【５１９６】

また、上の説明では、可動役物が２つの動作を行う場合、第１の動作を行った後に第２の動作を行うものとして説明したが、第１の動作と第２の動作との順序は、任意である。例えば、第２の動作を行った後に第１の動作を行うものであってもよく、また、第１の動作と第２の動作とを同時に行うものであってもよい。具体的には、展開型の可動役物では、初期位置から稼働位置への移動（第１の動作）を行った後に、役物の展開（第２の動作）を行うものとしているが、例えば、初期位置から稼働位置に移動している最中の任意のタイミングから役物の展開を開始するなどしてもよい。また、筐体形状変形型の可動役物では、上方への直線移動（第１の動作）を行った後に、前方への回転（第２の動作）を行うものとしているが、例えば、前方への回転を行いつつ、上方への移動を行うものであってもよく、また、初めに、前方への回転を行った後に、上方への移動を行うものであって

もよい。

また、上の説明では最大で２つの動作を行う可動役物を例示したが、３つ以上の動作を行う可動役物であってもよく、この場合であっても、３つ以上の動作の順序は任意である。また、上の説明では可動役物が初期位置から稼働位置に移動する場合の動作について説明したが、可動役物が稼働位置から初期値に戻る動作についても同様に任意である。例えば、初期位置から稼働位置に移動する動作が第１の動作を行った後に第２の動作を行うものである場合、稼働位置から初期位置に戻る動作では第２の動作の逆動作を行った後に第１の動作の逆動作を行うようにしてもよいし、第１の動作の逆動作を行った後に第２の動作の逆動作を行うようにしてもよいし、第１の動作の逆動作と第２の動作の逆動作とを同時に行うようにしてもよい。

【５１９７】

（演出パターンが複数ある場合の初期動作）

なお、可動役物によっては、演出パターンが複数あることも考えられる。例えば、可動役物が初期位置から稼働位置に移動した後に初期位置に戻ることで終了する演出パターン１と、同じ可動役物が初期位置から第１の稼働位置に移動した後に第２の稼働位置に移動し、その後、第１の稼働位置を経由して（又は経由することなく）初期位置に戻ることで終了する演出パターン２とを含む、同一の可動役物を用いた複数の演出パターンを実行可能な遊技機が考えられる。

【５１９８】

このような遊技機の場合、制御回路は、複数の演出パターンのうちの１つの演出パターンについてのみ可動役物の初期動作を行うこととしてもよく、また、複数の演出パターンのうちの２以上の複数の演出パターンについては可動役物の初期動作を行うものの、一部については、可動役物の初期動作を行わないこととしてもよく、また、複数の演出パターンのうちの全ての演出パターンについて可動役物の初期動作を行うこととしてもよい。いずれの場合においても、演出パターンに対応した初期動作を行うが、上述の通り、一部の動作の時間尺を異ならせることが好ましい。なお、可動役物の動作確認とは、言い換えると、可動役物を駆動する駆動機構の動作確認であるため、第１０実施形態では、複数の演出パターンが同じ駆動機構を用いて行われるものである限り、複数の演出パターンのうちの１つの演出パターンについてのみ可動役物の初期動作を行う。一方で、複数の演出パターンの中に異なる駆動機構を用いる演出パターンが存在する場合には、この演出パターンについても初期動作を行う。

また、何れの演出パターンとも異なる専用のパターンで初期動作を行うこととしてもよい。すなわち、初期動作専用の動作パターンを設けることとしてもよい。例えば、演出パターンとして、初期位置から第１の位置を経由して稼働位置へ移動し、同じルートで初期位置に戻る演出パターン１と、初期位置から第２の位置を経由して稼働位置へ移動し、同じルートで初期位置に戻る演出パターン２とがある場合において、初期動作では、初期位置から第１の位置及び第２の位置を経由して稼働位置へ移動し、同じルートで初期位置に戻る初期動作に専用のパターンを設け、この専用のパターンで初期動作を行うこととしてもよい。

【５１９９】

また、同じ可動役物を用いた演出であっても、演出パターンによって遊技者に報知する内容が異なることも考えられる。例えば、演出パターン１と演出パターン２とでは、演出パターン１の方が遊技者にとって有利であることを報知する演出パターン、言い換えると、演出パターン１の方が期待度の高い演出パターンであるものとする。なお、期待度が高い／低いとは、比較する演出パターンにおいて相対的に期待度が異なれば足りるものの、期待度の高い演出パターンには、例えば、遊技者に対して特典を付与することが確定する演出パターンも含まれる。このようなケースにおいて、演出パターン１の可動役物の動作（高期待度）と、演出パターン２の可動役物の動作（低期待度）とで同じ駆動機構を用いる場合、第１０実施形態では、電源投入時の初期動作では、相対的に期待度の低い演出パターン２で可動役物を動作する。例えば、営業時間中に一時的な電断が生じてしまった場

合、復帰時に可動役物の初期動作が行われることもあり得る。このような場合に、期待度の高い演出パターンで動作させてしまうと、遊技者に対して、特典が付与されるとの誤解を与えてしまうおそれがある。この点、可動役物の初期動作は、可動役物の動作確認が目的であるため、期待度が低い演出パターンで動作させたとしても目的を達することができ、かつ、遊技中の一時的な電断からの復帰時に初期動作制御を行う場合であっても、初期動作に伴う遊技者の誤認を回避することができる。

ただし、一般的には期待度の高い演出パターン１は、期待度の低い演出パターン２よりも可動役物が大きく稼働する場合が多い。そのため、可動役物の動作確認という観点では、可動役物が大きく稼働する演出パターン１を初期動作として実行することが好ましく、遊技者の誤認リスクとのトレードオフの関係になっているため、優先度に応じて適宜設計するものとすればよい。

【５２００】

（可動役物が複数ある場合の初期動作）

また、遊技機によっては、可動役物自体が複数設けられていることも考えられる。例えば、第１の可動役物と第２の可動役物とを含む複数の可動役物を有する遊技機が考えられる。このような遊技機の場合、制御回路は、複数の可動役物のうちの１つの可動役物についてのみ初期動作制御を行うこととしてもよく、また、複数の可動役物のうちの２以上の複数の可動役物については初期動作制御を行うものの、一部の可動役物については初期動作制御を行わないこととしてもよく、また、複数の可動役物のうちの全ての可動役物について初期動作制御を行うこととしてもよい。

【５２０１】

なお、可動役物の動作確認とは、言い換えると、可動役物を駆動する駆動機構の動作確認であるため、第１０実施形態では、同じ駆動機構を用いる可動役物が複数存在する場合には、当該複数の可動役物のうちの１つの可動役物のみ初期動作を行い、当該複数の可動役物のうちの他の可動役物については初期動作を行わない。一方で、駆動機構が異なる可動役物については、それぞれに対して初期動作を行う。言い換えると、第１０実施形態では、制御回路は、駆動機構ごとに可動役物の初期動作を行う。

【５２０２】

また、複数の可動役物について初期動作を行う場合、初期動作における当該複数の可動役物の動作を同時に開始することとしてもよい。例えば、動作した場合であっても複数の可動役物が互いに干渉しない場合には、初期動作を同時に開始することができる。一方で、複数の可動役物について初期動作を行う場合に当該複数の可動役物を１つずつ順に動作させるものであってもよい。動作した場合に互いに干渉する複数の可動役物の場合に好適である。例えば、２つの可動役物を順に動作させる場合、電源が投入されると、１つ目の可動役物の初期動作を開始する一方で、他の可動役物については動作させずに待機する。そして、１つ目の可動役物の初期動作が終了すると、２つ目の可動役物の初期動作を開始する。もちろん、３つ以上の可動役物を順に動作させる場合についても予め定められた順序で動作させればよい。なお、動作した場合に互いに干渉しない複数の可動役物と、動作した場合に当該可動役物の少なくとも一部と互いに干渉する一又は複数の可動役物がある場合には、干渉しない複数の可動役物と、干渉する可動役物とに分けて、順に動作させることが好ましい。

【５２０３】

（移動以外の可動役物の動作）

上の説明では、可動役物の移動動作についてのみ着目して可動役物の初期動作について説明したが、可動役物の動作は移動に限るものではなく、例えば、可動役物によっては移動に加えて回転するものや、振動するものもある。このような可動役物については、少なくとも可動役物の移動は、初期動作時に行うものの、回転や振動は、初期動作時には行わないこととしてもよい。演出実行時に回転や振動が行えない場合であっても、可動役物が稼働位置（演出を実行する際の位置）にまで移動することができれば、可動役物を用いた演出としては最低限成立するためである。もちろん、初期動作時に回転や振動も合わせて

動作させることとしてもよい。初期動作時に可動役物を回転又は振動させる場合には、演出実行時に比べて時間尺を異ならせることとしてもよい。なお、回転の時間尺を異ならせるとは、例えば、可動役物を回転させる時間（又は回転数）を異ならせることであってもよく、また、可動役物の回転速度を異ならせることであってもよい。同様に、振動の時間尺を異ならせるとは、例えば、可動役物を振動させる時間（又は振動数）を異ならせることであってもよく、また、可動役物を振動させる速度を異ならせることであってもよい。

【５２０４】

（初期動作時の時間尺）

また、上の説明では、可動役物の初期動作時には、演出実行時に比べて時間尺を短くする例について説明したが、これに限られるものではなく、演出実行時に比べて時間尺を長くすることとしてもよい。すなわち、第１０実施形態における初期動作制御は、初期動作時には、演出実行時に比べて異なる時間尺で動作させればよく、時間尺を短くすることに限られない。例えば、演出実行時に稼働位置に滞在する時間が極端に短い可動役物の動作については、初期動作時に稼働位置に滞在する時間を若干長くとることで、動作確認をし易くすることができる。

【５２０５】

また、時間尺を異ならせる対象を、稼働位置に滞在する時間としているが、これに限られるものではなく、例えば、可動役物の移動速度を異ならせるものであってもよい。この場合においても、初期動作時の方が演出実行時よりも移動速度が速いものであってもよく、また、初期動作時の方が演出実行時よりも移動速度が遅いものであってもよい。演出実行時よりも初期動作時の移動速度を速くすることで、動作確認に係る時間を軽減することができる。また、演出実行時よりも初期動作時の移動速度を遅くすることで、可動役物の動作を入念に確認することができ、破損などに気づきやすくなる。

【５２０６】

（可動役物以外の初期動作）

また、上の説明では、電源投入時に初期動作を行う対象を可動役物としているが、他の演出手段についても電源投入時に初期動作を行うこととしてもよい。この場合においても、当該演出手段を制御する制御回路（主制御回路１００又は副制御回路２００）は、遊技進行に伴う演出実行時の演出と類似する演出内容で制御する一方で、当該演出を構成する演出のうちの少なくとも一部の演出の時間尺を異なるように、対象の演出手段における初期動作を制御する。例えば、遊技中に遊技者に対して特典を付与する場合に、遊技機の上部ランプやサイドランプを虹色で発光する演出を実行する遊技機では、電源投入時に制御回路は、上部ランプやサイドランプを虹色で発光することで電源投入時の動作確認を可能にする。この際に、虹色で発光する時間尺は、動作確認が可能な時間であればよいため、例えば、遊技実行中よりも短く（もちろん、長くてもよい）することができる。同様に、遊技中に遊技者に対して特典を付与する場合に、スピーカなどから特別な効果音を出力する遊技機の場合、電源投入時に制御回路は、当該特別な効果音を出力することで電源投入時の動作確認を可能にする。この際に、特別な効果音を出力する時間尺は、動作確認が可能な時間であればよいため、例えば、遊技実行中よりも短く（もちろん、長くてもよい）することができる。

【５２０７】

［ナビカスタム］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１におけるナビカスタムについて説明する。パチスロ機では、遊技者に対して有利な停止操作の態様を報知する有利状態（例えば、ＡＴやＡＲＴ）を実行することがある。第１０実施形態のパチスロ機１では、有利な停止操作の態様を報知する際の演出態様を遊技者がカスタマイズ可能になっている。この演出態様のうち、以下では、有利な停止操作の態様を音声で出力するナビボイスのカスタマイズに着目している。具体的には、「左、中、右」の押し順を報知する場合に、「左」という音声に続いて「中」という音声を出力し、最後に「右」という音声を出力するナビボイスパターンや、「レフト」という音声に続いて「センター」という音声を出力し、最後に「ライ

ト」という音声を出力するナビボイスパターンなどの複数のナビボイスパターンがあり、これらの中から遊技者が任意にナビボイスパターンをカスタマイズ可能になっている。なお、ナビボイスパターンをカスタマイズすることを「ナビカスタム」と表現する。このとき、第１０実施形態のパチスロ機１では、ナビカスタムの内容に応じて、ナビボイスから遊技者が有利な停止操作の態様を察知するタイミングが異なる点に特徴を有している。

【５２０８】

（ナビカスタム種別）

初めに、図４２８（Ａ）を参照して、ナビカスタムの種別について説明する。同図に示すように、第１０実施形態のパチスロ機１では、ナビカスタムＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄを含む複数のナビカスタム種別を有している。

【５２０９】

ナビカスタムＡは、演出に用いられるキャラクタがキャラクタＡであり、遊技者に対して有利な停止操作の態様を報知する際の音声が、キャラクタＡによるボイスパターンＡであるカスタム種別である。なお、ボイスパターンＡとは、「左を押して」という音声と「中を押して」という音声と「右を押して」という音声とが、報知対象の内部当籤役に応じた順序で出力されるボイスパターンをいう。例えば、「中、左、右」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合、最初に「中を押して」という音声が出力され、次に「左を押して」という音声が出力され、最後に「右を押して」という音声が出力される。また、演出に用いられるキャラクタとは、サブ表示装置２２０に常時表示されるキャラクタであってもよく、また、演出時に選択されたキャラクタが出現し易くなるものであってもよい。

【５２１０】

また、ナビカスタムＢは、演出に用いられるキャラクタがキャラクタＢであり、遊技者に対して有利な停止操作の態様を報知する際の音声が、キャラクタＢによるボイスパターンＢであるカスタム種別である。なお、ボイスパターンＢとは、「正解のリールは左」という音声と「正解のリールは中」という音声と「正解のリールは右」という音声とが、報知対象の内部当籤役に応じた順序で出力されるボイスパターンをいう。例えば、「右、中、左」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合、最初に「正解のリールは右」という音声が出力され、次に「正解のリールは中」という音声が出力され、最後に「正解のリールは左」という音声が出力される。

【５２１１】

また、ナビカスタムＣは、演出に用いられるキャラクタがキャラクタＣであり、遊技者に対して有利な停止操作の態様を報知する際の音声が、キャラクタＣによるボイスパターンＣであるカスタム種別である。なお、ボイスパターンＣとは、「いち」という音声と「に」という音声と「さん」という音声とが報知対象の内部当籤役に関係なく、「いち」「に」「さん」の順序で出力されるボイスパターンをいう。例えば、「左、中、右」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合、「右、左、中」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合の何れであっても、最初に「いち」という音声が出力され、次に「に」という音声が出力され、最後に「さん」という音声が出力される。

【５２１２】

また、ナビカスタムＤは、演出に用いられるキャラクタがキャラクタＤであり、遊技者に対して有利な停止操作の態様を報知する際の音声が、キャラクタＤによるボイスパターンＤであるカスタム種別である。なお、ボイスパターンＤとは、報知対象の内部当籤役に関係なく、音声の出力タイミングにおいて「ガウガウ」という音声が出力されるボイスパターンをいう。例えば、「左、中、右」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合、「中、右、左」の順が正解である役が内部当籤役として決定されている場合の何れであっても、最初の音声出力タイミングにおいて「ガウガウ」という音声が出力され、次の音声出力タイミングにおいて「ガウガウ」という音声が出力され、最後の音声出力タイミングにおいて「ガウガウ」という音声が出力される。

【５２１３】
ここで、ナビカスタムＡとナビカスタムＢとを比べると、操作すべきストップボタンの種別を報せるタイミングが異なることが分かる。すなわち、ナビカスタムＡのボイスパターンＡでは、「左を押して」などのように、音声の最初に「左」「中」「右」という操作すべきストップボタンの種別を示す単語が出現するため、遊技者は、ナビボイスが出音されると直ぐに操作すべきストップボタンの種別を察知することができる。一方で、ナビカスタムＢのナビパターンＢでは、「正解の押し順は左」などのように、音声の最後に「左」「中」「右」という操作すべきストップボタンの種別を示す単語が出現するため、遊技者は、ナビボイスが出音された直後は操作すべきストップボタンの種別を察知することができずに、察知するタイミングがナビパターンＡに比べて遅れる。

【５２１４】
また、ナビカスタムＡ、ＢとナビカスタムＣ，Ｄとを比べると、ナビカスタムＡ、Ｂは、出音するナビボイスに基づいて操作すべきストップボタンの種別を報せる一方で、ナビカスタムＣ，Ｄは、出音するナビボイスから操作すべきストップボタンの種別を報せることがないことが分かる。

なお、詳細については省略するが、遊技者に対する有利な停止操作の態様の報知は、ナビボイス以外の任意の演出手段によって行われる。例えば、メイン表示装置２１０において遊技者に対する有利な停止操作の態様を報知する表示を行う。そのため、ナビカスタムＣ，Ｄのように、出音するナビボイスからは操作すべきストップボタンの種別が分からない場合であっても、他の演出手段で行われる報知から、遊技者は、操作すべきストップボタンの種別を把握することができる。

【５２１５】
このように、第１０実施形態のパチスロ機１では、ナビカスタムに応じて遊技者が有利な停止操作の態様を察知するタイミングが異なるため、遊技性が多様化し、遊技の興趣が向上する。例えば、ナビカスタムＡのように操作すべきストップボタンの種別を報せるタイミングを早くすることで、遊技者は、スマートフォンなどの携帯端末を操作しながらであっても、スムーズに遊技を行うことができる。また、例えば、ナビカスタムＢのように操作すべきストップボタンの種別を報せるタイミングを遅くすることで、スムーズに遊技を行うと打順に応じた単語が出力されるよりも前に次の報知が開始されることになるため、遊技者以外の周りのユーザに成立した打順（内部当籤役）を知られずに済む。例えば、特定の停止操作の態様が正解である役が内部当籤役として決定される確率が設定値に応じて異なる場合、遊技者以外の周りのユーザに成立した打順（内部当籤役）を知られないようにすることで、ナビボイスだけで周りのユーザに設定看破されてしまうといったことを防止できる。また、例えば、ナビカスタムＣ、Ｄのように操作すべきストップボタンの種別を報せないようにすることで、ナビボイスだけで周りのユーザに設定看破されてしまうといったことを防止できる。

【５２１６】
続いて、図４２８（Ｂ）は、ナビボイスの出力についてのタイムチャートを示す図である。同図（ａ）は、ナビカスタムＡが選択された場合のボイスパターンＡによるナビボイス出力についてのタイムチャートであり、同図（ｂ）は、ナビカスタムＢが選択された場合のボイスパターンＢによるナビボイス出力についてのタイムチャートであり、同図（ｃ）は、ナビカスタムＣ，Ｄが選択された場合のボイスパターンＣ，Ｄによるナビボイス出力についてのタイムチャートである。また、タイミングＴ１とは、少なくとも第１停止操作前のタイミングであり、同図では、例えば、スタートレバーが操作されたタイミングとする。また、タイミングＴ２とは、第１停止操作が行われてから第２停止操作が行われるまでのタイミングであり、同図では、例えば、第１停止操作が行われたタイミングとする。また、タイミングＴ３とは、第２停止操作が行われてから第３停止操作が行われるまでのタイミングであり、同図では、例えば、第２停止操作が行われたタイミングとする。

また、タイミングｔ１は、ナビカスタムＡが選択された場合における第１停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングであり、タ

イミングｔ２は、ナビカスタムＡが選択された場合における第２停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングであり、タイミングｔ３は、ナビカスタムＡが選択された場合における第３停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングである。同様に、タイミングｔ１ａは、ナビカスタムＢが選択された場合における第１停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングであり、タイミングｔ２ａは、ナビカスタムＢが選択された場合における第２停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングであり、タイミングｔ３ａは、ナビカスタムＢが選択された場合における第３停止操作に対するナビボイスから遊技者が停止操作の態様（打順）を察知可能なタイミングである。

【５２１７】

同図に示すように、タイミングＴ１になると、ナビボイスが出力される。報知する有利な停止操作の態様が「右、中、左」である場合、ボイスパターンＡでは、タイミングＴ１において「右を押して」という音声が出力され、ボイスパターンＢでは、タイミングＴ１において「正解のリールは右」という音声が出力される。タイミングＴ１において報知する有利な停止操作の態様は「右」であるため、ボイスパターンＡでは、音声の最初に「右」が出力され、ボイスパターンＢでは、音声の最後に「右」が出力される。そのため、ボイスパターンＡを選択している場合には、遊技者は、タイミングｔ１に示すように、音声が出力された直後に有利な停止操作の態様を把握することができ、ボイスパターンＢを選択している場合には、遊技者は、タイミングｔ１ａに示すように、音声が出力された直後は有利な停止操作の態様を把握することはできず、ボイスパターンＢの音声が出力されてから一定時間経過した後に有利な停止操作の態様を把握可能になる。このように、第１０実施形態のパチスロ機１では、ナビカスタムに応じて遊技者が有利な停止操作の態様を察知するタイミングが異なる。

なお、タイミングＴ２，Ｔ３は、タイミングＴ１と同様であるため、説明は省略する。

【５２１８】

また、ボイスパターンＣでは、タイミングＴ１において「いち」という音声が出力され、ボイスパターンＤでは、「ガウガウ」という音声が出力される。タイミングＴ１において報知する有利な停止操作の態様は「右」であるものの、ボイスパターンＣ，Ｄでは、有利な停止操作の態様は、音声によっては出力しない。そのため、ナビカスタムＣ，Ｄが選択されている場合には、遊技者は、出音する音声から有利な停止操作の態様を把握することはできない（この場合は、遊技者は、メイン表示装置２１０などの他の演出手段で行われる報知に基づき有利な停止操作の態様を把握する）。

なお、タイミングＴ２，Ｔ３は、タイミングＴ１と同様であるため、説明は省略する。

【５２１９】

このように第１０実施形態のパチスロ機１では、有利な停止操作の態様を示す単語の出現順序を異ならせることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。なお、有利な停止操作の態様を把握するタイミングとは、便宜上、有利な停止操作の態様を示す単語の音声を出力し終えたタイミング（「左を押して」である場合には「ひだり」という音声を出力した後）として説明するが、実際には「左（ＨＩＤＡＲＩ）」「中（ＮＡＫＡ）」「みぎ（ＭＩＧＩ）」は、それぞれ一文字目の子音が異なるため、有利な停止操作の態様を示す単語の音声を出力した直後のタイミングを、有利な停止操作の態様を把握するタイミングとして考えることもできる。

【５２２０】

なお、上の説明では、有利な停止操作の態様を示す単語の出現順序を異ならせることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることとしているが、これに限られるものではない。例えば、音声を出力するタイミングを異ならせることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることとしてもよい。例えば、ナビカスタムＡもナビカスタムＢも「左を押して」「中を押して」「右を押して」のように同じメッセージを出力するものの、ナビカスタムＡによるボイスパターンの場合

には、ナビカスタムＢによるボイスパターンの場合よりも早いタイミング（例えば、１秒程度）で音声を出力することで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。また、音声の再生スピード（発音スピード）を異ならせることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることとしてもよい。例えば、ナビカスタムＡもナビカスタムＢも「左」「中」「右」のように同じメッセージを出力するものの、ナビカスタムＡによるボイスパターンの場合には、再生開始から再生終了までに１秒かかる一方で、ナビカスタムＢによるボイスパターンの場合には、再生開始から再生終了までに３秒かかるようにすることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。この場合、同一の音声データの再生スピードを変化させて再生スピードを異ならせるようにしてもよく、音声データ自体をそれぞれ別で持つものとしてもよい。

このように出現順序、出力タイミング及び再生スピードを異ならせることで、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができるが、これらは単独で採用するものであってもよく、また、２又は３の仕様を任意に組み合わせて採用することとしてもよい。

【５２２１】

（カスタム方法）

続いて、遊技者によるボイスパターンのカスタム方法の一例について説明する。第１０実施形態のパチスロ機１では、パチスロ機１のメニュー画面からボイスパターンのカスタマイズを行うことができるとともに、スマートフォンなどの遊技者の携帯端末からもボイスパターンのカスタマイズを行うことができる。パチスロ機１のメニュー画面からボイスパターンのカスタマイズを行う場合、例えば、メイン表示装置２１０又はサブ表示装置２２０にメニュー画面を呼び出し、このメニュー画面内の「カスタム」欄からボイスパターンのカスタマイズを行うことができる。また、遊技者の携帯端末からもボイスパターンのカスタマイズを行う場合、携帯端末にインストールされた遊技機連動のアプリケーション（例えば、「ユニメモ」）内でボイスパターンのカスタマイズを行うことができる。なお、遊技者の携帯端末のアプリケーション内でカスタマイズした内容は、例えば、カスタマイズ後に、当該アプリケーションにおいてパスワードを発行し、このパスワードをパチスロ機１に入力することで、パチスロ機１に反映することができる。

【５２２２】

また、ナビカスタムは、カスタム画面において、キャラクタを選択することで行うものであってもよく、また、ボイスパターンを選択することで行うものであってもよい。前者の例では、キャラクタ毎にボイスパターンが設定されており、キャラクタを選択すると、キャラクタに紐づいたボイスパターンが決定されることで、ナビカスタムを行うものである。また、後者の例では、遊技者にボイスパターン自体を選択させることで、ナビカスタムを行うものである。例えば、「左を押して」「中を押して」「右を押して」というボイスパターンＡと、「正解のリールは左」「正解のリールは中」「正解のリールは右」というボイスパターンＢとを含む複数のボイスパターンを選択可能に用意しておき、遊技者からの選択を受け付けることで、ナビカスタムを行うものである。

また、キャラクタやボイスパターンの選択のタイミングにおいて、選択決定前に各キャラクタ又は各ボイスパターンによる音声（セリフ）を出力可能にしてもよい。このようにすることで、遊技者は、実際に遊技を開始するまでもなく好みのキャラクタ又はボイスパターンを選択することができるため、遊技の興趣が向上する。

【５２２３】

なお、本特徴は、ナビボイスとして出力する音声により、遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせるものであり、必ずしも遊技者によるキャラクタやボイスパターンの選択を必要とするものではない。例えば、遊技状態や演出ステージに対してナビボイスが対応付けられており、遊技状態や演出ステージが変わることでナビボイス（遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミング）を異ならせるものであってもよい。

具体的には、遊技者にとって相対的に不利な遊技状態（例えば、通常時）にはボイスパターンＡが対応付けられ、遊技者にとって相対的に有利な遊技状態（例えば、ＡＴ中）にはボイスパターンＢが対応付けられ、遊技者にとって相対的に有利な遊技状態の継続期間を延長可能な特別な遊技状態（例えば、特化ゾーン中）にはボイスパターンＣが対応付けられているものであれば、遊技状態に応じて遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。同様に、ＡＴ中に遊技者の有利度合いが異なる複数の段階を設け、これらの段階に応じて演出ステージが異なるものである場合、最も有利度合いの低い演出ステージに対してボイスパターンＡを対応付け、次に有利度合いの低い演出ステージに対してボイスパターンＢを対応付け、最も有利度合いの高い演出ステージに対してボイスパターンＣを対応付けることで、演出ステージに応じて遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。なお、ＡＴ中の有利度合いは任意であるが、例えば、ＡＴの継続期待度であってもよく、また、ＡＴ中の純増枚数であってもよい。また、ＡＴ中にボーナスに当籤した場合や特化ゾーンに当籤した場合に、直ぐにボーナスや特化ゾーンに移行することなく現在のＡＴをそのまま継続し続ける仕様もあるが、このような仕様の場合には、ボーナスや特化ゾーンに内部的に当籤している状態と、ボーナスや特化ゾーンに内部的に当籤していない状態と、でボイスパターンを異ならせることで、遊技状態に応じて遊技者が有利な停止操作の態様を把握するタイミングを異ならせることができる。

【５２２４】

また、上述の例では、ボイスパターンとして、押し順によって有利／不利が生じる押し順役に対するナビボイスを例にとり説明したが、パチスロ機によっては、押し順役以外にもナビ対象の役を設けることがある。例えば、特定の停止操作の順序で７図柄を狙わせ、７図柄が揃った場合に遊技者に対して特典を付与し、７図柄が揃わない場合には特典を付与しない、所謂７図柄揃い役のナビを行うことがある。このような７図柄揃い役のナビについても、複数のボイスパターンを設けるものであってもよい。例えば、単に「狙え」といったナビを行うボイスパターンや、「７を狙え」といったナビを行うボイスパターンや、「右から狙え」といったナビを行うボイスパターンや、「右から７を狙え」といったナビを行うボイスパターンを設けることとしてもよい。なお、何れのボイスパターンであっても、右リールから順に７図柄を狙わせることを示唆するものであるため、スピーカ以外の他の演出手段（液晶表示装置やランプなど）においても、ナビボイスと合わせて右リールから順に７図柄を狙わせることを示唆するナビが行われる。

【５２２５】

なお、押し順役に対するナビボイスと、７図柄揃い役に対するナビボイスとは、予め対応関係が規定されており、遊技者がそれぞれのナビボイスを個別に選択できないように構成するものであってもよく、また、反対に、押し順役に対するナビボイスと、７図柄揃い役に対するナビボイスとは、対応しておらず、遊技者がそれぞれのナビボイスを個別に選択できるように構成するものであってもよい。

これら押し順役に対するナビボイスと、７図柄揃い役に対するナビボイスとを組み合わせることで、様々なコンセプトに合わせて自由な設計が可能になる。

【５２２６】

例えば、押し順役に対するナビボイスであるボイスパターンＡ「左を押して」「中を押して」「右を押して」は、ボイスパターンＢ「正解のリールは左」「正解のリールは中」「正解のリールは右」に比べて短く簡潔なナビボイスであり、反対にボイスパターンＢは、ボイスパターンＡに比べて派手なナビボイスであるといえる。同様に、７図柄揃い役に対するナビボイスの「狙え」と、「右から７を狙え」とでは、前者は短く簡潔なナビボイスであり、後者は、派手なナビボイスであるといえる。

【５２２７】

この場合において、押し順役における簡潔なボイスパターンと、７図柄揃い役における簡潔なボイスパターンとを組合せることで（簡潔／簡潔）、ナビが行われる場合には簡潔なボイスパターンの音声が出力されるため、他の遊技者からの視線が気になる遊技者や冗

長な演出を嫌う遊技者に最適な組み合わせになり得る。

【５２２８】

また、押し順役における派手なボイスパターンと、７図柄揃い役における派手なボイスパターンとを組合せることで（派手／派手）、ナビが行われる場合には行うべき停止操作の内容を丁寧に示すボイスパターンの音声が出力されるため、遊技初心者でも安心して遊技を行うことができ、ミスをし難い親切な組み合わせになり得る。

【５２２９】

また、押し順役における簡潔なボイスパターンと、７図柄揃い役における派手なボイスパターンとを組合せることもできる（簡潔／派手）。押し順役に対するナビと、７図柄揃い役に対するナビとでは、通常、後者の方が遊技者にとって期待度が高く、また、出現する頻度が低い。そのため、押し順役における簡潔なボイスパターンと、７図柄揃い役における派手なボイスパターンとを組合せることで、出現頻度が高く期待度が低い押し順役に対するナビが簡潔な態様で行われるため、遊技者が煩わしさを感じることがない。一方で、出現頻度が低く期待度が高い７図柄揃い役に対するナビについては、派手な態様で行われるため、メリハリのある遊技性を持たせることができる。

【５２３０】

また、押し順役における派手なボイスパターンと、７図柄揃い役における簡潔なボイスパターンとを組合せることもできる（派手／簡潔）。押し順役に対するナビを停止操作の内容を丁寧に示すボイスパターンにすることで、例えば、出玉に直結する押し順ベルなどの操作ミスをし難い設定にすることができる。一方で、７図柄揃い役に対するナビは、そもそも出現頻度が低いため、遊技者からするとナビが行われた時点で慎重に対応することになる。そのため、７図柄揃い役に対するナビの発生時に周囲の注目を集めたくない遊技者にとっては、当該ナビを簡潔にすることで安心して遊技を行うことができる。

【５２３１】

［パスワード入力に関する操作音］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１におけるパスワード入力に関する操作音について説明する。上述のように遊技者の携帯端末からカスタマイズを受け付ける場合など遊技者の携帯端末とパチスロ機１とを連携する場合、パチスロ機１にパスワードを入力する必要がある。パチスロ機１へのパスワードの入力は、機種に応じて任意に行われるものであるが、例えば、タッチパネルを用いてパスワードを入力するタッチパネル式の遊技機や、入力キーを用いてパスワードを入力するキー操作式の遊技機が知られている。図４２９（Ａ）は、パチスロ機１に表示されるパスワードの入力画面の一例を示す図であり、同図（ａ）は、タッチパネル式のパスワード入力画面を示し、同図（ｂ）は、キー操作式のパスワードの入力画面を示す。なお、同図では、パスワードとして４桁の数字を用いる例を示している。

【５２３２】

同図（ａ）に示すように、タッチパネル式のパスワード入力画面では、タッチパネルを備える表示装置に数字入力のためのキーボードを表示し、入力したいキーに対するタッチ操作を受け付けることで、パスワードの入力を可能にする。このタッチパネル式の入力方式では、遊技者は、パスワードに対応する文字（数字）の入力、全てのパスワード（４桁の数字）の入力を確定する「決定」ボタンの入力、及び、入力した文字（数字）が誤りである場合に操作する「一文字戻る」ボタンの入力を行うことになる。なお、同図では、入力した文字（数字）が誤りである場合に操作する「一文字戻る」ボタンとして、直前に入力した１つの文字（数字）を消去する例を示しているが、消去する文字（数字）は、直前の１つに限るものではなく、それまでに入力した全ての文字（数字）であってもよい。例えば、「一文字戻る」ボタンに代えて（又は加えて）「キャンセル」ボタンを備え、この「キャンセル」ボタンが操作された場合には、それまでに入力した全ての文字（数字）が消去されるものであってもよい。

【５２３３】

同図（ｂ）に示すように、キー操作式の遊技機では、表示装置に数字入力のためのキー

ボード及びカーソル５１００を表示するとともに、カーソル５１００を操作可能な入力部を、遊技者が操作可能な位置に設ける。同図に示す例では、入力部として、カーソル５１００を上下左右に移動可能な十字キーと、カーソル５１００が選択している内容を入力する決定キーとを備える。キー操作式のパスワード入力画面では、遊技者は、十字キーを用いてカーソル５１００を操作し、その後、決定キーを用いてカーソル５１００が選択している内容を入力する。そして、規定数の文字（４桁の数字）を入力した後に、決定キーを操作することで、又は、表示装置に表示された「決定」ボタンにカーソル５１００を合わせて決定キーを操作することで、パスワードの入力が完了する。なお、後者のように、パスワードの入力完了に、表示装置に表示された「決定」ボタンの操作を必要とする場合には、規定数の文字を入力するとカーソル５１００が自動的に「決定」ボタンに選択するように、カーソル５１００を移動させることが好ましい。また、入力した文字（数字）が誤りである場合には、タッチパネル式と同様に、「一文字戻る」ボタンや「キャンセル」ボタンを用いて入力した文字（数字）を消去する。

【５２３４】

（パスワード入力音の音量）

続いて、同図（Ｂ）は、パスワード入力の操作音量の関係性を示す図である。上述のように、パスワードは、パスワードの文字入力、入力したパスワードの文字消去、及び入力したパスワードの決定という操作から入力される。そのため、パスワード入力時には、それぞれに対応した操作音が出力される。具体的には、文字入力時の操作音と、文字消去時の操作音と、「決定」操作時の操作音とが出力される。なお、キー操作式の遊技機である場合、文字入力時の操作音には、カーソル５１００を移動させる際の操作音（十字キー操作に伴う操作音）と、カーソル５１００が選択している内容を入力する際の操作音（決定キー操作に伴う操作音）とが含まれる。第１０実施形態のパチスロ機１では、これらの操作音の音量を大きい方から順に、「決定」操作時の操作音、文字入力時の操作音、文字消去時の操作音とし、文字消去時の操作音を最も小さな音量で出力する。これにより、パスワードの入力を間違えてしまった場合に、その入力ミスを周りの遊技者に気づかれ難くすることができる。

【５２３５】

なお、文字入力時の操作音と、文字消去時の操作音と、「決定」操作時の操作音とは、全て同じ操作音（音の種類）であってもよく、また、全て異なる操作音であってもよく、また、一部は同じ操作音であるが、その他は異なる操作音であってもよい。また、遊技機によっては、遊技者が遊技音などの音量を調整可能になっている機種もあるが、操作音の音量は、遊技者が調整した音量に応じた音量であってもよく、また、エラー音などと同様に音量調節とは関係なく、一律の音量としてもよい。また、遊技機のホールメニューなどにおいて管理者が操作音の音量を設定可能としてもよい。

【５２３６】

このように第１０実施形態のパチスロ機１では、文字消去時の操作音を最も小さな音量に制御するものであるが、文字消去時の操作音は、文字入力時の操作音及び「決定」操作時の操作音だけでなく、その他の操作音と比較しても小さな音量に制御することとしてもよい。その他の操作音としては、例えば、メニュー画面を開く際の操作音（メニュー画面を呼び出す音）や、メニュー画面内のメニューから項目を選択する際の操作音や、メニュー画面においてカーソルが移動する際の操作音などであってよい。また、キー操作式の遊技機の場合、パスワード入力におけるカーソルの移動音や決定キーの操作音は、他の状況におけるカーソルの移動音や決定キーの操作音（例えば、メニュー画面内でメニュー項目を選択する際の操作音）に比べて、同じキー操作であっても音量を小さくしてもよく、また、パスワード入力ではレスポンスの重要度が高いため、反対に、同じキー操作であっても音量を大きくしてもよく、また、同じ音量としてもよい。また、キー操作式の遊技機の場合、パスワード入力におけるカーソルの移動音や決定キーの操作音として、他の状況におけるカーソルの移動音や決定キーの操作音とは異なる操作音（音の種類）を用いることとしてもよく、また、同じ操作音としてもよい。

また、第１０実施形態のパチスロ機１では、文字消去時の操作音を最も小さな音量に制御するものであるが、最も小さな音量としては、無音を含むものであってもよい。この場合において、文字入力時の操作音や「決定」操作時の操作音についても同様に無音としてもよいが、「決定」操作時の操作音は、パスワード入力の完了操作であるため、「決定」操作時の操作音のみは少なくとも何らかの効果音を出力するようにすることが好ましい。

【５２３７】

［ストップボタンのランプ制御］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１におけるストップボタンのランプ制御について説明する。通常、パチスロ機では、ストップボタンを所定の色で発光させることで、ストップボタンを操作不可能な状態（対応するリールに対する停止操作が不可能な状態）であることと、ストップボタンを操作可能な状態（対応するリールに対する停止操作が可能な状態）であることとを区別可能に制御している。

【５２３８】

初めに、図４３０を参照して、通常のパチスロ機における基本的なストップボタンのランプ制御について説明する。図４３０は、基本的なストップボタンのランプ制御のタイムチャートを示す図であり、左のストップボタン、中のストップボタン、右のストップボタンの順に停止操作が行われている。

なお、同図において「左」「中」「右」とは、左のストップボタン、中のストップボタン、右のストップボタンを意味し、「赤」「青」とは、ランプ制御において対応するストップボタンを赤又は青で発光させることを意味する。この点は、後述する図４３２及び図４３３についても同様である。

【５２３９】

同図に示すように、パチスロ機の制御回路（主制御回路又は副制御回路）は、スタートレバーが操作されリールの回転が開始しても定速回転になるまでは、各ストップボタンの色を「赤」のまま維持する。続いて、リールが定速回転になると、制御回路は、各ストップボタンの色を「赤」から「青」に変更する。すなわち、同図では、「赤」は、ストップボタンを操作不可能な状態（対応するリールに対する停止操作が不可能な状態）であることを意味し、「青」は、ストップボタンを操作可能な状態（対応するリールに対する停止操作が可能な状態）であることを意味する。

【５２４０】

リールが定速回転になると、制御回路は、停止操作が行われるまで、各ストップボタンの色を「青」のまま維持する。続いて、第１停止操作が行われると、第１停止操作が行われた左のストップボタンの色を「青」から「赤」に変更する。このとき、中のストップボタン及び右のストップボタンは操作されていないため、制御回路は、中のストップボタン及び右のストップボタンの色を「青」のまま維持する。

【５２４１】

第１停止操作が行われると、制御回路は、第２停止操作が行われるまで、各ストップボタンの色を現状のまま維持する。続いて、第２停止操作が行われると、第２停止操作が行われた中のストップボタンの色を「青」から「赤」に変更する。このとき、左のストップボタンは既に操作されており、また、右のストップボタンは操作されていないため、制御回路は、左のストップボタンの色を「赤」のまま維持し、また、右のストップボタンの色を「青」のまま維持する。

【５２４２】

第２停止操作が行われると、制御回路は、第３停止操作が行われるまで、各ストップボタンの色を現状のまま維持する。続いて、第３停止操作が行われると、第３停止操作が行われた右のストップボタンの色を「青」から「赤」に変更する。このとき、左のストップボタン及び中のストップボタンは既に操作されているため、制御回路は、左のストップボタン及び中のストップボタンの色を「赤」のまま維持する。

【５２４３】

そして、第３停止操作に伴い全てのリールの回転が停止することで、１回の遊技におけ

るストップボタンのランプ制御が終了する。なお、制御回路は、第３停止操作が行われた後は次遊技の開始操作（スタートレバーの操作）の後の定速回転まで各ストップボタンの色を「赤」のまま維持する。

ところで、近年のパチスロ機では、予め定められた実行条件が成立した場合に、遊技の進行を所定期間停止させる（遊技者の遊技操作を所定期間無効にする）演出を行うことがある。このような演出は、「ロック演出（あるいは単に「ロック」）」と称される他、「フリーズ演出（あるいは単に「フリーズ」）」等とも称され、以下では、フリーズ演出と呼ぶ。

【５２４４】

このようなフリーズ演出では、遊技者の遊技操作が所定期間無効になるため、フリーズ演出中は、停止操作を行うことができない。そのため、停止操作が可能／不可能に応じてストップボタンのランプを制御してしまうと、ストップボタンの色からフリーズ発生の有無が予め把握されてしまい、フリーズ演出という遊技者に強い驚きを与える演出の効果を損ねてしまう。第１０実施形態のパチスロ機１におけるストップボタンのランプ制御は、フリーズ演出時のランプ制御に特徴を有している。

【５２４５】

（フリーズ演出の遊技例）

図４３１は、フリーズ演出の一例を説明するための図であり、成功時にフリーズが発生するチャンスゾーンの遊技の流れを示す図である。なお、同図に示す例は、フリーズ演出の一例に過ぎず、本ランプ制御は、他の演出に対しても適用可能である。また、同図では、チャンスゾーン中の１回の遊技の流れを示している。

【５２４６】

このチャンスゾーン中では、遊技者からの開始操作を受け付けると（ステップＳ２００１）、主制御回路１００は、開始操作に伴う各種の処理（例えば、リールの回転開始や、内部当籤役の決定など）を行うとともに、チャンスゾーン（ＣＺ）の当否を判定する（ステップＳ２００２）。チャンスゾーンの当否判定とは、チャンスゾーンに成功するか否かを判定することを意味し、例えば、当籤の場合にはチャンスゾーンに成功し、遊技者に何らかの特典を付与する一方で、非当籤の場合には、今回の遊技ではチャンスゾーンに成功せず、今回の遊技では遊技者に特典を付与しないことをいう。また、チャンスゾーンの当否判定は任意に行うことができ、例えば、当該遊技の内部当籤結果に基づいて行うこととしてよく、各当籤結果のそれぞれにチャンスゾーンの成功確率が予め設定され、成功確率に応じて抽籤を行うものとすればよい。例えば、所謂レア役でのみ成功抽籤が行われる（レア役以外の成功確率は０％で設定される）ものとし、レア役の種類や、強弱によって異なる期待度を設定することができる。更に、レア役の一部や、所謂確定役ではチャンスゾーンの成功が確定する（成功確率が１００％で設定される）ものとしてもよい。成功確率の設定についてはこの限りではなく、リプレイ役やベル役、ハズレなどのレア役以外の当籤役に対しても０％よりも高い成功確率を設定し、あらゆる当籤結果に期待が持てる構成としてもよい。

【５２４７】

チャンスゾーンの当否判定において非当籤と判定された場合には、フリーズ演出は行われないため、主制御回路１００は、当該遊技における必要な他の処理（例えば、停止操作に伴うリール停止など）を行い、今回の遊技を終了する。

【５２４８】

一方で、チャンスゾーンの当否判定において当籤と判定された場合には、主制御回路１００は、続いて、フリーズ演出を実行するタイミングであるフリーズタイミングを決定する（Ｓ２００３）。同図の例では、フリーズタイミングとして、第１停止時、第２停止時、第３停止時及び第３停止後を設けているが、これに限るものではなく、他のタイミングでフリーズ演出を実行するものであってもよい。なお、第１停止時とは、開始操作が行われてから第１停止操作が行われるまでの間であればよく、同様に、第２停止時とは、第１停止操作が行われてから第２停止操作が行われるまでの間であればよく、また、第３停止

時とは、第２停止操作が行われてから第３停止操作が行われるまでの間であればよく、また、第３停止後とは、第３停止操作が行われてから次遊技の開始操作が行われるまでの間であればよい。

【５２４９】

続いて、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第１停止時が決定されたか否かを判定し（Ｓ２００４）、フリーズタイミングとして第１停止時が決定されている場合には、遊技者の遊技操作を所定期間無効にするフリーズ制御を行う（Ｓ２００５）。一定期間のフリーズ制御の後、主制御回路１００は、フリーズを解除し、続いて、当該遊技における必要な他の処理（例えば、停止操作に伴うリール停止など）を行い、今回の遊技を終了する。

【５２５０】

他方、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第１停止時が決定されていない場合には、第１停止操作を受け付け（Ｓ２００６）、第１停止操作に伴い対応するリールの回転を停止する。続いて、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第２停止時が決定されたか否かを判定し（Ｓ２００７）、フリーズタイミングとして第２停止時が決定されている場合には、遊技者の遊技操作を所定期間無効にするフリーズ制御を行う（Ｓ２００８）。一定期間のフリーズ制御の後、主制御回路１００は、フリーズを解除し、続いて、当該遊技における必要な他の処理（例えば、停止操作に伴うリール停止など）を行い、今回の遊技を終了する。

【５２５１】

他方、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第２停止時が決定されていない場合には、第２停止操作を受け付け（Ｓ２００９）、第２停止操作に伴い対応するリールの回転を停止する。続いて、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第３停止時が決定されたか否かを判定し（Ｓ２０１０）、フリーズタイミングとして第３停止時が決定されている場合には、遊技者の遊技操作を所定期間無効にするフリーズ制御を行う（Ｓ２０１１）。一定期間のフリーズ制御の後、主制御回路１００は、フリーズを解除し、続いて、当該遊技における必要な他の処理（例えば、停止操作に伴うリール停止など）を行い、今回の遊技を終了する。

【５２５２】

他方、主制御回路１００は、フリーズタイミングとして第３停止時が決定されていない場合には、第３停止操作を受け付け（Ｓ２０１２）、第３停止操作に伴い対応するリールの回転を停止する。続いて、主制御回路１００は、遊技者の遊技操作を所定期間無効にするフリーズ制御を行う（Ｓ２０１３）。一定期間のフリーズ制御の後、主制御回路１００は、フリーズを解除し、続いて、当該遊技における必要な他の処理（例えば、メダルの払い出しや次遊技に対するＢＥＴ操作の受付許可など）を行い、今回の遊技を終了する。

【５２５３】

（フリーズ発生時のストップボタンのランプ制御）

続いて、図４３１で例示したフリーズ演出を用いて、第１０実施形態のパチスロ機１におけるフリーズ発生時のストップボタンのランプ制御について説明する。図４３２（Ａ）は、フリーズタイミングが第１停止時である場合のストップボタンのランプ制御を示す図であり、同図（ａ）は、比較として従来の遊技機におけるストップボタンのランプ制御を示し、同図（ｂ）は、第１０実施形態のパチスロ機１におけるストップボタンのランプ制御（本制御）を示す。また、図４３３（Ｂ）は、フリーズタイミングが第２停止時である場合のストップボタンのランプ制御を示す図であり、同図（ａ）は、比較として従来の遊技機におけるストップボタンのランプ制御を示し、同図（ｂ）は、第１０実施形態のパチスロ機１におけるストップボタンのランプ制御を示す。なお、フリーズタイミングが第３停止時である場合のストップボタンのランプ制御は、フリーズタイミングが第２停止時である場合のストップボタンのランプ制御と基本的には同じであり、第２停止操作を第３停止操作と読み替えるなどすれば足りるため、説明を省略する。

【５２５４】

図４３２（Ａ）（ａ）（ｂ）に示すように、比較例及び本制御ではともに、パチスロ機の制御回路（主制御回路又は副制御回路）は、スタートレバーが操作されリールの回転が開始しても定速回転になるまでは、各ストップボタンの色を「赤」のまま維持する。フリーズタイミングが第１停止時である場合、リールが定速回転になっても第１停止操作を行うことができないため、同図（ａ）の比較例に示すように、通常、制御回路は、リールが定速回転になった後もフリーズが解除されて第１停止操作が可能になるまでは、各ストップボタンの色を「赤」のまま維持する。遊技者からすると、このような比較例に示す制御では、定速回転になったにも関わらずストップボタンが「赤」のままであるため、フリーズが発生することを予め把握できてしまい、フリーズに対する遊技者の興趣を軽減してしまう。

【５２５５】

これに対して、本制御では、フリーズが発生しない場合の通常のランプ制御（図４３０）と同様に、フリーズタイミングが第１停止時であってもリールが定速回転になると、制御回路は、各ストップボタンの色を「赤」から「青」に変更する。ストップボタンが「青」に変わったため、遊技者は、停止操作を行うことになるが、実際にはフリーズが発生しているため、停止操作が無効化されてしまう。その結果、本制御では、遊技者がフリーズに対して警戒することなく停止操作を行ったにも関わらず、実際にはフリーズが発生することがあり、フリーズに対する遊技者の興趣を高めることができる。

このように比較例と本制御とでは、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまでの各ストップボタンのランプ制御が異なる。具体的には、比較例では、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまで同図（ａ）の破線囲み部分に示すように、各ストップボタンは「赤」に制御される一方で、本制御では、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまでの間も同図（ｂ）の破線囲み部分に示すように、各ストップボタンは「青」に制御される。

【５２５６】

続いて、図４３３（Ｂ）を参照して、フリーズタイミングが第２停止時である場合のランプ制御について説明する。同図（ａ）（ｂ）に示すように、比較例及び本制御ではともに、パチスロ機の制御回路は、スタートレバーが操作されリールの回転が開始しても定速回転になるまでは、各ストップボタンの色を「赤」のまま維持する。続いて、リールが定速回転になると、制御回路は、各ストップボタンの色を「赤」から「青」に変更する。リールが定速回転になった後、制御回路は、第１停止操作が行われるまで、各ストップボタンの色を「青」のまま維持する。続いて、第１停止操作が行われると、第１停止操作が行われた左のストップボタンの色を「青」から「赤」に変更する。

【５２５７】

このとき、フリーズタイミングが第２停止時であるため、第１停止操作が行われた後の一定期間（フリーズ中）は、遊技者の停止操作が無効化される。そのため、同図（ａ）の比較例に示すように、通常、制御回路は、停止操作が行われた左のストップボタンの色だけでなく、停止操作が未だ行われていないものの停止操作が不可能な中のストップボタン及び右のストップボタンの色も「青」から「赤」に変更する。遊技者からすると、このような比較例に示す制御では、停止操作が未だ行われていないにも関わらず、フリーズ中は中のストップボタン及び右のストップボタンが「赤」に変更されたまま維持されるため、フリーズが発生することを予め把握できてしまい、フリーズに対する遊技者の興趣を軽減してしまう。

【５２５８】

これに対して、本制御では、停止操作が行われた左のストップボタンの色は「青」から「赤」に変更する一方で、停止操作が未だ行われていない中のストップボタン及び右のストップボタンについては、フリーズ発生に伴い無効化されているものの「青」のまま維持する。すなわち、本制御では、フリーズが発生する場合であっても、フリーズが発生しない場合の通常のランプ制御（図４３０）と同様に、ストップボタンの色を「青」にする。遊技者からすると、ストップボタンが「青」であるため、停止操作を行うことになるが、

実際にはフリーズが発生しているため、停止操作が無効化されてしまう。その結果、本制御では、遊技者がフリーズに対して警戒することなく停止操作を行ったにも関わらず、実際にはフリーズが発生することがあり、フリーズに対する遊技者の興趣を高めることができる。

このように比較例と本制御とでは、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまでの各ストップボタンのランプ制御が異なる。具体的には、比較例では、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまで同図（ａ）の破線囲み部分に示すように、中のストップボタン及び右のストップボタンは「赤」に制御される一方で、本制御では、フリーズが発生してからフリーズが解除されるまでの間も同図（ｂ）の破線囲み部分に示すように、中のストップボタン及び右のストップボタンは「青」に制御される。

【５２５９】

（フリーズ発生時の演出制御）

また、パチスロ機１では、フリーズ発生時には、液晶表示装置やその他の演出手段を用いてフリーズ発生に伴う演出を行うこととしてもよい。このようなフリーズ発生に伴う演出は、任意のタイミングで行うことができ、例えば、制御回路は、フリーズが発生してから所定時間経過した後にフリーズ発生に伴う演出を行うこととしてもよく、また、フリーズ発生中に遊技者から受け付けた停止操作に応じてフリーズ発生に伴う演出を行うこととしてもよい。また、これらを組み合わせて、フリーズ発生中に遊技者から停止操作を受け付けた場合には、遊技者から受け付けた停止操作に応じてフリーズ発生に伴う演出を行い、フリーズ発生中に遊技者から停止操作を受け付けることなく所定時間が経過した場合には、フリーズが発生してから所定時間経過した後にフリーズ発生に伴う演出を行うこととしてもよい。

【５２６０】

なお、フリーズ発生中は、遊技者の停止操作は無効化されるものの、この無効化とは、遊技操作に伴う遊技の進行を無効化することであり、停止操作に伴う停止制御を無効化すれば足りるため、制御回路は、ストップボタンに応じたストップスイッチのＯＮ／ＯＦＦを監視することで、フリーズ発生中の停止操作の有無を把握することができる。このように、フリーズ発生中に遊技者から受け付けた停止操作に応じてフリーズ発生に伴う演出を行うことで、停止操作を行ったにも関わらずリールが停止しないことに違和感を得た後の適切なタイミングで、遊技者を驚かせるための演出を行うことができ、フリーズに対する遊技者の興趣を高めることができる。

【５２６１】

（フリーズ発生時の演出例）

上述のフリーズが発生してから所定時間経過した後に行うフリーズ発生に伴う演出の一例について説明する。例えば、チャンスゾーン開始とともに、敵キャラクタと味方キャラクタとが対峙する映像演出が行われる。開始操作によって役抽籤が行われ、成功抽籤に非当籤の遊技における演出パターンは、特に演出が行われない場合や、各操作をトリガーとして敵キャラクタに対して攻撃するものの敵キャラクタに跳ね返されてしまう演出が行われる場合や、敵キャラクタから攻撃される演出、まとめると敵キャラクタを倒せない演出が行われる。一方で、成功抽籤に当籤し、フリーズタイミングが第１停止操作時に決定された場合の演出は、開始操作に応じてフリーズを発生させるとともに、成功抽籤に非当籤時と同様に敵キャラクタに攻撃を開始する。このとき、例えば、成功抽籤に当籤している場合には、攻撃がヒットし、成功抽籤に非当籤している場合には、敵キャラクタが攻撃を跳ね返す演出が行われるものであるが、フリーズ発生中のため、映像演出が進行しない。遊技者からすると、第１停止操作（詳細には、無効化されている停止ボタンを操作した）にも関わらず演出が進行せず、また、リールも停止しないことからフリーズが発生していること（つまりチャンスゾーンの成功）を察知する。その後、フリーズ解除より前に敵キャラクタに勝利する演出を開始し、当該演出中に所定時間の経過によってフリーズが解除され、停止操作が可能となる。この場合、停止操作に応じた演出は特に行われない。この演出パターンに限らず、例えば、開始操作で演出を行わずにフリーズ発生させ、その後は

上と同じ演出パターンとすることで、遊技者に更に驚きを感じさせることができる。

【５２６２】

続いて、図４３２（Ａ）（ｃ）及び図４３３（Ｂ）（ｃ）は、フリーズ発生時の演出例のタイムチャートの一例を示す図である。

図４３２（Ａ）（ｃ）に示すように、フリーズタイミングが第１停止時である場合、スタートレバーが操作されリールの回転が定速回転になると、フリーズが発生する。液晶表示装置では、スタートレバーが操作されたことに伴い、バトル演出が行われ、味方キャラクタが敵キャラクタに対して攻撃を仕掛ける映像が表示される。遊技者からすると、停止操作に合わせて攻撃がヒットするか否かが分岐すると予想し、攻撃がヒットすることを願い、力を込めて停止操作を行うが、フリーズが発生しているため、停止操作が無効化されてしまう。遊技者は、停止操作に応じて映像が切り替わる（攻撃がヒット又は跳ね返される）ことを予想していたものの、映像が切り替わらないことから違和感を覚えることになる。このような違和感が生じている状況でフリーズが解除され、このフリーズの解除に合わせて攻撃がヒットし味方キャラクタが勝利する映像に切り替わることで、遊技者に対して強い驚きを感じさせることができる。

同様に、図４３３（Ｂ）（ｃ）に示すように、フリーズタイミングが第２停止時である場合、液晶表示装置では、スタートレバーが操作されたことに伴い、バトル演出が行われ、味方キャラクタが敵キャラクタに対して１撃目の攻撃を仕掛ける映像が表示される。その後、遊技者が第１停止操作を行うと、１撃目の攻撃がヒットするものの、敵キャラクタを倒しきることができずに、味方キャラクタが２撃目の攻撃を仕掛ける映像が表示される。このとき、フリーズタイミングが第２停止時であるため、第１停止操作に伴いフリーズが発生する。遊技者からすると、次の停止操作に合わせて攻撃がヒットするか否かが分岐すると予想し、攻撃がヒットすることを願い、力を込めて停止操作を行うが、フリーズが発生しているため、停止操作が無効化されてしまう。遊技者は、停止操作に応じて映像が切り替わる（攻撃がヒット又は跳ね返される）ことを予想していたものの、映像が切り替わらないことから違和感を覚えることになる。このような違和感が生じている状況でフリーズが解除され、このフリーズの解除に合わせて攻撃がヒットし味方キャラクタが勝利する映像に切り替わることで、遊技者に対して強い驚きを感じさせることができる。

【５２６３】

（フリーズの解除タイミング）

また、フリーズ発生時にフリーズを解除するタイミング、言い換えると、無効化した遊技操作を有効にするタイミングは任意である。例えば、制御回路は、フリーズが発生してから特定時間経過した後にフリーズを解除することとしてもよく、また、フリーズ発生中に遊技者から受け付けた停止操作に応じてフリーズを解除することとしてもよい。また、これらを組み合わせて、フリーズ発生中に遊技者から停止操作を受け付けた場合には、遊技者から受け付けた停止操作に応じてフリーズを解除し（停止操作を受け付けたタイミングで解除してもよく、停止操作を受け付けてから一定時間が経過した後に解除してもよい）、フリーズ発生中に遊技者から停止操作を受け付けることなく特定時間が経過した場合には、フリーズが発生してから特定時間経過した後にフリーズを解除することとしてもよい。

【５２６４】

また、上述のように、フリーズ発生に伴う演出を実行する場合には、制御回路は、フリーズ発生に伴う演出の開始時にフリーズを解除することとしてもよく、また、フリーズ発生に伴う演出の終了時にフリーズを解除することとしてもよく、また、フリーズ発生に伴う演出中の任意のタイミング（例えば、当該演出が開始してから一定の時間が経過したタイミング）でフリーズを解除することとしてもよい。

【５２６５】

［音量光量調節画面の表示制御］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１における音量光量調節画面の表示制御について説明する。近年の遊技機では、音量や光量を遊技者が調節可能になっている。音量や光量

の調節は、遊技を行っていないときに可能であることが一般的であり、遊技の最中、特に、演出を実行している最中は音量や光量を調節することができない。第１０実施形態のパチスロ機１では、演出実行中であっても音量や光量を調節可能にしている。

【５２６６】

（表示の優先順序）

初めに、図４３４（Ａ）を参照して、第１０実施形態のパチスロ機１における表示の優先順序について説明する。同図（ａ）は、本制御に対する比較例の表示制御における優先順序を示し、同図（ｂ）は、本制御の表示制御における優先順序を示す。また、同図では、演出用レイヤ、音量等調節用レイヤ及び報知用レイヤの３つの表示レイヤについての優先順序のみを示し、他の表示レイヤの表示順序については省略しているが、他の表示レイヤの表示順序は、任意である。なお、演出用レイヤとは、遊技の進行に伴い実行される連続演出画像などを含む演出用の画像を表示する演出用の表示レイヤである。また、音量等調節用レイヤとは、音量や光量を遊技者が調節するための表示画面（同図（Ｂ）参照）を表示するレイヤである。また、報知用レイヤとは、遊技者に対して停止操作の態様を報知する報知画像（例えば、打順ナビ画像など）を表示するレイヤである。

【５２６７】

同図（ａ）に示すように、比較例では、音量等調節用レイヤは、演出用レイヤよりは優先順位が高いものの、報知用レイヤよりは優先順位が低い。そのため、遊技者は、演出実行中は音量等調節画面を呼び出すことができるものの、例えば、打順ナビなどの報知実行中は、音量等調節画面を呼び出すことができない（または、報知用レイヤより下に呼び出す）。遊技者によっては、報知実行中に音量や光量の調節を望むことがある。例えば、上述のようにフリーズ発生時に演出を実行する場合、フリーズ発生時には大音量の効果音の出力や強い発光を伴うランプ制御が行われ、遊技者を驚かせる演出が実行される。上述の例では、停止操作のタイミングでこのような演出が実行されるため、例えば、遊技者は、遊技を開始してしまった後に演出画面からチャンスゾーンの突入に気づいた場合、遊技中に音量や光量の調節を望むことがある。しかしながら、比較例に示す表示制御では、打順ナビなどの報知実行中は音量等調節用レイヤよりも報知用レイヤを優先するため、音量等調節用画面を呼び出すことができない（または、報知用レイヤより下に呼び出す）。

【５２６８】

一方、同図（ｂ）に示すように、本制御では、音量等調節用レイヤは、演出用レイヤだけでなく、報知用レイヤに比べても優先順位が高い。そのため、遊技者は、演出実行中だけでなく、打順ナビなどの報知実行中も、打順ナビなどの報知よりも上位のレイヤで音量等調節画面を呼び出して音量及び光量を調節することができる。その結果、大音量の効果音の出力や強い発光が行われる可能性の高い状態において打順ナビなどの報知が行われた場合であっても、大音量の効果音の出力や強い発光が行われる前に、遊技者は、音量や光量を下げることができ、安心して遊技を実行することができる。

【５２６９】

このように第１０実施形態のパチスロ機１では、演出用レイヤ及び報知用レイヤよりも音量等調節用レイヤを優先して表示するため、基本的には、遊技の状況に関わらず音量や光量を調節することができる。ただし、第１０実施形態のパチスロ機１は、音量等調節用レイヤよりも優先する表示レイヤを設けないというものではない。例えば、パチスロ機１においてエラーが発生していることを報せるエラー画面を表示するエラー用レイヤについては、音量等調節用レイヤよりも優先して表示することが好ましい。より詳細には、エラー用レイヤは、最も優先して表示することが好ましい。また、コンプリート機能が作動した際の表示画面であるコンプリート画面を表示するコンプリート用レイヤについても、音量等調節用レイヤよりも優先して表示することとしてもよい。なお、エラー用レイヤやコンプリート用レイヤが表示されている状況では、そもそも、音量や光量の調節操作を受け付けない仕様としてもよい。もちろん、音量等調節用レイヤを、エラー用レイヤやコンプリート用レイヤよりも優先して表示することとしてもよい。

【５２７０】

なお、上述の例では、比較例として表示の優先順序を用いて報知実行中の音量等調節画面の表示を制限するものについて例示したが、その他の手法として、表示の優先順序は本制御と同様の制御としつつ、制御として表示するタイミングを制限する場合もある。例えば、遊技中（開始操作から第３停止操作が行われるまでの間）には、音量等調節画面の表示を制限するなどの手法も考えられる。このような制御においても、本制御ではエラー等が発生していない限り基本的に表示制限を行わないものとすることで、同様の効果を得ることができる。

【５２７１】

（音量等調節画面）

続いて、図４３４（Ｂ）を参照して第１０実施形態のパチスロ機１における音量等調節画面の画面構成について説明する。なお、同図では、音量調節用の画面と光量調節用の画面とを１つの画面で表示しているが、それぞれ異なる画面を設けるものであってもよい。

【５２７２】

同図に示すように、左右方向に並んで表示される音量調節用の目盛りと、上下方向に並んで表示される光量調節用の目盛りとが含まれる。音量調節用の目盛りは、左から右に行くにつれて高くなっており、左側ほど音量が小であり、右側ほど音量が大であることが視覚的に把握可能になっている。同様に、光量調節用の目盛りは、下から上に行くにつれて長くなっており、下側ほど光量が弱く、上側ほど光量が強いことが視覚的に把握可能になっている。また、音量調節用の目盛りは、下側が揃う下揃いで表示されており、光量調節用の目盛りは、左側が揃う左揃いで表示されている。中央揃いではなく、下揃いや左揃いで表示することで、目盛りが伸びる方向が一方に限定されるため、目盛りの大きさが順次大きくなっていく点が把握し易くなっている。

【５２７３】

また、音量等調節画面では、現在選択されている音量及び光量の目盛りを他の目盛りとは異なる色で表示することで、現在選択されている音量及び光量を把握可能に表示する。同図では、音量として下から４段階目の音量が選択されており、光量として下から２段階目の光量が選択されている。なお、現在選択されている目盛りの着色は任意に行うことができるが、本実施形態では、音量が小から大に向かうにつれて、同様に、光量が弱から強に向かうにつれて、寒色から暖色に変化する。例えば、１段階目の目盛りは青色、２段階目の目盛りは黄緑色、３段階目の目盛りは緑色、４段階目の目盛りは黄色、５段階目の目盛りはオレンジ色、６段階目の目盛りは赤色などで表示することとしてよい。また、現在選択されている目盛りのみを着色するものであってもよく、また、現在選択されている目盛りよりも下の目盛りも着色し、上の目盛りは着色しないものであってもよい。例えば、音量として下から４段階目の音量が選択されている場合には、１段階目から４段階目の目盛りまでを青色、黄緑色、緑色、黄色の順で表示し、５段階目及び６段階目の目盛りを着色せずに表示するなどしてもよい。

【５２７４】

また、音量等調節画面は、パチスロ機１に設けられた遊技者が操作可能な操作部（十字キーや決定キー）を操作することで呼び出すことができる。そして、十字キーの左右を操作した場合、音量等調節画面において左右方向に並んで表示される音量を調節することができ、また、十字キーの上下を操作した場合、音量等調節画面において上下方向に並んで表示される光量を調節することができる。なお、十字キーを用いて音量等調節画面を呼び出した場合、呼び出しに用いた操作は、音量や光量の調節に用いることとしてもよく、また、用いないこととしてもよい。例えば、音量３，光量３の場合に十字キーの右が操作されることで音量等調節画面が呼び出された場合、この呼び出し操作に伴い音量を増大して音量４，光量３としてもよく、また、この呼び出し操作では音量を変更せずに音量等調節画面が呼び出された時点では音量３，光量３のままとしてもよい。

【５２７５】

なお、音量調節用の画面と光量調節用の画面とを別々に設ける場合には、十字キーの左右及び上下のうち調節に使用しない方を用いて、音量調節用の画面と光量調節用の画面と

を切り替えることとしてもよい。例えば、音量調節も光量調節も十字キーの左右を使用する場合、音量調節用の画面において左右を操作すると音量を調節することができ、また、音量調節用の画面において上下を操作すると音量調節用の画面から光量調節用の画面に切り替わり、同様に光量調節用の画面において左右を操作すると光量を調節することができ、また、光量調節用の画面において上下を操作すると光量調節用の画面から音量調節用の画面に切り替わる。また、音量調節は十字キーの左右を使用し、光量調節は十字キーの上下を使用する場合、音量調節用の画面において左右を操作すると音量を調節することができ、また、音量調節用の画面において上下を操作すると音量調節用の画面から光量調節用の画面に切り替わり、同様に光量調節用の画面において上下を操作すると光量を調節することができ、また、光量調節用の画面において左右を操作すると光量調節用の画面から音量調節用の画面に切り替わる。

【５２７６】

また、呼び出された音量等調節画面は、一定時間操作が行われなかった場合、又は、決定キーが操作された場合に表示が終了するものであってよい。そして、音量等調節画面の表示が終了した場合には、下位レイヤにその時点で表示されている内容が表示されることになる。

【５２７７】

なお、音量等調節画面は、音量調節用の目盛りや光量調節用の目盛り以外の背景部分が透過し、下位レイヤに表示されている内容を視認可能に構成されている。そして、下位レイヤの演出画面などにおいて打順ナビ画像を表示する位置には、音量調節用の目盛りや光量調節用の目盛りが重複しないように配置することが好ましい。このようにすることで、打順ナビの最中に音量等調節画面を呼び出した場合であっても、音量等調節画面の背景を透過して打順ナビを確認することができ、遊技の進行を妨げることがない。なお、図４３４（Ｂ）の例では、音量調節用の目盛りの下方にスペースを設けることで、打順ナビ画像を表示する位置に音量調節用の目盛りや光量調節用の目盛りが重複しないようにしている。

【５２７８】

（デフォルト設定について）

音量及び光量の初期値は、管理者のみが操作可能なメニューから遊技店側で設定することができる。なお、遊技店側で音量及び光量の初期値を設定しない場合には、工場出荷時等に予め設定される値（例えば、下から４段階目）が初期値となる。また、管理者のみが操作可能なメニューとは、パチスロ機１と通信可能に接続されたホールコンピュータにおけるメニューであってもよく、また、個々のパチスロ機１に設けられた管理者用のメニューであってもよい。なお、音量等調節画面において遊技者が音量や光量を調節した場合であっても、遊技が行われない時間が所定時間継続すると、遊技者が調節した音量や光量は、初期値に変更されることとしてもよく、また、遊技が行われない時間が所定時間継続しても遊技者が調節した音量や光量のまま維持されることとしてもよい。また、電断からの復帰時には、遊技者が調節した音量や光量が初期値に変更されることとしてもよく、また、遊技者が調節した音量や光量のまま維持されることとしてもよい。

【５２７９】

（調節用効果音等）

また、音量調節に関して、左右キーで音量を調節する度に所定の効果音を出力することとしてもよい。出力する効果音は、例えば、「ピッ」といった単なる効果音であってもよく、また、「音量は４です」のように調節後の音量を示す音声であってもよい。また、出力する効果音は、調節後の音量で出力することとしてもよく、調節後の音量に関係なく一定の音量で出力することとしてもよい。なお、一定の音量は、パチスロ機１の初期値の音量であってもよく、また、音量調節用に設けられた固有の音量であってもよい。

【５２８０】

また、光量調節に関して、上下キーで光量を調節する度に調節後の光量でランプ（ＬＥＤ）を発光させることとしてもよい。なお、光量調節時に発光させるランプは、パチスロ

機１が備える全てのランプであってもよく、また、所定範囲のランプであってもよい。所定範囲のランプとしては、遊技者の関心を惹きやすい液晶周り（例えば、サイドランプや上部ランプ）であってよい。このように光量調節時に対象となるランプを発光させるものであるが、発光させるランプの発光パターンは任意である。例えば、光量調節用の発光パターンを別途用意しておき、光量調節時には当該発光パターンで対象のランプを発光させることとしてもよく、また、演出実行中に光量調節を行った場合には、光量調節時に実行中の演出パターンで対象のランプを発光させることとしてもよい。

【５２８１】

なお、音量調節とは異なり、光量を調節した際は必ずしも効果音を出力する必要はないが、音量調節と同様に所定の効果音を出力することとしてもよい。この場合においても、調節後の光量に対応する音量で効果音を出力することとしてもよく、調節後の光量に関係なく一定の音量で効果音を出力することとしてもよい。

【５２８２】

（変形例）

以上のように第１０実施形態のパチスロ機１では、音量等調節画面を演出画面よりも優先して表示するものであるが、制御回路は、特定の演出を実行している場合には、遊技者が音量等調節画面の呼び出し操作を行ったとしても音量等調節画面を表示しないこととしてもよい。このような特定の演出としては、例えば、複数回の遊技にわたって継続して行われる連続演出や、設定値を示唆する設定示唆演出や、のめり込み防止の注意表示を行う演出が挙げられる。そのため、パチスロ機１では、制御回路は、特定の演出以外の演出を実行している場合には、遊技者による音量等調節画面の呼び出し操作を受け付けると音量等調節画面を表示する一方で、特定の演出を実行している場合には、遊技者による音量等調節画面の呼び出し操作を受け付けても音量等調節画面を表示しないこととしてもよい。これにより、遊技上の重要度が高い演出中は、音量等調節画面が表示されなくなるため、重要度の高い情報を遊技者が見逃してしまうことを防止することができる。

【５２８３】

なお、音量等調節画面を表示しない場合、制御回路は、音量や光量の調節操作を受け付けないこととしてもよく、また、音量や光量の調節操作を受け付けることとしてもよい。すなわち、音量等調節画面が表示されていない状況では、音量や光量を調節できないようにしてもよく、また、表示はされていないものの音量や光量を調節できることとしてもよい。音量等調節画面が表示されていない状況で音量や光量を調節可能にする場合には、上述のように、音量調節に関する効果音の出力や光量調節に関する発光を行うこととしてもよく、また、これらを行わないこととしてもよい。効果音の出力や発光を行うことで、音量等調節画面が表示されていない場合であっても、遊技者が望む音量や光量に調節することができる。また、効果音の出力や発光を行わないことで、遊技上の重要度が高い演出を邪魔することがなくなるため、重要度の高い情報を遊技者が見逃してしまうことを防止することができる。

【５２８４】

［メダルレス遊技機における下皿の形状］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１が備える下皿の形状について説明する。以下説明する下皿の形状は、遊技価値としてメダルやコインを用いないメダルレス遊技機において用いられる。メダルレス遊技機では、実体のメダルを使わないため、下皿は遊技者用の物置として機能する。例えば、遊技者が一時的に離席する場合、下皿にメダルが置いてあるメダル遊技機と異なり、メダルレス遊技機では一見して空き台かどうか分かりにくいため、遊技者は、下皿にペットボトルなどを置いた状態で離席し、自身が遊技中であることを周囲にしらせることがある。このとき、下皿においてある物が視認し難いと、遊技者以外の者は、当該遊技機を誰かが遊技中であるか把握し難くなり、また、遊技者は、自身が遊技を終了する際に下皿に置いていた物を忘れやすくなってしまう。そこで、第１０実施形態のパチスロ機１では、下皿の形状を工夫することで、置いた物を視認し易くしている。

【５２８５】
図４３５（Ａ）は、パチスロ機１が備える下皿５３００の正面図である。同図に示すように、下皿５３００は、パチスロ機１の筐体下部に設けられる。より具体的には、下皿５３００は、下パネル５４００の下方に設けられる。なお、下パネル５４００は、モチーフとなったキャラクタや機種名がデザインされており、状態に応じてバックライトの制御により点灯・消灯・点滅などをする。下皿５３００は、底面５３０１と、底面５３０１の手前側端部において立設する前壁５３０２と、底面５３０１の正面視で左側の端部において立設する左壁５３０３と、底面５３０１の正面視で右側の端部において立設する右壁５３０４と、を有する。なお、奥側の壁は筐体の一部であってもよく、また、下皿５３００の一部であってもよい。

【５２８６】
（下皿の底面の形状）
続いて、図４３５（Ｂ）は、パチスロ機１が備える下皿５３００の断面図である。具体的には、下皿５３００を上下及び前後方向に切断した場合の断面図であり、下皿５３００の底面５３０１の奥行の形状を表している。同図に示すように、底面５３０１は、後側が高く手前側が低くなるように、すなわち、奥側から手前に向けて低くなるように傾斜している。傾斜角度は任意であるが、本実施形態では、概ね８．６８度程度に設計している。また、下皿５３００は、奥行きが概ね８～９ｃｍ程度であり、６．７インチの表示画面を有するスマートフォンを置くことができる程度の奥行を有している。

【５２８７】
第１０実施形態のパチスロ機１では、下皿５３００の底面５３０１が手前側に傾斜しているため、下皿５３００に置いた物は、手前側に移動する結果、置いた物を視認し易くなる。その結果、遊技を終了する際に下皿５３００に置いていた物が視界に入り易くなるため、遊技者は、下皿５３００に置いていた物を忘れにくくなる。また、遊技者以外の者は、下皿５３００に置いてある物を容易に発見できるため、当該遊技機を誰かが遊技中であることを把握し易くなる。

【５２８８】
なお、底面５３０１は、手前側には傾斜しているものの、左右方向に対しては傾斜しておらず、略水平に形成されている。そのため、下皿５３００に置いた物が比較的見えにくい右端や左端まで移動してしまうことがない。

【５２８９】
（下皿と下パネルとの関係）
また、図４３５（Ｂ）に示すように、下皿５３００は、下パネル５４００の前端よりも手前側に突出して設けられる。すなわち、下皿５３００の前壁５３０２は、下パネル５４００の前端よりも手前側に突出している。その結果、遊技者から見て下皿５３００の開口部が広くなるため、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。また、パチスロ機１では、下パネル５４００の下方にランプ５５００などの発光装飾部を設ける。下皿５３００は、ランプ５５００により照射されるため、下皿５３００の視認性が向上し、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。なお、パチスロ機１では、下パネル５４００の下方に個別に設けたランプ５５００により下皿５３００を照射するものであるが、下皿５３００に対する照射は、ランプ５５００ではなく、下パネル５４００により行うものであってもよい。すなわち、下パネル５４００には、バックランプが設けられているため、このバックランプの点灯・点滅などにより下皿５３００を照射するものであってもよい。また、ランプ５５００は、図示のように下パネル５４００の外部に備えることとしてもよく、また、下パネル５４００の底面に透光性を持たせた上で、下パネル５４００の内部に備えるようにしてもよい。

【５２９０】
（底面のデザイン）
続いて、図４３６（Ｃ）は、底面５３０１の載置面に描かれたデザイン例を示す図である。同図に示すように、底面５３０１の載置面には「ＫＥＥＰ」などの文字が印字されて

いる。「ＫＥＥＰ」と印字することで、一時的な離席の際に、遊技機確保（キープ）のために私物を置くようになるため、遊技台の確保忘れを防止することができる。また、キープのために置いておいた私物の置き忘れや、キープされている遊技機を他の遊技者が誤って遊技してしまうことを防止することができる。また、同図に示すように「ＫＥＥＰ」の文字は、枠で囲まれるとともに、四方から底面５３０１の中心方向に向けた矢印が印字されている。これにより、「ＫＥＥＰ」という文字や、その囲いの中に置かれた遊技者の私物に対して視線が誘導されるため、私物の置き忘れ等をより適切に防止することができる。

なお、底面に描かれたデザインはこれに限るものではなく、遊技機確保を促し得る表示であればよく、例えば、スマートフォンやタバコ、ペットボトルなどの画像を印刷するものであってもよく、特に表示は行わずに、載置面を目立つ配色にすることなどで目立たせる（遊技者に遊技機を確保すべきことを気づかせる）ようなデザインとしてもよい。また、載置面の物が置かれる中心部には特に何も表示せずに、その周囲に上述の矢印などと合わせて「ＫＥＥＰ」などを表示する印字することで、物が置かれた状態で「ＫＥＥＰ」状態であることを目立たせる構成としてもよい。

【５２９１】

（下皿の前壁の形状）

続いて、図４３５（Ａ）に戻り、下皿５３００の前壁５３０２の形状について説明する。上述のように下皿５３００は、奥側から手前に向けて低くなるように傾斜しているため、下皿５３００に置いた物が傾斜によって落ちてしまわないように、下皿５３００の手前側端部には前壁５３０２が設けられている。ただし、前壁５３０２によって置いた物が隠れてしまうと私物の置き忘れ等が生じ易くなってしまうため、従来のメダル遊技機における下皿の前壁よりも低い高さにしている。また、同図に示すように、前壁５３０２は、左右の両端が中央よりも高く形成されている。このように前壁５３０２の中央が低く形成されていることで、下皿５３００の視認性が向上し、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。

【５２９２】

（下皿の左右壁の形状）

続いて、図４３６（Ｄ）は、パチスロ機１が備える下皿５３００の断面図である。具体的には、下皿５３００を上下及び左右方向に切断した場合の断面図であり、下皿５３００の左壁５３０３及び右壁５３０４の断面形状を表している。同図に示すように、左壁５３０３及び右壁５３０４は、段差状になっている。すなわち、下皿５３００の左端及び右端には、底面５３０２よりも一段高い面が設けられている。これにより、下皿５３００に置いた物が転がった場合であっても、下皿５３００の空間内の両端まで移動してしまうことを防止できる。その結果、視認性の低い両端に物が移動して私物の置き忘れ等が生じてしまう可能性を軽減することができる。また、下皿５３００の底面に比べて開口部分を広くとることができるため、下皿５３００の視認性が向上する。

【５２９３】

（その他）

下皿５３００の内側の面は、反射性のある部材により形成することとしてもよい。例えば、下皿５３００の内側の面を鏡面仕上げすることで、反射性のある部材により形成することができる。これにより、下皿５３００の左右の壁や奥側の壁に下皿５３００が反射して映り込むため、下皿５３００の視認性が向上し、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。また、遊技場の照明や、上述の下パネル５４００のバックランプや、下皿照明など、周囲の光源からの光を反射するため、下皿５３００を全体的に明るく保つことができ、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。

【５２９４】

また、下皿５３００は、透光性でほぼ透明の透過性カバーにより形成することとしてもよい。これにより、下皿５３００の視認性が向上し、下皿５３００に置いた物を視認し易くなる。なお、この場合、下皿５３００は、透光性であればよく、完全な透明でもよいが

、スモークが入っていたり、少し色が入っていたりしてもよい。

【５２９５】

［ケーブルの撓み方向］

続いて、第１０実施形態のパチスロ機１におけるケーブルの撓み方向のコントロールについて説明する。通常、パチスロ機の筐体は、前面側に矩形状の開口を有する木製又は金属製のキャビネットと、キャビネットの前面に配置され、キャビネットに対して開閉可能に取り付けられた前面扉と、により構成されている。なお、前面扉は、上下一体の１枚の扉であってもよく、また、上下が分離した上ドア機構と下ドア機構とにより構成されるものであってもよい。

【５２９６】

また、パチスロ機では、ディスクリートケーブルなどのケーブルを用いてパチスロ機の部品間を通信可能に接続するが、このときキャビネット側に設けられた部品と、前面扉側に設けられた部品とを接続することもある。このようにキャビネット側の部品と前面扉側の部品とを接続する場合、前面扉を開けるとケーブルがキャビネット側及び前面扉側の双方から引っ張られることになる。そのため、パチスロ機では、開状態における緊張による断裂などを防ぐために、ケーブルの長さにある程度のゆとりを持たせている。この長さのゆとりにより開状態における緊張は緩和できるものの、前面扉を閉める際にケーブルが撓み、前面扉に挟み込まれて断裂してしまうおそれがある。

【５２９７】

そこで、第１０実施形態のパチスロ機１では、ケーブルの撓み方向をコントロールすることで、前面扉を閉める際に前面扉にケーブルが挟み込まれてしまうことを防止する。

【５２９８】

図４３７は、前面扉を開けた状態のパチスロ機１を模式的に示す図である。パチスロ機１は、矩形箱状の筐体により構成されている。また、この筐体は、遊技機本体として前面側に矩形状の開口を有する金属製のキャビネットＧと、キャビネットＧの前面に配置され、キャビネットＧに対して開閉可能に取り付けられた前面扉Ｄと、により構成されている。

【５２９９】

キャビネットＧは、左右一対の側面壁Ｇ２と、背面壁Ｇ３と、上面壁Ｇ４と、底面壁Ｇ５とを有している。キャビネットＧの内部の略中央には、リールユニットＲＵが収納される。また、リールユニットＲＵの上方の背面壁Ｇ３には、遊技に関する制御を行う主制御基板７１が取り付けられている。また、リールユニットＲＵの下方の底面壁Ｇ５には、電源装置３４が設けられている。また、キャビネットＧの前面扉Ｄを取り付ける側（左側）の側面壁Ｇ２には、金属の扉枠部材５７００が取り付けられている。扉枠部材５７００は、キャビネットＧを補強する補強材であってもよく、また、キャビネットＧに対し前面扉Ｄを開閉可能に機能させるヒンジであってもよい。

【５３００】

また、キャビネットＧの前面扉Ｄを取り付ける側（左側）の側面壁Ｇ２には、ケーブルを保持するケーブル保持部材ＧＢが取り付けられている。ケーブル保持部材ＧＢは、例えば、結束バンドであり、その一部がキャビネットＧに取り付けられている。そのため、ケーブル保持部材ＧＢにより保持したケーブルは、キャビネットＧのケーブル保持部材ＧＢの取り付け位置に固定される。本実施形態では、ケーブル保持部材ＧＢは、キャビネットＧの左側の側面壁Ｇ２のうち、主制御基板７１と略同一の高さの位置に取り付けられている。また、ケーブル保持部材ＧＢは、保持するケーブルが概ね前後方向に向くようにキャビネットＧの側面壁Ｇ２に取り付けられている。

【５３０１】

前面扉Ｄは、キャビネットＧの開口の形状及び大きさに対応するように形成され、キャビネットＧの開口部を閉塞可能に設けられている。また、前面扉Ｄは、例えば、キャビネットＧの左側の側面壁Ｇ２に設けられたヒンジ等の開閉機構によって、キャビネットＧに対して開閉自在に取付けられている。

【５３０２】
前面扉Ｄの略中央部には、キャビネットＧに収納されたリールユニットＲＵが備えるリールをパチスロ機１の前面から視認可能なリール窓が形成されたメイン表示窓４が設けられている。なお、同図では、メイン表示窓４は演出表示を行う液晶表示装置と一体に形成されている。すなわち、メイン表示窓４は、液晶表示装置にリール窓が設けられることで形成されている。また、前面扉Ｄのメイン表示窓４の上方には、演出に関する制御を行う副制御基板７２が取り付けられている。なお、副制御基板７２は、キャビネットＧ内の主制御基板７１と略同一の高さの位置に取り付けられている。
【５３０３】
また、前面扉Ｄには、ケーブルを保持するケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２が取り付けられている。ケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２は、例えば、結束バンドであり、その一部が前面扉Ｄに取り付けられている。そのため、ケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２により保持したケーブルは、前面扉Ｄのケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２の取り付け位置に固定される。本実施形態では、ケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２は、副制御基板７２と略同一の高さの位置に取り付けられ、また、ケーブル保持部材ＤＢ１は、ケーブル保持部材ＧＢと略同一の位置に取り付けられ、また、ケーブル保持部材ＤＢ２は、ケーブル保持部材ＤＢ１及びケーブル保持部材ＧＢに対して若干下方に取り付けられている。また、ケーブル保持部材ＤＢ１は、保持するケーブルが概ね前面扉Ｄの左右方向に向くように前面扉Ｄに取り付けられ、また、ケーブル保持部材ＤＢ２は、保持するケーブルが概ね上下方向に向くように前面扉Ｄに取り付けられている。
【５３０４】
このようなパチスロ機１において、第１０実施形態では、キャビネットＧの底面壁Ｇ５に設けられた電源装置３４と前面扉Ｄの上部に設けられた副制御基板７２とを接続するケーブル５６１０Ｈ、及び、キャビネットＧの背面壁Ｇ３の上部に設けられた主制御基板７１と前面扉Ｄの上部に設けられた副制御基板７２とを接続するケーブル５６２０Ｈについて例示することで、ケーブルの撓み方向の工夫について説明する。もちろん、第１０実施形態におけるケーブルの撓み方向の工夫は、他の部品を接続する際にも適用することができる。
【５３０５】
ケーブル５６１０Ｈは、一端に設けられたコネクタ（不図示）が前面扉Ｄの副制御基板７２に接続され、他端に設けられたコネクタ（不図示）がキャビネットＧの電源装置３４に接続されている。ケーブル５６１０Ｈは、前面扉Ｄにおいてケーブル保持部材ＤＢ１により保持され、前面扉Ｄの左右方向（言い換えると、水平方向）に向くように誘導される。また、ケーブル５６１０Ｈは、キャビネットＧにおいてケーブル保持部材ＧＢにより保持され、前後方向（言い換えると、水平方向）に向くように誘導される。なお、本実施形態では、ケーブル保持部材ＤＢ１及びケーブル保持部材ＧＢは、保持した箇所が移動しないようにケーブル５６１０Ｈをきつく締め付けて保持する。
【５３０６】
このようにケーブル５６１０Ｈは、ケーブル保持部材ＤＢ１及びケーブル保持部材ＧＢにより水平方向に保持されるため、前面扉Ｄを閉めた際に水平方向に撓みやすい。このとき、キャビネットＧの内側方向に撓むのであれば問題ないものの、キャビネットＧの外側方向（前面扉Ｄを取り付けている方向）に撓んでしまうと、前面扉Ｄに挟み込まれて断裂してしまうおそれがある。そこで、本実施形態のパチスロ機１では、キャビネットＧに取り付けた金属の扉枠部材５７００を用いて、ケーブル５６１０Ｈの撓み方向をコントロールする。
【５３０７】
ここで、図４３８（Ａ）は、キャビネットＧをケーブル保持部材ＧＢの高さで水平方向に切断した際の断面図を模式的に示す図である。同図に示すように、扉枠部材５７００は、キャビネットＧの側面壁Ｇ２に対して、所定の厚みを持って取り付けられる。そして、ケーブル保持部材ＧＢは、扉枠部材５７００よりも奥側、かつ、厚み方向において扉枠部

材５７００よりも低い位置でケーブル５６１０Ｈを保持する。その結果、ケーブル５６１０Ｈは、扉枠部材５７００によりキャビネットＧの内側に押し出されることになり、キャビネットＧの外側への撓みを生じ難くすることができる。

【５３０８】

図４３７に戻り、ケーブル５６２０Ｈは、一端に設けられたコネクタ（不図示）が前面扉Ｄの副制御基板７２に接続され、他端に設けられたコネクタ（不図示）がキャビネットＧの主制御基板７１に接続されている。ケーブル５６２０Ｈは、前面扉Ｄにおいてケーブル保持部材ＤＢ２により保持され、前面扉Ｄの上下方向に向くように誘導される。また、ケーブル５６２０Ｈは、キャビネットＧにおいてケーブル保持部材ＧＢにより保持され、前後方向（言い換えると、水平方向）に向くように誘導される。なお、本実施形態では、ケーブル保持部材ＤＢ２及びケーブル保持部材ＧＢは、保持した箇所が移動しないようにケーブル５６１０Ｈをきつく締め付けて保持する。

【５３０９】

このようにケーブル５６２０Ｈは、ケーブル保持部材ＧＢにより水平方向に保持され、また、ケーブル保持部材ＤＢ１により上下方向に保持されるため、前面扉Ｄを閉めた際に水平方向だけでなく、上下方向にも撓みやすい。水平方向への撓みに関しては、ケーブル５６１０Ｈと同様に扉枠部材５７００の厚みによりキャビネットＧの外側への撓みを防止することができる。また、上下方向への撓みに関しては、上方に撓む際に当接する部材を、キャビネットＧの開口部に設けることで、防止する。具体的には、パチスロ機１では、前面扉Ｄとキャビネットの取り付け部の上部に前面扉Ｄの回動範囲を制御する台座を設け、上方向に撓んだ際にケーブル５６２０Ｈがこの台座に当接するようにすることで、ケーブル５６２０Ｈが前面扉Ｄの上方において挟み込まれてしまうことを防止する。なお、このような部材としては、キャビネットＧ及び前面扉Ｄの上部に取り付けられたヒンジであってもよいが、専用の部材を設けるものであってもよい。例えば、キャビネットＧの上面壁Ｇ４にキャビネットＧの開口部から突出し、かつ、前面扉Ｄを閉じた場合に突出部分が前面扉Ｄに収納されるような板材を設けるものであってもよい。

【５３１０】

このようにケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈはともに、前面扉Ｄを閉める際に、前面扉Ｄに挟み込まれる方向に撓んでしまうことを防止することができる。すなわち、本実施形態は、ケーブル５６１０Ｈにおける工夫と、ケーブル５６２０における工夫の双方を単独で用いるものも含むものであり、また、双方用いるものも含むものである。

【５３１１】

また、図４３７に示すように、本実施形態のパチスロ機１では、ケーブル保持部材ＤＢ１とケーブル保持部材ＧＢとの間、及び、ケーブル保持部材ＤＢ２とケーブル保持部材ＧＢとの間において、ケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈを、ケーブル保持部材５６３０により結束している。なお、ケーブル保持部材５６３０は、例えば、結束バンドであるが、ケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２及びケーブル保持部材ＧＢとは異なり、前面扉Ｄ及びキャビネットＧの何れにも取り付けられていない。このようにケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈがケーブル保持部材５６３０により結束されているため、ケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈが互いに干渉してしまうことを防止することができ、ケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈの撓み方向を適切にコントロールすることができる。

【５３１２】

また、ケーブル５６１０Ｈ及びケーブル５６２０Ｈの各ケーブルのコネクタの接続先は上述したものに限られず、一端がキャビネットＧ側部材、他端が前面扉Ｄ側部材に接続されるものであればよい。また、ケーブル保持部材ＧＢ及びケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２の各ケーブル保持部材についても同様に配置される個所は上述したものに限られず、ケーブル保持部材ＧＢがキャビネットＧ側に配置され、ケーブル保持部材ＤＢ１，ＤＢ２が前面扉Ｄ側に配置されていれば、同様の効果が得られる範囲で適宜配置箇所を変更可能である。

【５３１３】
（変形例）
続いて、図４３８（Ｂ）を参照して、ケーブルの撓み方向をコントロールするための工夫の別例について説明する。別例の工夫では、ケーブル保持部材によるケーブルの締め付け方を工夫することで、ケーブルの撓み方向をコントロールする。同図（ａ）は、本工夫に対する比較例を示す図であり、同図（ｂ）は、本工夫を示す図である。
【５３１４】
同図（ａ）に示すように、比較例では、前面扉Ｄに取り付けられたケーブル保持部材ＤＢ、及び、キャビネットＧに取り付けられたケーブル保持部材ＧＢの双方において、保持した箇所が移動しないようにケーブルＨをきつく締め付けて保持する。このような比較例では、ケーブル保持部材が保持した箇所は移動しないため、前面扉Ｄを閉めた際にケーブルＨは、ケーブル保持部材ＤＢとケーブル保持部材ＧＢとの間で撓むことになる。そのため、比較例の場合、ケーブルＨが前面扉ＤとキャビネットＧとの間で撓んでしまい、前面扉Ｄに挟み込まれてしまう可能性がある。
【５３１５】
一方、同図（ｂ）に示すように、本工夫では、前面扉Ｄに取り付けられたケーブル保持部材ＤＢ、及び、キャビネットＧに取り付けられたケーブル保持部材ＧＢの何れか一方のケーブル保持部材では、保持した箇所が移動しないようにケーブルＨをきつく締め付けて保持する一方で、他方のケーブル保持部材では、保持した箇所が移動可能にケーブルＨを緩く保持する。なお、同図では、キャビネットＧに取り付けられたケーブル保持部材ＧＢを、ケーブルＨを緩く保持するケーブル保持部材としているが、前面扉Ｄに取り付けられたケーブル保持部材ＤＢを、ケーブルＨを緩く保持するケーブル保持部材としてもよい。ただし、通常、前面扉ＤよりもキャビネットＧの方が奥行きが広く、ケーブルを収納するスペースを確保し易いため、キャビネットＧに取り付けられたケーブル保持部材ＧＢを、ケーブルＨを緩く保持するケーブル保持部材とする方が好ましい。
【５３１６】
このような本工夫では、ケーブル保持部材ＤＢが保持した箇所は移動しない一方で、ケーブル保持部材ＧＢが保持した箇所は移動可能であるため、前面扉Ｄを閉めた際に、ケーブルＨは、前面扉Ｄ側（ケーブル保持部材ＤＢにより保持した箇所）からの力により、キャビネットＧの奥側に押し出される。その結果、本工夫では、前面扉Ｄを閉めてもキャビネットＧの奥側でケーブルＨの撓みを吸収することができるため、ケーブルＨが前面扉Ｄに挟み込まれてしまうことを防止することができる。
【５３１７】
なお、キャビネットＧにおけるケーブル保持部材ＧＢの取り付け位置は任意である。例えば、図４３７に示すように、キャビネットＧの側面壁Ｇ２であってもよく、また、キャビネットＧの上面壁Ｇ４であってもよい。ただし、キャビネットＧの奥側にケーブルＨを押し込むことで撓みを吸収するものであるため、背面壁Ｇ３から十分な距離がある位置にケーブル保持部材ＧＢを取り付けることが好ましい。言い換えると、キャビネットＧの側面壁Ｇ２又は上面壁Ｇ４における前面側にケーブル保持部材ＧＢを取り付けることが好ましい。
【５３１８】
また、キャビネットＧの奥側にケーブルＨを押し込むことで撓みを吸収するものであるため、ケーブル保持部材ＧＢは、保持するケーブルＨが概ね前後方向に向くようにキャビネットＧの側面壁Ｇ２に取り付けることが好ましい。
【５３１９】
その他、これら工夫に加えて、ケーブルＨの保護及びケーブルＨの柔軟性の低下を目的として、ケーブルＨに対してケーブルカバーを取り付けるものであってもよい。このようなケーブルカバーとしては、チューブ状のケーブルカバーであって、内部を視認可能な透明又は半透明なケーブルカバーであってよい。また、説明したケーブルＨの撓み方向の工夫は、図４３７に示す配線パターンだけでなく他の配線パターンについても適用すること

ができる。
【５３２０】
［付記］
　パチスロ機やパチンコ機では、様々な役物を用いて演出を行うところ、近年では、稼働する役物である可動役物を用いて様々な演出を行う遊技機も登場している（例えば、特開２００９－２６１５９９号公報参照）。
【５３２１】
　役物やその他の演出手段は、遊技と連動して動作することで演出を盛り上げることができるものの、遊技店の営業時に演出手段が正常に動作しない場合、かえって興趣を損ねてしまうおそれがある。
【５３２２】
　本発明は、このような点に鑑みてなされたものであり、演出手段が正常に動作するか否かを遊技店の管理者が確認可能な遊技機を提供することを目的とする。
【５３２３】
　上記目的を達成するために、本実施形態に係る遊技機によれば、以下の遊技機を提供する。
【５３２４】
（１）複数の図柄を変動及び停止することで遊技を進行する遊技機（例えば、パチスロ機１）であって、所定の演出手段（例えば、可動役物５００１）において行う演出を制御可能な演出制御手段（例えば、主制御回路１００又は副制御回路２００）を備え、前記演出制御手段は、電源投入時に遊技の結果に関わらず第１の演出（例えば、電源投入時の初期動作）を行う第１の演出制御と、電源投入時ではない所定のタイミングに遊技の結果に応じて第２の演出（例えば、通常の演出実行時の動作）を行う第２の演出制御と、を少なくとも実行可能であり、前記第１の演出と前記第２の演出とは、いずれも前記所定の演出手段において行う演出であるとともに互いに略同一の演出内容が実行される制御であるが、当該演出を構成する演出のうち少なくとも一部の演出の時間尺が異なることを特徴とする遊技機。
【５３２５】
　このような構成によれば、電源投入時に所定の演出手段を動作させるため、遊技店の管理者が開店前に所定の演出手段が正常に動作するか否かを確認することができる。このとき、電源投入時には、通常の演出時の動作と略同一の演出内容が実行される一方で、少なくとも一部の演出の時間尺が異なるため、管理者による確認の負担を軽減することができる。また、停電などによる一時的な電断からの復帰時にも所定の演出手段が動作することになるが、少なくとも一部の演出の時間尺が異なるため、遊技者からすると、遊技の結果に応じた動作であると誤認し難くなり、遊技の興趣を保つことができる。
【５３２６】
（２）前記所定の演出手段は可動物（例えば、可動役物５００１）であり、前記第１の演出と前記第２の演出とは、互いに略同一の動きを行うが、演出を構成する動きのうち少なくとも一部の動きの時間尺が異なることを特徴とする（１）に記載の遊技機。
【５３２７】
　このような構成によれば、遊技店の管理者は、動作に伴い劣化する可動物の動作を開店前に確認することができる。
【５３２８】
（３）前記演出制御手段は、前記所定の演出手段と異なる特定の演出手段（例えば、液晶表示装置やランプやスピーカなどの他の演出手段）において行う演出を更に制御可能であり、また、前記特定の演出手段において、前記第２の演出制御に合わせて第３の演出制御を実行可能である一方、前記第１の演出制御に合わせて前記第３の演出制御を行うことがない（通常の演出時には他の演出手段も動作させる一方で、初期動作時には他の演出手段は動作させない）ことを特徴とする（１）又は（２）に記載の遊技機。
【５３２９】

このような構成によれば、電源投入時の初期動作時には、遊技に応じた演出実行時に動作する特定の演出手段は動作しないため、動作確認時の煩わしさを軽減することができる。また、停電などによる一時的な電断からの復帰時に初期動作を行う場合であっても、通常の演出時とは明らかに異なるため、遊技者に対して遊技の結果に応じた動作であると誤認させることがなく、遊技の興趣を保つことができる。

【５３３０】

上記構成の遊技機によれば、演出手段が正常に動作するか否かを遊技店の管理者が確認可能な遊技機を提供することができる。

【５３３１】

［その他］

可動役物は、初期状態（非稼働時）において遊技者から視認困難な位置（トップユニットやサイドユニットに収納）に配置されており、稼働することで遊技者から視認可能になる。これにより、演出上のインパクトを強くすることができ、興趣の向上が期待できる。

【５３３２】

また、パチスロ機１において、可動役物の演出実行時の動作は、遊技者による所定の操作（演出ボタンの押下）を契機として行われる。これにより、演出上のインパクトの強い可動役物の動作に遊技者が関与することになるため、興趣の向上が期待できる。

【５３３３】

また、パチスロ機１は、可動役物が初期位置にあるか否かを判定可能なセンサを備え、可動役物の稼働時に稼働する可動部材に当該センサに対応する検出片を有し、この検出片をセンサで検知することで可動役物が初期位置にあることを判定可能である。

【５３３４】

また、パチスロ機１では、可動役物を動作させない遊技において可動役物が初期位置にあるか否かを判定し、初期位置にない場合には、可動役物を初期位置へ移動させるための復帰信号を出力する。これにより、可動役物が本来であれば初期位置にいなければならない状況であるにも関わらず初期位置にないという異常発生時に、この異常を早期に解消することができる。

【５３３５】

また、パチスロ機１では、可動役物が初期位置にない状態が一定期間続いた場合には、以降電断復帰まで復帰信号を出力しないようにすることが可能である。復帰信号が出力されても可動役物が初期位置に復帰しない状況においては、何らかの要因で可動役物が制御不能となっていることが考えられる。このような場合に復帰信号を送り続けても制御負担となってしまうだけであるため、復帰信号を出力しないようにすることで制御負担の軽減が可能である。

【５３３６】

また、パチスロ機１では、初期動作及び演出実行時の動作は、可動役物が初期位置から稼働位置へ移動し、稼働位置から初期位置へ戻る動作であり、稼働位置における滞在時間が異なる。このように滞在時間を異ならせることで、初期動作による可動役物の稼働を、演出実行による可動役物の稼働（つまり期待度の高い状態である）と遊技者に誤認されることを防止することができる。

【５３３７】

具体的には、演出実行時の動作に比べて初期動作の方が稼働位置における滞在時間が短い。可動役物が稼働位置に待機している状態は可動役物の動作確認において必要がないため、このように稼働位置における滞在時間を短くすることで、可動役物の動作確認を適切に行いつつも、動作確認に要する時間を短縮することができる。

【５３３８】

また、パチスロ機１では、初期動作は、電源投入を契機として行われる。言い換えると、初期動作は、電源投入時のドア開状態においても実行される。これにより、動作確認に要する時間を短縮することができる。

【５３３９】

また、パチスロ機１では、電源投入時に可動役物が初期位置にない場合、電源投入時の初期動作を行わずに、可動役物を初期位置に移動させる制御を行う。例えば、可動役物が稼働中に電源が切断された場合、電源投入時に可動役物が初期位置に位置しない可能性が考えられる。このような場合に可動役物を初期位置に移動する動作を行うことで、可動役物が動作可能であることは確認できる。

【５３４０】

また、パチスロ機１では、演出実行時の可動役物の動作として複数の動作パターンが可能な場合には、当該複数の動作パターンの中の少なくとも１の動作パターンに対応した動作で可動役物の初期動作を行う。少なくとも１の動作パターンに対応した動作が可能であれば、当該動作パターンに応じた駆動機構は適切に動作することが確認できるため、可動役物の動作確認にとっては十分だからである。

【５３４１】

［第１１実施形態］

以上、第１実施形態～第１０実施形態について説明した。以下、第１１実施形態について説明する。第１１実施形態に係るパチスロ機１の基本的な構成は、第１実施形態～第１０実施形態に係るパチスロ機１と同じである。以下においては、第１実施形態～第１０実施形態に係るパチスロ機１の構成要素と同一の構成要素には、同一の符号を付して説明することとする。また、第１実施形態～第１０実施形態における説明が第１１実施形態においても当てはまる部分については、説明を省略することとする。

【５３４２】

なお、以上の説明において、例えば、「第１実施形態では、～」や「第１実施形態のパチスロ機１では、～」のように、第１実施形態に係るパチスロ機１に限定されるような記載であったとしても、第１１実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第１１実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。同様に、以上の説明において、第２実施形態～第１０実施形態に係るパチスロ機１に限定するような記載についても、第１１実施形態における趣旨を逸脱しない範囲で、第１１実施形態に係るパチスロ機１にも適用することができる。従って、第１実施形態～第１０実施形態に示した各構成（変形例で示した各構成及び拡張例で示した各構成も含む）を、第１１実施形態で示した構成と部分的に置換したり組み合わせたりすることが可能である。

【５３４３】

また、第１実施形態～第１０実施形態に係るパチスロ機１と異なる形状であったとしても、同様の機能を有する構成については、便宜上、同じ符号を付している場合がある。また、第１実施形態～第１０実施形態に係るパチスロ機１と同じ形状や同じ処理であったとしても、便宜上、異なる符合やステップ番号を付している場合もある。

【５３４４】

［ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例］

本実施形態では、まず図４３９～図４５９を参照して、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例を説明する。

【５３４５】

この種の遊技機（例えば、パチスロ機１）には、遊技価値が増加し得る状態として構成されたボーナス状態を搭載するものがある。ボーナス状態（ボーナス作動中）では、例えば、小役の当籤確率が上昇したり、あるいは小役当籤時の停止制御や小役入賞時の配当（払出枚数）が有利なものへと変動したりすることで、非ボーナス状態（ボーナス非作動中）と比べて遊技価値が増加しやすくなる。また、遊技者に有利な停止操作の情報が報知されることにより遊技価値が増加し得る状態として構成されたＡＴ状態を搭載するものもある。ＡＴ状態では、小役の入賞確率が上昇（より多くの払出を受けられるように）したり、遊技者に不利な入賞を回避可能としたりすることで、非ＡＴ状態と比べて遊技価値が増加しやすくなる。

【５３４６】

そして、ＡＴ状態を搭載せず、ボーナス状態のみを搭載し、遊技価値は主としてボーナ

ス状態にて増加する仕様のものは、例えば「Ａタイプ」（あるいは「ノーマルタイプ」）などと称される。一方、ＡＴ状態を搭載し、少なくともボーナス状態では遊技価値が増加しないようにして、遊技価値は主としてＡＴ状態にて増加する仕様のものは、例えば「ＡＴタイプ」などと称される。また、ボーナス状態及びＡＴ状態の双方を搭載するとともに、ボーナス状態でも遊技価値が増加するし、ＡＴ状態でも遊技価値が増加するようにした仕様のものは、例えば「Ａ＋ＡＴタイプ」などと称される。

【５３４７】

「ＡＴタイプ」、「ＡＴタイプ」、及び「Ａ＋ＡＴタイプ」のいずれの遊技機でも、型式試験の通過するために必要な出玉率の上限値や下限値は基本的に同じであるが、「Ａタイプ」や「Ａ＋ＡＴタイプ」ではボーナス状態で遊技価値が増加し得る仕様であるため、出玉率のほかにも、ボーナス役の当籤確率やボーナス状態での獲得枚数などに関する制約が生じる。例えば、一回のボーナス状態における付与可能枚数は最大でも３００枚程度（投入枚数を減じれば実際に付与されるのはさらに少ない）であり、特に「Ａタイプ」の遊技機では、一撃１０００枚といったような仕様の実装は困難である。また、（いずれのボーナス役にも当籤しておらず、また、ボーナス状態も作動していない状態での）ボーナス役の当籤確率は基本的に一定であり、しかもボーナス状態での付与可能枚数を上げれば上げるほどその当籤確率は低く設定せざるを得ない。

【５３４８】

すなわち、「Ａタイプ」の遊技機は、「Ａ＋ＡＴタイプ」や「ＡＴタイプ」の遊技機と比べて出玉増加速度が緩やかであり、射幸性が低くなっているものが多い。したがって、遊技場（ホール）では、例えば、「Ａタイプ」とそれ以外（「Ａ＋ＡＴタイプ」や「ＡＴタイプ」）とで設置される「シマ」が分けられていることが多く、射幸性が高い機種を望む遊技者が多い昨今では、「Ａ＋ＡＴタイプ」や「ＡＴタイプ」が設置されている「シマ」のほうが盛況となっている実情がある。

【５３４９】

かかる実情の下では、そのような「Ａタイプ」の遊技機に関する開発インセンティブを得られにくいという問題がある。すなわち、そのような「Ａタイプ」の遊技機においても、（むろん一定の出玉率の範囲内で設計することは前提であるが）遊技者に嗜好により合致するように出玉の起伏に富んだ遊技性を提供し、それによって遊技場の購買意欲を高める工夫をなす余地があるものと考えられる。本実施形態では、そのような工夫の一例について説明する。

【５３５０】

本実施形態では、例えば、以下のように定義する。

ボーナス状態：ボーナス作動中である状態。ここで、ボーナスとは、第１種特別役物又は役物連続作動装置を意味する。すなわち、ボーナス作動中とは、第１種特別役物の作動中、又は役物連続作動装置の作動中を意味する。また、第１種特別役物は、ＲＢやＲＥＧなどとも称される。また、役物連続作動装置は、第１種特別役物に係る役物連続作動装置と、第２種特別役物に係る役物連続作動装置とがあり、前者はＢＢやＢＩＧなどとも称される。また、後者はＭＢなどとも称される。単に「役物連続作動装置」と記載した場合には両者を含み得るものであるが、後者は含まず第１種特別役物に係る役物連続作動装置のことを示すものとしてもよい。

【５３５１】

ボーナス役：第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動に係る条件装置（当籤役）を意味する。例えば、後述の黒ＲＢや白ＲＢは、第１種特別役物の作動に係る条件装置（当籤役）であり、後述の赤ＢＢや青ＢＢは、役物連続作動装置の作動に係る条件装置（当籤役）である。なお、ボーナス役は、当籤役として決定された後、対応する図柄組合せが表示されるまで持ち越し可能に構成される。また、ボーナス役が持ち越されている状態は、ボーナス持越中（持越状態）、あるいはボーナス内部中（内部状態）として定義され得る。例えば、後述のＲＢ内部中は、白ＲＢが持ち越されている状態を示している。

【５３５２】

ＲＴ状態：再遊技役（リプレイ役）の決定態様が（状態ごとに所定の態様で）定められており、複数の状態がある場合にはそれぞれでその決定態様が異なる状態。なお、例えば、リプレイ役が後述の通常リプレイの１種類である場合、「決定態様が異なる」とはその当籤確率が異なることを意味する。仮に、ＲＴ０状態における通常リプレイの当籤確率が「８９８０／６５５３６」である場合、ＲＴ１状態における通常リプレイの当籤確率が「８９７９／６５５３６」や「８９８１／６５５３６」であれば異なるＲＴ状態となり得るが、「８９８０／６５５３６」であれば異なるＲＴ状態とはなり得ない。

【５３５３】

また、例えば、リプレイ役が後述のように通常リプレイとチャンスリプレイの２種類である場合、「決定態様が異なる」とは２種類のリプレイ役の当籤確率の合算値が変動することのみならず、いずれかのリプレイ役の当籤確率のみが変動することも意味し、後者の場合には、合算値が同一であってもいずれかのリプレイ役の当籤確率が変動していればそれに該当することを意味している。例えば、ＲＴ０状態における通常リプレイの当籤確率が「５０００／６５５３６」、チャンスリプレイの当籤確率が「３９８０／６５５３６」である場合（合算値は「８９８０／６５５３６」）、ＲＴ１状態における通常リプレイの当籤確率が「３９８０／６５５３６」、チャンスリプレイの当籤確率が「５０００／６５５３６」であれば（合算値は同じ「８９８０／６５５３６」であっても）異なるＲＴ状態となり得る。

【５３５４】

また、ＲＴ状態の変動契機は、（１）第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動に係る条件装置が作動したこと（すなわち、ボーナス役が当籤役として決定されたこと）、（２）第１種特別役物又は役物連続作動装置が作動することとなる図柄の組合せが表示されたこと（すなわち、ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されてボーナス状態が開始されること）、（３）第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動が終了したこと（すなわち、ボーナス状態の規定終了条件が成立してボーナス状態が終了すること）、（４）第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動に係る条件装置、第１種特別役物及び役物連続作動装置が作動していない場合において、特定の図柄の組合せが表示されたこと（すなわち、非ボーナス状態であって、ボーナス役が当籤役として決定されていない（持ち越されていない）ときに、規定される図柄組合せが表示されたこと）、（５）上記（３）又は（４）の成立後に行われたあらかじめ定められた回数の遊技の結果が得られたこと（すなわち、上記（３）又は（４）の成立後に規定ゲーム数の遊技が行われたこと）のいずれかを用いることができる。なお、複数の変動契機を組み合わせてＲＴ状態を変動させることが可能である。

【５３５５】

そして、本実施形態では、そのようなＲＴ状態の変動にともなってボーナス役の決定態様も異ならせるようにすることで、ＲＴ状態の変動契機に紐づけたボーナス確変（確率変動）の制御を実現している。すなわち、ＲＴ状態が変動してリプレイ役の決定態様が異なるものとなるのに連動して、ボーナス役の決定態様も異なるものとなるようにしているのである。なお、ボーナス役の「決定態様が異なる」の態様は、リプレイ役におけるものと同様である。ボーナス役が１種類であればその当籤確率を変動させることが「決定態様が異なる」ことに該当する。ボーナス役が２種類以上あれば、（たとえ合算値が同一であっても）いずれかのボーナス役の当籤確率を変動させていれば「決定態様が異なる」ことに該当するものである。

【５３５６】

なお、本実施形態では、非ボーナス状態であって、ボーナス役が当籤役として決定されていない（持ち越されていない）ときに、（いずれのＲＴ状態にも移行していないなどの意味で）初期状態となるＲＴ状態をＲＴ０状態とし、同様の条件下において、このＲＴ０状態（初期状態）からみてリプレイ役の決定態様が異なる状態（例えば、後述のＲＴ１状態やＲＴ２状態のようなリプレイ変動状態）を、ボーナス役の決定態様を異ならせ得る状態として用いるようにしている。すなわち、ここでいう「ボーナス役の決定態様を異なら

せる」とは、基本的には、非ボーナス状態からボーナス状態に移行してその決定態様を異ならせることや、ボーナス非内部中からボーナス内部中に移行してその決定態様を異ならせることは含んでいない。

【５３５７】

また、リプレイ役の決定態様の変動内容と、ボーナス役の決定態様の変動内容とは一致していなくともよい。例えば、ＲＴ０状態（ＲＴ１状態）：リプレイ役の当籤確率「低」・ボーナス役の当籤確率「低」→ＲＴ１状態（ＲＴ０状態）：リプレイ役の当籤確率「高」・ボーナス役の当籤確率「高」といった変動内容とせず、ＲＴ０状態（ＲＴ１状態）：リプレイ役の当籤確率「高」・ボーナス役の当籤確率「低」→ＲＴ１状態（ＲＴ０状態）：リプレイ役の当籤確率「低」・ボーナス役の当籤確率「高」といった変動内容とすることも可能である。すなわち、あくまでその変動契機自体は利用する（変動契機の成立にともなって決定態様を変動させる）が、リプレイ役の当籤確率が高くなったからといって必ずしもボーナスの当籤確率も高くする必要はない。その逆についても同様である。

【５３５８】

＜図柄配置テーブル＞

図４３９を参照し、本実施形態において用いることができる図柄配置テーブルの一例を説明する。

【５３５９】

図４３９に示す図柄配置テーブルは、左リール３Ｌ、中リール３Ｃ、及び右リール３Ｒの各々の表面に配されている図柄の配列（回転方向に沿って配されている図柄の位置）を表しており、２１個の図柄位置「０」～「２０」と、これらの図柄位置の各々に対応する図柄との対応関係を規定している。

【５３６０】

本実施形態では、各図柄位置において、「赤７」、「青７」、「黒ＢＡＲ」、「白ＢＡＲ」、「スイカ」、「チェリー」、「ベル」、及び「リプレイ」の８種類の図柄のうちのいずれが配置されている。なお、各図柄には、１バイト（８ビット）のデータによって構成された図柄コード（図４３９参照）が割り当てられており、これによってその図柄位置の図柄の種類を特定可能としている。

【５３６１】

なお、図示は省略しているが、各リールが停止状態にあるとき、前面の表示窓（例えば、メイン表示窓４）からは各リールの一部の図柄（図柄３個分）のみが視認され得るように構成される。すなわち、各リールが停止状態にあるときには、３行（上段・中段・下段）×３列（左リール３Ｌ・中リール３Ｃ・右リール３Ｒ）の９個分の図柄が表示される。

【５３６２】

また、本実施形態では、その表示窓において、５つの有効ラインが規定されるものとしている。「中段－中段－中段」からなるセンターラインと、「上段－上段－上段」からなるトップラインと、「下段－下段－下段」からなるボトムラインと、「上段－中段－下段」からなるクロスダウンラインと、「下段－中段－上段」からなるクロスアップラインである。もっとも、この有効ラインの構成は一例であって適宜変更することができる。例えば、センターラインのみを有効ラインとして構成することもできるし、後述の如く、「中段－中段－下段」といったような変則ラインを有効ラインとして構成することもできる。

【５３６３】

＜内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例１）＞

図４４０を参照し、本実施形態において用いることができる内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例１）を説明する。

【５３６４】

他の実施形態でも説明したように、内部抽籤テーブルは、遊技状態ごとの内部当籤役（当籤役となり得る役、抽籤対象となる役）の種類とその当籤確率を規定する。なお、当籤確率は「抽籤値／６５５３５６（確率分母）」から算出されるものであり、抽籤値が大きくなるほどその当籤確率が高くなる。なお、他の実施形態でも説明したため、抽出された

乱数値に対し、抽籤値を用いた所定の演算（例えば、減算ないし加算）を行って内部当籤役を決定する手法については、ここでの説明を省略する。

【５３６５】

Ｎｏ．０の「不当籤」は、「ハズレ」に相当するものであり、Ｎｏ．１～Ｎｏ．１７のいずれにも当籤しなかった場合に決定される。なお、「不当籤」が決定された場合には、停止操作の態様にかかわらず「ハズレ」の（いずれの作動・入賞も発生しない）図柄組合せが有効ライン上に表示される。もっとも、仮にボーナス内部中であるときに「不当籤」が決定された場合には、実質的には持ち越されていたボーナス役に単独当籤した状態となるため、この場合には停止操作の態様が適切であれば持ち越されていたボーナス役に対応する図柄組合せが表示される場合がある。

【５３６６】

ここで、図４４０においては、非ボーナス状態が、上述の初期状態であるＲＴ０状態と、上述のリプレイ変動状態であるＲＴ１状態の２つの遊技状態から構成される一例を説明しており、ボーナス内部中である場合は考慮していない。したがって、ボーナス内部中にあっては、ＲＴ０状態やＲＴ１状態が引き継がれて（より詳細にはそれらに規定された当籤確率が引き継がれて）内部抽籤が行われるようにしてもよいし、別のＲＴ状態に移行し、そのＲＴ状態で規定された当籤確率で内部抽籤が行われるようにしてもよい。いずれにしても、ボーナス内部中では、（すでにボーナス役の当籤が持ち越されているため）ボーナス役が新たに内部当籤役として決定されることはない。

【５３６７】

「不当籤」が決定される抽籤値（換言すれば、当籤確率）は、他の内部当籤役との関係で変動する（図４４０中（※７）参照）。「不当籤」が決定される抽籤値は、「６５５３６」から他の内部当籤役の抽籤値の合算値を減算した値となるわけであるが、例えば、仮にＲＴ０状態においてリプレイ役の当籤確率が低く（抽籤値が小さく）、ボーナス役の当籤確率も低く（抽籤値が小さく）構成されていた場合には、（小役の当籤確率はＲＴ０状態とＲＴ１状態とで同じであるため）、「不当籤」が決定される抽籤値は大きくなる。一方、仮にＲＴ１状態においてリプレイ役の当籤確率が高く（抽籤値が大きく）、ボーナス役の当籤確率も高く（抽籤値が大きく）構成されていた場合には、「不当籤」が決定される抽籤値は大きくなる（「不当籤」が決定されないようにその抽籤値を「０」とすることもできる）。

【５３６８】

Ｎｏ．１の「通常リプレイ」は、「再遊技役（リプレイ役）」である。「通常リプレイ」が決定された場合には、停止操作の態様にかかわらず「リプレイ－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、再遊技が付与される。なお、図４４０では、ＲＴ０状態における「通常リプレイ」の当籤確率の一例としてその抽籤値を「７６６８」と規定しているが、その値は任意に変更可能である。

【５３６９】

Ｎｏ．２の「チャンスリプレイ」は、「再遊技役（リプレイ役）」である。「チャンスリプレイ」が決定された場合には、停止操作の態様にかかわらず「赤７－リプレイ－リプレイ」、「青７－リプレイ－リプレイ」、「黒ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」、及び「白ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」のいずれかの図柄組合せが有効ライン上に表示され、再遊技が付与される。

【５３７０】

なお、これは、Ｎｏ．９の「チャンスリプレイ＋赤ＢＢ」、Ｎｏ．１０の「チャンスリプレイ＋青ＢＢ」、及びＮｏ．１１の「チャンスリプレイ＋黒ＲＢ」の場合も基本的に同様である。これらの内部当籤役はリプレイ役とボーナス役が重複当籤することを意味するものであるが、本実施形態では、リプレイ役とボーナス役が重複して内部当籤役として決定された場合（ボーナス役が持ち越された状態で各リプレイ役が当籤した場合も同様）、リプレイ役の図柄組合せのほうを優先的に停止する制御（リプレイ優先制御）が行われるためである。

【５３７１】
　また、図４４０では、ＲＴ０状態における「チャンスリプレイ」の当籤確率（Ｎｏ．２とＮｏ．９～Ｎｏ．１１の合算値）の一例としてその抽籤値を「１３１０」と規定しているが、その値は任意に変更可能である。
【５３７２】
　Ｎｏ．３の「ベル」は、「小役」である。「ベル」が決定された場合には、停止操作の態様にかかわらず「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、４枚の遊技価値が付与される。なお、図４４０では、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態における「ベル」の当籤確率の一例としてその抽籤値を「２１８４０」と規定しているが、その値は任意に変更可能である。また、付与される遊技価値数を「４枚」としているが、その枚数も任意に変更可能である。例えば、これを遊技価値増加役（投入枚数よりも多い遊技価値を付与する役）とするならば、「４枚」～「１５枚」のうちの任意の枚数とすることができるし、遊技価値非増加役（投入枚数以下の遊技価値を付与する役）とするならば、「１枚」～「３枚」のうちの任意の枚数とすることができる。
【５３７３】
　Ｎｏ．４の「チェリー」は、「小役」である。「チェリー」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、左リール３Ｌへの停止操作タイミング）が適切であれば「チェリー－（ＡＮＹ）－（ＡＮＹ）」（※「（ＡＮＹ）」はいずれの図柄でもよいことを示す）の図柄組合せが有効ライン上に表示され、４枚の遊技価値が付与される。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、遊技価値は付与されない。なお、「チェリー」と各ボーナス役が重複当籤する場合（Ｎｏ．１２～Ｎｏ．１４）については後述する。図４４０では、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態における「チェリー」の当籤確率（Ｎｏ．４とＮｏ．１２～Ｎｏ．１４の合算値）の一例としてその抽籤値を「１３１０」と規定しているが、その値は任意に変更可能である。また、付与される遊技価値数を「４枚」としているが、その枚数も任意に変更可能である。例えば、これを上述の遊技価値増加役としてもよいし、上述の遊技価値非増加役としてもよい。
【５３７４】
　Ｎｏ．５の「スイカ」は、「小役」である。「スイカ」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、各リールへの停止操作タイミング）が適切であれば「スイカ－スイカ－スイカ」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、１２枚の遊技価値が付与される。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、遊技価値は付与されない。なお、「スイカ」と各ボーナス役が重複当籤する場合（Ｎｏ．１５～Ｎｏ．１７）については後述する。図４４０では、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態における「スイカ」の当籤確率（Ｎｏ．５とＮｏ．１５～Ｎｏ．１７の合算値）の一例としてその抽籤値を「１３１０」と規定しているが、その値は任意に変更可能である。また、付与される遊技価値数を「１２枚」としているが、その枚数も任意に変更可能である。例えば、これを上述の遊技価値増加役としてもよいし、上述の遊技価値非増加役としてもよい。
【５３７５】
　Ｎｏ．６の「赤ＢＢ」は、「ボーナス役」である（この場合は単独当籤）。「赤ＢＢ」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、各リールへの停止操作タイミング）が適切であれば「赤７－赤７－赤７」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、ボーナス状態（赤ＢＩＧ）が作動する（開始する）。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、ボーナス状態（赤ＢＩＧ）は作動しない。なお、この場合には赤ＢＢの当籤が次遊技以降に（対応する図柄組合せが表示されるまで）持ち越される。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ）の規定終了条件は任意に設定することができるが、例えば当該状態において「２４０枚」を超える払出が行われたことをその規定終了条件として設定することができる。
【５３７６】
　Ｎｏ．７の「青ＢＢ」は、「ボーナス役」である（この場合は単独当籤）。「青ＢＢ」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、各リールへの停止操作タイミング）が

適切であれば「青７－青７－青７」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、ボーナス状態（青ＢＩＧ）が作動する（開始する）。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、ボーナス状態（青ＢＩＧ）は作動しない。なお、この場合には青ＢＢの当籤が次遊技以降に（対応する図柄組合せが表示されるまで）持ち越される。また、ボーナス状態（青ＢＩＧ）の規定終了条件は任意に設定することができるが、例えば当該状態において「２４０枚」を超える払出が行われたことをその規定終了条件として設定することができる。

【５３７７】

Ｎｏ．８の「黒ＲＢ」は、「ボーナス役」である（この場合は単独当籤）。「黒ＲＢ」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、各リールへの停止操作タイミング）が適切であれば「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、ボーナス状態（ＲＥＧ）が作動する（開始する）。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、ボーナス状態（ＲＥＧ）は作動しない。なお、この場合には黒ＲＢの当籤が次遊技以降に（対応する図柄組合せが表示されるまで）持ち越される。また、ボーナス状態（ＲＥＧ）の規定終了条件は任意に設定することができるが、例えば当該状態において８回の入賞は発生したこと、あるいは１２回の遊技が行われたことをその規定終了条件として設定することができる。また、「黒ＲＢ」を「黒ＢＩＧ」が作動する内部当籤役として構成することもできる。この場合、その規定終了条件を例えば「６０枚」を超える払出が行われたこととして設定することができる。

【５３７８】

Ｎｏ．９の「チャンスリプレイ＋赤ＢＢ」は、リプレイ役である「チャンスリプレイ」とボーナス役である「赤ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１０の「チャンスリプレイ＋青ＢＢ」は、リプレイ役である「チャンスリプレイ」とボーナス役である「青ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１１の「チャンスリプレイ＋黒ＲＢ」は、リプレイ役である「チャンスリプレイ」とボーナス役である「黒ＲＢ」との重複当籤役である。なお、すでに説明したように、これらに当籤した場合にはリプレイ優先制御が行われるため、当籤した遊技では「チャンスリプレイ」の図柄組合せが表示されて再遊技が付与され、当籤したボーナス役は持ち越される。

【５３７９】

Ｎｏ．１２の「チェリー＋赤ＢＢ」は、小役である「チェリー」とボーナス役である「赤ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１３の「チェリー＋青ＢＢ」は、小役である「チェリー」とボーナス役である「青ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１４の「チェリー＋黒ＲＢ」は、小役である「チェリー」とボーナス役である「黒ＲＢ」との重複当籤役である。

【５３８０】

なお、これらの内部当籤役が決定された場合（ボーナス役が持ち越された状態で「チェリー」が当籤した場合も同様）、基本的には小役の図柄組合せのほうを優先的に停止する制御（小役優先制御）が行われるものとしてもよいし、ボーナス役の図柄組合せのほうを優先的に停止する制御（ボーナス優先制御）が行われるものとしてもよい。この例を以下に説明する。

【５３８１】

小役優先制御を行う場合に、例えば「チェリー＋赤ＢＢ」が内部当籤役として決定されたとする。そして、左リール３Ｌにおいて「赤７」図柄も「チェリー」図柄も表示可能なタイミング（例えば、図４３９において、図柄位置「２」～「４」付近を有効ライン上に停止可能なタイミング）で停止操作が行われたとする。このときには、左リール３Ｌの有効ライン上に「チェリー」図柄を停止させる。本実施形態では、小役入賞が発生する遊技ではボーナス状態が作動することはないように構成されているため、左リール３Ｌの他の有効ライン上に「赤７」図柄が停止していても、他のリールにおいて「赤７」図柄がその有効ライン上に揃うことがないように停止制御される（蹴とばし制御が行われる）。

【５３８２】

一方、小役優先制御を行う場合であっても、左リール３Ｌにおいて「チェリー」図柄は表示可能でないが、「赤７」図柄は表示可能であるタイミング（例えば、図４３９において、図柄位置「２」や「４」のみを有効ライン上に停止可能なタイミング）で停止操作が行われたとする（すなわち、「チェリー」の図柄組合せは「取りこぼし」となるが、「赤ＢＢ」の図柄組合せは表示可能なタイミングで停止操作が行われたとする）。この場合には、左リール３Ｌの有効ライン上に「赤７」図柄を停止させる。そして、他のリールにおいても停止操作のタイミングが適切である限り「赤７」図柄がその有効ライン上に揃うように停止制御されることとなる。

【５３８３】

これに対し、ボーナス優先制御を行う場合に、例えば「チェリー＋赤ＢＢ」が内部当籤役として決定されたとする。そして、左リール３Ｌにおいて「赤７」図柄も「チェリー」図柄も表示可能なタイミング（例えば、図４３９において、図柄位置「２」～「４」付近を有効ライン上に停止可能なタイミング）で停止操作が行われたとする。このときには、左リール３Ｌの有効ライン上に「チェリー」図柄を停止させず、「赤７」図柄を停止させる。すなわち、左リール３Ｌの有効ライン上に「チェリー」図柄が停止することを蹴とばして「チェリー」の図柄組合せの「取りこぼし」を発生させ、その遊技では小役入賞の発生よりもボーナス状態の作動を優先させる。あとは、他のリールにおいても停止操作のタイミングが適切である限り「赤７」図柄がその有効ライン上に揃うように停止制御されることとなる。

【５３８４】

なお、上記例では、「チェリー」と「赤ＢＢ」を一例に挙げて説明しているが、「スイカ」や他のボーナス役についても同様である。例えば、「スイカ＋青ＢＢ」が内部当籤役として決定された場合に、その機種として小役優先制御を採用していればなるべく「スイカ」の図柄組合せが表示されるように制御し、その機種としてボーナス優先制御を採用していればなるべく「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されるように制御することができる。なお、これは「取りこぼし」が発生しない「ベル」にも適用され得る。例えば、「ベル」が内部当籤役として決定された遊技で「黒ＲＢ」が持ち越されている場合に、その機種として小役優先制御を採用していれば「ベル」の図柄組合せが表示されるように制御し、その機種としてボーナス優先制御を採用していればなるべく「黒ＲＢ」の図柄組合せが表示されるように制御することができる。

【５３８５】

Ｎｏ．１５の「スイカ＋赤ＢＢ」は、小役である「スイカ」とボーナス役である「赤ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１６の「スイカ＋青ＢＢ」は、小役である「スイカ」とボーナス役である「青ＢＢ」との重複当籤役である。また、Ｎｏ．１７の「スイカ＋黒ＲＢ」は、小役である「スイカ」とボーナス役である「黒ＲＢ」との重複当籤役である。

【５３８６】

（リプレイ役の決定態様の変動（構成例１））

ＲＴ０状態とＲＴ１状態とで、リプレイ役の決定態様を異ならせ得ることはすでに説明したとおりであるが、ここでは改めてその一例を説明する。

【５３８７】

リプレイ役の決定態様を合算値ベース（Ｎｏ．１＋Ｎｏ．２＋Ｎｏ．９～Ｎｏ．１１）で異ならせることができる。図４４０では、ＲＴ０状態のリプレイ役の当籤確率（抽籤値）は合算値で「８９７８」であるので、ＲＴ１状態ではこれよりもリプレイ役の当籤確率を高く（抽籤値を大きく）することができる（むろん、これによりもリプレイ役の当籤確率を低く（抽籤値を小さく）することもできるが、ここではその当籤確率を高く（抽籤値を大きく）する一例を説明する）。なお、ここでは、ＲＴ１状態のリプレイ役の当籤確率（抽籤値）を「１６３８４」にしてその当籤確率を高めることを例示する。

【５３８８】

例えば、ＲＴ１状態の通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）を「１５０

７４」とし、チャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）は変動させないといった決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態では通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）のみを高くするといった決定態様を採用することができる。

【５３８９】

また、例えば、ＲＴ１状態のチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照。ただし、Ｎｏ．９～Ｎｏ．１１ではそれぞれのボーナス役の当籤確率を高くすることが前提となるので、ボーナス役の当籤確率を高くしない場合にはその対象となるボーナス役と重複当籤する内部当籤役の当籤確率は高くしない。以下においても同様）を「８７１６」とし、通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）は変動させないといった決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態ではチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）のみを高くするといった決定態様を採用することができる。なお、この場合（以下においてチャンスリプレイの当籤確率を高くする場合も同様）、Ｎｏ．２の当籤確率のみを高くすることもできるし、Ｎｏ．９～Ｎｏ．１１の当籤確率のみを高くすることもできるし、それぞれの当籤確率を高くすることもできる。

【５３９０】

また、例えば、ＲＴ１状態の通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）を「１２０００」とし、チャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）を「４３８４」とする決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態では通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）もチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）も高くするといった決定態様を採用することができる。

【５３９１】

リプレイ役の決定態様を合算値ベース（Ｎｏ．１＋Ｎｏ．２＋Ｎｏ．９～Ｎｏ．１１）では異ならせないが、その抽籤内容を異ならせることもできる。図４４０では、ＲＴ０状態のリプレイ役の当籤確率（抽籤値）は合算値で「８９７８」であるので、ＲＴ１状態でもこれと同じ当籤確率（抽籤値）とする。そして、例えば、以下のようにその抽籤内容を変動させる。

【５３９２】

例えば、ＲＴ１状態の通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）はＲＴ０状態のものと同じとするが、ボーナス役と重複しないチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中のＮｏ．２における（※６）参照）は「１１０」とし、ボーナス役と重複するチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中のＮｏ．９～Ｎｏ．１１における（※６）参照）をそれぞれ「４００」とする決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態ではチャンスリプレイのボーナス役との重複当籤確率を高くするといった決定態様を採用することができる。

【５３９３】

また、この場合、ボーナス役と重複しないチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中のＮｏ．２における（※６）参照）は「０」とし、ボーナス役と重複するチャンスリプレイの当籤確率（図４４０中のＮｏ．９～Ｎｏ．１１における（※６）参照）を、Ｎｏ．９及びＮｏ．１０にあってはそれぞれ「５００」とし、Ｎｏ．１１にあっては「３１０」とする決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態ではチャンスリプレイのボーナス役との重複当籤確率を１００％にするといった決定態様を採用することができる。

【５３９４】

また、例えば、ＲＴ１状態の通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）を「０」とし、チャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）を「８９７８」とする決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態では通常リプレイは当籤せず、チャンスリプレイのみが当籤する（あるいは、通常リプレイは低確率でしか当籤しない）といった決定態様を採用することができる。

【５３９５】

また、例えば、ＲＴ１状態の通常リプレイの当籤確率（図４４０中（※５）参照）を「

８９７８」とし、チャンスリプレイの当籤確率（図４４０中（※６）参照）を「０」とする決定態様を採用することができる。すなわち、ＲＴ１状態ではチャンスリプレイは当籤せず、通常リプレイのみが当籤する（あるいは、チャンスリプレイは低確率でしか当籤しない）といった決定態様を採用することができる。

【５３９６】

なお、これらはあくまで一例である。したがって、ＲＴ０状態とＲＴ１状態との間でリプレイ役の決定態様を異ならせる手法はこれらに限られない。また、合算値ベースで決定態様を異ならせる各種の手法と、合算値ベースで異ならせずに抽籤内容を異ならせる各種の手法とを組み合わせてその決定態様を異ならせることも可能である。

【５３９７】

（ボーナス役の決定態様の変動（構成例１））

ＲＴ０状態とＲＴ１状態とで、ボーナス役の決定態様を異ならせ得ることはすでに説明したとおりである。なお、特に、「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」に関してその決定態様を異ならせる仕様例（後述の仕様例１～８）は、図４４５～図４５２を用いて後で説明するため、ここでの説明は省略する。むろん、上記リプレイ役の決定態様の変動（構成例１）で説明した各例は、「リプレイ役」を「ボーナス役」に置き換えて適用可能である。

【５３９８】

＜内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例１）＞

図４４１を参照し、本実施形態において用いることができる内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例１）を説明する。

【５３９９】

図４４１に示すボーナス状態の構成例１は、ＢＢ遊技（例えば、赤ＢＩＧや青ＢＩＧ）の作動が開始されたときからその規定終了条件が成立する（規定された払出枚数に到達する）まで、当該ＢＢ中は常にＲＢ中（第１種特別役物が作動している状態）に制御される仕様例である。

【５４００】

そして、ボーナス状態（上述の如く、ＢＢ中かつＲＢ中であるとき）には、例えば図４４１にその一例を示した内部抽籤テーブルによって内部抽籤が行われる。なお、非ボーナス状態とは異なり、「ベル」の図柄組合せが表示されると、１５枚の遊技価値が付与される。なお、図４４１では、ＢＢ中かつＲＢ中であるときの「ベル」の抽籤値を「６５５３６」としている（すなわち、「不当籤」は発生しないようにしている）が、これはあくまで一例である。所定確率で「不当籤」が発生するようにすることもできるし、「ベル」以外の内部当籤役が決定され得るようにすることもできる。また、「ベル」は、上述の遊技価値増加役として構成される限りその付与枚数を任意の枚数とすることができる。また、上述のＲＥＧ（黒ＲＢ中）においても、同様の内部抽籤テーブルを用いて内部抽籤を行うことができる。

【５４０１】

＜内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例２）＞

図４４２を参照し、本実施形態において用いることができる内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例２）を説明する。

【５４０２】

図４４２に示すボーナス状態の構成例２は、ＢＢ遊技（例えば、赤ＢＩＧや青ＢＩＧ）の作動が開始されたときにはＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）に制御され、ＲＢ非内部中において「白ＲＢ」（Ｎｏ．６）が内部当籤役として決定された遊技で、「白ＲＢ」の図柄組合せ（例えば、「白ＲＢ－白ＲＢ－白ＲＢ」の図柄組合せ）が表示された場合にはＲＢ中（白ＲＢ中）に制御される一方、「白ＲＢ」の図柄組合せが表示されなかった場合にはＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に制御される仕様例である。むろん、いずれの状態にあっても、その規定終了条件が成立した（規定された払出枚数に到達した）場合にはＢＢ遊技が終了する。また、ＲＢ中（白ＲＢ中）は、当該状態において８回の入賞は発生したこと、あるいは１２回の遊技が行われたことをその規定終了条件として設定することができ、その

規定終了条件が成立して未だＢＢ遊技の規定終了条件を満たしていない場合にはＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）に戻る。

【５４０３】

図４４２に示すボーナス状態の構成例２においては、Ｎｏ．３の「ベル」の内部当籤役が決定されたときに、ＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）及びＲＢ中（白ＲＢ中）であれば、停止操作の態様にかかわらず「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、４枚の遊技価値が付与される。一方、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）であれば、停止操作の態様にかかわらず「ベル－リプレイ－ベル」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、１５枚の遊技価値が付与される。すなわち、本例の「ベル」は、もともと「ベル－ベル－ベル」に関連する複数種類の図柄組合せや「ベル－リプレイ－ベル」の図柄組合せについて、内部的に表示が許容される構成となっており、ＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）及びＲＢ中（白ＲＢ中）は「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが優先的に表示される制御（条件装置数優先制御）が行われ、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）は「ベル－リプレイ－ベル」の図柄組合せが優先的に表示される制御（払出数優先制御）が行われるものとなっている。

【５４０４】

また、図４４２に示すボーナス状態の構成例２においては、ＲＢ中（白ＲＢ中）のみ内部当籤役として決定されるＮｏ．７の「ＲＢ中役」が設けられている。「ＲＢ中役」の内部当籤役が決定されたときは、停止操作の態様にかかわらず「ベル－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、１枚の遊技価値が付与される。なお、「ＲＢ中役」は、上述の遊技価値非増加役として構成される限りその付与枚数を任意の枚数とすることができる。

【５４０５】

ここで、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）と、ＲＢ中（白ＲＢ中）とを比較すると、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）では、リプレイ役の当籤確率が高く、「ベル」が内部当籤役として決定されたときには１５枚の遊技価値が付与されるのに対し、ＲＢ中（白ＲＢ中）では、リプレイ役の当籤確率が低く、「ベル」が内部当籤役として決定されたときに４枚の遊技価値しか付与されず、また、当籤確率が高い「ＲＢ中役」が内部当籤役として決定されたときに１枚の遊技価値しか付与されない。したがって、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）が最も有利な状態となっている。

【５４０６】

よって、図４４２に示すボーナス状態の構成例２においては、ＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）において「白ＲＢ」（Ｎｏ．６）が内部当籤役として決定された遊技で、「白ＲＢ」の図柄組合せを表示させない停止操作を行ってＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に移行させ、当該状態でずっと遊技を行うのが遊技者にとって有利な遊技方法となる。なお、本例において上述の小役優先制御を行うようにすれば、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）では「白ＲＢ」の図柄組合せが表示され得ないようにすることができる。

【５４０７】

＜内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例３）＞

図４４３を参照し、本実施形態において用いることができる内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例３）を説明する。

【５４０８】

図４４３に示すボーナス状態の構成例３は、ＢＢ遊技（例えば、赤ＢＩＧや青ＢＩＧ）の作動が開始されたときにはＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）に制御され、ＲＢ非内部中において、「ベル＋白ＲＢ」（Ｎｏ．６）が内部当籤役として決定された遊技で、「白ＲＢ」の図柄組合せ（例えば、「白ＲＢ－白ＲＢ－白ＲＢ」の図柄組合せ）が表示された場合にはＲＢ中（白ＲＢ中）に制御される一方、「白ＲＢ」の図柄組合せが表示されなかった場合にはＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に制御される仕様例である。なお、本例では、上述のボーナス優先制御が採用されているため、「ベル＋白ＲＢ」が内部当籤役として決定された遊技において、各リールで「白ＢＡＲ」図柄が停止可能なタイミングで停止操作が行われれば、「ベル」図柄が揃うことよりも「白ＢＡＲ」図柄が揃うことのほうが優先される

（むろん、各リールで「白ＢＡＲ」図柄が停止可能なタイミングで停止操作が行われなければ「ベル」図柄が揃う）。また、これは、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）において小役のいずれかが内部当籤役として決定された場合も同様である。

【５４０９】

また、ＲＢ非内部中において、「通常リプレイ＋白ＲＢ」（Ｎｏ．７）が内部当籤役として決定された遊技では、「白ＲＢ」の図柄組合せよりも「通常リプレイ」の図柄組合せが優先的に停止される制御が行われるため、この遊技では「白ＲＢ」の図柄組合せは表示されずに（「通常リプレイ」の図柄組合せが表示されて再遊技が付与され）ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に制御される。また、これは、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）においてリプレイ役のいずれかが内部当籤役として決定された場合も同様である。いずれの状態にあっても、ＢＢ遊技の規定終了条件が成立した（規定された払出枚数に到達した）場合にはＢＢ遊技が終了する。また、ＲＢ中（白ＲＢ中）は、当該状態において８回の入賞は発生したこと、あるいは１２回の遊技が行われたことをその規定終了条件として設定することができ、その規定終了条件が成立した場合には終了する。

【５４１０】

もっとも、図４４３に示すボーナス状態の構成例３では、ＲＢ中（白ＲＢ中）にも「ベル＋白ＲＢ」（Ｎｏ．６）が内部当籤役として決定され得るようになっており、ＲＢ中（白ＲＢ中）に「ベル＋白ＲＢ」が内部当籤役として決定された場合にはＲＢ中（白ＲＢ中）が「白ＲＢ」が持ち越された状態となる（なお、「白ＲＢ」が持ち越された以後は、「ベル＋白ＲＢ」が内部当籤役として決定されてもさらに「白ＲＢ」が持ち越されることはないため、当該内部当籤役は実質的に「ベル」の内部当籤役となる）。

【５４１１】

なお、ＲＢ中（白ＲＢ中）においては、「白ＲＢ」が当籤してもその図柄組合せが表示されない（すなわち、重畳してＲＢが作動しない）構成となっているため、「ベル＋白ＲＢ」が内部当籤役として決定された遊技では、停止操作の態様にかかわらず「ベル」の図柄組合せが表示される制御が行われる。したがって、ＲＢ中（白ＲＢ中）の規定終了条件が成立したときに「白ＲＢ」が持ち越された状態となっており（本例では、ＲＢ中（白ＲＢ中）に「ベル＋白ＲＢ」が高確率で決定され得る構成となっているので、ほとんどの場合これを満たす）、未だＢＢ遊技の規定終了条件を満たしていない場合にはＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に戻る。むろん、ＲＢ中（白ＲＢ中）の規定終了条件が成立したときに「白ＲＢ」が持ち越された状態となっておらず、未だＢＢ遊技の規定終了条件を満たしていない場合にはＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）に戻るようにすればよい。もっとも、ＲＢ中（白ＲＢ中）において「白ＲＢ」の図柄組合せを表示可能な構成としてもよい。ＲＢ中（白ＲＢ中）に新たにＲＢに作動することはないため、ＲＢ中（白ＲＢ中）に「白ＲＢ」の図柄組合せが表示された場合にはハズレと同様に扱われ、持ち越しされた「白ＲＢ」が維持されるようにしてもよい。

【５４１２】

また、図４４３に示すボーナス状態の構成例３では、ＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）及びＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）は図４４０に示す非ボーナス状態の構成例１と同様に３枚ベット遊技であるため、小役についてはこれと同様の配当となる。一方、ＲＢ中（白ＲＢ中）は図４４１に示すボーナス状態の構成例１と同様に１枚ベット遊技であるため、小役についてはこれと同様の配当となる。すなわち、本例では、ＲＢ中（白ＲＢ中）はＮｏ．３の「ベル」及びＮｏ．６の「ベル＋白ＲＢ」のいずれが内部当籤役として決定された場合であっても、も停止操作の態様にかかわらず「ベル」の図柄組合せが表示され、１５枚の遊技価値が付与される。

【５４１３】

ここで、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）と、ＲＢ中（白ＲＢ中）とを比較すると、ＲＢ中（白ＲＢ中）のほうが、少ないベット数で、しかも高確率で多くの払出（１５枚）を受けることができるようになっている。したがって、ＲＢ中（白ＲＢ中）が最も有利な状態となっている。

【５４１４】
よって、図４４３に示すボーナス状態の構成例３においては、ＲＢ非内部中（ＢＢ一般中）において「ベル＋白ＲＢ」（Ｎｏ．６）が内部当籤役として決定された遊技、あるいは、ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）においていずれかの小役が内部当籤役として決定された遊技で、「白ＲＢ」の図柄組合せを表示させ得る停止操作を行ってＲＢ中（白ＲＢ中）に移行させ、当該状態で遊技を行い、また、再度ＲＢ内部中（白ＲＢ内部中）に移行した際は、同様に「白ＲＢ」の図柄組合せを表示させ得る停止操作を行ってＲＢ中（白ＲＢ中）に移行させるといったことをＢＢ遊技が終了するまで行うのが遊技者にとって有利な遊技方法となる。
【５４１５】
（ボーナス状態の構成例３の詳細説明）
続いて、図４４４を参照し、本実施形態におけるボーナス状態の構成例３をより詳しく説明する。なお、図４４４において、「ホール及び試射試験における挙動」として説明している欄（上段）は、遊技場（ホール）において実際に遊技者が遊技を行う場合、及び型式試験において試射試験（実際の遊技を想定して行われる試験）が行われる場合のボーナス状態の流れの一例を説明する図であり、「ＳＩＭ試験における挙動」として説明している欄（下段）は、型式試験におけてＳＩＭ（シミュレーション）試験（定められたルールにしたがって計算上行われる試験）が行われる場合のボーナス状態の流れの一例を説明する図である。
【５４１６】
上段の挙動及び下段の挙動のいずれにおいても、１ゲーム目では「通常リプレイ＋白ＲＢ」（Ｎｏ．７）に当籤している。上述のとおり、当該ゲームでは「通常リプレイ」の図柄組合せが表示されて再遊技が付与される。なお、「白ＲＢ」は持ち越されるため、遊技状態がＲＢ非内部中からＲＢ内部中に移行する。
【５４１７】
上段の挙動において、２ゲーム目では「ベル」（Ｎｏ．３）に当籤している。なお、ＲＢ内部中であるため、当該ゲームの内部当籤役は「ベル＋白ＲＢ（持越）」となる。ここでは、上述の如くボーナス優先制御が行われることにより、「ベル」の図柄組合せよりも「白ＲＢ」の図柄組合せが優先的に停止されるため、当該ゲームでは「白ＲＢ」の図柄組合せが表示される（なお、停止操作のタイミングは適切であったものとする）。これにより遊技状態がＲＢ内部中からＲＢ中に移行する（これを図４４４では「ＪＡＣＩＮ」と称している）。
【５４１８】
続く３ゲーム目では「ベル＋白ＲＢ」（Ｎｏ．６）に当籤している。ここで、上述の如く「ベル」の図柄組合せが停止されるため、当該ゲームでは「ベル」の図柄組合せが表示されて１５枚の遊技価値が付与される。また、「白ＲＢ」は持ち越される。続く４ゲーム目では、「白ＲＢ」が持ち越された状態で「ベル」（Ｎｏ．３又はＮｏ．６）に当籤している。当該ゲームでは「ベル」の図柄組合せが表示されて１５枚の遊技価値が付与される。なお、１０ゲーム目までは４ゲーム目と同様となるため、説明を省略する。１０ゲーム目ではＲＢ中の入賞回数が８回となったため（ここでは未だＢＢ遊技は終了していないものとする）、ＲＢ中が終了し、また「白ＲＢ」が持ち越されているため、遊技状態がＲＢ中からＲＢ内部中に移行する。
【５４１９】
続く１１ゲーム目では「ベル」（Ｎｏ．３）に当籤している。なお、ＲＢ内部中であるため、当該ゲームの内部当籤役は「ベル＋白ＲＢ（持越）」となる。ここでは、上述の如くボーナス優先制御が行われることにより、「ベル」の図柄組合せよりも「白ＲＢ」の図柄組合せが優先的に停止されるため、当該ゲームでは「白ＲＢ」の図柄組合せが表示される（なお、停止操作のタイミングは適切であったものとする）。これにより遊技状態がＲＢ内部中から再度ＲＢ中に移行する。以降はＢＢ遊技が終了するまで同様の流れを繰り返し行うことができる。

【５４２０】
一方、下段の挙動において、２ゲーム目では「ベル」（Ｎｏ．３）に当籤している。なお、ＲＢ内部中であるため、当該ゲームの内部当籤役は「ベル＋白ＲＢ（持越）」となる。ここでは、上述の如くボーナス優先制御が行われることにより、本来であれば「ベル」の図柄組合せよりも「白ＲＢ」の図柄組合せが優先的に停止されるのであるが、ＳＩＭ試験上は、ボーナス役と重複して当籤した小役が遊技価値増加役である場合には、その小役の入賞となって、ボーナス状態は作動しない扱いとなっている。したがって、この場合、当該ゲームでは「ベル」の図柄組合せが表示されて４枚の遊技価値が付与されたことになる。また、遊技状態もＲＢ内部中のままとなる。なお、ボーナス役と重複して当籤した小役が遊技価値非増加役である場合には、（ボーナス役の図柄組合せが表示されたことになり）ボーナス状態が作動する扱いとなっている。すなわち、仮に「ベル」の配当が３枚以下であれば、当該ゲームでは当該ゲームでは「白ＲＢ」の図柄組合せが表示されたこととなる。
【５４２１】
続く３ゲーム目では「ベル」（Ｎｏ．３）に当籤している。なお、ＲＢ内部中であるため、当該ゲームの内部当籤役は「ベル＋白ＲＢ（持越）」となる。ここでも、ＳＩＭ試験上は２ゲーム目と同様、当該ゲームでは「ベル」の図柄組合せが表示されて４枚の遊技価値が付与されたことになる。なお、４ゲーム目、６ゲーム目、９ゲーム目、及び１１ゲーム目の挙動は３ゲーム目と同様となるため、説明を省略する。
【５４２２】
５ゲーム目では「通常リプレイ」（Ｎｏ．１）に当籤している。なお、ＲＢ内部中であるため、当該ゲームの内部当籤役は「通常リプレイ＋白ＲＢ（持越）」となる。もっとも、上述のとおり、当該ゲームでは「通常リプレイ」の図柄組合せが表示されて再遊技が付与される（ＳＩＭ試験上も同様）。なお、７ゲーム目、８ゲーム目、及び１０ゲーム目の挙動は５ゲーム目と同様となるため、説明を省略する。
【５４２３】
例えば、上段の挙動における１～１０ゲーム目に着目する。上段の挙動において、１～１０ゲーム目で使用された遊技価値（投入枚数）は合計１４枚である（説明の便宜のため、再遊技は考慮していない）。これに対し、１～１０ゲーム目で付与された遊技価値（払出枚数）は合計１２０枚である。すなわち、上段の挙動における１～１０ゲーム目では、１０６枚の遊技価値が増加している。
【５４２４】
一方、例えば、下段の挙動における１～１０ゲーム目に着目する。下段の挙動において、１～１０ゲーム目で使用された遊技価値（投入枚数）は合計３０枚である（説明の便宜のため、再遊技は考慮していない）。これに対し、１～１０ゲーム目で付与された遊技価値（払出枚数）は合計２０枚である。すなわち、下段の挙動における１～１０ゲーム目では、１０枚の遊技価値が減少している扱いとなっている。
【５４２５】
すなわち、このような構成例によれば、少なくともＳＩＭ試験上の遊技価値の増加割合（純増数）を減少させることが可能となる。これにより、型式試験において、ＳＩＭ試験の適合率（合格率）を高めることができるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。
【５４２６】
（ＢＢ開始１ゲーム目のＲＢ重複期待感ゲーム）
ボーナス状態の構成例３において、ＢＢの作動終了（規定終了条件の成立）となる払出枚数を以下の式を充足するものとしてもよい。
・ＢＢの作動終了となる払出枚数＝ＲＢ中の主要小役の払出枚数×Ｎ＋Ｍ（１～Ａの範囲の任意の値）
・Ｎ：規則上のＢＢの払出条件を超えない範囲での任意の整数
・Ｍ：１～Ａの範囲の任意の値

・Ａ：ＢＢ中（一般中及びＲＢ中の両方を含む）に発生可能な払出枚数の最小値－１
【５４２７】
　以下に、各変数に具体的な数値を入れた例を示す。
・Ｎ＝１０とする。
・ＢＢ中の配当は右の通りとする。（一般中）ベル：４枚／チェリー：４枚／スイカ：１２枚、（ＲＢ中）ベル：１５枚。
・発生可能な払出枚数は４枚なので、Ａ＝４－１＝３となる。つまり、Ｍは１～３のうち任意の値とできるが、ここではＭ＝１として説明する。
・ＢＢの作動終了となる払出枚数＝１５×１０＋１＝１５１枚となる。
　この仕様を前提とし、さらに説明していく。
【５４２８】
（説明例１）
　１ゲーム目に、Ｎｏ．７「通常リプレイ＋白ＲＢ」を引いた場合は、図４４４のホール及び試射試験に示す挙動に図示する通り、（その後のＲＢ中で）１５枚役（ベル１５枚）の入賞のみが発生するため、１５０枚の払出が行われたゲームで次に１５枚役獲得してＢＢの作動を終了させることができる。
・１回目のＪＡＣＩＮに要するまでにベットで消費するメダルは３枚。白ＲＢ作動での払出は０枚となる。
・１回目のＲＢ中は毎ゲーム１枚消費の１５枚払出を８回行う。
・２回目のＪＡＣＩＮに要するまでにベットで消費するメダルは３枚。白ＲＢ作動での払出は０枚となる。
・２回目のＲＢ中は毎ゲーム１枚消費の１５枚払出を３回行う。
・払出メダル数：１５枚×１１回＝１６５枚
・消費メダル数：３枚×２回＋１枚×１１回＝１７枚
・純増メダル数：１６５枚－１７枚＝１４８枚
　すなわち、これが最大獲得枚数（最大純増枚数）となる。１ゲーム目にＮｏ．６「ベル＋白ＲＢ」が成立した場合も同様である。
【５４２９】
（説明例２）
　一方、１ゲーム目にＮｏ．３「ベル」を引き、２ゲーム目にＮｏ．６「ベル＋白ＲＢ」が成立した場合は以下のようになる。
・１ゲーム目：消費するメダルは３枚。ベル入賞で４枚払出。
・２ゲーム目：消費するメダルは３枚。ＪＡＣＩＮ（白ＲＢ作動）で０枚払出。
・１回目のＲＢ中は毎ゲーム１枚消費の１５枚払出を８回行う。
・２回目のＪＡＣＩＮに要するまでにベットで消費するメダルは３枚。白ＲＢ作動での払出は０枚となる。
・ここまでに４＋１５×８＝１２４枚の払出メダルがあり、１５枚役は後２回しか揃えることができないので、２回目のＲＢ中は毎ゲーム１枚消費の１５枚払出を２回でＢＢ終了となる。
・払出メダル数：４枚＋１５枚×１０回＝１５４枚
・消費メダル数：３枚×３回＋１枚×１０回＝１９枚
・純増メダル数：１５４－１９＝１３５枚
　すなわち、この場合には上述の最大獲得枚数（最大純増枚数）とはならない。
【５４３０】
　上述の如くＢＢ終了枚数を設定することで、説明例１のようにＢＢ開始１ゲーム目にＲＢ役（図４４３では重複当籤のみだが単独当籤するようにしてもよい）を成立させた場合は、説明例２のようにＢＢ開始後のＲＢ役成立よりも前のゲームで小役（ＲＢ非重複小役）が成立した場合より当該ＢＢにおける獲得枚数（純増枚数）が多くなる。これにより、ＢＢ開始１ゲーム目に小役かＲＢ役あるいはＲＢ役重複期待度の高いリプレイが揃うかによってＢＢでの獲得枚数が変化し得る構成となることから、ＢＢ開始１ゲーム目に期待感

を持って抽籤を受けられるというゲーム性を創出することができる。また、ＲＢ重複当籤が確定する所定役（リプレイ役あるいは小役のいずれかであってもよいし、またはその両方であってもよい）をＢＢ一般中において備えるものとしてもよい。例えばＢＢ一般中において、「チャンスリプレイ＋白ＲＢ」は存在するが「チャンスリプレイ」単独当籤は存在しないものとして「チャンスリプレイ」をＲＢ重複当籤確定役とした場合は、ＢＢ開始１ゲーム目にチャンスリプレイの図柄組合せが揃った場合に遊技者は最大枚数の獲得が濃厚になった状況を察知することができる。

【５４３１】

このようなゲーム性を創出した場合は、ＢＢ中ＲＢ非内部中においてＲＢ非重複役に当籤する確率よりも、ＲＢ重複役に当籤する確率が高い方が遊技者目線での成功割合が高いため、遊技者に満足感を与えやすくなる。例えば図４４３では、ＲＢ重複役（「Ｎｏ．６」＋「Ｎｏ．７」）の係数（抽籤値）は「１００００」＋「３２０９８」＝「４２０９８」（約１／１．５６。占有率約６４％）であり、この係数分は遊技者が１ゲーム目に成功の役を引けることになる。また、ＲＢ非重複小役（「Ｎｏ．３」～「Ｎｏ．５」）の係数（抽籤値）は「１１８４０」＋「１３１０」＋「１３１０」＝「１４４６０」（約１／４．５３。占有率約２２％）であり、この係数分は遊技者が１ゲーム目に失敗の役を引いたことになる。また、ＲＢ非重複リプレイ役（「Ｎｏ．１」＋「Ｎｏ．２」）の係数（抽籤値）は「７６６８」＋「１３１０」＝「８９７８」（約１／７．３０。占有率約１４％）であり、この係数分は次の１ゲームに期待という立ち位置の役を引いたこととなる。

【５４３２】

（ＢＢ開始１ゲーム目のＲＢ重複期待感ゲームの演出例等）

このようなゲーム性を前提として、ＢＢ開始１ゲーム目にＲＢ役が成立した場合に、その旨を示唆ないし報知する演出をレバーオン～第３停止までの任意のタイミングで実行可能としてもよい。また、リプレイ役などＲＢ重複可能性がある役をＢＢ開始１ゲーム目などに引いた場合に、全リール停止後にＲＢ重複を示唆ないし報知する演出や重複期待度を示唆ないし報知する演出などを実行可能としてもよい。ＢＢ開始１ゲーム目にリプレイが揃った場合の効果音を通常遊技中（ＢＢ非作動中）の効果音を異なるものとしてもよいし、ＢＢ開始１ゲーム目以外でもＢＢ中のリプレイ揃いの効果音を通常遊技中と異なるものとしてもよい。

【５４３３】

また、ＢＢ中ＲＢ中にＲＢ役の持越状態となった旨を示唆ないし報知する演出を実行可能として、ＲＢが連続的に作動できるとの期待感を高めるものとしてもよい。また、ＲＢ役の図柄組合せを引込１（どのような停止態様でも有効ライン上に引き込む）として、目押しにＲＢを外す枚数調整などの技術介入ができない仕様としてもよい。この場合は、ＲＢ役は「リプ－リプ－ベル」など通常時はハズレとなる図柄組合せをＢＢ中のみ有効なＲＢ役として設定するものとしてもよい。

【５４３４】

また、図４４３ではＲＢ非内部中のチャンスリプレイはＲＢ非重複確定となっているが、チャンスリプレイとＲＢとの重複成立役を用意してＢＢ開始１ゲーム目にチャンスリプレイを引いた場合も最大枚数の獲得への期待感が高まり得るようにしてもよい。また、ＢＢ開始１ゲーム目にチェリー役など目押しで入賞を回避可能な小役が成立した場合にはその旨を示唆ないし報知する演出を発生させて、目押しで４枚チェリー役等の入賞を回避することで、ＢＢ全体での獲得期待値を高めるといった技術介入要素を持たせてもよい。また、ＢＢ中の小役を目押しで回避できないようにして技術介入要素を持たせないものとしてもよい。

【５４３５】

なお、ここまで、図４４１～図４４４を参照してボーナス状態の構成例１～３を説明したが、本実施形態では、そのいずれの構成例を用いてボーナス状態の制御を行ってもよいし、各構成例の仕様の一部を組み合わせた構成を用いてボーナス状態の制御を行ってもよい。むろん、これらも一例に過ぎず、これら以外の構成を用いてボーナス状態の制御を行

うことも可能である。また、遊技状態や内部当籤役の種類、その当籤確率（抽籤値）も一例に過ぎない。よって、種々の変形や変更が可能である。

【５４３６】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１＞

図４４５を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１を説明する。なお、この仕様例１では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５４３７】

（仕様例１における遊技状態の変動）

仕様例１では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態及びＲＴ１状態において「赤ＢＢ」に当籤し（このとき赤ＢＢ内部中に移行してもよいが、ここではそれを考慮しないものとする）、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４４５中、赤ＢＢ当籤→作動）。

【５４３８】

また、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態において「青ＢＢ」に当籤し（このとき青ＢＢ内部中に移行してもよいが、ここではそれを考慮しないものとする）、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４４５中、青ＢＢ当籤→作動）。

【５４３９】

赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４４５中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ１状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５４４０】

また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４４５中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１では、青ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５４４１】

つまり、仕様例１では、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」であれば、それに基づいて作動したボーナス状態（赤ＢＩＧ）の終了後がＲＴ１状態となり、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」であれば、それに基づいて作動したボーナス状態（青ＢＩＧ）の終了後がＲＴ０状態となるといった遊技性となっている。また、ＲＴ０状態を起点としてみると、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」であればＲＴ１状態に移行させることができるが、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」であればＲＴ１状態に移行させることはできないといった遊技性となっている。

【５４４２】

また、ＲＴ１状態を起点としてみると、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」であれば、少なくとも次回のボーナス役の当籤までそのＲＴ１状態を継続させることができるが、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」であれば、今回のボーナス役の当籤でＲＴ１状態が終了してしまうといった遊技性となっている。すなわち、仕様例１は、当籤したボーナス役の種類によってＲＴ１状態を継続させることができるか（ボーナス状態とＲＴ１状態とをループさせることができるか）が決定される遊技性である。なお、仕様例１では、ＲＴ１状態には規定回数（規定ゲーム数）を定めておらず、また、図４４５に示す移行契機以外の契機では原則としてＲＴ状態を変動させない（例外としては、設定変更などの初期化条件が成立した場合などである）。

【５４４３】

このような仕様例１によれば、一度ＲＴ１状態に移行すると、少なくとも次回のボーナス役の当籤まではそのＲＴ１状態が継続し得ることから、そのようなＲＴ１状態（換言す

れば、ボーナス役の高確率状態）の期待感や安心感を高めることができるため、その興趣を向上させることができる。

【５４４４】

（仕様例１－１）

仕様例１－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４５に示すように構成したものである。

【５４４５】

なお、仕様例１－１では説明をわかりやすくするため、「黒ＲＢ」の当籤確率については説明を省略しているが、「黒ＲＢ」の当籤確率についても「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」と同様に変動され得るように構成することもできるし、ＲＴ０状態とＲＴ１状態とで同じ当籤確率とする（その決定態様を変動させない）ように構成することもできる。また、いずれの場合にも「黒ＲＢ」は、「青ＢＢ」と同様に機能する（ＲＴ０状態にあってはそれを維持してＲＴ１状態に移行させず、ＲＴ１状態にあってはＲＴ１状態を終了させてＲＴ０状態に移行させる）ものとしてもよいし、「赤ＢＢ」と同様に機能する（ＲＴ０状態にあってはＲＴ１状態に移行させ、ＲＴ１状態にあってはそれを維持してＲＴ０状態に移行させない）ものとしてもよい。また、いずれの場合にも「黒ＲＢ」は、その当籤、作動、あるいは終了によってＲＴ状態は変動しないように構成することもできる。また、「黒ＲＢ」の内部当籤役を設けないように構成することもできる。また、これらは、この仕様例１－１と同様に「黒ＲＢ」の説明を省略している後述の各仕様例においてもあてはまるため、後述の各仕様例ではその説明を省略している。

【５４４６】

仕様例１－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。

【５４４７】

すなわち、仕様例１－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。また、低確率状態から高確率状態となるときのボーナス役の当籤確率の変動幅は１０倍となっている。なお、遊技者が過度に有利とならないように（換言すれば、射幸性が高くなり過ぎないように）、低確率状態から高確率状態となるときのボーナス役の当籤確率の変動幅は１０倍以下とすることが望ましいと考えられるため、少なくとも本例ではその考え方に基づいてそのような変動幅を採択している。むろん、その変動幅はこれに限られず、適宜変更することができる。また、これらは、この仕様例１－１と同様の変動幅を採択している後述の各仕様例においてもあてはまるため、後述の各仕様例ではその説明を省略している。

【５４４８】

また、仕様例１－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は５０％であり、また、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのＲＴ１状態が継続する確率は５０％となっている仕様例である。

【５４４９】

（仕様例１－２）

仕様例１－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４５に示すように構成したものである。

【５４５０】

仕様例１－２では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／１０２４」

（抽籤値が「６４」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／３４１．３」（抽籤値が「１９２」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／３２」（抽籤値が「２０４８」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／１２８」（抽籤値が「５１２」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。

【５４５１】

仕様例１－２では、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：３の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は２５％であり、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ０状態となる（ＲＴ０状態が維持される）確率は７５％である。一方、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが４：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる（ＲＴ１状態が維持される）確率は８０％であり、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ０状態となる確率は２０％である。つまり、ＲＴ０状態からＲＴ１状態に移行しにくいが、一度ＲＴ１状態となるとそれが継続しやすいといった仕様例である。

【５４５２】

（仕様例１－３）

仕様例１－３は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４５に示すように構成したものである。

【５４５３】

仕様例１－３では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／３４１．３」（抽籤値が「１９２」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／１０２４」（抽籤値が「６４」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／１２８」（抽籤値が「５１２」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／３２」（抽籤値が「２０４８」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。

【５４５４】

仕様例１－３では、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが３：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は７５％であり、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ０状態となる（ＲＴ０状態が維持される）確率は２５％である。一方、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：４の割合となっている。すなわち、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる（ＲＴ１状態が維持される）確率は２０％であり、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ０状態となる確率は８０％である。つまり、ＲＴ０状態からＲＴ１状態には移行しやすいが、ＲＴ１状態となってもそれが継続しにくいといった仕様例である。

【５４５５】

なお、上記遊技状態の変動仕様を用いた仕様例として上記仕様例１－１～１－３を説明したが、これらはあくまで一例に過ぎない。したがって、上記遊技状態の変動仕様を用いてこれら以外の仕様を採用することも可能である。また、ボーナス役の決定態様を変動させる態様も一例に過ぎない。よって、種々の変形や変更が可能である。

【５４５６】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例２＞

図４４６を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例２を説明する。なお、この

仕様例２では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５４５７】

（仕様例２における遊技状態の変動）

仕様例２では、ＲＴ１状態において規定回数（規定ゲーム数）が定めており、ＲＴ１状態が開始されてからボーナス役に当籤することなく当該規定回数の遊技が行われるとそのＲＴ１状態が終了する（ＲＴ０状態に移行する）点で仕様例１とは異なるものである。もっとも、その他の仕様は基本的に仕様例１におけるものと同様であるため、仕様例１と同様の仕様についてはここでの説明は省略している。

【５４５８】

仕様例２では、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「５０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４４６中、規定回数消化）。なお、規定回数（規定ゲーム数）は任意の回数（ゲーム数）に変更可能である。また、「規定回数」は必ずしもゲーム数（遊技回数）を用いたカウントが行われるものでなくともよい。例えば、特定小役（例えば、ベル）の当籤、あるいは入賞回数（例えば２０回とするなど）を用いてカウントされるものとしてもよいし、特定リプレイ役（例えば、通常リプレイ）の当籤、あるいは作動（入賞）回数（例えば１０回）を用いてカウンタされるものとしてもよい。また、そのような期間は「回数」によってカウントされるものでなくともよい。例えば、ＲＴ１状態での遊技が所定時間（例えば１０分）となったときには、これを「規定回数消化」と捉えてＲＴ１状態を終了させる構成としてもよい。

【５４５９】

このような仕様例２によれば、ＲＴ１状態に移行すると、規定回数を消化する前にボーナス役に当籤すればそのＲＴ１状態が継続する可能性が残る一方、規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しなければそのＲＴ１状態が終了することから、そのようなＲＴ１状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）の遊技性を多様なものとすることができるため、その興趣を向上させることができる。また、ＲＴ１状態が規定回数消化によっても終了するため、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５４６０】

（仕様例２－１）

仕様例２－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４６に示すように構成したものである。

【５４６１】

仕様例２－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例２－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５４６２】

また、仕様例２－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は５０％であり、また、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのＲＴ１状態が継続する確率は５０％となっている仕様例である。なお、仕様例２－１（後述の仕様例２－２も同様）における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様

例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。

【５４６３】

（仕様例２－２）

仕様例２－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４６に示すように構成したものである。

【５４６４】

なお、仕様例２－２では、仕様例２－１に対し、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合のみならず、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合にもボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ＲＴ１状態において規定回数を消化する前にボーナス役に当籤すれば、当籤したボーナス役の種類を問わずボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となる一方、ＲＴ１状態において規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しなければそのＲＴ１状態が終了してしまうといった仕様例である。

【５４６５】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例３＞

図４４７を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例３を説明する。なお、この仕様例３では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５４６６】

（仕様例３における遊技状態の変動）

仕様例３では、ＲＴ１状態において表示された場合に、当該ＲＴ１状態が終了することとなる図柄組合せ（移行図柄）が定めており、ＲＴ１状態が開始されてから規定回数の遊技が行われる前であっても、ボーナス役に当籤していない状態でその移行図柄が表示された場合にはそのＲＴ１状態が終了する（ＲＴ０状態に移行する）点で仕様例２とは異なるものである。もっとも、その他の仕様は基本的に仕様例２におけるもの（仕様例２において仕様例１と同様としたものを含む）と同様であるため、仕様例２と同様の仕様についてはここでの説明は省略している。

【５４６７】

仕様例３では、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく規定回数の遊技が行われるとＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行することに加え、規定回数の遊技が行われる前であっても、ボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示された場合にはＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４４７中、規定回数消化・移行図柄表示）。

【５４６８】

このような仕様例３によれば、ＲＴ１状態に移行すると、規定回数を消化する前にボーナス役に当籤すればそのＲＴ１状態が継続する可能性が残る一方、規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しなければそのＲＴ１状態が終了する。さらに、規定回数を消化する前であってもボーナス役に当籤する前に移行図柄が表示されてしまえばそのＲＴ１状態が終了する。したがって、そのようなＲＴ１状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）の遊技性をより多様なものとすることができるため、その興趣を向上させることができる。また、ＲＴ１状態が規定回数消化や移行図柄表示によっても終了するため、射幸性をより適切に抑制することもできる。

【５４６９】

（移行図柄について）

上述のとおり、仕様例３では、特定のＲＴ状態（仕様例３ではＲＴ１状態）において移行図柄が表示されると、特定のＲＴ状態を終了させる（所定のＲＴ状態（仕様例３ではＲＴ０状態）に移行させる）ものとしている。すなわち、移行図柄の表示をＲＴ状態の変動契機の一つとし、これによってボーナス役の決定態様を変動させることも可能としている。したがって、以下ではこのような移行図柄の仕様例について説明する。なお、ここで説

明する移行図柄の仕様例は、この仕様例３と同様に移行図柄の表示をＲＴ状態の変動契機の一つとしている後述の各仕様例においてもあてはまるため、後述の各仕様例ではその説明を省略している。

【５４７０】

まず、移行図柄は、停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動しない所定役に当籤した遊技で表示され得るように構成することができる。例えば、チャンスリプレイを所定役とし、チャンスリプレイに当籤した遊技では上述の如く、停止操作の態様にかかわらず「赤７－リプレイ－リプレイ」、「青７－リプレイ－リプレイ」、「黒ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」、及び「白ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」のいずれかの図柄組合せが有効ライン上に表示されて再遊技が付与されるように構成する。そして、それらの図柄組合せを移行図柄として定める。

【５４７１】

このように構成すると、チャンスリプレイの当籤が、移行図柄の表示と実質的に同義となる。すなわち、移行図柄が表示される確率はチャンスリプレイの当籤確率によって定まることになる。例えば、上述の如く規定回数を「５０ゲーム」とした場合、チャンスリプレイの当籤確率が上述の如く「１／１００」程度であれば、規定回数の遊技を最後まで消化できる可能性が高くなる。一方、チャンスリプレイの当籤確率を「１／２５」程度とすれば、規定回数の遊技を最後まで消化できる可能性が低くなる。また、あるいは、チャンスリプレイの当籤確率を「１／５０」程度とすれば、規定回数消化によってＲＴ１状態が終了するか、移行図柄の表示によってＲＴ１状態が終了するかが同程度の確率となる。

【５４７２】

この仕様例では、それらのいずれも採用することができる。すなわち、（規定回数の遊技を最後まで消化できる可能性を高くして）規定回数分の遊技を消化できる期待感を高くすることで、遊技者の期待感を維持して興趣を高めることを可能とする仕様を採用することもできるし、また、（規定回数の遊技を最後まで消化できる可能性を低くして）規定回数分の遊技を消化できる期待感を低くすることで、遊技者の（所定役に当籤するかしないかといった）「ヒキ」の部分での緊張感を高めて遊技性や興趣を高めることを可能とする仕様を採用することもできるし、さらに、規定回数の遊技を最後まで消化できる可能性と、途中で終了してしまう可能性とを等価値とすることで、上記のいずれにも偏り過ぎない遊技性を提供可能とする仕様を採用することもできる。しかも、いずれを採用するとしても、チャンスリプレイの当籤確率さえ定めれば企図する遊技性を実現することができるため、出玉設計に関する工数や停止制御の煩雑化などによる制御負荷を抑制することも可能となる。

【５４７３】

なお、ＲＴ１状態において、移行図柄の表示が許容される所定役（例えば、チャンスリプレイ）とボーナス役との重複当籤役（例えば、上述の「チャンスリプレイ＋赤ＢＢ」など）をもたせてもよい。この重複当籤役をもつことで、ＲＴ１状態中にその終了契機である移行図柄が表示された場合であってもＲＴ１状態中において最も望ましい状況である赤ＢＢの当籤が確定するという状況（赤ＢＢ内部中）となるため、移行図柄が表示されてもまだＲＴ０状態に転落するかどうか分からないといった期待感を持たせることができる。

【５４７４】

また、移行図柄表示時にボーナス連荘回数や一連の確変期間で獲得した枚数などを表示するＲＴ１（確変状態）終了画面を表示して、次ゲームのベット操作やレバーオン操作などを契機に復活演出としてボーナス確定画面に移行させるといった演出を行ってもよい。また、移行図柄表示時に失敗でＲＴ１終了、成功でボーナスという連続演出に発展し、連続演出を経由してＲＴ１終了又はボーナス当籤報知に移行するといった見せ方を行ってもよい。なお、所定役と重複当籤する可能性のあるボーナス役は赤ＢＢ（確変移行ＢＢ）のみとして、移行図柄表示というピンチな局面を乗り越えて当籤したボーナスは有利度が高いボーナスとしてメリハリのあるゲーム性としてもよいし、赤ＢＢ（確変移行ＢＢ）、青ＢＢ（確変終了ＢＢ）のいずれも重複当籤し得るものとして移行図柄表示後にボーナス確

定画面に移行しても、ボーナス図柄を揃えるまで次に確変状態が続くかどうか分からないといったゲーム性にしてもよい。また、移行図柄が表示されたゲームでボーナスの重複当籤が確定する演出をもたせて、移行図柄が揃ったけど当りという見せ方を行ってもよい。

【５４７５】

なお、上記では、所定役として機能する内部当籤役としてチャンスリプレイを一例に挙げて説明しているが、そのように機能し得る内部当籤役はこれに限られない。例えば、スイカの内部当籤役を、停止操作の態様にかかわらず「スイカ－スイカ－スイカ」の図柄組合せが表示されるように構成し、その図柄組合せを移行図柄として定めてもよい。また、例えば、ＲＴ１状態ではリプレイ高確率状態となるようにし、不当籤（ハズレ）となる確率を下げた上で、不当籤（ハズレ）が決定された場合には、停止操作の態様にかかわらず「リプレイ－リプレイ－ベル」の図柄組合せが表示されるように構成し、その図柄組合せを移行図柄として定めてもよい。すなわち、内部抽籤の結果にしたがって移行図柄が表示され得るようにすればよく、その役種等は限定されない。

【５４７６】

次に、移行図柄は、停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動し得る特定役に当籤した遊技で表示され得るように構成することができる。すなわち、特定役に当籤した遊技で、所定態様の停止操作が行われた場合には移行図柄を表示させる一方、所定態様とは異なる特定態様の停止操作が行われた場合には移行図柄を表示させないように構成することができる。

【５４７７】

例えば、スイカを特定役とし、スイカに当籤した遊技では上述の如く、停止操作の態様（タイミング）が適切であれば「スイカ－スイカ－スイカ」の図柄組合せが有効ライン上に表示されて１２枚の遊技価値が付与されるが、停止操作の態様（タイミング）が適切でなければ「スイカ－リプレイ－リプレイ」、「リプレイ－スイカ－リプレイ」、及び「リプレイ－リプレイ－スイカ」のいずれかの図柄組合せ（これらを「こぼし目の図柄組合せ」とする）が有効ライン上に表示されて１２枚の遊技価値は付与されない（すなわち、取りこぼしとなる）ように構成する。そして、「スイカ－スイカ－スイカ」の図柄組合せ、又はこぼし目の図柄組合せのいずれか一方を移行図柄として定める。すなわち、取りこぼしが発生しない停止操作を上記所定態様の停止操作として定めることもできるし、取りこぼしが発生する停止操作を上記所定態様の停止操作として定めることもできる。

【５４７８】

このように構成すると、移行図柄が表示される確率はそのようなスイカの当籤確率のみでは定まらず、遊技者の遊技の技量（例えば、目押しの正確さがあるかや小役回収打法のような打ち方をしているか等）によっても変動し得るものとなるため、遊技者の停止操作の態様に応じて付与される利益が変動するといった遊技機本来の面白みを与えやすくすることができる。また、上述のチャンスリプレイを用いて説明したものと同様に、スイカの当籤確率を変動させることで当籤ベースでは移行図柄が表示される確率を変動させ得るため、その遊技性を簡易な手法で多様なものとすることができる。

【５４７９】

ここで、上記の例において「スイカ－スイカ－スイカ」の図柄組合せを移行図柄として定める（すなわち、取りこぼしが発生しない停止操作を上記所定態様の停止操作として定める）場合にはさらに以下の利点がある。

【５４８０】

例えば、仕様例３のように移行図柄の表示で高確率状態から低確率状態に移行させるといった仕様の場合において、規定回数の残り回数が多い状態でスイカに当籤したとする。この場合、あえて取りこぼしが発生する停止操作を遊技者が選択することで、高確率状態を継続させることが可能となる。一方、規定回数の残り回数が少ない状態でスイカに当籤したとする。この場合、取りこぼしが発生しない停止操作を遊技者が選択することで、高確率状態は終了するとしても１２枚の遊技価値を得ることが可能となる。すなわち、そのような戦略性に富んだ遊技性を実現することが可能となる。

【５４８１】
　また、別の側面からみると、ＳＩＭ試験上は、スイカに当籤した遊技では取りこぼしが発生しないこととなるため、例えば、仕様例３のように移行図柄の表示で高確率状態から低確率状態に移行させるといった仕様の場合には、少なくともＳＩＭ試験上はスイカに当籤した遊技で高確率状態が必ず終了する（低確率状態に移行する）といった仕組みとすることができる。すなわち、そのような仕様の場合にＳＩＭ試験の適合率（合格率）を高めることができるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。
【５４８２】
　また、上記の例においてこぼし目の図柄組合せを移行図柄として定める（すなわち、取りこぼしが発生する停止操作を上記所定態様の停止操作として定める）場合にはさらに以下の利点がある。
【５４８３】
　まず、遊技者の遊技の技量が高いほど低確率状態に移行する可能性が低くなる。したがって、遊技の技量を上げることを遊技者に促すことができるため、遊技意欲を向上させることができる。また、仕様例３のように移行図柄の表示で高確率状態から低確率状態に移行させるといった仕様の場合においては、あえて１２枚の遊技価値が付与されない停止操作を選択するといった必要がなくなるため、それに起因して遊技の興趣が低下してしまうことを防止できる。
【５４８４】
　また、別の側面からみると、ＳＩＭ試験上は、スイカに当籤した遊技では取りこぼしが発生しないこととなるため、例えば、後述の仕様例４のように移行図柄の表示で低確率状態から高確率状態に移行させるといった仕様の場合には、少なくともＳＩＭ試験上はスイカに当籤した遊技で高確率状態に移行しない（低確率状態が必ず継続する）といった仕組みとすることができる。すなわち、そのような仕様の場合にＳＩＭ試験の適合率（合格率）を高めることができるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。
【５４８５】
　なお、いずれの場合にも、スイカに当籤した遊技では、スイカに当籤したことが報知ないし示唆されない遊技性とすることができる。すなわち、当籤役報知（ないし示唆）は行われない仕様とすることができる。もっとも、遊技の技量をある程度有する遊技者であれば、一部の出目や停止形など（例えば、あるリールにおいて、特定の図柄位置が中段にきたタイミングで停止操作を行うと、スイカに当籤していない場合には（リールが滑らず）「スイカ」図柄が表示窓内に表示されないが、スイカに当籤している場合には（リールが滑って）「スイカ」図柄が表示窓内に表示されるといったもの）からスイカの当籤（可能性）を察知し得る場合はある。ここでいう当籤役報知（ないし示唆）を行わないとは、そのようなものまで行わないという意図ではない。あくまで、報知手段（例えば、演出表示部）などによって当籤役報知（ないし示唆）は行われない仕様である。
【５４８６】
　また、いずれの場合にも、スイカに当籤した遊技では、所定の報知が行われ得る遊技性とすることができる。例えば、所定の報知は、スイカに当籤した遊技でも所定確率（１００％でない任意の確率）で現出するが、ボーナス役に当籤した遊技でも所定確率（１００％でない任意の確率）で現出するいわゆる「チャンス告知」のような報知として構成することができる。なお、所定の報知が行われただけでは、スイカの当籤は認識できないものとする。
【５４８７】
　また、いずれの場合にも、スイカに当籤した遊技では、スイカの当籤そのもの（ないしその可能性が高いこと）を認識できる当籤役報知（ないし示唆）が行われ得る遊技性とすることができる。なお、このような報知は指示機能が発揮される一態様であるともいい得る。すなわち、停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動し得る特定役に当籤

した遊技で移行図柄が表示され得るように構成される場合、その移行図柄が表示されるか否かについて影響を与える報知が行われ得る（指示機能を備える）仕様とすることもできる。

【５４８８】

なお、上記では、特定役として機能する内部当籤役としてスイカを一例に挙げて説明しているが、そのように機能し得る内部当籤役はこれに限られない。例えば、チャンスリプレイの内部当籤役として、停止操作の態様（タイミング）が適切であれば「赤７－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せが有効ライン上に表示されるが、停止操作の態様（タイミング）が適切でなければ「ベル－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せ（これを「こぼし時リプレイの図柄組合せ」とする）が有効ライン上に表示される（いずれの場合にも再遊技は付与される）ように構成されたチャンスリプレイ１と、停止操作の態様（タイミング）が適切であれば「ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せが有効ライン上に表示されるが、停止操作の態様（タイミング）が適切でなければ上記こぼし時リプレイの図柄組合せが有効ライン上に表示される（いずれの場合にも再遊技は付与される）ように構成されたチャンスリプレイ２と、を設けるようにする。

【５４８９】

そして、「赤７－リプレイ－リプレイ」及び「ＢＡＲ－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せ、又はこぼし時リプレイの図柄組合せのいずれか一方を移行図柄として定めるようにしてもよい。すなわち、いずれも再遊技が付与される点で取りこぼしは発生しないものの、こぼし時リプレイの図柄組合せが表示されない停止操作を上記所定態様の停止操作として定めることもできるし、こぼし時リプレイの図柄組合せが表示される停止操作を上記所定態様の停止操作として定めることもできる。すなわち、内部抽籤の結果、及び停止操作の態様にしたがって移行図柄が表示され得るようにすればよく、その役種や付与される特典の種類等は限定されない。

【５４９０】

また、上記の例では、特定役において表示される図柄組合せが変動し得る態様として、スイカ、チャンスリプレイ１、あるいはチャンスリプレイ２に当籤したときの停止操作のタイミングが適切であるかをその（停止操作の態様の）一例として説明したが、その態様はこれに限定されない。例えば、特定役において表示される図柄組合せが変動し得る態様として、押し順（打順）、あるいは押し順と停止操作のタイミングとを組み合わせたものを採用してもよい。その一例を以下に示す。

【５４９１】

例えば、ベルの内部当籤役を３択（この択数は任意である。６択などしてもよい）の押し順小役として構成する。具体的には、左第１停止では「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが表示されて４枚の遊技価値が付与されるが、左第１停止以外では「リプレイ－リプレイ－ベル」の図柄組合せ（これを「こぼし目の図柄組合せ」とする）が表示されて１枚の遊技価値が付与される（あるいは、取りこぼしとなって遊技価値は付与されない場合があるようにしてもよい。以下同じ）ように構成されたベル１と、中第１停止では「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが表示されて４枚の遊技価値が付与されるが、中第１停止以外ではこぼし目の図柄組合せが表示されて１枚の遊技価値が付与されるように構成されたベル２と、右第１停止では「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せが表示されて４枚の遊技価値が付与されるが、右第１停止以外ではこぼし目の図柄組合せが表示されて１枚の遊技価値が付与されるように構成されたベル３と、を設けるようにする。

【５４９２】

そして、「ベル－ベル－ベル」の図柄組合せ、又はこぼし目の図柄組合せのいずれか一方を移行図柄として定めるようにしてもよい。すなわち、こぼし目の図柄組合せが表示されない停止操作（正解押し順）を上記所定態様の停止操作として定めることもできるし、こぼし目の図柄組合せが表示される停止操作（不正解押し順）を上記所定態様の停止操作として定めることもできる。また、これは押し順リプレイについても同様に構成し得る。

【５４９３】

また、例えば、チャンスリプレイの内部当籤役を２択（この択数は任意である。６択などしてもよい）の押し順リプレイとして構成する。また、この押し順リプレイはさらに停止操作のタイミングによっても表示される図柄組合せが変動するように構成する。具体的には、左第１停止であって、さらに左リール３Ｌに対する停止操作のタイミングが適切であれば「赤７－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せが有効ライン上に表示されるが、左第１停止でない場合、及び左第１停止であっても左リール３Ｌに対する停止操作のタイミングが適切でない場合には「ベル－リプレイ－リプレイ」の図柄組合せ（これを「こぼし時リプレイの図柄組合せ」とする）が有効ライン上に表示される（いずれの場合にも再遊技は付与される）ように構成されたチャンスリプレイ１と、右第１停止であって、さらに右リール３Ｒに対する停止操作のタイミングが適切であれば「リプレイ－リプレイ－ＢＡＲ」の図柄組合せが有効ライン上に表示されるが、右第１停止でない場合、及び右第１停止であっても右リール３Ｒに対する停止操作のタイミングが適切でない場合には「リプレイ－リプレイ－ベル」の図柄組合せ（これを「こぼし時リプレイの図柄組合せ」とする）が有効ライン上に表示される（いずれの場合にも再遊技は付与される）ように構成されたチャンスリプレイ２と、を設けるようにする。

【５４９４】

そして、「赤７－リプレイ－リプレイ」及び「リプレイ－リプレイ－ＢＡＲ」の図柄組合せ、又はこぼし時リプレイの図柄組合せのいずれか一方を移行図柄として定めるようにしてもよい。すなわち、いずれも再遊技が付与される点で取りこぼしは発生しないものの、こぼし時リプレイの図柄組合せが表示されない停止操作（正解押し順＋正解タイミング）を上記所定態様の停止操作として定めることもできるし、こぼし時リプレイの図柄組合せが表示される停止操作（不正解押し順、及び正解押し順＋不正解タイミング）を上記所定態様の停止操作として定めることもできる。また、これは押し順小役についても同様に構成し得る。

【５４９５】

なお、特定役を特に押し順ベルや押し順リプレイで構成した場合、指示機能を備える仕様として、例えば仕様例３におけるＲＴ１状態をＡＴ状態（あるいはＡＲＴ状態）とするか否かについて決定し得るものとすれば、より遊技性を多様化することができるし、遊技者に与えられる利益も変動しやすくなる。そのような仕様とする場合、他の実施形態におけるＡＴ関連の仕様を適宜採用するものとすればよい。

【５４９６】

（仕様例３－１）

仕様例３－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４７に示すように構成したものである。

【５４９７】

仕様例３－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例３－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５４９８】

また、仕様例３－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は５０％であり、また、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのＲＴ１状態が継続する確率は５０％となっている仕様例である。なお、仕様例３－１（後述の仕様例３－２も

同様）における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。

【５４９９】

（仕様例３－２）

仕様例３－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４７に示すように構成したものである。

【５５００】

なお、仕様例３－２では、仕様例３－１に対し、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合のみならず、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合にもボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ＲＴ１状態において、規定回数を消化する前であって、移行図柄が表示される前にボーナス役に当籤すれば、当籤したボーナス役の種類を問わずボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となる一方、ＲＴ１状態において、規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しないか、あるいは規定回数を消化していなくともボーナス役に当籤する前に移行図柄が表示されてしまえばそのＲＴ１状態が終了してしまうといった仕様例である。

【５５０１】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例４＞

図４４８を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例４を説明する。なお、この仕様例４では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５０２】

（仕様例４における遊技状態の変動）

仕様例４では、ＲＴ０状態において表示された場合に、ＲＴ１状態に移行することとなる図柄組合せ（移行図柄）が定めており、ボーナス状態を経由しなくとも、ＲＴ０状態で移行図柄が表示された場合にはＲＴ１状態に移行し得る点で仕様例１とは異なるものである。もっとも、その他の仕様は基本的に仕様例１におけるものと同様であるため、仕様例１と同様の仕様についてはここでの説明は省略している。

【５５０３】

仕様例４では、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示された場合にはＲＴ１状態に移行する（図４４８中、移行図柄表示）。なお、ＲＴ０状態において移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。

【５５０４】

このような仕様例４によれば、ボーナス状態を経由しなくともＲＴ０状態からＲＴ１状態に移行可能としたことから、例えば、ＲＴ０状態においてなかなかボーナス役に当籤しない場合であっても、ＲＴ１状態移行の期待感を低下させることなく遊技を行わせることができるため、遊技意欲やその興趣の向上を図ることができる。また、移行図柄が表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５５０５】

（仕様例４－１）

仕様例４－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４８に示すように構成したものである。

【５５０６】

仕様例４－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」

となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例４－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５５０７】

また、仕様例４－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は５０％であり、また、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのＲＴ１状態が継続する確率は５０％となっている仕様例である。もっとも、ＲＴ０状態では移行図柄が表示された場合にもＲＴ１状態に移行するので、ＲＴ１状態への移行期待度はそれよりも高いものとなる。なお、仕様例４－１（後述の仕様例４－２も同様）における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。

【５５０８】

また、仕様例４－１（後述の仕様例４－２も同様）では、ＲＴ０状態で移行図柄が表示されたときにＲＴ１状態に移行するものとなっているが、移行図柄の表示確率（移行図柄が表示され得る役の当籤確率のみならず、停止操作の態様に応じて表示される可能性が変動し得る構成である場合にはその変動割合を含む）は上述の如く任意の確率に設定することができる。例えば、合算したボーナス役の当籤確率（１／２５６）よりも高い確率（例えば、１／１００）であってもよいし、それよりも低い確率（例えば、１／１０００）であってもよい。あるいは、それと同じ確率であってもよい。

【５５０９】

（仕様例４－２）

仕様例４－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４８に示すように構成したものである。

【５５１０】

なお、仕様例４－２では、仕様例４－１に対し、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合のみならず、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合にもボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ＲＴ１状態においてボーナス役に当籤した場合、当籤したボーナス役の種類を問わずボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となるといった仕様例である。

【５５１１】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例５＞

図４４９を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例５を説明する。なお、この仕様例５では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５１２】

（仕様例５における遊技状態の変動）

仕様例５では、ＲＴ１状態において規定回数（規定ゲーム数）が定めており、ＲＴ１状態が開始されてからボーナス役に当籤することなく当該規定回数の遊技が行われるとそのＲＴ１状態が終了する（ＲＴ０状態に移行する）点で仕様例４とは異なるものである。もっとも、その他の仕様は基本的に仕様例４におけるものと同様であるため、仕様例４と同様の仕様についてはここでの説明は省略している。

【５５１３】

仕様例５では、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表

示された場合にはＲＴ１状態に移行する（図４４９中、移行図柄表示）。なお、ＲＴ０状態において移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「５０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４４９中、規定回数消化）。なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。

【５５１４】

このような仕様例５によれば、ボーナス状態を経由しなくともＲＴ０状態からＲＴ１状態に移行可能としたことから、例えば、ＲＴ０状態においてなかなかボーナス役に当籤しない場合であっても、ＲＴ１状態移行の期待感を低下させることなく遊技を行わせることができるため、遊技意欲やその興趣の向上を図ることができる。また、移行図柄が表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５５１５】

また、このような仕様例５によれば、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく規定回数の遊技が消化された場合にはそのＲＴ１状態が終了することから、そのようなＲＴ１状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）の遊技性を多様なものとすることができるとともに、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５５１６】

また、仕様例５では、ＲＴ１状態で移行図柄が表示されることのない仕様としてもよい。ＲＴ１状態はいわゆる有限ＲＴであり開始時に決定された滞在ゲーム数（例えば５０ゲーム）は延長されない。そのような状態で移行図柄が表示されてしまうと、滞在ゲーム数が初期化される（２０ゲームが再セットされる）と遊技者に誤解されるおそれがある。そこで、ＲＴ１状態では移行図柄が表示されないようにすることでそのような誤解を防ぐことができる。なお、このような仕様は他の仕様例において同様に構成されるＲＴ状態にも適用可能である。

【５５１７】

また、仕様例５では、ＲＴ１状態で移行図柄が表示されることのある仕様とした上で、ＲＴ１状態で移行図柄が表示された場合はボーナス重複当籤が確定する、あるいはボーナス重複当籤の可能性があるなどのチャンス図柄的な役割をもたせてもよい。また、ＲＴ０状態で移行図柄の停止表示が許容される所定役とボーナス役との重複当籤役を設けてもよく、この場合は移行図柄が表示された際にボーナス確変状態であるＲＴ１状態に移行するか、ボーナス役が重複当籤しているかという複数の期待感をもたせることができる。また、ＲＴ０状態で移行図柄の停止表示が許容される所定役とボーナス役との重複当籤を設けない仕様としてもよく、この場合は移行図柄の表示でＲＴ１状態への移行が確定するためゲーム性がシンプルとなり遊技者に分かり易いものとなる。なお、このような仕様は他の仕様例において高確率状態を有限ＲＴとする場合にも適用可能である。なお、このような仕様は他の仕様例において同様に構成されるＲＴ状態にも適用可能である。

【５５１８】

（仕様例５－１）

仕様例５－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４９に示すように構成したものである。

【５５１９】

仕様例５－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の

当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例５－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５５２０】

また、仕様例５－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ＲＴ０状態でボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態となる確率は５０％であり、また、ＲＴ１状態でボーナス役に当籤したとき、そのＲＴ１状態が継続する確率は５０％となっている仕様例である。もっとも、ＲＴ０状態では移行図柄が表示された場合にもＲＴ１状態に移行するので、ＲＴ１状態への移行期待度はそれよりも高いものとなる。一方、ＲＴ１状態では規定回数の遊技が消化された場合にもＲＴ０状態に移行する（そのＲＴ１状態が終了する）ので、ＲＴ１状態の継続期待度はそれよりも低いものとなる。

【５５２１】

なお、仕様例５－１（後述の仕様例５－２や５－３も同様）における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。また、仕様例５－１（後述の仕様例５－２や５－３も同様）における移行図柄の表示確率も上述の如く任意の確率に設定することができる。また、仕様例５－１（後述の仕様例５－２や５－３も同様）における規定回数も上述の如く任意の回数に設定することができる。

【５５２２】

（仕様例５－２）

仕様例５－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４４９に示すように構成したものである。

【５５２３】

なお、仕様例５－２では、仕様例５－１に対し、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合のみならず、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合にもボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ボーナス役に当籤した場合、当籤したボーナス役の種類を問わずボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となる（基本的にボーナス状態とＲＴ１状態とがループせず、移行図柄の表示によってのみＲＴ１状態となる）といった仕様例である。

【５５２４】

（仕様例５－３）

仕様例５－３では、仕様例５－１に対し、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合のみならず、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合にもボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ボーナス役に当籤した場合、当籤したボーナス役の種類を問わずボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となる（基本的にボーナス状態とＲＴ１状態とがループし、規定回数の消化によってのみＲＴ０状態となる）といった仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は仕様例５－１や５－２のものを用いることができるため、その図示は省略している。

【５５２５】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例６＞

図４５０を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例６を説明する。なお、この仕様例６では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５２６】

（仕様例６における遊技状態の変動）

仕様例６では、規定初期化条件（ここでは、新たに設定値が設定されたこと（設定変更

処理が行われたこと）とする）が成立したときに、初期状態であるＲＴ０状態に移行させる。そして、このＲＴ０状態をボーナス役の高確率状態として構成する。一方、後述のＲＴ１状態をボーナス役の低確率状態として構成する。

【５５２７】

ＲＴ０状態及びＲＴ１状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５０中、赤ＢＢ当籤→作動）。また、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５０中、青ＢＢ当籤→作動）。

【５５２８】

赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５０中、赤ＢＩＧ終了）。また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５０中、青ＢＩＧ終了）。また、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく規定回数（ここでは、例えば「１０００ゲーム」）の遊技が行われると、ＲＴ０状態に移行する（図４５０中、規定回数消化）。

【５５２９】

つまり、仕様例６では、例えば遊技場の開店前に設定変更が行われていた場合、その開店直後はボーナス役の高確率状態（いわゆるモーニング状態）となる。一方、ボーナス状態が終了すると規定回数の遊技を消化するまではボーナス役の低確率状態となる（換言すれば、ボーナス状態の終了後に、いわゆる天井ゲーム数として「１０００ゲーム」が設定される）といった遊技性となっている。

【５５３０】

このような仕様例６によれば、規定初期化条件が成立した場合にはＲＴ０状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）が設定されることから、規定初期化条件が成立する可能性のある状況（例えば、開店直後など）における遊技者の遊技意欲を高めることができるため、その興趣を向上させることができる。一方、ボーナス状態の終了後はＲＴ１状態（換言すれば、ボーナス役の低確率状態）が所定期間（例えば規定回数分の遊技）にわたって設定されることから、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５５３１】

（仕様例６－１）

仕様例６－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４５０に示すように構成したものである。

【５５３２】

仕様例６－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。すなわち、仕様例６－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の高確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の低確率状態として構成されている。なお、仕様例６－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を（ボーナス役の当籤確率を逆にして）設定することも可能である。

【５５３３】

また、仕様例６－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合のいずれの場合にも、ボーナス状態の終了後はＲＴ１状態に移行し、ＲＴ１状態においてボーナス役に当籤することなく規定回数が消化されると

ＲＴ０状態に移行するといった遊技性となっている。また、新たに設定値が設定された場合にもＲＴ０状態に移行するといった遊技性となっている。なお、仕様例６－１における規定回数は上述の如く任意の回数に設定することができる。

【５５３４】

（仕様例６－２）

仕様例６－２では、仕様例６－１に対し、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合にはボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となるといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、ボーナス役に当籤した場合、当籤したボーナス役の種類に応じてＲＴ０状態が継続する場合があるといった仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は仕様例６－１のもの（むろん、上記と同様にこれとは異なる当籤確率を設定することも可能である）を用いることができるため、その図示は省略している。

【５５３５】

（仕様例６－３）

仕様例６－３では、仕様例６－１に対し、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」である場合とで、ボーナス状態の終了後の規定回数を異ならせるといった点を変形した遊技性となっている。例えば、赤ＢＩＧの終了後は規定回数を「５００ゲーム」とするが、青ＢＩＧの終了後は規定回数を「１０００ゲーム」とする。このようにすれば、ボーナス役の種類に応じて天井ゲーム数を異ならせるようにすることができる。なお、上述の規定回数はあくまで一例である。また、赤ＢＩＧ終了後のＲＴ状態と、青ＢＩＧ終了後のＲＴ状態とは異なるＲＴ状態（例えば、前者がＲＴ１状態、後者がＲＴ２状態など）として制御されるものとしてもよい。また、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は仕様例６－１のもの（むろん、上記と同様にこれとは異なる当籤確率を設定することも可能である）を用いることができるため、その図示は省略している。

【５５３６】

（仕様例６－４）

仕様例６－１では、例えば「ＲＡＭ異常」等の初期化条件が成立した場合（手動でＲＡＭクリア処理を実行可能であればこの処理が実行される場合も含む。以下同じ）には規定初期化条件を成立させてＲＴ０状態に移行させるとともに、新たな設定値が設定された場合（設定変更が行われた）場合にも規定初期化条件を成立させてＲＴ０状態に移行させる構成であるが、仕様例６－４では、これに対し、例えば「ＲＡＭ異常」等の初期化条件が成立した場合には規定初期化条件が成立してＲＴ０状態に移行させるが、新たな設定値が設定された場合（設定変更が行われた）場合には規定初期化条件を成立させない（すなわち、モーニング状態を発生させない）といった点を変形し得る仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は仕様例６－１のもの（むろん、上記と同様にこれとは異なる当籤確率を設定することも可能である）を用いることができるため、その図示は省略している。

【５５３７】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例７＞

図４５１を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例７を説明する。なお、この仕様例７では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５３８】

（仕様例７における遊技状態の変動）

仕様例７では、規定初期化条件が成立したときに、初期状態であるＲＴ０状態に移行させる。なお、規定初期化条件に関する各種の仕様は仕様例６においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。

【５５３９】

ＲＴ０状態及びＲＴ１状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５１中、赤ＢＢ当籤→作動）。また、赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５１中、赤ＢＩＧ終了）。

【５５４０】

なお、「青ＢＢ」の当籤・作動ではＲＴ状態が変動せず、青ＢＩＧの終了でもＲＴ状態が変動しないものとする。なお、仕様例７において青ＢＩＧは、例えば第２種特別役物に係る役物連続作動装置（ＭＢ）として構成されるものとしてもよい。またこれは、他の仕様例において、その当籤・作動ではＲＴ状態が変動しないと説明しているボーナス役（及びそのボーナス状態の終了ではＲＴ状態が変動しないと説明しているボーナス状態）についても同様である。

【５５４１】

つまり、仕様例７では、ＲＴ０状態に滞在しているときには、基本的に赤ＢＩＧを経由しなければＲＴ１状態に移行することがなく、ＲＴ１状態に滞在しているときには、基本的に規定初期化条件が成立しない限りＲＴ０状態に移行することがないといった遊技性となっている。

【５５４２】

このような仕様例７によれば、規定初期化条件が成立した場合にはＲＴ０状態が設定され、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ）の終了後はＲＴ１状態が設定される。これにより、特定のボーナス状態に関する興趣を飛躍的に高めることができる。また、例えばＲＴ０状態を相対的に不利とし（あるいは有利とし）、ＲＴ１状態を相対的に有利とした（あるいは不利とした）場合、特定のボーナス状態に係るボーナス役の当籤確率さえ変更すれば異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５５４３】

（仕様例７－１）

仕様例７－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４５１に示すように構成したものである。

【５５４４】

仕様例７－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／１６３８４」（抽籤値が「４」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／２６０」（抽籤値が「２５２」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／１６３８４」（抽籤値が「４」）であって変動しないが、「青ＢＢ」の当籤確率は「１／２６」（抽籤値が「２５２０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．９」となっている。すなわち、仕様例７－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。また、「赤ＢＢ」はその当籤確率が低く設定されており、プレミアムボーナスとして位置づけられるボーナス役となっている。なお、仕様例７－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。

【５５４５】

また、仕様例７－１では、新たに設定値が設定された場合にＲＴ０状態に移行するといった遊技性となっている。また、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」であれば、ボーナス状態の終了後にＲＴ１状態に移行するといった遊技性となっている。また、「青ＢＢ」の当籤・作動、あるいは青ＢＩＧの終了ではＲＴ状態が変動しない遊技性となっている。

【５５４６】

（仕様例７－２）

仕様例７－２は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４

０参照）を図４５１に示すように構成したものである。

【５５４７】

なお、その遊技性としては、仕様例７－１に対し、ＲＴ１状態においてボーナス役に当籤することなく規定回数が消化されるとＲＴ０状態に移行するといった点を変形したものであり、その他の基本的な遊技性は仕様例７－１におけるものと同様である。また、仕様その規定回数は上述の如く任意の回数に設定することができるが、ここでは、例えば「１０ゲーム」に設定されるものとする。

【５５４８】

仕様例７－２では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／８１９２」（抽籤値が「８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率が「１／６４」（抽籤値が「１０２４」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／６３．５」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／１００」（抽籤値が「４」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率は「１／８」（抽籤値が「８１９２」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／７．４」となっている。すなわち、仕様例７－２では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。また、「赤ＢＢ」はその当籤確率が低く設定されており、プレミアムボーナスとして位置づけられるボーナス役となっている。なお、仕様例７－２における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。

【５５４９】

また、仕様例７－２（上述の仕様例７－１も同様）において、例えば、赤ＢＩＧは、規定終了条件にかかる払出枚数（投入枚数を考慮しないものとする）が「２４０枚」程度に構成され、青ＢＩＧは、規定終了条件にかかる払出枚数（投入枚数を考慮しないものとする）が「３０枚」程度に構成されているものとする。むろん、これらもあくまで一例に過ぎない。つまり、「赤ＢＢ」よりも「青ＢＢ」のほうが当籤確率を高く設定しているので、遊技者が過度に有利とならないように、「赤ＢＢ」に基づく赤ＢＩＧよりも「青ＢＢ」に基づく青ＢＩＧのほうが、獲得できる遊技価値数を少なくできればよい。

【５５５０】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例８＞

図４５２を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例８を説明する。なお、この仕様例８では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）の内部抽籤テーブルとして構成例１（図４４０参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５５１】

（仕様例８における遊技状態の変動）

仕様例８では、基本的な流れは仕様例５（特に仕様例５－２）におけるものと同様である。したがって、仕様例５と同様の仕様についてはここでの説明は省略している。なお、仕様例５では、基本的にＲＴ０状態をボーナス役の低確率状態とし、ＲＴ１状態をボーナス役の高確率状態として構成していたが、仕様例８ではそれを逆としている。

【５５５２】

仕様例８では、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示された場合にはＲＴ１状態に移行する（図４５２中、移行図柄表示）。なお、ＲＴ０状態において移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「１０００ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４５２中、規定回数消化）。なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。すなわち、仕様例８において規定回数は上述の天井ゲーム数として機能するものとなっている。

【５５５３】

このような仕様例８によれば、初期状態であるＲＴ０状態において、移行図柄が表示される前にボーナス役を当籤させることができれば、ボーナス状態の終了後は再度ＲＴ０状態で遊技を行えることから、そのようなボーナス状態とＲＴ０状態とのループで有利な状態を継続させることができるため、そのような有利な状態の興趣を飛躍的に高めることができる。また、移行図柄が表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５５５４】

また、このような仕様例８によれば、移行図柄の表示後はＲＴ１状態（換言すれば、ボーナス役の低確率状態）が所定期間（例えば規定回数分の遊技）にわたって設定されることから、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５５５５】

（仕様例８－１）

仕様例８－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）を図４５２に示すように構成したものである。

【５５５６】

仕様例８－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／１０２４」となっている。すなわち、仕様例８－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の高確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の低確率状態として構成されている。

【５５５７】

また、仕様例８－１では、ボーナス状態の終了後はＲＴ０状態に移行し、ＲＴ０状態においてボーナス役に当籤する前に移行図柄が表示された場合にはＲＴ１状態に移行する。また、ＲＴ１状態においてボーナス役に当籤することなく規定回数の遊技が消化された場合にＲＴ０状態に移行する。

【５５５８】

なお、仕様例８－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。また、仕様例８－１における移行図柄の表示確率も上述の如く任意の確率に設定することができる。また、仕様例８－１における規定回数も上述の如く任意の回数に設定することができる。

【５５５９】

（仕様例８－２）

仕様例８－２では、仕様例８－１に対し、上述の仕様例７の如く、「赤ＢＢ」の当籤・作動ではＲＴ状態が変動せず、赤ＢＩＧの終了でもＲＴ状態が変動しないように構成するとともに、「青ＢＢ」の当籤・作動でもＲＴ状態が変動せず、青ＢＩＧの終了でもＲＴ状態が変動しないといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、移行図柄の表示によってのみＲＴ１状態に移行し、規定回数の消化によってのみ（初期化条件の成立による初期状態への移行はここでは考慮していない）ＲＴ０状態に移行するといった仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は仕様例８－１のものを用いることができるため、その図示は省略している。

【５５６０】

（仕様例８－３）

仕様例８－３では、仕様例８－２に対し、規定回数の消化によってはＲＴ０状態に移行させず、また、上述の仕様例５の如く、ＲＴ０状態よりもＲＴ１状態のほうがボーナス役の当籤確率を高くするといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、移行図柄の

表示によってＲＴ１状態に移行した後は、初期化条件の成立による初期状態への移行まではそのＲＴ１状態を継続させる（ＲＴ０状態へ移行させない）といった仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４４０参照）は、例えば仕様例５のもの（むろん、これはとは異なるものであってもよい）を用いることができるため、その図示は省略している。

【５５６１】

＜内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例２）＞

図４５３を参照し、本実施形態において用いることができる内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例２）を説明する。

【５５６２】

なお、内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例２）は、内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例１）（図４４０参照）に対してボーナス役の種類を増加させるとともに、ＲＴ状態の種類を増加させたものであり、その他の基本的な構成は非ボーナス状態の構成例１におけるものと同様である。したがって、以下では、非ボーナス状態の構成例１と異なる構成について説明し、それと同様の構成についてはその説明を省略している。

【５５６３】

非ボーナス状態の構成例２では、さらに、Ｎｏ．９の「白ＲＢ」の内部当籤役が設けられている。「白ＲＢ」は「ボーナス役」である（この場合は単独当籤）。「白ＲＢ」が決定された場合には、停止操作の態様（例えば、各リールへの停止操作タイミング）が適切であれば「白ＢＡＲ－白ＢＡＲ－白ＢＡＲ」の図柄組合せが有効ライン上に表示され、ボーナス状態（ＲＥＧ（白ＲＥＧ））が作動する（開始する）。一方、上記停止操作の態様が適切でなければいわゆる「取りこぼし」が発生し、ボーナス状態（ＲＥＧ（白ＲＥＧ））は作動しない。なお、この場合には白ＲＢの当籤が次遊技以降に（対応する図柄組合せが表示されるまで）持ち越される。

【５５６４】

また、ボーナス状態（ＲＥＧ（白ＲＥＧ））の規定終了条件は任意に設定することができるが、例えば当該状態において８回の入賞は発生したこと、あるいは１２回の遊技が行われたことをその規定終了条件として設定することができる。また、「白ＲＢ」を「白ＢＩＧ」が作動する内部当籤役として構成することもできる。この場合、その規定終了条件を例えば「６０枚」を超える払出が行われたこととして設定することができる。なお、「白ＲＢ」はボーナス状態の構成例２（図４４２参照）や構成例３（図４４３参照）でも用いられているが、ここでの「白ＲＢ」は、説明の便宜のためにこれを流用したものに過ぎない。すなわち、ボーナス状態で当籤し得る「白ＲＢ」と、非ボーナス状態で当籤し得る「白ＲＢ」とは全く別の内部当籤役であってもよい。むろん、同じ内部当籤役として構成することもできる。

【５５６５】

また、非ボーナス状態の構成例２では、さらに、上述の「白ＲＢ」が、「チャンスリプレイ」と重複当籤する内部当籤役（Ｎｏ．１３の「チャンスリプレイ＋白ＲＢ」）、「チェリー」と重複当籤する内部当籤役（Ｎｏ．１７の「チェリー＋白ＲＢ」）、及び「スイカ」と重複当籤する内部当籤役（Ｎｏ．２１の「スイカ＋白ＲＢ」）が設けられている。なお、それらの構成は、非ボーナス状態の構成例１において他のボーナス役とそれらの役が重複当籤する場合と同様であるため、ここでの説明は省略している。

【５５６６】

また、非ボーナス状態の構成例２では、さらに、上述の初期状態であるＲＴ０状態と、上述のリプレイ変動状態であるＲＴ１状態とに加え、上述のリプレイ変動状態であってＲＴ１状態とは異なるＲＴ２状態が設けられており、非ボーナス状態が３つの遊技状態から構成される一例を説明している。すなわち、リプレイ変動状態を１つ増加させている。その他の点は、非ボーナス状態の構成例１と同様である。なお、非ボーナス状態におけるリプレイ変動状態の数はこれに限られない。３つ以上のリプレイ変動状態を設けるようにし、非ボーナス状態が４つ以上の遊技状態から構成されるものとしてもよい。

【５５６７】
ＲＴ２状態であるが、非ボーナス状態の構成例１におけるＲＴ０状態とＲＴ１状態の関係性と同様、ＲＴ０状態とＲＴ２状態との間、あるいはＲＴ１状態とＲＴ２状態との間でリプレイ役の決定態様を種々の態様で変動させることができる。また、同様にボーナス役の決定態様についても種々の態様で変動させることができる。
【５５６８】
＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例９＞
図４５４を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例９を説明する。なお、この仕様例９では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中（後述の黒ＲＥＧを黒ＢＩＧとする場合には黒ＢＩＧ作動中も同様））の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。
【５５６９】
（仕様例９における遊技状態の変動）
仕様例９では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「０」（抽籤値が「０」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「０」（抽籤値が「０」）であり、「黒ＲＢ」の当籤確率が「１／２５６」（抽籤値が「２５６」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。すなわち、仕様例９では、ＲＴ０状態において「黒ＲＢ」のボーナス役のみが抽籤される構成となっている。なお、上述の如く「黒ＲＢ」（黒ＲＥＧ）は「黒ＢＢ」（黒ＢＩＧ）として構成してもよいものであるので、ここではこれをＢＢ（ＢＩＧ）として取り扱ってその当籤確率を合算している。
【５５７０】
ここで、仕様例９では説明をわかりやすくするため、「白ＲＢ」の当籤確率については説明を省略しているが、「白ＲＢ」の当籤確率についても「黒ＲＢ」と同様に変動され得るように構成することもできるし、「赤ＢＢ」と同様に変動され得るように構成することもできるし、「青ＢＢ」と同様に変動され得るように構成することもできる。あるいは、ＲＴ０状態とＲＴ１状態の間、ＲＴ１状態とＲＴ２状態との間、あるいはＲＴ０状態～ＲＴ２状態の間で同じ当籤確率とする（その決定態様を変動させない）ように構成することもできる。
【５５７１】
また、いずれの場合にも「白ＲＢ」は、「黒ＲＢ」と同様に機能するものとしてもよいし、「赤ＢＢ」と同様に機能するものとしてもよいし、「青ＢＢ」と同様に機能するものとしてもよい。また、いずれの場合にも「白ＲＢ」は、その当籤、作動、あるいは終了によってＲＴ状態は変動しないように構成することもできる。また、「白ＲＢ」の内部当籤役を設けないように構成することもできる。また、これらは、この仕様例９と同様に「白ＲＢ」の説明を省略している後述の各仕様例においてもあてはまるため、後述の各仕様例ではその説明を省略している。
【５５７２】
ＲＴ０状態において「黒ＲＢ」に当籤し、これに対応する「黒ＲＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である黒ＲＥＧ作動中に移行する（黒ＲＥＧが開始される）（図４５４中、黒ＲＢ当籤・作動）。また、黒ＲＥＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、黒ＲＥＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５４中、黒ＲＥＧ終了）。すなわち、仕様例９では、黒ＲＥＧの終了がＲＴ１状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。
【５５７３】
ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「０」（抽籤値が「０」）のままであるが、「青ＢＢ」の当籤確率は「１／２５．６」（抽籤値が「２５６０」）に変動し、「

黒ＲＢ」の当籤確率は「０」（抽籤値が「０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例９では、ＲＴ１状態が（少なくともＲＴ０状態に対して）ボーナス役の高確率状態となり、また「青ＢＢ」のボーナス役のみが抽籤される構成となっている。

【５５７４】

ＲＴ１状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５４中、青ＢＢ当籤・作動）。また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ２状態に移行する（図４５４中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例９では、青ＢＩＧの終了がＲＴ２状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５５７５】

ＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／２５．６」（抽籤値が「２５６０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率は「０」（抽籤値が「０」）に変動し、「黒ＲＢ」の当籤確率は「０」（抽籤値が「０」）のままである。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例９では、ＲＴ２状態が（少なくともＲＴ０状態に対して）ボーナス役の高確率状態となり、また「赤ＢＢ」のボーナス役のみが抽籤される構成となっている。

【５５７６】

ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５４中、赤ＢＢ当籤・作動）。また、赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４５４中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例９では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５５７７】

なお、仕様例９では、例えば、黒ＲＥＧで獲得できる遊技価値数を６０枚程度とし、青ＢＩＧで獲得できる遊技価値数を１２０枚程度とし、赤ＢＩＧで獲得できる遊技価値数を２４０枚程度として構成することができる。すなわち、ＲＴ状態が段階的に移行するのにしたがってボーナス状態で付与される利益が増加し得るように構成することができる。

【５５７８】

仕様例９では、ＲＴ０状態では「黒ＲＢ」しか抽籤されず（なお、抽籤確率は低いが「青ＢＢ」や「赤ＢＢ」が抽籤され得るように構成し、これらに当籤した場合にはボーナス状態の終了後に該当のＲＴ状態に移行させるものとしてもよい）、「黒ＲＢ」に当籤するとボーナス状態の終了後がＲＴ１状態となる。すなわち、ボーナス役の高確率状態に移行するとともに、ボーナス状態中の利益が増加し得る状態に移行することとなる。

【５５７９】

また、ＲＴ１状態では「青ＢＢ」しか抽籤されず（なお、抽籤確率は低いが「黒ＲＢ」や「赤ＢＢ」が抽籤され得るように構成し、これらに当籤した場合にはボーナス状態の終了後に該当のＲＴ状態に移行させるものとしてもよい）、「青ＢＢ」に当籤するとボーナス状態の終了後がＲＴ２状態となる。すなわち、ボーナス役の高確率状態が継続するとともに、ボーナス状態中の利益がさらに増加し得る状態に移行することとなる。

【５５８０】

また、ＲＴ２状態では「赤ＢＢ」しか抽籤されず（なお、抽籤確率は低いが「黒ＲＢ」や「青ＢＢ」が抽籤され得るように構成し、これらに当籤した場合にはボーナス状態の終了後に該当のＲＴ状態に移行させるものとしてもよい）、「赤ＢＢ」に当籤するとボーナス状態の終了後がＲＴ０状態となる。すなわち、ボーナス役の高確率状態が終了して当初のＲＴ０状態に戻ることとなる。

【５５８１】

このような仕様例９によれば、ＲＴ状態が段階的に移行するのにしたがって、ボーナス

に関する利益（当籤確率や付与枚数など。むろん、リプレイ役の当籤確率も段階的に増大させるなどしてさらに利益に差をつけることもできる）が増大することから、それらの一連の有利な遊技区間であると遊技者に印象付けることができるため、そのような遊技区間の興趣を飛躍的に高めることができる。また、最も有利な状態（例えばＲＴ２状態）となった後は初期状態に戻るようにしているので、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５５８２】

なお、仕様例９における各ボーナス役の当籤確率やボーナス状態中の獲得枚数はあくまで一例に過ぎず、任意の当籤確率や獲得枚数を設定することができる。

【５５８３】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１０＞

図４５５を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１０を説明する。なお、この仕様例１０では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５８４】

（仕様例１０における遊技状態の変動）

仕様例１０では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５５中、赤ＢＢ当籤→作動）。

【５５８５】

また、ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５５中、青ＢＢ当籤→作動）。

【５５８６】

赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５５中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１０では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ１状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。なお、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「５０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４５５中、第１規定回数消化）。

【５５８７】

また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ２状態に移行する（図４５５中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１０では、青ＢＩＧの終了がＲＴ２状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。なお、ＲＴ２状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「２０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ２状態からＲＴ０状態に移行する（図４５５中、第２規定回数消化）。

【５５８８】

つまり、仕様例１０では、ボーナス状態の終了後はいずれも初期状態であるＲＴ０状態とは異なるＲＴ状態（ＲＴ１状態やＲＴ２状態）に移行するが、移行先のＲＴ状態の有利度合いがボーナス状態の種類によって異なるといった遊技性となっている。なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ボーナス状態の終了後のＲＴ状態の有利度合いを異ならせる手法は、上述の如く規定回数を異ならせることに限られない。例えば、後述の仕様例１０－２の如く、ボーナス役の当籤確率をＲＴ１状態とＲＴ２状態とで異ならせるようにしてもよい。また、例えば、リプレイ役の当籤確率をＲＴ１状態とＲＴ２状態とで異ならせるようにしてもよい。また、それらのいずれかを組み合わせて有利度合いを異ならせることもできる。

【５５８９】

このような仕様例１０によれば、ＲＴ１状態やＲＴ２状態に移行すると、規定回数を消化する前にボーナス役に当籤すれば少なくともそのような（ＲＴ０状態よりも有利な）状

態を継続させ得る一方、規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しなければそのような状態が終了することから、そのような状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）の遊技性を多様なものとすることができるため、その興趣を向上させることができる。また、ＲＴ１状態が規定回数消化によっても終了するため、射幸性を適切に抑制することもできる。さらに、当籤したボーナス役の種別に応じてそのような状態の有利度合いが変化することから、遊技性をより高めることができる。

【５５９０】

（仕様例１０－１）

仕様例１０－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）を図４５５に示すように構成したものである。

【５５９１】

仕様例１０－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例１０－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５５９２】

また、仕様例１０－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態（５０ゲーム）となる確率は５０％であり、ＲＴ２状態（２０ゲーム）となる確率も５０％となっている仕様例である。なお、仕様例１０－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。

【５５９３】

（仕様例１０－２）

仕様例１０－２では、仕様例１０－１に対し、ＲＴ１状態とＲＴ２状態とでボーナス役の当籤確率（合算当籤確率）を異ならせるといった点を変形した遊技性となっている。例えば、規定回数が相対的に多いＲＴ１状態の合算当籤確率を仕様例１０－１のものよりも高くすることで、ＲＴ１状態をより有利な状態として構成することもできるし、規定回数が相対的に少ないＲＴ２状態の合算当籤確率を仕様例１０－１のものよりも高くすることで、ＲＴ１状態は、規定回数は多いが合算当籤確率は相対的に低く、ＲＴ２状態は、規定回数は少ないが合算当籤確率は相対的に高いといった遊技性とすることもできる。

【５５９４】

また、ＲＴ１状態とＲＴ２状態とでボーナス役の当籤確率（合算当籤確率）を異ならせる場合、第１規定回数と第２規定回数とを同じ規定回数（例えば５０ゲーム）として構成することもできる。このようにすれば、遊技者にその有利度合いの差を認識させやすくできるし、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することもできる。

【５５９５】

（仕様例１０－３）

仕様例１０－３では、仕様例１０－２に対し、さらに、設定値が奇数（１，３，５）である場合と、偶数（２，４，６）である場合とで、合算当籤確率を異ならせるといった点を変形した遊技性となっている。例えば、「赤ＢＢ」に関し、設定値が偶数である場合のほうが、奇数である場合よりもその当籤確率を高くする。また、「青ＢＢ」の当籤確率は各設定値間で差がないようにする。そのようにして合算当籤確率を異ならせると、「赤ＢＢ」の出現頻度が多ければ、相対的に高い設定値が設定されているといった推測が可能と

なるため、そのような設定推測に関する興趣を向上させることができる。なお、この場合、偶数の設定値では「赤ＢＢ」の当籤確率を高めた分だけ「青ＢＢ」の当籤確率を低くし、合算当籤確率ベースでは各設定値間で差がない（あるいは微小な差となる）ように構成することもできる。

【５５９６】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１１＞

図４５６を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１１を説明する。なお、この仕様例１１では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５５９７】

（仕様例１１における遊技状態の変動）

仕様例１１では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５６中、赤ＢＢ当籤→作動、及びＢＢ当籤→作動で該当の状態へ）。

【５５９８】

また、ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５６中、青ＢＢ当籤→作動、及びＢＢ当籤→作動で該当の状態へ）。

【５５９９】

赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５６中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１１では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ１状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。なお、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「３０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４５６中、第１規定回数消化）。また、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示されると、第１規定回数が消化される前であってもＲＴ２状態に移行する（図４５６中、移行図柄表示）。また、ＲＴ２状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「２０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ２状態からＲＴ０状態に移行する（図４５６中、第２規定回数消化）。

【５６００】

また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４５６中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１１では、青ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５６０１】

つまり、仕様例１１では、当籤したボーナス役が「赤ＢＢ」であれば、それに基づいて作動したボーナス状態（赤ＢＩＧ）の終了後がＲＴ１状態となり、当籤したボーナス役が「青ＢＢ」であれば、それに基づいて作動したボーナス状態（青ＢＩＧ）の終了後がＲＴ０状態となるといった遊技性に加え、ＲＴ１状態では、ボーナス役に当籤することなく、また移行図柄も表示されなかった場合には第１規定回数の消化でＲＴ０状態に移行するが、移行図柄が表示された場合にはＲＴ２状態に移行し、ＲＴ２状態でボーナス役に当籤することなく第２規定回数が消化されるとＲＴ０状態に移行するといった遊技性となっている。

【５６０２】

すなわち、ＲＴ１状態を起点としてみると、「赤ＢＢ」に当籤してそのＲＴ１状態が（赤ＢＩＧを経由して）継続する場合と、「青ＢＢ」に当籤してそのＲＴ１状態が（青ＢＩＧを経由して）終了してＲＴ０状態に移行する場合と、第１規定回数の消化によってその

ＲＴ１状態が終了してＲＴ０状態に移行する場合と、移行図柄の表示によってそのＲＴ１状態は終了するがＲＴ２状態に移行する場合とがあるように構成されている。

【５６０３】

ここで、仕様例１１では、例えば、後述の仕様例１１－１の如く、ＲＴ１状態とＲＴ２状態とを比較するとＲＴ１状態のほうが有利であるとした場合、基本的にはＲＴ１状態からＲＴ２状態に移行させずに遊技を行ったほうが有利であるため、移行図柄が表示されないように遊技を行ったほうがよいわけであるが、特定の状況ではかえって移行図柄を表示させたほうが有利となる場合がある。例えば、後述の仕様例１１－１の如く、ＲＴ０状態とＲＴ２状態とを比較するとＲＴ２状態のほうが有利であるとした場合、ＲＴ１状態がまだ十分に継続し得る状況（第１規定回数の残りが多い状況）では上述の如く移行図柄が表示されないように遊技を行うが、ＲＴ１状態がそろそろ終了しそうな状況（第１規定回数の残りが少なくなった状況）では移行図柄が表示されるように遊技を行うことで、少なくともＲＴ０状態よりは有利な状態を継続させる（延長させる）ことができるためである。この仕様例１１では、そのような遊技性を提供可能としている。

【５６０４】

なお、ＲＴ１状態中は状況を問わず、移行図柄を表示可能な所定役が成立したゲームで、所定役が成立した旨の示唆等（示唆及び報知のいずれか又は両方を含む）が行われる演出を実行可能として、移行図柄が表示される可能性を遊技者に示唆ないし報知するものとしてもよい。また、所定役成立時には必ずそのような示唆等演出を実行されるものとしてもよい。

【５６０５】

また、第１規定回数の残りが多く期待値的に移行図柄を表示させない方が有利な場合は、移行図柄を表示可能な所定役が成立したゲームで、所定役が成立した旨や移行図柄を表示させない停止操作態様を示唆等する演出を行ってもよい。例えば、右リール３Ｒを第１停止させた場合に移行図柄の表示を回避でき、それ以外のリールを第１停止させた場合は移行図柄が表示されるリール制御が行われる場合、右押しナビ（有利な停止操作態様の示唆/報知演出）を出してもよい。また、「左中から止めれば次の状態へ移行する旨」、「右から止めれば今の状態を維持する旨」を両方表示し、後者を強調表示することで、状態維持を促すといった演出を行ってもよい。こうした示唆や報知を行う場合には、指示モニタのナビ表示を伴ってもよいし、遊技者が適宜選択できる事象であって示唆や報知が無くても右打ちすれば移行図柄を回避できるため実質的に出玉に影響しない単なる成立役ナビと扱って指示モニタのナビ表示を伴わないものとしてもよい。

【５６０６】

また、第１規定回数の残りが少なく期待値的に移行図柄を表示させた方が有利な場合は、移行図柄を表示可能な所定役が成立したゲームで、移行図柄を表示可能な停止操作態様を示唆等する演出を行ってもよい。このように状況に応じて遊技者に有利な停止操作態様を示唆等する演出を行うことで、移行図柄の表示を伴うゲーム性で遊技者が出玉性能を最大限に活かしやすくなる。この示唆等の演出を行う際には上述の移行図柄の回避を促す演出と同様に指示モニタのナビを伴うものでも、伴わないものでもどちらでもよい。なお、移行図柄を表示可能な所定役が成立したゲームであってもＲＴ１状態の最終ゲームでは敢えて所定役が成立した旨を示唆等する演出を行わないものとしてもよい。このようにすれば、最終ゲームではそのような演出が出なかったので残念ながらＲＴ２状態へ移行させることはできないかなと遊技者に一旦思わせておき、全リール停止時に移行図柄が表示されてうまくＲＴ１状態のゲーム数を最大限使い切ってＲＴ２状態へ移行させることに成功したといった挙動を楽しませることができる。

【５６０７】

もっとも、例えば、ＲＴ２状態をＲＴ０状態よりも（例えばボーナス役の当籤確率などにおいて）不利に構成し、ＲＴ１状態ではいずれの状況であっても移行図柄を表示させないほうが有利となるといった遊技性とすることもできるし、例えば、第２規定回数を１００ゲームとすることや、ＲＴ２状態のボーナス役の当籤確率をＲＴ１状態におけるものと

同等以上とすることで、ＲＴ２状態をＲＴ１状態よりも有利に構成し、ＲＴ１状態ではいずれの状況であっても移行図柄を表示させたほうが有利となるといった遊技性とすることもできる。

【５６０８】

なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ１状態において移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。もっとも、上述の観点からすると、移行図柄に関しては遊技者の停止操作の態様に応じて表示される場合と表示されない場合とがあるようにする仕様を採用することが望ましい。

【５６０９】

このような仕様例１１によれば、ＲＴ１状態に移行すると、規定回数を消化する前にボーナス役に当籤すればそのＲＴ１状態が継続する可能性が残る一方、規定回数を消化するまでにボーナス役に当籤しなければそのＲＴ１状態が終了する。さらに、規定回数を消化する前であってもボーナス役に当籤する前に移行図柄が表示されてしまえばそのＲＴ１状態が終了してＲＴ２状態に移行するものの、遊技状況によってはＲＴ１状態からＲＴ２状態に移行させたほうが遊技者にとって有利となり得る場合があるようにする。これにより、そのようなＲＴ１状態やＲＴ２状態（換言すれば、ボーナス役の高確率状態）の遊技性をより多様なものとすることができるため、その興趣を向上させることができる。また、ＲＴ１状態が規定回数（第１規定回数）消化や移行図柄表示によっても終了し、またＲＴ２状態も規定回数（第２規定回数）消化によって終了するため、射幸性をより適切に抑制することもできる。

【５６１０】

（仕様例１１－１）

仕様例１１－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）を図４５６に示すように構成したものである。

【５６１１】

仕様例１１－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例１１－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５６１２】

また、仕様例１１－１では、ＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／１０２．４」（抽籤値が「６４０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／１０２．４」（抽籤値が「６４０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／５１．２」となっている。すなわち、仕様例１１－１では、ＲＴ０状態をボーナス役の低確率状態とし、ＲＴ１状態をボーナス役の高確率状態としたとき、ＲＴ２状態がボーナス役の中確率状態として構成されている。なお、ＲＴ２状態は、ＲＴ０状態との関係でいえばボーナス役の高確率状態となり、ＲＴ１状態との関係でいえばボーナス役の低確率状態となる。

【５６１３】

また、仕様例１１－１では、ボーナス役に当籤したとき、そのボーナス役が「赤ＢＢ」である場合と「青ＢＢ」である場合とが１：１の割合となっている。すなわち、ボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態終了後のＲＴ状態がＲＴ１状態（３０ゲーム）となる確率は５０％であり、ＲＴ０状態となる確率も５０％となっている仕様例である。なお、仕様例１１－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述

の仕様例１－２や仕様例１－３のような当籤確率を設定することも可能である。

【５６１４】

また、仕様例１１－１における移行図柄の表示確率も上述の如く任意の確率に設定することができる。また、仕様例１１－１における規定回数も上述の如く任意の回数に設定することができる。例えば、移行図柄の表示確率を「１／ｎ」（ただし、上述の如く遊技者が自己の停止操作によって表示を回避し得る仕様とすることが望ましい）とした場合、第１規定回数を「ｎ」回未満としてＲＴ１状態を完走しやすくするかわりに、ＲＴ２状態への移行機会は少なくなるといった仕様とすることもできるし、第１規定回数を「ｎ」回以上としてＲＴ１状態を完走しにくくするかわりに、ＲＴ２状態への移行機会は多くなるといった仕様とすることもできる。

【５６１５】

（仕様例１１－２）

仕様例１１－２では、仕様例１１において、「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されたことに応じて作動した青ＢＩＧが終了した場合にもＲＴ１状態に移行するようにした点を変形した遊技性となっている。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）は仕様例１１－１のものを用いることができるため、その説明は省略している。もっとも、仕様例１１－１のものとは異なるように各ボーナス役の当籤確率を設定することもできる。

【５６１６】

仕様例１１―２は、要するに、ＲＴ０においてボーナス役を当籤させることができれば、その種類を問わず（ボーナス状態を経由して）ＲＴ１状態に移行させることができ、また、ＲＴ１状態において、第１規定回数が消化される前であって移行図柄が表示される前にボーナス役を当籤させることができれば、その種類を問わず（ボーナス状態を経由して）ＲＴ１状態を継続させることができ、さらに、移行図柄が表示されて移行したＲＴ２状態においても、第２規定回数が消化される前にボーナス役を当籤させることができれば、その種類を問わず（ボーナス状態を経由して）ＲＴ１状態に移行させることができるといった遊技性となっている。

【５６１７】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１２＞

図４５７を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１２を説明する。なお、この仕様例１２では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５６１８】

（仕様例１２における遊技状態の変動）

仕様例１２では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）。また、ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）。なお、この仕様例１２では、「赤ＢＢ」及び「青ＢＢ」を総称して「ＢＢ」とし、赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中を総称して「ＢＩＧ作動中」としている。

【５６１９】

ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、そのＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４５７中、ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１２では、ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５６２０】

また、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していないときに第１移行図柄（第２移

行図柄とは異なる移行図柄であることを示すものであり、その表示確率や図柄組合せの種類は上述の如く任意に設定可能である）が表示されるとＲＴ１状態に移行する（図４５７中、第１移行図柄表示）。なお、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「５０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４５７中、第１規定回数消化）。

【５６２１】

また、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していないときに第２移行図柄（第１移行図柄とは異なる移行図柄であることを示すものであり、その表示確率や図柄組合せの種類は上述の如く任意に設定可能である）が表示されるとＲＴ２状態に移行する（図４５７中、第２移行図柄表示）。なお、ＲＴ２状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「２０ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ２状態からＲＴ０状態に移行する（図４５７中、第２規定回数消化）。

【５６２２】

ここで、仕様例１２では、ＲＴ１状態の第１規定回数（例えば５０ゲーム）を、ＲＴ２状態の第２規定回数（例えば２０ゲーム）よりも多くする一例を説明しているが、それぞれの規定回数の構成はこれに限られない。例えば、第１規定回数と第２規定回数とを同じ回数としてもよいし、第１規定回数を第２規定回数よりも少ない回数としてもよい。

【５６２３】

すなわち、後述の仕様例１２－１の如く、ＲＴ１状態のほうがＲＴ２状態よりもボーナス役の当籤確率を低くするかわりに、ＲＴ１状態のほうがＲＴ２状態よりもその規定回数が多くなるようにしてそれぞれで異なる期待感を付与できるようにしてもよいし、規定回数は同じとし、基本的にボーナス役の当籤確率によってそれぞれで異なる期待感を付与できるようにしてもよい。あるいは、ＲＴ２状態のほうが、ＲＴ１状態よりもボーナス役の当籤確率も規定回数も優遇されるようにして両状態の間で期待感に差が出るようにしてもよい。

【５６２４】

つまり、仕様例１２では、第１移行図柄の表示によって少なくとも第１規定回数を消化するまで継続可能に構成されたＲＴ１状態に移行し、また、第２移行図柄の表示によって少なくとも第２規定回数を消化するまで継続可能に構成されたＲＴ２状態に移行し、しかもこれらのＲＴ状態ではそれぞれで異なる期待感を付与できるようにするといった遊技性となっている。

【５６２５】

なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ０状態において移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。

【５６２６】

このような仕様例１２によれば、ＲＴ０状態からは、ボーナス状態に移行する場合と、ボーナス役に関する期待度がＲＴ０状態よりも高いＲＴ１状態に移行する場合と、ボーナス役に関する期待度がＲＴ０状態よりも高く、さらにＲＴ１状態とも異なるＲＴ２状態に移行する場合とがあることから、そのような状態移行の遊技性をより多様なものとすることができるため、その興趣を向上させることができる。また、ＲＴ１状態やＲＴ２状態が規定回数消化によって終了するため、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５６２７】

（仕様例１２－１）

仕様例１２－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）を図４５７に示すように構成したものである。

【５６２８】

仕様例１２－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１２」（抽籤値が「１２８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６

」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／１０２．４」（抽籤値が「６４０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／１０２．４」（抽籤値が「６４０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／５１．２」となっている。すなわち、仕様例１２－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５６２９】

また、仕様例１２－１では、ＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例１２－１では、ＲＴ０状態をボーナス役の低確率状態とし、ＲＴ２状態をボーナス役の高確率状態としたとき、ＲＴ１状態がボーナス役の中確率状態として構成されている。なお、ＲＴ１状態は、ＲＴ０状態との関係でいえばボーナス役の高確率状態となり、ＲＴ２状態との関係でいえばボーナス役の低確率状態となる。

【５６３０】

なお、仕様例１２－１では、ＲＴ１状態とＲＴ２状態とでその規定回数（第１規定回数と第２規定回数）を異ならせているが、いずれの状態においてもボーナス役に当籤してボーナス状態に移行した場合には、ボーナス状態の終了後にそのＲＴ状態は終了してＲＴ０状態に移行するものとなっている。すなわち、ＲＴ１状態やＲＴ２状態は、基本的にボーナス状態を経由してはループしない遊技性となっている。

【５６３１】

また、仕様例１２－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。上述の如く任意の当籤確率を設定することができる。また、仕様例１２－１における各移行図柄の表示確率も上述の如く任意の確率に設定することができる。また、仕様例１２－１における規定回数も上述の如く任意の回数に設定することができる。

【５６３２】

（仕様例１２－２）

仕様例１２－２では、仕様例１２－１に対し、規定回数（第１規定回数及び第２規定回数）の消化によってはＲＴ１状態やＲＴ２状態を終了させない（すなわち、一度ＲＴ１状態やＲＴ２状態となると、少なくともボーナス役に当籤するまではそのＲＴ状態を継続させる）といった点を変形した遊技性となっている。このようにすれば、ボーナス役の高確率状態において少なくとも一回はボーナス役を当籤させ得るため、そのようなＲＴ状態における特典を遊技者に確実に与えることができ、興趣を向上させることができる。

【５６３３】

（仕様例１２－３）

仕様例１２－３では、仕様例１２－１又は仕様例１２－２に対し、ボーナス状態（ＢＩＧ作動中）の開始や終了によってはＲＴ状態を変動させないといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、仕様例１２－１をそのように変形した場合、一度ＲＴ１状態となると第１規定回数を消化するまではＲＴ１状態が継続し、また一度ＲＴ２状態となると第２規定回数を消化するまではＲＴ２状態が継続するといった遊技性とすることができる。また、仕様例１２－２をそのように変形した場合、一度ＲＴ１状態となると（初期化条件が成立して初期状態であるＲＴ０状態に移行するまで）そのＲＴ１状態は終了されず、また一度ＲＴ２状態となると（初期化条件が成立して初期状態であるＲＴ０状態に移行するまで）そのＲＴ２状態は終了されないといった遊技性とすることができる。これにより、移行図柄（第１移行図柄及び第２移行図柄）の表示により重要な意味をもたせることができるため、興趣を向上させるのみならず、移行図柄の表示確率を適切に管理することでより適切に出玉率を管理することができる。

【５６３４】

（仕様例１２－４）

仕様例１２－４では、仕様例１２－１又は仕様例１２－２に対し、特定のボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中）の終了時にはＲＴ０状態に移行させないといった点を変形した遊技性となっている。この場合、赤ＢＩＧの終了ではＲＴ状態を変動させない（特定のボーナス状態の作動前のＲＴ状態に戻る）ように構成することもできるし、赤ＢＩＧの終了が特定のＲＴ状態（例えばＲＴ１状態）への移行契機となるように構成することもできる。すなわち、他の仕様例の如く、ボーナス役の高確率状態が、特定のボーナス状態を経由してループし得るように構成することもできる。

【５６３５】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１３＞

図４５８を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１３を説明する。なお、この仕様例１３では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中（後述の黒ＲＥＧや白ＲＥＧを黒ＢＩＧや白ＲＥＧとする場合には黒ＢＩＧ作動中や白ＲＥＧ作動中も同様））の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５６３６】

（仕様例１３における遊技状態の変動）

仕様例１３では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／５４６．１」（抽籤値が「１２０」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５４６．１」（抽籤値が「１２０」）であり、「黒ＲＢ」の当籤確率は「１／８１９２」（抽籤値が「８」）であり、「白ＲＢ」の当籤確率も「１／８１９２」（抽籤値が「８」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５６」となっている。なお、上述の如く「黒ＲＢ」（黒ＲＥＧ）や「白ＲＢ」（白ＲＥＧ）は「黒ＢＢ」（黒ＢＩＧ）や「白ＢＢ」（白ＢＩＧ）として構成してもよいことから、ここではこれをＢＢ（ＢＩＧ）として取り扱ってその当籤確率を合算している。もっとも、仕様例１３において黒ＲＥＧや白ＲＥＧは、例えば第２種特別役物に係る役物連続作動装置（ＭＢ）として構成される（例えば「黒ＭＢ」や「白ＭＢ」として構成される）ものとしてもよい。

【５６３７】

ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５８中、赤ＢＢ当籤→作動）。また、赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ１状態に移行する（図４５８中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１３では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ１状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５６３８】

ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動している。また、「白ＲＢ」の当籤確率は「１／８１９２」（抽籤値が「８」）のままであるが、「黒ＲＢ」の当籤確率は「１／１０６．５」（抽籤値が「６１５」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／１００」（細かくは「１／９５．４」程度であるが、ここでは説明の便宜のため当該確率としている）となっている。すなわち、仕様例１３では、ＲＴ１状態が（少なくともＲＴ０状態に対して）ボーナス役の高確率状態となっている。

【５６３９】

また、ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５８中、青ＢＢ当籤→作動）。また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ２状態に移行する（図４５８中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１３では、青ＢＩＧの終了がＲＴ２状態の移行契機

（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５６４０】

ＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）に変動している。また、「黒ＲＢ」の当籤確率は「１／８１９２」（抽籤値が「８」）のままであるが、「白ＲＢ」の当籤確率は「１／５１．６」（抽籤値が「１２７０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／５０」（細かくは「１／４８．８」程度であるが、ここでは説明の便宜のため当該確率としている）となっている。すなわち、仕様例１３では、ＲＴ２状態が（少なくともＲＴ０状態に対して）ボーナス役の高確率状態となっている。

【５６４１】

また、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態において「黒ＲＢ」に当籤し、これに対応する「黒ＲＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である黒ＲＥＧ作動中に移行する。また、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態において「白ＲＢ」に当籤し、これに対応する「白ＲＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である白ＲＥＧ作動中に移行する。なお、この仕様例１３では、「黒ＲＢ」及び「白ＲＢ」を総称して「ＲＢ」とし、黒ＲＥＧ作動中及び白ＲＥＧ作動中を総称して「ＲＥＧ作動中」としている。したがって、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態において「ＲＢ」に当籤し、これに対応する「ＲＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態であるＲＥＧ作動中に移行する（ＲＥＧが開始される）（図４５８中、ＲＢ当籤→作動）。また、ＲＴ０状態において「ＲＢ」に当籤し、これに対応する「ＲＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態であるＲＥＧ作動中に移行する（ＲＥＧが開始される）点は上記と同様であるが、図４５８においてはその図示を省略している。

【５６４２】

ＲＥＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、ＲＥＧが終了する場合、移行前のＲＴ状態に戻る。すなわち、ＲＥＧ開始前がＲＴ１状態であればＲＴ１状態に戻り、ＲＥＧ開始前がＲＴ２状態であればＲＴ２状態に戻る。なお、ＲＥＧ開始前がＲＴ０状態であればＲＴ０状態に戻るが、図４５８においてはその図示を省略している。すなわち、仕様例１３では、ＲＥＧの終了（「ＲＢ」の当籤やＲＥＧの開始も同様）がＲＴ状態の変動契機とはなっていない。

【５６４３】

ＲＴ１状態において、「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」に当籤することなく例えば「１００ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（図４５８中、第１規定回数消化）。また、ＲＴ２状態において、「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」に当籤することなく例えば「１００ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ２状態からＲＴ０状態に移行する（図４５８中、第２規定回数消化）。なお、ＲＴ１状態の第１規定回数（１００ゲーム）と、ＲＴ２状態の第２規定回数（１００ゲーム）との関係はこれに限られない。上述の如くいずれか一方の規定回数を多くする（少なくする）こともできる。

【５６４４】

また、ＲＴ１状態及びＲＴ２状態からＲＥＧ作動中に移行した場合、そのＲＥＧ作動中においても規定回数を進行させるように構成する（例えば、加算方式によって規定回数を管理する場合には、ＲＥＧ作動中においても１ゲームにつき１を加算する、あるいは減算方式によって規定回数を管理する場合には、ＲＥＧ作動中においても１ゲームにつき１を減算するなど）こともできるし、そのＲＥＧ作動中は規定回数の進行を中断するように構成する（例えば、ＲＥＧ作動時の規定回数の管理値が残り「５０ゲーム」であれば、ＲＥＧ作動中はその管理値を更新せず、ＲＥＧが終了してＲＴ１状態やＲＴ２状態に戻ったときにその管理値の更新が再開されるようにするなど）こともできる。これは、他の仕様例において、ボーナス役の当籤、ボーナス状態の作動や終了ではＲＴ状態が変動しないとしたものについても同様である。

【５６４５】

なお、仕様例１３では、例えば、白ＲＥＧで獲得できる遊技価値数を６０枚程度とし（

黒ＲＥＧと同程度の性能としてもよい）、黒ＲＥＧで獲得できる遊技価値数を１２０枚程度とし（白ＲＥＧと同程度の性能としてもよい）、赤ＢＩＧや青ＢＩＧで獲得できる遊技価値数を２４０枚程度として構成することができる。すなわち、ＲＴ状態が変動しない（ボーナス役の高確率状態であるＲＴ１状態やＲＴ２状態においてそれらＲＴ状態を貫通し得る）ボーナス状態（黒ＲＥＧや白ＲＥＧ）で付与される利益を、ＲＴ状態が変動するボーナス状態（赤ＢＩＧや青ＢＩＧ）で付与される利益よりも少なく構成することができる。

【５６４６】

仕様例１３では、ＲＴ０状態で「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」に当籤するとＲＴ１状態やＲＴ２状態に移行し、移行したＲＴ１状態やＲＴ２状態では、ＲＴ状態が変動しないボーナス役（例えば「黒ＲＢ」や「白ＲＢ」）の高確率状態が、少なくとも規定回数を消化するまで継続し得る。また、ＲＴ１状態やＲＴ２状態で「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」に当籤した場合には、そのようなボーナス役の高確率状態をさらに延長させることも可能となっている。

【５６４７】

このような仕様例１３によれば、ＲＴ１状態やＲＴ２状態ではＲＴ状態が変動しないボーナス役が連荘しやすくなっているため、そのような状態における興趣を飛躍的に高めることができる。また、ＲＴ１状態やＲＴ２状態は規定回数の消化によって終了するようにしているので、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５６４８】

なお、仕様例１３における各ボーナス役の当籤確率やボーナス状態中の獲得枚数はあくまで一例に過ぎず、任意の当籤確率や獲得枚数を設定することができる。

【５６４９】

＜ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１４＞

図４５９を参照し、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１４を説明する。なお、この仕様例１４では、非ボーナス状態（ＲＴ０状態～ＲＴ２状態）の内部抽籤テーブルとして構成例２（図４５３参照）で説明したものを用いている。また、ボーナス状態（赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の内部抽籤テーブルは構成例１～３（図４４１～図４４３参照）で説明したいずれのものを用いてもよい。

【５６５０】

（仕様例１４における遊技状態の変動）

仕様例１４では、例えば、設定変更などの初期化条件が成立したときには、初期状態であるＲＴ０状態から遊技が開始される。ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「赤ＢＢ」に当籤し、これに対応する「赤ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である赤ＢＩＧ作動中に移行する（赤ＢＩＧが開始される）（図４５９中、赤ＢＢ当籤→作動、及びＢＢ当籤→作動で該当の状態へ）。

【５６５１】

また、ＲＴ０状態～ＲＴ２状態において「青ＢＢ」に当籤し、これに対応する「青ＢＢ」の図柄組合せが表示されると、ボーナス状態である青ＢＩＧ作動中に移行する（青ＢＩＧが開始される）（図４５９中、青ＢＢ当籤→作動、及びＢＢ当籤→作動で該当の状態へ）。

【５６５２】

赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、赤ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４５９中、赤ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１４では、赤ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。また、青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立し、青ＢＩＧが終了する場合、ＲＴ０状態に移行する（図４５９中、青ＢＩＧ終了）。すなわち、仕様例１４では、青ＢＩＧの終了がＲＴ０状態の移行契機（ＲＴ状態の変動契機）となる。

【５６５３】

また、ＲＴ０状態において、ボーナス役に当籤していないときに第１移行図柄（第２移行図柄とは異なる移行図柄であることを示すものであり、その表示確率や図柄組合せの種

類は上述の如く任意に設定可能である）が表示されるとＲＴ１状態に移行する（図４５９中、第１移行図柄表示）。また、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤していないときに第２移行図柄（第１移行図柄とは異なる移行図柄であることを示すものであり、その表示確率や図柄組合せの種類は上述の如く任意に設定可能である）が表示されるとＲＴ２状態に移行する（図４５９中、第２移行図柄表示）。なお、仕様例１４では、ＲＴ１状態においては規定回数の定めがないが、ＲＴ２状態においては規定回数の定めがあり、ＲＴ２状態において、ボーナス役に当籤することなく例えば「１０００ゲーム」の遊技が行われると、ＲＴ２状態からＲＴ０状態に移行する（図４５９中、規定回数消化）。すなわち、仕様例１４における規定回数は、天井ゲーム数として機能し得る。

【５６５４】

ここで、仕様例１４では、例えば、後述の仕様例１４－１の如く、ＲＴ１状態をボーナス役の高確率状態とし、ＲＴ０状態及びＲＴ１状態をボーナス役の低確率状態とすることができる。なお、ＲＴ０状態及びＲＴ２状態は、少なくともＲＴ１状態よりもボーナス役の当籤確率が不利であればよく（換言すれば、ＲＴ１状態が少なくともＲＴ０状態やＲＴ２状態よりもボーナス役の当籤確率が有利であればよく）、その確率は後述の仕様例１４－１に示すものに限られない。例えば、ＲＴ０状態におけるボーナス役の当籤確率をＲＴ１状態におけるボーナス役の当籤確率よりも高く設定することもできるし、ＲＴ１状態におけるボーナス役の当籤確率をＲＴ０状態におけるボーナス役の当籤確率よりも高く設定することもできる。前者によれば、同様の低確率状態であっても、初期状態のほうがリプレイ変動状態（ＲＴ２状態）よりも有利とすることで、期待度が低いながらもモーニング状態を発生させ得るようにして興趣を高めることができる。また、後者によれば、同様の低確率状態であっても、リプレイ変動状態（ＲＴ２状態）のほうが初期状態よりも有利とすることで、第２移行図柄表示後に期待度が低下してしまうことを抑制することができる。

【５６５５】

つまり、仕様例１４では、ＲＴ０状態において第１移行図柄が表示されるまではボーナス役の低確率状態であり、そこでボーナス役に当籤してもボーナス役の高確率状態には移行しないが、第１移行図柄を表示できればボーナス役の高確率状態であるＲＴ１状態に移行させることができる。そして、ＲＴ１状態において、第２移行図柄が表示される前にボーナス役を当籤させることができれば、ボーナス状態での利益を受けた上でＲＴ０状態に移行させることができるし、再度ＲＴ０状態において第１移行図柄を表示させてＲＴ１状態に移行され得る可能性も残る。一方、ＲＴ１状態において、ボーナス役に当籤する前に第２移行図柄が表示されてしまうと、ボーナス役の低確率状態であるＲＴ２状態に移行してしまい、規定回数を消化するか、ボーナス役を当籤させなければＲＴ０状態に戻ることできない（換言すれば、第１移行図柄を表示させてＲＴ１状態に移行され得る可能性がなくなる）。そのような遊技性となっている。

【５６５６】

なお、規定回数に関する各種の仕様は仕様例２においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ０状態において第１移行図柄を表示させる各種の仕様、あるいはＲＴ１状態において第２移行図柄を表示させる各種の仕様は仕様例３においてすでに説明したため、ここでの説明は省略している。もっとも、上述の観点からすると、少なくとも第１移行図柄に関しては遊技者の停止操作の態様に応じて表示される場合と表示されない場合とがあるようにする仕様を採用することが望ましい。むろん、第２移行図柄に関しても同様の仕様とすることができる。

【５６５７】

また、この仕様例１４のように、例えば、ＲＴ１状態では一定の表示確率で第２移行図柄が表示される仕様としたいが、ＲＴ０状態では（ＲＴ２状態に移行しないように）第２移行図柄が表示されない仕様としたい場合には、第２移行図柄が表示され得る役（例えば、上述の所定役や特定役）をリプレイ役で構成し、ＲＴ０状態ではそのリプレイ役は抽籤されないが、ＲＴ１状態ではそのリプレイ役が抽籤され得るといった構成とすればよい。

これは、他の仕様例において、特定のＲＴ状態でのみ特定の移行図柄が表示され得るようにする場合にも適用し得る。むろん、第１移行図柄に関しても同様の仕様とすることができる。

【５６５８】

このような仕様例１４によれば、ボーナス役の低確率状態であるＲＴ０状態では基本的に第１移行図柄の表示を期待し、第１移行図柄が表示されてボーナス役の高確率状態であるＲＴ１状態に移行した後は、第２移行図柄が表示されてボーナス役の低確率状態であるＲＴ２状態に移行する前にボーナス役に当籤することを期待するといった遊技性を実現することができるため、そのようなＲＴ１状態の興趣を飛躍的に高めることができる。また、移行図柄が表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することもできる。また、第２移行図柄の表示後はＲＴ２状態（換言すれば、ボーナス役の低確率状態）が所定期間（例えば規定回数分の遊技）にわたって設定されることから、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５６５９】

（仕様例１４－１）

仕様例１４－１は、上記遊技状態の変動仕様を用いて、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）を図４５９に示すように構成したものである。

【５６６０】

仕様例１４－１では、ＲＴ０状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／１０２４」となっている。これに対し、ＲＴ１状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動し、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／５１．２」（抽籤値が「１２８０」）に変動している。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／２５．６」となっている。すなわち、仕様例１４－１では、ＲＴ０状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５６６１】

また、仕様例１４－１では、ＲＴ２状態においては、「赤ＢＢ」の当籤確率が「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率も「１／２０４８」（抽籤値が「３２」）である。また、これらを合算したボーナス役（ＢＢ）の当籤確率は「１／１０２４」となっている。すなわち、仕様例１４－１では、ＲＴ２状態がボーナス役の低確率状態であり、ＲＴ１状態がボーナス役の高確率状態として構成されている。

【５６６２】

なお、仕様例１４－１における各ボーナス役の当籤確率はあくまで一例に過ぎない。例えば、上述の如くＲＴ０状態とＲＴ２状態とでボーナス役の当籤確率を異ならせることも可能である。

【５６６３】

また、仕様例１４－１における第１移行図柄や第２移行図柄の表示確率も上述の如く任意の確率に設定することができる。また、仕様例１４－１におけるＲＴ２状態の規定回数も上述の如く任意の回数に設定することができる。

【５６６４】

（仕様例１４－２）

仕様例１４－２では、仕様例１４－１に対し、上述の仕様例７や仕様例８の如く、「赤ＢＢ」の当籤・作動ではＲＴ状態が変動せず、赤ＢＩＧの終了でもＲＴ状態が変動しないように構成するとともに、「青ＢＢ」の当籤・作動でもＲＴ状態が変動せず、青ＢＩＧの終了でもＲＴ状態が変動しないといった点を変形した遊技性となっている。すなわち、第１移行図柄の表示によってのみＲＴ１状態に移行し、第２移行図柄の表示によってのみＲＴ２状態に移行し、規定回数の消化によってのみ（初期化条件の成立による初期状態への

移行はここでは考慮していない）ＲＴ０状態に移行するといった仕様例である。なお、各ボーナス役の当籤確率（図４５３参照）は仕様例１４－１のものを用いることができるため、その図示は省略している。

【５６６５】

ここまで、仕様例１～１４を用いて、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例を説明したが、これらはあくまで一例である。したがって、一の仕様例の一部と他の仕様例の一部とを組み合わせて仕様例１～１４とは異なる仕様とすることも可能である。また、仕様例１～１４では用いていないＲＴ状態の変動契機を用いて対象のＲＴ状態の開始・終了を制御することも可能である。

【５６６６】

例えば、ボーナス状態の終了（（３）第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動が終了したこと）がＲＴ状態の変動契機となるとして説明した仕様例においては、これを、ボーナス役の当籤（（１）第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動に係る条件装置が作動したこと）やボーナス状態の開始（（２）第１種特別役物又は役物連続作動装置が作動することとなる図柄の組合せが表示されたこと）に置き換えてそのＲＴ状態の変動を制御することも可能である。

【５６６７】

また、例えば、ボーナス状態の終了後に規定回数の遊技を消化すること（（５）上記（３）の成立後に行われたあらかじめ定められた回数の遊技の結果が得られたこと）がＲＴ状態の変動契機となるとして説明した仕様例においては、これを、移行図柄の表示後に規定回数の遊技を消化すること（（５）（４）（：第１種特別役物又は役物連続作動装置の作動に係る条件装置、第１種特別役物及び役物連続作動装置が作動していない場合において、特定の図柄の組合せが表示されたこと）の成立後に行われたあらかじめ定められた回数の遊技の結果が得られたこと）に置き換えてそのＲＴ状態の変動を制御することも可能である。また、その逆も同様である。すなわち、移行図柄の表示後に規定回数の遊技を消化することがＲＴ状態の変動契機となるとして説明した仕様例においては、これを、ボーナス状態の終了後に規定回数の遊技を消化することに置き換えてそのＲＴ状態の変動を制御することも可能である。

【５６６８】

また、例えば、各仕様例において、ボーナス役の高確率状態であるとして説明したＲＴ状態は、ボーナス役の低確率状態として構成することも可能であるし、ボーナス役の低確率状態であるとして説明したＲＴ状態は、ボーナス役の高確率状態として構成することも可能である。すなわち、変動契機の成立によってボーナス役の決定態様（換言すれば、それを制御するための遊技状態）が変動すればよく、その変動する態様については各仕様例で説明したものに限定されない。

【５６６９】

また、この実施形態では、初期状態（あるいは一のリプレイ変動状態）からリプレイ変動状態（あるいは他のリプレイ変動状態に移行する（すなわち、ＲＴ状態を移行させてリプレイ役の決定態様を変動させる）のにともなってボーナス役の決定態様を変動させることを説明したが、ボーナス役の決定態様を変動させる態様はこれに限られない。例えば、各ＲＴ状態においてリプレイ役の決定態様は変動させず、ボーナス役の決定態様のみを変動させる構成としてもよい。すなわち、ＲＴ状態として説明した各遊技状態は、ボーナス役の決定態様のみを変動させるために用いられるものであってもよい。

【５６７０】

［ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例を用いた遊技機に係る発明のまとめ（付記）］

以上説明したように、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例を用いた遊技機では、例えば以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【５６７１】

従来の遊技機において、ボーナスゲーム（ボーナス状態）の作動が終了したことに応じ、再遊技役の当籤確率が通常よりも高くなるリプレイタイム（高ＲＴ状態）を作動させる

ようにしたものが提案されている（例えば、特開２００７－１１７４９６号公報参照）。

【５６７２】

そのような従来の遊技機によれば、例えば、ボーナス状態の終了後は、少なくとも通常よりも遊技価値が減少しにくい状態として構成された高ＲＴ状態にて次のボーナス役の当籤などを待つことができるため、ボーナスの連荘に関して興趣を高めることが可能となっている。

【５６７３】

ところで、そのような従来の遊技機では、ボーナス役の当籤確率は、高ＲＴ状態であっても変動せず一定であるのが通常である。そのため、例えば、高ＲＴ状態であってもボーナス役になかなか当籤しない、あるいはボーナス役に当籤することなく高ＲＴ状態が終了するといった状況が発生しやすい。したがって、そのような状況が頻発するとかえって興趣を低下させてしまうという問題があった。

【５６７４】

もっとも、近年では、遊技者に有利な停止操作の情報が報知される状態として構成されたＡＴ状態を疑似的なボーナス状態に見立て（これは「疑似ボーナス」などと称される）、その疑似ボーナスが連荘し得る遊技性にして出玉に起伏を生じさせることも提案されている。しかしながら、ＡＴ状態を設ける場合、ＡＴ状態を設けない場合よりも出玉設計が複雑となるし、また型式試験に適合するための要件も増加することから、そのような遊技性とする場合には工数が増大してしまうという問題が生じる。さらに、近年では、そのようなＡＴ状態に関する制御を主制御側で行う必要があることから、そのような遊技性とする場合には主制御側の制御負荷が増大してしまうという問題も生じる。

【５６７５】

本発明は、工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる遊技機を提供することを目的とする。

【５６７６】

上記目的を達成するために、本実施形態に係る遊技機によれば、以下の遊技機を提供することができる。

【５６７７】

（１）　複数の図柄を複数列で変動表示可能な変動表示手段（例えば、変動表示部）と、

再遊技役及びボーナス役を含む複数の役の中から当籤役を決定する役決定手段（例えば、内部抽籤処理を行うメインＣＰＵ）と、

前記当籤役決定手段による決定結果と遊技者の停止操作とに応じて図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール（回胴）停止制御処理を行うメインＣＰＵ）と、

複数の状態を制御する状態制御手段（例えば、第１１実施形態における各状態を制御するメインＣＰＵ）と、を備えた遊技機（例えば、パチスロ機１）であって、

前記ボーナス役は、前記当籤役決定手段により当籤役として決定された後、対応する図柄組合せが表示されるまで持ち越し可能に構成されており、

前記複数の状態は、

前記ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始され、規定終了条件が成立したことに応じて終了する、遊技価値が増加し得る状態として構成されたボーナス状態（例えば、第１１実施形態における「ＢＩＧ作動中」など）と、

前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が第１態様である第１特定状態（例えば、第１１実施形態における「ＲＴ０状態」など）と、

前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が前記第１態様とは異なる第２態様である第２特定状態（例えば、第１１実施形態における「ＲＴ１状態」など）と、を少なくとも含み、

前記第１特定状態と前記第２特定状態とで、前記当籤役決定手段による前記ボーナス役の決定態様を異ならせることが可能であることを特徴とする遊技機。

【５６７８】
この構成の遊技機によれば、再遊技役の決定態様が異なる特定状態（例えば、ＲＴ状態）を変動させるのにともなってボーナス役の決定態様も異ならせることができる。すなわち、特定状態の変動契機に紐づけたボーナス確変の制御を実現することができる。したがって、工数や制御負荷を増大させることなく遊技性や興趣を高めることができる。
【５６７９】
（２）　前記ボーナス役は、第１ボーナス役（例えば、第１１実施形態における「青ＢＢ」など）と、第２ボーナス役（例えば、第１１実施形態における「赤ＢＢ」など）と、を少なくとも含み、
前記ボーナス状態は、前記第１ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される第１ボーナス状態（例えば、第１１実施形態における「青ＢＩＧ作動中」など）と、前記第２ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される第２ボーナス状態（例えば、第１１実施形態における「赤ＢＩＧ作動中」など）と、を少なくとも含み、
前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が有利な状態であり、
前記状態制御手段は、前記第１ボーナス状態が終了することを条件に前記第１特定状態に制御し、前記第２ボーナス状態が終了することを条件に前記第２特定状態に制御することが可能であることを特徴とする（１）に記載の遊技機。
【５６８０】
この構成の遊技機によれば、当籤したボーナス役の種類（換言すれば、移行したボーナス状態の種類）に応じて、その終了後をボーナス役の決定態様が有利となる特定状態（第２特定状態）とするかが決定され得るため、上述の作用効果をさらに高めることができる。なお、各特定状態における各ボーナス役の決定態様さえ調整すれば異なる遊技性を創出し得ることから、特に工数の増大抑制に関する作用効果をより高めることができる。また、これに加え、その遊技性を遊技者にわかりやすく示すこともできる。
【５６８１】
（３）　前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が有利な状態であり、
前記状態制御手段は、前記ボーナス状態が終了することを条件に前記第２特定状態に制御し、前記第２特定状態において特定終了条件が成立することに応じて前記第１特定状態に制御することが可能であることを特徴とする（１）に記載の遊技機。
【５６８２】
この構成の遊技機によれば、ボーナス状態の終了後は特定終了条件が成立するまでボーナス役の決定態様が有利となる特定状態（第２特定状態）に制御されるため、上述の作用効果をさらに高めることができる。なお、特定終了条件を適宜調整すれば異なる遊技性を創出し得ることから、特に工数の増大抑制に関する作用効果をより高めることができる。また、これに加え、ボーナス状態の終了後の期待感を飛躍的に高めることができるため、特に興趣の向上に関する作用効果をより高めることもできる。
【５６８３】
（４）　前記特定終了条件は、前記第２特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されることなく規定回数の遊技が行われたことに応じて成立し得ることを特徴とする（３）に記載の遊技機。
【５６８４】
この構成の遊技機によれば、第２特定状態が規定回数の遊技が行われた場合に終了し得るため、ボーナス状態の終了後の期待感を高めつつ、射幸性を適切に抑制することもできる。
【５６８５】
（５）　前記特定終了条件は、前記第２特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたこ

とに応じて成立し得ることを特徴とする（３）又は（４）に記載の遊技機。

【５６８６】

この構成の遊技機によれば、第２特定状態が規定の移行図柄組合せが表示された場合に終了し得るため、ボーナス状態の終了後の期待感を高めつつ、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５６８７】

（６）　前記規定の移行図柄組合せは、前記当籤役決定手段により特定役（例えば、仕様例３で説明した「停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動しない所定役」）が当籤役として決定された遊技で表示可能に構成され、

前記当籤役決定手段により前記特定役が当籤役として決定された遊技では、遊技者の停止操作態様にかかわらず前記規定の移行図柄組合せが表示されることを特徴とする（５）に記載の遊技機。

【５６８８】

この構成の遊技機によれば、特定役の当籤確率さえ定めれば企図する遊技性を実現することができるため、出玉設計に関する工数や停止制御の煩雑化などによる制御負荷を抑制することができる。

【５６８９】

（７）　前記規定の移行図柄組合せは、前記当籤役決定手段により特定役（例えば、仕様例３で説明した「停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動し得る特定役」）が当籤役として決定された遊技で表示可能に構成され、

前記当籤役決定手段により前記特定役が当籤役として決定された遊技において、所定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させる一方、前記所定態様とは異なる特定態様の停止操作が行われた場合には前記規定の移行図柄組合せを表示させないように構成されることを特徴とする（５）に記載の遊技機。

【５６９０】

この構成の遊技機によれば、戦略性に富んだ遊技性を実現することができるとともに、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することもできる。

【５６９１】

（８）　前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が有利な状態であり、

前記状態制御手段は、前記第１特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたことを条件に前記第２特定状態に制御することが可能であることを特徴とする（１）に記載の遊技機。

【５６９２】

この構成の遊技機によれば、規定の移行図柄組合せが表示された場合にボーナス役の決定態様が有利となる特定状態（第２特定状態）に制御されるため、上述の作用効果をさらに高めることができる。また、これに加え、規定の移行図柄組合せが表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５６９３】

（９）　前記第２特定状態は、前記第１特定状態よりも前記ボーナス役の決定態様が不利な状態であり、

前記状態制御手段は、前記第１特定状態において前記当籤役決定手段により前記ボーナス役が当籤役として決定されていない状態で規定の移行図柄組合せが表示されたことを条件に前記第２特定状態に制御することが可能であることを特徴とする（１）に記載の遊技機。

【５６９４】

この構成の遊技機によれば、規定の移行図柄組合せが表示された場合にボーナス役の決定態様が不利となる特定状態（第２特定状態）に制御されるため、上述の作用効果をさら

に高めることができる。また、これに加え、規定の移行図柄組合せが表示される条件は多様なパターンを選択し得ることから、そのような条件を変更するだけで異なる遊技性を創出し得るため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５６９５】

（１０）　前記複数の状態は、

前記ボーナス状態とは異なる状態であって、前記ボーナス役が持ち越されていないときに前記当籤役決定手段による前記再遊技役の決定態様が前記第１態様及び前記第２態様とは異なる第３態様である第３特定状態（例えば、第１１実施形態における「ＲＴ２状態」など）と、を少なくとも含み、

前記状態制御手段は、前記第１特定状態に制御される条件、及び前記第２特定状態に制御される条件とは異なる条件が成立したことに応じて前記第３特定状態に制御することが可能であることを特徴とする（１）～（９）のいずれか１つに記載の遊技機。

【５６９６】

この構成の遊技機によれば、そのような遊技性をより多様なものとすることができるため、その興趣をさらに向上させることができる。

【５６９７】

（１１）　複数の図柄を複数列で変動表示可能な変動表示手段（例えば、変動表示部）と、

リプレイ役、小役及びボーナス役を含む複数の役の中から当籤役を決定する役決定手段（例えば、内部抽籤処理を行うメインＣＰＵ）と、

前記当籤役決定手段による決定結果と遊技者の停止操作とに応じて図柄の変動表示を停止させる停止制御手段（例えば、リール（回胴）停止制御処理を行うメインＣＰＵ）と、

複数の状態を制御する状態制御手段（例えば、第１１実施形態における各状態を制御するメインＣＰＵ）と、を備えた遊技機（例えば、パチスロ機１）であって、

前記ボーナス役は、所定ボーナス役（例えば、「赤ＢＢ」や「青ＢＢ」）と特定ボーナス役（例えば、「白ＲＢ」）と少なくとも含み、前記当籤役決定手段により当籤役として決定された後、対応する図柄組合せが表示されるまで持ち越し可能に構成されており、

前記複数の状態は、

前記所定ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始され、規定終了条件が成立したことに応じて終了する、遊技価値が増加し得る状態として構成されたボーナス状態（例えば、第１１実施形態における「ＢＩＧ作動中」など）と、

前記所定ボーナス状態であって、特定ボーナス状態（例えば、ボーナス状態の構成例３における「ＲＢ中」）が作動していない第１状態（例えば、ボーナス状態の構成例３における「ＲＢ非内部中」や「ＲＢ内部中」）と、

前記所定ボーナス状態であって、前記特定ボーナス状態が作動している第２状態（例えば、ボーナス状態の構成例３における「ＲＢ中」）と、を少なくとも含み、

前記第２状態は、前記第１状態において前記当籤役決定手段が前記特定ボーナス役を当籤役として決定し、前記特定ボーナス役に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始されるものであって、前記第１状態よりも有利に構成されており、

前記停止制御手段は、前記第１状態において、前記当籤役決定手段が特定小役（例えば、「ベル」）及び前記特定ボーナス役を重複して当籤役として決定した場合、前記特定小役に対応する図柄組合せよりも前記特定ボーナス役に対応する図柄組合せを優先的に停止させる特定制御（例えば、ボーナス優先制御）を行うことが可能であり、

前記特定小役に対応する図柄組合せは、ベット数（例えば、３枚）よりも多い数（例えば、４枚）の遊技価値が付与される図柄組合せであることを特徴とする遊技機。

【５６９８】

この構成の遊技機によれば、少なくともＳＩＭ試験上の遊技価値の増加割合（純増数）を減少させることが可能となる。これにより、型式試験において、ＳＩＭ試験の適合率（合格率）を高めることができるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５６９９】

［ボーナス終了後を有利にする変形例］
本実施形態では、次に図４６０～図４６５を参照して、ボーナス（ボーナス状態）終了後を有利にする変形例を説明する。
【５７００】
上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例では、ボーナス役の決定態様が異なる複数のＲＴ状態（初期状態及びリプレイ変動状態）を設け、例えば、ボーナス終了後はボーナス役の高確率状態となるＲＴ状態に制御されることで、ボーナス終了後を有利とする一例を説明した。もっとも、これとは別の態様によってボーナス終了後を有利とすることも可能である。ここでは、そのような変形例について説明する。
【５７０１】
＜内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）＞
図４６０（上段）を参照し、非ボーナス状態の従来例に係る内部抽籤テーブルを説明する。なお、この内部抽籤テーブルは、後述の非ボーナス状態の構成例３や構成例４との対比のための仕様（後述のボーナス終了後を有利にする従来例で用いられる内部抽籤テーブル）の一例を示すものに過ぎない。したがって、その役種や当籤確率はこれに記載されたものに限定されず、種々の変形や変更を行うことが可能である。この点は、後述の非ボーナス状態の構成例３や構成例４においても同様である。
【５７０２】
なお、内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）では、内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例１）（図４４０参照）に対し、ボーナス役の当籤確率（決定態様）をＲＴ０状態とＲＴ１状態との間で変動させず、また、説明の便宜のために一部の内部当籤役を省略しているが、その他の基本的な構成は非ボーナス状態の構成例１におけるものと同様である。したがって、非ボーナス状態の構成例１と同様の構成についてはその説明を省略している。
【５７０３】
Ｎｏ．０の「不当籤」は、構成例１と同様に「ハズレ」に相当するものである。Ｎｏ．１の「リプレイ」は、構成例１の「通常リプレイ」と同様の構成であってリプレイ役である。Ｎｏ．２の「ベル」は、構成例１の「ベル」と同様の構成であって、対応する図柄組合せが表示された場合には１５枚の遊技価値が付与される小役である。Ｎｏ．３の「チェリー」は、構成例１の「チェリー」と同様の構成であって、対応する図柄組合せが表示された場合には４枚の遊技価値が付与される小役である（なお、取りこぼしが発生する小役として構成することもできるし、発生しない小役として構成することもできる。また、遊技価値非増加役として構成することもできる）。Ｎｏ．４の「スイカ」は、構成例１の「スイカ」と同様の構成であって、対応する図柄組合せが表示された場合には４枚の遊技価値が付与される小役である（なお、取りこぼしが発生する小役として構成することもできるし、発生しない小役として構成することもできる。また、遊技価値非増加役として構成することもできる）。
【５７０４】
ＮＯ．５の「赤ＢＢ」は、構成例１の「赤ＢＢ」と同様の構成であってボーナス役である。Ｎｏ．６の「青ＢＢ」は、構成例１の「青ＢＢ」と同様の構成であってボーナス役である。Ｎｏ．７の「チェリー＋赤ＢＢ」は、構成例１の「チェリー＋赤ＢＢ」と同様の構成であって小役とボーナス役の重複役である。Ｎｏ．８の「チェリー＋青ＢＢ」は、構成例１の「チェリー＋青ＢＢ」と同様の構成であって小役とボーナス役の重複役である。Ｎｏ．９の「スイカ＋赤ＢＢ」は、構成例１の「スイカ＋赤ＢＢ」と同様の構成であって小役とボーナス役の重複役である。Ｎｏ．１０の「スイカ＋青ＢＢ」は、構成例１の「スイカ＋青ＢＢ」と同様の構成であって小役とボーナス役の重複役である。
【５７０５】
この従来例では、３枚ベット（ベット数が３枚）では遊技が行えるが、２枚ベット（ベット数が２枚）では遊技が行えないように設定されている。すなわち、遊技可能枚数は３枚のみである。

【５７０６】
　ＲＴ０状態では、例えば、「リプレイ」の当籤確率は「１／７．３」（抽籤値が「８９７８」）であり、「ベル」の当籤確率は「１／６．６」（抽籤値が「９９２９」）であり、「チェリー」の当籤確率は「１／７０」（単独当籤するＮｏ．３、並びにボーナス役と重複当籤するＮｏ．７及びＮｏ．８のものを合算すると、抽籤値が「９３６」）であり、「スイカ」の当籤確率は「１／７０」（単独当籤するＮｏ．４、並びにボーナス役と重複当籤するＮｏ．９及びＮｏ．１０のものを合算すると、抽籤値が「９３６」）であり、「赤ＢＢ」の当籤確率は「１／３００」（単独当籤するＮｏ．５、並びに小役と重複当籤するＮｏ．７及びＮｏ．９のものを合算すると、抽籤値が「２１８」）であり、「青ＢＢ」の当籤確率は「１／３００」（単独当籤するＮｏ．６、並びに小役と重複当籤するＮｏ．８及びＮｏ．１０のものを合算すると、抽籤値が「２１８」）である。ボーナス役の合算当籤確率は「１／１５０」（抽籤値が「４３６」）である。いずれにも当籤しなかった場合には「不当籤」となる。
【５７０７】
　これに対し、ＲＴ１状態では、例えば、「リプレイ」の当籤確率が「１／１．４」（抽籤値が「４６８１１」）に上昇し、その分だけ「不当籤」となる確率が減少している。すなわち、この従来例では、ＲＴ０状態がリプレイ役の低確率状態（低ＲＴ状態）であり、ＲＴ１状態がリプレイ役の高確率状態（高ＲＴ状態）となっている。なお、ボーナス終了後を有利にする従来例の遊技の流れについては、図４６１を参照しながら後で説明する。
【５７０８】
＜内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例３）＞
　図４６０（中段）を参照し、非ボーナス状態の構成例３に係る内部抽籤テーブルを説明する。この内部抽籤テーブルは、後述のボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２で用いられるものの一例である。
【５７０９】
　なお、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）では、非ボーナス状態において３枚ベット（ベット数が３枚）では遊技が行えるが、２枚ベット（ベット数が２枚）では遊技が行えないように設定されていた（すなわち、遊技可能枚数を３枚のみとしていた）が、この内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例３）では、非ボーナス状態において３枚ベット（ベット数が３枚）でも遊技が行えるし、２枚ベット（ベット数が２枚）でも遊技が行えるように設定されている（すなわち、遊技可能枚数を２枚及び３枚としている）。
【５７１０】
　もっとも、後述のボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２では、３枚ベットでのみ遊技が行える状態（３枚ベット固定状態）である状態と、２枚ベットでのみ遊技が行える状態（２枚ベット固定状態）である状態（特別状態）とが設けられているため、非ボーナス状態においては常に３枚ベットでも２枚ベットでの遊技が行えるわけではない。ボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２の遊技の流れについては、図４６２及び図４６３を参照しながら後で説明する。
【５７１１】
　また、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）では、非ボーナス状態において複数のＲＴ状態（ＲＴ０状態及びＲＴ１状態）が設けられていたが、この内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例３）では、非ボーナス状態において複数のＲＴ状態は設けられていない。
【５７１２】
　ベット数が３枚である３枚ベット状態では、例えば、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）のＲＴ０状態と同様に各内部当籤役が決定される。これに対し、ベット数が２枚である２枚ベット状態では、「ベル」の当籤確率が「１／５」（抽籤値が「１３１０７」）に上昇し、その分だけ「不当籤」となる確率が減少している。
【５７１３】

すなわち、この構成例３では、３枚ベット状態が（小役の）当籤確率が相対的に低いという意味で小役の低確率状態（低小役状態）であり、２枚ベット状態が（小役の）当籤確率が相対的に高いという意味で小役の高確率状態（高小役状態）となっている。

【５７１４】

ここで、構成例３では、２枚ベット状態において「ベル」の当籤確率のみを上昇させることで高小役状態を創出しているが、高小役状態とする態様はこれに限られない。例えば、他の小役（例えば「チェリー」や「スイカ」）の当籤確率も上昇させるようにしてもよい。あるいは、２枚ベット状態でのみ抽籤される特殊小役（例えば「特殊ベル」とし、「特殊ベル」に対応する図柄組合せが表示されると８枚の遊技価値が付与されるようにするなど）を設けるようにし、これが２枚ベット状態では所定確率（例えば「１／２０」程度）で当籤するようにしてもよい。また、例えば、相対的に遊技価値の付与数が少ない小役（例えば「チェリー」や「スイカ」）の当籤確率は下降させるが、相対的に遊技価値の付与数が多い小役（例えば「ベル」）の当籤確率はその分だけ上昇させるようにして、同程度の小役の合算当籤確率であっても、遊技価値の付与期待値が増加するようにしてもよい。

【５７１５】

＜内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例４）＞

図４６０（下段）を参照し、非ボーナス状態の構成例４に係る内部抽籤テーブルを説明する。この内部抽籤テーブルは、後述のボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２で用いられるものの一例である。

【５７１６】

この内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例４）においても、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例３）と同様、非ボーナス状態において３枚ベット（ベット数が３枚）でも遊技が行えるし、２枚ベット（ベット数が２枚）でも遊技が行えるように設定されている（すなわち、遊技可能枚数を２枚及び３枚としている）。むろん、上述の如くボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２では、３枚ベット固定状態である通常状態と、２枚ベット固定状態である特別状態とが設けられているため、非ボーナス状態においては常に３枚ベットでも２枚ベットでの遊技が行えるわけではない。また、この内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例４）においても、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の構成例３）と同様、非ボーナス状態において複数のＲＴ状態は設けられていない。

【５７１７】

ベット数が３枚である３枚ベット状態、及びベット数が２枚である２枚ベット状態のいずれの状態においても、例えば、上述の内部抽籤テーブル（非ボーナス状態の従来例）のＲＴ０状態と同様に各内部当籤役が決定される。ただし、３枚ベット状態では、「ベル」は８枚の配当（遊技価値の付与数）、「チェリー」及び「スイカ」は４枚の配当であるのに対し、２枚ベット状態では、「ベル」の配当が１０枚に上昇し、「チェリー」及び「スイカ」の配当も６枚に上昇している。

【５７１８】

すなわち、この構成例４では、３枚ベット状態が遊技価値の付与数が相対的に低いという意味で小役の低確率状態（低小役状態）であり、２枚ベット状態が遊技価値の付与数が相対的に高いという意味で小役の高確率状態（高小役状態）となっている。

【５７１９】

ここで、構成例４では、２枚ベット状態において全ての小役の遊技価値の付与数を上昇させることで高小役状態を創出しているが、高小役状態とする態様はこれに限られない。例えば、相対的に遊技価値の付与数が多い小役（例えば「ベル」）のみ配当を上昇させるようにしてもよい。あるいは、相対的に遊技価値の付与数が多い小役（例えば「ベル」）の配当は上昇させないが、相対的に遊技価値の付与数が少ない小役（例えば「チェリー」や「スイカ」）の配当は上昇させるようにしてもよい。

【５７２０】

＜ボーナス終了後を有利にする従来例＞
図４６１を参照し、ボーナス終了後を有利にする従来例の遊技の流れについて説明する。なお、この従来例では、後述の変形例１や変形例２と対比させるため、ボーナス終了後のＲＴ１状態（高ＲＴ状態）を「特別状態」としている。
【５７２１】
また、非ボーナス状態における「特別状態」以外の状態としては、非ボーナス状態においてボーナス役が当籤していない（持ち越されていない）状態であるＲＴ０状態（通常（ＲＴ０））と、非ボーナス状態において「赤ＢＢ」が持ち越されている状態である赤ＢＢ内部中と、非ボーナス状態において「青ＢＢ」が持ち越されている状態である青ＢＢ内部中がある。
【５７２２】
また、ボーナス状態は、上述の如く、「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される赤ＢＩＧ作動中と、「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される青ＢＩＧ作動中がある。なお、ここでは（後述の変形例１や変形例２も同様）、赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中のいずれにおいても、２枚ベット（ベット数が２枚）でのみ遊技が行えるものとする。すなわち、ここでのボーナス状態は２枚ベット固定状態として構成されているものとする。この場合、例えば、上述の内部抽籤テーブル（ボーナス状態の構成例１）を採用し、ＲＢ中の遊技可能枚数を２枚のみとすればよい。
【５７２３】
そして、この従来例では、例えば、上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例１の如く、赤ＢＩＧ終了を移行契機としてＲＴ１状態に移行させ、そのＲＴ１状態を少なくとも次回のボーナス役の当籤まで継続させる仕様としている。なお、青ＢＩＧ終了の場合にはＲＴ１状態に移行させず、ＲＴ０状態に移行させる。すなわち、特定のボーナス状態（赤ＢＩＧ）の終了後は高ＲＴ状態（特別状態）に移行させるが、特定のボーナス状態以外のボーナス状態の終了後は特別状態に移行させないといった仕様例となっている。
【５７２４】
図４６１では、例えば、ＲＴ０状態において「赤ＢＢ」に当籤し、赤ＢＩＧを経由してＲＴ１状態に移行し、ＲＴ１状態において「青ＢＢ」に当籤し、青ＢＩＧを経由してＲＴ０状態に戻るといった遊技の流れの一例を説明している。
【５７２５】
一回目のＲＴ０状態では、「赤ＢＢ」に当籤するまで各ボーナス役が「１／３００」の確率で抽籤されており（ボーナス役合算の当籤確率は「１／１５０」であり）、「赤ＢＢ」に当籤したことで（ここでは当籤したゲームで「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されず、持ち越されたものとしている）、赤ＢＢ内部中に移行している。赤ＢＢ内部中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、一回目のＲＴ０状態と赤ＢＢ内部中は、規定数（ベットが許容される遊技価値数。遊技可能枚数などと同義。以下同じ）が３枚のみの３枚ベット固定状態となっている。
【５７２６】
赤ＢＢ内部中において「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されると、赤ＢＩＧ作動中に移行する。赤ＢＩＧ作動中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、赤ＢＩＧ作動中は、上述の如く規定数が２枚のみの２枚ベット固定状態となっている。赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立すると赤ＢＩＧが終了し、ここでＲＴ１状態の移行条件が成立するので、ＲＴ１状態に移行している。この従来例では、高ＲＴ状態であるＲＴ１状態が特別状態を構成する。
【５７２７】
ＲＴ１状態（特別状態）では、各ボーナス役の当籤確率はＲＴ０状態と同様に「１／３００」（ボーナス役合算の当籤確率は「１／１５０」）であるが、リプレイ役の当籤確率がＲＴ０状態よりも高くなっているため、ＲＴ０状態と比べると遊技価値が減少しにくい状態でボーナス役の当籤を待つことができるようになっている。

【５７２８】
この従来例では、ＲＴ１状態で「青ＢＢ」に当籤したことで（ここでは当籤したゲームで「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されず、持ち越されたものとしている）、青ＢＢ内部中に移行している。青ＢＢ内部中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、ＲＴ１状態と青ＢＢ内部中は、規定数が３枚のみの３枚ベット固定状態となっている。
【５７２９】
青ＢＢ内部中において「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されると、青ＢＩＧ作動中に移行する。青ＢＩＧ作動中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、青ＢＩＧ作動中は、上述の如く規定数が２枚のみの２枚ベット固定状態となっている。青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立すると青ＢＩＧが終了し、ここではＲＴ１状態の移行条件が成立しないので、二回目のＲＴ０状態に移行している。二回目のＲＴ０状態では、一回目のＲＴ０状態と同様、３枚ベット固定状態において各ボーナス役が「１／３００」（合算では「１／１５０」）の確率で抽籤される。
【５７３０】
＜ボーナス終了後を有利にする変形例１＞
図４６２を参照し、ボーナス終了後を有利にする変形例１の遊技の流れについて説明する。なお、この変形例１では、ボーナス終了後の高小役状態（非ボーナス状態の構成例３及び構成例４参照）を「特別状態」としている。
【５７３１】
また、非ボーナス状態における「特別状態」以外の状態としては、非ボーナス状態においてボーナス役が当籤していない（持ち越されていない）状態である通常状態（通常）と、非ボーナス状態において「赤ＢＢ」が持ち越されている状態である赤ＢＢ内部中と、非ボーナス状態において「青ＢＢ」が持ち越されている状態である青ＢＢ内部中がある。
【５７３２】
また、ボーナス状態は、上述の如く、「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される赤ＢＩＧ作動中と、「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されたことに応じて開始される赤ＢＩＧ作動中がある。
【５７３３】
そして、この変形例１では、例えば、上述の従来例の如く、赤ＢＩＧ終了を移行契機として特別状態に移行させ、その特別状態を少なくとも次回のボーナス役の当籤まで継続させる仕様としている。なお、青ＢＩＧ終了の場合には特別状態に移行させず、通常状態に移行させる。すなわち、特定のボーナス状態（赤ＢＩＧ）の終了後は高小役状態（特別状態）に移行させるが、特定のボーナス状態以外のボーナス状態の終了後は特別状態に移行させないといった仕様例となっている。もっとも、これは上述の従来例と対比しやすくするためであり、この変形例１（後述の変形例２も同様）の仕様はこれに限られない。
【５７３４】
例えば上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の各仕様例の如く、特別状態は、規定回数の消化や移行図柄の表示によって終了するように構成することもできるし、いずれのボーナス状態（ここでは例えば、赤ＢＩＧ作動中及び青ＢＩＧ作動中）の終了後も特別状態に移行するように構成することもできる。すなわち、特別状態（高小役状態）を開始させる条件や終了させる条件は種々の変形が可能である。なお、これについては後で説明するため、ここでの説明は省略する。
【５７３５】
図４６２では、例えば図４６１と同様に、通常状態において「赤ＢＢ」に当籤し、赤ＢＩＧを経由して特別状態に移行し、特別状態において「青ＢＢ」に当籤し、青ＢＩＧを経由して通常状態に戻るといった遊技の流れの一例を説明している。
【５７３６】
一回目の通常状態では、「赤ＢＢ」に当籤するまで各ボーナス役が「１／３００」の確

率で抽籤されており（ボーナス役合算の当籤確率は「１／１５０」であり）、「赤ＢＢ」に当籤したことで（ここでは当籤したゲームで「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されず、持ち越されたものとしている）、赤ＢＢ内部中に移行している。赤ＢＢ内部中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、一回目の通常状態と赤ＢＢ内部中は、規定数が３枚のみの３枚ベット固定状態となっている。

【５７３７】

赤ＢＢ内部中において「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されると、赤ＢＩＧ作動中に移行する。赤ＢＩＧ作動中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、赤ＢＩＧ作動中は、上述の如く規定数が２枚のみの２枚ベット固定状態となっている。赤ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立すると赤ＢＩＧが終了し、ここで特別状態の移行条件が成立するので、特別状態に移行している。この変形例１では、特別状態が高小役状態として構成される。

【５７３８】

特別状態では、各ボーナス役の当籤確率は通常状態と同様に「１／３００」（ボーナス役合算の当籤確率は「１／１５０」）であり、また、リプレイ役の当籤確率も通常状態と同様に「１／７．３」であるが、そもそも２枚ベット固定状態であるので、３枚ベット固定状態である通常状態と比べると（遊技ごとに必要な遊技価値数が１枚少なくなるため）遊技価値が減少しにくい状態でボーナス役の当籤を待つことができるようになっている。また、これに加え、小役の当籤確率（非ボーナス状態の構成例３参照）又は小役入賞時の遊技価値の付与数（非ボーナス状態の構成例４参照）が通常状態と比べて上昇しているため、さらに遊技価値が減少しにくい状態でボーナス役の当籤を待つことができるようになっている。

【５７３９】

この変形例１では、特別状態で「青ＢＢ」に当籤したことで（ここでは当籤したゲームで「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されず、持ち越されたものとしている）、青ＢＢ内部中に移行している。青ＢＢ内部中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、この変形例１では、特別状態から移行した青ＢＢ内部中は、規定数が２枚のみの２枚ベット固定状態となっている。すなわち、特別状態の２枚ベット固定状態がその後の青ＢＢ内部中にも引き継がれる構成となっている。なお、これは、特別状態で「赤ＢＢ」に当籤したことで赤ＢＢ内部中に移行した場合も同様とすることができる。すなわち、２枚ベット固定状態である特別状態でボーナス役に当籤した場合、その後の当該ボーナス役の内部中を２枚ベット固定状態とすることができる。これにより、３枚ベット固定状態である通常状態よりも遊技価値が減少しにくい状態でボーナス状態の開始（作動）を待つことができるようになっている。

【５７４０】

もっとも、ここでの青ＢＢ内部中は、２枚ベット固定状態であることから高小役状態であり、仮に出玉率が「１」（１００％）を超えるものとすれば、あえて（「青ＢＢ」に係る図柄組合せが表示されることを回避する停止操作行って）青ＢＩＧを開始させず、青ＢＢ内部中を継続させればさせるほど遊技価値が増加するといった攻略ができてしまうおそれがある。したがって、非ボーナス状態における２枚ベット固定状態を高小役状態とする場合であっても、その出玉率は「１」（１００％）以下（あるいは未満）とする（すなわち、２枚ベット固定状態の非ボーナス状態でずっと遊技を行っていても、出玉計算上は遊技価値が増加しない仕様とする）ことが望ましい。

【５７４１】

なお、そのような観点でいえば、特別状態においてボーナス役に当籤するまでは２枚ベット固定状態とするが、ボーナス役に当籤して当該ボーナス役の内部中に移行した後は２枚ベット固定状態を終了させて３枚ベット固定状態に移行させる（すなわち、ここでは青ＢＢ内部中を３枚ベット固定状態とする）ようにしてもよい。また、そのように構成する場合、２枚ベット固定状態である特別状態を、出玉率が「１」（１００％）を超えるよう

な仕様としてもよい。

【５７４２】

青ＢＢ内部中において「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されると、青ＢＩＧ作動中に移行する。青ＢＩＧ作動中は新たにボーナス役に当籤することがないため、各ボーナス役の当籤確率は「０」となる。なお、青ＢＩＧ作動中は、上述の如く規定数が２枚のみの２枚ベット固定状態となっている。青ＢＩＧ作動中においてその規定終了条件が成立すると青ＢＩＧが終了し、ここでは特別状態の移行条件が成立しないので、二回目の通常状態に移行している。二回目の通常状態では、一回目の通常状態と同様、３枚ベット固定状態において各ボーナス役が「１／３００」（合算では「１／１５０」）の確率で抽籤される。

【５７４３】

＜ボーナス終了後を有利にする変形例２＞

図４６３を参照し、ボーナス終了後を有利にする変形例２の遊技の流れについて説明する。なお、この変形例２では、ボーナス終了後の高小役状態（非ボーナス状態の構成例３及び構成例４参照）を「特別状態」としている。

【５７４４】

また、この変形例２は、以下の点を変形例１から変形したものであり、その他の点は基本的に変形例１と同様であることから、変形例１と同様の構成についてはその説明を省略している。

【５７４５】

この変形例２では、３枚ベット固定状態である通常状態で当籤したボーナス役（図４６４に示す一例では「赤ＢＢ」であるが、「青ＢＢ」についても同様）に対応する図柄組合せ（図４６４に示す一例では「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せであるが、「青ＢＢ」に対応する図柄組合せについても同様）が表示された場合には、それに基づいて移行したボーナス状態（図４６４に示す一例では赤ＢＩＧ作動中であるが、青ＢＩＧ作動中についても同様）を３枚ベット固定状態とするが、２枚ベット固定状態である特別状態で当籤したボーナス役（図４６４に示す一例では「青ＢＢ」であるが、「赤ＢＢ」についても同様）に対応する図柄組合せ（図４６４に示す一例では「青ＢＢ」に対応する図柄組合せであるが、「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せについても同様）が表示された場合には、それに基づいて移行したボーナス状態（図４６４に示す一例では青ＢＩＧ作動中であるが、赤ＢＩＧ作動中についても同様）を２枚ベット固定状態とする点で変形例１と相違する構成である。

【５７４６】

ここで、例えば、ボーナス状態の構成例１（図４４１参照）において、２枚ベット固定状態であれば「ベル」の入賞で１５枚の遊技価値が付与されるが、３枚ベット固定状態であれば「ベル」の入賞で８枚の遊技価値が付与されるといったように構成することができる。すなわち、ボーナス状態が３枚ベット固定状態であるよりも、ボーナス状態が２枚ベット固定状態であるほうが遊技者にとって有利となるように構成することができる。なお、ボーナス状態が３枚ベット固定状態であるよりも、ボーナス状態が２枚ベット固定状態であるほうを遊技者にとって有利とする態様はこれに限られない。例えば、ボーナス状態が２枚ベット固定状態である場合のほうが、より遊技価値の付与数が多い役の当籤確率が高まるようにしてもよい。

【５７４７】

あるいは、ボーナス状態が２枚ベット状態であるときと、ボーナス状態が３枚ベット状態であるときとで、異なるＲＢ中に移行し得るように構成し、ボーナス状態が２枚ベット状態であるときに移行するＲＢ中のほうが、ボーナス状態が３枚ベット状態であるときに移行するＲＢ中よりも有利となるように構成してもよい。すなわち、ボーナス状態の移行前の非ボーナス状態が３枚ベット固定状態であるときには移行したボーナス状態も３枚ベット固定状態とし、ボーナス状態の移行前の非ボーナス状態が２枚ベット固定状態であるときには移行したボーナス状態も２枚ベット固定状態とし、ボーナス状態において、２枚

ベット固定状態である場合のほうが３枚ベット固定状態である場合よりも有利となる態様であれば、いずれの態様を採用することもできる。むろん、そもそも２枚ベット固定状態は、３枚ベット固定状態よりも遊技ごとに必要な遊技価値数が１枚少なくなることから、これをもって２枚ベット固定状態を有利とするようにし、内部抽籤テーブル自体は（配当も含めて）同じものを用いるようにしてもよい。

【５７４８】

この変形例２は、変形例１に対し、特別状態を２枚ベット固定状態として構成するに際して、さらにボーナス状態にもそれが影響する（すなわち、３枚ベット固定状態で当籤したボーナス役と、２枚ベット固定状態で当籤したボーナス役では、同じボーナス役であってもその有利度合いを異ならせ得る）ようにしたものである。これにより、特別状態の遊技性や興趣をさらに高めることが可能となる。

【５７４９】

なお、変形例２では、例えば、通常状態において「青ＢＢ」に当籤した場合には、青ＢＩＧ作動中を３枚ベット固定状態とするが、通常状態において「赤ＢＢ」に当籤した場合には、赤ＢＩＧ作動中を２枚ベット固定状態とする、あるいは、特別状態において「青ＢＢ」に当籤した場合には、青ＢＩＧ作動中を３枚ベット固定状態とするが、特別状態において「赤ＢＢ」に当籤した場合には、赤ＢＩＧ作動中を２枚ベット固定状態とするといったように、さらに当籤したボーナス役の種類に応じてそのボーナス状態を２枚ベット固定状態とするか、３枚ベット固定状態とするかが決定されるようにしてもよい。

【５７５０】

＜ボーナス終了後を有利にする従来例と変形例１との比較＞

図４６４を参照し、ボーナス終了後を有利にする従来例（図４６１参照）とボーナス終了後を有利にする変形例（ここでは変形例１を用いる。図４６２参照）との比較を説明する。なお、ここでは、特別状態（従来例にあっては高ＲＴ状態であるＲＴ１状態、変形例１にあっては高小役状態である特別状態）が１００ゲームの間継続した場合を例に挙げて説明している。

【５７５１】

（仕様概要の比較）

従来例において、通常時（ＲＴ０状態）は、３枚ベット固定状態（すなわち、規定数が「３」のみ）であり、５０枚あたりのベース値が４０ゲームに（出玉設計上、５０枚の遊技価値で平均４０ゲームの遊技が行えるように）設定されている。なお、ここでは、説明の便宜のためにそのようなベース値であると説明しているが、ベース値はこれより高くともよい（平均ゲーム数を多くしてもよい）し、低くともよい（平均ゲーム数を少なくしてもよい）。また、変形例１における通常時（通常状態）も同様の構成である。

【５７５２】

また、従来例において、通常時（ＲＴ０状態）は、ボーナス役の合算当籤確率（ＢＢ確率（合算））が「１／１５０」に設定され、リプレイ役の当籤確率が「１／７．３」に設定されている。また、上述の如く変形例１における通常時（通常状態）も同様の構成である。

【５７５３】

また、従来例において、特別状態（高ＲＴ状態であるＲＴ１状態）は、３枚ベット固定状態（すなわち、規定数が「３」のみ）であり、５０枚あたりのベース値が「ほぼ現状維持」に設定されている。ここで、「ほぼ現状維持」とは、特別状態中の出玉率が約１００％であることを意味する。すなわち、従来例の特別状態（ＲＴ１状態）では、通常時（ＲＴ０状態）よりもリプレイ役の当籤確率が高くなることで「ハズレ」となる確率が減少するので、その分だけ必要なベット数（投入枚数）が減らすことができる。また、小役については通常時と同様にこれを入賞させて遊技価値を獲得することができる。これにより遊技価値が減少しない状態を創出している。

【５７５４】

一方、変形例１において、特別状態（高小役状態）は、２枚ベット固定状態（すなわち

、規定数が「２」のみ）であり、５０枚あたりのベース値が「ほぼ現状維持」に設定されている。ここで、「ほぼ現状維持」とは、上記で説明したものと同様である。変形例１の特別状態では、通常時（通常状態）よりも必要なベット数（投入枚数）を少なくとも１ゲームにつき１枚減らすことができる。また、小役については通常時よりも有利な態様（当籤確率、あるいは配当の上昇など）でこれを入賞させて遊技価値を獲得することができる。これにより遊技価値が減少しない状態を創出している。

【５７５５】

なお、「ほぼ現状維持」と記載していることからもわかるとおり、その出玉率は必ずしも１００％に限られない。例えば、通常時よりは遊技価値が減少しにくいが、遊技価値は基本的に増加しない出玉率（例えば８０～９９％など）が設定されていてもよいし、通常時よりも遊技価値が減少しにくく、遊技価値が増加し得る出玉率（例えば１０１～１２０％など）が設定されていてもよい。

【５７５６】

すなわち、従来例の特別状態（ＲＴ１状態）の出玉率（ベース値）や、変形例１（変形例２も同様）の特別状態の出玉率（ベース値）は、ここでの説明や、図４６０の内部抽籤テーブルで示したものに限定されない。もっとも、変形例１では、上述の如く非ボーナス状態における２枚ベット固定状態の出玉率を１００％以下としたほうが望ましく、また、従来例と変形例１との対比をよりわかりやすくするため、後述の説明（出玉率計算）ではそれぞれの出玉率を１００％と仮定して説明している。

【５７５７】

（特別状態１００ゲーム＋ボーナス状態における出玉率計算の比較）

従来例において、非ボーナス状態の特別状態（ＲＴ１状態）で１００ゲームの遊技を行った場合、リプレイ役の当籤確率は「１／１．４」であることから、この１００ゲーム間の計算上の（ａ）再遊技回数は「７１．４３（小数第三位を四捨五入）」回となる。また、１００ゲームから（ａ）再遊技回数を減じると、この１００ゲーム間の計算上の（ｂ）再遊技以外の回数は「２８．５７」回となる。また、（ｂ）再遊技以外の回数にベット数３枚を乗じると、この１００ゲーム間の計算上の（ｃ）投入枚数（ベット数）は「８５．７１」枚となる。また、特別状態中の出玉率（還元率）を１００％と仮定すると、この１００ゲーム間の計算上の（ｄ）払出枚数（遊技価値の付与数）は「８５．７１」枚となる。

【５７５８】

また、従来例において、ボーナス状態ではリプレイ役が抽籤されず（「ハズレ」も決定されず）、２枚ベット固定状態で遊技ごとに（例えば「ベル」入賞が発生して）１５枚が払い出されるものとし、また、１５枚の払出が１０回発生すると規定終了条件が成立して当該ボーナス状態が終了する仕様（純増１３０枚）とした場合、ボーナス状態における計算上の（ｅ）投入枚数は「２０枚」となり、ボーナス状態における計算上の（ｆ）払出枚数は「１５０枚」となる。なお、これは変形例１のボーナス状態においても同様の構成であるため、以下では変形例１のボーナス状態における説明を省略している。

【５７５９】

一方、変形例１において、非ボーナス状態の特別状態で１００ゲームの遊技を行った場合、リプレイ役の当籤確率は「１／７．３」であることから、この１００ゲーム間の計算上の（ａ）再遊技回数は「１３．７０（小数第三位を四捨五入）」回となる。また、１００ゲームから（ａ）再遊技回数を減じると、この１００ゲーム間の計算上の（ｂ）再遊技以外の回数は「８６．３０」回となる。また、（ｂ）再遊技以外の回数にベット数２枚を乗じると、この１００ゲーム間の計算上の（ｃ）投入枚数（ベット数）は「１７２．６０」枚となる。また、特別状態中の出玉率（還元率）を１００％と仮定すると、この１００ゲーム間の計算上の（ｄ）払出枚数（遊技価値の付与数）は「１７２．６０」枚となる。

【５７６０】

ここで、例えば、型式試験におけるＳＩＭ試験では、再遊技が作動した遊技は投入枚数が０枚、払出枚数も０枚（すなわち、ＩＮ／ＯＵＴ枚数がカウントされない）ものとして

取り扱われるため、それを考慮した（換言すれば、再遊技を考慮しない）出玉率の比較を以下に示す。

【５７６１】

（特別状態１００ゲーム＋ボーナス状態における再遊技を考慮しない（リプ抜き）出玉率の比較）

ここでは、特別状態が１００ゲーム行われ、（その前後のいずれかにおいて）ボーナス状態が１回行われたものとし、その特別状態１００ゲーム及びボーナス状態１回で構成される一連の遊技区間の出玉率（リプ抜き）を比較している。

【５７６２】

従来例では、特別状態（ＲＴ１状態）１００ゲーム間の（ｃ）投入枚数と、ボーナス状態の（ｅ）投入枚数とを足すと、その遊技区間における投入枚数の合計は「１０５．７１」枚となる。また、特別状態（ＲＴ１状態）１００ゲーム間の（ｄ）払出枚数と、ボーナス状態の（ｆ）払出枚数とを足すと、その遊技区間における払出枚数の合計は「２３５．７１」枚となる。そして、これらより導かれる（払出枚数合計÷投入枚数合計）出玉率（リプ抜き）は「２２２．９７（小数第三位を切り捨て）」％である。

【５７６３】

一方、変形例１では、特別状態１００ゲーム間の（ｃ）投入枚数と、ボーナス状態の（ｅ）投入枚数とを足すと、その遊技区間における投入枚数の合計は「１９２．６０」枚となる。また、特別状態（ＲＴ１状態）１００ゲーム間の（ｄ）払出枚数と、ボーナス状態の（ｆ）払出枚数とを足すと、その遊技区間における払出枚数の合計は「３２２．６０」枚となる。そして、これらより導かれる（払出枚数合計÷投入枚数合計）出玉率（リプ抜き）は「１６７．４９（小数第三位を切り捨て）」％である。

【５７６４】

すなわち、従来例及び変形例１はいずれも、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）の終了後の一定期間（例えば１００ゲーム）を特定の出玉率（例えば１００％）とし、かつ、所定確率（例えば１／１５０）でボーナス役の当籤を期待することができる点では共通する（すなわち、遊技者の利益は異ならない）ものの、ＳＩＭ試験上は、従来例のほうがその計算上の出玉率が高くなってしまう（換言すれば、変形例１のほうがその計算上の出玉率を低く抑えることが可能となる）。

【５７６５】

したがって、この変形例１の構成（変形例２も同様である）によれば、少なくともＳＩＭ試験上の遊技価値の増加割合（純増数）を減少させることが可能となることから、型式試験において、ＳＩＭ試験の適合率（合格率）を高めることができるようになるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制することができる。

【５７６６】

＜ボーナス終了後を有利にする変形例の拡張例＞

ここまで説明したボーナス終了後を有利にする変形例（変形例１及び変形例２）では、特定のボーナス役（例えば「赤ＢＢ」）の当籤に基づいて移行した特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）が終了したことに応じて特別状態に移行させ、これを、少なくとも次のボーナス役の当籤まで（あるいは、所定のボーナス役（例えば「青ＢＢ」）の当籤ないし所定のボーナス状態（例えば青ＢＩＧ作動中）が開始されるまで）継続させ得る（換言すれば、その条件で終了され得る）ものとしていたが、特別状態の開始や終了に関する仕様はこれに限られない。

【５７６７】

例えば、上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の各仕様例の如く、特別状態においてボーナス役に当籤することなく規定回数の遊技（例えば１００ゲーム）が行われた場合には、それを条件として特別状態を終了させ、通常状態に移行させるものとしてもよい。あるいは、通常状態においてボーナス役に当籤することなく規定回数の遊技（例えば５００ゲーム）が行われた場合には、それを条件として特別状態を開始させるものとしてもよい。

【５７６８】

また、上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の各仕様例の如く、特別状態においてボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示された場合には、それを条件として特別状態を終了させ、通常状態に移行させるものとしてもよい。あるいは、通常状態においてボーナス役に当籤していない状態で移行図柄が表示された場合には、それを条件として特別状態を開始させるものとしてもよい。

【５７６９】

また、上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の各仕様例の如く、規定初期化条件が成立した場合に特別状態を開始させるものとしてもよい。なお、特別状態において設定変更が行われた場合、設定変更後は通常状態に移行させる（設定変更で特別状態がクリアされる）ようにすることもできるし、設定変更後も特別状態が維持される（設定変更で特別状態はクリアされない）ようにすることもできる。

【５７７０】

また、上述の如く、ボーナス役の種類を問わず、全てのボーナス状態の終了後は特別状態に移行するものとしてもよいし、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）の終了後は５０ゲームの特別状態に移行するが、所定のボーナス状態（例えば青ＢＩＧ作動中）の終了後は２０ゲームの特別状態に移行するなど、その種類によって特別状態の有利度合いが異なるようにしてもよい。

【５７７１】

あるいは、ボーナス役に当籤したとき、ボーナス状態が開始するとき、ボーナス状態中、若しくはボーナス状態が終了するときに特別状態移行抽籤（例えば、１／２の確率で特別状態移行が決定され、１／２の確率で特別状態非移行が決定されるなど）が行われるようにし、当該抽籤に当籤したことを条件に、ボーナス状態の終了後が特別状態となるようにしてもよい。

【５７７２】

また、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）の終了後は、所定回数（例えば２回）のボーナス役の当籤まで特別状態の継続を保障するものとしてもよい。例えば、上述の遊技の流れ（図４６２等参照）の如く、一回目の通常状態で「赤ＢＢ」に当籤し、赤ＢＩＧ作動中の終了後が一回目の特別状態になったとする。一回目の特別状態で「青ＢＢ」に当籤し、青ＢＩＧ作動中が終了したとする。このときには未だ保障期間であることから、その終了後を二回目の特別状態とする。二回目の特別状態で「青ＢＢ」に当籤し、青ＢＩＧ作動中が終了したとする。このときにはもはや保障期間でないことから、その終了後を二回目の通常状態とする。一方、二回目の特別状態で「赤ＢＢ」に当籤し、赤ＢＩＧ作動中が終了したとする。このときには再度保障期間が２回となり、当該保障期間に基づく一回目の特別状態が開始されるものとすればよい。

【５７７３】

また、上述のボーナス終了後を有利にする変形例では基本的に複数のＲＴ状態を設けないようにしていたが、複数のＲＴ状態を設け、これと特別状態と組み合わせてさらに遊技性を多様なものとしてもよい。例えば、従来例の如く、リプレイ役の低確率状態であるＲＴ０状態と、リプレイ役の高確率状態であるＲＴ１状態を設け、特別状態の開始・終了の条件とは異なる条件（あるいは、その一部が異なる条件）でＲＴ状態が変動し得る構成とする。

【５７７４】

このとき、例えば、移行図柄の表示によってＲＴ０状態からＲＴ１状態に移行するものとする。このＲＴ１状態は、ボーナス役の当籤によって終了するものであってもよいし、規定回数の消化によって終了するものであってもよい。特別状態は基本的にＲＴ０状態であり、特定のボーナス状態の終了後はＲＴ０状態である特別状態（ＲＴ０）で特別状態が開始されるが、その特別状態（ＲＴ０）中に移行図柄が表示された場合には、その特別状態がＲＴ１状態である特別状態（ＲＴ１）となる。すなわち、特別状態（ＲＴ１）となると、高小役状態かつ高ＲＴ状態になるため、遊技者がさらに有利となる。このようにして、特別状態の有利度合いを変動させるようにしてもよい。

【５７７５】
一方、例えば、移行図柄の表示によってＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（ＲＴ１状態が終了する）ものとする。あるいは、規定回数の消化によってＲＴ１状態からＲＴ０状態に移行する（ＲＴ１状態が終了する）ものとする。また、ＲＴ１状態は特定のボーナス状態の終了を契機として開始されるものとする。この場合、特定のボーナス状態の終了後はＲＴ１状態である特別状態（ＲＴ１）で特別状態が開始される。その特別状態（ＲＴ１）中に移行図柄が表示された場合（あるいは、規定回数の遊技が消化された場合）には、その特別状態がＲＴ０状態である特別状態（ＲＴ０）となる。すなわち、特別状態が開始されるときは高小役状態かつ高ＲＴ状態であるが、そのような移行条件が成立した場合には高小役状態ではあるが低ＲＴ状態である状態に遷移する。このようにして、特別状態の有利度合いを変動させるようにしてもよい。

【５７７６】
なお、特別状態とＲＴ状態とを組み合わせた上記の遊技性はあくまで一例である。ここで組み合わせていないものであっても、すでに説明した他の特別状態の変動契機と、すでに説明した他のＲＴ状態の変動契機とを組み合わせて、別の遊技性を創出することが可能である。

【５７７７】
また、上述のボーナス終了後を有利にする変形例では、上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の各仕様例と同様、基本的には「Ａタイプ」（ＡＴ機能を有しないタイプ）の遊技機を前提とするものであるが、ＡＴ機能を有するようにし、これと特別状態と組み合わせてさらに遊技性を多様なものとしてもよい。例えば、特別状態中は、停止操作の態様に応じて表示される図柄組合せが変動し得る特定役が当籤し得るように構成し、その特別状態中にＡＴ状態が作動している場合には正解の停止操作態様が報知され得るようにしてもよい。なお、ここでいう正解の停止操作態様は、単に遊技価値の付与数がより多くなる（有利となる）停止操作態様を示すものであってもよいし、例えば移行図柄の表示で特別状態が終了する場合にはその移行図柄の表示を回避できる停止操作態様を示すものであってもよい。

【５７７８】
また、特別状態は基本的にＡＴ状態なるように構成してもよいし、上述のＲＴ状態との組み合わせの例の如く、特別状態の開始・終了の条件とは異なる条件（あるいは、その一部が異なる条件）でＡＴ状態が作動し得る構成としてもよい。また、ＡＴ状態の開始・終了については、他の実施形態で説明した構成を適宜用いることができる。

【５７７９】
（３枚ベット固定状態と２枚ベット固定状態について）
ボーナス終了後を有利にする変形例（変形例１及び変形例２）では、例えば、非ボーナス状態の通常状態を３枚ベット固定状態とし、非ボーナス状態の特別状態（高小役状態）を２枚ベット固定状態とするように構成していた。ここで、３枚ベット固定状態は、規定数が「３」のみ（遊技可能枚数が３枚のみ）の状態として説明していたが、３枚ベット固定状態においても、１枚ベット（規定数が「１」）でも遊技が行い得る（遊技価値枚数を１枚及び３枚とする）ように構成してもよい。なお、１枚ベット状態では、３枚ベット状態及び２枚ベット状態のいずれの状態よりも内部抽籤が不利となるように構成することができる。

【５７８０】
また、２枚ベット固定状態は、規定数が「２」のみ（遊技可能枚数が２枚のみ）の状態として説明していたが、２枚ベット固定状態においても、１枚ベット（規定数が「１」）及び３枚ベット（規定数が「３」）でも遊技が行い得る（遊技価値枚数を１枚、２枚及び３枚とする）ように構成してもよい。なお、２枚ベット固定状態において、１枚ベットや３枚ベットで遊技が行われる場合には、「不利なベット数となっています。２枚掛けで遊技を行って下さい」といったように、遊技者に２枚ベットでの遊技を促す報知が行われるようにすればよい。このようにすれば、遊技者が不測の不利益を被ってしまい、遊技の興

趣が低下してしまうことを防止できる。

【５７８１】

また、３枚ベット固定状態でＭＡＸベットボタン（例えばＭＡＸベットボタン６ａなど）を１回押下したときに、３枚以上の遊技価値が貯留されていれば３枚の遊技価値がベット（投入）され、３枚以上の遊技価値が貯留されていなければ１枚もベットされず、また、２枚ベット固定状態でＭＡＸベットボタン（例えばＭＡＸベットボタン６ａなど）を１回押下したときに、２枚以上の遊技価値が貯留されていれば２枚の遊技価値がベット（投入）され、２枚以上の遊技価値が貯留されていなければ１枚もベットされないように制御することができる。このようにすれば、遊技者は各ベット固定状態を意識することなく遊技を行うことができるため、その利便性を向上させることができる。

【５７８２】

もっとも、３枚ベット固定状態及び２枚ベット固定状態のそれぞれにおけるベットの手法はこれに限られない。例えば、ＭＡＸベットボタン（例えばＭＡＸベットボタン６ａなど）は基本的に３枚ベット固定状態で３枚ベットを行う際にのみ用いられるものとし、これとは別に２枚ベット専用の２ベットボタンを設けるようにしてもよい。すなわち、２枚ベット固定状態で２枚ベットを行う際にはこの２ベットボタンを押下して遊技を行わせるようにしてもよい。また、このようにする場合、２枚ベット固定状態が開始されるとき（例えば特定のボーナス状態が終了するとき）に、「２ベットボタンで遊技を行って下さい」といったように、遊技者に２枚ベットでの遊技を促す報知を行い、２枚ベット固定状態が終了するとき（例えば通常状態が開始されるとき）に、「ベットボタンをＭＡＸベットボタンに戻してください」といったように、遊技者に３枚ベットでの遊技を促す報知を行うようにすればよい。このようにすれば、ベットボタン（ＭＡＸベットボタン）に関する内部的な制御変更を行わなくとも各ベット固定状態において適切なベット操作を行わせることができるため、そのような制御負荷を軽減することができるとともに、遊技者にベット固定状態が変動したことをわかりやすく示すこともできる。

【５７８３】

（２枚ベット固定状態によるウェイト制御の工夫）

この種の遊技機（例えばパチスロ機１）では、１ゲームの消化に必要な最短時間が４．１秒に設定されている。そのため、例えば、今回の遊技で開始操作を行った後、リールが定速回転してすぐに停止操作を行いその遊技が２秒で終了したとしても、次回の遊技を開始できる（開始操作を行える、あるいはリールの回転が開始される）ようになるまではあと２．１秒ほどの時間を待たねばならない（１ゲームの消化が４．１秒以上かかっていれば待つ必要はない）。このような待機時間は例えば「ウェイト」（あるいは「ウェイト時間」）などと称される。また、このように待機する制御が行われることは例えば「ウェイト制御」などと称される。

【５７８４】

なお、「ウェイト」を４．１秒としているのは、リプレイ役が「１／７．３」以上の当籤確率で当籤することも加味しつつ、遊技者の１分間あたりの投資金額を４００円以内に収め、それにより射幸性を抑制することを意図したものである。これは「４００円ルール」などとも称される。すなわち、例えば遊技価値１枚が２０円で貸し出されるとした場合、１分間では２０枚の遊技価値が消費上限となる。

【５７８５】

この点、仮に小役の入賞を考慮しないとすると、３枚ベット固定状態では２０枚が６～７ゲーム程度で消費されてしまうことになる一方、２枚ベット固定状態では２０枚が１０～１１ゲーム程度で消費されるようになる。すなわち、２枚ベット固定状態では、（同じ遊技価値数であっても消費されるまでのゲーム数が長くなるので）３枚ベット固定状態よりも４００円ルールに抵触しにくくなる。

【５７８６】

そこで、この変形例では、非ボーナス状態の２枚ベット固定状態においてはウェイト制御を行わないといった仕様としてもよい。あるいは、１ゲームの消化に必要な最短時間を

２．７秒程度に設定し、（むろんウェイト制御が必要になった場合には当該制御を行うが）実質的にはほとんどウェイト制御が発生しない（発生しにくい）といった仕様としてもよい。このようにすれば、特別状態のような有利な状態において遊技者が早く快適に遊技を行うことができるようになるため、その興趣を飛躍的に向上させることができる。

【５７８７】

（２枚ベット固定状態の最終ゲームでリプレイ役を引いた場合）

例えば、２枚ベット固定状態が予め定められたゲーム数で終了する仕様とする。ここでは赤ＢＩＧ終了後２０ゲームは２枚ベット固定状態であり、２１ゲーム目からは３枚ベット固定状態となる仕様として説明する。

【５７８８】

２枚ベット固定状態の最終ゲーム（２０ゲーム目）でリプレイ役を引いた場合に、次のゲームにリプレイによって自動再ベットされるベット枚数をどうするかについては以下のいずれかの仕様も採用可能である。

・仕様１：３枚を自動再ベットする

・仕様２：２枚を自動再ベットする

仕様１を採用した場合は、２枚ベット遊技のリプレイで３枚自動再ベットされるため、わずかではあるが遊技者にお得感を感じさせることができ、有利な状態である２枚ベット固定状態が終了してしまった状況で稼働意欲が低下することを抑制できる。また、仕様２を採用した場合は、最終ゲームでリプレイ役を引くことで有利な２枚ベット固定状態が１ゲーム延命されるため、別の観点より遊技者にお得感を感じさせることができる。

【５７８９】

（２枚ベット固定状態の終了時演出）

２枚ベット固定状態と３枚ベット固定状態の区切りを遊技者に分かり易くするために２枚ベット固定状態の終了時にフリーズ（全停止後の所定時間のフリーズ）を行ったり、２枚ベット固定状態終了といった終了画像を表示したりするなどの演出を行ってもよい。当該終了画像の表示時に合わせてボーナス状態及び２枚ベット固定状態で獲得した合計枚数やボーナス連荘回数、設定示唆画像などのいずれか１つまたは複数、あるいは全てが表示されるようにしてもよい。上述の仕様１（最終ゲームリプレイで３枚自動ベット）の場合は、当該フリーズの終了後に３枚再ベット処理が行われるとともに、ベットランプ演出（例えば１～３ＢＥＴランプの点灯など）やベット効果音出力が行われるため、３枚ベット状態になった旨を遊技者に明瞭に示すことができる。

【５７９０】

（２枚ベット固定状態の所要時間演出）

２枚ベット固定状態の開始時から２枚ベット固定状態の終了時までに要した時間を２枚ベット固定状態の終了時演出として表示してもよい。上述の如く２枚ベット固定状態では４．１秒のウェイトを例外的に非発生とさせる場合、１ゲームは概ね３秒程度で消化することができるため、２０ゲームは約１分（６０秒）程度で消化できる。目安となる規定時間（例えば、２０ゲームなら１分）を設定しておき、それよりも早く消化出来た場合、「お見事」などの祝福表示（設定示唆などの役割を持たないお楽しみ演出）を出してもよい。また、規定時間内に２枚ベット固定状態を終わらせた場合には、規定時間内に終わらなかった場合よりも設定示唆／報知演出が出やすい、時間内に消化した場合のみ出現する設定示唆／報知演出を備えるといった仕様としてもよい。

【５７９１】

（２枚ベット固定状態の高速消化に向けた工夫）

また、２枚ベット固定状態を高速消化しやすいように、取りこぼしのある小役の発生時は必ずあるいは高確率で何らかの取りこぼし抑制演出（例えば、レバーオン時予告音などが望ましい）が発生し、演出なし時はフリー打ちでもほぼあるいは全く取りこぼしなしとして目押し頻度を低下させてもよい。また、右リール又は中リールなど特定のリールを第２停止とする場合に取りこぼしが発生しないリール配列としてもよい。なお、ここでの取りこぼしとはスイカやチェリーなどある程度の頻度である程度の枚数の払出がある取りこ

ぼし小役についての取りこぼしのことであり、リーチ目用の１枚役など低頻度かつ低配当の役についてはこういった取りこぼし抑制演出の対象外としても差し支えない。

【５７９２】

［ボーナス終了後を有利にする変形例から得られる技術的思想のまとめ］

以上説明したように、ボーナス終了後を有利にする変形例の遊技機では、例えば以下のような技術的思想が得られる。

【５７９３】

（１）　非ボーナス状態において、第１ベット数（例えば３枚ベット）で遊技が可能である一方、第２ベット数（例えば２枚ベット）では遊技を可能としない通常状態と、

非ボーナス状態において、第２ベット数（例えば２枚ベット）で遊技が可能である一方、第１ベット数（例えば３枚ベット）では遊技を可能としない特別状態と、があり、

特別条件が成立した場合（例えば特定のボーナス状態が終了した場合）に特別状態とすることが可能であり、

特別状態は、通常状態よりも出玉率が高い状態（例えば高小役状態）である、遊技機である。

【５７９４】

このような遊技機によれば、通常とは異なる特定のベット数（２枚ベット）を用いて遊技価値の付与期待値が高い（高ベースの）状態を創出することができるため、出玉設計に関する工数が増大してしまうことを抑制しつつ、斬新かつ興趣の高い遊技性を実現することができる。また、単位遊技あたりの消費遊技価値数を少なくすることができるため、射幸性を適切に抑制することもできる。

【５７９５】

（２）　特別状態のリプレイ役の当籤確率は、通常状態のリプレイ役の当籤確率と同じ、あるいは近い確率である、遊技機である。

【５７９６】

このような遊技機によれば、特別状態では、リプレイ役の当籤確率を高めずに高ベースの状態を創出することで、特別状態を高ベースの状態として維持しつつ、出玉率（リプ抜き）と市場での実際の出玉率とが乖離してしまうことも抑制できるため、出玉設計の幅を広げることができる。

【５７９７】

なお、図４６０では、通常状態と特別状態のリプレイ役の当籤確率を同じ確率としているが、これらは必ずしも同じ確率である必要はない。すなわち、出玉設計上の問題が生じない限り、「１／７．３」以上の任意の確率を設定可能である。

【５７９８】

（３）　通常状態では、さらに第３ベット数（例えば１枚ベット）で遊技が可能である、遊技機である。

【５７９９】

このような遊技機によれば、例えば、ボーナス内部中となったときには、第３ベット数で遊技を行ってボーナス役に対応する図柄組合せを表示させることが可能になるため、遊技者の攻略要素を増加させて興趣を向上させることができる。

【５８００】

（４）　特別状態は、出玉率が１以下の状態である、遊技機である。

【５８０１】

このような遊技機によれば、特別状態をほぼ現状維持以下の状態とすることで、例えば、ボーナス内部中を継続させればさせるほど遊技価値が増加するといった攻略がなされてしまうことを防止できる。

【５８０２】

（５）　通常状態では、１ゲームの消化に必要な最短時間（例えば４．１秒）未満の時間で遊技が終了した場合にはウェイト制御が実行されるが、特別状態ではそのようなウェイト制御が行われないようにした、遊技機である。

【５８０３】
このような遊技機によれば、特別状態のような有利な状態において遊技者が早く快適に遊技を行うことができるようになるため、その興趣を飛躍的に向上させることができる。
【５８０４】
＜ボーナス終了後を有利にする変形例の別例（変形例３）＞
上述のＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例（例えば仕様例１）では、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）終了後はＲＴ１状態に移行させ、このＲＴ１状態をボーナス役の高確率状態として構成する（すなわち、ＲＴ状態の変動契機に紐づけてボーナス確変の制御を行う）ことで、ボーナス終了後を有利にする一例を説明した。また、上述のボーナス終了後を有利にする変形例（変形例１及び変形例２）では、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）終了後の特別状態を２枚ベット固定状態かつ高小役状態に構成することで、（ボーナス役の当籤確率を変動させることなく）ボーナス終了後を有利にする一例を説明した。しかしながら、例えばこれらの要素を適宜組み合わせてさらなる変形を行うことも可能である。ここでは、そのさらなる変形例（これを「変形例３」とする）について説明する。
【５８０５】
図４６５を参照し、ボーナス終了後を有利にする変形例３（別例）の遊技の流れについて説明する。この変形例３では、ボーナス終了後を２枚ベット固定状態とし、この２枚ベット固定状態をボーナス役の高確率状態（すなわち、ボーナス確変状態）としている。すなわち、ボーナス終了後の２枚ベット固定状態が「特別状態」となる点はボーナス終了後を有利にする変形例１や変形例２と同様であるが、これを高小役状態とせず、ボーナス確変状態とする点で異なる構成となっている。また、ボーナス終了後をボーナス確変状態とする点はＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例（例えば仕様例１）と同様であるが、これをＲＴ状態（ＲＴ１状態）の変動契機と紐づけることなく（２枚ベット固定状態として）行う点で異なる構成となっている。
【５８０６】
なお、上述の点以外は基本的に変形例１と同様であることから、変形例１と同様の構成についてはその説明を省略している。また、ボーナス終了後をボーナス確変状態とすることによる利点（作用効果）は基本的にＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例（例えば仕様例１）で説明したものと同様であることから、ここでの説明は省略している。また、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例で述べた種々の変形・変更もこの変形例３に適用可能である。また、ボーナス終了後を２枚ベット固定状態とすることによる利点（作用効果）はボーナス終了後を有利にする変形例（変形例１及び変形例２）で説明したものと同様であることから、ここでの説明は省略している。また、ボーナス終了後を有利にする変形例（変形例１及び変形例２）で述べた種々の変形・変更もこの変形例３に適用可能である。
【５８０７】
この変形例３の要点は、特定のボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ作動中）の終了後は２枚ベット固定状態とし、この２枚ベット固定状態をボーナス確変状態である特別状態とする点である。なお、特定のボーナス状態とは異なる所定のボーナス状態（例えば青ＢＩＧ作動中）の終了後は３枚ベット固定状態となるようにして特別状態とならないようにしているが、そもそもこのような所定のボーナス状態を設けないようにすることもできるし、所定のボーナス状態も特定のボーナス状態の同様に取り扱い、その終了後は特別状態に移行させるようにすることもできる。
【５８０８】
図４６５に示すように、非ボーナス状態の３枚ベット固定状態である通常状態において「赤ＢＢ」に当籤し、（持ち越される場合には赤ＢＢ内部中を経て）「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されて赤ＢＩＧ作動中となると、２枚ベット固定状態のボーナス状態となる。そして、赤ＢＩＧ作動中が終了すると、その２枚ベット固定状態が非ボーナス状態でも引き継がれ、非ボーナス状態の２枚ベット固定状態での遊技が行われることになる

。これが変形例３におけるボーナス確変状態（特別状態）となる。この特別状態は、例えば次回のボーナス役の当籤まで継続可能に構成される。つまり、次回のボーナス役の当籤まで継続可能であるため、特別状態はゲーム数消化で終わることが無い状態である。なお、変形例として規定ゲーム数の消化で終わるものとしてもよい。なお、赤ＢＩＧ作動中を３枚ベット固定状態としてもよいし、１枚ベット固定状態としてもよい。同様に青ＢＩＧ作動中を２枚ベット固定状態としてもよいし、１枚ベット固定状態としてもよい。赤ＢＩＧ作動中と青ＢＩＧ作動中の遊技可能となるベット枚数は同じでもよいし、異なるものとしてもよい。

【５８０９】

特別状態（２枚ベット固定状態）では、非ボーナス状態の３枚ベット固定状態である通常状態では合算「１／１５０」の当籤確率で抽籤されていたボーナス役が、（２枚ベット固定状態となったことに応じて）合算「１／５０」の当籤確率で抽籤されるようになる。なお、ボーナス役の当籤確率を上昇させる態様はあくまで一例であり、図４６５に示すものには限定されない。例えば、ＲＴ状態に応じたボーナス確変の仕様例（例えば仕様例１）で説明したように種々の態様を採用し得る。

【５８１０】

図４６５に示すように、非ボーナス状態の２枚ベット固定状態である特別状態において「青ＢＢ」に当籤し、（持ち越される場合には青ＢＢ内部中を経て）「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されて青ＢＩＧ作動中となると、３枚ベット固定状態のボーナス状態となる。そして、青ＢＩＧ作動中が終了すると、その３枚ベット固定状態が非ボーナス状態でも引き継がれ、非ボーナス状態の３枚ベット固定状態（すなわち、通常状態）での遊技が行われることになる。

【５８１１】

一方、図４６５では図示を省略しているが、非ボーナス状態の２枚ベット固定状態である特別状態において「赤ＢＢ」に当籤し、（持ち越される場合には赤ＢＢ内部中を経て）「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示されて赤ＢＩＧ作動中となると、２枚ベット固定状態のボーナス状態となる。そして、赤ＢＩＧ作動中が終了すると、その２枚ベット固定状態が非ボーナス状態でも引き継がれ、非ボーナス状態の２枚ベット固定状態での遊技が行われることになる。すなわち、特別状態が継続する（延長される）こととなる。

【５８１２】

ここで、規則では「設定ごと及び規定数ごとに、役物連続作動装置の作動に係る１の条件装置が作動する確率は、あらかじめ定められた値であり、第１種特別役物若しくは他の役物連続作動装置の作動に係る条件装置、第１種特別役物又は他の役物連続作動装置が作動している場合を除き、変動するものでないこと。」と定められている。すなわち、ＢＢ当籤確率は、設定値（例えば設定１～６）及び規定数（例えば１枚～３枚ベット）ごとに予め定められたものであって、ＢＢが作動している場合を除いて変動してはならないことが規定されている。

【５８１３】

しかしながら、この変形例３では、赤ＢＩＧが作動している場合に２枚ベット固定状態となり、これに基づいて赤ＢＩＧ終了後が２枚ベット固定状態となるのであり、また、青ＢＩＧが作動している場合に３枚ベット固定状態となり、これに基づいて青ＢＩＧ終了後が３枚ベット固定状態となるのであるから、まさに「ＢＢが作動している場合」にそのＢＢ当籤確率（換言すれば、それを司るベット数固定状態の種別）が変動していることに他ならない。したがって、そのような規則にも抵触しないものであると考えられる。

【５８１４】

むろん、「ＢＢが作動している場合」を広く捉え、それが「ＢＢの作動（開始及び終了を含む）を契機として」と解釈され得るのであれば、赤ＢＩＧ作動中が上述の変形例２の如く３枚ベット固定状態として構成される場合であっても、その終了後の特別状態が２枚ベット固定状態として制御されるものであってもよいし、青ＢＩＧ作動中が上述の変形例１や変形例２の如く２枚ベット固定状態として構成される場合であっても、その終了後の

特別状態が３枚ベット固定状態として制御されるものであってもよい。すなわち、上述の要点で示した制御が適切に実行され得る限り、その細部の仕様は限定されない。

【５８１５】

なお、２ベット固定状態（確変状態である特別状態）への移行制御について、例えば、赤ＢＩＧ開始時あるいは赤ＢＩＧ成立時（「赤ＢＢ」当籤時）に２ベット固定状態移行フラグを成立させて（当該フラグをオンとして）、当該赤ＢＩＧ終了時に当該フラグを参照して（当該フラグがオンであるかを判断し、オンである場合に）２ベット固定状態へ移行させるものとしてもよい。また、赤ＢＩＧ終了時に遊技状態を規定するパラメータ（上記のようなフラグ、あるいは、カウンタ値などによる管理でもよい）について２ベット固定状態に対応するものをセットしてもよい。また、３ベット固定状態（非確変状態である通常状態）への移行制御についても同様である。例えば、青ＢＩＧ開始時や成立時に状態移行フラグを成立させて青ＢＩＧ終了時に当該フラグを参照してもよいし、青ＢＩＧ終了時に３ベット固定状態に対応するパラメータをセットして状態移行させるものでもよい。むろん、これらもあくまで例示であり、その制御態様は上述したものに限定されない。

【５８１６】

また、図４６５では赤ＢＩＧ（終了後に確変状態となるボーナス）及び青ＢＩＧ（終了後に非確変状態となるボーナス）は、第１種特別役物に関する役物連続作動装置（いわゆる１種ＢＢ）であるとして説明した。しかしながら、それらのボーナスのうちのいずれか一方、あるいは両方を第１種特別役物（いわゆるＲＢ）や第２種特別役物に係る役物連続作動装置（いわゆるＭＢ）として構成してもよい。

【５８１７】

続いて、変形例３を前提としたさらなる工夫や仕様例について説明する。なお、以下では、上述の２ベット固定状態を「確変状態」、上述の３ベット固定状態を「非確変状態」、上述の赤ＢＩＧのような確変状態へ移行するボーナスを「確変ボーナス」、上述の青ＢＩＧのような非確変状態へ移行するボーナスを「非確変ボーナス」と称して説明する場合がある。

【５８１８】

（変形例３における他の工夫１：確変・非確変ボーナスの純増枚数）

確変ボーナスと非確変ボーナスの純増枚数（１種ＢＢのボーナス終了条件（規定終了条件）となる払出枚数）は、例えば以下ような関係性を有する仕様とすることができる。

・仕様例１：確変ボーナス　＞　非確変ボーナス
・仕様例２：確変ボーナス　＝　非確変ボーナス
・仕様例３：確変ボーナス　＜　非確変ボーナス
・仕様例４：確変ボーナスあるいは非確変ボーナスの一方または両方が複数種類あり、仕様例１～３のいずれか１つ又は複数があてはまる

仕様例１であれば確変ボーナスのほうが枚数的にも利益が大きいため、遊技者の確変ボーナスを引いた時のうれしさを高めることができる。仕様例２であれば枚数が同じであるため、出玉設計が容易となる。仕様例３であれば、非確変ボーナスを引いた際のガッカリ感を抑制して非確変ボーナス時の興趣の低下を抑制できる。仕様例４であれば、多彩な出玉の波を描くことが可能となる。

【５８１９】

（変形例３おける他の工夫２：ボーナスの種別数やリーチ目、小役・再遊技役との重複当籤）

確変ボーナスや非確変ボーナスの図柄組合せを複数種類もっていてもよい。例えば、確変ボーナスの図柄組合せは「赤７－赤７－赤７」、「赤７－赤７－青７」、「赤７－青７－赤７」、「青７－赤７－赤７」の４種類とし、非確変ボーナスの図柄組合せは「青７－青７－青７」、「赤７－青７－青７」の２種類などとすることで、ボーナス成立を演出やリーチ目から察知した後に、どのボーナスが成立したか図柄を狙っていくことで判別するといった楽しみ方が可能となる。また、リーチ目として確変ボーナスが確定するリーチ目、確変ボーナスと非確変ボーナスのどちらでも停止し得る共通リーチ目、非確変ボーナス

が確定するリーチ目などをもたせてもよい。また、確変ボーナスの重複当籤期待度が非確変ボーナスの重複当籤期待度よりも高くなるチャンス目やレア役をもたせてもよい。

【５８２０】

（変形例３おける他の工夫３：確変ボーナスと非確変ボーナスの比率、確変リミッタ機能）

図４６５では、非確変中（非確変状態中）も確変中（確変状態中）も確変ボーナスと非確変ボーナスの当籤比率は１：１であるが、確変ボーナスと非確変ボーナスの当籤比率は、非確変中と確変中とで異ならせてもよい。非確変中のボーナス確率（当籤確率）と、確変中のボーナス確率（当籤確率）はそれぞれ任意の値を設定可能であるが、例えば以下のような仕様例を採用することができる。

【５８２１】

〇仕様例１

・非確変中：確変ボーナス確率「１／６００」／非確変ボーナス確率「１／２００」／ボーナス合成確率「１／１５０」／ボーナス成立時の確変割合「２５％」

・確変中：確変ボーナス確率「１／１００」／非確変ボーナス確率「１／４００」／ボーナス合成確率「１／８０」／ボーナス成立時の確変割合「８０％」

この仕様例１では、非確変中からは２５％と確変へ移行しづらいが、確変移行後は８０％で確変状態が継続して確変状態の継続により出玉が獲得しやすいというゲーム性となる。また、非確変ボーナスは確変中の方が、非確変中よりも確率が低下しているが、トータルでボーナス確率が上がっていれば遊技者にとって確変中の方が有利なのは自明であるため問題ない。もっとも、確変ボーナス及び非確変ボーナスの両方について確変中の方が非確変中よりも当籤確率が高いものとしてもよい。

【５８２２】

〇仕様例２

・非確変中：確変ボーナス確率「１／２５０」／非確変ボーナス確率「当籤なし（確率０）」／ボーナス合成確率「１／２５０」／ボーナス成立時の確変割合「１００％」

・確変中：確変ボーナス確率「１／１５０」／非確変ボーナス確率「１／５０」／ボーナス合成確率「１／３７．５」／ボーナス成立時の確変割合「２５％」

この仕様例２では、非確変中には確変ボーナスのみが当籤する仕様である。確変中は非確変ボーナスの占有率が７５％と確変状態は継続しにくい。このように１００％確変突入タイプであっても、確変中の確変継続率（ボーナス成立時の確変割合）が５０％以上などと高い値としてもよい。なお、確変継続率は任意の値とすることができるが、確変中の確変ボーナス占有率を１００％とすると確変状態が終了せず、ゲームバランスを取ることができないため、後述のリミッタ仕様などを有しないのであれば避けたほうがよいと考えられる。また、この仕様例２において、仮に非確変中に非確変中ボーナスを当籤させる必要がある（あるいは、そのほうが望ましい）のであれば、例えば非確変中の非確変ボーナス確率を「１／１６３８４」とするなど低確率ではあるが当籤し得るように構成してもよい。

【５８２３】

〇仕様例３

・非確変中：確変ボーナス確率「１／５００」／非確変ボーナス確率「１／５００」／ボーナス合成確率「１／２５０」／ボーナス成立時の確変割合「５０％」

・確変中：確変ボーナス確率「１／３０」／非確変ボーナス確率「当籤なし（確率０）」／ボーナス合成確率「１／３０」／ボーナス成立時の確変割合「１００％」

この仕様例３では、確変中の確変継続率（ボーナス成立時の確変割合）を１００％としているが、確変ボーナスが予め定められた所定回数（例えば、３回）連続すると、所定回数目の確変ボーナス終了後は非確変状態へ移行するという確変ボーナス連続回数リミッタ（確変リミッタ）を有する仕様としている。この仕様例３によれば、射幸性を適切に抑制しつつ、確変状態におけるボーナスの連続性（連荘）を楽しませることができる。なお、確変状態を終了させ得る確変リミッタの作動条件は上述したものに限られない。ボーナス

の連続回数とは異なる要素を用いてその作動条件が成立するものであってもよい。例えば、
確変ボーナスから始まる一連の増加区間（確変ボーナスと次の確変ボーナスの間の減少区間を含む）での純増枚数が所定枚数（例えば、１０００枚）に到達した以降のボーナス終了時にその作動条件を成立させるといったものでもよい。

【５８２４】

（変形例３における他の工夫４：確変中専用ボーナス、非確変中専用ボーナス）

上述の他の工夫３と一部重複する内容となるが、確変中にのみ当籤し非確変中には当籤しない確変中専用ボーナスを備えるものとしてもよい。また、非確変中にのみ当籤し確変中には当籤しない非確変中専用ボーナスを備えるものとしてもよい。そのような状態専用ボーナスを持つことでゲーム設計の幅を持たせることができる。

【５８２５】

（変形例３における他の工夫５：リール停止制御変更による獲得枚数変更）

４枚役と１５枚役が重複当籤する特定小役（例えば、図４４４に示すベル（４枚）などに相当する４枚役であって、対応する図柄組合せが複数規定されている４枚役と、図４４４に示すベル（１５枚）などに相当する１５枚役であって、対応する図柄組合せが４枚役とは異なり、かつ、その図柄組合せ数が４枚役より少ない１５枚役とが同時当籤する小役）を備えるものとする。通常時（非確変中の３枚ベット状態）において当該特定小役に当籤した場合は、表示され得る図柄組合せ数が多いほうの役を優先して停止させる条件装置数優先のリール停止制御が行われることで４枚役が優先的に入賞し、１５枚役は入賞しない、あるいはほぼ入賞しないものとする一方、ＢＢ中におけるＢＢ一般中、ＲＢ内部中、ＲＢ中、ＭＢ作動中、あるいはＳＢ（シングルボーナス）作動中のようなボーナス中において当該特定小役に当籤した場合は、通常時とリール停止制御を変更することができるので、払出枚数が多いほうの役を優先して停止させる払出枚数優先のリール停止制御が行われることで１５枚役が優先的に入賞し、４枚役は入賞しない、あるいはほぼ入賞しないものとすることが可能である。このようにすることで、通常時のベース（出玉率）を抑制しつつ、ボーナス中のベースを高めることができる。特に通常時と小役（再遊技役を含まない遊技価値付与役の意味での小役）の当籤確率を変化させることができないＢＢ一般中などの遊技状態を有する場合はこうしたリール制御を行うと効果的である。

【５８２６】

（変形例３における他の工夫６：確変中のＳＢやＣＢ）

確変中においてＳＢ（１ゲームで作動終了する普通役物。シングルボーナス）やＣＢ（１ゲームで作動終了する第２種特別役物。チャレンジボーナス）のいずれか一方または両方が当籤し得るものとしてもよい。以下、ＳＢやＣＢを「ＳＢ等」と記載する場合がある。ＳＢ等は確変状態を終了させることができないため、確変中に引けば引くほど単純に遊技価値が増加するミニボーナスとして機能させることができる。

【５８２７】

ＳＢは、その作動中は小役当籤確率を高めて非作動中よりも１ゲーム当たりの出玉率が高い（少なくとも出玉率が１００％を超える増加状態となる）ものとするとよいが、作動中の小役係数（抽籤値）のそれぞれは非作動中よりも上昇するものの、重複当籤が多くなるような当籤のさせ方とすることで非作動中よりも出玉率が低い状態として構成することも可能である。また、ＣＢは、その作動中は役抽籤の結果不問で全小役フラグが成立するため、一番払出枚数の多い小役（例えば、１５枚役）の入賞が許容されるものとする。なお、ＳＢ等の作動中は、ボーナス役の抽籤が非作動中と同じ確率で行われ得るため、仮にこれらの状態が２枚ベット固定状態で構成されるとすると、これらの状態でも確変状態（特別状態）と同じ各確率でボーナス役が抽籤されることとなる。

【５８２８】

〇仕様例

・非確変中：確変ボーナス確率「１／４００」／非確変ボーナス確率「１／４００」／ＳＢ確率「当籤なし（確率０）」／ＣＢ確率「当籤なし（確率０）」／ボーナス合成確率「

１／２００」／ボーナス成立時の確変割合「５０％」
・確変中：確変ボーナス確率「当籤なし（確率０）」／非確変ボーナス確率「１／１９９」／ＳＢ確率「１／１０」／ＣＢ確率「１／１０」／ボーナス合成確率「１／１９９」／ボーナス成立時の確変割合「０％」
　この仕様例では、ＳＢ作動中は１ゲーム当たりの増加期待値が＋５枚、ＣＢ作動中は１ゲームあたりの増加期待値が＋１３枚とする。確変中はＳＢとＣＢの連続的な当籤と、小役当籤とで遊技価値を増加させる状態として機能する。非確変ボーナスはＳＢ等の高確当籤状態を終了させるパンク役といった扱いとなる。なお、このようなＳＢ等を用いる場合でも遊技価値を増加させる確変ボーナスを確変中に当籤可能としてもよいし、ＣＢを搭載せずにＳＢのみを搭載してこれをミニボーナスとして用いてもよいし、ＣＢを搭載せずにＳＢのみを搭載してこれをミニボーナスとして用いてもよい。
【５８２９】
　また、ＳＢ等の図柄組合せは目押し不要で揃う（引込１で揃う）構成とするとスピーディに遊技を進めることができる点で好適であるが、ＳＢ等の図柄組合せを揃えるには目押しが必要な（取りこぼしが発生し得る）構成とすることもできる。ＳＢ等は持ち越すことができないため、そのような構成の場合は慎重な目押しが求められるゲーム性となる。なお、ＳＢ等の入賞時はその旨を示唆ないし報知する演出（入賞時フラッシュや入賞音、画像表示など）を行ってもよい。また、ＳＢ等に替えてあるいはＳＢ等とともに獲得枚数の少ない確変ボーナスであるＢＢ、ＭＢ、あるいはＲＢが高頻度で当籤することで、それを小枚数ボーナスとして（例えば上述のミニボーナスと同様に）機能させてもよい。なお、「高頻度」とは概ね「１／２」～「１／３０」程度、「小枚数」とは４～５０枚程度を想定するものである。むろん、これらはあくまで例示に過ぎず、任意の値を設定可能である。また、ＭＢが１４枚を超える払出で終了するものとしつつ、停止操作態様に応じて１４枚役又は１５枚役の入賞が可能であるように構成し、遊技者が１ゲーム目で１４枚役を獲得し、２ゲーム目で１５枚役を獲得すると最大枚数が獲得できるようにしてもよい。この場合、ＳＩＭ試験では１ゲーム目に１５枚を獲得してＭＢが終了すると取り扱われるのに対し、実際の遊技では２ゲームで１４枚＋１５枚を獲得できるため、実際の出玉性能を高めやすくなる。
【５８３０】
　なお、ミニボーナス（上述の小枚数ボーナスが含まれるようにしてもよいし、含まれないようにしてもよい）の当籤回数（あるいは作動回数）が所定回数（例えば、１０回、２０回・・・など）に達した場合に１０コンボ成功、２０回ヒット成功などその連続回数を報知する演出を行ってもよい。また、２２コンボ成功との表示で設定２以上確定（当該表示は連続回数が２２回目であっても設定１では表示されないものとする）、４６コンボ成功との表示で設定４ｏｒ６確定（当該表示は連続回数が４６回目であっても設定４又は設定６以外では表示されないものとする）などの設定示唆演出を発生可能としてもよい。
【５８３１】
　また、ミニボーナス（上述の小枚数ボーナスが含まれるようにしてもよいし、含まれないようにしてもよい）の作動時にはＢＧＭを変化させないことが望ましい。短いスパンでＢＧＭが頻繁に変化するとそのゲーム性がわかりにくくなってしまうし、遊技者も落ち着いて遊技を行えなくなるおそれがあるためである。もっとも、ミニボーナス作動中に確変中ＢＧＭと異なるＢＧＭを発生させたり、同じＢＧＭの異なるアレンジバージョンに切り替えたりしてもよい。ミニボーナスの連荘回数（連続回数）で確変中演出（画面やＢＧＭなど）が変化する仕様としてもよい。例えば、１～９回までは地上ステージ、１０～２９回までは空中ステージ、３０回以上は宇宙ステージなどとしてもよい。また、ミニボーナスの終了時はボーナス終了画面を出さないことが望ましい。高頻度で発生するミニボーナスであることから、毎回ボーナス終了画面を表示するとゲームのテンポが悪くなるおそれがあるためである。
【５８３２】
（変形例３における他の工夫７：確変ボーナスと非確変ボーナスを１ゲームで判別可能）

例えば、確変ボーナスの図柄組合せを「赤７－赤７－赤７」とし、非確変ボーナスの図柄組合せを「赤７－赤７－青７」とする。そして、右リール３Ｒにおいて「赤７」図柄と「青７」図柄が同時に引き込める範囲内（例えば、４コマ以内）に配置し、確変ボーナスの入賞と非確変ボーナスの入賞とを同時に狙えるものとする。このようにすると、ボーナス告知後の遊技価値のロスを少なくすることができる。特に非確変状態は３枚ベット固定状態であることから、成立したボーナス種別の判別に複数ゲームが必要であるとするとそのようなロスが多くなってしまうため効果的である。なお、１ゲームで確変ボーナスと非確変ボーナスの両方を入賞させ得る停止操作が可能な構成であれば、図柄が相違するリールは右リール３Ｒ以外でもよく、また確変ボーナスと非確変ボーナスを構成する図柄の全部が異なっていてもよい。また、こうしたゲーム性で、赤７を左リール３Ｌ、中リール３Ｃ停止時にテンパイさせた時点で確変ボーナスを示唆ないし報知する期待感演出や確変確定演出を発生可能としてもよい。

【５８３３】

（変形例３における他の工夫８：ＲＴを用いたゲーム性）

確変ボーナス及び非確変ボーナスの成立時やボーナス重複当籤を期待できる所定役（チャンス小役やチャンスリプレイ等）が成立したときに所定のＲＴ状態に移行させ、その所定のＲＴ状態をボーナスへの期待感を持たせる（例えば、５ゲーム程度の）演出区間として用いてもよい。なお、所定のＲＴ状態を高ＲＴ状態として構成することができる。この場合、所定のＲＴ状態ではリプレイ確率が高まってハズレ確率が低下するため、ボーナスはやや入賞しづらくなるが、少なくともハズレとなった場合（持越状態中において小役及びリプレイのいずれにも非当籤となった場合）にはボーナス入賞が可能となる。この演出区間では連続演出や１ゲーム完結演出などでボーナスの当否の報知や当籤期待度の示唆、確変ボーナスの当籤可能性の示唆や報知などを行うことができる。また、演出成功で確変ボーナス確定、演出失敗で非確変ボーナス濃厚（失敗後に復活パターンがあってもよい）というルールの演出（複数ゲームにわたる連続演出でも１ゲーム演出でもよい）を行うこともできる。また、所定のＲＴ状態は、ボーナス成立時にはゲーム数の定めがない（ボーナス入賞まで継続可能な）無限ＲＴ（フラグ間ＲＴである第１ＲＴ状態）となるが、ボーナス非成立時にはゲーム数の定めがある（例えば、５ゲーム程度の）有限ＲＴ（所定役の図柄組合せが表示されたことを契機に移行する第２ＲＴ状態）とすることもできるし、いずれの場合にも同じ（例えば、５ゲーム程度の）有限ＲＴに移行させるようにすることもできる。また、ここで説明した演出（演出区間）は所定のＲＴ状態に移行させることなく行われるものであってもよい。

【５８３４】

（変形例３における他の工夫９：確変移行を抽籤で決定可能）

変形例３では、例えば、赤ＢＩＧ終了後は確変状態、青ＢＩＧ終了後は非確変状態といったように、ボーナス種別で一義的にボーナス終了後の状態を確変状態とするか、あるいは非確変状態とするかを決定していたが、ボーナス終了後の状態を決定する態様はこれに限られない。例えば、ボーナス種別ではボーナス終了後の状態が一義的に決まらず、予め定められた確率で確変状態へ移行するか否かを抽籤で決定するようにしてもよい。また、当該抽籤は、ボーナス当籤時、入賞時、終了時のいずれで行ってもよい。このような仕様とすることで、例えば、ボーナス作動中に演出を行い成功すれば確変移行（確変継続）、失敗なら非確変移行（確変終了）といった見せ方を行うことができる。なお、全てのボーナスをそのような抽籤が行われる移行先不定ボーナスとして構成することもできる（例えば、赤ＢＩＧと青ＢＩＧとで確変状態の移行確率は同じであってもよいし、異なる（赤ＢＩＧのほうが移行確率を高くするなど）ものとしてもよい）し、一部のボーナスを移行先不定ボーナスとして構成することもできる。また、後者の場合、さらに確変ボーナスや非確変ボーナスのいずれか又は両方を備えるように構成することができる。

【５８３５】

（変形例３における他の工夫１０：確変ボーナス確定演出、非確変ボーナス確定演出）

確変ボーナスに当籤したときに確変ボーナスが確定する演出を行ってもよいし、非確変

ボーナスに当籤したときに非確変ボーナスが確定する演出を行ってもよい。そのような演出は、ボーナス確定画面においてボーナス種別を確定的に報知する演出であってもよいし、そのような確定画面へ移行するよりも前に発生可能な演出であってもよい。例えば、ボーナス当籤時にフリーズ演出が発生したら確変ボーナス確定となる、あるいは、ボーナス重複小役に当籤したときに何ら演出がない（という演出が行われたら）確変ボーナス確定となるといったようにしてもよい。

【５８３６】

（変形例３における他の工夫１１：設定値により確変突入・継続バランスが変化）

上述の他の工夫３でも述べたように、非確変状態・確変状態の確変ボーナスと非確変ボーナスの当籤割合に応じて確変突入率、継続率を設計することができる。少なくとも第１の設定値と第２の設定値とで確変突入率、確変継続率の少なくともいずれか一方が異なるものとすれば、設定値によって確変に関するバランスを異ならせ得るという効果を奏することができる。例えば、以下のような仕様が考えられる。なお、ボーナス当籤確率は省略しており、確変突入率（非確変中のボーナス成立時における確変ボーナスの占有率）と、確変継続率（確変中のボーナス成立時における確変ボーナスの占有率）のみを例示している。

【５８３７】

〇仕様例

・設定１：確変突入率「４０％」／確変継続率「６０％」
・設定２：確変突入率「６０％」／確変継続率「４０％」
・設定３：確変突入率「３０％」／確変継続率「７０％」
・設定４：確変突入率「７０％」／確変継続率「３０％」
・設定５：確変突入率「１０％」／確変継続率「９０％」
・設定６：確変突入率「９０％」／確変継続率「１０％」

奇数設定は確変に突入しにくく継続しやすい荒波仕様となっており、偶数設定は確変に突入しやすく継続しにくい安定仕様となっている。このように設定値ごとに特色を設けてもよい。また、偶数設定か奇数設定かを遊技者が一目で分かるように、客待ち状態（例えばデモ状態）や遊技中などにおいて所定のランプ（例えば腰部パネルなど）の発光色や画面などで報知可能な構成としてもよい。設定１と設定２、設定３と設定４、設定５と設定６を比較的近い出玉率にしておいて、奇数設定の場合には所定のランプなどを赤発光状態とし、偶数設定の場合には所定のランプなどを青発光状態とする。このようにすれば、荒波好きな遊技者は赤発光状態の台を選択し、安定志向の遊技者は青発光状態の台を選択することができる。

【５８３８】

また、一部の設定値（１つの設定値でも複数の設定値でもよい）は上述の他の工夫６で述べたＳＢ等の連続当籤によるゲーム性とし、他の設定値はＳＢ等を用いない確変ボーナスや非確変ボーナスで出玉を増やすゲーム性としてもよい。このように設定値に応じてゲーム性が一変する遊技機の場合は、遊技者の好みを探りつつ、自店の客の好みにあったゲーム性の設定値を主に投入していくといった運用ができるというメリットがある。

【５８３９】

（変形例３における他の工夫１２：電断復帰時の演出）

確変状態は２枚ベット固定状態、非確変状態は３枚ベット固定状態となるため、遊技者はベットボタン（例えばＭＡＸベットボタン６ａなど）を１回押下すれば確変状態であるか否かを把握することができる。そのため、電断復帰後が確変状態である場合は確変状態中に対応する演出（例えば、確変ステージ画像の表示や確変中ＢＧＭの再生など）が実行され、電断復帰後が非確変状態の場合は非確変状態中に対応する演出（例えば、非確変ステージ画像の表示など）を実行可能としてもよい。設定変更が行われたかが看破されないように、電断復帰後は確変状態であってもあえて非確変状態中の演出が行われるものとしてもよいが、遊技者にはベット操作１回ですぐに察知されてしまうため、前述のとおり、状態に対応した演出を電断復帰時に行うものとした方が望ましい。店側も開店前の台が確

変状態であることに気づきやすくなり、設定変更を行って非確変状態（初期状態）へ移行させるといった開店準備を行いやすくなる。

【５８４０】

（変形例３における他の工夫１３：デモ状態移行）

例えば、非確変状態では、遊技終了あるいは何らかの操作（例えばメニュー表示や音量調整など）が行われてから所定期間（例えば、１分など）の経過という特定条件の成立でデモ画面（客待ち画面）などが表示されるデモ状態へ移行可能とするが、確変状態では、特定条件が成立するタイミングでもデモ状態への移行が行われないものとしてもよい。これにより、確変中に一時的に遊技者が離席したときに、他の遊技者が確変中の台を目撃しやすくなり、当たっているシーンを印象付けることで当該遊技機への興味を引き付けやすくなる。なお、デモ状態中において確率状態を有するゲーム性である旨を説明する動画や静止画を表示可能としてもよい。斬新なゲーム性であるため事前説明があった方が遊技者にとって親切である。また、メニュー画面（例えばユーザーメニュー）から演出ボタンなどを操作することでゲームフローなどのゲーム性に関する説明を表示可能としてもよい。

【５８４１】

（変形例３における他の工夫１４：連荘回数に応じた演出）

非確変ボーナスの作動中あるいは作動終了時などに確変終了演出を行ってもよい。また、確変中のボーナス当籤に関して所定条件を充足した場合には、確変終了となるボーナスの作動中や終了時に確変終了演出として所定条件を充足しない場合とは異なる特殊演出を実行可能としてもよい。例えば、確変中にボーナスが１０連以上（非確変中に当籤した初当たりの確変ボーナスを１回目としてカウントしてもよいし、カウントしなくともよい）した場合は、確変終了となるボーナスの作動中に特殊演出としてのスペシャルムービーが流れるが、９連以下の場合は通常の確変終了ムービーが流れるなどとしてもよい。また、スペシャルムービーでは設定示唆演出を実行可能としたり、あるいはスペシャルムービーが流れることで携帯連動機能上のミッションがクリアとなったりするなど、それによって何らかの特典が付与されるようにしてもよい。

【５８４２】

また、非確変ボーナス終了時の終了画面を確変終了画面として確変継続時とは異なる終了画面を表示させてもよい。例えば、確変継続時は「ＧＥＴ２００枚　ＴＯＴＡＬ４００枚　２連荘中」などと当該ボーナスでの純増枚数、確変中（非確変中に当籤した初当たり確変ボーナスの枚数を含んでいてもよいし、含まないようにしてもよい）のトータル枚数、現時点の連荘回数などを表示し、確変終了時は「ＧＥＴ２００枚　ＴＯＴＡＬ９５０枚　５連荘　おめでとう」などと連荘回数に応じたメッセージやキャラクタなどを表示してもよい。また、連荘回数に応じて確変中やボーナス中の映像やＢＧＭなどが変化するものとしてもよいし、演出選択やＢＧＭ選択で選択できる種類が連荘回数に応じて増加してもよい。

【５８４３】

（変形例３における他の工夫１５：確変終了画面とデモ状態移行）

確変終了時は、遊技者にとって遊技を終了しようというやめどきになりやすい。したがって、非確変ボーナス終了時の確変終了画面が表示された状態でクレジットを計数（メダルレス機であれば専用ユニットへの転送（例えば計数ボタンへの操作）、メダル機であればクレジットをメダルとして払い出す精算（例えば精算ボタンへの操作）を含む）する遊技者も出てくる。そのような確変終了画面で計数が行われた場合は、それを特定条件の成立としてデモ状態へ移行することが望ましい。確変終了画面が維持されるものとしてもよいが、維持される仕様だと空き台が確変終了画面ばかりとなってしまい、新たに遊技しようという遊技者が確変終了画面を見て遊技意欲を低下させてしまうおそれがあると考えられる。なお、前述のとおり、そのような確変終了画面で何ら操作が行われずに所定期間（例えば、１分など）が経過した場合にもデモ状態へ移行することが望ましい。

【５８４４】

また、計数後や所定期間経過後のデモ画面表示中にベット操作が行われた場合の復帰先

は確変終了画面としてもよいし、非確変中の通常演出画面（通常のステージ背景演出など）としてもよい。確変終了画面に戻る場合は、レバーオンで非確変中の通常演出画面へ切り替わることとなり、一旦デモ画面に移行した後でも確変中のリザルト（例えば上述のトータル枚数など）を再確認できる点で便利である。一方、デモ画面からの復帰先を通常演出画面とした場合、１人目の遊技者が確変終了画面で計数して遊技終了してデモ画面へ移行した後、２人目の遊技者が打ち始めるためにベットした局面を想定すると、２人目の遊技者に自分とは関係ない遊技者の結果を見せずに済むというメリットがある。少ないトータル枚数で確変が終わることも少なからずあるので、そういった残念な結果表示を見せることを防止でき、遊技意欲の低下を抑制し得る。なお、ここまでに説明した確変終了画面に関する仕様は、非確変中に引いた非確変ボーナス終了時の終了画面についても適用可能である。

【５８４５】

（変形例３における他の工夫１６：取りこぼしＲＴ移行図柄を非搭載とする）

確変状態及び非確変状態のいずれにおいても（あるいは、少なくとも２枚ベット固定状態である確変状態においては）、ボーナス非内部中（ボーナス役に当籤しておらず、かつ、持ち越されてもいない状態）にて取りこぼしが発生するとＲＴ移行に係る図柄組合せ（移行図柄）が表示される特定役（例えば小役やＳＢなど）は備えないものとすることが望ましい。すなわち、特定役に係る取りこぼし出目（例えば、特定役に当籤したときに、適切なタイミングで停止操作を行った場合には表示されないが、適切なタイミングで停止操作を行わなかった場合には表示されることとなる特定のハズレ出目、あるいは正解打順で停止操作を行った場合には表示されないが、不正解打順で停止操作を行わなかった場合には表示されることとなる特定のハズレ出目など。なお、特定のハズレ出目は払出なし（０枚）が規定されるものに限られず、払出１枚が規定されるなど取りこぼし時であっても一定の還元があるものであってもよい）の表示ではＲＴ状態を変動させない仕様とすることが望ましい。この変形例３では、確変によるボーナス作動で遊技価値を増やすゲーム性であるので、例えば、いわゆるベルこぼし（「ベル」（特定役）の当籤時に、停止操作が適切でなかったことに起因して非入賞となること）で有利なＲＴ状態や不利なＲＴ状態などに移行するといった仕様にすると、ゲーム性が複雑になり遊技者にとって理解しづらくなるからである。

【５８４６】

（変形例３における他の工夫１７：差枚打止機能の搭載）

遊技価値の差数が予め定められた所定の閾値に到達したときに打ち止め状態（遊技不能状態）となる機能（例えば上述のコンプリート機能）を搭載して射幸性を適切に抑制してもよい。例えば、ＭＹ１９０００枚（電源投入後、最もマイナス差枚が大きいところからカウントしてプラス１９０００枚）などに到達したときに打ち止め条件が成立するものとし、打ち止め条件が成立した場合には打ち止め状態に制御されるようにしてもよい。もっとも、ボーナス（確変ボーナス及び非確変ボーナスの両方を含む）作動中に打ち止め条件が成立した場合には、すぐ（成立したゲームの終了時）には打ち止め状態に制御せず、当該ボーナスの終了までは遊技可能とし、当該ボーナスが終了したときに打ち止め状態に制御されるようにすればよい。なお、確変中であってもボーナス非作動状態で打ち止め条件が成立したときは、成立したゲームの終了時に打ち止め状態に制御されることとなる。

【５８４７】

また、打ち止め状態が唐突に発生すると遊技者の心象を悪くするため、打ち止め状態の５００枚手前などから、打ち止め状態の発生まであと５００枚であるといった事前報知を行ってもよい。また、携帯連動機能を有する機種については、打ち止め状態においても携帯端末で撮影可能な二次元コードをユーザーメニューの操作から表示可能とし、打ち止め状態中であっても携帯連動機能の終了時二次元コードなどを表示できるもの（ログアウト操作を行い得るもの）として利便性を確保するとよい。なお、打ち止め状態中の二次元コード表示中は、打ち止め状態である旨の報知を行ってもよいし、一時的に打ち止め状態である旨の報知を行わない（そのような画面を非表示とする）ようにしてもよい。また、打

ち止め状態（コンプリート機能）に関連する各種の制御などは、他の実施形態で説明したものを適用可能であり、ここで説明したものに限定されない。

【５８４８】

（変形例３における他の工夫１８：状態移行ボーナスの獲得枚数）

確変ボーナス（確変状態に状態移行させることが可能なボーナス）や非確変ボーナス（非確変状態に状態移行させることが可能なボーナス）の獲得枚数があまりにも少ないと、単なる状態移行契機と遊技者に認識されるおそれがあり、また、確変状態に入ってもほとんど遊技価値を獲得できないまま終了してしまうといった事象が生じる可能性がある。そこで、確変ボーナス及び／又は非確変ボーナスは、特定枚数以上の純増期待値を有する（すなわち、対象となる状態移行ボーナスの作動で特定枚数以上は遊技価値が増加し得る設計とする）ことが望ましい。特定枚数は、例えば５０枚とすることができる。そのようにすれば、状態移行ボーナスでは、少なくとも一般的な貸出レートで概ね１０００円程度で借りられる遊技価値数以上の遊技価値が付与されるように構成することができる。

【５８４９】

（変形例３における他の工夫１９：状態移行ボーナスの当籤確率の下限）

確変ボーナスの当籤確率が低すぎると確変状態への移行が遠くなって遊技性が低下する（損なわれる）おそれがあるし、非確変ボーナスの当籤確率が低すぎると確変状態の終了が遠くなって射幸性が高くなり過ぎるおそれがある。そこで、少なくとも確変ボーナスや非確変ボーナスとして機能し得る各ボーナス役の当籤確率は一定確率以上とする（換言すれば、そのような一定確率未満の当籤確率としたボーナス役は、確変ボーナスや非確変ボーナスとしては機能し得ないようにする）ことが望ましい。なお、その確率は、例えば「１／６０００」以上とするなど概ね１日に１回は出現する程度の確率とすることができる。

【５８５０】

〇仕様例１

・確変ボーナス１：１／５５４４

・確変ボーナス２：１／５５４４

・非確変ボーナス：１／５５４４

この仕様例１では、上述の基準例（確変ボーナスや非確変ボーナスとして機能し得る各ボーナス役の当籤確率を「１／６０００」以上とする）を満たすと考えられる。

【５８５１】

〇仕様例２

・確変ボーナス１：１／８１９２

・確変ボーナス２：１／８１９２

・非確変ボーナス：１／５５４４

この仕様例２では、確変ボーナス全体としては合算で「１／４０９６」であるとしても、

確変ボーナス１と確変ボーナス２のそれぞれで判断すればその当籤確率は「１／６０００」未満であるため、上述の基準例を満たさないと考えられる。よって、あくまで上述の基準例の観点からは望ましくない仕様であると考えられる。むろん、確変ボーナス１と確変ボーナス２が、例えば、別フラグであっても同一性能（純増期待値が同じなど）であり、合算して判断することが妥当であるならば、この仕様例２でも上述の基準例を満たし得るとしてもよい。

【５８５２】

（変形例３における他の工夫２０：役物非作動中には遊技価値を増加させない）

変形例３はあくまでボーナスの作動（より詳細には「役物」の作動）により遊技価値を増やすというコンセプトである。そのため、役物非作動中はどのように遊技を行ったとしても、少なくともＳＩＭ試験上はその状態での遊技価値の付与期待値がマイナスになる（設計上の出玉率を１未満とする）ものとしてもよい。なお、役物非作動中とは、非確変状態中の非ボーナス状態や確変状態の非ボーナス状態のみならず、役物連続作動装置（ＢＢ

）の作動中の役物非作動状態（例えばＢＢ一般中など、ＢＢ中であっても「役物」（第１種特別役物であるＲＢ）が作動していない状態）も含み得るものである。むろん、これはあくまでそのような状態全体の出玉率についてであり、例えば１ゲームで４枚以上の払出がある小役を搭載し、当該ゲームに限れば遊技価値の付与期待値がプラスになるとしても問題はない。また、役物連続作動装置の作動中の役物非作動状態は、少なくとも役物連続作動装置は作動している状態であるから、この状態は役物作動状態に準じたものと捉え（そのように取り扱い）、当該状態においては少なくともＳＩＭ試験上の遊技価値の付与期待値がプラスになるものとしてもよい。

【５８５３】

（変形例３における他の工夫２１：確変中の確変終了抽籤）

変形例３では、確変状態は非確変ボーナスによってのみ終了する仕様例を説明したが、確変状態を終了させる仕様はこれに限られない。例えば、確変状態中においては確変終了抽籤を行い、当該抽籤に当籤した場合に確変状態を終了させるといった仕様を採ることもできる。そのような仕様を採った場合は、確変終了抽籤で確変状態を終わらせることができるため、非確変ボーナスを搭載しない仕様とすることもできる。なお、確変終了抽籤は、当籤役にかかわらず毎ゲーム一定の確率で抽籤が行われるものであってもよいし、消化ゲーム数や電源投入時からの差枚数に応じて抽籤確率が変化したり、当籤役に応じて当籤確率が異なったりするものであってもよい。

【５８５４】

また、確変終了抽籤は、純粋な状態移行抽籤としてもよいし、その結果が確変終了ボーナスとなることを含む内部抽籤にその役割をもたせてもよい。後者の場合、例えば、実質的に確変状態終了の役割だけを果たすといってよい確変終了ボーナスを確変状態で抽籤可能とし、これに当籤した場合にはその確変終了ボーナスの終了時（内部的には当籤時や入賞時であってもよい）に確変状態を終了させるものとしてもよい。なお、確変終了ボーナスは、例えば、その状態中が純増０枚（例えば、２枚ベットで毎ゲーム２枚役が成立するなど）で終了する無増減ボーナスとして構成することもできるし、その状態中の遊技価値の付与期待値がマイナスになる減少ボーナスとして構成することもできる。あるいは、５０枚未満の遊技価値は付与され得る上述の小枚数ボーナスとして構成することもできる。むろん、上述の如く通常のボーナスとして構成することもできる。

【５８５５】

（変形例３における他の工夫２２：非確変中の確変突入抽籤）

変形例３では、確変状態は確変ボーナスによってのみ移行する仕様例を説明したが、確変状態に移行させる仕様はこれに限られない。例えば、非確変状態中においては確変突入抽籤を行い、当該抽籤に当籤した場合に確変状態に移行させるといった仕様を採ることもできる。そのような仕様を採った場合は、確変突入抽籤で確変状態に移行させることができるため、確変ボーナスを搭載しない仕様とすることもできる。なお、確変突入抽籤は、当籤役にかかわらず毎ゲーム一定の確率で抽籤が行われるものであってもよいし、消化ゲーム数や電源投入時からの差枚数に応じて抽籤確率が変化したり、当籤役に応じて当籤確率が異なったりするものであってもよい。

【５８５６】

また、確変突入抽籤は、純粋な状態移行抽籤としてもよいし、その結果が確変突入ボーナスとなることを含む内部抽籤にその役割をもたせてもよい。後者の場合、例えば、実質的に確変状態移行の役割だけを果たすといってよい確変突入ボーナスを非確変状態で抽籤可能とし、これに当籤した場合にはその確変突入ボーナスの終了時（内部的には当籤時や入賞時であってもよい）に確変状態に移行させるものとしてもよい。なお、確変突入ボーナスは、例えば、その状態中が純増０枚（例えば、２枚ベットで毎ゲーム２枚役が成立するなど）で終了する無増減ボーナスとして構成することもできるし、その状態中の遊技価値の付与期待値がマイナスになる減少ボーナスとして構成することもできる。あるいは、５０枚未満の遊技価値は付与され得る上述の小枚数ボーナスとして構成することもできる。むろん、上述の如く通常のボーナスとして構成することもできる。

【５８５７】
（変形例３における他の工夫２３：確変状態を複数有する）
　変形例３では、確変状態は１つであったが、これを複数有するように構成することもできる。
〇仕様例
・非確変状態：確変ボーナス確率「１／６００」／非確変ボーナス確率「１／６００」
・弱確変状態：確変ボーナス確率「１／２００」／非確変ボーナス確率「１／２００」
・強確変状態：確変ボーナス確率「１／５０」／非確変ボーナス確率「１／１００」
　この仕様例では、第１の確変状態（弱確変状態）と、それよりも有利な第２の確変状態（強確変状態）を備えるものとしている。なお、複数の確変状態の有利度合いを異ならせる手法はこれに限られない。例えば、ボーナス確率や遊技価値の付与期待度は基本的に同じであるが、（確変ボーナスの占有率を異ならせることで）確変継続率を第２の確変状態のほうが高くなるようにする、あるいは、上述の確変終了抽籤に当籤する確率を第２の確変状態のほうが低くなるようにするといったことも考えられる。また、第１の確変状態は２枚ベット固定状態として構成されるが、第２の確変状態は１枚ベット固定状態として固定されるなど、固定されるベット数を変動させて（それに付随して上述の如くいずれかの抽籤確率などを変動させることを含む）有利度合いを変動させてもよい。むろん、他の実施形態で説明した、第１の状態と、それよりも有利な第２の状態との間で有利度合いを変動させる種々の手法も適用可能である。
【５８５８】
　また、非確変状態からいずれの確変状態へも移行可能とする仕様としてもよいし、非確変状態→弱確変状態→強確変状態と段階的に移行可能とする仕様してもよい。また、強確変状態に滞在しているときにその終了条件が成立した場合は、弱確変状態に移行する（確変状態が１段階転落する）ものとしてもよいし、非確変状態へ移行するものとしてもよい。また、確変状態は２つに限定されず、それ以上の種別数（例えば３つ以上）を有していてもよい。各状態のゲームバランス（有利度合いの変化程度）については、上述の如く種々の手法を適宜採用し得る。
【５８５９】
（変形例３における他の工夫２４：ボーナス作動中にボーナス当籤可能）
　ボーナス作動中に、ＢＢ等の「他のボーナス役」を当籤可能としてもよい。ここで「他のボーナス役」とは、ＢＢ中に作動可能なＲＢ役という意味ではなく、当該ボーナス（例えば１回目のＢＢ）の作動終了後に、（１回目のＢＢ中においてすでに）持ち越されたボーナス（例えば２回目のＢＢ）をすぐに揃えることができるといった意味である。この仕様では、持ち越し可能なボーナスの数を１つとしてもよいし、複数個を持ち越し可能としてもよい。こうすることで、確変中のボーナス確率が高いという恩恵をボーナス作動中にも受けることができて、ボーナス１Ｇ連の期待感を持ちつつ、ボーナス作動中を消化できるようになる。
【５８６０】
（変形例３における他の工夫２５：確変状態のゲーム数管理）
　他の例でも説明したように、確変状態をゲーム数（確変ゲーム数）で管理してもよい。なお、この確変ゲーム数は基本的に変動しないゲーム数（例えば上述の規定回数など）として構成することもできるし、変動し得るゲーム数として構成することもできる。後者の場合、例えば、確変ボーナスの終了時（成立時、あるいは、入賞時やボーナス消化中でもよい）に確変ゲーム数を付与し、その確変ゲーム数が０になるまで確変状態が継続するという仕様としてもよい。また、確変ゲーム数は、確変中のボーナス状態においても減る（確変状態の遊技期間が進行する）ものとしてもよいし、確変中の非ボーナス状態（ＢＢ内部中を含んでもよいし、含まないようにしてもよい）に限り減るものとしてもよい。また、確変中に所定役（例えばレア役など）に当籤したこと、あるいは確変中に確変ボーナスに当籤したことなどに応じて確変ゲーム数の上乗せ（延長）を実行可能に構成してもよい。この仕様の場合、確変状態を終了させる非確変ボーナスは確変状態中において当籤しな

い（非確変ボーナスを搭載しない）ものとすることが望ましいが、非確変ボーナスを搭載する場合は、確変状態中に非確変ボーナスが成立したことに応じて残りの確変ゲーム数にかかわらず確変状態が終了するといった仕様とすることもできる。

【５８６１】

このように、ボーナス終了後を有利にする変形例３の遊技機では、さらに以下のような技術的思想が得られる。

【５８６２】

（１）　非ボーナス状態において、第１ベット数（例えば３枚ベット）で遊技が可能である一方、第２ベット数（例えば２枚ベット）では遊技を可能としない（第１ベット数でのみ遊技が可能な）通常状態と、

非ボーナス状態において、第２ベット数（例えば２枚ベット）で遊技が可能である一方、第１ベット数（例えば３枚ベット）では遊技を可能としない（第２ベット数でのみ遊技が可能な）特別状態と、があり、

特別条件が成立した場合（例えば特定のボーナス状態が終了した場合）に特別状態とすることが可能であり、

特別状態は、通常状態よりもボーナス役の当籤確率が高い状態（例えばボーナス確変状態）である、遊技機である。

【５８６３】

（２）　第１作動条件が成立した場合（例えば「赤ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示された場合）に作動する第１ボーナス状態（例えば赤ＢＩＧ）と、

第２作動条件が成立した場合（例えば「青ＢＢ」に対応する図柄組合せが表示された場合）に作動する第２ボーナス状態（例えば青ＢＩＧ）と、があり、

第１ボーナス状態は、第２ベット数（例えば２枚ベット）で遊技が可能である一方、第１ベット数（例えば３枚ベット）では遊技を可能としない（第２ベット数でのみ遊技が可能な）状態（例えば２枚ベット固定状態）であり、

第２ボーナス状態は、第１ベット数（例えば３枚ベット）で遊技が可能である一方、第２ベット数（例えば２枚ベット）では遊技を可能としない（第１ベット数でのみ遊技が可能な）状態（例えば３枚ベット固定状態）であり、

第１ボーナス状態の終了後が特別状態となり、第２ボーナス状態の終了後が通常状態となる、遊技機である。

【５８６４】

このような遊技機によれば、ボーナス状態でのベット数をその終了後の非ボーナス状態に引き継ぐだけでボーナス確変状態を実現することができるため、斬新かつ興趣の高い遊技性を実現しつつ、制御負荷が増大してしまうことも抑制することができる。また、そのような遊技性を実現する上で、規則に抵触する可能性も軽減することができる。

【５８６５】

［メイン側カウンタ補正による演出制御］

本実施形態では、次に図４６６～図４７４を参照して、メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する。

【５８６６】

まず、図４６６を参照して、この実施形態の仕様例と、セット数上乗せ抽籤例を説明する。この実施形態の遊技機（パチスロ機１）では、ＡＴ機能（ＡＴ状態）を有しているものとする。なお、ＡＴ状態そのものの仕様は、他の実施形態ですでに説明したものを適用可能であり、また種々の変形も可能であるため、ここでは、メイン側カウンタ補正による演出制御を説明する上で必要な仕様の概要を説明する。

【５８６７】

非ＡＴ状態は、ＡＴ機能が作動していない（遊技者に有利な停止操作の情報が報知されない）状態である。非ＡＴ状態においてＡＴ状態の開始条件が成立すると、ＡＴ状態に移行する（図４６６中、ＡＴ開始）。

【５８６８】

ＡＴ状態は、ＡＴ機能が作動している（遊技者に有利な停止操作の情報が報知され得る）状態である。この仕様例では１セットが１００ゲームで管理される。なお、ここでは、後述のメイン側カウンタ補正の説明をわかりやすくするため、ＡＴ状態がセット数管理される一例を挙げて説明しているが、ＡＴ状態の管理手法はこれに限られない。例えば、ＡＴ状態がゲーム数管理、差枚数管理、あるいはナビ回数管理ものにも適用可能である。この場合、補正対象となるメイン側カウンタを、ゲーム数、差枚数、あるいはナビ回数に対応するものとすればよい。

【５８６９】

ＡＴ状態では、セット数単位でその遊技期間が延長され得る。例えば、１セットの上乗せが発生した場合にはゲーム数換算で１００ゲーム分が延長されるし、１０セットの上乗せが発生した場合にはゲーム数換算で１０００ゲーム分が延長される。なお、上乗せされたセット数は後述のメイン側ストックカウンタによって保持される。

【５８７０】

例えば、ＡＴ状態が開始された１セット目で、１セットの上乗せが発生した場合、メイン側ストックカウンタに１が加算される。また、１０セットの上乗せが発生した場合、メイン側ストックカウンタに１が加算される。そして、１セットのＡＴ状態が消化されたとき（当該セットの１００ゲームを消化したとき）、メイン側ストックカウンタの値が１以上であれば、メイン側ストックカウンタの値を１減算した上で（セット数のストックを消費した上で）、次のセットのＡＴ状態が開始される（ＡＴ状態が継続する）。

【５８７１】

一方、１セットのＡＴ状態が消化されたとき（当該セットの１００ゲームを消化したとき）、メイン側ストックカウンタの値が０であれば、当該セットでＡＴ状態を終了させる（図４６６中、ＡＴ終了（通常））。

【５８７２】

また、メイン側ストックカウンタの値が１以上の場合であっても、例えば払出数リミッタ（コンプリート機能と置き換えてもよい）が作動した場合にはＡＴ状態が（強制的に）終了することがある（図４６６中、ＡＴ終了（リミッタ））。なお、払出数リミッタの各種仕様についてはすでに他の実施形態で説明したため、ここでの説明は省略している。

【５８７３】

なお、この仕様例では、メイン側ストックカウンタの上限値が「１００」（この値は一例に過ぎず、例えば１バイトで管理可能な「２５５」などとしてもよい）に設定されており、例えば、現在のメイン側ストックカウンタの値が「９９」である状況で１０セットの上乗せが発生したとしても、メイン側ストックカウンタは１加算されて「１００」となり、残り９セットの上乗せは反映されない仕様となっている。

【５８７４】

もっとも、メイン側ストックカウンタの値が「５０」程度あれば、純増枚数などとの関係から払出数リミッタの規定枚数に到達する（すなわち、払出数リミッタの作動によってＡＴ状態が終了する）設計となっており、例えば上述の如く上乗せ結果が反映されない場合があったとしても、それによって遊技者が不利益を被らないように設計されている（換言すれば、メイン側ストックカウンタの上限値は仕様的なもので、それによって遊技者の利益には影響を与えない仕様となっている）。

【５８７５】

ＡＴ状態中のセット数の上乗せ抽籤は、例えば図４６６に示すセット数上乗せ抽籤テーブルを用いて行われる。例えば、その遊技の内部当籤役が「スイカ」であった場合、「１／８」（抽籤値が「３２」で確率分母が「２５６」）の確率で上乗せセット数が「１」又は「２」となることが決定され、「１／２」（抽籤値が「１２８」で確率分母が「２５６」）の確率で上乗せセット数が「５」となることが決定され、「１／４」（抽籤値が「６４」で確率分母が「２５６」）の確率で上乗せセット数が「１０」となることが決定される。

【５８７６】

また、例えば、その遊技の内部当籤役が「チャンス目」（リプレイ役として構成されるものあってもよいし、小役として構成されるものであってもよい）であった場合、「１／２」（抽籤値が「１２８」で確率分母が「２５６」）の確率で上乗せセット数が「５」となることが決定され、「１／２」（抽籤値が「１２８」で確率分母が「２５６」）の確率で上乗せセット数が「１０」となることが決定される。むろん、これらは一例を示すものに過ぎない。

【５８７７】

近年、この種の遊技機（パチスロ機１）では、その遊技期間の管理を含めＡＴ状態に関する制御がメイン側（遊技制御手段側）で行われることが一般的となっている。そして、サブ側（演出制御手段側）では、メイン側から送信される各種コマンドに含まれる情報にしたがってＡＴ状態に関する演出制御を行う。メイン－サブ間は、メイン側からサブ側への一方向通信となっているのが通常である。したがって、メイン側でどの程度セット数がストックされているのかはサブ側では直接把握することができない。

【５８７８】

すなわち、例えば、上述の例でいうと、現在のメイン側ストックカウンタの値が「９９」である状況において、「スイカ」の内部当籤役が決定された場合であって、セット数上乗せ抽籤の結果が上乗せセット数「１」である場合、上乗せ抽籤結果が「１」であり、その結果が反映されたメイン側ストックカウンタの値も「１００」であり、この状況でメイン側からサブ側にメイン側ストックカウンタの値が送信されるとすると、メイン側の遊技結果（上乗せ抽籤結果）とサブ側で把握される遊技結果との間に齟齬は生じないことになる。したがって、サブ側の上乗せ演出で、例えば「＋１ｓｅｔ」という表示が行われても何ら問題は生じない。

【５８７９】

一方、現在のメイン側ストックカウンタの値が「９９」である状況において、「スイカ」の内部当籤役が決定された場合であって、セット数上乗せ抽籤の結果が上乗せセット数「１０」である場合、上乗せ抽籤結果は「１０」であるが、メイン側ストックカウンタの値にはそのうちの「１」しか反映されない（メイン側ストックカウンタの上限値は１００であるため）。この状況でメイン側からサブ側にメイン側ストックカウンタの値が送信されるとすると、メイン側の遊技結果（上乗せ抽籤結果）とサブ側で把握される遊技結果との間に齟齬が生じることとなる。もっとも、サブ側の上乗せ演出で、例えば「＋１ｓｅｔ」という表示が行われても、上述の如く「スイカ」当籤で１セットの上乗せが発生する場合もあることから、遊技者に違和感を与えるおそれは少ないと考えられる。

【５８８０】

これに対し、現在のメイン側ストックカウンタの値が「９９」である状況において、「チャンス目」の内部当籤役が決定された場合であって、セット数上乗せ抽籤の結果が上乗せセット数「１０」である場合、上乗せ抽籤結果は「１０」であるが、メイン側ストックカウンタの値にはそのうちの「１」しか反映されない（メイン側ストックカウンタの上限値は１００であるため）。この状況でメイン側からサブ側にメイン側ストックカウンタの値が送信されるとすると、メイン側の遊技結果（上乗せ抽籤結果）とサブ側で把握される遊技結果との間に齟齬が生じることとなる。ここで、「チャンス目」の内部当籤役が決定された場合には５セット以上の上乗せが確定することから（図４６６参照）、このときのサブ側の上乗せ演出で、例えば「＋１ｓｅｔ」という表示が行われてしまうと、遊技者にかなりの違和感を与えてしまうことになる。

【５８８１】

すなわち、一定程度の遊技知識を有する遊技者であれば、もはやこれ以上の上乗せは発生しない（メイン側ストックカウンタがカンストしている）、あるいは付与されたセット数が無駄になってしまったなどの状況が簡単に把握できてしまうため、その後のＡＴ状態での遊技が惰性となってしまい、結果として興趣を低下させてしまうおそれがあった。このメイン側カウンタ補正による演出制御の仕様例は、そのような状況が発生することを抑制するための工夫をなしたものである。以下、その点を主としてさらに説明する。

【５８８２】
＜補正を行わない場合の遊技の流れの一例（レバーＯＮ時上乗せ抽籤）＞
まず、図４６７及び図４６８を参照して、メイン側ストックカウンタの補正を行わない場合の遊技の流れの一例であって、セット数上乗せ抽籤がレバーＯＮ時（開始操作時）に行われる場合を説明する。
【５８８３】
図中の「ＬＯ時抽籤」は、レバーＯＮ時に行われるセット数上乗せ抽籤を示し、「ＬＯ時送信」は、レバーＯＮ時のセット数上乗せ抽籤の結果が反映された現在のメイン側ストックカウンタの値を、遊技開始時期にメイン側からサブ側へ送信することを示し、「差分」は、サブ側で把握される、前回メイン側からサブ側へ送信されたメイン側ストックカウンタの値と、今回メイン側からサブ側へ送信されたメイン側ストックカウンタの値との差分を示し、「３オフ時送信」は、第３停止操作（最終停止操作）におけるストップボタンの押下が解除されたとき（すなわち、遊技終了時期）に、現在のメイン側ストックカウンタの値をメイン側からサブ側へ送信することを示している。
【５８８４】
また、サブ側ストックカウンタは、メイン側から送信されたメイン側ストックカウンタの値に基づき、サブ側でもストックされているセット数を（メイン側とは別に）把握するためのカウンタである。また、「演出例」は、例えば上述の「上乗せ演出」の演出例を示すものである。
【５８８５】
この例において、現在のメイン側ストックカウンタの値が８１であったとする。１ゲーム目の当籤役がリプレイであり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「ハズレ」（上乗せセット数「０」）であった場合、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８１」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と前回（例えば前ゲームの「３オフ時送信」で）送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は０である。よって、サブ側では「（上乗せ）無し」の上乗せ演出を実行することを決定する。その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８１」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。
【５８８６】
続いて、２ゲーム目の当籤役がスイカであり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９１」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と１ゲーム目の「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９１」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。
【５８８７】
続いて、３ゲーム目の当籤役がチェリーであり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「９１」であるため、（全てを反映させると上限値を超えてしまうことから）この上乗せセット数「１０」は一部（上限値までの差分「９」）のみがメイン側ストックカウンタに反映され、メイン側ストックカウンタの値が「１００」となる。

【５８８８】
　そして、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「１００」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「１００」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と２ゲーム目の「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は９である。よって、サブ側では「＋９ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。ここで、図４６６に示すとおり、この例におけるセット数上乗せ抽籤では、上乗せセット数「９」が決定される振分は存在しない。したがって、サブ側でこのような上乗せ演出が行われた場合には上述の如く違和感を与えてしまうことになる。
【５８８９】
　その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「１００」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「１００」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。
【５８９０】
　続いて、４ゲーム目の当籤役がチャンス目であり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「１００」であるため、（すでに上限値となっていることから）この上乗せセット数「１０」はメイン側ストックカウンタには全く反映されず、メイン側ストックカウンタの値は「１００」のままとなる。
【５８９１】
　そして、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「１００」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「１００」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と３ゲーム目の「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は０である。よって、サブ側では「（上乗せ）無し」の上乗せ演出を実行することを決定する。ここで、図４６６に示すとおり、この例におけるセット数上乗せ抽籤では、チャンス目は上乗せ確定となる当籤役である。したがって、サブ側でこのような上乗せ演出が行われた場合には上述の如く違和感を与えてしまうことになる。
【５８９２】
　その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「１００」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「１００」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。
【５８９３】
　このように、サブ側でメイン側の遊技結果（上乗せ抽籤結果）を直接把握することなく最終結果（メイン側ストックカウンタの値）のみを把握するように構成した場合、メイン側からサブ側に送信する情報量や制御負荷を軽減できるメリットがある一方で、何ら手立てを講じることなく例えば上述の３ゲーム目や４ゲーム目のような状況が発生してしまうとすると、遊技者に違和感を与え興趣を低下させてしまうおそれがある。そこで、メイン側ストックカウンタの値に対し、状況に応じて適切な補正を行い得るように構成する。その一例を以下に説明する。
【５８９４】
＜補正を行った場合の遊技の流れの一例（レバーＯＮ時上乗せ抽籤）＞
　図４６９及び図４７０を参照して、メイン側ストックカウンタの補正を行った場合の遊技の流れの一例であって、セット数上乗せ抽籤がレバーＯＮ時（開始操作時）に行われる場合を説明する。なお、メイン側ストックカウンタの補正を行わない場合の遊技の流れの一例（図４６７及び図４６８参照）においてすでに説明したものと同様の構成については、ここでの説明を省略している。
【５８９５】

この例において、現在のメイン側ストックカウンタの値が８１であったとする。１ゲーム目の流れについては、メイン側ストックカウンタの補正を行わない場合の遊技の流れの一例（図４６７参照）と同じである。

【５８９６】

続いて、２ゲーム目の当籤役がスイカであり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９１」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と１ゲーム目の「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。

【５８９７】

ここで、この例では、現在のメイン側ストックカウンタの値が、遊技者に違和感を与える上乗せ演出が行われ得る可能性が生じるとして定めた閾値である「８９」を超えるものとなった場合、「３オフ時送信」が行われる前にメイン側ストックカウンタの値を「８９」に補正する補正処理が行われるようにしている（図中の「３オフ時補正」）。よって、その後の「３オフ時送信」では、補正後のメイン側ストックカウンタの値「８９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８９」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。

【５８９８】

続いて、３ゲーム目の当籤役がチェリーであり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「８９」に補正されているため、この上乗せセット数「１０」は全部がメイン側ストックカウンタに反映され、メイン側ストックカウンタの値が「９９」となる。

【５８９９】

そして、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９９」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と２ゲーム目の「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。したがって、サブ側で行われる上乗せ演出は違和感を与えないものとなる。

【５９００】

そして、「３オフ時送信」が行われる前に「３オフ時補正」が行われ、メイン側ストックカウンタの値が「８９」に補正される。その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８９」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。

【５９０１】

続いて、４ゲーム目の当籤役がチャンス目であり、当該ゲームの「ＬＯ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「８９」に補正されているため、この上乗せセット数「１０」は全部がメイン側ストックカウンタに反映され、メイン側ストックカウンタの値が「９９」となる。

【５９０２】

そして、「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９９」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と３ゲーム目の「３オフ時送信」

で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。したがって、サブ側で行われる上乗せ演出は違和感を与えないものとなる。

【５９０３】

そして、「３オフ時送信」が行われる前に「３オフ時補正」が行われ、メイン側ストックカウンタの値が「８９」に補正される。その後の「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８９」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。

【５９０４】

このように、メイン側ストックカウンタの値が「８９」を超えるものとなった場合、サブ側で所定の演出制御が行われた（例えば、差分を演算して上乗せ演出が実行された）後は、その後にメイン側ストックカウンタの値が送信される前にメイン側ストックカウンタの値を「８９」に補正する。セット上乗せ抽籤では最大でも上乗せされるセット数が１０セットであることから、このようにすれば、メイン側ストックカウンタに上限値が設けられている場合であっても、遊技者に違和感を与える上乗せ演出が実行されてしまうことを防止できるため、興趣を低下させてしまう状況の発生を抑制することができる。

【５９０５】

＜制御例（レバーＯＮ時上乗せ抽籤）＞

図４７１を参照して、上述の補正処理を含むメイン側の制御例を説明する。

【５９０６】

メインＣＰＵ（例えばメインＣＰＵ１０１）は、開始操作が行われたことに応じてレバーＯＮ時処理を実行する。レバーＯＮ時処理において、メインＣＰＵは内部当籤役を決定（内部抽籤処理を実行）する（Ｓ　ＣＴＲ１）。この処理では、当該ゲームの当籤役（内部当籤役）が決定される。

【５９０７】

次いで、メインＣＰＵはＡＴ関連処理を行う（Ｓ　ＣＴＲ２）。この処理では、例えば非ＡＴ状態であればＡＴ移行抽籤が行われ、当該抽籤に当籤した場合にはＡＴ状態に移行させる処理が行われる。また、例えばＡＴ状態であればセット数上乗せ抽籤（「ＬＯ時抽籤」）が行われ、当該抽籤で上乗せセット数が決定された場合には決定された上乗せセット数をメイン側ストックカウンタに加算する処理が行われる。また、その他ＡＴ状態の開始、継続、あるいは終了に関する各種処理も行われる。

【５９０８】

次いで、メインＣＰＵはメインからサブへの送信処理を行う（Ｓ　ＣＴＲ３）。この処理では、メイン側からサブ側へメイン側ストックカウンタの値などが送信される（「ＬＯ時送信」）。

【５９０９】

メインＣＰＵ（例えばメインＣＰＵ１０１）は、第３停止操作（最終停止操作）におけるストップボタンの押下が解除されたことに応じて３ＯＦＦ時処理を実行する。３ＯＦＦ時処理において、メインＣＰＵはカウンタ補正処理を行う（Ｓ　ＣＴＲ４）。

【５９１０】

カウンタ補正処理では、メインＣＰＵはメイン側ストックカウンタの値が「８９」を超えているか否かを判断する（Ｓ　ＣＴＲ６）。メインＣＰＵはメイン側ストックカウンタの値が「８９」を超えていると判断した場合、メイン側ストックカウンタの値を「８９」に補正する処理（「３オフ時補正」）を行う（Ｓ　ＣＴＲ７）。一方、メインＣＰＵはメイン側ストックカウンタの値が「８９」を超えていないと判断した場合、この処理を終了する。

【５９１１】

次いで、メインＣＰＵはメインからサブへの送信処理を行う（Ｓ　ＣＴＲ５）。この処

理では、メイン側からサブ側へメイン側ストックカウンタの値などが送信される（「３オフ時送信」）。

【５９１２】

＜補正を行った場合の遊技の流れの一例（３ＯＦＦ時上乗せ抽籤）＞

図４７２及び図４７３を参照して、メイン側ストックカウンタの補正を行った場合の遊技の流れの一例であって、セット数上乗せ抽籤が３オフ時（第３停止操作（最終停止操作）におけるストップボタンの押下が解除されたとき）に行われる場合を説明する。

【５９１３】

図４６６に一例を示したセット数上乗せ抽籤は、レバーＯＮ時のみならず、３オフ時に行うことも可能である。したがって、この例では、３オフ時にセット数上乗せ抽籤を行うようにした場合（「３オフ時抽籤」の場合）の、その後に行われるメイン側ストックカウンタの値の補正処理（「ＬＯ時補正」）や「ＬＯ時送信」及び「３オフ時送信」の流れについて説明する。

【５９１４】

この例において、現在のメイン側ストックカウンタの値が８１であったとする。１ゲーム目の「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８１」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。１ゲーム目の当籤役がリプレイであり、当該ゲームの「３オフ時抽籤」の結果が「ハズレ」（上乗せセット数「０」）であった場合、「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８１」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と前回（例えば当該ゲームの「ＬＯ時送信」で）送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は０である。よって、サブ側では「（上乗せ）無し」の上乗せ演出を実行することを決定する。

【５９１５】

続いて、２ゲーム目の「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８１」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。２ゲーム目の当籤役がスイカであり、当該ゲームの「３オフ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９１」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９１」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。

【５９１６】

続いて、３ゲーム目では「ＬＯ時送信」が行われる前に「ＬＯ時補正」が行われ、メイン側ストックカウンタの値が「８９」に補正される。その後の「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８９」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。

【５９１７】

３ゲーム目の当籤役がチェリーであり、当該ゲームの「３オフ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「８９」に補正されているため、この上乗せセット数「１０」は全部がメイン側ストックカウンタに反映され、メイン側ストックカウンタの値が「９９」となる。

【５９１８】

そして、「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９９」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。したがって、サブ側で行われる上乗せ演出は違和感を与えないものとなる。

【５９１９】

続いて、４ゲーム目では「ＬＯ時送信」が行われる前に「ＬＯ時補正」が行われ、メイン側ストックカウンタの値が「８９」に補正される。その後の「ＬＯ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「８９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「８９」をサブ側ストックカウンタの値として保持する。

【５９２０】

４ゲーム目の当籤役がチャンス目であり、当該ゲームの「３オフ時抽籤」の結果が「＋１０」（上乗せセット数「１０」）であった場合、現在のメイン側ストックカウンタの値は「８９」に補正されているため、この上乗せセット数「１０」は全部がメイン側ストックカウンタに反映され、メイン側ストックカウンタの値が「９９」となる。

【５９２１】

そして、「３オフ時送信」ではメイン側ストックカウンタの値「９９」がサブ側に送信される。サブ側では、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値「９９」をサブ側ストックカウンタの値として保持するとともに、当該ゲームの「３オフ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と当該ゲームの「ＬＯ時送信」で送信されたメイン側ストックカウンタの値と比較して「差分」を演算する。当該ゲームの「差分」は１０である。よって、サブ側では「＋１０ｓｅｔ」の上乗せ演出を実行することを決定する。したがって、サブ側で行われる上乗せ演出は違和感を与えないものとなる。

【５９２２】

＜制御例（３ＯＦＦ時上乗せ抽籤）＞

図４７４を参照して、上述の補正処理を含むメイン側の制御例を説明する。なお、図４７１において説明した処理と同様の処理については、ここでの説明を省略している。

【５９２３】

メインＣＰＵ（例えばメインＣＰＵ１０１）は、第３停止操作（最終停止操作）におけるストップボタンの押下が解除されたことに応じて３ＯＦＦ時処理を実行する。３ＯＦＦ時処理において、メインＣＰＵはＡＴ関連処理（「３オフ時抽籤」など）を行う（Ｓ　ＣＴＲ２）。次いで、メインＣＰＵはメインからサブへの送信処理（「３オフ時送信」）を行う（Ｓ　ＣＴＲ５）。

【５９２４】

メインＣＰＵ（例えばメインＣＰＵ１０１）は、開始操作が行われたことに応じてレバーＯＮ時処理を実行する。レバーＯＮ時処理において、メインＣＰＵは内部当籤役を決定（内部抽籤処理を実行）する（Ｓ　ＣＴＲ１）。次いで、メインＣＰＵはカウンタ補正処理（「ＬＯ時補正」）を行う（Ｓ　ＣＴＲ４）。次いで、メインＣＰＵはメインからサブへの送信処理（「ＬＯ時送信」）を行う（Ｓ　ＣＴＲ３）。

【５９２５】

ここまで説明したメイン側カウンタ補正による演出制御では、対象となるカウンタはメイン側ストックカウンタであり、また、対象となる演出は上乗せ演出である一例を説明したが、対象となるカウンタや対象となる演出はこれに限られない。

【５９２６】

例えば、非ＡＴ状態においては、通常状態と、それよりもＡＴ状態への移行期待度が高

いＣＺ状態とがあり、ＣＺ状態では当籤役に応じたポイント付与抽籤（一回の最大付与値は１０）の結果に応じたポイントが付与され、ＣＺ状態においてポイントが７０ポイント以上となった場合にはＡＴ状態の移行が確定するものとする。そして、そのポイントをカウントするためのポイントカウンタは１００が上限値であるとする。また、ポイント付与抽籤の結果は付与演出によって報知されるものとする。

【５９２７】

この場合、上述したものと同様にポイントカウンタへの補正処理を行うようにし、付与演出が実行される際に違和感を与えることないようにしてもよい。すなわち、そのようなポイントカウンタを対象となるカウンタとし、そのような付与演出を対象となる演出としてもよい。

【５９２８】

むろん、これも一例に過ぎない。すなわち、対象となるカウンタは、遊技に関するカウンタであって、同様の条件でこれが加算されるものであればどのようなカウンタであってもよい。また、対象となる演出は、対象となるカウンタの更新状況を同様の条件で報知するものであればどのような演出であってもよい。

【５９２９】

また、図４６９～図４７１ではセット数上乗せ抽籤がレバーＯＮ時に行われ、図４７２～図４７４ではセット数上乗せ抽籤が３ＯＦＦ時に行われることを説明したが、そのような抽籤は、１ゲーム内でそれぞれ行われるものであってもよい。例えば、停止操作態様（例えば打順）によって付与される特典が変動しない所定役に当籤したときにはレバーＯＮ時にセット数上乗せ抽籤が行われるが、停止操作態様（例えば打順）によって付与される特典が変動する特定役に当籤したときには（最終的に表示された図柄組合せの種類によって抽籤内容を変動させるために）３ＯＦＦ時セット数上乗せ抽籤が行われるようにすればよい。

【５９３０】

なお、この場合、上記所定役に当籤した遊技では図４６９～図４７１に示した態様で補正処理が行われ、上記特定役に当籤した遊技では図４７２～図４７４に示した態様で補正処理が行われるものとすればよい。また、これらの処理が混在することにより不整合が生じ得るのであれば、上乗せが発生したのがいずれの時期であるか（レバーＯＮ時であるか、３ＯＦＦ時であるか）を示す識別情報（フラグ）をメイン側で格納しておき、当該識別情報の有無にしたがって補正処理を実行するかが決定されるようにすればよい。

【５９３１】

また、本例では、セット数上乗せ抽籤の抽籤結果（上乗せセット数の値）そのものはメインからサブに送信せず、これに基づいて更新された（あるいは補正処理によって更新された）更新後のメイン側ストックカウンタの値をメインからサブに送信するものとしているが、むろん、セット数上乗せ抽籤の抽籤結果（上乗せセット数の値）そのものもメインからサブに送信するものとしてもよい。あるいは、セット数上乗せ抽籤が行われた直後のメインからサブへの送信処理では、更新前のメイン側ストックカウンタの値と、更新後のメイン側ストックカウンタの値とを送信するものとしてもよい。

【５９３２】

また、本例では、補正処理によってメイン側ストックカウンタの値を補正しても、遊技者の利益には影響を与えないものとしていたが、例えば、閾値以上の特典を与えないようにして射幸性を抑制するといった観点より、補正処理によってメイン側ストックカウンタの値を補正すると遊技者の利益にも影響を与える（例えばＡＴ状態の継続ゲーム数が実際上も減る）ような構成としてもよい。

【５９３３】

［メイン側カウンタ補正による演出制御を用いた遊技機に係る発明のまとめ（付記）］

以上説明したように、メイン側カウンタ補正による演出制御を用いた遊技機では、例えば以下のような構成の遊技機を提供することができる。

【５９３４】

従来の遊技機において、遊技者に有利な停止操作の情報が報知されるＡＴ状態の遊技期間が上乗せされる場合に、上乗せされる遊技期間に応じた上乗せ演出を行うようにしたものが提案されている（例えば、特開２０１４－２００３３５号公報参照）。

【５９３５】

ところで、このような遊技機では、メイン側（遊技制御手段側）からサブ側（演出制御手段側）への一方向通信のみが可能となるように構成されており、サブ側（演出制御手段側）は、メイン側から送信される各種コマンドに含まれる情報にしたがって演出制御を行うことが通常である。また、近年は、ＡＴ状態に関する制御がメイン側で行われることが一般的となっている。したがって、上述のような上乗せ演出を行う場合、メイン側からサブ側へ必要な情報を送信する必要がある。

【５９３６】

しかしながら、メイン側のデータ容量には一定の制約があるため、そのような演出制御に必要な情報量が増加するとメイン側のデータ容量を圧迫してしまうという問題があった。一方で、メイン側のデータ容量の確保を重視するあまり適切な情報がサブ側へ送られないとすると、サブ側で適切な演出制御が行えなくなるという別の問題が生じることになる。

【５９３７】

本発明は、メイン側のデータ容量を必要以上に圧迫することなく、サブ側で適切な演出制御を行うことができる遊技機を提供することを目的とする。

【５９３８】

上記目的を達成するために、本実施形態に係る遊技機によれば、以下の遊技機を提供することができる。

【５９３９】

遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、メインＣＰＵ）と、

演出を制御する演出制御手段（例えば、サブＣＰＵ）と、を備えた遊技機（例えば、パチスロ機１）であって、

前記遊技制御手段は、

遊技制御に用いられる所定値を記憶可能な記憶手段（例えば、メイン側ストックカウンタ）と、

前記記憶手段に記憶された前記所定値を更新可能な更新手段（例えば、図４６６に示すセット数上乗せ抽籤の結果をメイン側ストックカウンタに反映させるメインＣＰＵ）と、

前記記憶手段に記憶された前記所定値を前記演出制御手段に送信可能な送信手段（例えば、図４６９～図４７４に示す「ＬＯ時送信」や「３オフ時送信」を行うメインＣＰＵ）と、を少なくとも含み、

前記演出制御手段は、第１時期（例えば、レバーＯＮ時、又は３ＯＦＦ時）に前記送信手段から送信された前記所定値と、前記第１時期とは異なる第２時期（例えば、３ＯＦＦ時、又はレバーＯＮ時）に前記送信手段から送信された前記所定値とが異なる場合、その差分に応じて所定演出（例えば、上乗せ演出）を実行させることが可能であり、

前記更新手段は、前記第１時期と前記第２時期の間で所定の加算条件が成立した場合（例えば、上乗せセット数「１０」が決定された場合）には、前記記憶手段に記憶された前記所定値を所定の値分だけ加算更新する（例えば、「＋１０」する）通常処理を実行可能であり、

前記記憶手段には、記憶可能な前記所定値の上限（例えば、「１００」）が定められており、

前記更新手段は、前記記憶手段に記憶された前記所定値が、次に前記通常処理が実行されると上限に達してしまうこととなる特定の閾値（例えば、「８９」）を超える値となった場合には、次に前記送信手段によって前記所定値が送信される前に、前記記憶手段に記憶された前記所定値を前記特定の閾値に補正する補正処理を実行可能であることを特徴とする遊技機。

【５９４０】

この構成の遊技機によれば、所定値が次の通常処理でその上限に達してしまう可能性がある場合、その所定値が次の通常処理が行われてもその上限に達することがない特定の閾値に補正された上でメイン側からサブ側に送信されるようにしたことから、メイン側で所定値のみをサブ側に送れば、サブ側では所定演出を適切に行うことができるようになる。したがって、メイン側のデータ容量を必要以上に圧迫することなく、サブ側で適切な演出制御を行うことができる。

【５９４１】

また、この構成の遊技機によれば、所定値が通常処理でその上限を超えるような状況は発生しないことから、そのような状況のための特殊処理をメイン側及びサブ側の双方で行う必要がなくなる。したがって、メイン側及びサブ側の双方で制御負荷を軽減することができるとともに、そのデータ構成の汎用性を高めることもできる。

【５９４２】

［入賞図柄表示等の仕様例］

本実施形態では、次に図４７５～図４９３を参照して、入賞図柄表示等の仕様例を説明する。

【５９４３】

＜本例のパチスロ機の外観構造の概略＞

まず、図４７５を参照し、本例を説明するために必要なパチスロ機（他の特定の実施形態の記載に倣い、本例ではこれを「パチスロ機１Ｘ」として説明するが、むろん他の別の実施形態の「パチスロ機１」にも適用可能である）の外観構造の概略を説明する。

【５９４４】

なお、図４７５では、正面視では見えにくい操作台座部（符号省略）に設けられた各構成についてもその位置関係が分かるように、操作台座部を上方から見たときの位置関係で図示している。また、例えば腰部パネルなど、スタートレバー７やストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが設けられた位置よりも下方にある各構成についてはその図示を省略している。

【５９４５】

また、図４７５を参照して説明するパチスロ機の構造はあくまで一例であり、他の各実施形態で説明したパチスロ機の構造を適宜補って（あるいは適宜置き換えて）適用可能であるし、本例で説明するパチスロ機の構造の少なくとも一部若しくは全部を他の各実施形態のパチスロ機に適用可能である。また、他の実施形態で説明した構成と同様の構成については、他の実施形態で付したものと同じ符号（ないしは関連する符号）を付し、ここでの詳細な説明は省略している。

【５９４６】

遊技者からみて正面側の前面パネル部（符号省略）には、その略中央部に左リール３Ｌ，中リール３Ｃ，右リール３Ｒを正面側から視認可能とする表示窓（符号省略）が設けられている。これにより、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの周面上の図柄の少なくとも一部（３個）を視認可能としている。すなわち、これは、３列で図柄の変動表示を可能し、３行×３列で（９個の）図柄の停止表示を可能とする上述の変動表示部である。

【５９４７】

また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの内部には、表示窓から図柄が視認される位置にリールランプ（リールバックライト）（図示及び符号省略）が設けられ、少なくとも各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが回転中であるときには、これらを内部から一定の輝度で照明することで図柄の視認性を確保している。なお、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒが停止中であるとき（あるいは、少なくとも図柄の視認性を確保しなくともよい状況であるとき）には、このリールランプ（リールバックライト）を点滅、あるいは消灯させるといった態様によるフラッシュ演出を行うことが可能となっている。

【５９４８】

各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対応する表示窓の上方には、例えば液晶表示装置で構成された上述のメイン演出表示部２１が設けられる。また、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに対応

する表示窓の左方には、例えばタッチパネル付きの液晶表示装置で構成された上述のサブ演出表示部２２が設けられる。なお、メイン演出表示部２１は、例えばタッチパネル付きの液晶表示装置で構成されるものとしてもよい。

【５９４９】

また、メイン演出表示部２１の上方には、例えばフルカラーＬＥＤで構成された上部ランプ２３Ｃが設けられる。また、上部ランプ２３Ｃの左方には、例えばフルカラーＬＥＤで構成された左サイドランプ２３Ｌが設けられる。また、上部ランプ２３Ｃの右方には、例えばフルカラーＬＥＤで構成された右サイドランプ２３Ｒが設けられる。これらは、点灯、点滅、若しくは消灯させるといった態様、あるいはその輝度や発光色の態様によって種々の演出を行うことが可能となっている。

【５９５０】

操作台座部の正面側には、上述のスタートレバー７及びストップボタン８Ｌ，８Ｃ，８Ｒが設けられる。

【５９５１】

操作台座部の天面側には、その最も左方（設ける位置はこれに限定されない）には、上述のＰＡＹセグ６６Ｘと同様の表示を行い得る払出表示部（符号省略）、上述のＩＮＳＥＲＴランプ６１Ｘと同様の表示を行い得るインサート表示部（符号省略）、及び上述の１～３ＢＥＴランプ６４Ｘと同様の表示を行い得るベット表示部（符号省略）などを含む左側情報表示部１４Ｌが設けられる。なお、左側情報表示部１４Ｌで表示可能な情報はこれらに限られず、これら以外にも他の実施形態で説明した種々の情報を表示可能である。

【５９５２】

また、左側情報表示部１４Ｌの右方（設ける位置はこれに限定されない）には、上述のＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘが設けられるとともに、そのＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘの上方（設ける位置はこれに限定されない）には、それよりも小径のボタンで構成された上述の１ＢＥＴボタン１２Ｘ及び精算ボタン１３Ｘが設けられる。

【５９５３】

また、ＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘの右方（設ける位置はこれに限定されない）には、上述の演出用ボタンの１つを構成する上述のチャンスボタン３３Ｘが設けられる。また、チャンスボタン３３Ｘの右方（設ける位置はこれに限定されない）には、上下方向と左右方向への操作を受付可能ないわゆる十字キー形状で形成され、上述の演出用ボタンの１つを構成するとともに、上述の音量・光量調整ボタン及びメニューボタン３６Ｘと同様の機能を有する、遊技者の演出用の種々の選択操作（あるいは選択操作及び決定操作）を受付可能な四方向キー３６Ｘが設けられる。

【５９５４】

また、チャンスボタン３３Ｘの右方（設ける位置はこれに限定されない）には、計数ボタン１５Ｘが設けられる。また、計数ボタン１５Ｘの上方（設ける位置はこれに限定されない）には、上述のクレジットセグ１４Ｘと同様の表示を行い得るクレジット表示部（符号省略）などを含む右側情報表示部１４Ｒが設けられる。なお、右側情報表示部１４Ｒで表示可能な情報はこれに限られず、これ以外にも他の実施形態で説明した種々の情報を表示可能である。

【５９５５】

＜入賞図柄表示等の表示が行われる流れの一例＞

続いて、図４７６～図４８１を参照して、入賞図柄表示等の表示が行われる流れの一例を説明する。なお、入賞図柄表示「等」としているのは、入賞図柄表示のみならず、遊技者が視認可能な他の各種表示装置や各種ランプなどの表示態様の変化についても併せて説明する意図である。

【５９５６】

ここで、本例でいう「入賞図柄表示」とは、各リール以外の表示装置において有効ライン上に表示された各図柄を表示する機能を示している。

【５９５７】

この種の遊技機（例えばパチスロ機１Ｘ）では、有効ライン上に表示された各図柄（図柄組合せ）は基本的に各リール（表示窓）上で確認されるものである。しかしながら、例えば、各リールが従来のものよりも小径であることでメイン演出表示部２１のような演出表示部のほうが遊技者に視認されやすくなっている、設定されている有効ラインが変則ラインであるために実際の見え方と有効ライン上に表示された図柄組合せが一致しない（例えば、有効ライン上では「ベル－ベル－リプレイ」で小役が入賞しているが、このときに無効ライン上で「ベル－ベル－ベル」が揃っているなど）、あるいは、メイン演出表示部２１のような演出表示部で疑似的に（演出上の）リールの変動表示や停止表示などを行っていて、その表示態様と各リールの表示態様との関連性が必ずしも明確でないといった場合には、遊技者に何らかの誤認を与えてしまう可能性を否定できない。

【５９５８】

そこで、本例では、各リール上に設定されている有効ライン上に表示された各図柄（図柄組合せ）をサブ演出表示部２２上の所定領域にも表示するようにし、遊技者に誤認を与えてしまうことを抑制できるようにしている。また、そのような入賞図柄表示を行うにあたり、他の表示物の変化との関係性についても説明している。

【５９５９】

なお、本例では、サブ演出表示部２２上で入賞図柄表示を行うようにしているが、入賞図柄表示を行う態様はこれに限られない。例えば、メイン演出表示部２１の一部の所定領域（例えば下方の一部領域）で入賞図柄表示を行うようにしてもよいし、それ専用の演出表示部などを別途設けるようにし、該専用の演出表示部で入賞図柄表示を行うようにしてもよい。また、入賞図柄表示（入賞図柄画像）は、実際の遊技で各リールが停止した場合に表示され得るものであり、例えば、疑似遊技における仮停止時（後述の一例の如く、疑似遊技中にリール演出として「ベル－ベル－リプレイ」が有効ライン上に仮停止した場合など）には入賞図柄表示は行われない。これにより、実際の遊技と疑似遊技との区別がより明瞭となる。

【５９６０】

図４７６～図４８０は、図４７５で説明した各構成の表示態様の変化を視覚的に示した模式図であり、図４８１は、図４７６～図４８０で示した各構成の表示態様の変化の関係性をタイムチャート形式で示した図である。

【５９６１】

なお、図４８１において、「上部ランプ」は上述の上部ランプ２３Ｃを示し、「入賞図柄画像」は上述のサブ演出表示部２２上に表示される入賞図柄表示を示している。

【５９６２】

また、図４８１において、「音量光量調整・ユニメモアイコン」は上述のサブ演出表示部２２上に表示され得る音量調整メニューアイコン（例えば、図４７９や後述の図４８２などに示す「音」の文字が表示されたアイコン）、上述のサブ演出表示部２２上に表示され得る光量調整メニューアイコン（例えば、図４７９や後述の図４８２などに示す「光」の文字が表示されたアイコン）、及び上述のサブ演出表示部２２上に表示され得るユーザーメニューアイコン（例えば、図４７９や後述の図４８２などに示す「ユ」の文字が表示されたアイコン）を示している。

【５９６３】

例えば、非遊技中において（少なくともリールの回転が停止している状態で）音量調整メニューアイコンがタッチされると、サブ演出表示部２２上に音量調整画面（例えば、後述の図４８２の（３）参照）が表示され、パチスロ機１Ｘの音量が調整可能となる。なお、音量調整画面は、四方向キー３６Ｘの左右方向への操作によっても表示可能である。

【５９６４】

また、例えば、非遊技中において（少なくともリールの回転が停止している状態で）光量調整メニューアイコンがタッチされると、サブ演出表示部２２上に光量調整画面（例えば、後述の図４８４の（２）参照）が表示され、パチスロ機１Ｘの光量が調整可能となる。なお、光量調整画面は、四方向キー３６Ｘの上下方向への操作によっても表示可能であ

る。

【５９６５】

また、例えば、非遊技中において（少なくともリールの回転が停止している状態で）ユーザーメニューアイコンがタッチされると、サブ演出表示部２２上にユーザーメニュー画面が表示され、ユーザー（遊技者）向けの各種サービスが提供可能となる。なお、ユーザーメニュー画面では、遊技履歴の表示（例えば総ゲーム数やＡＴ状態の継続ゲーム数など）、携帯連動機能に関する表示（例えばログインやログアウトなどに用いる二次元コードなど）、配当表の表示、ゲームフローの表示などが行えるものとすることができる。また、ユーザーメニュー画面は、例えば、チャンスボタン３３Ｘへの操作、あるいはチャンスボタン３３Ｘへの操作と四方向キー３６Ｘへの操作とによっても表示可能とすることができる。

【５９６６】

また、図４８１において、「モード選択・演出カスタムアイコン」は上述のサブ演出表示部２２上に表示されるモード選択メニューアイコン（例えば、図４７９や後述の図４８２などに示す「モ」の文字が表示されたアイコン）、及び上述のサブ演出表示部２２上に表示される演出カスタムメニューアイコン（例えば、図４７９や後述の図４８２などに示す「カ」の文字が表示されたアイコン）を示している。

【５９６７】

例えば、非遊技中において（少なくともリールの回転が停止している状態で）モード選択メニューアイコンがタッチされると、サブ演出表示部２２上にモード選択メニュー画面が表示され、演出モードの選択が可能となる。なお、モード選択メニュー画面では、例えば、演出頻度が低い低演出モードや演出頻度が高い高演出モードなどの各種演出モードがある場合、所望の演出モードを選択することができるものとする。また、モード選択メニュー画面は、例えば、チャンスボタン３３Ｘへの操作、あるいはチャンスボタン３３Ｘへの操作と四方向キー３６Ｘへの操作とによっても表示可能とすることができる。

【５９６８】

また、例えば、非遊技中において（少なくともリールの回転が停止している状態で）演出カスタムメニューアイコンがタッチされると、サブ演出表示部２２上に演出カスタムメニュー画面が表示され、演出に関するカスタマイズが可能となる。なお、演出カスタムメニュー画面では、例えば、演出に登場するキャラクタを変更する、特定小役の当籤回数や当籤してからの経過ゲーム数を表示する／しない、サブ演出表示部２２上に表示される表示項目のうちで表示されるものを選択するなどのカスタマイズを行うことができるものとする。また、演出カスタムメニュー画面は、例えば、チャンスボタン３３Ｘへの操作、あるいはチャンスボタン３３Ｘへの操作と四方向キー３６Ｘへの操作とによっても表示可能とすることができる。また、モード選択メニュー及び演出カスタムメニューは、ともに演出に関する選択を行うものであることから、一のメニューアイコン（メニュー画面）で選択・決定ができるものとしてもよい。

【５９６９】

また、図４８１において、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」は上述のリールランプ（リールバックライト）によって実行されるフラッシュ演出を示し、「ＰＡＹ・ＣＲＥＤＩＴセグのインクリメント」は上述の払出表示部（ＰＡＹセグ）の値が（払出枚数に応じて順次）加算されること、及び上述のクレジット表示部（クレジットセグ）の値が（払出枚数に応じて順次）加算されることを示し、「ＭＡＸベットボタンランプ」は上述のＭＡＸＢＥＴボタン１１Ｘの内部に設けられたランプ（光源）を示している。

【５９７０】

また、図４７６～図４８０では、ＡＴ機能を搭載したパチスロ機１Ｘを一例とし、そのパチスロ機１Ｘでは、有効ラインが左リール３Ｌの中段、中リール３Ｃの中段、及び右リール３Ｒの下段（中－中－下）の変則ラインからなる１ラインであり、有効ライン上に「ベル－ベル－リプレイ」が停止した場合には所定役（ここでは小役としているが、リプレイ役であってもよい）の入賞となって１１枚の遊技価値が付与されるものとしている。ま

た、所定小役の入賞となって１１枚の遊技価値が付与される際には、無効ラインであるセンターライン（中－中－中）に「ベル－ベル－ベル」（すなわち、ベルの図柄組合せ）が表示され得るものとしている。

【５９７１】

図４７６の（ａ）は、例えば非ＡＴ状態（通常状態）のあるゲームにおいて、所定小役が入賞したとき（全てのリールへの停止操作が終了した直後）を示している。なお、所定小役が入賞する前のクレジット数（クレジット表示部（クレジットセグ）の表示）は「４２」枚である。また、サブ演出表示部２２では、ＡＴ状態に関連する情報として、本日のＡＴ回数「５」回と、ＡＴ状態終了後の非ＡＴ状態の経過ゲーム数が「１００」ゲームであることが表示されている。

【５９７２】

このゲームで所定小役の入賞が発生したので、まず、「ＰＡＹ・ＣＲＥＤＩＴセグのインクリメント」の実行が開始される（図４８１中「Ｔ１」参照）。すなわち、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値が１ずつ順次加算更新されていく。

【５９７３】

図４７６の（ｂ）は、図４７６の（ａ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって「ＰＡＹ・ＣＲＥＤＩＴセグのインクリメント」の実行が開始されてから（図４８１中「Ｔ１」から）所定時間（例えば０．０５秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ２」参照）を示している。図４７６の（ａ）に対して、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値がそれぞれ１ずつ加算更新されている（ＰＡＹセグ：０→１、クレジットセグ：４２→４３）。

【５９７４】

また、このとき、「上部ランプ」では、所定小役の入賞に対応する色報知演出（黄色報知）の実行が開始される。すなわち、図４７６の（ｂ）、（ｃ）、及び（ｄ）で上部ランプ２３Ｃに斜線が記載されていることは、上部ランプ２３Ｃで色報知演出が実行されていることを意味するものであり、図４７６の（ａ）で上部ランプ２３Ｃに斜線が記載されていないことは、色報知演出が行われていないことを意味するものである。なお、図４７６の（ａ）における上部ランプ２３Ｃは消灯状態であってもよいし、遊技状態等に応じた演出用の発光状態であってもよい。また、図４７６の（ｂ）などで示す色報知演出は、上部ランプ２３Ｃが対象の色（ここでは、「ベル」図柄に対応する黄色）で点灯ないし点滅することによって行われる。また、上部ランプ２３Ｃのみならず、左サイドランプ２３Ｌや右サイドランプ２３Ｒにおいても同様の報知が行われるものとしてもよい。また、上部ランプ２３Ｃで色報知演出が開始される時期と、左サイドランプ２３Ｌや右サイドランプ２３Ｒで色報知演出が開始される時期とを異ならせてもよい。例えば、上部ランプ２３Ｃで色報知演出が開始されてから所定時間（例えば０．０３秒程度）経過後に左サイドランプ２３Ｌや右サイドランプ２３Ｒで色報知演出の実行が開始されるものとしてもよい。また、左サイドランプ２３Ｌや右サイドランプ２３Ｒで実行されるのは色報知演出でなく、例えばフラッシュパターンなどで期待感を高め得るようにした別の演出であってもよい（これは、上部ランプ２３Ｃにおいても同様である）。また、そのような別の演出は、例えば、ボーナスやＡＴの期待度を示唆する演出、あるいは状態の示唆ないし報知などの遊技状態に関する期待感演出とすることができる。

【５９７５】

また、このとき、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」の実行が開始される。すなわち、図４７６の（ｂ）、（ｃ）、及び（ｄ）で各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに斜線が記載されていることは、各リールのリールバックライトで入賞時フラッシュが行われていることを意味するものであり、図４７６の（ａ）で各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒに斜線が記載されていないことは、入賞時フラッシュが行われていないことを意味するものである。なお、必ずしも全てのリール領域で入賞時フラッシュが実行されていなくともよく、少なくとも一部のリール領域で入賞時フラッシュ（例えば、点灯、点滅、消灯など）が実行され

ることを意味するものとしてもよい。また、入賞時フラッシュが行われていないときには、リールバックライトは全て点灯した状態として各リールの視認性が良い状態としてもよいし、有効ラインに対応しない領域（左リール３Ｌの中段、中リール３Ｃの中段、右リール３Ｒの下段以外の各領域）では消灯や点滅などの期待感演出や当籤役示唆／報知演出などを行ってもよい。こうした有効ライン外でのリールバックライト演出は１つのリール（例えば、左リール3l）が停止した以降、中リール３Ｃや右リール３Ｒが回転している状況で左リール３Ｌの上段で行うなど他のリールが回転中に停止済みリールにて行ってもよいし、全リール回転中に行ってもよい。また、図４７６の（ｂ）などで示すフラッシュ演出は、その点灯ないし点滅の態様によって所定小役の入賞を示唆するものであってもよいし、「上部ランプ」で行われるものと同様に色報知演出（黄色報知）であってもよい。後者の場合には、リールランプ（リールバックライト）をフルカラーＬＥＤで構成するようにすればよい。また、「上部ランプ」で色報知演出が開始される時期と、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」が開始される時期とを異ならせてもよい。例えば、「上部ランプ」で色報知演出が開始されてから所定時間（例えば０．０３秒程度）経過後に「リールバックライトの入賞時フラッシュ」の実行が開始されるものとしてもよい。

【５９７６】

図４７７の（ｃ）は、図４７６の（ｂ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、「上部ランプ」での色報知演出及び「リールバックライトの入賞時フラッシュ」の実行が開始されてから（図４８１中「Ｔ２」から）所定時間（例えば０．０６秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ４」参照）を示している。なお、図４８１中「Ｔ２」から所定時間（例えば０．０３秒程度）が経過したときを示す図４８１中「Ｔ３」に対応するものはその図示を省略しているが、そこでは、図４７６の（ｂ）に対して、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値がそれぞれ１ずつ加算更新されているものとする（ＰＡＹセグ：１→２、クレジットセグ：４３→４４）。そして、図４８１中「Ｔ３」から所定時間（例えば０．０３秒程度）が経過したときを示す図４８１中「Ｔ４」（図４７７の（ｃ））では、さらに払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値がそれぞれ１ずつ加算更新されている（ＰＡＹセグ：２→３、クレジットセグ：４４→４５）。

【５９７７】

また、このとき、「上部ランプ」での色報知演出と「リールバックライトの入賞時フラッシュ」は未だ実行中である。また、このとき、上述のサブ演出表示部２２上の一部領域（下部の所定領域）において「入賞図柄画像」の表示が開始される。なお、「入賞図柄画像」は、透明度が高い状態（半透明の状態）で表示が開始された後、徐々に透明度が低い状態（明確に視認しやすい状態）へと変移する態様（フェードイン）にて表示されるものとなっている。むろん、そのようなフェードイン制御が行われることなく、その表示開始時から明確に視認しやすい状態で表示されるものであってもよい。

【５９７８】

図４７７の（ｄ）は、図４７７の（ｃ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、「入賞図柄画像」の表示が開始されてから（図４８１中「Ｔ４」から）所定時間（例えば０．０３秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ５」参照）を示している。なお、図４７７の（ｄ）では、図４７７の（ｃ）に対して、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値がそれぞれ１ずつ加算更新されている表示の変化を省略しているが、この間にもそのようなインクリメント動作は実行中であるものとする。

【５９７９】

また、このとき、「上部ランプ」での色報知演出と「リールバックライトの入賞時フラッシュ」は未だ実行中である。また、このとき、「入賞図柄画像」のフェードイン制御が完了し、今回のゲームでの入賞図柄表示（ここでは「ベル－ベル－リプレイ」）が明確に視認しやすい状態で表示されている。

【５９８０】

図４７８の（ｅ）は、図４７７の（ｄ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、「入賞図柄画像」のフェードイン制御が完了してから（図４８１中「Ｔ５」から）所定時間（例えば０．７秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ６」参照）を示している。なお、図４７８の（ｅ）では、図４７７の（ｄ）に対して、図４８１中「Ｔ５」から「Ｔ６」までの間に、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値及びクレジット表示部（クレジットセグ）の値がそれぞれ順次１ずつ加算更新され（ＰＡＹセグ：３→４→５・・・→１０→１１、クレジットセグ：４５→４６→４７・・・→５２→５３）、今回のゲームの払出枚数（１１枚）分のインクリメント動作が完了している。すなわち、今回のゲームにおける払出動作（メダル払出処理）が完了したことにともない、次回のゲームの開始が可能となった状態を示している。

【５９８１】

また、このとき、「上部ランプ」での色報知演出の実行が終了する。なお、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」は未だ実行中であるが、「上部ランプ」での色報知演出の実行終了とともにその実行を終了させるようにしてもよい。また、このとき、「入賞図柄画像」は未だ表示中である。

【５９８２】

また、このとき、「ＭＡＸベットボタンランプ」の点灯が開始される。なお、図４８１においては図示を省略しているが、このとき、インサート表示部（ＩＮＳＥＲＴランプ）の点灯も開始される。

【５９８３】

図４７８の（ｆ）は、図４７８の（ｅ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、払出動作が完了し、「ＭＡＸベットボタンランプ」の点灯が開始されてから（図４８１中「Ｔ６」から）所定時間（例えば０．９秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ７」参照）を示している。このとき、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」の実行が終了する。なお、ここでは、リールランプ（リールバックライト）は消灯するわけではなく、フラッシュ演出が終了して通常の点灯態様に戻っている。

【５９８４】

また、このとき、「入賞図柄画像」は未だ表示中である。また、このとき、「ＭＡＸベットボタンランプ」は点灯中であり、インサート表示部（ＩＮＳＥＲＴランプ）も点灯中である。

【５９８５】

図４７９の（ｇ）は、図４７８の（ｆ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、「リールバックライトの入賞時フラッシュ」の実行が終了してから（図４８１中「Ｔ７」から）所定時間（例えば４秒程度）が経過したとき（図４８１中「Ｔ８」参照）を示している。なお、ここでは、次回のゲームの開始が可能となった状態であるが未だベット操作（ＭＡＸベットボタン１１Ｘへの操作）は行われていない（すなわち、非遊技中である）ものとする。

【５９８６】

このとき、「音量光量調整・ユニメモアイコン」及び「モード選択・演出カスタムアイコン」の表示が開始される。なお、例えば、音量調整メニューアイコン（図４７９中、「音」の文字が表示されたアイコン）はサブ演出表示部２２の右上の一部領域に表示され、光量調整メニューアイコン（図４７９中、「光」の文字が表示されたアイコン）はサブ演出表示部２２の左上の一部領域に表示される。これらは、サブ演出表示部２２上の他の表示物と重畳しない位置に表示される。もっとも、遊技者の利便性などを損なわないのであれば、他の表示物と重畳する（他の表示物の少なくとも一部を視覚的に遮蔽する）位置に表示されるものとしてもよい。

【５９８７】

また、例えば、ユーザーメニューアイコン（図４７９中、「ユ」の文字が表示されたアイコン）はサブ演出表示部２２下部の右側の一部領域に表示される。これは、「入賞図柄画像」における右側の表示図柄（右リール３Ｒに対応する図柄）と少なくとも一部が重畳

する位置に（手前側のレイヤとして）表示される。なお、ユーザーメニューアイコンを表示図柄に重畳表示する際の関係性については、図４８２を用いて後述する。また、遊技者の利便性などを損なわないのであれば、さらに他の別の表示物と重畳する（他の別の表示物の少なくとも一部を視覚的に遮蔽する）位置に表示されるものとしてもよい。あるいは、他の表示物のいずれとも重畳しない位置に表示されるものとしてもよい。

【５９８８】

また、例えば、モード選択メニューアイコン（図４７９中、「モ」の文字が表示されたアイコン）はサブ演出表示部２２下部の左側の一部領域に表示される。これは、「入賞図柄画像」における左側の表示図柄（左リール３Ｌに対応する図柄）と少なくとも一部が重畳する位置に（手前側のレイヤとして）表示される。なお、モード選択メニューアイコンを表示図柄に重畳表示する際の関係性については、図４８２を用いて後述する。また、遊技者の利便性などを損なわないのであれば、さらに他の別の表示物と重畳する（他の別の表示物の少なくとも一部を視覚的に遮蔽する）位置に表示されるものとしてもよい。あるいは、他の表示物のいずれとも重畳しない位置に表示されるものとしてもよい。

【５９８９】

また、例えば、演出カスタムメニューアイコン（図４７９中、「カ」の文字が表示されたアイコン）はサブ演出表示部２２下部の中央の一部領域に表示される。これは、「入賞図柄画像」における中央の表示図柄（中リール３Ｃに対応する図柄）と少なくとも一部が重畳する位置に（手前側のレイヤとして）表示される。なお、演出カスタムメニューアイコンを表示図柄に重畳表示する際の関係性については、図４８２を用いて後述する。また、遊技者の利便性などを損なわないのであれば、さらに他の別の表示物と重畳する（他の別の表示物の少なくとも一部を視覚的に遮蔽する）位置に表示されるものとしてもよい。あるいは、他の表示物のいずれとも重畳しない位置に表示されるものとしてもよい。

【５９９０】

なお、「入賞表示画像」における各表示図柄は、上述の如く各種メニューアイコンによってその全部又は一部が視覚的に遮蔽されることがあるが、「入賞図柄画像」の表示制御自体は継続している（すなわち、遊技者から一時的に見えなくなるだけで、奥側のレイヤとしては未だ表示中の状態である）。

【５９９１】

また、このとき、「ＭＡＸベットボタンランプ」は点灯中であり、インサート表示部（ＩＮＳＥＲＴランプ）も点灯中である。

【５９９２】

図４７９の（ｈ）は、図４７９の（ｇ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、「音量光量調整・ユニメモアイコン」及び「モード選択・演出カスタムアイコン」の表示が開始された後（図４８１中「Ｔ８」の後）、ＭＡＸベットボタン１１Ｘへのベット操作が行われたとき（図４８１中「Ｔ９」参照）を示している。

【５９９３】

このとき、「モード選択・演出カスタムアイコン」の表示は終了する。一方、「音量光量調整・ユニメモアイコン」は未だ表示中である。このようにしているのは、ベット操作を行った場合であっても開始操作が行われる前（実際に遊技が開始される前）であれば、音量や光量を調整したい場合があったり、ユーザーメニューを開きたい場合があったりするであろうことを考慮したものである。これにより、遊技者の利便性を高めることが可能となる。むろん、そのような観点から、このときに「モード選択・演出カスタムアイコン」の表示を終了させないようにすることもできる。あるいは、（例えば、サブ演出表示部２２上に表示される情報のほうが、遊技者の優先順位は高いであろうことを考慮するなどの）別の観点から、このときに「音量光量調整・ユニメモアイコン」の表示も終了させるようにすることもできる。

【５９９４】

また、あるいは、（例えば、遊技中の遊技者に与える影響が大きいことを考慮するなどの）別の観点から、このときに音量調整メニューアイコン及び光量調整メニューアイコン

の表示は終了させないが、ユーザーメニューアイコンの表示は終了させるようにすることもできる。すなわち、上述の態様はあくまで一例に過ぎない。なお、そのような観点から、音量調整メニューアイコン及び光量調整メニューアイコンについては、遊技中（例えばリール回転中）も引き続き表示され得るものとしてもよく、この仕様の場合は遊技中（リールの定速回転前の加速中やウェイト中、レバーオン直後のロック中や疑似遊技中、あるいはリール全停止時のロック中なども含み得る）において音量調整や光量調整を可能な仕様とし、遊技者が好きなタイミングにて調整できるものとして利便性を高めてもよい。もっとも、遊技中に音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコンのいずれか又は両方を表示可能な仕様であっても、実際に遊技中は音量調整や光量調整を不能とする仕様としてもよい。このような仕様であっても遊技中に各種アイコンが表示され続けるため、少なくとも音量や光量を調整可能な遊技機である点を遊技中に遊技者が認識可能となる。

【５９９５】

また、このとき、「モード選択・演出カスタムアイコン」の表示が終了したので、「入賞図柄画像」中の左側の表示図柄と、中央の表示図柄が再度視認可能な状態となっている。

【５９９６】

また、このとき、（ベット操作（３枚ベット操作）が行われたので）「ＭＡＸベットボタンランプ」の点灯が終了し、クレジット表示部（クレジットセグ）の値が３枚分減算更新されている（クレジットセグ：５３→５０）。なお、払出表示部（ＰＡＹセグ）の値は０クリアされている（ＰＡＹセグ：１１→０）。

【５９９７】

また、図４８１においては図示を省略しているが、このとき、インサート表示部（ＩＮＳＥＲＴランプ）の点灯も終了している。一方、ベット表示部（１～３ＢＥＴランプ）はその点灯（３枚ベット表示）を開始している。

【５９９８】

図４８０の（ｉ）は、図４７９の（ｈ）に続く図である。すなわち、所定小役の入賞後であって、ＭＡＸベットボタン１１Ｘへのベット操作が行われた後（図４８１中「Ｔ９」の後）、スタートレバー７への開始操作が行われたとき（図４８１中「Ｔ１０」参照）を示している。

【５９９９】

このとき、「音量光量調整・ユニメモアイコン」の表示は終了する。また、このとき、「入賞図柄画像」の表示も終了する。そして、次回のゲームが開始される。

【６０００】

［入賞図柄表示等の表示が行われる流れの一例から得られる技術的思想のまとめ］

以上説明したように、入賞図柄表示等の表示が行われる流れの一例の遊技機では、例えば以下のような技術的思想が得られる。

【６００１】

（１）　少なくとも所定図柄（例えば「ベル」）が有効ライン上に揃って表示されない態様（例えば「中－中－下」の有効ライン上に「ベル－ベル－リプレイ」と表示される態様）にて入賞となる所定役（例えば上述の１１枚入賞となる所定役）があり、

少なくとも有効ライン上に表示された各図柄を入賞図柄画像として表示可能であり、

所定役が入賞したことに応じ、所定図柄を示唆可能な態様にて所定演出（例えば上部ランプでの色報知演出）を行うことが可能であり、

入賞図柄画像の表示が開始される前から所定演出を開始させることが可能である（例えば、上部ランプでの色報知演出は図４８１のＴ２から開始される）、遊技機である。

【６００２】

このような遊技機によれば、入賞図柄画像が表示されると、変動表示部上の停止図柄と画像上の入賞図柄とを見比べて入賞を確認する方向に遊技者の意識が向かいやすいが、入賞に関する大まかな対応関係を示唆可能な所定演出を先に行うことで、遊技者が大まかなゲーム性や配当などを認識しやすくなる。すなわち、所定役が、所定図柄が有効ライン上

に揃って表示されない態様にて入賞となるように構成されている場合であっても、遊技者が混乱してしまうことを抑制でき、また、ゲーム性を理解しやすくして遊技意欲や興趣を向上させることができる。

【６００３】

なお、図４８１で示した各タイミング（Ｔ１～Ｔ１０）はあくまでその一例を示したもの過ぎない。したがって、その間の所定時間などは適宜変更可能である。すなわち、すでに説明したタイミングより早く到来するタイミングであってもよいし、遅く到来するタイミングであってもよい。

【６００４】

（２）　所定演出を、入賞図柄画像よりも視認性が高い態様で行うことが可能である（例えば、入賞図柄画像はサブ演出表示部２２上の一部領域で表示されるが、所定演出は上部ランプ２３Ｃやメイン演出表示部２１で実行される）、遊技機である。

【６００５】

このような遊技機によれば、入賞図柄画像によって入賞した（実際に変動表示部の有効ライン上に表示された）各図柄を認識可能としつつ、ゲーム性をより理解しやすくすることができる。

【６００６】

なお、上述の説明では所定演出（上部ランプでの色報知演出）は上部ランプ２３Ｃにて行われるものとしたが、その態様はこれに限られない。例えば、上部ランプ２３Ｃに替えてメイン演出表示部２１上で行われるものとしてもよい。なお、この場合、疑似的なリール上に「ベル」を模した図柄組合せを表示させたり、あるいは黄色のキャラクタを表示させたりするなど、種々の態様にてそのような所定演出を行うことができる。もっとも、そのような表示は、入賞図柄画像よりもその表示面積を大きくするなどして入賞図柄画像よりもその視認性が高くなるようにすることが望ましい。

【６００７】

（３）　変動表示部上で行われる入賞演出（例えばリールバックライトの入賞時フラッシュ）が終了するよりも前に入賞図柄画像の表示を開始させることが可能である（例えば、入賞図柄画像の表示は図４８１のＴ７よりも前から開始される）、遊技機である。

【６００８】

このような遊技機によれば、入賞演出の実行によって変動表示部上の図柄の視認性が低下している場合であっても、入賞図柄画像によって（少なくとも有効ライン上に表示されている）図柄組合せが認識しやすくなるため、遊技者の利便性を向上させることができる。

【６００９】

（４）　入賞図柄画像を表示している状況であっても、演出に関連する遊技者用のメニューを示す画像（例えば音量光量調整・ユニメモアイコンやモード選択・演出カスタムアイコン）を表示可能である、遊技機である。

【６０１０】

このような遊技機によれば、入賞図柄画像を表示している状況であっても、遊技者の利便性を担保することができる。

【６０１１】

（５）　演出に関連する遊技者用のメニューを示す特定画像（例えば音量光量調整・ユニメモアイコンのうちのユーザーメニューアイコンやモード選択・演出カスタムアイコン）は、その少なくとも一部が入賞図柄画像と重畳する位置に表示され得るものであり、特定画像は入賞図柄画像よりも優先的に（例えば手前側のレイヤとして）表示され得る、遊技機である。

【６０１２】

このような遊技機によれば、例えば、表示領域が限られている場合であっても状況に応じて適切な画像を表示し得るため、遊技者の利便性をより顕著に担保することができる。

【６０１３】

（６）　特定画像を（その少なくとも一部を入賞図柄画像と重畳する位置にて）入賞図柄画像よりも優先的に表示する場合、少なくとも特定画像が表示される前の所定期間（例えば、図４８１のＴ５からＴ８までの期間）は、特定画像を表示することなく入賞図柄画像を表示する、遊技機である。

【６０１４】

このような遊技機によれば、入賞図柄画像の視認性が低下する前の所定期間においては、入賞図柄画像の視認性が確保されるため、遊技者の利便性を担保しつつも、ゲーム性の理解のしやすさも担保することができる。

【６０１５】

（７）　演出に関連する遊技者用のメニューを示す所定画像（例えば音量光量調整・ユニメモアイコンのうちの音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコン）は、入賞図柄画像と重畳しない位置に表示される、遊技機である。

【６０１６】

このような遊技機によれば、（音量や光量などは遊技中の遊技者に与える影響が大きいことを考慮し）所定画像については入賞図柄画像とは重畳しない位置に表示されるようにしたことから、遊技者の利便性をより顕著に担保することができる。

【６０１７】

（８）　入賞図柄画像において表示される図柄は、変動表示部上に停止した図柄よりも小さい、遊技機である。

【６０１８】

このような遊技機によれば、あくまで補助的な役割である入賞図柄画像を極端に目立たせることがないため、遊技者がどちらを見てよいのか困惑してしまうなどといった事態が生じてしまうことを抑制できる。

【６０１９】

＜入賞図柄表示領域と他の表示物との関係性の一例＞

続いて、図４８２及び図４８３を参照して、入賞図柄表示領域と他の表示物との関係性の一例を説明する。なお、入賞図柄表示領域は、上述の如くサブ演出表示部２２下部の一部領域を示している。

【６０２０】

図４８２の（１）は、サブ演出表示部２２上で入賞図柄表示が行われている状況（例えば図４８１の「Ｔ５」参照）を示した一例である。

【６０２１】

図４８２の（１）に示す入賞図柄表示領域において、水平方向に引かれた点線Ｈ１は入賞図柄表示領域の上限（上端）を表したものであり、水平方向に引かれた点線Ｈ２は入賞図柄表示領域の下限（下端）を表したものである。すなわち、入賞図柄表示領域は、その縦方向でＨ１－Ｈ２間（図４８２中「領域Ｚ」）が各表示図柄の表示領域となっている。

【６０２２】

また、垂直方向に引かれた点線Ｈ３は左の表示図柄が表示され得る領域の右端を表したものであり、垂直方向に引かれた点線Ｈ４は中央の表示図柄が表示され得る領域の左端を表したものであり、垂直方向に引かれた点線Ｈ５は中央の表示図柄が表示され得る領域の右端を表したものであり、垂直方向に引かれた点線Ｈ６は右の表示図柄が表示され得る領域の左端を表したものである。なお、左の表示図柄が表示され得る領域と中央の表示図柄が表示され得る領域との間、及び中央の表示図柄が表示され得る領域と右の表示図柄が表示され得る領域との間には隙間（図４８２中「隙間１」及び「隙間２」）が設けられている。

【６０２３】

すなわち、入賞図柄表示領域では、その縦方向でＨ１－Ｈ２間、その横方向でサブ演出表示部２２の左端－Ｈ３間が左の表示図柄の表示領域となり、その縦方向でＨ１－Ｈ２間、その横方向でＨ４－Ｈ５間が中央の表示図柄の表示領域となり、その縦方向でＨ１－Ｈ２間、その横方向でＨ６－サブ演出表示部２２の右端間が右の表示図柄の表示領域となる

。

【６０２４】

なお、中央の表示図柄の表示領域を基準とすると、左の表示図柄の表示領域の左側（サブ演出表示部２２の左端側）や右の表示図柄の表示領域の右側（サブ演出表示部２２の右端側）においては若干の余白が生じ得るがその図示は省略している。したがって、上述の定義上は、それらの表示領域が中央の表示図柄の表示領域よりも大きく構成されることとなるが、左の表示図柄の表示領域、中央の表示図柄の表示領域、及び右の表示図柄の表示領域は基本的に同じ大きさである。もっとも、それらの表示領域を中央の表示図柄の表示領域よりも大きく構成することも可能である。

【６０２５】

また、各表示領域に表示される表示図柄であるが、基本的には各リール上の実際の図柄と同じ表示態様（形状や色など）で表示される。むろん、完全に同一の表示態様でなくともよい。例えば、遊技者が少なくとも同じ図柄であることを認識可能な表示態様（例えば、基本的な形状は同じであるが多少丸みをもたせるなどのカスタイマイズを行う、あるいは、同系統の色を用いるがサブ演出表示部２２の背景色などを考慮して多少コントラストを変えるなど）にて表示されるものであってもよい。

【６０２６】

また、各表示領域に表示される表示図柄は各リール上の実際の図柄よりも小さく表示されるものであるが、小さく表示する態様も種々の態様を採用することができる。例えば、各リールでは、ボーナス図柄（例えば「７」図柄や「ＢＡＲ」図柄）が通常図柄（例えば「ベル」図柄や「リプレイ」図柄）よりもそのサイズが大きく構成されていたとする。

【６０２７】

この場合、入賞図柄表示領域では各リール上の実際の図柄と同じ縮尺で各表示図柄が表示されるようにしてもよい。例えば、入賞図柄表示領域では、図柄の種別を問わず、各リール上の実際の図柄の０．５倍程度の大きさで各表示図柄が表示されるようにする。すなわち、ボーナス図柄と通常図柄を入賞図柄表示領域上で表示する場合には、ボーナス図柄を通常図柄よりも大きく表示する。このようにして、各リール上での図柄の大小が入賞図柄表示領域においても反映されるようにしてもよい。

【６０２８】

また、この場合、入賞図柄表示領域では各リール上の実際の図柄とは異なる縮尺で各表示図柄が表示されるようにしてもよい。例えば、入賞図柄表示領域では、ボーナス図柄については実際の図柄の０．３倍程度の大きさで表示図柄が表示されるようにし、通常図柄については実際の図柄の０．５倍程度の大きさで表示図柄が表示されるようにする（この縮尺は各表示図柄の大きさを合わせるための一例であり、必ずしもこれらの具体的倍率には限定されない）。すなわち、ボーナス図柄と通常図柄を入賞図柄表示領域上で表示する場合には、ボーナス図柄と通常図柄を同じ（あるいは同程度の）大きさで表示する。このようにして、各リール上での図柄の大小が必ずしも入賞図柄表示領域においては反映されないようにしてもよい。

【６０２９】

図４８２の（２）は、サブ演出表示部２２上で入賞図柄表示が行われた後（そのような表示制御が行われている状況において）、各種メニューアイコンが表示されている状況（例えば図４８１の「Ｔ８」参照）を示した一例である。

【６０３０】

図４８２の（２）に示すとおり、音量調整メニューアイコンはサブ演出表示部２２上の右上の一部領域に表示される。また、光量調整メニューアイコンはサブ演出表示部２２上の左上の一部領域に表示される。また、モード選択メニューアイコンは入賞図柄表示領域における左の表示図柄の表示領域に重畳して（手前側レイヤとして左の表示図柄の表示領域を遮蔽するように）表示される。また、演出カスタムメニューアイコンは入賞図柄表示領域における中央の表示図柄の表示領域に重畳して（手前側レイヤとして中央の表示図柄の表示領域を遮蔽するように）表示される。また、ユーザーメニューアイコンは入賞図柄

表示領域における右の表示図柄の表示領域に重畳して（手前側レイヤとして右の表示図柄の表示領域を遮蔽するように）表示される。

【６０３１】

なお、この一例では、モード選択メニューアイコンの上下幅が左の表示図柄の表示領域よりも広く、少なくとも左の表示図柄の全てを視認不能とする表示態様にて表示されるものとしている。また、演出カスタムメニューアイコンの上下幅が中央の表示図柄の表示領域よりも広く、少なくとも中央の表示図柄の全てを視認不能とする表示態様にて表示されるものとしている。また、ユーザーメニューアイコンの上下幅が右の表示図柄の表示領域よりも広く、少なくとも右の表示図柄の全てを視認不能とする表示態様にて表示されるものとしている。

【６０３２】

この一例でそのように構成しているのは、それらのアイコンが表示図柄と重畳したときに、表示図柄の一部だけがアイコンと重なって見える状態としてしまうと、リール上の実際の図柄とは異なる図柄が表示されたのではないかと遊技者が誤認してしまうおそれがあることから、そのような誤認を防止するためである。したがって、その観点からいえば、それらのアイコンは各表示図柄自体を視認不能とする表示態様にて表示されれば足り、必ずしも各表示図柄の表示領域全体よりも大きく構成されていなくともよい。

【６０３３】

また、それらのアイコンの表示中も各表示図柄がどの図柄であったのかを確認可能として利便性を高めるなどといった別の観点を重視する場合には、例えば、それらのアイコンの表示中も各表示図柄の少なくとも１／３程度は視認可能となるように、それらのアイコンの位置（例えば上下方向若しくは左右方向に少しずらすなど）や大きさ（例えば各表示図柄の表示領域よりも小さくするなど）を設定してもよい。すなわち、それらのアイコンの表示態様は上述のものに限られない。

【６０３４】

図４８２の（３）は、サブ演出表示部２２上で各種メニューアイコンが表示されている状況において、音量調整メニューアイコンがタッチ操作されて音量調整画面（音量調整メニュー）が表示された状況を示した一例である。

【６０３５】

図４８２の（３）に示すとおり、この一例の音量調整画面では、下から上に向かって「１」（音量設定の最小値）～「５」（音量設定の最大値）の５段階で表された各段階ボタン表示（符号省略）と、その段階を上昇させることが可能な、上向きの三角形で表された上昇ボタン表示（符号省略）と、その段階を下降させることが可能な、下向きの三角形で表された下降ボタン表示（符号省略）と、１つ前の画面（図４８２の（２）参照）に戻ることが可能な、「戻る」と表記された戻るボタン表示（符号省略）が表示されている。なお、現在の音量設定は「３」である。

【６０３６】

上述の如く、サブ演出表示部２２はタッチパネルとして構成されている。したがって、この音量調整画面では、上昇ボタン表示をタッチして音量設定の段階を上げ（例えば、一度タッチすると音量設定が一段階上がり、長押しすると音量設定が複数段階上がるなど）、下降ボタン表示をタッチして音量設定の段階を下げる（例えば、一度タッチすると音量設定が一段階下がり、長押しすると音量設定が複数段階下がるなど）といった操作ができるのみならず、各段階ボタン表示を直接操作することによっても音量設定を変更することが可能となっている。

【６０３７】

例えば、段階ボタン表示において、「５」の部分にタッチすると音量設定が「５」となり、「１」の部分にタッチすると音量設定が「１」となる。なお、段階ボタン表示が表示されている部分（あるいはその付近）において、スワイプ操作を行うことによっても音量設定が可能である。例えば、上方向へスワイプさせると音量設定の段階が上昇し、下方向へスワイプさせると音量設定の段階が下降する。そして、所望の段階となったときにスワ

イプ操作を解除すればその段階が設定される。

【６０３８】

また、この音量調整画面が表示されている状態で、四方向キー３６Ｘを操作することによっても音量設定を変更することが可能となっている。例えば、四方向キー３６Ｘを上方向に操作すると音量設定の段階が上昇し、四方向キー３６Ｘを下方向に操作すると音量設定の段階が下降する。なお、上述の如く、この音量調整画面が表示されていない状態（例えば、図４８２の（２）の状態）で、四方向キー３６Ｘの左右方向への操作が行われると音量調整画面を開く（図４８２の（３）の表示状態に移行させる）こともできる。

【６０３９】

なお、図４８２の（３）に示すとおり、この一例の音量調整画面では、音量調整に関連する上述の各種ボタン表示が行われている場合であっても、サブ演出表示部２２の下部において入賞図柄表示領域に相当する部分（領域Ｚ部分）にはスペースが空けられている。

【６０４０】

このようにしているのは、例えば、音量調整画面において入賞図柄表示を行う仕様とした場合であっても、（他の表示物の表示で妨げられることなく）それを表示可能とするためである。このような音量調整画面は、異なる機種で共通して利用される可能性がある。一の機種では音量調整画面で入賞図柄表示を行わないが、他の機種では音量調整画面でも入賞図柄表示を行うようにした場合、音量調整画面において入賞図柄表示領域に相当する部分のスペースを空けておかないと、そもそも音量調整画面が共通化できない、あるいは後者においては音量調整画面では（他の画面との相対関係として）入賞図柄表示領域をずらす必要が生じ得る。

【６０４１】

仮に音量調整画面で入賞図柄表示領域がずれて表示されるものとすると、それが他の画面で表示されていた入賞図柄表示と同じ表示であるか理解し難くなって遊技者が困惑してしまう可能性があるし、また、これが、図柄が変動しているとみなされるおそれがあるとすればそれを理由として型式試験に適合しなくなる可能性も生じ得る。したがって、この一例ではそれらの可能性を無くし、かつ、汎用的な音量調整画面とするために上述のような構成としている。これにより、汎用性が高く開発上望ましい音量調整画面を提供することができる。

【６０４２】

なお、この一例では音量調整画面で入賞図柄表示を行わないものとしているが、むろん上述の如く音量調整画面でも入賞図柄表示を行うように構成することもできる。

【６０４３】

図４８３は、サブ演出表示部２２上で各種メニューアイコンが表示されている状況において、二次元コードが表示された状況を示した一例である。

【６０４４】

なお、二次元コードは、ユーザーメニューアイコンが操作されてユーザーメニュー画面が表示され、そこでさらに選択操作が行われて表示されたもの（ログイン・ログアウト用もの、あるいはゲームフローを確認するためのもの）であってもよいし、例えば図４８３に示す如く、後述のデモ状態などの非遊技中においていわゆる小冊子の代替として機能させる（機種紹介を行う）ために表示されたものであってもよい。

【６０４５】

また、図４８３では、図４８２等におけるものとは別の態様でアイコンを表示するものとしている。すなわち、音量調整メニューアイコン及び光量調整メニューアイコンについては上述のとおりであるが、その他のメニューについてはその機能をまとめて一つのアイコン（図４８３中「ユニメモ」と表記されたアイコン）として表示し、当該アイコンが表示されている場合であっても、入賞図柄表示の一部（左の表示図柄及び中央の表示図柄の一部）が視認可能としている。なお、これは図４８２等におけるものの変形例（別例）に過ぎない。したがって、図４８２等におけるものにおいても図４８３と同様の態様でアイコンを表示させることが可能であるし、図４８３におけるものにおいても図４８２等と同

様の態様でアイコンを表示させることが可能である。

【６０４６】

図４８３に示す如く二次元コードを表示する場合、遊技者は自己の携帯端末（スマートフォンなど）をサブ演出表示部２２の前にかざし、カメラ機能をオンにしてその二次元コードを読み取る。そのようなカメラ機能では自動的に二次元コードにフォーカスされるのが一般的であるが、例えば、二次元コードの周辺や近傍に他の表示物が配置されていた場合にはカメラ機能が他の表示物をフォーカスしてしまい、二次元コードの読み取りが上手くいかない場合がある。このような場合、遊技者の遊技意欲や興趣を低下させてしまうおそれがあるという問題がある。特に、他の表示物が二次元コードと同様の形状であったり、細かい模様が描かれていたりした場合、そのような問題は顕著になると考えられる。そこで、以下の点について工夫を行うようにしてもよい。

【６０４７】

（１）入賞図柄表示の表示位置（入賞図柄表示領域）と二次元コードの表示位置との間（例えば最も近接する地点間）に所定間隔（例えば１ｃｍ以上）を設ける。

このようにすれば、入賞図柄表示を同時に行う場合であっても二次元コードを読み取りやすくすることができる。

【６０４８】

（２）各アイコン（例えば、図４８３中の音量調整メニューアイコン、光量調整メニューアイコン、及びユニメモアイコン）と二次元コードの表示位置との間（例えば最も近接する地点間）に所定間隔（例えば１ｃｍ以上）を設ける。

このようにすれば、アイコンを同時に表示する場合であっても二次元コードを読み取りやすくすることができる。

【６０４９】

（３）図柄（少なくとも入賞図柄表示領域に表示される表示図柄。実際の図柄と全く同じ外形で表示するならばリール上の実際の図柄も含む）のデザインを二次元コードとして誤読み取りされにくいデザイン（例えば、白黒２色を避けて多色カラーや１色にする、ドット模様を避けて無地や別の模様とする、正方形や略正方形といった外形を避けてデザイン化した外形とするなど。それらの組合せを含む）とする。

このようにすれば、入賞図柄表示を同時に行う場合であっても二次元コードを読み取りやすくすることができる。

【６０５０】

（４）各アイコンのデザインを二次元コードとして誤読み取りされにくいデザイン（例えば、白黒２色を避けて多色カラーや１色にする、ドット模様を避けて無地や別の模様とする、正方形や略正方形といった外形を避けてデザイン化した外形とするなど。それらの組合せを含む）とする。

このようにすれば、アイコンを同時に表示する場合であっても二次元コードを読み取りやすくすることができる。

【６０５１】

（５）少なくとも二次元コードが表示されているときのサブ演出表示部２２上の背景を二次元コードとして誤読み取りされにくいデザイン（例えば、白黒２色を避けて多色カラーや１色にする、ドット模様を避けて無地や別の模様とするなど。それらの組合せを含む）とする。

このようにすれば、二次元コードが表示されている状況においてそれを読み取りやすくすることができる。

【６０５２】

（６）二次元コードがサブ演出表示部２２上に表示される際には、これを読み取りやすくするため、サブ演出表示部２２周辺の各種ランプ（例えば左サイドランプ２３Ｌなど）を消灯や低輝度での点灯など二次元コード表示対応のパターンで制御する（二次元コード表示対応のパターンで制御する前にすでに実行中の演出パターンがあれば、それを停止（ないし中断）して二次元コード表示対応のパターンで制御する）。

このようにすれば、二次元コードが表示されている状況においてそれを読み取りやすくすることができる。

【６０５３】

なお、これらはあくまで一例である。したがって、これら以外の工夫をなすこともできる。また、これらのものを適宜組み合わせることで、二次元コードをより読み取りやすい構成とすることもできる。また、上記では説明を省略しているものであっても、図面（図４８３に限られない）に記載した他の構成をさらに組み合わせることも可能である。

【６０５４】

［入賞図柄表示領域と他の表示物との関係性の一例から得られる技術的思想のまとめ］

以上説明したように、入賞図柄表示領域と他の表示物との関係性の一例の遊技機では、例えば以下のような技術的思想が得られる。

【６０５５】

（１）　演出表示部（例えばサブ演出表示部２２）において、少なくとも有効ライン上に表示された各図柄を入賞図柄画像として表示可能であり、

入賞図柄画像では複数の図柄（例えば左の表示図柄、中央の表示図柄、及び右の表示図柄）を表示可能であり、

入賞図柄画像が表示される表示領域（例えば入賞図柄表示領域）では各図柄間に隙間（例えば隙間１及び隙間２）が設けられている、遊技機である。

【６０５６】

このような遊技機によれば、表示された各図柄が視認しやすくなることから、入賞図柄画像全体としての視認性も向上させることができる。また、表示された各図柄が重畳することなく表示されることから、入賞図柄画像を誤認してしまうことも防止できる。

【６０５７】

（２）　演出に関連する遊技者用のメニューを示す特定画像（例えば図４８２の（２）に示すモード選択メニューアイコン、演出カスタムメニューアイコン、及びユーザーメニューアイコン）は、入賞図柄画像と重畳する位置に表示され得るものであり、特定画像は入賞図柄画像よりも優先的に（例えば手前側のレイヤとして）表示され、

特定画像が表示されているときには入賞図柄画像を視認不能とする（例えば図４８２の（２）に示す態様でメニューアイコンを表示する）、遊技機である。

【６０５８】

このような遊技機によれば、表示される情報を明瞭なものとすることができるため、遊技者が表示された情報を誤認してしまうことを防止できる。また、例えば、タッチ操作すべきアイコンの位置も明確にすることができるため、その利便性を高めることもできる。

【６０５９】

（３）　演出に関連する遊技者用のメニューを示す特定画像（例えば図４８３に示すユニメモアイコン）は、入賞図柄画像と重畳する位置に表示され得るものであり、特定画像は入賞図柄画像よりも優先的に（例えば手前側のレイヤとして）表示され、

特定画像が表示されているときであっても入賞図柄画像の一部を視認可能とする（例えば図４８３に示す態様でメニューアイコンを表示する）、遊技機である。

【６０６０】

このような遊技機によれば、限られたスペースにおいても必要な情報を最大限表示することができるため、遊技者の利便性を高めることができる。また、特定画像が表示されていても入賞図柄画像が表示されていることを確認できるため、例えば、遊技者が遊技を行っていなくとも（空き台をみたときに）、その台が入賞図柄表示機能を有していることを確認し得ることから、遊技者に安心感を与えて遊技意欲を高めることもできる。

【６０６１】

なお、特定画像（上述の所定画像も同様）は、遊技者用のメニューを示すもの（例えば各種メニューアイコン）に限られない。例えば、演出用画像や遊技説明に関する画像など、アイコン以外の画像であってもよい。また、例えば、サブ演出表示部２２はタッチパネルとして構成されていなくともよい。

【６０６２】
（４）　変動表示部で変動する図柄は、通常図柄（例えば「ベル」図柄や「リプレイ」図柄）と、通常図柄よりもサイズが大きい特別図柄（例えば「７」図柄や「ＢＡＲ」図柄などのボーナス図柄）とを少なくとも含み、
　入賞図柄画像においては、変動表示部上の図柄の種別を問わず、変動表示部上の各図柄を同じ縮尺で表示する、遊技機である。
【６０６３】
　このような遊技機によれば、変動表示部上での各図柄の大小が入賞図柄画像においても反映されるため、入賞図柄画像上で図柄の誤認（例えば、ボーナス図柄がより小さく表示されてしまうと、同じ図柄であるか困惑してしまうなど）が発生してしまうことを抑制できる。
【６０６４】
（５）　変動表示部で変動する図柄は、通常図柄（例えば「ベル」図柄や「リプレイ」図柄）と、通常図柄よりもサイズが大きい特別図柄（例えば「７」図柄や「ＢＡＲ」図柄などのボーナス図柄）とを少なくとも含み、
　入賞図柄画像においては、変動表示部上の通常図柄と特別図柄とで、異なる縮尺にて図柄を表示することが可能である、遊技機である。
【６０６５】
　このような遊技機によれば、変動表示部上での各図柄の大小が入賞図柄画像においては必ずしも反映されないものの、例えば、特別図柄に比して通常図柄の表示が小さくなり過ぎてしまい、その視認性が低下してしまうといった事態が生じることを防止できるため、そのような観点より入賞図柄画像の視認性を高めることができる。
【６０６６】
（６）　特定メニュー画面（例えば図４８２の（３）に示す音量調整画面。なお、後述の図４８４の（２）に示す光量調整画面も同様である。また、図示は省略しているがユーザーメニュー画面も同様である）では、入賞図柄画像は表示しないが、入賞図柄画像が表示される表示領域（例えば入賞図柄表示領域）に相当する領域には他の表示物を表示しない（スペースを空けておく）、遊技機である。
【６０６７】
　このような遊技機によれば、そのような特定メニュー画面の汎用性を高めることができきるため、遊技機設計に関する工数やコストを削減することができる。
【６０６８】
＜光量調整メニュー選択時の一制御例＞
　続いて、図４８４を参照して、光量調整メニュー選択時の一制御例を説明する。なお、ここでは、デモ状態（デモ画面の表示中）から光量調整画面を表示したときの一例を説明している。また、ここでは、上述の図４７６～図４８０と同様の形式にてその遷移を説明しているが、特に、メイン演出表示部２１の表示内容、サブ演出表示部２２の表示内容、並びに、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒの表示内容が説明したい点であるため、それらの内容を主として説明し、その他の構成についてはその説明を省略している。
【６０６９】
　図４８４の（１）は、デモ状態であるときを示している。なお、デモ状態は、例えば、非遊技中（全リール停止後）に何らの操作も行われることなく所定時間（例えば１分程度）が経過したとき、非遊技中に精算ボタン１３Ｘが操作されたとき、あるいは、非遊技中に、例えばチャンスボタン３３Ｘなどを操作してユーザーメニュー画面を開いた後それを閉じたときなどに移行する客待ち（デモンストレーション）状態である。むろん、これらのデモ状態の移行条件は一例に過ぎず、これら以外の移行条件によってデモ状態に移行させることもできる。
【６０７０】
　このとき、メイン演出表示部２１ではデモ状態に対応したデモ映像が表示される。また

、このとき、サブ演出表示部２２では図４７９の（ｇ）や図４８２の（２）と同様の内容が表示される。また、このとき、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒはデモ状態に対応したパターン（デモ状態対応パターン）にて発光する演出が行われる。ここで、デモ状態対応パターンは、基本的にデモ映像に対応する演出パターンであるので、デモ画像の表示が終了した後は通常の遊技待機中に対応したパターンにて発光する演出が行われ得るものとしてもよい。

【６０７１】

なお、デモ状態においてサブ演出表示部２２では、例えば、メイン演出表示部２１と同様にデモ映像が表示されるものとし、各種メニューアイコンは表示されないものとしてもよい。また、例えば、メイン演出表示部２１と同様にデモ映像が表示されるが、これとともに各種メニューアイコンも表示されるものとしてもよい。また、図４８４の（１）に示すように、デモ状態に関連する表示は行われず、何らかの操作があるまでは通常の遊技待機中（例えば図４７９の（ｇ）～図４８０の（ｉ）等参照）と同様の表示が行われるものとしてもよい。

【６０７２】

また、デモ状態においてサブ演出表示部２２では、例えば、メイン演出表示部２１と同様にデモ映像が表示されるものとし、入賞図柄表示は行われないものとしてもよい。また、例えば、メイン演出表示部２１と同様にデモ映像が表示されるが、これとともに入賞図柄表示も（引き続き）行われるものとしてもよい。また、図４８４の（１）に示すように、デモ状態に関連する表示は行われず、何らかの操作があるまでは通常の遊技待機中（例えば図４７９の（ｇ）～図４８０の（ｉ）等参照）と同様の表示が行われるものとしてもよい。

【６０７３】

また、デモ状態において何らの操作も行われることなく所定時間（例えば３分程度）が経過したときには、省電力状態（省電力モード）に移行させてもよい。このとき、メイン演出表示部２１では省電力状態に対応したエコ画像が表示される（あるいは画面が暗転する）。また、このとき、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒは省電力状態に対応したパターン（省電力状態対応パターン）で制御される。省電力状態対応パターンは、単に消灯させるパターンであってもよいし、省電力を実現しながらも遊技意欲喚起のために最低限の発光態様にて発光させるパターンであってもよい。

【６０７４】

また、省電力状態においてサブ演出表示部２２では、例えば、メイン演出表示部２１と同様にエコ画像が表示される（あるいは画面が暗転する）ものとし、入賞図柄表示は行われないものとしてもよい。また、例えば、メイン演出表示部２１と同様にエコ画像が表示される（あるいは画面が暗転する）が、これとともに入賞図柄表示も（引き続き）行われるものとしてもよい。また、省電力状態に関連する表示は行われず、何らかの操作があるまでは通常の遊技待機中（例えば図４７９の（ｇ）～図４８０の（ｉ）等参照）と同様の表示が行われるものとしてもよい。

【６０７５】

図４８４の説明に戻る。図４８４の（１）の状態（デモ状態）、あるいは上述の省電力状態において、例えば、四方向キー３６Ｘの上下方向への操作が行われると、光量調整画面（光量調整メニュー）が表示される。なお、光量調整画面は上述の如く光量調整メニューアイコンをタッチすることによっても表示される。また、このとき、例えば、四方向キー３６Ｘの左右方向への操作が行われるか、音量調整メニューアイコンがタッチされると、音量調整画面（音量調整メニュー）が表示される。

【６０７６】

図４８４の（２）は、デモ状態において光量調整画面（光量調整メニュー）が表示された状況を示した一例である。なお、デモ状態以外の非遊技中において光量調整画面（光量調整メニュー）が表示された状況も基本的には（メイン演出表示部２１にデモ映像が表示されている以外は）同様となる。

【６０７７】
このとき、メイン演出表示部２１ではデモ状態に対応したデモ映像が表示される。なお、デモ状態において光量調整画面が表示された場合であっても、メイン演出表示部２１ではデモ映像を表示しないようにしてもよい。例えば、通常の待機中画面を表示してもよいし、「光量調整中」といったように光量調整メニューの表示中であることを報知する表示を行ってもよい。これは、音量調整画面についても同様である。
【６０７８】
また、このとき、サブ演出表示部２２では図４８４の（２）に示すように光量調整画面が表示される。また、このとき、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒは光量調整中に対応したパターン（光量調整対応パターン）で制御される。
【６０７９】
図４８４の（２）に示すとおり、この一例の光量調整画面では、下から上に向かって「１」（光量設定の最小値）～「３」（光量設定の最大値）の３段階で表された各段階ボタン表示（符号省略）と、その段階を上昇させることが可能な、上向きの三角形で表された上昇ボタン表示（符号省略）と、その段階を下降させることが可能な、下向きの三角形で表された下降ボタン表示（符号省略）と、１つ前の画面（図４８４の（１）参照）に戻ることが可能な、「戻る」と表記された戻るボタン表示（符号省略）が表示されている。なお、現在の光量設定は「３」である。ここで、戻るボタン表示がタッチされた場合、デモ状態（図４８４の（１）参照）に戻るようにしてもよいし、通常の遊技待機中（図４７９の（ｇ）参照）に戻るようにしてもよい。後者の場合には、デモ状態に移行させるための所定時間（例えば１分程度）を計時するタイマがリセットされる（再度計時を開始する）ようにすればよい。
【６０８０】
この光量調整画面では、上昇ボタン表示をタッチして光量設定の段階を上げ（例えば、一度タッチすると光量設定が一段階上がり、長押しすると光量設定が複数段階上がるなど）、下降ボタン表示をタッチして光量設定の段階を下げる（例えば、一度タッチすると光量設定が一段階下がり、長押しすると光量設定が複数段階下がるなど）といった操作ができるのみならず、各段階ボタン表示を直接操作することによっても光量設定を変更することが可能となっている。
【６０８１】
例えば、段階ボタン表示において、「３」の部分にタッチすると光量設定が「３」となり、「１」の部分にタッチすると光量設定が「１」となる。なお、段階ボタン表示が表示されている部分（あるいはその付近）において、スワイプ操作を行うことによっても光量設定が可能である。例えば、上方向へスワイプさせると光量設定の段階が上昇し、下方向へスワイプさせると光量設定の段階が下降する。そして、所望の段階となったときにスワイプ操作を解除すればその段階が設定される。
【６０８２】
また、この光量調整画面が表示されている状態で、四方向キー３６Ｘを操作することによっても光量設定を変更することが可能となっている。例えば、四方向キー３６Ｘを上方向に操作すると光量設定の段階が上昇し、四方向キー３６Ｘを下方向に操作すると光量設定の段階が下降する。
【６０８３】
なお、図４８４の（２）では図示を省略しているが、この一例の光量調整画面では、光量調整に関連する上述の各種ボタン表示が行われている場合であっても、サブ演出表示部２２の下部において入賞図柄表示領域に相当する部分（領域Ｚ部分）にはスペースが空けられているものとする。
【６０８４】
また、光量調整対応パターンであるが、これは、光量調整の結果（現在の光量設定の段階）に応じてその明るさ（輝度）が変化するパターンとして構成される。例えば、現在の

光量設定が「３」である場合には最も明るい輝度で発光し、現在の光量設定が「１」である場合には最も暗い輝度で発光する。なお、明るさ（輝度）の変化はＬＥＤのデューティー比の変化により制御してもよいし、点灯パターンの変更（例えば、点灯するＬＥＤ個数の増減）により制御してもよい。

【６０８５】

また、この一例では図示を省略しているが、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒ以外のランプ（例えば腰部ランプなど）も光量調整対応パターンで制御される。もっとも、光量調整画面（サブ演出表示部２２）と一緒に視界に入りやすい（近傍に設けられた）所定ランプ（これを、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒとしてもよいし、左サイドランプ２３Ｌのみとしてもよい）については光量調整対応パターンで制御するが、光量調整画面（サブ演出表示部２２）と一緒に視界に入りにくい（近傍に設けられていない）所定ランプ以外のランプ（例えば腰部ランプなど）については通常のパターンで制御するようにしてもよい。

【６０８６】

また、光量調整対応パターンは、光量調整の結果をわかりやすく遊技者に示すため、点滅せず点灯を維持するパターンとすることができる。また、同様の観点より、色変化などをせず特定色の発光（例えば白発光など）を維持するパターンとすることができる。なお、これらのパターンは、専用のパターンであってもよいし、例えばエラー中のパターンなどと共通のパターンであってもよい。

【６０８７】

また、この一例では、光量調整中は上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒを上述の光量調整対応パターンで制御することとしているが、光量調整対応パターンでは制御せず、実行中のパターン（例えばこの一例ではデモ状態対応パターン）で制御するように構成することもできる。このようにすると、もともとの演出効果を低下させずに光量調整を行うことが可能となる。また、このようにしても、すでに実行中のパターンにて光量の変化を認識できるため、ある側面では光量調整の結果を認識しやすくすることが可能であると考えられる。

【６０８８】

また、この一例では、光量調整画面で光量設定を行った場合、それによって影響を受けるのは各種ランプの明るさ（輝度）であると説明したが、メイン演出表示部２１やサブ演出表示部２２の明るさ（輝度）もそれによって影響を受ける（明るさ（輝度）が変動する）ものとしてもよい。この場合、サブ演出表示部２２上では光量調整画面が表示されているので専用の表示を行うことはできない（単に表示中の明るさが変動するだけである）が、メイン演出表示部２１上では光量調整対応パターンに応じた専用の表示（例えば、白背景で「光量調整中」と表示されるなど）が行われるものとしてもよい。このようにすれば、光量調整の結果をよりわかりやすく遊技者に示すことが可能となる。むろん、もともとの演出効果を低下させずに光量調整を行うことを可能とするために、上述の如くデモ映像が表示されるようにすることもできる。

【６０８９】

［光量調整メニュー選択時の一制御例から得られる技術的思想のまとめ］

以上説明したように、光量調整メニュー選択時の一制御例の遊技機では、例えば以下のような技術的思想が得られる。

【６０９０】

（１）　演出に関する光量を調整可能な光量調整画面が表示されている場合、所定ランプ（例えば、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒなど）を光量調整の結果に応じてその明るさ（輝度）を変化させることが可能な光量調整対応パターンで制御する、遊技機である。

【６０９１】

このような遊技機によれば、光量調整の結果を遊技者にわかりやすく示すことができるため、利便性を高めることができる。

【６０９２】
（２）　上記所定ランプは、光量調整画面の表示位置（例えばサブ演出表示部２２の位置）の近傍に設けられたランプである、遊技機である。
【６０９３】
　このような遊技機によれば、光量調整の結果を遊技者によりわかりやすく示すことができるため、利便性をさらに高めることができる。
【６０９４】
（３）　光量調整画面が表示される第１演出表示部（例えばサブ演出表示部２２）と、第１演出表示部とは異なる第２演出表示部（例えばメイン演出表示部２１）とがあり、
　第１演出表示部で光量調整画面が表示されている場合であっても、第２演出表示部では光量調整に関連しない演出表示（例えばデモ映像）が表示される、遊技機である。
【６０９５】
　このような遊技機によれば、もともとの演出効果を低下させずに光量調整を行うことができるとともに、例えば、実際の遊技中に近い態様にて光量の変化を認識できるため、光量調整の結果を認識しやすくすることもできる。
【６０９６】
＜各種操作や画像表示などに関するタイムチャートの一例＞
　続いて、図４８５を参照して、各種操作や画像表示などに関するタイムチャートの一例を説明する。上述の如く、サブ演出表示部２２上には各種メニューアイコンなどが表示され、遊技者は対応する箇所をタッチ操作することで所望の演出用操作を行い得る。また、操作台座部には物理的な操作手段（例えば四方向キー３６Ｘなど）も設けられており、遊技者はこれを操作することによっても所望の演出用操作を行い得る。ここでは、それらと演出表示などとの関係性の一例をタイムチャート形式で説明する。
【６０９７】
　図４８５において、「調整用操作可能画像」は上述の音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコンを示し、「第１操作手段による調整メニュー画面移行」は、「第１操作手段」をサブ演出表示部２２上に表示された上述の音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコンとしたとき、これらへのタッチ操作に応じて音量調整画面や光量調整画面が表示されることを示している。なお、「第１操作手段」は後述の「第２操作手段」とは異なる操作手段であればよく、サブ演出表示部２２上に表示された上述のアイコンに限られない。例えば、四方向キー３６Ｘやチャンスボタン３３Ｘであってもよいし、その他の演出用ボタン（例えばジョグダイヤルや演出用レバーなど）であってもよい。
【６０９８】
　また、「第２操作手段による調整メニュー画面移行」は、「第２操作手段」を上述の四方向キー３６Ｘ（十字キー）としたとき、これに対する上下方向や左右方向への押下操作に応じて音量調整画面や光量調整画面が表示されることを示している。なお、「第２操作手段」は上述の「第１操作手段」とは異なる操作手段であればよく、四方向キー３６Ｘに限られない。例えば、サブ演出表示部２２上に表示された上述のアイコンやチャンスボタン３３Ｘであってもよいし、その他の演出用ボタン（例えばジョグダイヤルや演出用レバーなど）であってもよい。
【６０９９】
　また、「ログイン用設定操作画像」は上述のユーザーメニューアイコンを示し、「演出設定操作画像」は上述のモード選択メニューアイコンや演出カスタムメニューアイコンを示し、「所定のリールバックライト演出」は上述の「リールバックライトの入賞時フラッシュ」（図４８１参照）を示している。
【６１００】
　「３ＯＦＦ」時（第３停止操作（最終停止操作）におけるストップボタンの押下が解除されたとき。全てのリールが停止したときとしてもよい）には「所定のリールバックライト演出」の実行が開始される。なお、これは、例えば「３ＯＦＦ」時から３秒程度で終了する。各操作画像が表示される前にそのような演出を終了させることで、各操作画像に遊

技者の視線が誘導されてそのような演出の演出効果が低下してしまうことを抑制できる。

【６１０１】

もっとも、「３ＯＦＦ」時から５秒経過後も実行が継続されるリールバックライト演出を実行可能としてもよい。この場合、５秒経過時点で各種アイコンが表示されるため、リールバックライト演出の実行中に各種アイコンの表示が開始されることとなる。また、リールバックライト演出の実行中にベット操作が行われた場合には、そのリールバックライト演出を終了させるようにしてもよい。なお、リプレイ役が入賞したゲームにおけるリールバックライト演出の実行中は、自動再ベットの完了時やベットボタン押下時（自動再ベットが行われるので押下してもベット操作とはならない）ではなく次ゲーム開始のためのレバーオン操作（開始操作）が行われた場合にリールバックライト演出を終了させるようにしてもよい。上述の「所定のリールバックライト演出」は、例えば「ベル」（上述の１１枚役）などの相対的に当籤頻度が高い役（通常役）の入賞時に行われる（例えば、その入賞を示唆ないし報知するための）リールバックライト演出を示しているが、相対的に当籤頻度が低い特別役（ボーナス重複当籤を確定させたり、ＡＴ当籤を確定させたりする確定役であってもよいし、そのような期待度が高いチャンス役であってもよい）の入賞時には（例えば、その入賞を示唆ないし報知するための）、「３ＯＦＦ」時から７秒程度にわたって実行される特定のリールバックライト演出が行われるものとしてその期待感を高めてもよい。そのような特別役の入賞時には、遊技者は各操作画像よりもそのような演出を注視する可能性が高いため、そのように構成することでむしろ演出効果を高めることが可能となる。

【６１０２】

また、「３ＯＦＦ」時には「第２操作手段による調整メニュー画面移行」が可能となる。すなわち、例えば四方向キー３６Ｘへの操作が受付可能となる。したがって、左右方向への操作を行えば音量調整画面が表示されるし、上下方向への操作を行えば光量調整画面が表示される。このとき、音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコンは未だ表示されていないので、「第１操作手段による調整メニュー画面移行」は可能となっていない。なお、「第２操作手段による調整メニュー画面移行」が可能となるタイミングは上述のものに限られない。例えば、「３ＯＦＦ」時から１秒程度（長くとも５秒未満）の操作無効期間を設けるようにしてもよい。

【６１０３】

「３ＯＦＦ５秒後」（すなわち、上述の「３ＯＦＦ」時から５秒後。なお、「５秒」に限られず任意の時間とすることができる）には「調整用操作可能画像」、「ログイン用設定操作画像」、及び「演出設定操作画像」の表示が開始される。また、「第１操作手段による調整メニュー画面移行」が可能となる。すなわち、例えば音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコンへのタッチ操作が受付可能となる。したがって、音量調整メニューアイコンがタッチされれば音量調整画面が表示されるし、光量調整メニューアイコンがタッチされれば光量調整画面が表示される。

【６１０４】

「ＢＥＴ操作」時には「演出設定操作画像」の表示が終了する。なお、「ＢＥＴ操作」後に精算ボタン１３Ｘが操作された場合（すなわち、ベット操作がキャンセルされた場合）には、「演出設定操作画像」の表示を再開させてもよいし、「演出設定操作画像」の表示が終了したままの状態を維持するようにしてもよい。後者の場合、ベット数が０枚であるのに「演出設定操作画像」が表示されていない状態となることから、例えば離席する際にそのような状態としておくと、戻った際に自分が遊技していた台をみつけやすくなるといった利点がある。

【６１０５】

「レバーオン」時には「調整用操作可能画像」及び「ログイン用設定操作画像」の表示が終了する。また、「第１操作手段による調整メニュー画面移行」及び「第２操作手段による調整メニュー画面移行」が不能となる。

【６１０６】

（この一例における音量調整・光量調整に関する仕様のまとめ）
・レバーオン（開始操作）から３ＯＦＦ（最終停止操作終了）までは音量調整及び光量調整が不能。
・３ＯＦＦ直後から第２操作手段による音量調整画面及び光量調整画面の表示が可能（すなわち、音量調整機能及び光量調整機能を実行可能）。
・３ＯＦＦの５秒後から第１操作手段による音量調整画面及び光量調整画面の表示が可能（なお、第２操作手段による音量調整画面及び光量調整画面の表示も可能）。
・ベット操作後も第１・第２操作手段による音量調整画面及び光量調整画面の表示が可能（ただし、演出設定操作は不能となる）。
【６１０７】
（その他の仕様例）
・例えば、四方向キー３６Ｘの左右方向への操作を継続したまま（ボタンを押下したまま）でも音量調整画面へのタッチ操作で音量調整が可能。また、例えば、四方向キー３６Ｘの上下方向への操作を継続したまま（ボタンを押下したまま）でも光量調整画面へのタッチ操作で光量調整が可能。すなわち、第２操作手段がオン状態であっても第１操作手段で調整用操作が可能。
・例えば、音量調整画面をタッチしたままでも四方向キー３６Ｘの左右方向への操作で音量調整が可能。また、例えば、光量調整画面をタッチしたままでも四方向キー３６Ｘの上下方向への操作で光量調整が可能。すなわち、第１操作手段がオン状態であっても第２操作手段で調整用操作が可能。
　これにより、例えば、一方の操作手段がオン状態のまま（少なくともオン状態と認識されたまま）故障するなどの事態が発生した場合であっても、他方の操作手段で調整用操作を行うことが可能になるため、遊技者の利便性を高めることができるとともに、遊技機としての製品の信頼性なども高めることができる。
【６１０８】
・例えば、音量調整画面（図４８２の（３）参照）において、戻るボタン表示（図４８２の（３）中、「戻る」の表示箇所）へのタッチ操作は、オフエッジ検出（タッチされた（オン状態となった）後、それが離された（オフ状態となった）ときに操作されたと判断される検出方法）にて検出されるが、各段階ボタン表示（図４８２の（３）中、「１」～「５」の表示箇所）へのタッチ操作は、オンエッジ検出（タッチされた（オン状態となった）ときに操作されたと判断される検出方法）にて検出される。
・例えば、光量調整画面（図４８４の（２）参照）において、戻るボタン表示（図４８４の（２）中、「戻る」の表示箇所）へのタッチ操作は、オフエッジ検出（タッチされた（オン状態となった）後、それが離された（オフ状態となった）ときに操作されたと判断される検出方法）にて検出されるが、各段階ボタン表示（図４８４の（２）中、「１」～「３」の表示箇所）へのタッチ操作は、オンエッジ検出（タッチされた（オン状態となった）ときに操作されたと判断される検出方法）にて検出される。
　これにより、例えば、各段階ボタン表示においてはスワイプ操作などの検出を行いやすくしたり、遊技者の調整用操作に即応させる処理を行ったりすることを可能とし、また、戻るボタン表示においては誤ってタッチされた場合であってもすぐに調整用画面を終了させないようにすることができるため、遊技者の利便性を高めることができる。
【６１０９】
・音量調整画面や光量調整画面において、例えば、戻るボタン表示がタッチされてその画面の表示を終了させる場合には終了時効果音が出力されるが、レバーオン（開始操作）によってその画面の表示が終了される場合には終了時効果音が出力されない。
　これにより、例えば、レバーオン時に出力されるレバーオン時効果音が聞き取りにくくなったり、あるいは処理が煩雑になったりすることを防止できるため、より適切な制御を行うことができる。
【６１１０】
・第１操作手段への操作によって音量調整画面が表示される場合と、第２操作手段への操

作によって音量調整画面が表示される場合とで、同じ態様の音量調整画面を表示する。
・第１操作手段への操作によって光量調整画面が表示される場合と、第２操作手段への操作によって光量調整画面が表示される場合とで、同じ態様の光量調整画面を表示する。
　これにより、いずれの調整用操作を行ったとしても同じ結果が得られることから、遊技者を混乱させにくくすることができるとともに、遊技者の利便性を高めることもできる。
【６１１１】
　上記の変形例として、
・第１操作手段への操作によって音量調整画面が表示される場合と、第２操作手段への操作によって音量調整画面が表示される場合とで、異なる態様の音量調整画面を表示する（例えば、音量調整メニューアイコンへのタッチ操作が行われた場合にはサブ演出表示部２２上に音量調整画面を表示し、四方向キー３６Ｘへの操作が行われた場合にはメイン演出表示部２１の下部に音量バーを表示するなど）。
・第１操作手段への操作によって光量調整画面が表示される場合と、第２操作手段への操作によって光量調整画面が表示される場合とで、異なる態様の光量調整画面を表示する（例えば、光量調整メニューアイコンへのタッチ操作が行われた場合にはサブ演出表示部２２上に光量調整画面を表示し、四方向キー３６Ｘへの操作が行われた場合にはメイン演出表示部２１の下部に光量バーを表示するなど）。
　これにより、遊技者が調整用操作を行う操作手段を選択することで所望の調整画面が表示可能となることから、遊技者の利便性をさらに高めることができる。
【６１１２】
［各種操作や画像表示などに関するタイムチャートの一例から得られる技術的思想のまとめ］
　以上説明したように、各種操作や画像表示などに関するタイムチャートの一例の遊技機では、例えば以下のような技術的思想が得られる。
【６１１３】
（１）　第１操作手段（例えばタッチパネルとして構成されたサブ演出表示部２２）による調整用操作（例えば音量調整画面や光量調整画面を表示させるための操作）が無効な所定期間（例えば「３ＯＦＦ」時～「３ＯＦＦ５秒後」よりも前の期間）であっても、第２操作手段（例えば四方向キー３６Ｘ）による調整用操作が可能である、遊技機である。
【６１１４】
　このような遊技機によれば、第１操作手段が有効となるまでの期間を待たずとも調整用操作を行い得るため、遊技者の利便性を高めることができる。
【６１１５】
　なお、調整用操作に応じた動作は上述のものに限られない。例えば、現時点の演出表示の画面を維持したまま画面の一部に調整表示（音量バーや光量バーの表示）を出現させるものでもよい。また、例えば、音量調整を一例に挙げて説明すると、現在の音量設定が「３」であるとき、四方向キー３６Ｘの左方向への操作が行われた場合には音量設定を「２」にした状態で音量調整画面を開く一方、四方向キー３６Ｘの右方向への操作が行われた場合には音量設定を「４」にした状態で音量調整画面を開くといったものでもよい。
【６１１６】
（２）　上記所定期間においては、第１操作手段が有効である旨を示す特定画像（例えば音量調整メニューアイコンや光量調整メニューアイコン）を表示しない、遊技機である。
【６１１７】
　このような遊技機によれば、第１操作手段の有効期間を遊技者に認識されやすくしてその利便性を高めることができるとともに、例えば、遊技結果に応じて行われる所定演出（例えば所定のリールバックライト演出）などの演出効果が低下してしまうことを抑制することができる。また、あえて所定期間を設けることで、遊技終了の直後から特定画像が表示されて興趣が減退してしまうことも抑制できる。
【６１１８】
（３）　所定演出（例えば所定のリールバックライト演出）は、上記所定期間内において

開始され、上記所定期間を経過する以前に終了する演出である、遊技機である。

【６１１９】

このような遊技機によれば、特定画像に遊技者の視線が誘導されてしまう前に所定演出が終了されるため、そのような演出の演出効果を高めることができる。

【６１２０】

なお、上記所定演出はリールランプ（リールバックライト）を用いた演出に限定されない。メイン演出表示部２１上で行われる演出であってもよいし、上部ランプ２３Ｃ上で行われる演出であってもよい。あるいは、サブ演出表示部２２上で行われる演出であってもよい。また、１ゲームで終了し、基本的に当該ゲームの遊技結果を示唆ないし報知する通常演出であってもよいし、複数ゲームにわたって継続し、必ずしも当該ゲームの遊技結果を示唆ないし報知しない連続演出の一部であってもよい。また、上記所定演出を映像による演出とする場合、上記所定期間内に映像が完結するものとすればよく、所定期間の経過後も映像終了時の画面が表示されているものであってもよい。

【６１２１】

（４）　特定演出（例えば特定のリールバックライト演出）は、上記所定期間内において開始され、上記所定期間の経過後も継続可能な演出である、遊技機である。

【６１２２】

このような遊技機によれば、例えば、遊技者にとって期待感の高い特定演出が実行される際には特定画像の表示後もそのような演出が継続して実行されるため、そのような演出に関する期待感を高めることができるとともに、別の側面から演出効果を高めることもできる。

【６１２３】

なお、上記特定演出もリールランプ（リールバックライト）を用いた演出に限定されない。メイン演出表示部２１上で行われる演出であってもよいし、上部ランプ２３Ｃ上で行われる演出であってもよい。あるいは、サブ演出表示部２２上で行われる演出であってもよい。また、１ゲームで終了し、基本的に当該ゲームの遊技結果を示唆ないし報知する通常演出であってもよいし、複数ゲームにわたって継続し、必ずしも当該ゲームの遊技結果を示唆ないし報知しない連続演出の一部であってもよい。あるいは、操作連動演出とし、上記所定期間内にチャンスボタン３３Ｘが押下された場合には上記所定期間内に終了し得るが、上記所定期間内にチャンスボタン３３Ｘが押下されなかった場合には上記所定期間経過後も継続し得るものであってもよい。

【６１２４】

（５）　上記特定演出（上記所定演出を含むものとしてもよい）は、上記特定画像が表示される演出実行手段（例えばサブ演出表示部２２）とは異なる演出実行手段（例えばメイン演出表示部２１など）において実行される、遊技機である。

【６１２５】

このような遊技機によれば、上記特定演出が実行されても、第１操作手段が有効である旨は遊技者に変わらず示されるため、演出に関する興趣を高めつつ、遊技者の利便性も高めることができる。

【６１２６】

なお、上記特定演出が実行される場合には、上記所定期間が経過したかを問わず、上記特定演出が終了するまで特定画像を表示しないようにしてもよい。すなわち、例えば、特定のリールバックライト演出が実行される遊技では、特定のリールバックライト演出が終了したときに各アイコンの表示が開始されるものとしてもよい。このようにすれば、演出に関する興趣を高めつつ、その表示内容を整合させて遊技者にそのゲーム性を理解させやすくすることができる。

【６１２７】

＜ドア開閉時の一制御例＞

続いて、図４８６及び図４８７を参照して、ドア開閉時の一制御例を説明する。なお、ここでは、非遊技中のある時期（例えば図４７８の（ｆ）参照）において、前面扉（フロ

ントドア）が開閉されたときの一例を説明している。また、ここでは、上述の図４７６～図４８０と同様の形式にてその遷移を説明しているが、特に、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒの表示内容、メイン演出表示部２１の表示内容、サブ演出表示部２２の表示内容、並びに、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒの表示内容が説明したい点であるため、それらの内容を主として説明し、その他の構成についてはその説明を省略している。

【６１２８】

図４８６の（ｆ－１）は、非遊技中のある時期（例えば図４７８の（ｆ）参照）を示している。このとき、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒではその有効ライン（中－中－下）上に「ベル－ベル－リプレイ」が表示されている。また、このとき、メイン演出表示部２１では通常時演出の演出表示が行われているものとする。また、このとき、サブ演出表示部２２では入賞図柄表示が行われている。また、このとき、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒでは特に演出は行われていないものとしているが、通常時演出に対応したパターンにて発光する演出が行われているものとしてもよい。

【６１２９】

図４８６の（ｆ－２）は、図４８６の（ｆ－１）の状態において前面扉が開けられた（開放された）状態を示している。このとき、メイン演出表示部２１では、例えば「ドアが開いています」といったように前面扉が開放状態であることを報知するためのドア開放報知（ドア開放エラー表示）が行われている。また、このとき、サブ演出表示部２２でも同様のドア開放報知（ドア開放エラー表示）が行われている。なお、この状態では、遊技者は各種メニューによる演出用操作を行えないため、各種アイコンは表示されていない。もっとも、この状態においても、少なくとも一部の演出用操作は行い得るものとし、演出用操作が行い得るアイコンについてはこれを表示するものとしてもよい。また、この状態では入賞図柄表示が行われていないが、この状態においても入賞図柄表示が継続して行われ得るものとしてもよい。

【６１３０】

また、このとき、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒは前面扉が開放状態であることを報知するためのドア開放対応パターンで制御される。なお、ドア開放対応パターンは専用のパターンであってもよいし、他のエラー時にも実行されるエラー対応パターンであってもよい。

【６１３１】

なお、ここでは、図４８６の（ｆ－２）の状態において、遊技店の店員が誤って中リール３Ｃを手で回転させてしまったとしている。すなわち、遊技機側の制御によることなく、有効ライン上の一部の図柄（中リール３Ｃの中段の図柄）が図４８７の（ｆ－３）に示すように変動したものとしている。

【６１３２】

図４８７の（ｆ－３）は、図４８６の（ｆ－２）の状態において前面扉が閉められた（閉鎖された）状態を示している。このとき、メイン演出表示部２１、サブ演出表示部２２、並びに、上部ランプ２３Ｃ、左サイドランプ２３Ｌ、及び右サイドランプ２３Ｒはドア開放前（図４８６の（ｆ－１））の状態に復帰している。

【６１３３】

なお、各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒでは、図４８６の（ｆ－２）の状態において中リール３Ｃが回転されていたため、ドア開放前はその有効ライン（中－中－下）上に「ベル－ベル－リプレイ」が表示されていたが、ドア閉鎖後はその有効ライン（中－中－下）上に「ベル－リプレイ－リプレイ」が表示されるものとなっている。

【６１３４】

ここで、この一例では、そのように非遊技中において遊技機側の制御によることなくリールの停止位置が変動した場合であっても、入賞図柄表示においては変動前（リール全停止時）の表示図柄が維持されるようになっている。したがって、そのような状況が発生した場合においても遊技者に適切に入賞図柄を報せることができ、遊技の健全性や遊技者の

利便性を高めることができる。

【６１３５】

なお、図示は省略しているが、電断復帰時も同様の挙動となる。すなわち、例えば、電断前に「ベル－ベル－リプレイ」の入賞図柄表示を行っていた場合、再度電源が投入されて復帰した場合には同様の入賞図柄表示が行われることとなる。なお、ここでいう電断復帰は、設定変更を伴わないもののみを指すものであってもよいし、設定変更を伴うものを含んでいてもよい。

【６１３６】

もっとも、メイン演出表示部２１では、電断前と電断復帰後とでその表示内容が変動するものであってもよい。例えば、メイン演出表示部２１では、電断前の状態（例えば図４８６の（ｆ－１）の状態）において疑似的なリール上に「ベル」を模した図柄組合せを表示していたが、電断復帰後の状態（例えば図４８７の（ｆ－３）の状態）においては、そのような疑似的なリール上にはデフォルト（初期設定の）出目である「リプレイ－ベル－スイカ」といったような図柄組合せを表示させるなどの演出制御を行ってもよい。このようにしても、遊技者は入賞図柄表示によって電断前の各図柄を確認できることから、演出を多様化させながらも、遊技の健全性や遊技者の利便性を高めることができる。

【６１３７】

また、上述の電断復帰時には入賞図柄表示を非表示としてもよい。ここでは、後述の図４８８のようにメイン演出表示部２１に疑似的なリール画像を３リール分表示（例えば、図４８８では「チェリー・チェリー・チェリー」の図柄の３つ並び）のように入賞対応の疑似リール画像を表示する仕様を前提とし、電断復帰後は入賞図柄表示を非表示とする仕様の一例について、状況をわけて説明する。

【６１３８】

状況１：無効ラインであるセンターライン上に「ベル－ベル－ベル」表示、かつ、有効ライン（中－中－下）上に「ベル－ベル－リプレイ」表示という、図４７８に示すベル役（例えば上述の１１枚役）入賞という状況で、ベット操作をせずに電断復帰した場合。

（電断前）

・メイン演出表示部２１上のステージ画像：通常ステージ画像（例えば、昼ステージ、夕方ステージ、夜ステージなど）のいずれか

・メイン演出表示部２１上の疑似リール画像：ベル－ベル－ベル

・サブ演出表示部２２上のステージ画像：通常ステージ画像（メイン演出表示部２１上のステージと対応するステージ画像）のいずれか

・サブ演出表示部の入賞図柄表示：ベル－ベル－リプレイ

（電断復帰後（設定変更を伴わない電断復帰と設定変更後で同様の挙動））

・メイン演出表示部２１上のステージ画像：初期設定の通常ステージ画像（昼ステージ）

・メイン演出表示部２１上の疑似リール画像：リプ－ベル－スイカ（初期設定の出目）

・サブ演出表示部２２上のステージ画像：デモ画面（※このあとベット操作をしたら初期設定の通常ステージ画像（昼ステージ）を表示）

・サブ演出表示部の入賞図柄表示：非表示（※このあとベット操作をしても非表示）

【６１３９】

状況２：無効ラインであるセンターライン上に「ベル－ベル－ベル」表示、かつ、有効ライン（中－中－下）上に「ベル－ベル－リプレイ」表示という、図４７８に示すベル役（例えば上述の１１枚役）入賞という状況で、ベット操作後に電断復帰した場合。

（電断前）

・メイン演出表示部２１上のステージ画像：通常ステージ画像（例えば、昼ステージ、夕方ステージ、夜ステージなど）のいずれか

・メイン演出表示部２１上の疑似リール画像：ベル－ベル－ベル（※ベット操作後もレバーオンまで表示を維持）

・サブ演出表示部２２上のステージ画像：通常ステージ画像（メイン演出表示部２１上のステージと対応するステージ画像）のいずれか

・サブ演出表示部の入賞図柄表示：ベル－ベル－リプレイ（※ベット操作後もレバーオンまで表示を維持）
（電断復帰後（設定変更を伴わない電断復帰のみ。設定変更を伴う場合は、ベット済情報がクリアされるため前述のベット操作をせずに電断復帰時（状況１）と同様の挙動となる））
・メイン演出表示部２１上のステージ画像：初期設定の通常ステージ画像（昼ステージ）
・メイン演出表示部２１上の疑似リール画像：リプ－ベル－スイカ（初期設定の出目）
・サブ演出表示部２２上のステージ画像：初期設定の通常ステージ画像（昼ステージ）
サブ演出表示部の入賞図柄表示：非表示

【６１４０】

このように電断復帰時には入賞図柄表示を行わない仕様とすることで、例えば、閉店後に電断され、開店前に電源投入された状況では入賞図柄表示が行われないこととなり、設定変更された場合と設定変更されなかった場合とでいずれも入賞図柄表示が行われないため、設定変更が見抜かれにくくなる。なお、電断前が通常ステージ画像ではなく、例えば高確、チャンスゾーン、ボーナス中、あるいはＡＴ中などの有利状態に対応する特別ステージ画像であった場合には、復帰後に特別ステージ画像を維持することが望ましい。また。特別ステージ画像が維持される場合、入賞図柄表示を復帰後は非表示としてもよいし、入賞図柄表示も電断前と同様に表示してもよい。

【６１４１】

また、どのような仕様を採用するにしても、実際に入賞していない図柄組合せを入賞図柄表示として表示することはない。なお、メイン演出表示部２１上の疑似リール画像はあくまで演出表示なので、復帰後の初期設定の出目（例えば、上述の如くハズレ出目に対応する「リプ－ベル－スイカ」など）が、その時点で実際のリール上に停止している図柄組合せ（例えば、上述の「ベル－ベル－ベル」や「ベル－ベル－リプレイ」など）と対応しないものであっても問題はないが、入賞図柄表示が実際のリール上に停止している図柄組合せ（例えば、上述の「ベル－ベル－リプレイ」など）と矛盾すると遊技者の混乱を招くため、復帰時に非表示とする仕様はこうした混乱を抑制できるといえる。

【６１４２】

＜誤認演出について＞

続いて、図４８８を参照して、遊技者に遊技結果を誤認させるおそれがある演出（誤認演出）の一例を説明する。

【６１４３】

まず、図４８８中の「リール表示」について説明する。左リール３Ｌには、上段に「リプレイ」図柄（青色主体の図柄）、中段に「黒ＢＡＲ」図柄（黒色主体の図柄）、下段に「チェリー」図柄（赤色主体の図柄）が停止表示されている。中リール３Ｃには、上段に上述の「リプレイ」図柄、中段に上述の「黒ＢＡＲ」図柄、下段に「スイカ」図柄（緑色主体の図柄）が停止表示されている。右リール３Ｒには、上段に上述の「チェリー」図柄、中段に上述の「黒ＢＡＲ」図柄、下段に上述の「リプレイ」図柄が停止表示されている。

【６１４４】

ここで、有効ラインは上述の例の如く、「中－中－下」の変則１ラインであり、有効ライン上に「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」が表示された場合には、例えば４枚の入賞となるように構成されているものとする。すなわち、「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」は、４枚役に対応する図柄組合せであるものとする。むろん、この役構成は一例に過ぎない。例えば「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」が表示されると「チャンスリプレイ」の成立（再遊技の付与）となるものであってもよい。

【６１４５】

なお、有効ライン上に「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」が表示される場合には、左リール３Ｌの下段に「チェリー」図柄が表示され得るようになっているので、有効ライン上の図柄は「チェリー」図柄を１つも含まない（赤色主体の図柄を想起できない）が、リー

ル全体からすると左リール３Ｌの下段に「チェリー」図柄が表示されて４枚の入賞となったという印象を与え得るものとなっている。このとき、サブ演出表示部２２上では上述の如く入賞図柄表示が行われる。有効ライン上に表示された各図柄は「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」であることから、入賞図柄表示においても「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」が表示される（図４８８中の「入賞図柄表示」）。

【６１４６】

このとき、メイン演出表示部２１において、図４８８中の「メイン表示」のような表示が行われたとする。例えば、左の図のように、赤色の「チェリー」図柄とともに「ＧＥＴ！」といった表示が行われたり、右の図のように、疑似的なリール上に赤色の「チェリー」図柄が揃うといった表示が行われたりしたとする。この場合、そのような表示に接した遊技者は、（実際に今回の遊技で表示された図柄組合せは「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」であって、赤色主体の図柄を含まないにもかかわらず）チェリー図柄の表示によって入賞が発生したと誤認してしまうおそれがある。

【６１４７】

また、このとき、上部ランプ２３Ｃにおいて、図４８８中の「上部ランプ」のように、例えば赤色主体で発光するフラッシュ演出（赤フラッシュ）が行われたとする。この場合、そのような表示に接した遊技者は、（実際に今回の遊技で表示された図柄組合せは「黒ＢＡＲ－黒ＢＡＲ－リプレイ」であって、赤色主体の図柄を含まないにもかかわらず）チェリー図柄の表示によって入賞が発生したと誤認してしまうおそれがある。

【６１４８】

このような遊技結果を誤認させるおそれのある演出が実行され、それについて何らの担保もなされないとすると、遊技者を困惑させて遊技の健全性や公平性が低下してしまうし、また、型式試験に適合しないリスクも増加して遊技機の設計に関する工数やコストが増大してしまうおそれもある。したがって、以下ではそのように遊技結果を誤認させない（誤認させにくくする）ための工夫の一例を説明する。

【６１４９】

＜色報知演出の抽籤態様＞

続いて、図４８９を参照して、例えば上部ランプ２３Ｃなどで行われる色報知演出の抽籤態様について説明する。図４８９は、そのような色報知演出の演出内容を決定するための色報知演出抽籤テーブルの一例である。

【６１５０】

なお、図４８９において、成立役（当籤役）「リプレイ」は、有効ライン上に当該「リプレイ」に対応する図柄組合せが表示されたときに、無効ライン上に「リプレイ」図柄（青色主体の図柄）が揃って表示されるものとし、成立役（当籤役）「ベル」は、有効ライン上に当該「ベル」に対応する図柄組合せが表示されたときに、無効ライン上に「ベル」図柄（黄色主体の図柄）が揃って表示されるものとし、成立役（当籤役）「スイカ」は、有効ライン上に当該「スイカ」に対応する図柄組合せが表示されたときに、無効ライン上に「スイカ」図柄（緑色主体の図柄）が揃って表示されるものとし、成立役（当籤役）「チェリー」は、有効ライン上に当該「チェリー」に対応する図柄組合せが表示されたときに、無効ライン上（少なくとも左リール３Ｌ上）に「チェリー」図柄（赤色主体の図柄）が表示されるものとする。

【６１５１】

また、図４８９において、「青色報知」は青色主体で発光するフラッシュ演出（青フラッシュ）を示し、「黄色報知」は黄色主体で発光するフラッシュ演出（黄フラッシュ）を示し、「緑色報知」は緑色主体で発光するフラッシュ演出（緑フラッシュ）を示し、「赤色報知」は赤色主体で発光するフラッシュ演出（赤フラッシュ）を示している。むろん、それらの演出は上部ランプ２３Ｃで行われるものに限られない。例えば、メイン演出表示部２１において、同様の色で示唆ないし報知する演出（例えば、「赤色報知」については図４７８の「メイン表示」を参照）であってもよい。

【６１５２】

また、図４８９において、「低確」状態及び「高確」状態は、遊技における各種抽籤（各種処理）などの有利度合いを決定するための状態を示している。例えば、非ＡＴ状態が「高確」状態であるときには、非ＡＴ状態が「低確」状態であるときよりもＡＴ状態への移行期待度が高くなる。また、例えば、ＡＴ状態が「高確」状態であるときには、ＡＴ状態が「低確」状態であるときよりもＡＴ状態の延長期待度が高くなる。すなわち、「低確」状態であるときは遊技者の有利度合いが相対的に低くなり、「高確」状態であるときは遊技者の有利度合いが相対的に高くなる。むろん、遊技者の有利度合いを変動させる態様はこれらに限られない。

【６１５３】

また、図４８９において、「設定Ｌ（Ｌｏｗ）」は、設定可能な複数段階の設定値（最大値は「設定６」）の中で最も出玉期待値が低い設定値を示している。近年は型式試験でより効率的に試験を行いやすくするため、遊技店で通常使用される設定値（例えば「設定１」～「設定６」。この中では「設定１」が最も出玉期待値が低い）とは異なる設定値（あるいは、そのうちの１つの設定値を「設定Ｌ」として用いることも可能である）であって、「設定１」よりも出玉期待値を低くした「設定Ｌ」を設けている遊技機が増加している。「設定Ｌ」はむろん遊技店において設定可能な設定値であるが、遊技者にとってかなり不利となる出玉期待値（例えば機械割８０％程度）となっているため、基本的に遊技店では（その営業中は）ほとんど使用されることがない。

【６１５４】

図４８９に示す色報知演出抽籤テーブルでは、例えば、「設定Ｌ以外」において成立役が「リプレイ」であった場合、「低確」状態では「２５３／２５６」の確率で「青色報知」が決定され、「１／２５６」の確率で「黄色報知」が決定され、「１／２５６」の確率で緑色報知」が決定され、「１／２５６」の確率で「赤色報知」が決定される。一方、「高確」状態では「２４４／２５６」の確率で「青色報知」が決定され、「４／２５６」の確率で「黄色報知」が決定され、「４／２５６」の確率で緑色報知」が決定され、「４／２５６」の確率で「赤色報知」が決定される。

【６１５５】

すなわち、例えば、成立役「リプレイ」のときに「青色報知」が行われた場合、それがその図柄の色を報知する演出となる場合はあるものの、「黄色報知」～「赤色報知」も決定され得るように構成されており、さらにそれらの出現率が「低確」状態よりも「高確」状態のほうが高くなっているため、これは状態示唆演出（「低確」状態であるか「高確」状態であるかをその演出内容から推測可能とした演出）として機能する演出となっている。したがって、そのような演出が行われた場合であっても、遊技者が図柄の色が報知されたと誤認しにくくなっているものと考えられる。すなわち、そのように構成することで、そのような演出が誤認演出となることを抑制している。

【６１５６】

もっとも、それらの出現率の関係からすると、必ずしも型式試験においてそれらの演出が現出しない可能性があり、その場合には誤認演出であると誤解されるおそれもある。したがって、この例ではさらに「設定Ｌ」を用いた工夫をなしている。

【６１５７】

例えば、「設定Ｌ」において成立役が「リプレイ」であった場合、「低確」状態では「１２８／２５６」の確率で「青色報知」が決定され、「６４／２５６」の確率で「黄色報知」が決定され、「３２／２５６」の確率で緑色報知」が決定され、「３２／２５６」の確率で「赤色報知」が決定される。一方、「高確」状態では「６４／２５６」の確率で「青色報知」が決定され、「６４／２５６」の確率で「黄色報知」が決定され、「６４／２５６」の確率で緑色報知」が決定され、「６４／２５６」の確率で「赤色報知」が決定される。

【６１５８】

すなわち、「設定Ｌ」では、「設定Ｌ以外」における各演出種別の基本的な構成（状態示唆演出として機能させ得ること）は踏襲しながらも、「黄色報知」～「赤色報知」の出

現率を「設定Ｌ以外」のものよりも高く設定している。これにより、「設定Ｌ」を含めて型式試験が行われれば、そのような演出が状態示唆演出であって図柄の色を報知するためのものではないから誤認演出には該当しないといったことをより明確に示すことが可能となる。

【６１５９】

このような遊技機によれば、遊技者が遊技結果を誤認してしまうことを抑制することができる。したがって、遊技の健全性や公平性を高めることができるとともに、遊技機の設計に関する工数やコストが増大してしまうことも抑制することができる。

【６１６０】

なお、図４８９に示す色報知演出抽籤テーブルはあくまで一例に過ぎない。したがって、各演出種別やその出現率（決定確率）などについては任意の変形・変更を行うことができる。

【６１６１】

例えば、「設定Ｌ以外」では、成立役「リプレイ」のときには状態を問わず「青色報知」が「２５６／２５６」の確率で決定され、成立役「ベル」のときには状態を問わず「黄色報知」が「２５６／２５６」の確率で決定され、成立役「スイカ」のときには状態を問わず「緑色報知」が「２５６／２５６」の確率で決定され、成立役「チェリー」のときには状態を問わず「赤色報知」が「２５６／２５６」の確率で決定される構成としてもよい。すなわち、「設定Ｌ」ではそのような演出が状態示唆演出として機能するが、「設定Ｌ以外」では図柄の色を報知するために用いられるものとしてもよい。これにより、型式試験に適合しやすくしながらも、実際の遊技上は遊技者にとって好適な演出を行うことが可能になるため、そのような演出の興趣を高めることできる。

【６１６２】

（設定Ｌのその他の仕様上の工夫１：ＡＴ中純増期待値）

なお、設定Ｌについては、他の設定値よりもＡＴ中の１ゲーム当たりの純増期待値を低いものとしてもよい。例えば、他の設定値では、ＡＴ中の１ゲームあたり純増期待値が約３枚（設定値に応じて、多少の差があってもよい）であるが、設定ＬではＡＴ中の１ゲームあたりの純増期待値が約１枚などとして傾斜値を低くしてもよい（ナビ率を低下させることで実現可能である）。このようにすることでより設定Ｌが型式試験で不適合となる頻度を低減できるとともに、誤って設定Ｌを打ってしまった遊技者も出玉の推移から打つべきではない設定Ｌであることを気づきやすくなる。

【６１６３】

（設定Ｌのその他の仕様上の工夫２：設定Ｌは初期設定値ではない）

長期間の電源投入が行われなかった場合やエラーなどでメインＲＡＭの記憶領域が初期化された場合、設定値は設定１（初期値）となる。ここで、仮に設定１＝設定Ｌの仕様であるとすると、そのような場合が生じた後、設定変更処理をせずに電源投入した場合には設定Ｌとなってしまい、店員が意図せずに設定Ｌとなってしまうおそれがある。設定Ｌは本来店舗で使われることのない設定なので、遊技者が仮にそのような台で遊技を行ってしまった場合にはその店舗への信頼性が失われてしまうおそれがある。そのため、設定１～６のうちのいずれかを設定Ｌとして用いる場合は、設定１（初期値）以外の設定値を設定Ｌとして設計することが望ましい。また、最高設定である設定６など意図的に投入される設定値も設定Ｌとしない設計が望ましい。６段階設定の場合、設定変更操作時において初期設定から設定値変更スイッチを１回操作した場合の設定２、２回操作した場合の設定３、３回操作した場合の設定４、４回操作した場合の設定５などのいずれか１つを設定Ｌに相当する設定値としておくと設定Ｌの誤投入を抑制しやすくなる。また、設定変更操作時や設定確認操作時において設定Ｌの場合は、設定値表示セグに「Ｌ」と表示して、数字が表示される他の設定と明瞭に区別できるようにするとよい。

【６１６４】

＜入賞図柄表示とリール表示との関係性の一例＞

続いて、図４９０及び図４９１を参照して、入賞図柄表示とリール表示との関係性の一

例を説明する。なお、これは、遊技結果を誤認させない（誤認させにくくする）ための工夫の一例である。

【６１６５】

上述の一例では、有効ライン上に表示された各図柄（図柄組合せ）をサブ演出表示部２２上に表示することで入賞図柄表示を行う（入賞図柄画像を表示する）ものとしていたが、この一例では、それとは少なくとも一部が異なる態様により入賞図柄表示を行うようにしたものである。

【６１６６】

図４９０の（１）は、有効ラインが例えば図４９０の（ａ）～（ｃ）の方法にて遊技者に示されている場合には、図４９０に示す態様にて入賞図柄表示を行うようにしたものである。なお、図４９０の（ａ）～（ｃ）の方法はあくまで一例であり、遊技者に対して適切に有効ラインを示すことができる限り、これら以外の方法を採ることも可能である。

【６１６７】

図４９０の（ａ）は、有効ライン（ここでは、上述の一例の如く「中－中－下」としている。以下同じ）をリール（各リール３Ｌ，３Ｃ，３Ｒ）前面のパネル（上述の前面パネル部の表示窓を含む領域）に印刷する方法にて遊技者に示すものである。前面パネル部は、例えば透明のアクリル板などで形成されているため、表示窓を含む領域に直接有効ラインを印刷することで、遊技者に有効ラインをわかりやすく示すことができる。なお、同様の構成とし得る限り、前面パネル部に有効ラインを付す手法は印刷に限られない。

【６１６８】

図４９０の（ｂ）は、有効ラインを示す図（その一例は図４９０を参照）をパネル（例えば上述の前面パネル部）の見やすい位置に印刷する方法にて遊技者に示すものである。なお、遊技者がすぐに視認可能な位置であればよいため、その印刷位置は前面パネル部の空きスペース（例えば右リール３Ｒの右側の空きスペース）であってもよいし、腰部パネルの空きスペース（例えば四隅の一部領域）であってもよい。このようにすると、例えば図４９０の（ａ）と比べて有効ラインのわかりやすさは低下するかもしれないが、一定のわかりやすさは担保しつつ、各リール上の図柄の視認性を高めることができる。なお、同様の構成とし得る限り、有効ラインを示す図を付す手法は印刷に限られない。

【６１６９】

図４９０の（ｃ）は、有効ラインを示す図（その一例は図４９０を参照）を遊技待機中の画面（例えば、サブ演出表示部２２上の一部領域であってもよいし、メイン演出表示部２１上の一部領域であってもよい）やメニュー画面（例えば、ユーザーメニュー画面であってもよいし、その他のメニュー画面であってもよい。また、ユーザーメニュー画面で遊技者が対応するメニューを選択することで表示されるものであってもよい）に表示可能とする方法にて遊技者に示すものである。このようにすると、例えば図４９０の（ａ）や（ｂ）と比べて有効ラインのわかりやすさは低下するかもしれないが、一定のわかりやすさは担保しつつ、各リール上の図柄の視認性を高めることができるし、印刷を行う必要もなくなることから（異なる機種間で）パネルの共通化などを行うことも可能となるため、製造コストを削減することができる。

【６１７０】

図４９０の（１）では、そのようにして遊技者に有効ラインを示した上で、サブ演出表示部２２上において各リール上に表示された図柄（３行×３列の９個）の全てを表示する態様で入賞図柄表示を行う。

【６１７１】

このようにすれば、例えば図４９０に示す如く、無効ラインであるボトムライン（下－下－下）に「ベル」図柄が揃って表示されていたとしても、それによって入賞が発生したと遊技者が誤認してしまうことを抑制できるものと考えられる。なお、これは、例えば当該遊技で上述の「黄色報知」などが行われた場合であっても同様であると考えられる。

【６１７２】

図４９１の（２）は、有効ラインが例えば図４９０の（ａ）～（ｃ）の方法によって遊

技者に示されていない場合には、図４９１に示す態様にて入賞図柄表示を行うようにしたものである。

【６１７３】

図４９１の（イ）は、上述の図４９０の（１）と同様、サブ演出表示部２２上において各リール上に表示された図柄（３行×３列の９個）の全てを表示する態様で入賞図柄表示を行うことに加え、当該入賞図柄表示にて有効ラインを表示するものである。なお、前面パネル部の表示窓とは異なり、図柄の視認性をさほど考慮しなくともよいため、各表示図柄が視認可能である限り遊技者にわかりやすく有効ラインを示すこと（例えば見やすい色の太線で示すなど）が望ましい。

【６１７４】

図４９１の（ロ）は、上述の図４９０の（１）と同様、サブ演出表示部２２上において各リール上に表示された図柄（３行×３列の９個）の全てを表示する態様で入賞図柄表示を行うことに加え、当該入賞図柄表示にて有効ラインを強調表示するものである。なお、強調表示は、例えば有効ライン上の表示図柄の各位置を他とは異なる色で表示したり、あるいは点滅させたりするなど種々の手法を採用することができる。

【６１７５】

図４９１の（ハ）は、上述の図４９０の（１）と同様、サブ演出表示部２２上において各リール上に表示された図柄（３行×３列の９個）の全てを表示する態様で入賞図柄表示を行うことに加え、当該入賞図柄表示の近傍で有効ラインを説明する（説明表示を行う）ものである。なお、説明表示は、遊技者が入賞図柄表示を見たときに大幅な視線移動を行うことなく見れる位置に表示されるものであれば、任意の位置に表示することが可能である。したがって、例えばメイン演出表示部２１の左下の一部領域にて説明表示を行うものとしてもよい。

【６１７６】

このようにすれば、図４９０におけるものと同様に、例えば無効ラインであるボトムライン（下－下－下）に「ベル」図柄が揃って表示されていたとしても、それによって入賞が発生したと遊技者が誤認してしまうことを抑制できるものと考えられる。なお、これは、例えば当該遊技で上述の「黄色報知」などが行われた場合であっても同様であると考えられる。

【６１７７】

このような遊技機によれば、遊技者が遊技結果を誤認してしまうことを抑制することができる。したがって、遊技の健全性や公平性を高めることができるとともに、遊技機の設計に関する工数やコストが増大してしまうことも抑制することができる。

【６１７８】

＜入賞図柄表示とリール表示と演出用図柄表示の関係性の一例＞

続いて、図４９２及び図４９３を参照して、入賞図柄表示とリール表示と演出用図柄表示の関係性の一例を説明する。なお、これは、遊技結果を誤認させない（誤認させにくくする）ための工夫の一例である。

【６１７９】

上述の一例では、有効ライン上に表示された各図柄（図柄組合せ）をサブ演出表示部２２上に表示することで入賞図柄表示を行う（入賞図柄画像を表示する）ものとしていたが、この一例では、それとは少なくとも一部が異なる態様により入賞図柄表示等を行うようにしたものである。

【６１８０】

この一例では、有効ライン（中－中－下）上に「リプレイ－チェリー－黒ＢＡＲ」が表示されたとき、再遊技が付与されるものとしている。すなわち、当該図柄組合せはリプレイ役の図柄組合せであるものとする。また、当該図柄組合せが有効ライン上に表示された際には、無効ラインであるトップライン（上－上－上）上に「赤７」図柄が揃って表示され得るものとしている。また、当該図柄組合せが表示された際には、疑似ボーナス（疑似ＢＢ）であるＡＴ状態が開始されるものとしている。

【６１８１】
　また、この一例では、入賞図柄表示とともに（あるいは、別々に表示されるものであってもよい）、遊技結果を遊技者に報せるための遊技結果表示が行われ得るものとしている。また、この一例では、入賞図柄表示や遊技結果表示とともに、有効ライン上に表示された図柄とは関連しない図柄を示唆ないし報知可能な演出図柄表示（図４９２や図４９３に例示したものに限られず、例えば図４８８に示した「メイン表示」と同様の表示であってもよい）が行われ得るものとしている。
【６１８２】
　まず、遊技者に誤認を与えないためのルールの一例について説明する。なお、これは要するに、入賞図柄表示をそのルールにしたがって行うとともに、遊技結果表示をそのルールにしたがって行うことで、それを前提とすれば演出用図柄表示を行っても遊技者に誤認を与えないであろう（与えにくいであろう）と考えたルールの一例である。したがって、遊技者に誤認を与えない（与えにくい）ことが担保される限り、それらのルールのうちの一部を適用しなくともよいし、より厳格なルールを加えてもよい。
【６１８３】
・遊技結果は、毎遊技、表示枠等で明確に示すとともに、遊技者が認識できる表現で表示する。すなわち、遊技結果表示は、一見してそれとわかる態様にて表示するとともに、その内容も遊技者にわかりやすくすることが望ましい。なお、ここでいう「遊技結果」には、有効ライン上に表示された図柄組合せが含まれるものとしてもよいし、含まないものとしてもよい。すなわち、このルールは、入賞図柄表示にも適用されるものとしてもよいし、入賞図柄表示には適用されないものとしてもよい。
【６１８４】
　例えば、図４９２及び図４９３の表示例１～３では、メイン演出表示部２１又はサブ演出表示部２２上において一部領域を枠囲いし、その枠内において、今回の遊技結果（Result）が「リプレイ」（すなわち、再遊技が付与されること）であることを明確に表示している。なお、小役やハズレの場合には、図４９２に一例を示した態様にてこれが表示されるものとすればよい。
【６１８５】
　また、例えば、図４９２及び図４９３の表示例１～３では、上述の枠内において、今回の遊技では「リプレイ－チェリー－黒ＢＡＲ」が表示されたことを明確に表示している。なお、上述の如く、入賞図柄表示については上述の枠内に表示しないようにすることもできる。
【６１８６】
・遊技結果の表示は、全リール停止からベット操作（再遊技時は開始操作）まで行う（その間、デモ表示やメニュー表示が行われたときには表示が消えてもよい）。すなわち、遊技結果表示は、今回の遊技終了時から次回の遊技を開始するための操作（例えばベット操作）が行われるまで表示されることが望ましい。なお、厳密に遊技終了直後（例えば図４８１の「Ｔ１」）から表示されるようにすることもできるし、図４８１で説明したように、遊技終了直後から少し遅れて（例えば図４８１の「入賞図柄画像」と同様のタイミングで）表示されるようにすることもできる。
【６１８７】
　例えば、図４９２及び図４９３の表示例１～３では、遊技結果が「リプレイ」であるので、上述の枠内の表示を上述のようなタイミングで開始し、これをレバーオン時（例えば図４８１の「Ｔ１０」）に終了させるようにすればよい。
【６１８８】
　なお、演出用図柄表示であるが、これは少なくとも入賞図柄表示や遊技結果表示が行われた以後に表示されるものとすることが望ましい。入賞図柄表示や遊技結果表示が行われる前に表示されるものとすると、どうしてもそちらに視線が誘導されてしまい、誤認を与えてしまうおそれがあるためである。
【６１８９】

・入賞図柄表示（有効ライン上に表示された図柄組合せ）は、毎遊技表示する。すなわち、入賞図柄表示は、表示される遊技と表示されない遊技があるなどの制御を行わず、一律に毎遊技表示されるように制御されることが望ましい。

【６１９０】

・入賞図柄表示における図柄１つの大きさは、縦８ｍｍ×横１１ｍｍ（リール上の図柄の大きさの最小値の概ね１／３）以上とする。すなわち、入賞図柄表示における各表示図柄は、遊技者が凝視しなくとも視認可能な大きさで表示されることが望ましい。なお、この大きさはあくまで例示であり、遊技者が凝視しなくとも視認可能であることが担保される限り、任意の大きさをその基準値に定めることができる。

【６１９１】

図４９２の（イ）に示す表示例１は、入賞図柄表示、遊技結果表示、及び演出用図柄表示がいずれもメイン演出表示部２１上で行われる表示例である。なお、リール表示では有効ラインを示しているが、これはあくまで説明の便宜のためであり、上述の前面パネル部に有効ラインが印刷されていることなどを表したものではない。この表示例１によれば、同じ表示画面で各表示が行われることから、それらが示す情報を遊技者にわかりやすく報せることができる。また、サブ演出表示部２２よりも大きなメイン演出表示部２１で各表示が行われることから、それらが示す情報を遊技者によりわかりやすく報せることができる。

【６１９２】

図４９３の（ロ）に示す表示例２は、入賞図柄表示、遊技結果表示、及び演出用図柄表示がいずれもサブ演出表示部２２上で行われる表示例である。なお、リール表示では有効ラインを示しているが、これはあくまで説明の便宜のためであり、上述の前面パネル部に有効ラインが印刷されていることなどを表したものではない。この表示例２によれば、同じ表示画面で各表示が行われることから、それらが示す情報を遊技者にわかりやすく報せることができる。また、サブ演出表示部２２にそれらを表示することで、メイン演出表示部２１ではより興趣の高い演出表示を行うことができるため、遊技者に適切な報知を行いつつ、演出に関する興趣を高めることができる。

【６１９３】

図４９３の（ハ）に示す表示例３は、入賞図柄表示及び遊技結果表示についてはサブ演出表示部２２上で行い、演出用図柄表示についてはメイン演出表示部２１上で行う表示例である。この表示例３によれば、誤認を与えないようにするための表示（入賞図柄表示及び遊技結果表示）はサブ演出表示部２２で行い、演出用図柄表示についてはいわゆるボーナス告知のような態様でメイン演出表示部２１上に大きく表示することもできるため、遊技者に適切な報知を行いつつ、演出に関する興趣を高めることができる。

【６１９４】

このような遊技機によれば、遊技者が遊技結果を誤認してしまうことを抑制することができる。したがって、遊技の健全性や公平性を高めることができるとともに、遊技機の設計に関する工数やコストが増大してしまうことも抑制することができる。

【６１９５】

［第１２実施形態］

以下、図面を参照して、第１２実施形態に係る遊技機について説明する。なお、本実施形態では、遊技機としてパチスロ機を例に挙げて説明する。

【６１９６】

［パチスロ機の構成］

まず、図４９４を参照して、パチスロ機６００１の構成について説明する。図４９４は、パチスロ機６００１の斜視図である。

【６１９７】

パチスロ機６００１は、パチスロ機４００１と同様に、メダルレスで遊技を可能とするメダルレス遊技機である。なお、第１２実施形態に係る発明は、メダルレス遊技機に適用されることに限定されず、遊技者の手持ちのメダルをメダル投入口に対して投入してベッ

トする操作が可能な遊技機に適用することも可能である。

【６１９８】

パチスロ機６００１は、筐体６００２により構成されている。また、筐体６００２は、遊技機本体として前面側に矩形状の開口を有するキャビネットＧと、キャビネットＧの前面上部に配置された上マスクＵＭと、キャビネットＧの前面下部に配置された下マスクＤＭとを有している。図４９４に示すように、上マスクＵＭ及び下マスクＤＭは、パチスロ機６００１の前面側の意匠を形成する。

【６１９９】

キャビネットＧは、一面が開口された略直方体状に形成されており、左右一対の側面壁Ｇ２と、背面壁Ｇ３と、上面壁Ｇ４と、底面壁Ｇ５とを有している。キャビネットＧは、単に「箱体」や「本体」と称することもできるし、上マスクＵＭ及び下マスクＤＭを支持、あるいは固定する枠体として機能するため、「本体枠」、「支持体」、「支持枠」、あるいは「固定枠」等と称することもできる。

【６２００】

上マスクＵＭは、キャビネットＧの内部空間における中間部及び上部を閉塞する。上マスクＵＭは、キャビネットＧに着脱可能に接続される。上マスクＵＭは、上下方向に長い略長方形に形成されている。上マスクＵＭの上部は、キャビネットＧの上面壁Ｇ４よりも上方に突出している。上マスクＵＭは、上マスク本体６１０１と、上マスク本体６１０１の上部に着脱可能に取り付けられるトップパネル６１０２とを有している。

【６２０１】

キャビネットＧの下部には、不図示の下ドアベースＤＢが取り付けられている。下ドアベースＤＢは、キャビネットＧの内部空間における下部を開閉する。下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢに着脱可能に接続される。下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢを覆う下マスク本体６４０１と、下マスク本体６４０１の上部に取り付けられた操作部ユニット６４０２とを有している。操作部ユニット６４０２は、上マスクＵＭとの干渉を避けるために、下マスク本体６４０１の上部から前方（遊技者側）に突出している。

【６２０２】

［トップパネルの構成］

次に、トップパネル６１０２の構成について、図４９５～図４９８を参照して説明する。図４９５は、トップパネル６１０２を前方から見た斜視図である。図４９６は、トップパネル６１０２を後方から見た斜視図である。図４９７は、トップパネル６１０２を前方から見た分解斜視図である。図４９８は、トップパネル６１０２を後方から見た分解斜視図である。

【６２０３】

図４９５～図４９８に示すように、トップパネル６１０２は、フロントブロック６１１１と、枠ドア６１１２と、トップパネル基板組立体６１１３と、人検出部６１１４と、バックケース６１１５と、バックドア６１１６とを有している。フロントブロック６１１１と枠ドア６１１２は、トップパネル６１０２の前面及び側周面を形成する。バックケース６１１５とバックドア６１１６は、トップパネル６１０２の後面及び側周面を形成する。

【６２０４】

［フロントブロックの構成］

次に、フロントブロック６１１１の構成について、図４９９を参照して説明する。図４９９は、フロントブロック６１１１の分解斜視図である。

【６２０５】

図４９９に示すように、フロントブロック６１１１は、パネル本体６１２１と、下部フレーム６１２２と、下部フレームカバー６１２３と、パネル側接続部６１２４と、接続部ブラケット６１２５とを有している。パネル本体６１２１は、略直方体状に形成されている。パネル本体６１２１の下部には、下部フレームカバー６１２３が係合している。

【６２０６】

下部フレーム６１２２は、例えば、板金を折り曲げ加工することにより形成されており

、フレーム固定部６１３１と、フレーム固定部６１３１に連続する体裁部６１３２とを有している。フレーム固定部６１３１は、前後方向に交差する平面を有する略四角形の板状に形成されている。フレーム固定部６１３１の略中央部には、略円形のセンサ用開口部６１３１ａが形成されている。センサ用開口部６１３１ａには、人検出部６１１４（図４９７参照）のセンサカバー６２５３が嵌合する。

【６２０７】

フレーム固定部６１３１は、２つのカバー固定用ボス部６１３４と、２つの係合ボス部６１３５と、２つの基板組立体固定ボス部６１３６とを有している。２つのカバー固定用ボス部６１３４は、フレーム固定部６１３１における左右方向の両側に配置されている。２つのカバー固定用ボス部６１３４は、後方に突出する略円柱状に形成されており、前面に開口する凹部を有している。この凹部には、下部フレームカバー６１２３の後述する一対の嵌合ボス部６１３９が嵌合する。２つのカバー固定用ボス部６１３４には、ねじ貫通孔が形成されている。このねじ貫通孔には、下部フレーム６１２２を下部フレームカバー６１２３に固定するためのねじが貫通する。

【６２０８】

２つの係合ボス部６１３５は、２つのカバー固定用ボス部６１３４間に配置されている。２つの係合ボス部６１３５は、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの係合ボス部６１３５は、後方に突出する略円柱状に形成されている。２つの係合ボス部６１３５は、接続部ブラケット６１２５を貫通する。２つの係合ボス部６１３５は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、バックケース６１１５（図４９８参照）をフレーム固定部６１３１に固定するためのねじが螺合する。

【６２０９】

２つの基板組立体固定ボス部６１３６は、２つの係合ボス部６１３５間に配置されている。２つの基板組立体固定ボス部６１３６は、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。２つの基板組立体固定ボス部６１３６は、後方に突出する略円柱状に形成されている。２つの基板組立体固定ボス部６１３６は、接続部ブラケット６１２５を貫通する。２つの基板組立体固定ボス部６１３６は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、トップパネル基板組立体６１１３（図４９８参照）をフレーム固定部６１３１に固定するためのねじが螺合する。

【６２１０】

下部フレームカバー６１２３は、係合板部６１３７と、カバー部６１３８とを有している。係合板部６１３７は、上下方向に交差する平面を有する略四角形の板状に形成されている。係合板部６１３７は、パネル本体６１２１の下部に係合している。カバー部６１３８は、上下方向から見た形状が略コ字状に形成されており、フレーム固定部６１３１の前方を向く平面及び左右の端面を覆う。カバー部６１３８の後方を向く面の中央部には、センサ用ピンホール６１３８ａが形成されている。

【６２１１】

センサ用ピンホール６１３８ａには、人検出部６１１４（図４９７参照）のセンサカバー６２５３が対向する。人検出部６１１４は、センサ用ピンホール６１３８ａを介して、パチスロ機６００１の前方に人がいることを検出する。センサ用ピンホール６１３８ａは、極めて小さい孔であるため、人検出部６１１４のセンサカバー６２５３及び人感センサ６２５２に人の手や荷物等が接触することを防ぐことができる。また、人検出部６１１４の検出範囲を制限する。

【６２１２】

また、カバー部６１３８は、一対の嵌合ボス部６１３９を有している。一対の嵌合ボス部６１３９は、カバー部６１３８の後方を向く面から突出しており、略円柱状に形成されている。一対の嵌合ボス部６１３９は、下部フレーム６１２２の２つのカバー固定用ボス部６１３４の前面にある凹部に嵌合する。一対の嵌合ボス部６１３９は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、下部フレーム６１２２を下部フレームカバー６１２３に固定するためのねじが螺合する。

【６２１３】
パネル側接続部６１２４は、接続ベース６１４１と、一対のガイドピン６１４２と、端子カバー６１４３と、不図示の接続端子とを有している。接続ベース６１４１は、例えば、板金を折り曲げ加工することにより形成されており、上下方向に交差する上板部６１４５と、前板部６１４６と、後板部６１４７とを有している。上板部６１４５は、左右方向に長い長方形の板状に形成されており、上下方向に交差する平面を有している。
【６２１４】
以下、前方から見て左右を示す。上板部６１４５の右端部の下面には、不図示の接続端子と、端子カバー６１４３が取り付けられている。接続端子は、ドロワコネクタであり、上マスクＵＭの接続端子６８４８（図５００参照）に接続される。端子カバー６１４３は、接続端子の周囲を囲う角筒状に形成されている。
【６２１５】
端子カバー６１４３は、透明或いは半透明の樹脂によって形成されている。これにより、パチスロ機６００１の製造工程や遊技店においてトップパネル６１０２を上マスクＵＭに接続する際に、作業者は、端子カバー６１４３を介して接続端子を視認することができる。また、端子カバー６１４３は、ドロワコネクタである接続端子に作業者の手が触れないようにして、接続端子に静電気が流れることを防止或いは抑制することができる。その結果、接続端子と電気的に接続された基板が、静電気の影響を受けて壊れないようにすることができる。
【６２１６】
一対のガイドピン６１４２は、上板部６１４５の下面における左右方向の両端部に配置されている。一対のガイドピン６１４２は、上マスクＵＭの後述するガイドピン挿入孔６８２３ａ（図５００参照）に挿入される。
【６２１７】
接続ベース６１４１の前板部６１４６は、上板部６１４５の前方側の長辺における略中央部から下方に突出している。前板部６１４６は、前後方向に交差する平面を有する板状に形成されている。前板部６１４６は、一対のロック爪６１５１と、一対の補強リブ６１５２とを有している。
【６２１８】
一対のロック爪６１５１は、前板部６１４６の下端から下方に突出している。一対のロック爪６１５１は、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。一対のロック爪６１５１は、前後方向に交差する平面を有する板状に形成されている。一対のロック爪６１５１は、上マスクＵＭの後述するロックスライダ６８１２（図５０３参照）に係合する。一対の補強リブ６１５２は、前板部６１４６の後方を向く平面から後方に突出している。一対の補強リブ６１５２は、左右方向に交差する平面を有する板状に形成されている。一対の補強リブ６１５２は、前板部６１４６の剛性を高めている。
【６２１９】
接続ベース６１４１の後板部６１４７は、上板部６１４５の後方側の長辺から下方に突出している。後板部６１４７は、前後方向に交差する平面を有する板状に形成されている。後板部６１４７における左右方向の略中央部には、切欠き６１４７ａが形成されている。切欠き６１４７ａは、一対の補強リブ６１５２との干渉を避けるために設けられている。一対の補強リブ６１５２は、後板部６１４７よりも後方に突出している。後板部６１４７は、２つの支持フック６１５３を有している。２つの支持フック６１５３は、後板部６１４７の後方を向く平面から後方に突出している。２つの支持フック６１５３は、接続部ブラケット６１２５を支持する。
【６２２０】
接続部ブラケット６１２５は、接続ベース６１４１を下部フレーム６１２２に固定する部材である。接続部ブラケット６１２５は、下部フレーム６１２２に係合するフレーム係合部６１５５と、接続ベース６１４１に固定されるベース固定部６１５６とを有している。フレーム係合部６１５５は、前後方向に交差する平面を有する板状に形成されている。

フレーム係合部６１５５の上端には、２つのカバー係合突起６１５７が形成されている。２つのカバー係合突起６１５７は、下部フレームカバー６１２３の係合板部６１３７に係合する。

【６２２１】

フレーム係合部６１５５の略中央部には、センサ用開口部６１５５ａが形成されている。センサ用開口部６１５５ａには、人検出部６１１４（図４９７参照）のセンサカバー６２５３が貫通する。また、フレーム係合部６１５５には、一対の第１ボス用貫通孔６１５５ｂと、一対の第２ボス用貫通孔６１５５ｃが形成されている。一対の第１ボス用貫通孔６１５５ｂには、下部フレーム６１２２の２つの係合ボス部６１３５が貫通する。一対の第２ボス用貫通孔６１５５ｃには、下部フレーム６１２２の対の基板組立体固定ボス部６１３６が貫通する。

【６２２２】

ベース固定部６１５６は、フレーム係合部６１５５の下端に連続しており、左右方向から見た形状が略Ｌ字状に形成されている。ベース固定部６１５６は、接続ベース６１４１の上板部６１４５と後板部６１４７に当接する。また、ベース固定部６１５６の下端は、接続ベース６１４１の２つの支持フック６１５３に支持される。そして、ベース固定部６１５６は、後板部６１４７にねじを用いて固定される。ベース固定部６１５６には、一対の係合溝６１５６ａが形成されている。一対の係合溝６１５６ａには、接続ベース６１４１の一対の補強リブ６１５２が係合する。

【６２２３】

［上マスクの本体側接続部］

次に、上マスクＵＭの本体側接続部について、図５００～図５０３を参照して説明する。図５００は、上マスクＵＭの上部を示す斜視図である。図５０１は、本体側接続部の上面図である。図５０２は、本体側接続部の斜視図である。図５０３は、本体側接続部の分解斜視図である。

【６２２４】

図５００に示すように、上マスク本体６１０１の上部には、本体側接続部６８０１が配置されている。本体側接続部６８０１は、上マスク本体６１０１の上面から露出している。本体側接続部６８０１には、トップパネル６１０２のパネル側接続部６１２４が着脱可能に接続される。また、上マスク本体６１０１の上部には、ロック解除操作用窓６８０２が形成されている。ロック解除操作用窓６８０２は、本体側接続部６８０１の後述するレバーツマミ６８３５を露出させる。ロック解除操作用窓６８０２は、スライドカバー６８０３によって開閉される。

【６２２５】

図５０１～図５０３に示すように、本体側接続部６８０１は、ロックベース６８１１と、ロックスライダ６８１２と、端子ブラケット６８１３と、付勢部材６８１４とを有している。

【６２２６】

図５０３に示すように、ロックベース６８１１は、板金を折り曲げ加工することにより形成されている。ロックベース６８１１は、ベース板６８２１と、ベース板６８２１に連続するガイド板６８２２とを有する。ベース板６８２１は、前後方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に長い長方形に形成されている。ベース板６８２１は、前面６８２１ａ及び後面６８２１ｂを有している。ベース板６８２１の前面６８２１ａは、端子ブラケット６８１３と対向する。

【６２２７】

ベース板６８２１の前面６８２１ａにおける左右方向の両端部には、一対のガイドピン挿入ブロック６８２３が固定されている。一対のガイドピン挿入ブロック６８２３は、略直方体状に形成されている。一対のガイドピン挿入ブロック６８２３には、上下方向に貫通するガイドピン挿入孔６８２３ａが形成されている。ガイドピン挿入孔６８２３ａには、トップパネル６１０２の一対のガイドピン６１４２（図４９５参照）が挿入される。ベ

ース板６８２１の前面６８２１ａにおける中央よりも左側には、ばね接続突起６８２４が形成されている。ばね接続突起６８２４には、付勢部材６８１４の一端が接続される。

【６２２８】

ガイド板６８２２は、ベース板６８２１の下側の長辺から略垂直に突出している。ガイド板６８２２は、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に長い長方形に形成されている。ガイド板６８２２は、一対の爪貫通孔６８２２ａを有している。一対の爪貫通孔６８２２ａは、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。一対の爪貫通孔６８２２ａは、左右方向に長い長方形に形成されている。一対の爪貫通孔６８２２ａには、トップパネル６１０２の一対のロック爪６１５１（図４９５参照）が貫通する。

【６２２９】

ロックスライダ６８１２は、スライダ本体６８３１と、解除レバー６８３２とを有している。スライダ本体６８３１は、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に長い長方形に形成されている。スライダ本体６８３１の上面は、ロックベース６８１１におけるガイド板６８２２の下面に摺動可能に係合する。スライダ本体６８３１は、係合片６８３３を有している。係合片６８３３は、スライダ本体６８３１の前側の長辺から上方に突出している。係合片６８３３は、ロックベース６８１１におけるガイド板６８２２の前側の端面に係合する。

【６２３０】

スライダ本体６８３１は、一対の爪係合孔６８３１ａと、２つのガイド溝６８３１ｂを有している。一対の爪係合孔６８３１ａは、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。一対の爪係合孔６８３１ａは、左右方向に長い長方形に形成されている。スライダ本体６８３１の下面において、一対の爪係合孔６８３１ａの右側短辺には、トップパネル６１０２の一対のロック爪６１５１（図４９５参照）が係合する。

【６２３１】

２つのガイド溝６８３１ｂは、左右方向に延びている。２つのガイド溝６８３１ｂには、２つの係合ピン６８２５がそれぞれ係合する。２つの係合ピン６８２５は、ロックベース６８１１のベース板６８２１に固定される。２つの係合ピン６８２５は、ロックスライダ６８１２の前後方向及び上下方向への移動を規制する。その結果、ロックスライダ４８０２は、左右方向のみに移動可能となる。

【６２３２】

スライダ本体６８３１の上面には、ばね接続突部６８３４が形成されている。ばね接続突部６８３４には、付勢部材６８１４の他端が接続される。付勢部材６８１４は、例えば、引っ張りコイルばねであり、ロックスライダ６８１２を左右方向の左側へ付勢する。本発明に係る付勢部材としては、引っ張りコイルばねに限定されず、圧縮コイルばねやその他のばね部材、ゴム部材等を適用することができる。

【６２３３】

解除レバー６８３２は、スライダ本体６８３１の後側の長辺から下方に突出している。解除レバー６８３２の後面には、レバーツマミ６８３５がねじを用いて固定されている。レバーツマミ６８３５は、上述のロック解除操作用窓６８０２（図５００参照）から露出される。

【６２３４】

端子ブラケット６８１３は、板金を折り曲げ加工することにより形成されている。端子ブラケット６８１３は、ブラケットベース６８４１と、ブラケットベースに連続する下板６８４２とを有する。ブラケットベース６８４１は、前後方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に長い長方形に形成されている。ブラケットベース６８４１は、前面６８４１ａ及び後面６８４１ｂを有している。ブラケットベース６８４１は、ロックベース６８１１のベース板６８２１と対向する。

【６２３５】

ブラケットベース６８４１の後面６８４１ｂには、複数の接合ボス部６８４３が設けられている。複数の接合ボス部６８４３は、後方に突出する略円柱状に形成されている。複

数の接合ボス部６８４３の先端は、ロックベース６８１１におけるベース板６８２１の前面６８２１ａに当接する。複数の接合ボス部６８４３は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、ロックベース６８１１をブラケットベース６８４１に固定するためのねじが螺合する。

【６２３６】

ブラケットベース６８４１には、切欠き６８４４が形成されている。ブラケットベース６８４１の切欠き６８４４には、基板保持部６８４５が配置されている。基板保持部６８４５は、ねじを用いてブラケットベース６８４１に固定されている。基板保持部６８４５は、上面が開口された扁平の箱状に形成されており、端子用基板６８４７を保持する。端子用基板６８４７は、上方を向く実装面を有している。端子用基板６８４７の実装面には、接続端子６８４８が実装されている。接続端子６８４８は、ドロワコネクタであり、トップパネル６１０２の不図示の接続端子に接続される。

【６２３７】

端子ブラケット６８１３の下板６８４２は、ブラケットベース６８４１の下側の長辺から前方へ略垂直に突出している。下板６８４２は、上下方向に略垂直な平面を有する板体からなり、左右方向に長い長方形に形成されている。

【６２３８】

本体側接続部６８０１のロックスライダ６８１２は、付勢部材６８１４に付勢されると、図５０１に示すロック位置に配置される。ロック位置において、ロックスライダ６８１２における２つのガイド溝６８３１ｂの右側端部が、２つの係合ピン６８２５に当接する。これにより、ロックスライダ６８１２は、ロック位置に配置された状態を維持する。一方、付勢部材６８１４の付勢力に抗してロックスライダ６８１２を左右方向の右側へ移動させると、ロックスライダ６８１２における２つのガイド溝６８３１ｂの左側端部が、２つの係合ピン６８２５に当接する。これにより、ロックスライダ６８１２の左右方向の右側への移動が係止される。

【６２３９】

上マスク本体６１０１にトップパネル６１０２を接続する場合は、上マスク本体６１０１の上方でトップパネル６１０２を把持し、トップパネル６１０２を下方に移動させる。そして、トップパネル６１０２の一対のガイドピン６１４２（図４９５参照）を、本体側接続部６８０１のの一対のガイドピン挿入孔６８２３ａ（図５０１参照）に挿入する。

【６２４０】

このとき、トップパネル６１０２の接続端子が、本体側接続部６８０１の接続端子６８４８に接続される。また、トップパネル６１０２の一対のロック爪６１５１（図４９５参照）は、本体側接続部６８０１のロックスライダ６８１２における一対の爪係合孔６８３１ａの右側短辺を押圧する。これにより、ロックスライダ６８１２は、付勢部材６８１４の付勢力に抗して左右方向の右側へ移動する。その結果、トップパネル６１０２の一対のロック爪６１５１は、ロックスライダ６８１２の一対の爪係合孔６８３１ａを貫通して、ロックスライダ６８１２におけるスライダ本体６８３１の下面に係合する。

【６２４１】

一対のロック爪６１５１がロックスライダ６８１２に係合すると、ロックスライダ６８１２は、一対のロック爪６１５１の上方向の移動を係止する。また、一対のガイドピン６１４２が一対のガイドピン挿入ブロック６８２３の一対のガイドピン挿入孔６８２３ａに挿入されると、ガイドピン挿入ブロック６８２３は、一対のガイドピン６１４２の水平方向及び下方への移動を係止する。その結果、トップパネル６１０２が上マスク本体６１０１に固定される。これにより、上マスク本体６１０１に対するトップパネル６１０２の接続作業が完了する。

【６２４２】

上マスク本体６１０１からトップパネル６１０２を取り外す場合は、まず、スライドカバー６８０３（図５００参照）をスライドさせて、ロック解除操作用窓６８０２を開ける。これにより、ロック解除操作用窓６８０２からレバーツマミ６８３５が露出される。次

に、レバーツマミ６８３５を操作して、ロックスライダ６８１２（図５０１参照）を左右方向の左側へ押圧する。これにより、ロックスライダ６８１２は、付勢部材６８１４の付勢に抗してロック位置から左右方向の左側へ移動する。その結果、上下方向において、ロックスライダ６８１２の一対の爪係合孔６８３１ａは、トップパネル６１０２の一対のロック爪６１５１から離れる。したがって、一対のロック爪６１５１とロックスライダ６８１２との係合が外れて、トップパネル６１０２を上方へ移動させることが可能になる。その後、トップパネル６１０２を把持して上方へ移動させる。これにより、トップパネル６１０２は、上マスク本体６１０１から外れる。

【６２４３】

（パネル本体の構成）

次に、パネル本体６１２１の構成について、図５０４～図５０６を参照して説明する。図５０４は、パネル本体６１２１の分解斜視図である。図５０５は、パネル本体６１２１における遮光枠を前方から見た斜視図である。図５０６は、パネル本体６１２１における遮光枠を後方から見た斜視図である。

【６２４４】

図５０４に示すように、パネル本体６１２１は、ベゼル６１６１と、前パネル６１６２と、デザインシート６１６３と、後パネル６１６４と、遮光枠６１６５と、レンズ枠６１６６と、外装枠６１６７と、遮光部材６１６８とを有している。遮光枠６１６５は、本発明に係るベース部材に対応する。後パネル６１６４は、本発明に係る第１部材に対応する。前パネル６１６２は、本発明に係る第２部材に対応する。デザインシート６１６３は、本発明に係る所定部材に対応する。

【６２４５】

前パネル６１６２及び後パネル６１６４は、透明又は半透明の透光性を有する樹脂により長方形の板状に形成されている。前パネル６１６２及び後パネル６１６４は、上辺、下辺、左辺、及び右辺を有している。後パネル６１６４の下辺には、２つの回動軸６１６４ａが形成されている。２つの回動軸６１６４ａは、左右方向に延びる円柱状に形成されている。

【６２４６】

デザインシート６１６３は、前パネル６１６２及び後パネル６１６４と略同じ大きさの長方形のシート状に形成されている。デザインシート６１６３は、前パネル６１６２と後パネル６１６４の間に挿脱可能に収容される。デザインシート６１６３は、機種毎に用意される。デザインシート６１６３には、機種に対応した模様やロゴが描かれている。

【６２４７】

遮光枠６１６５、レンズ枠６１６６、及び外装枠６１６７は、それぞれ上辺が無いコ字状の部材からなる。遮光枠６１６５は、レンズ枠６１６６の内側に配置され、レンズ枠６１６６は、外装枠６１６７の内側に配置される。レンズ枠６１６６と外装枠６１６７は、それぞれ遮光枠６１６５にねじを用いて固定される。

【６２４８】

遮光枠６１６５、レンズ枠６１６６、及び外装枠６１６７は、前パネル６１６２及び後パネル６１６４の下辺、左辺、及び右辺を囲う枠体を形成する。前パネル６１６２及び後パネル６１６４の上辺は、遮光枠６１６５、レンズ枠６１６６、及び外装枠６１６７よりも上方に突出する。前パネル６１６２及び後パネル６１６４の上辺は、枠ドア６１１２（図４９７参照）に係合する。

【６２４９】

ベゼル６１６１は、前後方向から見た形状が略コ字状に形成されている。ベゼル６１６１は、下辺、左辺、及び右辺を有している。ベゼル６１６１の後面には、複数の固定用ボス部６１６１ａが形成されている。複数の固定用ボス部６１６１ａは、後方に突出する略円柱状に形成されている。複数の固定用ボス部６１６１ａは、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、ベゼル６１６１を遮光部材６１６８に固定するためのねじが螺合する。ベゼル６１６１と遮光枠６１６５は、前パネル６１６２の下辺、左辺、及び右

辺を挟んで固定する。

【６２５０】

レンズ枠６１６６は、下辺部６１７１と、左辺部６１７２と、右辺部６１７３とを有している。下辺部６１７１、左辺部６１７２及び右辺部６１７３の前端は、光出射面６１６６ａである。光出射面６１６６ａは、外装枠６１６７の前方に位置し、パネル本体６１２１の前面における外縁を形成する（図４９７参照）。レンズ枠６１６６の下辺部６１７１、左辺部６１７２及び右辺部６１７３の後端は、光入射面である。レンズ枠６１６６は、光入射面から入射した光を拡散して、光出射面６１６６ａから出射する。レンズ枠６１６６の光入射面には、後述する複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光が照射される。レンズ枠６１６６は、複数のねじ貫通孔６１７４を有している。複数のねじ貫通孔６１７４には、レンズ枠６１６６を遮光枠６１６５に固定するためのねじが貫通する。

【６２５１】

外装枠６１６７は、下辺部と、左辺部と、右辺部とを有している。外装枠６１６７は、レンズ枠６１６６の左右の側面及び下面を覆う。外装枠６１６７は、複数のねじ貫通孔６１７５を有している。複数のねじ貫通孔６１７５には、外装枠６１６７を遮光枠６１６５に固定するためのねじが貫通する。

【６２５２】

遮光部材６１６８は、遮光性を有する樹脂により左右方向に長い長方形の板状に形成されている。遮光部材６１６８は、後パネル６１６４の後面に対向する。遮光部材６１６８は、ねじを用いて遮光枠６１６５に固定される。遮光部材６１６８は、複数の光通過窓６１６８ａを有している。複数の光通過窓６１６８ａには、トップパネル基板組立体６１１３（図４９７参照）の複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂが対向する。遮光部材６１６８は、複数のねじ貫通孔６１７６を有している。複数のねじ貫通孔６１７６には、遮光部材６１６８を外装枠６１６７に固定するためのねじが貫通する。

【６２５３】

遮光枠６１６５は、遮光性を有する樹脂により形成されている。遮光枠６１６５は、前パネル６１６２及び後パネル６１６４の下辺、左辺及び右辺を収容する。遮光枠６１６５の前側の端面は、前パネル６１６２の前面と略同一平面を形成する。図５０５及び図５０６に示すように、遮光枠６１６５は、下辺部６１８１と、左辺部６１８２と、右辺部６１８３とを有している。遮光枠６１６５は、レンズ枠６１６６を通る光が前パネル６１６２側に漏れないようにする。また、遮光枠６１６５は、後述する複数のパネル用ＬＥＤ６２４１（図４９７参照）から出射された光がレンズ枠６１６６側に漏れないようにする。

【６２５４】

図５０５に示すように、遮光枠６１６５の下辺部６１８１、左辺部６１８２及び右辺部６１８３の前面には、複数のベゼル嵌合部６１８５が設けられている。複数のベゼル嵌合部６１８５は、前方に延びる略筒状に形成されている。複数のベゼル嵌合部６１８５内には、ベゼル６１６１の複数の固定用ボス部６１６１ａ（図５０４参照）が嵌合する。複数の固定用ボス部６１６１ａを遮光枠６１６５に固定するためのねじは、遮光枠６１６５の後面側から遮光枠６１６５を貫通し、複数の固定用ボス部６１６１ａのねじ孔に螺合される。

【６２５５】

下辺部６１７１の前面には、複数の軸受け６１８６が設けられている。複数の軸受け６１８６は、左右方向に略垂直な平面を有する板体であり、略長方形に形成されている。複数の軸受け６１８６における前側の端面には、軸係合切欠き６１８６ａが形成されている。軸係合切欠き６１８６ａには、後パネル６１６４の２つの回動軸６１６４ａが回転可能に係合する。

【６２５６】

後パネル６１６４は、２つの回動軸６１６４ａを中心に回動し、第１位置と第２位置に移動可能である。後パネル６１６４を第１位置に配置した場合に、後パネル６１６４の上辺は、前パネル６１６２の上辺に最も接近する。一方、後パネル６１６４を第２位置に配

置した場合に、後パネル６１６４の上辺は、前パネル６１６２の上辺から遠ざかる。後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺は、デザインシート６１６３を挿脱するためのシート開口部を形成する。シート開口部は、後パネル６１６４が第１位置に位置したときよりも第２位置に位置したときの方が広くなる。

【６２５７】

図５０６に示すように、遮光枠６１６５の下辺部６１８１、左辺部６１８２及び右辺部６１８３の後面には、複数の係合ボス部６１９１と、複数のレンズ枠固定用ねじ孔６１９２と、複数の外装枠固定用ねじ孔６１９３が設けられている。さらに、左辺部６１７２及び右辺部６１７３の後面には、複数の遮光部材固定用ボス部６１９４と、ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂと、２つのヒンジ係合部６１９６と、２つのガイド孔６１９７とが設けられている。

【６２５８】

複数の係合ボス部６１９１は、後方に突出する略円柱状に形成されている。複数の係合ボス部６１９１は、バックケース６１１５の複数のねじ貫通孔６２７７（図４９８参照）と対向する。複数の係合ボス部６１９１は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、バックケース６１１５（図４９８参照）を遮光枠６１６５に固定するためのねじが螺合する。

【６２５９】

複数のレンズ枠固定用ねじ孔６１９２は、レンズ枠６１６６の複数のねじ貫通孔６１７４（図５０４参照）と対向する。複数のレンズ枠固定用ねじ孔６１９２には、レンズ枠６１６６を遮光枠６１６５に固定するためのねじが螺合する。複数の外装枠固定用ねじ孔６１９３は、外装枠６１６７の複数のねじ貫通孔６１７５（図５０４参照）と対向する。複数の外装枠固定用ねじ孔６１９３には、外装枠６１６７を遮光枠６１６５に固定するためのねじが螺合する。

【６２６０】

複数の遮光部材固定用ボス部６１９４は、後方に突出する略円柱状に形成されている。数の遮光部材固定用ボス部６１９４は、遮光部材６１６８の複数のねじ貫通孔６１７６（図５０４参照）と対向する。複数の遮光部材固定用ボス部６１９４は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、遮光部材６１６８を遮光枠６１６５に固定するためのねじが螺合する。

【６２６１】

ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂ、２つのヒンジ係合部６１９６、及び２つのガイド孔６１９７は、左辺部６１７２及び右辺部６１７３の上部に配置されている。ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂは、後方に突出しており、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂは、左右方向に貫通する貫通孔を有している。ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂの貫通孔には、バックケース６１１５の後述するロックノブ６２７２，６２７３（図５１３参照）が貫通する。

【６２６２】

２つのヒンジ係合部６１９６は、後方に突出する略直方体状に形成されている。２つのヒンジ係合部６１９６は、左右方向に略垂直な係合側面６１９６ａを有している。ヒンジ係合部６１９６の係合側面６１９６ａには、枠ドア６１１２（図４９８参照）の後述する係合ヒンジ６２１３が摺動可能且つ回転可能に係合する。また、２つのヒンジ係合部６１９６には、それぞれヒンジカバー固定用ボス部６１９８が設けられている。ヒンジカバー固定用ボス部６１９８は、後方に突出する略円柱状に形成されている。ヒンジカバー固定用ボス部６１９８は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、後述するヒンジカバー６２１０をヒンジ係合部６１９６に固定するためのねじが螺合する。

【６２６３】

２つのガイド孔６１９７は、２つのロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂの前側に位置する。２つのガイド孔６１９７は、略四角形に形成されている。２つのガイド孔６１９７には、枠ドア６１１２の後述する係合突起６２１４が摺動可能に係合する。

【６２６４】
［枠ドアの構成］
次に、枠ドア６１１２の構成について、図５０７及び図５０８を参照して説明する。図５０７は、枠ドア６１１２の分解斜視図である。図５０８は、枠ドア６１１２をパネル本体６１２１の遮光枠６１６５に取り付ける状態を示す図である。
【６２６５】
図５０７に示すように、枠ドア６１１２は、上ベゼル６２０１と、上遮光枠６２０２と、上レンズ枠６２０３と、上外装枠６２０４とを有する。上遮光枠６２０２、上レンズ枠６２０３、及び上外装枠６２０４は、前パネル６１６２及び後パネル６１６４の上辺を囲う。上遮光枠６２０２、上レンズ枠６２０３、及び上外装枠６２０４は、遮光枠６１６５、レンズ枠６１６６、及び外装枠６１６７（図５０４参照）と共に、前パネル６１６２及び後パネル６１６４を囲う枠体を形成する。
【６２６６】
上遮光枠６２０２は、上レンズ枠６２０３の内側に配置され、上レンズ枠６２０３は、上外装枠６２０４の内側に配置される。上レンズ枠６２０３は、ねじを用いて上遮光枠６２０２に固定される。上外装枠６２０４は、上遮光枠６２０２にねじを用いて上固定される。
【６２６７】
上ベゼル６２０１は、前後方向から見た形状が略コ字状に形成されている。上ベゼル６２０１は、上辺、左辺、及び右辺を有している。上ベゼル６２０１は、パネル本体６１２１のベゼル６１６１（図４９５参照）と共に前パネル６１６２の外縁部を覆う四角形の枠体を形成する。上ベゼル６２０１の幅の長さは、ベゼル６１６１の幅の長さと略同じに設定されている。また、上ベゼル６２０１とベゼル６１６１は、同じ色（例えば、黒色）に設定されている。これにより、枠ドア６１１２とパネル本体６１２１との見た目の一体感を創出することができる。なお、上ベゼル６２０１とベゼル６１６１の見た目の一体感を創出する手法は、同色とする以外の手法を用いてもよい。例えば、本発明に係る上ベゼルとベゼルの一方は濃いグレーに設定し、他方は薄いグレーなど同系統色に設定して、両者の一体感を出してもよいし、同じ又は類似するデザインや関連するデザインを両者に施すことで一体感を出してもよい。また、本発明に係る上ベゼルとベゼルは、例示した以外の手法を用いて一体感を出してもよい。
【６２６８】
上ベゼル６２０１の後面には、複数の固定用ボス部６２０１ａが形成されている。複数の固定用ボス部６２０１ａは、後方に突出する略円柱状に形成されている。複数の固定用ボス部６２０１ａは、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、上ベゼル６２０１を上遮光枠６２０２に固定するためのねじが螺合する。上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２の複数の後パネル係合リブ６２１２との間には、前パネル６１６２の上辺と後パネル６１６４の上辺が挿入される。これにより、上ベゼル６２０１が、前パネル６１６２よりもパチスロ機６００１の前側に位置する。つまり、パチスロ機６００１の前側から上ベゼル６２０１、前パネル６１６２、後パネル６１６４、上遮光枠６２０２の複数の後パネル係合リブ６２１２という並びとなり、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺の間の空間を、上遮光枠６２０２が覆う配置となる。その結果、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺の間から不正なアクセスが行われることを抑制できる。
【６２６９】
上レンズ枠６２０３は、前後方向から見た形状が略コ字状に形成されている。上レンズ枠６２０３は、上外装枠６２０４の前方に露出する光出射面６２０３ａを有している。光出射面６２０３ａは、パネル本体６１２１におけるレンズ枠６１６６の光出射面６１６６ａ（図４９５参照）と共に上ベゼル６２０１及びベゼル６１６１を囲う四角形の枠体を形成する。光出射面６２０３ａの幅の長さは、光出射面６１６６ａの幅の長さと略同じに設定されている。また、光出射面６２０３ａと光出射面６１６６ａは、同じ色（例えば、透明）に設定されている。これにより、枠ドア６１１２とパネル本体６１２１との見た目の

一体感を創出することができる。なお、光出射面６２０３ａと光出射面６１６６ａの見た目の一体感を創出する手法は、同色とする以外の手法を用いてもよい。例えば、本発明に係る上レンズ枠の光出射面とレンズ枠の光出射面の一方は透光性の濃いグレーに設定し、他方は透光性の薄いグレーなど同系統色に設定して、両者の一体感を出してもよいし、同じ又は類似するデザインや関連するデザインを両者に施すことで一体感を出してもよい。また、本発明に係る上レンズ枠の光出射面とレンズ枠の光出射面は、例示した以外の手法を用いて一体感を出してもよい。

【６２７０】

上レンズ枠６２０３の後面である光入射面には、バックドア６１１６の後述するレンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂ（図５１４参照）が対向する。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂには、複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４が実装されており、複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、上レンズ枠６２０３の後面に照射される。上レンズ枠６２０３は、光入射面から入射した光を拡散して、光出射面６２０３ａから出射する。上レンズ枠６２０３は、複数のねじ貫通孔６２０６を有している。複数のねじ貫通孔６２０６には、上レンズ枠６２０３を上遮光枠６２０２に固定するためのねじが貫通する。

【６２７１】

上外装枠６２０４は、前後方向から見た形状が略コ字状に形成されている。上外装枠６２０４は、上レンズ枠６２０３の左右の側面及び上面を覆う。上外装枠６２０４は、複数のねじ貫通孔６２０７を有している。複数のねじ貫通孔６２０７には、上外装枠６２０４を上遮光枠６２０２に固定するためのねじが貫通する。

【６２７２】

上遮光枠６２０２は、遮光性を有する樹脂により形成されている。上遮光枠６２０２は、前面及び下面が開口された筐体状に形成されている。上遮光枠６２０２は、前パネル６１６２及び後パネル６１６４（図５０４参照）の上辺を収容する。上遮光枠６２０２の前側の端面は、前パネル６１６２の前面と略同一平面を形成する。上遮光枠６２０２は、上レンズ枠６２０３を通る光が前パネル６１６２側に漏れないようにする。また、上遮光枠６２０２は、後述する複数のパネル用ＬＥＤ６２４１（図４９７参照）から出射された光が上レンズ枠６２０３側に漏れないようにする。

【６２７３】

上遮光枠６２０２の内面には、複数のベゼル嵌合部６２１１と、複数の後パネル係合リブ６２１２と、２つの係合ヒンジ６２１３と、２つの係合突起６２１４が形成されている。複数のベゼル嵌合部６２１１は、前方に延びる略筒状に形成されている。複数のベゼル嵌合部６２１１内には、上ベゼル６２０１の複数の固定用ボス部６２０１ａが嵌合される。上ベゼル６２０１を上遮光枠６２０２に固定するためのねじは、上遮光枠６２０２の後面側から複数のベゼル嵌合部６２１１を貫通し、複数の固定用ボス部６２０１ａのねじ孔に螺合される。

【６２７４】

複数の後パネル係合リブ６２１２は、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。複数の後パネル係合リブ６２１２は、左右方向に適当な間隔を空けて並んでいる。複数の後パネル係合リブ６２１２は、後パネル６１６４の上辺（図５０４参照）に係合して、後パネル６１６４の上辺を前パネル６１６２側に押圧する。後パネル６１６４は、複数の後パネル係合リブ６２１２に押圧されると、上述の第１位置に配置される。

【６２７５】

２つの係合ヒンジ６２１３は、下方に突出している。２つの係合ヒンジ６２１３は、それぞれ左右方向に対向する２つのヒンジアームを有している。２つのヒンジアームの互いに対向する面には、それぞれ係合軸６２１３ａが形成されている。係合軸６２１３ａは、円柱状に形成されている。係合ヒンジ６２１３の係合軸６２１３ａは、パネル本体６１２１におけるヒンジ係合部６１９６の係合側面６１９６ａ（図５０６参照）に摺動可能且つ回転可能に係合する。

【６２７６】
遮光枠６１６５は、枠ドア６１１２と後パネル６１６４の両方を軸支する。これにより、枠ドア６１１２と後パネル６１６４の位置関係がずれてしまうことを抑制できる。その結果、枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２を、後パネル６１６４の上辺に確実に係合させることができ、前パネル６１６２と後パネル６１６４との間を確実に閉じる（遮蔽する）ことができる。
【６２７７】
また、枠ドア６１１２を軸支する遮光枠６１６５は、トップパネル６１０２における前後方向の中間部に位置する。これにより、枠ドア６１１２を取り付けるために確保するスペースを節約することができる。その結果、トップパネル６１０２の前後方向の長さの短縮化（薄型化）を図ることができる。後述するが、バックケース６１１５は、バックドア６１１６を軸支する。このバックケース６１１５が枠ドア６１１２とバックドア６１１６の両方を軸支する構造にすると、バックケース６１１５の大型化を招いてしまう。その結果、トップパネル６１０２の前後方向の長さが長くなってしまう。
【６２７８】
上遮光枠６２０２の２つの係合突起６２１４は、２つの係合ヒンジ６２１３よりも左右方向の外側に配置されている。２つの係合突起６２１４は、下方に突出している。２つの係合突起６２１４は、前後方向に略垂直な平面を有する板体であり、略長方形に形成されている。２つの係合突起６２１４は、パネル本体６１２１における２つのガイド孔６１９７に摺動可能に嵌合する。
【６２７９】
（枠ドアの取り付け）
図５０８に示すように、枠ドア６１１２をパネル本体６１２１の遮光枠６１６５に取り付ける場合は、まず、枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２との間に、パネル本体６１２１における前パネル６１６２の上辺を挿入する。また、枠ドア６１１２の２つの係合突起６２１４を、パネル本体６１２１の２つのガイド孔６１９７に挿入する。そして、２つの係合ヒンジ６２１３の係合軸６２１３ａをヒンジ係合部６１９６の係合側面６１９６ａに係合させる。
【６２８０】
次に、ヒンジカバー６２１０を遮光枠６１６５のヒンジカバー固定用ボス部６１９８に、ねじ６２０９を用いて固定する。ヒンジカバー６２１０は、略四角形の板体からなる。ヒンジカバー６２１０は、ヒンジ係合部６１９６の後面及び係合ヒンジ６２１３の係合軸６２１３ａと対向する。ヒンジカバー６２１０は、係合軸６２１３ａがヒンジ係合部６１９６の係合側面６１９６ａから外れることを防止する。これにより、係合ヒンジ６２１３の係合軸６２１３ａは、ヒンジ係合部６１９６の係合側面６１９６ａに摺動可能且つ回動可能に係合される。その結果、枠ドア６１１２は、パネル本体６１２１に対して、上下方向に摺動可能、且つ、係合軸６２１３ａを中心に回動可能に接続される。
【６２８１】
枠ドア６１１２は、閉位置と、開準備位置と、開位置に配置可能である。枠ドア６１１２は、本発明に係る第３部材に対応する。枠ドア６１１２の閉位置は、本発明に係る第３位置に対応する。また、枠ドア６１１２の開位置は、本発明に係る第４位置に対応する。
【６２８２】
閉位置に配置された枠ドア６１１２の外装面は、パネル本体６１２１（図４９７参照）の外装面と略同一平面を形成する。このとき、枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２（図５０７参照）との間には、前パネル６１６２の上辺が挿入されている。また、枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２は、後パネル６１６４の上辺（図５０４参照）に係合して、後パネル６１６４の上辺を前パネル６１６２側に押圧している。
【６２８３】
枠ドア６１１２を閉位置から上方に移動させると、枠ドア６１１２が開準備位置に配置

される。枠ドア６１１２が開準備位置に配置されると、枠ドア６１１２の外装面とパネル本体６１２１（図４９７参照）の外装面との間に隙間が生じる。このとき、枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２（図５０７参照）との間から前パネル６１６２の上辺が抜ける。これにより、枠ドア６１１２は、係合軸６２１３ａを中心に回動可能になる。

【６２８４】

枠ドア６１１２を開位置に配置に配置すると、枠ドア６１１２の前部は、パネル本体６１２１（図４９７参照）の前部よりも後方に位置する。これにより、前パネル６１６２の上辺と後パネル６１６４の上辺が露出される。このとき、枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２は、後パネル６１６４の上辺から離れる。その結果、後パネル６１６４は、係合軸６２１３ａを中心に回動可能になる。

【６２８５】

［トップパネル基板組立体の構成］

次に、トップパネル基板組立体６１１３の構成について、図５０９及び図５１０を参照して説明する。図５０９は、トップパネル基板組立体６１１３の斜視図である。図５１０は、トップパネル基板組立体６１１３の分解斜視図である。

【６２８６】

図５０９及び図５１０に示すように、トップパネル基板組立体６１１３は、基板ジョイント部材６２２１と、トップパネル中継基板６２２２と、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂと、レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａ，６２２４Ｂとを有している。

【６２８７】

基板ジョイント部材６２２１は、上下方向に長い長方形の板状に形成されている。基板ジョイント部材６２２１は、前方を向く前面６２２１ａと、後方を向く後面６２２１ｂとを有している。基板ジョイント部材６２２１の前面６２２１ａは、パネル本体６１２１の後パネル６１６４（図５０８参照）に対向する。基板ジョイント部材６２２１の後面６２２１ｂは、バックケース６１１５（図４９８参照）に対向する。

【６２８８】

基板ジョイント部材６２２１の前面６２２１ａには、複数の第１基板保持部６２２６Ａ，６２２６Ｂと、第２基板保持部６２２７Ａ，６２２７Ｂが形成されている。複数の第１基板保持部６２２６Ａは、基板ジョイント部材６２２１の左辺に沿って適当な間隔を空けて並んでいる。複数の第１基板保持部６２２６Ａは、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａを保持する。複数の第１基板保持部６２２６Ｂは、基板ジョイント部材６２２１の右辺に沿って適当な間隔を空けて並んでいる。複数の第１基板保持部６２２６Ｂは、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ｂを保持する。

【６２８９】

複数の第１基板保持部６２２６Ａ，６２２６Ｂには、コネクタ用貫通孔６２２８が形成されている。コネクタ用貫通孔６２２８は、略四角形に形成されている。コネクタ用貫通孔６２２８には、後述する基板接続コネクタ６２３６，６２４２が配置される。基板接続コネクタ６２３６，６２４２は、トップパネル中継基板６２２２と複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂとを電気的に接続する。

【６２９０】

第２基板保持部６２２７Ａ，６２２７Ｂは、基板ジョイント部材６２２１の下部における中央部に位置している。第２基板保持部６２２７Ａ，６２２７Ｂは、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。第２基板保持部６２２７Ａは、レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａを保持する。第２基板保持部６２２７Ｂは、レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ｂを保持する。

【６２９１】

基板ジョイント部材６２２１の下端には、略四角形のセンサ用切欠き６２３１が形成されている。センサ用切欠き６２３１には、人検出部６１１４（図４９８参照）が嵌合する。基板ジョイント部材６２２１の下部には、２つのセンサ固定用ボス部６２３２と、２つのボス貫通孔６２３３と、２つのボス嵌合凹部６２３４が設けられている。

【６２９２】
２つのセンサ固定用ボス部６２３２は、前方に突出する略円柱状に形成されている。２つのセンサ固定用ボス部６２３２は、軸方向に延びるねじ孔を有している。２つのセンサ固定用ボス部６２３２のねじ孔は、基板ジョイント部材６２２１の後面６２２１ｂに開口している。このねじ孔には、人検出部６１１４（図４９８参照）を基板ジョイント部材６２２１に固定するためのねじが螺合する。
【６２９３】
２つのボス貫通孔６２３３は、円形に形成されている。２つのボス貫通孔６２３３には、フロントブロック６１１１の２つの係合ボス部６１３５（図４９８参照）が貫通する。２つのボス嵌合凹部６２３４は、円形に形成されており、基板ジョイント部材６２２１の前面６２２１ａに開口している。２つのボス嵌合凹部６２３４には、フロントブロック６１１１の２つの基板組立体固定ボス部６１３６が嵌合する。２つのボス嵌合凹部６２３４の底部には、ねじ貫通孔が形成されている。このねじ貫通孔には、基板ジョイント部材６２２１をフロントブロック６１１１の下部フレーム６１２２（図４９８参照）に固定するためのねじが貫通する。
【６２９４】
図５１０に示すように、トップパネル中継基板６２２２は、上下方向に長い長方形に形成されている。トップパネル中継基板６２２２は、基板ジョイント部材６２２１の後面６２２１ｂにねじを用いて固定される。トップパネル中継基板６２２２の基板ジョイント部材６２２１に対向する面には、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂと電気的に接続するための基板接続コネクタ６２３６が実装されている。
【６２９５】
複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂは、左右方向に長い長方形に形成されている。複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａの右側端部は、基板ジョイント部材６２２１の複数の第１基板保持部６２２６Ａに保持される。複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ｂの左側端部は、基板ジョイント部材６２２１の複数の第１基板保持部６２２６Ｂに保持される。
【６２９６】
複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂは、前方を向く前面６２２３ａと、後方を向く後面６２２３ｂとを有する。複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂの前面６２２３ａは、パネル本体６１２１の後パネル６１６４（図５０８参照）に対向する。複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂの前面６２２３ａには、複数のパネル用ＬＥＤ６２４１が実装されている。複数のパネル用ＬＥＤ６２４１から出射された光は、後パネル６１６４の後面に入射する。複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂの後面６２２３ｂには、基板接続コネクタ６２４２が実装されている。基板接続コネクタ６２４２は、基板ジョイント部材６２２１のコネクタ用貫通孔６２２８において、トップパネル中継基板６２２２の基板接続コネクタ６２３６に接続される。
【６２９７】
レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａ，６２２４Ｂは、左右方向に長い長方形に形成されている。レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａの右側端部は、基板ジョイント部材６２２１の第２基板保持部６２２７Ａに保持される。レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ｂの左側端部は、基板ジョイント部材６２２１の第２基板保持部６２２７Ｂに保持される。レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａ，６２２４Ｂの前方を向く面は、レンズ枠６１６６における下辺部６１７１（図４９９参照）の光入射面に対向する。レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａ，６２２４Ｂの前方を向く面には、複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４が実装されている。レンズ用ＬＥＤ基板６２２４Ａ，６２２４Ｂの複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、レンズ枠６１６６における下辺部６１７１の光入射面に入射する。
【６２９８】
図４９８に示すように、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａの左側方には、レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａが配置される。また、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ｂの右側

方には、レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ｂが配置される。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａ，６２２５Ｂは、上下方向に長い長方形に形成されている。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａ，６２２５Ｂは、バックケース６１１５の内側にねじを用いて固定される。

【６２９９】

レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａの前方を向く面は、レンズ枠６１６６における左辺部６１７２（図４９９参照）の光入射面に対向する。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ｂの前方を向く面は、レンズ枠６１６６における右辺部６１７３（図４９９参照）の光入射面に対向する。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａ，６２２５Ｂの前方を向く面には、複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４が実装されている。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ａの複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、レンズ枠６１６６における左辺部６１７２の光入射面に入射する。レンズ用ＬＥＤ基板６２２５Ｂの複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、レンズ枠６１６６における右辺部６１７３の光入射面に入射する。

【６３００】

本実施形態では、後パネル６１６４（図５０８参照）に光を照射するためのＬＥＤ基板を複数に分割して、基板ジョイント部材６２２１に接続した。これにより、後パネル６１６４の大きさに応じた１つのＬＥＤ基板を設ける場合よりも、コストを削減することができる。また、ＬＥＤ基板の重量を軽減することができ、トップパネル６１０２の軽量化を図ることができる。また、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂは、基板接続コネクタ６２３６，６２４２を用いて、トップパネル中継基板６２２２と電気的に接続される。これにより、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂとトップパネル中継基板６２２２の電気的接続を容易に行うことができる。

【６３０１】

また、本実施形態では、基板ジョイント部材６２２１にトップパネル中継基板６２２２を接続して、トップパネル基板組立体６１１３を構成した。これにより、トップパネル基板組立体６１１３をフロントブロック６１１１に固定するだけで、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂとトップパネル中継基板６２２２をフロントブロック６１１１に容易に取り付けることができる。

【６３０２】

ここまで複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂ及びトップパネル中継基板６２２２を用いて基板配置の工夫を説明した。これらの工夫や以下に述べる変形例は、ＬＥＤ基板以外の種々の基板を配置する際に採用してもよい。また、中継基板に接続されるＬＥＤ基板は左側５枚、右側５枚の合計１０枚としているが、ＬＥＤ基板の枚数はこれに限定されない。例えば、左側１枚、右側１枚としてもよい。図５０９に示すように中継基板を中央としておおむね左右対称となるように接続されるＬＥＤ基板を配置することで、トップパネル中継基板６２２２や基板ジョイント部材６２２１にかかる重量のバランスを取ることができ中継基板６２２２や基板ジョイント部材６２２１が、加重により歪むことを抑制できる。もっとも、配置されるスペースに応じて一側だけ（例えば、中継基板の右側だけ）に複数のＬＥＤ基板を接続するといった配置にしてもよいし、一側（例えば、中継基板の右側）は４枚、他側（例えば、中継基板の左側）は２枚のＬＥＤ基板が接続されるというように左右で接続枚数が異なっていてもよい。また、トップパネル中継基板６２２２に複数のＬＥＤ基板を接続するという構成以外に、複数の基板が接続される接続用基板として中継基板（ＣＰＵ及びＬＥＤや液晶などの演出実行手段などを搭載していない基板）以外を用いてもよい。例えば、接続用基板として演出用基板（ＬＥＤ基板、スピーカー搭載基板など）を採用して、当該接続用基板に別の基板を複数接続するといったものでもよい。基板としては、演出制御に関するサブ制御系の基板だけでなく、遊技の制御に関するメイン制御系の基板について基板配置の工夫を採用してもよい。なお、トップパネル中継基板にＬＥＤドライバを搭載して、副制御基板から送られるＬＥＤ制御に関する信号に基づいて接続される各ＬＥＤ基板への電気制御を行ってもよいし、接続される各ＬＥＤ基板にＬＥＤドライバを搭載するものとしてもよいし、中継基板とＬＥＤ基板の両方にＬＥＤドライバを搭載してもよい。中継基板にＬＥＤドライバを搭載する場合は、各ＬＥＤ

基板の軽量化を図ることができ、取り付け作業の効率化を図ることができる。また、接続するＬＥＤ基板は同じサイズのものを複数枚接続する態様に限定されず、サイズやＬＥＤ配置の異なる基板を中継基板に接続するものとしてもよい。また、中継基板に対して、ＬＥＤ基板を２枚、サウンド基板（スピーカーが接続される基板）を１枚、モーター基板（モータードライバを搭載した基板）を１枚といったように複数種類の基板を接続するようにしてもよい。

【６３０３】

［人検出部の構成］

次に、人検出部６１１４の構成について、図５１１及び５１２を参照して説明する。図５１１は、人検出部６１１４の分解斜視図である。図５１２は、人検出部６１１４の取付位置を示す概念図である。

【６３０４】

図５１１に示すように、人検出部６１１４は、センサベース６２５１と、人感センサ６２５２と、センサカバー６２５３とを有している。

【６３０５】

センサベース６２５１は、ベース板６２５５と、台座部６２５６とを有している。ベース板６２５５は、前後方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。台座部６２５６は、ベース板６２５５の前面から略垂直に突出する直方体状に形成されている。台座部６２５６の前面には、挟持突部６２５６ａが形成されている。挟持突部６２５６ａは、台座部６２５６の周縁に連続する四角形の枠状に形成されている。また、センサベース６２５１は、ベース板６２５５及び台座部６２５６を貫通する貫通孔６２５７を有している。貫通孔６２５７には、人感センサ６２５２のコネクタ（不図示）が貫通する。

【６３０６】

人感センサ６２５２は、基板６２５８と、センサ本体６２５９とを有している。基板６２５８は、前後方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。基板６２５８の前面には、センサ本体６２５９が実装されている。センサ本体６２５９は、例えば、赤外線を用いる非接触型の温度センサである。センサ本体６２５９は、パチスロ機６００１の前方の温度を測定する。パチスロ機６００１の主制御部又は副制御部は、センサ本体６２５９が検出した温度に応じてパチスロ機６００１の前に人がいるか否かを検出する。基板６２５８の後面には、センサ本体６２５９の検出結果を出力するためのコネクタ（不図示）が実装されている。

【６３０７】

なお、本発明に係る人感センサとしては、測距センサを採用してもよい。測距センサは、パチスロ機６００１の前方にある物体までの距離を測定する。パチスロ機６００１の主制御部又は副制御部は、測距センサが検出した物体までの距離に応じてパチスロ機６００１の前に人がいるか否かを検出する。

【６３０８】

センサカバー６２５３は、カバー本体６２６１を有している。カバー本体６２６１は、後面が開口された筐体状に形成されている。カバー本体６２６１の内側には、四角形の枠状に形成された挟持突部が設けられている。カバー本体６２６１の挟持突部は、センサベース６２５１の挟持突部６２５６ａと共に基板６２５８を挟持する。

【６３０９】

カバー本体６２６１の左右の側面には、固定板部６２６３，６２６４が設けられている。固定板部６２６３，６２６４は、前後方向に交差する平面を有する板状に形成されている。固定板部６２６３，６２６４は、ねじ貫通孔６２６３ａ，６２６４ａと、位置決め孔６２６３ｂ，６２６４ｂとを有している。ねじ貫通孔６２６３ａ，６２６４ａには、人検出部６１１４をトップパネル基板組立体６１１３の基板ジョイント部材６２２１（図４９８参照）に固定するためのねじが貫通する。位置決め孔６２６３ｂ，６２６４ｂには、基板ジョイント部材６２２１（図４９８参照）に形成された位置決め突起（不図示）が嵌合する。

【６３１０】
　カバー本体６２６１の前面には、センサ収容部６２６５が形成されている。センサ収容部６２６５は、前方に向かうにつれて径を小さくする切頭円錐状に形成されている。センサ収容部６２６５には、カバー本体６２６１の後面に開口する凹部が形成されている。センサ収容部６２６５の凹部には、センサ本体６２５９が挿入される。
【６３１１】
　カバー本体６２６１は、赤外線が通過可能なポリエチレンによって形成されている。これにより、センサ本体６２５９によりパチスロ機６００１の前に人がいるか否かを検出することができると共に、センサ本体６２５９に塵埃や洗剤が付着することを防止することができる。なお、本発明に係るカバー本体としては、少なくとも赤外線が通過する部分がポリエチレンによって形成されていればよい。
【６３１２】
　図５１２に示すように、人検出部６１１４のセンサ収容部６２６５は、フロントブロック６１１１における下部フレームカバー６１２３に設けたセンサ用ピンホール６１３８ａに対向する。センサ本体６２５９は、センサ収容部６２６５及びフロントブロック６１１１のセンサ用ピンホール６１３８ａを介してパチスロ機６００１の前方の温度を測定する。このように、センサ本体６２５９がセンサ用ピンホール６１３８ａを介してパチスロ機６００１の前方の温度を測定するため、センサ本体６２５９の測定範囲を狭めることができる。これにより、パチスロ機６００１の前方の所定の位置に人がいる場合に測定する温度が変化するようになる。その結果、パチスロ機６００１の前方の所定の位置に人がいることを検出することができる。
【６３１３】
　パチスロ機６００１の副制御部は、遊技者がいなくて遊技が行われていない（人検出部６１１４によって人が検出されていない）場合に、上マスクＵＭ（図４９４参照）の表示装置にデモ画面を表示する。そして、人検出部６１１４がパチスロ機６００１の前方を人が通ったことを検出すると、副制御部は、上マスクＵＭ（図４９４参照）の表示装置に、現在までの遊技履歴データを表示する。これにより、遊技機の前を通りかかった人は、特定の操作を行うことなく、現在までの遊技履歴データを確認することができる。また、遊技履歴データを表示する際にデモ画面の映像は表示を終了して、通常ステージ画面及び遊技履歴データが表示されるといったものとしてもよいし、デモ画面の映像は表示を継続したまま画面の一部に遊技履歴データを表示するものとしてもよい。なお、一般的な大きさの遊技機では、遊技機の上方の島設備に取り付けられるデータ表示器で遊技履歴データを閲覧できるが、図４９４に示す通り筐体の上部が大きく突出した遊技機を遊技店に設置する場合、データ表示器を島に配置できない場合がある。そのため、当該遊技機（パチスロ機６００１）は、画面の一部に遊技履歴データ（現在のハマリゲーム数や本日・過去数日の累計ゲーム数、ボーナス回数、ＡＴ回数やスランプグラフなど）を表示可能になっている。なお、人検出に応じて客待ち中の画面表示を切り替える工夫について、当該遊技機のような上部が突出した遊技機以外の一般的な大きさの遊技機について適用してもよい。
【６３１４】
（人検知時のその他の演出例）
　デモ画面表示中に、人が通ったことを検出した場合には、以下のような演出を行ってもよい。いずれも遊技履歴と合わせて表示してもよいし、遊技履歴の表示をせずに各演出例の画像を表示するものでもよい。デモ画面を維持したまま画面の一部に表示するものでもよいし、デモ画面を終了させて表示するものでもよい。なお、デモ画面から他の画面への更新について説明したが、デモ画面表示中以外の状況において人検出に応じた画面表示の更新を行うものとしてもよい。
演出例１：空き台である旨を示す画像や遊技を促す画像を表示
　例えば、「空き台です。遊技可能です。」といったテロップ表示してもよいし、当該遊技機に登場するキャラクターが「座ってみてね！」などの着席や遊技を促すセリフを言う画像などを表示してもよい。この際に遊技を促すボイスを出音してもよいが、台の前を通

過するだけで「座ってみてね」などの音声が出音されるとうるさいため、出音しないものとしてよい。
演出例２：遊技者向けメニューに関する表示
　演出ボタン押下やタッチパネル操作など所定操作で遊技者向けメニューや携帯連動メニューが開ける旨の表示を行ってもよい。また、音量・光量調整が可能である旨の表示を行ってもよい。遊技している者のいない場合は、全画面で迫力のあるデモ映像を表示した方がアイキャッチとなるが、遊技する意思がある客か遊技しようか迷っている客に対しては便利な機能がついている点を説明する表示を行った方が親切となる。
演出例３：遊技中画面への切り替え
　デモ画面の表示を終了して、遊技中画面（遊技中に表示される通常ステージやＡＴ中画面など現在の状態に応じた基本画面）に移行させるものとしてもよい。この仕様であると、一旦遊技を中断してトイレなどで離席した客が戻ってきた際に、遊技の再開がスムーズとなる。
【６３１５】
（人検出機能のＯＮＯＦＦ設定及び感度設定）
　ホール向けメニューで人検知機能のＯＮ、ＯＦＦを設定可能としてもよい。電源投入後の状態で設定キーを左にひねると、設定確認状態となり払出セグに設定値が表示される。設定確認中は、画面でホールメニューが表示され、演出ボタンやタッチパネルなどでホールメニュー画面での操作を行うことができる。「人検出機能」をＯＮに設定すると、これまでに述べたような人検出部６１１４により人検出が行われたことに基づく演出の更新機能が有効となる。「人検出機能」をＯＦＦに設定すると、人検出部６１１４により人検出が行われたことに基づく演出の更新機能が無効となり、遊技機の前を人が通過してもデモ画面は継続表示される。なお、この場合はデモ画面から他の画面へ切り替えるには、遊技価値をベットする、演出ボタンやタッチパネルの操作が検出されるなどの任意の所定条件を満たした場合に行われる。「人検出機能」がＯＦＦの場合は、人検出部６１１４による人検出処理自体を無効化してもよいし、人検出処理自体はＯＮの場合と同様に行われるが、検出に応じた演出更新処理が行われないものとしてもよい。また、人検出機能の感度設定を行えるようにしてもよい。感度設定は、検出の精度を設定するメニュー項目である。感度は、高・低の２段階から選択することができる。「高」に設定した場合は、わずかな量の検出でも人が通ったと判断して、人検出有と判定する。「低」に設定した場合は、「高」に設定した場合に比べて人が通ったと判断するために必要な検出量が大きくなる。例えば、遊技機の前の通路が広い場合などは、遊技機と人の距離が離れているため、「高」に設定するとよい。遊技機の前の通路が狭く、対向する台がある場合などは、「低」に設定して、対向する位置の別の台を打っている客（当該遊技機の前を歩いている客以外の人物）を検出しにくくするとよい。
【６３１６】
（人検出機能のテストモード）
　ホール向けメニューにおいて、人検出機能が正常に機能しているか否かのテストを行えるものとしてもよい。ホール向けメニューで「人検出センサテストモード」を選択した場合は、画面に「人検出センサテスト中」と表示され、作業者が遊技機の近くにいるなど人検出部６１１４により人検出がされた状況では「検出中」と画面に表示される。また、人検出部６１１４により人が検出されない非検出の状態では、「非検出中」と画面に表示される。「人検出センサテストモード」をセットする所定操作（タッチパネルや演出ボタン等の操作）を行った後、遊技機から作業者から離れてゆき、作業者の位置が人検出部６１１４の検出射程外になったときに「検出中」から「非検出中」へと画面の表示が変化することとなる。本発明に係る遊技機は、人検出に関して、「検出中」である状況で「検出中です」、「非検出中」である状況で「非検出中です」といった状況に対応する音を出音したり、非検出中から検出中に切り替わったときに所定の効果音（例えば「ピコーン」という音）を出音したりするようなものでもよい。また、遊技機の装飾ランプの色や点灯態様（消灯や点滅を含む）を検出中と非検出中で異ならせて遊技機から遠い位置や画面が見え

にくい位置に作業者が立った場合でも、「検出中」か「非検出中」であるかを作業者が認識しうるようにしてもよい。テスト機能により、人検出部６１１４が正常に機能しているかどうかの確認が行えると共に、人検出部のおおよその有効射程距離や有効角度を確認することができる。テスト機能は、遊技場に設置した後だけでなく、製造工程における確認にも使うことができる。また、テスト機能は、ショールームや営業所などで島設備の施工業者や遊技店の内装設計業者に対して同センサの射程距離等を踏まえた島設備の設計や施工を依頼する場合に用いてもよい。

【６３１７】

［バックケースの構成］

次に、バックケース６１１５の構成について、図５１３を参照して説明する。図５１３は、バックケース６１１５の分解斜視図である。

【６３１８】

図５１３に示すように、バックケース６１１５は、ケース本体６２７１と、ロックノブ６２７２，６２７３とを有している。ケース本体６２７１は、トップパネル６１０２の後面を形成する。ケース本体６２７１は、パネル対向部６２７５と、下部フレーム対向部６２７６とを有している。パネル対向部６２７５は、略四角形の板状に形成されている。パネル対向部６２７５は、パネル本体６１２１（図４９８参照）に対向する。

【６３１９】

下部フレーム対向部６２７６は、略Ｔ字状の平面を有する板状に形成されている。下部フレーム対向部６２７６は、下部フレーム６１２２及びパネル側接続部６１２４等に対向する。パネル対向部６２７５及び下部フレーム対向部６２７６は、複数のねじ貫通孔６２７７を有している。ケース本体６２７１は、複数のねじ貫通孔６２７７を貫通するねじを用いて、パネル本体６１２１及び下部フレーム６１２２に固定されている。

【６３２０】

パネル対向部６２７５には、ノブ用凹部６２８１，６２８２と、２つのヒンジ用凹部６２８３が設けられている。ノブ用凹部６２８１は、後方から見てパネル対向部６２７５の右上角部に位置している。ノブ用凹部６２８１は、左右方向に長い長方形に形成されている。ノブ用凹部６２８１の底部には、ロック用貫通孔６２８６と、ガイド溝６２８７が設けられている。ロック用貫通孔６２８６は、略四角形に形成されている。ガイド溝６２８７は、左右方向に延びている。後方から見てガイド溝６２８７の右端は、ロック用貫通孔６２８６と連通している。ガイド溝６２８７は、ロックノブ６２７２を左右方向に案内する。

【６３２１】

ロック用貫通孔６２８６には、パネル本体６１２１のロック突部６１９５Ａ（図４９９参照）と、バックドア６１１６の後述するロック突部６３２５Ａ（図５１４参照）が貫通する。ロック突部６１９５Ａは、ロック用貫通孔６２８６をパネル対向部６２７５の前方から貫通し、バックドア６１１６のロック突部６３２５Ａは、ロック用貫通孔６２８６をパネル対向部６２７５の後方から貫通する。

【６３２２】

ノブ用凹部６２８１の上方を向く壁面には、係合突部６２８８が設けられている。係合突部６２８８は、前後方向に延びる突条に形成されている。係合突部６２８８は、ロック位置に配置されたロックノブ６２７２と係合する。係合突部６２８８は、ロック位置に配置されたロックノブ６２７２をロック解除位置へ移動させる際に、ロックノブ６２７２の移動に抵抗感を生じさせる。

【６３２３】

ノブ用凹部６２８２は、後方から見てパネル対向部６２７５の左上角部に位置している。ノブ用凹部６２８２は、左右方向に長い長方形に形成されている。ノブ用凹部６２８２の底部には、ロック用貫通孔６２９１と、ガイド溝６２９２が設けられている。ロック用貫通孔６２９１は、略四角形に形成されている。ガイド溝６２９２は、左右方向に延びている。後方から見てガイド溝６２９２の左端は、ロック用貫通孔６２９１と連通している

。ガイド溝６２９２は、ロックノブ６２７３を左右方向に案内する。

【６３２４】

ロック用貫通孔６２９１には、パネル本体６１２１のロック突部６１９５Ｂ（図４９９参照）と、バックドア６１１６の後述するロック突部６３２５Ｂ（図５１４参照）が貫通する。ロック突部６１９５Ｂは、ロック用貫通孔６２８６をパネル対向部６２７５の前方から貫通し、バックドア６１１６のロック突部６３２５Ｂは、ロック用貫通孔６２８６をパネル対向部６２７５の後方から貫通する。

【６３２５】

ノブ用凹部６２８２の下方を向く壁面には、係合突部６２９３が設けられている。係合突部６２９３は、前後方向に延びる突条に形成されている。係合突部６２９３は、ロック位置に配置されたロックノブ６２７３と係合する。係合突部６２９３は、ロック位置に配置されたロックノブ６２７３をロック解除位置へ移動させる際に、ロックノブ６２７３の移動に抵抗感を生じさせる。

【６３２６】

２つのヒンジ用凹部６２８３は、ノブ用凹部６２８１，６２８２間に配置されている。２つのヒンジ用凹部６２８３は、上下方向に長い長方形に形成されている。２つのヒンジ用凹部６２８３には、ヒンジ受け６２９５と、ブラケット固定用ボス部６２９６が設けられている。ヒンジ受け６２９５は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。ヒンジ受け６２９５は、バックドア６１１６の後述するバックドアヒンジ６３１４（図５１４参照）と係合する。ブラケット固定用ボス部６２９６は、後方に突出する略円柱状に形成されている。ブラケット固定用ボス部６２９６は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、後述するヒンジブラケット６３３０（図５１５参照）をバックケース６１１５に固定するためのねじが螺合する。

【６３２７】

ロックノブ６２７２は、ノブ用凹部６２８１に配置される。ロックノブ６２７２は、ノブ本体６３０１と、デッドボルト６３０２と、操作突起６３０３とを有している。ノブ本体６３０１は、横長の直方体状に形成されている。ノブ本体６３０１の前面には、係合突部（不図示）が形成されている。ノブ本体６３０１の係合突部は、ノブ用凹部６２８１のガイド溝６２８７に摺動可能に係合する。ノブ本体６３０１の下面には、係合突起６３０４が形成されている。係合突起６３０４は、ノブ用凹部６２８１の係合突部６２８８に係合する。

【６３２８】

デッドボルト６３０２は、後方から見てノブ本体６３０１の右側面から突出している。デッドボルト６３０２は、左右方向に長い直方体状に形成されている。操作突起６３０３は、ノブ本体６３０１の後面から突出している。操作突起６３０３は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。操作突起６３０３には、ロックノブ６２７２を操作する人の手が引っ掛けられる。

【６３２９】

ロックノブ６２７２は、ロック位置とロック解除位置に移動可能である。ロックノブ６２７２がロック位置に位置すると、係合突起６３０４がノブ用凹部６２８１の係合突部６２８８に係合する。係合突起６３０４は、ロックノブ６２７２をロック位置からロック解除位置へ移動させる際に、ロックノブ６２７２の移動に抵抗感を生じさせる。また、ロックノブ６２７２がロック位置に位置すると、デッドボルト６３０２は、ノブ用凹部６２８１のロック用貫通孔６２８６と対向する。ロック位置において、デッドボルト６３０２は、パネル本体６１２１のロック突部６１９５Ａ（図４９９参照）と、バックドア６１１６の後述するロック突部６３２５Ａ（図５１４参照）に係合する。

【６３３０】

ロックノブ６２７３は、ノブ用凹部６２８２に配置される。ロックノブ６２７３は、ノブ本体６３０６と、デッドボルト６３０７と、操作突起６３０８とを有している。ノブ本体６３０６は、横長の直方体状に形成されている。ノブ本体６３０６の前面には、係合突

部（不図示）が形成されている。ノブ本体６３０６の係合突部は、ノブ用凹部６２８２のガイド溝６２９２に摺動可能に係合する。ノブ本体６３０６の上面には、係合突起６３０９が形成されている。係合突起６３０９は、ノブ用凹部６２８２の係合突部６２９３に係合する。

【６３３１】

デッドボルト６３０７は、後方から見てノブ本体６３０１の左側面から突出している。デッドボルト６３０７は、左右方向に長い直方体状に形成されている。操作突起６３０８は、ノブ本体６３０６の後面から突出している。操作突起６３０８は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。操作突起６３０８には、ロックノブ６２７３を操作する人の手が引っ掛けられる。

【６３３２】

ロックノブ６２７３は、ロック位置とロック解除位置に移動可能である。ロックノブ６２７３がロック位置に位置すると、係合突起６３０９がノブ用凹部６２８２の係合突部６２９３に係合する。係合突起６３０９は、ロックノブ６２７３をロック位置からロック解除位置へ移動させる際に、ロックノブ６２７３の移動に抵抗感を生じさせる。また、ロックノブ６２７３がロック位置に位置すると、デッドボルト６３０７は、ノブ用凹部６２８２のロック用貫通孔６２９１と対向する。ロック位置において、デッドボルト６３０７は、パネル本体６１２１のロック突部６１９５Ｂ（図４９９参照）と、バックドア６１１６の後述するロック突部６３２５Ｂ（図５１４参照）に係合する。

【６３３３】

［バックドアの構成］

次に、バックドア６１１６の構成について、図４９８、図５１４及び図５１５を参照して説明する。図５１４は、バックドア６１１６の分解斜視図である。図５１５は、バックドア６１１６をバックケース６１１５に取り付ける状態を示す図である。

【６３３４】

図４９８に示すように、バックドア６１１６は、バックケース６１１５と共にトップパネル６１０２の後面を形成する。また、バックドア６１１６は、枠ドア６１１２と共にトップパネル６１０２の上面を形成する。図５１４に示すように、バックドア６１１６は、ドア本体６３１１と、レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂと、基板カバー６３１３と、２つのバックドアヒンジ６３１４とを有している。

【６３３５】

ドア本体６３１１は、前面及び下面が開口された略筐体状に形成されている。ドア本体６３１１は、前後方向に略垂直な平面を有する後壁部６３２１を有している。後壁部６３２１は、ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂと、複数のカバー取付用ボス部６３２３と、２つのヒンジ固定用ボス部６３２４と、ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂとを有している。

【６３３６】

ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂは、左右方向に適当な距離を空けて並んでいる。ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂは、左右方向に長い長方形に形成されている。ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂには、バックケース６１１５におけるロックノブ６２７２，６２７３の操作突起６３０３，６３０８（図５１３参照）が貫通する。複数のカバー取付用ボス部６３２３は、前方に突出する略円柱状に形成されている。複数のカバー取付用ボス部６３２３は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、基板カバー６３１３をドア本体６３１１に固定するためのねじが螺合する。

【６３３７】

２つのヒンジ固定用ボス部６３２４は、ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂ間に配置されている。２つのヒンジ固定用ボス部６３２４は、前方に突出する略円柱状に形成されている。２つのヒンジ固定用ボス部６３２４は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、２つのバックドアヒンジ６３１４をドア本体６３１１に固定するためのねじが螺合する。

【６３３８】
ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂは、左右方向において、ノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂの外側に配置されている。ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂは、前方に突出しており、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂは、左右方向に貫通する貫通孔を有している。ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂの貫通孔には、バックケース６１１５の後述するロックノブ６２７２，６２７３（図５１３参照）が貫通する。
【６３３９】
レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂは、左右方向に長い長方形に形成されている。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂは、複数の嵌合孔６３２７を有している。複数の嵌合孔６３２７は、複数のカバー取付用ボス部６３２３に嵌合する。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂは、基板カバー６３１３とドア本体６３１１に挟持される。
【６３４０】
レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂの前方を向く面は、枠ドア６１１２における上レンズ枠６２０３（図５０７参照）の光入射面に対向する。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂの前方を向く面には、複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４が実装されている。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂの複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、枠ドア６１１２における上レンズ枠６２０３の光入射面に入射する。
【６３４１】
基板カバー６３１３は、左右方向に長く、側面形状が略Ｌ字状の部材である。基板カバー６３１３は、前方を向く前板部６３３１と、下方を向く下板部６３３２とを有している。
【６３４２】
前板部６３３１は、複数のＬＥＤ用窓６３３４と、複数のねじ貫通孔６３３５とを有している。複数のＬＥＤ用窓６３３４は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。複数のＬＥＤ用窓６３３４は、略四角形に形成されている。複数のＬＥＤ用窓６３３４は、レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂの複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４に対向する。複数のレンズ用ＬＥＤ６２４４から出射された光は、複数のＬＥＤ用窓６３３４を通過して、枠ドア６１１２における上レンズ枠６２０３の光入射面に入射する。そして、光入射面に入射した光は、光出射面６２０３ａ（図４９５参照）から遊技機の前方に向けて射出される。複数のねじ貫通孔６３３５は、左右方向に適当の間隔を空けて並んでいる。複数のねじ貫通孔６３３５には、基板カバー６３１３をドア本体６３１１に固定するためのねじが貫通する。
【６３４３】
２つのバックドアヒンジ６３１４は、ドア本体６３１１の２つのヒンジ固定用ボス部６３２４にねじを用いて固定される。２つのバックドアヒンジ６３１４は、ドア本体６３１１の下方に突出する。２つのバックドアヒンジ６３１４は、前後方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。２つのバックドアヒンジ６３１４の下部には、係合軸６３１４ａが形成されている。バックドアヒンジ６３１４の係合軸６３１４ａは、左右方向に延びる円柱状に形成されている。係合軸６３１４ａは、バックケース６１１５におけるヒンジ用凹部６２８３の上方を向く壁面とヒンジ受け６２９５（図５１３参照）との間に配置される。
【６３４４】
（バックドアの取り付け）
図５１５に示すように、バックドア６１１６をバックケース６１１５のパネル対向部６２７５に取り付ける場合は、まず、バックドア６１１６のロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂ（図５１４参照）を、バックケース６１１５のロック用貫通孔６２８６，６２９１に挿入する。このとき、ロック解除位置に配置されたロックノブ６２７２，６２７３の操作突起６３０３，６３０８が、バックドア６１１６のノブ用窓６３２２Ａ，６３２２Ｂを貫

通する。また、バックドア６１１６における２つのバックドアヒンジ６３１４の係合軸６３１４ａが、バックケース６１１５の２つのヒンジ用凹部６２８３の上方を向く壁面とヒンジ受け６２９５（図５１３参照）との間に挿入される。

【６３４５】

次に、ヒンジブラケット６３３０をヒンジ用凹部６２８３のブラケット固定用ボス部６２９６に、ねじ６３３７を用いて固定する。ヒンジブラケット６３３０は、略Ｔ字状の板体からなる。ヒンジブラケット６３３０とヒンジ用凹部６２８３は、バックドア６１１６のバックドアヒンジ６３１４を回転可能に挟持する。これにより、バックドア６１１６は、バックケース６１１５に対して、係合軸６３１４ａを中心に回動可能に接続される。

【６３４６】

バックドア６１１６は、開位置と閉位置に配置可能である。バックドア６１１６は、本発明に係る第４部材に対応する。バックドア６１１６の閉位置は、本発明に係る第５位置に対応する。また、バックドア６１１６の開位置は、本発明に係る第６位置に対応する。開位置に配置されたバックドア６１１６は、バックケース６１１５よりも後方に位置し、枠ドア６１１２との間に開口部を形成する（図５１８参照）。閉位置に配置されたバックドア６１１６は、バックケース６１１５及び枠ドア６１１２と略同一平面を形成する。バックドア６１１６を閉位置に配置した状態において、ロックノブ６２７２，６２７３をロック位置に移動させると、バックドア６１１６は、バックケース６１１５及びパネル本体６１２１に固定される。

【６３４７】

［デザインシートの交換作業］

次に、トップパネル６１０２におけるデザインシート６１６３の交換作業について、図５１６～図５２６を参照して説明する。

【６３４８】

（バックドアのロック解除）

デザインシート６１６３の交換する場合は、まず、バックドア６１１６のロックを解除する。図５１６は、バックドア６１１６のロック状態を示す断面図であり、バックドア６１１６の水平方向に平行な断面を上方から見た断面図（図５１５に示すＡ－Ａに沿う断面図）である。図５１７は、バックドア６１１６のロック解除状態を示す断面図であり、バックドア６１１６の水平方向に平行な断面を上方から見た断面図（図５１５に示すＡ－Ａに沿う断面図）である。

【６３４９】

図５１６に示すように、バックドア６１１６を閉位置に配置すると、バックドア６１１６のロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂが、バックケース６１１５のロック用貫通孔６２８６，６２９１を貫通する。また、パネル本体６１２１のロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂは、バックケース６１１５のロック用貫通孔６２８６，６２９１を貫通しており、左右方向において、ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂと隣り合っている。

【６３５０】

ロックノブ６２７２，６２７３をロック位置に配置すると、ロックノブ６２７２，６２７３のデッドボルト６３０２，６３０７は、ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂの貫通孔と、ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂの貫通孔を貫通する。これにより、ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂとロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂが、デッドボルト６３０２，６３０７に係合する。その結果、バックドア６１１６は、パネル本体６１２１に固定され、２つのバックドアヒンジ６３１４の係合軸６３１４ａを中心とした回動が不可能になる。

【６３５１】

また、ロックノブ６２７２，６２７３をロック位置に配置すると、ロックノブ６２７２，６２７３の係合突起６３０４，６３０９（図５１３参照）が、バックケース６１１５の係合突部６２８８，６２９３に係合する。ロックノブ６２７２，６２７３をロック解除位置へ移動させる場合は、係合突起６３０４，６３０９が係合突部６２８８，６２９３を乗

り越える必要がある。そのため、工場から遊技店へトラックなどで輸送する際の振動等により、ロックノブ６２７２，６２７３がロック位置からロック解除位置に移動することを防止できる。その結果、パチスロ機６００１の輸送時に、ロックノブ６２７２，６２７３によるバックドア６１１６のロックが意図せずに解除されないようにすることができる。

【６３５２】

図５１７に示すように、ロックノブ６２７２，６２７３をロック解除に移動させると、ロックノブ６２７２，６２７３のデッドボルト６３０２，６３０７は、ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂの貫通孔と、ロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂの貫通孔から抜ける。これにより、ロック突部６１９５Ａ，６１９５Ｂとロック突部６３２５Ａ，６３２５Ｂに対するデッドボルト６３０２，６３０７の係合が外れる。その結果、バックドア６１１６は、パネル本体６１２１との固定が解除され、２つのバックドアヒンジ６３１４の係合軸６３１４ａを中心とした回動が可能になる。

【６３５３】

（バックドアの回動）

次に、バックドア６１１６を閉位置から開位置に回動させる。図５１８は、バックドアを６１１６開位置へ回動させた状態を示す斜視図である。図５１９は、バックドアを開位置へ回動させた状態を模式的に示す概念図である。

【６３５４】

図５１８及び図５１９に示すように、バックドア６１１６を開位置へ回動させると、バックドア６１１６と枠ドア６１１２との間には、開口部が形成される。すなわち、バックドア６１１６と枠ドア６１１２との間には、枠ドア６１１２を閉位置に回動させるためのスペースが形成される。

【６３５５】

バックドア６１１６を開位置へ回動させた状態において、枠ドア６１１２は、閉位置に配置されており、閉位置から開準備位置に移動可能である。つまり、枠ドア６１１２を閉位置から開準備位置、開準備位置から開位置に移動させるには、バックドア６１１６を開位置へ回動させる必要がある。これにより、トップパネル６１０２の前側から枠ドア６１１２を開位置に移動させる作業を行うことが煩雑になる。その結果、不正行為を目的とした枠ドア６１１２の開放を行い難くすることができる。

【６３５６】

閉位置に配置された枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２（図５０７参照）との間には、前パネル６１６２の上辺が挿入されている。そのため、閉位置に配置された枠ドア６１１２は、係合軸６２１３ａを中心とした回動が不可能である。また、閉位置に配置された枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２（図５０７参照）は、後パネル６１６４の上辺を前パネル６１６２側に押圧している。これにより、後パネル６１６４は、第１位置に配置されている。

【６３５７】

（枠ドアの上昇）

次に、枠ドア６１１２を閉位置から開準備位置に移動させる。図５２０は、枠ドア６１１２を開準備位置に移動させた状態を示す斜視図である。図５２１は、枠ドア６１１２を開準備位置に移動させた状態を模式的に示す概念図である。

【６３５８】

図５２０及び図５２１に示すように、枠ドア６１１２を開準備位置に移動させる場合は、枠ドア６１１２を上昇させる。このとき、枠ドア６１１２の係合軸６２１３ａは、遮光枠６１６５におけるヒンジ係合部６１９６（図４９９参照）の係合側面６１９６ａ上を摺動する。枠ドア６１１２を開準備位置に移動させると、前パネル６１６２の上辺が、枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２（図５０７参照）との間から抜ける。これにより、枠ドア６１１２は、係合軸６２１３ａを中心とした回動が可能になる。

【６３５９】

（枠ドアの回動）

次に、枠ドア６１１２を開準備位置から開位置に回動させる。図５２２は、枠ドア６１１２を開位置へ回動させた状態を示す斜視図である。図５２３は、枠ドア６１１２を開位置へ回動させた状態を模式的に示す概念図である。図５２４は、後パネル６１６４を第１位置に配置した状態を示す断面図である。

【６３６０】

図５２２及び図５２３に示すように、枠ドア６１１２を開位置に回動させると、前パネル６１６２の上辺と後パネル６１６４の上辺が上方に露出される。このとき、枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２（図５０７参照）が、後パネル６１６４の上辺から離れる。これにより、第１位置に配置された後パネル６１６４は、回動軸６１６４ａを中心に回動可能になる。

【６３６１】

図５２３及び図５２４に示すように、後パネル６１６４が第１位置に配置された状態では、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺との間の距離Ｄ１（図５２３参照）が僅かな長さ（ほぼ「０」）である。そのため、距離Ｄ１が僅かな長さである場合は、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺との間（開口部）からデザインシート６１６３を取り出す作業が煩雑になる。

【６３６２】

（後パネルの回動）

次に、後パネル６１６４を第１位置から第２位置へ回動させる。図５２５は、後パネル６１６４を第２位置に配置した状態を示す断面図である。図５２６は、後パネル６１６４を第２位置に配置した状態を模式的に示す概念図である。

【６３６３】

図５２５及び図５２６に示すように、後パネル６１６４を第２位置へ回動させると、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺との間の距離Ｄ１（図５２６参照）は、後パネル６１６４を第１位置に配置した場合よりも広がる。これにより、後パネル６１６４と前パネル６１６２との間には、デザインシート６１６３を挿脱するための開口部が形成される。そして、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺との間に形成された開口部からデザインシート６１６３を容易に交換することができる。

【６３６４】

なお、後パネル６１６４が遮光枠６１６５の上部である６１９６に接触すると、後パネル６１６４の回動は係止される。したがって、後パネル６１６４は、遮光部材６１６８の複数の光通過窓６１６８ａから露出される複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂと接触しない。これにより、デザインシート６１６３の交換作業時に、複数のパネル用ＬＥＤ基板６２２３Ａ，６２２３Ｂが破損しないようにすることができる。

【６３６５】

デザインシート６１６３を交換後、枠ドア６１１２を開位置から開準備位置に回動させる。このとき、枠ドア６１１２の複数の後パネル係合リブ６２１２（図５０７参照）が、後パネル６１６４の上辺を前パネル６１６２側に押圧する。これにより、後パネル６１６４が、第２位置から第１位置へ回動する。その後、枠ドア６１１２を開準備位置から閉位置に移動させる。これにより、前パネル６１６２の上辺が、枠ドア６１１２の上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２（図５０７参照）との間に挿入される。次に、バックドア６１１６を開位置から閉位置に回動させる。その後、ロックノブ６２７２，６２７３をロック位置に移動させる。これにより、バックドア６１１６は、パネル本体６１２１に固定され、係合軸６３１４ａを中心とした回動が不可能になる。以上でデザインシート６１６３の交換作業が完了する。

【６３６６】

本実施形態では、ロックノブ６２７２，６２７３を手指で操作して、バックドア６１１６のロックを解除する。したがって、工具を使用せずに、バックドア６１１６のロックを解除することができる。さらに、その後の作業においても、工具を使用することなく、後パネル６１６４の上辺と前パネル６１６２の上辺との間（開口部）を広げることができる

。したがって、工具を使用せずに、デザインシート６１６３を交換することができる。

【６３６７】

［下マスクの構成］

次に、下マスクＤＭの構成について、図５２７～５２９を参照して説明する。図５２７は、下マスクＤＭの斜視図である。図５２８は、下マスクＤＭの上部の分解斜視図である。図５２９は、下マスクＤＭの下部の分解斜視図である。

【６３６８】

図５２７～図５２９に示すように、下マスクＤＭは、下ドアベースＤＢを覆う下マスク本体６４０１と、下マスク本体６４０１の上部に取り付けられた操作部ユニット６４０２とを有している。

【６３６９】

［操作部ユニットの構成］

図５２８に示すように、操作部ユニット６４０２は、操作部収容筐体６４１１と、操作部外装体６４１２と、アース用板金６４１３と、操作部外装カバー６４１４とを有している。

【６３７０】

操作部収容筐体６４１１は、左右方向に長い中空の略直方体状に形成されている。操作部収容筐体６４１１は、上面が開口されている。操作部収容筐体６４１１の底部における外面には、不図示の振動用モータと、複数の固定用ブラケット６４１５が取り付けられている。振動用モータは、振動演出を実施する際に駆動して、操作部収容筐体６４１１を振動させる。振動演出は、例えば、遊技者に有利な状況が発生した場合に実施される。これにより、遊技者が手で体感する演出の興趣を高めることができる。複数の固定用ブラケット６４１５は、板金を折り曲げ加工したものであり、ねじを用いて操作部収容筐体６４１１に固定されている。また、複数の固定用ブラケット６４１５は、ねじを用いて下マスク本体６４０１の上部に固定されている。

【６３７１】

操作部収容筐体６４１１の内部には、状態表示ユニット６４２１と、ベットボタンユニット６４２２と、メダル数表示ユニット６４２３と、計数ボタンユニット６４２４と、演出ボタンユニット６４２５と、音量つまみユニット６４２６とが配置されている。

【６３７２】

状態表示ユニット６４２１は、複数のランプ（ＬＥＤ）や７セグメントＬＥＤを含んで構成されている。状態表示ユニット６４２１は、７セグメントＬＥＤ等の点灯態様により遊技に関する情報を表示する。ベットボタンユニット６４２２は、パチスロ機６００１でデータとして管理されている（クレジットされている）メダルを使用するための遊技者のベット操作を受付ける。ベットボタンユニット６４２２は、操作部であるＭＡＸベットボタン６４２２ａ及び１ベットボタン６４２２ｂを有している。また、１ベットボタン６４２２ｂは、既にベット済みのメダルがある場合に長押しすると、ベット済みのメダルをクレジットに戻す精算処理が行われるため、精算ボタンとしても機能する。なお、本遊技機は、物理的なメダルを用いないメダルレス遊技機であり、本段落及び以下の段落における「メダル」とは従来の遊技機における「メダル」に相当する遊技価値情報という意味である。

【６３７３】

メダル数表示ユニット６４２３は、複数のランプ（ＬＥＤ）や７セグメントＬＥＤを含んで構成されている。メダル数表示ユニット６４２３は、７セグメントＬＥＤ等の点灯態様により、パチスロ機６００１でデータとして管理されているメダルの数を表示する。計数ボタンユニット６４２４は、クレジットされているメダルを返却（計数、サンドへの転送）するための遊技者の遊技操作（計数操作）を受付ける。計数ボタンユニット６４２４は、操作部である計数ボタン６４２４ａを有している。

【６３７４】

演出ボタンユニット６４２５は、遊技者の演出用の操作（演出操作）を受付ける。演出

ボタンユニット６４２５は、操作部である演出ボタン６４２５ａを有している。音量つまみユニット６４２６は、音量の調節操作を受付ける。音量つまみユニット６４２６は、操作部である音量つまみ６４２６ａを有している。音量つまみ６４２６ａを右回り（時計回り）に回した場合は音量が徐々に大きくなり、音量つまみ６４２６ａを左回り（反時計回り）に回した場合は音量が徐々に小さくなる。

【６３７５】

図５２８及び図５２９に示すように、操作部外装体６４１２は、上下方向から見た形状が略コ字状に形成されており、前面部と、左右の側面部を有している。操作部外装体６４１２は、操作部収容筐体６４１１の前面及び左右の側面を覆う。操作部収容筐体６４１１は、ねじを用いて操作部外装体６４１２に取り付けられる。操作部外装体６４１２は、ねじを用いて下マスク本体６４０１の上部に固定される。

【６３７６】

操作部外装体６４１２の前面部には、ストップボタンユニット６４２７と、スタートレバーユニット６４２８が取り付けられている。また、操作部外装体６４１２の前面部には、装飾部６４２９が設けられている。

【６３７７】

ストップボタンユニット６４２７は、操作部外装体６４１２の前面部における左右方向の中央部に位置している。ストップボタンユニット６４２７は、リールの回転を停止させるための遊技者の遊技操作（停止操作）を受付ける。ストップボタンユニット６４２７は、操作部である３つのストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒを有している。

【６３７８】

スタートレバーユニット６４２８は、前方から見て操作部外装体６４１２の前面部における左端部に位置する。スタートレバーユニット６４２８は、遊技を開始させるための遊技者の開始操作を受付ける。スタートレバーユニット６４２８は、操作部であるスタートレバー６５４１を有している。装飾部６４２９は、前方から見て操作部外装体６４１２の前面部における右端部に位置する。装飾部６４２９は、スタートレバーユニット６４２８のスタートレバー６５４１と概ね左右対称な形状に形成されている。

【６３７９】

図５２９に示すように、操作部外装体６４１２の前面部における左右方向の中央部には、ストップボタン用貫通孔６４１２ａが形成されている。ストップボタンユニット６４２７は、ストップボタン用貫通孔６４１２ａを貫通する。操作部外装体６４１２の前面部における左端部には、レバー用貫通孔６４１２ｂが形成されている。スタートレバーユニット６４２８は、レバー用貫通孔６４１２ｂを貫通する。

【６３８０】

操作部外装体６４１２の前面部における中央部は、斜め上を向く斜面に形成されており、ストップボタン用貫通孔６４１２ａの開口面は、斜め上を向いている。そのため、ストップボタン用貫通孔６４１２ａを貫通するストップボタンユニット６４２７は、斜め上を向く姿勢で操作部外装体６４１２に取り付けられている。そして、斜め上を向の３つのストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒは、斜め上を向いている（図５２８参照）。これにより、遊技者が３つのストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒを操作し易くすることができる。

【６３８１】

図５２８に示すように、アース用板金６４１３は、操作部収容筐体６４１１の上面に対応した略長方形の板状に形成されている。アース用板金６４１３は、複数の固定片６４１３ａを有している。複数の固定片６４１３ａは、アース用板金６４１３の後端から下方に突出する板状に形成されている。複数の固定片６４１３ａは、複数の固定用ブラケット６４１５と一緒に操作部収容筐体６４１１に共締めされる。

【６３８２】

アース用板金６４１３は、操作部収容筐体６４１１の上面の開口を塞ぐ。アース用板金

６４１３は、ＭＡＸベットボタン６４２２ａ、１ベットボタン６４２２ｂ、計数ボタン６４２４ａ、演出ボタン６４２５ａ、音量つまみ６４２６ａが貫通する各種貫通孔を有している。各種貫通孔は、それぞれのボタンの外径に対応した円形に形成されている。

【６３８３】

また、アース用板金６４１３は、状態表示ユニット６４２１及びメダル数表示ユニット６４２３を露出させる各種窓部を有している。各種窓部は、状態表示ユニット６４２１及びメダル数表示ユニット６４２３の外形に対応した略四角形に形成されている。状態表示ユニット６４２１及びメダル数表示ユニット６４２３の上面は、アース用板金６４１３の上面と略同一平面を形成する。

【６３８４】

操作部外装カバー６４１４は、操作部パネル６４３１と、下マスクパネル６４３２とを有している。操作部パネル６４３１は、透光性の樹脂からなり、操作部収容筐体６４１１の上面に対応した略長方形の板状に形成されている。操作部パネル６４３１には、ＭＡＸベットボタン６４２２ａ、１ベットボタン６４２２ｂ、計数ボタン６４２４ａ、演出ボタン６４２５ａ、音量つまみ６４２６ａが貫通する各種貫通孔が形成されている。各種貫通孔は、それぞれのボタンの外径に対応した円形に形成されている。また、操作部パネル６４３１は、状態表示ユニット６４２１及びメダル数表示ユニット６４２３の複数のランプ（ＬＥＤ）や７セグメントＬＥＤから出射された光を透過させる。

【６３８５】

下マスクパネル６４３２は、遮光性を有する樹脂からなり、操作部パネル６４３１と一体に形成されている。すなわち、操作部外装カバー６４１４は、２色成形により形成されている。下マスクパネル６４３２は、側面形状が略Ｌ字状であり、操作部収容筐体６４１１の後面及び下マスク本体６４０１の上面を覆う。

【６３８６】

［下マスク本体の構成］

図５２８に示すように、下マスク本体６４０１は、下マスクベース６４４１と、２つの中間スピーカユニット６４４２とを有している。下マスクベース６４４１は、背面が開口された略直方体状に形成されている。下マスクベース６４４１の背面は、下ドアベースＤＢと対向する。

【６３８７】

下マスクベース６４４１の上面には、スピーカ貫通孔６４４１ａが形成されている（図５２９参照）。２つの中間スピーカユニット６４４２は、スピーカ貫通孔６４４１ａを貫通している。２つの中間スピーカユニット６４４２における下マスクベース６４４１の上面から突出する部分は、操作部収容筐体６４１１の後方に位置する。

【６３８８】

下マスクベース６４４１の正面には、ポケット収納部６４４３と、透音孔６４４４が形成されている。ポケット収納部６４４３は、下マスクベース６４４１の正面における略中央部に位置している。ポケット収納部６４４３は、後方に凹む凹部として形成されている。ポケット収納部６４４３は、例えば、遊技者が所持する携帯端末や飲料水のボトル等を収納可能である。ポケット収納部６４４３の上方には、２つの中間スピーカユニット６４４２が配置されている。透音孔６４４４は、ポケット収納部６４４３の下方に位置する。透音孔６４４４は、下マスクベース６４４１の内部に配置された下部スピーカ装置（不図示）に対向している。

【６３８９】

［中間スピーカユニットの構成］

次に、中間スピーカユニット６４４２の構成について、図５３０を参照して説明する。図５３０は、中間スピーカユニット６４４２の分解斜視図である。

【６３９０】

図５３０に示すように、中間スピーカユニット６４４２は、中間スピーカ装置６４５１と、スピーカ収容体６４５２と、蓋体６４５３と、音ガイドカバー６４５４と、防磁カバ

ー６４５５とを有している。

【６３９１】

中間スピーカ装置６４５１は、左右方向に長い直方体状に形成されている。中間スピーカ装置６４５１は、上方を向くコーン紙６４６１と、コーン紙６４６１を保持するフレーム６４６２と、フレーム６４６２の下部に接続されたマグネット６４６３とを有している。中間スピーカ装置６４５１は、上方に向かって音を出力する。

【６３９２】

スピーカ収容体６４５２は、マグネット収容部６４６５と、蓋接続部６４６６とを有している。マグネット収容部６４６５は、上下方向から見た形状が左右方向に長い長方形であり、上面が開口された中空の箱状に形成されている。マグネット収容部６４６５には、中間スピーカ装置６４５１のマグネット６４６３が収容される。

【６３９３】

蓋接続部６４６６は、マグネット収容部６４６５の上部に連続している。蓋接続部６４６６は、上下方向から見た形状が左右方向に長い長方形であり、上面が開口された中空の箱状に形成されている。蓋接続部６４６６の短辺は、マグネット収容部６４６５の短辺と略同じ長さであり、蓋接続部６４６６の長辺は、マグネット収容部６４６５の長辺よりも長い。蓋接続部６４６６の内部空間は、マグネット収容部６４６５の内部空間と連通している。蓋接続部６４６６には、中間スピーカ装置６４５１のフレーム６４６２が収容される。

【６３９４】

蓋接続部６４６６の４つの角部には、４つの嵌合筒部６４６７が形成されている。また、蓋接続部６４６６の一方の短辺を形成する側壁部には、中間スピーカ装置６４５１の接続端子が貫通する端子貫通溝６４６８が形成されている。さらに、蓋接続部６４６６の一方の長辺を形成する側壁部には、固定用突部６４６９が形成されている。固定用突部６４６９は、下マスクベース６４４１（図５２９参照）の上面にねじを用いて固定される。

【６３９５】

蓋体６４５３は、蓋本体６４７１と、４つの係合突部６４７２とを有している。蓋本体６４７１は、上下方向から見た形状が蓋接続部６４６６と略同じ大きさの長方形であり、下面が開口された中空の箱状に形成されている。蓋本体６４７１は、スピーカ収容体６４５２における蓋接続部６４６６の上面を覆う。

【６３９６】

蓋本体６４７１の上面には、窓部６４７１ａと、複数のねじ貫通孔６４７１ｂが形成されている。窓部６４７１ａは、蓋本体６４７１の上面の大半を占有する大きさの略楕円状に形成されている。窓部６４７１ａは、中間スピーカ装置６４５１のコーン紙６４６１を露出させる。複数のねじ貫通孔６４７１ｂは、蓋本体６４７１の上面における四隅に配置されている。複数のねじ貫通孔６４７１ｂには、蓋本体６４７１に音ガイドカバー６４５４を取り付けるためのねじが貫通する。

【６３９７】

４つの係合突部６４７２は、蓋本体６４７１の４つの角部から下方に突出している。４つの係合突部６４７２は、円柱状に形成されており、スピーカ収容体６４５２の４つの嵌合筒部６４６７内に嵌合する。４つの係合突部６４７２には、軸方向に延びるねじ螺合孔が形成されている。このねじ螺合孔には、防磁カバー６４５５をスピーカ収容体６４５２に取り付けるためのねじが螺合する。

【６３９８】

音ガイドカバー６４５４は、左右方向から見た形状が略三角形であり、下面が開口された中空の箱状に形成されている。音ガイドカバー６４５４の下端は、蓋本体６４７１の上面に接合される。音ガイドカバー６４５４の内部空間は、蓋本体６４７１を介してスピーカ収容体６４５２の内部空間と連通している。

【６３９９】

音ガイドカバー６４５４は、前後方向に対向する前面部６４７４及び後面部６４７５と

、左右方向に対向する左側面部６４７６及び右側面部６４７７とを有している。音ガイドカバー６４５４の内部には、ねじ螺合部（不図示）が形成されている。ねじ螺合部には、蓋体６４５３の蓋本体６４７１に音ガイドカバー６４５４を取り付けるためのねじが螺合する。

【６４００】

音ガイドカバー６４５４の前面部６４７４は、上方に向かうにつれて後面部６４７５に近づくように傾斜している。後面部６４７５には、音通過開口部６４７５ａが形成されている。音通過開口部６４７５ａの開口面は、斜め上を向いている。中間スピーカ装置６４５１から出力された音は、音ガイドカバー６４５４を通過して、音通過開口部６４７５ａから外部へ放出される。すなわち、音ガイドカバー６４５４は、中間スピーカ装置６４５１から出力された音を後方の斜め上に向かうように案内する。音ガイドカバー６４５４を設けることにより、中間スピーカ装置６４５１の音が出力さる方向と、中間スピーカユニット６４４２から放出される音の進行方向を異ならせることができる。その結果、中間スピーカ装置６４５１の配置や姿勢の自由度を高めることができる。

【６４０１】

防磁カバー６４５５は、例えば、鉄製の板金を折り曲げ加工することにより形成されており、カバー本体６４８１と、複数の取付片６４８２とを有している。カバー本体６４８１は、上下方向から見た形状がスピーカ収容体６４５２のマグネット収容部６４６５と略同じ大きさの長方形であり、上面が開口された箱状に形成されている。カバー本体６４８１は、マグネット収容部６４６５の全体を覆う。

【６４０２】

複数の取付片６４８２は、カバー本体６４８１の上端から水平方向の外側に突出している。複数の取付片６４８２は、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。複数の取付片６４８２は、ねじ貫通孔を有している。このねじ貫通孔には、防磁カバー６４５５をスピーカ収容体６４５２に取り付けるためのねじが貫通する。

【６４０３】

防磁カバー６４５５は、マグネット収容部６４６５に収容されたマグネットの磁力を遮断する。これにより、マグネット６４６３の磁力が、中間スピーカユニット６４４２の下方に位置するポケット収納部６４４３（図５２８参照）に到達しないようにすることができる。その結果、ポケット収納部６４４３に収納されたものに、磁力の悪影響が生じることを防止或いは抑制できる。磁力の悪影響が生じるものとしては、例えば、磁気カード、電子機器、アナログ時計等を挙げることができる。また、防磁カバー６４５５を設けることで、中間スピーカ装置６４５１の周囲に配置されている電子部品のノイズの発生を防止或いは抑制できる。

【６４０４】

（中間スピーカユニットから出力される音の進行）

次に、中間スピーカユニット６４４２から出力される音の進行について、図５３１及び図５３２を参照して説明する。図５３１は、操作部外装カバー６４１４を後方から見た斜視図である。図５３２は、中間スピーカユニット６４４２から出力される音の進行を模式的に示す図である。

【６４０５】

図５３１に示すように、操作部外装カバー６４１４の下マスクパネル６４３２には、透音孔６４３３が形成されている。透音孔６４３３は、２つの中間スピーカユニット６４４２の音通過開口部６４７５ａ（図５２９参照）に対向する。透音孔６４３３は、直径１１ｍｍの円よりも小さい。これにより、直径１１ｍｍのパチンコ玉や直径１１よりも小さいゴミが音ガイドカバー６４５４内に入り込むことを防止できる。

【６４０６】

透音孔６４３３は、下マスクパネル６４３２における後方の斜め上を向く傾斜に形成されている。これにより、透音孔６４３３は、斜め上を向いている。そのため、透音孔６４３３を真上に向くように形成する場合よりも、操作部外装カバー６４１４に液体（例えば

、飲み物）をこぼしたときに、液体が音ガイドカバー６４５４内に入り込み難くすることができる。

【６４０７】

図５３２に示すように、中間スピーカユニット６４４２の中間スピーカ装置６４５１から出力された音は、音ガイドカバー６４５４の音通過開口部６４７５ａを通って、操作部外装カバー６４１４の透音孔６４３３から、操作部ユニット６４０２の外部へ放出される。音通過開口部６４７５ａの開口面は、斜め上を向いている。そのため、操作部ユニット６４０２の外部へ放出された音は、後方の斜め上に向かう。後方の斜め上に向かって進行する音は、上マスク本体６１０１の前面によって反射され、遊技者側である前方に向かって進む。これにより、遊技者は、中間スピーカユニット６４４２から出力される音を聞くことができる。

【６４０８】

本実施形態では、音ガイドカバー６４５４を設けることにより、中間スピーカ装置６４５１から出力された音を上マスク本体６１０１で反射させて前方に向かわせる。これにより、遊技機内に遊技者側である前方への出音が困難なスペースしか確保できない場合であっても、中間スピーカ装置６４５１の出音を前方へ向かわせることができ、中間スピーカ装置６４５１による出音演出の効果を高めることができる。なお、本発明に係る中間スピーカ装置６４５１から出力された音を反射して遊技者側である前方へ向かわせる音反射部としては、上マスク本体６１０１に限定されず、前方を向く面を有する種々の部品を適用できる。

【６４０９】

また、中間スピーカユニット６４４２は、下マスクＤＭの上部（操作部ユニット６４０２の後部）に配置されている。これにより、上マスクＵＭなど遊技機の上半分の領域にスピーカを配置するスペースがない場合にも、遊技機にスピーカを搭載することができる。また、従来の遊技機では、配置されていない場所に中間スピーカユニット６４４２を配置しているため、中間スピーカ装置６４５１から出力された音が、意外なところ聞こえてくる。その結果、出音演出に意外性を感じさせることができ、遊技者の興味を引くことができる。

【６４１０】

中間スピーカユニット６４４２は、操作部ユニット６４０２の後部に配置されるため、中間スピーカユニット６４４２における中間スピーカ装置６４５１の振動を、操作部ユニット６４０２の振動演出に用いてもよい。これにより、操作部収容筐体６４１１（図５２８参照）の底部に振動用モータを設ける必要が無く、部品点数を削減できる。振動演出は、例えば、遊技者に有利な状況が発生した場合に実施され、遊技者が手で体感する演出の興趣を高めることができる。

【６４１１】

また、中間スピーカユニット６４４２は、防磁カバー６４５５を有している。しかし、本発明に係るスピーカ装置としては、防磁タイプのスピーカ装置であってもよい。この場合は、防磁カバー６４５５を設ける必要が無く、部品点数を削減できる。なお、防磁タイプのスピーカ装置は高額であるため、防磁タイプではない中間スピーカ装置６４５１を採用して防磁カバー６４５５を設ける場合は、コストダウンを図ることができる。

【６４１２】

ここまで中間スピーカ装置６４５１から出力される音を、音ガイドカバー６４５４で誘導して斜め後ろ方向に出音する点を説明した。音ガイドカバー６４５４のような音誘導部材を用いてスピーカの出音方向（コーンが向いている方向）とは異なる方向に音を誘導する場合、これまでに説明したように上方向に出音した音を斜め後ろ方向に誘導するものに限定されるものではなく、スピーカの出音方向及び誘導方向は、任意のものとして設計することができる。この思想を整理すると以下のようになる。「スピーカの出音方向である第１の方向と異なる方向である第２の方向（例えば、遊技機外に音が出ていく透音孔の向いている方向）に音を誘導可能な誘導部を備え、前記第２の方向に出音可能な遊技機。」

なお、誘導部による音の進行方向の変更は、上方向から斜め後ろ方向といった１回だけの変更ではなく、２回以上方向が変わるものでもよい。また、変形例として、スピーカから上方向に出た音が、誘導部で左方向に誘導され、その後誘導部で上方向に誘導されて遊技機から上向きに出音するというように、誘導の結果、スピーカと対向する位置と異なる位置から出音することになるが、遊技機から出音される方向は、スピーカの出音方向と同じとなってもよい。このように誘導部を備えることで、スピーカの配置の自由度が高まる。

【６４１３】

これまで遊技機から斜め後方に向けて出音した音を上マスク本体６１０１の前面によって反射し、遊技者側である前方に向かって進ませる点を説明した。このように遊技機外で音を反射させて進ませる場合の音の進行方向は、これまでに例示した方向に限定されない。この思想を整理すると以下のようになる。「第１の方向（例えば、遊技機外に音が出ていく透音孔の向いている方向）に出音可能な遊技機であって、前記第１の方向に進んだ音を反射可能な音反射部（遊技機の一部であれば、上マスク本体６１０１でもよいし、それ以外の部分でもよい）を備え、前記音反射部によって反射された音の少なくとも一部が所定方向（遊技者方向でもよいし、それ以外でもよい）に進行可能である遊技機。」遊技者に向けて真正面の前方向に音を反射するものとしてもよいし、前方の左右方向や上下方向などに向けて音が進むように反射させて音が拡散していくような広がりを持たせることで、音像が広がって聴こえるようにして臨場感を高めるものとしてもよい。

【６４１４】

［ストップボタンユニットの構成］

次に、ストップボタンユニット６４２７の構成について、図５３３及び図５３４を参照して説明する。図５３３は、ストップボタンユニット６４２７の分解斜視図である。図５３４は、ストップボタン用スペーサの斜視図である。

【６４１５】

図５３３に示すように、ストップボタンユニット６４２７は、ストップボタン組立体６５０１と、ストップボタン用スペーサ６５０２とを有している。ストップボタン組立体６５０１は、ボタン保持筐体６５１１と、３個のストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒ（図５２８参照）とを有している。

【６４１６】

ボタン保持筐体６５１１は、左右方向に長い中空の直方体状に形成されている。ボタン保持筐体６５１１の前面には、３個のストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒ（図５２８参照）が取り付けられている。ボタン保持筐体６５１１の内部には、各ストップボタン６５１２Ｌ，６５１２Ｃ，６５１２Ｒが押圧されたことを検出する３つの検出スイッチが配置されている。

【６４１７】

ボタン保持筐体６５１１の後面には、３つの端子用貫通孔６５１３が形成されている。３つの端子用貫通孔６５１３は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。３つの端子用貫通孔６５１３は、それぞれコネクタ６５１４を露出させる。コネクタ６５１４は、ボタン保持筐体６５１１の内部に配置された３つの検出スイッチが実装された基板に接続されている。

【６４１８】

ボタン保持筐体６５１１の左右の側面には、接続用ボス部６５１５が設けられている。接続用ボス部６５１５は、ボタン保持筐体６５１１の後面に対して略垂直な方向に延びる円柱状に形成されている。接続用ボス部６５１５は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、ストップボタン組立体６５０１をストップボタン用スペーサ６５０２に接続するためのねじが螺合する。ストップボタン組立体６５０１は、操作部外装体６４１２のストップボタン用貫通孔６４１２ａを貫通する。

【６４１９】

図５３３及び図５３４に示すように、ストップボタン用スペーサ６５０２は、ベース板６５２１と、２つの接続片６５２２，６５２３とを有している。ベース板６５２１は、左

右方向に長い板状に形成されており、前方を向く前面６５２１ａと、後方を向く後面６２５１ｂを有している。ベース板６５２１の前面６５２１ａは、斜め上を向いており、ボタン保持筐体６５１１のの後面に対向する。ベース板６５２１の上端面及び下端面は、上下方向に略垂直な平面に形成されている。

【６４２０】

ベース板６５２１の後面６２５１ｂには、２つの固定用ボス部６５２５が設けられている。２つの固定用ボス部６５２５は、ベース板６５２１における左右方向の両端部にいちしており、後方へ突出する円柱状に形成されている。２つの固定用ボス部６５２５の軸方向は、ベース板６５２１の上端面及び下端面と平行である。２つの固定用ボス部６５２５は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、ストップボタン用スペーサ６５０２を後述する連結部材６５２８に固定するためのねじが螺合する。

【６４２１】

２つの接続片６５２２，６５２３は、ベース板６５２１の前面６５２１ａから前方の斜め上方に突出している。２つの接続片６５２２，６５２３は、左右方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。２つの接続片６５２２，６５２３は、ボタン保持筐体６５１１の接続用ボス部６５１５にねじを用いて接続される。２つの接続片６５２２，６５２３のベース板６５２１と反対側の端部は、ボタン保持筐体６５１１の接続用ボス部６５１５に対向する。２つの接続片６５２２，６５２３のベース板６５２１と反対側の端部には、ねじ貫通部６５２６が形成されている。ねじ貫通部６５２６には、接続用ボス部６５１５に螺合するねじが貫通する。

【６４２２】

（ストップボタンユニットの取り付け）

次に、ストップボタンユニット６４２７を操作部外装体６４１２に取り付ける作業について、図５３５及び図５３６を参照して説明する。図５３５は、ストップボタンユニット６４２７を操作部外装体６４１２に取り付けた状態を示す図である。図５３６は、操作部ユニットの断面図である。

【６４２３】

図５３５に示すように、ストップボタンユニット６４２７は、連結部材６５２８を介して操作部外装体６４１２の内側に固定される。連結部材６５２８は、２つの取付片６５３１と、２つの固定片６５３２と、２つの継手片６５３３とを有する。２つの取付片６５３１と２つの固定片６５３２は、前後方向に略垂直な平面を有する板体からなる。２つの継手片６５３３は、取付片６５３１と固定片６５３２に連続しており、左右方向に略垂直な平面を有する板体からなる。２つの取付片６５３１は、操作部外装体６４１２に取り付けられる。２つの固定片６５３２には、ストップボタンユニット６４２７が固定される。

【６４２４】

ストップボタンユニット６４２７を取り付ける操作部外装体６４１２は、下マスクベース６４４１にねじを用いて固定されている。ストップボタンユニット６４２７を操作部外装体６４１２に取り付ける場合は、まず、操作部外装体６４１２にを取り付ける（図５２９参照）。すなわち、連結部材６５２８の２つの取付片６５３１を操作部外装体６４１２に内側にねじ６５３５を用いて取り付ける。このとき、ねじ６５３５は、後方から水平方向に取付片６５３１を貫通する。これにより、下マスクベース６４４１の後方から工具でねじ６５３５を容易に回すことができる。

【６４２５】

次に、ストップボタンユニット６４２７を操作部外装体６４１２のストップボタン用貫通孔６４１２ａに前方から挿入する（図５３５参照）。続いて、連結部材６５２８にストップボタンユニット６４２７のストップボタン用スペーサ６５０２を固定する。すなわち、ストップボタン用スペーサ６５０２の２つの固定用ボス部を、連結部材６５２８の２つの固定片６５３２に、ねじ６５３６を用いて取り付ける。このとき、図５３６に示すように、ねじ６５３６は、後方から水平方向に固定片６５３２を貫通する。これにより、下マスクベース６４４１の後方から工具でねじ６５３６を容易に回すことができる。

【６４２６】
　図５３６に示すように、ストップボタンユニット６４２７のストップボタン組立体６５０１は、斜め上を向いている。例えば、ストップボタン用スペーサ６５０２を用いずに、連結部材６５２８にストップボタン組立体６５０１を直接取り付ける構成にする場合は、ねじを斜め上に傾けてストップボタン組立体６５０１のねじ孔に螺合させる必要がある。その結果、ねじを回す工具が下マスクベース６４４１と干渉してしまう。そこで、本発明では、連結部材６５２８とストップボタン組立体６５０１との間にストップボタン用スペーサ６５０２を介在させて、ストップボタンユニット６４２７を固定するためのねじ６５３６を水平方向と平行な姿勢にした。これにより、ねじ６５３６を回す工具が下マスクベース６４４１と干渉しないようにすることができる。
【６４２７】
　ここまでに説明した思想は、整理すると以下のようになる。
「所定方向（斜め前方）に傾斜して配置される第１部材（６５０１ストップボタン組立体）と、
前記第１部材が固定される第２部材（ストップボタン用スペーサ６５０２）と、
前記第２部材が固定される第３部材（連結部材６５２８）と、
を備え、
前記第２部材と前記第３部材は固定部材（ストップボタン用スペーサ６５０２の固定用ボス部６５２５と、連結部材６５２８を固定するねじ６５３６）により固定され、
前記固定部材は、前記第１部材の傾斜角度（例えば、水平面から前方斜め上に向けて３０度）よりも、水平に近い角度（略水平）に配置されている遊技機。」
　固定部材は、係合爪などねじ以外のものであってもよい。工具を用いて作業する以外のものでも水平に近い配置にすることで、作業効率が高まる。また、固定部材の角度は、水平ではなく、傾斜面よりも鉛直に近い方向（上下方向）としてもよい。なぜなら、天面方向に開放空間がある場合は、傾斜面に対してネジ止め作業を行うよりも真上からネジを止める方が、作業がやりやすいからである。
【６４２８】
　また、ここまでに説明した思想は、以下のようにも整理できる。
「所定方向（斜め前方）に傾斜して配置される第１部材（６５０１ストップボタン組立体）と、
前記第１部材が固定される第２部材（ストップボタン用スペーサ６５０２）と、
前記第２部材が固定される第３部材（連結部材６５２８）と、
前記第１部材と対向しうる位置に面部を持つ面部材（下マスクベース６４４１）と、
を備え、
前記第２部材と前記第３部材は固定部材（ストップボタン用スペーサ６５０２の固定用ボス部６５２５と、連結部材６５２８を固定するねじ６５３６）により固定され、
前記固定部材の固定操作対象部（ドライバーで操作されるねじ頭）は、固定操作時に前記面部と干渉しない方向（下方に位置する下マスクベース６４４１と干渉しない真後ろ方向）である遊技機。」
　なお、斜め方向のねじが一切存在しないわけではなく、図５３３のねじ貫通部６５２６と接続用ボス部６５１５に螺合するねじは、図５３５、図５３６の通りストップボタン組立体６５０１の傾斜角度とほぼ同じ角度で傾斜した向きに取り付けられている。しかし、ストップボタン用スペーサ６５０２により当該ねじの締結作業スペースが確保されているため、ねじの締結時にも下マスクベース６４４１に工具が干渉しないようになっている。
【６４２９】
［スタートレバーユニットの構成］
　次に、スタートレバーユニット６４２８の構成について、図５３７～図５３９を参照して説明する。図５３７は、スタートレバーユニット６４２８の斜視図である。図５３８は、スタートレバーユニットの分解斜視図である。図５３９は、スタートレバーユニット６４２８の断面図である。

【６４３０】
図５３７及び図５３８に示すように、スタートレバーユニット６４２８は、スタートレバー６５４１と、支持ベース６５４２と、ダクトシールド６５４３と、２つのカラー６５４４と、２つの付勢部材６５４５と、２つのストッパ６５４６と、２つのシャフトエンド６５４７と、センサ部６５４８とを有している。
【６４３１】
スタートレバー６５４１は、操作部６５５１と、シャフト６５５３，６５５４とを有している。操作部６５５１は、扁平の略直方体状に形成されている。操作部６５５１の後面には、ダクト部６５５２が形成されている。ダクト部６５５２は、操作部６５５１の後面における左右方向の略中央部から後方に突出している。ダクト部６５５２は、略四角形の筒状に形成されており、ダクト部６５５２の筒孔は、操作部６５５１の内部空間と連通している。ダクト部６５５２の筒孔には、不図示のハーネスが通る。ハーネスは、操作部６５５１の内部に配置されたコネクタ６５５５（図５３９参照）に接続されている。
【６４３２】
シャフト６５５３，６５５４は、操作部６５５１の後面から突出している。シャフト６５５３，６５５４は、左右方向において、ダクト部６５５２の両側に位置する。ここで、シャフト６５５３，６５５４の軸方向において、操作部６５５１側の端部を先端部とする。また、シャフト６５５３，６５５４の軸方向において、先端部と反対側の端部を基端部とする。
【６４３３】
シャフト６５５３，６５５４には、それぞれ係合ホルダ６５５６と、クッションゴム６５５７が取り付けられている。係合ホルダ６５５６は、略リング状に形成されており、シャフト６５５３，６５５４の軸方向における中間部に嵌合している。クッションゴム６５５７は、筒状に形成されており、シャフト６５５３，６５５４における係合ホルダ６５５６よりも先端側に嵌合している。
【６４３４】
支持ベース６５４２は、固定部６５６１と、支持筒部６５６２，６５６３とを有している。固定部６５６１は、前後方向に略垂直な平面を有し、適当な厚みを有する板体からなる。固定部６５６１は、前後方向から見た形状が、略台形に形成されている。固定部６５６１は、操作部外装体６４１２（図５２８参照）の前面にねじを用いて固定される。固定部６５６１の後面には、ねじ孔が形成されている。このねじ孔には、固定部６５６１を操作部外装体６４１２に固定するためのねじが螺合する。
【６４３５】
固定部６５６１における左右方向の略中央部には、四角形の貫通孔６５６１ａが形成されている。貫通孔６５６１ａには、スタートレバー６５４１のダクト部６５５２が貫通する。貫通孔６５６１ａの内壁面には、ガイド突部６５６４が設けられている。ガイド突部６５６４は、左右方向から見て、前方に凸となる円弧状に形成されている。ガイド突部６５６４には、ダクトシールド６５４３が摺動可能に係合する。
【６４３６】
支持筒部６５６２，６５６３は、固定部６５６１の後面から後方に延びる円筒状に形成されている。支持筒部６５６２，６５６３は、左右方向において貫通孔６５６１ａの両側に位置している。支持筒部６５６２，６５６３の筒孔６５６２ａ，６５６３ａは、固定部６５６１の前面に開口している。
【６４３７】
支持筒部６５６２，６５６３における筒孔６５６２ａ，６５６３ａの内周面には、それぞれ係合受け部６５６６が設けられている（図５３９参照）。係合受け部６５６６は、筒孔６５６２ａ，６５６３ａの内周面から突出する略環状に形成されている。係合受け部６５６６の前面には、シャフト６５５３，６５５４の係合ホルダ６５５６が上下方向に傾動可能に係合する。係合受け部６５６６の後面は、前後方向に略垂直な平面に形成されている。

【６４３８】
ダクトシールド６５４３は、左右方向に長い略直方体状に形成されている。ダクトシールド６５４３の前方を向く前面６５４３ａは、前方に凸となる曲面に形成されている。ダクトシールド６５４３の前面６５４３ａは、支持ベース６５４２のガイド突部６５６４に摺動可能に係合する。ダクトシールド６５４３には、前後方向に貫通する嵌合孔６５６８が形成されている。ダクトシールド６５４３の嵌合孔６５６８には、スタートレバー６５４１のダクト部６５５２が嵌合する。これにより、ダクトシールド６５４３は、スタートレバー６５４１のダクト部６５５２と接続される。
【６４３９】
シャフト６５５３，６５５４の先端部は、カラー６５４４及びストッパ６５４６を貫通する。そして、シャフト６５５３，６５５４の基端には、シャフトエンド６５４７が固定されている。カラー６５４４は、前後方向に延びる円筒状に形成されており、軸方向の前側の端部にフランジが形成されている。カラー６５４４は、シャフト６５５３，６５５４に固定されている。
【６４４０】
ストッパ６５４６は、有底の円筒状に形成されている。ストッパ６５４６の底部には、シャフト６５５３，６５５４を貫通させる貫通孔が形成されている。ストッパ６５４６の底部における後方を向く面は、シャフトエンド６５４７に当接する。付勢部材６５４５は、例えば、圧縮コイルばねである。付勢部材６５４５は、カラー６５４４のフランジとストッパ６５４６の底部との間に介在される。
【６４４１】
付勢部材６５４５は、カラー６５４４及びシャフト６５５３，６５５４を前方に付勢する。これにより、スタートレバー６５４１は、カラー６５４４のフランジが支持筒部６５６２，６５６３における係合受け部６５６６の後面に面接触した状態である起立状態を維持する。また、シャフト６５５３，６５５４は、支持筒部６５６２，６５６３によって起立状態から下方に傾動可能に保持される。したがって、スタートレバー６５４１は、起立状態から下方に傾動可能である。
【６４４２】
センサ部６５４８は、センサーケース６５６９と、センサーケース６５６９内に配置されたセンサ（不図示）とを有している。センサーケース６５６９は、略円筒状に形成されている。センサーケース６５６９は、支持筒部６５６３に嵌合される。センサ（不図示）は、シャフト６５５４の基端部の変位を検出して、スタートレバー６５４１が押圧操作されたことを検知する。
【６４４３】
なお、本実施形態のスタートレバーユニット６４２８では、２本のシャフト６５５３，６５５４を用いる構成とした。しかし、本発明に係るスタートレバーユニットとしては、１本のシャフトを用いるものや、３本以上のシャフトを用いるものであってもよい。また、本発明のスタートレバーユニットに係る付勢部材は、圧縮コイルばねに限定されず、板ばね等のその他の弾性部材を採用してもよい。
【６４４４】
（スタートレバーの操作部の構成）
次に、スタートレバー６５４１の操作部６５５１の構成について、図５４０を参照して説明する。図５４０は、スタートレバー６５４１の分解斜視図である。
【６４４５】
図５４０に示すように、スタートレバー６５４１の操作部６５５１は、下部材６５７１と、上レンズ部材６５７２と、後ろ部材６５７３と、上遮光カバー６５７４と、レバー用ＬＥＤ基板６５７５と、基板保持部材６５７６と、レバー用アース用板金６５７７とを有している。
【６４４６】
下部材６５７１、上レンズ部材６５７２、後ろ部材６５７３及び上遮光カバー６５７４

は中空の箱状である操作部外装体を形成する。操作部外装体の内部には、レバー用ＬＥＤ基板６５７５と、基板保持部材６５７６と、レバー用アース用板金６５７７と、シャフト６５５３，６５５４における先端部が配置される。

【６４４７】

下部材６５７１は、遮光性を有する樹脂により上面及び後面が開口された略箱状に形成されている。下部材６５７１は、操作部外装体の前面、下面、及び左右の側面を形成する。下部材６５７１の内側には、２つのシャフト挟持部６５８１が形成されている。２つのシャフト挟持部６５８１には、シャフト６５５３，６５５４の先端部が係合する係合凹部が形成されている。また、２つのシャフト挟持部６５８１には、複数のねじ孔６５８１ａが形成されている。複数のねじ孔６５８１ａには、下部材６５７１と上レンズ部材６５７２を接続するためのねじが螺合する。

【６４４８】

上レンズ部材６５７２は、透光性を有する樹脂により下面及び後面が開口された扁平の略箱状に形成されており、側壁部６５８２と、天板部６５８３とを有している。上レンズ部材６５７２の側壁部６５８２は、操作部外装体の前面、及び左右の側面を形成する。側壁部６５８２の外面は光出射面であり、側壁部６５８２の内面は光入射面である。上レンズ部材６５７２の側壁部６５８２は、内面から入射した光を拡散して、外面から出射する。

【６４４９】

天板部６５８３は、上レンズ部材６５７２の上面を形成する。天板部６５８３における外面と側壁部６５８２の外面との間には、段部が形成されている。この段部には、上遮光カバー６５７４が配置される。天板部６５８３は、２つのシャフト挟持部６５８４を有している。２つのシャフト挟持部６５８４は、天板部６５８３の内面から下方に突出しており、下部材６５７１の２つのシャフト挟持部６５８１と対向する。

【６４５０】

天板部６５８３の外面には、２つのシャフト挟持部６５８４を成形するための凹部が形成されている。２つのシャフト挟持部６５８４には、複数のねじ貫通孔６５８４ａと、係合凹部（不図示）が形成されている。複数のねじ貫通孔６５８４ａには、下部材６５７１と上レンズ部材６５７２を接続するためのねじが貫通する。２つのシャフト挟持部６５８４の係合凹部（不図示）には、シャフト６５５３，６５５４の先端部が係合する。２つのシャフト挟持部６５８４と２つのシャフト挟持部６５８１は、シャフト６５５３，６５５４の先端部を挟持する。

【６４５１】

後ろ部材６５７３は、遮光性を有する樹脂により形成されており、後板部６５８６と、前述したダクト部６５５２（図５３８参照）とを有している。後板部６５８６は、前後方向に交差する平面を有する板体からなり、操作部外装体の後面を形成する。後板部６５８６は、ねじを用いて下部材６５７１に固定される。

【６４５２】

後板部６５８６は、２つのシャフト貫通孔６５８６ａを有している。２つのシャフト貫通孔６５８６ａには、シャフト６５５３，６５５４が貫通する。シャフト６５５３，６５５４における２つのシャフト貫通孔６５８６ａを貫通する部分には、前述したクッションゴム６５５７が取り付けられている。シャフト６５５３，６５５４が傾動すると、クッションゴム６５５７がシャフト貫通孔６５８６ａの内周面に接触する。これにより、後ろ部材６５７３の破損を防止することができる

【６４５３】

後板部６５８６の前方を向く前面は、操作部外装体の内面を形成する。後板部６５８６の前面には、２つのカバー係止突起６５８７が形成されている。２つのカバー係止突起６５８７は、上遮光カバー６５７４と係合する。ダクト部６５５２は、後板部６５８６の前面に開口している。

【６４５４】

上遮光カバー６５７４は、遮光性を有する樹脂により板状に形成されている。上遮光カバー６５７４は、上レンズ部材６５７２の段部に配置され、上レンズ部材６５７２の天板部６５８３を覆う。上遮光カバー６５７４上面は、操作部外装体の上面を形成する。上遮光カバー６５７４の下面には、係合突部（不図示）が形成されている。上遮光カバー６５７４の係合突部（不図示）には、後ろ部材６５７３の２つのカバー係止突起６５８７が係合する。２つのカバー係止突起６５８７は、上遮光カバー６５７４の後方への移動及び情報への移動を係止する。

【６４５５】

レバー用ＬＥＤ基板６５７５は、左右方向に長い略長方形に形成されている。レバー用ＬＥＤ基板６５７５は、上方を向く上面と、下方を向く下面とを有している。レバー用ＬＥＤ基板６５７５には、前述したコネクタ６５５５と、複数のレバー用ＬＥＤ（不図示）が実装されている。複数のレバー用ＬＥＤから出射された光は、上レンズ部材６５７２における側壁部６５８２の内面に入射する。

【６４５６】

基板保持部材６５７６は、左右方向に長い略長方形の板状に形成されている。基板保持部材６５７６は、レバー用ＬＥＤ基板６５７５の下面に対向する上面と、上面と反対画の面である下面とを有している。基板保持部材６５７６の後方を向く端面には、切欠き６５９１と、２つのねじ貫通部６５９２が設けられている。

【６４５７】

切欠き６５９１は、上下方向から見た形状が略四角形に形成されている。切欠き６５９１は、レバー用ＬＥＤ基板６５７５に接続されたコネクタ６５５５との干渉を避けるために設けられている。２つのねじ貫通部６５９２は、基板保持部材６５７６の後端から後方に突出している。２つのねじ貫通部６５９２には、ねじ貫通孔が形成されている。基板保持部材６５７６は、ねじ貫通部６５９２のねじ貫通孔を貫通するねじを用いて、上レンズ部材６５７２の天板部６５８３に固定されている。

【６４５８】

基板保持部材６５７６の上面には、２つの基板固定用ボス部６５９３が設けられている。２つの基板固定用ボス部６５９３は、上方に突出する略円柱状に形成されている。複数の固定用ボス部６２０１ａの上端面には、レバー用ＬＥＤ基板６５７５の下面が当接する。したがって、レバー用ＬＥＤ基板６５７５の下面と基板保持部材６５７６の上面との間には、所定の間隙が形成される。この間隙には、複数のレバー用ＬＥＤ（不図示）が配置される。２つの基板固定用ボス部６５９３は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、レバー用ＬＥＤ基板６５７５を基板保持部材６５７６に固定するためのねじが螺合する。

【６４５９】

レバー用アース用板金６５７７は、基板保持部材６５７６の下面に対応した略長方形の板状に形成されている。レバー用アース用板金６５７７は、基板保持部材６５７６の下面に当接する。レバー用アース用板金６５７７は、２つの固定片６５９５を有している。２つの固定片６５９５は、後方に突出する板状に形成されている。２つの固定片６５９５は、基板保持部材６５７６の２つのねじ貫通部６５９２と一緒に上レンズ部材６５７２の天板部６５８３に共締めされる。

【６４６０】

このような構成を有するスタートレバー６５４１は、上レンズ部材６５７２の側壁部６５８２を光らせる演出を行うことができる。スタートレバー６５４１の側壁部６５８２を光らせる演出としては、第８実施形態の説明で記載したように、ベットの有無に応じて発光態様を変化させる演出、スタート操作の可不可に応じて発光態様を変化させる演出などを挙げることができる。また、スタートレバー６５４１は、側壁部６５８２を光らせる複数のレバー用ＬＥＤを内部に配置するため、少ない数のレバー用ＬＥＤをで側壁部６５８２の輝度を高くすることができる。その結果、複数のレバー用ＬＥＤの削減を図ることができ、スタートレバー６５４１の製造コストを削減することができる。

【６４６１】
［メダル数表示ユニットの構成］
次に、操作部収容筐体４１１１（図５２８参照）に収容されるメダル数表示ユニット６４２３の構成について、図５４１及び図５４２を参照して説明する。図５４１は、メダル数表示ユニット６４２３の斜視図である。図５４２は、メダル数表示ユニット６４２３の分解斜視図である。
【６４６２】
図５４１に示すように、メダル数表示ユニット６４２３は、扁平の略直方体状に形成されている。図５４２に示すように、メダル数表示ユニット６４２３は、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１と、上部リフレクタ部材６６０２と、下部カバー６６０３と、表示シート６６０４とを有している。
【６４６３】
図５４２に示すように、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１は、左右方向に長い長方形の板体からなり、上下方向に略垂直な平面である上面６６０１ａ及び下面６６０１ｂを有している。ここで、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の２つの短辺を左端及び右端とし、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の２つの長辺を前端及び後端とする。メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１は、２つのねじ貫通孔６６１１を有している。２つのねじ貫通孔６６１１は、左端と後端が形成する角部と、右端と前端が形成する角部に形成されている。２つのねじ貫通孔６６１１には、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１及び下部カバー６６０３を上部リフレクタ部材６６０２に固定するためのねじが貫通する。
【６４６４】
メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の上面６６０１ａには、複数のメダル数表示用ＬＥＤ６６１２と、複数のエラー表示用ＬＥＤ６６１３と、複数のデザイン表示用ＬＥＤ６６１４が実装されている。また、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の下面６６０１ｂには、コネクタ（不図示）が接続されている。
【６４６５】
複数のメダル数表示用ＬＥＤ６６１２が配置される領域は、上面６６０１ａの大部分を占有している。複数のメダル数表示用ＬＥＤ６６１２は、７セグメントＬＥＤであり、５つのデジット６６１６を形成する。５つのデジット６６１６は、左右方向に所定の間隔を空けて並んでいる。５つのデジット６６１６は、パチスロ機６００１の内部に預けられているメダルの数を表示する。なお、デジットとは数字や文字を形作るために使用されるセグメントの集合体のことである。
【６４６６】
複数のエラー表示用ＬＥＤ６６１３は、上面６６０１ａの左端部に配置されている。複数のエラー表示用ＬＥＤ６６１３は、７セグメントＬＥＤであり、１つのデジット６６１７を形成する。デジット６６１７は、デジット６６１６よりも小さい。デジット６６１７は、パチスロ機６００１に生じたエラーの種類に対応した数字やアルファベット等を表示する。
【６４６７】
複数のデザイン表示用ＬＥＤ６６１４は、上面６６０１ａの後端部に配置されている。複数のデザイン表示用ＬＥＤ６６１４は、左右方向に長い直線状のデザインを表示する。直線状のデザインは、５つのデジット６６１６に沿って延びている。
【６４６８】
上部リフレクタ部材６６０２と下部カバー６６０３は、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１を収容する長方形の箱体を形成する。上部リフレクタ部材６６０２は、下面が開口された扁平の直方体状に形成されており、上板部６６０２ａ、前板部６６０２ｂ、後板部６６０２ｃ、左板部６６０２ｄ、及び右板部６６０２ｅを有している。前板部６６０２ｂ、後板部６６０２ｃ、左板部６６０２ｄ、及び右板部６６０２ｅは、メダル数表示ユニット６４２３の４つの側面を形成する。
【６４６９】

上板部６６０２ａは、上下方向において、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の上面６６０１ａと対向する。上板部６６０２ａの外面には、２つの位置決め突起６６２１が形成されている。また、上板部６６０２ａの内面には、複数の第１導光部６６２２と、複数の第２導光部６６２３と、第３導光部６６２４と、複数の固定用ボス部（不図示）が設けられている。固定用ボス部は、下方に突出する略円柱状に形成されている。複数の固定用ボス部は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１及び下部カバー６６０３を上部リフレクタ部材６６０２に固定するためのねじが螺合する。

【６４７０】

複数の第１導光部６６２２は、上板部６６０２ａの内面から下方に延びる角筒状に形成されている。複数の第１導光部６６２２の筒孔は、上板部６６０２ａの外面に開口しており、デジット６６１６の各セグに対応した大きさの多角形に設定されている。各第１導光部６６２２の筒孔は、各メダル数表示用ＬＥＤ６６１２に対向する。複数の第１導光部６６２２は、複数のメダル数表示用ＬＥＤ６６１２から出射された光を反射して上方へ導く。

【６４７１】

複数の第２導光部６６２３は、上板部６６０２ａの内面から下方に延びる角筒状に形成されている。複数の第２導光部６６２３の筒孔は、上板部６６０２ａの外面に開口しており、デジット６６１７の各セグに対応した大きさの多角形に設定されている。各第２導光部６６２３の筒孔は、各エラー表示用ＬＥＤ６６１３に対向する。複数の第２導光部６６２３は、複数のエラー表示用ＬＥＤ６６１３から出射された光を反射して上方へ導く。

【６４７２】

第３導光部６６２４は、上板部６６０２ａの内面から下方に延びる角筒状に形成されている。第３導光部６６２４の筒孔は、上板部６６０２ａの外面に開口している。第３導光部６６２４の筒孔は、左右方向に長い略長方形であり、左右方向の中央部がその他の部分よりも幅広に設定されている。第３導光部６６２４の筒孔は、複数のデザイン表示用ＬＥＤ６６１４に対向する。第３導光部６６２４は、複数のデザイン表示用ＬＥＤ６６１４から出射された光を反射して上方へ導く。

【６４７３】

前板部６６０２ｂと後板部６６０２ｃは、前後方向に対向している。前板部６６０２ｂ及び後板部６６０２ｃは、切欠き６６２６を有している。切欠き６６２６は、前板部６６０２ｂ及び後板部６６０２ｃにおける左右方向の中央部に位置しており、左右方向に長方形に形成されている。

【６４７４】

左板部６６０２ｄには、ねじ貫通突部６６２７が形成されている。ねじ貫通突部６６２７は、左板部６６０２ｄの外面がら略垂直に突出している。ねじ貫通突部６６２７には、上下方向に貫通するねじ貫通孔が形成されている。右板部６６０２ｅには、ねじ貫通突部６６２８が形成されている。ねじ貫通突部６６２８は、右板部６６０２ｅの外面がら略垂直に突出している。ねじ貫通突部６６２８には、上下方向に貫通するねじ貫通孔が形成されている。ねじ貫通突部６６２７，６６２８のねじ貫通孔には、メダル数表示ユニット６４２３を操作部収容筐体４１１１（図５２８参照）に固定するためのねじが貫通する。

【６４７５】

下部カバー６６０３は、左右方向に長い長方形の板体からなり、上下方向に略垂直な平面である上面６６０３ａ及び下面６６０３ｂを有している。下部カバー６６０３の上面６６０３ａには、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の下面６６０１ｂが当接する。下部カバー６６０３の下面６６０３ｂは、メダル数表示ユニット６４２３の下面を形成する。

【６４７６】

下部カバー６６０３は、２つのねじ貫通孔６６３１と、コネクタ貫通孔６６３２と、複数の通気孔６６３３とを有している。ここで、下部カバー６６０３の２つの短辺を左端及び右端とし、下部カバー６６０３の２つの長辺を前端及び後端とする。２つのねじ貫通孔

６６３１は、左端と後端が形成する角部と、右端と前端が形成する角部に形成されている。２つのねじ貫通孔６６３１には、下部カバー６６０３及びメダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１を上部リフレクタ部材６６０２に固定するためのねじが貫通する。

【６４７７】

コネクタ貫通孔６６３２は、右端と後端が形成する角部の近くに位置している。コネクタ貫通孔６６３２は、四角形に形成されている。コネクタ貫通孔６６３２には、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１の下面６６０１ｂに接続されたコネクタ（不図示）が貫通する。複数の通気孔６６３３は、左右方向の中央よりも左側の領域と、コネクタ貫通孔６６３２よりも前側の領域に配置されている。複数の通気孔６６３３は、左右方向に長い長方形に形成されている。メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１は、複数の通気孔６６３３を通る空気により冷却される。

【６４７８】

下部カバー６６０３の上面６６０３ａには、２つの係合片６６３５が設けられている。２つの係合片６６３５は、前端及び後端の略中央部から略垂直に突出している。２つの係合片６６３５は、前後方向に略す直な平面を有する板状に形成されている。２つの係合片６６３５は、上部リフレクタ部材６６０２における前板部６６０２ｂ及び後板部６６０２ｃの切欠き６６２６に係合する。２つの係合片６６３５と前板部６６０２ｂ、２つの係合片６６３５と後板部６６０２ｃには、封印シール６６３６が貼り付けられる。

【６４７９】

表示シート６６０４は、左右方向に長い長方形のシート状に形成されており、上面６６０４ａ及び下面６６０４ｂを有している。表示シート６６０４の下面６６０４ｂは、上部リフレクタ部材６６０２の上板部６６０２ａに貼り付けられる。表示シート６６０４の上面６６０４ａは、メダル数表示ユニット６４２３の上面を形成する。

【６４８０】

表示シート６６０４は、２つの位置決め孔６６４１を有している。２つの位置決め孔６６４１は、上部リフレクタ部材６６０２の２つの位置決め突起６６２１に嵌合する。これにより、メダル数表示ユニット６４２３を製造する際に、上部リフレクタ部材６６０２に対する表示シート６６０４の位置決めを容易に行うことができる。

【６４８１】

表示シート６６０４は、複数の第１透光部６６４２と、複数の第２透光部６６４３と、第３透光部６６４４と、遮光部６６４５とを有している。複数の第１透光部６６４２、複数の第２透光部６６４３、及び第３透光部６６４４が形成される領域は、光を透過させるために透明又は半透明に設定されている。遮光部６６４５は、複数の第１透光部６６４２、複数の第２透光部６６４３、及び第３透光部６６４４以外の領域である。遮光部６６４５は、光を透過させないように、例えば、黒色に設定されている。遮光部６６４５は、操作部パネル６４３１（図５２８参照）の同系色に設定するとよい。本実施形態では、操作部パネル６４３１が黒色の半透明な樹脂で形成されている。そのため、遮光部６６４５を黒色にすると、遮光部６６４５が操作部パネル６４３１を介して見え難くなり、操作部収容筐体６４１１内に配置されたメダル数表示ユニット６４２３の様子を把握しづらくなる。その結果、操作部パネル６４３１にメダル数などが映し出されているように見せることができ、操作部ユニット６４０２に高級感を出すことができる。

【６４８２】

複数の第１透光部６６４２は、上部リフレクタ部材６６０２の複数の第１導光部６６２２に対向する。複数の第１透光部６６４２は、複数の第１導光部６６２２の筒孔に対応した多角形に形成されている。複数の第１透光部６６４２は、複数の第１導光部６６２２から出射された光によって表示されるデジット６６１６の各セグの輪郭を明瞭にする。

【６４８３】

複数の第２透光部６６４３は、上部リフレクタ部材６６０２の複数の第２導光部６６２３に対向する。複数の第２透光部６６４３は、複数の第２導光部６６２３の筒孔に対応した多角形に形成されている。複数の第２透光部６６４３は、複数の第２導光部６６２３か

ら出射された光によって表示されるデジット６６１７の各セグの輪郭を明瞭にする。

【６４８４】

第３透光部６６４４は、上部リフレクタ部材６６０２の第３導光部６６２４に対向する。第３透光部６６４４は、第３導光部６６２４の筒孔に対応した略長方形に形成されている。第３透光部６６４４は、第３導光部６６２４から出射された光によって表示される直線状のデザインの輪郭を明瞭にする。

【６４８５】

（メダル数表示ユニットの導光部と投光部の大きさ）

次に、メダル数表示ユニット６４２３の導光部６６２２～６６２４と透光部６６４２～６６４４の大きさについて、図５４３及び図５４４を参照して説明する。図５４３は、導光部６６２２～６６２４と透光部６６４２～６６４４との第１の関係を示す概念図である。図５４４は、導光部６６２２～６６２４と透光部６６４２～６６４４との第２の関係を示す概念図である。

【６４８６】

図５４３に示すように、上部リフレクタ部材６６０２の導光部６６２２～６６２４と表示シート６６０４の透光部６６４２～６６４４との第１の関係では、透光部６６４２～６６４４の幅Ｌ２が、導光部６６２２～６６２４の幅Ｌ１よりも小さく設定されている。この場合は、上部リフレクタ部材６６０２に対する表示シート６６０４の位置が少しずれてしまっても、透光部６６４２～６６４４の全体を導光部６６２２～６６２４に対向させることができる。その結果、デジット６６１６，６６１７のセグの幅が不均一にならないようにすることができる。

【６４８７】

図５４４に示すように、上部リフレクタ部材６６０２の導光部６６２２～６６２４と表示シート６６０４の透光部６６４２～６６４４との第２の関係では、透光部６６４２～６６４４の幅Ｌ３が、導光部６６２２～６６２４の幅Ｌ１よりも大きく設定されている。この場合は、上部リフレクタ部材６６０２に対する表示シート６６０４の位置が少しずれてしまっても、導光部６６２２～６６２４の全体を透光部６６４２～６６４４に対向させることができる。その結果、デジット６６１６，６６１７のセグの幅が不均一にならないようにすることができる。

【６４８８】

［演出ボタンユニットの構成］

次に、演出ボタンユニット６４２５の構成について、図５４５を参照して説明する。図５４５は、演出ボタンユニット６４２５の断面図である。

【６４８９】

図５４５に示すように、演出ボタンユニット６４２５は、中継基板ケース６６５１と、ボタンケース６６５２と、ボタン本体６６５３と、ディスプレイ組立体６６５４とを有している。

【６４９０】

中継基板ケース６６５１は、中空の直方体状に形成されている。中継基板ケース６６５１の内部には、演出ボタン用中継基板６６６１が配置されている。演出ボタン用中継基板６６６１の下面には、コネクタが接続されており、コネクタは、中継基板ケース６６５１の底部を貫通している。演出ボタン用中継基板６６６１は、コネクタ、ハーネスを介して副制御基板（不図示）と電気的に接続されている。また、中継基板ケース６６５１の上部には、ハーネス貫通孔（不図示）が形成されている。このハーネス貫通孔（不図示）には、ディスプレイ組立体６６５４の後述するディスプレイ用基板６６８２と演出ボタン用中継基板６６６１を電気的に接続するハーネスが貫通する。

【６４９１】

ボタンケース６６５２は、下ケース部材６６６３と、上ケース部材６６６４とを有している。下ケース部材６６６３は、有底の円筒部６６６５を有している。円筒部６６６５には、ボタン本体６６５３が上下方向に摺動可能に嵌合する。円筒部６６６５の底部は、軸

方向の下端に位置する。円筒部６６６５の底部における内面には、検出部６６６６が配置されている。検出部６６６６は、ボタン本体６６５３の後述する検出片６６７４を検出する。検出部６６６６としては、例えば、フォトセンサを採用することができる。

【６４９２】

また、円筒部６６６５の底部には、２つの爪貫通孔６６６７が形成されている。２つの爪貫通孔６６６７には、ボタン本体６６５３の２つの係合爪６６７５が貫通する。上ケース部材６６３４は、下ケース部材６６６３の上部に接続されている。上ケース部材６６３４は、ボタン貫通孔６６６４ａを有している。ボタン貫通孔６６６４ａは、下ケース部材６６６３における円筒部６６６５の筒孔に対向する。ボタン貫通孔６６６４ａには、ボタン本体６６５３が貫通する。

【６４９３】

ボタン本体６６５３は、中空の略円柱状に形成されている。ボタン本体６６５３は、ボタンベース６６７１と、ボタンカバー６６７２とを有している。ボタンベース６６７１はボタン本体６６５３の下部を形成し、ボタンカバー６６７２はボタン本体６６５３の上部を形成する。

【６４９４】

ボタンベース６６７１は、有底の筒状に形成されている。ボタンベース６６７１の底部は、軸方向の上端に位置する。ボタンベース６６７１の外周面は、ボタンケース６６５２における円筒部６６６５の内周面に摺動可能に嵌合している。ボタンベース６６７１の外周面には、２つの接続片６６７３が設けられている。２つの接続片６６７３は、上下方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。２つの接続片６６７３の上面は、ボタンベース６６７１の底部の外面と略同一平面を形成している。

【６４９５】

ボタンベース６６７１の底部における内面には、検出片６６７４と、２つの係合爪６６７５が設けられている。検出片６６７４及び２つの係合爪６６７５は、ボタンベース６６７１の底部から下方に突出している。検出片６６７４は、水平方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。検出片６６７４は、上下方向において、ボタンケース６６５２の検出部６６６６と対向している。２つの係合爪６６７５は、ボタンケース６６５２の円筒部６６６５における２つの爪貫通孔６６６７を貫通し、円筒部６６６５の内面に係合する。また、ボタンベース６６７１の底部には、ハーネス貫通孔（不図示）が形成されている。このハーネス貫通孔（不図示）には、ディスプレイ組立体６６５４の後述するディスプレイ用基板６６８２と演出ボタン用中継基板６６６１を電気的に接続するハーネスが貫通する。

【６４９６】

ボタンカバー６６７２は、透光性を有する樹脂により有底の筒状に形成されている。ボタンカバー６６７２の底部は、軸方向の上端に位置する。ボタンカバー６６７２は、ボタンケース６６５２のボタン貫通孔６６６４ａを貫通している。ボタンカバー６６７２の外周面には、２つの係合片６６７６が設けられている。２つの係合片６６７６は、上下方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状部と、板状部から下方に突出する係合爪部とを有している。２つの係合片６６７６の係合爪部は、ボタンベース６６７１における２つの接続片６６７３の端面と下面に係合する。これにより、ボタンカバー６６７２は、ボタンベース６６７１に接続されている。

【６４９７】

ボタン本体６６５３とボタンケース６６５２との間には、付勢部材６６７８が介在されている。付勢部材６６７８は、例えば、圧縮コイルばねである。付勢部材６６７８の一端は、ボタンベース６６７１の底部における内面に当接している。付勢部材６６７８の他端は、下ケース部材６６６３の円筒部６６６５における底部の内面に当接している。付勢部材６６７８は、ボタン本体６６５３を軸方向の一方（上方）に付勢している。これにより、ボタン本体６６５３は、２つの係合爪６６７５が円筒部６６６５の内面に係合した状態でボタンケース６６５２に保持されている。また、ボタン本体６６５３が付勢部材６６７

８に付勢された状態において、ボタンカバー６６７２の２つの係合片６６７６は、ボタンケース６６５２の上ケース部材６６６４におけるボタン貫通孔６６６４ａの周縁部に接触している。

【６４９８】

ボタン本体６６５３のボタンカバー６６７２が軸方向の他方（下方）に押圧されると、ボタン本体６６５３は、付勢部材６６７８の付勢力に抗して下方に移動する。そして、ボタン本体６６５３の２つの接続片６６７３が、下ケース部材６６６３における円筒部６６６５の上端に当接すると、ボタン本体６６５３の下方への移動が係止される。また、ボタン本体６６５３が下方に移動すると、下方への移動が係止される前に、検出部６６６６が検出片６６７４を検出する。これにより、ボタン本体６６５３の押圧操作が検出される。

【６４９９】

ディスプレイ組立体６６５４は、ボタン本体６６５３の内部に収容されている。つまり、ディスプレイ組立体６６５４は、ボタン本体６６５３と一緒に上下方向に移動する。ディスプレイ組立体６６５４は、ディスプレイ保持部６６８１と、ディスプレイ用基板６６８２と、有機ＥＬディスプレイ６６８３とを有している。

【６５００】

ディスプレイ保持部６６８１は、略円筒状に形成されている。ディスプレイ保持部６６８１の内側には、基板固定部６６８５が設けられている。基板固定部６６８５は、ディスプレイ保持部６６８１の内周面から径方向の内側に突出する円環状に形成されている。基板固定部６６８５の下面には、ディスプレイ用基板６６８２が固定されている。ディスプレイ用基板６６８２は、ディスプレイ保持部６６８１に設けられた係合突起（不図示）と基板固定部６６８５に挟まれている。

【６５０１】

ディスプレイ保持部６６８１の上端には、有機ＥＬディスプレイ６６８３が固定されている。ディスプレイ保持部６６８１の上端には、複数の爪部（不図示）が形成されており、有機ＥＬディスプレイ６６８３は、ディスプレイ保持部６６８１の上端と複数の爪部に挟持されている。有機ＥＬディスプレイ６６８３は、円板状に形成されている。なお、本発明に係る演出ボタンユニットの有機ＥＬディスプレイは、円板状に限定されず、正方形や長方形の板状であってもよい。

【６５０２】

有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面は、ボタンカバー６６７２の底部に僅かな距離を空けて対向している。有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面と反対側の面は、適当な距離を空けてディスプレイ用基板６６８２と対向している。ディスプレイ用基板６６８２は、ハーネス（不図示）により有機ＥＬディスプレイ６６８３と電気的に接続されている。

【６５０３】

有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面は、ボタンカバー６６７２を介して視認可能である。ボタンカバー６６７２は、半透明であり、有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面に画像又は映像が表示されていない場合に、有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面を視認し難くしている。そして、有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面に画像又は映像が表示されると、その画像又は映像がボタンカバー６６７２を介して視認される。有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面は、ボタンカバー６６７２の底部に近接している。そのため、有機ＥＬディスプレイ６６８３の表示面に表示された画像又は映像を、ボタンカバー６６７２の底部に映し出されているように見せることができ、演出効果を高めることができる。

【６５０４】

［音量つまみユニットの構成］

次に、音量つまみユニット６４２６の構成について、図５４６を参照して説明する。図５４６は、音量つまみユニット６４２６の断面図である。

【６５０５】

図５４６に示すように、音量つまみユニット６４２６は、つまみベース６７０１と、光拡散部材６７０２と、導光部材６７０３と、緩衝部材６７０４と、操作つまみ６７０５と、つまみケース６７０６とを有している。

【６５０６】

つまみベース６７０１は、カバー６７１１と、つまみ用基板６７１２とを有している。カバー６７１１は、略四角形の板体からなり、つまみケース６７０６の後述する開口を塞ぐ。つまみ用基板６７１２は、カバー６７１１より小さい四角形に形成されており、カバー６７１１の一方の平面に固定されている。つまみ用基板６７１２は、カバー６７１１と対向する側と反対側の面である実装面を有している。つまみ用基板６７１２の実装面には、ロータリスイッチ６７１３と、複数のＬＥＤ６７１４が実装されている。ロータリスイッチ６７１３は、つまみ用基板６７１２の実装面における略中央に配置されている。複数のＬＥＤ６７１４は、ロータリスイッチ６７１３の周りに適当な間隔を空けて並んでいる。

【６５０７】

光拡散部材６７０２は、同軸の円筒状に形成された第１筒部６７１６と第２筒部６７１７を有している。第１筒部６７１６は、つまみ用基板６７１２側が開口された有底の筒状に形成されている。第２筒部６７１７は、第１筒部６７１６の底部の外面から上方に突出している。第１筒部６７１６の径は、第２筒部６７１７の径よりも大きく、第１筒部６７１６の筒孔は、第２筒部６７１７の筒孔に連通している。第１筒部６７１６のつまみ用基板５０２２側の端面には、複数のＬＥＤ６７１４から出射された光が入射する。光拡散部材６７０２は、つまみ用基板５０２２側の端面から入射した光を拡散して第１筒部６７１６の底部における光出射部から出射する。

【６５０８】

導光部材６７０３は、円筒状の筒部６７２１と、筒部６７２１の軸方向の一端に設けられたフランジ部６７２２とを有している。筒部６７２１の内径は、光拡散部材６７０２の第１筒部６７１６の外径よりも大きい。光拡散部材６７０２の第１筒部６７１６は、導光部材６７０３における筒部６７２１の筒孔に挿入される。ロータリスイッチ６７１３は、光拡散部材６７０２の第１筒部６７１６及び第２筒部６７１７の筒孔と、導光部材６７０３における筒部６７２１の筒孔を貫通する。

【６５０９】

導光部材６７０３の筒部６７２１におけるフランジ部６７２２側の端面は、光入射面であり、光拡散部材６７０２の光出射部に対向する。筒部６７２１におけるフランジ部６７２２側と反対側の端面は、光出射面である。筒部６７２１の光出射面は、操作部ユニット６４０２の操作部パネル６４３１（図５２８参照）に設けたつまみ用貫通孔から露出される。

【６５１０】

緩衝部材６７０４は、有底の筒状に形成されている。緩衝部材６７０４の筒孔には、ロータリスイッチ６７１３の先端部が圧入固定されている。緩衝部材６７０４の材料としては、例えば、ゴム、エラストマ、ウレタン等を挙げることができる。操作つまみ６７０５は、有底の筒状に形成されている。操作つまみ６７０５の筒孔には、緩衝部材６７０４が圧入固定されている。これにより、ロータリスイッチ６７１３は、操作つまみ６７０５と一緒に回転する。また、操作つまみ６７０５は、光拡散部材６７０２の第２筒部６７１７に回転可能に嵌合している。そして、操作つまみ６７０５の外周面は、導光部材６７０３における筒部６７２１の内周面と僅かな距離を空けて対向している。

【６５１１】

つまみケース６７０６は、有底の角筒状に形成されている。つまみケース６７０６の開口は、つまみベース６７０１のカバー６７１１によって塞がれている。つまみケース６７０６の底部には、円形の貫通孔が形成されている。つまみケース６７０６の貫通孔には、導光部材６７０３の筒部６７２１が貫通する。

【６５１２】

このような構成を有する音量つまみユニット６４２６は、操作つまみ６７０５の周囲を囲む導光部材６７０３の端面を光らせる演出を行うことができる。例えば、音量を調節可能である場合に、導光部材６７０３の端面を光らせることで、音量を調節可能なタイミングを遊技者に認識させることができる。また、音量つまみユニット６４２６は、操作つまみ６７０５とロータリスイッチ６７１３との間に緩衝部材６７０４を介在させている。これにより、操作つまみ６７０５が上方から押された場合の衝撃を緩衝部材６７０４で和らげるができる。その結果、ロータリスイッチ６７１３及びつまみ用基板６７１２の破損を防止することができる。

【６５１３】

［演出ボタンユニットの変形例］

次に、演出ボタンユニット６４２５の変形例について、図５４７を参照して説明する。図５４７は、演出ボタンユニット６４２５の変形例を示す断面図である。

【６５１４】

図５４７に示す演出ボタンユニット６７３０は、上述した演出ボタンユニット６４２５の変形例である。演出ボタンユニット６７３０は、下ケース部材６７３１と、上ケース部材６７３２と、ボタン本体６７３３と、ディスプレイ組立体６７３４と、ディスプレイ支持部６７３５とを有している。

【６５１５】

下ケース部材６７３１は、有底の円筒状に形成された円筒部６７３７と、円筒部６７３７の径方向の外側に突出する２つの突壁部６７３８とを有している。２つの突壁部６７３８は、円筒部６７３７の径方向において対向しており、中空の略直方体状に形成されている。２つの突壁部６７３８の内部空間は、円筒部６７３７の筒孔に連通している。円筒部６７３７と２つの突壁部６７３８の内部には、ボタン本体６７３３が上下方向に摺動可能に嵌合する。円筒部６７３７の底部には、貫通孔６７３７ａが形成されている。円筒部６７３７の底部における内面には、検出部（不図示）が配置されている。検出部は、ボタン本体６７３３の後述する検出片（不図示）を検出する。検出部としては、例えば、フォトセンサを採用することができる。

【６５１６】

上ケース部材６７３２は、下ケース部材６７３１の上部に接続されている。上ケース部材６７３２は、下ケース部材６７３１における上部の開口を塞ぐ上面部を有している。上ケース部材６７３２の上面部には、ボタン貫通孔６７３２ａが形成されている。ボタン貫通孔６７３２ａは、下ケース部材６７３１における円筒部６７３７の筒孔に対向する。ボタン貫通孔６７３２ａには、ボタン本体６７３３が貫通する。

【６５１７】

ボタン本体６７３３は、中空の略円柱状に形成されている。ボタン本体６７３３は、ボタンベース６７４１と、ボタンカバー６７４２とを有している。ボタンベース６７４１はボタン本体６７３３の下部を形成し、ボタンカバー６７４２はボタン本体６７３３の上部を形成する。

【６５１８】

ボタンベース６７４１は、円筒状に形成されている。ボタンベース６７４１の外周面は、下ケース部材６７３１における円筒部６７３７の内周面に摺動可能に嵌合している。ボタンベース６７４１の外周面には、２つの突出片６７４３が設けられている。２つの突出片６７４３は、上下方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。２つの突出片６７４３の上面は、ボタンベース６７４１の上端面と略同一平面を形成している。

【６５１９】

ボタンベース６７４１の軸方向の中間部には、棚部６７４４と、２つの係合筒部６７４５が設けられている。棚部６７４４は、ボタンベース６７４１の内周面から径方向の内側に突出する円環状に形成されている。棚部６７４４の下面には、検出片（不図示）が設けられている。検出片は、下方に突出しており、水平方向に略垂直な平面を有する板状に形

成されている。検出片は、ボタンベース６７４１の軸方向において、下ケース部材６７３１の検出部（不図示）と対向している。２つの係合筒部６７４５は、棚部６７４４に連続しており、下方に延びる筒状に形成されている。２つの係合筒部６７４５の筒孔には、ディスプレイ支持部６７３５の後述する２つの固定用ボス部６７５２が貫通する。

【６５２０】

ボタンカバー６７４２は、透光性を有する樹脂により有底の筒状に形成されている。ボタンカバー６７４２の底部は、軸方向の上端に位置する。ボタンカバー６７４２は、上ケース部材６７３２のボタン貫通孔６７３２ａを貫通している。ボタンカバー６７４２の外周面には、２つの突出片６７４６が設けられている。２つの突出片６７４６は、上下方向に略垂直な平面を有する略四角形の板状に形成されている。２つの突出片６７４６の下面は、ボタンカバー６７４２の下端面と略同一平面を形成している。２つの突出片６７４６は、ボタンベース６７４１の２つの突出片６７４３に当接する。また、ボタンカバー６７４２は、ボタンベース６７４１に接続するための係止爪（不図示）を有している。

【６５２１】

ボタン本体６７３３と下ケース部材６７３１との間には、付勢部材６７４８が介在されている。付勢部材６７４８は、例えば、圧縮コイルばねである。付勢部材６７４８の一端は、ボタンベース６７４１の棚部６７４４における下面に当接している。付勢部材６７４８の他端は、下ケース部材６７３１の円筒部６７３７における底部の内面に当接している。付勢部材６７４８は、ボタン本体６７３３を軸方向の一方（上方）に付勢している。これにより、ボタン本体６７３３は、ボタンカバー６７４２の２つの突出片６７４６が上ケース部材６７３２におけるボタン貫通孔６６６４ａの周縁部に接触した状態で下ケース部材６７３１及び上ケース部材６７３２に保持されている。

【６５２２】

ボタン本体６７３３のボタンカバー６７４２が軸方向の他方（下方）に押圧されると、ボタン本体６７３３は、付勢部材６７４８の付勢力に抗して下方に移動する。そして、ボタン本体６７３３におけるボタンベース６７４１の下端が、下ケース部材６７３１における円筒部６７３７の底部に当接すると、ボタン本体６７３３の下方への移動が係止される。また、ボタン本体６７３３が下方に移動すると、下方への移動が係止される前に、検出部（不図示）が検出片（不図示）を検出する。これにより、ボタン本体６７３３の押圧操作が検出される。

【６５２３】

ディスプレイ支持部６７３５は、支持ベース６７５１と、２つの固定用ボス部６７５２と、ダクト部６７５３とを有している。支持ベース６７５１は、ボタン本体６７３３の軸方向に略垂直な平面を有する円形の板状に形成されている。支持ベース６７５１の径は、ボタンベース６７４１の内径よりも小さい。支持ベース６７５１は、ボタン本体６７３３の内部に位置している。

【６５２４】

２つの固定用ボス部６７５２及びダクト部６７５３は、支持ベース６７５１の下面から突出している。２つの固定用ボス部６７５２は、ボタン本体６７３３の軸方向に延びる円柱状に形成されている。２つの固定用ボス部６７５２は、ボタン本体６７３３の２つの係合筒部６７４５を貫通して、下ケース部材６７３１における円筒部６７３７の底部に当接している。２つの固定用ボス部６７５２は、軸方向に延びるねじ孔を有している。このねじ孔には、２つの固定用ボス部６７５２を下ケース部材６７３１の円筒部６７３７に固定するためのねじ６７５４が螺合している。

【６５２５】

ボタン本体６７３３の２つの係合筒部６７４５は、ボタン本体６７３３が軸方向（上下方向）に移動する際に、２つの固定用ボス部６７５２の外周面を摺動する。すなわち、２つの固定用ボス部６７５２は、ボタン本体６７３３の軸方向への移動を案内するガイド部としての役割を兼ねている。

【６５２６】

ダクト部６７５３は、ボタン本体６７３３の軸方向に延びる略角筒状に形成されている。ダクト部６７５３の筒孔は、支持ベース６７５１の上面に開口している。ダクト部６７５３は、下ケース部材６７３１における円筒部６７３７の貫通孔６７３７ａと対向している。ダクト部６７５３及び貫通孔６７３７ａには、ハーネス（不図示）が貫通する。ハーネスの一端は、ディスプレイ組立体６７３４の後述するディスプレイ用基板６７６２にコネクタを用いて接続されている。ディスプレイ用基板６７６２は、コネクタ、ハーネス等を介して副制御基板（不図示）と電気的に接続されている。

【６５２７】

ディスプレイ組立体６７３４は、ディスプレイ支持部６７３５における支持ベース６７５１の上面に接続されている。ディスプレイ組立体６７３４は、ディスプレイ支持部６７３５を介して下ケース部材６７３１に固定されており、かつ、ボタン本体６７３３の内部に収容されている。ディスプレイ組立体６７３４は、下ケース部材６７３１に固定されているため、ボタン本体６７３３と一緒に移動しない。

【６５２８】

ディスプレイ組立体６７３４は、ディスプレイ保持部６７６１と、ディスプレイ用基板６７６２と、有機ＥＬディスプレイ６７６３とを有している。ディスプレイ保持部６７６１は、略円筒状に形成されている。ディスプレイ保持部６７６１の内側には、仕切り板部６７６５が設けられている。仕切り板部６７６５は、ディスプレイ保持部６７６１の内周面に接合する円板状に形成されている。仕切り板部６７６５の下面には、複数の基板保持爪６７６６が形成されている。複数の基板保持爪６７６６は、ディスプレイ用基板６７６２を保持する。

【６５２９】

ディスプレイ保持部６７６１の上部には、枠カバー６７６７が接続されている。枠カバー６７６７は、有機ＥＬディスプレイ６７６３を露出させる枠状に形成されている。有機ＥＬディスプレイ６７６３は、ディスプレイ保持部６６８１の上端と枠カバー６７６７に挟持されている。有機ＥＬディスプレイ６７６３は、円板状に形成されている。なお、本発明に係る演出ボタンユニットの有機ＥＬディスプレイは、円板状に限定されず、正方形や長方形の板状であってもよい。

【６５３０】

有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面は、ボタンカバー６７４２の底部に所定の距離を空けて対向している。この所定の距離は、ボタン本体６７３３の移動可能距離よりも長い。したがって、ボタン本体６７３３が押圧されて下方に移動しても、ボタンカバー６７４２は、有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面に接触しない。有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面と反対側の面は、仕切り板部６７６５と僅かな距離を空けて対向している。ディスプレイ用基板６７６２は、仕切り板部６７６５の貫通孔を貫通するハーネス（不図示）により有機ＥＬディスプレイ６７６３と電気的に接続されている。

【６５３１】

有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面は、ボタンカバー６７４２を介して視認可能である。ボタンカバー６７４２は、半透明であり、有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面に画像又は映像が表示されていない場合に、有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面を視認し難くしている。そして、有機ＥＬディスプレイ６７６３の表示面に画像又は映像が表示されると、その画像又は映像がボタンカバー６７４２を介して視認される。

【６５３２】

上述したように、演出ボタンユニット６７３０の有機ＥＬディスプレイ６７６３は、ボタン本体６７３３と一緒に移動しない。これにより、ボタン本体６７３３に加わる衝撃が、有機ＥＬディスプレイ６７６３に加わらないようにすることができる。その結果、有機ＥＬディスプレイ６７６３の故障を抑制することができ、演出ボタンユニット６７３０の耐久性を向上することができる。

【６５３３】

［メダル数表示ユニット及び操作部パネルの変形例］

次に、メダル数表示ユニット６４２３及び操作部パネル６４３１の変形例について、図５４８を参照して説明する。図５４８は、メダル数表示ユニット及び操作部パネルの変形例を示す断面図である。

【６５３４】

図５４８に示すメダル数表示ユニット６７７０及び操作部パネル６７７５は、上述したメダル数表示ユニット６４２３及び操作部パネル６４３１の変形例である。メダル数表示ユニット６７７０は、メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１と、上部リフレクタ部材６７７１と、下部カバー６６０３とを有している。メダル数表示用ＬＥＤ基板６６０１と下部カバー６６０３は、図５４２に示すメダル数表示ユニット６４２３と同じものである。

【６５３５】

上部リフレクタ部材６７７１の上面は、メダル数表示ユニット６７７０の上面を形成しており、アース用板金６４１３の上面よりも上方に突出している。また、上部リフレクタ部材６７７１は、２つの位置決め用突部６７７２を有している。２つの位置決め用突部６７７２は、上部リフレクタ部材６７７１の左右の側面から突出しており、上下方向に略垂直な平面を有する板状に形成されている。２つの位置決め用突部６７７２の上面は、上部リフレクタ部材６７７１の上面よりも低く、アース用板金６４１３の上面と略同一平面を形成する。２つの位置決め用突部６７７２の上面には、位置決め凹部６６７２ａが形成されている。また、上部リフレクタ部材６７７１は、図５４２に示す上部リフレクタ部材６６０２と同様に、複数の第１導光部６６２２と、複数の第２導光部６６２３と、第３導光部（不図示）を有している。

【６５３６】

操作部パネル６７７５は、透光性の樹脂からなり、操作部収容筐体６４１１の上面に対応した略長方形の板状に形成されている。操作部パネル６７７５の下面（裏面）には、係合凹部６７７６と、２つの位置決め突起６７７７が設けられている。係合凹部６７７６は、上部リフレクタ部材６７７１の上面に対応した略長方形に形成されている。係合凹部６７７６には、上部リフレクタ部材６７７１の上面が係合する。２つの位置決め突起６７７７は、上部リフレクタ部材６７７１の２つの位置決め凹部６６７２ａに嵌合する。これにより、メダル数表示ユニット６７７０（上部リフレクタ部材６７７１）に対する操作部パネル６７７５の位置決めを容易に行うことができる。

【６５３７】

操作部パネル６７７５の上面（表面）における複数の第１導光部６６２２、複数の第２導光部６６２３、及び第３導光部（不図示）に対向する位置には、デジット表示及び直線状のデザイン表示がインモールド印刷によって形成されている。複数の第１導光部６６２２、複数の第２導光部６６２３、及び第３導光部によって導光された光が、デジット表示及び直線状のデザイン表示を照らすと、メダル数やエラーの種類に対応した数字やアルファベット、直線状のデザインが操作部パネル６７７５に表面に表示されたように見せることができる。また、上部リフレクタ部材６７７１の上面が操作部パネル６７７５の係合凹部６７７６に係合しているため、上部リフレクタ部材６７７１における光出射面とインモールド印刷による表示を近づけることができる。これにより、インモールド印刷による表示がぼやけないようにすることができる。

【６５３８】

なお、操作部パネル６７７５に施すインモールド印刷は、上述のデジット表示及び直線状のデザイン表示に限定されない。操作部パネル６７７５に施すインモールド印刷としては、状態表示ユニット６４２１（図５２８参照）に対応したデジット表示や状態を表す文字や数字の表示、操作部パネル６７７５を貫通する各種ボタンを説明する文字の表示、ストップボタンユニット６４２７の場所を示す記号（矢印など）及び文字の表示などを形成してもよい。この場合に、各種ボタンを説明する文字の表示やストップボタンユニット６４２７の場所を示す記号及び文字の表示は、裏面側から光が透過しなくても視認可能に色に設定されている。また、裏面側から光が透過するインモールド印刷は、表示の種類に応じて色を変えてもよい。例えば、状態表示に関する表示を青色で形成し、メダル数に関す

る表示を白色で形成し、エラーに関する表示を赤色で形成してもよい。

【６５３９】

［トップパネルの変形例］

次に、トップパネル６１０２の変形例について、図５４９を参照して説明する。図５４９は、トップパネル６１０２の変形例を後方から見た斜視図である。

【６５４０】

図５４９に示すトップパネル６７８０は、上述したトップパネル６１０２の変形例の変形例である。トップパネル６７８０は、フロントブロック６１１１と、枠ドア６１１２と、トップパネル基板組立体６１１３（図４９８参照）と、人検出部６１１４（図４９８参照）と、バックケース６７８１と、バックドア６７８２とを有している。フロントブロック６１１１、枠ドア６１１２、トップパネル基板組立体６１１３、及び人検出部６１１４は、上述したトップパネル６１０２と同じである。

【６５４１】

バックケース６７８１は、パネル対向部６７８４と、下部フレーム対向部６２７６とを有している。下部フレーム対向部６２７６は、上述したトップパネル６１０２（図４９８参照）と同じである。パネル対向部６７８４の上部は、バックドア６７８２と対向する。パネル対向部６７８４の上部には、４つのリベット用係合孔（不図示）が形成されている。

【６５４２】

バックドア６７８２は、ドア本体６７８６と、レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂ（不図示）と、基板カバー６３１３（不図示）と、２つのバックドアヒンジ６３１４（不図示）とを有している。レンズ用ＬＥＤ基板６３１２Ａ，６３１２Ｂ、基板カバー６３１３、及び２つのバックドアヒンジ６３１４は、上述したバックドア６１１６（図５１４参照）と同じである。バックドア６７８２は、２つのバックドアヒンジ６３１４によってバックケース６７８１に回動可能に接続されている。

【６５４３】

ドア本体６７８６は、前面及び下面が開口された略筐体状に形成されている。ドア本体６７８６は、前後方向に略垂直な平面を有する後壁部６７８７を有している。後壁部６７８７は、４つのリベット用貫通孔（不図示）を有している。４つのリベット用貫通孔には、４つのプッシュリベット６７８８が貫通している。４つのプッシュリベット６７８８は、バックケース６７８１のリベット用係合孔（不図示）を貫通してバックケース６７８１の前面に係合する。４つのプッシュリベット６７８８は、バックドア６７８２をバックケース６７８１に固定する。

【６５４４】

バックドア６７８２は、開位置と閉位置に配置可能である。開位置に配置されたバックドア６７８２は、バックケース６７８１よりも後方に位置し、枠ドア６１１２との間に開口部を形成する。閉位置に配置されたバックドア６７８２は、バックケース６７８１及び枠ドア６１１２と略同一平面を形成する。

【６５４５】

バックドア６７８２を閉位置に配置した状態において、４つのプッシュリベット６７８８をバックケース６７８１の４つのリベット用係合孔（不図示）に係合させると、バックドア６７８２は、バックケース６７８１に固定される。バックケース６７８１に対するバックドア６７８２の固定を解除する場合は、４つのプッシュリベット６７８８をバックケース６７８１の４つのリベット用係合孔（不図示）から引き抜く。これにより、バックケース６７８１に対するバックドア６７８２の固定が解除されて、バックドア６７８２は、バックドアヒンジ６３１４の係合軸６３１４ａ（図５１４参照）を中心に回動可能になる。このように、トップパネル６７８０は、上述したトップパネル６１０２と同様に、工具を用いずに、バックドア６７８２の固定及び固定解除を行うことができる。

【６５４６】

なお、４つのプッシュリベット６７８８が係合するリベット用係合孔は、フロントブロ

ック６１１１のパネル本体６１２１に設けられていてもよい。この場合は、バックケース６７８１に、パネル本体６１２１のリベット用係合孔を後方に露出させる切欠きや貫通孔が形成される。

【６５４７】

また、本発明に係るトップパネルとしては、プッシュリベット６７８８の代わりに、回転型ラッチ（ワンピースラッチ）を採用してもよい。回転型ラッチは、バックケース６７８１に設けたラッチ用孔を貫通後に、９０°回転させるとバックケース６７８１の前面に係合する。これにより、回転型ラッチは、バックドア６７８２をバックケース６７８１に固定する。バックケース６７８１に対するバックドア６７８２の固定を解除する場合は、係合状態の回転型ラッチを９０°回転させる。これにより、回転型ラッチをバックケース６７８１に設けたラッチ用孔から引き抜くことができる。その結果、バックケース６７８１に対するバックドア６７８２の固定が解除される。

【６５４８】

［第１２実施形態の付記１］

従来、装飾部材を着脱可能な遊技機が知られている（例えば、特開２０２１－０７４５６６号公報参照）。

【６５４９】

しかしながらため、装飾部材の構造には、さらなる改良の余地がある。

【６５５０】

付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、装飾部材の改良を図ることを目的とする。

【６５５１】

上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。

【６５５２】

（１）ベース部材（例えば、遮光枠６１６５）と、

前記ベース部材に移動可能に支持された第１部材（例えば、後パネル６１６４）と、

前記第１部材と対向する第２部材（例えば、前パネル６１６２）と、

前記第１部材と前記第２部材との間に収容可能な所定部材（例えば、デザインシート６１６３）と、を備え、

前記第１部材は、第１位置と第２位置に移動可能であり、

前記第１部材と前記第２部材との間に生じる前記所定部材を挿脱するための開口部は、前記第１部材が前記第１位置に位置したときよりも前記第２位置に位置したときの方が広くなる

ことを特徴とする遊技機。

【６５５３】

このような構成によれば、第１部材を第２位置に配置することにより、第１部材と第２部材との間に所定部材を容易に挿入したり、第１部材と第２部材との間から所定部材を容易に取り出したりすることができる。また、第１部材を第１位置に配置することにより、所定部材が第１部材と第２部材との間から外れ難くすることができる。そして、所定部材を装飾部品に適用した場合に、容易に装飾を変更することができるため、装飾部材の改良を図ることができる。

【６５５４】

（２）　上記（１）の遊技機において、

少なくとも第３位置（例えば、閉位置）と第４位置（例えば、開位置）に移動可能な第３部材（例えば、枠ドア６１１２）をさらに備え、

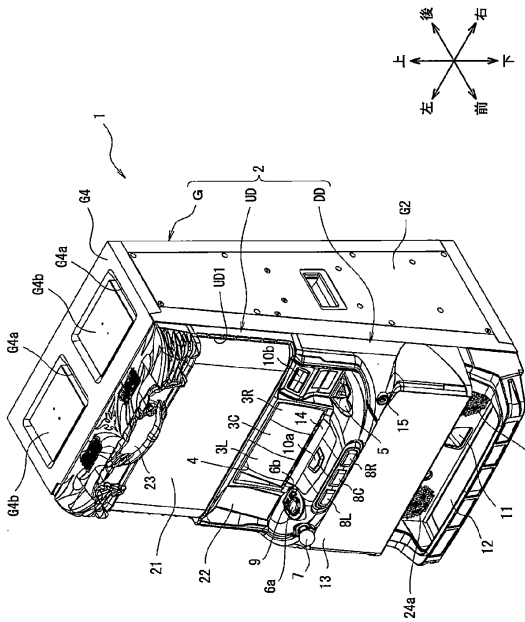
前記第１部材は、前記第３部材が前記第４位置に位置したときに、前記第１位置から前記第２位置へ移動させる操作が可能となる。

【６５５５】

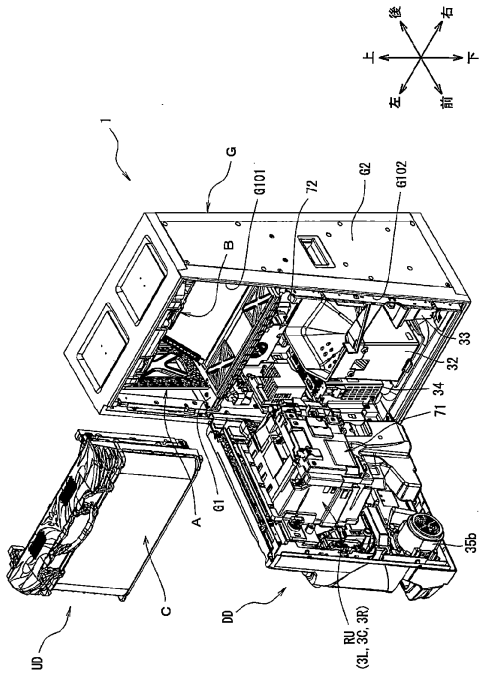
このような構成によれば、第３部材を第３位置に配置することで、第１部材を誤って第２位置に移動させることがないようにすることができる。これにより、所定部材が誤って

第１部材と第２部材との間から外れることを防止できる。
【６５５６】
（３）　上記（２）の遊技機において、
　少なくとも第５位置（例えば、閉位置）と第６位置（例えば、開位置）に移動可能な第４部材（例えば、バックドア６１１６）をさらに備え、
　前記第３部材は、前記第４部材が前記第６位置に位置したときに、前記第３位置から前記第４位置へ移動させる操作が可能となる。
【６５５７】
　このような構成によれば、第１部材と第２部材との間に所定部材を挿入するには、第４部材を第６位置に移動させて、第３部材を第４位置に移動させる必要がある。そのため、第１部材と第２部材との間から異物を挿入するといった不正行為（いわゆるゴト行為）を抑制することができる。
【６５５８】
（４）　上記（２）の遊技機において、
　前記第３部材が前記第３位置に位置したときに、前記第３部材の少なくとも一部（例えば、上ベゼル６２０１と上遮光枠６２０２）は、前記第２部材のうち前記第１部材と対向する側と反対側に延存する。
【６５５９】
　このような構成によれば、第２部材のうち第１部材と対向する側と反対側に第３部材の少なくとも一部があるため、第１部材と第２部材との間に不正なアクセスが行われることを抑制できる。
【６５６０】
　従来、スピーカや表示装置などの構成部品を備える遊技機が知られている（例えば、特開２００６－０４３０５７号公報参照）。
【６５６１】
　しかしながら、遊技機における構成部品の配置には、さらなる改良の余地がある。
【６５６２】
　付記は、このような点に鑑みてなされたものであり、遊技機の構成部品の配置の改良を図ることを目的とする。
【６５６３】
　上記目的を達成するために、付記は、以下の遊技機を提供する。
【６５６４】
（１）　スピーカ（例えば、中間スピーカ装置６４５１）と、
　前記スピーカから出力された音を反射して遊技者側である前方へ向かわせる音反射部（例えば、上マスク本体６１０１）と、を備える
　ことを特徴とする遊技機。
【６５６５】
　このような構成によれば、遊技者側である前方への出音が困難なスペースしか確保できない場合であっても、スピーカの出音を前方へ向かわせることができ、遊技機の構成部品の配置の改良を図ることができる。また、スピーカから出力された音を音反射部で反射して前方へ向かわせることにより、スピーカによる出音演出の効果を高めることができる。
【６５６６】
（２）　上記（１）の遊技機において、
　前記スピーカと前記音反射部との間に配置され、前記スピーカから出力された音を前記音反射部へ案内する音通路部材（例えば、音ガイドカバー６４５４）をさらに備える。
【６５６７】
　このような構成によれば、スピーカの配置や姿勢の自由度を高めることができる。
【６５６８】
（３）　上記（２）の遊技機において、
　遊技者が物を置くことができると共に、前記スピーカの磁石と対向する特定部（例えば

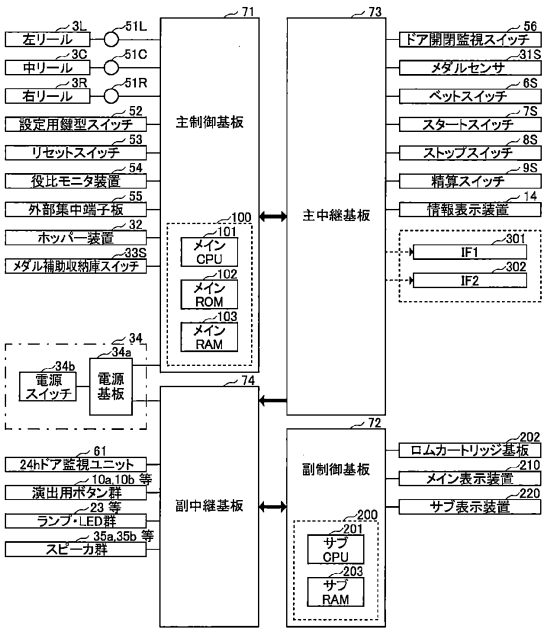
、ポケット収納部６４４３）と、
前記スピーカの磁石と前記特定部との間に配置された磁力伝達抑制部材（例えば、防磁カバー６４５５）と、をさらに備える。
【６５６９】
このような構成によれば、特定部に置かれた磁気カードや電子機器に磁力の悪影響が生じることを防止或いは抑制できる。また、スピーカの周囲に配置されている電子部品のノイズの発生を防止或いは抑制できる。
【産業上の利用可能性】
【６５７０】
本実施形態は、遊技店などの遊技場に設置される遊技機に広く適用することができる。
【符号の説明】
【６５７１】
６００１…パチスロ機、６００２…筐体、６１０１…上マスク本体、６１０２…トップパネル、６１１１…トップパネル、６１１２…枠ドア、６１１３…トップパネル基板組立体、６１１４…人検出部、６１１５…バックケース、６１１６…バックドア、６１２１…パネル本体、６１６１…ベゼル、６１６２…前パネル、６１６３…デザインシート、６１６４…後パネル、６１６５…遮光枠、６１６６…レンズ枠、６１６７…外装枠、６１６８…遮光部材、６２０１…上ベゼル、６２０２…上遮光枠、６２０３…上レンズ枠、６２０４…上外装枠
【図面】
【図１】



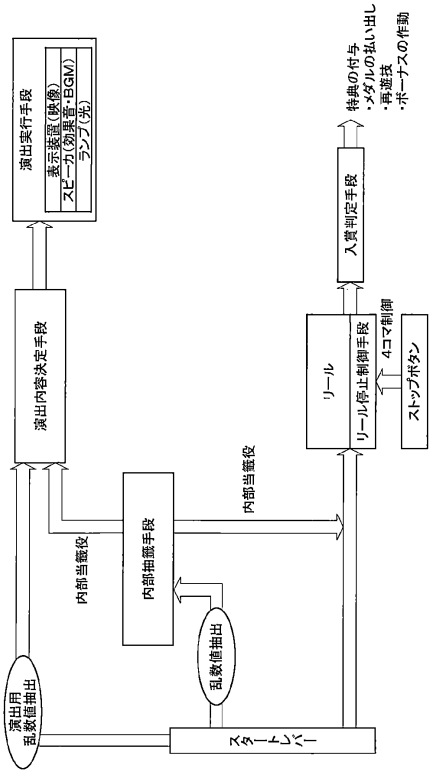
【図２】



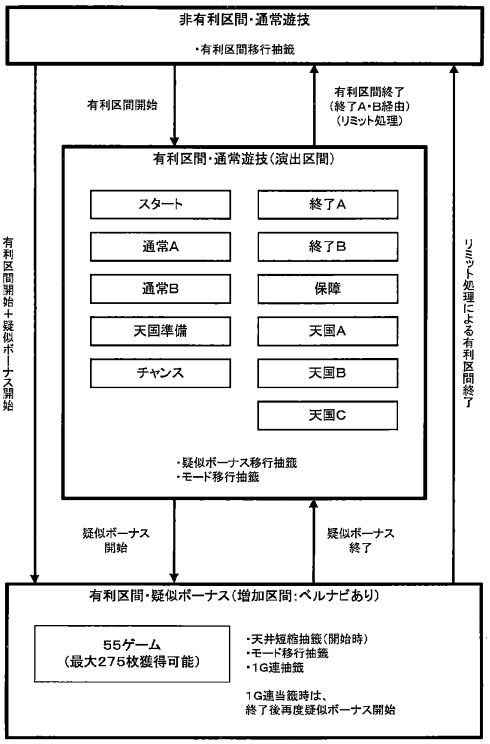
【図３】



【図４】



【図５】



【図６】

各モードの概要

名称	概要
スタートモード	演出区間移行時に滞在しやすいモード
通常Aモード	天井965G(疑似ボーナス後約999G) 天国移行率低
通常Bモード	天井985G(疑似ボーナス後約999G) 天国移行率高
天国準備モード	天井466G(疑似ボーナス後約500G) 疑似ボーナス移行で天国移行確定
チャンスモード	天井227G(疑似ボーナス後約256G) 疑似ボーナス移行率高
終了Aモード	天国非移行時の疑似ボーナス終了後32G間滞在するモード(疑似ボーナス移行率低)
終了Bモード	天国非移行時の疑似ボーナス終了後32G間滞在するモード(疑似ボーナス移行率高)
保障モード	天井32G 天国Cからの転落時に移行するモード
天国Aモード	天井32G 天国モードループ率中
天国Bモード	天井32G 天国モードループ率高
天国Cモード	天井32G 天国モードループ率激高

【図７】

(a)サブクラグの概要

非有利区間サブフラグ	はずれ	リプベル	弱チェ	スイカ	確定役	中チェ
有利区間当籤時サブフラグ	はずれ	ベル	弱チェ	スイカ	確定役	中チェ
有利区間入賞時サブフラグ	はずれ	通リプ1	通リプ2			

(b)有利区間移行抽籤テーブル(確率分母:256)

移行先モード等	非有利区間サブフラグ					
	はずれ	リプベル	弱チェ	スイカ	確定役	中チェ
移行なし	256	0	0	0	0	0
スタートモード	0	74	74	74	0	0
通常Aモード	0	73	73	73	0	0
通常Bモード	0	73	73	73	0	0
天国準備モード	0	2	2	2	0	0
チャンスモード	0	34	31	24	0	0
終了Aモード	0	0	0	0	0	0
終了Bモード(＋疑似ボーナス)	0	0	2	6	224	0
保障モード(＋疑似ボーナス)	0	0	0	0	0	0
天国Aモード(＋疑似ボーナス)	0	0	1	3	24	85
天国Bモード(＋疑似ボーナス)	0	0	0	1	8	85
天国Cモード(＋疑似ボーナス)	0	0	0	0	0	86

(c)疑似ボーナス移行抽籤テーブル(確率分母:65536)

モード	抽籤結果	有利区間当籤時(入賞時)サブフラグ							
		はずれ	通リプ1	通リプ2	ベル	弱チェ	スイカ	確定役	中チェ
下記以外	非当籤	65536	65408	65280	65280	65280	63488	0	0
	当籤(今回遊技)	0	0	0	128	0	0	0	0
	当籤(次回遊技)	0	128	256	128	256	2048	65536	65536
チャンスモード	非当籤	65536	65152	64768	64768	64768	58982	0	0
	当籤(今回遊技)	0	0	0	384	0	0	0	0
	当籤(次回遊技)	0	384	768	384	768	6554	65536	65536
終了Aモード	非当籤	65536	65536	65536	65536	65536	65536	0	0
	当籤(今回遊技)	0	0	0	0	0	0	0	0
	当籤(次回遊技)	0	0	0	0	0	0	65536	65536
保障モード 天国Aモード 天国Bモード 天国Cモード	非当籤	65536	62536	59536	59536	61440	52736	0	0
	当籤(今回遊技)	0	0	0	3000	0	0	0	0
	当籤(次回遊技)	0	3000	6000	3000	4096	12800	65536	65536

(d)1G連抽籤テーブル(確率分母:256)

モード	抽籤結果	有利区間当籤時(入賞時)サブフラグ							
		はずれ	通リプ1	通リプ2	ベル	弱チェ	スイカ	確定役	中チェ
下記以外	非当籤	255	256	256	256	255	252	0	0
	当籤(1G連＋1)	1	0	0	0	1	4	256	256
終了Aモード	非当籤	256	256	256	256	256	256	0	0
	当籤(1G連＋1)	0	0	0	0	0	0	256	256

【図８】

(e)天井短縮抽籤テーブル(確率分母:256)

抽籤結果	現在のモード										
	スタート	通常A	通常B	天国準備	チャンス	終了A	終了B	保障	天国A	天国B	天国C
非当籤	256	256	256	256	256	256	256	224	224	224	224
当籤(天井ゲーム数=0更新)	0	0	0	0	0	0	0	32	32	32	32

(f)モード移行抽籤テーブル(確率分母:256)

有利区間当籤時(入賞時)サブフラグ 等	移行先モード	現在のモード										
		スタート	通常A	通常B	天国準備	チャンス	終了A	終了B	保障	天国A	天国B	天国C
ベル 天井到達時	スタート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了A	256	95	95	0	96	128	128	128	64	0	0
	終了B	0	95	95	0	96	128	128	128	64	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	24
	天国A	0	64	64	254	30	0	0	0	128	0	0
	天国B	0	2	1	1	2	0	0	0	2	209	0
	天国C	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	232
弱チェ	スタート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了A	256	95	95	0	96	128	128	0	0	0	0
	終了B	0	95	95	0	96	128	128	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	255	0	0	0
	天国A	0	64	64	240	30	0	0	1	254	0	0
	天国B	0	2	1	14	2	0	0	0	2	255	0
	天国C	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	255
スイカ	スタート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	0	64	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了A	256	85	85	0	64	128	128	0	0	0	0
	終了B	0	85	85	0	64	128	128	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	255	0	0	0
	天国A	0	82	82	192	60	0	0	1	252	0	0
	天国B	0	4	3	60	4	0	0	0	4	255	0
	天国C	0	0	1	4	0	0	0	0	0	1	256
確定役	スタート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了A	64	64	64	0	33	64	64	0	0	0	0
	終了B	64	64	64	0	33	64	64	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	152	0	0	0
	天国A	120	120	120	154	96	120	120	96	240	0	0
	天国B	8	8	8	96	8	8	8	8	14	248	0
	天国C	0	0	0	6	0	0	0	0	2	8	256
中チェ	スタート	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	終了B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国A	96	96	96	0	96	96	96	96	0	0	0
	天国B	32	32	32	123	32	32	32	32	128	0	0
	天国C	128	128	128	123	128	128	128	128	128	256	256
通リプ1	スタート	192	64	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	64	128	64	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	64	192	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	255	0	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	256	0	0	0	0	0	0
	終了A	0	0	0	0	0	256	0	0	0	0	0
	終了B	0	0	0	0	0	0	256	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	256	0	0	0
	天国A	0	0	0	0	0	0	0	0	256	0	0
	天国B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	256	0
	天国C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	256
通リプ2	スタート	128	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常A	128	128	32	0	0	0	0	0	0	0	0
	通常B	0	96	224	0	0	0	0	0	0	0	0
	天国準備	0	0	0	256	0	0	0	0	0	0	0
	チャンス	0	0	0	0	256	0	0	0	0	0	0
	終了A	0	0	0	0	0	256	0	0	0	0	0
	終了B	0	0	0	0	0	0	256	0	0	0	0
	保障	0	0	0	0	0	0	0	256	0	0	0
	天国A	0	0	0	0	0	0	0	0	256	0	0
	天国B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	256	0
	天国C	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	256

【図９】

図柄配置テーブル

左リール		中リール		右リール	
図柄位置	図柄	図柄位置	図柄	図柄位置	図柄
19	スイカ	19	黄ブランク	19	リプレイ
18	ベル	18	リプレイ	18	ベル
17	リプレイ	17	ベル	17	チェリー
16	BAR	16	スイカ	16	白ブランク2
15	チェリー	15	赤ブランク	15	スイカ
14	スイカ	14	白ブランク1	14	リプレイ
13	ベル	13	リプレイ	13	ベル
12	リプレイ	12	ベル	12	チェリー
11	黄ブランク	11	チェリー	11	白ブランク1
10	白ブランク2	10	赤ブランク	10	スイカ
9	スイカ	9	BAR	9	リプレイ
8	ベル	8	リプレイ	8	ベル
7	リプレイ	7	ベル	7	チェリー
6	赤ブランク	6	チェリー	6	黄ブランク
5	白ブランク2	5	赤ブランク	5	スイカ
4	スイカ	4	白ブランク2	4	リプレイ
3	ベル	3	リプレイ	3	ベル
2	リプレイ	2	ベル	2	チェリー
1	白ブランク1	1	スイカ	1	BAR
0	赤7	0	赤7	0	赤7

図柄コード表

図柄コード	内容	
	図柄	データ
1	赤7	00000001
2	BAR	00000010
3	リプレイ	00000011
4	ベル	00000100
5	スイカ	00000101
6	チェリー	00000110
7	赤ブランク	00000111
8	黄ブランク	00001000
9	白ブランク1	00001001
10	白ブランク2	00001010

【図１０】

内部抽籤テーブル(確率分母:65536)

No.	略称	非ボーナス状態		ボーナス状態	対応する図柄組合せ
		2枚ベット	3枚ベット		
0	はずれ	0	0	5536	―
1	F_2BB	9184(※)	0	0	BB01
2	F_3BB	0	4000(※)	0	BB02
3	F_ﾘﾌﾟﾚｲA	3000	3000	0	REP64～73
4	F_ﾘﾌﾟﾚｲB	3000	3000	0	REP64～72
5	F_ﾁｪﾘｰ	2000	2000	0	REP28,57～63,72
6	F_確定ﾁｪﾘｰ	326	326	0	REP02,03,07～14,28～56,72
7	F_中段ﾁｪﾘｰ	326	326	0	REP02,03,07～27,72
8	F_ﾘｰﾁ目	326	326	0	REP01～14,72
9	F_ｽｲｶ	1030	1030	0	FRU08～12
10	F_ﾍﾞﾙ123A1	1931	2147	0	FRU03,19,32,36,37,55,56,64,75,99,100
11	F_ﾍﾞﾙ123A2	1931	2147	0	FRU01,02,15,38,39,44,53,54,57,58,97,98
12	F_ﾍﾞﾙ123B1	1931	2147	0	FRU01,02,19,32,36,37,55,56,64,75,99,100
13	F_ﾍﾞﾙ123B2	1931	2147	0	FRU03,15,38,39,44,53,54,57,58,97,98
14	F_ﾍﾞﾙ132A1	1931	2147	0	FRU03,13,14,25,30,48,51,52,60,103,104
15	F_ﾍﾞﾙ132A2	1931	2147	0	FRU01,02,22,23,29,41,68,69,73,74,101,102
16	F_ﾍﾞﾙ132B1	1931	2147	0	FRU03,13,14,22,29,48,51,52,60,103,104
17	F_ﾍﾞﾙ132B2	1931	2147	0	FRU01,02,23,25,30,41,68,69,73,74,101,102
18	F_ﾍﾞﾙ213A1	1931	2147	0	FRU04,16,17,24,42,84,85,107,108
19	F_ﾍﾞﾙ213A2	1931	2147	0	FRU04,20,21,26,40,79,80,105,106
20	F_ﾍﾞﾙ213B1	1931	2147	0	FRU04,16,20,21,24,84,85,107,108
21	F_ﾍﾞﾙ213B2	1931	2147	0	FRU04,17,26,40,42,79,80,105,106
22	F_ﾍﾞﾙ231A1	1931	2147	0	FRU05,18,27,28,43,88,89,111,112
23	F_ﾍﾞﾙ231A2	1931	2147	0	FRU05,31,33～35,91,92,109,110
24	F_ﾍﾞﾙ231B1	1931	2147	0	FRU05,18,33～35,88,89,111,112
25	F_ﾍﾞﾙ231B2	1931	2147	0	FRU05,27,28,31,43,91,92,109,110
26	F_ﾍﾞﾙ312A1	1931	2147	0	FRU06,46,47,65,76,83,90,113,114
27	F_ﾍﾞﾙ312A2	1931	2147	0	FRU06,61,62,66,71,77,78,115,116
28	F_ﾍﾞﾙ312B1	1931	2147	0	FRU06,47,65,71,76,83,90,114,115
29	F_ﾍﾞﾙ312B2	1931	2147	0	FRU06,46,61,62,66,77,78,113,116
30	F_ﾍﾞﾙ321A1	1931	2147	0	FRU07,50,63,70,72,86,87,95,96
31	F_ﾍﾞﾙ321A2	1931	2147	0	FRU07,45,49,59,67,81,82,93,94
32	F_ﾍﾞﾙ321B1	1931	2147	0	FRU07,45,63,67,72,86,87,95,96
33	F_ﾍﾞﾙ321B2	1931	2147	0	FRU07,49,50,59,70,81,82,93,94
34	F_RB役8枚	0	0	10000	FRU01～116
35	F_RB役1枚	0	0	50000	FRU13～120

※非フラグ間のときの抽籤値。フラグ間では「はずれ」の値となる。

【図１１】

図柄組合せテーブル(その1)

図柄の組合せ			表示役				払出等	
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称	2枚ベット	3枚ベット
赤7	BAR	BAR	1	00000001	BB01	C.2BB	0(2BB)	—
赤7	スイカ	BAR		00000010	BB02	C.3BB	—	0(3BB)
—	—	—		00000100	—	—	—	—
—	—	—		00001000	—	—	—	—
—	—	—		00010000	—	—	—	—
—	—	—		00100000	—	—	—	—
—	—	—		01000000	—	—	—	—
—	—	—		10000000	—	—	—	—
リプレイ	ベル	リプレイ	2	00000001	REP01	C.リーチ目1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	スイカ	リプレイ		00000010	REP02	C.リーチ目2.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	チェリー	リプレイ		00000100	REP03	C.リーチ目2.2	0(再遊技)	0(再遊技)
リプレイ	赤7	リプレイ		00001000	REP04	C.リーチ目3.1	0(再遊技)	0(再遊技)
リプレイ	BAR	リプレイ		00010000	REP05	C.リーチ目3.2	0(再遊技)	0(再遊技)
リプレイ	赤ブランク	リプレイ		00100000	REP06	C.リーチ目4	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤7	BAR		01000000	REP07	C.リーチ目5.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤7	白ブランク1		10000000	REP08	C.リーチ目5.2	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤7	黄ブランク	3	00000001	REP09	C.リーチ目5.3	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤7	白ブランク2		00000010	REP10	C.リーチ目5.4	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤ブランク	BAR		00000100	REP11	C.リーチ目6.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤ブランク	白ブランク1		00001000	REP12	C.リーチ目6.2	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤ブランク	黄ブランク		00010000	REP13	C.リーチ目6.3	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	赤ブランク	白ブランク2		00100000	REP14	C.リーチ目6.4	0(再遊技)	0(再遊技)
チェリー	赤7	チェリー		01000000	REP15	C.中チェリ.1.1	0(再遊技)	0(再遊技)
チェリー	BAR	チェリー		10000000	REP16	C.中チェリ.1.2	0(再遊技)	0(再遊技)
チェリー	スイカ	チェリー	4	00000001	REP17	C.中チェリ2.1	0(再遊技)	0(再遊技)
チェリー	チェリー	チェリー		00000010	REP18	C.中チェリ2.2	0(再遊技)	0(再遊技)
チェリー	スイカ	リプレイ		00000100	REP19	C.中チェリ3	0(再遊技)	0(再遊技)
赤7	赤7	チェリー		00001000	REP20	C.中チェリ4.1	0(再遊技)	0(再遊技)
白ブランク1	赤7	チェリー		00010000	REP21	C.中チェリ4.2	0(再遊技)	0(再遊技)
赤7	BAR	チェリー		00100000	REP22	C.中チェリ4.3	0(再遊技)	0(再遊技)
白ブランク1	BAR	チェリー		01000000	REP23	C.中チェリ4.4	0(再遊技)	0(再遊技)
赤7	スイカ	チェリー		10000000	REP24	C.中チェリ5.1	0(再遊技)	0(再遊技)
白ブランク1	スイカ	チェリー	5	00000001	REP25	C.中チェリ5.2	0(再遊技)	0(再遊技)
赤7	チェリー	チェリー		00000010	REP26	C.中チェリ5.3	0(再遊技)	0(再遊技)
白ブランク1	チェリー	チェリー		00000100	REP27	C.中チェリ5.4	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	赤7	チェリー		00001000	REP28	C.汎用チェ	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	赤7	赤7		00010000	REP29	C.確定チェKB1.1	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	赤7	スイカ		00100000	REP30	C.確定チェKB1.2	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	チェリー	BAR		01000000	REP31	C.確定チェKB2.1	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	チェリー	白ブランク1		10000000	REP32	C.確定チェKB2.2	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	チェリー	黄ブランク	6	00000001	REP33	C.確定チェKB2.3	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	チェリー	白ブランク2		00000010	REP34	C.確定チェKB2.4	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	スイカ	BAR		00000100	REP35	C.確定チェKB2.5	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	スイカ	白ブランク1		00001000	REP36	C.確定チェKB2.6	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	スイカ	黄ブランク		00010000	REP37	C.確定チェKB2.7	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	スイカ	白ブランク2		00100000	REP38	C.確定チェKB2.8	0(再遊技)	0(再遊技)
赤ブランク	赤7	チェリー		01000000	REP39	C.確定チェKB3.1	0(再遊技)	0(再遊技)
黄ブランク	赤7	チェリー		10000000	REP40	C.確定チェKB3.2	0(再遊技)	0(再遊技)
白ブランク2	赤7	チェリー	7	00000001	REP41	C.確定チェKB3.3	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	BAR	BAR		00000010	REP42	C.確定チェ1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	ベル	ベル		00000100	REP43	C.確定チェ2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	BAR	白ブランク2		00001000	REP44	C.確定チェ3.1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	BAR	黄ブランク		00010000	REP45	C.確定チェ3.2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	BAR	白ブランク1		00100000	REP46	C.確定チェ3.3	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	赤7	赤7		01000000	REP47	C.確定チェ4.1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	赤7	スイカ		10000000	REP48	C.確定チェ4.2	0(再遊技)	0(再遊技)

【図１２】

図柄組合せテーブル(その2)

図柄の組合せ			表示役				払出等	
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称	2枚ベット	3枚ベット
BAR	チェリー	白ブランク1	8	00000001	REP49	C.確定チェ5.1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	チェリー	黄ブランク		00000010	REP50	C.確定チェ5.2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	チェリー	白ブランク2		00000100	REP51	C.確定チェ5.3	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	スイカ	白ブランク1		00001000	REP52	C.確定チェ5.4	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	スイカ	黄ブランク		00010000	REP53	C.確定チェ5.5	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	スイカ	白ブランク2		00100000	REP54	C.確定チェ5.6	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	チェリー	BAR		01000000	REP55	C.確定チェ6.1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	スイカ	BAR		10000000	REP56	C.確定チェ6.2	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	リプレイ	スイカ	9	00000001	REP57	C.チェリKB1.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	リプレイ	赤7		00000010	REP58	C.チェリKB1.2	0(再遊技)	0(再遊技)
スイカ	リプレイ	ベル		00000100	REP59	C.チェリKB2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	チェリー	ベル		00001000	REP60	C.チェ1.1	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	スイカ	ベル		00010000	REP61	C.チェ1.2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	BAR	ベル		00100000	REP62	C.チェ2	0(再遊技)	0(再遊技)
BAR	リプレイ	ベル		01000000	REP63	C.チェ3	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	BAR	スイカ		10000000	REP64	C.BTリプ1.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	白ブランク1	スイカ	10	00000001	REP65	C.BTリプ1.2	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	黄ブランク	スイカ		00000010	REP66	C.BTリプ1.3	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	白ブランク2	スイカ		00000100	REP67	C.BTリプ1.4	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	BAR	赤7		00001000	REP68	C.BTリプ2.1	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	白ブランク1	赤7		00010000	REP69	C.BTリプ2.2	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	黄ブランク	赤7		00100000	REP70	C.BTリプ2.3	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	白ブランク2	赤7		01000000	REP71	C.BTリプ2.4	0(再遊技)	0(再遊技)
リプレイ	リプレイ	リプレイ		10000000	REP72	C.中段リプ	0(再遊技)	0(再遊技)
ベル	リプレイ	ベル	11	00000001	REP73	C.CUリプ	0(再遊技)	0(再遊技)
—	—	—		00000010	—	—	—	—
—	—	—		00000100	—	—	—	—
—	—	—		00001000	—	—	—	—
—	—	—		00010000	—	—	—	—
—	—	—		00100000	—	—	—	—
—	—	—		01000000	—	—	—	—
—	—	—		10000000	—	—	—	—
リプレイ	チェリー	チェリー	12	00000001	FRU01	C.TPベル1.1	2	8
リプレイ	スイカ	チェリー		00000010	FRU02	C.TPベル1.2	2	8
リプレイ	ベル	リプレイ		00000100	FRU03	C.CDベル	2	8
ベル	ベル	ベル		00001000	FRU04	C.CTベル	2	8
スイカ	ベル	チェリー		00010000	FRU05	C.CUベル	2	8
スイカ	ベル	リプレイ		00100000	FRU06	C.MTベル	2	8
スイカ	リプレイ	リプレイ		01000000	FRU07	C.BTベル	2	8
ベル	スイカ	BAR		10000000	FRU08	C.スイカKB1.1	1	1
ベル	チェリー	BAR	13	00000001	FRU09	C.スイカKB1.2	1	1
ベル	スイカ	白ブランク2		00000010	FRU10	C.スイカ1.1	2	3
ベル	スイカ	黄ブランク		00000100	FRU11	C.スイカ1.2	2	3
ベル	スイカ	白ブランク1		00001000	FRU12	C.スイカ1.3	2	3
黄ブランク	白ブランク1	赤7		00010000	FRU13	C.右一枚1	1	1
白ブランク2	白ブランク2	スイカ		00100000	FRU14	C.右一枚2	1	1
白ブランク2	白ブランク2	赤7		01000000	FRU15	C.右一枚3	1	1
白ブランク2	黄ブランク	スイカ		10000000	FRU16	C.右一枚4	1	1
白ブランク2	黄ブランク	赤7	14	00000001	FRU17	C.右一枚5	1	1
白ブランク2	BAR	スイカ		00000010	FRU18	C.右一枚6	1	1
黄ブランク	白ブランク1	スイカ		00000100	FRU19	C.右一枚7	1	1
白ブランク2	BAR	赤7		00001000	FRU20	C.右一枚8.1	1	1
BAR	BAR	赤7		00010000	FRU21	C.右一枚8.2	1	1
白ブランク2	白ブランク1	スイカ		00100000	FRU22	C.右一枚9	1	1
BAR	白ブランク2	赤7		01000000	FRU23	C.右一枚10	1	1
赤ブランク	白ブランク2	スイカ		10000000	FRU24	C.右一枚11	1	1

【図１３】

図柄組合せテーブル(その3)

図柄の組合せ			表示役				払出等	
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称	2枚ベット	3枚ベット
白ブランク2	白ブランク1	赤7	15	00000001	FRU25	C.右一枚12	1	1
BAR	白ブランク2	スイカ		00000010	FRU26	C.右一枚13	1	1
BAR	黄ブランク	赤7		00000100	FRU27	C.右一枚14.1	1	1
赤ブランク	黄ブランク	赤7		00001000	FRU28	C.右一枚14.2	1	1
赤ブランク	白ブランク2	赤7		00010000	FRU29	C.右一枚15	1	1
黄ブランク	白ブランク2	スイカ		00100000	FRU30	C.右一枚16	1	1
BAR	BAR	スイカ		01000000	FRU31	C.右一枚17	1	1
赤ブランク	黄ブランク	スイカ		10000000	FRU32	C.右一枚18	1	1
黄ブランク	黄ブランク	スイカ	16	00000001	FRU33	C.右一枚19	1	1
赤ブランク	BAR	赤7		00000010	FRU34	C.右一枚20.1	1	1
赤ブランク	白ブランク1	赤7		00000100	FRU35	C.右一枚20.2	1	1
黄ブランク	黄ブランク	赤7		00001000	FRU36	C.右一枚21.1	1	1
黄ブランク	白ブランク2	赤7		00010000	FRU37	C.右一枚21.2	1	1
BAR	黄ブランク	スイカ		00100000	FRU38	C.右一枚22.1	1	1
BAR	白ブランク1	スイカ		01000000	FRU39	C.右一枚22.2	1	1
赤ブランク	BAR	スイカ		10000000	FRU40	C.右一枚23	1	1
黄ブランク	BAR	スイカ	17	00000001	FRU41	C.右一枚24	1	1
BAR	白ブランク1	赤7		00000010	FRU42	C.右一枚25	1	1
赤ブランク	白ブランク1	スイカ		00000100	FRU43	C.右一枚26	1	1
黄ブランク	BAR	赤7		00001000	FRU44	C.右一枚27	1	1
赤ブランク	赤7	白ブランク1		00010000	FRU45	C.中一枚1	1	1
赤ブランク	赤7	BAR		00100000	FRU46	C.中一枚2	1	1
BAR	赤ブランク	白ブランク2		01000000	FRU47	C.中一枚3	1	1
BAR	赤ブランク	黄ブランク		10000000	FRU48	C.中一枚4	1	1
BAR	赤ブランク	白ブランク1	18	00000001	FRU49	C.中一枚5	1	1
BAR	赤ブランク	BAR		00000010	FRU50	C.中一枚6	1	1
BAR	赤7	黄ブランク		00000100	FRU51	C.中一枚7.1	1	1
BAR	赤7	白ブランク2		00001000	FRU52	C.中一枚7.2	1	1
BAR	赤7	BAR		00010000	FRU53	C.中一枚8.1	1	1
BAR	赤7	白ブランク1		00100000	FRU54	C.中一枚8.2	1	1
黄ブランク	赤7	BAR		01000000	FRU55	C.中一枚9.1	1	1
黄ブランク	赤7	白ブランク1		10000000	FRU56	C.中一枚9.2	1	1
赤ブランク	赤ブランク	黄ブランク	19	00000001	FRU57	C.中一枚10.1	1	1
赤ブランク	赤ブランク	白ブランク2		00000010	FRU58	C.中一枚10.2	1	1
黄ブランク	赤7	黄ブランク		00000100	FRU59	C.中一枚11	1	1
赤ブランク	赤ブランク	白ブランク1		00001000	FRU60	C.中一枚12	1	1
赤ブランク	赤ブランク	BAR		00010000	FRU61	C.中一枚13	1	1
黄ブランク	赤7	白ブランク2		00100000	FRU62	C.中一枚14	1	1
赤ブランク	赤7	白ブランク2		01000000	FRU63	C.中一枚15	1	1
白ブランク2	赤ブランク	白ブランク2		10000000	FRU64	C.中一枚16	1	1
赤ブランク	赤7	黄ブランク	20	00000001	FRU65	C.中一枚17	1	1
白ブランク2	赤ブランク	白ブランク1		00000010	FRU66	C.中一枚18	1	1
白ブランク2	赤ブランク	BAR		00000100	FRU67	C.中一枚19	1	1
白ブランク2	赤7	黄ブランク		00001000	FRU68	C.中一枚20.1	1	1
白ブランク2	赤7	白ブランク2		00010000	FRU69	C.中一枚20.2	1	1
白ブランク2	赤7	白ブランク1		00100000	FRU70	C.中一枚21	1	1
白ブランク2	赤7	BAR		01000000	FRU71	C.中一枚22	1	1
黄ブランク	赤ブランク	白ブランク2		10000000	FRU72	C.中一枚23	1	1
黄ブランク	赤ブランク	BAR	21	00000001	FRU73	C.中一枚24.1	1	1
黄ブランク	赤ブランク	白ブランク1		00000010	FRU74	C.中一枚24.2	1	1
白ブランク2	赤ブランク	黄ブランク		00000100	FRU75	C.中一枚25	1	1
黄ブランク	赤ブランク	黄ブランク		00001000	FRU76	C.中一枚26	1	1
リプレイ	黄ブランク	黄ブランク		00010000	FRU77	C.左一枚1.1	1	1
リプレイ	白ブランク2	黄ブランク		00100000	FRU78	C.左一枚1.2	1	1
リプレイ	黄ブランク	白ブランク1		01000000	FRU79	C.左一枚2.1	1	1
リプレイ	白ブランク2	白ブランク1		10000000	FRU80	C.左一枚2.2	1	1

【図１４】

図柄組合せテーブル(その4)

図柄の組合せ			表示役				払出等	
左リール	中リール	右リール	格納領域	データ	内容	名称	2枚ベット	3枚ベット
リプレイ	黄ブランク	BAR	22	00000001	FRU81	C.左一枚3.1	1	1
リプレイ	白ブランク2	BAR		00000010	FRU82	C.左一枚3.2	1	1
リプレイ	BAR	BAR		00000100	FRU83	C.左一枚4	1	1
リプレイ	BAR	白ブランク2		00001000	FRU84	C.左一枚5.1	1	1
リプレイ	白ブランク1	白ブランク2		00010000	FRU85	C.左一枚5.2	1	1
リプレイ	BAR	黄ブランク		00100000	FRU86	C.左一枚6.1	1	1
リプレイ	白ブランク1	黄ブランク		01000000	FRU87	C.左一枚6.2	1	1
リプレイ	BAR	白ブランク1		10000000	FRU88	C.左一枚7.1	1	1
リプレイ	白ブランク1	白ブランク1	23	00000001	FRU89	C.左一枚7.2	1	1
リプレイ	白ブランク1	BAR		00000010	FRU90	C.左一枚8	1	1
リプレイ	黄ブランク	白ブランク2		00000100	FRU91	C.左一枚9.1	1	1
リプレイ	白ブランク2	白ブランク2		00001000	FRU92	C.左一枚9.2	1	1
ベル	BAR	リプレイ		00010000	FRU93	C.逆ハザミ一枚1.1	1	1
ベル	黄ブランク	リプレイ		00100000	FRU94	C.逆ハザミ一枚1.2	1	1
ベル	白ブランク2	リプレイ		01000000	FRU95	C.逆ハザミ一枚2.1	1	1
ベル	白ブランク1	リプレイ		10000000	FRU96	C.逆ハザミ一枚2.2	1	1
リプレイ	黄ブランク	ベル	24	00000001	FRU97	C.ハザミ一枚1.1	1	1
リプレイ	白ブランク2	ベル		00000010	FRU98	C.ハザミ一枚1.2	1	1
リプレイ	BAR	ベル		00000100	FRU99	C.ハザミ一枚2.1	1	1
リプレイ	白ブランク1	ベル		00001000	FRU100	C.ハザミ一枚2.2	1	1
リプレイ	リプレイ	黄ブランク		00010000	FRU101	C.順一枚1.1	1	1
リプレイ	リプレイ	白ブランク2		00100000	FRU102	C.順一枚1.2	1	1
リプレイ	リプレイ	BAR		01000000	FRU103	C.順一枚2.1	1	1
リプレイ	リプレイ	白ブランク1		10000000	FRU104	C.順一枚2.2	1	1
黄ブランク	ベル	リプレイ	25	00000001	FRU105	C.中右一枚1.1	1	1
白ブランク2	ベル	リプレイ		00000010	FRU106	C.中右一枚1.2	1	1
BAR	ベル	リプレイ		00000100	FRU107	C.中右一枚2.1	1	1
赤ブランク	ベル	リプレイ		00001000	FRU108	C.中右一枚2.2	1	1
ベル	ベル	白ブランク1		00010000	FRU109	C.中左一枚1.1	1	1
ベル	ベル	黄ブランク		00100000	FRU110	C.中左一枚1.2	1	1
ベル	ベル	BAR		01000000	FRU111	C.中左一枚2.1	1	1
ベル	ベル	白ブランク2		10000000	FRU112	C.中左一枚2.2	1	1
白ブランク2	リプレイ	リプレイ	26	00000001	FRU113	C.逆一枚1	1	1
黄ブランク	リプレイ	リプレイ		00000010	FRU114	C.逆一枚2	1	1
赤ブランク	リプレイ	リプレイ		00000100	FRU115	C.逆一枚3	1	1
BAR	リプレイ	リプレイ		00001000	FRU116	C.逆一枚4	1	1
赤7	赤7	赤7		00010000	FRU117	C.RB一枚1	—	1
ベル	赤7	赤7		00100000	FRU118	C.RB一枚2	—	1
ベル	ベル	赤7		01000000	FRU119	C.RB一枚3	—	1
赤	ベル	赤7		10000000	FRU120	C.RB一枚4	—	1

【図１５】

内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係

略称	打順1	打順2	打順3	打順4	打順5	打順6
F_2BB	2枚ベット+当籤ゲームorフラグ間はずれ時に押下位置○で2BB状態移行					
F_3BB	3枚ベット+当籤ゲームorフラグ間はずれ時に押下位置○で3BB状態移行					
F_リプレイA	非フラグ間・2BBフラグ間:平行リプ/3BBフラグ間:右上がりリプ					
F_リプレイB	平行リプ					
F_チェリー	2枚ベット:中段リプ/3枚ベット:押下位置○で下段チェリー表示のチェリーリプ、押下位置×でその他チェリーリプ					
F_確定チェリー	2枚ベット:中段リプ					
	3枚ベット:押下位置○で下段チェリー表示の確定チェリーリプ、押下位置×でその他確定チェリーリプ				3枚ベット:中段リプ	
F_中段チェリー	2枚ベット:中段リプ					
	3枚ベット:押下位置○で中段チェリー表示の中段チェリーリプ、押下位置×でその他中段チェリーリプ				3枚ベット:中段リプ	
F_リーチ目	2枚ベット:中段リプ					
	3枚ベット:リーチ目リプ				3枚ベット:中段リプ	
F_スイカ	押下位置○でスイカ(3枚ベット:3枚、2枚ベット:2枚)、押下位置×でスイカこぼし:1枚					
F_ベル123A1	右下がりベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル123A2	上段ベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル123B1	2枚ベット:上段ベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:上段ベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	上段ベル:8枚	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル123B2	2枚ベット:右下がりベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:右下がりベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	右下がりベル:8枚	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル132A1	(※)	右下がりベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル132A2	(※)	上段ベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル132B1	2枚ベット:右下がりベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:右下がりベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	右下がりベル:8枚	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル132B2	2枚ベット:上段ベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:上段ベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	上段ベル:8枚	(※)	(※)	(※)	(※)
F_ベル213A1 F_ベル213A2	(※)	(※)	中段ベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)	(※)
F_ベル213B1 F_ベル213B2	2枚ベット:中段ベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:中段ベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	(※)	中段ベル:8枚	(※)	(※)	(※)
F_ベル231A1 F_ベル231A2	(※)	(※)	(※)	右上がりベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)	(※)
F_ベル231B1 F_ベル231B2	2枚ベット:右上がりベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:右上がりベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	(※)	(※)	右上がりベル:8枚	(※)	(※)
F_ベル312A1 F_ベル312A2	(※)	(※)	(※)	(※)	小山ベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)	(※)
F_ベル312B1 F_ベル312B2	2枚ベット:小山ベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:小山ベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	(※)	(※)	(※)	小山ベル:8枚	(※)
F_ベル321A1 F_ベル321A2	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	下段ベル(3枚ベット:8枚、2枚ベット:2枚)
F_ベル321B1 F_ベル321B2	2枚ベット:下段ベル:2枚、3枚ベット+3BBフラグ間:下段ベル:8枚					
	3枚ベット+3BBフラグ間以外:					
	(※)	(※)	(※)	(※)	(※)	下段ベル:8枚
F_RB役8枚	ベルのいずれか:8枚					
F_RB役1枚	1枚役のいずれか:1枚					

(※) 押下位置○で当籤している1枚役のいずれか:1枚、押下位置×で取りこぼし:0枚

【図１６】

各リミット処理の概要

名称		概要		
		監視開始	作動	作動結果
		有利区間(演出区間含む)開始時	有利区間ゲーム数カウンタ≧1500	非有利区間移行(有利区間強制終了)
通常リミット処理(ゲーム数)	通常リミット処理(払出数)	有利区間(演出区間含む)開始時	有利区間払出数カウンタ≧2401	非有利区間移行(有利区間強制終了)
特殊リミット処理(ゲーム数)	特殊リミット処理(払出数)	有利区間(演出区間含む)開始時	制御用ゲーム数カウンタ≧1445	・疑似ボーナス中であれば、疑似ボーナス終了後に非有利区間強制終了) ・疑似ボーナス中でなければ、疑似ボーナス移行、当該疑似ボーナス終了後に非有利区間移行(有利区間強制終了)
		有利区間(演出区間含む)開始時	制御用払出数カウンタ≧2126	・疑似ボーナス中であれば、疑似ボーナス終了後に非有利区間強制終了) ・疑似ボーナス中でなければ、疑似ボーナス移行、当該疑似ボーナス終了後に非有利区間移行(有利区間強制終了)
準リミット処理(ゲーム数)		有利区間(演出区間含む)開始時	制御用ゲーム数カウンタ+(1G連ストックカウンタ(*天井短縮ありの場合「1」加算)×55)≧1390	・疑似ボーナス中は、1G連抽籤、天井短縮抽籤が実行されなくなる ・演出区間中は、確定役当籤時に特殊処理が行われる
準リミット処理(払出数)		有利区間(演出区間含む)開始時	制御用払出数カウンタ+(1G連ストックカウンタ(*天井短縮ありの場合「1」加算)×275)≧1851	・疑似ボーナス中は、1G連抽籤、天井短縮抽籤が実行されなくなる ・演出区間中は、確定役当籤時に特殊処理が行われる

【図１７】

当籤フラグ格納領域・入賞作動フラグ格納領域・図柄コード格納領域

格納領域	データ		コンビネーション(左・中・右)			内容
格納領域26	ビット7	0 or 1	赤	ベル	赤7	FRU120
	ビット6	0 or 1	ベル	ベル	赤7	FRU119
	ビット5	0 or 1	ベル	赤7	赤7	FRU118
	ビット4	0 or 1	赤7	赤7	赤7	FRU117
	ビット3	0 or 1	BAR	リプレイ	リプレイ	FRU116
	ビット2	0 or 1	赤ブランク	リプレイ	リプレイ	FRU115
	ビット1	0 or 1	黄ブランク	リプレイ	リプレイ	FRU114
	ビット0	0 or 1	白ブランク2	リプレイ	リプレイ	FRU113
・ ・ ・	・ ・ ・		・ ・ ・			・ ・ ・
格納領域1	ビット7	0	−	−	−	−
	ビット6	0	−	−	−	−
	ビット5	0	−	−	−	−
	ビット4	0	−	−	−	−
	ビット3	0	−	−	−	−
	ビット2	0	−	−	−	−
	ビット1	0 or 1	赤7	スイカ	BAR	BB02
	ビット0	0 or 1	赤7	BAR	BAR	BB01

【図１８】

持越役格納領域

格納領域	データ		内容
持越役格納領域	ビット7	0	未使用
	ビット6	0	未使用
	ビット5	0	未使用
	ビット4	0	未使用
	ビット3	0	未使用
	ビット2	0	未使用
	ビット1	0 or 1	3BB
	ビット0	0 or 1	2BB

【図１９】

遊技状態フラグ格納領域

格納領域	データ		内容
遊技状態フラグ格納領域	ビット7	0	未使用
	ビット6	0	未使用
	ビット5	0	未使用
	ビット4	0	未使用
	ビット3	0	未使用
	ビット2	0	未使用
	ビット1	0 or 1	3BB状態
	ビット0	0 or 1	2BB状態

【図２０】

モードフラグ格納領域

格納領域	データ		内容
モードフラグ格納領域2	ビット7	0	未使用
	ビット6	0	未使用
	ビット5	0	未使用
	ビット4	0	未使用
	ビット3	0 or 1	疑似ボーナス
	ビット2	0 or 1	天国C
	ビット1	0 or 1	天国B
	ビット0	0 or 1	天国A
モードフラグ格納領域1	ビット7	0 or 1	保障
	ビット6	0 or 1	終了B
	ビット5	0 or 1	終了A
	ビット4	0 or 1	チャンス
	ビット3	0 or 1	天国準備
	ビット2	0 or 1	通常B
	ビット1	0 or 1	通常A
	ビット0	0 or 1	スタート

【図２１】

作動ストップボタン格納領域

データ		内容
ビット7	0	未使用
ビット6	0 or 1	右ストップボタン有効
ビット5	0 or 1	中ストップボタン有効
ビット4	0 or 1	左ストップボタン有効
ビット3	0	未使用
ビット2	0 or 1	右ストップボタン操作
ビット1	0 or 1	中ストップボタン操作
ビット0	0 or 1	左ストップボタン操作

※ビット0～2は、「0」で操作なし「1」で操作あり
※ビット4～6は、「0」で無効「1」で有効

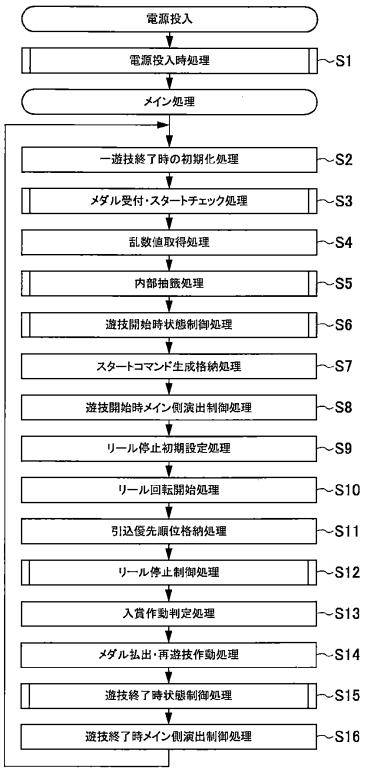
【図２２】

押下順序格納領域

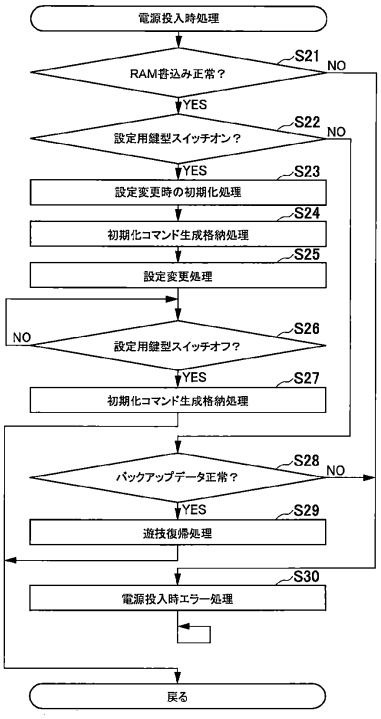
データ		内容
ビット7	0	未使用
ビット6	0	未使用
ビット5	0 or 1	右⇒中⇒左
ビット4	0 or 1	右⇒左⇒中
ビット3	0 or 1	中⇒右⇒左
ビット2	0 or 1	中⇒左⇒右
ビット1	0 or 1	左⇒右⇒中
ビット0	0 or 1	左⇒中⇒右

※ビット0～5は、「0」で無効「1」で有効

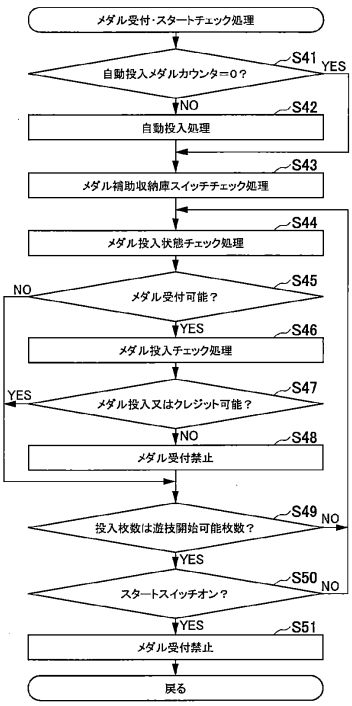
【図２３】



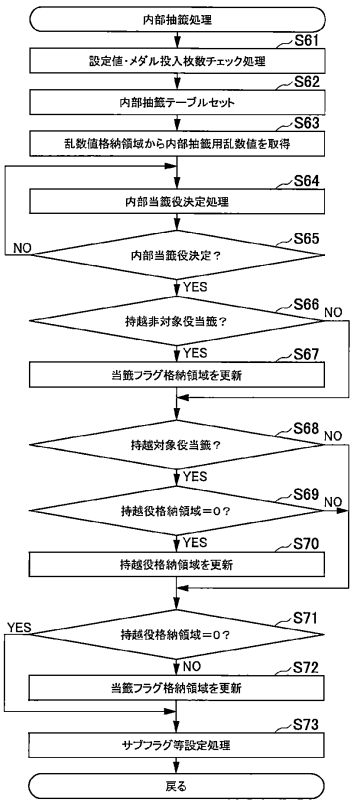
【図２４】



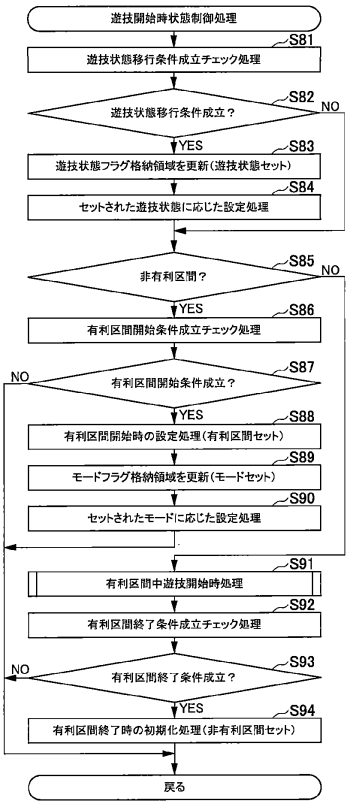
【図２５】



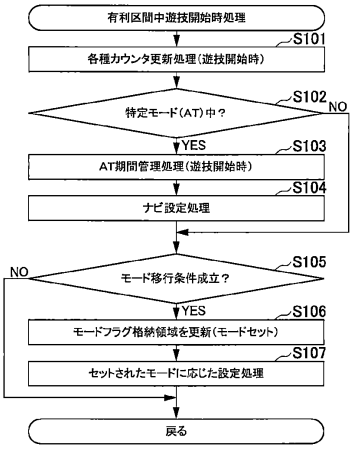
【図２６】



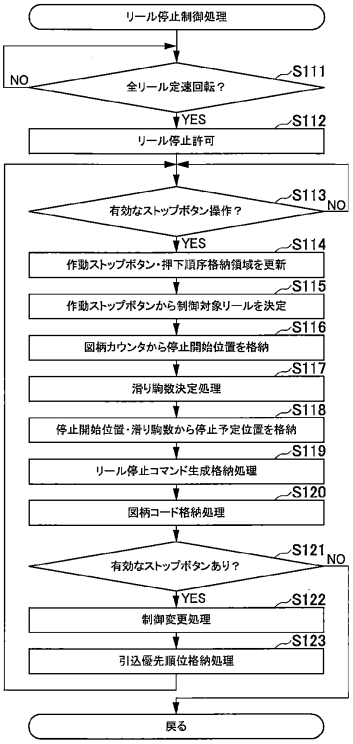
【図２７】



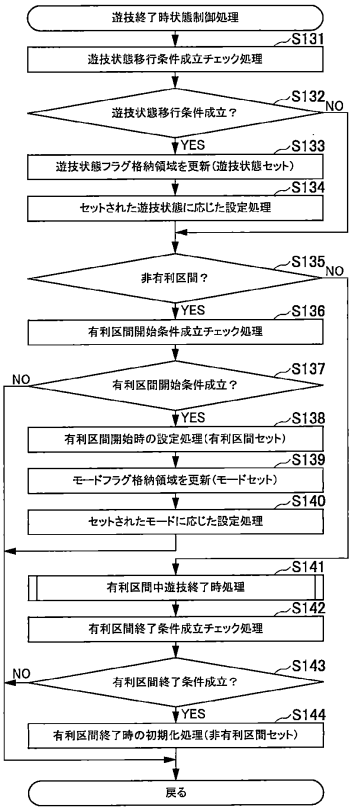
【図２８】



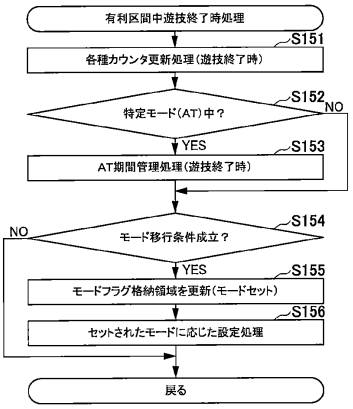
【図２９】



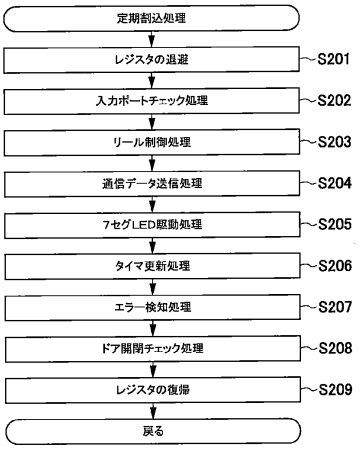
【図３０】



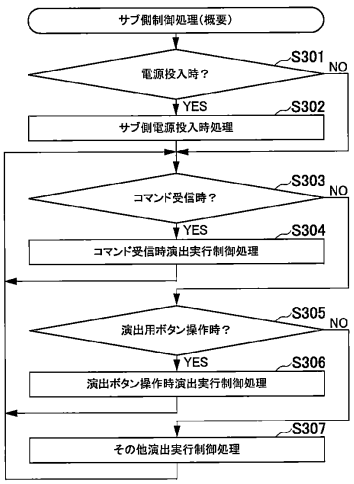
【図３１】



【図３２】

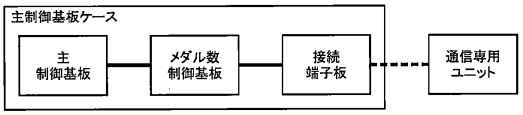


【図３３】

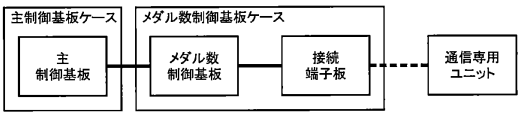


【図３４】

<構成例１>



<構成例２>

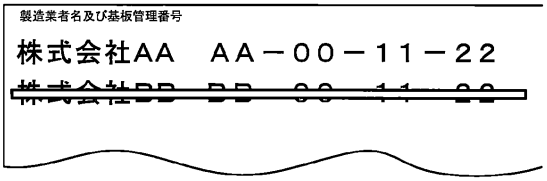


<蓄積データ例>

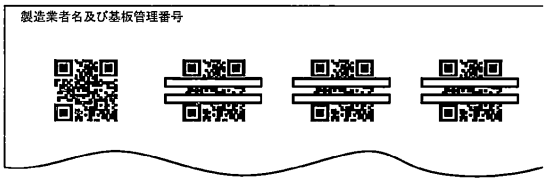
蓄積データ	内容
総投入枚数	電源投入からの累積投入枚数（再遊技は含まない）
総払出枚数	電源投入からの累積払出枚数（再遊技は含まない）
MY	電源投入以降の最大MY
役物総払出枚数	電源投入からの累積払出枚数（全ての役物）
連続役物総払出枚数	電源投入からの累積払出枚数（連続役物）
役物比率	役比モニタの情報
連続役物比率	役比モニタの情報
有利区間比率	役比モニタの情報
指示込役物比率	役比モニタの情報
役物等状態比率	役比モニタの情報
遊技回数	電源投入からの累積遊技回数
主制御チップID番号	主制御基板（チップ）のID番号
主制御チップメーカコード	主制御基板（チップ）のメーカコード
主制御チップ製品コード	主制御基板（チップ）の製品コード
メダル数制御チップID番号	メダル数制御基板（チップ）のID番号（非搭載時は0）
メダル数制御チップメーカコード	メダル数制御基板（チップ）のメーカコード（非搭載時は0）
メダル数制御チップ製品コード	メダル数制御基板（チップ）の製品コード（非搭載時は0）

【図３５】

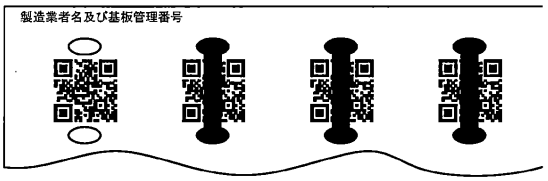
<構成例1>



<構成例2>



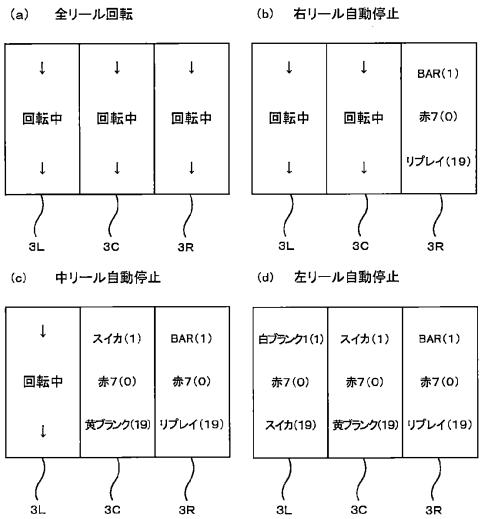
<構成例3>



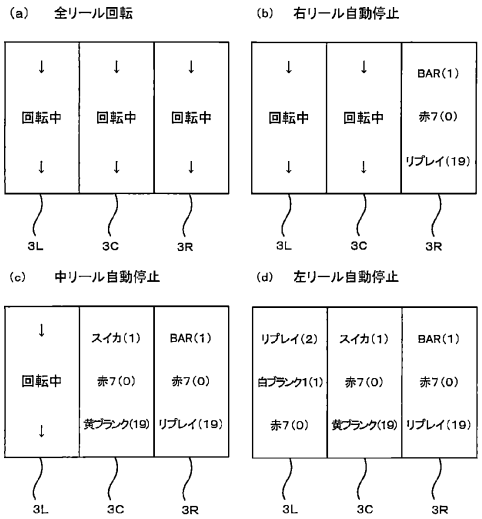
【図３６】

ロック演出番号	演出内容
1	(Ⅰ)リール演出において「赤7」図柄が揃う
2	(Ⅱ)リール演出において「赤7」図柄が揃わない
3	(Ⅲ)疑似遊技において「赤7」図柄が揃う
4	(Ⅳ)疑似遊技において「赤7」図柄が揃わない
5	(Ⅴ)疑似遊技において「赤7」図柄が揃わない→(Ⅰ)リール演出において「赤7」図柄が揃う
6	(Ⅱ)リール演出において「赤7」図柄が揃わない→(Ⅲ)疑似遊技において「赤7」図柄が揃う

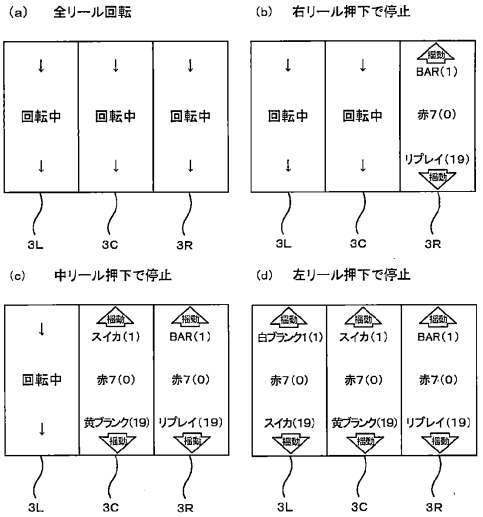
【図３７】



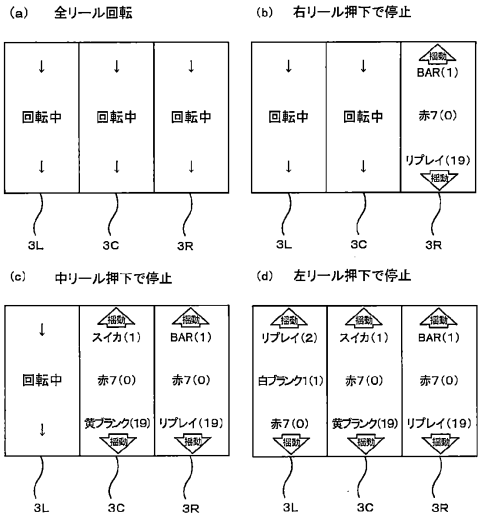
【図３８】



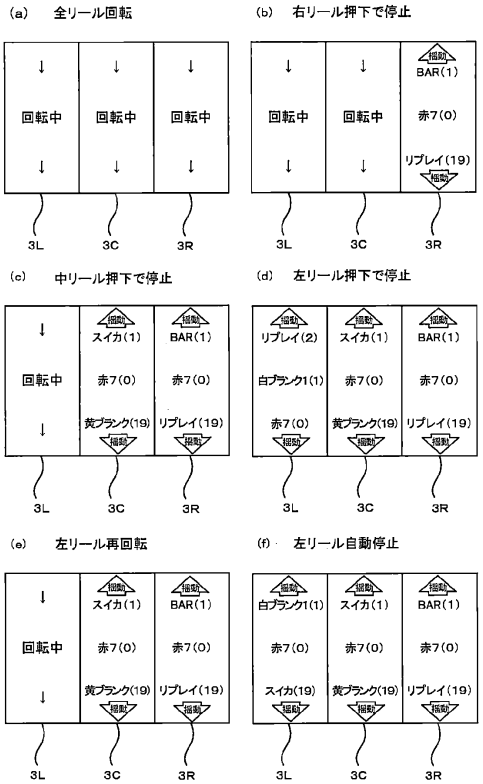
【図３９】



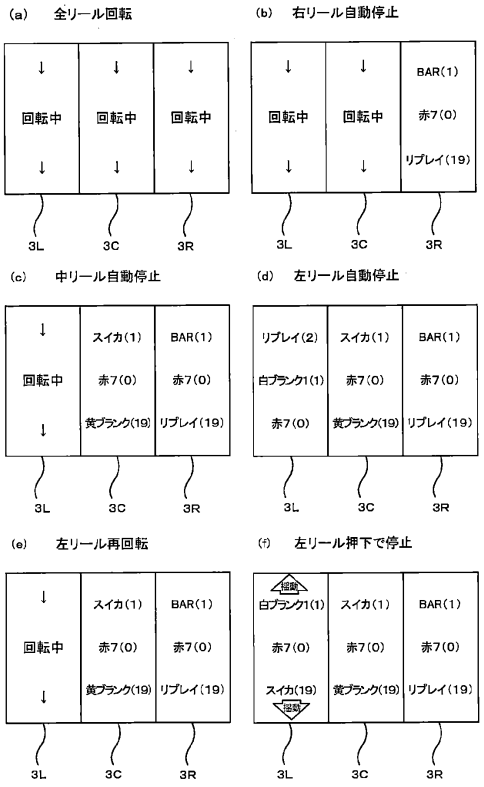
【図４０】



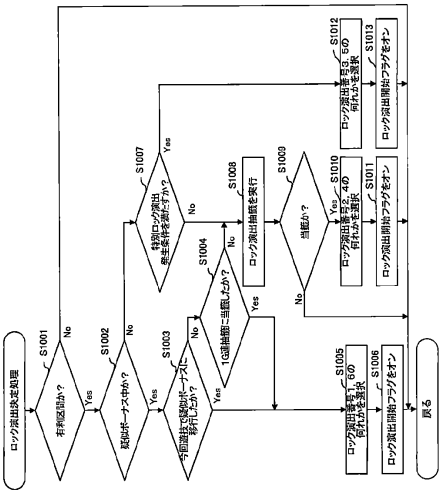
【図４１】



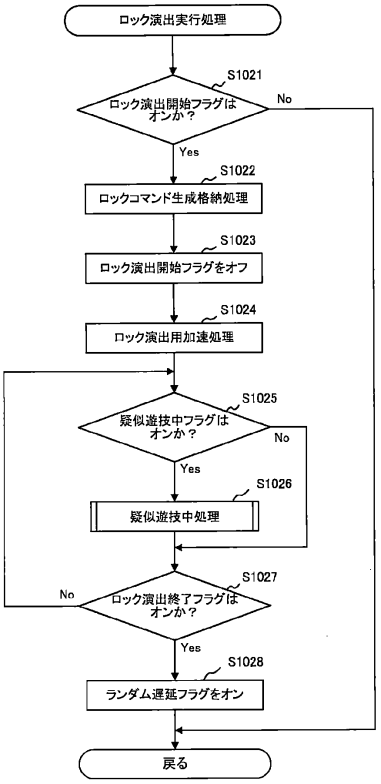
【図４２】



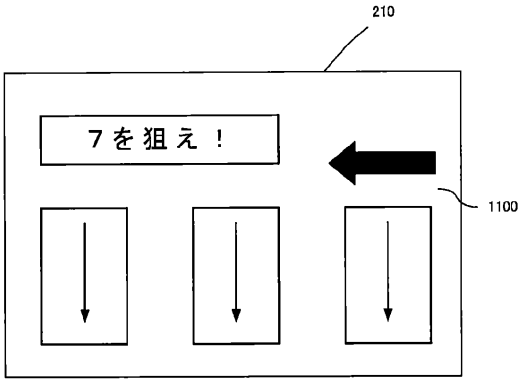
【図４３】



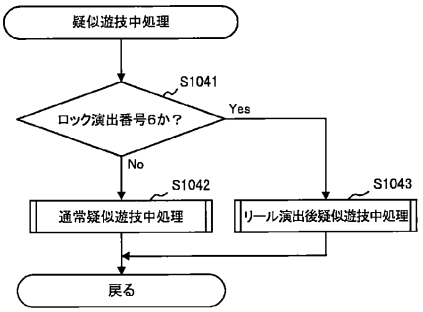
【図４４】



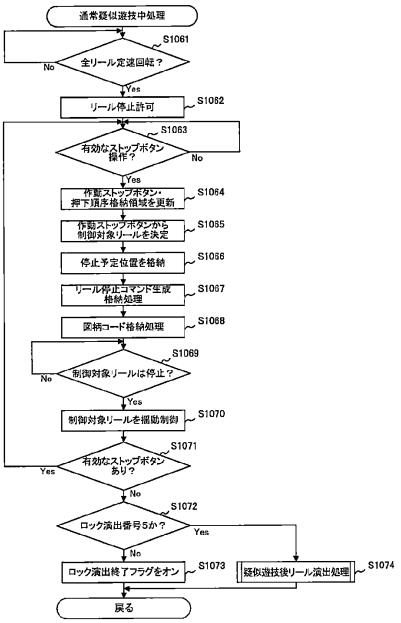
【図４５】



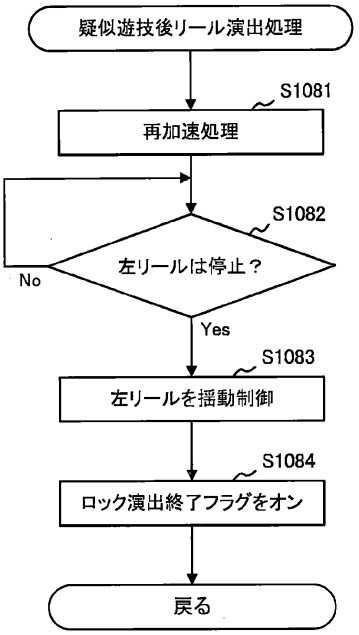
【図４６】



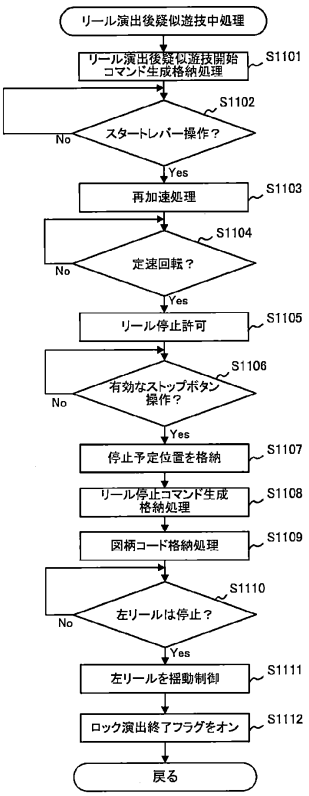
【図４７】



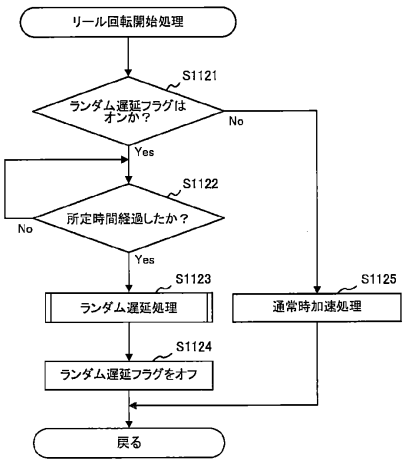
【図４８】



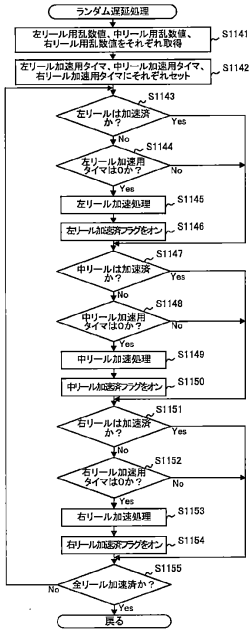
【図４９】



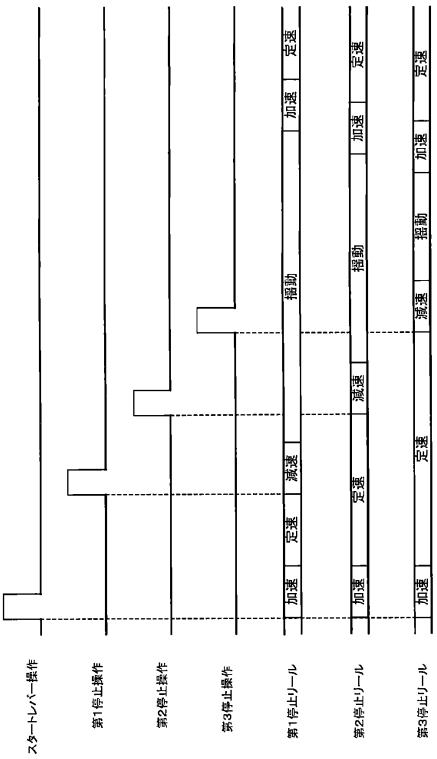
【図５０】



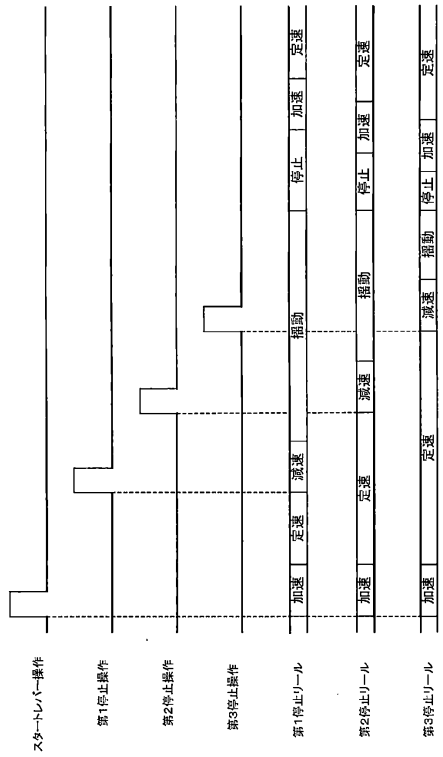
【図５１】



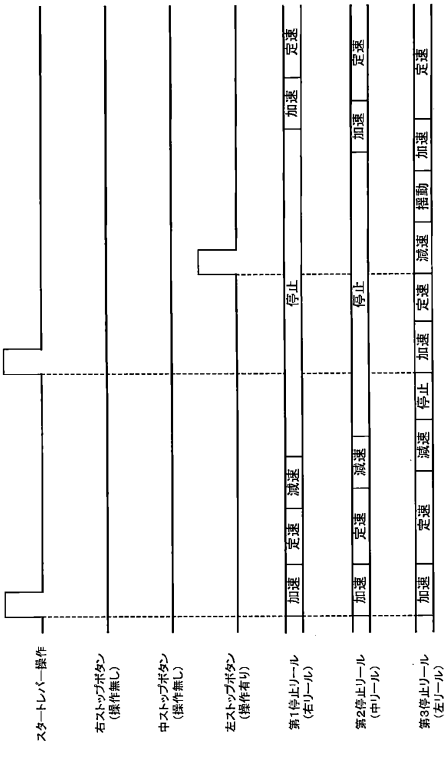
【図５２】



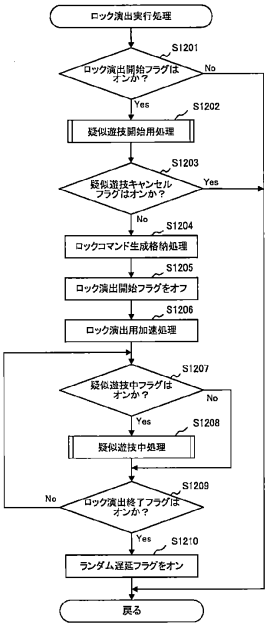
【図５３】



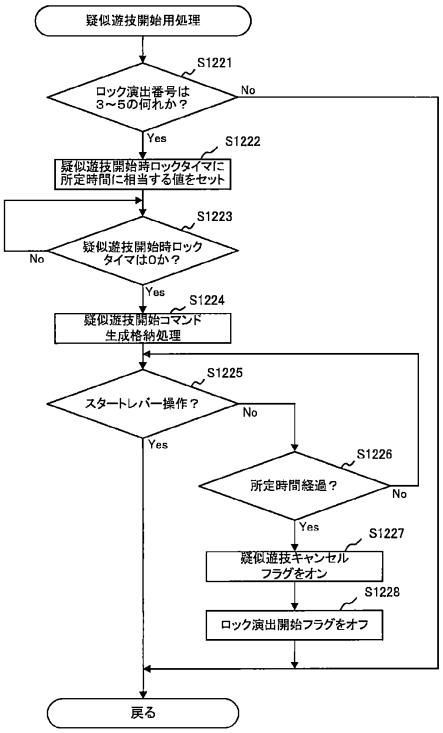
【図５４】



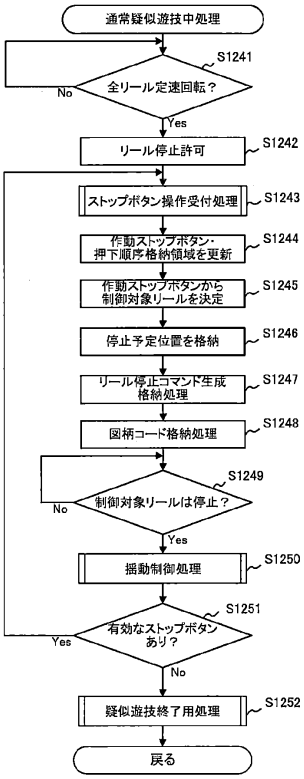
【図５５】



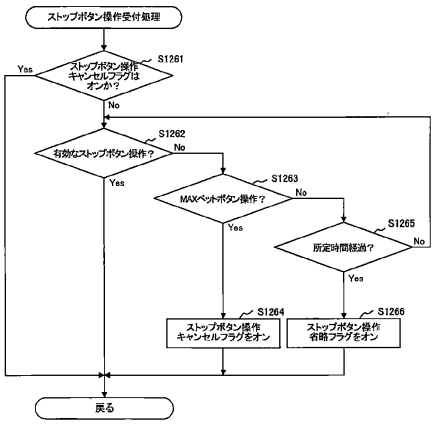
【図５６】



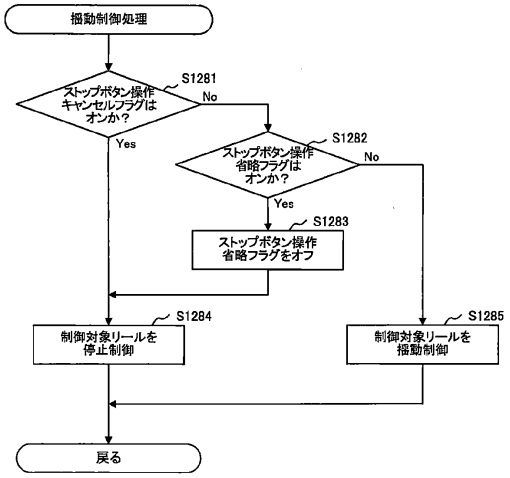
【図５７】



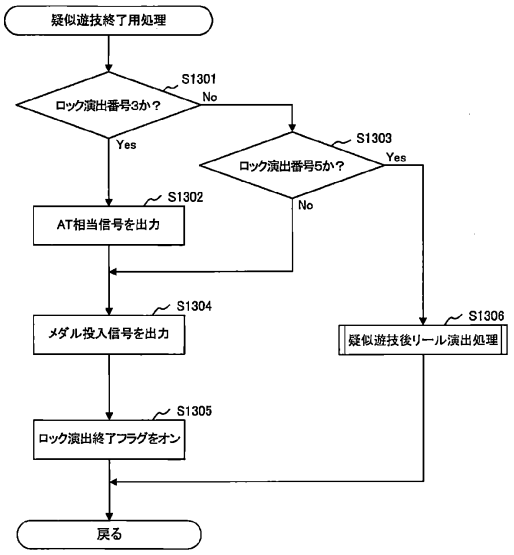
【図５８】



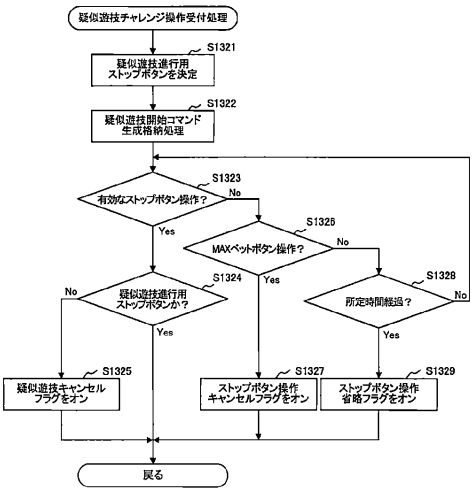
【図５９】



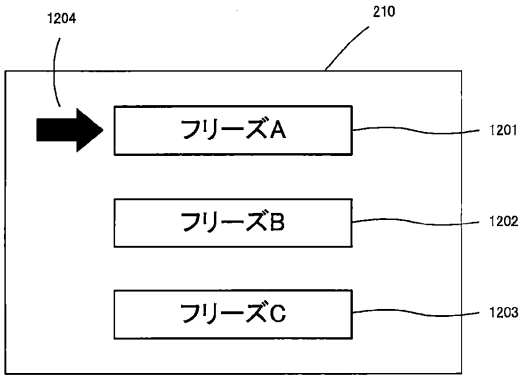
【図６０】



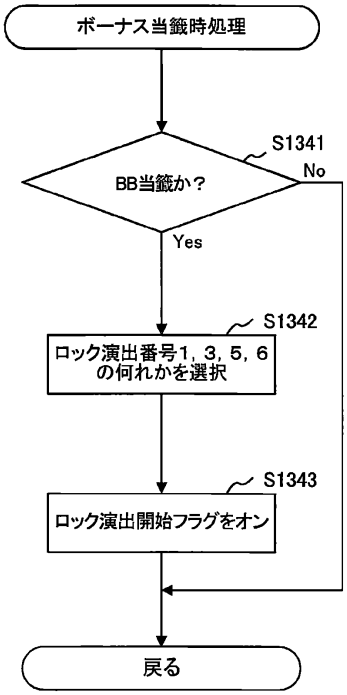
【図６１】



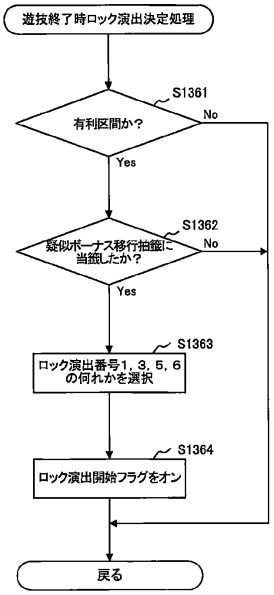
【図６２】



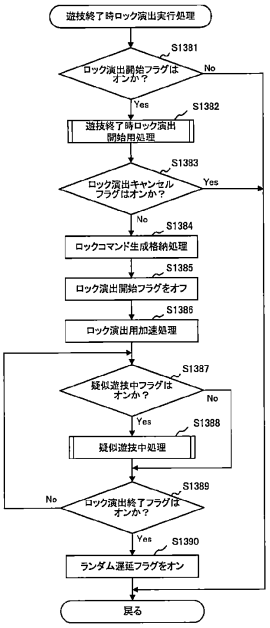
【図６３】



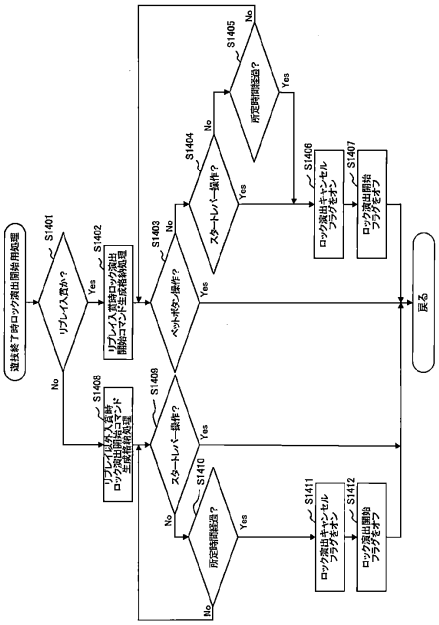
【図６４】



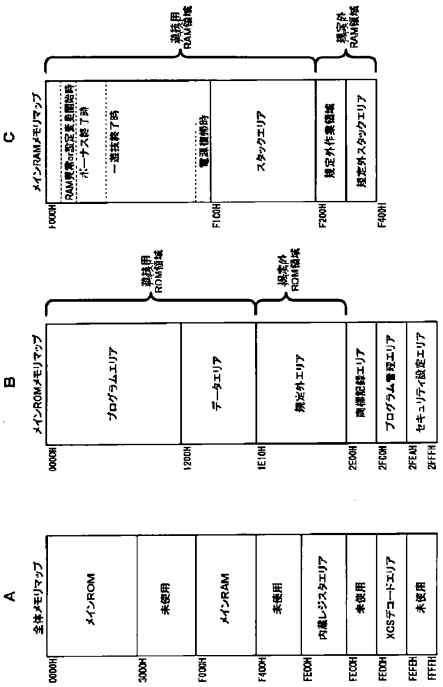
【図６５】



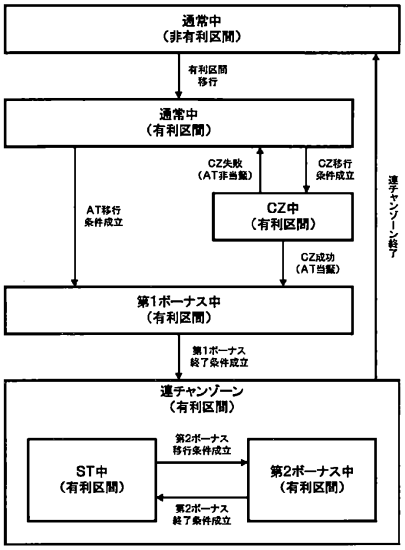
【図６６】



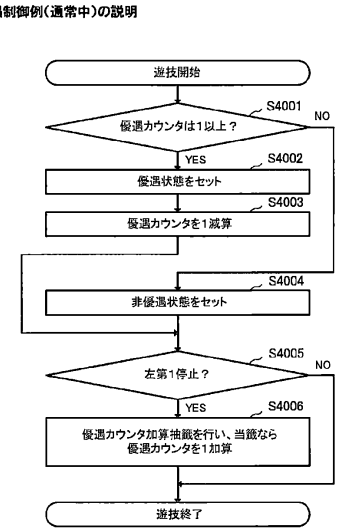
【図６７】



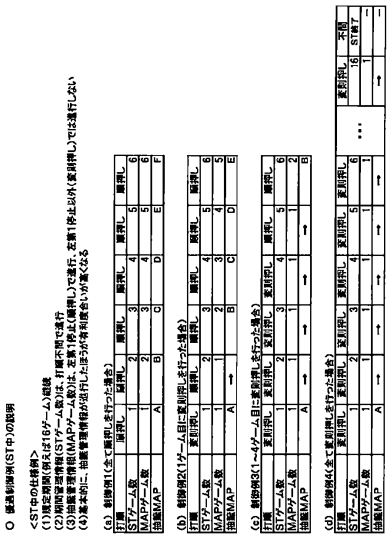
【図６８】



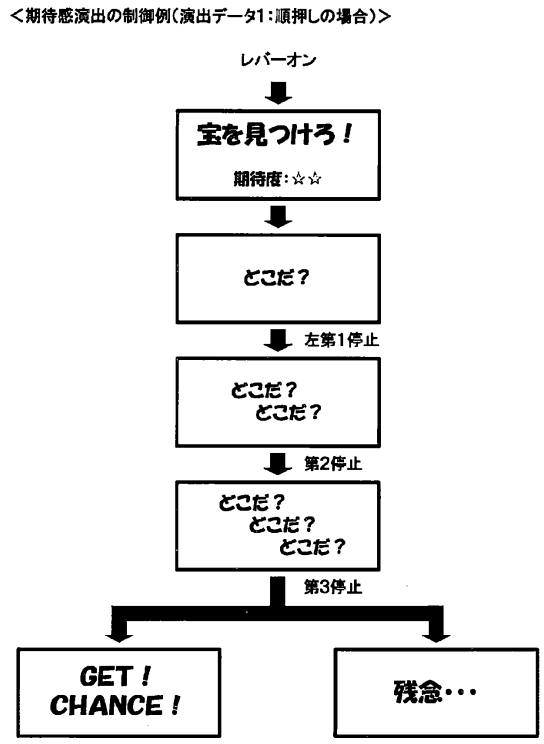
【図６９】



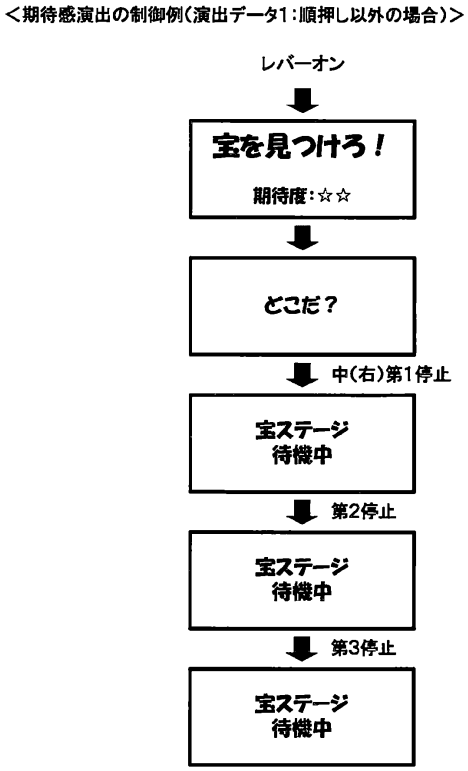
【図７０】



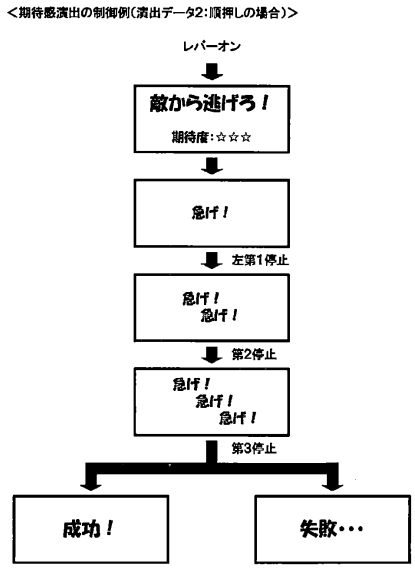
【図７１】



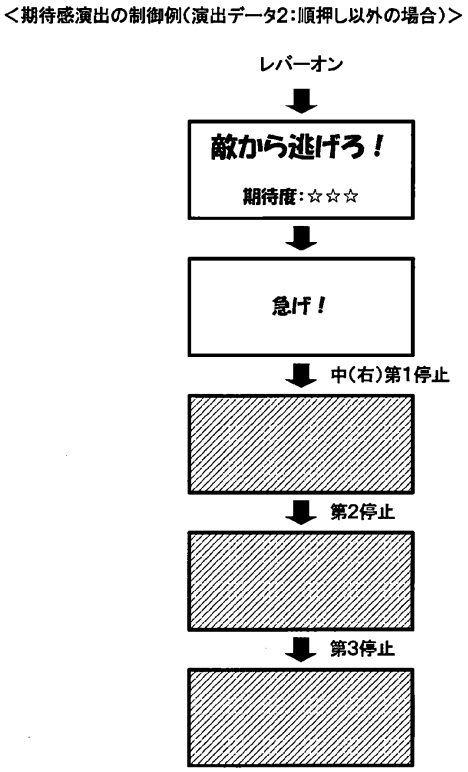
【図７２】



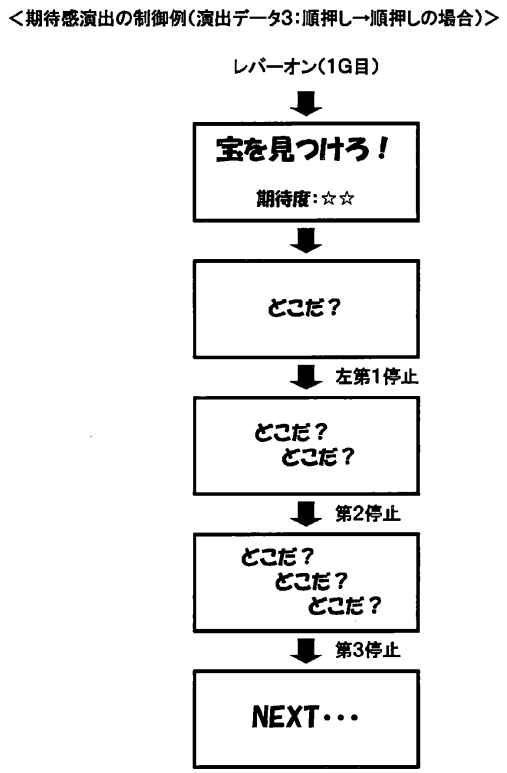
【図７３】



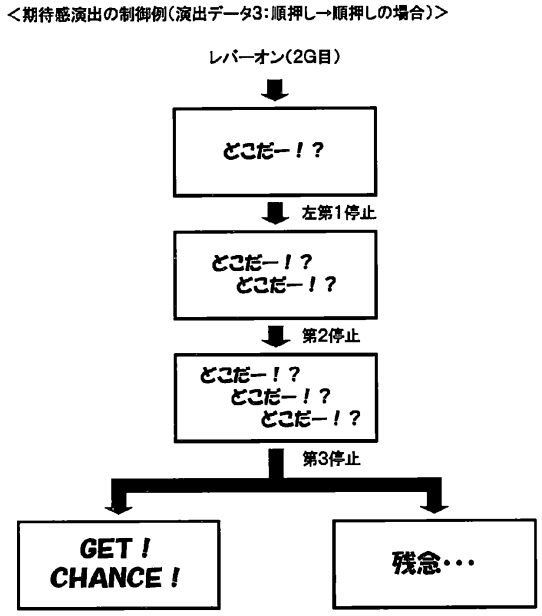
【図７４】



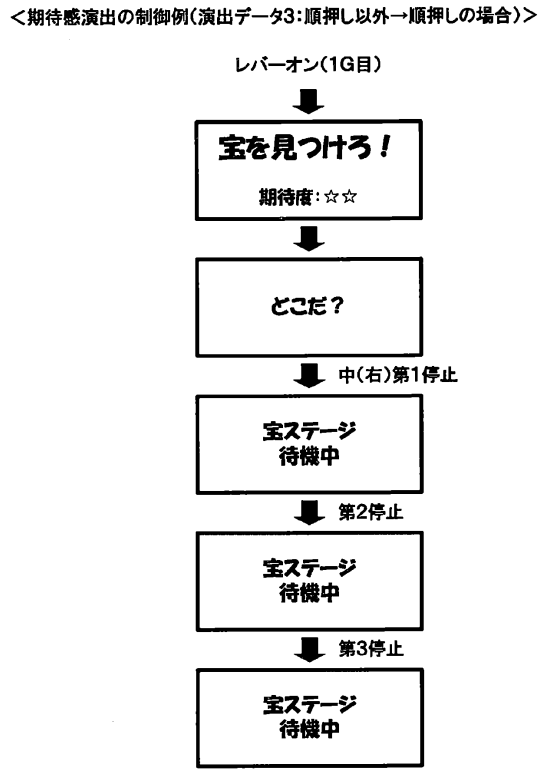
【図７５】



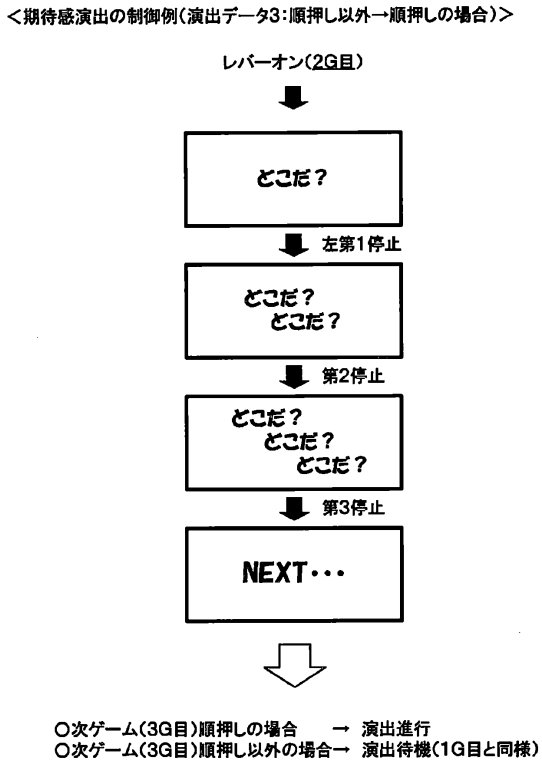
【図７６】



【図７７】



【図７８】



【図７９】

押し順ベルの変動例の説明

<役情報>

内部当選役	抽選値	押順					
		123	132	213	231	312	321
通常リプ	8856	−	−	−	−	−	−
チェリー	200	−	−	−	−	−	−
共通ベル	1000	13枚入賞	13枚入賞	13枚入賞	13枚入賞	13枚入賞	13枚入賞
押し順ベルA 123	3000	13枚入賞	1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルA 132	3000	1枚入賞	13枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルA 213	3000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	13枚入賞	1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルA 231	3000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1枚入賞	13枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルA 312	3000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	13枚入賞	1枚入賞
押し順ベルA 321	3000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1枚入賞	13枚入賞
押し順ベルB 213	4000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	13枚入賞	1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルB 231	4000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1枚入賞	13枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
押し順ベルB 312	4000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	13枚入賞	1枚入賞
押し順ベルB 321	4000	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1枚入賞	13枚入賞
2択1枚役A	4500	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
2択1枚役B	4500	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞	1/2で1枚入賞
共通1枚役A	5400	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞
共通1枚役B	200	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞	1枚入賞
スイカ	200	5枚入賞	5枚入賞	5枚入賞	5枚入賞	5枚入賞	5枚入賞
総抽選行値(全役)	65536	11812	11812	2716	2716	2716	2716

<内部当選情報・指示情報の設定番号(通常情報制御例(その1))>

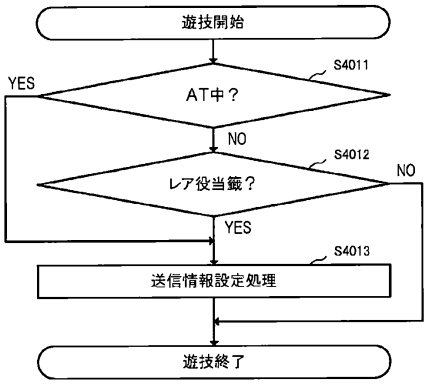
内部当選役	AT状態(有利区間)					
	番号1		番号2		番号3	
	内部当選情報	指示情報	内部当選情報	指示情報	内部当選情報	指示情報
通常リプ	1	99	1	0	97	99
チェリー	2		2	0	2	0
共通ベル	99		3	0	97	99
押し順ベルA 123			80	0		
押し順ベルA 132				0		
押し順ベルA 213				0		
押し順ベルA 231				0		
押し順ベルA 312				0		
押し順ベルA 321				0		
押し順ベルB 213	98		98	99		
押し順ベルB 231						
押し順ベルB 312						
押し順ベルB 321						
2択1枚役A						
2択1枚役B						
共通1枚役A	16		16	0		
共通1枚役B	17		17	0	17	0
スイカ	18		18	0	18	0

<内部当選情報・指示情報の設定番号(通常情報制御例(その1))>

内部当選役	AT状態(有利区間)					
	番号1		番号2		番号3	
	内部当選情報	指示情報	内部当選情報	指示情報	内部当選情報	指示情報
通常リプ	1	0	1	0	2	0
チェリー	2	0	2	0	2	0
共通ベル	3	0	3	0	3	0
押し順ベルA 123	80	1	80	10	80	0
押し順ベルA 132		2				0
押し順ベルA 213		3		20		0
押し順ベルA 231		4				0
押し順ベルA 312		5		30		0
押し順ベルA 321		6				0
押し順ベルB 213	81	3	81	40	98	99
押し順ベルB 231		4				
押し順ベルB 312		5				
押し順ベルB 321		6				
2択1枚役A	82	0	82	0		
2択1枚役B		0		0		
共通1枚役A	16	0	16	0	16	0
共通1枚役B	17	0	17	0	17	0
スイカ	18	0	18	0	18	0

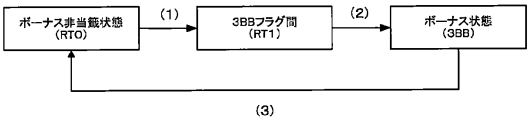
【図８０】

○ 送信情報制御例(その2)の説明



【図８１】

(a) 遊技状態のフロー



(b) 遊技状態の移行条件

移行条件	内容
(1)	3BBが内部当籤
(2)	3BBが入賞
(3)	55枚を超える払い出し

【図８２】

(a) 図柄配置テーブル

左リール		中リール		右リール	
図柄位置	図柄	図柄位置	図柄	図柄位置	図柄
0	スイカ	0	スイカ	0	バー
19	セブン	19	リプB	19	ブランク
18	チェリー	18	チェリー	18	ベルA
17	ベルA	17	ベルA	17	スイカ
16	リプA	16	リプA	16	リプB
15	ブイ	15	スイカ	15	チェリー
14	ブイ	14	ブイ	14	ブイ
13	ブイ	13	チェリー	13	ベルA
12	ベルA	12	ベルA	12	スイカ
11	リプA	11	リプA	11	リプB
10	ブランク	10	バー	10	チェリー
9	チェリー	9	チェリー	9	ブランク
8	スイカ	8	バー	8	ベルB
7	ベルB	7	ベルB	7	スイカ
6	バー	6	リプA	6	リプA
5	リプA	5	スイカ	5	チェリー
4	セブン	4	セブン	4	セブン
3	スイカ	3	チェリー	3	ベルB
2	ベルA	2	ベルB	2	スイカ
1	リプB	1	リプA	1	リプA

(b) 図柄コード表(メインリール)

図柄コード	内容	
	図柄	データ
1	ブイ	00000001
2	セブン	00000010
3	バー	00000011
4	スイカ	00000100
5	チェリー	00000101
6	ベルA	00000110
7	ベルB	00000111
8	リプA	00001000
9	リプB	00001001
10	ブランク	00001010

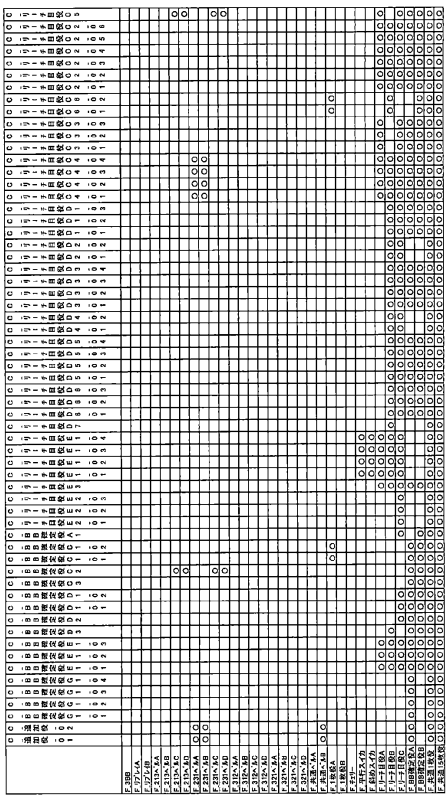
【図８３】

特殊型電磁弁データ		コンビネーション			名称	属性	1枚目付時の処理	2枚目付時の処理	3枚目付時の処理
6	7								
	6								
	5								
	4								
	3								
	2								
	1								
	0	ブイ	リブB	ブイ	C,3BB	BB	–	–	0
1	7	ブイ	リブA	バー・チェリー	C,HL07B,01" 02	REP	–	–	0
	6	ベルB	リブA	バー・チェリー	C,HL07A,01" 02	REP	–	–	0
	5	バー・ベルA	リブA	バー・チェリー	C,中段27A,01" 04	REP	–	–	0
	4	ベルB	ベルB・ベルA・スイカ	リブA・リブB	C,下段27A,01" 06	REP	–	–	0
	3	ベルB	リブA	セブン・ブイ・ブランク	C,CU27,01" 01	REP	–	–	0
	2	リブB	バー・スイカ	セブン・ブイ・ブランク	C,上段27B,01" 05	REP	–	–	0
	1	リブA	スイカ	セブン・ブイ・ブランク	C,上段27A,01" 03	REP	–	–	0
	0	リブA・リブB	リブA	リブA・リブB	C,CD27,01" 04	REP	–	–	0
2	7	セブン・ブイ・チェリー	ベルB・ベルA	ベルA	C,321×"AB,01" 06	FRU	–	–	15
	6	セブン・ブイ・チェリー	ベルB・ベルA	ベルB	C,321×"AA,01" 09	FRU	–	–	15
	5	セブン・ブイ・チェリー	バー・チェリー	ベルA	C,312×"AB,01" 06	FRU	–	–	15
	4	セブン・ブイ・チェリー	バー・チェリー	ベルB	C,312×"AA,01" 09	FRU	–	–	15
	3	バー・リブA・リブB	ベルA	リブA・リブB	C,231×"AB,01" 06	FRU	–	–	15
	2	バー・リブA・リブB	ベルB	リブA・リブB	C,231×"AA,01" 06	FRU	–	–	15
	1	セブン・ブイ・チェリー	ベルA	スイカ	C,213×"AA,01" 03	FRU	–	–	15
	0	セブン・ブイ・チェリー	ベルA	スイカ	C,213×"AB,01" 03	FRU	–	–	15
3	7	ベルA	スイカ	スイカ	C,共通スイカ01	FRU	–	–	3
	6	スイカ	セブン・ブイ・リブB	バー・チェリー	C,平均スイカ,01" 06	FRU	–	–	3
	5	ベルB・ベルA	ベルB・ベルA	ベルB・ベルA	C,共通"AB,01" 08	FRU	–	–	3
	4	スイカ	ベルB・ベルA	スイカ	C,共通"AA,01" 02	FRU	–	–	3
	3	セブン・ブイ・チェリー	ベルA	リブB	C,変形"AB,01" 03	FRU	–	–	15
	2	セブン・ブイ・チェリー	ベルA	リブA	C,変形"AB(A),01" 03	FRU	–	–	15
	1	セブン・ブイ・チェリー	ベルB	リブB	C,変形"AA,01" 03	FRU	–	–	15
	0	セブン・ブイ・チェリー	ベルB	リブA	C,変形"AA(A),01" 03	FRU	–	–	15
4	7	チェリー	バー・チェリー	チェリー	C,ﾁｪﾘｰC,01" 02	FRU	–	–	1
	6	チェリー	バー・チェリー	バー	C,ﾁｪﾘｰB,01" 02	FRU	–	–	1
	5	ブイ	バー・チェリー	バー・チェリー	C,ﾁｪﾘｰA,01" 04	FRU	–	–	1
	4	スイカ	バー	バー・チェリー	C,スイカ共通段1,01" 02	FRU	–	–	1
	3	ベルA	チェリー	バー・スイカ	C,共通スイカ拡張,01" 02	FRU	–	–	1
	2	スイカ	チェリー	スイカ	C,SLスイカ制御段	FRU	–	–	1
	1	スイカ	スイカ	スイカ	C,斜めスイカ	FRU	–	–	3
	0	リブB	スイカ	リブA・リブB	C,共通スイカ2,01" 02	FRU	–	–	3
5	7	ベルA	ベルA	バー・スイカ	C,制御段B3,01" 02	FRU	–	–	1
	6	ベルA	チェリー	リブA・リブB	C,制御段B2,01" 02	FRU	–	–	1
	5	ベルA	バー	リブA・リブB	C,制御段B1,01" 02	FRU	–	–	1
	4	ベルB	ベルB・ベルA	バー	C,制御段A4,01" 02	FRU	–	–	1
	3	ベルB	ベルB・ベルA	スイカ	C,制御段A3,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	チェリー	リブA・リブB	C,制御段A2,01" 02	FRU	–	–	1
	1	ベルB	バー	リブA・リブB	C,制御段A1,01" 02	FRU	–	–	1
	0	ベルB	チェリー	バー・チェリー	C,ﾁｪﾘｰD,01" 02	FRU	–	–	1
6	7	バー	ベルB	バー・チェリー	C,制御段D5,01" 02	FRU	–	–	1
	6	バー	チェリー	リブA・リブB	C,制御段D4,01" 02	FRU	–	–	1
	5	バー	リブA	リブA・リブB	C,制御段D3,01" 02	FRU	–	–	1
	4	バー	バー	リブA・リブB	C,制御段D2,01" 02	FRU	–	–	1
	3	ベルA	ベルB・ベルA	バー	C,制御段A4,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	ベルB・ベルA	スイカ	C,制御段A3,01" 02	FRU	–	–	1
	1	ベルB	チェリー	リブA・リブB	C,制御段A2,01" 02	FRU	–	–	1
	0	ベルB	バー	リブA・リブB	C,制御段A1,01" 02	FRU	–	–	1
7	7	バー	ベルB	バー・チェリー	C,制御段D5,01" 02	FRU	–	–	1
	6	バー	チェリー	リブA・リブB	C,制御段D4,01" 02	FRU	–	–	1
	5	バー	リブA	リブA・リブB	C,制御段D3,01" 02	FRU	–	–	1
	4	バー	バー	リブA・リブB	C,制御段D2,01" 02	FRU	–	–	1
	3	ベルA	ベルB・ベルA	バー	C,制御段A4,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	ベルB・ベルA	スイカ	C,制御段A3,01" 02	FRU	–	–	1
	1	ベルB	チェリー	リブA・リブB	C,制御段A2,01" 02	FRU	–	–	1
	0	ベルB	バー	リブA・リブB	C,制御段A1,01" 02	FRU	–	–	1
8	7	バー	ベルB	バー・チェリー	C,制御段D5,01" 02	FRU	–	–	1
	6	バー	チェリー	リブA・リブB	C,制御段D4,01" 02	FRU	–	–	1
	5	バー	バー	リブA・リブB	C,制御段D3,01" 02	FRU	–	–	1
	4	バー	リブB	リブA・リブB	C,制御段D2,01" 02	FRU	–	–	1
	3	ベルA	ベルB・ベルA	バー	C,制御段A4,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	ベルB・ベルA	スイカ	C,制御段A3,01" 02	FRU	–	–	1
	1	ベルB	チェリー	リブA・リブB	C,制御段A2,01" 02	FRU	–	–	1
	0	ベルB	バー	リブA・リブB	C,制御段A1,01" 02	FRU	–	–	1

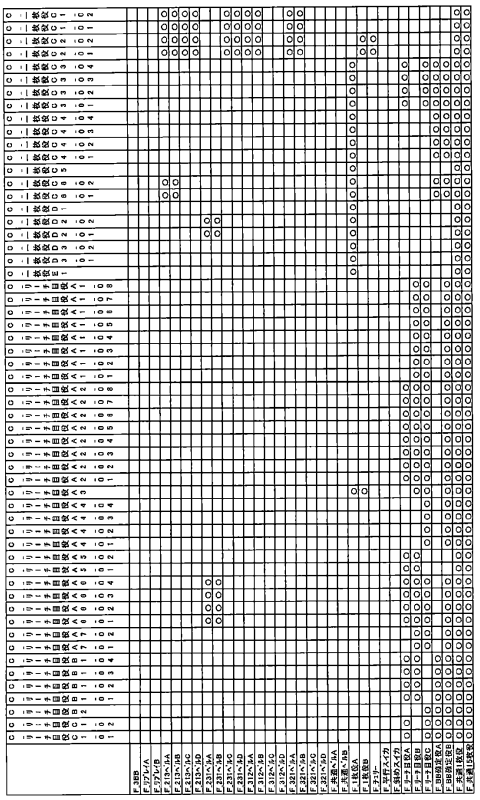
【図８４】

特殊型電磁弁データ		コンビネーション			名称	属性	1枚目付時の処理	2枚目付時の処理	3枚目付時の処理
7	7	リブA・リブB	ベルB	バー・チェリー	C,中段一枚A,01" 04	FRU	–	–	1
	6	リブA	リブB	ベルB・ベルA	C,中段一枚C2,01" 02	FRU	–	–	1
	5	リブA	リブA	ベルB・ベルA	C,中段一枚C1,01" 02	FRU	–	–	1
	4	リブB	ベルA	ベルB・ベルA	C,共通段C4,01" 02	FRU	–	–	1
	3	リブB	ベルB	ベルB・ベルA	C,共通段C3,01" 02	FRU	–	–	1
	2	リブB	リブA	ベルB・ベルA	C,共通段C2,01" 02	FRU	–	–	1
	1	リブB	リブA	バー・チェリー	C,共通段C1,01" 02	FRU	–	–	1
	0	バー	ベルA	バー・チェリー	C,共通段C5,01" 02	FRU	–	–	1
8	7	スイカ	ベルA	リブA	C,一枚目C5	FRU	–	–	1
	6	スイカ	リブB	ベルB・ベルA	C,一枚目C4,01" 04	FRU	–	–	1
	5	スイカ	セブン	ベルB・ベルA・リブB	C,一枚目C3,01" 04	FRU	–	–	1
	4	スイカ	リブA	ベルB・ベルA	C,一枚目C2,01" 02	FRU	–	–	1
	3	スイカ	リブA	ブイ・チェリー	C,一枚目C1,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	チェリー	スイカ	C,一枚目A2	FRU	–	–	1
	1	ベルB	セブン・ブイ・リブB	リブA・リブB	C,一枚目A1,01" 08	FRU	–	–	1
	0	リブA・リブB	ベルA	バー・チェリー	C,中段一枚B,01" 04	FRU	–	–	1
9	7	ベルB	リブA	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段A3	FRU	–	–	1
	6	ベルB	セブン・ブイ・バー・スイカ	セブン・ブイ	C,5ｰﾅﾅ目段A2,01" 04	FRU	–	–	1
	5	ベルB	セブン・ブイ・バー・スイカ	ベルB・ベルA	C,5ｰﾅﾅ目段A1,01" 04	FRU	–	–	1
	4	リブB	リブA	スイカ	C,一枚目E1	FRU	–	–	1
	3	バー	セブン	リブA・リブB	C,一枚目D3,01" 02	FRU	–	–	1
	2	バー	スイカ	リブA・リブB	C,一枚目D2,01" 02	FRU	–	–	1
	1	バー	リブA	スイカ	C,一枚目D1	FRU	–	–	1
	0	スイカ	チェリー	ベルB・ベルA	C,一枚目C3,01" 02	FRU	–	–	1
10	7	スイカ	リブA	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段C5	FRU	–	–	1
	6	スイカ	セブン・ブイ	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段C4,01" 02	FRU	–	–	1
	5	ベルA	リブA	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段C3	FRU	–	–	1
	4	ベルA	ベルB・ベルA	リブA・リブB	C,5ｰﾅﾅ目段B1,01" 04	FRU	–	–	1
	3	ベルB	チェリー	ベルB・ベルA	C,5ｰﾅﾅ目段A7,01" 02	FRU	–	–	1
	2	ベルB	セブン・ブイ・バー・スイカ	ブランク	C,5ｰﾅﾅ目段A5,01" 04	FRU	–	–	1
	1	ベルB	リブA	ベルB・ベルA	C,5ｰﾅﾅ目段A6,01" 02	FRU	–	–	1
	0	ベルB	セブン・ブイ・バー・スイカ	バー	C,5ｰﾅﾅ目段A4,01" 04	FRU	–	–	1
11	7	バー	セブン・チェリー	ベルA	C,5ｰﾅﾅ目段C4,01" 02	FRU	–	–	1
	6	バー	バー・スイカ	バー・チェリー	C,5ｰﾅﾅ目段C3,01" 04	FRU	–	–	1
	5	バー	リブA	リブA・リブB	C,5ｰﾅﾅ目段C2,01" 02	FRU	–	–	1
	4	バー	ブイ・チェリー・スイカ	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段C1,01" 03	FRU	–	–	1
	3	スイカ	チェリー・スイカ	セブン・ブイ	C,5ｰﾅﾅ目段C1,01" 04	FRU	–	–	1
	2	スイカ	ブイ・バー・スイカ	ベルA	C,5ｰﾅﾅ目段C3,01" 03	FRU	–	–	1
	1	スイカ	バー・スイカ	リブB	C,5ｰﾅﾅ目段C4,01" 02	FRU	–	–	1
	0	スイカ	ベルB・ベルA・スイカ	バー・チェリー	C,5ｰﾅﾅ目段C2,01" 03	FRU	–	–	1
12	7	スイカ	チェリー	リブA・リブB	C,88特定段C1,01" 02	FRU	–	–	1
	6	ベルB	チェリー	ブランク	C,88特定段A1	FRU	–	–	1
	5	リブB	リブA	セブン・ブイ・ブランク	C,5ｰﾅﾅ目段E2,01" 03	FRU	–	–	1
	4	リブB	スイカ	スイカ	C,5ｰﾅﾅ目段E3	FRU	–	–	1
	3	リブB	セブン・チェリー	リブA・リブB	C,5ｰﾅﾅ目段E1,01" 04	FRU	–	–	1
	2	バー	スイカ	ブイ	C,5ｰﾅﾅ目段D7	FRU	–	–	1
	1	バー	チェリー	セブン・ブイ・バー	C,5ｰﾅﾅ目段D6,01" 03	FRU	–	–	1
	0	バー	セブン	セブン・ブイ・バー・チェリー	C,5ｰﾅﾅ目段D5,01" 04	FRU	–	–	1
13	7	ブランク	ベルB・ベルA	スイカ	C,追加段,01" 02	FRU	–	–	1
	6	ブイ	セブン・ブイ・バー・リブB	スイカ	C,88特定段G1,01" 04	FRU	–	–	1
	5	リブB	セブン・ブイ・バー	スイカ	C,88特定段F1,01" 03	FRU	–	–	1
	4	バー	スイカ	セブン	C,88特定段G3	FRU	–	–	1
	3	バー	セブン	スイカ	C,88特定段G2	FRU	–	–	1
	2	バー	ブイ	ベルB・ベルA	C,88特定段F1,01" 02	FRU	–	–	1
	1	スイカ	リブA	リブA	C,88特定段G3	FRU	–	–	1
	0	スイカ	リブB	スイカ	C,88特定段G2	FRU	–	–	1

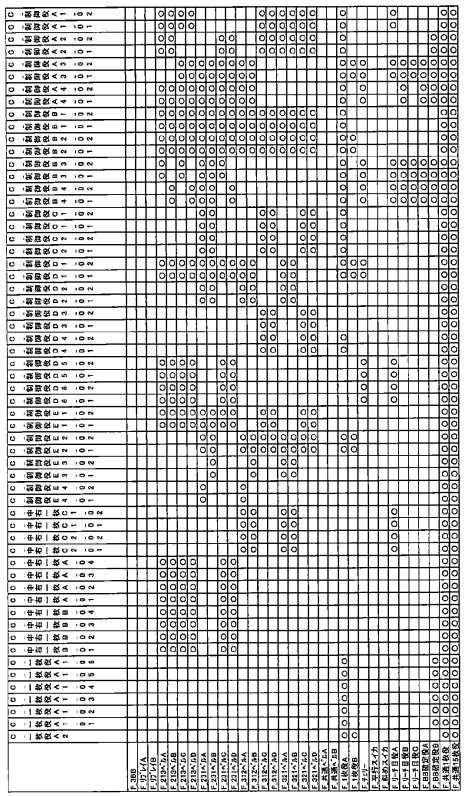
【図８５】



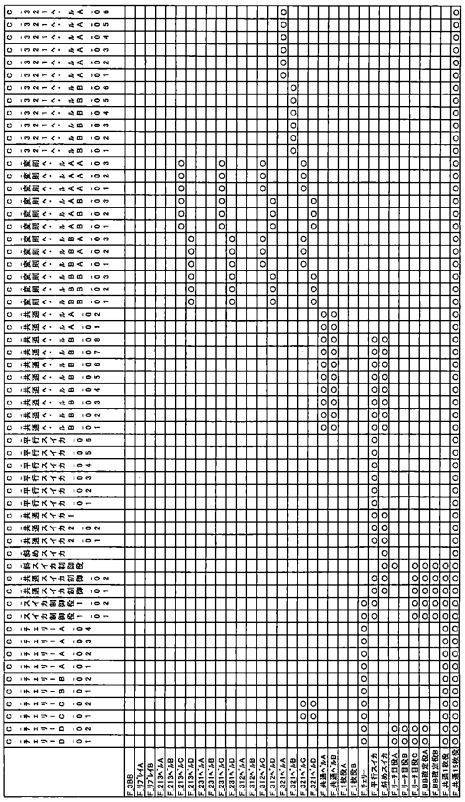
【図８６】



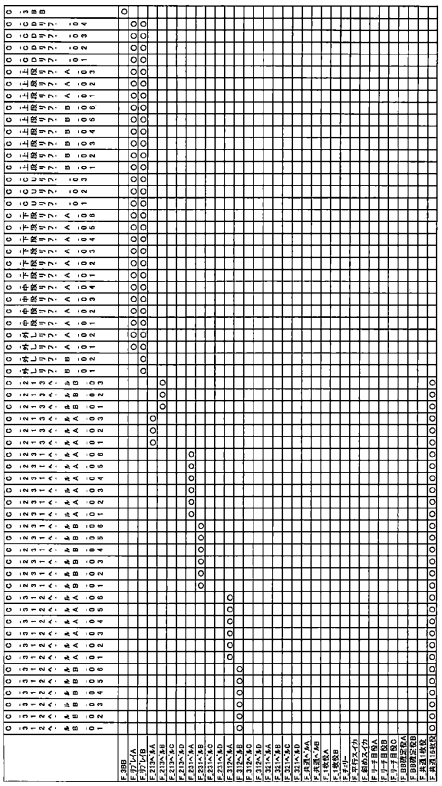
【図８７】



【図８８】



【図８９】



【図９０】

<内部抽籤テーブル> RT0_ボーナス非当籤

No.	略称	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
1	はずれ	0	0	0	0	0	0
2	F_リプレイA	2242	2242	2242	2242	2242	2242
3	F_リプレイB	6738	6738	6738	6738	6738	6738
4	F_213ベルA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
5	F_213ベルB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
6	F_213ベルC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
7	F_213ベルD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
8	F_231ベルA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
9	F_231ベルB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
10	F_231ベルC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
11	F_231ベルD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
12	F_312ベルA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
13	F_312ベルB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
14	F_312ベルC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
15	F_312ベルD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
16	F_321ベルA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
17	F_321ベルB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
18	F_321ベルC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
19	F_321ベルD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
20	F_共通ベルA	1740	1740	1740	1740	1740	1740
21	F_3BB+F_共通ベルB	6960	6960	6960	6960	6960	6960
22	F_3BB+F_1枚役A	1599	1599	1599	1599	1599	1599
23	F_3BB+F_1枚役B	405	405	405	405	405	405
24	F_3BB+F_チェリー	1150	1150	1150	1150	1150	1150
25	F_3BB+F_平行スイカ	1000	1000	1000	1000	1000	1000
26	F_3BB+F_斜めスイカ	128	128	128	128	128	128
27	F_3BB+F_リーチ目役A	90	90	90	90	90	90
28	F_3BB+F_リーチ目役B	170	170	170	170	170	170
29	F_3BB+F_リーチ目役C	170	170	170	170	170	170
30	F_3BB+F_BB確定役A	24	24	24	24	24	24
31	F_3BB+F_BB確定役B	36	36	36	36	36	36
32	F_3BB	4	4	4	4	4	4

【図９１】

(a) <内部抽籤テーブル> RT1_3BBフラグ間

No.	略称	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
1	はずれ	0	0	0	0	0	0
2	F_3BB+F_ﾘﾌﾟﾚｲA	2246	2246	2246	2246	2246	2246
3	F_3BB+F_ﾘﾌﾟﾚｲB	6738	6738	6738	6738	6738	6738
4	F_3BB+F_213ﾍﾞﾙA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
5	F_3BB+F_213ﾍﾞﾙB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
6	F_3BB+F_213ﾍﾞﾙC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
7	F_3BB+F_213ﾍﾞﾙD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
8	F_3BB+F_231ﾍﾞﾙA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
9	F_3BB+F_231ﾍﾞﾙB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
10	F_3BB+F_231ﾍﾞﾙC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
11	F_3BB+F_231ﾍﾞﾙD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
12	F_3BB+F_312ﾍﾞﾙA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
13	F_3BB+F_312ﾍﾞﾙB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
14	F_3BB+F_312ﾍﾞﾙC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
15	F_3BB+F_312ﾍﾞﾙD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
16	F_3BB+F_321ﾍﾞﾙA	4308	4308	4308	4308	4308	4308
17	F_3BB+F_321ﾍﾞﾙB	4308	4308	4308	4308	4308	4308
18	F_3BB+F_321ﾍﾞﾙC	1077	1077	1077	1077	1077	1077
19	F_3BB+F_321ﾍﾞﾙD	1077	1077	1077	1077	1077	1077
20	F_3BB+F_共通ﾍﾞﾙA	1740	1740	1740	1740	1740	1740
21	F_3BB+F_共通ﾍﾞﾙB	6960	6960	6960	6960	6960	6960
22	F_3BB+F_1枚役A	1599	1599	1599	1599	1599	1599
23	F_3BB+F_1枚役B	405	405	405	405	405	405
24	F_3BB+F_ﾁｪﾘｰ	1150	1150	1150	1150	1150	1150
25	F_3BB+F_平行ｽｲｶ	1000	1000	1000	1000	1000	1000
26	F_3BB+F_斜めｽｲｶ	128	128	128	128	128	128
27	F_3BB+F_ﾘｰﾁ目役A	90	90	90	90	90	90
28	F_3BB+F_ﾘｰﾁ目役B	170	170	170	170	170	170
29	F_3BB+F_ﾘｰﾁ目役C	170	170	170	170	170	170
30	F_3BB+F_BB確定役A	24	24	24	24	24	24
31	F_3BB+F_BB確定役B	36	36	36	36	36	36
32	F_3BB	0	0	0	0	0	0

(b) <内部抽籤テーブル> BB

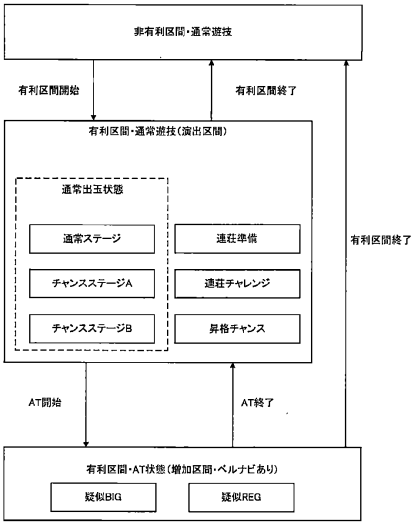
No.	略称	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
1	はずれ	8983	8983	8983	8983	8983	8983
2	F_共通ﾍﾞﾙA	5520	5520	5520	5520	5520	5520
3	F_共通1枚役	46725	46725	46725	46725	46725	46725
4	F_共通15枚役	4308	4308	4308	4308	4308	4308

【図９２】

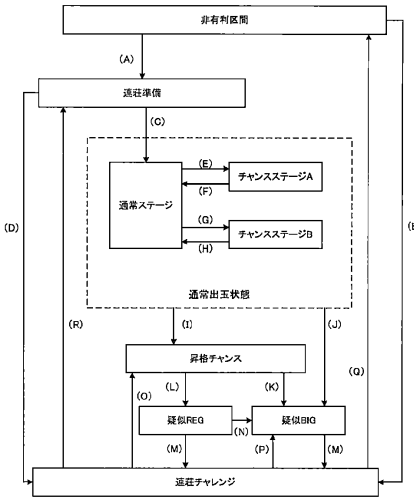
内部当籤役と停止操作態様と表示役等との対応関係

	1→2→3	1→3→2	2→1→3	2→3→1	3→1→2	3→2→1
0	はずれ	はずれ	はずれ	はずれ	はずれ	はずれ
1	F_ﾘﾌﾟﾚｲA	通常リプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ
2	F_ﾘﾌﾟﾚｲB	通常リプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ	目押しでかしリプ
3	F_213ﾍﾞﾙA	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚	1枚
4	F_213ﾍﾞﾙB	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚	1枚
5	F_213ﾍﾞﾙC	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚	1枚
6	F_213ﾍﾞﾙD	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚	1枚
7	F_231ﾍﾞﾙA	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚
8	F_231ﾍﾞﾙB	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚
9	F_231ﾍﾞﾙC	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚
10	F_231ﾍﾞﾙD	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚	1枚
11	F_312ﾍﾞﾙA	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚
12	F_312ﾍﾞﾙB	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚
13	F_312ﾍﾞﾙC	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚
14	F_312ﾍﾞﾙD	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚	1枚
15	F_321ﾍﾞﾙA	1枚	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚
16	F_321ﾍﾞﾙB	1枚	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚
17	F_321ﾍﾞﾙC	1枚	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚
18	F_321ﾍﾞﾙD	1枚	1枚	1枚	1枚	目押し15枚条敗1枚
19	F_共通ﾍﾞﾙA	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚
20	F_共通ﾍﾞﾙB	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚
21	F_平行ｽｲｶ	スイカ(コボシ有)	3枚	3枚	3枚	3枚
22	F_斜めｽｲｶ	スイカ(コボシ有)	3枚	3枚	3枚	3枚
23	F_ﾁｪﾘｰ	チェリー	1枚	1枚	1枚	1枚
24	F_ﾘｰﾁ目役A	リーチ目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
25	F_ﾘｰﾁ目役B	リーチ目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
26	F_ﾘｰﾁ目役C	リーチ目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
27	F_BB確定役A	BB確定リーチ一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
28	F_BB確定役B	BB確定リーチ一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
29	F_一般役A	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚	通常出目一枚
30	F_一般役B	通常出目一枚(こぼし有)	通常出目一枚(こぼし有)	通常出目一枚(こぼし有)	通常出目一枚(こぼし有)	通常出目一枚(こぼし有)
31	F_共通1枚役	—	—	—	—	—
32	F_共通15枚役	—	—	—	—	—

【図９３】



【図９４】



【図９５】

出玉状態の移行条件

移行条件	内容
(A)	有利区間移行抽籤に当籤＋有利区間移行時抽籤により遊技準備への移行が決定
(B)	有利区間移行抽籤に当籤＋有利区間移行時抽籤により遊技チャレンジへの移行決定
(C)	遊技準備転落抽籤に当籤
(D)	遊技チャレンジ移行抽籤に当籤
(E)	遊技ステージ移行抽籤＋当籤フラグ抽籤により決定された回数の遊技を消化
(F)	遊技ステージ移行抽籤＋当籤フラグ抽籤により決定された回数の遊技を消化
(G)	遊技ステージ移行抽籤＋当籤フラグ抽籤により決定された回数の遊技を消化
(H)	チャンスステージ開始抽籤により決定された回数の遊技を消化
(I)	通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤乃至チャンスステージ中疑似BIG・昇格チャンス抽籤により昇格チャンスへの移行が決定
(J)	通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤乃至チャンスステージ中疑似BIG・昇格チャンス抽籤により疑似BIGへの移行が決定
(K)	昇格チャンス中抽籤により疑似BIGへの移行が決定
(L)	所定回数の遊技を消化
(M)	遊技チャレンジ抽籤に当籤
(N)	1G連抽籤に当籤
(O)	遊技チャレンジ抽籤に当籤
(P)	遊技チャレンジ中抽籤により昇格チャンスへの移行が決定
(Q)	遊技チャレンジ中抽籤により疑似BIGへの移行が決定
(R)	遊技チャレンジ終了時通常移行抽籤により遊技準備への移行が決定

内部当籤役とサブフラグとの対応関係

| メインフラグ | サブフラグ | | |

【図９９】

(a) 有利区間移行抽籤テーブル

	除外役	移行役
0	256	
1		256

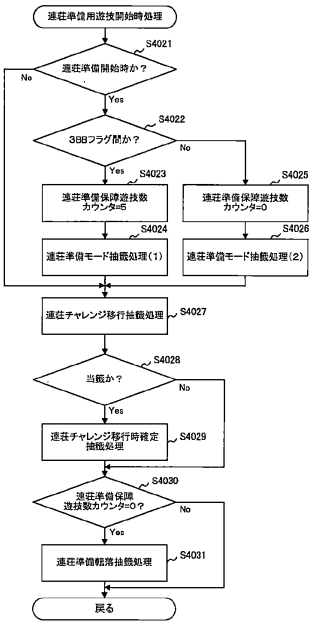
	非当籤	当籤
0		
1		

(b) 有利区間移行昇格抽籤テーブル

	その他	弱レア役	斜めスイカ	リーチ目	リーチ目BB
0	0	256	128	128	128
1					
2					
3					
4			128		
5					
6					
7	256			128	128
8					

	連荘チャレンジ
0	連荘チャレンジ
1	未使用
2	未使用
3	未使用
4	確定連荘チャレンジ
5	未使用
6	未使用
7	未使用
8	連荘準備

【図１００】



【図１０１】

(a) 連荘準備モード抽籤テーブル(1)(フラグ間)

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	0	0	0	0	0	0
1	モード2	256	256	256	256	256	256

(b) 連荘準備モード抽籤テーブル(2)(非フラグ間)

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2		0	0	0	0	0

【図１０２】

連荘チャレンジ移行抽籤テーブル

(a) その他

		0	1
		モード1	モード2
0	非当籤	256	255
1	当籤		1

(b) ﾘﾌﾟﾍﾞﾙ

		0	1
		モード1	モード2
0	非当籤	256	224
1	当籤		32

(c) 弱レア役

		0	1
		モード1	モード2
0	非当籤	256	0
1	当籤		256

(d) 斜めｽｲｶ

		0	1
		モード1	モード2
0	非当籤	256	0
1	当籤		256

(e) リーチ目 or リーチ目BB

		0	1
		モード1	モード2
0	非当籤	256	128
1	当籤		128

【図１０３】

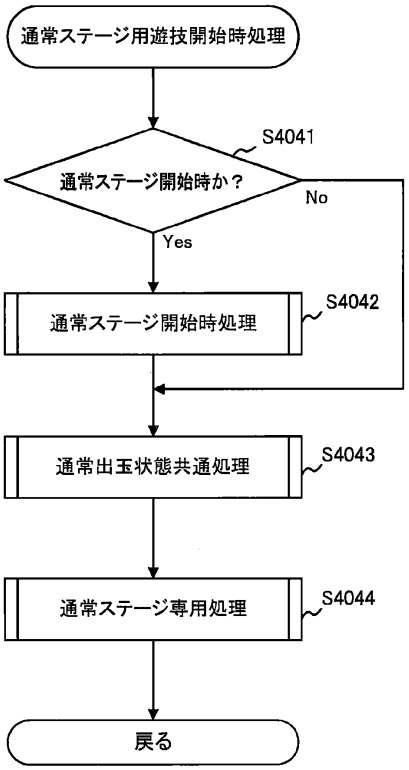
(a) 連荘チャレンジ移行時確定抽籤テーブル

		0	1	2	3	4
		その他	ﾘﾌﾟﾍﾞﾙ	弱ﾚｱ役	斜めｽｲｶ	ﾘｰﾁ目 or ﾘｰﾁ目BB
0	非当籤	256	256	256	128	256
1	当籤				128	

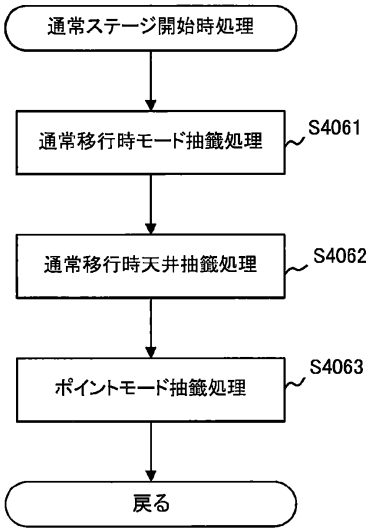
(b) 連荘準備転落抽籤テーブル

		0	1
		その他	非転落役
0	非当籤	64	256
1	当籤	192	

【図１０４】



【図１０５】



【図１０６】

(a) 通常移行時モード抽籤テーブル

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	98	92	74	68	51	39
1	モード2	98	100	102	104	106	108
2	モード3	24	28	32	32	36	36
3	モード4	12	12	20	20	24	24
4	モード5	12	12	16	20	24	32
5	モード6	1	1	1	1	1	1
6	モード7	3	3	3	3	4	6
7	モード8	8	8	8	8	10	10

(b) 通常移行時天井抽籤テーブル

		0	1	2	3	4	5	6	7
		モード1	モード2	モード3	モード4	モード5	モード6	モード7	モード8
0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
1	51					56			4
2	101					8			4
3	151					192			24
4	201	16	128	4	64		4	64	24
5	251								
6	301	16	4	64	192		4	192	24
7	351								
8	401	48	64	4			4		32
9	451								
10	501	16	4	32			4		32
11	551								
12	601	48	32	4			4		32
13	651								
14	701	16	4	24			4		24
15	801	40	20	4			4		24
16	901	56		120			228		32

【図１０７】

ポイントモード抽籤テーブル

(a) ポイント到達回数カウンタ「0～2」

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	ポイントモード1	255	255	255	253	253	253
1	ポイントモード2	1	1	1	2	2	2
2	ポイントモード3				1	1	1

(b) ポイント到達回数カウンタ「3～5」

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	ポイントモード1	254	254	253	251	251	250
1	ポイントモード2	1	1	2	3	3	4
2	ポイントモード3	1	1	1	2	2	2

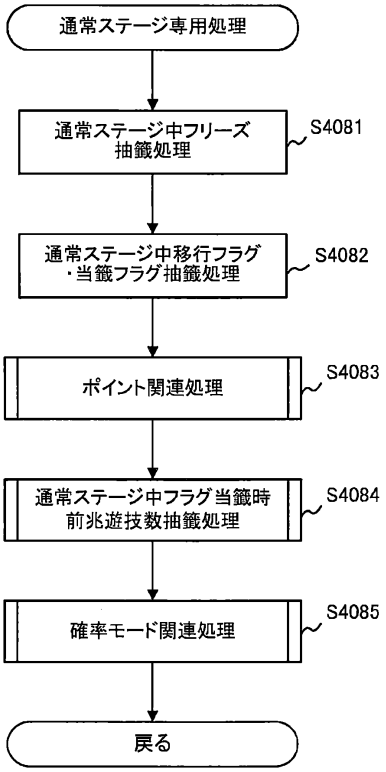
(c) ポイント到達回数カウンタ「6～8」

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	ポイントモード1	128	128	128	127	127	127
1	ポイントモード2	127	127	127	127	127	127
2	ポイントモード3	1	1	1	2	2	2

(d) ポイント到達回数カウンタ「9以上」

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	ポイントモード1	0	0	0	0	0	0
1	ポイントモード2						
2	ポイントモード3	256	256	256	256	256	256

【図１０８】



【図１０９】

通常ステージ中フリーズ抽籤テーブル

(a) その他

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	256	256	256	256	256	256
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	昇格チャンス						
5	疑似BIG						

(b) リーチ目

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	254	253	252	251	250	248
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	昇格チャンス	2	3	4	5	6	8
5	疑似BIG						

(c) リーチ目BB

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	255	255	255	255	255	255
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	昇格チャンス						
5	疑似BIG	1	1	1	1	1	1

(d) 1枚役

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	256	256	256	256	256	256
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	昇格チャンス						
5	疑似BIG						

【図１１０】

通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（非高確）

(a) その他

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	220	220	220	216	210	204
1	チャンスステージA						
2	未使用						
3	チャンスステージB	36	36	36	40	46	52
4	未使用						
5	昇格チャンス						
6	未使用						
7	疑似BIG						

(b) 平行スイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	128	128	128	128	128	128
1	チャンスステージA						
2	未使用						
3	チャンスステージB	128	128	128	128	128	128
4	未使用						
5	昇格チャンス						
6	未使用						
7	疑似BIG						

(c) 斜めスイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	255	255	255	255	254	254
1	チャンスステージA	1	1	1	1	2	2
2	未使用						
3	チャンスステージB						
4	未使用						
5	昇格チャンス						
6	未使用						
7	疑似BIG						

(d) チェリー

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	255	255	255	255	254	254
1	チャンスステージA	1	1	1	1	2	2
2	未使用						
3	チャンスステージB						
4	未使用						
5	昇格チャンス						
6	未使用						
7	疑似BIG						

【図１１１】

通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（高確1・高確2）

(a) その他

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	256	256	256	256	256	256
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス		0	0	0	0	0
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG		0	0	0	0	0

(b) 平行スイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	152	152	152	152	152	152
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB	104	104	104	104	104	104
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス		0	0	0	0	0
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG		0	0	0	0	0

(c) 斜めスイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	チャンスステージA	1	1	1	1	1	1
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB	255	255	255	255	255	255
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス		0	0	0	0	0
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG		0	0	0	0	0

(d) チェリー

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	252	252	252	252	252	252
1	チャンスステージA	4	4	4	4	4	4
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス		0	0	0	0	0
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG		0	0	0	0	0

【図１１２】

通常ステージ中移行フラグ・当籤フラグ抽籤テーブル（高確3）

(a) その他

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	248	248	248	248	248	248
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	7	7	7	7	7	7
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG	1	1	1	1	1	1

(b) 平行スイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	128	128	128	128	128	128
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	112	112	112	112	112	112
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG	16	16	16	16	16	16

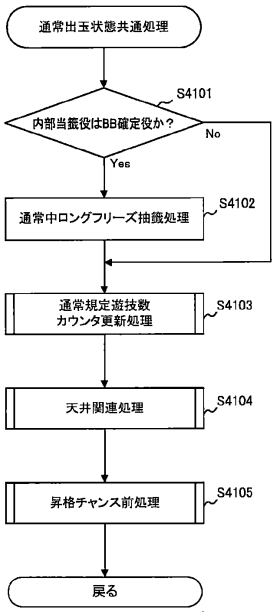
(c) 斜めスイカ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	32	32	32	32	32	32
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	192	192	192	192	192	192
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG	32	32	32	32	32	32

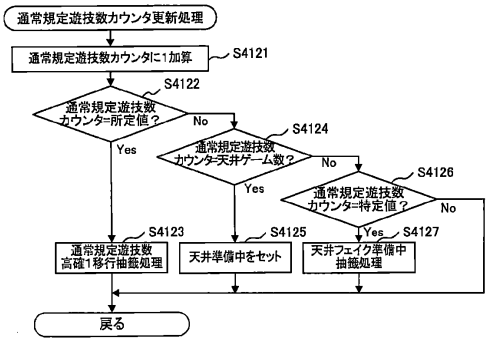
(d) チェリー

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	128	128	128	128	128	128
1	チャンスステージA		0	0	0	0	0
2	未使用		0	0	0	0	0
3	チャンスステージB		0	0	0	0	0
4	未使用		0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	112	112	112	112	112	112
6	未使用		0	0	0	0	0
7	疑似BIG	16	16	16	16	16	16

【図１１３】



【図１１４】



【図１１５】

通常規定遊技数高確1移行抽籤テーブル

(a) モード1

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	240	240	240	240	240	240
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	16	16	16	16	16	16

(b) モード2

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	154	240	154	240	154	240
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	102	16	102	16	102	16

(c) モード3

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	240	192	240	192	240	192
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	16	64	16	64	16	64

(d) モード4

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	154	256	256	256	256	256
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	102					

【図１１６】

通常規定遊技数高確1移行抽籤テーブル

(e) モード5

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	851	751
0	非当籤	256	256	256	256	256	256
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1						

(f) モード6

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	240	240	240	240	240	240
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	16	16	16	16	16	16

(g) モード7

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	154	256	256	256	256	256
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	102					

(h) モード8

		0	1	2	3	4	5
		251	351	451	551	651	751
0	非当籤	240	240	240	240	240	240
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	高確1	16	16	16	16	16	16

【図１１７】

天井フェイク準備中抽籤テーブル

(a) モード1

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	551	651	751	851
0	非当籤	192	96	64	224	64	221	64	224	256
1	天井フェイク準備中	64	160	192	32	192	32	192	32	

(b) モード2

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	551	651	751	851
0	非当籤	64	96	64	224	64	224	64	224	256
1	天井フェイク準備中	192	160	192	32	192	32	192	32	

(c) モード3

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	551	651	751	851
0	非当籤	192	96	64	224	64	221	64	224	256
1	天井フェイク準備中	64	160	192	32	192	32	192	32	

(d) モード4

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	551	651	751	851
0	非当籤	128	256	256	256	256	256	256	256	256
1	天井フェイク準備中	128								

(e) モード5

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	501	601	701	801
0	非当籤	192	128	128	128	128	128	128	128	128
1	天井フェイク準備中	64	128	128	128	128	128	128	128	128

(f) モード6

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	501	601	701	801
0	非当籤	96	96	256	256	256	256	256	256	256
1	天井フェイク準備中	160	160	192	192	192	192	192	192	192

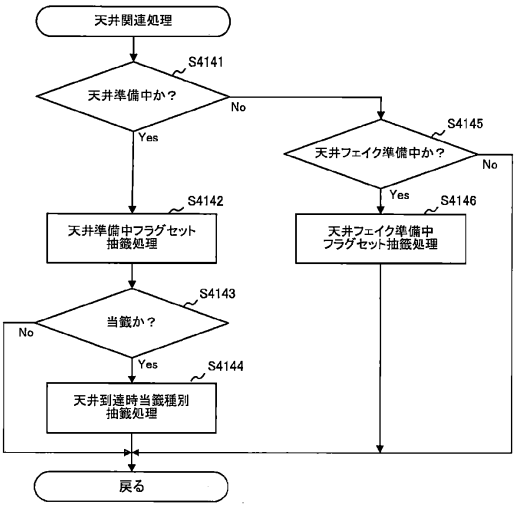
(g) モード7

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	501	601	701	801
0	非当籤	192	96	64	224	64	221	64	224	256
1	天井フェイク準備中	64	160	192	32	192	32	192	32	

(h) モード8

		0	1	2	3	4	5	6	7	8
		51	151	251	351	451	501	601	701	801
0	非当籤	128	128	128	128	128	128	128	128	128
1	天井フェイク準備中	128	128	128	128	128	128	128	128	128

【図１１８】



【図１１９】

天井到達時当籤種別抽籤テーブル

(a) モード1

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用	0	0	0	0	0	0
2	未使用	0	0	0	0	0	0
3	未使用	0	0	0	0	0	0
4	未使用	0	0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	255	255	255	254	254	253
6	未使用	0	0	0	0	0	0
7	疑似BIG	1	1	1	2	2	3

(b) モード2

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用	0	0	0	0	0	0
2	未使用	0	0	0	0	0	0
3	未使用	0	0	0	0	0	0
4	未使用	0	0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	255	255	255	254	254	253
6	未使用	0	0	0	0	0	0
7	疑似BIG	1	1	1	2	2	3

(c) モード3

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用	0	0	0	0	0	0
2	未使用	0	0	0	0	0	0
3	未使用	0	0	0	0	0	0
4	未使用	0	0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	255	255	255	254	254	253
6	未使用	0	0	0	0	0	0
7	疑似BIG	1	1	1	2	2	3

(d) モード4

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用	0	0	0	0	0	0
2	未使用	0	0	0	0	0	0
3	未使用	0	0	0	0	0	0
4	未使用	0	0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	255	255	255	254	254	253
6	未使用	0	0	0	0	0	0
7	疑似BIG	1	1	1	2	2	3

【図１２０】

天井到達時当籤種別抽籤テーブル

(e) モード5

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	昇格チャンス	255	255	255	254	254	253
6	未使用						
7	疑似BIG	1	1	1	2	2	3

(f) モード6

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	昇格チャンス	256	256	256	256	256	256
6	未使用						
7	疑似BIG						

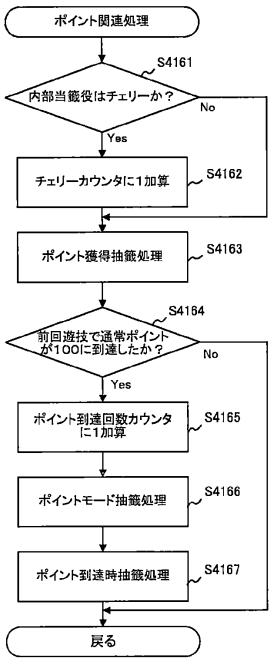
(g) モード7

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用	0	0	0	0	0	0
2	未使用	0	0	0	0	0	0
3	未使用	0	0	0	0	0	0
4	未使用	0	0	0	0	0	0
5	昇格チャンス	0	0	0	0	0	0
6	未使用	0	0	0	0	0	0
7	疑似BIG	256	256	256	256	256	256

(h) モード8

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	0	0	0	0	0	0
1	未使用						
2	未使用						
3	未使用						
4	未使用						
5	昇格チャンス						
6	未使用						
7	疑似BIG	256	256	256	256	256	256

【図１２１】



【図１２２】

ポイント獲得抽籤テーブル

(a) その他

		0	1	2	3	4
		0	1	2	3	4
0	非当籤	256	256	256	256	256
1	5					
2	10					
3	20					
4	30					
5	40					
6	50					
7	100					

(b) ﾘﾌﾟﾍﾞﾙ

		0	1	2	3	4
		0	1	2	3	4
0	非当籤	128	0	0	0	0
1	5	128	224	192		
2	10		32	48	192	
3	20			8	24	
4	30			8	24	192
5	40					
6	50				16	32
7	100					32

(c) 弱ﾚｱ役

		0	1	2	3	4
		0	1	2	3	4
0	非当籤	256	256	256	256	256
1	5					
2	10					
3	20					
4	30					
5	40					
6	50					
7	100					

(d) 斜めｽｲｶ

		0	1	2	3	4
		0	1	2	3	4
0	非当籤	256	256	256	256	256
1	5					
2	10					
3	20					
4	30					
5	40					
6	50					
7	100					

(e) ﾘｰﾁ目 or ﾘｰﾁ目BB

		0	1	2	3	4
		0	1	2	3	4
0	非当籤	256	256	256	256	256
1	5					
2	10					
3	20					
4	30					
5	40					
6	50					
7	100					

【図１２３】

ポイント到達時抽籤テーブル

(a) ポイント到達回数カウンタ「0」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 高確2	128	127	127	127	127	128
1 チャンスステージA	128	128	128	128	128	128
2 チャンスステージB		1	1	1	1	2
3 昇格チャンス						
4 疑似BIG						
	256	256	256	256	256	256

(b) ポイント到達回数カウンタ「1,3,5,7」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 高確2	191	190	190	189	179	170
1 チャンスステージA	64	64	64	64	72	76
2 チャンスステージB		1	1	1	1	2
3 昇格チャンス	1	1	1	2	4	8
4 疑似BIG						
	256	256	256	256	256	256

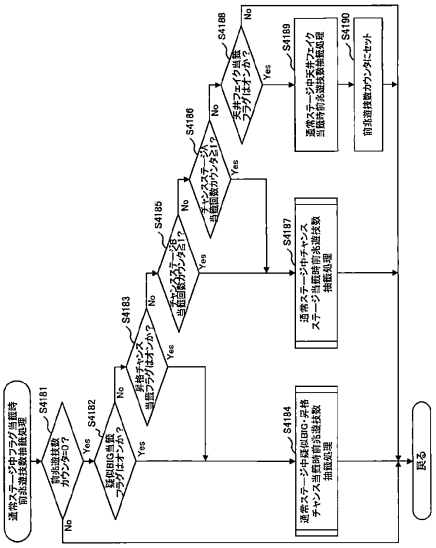
(c) ポイント到達回数カウンタ「2,4,6,8」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 高確2	170	169	169	168	166	144
1 チャンスステージA	85	85	85	85	85	102
2 チャンスステージB		1	1	1	1	2
3 昇格チャンス	1	1	1	2	4	8
4 疑似BIG						
	256	256	256	256	256	256

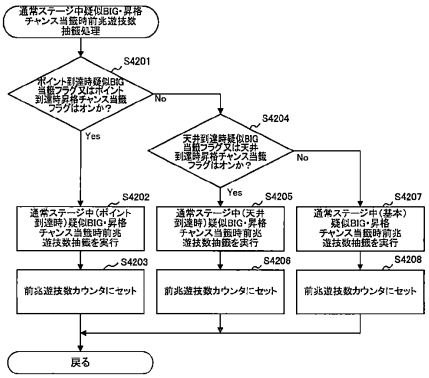
(d) ポイント到達回数カウンタ「9以上」or「ポイントモード3」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 高確2	0	0	0	0	0	0
1 チャンスステージA						
2 チャンスステージB						
3 昇格チャンス						
4 疑似BIG						
	256	256	256	256	256	256

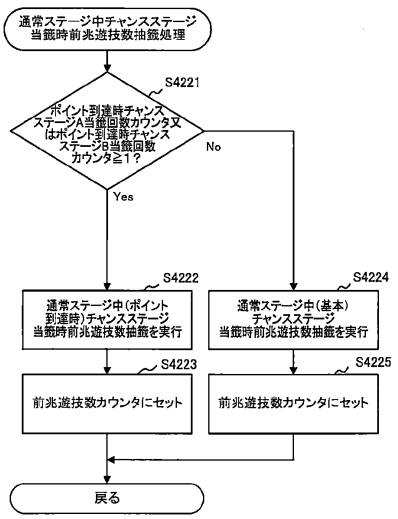
【図１２４】



【図１２５】



【図１２６】



【図１２７】

(a) 通常ステージ中(ポイント到達時)疑似BIG・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	64
1	1～4	32
2	5～8	128
3	9～12	16
4	13～16	16
5	17～20	
6	21～24	
7	25～28	
8	29～32	

(b) 通常ステージ中(天井到達時)疑似BIG・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	0
1	1～4	
2	5～8	8
3	9～12	4
4	13～16	24
5	17～20	4
6	21～24	8
7	25～28	160
8	29～32	48

(c) 通常ステージ中(基本)疑似BIG・昇格チャンス当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	16
1	1～4	16
2	5～8	
3	9～12	
4	13～16	160
5	17～20	64
6	21～24	
7	25～28	
8	29～32	

【図１２８】

(d) 通常ステージ中(ポイント到達時)チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	64
1	1～4	32
2	5～8	144
3	9～12	16
4	13～16	
5	17～20	
6	21～24	
7	25～28	
8	29～32	

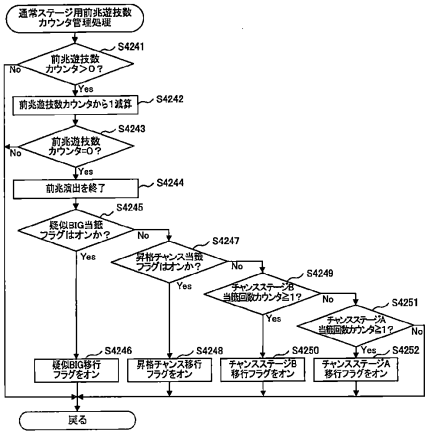
(e) 通常ステージ中(基本)チャンスステージ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	0
1	1～4	32
2	5～8	208
3	9～12	16
4	13～16	
5	17～20	
6	21～24	
7	25～28	
8	29～32	

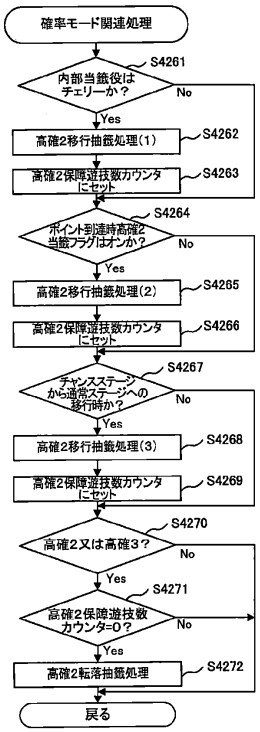
(f) 通常ステージ中天井フェイク当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

0	0	0
1	1～4	
2	5～8	
3	9～12	
4	13～16	
5	17～20	
6	21～24	
7	25～28	224
8	29～32	32

【図１２９】



【図１３０】



【図１３１】

(a) 高確2移行抽籤テーブル(1)(チェリー当籤時)

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	170	168	166	162	158	154
1	10	58	58	58	58	58	58
2	20	28	30	32	36	40	44
3	30						
4	40						
5	50						

(b) 高確2移行抽籤テーブル(2)(ポイント到達時)

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	0	0	0	0	0	0
1	10	170	170	170	170	170	170
2	20	86	86	86	86	86	86
3	30						
4	40						
5	50						

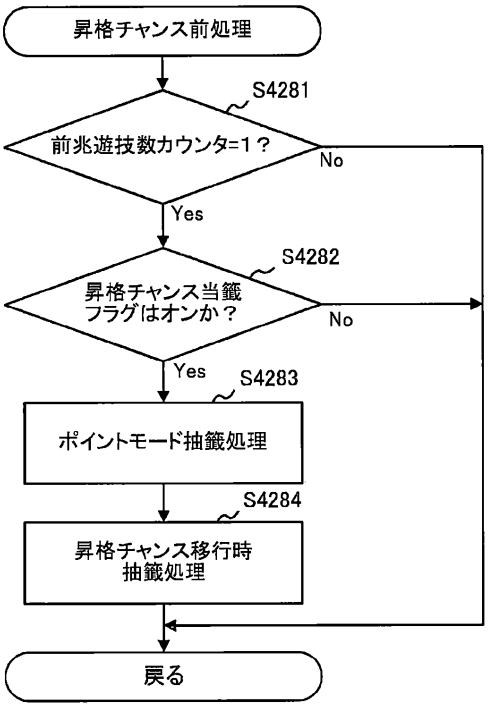
(c) 高確2移行抽籤テーブル(3)(通常ステージ移行時)

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	192	192	192	184	176	171
1	10	32	32	32	36	40	42
2	20	32	32	32	36	40	42
3	30						
4	40						
5	50						1

(d) 高確2転落抽籤テーブル

		0	1
		その他	非転落役
0	非当籤	64	256
1	当籤	192	

【図１３２】

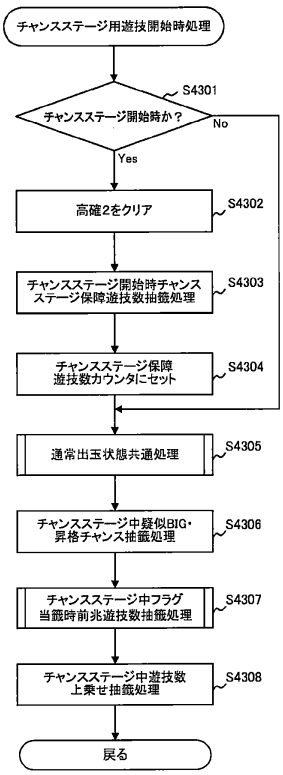


【図１３３】

昇格チャンス移行時抽籤テーブル

		0	1	2
		ポイントモード1	ポイントモード2	ポイントモード3、通常モード7または通常モード8
0	非当籤	256	256	0
1	疑似BIG			256
2	未使用			
3	疑似BIG(ED)			

【図１３４】



【図１３５】

チャンスステージ開始時チャンスステージ保障遊技数抽籤テーブル

		0	1
		チャンスステージA	チャンスステージB
0	20	0	250
1	40	250	5
2	60	5	
3	80		
4	100	1	1

【図１３６】

チャンスステージ中疑似BIG・昇格チャンス抽籤テーブル

(a) その他

		0	1
		チャンスステージA	チャンスステージB
0	非当籤	256	256
1	未使用		
2	未使用		
3	未使用		
4	未使用		
5	昇格チャンス		
6	未使用		
7	疑似BIG		

(b) リーチ目

		0	1
		チャンスステージA	チャンスステージB
0	非当籤	0	0
1	未使用		
2	未使用		
3	未使用		
4	未使用		
5	昇格チャンス	256	256
6	未使用		
7	疑似BIG		

(c) リーチ目BB

		0	1
		チャンスステージA	チャンスステージB
0	非当籤	0	0
1	未使用		
2	未使用		
3	未使用		
4	未使用		
5	昇格チャンス		
6	未使用		
7	疑似BIG	256	256

(d) 1枚役

		0	1
		チャンスステージA	チャンスステージB
0	非当籤	256	192
1	未使用		
2	未使用		
3	未使用		
4	未使用		
5	昇格チャンス		58
6	未使用		
7	疑似BIG		6

【図１３７】

チャンスステージ中遊技数上乗せ抽籤テーブル

(a) その他

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	256	256	256	256	256	256
1	20						
2	40						
3	60						
4	80						
5	100						

(b) 平行ｽｲｶ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	252	252	252	249	249	246
1	20	4	4	4	6	6	8
2	40				1	1	1
3	60						1
4	80						
5	100						

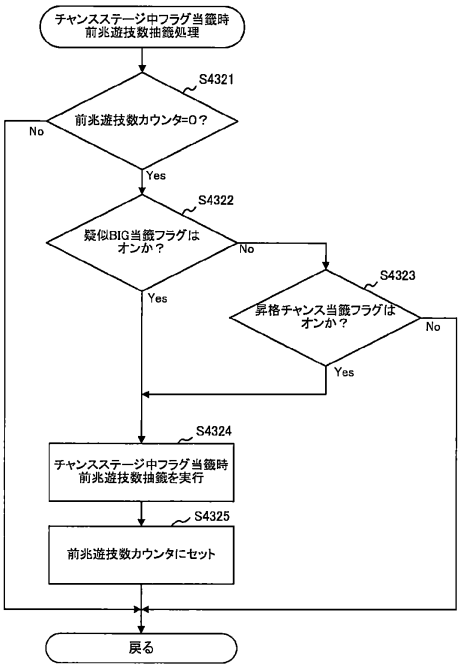
(c) 斜めｽｲｶ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	128	128	128	127	127	126
1	20	128	128	128	128	128	128
2	40				1	1	1
3	60						1
4	80						
5	100						

(d) ﾁｪﾘｰ

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	0	252	252	252	249	249	246
1	20	4	4	4	6	6	8
2	40				1	1	1
3	60						1
4	80						
5	100						

【図１３８】



【図１３９】

チャンスステージ中フラグ当籤時前兆遊技数抽籤テーブル

(a) その他

		0	1
		通常2	通常3
0	0	64	0
1	1	192	8
2	2		192
3	3		56
4	4		
5	5		
6	6		
7	7		
8	8		

(b) リーチ目

		0	1
		通常2	通常3
0	0	64	64
1	1	192	192
2	2		
3	3		
4	4		
5	5		
6	6		
7	7		
8	8		

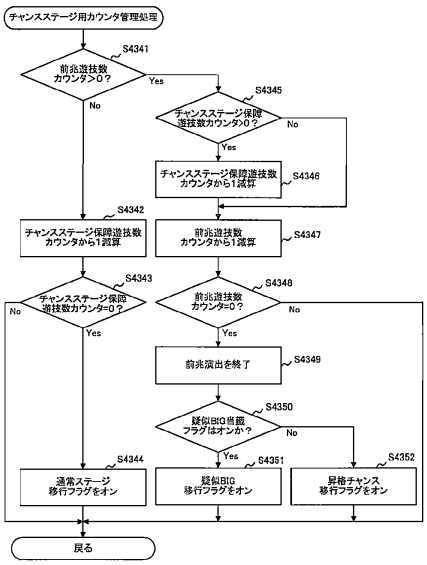
(c) リーチ目BB

		0	1
		通常2	通常3
0	0	86	86
1	1	170	170
2	2		
3	3		
4	4		
5	5		
6	6		
7	7		
8	8		

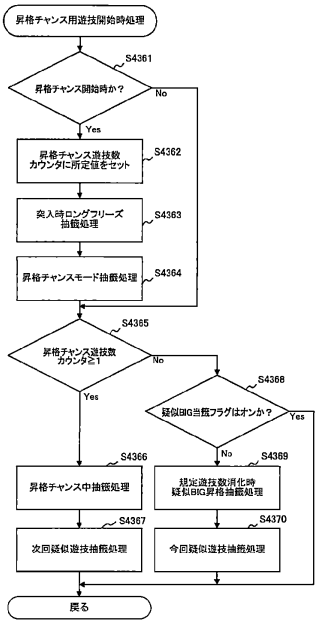
(d) 1枚役

		0	1
		通常2	通常3
0	0	64	0
1	1	192	8
2	2		192
3	3		56
4	4		
5	5		
6	6		
7	7		
8	8		

【図１４０】



【図１４１】



【図１４２】

昇格チャンスモード抽籤テーブル

(a) モード1

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

(b) モード2

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

(c) モード3

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	0	0	0	0	0	0
1	モード2						
2	モード3	256	256	256	256	256	256
3	モード4						

(d) モード4

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

(e) モード5

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

【図１４３】

昇格チャンスモード抽籤テーブル

(f) モード6

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	0	0	0	0	0	0
1	モード2						
2	モード3	192	192	192	192	192	192
3	モード4	64	64	64	64	64	64

(g) モード7

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

(h) モード8

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	256	256	256	256	256	256
1	モード2						
2	モード3						
3	モード4						

(i) 連荘チャレンジ→昇格チャンス移行時

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	モード1	0	0	0	0	0	0
1	モード2	256	256	256	256	256	256
2	モード3						
3	モード4						

【図１４４】

昇格チャンス中抽籤テーブル

(a) その他

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	224	224	176	204
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	32	32	80	
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)				52

(b) 弱レア役

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	128	128	128	128
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	128	128	128	
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)				128

(c) 斜めスイカ

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	0	0	0	0
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	256	256	256	
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)				256

(d) リーチ目

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	0	0	0	0
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	256	256	256	
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)				256

(e) リーチ目BB

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	0	0	0	0
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	255	255	255	
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)	1	1	1	256

【図１４５】

次回疑似遊技抽籤テーブル

(a) フェイク疑似遊技

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	疑似遊技1	86	86	86	86
1	疑似遊技2	170	170	170	170
2	疑似遊技3				
3	疑似遊技4				
4	疑似遊技5				
5	疑似遊技6				
6	疑似遊技7				
7	疑似遊技8				

(b) 疑似BIG

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	疑似遊技1	0	0	0	0
1	疑似遊技2				
2	疑似遊技3	112	112	112	112
3	疑似遊技4	112	112	112	112
4	疑似遊技5	32	32	32	32
5	疑似遊技6				
6	疑似遊技7				
7	疑似遊技8				

(c) 疑似BIG(ED)

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	疑似遊技1	0	0	0	0
1	疑似遊技2				
2	疑似遊技3	32	32	32	96
3	疑似遊技4	32	32	32	96
4	疑似遊技5	32	32	32	
5	疑似遊技6	160	160	160	64
6	疑似遊技7				
7	疑似遊技8				

【図１４６】

規定遊技数消化時疑似BIG昇格抽籤テーブル

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	フェイク疑似遊技	232	228	192	0
1	未使用				
2	未使用				
3	未使用				
4	未使用				
5	疑似BIG	24	28	64	224
6	未使用				
7	疑似BIG(ED)				32

【図１４７】

今回疑似遊技抽籤テーブル

(a) 疑似BIG

		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	疑似遊技1	0	0	0	0
1	疑似遊技2				
2	疑似遊技3				
3	疑似遊技4				
4	疑似遊技5				256
5	疑似遊技6				
6	疑似遊技7	128	128	128	
7	疑似遊技8	128	128	128	

(b) 疑似BIG(ED)

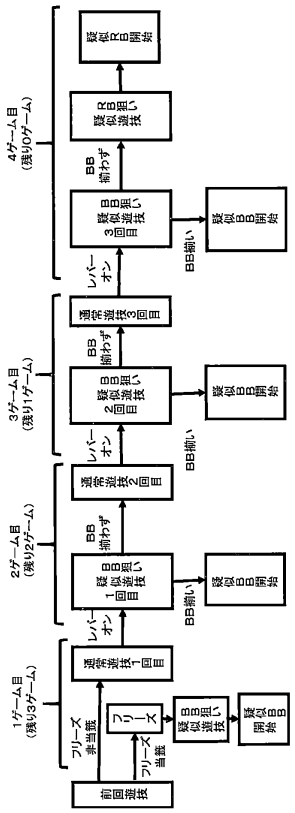
		0	1	2	3
		モード1	モード2	モード3	モード4
0	疑似遊技1	0	0	0	0
1	疑似遊技2				
2	疑似遊技3				
3	疑似遊技4				
4	疑似遊技5				
5	疑似遊技6	256	256	256	256
6	疑似遊技7				
7	疑似遊技8				

【図１４８】

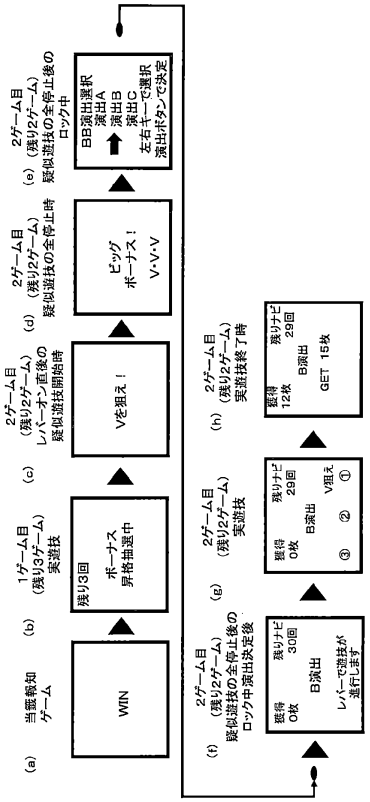
疑似遊技の内容

疑似遊技名称	内容
疑似遊技1	ブイ、セブン、バーのいずれも揃わない（上段フェイク）
疑似遊技2	ブイ、セブン、バーのいずれも揃わない（下段フェイク）
疑似遊技3	ブイが何れかのラインでセブンが中段で揃う （ブイは左第一停止なら上段ライン）
疑似遊技4	ブイが何れかのラインでセブンが中段で揃う （ブイは左第一停止なら下段ライン）
疑似遊技5	ブイが何れかのラインでセブンが中段で揃う （ブイは左第一停止ならクロスアップライン）
疑似遊技6	ブイ、セブンが中段で揃う（ブイはトリプルテンパイ） バー揃いはしない
疑似遊技7	バーが中段で揃う（復活あり） ブイ、セブンは揃わない
疑似遊技8	ブイ、セブン、バーのいずれも揃わない（復活あり）

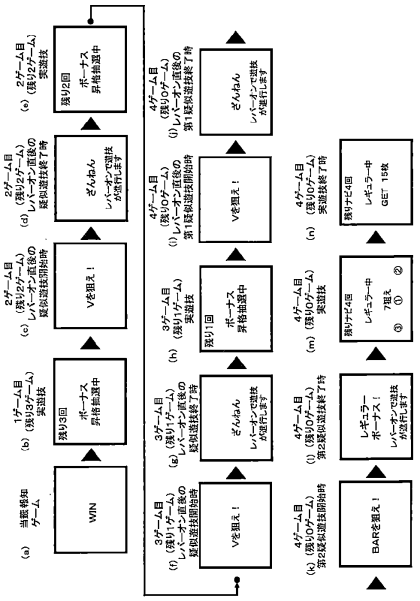
【図１４９】



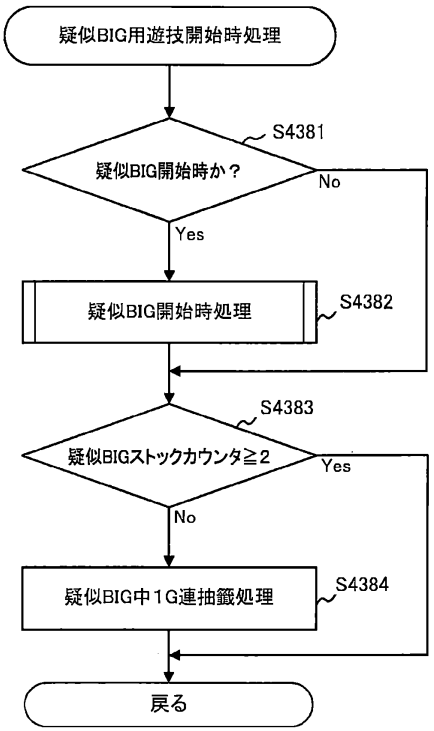
【図１５０】



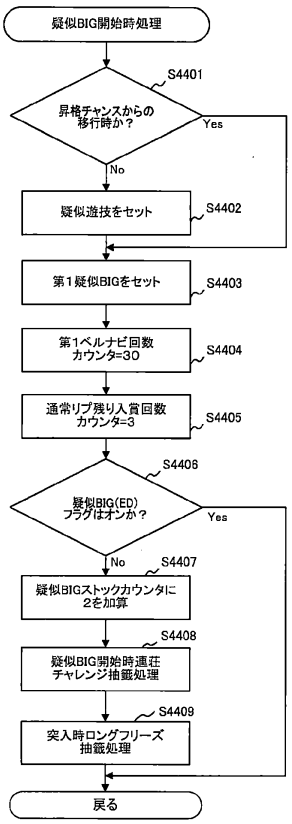
【図１５１】



【図１５２】



【図１５３】



【図１５４】

疑似BIG開始時連荘チャレンジ抽籤テーブル

		0	1	2	3	4	5
		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0	非当籤	255	255	255	255	255	255
1	当籤	1	1	1	1	1	1

【図１５５】

疑似BIG中1G連抽籤テーブル

(a) その他

		0	1
		第1疑似BIG	第2疑似BIG
0	非当籤	256	256
1	未使用		
2	疑似BIG		
3	疑似BIG(ED)		

(b) リーチ目

		0	1
		第1疑似BIG	第2疑似BIG
0	非当籤	256	255
1	未使用		
2	疑似BIG		1
3	疑似BIG(ED)		

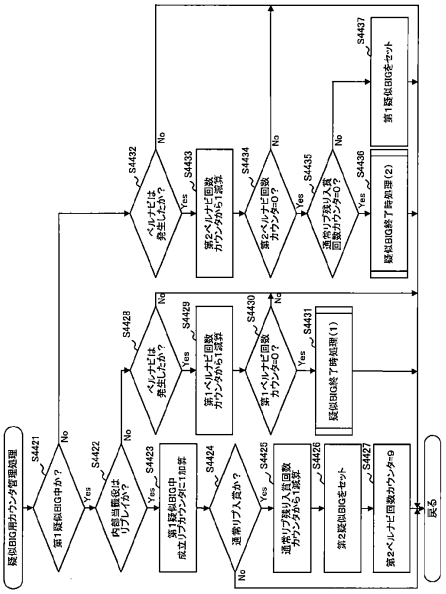
(c) リーチ目BB

		0	1
		第1疑似BIG	第2疑似BIG
0	非当籤	256	255
1	未使用		
2	疑似BIG		1
3	疑似BIG(ED)		

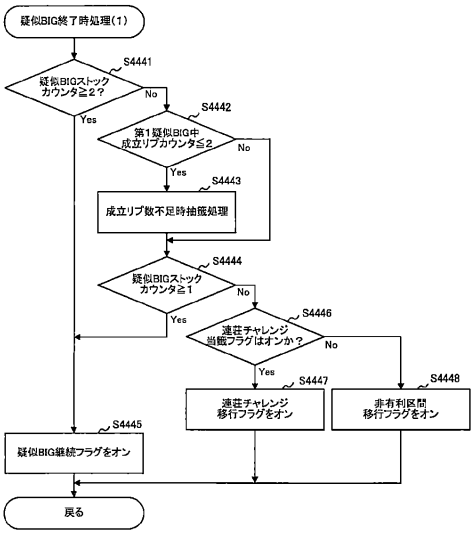
(d) 1枚役

		0	1
		第1疑似BIG	第2疑似BIG
0	非当籤	256	256
1	未使用		
2	疑似BIG		
3	疑似BIG(ED)		

【図１５６】



【図１５７】

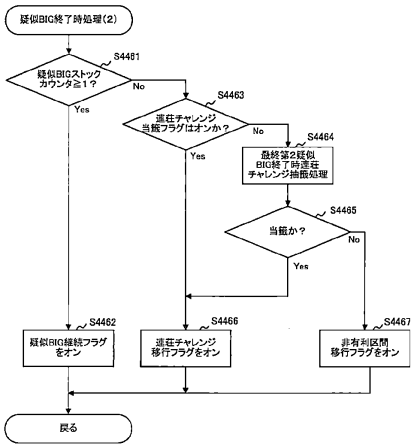


【図１５８】

成立リプ数不足時抽籤テーブル

		0	1	2
		0回	1回	2回
0	非当籤	0	224	255
1	未使用			
2	疑似BIG	256	32	1
3	疑似BIG(ED)			

【図１５９】



【図１６０】

最終第2疑似BIG終了時連荘チャレンジ抽籤テーブル

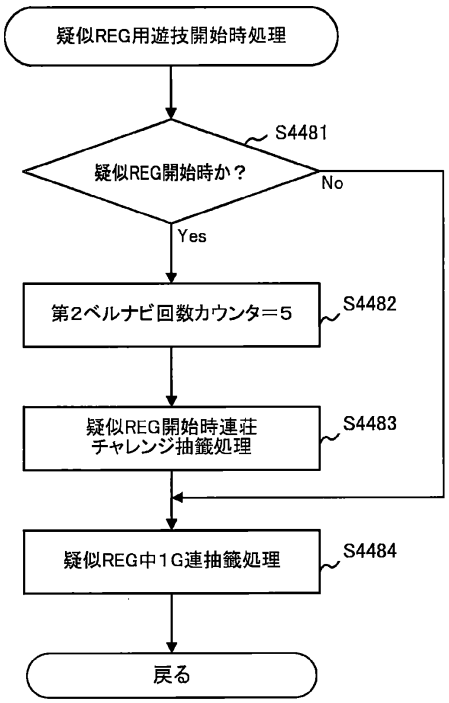
(a) 最終第2疑似BIG突入時第1ベルナビ回数カウンタ「6未満」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 非当籤	256	256	256	256	256	256
1 当籤						

(b) 最終第2疑似BIG突入時第1ベルナビ回数カウンタ「6以上」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 非当籤	254	254	254	254	254	254
1 当籤	2	2	2	2	2	2

【図１６１】



【図１６２】

疑似REG開始時連荘チャレンジ抽籤テーブル

(a) 出玉用有利区間遊技数カウンタ「199以下」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 非当籤	255	255	255	255	255	255
1 当籤	1	1	1	1	1	1

(b) 出玉用有利区間遊技数カウンタ「200以上」

	0	1	2	3	4	5
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
0 非当籤	252	252	232	232	224	216
1 当籤	4	4	4	24	32	40

【図１６３】

疑似REG中1G連抽籤テーブル

(a) その他

		1
		疑似REG
0	非当籤	256
1	未使用	
2	疑似BIG	
3	疑似BIG(ED)	

(b) リーチ目

		1
		疑似REG
0	非当籤	252
1	未使用	
2	疑似BIG	4
3	疑似BIG(ED)	

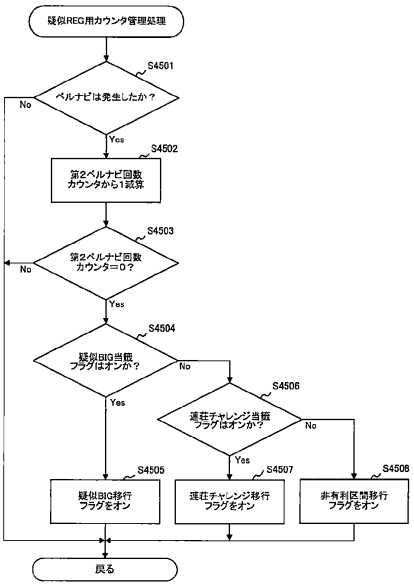
(c) リーチ目BB

		1
		疑似REG
0	非当籤	240
1	未使用	
2	疑似BIG	15
3	疑似BIG(ED)	1

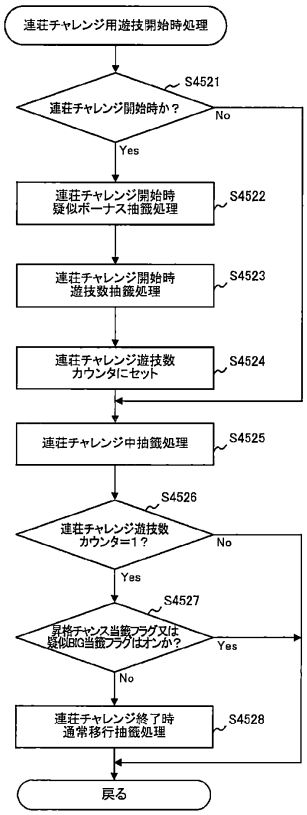
(d) 1枚役

		1
		疑似REG
0	非当籤	256
1	未使用	
2	疑似BIG	
3	疑似BIG(ED)	

【図１６４】



【図１６５】



【図１６６】

連荘チャレンジ開始時疑似ボーナス抽籤テーブル

	0	1	2	3	4	5	6
	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6	確定連荘チャレンジ
0 非当籤	178	178	178	178	178	178	0
1 未使用							
2 未使用							
3 未使用							
4 昇格チャンス	77	77	77	77	77	77	224
5 疑似BIG	1	1	1	1	1	1	31
6 未使用							
7 疑似BIG(ED)							1

【図１６７】

連荘チャレンジ開始時遊技数抽籤テーブル

		0	1	2	3
		非当籤	昇格チャンス	疑似BIG	疑似BIG(ED)
0	1	0	0	0	0
1	2				
2	3	256	192	192	192
3	4		64	64	64

【図１６８】

連荘チャレンジ中抽籤テーブル

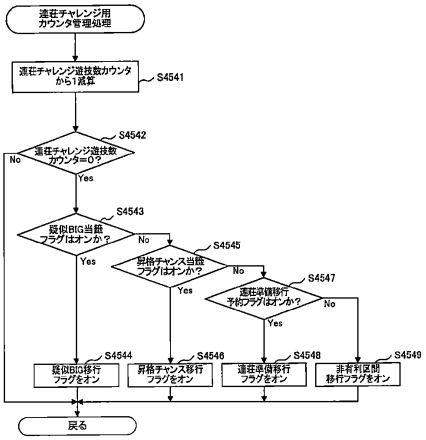
		0	1	2	3	4
		その他	弱レア役	斜めスイカ	リーチ目	リーチ目BB
0	非当籤	256	0	0	0	0
1	未使用					
2	未使用					
3	未使用					
4	昇格チャンス		256			
5	疑似BIG			256	256	255
6	未使用					
7	疑似BIG(ED)					1

【図１６９】

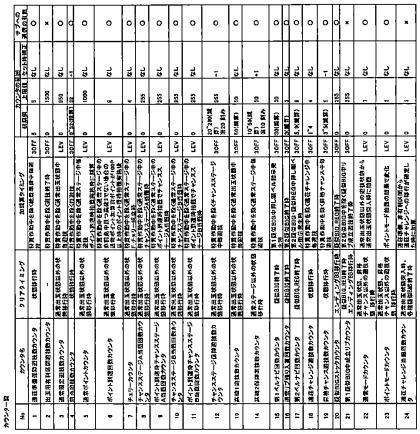
連荘チャレンジ終了時通常移行抽籤テーブル

		0	1
		その他	疑似ボーナス→連荘チャレンジ
0	非有利区間	0	256
1	未使用		
2	未使用		
3	未使用		
4	未使用		
5	未使用		
6	未使用		
7	未使用		
8	連荘準備	256	

【図１７０】



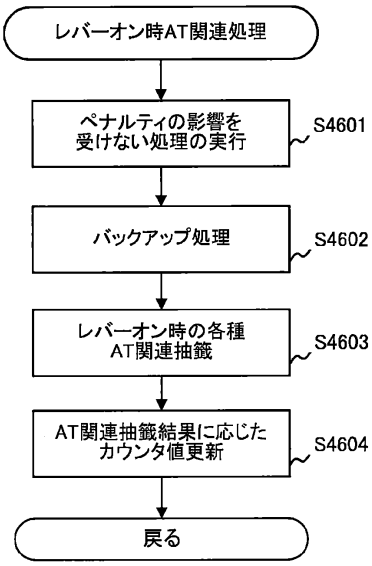
【図１７１】



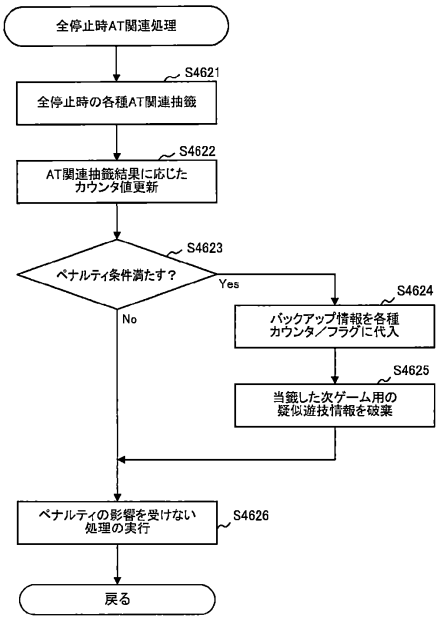
カウンター群

No	カウンタ名	クリアタイミング	初期値	加算値	上限値	下限値	ループ	表示方法
1	通常遊技状態用カウンタ	電源投入時	10777	5	32767	0	○	GL
2	当選時特別遊技用カウンタ	当選時特別遊技開始時	10777	5	32767	0	×	GL
3	大当たり時遊技用カウンタ	大当たり遊技開始時	LEV 0	1	255	0	○	GL
4	特別遊技用カウンタ	特別遊技開始時	LEV 0	1	255	0	○	GL
5	通常ポイントカウンタ	通常遊技状態以外の時	10777	5	32767	0	○	GL
6	ポイント特別遊技カウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	1000	0	○	GL
7	チャンスカウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	5	5	0	○	GL
8	チャンスステージ決定抽選カウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	255	0	○	GL
9	ボーナス特別遊技カウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	255	0	○	GL
10	ボーナスステージ決定抽選カウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	255	0	○	GL
11	ボーナス特別遊技チャンスステージカウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	255	0	○	GL
12	チャンスステージ遊技演出カウンタ	通常遊技状態以外の時	10001	17フ%3天	255	0	○	-1
13	演出カウンタ	通常遊技状態以外の時	10001	10	100	0	○	GL
14	演出ステージ決定用カウンタ	通常遊技状態以外の時	10001	17フ%3天	30	0	○	-1
15	特別イベント演出カウンタ	電源投入時	10777	20	32767	0	○	GL
16	通常ポイント演出カウンタ	通常遊技状態以外の時	10777	1	32767	0	○	GL
17	通常ポイント演出用カウンタ	通常遊技状態以外の時	10777	1	32767	0	○	GL
18	通常チャンス演出用カウンタ	通常遊技状態以外の時	10777	1	1	0	○	GL
19	当選時カウンタ	当選時	10777	1	32767	0	○	GL
20	第1図柄CGカウンタ	第1図柄CG開始時	10777	0	255	0	×	GL
21	第1図柄CGキャンセルカウンタ	第1図柄CG開始時	10777	0	255	0	×	GL
22	演出モードカウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	7	0	○	GL
23	ポイントモードカウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	1	0	○	GL
24	通常チャンスステージ決定用カウンタ	通常遊技状態以外の時	LEV 0	1	7	0	×	GL

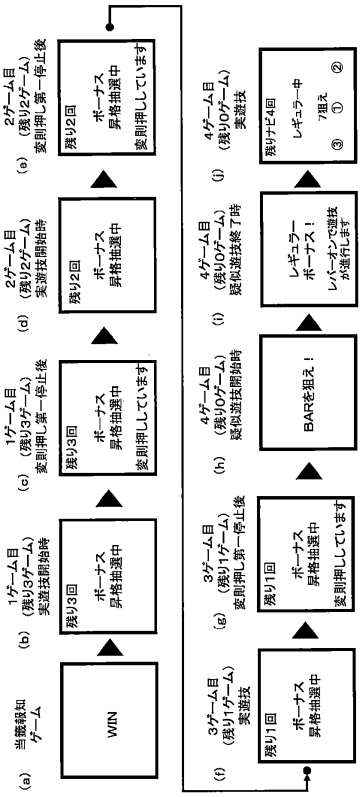
【図１７２】



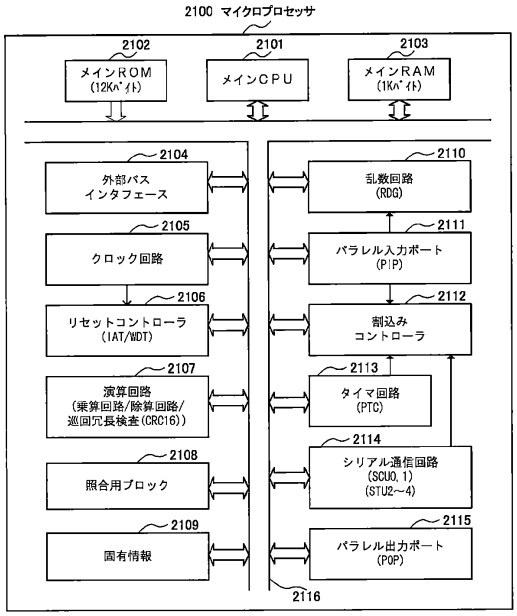
【図１７３】



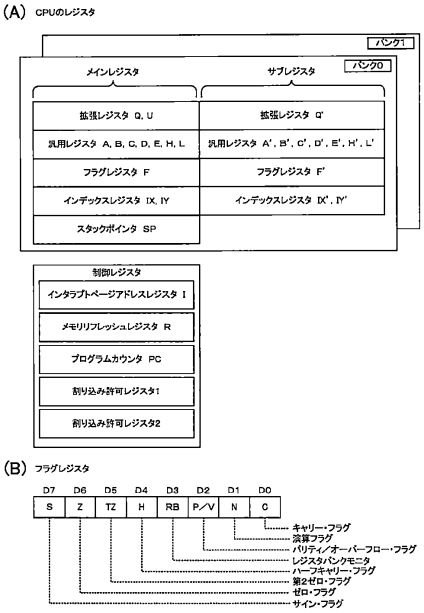
【図１７４】



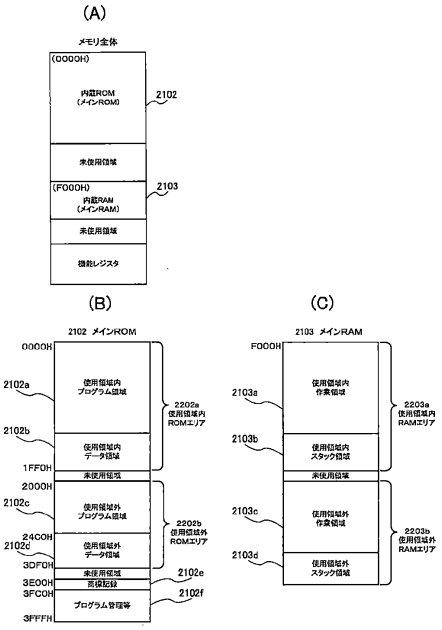
【図１７５】



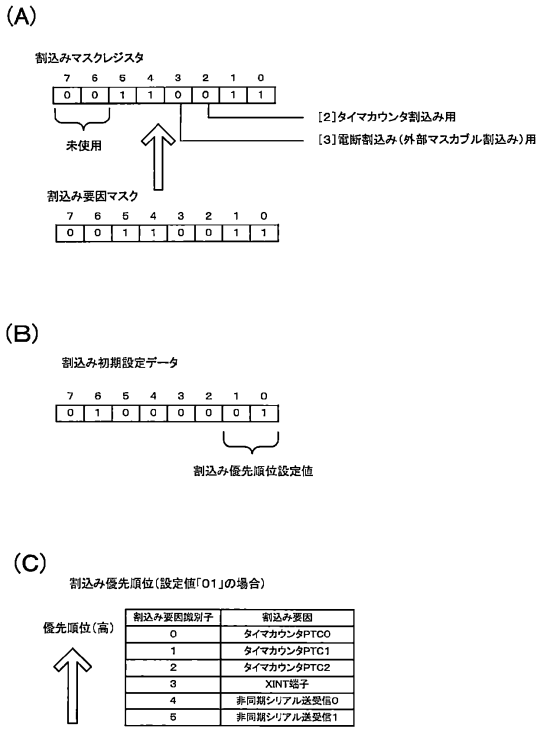
【図１７６】



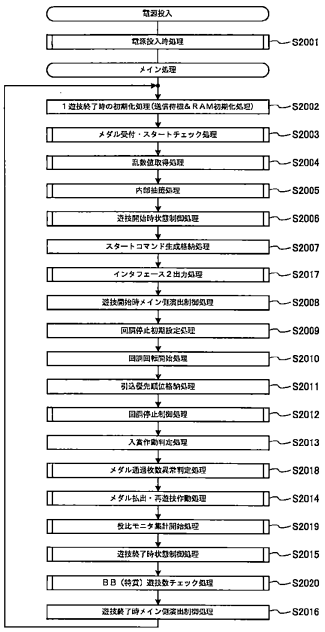
【図１７７】



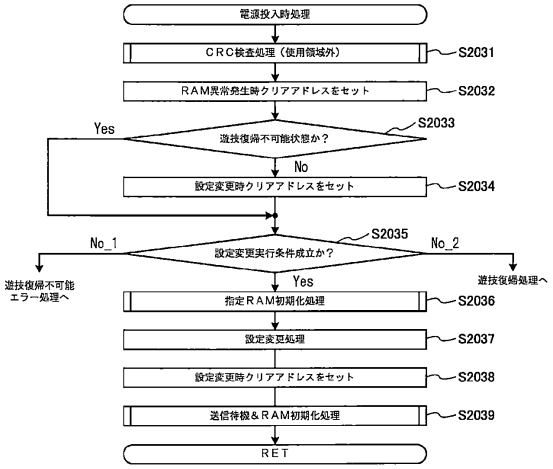
【図１７８】



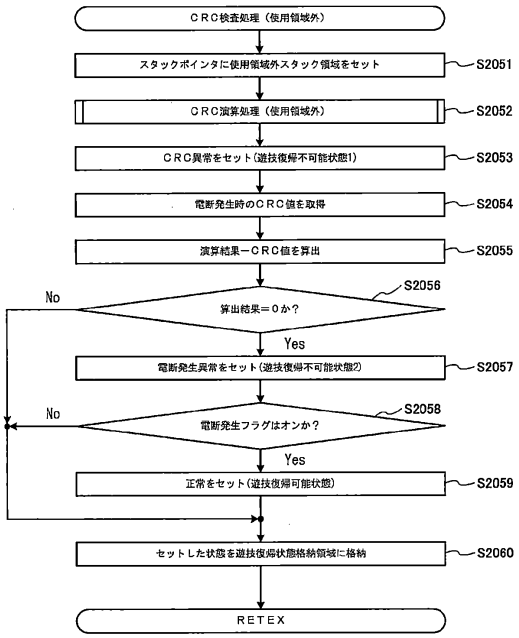
【図１７９】



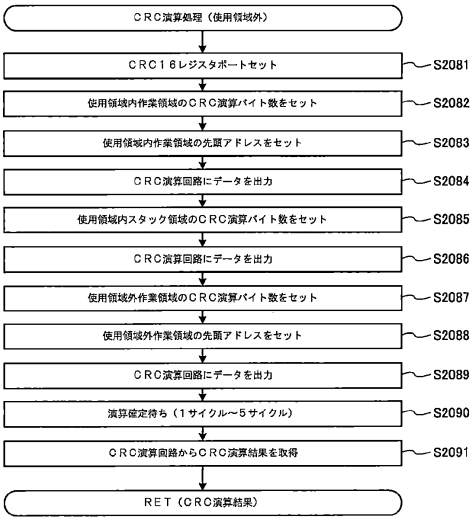
【図１８０】



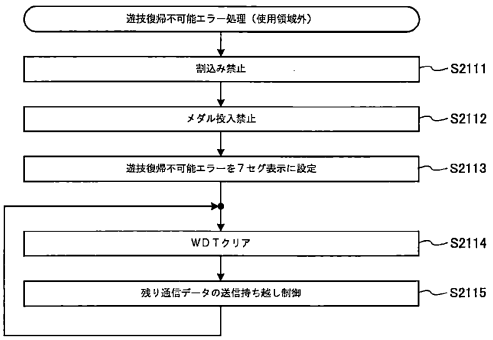
【図１８１】



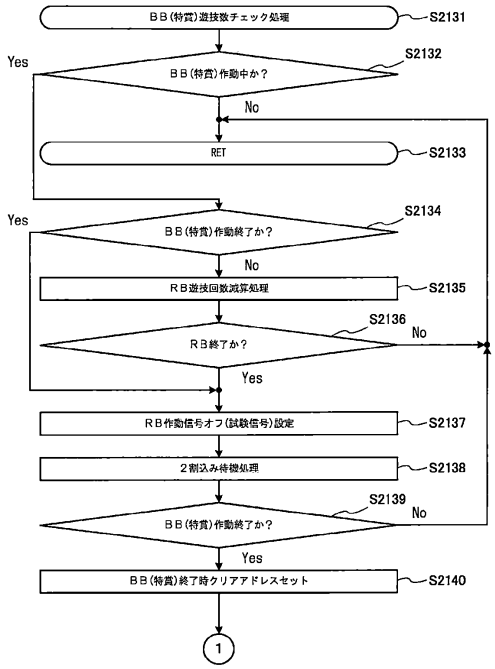
【図１８２】



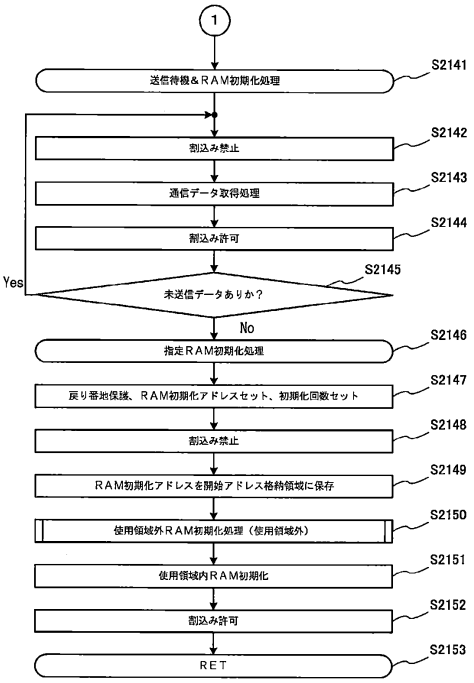
【図１８３】



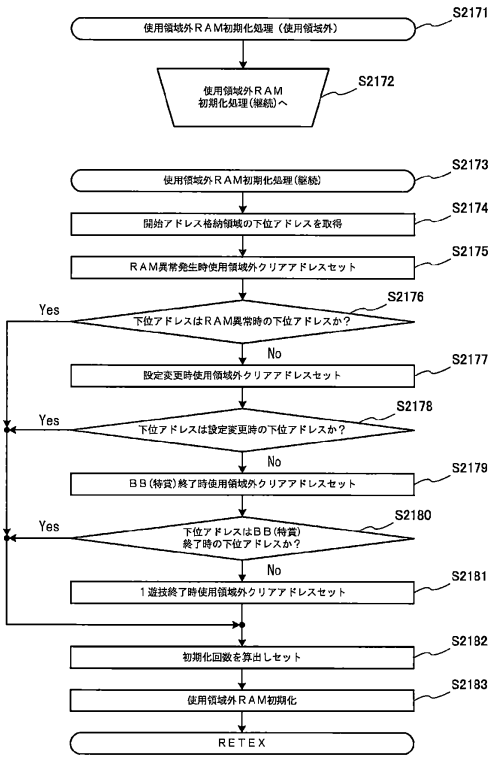
【図１８４】



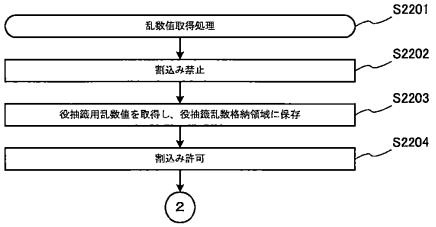
【図１８５】



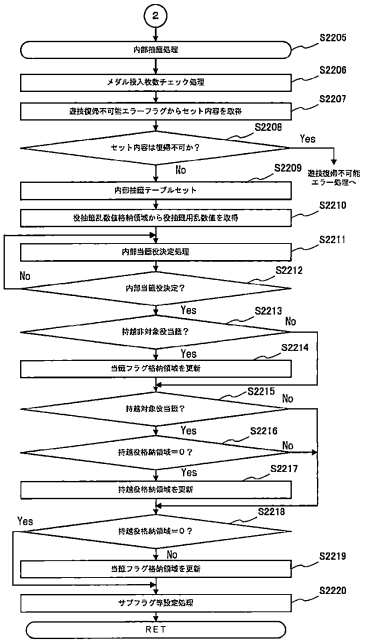
【図１８６】



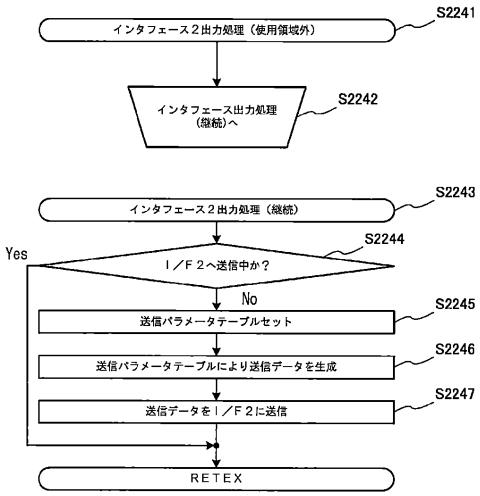
【図１８７】



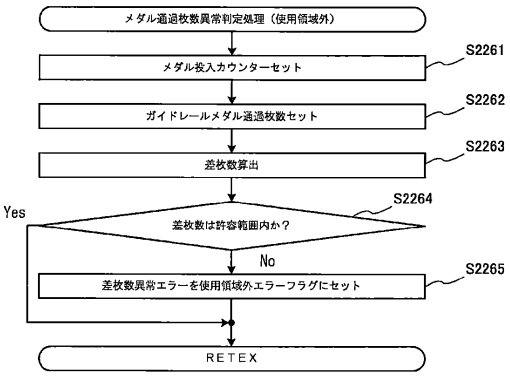
【図１８８】



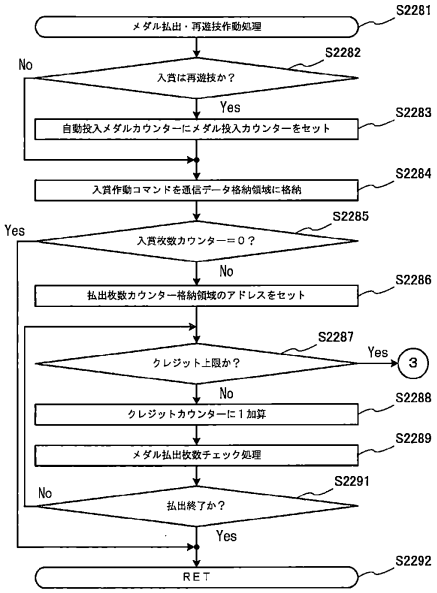
【図１８９】



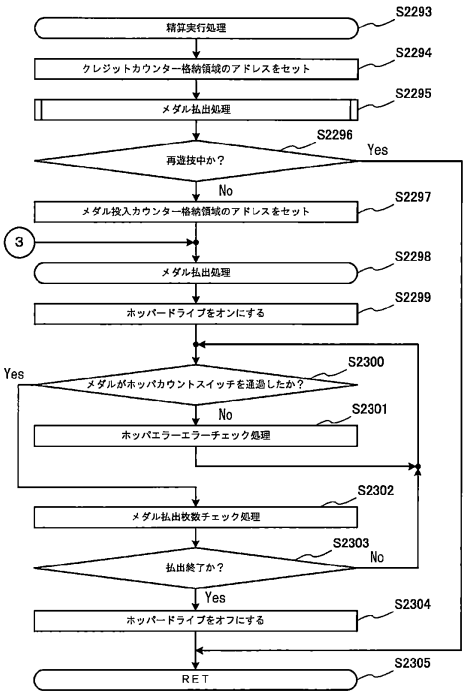
【図１９０】



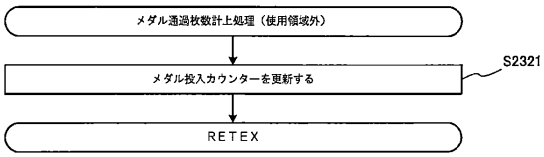
【図１９１】



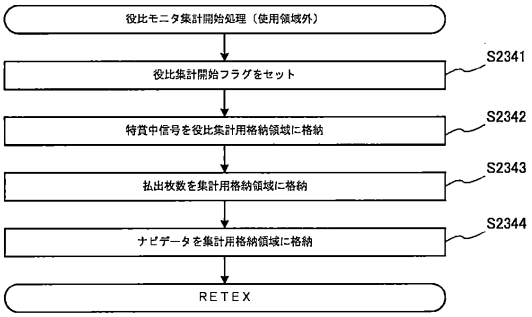
【図１９２】



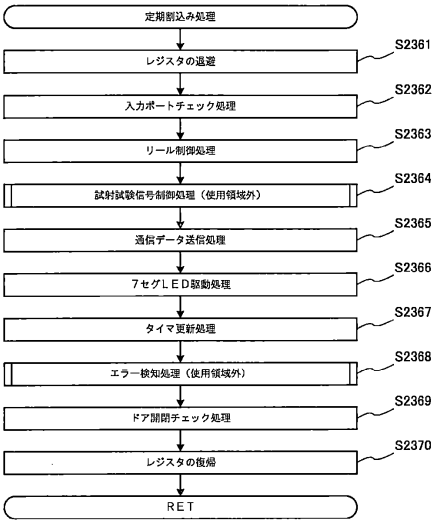
【図１９３】



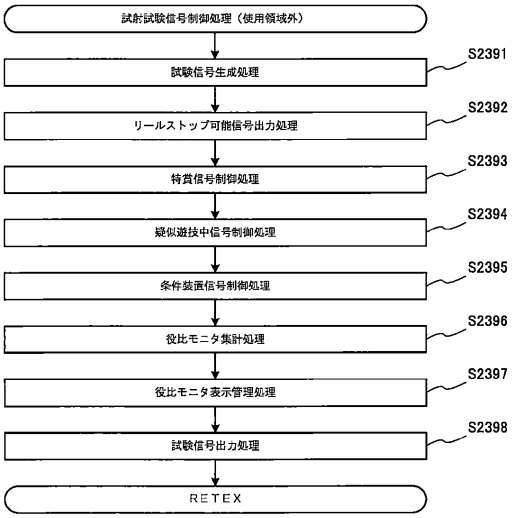
【図１９４】



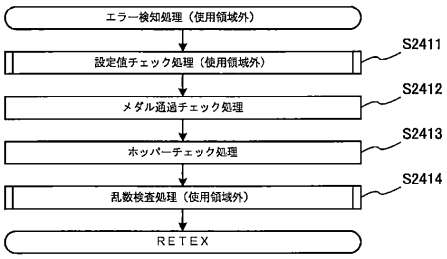
【図１９５】



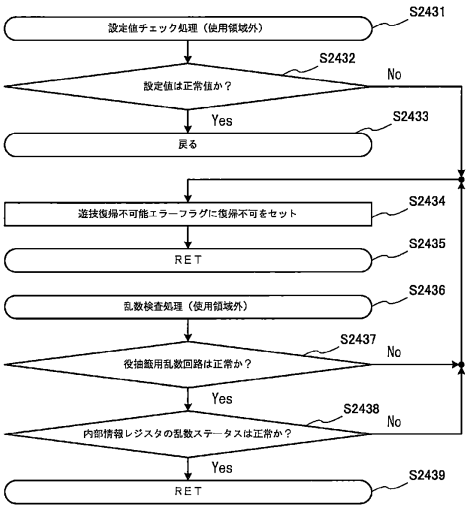
【図１９６】



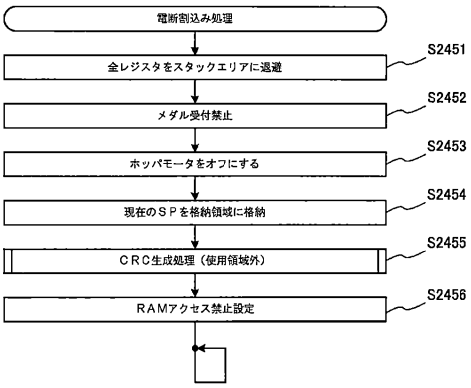
【図１９７】



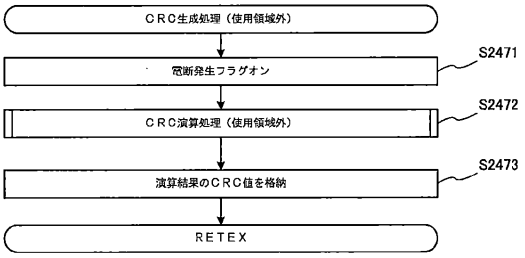
【図１９８】



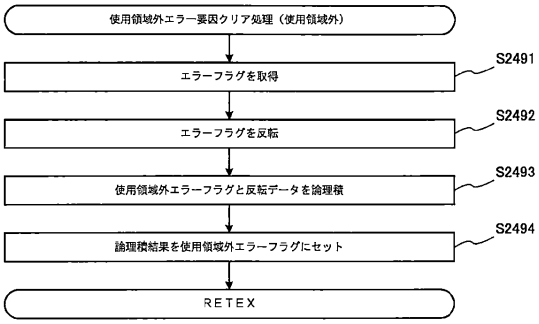
【図１９９】



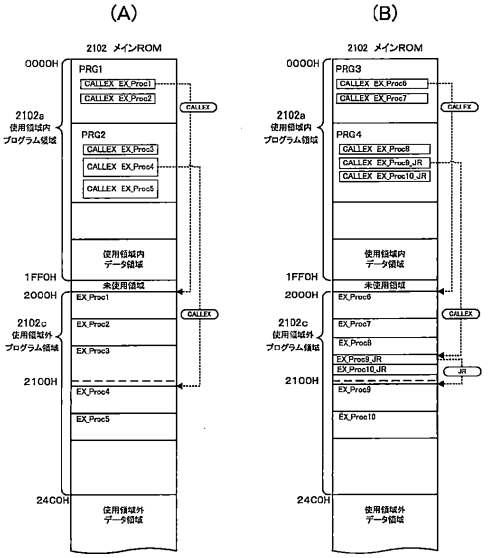
【図２００】



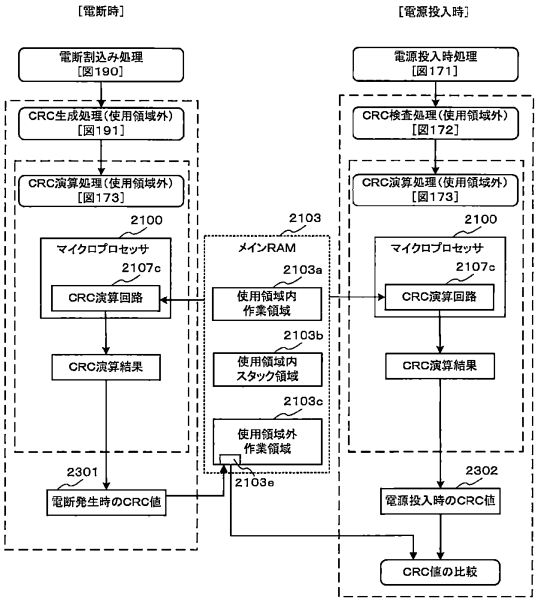
【図２０１】



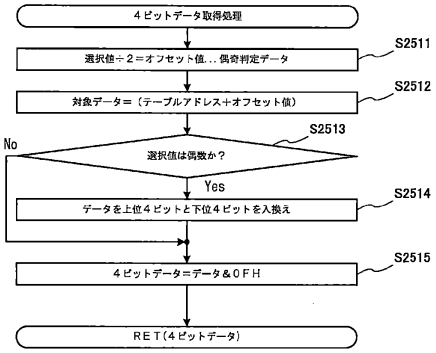
【図２０２】



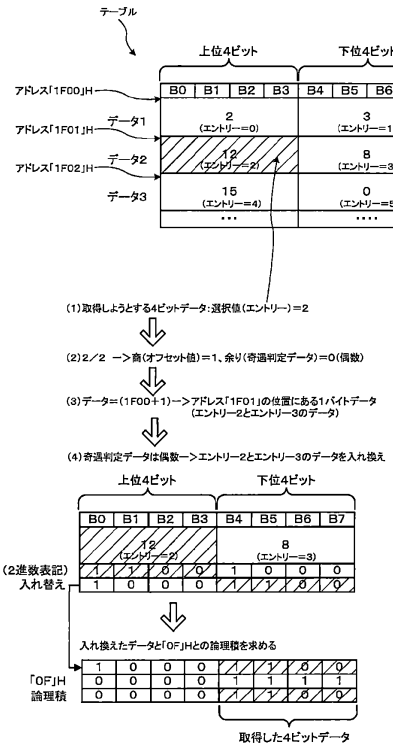
【図２０３】



【図２０４】



【図２０５】



【図２０６】

(A)

```
d4BITTBL:
    DB  2 * 10H + 3
    DB 12 * 10H + 8
    DB 15 * 10H + 0
        .......
```

(B)

```
dREEL_ZU1:                          ;左リール
        DB      cREPB*10H+cBELA     ;図柄位置 1,2
        DB      cWMLN*10H+cSEVN     ;図柄位置 3,4
        DB      cREPA*10H+cBAR      ;図柄位置 5,6
        DB      cBELB*10H+cWMLN     ;図柄位置 7,8
        DB      cCHERY*10H+cBLANK   ;図柄位置 9,10
        DB      cREPA*10H+cBELA     ;図柄位置 11,12
        DB      cVSEBN*10H+cVSEBN   ;図柄位置 13,14
        DB      cVSEBN*10H+cREPA    ;図柄位置 15,16
        DB      cBELA*10H+cCHERY    ;図柄位置 17,18
        DB      cSEVN*10H+cWMLN     ;図柄位置 19,0
dREEL_ZU2:                          ;中リール
        DB      cREPA*10H+cBELB     ;図柄位置 1,2
        DB      cCHERY*10H+cSEVN    ;図柄位置 3,4
        DB      cWMLN*10H+cREPA     ;図柄位置 5,6
        DB      cBELB*10H+cBAR      ;図柄位置 7,8
        DB      cCHERY*10H+cBAR     ;図柄位置 9,10
        DB      cREPA*10H+cREPA     ;図柄位置 11,12
        DB      cCHERY*10H+cVSEBN   ;図柄位置 13,14
        DB      cWMLN*10H+cREPA     ;図柄位置 15,16
        DB      cBELA*10H+cCHERY    ;図柄位置 17,18
        DB      cREPB*10H+cWMLN     ;図柄位置 19,0
dREEL_ZU3:                          ;右リール
        DB      cREPA*10H+cWMLN     ;図柄位置 1,2
        DB      cBELB*10H+cSEVN     ;図柄位置 3,4
        DB      cCHERY*10H+cREPA    ;図柄位置 5,6
        DB      cWMLN*10H+cBELB     ;図柄位置 7,8
        DB      cBLANK*10H+cCHERY   ;図柄位置 9,10
        DB      cREPB*10H+cWMLN     ;図柄位置 11,12
        DB      cBELA*10H+cVSEBN    ;図柄位置 13,14
        DB      cCHERY*10H+cREPB    ;図柄位置 15,16
        DB      cWMLN*10H+cBELA     ;図柄位置 17,18
        DB      cBLANK*10H+cBAR     ;図柄位置 19,0

;図柄コード
cVSEBN      EQU     00000001B       ;V
cSEVN       EQU     00000010B       ;ｾﾌﾞﾝ
cBAR        EQU     00000011B       ;ﾊﾞｰ(BAR)
cWMLN       EQU     00000100B       ;ｽｲｶ
cCHERY      EQU     00000101B       ;ﾁｪﾘｰ
cBELA       EQU     00000110B       ;ﾍﾞﾙA
cBELB       EQU     00000111B       ;ﾍﾞﾙB
cREPA       EQU     00001000B       ;ﾘﾌﾟA
cREPB       EQU     00001001B       ;ﾘﾌﾟB
cBLANK      EQU     00001010B       ;ﾌﾞﾗﾝｸ
```

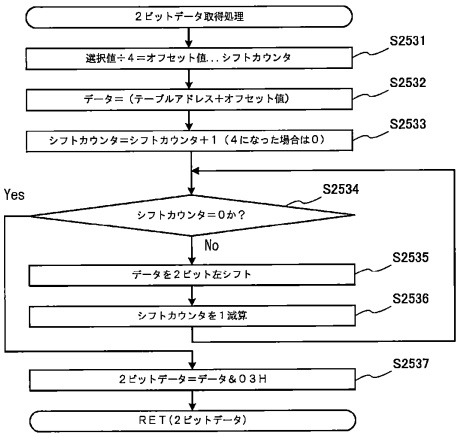
【図２０７】

```
dPayOnv:                    ;格納領域種別ﾃﾞｰﾀ
        DB      0*10H+0     ;1:B1,B0
        DB      0*10H+0     ;1:B3,B2
        DB      0*10H+0     ;1:B5,B4
        DB      0*10H+0     ;1:B7,B6
        DB      15*10H+15   ;2:B1,B0
        DB      15*10H+15   ;2:B3,B2
        DB      15*10H+15   ;2:B5,B4
        DB      15*10H+15   ;2:B7,B6
        DB      15*10H+15   ;3:B1,B0
        DB      15*10H+15   ;3:B3,B2
        DB      3*10H+3     ;3:B5,B4
        DB      3*10H+3     ;3:B7,B6
        DB      3*10H+3     ;4:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;4:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;4:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;4:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;5:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;5:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;5:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;5:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;6:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;6:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;6:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;6:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;7:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;7:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;7:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;7:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;8:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;8:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;8:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;8:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;9:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;9:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;9:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;9:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;10:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;10:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;10:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;10:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;11:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;11:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;11:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;11:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;12:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;12:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;12:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;12:B7,B6
        DB      1*10H+1     ;13:B1,B0
        DB      1*10H+1     ;13:B3,B2
        DB      1*10H+1     ;13:B5,B4
        DB      1*10H+1     ;13:B7,B6
```

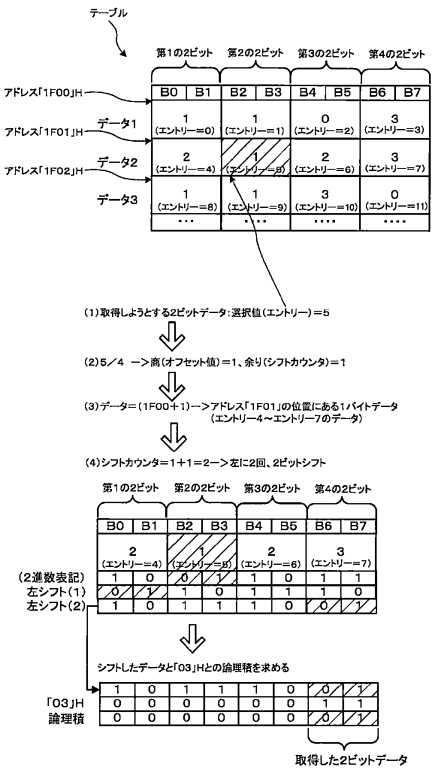
【図２０８】

```
dNaviTbl:
        DB      0*10H+9         ; F_ﾘﾌﾟﾚｲ
        DB      0*10H+9         ; F_ﾘﾌﾟﾚｲ
        DB      1*10H+1         ; F_213ﾍﾞﾙA
        DB      5*10H+5         ; F_213ﾍﾞﾙB
        DB      1*10H+1         ; F_213ﾍﾞﾙC
        DB      5*10H+5         ; F_213ﾍﾞﾙD
        DB      2*10H+2         ; F_231ﾍﾞﾙA
        DB      6*10H+6         ; F_231ﾍﾞﾙB
        DB      2*10H+2         ; F_231ﾍﾞﾙC
        DB      6*10H+6         ; F_231ﾍﾞﾙD
        DB      3*10H+3         ; F_312ﾍﾞﾙA
        DB      7*10H+7         ; F_312ﾍﾞﾙB
        DB      3*10H+3         ; F_312ﾍﾞﾙC
        DB      7*10H+7         ; F_312ﾍﾞﾙD
        DB      4*10H+4         ; F_321ﾍﾞﾙA
        DB      8*10H+8         ; F_321ﾍﾞﾙB
        DB      4*10H+4         ; F_321ﾍﾞﾙC
        DB      8*10H+8         ; F_321ﾍﾞﾙD
        DB      11*10H+11       ; F_共通ﾍﾞﾙ
        DB      11*10H+11       ; F_平行ｽｲｶ
        DB      11*10H+11       ; F_斜めｽｲｶ
```

【図２０９】



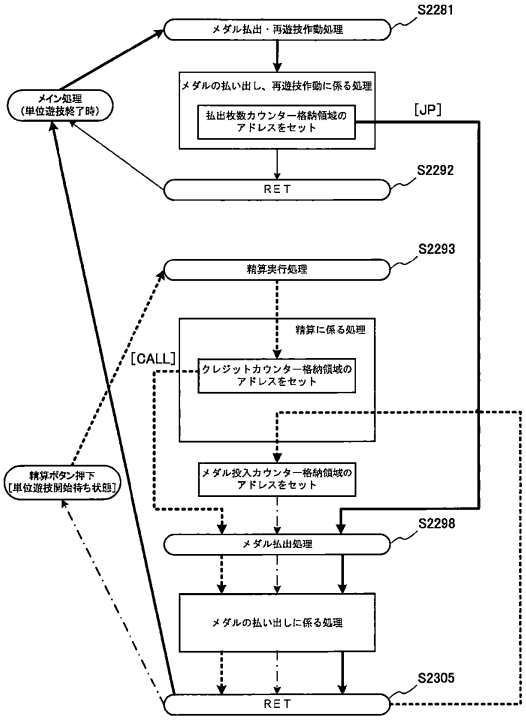
【図２１０】



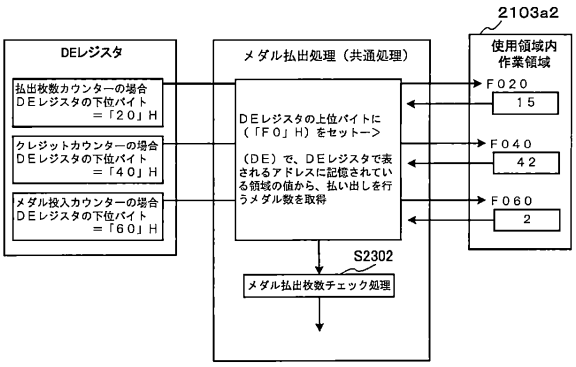
【図２１１】

```
dAttCnv:                    ;格納領域種別データ
        DB      00000000B   ;0:B7,B6,B5,B4
        DB      00000011B   ;0:B3,B2,B1,B0
        DB      01010101B   ;1:B7,B6,B5,B4
        DB      01010101B   ;1:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;2:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;2:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;3:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;3:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;4:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;4:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;5:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;5:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;6:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;6:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;7:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;7:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;8:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;8:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;9:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;9:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;10:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;10:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;11:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;11:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;12:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;12:B3,B2,B1,B0
        DB      10101010B   ;13:B7,B6,B5,B4
        DB      10101010B   ;13:B3,B2,B1,B0
```

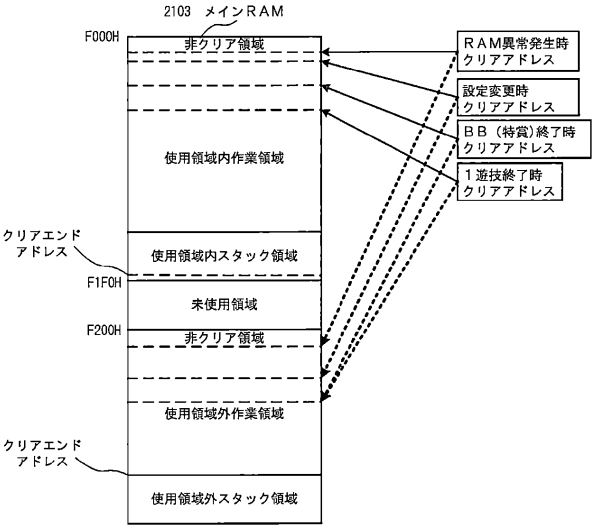
【図２１２】



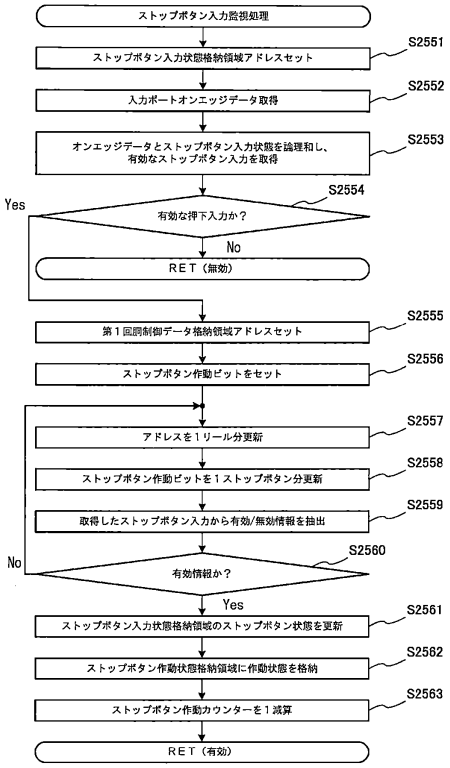
【図２１３】



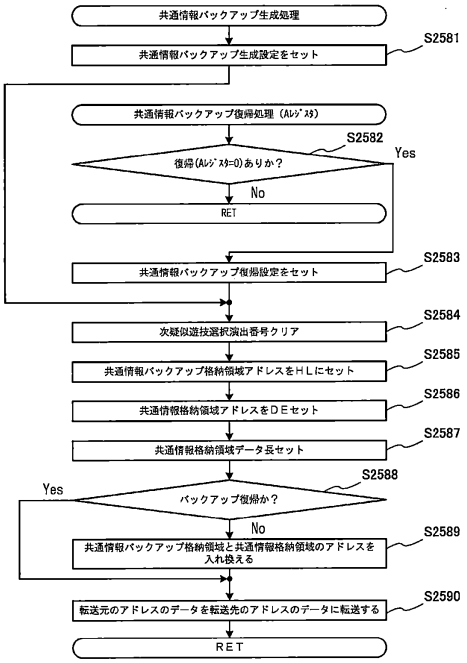
【図２１４】



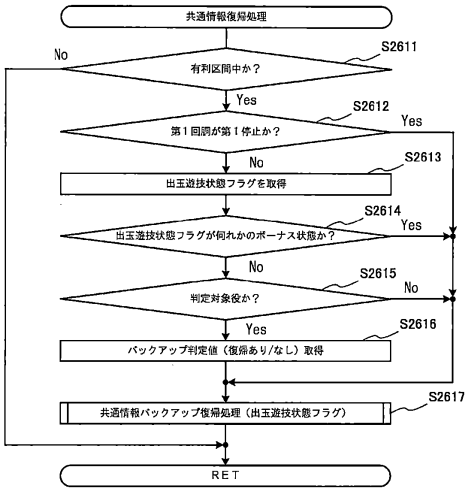
【図２１５】



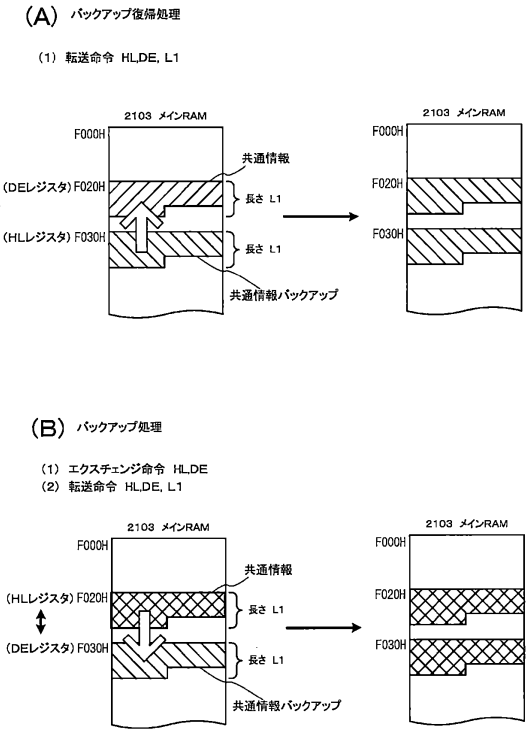
【図２１６】



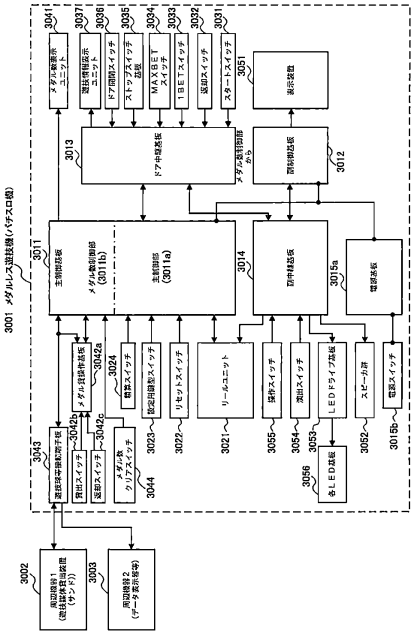
【図２１７】



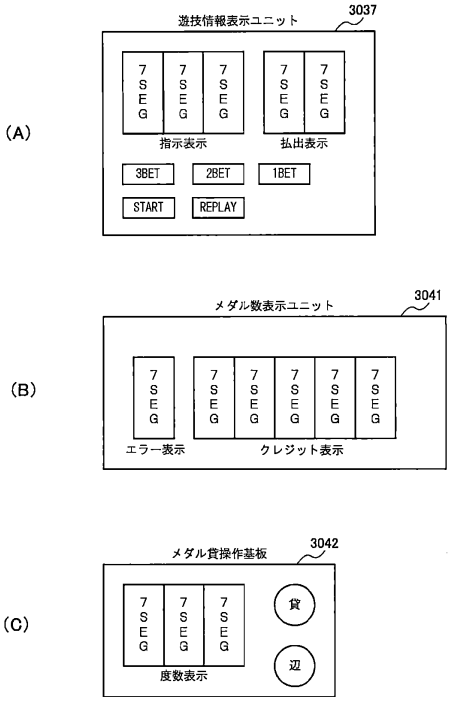
【図２１８】



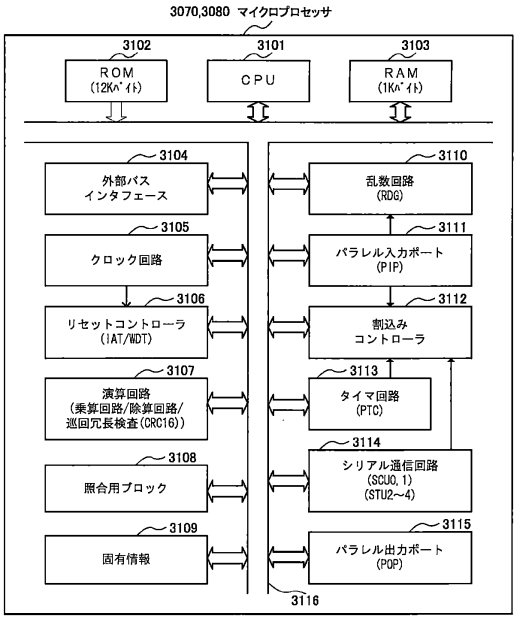
【図２１９】



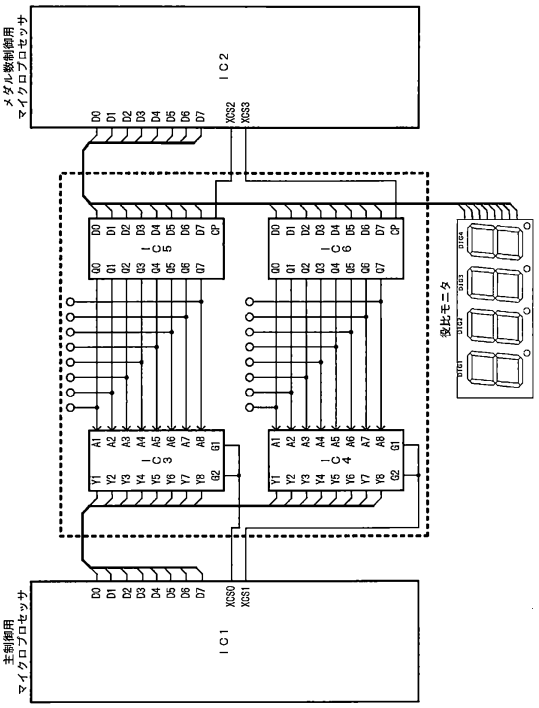
【図２２０】



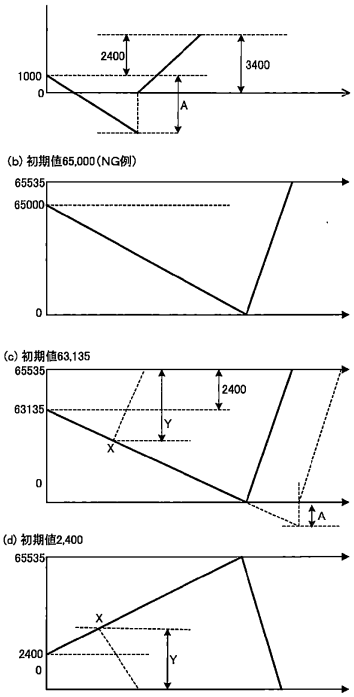
【図２２１】



【図２２２】



【図２２３】



【図２２４】

項目	値
払出数リミッタの規定値	2326
有利区間上限ゲーム数	4000
有利区間払出数カウンタのカウント範囲	4384～18790
ＡＴ１遊技当りの平均純増枚数	2.2
有利区間払出数カウンタの初期値	16464

【図２２５】

(a)契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否 具体例1

有利区間払出数カウンタに係る処理	RWMクリア後起動時	遊技場管理者による操作		遊技中				
		特定ボタン等操作時	設定変更時	通常区間中	有利区間中			
					有利区間移行時		2400枚到達による終了時	任意の契機終了時
初期化（初期値設定）	必須	不可	不可	不可	可	不可	必須	可
カウンタ更新処理（払出加算及び投入減算）	–	–	–	必須	–	必須	–	–
カウンタ値参照（指示機能に係る処理）	不可	不可	不可	不可	不可	可	不可 ※指示系RWM初期化	不可 ※指示系RWM初期化
カウンタ情報送信（回胴基板へ送信）	–	可	可	可	可	可	可	可

(b)契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否 具体例2

有利区間払出数カウンタに係る処理	RWMクリア後起動時	遊技場管理者による操作		遊技中				
		特定ボタン等操作時	設定変更時	通常区間中	有利区間中			
					有利区間移行時		2400枚到達による終了時	任意の契機終了時
初期化（初期値設定）	不可	不可	不可 ※有利区間の初期化不可	不可	不可	不可	必須	必須
カウンタ更新処理（払出加算及び投入減算）	–	–	–	不可	–	必須	–	–
カウンタ値参照（指示機能に係る処理）	不可	不可	可 ※有利区間中に限る	不可	不可	可	不可 ※有利区間初期化	不可 ※有利区間初期化
カウンタ情報送信（回胴基板へ送信）	–	可	可	可	可	可	可	可

(c)契機毎の有利区間払出数カウンタの処理にかかわる可否 具体例3

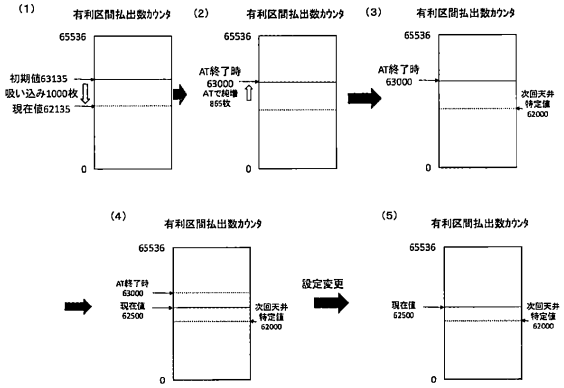
有利区間払出数カウンタに係る処理	RWMクリア後起動時	遊技場管理者による操作		遊技中				
		特定ボタン等操作時	設定変更時	通常区間中	有利区間中			
					有利区間移行時		2400枚到達による終了時	任意の契機終了時
初期化（初期値設定）	不可	不可	不可 ＊有利区間の初期化は必須	不可	不可	不可	必須	必須
カウンタ更新処理（払出加算及び投入減算）	–	–	–	不可	–	必須	–	–
カウンタ値参照（指示機能に係る処理）	不可	不可	不可	不可	不可	可	不可 ※有利区間初期化	不可 ※有利区間初期化
カウンタ情報送信（回胴基板へ送信）	–	可	可	可	可	可	可	可

【図２２６】

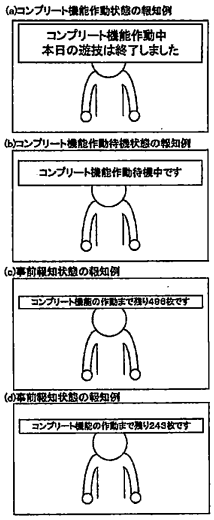
契機	種別（内容）	対象
初期化時（有利区間終了時）	遊技者に不利とならないように保持する必要のあるもの	・役物及び役物連続作動装置に係る条件装置作動状態 ・役物及び役物連続作動状態 ・再遊技確率抽せん状態 ・貯留枚数
	ハード構成上保持する必要のあるもの	・回胴動磁情報 ・エラーに係る情報 ・役比等表示モニタに係る情報
設定変更時	遊技者に不利とならないように保持してもよいもの	・役物及び役物連続作動装置に係る条件装置作動状態 ・役物及び役物連続作動状態 ・再遊技確率抽せん状態
	ハード構成上保持してもよいもの	・回胴動磁情報 ・役比等表示モニタに係る情報

【図２２７】

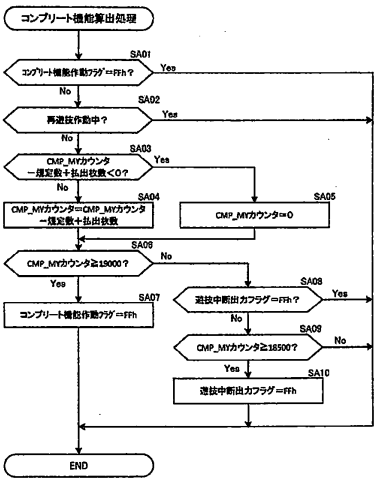
【図２２８】



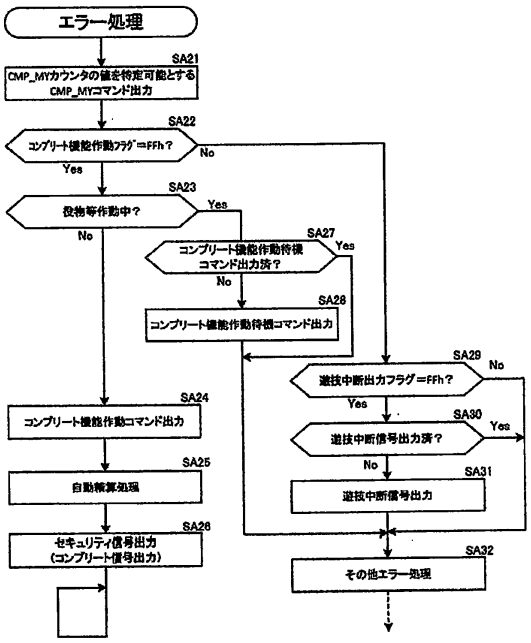
【図２２９】



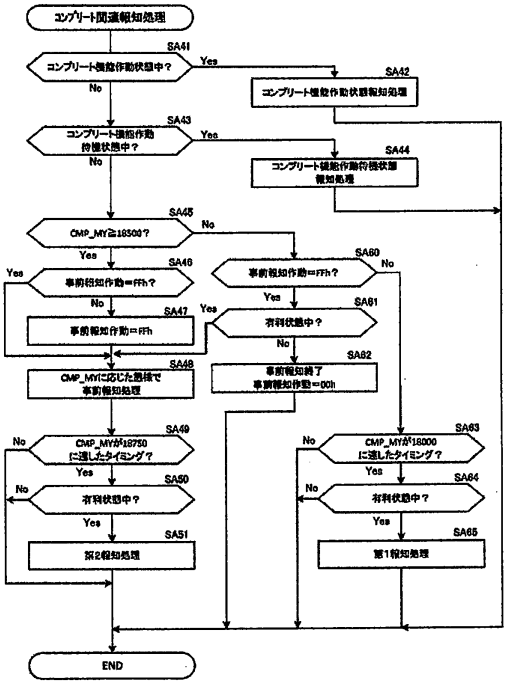
【図２３０】



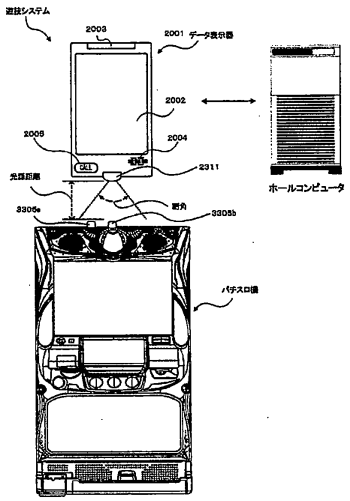
【図２３１】



【図２３２】



【図２３３】



【図２３４】

点灯パターン

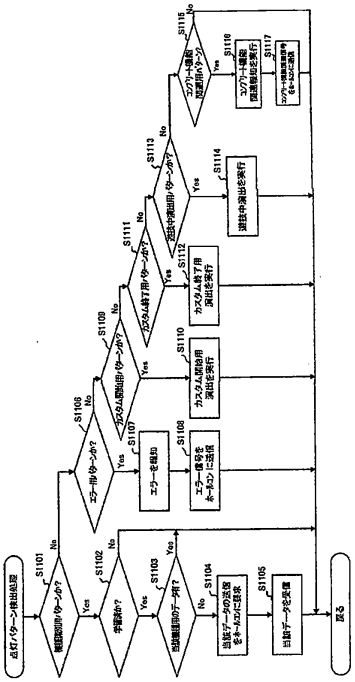
	LED左	LED右	遊技機の状態	パターン種別
パターン1	赤	青緑	電源OFF中にドア開閉が行われた	エラー用パターン
パターン2	赤	緑	ドアを閉めた状態の設定変更・設定確認	
パターン3	赤	赤紫	ホッパーエンプティ	
パターン4	赤	黄緑	補助収納率調ダン	
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン10	黄	赤	キャラクタAカスタム開始	カスタム開始用パターン
パターン11	黄	青緑	キャラクタBカスタム開始	
パターン12	黄	緑	キャラクタCカスタム開始	
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン20	黄	緑	カスタム終了	カスタム終了用パターン
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン30	青緑	緑	AT中(非カスタム中)	遊技中演出用パターン (AT中用パターン)
パターン31	青緑	緑	AT中(キャラクタAカスタム中)	
パターン32	青緑	青緑	AT中(キャラクタBカスタム中)	
パターン33	青緑	青	AT中(キャラクタCカスタム中)	
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン40	緑	緑	AT突入(非カスタム中)	遊技中演出用パターン (AT開始用パターン)
パターン41	緑	赤	AT突入(キャラクタAカスタム中)	
パターン42	緑	黄	AT突入(キャラクタBカスタム中)	
パターン43	緑	青緑	AT突入(キャラクタCカスタム中)	
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン50	赤紫	赤	演出A	遊技中演出用パターン
パターン51	赤紫	黄	演出B	
パターン52	赤紫	青緑	演出C	
・	・	・	・	・
・	・	・	・	・
パターン60	青緑色	赤色	第1報知	コンプリート機能 調達用パターン
パターン61	青緑色	黄色	第2報知	
パターン62	青緑色	青緑色	事前報知状態中	
パターン63	青緑色	緑色	コンプリート機能作動待機状態中	
パターン64	青緑色	青色	コンプリート機能作動状態中	
・	・	・	・	・

【図２３５】

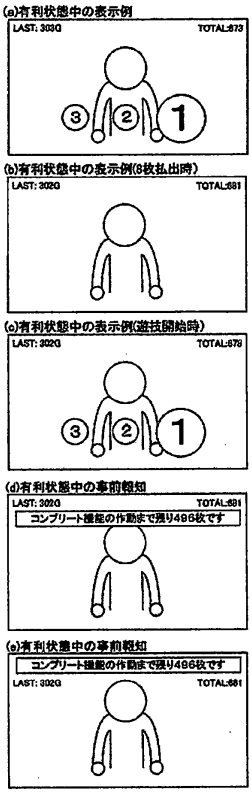
機種識別用パターン

	LED左	LED右	出力秒数	用途
1	白	白	10秒	学習用
2	青緑	青緑	1秒	
3	桃	桃	1秒	
4	緑	緑	1秒	
5	赤紫	赤紫	1秒	
6	黄緑	黄緑	1秒	
7	紫	紫	1秒	
8	黄色	黄色	1秒	
9	青	青	1秒	
10	赤	赤	1秒	学習＆ヘッダ
11	青	青	1秒	メーカー情報
12	赤	青	1秒	機種情報
13	青	赤	1秒	機種情報

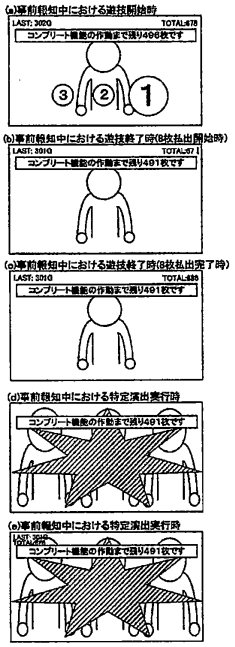
【図２３６】



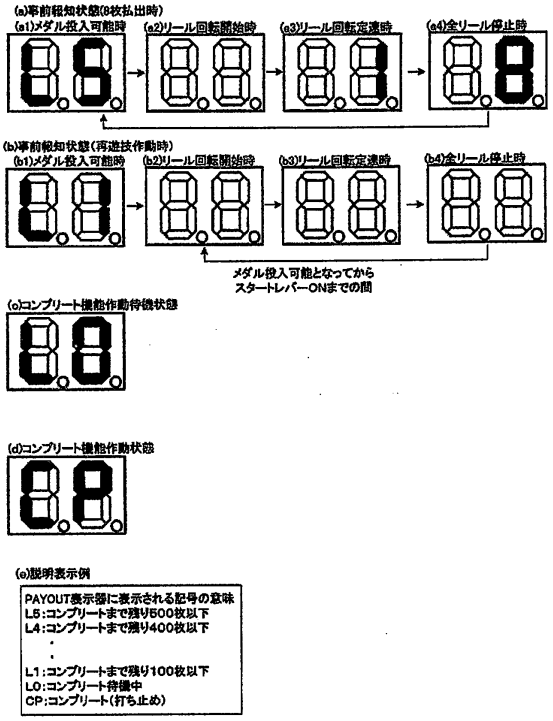
【図２３７】



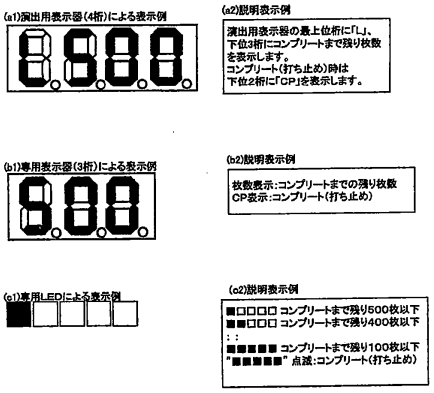
【図２３８】



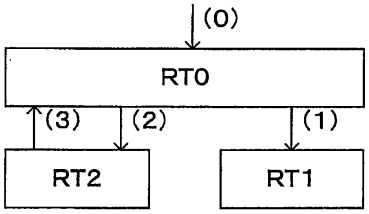
【図２３９】



【図２４０】



【図２４１】



移行条件	内容
(0)	設定変更
(1)	BB当籤かつBB非表示
(2)	BB当籤かつBB表示
(3)	BB終了 (14枚を超える払い出し)

【図２４２】

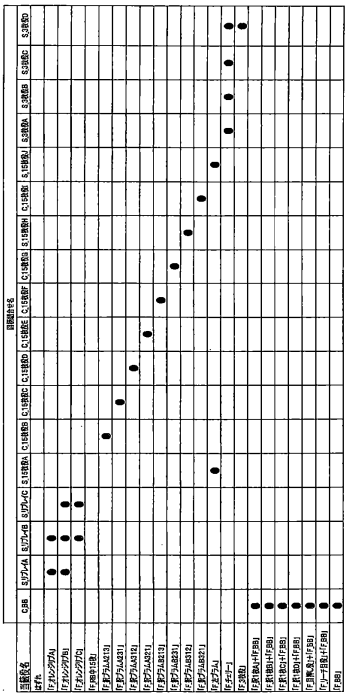
リールの回転方向

図柄番号	左リール	中リール	右リール
0	オレンジ	チェリー1	プラム
19	BAR2	ブランクB	オレンジ
18	青7	プラム	青7
17	プラム	BAR1	ブランクA
16	オレンジ	オレンジ	チェリー1
15	BAR1	チェリー2	プラム
14	チェリー1	ブランクA	オレンジ
13	赤7	プラム	青7
12	プラム	BAR1	BAR1
11	オレンジ	オレンジ	赤7
10	BAR1	チェリー1	プラム
9	赤7	ブランクA	オレンジ
8	プラム	プラム	青7
7	オレンジ	BAR1	ブランクA
6	BAR1	オレンジ	チェリー1
5	チェリー2	チェリー1	プラム
4	青7	ブランクA	オレンジ
3	プラム	プラム	青7
2	オレンジ	BAR1	ブランクA
1	プラム	オレンジ	チェリー1

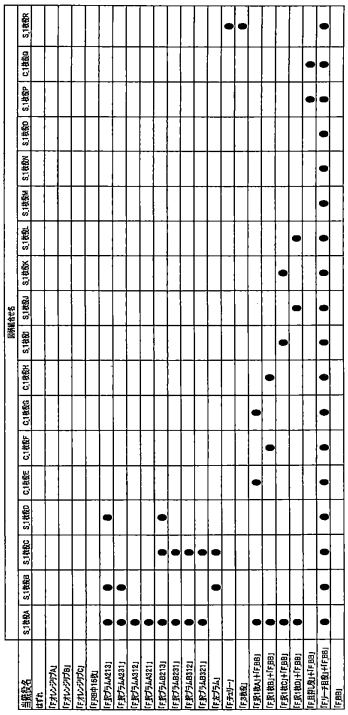
【図２４３】

図柄組合せ名	図柄組合せ			配当
	左リール	中リール	右リール	
C.BB	BAR2	チェリー2	BAR1	BB
S.リプレイA	BAR1／BAR2	ブランクA／ブランクB	BAR1／オレンジ／ブランクA	再遊技
S.リプレイB	プラム	ブランクA／ブランクB	BAR1／ブランクA	再遊技
S.リプレイC	オレンジ	ブランクA／ブランクB	青7	再遊技
S.15枚役A	オレンジ	ブランクA／ブランクB	プラム	15枚
C.15枚役B	プラム	プラム	オレンジ	15枚
C.15枚役C	オレンジ	プラム	プラム	15枚
C.15枚役D	オレンジ	プラム	青7	15枚
C.15枚役E	オレンジ	オレンジ	青7	15枚
C.15枚役F	プラム	オレンジ	オレンジ	15枚
C.15枚役G	オレンジ	オレンジ	プラム	15枚
S.15枚役H	オレンジ	チェリー1／チェリー2	青7	15枚
C.15枚役I	オレンジ	BAR1	青7	15枚
S.15枚役J	赤7／青7	ブランクA／ブランクB	青7	15枚
S.3枚役A	赤7／青7	ブランクA／ブランクB	赤7／チェリー1	3枚
S.3枚役B	赤7／青7／BAR1	チェリー1／チェリー2	オレンジ	3枚
S.3枚役C	BAR1	プラム	赤7／チェリー1	3枚
S.3枚役D	オレンジ	ブランクA／ブランクB	オレンジ	3枚
S.1枚役A	BAR1／BAR2／プラム	ブランクA／ブランクB	赤7／青7／チェリー1	1枚
S.1枚役B	赤7／青7／BAR2	プラム	赤7／チェリー1	1枚
S.1枚役C	赤7／青7／BAR2	オレンジ	赤7／チェリー1	1枚
S.1枚役D	BAR1／オレンジ	BAR1	チェリー1	1枚
C.1枚役E	赤7	BAR1	赤7	1枚
C.1枚役F	赤7	BAR1	チェリー1	1枚
C.1枚役G	赤7	ブランクA	プラム	1枚
C.1枚役H	赤7	ブランクB	プラム	1枚
S.1枚役I	青7／BAR2	BAR1	赤7	1枚
S.1枚役J	青7／BAR2	BAR1	チェリー1	1枚
S.1枚役K	青7／BAR2	ブランクA	プラム	1枚
S.1枚役L	青7／BAR2	ブランクB	プラム	1枚
S.1枚役M	プラム	ブランクA／ブランクB	オレンジ	1枚
S.1枚役N	BAR1	ブランクA／ブランクB	プラム	1枚
S.1枚役O	赤7／青7	ブランクA／ブランクB	BAR1／ブランクA	1枚
S.1枚役P	オレンジ	ブランクA／ブランクB	ブランクA	1枚
C.1枚役Q	オレンジ	チェリー1	プラム	1枚
S.1枚役R	赤7／青7／プラム／オレンジ	プラム／オレンジ	BAR1／ブランクA	1枚

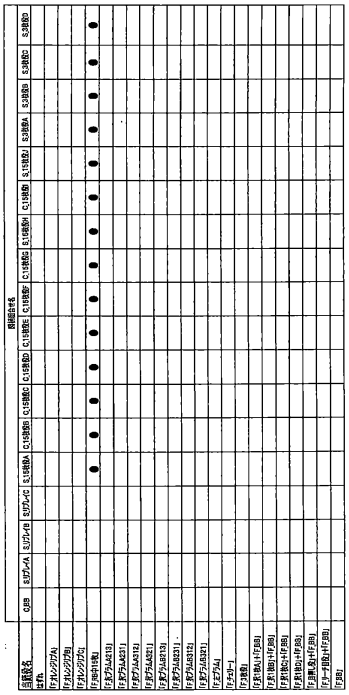
【図２４４】



【図２４５】



【図２４６】



【図２４７】

当籤役名	当籤役番号	S1BSA	S1BSB	S1BSC	S1BSD	C1BSE	C1BSF	C1BSG	C1BSH	S1BSI	S1BSJ	S1BSK	S1BSL	S1BSM	S1BSN	S1BSO	S1BSP	C1BSQ	S1BSR
はずれ	0																		
「F_オレンジリブA」	1																		
「F_オレンジリブB」	2																		
「F_オレンジリブC」	3																		
「F_RB中15枚」	4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
「F_択プラムA213」	5																		
「F_択プラムA231」	6																		
「F_択プラムA312」	7																		
「F_択プラムA321」	8																		
「F_択プラムB213」	9																		
「F_択プラムB231」	10																		
「F_択プラムB312」	11																		
「F_択プラムB321」	12																		
「F_左プラム」	13																		
「F_チェリー」	14																		
「F_3枚役」	15																		
「F_択1枚役A」+「F_BB」	16																		
「F_択1枚役B」+「F_BB」	17																		
「F_択1枚役C」+「F_BB」	18																		
「F_択1枚役D」+「F_BB」	19																		
「F_目押し役」+「F_BB」	20																		
「F_リーチ目役」+「F_BB」	21																		
「F_BB」	22																		

【図２４８】

当籤役番号	当籤役名	当籤役グループ番号
0	はずれ	0
1	「F_オレンジリブA」	0
2	「F_オレンジリブB」	0
3	「F_オレンジリブC」	0
4	「F_RB中15枚」	0
5	「F_択プラムA213」	1
6	「F_択プラムA231」	1
7	「F_択プラムA312」	1
8	「F_択プラムA321」	1
9	「F_択プラムB213」	1
10	「F_択プラムB231」	1
11	「F_択プラムB312」	1
12	「F_択プラムB321」	1
13	「F_左プラム」	2
14	「F_チェリー」	3
15	「F_3枚役」	0
16	「F_択1枚役A」+「F_BB」	1
17	「F_択1枚役B」+「F_BB」	1
18	「F_択1枚役C」+「F_BB」	1
19	「F_択1枚役D」+「F_BB」	1
20	「F_目押し役」+「F_BB」	0
21	「F_リーチ目役」+「F_BB」	0
22	「F_BB」	0

【図２４９】

当籤役グループ番号	当籤役グループ名
0	その他
1	択役
2	左プラム
3	通常チェリー
4	規定チェリー

【図２５０】

当籤役名	RT状態		
	RT0	RT1	RT2
はずれ	−	−	○
「F_オレンジリブA」	−	○	−
「F_オレンジリブB」	○	○	−
「F_オレンジリブC」	○	○	−
「F_RB中15枚」	−	−	○
「F_択プラムA213」	○	○	−
「F_択プラムA231」	○	○	−
「F_択プラムA312」	○	○	−
「F_択プラムA321」	○	○	−
「F_択プラムB213」	○	○	−
「F_択プラムB231」	○	○	−
「F_択プラムB312」	○	○	−
「F_択プラムB321」	○	○	−
「F_左プラム」	○	○	−
「F_チェリー」	○	○	−
「F_3枚役」	○	○	−
「F_択1枚役A」+「F_BB」	○	○	−
「F_択1枚役B」+「F_BB」	○	○	−
「F_択1枚役C」+「F_BB」	○	○	−
「F_択1枚役D」+「F_BB」	○	○	−
「F_目押し役」+「F_BB」	○	○	−
「F_リーチ目役」+「F_BB」	○	○	○
「F_BB」	○	−	−

【図２５１】

(a) RT0

当籤役番号	当籤役名	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
22	F.BB	4	4	4	4	4	4
21	F.BB+F.リーチ目	1046	1022	998	972	946	918
20	F.BB+F.目押し	200	200	200	200	200	200
19	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
18	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
17	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
16	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
15	F.3枚役	1700	1700	1700	1700	1700	1700
14	F.チェリー	1800	1820	1840	1860	1880	1900
13	F.左プラム	128	132	136	142	148	156
12	F.択プラムB321	3860	3860	3860	3860	3860	3860
11	F.択プラムB312	3860	3860	3860	3860	3860	3860
10	F.択プラムB231	3860	3860	3860	3860	3860	3860
9	F.択プラムB213	3860	3860	3860	3860	3860	3860
8	F.択プラムA321	3860	3860	3860	3860	3860	3860
7	F.択プラムA312	3860	3860	3860	3860	3860	3860
6	F.択プラムA231	3860	3860	3860	3860	3860	3860
5	F.択プラムA213	3860	3860	3860	3860	3860	3860
3	F.オレンジリブC	4978	4978	4978	4978	4978	4978
2	F.オレンジリブB	4000	4000	4000	4000	4000	4000
1	F.オレンジリブA	0	0	0	0	0	0
0	はずれ	0	0	0	0	0	0

(b) RT1

当籤役番号	当籤役名	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
22	F.BB	0	0	0	0	0	0
21	F.BB+F.リーチ目	1046	1022	998	972	946	918
20	F.BB+F.目押し	200	200	200	200	200	200
19	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
18	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
17	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
16	F.BB+F.択1枚(	5200	5200	5200	5200	5200	5200
15	F.3枚役	1700	1700	1700	1700	1700	1700
14	F.チェリー	1800	1820	1840	1860	1880	1900
13	F.左プラム	128	132	136	142	148	156
12	F.択プラムB321	3860	3860	3860	3860	3860	3860
11	F.択プラムB312	3860	3860	3860	3860	3860	3860
10	F.択プラムB231	3860	3860	3860	3860	3860	3860
9	F.択プラムB213	3860	3860	3860	3860	3860	3860
8	F.択プラムA321	3860	3860	3860	3860	3860	3860
7	F.択プラムA312	3860	3860	3860	3860	3860	3860
6	F.択プラムA231	3860	3860	3860	3860	3860	3860
5	F.択プラムA213	3860	3860	3860	3860	3860	3860
3	F.オレンジリブC	4978	4978	4978	4978	4978	4978
2	F.オレンジリブB	4000	4000	4000	4000	4000	4000
1	F.オレンジリブA	4	4	4	4	4	4
0	はずれ	0	0	0	0	0	0

(b) RT2

当籤役番号	当籤役名	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
21	F.BB+F.リーチ目	51888	51888	51888	51888	51888	51888
4	F.RB中15枚	4671	4671	4671	4671	4671	4671
0	はずれ	8977	8977	8977	8977	8977	8977

【図２５２】

当籤役名	指示モニタの表示			
	非AT中		AT中	
	RT0	RT1	RT0	RT1
「F.オレンジリブA」	0	0	0	0
「F.オレンジリブB」	0	0	0	0
「F.オレンジリブC」	0	0	0	0
「F.RB中15枚」	0	0	0	0
「F.択プラムA213」	0	0	0	1
「F.択プラムA231」	0	0	0	2
「F.択プラムA312」	0	0	0	3
「F.択プラムA321」	0	0	0	4
「F.択プラムB213」	0	0	0	1
「F.択プラムB231」	0	0	0	2
「F.択プラムB312」	0	0	0	3
「F.択プラムB321」	0	0	0	4
「F.左プラム」	0	0	0	0
「F.チェリー」	0	0	0	0
「F.3枚役」	0	0	0	0
「F.択1枚役A」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.択1枚役B」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.択1枚役C」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.択1枚役D」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.目押し役」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.リーチ目役」+「F.BB」	0	0	0	0
「F.BB」	0	0	0	0

指示モニタ「0」:押し順報知なし
指示モニタ「1」:押し順(中→左→右)
指示モニタ「2」:押し順(中→右→左)
指示モニタ「3」:押し順(右→左→中)
指示モニタ「4」:押し順(右→中→左)

【図２５３】

当籤役名	RT0						RT1						RT2					
	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1	1-2-3	1-3-2	2-1-3	2-3-1	3-1-2	3-2-1
はずれ	-						-						0枚					
「F.オレンジリブA」				RP						RP								
「F.オレンジリブB」				RP						RP								
「F.オレンジリブC」				RP						RP								
「F.RB中15枚」							-						15枚					
「F.択プラムA213」	1枚		1枚		1枚		1枚		15枚		1枚		-					
「F.択プラムA231」		1枚		1枚		1枚		1枚		15枚		1枚	-					
「F.択プラムA312」			1枚		15枚				1枚		15枚		-					
「F.択プラムA321」				1枚		15枚				1枚		15枚	-					
「F.択プラムB213」					1枚						1枚		-					
「F.択プラムB231」					1枚						1枚		-					
「F.択プラムB312」					1枚						15枚		-					
「F.択プラムB321」					1枚						15枚		-					
「F.ベル」						1枚		1枚				15枚	-					
「F.チェリー」						1枚		3枚				3枚	-					
「F.3枚役」						1枚		3枚				3枚	-					
「F.択1枚役A」+「F.BB」				1枚 or 0枚		1枚 or 0枚		1枚		1枚 or 0枚		1枚 or 0枚	-					
「F.択1枚役B」+「F.BB」				1枚 or 0枚		1枚 or 0枚		1枚		1枚 or 0枚		1枚 or 0枚	-					
「F.択1枚役C」+「F.BB」				1枚 or 0枚		1枚 or 0枚		1枚		1枚 or 0枚		1枚 or 0枚	-					
「F.択1枚役D」+「F.BB」				1枚 or 0枚		1枚 or 0枚		1枚		1枚 or 0枚		1枚 or 0枚	-					
「F.目押し役」+「F.BB」				1枚 or 0枚						1枚 or 0枚			-					
「F.リーチ目役」+「F.BB」					1枚						1枚		-					
「F.BB」				BB入賞 or 0枚									-					

【図２５４】

シナリオグループ抽籤テーブル

抽籤結果	
シナリオグループA	51989
シナリオグループB	13547

【図２５５】

シナリオ抽籤テーブル（シナリオグループＡ）

抽籤結果	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
シナリオ01	161	161	161	161	161	161
シナリオ02	161	161	161	161	161	161
シナリオ03	2478	2478	2478	2478	2478	2478
シナリオ04	247	247	247	247	247	247
シナリオ05	0	0	0	0	0	0
シナリオ06	413	454	499	549	604	665
シナリオ07	0	0	0	0	0	0
シナリオ08	0	0	0	0	0	0
シナリオ09	1651	1651	1651	1651	1651	1651
シナリオ10	2891	2891	2891	2891	2891	2891
シナリオ11	2065	2065	2065	2065	2065	2065
シナリオ12	825	825	825	825	825	825
シナリオ13	247	247	247	247	247	247
シナリオ14	247	247	247	247	247	247
シナリオ15	247	247	247	247	247	247
シナリオ16	247	247	247	247	247	247
シナリオ17	247	247	247	247	247	247
シナリオ18	4956	4956	4956	4956	4956	4956
シナリオ19	4129	4129	4129	4129	4129	4129
シナリオ20	4129	4129	4129	4129	4129	4129
シナリオ21	0	0	0	0	0	0
シナリオ22	0	0	0	0	0	0
シナリオ23	4229	4229	4229	4229	4229	4229
シナリオ24	0	0	0	0	0	0
シナリオ25	412	412	412	412	412	412
シナリオ26	161	177	195	214	236	259
シナリオ27	0	0	0	0	0	0
シナリオ28	1032	1084	1138	1195	1255	1317
シナリオ29	161	161	161	161	161	161
シナリオ30	161	161	161	161	161	161
シナリオ31	161	161	161	161	161	161
シナリオ32	0	0	0	0	0	0
シナリオ33	0	0	0	0	0	0
シナリオ34	0	0	0	0	0	0
シナリオ35	322	322	322	322	322	322
シナリオ36	322	322	322	322	322	322
シナリオ37	2065	2065	2065	2065	2065	2065
シナリオ38	0	0	0	0	0	0
シナリオ39	10326	9810	7848	6278	4395	3076
シナリオ40	3304	3238	2590	2072	1658	1160
シナリオ41	1073	1020	867	737	626	438
シナリオ42	1073	1020	867	737	626	438
シナリオ43	825	825	825	825	825	825
シナリオ44	1651	1651	1651	1651	1651	1651
シナリオ45	0	0	0	0	0	0
シナリオ46	3169	2964	2665	1582	1569	972
シナリオ47	7435	5889	5369	3304	3221	2230
シナリオ48	2313	4543	8261	13631	16109	19744

【図２５６】

シナリオ抽籤テーブル（シナリオグループＢ）

抽籤結果	設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
シナリオ01	0	0	0	0	0	0
シナリオ02	0	0	0	0	0	0
シナリオ03	0	0	0	0	0	0
シナリオ04	0	0	0	0	0	0
シナリオ05	3168	3168	3168	3168	3168	3168
シナリオ06	0	0	0	0	0	0
シナリオ07	1585	1585	1585	1585	1585	1585
シナリオ08	1585	1585	1585	1585	1585	1585
シナリオ09	0	0	0	0	0	0
シナリオ10	0	0	0	0	0	0
シナリオ11	0	0	0	0	0	0
シナリオ12	0	0	0	0	0	0
シナリオ13	0	0	0	0	0	0
シナリオ14	0	0	0	0	0	0
シナリオ15	0	0	0	0	0	0
シナリオ16	0	0	0	0	0	0
シナリオ17	0	0	0	0	0	0
シナリオ18	0	0	0	0	0	0
シナリオ19	0	0	0	0	0	0
シナリオ20	0	0	0	0	0	0
シナリオ21	3168	3168	3168	3168	3168	3168
シナリオ22	3168	3168	3168	3168	3168	3168
シナリオ23	0	0	0	0	0	0
シナリオ24	12681	12681	12681	12681	12681	12681
シナリオ25	0	0	0	0	0	0
シナリオ26	0	0	0	0	0	0
シナリオ27	12681	12681	12681	12681	12681	12681
シナリオ28	0	0	0	0	0	0
シナリオ29	0	0	0	0	0	0
シナリオ30	0	0	0	0	0	0
シナリオ31	0	0	0	0	0	0
シナリオ32	1237	1237	1237	1237	1237	1237
シナリオ33	1237	1237	1237	1237	1237	1237
シナリオ34	1237	1237	1237	1237	1237	1237
シナリオ35	0	0	0	0	0	0
シナリオ36	0	0	0	0	0	0
シナリオ37	0	0	0	0	0	0
シナリオ38	7926	7926	7926	7926	7926	7926
シナリオ39	0	0	0	0	0	0
シナリオ40	0	0	0	0	0	0
シナリオ41	0	0	0	0	0	0
シナリオ42	0	0	0	0	0	0
シナリオ43	0	0	0	0	0	0
シナリオ44	0	0	0	0	0	0
シナリオ45	15863	15863	15863	15863	15863	15863
シナリオ46	0	0	0	0	0	0
シナリオ47	0	0	0	0	0	0
シナリオ48	0	0	0	0	0	0

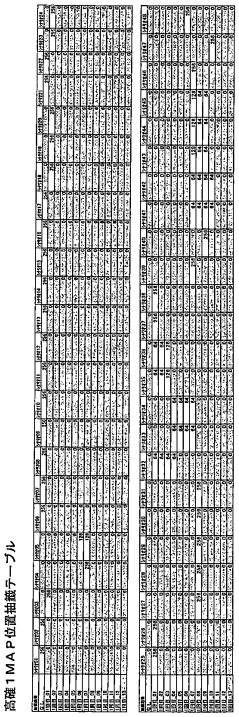
【図２５７】

シナリオ書き換え抽籤テーブル

抽籤結果	
書き換え無し	128
シナリオ02	128

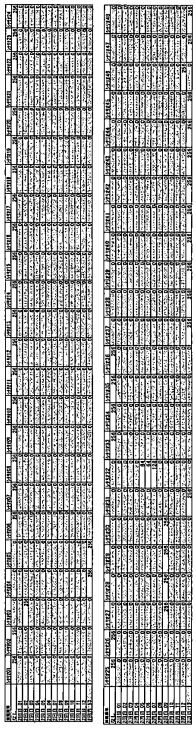
【図２５８】

高確１ＭＡＰ位置抽籤テーブル



【図２５９】

高確２ＭＡＰ位置抽籤テーブル



【図２６０】

ＧＳＢ連ランク抽籤テーブル

抽籤結果	
ﾗﾝｸ0	0
ﾗﾝｸ1	125
ﾗﾝｸ2	40
ﾗﾝｸ3	14
ﾗﾝｸ4	77

【図２６１】

ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブル（低確用）

抽籤結果	当籤役グループ番号0	当籤役グループ番号1	当籤役グループ番号2	当籤役グループ番号3	当籤役グループ番号4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	107	114
BG 前兆	0	0	0	70	33
BC 前兆	0	0	0	72	34
RUSH 前兆	0	0	0	7	3
GSB連 前兆	0	0	0	0	72

【図２６２】

ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブル（高確１用）

抽籤結果	当籤役グループ番号0	当籤役グループ番号1	当籤役グループ番号2	当籤役グループ番号3	当籤役グループ番号4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	54	90
BG 前兆	0	0	0	70	33
BC 前兆	0	0	0	80	37
RUSH 前兆	0	0	0	52	24
GSB連 前兆	0	0	0	0	72

【図２６３】

ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブル（高確２用）

抽籤結果	当籤役グループ番号0	当籤役グループ番号1	当籤役グループ番号2	当籤役グループ番号3	当籤役グループ番号4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	54	90
BG 前兆	0	0	0	70	33
BC 前兆	0	0	0	80	37
RUSH 前兆	0	0	0	52	24
GSB連 前兆	0	0	0	0	72

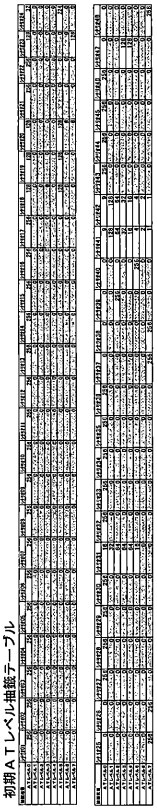
【図２６４】

ＴＳ種別０＿前兆移行抽籤テーブル（天井）

抽籤結果	当籤役グループ番号0	当籤役グループ番号1	当籤役グループ番号2	当籤役グループ番号3	当籤役グループ番号4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	1	0
BG 前兆	0	0	0	0	0
BC 前兆	0	0	0	0	0
RUSH 前兆	0	0	0	255	256
GSB連 前兆	0	0	0	0	0

【図２６５】

初期ＡＴレベル抽籤テーブル



【図２６６】

ＡＴレベル昇格抽籤テーブル

抽籤結果	当籤役グループ番号0	当籤役グループ番号1	当籤役グループ番号2	当籤役グループ番号3	当籤役グループ番号4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	0	255	256
昇格	0	0	256	1	0

【図２６７】

前兆ゲーム数抽籤テーブル

抽籤結果	BG_一般	BC_一般	RUSH_一般	GSB通_一般	ﾌｪｲｸ_RUSH中	BG_RUSH中	BC_RUSH中	ﾊﾟﾝｸ待機
0回	0	0	0	0	0	0	0	0
1回	0	0	0	0	49	0	0	0
2回	16	16	16	16	103	4	4	0
3回	60	60	60	60	103	60	13	0
4回	80	80	80	96	1	64	111	0
5回	100	100	100	0	0	128	128	256

【図２６８】

ＲＵＳＨ昇格抽籤テーブル

抽籤結果	当籤役 グループ番号 0	当籤役 グループ番号 1	当籤役 グループ番号 2	当籤役 グループ番号 3	当籤役 グループ番号 4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	243	256
BG_前兆	0	0	0	0	0
BC_前兆	0	0	0	0	0
RUSH_前兆	0	0	0	13	0

【図２６９】

ＲＵＳＨ開始時ナビ回数抽籤テーブル

当籤結果	ＡＴレベル０	ＡＴレベル１	ＡＴレベル２	ＡＴレベル３	ＡＴレベル４	ＡＴレベル５	ＡＴレベル６	ＡＴレベル７
0回	0	0	0	0	0	0	0	0
32回	128	64	0	0	0	0	0	0
48回	64	64	0	0	0	0	0	0
72回	64	64	128	64	0	0	0	0
96回	0	64	64	64	64	0	0	0
120回	0	0	64	64	64	64	0	0
144回	0	0	0	64	64	64	64	0
168回	0	0	0	0	64	64	64	64
192回	0	0	0	0	0	64	64	64
216回	0	0	0	0	0	0	64	64
240回	0	0	0	0	0	0	0	64

【図２７０】

ＲＵＳＨ中＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳ抽籤テーブル

抽籤結果	当籤役 グループ番号 0	当籤役 グループ番号 1	当籤役 グループ番号 2	当籤役 グループ番号 3	当籤役 グループ番号 4
ﾊｽﾞﾚ	256	256	256	96	256
ﾌｪｲｸ_RUSH中	0	0	0	78	0
BG_RUSH中	0	0	0	82	0
BC_RUSH中	0	0	0	0	0

【図２７１】

疑似ＢＮＳ終了時＿ＲＵＳＨ中疑似ＢＮＳテーブル

抽籤結果	
ﾊｽﾞﾚ	214
ﾌｪｲｸ_RUSH中	40
BG_RUSH中	2
BC_RUSH中	0

【図２７２】

ＲＵＳＨパンク時ＢＣ書き換え抽籤テーブル

抽籤結果	
ﾊｽﾞﾚ	1
BC書き換え	255

【図２７３】

補償モード移行抽籤テーブル

抽籤結果	補償ﾚﾍﾞﾙ0	補償ﾚﾍﾞﾙ1	補償ﾚﾍﾞﾙ2	補償ﾚﾍﾞﾙ3	補償ﾚﾍﾞﾙ4	補償ﾚﾍﾞﾙ5	補償ﾚﾍﾞﾙ6	補償ﾚﾍﾞﾙ7
ﾊｽﾞﾚ	255	255	255	255	255	255	255	255
補償ﾓｰﾄﾞ移行	1	1	1	1	1	1	1	1

【図２７４】

補償モード中ＡＴレベル昇格抽籤テーブル

抽籤結果	ＡＴレベル0	ＡＴレベル1	ＡＴレベル2	ＡＴレベル3	ＡＴレベル4	ＡＴレベル5	ＡＴレベル6	ＡＴレベル7
ﾊｽﾞﾚ	0	0	0	0	0	0	128	256
昇格	256	256	256	256	256	256	128	0

【図２７５】

補償モード時ナビ回数抽籤テーブル

抽籤結果	ＡＴレベル1	ＡＴレベル2	ＡＴレベル3	ＡＴレベル4	ＡＴレベル5	ＡＴレベル6	ＡＴレベル7
0回	231	231	231	231	231	231	230
32回	25	25	25	25	25	25	26
48回	0	0	0	0	0	0	0
72回	0	0	0	0	0	0	0
96回	0	0	0	0	0	0	0
120回	0	0	0	0	0	0	0
144回	0	0	0	0	0	0	0
168回	0	0	0	0	0	0	0
192回	0	0	0	0	0	0	0
216回	0	0	0	0	0	0	0
240回	0	0	0	0	0	0	0

【図２７６】

規定チェリー書き換え抽籤テーブル

抽籤結果	
ﾊｽﾞﾚ	13
規定ﾁｪﾘｰ書き換え	243

【図２７７】

シナリオ関連データテーブル

	MAPゲーム数	天井MAP数	GSB総回数	TS種別	補償レベル	TY値_疑似BNS初期値	TY値_RUSH初期値
シナリオ01	40	1	0	0	0	0	0
シナリオ02	80	2	5	0	0	0	0
シナリオ03	40	3	2	3	0	75	0
シナリオ04	80	14	14	1	0	0	75
シナリオ05	80	14	14	1	0	0	75
シナリオ06	80	7	7	0	5	0	0
シナリオ07	80	8	8	0	4	0	0
シナリオ08	80	9	9	0	3	0	0
シナリオ09	80	10	10	0	2	0	0
シナリオ10	80	11	11	0	1	0	0
シナリオ11	80	12	12	0	1	0	0
シナリオ12	80	13	13	0	1	0	0
シナリオ13	80	14	14	0	1	0	0
シナリオ14	86	14	15	0	1	0	0
シナリオ15	93	14	16	0	1	0	0
シナリオ16	98	14	17	0	1	0	0
シナリオ17	108	14	19	0	1	0	0
シナリオ18	60	2	5	0	0	0	140
シナリオ19	40	2	5	1	0	34	0
シナリオ20	40	2	5	0	0	0	128
シナリオ21	30	1	0	0	0	0	34
シナリオ22	30	1	0	0	0	0	7
シナリオ23	80	2	5	0	0	34	112
シナリオ24	80	2	5	0	0	0	120
シナリオ25	40	2	5	0	0	34	0
シナリオ26	40	2	5	0	0	34	188
シナリオ27	155	10	16	5	0	58	0
シナリオ28	155	10	16	5	0	58	0
シナリオ29	155	10	16	5	0	58	0
シナリオ30	155	10	16	5	0	58	0
シナリオ31	70	14	14	4	0	0	0
シナリオ32	80	8	6	0	0	0	0
シナリオ33	80	8	5	3	0	0	0
シナリオ34	80	8	5	3	0	0	0
シナリオ35	80	4	5	3	0	0	0
シナリオ36	80	4	5	3	0	0	0
シナリオ37	60	14	10	0	0	34	0
シナリオ38	60	14	10	0	0	34	0
シナリオ39	80	14	12	3	0	0	0
シナリオ40	80	14	14	4	0	0	0
シナリオ41	80	14	14	1	0	34	0
シナリオ42	80	14	14	1	0	34	0
シナリオ43	80	14	14	2	0	34	0
シナリオ44	80	14	14	2	0	34	0
シナリオ45	80	14	14	2	0	34	0
シナリオ46	110	14	17	3	0	0	0
シナリオ47	90	14	14	4	0	0	0
シナリオ48	83	14	15	4	0	41	0

【図２７８】

ＴＹ値__上乗せ１データテーブル

	疑似BNS	RUSH
シナリオ01	0	0
シナリオ02	0	0
シナリオ03	0	0
シナリオ04	68	140
シナリオ05	102	140
シナリオ06	0	0
シナリオ07	0	0
シナリオ08	0	0
シナリオ09	0	0
シナリオ10	0	0
シナリオ11	0	0
シナリオ12	0	0
シナリオ13	0	0
シナリオ14	0	0
シナリオ15	0	0
シナリオ16	0	0
シナリオ17	0	0
シナリオ18	0	0
シナリオ19	0	72
シナリオ20	0	0
シナリオ21	0	0
シナリオ22	0	0
シナリオ23	0	72
シナリオ24	0	0
シナリオ25	0	188
シナリオ26	0	0
シナリオ27	106	0
シナリオ28	140	0
シナリオ29	174	0
シナリオ30	208	0
シナリオ31	0	229
シナリオ32	102	0
シナリオ33	7	0
シナリオ34	34	0
シナリオ35	7	0
シナリオ36	34	0
シナリオ37	0	0
シナリオ38	0	0
シナリオ39	100	0
シナリオ40	0	140
シナリオ41	34	108
シナリオ42	0	139
シナリオ43	0	216
シナリオ44	0	175
シナリオ45	0	135
シナリオ46	151	0
シナリオ47	0	128
シナリオ48	106	180

【図２７９】

ＴＹ値__上乗せ２データテーブル

	疑似BNS	RUSH
シナリオ01	0	0
シナリオ02	0	0
シナリオ03	0	0
シナリオ04	0	22
シナリオ05	0	22
シナリオ06	0	0
シナリオ07	0	0
シナリオ08	0	0
シナリオ09	0	0
シナリオ10	0	0
シナリオ11	0	0
シナリオ12	0	0
シナリオ13	0	0
シナリオ14	0	0
シナリオ15	0	0
シナリオ16	0	0
シナリオ17	0	0
シナリオ18	0	0
シナリオ19	0	0
シナリオ20	0	0
シナリオ21	0	0
シナリオ22	0	0
シナリオ23	0	0
シナリオ24	0	0
シナリオ25	0	0
シナリオ26	0	0
シナリオ27	34	0
シナリオ28	34	0
シナリオ29	34	0
シナリオ30	34	0
シナリオ31	0	132
シナリオ32	0	0
シナリオ33	0	0
シナリオ34	0	0
シナリオ35	0	0
シナリオ36	0	0
シナリオ37	0	115
シナリオ38	0	144
シナリオ39	34	0
シナリオ40	0	0
シナリオ41	34	0
シナリオ42	34	0
シナリオ43	34	0
シナリオ44	34	0
シナリオ45	34	0
シナリオ46	34	0
シナリオ47	0	0
シナリオ48	34	0

【図２８０】

非ＡＴ時__補償ポイントデータテーブル

当籤役番号	補償ポイント数
0	0
1	3
2	3
3	3
4	0
5	1
6	1
7	1
8	1
9	1
10	1
11	1
12	1
13	15
14	3
15	3
16	1
17	1
18	1
19	1
20	0
21	1

【図２８１】

ＡＴ時__補償ポイントデータテーブル

当籤役番号	補償ポイント数
0	0
1	3
2	3
3	3
4	15
5	15
6	15
7	15
8	15
9	15
10	15
11	15
12	15
13	15
14	3
15	3
16	1
17	1
18	1
19	1
20	0
21	1

【図２８２】

指示無し時__前兆ポイント数データテーブル

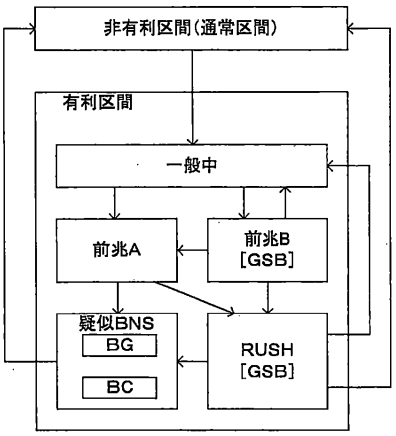
当籤役番号	前兆ポイント数
0	0
1	0
2	0
3	0
4	0
5	10
6	10
7	10
8	10
9	10
10	10
11	10
12	10
13	144
14	2
15	2
16	10
17	10
18	10
19	10
20	10
21	10

【図２８３】

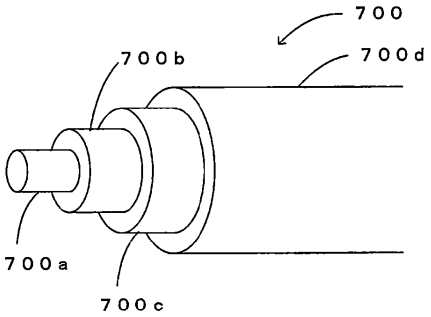
指示有り時__前兆ポイント数データテーブル

当籤役番号	前兆ポイント数
0	0
1	0
2	0
3	0
4	0
5	144
6	144
7	144
8	144
9	144
10	144
11	144
12	144
13	0
14	0
15	0
16	0
17	0
18	0
19	0
20	0
21	0

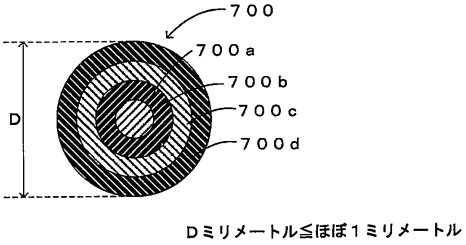
【図２８４】



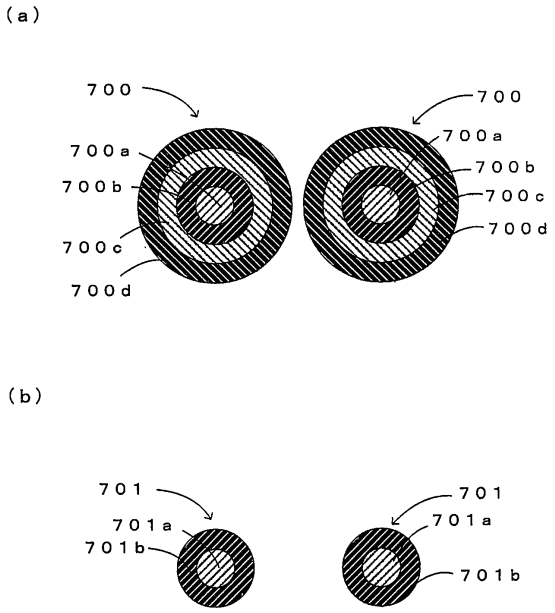
【図２８５】



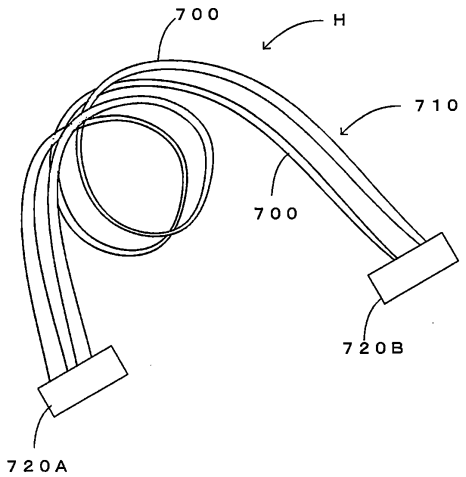
【図２８６】



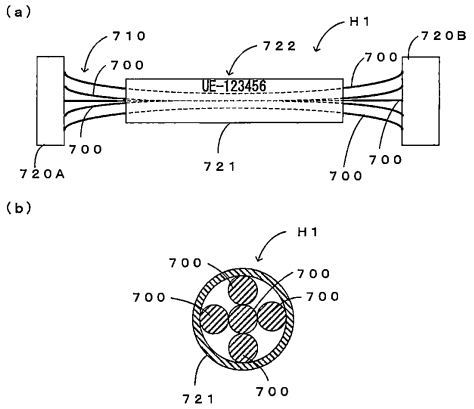
【図２８７】



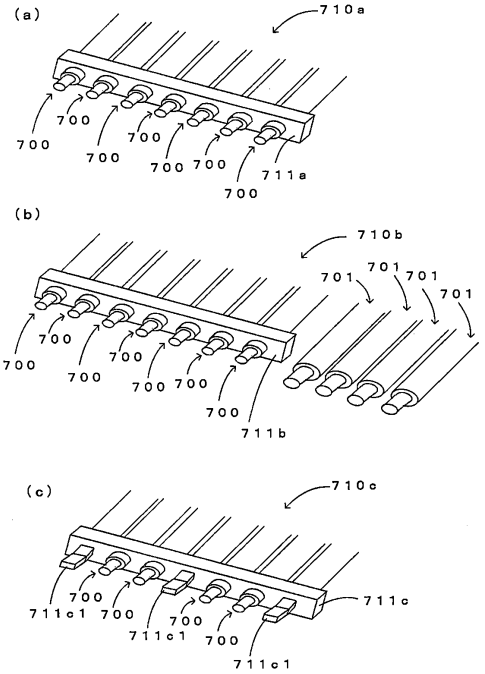
【図２８８】



【図２８９】



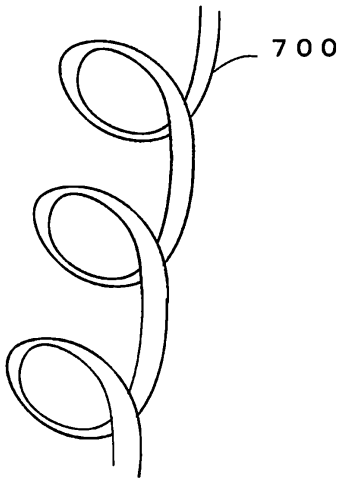
【図２９０】



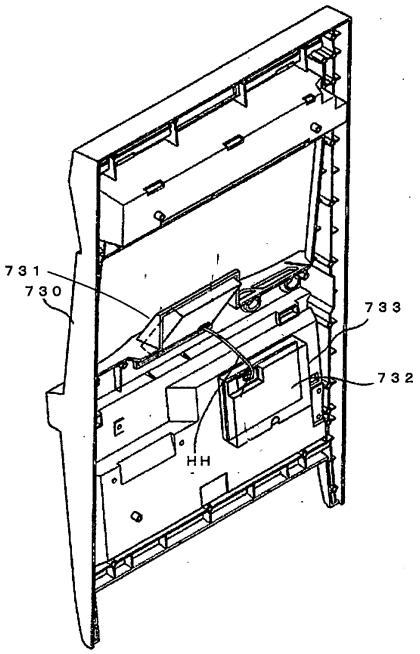
【図２９１】

名称	意味	解像度	画素数	縦横比
VGA	Video Graphics Array	640×480	307200	4:3
XGA	eXtended Graphics Array	1024×768	786432	4:3
FHD	Full High Definition	1920×1080	2073600	16:9
QHD (WQHD)	Quad-High Definition (Wide Quad-High Definition)	2560×1440	3686400	16:9
4K	4K	3840×2160	8294400	16:9
8K	8K	7680×4320	33177600	16:9

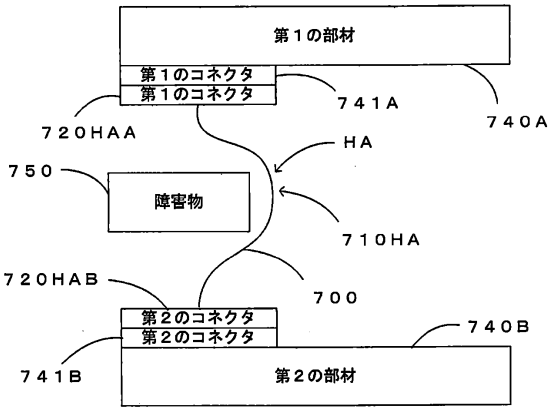
【図２９２】



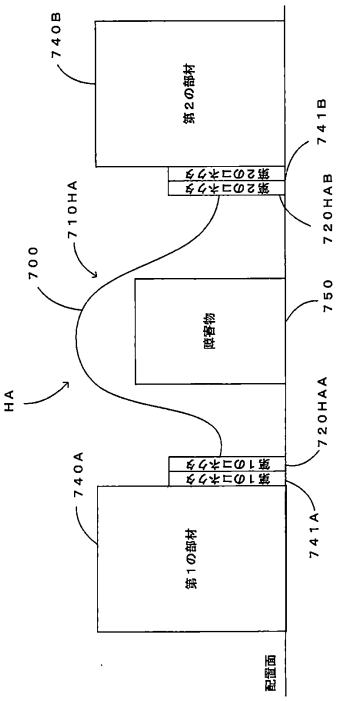
【図２９３】



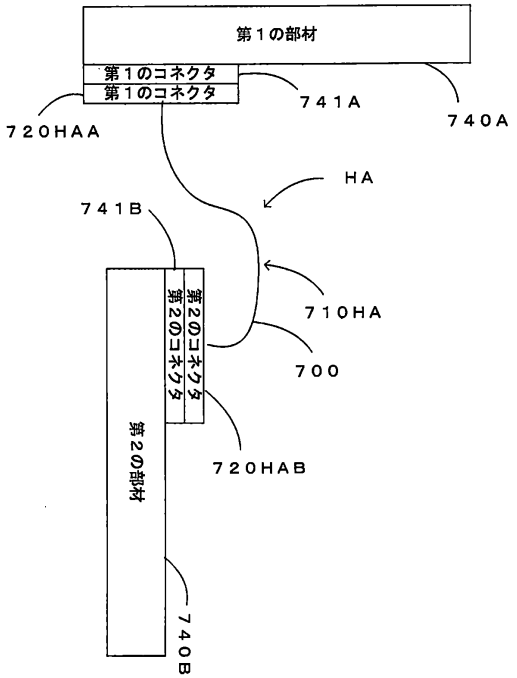
【図２９４】



【図２９５】

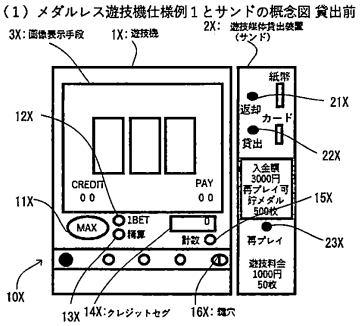


【図２９６】

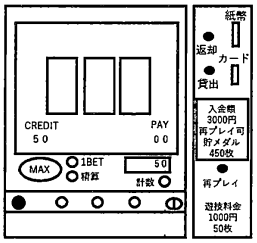


【図２９７】

（１）メダルレス遊技機仕様例１とサンドの概念図 貸出前

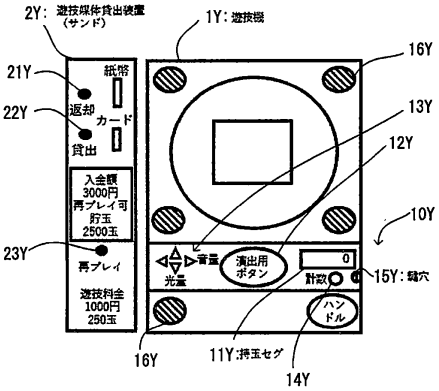


（２）メダルレス遊技機仕様例１とサンドの概念図 貸出後

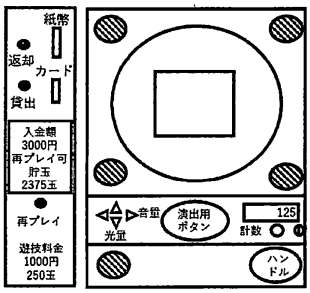


【図２９８】

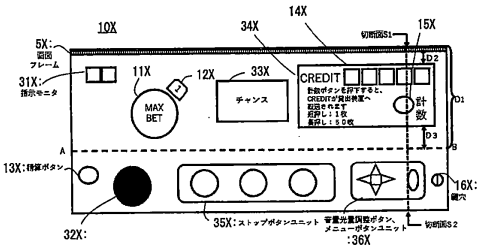
（１）管理遊技機とサンドの概念図　貸出前



（２）管理遊技機とサンドの概念図　貸出後

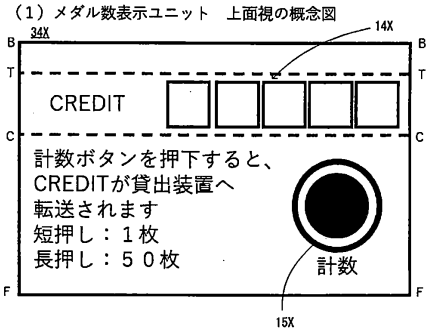


【図２９９】

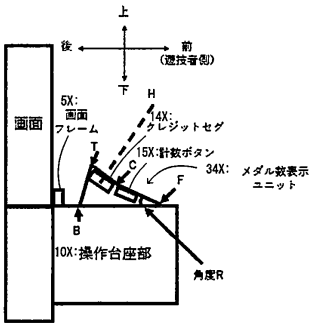


【図３００】

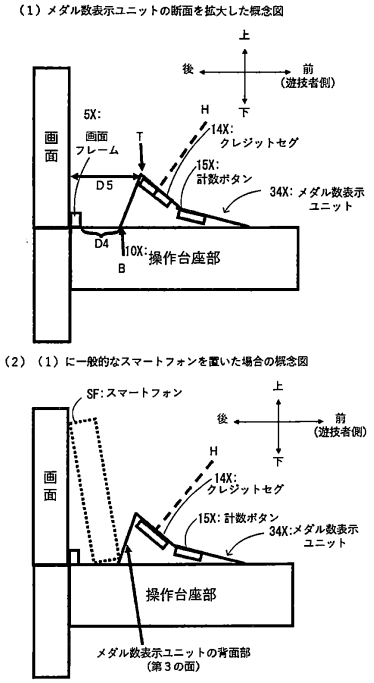
（１）メダル数表示ユニット　上面視の概念図



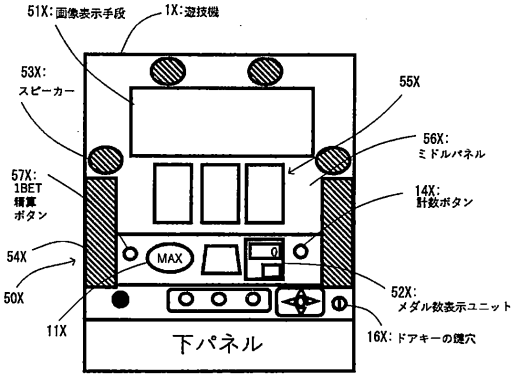
（２）メダル数表示ユニット　断面の概念図



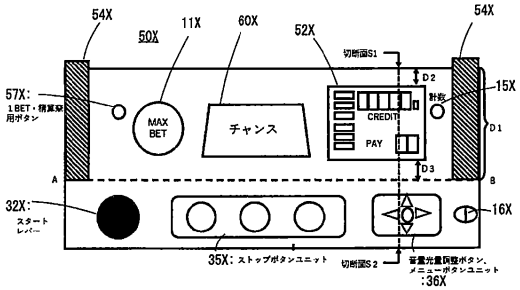
【図３０１】



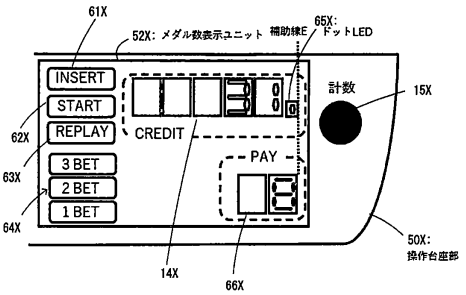
【図３０２】



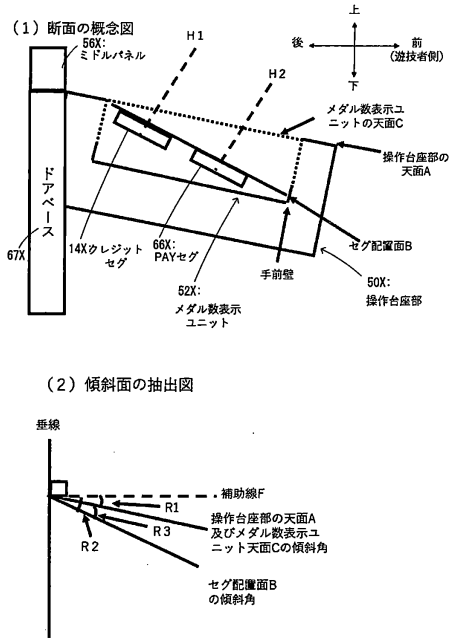
【図３０３】



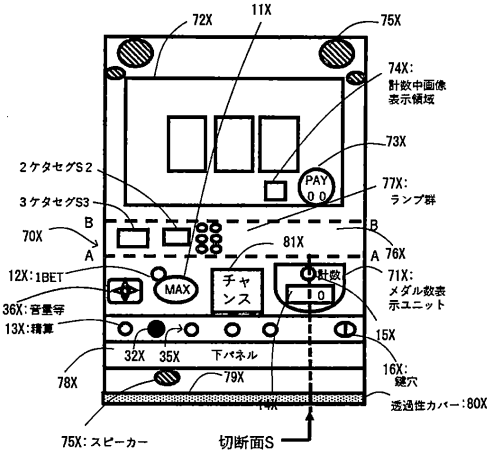
【図３０４】



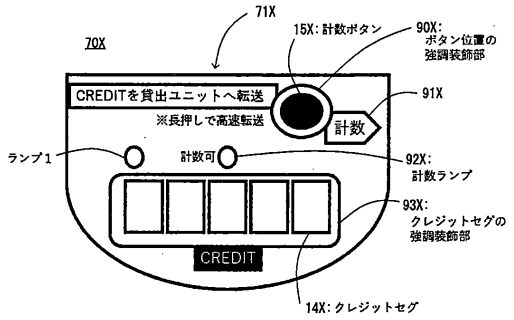
【図３０５】



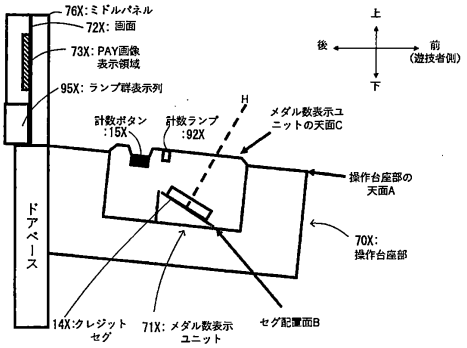
【図３０６】



【図３０７】



【図３０８】



【図３０９】

クレジット加算音	仕様例１	仕様例２	仕様例３	仕様例４
出音開始タイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング
出音イメージ	♪ピョロリロリン という１つの効果音	「貸し出しました」 というボイス	♪ピロン という１つの効果音	♪ポポポという ループ再生の効果音
出音時間	約0.9秒	約1.5秒	約1.0秒	約２秒（５０枚貸出） ※加算枚数により時間値が異なる
クレジットセグのインクリメント	無	無	有	有

【図３１０】

１枚計数音	仕様例１	仕様例２	仕様例３	仕様例４
出音開始タイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの加算表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの加算表示開始と略同じタイミング
出音イメージ	♪ピロロン という１つの効果音 50枚転送音と同じ音。	♪ピン という１つの効果音 50枚転送音と同じ音。	♪ピン という１つの効果音 50枚転送音と異なる音。	♪ポン という１つの効果音 50枚転送音と異なる音。
出音時間	約0.6秒 ※加算音よりも短い	約0.5秒 ※加算音よりも短い	約0.5秒 ※加算音よりも短い	約0.5秒 ※加算音よりも短い

【図３１１】

長押し計数音	仕様例１	仕様例２	仕様例３	仕様例４
出音開始タイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング	クレジットセグの変化表示開始と略同じタイミング
出音イメージ	♪ピロロン という１つの効果音。 １枚転送音と同じ音。 50枚転送毎に１回出音。 最後の１回（50枚未満） も同じく転送時に出音。	♪ピン という１つの効果音。 １枚転送音と同じ音。 50枚転送毎に１回出音。 最後の１回（50枚未満） も同じく転送時に出音。	BGM「♪テンテンテロリン～」が、転送中はずっとループ再生で流れる。	一定周期で電子音が出音されるようなBGM。 0～1000枚：通常 1000～3000枚：やや高音 3000～5000枚：テクノ風 5000～：キラキラした音
出音時間	単発出音約0.6秒 連続出音約0.3秒 （300ｍｓ毎に転送されるのでその都度、最後まで出音されないで次の音が出始める）	単発出音約0.5秒 連続出音約0.3秒 （300ｍｓ毎に転送されるのでその都度、最後まで出音されないで次の音が出始める。）	単音ではなくループするBGMであるため、特に時間尺概念なし。 １ループは５秒程度。	単音ではなくループするBGMであるため、特に時間尺概念なし。 １ループは２秒程度
クレジットセグのデクリメント	デクリメント「無」 ※50枚単位でのデクリメントはあり 500→450→400→・・と表示されていく。	デクリメント「無」 ※50枚単位でのデクリメントはあり 500→450→400→・・と表示されていく。	デクリメント「有」 特に50枚で区切ることなく、高速で数字をカウントダウンさせていく。	デクリメント「有」 特に50枚で区切ることなく、高速で数字をカウントダウンさせていく。

【図３１２】

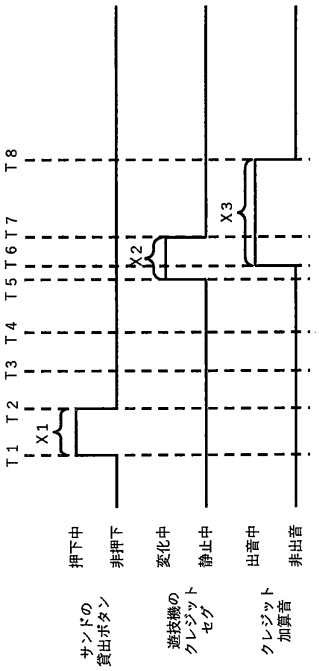
	計数完了音 仕様例３	計数完了音 仕様例４	オフエッジ音 仕様例４
出音開始タイミング	計数完了時	計数完了時	長押し状態から転送完了前に計数ボタンから手を離したとき
出音イメージ	「計数完了でい。また、遊んでくれよな。」というドンちゃんのボイスを１回出音。	♪「ピコペー」という違和感を覚える雰囲気を感じさせる効果音を１回出音。	♪「ピコペー」という違和感を覚える雰囲気を感じさせる効果音を１回出音。 ※計数完了音と同じ音
出音時間	約４秒	約１秒	約１秒

※仕様例１～２は、計数完了音はなく、計数完了後に計数ボタンの長押しをつづけても計数時効果音が出音されなくなる。
仕様例１～３は、オフエッジ音は無し。

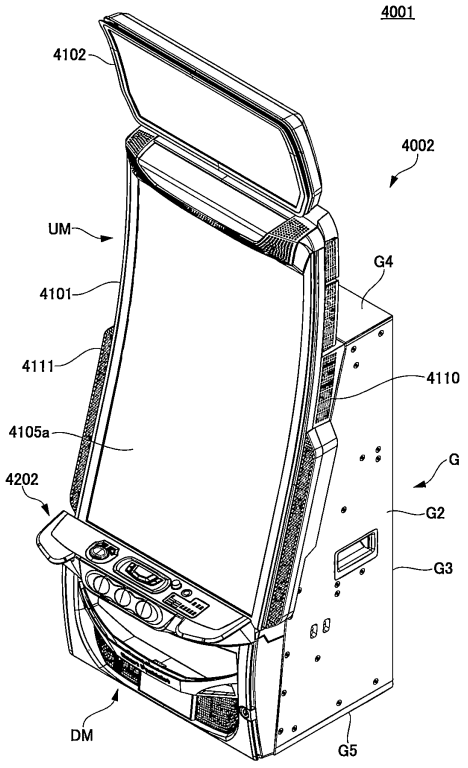
【図３１３】

仕様例A	持玉加算音	1玉計数音	長押し計数音	計数ボタンのオフエッジ音	計数完了音
出音開始タイミング	持玉セグの変化表示開始と略同じタイミング	持玉セグの変化表示開始と略同じタイミング	持玉セグの変化表示開始と略同じタイミング	-	持玉セグが0になったときと略同じタイミング
出音イメージ	♪ピパ という1つの効果音	♪プキャ という1つの効果音	♪「ピヲ（低音）」という効果音をループ再生 ※転送は0.3秒毎に250玉だが、出音の1ループは0.5秒間隔であり当該効果音は最後まで出音される。	-	♪ピロリン との効果音の後に、「計数完了しました」にボイス。
出音時間	約0.5秒	約0.5秒	約0.5秒	-	約1.5秒
持玉セグのインクリメント／デクリメント	無 ※0→125に一気に変化	1玉変化なので、途中の値は存在しない	無 ※250玉単位でのデクリメントはあり 1000→750→500→250→0と更新。	-	-

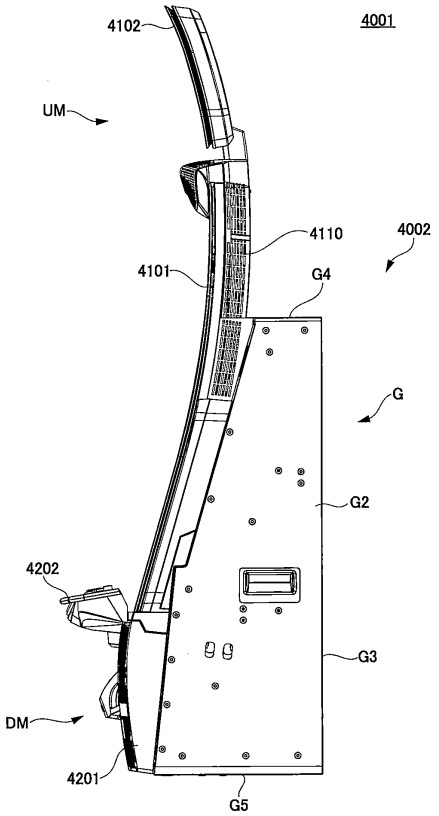
【図３１４】



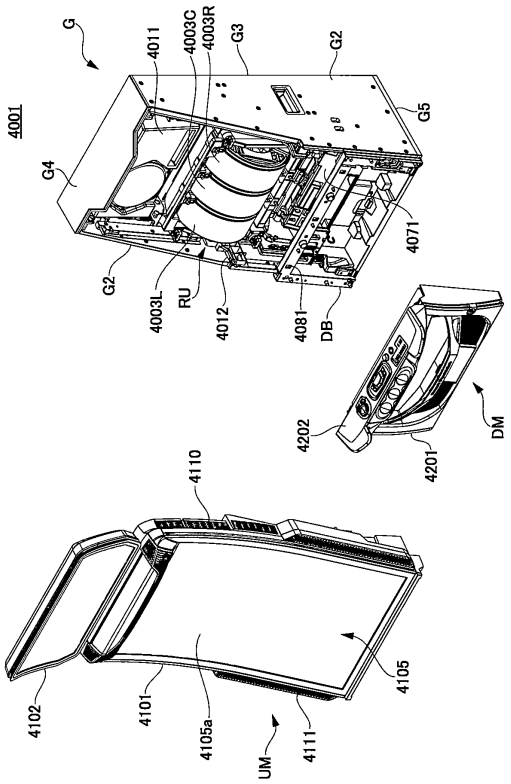
【図３１５】



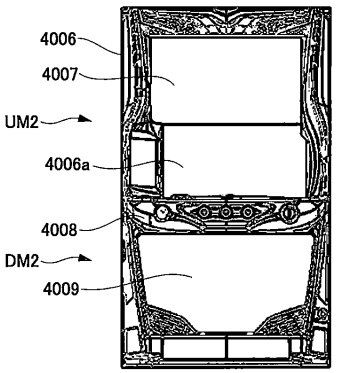
【図３１６】



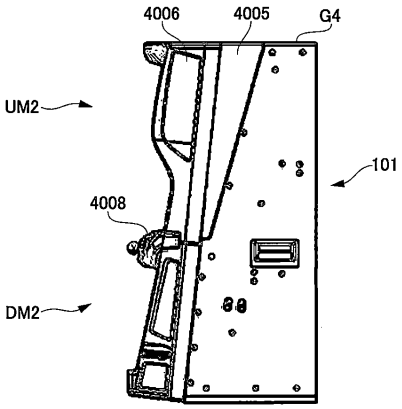
【図３１７】



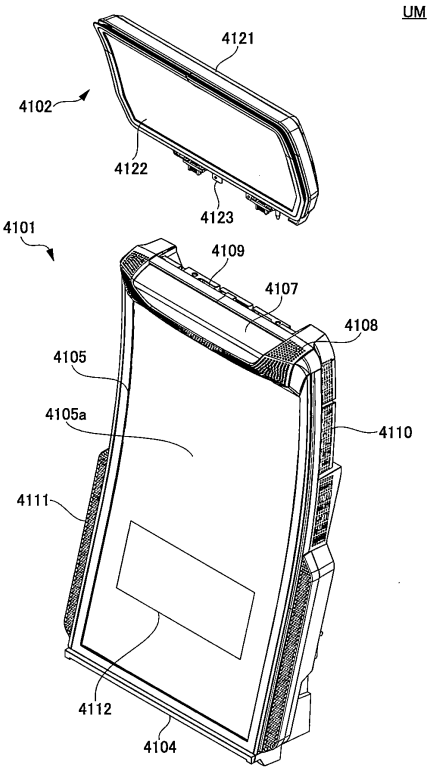
【図３１８】



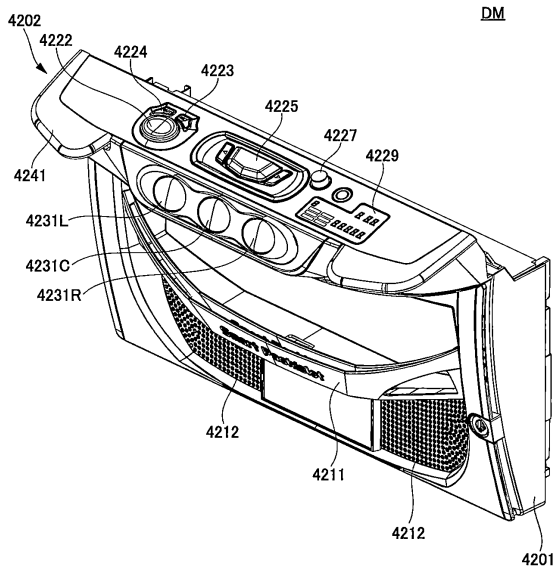
【図３１９】



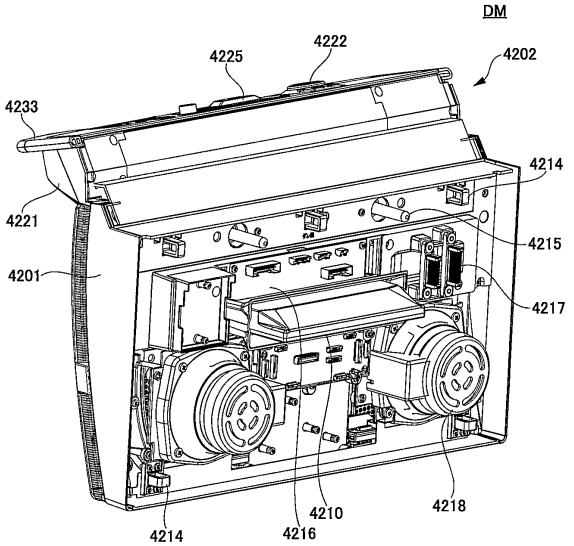
【図３２０】



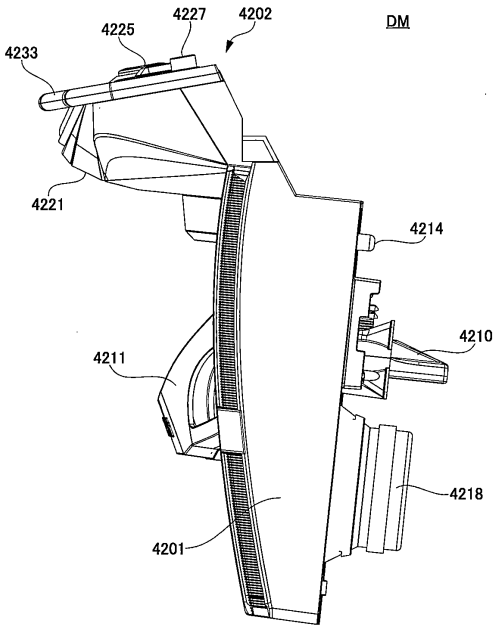
【図３２１】



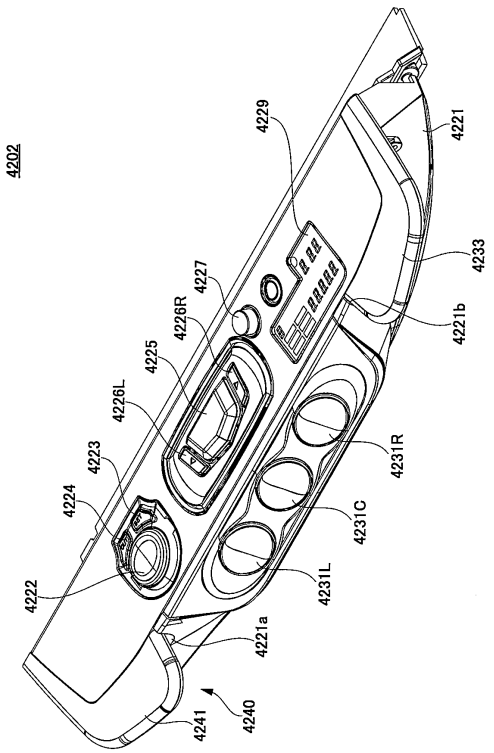
【図３２２】



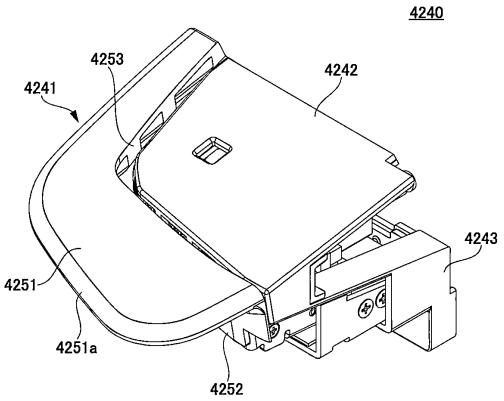
【図３２３】



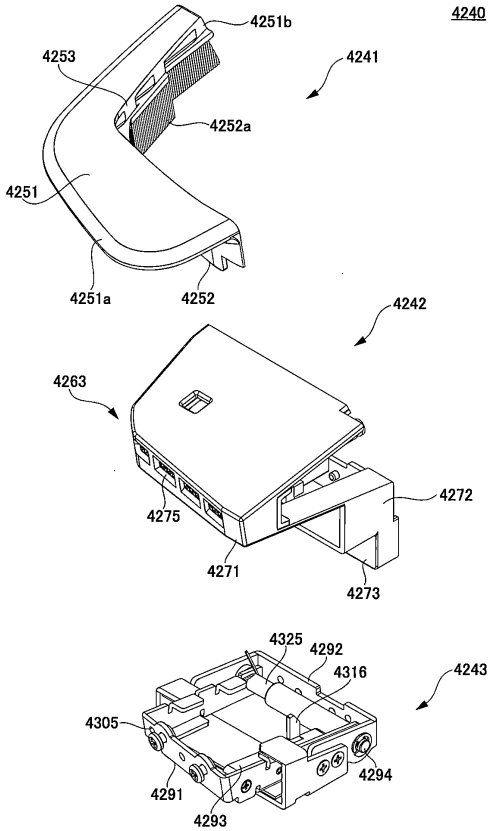
【図３２４】



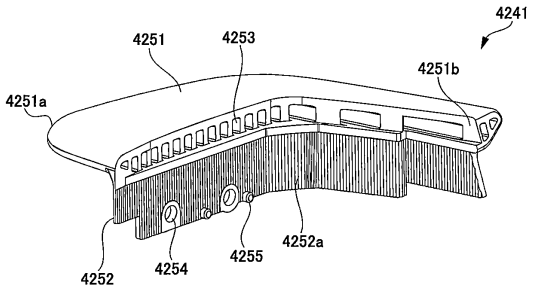
【図３２５】



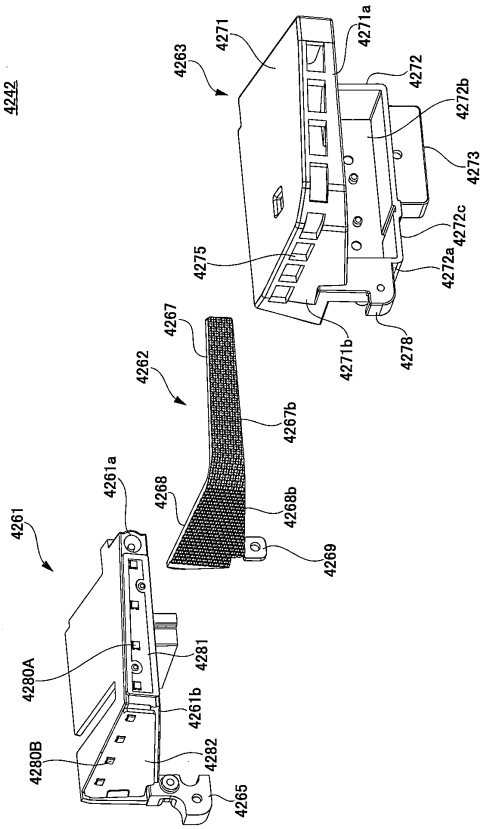
【図３２６】



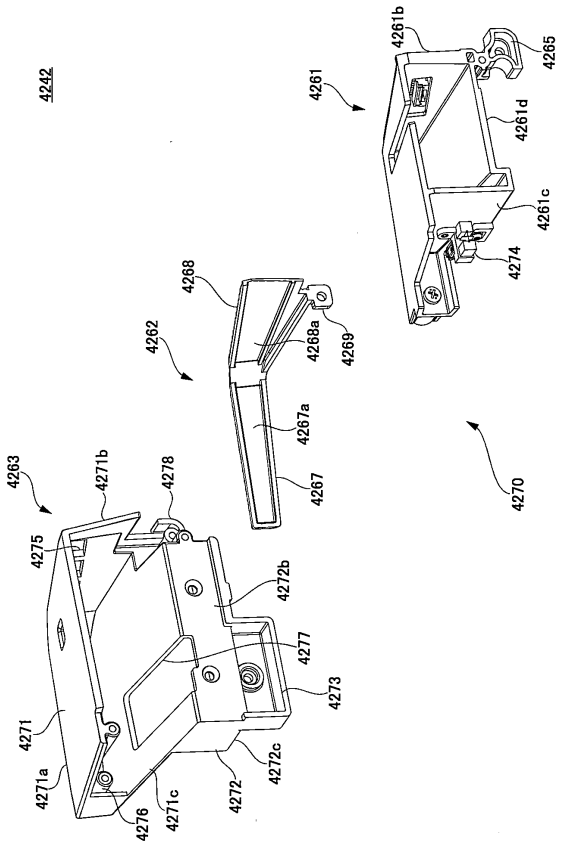
【図３２７】



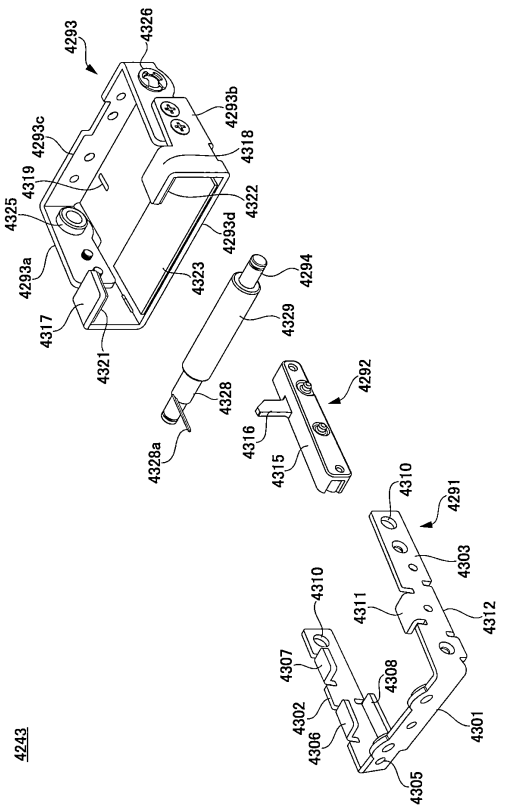
【図３２８】



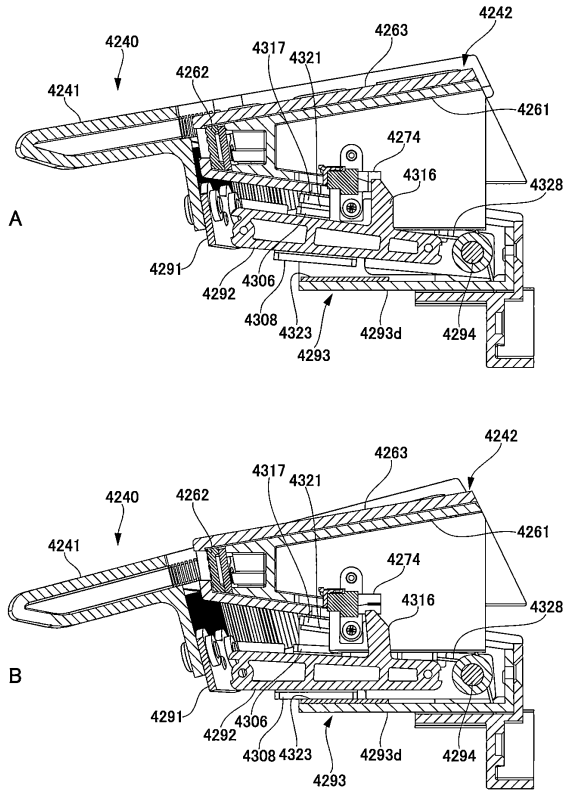
【図３２９】



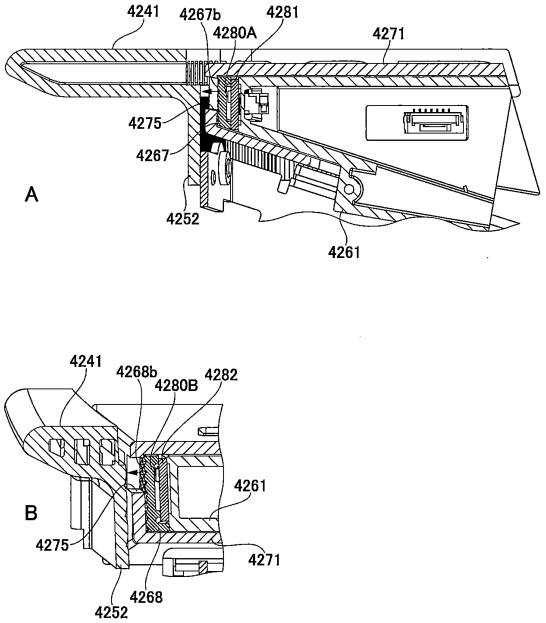
【図３３０】



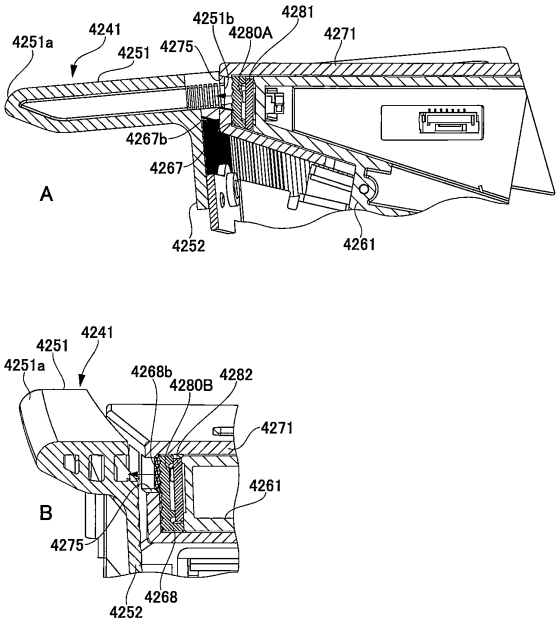
【図３３１】



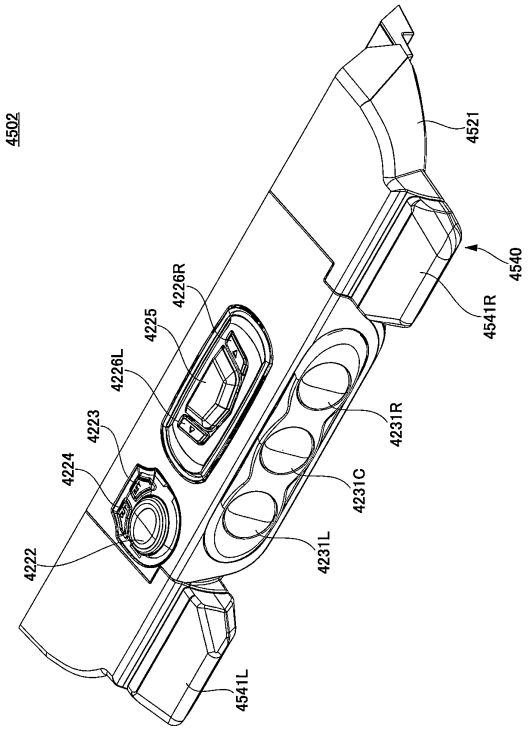
【図３３２】



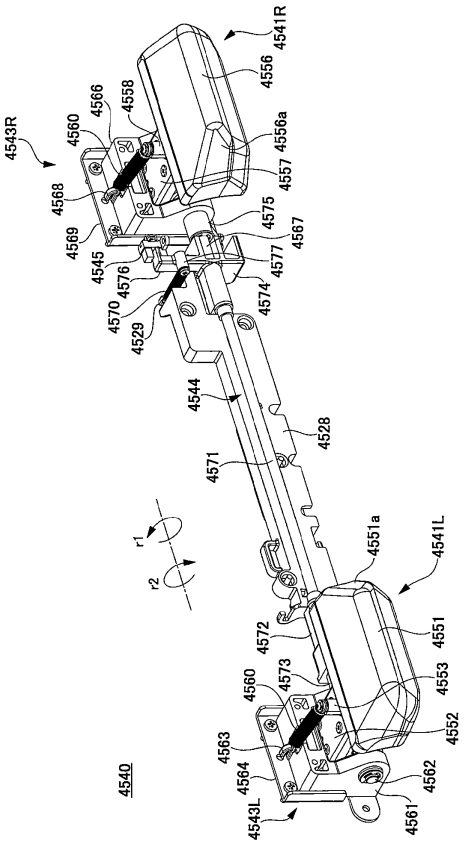
【図３３３】



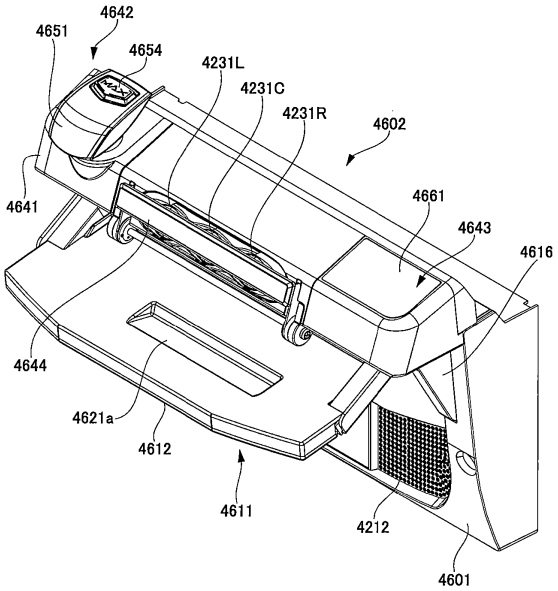
【図３３４】



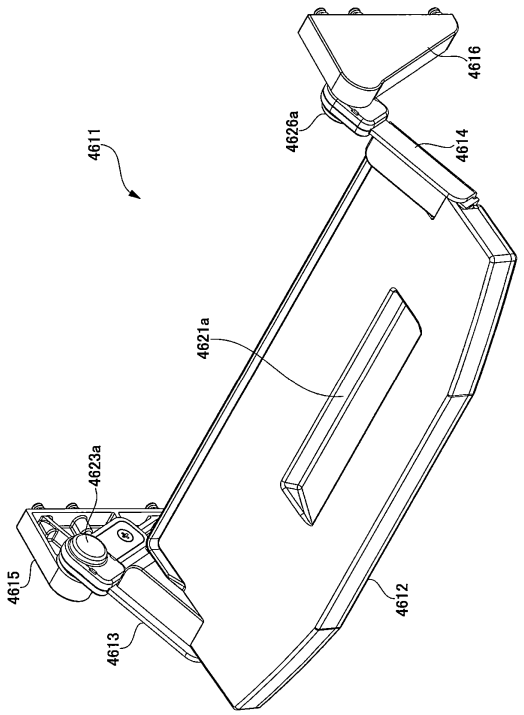
【図３３５】



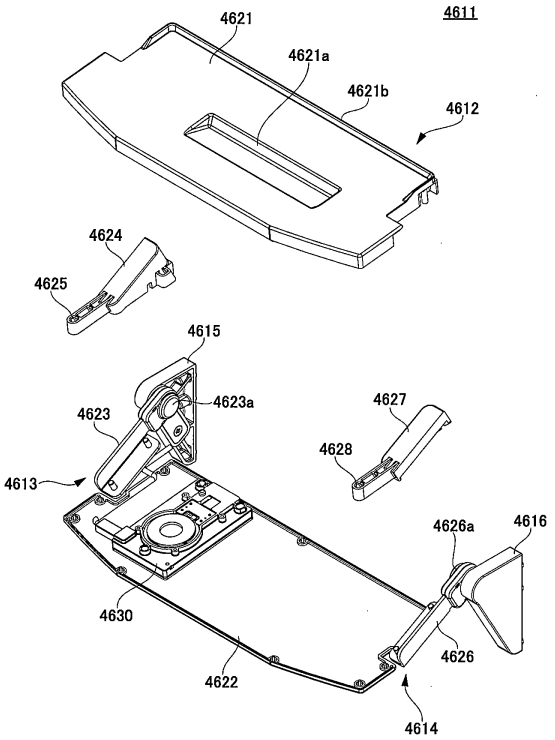
【図３３６】



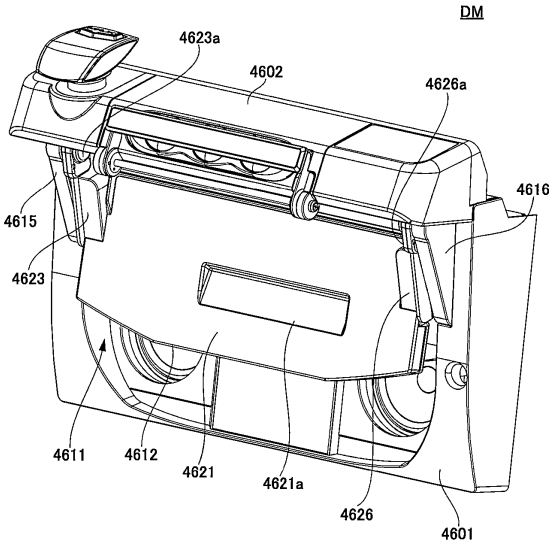
【図３３７】



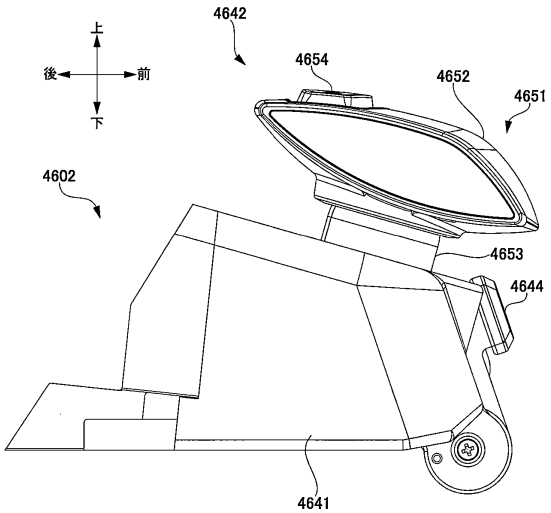
【図３３８】



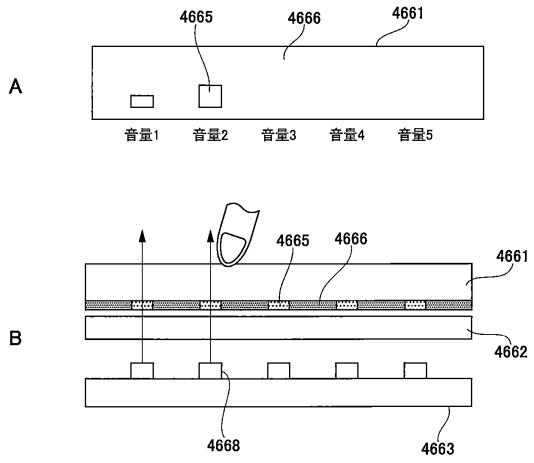
【図３３９】



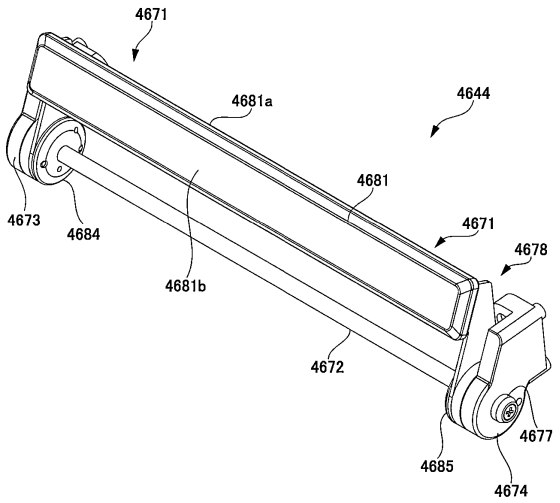
【図３４０】



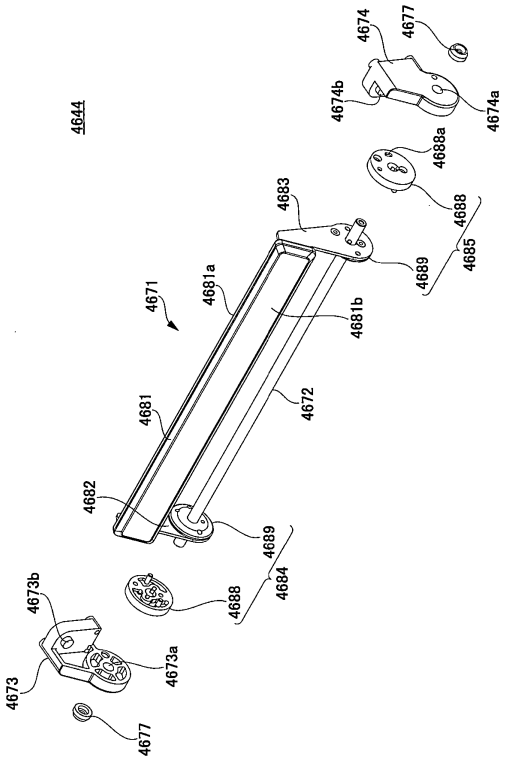
【図３４１】



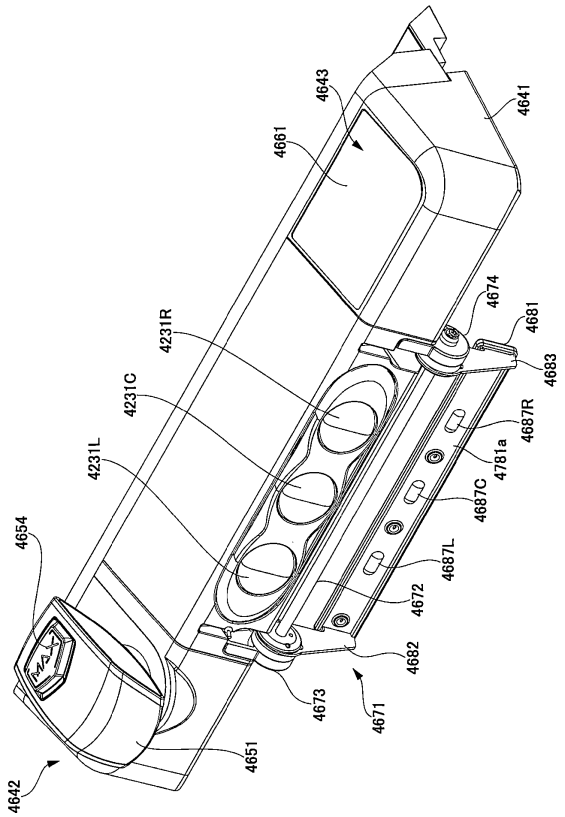
【図３４２】



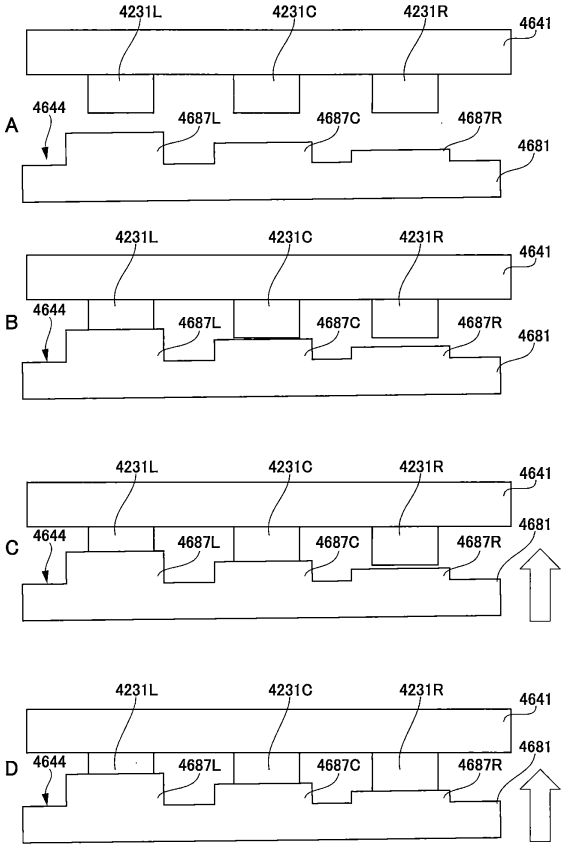
【図３４３】



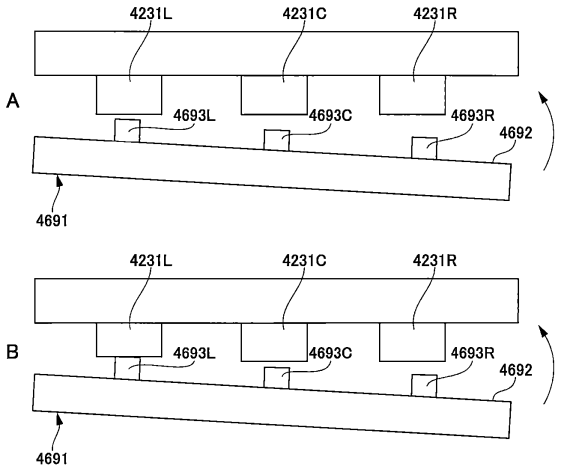
【図３４４】



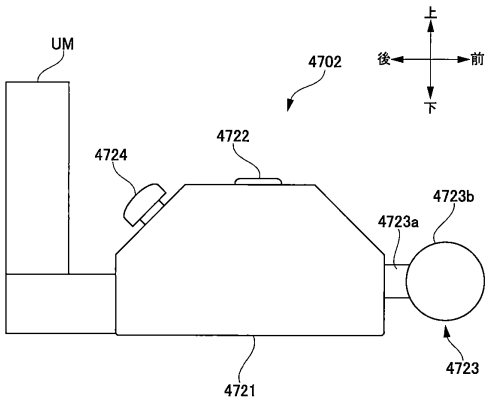
【図３４５】



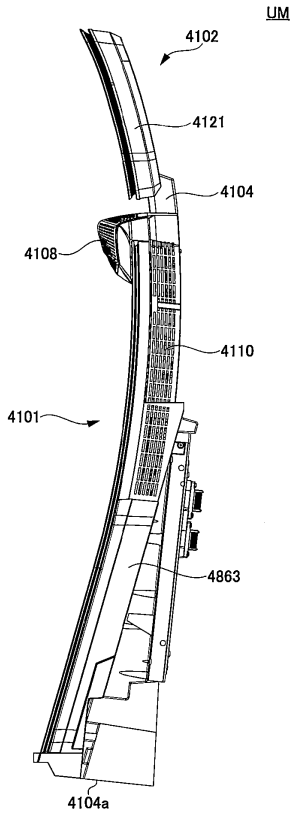
【図３４６】



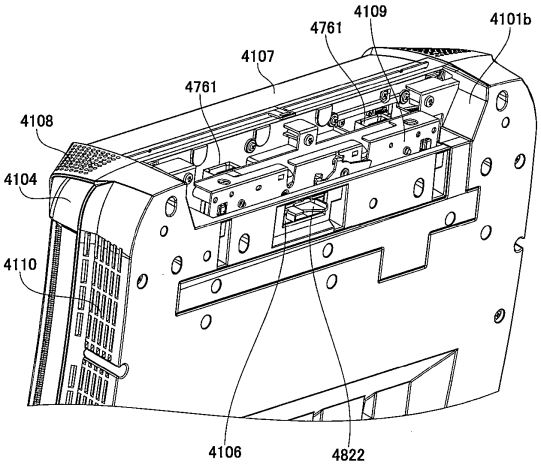
【図３４７】



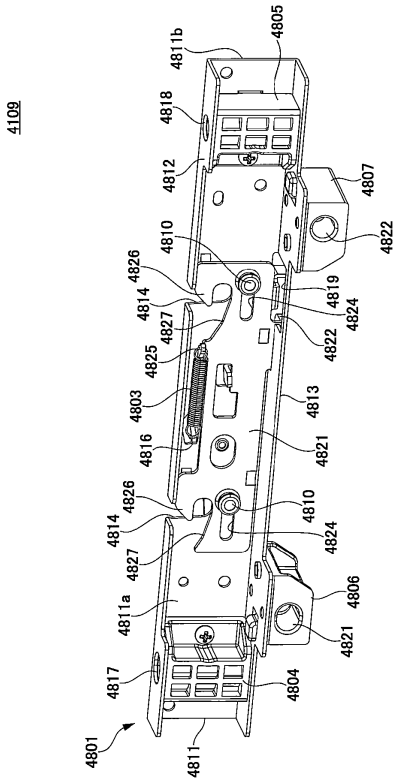
【図３４８】



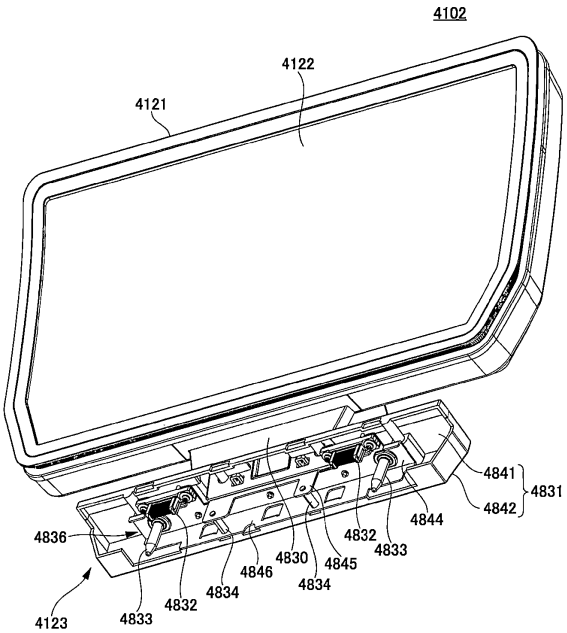
【図３４９】



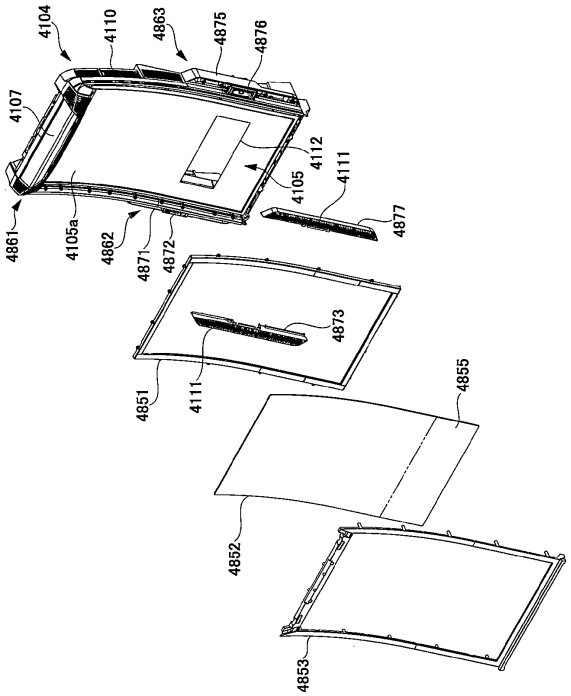
【図３５０】



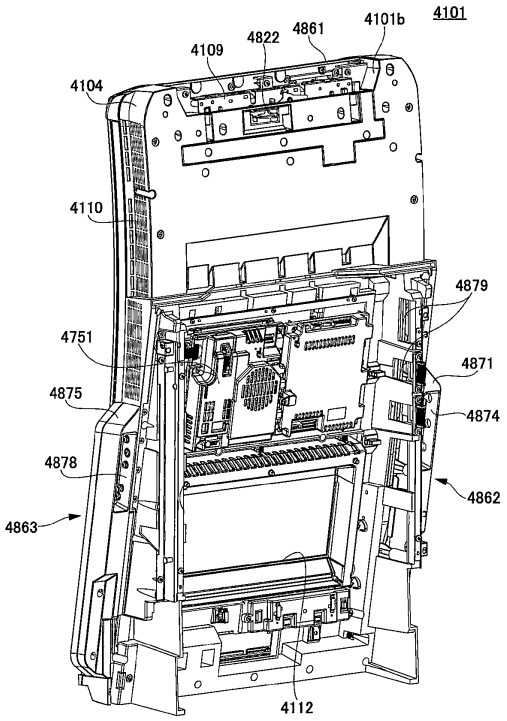
【図３５１】



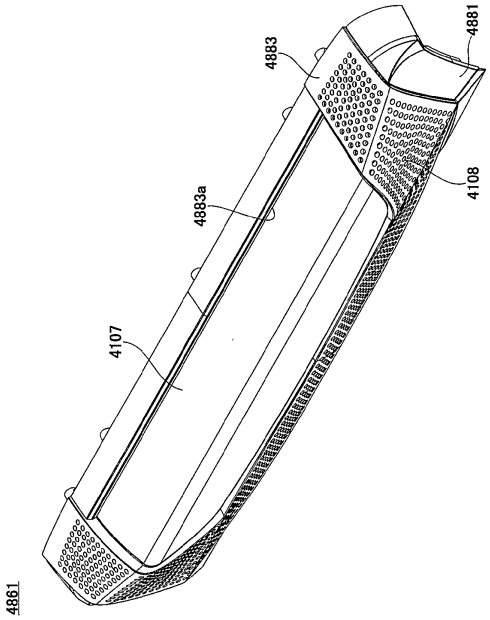
【図３５２】



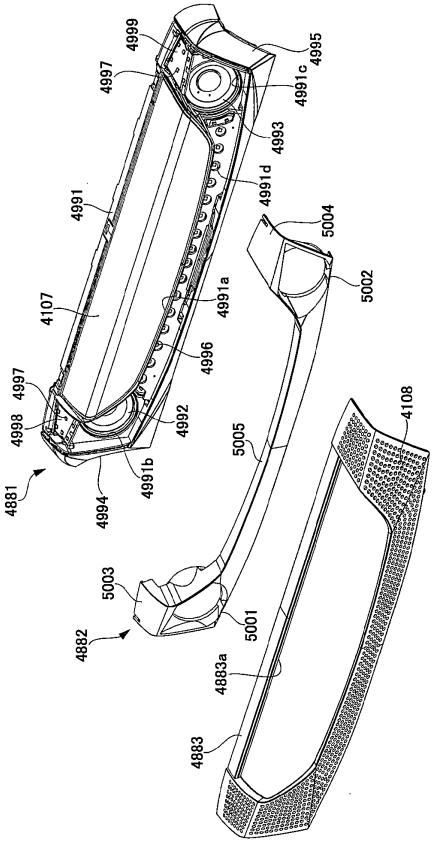
【図３５３】



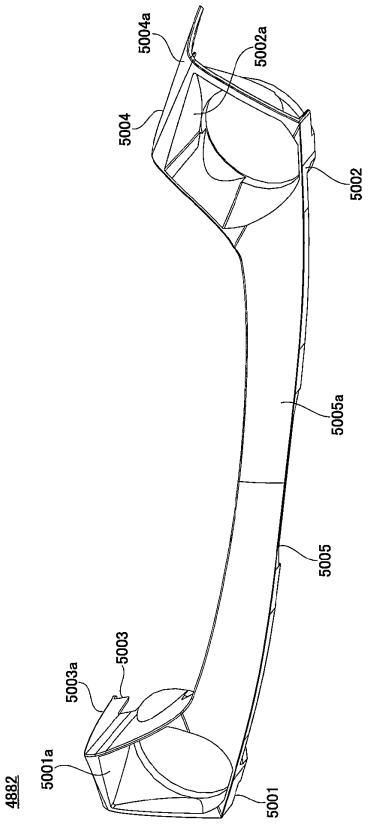
【図３５４】



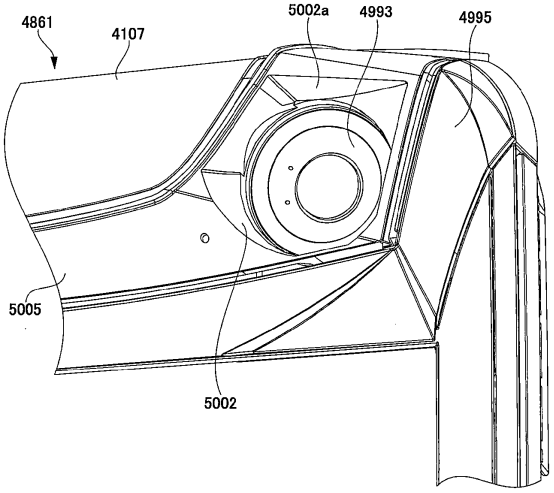
【図３５５】



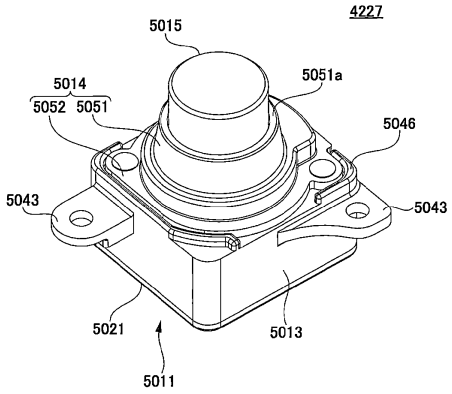
【図３５６】



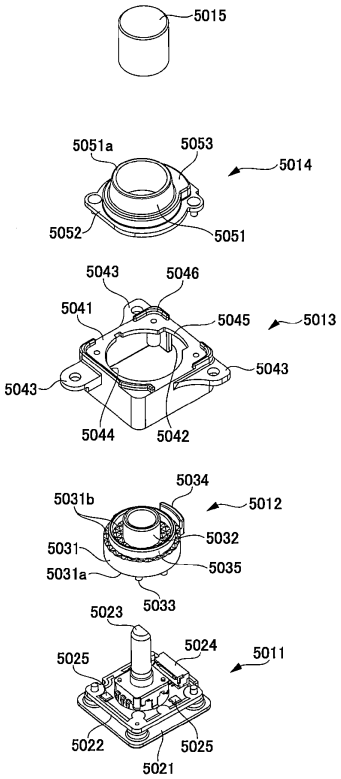
【図３５７】



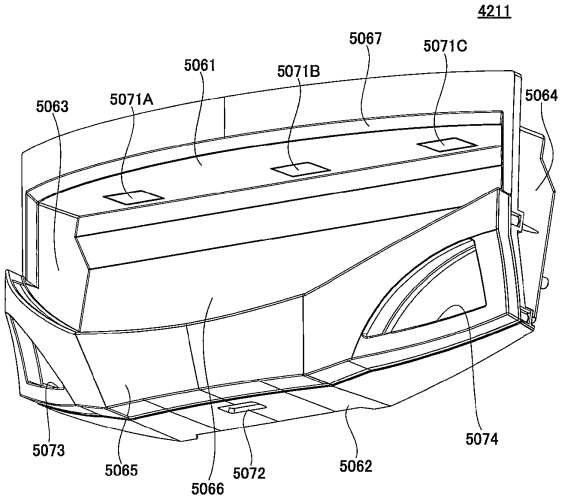
【図３５８】



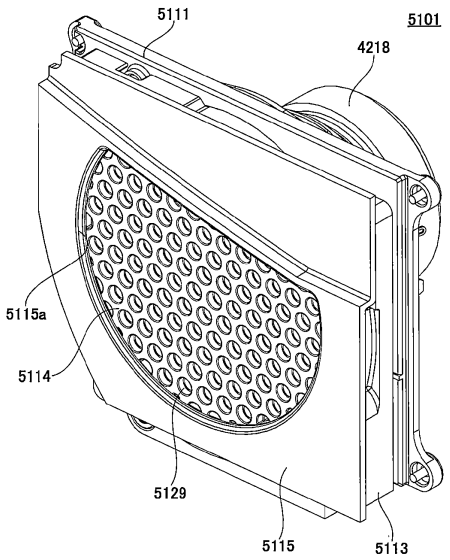
【図３５９】



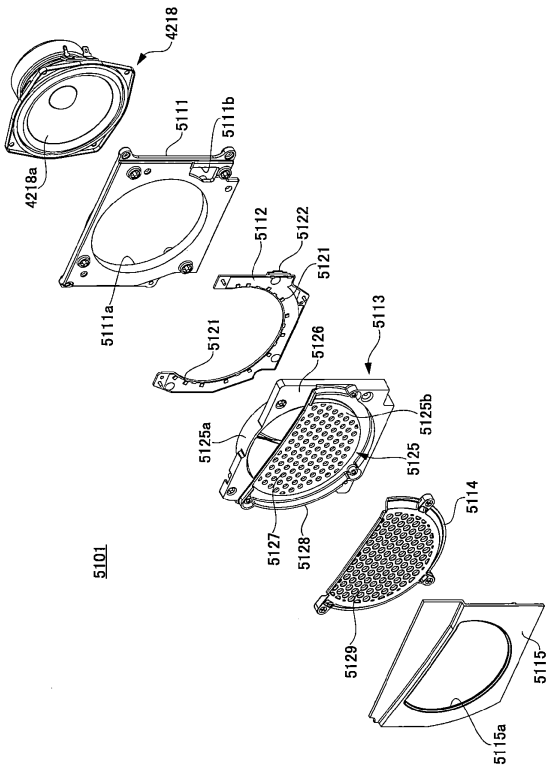
【図３６０】



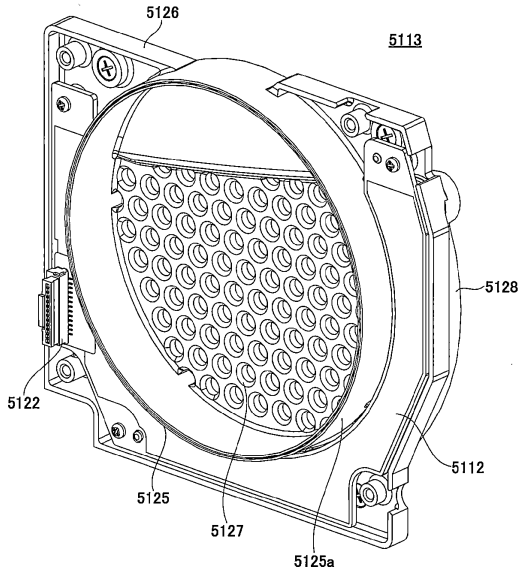
【図３６１】



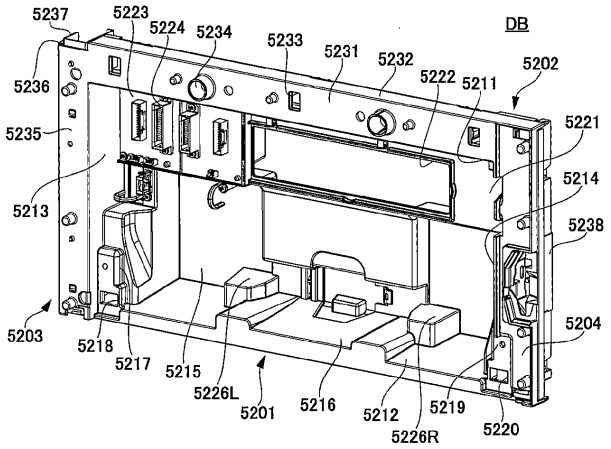
【図３６２】



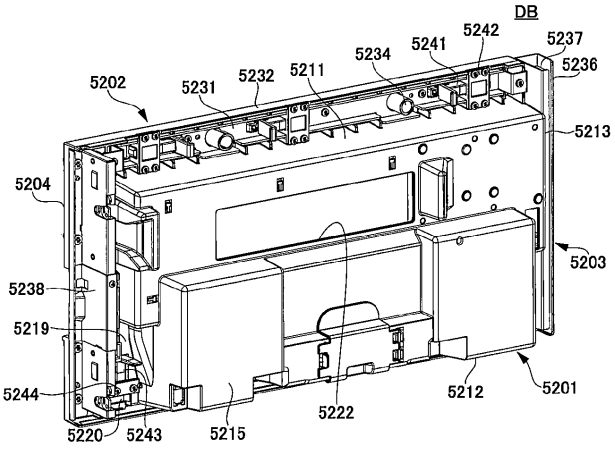
【図３６３】



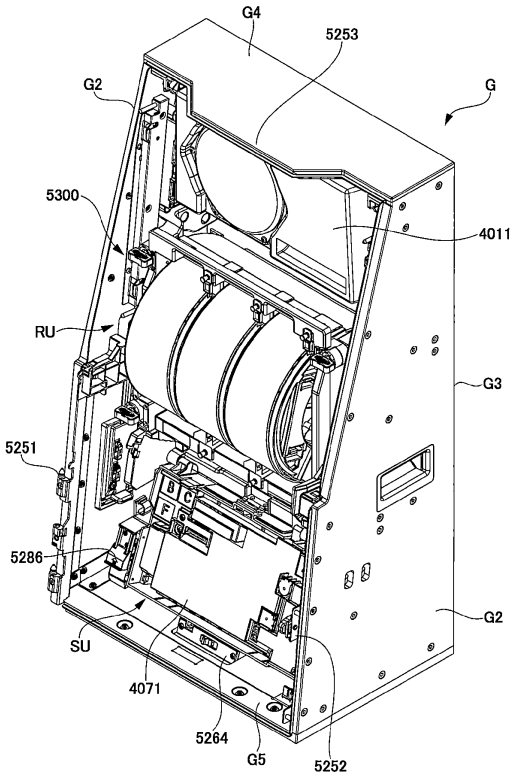
【図３６４】



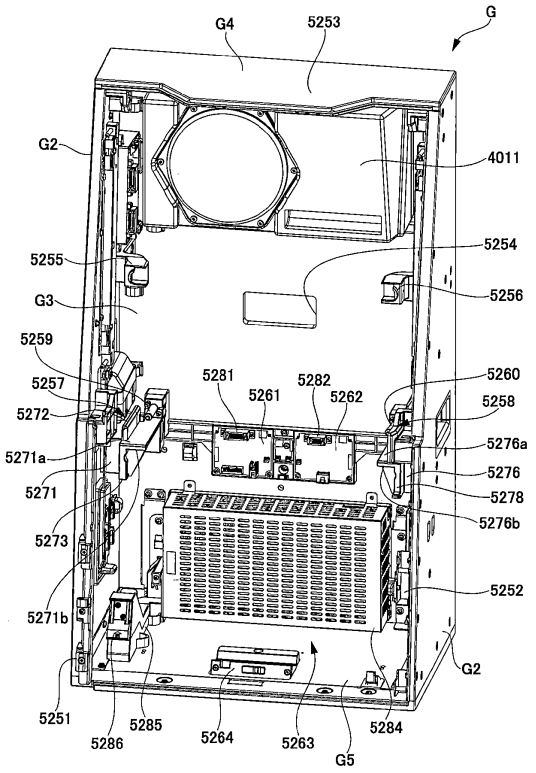
【図３６５】



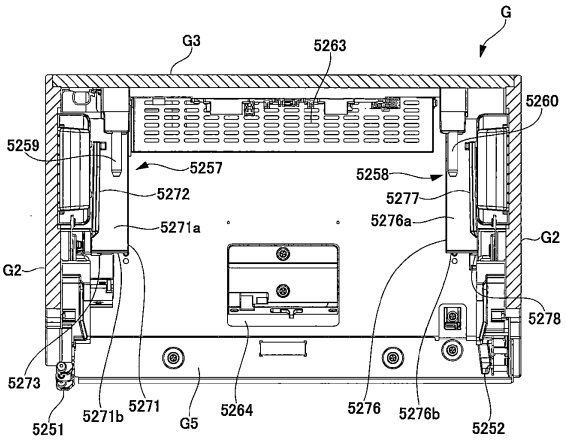
【図３６６】



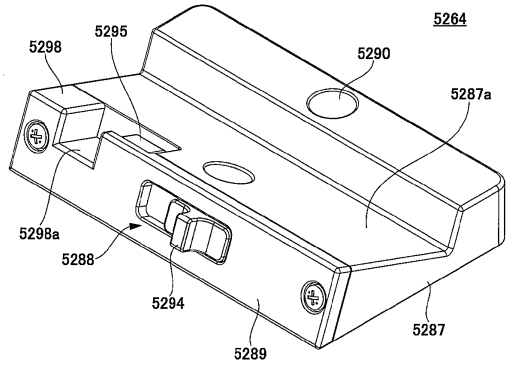
【図３６７】



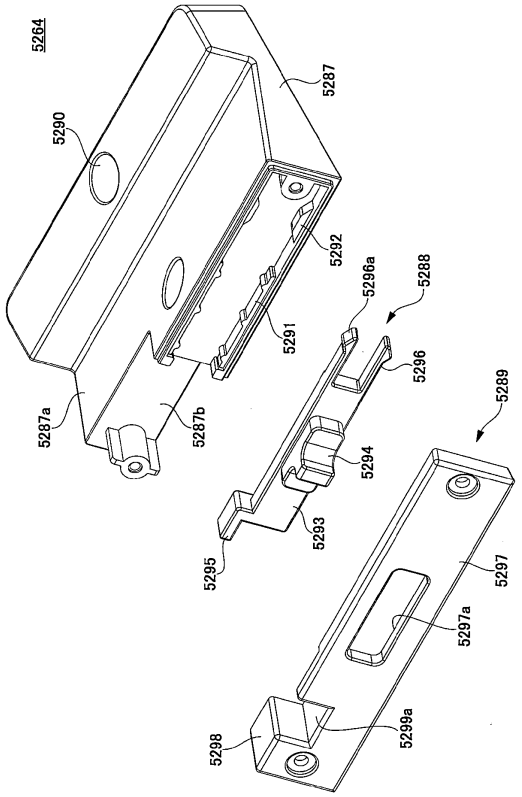
【図３６８】



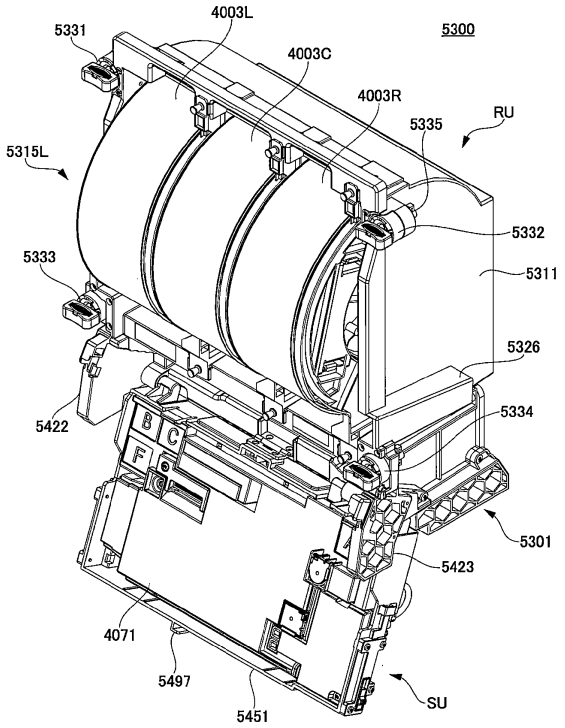
【図３６９】



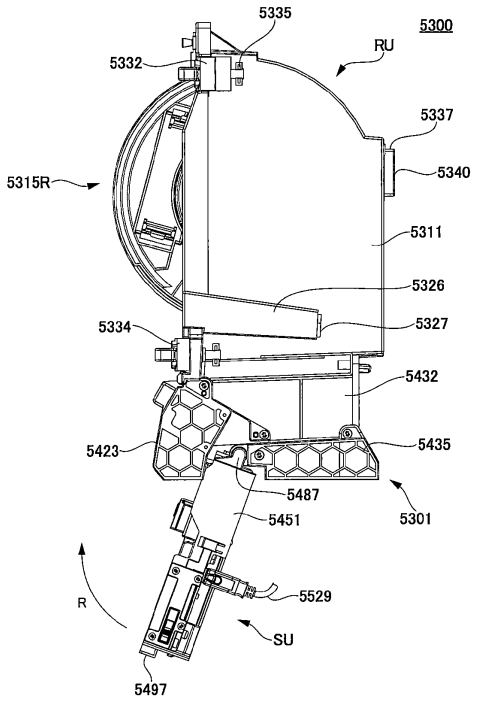
【図３７０】



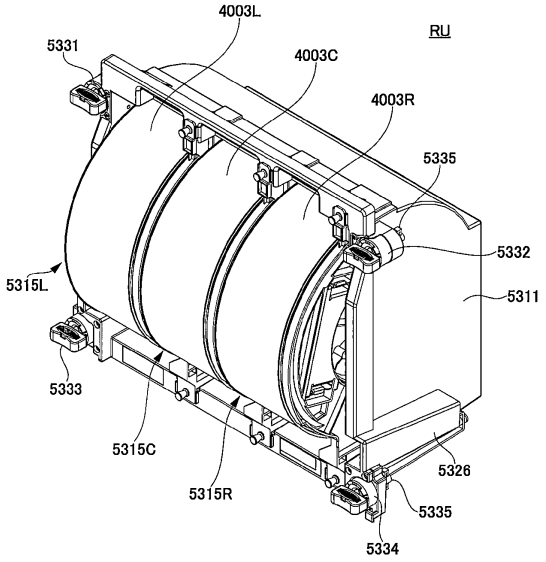
【図３７１】



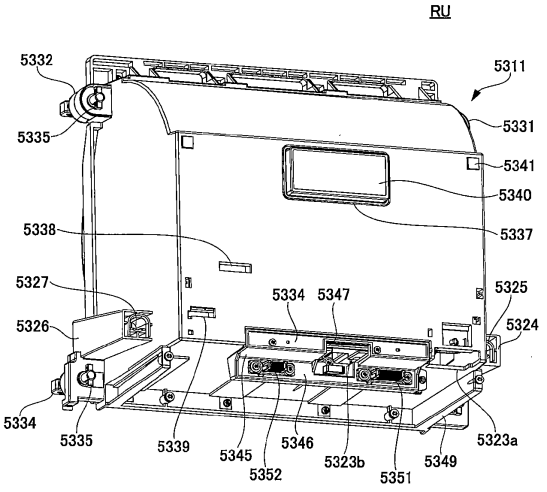
【図３７２】



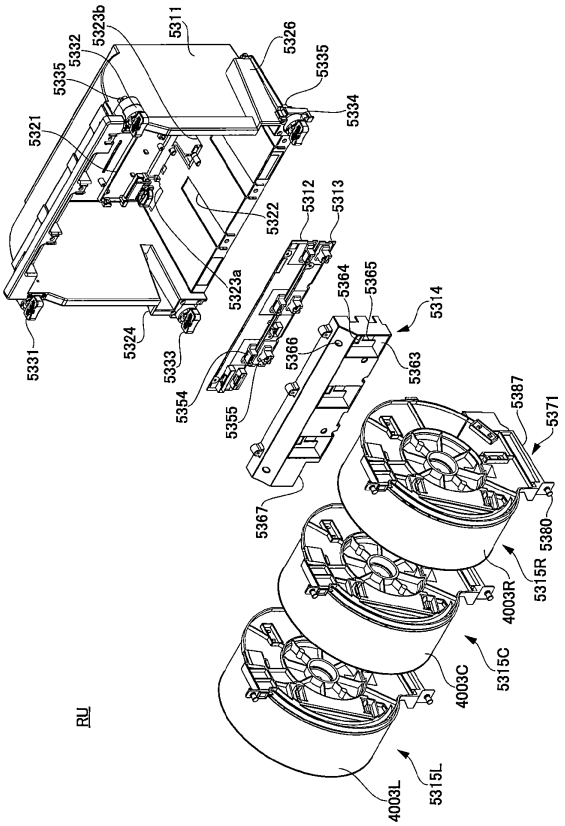
【図３７３】



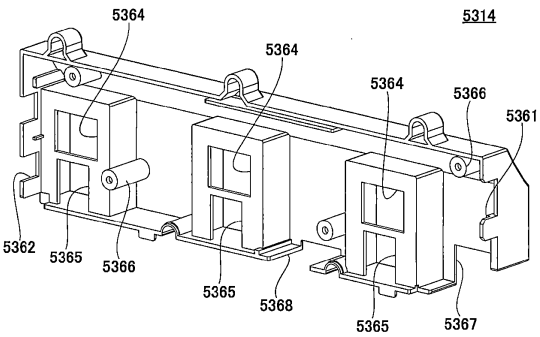
【図３７４】



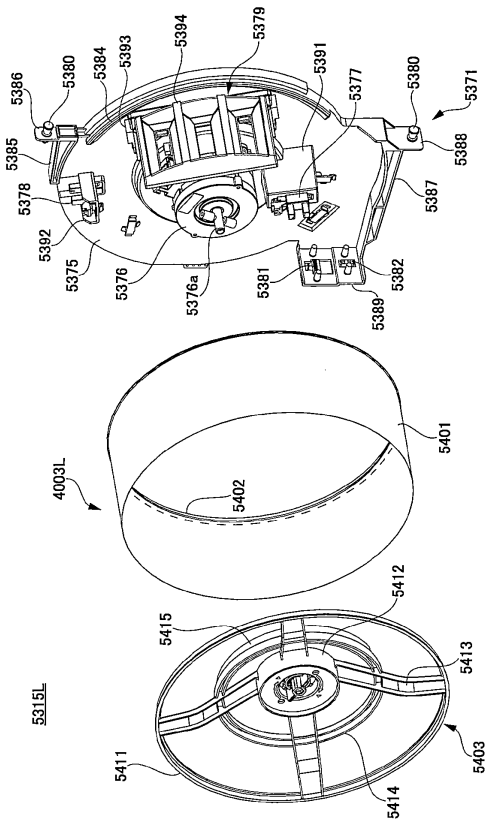
【図３７５】



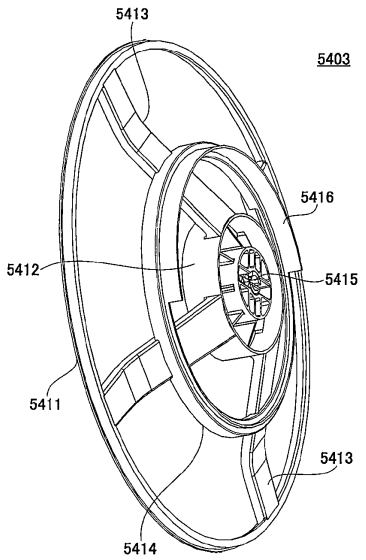
【図３７６】



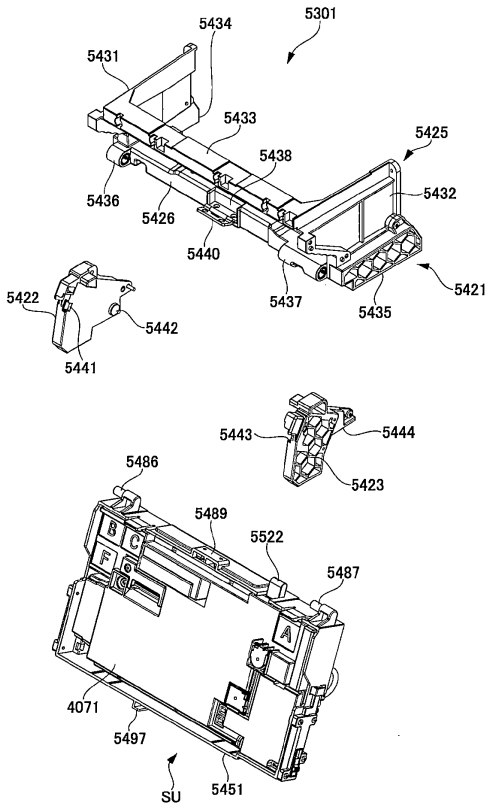
【図３７７】



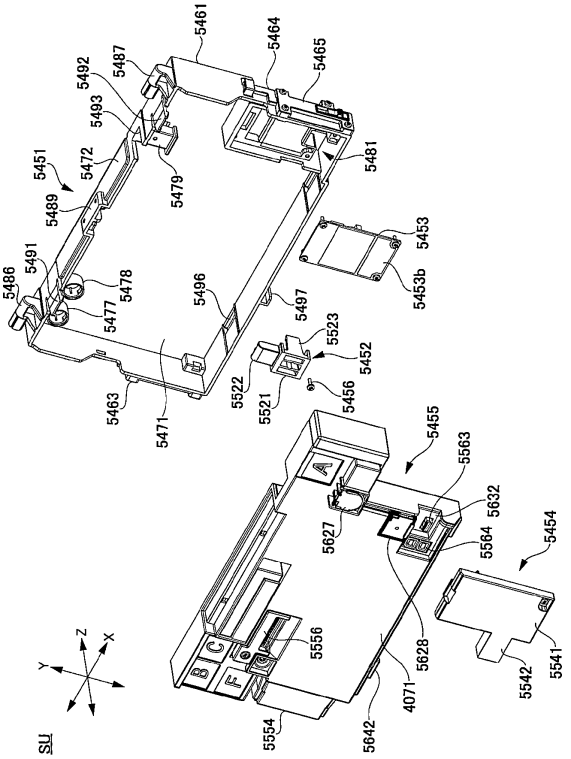
【図３７８】



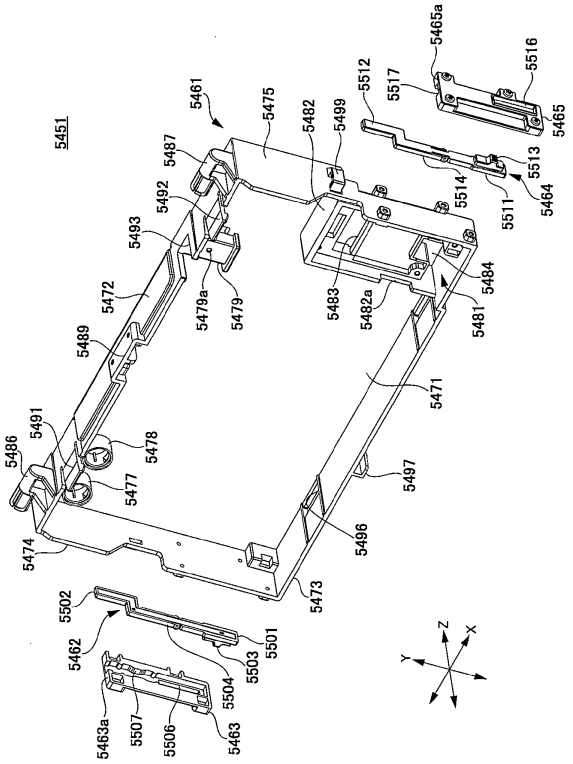
【図３７９】



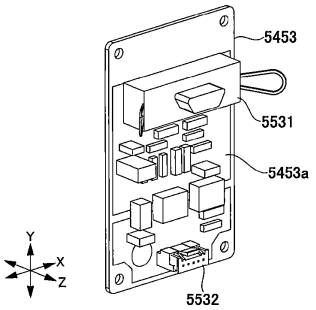
【図３８０】



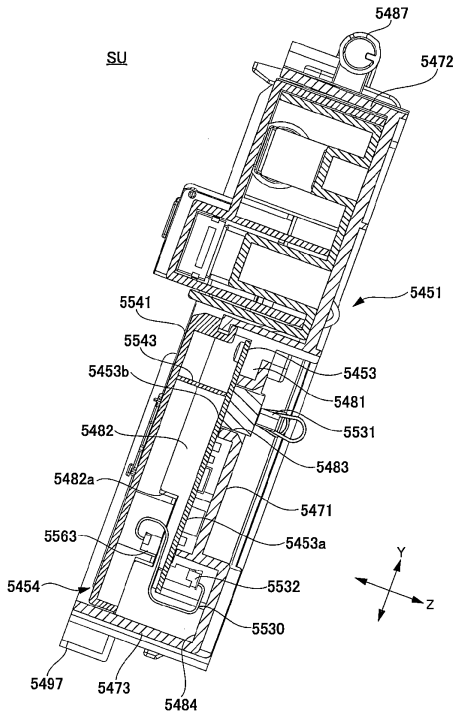
【図３８１】



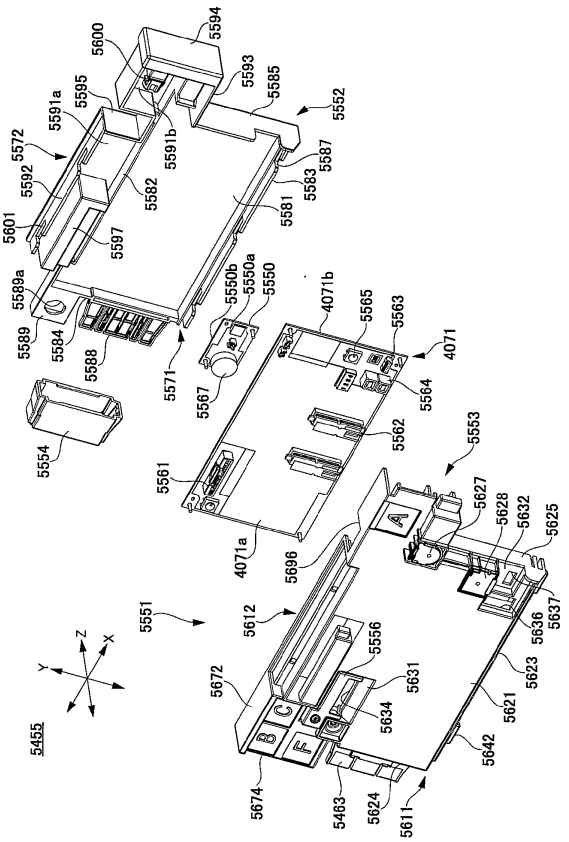
【図３８２】



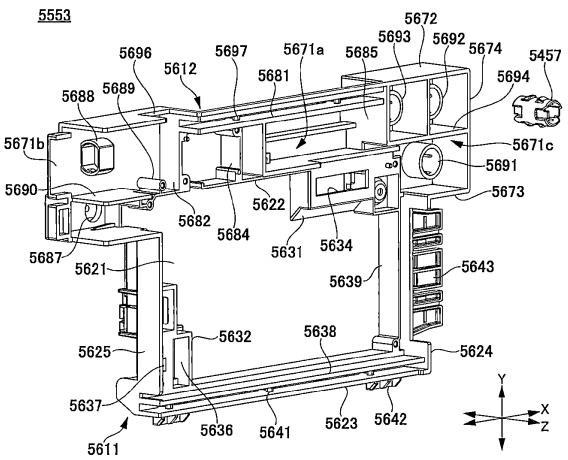
【図３８３】



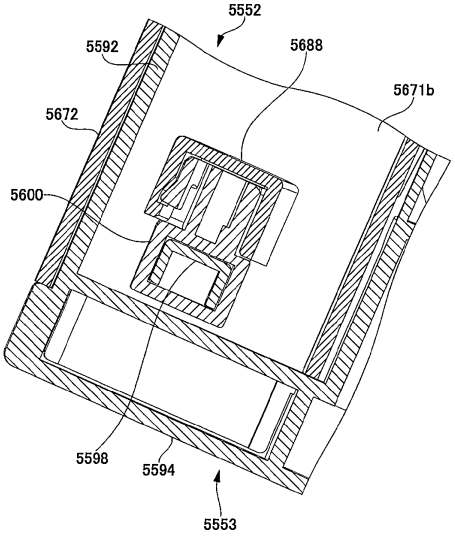
【図３８４】



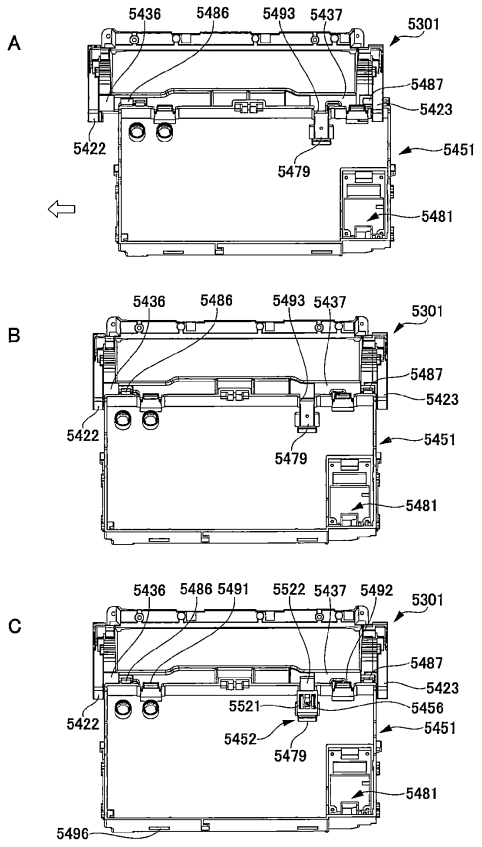
【図３８５】



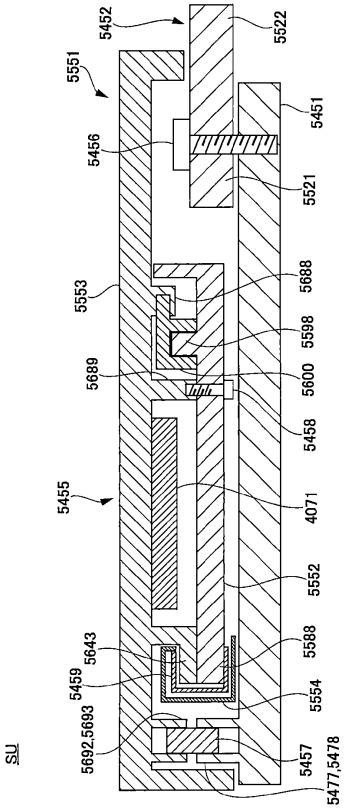
【図３８６】



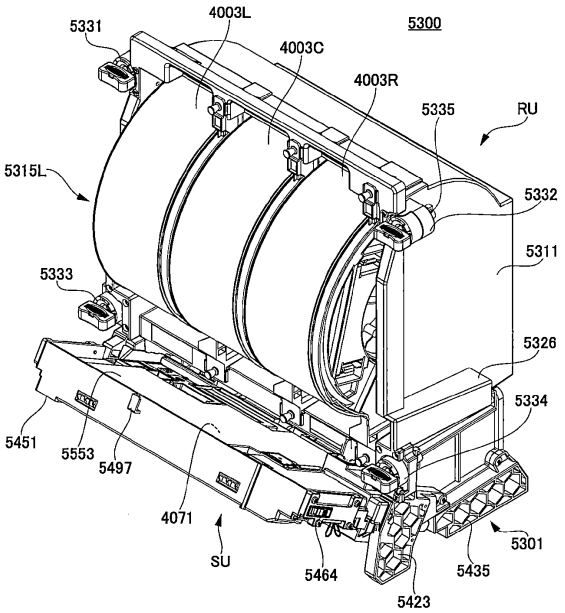
【図３８７】



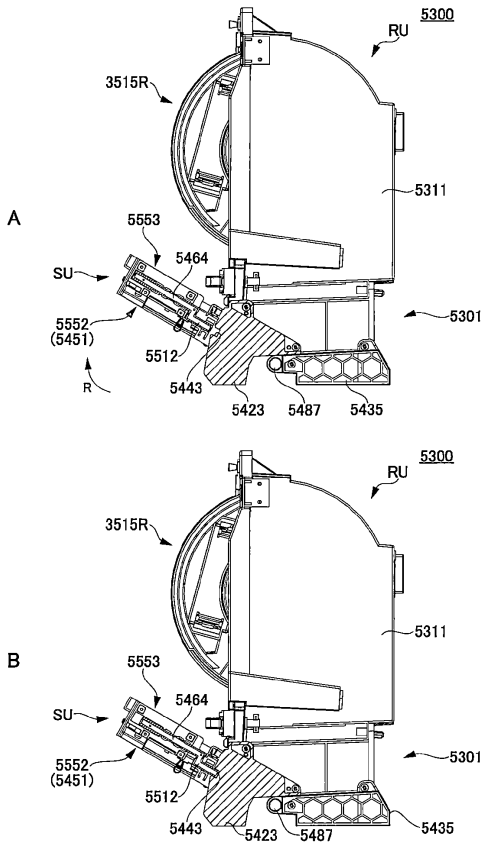
【図３８８】



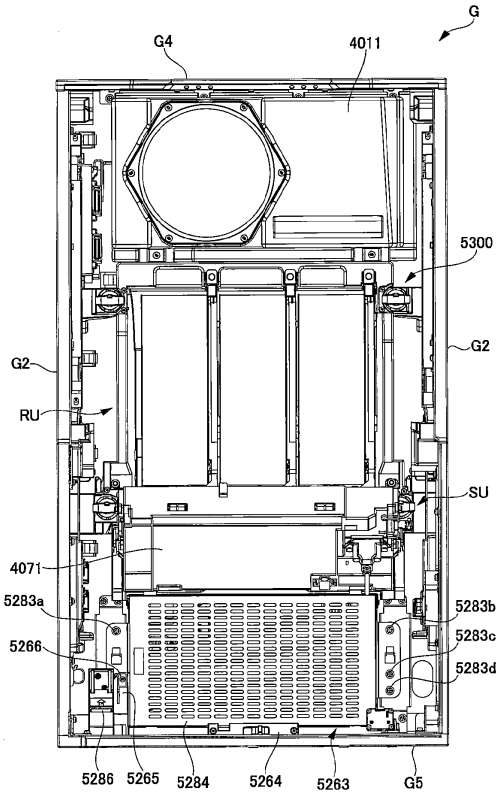
【図３８９】



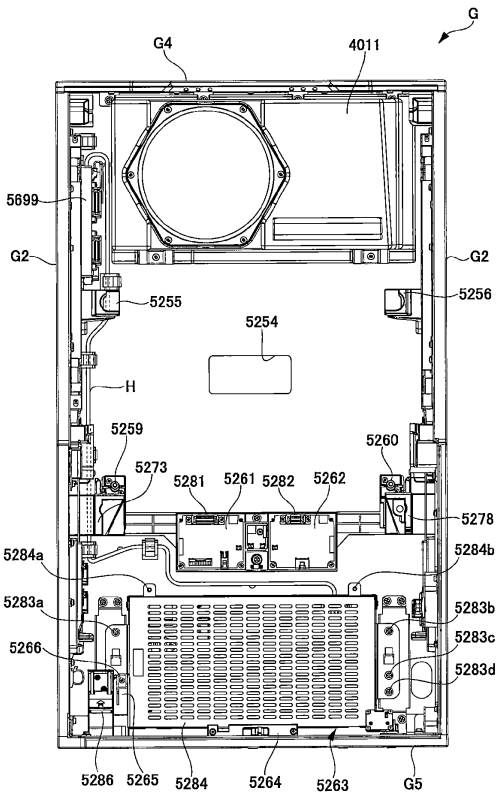
【図３９０】



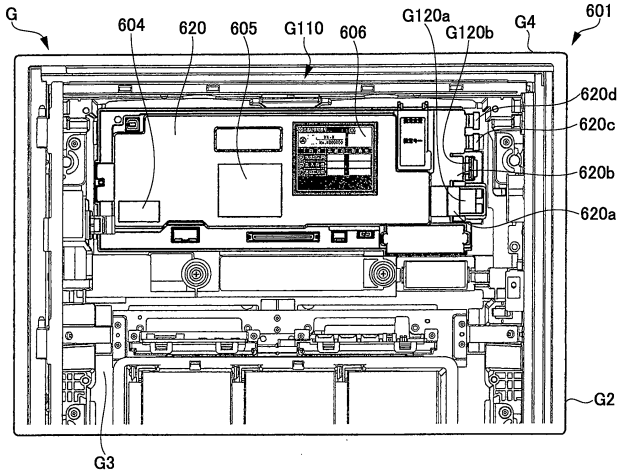
【図３９１】



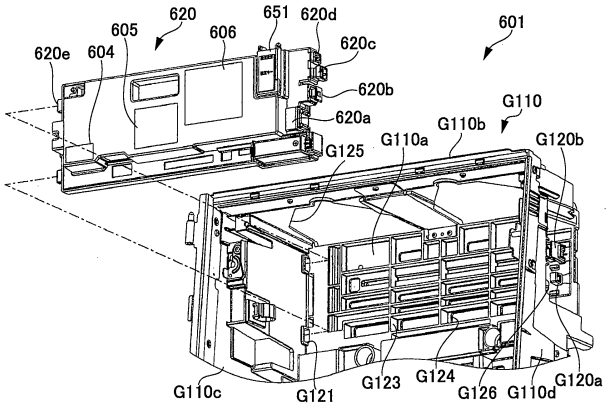
【図３９２】



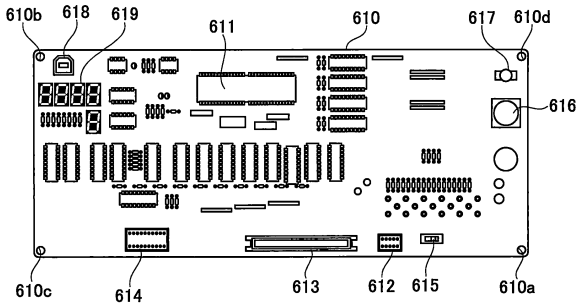
【図３９３】



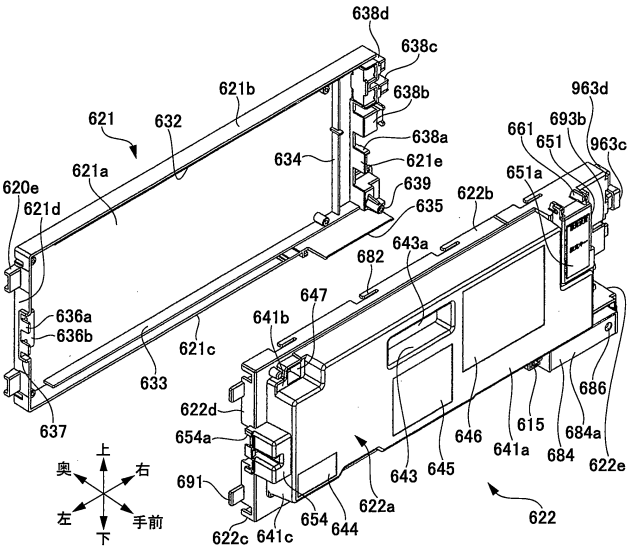
【図３９４】



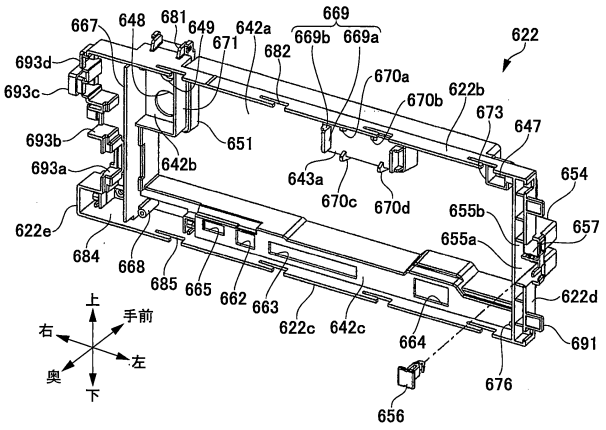
【図３９５】



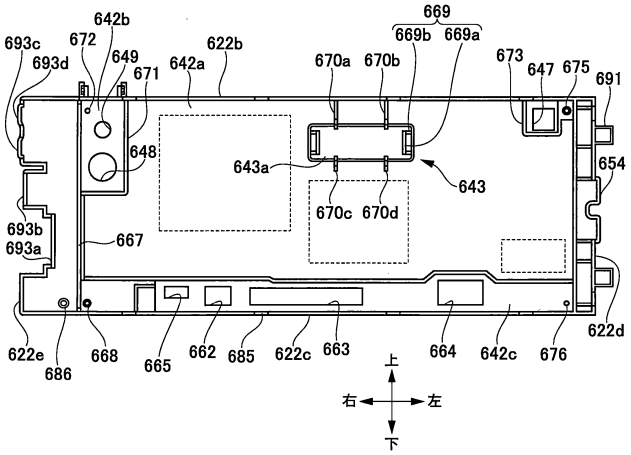
【図３９６】



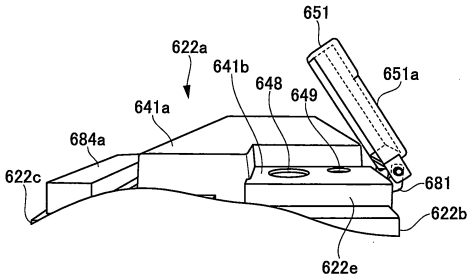
【図３９７】



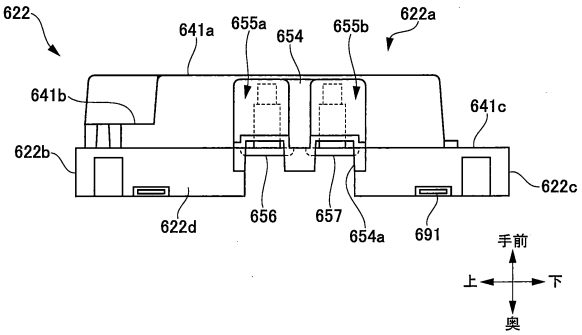
【図３９８】



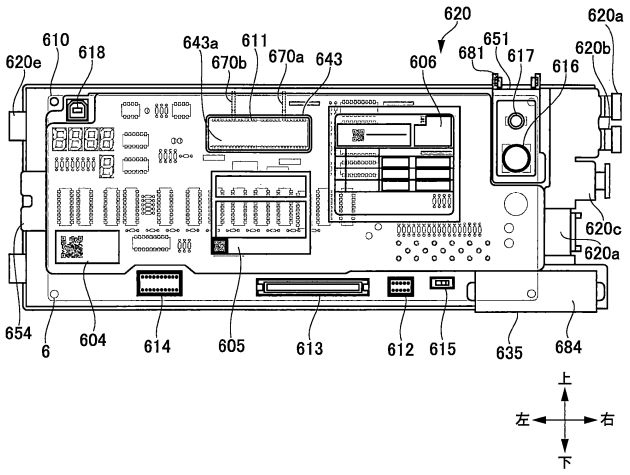
【図３９９】



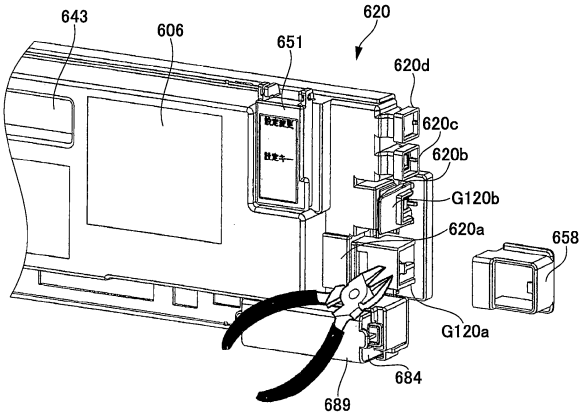
【図４００】



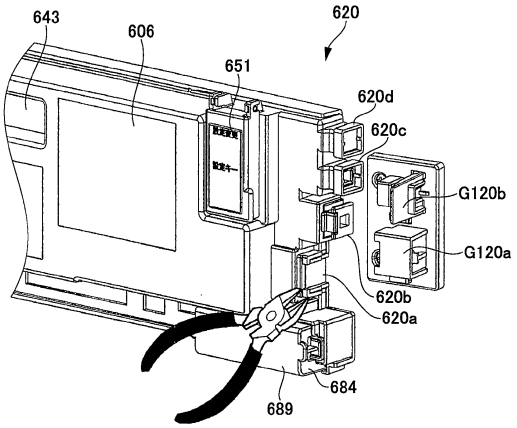
【図４０１】



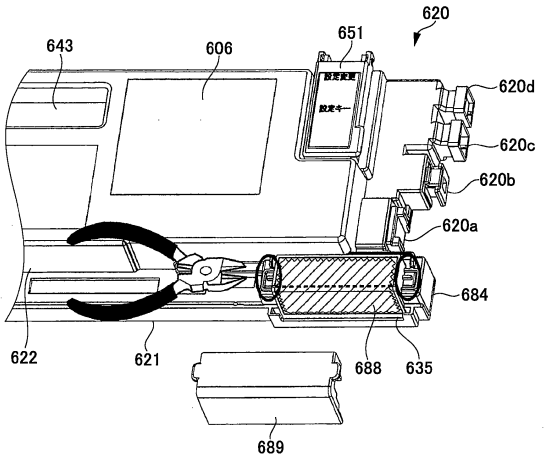
【図４０２】



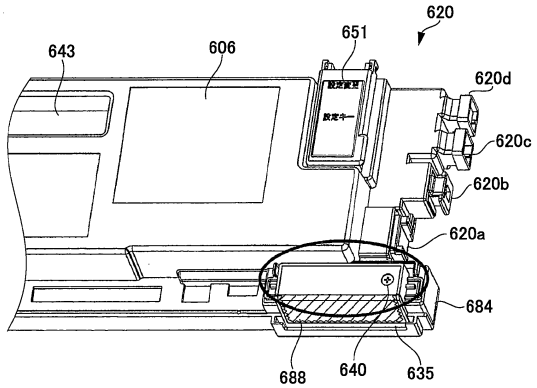
【図４０３】



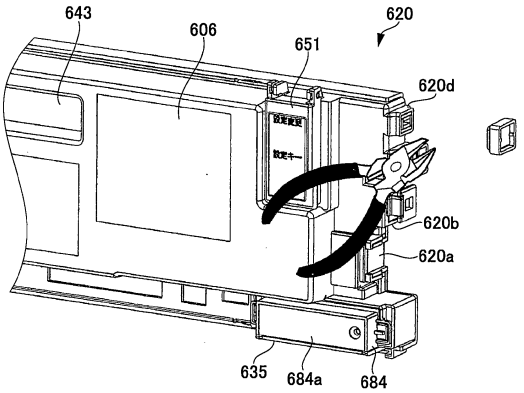
【図４０４】



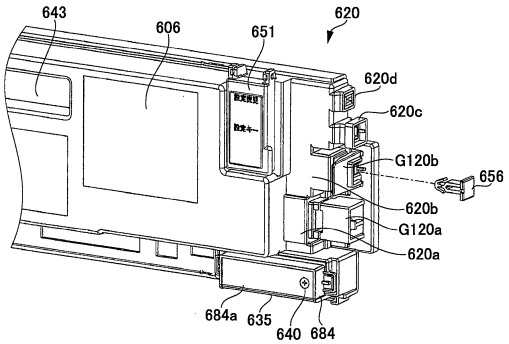
【図４０５】



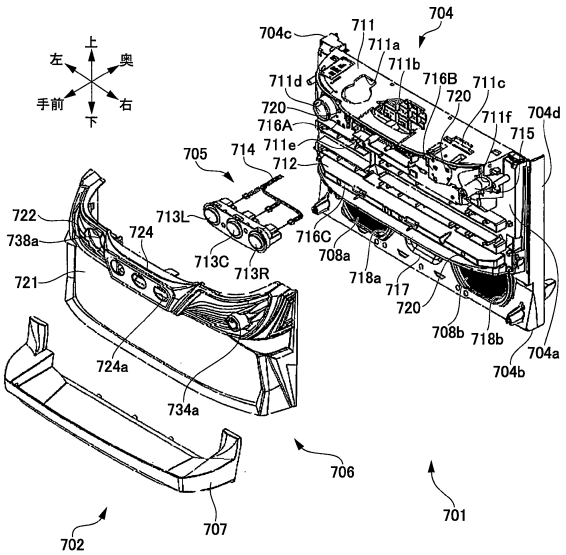
【図４０６】



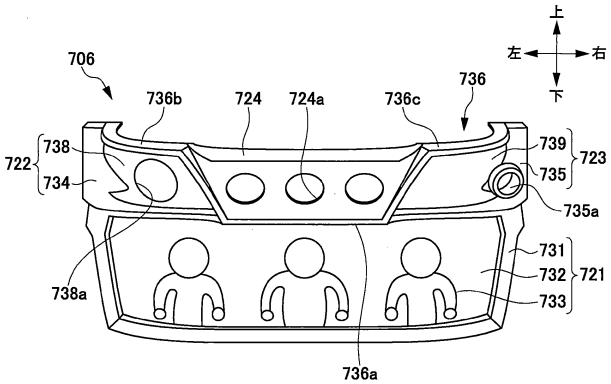
【図４０７】



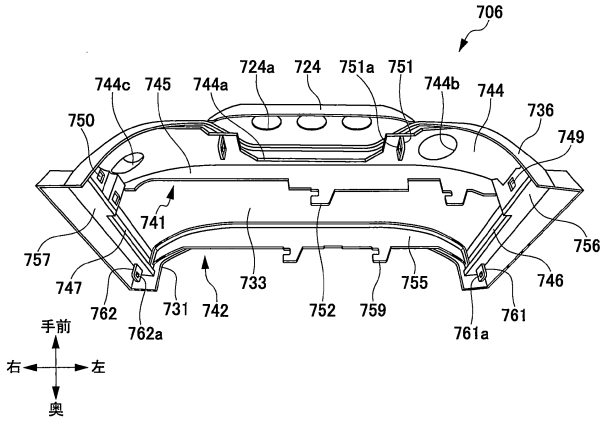
【図４０８】



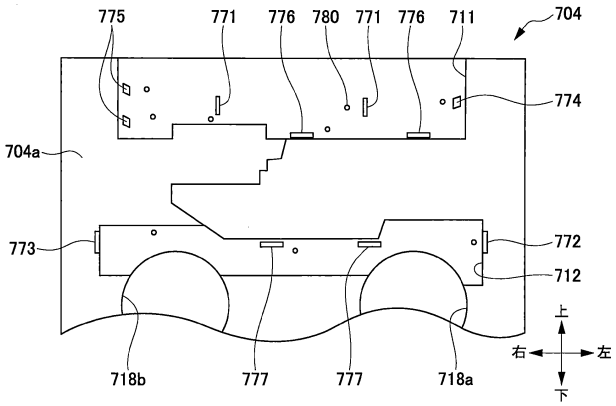
【図４０９】



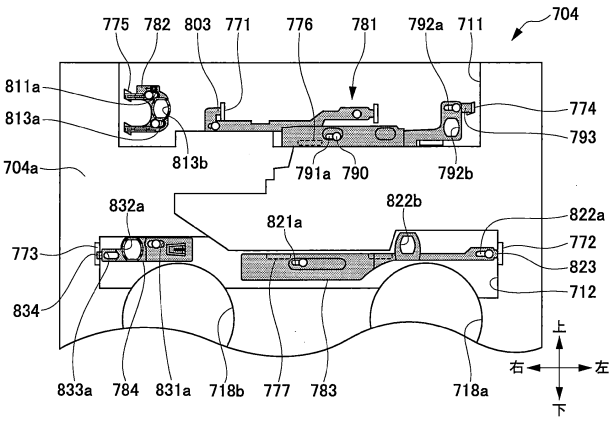
【図４１０】



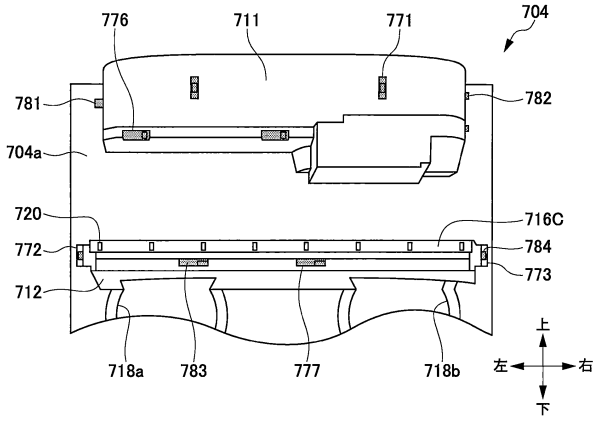
【図４１１】



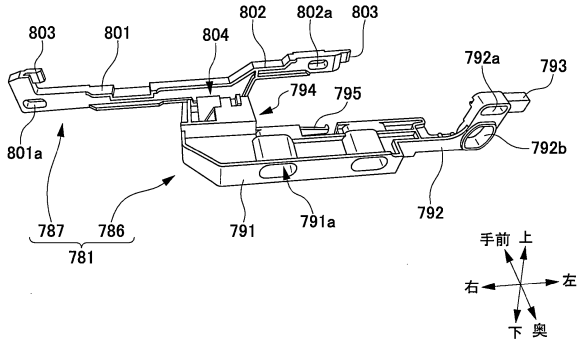
【図４１２】



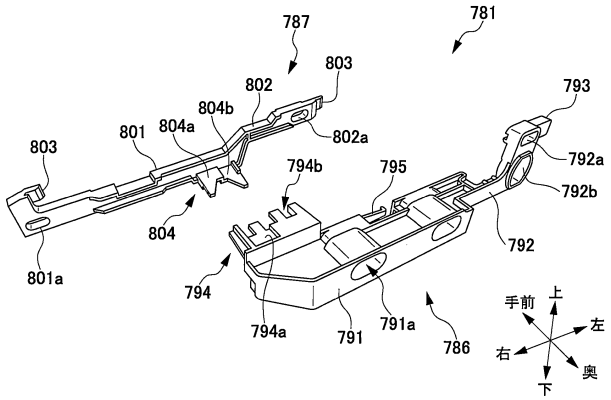
【図４１３】



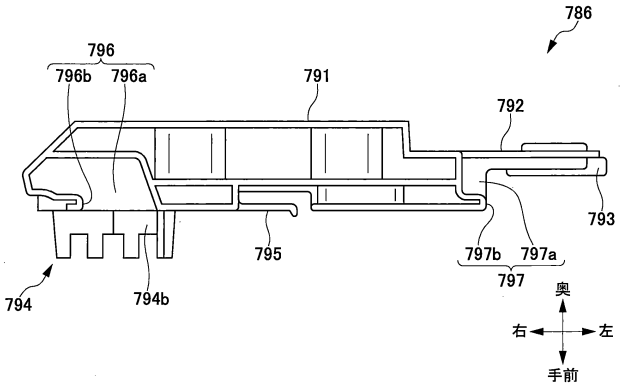
【図４１４】



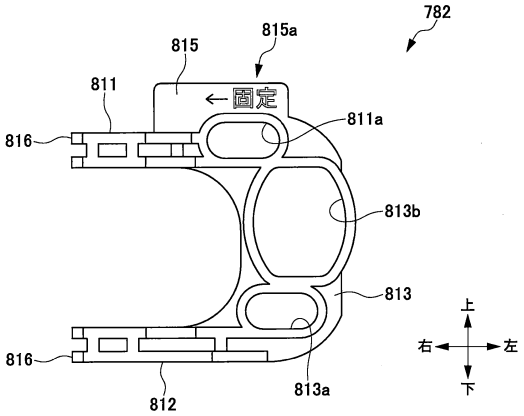
【図４１５】



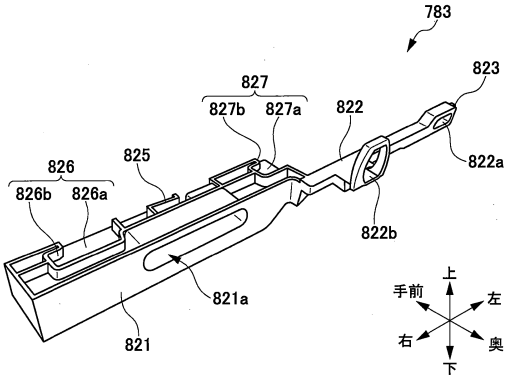
【図４１６】



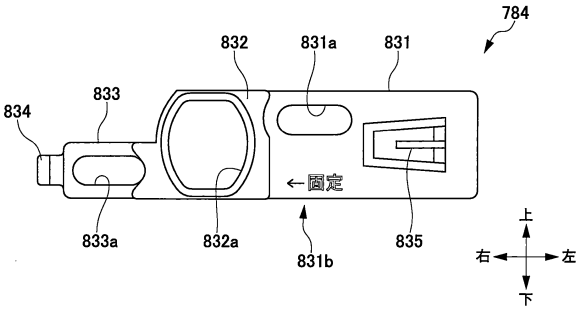
【図４１７】



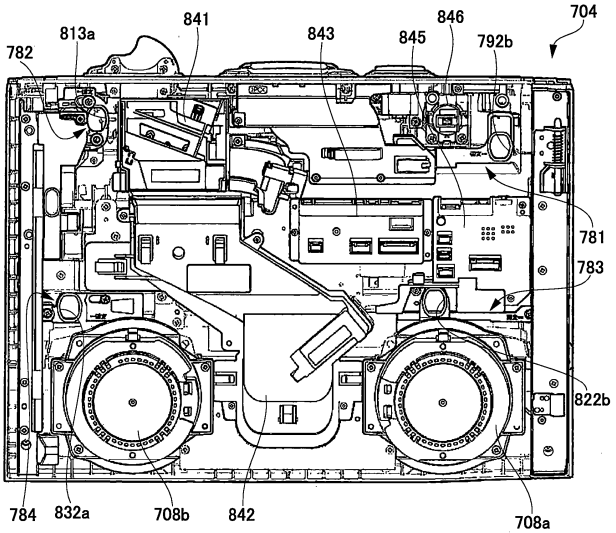
【図４１８】



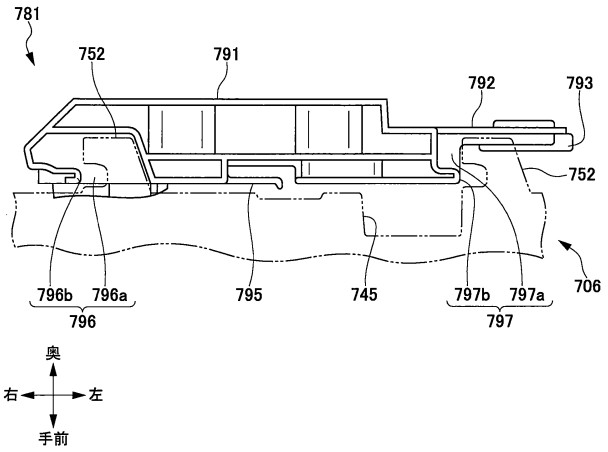
【図４１９】



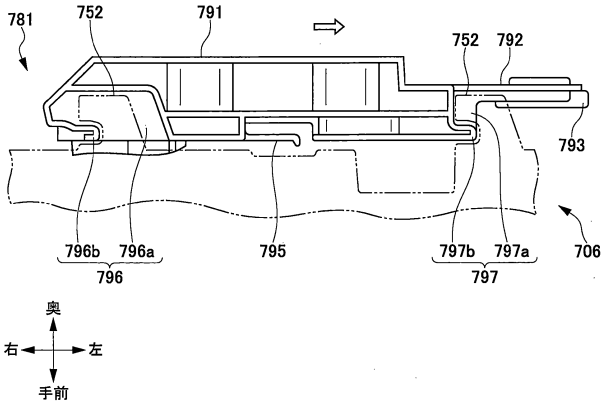
【図４２０】



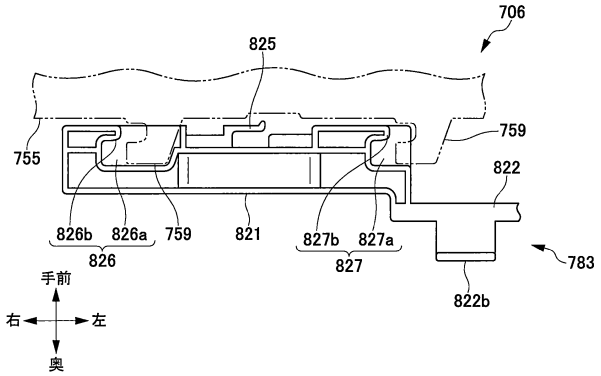
【図４２１】



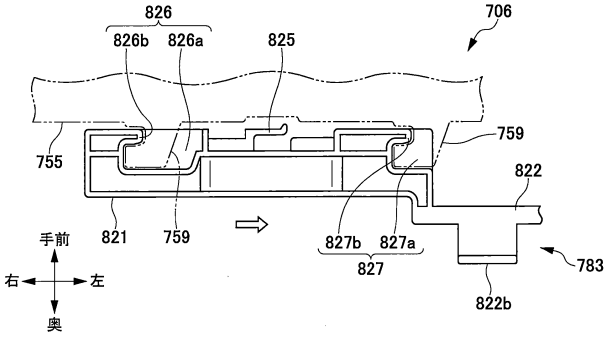
【図４２２】



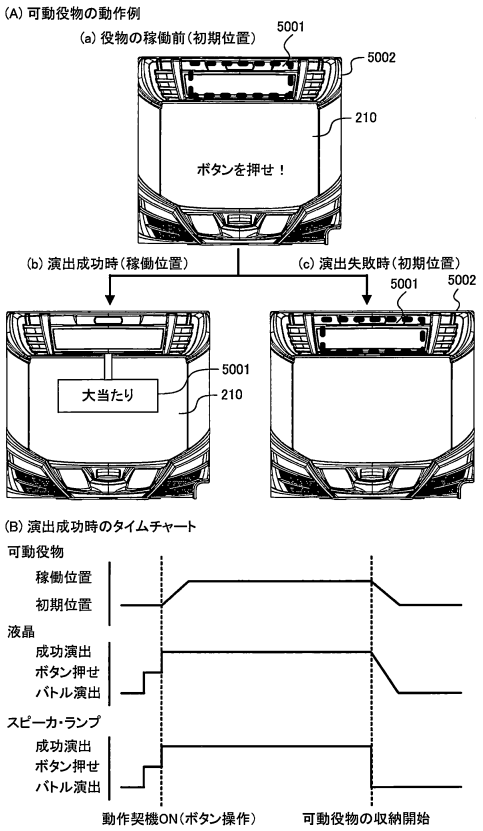
【図４２３】



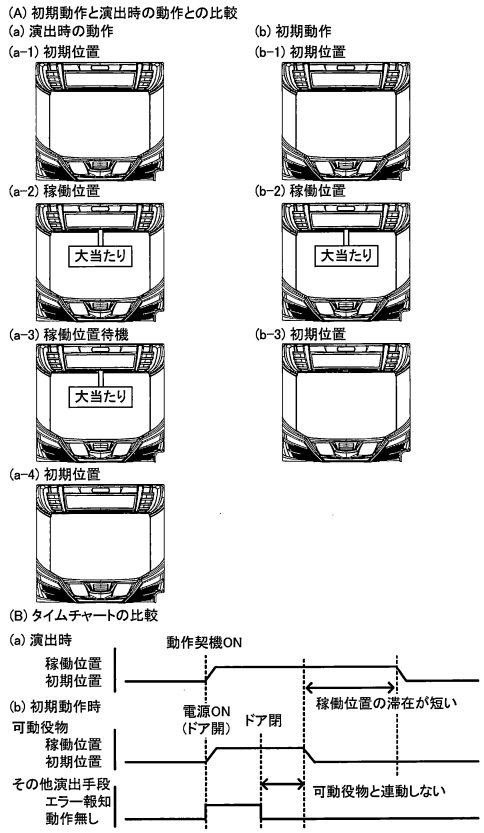
【図４２４】



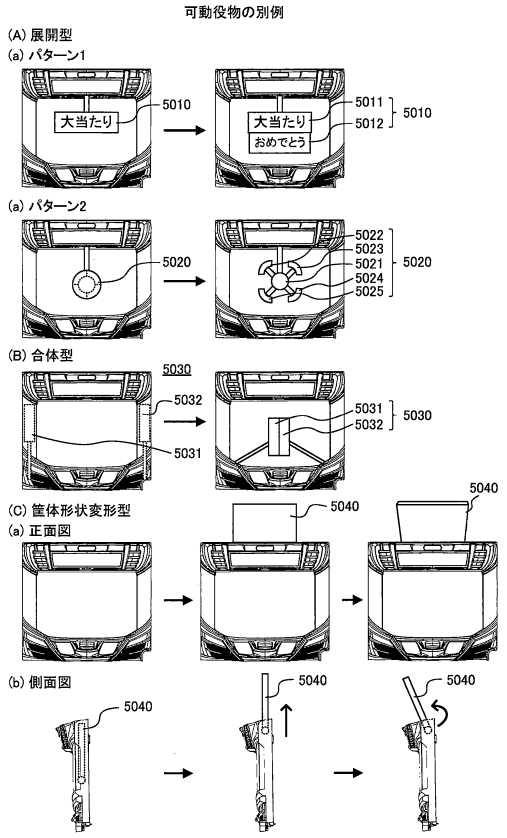
【図４２５】



【図４２６】



【図４２７】

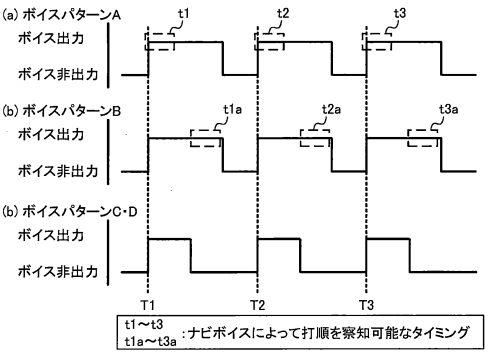


【図４２８】

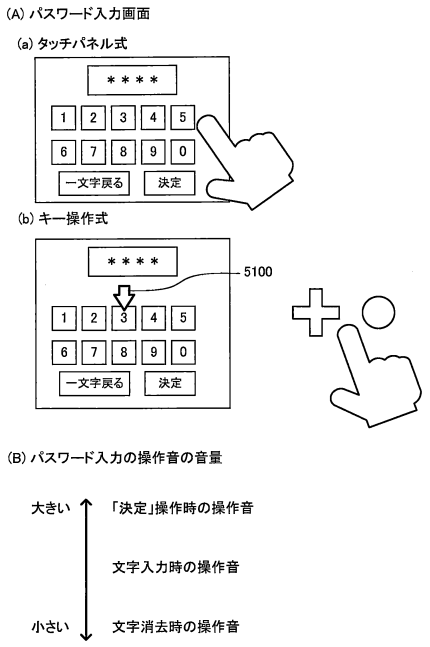
(A) ナビカスタム種別

ナビカスタム種別	キャラクタ	ボイスパターン
ナビカスタムA	キャラクタA	ボイスパターンA 「左を押して」 「中を押して」 「右を押して」
ナビカスタムB	キャラクタB	ボイスパターンB 「正解のリールは左」 「正解のリールは中」 「正解のリールは右」
ナビカスタムC	キャラクタC	ボイスパターンC 「いち」 「に」 「さん」
ナビカスタムD	キャラクタD	ボイスパターンD 「ガウガウ」
…	…	…

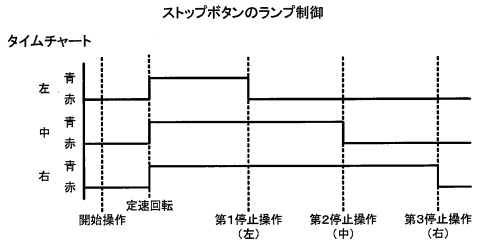
(B) ナビボイス出力のタイムチャート



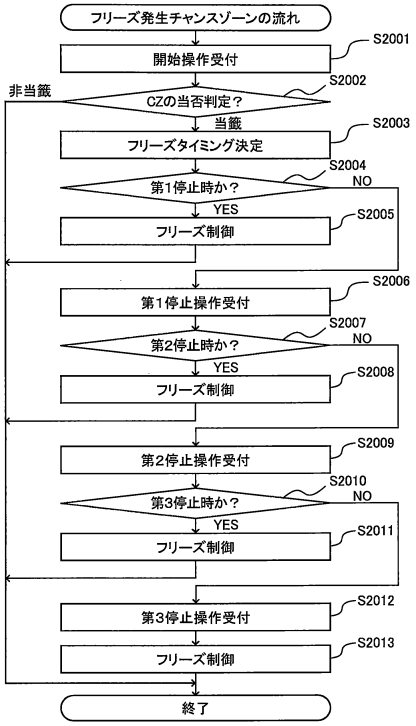
【図４２９】



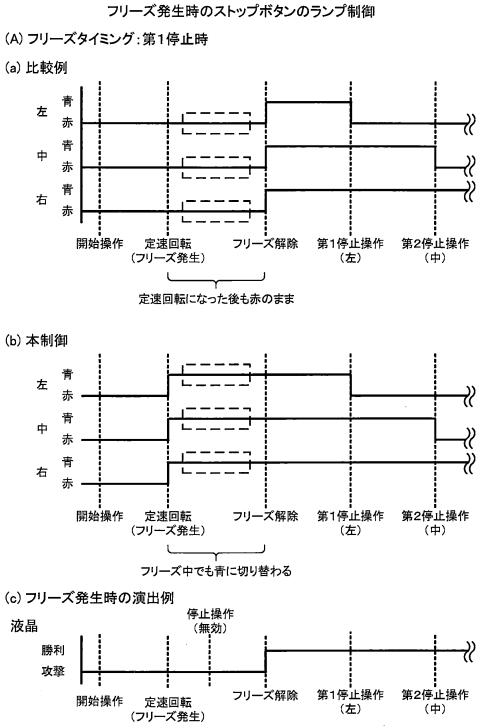
【図４３０】



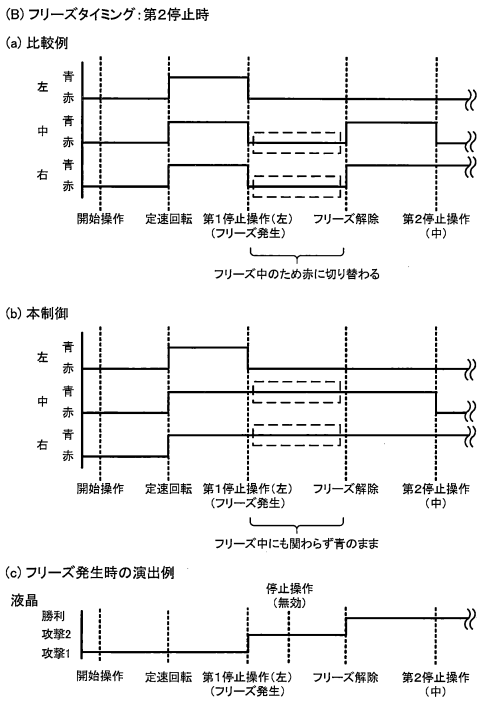
【図４３１】



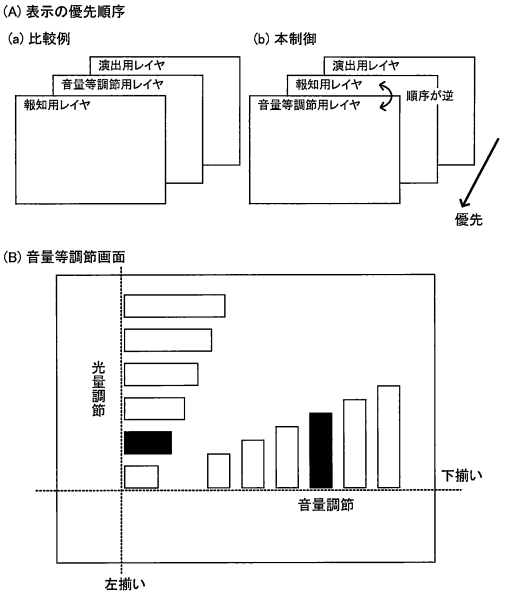
【図４３２】



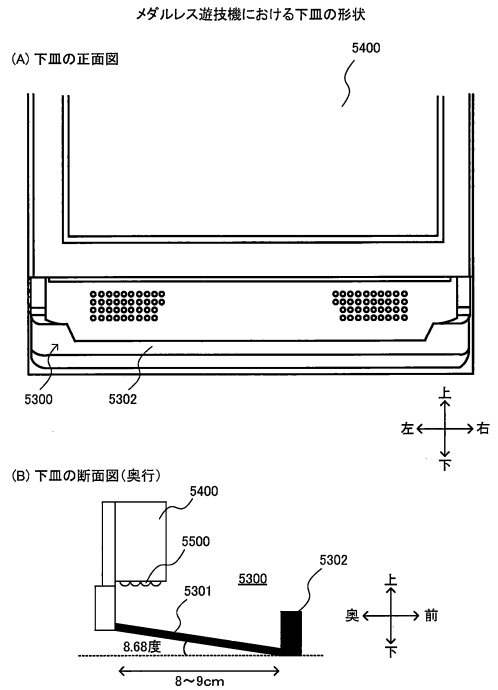
【図４３３】



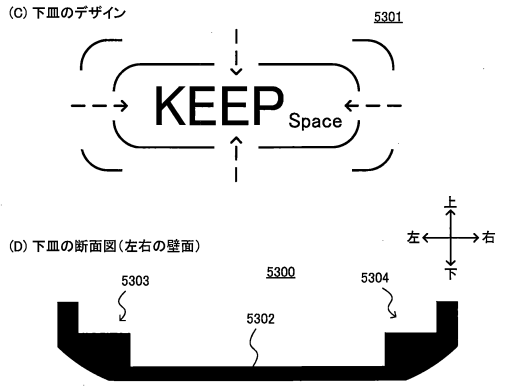
【図４３４】



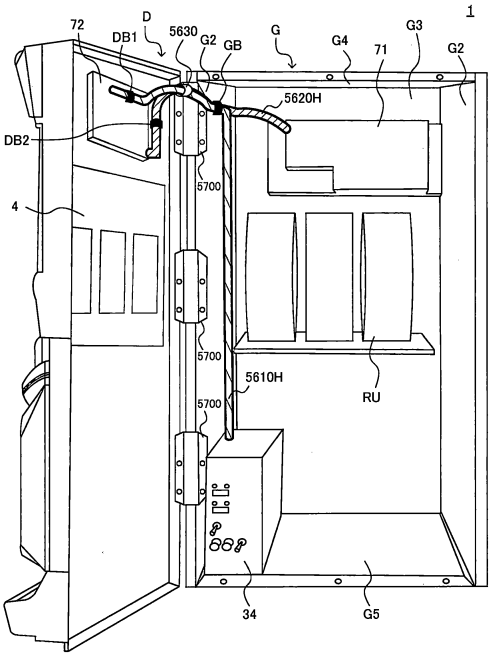
【図４３５】



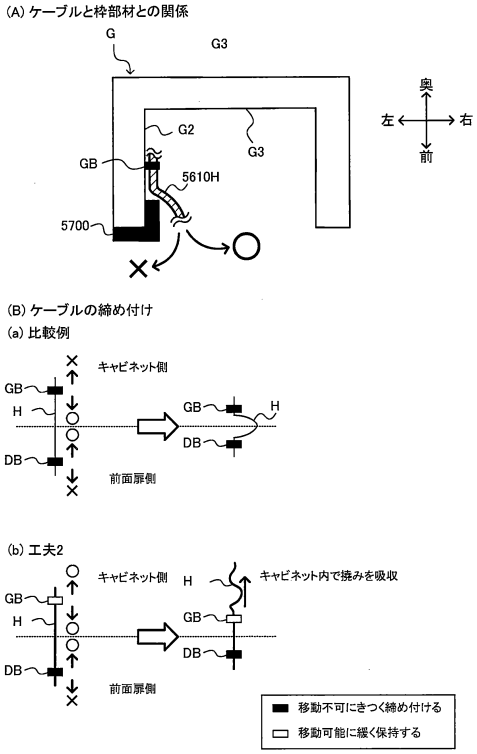
【図４３６】



【図４３７】



【図４３８】



【図４３９】

図柄配置テーブル

左リール		中リール		右リール	
図柄位置	図柄	図柄位置	図柄	図柄位置	図柄
20	白BAR	20	チェリー	20	チェリー
19	リプレイ	19	スイカ	19	ベル
18	スイカ	18	ベル	18	スイカ
17	ベル	17	リプレイ	17	リプレイ
16	リプレイ	16	赤7	16	ベル
15	黒BAR	15	チェリー	15	青7
14	チェリー	14	ベル	14	チェリー
13	黒BAR	13	リプレイ	13	リプレイ
12	ベル	12	チェリー	12	チェリー
11	リプレイ	11	青7	11	ベル
10	青7	10	ベル	10	白BAR
9	ベル	9	リプレイ	9	チェリー
8	黒BAR	8	スイカ	8	リプレイ
7	スイカ	7	白BAR	7	ベル
6	リプレイ	6	チェリー	6	赤7
5	ベル	5	ベル	5	チェリー
4	赤7	4	リプレイ	4	黒BAR
3	チェリー	3	黒BAR	3	リプレイ
2	赤7	2	スイカ	2	ベル
1	リプレイ	1	ベル	1	スイカ
0	ベル	0	リプレイ	0	リプレイ

図柄コード表

図柄コード	内容	
	図柄	データ
1	赤7	00000001
2	青7	00000010
3	黒BAR	00000011
4	白BAR	00000100
5	スイカ	00000101
6	チェリー	00000110
7	ベル	00000111
8	リプレイ	00001000

【図４４０】

内部抽籤テーブル(非ボーナス状態:構成例1)[3枚ベット／確率分母:65536／設定値:1]

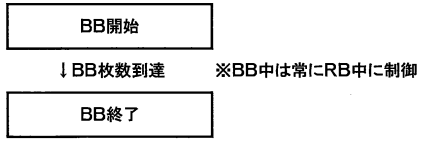
内部当籤役		遊技状態		
No.	略称	RT0	RT1	
0	不当籤	(※7)	(※7)	ハズレ
1	通常リプレイ	7668	(※5)	再遊技
2	チャンスリプレイ	1280	(※6)	再遊技
3	ベル	21840	21840	4枚
4	チェリー	1280	1280	4枚(こぼし有)
5	スイカ	1280	1280	12枚(こぼし有)
6	赤BB	(※1-1)	(※1-2)	赤BIG
7	青BB	(※2-1)	(※2-2)	青BIG
8	黒RB	(※3-1)	(※3-2)	REG
9	チャンスリプレイ＋赤BB	10	(※1-2)(※6)	
10	チャンスリプレイ＋青BB	10	(※2-2)(※6)	
11	チャンスリプレイ＋黒RB	10	(※3-2)(※6)	
12	チェリー＋赤BB	10	10	
13	チェリー＋青BB	10	10	
14	チェリー＋黒RB	10	10	
15	スイカ＋赤BB	10	10	
16	スイカ＋青BB	10	10	
17	スイカ＋黒RB	10	10	

【図441】

内部抽籤テーブル(ボーナス状態:構成例1)[1枚ベット/確率分母:65536/設定値:1]

内部当籤役		遊技状態	
No.	略称	RB中	
0	不当籤(ハズレ)	0	
1	ベル	65536	RB中:15枚

(BB遊技)

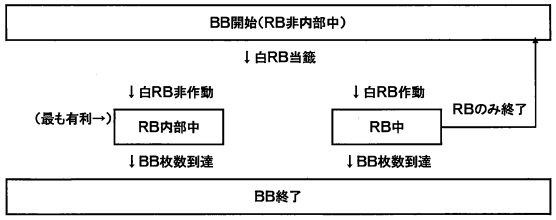


【図442】

内部抽籤テーブル(ボーナス状態:構成例2)[3枚ベット/確率分母:65536/設定値:1]

内部当籤役		遊技状態			
No.	略称	RB非内部中	RB内部中	RB中	
0	不当籤(ハズレ)	0	0	32098	
1	通常リプレイ	7668	39766	0	
2	チャンスリプレイ	1310	1310	0	
3	ベル	21840	21840	21840	RB内部中:15枚
4	チェリー	1310	1310	0	
5	スイカ	1310	1310	0	
6	白RB	32098	0	0	
7	RB中役(非増加)	0	0	11598	1枚

(BB遊技)



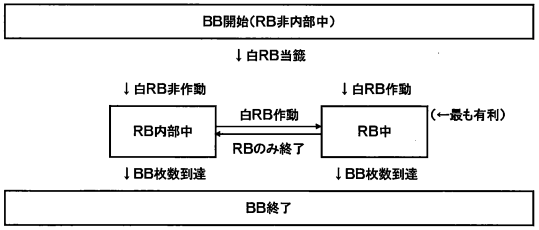
【図443】

内部抽籤テーブル(ボーナス状態:構成例3)[3枚ベット/確率分母:65536/設定値:1]

内部当籤役		遊技状態			
No.	略称	RB非内部中	RB内部中	RB中	
0	不当籤(ハズレ)	0	0	0	
1	通常リプレイ	7668	39766	0	
2	チャンスリプレイ	1310	1310	0	
3	ベル	11840	21840	33438	RB中:15枚
4	チェリー	1310	1310	0	
5	スイカ	1310	1310	0	
6	ベル+白RB	10000	0	32098	RB中:15枚
7	通常リプレイ+白RB	32098	0	0	

※RB中は1枚ベット

(BB遊技)



【図444】

ボーナス状態(構成例3)の詳細説明

■ホール及び試射試験における挙動

ゲーム数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ベット数	3枚	3枚	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	1枚	3枚
当籤役	通常リプレイ+白RB	ベル(4枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(15枚)+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)
表示役	リプレイ	JACIN	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	ベル(15枚)	JACIN
配当	再遊技	白RB作動	15枚	15枚	15枚	15枚	15枚	15枚	15枚	15枚	白RB作動
状態	RB非内部中→RB内部中	RB内部中→RB中	RB中	RB中	RB中	RB中	RB中	RB中	RB中	RB中→RB内部中	RB内部中→RB中

↑ ※ボーナス優先制御によりベルを獣とばしてJACIN

↑ ※ボーナス優先制御によりベルを獣とばしてJACIN

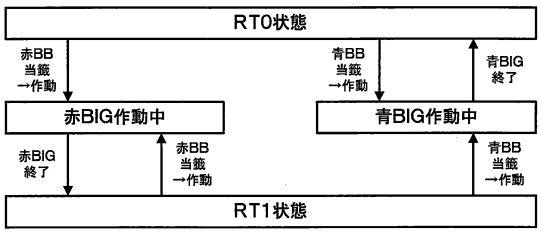
■SIM試験における挙動

ゲーム数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ベット数	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚	3枚
当籤役	通常リプレイ+白RB	ベル(4枚)+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)	通常リプレイ+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)	通常リプレイ+白RB(持越)	通常リプレイ+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)	通常リプレイ+白RB(持越)	ベル(4枚)+白RB(持越)
表示役	リプレイ	ベル(4枚)	ベル(4枚)	ベル(4枚)	リプレイ	ベル(4枚)	リプレイ	リプレイ	ベル(4枚)	リプレイ	ベル(4枚)
配当	再遊技	4枚	4枚	4枚	再遊技	4枚	再遊技	再遊技	4枚	再遊技	4枚
状態	RB非内部中→RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中	RB内部中

↑ ※ベット数を超える配当(4枚以上)がある場合、SIM試験上は小役入賞(RB非作動)扱い

【図４４５】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例1]



○ 仕様例1－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	青BIG終了
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了

○ 仕様例1－2

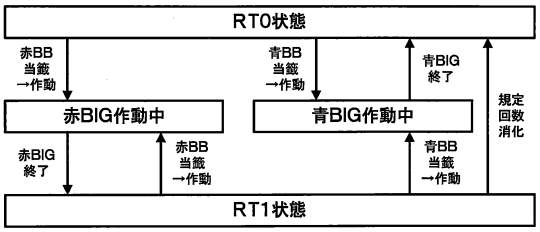
状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/1024(※1-1)	1/341.3(※2-1)	1/256	青BIG終了
RT1	1/32(※1-2)	1/128(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了

○ 仕様例1－3

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/341.3(※1-1)	1/1024(※2-1)	1/256	青BIG終了
RT1	1/128(※1-2)	1/32(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了

【図４４６】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例2]



○ 仕様例2－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了

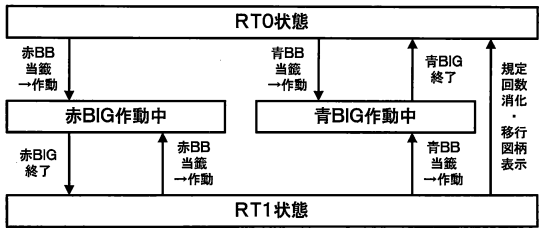
○ 仕様例2－2

※青BIG終了時も赤BIG終了時と同様にRT1に移行

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	・赤BIG終了 ・青BIG終了

【図４４７】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例3]



○ 仕様例3－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・青BIG終了 ・規定回数消化 ・移行図柄表示
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了

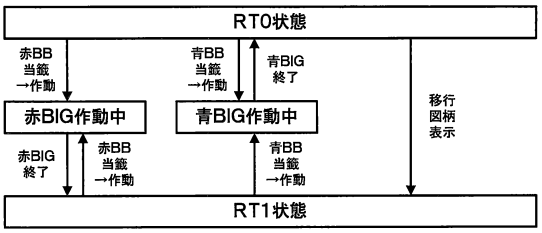
○ 仕様例3－2

※青BIG終了時も赤BIG終了時と同様にRT1に移行

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・規定回数消化 ・移行図柄表示
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	・赤BIG終了 ・青BIG終了

【図４４８】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例4]



○ 仕様例4－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	青BIG終了
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	・赤BIG終了 ・移行図柄表示

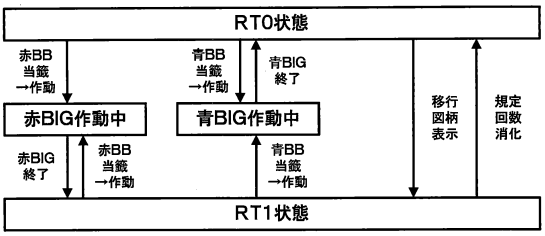
○ 仕様例4－2

※赤BIG終了時も青BIG終了時と同様にRT0に移行

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・赤BIG終了 ・青BIG終了
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	移行図柄表示

【図４４９】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例5]



○ 仕様例5－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	・赤BIG終了 ・移行図柄表示

○ 仕様例5－2

※赤BIG終了時も青BIG終了時と同様にRT0に移行

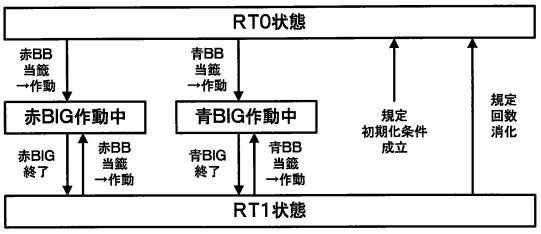
状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・赤BIG終了 ・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	移行図柄表示

○ 仕様例5－3

※青BIG終了時も赤BIG終了時と同様にRT1に移行

【図４５０】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例6]



○ 仕様例6－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/51.2(※1-1)	1/51.2(※2-1)	1/25.6	・規定初期化条件成立 ・規定回数消化
RT1	1/512(※1-2)	1/512(※2-2)	1/256	・赤BIG終了 ・青BIG終了

○ 仕様例6－2

※赤BIG終了時はRT0に移行

○ 仕様例6－3

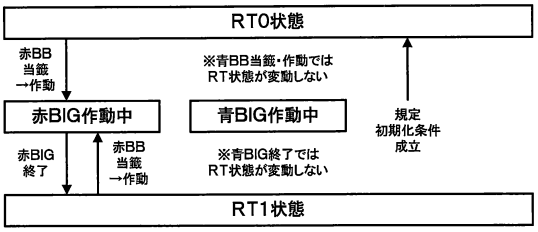
※赤BIG終了時と青BIG終了時とで規定回数を異ならせる

○ 仕様例6－4

※規定初期化条件に「設定変更」を含ませる or 含ませない

【図４５１】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例7]



○ 仕様例7－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/16384(※1-1)	1/260(※2-1)	1/256	規定初期化条件成立
RT1	1/16384(※1-2)	1/26(※2-2)	1/25.9	赤BIG終了

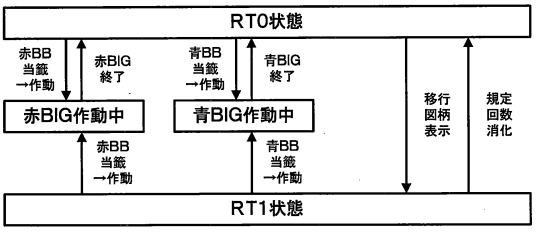
○ 仕様例7－2

※RT1で規定回数を消化するとRT0に移行

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/8192(※1-1)	1/64(※2-1)	1/63.5	・規定初期化条件成立 ・規定回数消化
RT1	1/100(※1-2)	1/8(※2-2)	1/7.4	赤BIG終了

【図４５２】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例8]



○ 仕様例8－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/51.2(※1-1)	1/51.2(※2-1)	1/25.6	・赤BIG終了 ・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/2048(※1-2)	1/2048(※2-2)	1/1024	移行図柄表示

○ 仕様例8－2

※赤BB当籤・作動ではRT状態が変動しない

※赤BIG終了ではRT状態が変動しない

※青BB当籤・作動ではRT状態が変動しない

※青BIG終了ではRT状態が変動しない

○ 仕様例8－3

※仕様例8－2において、規定回数消化ではRT状態が変動しない

※仕様例8－2において、RT1のボーナス決定確率をRT0のものよりも有利とする

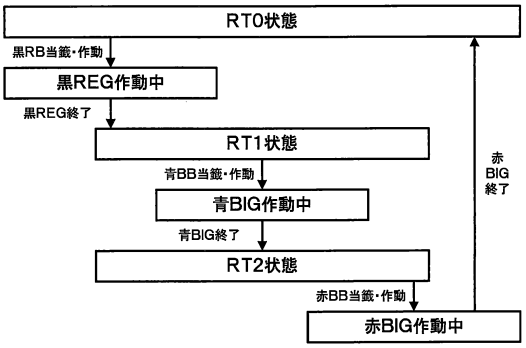
【図４５３】

内部抽選テーブル(非ボーナス状態:構成例2)[3枚ベット／確率分母:65536／設定値:1]

内部当籤役		遊技状態		
No.	略称	RT0	RT1	RT2
0	不当籤	(※7)	(※7)	(※7)
1	通常リプレイ	7668	(※5-1)	(※5-2)
2	チャンスリプレイ	1280	(※6-1)	(※6-2)
3	ベル	21840	21840	21840
4	チェリー	1280	1280	1280
5	スイカ	1280	1280	1280
6	赤BB	(※1-1)	(※1-2)	(※1-3)
7	青BB	(※2-1)	(※2-2)	(※2-3)
8	黒RB	(※3-1)	(※3-2)	(※3-3)
9	白RB	(※4-1)	(※4-2)	(※4-3)
10	チャンスリプレイ＋赤BB	10	(※1-2)(※6-1)	(※1-3)(※6-2)
11	チャンスリプレイ＋青BB	10	(※2-2)(※6-1)	(※2-3)(※6-2)
12	チャンスリプレイ＋黒RB	5	(※3-2)(※6-1)	(※3-3)(※6-2)
13	チャンスリプレイ＋白RB	5	(※4-2)(※6-1)	(※4-3)(※6-2)
14	チェリー＋赤BB	10	10	10
15	チェリー＋青BB	10	10	10
16	チェリー＋黒RB	5	5	5
17	チェリー＋白RB	5	5	5
18	スイカ＋赤BB	10	10	10
19	スイカ＋青BB	10	10	10
20	スイカ＋黒RB	5	5	5
21	スイカ＋白RB	5	5	5

【図４５４】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例9]

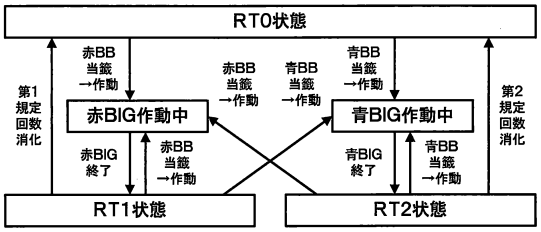


状態	赤BB決定確率	青BB決定確率	黒RB決定確率	(※)BB合算決定確率	主な移行契機
RT0	0(※1-1)	0(※2-1)	1/256(※3-1)	1/256	赤BIG終了
RT1	0(※1-2)	1/25.6(※2-2)	0(※3-2)	1/25.6	黒REG終了
RT2	1/25.6(※1-3)	0(※2-3)	0(※3-3)	1/25.6	青BIG終了

(※)BB合算決定確率は黒REGも含む。

【図４５５】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例10]



○ 仕様例10－1

※第1規定回数≠第2規定回数

状態	赤BB決定確率	青BB決定確率	BB合算決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了
RT2	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	青BIG終了

○ 仕様例10－2

※仕様例10－1において、RT1とRT2のBB合算決定確率を異ならせる

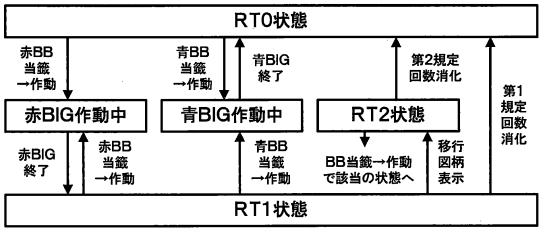
※仕様例10－1において、第1規定回数＝第2規定回数としてもよい

○ 仕様例10－3

※仕様例10－2において、BB合算決定確率を設定値(例えば偶奇)で異ならせる

【図４５６】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例11]



○ 仕様例11－1

状態	赤BB決定確率	青BB決定確率	BB合算決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	赤BIG終了
RT2	1/102.4(※1-3)	1/102.4(※2-3)	1/51.2	移行図柄表示

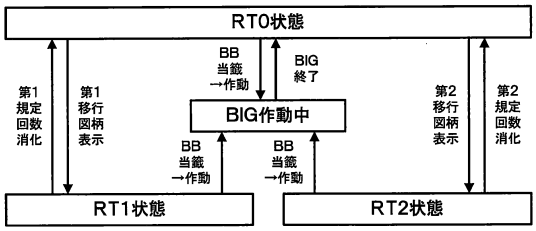
○ 仕様例11－2

※青BIG終了時も赤BIG終了時と同様にRT1に移行

状態	赤BB決定確率	青BB決定確率	BB合算決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	・赤BIG終了 ・青BIG終了
RT2	1/102.4(※1-3)	1/102.4(※2-3)	1/51.2	移行図柄表示

【図４５７】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例12]



○ 仕様例12－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/512(※1-1)	1/512(※2-1)	1/256	・BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/102.4(※1-3)	1/102.4(※2-3)	1/51.2	第1移行図柄表示
RT2	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	第2移行図柄表示

○ 仕様例12－2

※仕様例12－1において、規定回数消化ではRT1・RT2を終了させない

○ 仕様例12－3

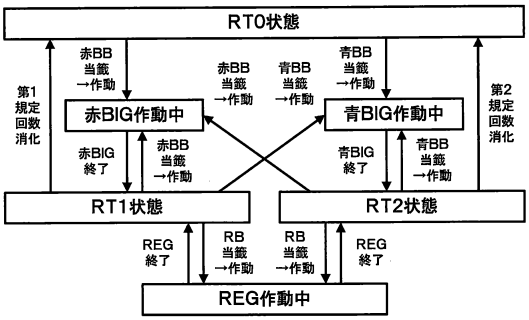
※仕様例12－1又は12－2において、ボーナス開始・終了ではRT状態変動なし

○ 仕様例12－4

※仕様例12－1又は12－2において、赤BIG終了時はRT0に移行させない

【図４５８】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例13]

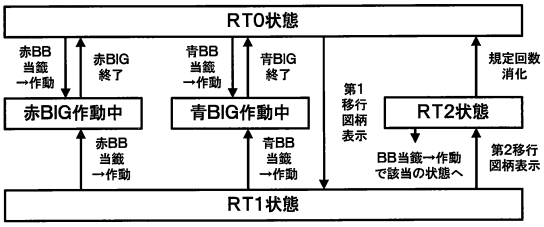


状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	黒RB 決定確率	白RB 決定確率	(※)BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/546.1 (※1-1)	1/546.1 (※2-1)	1/8192 (※3-1)	1/8192 (※4-1)	1/256	規定回数消化
RT1	1/2048 (※1-2)	1/2048 (※2-2)	1/106.5 (※3-2)	1/8192 (※4-2)	1/100	赤BIG終了
RT2	1/2048 (※1-3)	1/2048 (※2-3)	1/8192 (※3-3)	1/51.6 (※4-3)	1/50	青BIG終了

(※)BB合算決定確率はREGも含む。

【図４５９】

[RT状態に応じたボーナス確変の仕様例14]



○ 仕様例14－1

状態	赤BB 決定確率	青BB 決定確率	BB合算 決定確率	主な移行契機
RT0	1/2048(※1-1)	1/2048(※2-1)	1/1024	・赤BIG終了 ・青BIG終了 ・規定回数消化
RT1	1/51.2(※1-2)	1/51.2(※2-2)	1/25.6	第1移行図柄表示
RT2	1/2048(※1-3)	1/2048(※2-3)	1/1024	第2移行図柄表示

○ 仕様例14－2

※赤BB当籤・作動ではRT状態が変動しない

※赤BIG終了ではRT状態が変動しない

※青BB当籤・作動ではRT状態が変動しない

※青BIG終了ではRT状態が変動しない

【図４６０】

内部抽籤テーブル(非ボーナス状態:従来例)[3枚ベット／確率分母:65536／設定値:1]

内部当籤役		遊技状態		配当等	
No.	略称	RT0	RT1	2枚ベット	3枚ベット
0	不当籤	44393	6560	―	ハズレ
1	リプレイ	8978	46811	―	再遊技
2	ベル	9929	9929	―	8枚
3	チェリー	900	900	―	4枚
4	スイカ	900	900	―	4枚
5	赤BB	182	182	―	赤BIG
6	青BB	182	182	―	青BIG
7	チェリー＋赤BB	18	18	―	4枚
8	チェリー＋青BB	18	18	―	4枚
9	スイカ＋赤BB	18	18	―	4枚
10	スイカ＋青BB	18	18	―	4枚
		65536	65536		

内部抽籤テーブル(非ボーナス状態:構成例3)[確率分母:65536／設定値:1]

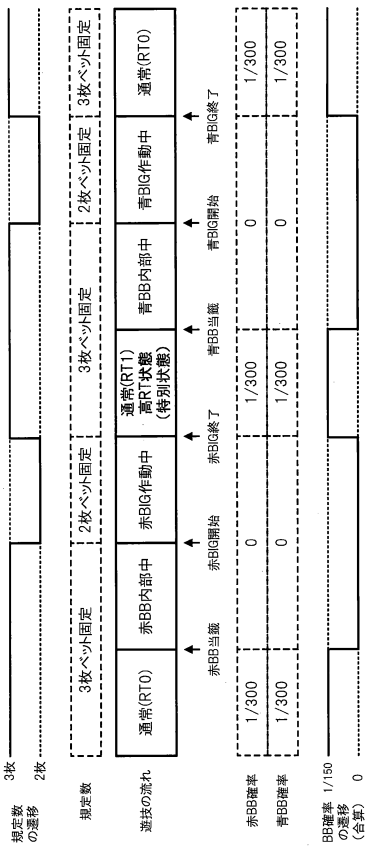
内部当籤役		ベット数		配当等	
No.	略称	2枚	3枚	2枚ベット	3枚ベット
0	不当籤	41215	44393	ハズレ	ハズレ
1	リプレイ	8978	8978	再遊技	再遊技
2	ベル	13107	9929	8枚	8枚
3	チェリー	900	900	4枚	4枚
4	スイカ	900	900	4枚	4枚
5	赤BB	182	182	赤BIG	赤BIG
6	青BB	182	182	青BIG	青BIG
7	チェリー＋赤BB	18	18	4枚	4枚
8	チェリー＋青BB	18	18	4枚	4枚
9	スイカ＋赤BB	18	18	4枚	4枚
10	スイカ＋青BB	18	18	4枚	4枚
		65536	65536		

内部抽籤テーブル(非ボーナス状態:構成例4)[確率分母:65536／設定値:1]

内部当籤役		ベット数		配当等	
No.	略称	2枚	3枚	2枚ベット	3枚ベット
0	不当籤	44393	44393	ハズレ	ハズレ
1	リプレイ	8978	8978	再遊技	再遊技
2	ベル	9929	9929	10枚	8枚
3	チェリー	900	900	6枚	4枚
4	スイカ	900	900	6枚	4枚
5	赤BB	182	182	赤BIG	赤BIG
6	青BB	182	182	青BIG	青BIG
7	チェリー＋赤BB	18	18	6枚	4枚
8	チェリー＋青BB	18	18	6枚	4枚
9	スイカ＋赤BB	18	18	6枚	4枚
10	スイカ＋青BB	18	18	6枚	4枚
		65536	65536		

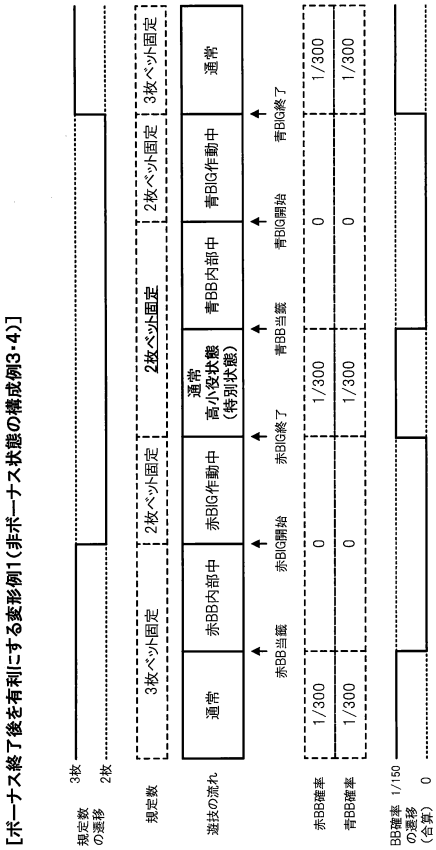
【図461】

[ボーナス終了後を有利にする従来例]



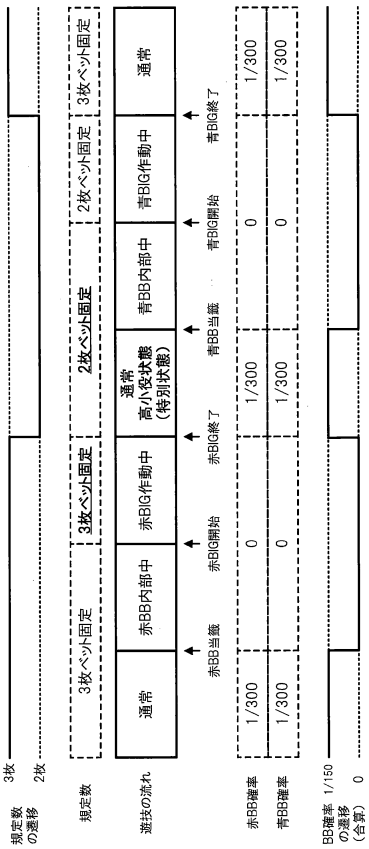
【図462】

[ボーナス終了後を有利にする変形例1(非ボーナス状態の構成例3・4)]



【図463】

[ボーナス終了後を有利にする変形例2(非ボーナス状態の構成例3・4)]



【図464】

[ボーナス終了後を有利する従来例と変形例1との比較]

■従来例の仕様概要

通常時	
規定数	3枚ベット固定
50枚あたりペース	40ゲーム
BB確率(合算)	1/150
再遊技確率	1/7.3

特別状態(高RT状態)	
規定数	3枚ベット固定
50枚あたりペース	ほぼ現状維持
BB確率(合算)	1/150
再遊技確率	1/1.4

■変形例1の仕様概要

通常時	
規定数	3枚ベット固定
50枚あたりペース	40ゲーム
BB確率(合算)	1/150
再遊技確率	1/7.3

特別状態(高小役状態)	
規定数	2枚ベット固定
50枚あたりペース	ほぼ現状維持
BB確率(合算)	1/150
再遊技確率	1/7.3

■従来例の出玉率計算
(特別状態100ゲーム+ボーナス状態)

特別状態100ゲーム	
(a)再遊技回数	71.43回
(b)再遊技以外の回数	28.57回
(c)投入枚数((b)×3枚)	85.71枚
(d)払出枚数(還元率100%と仮定)	85.71枚

ボーナス状態 (リプ抽籤なし/2枚ベットで15枚払出が10回で終了⇒純増130枚と仮定)	
(e)投入枚数(10回×2枚)	20枚
(f)払出枚数(10回×15枚)	150枚

■変形例1の出玉率計算
(特別状態100ゲーム+ボーナス状態)

特別状態100ゲーム	
(a)再遊技回数	13.70回
(b)再遊技以外の回数	86.30回
(c)投入枚数((b)×2枚)	172.60枚
(d)払出枚数(還元率100%と仮定)	172.60枚

ボーナス状態 (リプ抽籤なし/2枚ベットで15枚払出が10回で終了⇒純増130枚と仮定)	
(e)投入枚数(10回×2枚)	20枚
(f)払出枚数(10回×15枚)	150枚

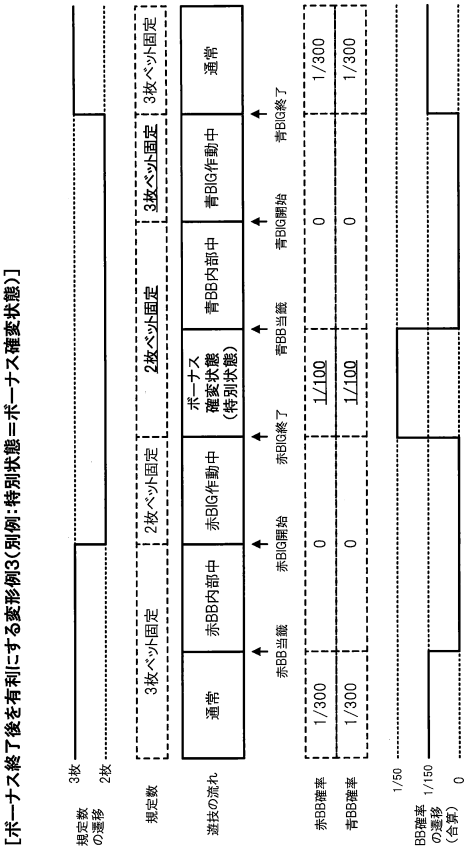
■従来例:再遊技を考慮しない(リプ抜き)出玉率
(特別状態100ゲーム+ボーナス状態)

・投入枚数合計((c)+(e))	105.71枚
・払出枚数合計((d)+(f))	235.71枚
※出玉率(リプ抜き)	222.97%

■変形例1:再遊技を考慮しない(リプ抜き)出玉率
(特別状態100ゲーム+ボーナス状態)

・投入枚数合計((c)+(e))	192.60枚
・払出枚数合計((d)+(f))	322.60枚
※出玉率(リプ抜き)	167.49%

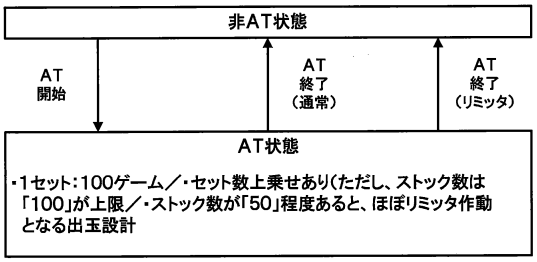
【図４６５】



【図４６６】

[メイン側カウンタ補正による演出制御]

○ 仕様例



○ セット数上乗せ抽籤例

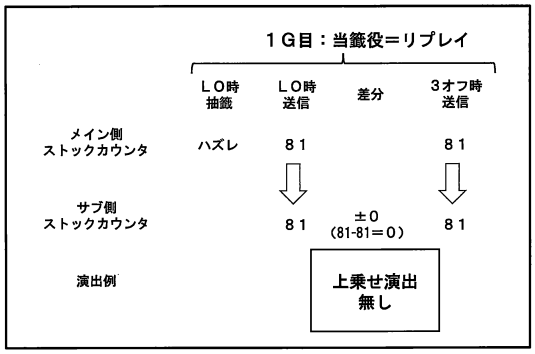
セット数上乗せ抽籤テーブル(確率分母:256)

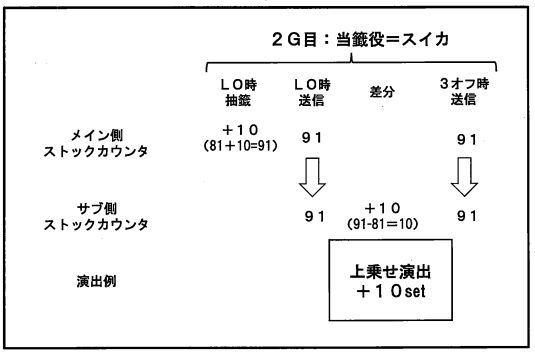
上乗せセット数	内部当籤役			
	リプレイ／ベル	スイカ	チェリー	チャンス目
0	252	0	0	0
1	1	32	64	0
2	1	32	64	0
5	1	128	64	128
10	1	64	64	128

【図４６７】

[メイン側カウンタ補正による演出制御]

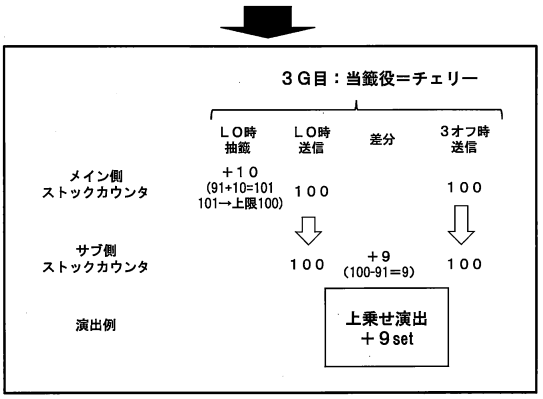
○ 補正を行わない場合の遊技の流れの一例(レバーON時上乗せ抽籤)

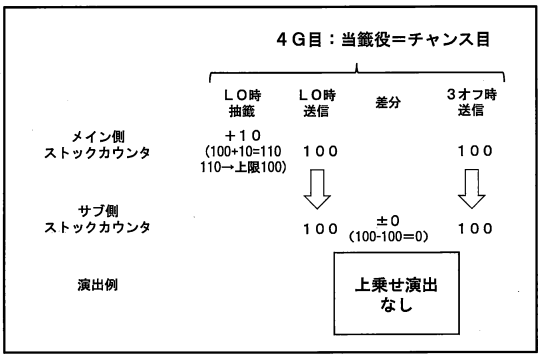




【図４６８】

[メイン側カウンタ補正による演出制御]

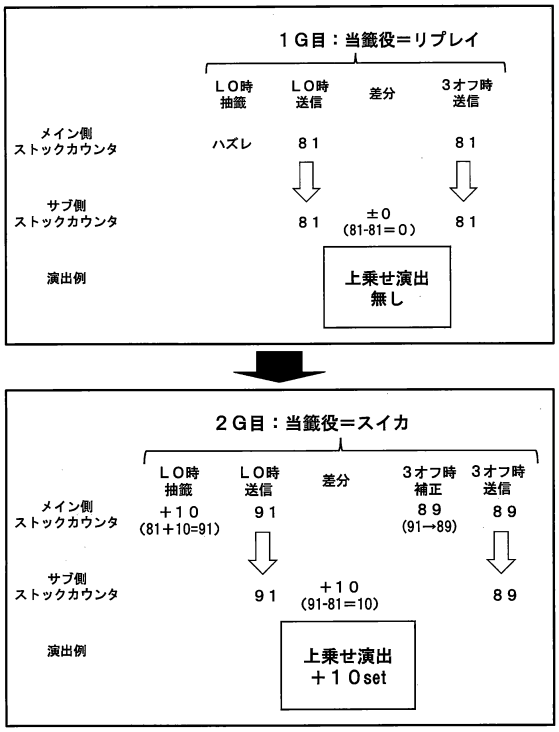




【図４６９】

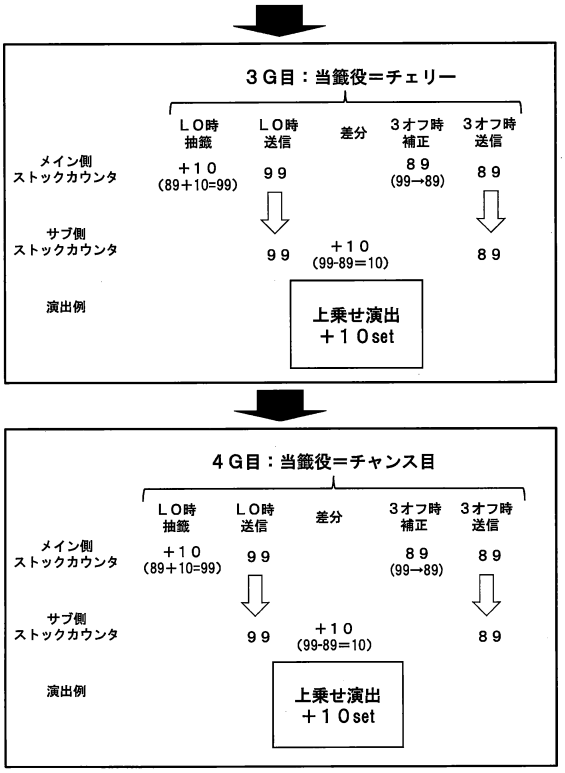
[メイン側カウンタ補正による演出制御]

○ 補正を行った場合の遊技の流れの一例(レバーON時上乗せ抽籤)



【図４７０】

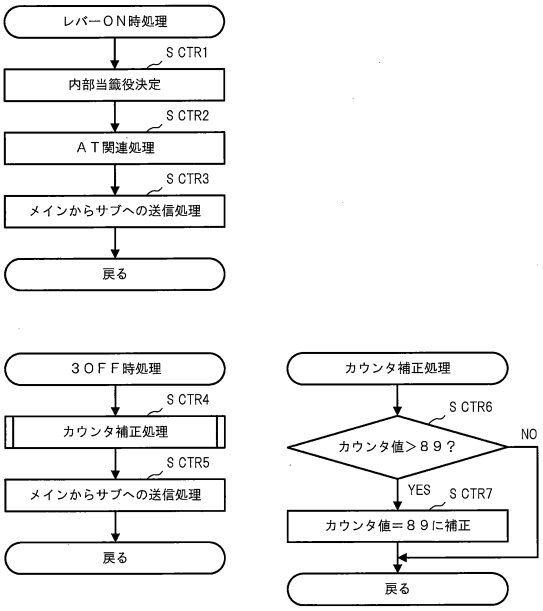
[メイン側カウンタ補正による演出制御]



【図４７１】

[メイン側カウンタ補正による演出制御]

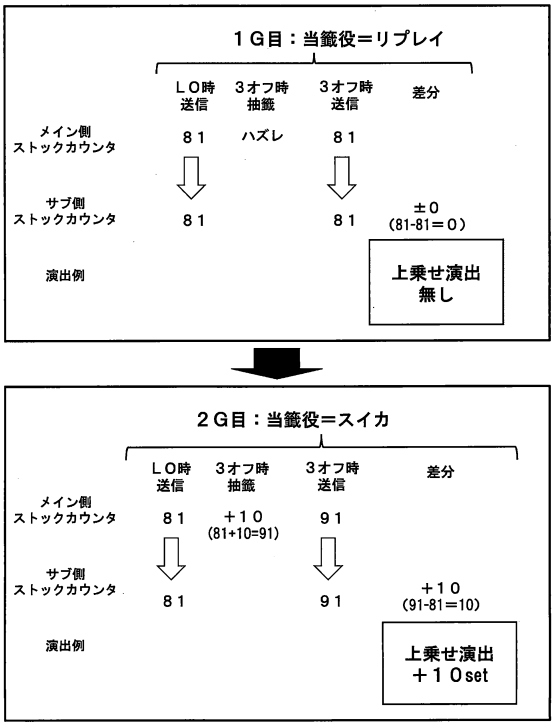
○ 制御例(レバーON時上乗せ抽籤)



【図４７２】

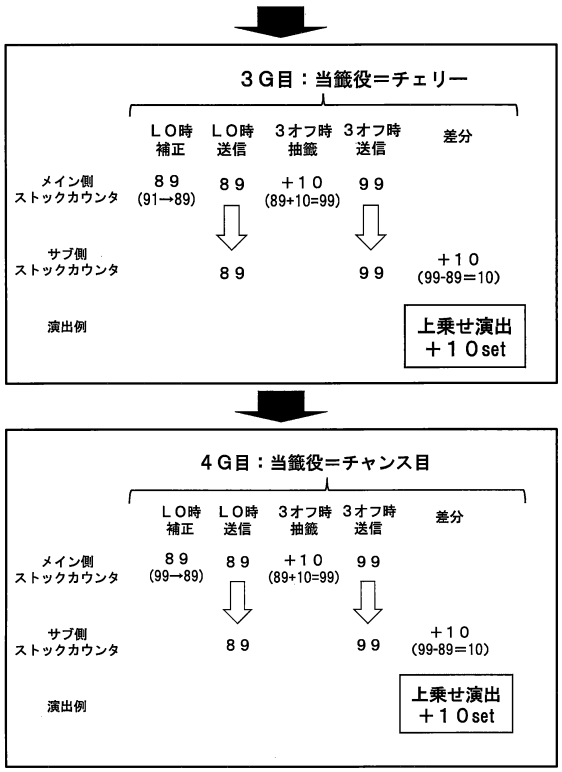
[メイン側カウンタ補正による演出制御]

○ 補正を行った場合の遊技の流れの一例(3OFF時上乗せ抽籤)



【図４７３】

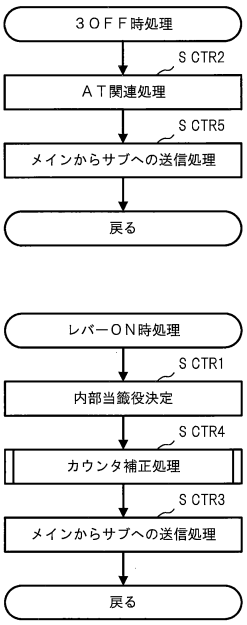
［メイン側カウンタ補正による演出制御］



【図４７４】

［メイン側カウンタ補正による演出制御］

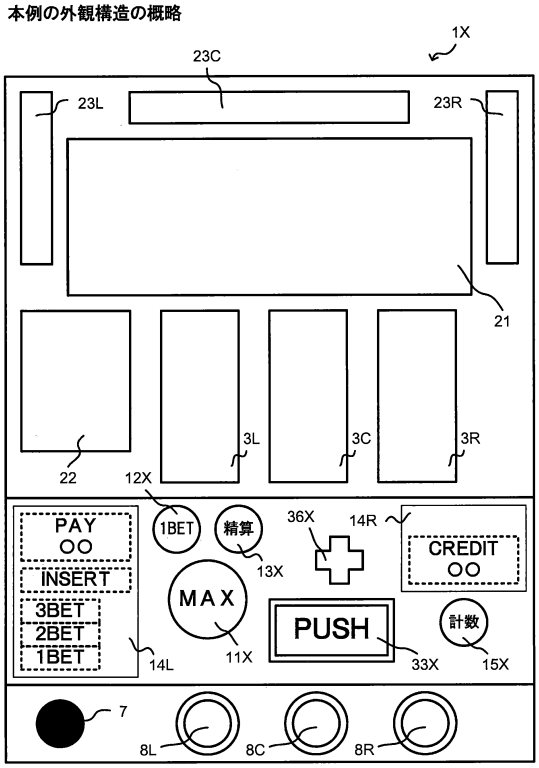
○ 制御例（3OFF時上乗せ抽籤）



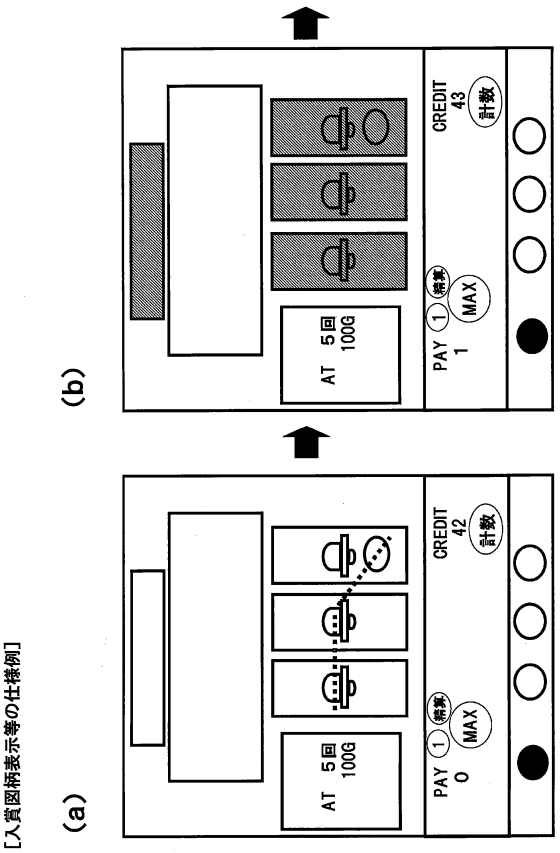
【図４７５】

［入賞図柄表示等の仕様例］

○ 本例の外観構造の概略

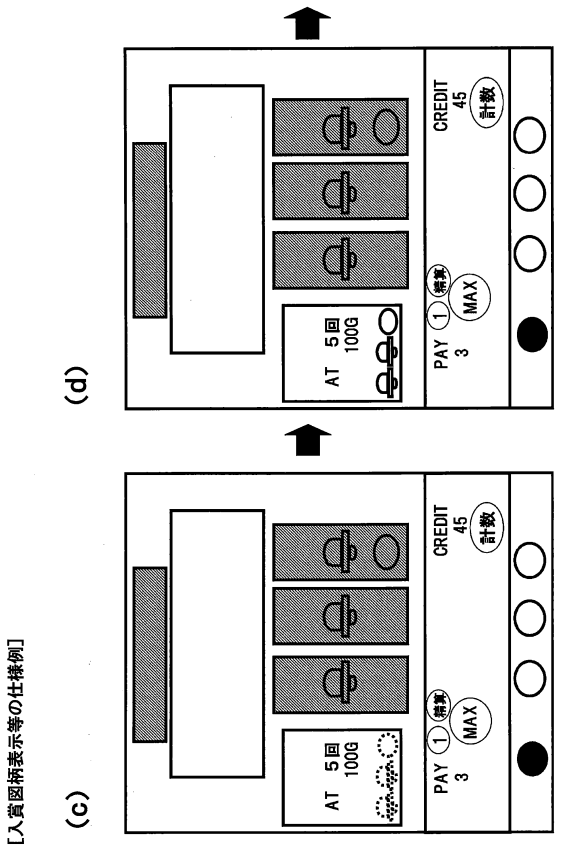


【図４７６】

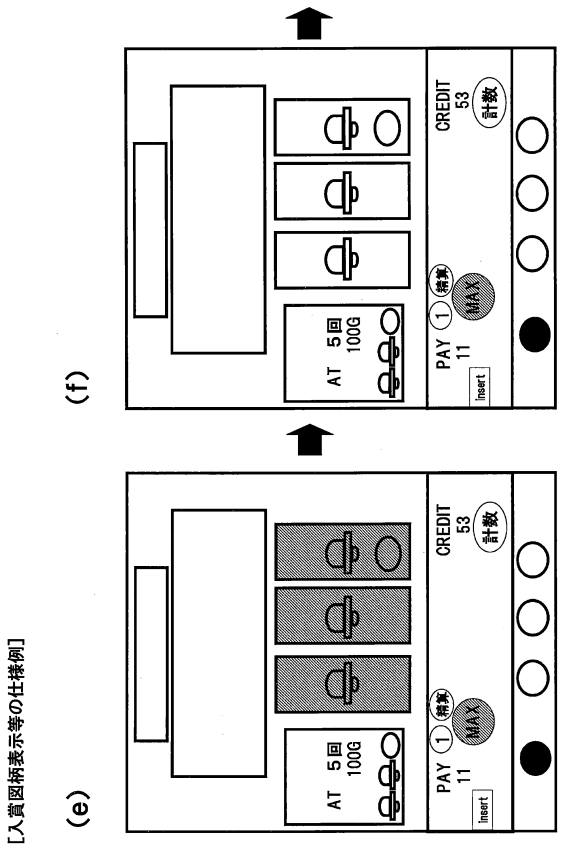


［入賞図柄表示等の仕様例］

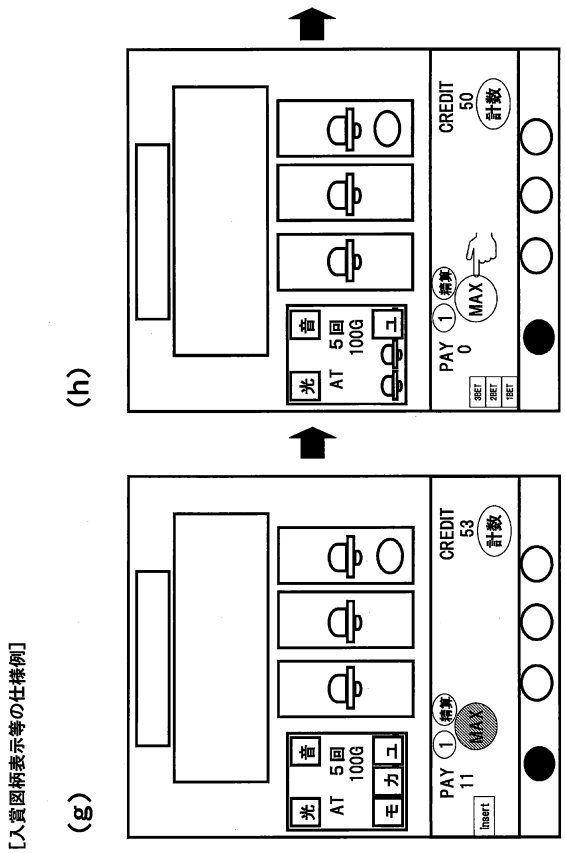
【図４７７】



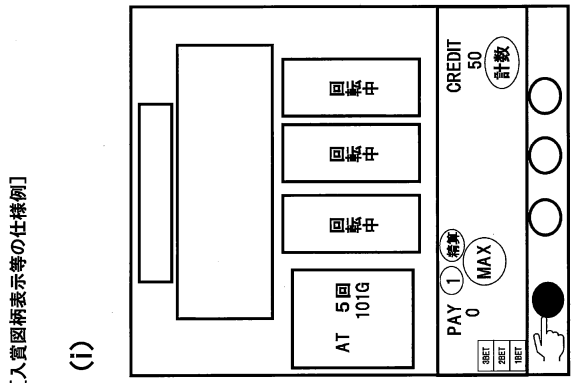
【図４７８】



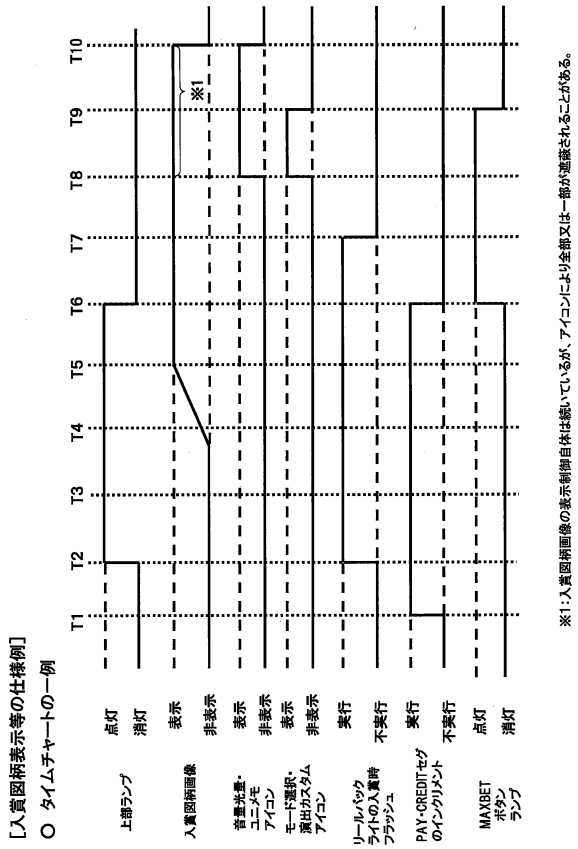
【図４７９】



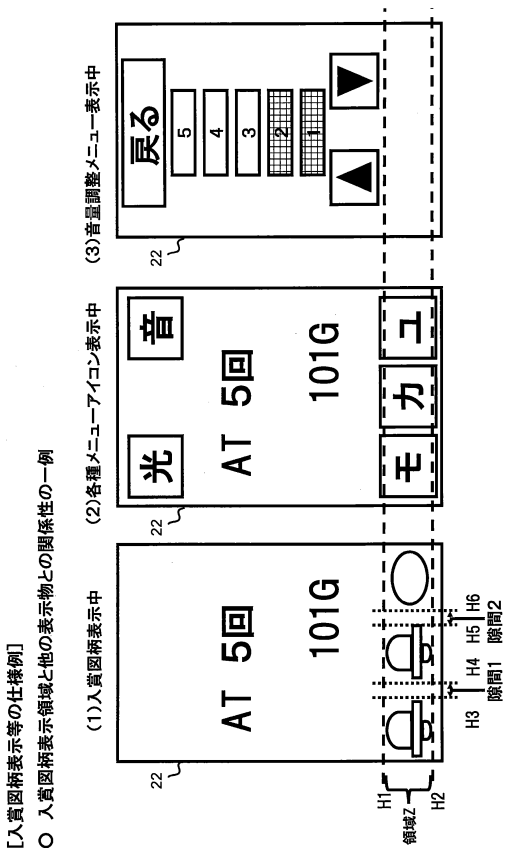
【図４８０】



【図４８１】



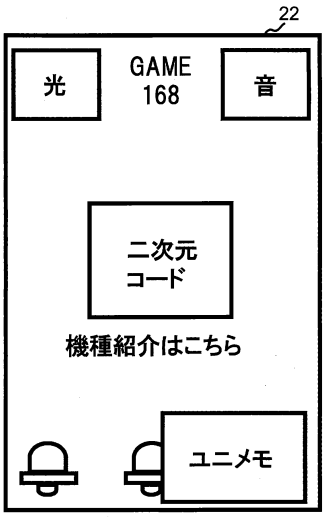
【図４８２】



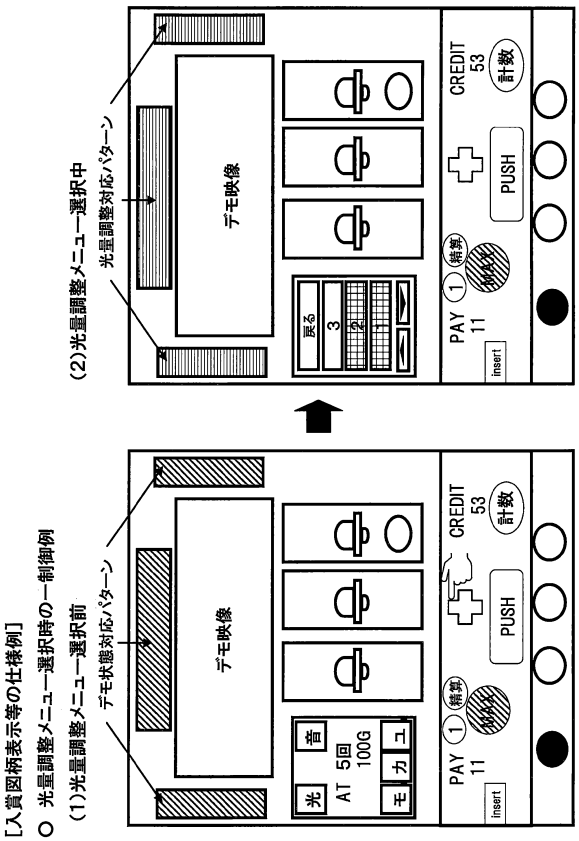
【図４８３】

[入賞図柄表示等の仕様例]

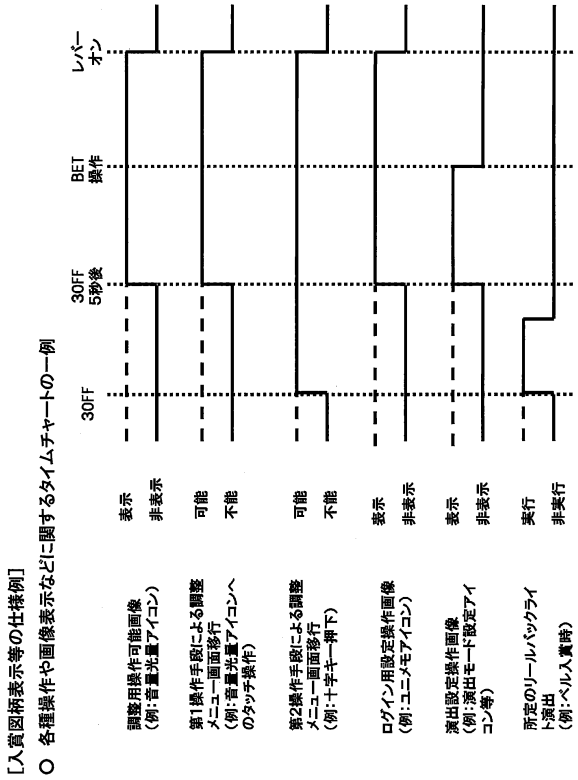
○ 入賞図柄表示領域と他の表示物との関係性の一例



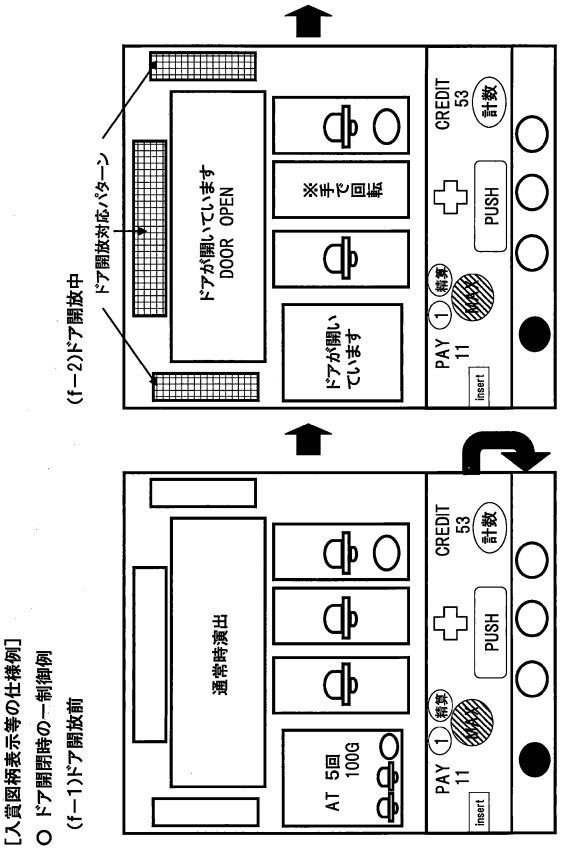
【図４８４】



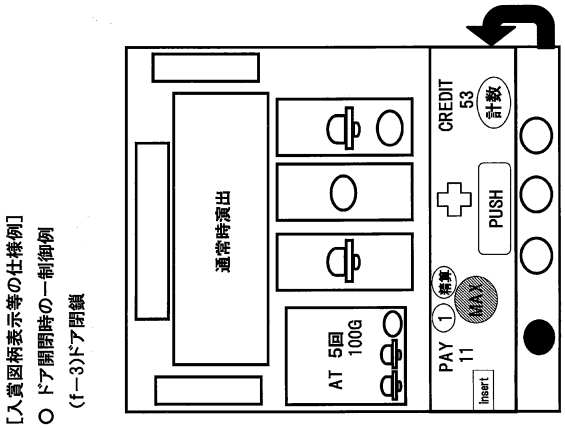
【図４８５】



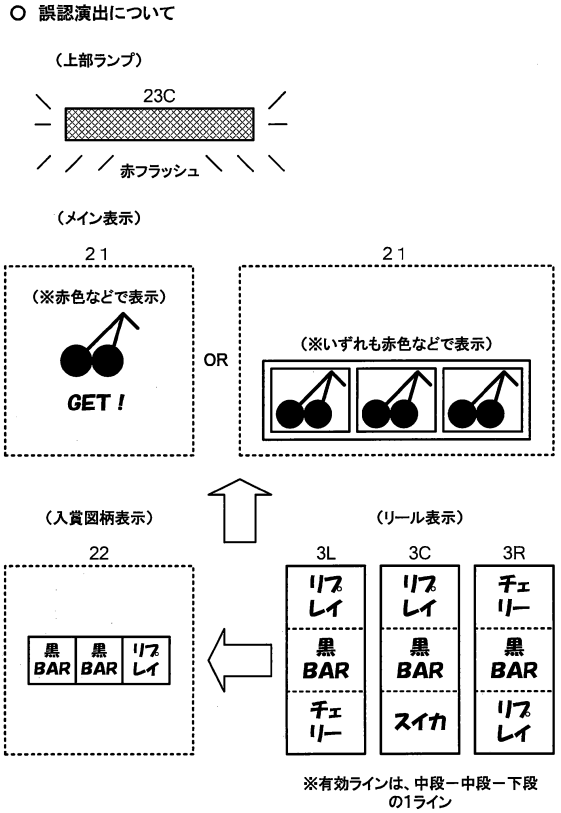
【図４８６】



【図４８７】



【図４８８】



【図４８９】

色報知演出抽籤テーブル(確率分母:256)の一例

成立役	演出種別	設定値			
		設定L		設定L以外	
		状態		状態	
		低確	高確	低確	高確
リプレイ(青色図柄)	青色報知	128	64	253	244
	黄色報知	64	64	1	4
	緑色報知	32	64	1	4
	赤色報知	32	64	1	4
ベル(黄色図柄)	青色報知	64	64	1	4
	黄色報知	128	64	253	244
	緑色報知	32	64	1	4
	赤色報知	32	64	1	4
スイカ(緑色図柄)	青色報知	32	64	1	4
	黄色報知	64	64	1	4
	緑色報知	128	64	253	244
	赤色報知	32	64	1	4
チェリー(赤色図柄)	青色報知	32	64	1	4
	黄色報知	32	64	1	4
	緑色報知	64	64	1	4
	赤色報知	128	64	253	244

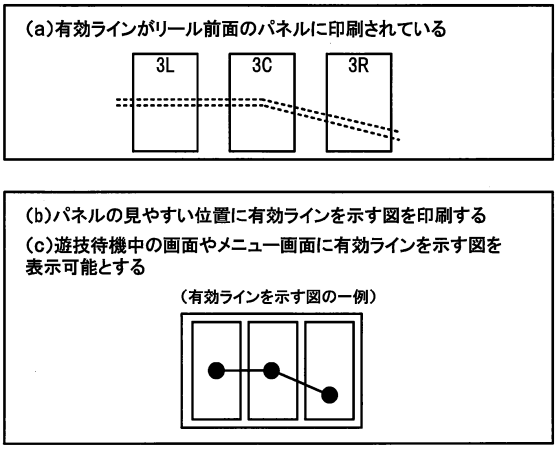
※成立役は、有効ライン以外のラインに表示される各図柄(図柄組合せ)を意味する。

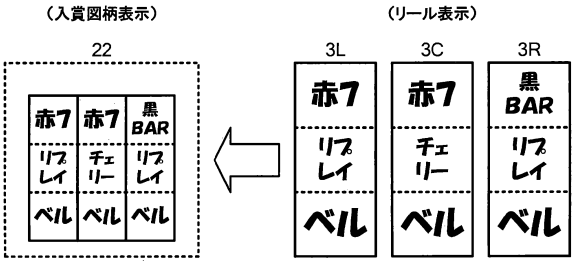
【図４９０】

[入賞図柄表示等の仕様例]

○ 入賞図柄表示とリール表示との関係性の一例

(1)有効ラインが例えば(a)～(c)の方法にて遊技者に示されている場合





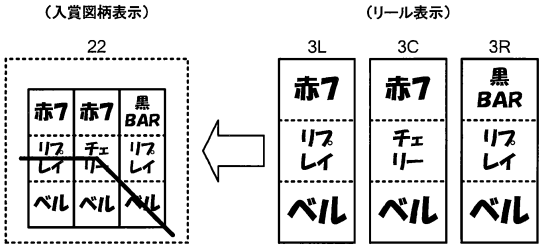
【図４９１】

[入賞図柄表示等の仕様例]

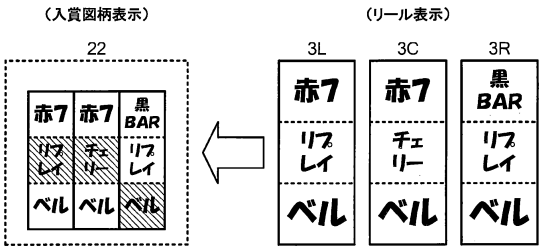
○ 入賞図柄表示とリール表示との関係性の一例

(2)有効ラインが遊技者に示されていない場合

(イ)入賞図柄表示にて有効ラインを表示



(ロ)入賞図柄表示にて有効ラインを強調表示



(ハ)入賞図柄表示の近傍で有効ラインを説明

リール表示は上記と同様のため省略

【図４９２】

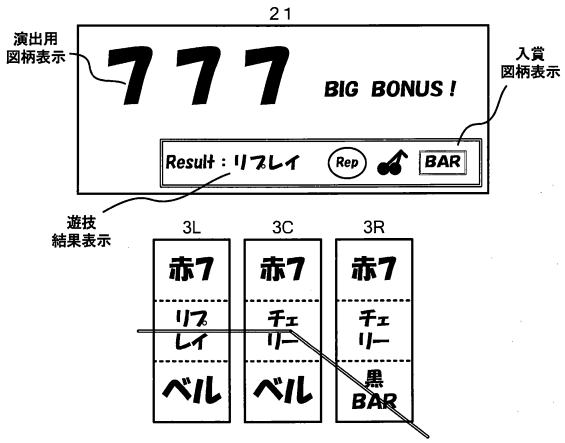
[入賞図柄表示等の仕様例]

○ 入賞図柄表示とリール表示と演出用図柄表示の関係性の一例

(※誤認を与えないためのルールの一例)

・遊技結果は、毎遊技、表示枠等で明確に示すとともに、遊技者が認識できる表現で表示する。
【例】小役:「○○枚」、「○○枚入賞」など、再遊技:「Rep」、「リプレイ」など、ハズレ:「－－－」など
・遊技結果の表示は、全リール停止からベット操作(再遊技時は開始操作)まで行う(その間、デモ表示やメニュー表示が行われたときには表示が消えてもよい)。
・入賞図柄表示(有効ライン上に表示された図柄組合せ)は、毎遊技表示する。
・入賞図柄表示における図柄1つの大きさは、縦8mm×横11mm(リール上の図柄の大きさの最小値の概ね1／3)以上とする。

(イ)表示例1

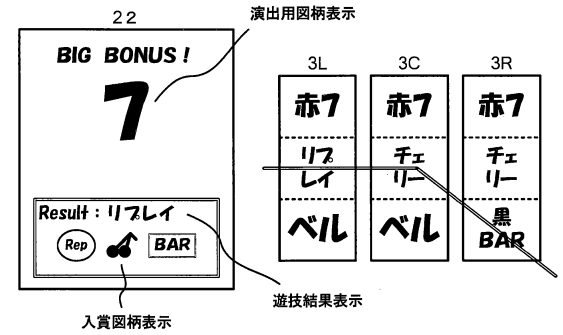


【図４９３】

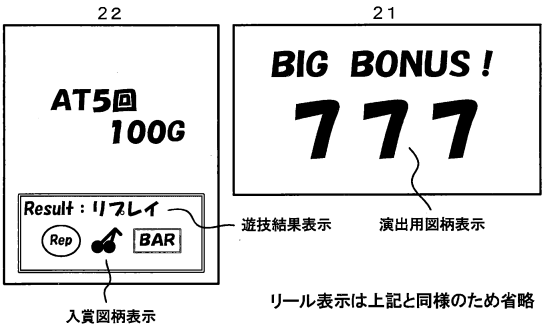
［入賞図柄表示等の仕様例］

○ 入賞図柄表示とリール表示と演出用図柄表示の関係性の一例

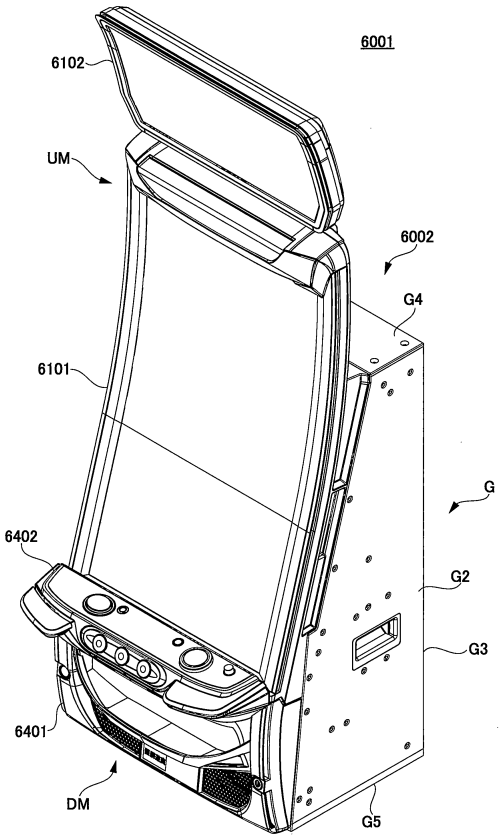
（ロ）表示例2



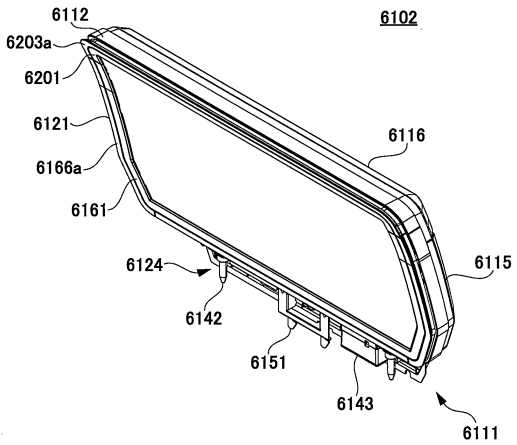
（ハ）表示例3



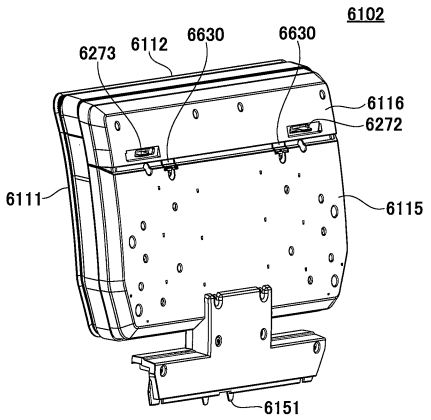
【図４９４】



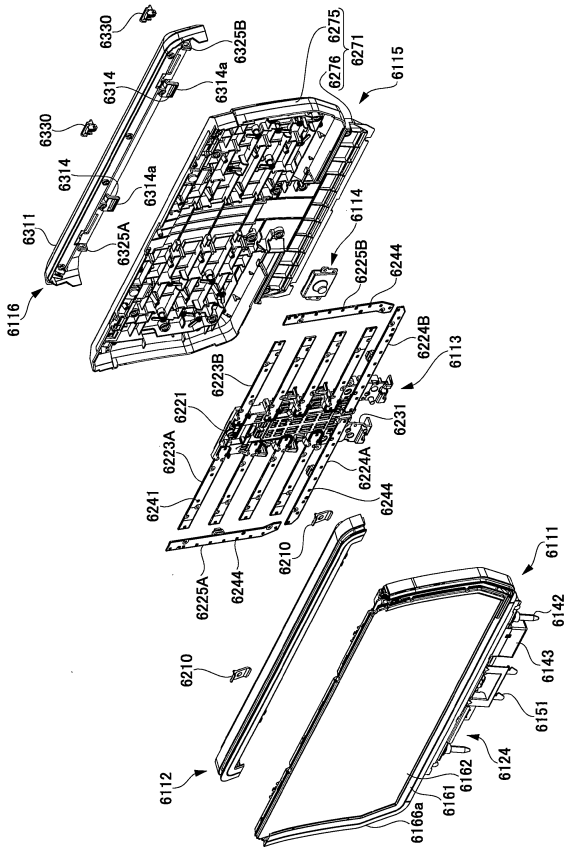
【図４９５】



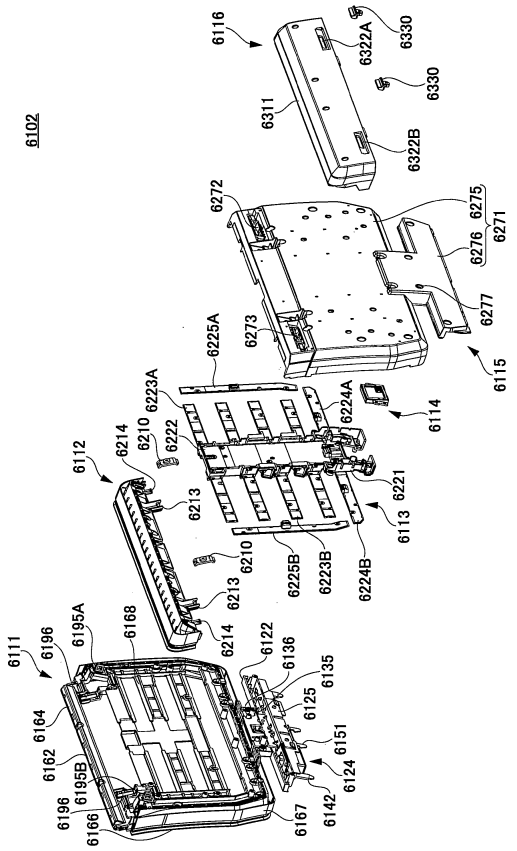
【図４９６】



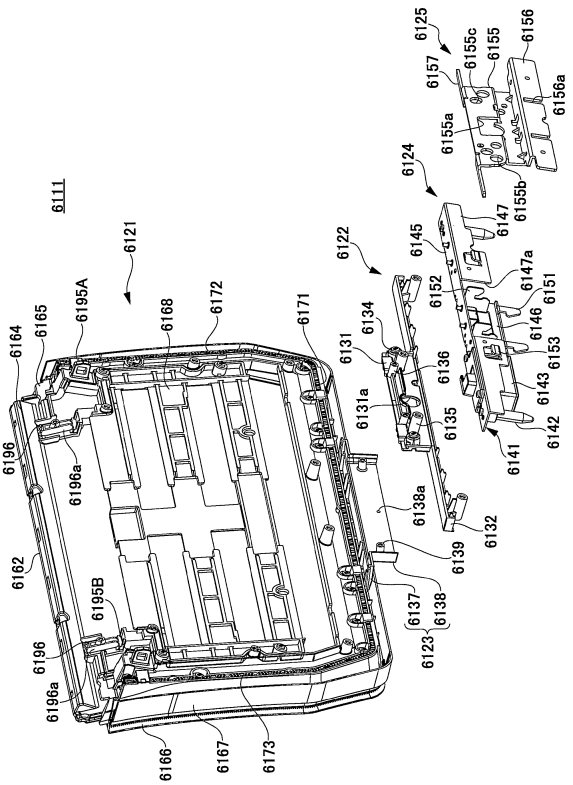
【図４９７】



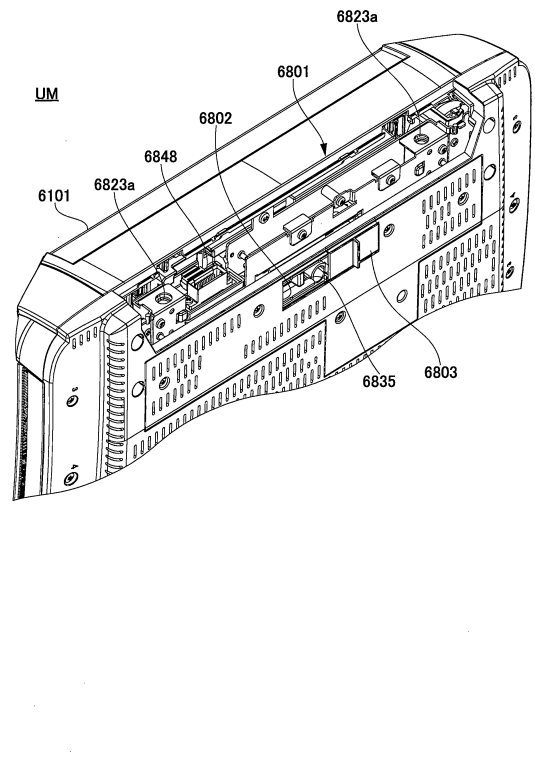
【図４９８】



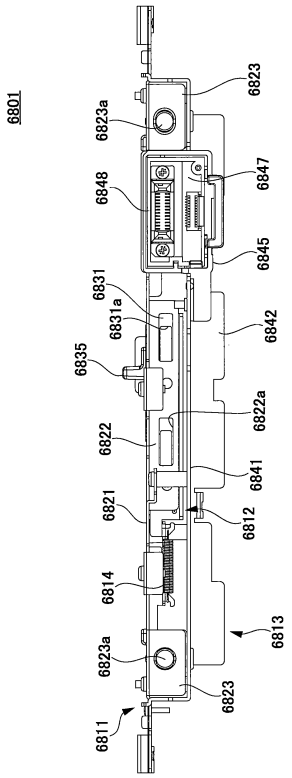
【図４９９】



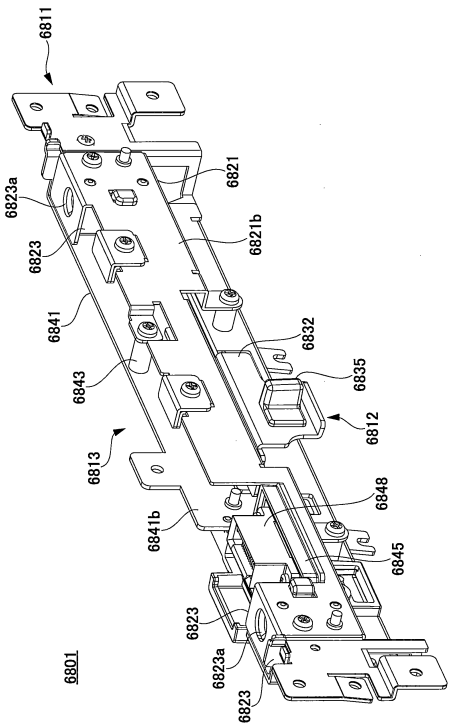
【図５００】



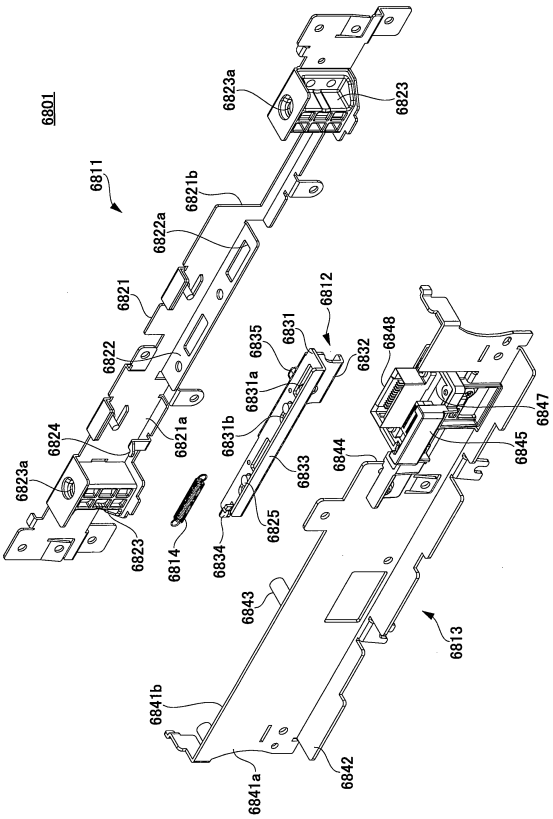
【図５０１】



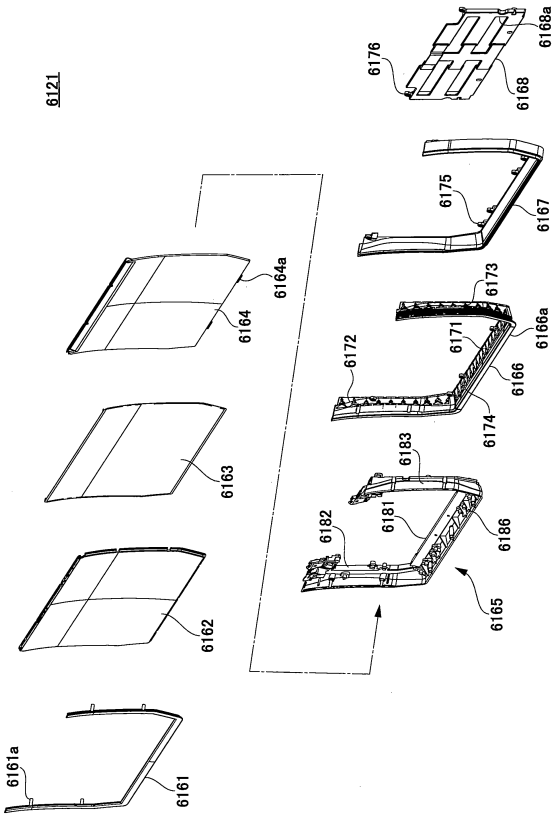
【図５０２】



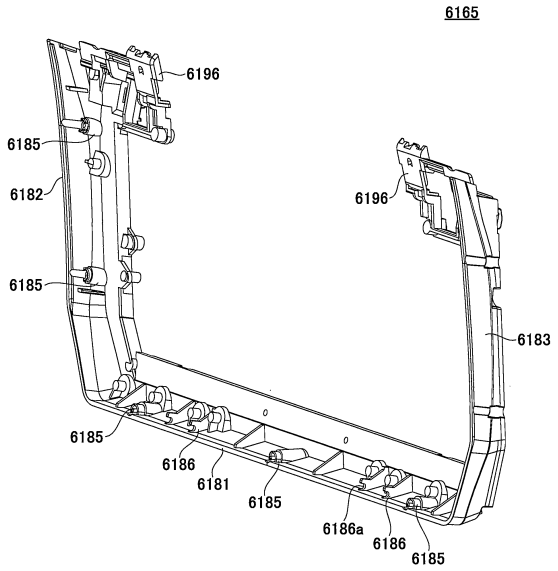
【図５０３】



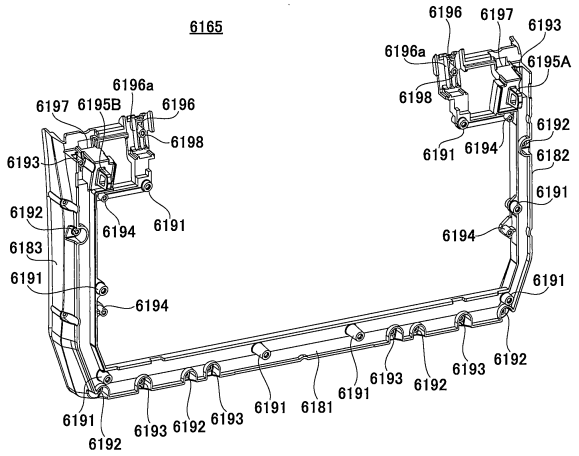
【図５０４】



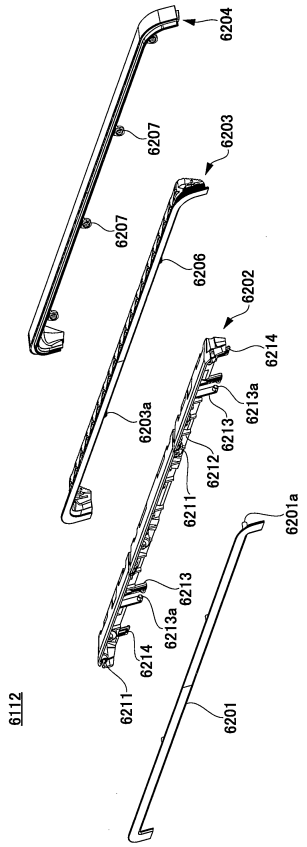
【図５０５】



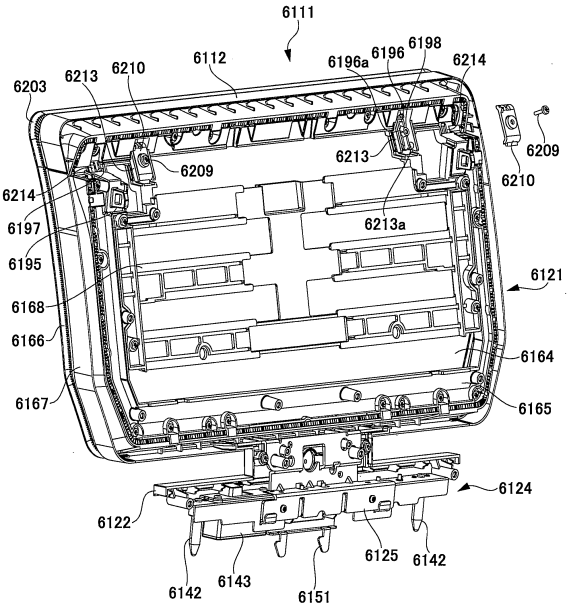
【図５０６】



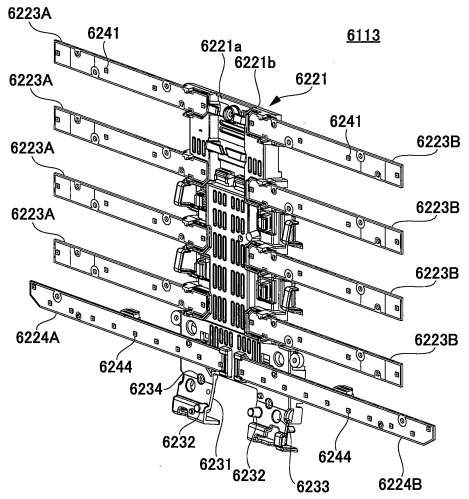
【図５０７】



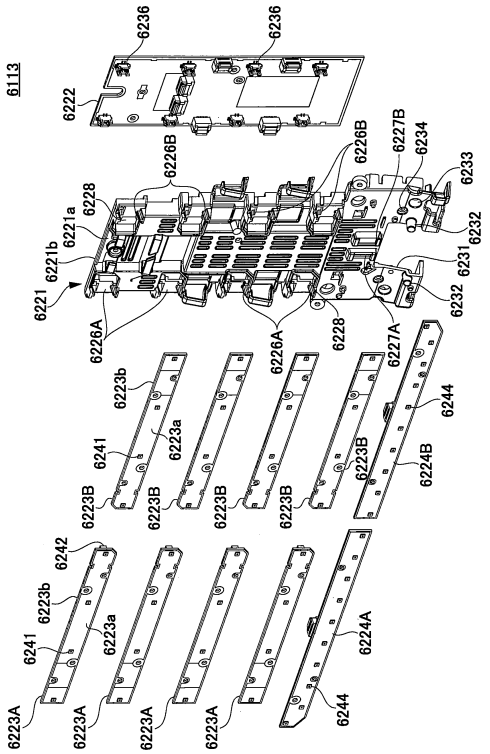
【図５０８】



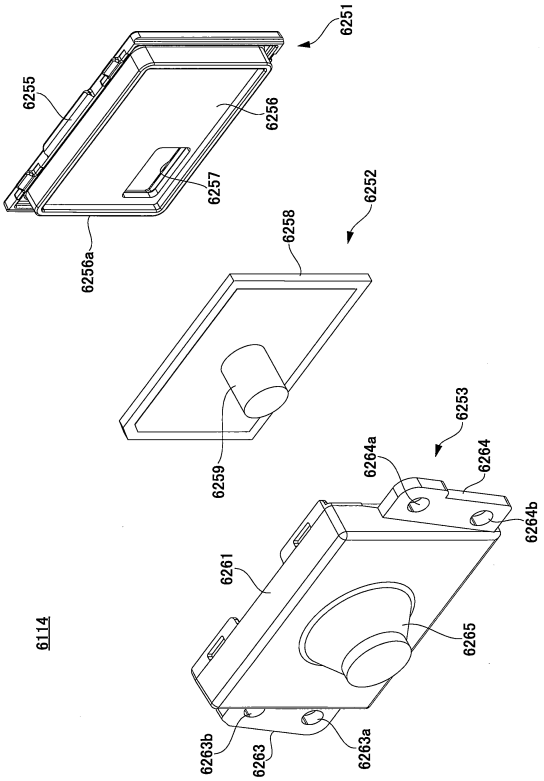
【図５０９】



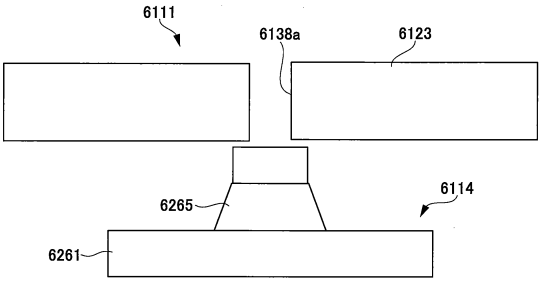
【図５１０】



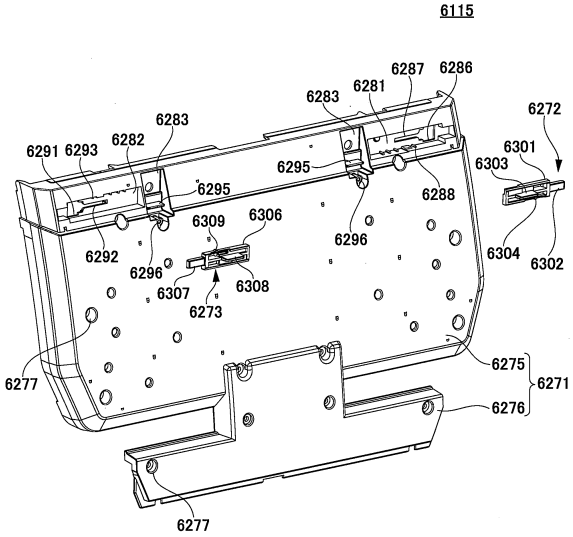
【図５１１】



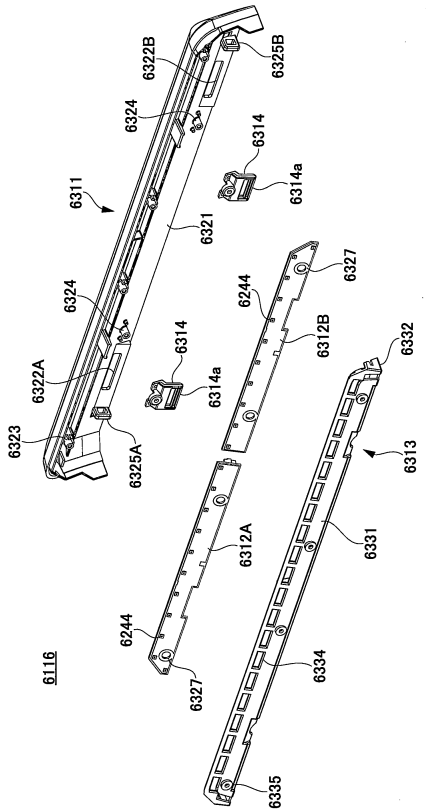
【図５１２】



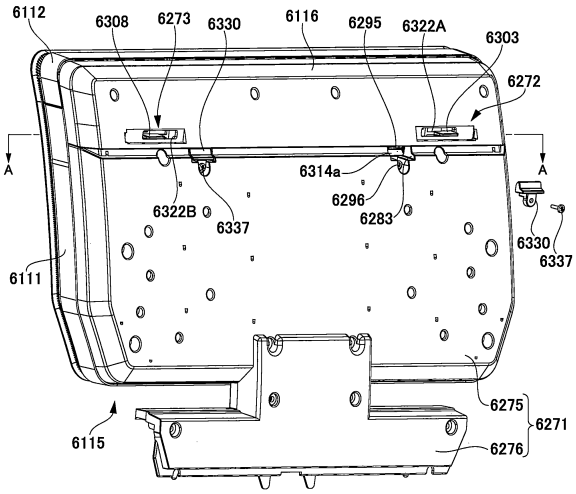
【図５１３】



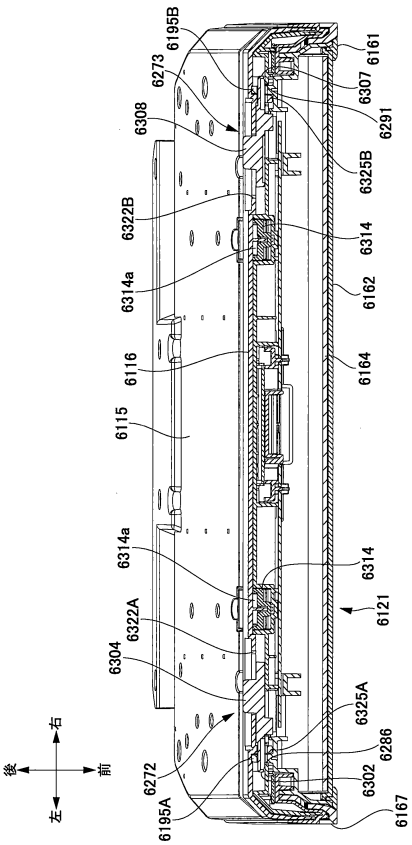
【図５１４】



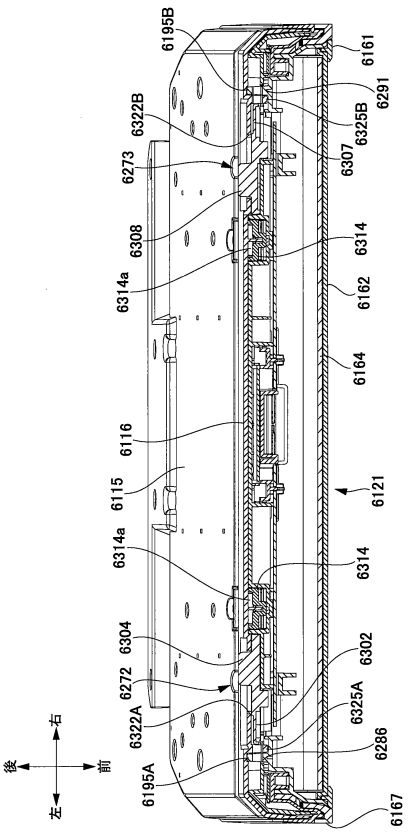
【図５１５】



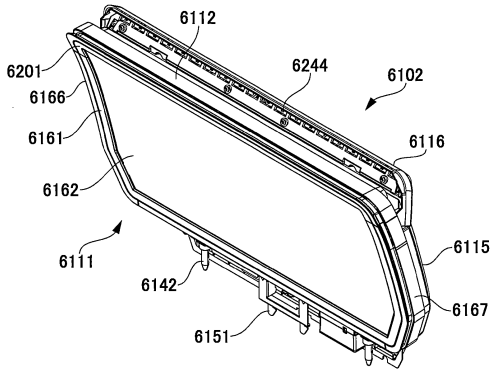
【図５１６】



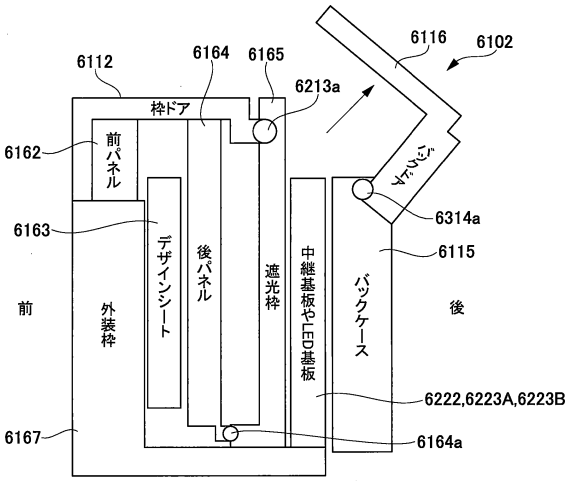
【図５１７】



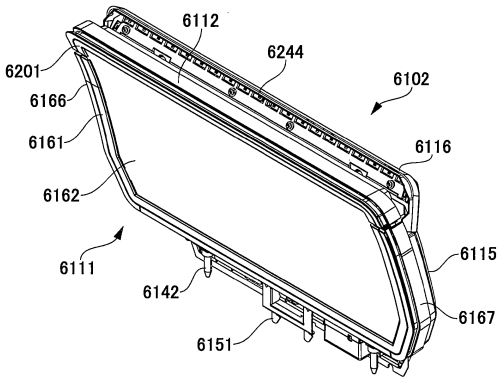
【図５１８】



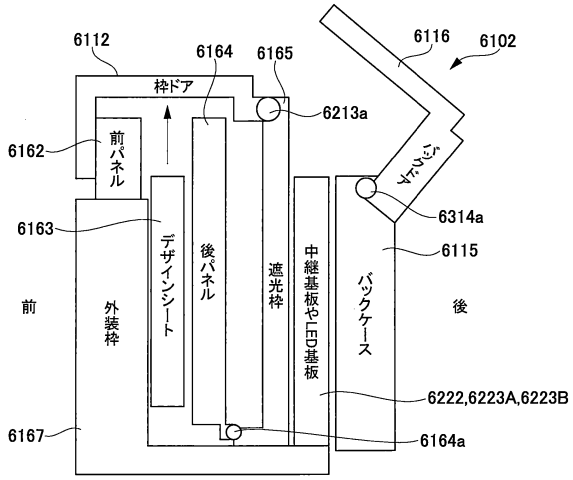
【図５１９】



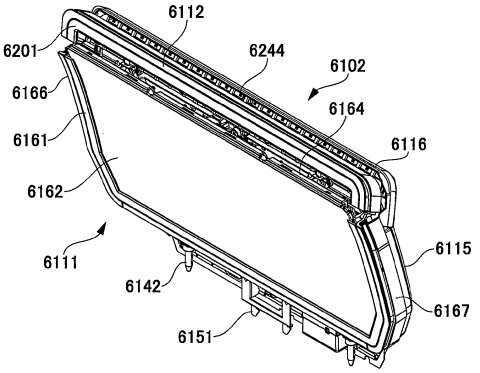
【図５２０】



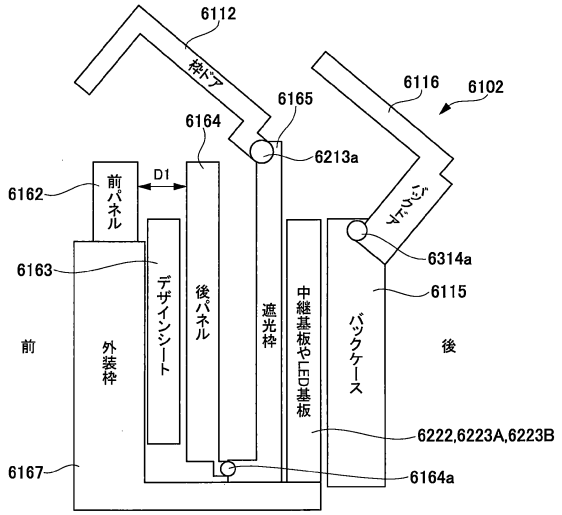
【図５２１】



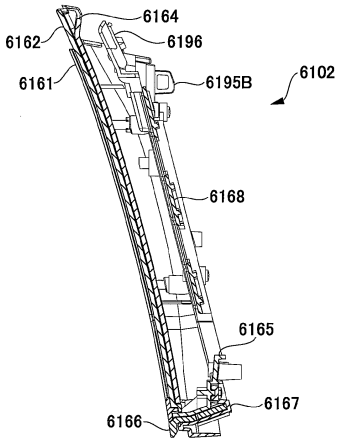
【図５２２】



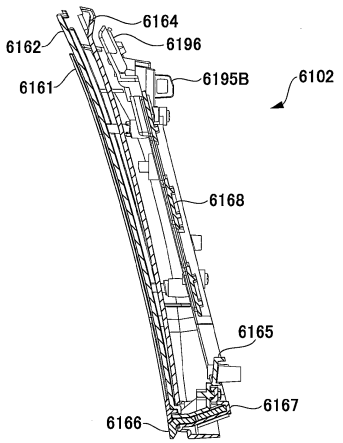
【図５２３】



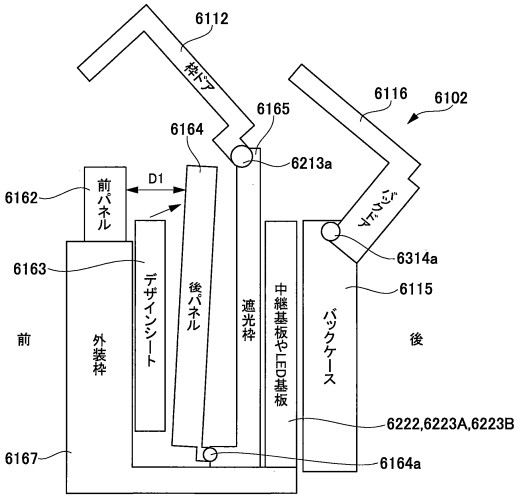
【図５２４】



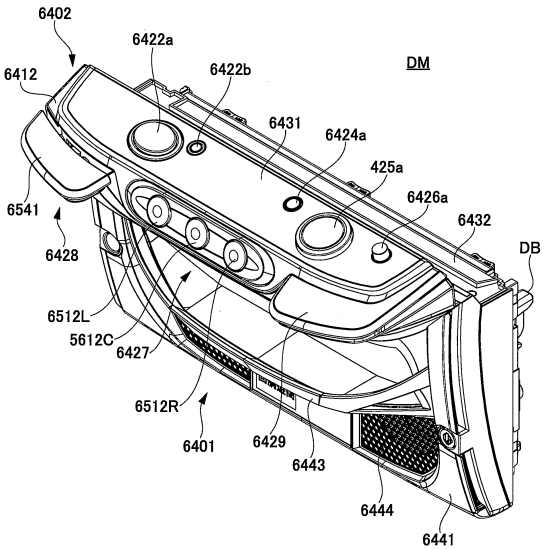
【図５２５】



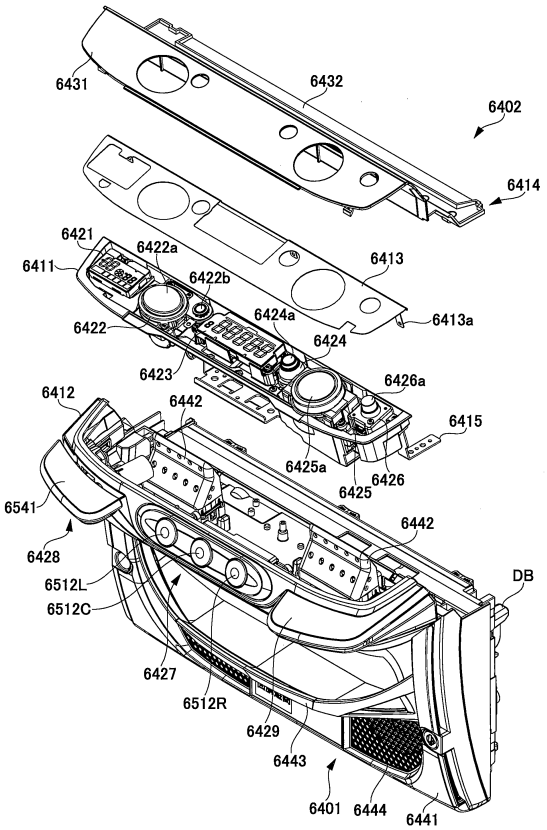
【図５２６】



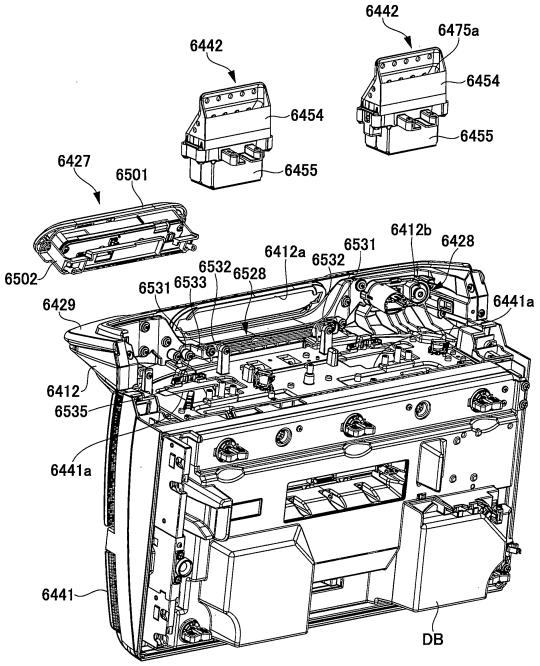
【図５２７】



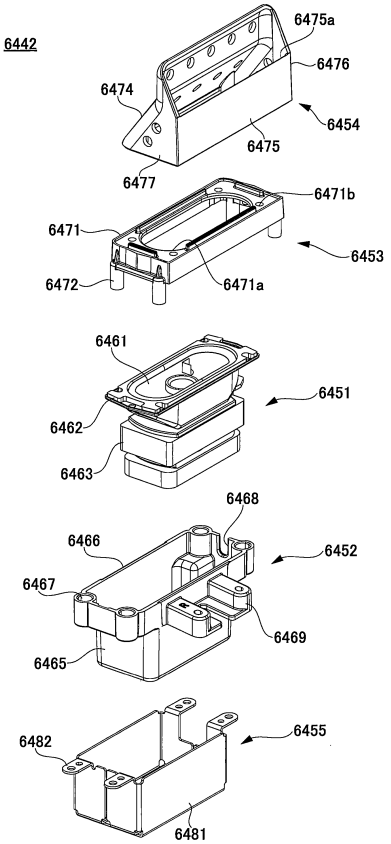
【図５２８】



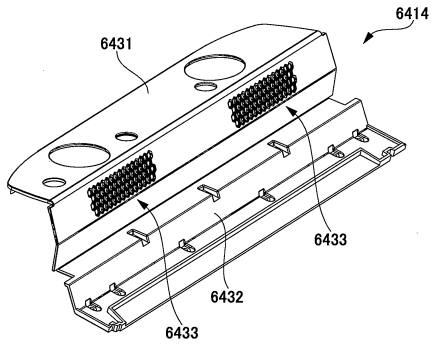
【図５２９】



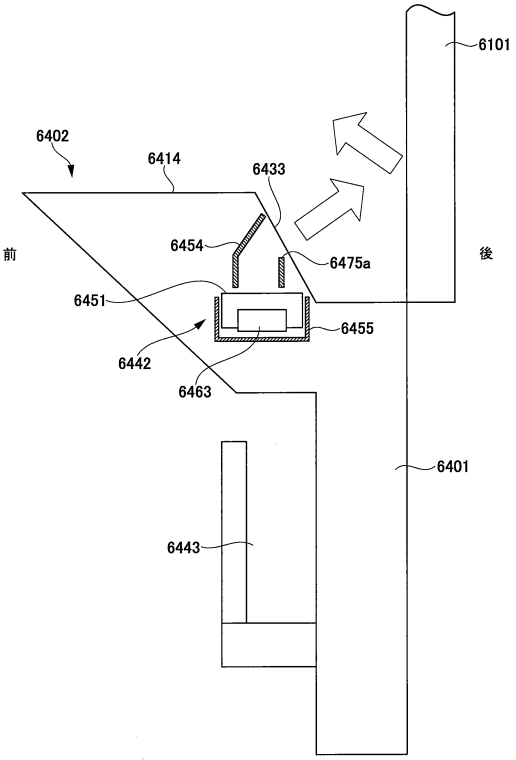
【図５３０】



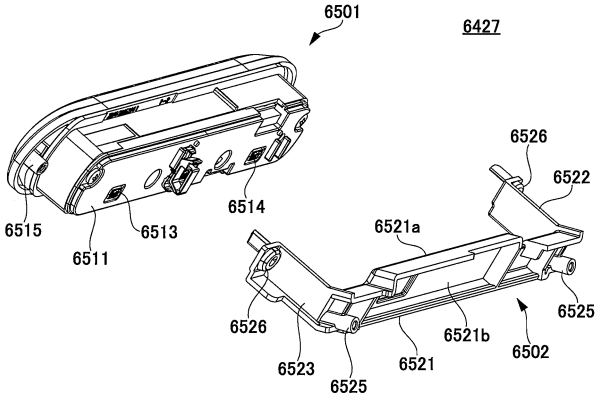
【図５３１】



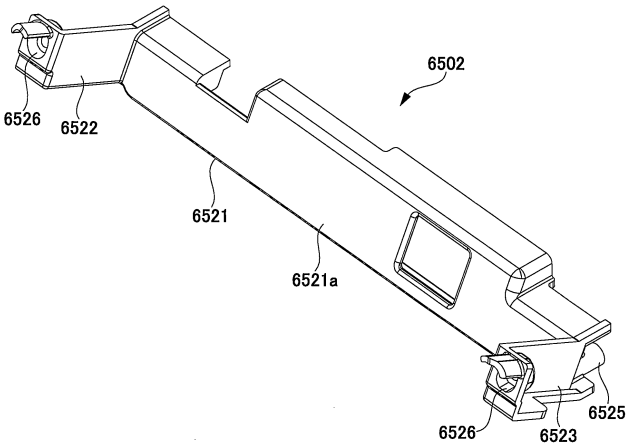
【図５３２】



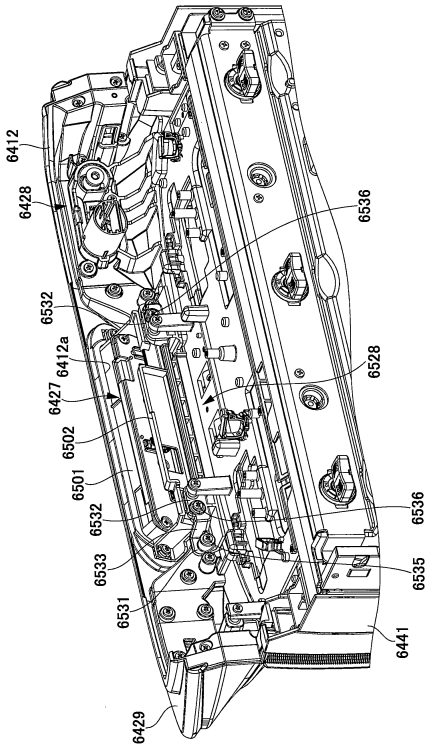
【図５３３】



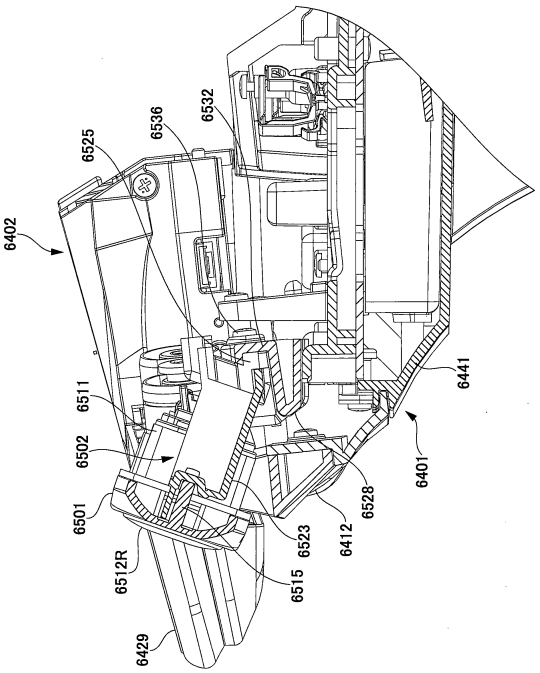
【図５３４】



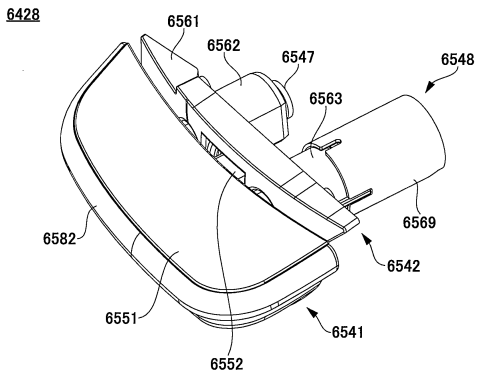
【図５３５】



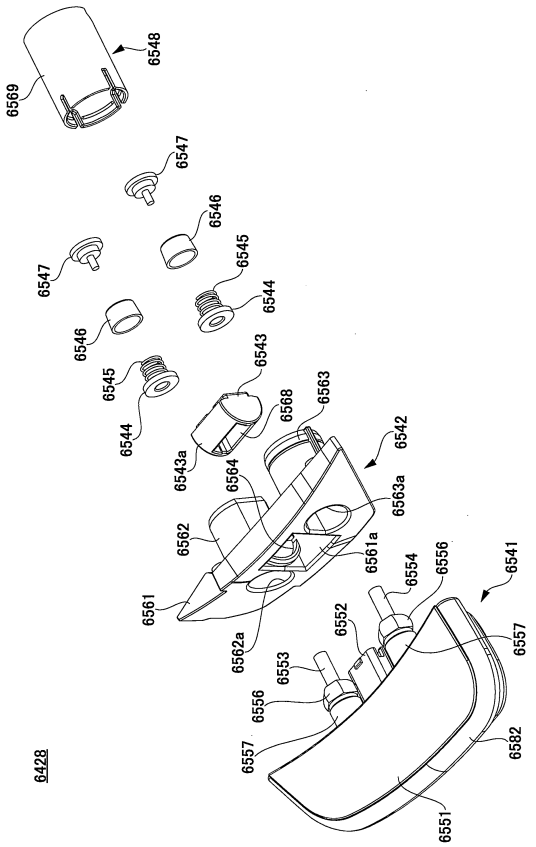
【図５３６】



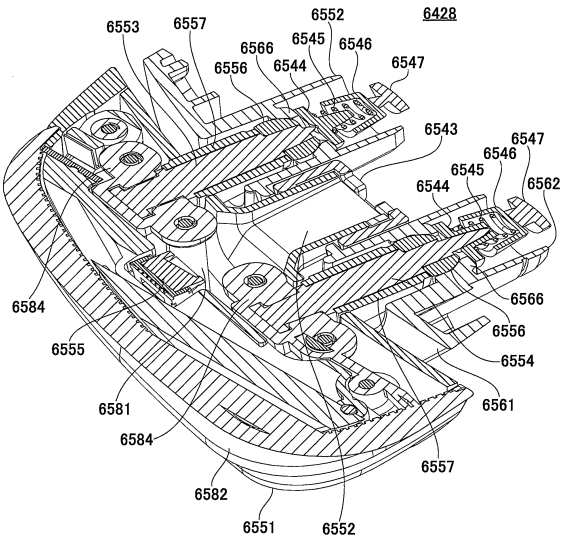
【図５３７】



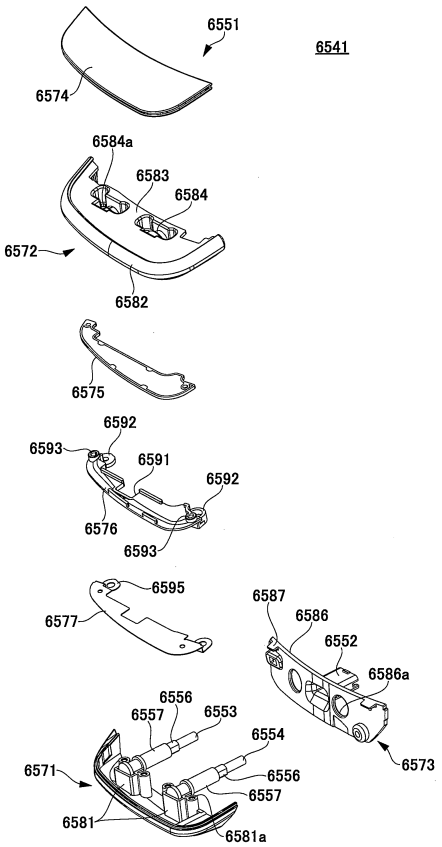
【図５３８】



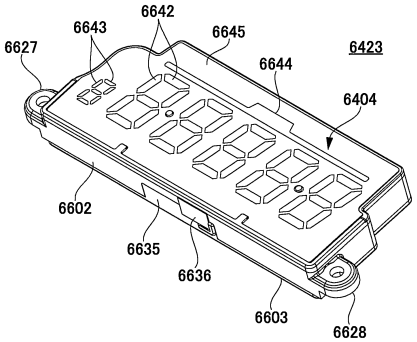
【図５３９】



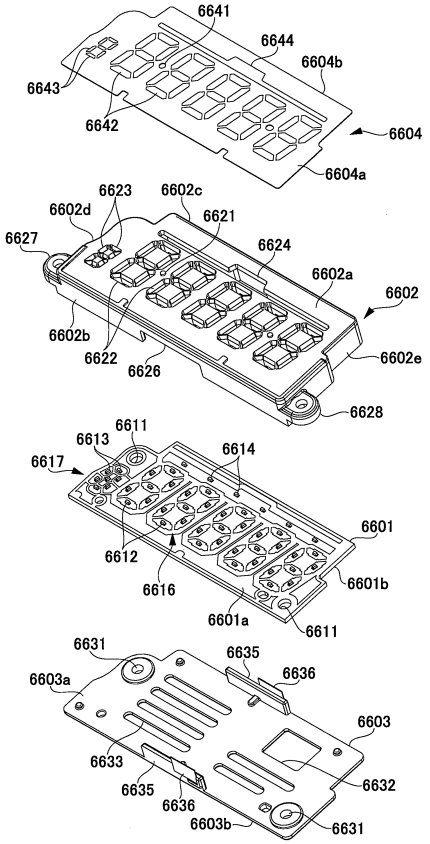
【図５４０】



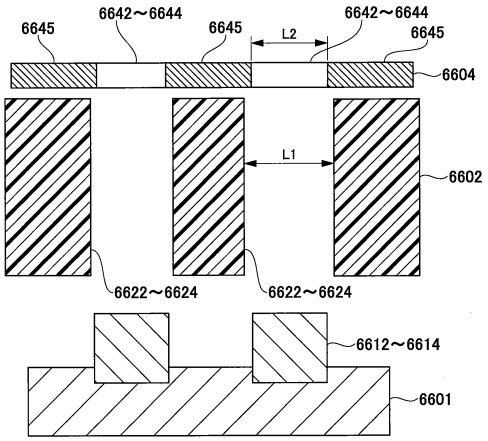
【図５４１】



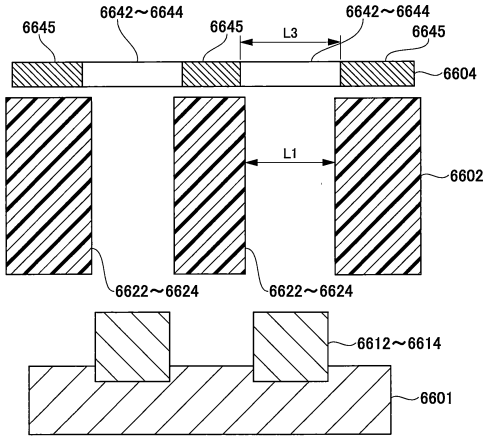
【図５４２】



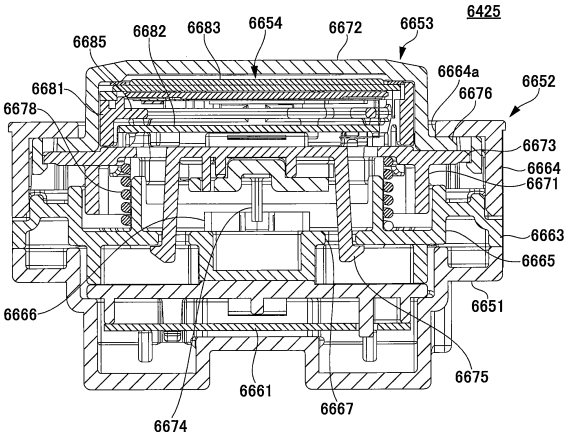
【図５４３】



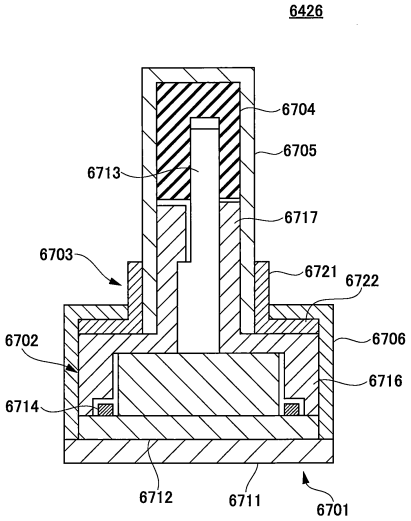
【図５４４】



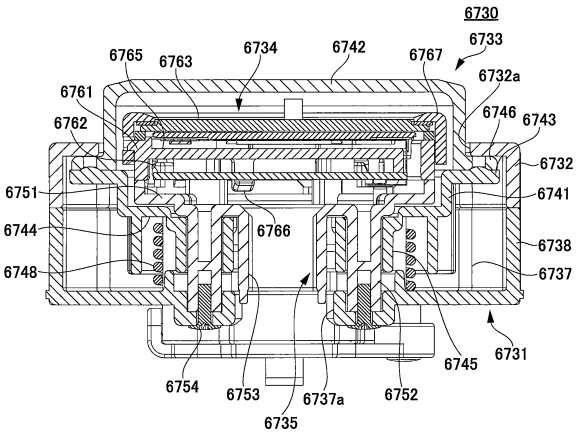
【図５４５】



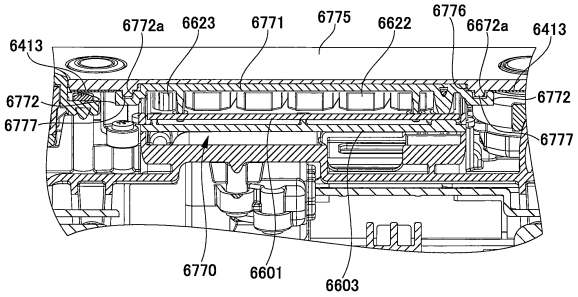
【図５４６】



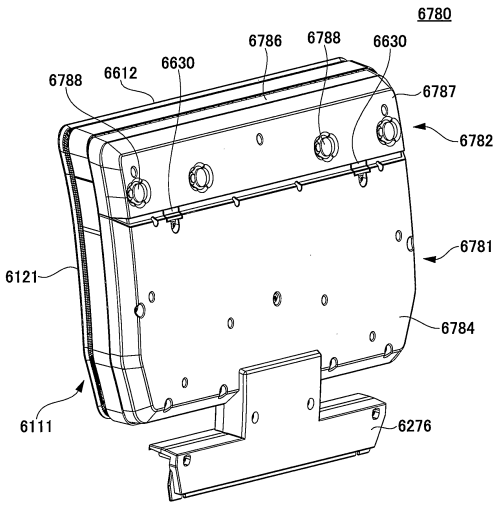
【図５４７】



【図５４８】



【図５４９】


6780
6786
6788
6630
6630
6612
6788
6787
6782
6781
6121
6784
6111
6276